

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	専門職大学の設置							
フリガナ設置者	シズオカケン 静岡県							
フリガナ大学の名称	シズオカケンリツノウリンカンキョウセンモンシヨクダイガク 静岡県立農林環境専門職大学 (Shizuoka Professional University of Agriculture)							
大学本部の位置	静岡県磐田市富丘678-1							
大学の目的	将来の農林業現場を支える人材に求められる知識・技術を備えるとともに、農山村の景観・環境・文化等を理解し地域社会を支えていくことができる専門職業人の養成を通じ、静岡県の農林業や農山村地域の発展に貢献する。							
新設学部等の目的	農林業生産を行うための基礎的な知識や技術に加え、経営体の経営革新を推進する加工・流通・販売の知識や経営管理能力、先端技術への対応力を有するとともに、地域社会における未来のリーダーとして、自然と共生し、美しい農山村の景観や環境を磨き上げ、幅広い教養と豊かな人間性を備え地域の文化や伝統を守っていくことのできる農林業者を養成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	生産環境経営学部 [Faculty of Agricultural Production and Management]	4	24	-	96	農林業学士（専門職） [Bachelor of Agriculture]	年 月 第 年次 平成32年4月 第 1 年次	静岡県磐田市富丘678-1
	生産環境経営学科 [Department of Agricultural Production and Management]		24	-	96			
計								
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	静岡県立農林大学校 養成部（廃止）（△100）※H32年4月学生募集停止 研究部（廃止）（△ 20）※H33年4月学生募集停止 静岡県立農林環境専門職大学短期大学部 生産科学科(100)（平成30年10月認可申請）							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実習	計			
	生産環境経営学部 生産環境経営学科	73科目	16科目	23科目	112科目	129単位		

教員	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
新設	生産環境経営学部生産環境経営学科		14 (12)	5 (5)	4 (3)	1 (1)	24 (21)	- (-)	39 (25)
	計		14 (12)	5 (5)	4 (3)	1 (1)	24 (21)	- (-)	39 (25)
既設	該当なし		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
	計		- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
合計			14 (12)	5 (5)	4 (3)	1 (1)	24 (21)	- (-)	39 (25)
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		20 (20)		3 (2)		23 (22)		
	技術職員		-		15 (15)		15 (15)		
	図書館専門職員		1 (1)		1 (1)		2 (2)		
	その他の職員		5 (2)		-		5 (2)		
	計		26 (23)		19 (18)		45 (41)		
校地等	区分	専用	共用		共用する他の学校等の専用		計		
	校舎敷地	- m ²	18,076 m ²		-		18,076 m ²		
	運動場用地	- m ²	10,469 m ²		-		10,469 m ²		
	小計	- m ²	28,545 m ²		-		28,545 m ²		
	その他	- m ²	52,499 m ²		-		52,499 m ²		
合計		- m ²	81,044 m ²		-		81,044 m ²		
校舎		専用	共用		共用する他の学校等の専用		計		
		494 m ² (392 m ²)	5,849 m ² (3,395 m ²)		453 m ² (152 m ²)		6,796 m ² (3,939 m ²)		
教室等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体	
	16室	0室	7室		1室 (補助職員0人)	0室 (補助職員0人)			
専任教員研究室		新設学部等の名称			室数			共同研究室3室は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と共用	
		生産環境経営学部生産環境経営学科			24室				
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	図書、機械・器具及び標本は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と共用	
	生産環境経営学部 生産環境経営学科	12,816 [366] (7,689 [219])	40 [20] (40 [20])	20 [20] (20 [20])	64 (38)	975 (585)	2 (2)		
	計	12,816 [366] (7,689 [219])	40 [20] (40 [20])	20 [20] (20 [20])	64 (38)	975 (585)	2 (2)		

図書館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
	662 m ²		60 席		50,000					
体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
	904 m ²		該当なし							
経費の 見積り 方法及び 維持の概	経費の 見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コストを含む）を含む 図書及び設備は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と共用のため、合算した金額
		教員1人当り研究費等		250千円	250千円	250千円	250千円	－千円	－千円	
		共同研究費等		2,250千円	2,250千円	2,250千円	2,250千円	－千円	－千円	
		図書購入費	51,494千円	34,330千円	200千円	200千円	200千円	－千円	－千円	
	設備購入費	368,506千円	245,670千円	720千円	720千円	720千円	－千円	－千円		
学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		①県内の者 ②県外の者	
		①463千円 ②689千円	322千円	322千円	322千円	－千円	－千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			県費、雑収入等							
既設 大学等 の状 況	大 学 の 名 称 静岡県立農林大学校									
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地	
	養成部 研究部	年 2 2	人 100 20	人 - -	人 200 40	専門士 -	0.99 0.28	平成11年度 平成11年度	磐田市富丘678-1	
附属施設の概要		<p>[農場]</p> <p>① 名 称： 実習圃場 所在地： 静岡県磐田市富丘678-1 規模等： 建物：2,043m²、土地15,843m²</p> <p>② 名 称： 機械研修場 所在地： 静岡県掛川市下垂木2770-1 規模等： 建物：1,022m²、土地：36,656m²</p> <p>[牧場]</p> <p>① 名 称： 静岡県畜産技術研究所（本所） 所在地： 静岡県富士宮市猪之頭1945 規模等： 建物：12,732m²、土地121.9ha</p> <p>② 名 称： 静岡県畜産技術研究所 中小家畜センター 所在地： 静岡県菊川市西方2780 規模等： 建物：9,282m²、土地9.3ha</p> <p>[演習林]</p> <p>名 称： 静岡県有林 所在地： 浜松市 規模等： 森林面積294ha</p> <p>※附属施設の概要については、「設置の趣旨等を記載した書類 資料27」参照</p>								

教 育 課 程 等 の 概 要															
(生産環境経営学部生産環境経営学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
①基礎科目	一般教養	静岡学	1通	2			○			1					
		歴史学概論	2前		2		○				1				
		文明論	2後			2	○								兼1
		文学概論	2後		2		○								兼1
		茶道	3前			1			○						兼1
		華道	3前			1			○						兼1
		経済学概論	1前	2			○								兼1
		法学概論	1前		2		○								兼1
		社会学概論	1後		2		○								兼1
		政治学概論	1後		2		○								兼1
	統計学	1後		2		○				1				兼1	
	情報処理基礎	1前	1				○			1					
	情報処理応用	2後	1				○			1					
	コミュニケーション・スキル	コミュニケーション論	1前	2			○								兼1
英語Ⅰ		1前		2			○							兼1	
英語Ⅱ		1後		2			○							兼1	
英語Ⅲ		2前		2			○							兼1	
英語Ⅳ		2後			2		○							兼1	
保健体育Ⅰ		1通	2					○						兼1	
保健体育Ⅱ		2通		2				○						兼1	
小計（20科目）		-	10	20	6	-			2	2	0	0	0	兼12	
②職業専門科目	農林業基礎	農学概論	1前	2			○			5	2				兼4
		環境と農林業	1後	2			○			2		1			オムニバス
		農林業史	1後			2	○				1				オムニバス
		農林業政策	1前		2		○			1					兼4
		技術者倫理	3前	2			○			2	1				オムニバス
		県内農林業事情	1前		2		○			4	1				オムニバス
		県外農林業事情	2前			1		○		1					集中
		海外農林業事情	3前			1		○		1					集中
		農林業のための基礎数学	1前		2		○								兼1
		農林業のための生物学	1前		2		○			1					
		農林業のための化学	1前		2		○			1					
		農林業のための物理学	1後		2		○								兼1
		農林業のための地学	1後		2		○			1					
		分子生物学	1前		2		○				1				
	農業気象学	2前	2			○			2		1			兼1	
	生命科学	1後		2		○				1	1			オムニバス	
	野生鳥獣管理・利用論	1後		2		○								兼1	
	（生産理論）	農林業生産理論	1後	2			○			3	1				オムニバス
		環境保全型農林業論	3前	2			○			1		1			兼2
		農林業のための先端技術	3前	2			○			1					オムニバス
	（栽培理論）	作物学	2前		2		○			1					
		園芸学	2後		2		○			3					オムニバス
		園芸学各論	3前			2	○			3					オムニバス
植物病理学		2前		2		○			1						
応用昆虫学		2後		2		○			1						
土壌肥料・植物栄養学		2前		2		○			2					オムニバス	
植物遺伝育種学概論	2後			2	○					1			兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
②職業専門科目	(生産理論) (林産理論)	森林計画・政策論	2前		2		○			1	1				兼1	オムニバス	
		造林学	2前		2		○								兼1		
		森林土木学	2前		2		○			1							
		木質科学概論	2後		2		○					1					
		木材生産システム	2後		2			○		1						兼2	オムニバス
	(畜産理論)	飼料総論	2前		2		○			1							
		家畜生理解剖学	2前		2		○					1					
		家畜育種繁殖学	2後		2		○									兼1	
		家畜飼養学	2前		2		○			1							
		畜産法規	3前			2	○									兼1	
		人工授精論	2後			2	○									兼1	
		家畜衛生学	2後		2		○				1						
	経営管理	簿記基礎	1前			1		○								兼1	
		簿記応用	1後			1		○								兼1	
		フードシステム論	1後			2	○			1							
		経営管理論	1後	2			○			1							
		農林業経営学	1前	2			○			1		1				兼2	オムニバス
		経営戦略	2前	2			○			1							
		マーケティング論	2後	2			○			1							
		財務会計	2前	2			○									兼1	
		管理会計	3前	1			○									兼1	
		農林業の経営組織論	3前			2	○			1						兼1	オムニバス・集中
		労務管理	2後	2			○									兼1	
		人材マネジメント	3後	2			○									兼1	
		知的財産権	3後			2	○									兼1	
	経営実習Ⅰ	4前	5					臨	14	5	4	1					
	経営実習Ⅱ	4後	5					臨	14	5	4	1					
	加工・流通・販売	食品科学	2前			2	○				1						
		収穫後生理学	3前			2	○			1							
		木材利用・流通論	2後		2		○			1						兼1	
		食品流通論	3前		2		○										
		農と食の健康論	2後			2	○			1	1					オムニバス	
		6次産業化実践論	3後	2			○			1							
食品加工実習		3前		2			○		1						兼1	共同※講義	
木材加工実習		3前		2			○		1						兼1	オムニバス※講義	
販売管理実習		3前	2				○		1						兼1	共同※講義	
生産技術	総合実習	1通	2				○				3	1			兼5	オムニバス・共同	
	圃場実習(栽培)	2前		2			○				2				兼7	オムニバス・共同	
	圃場実習(畜産)	2前		2			○				1				兼1	共同	
	演習林実習	2前		2			○					1			兼1	共同	
	生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)	2後		4			○				2				兼6	共同	
	生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)	2後		4			○			1	1				兼1	共同	
	生産マネジメント実習Ⅰ(林業)	2後		4			○			1					兼1	共同	
	生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)	3通		4			○				2				兼6	共同	
	生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)	3通		4			○			1	1				兼1	共同	
	生産マネジメント実習Ⅱ(林業)	3通		4			○			1	1				兼2	オムニバス・共同	
	大型機械実習Ⅰ	2前	2				○				1					集中	
	大型機械実習Ⅱ	3前			2		○					1				集中	
	林業機械実習	3・4前			2		○			1						集中・隔年	
	GAP演習	2前	2				○				1				兼2	オムニバス	
企業実習	3後	10					臨	3		1					共同		
小計(79科目)	-	57	80	42		-			14	5	4	1	0	兼26			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
③ 展開科目	農山村田園地域公共学	1前	2			○				1					兼1 集中 兼1 集中 兼1 オムニバス 兼1 兼1
	農村景域論	3前	2			○				1					
	農と食の哲学	2前	2			○									
	食文化論	2後	2			○									
	在来作物学	3前	2			○				1					
	農村社会論	1後	2			○									
	農山村デザイン演習	2後	2				○								
	医福食農連携論	2後	2			○				1					
	グリーン・ツーリズム論	3前	2			○									
	コミュニティビジネス論	3後	2			○									
小計(10科目)		-	20	0	0				1	3	0	0	0	兼3	
④ 総合科目	経営分析演習Ⅰ	4前	1				○		14	5	4	1			
	経営分析演習Ⅱ	4後	1				○		14	5	4	0			
	プロジェクト研究	4通	2				○		14	5	3	1			
小計(3科目)		-	4	0	0			14	5	4	1	0	-		
合計(112科目)			-	91	100	48			14	5	4	1	0	兼39	
学位又は称号		農林業学士(専門職)		学位又は学科の分野			農学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
<p><卒業要件> 基礎科目より20単位以上、職業専門科目より85単位以上、展開科目より20単位、総合科目4単位を修得し、合計129単位以上とする。</p> <p>(基礎科目)必修10単位と、英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲから4単位を含む20単位以上</p> <p>(職業専門科目)85単位以上</p> <p>■「農林業基礎」 必修6単位を含む10単位以上</p> <p>■「生産理論」 コースを選択し、必修6単位、コース必修10単位を含む16単位以上</p> <p>◎栽培コース必修:作物学、園芸学、植物病理学、応用昆虫学、土壌肥料・植物栄養学</p> <p>◎林業コース必修:森林計画・政策論、造林学、森林土壌学、木質科学概論、木材生産システム</p> <p>◎畜産コース必修:飼料総論、家畜生理解剖学、家畜育種繁殖学、家畜飼養学、家畜衛生学</p> <p>■「経営管理」 必修25単位</p> <p>■「加工・流通・販売」 生産理論科目群と同じコースを選択し、必修4単位、コース必修4単位を含む8単位</p> <p>◎栽培コース・畜産コース必修:食品流通論、食品加工実習</p> <p>◎林業コース必修:木材利用・流通論、木材加工実習</p> <p>■「生産技術」 生産理論科目群と同じコースを選択し、必修16単位とコース必修10単位を含む26単位以上</p> <p>◎栽培コース必修:圃場実習(栽培)、生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)、生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)</p> <p>◎林業コース必修:演習林実習、生産マネジメント実習Ⅰ(林業)、生産マネジメント実習Ⅱ(林業)</p> <p>◎畜産コース必修:圃場実習(畜産)、生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)、生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)</p> <p>(展開科目)必修20単位</p> <p>(総合科目)必修4単位</p> <p>(履修科目の登録の上限:45単位(年間))</p>						1学年の学期区分						2学期			
						1学期の授業期間						15週			
						1時限の授業時間						90分			

授 業 科 目 の 概 要			
（生産環境経営学部生産環境経営学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目 一般教養	静岡学	静岡県はものづくり県であり、産業界を牽引する数多くの業種の企業が存在し、ヒト、モノ、カネの経営資源の奪い合いが起こっている。このような中で農林業経営を行うには、農林業の枠内にとどまらず、他産業の情勢、動向を理解する必要がある。本科目では、静岡県の農業、林業などの一次産業、製造業などの第二次産業、卸売業・小売業・サービス業などの第三次産業の各界のトップランナーを招聘し、講話を聴講する。その上で、グループ・ワークと発表を通じ、今後の静岡県の農林業のあり方や発展に向けた解決策を経営の視点から考える。	短期大学との合同授業 同時に行う学生数：124人 ・各界のトップランナーの講話を聴講する貴重な機会であり、教育上必要である。 ・グループ・ワークは大学と短期大学のそれぞれのグループで行うが、発表は同じ会場で行うため、多様な意見に触れることが出来て、かつ、交流も進むため、教育効果が高い。 ・大学と短期大学でそれぞれ教員を配置しており、達成目標も異なっているため、教育水準は担保される。
	歴史学概論	現代社会が直面する課題や歴史を理解するためには、歴史的な変化のなかに位置付けて理解し、未来のあるべき姿を構想する力を身につける必要がある。本科目では、歴史学・民俗学の視点から講義を行う。前半では、信仰や年中行事等に関する風俗慣習、民俗芸能などの民俗文化財を通じ、人々の生活の推移について学ぶ。また、後半では、世界文化遺産に登録された「富士山」と、本学のある「遠州地域」を主とする地域の歴史について学ぶ。	
	文明論	静岡県には、登呂遺跡をはじめとして、農耕の形成から古代社会にいたる数多くの遺跡が発掘されており、その成果は現代までの農業を基盤とする日本列島の社会がどのように成り立ってきたかについて様々な知識を与えてくれている。本科目では、主に狩猟採集によって食糧を獲得する社会であった旧石器時代・縄文時代から食糧を生産する農耕社会が形成された弥生時代・古墳時代にいたる考古学研究の成果をもとに地質学・地理学・農学などの研究も参照しながら、静岡および日本列島における農耕技術や農耕文化の形成について学ぶとともに、東海地方の農耕社会形成の実態について考える。	
	文学概論	「文学」を学ぶことや読むことは、言葉を通して先人たちから引き継いだ思考の「しぐさ」（知恵）を学ぶことでもある。本科目では、近代における文学と科学との関わりについて理解を深め、われわれが生きる現代を（見る／見詰め直す）ための新しい視点を獲得することを目標とし、農業と深くかかわりつつ文学活動をした宮澤賢治や、本県焼津市とゆかりのある小泉八雲などの作品を取り上げ、自然科学的思考と文学的想像力との結びつきについて考察し、彼らが近代といかに向き合ったのかを考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目 一般教養	茶道	茶道は日本の伝統文化であり、近年“tea ceremony”として海外でも人気が高まり、世界的な広がりを見せている。また、茶道は「一盃の茶を喫む」ことだけではなく、「和敬清寂」に代表されるところと日本人の美意識をもって総合芸術と云われている。本科目は、茶のこころや茶会での作法、使用する道具・香や茶花・季節を感じる和菓子・茶の種類や味わい方、茶室や露地などの空間、茶道の歴史および茶懐石の料理などについても学び、「他人を思いやり、感謝する心」を育み、日本文化に対する理解を深めることを目的とする。	
	華道	華道は長い歴史をもつ日本の伝統文化の一つである。「花を生ける」という行為は、私たちの心にゆとりや、やすらぎを与えてくれるなど癒しの効果がある。本科目では、華道の基本である花材の種類やはさみなどの道具や花器、いけばなの知識として、三つの役枝など花を生ける際の基本的なルール、花型の種類、また、自由花や古典華（生花・立華）の知識など、花を生けるために必要な基本的な知識と技術を学び、日本文化に対する理解を深めることを目標とする。	
	経済学概論	経済学は、限りある資源を用いてモノやサービスを生産し、どうすれば我々の生活が豊かになるかを考える学問である。本科目では、ミクロ経済学及びマクロ経済学について学ぶ。前半では、需要曲線、供給曲線、市場均衡、消費者余剰・生産者余剰といったミクロ経済学の基礎概念を学び、資源の最適配分や価格決定メカニズムについて理解する。後半では、物価指数、為替レート、GDPなど統計・データ、IS-LM分析、AD-AS分析などマクロ経済学の基礎を学ぶ。	
	法学概論	普段の生活の中で法について意識することは少ないが、我々は日々、商品売買などの契約行為を行っており、日常生活と法の関連は深い。また、農林業経営を行う上で法律の知識は欠かせない。本科目では、法の基本的性格を理解し、法学の基本概念を習得することを目的とする。最初に憲法などの公法、民法などの私法、労働法などの社会法、裁判、国際法などの法学の基礎を学んだ上で、経営を行う上で特に重要である民法や商法、会社法についての基礎知識を身につける。	集中
	社会学概論	農山村などの日本の地域社会では、少子・高齢化が進み、「限界集落」が話題として挙がるなど、地域社会の衰退が大きな課題となっている。その一方で、改めて身近な生活の場である地域社会やコミュニティに関心が集まっている。本科目では、社会学の基礎理論やコミュニティ及び社会の構造や文化など、地域社会・コミュニティを考えるうえで必要な基本知識や、日本の近代社会の変化を学んだ上で、今後の日本社会や地域コミュニティ、まちづくり等について考える。	
	政治学概論	政治は、社会生活で生じる権利の侵害などのトラブルや利害の衝突を防いだり、調整することで、社会の公平と秩序を実現するための営みであり、我々の生活に深く影響している。本科目では、民主政治歴史や、福祉と政治、民主政治のさまざまな仕組みについて学んだ上で、現代政治の仕組み等として、選挙、議会、政党、利益集団、官僚制、メディアなどについて、他国との比較の視点を探り入れつつ、日本の政治的課題について検討し、政治的なもの見方や基礎的な概念を身につけることを目標とする。	
	統計学	私たちの身の回りには多種多様なデータが存在する。それらデータの背後に隠れた情報を抽出することによって、それに基づいた判断を下すことが可能になる。農林業においても、対象とする生物に関するデータや、その育成条件等に関わる様々なデータを取り扱う。これらのデータを分析することは、対象とする現象をより良く理解し、客観的な解釈をするための手がかりとなり得る。そのため、それらデータの特性に応じた適切な取り扱い方や統計解析手法を習得する必要がある。本科目では、これらのデータを読み解くための解析ができるようになることを目指し、統計学の基本的な考え方を学ぶ。講義では、簡単なプログラミング（統計パッケージRを想定）を含む演習を並行して進めることで、統計学を道具として習得することを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教養	情報処理基礎	コンピューターや情報通信ネットワークの発達により、社会の情報化によって日常生活や仕事の仕方は大きく変化しており、コンピューターは現代社会に不可欠である一方、スマートフォンなどを主に使用する世代はコンピューターを使用する機会が少なくなっている。本科目では、コンピューターの操作と、ソフトウェアであるInternet Explorer(インターネットブラウザ)、Word(ワープロ)、Excel(表計算)、PowerPoint(プレゼンテーション)の使い方を学び、現代社会における基本的な情報処理能力を身につける。	
	情報処理応用	ネットワークやExcelなどのソフトを利用した情報の収集・分析は、論文作成やプレゼンテーション資料作成の際に欠かせない技術である。本科目では、データ分析につながるコンピューターの活用、インターネットを活用した情報収集、Excelによるデータ処理・解析・グラフ作成、数理統計・検定の演習、Visual Basicによるプログラミング等の演習を通じ、大学生活のみならず社会人として必要となる実践的な情報処理能力を身につける。	
基礎科目	コミュニケーション論	私たちは日々他者と何気なく言葉を交わし、しばしば当たり前のようにコミュニケーションについて語っているが、単純な説明では言い尽くせない複雑さや曖昧さが、コミュニケーションにはつきまといっている。本科目では、コミュニケーションについて、密接に関連する言語や意味、心や感情といったことごとについて、深く掘り下げて考え、コミュニケーション理論の基本的な概要を理解し、人間と言語・コミュニケーションの関係のあり方を把握することを目標とする。	
	英語Ⅰ	英語学習の基盤を確立するため、英語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能の基礎力強化を図る。 「聞く」、「話す」：基礎的な英会話の訓練を行う。自己紹介、観光、外食などの日常生活に密着した場面を想定して、基本的な日常会話の練習を行う。メディア教材等を用いて、ペアワークやグループワークを行い、日常生活で頻繁に使う英会話表現を学ぶ。 「読む」、「書く」：基本的な文法を確認しながら、英文の読解及び問題演習を行う。	
	英語Ⅱ	英語Ⅰに引き続き、本科目では、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の英語4技能の基礎力を強化する。 「聞く」、「話す」：文化や習慣、趣味などの日常生活で話題になりやすいトピックスについて英語を話す人々とのコミュニケーションをとる場面を想定し、より実践的な会話練習を行う。メディア教材等を用いて、ペアワークやグループワークを行い、英会話表現を学ぶ。 「読む」、「書く」：より複雑な文法を理解するため、英文の読解及び問題演習を行う。	
	英語Ⅲ	英語Ⅰ、Ⅱでの学習に基づき、より発展的な内容に取り組むことで「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の英語4技能を高め、英語を話す人々との「ディスカッション」が出来る能力を養う。 「聞く」、「読む」：社会における最新のテーマについて取り上げる教材を読み、聞くことで理解を深める。 「話す」、「書く」：テーマに基づき英語表現を練習し、議論の手法を訓練することで、英語表現力を養う。 ディスカッション：問題点への理解と表現するための英語力を元に、英語で議論する能力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	英語Ⅳ	アカデミック、ビジネスの場面において、プレゼンテーションを行う機会が増えている。本科目では、次の3パートに分けて、プレゼンテーションの構造を学び、アカデミック、ビジネスの両分野で的確なプレゼンテーションが行える力を養成する。 パートⅠ：コミュニケーションツールである「プレゼンテーション」の定義、構造、基本的スキルに加え、プレゼンテーションに不可欠な根拠の提示と、引用など守らなければならない事項について学びます。 パートⅡ：情報を整理し、オーディエンスに正確にかつ効率よく「報告」するため、「報告型のプレゼンテーション」の構造と表現を、事例に基づいて学ぶ。 パートⅢ：「報告型のプレゼンテーション」を発展させた「説得型・提案型」のプレゼンテーションについて、事例に基づきを学ぶ。	
	保健体育Ⅰ	健康的な生活を送るためには、運動の実践を通して、体力の向上と維持増進を図る必要がある。本科目では、日々の生活において、個々に取り組みやすい有酸素運動やストレッチ、体力トレーニングなどの実習を通して、自分の体に向き合いながら、美しい姿勢や健康的な身体づくりについて学ぶ。また、身体を動かす楽しさを知り、生涯にわたって運動することの大切さを理解し、運動による健康・体力づくりのために必要な知識と実践力、及び自分自身の身体とコミュニケーションする力を身につけることを目標とする。	
	保健体育Ⅱ	充実した生活を送るためには、心身の健康は欠かすことはできない。本科目では、種目としてサッカー、バスケットボール、バレーボールなどを予定する。各種目とも初心者が取り組みやすいように基本練習を中心とした内容を実施する。基本練習を通じ、運動に関する知識や健康維持につながる運動について学ぶとともに、仲間との身体を介した関わりにより他者とのコミュニケーション能力を高め、公正、協力などの社会性を身につけることを達成目標とする。	
職業専門科目	農学概論	持続的な社会の構築のため、農学には新たな展開が必要となっている。本科目では、日本の農林業の現状を把握し、環境問題、エネルギー問題、担い手問題など複雑にからみあう現実の課題を解決し、持続的な社会を構築するために現代の農学は何ができるか、どう拡大・進化を続けているかを考察する。我が国農林業の課題、作物栽培の現状と課題については、食生活の多様化に対応した作物供給、農産物輸出、経営の大規模化・農地集積等によって生じる課題について学習を行う。 (オムニバス方式/全15回) (② 祐森誠司/1回) 畜産の現状と課題 (⑦ 平岡裕一郎/2回) 日本林業の現状と課題 (⑧ 丹羽康夫/2回) 遺伝子組換え技術の現状と課題 (⑬ 松尾和之/2回) わが国農林業の課題、作物栽培の現状と課題 (⑬ 佐藤展之/1回) 肥料と環境問題 (⑭ 外側正之/2回) 有害生物の防除と管理 (⑯ 杉山恵太郎/1回) 野菜園芸の現状と課題 (26 稲葉善太郎/1回) 花卉園芸の現状と課題 (⑲ 杉山泰之/1回) 果樹園芸の現状と課題 (⑳ 中野敬之/1回) 工芸作物栽培の現状と課題 (42 吉村親/1回) 農業の担い手の現状と課題	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
職業専門科目	農林業基礎	環境と農林業	<p>(概要)</p> <p>農業と林業は、それぞれの基盤である農地、森林の間で相互に関係を持ちながら、水、大気、物質の循環に貢献しつつ、多面的機能を発揮している。その一方、戦後の日本農林業の発展過程において農薬による化学物質汚染や肥料の過剰利用による富栄養化などの様々な環境問題を引き起こしてきた。本科目では、農林業が環境保全へ果たしている役割や森林のもつ景観形成機能を学ぶとともに、農林業生産が引き起こす環境問題とその対策を考える。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(③ 逢坂興宏/3回) 森林の環境保全機能と景観形成機能、山地の地形変化と土地利用、土砂災害とその対策の歴史</p> <p>(⑪ 大石竜/2回) 肥料や堆肥をめぐる諸問題</p> <p>(⑭ 外側正之/10回) 農林業と環境保全、農薬をめぐる諸問題</p>	オムニバス方式
		農林業史	日本の農林業はどのような変遷をたどってきたか。本科目では、歴史・民俗資料を活用して、農業・林業の技術史を理解し、特に遠州地域の農林業史の理解へ発展させる。最初に、農具や農業用水を取り上げ、水田稲作農耕史やその技術史を理解する。また、戦後の本県北遠地域を中心とした林業史について理解する。これらの知識をもとに、グループワークにより遠州地域の農林業について取りまとめた上で発表を行い、現代の農林業へいかに繋がっているのかを確認し、現代の課題を考察することを学習目標とする。	
		農林業政策	農林業経営が直面する課題に即した農業・食料関連政策や制度について学ぶ。わが国における農林業政策の展開を振り返るとともに、現在の食料・農業・農村基本法の下での食料自給力・食料自給率の維持向上に向けた施策、食料の安定供給の確保に関する施策、農業の持続的な発展に関する施策、農村の振興に関する施策及び、それぞれの施策の関連法について基礎的知識を習得する。また、森林・林業政策として、森林の有する多面的機能の発揮に関する施策、林業の持続的かつ健全な発展に関する施策、林産物の供給及び利用の確保に関する施策について学ぶ。現在における政策の役割及び課題について理解することを目標とする。	
		技術者倫理	<p>(概要)</p> <p>人類は、高度経済成長により飛躍的に物的豊かさを獲得してきた。農林業では、規模拡大や単作化、機械化、化学肥料・農薬の多用が進んでおり、農林業は環境問題の一端の責任を負っている。また、食の安全・安全も課題である。このような問題群の中で、農林業関係者は農林業の発展に関し大きな社会的責任を負っており、倫理的な問題が絡んでくるのが認識されつつある。本科目では、近年の異常気象、特に温暖化が農林業に与える影響と適応策について学ぶとともに、バイオテクノロジーにおける倫理、家畜福祉など農業技術者として必要な倫理を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 森口卓哉/2回) 農業と環境問題</p> <p>(③ 逢坂興宏/3回) 森林・林業と環境をめぐる諸問題、森林・林業技術と地球倫理・環境倫理</p> <p>(⑧ 丹羽康夫/3回) バイオテクノロジーの展開と倫理</p> <p>(⑱ 竹内隆/2回) 農業技術と技術者の社会的責任</p> <p>(⑳ 小林信一/1回) 家畜福祉</p> <p>(㉑ 片山信也/2回) 畜産と環境問題</p> <p>(㉒ 近藤晃/2回) 林業をめぐる諸問題</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目 農林業基礎	県内農林業事情	(概要) 静岡県内には、農林業を牽引する多くのビジネス経営体や林業事業体がある。このような先進的な経営体(事業体)の現状について学ぶことは、将来の農林業経営を考える基礎となる。本科目では、経営体の事例を交え、経営作物ごとに先進経営体の現状を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (① 多々良明夫/3回) 果樹の先進経営体の現状 (② 祐森誠司/3回) 畜産の先進経営体の現状 (⑦ 平岡裕一郎/3回) 森林事業体の現状 (⑬ 佐藤展之/3回) 花卉の先進経営体の現状(静岡県東部地区・中部地区・西部地区) (⑯ 杉山恵太郎/3回) 野菜の先進経営体の現状	オムニバス方式
	県外農林業事情	静岡県外には、グローバル化の進展や規制緩和、消費者の食の安全・安心の高まりなど、時代の要請を的確に捉え、積極的に挑戦している力強い経営体が数多く存在する。また、静岡県は、関東圏の市場に向けて農産物を出荷することが多く、これらの市場の動向は今後の販売戦略を考える上で重要である。本科目では、今後の農林業経営を考えるため、静岡県外の先進的な経営体、全国的な市場を訪問し、農林業の最新の状況を学ぶことを目的とする。	集中
	海外農林業事情	日本国内の人口減少によって食料の国内需要は減少する一方、世界では人口が増加し、世界需要の増加が見込まれている。このため、国では農林水産物・食品の輸出を促進している。農林業者が輸出に取り組むためには、輸出を行うための基本知識やグローバルマーケットの戦略的な開拓が必要であり、海外の農林業事情を把握することが必要となる。本科目では、海外の先進的な経営体や農林業関連企業などを訪問し、海外の農林業の最新の動きを学ぶことを目的とする。	集中
	農林業のための基礎数学	数学は自然科学と社会科学に含まれる全ての学問分野の基礎となっており、生物のメカニズムの理解、実験に計算や比較、経営分析など、様々な場面で数学の基礎的知識が必要となる。本科目では、微分積分学と線形代数学を中心に学ぶ。初学者でも学習に入りやすいよう集合と写像、理論の基礎から始める。次に関数に関する初歩事項を「数列と極限」から「微分積分」の基礎まで学ぶ。最後に、線形代数として平面ベクトルと直線、行列と行列式の基礎事項を学ぶ。	
	農林業のための生物学	農林業の基礎理論を学ぶ上で生物学は、その基盤として重要な科目である。生物学とは命ある物に共通する点、異なる点を明らかにすることの追究により進展してきた学問である。追究の過程では生命現象の詳細が明らかとなり、技術の進歩によりこれら現象に人類の意図を組み込むことも可能となっており、医学や農学の進歩を支える基盤となっている。本科目では、職業専門科目の理解に役立つべく細胞、細胞分裂、受精、発生などの生物学の基礎知識の習得と、生物学の面白さ、大切さを理解することを目標とする。	
	農林業のための化学	化学は生活の身近なところで役立っている。特に、農林業で扱う生物の生命は多くの化学反応によって維持され、また、生産のために農薬、肥料など様々な化学物質が使用されている。本科目では、農林業を営むためだけでなく、日常生活でも関係する化学反応を理解するため、原子の構造と化学構造、化学式の意味、化学反応の量的関係、化学反応速度、酸塩基と酸化還元など化学的知識を、具体的なトピックスを持ち込んだ実践的な講義を通じて学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目 農林業基礎	農林業のための物理学	物理学は自然科学の中でもっとも基礎的な学問の一つであり、広い範囲の関連分野に物理学の成果や手法が応用されている。物理学の基礎知識を身に付けていれば、さまざまな現象を定性的・定量的に捉えることができるようになる。現象の理解とともに身につけた物理学の知識は、幅広く農林業現場で生かすことができるものとなる。本科目では、農林業に活用するという視点に立って力学の基本的なことがらなどを学び、現場での判断や工夫に役立つ物理学的なものへの捉え方を身につける。	
	農林業のための地学	自然環境と調和した農林業を営むため、また内的営力、外的営力を強く受ける地球最表層部で安心、安全に暮らしていくために必要となる地学の基礎知識を、気象学、水文学、土壌学、地質学、地形学等の幅広い分野と関連させながら学ぶ。 太陽系の中の地球、大気の大気放射収支、水循環と水収支、降水、蒸発散、土壌水と地下水、地表水、土壌の生成、風化、土の理化学性、地球内部の構造、地震と地震災害、火山活動と火山災害、火成岩、堆積岩、変成岩、地質構造、地盤と地形、日本列島の歴史、日本の天気、気象災害など	
	分子生物学	20世紀中頃に生物の遺伝情報をコードするDNAの構造が解明され、21世紀に入ると様々な生物のゲノム情報の解明が進むことにより、生理、生態、発生、行動、遺伝、進化といった生物に関わる様々な現象が分子レベルで明らかにされるようになってきた。したがって、分子生物学は生物に関わる多くの分野において必要とされる基礎知識となっている。本科目は、細胞をベースにDNA、遺伝子、タンパク質の構造や機能を理解し、生命現象を分子レベルで考察するために必要な知識を修得することを目標とする。	
	農業気象学	(概要) 農林業は、自然環境下で営むもので、気象の影響を強く受ける。このため、気象と生物の生育や気象災害との関係を理解し、経営に取り組むことが大切である。近年の気象変動による山林の災害の現状、農林業生産で必要となる、施設園芸内の環境を含めた微気象の知識、また、近年の台風等による農業施設の強風被害とパイプハウス等の補強技術など気象災害とその対策など農林業生産で必要となる知識を習得する。 (オムニバス方式/全15回) (③ 逢坂興宏/2回) 森林山地における水文・気象現象、気象災害 (⑬ 長藤亮彦/2回) 園芸施設の気象災害対策 (⑭ 佐藤展之/4回) 耕地の微気象、環境と植物反応、園芸施設の構造と環境計測、施設園芸における環境制御 (⑳ 中野敬之/7回) 農業と気象、農業気象災害とその対策(茶)	オムニバス方式
	生命科学	(概要) 「生命」とは何か。農林業では様々な生物を扱っており、「生命」とは何かを理解することは、農林業を営む上で重要である。本科目では、「生命」について理解するため、生命を構成する細胞と、細胞の基本構造、生体内での化学反応に不可欠なタンパク質、遺伝的多様性、遺伝と遺伝子発現、生命活動や生命の制御について学び、生命科学の基礎を理解する。 (オムニバス方式/全15回) (⑧ 丹羽康夫/10回) 細胞とその構造、細胞の化学物質、タンパク質、生命活動と生命の制御機構 (⑨ 太田智/5回) 遺伝と遺伝子	オムニバス方式
	野生鳥獣管理・利用論	野生鳥獣による農作物被害金額は、平成28年度が172億円と高い水準にあることに加え、鳥獣被害は営農意欲の減退や耕作放棄の要因となっており、数字に表れる以上に深刻な影響を及ぼしていると考えられる。 この講義では、鳥獣被害対策の現状と課題、国の施策の方向などについて理解を深めるとともに、事例をもとに、環境管理による「鳥獣被害に遭いにくい」地域づくりの手法について学ぶ。また、獣種毎に、防護柵の設置や駆除の方法、など具体的な被害対策の手法について学ぶ。さらに、野生鳥獣の肉・皮などの利用についても、その持続的な活用方法を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	生産理論（共通）	農林業生産理論 (概要) 持続的農業を展開するためには、植物の生理生態、畜産物の機能と特徴の理論を学び、生産に結びつける必要がある。本科目では植物の生理生態、作物の生産に関わる温度や光条件などの環境条件や、耕起、施肥など総合的作物管理を学ぶ。また、木材の科学的性質を理解した上の持続的林業生産、畜産業における遺伝、繁殖、飼養などの専門領域を理解した上での畜産生産と環境負荷物質を制御するための持続可能な畜産業など、農林業生産理論を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (② 祐森誠司/4回) 家畜生産の目的・特徴・増殖技術、畜産物の機能と特徴、畜産経営 (⑦ 平岡裕一郎/4回) 生物資源としての林産物とその利用、木材の構造、木質のバイオメカニクス、樹実類と樹脂類 (⑬ 佐藤展之/3回) 植物の構造・発生・分化、生理生態機能 (⑯ 杉山恵太郎/4回) 作物の起源・分類と栽培	オムニバス方式
		環境保全型農林業論 (概要) 農業の生産性は、化学肥料や農薬の施用等により、大幅な向上が図られてきた。しかし、効率追求や不適切な資材利用・管理が農業生産活動が環境へ負荷の原因となっている場合もあり、環境負荷に少ない農業への注目が集まっている。本科目では、農業のもつ自然循環機能を活かし、生産性との調和等に留意した環境保全型農業の実現に向けて様々な知識と技術を学び、今後の農業のあり方について考える。併せて、国土保全や生物多様性に配慮した森林施業についても学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (⑫ 貞弘恵/2回) 畜産と環境問題 (⑮ 小澤朗人/6回) 環境保全型農業とは、環境保全型農業の取り組み事例、化学農薬低減技術 (⑰ 片山信也/4回) 畜産堆肥を使った土づくりと化学肥料低減技術 (⑳ 鶴飼一博/3回) 森林の公益的機能と森林施業	オムニバス方式
		農林業のための先端技術 各種センサー、モニタリング手法、AI（人工知能）、ロボット等の技術について技術革新が進む中、農業においてもこれら情報科学と農業科学の融合が求められている。これは経営の大規模化、軽労化技術や安全な農産物への要望、気象災害の増加に対して、従来の経験知や労働集約型管理による農業から、情報処理・機械制御技術を活用した農業への変換であり、その適用場面も施設栽培だけでなく土地利用型農業にも及んでいる。また、我が国では実用化はされていないものの、多収やストレス耐性の強化等を目標とした遺伝子組み替えに関する研究が進められており、温暖化や水不足の深刻化が予想される中、農業生産の安定化の手段として有望視されている。本授業では、これら先端技術の導入や研究開発を学ぶことで、将来の農業経営に資する。	
生産理論（栽培）	作物学 農作物は、大きく食用作物、飼料・緑肥作物、工芸作物に分けることができる。このうち、水稻、麦類、トウモロコシ、豆類、イモ類などの食用作物は、エネルギー、蛋白、油脂源として人間の生存や活動に不可欠な主食となる作物である。また、静岡県の主要産品の茶は、工芸・嗜好作物として私たちの生活に潤いを与え豊かなものとしている。本科目では、我が国で最も重要な普通作物である水稻について、起源と分布、品種、形態と生育、生産環境と生産の阻害要因、栽培管理技術について体系的に学習する。また、麦類、トウモロコシ、大豆、茶については、種類、用途、栽培管理技術などについて基本的情報と、環境負荷の軽減、土地・養分等の資源の持続的利用のための作付体系に関する知識の習得を行う。さらに、精密農業は作物の生理・生態的基礎的知見や位置情報に基づく情報集約型の新たな栽培管理法である。そこで、作物の生育ステージ、バイオマス量、ストレス反応を的確に把握するための、指標、センサー・プラットフォーム、データ処理法、情報の活用が見込まれる農作業や適用場面、精密農業向け機械装備、等について学習を進めるとともに、精密農業の実践例をもとに今後の展開について議論を行う。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目 生産理論（栽培）	園芸学	<p>(概要)</p> <p>静岡県は、イチゴやトマト、レタスなどの野菜、ガーベラやバラなどの花き、ミカンなどの果樹など園芸作物の栽培が盛んな県であり、これらは本県の主要産品となっている。本科目では、園芸の起源と歴史、園芸作物の成長と形態、養分吸収・光合成と転流・利用、環境制御、繁殖と改良に加え、園芸作物がもつ癒しなど機能など、園芸作物の栽培ならびに生産物の取扱いの基礎となる園芸学全般について学ぶ。また、園芸作物は化石燃料使用する品目もあるため、環境に配慮した栽培についても考える。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 森口卓哉/5回) 果樹園芸の特徴、果樹生産の現状と環境、果樹の利用・分類・形態・器官・機能、果実の発育・成熟</p> <p>(⑬ 佐藤展之/5回) 花き園芸の歴史・文化と環境、花きの分類・栽培・育種、施設園芸と環境制御</p> <p>(⑯ 杉山恵太郎/5回) 園芸の起源・歴史、野菜の分類・生長・形態・育種、野菜栽培の基礎と実際</p>	オムニバス方式
	園芸学各論	<p>(概要)</p> <p>野菜、果樹、花きなど園芸作物は、様々な技術開発により高品質な生産物が安定的に生産されている。本科目では、園芸作物の専門的な知識を得ることを目的とし、各論として野菜園芸ではトマト、イチゴ、温室メロン、タマネギなど、果樹園芸では温州ミカンやカキ、ナシなど、花き園芸ではガーベラやバラ、キクなど、静岡県特産物を例にとりながら、それぞれの生理特性と栽培方法、およびそれらに関与する諸問題について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 森口卓哉/5回) 果樹の種類と栽培、果樹栽培における生育調節剤利用、育種・繁殖、品質制御技術</p> <p>(⑬ 佐藤展之/5回) 花きの種類と栽培、花き栽培における土壌・栄養・養液栽培、生育・開花調整、鮮度保持と貯蔵・輸出入</p> <p>(⑯ 杉山恵太郎/5回) 野菜の種類と栽培、野菜栽培における作型、鮮度保持と流通</p>	オムニバス方式
	植物病理学	<p>植物の病害は、様々な微生物によって引き起こされる。日本は元々高温・多湿条件が続きやすい気候であることから、病害虫の発生やそれらによる被害が大きいのに加え、農産物に高品質を求める傾向が強いことから病害虫防除無しでの栽培が非常に困難な状態にある。さらに、現在のように国際的な物流や人の行き来が盛んになると、その移動にもなって植物の病原体が移動し、以前には見られなかった様な大規模な被害をもたらすことがある。これらの被害を防ぐためには、病原体の特徴と防除方法の知識は不可欠である。本科目では、主な病原体である糸状菌・細菌病・ファイトプラズマ病・ウイルス病・ウイロイド病の特性、病気の伝染経路や診断方法等について学ぶ。なお、現在は、単に防除効果があるだけでは受け入れられない社会情勢になっており、環境にも十分に配慮した防除方法が求められている。このことから、IPMの実践や化学農薬以外の防除方法についても積極的に紹介する。</p>	
	応用昆虫学	<p>人間社会とのかかわり合いながら生活している昆虫のなかには益虫もいれば害虫もあり、前者は植物の受粉や害虫の天敵としての生物的防除など有用資材として使われ、後者は食糧増産や保健衛生の立場から防除の対象とされてきた。本科目では、昆虫の形態や生理生態などについて学び、害虫の防除手法について化学的防除、生物的防除、物理的防除など様々な手法を学び、それらを要素技術とする環境に配慮したIPM(総合的有害動植物管理)について考える。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	生産理論 (栽培)	<p>土壌肥料・植物栄養学</p> <p>(概要) 土壌は農林業に利用されるだけでなく、地球環境保全にも欠かせないものである。土壌の概念や、土壌の三層構造や化学的組成などに加え、農耕地の土壌の現状や環境問題など農林業生産に必要な土壌の基礎知識について学ぶ。また、植物を主体とし養分吸収特性及び植物生産の代謝との関連、植物が成長するために必要な養分の機能、その養分の吸収・移動の機構、植物の栄養特性、肥料の種類と特性について学ぶ。近年肥料と環境の問題が取り上げられることが多いため、環境負荷の少ない施肥方法についても考える。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (13 佐藤展之/8回) 植物栄養と養分の吸収機構、多量要素・微量元素の生理学的役割、肥料と施肥、環境・農業と肥料、栄養診断 (14 外側正之/7回) 土壌の化学性・物理性、土壌構造、土壌微生物、土壌診断</p>	オムニバス方式
		<p>植物遺伝育種学概論</p> <p>植物育種は、生産性向上など人類にとって大切な役割を担っている。その技術は、各作物の性質、繁殖様式、開花特性などを巧みに利用し、様々な育種法が研究開発されてきた。また、育種を支える基礎科学が植物遺伝学である。本科目では、前半で遺伝のしくみや遺伝子とゲノムなど育種に必要な基礎知識について学ぶ。また、後半は交雑育種、突然変異育種、栄養繁殖植物の育種など育種の基本的な技術について学ぶ。また、植物の遺伝・育種における生物工学の基礎も合わせて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (9 太田智/8回) 植物の遺伝、植物の遺伝・育種における生物工学の基礎 (26 稲葉善太郎/7回) 栽培植物の起源、植物の育種、遺伝資源の活用</p>	オムニバス方式
	<p>森林計画・政策論</p> <p>(概要) 森林は、多面的機能の発揮を通じて、国民が安全で安心して暮らせる社会の実現や、木材等の林産物の供給源として地域の経済活動と深く結びつくなど、さまざまな働きを通じて私たちの暮らしを支える大切な存在であり、森林を保全し、長期的視点に立った計画的かつ適切な森林の取扱いを推進することが必要である。本科目では、森林政策の歴史、森林政策の骨格をなす森林関連法、森林計画制度等の基本的事項を学ぶ。さらに、諸外国の森林政策から、持続可能な森林経営に向けた森林認証制度を学ぶとともに、地球環境問題等の各国の共通性、独自性を学ぶとともに、新たな政策課題についても考察する。また、これらの森林計画策定に必要な森林の現況調査、森林管理における地理情報システム(森林GIS)と森林・林業分野のICT利活用、UAVや衛星画像等を用いたリモートセンシング技術等について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (3 逢坂興宏/7回) 森林調査の方法論 (7 平岡裕一郎/3回) リモートセンシング技術 (22 近藤晃/5回) 森林政策の歴史と制度</p>	オムニバス方式	
生産理論 (林業)	<p>造林学</p> <p>木材供給、水土保全、保健休養、CO2吸収等の森林が私たちにもたらす恩恵である多くの生態系サービスを将来にわたって享受するためには、森林を健全に保全すると共に、その持続的な循環利用(伐採、植栽、育成・保全)を図る必要がある。本科目では、造林学の基礎となる森林づくりの原理・原則、並びに森林づくりのために行われる各種作業(地拵、植栽、下刈、除伐、間伐等)の目的や方法を学ぶ。また、広葉樹林、針広混交林、複層林等、多様な森林づくりの目的とそれに対応した施業技術について学ぶ。さらに森林景観を科学する森林風致学を概説する。</p>		
	<p>森林土木学</p> <p>森林土木学は治山・砂防分野と林業土木分野からなる。治山・砂防分野では、森林山地斜面で発生する土砂移動現象(表面侵食、斜面崩壊、地すべり、土石流等)の発生メカニズムとその対策、および森林植生の有する表面侵食防止、表層崩壊防止の機能とその限界、荒廃地の復元技術および森林・植生がもつ環境保全機能と景観形成機能についての知識と最新の技術を学ぶ。林業土木分野では、木材生産システムの集材工程に大きくかわる林内路網整備に関する知識(林道、森林作業道開設の目的、役割、構造等)、設計手順、現地踏査についての知識と最新の技術を学ぶ。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
職業専門科目	生産理論（林業）	木質科学概論	樹木が生産する木質バイオマスは、地球上に最も豊富に存在する有機資源（バイオマス）である。木質バイオマスの持続的生産と利用を実現するためには、樹木の適切な管理だけでなく、木質を生産する樹木の特徴も理解する必要がある。本科目では、生物学、化学、物理学、材料学、環境学のあらゆる側面から見た木質バイオマスの特徴と実際の利用について概説する。講義を通じて、私たちは木質バイオマスをどのように扱うことで「有効利用している」と言えるのかを考える。	
		木材生産システム	<p>（概要）</p> <p>森林・林業の重要な担い手である森林総合監理士（フォレスター）や森林施業プランナーは、林業活性化構想等の策定や森林経営計画の樹立支援等の役割を担っている。本科目では、木材生産（伐採・搬出）に関する理論、丸太の造材や材積計測、価格形成の背景・要因、木材生産活動における自然環境に配慮した作業システム構築（車両系、架線系）、林業機械の構造・性能・整備・取扱方法、原価計算などの知識を学ぶ。さらに、森林経営計画の作成に必要な関連法、政策、森林の現況把握、森林管理の様々な施業法の理論と技術等を学ぶとともに同計画作成を演習する。なお、林業は労働災害の発生率が他産業と比較して高いことを踏まえ、林業・林産業の労働災害の現状やその対策を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式/全30回）</p> <p>（17）池田潔彦/ 5回）木材加工システム</p> <p>（22）近藤晃/20回）森林経営と森林管理、森林経営計画</p> <p>（25）鶴飼一博/ 5回）森林における作業システム</p>	オムニバス方式
	生産理論（畜産）	飼料総論	動物が健全に生産活動を営む上で要求する栄養素を提供する物であり、嗜好に見合うとともに経済的に低価格であることが好ましい。本科目では、生産物に成分が反映されるため、動物性食品への安全保障が重要である事を理解するとともに、自給飼料を生産する草地での土地利用の特徴や、草地の維持管理の基礎的な理論、実際の管理技術と生産される牧草の保存、活用について教授する。また、各単味飼料の特徴を知った上で、動物が利用するうえで、消化吸収が円滑に進むように加工することや組み合わせる（配合する）ことで養分要求量の充足を図ることなどを理解し、実際に飼料配合計算を行う。	
		家畜生理解剖学	家畜の飼育に当たっては、それぞれの家畜の成育や繁殖の仕方、生産の仕組みをよく理解し、その家畜の特性にあわせた飼料給与や飼育管理を行う必要がある。本科目では、動物体を構成する骨格系、筋系、消化器系、泌尿器系、呼吸器系の名称、解剖学的構造、位置関係についての基礎的知識の習得、動物間の差異について学ぶ。また各器官および系が担う機能・生理について組織、細胞レベルの構造と対応させて理解する。	
		家畜育種繁殖学	家畜は、人間の利用目的に適するように形質・能力をもつように遺伝的に変化させられてきた動物であり、生産能力や繁殖性、抗病性などの点で特徴をもった様々な動物種の様々な品種の家畜が育種されてきた。また、家畜を繁殖させる場合は、より経済性の高い家畜がその対象となるため、家畜の改良を常に意識して繁殖させる必要がある。本科目では、優良家畜の選抜・交配方法などの育種の基本的知識・理論や、繁殖に関わる様々な事象、繁殖の人為的制御技術を理解することを目的とする。	
		家畜飼養学	牛や豚、鶏などの家畜飼育にあたっては、家畜の維持、成長、生産活動に必要な栄養素の要求量に影響する環境要因について考慮し、物質とエネルギーを効率的に動物生産物に転換することを理解することが重要である。本科目では、畜産業の目的である動物生産物を効率良く獲得するために、基礎として動物の種や成長過程における飼料消化性の違いや環境要因による変化について知り、応用内容として環境負荷物質を含む排泄物の成分制御法や労働の負担低減を図る自動給餌やロボット搾乳などの先端技術の導入是非などを学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
職業専門科目	生産理論（畜産）	畜産法規	畜産経営には様々な法規が関係しているため、畜産に携わる者には、畜産に関係する法規の知識と理解が不可欠である。本科目では、家畜改良増殖法や酪農肉牛生産振興法などの畜産振興に係る法規、国内畜産保護のための国境措置に関する法規、家畜伝染病予防法などの家畜衛生に関する法規、食品衛生に関する法規に加え、流通飼料や畜産環境、価格対策に関する法規など、多岐にわたる畜産関係法律の概要を理解し、畜産経営に必要な法律知識の習得することを目的とする。	
		人工授精論	家畜人工授精は、優良な種畜の精液を効率的に利用することにより家畜の改良増殖を推進するものであり、きわめて有効な手段である。また、家畜人工授精技術には実施者や実施場所等に関する規制がある。本科目では、家畜人工授精の意義や現況に加え、精液採取、検査、処理・保存、輸送、注入等の方法と理論など家畜の人工授精技術や規制等について学習する。また、ウシやブタの胚移植や胚の凍結技術についても学習する。	
		家畜衛生学	家畜衛生の最大の役割は、家畜を病気から守り、健全な家畜から生産される畜産物を食卓に届けることである。その役割を果たすには、家畜の病気にはどのようなものがあるか、どのように感染・発症するかを知り、それらの病気を予防・防除するにはどのような飼養管理や衛生管理を行わないといけないかの方策を立てることである。また、それらの方策を立てるには、獣医師や家畜保健衛生所との連携が大切であり、関連法規も知っておく必要がある。本授業では、畜産現場において必要な家畜衛生に関する一連の知識を学ぶ。	
	経営管理	簿記基礎	企業の経済活動は、複式簿記の技術を利用して貨幣金額により測定・記録・計算されており、経営状況を理解する上で欠かせない知識となっている。本科目では、仕訳と勘定、簿記一巡の手続き、基本的な商品売買、試算表の作成方法、決算整理、精算表・損益計算書・貸借対照表の作成方法など、基礎的な商業の簿記原理と記帳、小企業を想定した決算に関する初歩的な実務を理解することを目的とする。講義の中で多くの演習問題に取り組み、実践的な能力を養う。	
		簿記応用	近年、農林業の規模拡大が進んでおり、中小規模の企業の経営状況を把握できる経営知識が求められるようになってきている。本科目では、これまでに学んだ複式簿記の原理の知識を基に、各勘定科目の意義と記入法、決算手続きなどの商業簿記の発展的な知識と、初歩的な原価計算を含む工業簿記の知識を学び、中小規模の企業を想定した簿記の実務を習得することを目的とする。講義の中では、多くの演習問題に取り組み、実践的な能力を養う。	
		フードシステム論	農業・農村の持つ多面的な役割・機能を担う日本農業に対する期待は、近年において一層の高まりが確認できる。それは、食料自給率の向上や食料の安全・安心への高い期待の高まり、地産地消・スローフード運動の広がり、持続可能な循環型社会の形成の必要性に対する認識の高まり等である。その一方で、食料生産を担う農業や食料生産の場としての農村は、過疎化や高齢化等により、持続可能性の面からみると危機的状況におかれている。また、生活様式の変化に伴い、外食や中食に代表される食の「外部化」が進み、「食」と「農」の乖離が進展している。本講義では、農産物を主体とした食料生産、食料流通、食料消費までもを含めた食料供給連鎖に関して、フードシステムの観点から現代の食料をめぐる実態と変動を理解することを、主たるねらいとする。	
経営管理論	農業経営体では規模拡大が進み組織が複雑化している。その中で、経営目的や経営戦略を確実に遂行し成果をあげるためには、経営の合理的な仕組を構築し、堅実な経営計画を策定し、その進捗状況にあわせて是正措置をとる経営管理が必要である。本科目では、経営管理の基礎理論や法人組織等における必要性が高い、経営組織、経営戦略、技術経営など、経営組織の基礎理論を、ケーススタディに基づき理解（ベンチ・マーキング的）にする。			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門基礎科目	経営管理	農林業経営学	<p>(概要)</p> <p>農林業の経営体では担い手の減少や市場の国際化が進む中で、複合化・多角化や規模拡大、新規市場開拓が進められてきた。また、地域農業の組織化・システム化も展開してきている。その中で、経営目的や経営戦略を確実に達成し生産や販売の成果をあげるためには、経営の合理的な仕組みを構築し、堅実な経営計画を策定するとともに、進捗状況にあわせてそれらを適正にコントロールする経営管理が必要である。本科目では、農業経営学の基礎理論を習得するとともに、農林業経営をめぐる新たな課題解決に向け、経営学における意思決定論に基づく経営管理や、経営組織論における動機づけ理論、リーダーシップ論など経営管理の基礎理論を理解する。また、農林業経営体における事例をもとにケーススタディを行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(④ 天野哲郎/12回) 農林業経営の基礎理論、経営管理の基礎理論、ケースメソッド</p> <p>(⑪ 大石竜/1回) ケース・メソッド 野菜経営</p> <p>(⑫ 小林信一/1回) ケース・メソッド 畜産経営</p> <p>(⑳ 近藤晃/1回) ケース・メソッド 林業経営と森林管理</p>	オムニバス方式
		経営戦略	<p>変動し続ける環境に適応しながら、企業が長期的に存続していくためには、長期的視点に立った経営戦略の理論を持つことが必要である。本科目では、経営戦略に関する知識を習得することを目標として、経営理念・経営目標、環境分析、ドメイン・成長ベクトル・多角化戦略など経営戦略に関する基礎知識や、5つの競争要因と3つの基本戦略・価値連鎖・産業クラスター・競争対抗戦略など成長戦略に関する基礎知識、コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任、技術経営(MOT)などについて学ぶ。その際、経営戦略の基礎理論を学ぶとともに、戦略策定に有効な分析手法について習得するとともに、グループワークにおけるディスカッションにより、具体的な戦略の策定の仕方を学ぶ。</p>	
		マーケティング論	<p>売れる農林畜産物の背後には、どのような仕組みがあるのか。価格が安いだけで、農林畜産物は売れるのだろうか。生産者と小売などの流通業者との間の力関係はどのようになっているのか。広告をすれば農林畜産物は売れるのだろうか。このような疑問に答える学問が、マーケティング論である。授業では、まずマーケティングの基礎的な知識をわかりやすく説明する。そして、企業の市場参入戦略、マーケティング・リサーチ、マーケティング・ミックスに重点を置き、企業の成功例と失敗例を交えながら映像資料も大いに活用し、わかりやすく解説する。</p>	
		財務会計	<p>財務会計は、企業の財政状態や経営成績に関する会計情報を企業外部の利害関係者に報告することを目的としている。報告は財務諸表を用いて行われ、これらの基本的な知識は企業の経済活動を理解するうえで欠かせない。本科目では、財務諸表の仕組みなど財務会計の基本的事項について学ぶ。また、企業の経営状況を知るには、その企業の財務データを読み取ることが必要であることから、財務諸表の特徴と読み方や経営分析の手法を学び、企業の財務状況を分析する能力を身につける。</p>	
		管理会計	<p>企業は、社会の経済的欲求を満足させるために作り出された社会的形成体であると同時に、自らの存立と持続を実現するための経済性を追求する。管理会計はこうした企業が経営目的を達成するために行なう合理的な意思決定に役立つとするものであり、「経営管理のための会計」といわれる。本科目では、企業の利益管理を中心に、経営戦略と管理会計との関連について学ぶ。また、管理会計理論の修得と同時に、現代企業を対象にしたケーススタディを随時取り入れ、管理会計理論が実際の企業の中でどのように取り入れられ実践されているかについても学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
職業専門科目	経営管理	農林業の経営組織論	<p>(概要)</p> <p>農業においては家族経営を主体として展開してきたが、近年、法人化や集落営農などの経営主体が展開してきた。これらの経営体では、様々な構成員の活動によって成り立っており、チームや職場という組織をいかにうまく活用して、経営成長を成し遂げるかを目的としている。また、家族経営においても個々の経営体だけで企業活動を継続できるものではなく、各種の組織に支援されていることから、経営組織論は農林業経営にとって必要な知識となっている。そこで、一般企業を対象にして展開してきた経営組織論の論理に関する基礎知識を習得するとともに、農業経営の経営形態別に組織論上の課題を具体的に考察する。</p> <p>また、近年は株式会社等が過度に効率性・合理性を追求することで、世界経済に混乱をもたらし、貧富の格差拡大や自然環境への過大な負荷などの問題も顕在化してきている。こうしたなかで、協同組合が、その掲げる理念とともに世界的に再評価されている。そこで、株式会社等と対比しながら、協同組合の基本特性、意義や役割、それを担保する協同組合原則について学ぶとともに、協同組合運動と事業の展開について学ぶ。さらに、農業分野で関連の深い農業協同組合の理念や組織、事業展開と今日的課題について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (④ 天野哲郎/9回) 経営組織論の理論と課題 (⑬ 柴垣裕司/6回) 協同組合の基本特性、意義や役割、協同組合原則</p>	オムニバス方式集中
		労務管理	<p>農林業経営体において雇用する場面が増えているが、労働者が安心して安全に働けよう、雇用者として労働関係法令の内容を正しく理解する必要がある。本科目では、労働者を雇用する際に必要となる労働法の知識、労働者を雇い入れる際に必要となる労働契約や就業規則、各種保険と年金制度、賃金や労働時間・休暇・休日、労働安全・休日などの労働条件のルール、退職や解雇などの労働関係が終了するときの手続きなど実務に必要な知識を学ぶ。</p>	
		人材マネジメント	<p>企業はヒト・モノ・カネ・情報の4つの経営資源から成り立っており、このうちのヒトに関する企業の管理が人的資源管理（HRM）である。本科目では、日本の労働市場や、人的資源管理の位置づけ、採用管理や配属と異動の管理、教育訓練、人事評価などの人的資源管理をめぐる基本的な考え方を学ぶとともに、具体的なトピックスにも触れながら、日本の人的資源管理の現状と課題について体系的に学び、農林業経営体で必要な人的資源管理について考える。</p>	
		知的財産権	<p>近年、知的財産の戦略的な創出と活用が企業経営の機能としてしめる意義がますます高まっている。現在の農林業経営では、知的財産に係わる場面も多く、知的財産に関する知識は必要不可欠である。本科目では、特許権や実用新案権、品種登録に係る育成者権、著作権、製品企画・販売戦略に係る商標権、農業で活用される地域団体商標など、今後の農林業経営に生かすことの出来る知的財産権の基礎知識を習得することを目標とする。</p>	
		農と食の起業論	<p>地域活性化の一環もあり農業や食料に関わるビジネスの起業や新規就農者の増加が、農林水産統計で確認できる。なかでも、起業には様々なリスクが伴うため、起業にあたっては情報収集を綿密に行う必要がある。本講義では、農業や食料に関わるビジネスを起業したり、就農したりする際に必要となる知識やノウハウ、考え方を習得し、起業に必要な基礎知識を体系的に学ぶ。さらに、農業や食料関連ビジネス起業者を招聘し、起業の背景や理由、経営理念、起業のステップと各ステップごとの課題と対応策、起業に必要な諸要件などを学ぶ。それら先進事例に関して、受講生のグループ・ワーク等で多角的に学ぶことで、ビジネスプラン策定に関わる知識やノウハウの獲得を図ることを、本講義の主たるねらいとする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
経営管理	経営実習Ⅰ	農林業経営体では、生産現場が「企業の売上を稼ぐ部門」であり、農林業経営体の利益に直接的な影響を与えている。このため、農林業経営体の持続と、さらなる発展のためには、生産部門の安定と効率化が不可欠である。本科目では、先進的な農林業経営体の生産現場で実習を行い、これまで学んできた知識を使いながら、農林業経営体の持続と発展に向けた効率的な人員配置、適切な生産資材の利用、生産情報の収集と利用法について学ぶことを目的とする。	
	経営実習Ⅱ	人手不足や少子高齢化など農林業経営体が直面する経営環境は変化し続けており、その中で企業が継続事業体として自らの成長と発展を実現させていくためには、優れた経営感覚や経営戦略、それにもとづく戦略的経営の実行が不可欠である。本科目では、農林業経営体の経営部門や、加工部門、流通部門、販売部門などの部門で実習を行い、これまで学んできた知識を使い、農林業経営体の経営戦略と戦略に基づく経営について学ぶことを目的とする。	
職業専門科目	食品科学	近年、食の安全性など食にまつわる様々な課題、問題が噴出しており、消費者の関心が高くなっている。農林業経営では食品に対する幅広い正確な知識、食品安全、健康に生活していくための栄養バランスのとれた食品の摂取に関する知識が不可欠である。本科目では、食品と健康とのかかわりや機能、食品の主要成分や特殊成分、食品成分の酸化や成分間反応、食品の貯蔵、食品安全をリスク学の視点から考えるための基礎知識や、化学物質および微生物からの食品汚染、最近注目が高い特定保健用食品や機能性食品、HACCPについての最新情報など、食品化学や食品衛生の基礎知識や先端的な内容について学ぶ。	
	収穫後生理学	農産物の、収穫から消費に至るまでの、追熟・老化に関する特性を、生理学的に説明する。特に野菜や果実、切り花などの園芸作物は、収穫後、急速な代謝変動を伴い成熟・追熟・老化するが、これにはエチレンが深く関わっている。本科目では、園芸作物の老化に作用する、エチレンの作用・生合成・調節機構について説明するとともに、園芸作物の収穫から消費までの期間における、品質保持技術・貯蔵方法・加工に関わる基礎知識について解説する。	
	木材利用・流通論	林業の主要な生産物である木材は、建築材料や家具など様々な用途に、その特性を生かして加工・利用されている。本科目では、木材の特性と加工・利用の関係を理解することを目的とする。まず、木材の物理的性質や木材の保存、木質材料の製造と2次加工など木材に関する基礎知識を学ぶ。次に、世界の木材需給と流通、日本の木造住宅における在来工法、枠組壁工法等の特徴について学ぶ。最後に、林業にとって市場に出す最初の製品である丸太の商品力を高め、採算性を高めるための工夫や、木材の種類・生産工程・用途等の違いによる流通の形態や変遷、木材市場の役割・動向、IoT、ICTを利用した木材流通について学ぶ。	
	食品流通論	高度経済成長以降、女性の社会進出や家族世帯員数の減少、食品関連産業の発展等を背景として、日本の食生活は、外部化および洋風化等が進展し、大きく変化した。外部化や洋風化の影響により、生産者から最終消費者までの距離は長くなるとともに、食品の供給ルートは複雑化し、流通が果たす役割が大きくなっている。本科目では、高度経済成長期以降変化してきた食生活の実態や、食品流通の機能や構造を理解するとともに、消費者に安全・安心な食品を安定的に届けるための流通システムのあり方について考える。	
	農と食の健康論	(概要) 「食」は私たちの「健康」に大きな影響を与える。一方で「食」は農業生産によって生み出されるため、「農」と「食」は密接な関係にある。本科目では、食が健康に与える影響、並びに、最近注目を集めている食品や農産物の機能性成分の種類や、その働きを学ぶ。特に、柑橘類や沢ワサビなど、県・地域の特産物を通じて食品の機能性を身近に捉え、これらと健康との関係を考察する。また、日本および諸外国の農業、気候、農作物と食文化から健康を考える。 (オムニバス方式/全15回) (① 森口卓哉/8回) 機能性成分の働きと機能性成分をもつ食品・農産物 (13 内藤博敬/7回) わたしたちの食と健康	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
職業専門科目	加工・流通・販売	6次産業化実践論	6次産業化とは、第1次産業の農林魚業、第2次産業としての製造業、第3次産業としての小売等の事業者が連携し、地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す取り組みである。地域と連携し、カネとモノの世界だけではなく、地域のつながりやコトの世界を重視していくことが重要である。本科目では、6次産業化をとりまく市場条件、6次産業化の主体や場の条件、倫理や戦略を相互に関連付けて、6次産業化の方向性や可能性について具体的な事例を示しながら考えることを目的とする。	
		食品加工実習	食品加工技術を用いることで、農畜産物の栄養性や嗜好性、保存性を向上させることが出来る。本科目では、農畜産物の栄養性や嗜好性、保存性を向上させる様々な加工技術、農畜産物の加工法や保存法、包装法、さらに、食品別の規格基準や、健康や栄養に関する食品表示制度について学ぶ。また、農畜産物の原料処理、加工方法、各工程における機械の操作、包装方法、殺菌方法などの食品加工技術および原理を体得すると共に、食品工場における衛生管理、工程管理、製品管理等の基本を学ぶ。	共同 ※講義 16時間 ※実習 44時間
		木材加工実習	(概要) 木材は、構造材料あるいは強度部材として利用するため、木材の物理的性質や力学的性質等を把握することは重要である。本科目では、切削加工から人工乾燥等の製造技術及び品質管理手法や、合板・集成材等の製造・性能特徴に関する基礎知識、木造住宅や木造建築の合理化手法や、耐久性・耐火性を向上する手法について学ぶとともに、木工作品の製作を行うことで、設計の仕方、作品の製図作成、木材加工の機械や道具の使い方、作成手順、安全作業など木材加工に必要な知識と技術を習得する。 (オムニバス方式/30回) (17) 池田潔彦/14回) 製材・機械加工、木材の乾燥技術及び物理的・強度的性質、木質材料の種類と特徴 (29) 星川健史/16回) 木工具・木工機械の種類と管理方法、木工作品の製作	オムニバス方式 ※講義 28時間 ※実習 32時間
		販売管理実習	マーチャンダイジング、ストアオペレーション、販売管理の知識を学びながら、マーケティング戦略に沿って農林畜産物を販売するための方法を学ぶための実習を行う。本科目では、農林畜産物を販売するための経営手法を理解した上で、販売管理のノウハウを修得し、販売の技術を身に付けることを目標とする。まず、どのような製品を、いくらで、どこで販売し、どのような宣伝を行うかのマーケティング戦略の手法を理解し、商品計画、価格設定、在庫管理などの商品知識を深める。そして、ストアオペレーション、販売技術、販売管理のノウハウを修得し、顧客情報の収集法と分析、顧客の管理などの手法を身に付ける。	共同 ※講義 8時間 ※実習 52時間
	生産技術	総合実習	(概要) 水稲、茶、野菜、果樹、花卉、畜産、林業の生産管理に関わる知識や技術を学ぶため、実習や生産現場の見学を通じ、農作業安全や農業現場に即した農業の実学の基本を学ぶ。また、これらの実習等を通じて、農林業を総合的に理解する能力と態度を養う。また、畜産関連施設や、ICTやIoTを活用したスマート農業の視察を通じ、農林業の先端技術の現状について学ぶ。 (オムニバス方式/全30回) (9) 太田智/4回) 果樹栽培：果樹の樹種別の枝管理と着果管理、接木・挿し木 (10) 相蘇春菜/2回) 林業：木材の樹種同定 (11) 大石竜/2回) 野菜栽培（施設）：環境制御システムの利用法 (12) 貞弘恵/4回) 畜産：酪農施設、乳業メーカー見学 (23) 中根健/2回) 作物栽培：田植え (23) 中根健、27) 増田壽彦、28) 坂口良介/4回) (共同) 農作業安全：危険箇所・危険作業の確認、刈払機・運搬車の講習 (24) 中野敬之/4回) 茶栽培：摘採、製茶 (26) 五十右薫/4回) 花き栽培：播種、鉢上げ、収穫・調整 (27) 増田壽彦、28) 坂口良介/4回) (共同) 野菜栽培（露地）：露地野菜の栽培管理、スマート農業の視察	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
職業専門科目	生産技術	圃場実習（栽培）	<p>(概要)</p> <p>栽培の全般について理解するため、作物、野菜、果樹、花の栽培管理の実習とともに、簡易な成長調査、病害虫診断、収穫物の調査を行う。これらの実習を通じて、生育管理、病害虫管理、肥培管理の基礎を学ぶとともに、環境に配慮した農業のあり方を学ぶ。また、成長に伴う生育調査、病害虫診断の技術、収穫物の調査を通じた選果や選別の技術について学習する。</p> <p>(オムニバス・共同方式/全30回)</p> <p>(⑨ 太田智、39 山家一哲/6回) (共同) 果樹：温州ミカンの収穫、調整、出荷</p> <p>(⑪ 大石竜、⑳ 増田壽彦、㉘ 坂口良介、/6回) (共同) 野菜：露地野菜、果菜の定植、栽培管理、収穫、出荷調整</p> <p>(㉓ 中根健、42 吉村親/6回) (共同) 作物：水稻の収穫、</p> <p>(㉔ 中野敬之/6回) (共同) 茶園の栽培管理、茶加工</p> <p>(㉖ 五十右薫/6回) (共同) 花：切花の収穫、調整、出荷</p>	オムニバス方式・共同
		圃場実習（畜産）	<p>基本的な家畜の飼養管理技術について理解するため、鶏や牛などの飼養実習、簡易調査、家畜ふん尿を用いた堆肥の製造実習を行う。これらの実習を通じて、家畜伝染病予防法に基づいた管理方法や環境に配慮した農業のあり方を学ぶ。</p> <p>(鶏) 給餌、給水、清掃、衛生管理、生理学的特徴、糞便の観察、習性、鶏の保定、集卵、鶏糞処理などの一般管理</p> <p>(牛) 給餌、給水、運動、清掃、衛生管理、個体識別、生理学的特徴、糞便の観察、習性、牛の保定、頭絡のかけ方、外貌所見、測尺(体高・胸幅・胸深・尻長)、心拍数・検温・呼吸数の測定法、牛糞処理などの一般管理</p> <p>(堆肥製造) 水分管理、温度管理、切り替えしなどの一般管理</p>	共同
		演習林実習	<p>森林経営管理全般を理解するため、実習を通じて森林の調査方法、服装と道具、造林技術、森林の保護管理技術などの基礎知識や基礎技術について学ぶ。また、特用林産物の栽培実習も行う。</p> <p>森林調査：森林をつくる樹木の種類、環境、地形、土壌等の調査方法</p> <p>服装と道具：林業機械の種類と機能</p> <p>造林技術：伐採方法、枝打ち、間伐</p> <p>森林保護管理技術：生物被害と防除方法</p> <p>収穫技術：伐出技術、伐採した木材の測定</p> <p>特用林産物：シイタケの栽培</p>	共同
		生産マネジメント実習Ⅰ（栽培）	<p>生産現場の管理を行う場合には、計画（PLAN）、実施（DO）、評価（CHECK）、改善（ACTON）のPDCAサイクルを意識する必要がある。また、近年では生産現場へのICTなどの先端技術の導入が進んでおり、これらの技術を利用するための知識や技術を身につける必要がある。本科目では、計画策定に必要となる施設・圃場・作物・生産資材などの情報収集の方法、費用や利益の計算方法、先端技術の導入方法、栽培終了後の評価方法を学び、評価の結果を次にどう生かすのかを学ぶ。</p>	共同
		生産マネジメント実習Ⅰ（畜産）	<p>生産現場の管理を行う場合には、計画（PLAN）、実施（DO）、評価（CHECK）、改善（ACTON）のPDCAサイクルを意識する必要がある。また、近年では生産現場でのICTなどの先端技術の導入が進んでおり、先端技術を利用するための知識や技術を身につける必要がある。本科目では、計画策定に必要となる施設・圃場・畜種・生産資材など情報収集の方法や、費用・利益の計算方法、先端技術の導入方法、生産終了後の評価方法を学び、評価結果を次の生産にどのように生かせばよいのか考える。なお、実習はグループに分かれて行う。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目 生産技術	生産マネジメント実習Ⅰ（林業）	生産現場の管理を行う場合には、計画（PLAN）、実施（DO）、評価（CHECK）、改善（ACTION）のPDCAサイクルを意識する必要がある。また、近年では生産現場への情報通信技術（INFORMATION AND COMMUNICATION TECHNOLOGY, ICT）などの先端技術の導入が進んでおり、先端技術を利用するための知識や技術を身につける必要がある。本科目では、計画に必要となる経営森林の面積・森林の内容・森林の林齢などの情報収集の方法、先端技術の導入方法、費用や利益の計算方法、生産終了後の評価方法を学び、評価結果を次の期にどのように活かすべきかを考える。	共同
	生産マネジメント実習Ⅱ（栽培）	効率的かつ安定的な農業経営を行うためには生産性向上が不可欠であり、PDCAサイクルを意識した生産管理が必要である。本科目では、「生産マネジメント実習Ⅰ」で学んだ内容を踏まえ、生産現場におけるマネジメントを学ぶ。栽培する作目や栽培面積に応じた栽培の計画と、その計画に沿った時期別の栽培管理、雇用等の人員配置、肥料・農薬などの資材の使用計画などにもつぎ、収益と支出を把握し、データ等で分析を実施する。これらを繰り返すPDCAサイクルに基づき、計画と実績の比較を行うと共に成功や失敗の要因について分析し、分析結果を経営に生かす方法を考える。実習はグループに分かれて行う。	共同
	生産マネジメント実習Ⅱ（畜産）	効率的かつ安定的な畜産経営を行うためには生産性向上が不可欠であり、PDCAサイクルを意識した生産管理が必要である。本科目では、生産現場のマネジメントを学ぶ。施設規模や畜種に応じた生産計画と、その計画に沿った時期や人数などの人員配置計画、飼料など資材使用計画、費用と利益の計画を策定し、生産データを収集・分析しながら生産を行う。また、生産終了後は、計画と実績の比較を行い、その差異の要因について分析し、分析結果を経営に生かす方法を考える。なお、実習はグループに分かれて行う。	共同
	生産マネジメント実習Ⅱ（林業）	（概要） 効率的かつ安定的な林業経営を行うためには木材の生産性向上が不可欠であり、PDCAサイクルを意識した管理が必要である。本科目では、木材を生産する現場の管理技術を学ぶ。森林の面積・森林の内容・森林の林齢に応じた伐採計画と、その計画に沿った伐採時期や人員配置の計画、必要となる機材などの使用計画、費用と利益算出を策定し、実施する。計画の実施後、計画と実績を比較し、差異が生じた場合、要因が何であったかを分析し、分析結果を次の林業経営に活かす方法を考える。 （オムニバス方式/全60回） （⑦ 平岡裕一郎/1回）林業の基礎 （⑦ 平岡裕一郎、⑰ 池田潔彦/30回）（共同）林業のマーケティング、まとめ （⑦ 平岡裕一郎、⑳ 近藤晃/8回）（共同）土壌と水源保全 （⑦ 平岡裕一郎、㉕ 鶴飼一博/21回）（共同）経営基礎、森林レクリエーション	オムニバス・共同
	大型機械実習Ⅰ	農業機械のうち、トラクターは作業機をけん引したり駆動したりする機械で、農業機械のなかで最も基本となる。本科目では、トラクターの基本知識や運転操作方法、点検保守管理、農作業安全など大型乗用トラクターを扱うための基本的知識や基本的な運転技術を修得する。また、大型特殊（農耕車）の免許取得を目指す。 ・基本知識：トラクターの種類と特徴、構造と機能 ・運転操作方法：運転の基本操作と安全 ・点検保守管理：トラクターの点検方法、燃料と潤滑油、各種工具の使い方 ・農作業安全：農作業事故の実態と傾斜地作業の安全	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
職業専門科目	生産技術	大型機械実習Ⅱ	農林業分野では経営体の規模拡大により、機械の大型化も進んでおり、より高度な大型機械に関する知識や技能が必要となっている。本科目では、大型機械実習Ⅰで習得した大型機械に関する基礎的な知識や技能を基に、農業機械利用組織のオペレーターや大規模受託農業者等に求められる高度な大型機械の知識と技能を習得する。また、農業機械士の資格取得を目指す。 ・農業機械の構造と機能、点検整備と簡易な修理 ・農業機械の効率的利用、各種工具と計測機器の取り扱い ・作業機の着脱調整と耕耘方法、運転コースの走行方法 ・農作業事故の実態、安全対策と事故防止	集中
		林業機械実習	林業機械化の進展は、労働生産性の向上、生産コストの削減、労働強度の軽減などに大きく貢献し、現代の林業では欠かせないものとなっている。本科目では、伐木造材、架線集材、機械集材、育林に使用する林業機械の操作方法について学ぶ。また、近年導入が進んでいる作業の効率化や身体への負担の軽減等、性能が著しく高い高性能林業機械の種類と基本操作について学ぶ。 架線集材：集材機、自走式搬機の基本操作 車両集材：集材車両の機械の基本操作 高性能林業機械：フェラーバンチャ、スキッド、プロセッサ、ハーベスタ、フォワーダ、タワーヤーダ、スイングヤーダの基本操作	集中 ※隔年
		GAP演習	(概要) GAP (Good Agricultural Practice: 農業生産工程管理) とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理などの持続可能性を確保するための生産工程管理の取組である。様々な団体により、農業者が容易に法令を解釈でき、汚染を避ける効果的な措置をとるのに役立つガイドブックであるGAP規範が定められており、JGAPやGLOBALG.A.P.などの認証制度がある。本科目では、GAPの定義や導入されている背景、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理に係るGAP規範、GAP認証制度などの基礎知識や、農産物の安全のための制度及び関連法について学び、GAPの実践方法について演習を通じて習得する。 (オムニバス方式/全30回) (⑫ 貞弘恵/5回) GAPの実践 (畜産編) (⑬ 杉山泰之/20回) GAPの定義と導入の背景、GAP規範、GAP認証制度、農産物安全のための制度・関連法 (⑳ 坂口良介/5回) GAPの実践 (栽培編)	オムニバス方式
		企業実習	これまでは小規模の圃場や演習林において、生産現場で必要となる基礎的な生産理論や技術を学んできた。しかしながら、実際に経済生産を行っている農林業法人の生産施設は学内の施設より大規模であるため、学んだ知識や技術を実践的レベルにするためには、優れた農林業経営体において、実地に学ぶ必要がある。本科目では、優れた農林業法人での実習を通じて、農林業法人の持つ優れた生産技術を学び、実践的な知識や生産技術を習得することを目標とする。	共同
展開科目	農山村の伝統・文化の継承	農山村田園地域公共学	農林業は地域と密着した産業であり、持続可能な産業となるためには地域社会との連携が不可欠である。この連携を確認する作業は、農林業の公共性を考える絶好の機会となるであろう。また、農林業には、生産以外の様々な多面的な機能がある。本科目では、農山村の歴史や文化、農業・農村の多面的機能、森林の多面的機能と多面的機能の保全の取り組みについて学び、農山村や田園空間に存在する固有の歴史、伝統、文化等について理解を深め、これからの農林業や農山村のあり方を考える能力の育成を目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
展開科目	農山村の伝統・文化の継承	農村景観論	日本の農村は、水田、畑、集落、雑木林、鎮守の森、用水路、ため池など、人の手が加わった自然が、長い歴史の中で有機的に連携し、多様な生態系や農村景観が形成されてきた。しかし、近年では、都市周辺農村での混住化、中山間地域の過疎化・高齢化など農村を取り巻く環境が大きく変化し、農村の景観も変化してきている。本科目では、人間の生活・生産活動が行われている動的な地域である景域について学び、景域はそこに暮らす人々の生業の歴史文化と関係しながら形成されてきたという視座に立ち、永続性のある、美しい、健全な景域をめざして、景域の秩序・管理・維持・開発の方法について学ぶことを目標とする。	
		農と食の哲学	現代社会において食料の消費と流通のあり方は大きく変化した。これを視野に入れない農業（食料の生産）には将来的な展望が拓かれないところまで、事態は進んでいる。それは農学という学問分野にとって、自らの足場が問われることを意味する。それを踏まえて本科目では、「農」と「食」という営みの本質について、両者の関係に注目しながら、対話を通して考え、持続可能なフードシステムとそれを支える農（学）の使命を構想・実現するための哲学的・倫理的な思考と対話の力を培う。	集中
		食文化論	和食がユネスコ無形文化遺産に登録されたように、日本の食文化が世界的に注目されている。本科目では、「『自然を尊ぶ』という日本人の気質に基づいた『食』に関する『習わし』」である和食文化の特徴や、日本の食文化の変遷や現状について学ぶ。また、日本だけでなく、アジアや欧米諸国など世界各国の食文化も取り上げる。さらに、近年、見直しが進んでいる「在来作物」について学び、在来品種を用いた郷土食や今後の新しい活用法について考える。	
		在来作物学	在来作物とは、ある地域で世代を越えて受け継がれてきた伝統作物で、かつては日本全国それぞれの地域毎に、その気候風土や食生活と密接に関連した特徴的な作物が栽培されていた。しかしながら品種改良された作物に比べると、形が不揃いで日持ちがよくないため流通には不向きであると同時に生産性や収益性も低いため、栽培者の高齢化、後継者不足が深刻で、在来作物の多くが既に消失もしくは消失の危機に直面している。静岡県はその地理的な特徴から全国屈指の在来作物の種類を誇り、取り分け静岡市葵区や浜松市天竜区などの山間部にその多くが残っている。在来作物は焼き畑のような昔ながらの農法や伝統行事、地域の食文化とともに受け継がれてきた作物であるため「生きた文化財」とも言われ、さらには有機農法や機能性食品として、あるいは品種改良された作物では失われてしまった深い味わいや風味を生み出す遺伝的多様性を残している。地域の知的財産として注目され始めている在来作物の過去、現在について学び未来について考える。	
		農村社会論	現在、日本の農業・農村は、国際化、担い手の高齢化、耕作放棄地の増加、安全で安心な食料の安定供給などさまざまな課題に直面している。農村社会の特徴を生かしながら、今後の持続可能な農業や社会の発展のあり方を考えるためには、生産だけでなく消費を視野に収めることや、生産者としてだけでなく生活者としての地域住民に着目することが求められる。本科目では、都市における生活や地域社会と対比させながら、農山村の生活や地域社会の特徴を明らかにする。	
		農山村デザイン演習	農林業は地域に密着した産業であり、生業の場が生活の場であることが多い。このため、農山村地域を知ることが重要である。本科目では、農山村において地域住民と交流し、その体験を通して地域や地域住民が抱える課題を発見し、地域とともに課題解決策を考える。また、これらの体験を通じ、日本の中山間地域における農林業と生活の諸問題について関心をもち、地区住民と共に問題解決に挑戦するアイデアや方法を考え、戦略を立てる能力を身につけることを目標とする。	集中

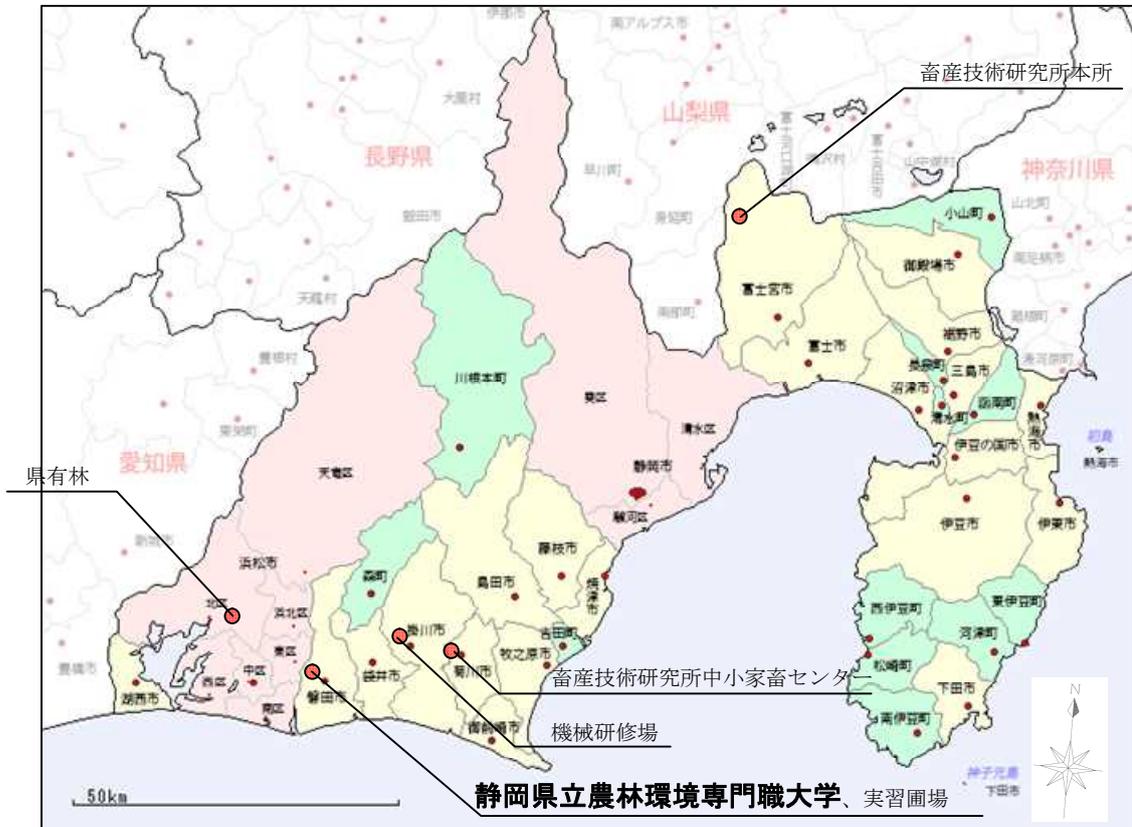
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	医福食農連携論	<p>持続可能な健康社会を構築するためには、食や環境と健康のつながり、すなわち「農」と「医」の連携を理解する必要がある。ヒトが健康であるためには、予防医学の理解が重要であり、そのためには環境や食に関する基礎知識が必要不可欠である。また、園芸活動を通じて得られる心身のリハビリテーションや心の癒し効果、コミュニケーション促進、共同作業による社会参加促進などのさまざまな効用を利用して、障害のある方ばかりでなく心身の健康や機能回復、心のゆとりや豊かさなど生活の質の向上を実現しようという「農」と「福」の連携の動きがある。本科目では、「農と医」、「農と福」の連携の現状を学び、その連携の重要性を理解することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (13 内藤博敬/10回) 健康とは何か、健康に影響を与える要因、病気の予防と健康増進、身近な健康問題と食と農の関わり (42 吉村親/5回) 園芸の癒しの効果(園芸福祉士の役割)、農業における障害者雇用</p>	オムニバス方式
	グリーン・ツーリズム論	<p>グリーン・ツーリズムは農山漁村における自然・文化・農山漁村との触れ合いや人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動と定義されており、ヨーロッパ諸国では市民の余暇活動として定着している。一方、日本では、政府が普及促進に取り組んでいるが、国民に認知されず、定着していない。本科目では、「グリーン・ツーリズムとはなにか」から始め、ヨーロッパ諸国や日本のグリーン・ツーリズムの事例を通じ、グリーン・ツーリズムの課題と今後の展開について考える。</p>	
	コミュニティビジネス論	<p>コミュニティビジネスとは、地域の課題を地域住民が主体的に、ビジネスの手法を用いて解決する取り組みである。その活動分野は、まちづくり、環境、介護・福祉、IT、観光、地域資源活用、農業、就業支援などの幅広い分野に及んでいる。また、地域における創業機会・就業機会の拡大など様々な効果がある。本科目では、コミュニティビジネスの背景、展開過程やその意義等を踏まえつつ、静岡県内外の事例を基にして、地域社会におけるコミュニティの役割やコミュニティビジネスの効果と課題について学ぶ。</p>	
総合科目	経営分析演習Ⅰ	<p>経営実習Ⅰでの結果をもとに、実習を行った農林業経営体の生産部門の現状について分析を行う。分析を行う際は、生産物の生産計画と実際の状況、人員配置の状況、生産資材の調達や使用の状況、生産に必要な情報収集と利用の状況などについて調査し、最終的には生産部門での計画した利益と実際の利益を比較分析する。分析後は、その結果をもとに、学生及び教員で、グループ・ワークを行った後に、課題と解決策についてとりまとめを行い、生産現場について考察する。</p>	
	経営分析演習Ⅱ	<p>経営実習Ⅱでの結果をもとに、実習を行った農林業経営体の経営について分析を行う。分析を行う際は、農林業経営体の沿革や経営理念、経営戦略、マーケティング、財務状況、リスクマネジメントなどについて調査を行う。また、実習を通じて発見した、農林業経営体の新たな価値や可能性、財務状況、経営上の課題について分析を行う。分析後は、その結果をもとに、学生及び教員のグループで、グループ・ワークを行った後に、課題と解決策についてとりまとめを行う。</p>	
	プロジェクト研究	<p>実習や演習などを通じて農林業経営体の分析を進め、分析を通じて発見した課題とその解決策について農林業経営体への提案書をまとめ、これらを通じて、研究手法や課題解決のための能力を習得することを本科目の目的とする。農林業経営体の事前調査、研究の進め方、調査方法について教員から指導を受けながら調査計画を作成し、計画発表会を開催する。また、調査結果や調査手法について指導教員と議論し、的確に結果を解釈し、教員から指導を受けながら提案書を作成し、発表会を開催する。</p>	

静岡県立農林環境専門職大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成32年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由																																																													
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>静岡県立農林大学校</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">養成部</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">100</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">-</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">200</td> </tr> <tr> <td>研究部</td> <td style="text-align: center;">20</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">40</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">120</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">240</td> </tr> </table> </div>				養成部	100	-	200	研究部	20	-	40	計	120	-	240	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>静岡県立 農林環境専門職大学</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="4" style="text-align: right;">専門職大学新設</td> </tr> <tr> <td colspan="4"><u>生産環境経営学部</u></td> </tr> <tr> <td style="width: 20%;"><u>生産環境経営学科</u></td> <td style="width: 10%; text-align: center;">24</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">-</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">96</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">24</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">96</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: right;">静岡県立 農林環境専門職大学短期大学部</td> </tr> <tr> <td colspan="4"><u>生産科学科</u></td> </tr> <tr> <td>生産科学科</td> <td style="text-align: center;">100</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">200</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">100</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">200</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: right;">静岡県立農林大学校</td> </tr> <tr> <td>研究部</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: left;">平成32年4月学生募集停止</td> </tr> <tr> <td>研究部</td> <td style="text-align: center;">20</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">40</td> <td style="text-align: left;">平成33年4月学生募集停止</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: center;">20</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">40</td> </tr> </table> </div>				専門職大学新設				<u>生産環境経営学部</u>				<u>生産環境経営学科</u>	24	-	96	計	24	-	96	静岡県立 農林環境専門職大学短期大学部				<u>生産科学科</u>				生産科学科	100	-	200	計	100	-	200	静岡県立農林大学校				研究部	0	-	0	平成32年4月学生募集停止	研究部	20	-	40	平成33年4月学生募集停止	計	20	-	40
				養成部	100	-	200																																																														
				研究部	20	-	40																																																														
				計	120	-	240																																																														
				専門職大学新設																																																																	
				<u>生産環境経営学部</u>																																																																	
				<u>生産環境経営学科</u>	24	-	96																																																														
				計	24	-	96																																																														
				静岡県立 農林環境専門職大学短期大学部																																																																	
				<u>生産科学科</u>																																																																	
生産科学科	100	-	200																																																																		
計	100	-	200																																																																		
静岡県立農林大学校																																																																					
研究部	0	-	0	平成32年4月学生募集停止																																																																	
研究部	20	-	40	平成33年4月学生募集停止																																																																	
計	20	-	40																																																																		

1 位置関係の図面

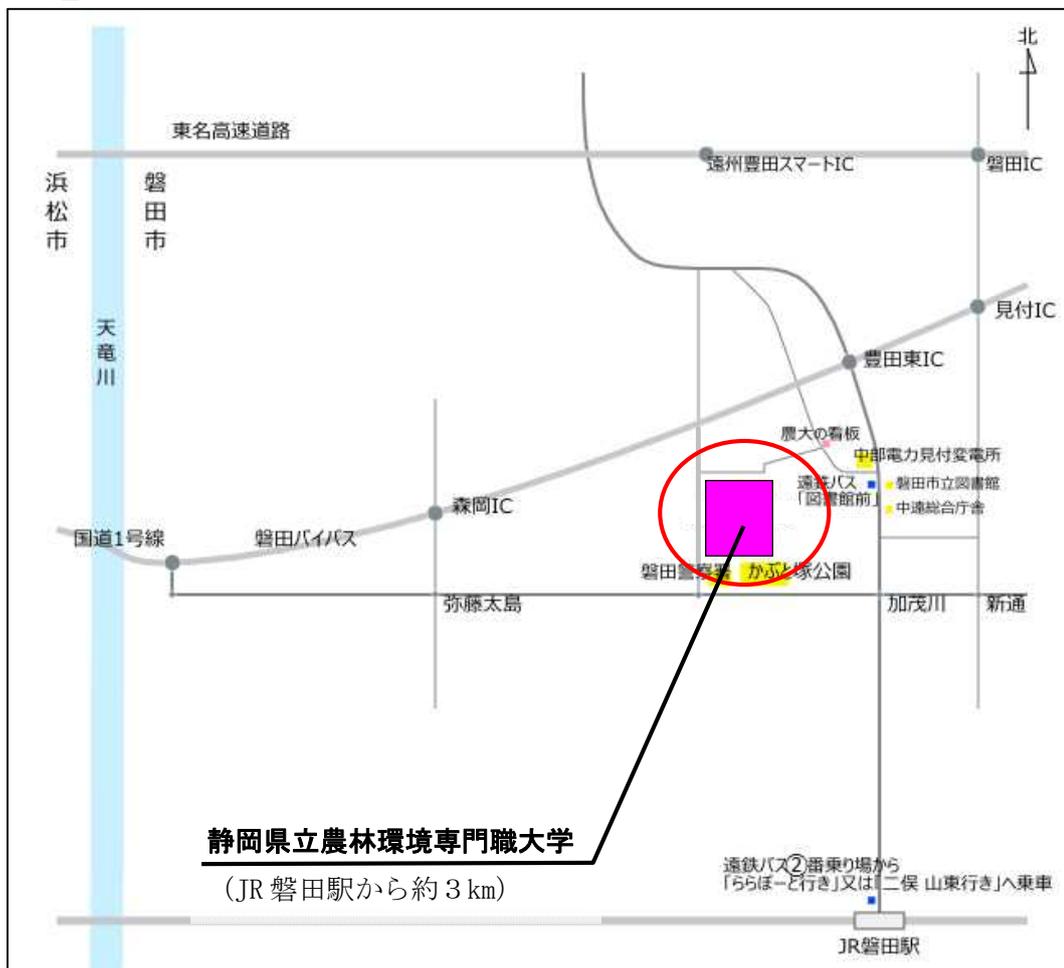
(1) 静岡県内地図



(2) 付近案内図



(3) 交通アクセス



○電車・バス

(東京方面より) 新幹線「JR 掛川駅」下車、東海道本線に乗り換え東海道本線「JR 磐田駅」下車

(名古屋方面より) 新幹線「JR 浜松駅」下車、東海道本線に乗り換え東海道本線「JR 磐田駅」下車

「JR 磐田駅」で下車後

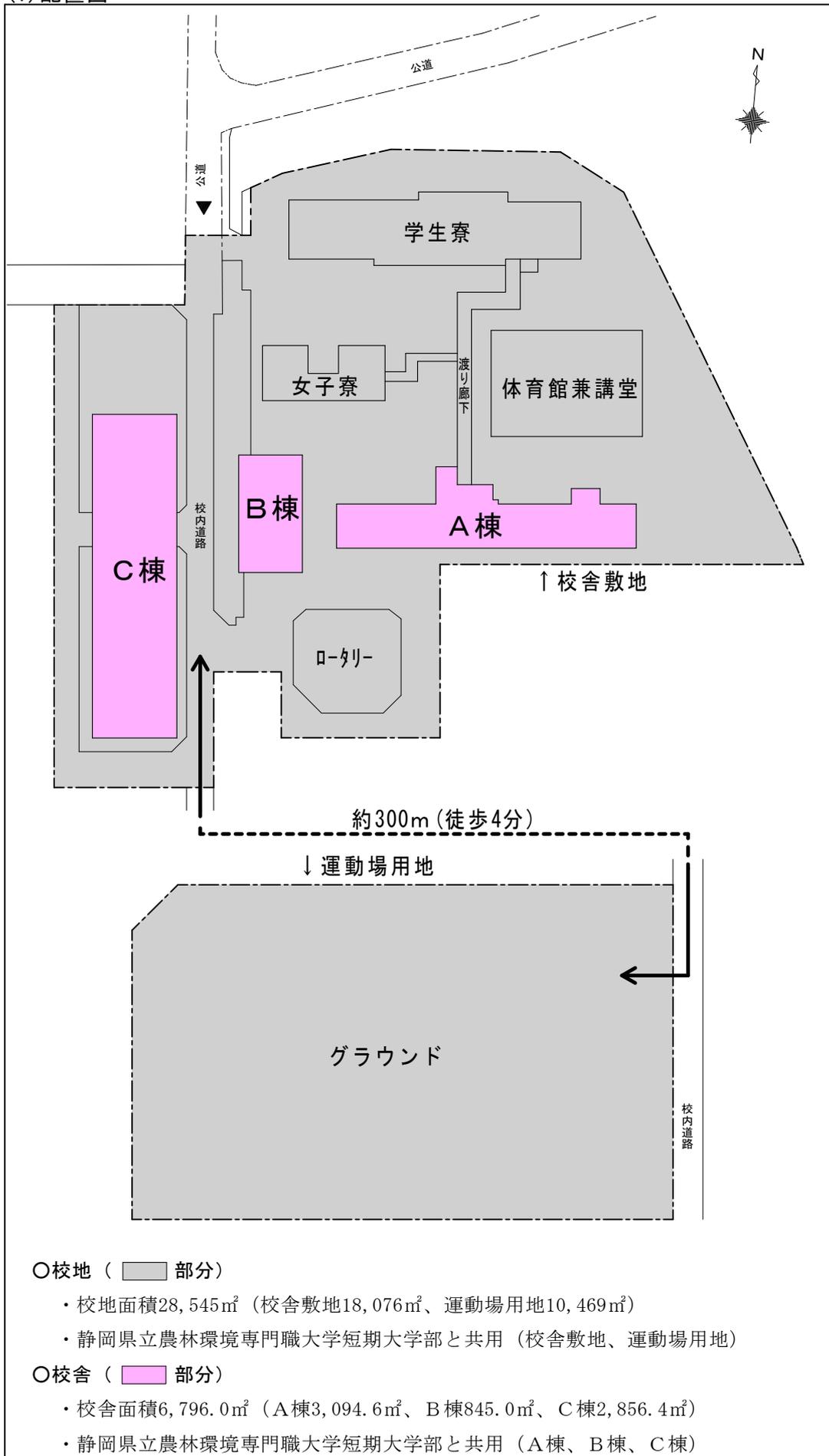
JR 磐田駅北口のバスロータリー2 番乗り場より、遠鉄バス「ららぽーと行き」又は「二俣 山東行き」に乗車、「図書館前」で下車。徒歩7分程度

○自動車

東名高速道路「磐田 IC」又は磐田バイパス「豊田東 IC」で降りて南下国道1号線・磐田警察署前「警察署西」交差点を北へ400m

2 建物の配置図

(1) 配置図



3 建物の平面図

■ : 静岡県立農林環境専門職大学専用部分を示す。

■ : 静岡県立農林環境専門職大学短期大学部専用を示す。

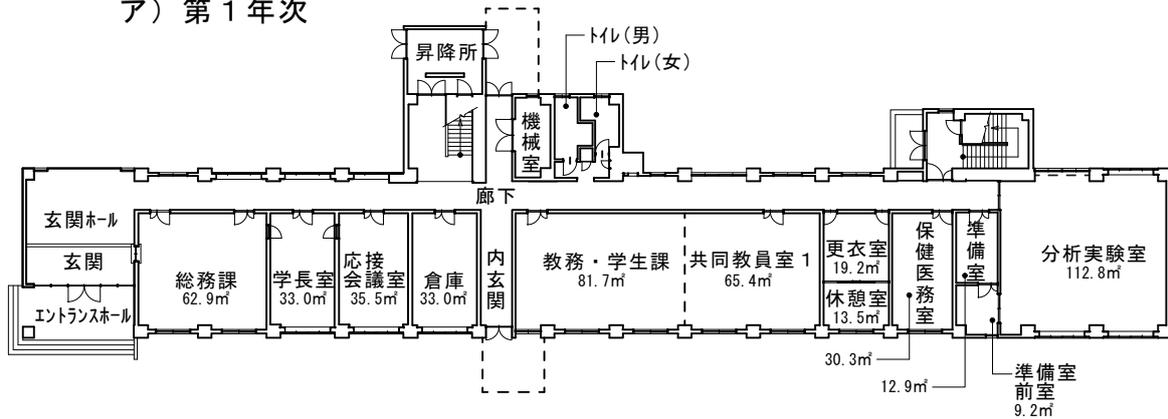
□ : 静岡県立農林環境専門職大学短期大学部及び静岡県立農林環境専門職大学の共用部分を示す。

(平成32年度は静岡県立農林大学校とも共用)

(1) A棟 (延床面積 : 3,094.6㎡)

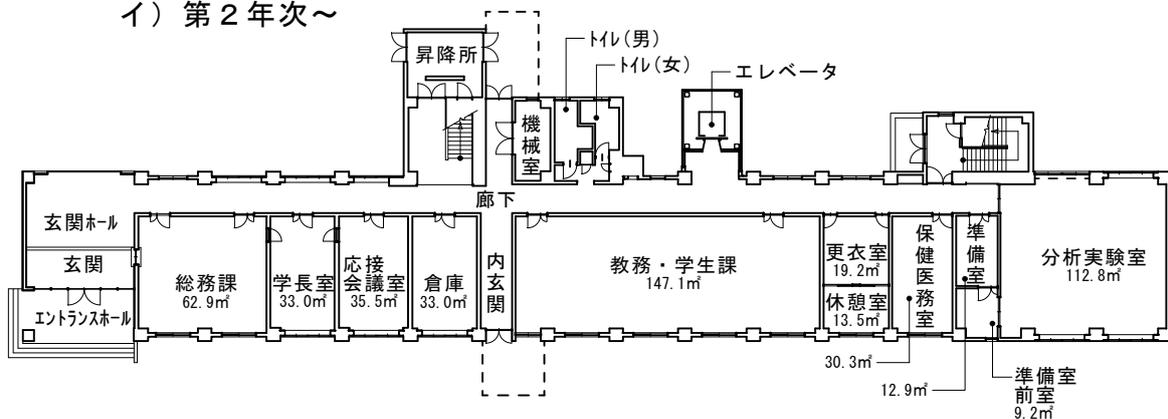
① 1階 (延床面積 : 815.3㎡)

ア) 第1年次



< 1階平面図 (第1年次) >

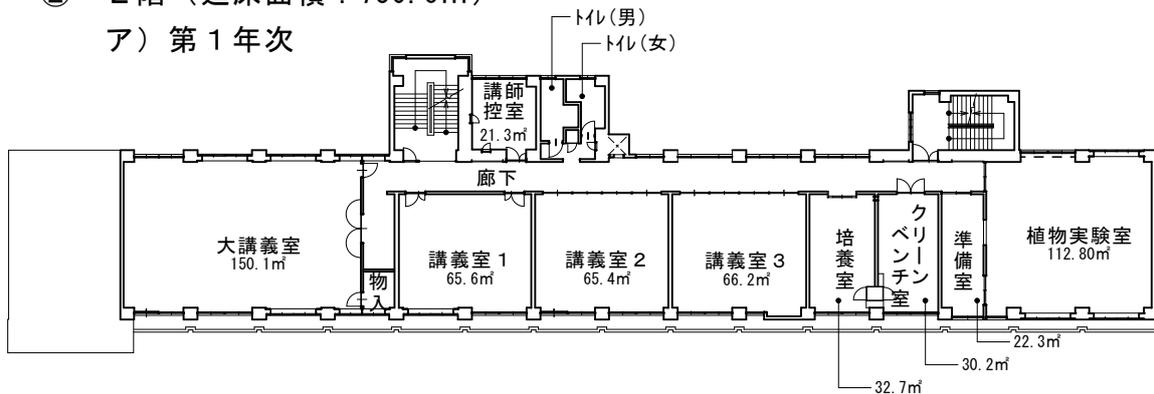
イ) 第2年次～



< 1階平面図 (第2年次～) >

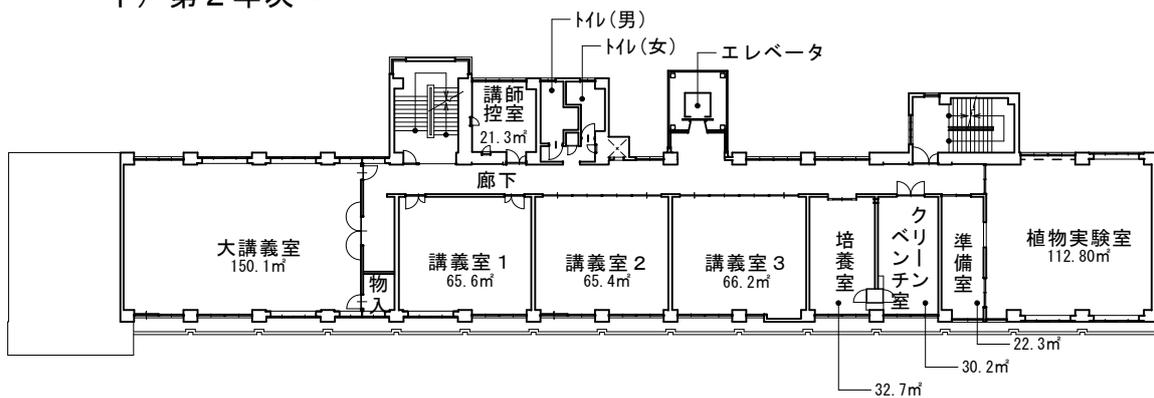
② 2階（延床面積：750.6㎡）

ア) 第1年次



< 2階平面図（第1年次） >

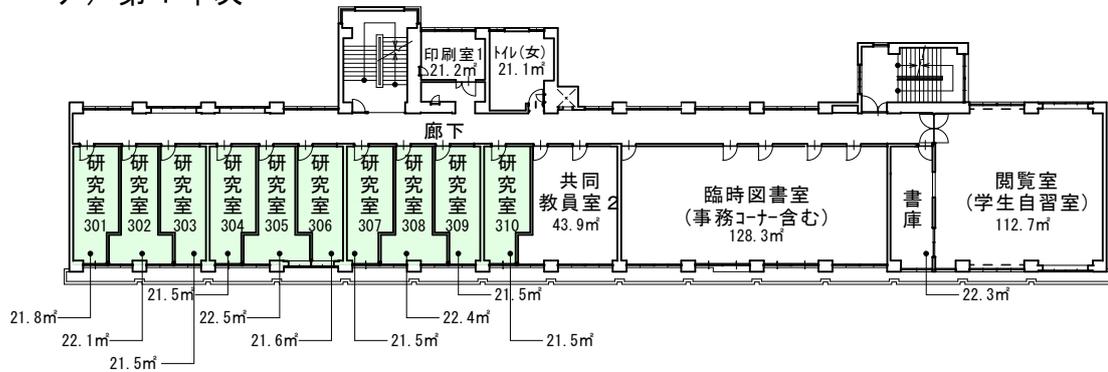
イ) 第2年次～



< 2階平面図（第2年次～） >

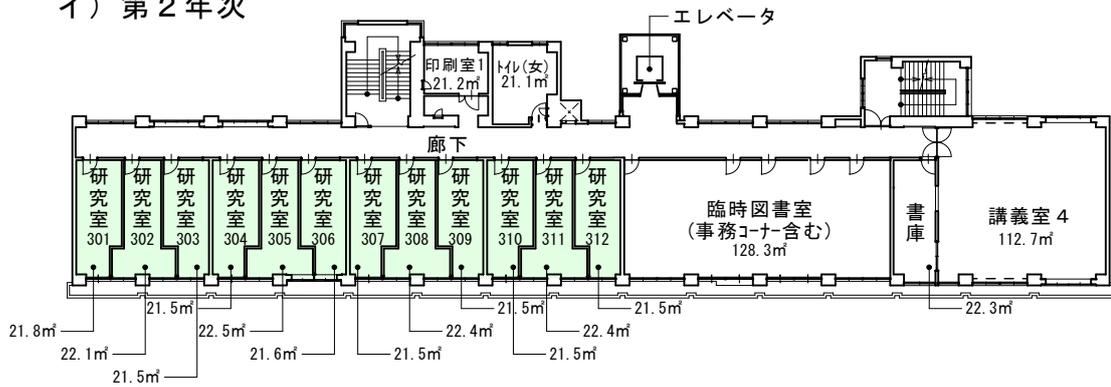
③ 3階（延床面積：749.2㎡）

ア) 第1年次



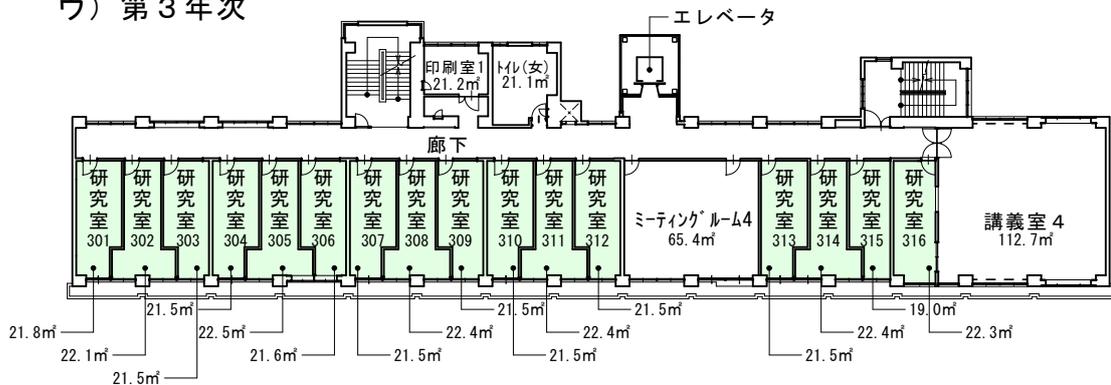
< 3階平面図（第1年次） >

イ) 第2年次



< 3階平面図（第2年次） >

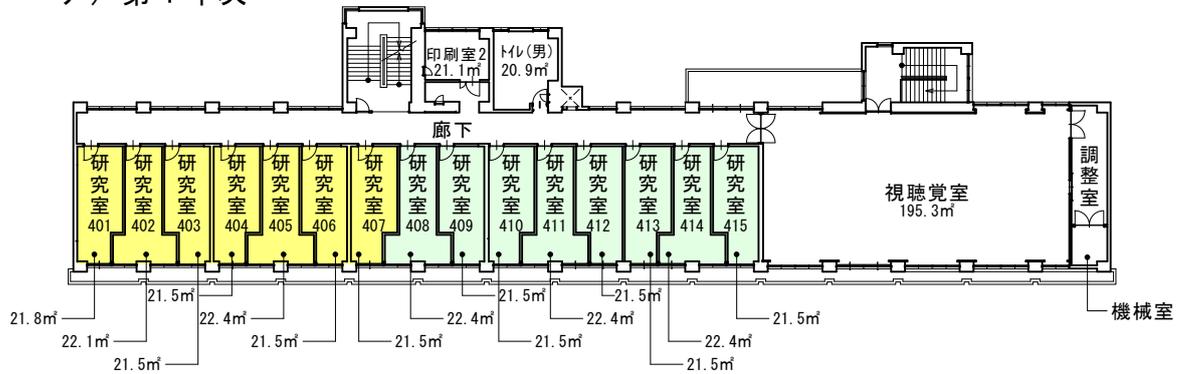
ウ) 第3年次



< 3階平面図（第3年次～） >

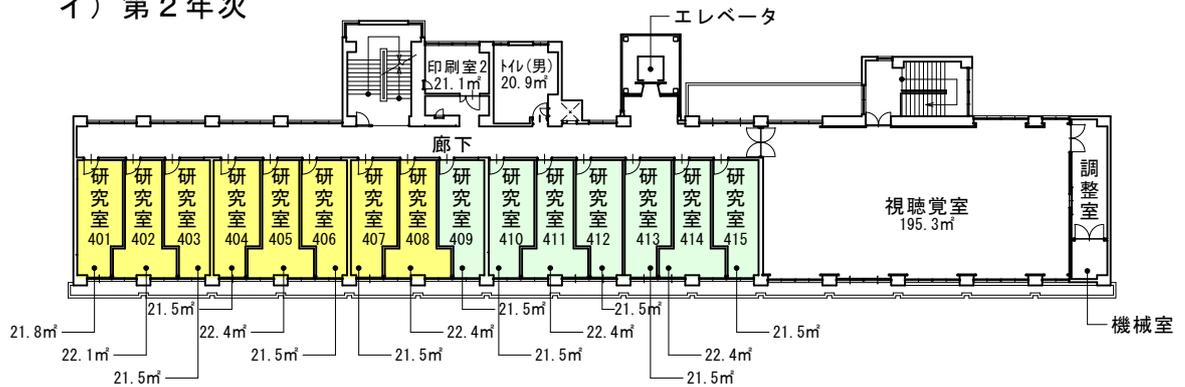
④ 4階（延床面積：748.0㎡）

ア）第1年次



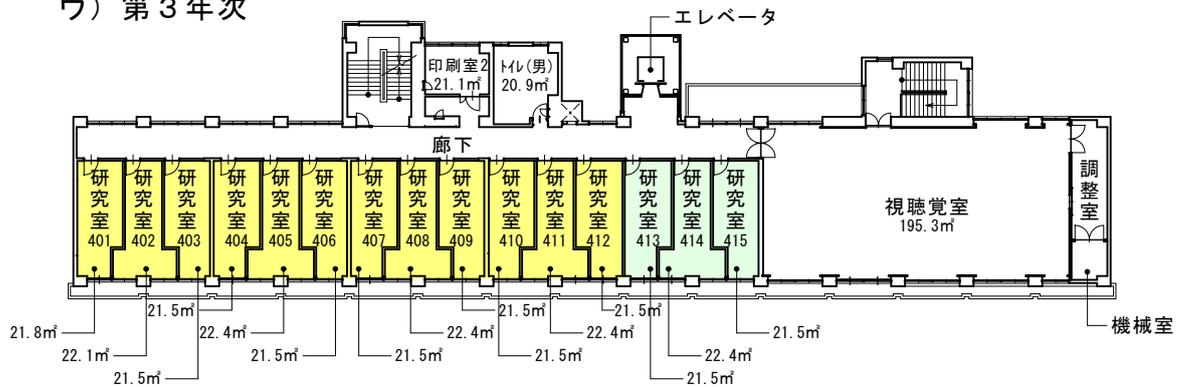
< 4階平面図（第1年次） >

イ）第2年次



< 4階平面図（第2年次） >

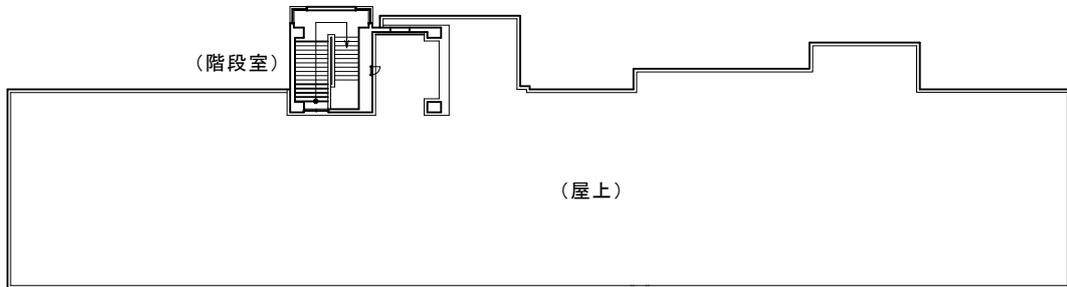
ウ）第3年次



< 4階平面図（第3年次～） >

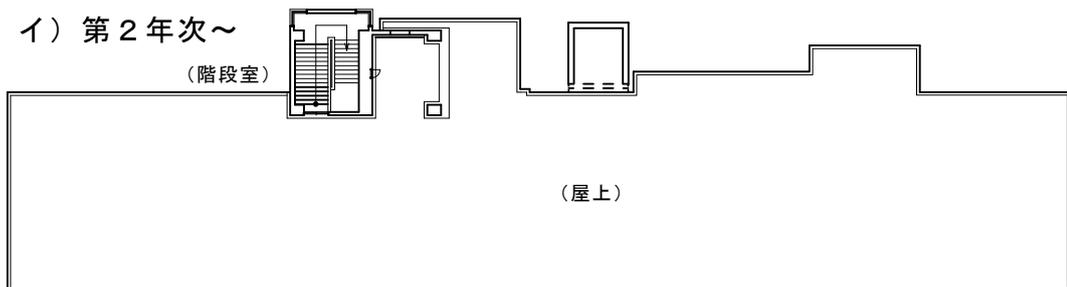
⑤ 屋上階（延床面積：31.5㎡）

ア) 第1年次



<屋上平面図（第1年次）>

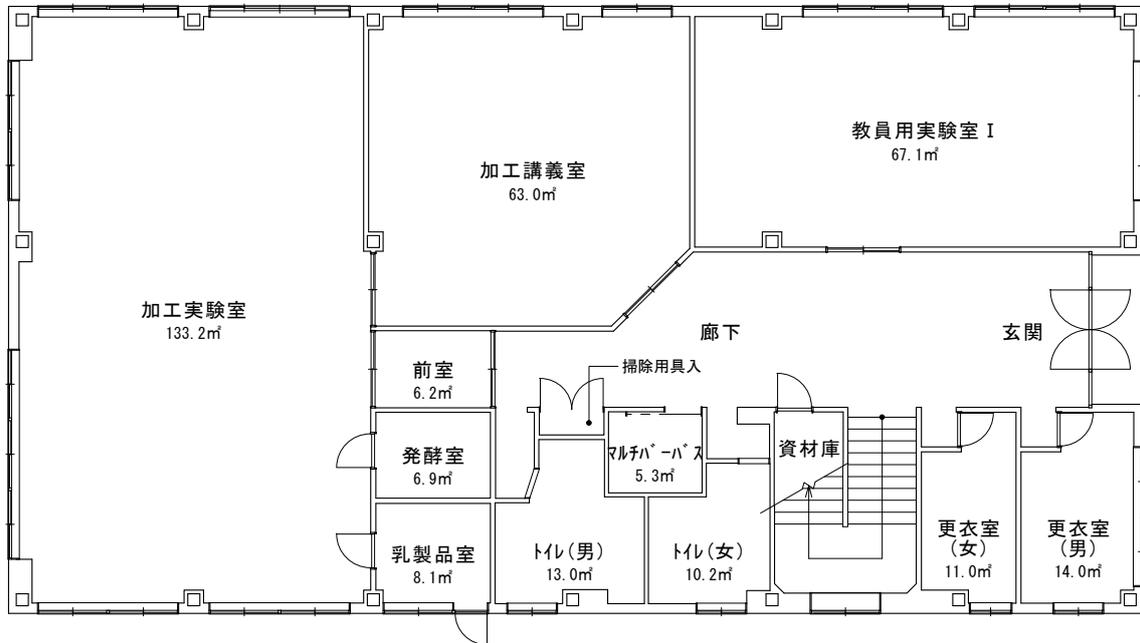
イ) 第2年次～



<屋上階平面図（第2年次～）>

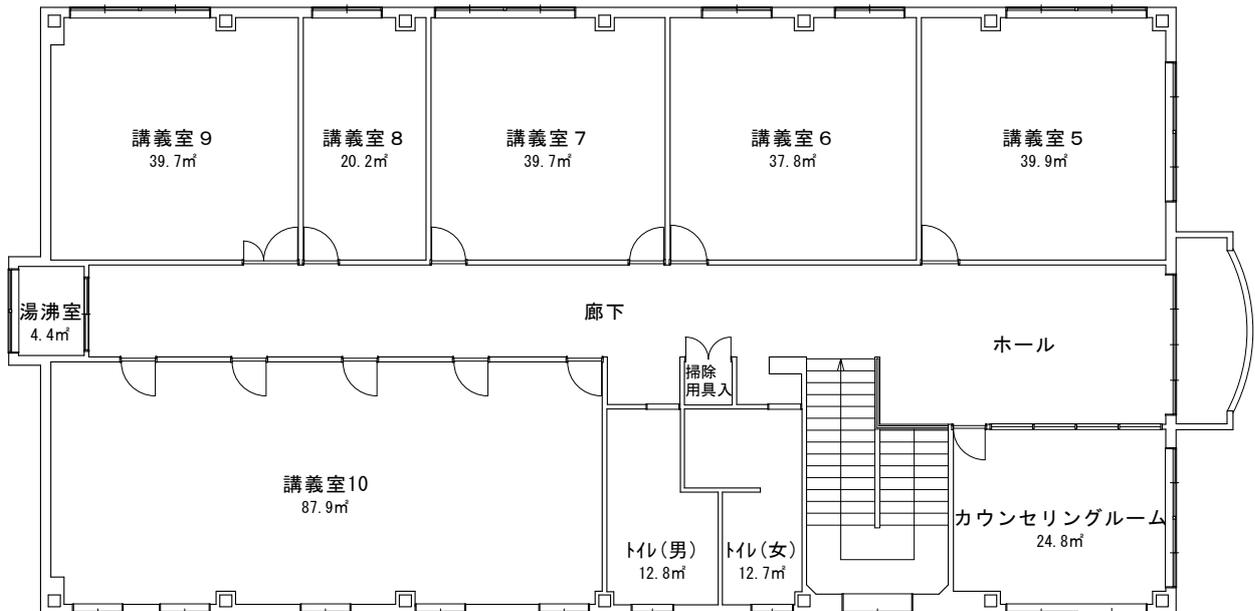
(2) B棟 (延床面積 : 845.0㎡)

① 1階 (延床面積 : 419.2㎡)



< 1階平面図 >

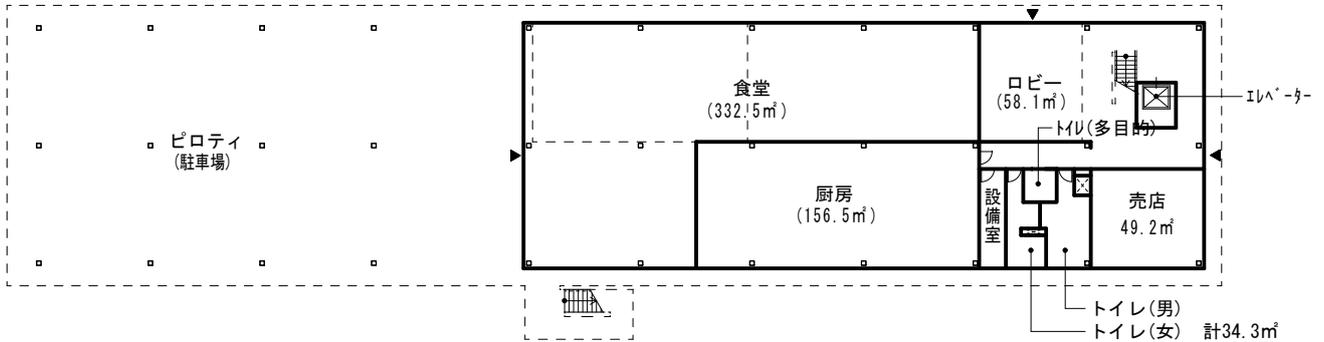
② 2階 (延床面積 : 425.8㎡)



< 2階平面図 >

(3) C棟 (延床面積 : 2,856.4㎡) 第2年次～

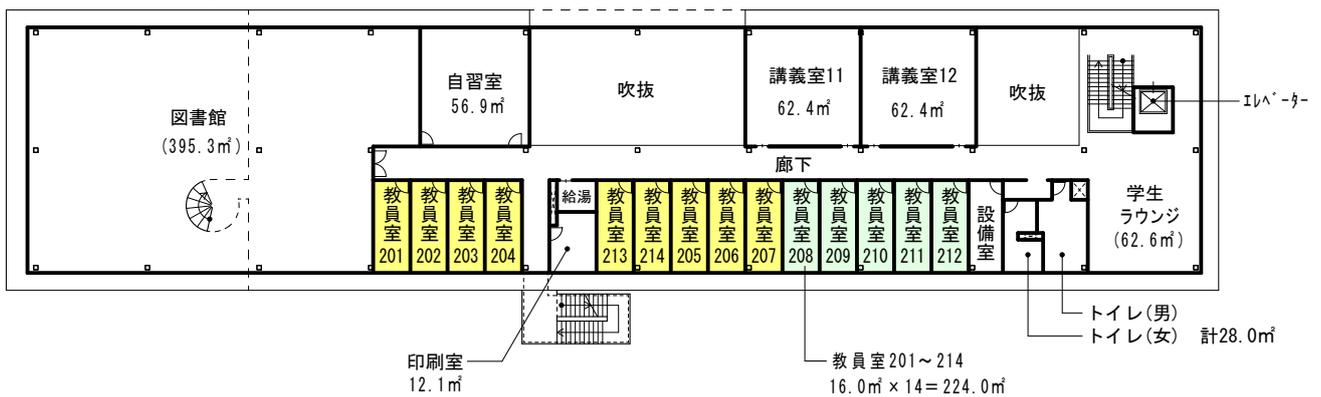
① 1階 (延床面積 : 730.3㎡)



< 1階平面図 >

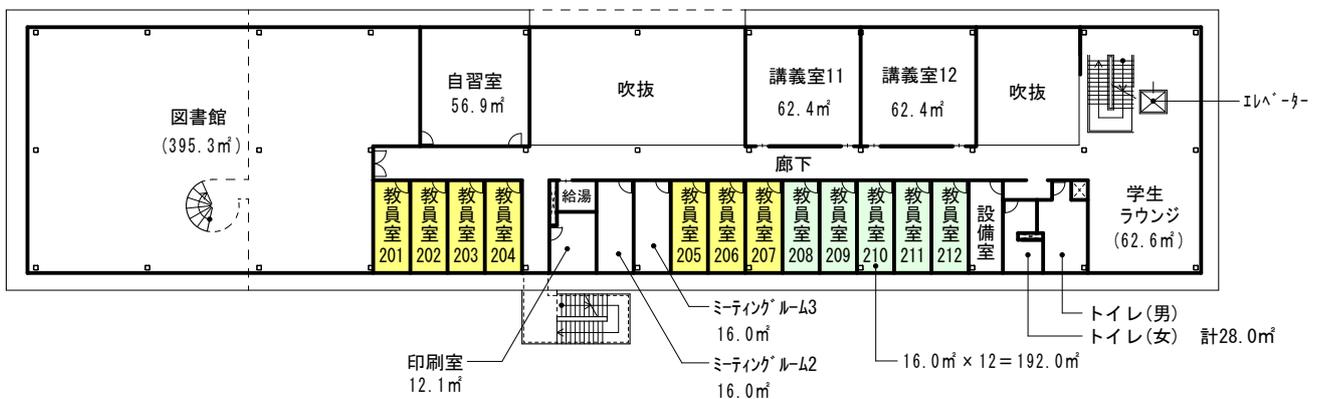
② 2階 (延床面積 : 1,110.6㎡)

ア) 第2年次



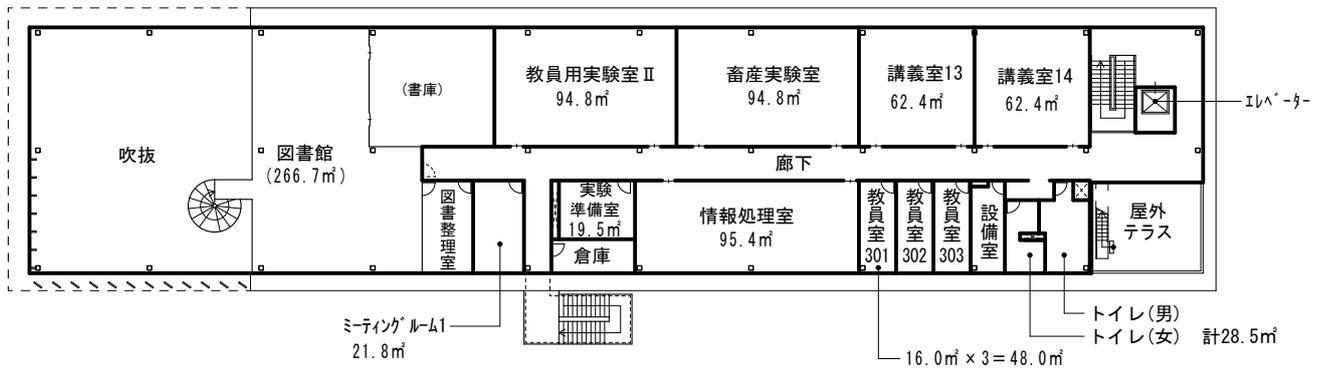
< 2階平面図 (第2年次) >

イ) 第3年次～



< 2階平面図 (第3年次～) >

③ 3階（延床面積：1,015.5㎡）



< 3階平面図 >

4 面積表
(1) A棟

【第1年次】

1階	室名	面積 (㎡)
	総務課	62.9
	学長室	33.0
	応接会議室	35.5
	倉庫	33.0
	教務・学生課	81.7
	共同教員室1	65.4
	更衣室	19.2
	休憩室	13.5
	保健医務室	30.3
	準備室	12.9
	準備室前室	9.2
	分析実験室	112.8
	トイレ (男・女)	21.4
	廊下・階段他	264.1
	小計	794.9

2階	室名	面積 (㎡)
	大講義室	150.1
	物入	5.9
	講義室1	65.6
	講義室2	65.4
	講義室3	66.2
	培養室	32.7
	クリーンベンチ室	30.2
	準備室	22.3
	植物実験室	112.8
	講師控室	21.3
	トイレ (男・女)	21.3
	廊下・階段他	136.4
	小計	730.2

3階	室名	面積 (㎡)
	研究室301	21.8
	研究室302	22.1
	研究室303	21.5
	研究室304	21.5
	研究室305	22.5
	研究室306	21.6
	研究室307	21.5
	研究室308	22.4
	研究室309	21.5
	研究室310	21.5
	共同教員室2	43.9
	—	—
	臨時図書室	128.3
	—	—
	—	—
	—	—
	書庫	22.3
	閲覧室	112.7
	印刷室1	21.2
	トイレ (女)	21.1
	廊下・階段他	161.4
	小計	728.8

4階	室名	面積 (㎡)
	研究室401	21.8
	研究室402	22.1
	研究室403	21.5
	研究室404	21.5
	研究室405	22.4
	研究室406	21.5
	研究室407	21.5
	研究室408	22.4
	研究室409	21.5
	研究室410	21.5
	研究室411	22.4
	研究室412	21.5
	研究室413	21.5
	研究室414	22.4
	研究室415	21.5
	視聴覚室	195.3
	印刷室2	21.1
	トイレ (男)	20.9
	廊下・階段他	163.3
	小計	727.6

屋上階	室名	面積 (㎡)
	階段室	31.5

合計 3,013.0 ㎡

【第2年次】

1階	室名	面積 (㎡)
	総務課	62.9
	学長室	33.0
	応接会議室	35.5
	倉庫	33.0
	教務・学生課	147.1
	—	—
	更衣室	19.2
	休憩室	13.5
	保健医務室	30.3
	準備室	12.9
	準備室前室	9.2
	分析実験室	112.8
	トイレ (男・女)	21.4
	エレベータ	20.4
	廊下・階段他	264.1
	小計	815.3

2階	室名	面積 (㎡)
	大講義室	150.1
	物入	5.9
	講義室1	65.6
	講義室2	65.4
	講義室3	66.2
	培養室	32.7
	クリーンベンチ室	30.2
	準備室	22.3
	植物実験室	112.8
	講師控室	21.3
	トイレ (男・女)	21.3
	エレベータ	20.4
	廊下・階段他	136.4
	小計	750.6

3階	室名	面積 (㎡)
	研究室301	21.8
	研究室302	22.1
	研究室303	21.5
	研究室304	21.5
	研究室305	22.5
	研究室306	21.6
	研究室307	21.5
	研究室308	22.4
	研究室309	21.5
	研究室310	21.5
	研究室311	22.4
	研究室312	21.5
	臨時図書室	128.3
	—	—
	—	—
	—	—
	書庫	22.3
	講義室4	112.7
	印刷室1	21.2
	トイレ (女)	21.1
	エレベータ	20.4
	廊下・階段他	161.4
	小計	749.2

4階	室名	面積 (㎡)
	研究室401	21.8
	研究室402	22.1
	研究室403	21.5
	研究室404	21.5
	研究室405	22.4
	研究室406	21.5
	研究室407	21.5
	研究室408	22.4
	研究室409	21.5
	研究室410	21.5
	研究室411	22.4
	研究室412	21.5
	研究室413	21.5
	研究室414	22.4
	研究室415	21.5
	視聴覚室	195.3
	印刷室2	21.1
	トイレ (男)	20.9
	エレベータ	20.4
	廊下・階段他	163.3
	小計	748.0

屋上階	室名	面積 (㎡)
	階段室	31.5

合計 3,094.6 ㎡

【第3年次～】

1階	室名	面積 (㎡)
	総務課	62.9
	学長室	33.0
	応接会議室	35.5
	倉庫	33.0
	教務・学生課	147.1
	—	—
	更衣室	19.2
	休憩室	13.5
	保健医務室	30.3
	準備室	12.9
	準備室前室	9.2
	分析実験室	112.8
	トイレ (男・女)	21.4
	エレベータ	20.4
	廊下・階段他	264.1
	小計	815.3

2階	室名	面積 (㎡)
	大講義室	150.1
	物入	5.9
	講義室1	65.6
	講義室2	65.4
	講義室3	66.2
	培養室	32.7
	クリーンベンチ室	30.2
	準備室	22.3
	植物実験室	112.8
	講師控室	21.3
	トイレ (男・女)	21.3
	エレベータ	20.4
	廊下・階段他	136.4
	小計	750.6

3階	室名	面積 (㎡)
	研究室301	21.8
	研究室302	22.1
	研究室303	21.5
	研究室304	21.5
	研究室305	22.5
	研究室306	21.6
	研究室307	21.5
	研究室308	22.4
	研究室309	21.5
	研究室310	21.5
	研究室311	22.4
	研究室312	21.5
	ミーティングルーム4	65.4
	研究室313	21.5
	研究室314	22.4
	研究室315	19.0
	研究室316	22.3
	講義室4	112.7
	印刷室1	21.2
	トイレ (女)	21.1
	エレベータ	20.4
	廊下・階段他	161.4
	小計	749.2

4階	室名	面積 (㎡)
	研究室401	21.8
	研究室402	22.1
	研究室403	21.5
	研究室404	21.5
	研究室405	22.4
	研究室406	21.5
	研究室407	21.5
	研究室408	22.4
	研究室409	21.5
	研究室410	21.5
	研究室411	22.4
	研究室412	21.5
	研究室413	21.5
	研究室414	22.4
	研究室415	21.5
	視聴覚室	195.3
	印刷室2	21.1
	トイレ (男)	20.9
	エレベータ	20.4
	廊下・階段他	163.3
	小計	748.0

屋上階	室名	面積 (㎡)
	階段室	31.5

合計 3,094.6 ㎡

(2) B棟

1階	室名	面積 (㎡)
	教員用実験室 I	67.1
	加工講義室	63.0
	加工実験室	133.2
	前室	6.2
	発酵室	6.9
	乳製品室	8.1
	マルチパーパス室	5.3
	女子更衣室	11.0
	男子更衣室	14.0
	トイレ (男)	13.0
	トイレ (女)	10.2
	廊下・階段他	81.2
	小計	419.2

2階	室名	面積 (㎡)
	講義室5	39.9
	講義室6	37.8
	講義室7	39.7
	講義室8	20.2
	講義室9	39.7
	講義室10	87.9
	湯沸室	4.4
	カウンセリングルーム	24.8
	トイレ (男)	12.8
	トイレ (女)	12.7
	廊下・階段他	105.9
	小計	425.8

合計 845.0 ㎡

(3) C棟

【第2年次】

1階	室名	面積 (㎡)
	ロビー	58.1
	売店	49.2
	食堂・厨房	489.0
	多目的トイレ	34.3
	トイレ (男・女)	
	廊下・階段他	99.7
	小計	730.3

3階	室名	面積 (㎡)
	畜産実験室	94.8
	教員用実験室 II	94.8
	実験準備室	19.5
	講義室13	62.4
	講義室14	62.4
	情報処理室	95.4
	教員室301	16.0
	教員室302	16.0
	教員室303	16.0
	図書館	266.7
	ミーティングルーム1	21.8
	トイレ (男・女)	28.5
	廊下・階段他	221.2
	小計	1,015.5

2階	室名	面積 (㎡)
	講義室11	62.4
	講義室12	62.4
	図書館	395.3
	自習室	56.9
	教員室201	16.0
	教員室202	16.0
	教員室203	16.0
	教員室204	16.0
	教員室205	16.0
	教員室206	16.0
	教員室207	16.0
	教員室208	16.0
	教員室209	16.0
	教員室210	16.0
	教員室211	16.0
	教員室212	16.0
	教員室213	16.0
	教員室214	16.0
	学生ラウンジ	62.6
	印刷室	12.1
	トイレ (男・女)	28.0
	廊下・階段他	206.9
	小計	1,110.6

合計 2,856.4 ㎡

【第3年次～】

1階	室名	面積 (㎡)
	ロビー	58.1
	売店	49.2
	食堂・厨房	489.0
	多目的トイレ	34.3
	トイレ (男・女)	
	廊下・階段他	99.7
	小計	730.3

3階	室名	面積 (㎡)
	畜産実験室	94.8
	教員用実験室Ⅱ	94.8
	実験準備室	19.5
	講義室13	62.4
	講義室14	62.4
	情報処理室	95.4
	教員室301	16.0
	教員室302	16.0
	教員室303	16.0
	図書館	266.7
	ミーティングルーム1	21.8
	トイレ (男・女)	28.5
	廊下・階段他	221.2
	小計	1,015.5

2階	室名	面積 (㎡)
	講義室11	62.4
	講義室12	62.4
	図書館	395.3
	自習室	56.9
	教員室201	16.0
	教員室202	16.0
	教員室203	16.0
	教員室204	16.0
	教員室205	16.0
	教員室206	16.0
	教員室207	16.0
	教員室208	16.0
	教員室209	16.0
	教員室210	16.0
	教員室211	16.0
	教員室212	16.0
	ミーティングルーム2	16.0
	ミーティングルーム3	16.0
	学生ラウンジ	62.6
	印刷室	12.1
	トイレ (男・女)	28.0
	廊下・階段他	206.9
	小計	1,110.6

合計 2,856.4 ㎡

(4) 校舎面積

(単位：㎡)

棟名	1年次	2年次	3年次
A棟	3,013.0	3,094.6	3,094.6
B棟	845.0	845.0	845.0
C棟	0	2,856.4	2,856.4
計	3,858.0	6,796.0	6,796.0

5 施設整備スケジュール

	2018年度			2019年度									2020年度（第1年次）												2021年度（第2年次）																							
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12									
A棟 改修工事 (うち、エレベーター工事)	基本・実施設計			工事									備品搬入	開学												第2年次	工事						備品搬入															
C棟 建築工事	基本・実施設計						工事												備品搬入																													
B棟 (工事なし)													備品搬入												備品搬入																							

(静岡県立農林環境専門職大学短期大学部同様)

静岡県立農林環境専門職大学学則（案）

第1章 総則

（目的）

第1条 静岡県立農林環境専門職大学（以下「本学」という。）は、将来の農林業現場を支える人材に求められる知識・技術を備えるとともに、農山村の景観・環境・文化等を理解し地域社会を支えていくことができる専門職業人の養成を通じ、静岡県の農林業や農山村地域の発展に貢献することを目的とする。

（自己点検・評価）

第2条 本学は、その教育研究の一層の充実を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

2 前項の点検及び評価の実施に関し、必要な事項は別に定める。

（情報の公表）

第3条 本学は、大学としての公共性に鑑み、社会に対する説明責任を果たすために、本学における教育研究活動等の状況について情報を公表する。

2 前項の情報の公表に関し、必要な事項は別に定める。

第2章 組織

（学部・学科）

第4条 本学に次の学部・学科を置く。

生産環境経営学部 生産環境経営学科

（人材養成等教育研究上の目的）

第4条の2 本学における人材養成等教育研究上の目的は、次のとおりとする。

生産環境経営学部

農林業生産及び経営に関する実践的な技術や知識を修得し、農林業を通じて地域社会の発展に貢献できる専門職業人を養成する。

（図書館）

第5条 本学に図書館を置く。

（事務局）

第6条 本学に、大学の事務を管理するため、事務局を置く。

（併設短期大学）

第7条 本学に、短期大学を併設する。

第3章 職員組織

（職員）

第8条 本学に学長、教授、准教授、講師、助教、事務職員、技術職員を置く。

2 前項に定める者のほか、副学長その他必要な職員を置くことができる。

(学長)

第8条の2 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。

(学部長)

第9条 学部に学部長を置き、教授をもって充てる。

2 学部長に関し必要な事項は、別に定める。

(図書館長)

第10条 図書館に館長を置き、本学又は第7条に規定する併設短期大学の教授をもって充てる。

(事務局長)

第11条 事務局に事務局長を置き、事務職員をもって充てる。

(名誉教授)

第12条 本学に多年勤務し、教育上、学術上功績のあった者に名誉教授の称号を授与することができる。

2 名誉教授の称号の授与について必要な事項は、別に定める。

第4章 評議会、教授会及び委員会

(評議会)

第13条 本学に、本学の重要事項を審議するため、評議会を置く。

2 評議会に関し必要な事項は、別に定める。

(教授会)

第14条 学部に教授会を置く。

2 教授会に関し必要な事項は、別に定める。

(委員会)

第15条 本学に、大学全体に関する事項について審議するため、入試委員会、教務委員会その他の委員会を置くことができる。

2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(教育課程連携協議会)

第16条 本学に教育課程連携協議会を置く。

2 教育課程連携協議会は、産業界や地域社会と連携して教育課程を編成するために企業や関係団体等から選出された委員と本学の職員をもって構成し、教育課程への提言をとりまとめ、学長に報告する。

3 教育課程連携協議会に関し必要な事項は、別に定める。

第5章 学年、学期及び休業日

(学年)

第17条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第18条 学年を次の2学期に分ける。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第19条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 土曜日
- (3) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に定める休日
- (4) 春季休業 3月21日から4月3日まで
- (5) 夏季休業 8月15日から9月15日まで
- (6) 冬季休業 12月29日から翌年1月5日まで

2 必要がある場合は、学長は、前項の休業日を変更することができる。

3 第1項に定めるもののほか、学長は、臨時の休業日を定めることができる。

第6章 収容定員、修業年限及び在学年限

(収容定員)

第20条 収容定員は次のとおりとする。

生産環境経営学部 生産環境経営学科 入学定員24人 収容定員96人

(修業年限)

第21条 学部の修業年限は、4年とする。

(在学年限)

第22条 学生は、8年を超えて在学できない。ただし、第28条第1項の規定により入学した学生は、同条第2項の規定により定められた在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学できない。

第7章 入学

(入学の時期)

第23条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、次条第3号から第5号までに該当する者（第5号にあっては、国際バカロレア資格、アビトゥア資格及びバカロレア資格を有する者で満18歳に達した者に限る。）並びに第28条に規定する者については、学期の始めとすることができる。

(入学資格)

第24条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上あることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定め

る日以降に修了した者

(6) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第150条第4号の規定により文部科学大臣の指定した者

(7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）

(8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達した者

（入学の志願）

第25条 本学への入学を志願する者は、所定の期日までに入学願書に所定の入学検定料及び別に定める書類を添えて願出しなければならない。

（入学者の選考）

第26条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

（入学手続及び入学許可）

第27条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、宣誓書、身元保証書その他所定の書類を提出するとともに、所定の入学金を納付しなければならない。

2 学長は前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

（編入学、転入学及び再入学）

第28条 次の各号の一に該当する者で、本学への入学を志願する者があるときは、若干名に限り、選考の上、相当年次に入学を許可することができる。

(1) 大学を卒業した者又は退学した者

(2) 短期大学、高等専門学校、国立工業教員養成所又は国立養護教諭養成所を卒業した者

(3) その他大学において、相当の年齢に達し、短期大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

2 前項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て、学部長が決定する。

3 編入学、転入学及び再入学に関し必要な事項は、別に定める。

第8章 教育課程及び履修方法等

（教育課程の編成方針）

第29条 本学においては、学部及び学科等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。

2 前項の規定による授業科目の開設、教育課程の編成及びそれらの見直しは、教育課程連携協議会の意見を基に、教務委員会において審議するとともに、適切な体制を整えて行うものとする。

3 本学は、授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の実施に努めるものとする。

(授業科目)

第30条 授業科目は、基礎科目、職業専門科目、展開科目及び総合科目に分ける。授業科目及び単位数は別表1のとおりとする。

(単位の計算方法)

第31条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で、別に定める時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で、別に定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、プロジェクト研究については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

(授業期間)

第32条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(履修方法)

第33条 履修する授業科目は毎学年所定の期間に履修登録を行わなければならない。履修科目として登録することのできる単位数は、別表1に定める履修単位数上限のとおりとする。

(単位の授与)

第34条 授業科目を履修し、試験に合格した者には、その授業科目の修得を認定し、所定の単位を与える。ただし、第31条第2項に規定する授業科目については、試験に代えて適切な方法により学修の成果を評価して単位を授与することができる。

2 単位の授与及び成績の評価の実施に関し必要な事項は、別に定める。

(試験の方法)

第35条 試験は、筆答(報告を含む。)又は口頭によって行う。

(他大学における授業科目の履修等)

第36条 教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学との協議に基づき、学生が当該他大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修及びその他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、別に定めるところにより、単位を与えることができる。

3 前2項の規定により修得したものとみなし、又は与えることができる単位については、教授会の議に基づき、合わせて60単位を超えない範囲で卒業の要件となる単位として認定することができる。

(入学前の既修得単位等の認定)

第37条 教育上有益と認めるときは、学生が本学入学前に大学又は短期大学において履修

した授業科目について修得した単位（専門職大学設置基準（平成29年文部科学省令第33号）第28条第1項に定める科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本学入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 教育上有益と認めるときは、学生が本学入学前に行った前条第2項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、別に定めるところにより、単位を与えることができる。
- 3 学生が本学に入学する前に専門性が求められる職業に係る実務の経験を通じ、当該職業を担うための実践的な能力（本学において修得させることとしているものに限る。）を修得している場合において、教育上有益と認めるときは、文部科学省告示第109号（平成29年9月）第4条により、当該実践的な能力の修得を、本学における授業科目の履修とみなし、別に定めるところにより、30単位を超えない範囲で単位を与えることができる。
- 4 前3項によって修得したものとみなし、又は与えることができる単位については、編入学等の場合を除き、教授会の議に基づき、第36条第1項及び第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えない範囲で卒業の要件となる単位として認定することができる。

（長期にわたる教育課程の履修）

第38条 学生が、職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、卒業することを希望する旨を申し出たときは、別に定めるところにより、その計画的な履修を認めることができる。

（成績の評価）

第39条 授業科目の試験の成績は、S、A、B、C、Dの評語をもって表し、S、A、B、Cを合格とし、Dを不合格とする。

- 2 前項のほか、特別の必要があるときは、その他の評語をもって合格を表すことができる。

第9章 卒業及び学位

（卒業）

第40条 本学に4年（第28条第1項の規定により入学した者は、同条第2項の規定により定められた在学すべき年数）以上在学し、別表1に定める授業科目を履修して、次に定める科目ごとの単位数及び卒業必要単位数以上を修得した者について、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

	基礎科目	職業専門科目	展開科目	総合科目	卒業必要単位
生産環境経営学科	20単位	85単位	20単位	4単位	129単位

- 2 学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書を授与する。

（学位授与）

第41条 学長は、前条の規定により、卒業を認定した者に農林業学士（専門職）の学位を

授与する。

2 学位の授与に関し必要な事項は、別に定める。

第10章 休学、転学、留学、退学及び除籍

(休学)

第42条 疾病その他特別の理由により2月以上修学することができない者は、学長の許可を得て休学することができる。

2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命ずることができる。

(休学期間)

第43条 休学期間は1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

2 休学期間は、通算して3年を超えることができない。

3 休学期間は、第22条の在学期間には算入しない。

(復学)

第44条 休学期間中にその理由が消滅したときは、学長の許可を得て復学することができる。

(転学)

第45条 他の大学への入学又は転入学を志願しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(留学)

第46条 外国の大学又は短期大学で学修することを志願する者は、学部長の許可を得て留学することができる。

2 前項の許可を得て留学した期間は、第40条に定める在学期間に含めることができる。

3 第36条の規定は、第1項の規定により外国の大学又は短期大学へ留学する場合に準用する。

(退学)

第47条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(除籍)

第48条 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て、学長が除籍する。

- (1) 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (2) 第22条に定める在学年限を超えた者
- (3) 第43条第2項に定める休学期間を超えてなお修学できない者
- (4) 長期間にわたり行方不明の者
- (5) 疾病その他の理由により成業の見込みが無いと認められた者

第11章 賞罰

(表彰)

第49条 学生として表彰に価する行為があった者は、教授会の議を経て、学長が表彰する

ことができる。

(懲戒)

第50条 本学の規則に違反し、又は学生として本分に反する行為をした者は、教授会及び評議会の議を経て、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は退学、停学及び訓告とする。

3 前2項に関して、別に規程及びガイドラインを定めるものとする。

第12章 学生寮及び厚生施設

(学生寮)

第51条 本学に学生寮を置く。

2 学生寮に関し必要な事項は、別に定める。

(厚生施設)

第52条 学生の福利厚生を図るため、食堂その他の厚生施設を置く。

第13章 研究生、委託生、科目等履修生、社会人聴講生、特別聴講学生及び外国人留学生

(研究生)

第53条 本学において、特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、本学の教育研究に支障のない範囲において、選考のうえ、研究生として入学を許可することができる。

2 研究生を志願することができる者は、大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。

3 研究期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、その期間を更新することができる。

(委託生)

第54条 本学において、官公庁、学校、団体等からその所属する職員に特定の専門事項について研究させるため委託があるときは、本学の教育研究に支障のない範囲において、選考のうえ、委託生として入学を許可することができる。

2 研究期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、その期間を更新することができる。

(科目等履修生)

第55条 本学において、特定の授業科目を履修することを志願する者があるときは、本学の教育に支障のない範囲において、選考のうえ、科目等履修生として入学を許可することができる。

2 科目等履修生を志願することのできる者は、高等学校を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。

3 科目等履修生に対する単位の授与については、第34条の規定を準用する。

(社会人聴講生)

第56条 社会人で本学において特定の授業科目を聴講することを志願する者があるときは、

本学の教育に支障のない範囲において社会人聴講生として聴講を許可することができる。

2 社会人聴講生を志願することができる者は、高等学校を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。

3 聴講した授業科目の単位認定は行わない。

(特別聴講学生)

第57条 他の大学の学生で、本学において授業科目を履修することを志願する者がいるときは、当該他大学との協議に基づき、特別聴講学生として入学を許可することができる。

(外国人留学生)

第58条 外国人で本学に留学を志願する者がいるときは、選考のうえ、外国人留学生として入学を許可することができる。

2 前項の外国人留学生に対しては、第30条に掲げるもののほか、日本語科目及び日本事情に関する科目を置くことができる。

(研究生等に関する規定)

第59条 研究生、委託生、科目等履修生、社会人聴講生、特別聴講学生及び外国人留学生に関し必要な事項は、別に定める。

第14章 入学検定料、入学金及び授業料等

(入学検定料、入学金、授業料、研究料及び聴講料)

第60条 入学検定料、入学金、授業料、研究料及び聴講料（以下「授業料等」という。）の額は、別に定める。

(授業料の納付)

第61条 授業料は、年額の2分の1に相当する額を次の2期に区分して、それぞれの当該期日までに納付しなければならない。

前学期分 4月25日まで

後学期分 10月25日まで

(復学の場合の授業料)

第62条 前学期又は後学期の中途において復学した者は、復学した月から当該学期末までの授業料を、復学した月に納付しなければならない。

(学年の途中で卒業する場合の授業料)

第63条 学年の途中で卒業する者は、卒業する当該学期までの授業料を納付するものとする。

(休学、退学、転学、除籍及び停学の場合の授業料)

第64条 前学期又は後学期の中途において休学、退学、転学又は除籍した者から徴収する当該学期分の授業料の額は、その全額とする。ただし、休学が前学期又は後学期の全期間にわたるときは、その期分の授業料は徴収しない。

2 停学期間中の授業料は、徴収する。

(授業料等の減免等)

第65条 経済的理由により授業料等の納入が困難と認められる者、休学中の者その他特別の理由があると認められる者に対しては、授業料等の全部若しくは一部を免除し、又は

授業料等を分割して納付させることができる。

2 授業料等の減免及び授業料等の分割納付に関し必要な事項は、別に定める。

(入学金等の納付)

第66条 入学金、研究料及び聴講料は、入学の手続を行うときに納付しなければならない。

ただし、研究期間の更新を許可された研究生に係る研究料は、当該許可された日から10日以内に納付しなければならない。

2 入学検定料は、入学の願書を提出するときに納付しなければならない。

(授業料等の不還付)

第67条 既納の授業料等は、還付しない。

第15章 大学開放

(大学開放)

第68条 社会人の教養を高め、文化の向上に資するため、大学開放事業を行うことができる。

2 大学開放に関し必要な事項は、別に定める。

第16章 雑則

(委任)

第69条 この学則に定めるもののほか、この学則の施行に関し必要な事項は、学長が定める。

附 則

1 この学則は、 年4月1日から施行する。

別表1 (授業科目)

生産環境経営学部 生産環境経営学科

科目区分	科目名	単位数				
		必修	選択	自由		
基礎科目	一般教養	静岡学	2			
		歴史学概論		2		
		文明論			2	
		文学概論		2		
		茶道			1	
		華道			1	
		経済学概論	2			
		法学概論		2		
		社会学概論		2		
		政治学概論		2		
		統計学		2		
		情報処理基礎	1			
		情報処理応用	1			
	コミュニケーション・スキル	コミュニケーション論	2			
		英語 I		2		
		英語 II		2		
		英語 III		2		
		英語 IV			2	
		保健体育 I	2			
		保健体育 II		2		
小計	10	20	6			
職業専門科目	農林業基礎	農学概論	2			
		環境と農林業	2			
		農林業史			2	
		農林業政策		2		
		技術者倫理	2			
		県内農林業事情		2		
		県外農林業事情			1	
		海外農林業事情			1	
		農林業のための基礎数学		2		
		農林業のための生物学		2		
		農林業のための化学		2		
		農林業のための物理学		2		
		農林業のための地学		2		
		分子生物学		2		
		農業気象学		2		
		生命科学		2		
		野生鳥獣管理・利用論		2		
		(生産理論)	農林業生産理論	2		
			環境保全型農林業論	2		
	農林業のための先端技術		2			
	生産理論(栽培)	作物学		2		
		園芸学		2		
		園芸学各論			2	
		植物病理学		2		
		応用昆虫学		2		
		土壌肥料・植物栄養学		2		
		植物遺伝育種学概論			2	
	(林業)	森林計画・政策論		2		
		造林学		2		
		森林土木学		2		
		木質科学概論		2		
	木材生産システム		2			

科目区分	科目名	単位数			
		必修	選択	自由	
職業専門科目	生産理論(畜産)	飼料総論		2	
		家畜生理解剖学		2	
		家畜育種繁殖学		2	
		家畜飼養学		2	
		畜産法規			2
		人工授精論			2
		家畜衛生学		2	
		簿記基礎			1
		簿記応用			1
		フードシステム論			2
	経営管理	経営管理論	2		
		農林業経営学	2		
		経営戦略	2		
		マーケティング論	2		
		財務会計	2		
		管理会計	1		
		農林業の経営組織論			2
		労務管理	2		
		人材マネジメント	2		
		知的財産権			2
	加工・流通・販売	農と食の起業論			2
		経営実習 I	5		
		経営実習 II	5		
		食品科学			2
		収穫後生理学			2
		木材利用・流通論		2	
		食品流通論		2	
		農と食の健康論			2
		6次産業化実践論	2		
		食品加工実習		2	
	木材加工実習		2		
	販売管理実習	2			
	生産技術	総合実習	2		
圃場実習(栽培)			2		
圃場実習(畜産)			2		
演習林実習			2		
生産マネジメント実習 I(栽培)			4		
生産マネジメント実習 I(畜産)			4		
生産マネジメント実習 I(林業)			4		
生産マネジメント実習 II(栽培)			4		
生産マネジメント実習 II(畜産)			4		
生産マネジメント実習 II(林業)			4		
大型機械実習 I	2				
大型機械実習 II			2		
林業機械実習			2		
GAP演習	2				
企業実習	10				
小計	57	80	42		

科目区分	科目名	単位数		
		必修	選択	自由
③ 展開 科目	農山村田園地域公共学	2		
	農村景域論	2		
	農と食の哲学	2		
	食文化論	2		
	在来作物学	2		
	農村社会論	2		
	農山村デザイン演習	2		
	医福食農連携論	2		
	グリーン・ツーリズム論	2		
	コミュニティビジネス論	2		
小計	20	0	0	
④ 総合 科目	経営分析演習Ⅰ	1		
	経営分析演習Ⅱ	1		
	プロジェクト研究	2		
	小計	4	0	0
合計（卒業要件 単位数）		129		
<p><卒業要件> 基礎科目より20単位以上、職業専門科目より85単位以上、展開科目より20単位、総合科目4単位を修得し、合計129単位以上とする。</p> <p>(基礎科目)必修10単位と、英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲから4単位を含む20単位以上</p> <p>(職業専門科目)85単位以上</p> <p>■「農林業基礎」 必修6単位を含む10単位以上</p> <p>■「生産理論」 コースを選択し、必修6単位、コース必修10単位を含む16単位以上</p> <p>◎栽培コース必修:作物学、園芸学、植物病理学、応用昆虫学、土壌肥料・植物栄養学</p> <p>◎林業コース必修:森林計画・政策論、造林学、森林土壌学、木質科学概論、木材生産システム</p> <p>◎畜産コース必修:飼料総論、家畜生理解剖学、家畜育種繁殖学、家畜飼養学、家畜衛生学</p> <p>■「経営管理」 必修25単位</p> <p>■「加工・流通・販売」 生産理論科目群と同じコースを選択し、必修4単位、コース必修4単位を含む8単位</p> <p>◎栽培コース・畜産コース必修:食品流通論、食品加工実習</p> <p>◎林業コース必修:木材利用・流通論、木材加工実習</p> <p>■「生産技術」 生産理論科目群と同じコースを選択し、必修16単位とコース必修10単位を含む26単位以上</p> <p>◎栽培コース必修:圃場実習(栽培)、生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)、生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)</p> <p>◎林業コース必修:演習林実習、生産マネジメント実習Ⅰ(林業)、生産マネジメント実習Ⅱ(林業)</p> <p>◎畜産コース必修:圃場実習(畜産)、生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)、生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)</p> <p>(展開科目)必修20単位</p> <p>(総合科目)必修4単位</p> <p>(履修科目の登録の上限:45単位(年間))</p>				

静岡県立農林環境専門職大学教授会規程（案）

第1条 この規程は、本学に置く教授会の組織、所掌事項及び運営等について必要な事項を定める。

第2条 教授会は、専任の教授、准教授、講師及び助教で構成する。

第3条 教授会は、教育公務員特例法（昭和24年法律第1号）第3条及び第5条の2の規定に基づき、次に掲げる事項について審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学部長の選考
- (2) 教員の人事

2 教授会は、学校教育法（昭和22年法律第26号。以下「法」という。）第93条第2項各号の規定に基づき、次に掲げる事項について審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学及び卒業
- (2) 学位の授与
- (3) 前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

3 教授会は、法第93条第3項の規定に基づき、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

第4条 教授会の常例の会議は、学部長が招集する。ただし、学部長又は構成員の3分の1以上の要求があるときは臨時に会議を開くことができる。

第5条 議長は学部長とする。

2 学部長に事故があるときは、学部長の指名する者がその職務を代行する。

第6条 教授会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。ただし、休職中の者、公務のため海外に出張している者及び職務に専念する義務を免除されている者は、構成員に含めない。

第7条 議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。ただし、教授会が特に必要と認めた事項については、出席者の3分の2以上の同意を必要とする。

第8条 教授会は、必要のある場合は、構成員以外の者を会議に出席させ、説明を求め、または意見を述べさせることができる。

第9条 教授会における審議事項の計画及び実施に関し、必要に応じて、別に専門委員会を置くことができる。

第10条 教授会は議事録を作成する。

第11条 この規程に定めるもののほか、教授会の運営について必要な細則は、教授会が別に定める。

第12条 この規程の改正は、評議会の議を経なければならない。

附 則

1 この規程は、 年4月1日から施行する。

目 次

1	設置の趣旨及び必要性	1
2	学部及び学科の特色	17
3	大学、学部及び学科の名称並びに学位の名称	24
4	教育課程の編成の考え方及び特色	25
5	教育組織等の編成の考え方及び特色	33
6	教育方法、履修指導方法等及び卒業要件	35
7	教育課程連携協議会	40
8	施設・設備等の整備計画	41
9	入学者選抜の概要	50
10	取得可能な資格	52
11	実習の具体的計画	53
12	海外研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	64
13	管理運営	65
14	自己点検・評価	67
15	情報の公表	69
16	教育内容等の改善を図るための組織的な取組等	71
17	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	73

資料

1 設置の趣旨及び必要性

(1) 静岡県農林業及び静岡県立農林大学校の状況と、専門職大学の制度化

静岡県が設置する静岡県立農林大学校は、明治33年に農事試験場として農事練習生の教育を開始して以来、農業技術員講習所、農業技術員養成所、農業講習所、各試験場併設専門研修所、農業中央研修所、林業講習所、農業短期大学、林業短期大学、農林短期大学、農林短期大学校などそれぞれの時代に対応し、農林業後継者の育成、農林業指導者の養成を柱にその役割を果たしながら変遷を重ねてきた。平成11年には現在の農林大学校の体制に再編され、今年で創立118周年を迎えている。

長い歴史の中で卒業生は平成30年3月現在で9,553人にのぼり（資料1）、これらの卒業生は、県内各地で優れた農林業者として、本県農林業の発展はもとより、地域の活性化等にも幅広く貢献している。

現在も、「耕土耕心」の校訓の下、担い手の養成に向け、基礎的な生産技術や知識を習得する2年制の「養成部」と、更に2年間で経営管理やマーケティングの能力の上積みを目指す「研究部」を置いており、卒業生の約8割が県内の農林業現場に就業、若しくは農林業関連の企業に就職している（資料2）。就業希望者の就業率も近年はほぼ100%であり（資料2）、卒業生の農林業現場からの評価も高い（資料3）。

一方で、農林業を取り巻く環境は大きく変化している。政府が平成27年3月に決定した食料・農業・農村基本計画（資料4）によれば、食料・農業・農村をめぐる情勢として、①高齢化や人口減少による影響、②グローバル化の進展、③消費者ニーズと食をめぐる課題の多様化、④農業・農村の多様な可能性、などが注目されている

農村部は都市部に先駆けて高齢化や人口減少が進行し、農業就業者が高齢化・減少するとともに、集落を構成する人口も減少し、農地の荒廃や、担い手の不足等による生産基盤の脆弱化等が進行している。意欲のある新たな農林業の担い手にとってはこの状況はチャンスと考えられるが、農林業、さらには農村での生活に展望を描くことができなければ、若者の就農も期待できない。また、農村の集落人口の減少が、これまで集落の共同作業として行われてきた地域資源の維持管理に支障を及ぼすことも懸念される。

また、世界人口の増大や経済成長に伴い、世界の食関連市場規模の拡大と日本食への関心も高まっている。日本食や日本の食文化の価値を再認識し、海外に発信していくことは、輸出や食品産業の海外展開を推進する上で重要である。また、成長する海外の市場を積極的に取り込むことで、その事業基盤の強化と更なる成長を図っていくことが期待されている。

さらに、消費者ニーズと食をめぐる課題も多様化している。ライフスタイルの変化を反映し、食品の質やサービス形態の多様化・高度化が進んでおり、消費者と食の関わり方が多様化する中では、地域で受け継がれてきた伝統的な食文化の衰退、農業・農村に関する国民の理解の希薄化が進むことも懸念されるため、需要に即した生産等を推進する観点から、生産の低コスト化や安定生産の実現、高品質化のための新技術や新品種の開発や導入を促進する必要がある。

一方で、一部の地域では若者や女性の転入により人口が増加するなど、農林業の魅力や、豊かな環境や景観、伝統文化を有する農山村の価値を再確認する動きも生まれつつある。また、ロボット技術や ICT といった最先端の技術や、他産業で確立された技術を農林業分野で活用することにより、生産性を大幅に向上させる可能性も広がっている。

こういった変化が進む中で、わが国の農林業の将来を切り開くためには、従前の発想にとらわれず、創意工夫を発揮して自らの判断で消費者ニーズの変化等に対応する担い手の育成・確保が鍵であり、国は、農業の内外からやる気のある若者を呼び込むための取組の推進と、担い手が将来展望をしっかりと持ちつつ意欲的に経営発展に取り組むことができる環境整備を展開していくとしている。

本県の農林業を取り巻く環境も近年大きな変化が見られる。本県では、販売金額 5,000 万円以上で、マーケティング戦略等を展開する農業法人経営体を「ビジネス経営体」と位置づけている。後継者不在による人材不足が顕著になる中で、ビジネス経営体数の増加や規模拡大による雇用就農が増加するなど農業への就業形態が変わる（資料5）とともに、人口減少に伴う国内消費量の減少や貿易自由化による競争の激化、流通ルートの多様化、生産技術の高度化、消費者意識の向上、農村の高齢化・人口減少など、この10年で本県農業が対応していかなければならない事項も多様化している。

このような変化に対応していくため、本県総合計画の実施計画として位置づけられる静岡県経済産業ビジョン2018～2021（農業・農村編）（資料6-1）では、基本方針として、①グローバル化が進展する中で地域の特性を活かし、将来にわたり持続可能な農業構造を構築することにより、消費者が安心できる安全で健康に良い農産物を安定的に生産・供給し、世界の人々の健康長寿に貢献する、②農業及び農村が育んできた水資源の涵養や、潤いと安らぎを醸し出す良好な景観の維持、自然環境の保全に努め、誰もが心豊かな生活を実現できる農山村を創造することとしている。そして目指す姿として、2014年には2,204億円だった農業産出額を2021年には2,400億円まで伸ばし、そのうちビジネス経営体の農業産出額のシェアが約3割を占める農業構造を確立することにより、農業の成長産業化を持続的なものにするとともに、農業・農村の

有する多面的機能を維持・発揮させる地域政策を実施することで、農村の「環境」「経済」「社会」が三位一体となった協働の舞台を整え、個性と活力のある豊かな農村の実現を目指すこととしている。

また、本県林業においては、需要者のニーズに応じた静岡県産木材の安定供給体制の確立が課題となっており、それに対応するべく、『静岡県経済産業ビジョン 2018～2021（森林・林業編）』（資料7）では「森林資源の循環利用による林業の成長産業化」を掲げている。具体的には森林施業の集約化、路網整備等による低コスト生産システムの定着や、高性能林業機械やエリートツリーを活用した主伐・再造林の促進、木材の需給情報を一元的に管理するシステムの開発を進めていく。また、「ビジネス林業」に取り組む林業経営体への支援や、品質の確かな県産材製品の需要拡大を図ることで、2016年現在41.5万³m³/年の木材生産量を50万³m³/年とし、これらの取組を通じて林業の成長産業化を目指す。さらに、森林の適正な整備や保全、その魅力を生かした山村づくりにより「森林の多面的機能の維持・増進」を図ることで、「経済」「社会」「環境」が調和した多様性のある森林づくり』を目指している。

ビジョンに示すように、本県は、農業・林業ともに、多彩で質の高い農林産物（農芸品）を活かし、6次産業化等による付加価値の向上や、安心・安全な生産物の供給、国外を含めた新規マーケット展開、先端技術の活用などによる「競争力の強化」によって富をつくる産業としての展開を推進するとともに、農林業を通じて、人口減少や高齢化、環境問題などの課題の克服を図ることができる「地域活性化に繋がる産業」とすることを今後の方向性としている。

本県農林業の競争力を強化し、持続的に成長する産業、地域活性化へ繋がる産業へと導いていくためには、担い手となる農林業人材の確保は不可欠である。現在本県では産業界全体において人手不足感が高まっており、農林業の現場においては生産活動に従事する、確かな栽培技術を身につけた人材が不足しているとともに、売り上げや生産効率の向上等に資する取組ができる、経営管理やマーケティングを理解した人材が養成できていないことが課題として挙げられていた。

静岡県立農林大学校においては、県内唯一の現場農林業後継者や農林業指導者の養成機関として、近年大きな変化を見せる農林業現場に柔軟に対応し即戦力となる人材の養成に向けて、カリキュラムの見直しや外部講師の招聘、農林業法人における実習の充実など、様々な教育手法や教育内容の改善に取り組んできたが、農林業現場が直面している大きな変化に対応できる人材ニーズに応え、本県のビジョンを実現するためには、現在の教育内容の幅を広げつつ、体

系的に再構築する必要があった。

そのような中、農林業をはじめとした成長分野の産業構造の急激な変化に対応するため、『「日本再興戦略」改訂 2016』（平成 27 年 6 月閣議決定）において、新たな産業構造を支える「人材強化」策として、誰もが、必要なタイミングで、迅速かつ柔軟に高度な職業的専門性を身に付けることができる環境として「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関」の創設が掲げられた。

また、中央教育審議会においては、平成 27 年 4 月に文部科学大臣より「個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について」の諮問を受け、「社会・経済の変化に伴う人材需要に即応した質の高い職業人の育成について」の審議が行われ、平成 28 年 5 月に答申がなされた。その中で、質の高い職業人の養成には、既存の高等教育機関の取組だけでは十分対応しきれていない課題に適切に対応するための新しい高等教育機関の制度化の方向性や制度設計を検討すべきとされ、農業分野での養成すべき職業人像として、「農産物を生産しつつ、直売、加工品開発等の事業も手掛け、高付加価値化、販路拡大等を先導する人材」が例として挙げられた。

この国の掲げた職業人像は本県の掲げる農林業政策に必要とされる担い手像に合致しており、本県としては、この新たな高等教育機関の制度化と並行し、現場で必要とされる高度農林業者の養成のためにこの制度を活用することを積極的に検討することとした。

（２）静岡県における検討の過程

静岡県は実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関である、専門職大学の設置検討のため、平成 29 年 5 月に県内農林業関係の経営者や県内外の農学系大学関係者、静岡県副知事などを構成員とする「専門職大学基本構想策定委員会」を設置した（資料 8）。

この委員会は、文部科学省の専門職大学設置基準の検討状況を踏まえながら、平成 29 年 12 月まで 4 回にわたり議論を重ねた。

検討の過程で、今後の静岡県立農林大学校の目指すべき姿を明確にするため、平成 29 年 6 月に、県内のビジネス経営体および林業事業体に対するアンケート（資料 9）を実施し、今後の事業方針や採用したい人材像、現在の静岡県立農林大学校卒業生に求める能力などについて調査を行った。結果、農林業法人の 8 割近くが事業の拡大・強化を考えている中で、法人の基礎となる生産・栽培・現場部門はもちろんのこと、販売・管理・加工部門を強化・拡大したいという意向が見られた。また、静岡県立農林大学校卒業生に求める知識・技術と

して生産に必要な基礎知識・技術が多く見られたが、農林業経営の知識やプロ農林家の技術、先端技術、食品安全の知識を挙げる法人も多く見られた。

併せて、現在静岡県立農林大学校への進学者の多い県内高校の3年生に対するアンケート（資料10）を実施し、現在の静岡県立農林大学校への進学希望や、農業分野で学びたい内容について調査した。静岡県立農林大学校を進学先として検討している学生は、農業分野で役立つ技術・技能が身に付くこと、農林業関係の就職に有利であることを重視している。また、農学分野で学びたいは内容、「食品加工技術」、「日本食・食文化」、「植物栽培の基礎知識」、「植物栽培の基礎技術」、「食品流通・販売・輸出」、「食品安全」が多く、生産の基礎知識・技術に加え、食品に関係する知識・技術を学びたいという声が多く見られ、より消費者に近い「食」の部分に興味があることが窺えた。

このアンケートを踏まえながら、「静岡県専門職大学基本構想策定委員会」で、今後本県で必要となる農林業人材像を養成するために、どのような教育を行っていくべきか議論を重ね、平成29年12月に『静岡県専門職大学(農林業)基本構想(案)』としてとりまとめた。その後、県が、平成30年1月～2月にかけてパブリックコメントを実施した上で、平成30年2月に『静岡県専門職大学(農林業)基本構想』として公表した(資料11-2)。

また、その後、基本構想策定メンバーを主体として「専門職大学基本計画検討委員会」を設置し、平成30年2月～10月にかけて基本構想の具体化に向けた検討を行った。

(3) 静岡県の行う施策における位置づけ

平成30年に策定した『静岡県総合計画』(資料12)において、教育分野の政策体系を示す「子どもが健やかに学び育つ社会の形成」の項目において、政策の柱の一つとして、「文・武・芸」三道鼎立の学びの場づくりに取り組むことを掲げている。本県教育の基本目標である「有徳の人」の育成を進めるためには、学問を学び、スポーツに親しみ、芸術を愛するという、「文・武・芸」三道の鼎立が重要であり、このため、家庭、学校、地域などが連携・協働し、社会総がかりの教育を推進するとともに、きめ細かな指導による確かな学力の向上や実学の奨励、多様な体験活動の推進、教職員の資質の向上などにより、三道鼎立を目指した学校づくりを進めている。その中で「現状と課題」として「学力だけでなく、勤労観・職業観やコミュニケーション能力などを高めて『生きる力』を身につけ、様々な課題に柔軟に対応し、将来、社会人として自立できるようにするための教育」が必要としている。

『静岡県総合計画』に従い、教育の理念や施策の基本方針を取りまとめた『ふじのくに「有徳の人」づくり大綱』(資料13)、さらに今後4年間に取り組む

べき具体的な施策を取りまとめた『静岡県教育振興基本計画』(資料 14)では、一人一人の能力や適性、意欲に応じた多様で柔軟な教育をより一層展開するため、農林水産業、工業、商業、芸術、スポーツ等の様々な分野において自らの才能を伸ばす実践的な学問としての「技芸を磨く実学」を推進するとともに、郷土を担う子供たちの「生きる道」としての仕事を学ぶ環境づくりに努め、専門職業人として社会の変化に柔軟に対応し、地域産業の発展に貢献できる人材の育成を図ることを掲げている

本県の平成 29 年 3 月現在の中学校・高等学校卒業者の就職率はいずれも全国平均を上回っており、生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、その基盤となる能力や態度を育む教育を一層充実させ、望ましい勤労観や職業観を育成するための取組をさらに推進するため、実践的な職業教育を行う高等教育機関の設置により、県内産業を支える人材を育成すること目標としている。

一方、『静岡県総合計画』(資料 12)の産業分野の政策体系を示す「富をつくる産業の展開」の項目では、世界水準の農芸品の生産力強化のために、次代を担う農業経営体の育成を、そして、「誰もが活躍できる社会の実現」の項目では、高度な知識と技術を持つ人材の育成を目標としており、そのために高度な実践力と豊かな創造力を兼ね備えた農林業人材を養成することを掲げている。

『静岡県総合計画』の農業分野計画である『静岡県経済産業ビジョン 2018～2021(農業・農村編)』(資料 6-1)においては、担い手の高齢化や廃業が進む一方で農林業経営の法人化や規模拡大により人材ニーズが変化したことに伴い、現場の即戦力となる高い技術や経営管理能力を持った人材が求められていることを課題として挙げ、農林業経営体や認定農業者を支える経営者や後継者となる次代の農業経営を担う人材養成の強化に向けた取組として、静岡県立農林大学校を専門職大学に移行することを掲げている。

『静岡県経済産業ビジョン 2018～2021(森林・林業編)』(資料 7)においては、現在の課題として林業経営体の木材生産における労働生産性が 3.8 m³/人日に留まっていることや、森林技術者の高齢化等に伴う人手不足を課題として挙げ、森林技術者の育成・確保に向けた取組として、静岡県立農林大学校を専門職大学に移行することで、高度な実践力や課題対応能力を有する人材を養成することを掲げている。

(4) 本学設置の意義

本学を設置する目的は、農林業に応用可能な技術革新の進展に伴う生産技術の高度化など近年の農林業を取り巻く環境の変化や、農林業の土台である農山村地域における高齢化・人口減少に伴う活力低下などを踏まえ、こうした農林業を取り巻く環境変化に対応できるとともに農山村の地域社会を支える人材

を養成することにより、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することである。

農林業を取り巻く環境変化の主なものとしては、生産技術の高度化、経営体の大規模化や経営の多角化、消費者ニーズの多様化があり、今後、農林業の持続的な発展に向けては、これらの環境変化に対応できる能力を身に付けた農林業者を養成していく必要がある。

また、農山村地域を構成する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、農林業の営みを通じて長い年月をかけて形成されてきたものであり、農林業者には、これからもそれらを守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことが期待されている。

本学は栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担う人材を養成するための教育機関であり、既設の農林大学校の研究部においても、経営体において中核を担う人材の養成を目指して教育を行っているが、既設の農林大学校においては、教育課程や教員の資格・能力が農林業を取り巻く環境変化に対応できるレベルに達していないことから、現状としては、経営体の大規模化等に対応するための十分な能力を有する人材を養成できていない。また、既設の農林大学校においては、農山村の地域社会を支えていく人材を養成するための教育を行っていない。

このような既設の農林大学校における人材養成の課題を解決するため、専門職大学への移行により、教育課程の拡充や教員のレベルアップなど人材養成機能の充実を図り、「多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育んでいくことができる人材」を養成するための新たな高等教育機関として本学を設置するものである。

また、AI や IoT などの先端技術、加工・流通・販売や経営管理の理論は製造業など他産業が先んじているが、こうした技術や理論を今後農林業分野に積極的に取り入れていく必要がある。全国3位の製造品出荷額を誇る「ものづくり県」である本県には、東部・中部・西部の各地域に多彩な製造業がバランスよく展開されている（資料15）。また、静岡県新産業集積クラスターとして、東部にはファルマバレー（医療・健康分野）、中部にはフーズ・サイエンスヒルズ（食関連分野）、西部にはフォトンバレー（光・電子分野）の3つのクラスターがあり、新たな産業基盤の創出と、研究開発成果の事業化が推進されている（資料16）。

本県はまさに、製造業等他産業との連携により農林業の可能性を広げていくのに適している地域であり、農林業の専門職大学を本県に設置することは大きな意義がある。

本県農林業の持続的発展のため、本学には将来的に農林業経営や地域社会において新しい価値を創造する素養を持った、県内経済の発展と地域の活性化に貢献する自立した農林業者の輩出が求められている。

また、大学自体が農林業人材養成の拠点として、県政課題・地域課題に積極的に取り組み、成果を地域に還元することにより、地域社会を支えていくことが必要である。

本学の設置は、産業としての農林業の競争力を高めていくとともに、地域の活性化にも繋がっていくものであり、本県の新しい農林業者養成の中心となるこの専門職大学の設置は、本県農林業政策における大きな転機となるものである。

(5) 本学の必要性

静岡県立農林大学校は、これまで、確かな生産技術と知識を持った現場農林業者を数多く輩出してきたところであるが、生産に関する技術や知識中心の養成部2年課程に、経営等を学ぶ研究部の2年課程を上乗せする現在の教育課程では、農林業経営を行う上で十分な能力を有する人材の養成が難しい状況にある。また、農林業者として果たすべき役割を理解した上で、農林業経営を行いながら、地域の環境を守り、地域社会を支えていくには、教養教育や関連分野の学習により涵養される広い視野を持つことも必要である。

そこで、これらの能力を備えた人材を養成するために、4年間の教育課程の生産環境経営学部 生産環境経営学科を設置し、農林業生産の基礎的な知識・技術や経営管理に必要な知識などを体系的に学ぶことができる教育体制を整えることとした。

一方、県内高校出身者の大学進学者のうち、県外の大学へ進学する割合は約7割であり、多くが首都圏や関西圏、隣県などに進学している(資料17)。これは本県内の大学や短大の収容力が低いため、他県へ流出してしまっていると考えられる。さらに、農学分野の大学学部は県内には静岡大学農学部のみであるが、静岡大学農学部卒業生で農林業現場に就職する者はごくわずかであり(資料18)、県内で農林業に就業を希望する高校生等の十分な受け皿とはなっていない。新たに農林業分野の大学を設置することで、県内外の将来農林業を志す進学希望者に魅力的な選択肢を提供することができる。

また、大学卒業生が農林業現場に就業しないことや、他産業からの離転職から農林業を目指すことが多い昨今、学歴のある若者は、不安定な収入や過酷な労働条件など、農林業にネガティブなイメージを持っていることが窺える。それでも、自然に触れながら、自身の工夫により多くの収入を得られる可能性があり、さらには「食や暮らし」の面で人々や社会に貢献できる農林業に魅力を感じている若者や社会人も多い。

過去には農林業者は生産に主眼を置いて農林業に従事してきたが、今日の農林業は生産のみならず、環境の保全や生物多様性の維持、地域の振興など、重要な機能を担っており、それら多面的機能を高度に発揮させる農林業を営むためには、後述するディプロマ・ポリシーに掲げる能力を身に付けた人材を養成するための教育課程が必要である。

若くして農林業を志す人材や、新しく農林業を志す社会人が本学に入学し、ディプロマ・ポリシーに掲げる確かな技術や知識を身に付け、「プロフェッショナル」として活躍すること、そしてその活躍が地域の活性化に寄与することが、産業としての農林業自体の地位向上に繋がるものと考えている。

(6) 本学の基本理念

これまで静岡県立農林大学校では、校訓である「耕土耕心」、すなわち「大地を耕すことは自らの心を耕すことである」という理念の下、本県農林業の発展に貢献する、現場で活躍する農林業者を数多く輩出してきた。

本学においても、引き続きこの「耕土耕心」の理念を尊重した上で、年齢や国籍、性別を問わず、「多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材」を養成することを基本理念とする。

(7) 本学の特色

(6)で掲げる理念の実現に資するよう、本学は次のような特色を有するものである。

①栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに農山村の地域社会を支える人材の育成

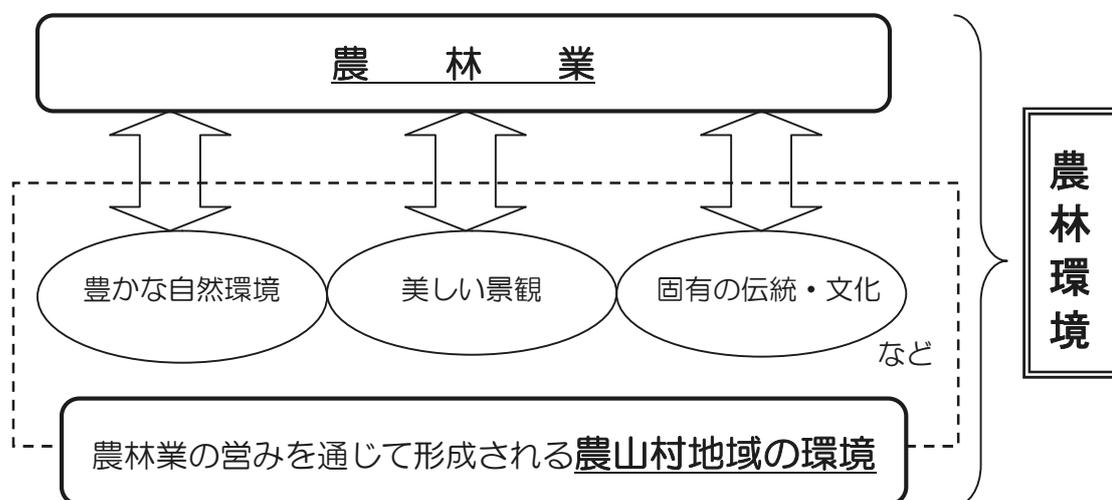
農山村は農林業の持続的な発展の土台であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。

一方で、農山村が有する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたものであり、農林業者には、これらの価値を理解し、守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことが期待されている。

このことから、本学においては、「多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てることができる人材」を養成し、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することを目指すこととしている。

大学名称に冠している「環境」は、「農林業の営みを通じて形成される農山村地域の自然環境、景観、伝統・文化などの総体としての環境」を意味しており、そのような農山村地域の環境を守り育てることができる人材を養成するという本学の特色を表すものである。

～ 本学の名称に冠する「農林環境」の考え方 ～

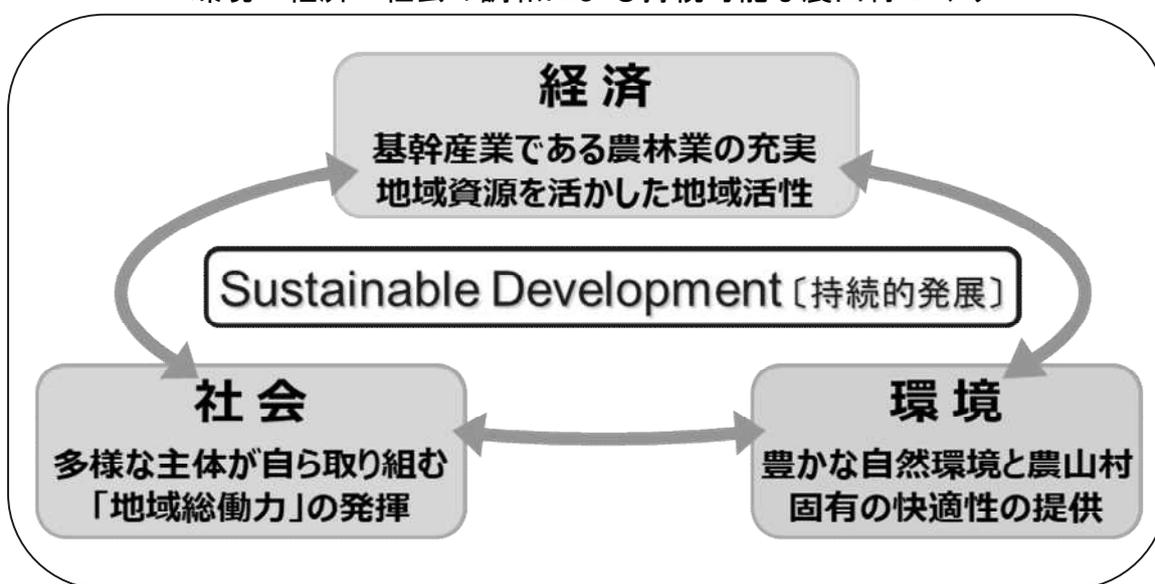


なお、このような本学の人材養成の理念は、「農業については、その有する食料供給機能と多面的機能の重要性にかんがみ、必要な農業資源及び農業の担い手が確保され、地域の特性に応じてこれらが効率的に組み合わせられた望ましい農業構造が確立されるとともに、農業の自然循環機能が維持増進されることにより、その持続的な発展が図られなければならない」、そして「農村については、農業の持続的な発展の基盤たる役割を果たしていることにかんがみ、農業の有する食料供給機能及び多面的機能が適切かつ

十分に発揮されるよう、その振興が図られなければならない」という「食料・農業・農村基本法」（資料 19-2）の基本理念に通じるものであり、大学名称に冠している「環境」には、そのような本学の人材育成の理念が込められている。

また、本県総合計画の分野別計画である「静岡県経済産業ビジョン」の実行計画として位置付けられている「“ふじのくに”の農山村づくり（静岡県農業農村整備みらいプラン 2018-2021）」（資料 6-2）においては、本県の農山村づくりの理念を「美しく品格のある農山村の創造」とし、「景観の美しさにとどまらず、その源となる農業に勤しむ生産者と、地域の資源を保全し次世代へ継承しようとする様々な人々の共同体意識に至る外形と内面の『農山村の美』を実現していくことが重要である」としている。そして、「美しく品格のある農山村の創造」に向けて、農山村の根幹であり、多様な主体の協働力により構築された「社会（コミュニティ）」、人と自然との共生関係によって創造・継承されてきた特色のある農山村の「環境」、地域の基幹産業として成長を続ける農山村の「経済」が、地域特性に応じてバランスよく調和することで持続性が確保されるよう、農業・農村施策を総合的に展開していくこととしており、本学の人材養成の理念は、このような本県の農山村づくりの理念にも通じるものである。

～環境・経済・社会の調和による持続可能な農山村づくり～



②コース別履修科目と分野横断的な共通履修科目を適切に組み合わせた教育課程

栽培、林業、畜産の3分野は、生命を育てる生産活動であるという点で共通しており、生産理論や技術において共通する部分が多い。また、経営に関する知識についても各分野で共通している部分が多い。さらに、各分野に関

連・共通する部分を他分野の学生と一緒に学修することは、自らの専門分野における学修の理解を深めるとともに、経営において新たな事業展開を図るための創造性に結びつく効果も期待できる。

こうしたことから、本学は、栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していく人材を養成するに当たり、農林産物に応じた生産手法や加工・流通・販売など分野ごとに学修する内容が異なる部分について、3分野に対応した科目をコース別に学びながら、各分野に関連・共通する部分は各コースの学生が共通で分野横断的に学ぶ教育課程としている。

このような、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせた教育課程により、専門分野の経営における高度な実践力を有するだけでなく、他分野の関連知識や共通知識を活用して、専門分野の経営に新たな事業展開を生み出し創造性を発揮できる人材を養成することとしている。

③少人数授業

現場の課題に柔軟に対応できる実践力を養うためには、学生が常に当事者意識を持ち、主体的に学習に取り組むことが出来る環境づくりが重要である。本学では基本的に講義は最大1学年定員24人単位で行うほか、教育効果や安全性に配慮し、より細やかな指導が必要となる実習科目や大型機械を使う実習科目の授業の多くを10名程度の少人数で行うこととする。

④実習・演習を中心とした授業

自ら土を耕し、作物を育て収穫し、必要に応じ加工し、消費者へ販売していくという経験を積み、農林業経営の現場で役立つ実践力を養うために、実習・演習を中心とした科目を数多く配置する。

⑤農林業経営体における臨地実務実習

学生が農林業経営現場の状況について理解した上で、将来自らが経営の中核として農林業に携わっていく際に必要な職業観を十分に養成するため、合計4ヶ月程度、県内農林業経営体において実務に従事する実習科目を設ける。

⑥現場課題をテーマとしたプロジェクト研究

4年間の学修の集大成として、臨地実務実習等で得た経験を生かし、現場で課題となっている事項を発見し、その解決に必要な情報を収集・分析・整理し、成果を取りまとめるプロジェクト研究を総合科目として配置し、自らが農林業経営に携わった際の課題へのアプローチの手法について学ぶこと

で、実践的かつ応用的な能力を総合的に向上させる。

⑦ 1年次全寮制の導入

1年次は全員が寮生活を行い、寮の規則を守り、他者に配慮する共同生活を経験させる。自分自身で生活を組み立てる習慣を身に付けることを通じて主体性を、また、昼夜学生同士で生活することを通じて農林業現場では欠かせない社会性・対人関係形成能力を涵養する。

(8) 静岡県立農林大学校との違い

農林大学校（研究部）と専門職大学における養成する人材像は次のとおりである。

- ・農林大学校 ……「農林業経営体の中核を担う人材」
- ・専門職大学 ……「多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材」

専門職大学として養成する人材像のうち、「農林業経営体の中核を担う人材」の養成を目指している点は、既設の農林大学校と同じであるが、既設の農林大学校においては、教育課程や教員の資格・能力が不十分なことから、現状としては、経営体の大規模化や多角化など農林業を取り巻く環境変化に対応できる人材の養成ができていない。

このため、専門職大学においては、4年間を通じて経営体の大規模化等に対応できる経営管理能力を身に付けるとともに、生産技術の高度化や消費者ニーズの多様化にも対応した教育課程の実施や教員のレベルアップなどにより、栽培、林業、畜産の各分野において経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、経営体の中核を担うことができる人材の養成を目指している。

また、既設の農林大学校においては、農林業の発展に貢献することを目的として人材養成を行っているが、専門職大学においては、農林業の持続的な発展には土台となる農山村地域の振興が重要であるという考え方のもと、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することを大学の設置目的としている。このことを踏まえ、専門職大学として養成する人材像には「農山村の地域社会を

リーダーとして支えていくことができる人材」の養成という農山村の地域振興の側面を加えている。

「生産技術の高度化への対応」、「経営体の大規模化や経営の多角化への対応」、「消費者ニーズの多様化への対応」、「地域社会を支える人材の養成」の4つの観点から比較した具体的な相違点は以下のとおりである。

なお、比較のための参考資料として、本学のカリキュラム・マップを資料21-1、既設の農林大学校のカリキュラム・マップを資料21-2に示す。

○生産技術の高度化への対応

生産技術の高度化に対応していくためには、技術の裏付けとなる生産理論の体系的な理解や先端技術に関する知識、高度な実践力などを身に付ける必要がある。

農林大学校においては、養成部では、生産理論の講義と生産技術を学ぶ実習が科目として区分されておらず、特定分野の理論だけを研究部の講義で学ぶこととしており、4年間を通じて生産理論を体系的に学ぶ教育課程となっていない。また、先端技術を学ぶための教育課程はない。

生産に関する実習については、作目に応じた専門的な生産技術を養成する教育課程としているが、臨地実務実習の評価が統一的な基準に基づいて行われていないなど、実践力の養成を重視した教育課程となっていない。

これに対し本学では、経営者として生産現場の状況を的確に把握するための、生産に関する基礎的な知識・技術や先端技術に関する幅広い知識を身に付ける教育課程としており、生産理論の講義と生産技術を学ぶ実習等を科目として区分し、4年間を通じて生産理論を体系的に学ぶ教育課程としている。

また、生産に関する実習については、生産技術に加え、生産マネジメント能力を養成する教育課程としている。

さらに、臨地実務実習は、教員が実習先と連携し、実習状況について情報を共有するとともに、教員が統一的な基準に基づいて評価を行うなど実践力の養成を重視した教育課程としている。

○経営体の大規模化や経営の多角化への対応

農林大学校では、企業的経営管理や加工・流通・販売、マーケティングなどを研究部の2年課程のみで学ぶこととしており、経営体の大規模化等に対応できる能力を身に付ける教育課程となっていない。

また、経営に関する臨地実務実習が必修科目になく、経営の実践力の養成を重視した教育課程となっていない。

これに対し本学では、企業的経営管理に加え、栽培、林業、畜産の各分野の

農林業経営に活用される先端技術や、加工・流通・販売、マーケティングなどについて、4年間を通じて体系的に学び、経営体の大規模化等に対応できる能力を身に付ける教育課程としている。

また、経営に関する臨地実務実習を必修とし、経営の実践力の養成を重視した教育課程としている。

○消費者ニーズの多様化への対応

農林大学校では、養成部・研究部を通じて加工・流通・販売、マーケティングなどの科目が少なく、消費者ニーズの多様化に十分に対応できる教育課程となっていない。

これに対し本学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して栽培、林業、畜産の各分野の経営における新たな事業展開を生み出すための創造力を身に付ける教育課程としている。

○農山村の地域社会を支える人材の養成

農林大学校には、養成部・研究部を通じて農山村の地域社会を支える人材を養成するための教育課程はない。

これに対し本学では、農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていく人材を養成する教育課程としている。

(9) 新設予定の専門職短期大学との違い

本学は、「多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材」を養成する専門職大学である。このため「栽培、林業、畜産の各分野の生産現場においてリーダーとなる人材であるとともに農山村の地域社会を生産者として支えていく人材」を養成する新設予定の専門職短期大学とは、経営体において中核を担う人材を養成する教育機関である点や、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための教育課程としている点などで異なっている。

「生産技術の高度化への対応」、「経営体の大規模化や経営の多角化への対応」、「消費者ニーズの多様化への対応」、「地域社会を支える人材の養成」の4つの観点から比較した具体的な相違点は以下のとおりである。

なお、比較のための参考資料として、新設予定の専門職短期大学のカリキュラム・マップを資料21-3に示す。

○生産技術の高度化への対応

新設予定の専門職短期大学では、栽培、林業、畜産の各分野の生産現場のリーダーとして生産現場の生産性向上等を図るための、生産に関する専門的な知識・技術や先端技術を生産現場に導入する能力を身に付ける教育課程としており、生産理論の講義と生産技術を学ぶ実習等を科目として区分し、2年間を通じて生産理論を体系的に学ぶ教育課程としている。

また、生産に関する実習については、作目に応じた専門的な生産技術を養成する教育課程としている。

さらに臨地実務実習は、教員が実習先と連携し、実習状況について情報を共有するとともに、教員が統一的な基準に基づいて評価を行うなど実践力の養成を重視した教育課程としている。

これに対し本学では、栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担う人材として生産現場の状況を的確に把握するための、生産に関する基礎的な知識・技術や先端技術に関する幅広い知識を身に付ける教育課程としており、生産理論の講義と生産技術を学ぶ実習等を科目として区分し、4年間を通じて生産理論を体系的に学ぶ教育課程としている。

また、生産に関する実習については、生産技術に加え、生産マネジメント能力を養成する教育課程としている。

臨地実務実習については、新設予定の専門職短期大学と同様に、教員が実習先と連携し、実習状況について情報を共有するとともに、教員が統一的な基準に基づいて評価を行うなど実践力の養成を重視した教育課程としている。

○経営体の大規模化や経営の多角化への対応

新設予定の専門職短期大学は、栽培、林業、畜産の各分野の生産現場のリーダーを養成する教育機関であるため、経営体の大規模化等に対応するための教育課程はない。

これに対し本学では、企業的経営管理に加え、経営管理に活用される先端技術や、加工・流通・販売、マーケティングなどについて、4年間を通じて体系的に学び、経営体の大規模化等に対応できる能力を身に付ける教育課程としている。

また、農林業経営体での臨地実務実習を必修とし、経営についての実践力の養成を重視した教育課程としている。

○消費者ニーズの多様化への対応

新設予定の専門職短期大学では、農山村の地域資源である伝統・文化の継承や、加工・流通・販売などについて学び、それらの知識を活用して生産物の付加価値を向上させるための創造力を身に付ける教育課程としている。

これに対し本学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して栽培、林業、畜産の各分野の経営における新たな事業展開を生み出すための創造力を身に付ける教育課程としている。

○農山村の地域社会を支える人材の養成

新設予定の専門職短期大学では、農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える生産者として、それらを守り育ていく人材を養成する教育課程としている。

これに対し本学では、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていく人材を養成する教育課程としている。

(10) 既存大学農学部との違い

既存の大学農学部卒業者で農林業に就業するものは少なく、県内においても静岡大学農学部卒業生で就農するものはごくわずかである（資料 18）。現代の農学が食料生産だけではなく、ゲノム・遺伝子などの生命科学分野や、生態系・エネルギーなど環境分野まで広がっているため、学生の多くは農林業そのものに就業することを目指して農学部に入るのではなく、農林業を切り口とした多様な分野に興味を持ち、教育者や研究者、公務員など、自らの将来を農林業現場以外に見出している。

これに対し本学は栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担うための実践力を身に付ける大学であり、将来農林業を志す学生に、実習・演習を重視した教育を行うことで、農林業経営を通じて自らの夢をかなえ、地域社会で活躍していく農林業者を養成することを目的としている。

さらに、実際の農林業経営体で行う臨地実務実習を通じ、現場と学生の相互理解を深めることで、農林業経営体への就業や、その支援にあたる農業協同組合や森林組合等への就業を促進するなど、既存大学農学部より農林業現場に近い就業先への人材供給を重視していく。

(11) 静岡県立農林大学校の廃止

静岡県立農林大学校は、養成部は本学の開学年度（平成 32 年度）から、研究部は開学次年度（平成 33 年度）から募集停止とし、在学生の卒業を以って廃止する。

2 学部及び学科の特色

本学は、『「日本再興戦略」改訂 2016』に示される「専門性に富み、世界の産業革命をリードするような現場レベルの革新を牽引し得る「高度職業人材」を輩出する教育実施体制を備え、わが国の人材力を抜本的に強化する今までに無い「職業プロ養成機関』として、専門的農林業人の養成と、社会人として必要な教養教育に重点を置き、農林業者として成長するための拠り所となる深い専門性と、幅広い教養を身に付け、豊かな人間性を持った人材を輩出する役割を担うとともに、県立の大学として、地域の生涯学習機会の拠点としての役割と、社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）を果たしていく役割に重点を置くものである。

生産環境経営学部 生産環境経営学科

(1) 設置の趣旨

政府が平成 30 年 5 月に決定した食料・農業・農村の動向（資料 19-1）では、次世代を担う若手農業者の姿を特集しており、わが国農業においては、担い手の高齢化や減少が課題となっている一方で、若手の新規就農者数が比較的高い水準で推移していると分析している。

こういった若手農家では非若手農家に比べ、経営規模の拡大、常雇いを雇い入れた農家の割合の上昇、単位面積・頭数当たり労働時間の短縮を図る投資が行われていることが確認されている。また、農林水産省の実施したアンケートより、若手農家の関心の高い農業施策として「労働力の確保」や「人材の育成」、経営における課題として「労働力の不足」が挙げられており、人材の数や能力が現場で不足していることが窺える。一方で、農業経営で大切なこととして、「栽培・飼養技術」はもちろんのこと、販売金額が大きくなるほど「経営分析能力」や「財務管理能力」が農業経営において重視され、さらに今後伸ばしていきたい方向として、「IoT 等新技術の導入」や「異業種との連携」、「消費者への直接販売」、「農産物の加工・販売」が挙げられていることや、我が国農業が「国内だけでなく海外にも目を向けるべき」と考える農林業法人役員が多いなど、若手農林業者を中心に農林業経営に対する意識が大きく変化を遂げていることが窺える。

また、森林及び林業の動向（資料 20）においては、森林所有者の多くが小規模零細で経営規模拡大の意欲は減退しており、経営規模を拡大したい森林所有者は 15%に留まる一方で、丸太生産を担う林業経営者のうち、70%の者が規模拡大したいと回答している。このように、林業経営者の多くが経営規模を拡大したい意向があるものの、現状維持の意向を有する森林所有者との間でミスマッチが生じ、まとまった規模の林業経営を持続できる、意欲と能力のある

林業経営者が十分育たない状況にあり、これらの課題を解決するため「新たな森林管理システム」の構築が必要としている。

森林及び林業の動向（資料 20）では、この「新たな森林管理システム」を進める上では、森林の経営管理の集積・集約化が必要であるとしている。集約化により、作業箇所がまとまり、路網の合理的な配置や高性能林業機械を効果的に使った作業が可能になることから、素材生産コストの縮減が期待でき、また一つの施業地から供給される木材ロットが大きくなることで、質のそろった木材をまとめて供給することが容易となり、市場のニーズにこたえつつ、価格面でも有利に販売することが期待できる。こういった集約化に当たっては、森林所有者に対して施業の方針や事業収支を提示し、集約化を促進する担い手となる「森林施業プランナー」の育成を図ることが重要となるとしている。

本県においても、農業就業人口の減少や高齢化が進み、従来型の小規模家族経営を中心とした農業構造から、大規模法人経営を中心とした農業構造への移行が進む中で、経営意欲を持ち、創意工夫を持って経営を展開する農林業者を支援することで、産業としての農林業を発展させることを目指している。

平成 29 年度に本県が県内ビジネス経営体及び認定林業事業体 451 経営体を対象として実施した、採用意識に関するアンケート調査（有効回答 166 経営体）（資料 9）では、雇用の不足感を持つ法人の中で、正社員が不足している法人が約半分（81 経営体）を占めている。こうした法人では、人材の不足感があっても「雇用手続の煩雑化などにより求人するまで至らない」、「応募者の資質が求める基準に満たない」「募集しても応募がない」などで正規雇用まで至っていないケースが見受けられる。

しかし経営体の約 8 割（127 経営体）が事業の拡大・強化を考えており、特に売上金額が高い経営体ほど事業拡大意向が強い。分野としては、従来のような生産・栽培部門の強化（74 経営体）による事業拡大のみならず、販売部門（54 経営体）や管理部門（33 経営体）、加工部門（36 経営体）の強化・拡大の意向を持つ経営体が多く見られた。

こうした国や本県の農林業を取り巻く環境や本県経営体の意向を鑑みれば、農林業の持続的発展のためには、基礎的な生産技術や知識だけではなく、付加価値の向上、規模拡大や投資を通じた生産性の向上に挑戦し、効率的かつ安定的な農林業経営を実現していくような、次世代を担う農林業者の育成が必要である。

また、農林業はその土地に根ざし営まれるものであり、地域社会との協働が不可欠である。農林業が営まれる農山村は、生産物の安定供給を担う空間であるとともに、農林業者を含めた就業の場、生活の場になっている。そしてその生産活動を通じ、自然環境の保全や景観の形成、水源の涵養など、様々な役割

を果たしており、その役割による効果は地域住民をはじめ国民全体が享受している。こうした農山村地域を支えていくためにも、農林業者は経営を行うだけでなく、自然と共生しながら農山村の景観や環境を保全していくとともに、地域の文化や伝統を守り育み、地域社会を中心となって支えていくことが求められている。

本学科は、このような能力を持った人材がこれからの新しい農林業に必要であるとの考えに立って、農林業経営学を中心に、生産技術や知識を基礎とした6次産業化、食の安心安全、農林産物の機能性など、消費者動向を踏まえたフードシステムの視点での教育を実施することにより、農林業経営を通じ自らの夢を実現させることのできる人材を養成するために設置するものである。それと同時に、景観や環境などの農山村の持つ多面的機能や、農山村地域の文化や歴史についての理解を促すことで、広い視野で農林業を捉えることができる資質・能力を涵養し、将来、地域の文化や伝統を守り育み、地域社会を中心となって支えていくリーダーを目指そうとする人材を養成する学科である。

なお、本県が平成30年7月～8月に県内外の農林業法人や関連企業を対象として実施した「静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の卒業生に対する企業等の採用意向に関するアンケート調査」（「学生確保の見通し」資料19）において、本学科の卒業生について、回答のあった526件中124件が「採用したい」、221件が「採用を検討したい」と回答している。

（2）静岡県立農林大学校との違い

静岡県立農林大学校は、生産知識・技術を修得するための教育を中心に行う養成部2年課程を経て、経営やマーケティングを学ぶ研究部2年課程に移る構成になっているが、2年という短期間で、農林業経営に関する十分な知識と実践力を身に付けることは困難である。研究部卒業生の就職先が養成部卒業生の就職先とほとんど同じであることや、近年の研究部の定員充足率が50%を切っていることから研究部設置の目的が十分に達成できていない状況となっている。

（1）でも述べたとおり、農林業を営む上で重視される能力が、「生産技術や知識」のみならず、「経営分析能力」や「財務管理能力」「IoT等新技術の導入」「異業種との連携」「農産物の加工・販売」「海外市場の開拓」など多様な広がりを見せるようになった今日、生産と経営を2年ずつ別個に学習する現在の教育体制では、農林業を取り巻く環境変化に対応できる人材を養成することは困難である。

そこで、4年制の教育課程を編成し、1年生から生産と経営などの学習を並行してバランスよく実施することで、農林業を取り巻く様々な事象を体系的に捉え、それらの変化に柔軟に対応できる人材を養成することができる。

また、より広い視野で農林業を捉え、将来地域社会を中心となって支えていく人材を養成するために、幅広い教養科目や、農山村の持つ多面的機能や、農山村地域の文化や歴史についての理解を促す科目を配置することも大きな違いである。

(3) 教育目標

本県は、温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、栽培、林業、畜産のいずれの分野においても、多彩で高品質な農林産物が県内各地で盛んに生産されている。

栽培分野では、茶やみかんをはじめ、わさび、メロン、いちご、ぼら、ガーベラなど多くの品目が全国トップクラスの品質と生産量を誇っており、林業分野では、富士山や南アルプス、天竜美林に代表される天竜川流域、広葉樹林に恵まれた伊豆地域など豊かで多彩な森林から、天竜スギや富士ヒノキなどの高品質な林産物が生産されている。また、畜産分野でも、富士山麓の朝霧地域で酪農が盛んに行われているほか、牛や豚などの個性的なブランド畜産物が県内各地で生産されており、この3分野は、多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である。

農林業を取り巻く環境が大きく変化していく中で、こうした多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業を持続的に発展させていくためには、栽培、林業、畜産のそれぞれの分野で専門性を発揮し、各分野の経営を牽引していくことができる人材を養成する必要がある。

特に、近年の農林業経営体の大規模化や多角化等に対応していくためには、各分野の生産に関する知識・技術に加え、経営管理能力や加工・流通・販売の知識、先端技術への対応力などによる高度な実践力を備え、経営体の経営革新を推進する人材の養成が求められている。

さらに、そのような人材には、他分野の関連知識や共通知識を活用して、自らの経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力も併せて求められている。

また、農山村は農林業の持続的な発展の土台であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。農山村が有する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたものであり、農林業者には、これらの価値を理解し、守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことも期待されている。

こうしたことから、本学においては、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせた教育課程により、専門分野の経営における高度な実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力を養成するとともに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化に関する幅広い知識などを身に付けさせ、以下に掲げる人材の養成を目指すものである。

<本学として養成する人材像>

多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材

(4) ディプロマ・ポリシー

多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材に求められる次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した者に学位を授与する。

- ① 専門分野のみにとらわれない幅広い知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を有している。
- ② 栽培・林業・畜産の各分野において経営体の大規模化や経営の多角化に対応していくための経営管理能力や、経営の対象とする農林産物に対応した加工・流通・販売などに関する知識を有している。
- ③ 農作物栽培、木材生産、家畜飼養など、栽培・林業・畜産の各分野における生産現場の状況を的確に把握するための、生産に関する知識・技術や生産に活用される先端技術に関する知識を有している。

④農山村の地域社会における将来のリーダーとして、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育てていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。

⑤農山村の地域資源を活用することにより、栽培・林業・畜産の各分野の経営における新たな事業展開を生み出すための手法を理解している。

⑥修得した専門知識と技術を駆使して栽培・林業・畜産の各分野の経営における課題を探究し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を有している。

なお、本学は1学部1学科のため、このディプロマ・ポリシーは本学全体のディプロマ・ポリシーとする。

(5) 卒業後の進路

卒業後は、身に付けた専門性を活かし、次のような場での活躍を想定している。

- ・農林業経営体後継者や幹部
- ・農林業経営体の起業者
- ・新たに農林業へ参入する企業の農林業関連部門
- ・農林業技術や経営の指導・普及を行う公務員
- ・農業協同組合・森林組合の職員

(6) 重点を置く研究分野

本学部では農林業分野の専門職業人養成のための研究という観点に立ち、広く農業、林業、畜産分野を研究の対象とする。また、本県農林技術研究所等とも連携を図りながら、農林業現場で活用される実用性の高い技術を身につけさせるための研究に重点を置く。

3 大学、学部及び学科の名称並びに学位の名称

(1) 大学の名称

本学の名称を「静岡県立農林環境専門職大学」とし、国際表記を「Shizuoka Professional University of Agriculture」とする。「農林」で、農林業生産及び経営に関する実践的知識・技術について学ぶことを示し、「環境」で、農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材を養成するという本学の特色を示す。

(2) 学部及び学科の名称

「生産環境経営学部 生産環境経営学科」

農林業の基礎となる「生産」の知識や技術と、栽培、林業、畜産の各分野の経営に必須となる「経営」の理論を学ぶことにより、農林業を成長産業として発展させ、さらに本学において「環境」で表現する「農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境」について学ぶことで、農山村の地域社会を支えていくことができる人材の養成を行うことから、名称を「生産環境経営学部」とし、国際表記を「Faculty of Agricultural Production and Management」とする。また、1学部1学科の構成であるため、学科の名称は、「生産環境経営学科」とし、国際表記を「Department of Agricultural Production and Management」とする。

(3) 学位の名称

農林業を学ぶ学問分野であることから、「農林業学士（専門職）」とし、国際表記を「Bachelor of Agriculture」とする。農林業に関する学士であることを端的に表現するものである。

4 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程編成の基本方針（カリキュラム・ポリシー）

前述の本学の「基本理念」に掲げる養成人材像並びに「ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）」を実現するためのカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）を、以下のとおり定める。

カリキュラム・ポリシー

- ①ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担うために必要な知識や、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせて編成する。
- ②栽培、林業、畜産の各分野に対応した3コース制とし、2年次から栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、自らが選択したコースの専門的な知識・技術に関する科目を履修する。各分野に関連・共通する知識・技術については、2年次以降も共通で履修することとし、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせて教育課程を編成する。
- ③少人数教育や実習・演習を重視した教育課程により、栽培、林業、畜産の各分野の経営における高度な実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力を養成するとともに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化などに関する知識を修得させる。
- ④成績評価は、学生の基礎的・基本的な知識に加え、技能習熟度や主体的に学習に取り組む態度、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の学習成果を評価基準として行う。また、学生が主体的かつ充実した学習効果を挙げることができるようGPA制度を活用する。

なお、本学は1学部1学科のため、このカリキュラム・ポリシーは本学全体のカリキュラム・ポリシーとする。

「カリキュラム・マップ」を資料21-1に示す。

(2) 基礎科目

基礎科目は、専門分野のみにとらわれない幅広い知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を育成するための科目を配置する。一般教養の科目群とコミュニケーション・スキルの科目群の2科目群から構成する。

①一般教養の科目群

一般教養の科目は13科目を配置する。このうち、各界のトップランナーの講話を基に静岡県農林業のあり方や発展に向けた解決策について考える「静岡学」、ミクロ経済学の基本概念やマクロ経済学の基礎を学ぶ「経済学概論」、現代において不可欠な情報処理能力を身につける「情報処理基礎」及び「情報処理応用」を必修科目として配置する。また、法の基本を理解し、法学の基本概念を習得する「法学概論」、現代の課題を歴史的な観点から考える「歴史学概論」、自然科学的な思考と文学的想像力との結びつきについて考察する「文学概論」、コミュニティについて学ぶ「社会学概論」、政治的なものの見方や基礎的な概念を身につける「政治学概論」、統計学の基本的な知識やデータ解析手法を学ぶ「統計学」を選択科目として配置する。より深い教養をつける「文明論」、日本文化について学ぶ「茶道」、「華道」を、ステップアップのための自由科目として配置する。

②コミュニケーション・スキルの科目群

コミュニケーション・スキルの科目群として、7科目を配置する。コミュニケーション能力や表現力の向上を目的とした「コミュニケーション論」を必修科目として配置する。また、英語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能を高める「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、それに加えディスカッション能力を養う「英語Ⅲ」を選択科目とする。また、プレゼンテーション能力を養う「英語Ⅳ」を自由科目として配置し、学生が自分の能力に合わせて選択できるようにする。

人体と健康について学び、生涯健康に生活することの基本を学ぶ、「保健体育Ⅰ」を必修科目として、団体競技を扱う「保健体育Ⅱ」を選択科目として配置する。

(3) 職業専門科目

栽培・林業・畜産各分野の農林業生産現場の状況を的確に把握するための知識・技術や農林業生産に活用される先端技術に関する知識や、農林業経営体の大規模化や経営の多角化等に対応していくための経営管理能力、農林業経営に活用される先端技術や加工・流通・販売などに関する知識を習得するための授

業科目を配置する。農林業に関する基礎的知識を学ぶ科目を農林業基礎の科目へ、企業的な経営管理や経営戦略について学ぶ科目を経営管理の科目に配置する。また、農林業生産に関する理論や技術を学ぶ科目を生産理論及び生産技術の科目へ、加工・販売の手法や流通の仕組みなどを学ぶ科目を加工・流通・販売の科目に配置する。

職業専門科目では、農林業基礎の科目及び生産理論の共通科目は、全学生が共通で学ぶが、経営管理、生産理論、生産技術の科目は、栽培コース、林業コース、畜産コースの3コースに分かれて、加工・流通関連科目は栽培コース・畜産コース共同と、林業コースに分かれて学ぶ。

①経営管理の科目群

経営管理の科目群は、企業的な経営管理や経営戦略について学ぶ科目群である。16科目を配置し、栽培・林業・畜産各分野の農林業経営を行うための経営管理能力を体系的に学ぶ科目構成とする。3年次まで経営管理の科目群を共通で学び、4年次の「経営実習Ⅰ」、「経営実習Ⅱ」ではコース別に行う。

農林業経営の基礎理論や経営管理の基礎理論について学ぶ「農林業経営学」、経営戦略に関する基礎理論や戦略策定に有効な分析手法について学ぶ「経営戦略」、マーケティングの基礎理論を学ぶ「マーケティング論」、企業の財務諸表の読み方や経営分析の手法について学ぶ「財務会計」、企業の利益管理や経営戦略と管理会計の関連について学ぶ「管理会計」、労働者の雇用の実務に必要な知識を学ぶ「労務管理」、人的資源管理について学ぶ「人材マネジメント」、栽培、林業、畜産の各分野の経営体において、生産現場における経営戦略について学ぶ臨地実務実習「経営実習Ⅰ・Ⅱ」を必修科目として配置する。

また、経営管理の科目群に関する学びを深める自由科目として、フードシステムの観点から現代の食料をめぐる実態と変動を理解する「フードシステム論」、経営管理や経営組織の基礎理論について学ぶ「経営管理論」、経営組織の理論の基礎知識や農業協同組合の理念や組織、事業展開等について学ぶ「農林業の経営組織論」、知的財産に係る法律について学ぶ「知的財産権」、農業や食品関連分野での起業について学ぶ「農と食の起業論」、経営管理の実践力を高める「簿記基礎」、「簿記応用」を配置する。

②加工・流通・販売の科目群

加工販売の手法や流通の仕組み、栽培・林業・畜産各分野の経営に活用される先端技術を学ぶ科目群であり、9科目を配置する。6次産業化や販売管理を学ぶ科目は共通で学ぶ。食品加工・流通関連科目は栽培コースと

畜産コースが、木材の加工・流通関連科目は林業コースが学ぶ。

ア 共通

6次産業化の方向性や可能性について学ぶ「6次産業化実践論」、販売管理の基礎理論や技術、POSシステムといった経営に活用される先端技術の知識と活用法について学ぶ「販売管理実習」を必修科目として配置する。

イ 栽培コース・畜産コース

農畜産物の栄養特性や嗜好性、保存性を向上させる加工技術、豆類や野菜、果樹、乳製品、畜肉類などの知識と技術を学ぶ「食品加工実習」、消費者に安全・安心な食品を安定的に届けるための流通システムについて学ぶ「食品流通論」をコース必修として配置する。

食品の加工流通の知識をさらに深めるための自由科目として、食品成分や化学変化・貯蔵・衛生管理について学ぶ「食品科学」、食品の機能性や健康について学ぶ「農と食の健康論」、園芸作物の品質保持技術・貯蔵方法・加工に関わる知識を学ぶ「収穫後生理学」を配置する。

ウ 林業コース

木材の様々な利用方法や流通・原木市場、IoTやICTを活用した木材流通について学ぶ「木材利用・流通論」、木材加工の基礎理論と木工作品の製作を行う「木材加工実習」をコース必修として配置する。

③農林業基礎の科目群

農林業基礎の科目群は、農林業に関する基礎的な知識、農山村の自然環境や景観の保全に配慮した農林業生産を学ぶ科目群であり、17科目を配置する。

日本の農林業の現状を把握し持続的な社会を構築するために現代の農学は何ができるかを考える「農学概論」、農林業が環境保全へ果たしてきた役割や森林のもつ景観形成の機能、農林業が引き起こす環境問題と対策、森林が持つ景観形成機能について学ぶ「環境と農林業」、農林業の発展や倫理的な課題について考える「技術者倫理」を必修科目として配置する。これらの3科目では、農山村の自然環境の保全についても取り上げる。

また、農業・食料関連政策や森林・林業政策について学ぶ「農林業政策」、県内の農林業経営体等の現状を学ぶ「県内農林業事情」、生命現象を分子レベルで考察するために必要な知識を修得する「分子生物学」、農林業における気象災害とその対策について学ぶ「農業気象学」、生命科学の基本を学ぶ「生命科学」、野生鳥獣対策の現状と課題などについて学ぶ「野生鳥獣管理・利用論」を選択科目として配置する。

さらにステップアップのための自由科目として、農林業の歴史の変遷を学ぶ「農林業史」、県外、海外の農林業経営体等の現状と課題を学ぶ「県外農林業事情」、「海外農林業事情」を配置するとともに、リメディアルのための自由科目として、農林業についての学びを深める理数科目の基礎知識である「農林業のための基礎数学」、「農林業のための生物学」、「農林業のための化学」、「農林業のための物理学」、「農林業のための地学」を配置する。

④生産理論の科目群

生産理論の科目群は、栽培・林業・畜産各分野の生産に関する基礎的な理論、農山村の自然環境や景観の保全に配慮した農林業生産、農林業生産に活用される先端技術を学ぶ科目群である。生産技術の裏づけとなる生産理論について、体系的に学ぶ科目配置とし、生産技術の科目群との関連を意識した構成とした。

生産理論の科目群は、共通科目とコース別の科目に分かれている。コースは、栽培コース、林業コース、畜産コースの3コースを設け、このうち1コースを選択し、各コースそれぞれの分野での実践力を修得させるために深く関係する科目をコース必修とする。

ア 共通

栽培・畜産・林業の3分野について学び、コース選択の参考とする導入的な科目の「農林業生産理論」、農林業の生産や経営に関連する先端技術について学ぶ「農林業のための先端技術」、農林業と自然環境の保全について体系的に学ぶ「環境保全型農林業論」の3科目を共通の必修科目として配置する。

イ 栽培コース

栽培コースの生産理論科目群として、7科目を配置する。栽培技術を学ぶ上で、植物栄養や病害虫、栽培体系の知識は不可欠である。このため、土づくりや植物の特性や植物生産の代謝、養分機能、栄養特性と肥料について学ぶ「土壌肥料・植物栄養学」、水稻や茶の栽培体系や精密農業について学ぶ「作物学」、野菜や花き、果樹の栽培体系や栽培施設の環境制御、栽培に関する先端技術を併せて総合的に学ぶ「園芸学」、病害虫の種類や特長について学ぶ「植物病理学」及び「応用昆虫学」をコース必修として配置する。

さらに知識を深める自由科目として、野菜や花き、果樹の詳細な栽培体系や栽培に関する先端技術をより深く学ぶ「園芸学各論」、植物の遺伝の仕組みや育種技術について学ぶ「植物遺伝育種学概論」を配置する。

なお、これらの7科目の授業の中で、栽培分野における環境の保全についても取り上げる。

ウ 林業コース

林業コースの生産理論科目群として5科目を配置する。林業技術を学ぶ上で、森林調査や造林、治山、収穫技術の知識が不可欠である。このため、森林政策の歴史や関連法、森林調査の基礎、森林情報システムについて学ぶ「森林計画・政策論」、林業機械を用いた木材生産や作業システムについて学ぶ「木材生産システム」をコース必修として配置する。

また、森林づくりの目的・方法、施工技術、森林景観について学ぶ「造林学」、治山・砂防や林業土木、森林・植生がもつ環境保全や景観形成の機能について学ぶ「森林土木学」、木質バイオマスの特徴と実際について学ぶ「木質科学概論」をコース必修として配置する。

なお、「森林計画・政策論」、「造林学」では、林業分野における環境保全について、「森林計画政策論」、「木材生産システム」では先端技術について、「造林学」及び「森林土木学」では森林景観の保全についても取り上げる。

エ 畜産コース

畜産コースの生産理論科目群として7科目を配置する。飼育技術を学ぶ上で、家畜の生理・生態、栄養と飼料、育種や繁殖の知識、また、家畜ふん尿と環境問題の知識は不可欠である。このため、家畜栄養と飼料、飼料配合設計の基礎理論を学ぶ「飼料総論」、飼料消化性の違いや環境要因による変化やその対策、ICTを利用した家畜の管理法について学ぶ「家畜飼養学」、家畜の体の仕組みや各臓器の生理機能を学ぶ「家畜生理解剖学」、育種の基礎知識や繁殖に関わる知識を学ぶ「家畜育種繁殖学」、家畜衛生の一連の知識を学ぶ「家畜衛生学」をコース必修として配置する。なお、「家畜飼養学」の授業の中で畜産分野における先端技術についても取り上げる。

また、畜産分野では家畜人工授精師が重要な資格となっているため、本資格を取得するために必要となる「畜産法規」や「人工授精論」を自由科目として配置する。

⑤生産技術の科目群

生産技術の科目群は、栽培・畜産・林業の各分野における基礎的な技術や先端技術、環境の保全に配慮した生産について学ぶ科目群であり、15科目を配置する。

ア 共通

共通科目として4科目を配置する。農林業生産の全般的な技術や先端技術を広く学ぶ「総合実習」、食品安全や環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理など生産工程管理について学ぶ「GAP演習」、トラクター等の大型機械の操作方法や安全使用について学ぶ「大型機械実習Ⅰ」を必修科目として配置する。また、農業機械士の資格取得を目指す「大型農業機械実習Ⅱ」を自由科目として配置する。

イ 栽培コース

基礎的な栽培技術を学ぶ「圃場実習（栽培）」、生産現場のマネジメントの基礎を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅰ（栽培）」、応用を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅱ（栽培）」、栽培分野の経営体で生産技術を学ぶ「企業実習」をコース必修として配置する。なお、「生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ（栽培）」では、先端技術の導入についても学ぶ。

ウ 林業コース

基礎的な森林の管理技術を学ぶ「演習林実習」、林業分野の生産現場のマネジメントの基礎を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅰ（林業）」、応用を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅱ（林業）」、林業分野の経営体で生産技術を学ぶ「企業実習」をコース必修として配置する。なお、「生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ（林業）」では、先端技術の導入についても学ぶ。

また、林業機械の操作法や高性能林業機械についても学ぶ「林業機械実習」を自由科目として配置する。

エ 畜産コース

基礎的な家畜の飼養管理技術を学ぶ「圃場実習（畜産）」、畜産分野の生産現場のマネジメントの基礎を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅰ（畜産）」、応用を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅱ（畜産）」、畜産分野の経営体で生産技術を学ぶ「企業実習」をコース必修として配置する。なお、「生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ（畜産）」では、先端技術の導入についても学ぶ。

(4) 展開科目

農山村の地域社会における将来のリーダーに求められる農山村の伝統・文化の継承や、伝統・文化を育む農山村の地域社会に関する知識を身に付けるとともに、農山村の伝統・文化などの地域資源を活用することにより、栽培・畜産・林業の各分野の経営に新たな事業展開を生み出すための創造力を備えた人材を養成するための10科目を配置し、全コースが共通で学ぶ。

①農山村の伝統・文化及び地域社会の科目群

農山村の歴史や文化、多面的機能などについて学ぶ「農山村田園地域公共学」、日本や世界の食文化について学ぶ「食文化論」、農と食の営みの本質について考える「農と食の哲学」、農村に暮らす人々の生業と歴史文化との関係から農村景域について学ぶ「農村景域論」、生きた文化財とも呼ばれる在来作物の過去・現在・未来について考える「在来作物学」、農山村の生活や地域社会の特徴について学ぶ「農村社会論」、農山村において地域住民と交流し、地域や地域住民が抱える課題を発見し、その解決策を考える「農山村デザイン演習」、グリーン・ツーリズムの現状・課題・展開について考える「グリーン・ツーリズム論」、農と医、農と福の連携について学ぶ「医福食農連携論」、地域が抱える課題を地域資源を活かしながらビジネス的な手法により解決する手法などについて学ぶ「コミュニティビジネス論」を必修科目として配置する。

(5) 総合科目

①総合的思考能力の科目群

修得した専門知識と技術を駆使して栽培・畜産・林業の各分野の経営における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を習得するため、栽培・畜産・林業の各分野の経営における課題の解決に向けた研究の手法などを学ぶ3科目を配置し、全コースが共通で学ぶ。

栽培・畜産・林業の各分野の経営体の生産部門の分析を行う「経営分析演習Ⅰ」、経営全般について分析する「経営分析演習Ⅱ」、課題と解決策を考える「プロジェクト研究」を必修科目として配置する。

5 教員組織等の編成の考え方及び特色

(1) 基本的考え方

本学科では、栽培、林業、畜産の各分野の専門職業人を養成するため、「栽培コース」、「林業コース」、「畜産コース」の3コースを置き、共通する基礎的知識の修得に加え、より専門的に各分野を学ぶことができるようカリキュラムを編成している。また、農林業経営の知識はもちろん、将来的に、地域社会を支えるリーダーとなるために必要となる農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについても学べるよう計画している。

専任教員については、栽培、林業、畜産の各分野に、大学等での教育歴が豊富な教員と農林業現場での実績がある実務家教員をバランス良く配置し、学術系からフィールド系までの幅広い教育研究に十分な対応ができるよう配慮している。

なお、実習圃場を、併設する静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と共用するため、実習系の科目については、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の専任教員を兼任教員とし、共同で担当するようにし、授業計画から実施までをスムーズに行えるよう配慮した。

<分野別・職位別の教員構成>

(単位：人)

区 分	栽 培			林 業				畜 産		
	教 授	准教授	講 師	教 授	准教授	講 師	助 教	教 授	准教授	講 師
専任教員	2	0	1	1	1	0	1	1	1	0
実 務 家	5	0	2	1	0	0	0	0	0	1
うち研究	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0
合 計	7	0	3	2	1	0	1	1	1	1

(2) 年齢構成

専任教員の年齢構成は次ページのとおりである。

60歳以上の教員は10人で、完成年度までに定年を迎える者は8人だが、定年規程（資料22）に特例を設け、完成年度まで引き続き同一職位で勤務できることとする。

教員組織の持続性を図るため、栽培、林業、畜産の主たる分野の実務家教員については、県の組織全体において、各専門職種の職員のキャリアパスを見直し、教員後継者の育成を図っていく。完成年度後は、内部昇格と併せ、職位や年齢構成のバランスを見ながら、適切に教員を採用していく。

<専任教員の職位・年齢構成（平成32年4月1日現在）> （単位：人）

年 齢	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上	計
教授			5	9	14
うち実務家（うち研究）			3(3)	3(3)	6(6)
准教授		1	3	1	5
うち実務家（うち研究）			0		0
講師	1	2	1		4
うち実務家（うち研究）	1	1	1		3
助教	1				1
うち実務家（うち研究）					
専任教員合計	2	3	9	10	24
うち実務家（うち研究）	1	1	4(3)	3(3)	9(6)

<完成年度までに定年を迎える専任教員の分野別・職位別内訳> （単位：人）

分 野		栽培	経営	農山村	食品	合計
教 授	専任教員	2	2	0	1	5
	実務家	2	0	0	0	2
准教授	専任教員	0	0	1	0	1
合 計		4	2	1	1	8

6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 教育方法

①少人数教育の推進

本学の入学定員は各学年 24 名、4 学年合計の収容定員は 96 名である。

収容定員 96 名に対して、専任教員を 24 名（教員一人当たりの学生数は 4.0 人）配置することから、少人数教育を実施しやすい体制を備えている。本学ではこの特色を生かし、基本的に講義は 1 学年定員 24 人単位で行うほか、教育効果や安全性に配慮し、より細やかな指導が必要となる「総合実習」や作目別の「圃場実習」、「演習林実習」、「生産マネジメント実習Ⅰ」、「生産マネジメント実習ⅠⅡ」や、農耕用大型機械などを取り扱う危険度の高い「大型機械実習Ⅰ」など、実習科目の授業の多くを 10 名程度の少人数で行うこととする。

②実習・演習による実践的教育の推進

自ら土を耕し、作物を育て収穫し、必要に応じ加工し、消費者へ販売し、経営について触れる経験を学生のうちから積んでおくことは、栽培・畜産・林業の各分野の経営の現場で役立つ実践力や創造力を養うためには欠かせない。

生産技術や生産マネジメントに関する実習は、学内等の圃場で行う実習を 1 年～3 年次まで配置し、1 年次は農林業全体について学ぶ総合的な実習を、2 年次前期には栽培、林業、畜産の各分野の基礎的な生産技術について学ぶ実習を、2 年次後期には、それまでに修得した基礎的な生産技術をさらに発展させ、かつ生産現場のマネジメントの基礎について学ぶ実習を、3 年次には生産現場におけるマネジメントの実践を行う実習を配置する。また、農林業現場では大型機械を扱う技術が必要となるため、その操作方法などを学ぶ「大型機械実習Ⅰ・Ⅱ」、「林業機械実習」を配置する。

学内等での実習をもとに、3 年次には実践的な生産技術を学ぶ実習を、4 年次には実践的な生産現場のマネジメントや経営について学ぶ実習を、栽培・畜産・林業の各分野の経営体にて行う。これらの実習での学びをもとに、経営について学ぶための演習を行う。

さらに、2 年次には食品安全や環境保全、労働安全等の持続的可能性を確保するための生産工程管理の方法について学ぶ「GAP 演習」を、3 年次には、加工や販売の実践について学ぶ「食品加工実習」、「木材加工実習」及び「販売実習」を配置し、多角化する農林業に対応できる能力を育成する。

③栽培・畜産・林業の各分野の経営体における臨地実務実習

栽培・畜産・林業の各分野の経営についての将来像が持てるよう、先進的な経営体において、生産だけでなく加工・流通・販売など経営全体について学べる「企業実習」、「経営実習Ⅰ・Ⅱ」を行う。

④現場課題をテーマとしたプロジェクト研究

「企業実習」や「経営実習Ⅰ・Ⅱ」の経験をもとに、実習先を研究対象とし、その経営体の経営課題を発見し、その解決策を提案する。

(2) 履修指導方法等

①履修ガイダンスの実施

入学時のガイダンスにおいて、履修ガイドブック、シラバス、卒業後の進路希望に即した履修モデルを提示し、学生の目指す専門分野別に、教育課程の考え方・特色や入学時から卒業時までの履修方法について説明するものとする。また、入学直後に、全学生を対象に「新入生アンケート調査」を実施し、志望分野や志望理由、卒業後の志望進路等を把握する。

また、生産理論及び生産技術、加工・流通・販売は、栽培、林業、畜産の各分野を専門的に学ぶため、コース制とし、「栽培コース」、「林業コース」、「畜産コース」の3コースを置く。なお、基礎科目や展開科目、総合科目は共通して学ぶ。

2年次からコースに分かれて、職業専門科目を学ぶ。コース選択に関する説明は、入学時の4月及び後期が始まる10月に行い(合計2回)、コースの決定時期、希望申込時期、選抜時期、選抜方法について、学生に対する説明を行う。コース決定の方法については、1年次の12月に志望理由等を記載した希望調査票を提出させ、1月に面接を行い、3月に選考会を実施の上、コースの決定を行う。

②個別履修指導等の実施

1、2年次には専任の教授・准教授の中から担任教員を決め、学生の履修・学習等に関する相談窓口とする。また、相談内容によっては選択する進路を見据え、学生の希望する各分野の教授・准教授につなげ、各分野の教授・准教授が相談に応ずる。

4年次においてはプロジェクト研究の指導教員など、各分野の教員が学生の履修、学習等に関する相談に応ずるものとする。プロジェクト研究については教員一人当たりの担当学生数は6人を限度とし、学生の志望研究テーマに合わせて個別に適切な指導体制をとるとともに、実習や研究の指導における教員の負担が過剰にならないよう配慮する。

併せて、すべての専任教員がオフィス・アワーを設け、講義内容等につ

いて学生が個別に相談を行うことができるようにする。

③シラバスの作成

授業を担当する教員は、すべての科目のシラバスを作成する。授業の概要、到達目標、授業の計画、評価方法、テキスト教材、参考書等を学生目線でわかりやすく示し、学生が主体的に予習、復習に取り組みやすくすることで、教育効果を高める。

④履修モデル

栽培コース・林業コース・畜産コースのコース別の履修モデルは、次のとおりである（資料 23）。

- ・履修モデル：栽培コース
- ・履修モデル：林業コース
- ・履修モデル：畜産コース

（3）成績評価

①単位の取得

学則に基づき、各授業科目を履修した者には、評価の上、単位を認定する。認定の方法は、各種試験、グループワーク、発表、レポート等の成果物、授業・実習・演習の取り組み方などにより、各授業科目担当者が科目の特性を考慮して定める。

②成績の評価

成績評価は、学生の基礎的・基本的な知識に加え、技能習熟度や主体的に学習に取り組む態度、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の学習成果を評価基準として行う。また、学生が主体的かつ充実した学習効果を挙げることができるよう GPA 制度を活用する。

各授業科目の成績評価は、S（100点～90点以上）、A（90点未満～80点以上）、B（80点未満～70点以上）、C（70点未満～60点以上）、D（60点未満）の5つの分類を持って表し、C以上を合格とし、オリエンテーションや授業開始時のガイダンス、学生便覧等において、学生にその考え方を明確に伝え、理解させることとする。

本学では、成績評価に応じて下記のとおりポイント（4.0～0.0pt）で表し、平均値で表す GPA（Grade Point Average）制度を導入する。この GPA 制度を導入することで、ただ単に進学や卒業に必要な単位を取得するのではなく、学生が主体的かつ充実した学習効果を上げることが可能となる（例えば、学期はじめに自身の成績目標を設定し、学期末に学習効果を自身で把握し、次

の目標を設定するなど)。そのため、学業成績通知書には、GPA も含めた成績評価を記載し、各学生に通知する。

また GPA は学生の履修状況を見る指標にもなるため、未履修科目が多い学生への履修指導にも利用していく予定である。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{履修した科目の単位数} \times \text{その科目の GP}) \text{の合計}}{\text{履修登録単位数の合計}}$$

評 点	評価 (表示)	G P
90～100	S	4.0
80～89	A	3.0
70～79	B	2.0
60～69	C	1.0
0～59	D	0.0

③CAP制（履修科目の登録の上限）の導入

単位の過剰登録を防ぎ、学習の質を確保するため、1年間に履修登録できる単位の上限は45単位とする。

④卒業要件

本学科で卒業に必要な卒業要件単位数は、次のとおりとする。なお、実験・実習・実技による授業科目にかかる 40 単位以上（うち臨地実務実習 20 単位以上）を修得しなければならないものとする。

科目群		卒業要件単位数		
		必修科目	選択科目	合計
基礎科目		10 単位	10 単位以上	20 単位以上
職業専門 科目	農林業基礎	6 単位	4 単位以上	85 単位以上
	生産理論	6 単位	10 単位	
	経営管理	25 単位	—	
	加工・流通・販売	4 単位	4 単位	
	生産技術	16 単位	10 単位	
展開科目		20 単位	—	20 単位
総合科目		4 単位	—	4 単位
卒業要件単位数		129 単位以上		

⑤他大学における授業科目の履修

本県内の高等教育機関で構成されるふじのくに地域・大学コンソーシアムに参加し、他大学で開講されている専門科目以外の科目の履修を認め、学生の関心、意欲を尊重し、幅広い知識の修得を支援していく。なお、これらは卒業要件には含まないものとする。

7 教育課程連携協議会

農林業界及び地域社会のニーズを反映した教育課程を編成・実施するため、県内農林業者や農林業団体、高校関係者、地元自治体関係者などを構成員とした「教育課程連携協議会」を設置する。

「教育課程連携協議会」の構成員には、学部長及び栽培・林業・畜産を担当する教授に加え、大学の課程に係る職業に関連する団体のうち、県域で活動する関係者であって、当該職業の実務に関し、豊富な経験を有するものとして、地域の農業の指導者的な役割を担う農業経営士によって組織された静岡県農業経営士協会の会長である齋藤恭市氏、県下17の農業協同組合の総合的な指導機関である静岡県農業協同組合中央会において、営農部門で長い指導実績を持つ農政営農部長の戸塚央男氏、畜産経営及び技術の改善を指導する公益社団法人静岡県畜産協会の常務理事兼事務局長である藤山正彦氏、森林資源の活用や木材の流通を担う静岡県森林組合連合会の理事兼参事である高橋雅弘氏、地方公共団体の職員として、地元自治体である磐田市の農林行政を所管し、地域の実状に精通する磐田市農林水産課の課長である鈴木一洋氏、臨地実務実習の実施に協力する事業者として、静岡県農業法人協会の会長で、ハウスで野菜栽培を行う農業法人の経営者でもある鈴木厚志氏、酪農を行う農業法人の専務取締役である片野恵介氏、林業経営や観光を行う法人の代表取締役である竹川将樹氏を充てる。

また、教員その他の職員以外であって、学長が必要と認める者として、静岡県農業高等学校校長会の会長で、高校での農業教育に長く従事している竹川暢昭氏、地域住民と連携した地域づくりや地域農業の振興のための活動に取り組む、静岡県土地改良事業団体連合会の事務局長兼西部事業所長である藤田菊雄氏、本県農業の中核を担うビジネス経営体や認定農業者、新規就農者等の経営発展を支援する農業経営相談所に参画し、新商品の開発や6次産業化のサポートを行う静岡県商工会連合会の事務局長兼産業振興課長の吉田謙二氏、農林業者とコラボレーションし、農山村の魅力発信と併せた販売に取り組んでいる株式会社静岡伊勢丹のバイヤーである安本裕氏、起業と企業のサポートセンターとして、農林業者や中小企業などの活動を支援する富士市産業支援センターのセンター長である小出宗昭氏を充てる。

これらの構成員はいずれも実務家として、農林業現場において十分な活動経験と高い見識を有しており、専門職業人を養成するために共通する基本的知識の習得のための科目に加え、経営、販売・流通、農山村振興など、専門的な分野に関する科目について審議を行うことが可能である。

「教育課程連携協議会」は年2回開催し、教育課程の編成やその実施状況について審議し、学長に意見を述べる。審議事項、開催回数等は資料24のとおりである。

8 施設・設備等の整備計画

(1) 本学キャンパスの整備方針

本学は静岡県立農林大学校の校地、施設及び設備を活用し、その他必要な施設等を整備する。

既存の校舎の活用にあたっては、A棟は改修工事を実施、B棟は現状の校舎のまま継続利用する予定であるが、静岡県立農林大学校は平成33年度まで学生が在学するため、校舎を共用する静岡県立農林大学校の学生に対しても学生生活を阻害しないよう配慮する。

その他、A棟に近接した位置にC棟を建築し、校地内の外構整備を実施する。工事に際しては、安全管理を徹底するとともに学習環境の確保に配慮する。

各校舎の整備は、平成33年度まで段階的に実施するものとする。A棟については平成31年度中に視聴覚室や教室、実験室等の改修工事を完了させ、入学者受け入れ態勢を整えとともに、平成32～33年度に、エレベータの設置工事やC棟への図書館等の機能移転等に対応した改修工事を行う。C棟及び外構については、開学後も工事を継続し、平成32年度までの実施を予定している。

また、校地、施設及び設備は必要に応じて静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と共用するものとする。

(2) 校地及び運動場等の整備計画

①校地の計画

校地は、静岡県磐田市にある現在の静岡県立農林大学校（平成32年度から学生募集停止）の校地を活用する。JR磐田駅から北へ約3kmに位置し、周辺には幹線道路やバス路線が整備されており、交通環境に恵まれている場所である。

また、周囲約3kmには磐田警察署や中遠総合庁舎、静岡地方法務局などの官公庁施設等が立地しているほか、「磐田市総合体育館」、「磐田市陸上競技場」、「かぶと塚公園」など公共施設も隣接している。

②運動場の計画

運動場は、静岡県立農林大学校の運動場 10,469 m²を転用する。この運動場はA棟から約300mに位置している。

これにより、静岡県立農林環境専門職大学における校地面積は校舎敷地 18,076 m²に運動場用地 10,469 m²を加えた 28,545 m²となる。

本学の校地は、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と共用するので、基準校地面積は両大学の面積の合計として算出する。静岡県立農林環境専門

職大学の基準校地面積は、専門職大学設置基準第 46 条の規定に基づき、収容定員上の学生 1 人当たり 10 m²として算定した面積 960 m²となり、静岡県立農林環境専門職大学短期大学の基準校地面積は、専門職短期大学設置基準第 44 条の規定に基づき、収容定員上の学生 1 人当たり 10 m²として算定した面積 2,000 m²となる。したがって、両大学を合わせた基準校地面積は 2,960 m²と算出されるので、本学の校地は基準面積を上回っている。

なお、平成 33 年度までは静岡県立農林大学校と校地を共用するが、本学の校地は基準面積を大きく上回っていることから、共用可能と判断する。

上記によるほか、附属施設として、静岡県立農林大学校の実習圃場 15,843 m²、機械研修場 36,656 m²を転用する。

(3) 校舎等施設の整備計画

本学の校舎は、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と共用するので、基準校舎面積は本学の面積の合計として算出する。静岡県立農林環境専門職大学の基準校舎面積は、専門職大学設置基準第 47 条の規定により、学部の種類が農学関係であり、収容定員が 100 人以下であるので基準校舎面積 4,396 m²となる。一方、静岡県立農林環境専門職大学短期大学の基準校舎面積は、専門職短期大学設置基準第 45 条の規定により、学部の種類が農学関係であり、収容定員が 200 人以下であるので基準校舎面積 2,400 m²となる。したがって、両大学を合わせた基準面積は 6,796 m²と算出される。

本学の校舎は A 棟、B 棟及び C 棟の 3 棟で構成し、それぞれの延床面積は 3,094.6 m²、2,856.4 m²、845 m²、計 6,796.0 m²であるので、基準面積を満たしている。

なお、本学の専用部分は専任教員室 (A 棟、C 棟) のみであり、他の部分は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と共用する。静岡県立農林環境専門職大学短期大学の専用部分は使用しない。

また、平成 33 年度までは静岡県立農林大学校と校舎を共用する。本学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部は、主に A 棟及び C 棟を授業で使用し、静岡県立農林大学校は、主に B 棟で授業を実施することで共用していく。校舎の利用計画表及び時間割表を資料 25、26 に示す。

A 棟は鉄筋コンクリート造、地上 4 階建てで、1 階には事務室 (総務課、教務課など)、学長室、分析実験室等 (計 815.3 m²)、2 階には講義室、植物実験室等 (計 750.6 m²)、3 階には研究室、ミーティングルーム、講義室等 (計 749.2 m²)、4 階には研究室、視聴覚室等 (計 748.0 m²)、屋上階には屋上に出るための階段室 (31.5 m²)、総計 3,094.6 m²の校舎である。

B 棟は鉄骨造、地上 2 階建てで、1 階には教員用実験室、加工講義室等 (計 419.2 m²)、2 階には講義室、カウンセリングルーム等 (計 425.8 m²)、総計 845.0

m²の校舎である。

C棟は鉄骨造、地上3階建てで、1階には食堂・厨房、売店等（計730.3 m²）、2階は図書館、教員室、講義室等（計1,110.6 m²）、3階には図書館、畜産実験室、ミーティングルーム等（計1015.5 m²）、総計2,856.4 m²の校舎である。

①学長室、会議室、事務室等

円滑に運営を行うため、学長室、応接会議室、事務室等の事務機能は主にA棟1階に集約して設置する。また、教員用の印刷室をA棟の3階及び4階、C棟の2階に設ける。

②教員研究室

原則として、専任教員全員に、施設可能な教員研究室を24室（教授・准教授用19室（約22 m²）、講師・助教用5室（約16 m²））を設置する。この教員研究室には、執務机、書架、打ち合わせテーブルを置く。

また、教員と学生が打合せを行ったり、教員が学生の相談対応や指導を行うスペースとして、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と共用でA棟にミーティングルーム1室、B棟にカウンセリングルーム1室、C棟にミーティングルーム3室を設置する。

なお、教員が、測定や分析等、研究機材を用いた教育研究を行うスペースとして、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と共用で教員用実験室2室（B棟1階、C棟3階）を設置する。

③講義室・情報処理室

講義室はA棟に5室、B棟に7室、C棟に4室設け、視聴覚素材を用いた講義が中心となるため、AV機器等（プロジェクタ、スクリーン、マイク等）の設備を設置する。また、C棟には情報処理室を設ける。

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と合わせて148科目の講義及び演習を実施するために必要な講義室を確保する。A棟3階に設置する講義室の1室については、C棟完成後の2年次に整備する。

なお、本学の講義室の多くは、他大学と比べ小規模であるため、GAP演習や販売演習などの演習科目については、講義室を利用して行う。

④実験室

実験室は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と共用で、A棟に分析実験室、植物実験室、クリーンベンチ室、B棟に加工実験室、教員用実験室Ⅰ、C棟に畜産実験室、教員用実験室Ⅱの計7室を設置する。

各実験室には実習等に必要な分析機器等の設備や器具を整備する。

また、2室ある教員用実験室は教員専用とし、教員が支障なく教育研究が行えるよう、教員が研究を行う上で必要な測定機器や、分析等の研究機材を設置できるスペースを確保する。

位置	実験室名	面積	主な用途	整備する機器等	
A棟	1階	分析実験室	112.8 m ²	土壌分析、飼料分析、植物体分析など	ガスロマトフィー、RQ フレックス、ph 計、EC メータ、糖酸度計、原子吸光分光光度計
	2階	植物実験室	112.8 m ²	観察、病害虫診断など	顕微鏡、インキュベータ、恒温維持器、滅菌消毒器
		クリーンベンチ室	30.2 m ²	植物培養	クリーンベンチ、恒温維持器
B棟	1階	加工実験室	133.2 m ²	農畜林産物加工	ミトヨッパー、薫煙庫、ブラストチラー、冷凍冷蔵庫
		教員用実験室 I	67.1 m ²	研究	乾燥機、冷凍冷蔵庫、蒸留水製造装置、超音波洗浄機
C棟	3階	畜産実験室	94.8 m ²	解剖、血液分析など	遠心分離機、アイソプリーザ、クリーンベンチ、ドラフトチャンバー
		教員用実験室 II	94.8 m ²	研究	乾燥機、超音波洗浄機、クリーンベンチ、ドラフトチャンバー

⑤医務室

医務室はA棟の1階に設置する。

⑥学生自習室及び控室

学生の自学自習の環境を整えるため、C棟の2階に1室(56.9 m²)を設置する。図書館の近くに配置し、プロジェクタ等を整備することで学生のグループ学習に対応する。その他学生が自由に滞在する場所としてC棟2階に学生ラウンジ(62.6 m²)を設け、テーブル、イスを配置する。

なお、C棟が完成するまでの平成32年度は、静岡県立農林大学校(A棟)の臨時図書室(A棟3階)128.3 m²、閲覧室48席を活用し、C棟完成後に機能をC棟に移設する。

⑦体育館兼講堂

体育館兼講堂は、既存の施設（延床面積 904 m²）を利用し、A棟の北側に渡り廊下で繋がる形で位置している。保健体育の授業で使用するほか、入学式や卒業式などを行う講堂としても使用する。

また、屋外運動場が必要な体育授業は、静岡県立農林大学校のグラウンドを継続して使用する。

⑧福利厚生施設

学生の福利厚生及び支援のための施設として、食堂及び売店をC棟1階に設ける。食堂については、地域住民をはじめとした学外の方々にも開放することで、来客者に対して本学の活動内容を広く周知していく。また、これを通じて高校生にも興味を持ってもらい、本学への入学、そして将来の農林業人材の増加に繋げていく。なお、平成32年度は学生寮の1階にある食堂を継続して活用する。

また、福利厚生施設の一つとして静岡県立農林大学校の学生寮2棟を継続利用する。1棟は男子108人、女子8人、計116人定員の男女共用の学生寮であり、もう1棟は女子30人定員の女子寮である。学生寮での生活は、学生の社会性やコミュニケーション能力の向上や就農後につながるネットワークの構築を促す上で重要な環境であることから、1年次は全寮制と、2年次以上は希望制とする。

⑨附属施設（農場等）

専門職大学設置基準第49条に定める附属施設として、農場については、敷地内の静岡県立農林大学校の既存の実習圃場 15,843 m²と機械研修場 36,656 m²を転用する。また、牧場については、県有施設である畜産技術研究所（本所）121.9haと、畜産技術研究所中小家畜センター9.3haを充てる。演習林については、本学の近隣にある県有林294haを充てる（資料27）

農場として実習で使用する実習圃場は、効率的に管理・運営するために、静岡県立農林環境専門職大学と静岡県立農林環境専門職大学短期大学部が共用し、作物ごとに配置した技術職員が通常の実務業務を担う計画である。静岡県立農林環境専門職大学と静岡県立農林環境専門職大学短期大学部は、実習の実施時間が重複しないように計画しており、支障なく実施できる。

実習圃場は、トマトやイチゴ、メロン等の施設野菜やナス、オクラ等の露地野菜、切花や鉢花等の花き、お茶、果樹、しいたけ等を栽培可能な圃場であり、「圃場実習」や「生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱ」といった実習用だけでなく、プロジェクト研究といった研究用圃場としても用いることも可能である。設備については、栽培管理に必要な設備として、栽培棚や

自動給液装置、複合環境制御装置、茶刈機、中刈機、スピードスプレイヤ、トラクター、溝切り機、運搬車等を整備する。また試験用設備として、環境測定機器（温湿度計、日射計、風速計、データロガー等）を整備する。

機械研修場には、トラクターやフォークリフトなどの農業に関する機械と試験コースがあり、実習を通じて農業機械の操作技術や安全な使用方法を学ぶ。

実習圃場を管理・運営するために、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と兼任の非常勤（週 29 時間勤務）の技術職員 15 人（野菜 4 人、花き 2 人、茶 2 人、果樹 1 人、畜産 1 人、林業 2 人、農産加工 1 人、機械研修場 2 人）を配置する。技術職員は、実習計画や圃場・施設の利用計画に基づき、播種や肥培管理、病害虫防除、収穫などの作業に従事するとともに、実習実施時には、教員をサポートする。また、実習圃場で行う研究活動においても、生育管理などの作業を担うこととし、教育研究上、支障がない実施体制を整える。

これらの技術職員には、静岡県や農業協同組合の職員OB等、豊富な知識や技術、経験を有する者を充てる計画であり、圃場を管理・運営する上で支障はない。

また、実習圃場など附属施設での実習を円滑に実施できるよう、静岡県立農林環境専門職大学と静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の実習担当教員や、技術職員等からなる「実習圃場委員会」を合同で設置し、実習の実施体制や実習計画、圃場・施設の利用計画、作物の作付計画などを策定する。

牧場として実習で使用する畜産技術研究所及び畜産技術研究所中小家畜センターは、県の畜産振興に係る技術開発のための研究拠点として、必要な施設や圃場、設備が整備されており、また、これまでも既設の静岡県立農林大学校養成部 2 年次の実習を受け入れていて、実施にあたってのノウハウも蓄積されていることから、静岡県立農林環境専門職大学の実習実施についても支障なく実施できる。

演習林として実習で使用する県有林では、林道等の測量や森林調査、伐採といった実習を行うことが可能であり、静岡県立農林環境専門職大学の実習実施についても支障なく実施できる。

なお、静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と、県試験研究機関等との間で、教育研究の進め方などを協議する連携会議を設け、中長期的な施設・設備の利用について調整する体制を整える計画であり、教育研究上、支障なく実施することができる。

（４）図書等の資料及び図書館の整備計画

①図書等の資料整備

図書館は、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と共用する。

開学前年度となる平成 31 年度には、翌年のカリキュラムで必要となる基礎科目や農林業基礎の図書等を中心に全体の 6 割程度の整備を行い、平成 32 年度には、翌年度のカリキュラムで必要となる経営関連図書等を追加し、残り 4 割程度の整備を完了する。

整備する図書は、農林業の専門図書館として、生産技術や生産理論等の専門図書とする。また、経営者としての素養を高めるため、経営理論に関する図書や、農林業の経営や農林業以外の経営事例等の図書も整備する。

整備する図書の点数としては、開学前年度の平成 31 年度中に図書 7,689 冊（基礎科目関係の図書 4,588 冊、専門科目関係の図書 3,101 冊）、学術雑誌 40 誌（電子ジャーナル含む）、視聴覚資料 38 点を整備し、平成 32 年度中に、図書 5,127 冊（基礎科目関係の図書 1,273 冊、専門科目関係の図書 3,854 冊）、視聴覚資料 26 点を整備する。

平成 32 年度末時点の図書等の資料点数は、図書 12,816 冊（基礎科目関係の図書 5,861 冊、専門科目関係の図書 6,955 冊）、学術雑誌 40 誌（電子ジャーナル含む）、視聴覚資料 64 点である。このうち、外国書は、図書 366 冊、学術雑誌 20 誌である。

新規に農林業関連図書等が発刊された際には、県の予算内で購入し、最新の図書の整備も行っていく。国内外の学術雑誌についても定期契約をし、最先端の研究情報も得られるようにする。（資料 28）

(図書購入内訳)

(単位：冊)

区 分			内国書	外国書	合 計	
基礎科目	一般教養	政治学、社会学、歴史学、文学、哲学、茶道、華道等	5,157	37	5,194	
	コミュニケーション	英語、英語文学、英会話等	439	31	470	
	保健体育	体育	169	28	197	
	小 計		5,765	96	5,861	
専門科目	農林業基礎	化学、数学、生物学、物理学、農学概論、統計学等	1,963	270	2,233	
	地域資源	景観史、農村景域学、土木観光、文化財等	318		318	
	生産理論・生産技術	栽培	野菜、果樹、花卉、茶、作物栽培学、病虫害等		683	683
		林業	林業		270	270
		畜産	畜産		296	296
	経営管理	経営学、経営管理、農業経済、農林畜産経営等	2,499		2,499	
	加工・流通・販売	食品木材流通・加工、販売管理、食品衛生等	656		656	
	小 計		6,685		270	6,955
合 計			12,450	366	12,816	

※ 外国書は、分類が困難なため、合計欄では農林業基礎に計上。

(図書整備の年次計画)

(単位：冊)

区 分		平成 31 年度	平成 32 年度	合 計	
基礎科目	一般教養	4,003	1,191	5,194	
	コミュニケーション	431	39	470	
	保健体育	154	43	197	
専門科目	農林業基礎	1,948	285	2,233	
	地域資源	121	197	318	
	生産理論 ・ 生産技術	栽培	400	283	683
		林業	200	70	270
		畜産	200	96	296
	経営管理	111	2,388	2,499	
	加工・流通・販売	121	535	656	
合 計	7,689	5,127	12,816		

②図書館の施設整備

図書館は、C棟の2階、3階部分に延床面積 662 m²とし、蔵書能力は 50,000 冊であり、閲覧席 60 席（全学生定員 296 人の約 20%）、レファレンス・コーナー、図書整理室、書庫、ブラウジングスペース、PC コーナー、AV コーナーを設け、閲覧席は、無線 LAN 等により持ち込みのパソコンが使用できる環境に整備する。

学生、教職員及び学外者の入館はバーコードカード等で管理する。また、図書館システムを整備し、効率的で適切な貸出・返却、蔵書管理等を行うとともに、磁気テープ方式等により蔵書の不正持出を防止する。

図書館には、専門職員を 2 名配置し、学生、教職員及び学外者に対し、資料提供や利用相談及び他機関との相互貸借等の業務を行う。

また、C棟が完成するまでの平成 32 年度は、A棟 3階の臨時図書室 128.3 m²、閲覧室 48 席（1 年次学生定員 124 人の約 40%）を活用し、C棟完成後に図書館機能をC棟に移転する。なお、移設後のA棟 3階の旧図書館は研究室及びミーティングルームとして利用する。

なお、図書館は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と共用するので、前述の学生定員は両大学の合算である。

9 入学者選抜の概要

(1) 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本学は、基本理念である「将来の農林業の経営環境の変化に対応し、先端技術などを活用して経営革新を推し進めるとともに、農山村の景観・環境・文化の継承者として、地域社会を中心となって支えていく人材を養成する」という考えのもと、次のような資質を有する学生を求める。

- 農林業生産技術や経営などを学ぶ上で必要な基礎学力と知識を身に付けている人
- 課題解決や新たな価値の創造に取り組むために、従来の常識にとらわれない柔軟な思考力を備えている人
- 農林業に高い関心を持ち、農林業や経営の中核となり、農林業の発展に貢献する意欲がある人
- 自然と共生し地域の人々と協働しながら、持続的な社会の発展に自らの能力を活かしていく意欲がある人

なお、入学者選抜に当たっては、農林業に対する意欲を重視し、年齢・国籍を問わず、広く受験生を募集する。

(2) 選抜体制

開学前年度は教員予定者で構成する開学準備委員会入試部会を組織し、学長予定者の指揮のもと、公正かつ適切な入学者選抜制度を検討するとともに、入学試験の円滑な企画・運営を行う。開学初年度以降は学内の関係教職員による入試委員会を組織し、学長の指揮のもとに入学試験の企画・検討・事後評価を行う。可否の判定については入試委員会において可否判定案を作成し、これを教授会において審議し、学長が決定する。

(3) 選抜方法

入学志願者の能力、意欲、適性等を多面的・総合的に判断する。判定に当たっては知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性等を適切に評価する。

また、入試方法の多様化を図るため、一般選抜のほか、推薦型選抜、特別型選抜を実施する。

①一般選抜

一般選抜は、国公立大学の入学者選抜に準じて実施し、学力検査については大学入試センター試験（大学入学共通テスト）と個別学力検査とを組み合わせ、分離分割方式の前期日程により実施する。ただし、開学初年度の入学者については大学入試センター試験を利用しない。

②推薦型選抜

現役生を対象とし、本学指定の基準の学業成績を前提として、人物的にも優秀で、出身の高等学校長が推薦する者について、調査書と小論文、面接を行い選考する。

③特別選抜

特別選抜（社会人選抜、留学生選抜）は、多様な背景を持った学生を受け入れるため、出願書類審査、小論文、面接を組み合わせで行う。なお、社会人選抜については、23歳以上、かつ、勤務経験3年以上のものを対象として実施する。また、留学生選抜については基本的に日本語のできる外国人を想定することとし、「日本語能力試験でN2以上の成績を修めたもの、若しくは相当と認められる日本語能力を有するものを対象として実施する。

なお、特別選抜（社会人選抜、留学生選抜）の募集人員は、推薦型選抜の募集人員に含まれるものとする。

④募集人員

一般選抜、推薦型選抜、特別選抜（社会人選抜、留学生選抜）の募集人員は、次の表のとおりとする。

(単位：人)

学部	学科	入学定員	募集人員			
			一般選抜	推薦型選抜 (公募)	特別選抜	
					社会人	留学生
生産環境 経営学部	生産環境 経営学科	24	12	12 ※	若干名	若干名

※推薦型選抜（公募）の募集人員は、特別選抜（社会人、留学生）の募集人員を含む。

(4) 社会人、外国人留学生に対する配慮

社会人選抜、留学生選抜による入学者に対しては、それぞれ入学後に円滑に学修を進めることができるよう、適切な支援を行っていく。

10 取得可能な資格

資格は、学修成果を評価する一環と位置付けている。社会で実務上必要とされている知識・技術が身についているかをベンチマークする指標の1つであるため、学生に対してはこれらの資格について周知し、取得を奨励する。本学の教育課程において取得可能な資格は以下の通りである。

名称	種別	取得可能対象者
大型特殊免許（農耕機限定）	国家資格	全員
けん引免許	国家資格	全員
家畜人工授精師		畜産コースの科目履修者

以上の資格を、それぞれの学部の履修モデルに応じて取得可能にする。

また、以下に挙げる資格についても、本学の科目履修をきっかけとし、資格取得を奨励する。

名称	種別	取得可能対象者
毒物劇物取扱責任者	国家資格	全員
危険物取扱者（乙種）	国家資格	全員
フォークリフト運転技能講習		全員
小型車両系建設機械		全員

11 実習の具体的計画

(1) 学内施設及び県試験研究機関等での実習

①実習の目的

1年次に行う「総合実習」、2年次前期に行う「圃場実習（栽培）」、「演習林実習」、「圃場実習（畜産）」では基礎的な生産技術を、2年次後期に行う「生産マネジメント実習Ⅰ（栽培）」、「生産マネジメント実習Ⅰ（林業）」、「生産マネジメント実習Ⅰ（畜産）」では応用的な技術や基礎的なマネジメント能力を、3年次に行う「生産マネジメント実習Ⅱ（栽培）」、「生産マネジメント実習Ⅱ（林業）」、「生産マネジメント実習Ⅱ（畜産）」では実践的なマネジメント能力を学ぶことを目的とする。

②実習の目標

基礎的な実習から始め、応用的・実践的な実習へと段階的に行うことで、生産現場で活用できる実践的な生産技術や、生産現場のマネジメント能力を習得することを目標とする。

③実習の計画

ア 1年次

農林業全般（水稲、茶、野菜、果樹、花き、畜産、林業）の生産管理に関わる知識や技術を学ぶ「総合実習」を配置する。

生産現場では、危険作業を伴うことがある。このため、講義の始めには、危険箇所の確認や、危険な作業を伴う刈払機や運搬車などの安全使用のための講習を行い、安全作業のための講習を行う。

イ 2年次

前期には、栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、栽培、畜産、林業の各分野の基礎的な生産技術を学ぶ「圃場実習（栽培）」、「演習林実習」、「圃場実習（畜産）」を配置する。

また、トラクターなど大型機械の知識や操作技術、安全な使用方法について学ぶ「大型機械実習Ⅰ」を配置する。

さらに、生産現場の管理を行う場合には、PDCAサイクルや新技術への対応力が必要となる。このため、後期には、生産現場での実践（Do）を通じ、計画（Plan）策定に必要な施設・圃場・作物・生産資材などの情報収集の方法や費用や利益の計算方法、新技術への対応、また、栽培終了後の評価（Check）方法、評価結果を次の作にどのように生かせばよいのか考える（Action）「生産マネジメント実習Ⅰ（栽培）」、「生産マネ

ジメント実習Ⅰ（林業）」、「生産マネジメント実習Ⅰ（畜産）」の3科目を配置する。

ウ 3年次

2年次までの学習をもとに、PDCAサイクルを意識した栽培、畜産、林業の各分野の生産管理について学ぶ「生産マネジメント実習Ⅱ（栽培）」、「生産マネジメント実習Ⅱ（林業）」、「生産マネジメント実習Ⅱ（畜産）」の3科目を配置する。また、大型機械についてのより高度な知識や技能について学ぶ「大型機械実習Ⅱ」と「林業機械実習」、加工について学ぶ「食品加工実習」と「木材加工実習」を配置する。また、販売の実践について学ぶ「販売管理実習」を配置する。

④実習施設の確保状況

「食品加工実習」についてはB棟の加工実験室、「販売管理実習」についてはC棟売店で実施する。

農林業全般（水稻、茶、野菜、果樹、花き、畜産、林業）の生産管理に関わる基礎的な知識や技術を学ぶ「総合実習」と、各コースの専門的な生産技術を学ぶ「圃場実習（栽培）」、「生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱ（栽培）」については、実習圃場で、「大型機械実習Ⅰ」、「大型機械実習Ⅱ」については、機械研修場で実施する。

「生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱ（畜産）」、「圃場実習（畜産）」については、管理の全般について理解するために行う実習は実習圃場で実習を行い、実践的な飼養管理技術を習得したり、先端技術を利用した最新の管理・調査スキルを習得するための実習は県有施設である畜産技術研究所及び畜産技術研究所中小家畜センターで実習を行う。

畜産技術研究所及び畜産技術研究所中小家畜センターで行う実習については、通常 of 肥育管理等の業務の一部を担う形で実施する。畜産技術研究所は、これまでも既設の静岡県立農林大学校養成部2年次の実習を受け入れており、実施にあたってのノウハウが蓄積されていることから、静岡県立農林環境専門職大学の実習についても支障なく実施できる。

「生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱ（林業）」、「演習林実習」、「木材加工実習」、「林業機械実習」については、管理の全般について理解するために行う実習は実習圃場で実習を行い、実践的な管理技術を習得したり、先端技術を利用した最新の管理・調査スキルを習得するための実習は県有林で実施する。

県有林における実習については、伐採など十分な安全管理が必要な実習について、静岡県立農林環境専門職大学が実習を行う区域を設定して実施することとしており、支障なく実施できる。

また、静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と県試験研究機関等との間で、教育研究の進め方などを協議する連携会議を設け、中長期的な施設・設備の利用について調整する体制を整える計画であり、教育研究上、支障なく実施することができる。

更に、実習圃場での実習を円滑に実施できるよう、静岡県立農林環境専門職大学と静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の実習担当教員や、技術職員等からなる「実習圃場委員会」を合同で設置し、実習の実施体制や実習計画、圃場・施設の利用計画、作物の作付計画などを策定する。

⑤実習水準の確保と対策

実習実施にあたり実習計画を作成し、計画に沿って実施する。実習実施後は、問題点や課題について検証し、次年度の実習に反映させる。

実習は少人数グループで行い、各実習科目には指導に当たる教員を2人以上配置する。

また、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と兼任で、実習圃場管理と実習指導の補助に従事する非常勤（週 29 時間勤務）の技術職員 15 人を配置し、教員が行う指導を支援する。技術職員は、栽培管理の実習や簡易な成長調査、病虫害診断や収穫物の調査の際に、学生が的確かつ安全に実習が行えるよう、教員をサポートする。これらの技術職員には、静岡県や農業協同組合の職員OB等、豊富な知識や技術、経験を有する者を充てる計画であり、実習指導の補助を行う上で支障はない。既設の静岡県立農林大学校では、同様の技術職員を 10 人配置しているが、静岡県立農林環境専門職大学では 5 人増員し、実習水準の確保に努める。

⑥実習実施上の配慮

学生の移動にかかる負担を軽減するため、県有施設へは、静岡県立農林環境専門職大学と静岡県立農林環境専門職大学短期大学部が共用するマイクロバス 3 台（定員 22～29 人程度）で移動することを基本とし、畜産技術研究所については場内にある宿泊施設を利用することで、学生の移動に支障が生じないように、配慮する。

⑦成績評価及び単位認定

成績評価及び単位認定は、学生の報告資料（レポート）や学生の取組姿勢、総合的に判断して行う。

⑧緊急連絡体制

実習中の事故など不足の事態に備え、緊急連絡先や緊急時の対応について定

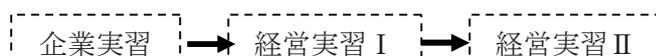
める対応マニュアルを整備し、教員だけでなく実習を受講する学生にも周知の徹底を図る。

(2) 臨地実務実習 (資料 29 臨地実務実習要綱 (案))

① 実習の流れ

本学の臨地実務実習は、教育課程で示す「企業実習」、「経営実習Ⅰ」、「経営実習Ⅱ」を行う。臨地実務実習の内容は「臨地実務実習要綱」を基本として実施する。

1年次	2年次	3年次	4年次
-----	-----	-----	-----



<臨地実務実習の流れ>

② 専門職大学としての取り組み

専門職大学としての教育成果をあげるための取り組みとして、職業専門科目に多くの実習科目を配置し、生産から販売まで農林業経営に必要な知識や技能を学修した上で、臨地実務実習を実施する履修体系とする。学内実習では、チェック表を作成して学生が学修すべき知識や技能を明確にし、実習を実施する。

成績評価は、臨地実務実習の評価基準を本学として統一し、専任教員による認定ではなく、臨地実務実習委員会による認定とする。

臨地実務実習の水準を保つため、臨地実務実習終了後に、学生が臨地実務先を評価するためのアンケート調査を実施する。この結果は、臨地実務実習の目標と学修に乖離がないかを確認し、臨地実務実習指導者と専任教員の連携した指導に活用する。

③ 臨地実務実習計画の概要

本学の養成する人材像である「多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダー」を育成することを目標に、農林業経営者としての態度や責任、生産の知識と技術、経営管理能力を身につけるとともに、自主的に学習を進める能力と、他者との協調力を養う。

臨地実務実習は3年次に「企業実習」(必修 10 単位)、4年次に「経営実習Ⅰ」(必修 5 単位)と「経営実習Ⅱ」(必修 5 単位)を配置する。

④ 臨地実務実習の実施

臨地実務実習指導者の指導を受けながら、農林業の実際について体験し、各実習の目標を達成することで、農林業経営に必要な能力を養う。

⑤ 臨地実務実習の種類と目的

ア 「企業実習」(3年次後期 必修 10 単位)

(ア) 目的

先進的な栽培、林業、畜産の各分野の経営体での実習を通じて、学内で学んだ知識・技能をもとに実践的な生産技術を学ぶ。

(イ) 目標

- a. 生産現場での基本的な作業工程について理解することが出来る。
- b. 各作業工程に必要な基本的な技術を身につける。

(ウ) 方法

実習は、「臨地実務実習要綱」(資料 29)に基づいて実施する。

3年次に配置し、学生が希望する経営体において、約2カ月間実施する。学生数は原則1施設1名とする。

「企業実習」の受講に当たっては、事前に、すべての学生が「総合実習」で行う刈払機作業安全衛生教育を修了し、また、「大型機械実習Ⅰ」において、大型特殊免許(農耕車限定)を取得する。

また、栽培コースでは、「圃場実習(栽培)」において作物の特徴や作型に関する知識や栽培技術を、「生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)」において生産管理の基礎知識・技術を学ぶ。林業コースでは、「演習林実習」において森林・林業生産の基礎知識・技術を、「生産マネジメント実習Ⅰ(林業)」においてチェーンソーの基本操作と整備方法、収穫技術、森林の保護管理技術を学ぶ。畜産コースでは、「圃場実習(畜産)」において、家畜の特徴や生理や習性に関する知識、家畜の「生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)」において、家畜飼養管理の基礎知識・技術を習得する。

実習中は、臨地実務実習指導者のもと、実際の生産現場を体験する。日々の作業は、臨地実務実習指導者の指示に従って行い、毎日、作業内容について記録を行う。実習指導は、臨地実務実習指導者と本学教員が連携し、適宜連絡を取り合い、学生の実習状況について情報を共有し、助言・指導を行う。

実習終了後は、報告書の作成、報告会の実施により、生産現場や生産現場で必要となる技術について理解を深める。

＜必要な知識・技術や資格・免許等＞

コース	必要な生産知識・技術	資格・免許等
栽培 コース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作物の特徴や作型に関する知識、栽培技術 ・ 生産管理の基礎知識・技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・刈払機作業安全衛生教育修了 ・大型特殊免許（農耕車限定）
林業 コース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林・林業生産の基礎知識・技術 ・ チェーンソーの基本操作と整備方法、収穫技術 ・ 森林の保護管理技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・刈払機作業安全衛生教育修了 ・大型特殊免許（農耕車限定）
畜産 コース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家畜の特徴や生理や習性に関する知識 ・ 家畜飼養管理の基礎知識・技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・刈払機作業安全衛生教育修了 ・大型特殊免許（農耕車限定）

(エ) 評価

単位認定における成績評価の項目は、次の通りである。

- a. 臨地実務実習指導者による取組状況の評価
- b. 生が作成する自己点検
- c. 学生が作成する報告書
- d. 臨地実務実習後の報告会での報告内容

イ 経営実習 I（4年次前期 必修5単位）

(ア) 目的

生産現場のマネジメントを行うために必要な知識・技能を学ぶ。

(イ) 目標

- a. 生産現場の年間計画が理解できる。
- b. 生産現場の必要な要素（資材、労力、資金）について理解し、これらを適切に配置した生産マネジメントについて理解できる。

(ウ) 方法

実習は、「臨地実務実習要綱」（資料 29）に基づいて実施する。

4年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約1ヶ月間の実習を行う。1施設1～4名を想定している。

「経営実習 I」の受講に当たっては、事前に、「財務会計」及び「管理会計」において経営分析の知識、「労務管理」において労務管理の知識、「GAP演習」において生産工程管理の知識・技術を学ぶ。

また、栽培コースは、「生産マネジメント実習 II（栽培）」において実践的な栽培管理の知識・技術、「生産マネジメント実習 II（林業）」、「生産マ

マネジメント実習Ⅱ（畜産）」において、下表の知識や技術を習得する。

実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。

実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもとで作業を行いながら、人員配置、機械、生産資材の利用計画など生産現場のマネジメントに必要な知識・技能を学ぶ。

実習終了後は経営分析演習Ⅰにて実習先の分析を行った後、報告会を実施し、生産現場のマネジメントについて理解を深める。

<必要な知識・技術等>

コース	必要な知識・技術
栽培コース	・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な栽培管理の知識・技術
林業コース	・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な森林・林業生産の知識・技術
畜産コース	・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な家畜飼養管理の知識・技術

(エ) 評価

単位認定における成績評価の項目は、次の通りである。

- a. 臨地実務実習指導者による取組状況の評価
- b. 生が作成する自己点検
- c. 学生が作成する報告書
- d. 臨地実務実習後の報告会での報告内容

ウ 経営実習Ⅱ（4年次後期 必修5単位）

(ア) 目的

農林業経営体の経営や経営戦略、加工、流通、販売等について学ぶ。

(イ) 目標

- ① 農林業経営体の経営戦略について理解する。
- ② 戦略に基づいた経営のあり方について理解する。
- ③ 生産現場以外の加工・流通・販売について理解する。

(ウ) 方法

実習は、「臨地実務実習要綱(案)」(資料 29) に基づいて実施する。

4 年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約 1 ヶ月間の実習を行う。1 施設 1～4 名を想定している。

事前に、「経営管理論」において経営管理の知識、「経営戦略」において経営戦略の知識、「マーケティング」においてマーケティングの知識、「財務会計」及び「管理会計」において経営分析の知識、「労務管理」において労務管理の知識、「人材マネジメント」において人的資源管理の知識、「GAP 演習」において生産工程管理の知識・技術、「販売管理実習」において販売管理の知識・技術を学ぶ。

また、栽培コース及び畜産コースは、「食品加工実習」において食品加工の知識・技術を、林業コースは「木材加工実習」において木材加工の知識技術を習得する。

実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。

実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもと作業を行いながら、農林業経営体の経営、生産現場以外の加工・流通・販売等について学ぶ。

実習終了後は、経営分析演習Ⅱにて研修先の分析を行った後、報告会を実施し、農林業経営について理解を深める。

<必要な知識・技術等>

コース	必要な知識・技術
栽培コース 畜産コース	<ul style="list-style-type: none">・経営管理・経営戦略・マーケティングの知識・経営分析の知識・労務管理の知識・人的資源管理の知識・生産工程管理の知識・技術・販売管理の知識・技術・食品加工の知識・技術
林業コース	<ul style="list-style-type: none">・経営管理・経営戦略・マーケティングの知識・経営分析の知識・労務管理の知識・人的資源管理の知識・生産工程管理の知識・技術・販売管理の知識・技術・木材加工の知識・技術

(エ) 評価

単位認定における成績評価の項目は、次の通りである。

- a. 臨地実務実習指導者による取組状況の評価
- b. 生が作成する自己点検
- c. 学生が作成する報告書
- d. 臨地実務実習後の報告会での報告内容

⑥実習先の確保状況と選定基準

「企業実習」の臨地実務実習先は、生産に関する技術力を有している株式会社や有限会社、協同組合とし、本選定基準を満たす実習先として、24経営体を確保している。

「経営実習Ⅰ・Ⅱ」の臨地実務実習先は、将来の経営幹部を目指す学生のモデルとなりうる十分な経営規模（年間売上高5千万円以上）を有する法人経営体とし、選定基準を満たす実習先を8経営体確保している。

⑦実習先との連携体制

教員と臨地実務実習指導者が連携して臨地実務実習指導を行う。それぞれの役割分担を共通理解し、緊密な連携のもとで学習効果の高い臨地実務実習が可能となる体制を構築する。

実習前には、学生、担当教員、受入側で事前に実習計画を確認し、教員と受入側が緊密に連携して事前準備を行う。

実習中は、受入側の担当者を決め、学生が相談しやすい体制を作る。

また、教員が定期的に訪問し、受入側や学生に実習の実施状況や学生の状況を確認する。

実施後は、問題点や課題点を教員と受入側で共有し、次回の実習に反映する体制とする。

ア 教員：臨地実務実習担当者

専任教員が担当し、臨地実務実習の計画・実施・評価、臨地実務実習指導体制の構築、臨地実務実習施設との連絡調整、臨地実務実習指導者と臨地実務実習内容・方法に関する協議・調整の役割を担う。

イ 農林業経営体：臨地実務実習指導者

臨地実務実習指導者は、受入側の農林業経営体の社員（職員）で、現場での経験が5年以上ある者とする。

⑧実習水準の確保と対策

臨地実務実習の水準を保つため、先に示した隣地実務実習指導体制、及び臨地実務実習施設との連携体制の構築を行う。また、学生に対しては、実習先の選定から実習前の事前学習までの指導を丁寧に行い、臨地実務実習の目的の周知と学生の不安軽減に努め、実習中も指導できる体制を構築する。

各実習先には、1～4名の少人数の学生を配置し、受入先から細かな指導が受けられるよう体制を整える。教員は、実習前、実習中及び実習後に臨地実務実習先を訪問し、綿密な連携をとる。実習前は、実習の目的・方法・支援体制について実習先に丁寧に説明し、実習に対する共通認識を持つ。実習中は定期的に受入先を訪問し、実習の実施状況について確認を行い、問題点や課題点があれば、受入先と連携しながら解決に努める。実習後は、学生の状況等について情報交換を行い、次の実習に反映させる。

また、臨地実務実習指導者には、豊富な実務経験と高い技能が必要となるため、5年以上の実務経験を必要とする。

⑨実習指導体制

実習を円滑に実施できるよう学内に臨地実務実習委員会を設置し、実習計画の策定と実施後の検証を行う。

実習指導教員の指導力を育成するため、学内研修会を開催する。また、学外研修へ積極的に参加させる。

⑩実習の事前準備

臨地実務実習が安全に実施できるよう、学内において安全教育を行う。事故が発生した場合に備え、連絡体制や対応方法、任意保険への加入等の管理体制を整える。

⑪教員の配置並びに臨地実務実習巡回指導計画

専任教員を配置し、各臨地実務実習期間中に巡回指導を実施する。その際は、臨地実務実習目標の達成度や顕在化した課題の明確化をはかり、学生、教員、臨地実務実習指導者の相互認識のもとに一貫した指導体制をとる。また、臨地実務実習指導者は臨地実務実習開始前に決定し、学生の状況について把握して円滑な指導ができる体制をとる。

⑫臨地実務実習施設における指導者の配置計画

臨地実務実習指導者1名につき、学生の配置は1～4名とする。臨地実務実習指導者は、経験年数や専門知識を考慮して受入先代表者に選出してもらう。

⑬成績評価体制及び単位認定

全日程の80%以上の出席で単位認定の資格を得る。成績評価は、①臨地実務実習指導者による取組状況の評価、②学生が作成する作業記録・自己点検表、③学生が作成する報告書、④臨地実務実習後の報告会での報告内容をもとに、総合的に判断して行う。

⑭緊急連絡体制

実習中の事故など不足の事態に備え、緊急連絡先や緊急時の対応を臨地実務実習要綱（資料29）に定め、教員だけでなく実習を受講する学生にも周知の徹底を図る。

（3）実習の事前準備

①学生保険への加入

実習中は、様々な事故の発生が予想される。このため、学生の実習中のケガに備えた保険及び、学生が他人にケガを負わせることや物を壊した場合の備えに賠償責任保険へ加入する。

②感染予防対策

本学を設置する磐田市は破傷風の汚染地帯である。このため、感染防止のためにワクチン接種を行う。また、必要に応じてその他のワクチン接種を行う。

12 海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

(1) 海外プログラム「海外農林業事情」

海外研修の「海外農林業事情」は、3年次の集中の自由科目として配置し、8～9月の間に5日間程の日程で実施する予定としている。

滞在時は、現地の農林業現場を視察するプログラムの実施を計画している。本学部では、英語によるコミュニケーション力を養うため、1年次に「英語Ⅰ」及び「英語Ⅱ」、2年次に「英語Ⅲ」を配置し、3科目中2科目を選択させることとしており、さらに自由科目として英語によるプレゼンテーション能力を養う「英語Ⅳ」を配置し、これらの科目で修得した英語の能力を生かして、英語でのコミュニケーションを行うことを目標とする。

研修をより効果的なものにするために、事前学習として研修地の農林業事情や文化について調査する指導を行う。また、研修後は報告書の作成および校内報告会を実施する。引率は、本学教員が行い、現地での指導を行う。

13 管理運営

(1) 管理運営体制の概要

本学の管理運営のため、大学の運営に関する重要事項を審議する「評議会」及び教員人事、教育研究に関する重要事項等を審議する「教授会」を置くとともに、専門的事項を審議する「委員会」を設置する。これら合議体の審議機関のほかに、教育課程の編成・実施・評価などについて、学長に意見を述べる組織として、学外委員等で構成する「教育課程連携協議会」を設置する。

学長の補佐体制として、必要に応じて副学長を置く。また事務局には事務局長を置く。学長（静岡県立農林環境専門職大学短期大学部学長を兼務）、副学長、学部長、事務局長を中心に効果的・機動的な意思決定が行える管理運営体制とする。

なお、本学は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と併設であるため、大学運営のガバナンスの観点から、本学長と短期大学部学長は兼務とし「評議会」は静岡県立農林環境専門職大学及び同短期大学部の事項を併せて審議する。

(2) 管理運営組織の概要

①評議会

静岡県立農林環境専門職大学及び同短期大学部の運営に関する重要事項を審議するため、教育公務員特例法第2条第4項の定めに基づき、「評議会」を設置する。「評議会」は、学長、副学長、図書館長、学部長、短期大学部学科長、学部教授若干名、短期大学部教授若干名、事務局長等で構成する。原則として月1回開催し、次の事項を審議する。

- ア 学長の選考
- イ 学長の選考基準
- ウ 学部長以外の部局長の選考基準
- エ 教員の採用及び昇任の基準
- オ 学長、部局長の任期
- カ 学長及び教員の転任及び懲戒処分に関する審査
- キ 学長の人事評価に関する事項
- ク 学長、教員及び部局長のサービスの根本基準の実施に関し必要な事項
- ケ 教員人事の方針に関する事項
- コ 教育課程の編成方針に関する事項
- サ 学生の厚生及び補導に関する重要事項
- シ 学生の入学、卒業その他学生の在籍に係る方針及び学位の授与に係る方針に関する事項
- ス 学則その他重要な規程等の制定及び改廃に関する事項

- セ 学部及び短期大学部の教育研究に係る自己点検評価に関する事項
- ソ その他学部及び短期大学部の教育研究に関する重要事項

②教授会

教育研究に関する重要事項を審議するため、学校教育法第 93 条の定めに基づき、教授会を設置する。教授会は、専任の教授、准教授、講師及び助教で構成する。原則として月 1 回開催し、次の事項を審議する。

- ア 学部長の選考
- イ 教員の人事
- ウ 学生の入学及び卒業
- エ 学位の授与
- オ その他教育研究に関する重要事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

③委員会

大学の運営に関する専門的事項を審議するため、教務委員会、学生委員会、入試委員会、自己点検評価委員会等の委員会を置く。定例の開催ではなく、任務に応じて適宜に開催する。

14 自己点検・評価

(1) 基本的な考え方

学校教育法第109条第1項は、「大学は、その教育研究水準の向上に資するため、文部科学大臣の定めるところにより、当該大学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び施設の状態について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。」と定めている。本学では、この定めに基づき、教育研究水準の向上と大学の質保証を図るため、「自己点検評価委員会」を設置して、教育及び研究、組織及び設備、管理運営等の状況について自己点検評価を継続的に実施する。教育研究活動や管理運営の状況を点検評価し、その結果を公表することにより、公立大学として社会に対する説明責任を果たし、透明性の高い運営や恒常的な改善に努め、県民に開かれた大学づくりを推進する。

(2) 実施体制

教育研究水準の向上や質の確保に資する自己点検・評価を実施できるよう、学内に、自己点検・評価を推進する組織として、専任教員と事務局職員の代表者で構成する「自己点検評価委員会」を設置する。なお、この「自己点検評価委員会」は、認証評価機関による認証評価に関する事項等についても、所管することとする。

(3) 実施方法

自己点検・評価は、毎年度実施するものとする。「自己点検評価委員会」は、評価基準を策定するとともに、評価項目に関する状況把握を行い、評価基準に基づいて評価を行う。

(4) 評価項目

評価項目は次のとおりとする。

- ・ 理念・目的
- ・ 教育研究組織
- ・ 教員及び教員組織
- ・ 教育課程・学習成果
- ・ 学生の受入れ
- ・ 学生の支援
- ・ 教育研究等環境
- ・ 社会連携・社会貢献
- ・ 管理運営・事務組織・財務
- ・ 内部質保証

(5) 結果の活用・公表

評価結果については、「自己点検評価委員会」において報告書にまとめて、教授会に報告し、教育研究活動の改善につなげていく。

併せて、評価結果については、ホームページにより公表し、透明性の高い運営を継続的に行っていくとともに、社会に対する説明責任を果たしていく。

15 情報の公表

(1) 公表の基本的な考え方

学校教育法施行規則第172条の2は「大学は、次に掲げる教育研究活動等の状況についての情報を公表するものとする。」と定めている。本学は、静岡県民によって支えられる公立大学であることから、県民をはじめ地域社会に対して、大学の活動に関する情報を積極的に提供していく。

(2) 情報提供の内容

①大学の教育研究上の目的に関すること。

- ・大学の基本理念
- ・大学の特色
- ・学部の目的

②教育研究上の基本組織に関すること。

- ・組織

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること。

- ・教員数
- ・大学教員の構成
- ・教員紹介

④入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業した者の数並びに進学者数及び就職者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。

- ・アドミッション・ポリシー
- ・入学者選抜の基本方針
- ・入学者数
- ・入学定員、収容定員、在学者数
- ・卒業者数
- ・進路状況

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。

- ・カリキュラム・ポリシー
- ・授業計画（シラバス）
- ・履修モデル

⑥学習の成果に係る評価および卒業の認定に当たっての基準に関すること。

- ・ディプロマ・ポリシー
- ・成績評価
- ・卒業要件

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること。

- ・施設整備の紹介
- ・課外活動

⑧授業料、入学料その他大学が徴収する費用に関すること。

- ・授業料、入学料、諸会費
- ・奨学金
- ・減免基準

⑨大学が行う学生の進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。

- ・キャリアサポートセンター、保健管理センターによる支援体制

⑩その他

- ・学則
- ・各種規程
- ・自己点検・評価
- ・地域貢献の状況

(3) 情報提供の方法

本学では、大学のホームページや定期刊行物等の各種広報手段を用いて、教育研究活動の状況について積極的な情報提供を行っていく。

地域の高等学校や大学進学希望者には、高校訪問、オープンキャンパス、大学説明会や進学ガイダンスを通して、本学における教育研究活動についての詳細な情報を提供していく。

教員の研究活動に関する情報は「研究紀要」で公表するとともに、講演会、公開講座、セミナー等を開催することにより、広く地域社会に伝えていく。

16 教育内容等の改善を図るための組織的な取組

(1) 基本的な考え方

専門職大学設置基準第20条は、「専門職大学は、当該専門職大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。」と定めている。専門職大学は、質の高い教育を行い、時代の変化や社会の要請に適切に対応した教育研究活動を行うことが常に求められている。これに添えていくためには、教員が自ら行う授業の内容及び方法を絶えず見直しながら、多様化する学生に対する教育指導の質の維持向上に努めていくことが重要である。また、事務職員と教員が協働し教育内容等の改善を図るため、事務職員の能力・資質の向上も図る必要がある。

このため、本学では、授業内容・方法の改善を図るための組織的な研修及び研究（FD（ファカルティ・ディベロップメント）活動、SD（スタッフ・ディベロップメント）活動）に取り組む。

(2) 実施体制及び実施方法

①FD・SD委員会の設置

組織的なFD活動及びSD活動に取り組むため、「FD・SD委員会」を設置する。

②大学の理念・目的等の周知

大学の理念・目的や大学の教育制度について周知徹底を図るために、全教職員を対象とした研修会を年1回開催する。

③学生による授業評価

学生による授業評価を実施する。授業評価の実施・分析等は「FD・SD委員会」が行い、その結果を教員にフィードバックして授業内容及び方法の改善に役立てる。また、統計処理した評価結果を、自己点検評価に反映することにより教育の質保証に努める。

④学生アンケートの実施

毎年度末に学生に対し、教育・研究、学生生活、キャンパス環境等に関するアンケートを実施し、学生の満足度の向上に努める。集計結果は公表し、教育内容等の改善に役立てる。

⑤卒業生・企業アンケートの実施

卒業生に対し、在学時の教育内容・施設設備等・課外活動・就職活動とい

った学生生活の満足度やその修得効果、今後の本学の教育や学生支援への要望についてアンケート調査を行う。同時に本学卒業生を採用している農林業法人等にも本学卒業生の印象、本学に求めるものなどについてアンケート調査を行う。集計結果は公表し、教育の更なる改善に役立てる。

⑥教員相互の授業参観

優れた授業を参考にして各教員が自らの授業の改善が図れるようにするために、他の教員が授業を参観できるようにする。

⑦授業改善研究会の開催

授業改善に関わる特定のテーマを取り上げ、授業改善や体験報告や事例研究等を内容とする研修会を年1回開催する。

⑧優秀教員の表彰

学生による授業評価が特別に高い教員を、優れた授業を実践している優秀教員として表彰する。

⑨スタッフディベロップメント（SD）の実施

大学経営をめぐる課題が高度化・複雑化し、職員の職能開発（スタッフ・ディベロップメント）が重要になる中、職員として求められる能力・資質であるコミュニケーション能力、戦略的な企画やマネジメントの能力、複数の業務領域での知見（総務、財務、人事、教務、研究等）、大学問題に関する基礎的な知識、大学の諸活動に関するデータの収集・分析、地域連携、国際交流、障がい学生支援などの専門的な知識やスキルの向上を図るための研修会を実施する。研修会の内容や運営方法等は、「FD・SD委員会」で審議の上決定し、全職員に周知し参加を促す。また、ファカルティ・ディベロップメント同様、学外主催のSD研修会等に積極的に参加し、幅広い知識やスキルを習得することを促す。

17 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

(1) 基本的な考え方

専門職大学設置基準第 57 条に「専門職大学は、当該専門職大学及び学部等の教育上の目的に応じ、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うことができるよう、専門職大学内の組織間の有機的な連携を図り、適切な体制を整えるものとする。」とされている。

学生は卒業後の進路を想定しながら大学や学部を選び志望大学に入学してくる。大学では、学生一人ひとりの卒業後の進路が、学生の希望にかなったものになるよう 4 年間の教育指導や学生支援を進めることが重要である。

このため、まず入学当初から学生の卒業後の進路希望を把握し、組織として共有する。これを出発点として、個々の学生が日頃の自主的な取組や指導・支援を通して、どのように職業意識の向上や資質能力の形成、卒業後の進路確保等に取り組んでいるのかを把握し、これに応じた助言や支援を与えつつ、進路の最終的な決定、就職後の状況までを見届けていくシステムを構築する。

(2) 具体的方策

社会的・職業的自立に関する指導体制概念図（資料 30）参照

①「キャリアサポートセンター」の設置

大学には「キャリアサポートセンター」を設置し、教務委員会と連携して学生のキャリア形成支援と就職活動支援を行う。教務委員会においては社会的・職業的自立に関する指導等の方針を決定し、「キャリアサポートセンター」が企画・運用を行う。

「キャリアサポートセンター」には、農林業者の実情に詳しく、県農林事務所（7 箇所）や県農林業関係研究所（7 箇所）で豊富な勤務経験を有する県職員を相談員として配置する。本学の学生の多くは県内で農林業経営体の経営者や幹部、新規就農を目指すため、就業後は農林事務所や農林業関係研究所の支援を受ける機会が多い。このため、「キャリアサポートセンター」にこれら県関係機関での経験豊富な職員を配置することで、各学生の就職希望に適した就職活動支援を行うとともに、就業後も引き続き県機関によるサポートが受けられる体制を構築する。

また、サポートセンター職員が農林業関連企業等からの求人を募り、積極的な就職指導を展開する。具体的には、県が有する農林業関連企業等の情報を最大限活用し、農林業関連企業等への求人依頼及び求人情報の把握を行う。企業に対し本学への求人を積極的に働きかけるとともに、人材を要するが求

人に至っていない企業の掘り起こしを、本県農林事務所の協力を得て実施し、求人開拓を行う。また、学生向けに雇用就農説明会を実施し、農林業関連企業と学生のマッチングの機会を設ける。

これらの学生の希望や求人、マッチングの状況などの情報をサポートセンターに集積し、個別相談に応じながら学生一人ひとりの希望に沿った進路の支援を行う。

②入学時における卒業後の進路志望の把握

入学直後に、全学生を対象に「新入生アンケート調査」を実施し、他の調査項目とともに、卒業後の志望進路や志望理由等を把握する。助言・指導に当たっては、新入生アンケート調査を活用する。

③教育課程内の取組

本学は、農林業者としての深い専門性と、幅広い教養を身に付けるとともに、豊かな人間性と広い視野を持ち、地域に貢献する自立した農林業者を養成することを目指していることから、教育課程全体が社会的・職業的自立のための能力を養成するための科目となっている。

特に職業意識を養成するための教育を「社会人としての意識の醸成」「農林業者としての職業観の涵養」「農林業経営イメージ形成」の三つの視点で実施していく。

「社会人としての意識の醸成」のために、1年次の必修科目として、「静岡学」（教養科目）を行う。本科目では、静岡県ゆかりの各産業界のトップランナーをゲストスピーカーとして招いて講義を行い、ものづくりの盛んな静岡県における今後の地域のあり方や産業の発展について、早い時期から幅広い視点に触れることで、社会人としての意識の醸成を図る。

「農林業者としての職業観の涵養」のために、職業専門科目の農林業基礎科目として、「県内農林業事情」を配置し、先進的な経営体や農林業関連企業を訪問し、最新の事情について学ぶとともに、「農林業政策」では、わが国や静岡県の農業政策、森林・林業政策の現状とその役割及び課題について学ぶことで、静岡県で農林業に携わることについての意義を理解し、やりがいや誇りを持つことを支援する。また、「技術者倫理」では、食や環境に対する農林業者の社会的責任について理解を深める。

「農林業経営のイメージ形成」のために、職業専門科目の経営管理の科目として、1年次必修科目の「農林業経営学」、「経営管理論」で経営の基礎を、2年次必修科目の「経営戦略」及び「マーケティング論」で農林業経営戦略の立案に必要な基礎知識とケース分析を通じた実例を学ぶ。

また、3年次に実践的生産技術を学ぶ「企業実習」と、4年次に企業とと

もに経営課題を発見し、その解決策について提案する「経営実習Ⅰ」、「経営実習Ⅱ」、「プロジェクト研究」を実施し、実際の経営現場での就業体験を通じて、自らの農林業経営のイメージ作りも支援する。

④ 1年次全寮制の導入

1年次は全寮制とし、寮の規則を守り、他社に配慮する共同生活を経験することで、社会性を涵養する。寮内は2人部屋(20㎡)と共用スペース(食堂兼ラウンジ等)から構成する。寮長を学生互選により定め、寮生数名による役員会等を設け、学生が自ら寮生活を運営していくこととし、学生が学びあい、助け合い、自分自身で生活を組み立てる習慣を身に付けることを通じて主体性を、また、昼夜学生同士で生活することを通じて農林業現場では欠かせない社会性・対人関係形成能力を養う。特に、学生同士の交流面については学生の主体性を重んじる。なお、2年生以降は原則として入寮を希望する遠方の出身者を優先して受け入れる。

⑤ 卒業後の支援

農林業に従事するときには、資金や土地の借り入れなど、公的制度の支援を受ける機会が多く、県や市町など地方公共団体との関わりは欠かせない。また、農林業生産や経営を行っていく上で、農林事務所による営農指導や、研究所の技術支援などが必要となることも多い。さらに、新たな経営の展開を生むためには農林業者同士の横のつながりや、異業種との交流も必要であり、県の有する産業分野におけるコネクションを活用することが有効である。

このように、県内で農林業に従事する卒業生は、引き続き静岡県行政とつながりを持ちながら農林業に携わっていくことになるため、就業後も継続して支援していく必要がある。このため本学キャリアサポートセンターと、各地域の農林事務所や各分野の研究所が連携し、卒業後も卒業生が必要な支援を的確に受けられる体制を整える。

⑥ 指導教員体制の充実

学生の職業意識の形成を図り、卒業後の最終的な進路の決定を見届けていくためには、指導教員の役割が重要である。本学では分野別担当教員が所属学生の就職指導に当たるとともに、すべての専任教員がオフィスアワーを活用して指導学生の履修指導や就職指導に当たり、小規模大学の利点を活かし、「全教員が全学生の卒業後の進路に関心と責任を持つ」という意識で組織的な指導・支援に取り組んでいく。

(本文以上)

設置の趣旨等を記載した書類

資料目次

資料 1	農林大学校卒業生数の推移
資料 2	静岡県立農林大学校卒業生の状況
資料 3	農林大学校卒業生の評価
資料 4	食料・農業・農村基本計画
資料 5	担い手の現状
資料 6-1	静岡県経済産業ビジョン 2018~2021 (農業・農村編)
資料 6-2	静岡県農業農村整備みらいプラン 2018-2021〇
資料 7	静岡県経済産業ビジョン【森林・林業編】静岡県森林共生基本計画
資料 8	専門職大学基本構想策定委員会
資料 9	農林業法人の採用意識に関するアンケート調査について (報告)
資料 10	高校生の進学意識に関するアンケート調査について (報告)
資料 11-1	静岡県専門職大学 (農林業) 基本構想 概要
資料 11-2	静岡県専門職大学 (農林業) 基本構想
資料 12	静岡県総合計画
資料 13	ふじのくに「有徳の人」づくり大綱
資料 14	静岡県教育振興基本計画 2018 年度~2021 年度
資料 15	静岡県の工業
資料 16	静岡新産業集積クラスター
資料 17	静岡県農林業従事者の就業の現状
資料 18	静岡県農林業従事者の就業の状況
資料 19-1	食料・農業・農村の動向
資料 19-2	食料・農業・農村基本法の骨子〇
資料 20	森林及び林業の動向
資料 21-1	生産環境経営学部生産環境経営学科 カリキュラム・マップ〇■
資料 21-2	農林大学校 (養成部・研究部) カリキュラム・マップ〇
資料 21-3	生産科学科 カリキュラム・マップ※■
資料 22	静岡県立農林環境専門職大学短期大学部教員定年規程 (案)
資料 23	履修モデル※■
資料 24	教育課程連携協議会の概要
資料 25	校舎の利用計画表※■
資料 26	時間割表※■
資料 27	実習を実施する附属施設〇
資料 28	学術雑誌目録
資料 29	臨地実務実習要綱 (案) 〇■
資料 30	社会的・職業的自立に関する指導等に関する体制図

※：補正申請で内容が変更となった資料

〇：補正申請で新たに追加した書類

■：再補正申請で内容が変更となった資料

農林大学校の卒業生数の推移

期間	名称	年代	卒業生数		
明治45年 ～昭和39年	農事試験場(農事練習生) 静岡県立農業技術員講習所 静岡県立農業技術員養成所 静岡県立農業講習所 等	大正 1	10		
		大正 2	18		
		大正 3	16		
		大正 4	20		
		大正 5	20		
		大正 6	20		
		大正 7	20		
		大正 8	18		
		大正 9	17		
		大正 10	21		
		大正 11	16		
		大正 12	21		
		大正 13	25		
		大正 14	20		
		昭和 1	18		
		昭和 2	38		
		昭和 3	40		
		昭和 4	41		
		昭和 5	37		
		昭和 6	38		
		昭和 7	37		
		昭和 8	38		
		昭和 9	43		
		昭和 10	32		
		昭和 11	28		
		昭和 12	39		
		昭和 13	26		
		昭和 14	24		
		昭和 15	12		
		昭和 16	29		
		昭和 17	48		
		昭和 18	51		
		昭和 19	86		
		昭和 20	82		
		昭和 21	71		
		昭和 22	69		
		昭和 23	55		
		昭和 24	45		
		昭和 25	62		
		昭和 26	50		
		昭和 27	76		
		昭和 28	69		
		昭和 29	70		
		昭和 30	71		
		昭和 31	78		
		昭和 32	89		
		昭和 33	104		
		昭和 34	113		
昭和 35	112				
昭和 36	100				
昭和 37	98				
昭和 38	112				
昭和 39	135				
昭和40年 ～昭和48年	各試験場併設専門研修所 農業中央研修所 林業講習所	昭和 40	167		
		昭和 41	190		
		昭和 42	208		
		昭和 43	225		
		昭和 44	188		
		昭和 45	229		
		昭和 46	236		
		昭和 47	257		
		昭和 48	217		
		昭和49年 ～昭和54年	農業短期大学 林業短期大学校	昭和 49	209
昭和 50	213				
昭和 51	229				
昭和 52	204				
昭和 53	209				
昭和 54	218				
昭和55年 ～昭和62年	農林短期大学			昭和 55	83
				昭和 56	151
				昭和 57	148
				昭和 58	121
		昭和 59	119		
		昭和 60	75		
		昭和 61	79		
		昭和 62	100		
		昭和63年 ～平成10年	農林短期大学校	昭和 63	101
				平成 1	97
平成 2	79				
平成 3	77				
平成 4	92				
平成 5	100				
平成 6	93				
平成 7	75				
平成 8	119				
平成 9	101				
平成11年 ～平成29年	農林大学校	平成 10	100		
		平成 11	112		
		平成 12	118		
		平成 13	103		
		平成 14	102		
		平成 15	100		
		平成 16	99		
		平成 17	111		
		平成 18	96		
		平成 19	89		
平成 20	92				
平成 21	95				
平成 22	74				
平成 23	94				
平成 24	97				
平成 25	78				
平成 26	89				
平成 27	89				
平成 28	87				
平成 29	91				
	合計		9553		

静岡県立農林大学校卒業生の状況

1 卒業生の状況

(単位：人、()：女性のうち数)

進路区分		27年度	28年度	29年度	
進学等	進学	10(2)	6(0)	7(1)	
	研修	2(1)	2(1)	0(0)	
	進学等計 ①	12(3)	8(1)	7(1)	
県内就業	自営(農林業) ②	9(2)	10(1)	5(0)	
	就業	農業法人等 ③	31(11)	35(15)	41(13)
		農林業団体	10(7)	7(1)	14(4)
		農林業関連企業 ④	22(8)	16(4)	14(4)
		公務員(農林業関連)	2(2)	2(0)	3(1)
	関連計 ⑤	65(28)	60(20)	72(22)	
	職外	一般企業	2(1)	5(2)	4(3)
		計 ⑥	2(1)	5(2)	4(3)
	就職計(⑤+⑥) ⑦	67(29)	65(22)	76(25)	
	就業計(②+⑦) ⑧	76(31)	75(23)	81(25)	
県外就職 ⑨	1(0)	4(0)	1(0)		
その他 ⑩	0(0)	0(0)	2(1)		
就業等計(⑧+⑨+⑩) ⑪	77(31)	79(23)	84(26)		
卒業生数計(①+⑪) ⑫	89(34)	87(24)	91(27)		

2 就業率等

(単位：人)

就業内容		27年度	28年度	29年度
県内就農者数	②+③	40	45	46
県内農林業関連就業者数 (卒業生に占める割合)	②+⑤ ((②+⑤)/⑫)	74 (83%)	70 (80%)	77 (85%)
就業者数 (就業希望者の就業率)	⑧+⑨ ((⑧+⑨)/⑪)	77 (100%)	79 (100%)	82 (98%)

(平成30年4月1日現在)

農林大学校卒業生の評価

1 法人ヒアリング

法人名	ヒアリング日時	評価
(株) カクト・ロコ	平成30年 8月17日	今年2名採用し、大変期待している。2年間の養成部課程で、植物とともに生活してきた学生は勉強ばかりの子とは違う。
(有) 高橋水耕	平成30年 8月20日	近年高校卒業生の採用を行っているが、2年間栽培の勉強をしてきた農林大学校卒業生と比較すると違いがある。
(株) とやま農園	平成30年 8月27日	農林大学校卒業生を去年採用した。現場に出ているので仕事には慣れている。1年目から即戦力になるにはもう少し突っ込んだ勉強をするとうまい。
農業組合法人 ジャパン ・ベリー	平成30年 9月13日	現在採用している農林大学校卒業生は良く働き、イチゴの知識があるので助かっている。今後は現場を任せるとしていく。

2 基本構想策定委員会委員発言

発言者	委員会日時 (開催回次)	評価
鈴木 厚志 (静岡県農業法人協会会長、京丸園(株)代表取締役)	平成29年 8月31日 (第2回)	農業法人が採用したい人材として、農林大学校卒業生を非常に重要視しており人気が高い。現に、なかなか募集しても、思ったように採用できないぐらい人気がある。
竹川 将樹 (指導林家、 株ふもとつばら 代表取締役)	平成29年 8月20日 (第2回)	農林大学校卒業生は、20歳で一通りの林業の技術は身につけているので、しっかりした技術を持っているという印象は受けている。
竹川 暢昭 (静岡県農業高等学校校長会 会長)	平成29年 10月2日 (第3回)	農家の方や生産法人からは、農林大学校卒業生は積極的で、率先してよく体が動き、本当に粘り強く、着実に物事を進めることができる。そして仕事を選ばず、本当に熱意を持って取り組むことができると聞いている。

食料・農業・農村基本計画

平成27年3月

第1 食料、農業及び農村に関する施策についての基本的な方針

1. 高齢化や人口減少、グローバル化の進展等の情勢変化への対応 ―食料・農業・農村をめぐり情勢及び施策の評価と課題―

(1) 高齢化や人口減少による食料・農業・農村への影響

ア 情勢

今後、高齢化の進行に伴う一人当たり食料消費量の減少及び人口減少の本格化が国内の食市場を縮小させる可能性があり、我が国の農業は、従来の取組の単なる延長では縮小していくおそれがある。一方、介護食品や食を通じた健康管理を支援するサービスなど、今後増加していく高齢者をターゲットとした新たな市場の創出も期待されている。

農村では都市部に先駆けて高齢化や人口減少が進行し、農業就業者が高齢化、減少するとともに、集落を構成する人口も減少している。高齢者のリタイア等による農地の荒廃や、担い手の不足等による生産基盤の脆(ぜい)弱化等が進行している。このような状況は、特に中山間地域において顕著である。

今後、意欲ある担い手には、高齢農業者に代わって、その農地を活用して経営の規模拡大を図るチャンスが広がっていくと考えられる。しかし、農業、さらには農村での生活に将来に向けた展望を描くことができなければ、若者の就農も期待できない。農業就業者が著しく減少し、農業経営が次の世代に継承されず、貴重な資源や技術の伝承が途絶えてしまうおそれがある。農村の集落人口の減少が、これまでは集落の共同活動として行われてきた農地・農業用水等の地域資源の維持管理や、生活サービスの提供等の継続に支障を及ぼすことも懸念されている。

また、野生鳥獣による農産物等への被害が拡大してきたが、荒廃農地の増加や集落人口の減少も一因となっており、今後、更なる被害の深刻化、広域化を招くことが懸念されている。

同時に、農村では、農業生産の基盤として不可欠な農業水利施設の老朽化が進んでいる。今後10年間で標準耐用年数を超過する基幹水利施設は全体の約3割に達すると見込まれており、今後、適切な保全管理により、その機能を持続的に発揮させていくことが必要となっている。

国全体として労働力人口の長期的な減少が進む中では、農業のみならず、食品の流通や加工、外食等の分野においても、産業としての持続的な成長に欠かせない人材の確保における難しさが増していくと考えられる。我が国の食品産業と農業は重要なパートナーであり、また、食品産業は地域の主要な産業の一つであるが、国内市場の縮小の可能性やこのような事業環境の変化は、その成長の阻害要因になることが懸念される。

イ 主な施策の評価と課題

都市部に先駆けて高齢化や人口減少が進む農村において、地域資源の維持・継承等が従来から大きな課題となっており、地域コミュニティによる農地・農業用水等の保全活動を促進するための支援措置の導入等を進めてきた。

具体的には、多面的な機能を十分に発揮するための施策を更に進める観点から、農地・水保全管理支払制度を拡充した多面的機能支払制度と、従来の中山間地域等直接支払制度及び環境保全型農業直接支払制度からなる日本型直接支払制度を平成26年度に創設した。この日本型直接支払制度については、平成27年度以降、「農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律」（平成26年法律第78号）に基づき実施することとした。こうした施策は、荒廃農地の発生防止等に一定の効果을上げてきており、多面的機能支払を通じて地域の共同活動が活性化していくことが期待されているが、今後、農村の高齢化や集落人口の減少等が一層進行し、地域によっては集落の共同活動による地域資源の維持管理等の継続に支障を来すことが懸念されている。

このため、既存の取組に加えて、地域コミュニティ機能を維持する観点から、生活サービス機能等を基幹集落へ集約した「小さな拠点」と周辺集落のネットワーク化等の新たな取組を推進していく必要がある。

また、高齢化や人口減少の進行により、国内の食市場の縮小や担い手不足といった様々な問題が顕在化することが懸念されており、これらを克服するためには、新たな需要の開拓や若い担い手の確保、魅力ある農村づくり等に向けた、更に積極的な取組を促していく必要がある。

これまで、農林水産物・食品の輸出促進や国産農産物の消費拡大、需要に応じた生産等の推進、新規就農の促進、農村の多様な資源の活用による6次産業化の推進等の施策の充実に取り組んできたが、今後、それぞれ（2）～（5）に記述した施策の評価と課題を踏まえつつ、改めて高齢化や人口減少への対応という観点に立ち、各種施策を積極的に展開していく必要がある。

（2）世界の食料需給等の見通しとグローバル化の進展

ア 情勢

世界の人口は2050年には96億人に達すると見通されるとともに、新興国の経済成長、所得水準の向上が継続し、今後とも世界の食料や飼料、エネルギー、肥料資源等の需要の増大が続くと見込まれている。一方、地球温暖化等の気候変動の進行により、農作物の生産可能地域の変化や、異常気象による大規模な不作の頻発等、食料供給面への影響も懸念されている。さらに、水資源の枯渇や生物多様性の損失など、農業生産に関わる地球環境問題も今後一層進行すると予測されている。

我が国は、戦後の高度経済成長の過程で食料等の輸入を増大し、豊かな食生活を実現してきた。しかし、近年の環境変化は、中長期的に世界の食料等の需給がひっ迫する可能性を示唆しており、今後、新興国との食料調達競争の競合や輸出国の輸出規

制等により、我が国の食料等の安定的な輸入の確保に支障が生じる事態も懸念される。

同時に、地球規模の気候変動の影響は、我が国においても、高温による農作物の品質低下の発生や、豪雨の増加に伴う土砂災害等の発生の増加等として、既に顕在化しつつあると考えられており、気候変動の影響への適応策の確立が求められている。

他方、世界の人口の増大や各国の経済成長等に伴い、今後とも世界の食関連の市場規模も拡大が続くと見込まれるとともに、海外における日本食への関心も高まっている。平成26年の我が国の農林水産物・食品の輸出額は過去最高となる6,117億円を記録するとともに、我が国の食品産業による海外展開の取組も広がっている。日本食や日本の食文化は、まさにそれ自体が貴重な資源であり、その価値を再認識し、海外に発信していくことは、輸出や食品産業の海外展開の取組を推進していく上でも重要である。また、我が国の農業や食品産業は、成長する海外の市場を積極的に取り込むことで、その事業基盤の強化と更なる成長を図っていくことが期待されている。

さらに、大手食品企業は世界規模での商品等の調達拡大と販売の強化を進めるなど、今後、こうした食をめぐるグローバル化の動きは更に進んでいくと考えられる。加えて、環太平洋パートナーシップ（TPP）協定、東アジア地域包括的経済連携（RCEP）、日中韓自由貿易協定（FTA）、日 EU 経済連携協定（EPA）等の経済連携に向けた動きも更に進展していくと考えられる。

イ 主な施策の評価と課題

食料の安定供給については、基本法に基づき、国内の農業生産の増大を図ることを基本とし、輸入と備蓄とを適切に組み合わせて行うとの考え方の下、農業の持続的な発展や食料安全保障の確立等を図るための様々な施策を講じてきた。

こうした中、農業生産の現場では、農地の荒廃や担い手の不足による生産基盤の脆（ぜい）弱化等が進行している。世界的には中長期的に食料等の需給のひっ迫が懸念されるなど、今後の我が国の食料供給の在り方に関わる環境変化も進んでいる。しかし、これまで、食料供給に関する様々なリスクの検証は十分ではなかった。また、平成24年9月に不測の事態への対処方針を定めた「緊急事態食料安全保障指針」を策定しているが、その認知度も低く、不測の事態が生じた場合の具体的な対応手順も整備されていなかった。さらに、食料の安定供給を確保することは、国民生活における重要な課題であるが、豊かな食生活の中では、その在り方について意識されることが少なく、国民的議論が十分に深まっていない現状にある。

また、成長する世界の食関連市場の開拓が期待される中、最近、オールジャパンでの輸出促進体制の整備など、農林水産物・食品の輸出や食品産業の海外展開を促進するための様々な施策の強化を進め、意欲的な事業者等による取組も着実に広がっているが、輸出先国の規制等の輸出促進の阻害要因など、依然として様々な克服

すべき課題が存在している。

こうした状況を踏まえ、今後の施策展開に当たっては、農業・農村の現場の課題等に向き合いつつ、世界の食料需給や地球環境問題、国際的な食料・農業関連施策の動向等を踏まえた対応を進めていく必要がある。

(3) 消費者ニーズと食をめぐる課題の多様化

ア 情勢

我が国では、女性の社会進出や単身・高齢者世帯の増加、日常生活における情報通信技術（ICT）の急速な利用の拡大などの社会構造、ライフスタイル等の変化を反映し、「家庭での調理を要しない加工食品や総菜」、「少量サイズの商品」、「ネット販売による食品購入」など、食品の質、サービス形態等の多様化や高度化が進んできており、今後こうした動きは更に進展するものと考えられる。

消費者と食との関わり方が多様化する中では、地域で受け継がれてきた伝統的な食文化の衰退、食卓と生産現場との距離の拡大による農業や農村についての国民の理解の希薄化等が進むことも懸念されている。

イ 主な施策の評価と課題

消費者ニーズの多様化や高度化が進む中、需要に即した生産等を推進する観点から、生産の低コスト化や安定生産の実現、高品質化等のための新技術や新品種の開発や導入等を促進するための施策を講じてきた。

しかし、増大する加工・業務用の原料農産物への需要に国内の農業生産が十分に対応できず、原料農産物や調整品の輸入拡大を招くといった課題も生じている。

このため、消費者ニーズの変化等に対応した生産・供給体制の構築等を図る取組を更に後押ししていく必要がある。

消費者の食生活の在り方等に関しては、これまでも栄養バランスに優れた「日本型食生活」の推進など様々な取組を進めてきたが、実践状況や実践のための課題等は、年齢やライフスタイル等に応じて様々である。

このため、今後、望ましい食生活の実現や国産農産物の消費拡大等を目指す取組については、消費者各層の多様なニーズや特性等を踏まえ、改めてそれぞれの目的の達成に向けた効果的な推進を図っていく必要がある。

(4) 農業を支える担い手など農業・農村の構造の変化

ア 情勢

我が国の農業構造は、利用権の設定等による農地集積が一定程度進展し、現在、認定農業者や集落営農等が農地を利用する面積は全体の約半分を占めている。また、法人経営体の数は、近年、10年間で約2倍のペースで増加している。一般企業の農業参入についても、平成21年の農地法改正によりリース方式での参入が全面的に自由化され、同法改正前の約5倍のペースで進むなど、農業構造は変化してきている。

しかし、土地利用型農業を中心に農業の将来を支える若い担い手の確保が十分に進んでおらず、農業就業者の高齢化が進み、60歳以上が約7割、50歳未満が約1割という著しくアンバランスな年齢構成となっている。40歳未満の新規就農者は、近年1万3千人～1万5千人で推移しているが、このうち定着するのは1万人程度である。このため、高齢者のリタイアにより農業就業者が著しく減少していくことが見込まれている。また、農地集積により経営の規模が拡大する一方、集積された農地は小さな区画のまま分散錯綜している場合も多く、生産性向上の大きな阻害要因となっている。

また、農業の構造改革の進展等に伴い、農村では大規模経営体と小規模農家への二極分化、土地持ち非農家の増加等も進行しており、今後、同質な農家の存在を前提としてきた集落における共同活動の在り方や、農業水利施設の保全管理等を進める際の地域での円滑な合意形成に様々な影響を及ぼす可能性もある。

イ 主な施策の評価と課題

これまで、認定農業者制度の創設や認定農業者等を対象とする水田・畑作経営所得安定対策の導入、新規就農の促進、農業経営の法人化の推進等を通じて、農業の構造改革は一定程度進展してきた。

しかし、平成22年以降の施策の見直しの中で、構造改革の対象となる「担い手」の姿が不明確となったことに鑑み、基本法第21条の「効率的かつ安定的な農業経営」が「農業生産の相当部分を担う構造を確立する」との方針を踏まえて、再度「担い手」の姿を明確にして施策を推進していく必要がある。また、農業就業者の高齢化等が著しく進む中で、望ましい農業構造の確立と農業の産業としての自立を図る観点から、「農地中間管理事業の推進に関する法律」（平成25年法律第101号）に基づく農地の公的な中間的受皿として、各都道府県に設立された農地中間管理機構を活用した農地の集積・集約化を促進していく必要がある。同時に、就農の準備や所得の確保等への支援による農業の内外からの青年層の新規就農の促進、農業経営の法人化の推進など農業の担い手の育成・確保に向けた取組を更に進め、農業の構造改革を一層加速化していく必要がある。

その際、地域においては、農業に関わる多様な主体が存在していることから、地域の農業の担い手と兼業農家、高齢農家等との役割分担についての合意形成を促進していく必要がある。

また、今後、農業・農村の構造の変化が農地・農業用水等の維持管理等に及ぼすと考えられる様々な影響を踏まえ、関連する施策の在り方等について検討していく必要がある。

(5) 農業・農村の多様な可能性

ア 情勢

海外における日本食への関心の高まりなどを背景に、日本の食材や食文化を世界

に広める好機が訪れる一方、国内では、高齢化など社会構造等の変化に伴い、介護食品や食に関連した健康ビジネスなど新たな分野の市場が拡大すると見込まれている。

一部の地域では若者や女性の域外からの転入により人口が増加するなど、農業の魅力や、豊かな環境や景観、伝統文化等を有する農村の価値を再認識する動きも生まれつつある。加えて、バイオマスの活用、再生可能エネルギーの生産など、これまでは十分に活用されてこなかった農村の多様な地域資源を有効活用し、新たな事業を創出する取組も始まっている。また、女性ならではのアイデアと感性も活かしながら、農業・農村をめぐる様々な課題を克服し、新たな可能性を切り拓いていく取組が徐々にではあるが増え始めている。

こうした動きに加え、我が国の有するロボット技術や ICT といった最先端の技術、さらには他産業で確立された技術を農業・農村分野でも活用することにより、生産性等を大幅に向上させる可能性も広がっている。

イ 主な施策の評価と課題

農業・農村の様々な資源を活用した、新たな需要の開拓や地域の活性化の取組を後押しする観点から、平成25年1月に農林漁業成長産業化ファンドを創設するなど、6次産業化の取組の発展段階に応じた支援や、都市農村交流の促進、新たな分野の市場を創造するための環境づくりなど、農業者や関連事業者による積極的な取組を促す施策の整備を順次進めてきた。

こうした中で、各地域で意欲的な取組が広がっているが、今後、より質の高い取組や、地域に広く役立つ取組を全国的に創出していく必要がある。また、都市と農村の交流人口には一定の増加が見られるが、今後は、一過性の交流にとどまらず、移住・定住へと結び付けていくための施策展開を図っていく必要がある。

また、農林水産分野の研究開発については、農業現場の課題解決、成長産業化を進める上で重要な役割を果たしてきたが、これまで開発された技術の中には現場で十分活用されていないものも多い。今後は、研究開発の枠組みや現場への技術移転プロセスの抜本的な見直しを進めていく必要がある。また、ロボット技術や ICT など最先端技術の活用については、現場に広く普及する段階に至っていない。今後、一般の農家にも導入が進むよう、ロボット技術の先行企業や IT 企業との連携等により取組を更に加速化していく必要がある。

(6) 東日本大震災からの復旧・復興の状況

ア 情勢

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震及びそれに起因する大津波による農業・農村の被害は、津波に被災した農地が2万1,480ha、農業経営体が約1万100経営体に達した。このため、農地のがれき等の撤去、除塩や農業用施設等の復旧等を計画的に進め、平成27年3月時点で、津波被災農地のうち約7割で営農再

開が可能となっている。また、平成26年2月時点で、津波被害のあった農業経営体のうち55%が経営を再開している。さらに、農地等の復旧と合わせた農地の大区画化、大規模施設園芸といった先進的な取組も進んでいる。

また、東京電力株式会社福島第一原子力発電所（以下「東電福島第一原発」という。）の事故に伴い、放射性物質による汚染が広がったことから、放射性セシウム濃度が基準値を超えない農産物のみを流通させるため、農産物の出荷前に放射性物質の検査等を実施するとともに、避難指示区域等における農業者の経営再開に向けた取組を推進してきた。現在、放射性セシウム濃度の基準値を超える農産物の品目や地域は限定的となっている。

他方、原発事故に伴う風評被害に対しては、安全確保のための取組等についての情報発信、被災地産農産物等の利用を促進する取組等を実施してきた。しかしながら、依然として風評被害が払拭されたとはいえない。

さらに、諸外国・地域において実施されている我が国農林水産物・食品の放射性物質に係る輸入規制に対しては、その緩和や撤廃に向けた働きかけなどを進めてきた結果、一定の進捗は見られたものの、香港、台湾、中国、韓国など主要な輸出先国・地域が依然として輸入規制を継続している。

イ 主な施策の評価と課題

東日本大震災（政府は、東北地方太平洋沖地震による災害及びこれに伴う原子力発電所事故による災害を「東日本大震災」と呼称）の発災以降、政府を挙げて被災地の復旧・復興に取り組んできた。

この結果、発災直後に比べ、農業・農村の分野においても復旧・復興に関する取組は相当程度進展したものの、現在も経営再開に至っていない多くの農業者が存在しており、経営再開に向けた取組の加速化が必要である。また、新たな農業のモデルとなるよう、単なる復旧にとどまらない将来を見据えた復興の取組を進めていくことが求められている。さらに、いまだに根強く残る風評被害を克服していかなければならない。

このため、今後、津波等による被害が甚大な地区等の復旧・復興を更に進めるとともに、先端技術を駆使した生産・加工技術等の大規模実証研究の成果の普及等を進めていく必要がある。加えて、東日本大震災の教訓を踏まえ、今後の大規模な自然災害等に備え、防災や減災等のための取組を進めていく必要がある。

また、放射性物質による汚染に対し、今後とも、農産物の安全の確保や、避難指示区域等における経営再開に向けた取組を着実に推進するとともに、風評被害の払拭に向けた丁寧な情報発信や被災地農産物等の利用促進、諸外国・地域の輸入規制の緩和や撤廃に向けた更なる働きかけを行っていく必要がある。

2. 農業や食品産業の成長産業化と農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を促進する施策展開 —施策の推進に当たっての基本的な視点—

3 担手の現状

<ビジネス経営体>

- ・ビジネス経営体数は10年間で1.5倍に増加しています。
- ・ビジネス経営体の販売金額は10年間で1.9倍に増加しています。

図表 8 ビジネス経営体

販売金額	H17	H22	H28	H28/H17
ビジネス経営体数	266	328	403	1.52
ビジネス経営体の販売金額(百万円)	44,304	64,911	82,096	1.85

資料: 県農業ビジネス課調べ

<農業経営体>

- ・農業経営体数が10年間で3割減少する中で、販売金額5千万円以上の経営体数は横ばいとなっています。

図表 9 販売金額別農業経営体数

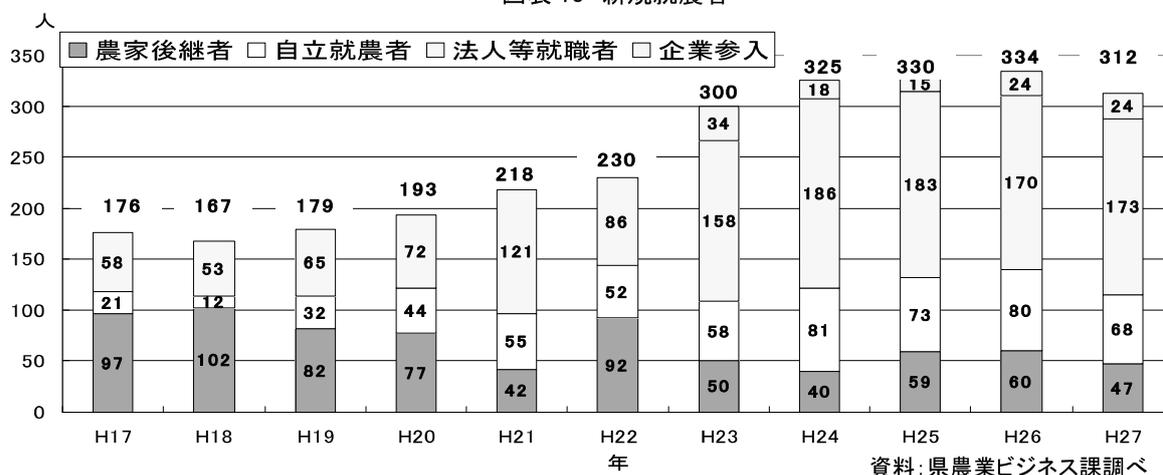
販売金額	H17	H22	H27	H27/H17
1千万円未満	41,565	36,009	29,364	0.71
3千万円未満	4,782	3,343	2,999	0.63
3千万円以上	862	750	780	0.90
うち5千万円以上	383	370	381	0.99
合計	47,209	40,102	33,143	0.70

資料: 農林業センサス(農林水産省)

<新規就農者>

- ・新規就農者数は、増加傾向にあり、平成23年以降は、毎年300人以上が新たに就農しています。
- ・過去10年間の傾向をみると、農家の後継者の就農は減少傾向にありますが、新たに農業で起業する人や農業法人へ就職者が増加しており、平成27年には、農業法人への就職者が55%を占めています。

図表 10 新規就農者



<農業就業人口>

- ・販売農家における農業就業人口は、10年間で4割減少しています。
- ・一方、雇用農業従事者は3倍に増加しています。ただし、最近では、全産業的な人手不足により、期間雇用を中心に雇用の確保が困難になっています。

図表 11 農業就業人口

区分	H17	H22	H27	H27/H17
農業就業人口	93,890	70,867	57,322	0.61
雇用農業従事者	2,525	3,995	7,082	2.80
合計	96,415	74,862	64,404	0.67

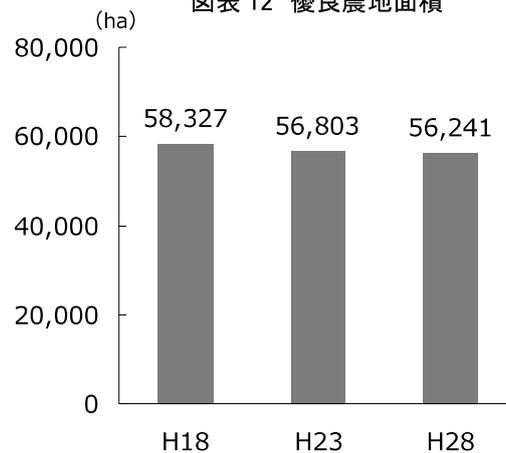
資料:農林業センサス(農林水産省)

4 生産基盤の現状

<農地集積>

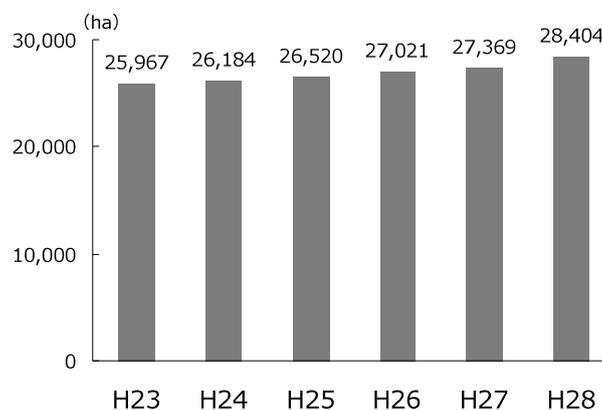
- ・優良農地面積（農振農用地区域内農地から荒廃農地を除いたもの）は、荒廃農地の発生や宅地等への転用等に伴い、10年間で約2,000ha減少しています。
- ・一方、担い手への農地集積面積は1割増加しています。

図表 12 優良農地面積



資料:農林水産省調べ

図表 13 農地集積面積



資料:農林水産省調べ

静岡県経済産業ビジョン 2018～2021
(農業・農村編)

2018年3月

静岡県

(経済産業部、交通基盤部、文化・観光部)

第3章 ビジョンの基本方針

1 基本理念

○ 世界の健康長寿と幸せに食で貢献

～多様な人々が活躍する世界水準の次世代農業～

TPPや日欧EPAによるグローバル化が進展する中、地域の特性を活かし、将来にわたり持続可能な農業構造を構築することにより、消費者が安心できる安全で健康によい農産物を安定的に生産・供給し、世界の人々の健康長寿に貢献します。

○ 生き生き働き心豊かに暮らせる農業・農村の創造

～環境と調和し人々を惹きつける農山村～

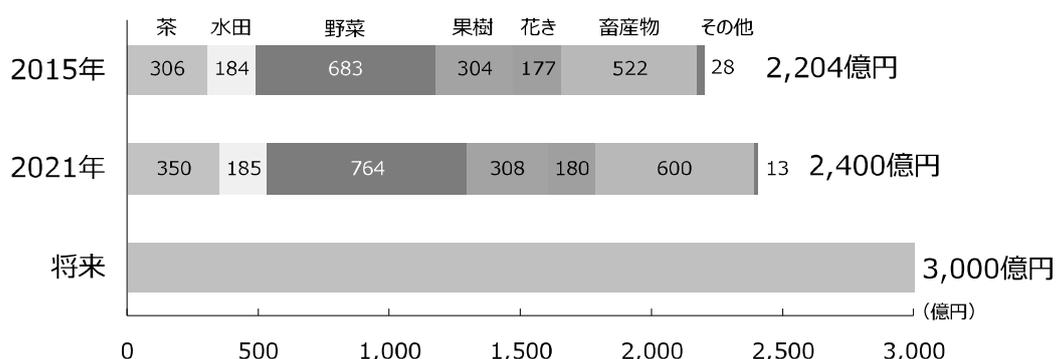
農業及び農村が育んできた水資源のかん養や、潤いと安らぎを醸し出す良好な景観の維持、自然環境の保全に努め、誰もが心豊かな生活を実現できる農山村を創造します。

2 目指す姿

<農業産出額>

野菜や畜産物など需要の拡大が期待される品目の選択的な生産拡大や、需要構造の変化に対応した茶の生産を強化し、2021年には農業産出額2,400億円を目標とするとともに、将来は、全国10位以内の農業産出額の実現を目指します。

図表 20 農業産出額の品目別内訳



<担い手>

○ ビジネス経営体

2014年のビジネス経営体数は381経営体で、産出額は456億円で県全体の2割を占めています。

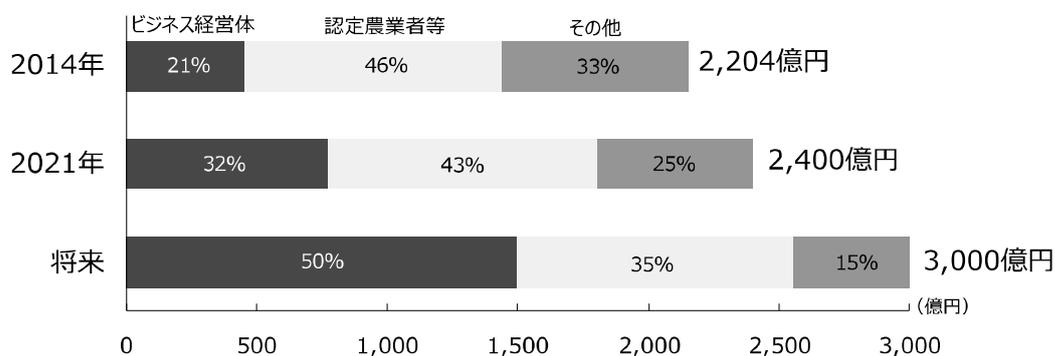
今後、農業就業人口の減少や農業者の高齢化の進展が見込まれる中で、産業として農業を発展させるためには、経営意欲のある農業者が創意工夫をもって農業経営を展開することが重要となります。

このため、経営発展に意欲的に取り組むビジネス経営体や認定農業者に対するコンサルティング活動を強化し、農地集積や設備投資による規模拡大や6次産業化、販路拡大などの取組を支援します。

さらに、新たに農業経営に挑戦する若者や経営改善に取り組む農家後継者に対して、技術習得研修や資金の確保、経営を学ぶ講座の開講などにより、経営の発展・安定化に向けた取組を支援します。

このような取組により、ビジネス経営体の産出額が、2021年には農業生産の約3割、将来的には過半を占める農業構造の確立を目指します。

図表 21 ビジネス経営体の農業産出額シェア



○ 地域農業を支える多様な経営体

本県の農業経営体33,143戸のうち、販売金額300万円未満の小規模な経営体は、販売金額では約1割のシェアですが、経営体数は23,279戸で約7割を占めています。

これらの経営体は、規模の大きな経営体とともに、県民に多彩な農産物を供給し、農地や用水路の保全など、地域農業を維持する上でも重要な役割を担っています。

今後は、地域資源を活用した交流の促進や直売所などを利用した地産地消の取組など、小規模な経営体の農業生産の維持・発展を支援することにより、持続可能な地域農業の構築を目指します。

《主な取組》

① 高度農業人材の育成と雇用対策

ア 次代の農業経営を担う人材育成の強化

- ・ 生産技術・経営ノウハウを習得する研修や就農計画の作成、資金支援により、非農家出身者(ニューファーマー)の自立就農を支援するとともに、農家後継者の新分野進出を促進します。
- ・ 農業体験やマッチングにより、農業法人等への就職を促進するとともに、雇用の安定確保を支援します。
- ・ 農林大学校の専門職大学への移行により、次代の農林業を支える人材を養成するとともに、社会人教育を充実します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
ニューファーマー等の確保・育成	ニューファーマー養成に向けた研修の実施			
	研修参加者 25人/年	研修参加者 25人/年	研修参加者 25人/年	研修参加者 25人/年
農業法人等への就職促進	農業体験研修や農業法人とのマッチング等の実施			
	農業体験参加者 60人/年	農業体験参加者 60人/年	農業体験参加者 60人/年	農業体験参加者 60人/年
農林大学校の専門職大学への移行	開学準備		開学	
			入学者125人/年	入学者125人/年

イ 女性経営者の育成

- ・ 女性農業経営者の活動状況の情報発信や、若手女性農業者のネットワーク化を推進します。
- ・ 農業に関心のある女性に対し、就農に向けた意識醸成や就労意欲の喚起、働きやすい環境づくりへの支援を行います。
- ・ 農山漁村地域で活躍する女性農業者リーダーを育成するための研修や交流会を開催します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
若手女性農業者のネットワークの構築	ネットワーク参画者数			
	40人	60人	80人	100人
女性農業者リーダーの育成	女性農業者の公職委嘱数			
	135	140	145	150

ウ コンサルティング手法を取り入れたビジネス経営体等の支援

- ・ ビジネス経営体を伴走支援する専任チームにより、コンサルティング活動を中心とした支援を強化します。
- ・ 民間専門家の派遣により、法人化、経営継承、労務管理などの企業的経営管理手法やマ

ーケティング手法、生産工程管理などの導入を支援します。

- ・ 経営を学ぶ講座の開催(経営戦略講座やアグリビジネス実践スクール、ふじのくにアグリカレッジ)により、経営計画の作成や計画の実行支援、経営幹部や後継者等の資質向上を図ります。
- ・ 全国農業担い手サミットの本県開催を契機として、認定農業者等の経営発展への意欲向上や組織活動の活性化を図ります。
- ・ 農業経営体の経営発展に向けて、施設・機械の整備に必要な制度資金の活用を支援します。
- ・ 農業保険法の中に新たに創設された収入保険制度を周知し、セーフティネットの強化を図ります。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
経営体支援チームによる伴走型経営支援		巡回支援する経営体数		
	1,000経営体/年	1,000経営体/年	1,000経営体/年	1,000経営体/年
専門家派遣による企業的経営管理手法等の導入支援		専門家派遣回数		
	150回/年	150回/年	150回/年	150回/年
ビジネス経営体等の経営発展及び幹部人材の養成支援		経営講座の受講者数		
	110人/年	110人/年	110人/年	110人/年
認定農業者等の活動支援	全国担い手サミット プレイベントの開催	全国担い手サミット の開催	地域サミットの開催	
	参加者400人/年	参加者2,000人/年	参加者200人/年	参加者200人/年

エ 多様な人材の活用

- ・ 求人情報の提供や就労体験機会の提供など、女性や高齢者などの幅広い人材の活用を支援します。
- ・ 雇用を確保するための情報提供や、品目間での労働力を相互補完する取組など、各地区が独自に労働力を確保できる仕組みづくりを支援します。
- ・ 障害のある人が農業や園芸活動に携われるユニバーサル園芸を普及するため、農業経営体への受入促進と、農業と福祉分野の連携を推進します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
幅広い人材の確保支援	短期雇用の確保に向けた取組地区数	モデル地区における自主的な労働力確保の取組支援		
	8地区/年	8地区/年	8地区/年	8地区/年
ユニバーサル園芸の普及		障害のある人を受け入れる農業経営体数		
	40経営体/年	45経営体/年	50経営体/年	55経営体/年

“ふじのくに”の農山村づくり
(静岡県農業農村整備みらいプラン 2018-2021)

静岡県経済産業部

<目 次>

はじめに

1 策定の趣旨	1
2 役割	2
3 構成と計画期間	2

I 基本方針

1 理念	3
2 取組の視点	4

II 基本計画

1 現状と課題	7
2 政策方針	11
3 施策方針	21
4 計画推進にあたっての留意事項	25

III プラン実現に向けた連携

1 農村振興技術者の役割	27
2 関係者への期待	29

IV 指標	31
-------	----

(参考資料)	36
--------	----

はじめに

1 策定の趣旨

静岡県では、平成 25 年度に策定した「“ふじのくに”の農山村づくり（静岡県農山村整備みらいプラン 2014-2017）」に基づき、農業用水の安定供給や生産性向上による産地競争力の強化、地域資源の保全継承を担うコミュニティの形成と活性化を重点取組に掲げ、地域の様々な活動と連携し、農山村づくりに取り組んできた。

このプランでは、農業農村整備事業の長期的な理念を「美しく品格のある農山村の創造」と定め、平成 25 年度までの最初の 4 年間は「基礎づくり」、平成 29 年度までの 4 年間は「実践的モデルづくり」の視点のもと取組を展開してきた。

これまで、産地戦略の実践として基盤整備を実施してきた地区では、生産性が飛躍的に向上し、意欲的な後継者が育成されるとともに、レタスなどの高収益作物の導入が徐々に拡大してきている。

また、「ふじのくに美しく品格のある邑づくり」では、県下で 122 の地域が「美しく品格のある邑」に登録されるとともに、農山村の景観や地域の歴史・文化等の地域資源を活用した活動を行う NPO 等の主体が設立されるなど、農山村に新たな活力が生まれており、この 8 年間の取組は着実に成果をあげている。

しかしながら、本格的な人口減少社会を迎える中、農業者の高齢化や担い手の不足、TPP や EPA 等のグローバル化の進展や国内産地間競争の激化等により、本県の農山村は総体として弱体化傾向にある。

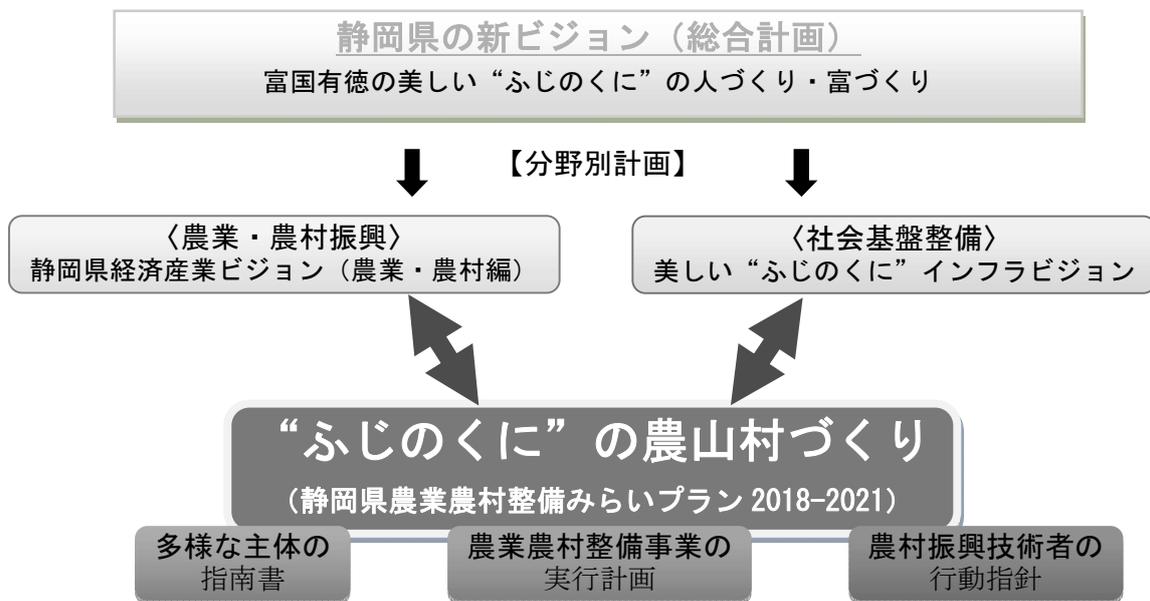
このような状況において、本県の農山村が有する「多彩で高品質な農産物の安定供給」と「多面的機能の発揮」という重要な役割を将来に渡って持続的に維持・発展させていくために、農業の競争力強化と農山村社会の再生・活性化に向けた取組を、地域特性に応じて、一体的に進めていかなければならない。

このため、美しく品格のある農山村の創造の実現に向けた「発展的取組の拡大」を行うプランとして、この「“ふじのくに”の農山村づくり（静岡県農業農村整備みらいプラン 2018-2021）」を策定する。

2 役割

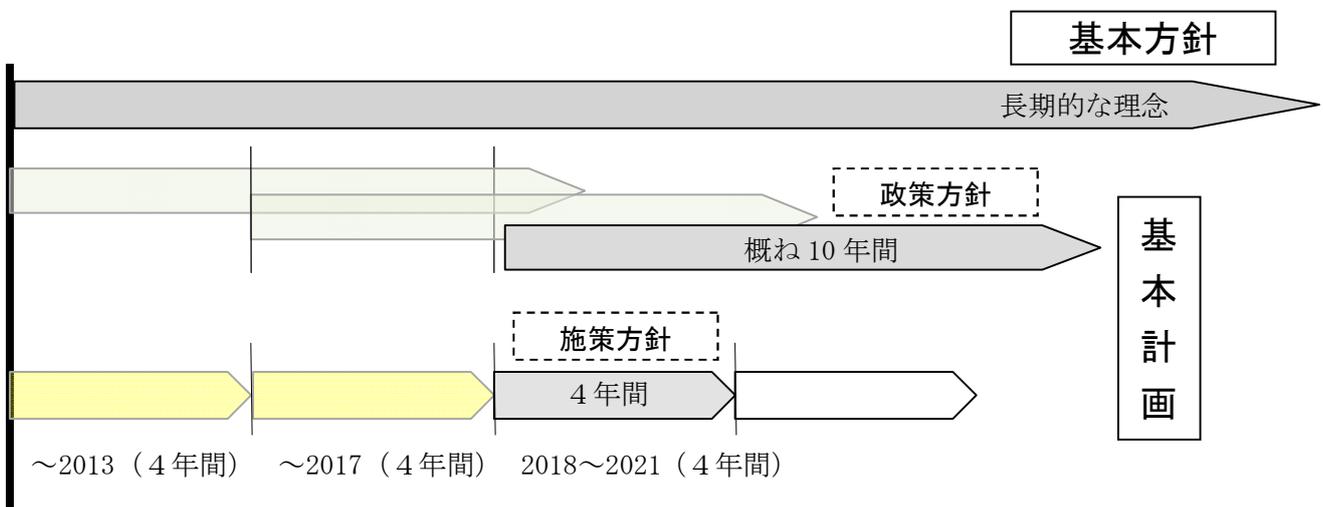
このプランは、上位計画の「静岡県の新ビジョン 富国有徳の美しい“ふじのくに”の人づくり・富づくり」、その分野別計画である「静岡県経済産業ビジョン（農業・農村編）」並びに「美しい“ふじのくに”インフラビジョン」の実行計画として、本県の農業農村整備事業の長期的な理念と取組の視点、政策の方向性と主な取組を明らかにするものである。

また、農業農村整備事業に関わるあらゆる立場の人々、団体、機関等が、共通認識のもとで本県の農山村のあるべき姿を描き、その具現化に向けて、協働して取り組むための指南書であるとともに、農業土木技術者が農村振興技術者へと発展し実践すべき行動指針としての役割を担うものである。



3 構成と計画期間

本プランは、本県の農業農村整備事業の「基本方針」を示すとともに、概ね10年間の政策方針と、その達成に向けた平成30年度（2018年度）から4年間の具体的な施策方針を示した「基本計画」により構成している。



I 基本方針

1 理念

『美しく品格のある農山村の創造』

かつて、幕末から明治に日本を訪れた多くの外国人は、まるで庭園のように手入れされた農山村の美に深く感嘆し、「絵のように美しい」と形容した。その美しさは、自然と人間の営みが長い年月をかけて造り上げた農山村の姿だけではなく、当時の人々の考え方、暮らしぶりといった日本社会そのものに対する感動からおこったものであった。

「静岡県の新ビジョン 富国有徳の美しい“ふじのくに”の人づくり・富づくり（静岡県総合計画）」を目指す本県の農山村は、当時の農山村を理想像として、景観の美しさにとどまらず、その源となる農業に勤しむ生産者と、地域の資源を保全し次世代へ継承しようとする様々な人々の共同体意識に至る外形と内面の「農山村の美」を実現していくことが重要である。

人に人格があるように村にも村格があり、それは、鎮守の森や菩提寺、旧家の名主・豪農、土地改良の水利権といわれた。村格の基準は、当時と大きく変化していると思われるが、人格が、「独立した個人としての、その人の人間性」であれば、村格は、「独立したひとつの共同体としての地域性」、「その地域固有の、共同体としてのあり方」であるともいえる。従って、「人格者」と言われる人がいるように、「村格者」と言われるような農山村もあるべきである。

本県の農山村がその姿を富士山のように美しく高め、世界中から憧れられ、そこを訪れてみたい、その産物を手にしたい、そこで暮らしてみたいと思われるような存在となるためには、共同体としての農山村の社会（コミュニティ）が、地域のあり方を自ら考え、主体的・意欲的に地域の「場の力」を最大限に活用し、その実現に取り組むといった力強い自律性に裏付けられた品格が必要である。

こうした考えに基づき、農業農村整備事業に関わるあらゆる人々が、農山村のあるべき姿を見定め、的確に対応していくための道標となる理念を「美しく品格のある農山村の創造」とする。

2 取組の視点

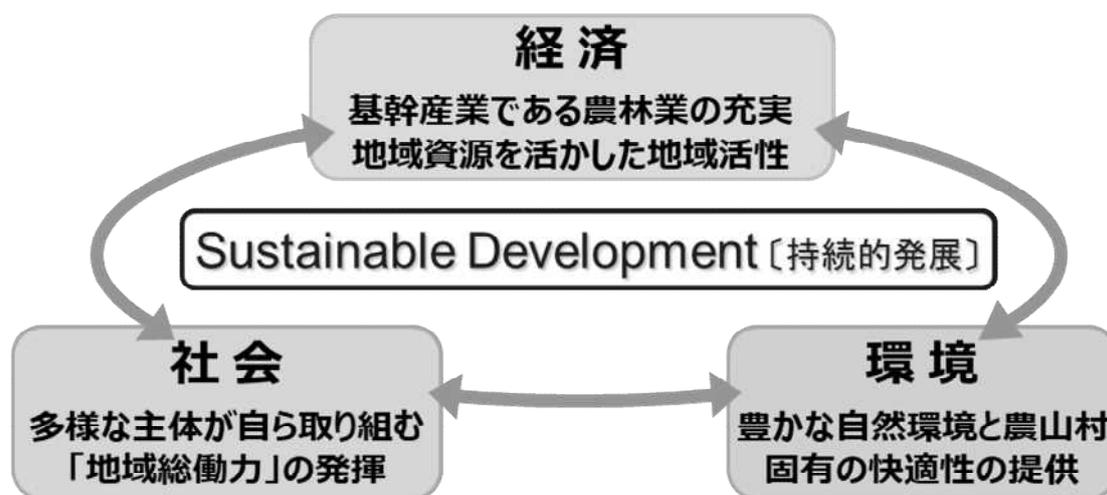
～ 環境・経済・社会の調和による持続可能な農山村づくり ～

農山村では、人と自然の共生が生み出す二次的な環境を基礎として、農業生産活動、人々の生活、地域の歴史、文化が調和した独自の景観が形成されており、こうした農山村の佇まいは、農業が持続的に行われるとともに、農山村の活力が維持、向上されることによって保全されている。

この「農山村らしさ」は、単に視覚的な自然の姿や農業生産の場としての景観だけではなく、長い歴史の中で、それらを保全し継承してきた農山村の社会（コミュニティ）が根幹となっている。

コミュニティなくして、水田や水路、里山などの二次的な環境を継承していくことは難しく、また、担い手への農地集積や基盤整備など、個の生産活動を発展させることも難しい。同時に、農泊やGI（地理的表示）、産地での直売など、農産物や地域資源を活用した経済活動を行う上でも、地域の環境や景観が重要な要素になる。

このことから、美しく品格のある農山村の創造に向け、農山村の根幹であり、多様な主体の協働力により構築された「社会（コミュニティ）」、人と自然との共生関係によって創造・継承されてきた特色のある農山村の「環境」、地域の基幹産業として成長を続ける農山村の「経済」が、地域特性に応じてバランスよく調和することで持続性が確保¹されるよう、農業・農村施策を総合的に展開していく。



¹ 「美しく品格のある農山村」について、前プランでは「3つの要素それぞれの持続性が確保された姿」としていたが、本プランでは、地域特性に応じて、「3つの要素がバランスよく調和することにより持続性が確保された姿」としている。

社 会

農山村の社会（コミュニティ）は、農業の歴史と深く関わり、営農や水管理等の共同作業を通じて形成され、非農家も含めた冠婚葬祭等の様々な集落活動を通じて、その結びつきを強め、安定的なものとしてきた。

しかし、農業従事者の減少や高齢化に加え、都市化・混住化の進行、就業形態の変化、生活様式や価値観が多様化する中、地域内の地縁的な結びつきが希薄化し、農業活動はもとより、中山間地域等においては集落活動を維持していくことも困難になりつつある。

その一方で、都市住民等を含む様々な人々の「田園回帰」志向の高まりにより、農山村への移住や援農ボランティア等の動きが広がってきており、こうした人々が、恵まれた交通インフラを有する本県の優位性を活かし、農山村との多様な関わりを深め、持続可能な農山村づくりに積極的に参画することが求められる。

このため、農山村での集落活動により備わった合意形成力を基本としつつ、地域住民、行政や都市住民、外部人材や企業が主体となって、長期的な視点のもと、持続性に富んだ豊かな暮らしを享受できる地域のあり方を自ら考え、地域の将来構想の実現に取り組む「地域総働力」²を備えたコミュニティを形成していくことが重要である。

また、コミュニティ強化に向けては、これまでの農村資源の保全管理を重視した側面から、伝統文化の継承や教育、福祉の活動など、地縁組織として住民の暮らしに必要な様々な活動を担う農山村の機能複合性の重視へと視野を広げ、豊かな暮らしやライフスタイルを意識した取組を展開することも重要な視点である。



² 農業者や地域住民による「農村協働力」に、都市住民や企業等の地域外の協力を加えた「新たな力」行政と市民のように1対1に表現される協働より先に進んだ形態。組織や立場を問わず、地域に関係する全員が参画し、総力を挙げて地域づくりに取り組むこと。

環境

農山村の環境は、生物の多様性や眺望の良さ等によって、ゆとりと潤い、やすらぎに満ちた農山村固有のアメニティ（快適性）を私たちに提供している。

アメニティの源泉となっている農山村の多様な地域資源は、そこに住む人や訪れる人が、幸せや安らぎを感じる優れた環境を保持している。

農山村が持つアメニティは、郷愁をさそう原風景といえる環境を保全あるいは復元することのみによって実現されるものではない。恵まれた交通インフラがもたらす新たな価値を活用し、本県らしい「豊かな自然と都市的な利便性を併せて享受できる現代的な意義を持った農山村のアメニティ」を創出することが重要である

加えて、長い歴史の中で先人たちから、自然に対する畏敬の念や災害への脅威とともに受け継がれてきた、大地震や豪雨に対する防災意識のもと、災害への対策が適切に実施されていることも重要な視点である。



経済

農山村の基幹産業は、生産者の占める割合が小さくとも、その役割、土地利用の規模等からみても農林業である。また、その生産活動により、特徴的で季節を感じさせる景観等を生み出している。

本県の農業は、低コスト化や高付加価値化によって安定的かつ持続的に展開されるとともに、「食材の王国」である本県の多彩で高品質な農産物を生み出している。併せて、恵まれた交通インフラ、富士山に代表される景観等の地域資源を活かした農商工連携等によって地域経済をもけん引していくことが重要である。

また、中山間地域等において、農業や農地・農業用施設の有する多面的機能を活用し、時代の流れをつかんだ、農泊やジビエ、農福連携等、新たな視点を加えたビジネスを誘発することも重要な視点である。



静岡県経済産業ビジョン【森林・林業編】

静岡県森林共生基本計画



経済産業部森林・林業局
くらし・環境部環境局

平成 30(2018)年 3 月



第3章 基本方向と施策

【施策体系図】

目指す姿

「経済」「社会」「環境」が調和した多様性のある森林づくり

森林資源の利用と保全の両立による、美しく恵み豊かな魅力あふれる
「森林の都」しずおかを創造し、未来に引き継ぐ。

基本方向

1 森林資源の循環利用による 林業の成長産業化

《森林資源の循環利用による
「森林との共生」》

2 森林の多面的機能の維持・ 増進

《森林の適正な整備・保全による
「森林との共生」》

3 県民総参加による持続的で 魅力的な森づくり活動の推進

《森に親しみ、協働で進める
「森林との共生」》

施策

(1) 県産材の安定供給体制の確立

- ① 低コスト生産システムの定着
- ② 主伐と再造林の促進
- ③ 県産材の流通の最適化
- ④ 森林認証材の安定供給

(2) ビジネス林業の定着

- ① 林業経営体の経営改革
- ② 森林技術者の育成・確保

(3) 県産材製品の需要拡大

- ① 品質の確かな県産材製品の利用拡大
- ② 県産材製品の販路拡大
- ③ 県産材の製材・加工体制の拡充

(1) 森林の適正な整備

- ① 間伐などの森林整備の促進

(2) 森林の適正な保全

- ① 森林の公益的機能の回復
- ② 森林の公益的機能の向上
- ③ 自然環境の保全

(3) 魅力と強みを活かした山村づくり

- ① 特産林産物の安定供給と消費拡大
- ② 都市と山村の交流

(1) 県民の理解と参加の促進

- ① 県民の理解の促進
- ② 県民参加による森づくりの推進
- ③ 森づくり活動や環境教育を行う
人材等の養成及び確保
- ④ 森林経営管理の合意形成

(2) ビジネス林業の定着

《現状・課題》

- ① 林業経営体
 - ・木材生産における労働生産性は、向上しつつあるものの平成 28 年度時点で 3.8 m³/人日に留まっています。また、死傷災害は、県内で年間 40 件以上発生しています。
- ② 森林技術者
 - ・林業作業員数は、近年、横ばいで推移していますが、60 歳以上の割合が 4 割近くを占めています。
 - ・森林経営計画に基づいて伐倒・搬出などの木材生産を行うことができる森林技術者（林業作業士相当）は、年間 50 万 m³の生産に要する最低限の人数を確保していますが、今後、退職などによる人手不足が見込まれます。

《取組の方向》

- ① 林業経営体
 - ・労働安全、労働生産性、就労環境の向上など、林業経営体の経営改革を支援します。
- ② 森林技術者
 - ・林業への新規就業の促進、森林技術者の能力向上により、森林技術者の育成・確保を図ります。

《数値目標》

区分	指標名	現状値	目標値	総合計画
活動指標	木材生産の労働生産性	(2016 年度) 3.8m ³ /人日	(2021 年度) 5.6m ³ /人日	○

《主な取組》

① 林業経営体の経営改革

ア 林業労働安全の向上

- ・林業・木材製造業労働災害防止協会静岡県支部と連携し、安全パトロールや安全講習会の実施などにより、安全対策の徹底と安全装備の導入を促進します。
- ・静岡県林業労働力確保支援センター、静岡県森林組合連合会及び林災防静岡県支部が行う、伐木造材における安全技術の習得などの研修会を支援します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
林業労働安全の向上		安全パトロールや安全講習会の実施		
		伐木造材における安全技術の習得などの研修会を支援		

イ 労働生産性の向上

- ・ビジネス林業を目指す林業経営体に対し、経営資源の最適化に向けた課題の整理と

解決への取組を支援します。

- ・ ビジネス林業に取り組んでいる林業経営体に対し、更なる生産性の向上に向けたステップアップを支援します。
- ・ 林業経営体に対し、車両系（ハーベスタ又はプロセッサとフォワーダ）や架線系（タワーヤーダとプロセッサ）の生産システムを、森林の立地条件に応じて適切に選択するよう促します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
労働生産性の向上	ビジネス林業の定着を図る事業体数(累計)			
	27事業体	38事業体	49事業体	60事業体

ウ 就労環境の向上

- ・ 改善計画の認定を通じて、林業経営体の雇用環境などの向上の取組を支援します。
- ・ 林業経営体の社会保障の充実や労働安全の向上に対する取組を支援します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
就労環境の向上	林業経営体の雇用環境改善の取組を支援			

② 森林技術者の育成・確保

ア 林業への新規就業の促進

- ・ 静岡県林業労働力確保支援センターと連携し、林業の仕事の内容や就業条件などを情報提供するガイダンスや、林業体験会を開催します。
- ・ 林業経営体に対し、就業を希望する者の試用雇用を支援します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
林業への新規就業の促進	静岡県林業労働力確保支援センターの支援			
	100人	林業への新規就業者数 100人	100人	100人

イ 農林大学校における人材の育成

- ・ 森林・林業に関する幅広い知識を習得し、森林の多面的機能の向上と持続的な林業経営に貢献できる人材を育成します。
- ・ 農林大学校学生に対し、林業への就業に向けた研修の費用を支援します。
- ・ 農林大学校を、森林・林業に関する幅広い専門的な知識と理論に裏付けられた高度な実践力、課題対応能力を有する人材を育成する専門職大学に移行します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
農林大学校における人材の育成	専門職大学への移行準備		専門職大学の開学	

ウ 森林技術者などの能力向上

- ・ 木材生産などの林業技術を指導できる人材を育成します。
- ・ 技術者の林業技術と現場管理能力の習得を指導する全国森林組合連合会の県内での取組を支援します。
- ・ 林業経営体の職員に対し、森林GISやオープンデータの活用と、効率的な木材生産に必要な計画の作成を支援します（森林施業プランナー）。
- ・ 丈夫で簡易な路網を作設できるオペレーターや設計ができる技術者を育成します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
森林技術者などの能力向上		林業技術・知識の習得を支援		
	500人	500人	500人	500人
	適正な森林管理を担う森林技術者数(累計)			

1 要 旨

県立農林大学校の専門職大学への移行にあたり、理念や養成人材など根幹となる部分を議論するため、外部有識者等による基本構想策定委員会を4回開催し、平成30年2月5日に専門職大学基本構想を策定した。

2 開催実績

	開催日	議事
第1回	平成29年5月1日	・委員会設置趣旨及びスケジュール ・専門職大学の方向性について
第2回	平成29年8月31日	・農林大学校視察 ・基本理念、養成人材、学部学科、入学定員
第3回	平成29年10月2日	・農林業の担い手像 ・担い手に求められる能力 ・教育内容の概要
第4回	平成29年12月27日	・基本構想案について

3 基本構想の策定・公表

日時	実施事項
平成30年1月16日～2月4日	パブリックコメントの実施
2月5日	専門職大学（農林業）基本構想の策定
2月14日	専門職大学（農林業）基本構想の公表

《参考》専門職大学基本構想策定委員会委員名簿 (敬称略・50音順)

職名	氏名	現職
会長	生源寺 眞一	福島大学農学系教育研究組織設置準備室長 教授
委員	新井 映子	静岡県立大学食品栄養科学部教授
〃	片野 恵介	青年農業士（畜産）
〃	木宮 健二	学校法人常葉大学理事長
〃	鈴木 厚志	静岡県農業法人協会会長・農業経営士（施設園芸）
〃	竹川 暢昭	静岡県農業高等学校校長会会長（静岡農業高校校長）
〃	竹川 将樹	指導林家
〃	塚本 佳子	農業経営士（露地野菜）
〃	益田 昌史	国土経営研究会会長
〃	陽 捷行	（公財）農業・環境・健康研究所農業大学校校長
〃	吉林 章仁	静岡県副知事
〃	難波 喬司	静岡県副知事
〃	竹内 隆	静岡県農林技術研究所研究統括監

農林業法人の採用意識に関するアンケート調査について(報告)

平成 29 年 9 月

経済産業部農業局農業ビジネス課

1. 調査目的と方法

本アンケート調査は、県内の農林業法人を対象に、経営及び雇用の現状や、今後の方向性をたずね、専門職大学（専門職短期大学）の学部・学科や、教育内容の検討を行う基礎資料とすることを目的としている。

調査概要は表1のとおりである。調査項目は、経営概要、雇用状況、今後の事業方針、農林大学校卒業生の雇用状況、専門職大学制度の認知度の5項目である。

調査対象者は、ビジネス経営体を中心とした農業法人 390 法人及び認定林業事業体 61 事業体である。調査票は、調査対象者へ郵送にて直接送付し、同封した返信用封筒にて回答を依頼した。配布部数は451部で、回収数177部、有効回答数は166部であった。

表1 アンケート調査概要

調査名	農林業法人の採用意識に関するアンケート調査
調査項目	経営概要：経営作目、従事者数、売上高、資本金 雇用状況：平成 27～29 年の採用状況、採用時の重視点、雇用の不足感、求人 の応募状況 今後の事業方針：事業拡大意向、採用方針、採用したい人材 農林大学校卒業生の雇用状況：平成 27～29 年の農林大学校卒業生の採用状 況及び今後の採用意向、農林大学校卒業生に求める知識・能力・技能 専門職大学の認知度
調査対象者	農業法人 390 法人 認定林業事業体等 61 事業体
調査方法	郵送調査 ・調査対象者に調査票を直接送付し、郵送にて回収。
回収状況	配布部数 451 部 回収数 177 部 (39.2%) 有効回答数 166 部 (93.8%)
調査時期	平成 29 年 6～7 月

2 経営概要

(1) 経営作目

回答者の主な経営作目は、図2-1のとおりである。回答の多かった経営作目は、茶の25.3%（42経営体）、林業等（木材加工含む）の21.7%（36事業体）、野菜の19.9%（33経営体）であった。

(2) 平成28年度売上高

平成28年度売上高の分布をみると、「5千万超～1億円まで」の層が多くなった（図2-2）。

経営作目別の中央値では、「酪農・肉牛」（31,500万円）、「林業等」（20,000万円）、「養鶏」（14,500万円）、「養豚」（14,000万円）の順に多くなった（表2-1）。

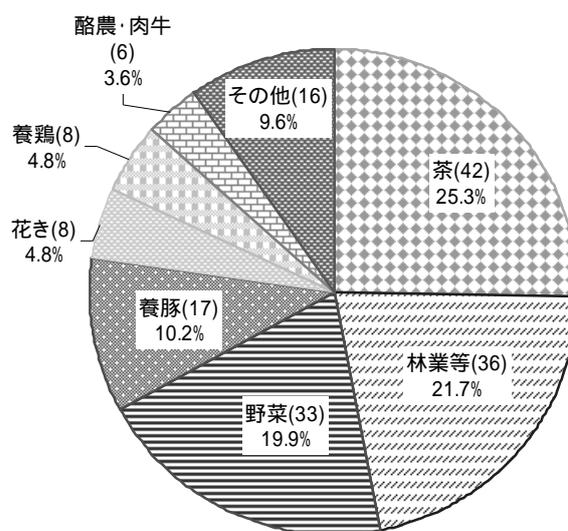


図2-1 主な経営作目等(n=166)
(括弧内の数字は回答数)

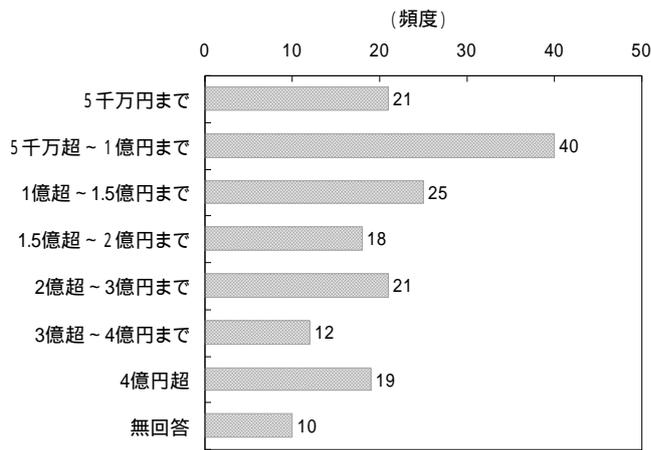


図2-2 平成28年度の売上高の分布(N=166)

表2-1 経営作目別の売上高の中央値

経営作目	回答数	(万円)
茶	40	10,647
林業等	33	20,000
野菜	31	11,000
養豚	16	14,000
花き	8	12,897
養鶏	7	14,500
酪農・肉牛	6	31,500
その他	15	7,400
全体	156	14,100

(3) 役員数及び従業員数

役員及び従業員数の分布は左側に偏った分布形になった(図2-3～2-6)。また、中央値及び平均値を見ると、役員数の中央値は3.0人/法人(平均値4.4人/法人)、従業員数の中央値は11.0人/法人(平均値15.8人/法人)であった。従業員のうち、正規社員の中央値は4.0人/法人(平均値8.6人/法人)、正規社員以外は中央値3.0人/法人(平均値7.0人/法人)であった(表2-2)。

経営作目ごとにみると、役員数では、林業等の中央値の8.5人/法人が最も多かった。従業員数では、養鶏の中央値18.0人/法人が最も多く、林業等17.0人/法人、野菜16.0人/法人が続いた。正規社員を見ると、林業等の中央値14.5人/法人が最も多く、非正規社員では野菜11.5人/法人が最も多かった(図2-7)。また、売上金額別にみると、役員数、従業員数、従業員数のうち正規社員数は、売上金額が大きくなると多くなる傾向にあった(図2-8)。

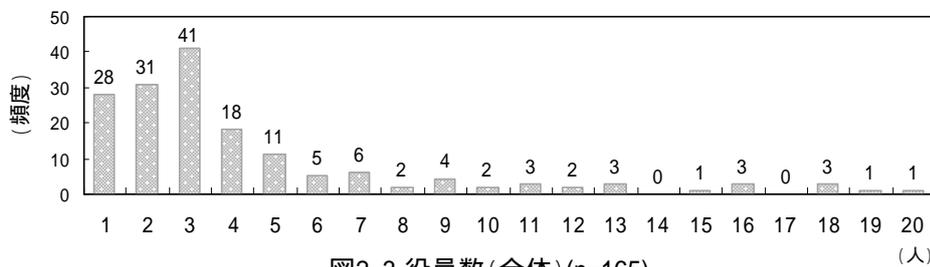


図2-3 役員数(全体)(n=165)

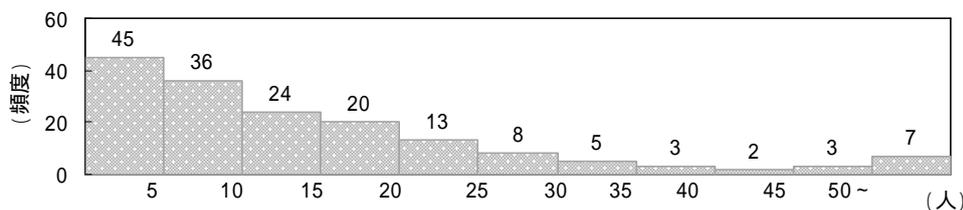


図2-4 従業員数(全体)(n=166)

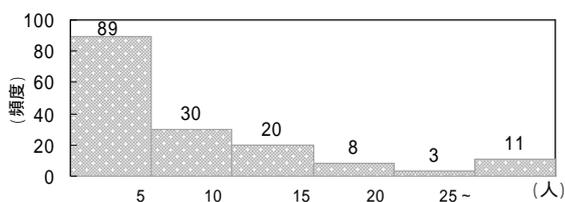


図2-5 従業員のうち正規社員(人)(n=161)

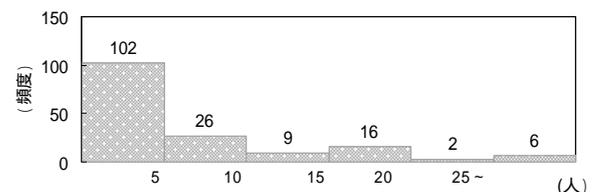


図2-6 従業員のうち正規社員以外(人)(n=161)

表2-1 役員数及び従業員数 (単位:人/法人)

項目	役員数	従業員数	(うち正規職員)	(うち正規職員以外)
平均値	4.4	15.8	8.6	7.0
中央値	3.0	11.0	4.0	3.0

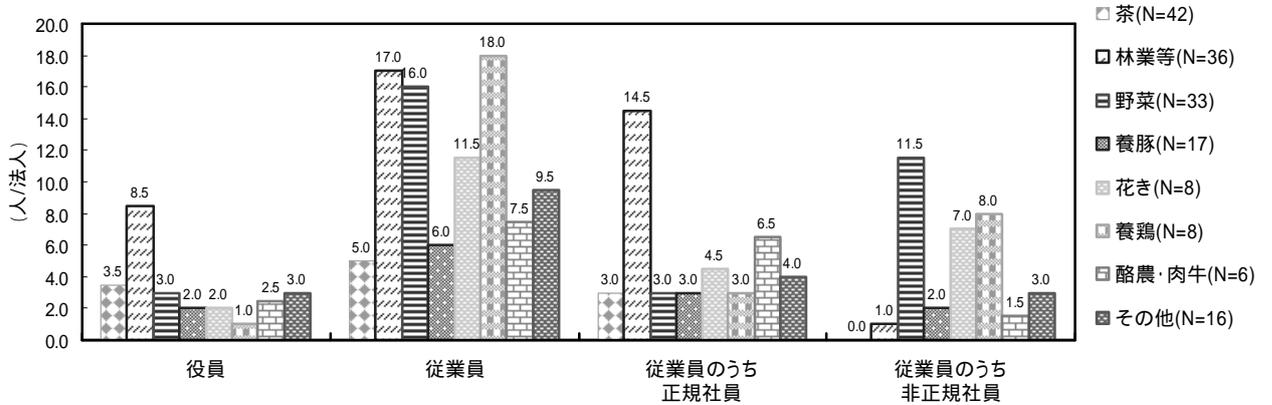


図2-7 1法人あたりの従事者数の中央値(経営作目別)

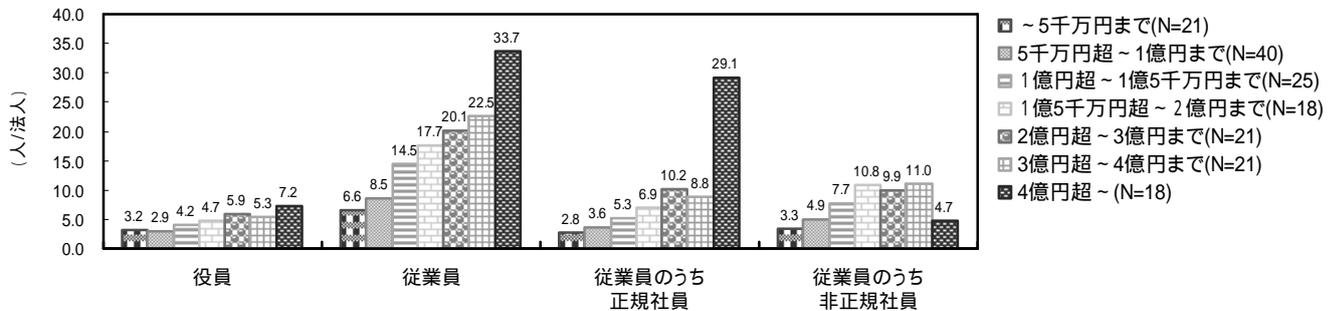


図1 法人あたりの平均従事者数(売上金額別)

(4) 資本金

資本金は、1千万円までが最も多くなった。

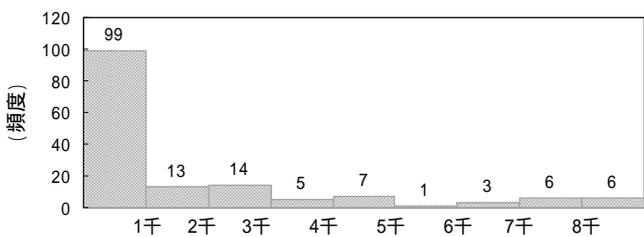


図2-9 資本金の頻度分布 (万円)

3 雇用状況

(1) 平成27~29年度の正規社員の雇用状況

平成27~29年の3年間の正規社員の雇用状況を見ると、雇用がない法人が72法人であった(図3-1)。また、学卒別等の人数で見ると、高校卒及びその他の雇用数が他の分類よりも多くなった(図3-2~3-7)。

次に、経営作目別に見ると、新卒者の正規雇用採用者数は「酪農・肉牛」が最も多く(図3-8)、新卒者以外は「養鶏」が最も多かった(図3-9)。

さらに、売上金額別みると、新卒者及び新卒者以外の正規雇用の採用は「4億円以上」が最も多くなった(図3-10、3-11)。

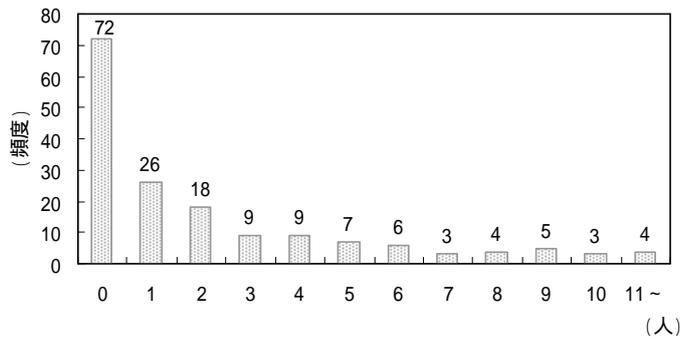


図3-1 平成27～29年の正規社員雇用状況(n=166)

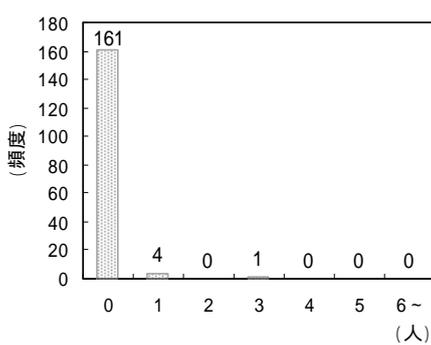


図3-2 正規社員(大学院卒)(n=166)

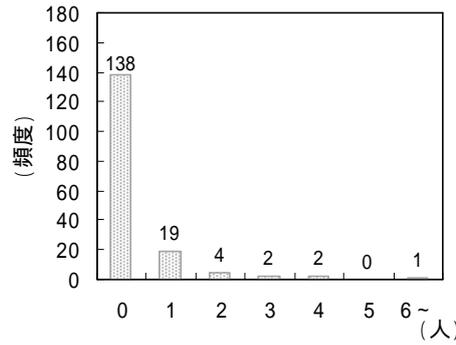


図3-3 正規社員(大学卒)(n=166)

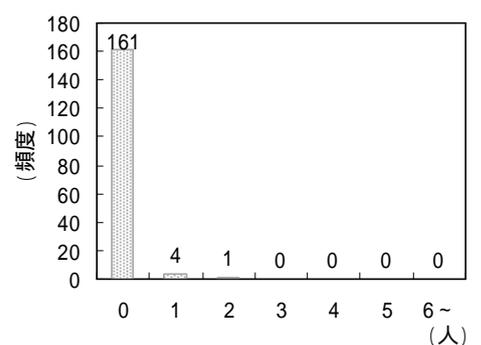


図3-4 正規社員(短期大学卒)(n=166)

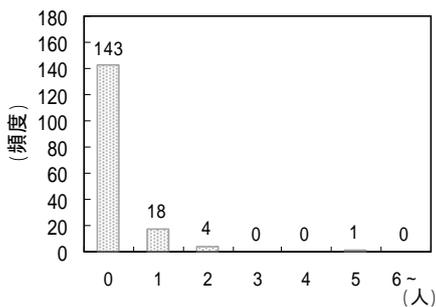


図3-5 正規社員(専修・専門学校卒)(n=166)

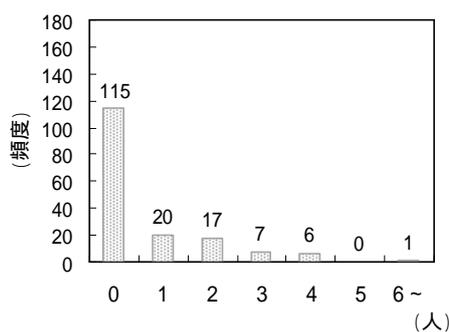


図3-6 正規社員(高校卒)(n=166)

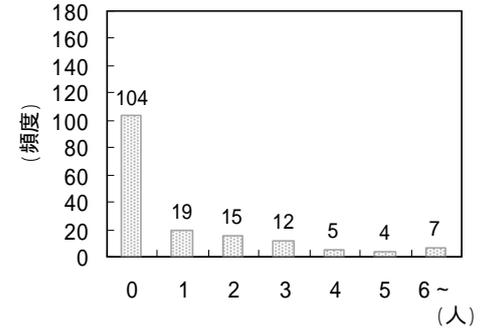


図3-7 正規社員(その他)(n=166)

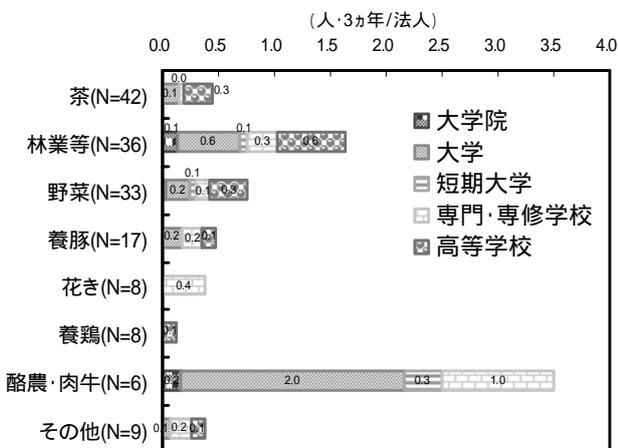


図3-8 1法人あたりの新卒者の平均採用人数(3か年あたり)(経営作目別)

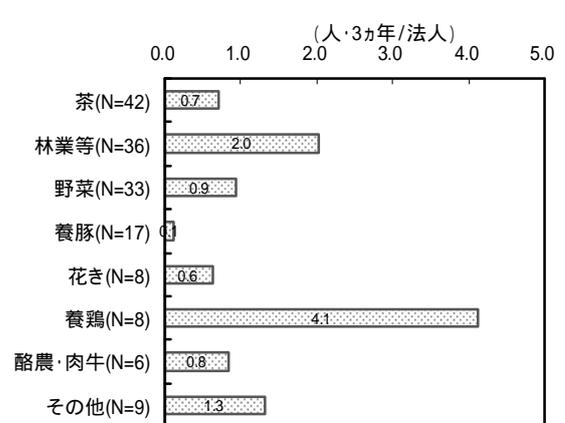


図3-9 1法人あたりの新卒者以外の平均採用人数(3か年あたり)(経営作目別)

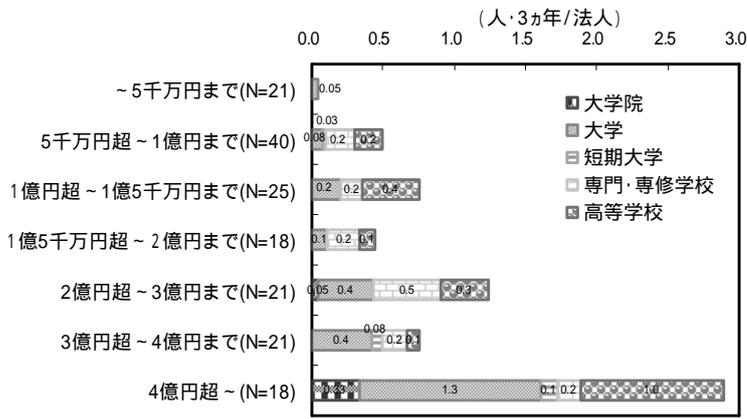


図3-10 1法人あたりの新卒者の平均採用人数(3ヵ年あたり) (売上金額別)

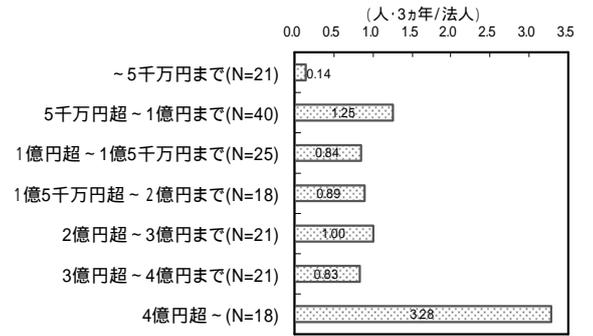


図3-11 1法人あたりの新卒者以外の平均採用人数(3ヵ年あたり) (売上金額別)

(2) 正規社員雇用時に重視する点

正社員雇用時に重視する点は、「意欲・熱意」、「人物(人柄)」の順に回答が多く、2つの回答が大部分を占めた(図3-12)。

(3) 雇用の不足感

雇用の不足感は、「不足感あり」が66.7%(回答数108)、「不足感なし」が33.3%(回答数54)であった(図3-13)。経営作目別では、林業等、野菜、養豚、その他で(図3-14)、売上金額別では「1億円超~1億5千万円まで」、「1億5千万円超~2億円まで」、「2億円超~3億円まで」で、不足感がやや高い傾向にあった(図3-15)。

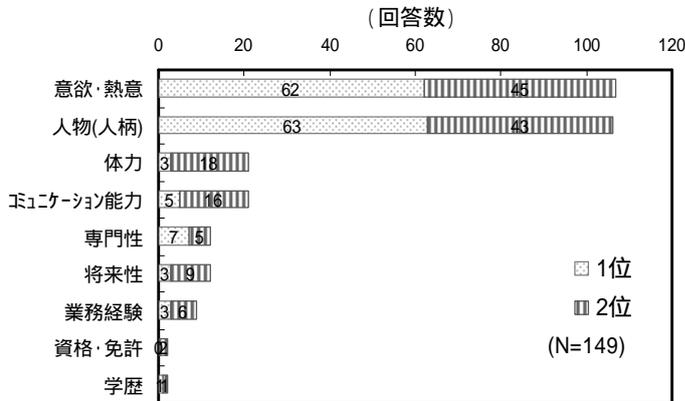


図3-12 正規社員採用時に重視する点

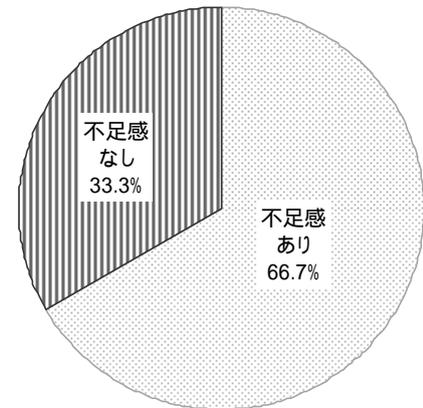


図3-13 雇用の不足感(n=162)

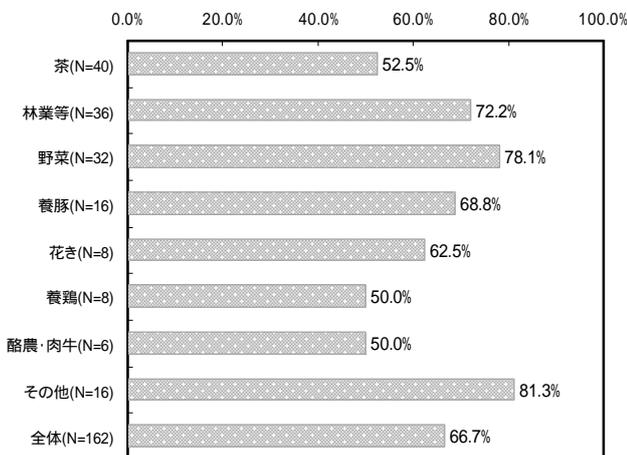


図3-14 雇用の不足感がある比率(経営作目別)

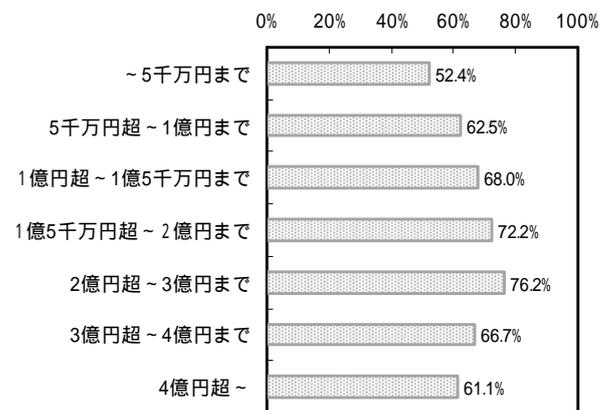


図3-15 雇用の不足感がある比率(売上額別)

また、不足する人数について、不足する正規社員の人数は1～3人(図3-16) 正規社員以外の人数は1～5人(図3-17)との回答が多かった。

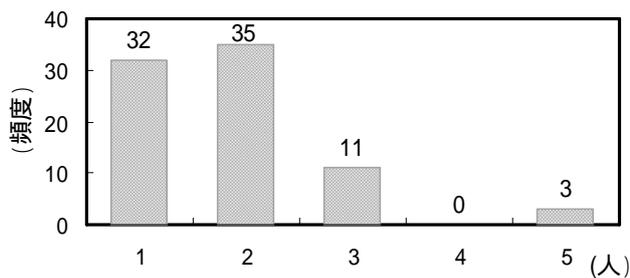


図3-16 不足している正規社員の人数(n=81)

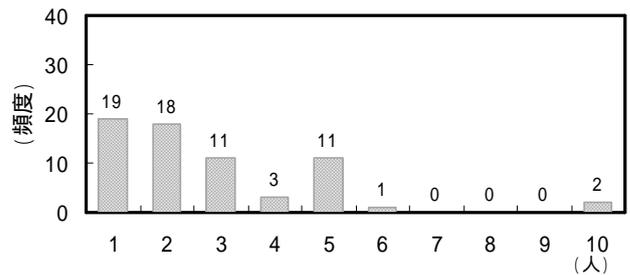


図3-17 不足している非正規社員の人数(n=65)

(4) 求人の応募状況

求人の応募状況を見ると、正規社員では、「募集しても応募がない」が21.1%(回答数23)、「応募はあるが応募者の資質が自社の求める基準に満たない」が26.6%(回答数29)、「応募はあるが求職者が求める処遇・労働条件と自社の掲示内容が折り合わない」が6.4%(回答数7)、「応募もあり採用もしているが、早期に退職してしまう」が5.5%(回答数6)、「人材の不足感はあるが、求人するまで至っていない」が40.4%(回答数44)となった(図3-18)。

また、正規社員以外では「募集しても応募がない」が29.9%(回答数29)、「応募はあるが応募者の資質が自社の求める基準に満たない」が7.2%(回答数7)、「応募はあるが求職者が求める処遇・労働条件と自社の掲示内容が折り合わない」が9.3%(回答数9)、「応募もあり採用もしているが、早期に退職してしまう」が7.2%(回答数7)、「人材の不足感はあるが、求人するまで至っていない」が46.4%(回答数45)となった(図3-19)。

正規社員及び非正規社員ともに、「募集しても応募がない」と「人材の不足感はあるが、求人するまで至っていない」の回答が多くなった。

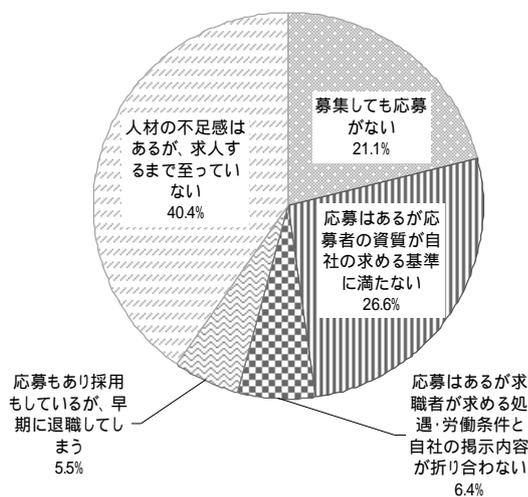


図3-18 求人の応募状況(正社員)(n=108)

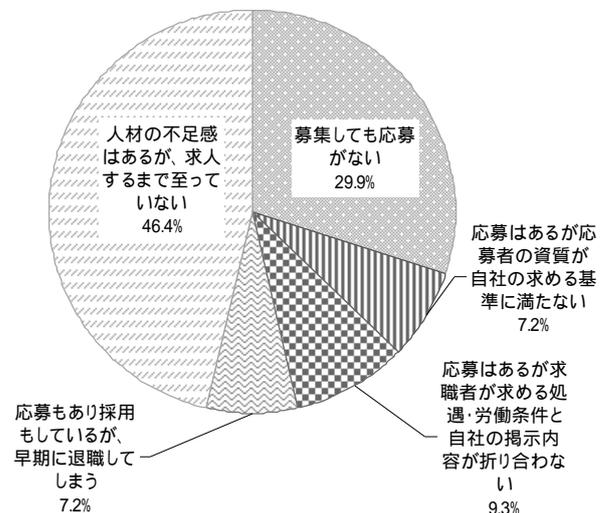


図3-19 求人の応募状況(正社員以外)(n=97)

4 今後の事業方針

(1) 今後の事業の拡大や強化の方針

今後の事業の拡大・強化について、「考えている」が77.9%(回答数127)、「考えていない」が22.1%(回答数36)であり、8割近くが事業の強化・拡大を考えていた(図4-1)。経営作目別で見ると、林業等、野菜、酪農・肉牛で強化・拡大意向が高かった(図4-2)。また、売上金額別で見ると、「～5千万円まで」の層は強化・拡大意向が低かった(図4-3)。さらに、拡大・強化する部門は、「生産・販売・現場部門」、「販売部門」、「加工部門」、「管理部門」の順に多くなった(図4-4)。経営作

目別で見ると、「生産・販売・現場部門」の強化・拡大意向が高いのは、茶、野菜、花き、酪農・肉牛、その他、「加工部門」の強化・拡大意向が高いのは茶及び養鶏、「販売部門」の拡大意向が高いのは養鶏、その他、「管理部門」は花き及び酪農・肉牛であった（図4-5）

さらに、売上金額別にみると、生産部門及び販売部門の強化・拡大意向は全体的に高く、また管理部門は売上金額が高くなるにつれて、強化・拡大意向が高くなる傾向が見られた（図4-6）

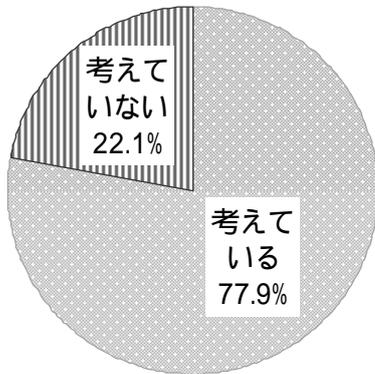


図4-1 今後の事業強化・拡大傾向(n=163)

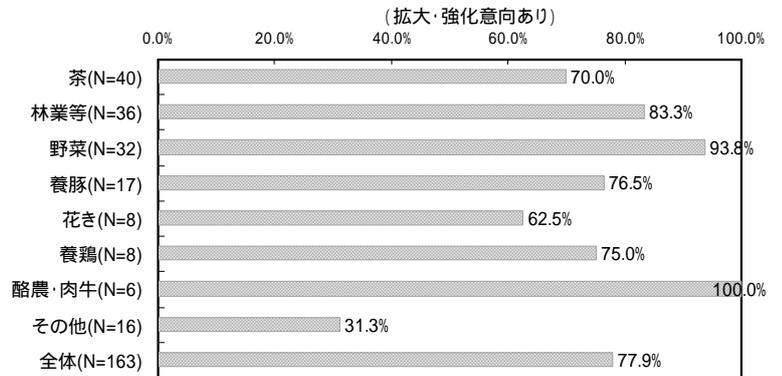


図4-2 事業の拡大意向(経営作目別)

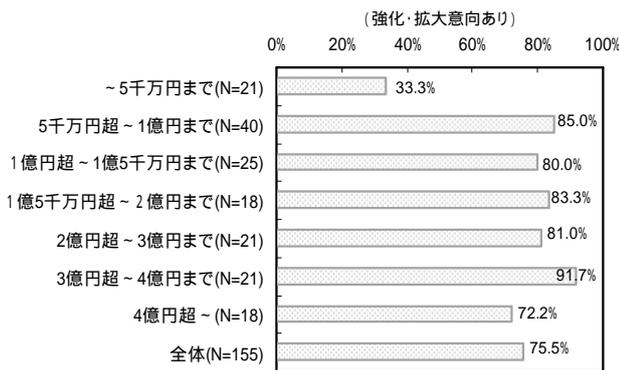


図4-3 今後の事業の強化・拡大意向(売上規模別)

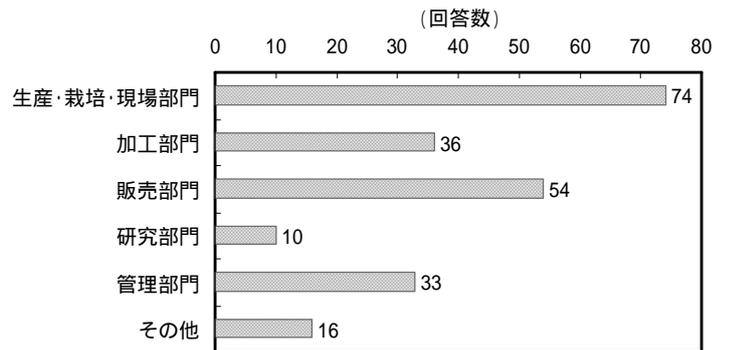


図4-4 強化・拡大する事業部門(複数回答、n=126)

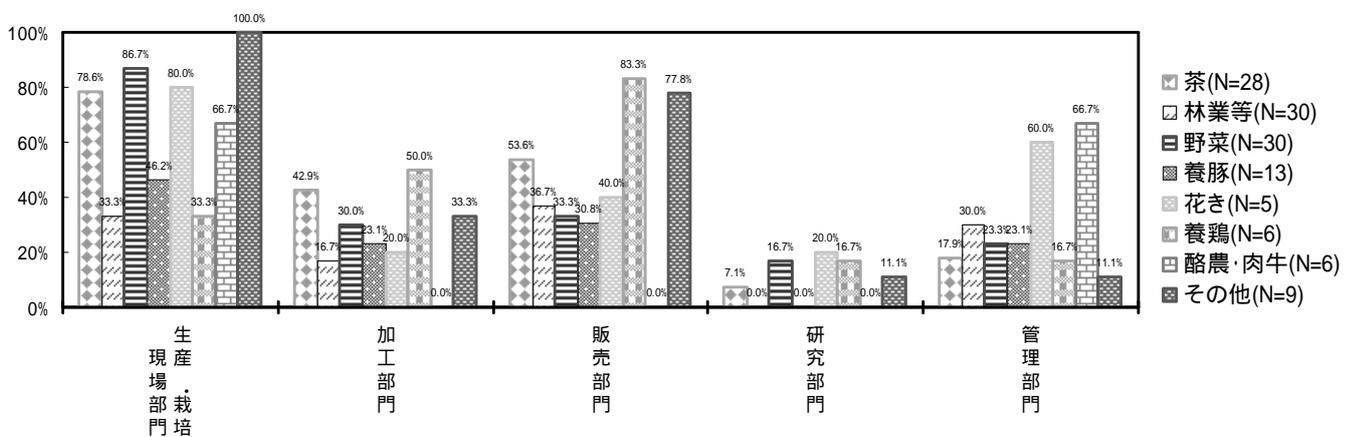


図4-5 強化・拡大したい部門(複数回答、経営作目別)

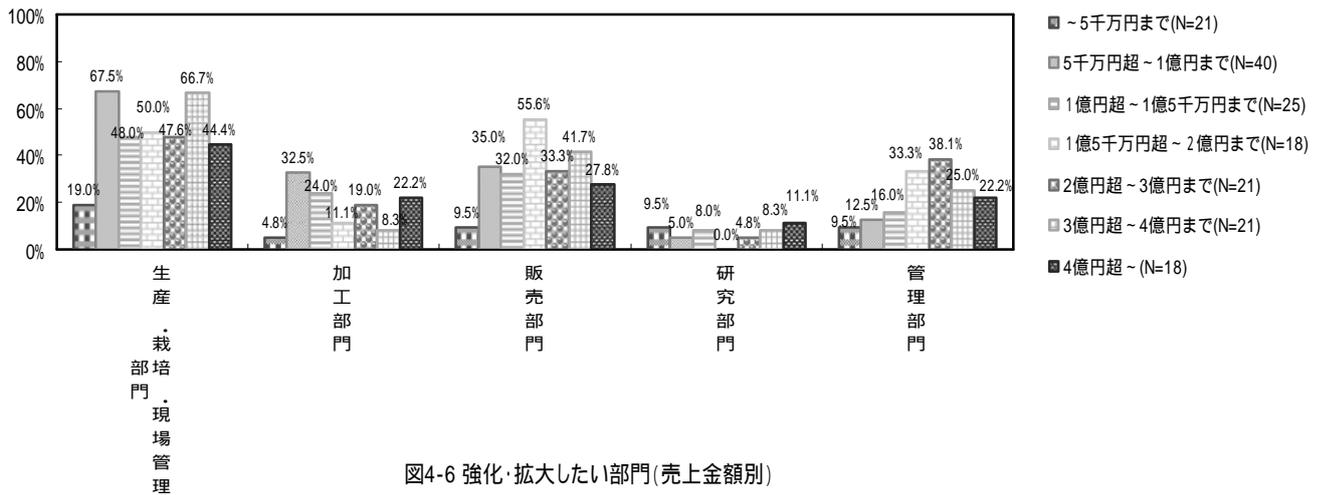


図4-6 強化・拡大したい部門(売上金額別)

(2) 今後の採用方針

今後の採用方針は、正規社員は「現状より増やす」が53%（回答数83）、「現状どおり」が28%（回答数45）、「現状より減らす」が1%（回答数1）、「採用予定なし」が18%（回答数29）となった。また、非正規社員は「現状より増やす」が48%（回答数76）、「現状どおり」が25%（回答数40）、「現状より減らす」が2%（回答数3）、「採用予定なし」が25%（回答数39）となった。正規社員及び非正規社員ともに、半数近くが現状よりも採用を増やす方針であった。

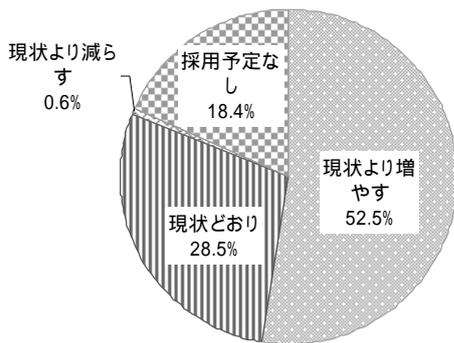


図4-7 今後の採用方針(正規社員)(n=158)

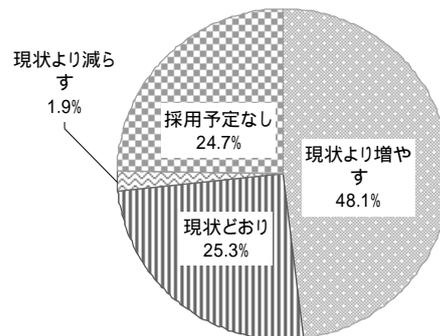


図4-8 今後の採用方針(非正規社員)(n=158)

(3) 今後採用したい人材

今後採用したい人材は、「圃場・現場作業員」、「圃場・現場管理責任者」の回答数が特に多かった。

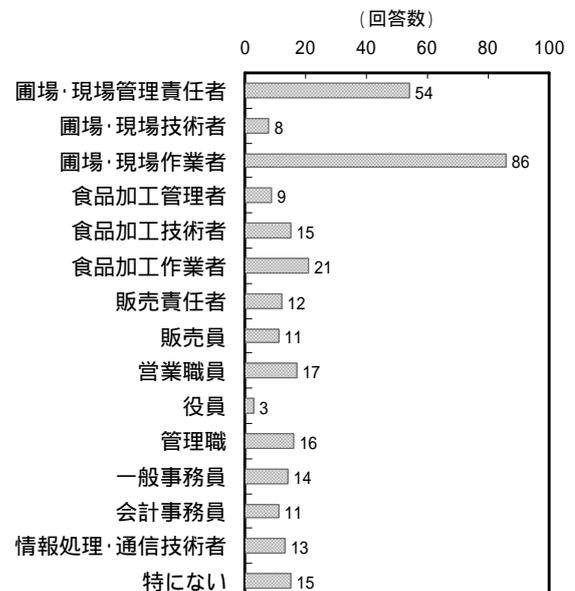


図4-9 採用したい人材(複数回答、n=155)

5 農林大学校卒業生の雇用状況

(1) 平成27～29年度までの3年間の雇用状況と評価

農林大学校卒業生の平成27～29年度の3年間の採用状況をみると、養成部卒業生を「1名採用」は11.4%（回答数19）、「2名採用」は2.4%（回答数4）であった（図5-1）。また、研究部卒業生は、「1名採用」が0.6%（回答数1）、「2名採用」が0.6%（回答数1）であった（図5-2）。

その評価をみると、養成部卒業生では、「とても満足」が43.5%（回答数10）、「ある程度満足」が39.1%（回答数10）であり、2つの回答をあわせた82.6%が満足していた。また、「どちらともいえない」が4.3%（回答数1）、「あまり満足でない」が8.7%（回答数2）、「まったく満足していない」が4.3%（回答数1）であった（図5-3）。なお、研究部卒業生の評価は、「とても満足」の回答数が1、「ある程度満足」の回答数が1であった。

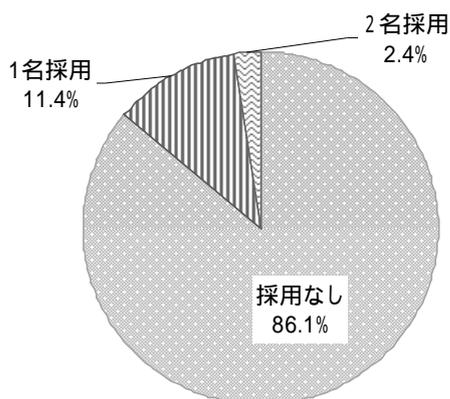


図5-1 平成27～29年の養成部卒業生の採用状況(n=166)

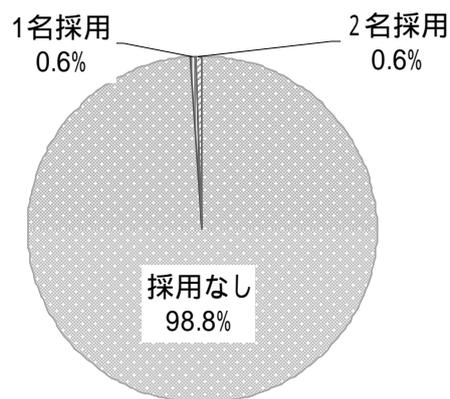


図5-2 平成27～29年の研究部卒業生の採用状況(n=162)

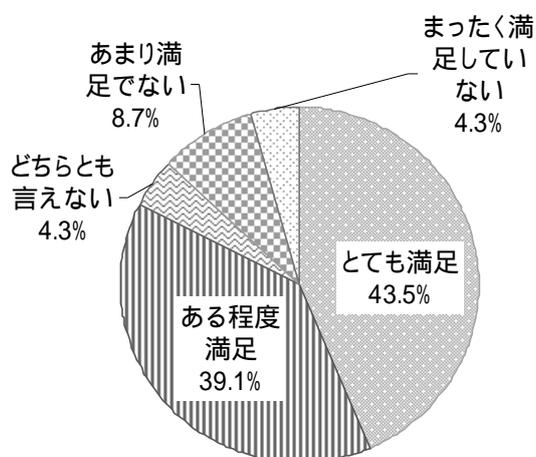


図5-3 養成部卒業生の評価(n=22)

(2) 農林大学校卒業生の採用意向

養成部卒業生の採用意向について、「採用したい」が27.4%（回答数40）、「能力次第で採用したい」が31.5%（回答数46）、「採用しない」が13.7%（回答数20）、「分からない」が27.4%（回答数40）であり、「採用したい」と「能力次第で採用したい」を合わせた58.9%に採用意向があった。

一方、研究部卒業生の採用意向は、「採用したい」が21.9%（回答数32）、「能力次第で採用したい」が24.0%（回答数35）、「採用しない」が13.0%（回答数19）、「分からない」が41.1%（回答数60）であり、「採用したい」と「能力次第で採用したい」を合わせた45.9%に採用意向がみられた。採用意向は、養成部卒業生がやや高かった。

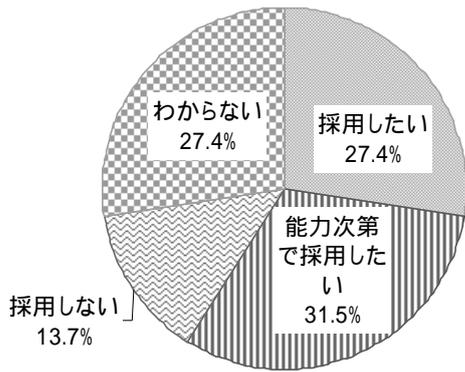


図5-4 養成部卒業生の採用意向(n=146)

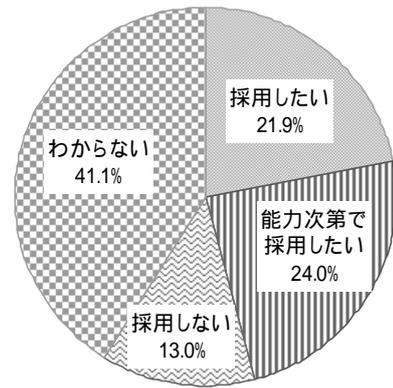


図5-5 研究部卒業生の採用意向(n=146)

(3) 求める知識・能力・技術

農林大学校卒業生に求める知識・能力・技術は、「植物栽培の基礎知識」、「植物栽培の基礎技術」、「スマート農業」、「農業経営の知識」、「食品安全の知識」の回答数が多かった(図5-6、5-7)。また、次の式でスコアを計算した結果(表5-1) 図5-6及び5-7の結果と同様となった。

<スコア計算式>

$$\text{スコア} = (\text{1位の回答数} \times 3) + (\text{2位の回答数} \times 2) + (\text{3位の回答数} \times 1)$$

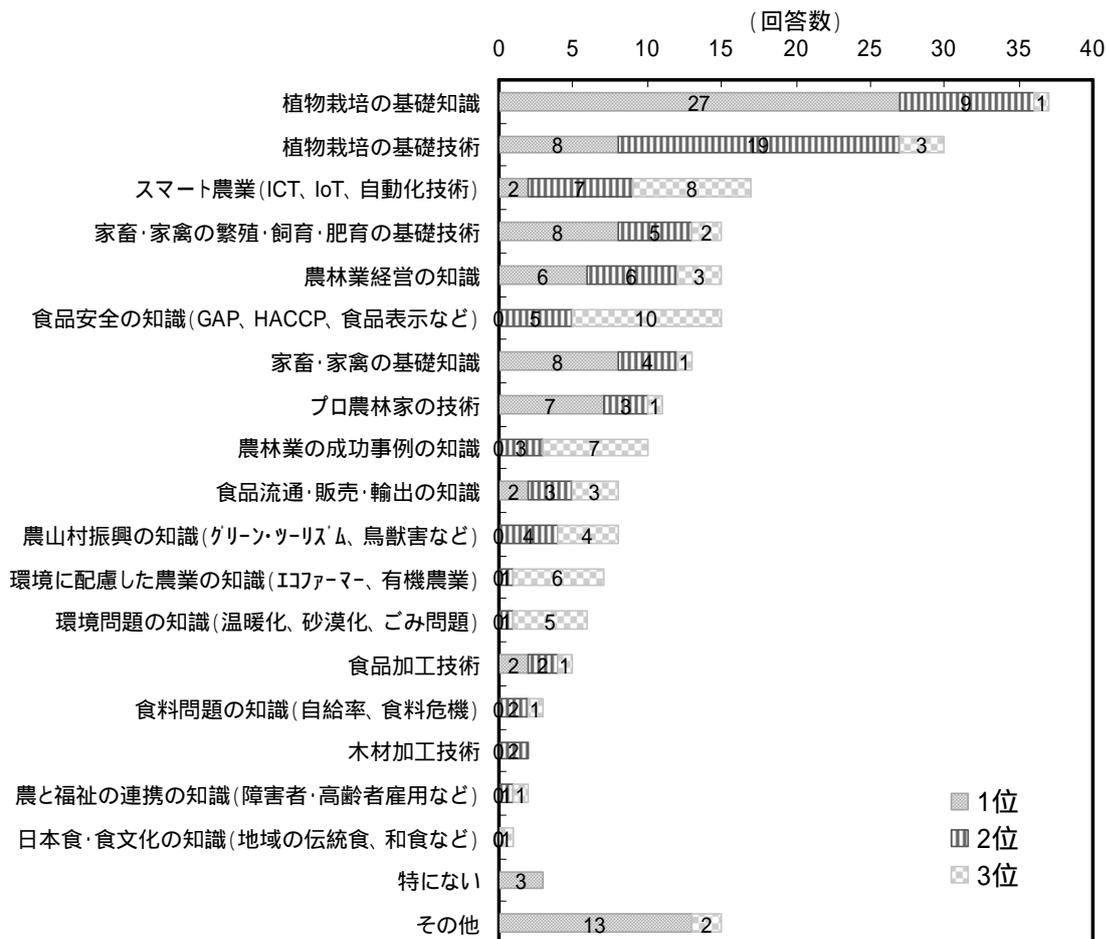


図5-6 養成部卒業生に求める知識・能力・技術(1～3位を選択、n=85)

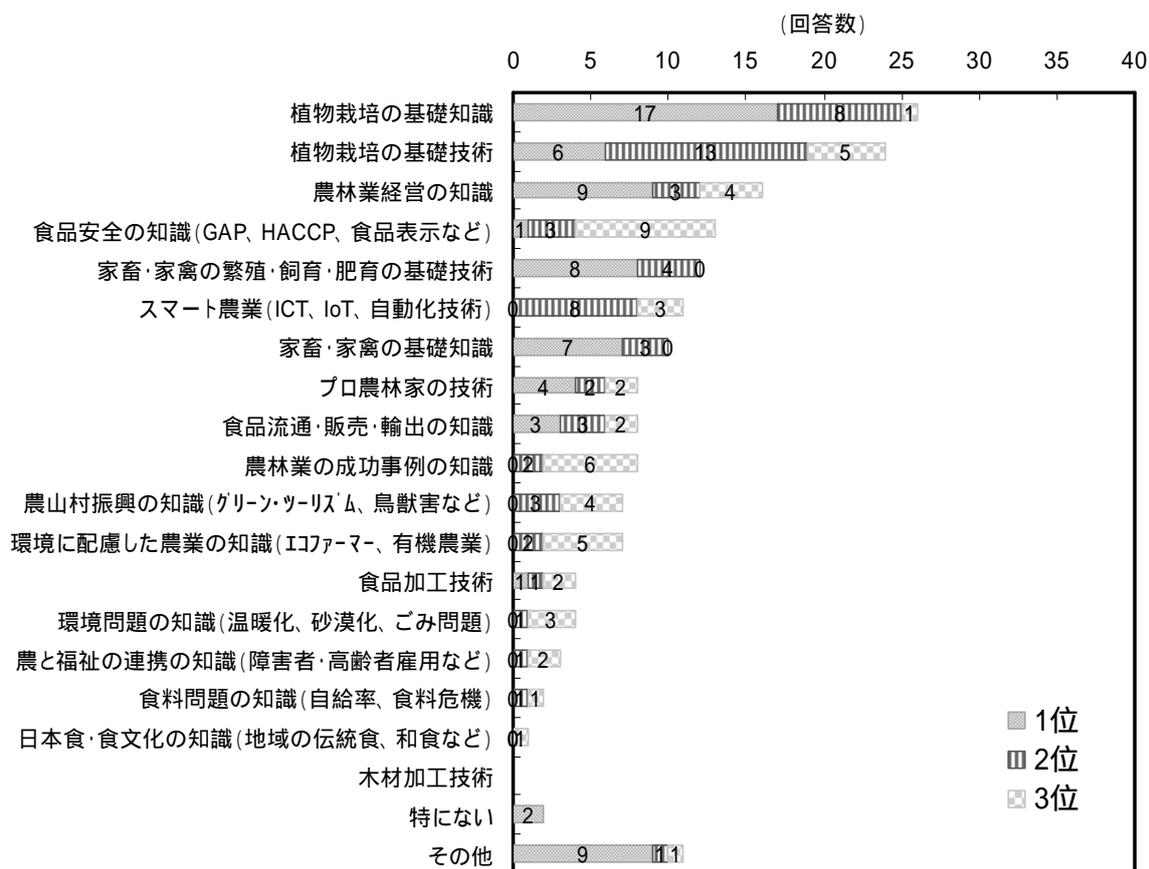


図5-7 研究部卒業生に求める知識・能力・技術(1～3位選択、n=66)

表5-1 農林大学校卒業生に求める知識・技能のスコア

項目	スコア	
	養成部	研究部
植物栽培の基礎知識	100	68
植物栽培の基礎技術	65	49
家畜・家禽の繁殖・飼育・肥育の基礎技術	36	32
家畜・家禽の基礎知識	33	27
農林業経営の知識	33	37
プロ農林家の技術	28	18
スマート農業(ICT、IoT、自動化技術)	28	19
食品安全の知識(GAP、HACCP、食品表示など)	20	18
食品流通・販売・輸出の知識	15	17
農林業の成功事例の知識	13	10
農山村振興の知識(グリーン・ツーリズム、鳥獣害など)	12	10
食品加工技術	11	7
環境に配慮した農業の知識(エコファーマー、有機農業)	7	9
環境問題の知識(温暖化、砂漠化、ごみ問題)	7	5
食料問題の知識(自給率、食料危機)	5	3
木材加工技術	4	0
農と福祉の連携の知識(障害者・高齢者雇用など)	3	4
日本食・食文化の知識(地域の伝統食、和食など)	1	1

スコア = (1位の回答数 × 3) + (2位の回答数 × 2) + (3位の回答数 × 1)

6 専門職大学の認知度

新たに創設された大学制度「専門職大学」を「知っている」と回答した割合は31%であった(図6-1)。また、農林大学校が専門職大学への移行を検討していること「知っている」の割合は29%であった(図6-2)。

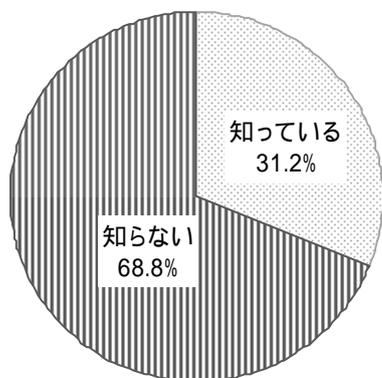


図6-1 専門職大学の認知度(n=150)

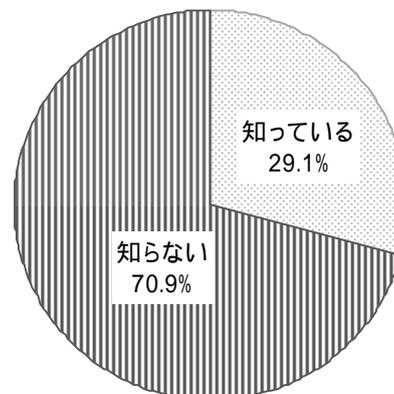


図6-2 専門職大学移行への認知度(n=147)

7 まとめ

- ・ 直近3年間の雇用状況を見ると、正規社員の雇用数は全体的に少ないが、経営作目では酪農・肉牛、売上金額別では4億円以上の雇用数は、他と比較して多かった。
- ・ 雇用の不足感は7割近くの農林業法人が感じているが、求人するまでに至っていない農林業法人は4割強である。
- ・ 事業の強化・拡大意向を見ると、農林業法人の8割近くが強化・拡大を考えている。特に生産・栽培・現場部門への強化・拡大意向が高く、圃場・現場管理者及び作業者を雇用したいと考えている農林業法人は多い。また、販売部門、加工部門、管理部門の強化・拡大意向も少なくなかった。
- ・ 管理部門は、売上金額が高いほど強化・拡大したいと考えている農林業法人が増加する傾向にあり、今後、管理部門の人材が必要になると推察される。
- ・ 直近3年間の農林大学校卒業生の雇用数は少ない。しかし、今後採用したい意向を示している農林業法人は、2年制の養成部では約6割、4年制の研究部では約5割弱であり、どちらのニーズもあるが、2年制のニーズの方がやや高かった。
- ・ 農林業法人が農林大学校卒業生に求める知識・技術は、生産に必要な基礎知識・技術に関する回答が多かった。また、農林業経営の知識やプロの技術、スマート農業、食品安全の知識をあげる農林業法人も多かった。
- ・ 現状の農林業法人が最も必要とする人材は、栽培技術・知識を持った生産・栽培・現場部門の人材であるが、法人の規模が拡大するにつれ、管理部門の人材の需要が増すことが示唆された。

農林業法人の採用意識に関するアンケート調査

- 回答の記入上のお願い -

- ・ 回答は、あてはまる選択肢の番号に を付けてください。また、別に記入欄があるものについては、番号または字句を回答欄に記入してください。
- ・ なお、あらかじめ添付のリーフレットを御覧いただいた後、回答願います。

調査実施機関 静岡県経済産業部農業局農業ビジネス課担い手育成班

(問合せ先) 担当：竹内、菊池、工藤 TEL . 054-221-2754 FAX . 054-221-3688

貴法人について伺います。

問1 貴法人の主な作目(飼育畜種)と栽培面積(飼育頭(羽)数)について、お答えください。
(該当する作目(飼育畜種)の欄に栽培面積(飼育頭(羽)数)を記入)

作目 (飼育畜種)	茶	野菜	花き	水稲	果樹	林業
栽培面積 (飼育頭(羽)数)	ha	ha	ha	ha	ha	ha

作目 (飼育畜種)	養豚	養鶏	酪農	肉牛	その他 ()
栽培面積 (飼育頭(羽)数)	頭	羽	頭	頭	

問2 役員数及び従業員数について、お答えください。(数字を記入)

役員	従業員		
	(うち正社員(正規職員))		(うちパート)
人	人	人	

問3 売上高及び資本金について、お答えください。(数字を記入)

平成 28 年度売上高	円	資本金	円
-------------	---	-----	---

雇用状況について伺います。

問4 平成 27～29 年度の正社員の採用人数について、お答えください。
(該当する欄に数字を記入)

年度	新 卒					その他 ()
	大学院	大学	短期 大学	専門学校 専修学校 (農大含む)	高等 学校	
平成 27 年度	人	人	人	人	人	人
平成 28 年度	人	人	人	人	人	人
平成 29 年度	人	人	人	人	人	人

問5 正社員の採用時に重視する点について、上位2つまで選び番号でお答えください。

1. 専門性	2. 人物(人柄)	3. 体力
4. 意欲・熱意	5. コミュニケーション能力	6. 業務経験
7. 将来性	8. 資格・免許	9. 学歴
10. その他()		
<回答欄>	1位	2位

問6 雇用の不足感について、お答えください。また、不足感がある場合は不足している人数をお答えください。

(1つに)

(不足感がある場合は人数を記入)

1. 不足感がある
2. 不足感はない

正社員	人程度
正社員以外(パート等)	人程度

問7 求人応募状況について、正社員と正社員以外に分けて、お答えください。(番号を記入)

1. 募集しても応募がない			
2. 応募はあるが応募者の資質が自社の求める基準に満たない			
3. 応募はあるが求職者が求める処遇・労働条件と自社の掲示内容が折り合わない			
4. 応募もあり採用もしているが、早期に退職してしまう			
5. 人材の不足感はあるが、求人するまで至っていない			
<回答欄>	正社員		正社員以外

今後の事業方針について伺います。

問8 今後、事業の拡大や強化を考えているか、お答えください。また、考えている場合は、該当部門をすべてお答えください。

(1つに)

<部門> (該当する部門すべてに)

1. 考えている
2. 考えていない

栽培部門	加工部門	販売部門
研究部門	管理部門	その他()

問9 今後の採用方針について、お答えください。(それぞれ1つに)

正社員等	1. 現状より増やす	2. 現状どおり	3. 現状より減らす	4. 採用予定なし
正社員以外	1. 現状より増やす	2. 現状どおり	3. 現状より減らす	4. 採用予定なし

問10 今後、採用したい人材について、お答えください。(該当するものすべてに)

1. 圃場管理責任者	5. 食品加工業者	9. 役員	13. 情報処理・通信技術者
2. 圃場作業員	6. 販売責任者	10. 管理職	14. 特にない
3. 食品加工管理者	7. 販売員	11. 一般事務員	15. その他
4. 食品加工技術者	8. 営業職員	12. 会計事務員	()

県立農林大学校卒業生の雇用状況について伺います。

問 11 過去3年間（平成27～29年度）の農林大学校卒業生の雇用人数を、養成部と研究部の別にお答えください。また、雇用実績がある場合はそれぞれの評価をお答えください。

課程	養成部	研究部
人数	人	人
評価 (それぞれ 1つに)	1. とても満足 2. ある程度満足 3. どちらとも言えない 4. あまり満足でない 5. まったく満足していない	1. とても満足 2. ある程度満足 3. どちらとも言えない 4. あまり満足でない 5. まったく満足していない

問 12 卒業生のうち、今後の養成部卒業生の採用意向についてお答えください。（1つに）

	養成部
意向	1. 採用したい 問13へ
	2. 能力次第で採用したい 問13へ
	3. 採用しない 問14へ
	4. わからない 問15へ

< 「採用したい」、「能力次第で採用したい」を回答された方に伺います。 >

問 13 養成部卒業生に求める知識・能力・技術について、上位3つまで選び番号でお答えください。

1. 植物栽培の基礎知識	11. 食品安全の知識（GAP、HACCP、食品表示など）		
2. 植物栽培の基礎技術	12. 日本食・食文化の知識（地域の伝統食、和食など）		
3. 家畜・家禽の基礎知識	13. 農山村振興の知識（グリーン・ツーリズム、鳥獣害など）		
4. 家畜・家禽の繁殖・飼育・肥育の基礎技術	14. 農と福祉の連携の知識（障害者・高齢者雇用など）		
5. プロ農林家の技術	15. 環境に配慮した農業の知識（エコファーマー、有機農業）		
6. スマート農業（ICT、IoT、自動化技術）	16. 環境問題の知識（温暖化、砂漠化、ごみ問題）		
7. 農林業経営の知識	17. 食料問題の知識（自給率、食料危機）		
8. 食品加工技術	18. 農林業の成功事例の知識		
9. 木材加工技術	19. 特にない		
10. 食品流通・販売・輸出の知識	20. その他（ ）		
回答欄	1位	2位	3位

問 15へ

< 「採用しない」を選択された方に伺います >

問 14 養成部卒業生を採用しない理由について、お答えください。

(自由記入)

問 15へ

問 15 卒業生のうち、今後の研究部卒業生の採用意向についてお答えください。(1つに)

	養成部	
意向	1. 採用したい	問 16 へ
	2. 能力次第で採用したい	問 16 へ
	3. 採用しない	問 17 へ
	4. わからない	問 18 へ

< 「採用したい」、「能力次第で採用したい」を回答された方に伺います。 >

問 16 研究部卒業生に求める能力・技術について、上位3つまでを選び番号でお答えください。

1. 植物栽培の基礎知識	11. 食品安全の知識 (GAP、HACCP、食品表示など)		
2. 植物栽培の基礎技術	12. 日本食・食文化の知識 (地域の伝統食、和食など)		
3. 家畜・家禽の基礎知識	13. 農山村振興の知識 (グリーン・ツーリズム、鳥獣害など)		
4. 家畜・家禽の繁殖・飼育・肥育の基礎技術	14. 農と福祉の連携の知識 (障害者・高齢者雇用など)		
5. プロ農林家の技術	15. 環境に配慮した農業の知識 (エコファーマー、有機農業)		
6. スマート農業 (ICT、IoT、自動化技術)	16. 環境問題の知識 (温暖化、砂漠化、ごみ問題)		
7. 農林業経営の知識	17. 食料問題の知識 (自給率、食料危機)		
8. 食品加工技術	18. 農林業の成功事例の知識		
9. 木材加工技術	19. 特にない		
10. 食品流通・販売・輸出の知識	20. その他 ()		
回答欄	1 位	2 位	3 位

問 18 へ

< 「採用しない」を選択された方に伺います >

問 17 研究部卒業生を採用しない理由について、お答えください。

(自由記入)

問 18 へ

専門職大学の制度についてお答えください。

問 18 新たな教育制度「専門職大学 (専門職短期大学)」が創設されたことを知っていますか。

(1つに)

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

問 19 静岡県では、農林大学校を専門職大学へ移行することを検討しています。このことを知っていますか。(1つに)

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

差し支えなければ、法人名と連絡先をご記入ください。

法人名	
連絡先 (電話番号、メールアドレス等)	

~ ご協力をありがとうございました ~

高校生の進学意識に関するアンケート調査について（報告）

平成 29 年 9 月

経済産業部農業局農業ビジネス課

1 調査方法と分析方法

本アンケート調査は、農林大学校への進学者数が多い県内の16高校の3年生を対象とし、高校生の進学意向や求める教育内容、農林大学校への進学意向などを把握し、専門職大学の学部・学科、教育内容の検討を行う基礎資料とすることを目的としている。

アンケートの調査内容は表1-1の通りである。調査項目は、回答者の属性、希望する進路先や進路地域、進学先選択時の重視事項と学びたい教育内容、将来の職業意識、農林大学校への進学希望と学びたい教育内容、専門職大学の認知度の6項目である。

調査票は調査対象高校へ郵送にて送付し、高校生への調査票の配布・回収を依頼した。

回収状況は、表1-2の通りである。回収数は1,366部で、このうち1,356部を有効回答数とした。

表1-1 アンケート調査の内容

調査名称	高校生の進学意識に関するアンケート調査
調査項目	回答者の属性 在学している高校及び学科、居住地、性別、出身（農家、非農家等） 希望する進路先や進路地域 希望する進路先、希望する進路地域 進学先選択時の重視事項と学びたい教育内容 進学先を選ぶ際の重視点、学びたい学問分野、農業分野で学びたい内容 将来の職業意識 将来の職業希望、地元志向、職業としての農業のイメージ 農林大学校への進学希望と学びたい教育内容 農林大学校への進学希望とその課程、農林大学校で学びたい内容 専門職大学の認知度
調査方法	郵送調査 ・調査対象高校に調査用紙の配布・回収を依頼
調査対象	農林大学校への進学者が多い県内16高校の3年生 1,575名

表1-2 回答状況

配布部数	1,575部
回収数	1,366部（回答率86.7%）
有効回答数	1,356部（有効回答率99.3%）

2 回答者属性

(1) 学科

回答者の学科の比率は、農業系学科が 56.3%(763 名)、普通科・理数科 19.9%(270 名)、総合学科 14.3%(194 名)、商業科 9.1%(123 名)となった(図 2-1)。

(2) 性別

回答者の性別比は、男性が 46.4%(629 名)、女性が 53.0%(719 名)であり女性がやや多い結果となった(図 2-2)。また、学科別に見ると、農業系学科及び総合学科は女性比率が高いが、普通科・理数科及び商業科等は男性比率が高くなった(図 2-3)。

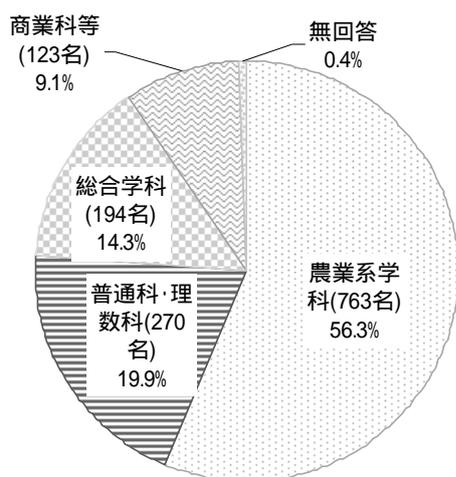


図2-1 回答者の学科 (n=1356)

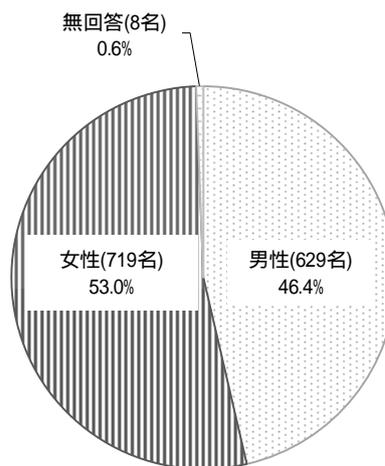


図2-2 回答者の性別 (n=1356)

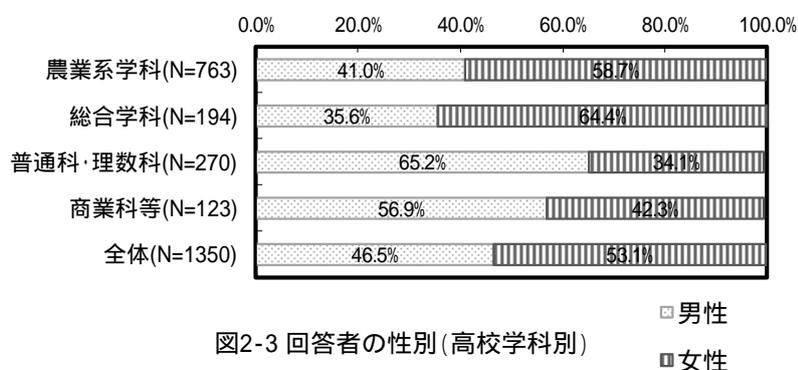


図2-3 回答者の性別 (高校学科別)

(3) 出身

回答者の出身は、「農家出身」が 3.5%(47 名)、「祖父母が農家」が 9.9%(134 名)、「非農家出身」が 84.5%(1,146 名)であり、非農家出身者が 8 割以上を占めている(図 2-4)。また、高校学科別に見ると、「農家出身」の比率は、農業系学科が 3.9%(29 名)、総合学科が 5.8%(11 名)、普通科・理数科が 2.3%(6 名)、商業科等が 0.8%(1 名)となり、農業系学科及び総合学科が他学科よりやや比率が高くなった。また、「祖父母が農家」の比率は、農業系学科が 9.3%(70 名)、総合学科が 13.2%(25 名)、普通科・理数科が 10.6%(28 名)、商業科等が 8.4%(10 名)。「非農家出身」の比率は、農業系学科が 86.8%(653 名)、総合学科が 81.1%(154 名)、普通科・理数科が 87.1%(229 名)、商業科等が 90.8%(108 名)となった(図 2-5)。

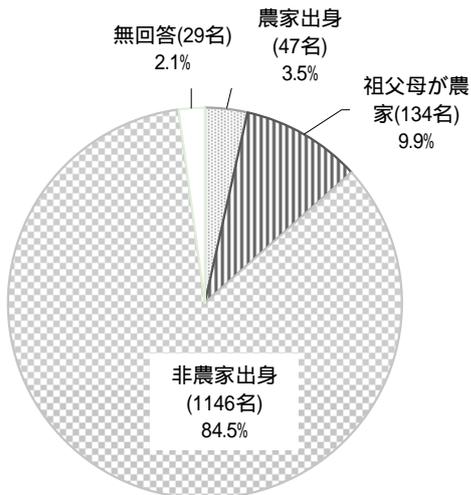


図2-4 回答者の出身(n=1356)

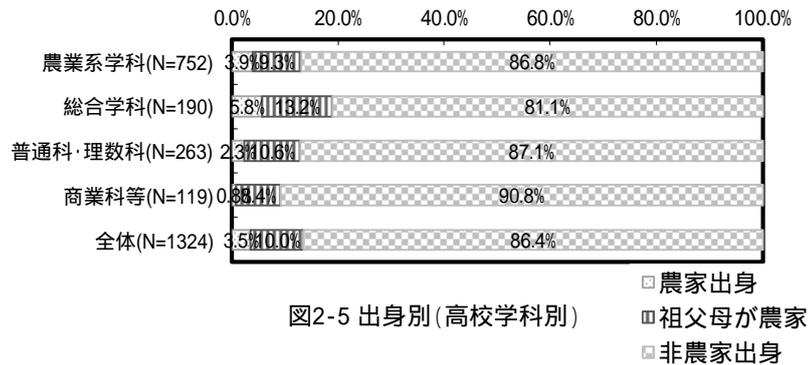


図2-5 出身別(高校学科別)

■ 農家出身
 ■ 祖父母が農家
 ■ 非農家出身

(4) 居住地

回答者の居住地は、静岡市が 32.9% (446名)と最も多く、浜松市 15.3% (208名)、磐田市 (141名)、袋井市 (56名)、掛川市 3.8% (51名)、藤枝市 3.1% (42名)、伊豆の国市 2.9% (40名)、三島市 2.7% (36名)、沼津市 2.6% (35名)、焼津市 2.6% (35名)、富士宮市 2.0% (27名)、富士市 1.7% (23名)、函南町 1.5% (21名)が続いた(図2-6)。

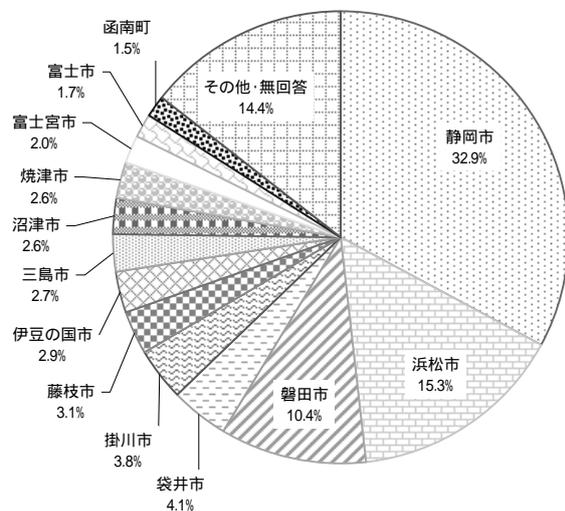


図2-6 回答者の居住地(n=1356)

3 希望する進路先及び進路地域

(1) 希望する進路先

希望する進路先は、「専門学校・専修学校」、「就職」、「4年制大学」、「短期大学」の順に多くなっている(図3-1)。

また、高校学科別にみると、農業系学科及び総合学科では「就職」が、普通科・理数科及び商業科等は「4年制大学」の希望が他の学科と比べて比率が高くなる傾向が見られた(図3-2~3-5)。

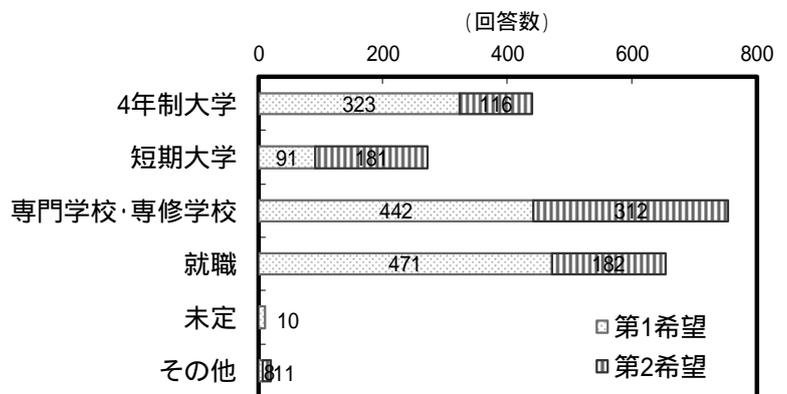


図3-1 希望する進路先(順位をつけて2つ選択、n=1345)

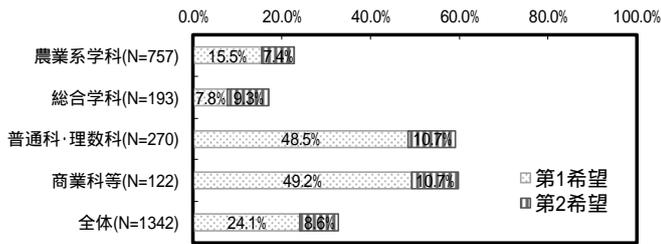


図3-2 4年制大学進学希望(高校学科別)

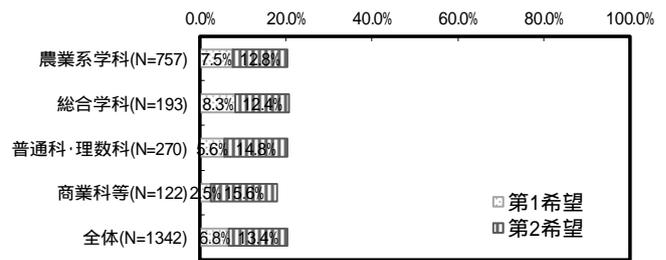


図3-3 短期大学進学希望(高校学科別)

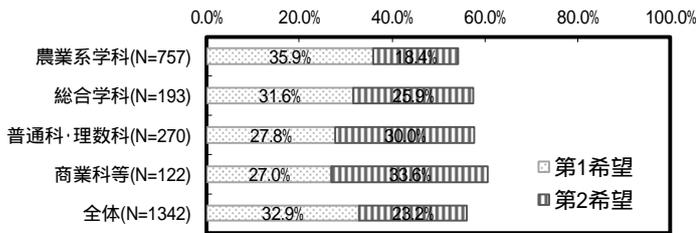


図3-4 専門学校・専修学校進学希望(高校学科別)

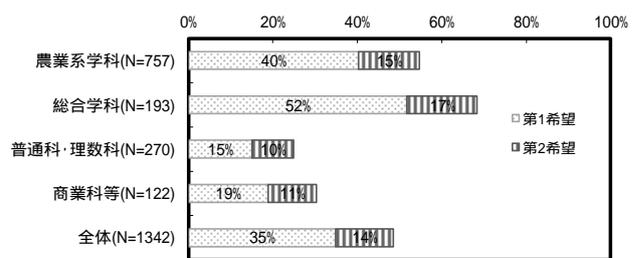


図3-5 就職希望(高校学科別)

(2) 希望する進路地域

希望する進路地域は、「静岡県内」が特に多く、「東海(静岡県除く)」、「南関東(首都圏含む)」、「近畿」、「北関東・甲信」が続いた(図3-6)。

また、高校学科別では、「静岡県内」の比率は農業系学科及び総合学科が(図3-7)、「東海(静岡県除く)」は普通科・理数科が(図3-8)、「南関東」の比率は商業科等が(図3-9)他と比べてやや高い傾向にあった。

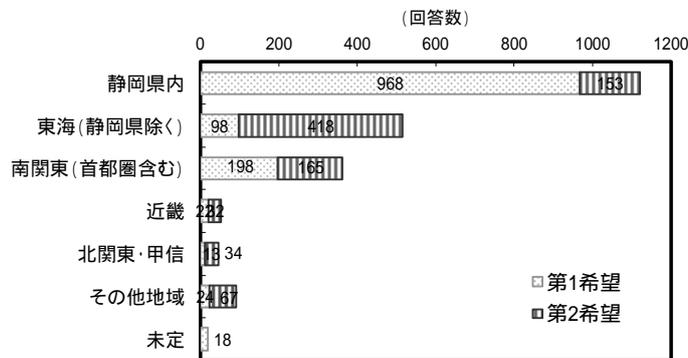


図3-6 希望する進路地域(順位をつけて2つ選択、n=1341)

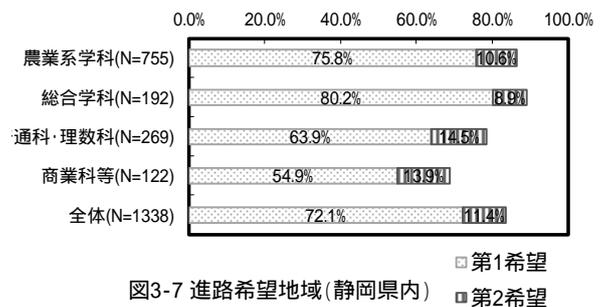


図3-7 進路希望地域(静岡県内)

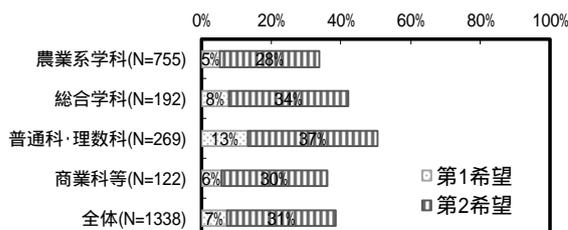


図3-8 進路希望地域(東海(静岡県除く))(高校学科別)

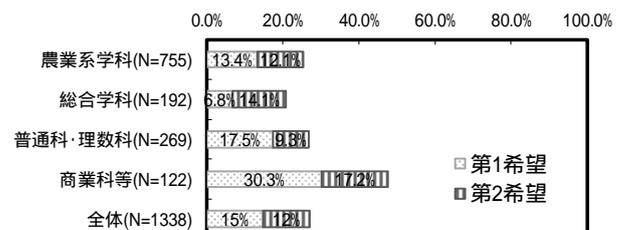


図3-9 進路希望地域(南関東)(高校学科別)

4 進学先選択時の重視事項と学びたい教育内容

(1) 進学先を選ぶ際に重視する点

進学先を選ぶ際に重視する点は、「学びたい学部・学科・コースがある」が特に多くなった。次に、「専門分野を深く学べる」、「自分の興味や可能性を広げられる」、「資格取得に有利である」が続いた(図4-1)。

高校学科別に見ると、「学びたい学部・学科・コースがある」の比率は、商業科等が他学科と比べてやや低く(図4-2)、「専門分野を深く学べる」の比率は総合学科がやや高い比率となった(図4-3)。さらに、「自分の興味や可能性を広げられる」及び「資格取得に有利である」は、高校学科毎の違いは見られなかった(図4-4、図4-5)。

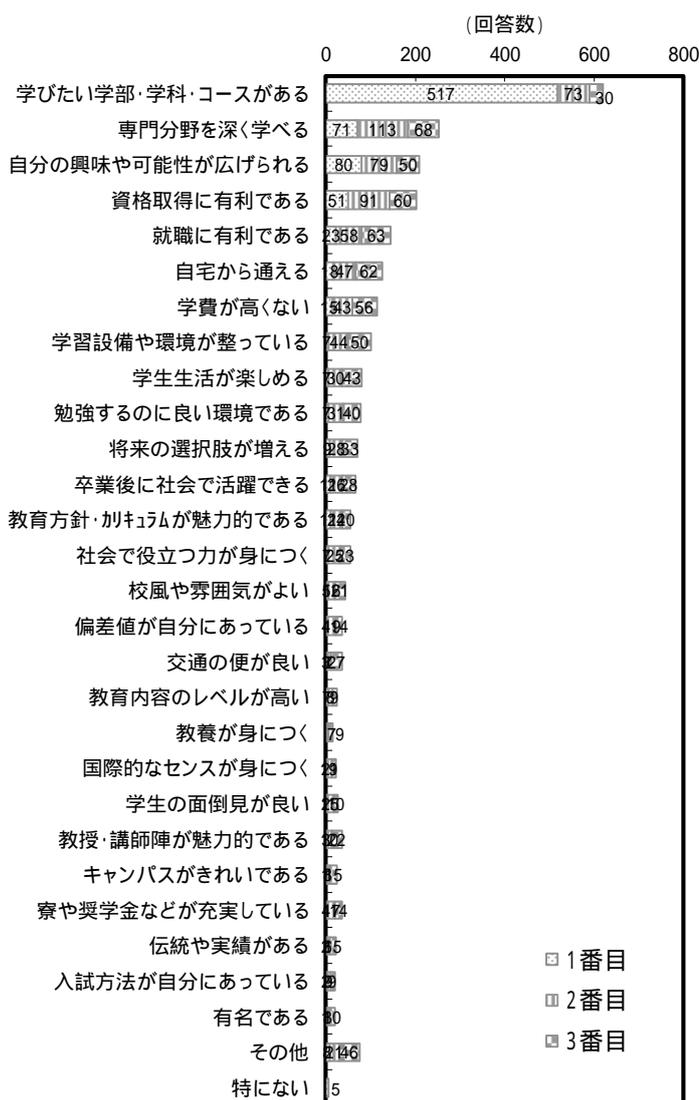


図4-1 進学先選択時の重視点(1~3位選択、n=883)



図4-2 進学先選択時の重視点(高校学科別)「学びたい学部・学科・コースがある」

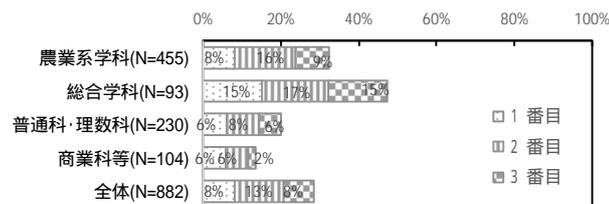


図4-3 進学先選択時の重視点(高校学科別)「専門分野を深く学べる」

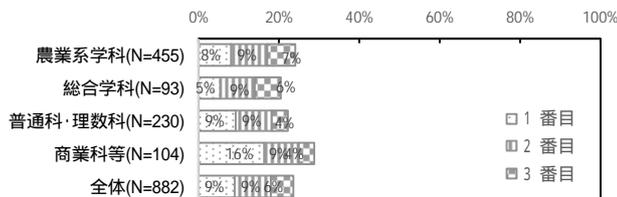


図4-4 進学先選択時の重視点(高校学科別)「自分の興味や可能性を広げられる」

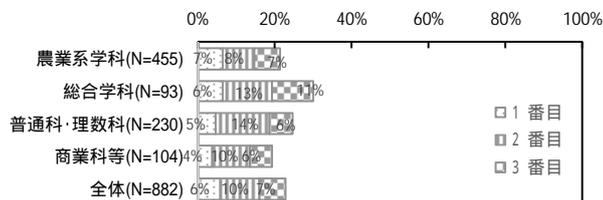


図4-5 進学先選択時の重視点(高校学科別)「資格取得に有利である」

(2) 学びたい学問分野

学びたい学問分野は、「調理・食品・栄養関係」、「農学関係」が特に多くなった(図4-6)。高校学科別にみると、「調理・食品・栄養関係」及び「農学関係」は、農業系学科及び総合学科が他学科に比べて比率が高くなった(図4-7、図4-8)。

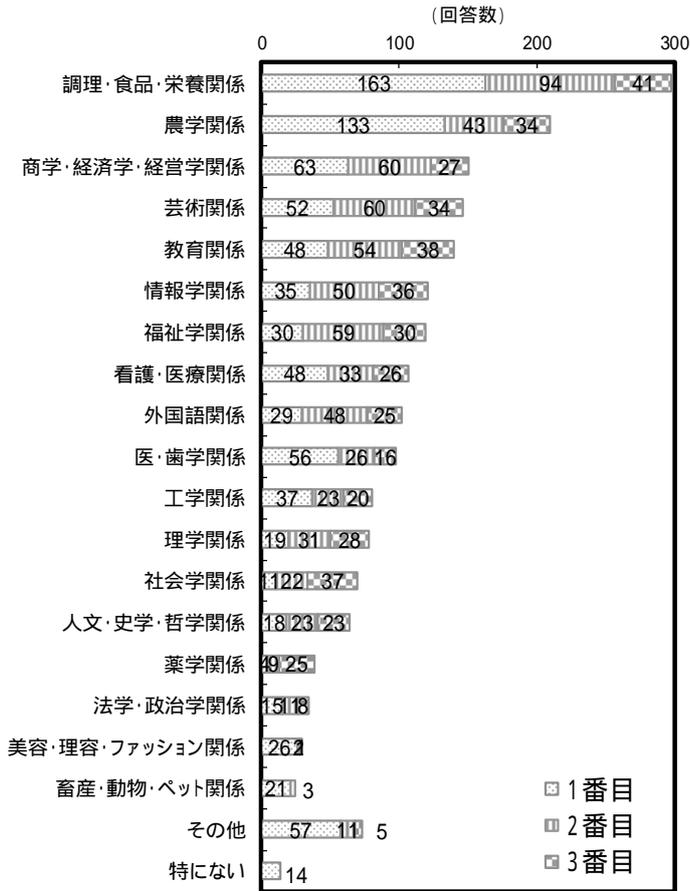


図4-6 学びたい学問分野(1~3位選択、n=879)

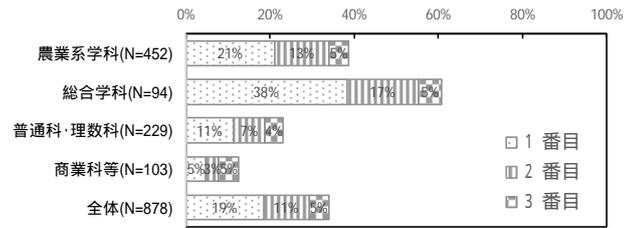


図4-7 学びたい学問分野「食品・栄養・調理関係」(高校学科別)

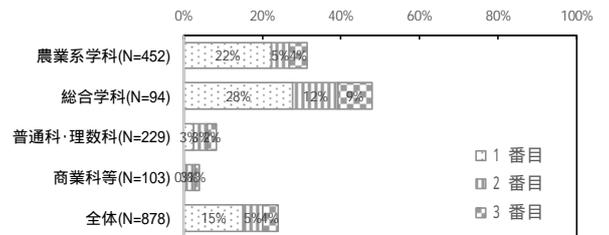


図4-8 学びたい学問分野「農学関係」(高校学科別)

(3) 農業分野で学びたい内容

農業分野で学びたい内容は、「日本食・食文化」、「食品加工技術」、「植物栽培の基礎技術」、「植物栽培の基礎知識」、「食品流通・販売・輸出」、「食品安全」の順に多くなった(図4-9)。

また、次の式でスコアを算出したところ、「食品加工技術」、「日本食・食文化」、「植物栽培の基礎知識」、「植物栽培の基礎技術」、「食品流通・販売・輸出」、「食品安全」の順にスコアが高くなった。

<スコア計算式>

$$\text{スコア} = (1 \text{ 番目の回答数} \times 3) + (2 \text{ 番目の回答数} \times 2) + (3 \text{ 番目の回答数} \times 1)$$

さらに、高校学科別にみると、「日本食・食文化」、「食品加工技術」、「食品流通・販売・輸出」は、総合学科が他の学科に比べて比率がやや高い傾向にあった(図4-10~4-15)。

表 4-1 農学分野で学びたい内容のスコア

学問分野	スコア
食品加工技術	431
日本食・食文化(地域の伝統食、和食など)	380
植物栽培の基礎知識	354
植物栽培の基礎技術	345
食品流通・販売・輸出	268
食品安全(GAP、HACCP、食品表示など)	241
家畜・家禽の繁殖・飼育・肥育の基礎技術	169
家畜・家禽の基礎知識	151
環境問題(温暖化、砂漠化、ごみ問題)	122
食料問題(自給率、食料危機)	105
農林業経営	84
スマート農業(ICT、IoT、自動化技術)	81
プロ農林家の技術	65
木材加工技術	60
農と福祉の連携(障害者・高齢者雇用など)	42
環境に配慮した農業(エコファーマー、有機農業)	30
農林業の成功事例	29
農山村振興(グリーン・ツーリズム、鳥獣害など)	19

スコア = (1 番目の回答数 × 3) + (2 番目の回答数 × 2) + (3 番目の回答数 × 1)

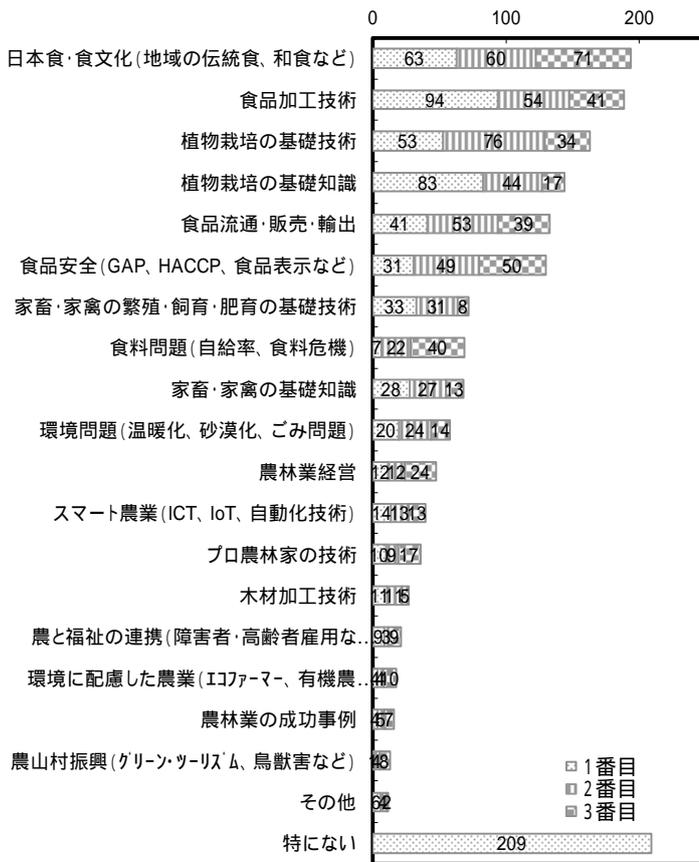


図4-9 農学分野で学びたい内容(1～3位選択、n=733)

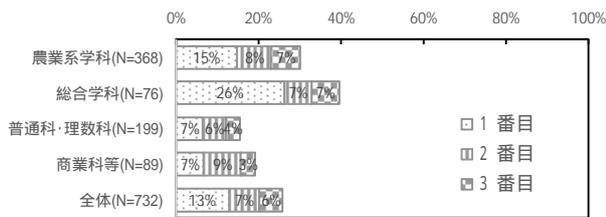


図4-10 学びたい農学分野(高校学科別)
「食品加工技術」

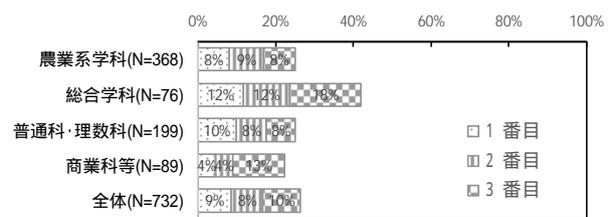


図4-11 学びたい農学分野(高校学科別)
「日本食・食文化」

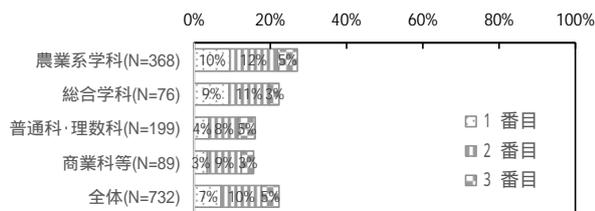


図4-12 学びたい農学分野(高校学科別)
「植物栽培の基礎技術」

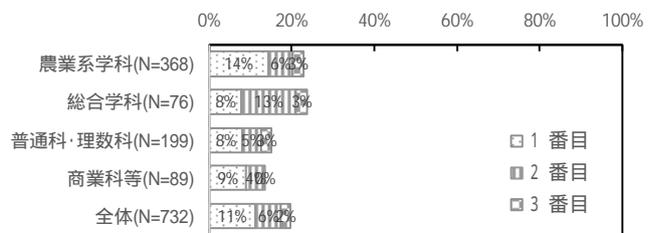


図4-13 学びたい農学分野(高校学科別)
「植物栽培の基礎知識」

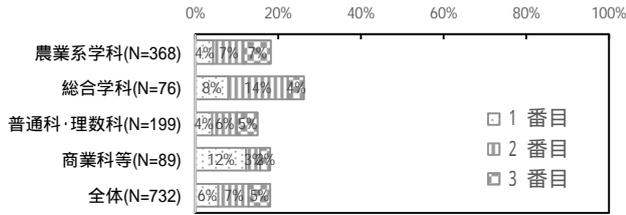


図4-14 学びたい農学分野(高校学科別)
「食品流通・販売・輸出」

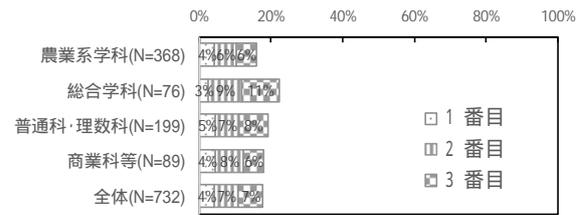


図4-15 学びたい農学分野(高校学科別)
「食品安全」

5 将来の職業意識

(1) 将来の希望職業

将来の希望職業についてみると、「自分で農林業を行う」は2.0%(22名)、「農林業を行っている法人や会社などに就職する」は3.3%(36名)、「農林業関係団体(農協、森林組合など)に就職する」は2.4%(26名)、「農林業関係企業(種苗、資材、木材加工会社など)に就職する」は1.0%(11名)、「農林技術系の公務員になる」は2.0%(22名)、「農林業と関係のない企業などに就職する」は44.9%(484名)、「まだわからない」は28.4%(306名)、「その他」は15.9%(172名)となった(図5-1)。

また、高校学科別に見ると、農業系学科及び総合学科は「農林業を行っている法人や会社などに就職する」の比率が他学科よりも高い傾向にあった。

全体として、農業関係の職業を希望する回答者は少ない傾向にあった。

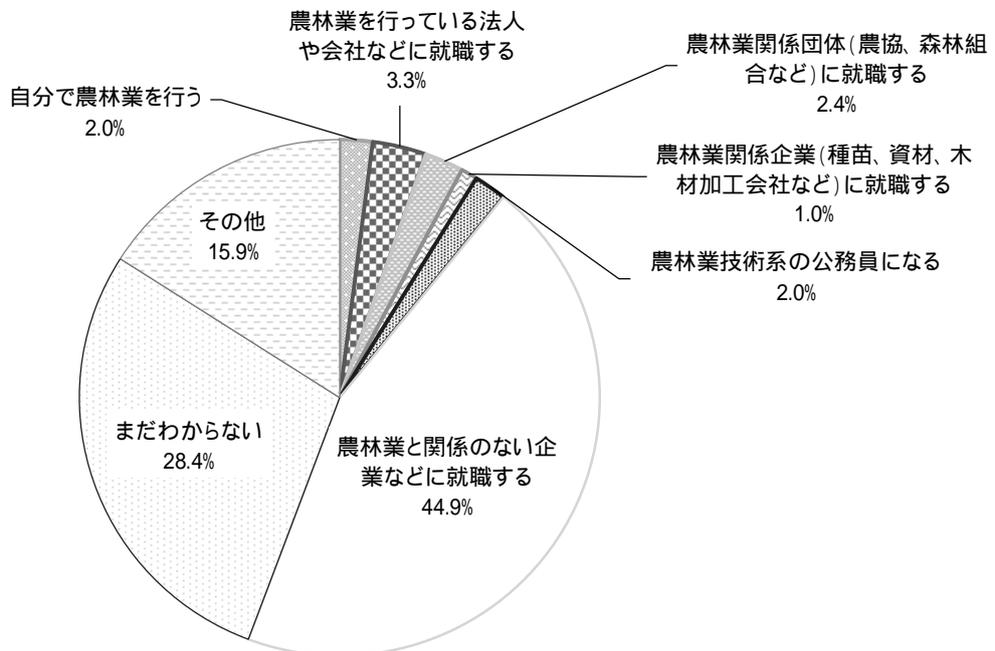


図5-1 将来の希望職業(n=1079)

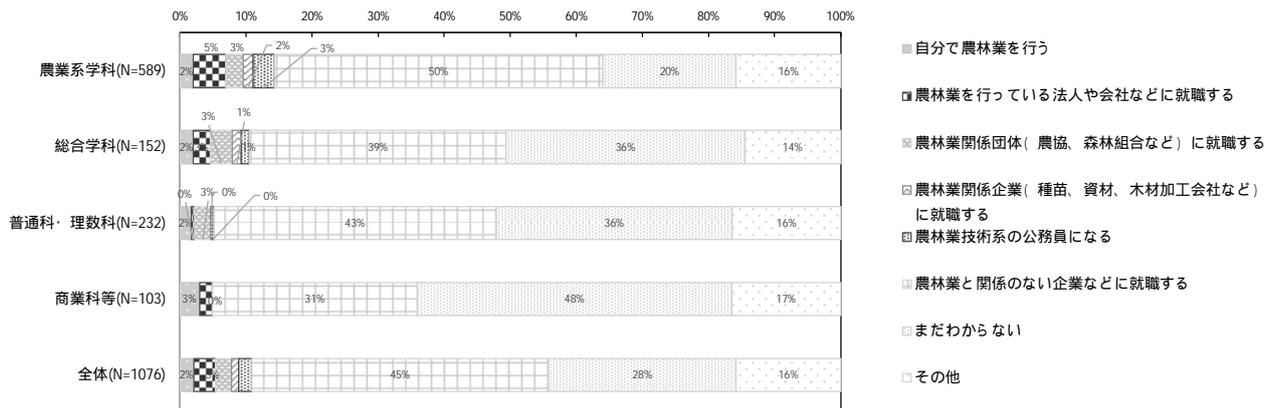


図5-2 将来就きたい職業(高校学科別)

(2) 将来の地元志向

将来の地元志向をみると、「ぜひ地元で働きたい」が23.1%(259名)、「できれば地元で働きたい」が28.5%(318名)であり、両者を合わせると51.6%が地元での就業を希望していた。続けて、「どちらでもよい」が34.4%(386名)、「出来れば地元を離れて働きたい」が9.6%(108名)、「絶対に地元を離れて働きたい」が4.4%(49名)であった(図5-3)。

また、高校学科別にみると、比率に大きな違いは見られなかった(図5-4)。

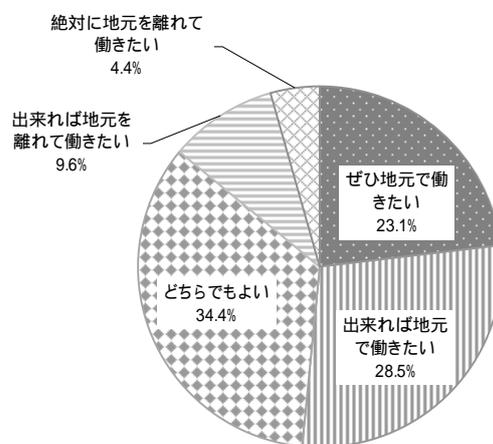


図5-3 将来の地元志向(n=1121)

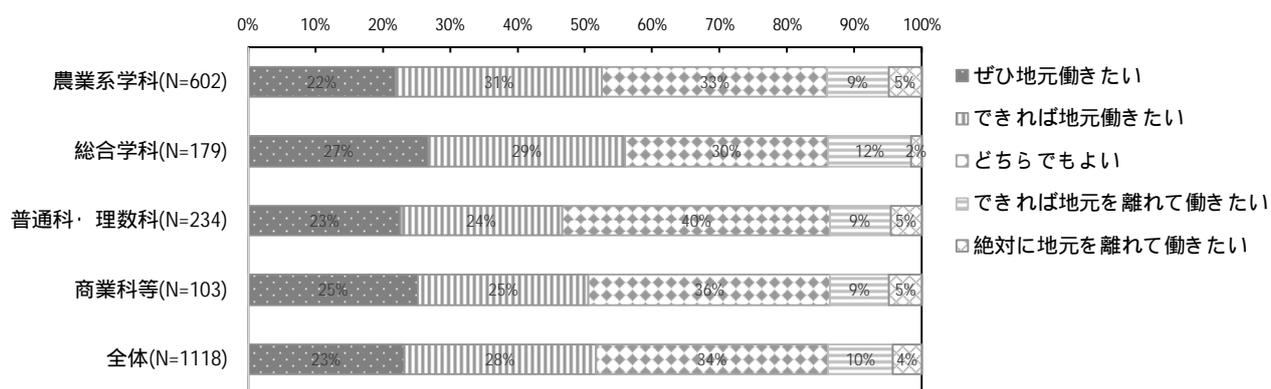


図5-4 将来の地元志向(高校学科別)

(3) 職業としての農業のイメージ

職業としての農業のイメージは、「大変(厳しい、辛い、きつい、ハード含む)」が特に多くなった(図5-5)。また、高校学科別でも大きな違いは見られなかった(図5-6)。

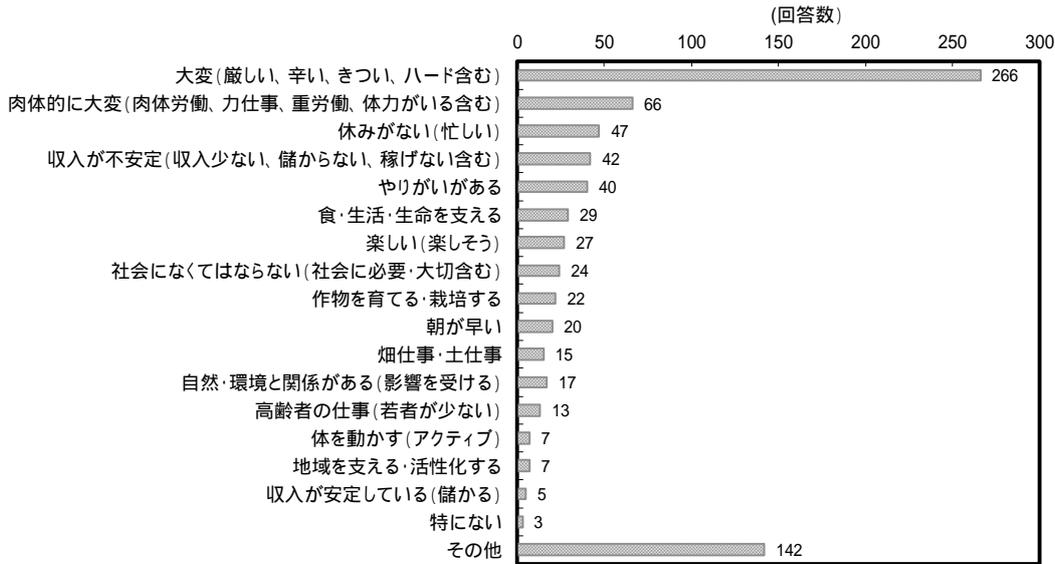


図5-5 職業としての農業のイメージ(複数回答, n=717)

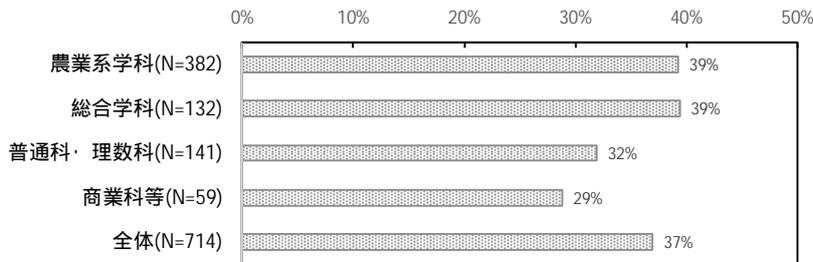


図5-6 農業に対するイメージ(高校学科別)

「大変(厳しい, つらい, きつい, ハード含む)」

6 農林大学校への進学希望と学びたい教育内容

(1) 農林大学校への進学希望

農林大学校への進学希望をみると、「第一希望の進学先」が7.2%(64名)、「希望進路先の一つ」が3.2%(29名)であり、両者を合わせた10.5%が農林大学校への進学を希望していた。一方、「希望進路先ではない」は83.9%(749名)、「わからない」は5.7%(51名)であり、8割以上が農林大学校への進学を希望していなかった(図6-1)。

さらに、高校学科別にみると、農業系学科及び総合学科で「第一希望の進学先」及び「希望進路先の一つ」が他学科よりもやや高い傾向にあった(図6-2)。

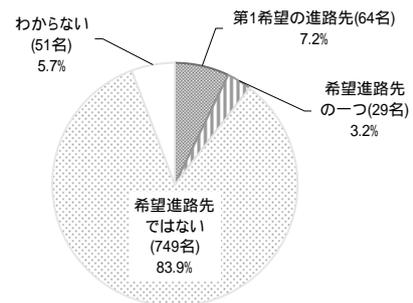


図6-1 農林大学校への進学希望(n=893)



図6-2 農林大学校への進学希望(高校学科別)

(2) 農林大学校を進学先として検討した際に重視した点

農林大学校を進学先として検討した際に重視した点は、「農業分野で役立つ技術・技能が見につく」が圧倒的に多く、「学費が安い」、「設備や環境が整っている」、「就農(法人就農含む)に有利である」が続いた(図6-3)。

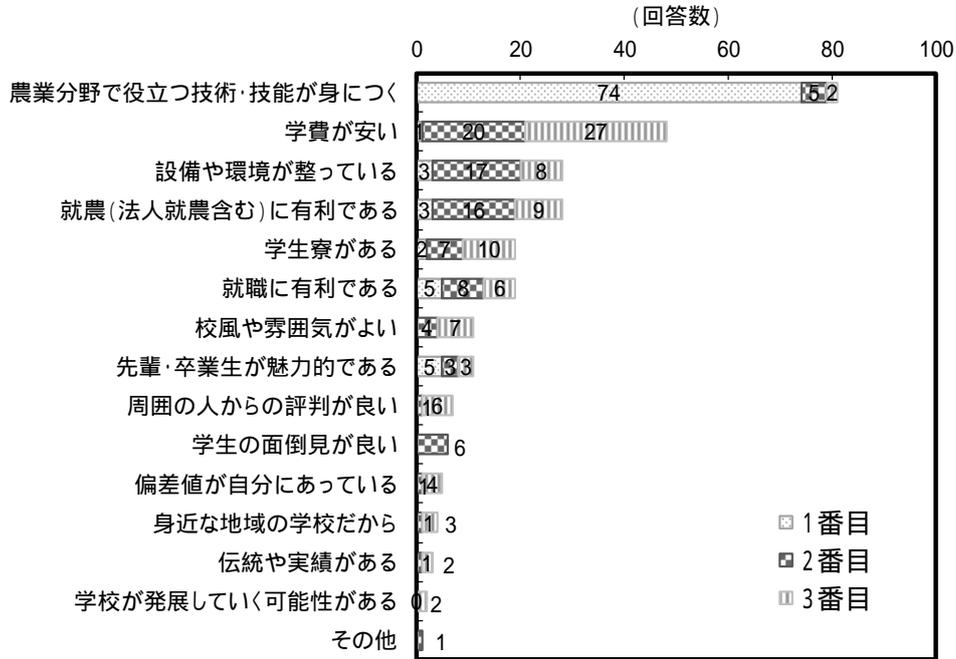


図6-3 農林大学校を進学先として選択した時の重視点(1~3位選択、n=93)

(3) 農林大学校で進学したい課程

農林大学校で学びたい課程は、「養成部のみ」が65%(54名)、「養成部と研究部」が14.5%(12名)、「まだ分からない」が20.5%(17名)であった(図6-4)。

「養成部のみ」を選択した理由をみると、「養成部を卒業すれば就職(就農)できるから」が53.7%(29名)で最も多く、「親に負担をかけたくない」が18.5%(10名)、「早く自立したい」が5.6%(3名)、「研究部で学びたいことがない」が3.7%(2名)、「勉強は2年で十分」が1.9%

(1名)、「特に理由はない」が14.8%(8名)、「その他」が1.9%(1名)となった(図6-5)。

次に、「養成部と研究部」を選択した理由を見ると、「さらに知識を深めたい」が66.7%(8名)、「希望するところへの就職のために必要だから」が16.7%(2名)、「そんなに早く社会へ出たくない」が8.3%(1名)、「特に理由はない」が8.3%(1名)となった。

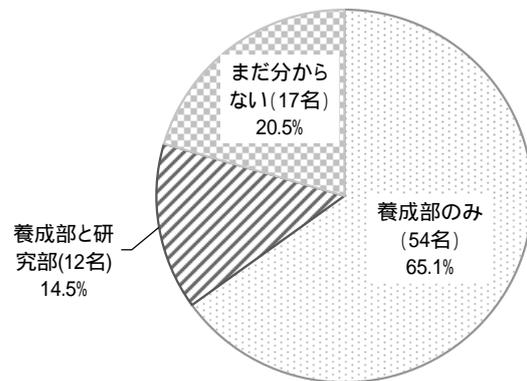


図6-4 農林大学校で進学したい課程(n=83)

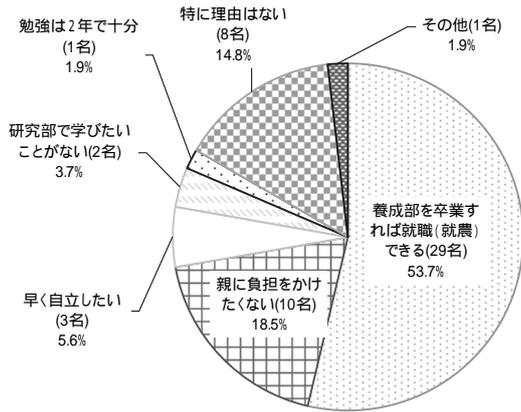


図6-5 養成部のみを選択した理由(n=54)

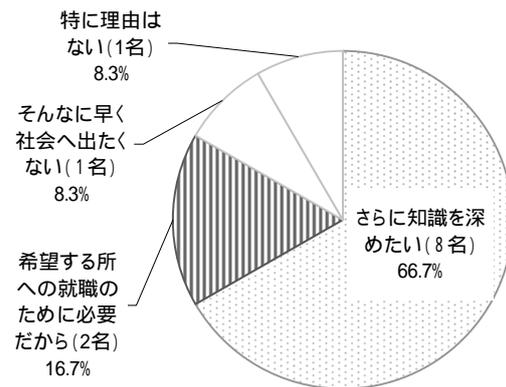


図6-6 養成部と研究部を選択した理由(n=14)

7 専門職大学制度の認知度

農林大学学校の認知度を見ると、「知っていた」が 65.5% (652 名)、「知らなかった」が 34.5% (344 名) であり、知っている割合の方が高かった。

次に、新たな大学制度である「専門職大学」が創設されたことへの認知度をみると、「知っていた」が 13.3% (141 名)、「知らなかった」が 86.7% (921 名) であった。

最後に、農林大学学校が専門職大学への移行を検討していることの認知度を見ると、「知っていた」が 10.8% (115 名)、「知らなかった」が 89.2% (952 名) と認知度は低かった。

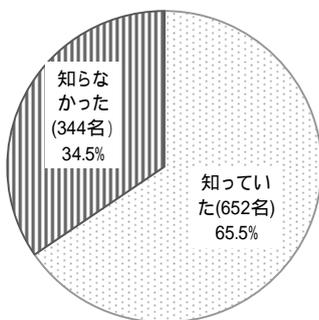


図7-1 農林大学学校の認知度 (n=996)

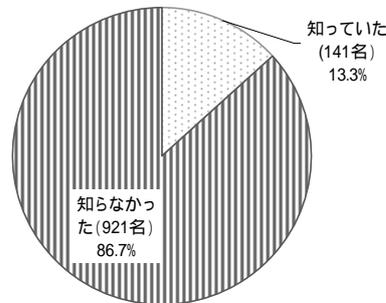


図7-2 専門職大学制度創設の認知度 (n=1062)

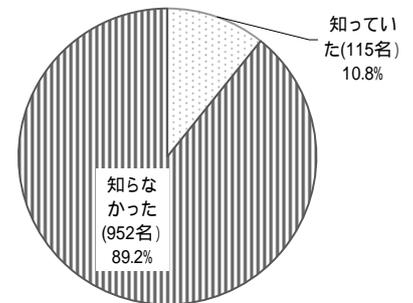


図7-3 農林大学学校が専門職大学への移行を検討していることの認知度(n=1067)

8 まとめ

- ・ 回答者の性別は女性比率がやや高く、特に農業系学科及び総合学科では女性が6割程度であった。また、高校学科を問わず、非農家出身者が8割以上を占めていた。
- ・ 希望進路先は「専門学校・専修学校」、「就職」、「4年制大学」の順に多く、農業系学科及び総合学科では「就職」が、普通科・理数科及び商業科等では「4年制大学」の進路希望が多かった。
- ・ 進学先を選ぶ際の重視点は、「学びたい学部・学科・コースがある」の回答数が特に多かった。また、学びたい学問分野は「調理・食品・栄養関係」、「農学関係」が多く、農業

系学科及び総合学科では、特に比率が高い傾向にあった。

- ・ 農業で学びたい分野は、「食品加工技術」、「日本食・食文化」、「植物栽培の基礎知識」、「植物栽培の基礎技術」、「食品流通・販売・輸出」、「食品安全」、「家畜・家禽の繁殖・飼育・肥育の基礎技術」、「家畜・家禽の基礎知識」が多く、生産の基礎知識・技術に加え、食品に関する知識・技術が多かった。
- ・ 農林大学校への進学希望は1割程度であり、このうち養成部だけの進学希望は7割近くであった。また、農林大学校を選択する際の重視点は、「農業分野で役立つ技術・技能が身につく」、「学費が安い」であった。
- ・ 将来の職業意識では、就農や農林業関係企業などへの就職希望は1割強に止まった。高校生が農業へ抱くイメージには、「大変」、「肉体的に大変」、「休みがない」などマイナスイメージがあり、このことが影響していることも考えられる。
- ・ 以上から、より多くの学生を集めるためには、学生の学びたい学問内容（食品加工、生産に必要な技術）を提供する必要がある。
- ・ 農林大学校を選択する際に学費の安さは重要な要素になっており、学費の変更は十分な検討が必要である。

高校生の進学意識に関するアンケート調査

- 回答の記入上のお願い -

- ・ 回答は、あてはまる選択肢の番号に を付けてください。また、別に回答欄があるものについては、番号または字句を記入してください。
- ・ なお、あらかじめ添付のリーフレットを見てから回答してください。

調査実施機関 静岡県経済産業部農業局農業ビジネス課担い手育成班

(問合せ先) 担当：竹内、菊池、工藤 TEL. 054-221-2754 FAX. 054-221-3688

ご自身のことについて伺います。(該当する項目に、() 内に記入)

学校名	() 高等学校			
学年	1. 1年生	2. 2年生	3. 3年生	
課程	1. 全日制	2. 定時制	3. 通信制	
学科	1. 普通科(文系、理系) 2. 理数科 3. 商業科 4. ICT科 5. 農業系学科 (生産系、園芸系、食品系、環境系、森林系、動物系、ライフ系、 その他()) 6. 総合学科 (農業科学系列、園芸科学系列、花と緑系列、生物生命系列、 食品園芸系列、食品科学系列、その他()) 7. 国際科 8. その他()			
性別	1. 男性	2. 女性		
出身	1. 農家	2. 非農家	3. 祖父母農家	
居住地	1. 下田市 2. 東伊豆町 3. 河津町 4. 南伊豆町 5. 松崎町 6. 西伊豆町 7. 沼津市 8. 熱海市 9. 三島市 10. 富士宮市 11. 伊東市 12. 富士市 13. 御殿場市 14. 裾野市 15. 伊豆市 16. 伊豆の国市 17. 函南町 18. 清水町 19. 長泉町 20. 小山町 21. 静岡市 22. 島田市 23. 焼津市 24. 藤枝市 25. 牧之原市 26. 吉田町 27. 川根本町 28. 菊川市 29. 御前崎市 30. 掛川市 31. 森町 32. 袋井市 33. 磐田市 34. 浜松市 35. 湖西市 36. 県外()			

高校卒業後の進路や学びたい学問分野について、お伺いします。

問1 希望する進路先について、順位をつけて2つまで選び回答欄へ番号を記入してください。

1. 四年制大学	2. 短期大学	3. 専門学校・専修学校
4. 就職	5. 未定	6. その他()
<回答欄>	第1希望	第2希望

問2 希望する進路地域について、順位をつけて2つまで選び回答欄へ番号を記入してください。

1. 静岡県内	2. 北海道	3. 東北	4. 南関東(首都圏)
5. 北関東・甲信	6. 北陸	7. 東海(静岡県除く)	8. 近畿
9. 中国	10. 四国	11. 九州	12. 未定
13. 海外	14. その他()		
<回答欄>	第1希望	第2希望	

進学希望がある方 問3へ

それ以外の方 問6へ

<進学希望者に伺います>

問3 進学先を選ぶ際、重視する点について、順番をつけて3つまで選び回答欄へ番号を記入してください。

1. 学びたい学部・学科・コースがある	20. 勉強するのに良い環境である		
2. 自分の興味や可能性が広げられる	21. 交通の便が良い		
3. 資格取得に有利である	22. 遊びに行くのに便利な立地である		
4. 専門分野を深く学べる	23. 偏差値が自分にあっている		
5. 教育方針・カリキュラムが魅力的である	24. 学費が高くない		
6. 社会で役立つ力が身につく	25. 入試方法が自分にあっている		
7. 教育内容のレベルが高い	26. 就職に有利である		
8. 教養が身につく	27. 将来の選択肢が増える		
9. 国際的なセンスが身につく	28. 卒業後に社会で活躍できる		
10. 学生の学力が高い	29. 校風や雰囲気が良い		
11. 学生の面倒見が良い	30. 伝統や実績がある		
12. 教授・講師陣が魅力的である	31. 有名である		
13. 先輩・卒業生が魅力的である	32. 活気がある感じがする		
14. 学習設備や環境が整っている	33. 周囲の人からの評判が良い		
15. 学生生活が楽しめる	34. 学校が発展していく可能性がある		
16. キャンパスがきれいである	35. 規模が大きい		
17. クラブ・サークル活動が盛んである	36. 望む学位がとれる		
18. 寮や奨学金などが充実している	37. 特にない		
19. 自宅から通える	38. その他()		
<回答欄>	1 番目	2 番目	3 番目

問4 学びたい学問分野について、順番をつけて3つまで選び、番号を回答欄へ記入してください。

1. 農学関係	10. 情報学関係		
2. 調理・食品関係	11. 教育関係		
3. 人文・史学・哲学関係	12. 芸術関係		
4. 外国語関係	13. 医・歯学関係		
5. 法学・政治学関係	14. 薬学関係		
6. 商学・経済学・経営学関係	15. 看護関係		
7. 社会学関係	16. 福祉学関係		
8. 理学関係	17. 特にない		
9. 工学関係	18. その他()		
<回答欄>	1 番目	2 番目	3 番目

問5 農業分野で学びたい項目があれば、順番をつけて3つまで選び、番号を回答欄へ記入してください。

1. 植物栽培の基礎知識	11. 食品安全 (GAP、HACCP、食品表示など)		
2. 植物栽培の基礎技術	12. 日本食・食文化 (地域の伝統食、和食など)		
3. 家畜・家禽の基礎知識	13. 農山村振興 (グリーン・ツーリズム、鳥獣害など)		
4. 家畜・家禽の繁殖・飼育・肥育の基礎技術	14. 農と福祉の連携 (障害者・高齢者雇用など)		
5. プロ農林家の技術	15. 環境に配慮した農業 (エコファーム、有機農業)		
6. スマート農業 (ICT、IoT、自動化技術)	16. 環境問題 (温暖化、砂漠化、ごみ問題)		
7. 農林業経営	17. 食料問題 (自給率、食料危機)		
8. 食品加工技術	18. 農林業の成功事例		
9. 木材加工技術	19. 特になし		
10. 食品流通・販売・輸出	20. その他 ()		
<回答欄>	1 番目	2 番目	3 番目

職業意識について、伺います。

問6 将来、どのような職業に就きたいですか。(1つ)

1. 自分で農林業を行う	2. 農林業を行っている法人や会社などに就職する
3. 農林業関係団体 (農協、森林組合など) に就職する	4. 農林業関係企業 (種苗、資材、木材加工会社など) に就職する
5. 農林業技術系の公務員になる	6. 農林業と関係のない企業などに就職する
7. まだわからない	8. その他 ()

問7 将来、地元で働きたいですか。(1つに)

1. ぜひ地元で働きたい	2. 出来れば地元で働きたい	3. どちらでもよい
4. 出来れば地元を離れて働きたい	5. 絶対に地元を離れて働きたい	

問8 あなたは、職業としての農業にどのようなイメージを持っていますか。(自由記入)

(記入例：クリエイティブな仕事 など)

静岡県立農林大学校への進学希望について、お伺いします。

問9 農林大学校は、希望進路先ですか?(1つに)

1. 第1希望の進路先	問10へ	2. 希望進路先の一つ	問10へ
3. 希望進路先ではない	問14へ	4. わからない	問14へ

<農林大学校が進学先の方に伺います>

問10 農林大学校を進学先として検討した際、重視した点について順番をつけて3つまで選び回答欄へ番号を記入してください。

1. 農業分野で役立つ技術・技能が身につく	9. 偏差値が自分にあっている		
2. 学生の面倒見が良い	10. 校風や雰囲気がよい		
3. 先輩・卒業生が魅力的である	11. 伝統や実績がある		
4. 就農 (法人就農含む) に有利である	12. 学校が発展していく可能性がある		
5. 就職に有利である	13. 周囲の人からの評判が良い		
6. 設備や環境が整っている	14. 身近な地域の学校だから		
7. 学生寮がある	15. その他 ()		
8. 学費が安い			
<回答欄>	1 番目	2 番目	3 番目

問 11 農林大学校で進学したい課程について、お答えください。(1つに)

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1. 養成部のみ(2年間の課程) | <u>問 12 へ</u> |
| 2. 養成部と研究部(合計4年間の課程) | <u>問 13 へ</u> |
| 3. まだ分からない | <u>問 14 へ</u> |

<養成部のみに進学と答えた方にお聞きします>

問 12 「養成部のみ」を選択した理由について、お答えください。(1つに)

- | | |
|-----------------------|----------------|
| 1. 養成部を卒業すれば就職(就農)できる | 2. 勉強は2年で十分 |
| 3. 研究部で学びたいことがない | 4. 親に負担をかけたくない |
| 5. 早く自立したい | 6. 特に理由はない |
| 7. その他() | |

問 14 へ

<養成部と研究部と答えた方にお聞きします>

問 13 「養成部と研究部」を選択した理由について、お答えください。(1つに)

- | | |
|-----------------------|---------------|
| 1. 希望する所への就職のために必要だから | 2. さらに知識を深めたい |
| 3. そんなに早く社会へ出たくない | 4. 特に理由はない |
| 5. その他() | |

問 14 へ

問 14 あなたは、農林大学校を知っていましたか。(1つに)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 知っていた | 2. 知らなかった |
|----------|-----------|

専門職大学の制度について、伺います。

問 15 あなたは、新たな教育制度「専門職大学(専門職短期大学)」が創設されたことを知っていましたか。(1つに)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 知っていた | 2. 知らなかった |
|----------|-----------|

問 16 静岡県では、農林大学校を専門職大学へ移行することを検討しています。このことを知っていましたか。(1つに)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 知っていた | 2. 知らなかった |
|----------|-----------|

~ご協力をありがとうございました~

専門職大学（農林業）基本構想の概要

主な大学設置の意義

- 1 将来の農林業現場を支える人材の養成
個々の農林業経営体の規模が拡大し、応用可能な技術革新が進展してきたことから、基礎的な生産能力に加えて、加工・流通・販売の知識や経営管理能力、健康を志向した品質の向上やコストの低減など生産性を高める先端技術への対応能力を持ち、経営改革を主導できる人材が求められている
- 2 農山村の景観・環境・文化を支える人材の養成
農山村地域では、近年高齢化や人口減少に伴い活力が低下しており、農林業者が経営を行う上で、自然と共生しながら農山村の景観や環境を保全していくとともに、地域の文化や伝統を守り育み、地域社会を支えていくことが求められている
- 3 国内外からの人材の受け入れ
国内外籍、性別を問わず、農林業を志す人材に、質の高い実践的教育を提供することで、本県農林業の発展とともに、国際社会に貢献する人材を数多く養成することができる

基本的な理念

- 農林業経営に革新を起こす人材の養成
 - ① 生産の基礎から応用までの知識・技術を持ち、生産のスペシャリストとして、生産現場の中心となる人材の養成
 - ② 基礎的な生産能力に加え、経営体の経営革新を推進する、加工・流通・販売の知識や経営管理能力、先端技術への対応能力を有した人材の養成
- 地域社会における将来のリーダーとして、自然と共生し、美しい農山村の景観や環境を磨き上げるとともに、幅広い教養と豊かな人間性を備え地域の文化や伝統を守り育むことのできる農林業者の養成
- 世界に開かれた大学として、農林業の人材養成を通じて産業の発展や社会の活性化に寄与する教育研究拠点の形成

◇ 農林大学校では「耕土耕心」の校訓の下、本県農林業発展に貢献する、現場で活躍する人材を数多く輩出してきたことから、引き続きこの理念を尊重した上で、年齢層を問わず、将来の経営環境の変化に対応し、農林業者として先端技術などを活用して経営革新を推し進め、さらには農山村の美しい景観や環境、文化の継承者として、地域社会を中心となって支えていく人材を養成する

大学の概要

名称：静岡県立 農林環境専門職大学（仮称）

4 年制 生産環境経営学部 生産環境経営学科（仮称）
（収容定員 100 名程度、1 学年 24 名程度）

教育目標（養成人材）

- 先端技術への対応力と高度な経営管理能力を養い、「農林業経営体の経営を継ぐ」「農林業経営体の中核を担う」、「自ら新しい経営体を立ち上げる」など、それぞれの立場で自らの夢を実現し、農林業分野で活躍できる人材を養成する
- 農林業の実践的な技術や知識と、生産物の価値を高める創造力を養い、農林業経営の現場で生まれる新しい課題に柔軟に対応できる人材を養成する
- 農山村の景観形成の礎となる農業農村工学の実践的知識を養い、景観・環境や地域の文化を守り、自然と共生していくことのできる人材を養成する
- 幅広い教養とコミュニケーション能力を養い、経営体や地域のリーダーとなりうる、豊かな人間性を備えた人材を養成する

学部・学科の特色

- 農林業経営体等での体験・実践を重視した教育の実施
- AOI-PARC や静岡県新産業クラスター等との連携による、先端技術の知識習得
- 生産知識や技術を基礎とし、加工・流通・販売などの6次産業化、食の安心安全、農林産物の機能性など、消費者動向を踏まえたフードシステムの視点での教育を実施
- 農業農村工学の実践的知識の習得を通じた景観や環境などの農山村の持つ多面的機能の理解や、農山村地域の文化や歴史についての理解を促すことで、広い視野で農林業を捉えることができる資質・能力を涵養
- コミュニケーション力や、外国語能力の涵養
- 他大学等卒業者、新たに農林業を志す社会人を受け入れるため、編入学制度を整備

基礎科目

- 豊かな人間性や幅広い教養、専門科目の履修に必要な知識を習得させ、職業観を形成するため、一般教養科目（コミュニケーション論、食文化や農山村文化、歴史、景観、環境保全等）、自然科学基礎科目（化学、生物等）、社会科学基礎科目（政治、経済等）、農業農村工学に関する科目、農山村の多面的機能（癒しや生物多様性など）について学ぶ

職業専門科目

- 農林産物の生産に加え、加工・流通・販売やマーケティング手法を含めた、高度な専門知識を教育研究するために、豊富な実習を取り入れ、生産技術と経営管理を学ぶ
- 生産技術…生産知識・技術の習得、国際基準の生産工程管理手法の習得
- 経営管理…加工・流通・販売において生産物を高付加価値化できる手法や知識を習得

総合科目

- 外部専門家による実践的講義、フードシステムの視点での生産から販売までの現場経験や、農山村で自然と共生し経営を実践する農林業者の下での経営研修など経験重視した課題発見・解決型のプロジェクト実習を充実し、習得した知識・技術を現場で活用する実践力や判断力を養う。

教育課程

農林業界および地域社会のニーズを反映した教育課程を編成・実施するため、県内農林業者や農林業団体、高校関係者、地元市町、県などを構成員とした教育課程連絡協議会を設け、その意見を踏まえた教育課程の編成・実施・評価を行う。

教員組織

- 原則主要科目等は専任教員（教授・准教授等）が担当
- 実務家教員として農林業経営者や行政機関専門家活用
- 国内外で活躍する識者を非常勤講師として招聘 等

入学者選抜

- 一般入試を基本とし、推薦（公募、指定校、地域内）、編入学、社会人入学、留学生受入れ特別入試など多彩な方法を設定

施設設備

- 設置場所：現行農林大学校敷地内（磐田市）
- 校舎設備：設置基準に従い教育課程の実現に必要な施設を整備する

開学時期：平成32年4月目標

2 年制 短期大学部 生産科学科（仮称）
（収容定員 200 名、1 学年 100 名程度）

教育目標

- 豊かな生産知識と技術を持ち、生産現場のスペシャリストとして即戦力となる人材を養成する
- 生産現場のリーダーに必要な豊かな人間性と、現場の課題に対応できる先進的な生産知識や技術と、その応用力を持った人材を養成する

学部・学科の特色

- 生産現場における経験・実践を重視した教育の実施
- 生産技術の高度化に対応した農林業教育の実施
- 農山村地域の文化や歴史などについて深く理解し、農林業者としての心がまえや職業観を養う
- コミュニケーション力や、外国語能力の涵養

基礎科目

- 栽培技術習得などに必要な知識を習得させ、教養を涵養し職業観を形成するため、一般教養（コミュニケーション論、文化、歴史、景観、環境保全等）、専門基礎（化学、生物等）を学ぶ

職業専門科目

- 本県の主要農林産物について、作目別に、農林業現場で必要な生産知識・技術を身に付けるとともに、食品加工や生産工程管理手法、などの応用分野について、豊富な実習を取り入れた科目を設ける
- 作目別分野…園芸（野菜・花き）、茶業、果樹、畜産、林業

総合科目

- 外部専門家による実践的講義、生産や販売の現場における実習を重視した生産現場の改善に関する卒業研究により、即戦力となる実践的な生産能力を身に付ける

静岡県専門職大学(農林業) 基本構想

2018年(平成30年)2月
静岡県

目 次

- 1 専門職大学の設置理由
 - (1) 本県農林業の現状と人材面における課題
 - (2) 本県農林大学校の現状
 - (3) 専門職大学を設置する意義
- 2 専門職大学の概要
 - (1) 大学の基本的な理念
 - (2) 大学の名称
 - (3) 学部学科の構成と入学定員
- 3 教育研究体制
 - (1) 4年制学部・学科(仮)
 - (2) 2年制短期大学部・学科(仮)
 - (3) 教員組織
 - (4) 入学者の選抜方法
 - (5) 施設整備等
- 4 地域・国際貢献及び大学連携
 - (1) 地域との連携や貢献
 - (2) 国際貢献
 - (3) 他大学との連携・協同
- 5 開学の時期
- 6 大学設置運営主体

1 専門職大学の設置理由

(1) 本県農林業の現状と人材面における課題

静岡県は多様な風土と温暖な気候に恵まれ、多彩で品質の高い農林産物が生産されている。近年、農林業においては、情報通信技術の活用による生産性向上、更には6次産業化による高付加価値化や、海外を含めた新規マーケットの開拓による販売力の強化などにより、成長産業として、また地域活性化につながる産業として、注目を集めている。

このように農林業を取り巻く社会情勢が大きく変化する中、経営構造も変化してきており、従来の家族による小規模経営体を主とする構造から、農林業法人などの組織的で大規模な経営体を主とする構造へ変化している。

組織的な経営体では、規模拡大や経営の多角化に伴い、経営管理や加工・流通・販売などの専門的知識や能力、生産性を高める先端技術への対応能力を持つ人材の必要性が高まっている。

(2) 本県農林大学校の現状

現在、国内42の道府県に、農林業経営者の養成における中核的な教育機関として農業大学校や林業大学校が設置されている。本県の農林大学校は、明治33年に農事見習生の教育を開始して以来、一貫して農林業後継者の育成、農林業指導者の養成を柱に、その役割を果たしてきた。平成11年には現在の農林大学校の体制に再編され、今年で創立117周年を迎えた。

この間、県内唯一の現場農林業者の養成機関として、幅広い知識と専門的な技術の習得、経営能力を高める実践的な教育を提供するという基本理念は変わることなく受け継がれ、卒業生は約9,000人に上る。卒業生は県内各地で中核的な農林業者として、本県農林業振興はもとより、地域の活性化等に幅広く活躍している。

現在も、「耕土耕心」の校訓の下、担い手の養成に向け、基礎的な生産技術や知識を習得する2年制の「養成部」と、更に2年間で経営管理やマーケティングの能力の上積みを目指す「研究部」を置いており、卒業生の8割以上が県内の農林業現場に就業、若しくは農林業関連の企業に就職している。

農林業現場で即戦力となる人材の養成を目標に、カリキュラムの見直しや外部講師の招聘など、様々な改革に取り組んできているが、消費者ニーズの多様化、国際化や情報化の進展など、農林業現場が直面してする大きな変化に十分に対応できていない。

【部の構成及び定員数】

(単位：人)

部	学年定員	1 学年学生数	2 学年学生数	計
養成部	100	92	83	175
研究部	20	4	7	11
計	120	96	90	186

2017 年（平成 29 年）4 月 1 日現在

(3) 専門職大学を設置する意義

将来の農林業現場を支える人材の養成

個々の農林業経営体の規模が拡大し、農林業に応用可能な技術革新が進展してきたことから、農林業現場では基礎的な生産能力に加えて、加工・流通・販売の知識や経営管理能力、健康を志向した品質の向上やコストの低減など生産性を高める先端技術への対応能力を持ち、経営改革を主導できる人材が求められている。

そこで、生産技術の習得に向けた教育に加え、経営能力や管理能力、先端技術の理解力など、農林業現場で必要となる能力を高める実践的な教育を効果的に行うため、県内唯一の現場農林業者の養成機関である農林大学校を専門職大学に移行し、将来の農林業現場を支える専門職業人を養成する。

農山村の景観・環境・文化を育み支える人材の養成

景観の形成や自然環境の保全、水源の涵養など、農山村の多面的機能が注目される一方で、農山村地域では近年、高齢化や人口減少に伴い活力が低下していることから、農林業者が経営を行う上で、自然と共生しながら農山村の景観や環境を保全していくとともに、地域の文化や伝統を守り育み、地域社会を支えていくことが求められている。

国内外からの人材の受入れ

全国初の農林業分野の専門職大学として、県内の子弟のみならず、年齢や国籍、性別を問わず農林業を志す有為な人材に対し、質の高い実践的な高等教育を提供することにより、本県農林業の発展とともに、国際社会に貢献する人材を数多く養成する。

地域の活性化に寄与

多様な人々が大学に集い、交流することで、近年人口の流出が続く本県において、地域振興や賑いの創出が期待される。さらに、他地域

出身者が卒業後に定住する可能性や、対外的な「静岡県」の宣伝効果などにより、地域の活性化にも寄与することができる。

2 専門職大学の概要

(1) 大学の基本的な理念

新たに設置する専門職大学では、次のような観点から、農林業及び地域社会の発展に貢献することを目指す。

農林業経営に革新を起こす人材の養成

ア 農林業現場で必須となる生産に関する基礎から応用までの知識・技術を持ち、生産のスペシャリストとして、生産現場の中心となる人材を養成する。

イ 基礎的な生産能力に加え、農林業経営体の経営革新を推進する加工・流通・販売の知識や経営管理能力、先端技術への対応能力を有する人材を養成する。

地域社会における将来のリーダーとして、自然と共生し、美しい農山村の景観や環境を磨き上げるとともに、幅広い教養と豊かな人間性を備え地域の文化や伝統を守り育むことができる農林業者を養成する。

世界に開かれた大学として、農林業の人材養成を通じて産業の発展や社会の活性化に寄与する教育研究拠点を形成する。

これまで農林大学校では、校訓である「耕土耕心」、すなわち「大地を耕すことは自らの心を耕すことである」という理念の下、本県農林業の発展に貢献する、現場で活躍する農林業者を数多く輩出してきた。

専門職大学への移行に当たり、引き続きこの理念を尊重した上で、年齢や国籍、性別を問わず、将来の経営環境の変化に対応し、先端技術などを活用して経営革新を推し進め、更には農山村の美しい景観や環境、文化の継承者として、地域社会を中心となって支えていく人材を養成する。

(2) 大学の名称

(1)の基本的な理念に示した農林業者の養成に向けた教育内容を簡潔、的確に表現できる名称を検討し、設置申請までに決定する。

(3) 学部学科の構成と入学定員

学部・学科は、生産技術を基礎として農林業経営やマーケティングの知識・技術を習得する専門職大学1学部1学科(4年制)と、現在の農林大学校養成部の教育内容を活かし、生産の基礎から応用までの知識・技術を習得する専門職短期大学1学科(2年制)とする。

入学定員は現在の農林大学校の定員や卒業生の進路における人材需要を考慮するとともに、効率的な大学運営を行うため、以下のとおりとする。

学校種	学部	学科	入学定員	収容定員
専門職 大学	4年制学部(仮)	4年制学科(仮)	25人程度	100人程度
	短期大学部(仮)	2年制学科(仮)	100人程度	200人程度
			125人程度	300人程度

注) 学部学科の名称は適切な名称を引き続き検討

ただし、専門職大学で新たに設けられた前期後期の課程区分については、効率的な大学運営に資する制度として活用可能性があるか引き続き検討する。

3 教育研究体制

(1) 4年制学部・学科(仮)

教育目標

農林業経営体の規模の拡大に伴い、現場では生産能力に加え、経営管理能力、生産性を高める先端技術への対応力など、経営体の運営にかかわる能力が求められている。

県が農林業法人に実施したアンケート調査の結果からも、生産現場の監督者や現場作業者に次いで、経営管理や営業などの経営体運営能力を持つ人材を求める法人が多く、今後の農林業の発展に向けてこうした能力を持つ人材の養成が必要不可欠である。

さらに、農林業者には経営を行うだけでなく、人と自然が共生した美しい景観や自然環境を保全し、地域の文化や伝統を継承し、農山村地域を支えていくことが求められている。

こうした観点から、次の項目を基本的な教育目標とする。

生産能力に加え、先端技術への対応力と高度な経営管理能力を養い、「農林業経営体の経営を継ぐ」「農林業経営体の中核を担う」「自ら

新しい経営体を立ち上げる」など、それぞれの立場で自らの夢を実現し、農林業分野で活躍できる人材を養成する。

農林業の実践的な技術や知識と、生産物の価値を高める創造力を養い、農林業経営の現場で生まれる新しい課題に柔軟に対応できる人材を養成する。

農山村の景観形成の礎となる農業農村工学の実践的知識を養い、景観・環境や地域の文化、伝統を守って、自然と共生していくことのできる人材を養成する。

幅広い教養とコミュニケーション能力を養い、経営体や地域のリーダーとなりうる、豊かな人間性を備えた人材を養成する。

学部の特色

全国初の農林業分野の専門職大学としての特色をより鮮明にするため、農林業を生産だけでなく幅広い視野でとらえた教育を行うとともに、農林業経営体との連携を図る中で現場ニーズを的確にとらえた課題解決型の教育を行い、経営の現場が抱える課題に対応できる実践力を養う。

ア 農林業経営体等での体験・実践を重視した教育の実施

農林業経営体をはじめとする農林業界と密接に連携した教育を実施することにより、経営現場における豊富な体験を得るとともに、その体験に基づく確かな実践力を養う。

イ AOI-PARC 等との連携による、先端技術の知識習得

農林業の先端技術の研究拠点である AOI-PARC (Agri Open Innovation Practical and Applied Research Center : アグリオープンイノベーションの拠点) や、静岡県新産業集積クラスター (ファルマバレー、フーズ・サイエンスヒルズ、フォトンバレー) 等と連携した教育を実施することにより、ICT や AI (Agri-InfoScience : 農業情報科学) などの農林業現場で導入されている先端技術への理解を深める。

ウ 消費者動向を踏まえた農林業教育の実施

生産知識や技術を基礎として、加工・流通・販売などの6次産業化、食の安心安全、農林産物の機能性など、消費者の動向を踏まえたフードシステムの視点で農林業をとらえた教育を実施する。

エ 広い視野で農林業をとらえることができる資質・能力の涵養

農業農村工学の実践的知識の習得を通じた景観や環境などの農山村の持つ多面的機能の理解や、農山村地域の文化や歴史についての理解を促すことで、広い視野で農林業をとらえることができる資質・能力を養う。

オ コミュニケーション力や外国語能力の涵養

多様性を尊重しながら様々な人々と関係を築くことができるコミュニケーション力や、英語等外国語能力を養う。

カ 編入学制度の実施

より深い専門的な知識や技術の習得を希望する他大学・県外農林大学校卒業者や、新たに農林業を志す社会人などを受け入れるため、編入学制度を設ける。

教育課程

農林業経営者には、刻一刻と変化する時代に対応して経営を革新できる経営能力や、広く豊かな教養に基づいた柔軟な対応力が求められている。そのため、理論中心の科目履修や画一的な教育ではなく、より深く農林業を体験させる、経験と実践を重視した「実学」が必要である。

ディプロマポリシー（学位授与方針）やカリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）については、今後策定する基本計画において早急に検討する。カリキュラムの編成においては、農林業という職業に対する深い理解力を培うための基礎となる豊かな教養を習得する教育や演習・実習などを積極的に行う。更に実践的な対応力を養う専門教育を実施するため、設置基準における基礎科目と専門科目の教育目標を明確にした構成として、4年間での効率的な履修に配慮する。

なお、基本構想策定後に検討するカリキュラムポリシーを踏まえ、適切な教育課程を編成する予定である。

ア 基礎科目

農林業経営者に必要となる豊かな人間性や幅広い教養、専門科目履修に必要な知識を習得させ、確たる職業観の形成につなげるため、講義科目や導入科目として一般教養や、自然科学及び社会科学基礎、農業農村工学基礎、農山村の多面的機能について学ぶ。

農山村地域を取り巻く文化や歴史等への理解を深めるとともに、地域社会や他者との関わり方を学ぶことで、農林業を中心として多元的に物事を考えることができる人材を養う。

自然やものの成り立ちと理論を習得し、農林業生産を学ぶための基礎知識を身に付ける。

社会の様々な制度や、経済状況の理解に加え、経営理論を習得し、農林業経営を専門的に学ぶための基礎的な知識を身に付ける。

農林業生産と農山村地域の維持発展に必要不可欠な農業農村工学について、基礎知識を習得する。

農山村地域の持つ多面的機能(癒しや生物多様性、景観形成など)について、基礎知識を習得する。

イ 職業専門科目

農林産物の生産に加え、加工・流通・販売やマーケティング手法を含めた、農林業経営を実践するための高度な専門知識を教育研究するために、豊富な実習を取り入れ、生産技術と経営管理について学ぶ。

生産の基礎理論・技術を身に付けた上で、先端的・先進的な技術を学び、生産性・収益性の向上に資する生産技術力を習得する。

国内外の消費者に、安心安全な生産物を提供するための、国際基準の生産工程管理手法を習得する。

加工・流通・販売において、生産物を高付加価値化できる知識や手法を習得する。

組織マネジメントや、財務や労務、法律など、経営体の管理運営に必須となる知識を習得する。

ウ 展開科目

教育目的に応じて、職業専門科目で学修した内容に広がりを持たせる科目を置く。

エ 総合科目

農林業経営体経営者など外部専門家による実践的講義や、県の試験研究機関など関係機関と連携した教育、また、フードシステムの視点での生産から販売までの現場経験や、農山村で自然と共生し経営を实践する農林業者の下での経営研修など課題発見・解決型のプロジェクト実習を充実し、習得した知識・技術を現場で活用できる実践力や判断力を養う。

教育課程連絡協議会

農林業界及び地域社会のニーズを反映した教育課程を編成・実施するため、県内農林業者や普及機関、研究所関係者などを構成員とした教育課程連絡協議会を設け、その意見を踏まえた教育課程の編成・実施・評価を行う。

(2) 2年制短期大学部・学科(仮)

教育目標

農林業の本質は生命を育むことであり、農林産物の生産知識や技術は、農林業者にとって必要不可欠なものである。農林大学校養成部では一貫して現場に必要な生産知識・技術を持つ人材を養成してきており、農林業法人等からのニーズも高く、本県農林業人材養成において大きな役割を果たしている。

一方、近年現場でも GAP(農業生産工程管理)の取組や ICTの活用など生産技術の高度化への対応や、加工等により付加価値を向上させる技術や知識が求められている。こうした観点から、次の項目を基本的な教育目標とする。

確かな生産知識と技術を持ち、生産現場のスペシャリストとして即戦力となる人材を養成する。

生産現場のリーダーに必要な豊かな人間性と、現場の課題に対応できる先進的な生産知識や技術と、その応用力を持った人材を養成する。

学科の特色

実習を中心とした教育を実施することにより、生産技術や知識を基礎から応用まで深く掘り下げ、生産の現場が抱える課題に対応できる実践力・応用力を養うこととする。

ア 農林業の生産現場における経験・実践を重視した教育の実施

圃場における生産実習や、農林業経営体における企業実習、県の各研究機関での先端技術習得など、農林業の現場における豊富な経験と、その経験に基づく確かな実践力を身に付けることで、現場における課題に対応する力を養う。

イ 生産技術の高度化に対応した農林業教育の実施

GAPの取組や情報通信技術の活用など、生産現場に導入が必要とされている知識について学ぶとともに、農林業界や関係機関との情報交換により最新の現場事情を教育課程に反映させることで、現場の最前線で活躍できる資質・能力を養う。

ウ 農林業者としての職業観の涵養

農山村地域の文化や歴史、景観や環境などについて深く理解し、農林業者としての心構えや職業観を養う。

エ コミュニケーション力や外国語能力の涵養

多様性を尊重しながら様々な人々と関係を築くことができるコミュニケーション力や、英語等外国語能力を養う。

教育課程

農林業現場従事者には、農林産物の生産についての深い技術・知識と実践力に加え、日々変化する農林業現場への柔軟な対応力が求められている。そのため、理論中心の科目履修や画一的な教育ではなく、より深く農林業を体験させる、経験と実践を重視した「実学」が必要である。

ディプロマポリシー（学位授与方針）やカリキュラムポリシー（教

育課程の編成方針)については、今後策定する基本計画において早急に検討するが、カリキュラムの編成においては、農林産物生産知識や技術を習得する教育や演習・実習などを積極的に行う。更に柔軟な対応力を養う専門教育を実施するため、設置基準における基礎科目と専門科目の教育目標を明確にした構成として、2年間での効率的な履修に配慮する。

なお、基本構想策定後に検討していくカリキュラムポリシーを踏まえ、適切な教育課程を編成する予定である。

ア 基礎科目

専門職短期大学の教育にふさわしく、現場農林業従事者に必要となる栽培技術習得などに必要な知識を習得させるとともに、教養を涵養し職業観を形成するため、講義科目や導入科目として一般教養や専門基礎を学ぶ。

農林業を取り巻く文化や歴史、景観や環境に対する理解を深めるとともに、農林業者として地域社会や他産業との関わり方を学ぶことで、広い視点を持ち、農林業の担い手として確かな職業観を持った人材を養う。

自然やものの成り立ちと理論を習得し、農林業生産を学ぶための基礎的な知識を身に付ける。

イ 職業専門科目

静岡県の主要農林産物について、作目別に農林業生産現場に必要な知識・技術を身に付けるとともに、食品加工や生産工程管理手法などの応用分野について、豊富な実習を取り入れた科目を設け、確かな生産能力を身に付ける。

作目別分野...園芸(野菜・花き)、茶業、果樹、畜産、林業

ウ 展開科目

教育目的に応じて、職業専門科目で学習した内容に広がりを持たせる科目を置く。

エ 総合科目

農林業経営体経営者など外部専門家による実践的講義や、県の試験研究機関など関係機関と連携した教育、また、生産や販売の現場における実習を重視した生産現場の改善に関する卒業研究などにより、即戦力となる実践的な生産能力を身に付ける。

教育課程連絡協議会

農林業界及び地域社会のニーズを反映した教育課程を編成・実施するため、県内農林業者や農林業団体、高校関係者、地元市町、県関係者などを構成員とした教育課程連絡協議会を設け、その意見を踏まえた教育課程の編成・実施・評価を行う。

(3) 教員組織

教員組織は時代の変化や教育研究の進展等に対応できるよう柔軟な体制とする必要がある。原則として、主要科目等は専任教員（教授・准教授等）が担当するものとし、必要に応じ非常勤講師等で対応する。

教員の確保に際しては、教授・准教授・講師の人数及び年齢のバランスを考慮し十分な教育研究ができるよう、農林業経営体の経営者や本県職員を含め、優れた研究業績や豊富な実務経験を有する教員を配置する。

採用に当たっては活動実績のある教員を積極的に招聘、あるいは国内外で活躍する識者を非常勤講師として確保する。

国際的視野を広げるため、外国人教員の確保に努める。

より幅広い教育内容を提供するため、実務家教員として農林業経営者や行政機関の専門家の活用や、客員教授として他大学研究者の活用に取り組む。

(4) 入学者の選抜方法

入学者の選抜については、一般入試を基本とし、推薦（公募、指定校、地域内）、編入学、社会人入学、留学生受入れ特別入試制度など多彩な方法を設けるよう努める。

(5) 施設整備等

設置場所

大学の設置場所は、現在農林大学校の施設や圃場を有効活用するとともに、教育研究において隣接する研究所との連携を図るため、現在地のままとする。

施設設備

校舎・設備については設置基準に基づく施設・設備の整備に加え、教育課程を実施するのに必要な施設・設備を整備する。

学生寮

農林業を営む上で必要なコミュニケーション力や協調性を涵養するため、学生寮のあり方について検討していく。

4 地域・国際貢献及び大学連携

今後の少子化社会や社会人教育ニーズの高まりに対応し、年齢・国籍・性別に関係なく生涯学習の多様な機会を提供するとともに、大学の教育研究機能を活用し、地域や国際社会へ幅広く貢献できる大学を目指す。

(1) 地域との連携や貢献

大学の教育研究機能を活用し、産学官連携の下、行政施策や地域課題の研究機関として広く地域社会の課題解決に貢献することを目指す。

静岡県農林業の更なる発展に資するため、農林業人材養成の拠点として大学の教育研究機能を開放し、新たな農林業の人材養成環境づくりを支援する。

情報通信技術の活用などにより、生涯学習機会や大学情報の提供に努める。

地域社会の生活・文化の向上に寄与するため、市民生活や文化活動に積極的な支援を行い、地域に根ざした貢献を図る。

大学施設を積極的に開放し、地域に開かれた大学として、地域社会と様々な分野でも交流を促進する。

体系的、継続的なリカレント教育や公開講座などの生涯学習の多様な機会を提供し大学の教育機能を広く開放する。

(2) 国際貢献

外国人留学生の受入れ態勢を整備し、海外の大学と協定を結ぶことなどにより国際交流の促進について取り組む。

国籍を問わず、農林業を志す人材を広く受け入れ、質の高い実践的教育を提供することで、静岡で農林業を学んだ学生が国内・国外で活躍し、世界の農林業の発展に貢献することを目指す。

(3) 他大学との連携・協働

地域や分野において大学間が相互に連携し、社会の要請に応える共同の教育の質の保証と向上を目指すことが重要であることから、既存の他大学との交流の推進を検討する。具体的には、教育研究の連携、協働教育プログラム、単位互換協定、学生の交流等を検討していく。

5 開学の時期

平成32年4月開学を目標とし、教育研究体制や運営組織、施設整備などの具体化を図りながら文部科学省への申請の準備を進める。

なお、静岡県立農林大学校については専門職大学開学年度から新たな学生の募集を停止し、全学生の卒業をもって廃止する。

6 大学設置運営主体

大学運営に当たっては、県直営のほかに公立大学法人制度での運営が考えられるが、農林業の担い手養成は農林業振興政策の主要な柱の一つであり、大学化後も、県として責任を持って農林業人材の育成を行い、農林業経営体の発展や農山村地域の振興を図っていく必要があることから、現段階では県の直営とする。

静岡県の新ビジョン

富国有徳の
美しい“ふじのくに”の
人づくり・富づくり

Shizuoka Prefecture Comprehensive Plan

2018 →

→ 2027

1 新ビジョン策定の趣旨

本県は、富士の名称を4字の熟語にした「富国有徳」を県政の基本理念とし、物心ともに豊かな「富」を築き、有徳の人材の「土」を育てることを基本方針としています。これら基本理念・基本方針の下、2011年2月、「富国有徳の理想郷“ふじのくに”づくり」と題する総合計画を策定し、地域づくりに取り組んできました。

その後、社会情勢の激変に対応して、2014年3月に総合計画の後半「後期アクションプラン」を発表し、日本の将来にとって、東京を中心とした明治以来の中央集権体制から脱却し、地域が自立して新時代を拓くことが課題であり、本県はその先導役を担って「ポスト東京時代の日本の理想郷を創る」という方針の下に政策を推進してきました。

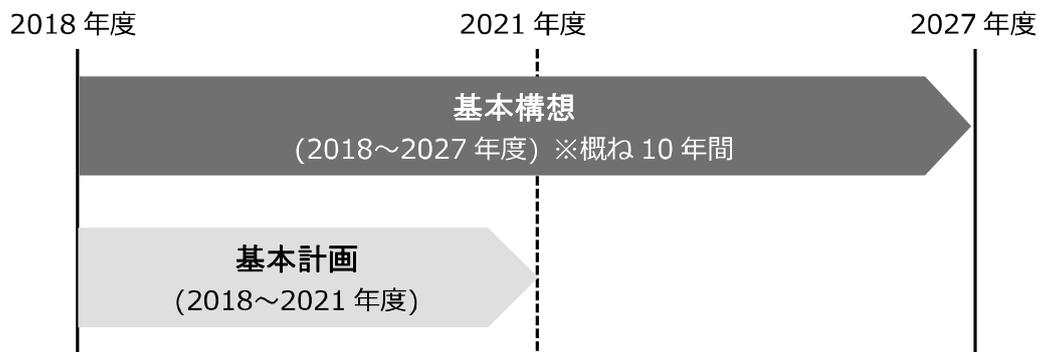
当初予定の10年間の総合計画は、2018年3月までに前倒しで達成見込みです。その成果を踏まえ、向こう10年は「世界から見た静岡県」という視点に立ち、国内はもとより、世界に占める静岡県の存在感を高めるため、「静岡県の新ビジョン 富国有徳の美しい“ふじのくに”の人づくり・富づくり」を策定します。

2 新ビジョンの構成と計画期間

新ビジョンは、「基本構想」と「基本計画」で構成します。

基本構想は、概ね10年程度（2018～2027年度）を計画期間とし、県の目指す姿、その実現のための取組の方向等を明らかにします。

基本計画は、基本構想に基づき、当初4年間に取り組む具体的な施策を記載します。



3 新ビジョンの役割

新ビジョンは、今後の県づくりの方向を示す基本指針となるものです。

(1) 目指す姿の共有

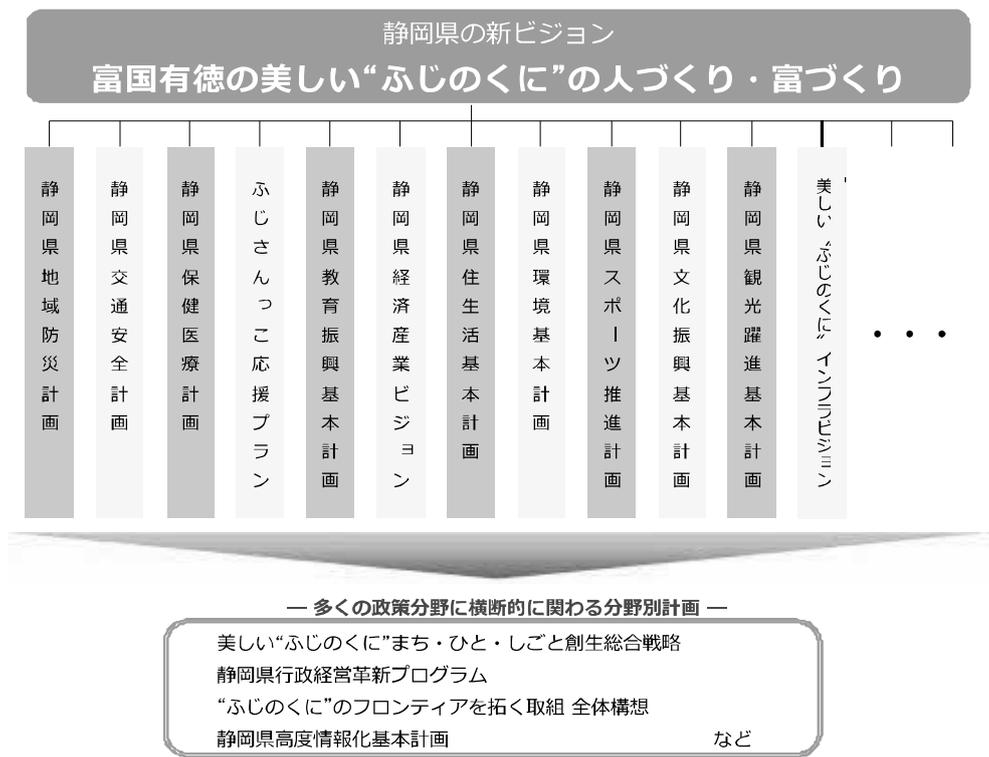
県づくりは、県だけではなく、県民各位、市町、企業、大学、NPOなど、様々な主体が連携し、協働して進める必要があります。新ビジョンは、本県の目指す姿と政策展開の方向性を分かりやすく提示して認識の共有を図り、オール静岡で取組を進めていく基礎となります。

(2) 効果的な政策推進

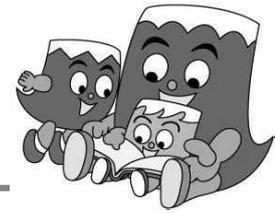
人的、財政的な資源は限られています。資源を効率的に使い、効果的に政策を進めなければなりません。新ビジョンは、目標を明確にし、目標の達成のために必要な施策群を分野横断的に見える化して、総合的な推進体制を敷くとともに、定期的に進捗状況と成果を評価し、施策の見直しを行うPDCAサイクルを徹底することにより、効果的な政策展開を行う基礎となるものです。

(3) 分野別計画との関係

新ビジョンは、長期的な展望に立って、県政全体を俯瞰し基本的な方針を示す最上位の計画です。一方、分野別計画は、新ビジョンのもと、各政策分野において取り組む施策・取組を網羅的かつ具体的に示したものです。新ビジョンと分野別計画を一体的なものとして捉え、新ビジョンに掲げる目標の達成に向けて、実効性の高い取組を着実に推進します。



政策 3 子どもが健やかに学び育つ社会の形成



3-1 安心して出産・子育てができる環境づくり

- (1) 家庭・職場・地域の子育て支援の充実
- (2) 保育サービス・幼児教育の充実
- (3) 子どもや母親の健康の保持・増進

3-2 すべての子どもが大切にされる社会づくり

- (1) 社会的養護が必要な子どもへの支援の充実
- (2) 子どもの貧困対策の充実
- (3) 特別支援教育の充実

3-3 「文・武・芸」三道鼎立の学びの場づくり

- (1) 地域ぐるみ・社会総がかりの教育の推進
- (2) 確かな学力の向上
- (3) 技芸を磨く実学の奨励
- (4) 学びを支える魅力ある学校づくり



3-3 「文・武・芸」 三道鼎立の学びの場づくり

本県教育の基本目標である「有徳の人」の育成を進めるためには、学問を学び、スポーツに親しみ、芸術を愛するという、「文・武・芸」三道の鼎立が重要です。

このため、家庭、学校、地域などが連携・協働し、社会総がかりの教育を推進するとともに、きめ細かな指導による確かな学力の向上や実学の奨励、多様な体験活動の推進、教職員の資質の向上などにより、三道の鼎立を目指した学校づくりを進めます。

❖ 現状と課題

- 地域の教育力の低下や家庭教育の充実の必要性が指摘され、複雑化・困難化する課題により学校の負担が増加しています。
- 全国規模の学力調査の成績は大きく向上しており、引き続き、学力を向上させる取組を継続していくことが重要です。
- 情報通信技術の急速な進展に対応するため、情報活用能力の育成と、ICTを活用した指導力の向上が求められています。
- 学力だけでなく、勤労観・職業観やコミュニケーション能力などを高めて「生きる力」を身につけ、様々な課題に柔軟に対応し、将来、社会人として自立できるようにするための教育が重要です。
- 学校を取り巻く環境が複雑化・多様化する中、魅力ある学校づくりを進めるためには、教育の担い手である教職員の資質向上を図る必要があります。

❖ 目 標

■ 社会全体の意見を幅広く反映し、家庭、学校、地域などが連携した社会総がかりの教育を推進します。

■ 学習環境・教育内容を充実し、確かな学力の向上を図ります。

■ 児童生徒の勤労観・職業観を育み、様々な分野で才能を発揮し、伸ばすことができる実践的な実学を推進します。

■ 教職員の資質の向上や、子どもと向き合う時間の拡充など、魅力ある学校づくりを推進します。

❖ 成果指標

指 標	現状値	目標値
全国規模の学力調査で全国平均を上回る科目の割合	(2017年度) 小50% 中100%	100%
授業中にICTを活用して指導できる教員の割合	(2016年度) 69.5%	85%
児童生徒に望ましい勤労観・職業観を育む教育を実施した学校の割合	(2016年度) 小89.7% 中98.8% 高92.8% 特100%	100%

❖ 施策・主な取組

(1) 地域ぐるみ・社会総がかりの教育の推進

- ① 社会全体の意見を反映した教育行政の推進
- ② 家庭・地域との連携による開かれた学校づくり
- ③ 地域の教育力の向上

(2) 確かな学力の向上

- ① 授業力の向上
- ② 学校におけるきめ細かな指導の充実
- ③ 教育内容の充実

(3) 技芸を磨く実学の奨励

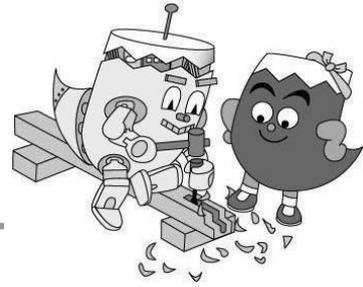
- ① 勤労観・職業観の醸成
- ② 多様な体験活動の推進
- ③ スポーツ活動の充実
- ④ 文化芸術を学ぶ機会の拡大

(4) 学びを支える魅力ある学校づくり

- ① 学び続ける教職員の育成
- ② 教職員と子どもが向き合う時間の拡充
- ③ 子どもの心身の健康問題への対応力の向上
- ④ 教職員の人材確保
- ⑤ 「命を守る教育」の推進

❖ 分野別計画

計画名	計画期間
ふじのくに「有徳の人」づくり大綱	2018～2021年度
静岡県教育振興基本計画	2018～2021年度



5 - 1 次世代産業の創出と展開

- (1) 静岡新産業集積クラスターの推進
- (2) 新たな成長産業の育成
- (3) 企業誘致・定着の推進

5 - 2 富を支える地域産業の振興

- (1) 地域経済を牽引する企業の成長促進
- (2) 中小企業の経営力向上
- (3) 中小企業の経営基盤強化
- (4) 地域を支える魅力ある商業とサービス産業の振興

5 - 3 農林水産業の競争力の強化

- (1) 世界水準の農芸品の生産力強化
- (2) 森林資源の循環利用による林業の成長産業化
- (3) 水産王国静岡の持続的発展の推進
- (4) 市場と生産が結びついたマーケティング戦略の推進



5 - 3 農林水産業の競争力の強化

本県では、温暖な気候や豊かな自然を活かし、多彩で高品質な農林水産物が生産されていますが、国内外との競争を見据えた生産性、収益性の向上や、担い手の確保などが課題となっています。

このため、市場を見据えた商品を提供できる生産体制の構築、生産力の強化、高い技術や経営管理能力を持った人材の育成、他産業との連携の促進などにより、富の創出に向けた「革新」と「再生」を図る農林水産分野のルネサンスに取り組みます。

❖ 現状と課題

- 国内で需要が高まった品目の生産拡大や、需要構造の変化に対応した茶の生産が進まず、農業産出額は微増に留まっています。市場の動向を見据えた選択的な生産拡大や、担い手への農地集積・集約化が課題となっています。
- 開所したA O I - P A R Cを拠点として、先端的な科学技術の活用による農業の生産性向上や、産学官金・農商工連携の新たな取組が始まっています。
- 大規模製材加工工場の稼働等により県産材の受入れ体制が整い、木材生産量は着実に増加していますが、ニーズに応える安定供給体制の確立が課題となっています。
- 漁業生産量は長期横ばい傾向で、短期間での増大が見込めない中、漁業所得の向上につながる魚価を高める対策が求められています。
- 農林水産業においては、就業者の減少や高齢化が深刻化しており、担い手の確保・育成が共通の課題となっています。また、マーケットインの考え方にに基づき、マーケットの情報を生産現場につなぎ、販路拡大を生産拡大につなげることが重要な課題です。

❖ 目 標

- マーケットインの考え方で市場を見据えた生産体制を構築し、生産の拡大を図ります。
- 農林水産業の競争力強化、持続的発展に向け、経営基盤の確立・強化、担い手の確保・育成を図ります。
- 産業の枠を越えた連携により新たな価値を創造し、農林水産業を軸とした関連産業のビジネス展開を促進します。

❖ 成果指標

指 標	現状値	目標値
農業産出額 (販売農家1戸当たり)	(2016年) 2,266億円 (753万円/戸)	2,400億円 (953万円/戸)
A O I プロジェクト事業化件数	—	累計 22 件
木材生産量	(2016年) 41.5万m ³	50万m ³
1経営体当たり漁業生産額	(2015年) 981万円	1,000万円
農業生産関連事業の年間販売金額	(2015年度) 1,062億円	毎年度 1,100億円

❖ 施策・主な取組

(1) 世界水準の農芸品の生産力強化

- ① A O I（アグリオープンイノベーション）プロジェクトの推進
- ② 多彩な農芸品の生産拡大
- ③ 次代を担う農業経営体の育成
- ④ 農業の競争力を高める生産基盤の整備
- ⑤ 持続可能な農業を展開できる生産基盤の確保

(2) 森林資源の循環利用による林業の成長産業化

- ① 県産材の安定供給体制の確立
- ② ビジネス林業の定着
- ③ 県産材製品の需要拡大

(3) 水産王国静岡の持続的発展の推進

- ① 生産・流通・消費の好循環を生み出す水産振興対策の推進
- ② 海・川の恵みの持続的な利用の確保
- ③ 次世代の漁業を担う人・組織づくり

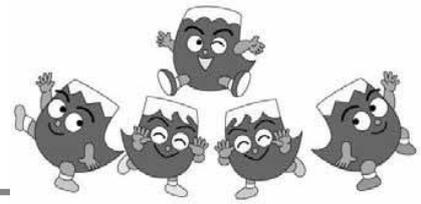
(4) 市場と生産が結びついたマーケティング戦略の推進

- ① ターゲットを明確にした国内・県内戦略の推進
- ② マーケティング拠点の整備と付加価値向上による販路拡大

❖ 分野別計画

計 画 名	計 画 期 間
静岡県経済産業ビジョン	2018～2021 年度
“ふじのくに”の農山村づくり～静岡県農業農村整備みらいプラン	2018～2021 年度
静岡県森林共生基本計画	2018～2021 年度
“ふじのくに”公共建築物等木使い推進プラン	2018～2021 年度
ふじのくにマーケティング戦略	—

政策 4 誰もが活躍できる社会の実現



4-1 活躍しやすい環境の整備と働き方改革

- (1) 産業人材の確保・育成
- (2) 誰もがいきいきと働ける環境づくり
- (3) 女性や高齢者が活躍できる社会の実現
- (4) 多様な主体による協働の促進
- (5) 生涯にわたり学び続ける環境づくり

4-2 次代を担うグローバル人材の育成

- (1) 留学・海外交流の促進
- (2) 国際的・専門的な学びの提供
- (3) 魅力ある高等教育の振興

4-3 誰もが理解し合える共生社会の実現

- (1) 多文化共生社会の形成
- (2) 人権尊重と人権文化が定着した地域づくり
- (3) ユニバーサルデザインの推進



4 - 1 活躍しやすい環境の整備と働き方改革

雇用情勢が改善される一方、生産年齢人口の減少や少子高齢化の進行などにより、多くの職種で人材不足が顕在化しています。また、ライフスタイルや就労環境の多様化が進み、働き方改革の実現が求められています。

このため、社会総がかりで「産業人材確保・育成プラン」を推進し、県内出身者の県内企業への就職支援やU I Jターン就職の促進、仕事と家庭の両立や働き方の見直し支援に取り組むほか、女性や高齢者などの多様な人材の活躍促進、多様な主体による協働の促進、生涯学習の環境づくりなどにより、誰もが活躍できる環境の整備を進めます。

❖ 現状と課題

- 人材不足が顕在化する中、県内学生、本県出身の大学生等、移住を希望する首都圏等の社会人などの県内企業への就職、定着が望まれています。
- 生産年齢人口が減少する中、生産性が高く、技術革新や社会のニーズの変化に対応できる、確かな技術・技能を持った人材の育成が求められています。
- 本県の一般労働者の年間総実労働時間は全国平均を上回っており、長時間労働の是正などの働き方の見直しを進める必要があります。
- 人口構造の変化を受け、多くのポテンシャルを秘めている女性や豊富な知識と経験を有する元気な高齢者の活躍が期待されています。
- 働く意欲を持つすべての人が活躍できるよう、ライフステージに応じた多様な働き方を提供できる社会の構築、生涯を通じた学びを提供できる環境の整備が求められています。

❖ 目 標

- 大学生等のU I Jターンを促進し、県内企業への就職を支援します。
- 技術革新や企業ニーズに対応する高度な知識と技術を持つ人材を育成します。
- 経営者・労働者双方の意識改革を図り、働き方の見直しを促進し、ライフステージや価値観に応じた働き方を提供できる企業を増やします。
- 女性や高齢者、障害のある人などの多様な人材が社会で活躍できる環境を整備します。
- 県民、N P O、企業等の多様な主体が協働し、活躍する地域づくりを進めます。
- 誰もが生涯を通じて、学びたい時に学ぶことができる環境を整備します。

❖ 成果指標

指 標	現状値	目標値
県内出身大学生のUターン就職率	(2016年度) 39.1%	43%
一般労働者の年間総実労働時間	(2016年) 2,063時間	2,033時間以下
事業所の管理職に占める女性の割合	(2015年度) 係長21.3% 課長11.9% 部長7.8%	(2020年度) 係長25% 課長15% 部長10%
社会参加している高齢者の割合	(2016年度) 48.5%	70%
障害者雇用率	(2017年度) 1.97%	2.30%

❖ 施策・主な取組

(1) 産業人材の確保・育成

- ① 学生・若者の就職支援
- ② 経済・雇用情勢に対応した就職支援
- ③ 高度な知識と技術を持つ人材の育成
- ④ 技術・技能を尊重する環境づくり
- ⑤ 「生きる道」としての仕事を学ぶ環境づくり

(2) 誰もがいきいきと働ける環境づくり

- ① 誰もが働きやすい職場づくり
- ② 多様な人材の活躍支援
- ③ 安全・安心に働ける労働条件の確保

(3) 女性や高齢者が活躍できる社会の実現

- ① 男女共同参画の推進
- ② 女性の活躍の促進
- ③ ふじのくに型人生区分における壮年世代の活躍促進

(4) 多様な主体による協働の促進

- ① 多様な主体のマッチングの促進
- ② NPO等の活動を支援する市民活動センターの機能強化

(5) 生涯にわたり学び続ける環境づくり

- ① 多様な学習機会の充実
- ② 県立中央図書館の充実
- ③ 青少年の健全育成

❖ 分野別計画

計 画 名	計 画 期 間
静岡県産業人材確保・育成プラン	2018～2021年度
静岡県経済産業ビジョン	2018～2021年度
静岡県職業能力開発計画	2017～2021年度
静岡県男女共同参画基本計画	2011～2020年度
静岡県の女性の職業生活における活躍の推進に関する計画	2016～2025年度
静岡県長寿社会保健福祉計画（ふじのくに長寿社会安心プラン）	2018～2020年度
ふじのくに「有徳の人」づくり大綱	2018～2021年度
静岡県教育振興基本計画	2018～2021年度
夢へはばたけ！ふじのくに若い翼プラン－第3期静岡県子ども・若者計画－	2018～2021年度

ふじのくに 「有徳の人」づくり大綱

— 教育における地方創生の実現に向けて —



2018年3月

静岡県

大綱の位置付け等

1 大綱の位置付け

本大綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第1条の3の規定に基づき、本県の教育の理念や施策の基本方針を、県民の皆様に関わりやすく伝えるため、策定したものです。

本県の最上位計画である静岡県の新ビジョン（総合計画）における教育、学術、文化等に関する部分に基づき、本県教育が目指す理念や方向性をまとめてあります。

また、本大綱の理念を踏まえ、今後4年間に取り組むべき具体的な施策をまとめたものが、静岡県教育振興基本計画（以下「県教育振興基本計画」）となります。

なお、静岡県文化振興基本計画、静岡県スポーツ推進計画、静岡県子ども読書活動推進計画等、県の教育、文化、スポーツ等の各分野別計画とも関連するものです。

2 大綱の期間

本大綱の期間は、静岡県の新ビジョン基本計画及び県教育振興基本計画と同様、2018年度から2021年度までとします。

2022年度以降は、静岡県の新ビジョン基本計画の策定に併せて、新たな大綱と県教育振興基本計画を策定することとします。

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2027年度
静岡県の新ビジョン 基本構想（2018～2027年度） ※概ね10年間					
静岡県の新ビジョン 基本計画（2018～2021年度）					
ふじのくに「有徳の人」づくり大綱（2018～2021年度）					
県教育振興基本計画（2018～2021年度）					

「有徳の人」づくりに向けた重点取組方針

「有徳の人」づくりのため特に重要な次の事項について、本大綱の期間中、県と県教育委員会が一体となって重点的に取り組んでいきます。

○ 「知性を高める学習」の充実

子供たちに基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等を身に付けさせるとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、確かな学力を向上させます。

○ 「技芸を磨く実学」の奨励

一人一人の能力や適性、意欲に応じた多様で柔軟な教育をより一層展開するため、農林水産業、工業、商業、芸術、スポーツ等の様々な分野において自らの才能を伸ばす実践的な学問としての「技芸を磨く実学」を推進します。

○ 学びを支える魅力ある学校づくりの推進

社会の激しい変化や地域・保護者からの期待に応える「地域とともにある学校」としての役割を実現するための組織マネジメント機能の強化を図ります。

○ グローバル人材の育成

郷土の魅力を的確に伝えることができるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を備えた、国際的視野を持つグローバル人材を育成します。

○ イノベーションを牽引する人材の育成

高度な専門的知識と倫理観を基礎に、新たな価値を生み出す創造性を備え、既存の様々な枠を超えて活躍できるイノベーションを牽引する人材を育成します。

○ 高等教育機関の機能強化

公立大学法人への支援の充実のほか、大学間及び大学・地域連携の促進等により、高等教育機関の教育・研究機能の充実とその成果の地域還元を図ります。

○ 新しい時代を展望した教育行政の推進

県と市町、地域の連携・協力の下、教育行政上の課題解決と地域の特色を生かした教育に取り組むなど、社会全体の意見を反映した教育行政を推進します。

○ 地域ぐるみの教育の推進

学校、家庭、地域、企業等の連携・協働による社会総がかりの教育に取り組むとともに、生涯を通じた多様な学習ニーズへの適切な支援を行います。

○ 誰もが夢と希望を持ち社会の担い手となる教育の推進

全ての人が、生まれ育った環境や経済的理由に左右されず、質の高い教育を受け、自らが持つ能力・可能性を最大限に伸ばすことができる教育を推進します。

○ 「命を守る教育」の推進

社会総がかりで安全な社会の構築に向けた機運を高めるとともに、家庭、地域、学校、行政の連携による防災、防犯、交通安全の取組や知識の習得を進めます。

静岡県教育振興基本計画

2018年度～2021年度

～“ふじのくに”に根ざした教育の推進～



静岡県・静岡県教育委員会

2 「技芸を磨く実学」の奨励

一人一人の能力や適性、意欲に応じた多様で柔軟な教育をより一層展開するため、農林水産業、工業、商業、芸術、スポーツ等の様々な分野において自らの才能を伸ばす実践的な学問としての「技芸を磨く実学」を推進するとともに、郷土を担う子供たちの「生きる道」¹²としての仕事を学ぶ環境づくりに努めます。

また、専門的職業人として社会の変化に柔軟に対応し、地域産業の発展に貢献できる人材の育成を図ります。

(1) 産業社会の担い手の育成

■本県における現状と課題

- ・本県の2017年3月現在の中学校・高等学校卒業者の就職率はいずれも全国平均を上回っており、児童生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、その基盤となる能力や態度を育む教育を義務教育段階から一層充実することが求められています。
- ・また、児童生徒の発達段階に応じ、働くことへの意欲や関心を高めたり、勤労の尊さを学んだりするなどの望ましい勤労観・職業観を育成するための取組を推進するとともに、ものづくりに触れる機会の創出や幅広いニーズに応える職業訓練の充実等が必要になっています。

■目標指標

指標名	現状値	目標値
児童生徒に望ましい勤労観・職業観を育む教育を実施した学校の割合	小 89.7%	100%
	中 98.8%	
	高 92.8%	
	特 100%	

■施策の内容

ア 地域の特色やライフステージに応じ、学校・地域・企業・研究機関等が連携した、望ましい勤労観・職業観を育む教育や職業に関する知識・技能を身に付けるための職業教育等の推進を図ります。

主な取組

- ふじのくに実学チャレンジフェスタ¹³の開催
- 専門学科等のある高等学校の職業教育への理解推進
- 高校生海外インターンシップの推進

¹² 「武士道」「商人道」と言われるように、富士山のような高い志を持ち、社会に対し責任を果たして貢献する生き方です。

¹³ 専門高校等による学習成果発表、研究発表等の祭典です。県内1地区において、農業、水産、工業、商業、家庭、福祉、芸術の7分野で実施します。

- 職場見学・職場体験等の促進
 - 「生きる道」としての仕事を学ぶため、「技芸を磨く実学」の大切さを知る体験、プロフェッショナルな職業や郷土の産業の魅力に触れる機会の提供
 - 地域や産業界との連携強化の促進
 - 高等学校におけるジョブ・サポート・ティーチャーの配置
 - キャリア教育に係る実践的な研修の実施
 - こころざし育成セミナー¹⁴の実施
 - 各技術研究所の見学や体験等を通じた地域産業に関する学習の支援、研修の実施
 - ふじのくに茶の都ミュージアムでの茶に関する情報発信及び体験メニューの充実
 - 林業体験会や就業ガイダンスの開催
 - 環境学習講座への職員の派遣
 - 小・中・高・大学への講師派遣による出前講座や富士山世界遺産センターでの教育旅行の受入れ等による世界遺産富士山の歴史、文化、自然等の紹介
- [担当：環境政策課、富士山世界遺産課、地域医療課、研究開発課、労働政策課、お茶振興課、林業振興課、建設業課、義務教育課、高校教育課、特別支援教育課、総合教育センター]

イ ものづくりの楽しさや技能の大切さへの理解促進を図るとともに、ライフステージに応じてものづくりや技能に触れる機会を提供します。

主な取組

- WAZAチャレンジ教室¹⁵の実施
 - ふじのくに実学チャレンジフェスタの開催（再掲）
 - 高校生ものづくりコンテストの開催に向けた支援
 - 新たな施設・設備の充実を通じた実学の高度化
 - 技能マイスター¹⁶の活用
- [担当：職業能力開発課、高校教育課]

ウ 多様な年齢層や障害の有無・状況等に応じたスキルを身に付けさせるため、幅広いニーズに応える職業訓練の充実や情報提供を図ります。

主な取組

- 誰もがいきいきと働ける環境づくり
 - 個々の適性や就業希望に応じた多様な職業訓練の実施
 - しずおかジョブステーションの運営と学生の職業意識の醸成
 - 障害のある人に向けた就労相談員の配置と職場定着の支援
 - 障害のある人の相談支援体制の充実や就労支援
- [担当：障害者政策課、労働政策課、雇用推進課、職業能力開発課、特別支援教育課]

¹⁴ 本県の医療を支える人材育成のために、病院で医師から話を聞いたり、体験的な活動を行ったりする事業です。

¹⁵ ものづくりの楽しさや大切さへの理解促進を図るため、小・中学校に技能士を派遣して、実際のものづくりを体験する事業です。

¹⁶ 優れた技能を有し、後進の指導・育成に尽力している現役の技能者を「静岡県技能マイスター」として認定しています。

エ 実践的な職業教育を行う高等教育機関の設置や、新たな成長戦略のための産学官連携による中小企業の人材育成等により、県内産業を支える人材を育成します。

主な取組

- 農林大学校の専門職大学への移行による農林業人材の育成
- 青年等の新規就農の促進
- 漁業高等学園における漁業就業者の育成
- 建設業の経営者や技能者を対象とする研修の実施
- 富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラムの開催支援
- レーザーによるものづくり中核人材育成講座の開催支援
- 総合食品学講座の開催支援
- 職業能力開発短期大学校の設置による現場力のある高度な技術人材の育成
- 経験年数に応じた技術習得や低コスト生産システム普及に向けた研修開催
- 企業等と連携した在職者訓練の実施

〔担当：職業能力開発課、新産業集積課、農業ビジネス課、林業振興課、水産振興課、建設業課〕

事例紹介③「ふじのくに実学チャレンジフェスタ」

「ふじのくに実学チャレンジフェスタ」は、専門学科や総合学科で農業、工業、商業、水産、家庭、福祉、芸術を学ぶ高校生の学習内容や活躍等について、多くの県民に直接アピールする機会を設けることで、実学に対する理解を促進するとともに、地域や産業界と連携・協働し、地域や本県の産業を担う職業人を育成することを目的として、2016年度から実施しています。

2017年度は、アクトシティ浜松展示イベントホールに県立高等学校40校、市立高等学校2校の計42校の生徒約800人が集い、学習成果の発表等を行いました。また、寄せ植え体験、ミニ鉄道模型の乗車体験、食品サンプル作成等の体験コーナーを設けることで、来場者が実学の魅力を肌で感じられるような工夫も行いました。

来場者からは、「こんなにたくさん専門高校があるとは知らなかった。」などの感想が寄せられるとともに、参加生徒からも「体験指導はとても楽しかった。」「他校の学習内容を知ることができ、刺激になった。」などの感想が聞かれました。来場者はもとより、実学を学んでいる生徒にとっても「技芸を磨く実学」の魅力を改めて実感する場となっています。



コンピュータ制御による生産ラインモデルに見入る子供たち

1 事業所数(製造業) (平成28年)

静岡県 9,299 事業所
全国 191,339 事業所
順位 5位 (全国比 4.9%)

第6章

静岡県の工業

○事業所数(製造業)の推移(単位:事業所、%)

年	事業所数	前年比
平成24	10,431	▲6.8
25	10,037	▲3.8
26	9,777	▲2.6
27	10,492	7.3
28	9,299	▲11.4

○事業所数(製造業)(全国順位)(単位:事業所、%)

順位	都道府県	事業所数	前年比
1	大阪府	15,990	▲14.8
2	愛知県	15,870	▲9.9
3	埼玉県	10,975	▲13.4
4	東京都	10,789	▲19.8
5	静岡県	9,299	▲11.4
	全国	191,339	▲12.1

(注)・従業者4人以上の事業所について集計。

・平成27、28年は翌年6月1日現在、それ以外は表示年次の12月31日現在の数値。

出典「工業統計調査」経済産業省

「経済センサス-活動調査」総務省、経済産業省

2 従業者数(製造業)

(平成28年)

静岡県	398,450人
全国	7,571,369人
順位	3位(全国比5.3%)

○従業者数(製造業)の推移(単位：人、%)

年	従業者数	前年比
平成24	393,687	▲0.7
25	388,877	▲1.2
26	386,924	▲0.5
27	396,406	2.5
28	398,450	0.5

○従業員数(製造業)(全国順位)(単位：人、%)

順位	都道府県	従業者数	前年比
1	愛知県	828,077	0.4
2	大阪府	436,048	▲1.2
3	静岡県	398,450	0.5
4	埼玉県	384,055	▲0.1
5	兵庫県	356,782	2.5
	全国	7,571,369	2.3

(注)・従業者4人以上の事業所について集計。

・平成27、28年は翌年6月1日現在、それ以外は表示年次の12月31日現在の数値。

出典「工業統計調査」経済産業省
「経済センサス－活動調査」総務省、経済産業省

3 製造品出荷額等(製造業)

(平成28年)

静岡県	16兆1,322億円
全国	302兆356億円
順位	3位(全国比5.3%)

○製造品出荷額等(製造業)の推移(単位：億円、%)

年	製造品出荷額等	前年比
平成24	157,077	5.1
25	156,991	▲0.1
26	160,507	2.2
27	163,720	2.0
28	161,322	▲1.5

○製造品出荷額等(製造業)(全国順位)

順位	都道府県	製造品出荷額等	前年比
1	愛知県	449,090	▲2.5
2	神奈川県	162,882	▲6.8
3	静岡県	161,322	▲1.5
4	大阪府	158,197	▲5.2
5	兵庫県	151,054	▲2.2
	全国	3,020,356	▲3.5

(注)・従業者4人以上の事業所について集計。

・平成27年は個人経営調査票による結果を含まない。

出典「工業統計調査」経済産業省
「経済センサス－活動調査」総務省、経済産業省

4 付加価値額（製造業）

（平成 28 年）

静岡県 5兆6,822億円
 全国 97兆2,325億円
 順位 2位（全国比 5.8%）

○付加価値額(製造業)の推移 (単位：億円、%)

年	付加価値額	前年比
平成 24	54,638	4.8
25	55,935	2.4
26	55,262	▲1.2
27	57,848	4.7
28	56,822	▲1.8

○付加価値額(製造業)(全国順位) (単位：億円、%)

順位	都道府県	付加価値額	前年比
1	愛知県	129,753	▲6.6
2	静岡県	56,822	▲1.8
3	大阪府	52,301	0.4
4	神奈川県	48,973	▲1.8
5	兵庫県	48,820	0.2
	全国	972,325	▲0.8

(注)・従業者 4 人以上の事業所について集計。

・従業者 4 ～ 29 人の事業所については粗付加価値額である。

・粗付加価値額 = 製造品出荷額等 - (消費税を除く内国消費税額 + 推計消費税額) - 原材料使用額等

・付加価値額 = 製造品出荷額等 + (製造品年末在庫額 - 製造品年初在庫額) + (半製品及び仕掛品年末価額 - 半製品及び仕掛品年初価額) - (消費税を除く内国消費税額 + 推計消費税額) - 原材料使用額等 - 原価償却額

・平成 27 年は個人経営調査票による調査分を含まない。

出典 「工業統計調査」 経済産業省

「経済センサス-活動調査」 総務省、経済産業省

5 主な製造業

（平成 27 年）

○製造業別年間出荷額等

品目	事業所数 (所)	出荷額等 (百万円)	全国シェア (%)	全国順位
輸送機械	1,186	4,117,630	6.4	2
電気機械	579	1,950,944	11.2	2
化学工業	192	1,669,673	5.8	7
飲料・たばこ・飼料	670	1,124,973	11.0	1
食料品	1,251	1,298,435	4.6	8
パルプ・紙	496	817,744	11.2	1
生産用機械	1,172	817,832	4.6	7
繊維工業	318	104,127	2.6	12
家具・装備品	321	81,842	4.3	9
楽器	83	61,952	70.5	1
プラモデル	17	17,343	94.8	1
遊具・遊人形	33	3,684	22.5	2

(注) 従業者 4 人以上の事業所について集計。

出典 「経済センサス-活動調査 (産業編)」 総務省、経済産業省
 「経済センサス-活動調査 (品目編)」 総務省、経済産業省

6 製造品出荷額日本一の品目

(平成 27 年)

○製造品出荷額第 1 位の製造品は 89 品目。このうち、全国シェア 25%以上を占める代表的なものを抜粋した。

品目	製造品出荷額 (百万円)	全国シェア (%)	静岡県内 産出事業所数
ピアノ	17,787	100.0	3
プラスチックモデルキット	17,343	94.8	17
電子楽器	11,980	92.1	7
白熱電灯器具	281,261	83.3	8
楽器の部分品・取付具・ 附属品	15,073	69.0	48
紅茶(仕上茶)	16,259	64.4	16
その他の洋楽器、和楽器	16,932	58.0	21
緑茶(仕上茶)	139,515	55.3	289
紙製衛生材料	6,620	54.9	3
KDセット(二輪自動車)	23,664	54.2	3
パルプ装置・製紙機械の 部分品・取付具・附属品	11,283	49.9	59
色板紙	3,396	49.3	3
製材機械	4,737	49.2	7
その他の製紙機械	9,063	49.0	18
娯楽用具・がん具の部分 品・附属品	4,035	45.3	6
人形の部分品・附属品	2,406	44.3	19
合成皮革	38,899	44.1	5
触媒	145,904	44.0	3

品目	製造品出荷額 (百万円)	全国シェア (%)	静岡県内 産出事業所数
銅裸線	91,734	43.3	5
その他の電子管	31,573	42.9	3
荒茶	32,026	42.8	328
パルプ製造機械、同装置	2,231	42.8	8
マニラボール	21,156	41.7	5
漁網以外の網地	8,182	40.9	8
清掃用品	4,758	39.3	3
エアコンデিশヨナ(ウインド 型、セパレート形を除く)	227,287	39.0	5
太陽熱利用機器	1,151	37.0	3
鉛蓄電池	131,125	37.0	3
その他の紙製衛生用品	142,494	35.6	76
直流・交流小形電動機 (3W以上 70W未満)	151,073	34.3	7
白ボール	29,389	32.5	8
ベッド用マットレス、組スプ リング	10,513	32.1	4
超音波応用装置	21,381	32.1	9
おしろい	5,209	31.8	8
その他の板紙	14,890	31.4	7
衛生用紙	59,167	31.0	28
動力伝導装置の部分 品・取付具・附属品	21,796	30.8	7
軽量鉄骨	24,154	30.0	17
その他の運動用具	27,817	29.6	11
木材加工機械	7,374	29.3	12

品目	製造品出荷額 (百万円)	全国シェア (%)	静岡県内 産出事業所数
乾燥機器	7,440	29.1	10
特殊印刷用紙	9,995	28.9	5
アルミニウムはく	16,469	27.8	3
茶系飲料	174,956	27.3	13
その他の端末装置	36,504	27.1	4
その他の紙器	44,151	25.5	24
内燃機関電装品の部分 品・取付具・附属品	319,812	25.1	73
金属製かん具	4,221	25.0	4

(注) 製造品出荷額には、加工賃、修理等は含まない。

各品目の順位は、出荷額が明らかかな都道府県による。

出典 「経済センサスー活動調査」 総務省、経済産業省

7 県内の新エネルギー等の導入実績 (平成28年度)

新エネルギー等導入量 105.14 万kl (原油換算)

○ 新エネルギー等の導入実績

項 目	平成28年度 (現状)	
	原油換算 (万kl)	設備容量 (万kW)
太陽光発電	37.21	152.01
太陽熱利用	7.08	
風力発電	7.89	17.67
バイオマス 発電	2.89	4.04
エネルギー 熱利用	5.38	
中小水力発電	1.41	1.15
温泉熱発電	0.0004	0.0003
天然ガスコージェネ レーション	43.27	48.98
新エネルギー等 計	105.14	-

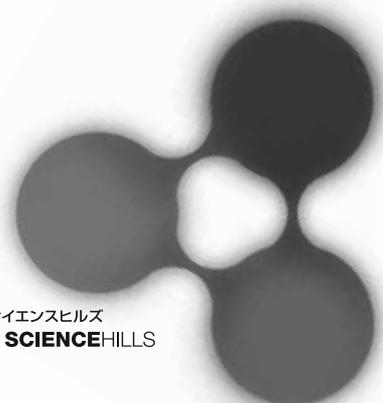
(注1) 表中の数値は四捨五入して表示しているため、合計が

一致しない場合がある。

(注2) 高度利用には、燃料電池を含む。

出典 「図表で見るとおカエネルギーデータ」

静岡県エネルギー政策課



フーズ・サイエンスヒルズ
FOOD SCIENCE HILLS

フォトンバレー
PHOTON VALLEY

ひと足早く、次の日本へ。



ものづくり県・静岡で、 次代への産業イノベーションが始まっています。

次代の成長産業のシーズが、3つのクラスターに結集。
日本の新たな産業活力が、静岡県から生まれます。

次の時代の日本を担う成長産業が、ひと足早く静岡県で動き始めています。地域の資源と特徴ある産業基盤を活かし、ファルマバレー、フーズ・サイエンスヒルズ、フォトンバレーの3つの産業集積プロジェクトを推進。「静岡新産業集積クラスター」から、世界レベルの研究成果が次々と生まれています。静岡県では、クラスター間の連携や国内外の他地域との連携を進める一方、各クラスターに研究成果の事業化を図る推進機関を設置。新商品の開発や新事業展開を支援する助成制度も充実しています。次世代産業の胎動が聞こえる「静岡新産業集積クラスター」へ、ぜひご参画ください。

ファルマバレー
PHARMAVALLEY

フーズ・サイエンスヒルズ
FOOD SCIENCEHILLS

フォトンバレー
PHOTONVALLEY

静岡県経済産業部
(新産業集積課)

3つのクラスターの連携による相乗効果を図ります。各クラスターによる情報の共有化や共同事業の推進、成果発表会、他地域との連携・交流を一元的に推進し、次世代産業の育成・集積を支援します。

フォトンバレー
PHOTONVALLEY

県西部 光・電子技術関連産業

光・電子技術関連産業集積プロジェクト
「浜松地域テクノポリス推進機構」「浜松商工会議所」などを推進機関に、次世代産業を支える光技術を核とした基盤技術の開発と産業への応用を進めます。

フーズ・サイエンスヒルズ
FOOD SCIENCEHILLS

県中部 食品関連産業

食品関連産業集積プロジェクト
「フーズ・サイエンスセンター」を推進機関に、地場製品の機能性に着目した食品等の研究開発を進め、食品関連産業の活性化を図ります。

ファルマバレー
PHARMAVALLEY

県東部 医療・健康関連産業

富士山麓先端健康産業集積プロジェクト
「ファルマバレーセンター」を推進機関に、医療からウェルネスまで世界レベルの研究開発と患者・家族や住民が求める製品開発を進めます。

次代のリーディング産業の「ゆりかご」、それが静岡県です。

多くの産業分野で日本経済をリードし、“ものづくり県”ともいわれる静岡県。新産業を育成するためのさまざまな魅力が満ちています。



アクセス

日本の3大マーケットに至近距離。
アジア市場への空路も開かれます。

日本のほぼ中央に位置する静岡県は、東京、名古屋、大阪の3大マーケットに短時間でアクセスできる“地の利”をもちます。また、2009年には、アジアや世界への玄関口として、富士山静岡空港も開港。2012年4月には新東名高速道路が他に先駆けて県内で共用を開始しました。



富士山静岡空港



ものづくり企業の集積

世界レベルの技術力を持つ中小企業群が、ものづくりをサポートします。

“ものづくり県”静岡を支えるのが、幅広い業種にわたる中小企業群。世界に通用する技術力を持つ中小企業や、次代をひらくアイデアを持ったベンチャー企業が、新産業の創出をめざします。

静岡県の製造業の県内総生産に占める割合(2010年度)



内閣府「県民経済計算年報」



サポート

プロジェクト推進のエンジンとなる
研究開発や事業化を支援します。

「静岡新産業集積クラスター」への参画企業に対し、研究開発や販路開拓への助成を行っています。また、研究開発の成果を商品化するため大型の助成制度を準備しています。

静岡新産業集積クラスター事業化推進事業費補助金

限度額	助成期間	助成率
初年度目 3,000万円 2年度目 1,500万円	最長2年	総事業費の 2/3以内



世界企業も静岡発

世界のブランド企業が
ニュービジネスのパートナーに。

ホンダ、スズキ、ヤマハなど、世界有数のブランド企業が静岡県で生まれ、現在も拠点を置いています。こうした企業とのビジネスチャンスが開かれるのも、静岡県の大きな魅力です。

HONDA

SUZUKI

YAMAHA

静岡県は産業活力日本一へ。

企業立地件数

全国2位

73件

(2012年¹⁾)

製造品出荷額等

全国4位

14兆7691億円

(2011年²⁾)

1 経済産業省「工場立地動向調査」

2 経済産業省「工業統計調査(速報)」



富士山麓から世界へ、「健康長寿」を発信します。

ファルマバレー宣言

私たちは、患者・家族の視点に立ち、
叡智を育み結集し、共に病と闘い、支えあい
健康社会の実現に貢献することを
宣言します。



戦略1 ベッドサイドのニーズに応える“ものづくり”

- 戦術1 研究開発の推進
- 戦術2 地域企業の世界展開の支援

戦略3 健康サービスが充実し高次都市機能が集積した“まちづくり”

- 戦術1 医療健康分野の産業集積
- 戦術2 健康をテーマとした地域づくり
- 戦術3 人が集まる地域づくり

戦略2 医療と産業を担う“ひとづくり”

- 戦術1 質の高い医療人材の育成と研修システムの充実
- 戦術2 医療現場のニーズを事業化する産業人材の育成

戦略4 世界展開の推進

- 戦術1 世界展開に向けた取組充実

¹ 厚生労働省「薬事工業生産動態統計年報」

富士山麓にひろがる静岡県東部。
医療と産業、地域が一体となり、
「健康長寿世界一」をめざす研究開発が進んでいます。



静岡を、世界一の健康長寿県にする。

そんな雄大な理念を推進しているのがファルマバレープロジェクト。
広大な富士のすそ野に、県立静岡がんセンターなどの医療研究機関、
医薬品・医療機器メーカー、幅広い健康関連産業が集積。
地域と一体化したネットワークで、医療からウェルネスまで、
世界トップレベルの研究開発が進んでいます。



県立静岡がんセンター

高度がん専門医療機関「静岡がんセンター」を中心とした研究開発。
世界トップクラスのがん診療拠点である静岡がんセンターを中心に、国立遺伝学研究所
などの研究機関、静岡県立大学、東京工業大学、東京農工大学、早稲田大学、慶應
義塾大学などの県内外大学、そして県東部地域を中心に集積した医薬品・医療機器関
連企業が連携し、医学・看護学・工学の融合（医看工連携）による高度な研究開発を
進めています。



富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム

人材育成で地域企業の医療健康分野への参入を支援します。

沼津工業高等専門学校と東海大学開発工学部が連携して、医用機器開発の中核技術者
の養成を目的とした「富士山麓医用機器開発エンジニア養成プログラム（F-met）」を実
施。また、ファルマバレープロジェクトの中核支援機関であるファルマバレーセンターは
各種セミナーを開催し、地域の企業の戦略的な医療健康分野への異業種参入・第二創
業や既存企業の規模の拡大を促進しています。



医療から観光産業まで。次の時代の“健康”をひろく応用分野。

ファルマバレーから生まれる成長産業は、医療分野にとどまりません。全国屈指の温泉
地である伊豆半島において、健康増進と癒しを提供する温泉宿のネットワーク「かかりつ
け湯」を進めるなど、ウェルネスや観光などの産業活性化や、医療機関・健康関連施設で
働く人材の育成にも貢献しています。富士山麓を拠点に、幅広い分野にひろがる世界的
な先端健康産業を創出する。それがファルマバレーの未来です。

フランスの医療クラスターと意見交換

ファルマバレープロジェクトは世界から注目を集めており、アメリカ、フランス、ドイツ、中国、
韓国など各国と交流を図っています。平成20年には、フランス大使館の科学技術担当官や、
フランス7地域の医療クラスターの代表団が訪れて意見交換を実施。その後も相互に関係者
が訪問し、将来の連携を見据えた交流を行っています。



フランスからクラスター代表団ががんセンターを視察
（写真提供 静岡新聞社）

医・看・工の融合から生まれるイノベーション。
その事業化・製品化を強力に支援しています。

主な研究成果

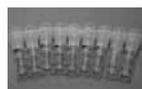
「セントロメア構成タンパク質抗体試薬
CENP-C抗体、CENP-H抗体、CENP-I抗体、
CENP-K抗体、CENP-L抗体、CENP-M抗体、
CENP-N抗体、CENP-T抗体、MgcRacGAP抗体」

がんの原因となる染色体の分配を探る。

細胞のセントロメア領域に存在するタンパク質をターゲットに、染色体の分配を解明する9種類の抗体試薬の製品化に成功。これらは、新たながんの診断薬や治療薬につながる、新しい可能性を秘めています。



CENP-K 抗体



開発主体：国立遺伝学研究所、
(株)医学生物学研究所

「アデノウィルス診断キット、
インフルエンザウィルス診断キット」

白金-金コロイドナノ粒子を用いた、迅速・高感度の診断キット。

プール熱や夏風邪、扁桃腺炎などをひきおこすアデノウィルス感染症を迅速に高感度に診断できるキット、「イムノエースアデノ」を発売しました。新たに開発した白金-金コロイドナノ粒子により、発色の高感度化に成功しています。同様の研究開発により、インフルエンザウィルス診断キットの製品化につながっています。

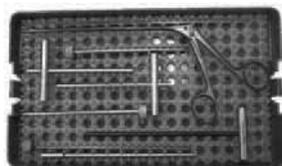
開発主体：(株)ピーエル、東京工業大学、
沼津工業高等専門学校



「ボーンバイオプシーセット Tシステム」

患者さんの痛みを軽くする、新たな骨針生検システム。

骨腫瘍などの検査のため骨標本を切り出す骨針生検は、患者に大きな負担をかけます。そこで、生検針の素材表面に高硬度などの機能性を有するダイヤモンドライクカーボンをコーティングすることで、患者負担を軽くする器具を開発しました。細いガイドピンを骨に挿入した後に生検針などを挿入することで、正確な生検や痛みを軽減します。



開発主体：県立静岡がんセンター、
(株)ホリックス、ピヨズ(株)、
富士工業技術支援センター

救急時携帯用人工呼吸器「QQセーバー」

新しい機能で今までにない使い易さ

精密ネジや医療用ネジを製造する東海部品工業(株)は、社会貢献をテーマとして、災害時や救急医療の現場で自発呼吸ができない人に対して容易に人工呼吸を行うことのできる呼吸補助器を開発、発売しました。取り扱い操作が非常に簡単で、患者の口に直接触れずにフレッシュな空気を送ることができることが特徴です。東海大学開発工学部の金井直明教授が発案、試作したものに新たな開発、改良を加えて商品化しました。平成20年12月、中小企業新規事業促進法に基づき、厚生労働省、経済産業省の両省より「異分野連携新事業分野開拓計画」の認定を受け、更なる商品開発と事業化を進めています。

開発主体：東海部品工業(株)、
(株)松浦製作所、東海大学
認証機関：フジファルマ(株)

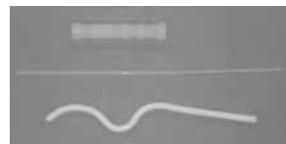


「前立腺がん放射線治療における直腸脱気チューブ」

前立腺変位の原因となる直腸内のガスを確実に排除。

前立腺がんの放射線治療では、患部を確実に照射する必要があります。直腸内のガスを排除することで前立腺の変位を防ぐ脱気チューブを開発し、製品化しています。

開発主体：県立静岡がんセンター、
(株)アオイ、東海部品工業(株)、
協和医科器械(株)



内筒挿入用具(上)挿入用内筒(中)
直腸脱気チューブ(下)

「バトラー口腔ケアシリーズ」

口腔粘膜の保湿と低刺激素材を特徴とするケア製品

県立静岡がんセンターでは、がん治療に伴う口腔内合併症の予防・軽減の方法について静岡県歯科医師会とサンスター(株)の3者で共同研究を行い、抗がん剤治療中の方、高齢の方、敏感な方など、口腔トラブルを抱えている方も使用できる低刺激タイプの口腔ケア製品(全5点)を考案しました。

開発主体：県立静岡がんセンター、
静岡県歯科医師会、サンスター(株)



抜管防止用ミトン付着衣「あたまとん」

チューブ類自己抜去防止効果が高いミトン付着衣。



術後せん妄などでチューブ類自己抜去リスクのある患者に、手指の動きを制限するための抜管防止ミトンを着用させても、チューブ類を抜去してしまうという例が多々あったことから、看護師と共同で、これらの問題を解決するミトン付き着衣を開発・製品化しました。

開発主体：医療福祉大学熱海病院、山本被服(株)

培養細胞の常温輸送セット「ROIS-Pack」

ROIS-Packは培養細胞を15～35℃の温度調節下で特殊な細胞安定化試薬中に保持させながら常温で輸送するユニークな器材です。ROIS-Packは特殊な細胞安定化試薬、薄型培養フラスコと温度緩衝材から構成されています。

開発主体：国立遺伝学研究所、Bio-ROIS(株)、(株)トライカンパニー、(株)大村興業、フナコシ(株)



現在進行中の研究開発

「分光分析法を用いた非侵襲的皮膚がん自動診断支援装置」

ハイパースペクトルイメージング技術を用い、生検(組織検査)が患者の利益にならないメラノーマなどの表在性皮膚腫瘍を非侵襲的に診断できる機器とその解析手法の開発を目指しています。

開発主体：県立静岡がんセンター、県立静岡がんセンター研究所、早稲田大学、三鷹光器(株)



皮膚がん自動診断支援装置 / MSI-03

「一時的下大静脈フィルター固定用具の開発」

点滴用バルブがある一時的下大静脈フィルターは、包帯等で頭部に固定しても、留置したカテーテルが移動したり、固定作業に時間がかかっていたため、これらの問題を解決する機材を開発しています(現在改良中)

開発主体：県立静岡がんセンター、岳南有機(株)、こるどん(株)



「ちょんまげ君」
(特許出願中)

企業からのメッセージ

東海部品工業(株)(沼津市)

当社は1947年、静岡県沼津市にネジ部品製造・販売メーカーとして創業し、以来60年以上にわたって工業用ネジを製造してきました。しかし、近年の自動車産業の低迷を受け、2003年、成長産業である医療分野への参入を決意。これまで培ってきた工業用ネジの製造技術を活用し、医療機器の研究開発・製造に着手しました。



開発までの道のりは容易ではありませんが、行政機関等

のアドバイスを得て、現在では第1種医療機器製造販売業の許可も取得し、頭蓋骨用チタンネジなど手術用インプラント材や手術道具等自社製品の製作に取り組んでいます。今後も、医療・研究機関、ファルマバレーセンター及び行政と連携し、質の高い製品開発に努めて参ります。



代表取締役社長
盛田 延之

(株)ホリックス(沼津市)

医療現場のニーズの製品化に努める、医療器具の専門メーカーです。ファルマバレーのコーディネートで、骨針生検用の「ボンバイオブシーセットシステム」を県立静岡がんセンター、ピヨンス(株)、富士工業技術支援センターと共同開発しました。



オリンパステルモバイオマテリアル(株)(長泉工業団地)

血液自動分析装置、人工骨や人工皮膚などの生体材料を開発・製造しています。ファルマバレーの理念に加え、交通が至便で富士山と駿河湾を臨む風光明媚な環境が進出の決め手となりました。



ファルマバレー連絡先

ファルマバレーセンター

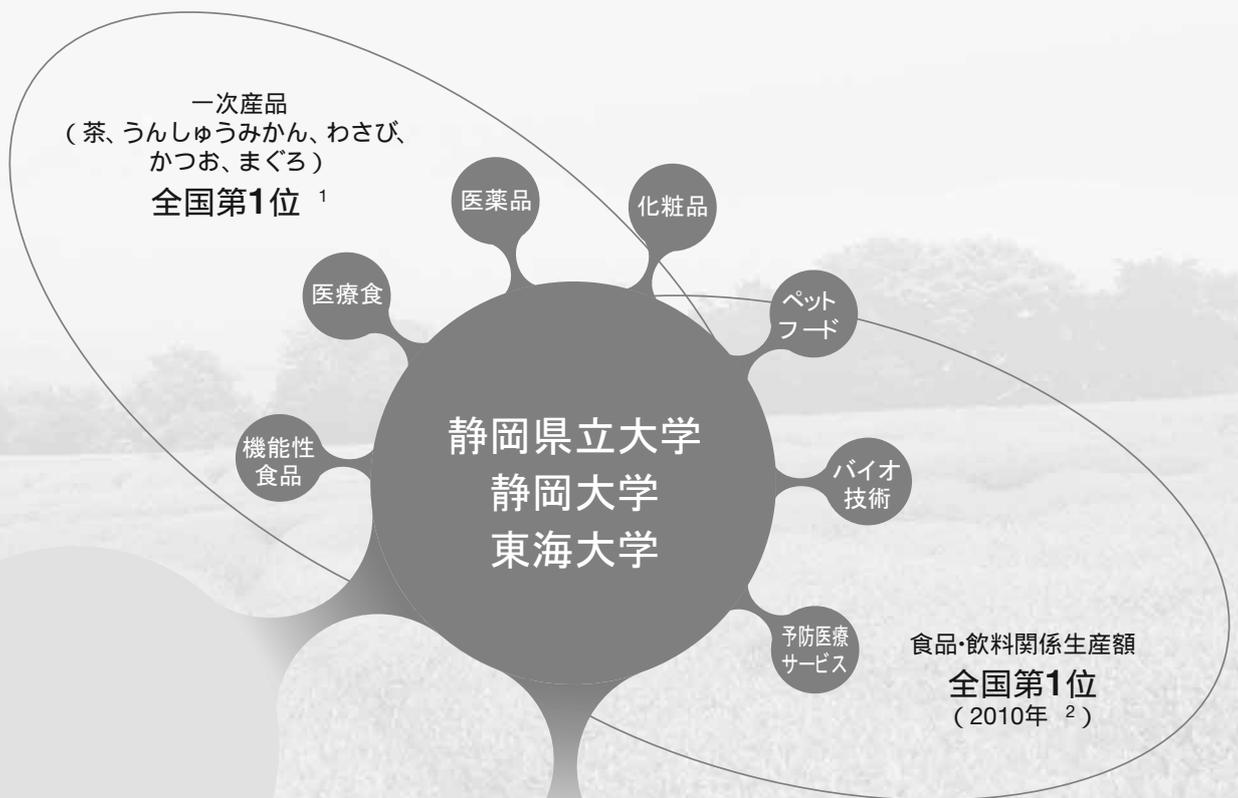
〒411-8777 駿東郡長泉町下長窪 1007

静岡がんセンター研究所 1F

TEL.055-980-6333 FAX.055-980-6320

URL <http://www.fuji-pvc.jp>

「食」と「薬」の融合により、
新たな機能性食品を創出します。



戦略1 地場産品を活用した研究開発の促進

産学官連携により、地場産品の生産技術の高度化や機能性に関する研究を促進し、製品の高付加価値化や他地域との差別化に不可欠な質の高いシーズを、生産段階から一貫して創出します。

戦略2 新産業の創出と地域経済の活性化 - 事業化の促進 -

研究開発から製品化、販路開拓までを、一つの企業で対応することは困難なため、大学で創出されたシーズ等の企業への技術移転を促進するとともに、企業の事業化を経営面、技術面等から多角的に支援します。

戦略3 食品関連産業を担う人材の育成

産学官連携により、今後の食品関連産業を担っていく、企業等における人材の育成を支援します。

戦略4 食による地域づくり - 広報・啓発 -

地場産品を活用した機能性食品等を地域へ普及し、住民の健康増進等を支援するとともに、クラスターに関する情報を国内外に発信し、他地域の食品関連クラスターとの交流促進により、優秀な研究者、企業、研究機関、情報等呼び込みます。

食品・医薬品・化成品産業が集積する静岡県中部。
新たな機能性成分を探索し、活用する、
次世代型の食品関連産業が孵化しています。



健康志向の高まりを背景として、

食に求められる役割は、カロリーの摂取のみならず、
健康の維持・増進にまで及んでいます。

そんな時代のニーズに応えるため、新たなフーズ・サイエンスビジネスの創出を推進。

県中部に集結したライフサイエンス系の大学・研究機関と、

日本有数の食品関連産業群が協働し、健康長寿社会に貢献する新産業が生まれます。



静岡県立大学



総合食品学講座



(株)ソーキナカタ パウムクーヘンオープン

「日本一」の一次産品と、すぐれたライフサイエンスが融合。

緑茶、かつお、うんしゅうみかん…。数々の「日本一」を誇る農水産物。静岡県中部には、それらを活用する食品産業を始めとして、医薬品、化成品産業が集積しています。これらの産業群と、静岡県立大学、静岡大学、東海大学などライフサイエンス分野にすぐれた大学や研究機関が連携。地場産品が持つ機能性成分を探索し、新たな食品関連産業を創出するのが、フーズ・サイエンスヒルズプロジェクトです。

研究成果の事業化から人づくりまで。産学官の連携体制で支援します。プロジェクトでは、研究開発から事業化、さらには人材育成まで切れ目のない支援を企業に提供しています。お茶を使用した新たな商品開発を進める「地域結集型研究開発プログラム」を始めとした研究開発、機能性食品パイロットプラント事業、試作品開発・実証試験等の支援、商品化に必要な情報を提供するセミナーの開催、研究者と企業間のネットワーク作り、食品製造分野の総合的な知識等の講義・実習を行う「総合食品学講座」など幅広く実施しています。

「食」と「薬」をみつめる、新たな産業群の生産基地へ。

静岡県は「健康食品基地」といわれており、レシチン、イソフラボン、グルコサミン、アンセリンなど様々な機能性食品素材が生産されるとともに、健康食品には欠かすことのできないソフトカプセルの充填を行う企業も数多く集積しています。また、主に輸送用機器の部品などを生産する機械設計・製造会社(株)ソーキナカタが食品加工機械分野に参入しバウムクーヘンオープンなどの製造販売を開始しました。21世紀、心身ともに快適な暮らしをリードするのは、フーズ・サイエンスヒルズに集う企業です。

ネブラスカ大学リンカーン校との連携協定締結

2009年10月、アメリカ・ネブラスカ大学リンカーン校の学長が静岡県立大学を訪れ、両大学の一層の交流を促進するため大学間連携協定を締結しました。2011年7月には県立大学教員がリンカーン校にて、9月にはリンカーン校教員が県立大学にて講義を行いました。今後も、海外研究機関との積極的な交流を図っていきます。



調印を交わすHarvey Perلمان学長と木苗学長

フーズ・サイエンスヒルズ FOOD SCIENCEHILLS

食品関連産業

食品素材に眠る豊かな可能性が、
ストレスや病気と闘う新たな市場をひらいています。

主な研究成果

「GABA入り食品」

ストレスを和らげる食品の新市場が出現。

GABAは人の体内に存在するアミノ酸の一種で、脳内の神経伝達物質として働きます。静岡県立大学では、GABAのストレスを和らげる効果について研究を進めており、この研究成果を活用した商品が相次いで発売されました。GABAを豊富に含んだチョコレート、コーヒー、ヨーグルトなど「ス



トレス緩和食品」の市場が創出されています。

開発主体：静岡県立大学、
(株)ファーマフーズ

「ストレス測定システム」

ストレスを受けると唾液中に分泌される微弱な発光物質から、ストレス度合いを簡単・迅速に測定できる、個人向けの小型装置を試作しました。より多機能で高感度解析型のシステム開発をめざしています。

開発主体：静岡県立大学、浜松ホトニクス(株)



「カツオ卵巣抽出物入りペットフード」

ストレスを緩和するペットフードを発売。

鯨節やカツオ缶詰の工場から排出される、カツオの卵巣からの抽出油に、ストレスを和らげる作用があることを発見。この魚油を配合したペットフードを商品化しました。



開発主体：県工業技術研究所、
(株)マルハチ村松、三洋食品(株)

「カプシエイト関連商品」

体の基礎代謝力を高め、胃への負担を軽減した、辛い新種のトウガラシ「CH-19甘(アマ)」の成分「カプシエイト」を発見し、製品化しました。

開発主体：静岡県立大学、味の素(株)



「イヌリン」

優れた健康作用を持つ食物繊維、ショートニングに代用可能。

イヌリンはゴボウやタマネギ等に含まれる水溶性の食物繊維です。このイヌリンを砂糖から工業的に製造することに成功し、その機能性に関する研究を進めてきました。また、イヌリンに油脂を吸着させることによりパン等の製造時に使うトランス脂肪酸を含んだショートニング(食物油脂)の代用品として利用が可能です。イヌリンを配合した米粉パンや食べやすい高齢者用パンが誕生しています。



開発主体：静岡県立大学、静岡大学、
フジ日本精糖(株)

「マリンアクティブ®」

カツオやマグロが高速で泳ぎ続けることに大きな働きがある機能性成分アンセリンを魚体内から抽出。この疲労に対して効果があるとされるアンセリンを含む食品素材を開発しました。

開発主体：静岡県立大学、
焼津水産化学工業(株)



現在進行中の研究開発

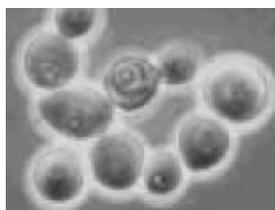
「清酒酵母由来天然S-アデノシルメチオニン (SAME) の開発」

抗関節炎・抗肥満作用が期待できる、新たな機能性食品素材。

非常に不安定で分解しやすい化合物である酵母由来天然

SAMEの安定化技術と大量生産するための独自の発酵技術を開発することにより、サプリメントを始めとした食品市場での活用が期待されます。

開発主体：磐田化学工業(株)



「学校給食用パン素材としての米ペーストの開発」

米の自給率向上を目指し、新製法による米ペーストを開発。

米ペーストとは、米を水に浸してからすりつぶしペースト状にした新規基本食品素材です。米ペーストを学校給食用パンの素材とした生産システムを確立し、米粉よりも優位性のある製品を安価に提供できるよう開発しています。今後の、食料自給率の救世主として期待されます。

開発主体：(株)いちまる



「新規嗜好性緑茶製品の製造」

亜臨界水抽出緑茶エキスの苦渋味抑制メカニズムを解明し、本研究で開発した技術を応用することにより、機能性の高いカテキンを高濃度に含みながら苦渋味の少ない製品の製造が期待されます。

開発主体：日研フード(株)



企業からのメッセージ

西光エンジニアリング(株)(藤枝市)

建築・鉄工・機械加工・ソフト開発・電装などの下請け企業が集合して設立したベンチャー企業で、おもにニッチ業界の専用機を設計・製作しています。九州工業大学との共同研究により、素材の持つ風味・色彩を損なわずに乾燥が出来る「気流導入型マイクロ波減圧乾燥機」を実用化し、新感覚のドライフードの開発などに取り組んでいます。



また、本技術を積極的に活用し、県内はもとより沖縄県、北海道とも連携した製品づくりに積極的に取り組んでいます。



代表取締役
岡村 邦康

焼津水産化学工業(株)(焼津市)

魚介類を原料とする天然調味料を製造する東証一部上場企業です。カツオ・マグロ由来のアンセリンによる抗ストレス作用の研究など、健康や美容に関わる機能性食品素材でも高い評価を受けています。



フジ日本精糖(株)(静岡市)

精糖事業で培った技術開発力を駆使して、世界で初めて砂糖を原料とした酵素法による「イヌリン」の製造に成功しました。機能性食品素材や切花活性剤の開発など幅広い事業展開を図っています。



フーズ・サイエンスヒルズ連絡先

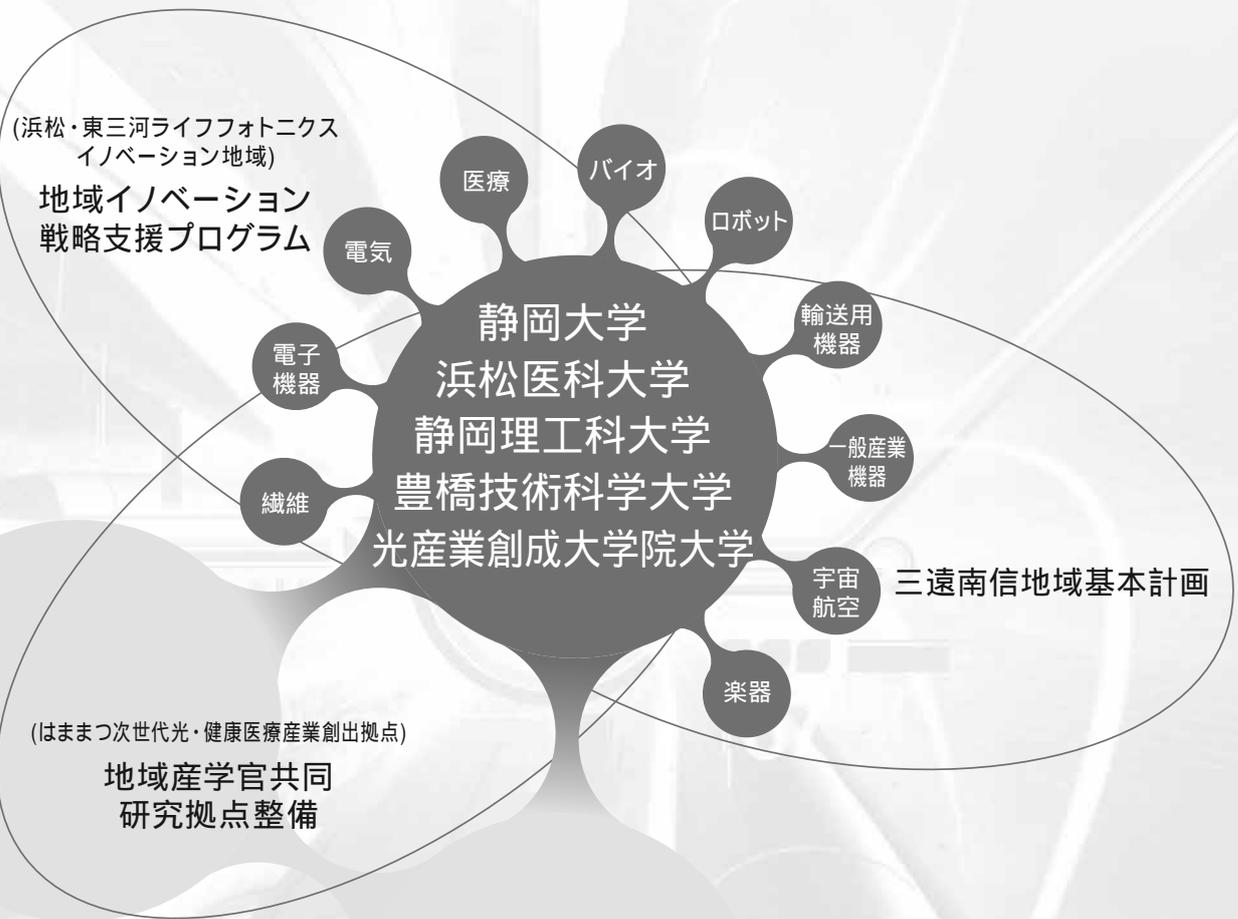
フーズ・サイエンスセンター

〒420-0853 静岡市葵区追手町 44-1 静岡県産業経済会館 2F

TEL.054-254-4513 FAX.054-253-0019

URL <http://www.ric-shizuoka.or.jp/fsh/>

世界企業のふるさと・浜松に生まれた 「光」と「電子」のフロンティア。



光・電子関連分野の研究開発力を結集

光・電子技術を核に、次世代産業を支える高機能・高性能な基盤技術の研究開発を進めます。中でも、レーザー、CMOS等の電子デバイス、デジタルイメージング、ナノ技術などに取り組んでいます。

産学官相互の技術を融合させた製品の創出

地元企業が製品を開発するために、産学官が連携して、画像情報を取得する次世代イメージングデバイスなど、光技術を応用した研究成果の事業化を促進します。

高度な人材育成の推進

関係大学がレーザー加工の技術者の人材育成を行うなど、地元企業、行政、教育機関が連携して、地元企業の技術水準を高度化するための人材育成に取り組めます。

ものづくり産業が躍動する静岡県西部。
これからの先端産業の基盤となる、
光・電子技術のイノベーションが加速しています。



浜松市を中心とする静岡県西部は、繊維、楽器、自動車など
ものづくり産業が躍動し、数々のブランド企業を生み出したエリア。
多くの世界企業の誕生の地で、次世代産業を支える最先端技術の開発と事業化が進んでいます。
先進の研究と豊かな産業集積を基盤に、光技術を核とした次世代産業を
創出・育成するフォトンバレープロジェクト。
次の時代の産業社会をリードする新たな世界企業が、ここから生まれます。



世界初の電子式テレビ(写真は再現装置によるもの)

世界初の「イ」から始まった、光の最先端技術。

1926年、浜松市で、高柳健次郎博士により世界初の電子式テレビに「イ」の字が映し出された時、フォトンバレーの種はまかれました。以来、静岡県西部は世界をリードする光・電子技術を生み出し続けています。2002年、小柴昌俊博士のノーベル賞受賞に貢献した光電子増倍管を開発した浜松ホトニクスをはじめとする先進企業、静岡大学、浜松医科大学などの研究機関が、高度な研究開発を推進しています。



レーザーによるものづくり中核人材育成講座

研究から事業化・人材育成まで、一貫した支援策を提供。

次世代の基幹産業となるオプトロニクス産業を創出するために、研究開発から事業化、人材育成まで一貫した支援策が提供されています。「地域イノベーション戦略支援プログラム」(文部科学省)や地域産学官共同研究拠点整備(JST)による研究開発・事業化支援や、レーザーによるものづくり中核人材育成講座(光産業創成大学院大学)による人材育成支援、「三遠南信地域基本計画」(経済産業省)による産業集積に取り組んでいます。フォトンバレーの輝きは、これからが本番です。



特定物認識・追跡装置

フォトンバレーから生まれる新産業が、未来社会をひらく。

先進的な光・電子技術の研究成果を、浜松地域に集積したものづくり企業が持つ技術力で実用化することで、多彩な新産業が生まれます。ナノテクノロジーを駆使した超高精度の製造・加工をはじめ、高機能・高性能イメージングデバイスの医療・交通分野などへの応用、より進化したIT、宇宙航空、ロボットへの展開など、幅広い分野でのイノベーションが進んでいます。フォトンバレーは、まさに“未来社会”のゲートウェイなのです。

浜松 ドイツ「光」が結ぶ交流・連携

浜松地域は、世界有数の光産業集積地として知られるドイツ・イエナ地域と交流を推進しています。両地域の企業や研究機関、政府関係者が相互に訪問、技術や製品の紹介をしています。2008年、静岡大学はイエナ応用科学大学と学术交流協定を、2010年(財)浜松地域テクノポリス推進機構は、オプトネット協会及びテューリンゲン州経済振興協会と産業交流協定を締結しました。両地域の連携により、先端技術を応用した新製品の開発が期待されます。



ドイツ・イエナ地域との産業交流協定締結

産業・医療の见えない可能性を照らし出す。 最先端の研究成果が、次々と事業化へ。

主な研究成果

スーパー特区で国産初の 内視鏡手術用ナビの実用化

内視鏡手術用ナビゲーション装置

脳や眼球などに隣接した耳鼻咽喉科の手術をより安全に行う装置です。手術前に撮影したCTの画像の3次元スキャナのデータをマッチングさせ、手術中の器具の位置を自動的に表示することで医師の支援を行います。



開発主体：浜松医科大学、静岡大学、
バルステック工業(株)、(株)アメリオ

遠隔医療診断に役立つ正しい色彩を伝送する 顕微鏡システムを実用化

高色忠実顕微鏡デジタルカメラシステム

顕微鏡の細胞画像を離れた場所で専門医が判断するために重要な正確な色の撮影、伝送、画面表示を可能にする全く新しいシステムです。病気の早期発見や誤診防止などの医療分野のほか、正しい色の商品見本の提供など商業分野にも活用できます。

開発主体：静岡大学、
(有)パラポ



暗闇でも斑点ノイズが無い 綺麗な写真(左側)が撮れる

超高感度広ダイナミックレンジ非冷却カメラ

特別の冷却をせずに従来より遥かに雑音が少ない綺麗な動画が撮れる新方式の高感度カメラが完成しました。このカメラは高感度と広ダイナミックレンジ化という相反する性能を実現し、セキュリティや科学観測用カメラとして脚光を浴びています。写真(左側)のように、白と黒い部分での雑音が極めて少なくなりました。



開発主体：静岡大学、
(株)ブルックマンテクノロジー

新開発カメラ画像 非冷却
高感度CCDカメラ画像 -20℃に冷却

真珠の品質を客観的に評価する 世界初の装置

真珠品質評価装置

ベテラン鑑定士の真珠評価を支援する装置が、世界で初めて実現しました。日本国内の産地、協会の皆様に評価していただき、好評を博しています。単真珠やネックレスの品質の良さを、宝石店でご確認いただけるようになるのも間近です。



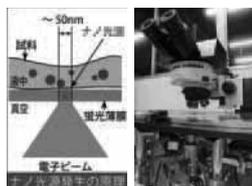
開発主体：豊橋技術科学大学、
ディスク・テック(株)、
三重県水産研究所

活きた細胞を数十nmの高分解能で 観察できる新開発顕微鏡

活細胞観察用高分解能EXA顕微鏡

電子顕微鏡の技術で発生させた超微小な点光源(可視光)で活きた細胞を照らし、その僅かな光を集めて画像化する世界初の光学顕微鏡で、EXA顕微鏡と命名しました。細胞の長期間の活動を、数十nmの高分解能で観察できることにより、医療・バイオ分野での飛躍的な進展が期待されます。

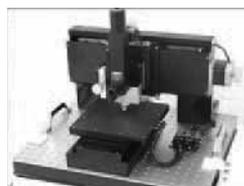
開発主体：静岡大学(株)アプロ



太陽電池の効率化や高性能・高機能半導体開発 には欠かせない計測装置

マイクロ4探針薄膜抵抗測定器

細胞等をナノ領域で取り扱うために開発した超小型高性能精密部品を活用して、太陽電池や高性能半導体の開発に必要な極微細領域の表面抵抗を正確に測定する装置を開発しました。研究開発用として簡便に使用できるよう、小型で購入しやすい価格での販売を目指しています。



開発主体：静岡大学、
ソフトウェアス(株)、
アルテック(株)、ノボ電子(株)

企業からのメッセージ

浜松ホトニクス(株)(浜松市)

当社は、「光の研究を通じて、そこから生まれる新しい知識にもとづいた応用の可能性をもとに新しい産業を創成する。」という未知未踏を追求する精神を社是としています。このため、光技術の応用の可能性を、単に研究・開発に力を注ぐだけでなく、あらゆる分野で光の可能性を拓く人材の育成にも取り組むことにより、日本の浜松という地から全世界に向けて情報発信をして参ります。



光電子増倍管

パルステック工業(株)(浜松市)

当社のコア技術は、光学・電子・精密機械・ソフトウェア等の要素技術であり、これらを融合したオリジナル製品を開発し市場に提供して参りました。浜松医大と共同開発中の耳鼻咽喉科用内視鏡手術ナビゲーションシステムでは非接触3次元スキャナを担当するなど、常に新しい価値を創造する精神で、積極的な研究開発活動を推進しています。



(有)パパラボ(浜松市)

当社は、人の眼が認識した色を忠実に再現可能な技術を「知的クラスター創成事業」として静岡大学と共同で開発しました。色や質感を正確に評価、解析したい様々な分野のニーズに応えることができます。例えば遠隔地にいながらにして、直接見たものと同等の色評価が可能であるため、遠隔医療分野で当社技術が導入されています。



入居する浜松イノベーションキューブ

デジタルセンセーション(株)(浜松市)

2004年に「知的クラスター創成事業」の支援を受けて静岡大学情報学部の教員が設立したITベンチャーです。「文工融合」の理念のもと、「情報技術と映像コンテンツ」を両輪とし、ウェブ・センシング基盤技術の研究をベースにして、教育、医療、福祉等のウェブ映像応用システムとコンテンツ開発を進めています。



接客する映像コンテンツ BalloonNavi™

Topic

ものづくり技術と医療・医学との融合による地域イノベーションの創出 浜松医科大学

2011年、浜松医科大学は、PET/CT棟とサイクロترون棟からなる産学官共同研究センターを新設しました。同センターは、JST地域産学官共同研究拠点整備事業により整備した、イメージング関連装置(PET/CT装置、超小型サイクロترونなど)を活用し、地域の「健康・医療産業」の新たな創出を目標としています。

お問合せ先：浜松医科大学産学官共同研究センター
Tel：053-435-2677
Mail：sangaku@hama-med.ac.jp



PET-CT 装置



サイクロترون装置

(株)ブルックマンテクノロジー(浜松市)

静岡大学の川人教授が持つCMOSイメージセンサの世界的技術による「知的クラスター創成事業」等の研究開発成果をお客様の問題解決にご提供する設計・開発受託事業を続けており、さらに(独)科学技術振興機構のA-STEPや静岡新産業集積クラスターコンソーシアム事業化推進助成事業での商品開発をもとに事業領域の拡大を図って参ります。



超高速カメラに必須なノイズの少ないグローバルシャッター技術 撮影協力:掛川花鳥園

(株)ANSeeN(浜松市)

(独)科学技術振興機構の助成事業を活用して静岡大学発ベンチャーとして起業しました。CdTe半導体検出器を用いた高速フォトンカウンティングによるエネルギー弁別可能な検出器の開発・販売を行っています。セキュリティ・医療分野を想定した次世代非破壊検査装置の研究を続けています。



ハイスピードデジタルパルスプロセッサ

フォトンバレー連絡先

(公財)浜松地域イノベーション推進機構
(地域イノベーション戦略支援プログラム)
〒432-8561 浜松市中区城北 3-5-1
TEL.053-471-2111 FAX.053-471-2113
URL <http://www.hai.or.jp>

浜松商工会議所 工業振興課
(三遠南信地域基本計画)
〒432-8501 浜松市中区東伊場 2-7-1
TEL.053-452-1116 FAX.053-452-6685
URL <http://www.dopita.net/>



成長への活力を、静岡から。

静岡新産業集積クラスター

皆様が、いち早く次代の成長市場をつかむために。
私たち一人ひとりが、「新産業サポーター」として支援します。

静岡県は、さまざまな分野で日本一を誇る、産業風土に恵まれた地域です。その豊かな産業資源と、日本や世界の「知恵」や「技」を結びつけ、次世代の産業をいち早く創出する。それが「静岡新産業集積クラスター」のめざすもの。各クラスターの成果に加え、相互の連携による新しい可能性も芽生えています。こうした相乗効果を一層強化するため、参画企業の皆様に一貫した支援を提供します。

大学進学者流出・流入状況

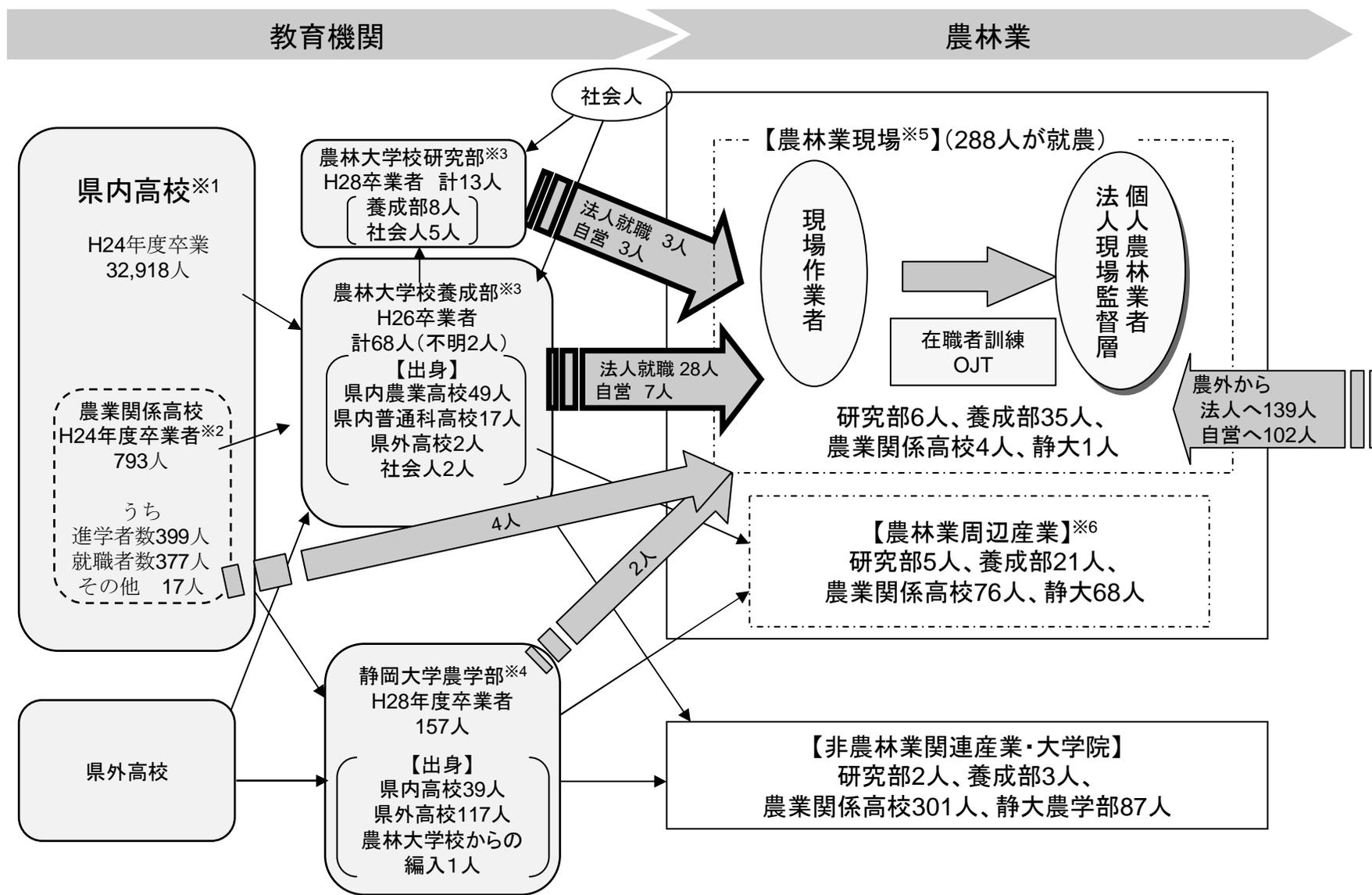
県内高校出身者の大学進学状況

(単位:人)

年度	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
総数	17,635		16,965		17,407		16,890		17,323	
県外流出総数 (総数に対する比率)	12,668 (71.8%)		12,148 (71.6%)		12,577 (72.3%)		12,174 (72.1%)		12,421 (71.7%)	
1	東京	3,534	東京	3,452	東京	3,578	東京	3,461	東京	3,527
2	神奈川	2,253	神奈川	2,169	神奈川	2,332	神奈川	2,190	神奈川	2,187
3	愛知	2,128	愛知	1,947	愛知	1,905	愛知	1,951	愛知	2,078
4	千葉	657	千葉	572	千葉	670	千葉	631	千葉	658
5	埼玉	596	埼玉	569	埼玉	580	京都	520	埼玉	529
6	京都	580	京都	566	京都	535	埼玉	510	京都	525
7	山梨	366	山梨	362	山梨	344	山梨	323	大阪	315
8	大阪	283	大阪	253	大阪	280	大阪	257	山梨	311
9	北海道	215	北海道	170	北海道	190	北海道	193	北海道	191
10	石川	173	石川	159	石川	182	石川	183	茨城	160
県内進学者 (総数に対する比率)	4,967 (28.2%)		4,817 (28.4%)		4,830 (27.7%)		4,716 (27.9%)		4,902 (28.3%)	

(出典:文部科学省「学校基本調査」)

静岡県農林業従事者の就業の現状(H24年度に高校を卒業した者の進路)



※1: 学校基本調査、※2: 農林業経営士受入部会総会資料、※3: 農林大学校調べ、
 ※4: 静岡大学HP、※5: 新規就農者実態調査 ※6: 農林業用資材・機械・肥料・農薬会社等

平成29年度
食料・農業・農村の動向

平成30年度
食料・農業・農村施策

第196回国会（常会）提出

我が国農業においては担い手の高齢化や減少が課題となっていますが、近年、農業法人等での雇用が拡大し、若手の新規就農者数が比較的高い水準で推移するという明るい兆しも見られます。農業の持続的発展に向けては、次世代を担う若手農業者が、付加価値の向上、規模拡大や投資を通じた生産性の向上に挑戦し、効率的かつ安定的な農業経営を実現していくことが重要です。

この特集では、49歳以下の若手農業者に焦点を当て、農林業センサス等や独自のアンケートから、経営構造の特徴、農業経営に対する考え等を確認し、農業経営の更なる発展に向けた施策の展開方向を考察します。

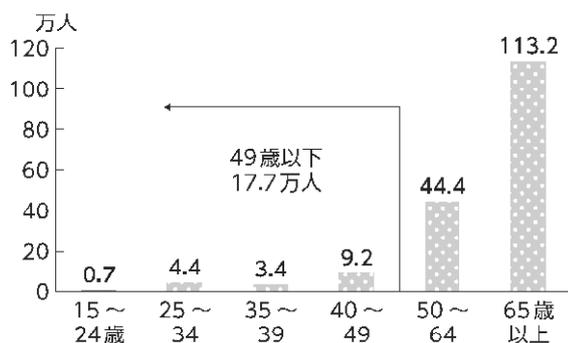
1 若手農業者がいる販売農家の経営構造分析

平成27（2015）年における農業経営体¹137万7,266経営体のうち、販売農家²は96.5%に相当する132万9,591戸と大宗を占めています。以下では、2015年農林業センサス等を用い、若手農業者の有無別の経営構造を販売農家について分析を行い、明らかにしていきます。

(1) 若手農業者の現状

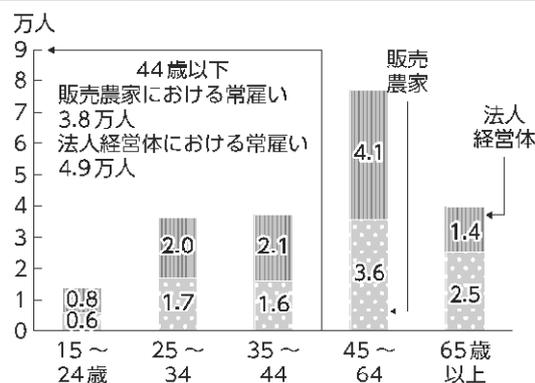
販売農家の世帯員である基幹的農業従事者³175万4千人のうち49歳以下は17万7千人と10.1%を、販売農家と法人経営体⁴における常雇い⁵20万4千人のうち44歳以下は8万7千人と42.8%をそれぞれ占めています（図表1、図表2）。

図表1 年齢別の基幹的農業従事者数（平成27（2015）年）



資料：農林水産省「2015年農林業センサス」

図表2 年齢別の常雇い人数（平成27（2015）年）



資料：農林水産省「2015年農林業センサス」

1 用語の解説1、2（1）を参照

2 用語の解説1、2（2）を参照

3 用語の解説1、2（4）を参照

4 法人の組織経営体のうち販売目的のものであり、一戸一法人は含まない。

5 用語の解説1、2（4）を参照

(2) 若手農業者がいる販売農家の分析

全体で見ると、49歳以下の基幹的農業従事者がいる販売農家（以下「若手農家」という。）は、いない販売農家（以下「非若手農家」という。）に比べ戸数は大幅に少なくなっています。若手農家では、この10年間で個々の経営の規模拡大が進む中、常雇いが拡大するとともに、投資を通じて労働生産性と農業所得の向上を実現している姿が確認できました。以上が本項における分析結果の概略となります。

ア 若手農家と非若手農家の経営構造の比較

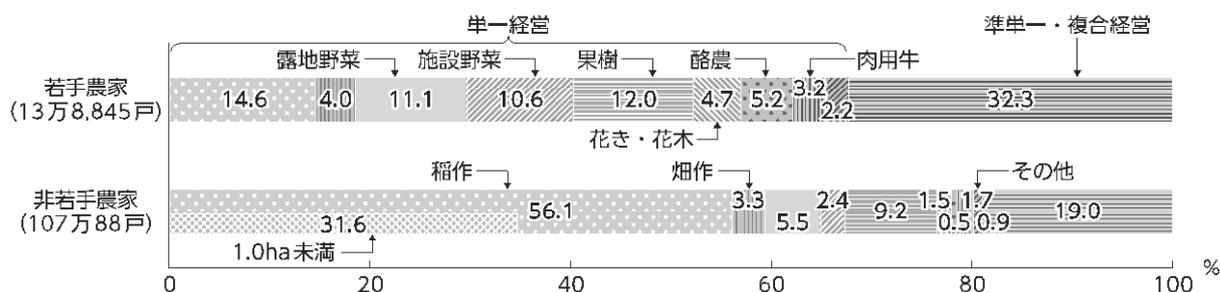
（若手農家は大規模経営による面積シェアが高い）

若手農家は、非若手農家に比べて、準単一・複合経営¹の割合が高く、単一経営²では露地野菜、施設野菜等の割合が高くなっています（図表3）。このような違いは、非若手農家の稲作において、規模の小さい農家が多数存在していること等に起因しています。

農産物販売金額規模別に見ると、非若手農家では300万円未満が82.8%を占める一方で、若手農家では1,000万円以上が45.2%を占めています（図表4）。

経営耕地を有する販売農家で見ると、若手農家の戸数は非若手農家の1割程度にすぎませんが、若手農家の経営耕地面積は非若手農家の6割程度の規模となっています（図表5）。経営耕地面積規模別に見ると、若手農家においては10ha以上の経営体が全体の73.1%の面積シェアを占めています。

図表3 営農類型別の戸数割合（平成27（2015）年）



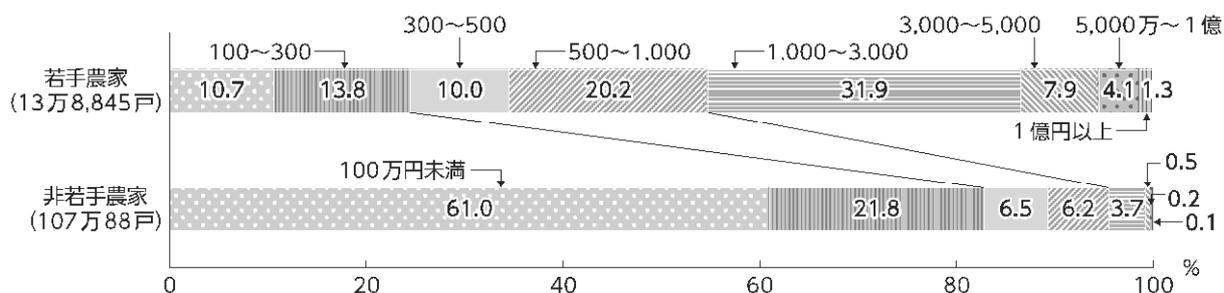
資料：農林水産省「2015年農林業センサス」（組替集計）

注：1）販売農家132万9,591戸のうち「販売なし」を除く120万8,933戸を若手農家と非若手農家に区分

2）畑作は、「麦類」、「雑穀・いも類・豆類」、「工藝農作物」

3）その他は、「その他の作物」、「養豚」、「養鶏」、「養蚕」、「その他の畜産」

図表4 農産物販売金額規模別の戸数割合（平成27（2015）年）



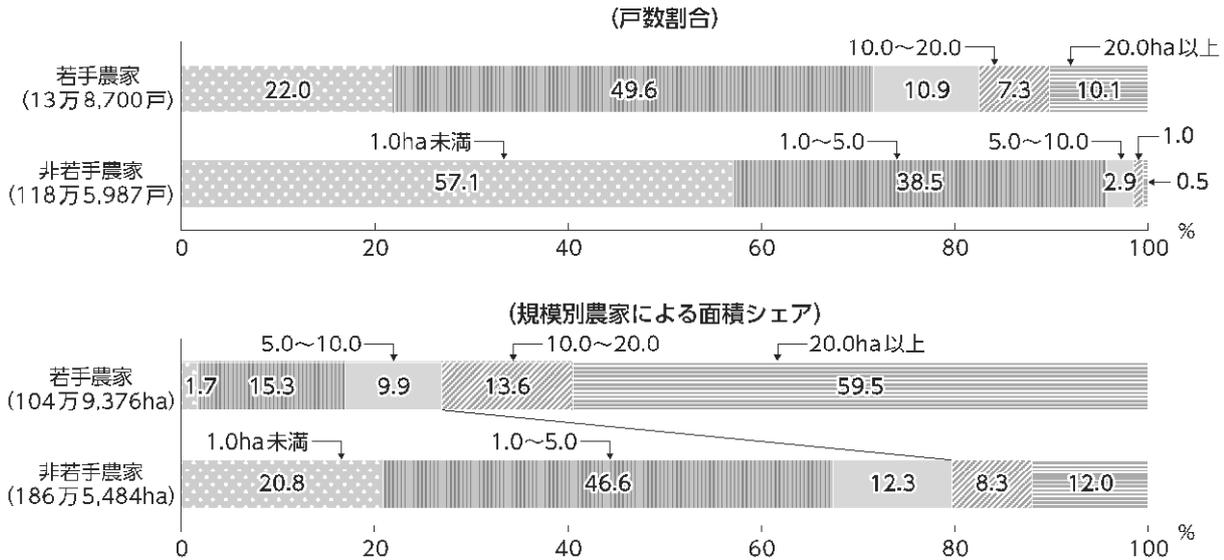
資料：農林水産省「2015年農林業センサス」（組替集計）

注：販売農家132万9,591戸のうち「販売なし」を除く120万8,933戸を若手農家と非若手農家に区分

1 「準単一複合経営」と「複合経営」の合計（「準単一複合経営経営体」「複合経営経営体」については用語の解説2（1）を参照）

2 「単一経営経営体」については、川語の解説2（1）を参照

図表5 経営耕地面積規模別の戸数割合と規模別農家による面積シェア（平成27（2015）年）



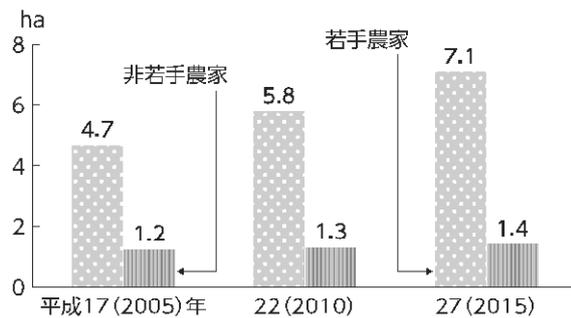
資料：農林水産省「2015年農林業センサス」（組替集計）
 注：販売農家132万9,591戸のうち「経営耕地面積なし」を除く132万4,687戸の経営耕地面積を若手農家と非若手農家に区分

イ 若手農家における経営規模の拡大の進展 （若手農家の経営規模の拡大は、稲作をはじめ各部門で進展）

土地利用型部門の代表である稲作単一経営について、直近10年間における若手農家と非若手農家の1戸当たり経営規模の動向を見ると、非若手農家はほぼ横ばいであるのに対し、若手農家は経営規模が1.5倍に拡大しています（図表6）。

平成22（2010）年から平成27（2015）年までの5年間における各規模階層に属する農家の動きを見ると、非若手農家では66.5%が同一階層にとどまる一方、上位階層に移ったものは14.5%でしたが、若手農家では30.7%が上位階層に移っており、規模拡大がより進展しています（図表7）。

図表6 稲作単一経営の1戸当たり経営規模



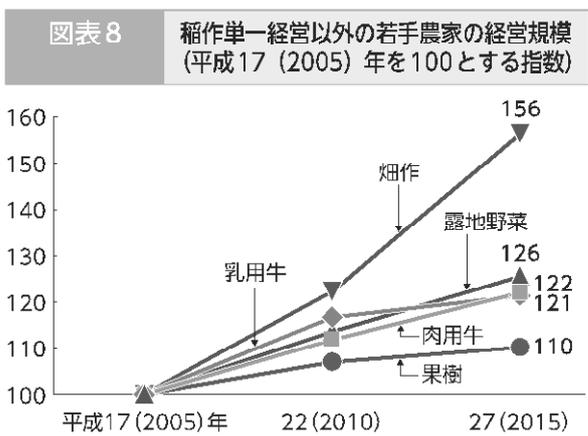
資料：農林水産省「農林業センサス」（組替集計）
 注：各農家の1戸当たりの経営規模は、経営耕地面積：経営耕地のある農家数で集計

図表7 直近5年間における稲作単一経営の規模の動向（平成22（2010）年から平成27（2015）年にかけての規模階層間移動）

		規模縮小	変化なし	規模拡大	合計
稲作単一経営の若手農家	農家数	2,161	8,123	4,555	14,839
	割合 (%)	14.6	54.7	30.7	100
稲作単一経営の非若手農家	農家数	93,132	325,572	70,811	489,515
	割合 (%)	19.0	66.5	14.5	100

資料：農林水産省「農林業センサス」（組替集計）
 注：1）規模階層の移動は、経営耕地なし、0.3ha未満、0.3~0.5、0.5~1.0、1.0~1.5、1.5~2.0、2.0~2.5、2.5~3.0、3.0~4.0、4.0~5.0、5.0~7.5、7.5~10.0、10.0~15.0、15.0~20.0、20.0~25.0、25.0~30.0、30.0~40.0、40.0~50.0、50.0~100.0、100.0ha以上のそれぞれの規模階層から上がった場合は規模拡大、下がった場合は規模縮小としている。
 2）若手農家は、平成27（2015）年時点で49歳以下の基幹的農業従事者がいる販売農家

また、若手農家では、稲作単一経営以外の部門においても、この10年間で規模拡大が進展しています（図表8）。



資料：農林水産省「農林業センサス」（組替集計）
 注：1）畑作は、「麦類」、「雑穀・いも類・豆類」、「工芸農作物」
 2）各年の1戸当たりの経営規模は次のとおり集計
 畑作、露地野菜、果樹は、経営耕地面積÷経営耕地面積のある農家数、乳用牛は、2歳以上の乳用牛飼養頭数÷2歳以上の乳用牛飼養農家数、肉用牛は、子取りめす牛、肉用種肥育、F1肥育、乳用種肥育の飼養頭数の合計÷子取りめす牛、肉用種肥育、F1肥育、乳用種肥育の飼養農家数

ウ 若手農家における雇用労働力の広がり

（常雇いを雇い入れた若手農家の割合は、直近10年間で5.3%から12.6%へ上昇）

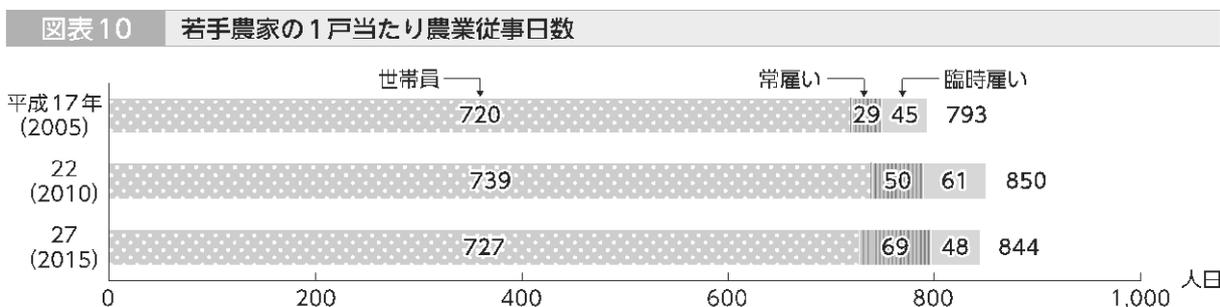
規模拡大に必要な労働力を確保したり、親世代のリタイア等により減少した労働力を補完するため、若手農家においては常雇いが広がっており、直近10年間で常雇いを雇い入れた農家数は1万2千戸から1万8千戸に増加しています。この結果、常雇いを雇い入れた農家の割合は非若手農家を大きく上回るペースで上昇しました（図表9）。

図表9 雇用者を雇い入れた農家の割合 (単位：%)

		平成17年(2005)	22(2010)	27(2015)
常雇い	若手農家	5.3	9.4	12.6
	非若手農家	0.5	1.1	1.9
臨時雇い	若手農家	37.5	45.3	39.8
	非若手農家	22.2	23.0	18.2

資料：農林水産省「農林業センサス」（組替集計）

若手農家1戸当たり農業従事日数を見ると、常雇いが一貫して増加しています（図表10）。また、一貫して規模拡大が進んできた中で、農業従事日数はさほど大きな伸びを示していません。



資料：農林水産省「農林業センサス」（組替集計）
 注：世帯員の農業従事日数は、自営農業従事日数規模階層の中央値×各階層の農業従事者数により推計

エ 若手農家における投資とその効果

(若手農家は、投資により、労働生産性と農業所得の向上を実現)

水田作における若手農家¹の経営では、非若手農家の経営に比べ、10a当たり労働時間が短く、農業固定資産装備率が高いことから、労働時間の短縮を図るための投資が進んでいることが分かります(図表11)。このことが、規模拡大や高い農業所得につながっていると考えられます。

同様に酪農における若手農家の経営でも、非若手農家の経営に比べ、搾乳牛1頭当たり労働時間が短く、農業固定資産装備率が高くなっており、このことが、規模拡大や高い農業所得につながっていると考えられます。

このように、若手農家においては、投資を行うことで労働生産性の向上を図り、規模拡大を通じて農業所得の向上が図られていると考えられます。

図表11 主な営農類型別の若手農家の経営状況(平成25(2013)年から27(2015)年までの3か年平均)

(水田作)				(酪農)					
		若手農家	非若手農家			若手農家	非若手農家		
経営概況	水田作付延べ面積	ha	15.4	1.5	経営概況	搾乳牛飼養頭数	頭	57.1	27.4
	農業専従者数	人	2.06	0.10		搾乳牛1頭当たり乳量	kg	8,806	8,192
	自営農業労働時間	時間	5,272	837		農業専従者数	人	2.51	1.55
	水田作付延べ面積10a当たり自営農業労働時間	時間/10a	34	58		自営農業労働時間	時間	7,376	4,822
経営収支	農業所得	万円	799	32	経営収支	搾乳牛1頭当たり自営農業労働時間	時間/頭	129	176
	農業粗収益	万円	2,404	205		農業所得	万円	1,188	505
	農業経営費	万円	1,604	173		農業粗収益	万円	6,511	3,081
農業固定資産額		万円	1,545	202	農業経営費		万円	5,323	2,576
分析指標	農業固定資産装備率	円	2,930	2,420	農業固定資産額		万円	4,889	1,678
	水田作付延べ面積10a当たり農業所得	万円/10a	5.2	2.2	分析指標	農業固定資産装備率	円	6,628	3,480
						搾乳牛1頭当たり農業所得	万円/頭	20.8	18.5

資料：農林水産省「農業経営統計調査 営農類型別経営統計(個別経営)」(組営集計)

注：1) 農業固定資産装備率(円)＝農業固定資産額÷自営農業労働時間

2) 集計値は、平成25(2013)年から平成27(2015)年の3か年平均。平成25(2013)年、平成26(2014)年、平成27(2015)年それぞれの集計経営体数は次のとおり。

水田作：(若手農家) 249 経営体(以下、単位は省略)、237、224、(非若手農家) 1,360、1,382、1,392

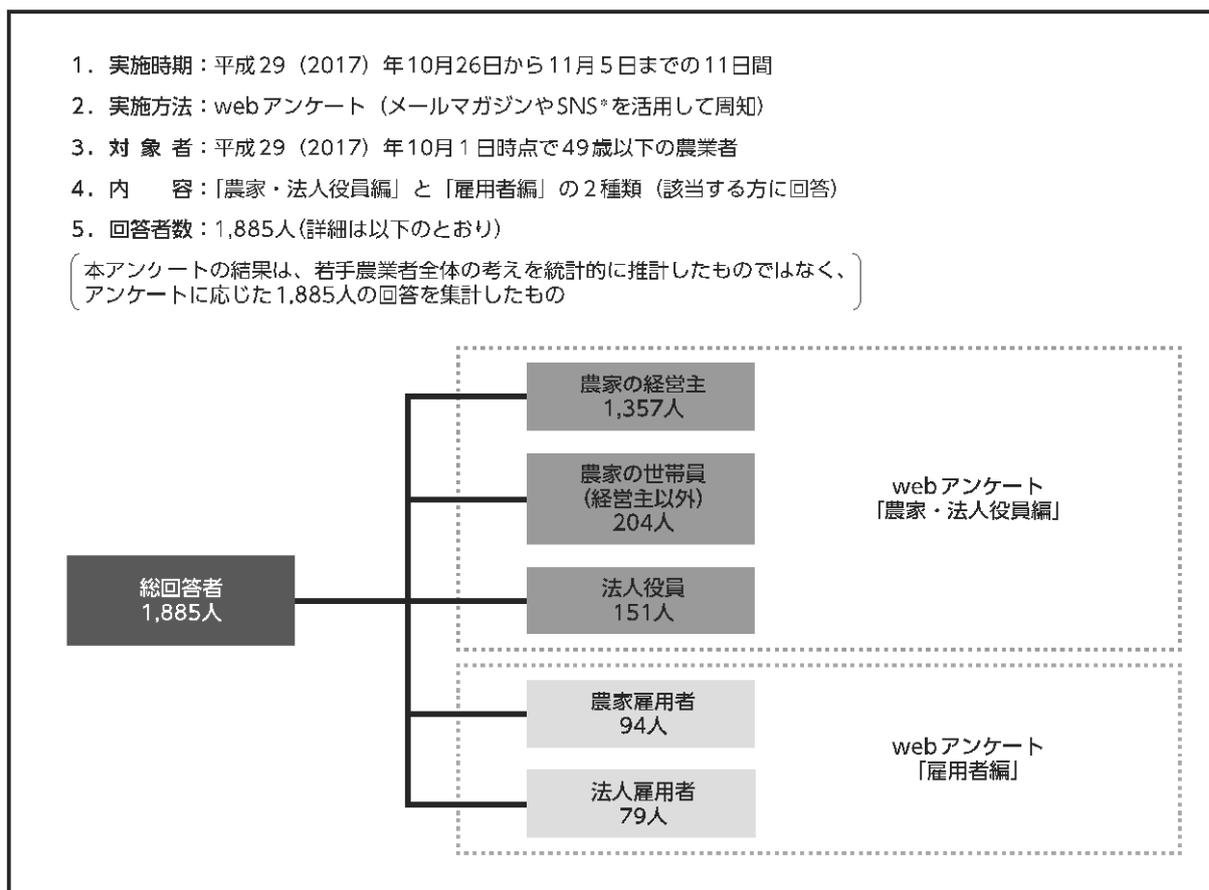
酪農：(若手農家) 229、230、224、(非若手農家) 130、129、138

1 ここでの「若手農家」は49歳以下の農業専従者がいる経営体、「非若手農家」はいない経営体。「農業専従者」については、川語の解説2(4)を参照

2 若手農業者向けアンケート結果の分析

農林水産省では、若手農業者の現状や将来に向けた考えを把握するため、平成29(2017)年10月から11月にかけてwebアンケートを実施しました(図表12)。以下では、回答に協力いただいた1,885人の現状や考えを、総回答者と経営者¹の2つの視点で分析を行い、明らかにしていきます。

図表12 若手農業者向けアンケートの概要



注：1) 総回答者の集計結果は2(1)農業・農業施策に対する考え、「農家・法人役員編」は2(2)経営者の農業経営に対する考え、「雇用者編」は4(3)法人雇用者の満足度や将来に対する考えに掲載

2) *Social Networking Serviceの略。登録された利用者同士が交流できるwebサイトのサービス

(1) 農業、農業施策に対する考え(農家の経営主・世帯員+法人役員+農家・法人の雇用者：1,885人)

ア 我が国農業の在り方

(「国内だけでなく海外にも目を向けるべき」との回答は35.1%)

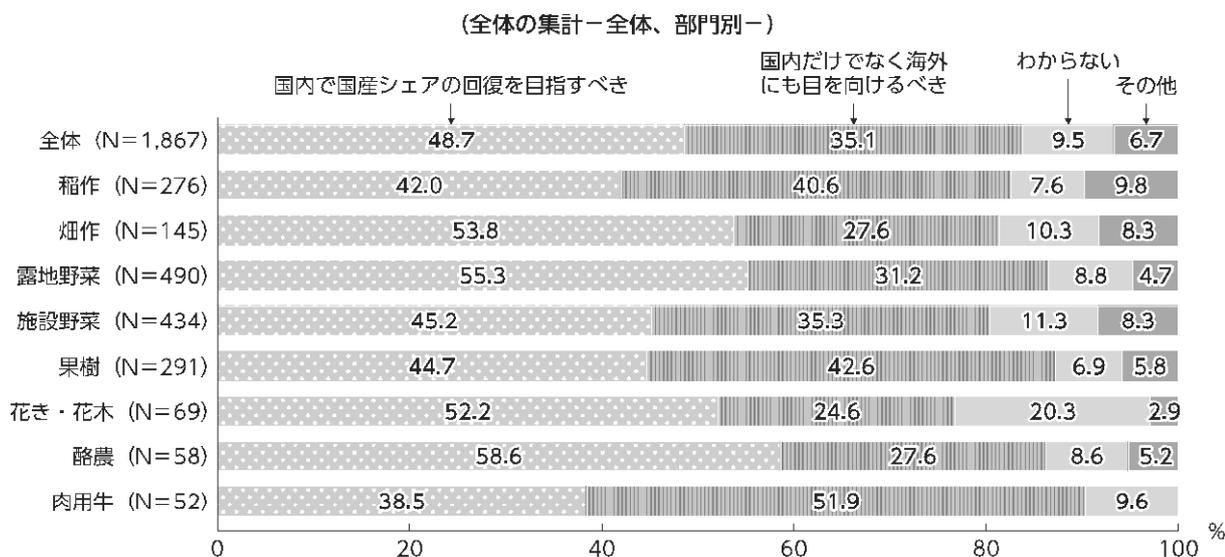
我が国農業の在り方について考えを尋ねたところ、「国内で国産シェアの回復を目指すべき」が48.7%、「国内だけでなく海外にも目を向けるべき」が35.1%となりました(図表13)。これを部門別に見ると、「国内だけでなく海外にも目を向けるべき」の割合は、肉用牛、果樹、稲作で高くなっています。

また、法人役員で見ると、「国内だけでなく海外にも目を向けるべき」が46.9%と、「国

1 農家の経営主と法人役員

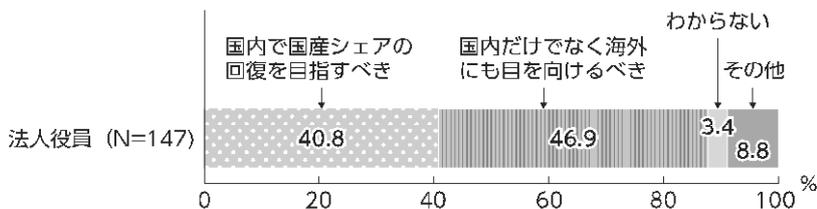
内で国産シェアの回復を目指すべき」の40.8%を上回っています。

図表 13 我が国農業の在り方



注：1) 回答者が少ない部門（豚豚等）は掲載しない。
2) 総回答者1,885人のうち回答者1,867人

(法人役員の集計)



注：法人役員151人のうち回答者147人

イ 関心の高い農業施策

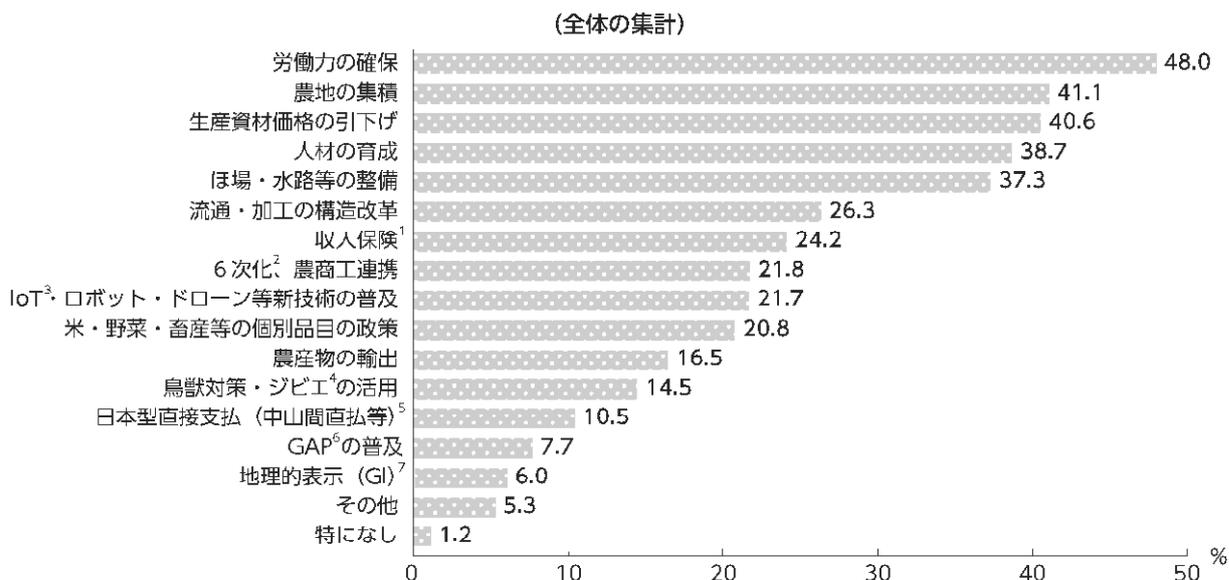
(「労働力の確保」、「農地の集積」、「生産資材価格の引下げ」が上位)

関心の高い農業施策を複数回答で尋ねたところ、「労働力の確保」が48.0%と最も高く、次いで「農地の集積」が41.1%、「生産資材価格の引下げ」が40.6%となりました（図表14）。

これを部門別に見ると、全ての部門で「労働力の確保」が上位となっており、なかでも露地野菜、施設野菜、果樹、花き・花木、酪農の5部門は「労働力の確保」が1位となっています。稲作では「ほ場・水路等の整備」が1位となっているほか、稲作、畑作、露地野菜では「農地の集積」が、稲作以外の耕種部門¹では「生産資材価格の引下げ」が上位となっています。

1 畑作、露地野菜、施設野菜、果樹、花き・花木

図表 14 関心の高い農業施策（複数回答）



注：1) 総回答者1,885人のうち回答者1,875人。上記は回答者1,875人における各項目の選択者の割合
 2) 1：第2章第1節(8)を参照、2：6次産業化。用語の解説3(1)を参照、3、6：用語の解説3(2)を参照、4：第3章第4節(2)を参照、5：第3章第3節を参照、7：第1章第2節(2)を参照

(全体の集計—部門別（上位3項目）—)

(単位：%)

	1位		2位		3位	
稲作 (N=277)	ほ場・水路等の整備	59.6	農地の集積	49.8	労働力の確保	36.1
畑作 (N=146)	農地の集積	45.9	労働力の確保	45.2	生産資材価格の引下げ	42.5
露地野菜 (N=490)	労働力の確保	48.0	農地の集積	44.1	生産資材価格の引下げ	43.1
施設野菜 (N=438)	労働力の確保	51.8	生産資材価格の引下げ	46.3	人材の育成	40.6
果樹 (N=292)	労働力の確保	52.7	人材の育成	41.1	生産資材価格の引下げ	40.4
花き・花木 (N=69)	労働力の確保	52.2	生産資材価格の引下げ	43.5	人材の育成	42.0
酪農 (N=57)	労働力の確保	61.4	人材の育成	47.4	IoT・ロボット・ドローン等新技术の普及	36.8
肉用牛 (N=54)	人材の育成	48.1	米・野菜・畜産等の個別品目の政策		40.7	
			労働力の確保			

注：上記は、各部門の回答者における各項目の選択者の割合。回答者が少ない部門（養豚等）は掲載しない。

ウ 農業の魅力

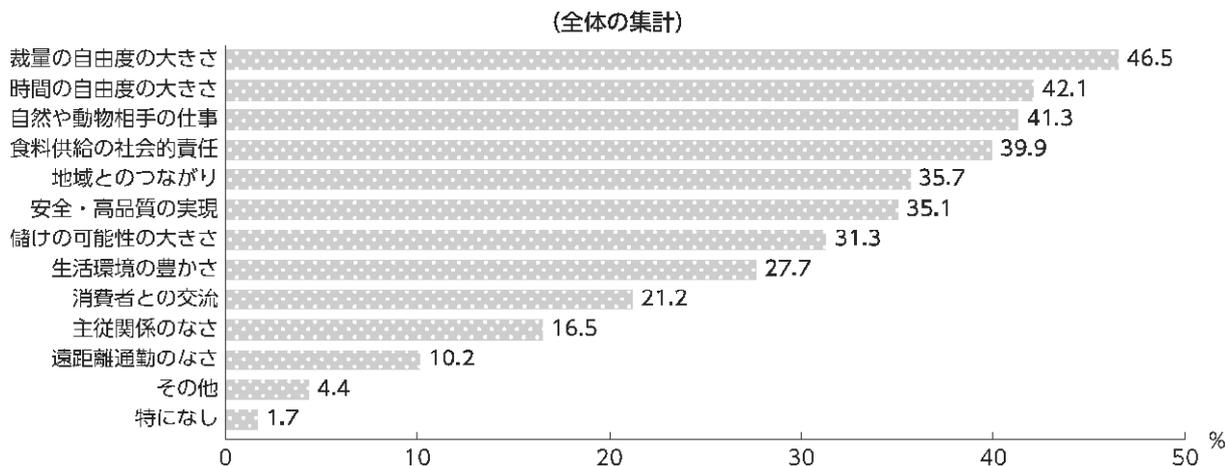
（「裁量の自由度の大きさ」、「時間の自由度の大きさ」が上位）

農業の魅力を複数回答で尋ねたところ、「裁量の自由度の大きさ」が46.5%で最も高く、次いで「時間の自由度の大きさ」が42.1%となりました（図表15）。

これを経営者と法人雇用者で見ると、経営者は全体と同じ傾向となっていますが、法人雇用者は「自然や動物相手の仕事」が最も高く、次いで「地域とのつながり」となっています。

また、経営者について、販売金額別に見ると、販売金額が大きいほど「食料供給の社会的責任」は高くなり、逆に「時間の自由度の大きさ（趣味、家族団らんを含む）」は低くなる傾向が見られます。

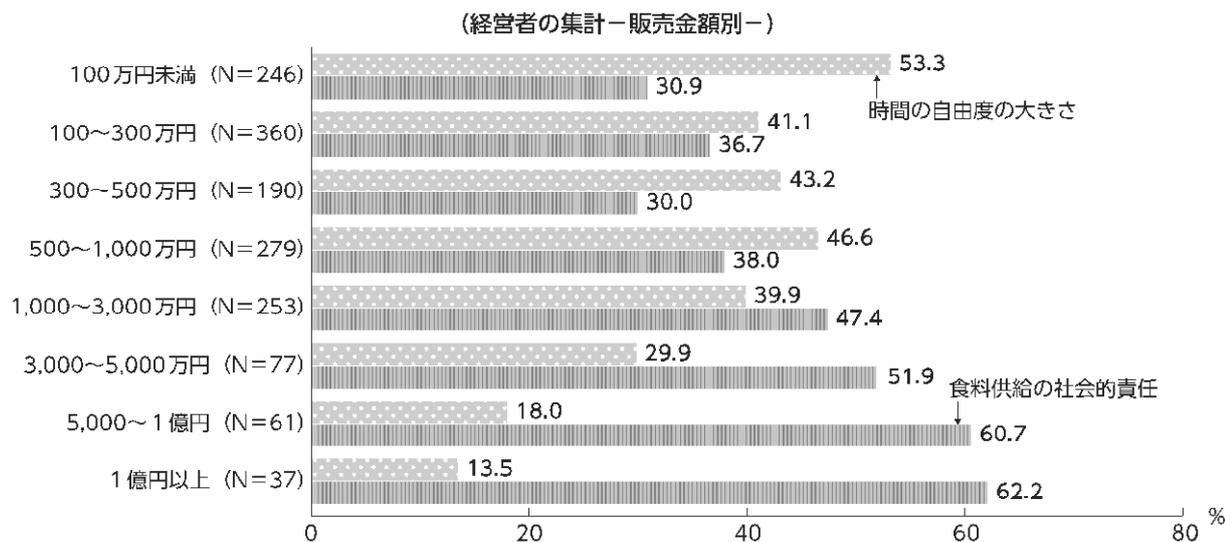
図表 15 農業の魅力 (複数回答)



注：総回答者1,885人のうち回答者1,880人。上記は、回答者1,880人における各項目の選択者の割合



注：法人雇用者79人のうち回答者79人。上記は、回答者79人における各項目の選択者の割合



注：経営者1,508人のうち回答者1,503人。上記は、販売金額の各階層に属する回答者における各項目の選択者の割合

(2) 経営者の農業経営に対する考え (農家の経営主+法人役員：1,508人)

ア 農業経営で大切なこと

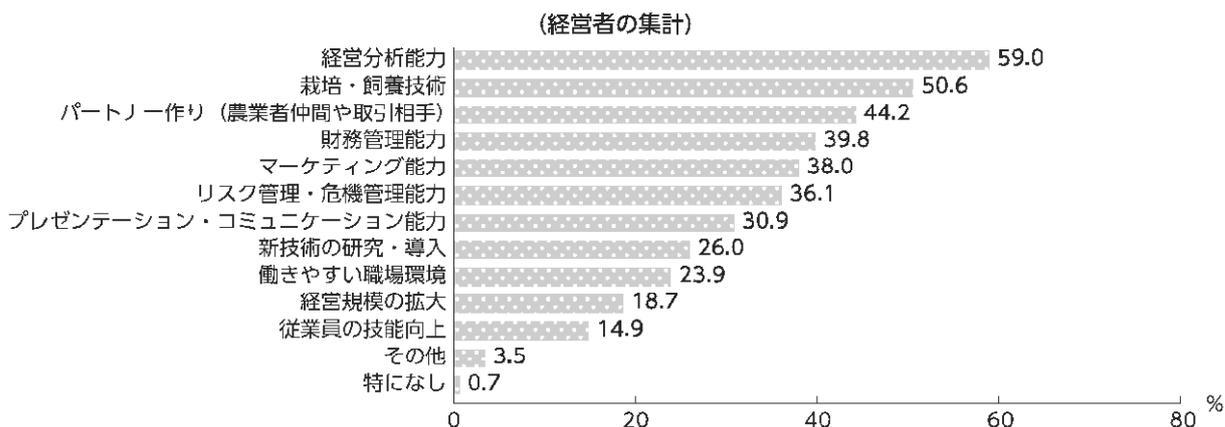
(販売金額が大きいほど重視される「経営分析能力」と「財務管理能力」)

農業経営で大切なことを複数回答で尋ねたところ、「経営分析能力」が59.0%と最も高く、次いで「栽培・飼養技術」が50.6%となりました(図表16)。

これを部門別に見ると、酪農では「経営分析能力」と「財務管理能力」が、肉用牛、施設野菜、花き・花木では「栽培・飼養技術」が他部門に比べて高くなっています。

また、販売金額別に見ると、販売金額が大きいほど「経営分析能力」と「財務管理能力」は高くなる傾向が見られます。

図表16 農業経営で大切なこと（複数回答）



注：経営者1,508人のうち回答者1,494人。上記は、回答者1,494人における各項目の選択者の割合

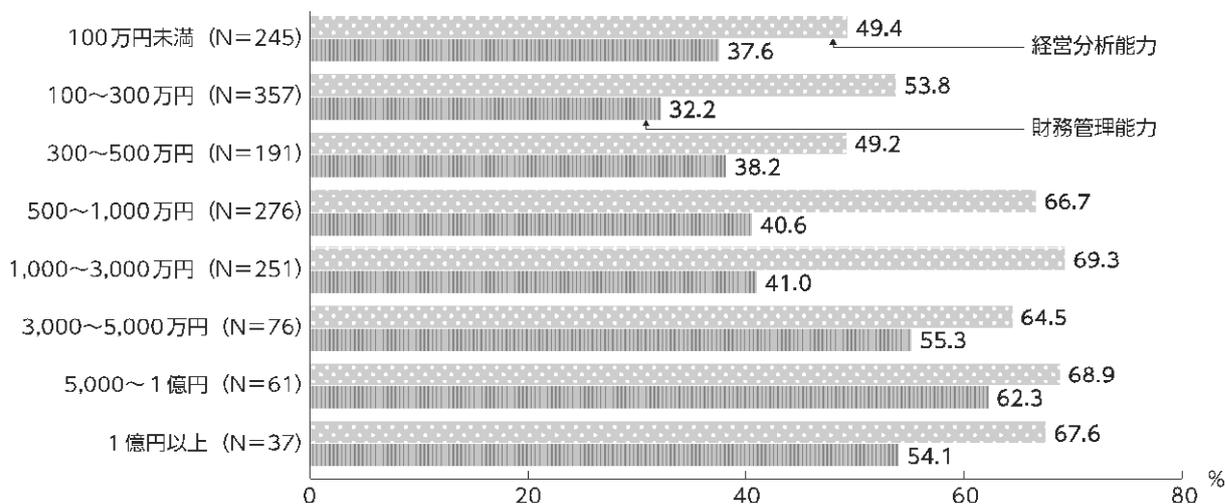
(経営者の集計—部門別（上位5項目）—)

(単位：%)

	稲作 (N=207)	畑作 (N=118)	露地野菜 (N=408)	施設野菜 (N=370)	果樹 (N=232)	花き・花木 (N=55)	酪農 (N=30)	肉用牛 (N=35)
経営分析能力	58.5	58.5	54.7	62.4	62.5	60.0	66.7	42.9
栽培・飼養技術	36.2	50.8	50.5	58.4	50.4	56.4	43.3	62.9
パートナー作り（農業者仲間や取引相手）	46.9	44.1	51.2	38.9	45.7	30.9	30.0	28.6
財務管理能力	43.0	36.4	38.5	40.5	33.2	45.5	60.0	48.6
マーケティング能力	38.6	37.3	42.6	31.4	43.5	43.6	16.7	14.3

注：上記は、各部門の回答者における各項目の選択者の割合。回答者が少ない部門（養豚等）は掲載しない。

(経営者の集計—販売金額別—)



注：上記は、販売金額の各階層に属する回答者における各項目の選択者の割合

イ 現在の経営における課題

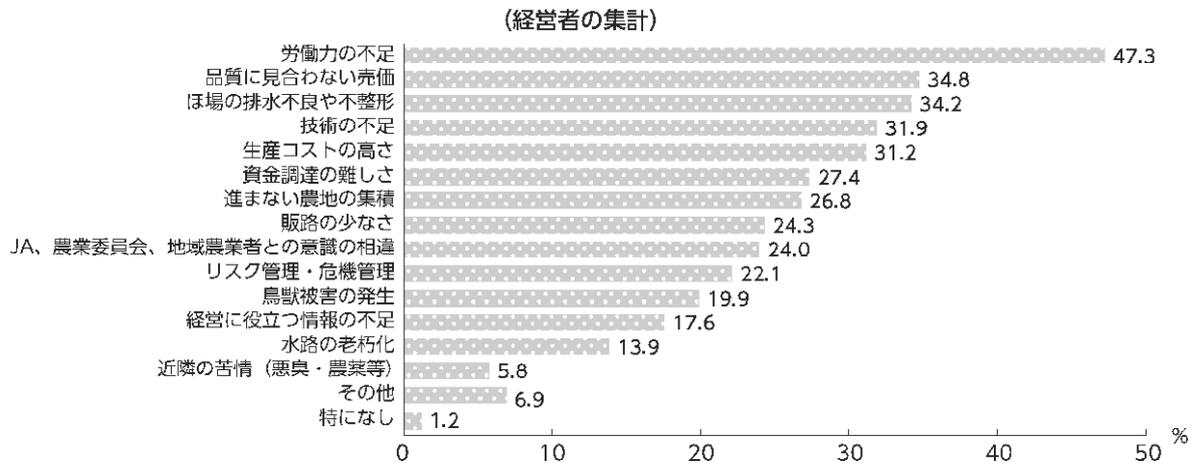
「労働力の不足」を挙げる割合が最も高く、特に酪農と果樹で深刻

現在の経営における課題を複数回答で尋ねたところ、「労働力の不足」が47.3%と最も高く、次いで「品質に見合わない売価」が34.8%となりました（図表17）。

これを部門別に見ると、「労働力の不足」は酪農と果樹で、「品質に見合わない売価」は花き・花木で特に高くなっています。なお、稲作では部門固有の「ほ場の排水不良や不整形」と「水路の老朽化」が高くなっています。

また、就農からの年数別に見ると、年数が長いほど「労働力の不足」は高くなり、逆に「技術の不足」と「資金調達の難しさ」は低くなる傾向が見られます。

図表17 現在の経営における課題（複数回答）



注：経営者1,508人のうち回答者1,501人。上記は、回答者1,501人における各項目の選択者の割合

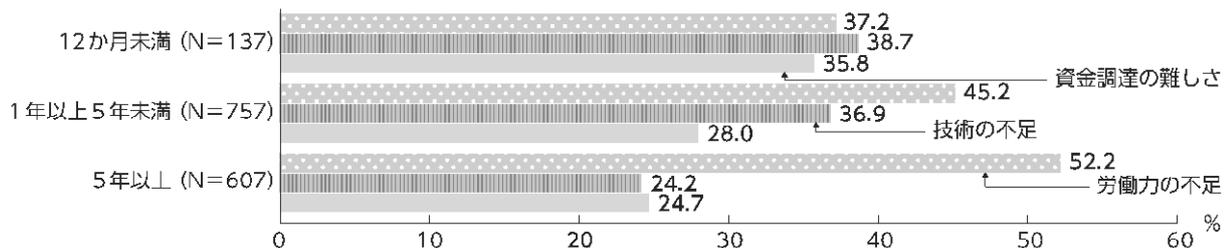
(経営者の集計－部門別（上位3項目）－)

(単位：%)

	1位		2位		3位	
	課題	割合 (%)	課題	割合 (%)	課題	割合 (%)
稲作 (N=208)	ほ場の排水不良や不整形	53.4	水路の老朽化	45.7	労働力の不足	43.3
畑作 (N=119)	技術の不足	40.3	労働力の不足	39.5	品質に見合わない売価	35.3
露地野菜 (N=408)	労働力の不足	45.3	ほ場の排水不良や不整形	40.0	技術の不足	39.5
施設野菜 (N=373)	労働力の不足	48.8	品質に見合わない売価	37.3	生産コストの高さ	34.6
果樹 (N=233)	労働力の不足	53.6	鳥獣被害の発生	35.2	品質に見合わない売価	33.0
花き・花木 (N=56)	労働力の不足	46.4	品質に見合わない売価	44.6	JA、農業委員会、地域農業者との意識の相違	41.1
酪農 (N=30)	労働力の不足	60.0	生産コストの高さ	43.3	進まない農地の集積	33.3
肉用牛 (N=35)	労働力の不足	48.6	JA、農業委員会、地域農業者との意識の相違	37.1	資金調達の難しさ	34.3

注：上記は、各部門の回答者における各項目の選択者の割合。回答者が少ない部門（養豚等）は掲載しない。

(経営者の集計－就農からの年数別－)



注：経営者1,508人のうち回答者1,501人。上記は、就農からの年数の各階層に属する回答者における各項目の選択者の割合

ウ 今後伸ばしていきたい方向

(ア) 農業生産

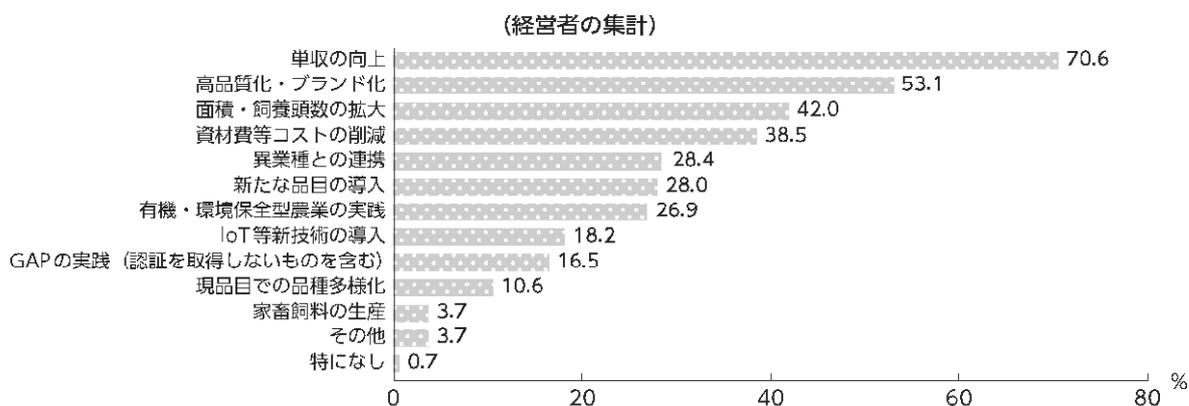
(販売金額が大きいほど重視される「IoT等新技術の導入」と「異業種との連携」)

農業生産で今後伸ばしていきたい方向を複数回答で尋ねたところ、「単収の向上」が70.6%と最も高く、次いで「高品質化・ブランド化」が53.1%となりました（図表18）。

これを部門別に見ると、耕種部門¹では「単収の向上」、畜産部門²では「面積・飼養頭数の拡大」が最も高くなっています。なお、耕種部門と肉用牛では「高品質化・ブランド化」が上位となっています。

また、販売金額別に見ると、販売金額が大きいほど、「IoT³等新技術の導入」と「異業種との連携」が高くなる傾向が見られます。

図表18 今後伸ばしていきたい方向（農業生産）（複数回答）



注：経営者1,508人のうち回答者1,497人。上記は、回答者1,497人における各項目の選択者の割合

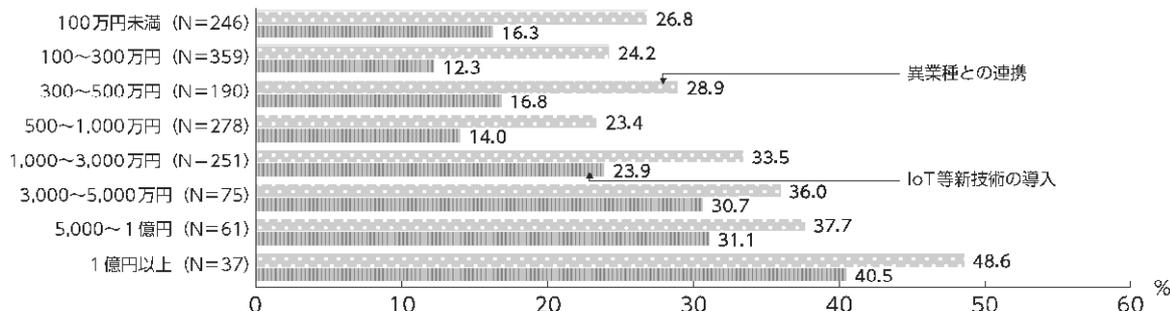
(経営者の集計－部門別（上位3項目）－)

(単位：%)

	1位	2位	3位
稲作 (N=207)	単収の向上 68.1	高品質化・ブランド化 52.2	面積・飼養頭数の拡大 49.3
畑作 (N=119)	単収の向上 64.7	面積・飼養頭数の拡大 46.2	高品質化・ブランド化 44.5
露地野菜 (N=409)	単収の向上 70.9	高品質化・ブランド化 52.1	面積・飼養頭数の拡大 41.6
施設野菜 (N=372)	単収の向上 80.9	高品質化・ブランド化 50.5	資材費等コストの削減 41.7
果樹 (N=232)	単収の向上 71.6	高品質化・ブランド化 67.7	資材費等コストの削減 34.1
花き・花木 (N=55)	単収の向上 69.1	高品質化・ブランド化 63.6	新たな品目の導入 45.5
酪農 (N=30)	面積・飼養頭数の拡大 40.0	単収の向上 36.7	異業種との連携
		家畜飼料の生産	
肉用牛 (N=35)	面積・飼養頭数の拡大 71.4	高品質化・ブランド化 42.9	家畜飼料の生産 40.0

注：上記は、各部門のF答者における各項目の選択者の割合。F答者が少ない部門（養豚等）は掲載しない。

(経営者の集計－販売金額別－)



注：経営者1,508人のうち回答者1,497人。上記は、販売金額の各階層に属する回答者における各項目の選択者の割合

1 稲作、畑作、露地野菜、施設野菜、果樹、花き・花木
 2 酪農、肉用牛
 3 川語の解説3(2)を参照

(イ) 出荷・販売先

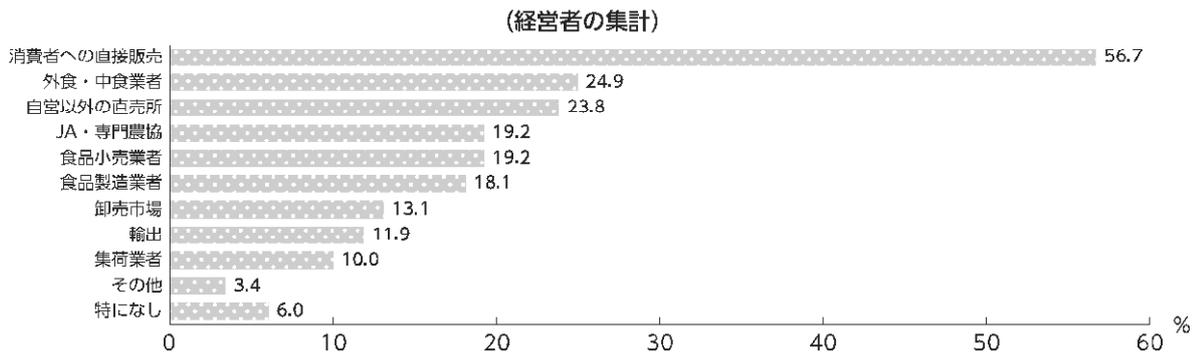
(「消費者への直接販売」が56.7%で最高)

出荷・販売先で今後伸ばしていきたい方向を複数回答で尋ねたところ、「消費者への直接販売」が56.7%と最も高くなりました(図表19)。

これを部門別に見ても、全ての耕種部門と酪農で「消費者への直接販売」が1位となっており、なかでも稲作と果樹で割合が高くなっています。

また、販売金額別に見ると、販売金額が大きいほど「食品製造業者」、「外食・中食業者」が高くなる傾向が見られます。

図表19 今後伸ばしていきたい方向(出荷・販売先)(複数回答)



注：経営者1,508人のうち回答者1,491人。上記は、回答者1,491人における各項目の選択者の割合

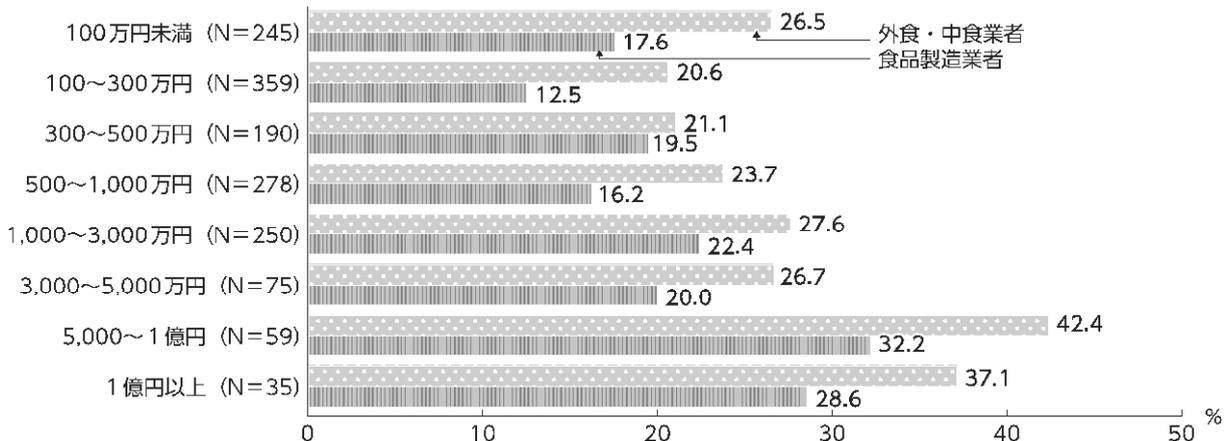
(経営者の集計-部門別(上位3項目)-)

(単位：%)

部門	1位		2位		3位	
	項目	割合 (%)	項目	割合 (%)	項目	割合 (%)
稲作 (N=207)	消費者への直接販売	69.1	外食・中食業者	33.3	自営以外の直売所	23.2
畑作 (N=119)	消費者への直接販売	52.9	外食・中食業者	26.1	食品製造業者	23.5
露地野菜 (N=410)	消費者への直接販売	57.1	外食・中食業者	28.0	自営以外の直売所	26.6
施設野菜 (N=368)	消費者への直接販売	50.8	JA・専門農協	26.6	外食・中食業者	25.8
果樹 (N=233)	消費者への直接販売	66.1	自営以外の直売所	25.3	外食・中食業者	18.5
花き・花木 (N=55)	消費者への直接販売	49.1	卸売市場	38.2	自営以外の直売所	34.5
酪農 (N=28)	消費者への直接販売	42.9	特になし	32.1	JA・専門農協	17.9
					食品小売業者	
					食品製造業者	
肉用牛 (N=34)	特になし	35.3	消費者への直接販売	23.5	輸出	17.6

注：上記は、各部門の回答者における各項目の選択者の割合。回答者が少ない部門(豚等)は掲載しない。

(経営者の集計-販売金額別-)



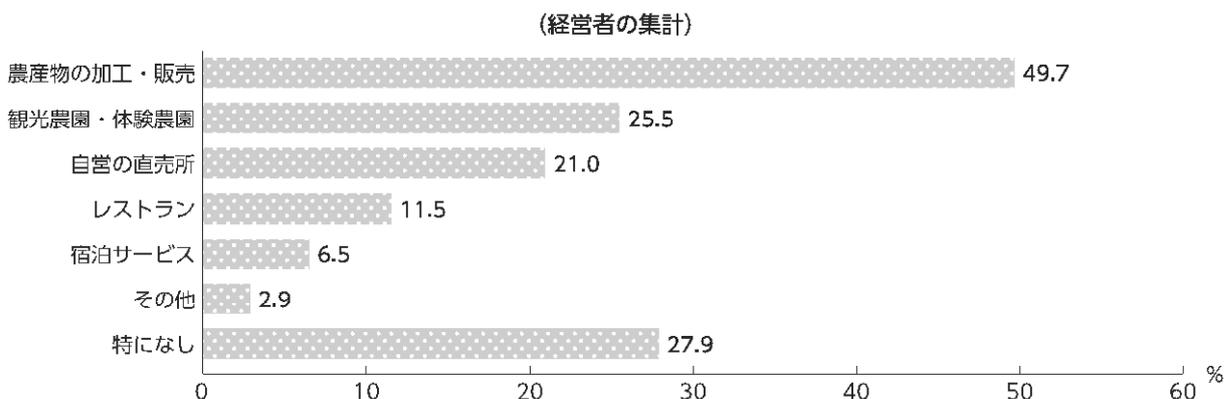
注：経営者1,508人のうち回答者1,491人。上記は、販売金額の各階層に属する回答者における各項目の選択者の割合

(ウ) 関連事業

〔農産物の加工・販売〕が49.7%で最高

関連事業で今後伸ばしていきたい方向を複数回答で尋ねたところ、「農産物の加工・販売」が49.7%と最も高くなりました（図表20）。

図表20 今後伸ばしていきたい方向（関連事業）（複数回答）



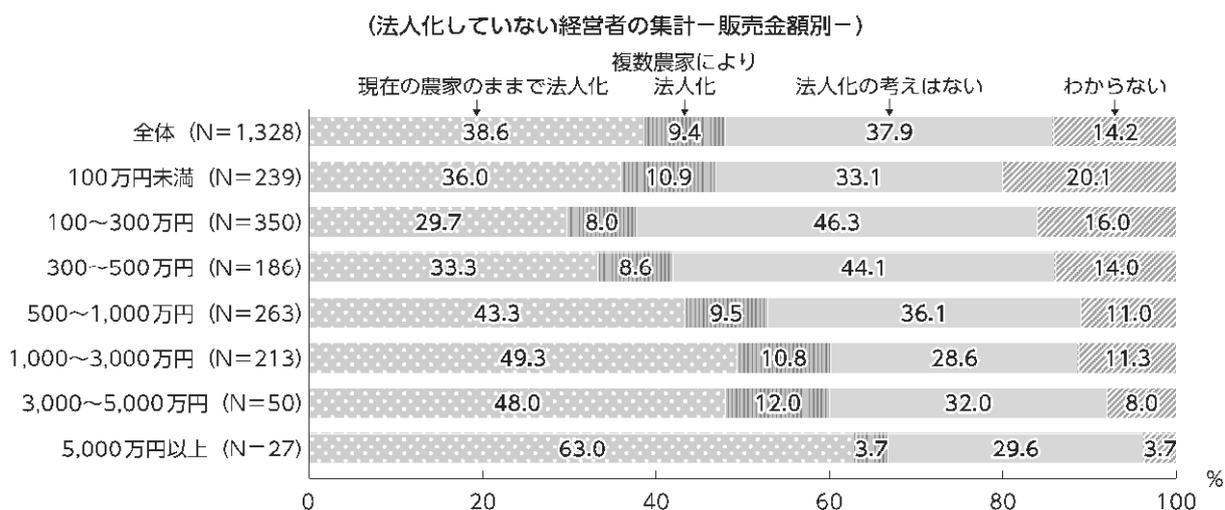
注：経営者1,508人のうち回答者1,455人。上記は、回答者1,455人における各項目の選択者の割合

(エ) 農業経営の法人化

〔販売金額が大きいほど高くなる法人化の意向〕

法人化していない経営者に対し、法人化の意向について尋ねたところ、「法人化の考えがある¹」が48.0%と、「法人化の考えはない」の37.9%を上回りました（図表21）。これを販売金額別に見ると、販売金額が大きいほど法人化の考えがある者の割合が高く、500万円以上の層では5割を超えています。

図表21 今後伸ばしていきたい方向（農業経営の法人化）



注：経営者1,508人のうち法人化していない経営者の回答者1,328人

1 「現在の農家のままで法人化」と「複数農家により法人化」を選択した者の合計

3 効率的かつ安定的な農業経営に向けた施策の展開方向

(農業経営の法人化、新技術の開発、伸ばしたい方向を後押しできる環境づくりが重要)

経営構造分析を通じ、若手農家では非若手農家に比べ、経営規模の拡大、常雇いを雇い入れた農家の割合の上昇、単位面積・頭数当たり労働時間の短縮を図る投資が行われていることが確認されました。また、若手農業者向けアンケートを通じ、農業生産、出荷・販売先等で今後伸ばしていきたい方向について回答者の考えが確認されました。

効率的かつ安定的な農業経営の育成に向けては、若手農家がいち早く実行に移している経営規模の拡大、労働力の確保、生産性を向上させる投資を強力に進めていく必要がありますが、その際には農業経営を法人化していた方が有利に働くことが多いことから更なる法人化の推進が重要となっています。また、農業者の投資を促す上では、生産現場が直面する課題を速やかに解決するための技術を、AI¹、IoT、ロボット、ドローン等を取り入れた革新的なものとして開発し、農業者が導入可能な価格で速やかに商品化していくことも重要です。さらに、アンケート回答者を含め農業者が今後伸ばしていきたい方向を後押しできる環境づくりが重要であり、生産資材価格の引下げ、農産物の流通・加工の構造改革等の農業競争力強化プログラムの着実な実施等を進めていくことが必要です。

事例

投資と機械の稼働率向上等を通じて、効率的稲作経営を実現 (新潟県)

工業系エンジニアをしていた丸田洋^{まるた ひろし}さんは、知人の稲作農家で農作業を手伝った際に農業に面白さを感じ、平成17(2005)年に、31歳で新潟県上越市^{じょうえつし}に有限会社穂海農耕^{ほうみのうこう}を設立し、代表に就任しました。

稲作単一経営での規模拡大を目指し、平成29(2017)年度は、所有地20haと借入地110haの計130haの水田に、業務用米を中心とした作付けを行いました。

丸田代表は、これまで規模拡大に合わせてコンバインとトラクターの大型化を図り労働生産性を高めるとともに、早生から晩生の10品種の米を組み合わせ、作期分散を図ることで機械の稼働率^{ちやくはんとん}向上も実現しており、今後は水田の大区画化を進め、乾田直播栽培^{ちやくはくばい}を広げることで更なる省力化を目指すとしています。

また、社員については「経営者を目指す職種」と「労働者として働く職種」を設けることで採用がしやすくなったといい、平成29(2017)年度には20代から30代の若手を中心に11人の従業員を確保しています。



代表の丸田洋さん（後列一番左）と若手従業員

1 川語の解説3(2)を参照

4 若手農業者の雇用に関する動向等

(1) 若手新規就農者の動向

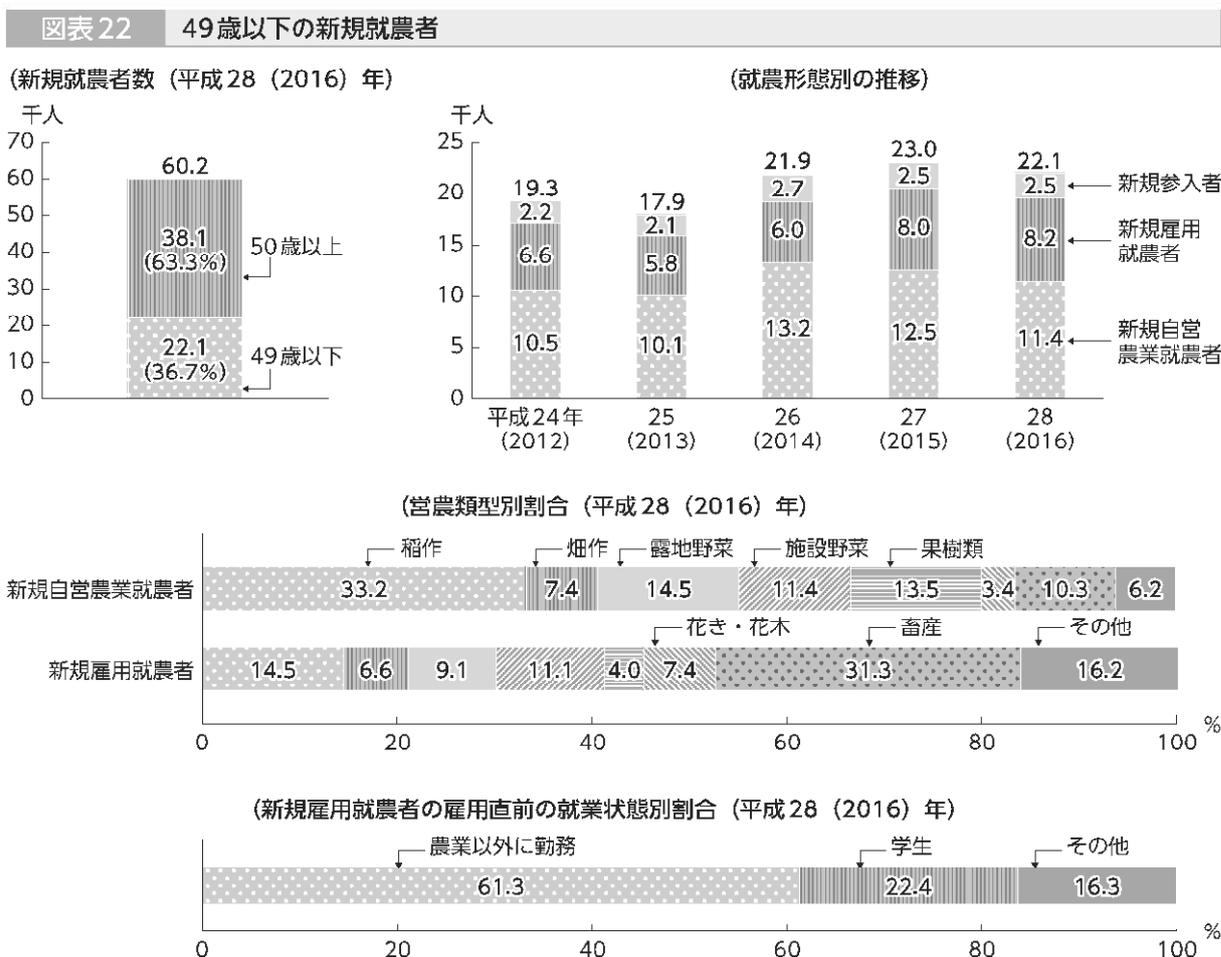
(若手新規就農者数は3年連続で2万人を超過)

平成28(2016)年の新規就農者数は6万150人となり、うち49歳以下の若手新規就農者は2万2,050人と36.7%を占めています(図表22)。

「2023年に40代以下の農業従事者を40万人に拡大」する目標¹が掲げられる中、49歳以下の新規就農者数は3年連続で2万人を超えており、近年、新規雇用就農者²が増加傾向となっています。

営農類型別に見ると、新規自営農業就農者³は稲作が多く、新規雇用就農者は畜産が多くなっています。

また、平成28(2016)年における若手新規雇用就農者の雇用直前の就業状態を見ると、「農業以外に勤務」が61.3%と最も高く、次いで「学生」が22.4%を占めています。



資料：農林水産省「新規就農者調査」(営農類型別割合については、「2015年農林業センサス」との組替集計)

注：1) 平成24(2012)年から平成28(2016)年の調査結果は、東日本大震災の影響により福島県の一部地域を除いて集計

2) 平成26(2014)年調査より、新規参入者については、従来の「経営の責任者」に加え、新たに「共同経営者」を含めた。

3) 平成27(2015)年の調査結果は、熊本地震の影響により熊本県の一部地域を除いて集計

4) 新規雇用就農者の雇用直前の就業状態別割合のその他は、農業以外の自営業、家事・育児等

1 「農林水産省・地域の活力創造プラン」(平成28(2016)年11月改訂)

2、3 川語の解説2(5)を参照

事例

農協が出資している農業法人が就農を支援（長野県）

農業協同組合が出資している農業法人である長野県上田市うへだしの有限会社信州うへだファームでは、平成21（2009）年度から、独立就農を目指す就農希望者を雇用し、栽培技術等の研修を行う新規就農者育成事業を実施しています。

同社に雇用された就農希望者には、給与支給により研修に専念できる環境が与えられるとともに、果樹や野菜等の就農を目指す作目の研修ほ場が各人に設定されます。2年間の研修を終えた就農希望者は、研修ほ場を受け継ぐ形で独立就農を行い、平成28（2016）年度までに研修を終えた20人が果樹や施設野菜の新規就農者となりました。このうち13人は長野県外の出身者であり、同事業は減少が続いてきた担い手の確保にも貢献しています。

近年、醸造用ぶどうの栽培を目指す就農相談が多く寄せられるようになったことから、同社では同事業にワインコースを新設し、醸造用のぶどうを植栽した研修ほ場の整備も進めています。



信州うへだファームで研修した後に就農した宇田川さん夫妻

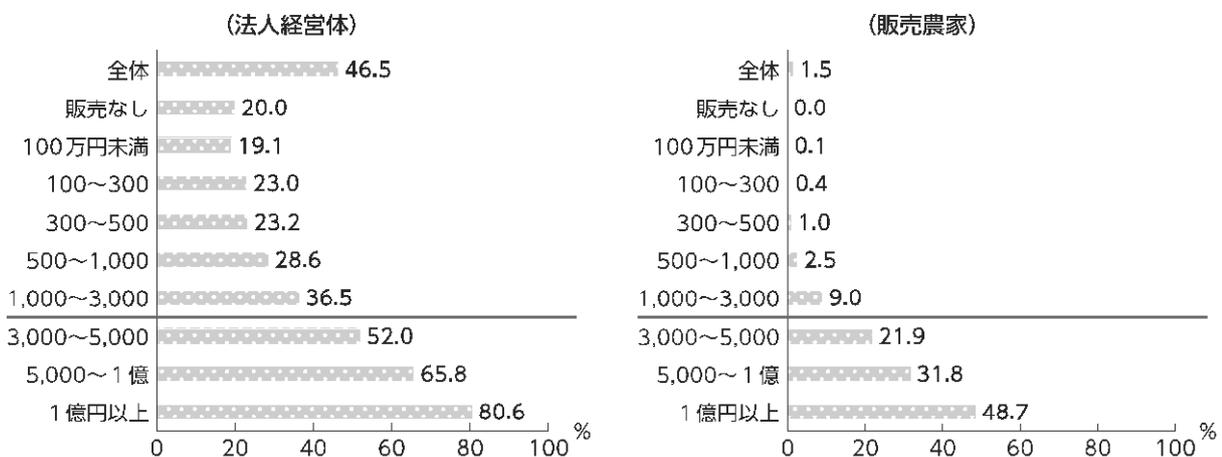
(2) 44歳以下の常雇いの分析

(法人経営体の44歳以下の常雇いは雇用先人数規模10人以上の経営体に68.7%が集中)

44歳以下の常雇い人数は、平成27（2015）年において、法人経営体が4万8,803人、販売農家が3万8,376人となっています。

一方、これら44歳以下の常雇いを雇い入れた経営体の割合を見ると、法人経営体で46.5%、販売農家で1.5%となっています（図表23）。農産物販売金額規模別に見ると、法人経営体では3,000万円を境に50%を超え、販売農家では3,000万円を境に1割未満から2割台へと大きく伸びています。

図表23 農産物販売金額規模別の法人経営体と販売農家における44歳以下の常雇いを雇い入れた経営体の割合（平成27（2015）年）



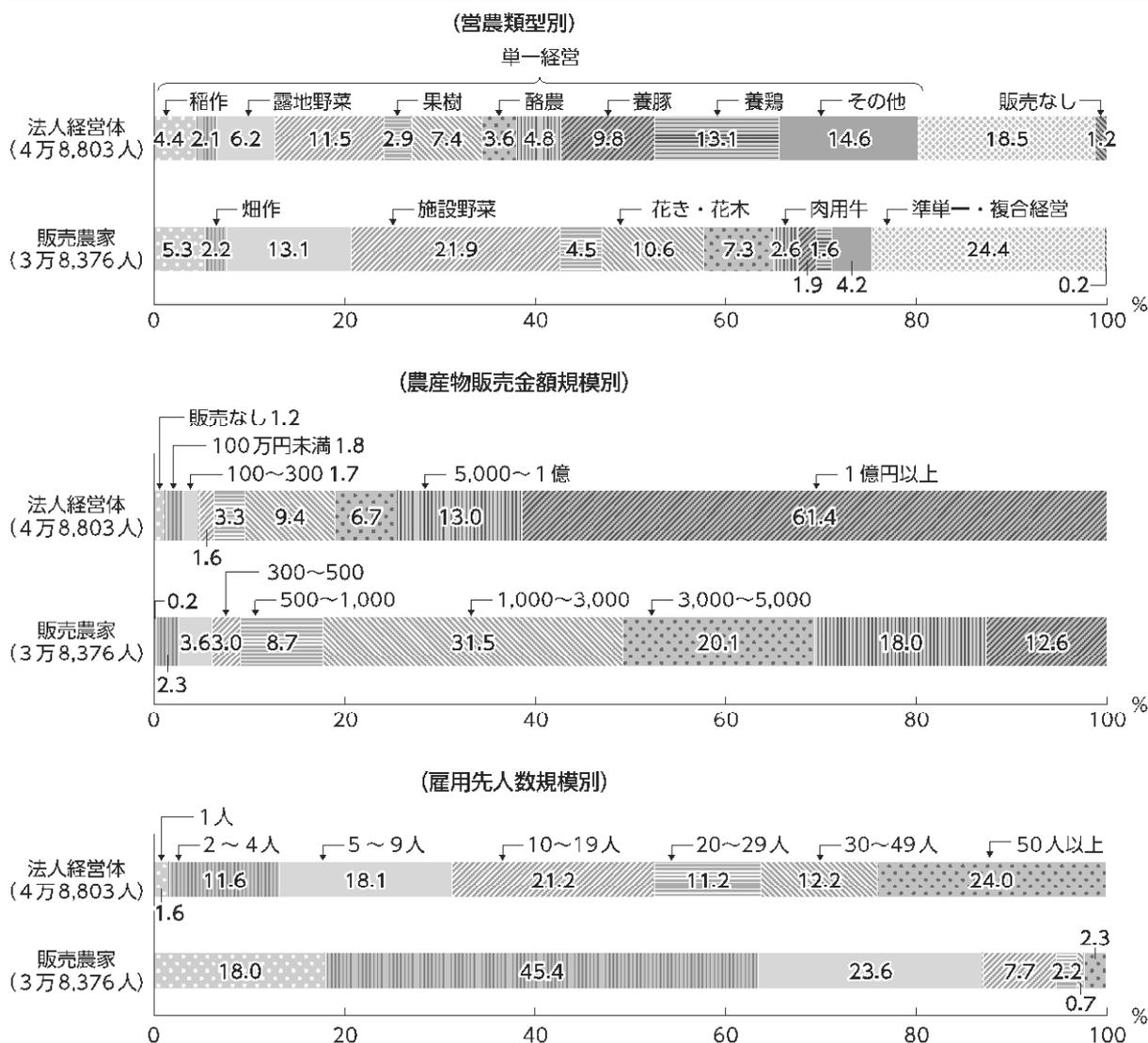
資料：農林水産省「2015年農林業センサス」（組替集計）
注：法人経営体1万8,857経営体、販売農家132万9,591戸の集計結果

44歳以下の常雇い人数の営農類型別割合を見ると、法人経営体では養鶏、施設野菜、養豚が、販売農家では施設野菜、露地野菜、花き・花木が、それぞれ高くなっています(図表24)。

また、これら人数の農産物販売金額規模別割合を見ると、法人経営体では農産物販売金額1億円以上の経営体が6割となっています。

さらに、これら人数の雇用先人数規模別割合を見ると、法人経営体では50人以上の経営体が24.0%、10人以上の経営体が68.7%となっています。一方、販売農家では、4人以下の経営体が63.4%となっています。

図表24 営農類型別、農産物販売金額規模別、雇用先人数規模別の法人経営体と販売農家の44歳以下常雇い人数の割合(平成27(2015)年)



資料：農林水産省「2015年農林業センサス」(法人経営体と雇用先人数規模別の販売農家については組替集計)

注：1) 畑作は、「麦類」「雑穀・いも類・豆類」、「工芸農作物」
 2) その他は、「その他の作物」、「養蚕」、「その他の畜産」

(3) 法人雇用者の満足度や将来に対する考え（法人雇用者：79人）

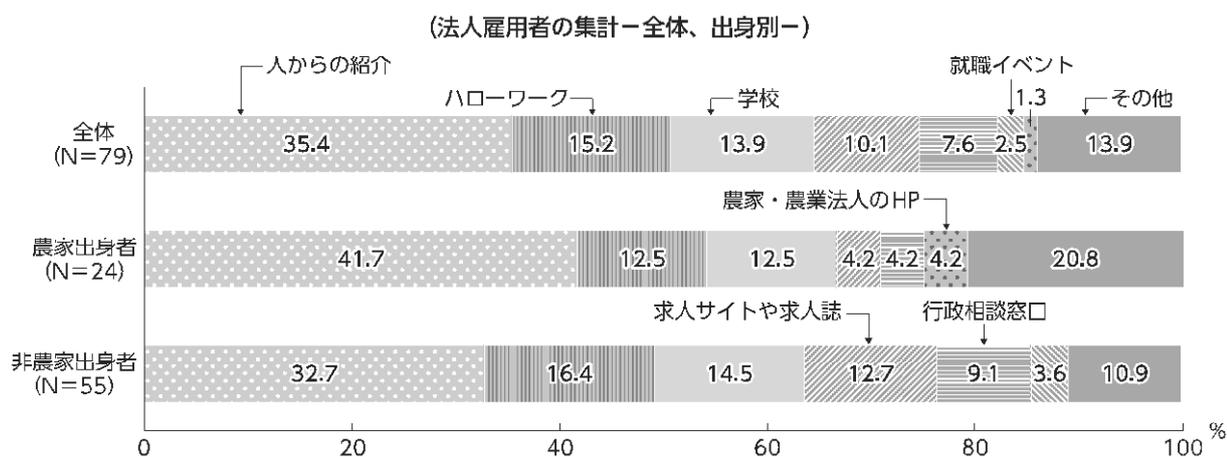
ア 就職情報の入手経路

（非農家出身者は、求人サイトや求人誌、行政相談窓口の活用割合が高い）

法人雇用者に就職情報の入手経路を尋ねたところ、「人からの紹介」が35.4%と最も高く、次いで「ハローワーク」が15.2%、「学校」が13.9%となりました（図表25）。

これを出身別に見ると、非農家出身者は、これら以外に「求人サイトや求人誌」や「行政相談窓口」も高くなっています。

図表25 就職情報の入手経路



注：法人雇用者79人のうち回答者79人

イ 現勤務先の満足度

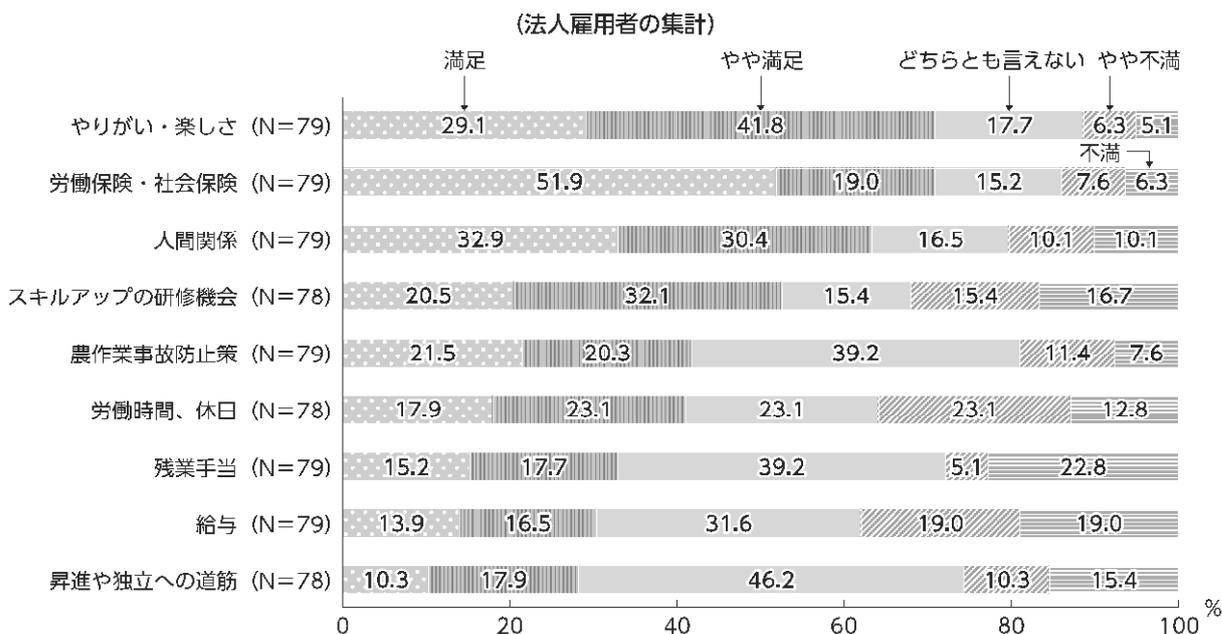
（「満足」は「給与」以外の項目で「不満」を上回る）

現勤務先の満足度を尋ねたところ、「やりがい・楽しさ」、「労働保険・社会保険」、「人間関係」の項目で「満足」は6割以上となりました（図表26）。「給与」については「不満」が「満足」を上回りました。

1 「満足」と「やや満足」を選択した者の合計

2 「不満」と「やや不満」を選択した者の合計

図表26 現勤務先の満足度



注：法人雇用者79人のうち回答者は各項目の括弧内の数値

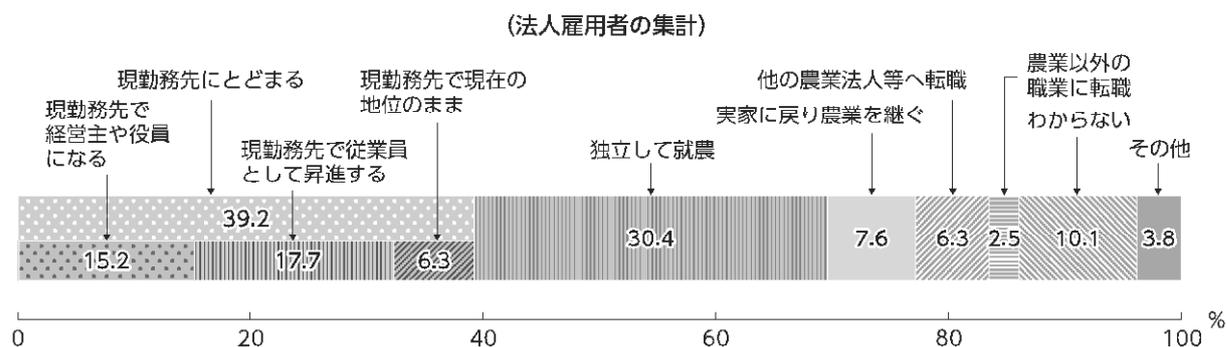
ウ 将来の進路と身に付けたい技能

(現勤務先への残留意向が39.2%、独立就農意向が30.4%)

将来の進路を尋ねたところ、「現勤務先にとどまる¹」が39.2%と最も高く、次いで「独立して就農」が30.4%、「実家に戻り農業を継ぐ」が7.6%となりました(図表27)。

将来に向けて身に付けたい技能を複数回答で尋ねたところ、「栽培・飼養技術」が70.9%と最も高く、次いで「経営分析能力」が68.4%となりました(図表28)。これを将来意向別に見ると、「経営への関与意向がある者²」は「経営への関与意向がない者³」に比べ、「経営分析能力」と「財務管理能力」を挙げる割合が高くなっています。

図表27 将来の進路



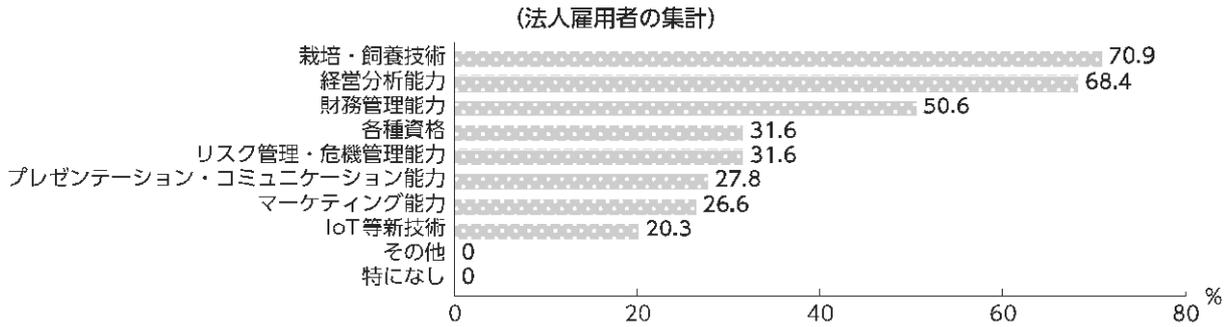
注：法人雇用者79人のうち回答者79人

1 「現勤務先で経営主や役員になる」、「現勤務先で従業員として昇進する」、「現勤務先で現在の地位のまま」を選択した者の合計

2 「現勤務先で経営主や役員になる」、「独立して就農」、「実家に戻り農業を継ぐ」を選択した者の合計

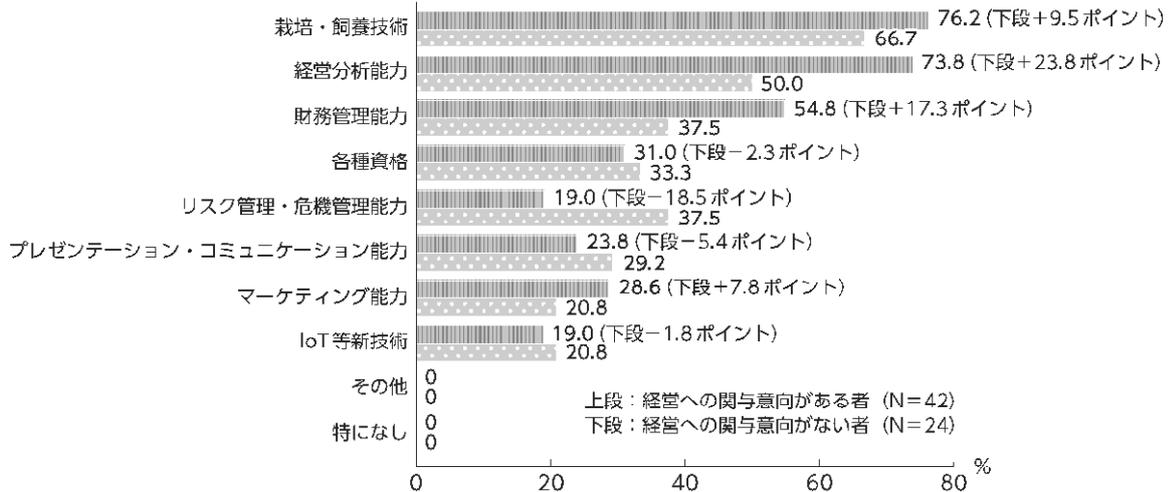
3 「現勤務先で従業員として昇進」、「現勤務先で現在の地位のまま」、「他の農業法人等へ転職」を選択した者の合計

図表 28 身に付けたい技能（複数回答）



注：法人雇用者79人のうち回答者79人

(法人雇用者のうち将来の経営関与意向を明らかにした回答者の集計－将来の経営関与意向の有無別－)



注：法人雇用者79人のうち将来の経営関与意向の有無を明らかにした回答者66人

事例

農業法人が従業員の技能向上を通じて、昇給を実現（岐阜県）

岐阜県高山市でトマトと菌床椎茸の栽培を行っていた橋場康夫さんは、平成12（2000）年に（有）橋場農園を設立して代表に就任し、現在は、パート等を含む従業員40人を雇用し、トマト、椎茸の生産、トマト加工品、下し椎茸の製造等を行っています。

橋場代表は、各従業員に担当部門を割り当てるとともに、外部研修の受講等を推奨することで、一人ひとりが考え技能向上できる就業環境づくりに努めています。

このような就業環境づくりは、収量や作業効率の向上等を通じて会社の収益を高めることにつながっており、増加した収益は各従業員の業務成績や技能等に応じて昇給や賞与という形で還元されています。

また、これを通じてリーダー級の人材が育った場合、経営の拡大が可能となり更なる収益の向上にもつなげられます。

橋場代表は、会社の成績が給与等に反映されるとの認識が社内に広がり、会社の収益向上を意識して従業員が一丸となって働けるようになったと考えています。



トマトの生産状況を確認する橋場康夫さんと従業員

食料・農業・農村基本法の骨子

第1 基本理念

1. 食料の安定供給の確保

- 1 食料は、人間の生命の維持に欠くことができないものであり、かつ、健康で充実した生活の基礎として重要なものであることにかんがみ、将来にわたって、良質な食料が合理的な価格で安定的に供給されなければならない。
- 2 国民に対する食料の安定的な供給については、世界の食料の需給及び貿易が不安定な要素を有していることにかんがみ、国内の農業生産の増大を図ることを基本とし、これと輸入及び備蓄とを適切に組み合わせる行われなければならない。
- 3 食料の供給は、農業の生産性の向上を促進しつつ、農業と食品産業の健全な発展を総合的に図ることを通じ、高度化し、かつ、多様化する国民の需要に即して行われなければならない。
- 4 国民が最低限度必要とする食料は、凶作、輸入の途絶等の不測の要因により国内における需給が相当の期間著しくひっ迫し、又はひっ迫するおそれがある場合においても、国民生活の安定及び国民経済の円滑な運営に著しい支障を生じないよう、供給の確保が図られなければならない。

2. 多面的機能の発揮

国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承等農村で農業生産活動が行われることにより生ずる食料その他の農産物の供給の機能以外の多面にわたる機能(以下「多面的機能」という。)については、国民生活及び国民経済の安定に果たす役割にかんがみ、将来にわたって、適切かつ十分に発揮されなければならない。

3. 農業の持続的な発展

農業については、その有する食料その他の農産物の供給の機能及び多面的機能の重要性にかんがみ、必要な農地、農業用水その他の農業資源及び農業の担い手が確保され、地域の特性に応じてこれらが効率的に組み合わせられた望ましい農業構造が確立されるとともに、農業の自然循環機能(農業生産活動が自然界における生物を介在する物質の循環に依存し、かつ、これを促進する機能をいう。以下同じ。)が維持増進されることにより、その持続的な発展が図られなければならない。

4. 農村の振興

農村については、農業者を含めた地域住民の生活の場で農業が営まれていることにより、農業の持続的な発展の基盤たる役割を果たしていることにかんがみ、農業の有する食料その他の農産物の供給の機能及び多面的機能が適切かつ十分に発揮されるよう、農業の生産条件の整備及び生活環境の整備その他の福祉の向上により、その振興が図られなければならない。

**平成29年度
森林及び林業の動向**

**平成30年度
森林及び林業施策**

第196回国会（常会）提出

循環利用を計画的に実施していく段階に入っている*7。

人工林が本格的な利用期を迎えた今、「伐る、使う、植える、育てる」といった森林資源の循環利用を確立させながら、多様で健全な森林の整備及び保全の推進、効率的かつ安定的な林業経営に向けた施策を推進していく必要がある。

将来、バランスのとれた年齢構成を実現するために不可欠な若年齢の森林は少なくなっている。

平成26(2014)年度を始期とする全国森林計画では、2028年度までの15年間に84万6千haの人工造林を行う計画としている。まさに今が、木材需要に応じた主伐と再造林による循環を確立することで、次世代にも充実した森林資源を継承し、林業の成長産業化を実現するとともに森林の公益的機能を持続的に発揮させていくためのターニングポイントであるといえる(資料I-3)。

(3)我が国林業の構造的な課題

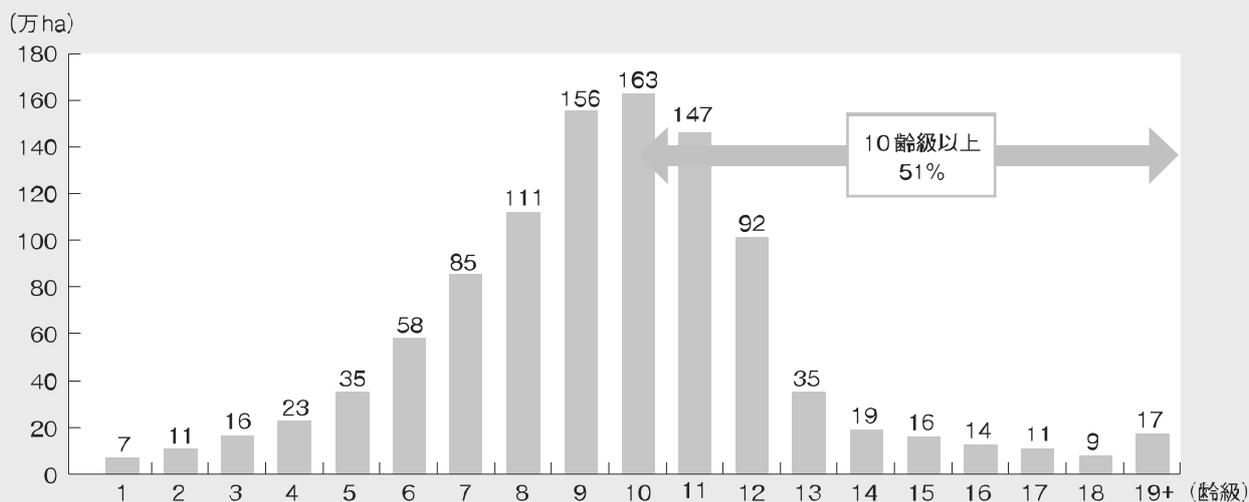
(新たな仕組みの必要性)

我が国では、小規模零細な森林所有構造に加え、材価は以前より低い水準で推移しており、森林所有

者に還元される収益が減少していること等から、森林所有者の経営規模を拡大する意欲等は減退している。例えば、森林所有者のうち、保有山林面積が10ha未満の者が全体の87%を占めている*8が、仮に10haの森林について50年回帰で主伐・再造林を行ったとしても、1年当たりの伐採面積は0.2haにとどまる。0.2ha当たりの山元立木価格*9は約18万円である一方、造林及び保育にかかる費用は23万円以上*10と見込まれる。こうした中、平成27(2015)年に農林水産省が実施した「森林資源の循環利用に関する意識・意向調査」によると、経営規模を拡大したいとする森林所有者は約15%にとどまる。また、伐期に達した山林はあるが主伐を予定していない者が60%となっている(資料I-4)。さらに、山村地域の人口減少も進み、所有者不明森林や境界不明森林の問題が顕在化している。

一方で、同調査によると、丸太(素材)生産を担う林業経営者のうち、今後の経営規模に関する意向として、規模拡大したいと回答した者が70%に上っている。しかし、そのうち約4割の者が事業を行う上での課題として、事業地の確保が困難であること

資料I-3 人工林の年齢別面積



注1：年齢級は、林齢を5年の幅でくくった単位。苗木を植栽した年を1年生として、1～5年生を「1年齢」と数える。

注2：「森林法」(昭和26年法律第249号)第5条及び第7条の2に基づく森林計画的の対象森林の面積である。

資料：林野庁「森林資源の現況」(平成24(2012)年5月31日現在)

*7 平成27(2015)年度的人工造林面積は、約2.5万ha。林野庁「森林・林業統計要覧2017」(平成29(2017)年9月)

*8 農林水産省「2015年農林業センサス」

*9 林地に立っている樹木の価格であり、最寄木材市場引渡し価格から、伐採や運賃等にかかる経費(丸太の生産費等)を控除することにより算出され、森林所有者の収入に相当する。詳しくは、第II章(86-87ページ)を参照。

*10 農林水産省「平成25年度林業経営統計調査報告」(平成27(2015)年7月)による。詳しくは、第III章(90ページ)を参照。

を挙げている(資料 I-5)。

このように、林業経営者の多くは経営規模を拡大したいとの意向を有しているものの、現状を維持したいとの意向を有している多くの森林所有者や、所有森林において主伐、再造林、保育といった循環的な経営を行う意欲の低い森林所有者との間でミスマッチが生じている。こうしたことから、まとまった規模の林業経営を持続していくことのできる、意欲と能力のある林業経営者が十分に育たない状況^{*11}である。

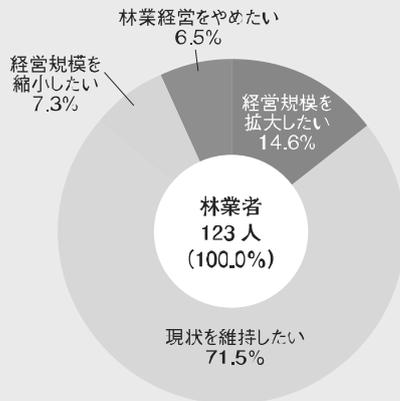
このため、適切な経営がなされていない森林を意欲と能力のある林業経営者に集積・集約化するための新たな仕組みの構築が求められている。

(オーストリアの森林・林業)

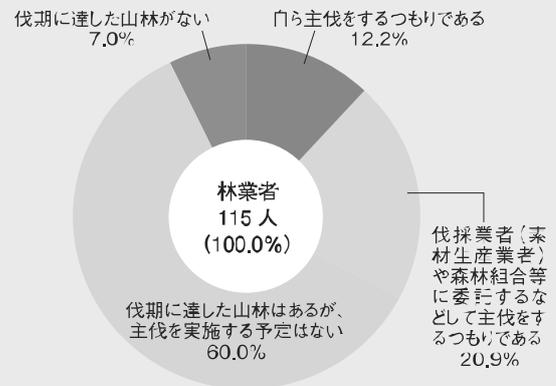
オーストリアは、我が国と比較的類似した地形や森林所有規模等の条件を有しながら、欧州の林業国として自国内から盛んに丸太の生産を行い、製材品の輸出等につなげている。こうした状況と、我が国の林業をめぐる状況を比較し、新たな森林管理システムの導入により、我が国の林業が抱える課題を解

資料 I-4 森林所有者の林業経営に関する意向

【林業経営規模の意向】



【今後5年間の主伐に関する意向】



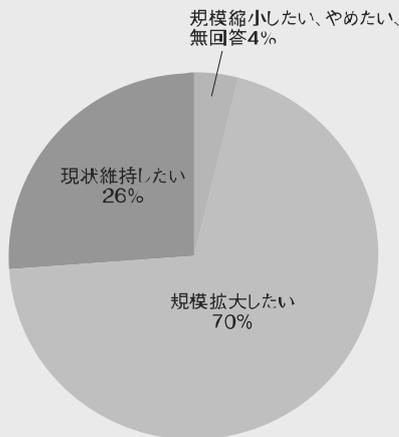
注1：計の不一致は四捨五入による。

注2：「今後5年間の主伐に関する意向」は、「林業経営規模の意向」で「経営規模を拡大したい」、「現状を維持したい」、「経営規模を縮小したい」と回答した者に対して行われたもの。

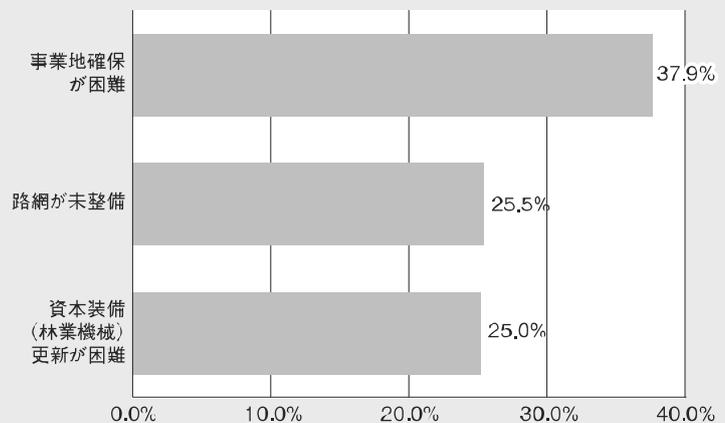
資料：農林水産省「森林資源の循環利用に関する意識・意向調査」(平成27(2015)年10月)

資料 I-5 林業経営者(素材生産業者)の意向

【今後の経営規模に関する意向】



【事業を行う上での課題】



注：事業を行う上での課題については、複数回答可。また、雇用関係の課題は除く。

資料：林野庁木材産業課調べ。

* 11 状況は、「森林・林業基本計画」(平成28(2016)年5月)に掲げられた望ましい林業構造の具体例の半分の水準にとどまる。

3. 新たな森林管理システムの構築の方向性

我が国の森林資源の現状や林業をめぐる状況に鑑みると、森林の経営管理の集積・集約化を進めるための「新たな森林管理システム」の構築が森林の有する公益的機能の発揮と林業の成長産業化を実現するために不可欠となっている。以下では、新たな森林管理システムの構築の方向性について、意欲と能力のある林業経営者の関わりや、併せて実施することが必要な各種の条件整備、森林環境税(仮称)の導入等に触れながら記述する。

(1) 林業の成長産業化と森林資源の適切な管理

我が国の人工林の約半数が主伐期を迎えている中、森林の有する公益的機能を持続的に発揮しつつ、林業の成長産業化を実現させるためには、これまでに掲げてきた我が国の森林・林業をめぐる課題を踏まえた対応が必要である。

これまで、我が国の森林・林業に関する施策においては、森林所有者の自発的な施策を国や都道府県が支援するという仕組みをとってきた。しかし、森林所有者の多くが経営規模を拡大する意欲や所有意欲等が低くなり、路網整備や施策の集約化など積極的な経営や適切な管理を期待できない状況がみられる。

このため、森林所有者が自ら所有する森林について経営管理すべき責務があることを明確化した上で、森林所有者や林業経営者に一番近い公的な存在である市町村が森林所有者の意向を確認し、森林所有者が自ら経営管理できない場合には、所有している森林の経営管理に必要な権利を森林所有者が市町村に委ねることができるようにし、さらに、市町村は、林業経営に適した森林を、意欲と能力のある林業経営者に任せ、森林の経営管理を集積・集約させていく必要がある。一方で、自然的条件が悪く、林業経営が成り立たない森林については、既に手入れ不足に陥っている森林も生じていることから、こうした森林は、市町村が整備を進めていくことも必要

である。

こうした新たな森林管理のシステムを構築し、我が国の森林・林業に横たわる課題を打破し、人工林の適切な管理と資源の循環的な利用を進めていくことが必要とされている(事例 I-1)。

(2) 意欲と能力のある林業経営者への森林の経営管理の集積

(ア) 森林所有者自らが森林の経営管理ができない森林の市町村への経営管理権限の集積

現状でも個別に森林所有者の同意や確認を得れば、林業経営者が林業経営の集積・集約化を区るとは可能である、しかしながら、森林所有者の所有意欲等が低い中、その取組は困難さを増している。

林業経営者が、一定のまとまりのある森林の集積・集約化を行うことができない場合は、林道の開設等にも影響することが想定され、効率的な林業経営を実施していくことは難しくなる。

こうしたことから、森林所有者自らが適切な経営管理を行うことができない森林については、新たな森林管理システムを通じて、意欲と能力のある林業経営者に一定期間林業経営を委ねられるようにすることが必要である(資料 I-10)。

そして、計画的な伐採を行いつつ、伐った後には再造林を行い、適切な保育作業を実施していくことや、長伐期化を目指して間伐を繰り返すといった、循環的な林業経営を行っていくことが必要である。

また、こうした林業経営者に林業経営を委ねることで、高い生産性と収益性を実現させ、森林所有者や林業従事者の所得を向上させ、地域での雇用を確保し、山村地域の活性化にもつなげることができる。さらには、計画的な伐採を行うことで、川下と連携した安定的な丸太の供給を図り、競争力を強化していくことも可能となる。

(イ) 意欲と能力のある林業経営者の育成

林業経営には、森林組合や企業、個人事業主、林家など様々なプレイヤーが存在しているが^{*50}、「森林・林業基本計画」においては、林業経営の主体として、森林経営計画の作成を担う「持続的な林業経

*50 林業経営の動向について詳しくは、第Ⅲ章(87-93ページ)を参照。

営の主体」と、効率的かつ低コストな施業を実施し得る「効率的な施業実行の主体」を位置付けている。新たな森林管理システムにおいては、この両者とも市町村が森林の経営管理を委ねる候補となり得ることから、その育成を図っていく必要がある。

森林所有者から、継続して林業経営を受託する主体には、①森林所有者・林業従事者の所得向上につながる高い生産性や収益性を有すること、②主伐後の再造林の実施体制を有するなど林業生産活動の継続性を確保できることなど、効率的かつ安定的な林業経営を実現できることが求められている。また、林業事業体によって伐採や搬出のみならず、再造林を促すような独自のガイドラインを作成するといった取組も進められてきたところであり、こうした取組が広がっていくことが求められている(事例I-2)。

このような取組が林業経営の主体に求められるこ

とを踏まえて、市町村が森林の経営管理を委ねる林業経営者として経営改善の意欲を有すること、関係事業者と連携するなどして丸太生産や造林・保育の実行体制を確保できること、伐採・造林に係る行動規範の策定などに取り込むことが可能であること等を考慮し、市町村からの推薦も踏まえて選定した者を都道府県が公表することとし、このような者を、地域の実情に応じて育成・確保することが重要となる。具体的には、このような林業経営者として、森林組合や素材生産業者、自伐林家等が対象になると見込まれる。

(ウ)自然的条件等が不利な森林の適切な管理 (自然的条件が不利な人工林の管理)

林業経営者に委ねることが期待される森林については、持続的な林業経営が成り立つことが前提となっている。しかし、市町村が森林所有者から経営

事例 I - 1 にしあわくらそん 西栗倉村百年の森林構想 もり

岡山県北東端部の中山間地に位置する西栗倉村は、面積約5,800haのうち93%を森林が占める典型的な山村である。同村は人口1,478人、世帯数592、高齢化率35%(平成29(2017)年3月現在)であり、平成17(2005)年時点の人口1,684人からは徐々に人口が減少している。

同村では、森林の約82%を占める人工林の多くが50年生まで育っていることを受け、林業をめぐる厳しい状況の中で、これらの人工林の管理を諦めるのではなく、村ぐるみであと50年頑張っって美しい森林に囲まれた上質な田舎を実現していこうとの「百年の森林構想」を村の方針として打ち立てた。

この「百年の森林構想」に基づき西栗倉村や株式会社西栗倉森の学校等の主体が連携して「百年の森林事業」を実施しており、川上側では適切な森林管理や森林整備により「生物が豊かで、美しく安全な森林づくり」、川下側では間伐材を使った商品の開発・販売を通じ「森林をきっかけに西栗倉を多面的に活性化」することを目的としている。

具体的な取組としては、個人所有の山林を村が預かって管理・整備を行う「長期施業管理に関する契約」を進めることとしており、契約目標の私有林約3,000haに対して、平成29(2017)年12月現在、約1,475haの契約を締結している。この契約は、西栗倉村が契約期間を10年間とした森林管理の委託を受け、その間森林整備にかかる費用については全て村が負担し、森林所有者には費用負担がかからないこととなっている(木材販売の収益は森林所有者と村が折半)。このように、地元の地方公共団体が主体的に森林管理に関わることが、安心感につながり、契約を伸ばしている。

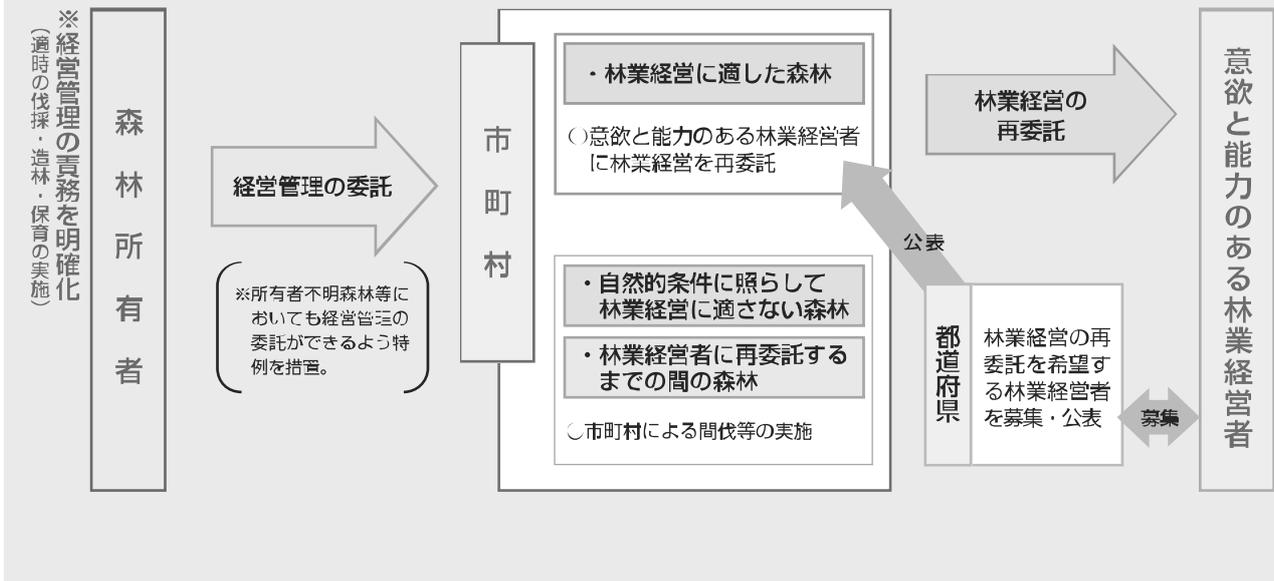


西栗倉村内の林齢100年を超える人工林



本取組によって生産された間伐材

資料 I - 10 新たな森林管理システム



事例 I - 2 伐採搬出ガイドラインサミット

宮崎県の素材生産事業体を中心に平成15(2003)年に設立された「ひむか^{いし}維森の会」は平成20(2008)年に自らが素材生産を行う際の「伐採搬出ガイドライン」等を策定し、素材生産に係る環境負荷の低減や、再造林支援を促すなどの取組を進めてきた。さらに、平成23(2011)年には、外部に設置した第三者委員会とともに環境配慮や資源循環(主伐後の再造林)、労働安全に関する所定の基準を審査し認証する「責任ある素材生産事業体」制度を発足させるなど、素材生産業が社会的責任に応えることを広める取組を進めている。

また、同会ではこうした取組の全国への普及にも努めており、岩手県や鳥根県、鹿児島県でも同会の「伐採搬出ガイドライン」をベースとしたガイドラインを策定し、運用する動きが出てきている。同会では、こうした活動の更なる活性化を目指し、平成29(2017)年9月に、「伐採搬出ガイドラインサミット in 宮崎・九州」を開催した。このサミットでは、全国から73の事業体等が参加し、同会のこれまで10年間の取組や、全国各地の活動状況が報告されたほか、環境配慮等を盛り込んだ伐採搬出時のガイドラインの九州全域への展開を目指す新たな連携協議会の設置等について、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県の素材生産事業体の団体が協力して取り組むことが宣言された。



連携協議会の設置について宣言



リミット参加者による伐採現場視察

管理に関する権利を取得した森林の中には、自然的条件が不利で、経済ベースで自立した林業経営を継続的に実施することが難しい人工林も含まれる。森林は、林業経営の適否にかかわらず、国民一人一人にとってかけがえのない多様な公益的機能を有していることから、自然的条件が悪く、林業経営が成り立たない森林を、積極的な経営の意思を有していない森林所有者に任せているのでは、適切な経営管理がなされずに森林の有する公益的機能の発揮に支障を来してしまうことになる。

このため、新たな森林管理システムでは、このような林業経営が成り立たない森林は、市町村による公的管理により適切な施策を実施していく必要がある。この際には、間伐を繰り返したり、育成単層林として維持するのではなく、管理コストが小さくなるよう、育成複層林等への転換を進めることが望ましい。

「森林・林業基本計画」においても、急傾斜の森林又は林地生産力の低い森林については、広葉樹の導入等により針広混交の育成複層林等に誘導することとしており、そうした森林は370万haに上る^{*57}とされている。

また、この新たな森林管理システムの構築を契機として、森林の有する公益的機能が十分に発揮されるよう、市町村が自らの事業として実施する森林整備等に必要な財源に充てるため、国民一人一人が負担を分かち合っ、国民皆で森林を支える仕組みとして森林環境税(仮称)を創設するとの内容が「平成30年度税制改正の大綱^{*58}」において取りまとめられている。

(天然林の適切な維持・管理)

新たな森林管理システムは、主に民有林の人工林を念頭に置いたシステムであるが、人工林とともに森林全体としての多面的機能を発揮する天然林についても、適切な維持・管理を行う必要がある。このため、市町村も含めた様々な主体によって、奥地の天然林については引き続き天然力を活用して維持が図られるようにするとともに、里山林については、竹林化が進んでいるところもみられており、期待される多面的機能に応じた手入れが実施されることが求められる^{*59}。

(3) 森林の経営管理を集積していく上での条件整備

(ア) 所有者不明森林への対応

(所有者不明森林の現状)

我が国の森林では、材価の下落等により森林から収益が得られず費用だけがかさんでいることから、所有森林に対する関心も低下しており、相続に伴う所有権の移転登記がなされず、所有者不明森林も生じている。

平成28(2016)年度に地籍調査^{*60}を実施した地

資料 I - 11 所有者不明土地の割合に関する調査結果

平成28年度地籍調査における土地所有者等*に関する調査
(平成28年度に一筆地調査を実施した地区を対象に調査)

	地域別 ^{*1} の調査結果 【()内の数字は調査対象筆数に対する割合】				
	全体	都市部 (DID)	宅地	農地	林地
調査対象筆数	622,608	79,753	98,775	200,617	243,433
①登記簿上で所在確認	497,549 (79.9%)	68,203 (85.5%)	81,610 (82.6%)	166,648 (83.1%)	181,088 (74.4%)
②登記簿のみでは所在不明	125,059 (20.1%)	11,580 (14.5%)	17,165 (17.4%)	33,969 (16.9%)	62,345 (25.6%)

*1 土地の所有者その他の利害関係人又はこれらの者の代理人
*2 調査地区には、様々な地帯(DID、宅地、農地、林地)が含まれるため、地区内で最も割合の多い地帯で区分

資料：国土交通省「国土審議会土地政策分科会特別部会第1回資料」より抜粋

*57 森林・林業基本計画における平成27(2015)年の育成単層林の面積は1,030万haであり、うち360万haが育成複層林に、20万haが天然生林に誘導される森林となっている。
*58 平成29(2017)年12月22日閣議決定。詳しくはトピックス(2-3ページ)を参照。
*59 里山林の保全管理の取組については、第V章(120ページ)を参照。
*60 「国二調査法」(昭和26年法律第180号)に基づき、主に市町村が主体となって、一筆ごとの土地の所有者、地番、地目を調査し、境界の位置と面積を測量する調査。

区における土地の所有者等について国土交通省が集計した調査結果によると、不動産登記簿により所有者の所在が判明しなかった土地の割合は筆数ベースで全体の約20%であり、特に森林については、25%を超えている(資料I-11)。

また、平成28(2016)年度末時点での地籍調査の進捗状況は宅地で54%、農用地で73%であるのに対して、森林では45%にとどまっている*61。

所有者不明森林では、適切な森林の経営管理がなされないばかりか、施業の集約化を行う際の障害となり、森林の経営管理を集積していく上での大きな課題となっている。

(森林法上の所有者把握の取組)

森林所有者の特定については、平成23(2011)年の「森林法*5c」の改正*6cにより、平成24(2012)年4月から、新たに森林の土地の所有者となった者に対して、市町村長への届出を義務付ける制度*64が開始され、それまでの「国土利用計画法*6a」による届出*6bに加えて、相続による異動や、1ha未満の小規模な森林の土地の所有者の異動も把握することを可能とした。また、平成28(2016)年5月の「森林法」の改正*67により、市町村が森林の土地の所有者、境界測量の実施状況等を記載した林地台帳を作成し、その内容の一部を公表する仕組み*68を設けている。林地台帳は平成30(2018)年度末までに整備することとされており、林地台帳の活用により、林業事業体等が施業の集約化に取り組む際に、森林所有者の所在を把握しやすくなることが期待されている。

(所有者不明森林の整備等を行うための制度)

また、所有者不明森林における整備を進めるため、平成23(2011)年の「森林法」の改正により、早急に間伐を行うことが必要な森林について、森林所

有者を確知することができない場合でも間伐の代行等が可能となるよう、都道府県知事の裁定により、間伐の対象となる立木に所有権を設定し、間伐等の施業の代行等を実施することを可能とした(要間伐森林制度)*59。

さらに、平成28(2016)年5月の同法の改正により、平成29(2017)年4月からは、共有林の所有者の一部が不明で共有者全員の同意が得られない場合に、都道府県知事の裁定手続等を経た上で、立木の持分の移転及び土地の使用権の設定を行い、伐採・造林を行うことを可能とした(共有者不確知森林制度)*70。

これらの制度は、都道府県知事の裁定により、立木の所有権の設定や、立木の持分の移転及び土地の使用権の設定を行うものであり、これまでは都道府県が慎重に運用を行っているために実績が上がっていないという課題が生じていることから、所有者不明森林において適切な森林の経営管理が行われるようにすることが求められている。このため、新たな森林管理システムにおいては、確知されている共有者が市町村に共有林の経営管理を委ねようとしている中で、共有者の一部が確知できない森林については、都道府県知事の裁定を要することなく、市町村に森林の経営管理を集約できるような仕組みにすることが必要である。また、所有者の全部が判明していない場合や、所有者が確知されている場合であっても森林の適切な経営管理に同意が得られない者が存在し、市町村への経営管理の集約が必要かつ適当と認められる場合には、都道府県知事の裁定手続等を経た上で森林の経営管理を集約できるような仕組みにすることが必要である。その際、確知されていなかった所有者や共有者が、後から市町村への経営管理の集約を取り消すことができる仕組みにするこ

*61 国土交通省ホームページ「全国の地籍調査の実施状況」
 *62 「森林法」(昭和26年法律第249号)
 *63 「森林法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第20号)
 *64 「森林法」第10条の7の2
 *65 「国土利用計画法」(昭和49年法律第92号)
 *66 「国土利用計画法」第23条
 *67 「森林法等の一部を改正する法律」(平成28年法律第44号)
 *68 「森林法」第191条の4から第191条の6まで
 *69 「森林法」第10条の11の6
 *70 「森林法」第10条の12の2から第10条の12の8まで

とも重要である。

(イ)境界不明森林への対応

我が国の私有林では、相続に伴う所有権の移転等により、森林の所在する市町村に居住し、又は事業所を置く者以外の者(不在村者)の保有する森林が増加している。不在村者の所有森林は私有林面積の約4分の1を占めており、そのうちの約4割は当該都道府県以外に居住する者等の保有となっている*71。

平成27(2015)年に農林水産省が実施した「森林資源の循環利用に関する意識・意向調査」で、林業者モニター*72に対して森林の境界の明確化が進まない理由について聞いたところ、「相続等により森林は保有しているが、自分の山がどこかわからない人が多いから」、「市町村等による地籍調査が進まないから」、「高齢のため現地の立会ができないから」という回答が多かった(資料I-12)。

このため、境界の明確化に向けた取組が所有者不明森林の所有者特定取組とともに実施されており*73、森林の境界確認に空中写真と森林GISのデータを利用するなど、業務の効率化を図る取組も実施されている(事例I-3)。

境界の非確化に向けた取組の一つとして地籍調査が行われているが、林地における実施面積の割合は平成28(2016)年度末時点で45%となっており、平成31(2019)年までに50%とすることが目標とされている。このような中で、林野庁と国土交通省は、森林境界非確化活動と地籍調査の成果を相互に活用するなど、連携しながら境界の明確化に取り組んでいる。

(ウ)路網整備の推進等

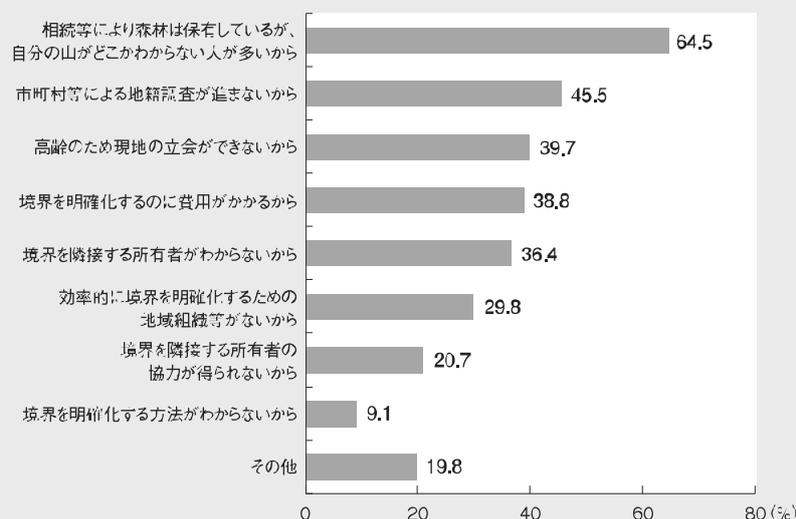
路網は、森林施業の効率的な実施のために必要不可欠なものであり、新たな森林管理システムにより効率的な森林の経営管理が行われる前提ともいえるものである。これまでも、路網作設に係る技術の蓄積や技術者の育成等を進め、路網整備の推進を図ってきたところであるが、「森林・林業基本計画」における林道等の望ましい延長の目安である33万kmに対して、同基本計画の策定時点の延長は19万kmにとどまっている。

このため、新たな森林管理システムにより、意欲と能力のある林業経営者へ森林の経営管理を集積・集約化させる地域に重点化して、路網整備の推進を図っていくことが必要である。

こうした路網の整備に当たっては、森林資源が充実した区域等において、路網ネットワークを形成するための基幹となる林道に加え、支線となる林業専用道*74や森林作業道*75をバランス良く配置することが重要である。

また、これと併せて、こうした林業経営者が行う

資料I-12 森林の境界の明確化が進まない理由(複数回答)



注：林業者モニターを対象とした調査結果。
資料：農林水産省「森林資源の循環利用に関する意識・意向調査」(平成27(2015)年10月)

*71 農林水産省「2005年農林業センサス」
なお、「2010年世界農林業センサス」以降この統計項目は削除された。
*72 この調査での「林業者」は、「2010年世界農林業センサス」で把握された林業経営体の経営者。
*73 境界の明確化の取組については、第III章(95-96ページ)を参照。
*74 普通自動車(1トン積程度のトラックに相当)や林業用車両の走行を想定。林業専用道について詳しくは、第III章(97ページ)を参照。
*75 フォワーダ等の林業機械の走行を想定。森林作業道について詳しくは、第III章(97ページ)を参照。

間伐等が優先的に実施されるようにするとともに、この新たなシステムの構築が見込まれる地域を中心として、高性能林業機械^{*76}の導入を重点的に推進するなど、こうした林業経営者の育成を支援していくことが必要である。さらに、「伐採と造林の一貫作業システム」の普及による効率的な再造林や、情報通信技術（ICT^{*77}）やドローン等の新技術の活用による施業の効率化を推進していくことも重要である。

（エ）人材の育成

新たな森林管理システムを進める上では、森林の経営管理に長期的・広域的な視点に立って関わることのできる「森林総合監理士（フォレスター）」や、森林の経営管理の集積・集約化の実務を担うことが期待される「森林施業プランナー」の育成を図ることが重要となる。また、「森林総合監理士（フォレスター）」に関しては、技術水準の向上や、先進的な活動を普及させるためのネットワーク構築等の取組

も必要となる。さらに、こうした者が森林そのものの取扱いだけに関わるのではなく、生産された丸太の流通等に関する知見も持ち、川上から川下までの連携を進めていく役割を担うことも期待される。

実際の森林の経営管理を担うこととなる林業経営者においては、「「緑の雇用」事業^{*78}」等を活用して新規就業者の確保を図るほか、施業の効率化等を図りつつ長期間にわたって事業を行っていく観点から、高度な知識と技術・技能を有する林業労働者を安定的に育成^{*79}することが必要となってくる。

（オ）市町村の体制の整備

新たな森林管理システムの下では、市町村が意欲と能力のある林業経営者に森林の経営管理を委ね、又は市町村自らが森林管理を行うことになる。一方で、1,000ha以上の私有人工林を有する市町村にあっても、専ら林務を担当する職員が0～1人程度の市町村が約4割を占める^{*80}など、施策を展開するための体制が十分でない市町村も多い。

事例 I-3 境界の確認等におけるドローン（無人航空機）活用の取組

公益社団法人徳島森林づくり推進機構では、「儲かる林業のためのドローン技術による高精度森林情報整備事業」を実施している。同事業では、①高齢者、不在村者等は現地での境界確認が困難、②森林資源の把握と経済価値の判断が難しく、間伐等の手入れが遅れている森林が増加、③伐採後の確実な植林やシカ食害対策等の負担が大きい、④森林は広域で急峻な地形が多く、調査や森林の見回りに多くの人員と時間が必要といった地域の課題解決のためにドローンの活用に取り組んでいる。

具体的には、ドローンでの空撮により林地の3次元データ等を取得し、既存のデータと組み合わせた図面の作成や、GPSを利用した自律飛行による情報収集等により、①境界確認の効率化と林地の集約化の進展、②手入れが遅れている森林の所有者への間伐等の働き掛け、③主伐の採算性の事前把握による確実な植林やシカ食害対策への対応、④森林資源情報取得や定期的な森林監視の省力化につなげることをしている。



災害調査におけるドローン自律飛行の準備作業



ドローンの空撮データから作成した3次元画像

* 76 高性能林業機械の導入状況については、第Ⅲ章(98-99ページ)を参照。

* 77 「Information and Communication Technology」の略。

* 78 「「緑の雇用」事業」について詳しくは、第Ⅲ章(102ページ)を参照。

* 79 高度な知識と技術・技能を有する林業労働者の育成について詳しくは、第Ⅲ章(103-105ページ)を参照。

* 80 総務省「平成28年度地方公共団体定員管理調査」

市町村が主体となった森林の経営管理の集積・集約化及び公的管理の事務を進めるためには、こうした体制の整備が必要であることから、国や都道府県による支援や、「森林総合監理士(フォレスタ―)」等の技術者の「地域林政アドバイザー^{*81}」としての活用のほか、近隣市町村と協議会を構成し、共同実施に向けた連携等を進めていくことが重要である。また、「地方自治法^{*82}」では市町村の求めに応じて、都道府県が事務の代替執行を行うことができるようになっているが、さらに、都道府県の発意により、市町村の同意を条件として、都道府県による事務の代替執行を行うことができるようにすることも必要である。

(カ) 国有林野事業との連携

国有林野事業においては、その組織、技術力及び資源を活用し、林業の成長産業化に貢献することとしており^{*83}、民有林における新たな森林管理システムが効率的に機能するよう、民有林と隣接する国有林における林道の相互接続や伐採木の協議出荷、林業の低コスト化に向けた技術普及など、民有林との連携をさらに強化する必要がある。

また、市町村が集積・集約した森林の管理を担うこととなる意欲と能力のある林業経営者に対する国有林野事業の受託機会の増大への配慮や、国有林野事業で把握している林業経営者の情報を都道府県や市町村に対して提供するなどの取組も進めていくことも重要である。

*81 森林・林業に関して知識や経験を有する者を市町村が雇用することを選択して、森林・林業行政の体制支援を図る制度。平成29年度に創設され、市町村がこれに要する経費については、特別交付税の算定の対象となっている。

*82 「地方自治法」(昭和22年法律第67号)

*83 国有林野事業における林業の成長産業化への貢献については、第V章(194-199ページ)を参照。

31%^{*24}、下刈り等を行った林業経営体は47%^{*25}、間伐を行った林業経営体は71%^{*26}である。

また、受託若しくは立木買いにより素材生産を行った民間事業体は、1,098経営体となっている。これらの林業経営体の事業規模をみると、59%が年間の素材生産量5,000m³未満の林業経営体^{*27}となっており、小規模な林業経営体が多い。素材生産の労働生産性は事業規模が大きい林業経営体ほど高いことから^{*28}、効率的な素材生産を行うためには安定的に事業量を確保することが求められる。このような中で、民間事業体においても、森林所有者等に働き掛け、施業の集約化や経営の受託等を行う取組^{*29}が進められている。

また、林業者と建設業者が連携して路網整備や間伐等の森林整備を実施する「林建協働」の取組が、建設業者による「建設トップランナー倶楽部^{*30}」等により推進されている。建設業者は既存の人材、機材、ノウハウ等を有効活用して、林業の生産基盤である路網の開設等を実施できることから、林業者との連携によって林業再生に寄与することが期待される。

(林業事業体育成のための環境整備)

林業事業体には、地域の森林管理の主体として、造林や保育等の作業の受託から森林経営計画等の作成に至るまで、幅広い役割を担うことが期待されることから、施業の集約化等に取り組むための事業環境を整備する必要がある。

このため、各都道府県では、林野庁が発出した森林関連情報の提供等に関する通知^{*31}に基づき、林業事業体に対して森林簿、森林基本図、森林計画図等の閲覧、交付及び使用を認めるように、当該情報の取扱いに関する要領等の見直しを進めている。

また、森林所有者、事業発注者等が森林経営の委託先や森林施業の事業実行者を適切に選択できるよう、林野庁では、林業経営体に関する技術者・技能者の数、林業機械の種類及び保有台数、事業量等の情報を登録し、公表する仕組みの例を示した。平成29(2017)年度までに、8道県がこの仕組みを活用している。

さらに、林業事業体の計画的な事業実行体制等の構築を促進するため、地域における森林整備や素材生産の年間事業量を取りまとめて公表する取組も開始されている^{*32}。

(3)林業の生産性の向上に向けた取組

(ア)施業の集約化

新たな森林管理システムは、自ら適切に経営管理を行うことができない森林所有者の森林を集積・集約化するものである^{*33}が、林業経営に関心のある森林所有者であっても所有規模が小規模零細であるため、個々の森林所有者が単独で効率的な施業を実施することが難しい場合が多い。このため、隣接する複数の森林所有者が所有する森林を取りまとめて、路網整備や間伐等の森林施業を一体的に実施する「施業の集約化」の推進が必要となっている。

(生産性の向上には施業の集約化が必要)

施業の集約化により、作業箇所がまとまり、路網の合理的な配置や高性能林業機械を効果的に使った作業が可能となることから、素材生産コストの縮減が期待できる。また、一つの施業地から供給される木材のロットが大きくなることから、径級や質の揃った木材をまとめて供給することが容易となり、市場のニーズに応えたとともに、価格面でも有利に販売することが期待できる。

*24 409経営体(農林水産省「2015年農林業センサス」)。

*25 610経営体(農林水産省「2015年農林業センサス」)。

*26 929経営体(農林水産省「2015年農林業センサス」)。

*27 652経営体(農林水産省「2015年農林業センサス」)。

*28 素材生産量規模別の労働生産性については、89-90ページ参照。

*29 例えば、「平成24年度森林及び林業の動向」の136ページを参照。

*30 複業化や農林水産業への参入に取り組む建設業者の会。

*31 「森林の経営の受委託、森林施業の集約化等の促進に関する森林関連情報の提供及び整備について」(平成24(2012)年3月30日付け23林整計第339号林野庁長官通知)

*32 例えば、「平成26年度森林及び林業の動向」の182ページを参照。

*33 新たな森林管理システムの構築の方向性については、第I章(25-32ページ)を参照。

施業の集約化の推進に当たっては、森林所有者等から施業を依頼されるのを待つのではなく、林業事業者から森林所有者に対して、施業の方針や事業を実施した場合の収支を明らかにした「施業提案書」を提示して、森林所有者へ施業の実施を働き掛ける「提案型集約化施業」が行われている^{*34}（事例Ⅲ-1）。（施業集約化を推進する「森林施業プランナー」を育成）

林野庁では、提案型集約化施業を担う人材を育成するため、平成19（2007）年度から、林業事業者の職員を対象として、「森林施業プランナー研修」

を実施している。同研修として、平成27（2015）年度までは、組織としての体制強化を目的とする「ステップアップ研修^{*35}」等を実施してきたが、平成28（2016）年度からは、地域ごとの特性を踏まえたより実践力のあるプランナーの育成を図るため、「プランナー研修^{*36}」等を新たに実施しており、平成29（2017）年度までに、1,038名が当該研修を修了している。

また、平成21（2009）年度から、「ステップアップ研修」を修了又はそれと同等レベルに達している

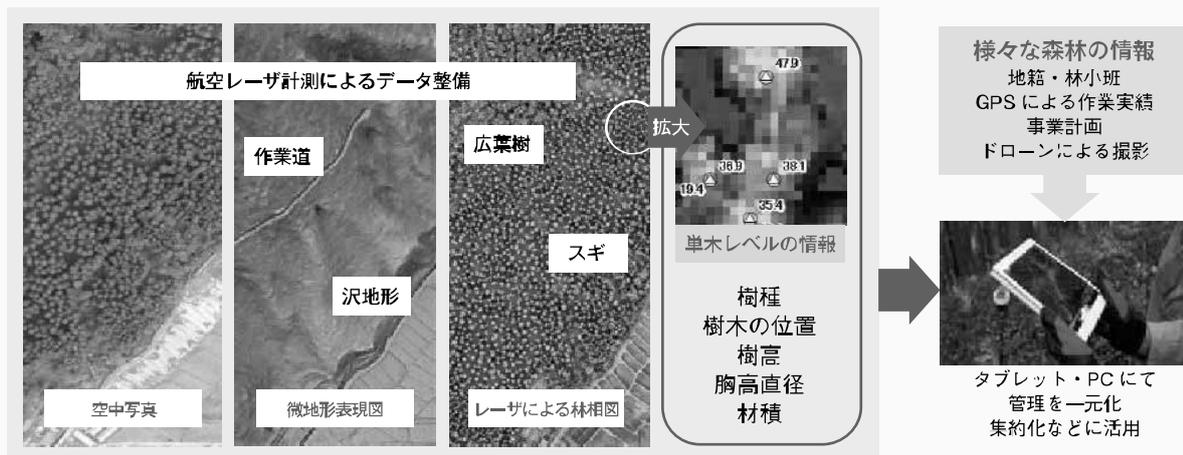
事例Ⅲ-1 航空レーザ計測データを活用した施業集約化と林業経営の効率化の取組

山形県金山町^{かみやままち}では、木材価格の長期低迷等による森林所有者の所有意識の低下や共有林等の所有者不明の森林の増加が危惧される中、県内では大型集成材工場の進出や木質バイオマス発電所の設置により新たな木材需要が生まれており、更なる生産性向上が求められる状況となっている。

これらの問題解決のため、金山町森林組合は、航空レーザ計測の実施により短期間で、傾斜や路網等の詳細な地理・地形情報や単木レベルの森林資源情報を整備した。これらの情報を活用することで、森林資源量や傾斜・標高、路網等の細かい条件を考慮したゾーニングや、机上での路網計画の検討、その集材範囲から木材生産量の予測を行うことが可能となった。

また、航空レーザ計測のデータに、タブレット端末やドローン（無人航空機）により取得した現場の画像を組み合わせて共有し活用することで、効率的な業務が実行可能となり、組織全体の生産性の向上につながっている。さらに、作業員に携帯させたGPS ロガーにより取得した位置情報から作業実施範囲を見える化し、共有することで安全性と施業の確実性が担保できるようになった。

同森林組合では、ICT 等の最新の技術を活用した森林データベースを活用して、正確な立木評価と生産性の高い伐採計画により森林所有者に主伐・再造林を提案し、山元に利益を還元できるよう取り組んでいくこととしている。



*34 提案型集約化施業は、平成9（1997）年に京都府の日吉町森林組合が森林所有者に施業の提案書である「森林カルテ」を示して森林所有者からの施業受託に取り組んだことに始まり、現在、全国各地に広がっている。

*35 「ステップアップ研修」は、「基礎的研修」修了者のスキルアップを図るとともに、同修了者と経営管理者、現場技術者等が一括に参画して、組織として提案型集約化施業に取り組むことを学ぶ研修。

*36 「プランナー研修」は、森林施業プランナー資格の取得を目的とし、地域における提案型集約化施業に必要な知識及び技能を習得するため、地域ごとに実施する研修。

事業者に対して、外部審査機関が評価を行う実践体制評価^{*37}を実施しており、平成29(2017)年度までに、12の事業者が同評価に基づく認定を受けている。

さらに、都道府県等においても地域の実情を踏まえた森林施業プランナーの育成を目的とする研修を実施している。

一方、これらの研修修了者は、技能、知識、実践力のレベルが様々であることから、平成24(2012)年10月から、「森林施業プランナー協会」が、森林施業プランナーの能力や実績を客観的に評価して認定を行う森林施業プランナー認定制度を開始した。同制度では、森林施業プランナー認定試験に合格した者、実践体制評価の認定を受けた事業者に所属し、提案型集約化施業の取組実績を有する者等を「認定森林施業プランナー」として認定しており、平成30(2018)年3月までに、1,933名が認定を受けている^{*38}。

(森林経営計画により施業の集約化を推進)

平成24(2012)年度から導入された「森林法^{*39}」に基づく森林経営計画制度では、森林の経営を自ら行う意欲のある森林所有者又は森林の経営の委託を受けた者が、林班^{*40}又は隣接する複数林班の面積の2分の1以上の森林を対象とする場合(林班計画)や、所有する森林の面積が100ha以上の場合(届人計画)に、自ら経営する森林について森林の施業及び保護の実施に関する事項等を内容とする森林経営計画を作成できることとされている。森林経営計画を作成して市町村長等から認定を受けた者は、税制上の特例措置や融資条件の優遇に加え、計画に基づく造林や皆伐等の施業に対する「森林環境保全直接支援事業」による支援等を受けることができる。

同制度については、導入以降も現場の状況に応じた運用改善を行っている。平成26(2014)年度からは、市町村が地域の実態に即して、森林施業が一体として効率的に行われ得る区域の範囲を「市町村

森林整備計画」において定め、その区域内で30ha以上の森林を取りまとめた場合(区域計画)にも計画が作成できるよう制度を見直し、運用を開始した。この「区域計画」は、小規模な森林所有者が多く合意形成に多大な時間を要することや、人工林率が低いこと等により、林班単位での集約化になじまない地域においても計画の作成を可能とするものである。これにより、まずは地域の実態に即して計画を作成しやすいところから始め、計画の対象となる森林の面積を徐々に拡大していくことで、将来的には区域を単位とした面的なまとまりの確保を目指すこととしている(資料Ⅲ-19)。

しかし、森林所有者の高齢化や相続による世代交代等が進んでおり、森林所有者の特定や森林境界の明確化に多大な労力を要していることから、平成29(2017)年3月末現在の全国の森林経営計画作成面積は542万ha、民有林面積の約31%となっている。

(施業の集約化を推進するための取組)

森林経営計画の作成や施業の集約化に向けた取組を進めるためには、その前提として、森林所有者等の情報を一元的に把握できるよう整備していくことが不可欠である。

林野庁では、「森林整備地域活動支援交付金」により、森林経営計画の作成や施業の集約化に必要な森林情報の収集、森林調査、境界の明確化、合意形成活動や既存路網の簡易な改良に対して支援している。平成28(2016)年度からは多くの労力を必要とする現地での境界確認の効率化に向けて、GISの地図データが反映された空中写真を立体視することにより、現地に行くことなく境界を明らかにする取組を進めている。

また、平成28(2016)年5月の「森林法」の改正において、林業事業者等が施業集約化に取り組む際に所有者の所在の把握を行いやすくするため、所有者に関する情報や境界情報等を掲載した林地台帳

*37 提案型集約化施業を実施するための基本的な体制が構築されているかについて、外部評価を受けることで、林業事業者が抱える課題を具体的に把握し、取組内容の質の向上に結び付けることが可能となる。

*38 森林施業プランナー認定制度ポータルサイト「平成29年度 認定森林施業プランナー名簿を公開しました」(平成30(2018)年3月30日付け)

*39 「森林法」(昭和126年法律第249号)

*40 原則として、天然地形又は地物をもって区分した森林区画の単位(面積はおおむね60ha)。

生産環境経営学部生産環境経営学科 カリキュラム・マップ

卒業単位：129単位

【養成する人材像】

多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材

- 必修
- 選択必修
- ◎コース必修
- 実験・実習
- ※再掲
- (自)自由科目

【ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力】

- (1)専門分野のみにとられない幅広い知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を有している。
- (2)栽培・林業・畜産の各分野において経営体の大規模化や経営の多角化に対応していくための経営管理能力や、経営の対象とする農林産物に対応した加工・流通・販売などに関する知識を有している。
- (3)農作物栽培、木材生産、家畜飼養など、栽培・林業・畜産の各分野における生産現場の状況を的確に把握するための、生産に関する知識・技術や生産に活用される先端技術に関する知識を有している。
- (4)農山村の地域社会における将来のリーダーとして、各分野の経営を通じて形成される農山村地域の環境を守り育てていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。
- (5)農山村の地域資源を活用することにより、各分野の経営における新たな事業展開を生み出すための手法を理解している。
- (6)修得した専門知識と技術を駆使して各分野の経営における課題を探索し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を有している。

【カリキュラム・ポリシー】

- (1)ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担うために必要な知識や、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせ編成する。
- (2)栽培、林業、畜産の各分野に対応した3コース制とし、2年次から栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、自らが選択したコースの専門的な知識・技術に関する科目を履修する。各分野に関連・共通する知識・技術については、2年次以降も共通で履修することとし、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせ教育課程を編成する。
- (3)少人数教育や実習・演習を重視した教育課程により、栽培、林業、畜産の各分野の経営における高度な実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力を養成するとともに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化などに関する知識を修得させる。
- (4)成績評価は、学生の基礎的・基本的な知識に加え、技能習熟度や主体的に学習に取り組む態度、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の学習成果を評価基準として行う。また、学生が主体的かつ充実した学習効果を挙げることができるようGPA制度を活用する。

科目	教育課程											
	1年		2年		3年		4年					
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎 (20単位)	■一般教養(10~12単位)		■一般教養(10~12単位)		■一般教養(10~12単位)		■一般教養(10~12単位)		■一般教養(10~12単位)		■一般教養(10~12単位)	
	●静岡学 2 ●経済学概論 2 ●情報処理基礎 1 法学概論 2 ※ここから4単位以上	●社会学概論 2 ●政治学概論 2 ●統計学 2	●情報処理応用 1 ●歴史学概論 2 ●文学概論 2 ●(自)文明論	●(自)茶道 ●(自)華道								
職業専門 (85単位)	■コミュニケーション・スキル(8~10単位)		■コミュニケーション・スキル(8~10単位)		■コミュニケーション・スキル(8~10単位)		■コミュニケーション・スキル(8~10単位)		■コミュニケーション・スキル(8~10単位)		■コミュニケーション・スキル(8~10単位)	
	●コミュニケーション論 2 英語 I 2 ※ここから4単位以上 ●保健体育 I 2	英語 II 2	英語 III 2 ●(自)英語 IV	●(自)英語 IV	●保健体育 II 2							
職業専門 (85単位)	■経営管理(25単位)		■経営管理(25単位)		■経営管理(25単位)		■経営管理(25単位)		■経営管理(25単位)		■経営管理(25単位)	
	●農林業経営学 2 (自)簿記基礎	●経営管理論 2 (自)簿記応用 (自)フードシステム論	●経営戦略 2 ●財務会計 2	●マーケティング論 2 ●労務管理 2	●管理会計 1 (自)農林業の経営組織論	●人材マネジメント 2 (自)農と食の起業論 (自)知的財産権	●経営実習 I 5 ●経営実習 II 5		●経営実習 I ※ 5 ●経営実習 II ※ 5		●経営実習 I ※ 5 ●経営実習 II ※ 5	
職業専門 (85単位)	■加工・流通・販売(8単位)		■加工・流通・販売(8単位)		■加工・流通・販売(8単位)		■加工・流通・販売(8単位)		■加工・流通・販売(8単位)		■加工・流通・販売(8単位)	
	<共通> <栽培コース・畜産コース>		<共通> (自)食品科学 (自)農と食の健康論		<共通> (自)食品科学 (自)農と食の健康論		<共通> ●販売管理実習 2 ●6次産業化実践論 2 ◎食品加工実習 2 ◎食品流通論 2 (自)収穫後生理学		<共通> ◎木材加工実習 2			
職業専門 (85単位)	■農林業基礎(10単位)		■農林業基礎(10単位)		■農林業基礎(10単位)		■農林業基礎(10単位)		■農林業基礎(10単位)		■農林業基礎(10単位)	
	●農学概論 2 県内農林業事情 2 分子生物学 2 農林業政策 2 (自)農林業のための生物学 (自)農林業のための基礎数学 (自)農林業のための化学	●環境と農林業 2 生命科学 2 野生鳥獣管理・利用論 2 ●(自)農林業のための物理学 (自)農林業のための地学 (自)農林業史	●農業気象学 2 ※ここから4単位以上 (自)県外農林業事情	●技術者倫理 2 (自)海外農林業事情								
職業専門 (85単位)	■生産理論(16単位)		■生産理論(16単位)		■生産理論(16単位)		■生産理論(16単位)		■生産理論(16単位)		■生産理論(16単位)	
	<共通> ●農林業生産理論 2		<共通> ●農林業生産理論 2		<共通> ●農林業生産理論 2		<共通> ●農林業のための先端技術 2 ●環境保全型農林業論 2		<共通> (自)園芸学各論			
職業専門 (85単位)	■生産技術(26単位)		■生産技術(26単位)		■生産技術(26単位)		■生産技術(26単位)		■生産技術(26単位)		■生産技術(26単位)	
	<共通> ●総合実習 2		<共通> ●GAP演習 2 ●大型機械実習 I 2		<共通> ●GAP演習 2 ●大型機械実習 I 2		<共通> (自)大型機械実習 II		<栽培コース> ◎圃場実習(栽培) 2 ◎生産マネジメント実習 I(栽培) 4 ◎生産マネジメント実習 II(栽培) 4 ●企業実習 10		<林業コース> ◎演習林実習 2 ◎生産マネジメント実習 I(林業) 4 ◎生産マネジメント実習 II(林業) 4 (自)林業機械実習 ●企業実習※ 10	
職業専門 (85単位)	■農山村の伝統・文化及び地域社会(20単位)		■農山村の伝統・文化及び地域社会(20単位)		■農山村の伝統・文化及び地域社会(20単位)		■農山村の伝統・文化及び地域社会(20単位)		■農山村の伝統・文化及び地域社会(20単位)		■農山村の伝統・文化及び地域社会(20単位)	
	●農山村田園地域公共学 2 ●農村社会論 2	●農と食の哲学 2 ●食文化論 2 ●医福食農連携論 2 ●農山村デザイン演習 2	●農村景域論 2 ●グリーン・ツーリズム論 2 ●在来作物学 2	●コミュニティビジネス論 2								
総合 (4単位)	■総合的思考能力(4単位)		■総合的思考能力(4単位)		■総合的思考能力(4単位)		■総合的思考能力(4単位)		■総合的思考能力(4単位)		■総合的思考能力(4単位)	
								●経営分析演習 I 1 ●経営分析演習 II 1		●プロジェクト研究 2		

養成部1年	養成部2年	研究部1年	研究部2年
-------	-------	-------	-------

区分		養成部1年		養成部2年		研究部1年		研究部2年	
教養科目		教養基礎、体育 基礎英語、英会話 経済学、心理学 社会学、生物学							
全学科共通科目		農林業経営、農林業政策 ○作物、○農林業汎論 マーケティング論、特別講義 情報処理Ⅰ・Ⅱ、 情報処理演習 簿記Ⅰ・Ⅱ 農業気象、環境科学 国際関係論、経営分析・設計 農畜産物加工、国際政治論 フワデザイン、造園							
専門科目	園芸学科	野菜コース 植物生理 農薬概論 農業機械基礎	○野菜概論Ⅰ・Ⅱ	○園芸施設と経営 園芸病害虫と土壌飼料 農業経営研究講座 園芸流通	野菜栽培と育種 ○各種特論				
	園芸学科	花きコース	○花き概論Ⅰ・Ⅱ		花き栽培と育種 ○各種特論				
	茶業学科	○生物工学Ⅰ・Ⅱ ○植物防疫Ⅰ・Ⅱ ○土壌肥料Ⅰ・Ⅱ ○営農ゼミ	○茶栽培Ⅰ・Ⅱ ○茶加工Ⅰ・Ⅱ ○手もみ技術Ⅰ	○茶樹育種、○茶樹栽培Ⅰ・Ⅱ ○茶製造、○茶業土壌肥料 ○茶樹病害虫、手もみ技術Ⅱ ○各種茶、茶業経営、 茶業流通、各種特論					
	果樹学科		果樹栽培基礎Ⅰ・Ⅱ 果樹栽培実習Ⅰ・Ⅱ	○果樹育種、○果樹栽培 ○果樹土壌肥料、○果樹病害虫 ○果樹施設環境生理、 果樹経営、果樹経営分析、 果樹流通加工、各種特論					
	畜産学科	大家畜コース 畜産概論 畜産法規 ○家畜生理解剖 畜産加工論 飼料総論 畜産環境論 ○家畜育種繁殖Ⅰ・Ⅱ ○家畜衛生 ○畜産堆肥利用論 ○家畜飼養Ⅰ・Ⅱ	畜産経営 ○乳牛飼養管理、○肉牛飼養管理 家畜管理実習、○繁殖 ○環境保全、○飼料生産調整 流通加工、○各種特論	中小家畜経営、中小家畜施設 飼養管理、○繁殖育種 ○衛生疾病、栄養生理 ○環境保全、○流通加工 中小家畜飼養、○各種特論					
林業学科	○森林・林業基礎 ○木材利用Ⅰ・Ⅱ ○測樹 林業経営Ⅰ ○育林Ⅰ・Ⅱ ○特用林産Ⅰ・Ⅱ ○林業機械 ○伐木集運材Ⅰ ○森林測量、○森林情報	○森林保護、○環境保全 ○木材利用Ⅲ・Ⅳ 林業経営Ⅱ ○育林Ⅲ・Ⅳ ○特用林産Ⅲ ○伐木集運材Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ○林業特論Ⅰ・Ⅱ							
アグリビジネス学科		農業経営学 マネージメント演習 企業法人研修 マーケティング論 開発商品事例研究 農畜産物加工論 商品化実践実習Ⅰ 流通研究 農業機械実習 ◎インターシップⅠ		農業会計学 経営特別講座 就農演習 商品化実践演習Ⅱ Web活用研究 Web実践実習 ◎インターシップⅡ		農学研究 植物生理学 土壌肥料学 植物病理学 応用昆虫学		海外派遣研修	
		地域活性化論、 地域活性化プロジェクト プロジェクトゼミⅠ プロジェクト実習Ⅰ プロジェクト演習Ⅰ		農林事務所学習 プロジェクトゼミⅡ プロジェクト実習Ⅱ プロジェクト演習Ⅱ					
				○大型機械実習		◎先進経営研修		卒業論文	

凡例
○…「生産理論を学ぶ講義」と「生産技術を身につける実習」が一体となった科目
◎…臨地実務実習

生産科学科 カリキュラム・マップ

【養成する人材像】
○多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の生産を牽引していくことができる実践力と創造力を備え、各分野の生産現場においてリーダーとなる人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える生産者として、それら

●必修
○選択必修
◎コース必修
■実験・実習

【ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力】

- 社会人に求められる知識を有するとともに、社会において他者と円滑にコミュニケーションをとることができる素養を有している。
- 農作物栽培、木材生産、家畜飼養など、栽培、林業、畜産の各分野における生産現場の生産性向上等を図るための、生産に関する知識・技術や生産に活用される先端技術を生産現場へ導入する能力を有している。
- 農山村の地域社会を支える生産者として、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育てていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する基礎的な知識を有している。
- 農山村の地域資源や生産する農林産物に対応した加工・流通・販売などに関する知識を活用し、栽培、林業、畜産の各分野において生産物の付加価値向上を図るための手法を理解している。
- 修得した専門知識と技術を駆使して栽培、林業、畜産の各分野の生産現場における課題を探索し、解決に必要な情報を収集・整理する手法を理解している。

【カリキュラム・ポリシー】

- ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の生産現場においてリーダーとなるために必要な知識や、農山村の地域社会を生産者として支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせて編成する。
- 栽培、林業、畜産の各分野に対応した3コース制とし、1年次後半から栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、自らが選択したコースの専門的な知識・技術に関する科目を履修する。各分野に関連・共通する知識・技術については、1年次後半以降も共通で履修することとし、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、2年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせて教育課程を編成する。
- 少人数教育や実習・演習を重視した教育課程により、栽培、林業、畜産の各分野の生産における実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して生産物の付加価値向上を図ることができる創造力を養成するとともに、農山村の地域社会を生産者として支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化などに関する基礎的な知識を修得させる。

科目	教育課程									
	1年					2年				
	春期	夏期	秋期	冬期	単位	春期	夏期	秋期	冬期	単位
基礎 (10単位)	■一般教養(10単位)									
	<ul style="list-style-type: none"> ●静岡学 2 ●情報処理演習 2 ●分子生物学 2 ●コミュニケーション論 1 ○英語基礎 1 ○英語応用 1 ●保健体育 2 (自由)簿記基礎 1 (自由)簿記応用 1 									
職業専門 (46単位)	■農林業基礎(7単位)									
	<ul style="list-style-type: none"> ●農学概論 2 ●農林業のための科学 1 農林業史 2 農林業政策 2 県内農林業事情 2 宮農と農業関連法 2 野生鳥獣管理・利用論 2 ※ここから4単位以上 (自由)県外農林業事情 2 (自由)海外農林業事情 2 									
職業専門 (46単位)	■生産理論(14単位)									
	<p><共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ○植物生理生態学 2 ○樹木・組織学 2 ○畜産概論 2 ※ここから2単位以上 <p><栽培コース></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎土壌肥料・植物栄養学 2 ◎植物保護 2 作物栽培 2 植物遺伝育種学概論 2 ◎野菜栽培 2 ◎花き栽培 2 ◎茶栽培 2 ◎果樹栽培 2 ※ここから2単位以上 <p><林業コース></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎森林計画学 2 ◎造林学 2 ◎植物遺伝育種学概論* 2 ◎森林土木論(治山・林道) 2 <p><畜産コース></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎飼料総論 2 ◎家畜飼養 2 ◎家畜生理学 2 ◎家畜解剖学 2 ◎家畜種繁殖 2 (自由)畜産法規 2 					<ul style="list-style-type: none"> ◎施設園芸 2 ◎先端栽培技術 2 ◎環境保全型農業論 2 ◎木材生産システム 2 ◎森林生態学 2 (自由)人工授精論 2 ◎畜産環境・堆肥利用論 2 				
職業専門 (46単位)	■生産技術(25単位)									
	<p><共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ●総合実習 2 <p><栽培コース></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎圃場実習Ⅰ(野菜) 4 ◎圃場実習Ⅰ(花き) 4 ◎圃場実習Ⅰ(茶) 4 ◎圃場実習Ⅰ(果樹) 4 <p><林業コース></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎演習林実習Ⅰ 4 <p><畜産コース></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎圃場実習Ⅰ(畜産) 4 					<p><野菜①></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎圃場実習Ⅱ(野菜) 6 ●大型機械実習 2 ●GAP演習 1 ●企業実習 10 ※野菜①と野菜②に分かれる。 <p><野菜②></p> <ul style="list-style-type: none"> ●企業実習* 10 ◎圃場実習Ⅱ(野菜)* 6 ●GAP演習* 1 ●大型機械実習* 2 <p><花き></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎圃場実習Ⅱ(花き) 6 ●GAP演習(再) 1 ●大型機械実習* 2 ●企業実習* 10 <p><茶></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎圃場実習Ⅱ(茶) 6 ●大型機械実習* 2 ●企業実習* 10 ●GAP演習* 1 <p><果樹></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎圃場実習Ⅱ(果樹) 6 ●GAP演習* 1 ●大型機械実習* 2 ●企業実習* 10 <p><林業コース></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎演習林実習Ⅱ 6 ●大型機械実習* 2 ●GAP演習* 1 ●企業実習* 10 <p><畜産コース></p> <ul style="list-style-type: none"> 圃場実習Ⅱ(大家畜) 6 圃場実習Ⅱ(中小家畜) 6 ●大型機械実習* 2 ●企業実習* 10 ●GAP演習* 1 				
展開 (10単位)	■農山村の伝統・文化及び地域社会(2単位)									
	<p><共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ●農山村田園地域公共学 2 									
展開 (10単位)	■加工・流通・販売等(8単位)									
	<p><栽培コース></p> <ul style="list-style-type: none"> 食品科学 2 食品加工演習 2 アグリフードシステム論 2 食品加工演習* 2 ◎農業経営 2 <p><林業コース></p> <ul style="list-style-type: none"> ◎木材加工演習 2 ◎林業経営 2 <p><畜産コース></p> <ul style="list-style-type: none"> 食品科学* 2 食品加工演習* 2 アグリフードシステム論* 2 食品加工演習* 2 ◎畜産経営 2 					<p>※いずれか1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ●マーケティング・販売演習 2 ●マーケティング・販売演習* 2 ●マーケティング・販売演習* 2 アグリフードシステム論* 2 農と食の健康論 2 ◎流通加工論 2 ◎流通加工論* 2 ◎流通加工論* 2 <p>※いずれか1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ●マーケティング・販売演習* 2 ◎木材利用・流通論 2 ●マーケティング・販売演習* 2 ◎流通加工論* 2 ◎流通加工論* 2 ◎流通加工論* 2 				
総合 (2単位)	■プロジェクト研究(2単位)									
<p><共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ●プロジェクト研究 2 										

*は再掲

静岡県立農林環境専門職大学教員定年規程（案）

年 月 日

（趣旨）

第1条 この規程は、教育公務員特例法（昭和24年法律第1号）第8条第1項の規定に基づき、静岡県立農林環境専門職大学の教授、准教授、講師（常時勤務の者に限る。）及び助教（以下「教員」という。）の定年等に関し必要な事項を定めるものとする。

（定年）

第2条 教員の定年は、年齢65年とする。

（定年による退職）

第3条 教員は、定年に達したときは、定年に達した日以後における最初の3月31日に退職する。

附 則

1 この規程は、年 月 日から施行する。

2 2020年4月1日から2024年3月31日までに教員として採用された者であって、2020年3月31日において62歳以上のものに対する第2条の規定の適用については、同項中「年齢65年」とあるのは、「2020年3月31日における当該教員の年齢の年数に4年を加えた年齢の年数」とする。

科目区分		1年前期	単位	1年後期	単位	2年前期	単位	2年後期	単位	3年前期	単位	3年後期	単位	4年前期	単位	4年後期	単位	科目 区分 別単 位数
基礎科目	一般教養	必修 経済学概論	2	統計学	2			文学概論	2									10
		必修 情報処理基礎	1					必修 情報処理応用	1									
		必修 静岡学		1	1													
基礎科目	コミュニケーション・スキル	英語 I	2	英語 II	2	英語 III	2											10
		必修 コミュニケーション論	2															
		必修 保健体育 I		1	1													
職業専門科目	農林業基礎	必修 農学概論	2	必修 環境と農林業	2	農業気象学	2			必修 技術者倫理	2							10
	生産理論			必修 農林業生産理論	2	選必 植物病理学	2	選必 応用昆虫学	2	必修 農林業のための先端技術	2							16
						選必 作物学	2	選必 園芸学	2	必修 環境保全型農林業論	2							
						選必 土壌肥料・植物栄養学	2											
	生産技術	必修 総合実習		1	1	選必 圃場実習(栽培)	2	選必 生産マネジメント実習 I(栽培)	4		必修 企業実習	10						26
					必修 GAP演習	2				必修 生産マネジメント実習 II(栽培)		2						
	加工・流通・販売									必修 販売管理実習	2	必修 6次産業化実践論	2					8
										必修 食品流通論	2							
										選必 食品加工実習	2							
	経営管理	必修 農林業経営学	2	必修 経営管理論	2	必修 財務会計	2	必修 マーケティング論	2	必修 管理会計	1	必修 人材マネジメント	2	必修 経営実習 I	5	必修 経営実習	5	25
						必修 経営戦略	2	必修 労務管理	2									
展開科目	農山村の伝統・文化の継承、地域資源	必修 農山村田園地域公共学	2	必修 農村社会論	2	必修 農と食の哲学	2	必修 食文化論	2	必修 農村景域論	2							20
								必修 医福食農連携論	2	必修 在来作物学	2							
								必修 農山村デザイン演習	2	必修 グリーン・ツーリズム論	2	必修 コミュニティビジネス論	2					
科総目合														必修 経営分析演習 I	1	必修 経営分析演習 II	1	4
														必修 プロジェクト研究		1	1	
セメスター別単位数		18		15		22		21		21		18		7		7		129

科目区分		1年前期	単位	1年後期	単位	2年前期	単位	2年後期	単位	3年前期	単位	3年後期	単位	4年前期	単位	4年後期	単位	科目 区分 別単 位数
基礎科目	一般教養	必修 経済学概論	2	政治学概論	2	歴史学概論	2	必修 情報処理応用	1									10
		必修 情報処理基礎	1	必修 静岡学	1													
基礎科目	コミュニケーション・スキル	英語 I	2	英語 II	2													10
		必修 コミュニケーション論	2	必修 保健体育 I	1	必修 保健体育 II	1											
職業専門科目	農林業基礎	必修 農学概論	2	必修 環境と農林業	2					必修 技術者倫理	2							10
		農林業政策	2	野生鳥獣害管理・利用論	2													
	生産理論			必修 農林業生産理論	2	選必 森林計画・政策論	2	選必 木質科学概論	2	必修 農林業のための先端技術	2							16
					選必 造林学	2	選必 木材生産システム	2	必修 環境保全型農林業論	2								
	生産技術		必修 総合実習	1	選必 演習林実習	2	選必 生産マネジメント実習 I (林業)	4			必修 企業実習	10						
				必修 GAP演習	2			必修 生産マネジメント実習 II (林業)	2									
加工・流通・販売								選必 木材利用・流通論	2	必修 販売管理実習	2	必修 6次産業化実践論	2					8
										選必 木材加工実習	2							
経営管理		必修 農林業経営学	2	必修 経営管理論	2	必修 財務会計	2	必修 マーケティング論	2	必修 管理会計	1	必修 人材マネジメント	2	必修 経営実習 I	5	必修 経営実習	5	25
						必修 経営戦略	2	必修 労務管理	2									
展開科目	農山村の伝統・文化の継承、地域資源	必修 農山村田園地域公共学	2	必修 農村社会論	2	必修 農と食の哲学	2	必修 食文化論	2	必修 農村景域論	2							20
								必修 医福食農連携論	2	必修 在来作物学	2							
								必修 農山村デザイン演習	2	必修 グリーン・ツーリズム論	2	必修 コミュニティビジネス論	2					
科総目合														必修 経営分析演習 I	1	必修 経営分析演習 II	1	4
														必修 プロジェクト研究		1		
セメスター別単位数		18		17		21		22		19		18		7		7		129

科目区分		1年前期	単位	1年後期	単位	2年前期	単位	2年後期	単位	3年前期	単位	3年後期	単位	4年前期	単位	4年後期	単位	科目 区分 別単 位数
基礎科目	一般教養	必修 経済学概論	2	社会学概論	2			必修 情報処理応用	1									10
		必修 情報処理基礎 法学概論	1 2	必修 静岡学	1													
基礎科目	コミュニケーション・スキル	英語 I	2	英語 II	2	英語 III	2											10
		必修 コミュニケーション論	2	必修 保健体育 I	1													
職業専門科目	農林業基礎	必修 農学概論 県内農林業事情	2 2	必修 環境と農林業 生命科学	2 2			必修 技術者倫理	2									10
	生産理論			必修 農林業生産理論	2	選必 飼料総論 選必 家畜飼養学 選必 家畜生理解剖学	2 2 2	選必 家畜育種繁殖学 選必 家畜衛生学	2 2	必修 農林業のための 先端技術 必修 環境保全型農林業論	2 2						16	
	生産技術	必修 総合実習		1	選必 圃場実習(畜産) 必修 GAP演習 必修 大型機械実習 I	2 2 2	選必 生産マネジメント 実習 I(畜産)	4			必修 企業実習	10						26
							必修 生産マネジメント実習 II(畜産)		2			2						
	加工・流通・販売								必修 販売管理実習 必修 食品流通論 選必 食品加工実習	2 2 2	必修 6次産業化実践論	2						
経営管理	必修 農林業経営学	2	必修 経営管理論	2	必修 財務会計 必修 経営戦略	2 2	必修 マーケティング論 必修 労務管理	2 2	必修 管理会計	1	必修 人材マネジメント	2	必修 経営実習 I	5	必修 経営実習	5		25
展開科目	農山村の伝統・文化の継承、地域資源	必修 農山村田園地域公共学	2	必修 農村社会学	2	必修 農と食の哲学	2	必修 食文化論 必修 医福食農連携論 必修 農山村デザイン演習	2 2 2	必修 農村景域論 必修 在来作物学 必修 グリーン・ツーリズム論	2 2 2	必修 コミュニティビジネス論	2					20
科総目合													必修 経営分析演習 I	1	必修 経営分析演習 II	1		4
セメスター別単位数		20	17		20		19		21		18		1	1	1	7	7	129

教育課程連携協議会について

1 教育課程連携協議会の位置づけ

教育課程連携協議会は、学則第 16 条第 2 号に定めるとおり、産業界や地域社会と連携して教育課程を編成するために、教育課程への提言を簡潔かつ明瞭にとりまとめ、学長に報告する。

2 審議事項

教育課程連携協議会は、以下の事項について審議する。

- ① 産業界及び地域社会との連携による授業科目の開設その他の教育課程の編成に関する基本的な事項
- ② 産業界及び地域社会との連携による授業の実施その他の教育課程の実施に関する基本的な事項及びその実施状況の評価に関する事項

3 構成員

教育課程連携協議会は以下のもので構成する。任期は 1 年とし、再任を妨げない。

- ① 学長が指名する教員その他の職員
- ② 本学の課程にかかる職業に就いている者又は関連する事業を行う者による団体のうち、静岡県内で活動するものの関係者であって、実務に関し豊富な経験を有するもの
- ③ 地方公共団体の職員、地域の事業者による団体の関係者その他の地域の関係者
- ④ 臨地実務実習その他の授業科目の開設又は授業の実施において本学と協力する事業者
- ⑤ 本学の教員その他の職員以外のものであって、学長が必要と認めるもの

4 開催回数

原則として年 2 回開催する。

5 役割・権限

教育課程連携協議会は、産業界と連携した教育の推進に寄与する役割が求められており、教育課程連携協議会における授業科目の開発、教育課程の編成及びそれらの見直しに関して学長に進言された意見は、教務委員会にて審議され教育課程に反映される。適切な審議を行うため、教務委員会の委員は教授会構成員より選出された専任教員があたる。

○ 校舎の利用計画表(平成32年度)

講義場所	収容人数	備考	春期(前期)																											
			月					火					水					木					金							
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5			
A棟	大講義室	144	使用者																											
	講義室1	40	使用者	短大1年	短大1年	短大1年	短大1年			短大1年	短大1年	短大1年	短大1年			短大1年	短大1年	短大1年	短大1年			短大1年	短大1年	短大1年		短大1年	短大1年			
			講義名	農林業のための科学①	農林業のための科学③	農学概論①	農学概論③			情報処理①	情報処理②	農学概論②	農学概論①			農林業のための科学②	農林業のための科学①	簿記基礎	簿記基礎			情報処理③	農学概論③	農学概論②		農林業のための科学③	農林業のための科学②			
	講義室2	40	使用者	短大1年						短大1年	短大1年					短大1年	短大1年					短大1年					短大1年			
			講義名	農林業史						英語基礎①	英語基礎②					農林業政策	農林業史					英語基礎③					農林業政策			
	講義室3	40	使用者		4大1年	4大1年					4大1年	4大1年	4大1年			4大1年	4大1年					4大1年	4大1年			4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年
			講義名		農林業のための化学	農学概論					県内農林業事情	農林業のための生物学	農林業経営学			農林業田園地域公共学	簿記基礎					コミュニケーション論	分子生物学			農林業政策	経済学概論	農林業のための基礎数学	英語 I	英語 I
閲覧室(学生自習室)	65	使用者	4大1年																											
		講義名	情報処理基礎																											
視聴覚室	166	使用者										4大1短大1																		
		講義名										静岡学																		
B棟	講義室5	16	使用者																											
			講義名																											
	講義室6	16	使用者																											
			講義名																											
	講義室7	12	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	
			講義名																											
	講義室8	16	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	
			講義名																											
	講義室9	8	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	
			講義名																											
講義室10	28	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用		
		講義名																												
加工実験室	-	使用者																												
		講義名																												
加工講義室	-	使用者																												
		講義名																												

※ 表中の4大は静岡県立農林環境専門職大学を、短大は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部を示す。

○ 校舎の利用計画表(平成32年度)

講義場所	収容人数	備考	夏期(前期)																									
			月					火					水					木					金					
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
A棟	大講義室	144	使用者																									
			講義名																									
	講義室1	40	使用者	短大1年	短大1年	短大1年	短大1年		短大1年	短大1年	短大1年	短大1年		短大1年	短大1年	短大1年	短大1年		短大1年	短大1年	短大1年		短大1年	短大1年				
			講義名	分子生物学①	分子生物学③	畜産概論	樹木・組織学		情報処理①	情報処理②	県内農林業事情	県内農林業事情		分子生物学②	分子生物学①	簿記応用	簿記応用		情報処理③	樹木・組織学	畜産概論		分子生物学③	分子生物学②				
	講義室2	40	使用者	短大1年					短大1年	短大1年				短大1年	短大1年				短大1年							短大1年		
			講義名	植物生理生態学①					英語基礎①	英語基礎②				植物生理生態学②	植物生理生態学①				英語基礎③							植物生理生態学②		
	講義室3	40	使用者	4大1年	4大1年	4大1年			4大1年	4大1年	4大1年				4大1年	4大1年			4大1年	4大1年			4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年
講義名				農林業のための化学	農学概論				県内農林業事情	農林業のための生物学			農林業田園地域公共学	簿記基礎				コミュニケーション論	分子生物学			農林業政策	経済学概論	農林業のための基礎数学	英語 I	英語 I		
閲覧室(学生自習室)	65	使用者	4大1年																									
		講義名	情報処理基礎																									
視聴覚室	166	使用者											4大1短大1															
		講義名											静岡学															
B棟	講義室5	16	使用者																									
			講義名																									
	講義室6	16	使用者																									
			講義名																									
	講義室7	12	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	
			講義名																									
	講義室8	16	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	
			講義名																									
	講義室9	8	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	
			講義名																									
講義室10	28	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用		
		講義名																										
加工実験室	-	使用者																										
		講義名																										
加工講義室	-	使用者																										
		講義名																										

※ 表中の4大は静岡県立農林環境専門職大学を、短大は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部を示す。

○ 校舎の利用計画表(平成32年度)

講義場所	収容人数	備考	秋期(後期)																												
			月					火					水					木					金								
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5				
A棟	大講義室	144	使用者																												
	講義室1	40	使用者			短大1年	短大1年			短大1年	短大1年	短大1年	短大1年					短大1年	短大1年				短大1年	短大1年	短大1年	短大1年					
	講義室2	40	講義名			作物栽培	作物栽培			情報処理①	情報処理②	土壌肥料・植物栄養学①	土壌肥料・植物栄養学②					植物遺伝育種学概論	植物遺伝育種学概論				情報処理③	土壌肥料・植物栄養学②	土壌肥料・植物栄養学①	食品科学	食品科学	アグリフードシステム論	アグリフードシステム論		
	講義室3	40	使用者							短大1年	短大1年	短大1年	短大1年									短大1年	短大1年	短大1年		短大1年	短大1年				
	講義室3	40	講義名							英語応用①	英語応用②	植物保護①	植物保護②										英語応用③	植物保護②	植物保護①	当農と農業関連法	当農と農業関連法				
	講義室3	40	使用者		4大1年	4大1年	4大1年	4大1年			4大1年	4大1年	4大1年		4大1年	4大1年						4大1年	4大1年				4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年
	講義室3	40	講義名		農林業史	農林業生産理論	経営管理論	統計学			生命科学	農村社会学	農林業のための物理学		政治学概論	簿記応用						フードシステム論	野生鳥獣管理・利用論				農林業のための地学	英語Ⅱ	英語Ⅱ	社会学概論	環境と農林業
閲覧室(学生自習室)	65	使用者																													
視聴覚室	166	使用者																													
視聴覚室	166	講義名																													
B棟	講義室5	16	使用者									短大1	短大1															短大1年	短大1年		
	講義室5	16	講義名									造林学	森林計画学															森林計画学	造林学		
	講義室6	16	使用者			短大1	短大1																			短大1年	短大1年				
	講義室6	16	講義名			飼料総論	家畜飼養																			家畜飼養	飼料総論				
	講義室7	12	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用
	講義室7	12	講義名	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用
	講義室8	16	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用
	講義室8	16	講義名	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用
	講義室9	8	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用
	講義室9	8	講義名	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用
講義室10	28	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	
講義室10	28	講義名	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	
加工実験室	-	使用者																短大1年	短大1年									短大1年	短大1年		
加工実験室	-	講義名																食品加工演習①	食品加工演習①								食品加工演習①	食品加工演習①			
加工講義室	-	使用者																短大1年	短大1年								短大1年	短大1年			
加工講義室	-	講義名																食品加工演習①	食品加工演習①								食品加工演習①	食品加工演習①			

※ 表中の4大は静岡県立農林環境専門職大学を、短大は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部を示す。

○ 校舎の利用計画表(平成32年度)

講義場所	収容人数	備考	冬期(後期)																								
			月					火					水					木					金				
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
A棟	大講義室	144	使用者																								
			講義名																								
	講義室1	40	使用者		短大1年	短大1年		短大1年	短大1年									短大1年					短大1年	短大1年			
			講義名		野菜栽培	茶栽培		情報処理①	情報処理②									情報処理③					茶栽培	野菜栽培			
	講義室2	40	使用者		短大1年	短大1年		短大1年	短大1年	短大1年	短大1年			短大1年	短大1年			短大1年	短大1年	短大1年		短大1年	短大1年				
			講義名		花き栽培	果樹栽培		英語応用①	英語応用②	農業経営①	農業経営②			野生鳥獣管理・利用論	野生鳥獣管理・利用論			英語応用③	農業経営②	農業経営①		果樹栽培	花き栽培				
	講義室3	40	使用者	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年		4大1年	4大1年	4大1年		4大1年	4大1年			4大1年	4大1年				4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	
		講義名	農林業史	農林業生産理論	経営管理論	統計学		生命科学	農村社会論	農林業のための物理学		政治学概論	簿記応用			フードシステム論	野生鳥獣管理・利用論				農林業のための地学	英語Ⅱ	英語Ⅱ	社会学概論	環境と農林業		
閲覧室(学生自習室)	65	使用者																									
		講義名																									
視聴覚室	166	使用者										4大1短大1															
		講義名									静岡学																
B棟	講義室5	16	使用者		短大1年	短大1年				短大1年	短大1年								短大1年	短大1年		短大1年	短大1年				
			講義名		森林土木論(治山・林道)	森林土木論(治山・林道)				林業経営	林業経営								木材加工演習	木材加工演習		木材加工演習	木材加工演習				
	講義室6	16	使用者		短大1年	短大1年				短大1年	短大1年								短大1年	短大1年		短大1年	短大1年				
			講義名		家畜育種繁殖	家畜衛生学				畜産経営	畜産経営								家畜衛生学	家畜育種繁殖		畜産法規	畜産法規				
	講義室7	12	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用		
			講義名	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用		
	講義室8	16	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用		
			講義名	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用		
	講義室9	8	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用		
			講義名	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用		
講義室10	28	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用			
		講義名	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用			
加工実験室	-	使用者												短大1年	短大1年								短大1年	短大1年			
		講義名												食品加工演習②	食品加工演習②								食品加工演習②	食品加工演習②			
加工講義室	-	使用者												短大1年	短大1年								短大1年	短大1年			
		講義名												食品加工演習②	食品加工演習②								食品加工演習②	食品加工演習②			

※ 表中の4大は静岡県立農林環境専門職大学を、短大は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部を示す。

○ 校舎の利用計画表(平成33年度)

講義場所	収容人数	備考	春期(前期)																																
			月					火					水					木					金												
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5								
A棟	大講義室	144	使用者						短大2年	短大2年											短大2年	短大2年	短大2年	短大2年											
		講義名						マーケティング・販売演習	マーケティング・販売演習													マーケティング・販売演習	マーケティング・販売演習	GAP演習	GAP演習										
	講義室1	40	使用者	短大1年	短大1年	短大1年	短大1年				短大1年	短大1年			短大1年	短大1年	短大1年	短大1年					短大1年	短大1年		短大1年	短大1年	短大2年	短大2年						
		講義名	農林業のための科学①	農林業のための科学③	農学概論①	農学概論③				農学概論②	農学概論①			農林業のための科学②	農林業のための科学①	簿記基礎	簿記基礎						農学概論③	農学概論②		農林業のための科学③	農林業のための科学②	流通加工論①	流通加工論③						
	講義室2	40	使用者	短大1年					短大1年	短大1年					短大1年	短大1年							短大1年					短大1年							
		講義名	農林業史					英語基礎①	英語基礎②					農林業政策	農林業史								英語基礎③				農林業政策								
	講義室3	40	使用者		4大1年	4大1年				4大1年	4大1年	4大1年			4大1年	4大1年					4大1年	4大1年				4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年					
		講義名		農林業のための化学	農学概論				県内農林業事情	農林業のための生物学	農林業経営学			農山村田園地域公共学	簿記基礎						コミュニケーション論	分子生物学				農林業政策	経済学概論	農林業のための基礎数学	英語 I	英語 I					
	講義室4	65	使用者																																
		講義名																																	
視聴覚室	166	使用者												4大1短大1																					
	講義名													静岡学																					
B棟	講義室5	16	使用者							短大2年	短大2年																								
		講義名							木材生産システム	木材生産システム																									
	講義室6	16	使用者																																
		講義名																																	
	講義室7	12	使用者																																
		講義名																																	
	講義室8	16	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用			
		講義名																																	
	講義室9	8	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用			
		講義名																																	
講義室10	28	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用				
	講義名																																		
加工実験室	-	使用者																																	
	講義名																																		
加工講義室	-	使用者																																	
	講義名																																		
C棟	講義室11	40	使用者												4大2年					4大2年		4大2年													
		講義名														森林計画・政策論					森林土木学		森林学												
	講義室12	40	使用者												4大2年							4大2年													
		講義名														飼料総論					家畜飼養学														
	講義室13	40	使用者	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年								4大2年	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年				4大2年	4大2年	4大2年								
		講義名	畜産法規	農業気象学	財務会計	歴史学概論										植物病理学	土壌肥料・植物栄養学	GAP演習	GAP演習	作物学	経営戦略				食品科学	英語II	英語III								
	講義室14	40	使用者																																
		講義名																																	
	情報処理室	36	使用者	4大1年					短大1年	短大1年													短大1年												
		講義名	情報処理基礎					情報処理演習①	情報処理演習②														情報処理演習③												

※ 表中の4大は静岡県立農林環境専門職大学を、短大は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部を示す。

○ 校舎の利用計画表(平成33年度)

講義場所	収容人数	備考	夏期(前期)																								
			月					火					水					木					金				
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
A棟	大講義室	使用者						短大2年	短大2年										短大2年	短大2年	短大2年	短大2年					
		講義名						マーケティング・販売演習	マーケティング・販売演習										マーケティング・販売演習	マーケティング・販売演習	GAP演習	GAP演習					
	講義室1	使用者	短大1年	短大1年	短大1年	短大1年				短大1年	短大1年		短大1年	短大1年	短大1年	短大1年					短大1年	短大1年		短大1年	短大1年		
		講義名	分子生物学①	分子生物学③	畜産概論	樹木・組織学				県内農林業事情	県内農林業事情		分子生物学②	分子生物学①	簿記応用	簿記応用					樹木・組織学	畜産概論		分子生物学③	分子生物学②		
	講義室2	使用者	短大1年					短大1年	短大1年				短大1年	短大1年						短大1年	短大2年	短大2年					
		講義名	植物生理生態学①					英語基礎①	英語基礎②				植物生理生態学②	植物生理生態学①						英語基礎③	木材利用・流通論	木材利用・流通論				植物生理生態学②	
	40	使用者		4大1年	4大1年				4大1年	4大1年	4大1年		4大1年	4大1年					4大1年	4大1年				4大1年	4大1年	4大1年	4大1年
講義名			農林業のための化学	農学概論				県内農林業事情	農林業のための生物学	農林業経営学		農林業田園地域公共学	簿記基礎					コミュニケーション	分子生物学				農林業政策	経済学概論	農林業のための基礎数学	英語 I	英語 I
講義室4	使用者								短大2年	短大2年								短大2年	短大2年							短大2年	短大2年
	講義名								アグリフードシステム論①	アグリフードシステム論②								施設園芸①	施設園芸②							施設園芸②	施設園芸①
視聴覚室	使用者												4大1短大1														
	講義名												静岡学														
B棟	講義室5	使用者								短大2年	短大2年																
		講義名								木材生産システム	木材生産システム																
	講義室6	使用者																									
		講義名																									
	講義室7	使用者																									
		講義名																									
	講義室8	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用
		講義名																									
	講義室9	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用
		講義名																									
講義室10	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	
	講義名																										
加工実験室	使用者																										
	講義名																										
加工講義室	使用者																										
	講義名																										
C棟	講義室11	使用者												4大2年				4大2年		4大2年							
		講義名													森林計画・政策論				森林土木学		造樹学						
	講義室12	使用者												4大2年					4大2年								
		講義名													飼料総論					畜畜飼養学							
	講義室13	使用者	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年								4大2年	4大2年		4大2年	4大2年	4大2年	4大2年				4大2年	4大2年	4大2年	
		講義名	畜産法規	農業気象学	財務会計	歴史学概論								植物病理学	土壌肥料・植物栄養学		GAP演習	GAP演習	作物学	経営戦略				食品科学	英語Ⅲ	英語Ⅲ	
講義室14	使用者																										
	講義名																										
情報処理室	使用者	4大1年					短大1年	短大1年											短大1年								
	講義名	情報処理基礎					情報処理演習①	情報処理演習②												情報処理演習③							

※ 表中の4大は静岡県立農林環境専門職大学を、短大は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部を示す。

○ 校舎の利用計画表(平成33年度)

講義場所	取 登 人 数	備 考	秋期(後期)																									
			月					火					水					木					金					
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
A棟	大講義室	使用者						短大2年	短大2年																			
		講義名						マーケティング・販売演習	マーケティング・販売演習																			
	講義室1	使用者			短大1年	短大1年																						
		講義名			作物栽培	作物栽培																						
	講義室2	使用者								短大1年	短大1年	短大1年	短大1年															
		講義名								英語応用①	英語応用②	植物保護①	植物保護②															
講義室3	使用者		4大1年	4大1年	4大1年	4大1年			4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年															
	講義名		農林業史	農林業生産理論	経営管理論	統計学			生命科学	農村社会論	農林業のための物理学			政治学概論	簿記応用													
講義室4	使用者																											
	講義名																											
視聴覚室	使用者																											
	講義名														4大1短大1 静岡学													
B棟	講義室5	使用者																										
		講義名																										
	講義室6	使用者			短大1	短大1																						
		講義名			飼料総論	家畜飼養																						
	講義室7	使用者																										
		講義名																										
	講義室8	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用
		講義名	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用
	講義室9	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用
		講義名	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用
加工実験室	使用者																											
	講義名																											
加工講義室	使用者																											
	講義名																											
C棟	講義室11	使用者			短大2年	短大2年																						
		講義名			畜産経営演習(大家畜)	畜産経営演習(大家畜)																						
	講義室12	使用者			短大2年	短大2年																						
		講義名			畜産経営演習(中小家畜)	畜産経営演習(中小家畜)																						
	講義室13	使用者	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年																						
		講義名	文明論	マーケティング論	木材生産システム	木材生産システム																						
講義室14	使用者																											
	講義名																											
情報処理室	使用者								短大1年	短大1年																		
	講義名								情報処理①	情報処理②																		

※ 表中の4大は静岡県立農林環境専門職大学を、短大は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部を示す。

○ 校舎の利用計画表(平成34年度以降)

講義場所	収容人数	備考	春期(前期)																											
			月					火					水					木					金							
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5			
A棟	大講義室	144	使用者						短大2年	短大2年											短大2年	短大2年	短大2年	短大2年						
	講義室1	40	講義名						マーケティング・販売演習	マーケティング・販売演習											マーケティング・販売演習	マーケティング・販売演習	GAP演習	GAP演習						
	講義室2	40	使用者	短大1年	短大1年	短大1年	短大1年			短大1年	短大1年				短大1年	短大1年						短大1年	短大1年			短大1年	短大1年			
	講義室3	40	講義名	農林業のための科学①	農林業のための科学③	農学概論①	農学概論③			農学概論②	農学概論①				農林業のための科学②	農林業のための科学①	簿記基礎	簿記基礎					農学概論③	農学概論②			農林業のための科学③	農林業のための科学②	流通加工論①	流通加工論①
	講義室4	65	使用者		4大1年	4大1年			4大1年	4大1年	4大1年				4大1年	4大1年					4大1年	4大1年			4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	
	視聴覚室	166	講義名												4大1 短大1 静回学															
B棟	講義室5	16	使用者						短大2年	短大2年																				
	講義室6	16	講義名						木材生産システム	木材生産システム																				
	講義室7	12	使用者																											
	講義室8	16	使用者																											
	講義室9	8	使用者																											
	講義室10	28	使用者																											
	加工実験室	-	使用者			4大3年	4大3年																							
	加工講義室	-	講義名			食品加工実習	食品加工実習																							
C棟	講義室11	40	使用者	4大3年	4大3年	4大3年								4大2年	4大2年			4大2年	4大2年											
	講義室12	40	講義名	収穫後生理学	木材加工実習	木材加工実習								森林計画・政策論				森林土木学	造林学											
	講義室13	40	使用者	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年							4大2年	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年			4大3年	4大3年	4大3年	4大3年	4大3年				
	講義室14	40	講義名	畜産法規	農業気象学	財務会計	歴史学概論							植物病理学	土壌肥料・植物栄養学	GAP演習	GAP演習	作物学	経営戦略			園芸学各論	食品科学	英語Ⅲ	英語Ⅲ					
	情報処理室	36	使用者	4大1年	4大1年	4大1年	4大3年	4大3年	4大3年	4大3年	4大3年	4大3年	4大3年	4大3年	4大3年	4大3年	4大3年	4大3年	4大3年			4大3年	4大3年	4大3年	4大3年	4大3年				
		講義名	情報処理基礎					短大1年	短大1年				情報処理演習①	情報処理演習②					短大1年	短大1年			情報処理演習③							

※ 表中の4大は静岡県立農林環境専門職大学を、短大は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部を示す。

○ 校舎の利用計画表(平成34年度以降)

講義場所	収容人数	備考	夏期(前期)																										
			月					火					水					木					金						
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5		
A棟	大講義室	使用者						短大2年	短大2年												短大2年	短大2年	短大2年	短大2年					
		講義名						マーケティング・販売演習	マーケティング・販売演習												マーケティング・販売演習	マーケティング・販売演習	GAP演習	GAP演習					
	講義室1	使用者	短大1年	短大1年	短大1年	短大1年				短大1年	短大1年			短大1年	短大1年	短大1年	短大1年						短大1年	短大1年		短大1年	短大1年		
		講義名	分子生物学①	分子生物学③	畜産概論	樹木・組織学				県内農林業事情	県内農林業事情			分子生物学②	分子生物学①	簿記応用	簿記応用						樹木・組織学	畜産概論		分子生物学③	分子生物学②		
	講義室2	使用者	短大1年					短大1年	短大1年					短大1年	短大1年								短大1年	短大2年	短大2年			短大1年	
		講義名	植物生理生態学①						英語基礎①	英語基礎②				植物生理生態学②	植物生理生態学①								英語基礎③	木材利用・流通論	木材利用・流通論			植物生理生態学②	
40	使用者		4大1年	4大1年				4大1年	4大1年	4大1年			4大1年	4大1年								4大1年	4大1年		4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年
	講義名		農林業のための化学	農学概論				県内農林業事情	農林業のための生物学	農林業経営学			農山村田園地域公共学	簿記基礎								コミュニケーション論	分子生物学		農林業政策	経済学概論	農林業のための基礎数学	英語I	英語I
講義室4	使用者								短大2年	短大2年					短大2年	短大2年										短大2年	短大2年		
	講義名								アグリフードシステム論②	アグリフードシステム論②					施設園芸①	施設園芸②										施設園芸②	施設園芸①		
視聴覚室	使用者													4大1短大1															
	講義名													静岡学															
B棟	講義室5	使用者							短大2年	短大2年																			
		講義名							木材生産システム	木材生産システム																			
	講義室6	使用者																											
		講義名																											
	講義室7	使用者																											
		講義名																											
	講義室8	使用者																											
		講義名																											
	講義室9	使用者																											
		講義名																											
講義室10	使用者																												
	講義名																												
加工実験室	使用者			4大3年	4大3年																								
	講義名			食品加工実習	食品加工実習																								
加工講義室	使用者			4大3年	4大3年																								
	講義名			食品加工実習	食品加工実習																								
C棟	講義室11	使用者	4大3年	4大3年	4大3年								4大2年				4大2年	4大2年											
		講義名	収穫後生理学	木材加工実習	木材加工実習									森林計画・政策論				森林土木学	造林学										
	講義室12	使用者												4大2年				4大2年											
		講義名												飼料総論				家畜飼養学											
	講義室13	使用者	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年								4大2年	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年					4大3年	4大2年	4大2年	4大2年			
		講義名	畜産法規	農業気象学	財務会計	歴史学概論								植物病理学	土壌肥料・植物栄養学		GAP演習	GAP演習	作物学	経営戦略			園芸学各論		食品科学	英語Ⅲ	英語Ⅲ		
講義室14	使用者		4大3年			4大3年	4大3年	4大3年				4大3年	4大3年	4大3年	4大3年			4大3年					4大3年	4大3年	4大3年	4大3年			
	講義名		管理会計			技術者倫理	在来作物学	農林業のための先端技術				華道	食品流通論	グリーンツーリズム論	茶道			環境保全型農林業論					農村景域論	販売管理実習	販売管理実習				
情報処理室	使用者	4大1年					短大1年	短大1年										短大1年											
	講義名	情報処理基礎					情報処理演習①	情報処理演習②										情報処理演習③											

※ 表中の4大は静岡県立農林環境専門職大学を、短大は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部を示す。

○ 校舎の利用計画表(平成34年度以降)

講義場所	収容人数	備考	秋期(後期)																								
			月					火					水					木					金				
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
A棟	大講義室	使用者						短大2年	短大2年									短大2年	短大2年	短大2年	短大2年						
		講義名						マーケティング・販売演習	マーケティング・販売演習									マーケティング・販売演習	マーケティング・販売演習	GAP演習	GAP演習						
	講義室1	使用者			短大1年	短大1年				短大1年	短大1年				短大1年	短大1年				短大1年	短大1年		短大1年	短大1年	短大1年	短大1年	
		講義名			作物栽培	作物栽培				土壌肥料・植物栄養学①	土壌肥料・植物栄養学②				植物遺伝育種学概論	植物遺伝育種学概論				土壌肥料・植物栄養学②	土壌肥料・植物栄養学①		食品科学	食品科学	アグリフードシステム論	アグリフードシステム論	
	講義室2	使用者						短大1年	短大1年	短大1年	短大1年				短大1年	短大1年	短大1年			短大1年	短大1年	短大1年	短大1年	短大1年	短大2年	短大2年	
		講義名						英語応用①	英語応用②	植物保護①	植物保護②									英語応用③	植物保護②	植物保護①			富農と農業関連法	富農と農業関連法	流通加工論②
講義室3	使用者		4大1年	4大1年	4大1年	4大1年		4大1年	4大1年	4大1年		4大1年	4大1年				4大1年	4大1年				4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	
	講義名		農林業史	農林業生産理論	経営管理論	統計学		生命科学	農村社会学	農林業のための物理学		政治学概論	簿記応用				フードシステム論	野生鳥獣管理・利用論				農林業のための地学	英語Ⅱ	英語Ⅱ	社会学概論	環境と農林業	
講義室4	使用者																										
	講義名																										
視聴覚室	使用者										4大1短大1																
	講義名										静岡学																
B棟	講義室5	使用者							短大1	短大1															短大1年	短大1年	
		講義名								造林学	森林計画学														森林計画学	造林学	
	講義室6	使用者			短大1	短大1														短大1年	短大1年				4大2年		
		講義名			飼料総論	家畜飼養														家畜飼養	飼料総論				木材利用・流通論		
	講義室7	使用者																									
		講義名																									
	講義室8	使用者																									
		講義名																									
講義室9	使用者																										
	講義名																										
講義室10	使用者																										
	講義名																										
加工実験室	使用者											短大1年	短大1年											短大1年	短大1年		
	講義名											食品加工演習①	食品加工演習①											食品加工演習①	食品加工演習①		
加工講義室	使用者											短大1年	短大1年											短大1年	短大1年		
	講義名											食品加工演習①	食品加工演習①											食品加工演習①	食品加工演習①		
C棟	講義室11	使用者			短大2年	短大2年				短大2年	短大2年				短大2年	短大2年											
		講義名			畜産経営演習(大家畜)	畜産経営演習(大家畜)				人工授精論	人工授精論				畜産経営演習(大家畜)	畜産経営演習(大家畜)											
	講義室12	使用者			短大2年	短大2年				4大2年					短大2年	短大2年									4大2年	4大2年	
		講義名			畜産経営演習(中小家畜)	畜産経営演習(中小家畜)				家畜衛生学					畜産経営演習(中小家畜)	畜産経営演習(中小家畜)									家畜育種繁殖学	人工授精論	
	講義室13	使用者	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年				4大2年	4大2年		4大2年	4大2年	4大2年		4大2年	4大2年	4大2年					4大2年	4大2年		
		講義名	文明論	マーケティング論	木材生産システム	木材生産システム				園芸学	医療食薬連携論		食文化論	労務管理		文学概論	農と食の健康論	英語Ⅳ	英語Ⅳ			応用昆虫学	植物遺伝育種学概論				
講義室14	使用者											4大2年															
	講義名											木質科学概論															
情報処理室	使用者						短大1年	短大1年											短大1年		4大2年						
	講義名						情報処理①	情報処理②											情報処理③		情報処理応用						

※ 表中の4大は静岡県立農林環境専門職大学を、短大は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部を示す。

○ 校舎の利用計画表(平成34年度以降)

講義場所	収容人数	備考	冬期(後期)																										
			月					火					水					木					金						
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5		
A棟	大講義室	使用者						短大2年	短大2年																				
		講義名						農山村田園地域公共学①	農山村田園地域公共学③																				
	講義室1	使用者			短大1年	短大1年		短大1年	短大1年					短大2年	短大2年	短大2年	短大2年									短大1年	短大1年	短大2年	短大2年
		講義名			野菜栽培	茶栽培		情報処理①	情報処理②					食と農の健康論	食と農の健康論	農林業のための先端技術①	農林業のための先端技術②									茶栽培	野菜栽培	農林業のための先端技術②	農林業のための先端技術①
	講義室2	使用者	短大2年	短大2年	短大1年	短大1年		短大1年	短大1年	短大1年	短大1年					短大1年	短大1年			短大1年	短大1年	短大1年				短大1年	短大1年		
		講義名	流通加工論③	流通加工論③	花き栽培	果樹栽培		英語応用①	英語応用②	農業経営①	農業経営②					野生鳥獣管理・利用論	野生鳥獣管理・利用論			英語応用③	農業経営②	農業経営①				果樹栽培	花き栽培		
講義室3	使用者		4大1年	4大1年	4大1年	4大1年		4大1年	4大1年	4大1年			4大1年	4大1年					4大2年	4大1年	4大1年				4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年
	講義名		農林業史	農林業生産理論	経営管理論	統計学		生命科学	農村社会学	農林業のための物理学			政治学概論	簿記応用					家畜福祉学	フードシステム論	野生鳥獣管理・利用論				農林業のための地学	英語Ⅱ	英語Ⅱ	社会学概論	環境と農林業
講義室4	使用者							短大2年	短大2年															短大2年	短大2年				
	講義名							環境保全型農林業論①	環境保全型農林業論②															環境保全型農林業論②	環境保全型農林業論①				
視聴覚室	使用者																												
	講義名														4大1短大1 静岡学														
B棟	講義室5	使用者			短大1年	短大1年				短大1年	短大1年									短大1年	短大1年				短大1年	短大1年			
		講義名			森林土木論(治山・林道)	森林土木論(治山・林道)				林業経営	林業経営										木材加工演習	木材加工演習				木材加工演習	木材加工演習		
	講義室6	使用者			短大1年	短大1年				短大1年	短大1年									短大1年	短大1年				短大1年	短大1年			
		講義名			家畜育種繁殖	家畜衛生学				畜産経営	畜産経営										家畜衛生学	家畜育種繁殖				畜産法規	畜産法規		
	講義室7	使用者																											
		講義名																											
	講義室8	使用者																											
		講義名																											
	講義室9	使用者																											
		講義名																											
講義室10	使用者																												
	講義名																												
加工実験室	使用者														短大1年	短大1年										短大1年	短大1年		
	講義名														食品加工演習②	食品加工演習②										食品加工演習②	食品加工演習②		
加工講義室	使用者														短大1年	短大1年										短大1年	短大1年		
	講義名														食品加工演習②	食品加工演習②										食品加工演習②	食品加工演習②		
C棟	講義室11	使用者								短大2年																	短大2年		
		講義名								森林生態学																	森林生態学		
	講義室12	使用者			短大2年	短大2年				4大2年																	4大2年	4大2年	
		講義名			畜産環境・堆肥利用論	畜産環境・堆肥利用論				家畜衛生学																	家畜育種繁殖学	人工受胎論	
	講義室13	使用者	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年				4大2年	4大2年		4大2年	4大2年		4大2年	4大2年	4大2年								4大2年	4大2年		
		講義名	文明論	マーケティング論	木材生産システム	木材生産システム				園芸学	医療食薬連携論		食文化論	労務管理		文学概論	農と食の健康論	英語Ⅳ	英語Ⅳ							応用昆虫学	植物遺伝育種学概論		
講義室14	使用者	4大3年	4大3年				4大3年	4大3年	4大2年				4大3年	4大3年	4大3年										4大3年	4大3年	4大3年	4大3年	
	講義名	人材マネジメント	人材マネジメント				農と食の起業論	農と食の起業論	木質科学概論				6次産業化実践論	知的財産権	知的財産権										販売管理実習	販売管理実習	コミュニティビジネス論	コミュニティビジネス論	
情報処理室	使用者							短大1年	短大1年										短大1年					4大2年					
	講義名							情報処理①	情報処理②											情報処理③				情報処理応用					

※ 表中の4大は静岡県立農林環境専門職大学を、短大は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部を示す。

生産環境経営学部生産環境経営学科 前期 時間割

(月)

時限	時間	1年	2年栽培	2年畜産	2年林業	3年栽培	3年畜産	3年林業	4年(2Q)
1	8:50	●情報処理基礎		畜産法規		収穫後生理学			●経営分析演習Ⅰ 各研究室
	10:20	講義室4		講義室13		講義室11			
2	10:30	農林業化学		農業気象学		●会計管理			
	12:00	講義室3		講義室13		講義室14			
3	13:00	●農学概論		●財務会計					
	14:30	講義室3		講義室13		◎食品加工実習	◎木材加工実習		
4	14:40			歴史概論		加工講義室	講義室11		
	16:10			講義室13					
5	16:20					●技術者倫理			
	17:50					講義室14			

(木)

●必修 ◎コース必修

資料26

時限	時間	1年	2年栽培	2年畜産	2年林業	3年栽培	3年畜産	3年林業	4年(2Q)
1	8:50	●コミュニケーション論	◎作物学	◎家畜飼養学	◎森林土木学	◎生産マネジメント実習Ⅱ			
	10:20	講義室3	講義室13	講義室12	講義室11	圃場等			
2	10:30	分子生物学		●経営戦略					
	12:00	講義室3		講義室13					
3	13:00	●保健体育Ⅰ			◎造林学	●環境保全型農林業論			
	14:30	体育館・運動場			講義室11	講義室14			
4	14:40					園芸各論			
	16:10					講義室13			
5	16:20								
	17:50								

(火)

時限	時間	1年	2年栽培	2年畜産	2年林業	3年栽培	3年畜産	3年林業	4年(2Q)
1	8:50		◎圃場実習(栽)	◎圃場実習(畜)	◎演習林実習	●在来作物学			●プロジェクト研究 各研究室
	10:20					講義室14			
2	10:30	県内農林業事情	圃場等			●農林業のための先端技術			
	12:00	講義室3				講義室14			
3	13:00	農林業生物学							
	14:30	講義室3							
4	14:40	●農林業経営学							
	16:50	講義室3							
5	16:20	●静岡学							
	17:50	視聴覚室							

(金)

時限	時間	1年	2年栽培	2年畜産	2年林業	3年栽培	3年畜産	3年林業	4年(2Q)
1	8:50	農林業政策	食品科学						
	10:20	講義室3	講義室13						
2	10:30	●経済学概論	英語Ⅲ			●農村景域論			
	12:00	講義室3	講義室13			講義室14			
3	13:00	農林業基礎数学				●販売管理実習			
	14:30	講義室3				講義室14			
4	14:40	英語Ⅰ							
	16:10	講義室3							
5	16:20	講義室3							
	17:50								

(水)

時限	時間	1年	2年栽培	2年畜産	2年林業	3年栽培	3年畜産	3年林業	4年(2Q)
1	8:50	●農山村田園地城公衆学	◎植物病理学	◎飼料総論		華道			
	10:20	講義室3	講義室13	講義室12		講義室14			
2	10:30	簿記基礎	◎土壌肥料・植物栄養学	◎家畜生理解剖学	◎森林計画・政策論	◎食品流通論			
	12:00	講義室3	講義室13	実験室	講義室11	講義室14			
3	13:00	●総合実習	保健体育Ⅱ			●グリーン・ツーリズム論			
	14:30	圃場等	体育館・運動場			講義室14			
4	14:40		●GAP演習			茶道			
	16:10		講義室13			講義室14			
5	16:20								
	17:50								

備考

* 4年(2Q)は5月18日以降。4月13日～18日までは●経営実習Ⅰ。

生産環境経営学部生産環境経営学科 後期 時間割

(月)

時限	時間	1年	2年栽培	2年畜産	2年林業	3年(4Q)	4年(4Q)
1	8:50		文明論			●人材マネジメント	●経営分析演習Ⅱ
	10:20		講義室13				
2	10:30	農林業史	●マーケティング論			講義室14	各研究室
	12:00	講義室3	講義室13				
3	13:00	●農林業生産理論	◎木材生産システム				
	14:30	講義室3					
4	14:40	●経営管理論	講義室14				
	16:10	講義室3					
5	16:20	統計学					
	17:50	講義室3					

(木)

●必修 ◎コース必修 ○選択必修

資料26

時限	時間	1年	2年栽培	2年畜産	2年林業	3年(4Q)	4年(4Q)
1	8:50	フードシステム論	農と食の健康論			◎生産マネジメント実習Ⅱ	
	10:20	講義室3	講義室13				
2	10:30	野生鳥獣管理・利用論	英語Ⅳ				
	12:00	講義室14					
3	13:00	●保健体育Ⅰ	講義室13				
	14:30	体育館・運動場					
4	14:40		●情報処理応用			圃場等	
	16:10		情報処理室				
5	16:20						
	17:50						

(火)

時限	時間	1年	2年栽培	2年畜産	2年林業	3年(4Q)	4年(4Q)
1	8:50		◎生産マネジメント実習Ⅰ			農と食の起業論	●プロジェクト研究
	10:20		圃場等				
2	10:30	生命科学	圃場等			講義室14	各研究室
	12:00	講義室3					
3	13:00	●農村社会論	◎園芸学	◎家畜衛生学	◎木質科学概論	●6次産業化実践論	
	14:30	講義室3	講義室13	講義室12	講義室14		
4	14:40	農林業のための物理学	●医福食農連携論				
	16:50	講義室3	講義室13				
5	16:20	●静岡学					
	17:50	視聴覚室					

(金)

時限	時間	1年	2年栽培	2年畜産	2年林業	3年(4Q)	4年(4Q)
1	8:50	農林業のための地学	◎生産マネジメント実習Ⅰ				
	10:20	講義室3	圃場等				
2	10:30	英語Ⅱ	圃場等				
	12:00	講義室3					
3	13:00		◎応用昆虫学	◎家畜育種繁殖学	◎木材利用・流通論	●コミュニティビジョン論	
	14:30		講義室13	講義室12	講義室6		
4	14:40	社会学概論	植物遺伝育種学概論	人工授精論		講義室14	
	16:10	講義室3	講義室13	講義室12			
5	16:20	●環境と農林業					
	17:50	講義室3					

(水)

時限	時間	1年	2年栽培	2年畜産	2年林業	3年(4Q)	4年(4Q)
1	8:50	政治学概論	●食文化論				
	10:20	講義室3	講義室13				
2	10:30	簿記応用	●労務管理			●6次産業化実践論	
	12:00	講義室3	講義室13				
3	13:00	●総合実習	保健体育Ⅱ			知的財産権	
	14:30	圃場等	体育館・運動場				
4	14:40		文学概論			講義室14	
	16:10		講義室13				
5	16:20						
	17:50						

備考

- * 3年(4Q)は12月1日以降。10月6日～11月30日までは●企業実習。
- * 4年(4Q)は12月1日以降。10月6日～10月30日までは●経営実習Ⅱ。

〈実習を実施する附属施設〉

施設名	実習圃場	機械研修場	畜産技術研究所	
			本所	中小家畜センター
所在地	磐田市富丘 678-1	掛川市下垂木 2770-1	富士宮市猪之頭 1945	菊川市西方 2780
移動時間	0分(校内)	マイクロバスで 28分	マイクロバスで1時間 51分	マイクロバスで 29分
規模等	建物:2,043 m ² 土地:15,843 m ²	建物:1,022 m ² 土地:36,656 m ²	建物:12,732 m ² 土地:121.9ha	建物:9,282 m ² 土地:9.3ha
主な施設・設備	農場実習室 8棟 407 m ² 温室 16棟 2,953 m ² ハウス 6棟 1,133 m ² しいたけ関連 5棟 513 m ² 高度茶業施設 1棟 498 m ² 研究実験室 5室 558 m ² 堆肥舎 1棟 94 m ²	管理舎 1棟 110 m ² 機械庫等 5棟 928 m ² トラクター 9台 ホイールローダ 1台	乳牛試験牛舎 1棟 2,237 m ² 肉牛試験牛舎 1棟 1,271 m ² 放牛育成試験牛舎 1棟 777 m ² 受精卵移植研究棟 1棟 354 m ² 堆肥舎 1棟 800 m ² 乳牛 140頭 肉牛 60頭	管理研究棟 1棟 1,516 m ² 鶏試験鶏舎 1棟 2,935 m ² SPF生産研究棟 1棟 168 m ² 豚試験豚舎 1棟 3,582 m ² 肉質研究棟 1棟 182 m ² 豚 900頭 鶏 3,000羽
圃場	茶園 29a 果樹園 29a 野菜園 24a 育苗園 10a 樹木園 51a	研修用圃場 180a 運転コース 74a	草地:75ha	—
教育・研究での 主な利用可能 分野	<ul style="list-style-type: none"> ・露地作物の栽培管理技術 ・施設園芸の栽培管理技術 ・花き、茶、果樹の栽培管理技術 ・樹木の調査方法 ・しいたけの栽培管理技術 ・中小家畜の生理解剖 ・土壌分析や化合物の測定など ・植物培養 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業機械、トラクターの構造 ・農業機械の運転技能 ・作業機の取扱方法 ・農作業安全対策 ・ロータリー、プラウ等の耕耘技術 ・農業機械の走行方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウシの飼養管理技術の研究 ・性別別精液利用に関する研究 ・ITを活用したウシの分娩・疾病予測の研究 ・IT活用型管理技術の研究 ・未利用資源の有効利用の研究 ・牧草飼料作物の栽培・生産利用の研究 ・家畜ふん尿処理と利用法の研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・SPF環境下の豚飼育技術の研究 ・体細胞クローン技術に関する研究 ・DNAマーカー育種を利用した高品質な豚肉の開発 ・銘柄豚の開発 ・銘柄地鶏の開発 ・畜産経営用環境保全技術 ・臭気抑制・低減技術
実施科目名	「総合実習」 「圃場実習(栽培)」 「圃場実習(畜産)」 「生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱ(栽培)(林業)(畜産)」 「演習林実習」	「大型機械実習Ⅰ、Ⅱ」	「生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱ(畜産)」	「生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱ(畜産)」

施設名	静岡県有林
所在地	浜松市
移動時間	マイクロバスで 40 分程度
規模	森林面積 294ha
教育・研究での 主な利用可能 分野	<ul style="list-style-type: none"> ・林道や作業路等の測量技術 ・樹種や樹高測定等の森林調査技術 ・病害虫等の診断技術 ・植物などの観察 ・下刈り、枝打ちなどの管理技術 ・間伐などチェーンソーを使った伐採技術 ・木材加工技術
実施科目名	「演習林実習」 「生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱ(林業)」 「木材加工実習」 「林業機械実習」

○ 学術雑誌目録

資料28

No	商品名	出版社	分野
1	食糧ジャーナル 月刊 (冊子)	株式会社 食糧問題研究所	農林業一般
2	フードシステム研究 季刊 (冊子)	株式会社 筑波書房	経済学
3	土と健康 月刊 (冊子)	特定非営利活動法人 日本有機農業研究会	農業経営
4	施設と園芸 季刊 (冊子)	日本農民新聞社	農業経営
5	雑草研究 季刊 (冊子)	毎日学術フォーラム	農林研究
6	農業および園芸 月刊 (冊子)	養賢堂	農業経営
7	JATAFFジャーナル 月刊 (冊子)	(公社)農林水産・食品産業技術振興協会	農林業一般
8	山林 月刊 (冊子)	(公社)大日本山林会	林業・木材加工
9	森林科学 年3回 (冊子)	一般社団法人 日本森林学会	林業・木材加工
10	森林技術 月刊 (冊子)	一般社団法人 日本森林技術協会	林業・木材加工
11	農業と経済 月刊 (冊子)	(株)昭和堂	農業経営
12	現代農業 月刊 (冊子)	農山漁村文化協会	農業経営
13	季刊 地域 季刊 (冊子)	農山漁村文化協会	農業経営
14	農業市場研究 季刊 (冊子)	株式会社 筑波書房	農林研究
15	農業経営者 月刊 (冊子)	株式会社 農業技術通信社	農業経営
16	農業 月刊 (冊子)	公益社団法人 大日本農会	農林研究
17	果実日本	日本園芸農業協同組合連合会	園芸
18	農耕と園芸	誠文堂新光社	園芸
19	機械化林業 月刊 (冊子)	林業機械化協会	林業・木材加工
20	ランドスケープ研究	公益社団法人 日本造園学会	環境
21	Annals of Applied Biology	Wiley-Blackwell	農林業一般
22	Grass & Forage Science	Wiley-Blackwell	農林業一般
23	International Journal of Dairy Technology	Wiley-Blackwell	畜産
24	Irrigation and Drainage	John Wiley & Sons Ltd.	農林業一般
25	Journal of Agronomy and Crop Science	Wiley-Blackwell	農林業一般
26	Journal of Food Processing and Preservation	Wiley-Blackwell	食品加工
27	Journal of Food Science	John Wiley & Sons Ltd.	食品加工
28	Journal of Plant Nutrition and Soil Science/ Zeitschrift fuer Pflanzenernaehrung und	VCH	土壌肥料
29	Journal of Science of Food and Agriculture	John Wiley & Sons Ltd.	農林業一般
30	Pest Management Science	John Wiley & Sons Ltd.	病虫害
31	Weed Biology and Management	Wiley-Blackwell	農林業一般
32	Journal of Forestry	Oxford University Press	森林
33	Forest Science	Oxford University Press	森林
34	Agricultural and Forest Entomology	Wiley-Blackwell	森林
35	American Journal of Botany	John Wiley & Sons Ltd.	農林業一般
36	Applied and Environmental Microbiology (Price A; 1 Site with 1-200 Life Science FTE)	AMERICAN SOC. FOR MICROBIOLOGY	農林業一般
37	Cereal Chemistry <FTE Small>	John Wiley & Sons Ltd.	農林業一般
38	Journal of Peasant Studies	Taylor & Francis (Routledge)	農林業一般
39	Plant Physiology, Plant Cell and Teaching Tools in Plant Biology (to Institutions) <Tier 4 - Regular>	AMERICAN SOC PLANT BIOLOGISTS	農林業一般
40	Soil Science Society of America Journal	ASA, CSSA, SSSA	土壌環境

臨地実務実習要綱（案）
（静岡県立農林環境専門職大学）

<目次>

I	(全員) 教育課程と実習	2
II	(全員) 臨地実務実習の概要と目標	2
III	(実習担当教員) 臨地実務実習の考え方	16
IV	(臨地実務実習の指導者) 臨地実務実習施設への依頼事項	19
V	(全員) 臨地実務実習の評価	21
VI	(学生) 臨地実務実習の受講	22

I (全員) 教育課程と実習

1. 教育目標

多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材を養成する。

2. 教育課程の構造

本学の教育課程は、上記の教育目標を達成するため、基礎科目、職業専門科目、展開科目、総合科目の4つの基礎的な枠組みを構成する。

多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材に求められる掲げる資質・能力を身に付ける。

II (全員) 臨地実務実習の概要と目標

本学で実施する臨地実務実習の概要は次の通りである。

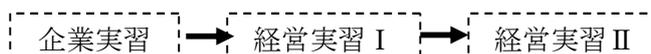
1. 臨地実務実習の概要

本学の臨地実務実習は、「実践的な経営管理能力を身につける」ことを目標に、経営に不可欠な生産技術及び実践的な経営管理能力を身につける。

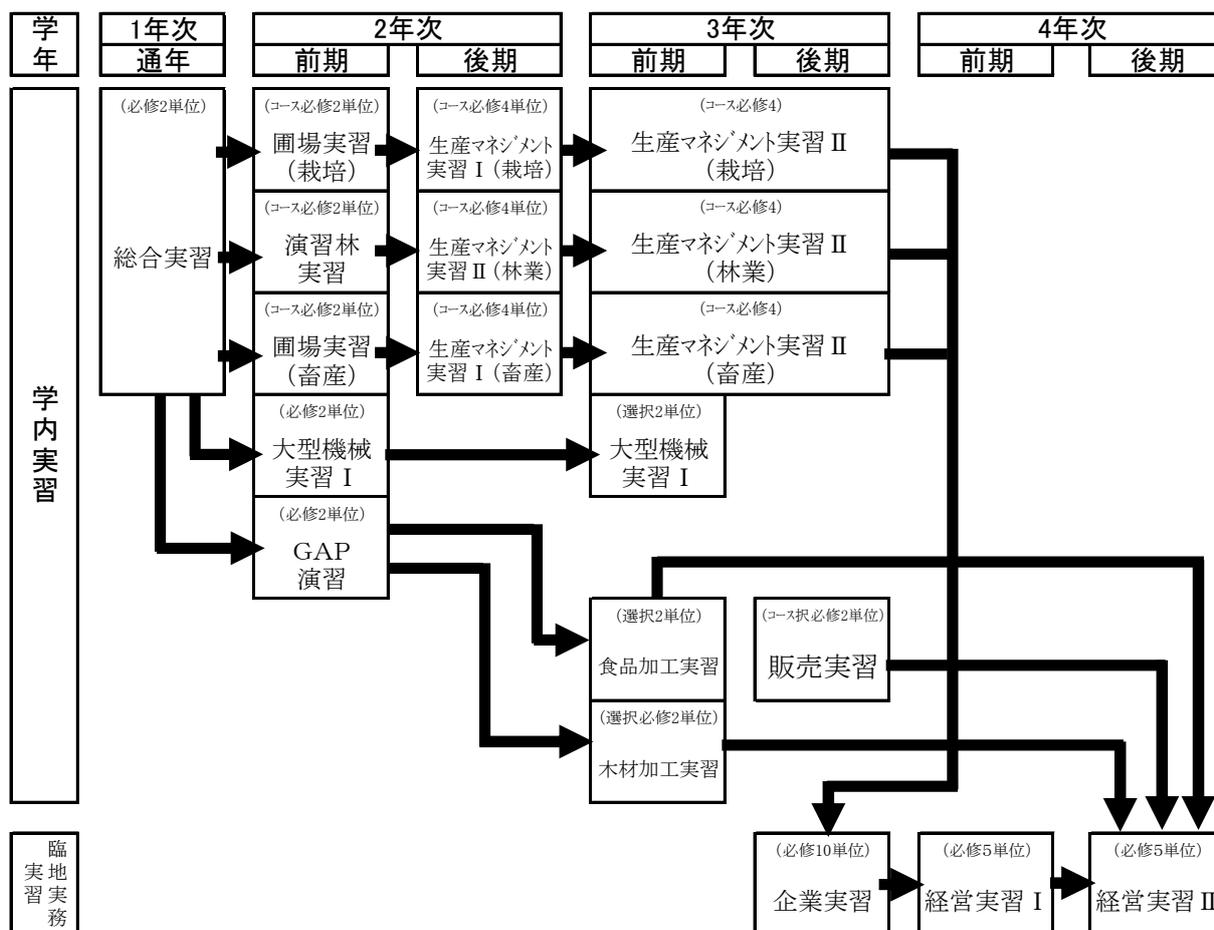
臨地実務実習は、3年次に「企業実習」(10単位)、4年次に「経営実習Ⅰ」(5単位)及び「経営実習Ⅱ」(5単位)を開講する。臨地実務実習の教育効果を高めるため、「企業実習」の履修前には、「総合実習」、「圃場実習」、「生産マネジメント実習Ⅰ」、「生産マネジメント実習Ⅱ」、「大型機械実習Ⅰ」及び「大型機械実習Ⅱ」を配置し、農林業全般にわたる生産知識や、栽培技術や生産管理の基礎について学ぶ実習を実施する。また、「経営実習Ⅰ」及び「経営実習Ⅱ」の履修後には、それぞれ「経営分析演習Ⅰ」及び「経営分析演習Ⅱ」を配置し、さらに実践的な経営についての学びを深める。

<臨地実務実習の流れ>

1年次	2年次	3年次	4年次
-----	-----	-----	-----



< 4年間の実習の流れ >



2. 臨地実務実習の目標

臨地実務実習指導者の指導を受けながら実際の現場を体験し、各臨地実務実習の目標を達成することで、実務的な経営を営む能力を養う。

臨地実務実習のうち、「企業実習」では実践的な生産技術を学ぶ。また、「経営実習 I」では生産現場のマネジメントを行うために必要な知識・技能を、「経営実習 II」では、経営体の経営や経営戦略、加工、流通、販売等について学ぶ。

3. 臨地実務実習の種類と内容

1) 「企業実習」(3年次後期 必修 10 単位)

(1) 目的

先進的な経営体での実習を通じて、学内で学んだ知識・技能をもとに実践的な生産技術を学ぶ。

(2) 目標

- ① 生産現場での基本的な作業工程について理解することが出来る。
- ② 各作業工程に必要な基本的な技術を身につける。

(3) 方法

3年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約2カ月間実施

する。学生数は1施設1名を予定している。

「企業実習」の受講に当たっては、事前に、すべての学生が「総合実習」で行う刈払機作業安全衛生教育を修了し、また、「大型機械実習Ⅰ」において、大型特殊免許（農耕車限定）を取得する。

また、栽培コースでは、「圃場実習（栽培）」において作物の特徴や作型に関する知識や栽培技術を、「生産マネジメント実習Ⅰ（栽培）」において生産管理の基礎知識・技術を学ぶ。林業コースでは、「演習林実習」において森林・林業生産の基礎知識・技術を、「生産マネジメント実習Ⅰ（林業）」においてチェーンソーの基本操作と整備方法、収穫技術、森林の保護管理技術を学ぶ。畜産コースでは、「圃場実習（畜産）」において、家畜の特徴や生理や習性に関する知識、家畜の「生産マネジメント実習Ⅰ（畜産）」において、家畜飼養管理の基礎知識・技術を習得する。

実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。

実習中は、臨地実務実習指導者のもと、実際の生産現場を体験する。日々の作業は、臨地実務実習指導者の指示に従って行い、毎日、作業内容について記録を行う。実習指導は、臨地実務実習指導者と本学教員が連携し、適宜連絡を取り合い、学生の実習状況について情報を共有し、助言・指導を行う。

実習終了後は報告会を実施し、生産現場や生産現場で必要となる技術について理解を深める。

<必要な知識・技術や資格・免許等>

コース	必要な生産知識・技術	資格・免許等
栽培コース	<ul style="list-style-type: none"> 作物の特徴や作型に関する知識、栽培技術 生産管理の基礎知識・技術 	<ul style="list-style-type: none"> 刈払機作業安全衛生教育修了 大型特殊免許（農耕車限定）
林業コース	<ul style="list-style-type: none"> 森林・林業生産の基礎知識・技術 チェーンソーの基本操作と整備方法、収穫技術 森林の保護管理技術 	<ul style="list-style-type: none"> 刈払機作業安全衛生教育修了 大型特殊免許（農耕車限定）
畜産コース	<ul style="list-style-type: none"> 家畜の特徴や生理や習性に関する知識 家畜飼養管理の基礎知識・技術 	<ul style="list-style-type: none"> 刈払機作業安全衛生教育修了 大型特殊免許（農耕車限定）

(4) 評価項目

- ①臨地実務実習指導者による取組状況の評価
- ②学生が作成する作業記録・自己点検表
- ③学生が作成する報告書
- ④臨地実務実習後の報告会での報告内容

2) 経営実習Ⅰ（4年次前期 必修・5単位）

(1) 目的

生産現場のマネジメントを行うために必要な知識・技能を学ぶ。

(2) 目標

- ① 生産現場の年間計画が理解できる。
- ② 生産現場に必要な要素（資材、労力、資金）について理解し、これらを適切に配置した生産マネジメントについて理解できる。

(3) 方法

4年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約1ヶ月間の実習を行う。1施設2～4名を想定している。

「経営実習Ⅰ」の受講に当たっては、事前に、「財務会計」及び「管理会計」において経営分析の知識、「労務管理」において労務管理の知識、「GAP演習」において生産工程管理の知識・技術を学ぶ。

また、栽培コースは、「生産マネジメント実習Ⅱ（栽培）」において実践的な栽培管理の知識・技術、「生産マネジメント実習Ⅱ（林業）」、「生産マネジメント実習Ⅱ（畜産）」において、下表の知識や技術を習得する。

実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。

実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもとで作業を行いながら、人員配置、機械、生産資材の利用計画など生産現場のマネジメントに必要な知識・技能を学ぶ。

実習終了後は報告会を実施し、生産現場や生産現場で必要となる技術について理解を深める。

<必要な知識・技術等>

コース	必要な知識・技術
栽培コース	・ 経営分析の知識 ・ 労務管理の知識 ・ 生産工程管理の知識・技術 ・ 実践的な栽培管理の知識・技術
林業コース	・ 経営分析の知識 ・ 労務管理の知識 ・ 生産工程管理の知識・技術 ・ 実践的な森林・林業生産の知識・技術
畜産コース	・ 経営分析の知識 ・ 労務管理の知識 ・ 生産工程管理の知識・技術 ・ 実践的な家畜飼養管理の知識・技術

(4) 評価項目

- ① 臨地実務実習指導者による取組状況の評価
- ② 学生が作成する作業記録・自己点検表

- ③学生が作成する報告書
- ④臨地実務実習後の報告会での報告内容

3) 経営実習Ⅱ（4年次後期 5単位）

(1) 目的

農林業経営体の経営や経営戦略、加工、流通、販売等について学ぶ。

(2) 目標

- ① 農林業経営体の経営戦略について理解する。
- ② 戦略に基づいた経営のあり方について理解する。
- ③ 生産現場以外の加工・流通・販売について理解する。

(3) 方法

4年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約1ヶ月間の実習を行う。1施設2～5名を想定している。

「経営実習Ⅱ」の受講にあたっては、事前に、「経営管理論」において経営管理の知識、「経営戦略」において経営戦略の知識、「マーケティング」においてマーケティングの知識、「財務会計」及び「管理会計」において経営分析の知識、「労務管理」において労務管理の知識、「人材マネジメント」において人的資源管理の知識、「GAP演習」において生産工程管理の知識・技術、「販売管理実習」において販売管理の知識・技術を学ぶ。

また、栽培コース及び畜産コースは、「食品加工実習」において食品加工の知識・技術を、林業コースは「木材加工実習」において木材加工の知識技術を習得する。

実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。

実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもと作業を行いながら、農林業経営体の経営、生産現場以外の加工・流通・販売等について学ぶ。

実習終了後は報告会を実施し、農林業経営のあり方について理解を深める。

<必要な知識・技術等>

コース	必要な知識・技術
栽培コース 畜産コース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営管理・経営戦略・マーケティングの知識 ・ 経営分析の知識 ・ 労務管理の知識 ・ 人的資源管理の知識 ・ 生産工程管理の知識・技術 ・ 販売管理の知識・技術 ・ 食品加工の知識・技術
林業コース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営管理・経営戦略・マーケティングの知識 ・ 経営分析の知識 ・ 労務管理の知識 ・ 人的資源管理の知識 ・ 生産工程管理の知識・技術 ・ 販売管理の知識・技術 ・ 木材加工の知識・技術

(4) 評価項目

- ① 臨地実務実習指導者による取組状況の評価
- ② 学生が作成する作業記録・自己点検表
- ③ 学生が作成する報告書
- ④ 臨地実務実習後の報告会での報告内容

4) 評価事項

臨地実務実習で身に付ける技能を明らかにするため、臨地実務実習ごとの評価事項を下記に示す。

<評価事項>

○共通

項目	区分	評価事項	企業 実習	経営 実習 I	経営 実習 II
職業人としての 適性	志向・態度	規則や心得を守ることが出来る。	○	○	○
	志向・態度	与えられた仕事を、責任を持って遂行できる。	○	○	○
	志向・態度	従業員と協調して仕事出来る。	○	○	○
	志向・態度	実習学生として必要な基礎知識を有している。	○	○	○
	志向・態度	農林業に対する探究心・意欲及び創造性が見られる。	○	○	○
生産管理	知識・理解 技能	生産に関する基礎知識・技能(※経営種目別)	○	○	○
作業管理	志向・態度	日々の作業結果(作業時間、作業条件等)を作業日誌に記録している。		○	○
	志向・態度	作業効率を考えて必要な道具、資材、機械等の準備が出来る。		○	○
	知識・理解	年間の出荷(生産計画)を理解し、説明できる。		○	○
	知識・理解	年間の圃場利用計画を理解し、説明できる。		○	○
	知識・理解	労働力・生育状況に見合った作業計画を理解し、説明できる。		○	○
	技能	作業に必要な道具、資材、機械等を整理整頓できる。		○	○
	技能	作業遅れが生じたときの対応策を考えられる。		○	○
販売管理	志向・態度	市況情報を知っている。			○
	技能	市況や生産技術を考慮して、適切な売上・単価目標を決めることが出来る。			○
財務管理	知識・理解	減価償却に関する知識など、簿記・会計理論を理解し、説明できる。			○
	知識・理解	借入金を返済するための資金繰り計画の立て方を理解し、説明できる			○
	知識・理解	収入や支出の時期、金額を理解し、説明できる。			○
	技能	単位当たり(収量や面積あたり)の資材費を把握できる。			○

○生産管理・栽培 ※実習先が野菜・花等の場合項目4、は、茶・果樹の場合は項目5を使用する。

項目	評価事項		圃場 実習	企業 実習 I	経営 実習 II	
	No	内容				
1 農業 一般	志向・態度	1-1	農作業を行う際は、安全作業を心がけて行っている。	○	○	—
	志向・態度	1-2	作業記録の必要性を理解し、作業記録を作成している。	○	○	—
	知識・理解	1-3	作物の器官を理解し、説明できる。(葉、茎、根、花、果実)	○	○	—
	知識・理解	1-4	植物生理を理解し、説明できる。(光合成、呼吸、蒸散、吸収、花芽形成)	○	○	—
	知識・理解	1-5	栽培品目毎の生育適温や水分条件等を理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	1-6	被覆資材の種類と特徴、使用方法について理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	1-7	栽培施設の種類と構造、被覆用資材の種類と特徴を理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	1-8	栽培施設に設置される装置の種類と操作方法を理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	1-9	測定が必要な環境要因(温度、湿度、二酸化炭素等)を理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	1-10	環境測定に必要な機器を理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	1-11	養液栽培の種類と特徴を理解し、説明できる。	○	○	—
2 土 づ くり	知識・理解	2-1	土性の種類と特徴を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	2-2	土壌を観察し、土性を判断できる。		○	—
	知識・理解	2-3	土の団粒構造、三層構造を理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	2-4	栽培品目に適したpHなどを理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	2-5	栽培品目に適した土壌改良や施肥計画が理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	2-6	肥料の種類や特徴を理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	2-7	土壌診断の必要性を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	2-8	土壌診断や、草勢、着果具合など生育にあわせて、施肥・追肥の計画を立てられる。		○	—
3 病 害 虫 ・ 雑 草 管 理 ・ 生 理 障 害	知識・理解	3-1	栽培品目の主要な病害や害虫を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	3-2	病害や虫害が発生した場合、その原因を判断できる。		○	—
	技能	3-3	適切な防除時期を判断できる。		○	—
	知識・理解	3-4	病害虫の防除の方法を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	3-5	病害虫に対して適切な防除資材を判断できる。		○	—
	知識・理解	3-6	病害や虫害が発生しにくい環境を理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	3-7	栽培品目の生理障害とその原因を理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	3-8	生育異常が発生しやすい部位を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	3-9	生育異常が発見でき、その原因を判断できる。		○	—
	技能	3-10	生育異常に対する対応策を判断できる。		○	—
	知識・理解	3-11	農薬の安全使用について理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	3-12	農薬のラベルを見て、適性作物、使用量・使用濃度の確認が出来る。		○	—
	知識・理解	3-13	病害虫防除・雑草防除に使用する機器と操作方法を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	3-14	事故防止のための手段を行っている。		○	—

項目	評価事項		圃場 実習	企業 実習 I	経営 実習 II	
	No	内容				
4 栽培管理 (草本植物 (野菜・ 花等))	知識・理解	4-1	作付体系と作型を理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	4-2	播種の方法や発芽方法、発芽率を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	4-3	栽培品目や作付体系にあわせて、適切に播種ができる。		○	—
	知識・理解	4-4	接ぎ木の時期・方法を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	4-5	栽培品目にあわせて、適切に接ぎ木が出来る。		○	—
	知識・理解	4-6	必要な苗数を確保するための育苗方法を理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	4-7	栽培品目毎の育苗期間や生育適温、水分条件を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	4-8	育苗中に、気象変化に応じて、温度管理・水管理ができる。		○	—
	技能	4-9	栽培品目にあわせて、育苗をし、必要な苗数を確保できる。		○	—
	技能	4-10	栽培品目にあわせて、適切に定植できる		○	—
	知識・理解	4-11	かん水方法の種類と特徴を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	4-12	栽培品目にあわせて、かん水が適切にできる。		○	—
	知識・理解	4-13	うねの種類と特徴を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	4-14	栽培品目にあわせて、うね立てが出来る。		○	—
	知識・理解	4-15	整枝や誘引方法を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	4-16	栽培品目にあわせて、整枝、誘引ができる。		○	—
	知識・理解	4-17	摘葉、摘花、摘果の作業を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	4-18	生育状況に合わせて、摘葉、摘花、摘果すべき箇所を理解し、実施できる。		○	—
	知識・理解	4-19	収穫適期の判断方法を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	4-20	収穫適期を判断し、適切な方法で収穫できる。		○	—
5 栽培管理 (永年植物 (茶・果樹等))	知識・理解	5-1	栽培品目のライフサイクルを理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	5-2	栽培品目の生育について理解し、説明できる。(葉芽、花芽、開花、結実等)	○	○	—
	知識・理解	5-3	栽培品目毎に、接ぎ木や挿し木、取り木、実生などの苗木の生産・育成方法について理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	5-4	栽培品目毎に、接ぎ木や挿し木、取り木、実生などの方法で、苗木の増殖ができる。		○	—
	知識・理解	5-5	栽培品目毎に、整枝・せん定の方法を理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	5-6	(果樹)果樹の栽培品目毎に仕立て方を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	5-7	(果樹)果樹の栽培品目毎に、適切な誘引ができる。		○	—
	知識・理解	5-8	(果樹)受粉、摘蕾、摘花、摘果について理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	5-9	(果樹)栽培品目毎に、適切に受粉、摘蕾、摘花、摘果ができる。		○	—
	知識・理解	5-10	(果樹)袋かけに使用する袋の種類を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	5-11	(果樹)栽培品目ごとに、袋かけの適切な時期を判断し、実行できる。		○	—
	知識・理解	5-12	収穫適期の判断方法を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	5-13	収穫適期を判断し、適切な方法で収穫できる。		○	—

○生産管理・林業

項目		評価事項		圃場 実習	企業 実習 I	経営 実習 II
		No	内容			
1 林業の基礎	知識・理解	1-1	森林をつくる樹木の種類、その組織と構造、生理機能、森林の階層構造を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	1-2	森林と、森林をとりまく気候や地形、土壌の関係を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	1-3	森林の発達と遷移、遷移の仕組みについて理解し、説明できる。	○	○	-
	技能	1-4	森林の種類について理解し、分類できる。		○	-
	知識・理解	1-5	森林が持つ様々な機能について理解し、説明できる。	○	○	-
2 森林調査	知識・理解	2-1	森林調査で収集する調査項目を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	2-2	森林調査に必要な道具や調査方法を理解し、説明できる。	○	○	-
	技能	2-3	森林調査を実施できる。		○	-
3 服装と道具	知識・理解	3-1	森林での作業に必要な道具や適切な服装について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	3-2	小型の林業機械の種類や適切な使用方法について理解し、説明できる。	○	○	-
	技能	3-3	小型の林業機械を安全に使用できる。		○	-
	技能	3-4	作業にあった服装や道具を選択できる。		○	-
4 造林技術	知識・理解	4-1	人工林における伐採の種類と方法を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-2	人工林における地ごしらえと植栽の種類と方法について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-3	人工林における初期保育のための作業の種類や方法を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-4	人工林における枝打ちの目的や作業方法、必要な道具について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-5	人工林における間伐の目的と作業方法について理解し、説明できる。	○	○	-
	技能	4-6	人工林の造林技術を実施できる。		○	-
	知識・理解	4-7	天然林における施業方法について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-8	山林毎にどのような施業方法が適切か理解し、説明できる。	○	○	-
5 森林保護管理	知識・理解	5-1	森林の観察方法や観察部位について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	5-2	森林における病害や虫害の種類を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	5-3	森林に被害を及ぼす鳥獣の種類を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	5-4	森林の気象被害の発生機構を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	5-5	森林火災の発生原因や防火対策を理解し、説明できる。	○	○	-
	技能	5-6	森林被害に対し、対策を実施できる。		○	-

項目	評価事項		企業 実習	経営 実習 I	経営 実習 II	
	No	内容				
6 収穫技術	知識・理解	6-1	立木の収穫時期、伐倒作業、造材作業、集材作業、高性能林業機械など伐出技術について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-2	集材方法と特徴、伐採した木材の測定方法など、伐採方法と伐出技術について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-3	森林を通る道の種類と働きについて理解し説明できる。	○	○	○
7 生産管理	知識・理解	7-1	生産計画を理解し、説明できる		○	○
	知識・理解	7-2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。		○	○
	知識・理解	7-3	生産計画を理解し、説明ができる。		○	○
	技能	7-4	作業記録を集計し、分析できる。			○
	知識・理解	7-5	販売計画を理解し、説明できる。		○	○
	技能	7-6	販売計画に沿って販売が行われているか、確認できる。			○
	志向・態度	7-7	市場調査、市場分析をおこなって、必要な情報を集めている。			○
	技能	7-8	売上を確認し、計画との差を判断できる。			○
	技能	7-9	生産物の原価を計算できる。			○
	技能	7-10	品目毎に収支計算ができる。			○
	技能	7-11	品目毎に損益分岐点分析ができる。			○
	技能	7-12	作業記録や生産結果、販売結果を分析し、改善方法を提案できる。			○

○生産管理・畜産

※実習先が牧場・肉牛の場合は項目2と3、養豚の場合は項目4と5、養鶏の場合は項目6と7を使用する。

項目	評価事項		圃場 実習	企業 実習 I	経営 実習 II	
	No	内容				
1 畜産 基礎	知識・理解	1-1	家畜の生活環境について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	1-2	経営形態の種類と特徴について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	1-3	飼料の種類や給与形態について、理解し説明できる。	○	○	-
	知識・理解	1-4	飼料管理の重要ポイントを理解し、説明できる。	○	○	-
2 家畜と 飼料の 基礎知識 (牛)	知識・理解	2-1	牛の品種と特徴について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	2-2	牛の飼育方法と特徴について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	2-3	牛舎の種類とその構造について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	2-4	牛の消化器の構造と消化のしくみについて理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	2-5	飼料の種類とその成分について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	2-6	適切な飼料給与について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	2-7	疾病とその発生要因、症状、生産性への影響を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	2-8	生殖器の構造・機能について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	2-9	繁殖生理について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	2-10	発情生理と人工授精について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	2-11	子牛の哺育と育成方法を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	2-12	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	○	○	-
3 管理作業 (牛)	知識・理解	3-1	1日の作業スケジュールについて理解し、説明できる。	○	○	-
	技能	3-2	(施設) 通路の点検が出来る。		○	-
	技能	3-3	(施設) 飼料の管理、掃き寄せが出来る。		○	-
	技能	3-4	(施設) 飼槽の管理が出来る。		○	-
	技能	3-5	(施設) 水槽の管理が出来る。		○	-
	技能	3-6	(施設) 牛の快適な環境を理解し、牛舎の換気が出来る。		○	-
	技能	3-7	(施設) 牛床の管理が出来る		○	-
	技能	3-8	(施設) 外部寄生虫の防除方法を理解し、実践できる。		○	-
	技能	3-9	(施設) 牛舎内の牛の観察をして、異常を発見できる。		○	-
	技能	3-10	(健康の点検) 食欲の有無を観察し、異常が発見できる。		○	-
	技能	3-11	(健康の点検) 目の観察をし、異常を発見できる。		○	-
	技能	3-12	(健康の点検) 鼻の観察をし、異常が発見できる。		○	-
	技能	3-13	(健康の点検) 挙動を観察し、その疾病や課題が発見できる。		○	-
	技能	3-14	(健康の点検) 尾根部や尾の状態を観察し、異常が発見できる。		○	-
	技能	3-15	(健康の点検) 呼吸の状態を観察し、異常が発見できる。		○	-
	技能	3-16	(健康の点検) 発咳を発見し、原因がわかる。		○	-
	技能	3-17	(健康の点検) 牛の適正な体温を理解し、異常時は発見できる。		○	-
	技能	3-18	(健康の点検) 被毛の状態を観察し、異常を発見できる。		○	-
	技能	3-19	(繁殖) 発情の周期を理解し、観察・発見できる。		○	-
	技能	3-20	(乳牛) 搾乳の手順を理解し、実践できる。		○	-

項目	評価事項		圃場 実習	企業 実習 I	経営 実習 II	
	No	内容				
4 家畜と飼料の基礎知識（豚）	知識・理解	4-1	豚の品種と特徴を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-2	豚の繁殖方法について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-3	子豚の飼育方法について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-4	肥育豚の飼育方法について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-5	飼料の種類や特徴を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-6	消化器の構造と消化のしくみを理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-7	豚の疾病と予防方法について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-8	豚舎の環境と衛生管理について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-9	暑熱が豚に及ぼす影響について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-10	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-11	ワクチン接種プログラムを理解し、説明できる。	○	○	-
5 管理作業（豚）	技能	5-1	子豚哺乳・育成時の適温について理解し、適切な暖房使用ができる。		○	-
	技能	5-2	豚の習性を理解し、正しい接し方ができる。		○	-
	技能	5-3	適切に飼槽、飲水の管理ができる。		○	-
	技能	5-4	子豚の去勢方法について理解し、適切に実施できる。		○	-
	技能	5-5	繁殖豚の発情メカニズム、交配、分娩について理解し、実践できる。		○	-
	技能	5-6	飼料の保存や取扱いについて理解し、実践できる。		○	-
	技能	5-7	暑熱時の適切な管理方法について理解し、実践できる。		○	-
6 家畜の飼料の基礎知識（鶏）	知識・理解	6-1	鳥の品種と特徴を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-2	飼育設備の種類と特徴を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-3	鶏舎の設備と機器と使用方法を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-4	消化器の構造と消化・吸収のしくみを理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-5	飼料の種類と特徴を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-6	鶏の疾病と予防方法について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-7	鳥インフルエンザとその防御方法について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-8	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-9	（採卵鶏）産卵鶏の産卵と成鶏の管理について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-10	（採卵鶏）採卵の採取とふ化やひなの管理について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-11	（採卵鶏）鶏卵の規格と品質、品質を決める要因を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-12	（肉用鶏）肉用鶏の成長の特徴について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-13	（肉用鶏）入すうから出荷までの管理について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-14	（肉用鶏）肉用鶏の調査方法について理解し、説明できる。	○	○	-

項目	評価事項		圃場 実習	企業 実習 I	経営 実習 II	
	No	内容				
7 管理 作業 (鶏)	技能	7-1	育すう期の適切な温度・湿度を理解し、適切な温度・湿度・換気管理ができる。		○	-
	技能	7-2	生育期に合わせて、適切な給餌器・給水器管理ができる。		○	-
	技能	7-3	デビークを行う理由を理解し、適切に実施できる。		○	-
	技能	7-4	適切な体重を理解し、適切な時期に体重測定が実施できる。		○	-
	技能	7-5	飼料の適切な管理方法について理解し、実施できる。		○	-
	技能	7-6	鶏舎の適切な管理温度を理解し、換気や防寒対策ができる。		○	-
8 衛生 管理	知識・理解	8-1	家畜区域と管理区域の違いを理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	8-2	管理区域の出入り口の消毒の必要性や消毒施設を理解し、説明できる。	○	○	-
	技能	8-3	消毒器・消毒層・消毒帯の管理方法を理解し、実践できる。		○	-
	技能	8-4	消毒薬の使用上の注意を理解し、適切に使用できる。		○	-
	技能	8-5	衛生管理区域内への鳥類、小動物の侵入の必要性を理解し、実施できる。		○	-
9 生産 管理	知識・理解	9-1	生産計画を理解し、説明できる		○	○
	知識・理解	9-2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。		○	○
	知識・理解	9-3	生産計画を理解し、説明できる。		○	○
	技能	9-4	作業記録を集計し、分析できる。			○
	知識・理解	9-5	販売計画を理解し、説明できる。		○	○
	技能	9-6	販売計画に沿って販売が行われているか、確認できる。			○
	志向・態度	9-7	市場調査、市場分析をおこなって、必要な情報を集めている。			○
	技能	9-8	売上を確認し、計画との差を判断できる。			○
	技能	9-9	生産物の原価を計算できる。			○
	技能	9-10	品目毎に収支計算ができる。			○
	技能	9-11	品目毎に損益分岐点分析ができる。			○
	技能	9-12	作業記録や生産結果、販売結果を分析し、改善方法を提案できる。			○

Ⅲ （実習担当教員）臨地実務実習の考え方

臨地実務実習は、先進的な農林業経営体において学生が実地に学ぶことで、経営体の持つ優れた技術や経営管理等を習得させるために行う。

農林業現場では危険な作業を行うことがある。事故の発生を防ぐためには、安全を心がけて適切に作業を進めることが最も重要である。

臨地実務実習における考え方は次の通りである。

1. 臨地実務実習の目的

先進的な農林業経営体において、経営体の持つ優れた技術や経営管理について実地に学び、農林業経営に必要な知識・技能を身につける。

2. 臨地実務実習の方法

実践的かつ効果的な実習を行うため、農林業経営体における長期間の実習を実施する。臨地実務実習指導者に対し、学生が実習を通じて体験できる事項について安全性を確保できるよう環境の整備を行うように依頼する。合わせて学内においては、臨地実務実習に臨むための技能やリスク、基本的態度について事前準備として整える。

3. 実習先の選定

学生の希望に基づき、臨地実務実習先は選定し、大学、農林事務所、農林業経営体等で調整し、決定する。選定の手順は次の通りである。

- 1) 臨地実務実習担当者は、学生の実習希望先の調査のため、「臨地実務実習希望調書」（様式第1号）を提出させる。
- 2) 臨地実務実習担当者は、臨地実務実習希望調書に基づきヒヤリングを実施し、「臨地実務実習学生カード」（様式第2号）を作成する。
- 3) 臨地実務実習担当者は、学生の希望を考慮して実習受入先一覧の中から受入れ農林業経営体候補を選定する。選定後、「臨地実務実習学生希望一覧表」（様式第3号）を作成し、各農林事務所、受け入れ候補の農林業経営体等と調整し、実習先を決定する。
- 4) 大学は実習受入候補の農林業経営体へ「臨地実務実習依頼書」（様式第4号）及び「臨地実務実習学生カード」を送付して、臨地実務実習の受入れを依頼する。
- 5) 実習受入候補の農林業経営体は、依頼について適当を認めた場合は、承諾書（様式第5号）を提出する。
- 6) 実習先の決定後、大学は「臨地実務実習一覧表」（様式第6号）を作成し、該当する農林事務所に送付する。

(実習受入先選定手順)

手順	時期・項目	作成書類	(作成者)
1	(3学年・5月) 学生の希望調査	臨地実務実習希望調書(様式第1号)	(学生)
2	(3学年・6月) ヒヤリングの実施	臨地実務実習学生カード(様式第2号) 臨地実務実習学生希望一覧表(様式第3号)	(教員) (教員)
3	(3学年・7月) 選定・調整		
4	(3学年・8月) 臨地実務実習依頼	臨地実務実習依頼書(様式第4号)	(大学)
5	(3学年・9月) 実習受入の承諾	承諾書(様式第5号)	(農林業経営体)
6	(3学年・9月) 実習先決定	臨地実務実習先一覧表(様式第6号)	(大学)

4. 臨地実務実習中の学生が当事者となる事故の予防と発生時の対応

臨地実務実習が安全に実施できるよう、学内において安全教育を行う。事故が発生した場合に備え、連絡体制や対応方法などの管理体制を整える。また、事故の発生によって、学生が怪我を負う場合や、実習先に損害を与える場合に備えて、大学が一括で傷害保険及び賠償責任保険に加入する。

5. 臨地実務実習前の準備

臨地実務実習の履修開始前には、各実習の目的に照らし合わせ、学内で必要な技能の学修を行うとともに、臨地実務実習指導要領に基づき、学生としての姿勢・態度・身だしなみ、事故等への対応、その他報告・連絡・相談の徹底について指導を行う。

生産現場では、農作業に伴う事故や怪我、破傷風やダニが媒介する感染症、鉢刺され被害など様々なリスクがある。このため、これらのリスクに対する対策（農作業安全、感染症対策など）について指導し、実習中の危害防止に努める。

6. 臨地実務実習中の指導

臨地実務実習中の指導は、臨地実務実習指導者と専任教員が連携し、随時連絡を取り合い、学生の臨地実務実習に臨む姿勢や課題の進捗状況、学生の抱える悩み等について情報を共有し、指導・援助を行う。

巡回指導は、2週間に1回程度の頻度で行う。実習中は、電話やメール等で連絡を行う。

7. 臨地実務実習後の指導

臨地実務実習後は報告会を実施する。報告会においては、専任教員を配置して、適時、助言・指導、改善に向けた課題提示等を実施し、農林業経営への学修を深めるようにする。また、必要に応じて個別の学修指導を行う。

8. 臨地実務実習の取り扱い

学生ならびに臨地実務実習指導者は、臨地実務実習の内容を遵守するものとする。遵守できない場合は、臨地実務実習を中止することがある。

Ⅳ （臨地実務実習の指導者）臨地実務実習施設への依頼事項

1 臨地実務研修の目的

臨地実務実習は、学生が先進的な農林業経営体において優れた生産技術や経営管理等を実践的に学修させるために行うものである。臨地実務実習の受入先となる農林業経営体は、大学からの依頼を受けて、臨地実務実習の目的が達成できるよう協力を行う。

2 学生への指導事項

- (1) 日常業務に従事させることで、実践的な生産技術や経営管理等について学修できるように、指導する。
- (2) 日常業務や休憩、休日について指導する。
- (3) 業務に関する会合等へは、可能な限り参加させる。
- (4) 日常業務に最低限必要とされる以外、自動車や自動二輪車等の運転をさせることがないようにする。
- (5) 自動車、自動二輪の持ち込みは、許可のない限り、使用させない。
- (6) 実習前後や実習中に、学生が実習先の農林業経営体の経営について質問するため回答について、協力する。

3 大学への報告・連絡・相談

- (1) 実習決定後の9月、臨地実務実習先と大学で、実習内容について確認を行う。
- (2) 臨地実務実習の受入式及び終了式が原則として農林事務所で行われるため出席する。
- (3) 大学の訪問指導や電話等で学生の実習状況確認について協力する。
- (4) 実習期間中の訪問指導以外において、実習指導上、大学との報告・連絡・相談が必要な場合は、随時、連絡するよう依頼し、対応について臨地実務実習指導者と本学の双方が情報共有し、十分な話し合いを行うようにする。また、状況に応じて臨地実務実習担当者（大学側）が訪問する。
- (5) 事故等が発生した際は、速やかに大学担当者まで御連絡をする。
- (6) 台風や地震等の災害発生、その他諸事情による緊急事態が発生した場合には、速やか大学まで連絡する。
- (7) 実習期間中の出欠表を記入する。
- (8) 実習終了時の成績評価は、実習終了後1週間以内に、郵送にて返信する。
- (9) 名目の如何を問わず、学生に現金や現金に類するもの（商品券、電子マネー等）を与えない。

5 連絡体制

連絡先、連絡体制を下記のとおり定める。

<連絡先>

(平日 午前8時30分～午後6時まで)

- ① 生産環境経営学部 臨地実務実習担当

TEL 0538-30-0000

- ② 静岡県立農林環境専門職大学 (代表番号)

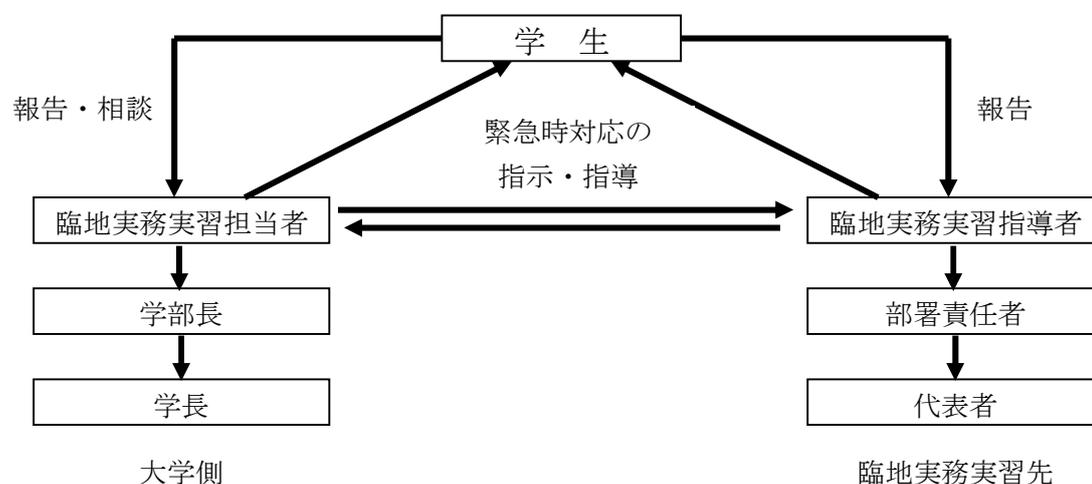
TEL 0538-30-0000

(平日上記時間以外、土・日・祝日)

- ③ 生産環境経営学部 臨地実務実習担当専用携帯電話

TEL 090-0000-0000

<緊急時の連絡体制>



V (全員) 臨地実務実習の評価

1. 目的

臨地実務実習の評価は、農林業経営者としての態度・適性、実習の到達度について、指導の程度と学生の状況について評価し、臨地実務実習の状況を把握することを目的としている。

2. 臨地実務実習指導者による実習の取組状況評価

- (1) 臨地実務実習指導者が毎日、出欠の状況を確認し、臨地実務実習出欠表(様式第7号)へ押印する。最終日には、確認の上、署名捺印する。
- (2) 臨地実務実習指導者は、臨地実務実習評価表(様式第8～10号)を作成し、本学へ提出する。その各項目ならびに総合コメントは、臨地実務実習状況の要点、今後の学修において望まれる点について記載する。
- (3) 臨地実務指導者は、臨地実務実習評価表に署名・捺印し、記載年月日を記入する。

3. 臨地実務実習評価表の記入方法

臨地実務実習指導者は、実習の取組状況について、臨地実務実習評価表を用いて評価する。評価表は、職業人としての適性、生産管理、作業管理、販売管理、財務管理の各項目ならびに総合コメント等について記載するようになっており、下表の評価基準のとおり5段階で評価する。

<評価基準>

評価	内容
A : 優秀	わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
B : 良好	時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
C : 普通	助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
D : やや劣る	多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
E : 劣る	常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。

4. 成績評価及び単位認定

全日程の80%以上の出席で単位認定の資格を得る。実習の成績評価は、①臨地実務実習指導者による取組状況の評価、②学生が作成する自己点検表、③学生が作成する報告書、④臨地実務実習後の報告会での内容を、下表に基づいて総合的に判断して行う。

評価項目	様式等	(作成者)	比率
①評価表	(様式8号、様式9号、様式10号)	(臨地実務実習指導者)	25%
②自己点検表	(様式12号、様式13号、様式14号)	(学生)	10%
③報告書	(様式15号)	(学生)	40%
④報告会	(パワーポイントを使った発表)	(学生)	25%

VI (学生) 臨地実務実習の受講

1. 臨地実務実習の心得

臨地実務実習は、先進的な農林業経営を行う経営体において、優れた技術や経営管理を実践的に習得することが目的である。受入を行ってくれる農林業経営体は、経済社会の中で、日々、経営努力を行っていることを銘記し、真摯な態度で研修に臨む。

1) 臨地実務実習における事前準備

- ・臨地実務実習の受講にあたり、自分自身の将来の方向性などを鑑み、どのような農林業経営体で何を学びたいのか十分に検討を行い、臨地実務実習希望調書を提出する。
- ・臨地実務実習地の決定後は、実習先の名称、所在地、電話番号、交通経路、臨地実務実習指導者等について事前調査を行う。
- ・臨地実務実習施設における学生への便宜（昼食、更衣室、宿泊施設等）についても確認する。

2) 規則・時間の厳守

- ・臨地実務実習施設の規則を知り、厳守する。
- ・就業時間、休憩時間、会議開催時間、臨地実務実習指導者等との面談予定時間等を厳守する。臨地実務実習時間は、臨地実務実習先の就業時間に準ずる。

3) 服装・整容・態度の留意

- ・圃場や山林での作業に適した服装を心がける。
- ・臨地実務実習学生として清楚な整容に勤め、頭髪・爪・化粧等は、不快感を与えないように留意する。
- ・礼儀と作法をわきまえ、謙虚で誠実な態度をとるよう留意する。

4) 健康管理

- ・自身の健康管理には十分留意し、規則正しい生活を送る。
- ・圃場や山林などの現場における危険性の高い作業、感染症リスク等について理解し、予防対策を行う。
- ・やむをえず体調を崩した場合は、臨地実務実習指導者へ連絡し対処する。

5) 指示の遵守

- ・臨地実務実習中は、臨地実務実習指導者の指示に従って行動する。
- ・指示や指導について不明な点がある場合は、質問・相談し、正確な行動をとる。勝手な解釈による行動をしない。

6) 連絡体制

- ・臨地実務実習中の「欠席」、「遅刻」、「早退」及び、通学中または臨地実務実習中に発生した事故等は、臨地実務実習指導者及び本学へ連絡する。

- ・巡回指導以外で、本学教員に相談したい事項が生じた場合は、電話やメールにて連絡する。
- ・(緊急連絡) 緊急事態が発生した場合は、臨地実務実習指導者へ連絡する。また、必要に応じて、大学教員へ連絡する。

<大学の緊急連絡先>

(平日 午前8時30分～午後6時まで)

- ④ 生産環境経営学部 臨地実務実習担当

TEL 0538-30-0000

- ⑤ 静岡県立農林環境専門職大学 (代表番号)

TEL 0538-30-0000

(平日上記時間以外、土・日・祝日)

- ⑥ 生産環境経営学部 臨地実務実習担当専用携帯電話

TEL 090-0000-0000

7) 臨地実務実習施設への通学

- ・臨地実務実習施設へ通学する場合は、原則として公共交通機関を使用する。
- ・臨地実務実習の立地によって自動車等の使用が必要な場合は、臨地実務実習指導者ならびに臨地実務実習施設に自動車等の利用が可能なことを確認し、「自動車等使用届」(様式第12号)を本学へ提出して許可を得る。
- ・事故を未然に防ぐよう、通学時間には時間的余裕をもつ。

8) 臨地実務実習施設への宿泊

- ・立地等により臨地実務実習施設へ宿泊して実習を行う場合は、実習先の生活様式を理解して適切に利用する。
- ・宿泊施設では、居室の整理・整頓を心がけ、適宜、清掃を行う。

9) 学習意欲

- ・感謝の気持ちを忘れずに、積極的に自ら学ぶ姿勢を持って学修に取り組む。
- ・次の視点を持って、学修に取り組む。

【視点】

- ⑦ 現在行っていることは、全体の仕事の流れのなかでどの部分なのか。
- ⑧ 現在行っていることは、何故行うのか。
- ⑨ 現在行っていることで、注意すべきことは何か。
- ⑩ 現在行っていることに、改善すべきことはないか。
- ⑪ 現在行っていることを、どのようにまとめ、記録し、今後の学修に役立たせるか。

- ・臨地実務実習先の方々とコミュニケーションを持つ。実習先の方々の言動のなかから、「社会人の姿勢」を感得し、将来の自分自身の礎石とする。

10) 報告書の提出

- ・実習の中間地点および終了後に、自己点検表（様式第 12～14 号）を記入する。
- ・実習中は毎日、実習記録を記入する。臨地実務実習の終了後は、定められた期限までに実習報告書を提出する（様式第 15 号）。

(様式第1号)

臨地実務実習希望調書

臨地実務実習の目的は、先進的な農林業経営体での実習を通じて経営や技術、考え方などを学修することにあるため、何を学び習得するのか、自分自身の目的を明確に持つことが大切です。

本調書では、この目的を達成できるように、あなたの希望に沿った実習先を選定するための重要な資料となるので、十分に検討して記入してください。

1 希望する内容

作目・畜種	
内容	
理由	

2 希望する地域

地域	
理由	

3 研修先の条件

希望する条件	
その理由	

4 将来の進路希望（○をつける）

自家就農林、独立就農、法人就農、国内研修、海外研修、その他（ ）

5 その他（健康状態等の特別な事情がある場合に記入する）

(様式第2号)

臨地実務実習学生カード

(フリガナ)		男	生年月日	年 月 日
氏名		女	血液型	型 RH +・-
住所 (出身地)	〒 電話 ()			
出身高校名				(写真)
卒業年度				
資格・免許等				
特技				
家族構成	続柄	氏名	年齢	職業
			歳	
			歳	
			歳	
			歳	
経営概況	(○で囲んでください) 専業農家 第1種兼業農家 第2種兼業農家 林家 非農林家			
	基幹作目の種類、規模及び経営の特徴 (専業農家、第1種兼業農家、林家のみ記入してください)			
	種類	規模	経営の種類	
研修の目的・心構え				
備考				

(様式第3号)

臨地実務実習学生希望一覧表

No	氏名	希望内容	時期	希望管内	依頼農林事務所	特記事項

(様式第4号)

〇〇第 号
〇〇年 月 日

〇〇 〇〇様

静岡県立農林環境専門職大学長

〇〇について (依頼)

貴社におかれましては、日々御清栄のこととお喜び申し上げます。

また、日頃より本学の教育に御協力くださり、深く感謝申し上げます。

さて、御多用中のところ誠に恐れ入りますが、下記の学生について実習指導をお願い申し上げます。また、実習指導にあたっては、別添「臨地実務実習依頼事項について」に基づき、御指導頂ければ幸いです。

なお、実習の受入について御承諾頂ける場合は、「隣地実務実習承諾書」を御提出くださいますよう、併せてお願い申し上げます。

記

経営環境学部経営環境学科

学生氏名 〇〇 〇〇

研修期間 〇〇年〇月〇日～〇〇年〇月〇日

<別添>

臨地実務実習依頼事項について

静岡県立農林環境専門職大学

1 臨地実務研修の目的

臨地実務実習は、学生が、先進的な農林業経営体において優れた生産技術や経営管理等を実践的に学修させるために行うものです。

皆様には、学生への指導事項等に御留意いただき、臨地実務実習の目的が達成できますよう御協力をお願いします。

2 学生への指導事項

- (1) 日常業務に従事させることで、実践的な生産技術や経営管理等について学修できるように、御指導をお願いします。
- (2) 日常業務や休憩、休日について御指導をお願いします。
- (3) 業務に関する会合等へは、可能な限り参加させていただきますよう、御協力をお願いします。
- (4) 日常業務に最低限必要とされる以外、自動車や自動二輪車等の運転をさせることがないように御協力をお願いします。
- (5) 自動車、自動二輪の持ち込みは、許可のない限り厳禁となっておりますので、御協力をお願いします。
- (6) 実習前後や実習中に、学生が貴経営体の経営について質問しますので、経営概況や経営の考え方等についてお答えくださいますよう、御協力をお願いします。

3 大学への報告・連絡・相談

- (1) 臨地実務実習の受入式及び終了式を、原則として農林事務所で行いますので、御出席をお願いします。なお、日時は、別途、御連絡いたします。
- (2) 大学より、訪問及び電話等で学生の実習状況を確認しますので、御協力をお願いします。
- (3) 実習期間中の訪問指導以外において、実習指導上、大学との報告・連絡・相談が必要な場合は、随時御連絡ください。その対応について臨地実務実習指導者と本学の双方が情報共有し、十分な話し合いを行うようにします。また、状況に応じて臨地実務実習担当者が訪問します。
- (4) 事故等が発生した場合は、どのような内容であっても、速やかに大学担当者まで御連絡をお願いします。学生は賠償責任保険に加入しております。
- (5) 台風や地震等の災害発生、その他諸事情による緊急事態が発生した場合には、速やかに本学まで連絡してください。本学からの緊急時の連絡体制は別表に示すとおりです。
- (6) 実習終了時の成績評価表は、実習終了後1週間以内に、本学へ郵送にて返信願います。

4 その他

- (1) 名目の如何を問わず、学生に現金や現金に類するもの（商品券、電子マネー等）を与えないようお願いいたします。

<連絡先>

(平日 午前8時30分～午後6時まで)

- ⑫ 生産環境経営学部 臨地実務実習担当

TEL 0538-30-0000

- ⑬ 静岡県立農林環境専門職大学 (代表番号)

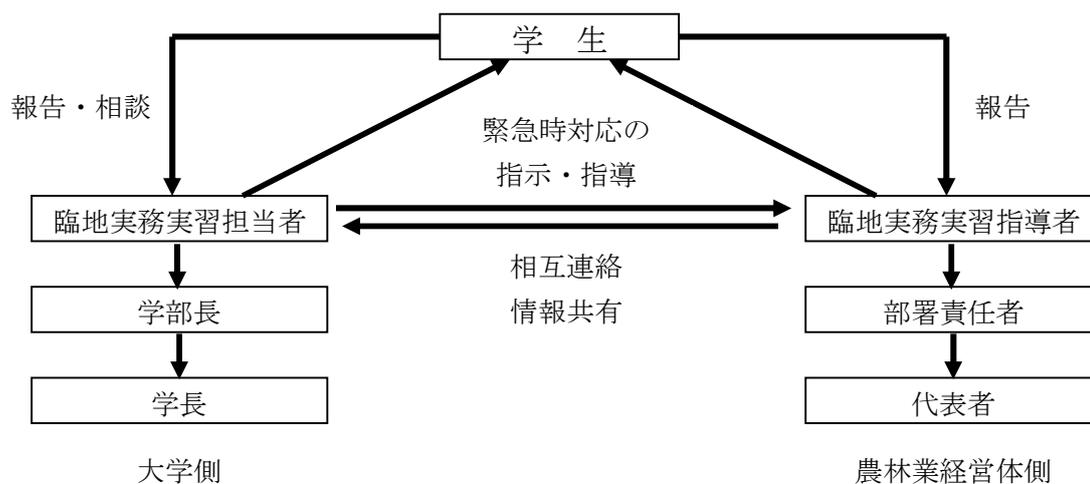
TEL 0538-30-0000

(平日上記時間以外、土・日・祝日)

- ⑭ 生産環境経営学部 臨地実務実習担当専用携帯電話

TEL 090-0000-0000

<緊急時の連絡体制>



(様式第5号)

承 諾 書

〇〇 年 月 日

静岡県立農林環境専門職大学
学長 〇〇 〇〇 様

住所
氏名

〇〇年生産環境経営学部生産環境経営学科学生の臨地実務実習「〇〇〇〇」について、下記のとおり学生の受入を承諾します。

記

- 1 受入学生
生産環境経営学部生産環境経営学科〇年 〇〇 〇〇
- 2 受入期間
〇〇年〇月〇日～〇〇年〇月〇日
- 3 学生の研修内容

- 4 その他
学生の自動車等による通学等 (可 ・ 不可)

(様式第6号)

臨地実務実習先一覧表

No	学生		実習先		研修 期間	特記 事項
	所属 学年 氏名	連絡先 (住所、電話 番号等)	法人名 代表者	連絡先 (住所、電話番 号等)		

(様式第7号)

臨地実務実習出欠表

(講義名：)

実習施設名	
学生氏名	
実習期間	年 月 日 () ~ 年 月 日 ()
講義時間	午前 時 分 ~ 午後 時 分

週	月	火	水	木	金	土	日
第1週							
第2週							
第3週							
第4週							
第5週							
第6週							
第7週							
第8週							
第9週							
第10週							

※ 1 出席日には臨地実務実習指導者が押印してください。

※ 2 「欠席」、「遅刻」、「早退」の場合は、その旨を記載してください。

出席日数	欠席日数	遅刻日数	早退日数

(確認日) 年 月 日

(臨地実務実習指導者名)

印

(様式第8号)

企業実習 評価表

臨地実務実習施設名	
学生氏名	

【出席記録】

期 間	年 月 日～ 年 月 日
-----	--------------

【成績評価基準】

評価	内容
A : 優秀	わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
B : 良好	時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
C : 普通	助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
D : やや劣る	多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
E : 劣る	常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。

I 職業人としての適性

	評 価 項 目	評 価
1	規則や心得を守ることが出来る。	A B C D E
2	与えられた仕事を、責任を持って遂行できる。	A B C D E
3	従業員と協調して仕事出来る。	A B C D E
4	実習学生として必要な基礎知識を有している。	A B C D E
5	農林業に対する探究心・意欲及び創造性が見られる。	A B C D E

コメント

II 生産管理（栽培）

項目		評価事項		評価基準
		No	内容	
1 農業 一般	志向・態度	1-1	農作業を行う際は、安全作業を心がけて行っている。	A B C D E
	志向・態度	1-2	作業記録の必要性を理解し、作業記録を作成している。	A B C D E
	知識・理解	1-3	作物の器官を理解し、説明できる。(葉、茎、根、花、果実)	A B C D E
	知識・理解	1-4	植物生理を理解し、説明できる。(光合成、呼吸、蒸散、吸収、花芽形成)	A B C D E
	知識・理解	1-5	栽培品目毎の生育適温や水分条件等を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-6	被覆資材の種類と特徴、使用方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-7	栽培施設の種類と構造、被覆用資材の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-8	栽培施設に設置される装置の種類と操作方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-9	測定が必要な環境要因(温度、湿度、二酸化炭素等)を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-10	環境測定に必要な機器を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-11	養液栽培の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
2 土づくり	知識・理解	2-1	土性の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-3	土の団粒構造、三層構造を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-4	栽培品目に適したpHなどを理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-5	栽培品目に適した土壌改良や施肥計画が理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-6	肥料の種類や特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-7	土壌診断の必要性を理解し、説明できる。	A B C D E
3 病害虫・ 雑草管理・ 生理障害	知識・理解	3-1	栽培品目の主要な病害や害虫を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	3-4	病害虫の防除の方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	3-6	病害や虫害が発生しにくい環境を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	3-7	栽培品目の生理障害とその原因を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	3-8	生育異常が発生しやすい部位を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	3-11	農薬の安全使用について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	3-13	病害虫防除・雑草防除に使用する機器と操作方法を理解し、説明できる。	A B C D E

4 栽培管理 (草本植物 (野菜・花等))	知識・理解	4-1	作付体系と作型を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-2	播種の方法や発芽方法、発芽率を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-4	接ぎ木の時期・方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-6	必要な苗数を確保するための育苗方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-7	栽培品目毎の育苗期間や生育適温、水分条件を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-11	かん水方法の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-13	うねの種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-15	整枝や誘引方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-17	摘葉、摘花、摘果の作業を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-19	収穫適期の判断方法を理解し、説明できる。	A B C D E
5 栽培管理 (永年植物 (茶・果樹等))	知識・理解	5-1	栽培品目のライフサイクルを理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-2	栽培品目の生育について理解し、説明できる。(葉芽、花芽、開花、結実等)	A B C D E
	知識・理解	5-3	栽培品目毎に、接ぎ木や挿し木、取り木、実生などの苗木の生産・育成方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-5	栽培品目毎に、整枝・せん定の方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-6	(果樹)果樹の栽培品目毎に仕立て方を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-8	(果樹)受粉、摘蕾、摘花、摘果について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-10	(果樹)袋かけに使用する袋の種類を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-12	収穫適期の判断方法を理解し、説明できる。	A B C D E
6 出荷	知識・理解	6-1	等級間の価格の違いを理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-2	出荷調整作業の内容を理解し、説明できる。	A B C D E

コメント

II 生産管理（林業）

項目		評価事項		評価基準
		No	内容	
1 林業の基礎	知識・理解	1-1	森林をつくる樹木の種類、その組織と構造、生理機能、森林の階層構造を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-2	森林と、森林をとりまく気候や地形、土壌の関係を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-3	森林の発達と遷移、遷移の仕組みについて理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-4	森林が持つ様々な機能について理解し、説明できる。	A B C D E
2 調査 森林	知識・理解	2-1	森林調査で収集する調査項目を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-2	森林調査に必要な道具や調査方法を理解し、説明できる。	A B C D E
3 道具 服装	知識・理解	3-1	森林での作業に必要な道具や適切な服装について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	3-2	小型の林業機械の種類や適切な使用方法について理解し、説明できる。	A B C D E
4 造林技術	知識・理解	4-1	人工林における伐採の種類と方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-2	人工林における地ごしらえと植栽の種類と方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-3	人工林における初期保育のための作業の種類や方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-4	人工林における枝打ちの目的や作業方法、必要な道具について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-5	人工林における間伐の目的と作業方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-6	天然林における施業方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-7	山林毎にどのような施業方法が適切か理解し、説明できる。	A B C D E
5 森林保護管理	知識・理解	5-1	森林の観察方法や観察部位について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-2	森林における病害や虫害の種類を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-3	森林に被害を及ぼす鳥獣の種類を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-4	森林の気象被害の発生機構を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-5	森林火災の発生原因や防火対策を理解し、説明できる。	A B C D E
6 収穫技術	知識・理解	6-1	立木の収穫時期、伐倒作業、造材作業、集材作業、高性能林業機械など伐出技術について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-2	集材方法と特徴、伐採した木材の測定方法など、伐採方法と伐出技術について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-3	森林を通る道の種類と働きについて理解し説明できる。	A B C D E

コメント

II 生産管理：畜産

※実習先が牧場・肉牛の場合は項目2と3、養豚の場合は項目4と5、養鶏の場合は項目6と7を使用する。

項目		評価事項		評価基準
		No	内容	
基 礎 畜 産	知識・理解	1-1	家畜の生活環について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-2	経営形態の種類と特徴について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-3	飼料の種類や給与形態について、理解し説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-4	飼料管理の重要ポイントを理解し、説明できる。	A B C D E
2 家 畜 と 飼 料 の 基 礎 知 識 (牛)	知識・理解	2-1	牛の品種と特徴について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-2	牛の飼育方法と特徴について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-3	牛舎の種類とその構造について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-4	牛の消化器の構造と消化のしくみについて理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-5	飼料の種類とその成分について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-6	適切な飼料給与について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-7	疾病とその発生要因、症状、生産性への影響を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-8	生殖器の構造・機能について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-9	繁殖生理について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-10	発情生理と人工授精について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-11	子牛の哺育と育成方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-12	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	A B C D E
3 (牛 業) 管 理	知識・理解	3-1	1日の作業スケジュールについて理解し、説明できる。	A B C D E
4 家 畜 と 飼 料 の 基 礎 知 識 (豚)	知識・理解	4-1	豚の品種と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-2	豚の繁殖方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-3	子豚の飼育方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-4	肥育豚の飼育方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-5	飼料の種類や特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-6	消化器の構造と消化のしくみを理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-7	豚の疾病と予防方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-8	豚舎の環境と衛生管理について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-9	暑熱が豚に及ぼす影響について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-10	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-11	ワクチン接種プログラムを理解し、説明できる。	A B C D E

5 家畜の飼料の基礎知識（鶏）	知識・理解	5-1	鳥の品種と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-2	飼育設備の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-3	鶏舎の設備と機器と使用方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-4	消化器の構造と消化・吸収のしくみを理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-5	飼料の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-6	鶏の疾病と予防方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-7	鳥インフルエンザとその防御方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-8	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-9	（採卵鶏）産卵鶏の産卵と成鶏の管理について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-10	（採卵鶏）採卵の採取とふ化やひなの管理について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-11	（採卵鶏）鶏卵の規格と品質、品質を決める要因を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-12	（肉用鶏）肉用鶏の成長の特徴について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-13	（肉用鶏）入すうから出荷までの管理について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-14	（肉用鶏）肉用鶏の調査方法について理解し、説明できる。	A B C D E
管 6 理 衛 生	知識・理解	6-1	家畜区域と管理区域の違いを理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-2	管理区域の出入り口の消毒の必要性や消毒施設を理解し、説明できる。	A B C D E

コメント

Ⅲ 総合コメント

1. 実習中の状況について御記入ください。

[]

2. 学生の現在の弱点及び今後の課題について御記入ください。

[]

3. その他、お気づきの点があれば御記入ください。

[]

(様式第9号)

経営実習Ⅰ 評価表

臨地実務実習施設名	
学生氏名	

【出席記録】

期 間	年 月 日～ 年 月 日
-----	--------------

【成績評価基準】

評価	内容
A : 優秀	わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
B : 良好	時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
C : 普通	助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
D : やや劣る	多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
E : 劣る	常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。

I 共通

項目	区分	評価事項	評価基準
職業人としての適性	志向・態度	規則や心得を守ることが出来る。	A B C D E
	志向・態度	与えられた仕事を、責任を持って遂行できる。	A B C D E
	志向・態度	従業員と協調して仕事出来る。	A B C D E
	志向・態度	実習学生として必要な基礎知識を有している。	A B C D E
	志向・態度	農林業に対する探究心・意欲及び創造性が見られる。	A B C D E
管生理産	知識・理解 技能	生産に関する基礎知識・技能(※Ⅱの経営種目別)	-
作業管理	志向・態度	日々の作業結果(作業時間、作業条件等)を作業日誌に記録している。	A B C D E
	志向・態度	作業効率を考えて必要な道具、資材、機械等の準備が出来る。	A B C D E
	知識・理解	年間の出荷(生産計画)を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	年間の圃場利用計画を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	労働力・生育状況に見合った作業計画を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	作業に必要な道具、資材、機械等を整理整頓できる。	A B C D E
	技能	作業遅れが生じたときの対応策を考えられる。	A B C D E

コメント

II 生産管理（栽培）

※実習先が野菜・花等の場合項目4、は、茶・果樹の場合は項目5を使用する。

項目		評価事項		評価基準
		No	内容	
1 農業 一般	志向・態度	1-1	農作業を行う際は、安全作業を心がけて行っている。	A B C D E
	志向・態度	1-2	作業記録の必要性を理解し、作業記録を作成している。	A B C D E
	知識・理解	1-3	作物の器官を理解し、説明できる。(葉、茎、根、花、果実)	A B C D E
	知識・理解	1-4	植物生理を理解し、説明できる。(光合成、呼吸、蒸散、吸収、花芽形成)	A B C D E
	知識・理解	1-5	栽培品目毎の生育適温や水分条件等を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-6	被覆資材の種類と特徴、使用方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-7	栽培施設の種類と構造、被覆用資材の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-8	栽培施設に設置される装置の種類と操作方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-9	測定が必要な環境要因(温度、湿度、二酸化炭素等)を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-10	環境測定に必要な機器を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-11	養液栽培の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
2 土 づ く り	知識・理解	2-1	土性の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	2-2	土壌を観察し、土性を判断できる。	A B C D E
	知識・理解	2-3	土の団粒構造、三層構造を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-4	栽培品目に適したpHなどを理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-5	栽培品目に適した土壌改良や施肥計画が理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-6	肥料の種類や特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-7	土壌診断の必要性を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	2-8	土壌診断や、草勢、着果具合など生育にあわせて、施肥・追肥の計画を立てられる。	A B C D E

3 病害虫・雑草管理・生理障害	知識・理解	3-1	栽培品目の主要な病害や害虫を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	3-2	病害や虫害が発生した場合、その原因を判断できる。	A B C D E
	技能	3-3	適切な防除時期を判断できる。	A B C D E
	知識・理解	3-4	病害虫の防除の方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	3-5	病害虫に対して適切な防除資材を判断できる。	A B C D E
	知識・理解	3-6	病害や虫害が発生しにくい環境を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	3-7	栽培品目の生理障害とその原因を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	3-8	生育異常が発生しやすい部位を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	3-9	生育異常が発見でき、その原因を判断できる。	A B C D E
	技能	3-10	生育異常に対する対応策を判断できる。	A B C D E
	知識・理解	3-11	農薬の安全使用について理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	3-12	農薬のラベルを見て、適性作物、使用量・使用濃度の確認が出来る。	A B C D E
	知識・理解	3-13	病害虫防除・雑草防除に使用する機器と操作方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	3-14	事故防止のための手段を行っている。	A B C D E
4 栽培管理（草本植物（野菜・花等））	知識・理解	4-1	作付体系と作型を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-2	播種の方法や発芽方法、発芽率を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	4-3	栽培品目や作付体系にあわせて、適切に播種ができる。	A B C D E
	知識・理解	4-4	接ぎ木の時期・方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	4-5	栽培品目にあわせて、適切に接ぎ木が出来る。	A B C D E
	知識・理解	4-6	必要な苗数を確保するための育苗方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-7	栽培品目毎の育苗期間や生育適温、水分条件を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	4-8	育苗中に、気象変化に応じて、温度管理・水管理ができる。	A B C D E
	技能	4-9	栽培品目にあわせて、育苗をし、必要な苗数を確保できる。	A B C D E
	技能	4-10	栽培品目にあわせて、適切に定植できる	A B C D E
	知識・理解	4-11	かん水方法の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	4-12	栽培品目にあわせて、かん水が適切にできる。	A B C D E
	知識・理解	4-13	うねの種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E

4 栽培管理 (草本植物 (野菜・花等))	技能	4-14	栽培品目にあわせて、うね立てができる。	A B C D E
	知識・理解	4-15	整枝や誘引方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	4-16	栽培品目にあわせて、整枝、誘引ができる。	A B C D E
	知識・理解	4-17	摘葉、摘花、摘果の作業を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	4-18	生育状況に合わせて、摘葉、摘花、摘果すべき箇所を理解し、実施できる。	A B C D E
	知識・理解	4-19	収穫適期の判断方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	4-20	収穫適期を判断し、適切な方法で収穫できる。	A B C D E
5 栽培管理 (永年植物 (茶・果樹等))	知識・理解	5-1	栽培品目のライフサイクルを理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-2	栽培品目の生育について理解し、説明できる。(葉芽、花芽、開花、結実等)	A B C D E
	知識・理解	5-3	栽培品目毎に、接ぎ木や挿し木、取り木、実生などの苗木の生産・育成方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	5-4	栽培品目毎に、接ぎ木や挿し木、取り木、実生などの方法で、苗木の増殖ができる。	A B C D E
	知識・理解	5-5	栽培品目毎に、整枝・せん定の方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-6	(果樹)果樹の栽培品目毎に仕立て方を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	5-7	(果樹)果樹の栽培品目毎に、適切な誘引ができる。	A B C D E
	知識・理解	5-8	(果樹)受粉、摘蕾、摘花、摘果について理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	5-9	(果樹)栽培品目毎に、適切に受粉、摘蕾、摘花、摘果ができる。	A B C D E
	知識・理解	5-10	(果樹)袋かけに使用する袋の種類を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	5-11	(果樹)栽培品目ごとに、袋かけの適切な時期を判断し、実行できる。	A B C D E
	知識・理解	5-12	収穫適期の判断方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	5-13	収穫適期を判断し、適切な方法で収穫できる。	A B C D E
6 出荷	知識・理解	6-1	等級間の価格の違いを理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-2	出荷調整作業の内容を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	6-3	栽培品目毎に、適切に出荷調整ができる。	A B C D E
	技能	6-4	出荷調整時に、品質低下を防ぐことができる。	A B C D E
7 生産管理	知識・理解	7-1	生産計画を理解し、説明できる	A B C D E
	知識・理解	7-2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	7-3	生産計画を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	7-5	販売計画を理解し、説明できる。	A B C D E

コメント

II 生産管理（林業）

項目		評価事項		評価基準
		No	内容	
1 林業の基礎	知識・理解	1-1	森林をつくる樹木の種類、その組織と構造、生理機能、森林の階層構造を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-2	森林と、森林をとりまく気候や地形、土壌の関係を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-3	森林の発達と遷移、遷移の仕組みについて理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	1-4	森林の種類について理解し、分類できる。	A B C D E
	知識・理解	1-5	森林が持つ様々な機能について理解し、説明できる。	A B C D E
2 森林調査	知識・理解	2-1	森林調査で収集する調査項目を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-2	森林調査に必要な道具や調査方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	2-3	森林調査を実施できる。	A B C D E
3 服装と道具	知識・理解	3-1	森林での作業に必要な道具や適切な服装について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	3-2	小型の林業機械の種類や適切な使用方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	3-3	小型の林業機械を安全に使用できる。	A B C D E
	技能	3-4	作業にあった服装や道具を選択できる。	A B C D E
4 造林技術	知識・理解	4-1	人工林における伐採の種類と方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-2	人工林における地ごしらえと植栽の種類と方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-3	人工林における初期保育のための作業の種類や方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-4	人工林における枝打ちの目的や作業方法、必要な道具について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-5	人工林における間伐の目的と作業方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	4-6	人工林の造林技術を実施できる。	A B C D E
	知識・理解	4-7	天然林における施業方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-8	山林毎にどのような施業方法が適切か理解し、説明できる。	A B C D E
5 森林保護管理	知識・理解	5-1	森林の観察方法や観察部位について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-2	森林における病害や虫害の種類を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-3	森林に被害を及ぼす鳥獣の種類を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-4	森林の気象被害の発生機構を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-5	森林火災の発生原因や防火対策を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	5-6	森林被害に対し、対策を実施できる。	A B C D E

6 収穫技術	知識・理解	6-1	立木の収穫時期、伐倒作業、造材作業、集材作業、高性能林業機械など伐出技術について理	A B C D E
	知識・理解	6-2	集材方法と特徴、伐採した木材の測定方法など、伐採方法と伐出技術について理解し、説明	A B C D E
	知識・理解	6-3	森林を通る道の種類と働きについて理解し説明できる。	A B C D E
7 生産管理	知識・理解	7-1	生産計画を理解し、説明できる	A B C D E
	知識・理解	7-2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	7-3	生産計画を理解し、説明ができる。	A B C D E
	知識・理解	7-5	販売計画を理解し、説明できる。	A B C D E

コメント

II 生産管理（畜産）

項目		評価事項		評価基準
		No	内容	
1 畜産基礎	知識・理解	1-1	家畜の生活環境について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-2	経営形態の種類と特徴について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-3	飼料の種類や給与形態について、理解し説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-4	飼料管理の重要ポイントを理解し、説明できる。	A B C D E
2 家畜と飼料の基礎知識（牛）	知識・理解	2-1	牛の品種と特徴について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-2	牛の飼育方法と特徴について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-3	牛舎の種類とその構造について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-4	牛の消化器の構造と消化のしくみについて理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-5	飼料の種類とその成分について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-6	適切な飼料給与について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-7	疾病とその発生要因、症状、生産性への影響を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-8	生殖器の構造・機能について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-9	繁殖生理について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-10	発情生理と人工授精について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-11	子牛の哺育と育成方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-12	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	A B C D E
3 管理作業（牛）	知識・理解	3-1	1日の作業スケジュールについて理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	3-2	(施設) 通路の点検が出来る。	A B C D E
	技能	3-3	(施設) 飼料の管理、掃き寄せが出来る。	A B C D E
	技能	3-4	(施設) 飼槽の管理が出来る。	A B C D E
	技能	3-5	(施設) 水槽の管理が出来る。	A B C D E
	技能	3-6	(施設) 牛の快適な環境を理解し、牛舎の換気が出来る。	A B C D E
	技能	3-7	(施設) 牛床の管理が出来る	A B C D E
	技能	3-8	(施設) 外部寄生虫の防除方法を理解し、実践できる。	A B C D E
	技能	3-9	(施設) 牛舎内の牛の観察をして、異常を発見できる。	A B C D E
	技能	3-10	(健康の点検) 食欲の有無を観察し、異常が発見できる。	A B C D E

3 管理作業（牛）	技能	3-11	(健康の点検)目の観察をし、異常を発見できる。	A B C D E
	技能	3-12	(健康の点検)鼻の観察をし、異常が発見できる。	A B C D E
	技能	3-13	(健康の点検)挙動を観察し、その疾病や課題が発見できる。	A B C D E
	技能	3-14	(健康の点検)尾根部や尾の状態を観察し、異常が発見できる。	A B C D E
	技能	3-15	(健康の点検)呼吸の状態を観察し、異常が発見できる。	A B C D E
	技能	3-16	(健康の点検)発咳を発見し、原因がわかる。	A B C D E
	技能	3-17	(健康の点検)牛の適正な体温を理解し、異常時は発見できる。	A B C D E
	技能	3-18	(健康の点検)被毛の状態を観察し、異常を発見できる。	A B C D E
	技能	3-19	(繁殖)発情の周期を理解し、観察・発見できる。	A B C D E
	技能	3-20	(乳牛)搾乳の手順を理解し、実践できる。	A B C D E
4 家畜と飼料の基礎知識（豚）	知識・理解	4-1	豚の品種と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-2	豚の繁殖方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-3	子豚の飼育方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-4	肥育豚の飼育方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-5	飼料の種類や特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-6	消化器の構造と消化のしくみを理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-7	豚の疾病と予防方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-8	豚舎の環境と衛生管理について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-9	暑熱が豚に及ぼす影響について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-10	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-11	ワクチン接種プログラムを理解し、説明できる。	A B C D E
(豚)5 管理作業	技能	5-1	子豚哺乳・育成時の適温について理解し、適切な暖房使用ができる。	A B C D E
	技能	5-2	豚の習性を理解し、正しい接し方ができる。	A B C D E
	技能	5-3	適切に飼槽、飲水の管理ができる。	A B C D E
	技能	5-4	子豚の去勢方法について理解し、適切に実施できる。	A B C D E
	技能	5-5	繁殖豚の発情メカニズム、交配、分娩について理解し、実践できる。	A B C D E
	技能	5-6	飼料の保存や取扱いについて理解し、実践できる。	A B C D E
	技能	5-7	暑熱時の適切な管理方法について理解し、実践できる。	A B C D E
6 家畜の飼料の基礎知識（鶏）	知識・理解	6-1	鳥の品種と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-2	飼育設備の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-3	鶏舎の設備と機器と使用方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-4	消化器の構造と消化・吸収のしくみを理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-5	飼料の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-6	鶏の疾病と予防方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-7	鳥インフルエンザとその防御方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-8	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-9	(採卵鶏)産卵鶏の産卵と成鶏の管理について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-10	(採卵鶏)採卵の採取とふ化やひなの管理について理解し、説明できる。	A B C D E

(6) 鶏 家畜の飼料の基礎知識	知識・理解	6-11	(採卵鶏) 鶏卵の規格と品質、品質を決める要因を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-12	(肉用鶏) 肉用鶏の成長の特徴について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-13	(肉用鶏) 入すうから出荷までの管理について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-14	(肉用鶏) 肉用鶏の調査方法について理解し、説明できる。	A B C D E
7 管理作業(鶏)	技能	7-1	育すう期の適切な温度・湿度を理解し、適切な温度・湿度・換気管理ができる。	A B C D E
	技能	7-2	生育期に合わせて、適切な給餌器・給水器管理ができる。	A B C D E
	技能	7-3	デビークを行う理由を理解し、適切に実施できる。	A B C D E
	技能	7-4	適切な体重を理解し、適切な時期に体重測定が実施できる。	A B C D E
	技能	7-5	飼料の適切な管理方法について理解し、実施できる。	A B C D E
	技能	7-6	鶏舎の適切な管理温度を理解し、換気や防寒対策ができる。	A B C D E
8 衛生管理	知識・理解	8-1	家畜区域と管理区域の違いを理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	8-2	管理区域の出入り口の消毒の必要性や消毒施設を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	8-3	消毒器・消毒層・消毒帯の管理方法を理解し、実践できる。	A B C D E
	技能	8-4	消毒薬の使用上の注意を理解し、適切に使用できる。	A B C D E
	技能	8-5	衛生管理区域内への鳥類、小動物の侵入の必要性を理解し、実施できる。	A B C D E
9 生産管理	知識・理解	9-1	生産計画を理解し、説明できる	A B C D E
	知識・理解	9-2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	9-3	生産計画を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	9-5	販売計画を理解し、説明できる。	A B C D E

コメント

Ⅲ 総合コメント

1. 実習中の状況について御記入ください。

[]

2. 学生の現在の弱点及び今後の課題について御記入ください。

[]

3. その他、お気づきの点があれば御記入ください。

[]

(様式第 10 号)

経営実習Ⅱ 評価表

臨地実務実習施設名	
学生氏名	

【出席記録】

期 間	年 月 日～ 年 月 日
-----	--------------

【成績評価基準】

評価	内容
A : 優秀	わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
B : 良好	時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
C : 普通	助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
D : やや劣る	多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
E : 劣る	常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。

I 共通

項目	区分	評価事項	評価基準
職業人としての適性	志向・態度	規則や心得を守ることが出来る。	A B C D E
	志向・態度	与えられた仕事を、責任を持って遂行できる。	A B C D E
	志向・態度	従業員と協調して仕事出来る。	A B C D E
	志向・態度	実習学生として必要な基礎知識を有している。	A B C D E
	志向・態度	農林業に対する探究心・意欲及び創造性が見られる。	A B C D E
生産管理	知識・理解 技能	生産に関する基礎知識・技能(※経営種目別)	-
作業管理	志向・態度	日々の作業結果(作業時間、作業条件等)を作業日誌に記録している。	A B C D E
	志向・態度	作業効率を考慮して必要な道具、資材、機械等の準備が出来る。	A B C D E
	知識・理解	年間の出荷(生産計画)を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	年間の圃場利用計画を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	労働力・生育状況に見合った作業計画を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	作業に必要な道具、資材、機械等を整理整頓できる。	A B C D E
	技能	作業遅れが生じたときの対応策を考えられる。	A B C D E
販売管理	志向・態度	市況情報を知っている。	A B C D E
	技能	市況や生産技術を考慮して、適切な売上・単価目標を決めることが出来る。	A B C D E
財務管理	知識・理解	減価償却に関する知識など、簿記・会計理論を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	借入金を返済するための資金繰り計画の立て方を理解し、説明できる	A B C D E
	知識・理解	収入や支出の時期、金額を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	単位当たり(収量や面積あたり)の資材費を把握できる。	A B C D E

コメント

II 生産管理（栽培）

項目		評価事項		評価基準
		No	内容	
生産管理	知識・理解	1	生産計画を理解し、説明できる	A B C D E
	知識・理解	2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	3	生産計画を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	4	作業記録を集計し、分析できる。	A B C D E
	知識・理解	5	販売計画を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	6	販売計画に沿って販売が行われているか、確認できる。	A B C D E
	志向・態度	7	市場調査、市場分析をおこなって、必要な情報を集めている。	A B C D E
	技能	8	売上を確認し、計画との差を判断できる。	A B C D E
	技能	9	生産物の原価を計算できる。	A B C D E
	技能	10	栽培品目毎に収支計算ができる。	A B C D E
	技能	11	栽培品目毎に損益分岐点分析ができる。	A B C D E
	技能	12	作業記録や生産結果、販売結果を分析し、改善方法を提案できる。	A B C D E

コメント

II 生産管理（林業）

項目		評価事項		評価基準
		No	内容	
生産管理	知識・理解	1	生産計画を理解し、説明できる	A B C D E
	知識・理解	2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	3	生産計画を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	4	作業記録を集計し、分析できる。	A B C D E
	知識・理解	5	販売計画を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	6	販売計画に沿って販売が行われているか、確認できる。	A B C D E
	志向・態度	7	市場調査、市場分析をおこなって、必要な情報を集めている。	A B C D E
	技能	8	売上を確認し、計画との差を判断できる。	A B C D E
	技能	9	生産物の原価を計算できる。	A B C D E
	技能	10	品目毎に収支計算ができる。	A B C D E
	技能	11	品目毎に損益分岐点分析ができる。	A B C D E
	技能	12	作業記録や生産結果、販売結果を分析し、改善方法を提案できる。	A B C D E

コメント

II 生産管理（畜産）

項目		評価事項		評価基準
		No	内容	
生産管理	知識・理解	1	生産計画を理解し、説明できる	A B C D E
	知識・理解	2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	3	生産計画を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	4	作業記録を集計し、分析できる。	A B C D E
	知識・理解	5	販売計画を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	6	販売計画に沿って販売が行われているか、確認できる。	A B C D E
	志向・態度	7	市場調査、市場分析をおこなって、必要な情報を集めている。	A B C D E
	技能	8	売上を確認し、計画との差を判断できる。	A B C D E
	技能	9	生産物の原価を計算できる。	A B C D E
	技能	10	品目毎に収支計算ができる。	A B C D E
	技能	11	品目毎に損益分岐点分析ができる。	A B C D E
	技能	12	作業記録や生産結果、販売結果を分析し、改善方法を提案できる。	A B C D E

コメント

Ⅲ 総合コメント

1. 実習中の状況について御記入ください。



2. 学生の現在の弱点及び今後の課題について御記入ください。



3. その他、お気づきの点があれば御記入ください。



(様式第 11 号)

自動車等使用届

平成 年 月 日

農林環境専門職大学長 様

本人氏名 ⑩

保護者氏名 ⑩

下記のとおり、(講義名)において自動車等を使用したいので届け出ます。
なお、使用に際しては別紙に従います。また、万が一事故を起こしたときは、自己の責任で処理することを確約します。

記

1 使用自動車等

車名	
車色	
ナンバー	

2 免許

免許証番号	
取得年月日	

3 任意保険の加入状況

	金額	期間	会社名
対人			
対物			
自損			
搭乗者			

(別紙)

臨地実務実習における自動車等の使用について

1 手続き

自動車等の使用を希望する学生は、研修先の承諾と保護者の同意を基に自動車等使用届けを大学に提出する。

2 遵守事項

- (1) 事故等に対する十分な賠償責任を持つ保険に加入する。
- (2) 交通関係法規を守り、常に安全に努める。
- (3) 実習先の指定された場所に駐車し、無断駐車や違法駐車をしない。
- (4) その他、大学の指示に従うこと。

3 事故、違反の報告

交通事故または道路交通法違反を起こした場合は、速やかに大学へ報告する。

4 その他

- (1) 自動車等使用届の提出時に、免許証及び任意保険証を提示すること。
- (2) 実習場所の内外を問わず、自動車等の事故等についてい大学は一切の責任を負わない。

(様式第 12 号)

企業実習 自己点検表

臨地実務実習施設名	
学生氏名	

中間評価記載日	年 月 日
最終評価記載日	年 月 日

【評価基準】

評価	内容
A : できている	助言・指導を特に必要とせず、良く理解し十分に積極的に行動できている。
B : ややできている	助言・指導を時として必要だが、理解し積極的に行動できている。
C : 普通	助言・指導があれば、何とか理解して行動できている。
D : ややできていない	助言・指導があっても理解度が低くて消極的であり、なかなか行動できていない。
E : 全くできていない	助言・指導があっても、理解できないため、行動ができない。

I 職業人としての適性

	評価項目	中間評価	最終評価
1	規則や心得を守ることが出来る。	A B C D E	A B C D E
2	与えられた仕事を、責任を持って遂行できる。	A B C D E	A B C D E
3	従業員と協調して仕事出来る。	A B C D E	A B C D E
4	実習学生として必要な基礎知識を有している。	A B C D E	A B C D E
5	農林業に対する探究心・意欲及び創造性が見られる。	A B C D E	A B C D E

II 生産管理（栽培）

項目	評価事項		中間評価	最終評価	
	No	内容			
1 農業一般	志向・態度	1-1	農作業を行う際は、安全作業を心がけて行っている。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	1-2	作業記録の必要性を理解し、作業記録を作成している。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-3	作物の器官を理解し、説明できる。(葉、茎、根、花、果実)	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-4	植物生理を理解し、説明できる。(光合成、呼吸、蒸散、吸収、花芽形成)	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-5	栽培品目毎の生育適温や水分条件等を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-6	被覆資材の種類と特徴、使用方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-7	栽培施設の種類と構造、被覆用資材の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-8	栽培施設に設置される装置の種類と操作方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-9	測定が必要な環境要因(温度、湿度、二酸化炭素等)を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-10	環境測定に必要な機器を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-11	養液栽培の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
2 土づくり	知識・理解	2-1	土性の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-3	土の団粒構造、三層構造を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-4	栽培品目に適したpHなどを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-5	栽培品目に適した土壌改良や施肥計画が理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-6	肥料の種類や特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-7	土壌診断の必要性を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
3 病害虫・雑草管理・生理障害	知識・理解	3-1	栽培品目の主要な病害や害虫を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-4	病害虫の防除の方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-6	病害や虫害が発生しにくい環境を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-7	栽培品目の生理障害とその原因を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-8	生育異常が発生しやすい部位を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-11	農薬の安全使用について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-13	病害虫防除・雑草防除に使用する機器と操作方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E

4	栽培管理 (草本植物 (野菜・花等))	知識・理解	4-1	作付体系と作型を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	4-2	播種の方法や発芽方法、発芽率を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	4-4	接ぎ木の時期・方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	4-6	必要な苗数を確保するための育苗方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	4-7	栽培品目毎の育苗期間や生育適温、水分条件を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	4-11	かん水方法の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	4-13	うねの種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	4-15	整枝や誘引方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	4-17	摘葉、摘花、摘果の作業を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	4-19	収穫適期の判断方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
5	栽培管理 (永年植物 (茶・果樹等))	知識・理解	5-1	栽培品目のライフサイクルを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	5-2	栽培品目の生育について理解し、説明できる。(葉芽、花芽、開花、結実等)	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	5-3	栽培品目毎に、接ぎ木や挿し木、取り木、実生などの苗木の生産・育成方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	5-5	栽培品目毎に、整枝・せん定の方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	5-6	(果樹)果樹の栽培品目毎に仕立て方を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	5-8	(果樹)受粉、摘蕾、摘花、摘果について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	5-10	(果樹)袋かけに使用する袋の種類を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	5-12	収穫適期の判断方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
6	出荷	知識・理解	6-1	等級間の価格の違いを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	6-2	出荷調整作業の内容を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E

II 生産管理（林業）

項目		評価事項		中間評価	最終評価
		No	内容		
1 林業の基礎	知識・理解	1-1	森林をつくる樹木の種類、その組織と構造、生理機能、森林の階層構造を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-2	森林と、森林をとりまく気候や地形、土壌の関係を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-3	森林の発達と遷移、遷移の仕組みについて理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-4	森林が持つ様々な機能について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
2 調査 森林	知識・理解	2-1	森林調査で収集する調査項目を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-2	森林調査に必要な道具や調査方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
3 道具 服装	知識・理解	3-1	森林での作業に必要な道具や適切な服装について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-2	小型の林業機械の種類や適切な使用方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
4 造林技術	知識・理解	4-1	人工林における伐採の種類と方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-2	人工林における地ごしらえと植栽の種類と方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-3	人工林における初期保育のための作業の種類や方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-4	人工林における枝打ちの目的や作業方法、必要な道具について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-5	人工林における間伐の目的と作業方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-6	天然林における施業方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-7	山林毎にどのような施業方法が適切か理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
5 森林保護管理	知識・理解	5-1	森林の観察方法や観察部位について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-2	森林における病害や虫害の種類を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-3	森林に被害を及ぼす鳥獣の種類を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-4	森林の気象被害の発生機構を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-5	森林火災の発生原因や防火対策を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
6 収穫技術	知識・理解	6-1	立木の収穫時期、伐倒作業、造材作業、集材作業、高性能林業機械など伐出技術について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	6-2	集材方法と特徴、伐採した木材の測定方法など、伐採方法と伐出技術について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	6-3	森林を通る道の種類と働きについて理解し説明できる。	A B C D E	A B C D E

II 生産管理（畜産）

項目		評価事項		中間評価	最終評価
		No	内容		
1 畜産基礎	知識・理解	1-1	家畜の生活環について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-2	経営形態の種類と特徴について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-3	飼料の種類や給与形態について、理解し説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-4	飼料管理の重要ポイントを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
2 家畜と飼料の基礎知識（牛）	知識・理解	2-1	牛の品種と特徴について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-2	牛の飼育方法と特徴について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-3	牛舎の種類とその構造について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-4	牛の消化器の構造と消化のしくみについて理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-5	飼料の種類とその成分について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-6	適切な飼料給与について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-7	疾病とその発生要因、症状、生産性への影響を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-8	生殖器の構造・機能について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-9	繁殖生理について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-10	発情生理と人工授精について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-11	子牛の哺育と育成方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-12	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
3 （牛） 管理作業	知識・理解	3-1	1日の作業スケジュールについて理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
4 家畜と飼料の基礎知識（豚）	知識・理解	4-1	豚の品種と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-2	豚の繁殖方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-3	子豚の飼育方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-4	肥育豚の飼育方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-5	飼料の種類や特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-6	消化器の構造と消化のしくみを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-7	豚の疾病と予防方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-8	豚舎の環境と衛生管理について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-9	暑熱が豚に及ぼす影響について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-10	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-11	ワクチン接種プログラムを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E

5 家畜の飼料の基礎知識（鶏）	知識・理解	5-1	鳥の品種と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-2	飼育設備の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-3	鶏舎の設備と機器と使用方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-4	消化器の構造と消化・吸収のしくみを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-5	飼料の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-6	鶏の疾病と予防方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-7	鳥インフルエンザとその防御方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-8	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-9	（採卵鶏）産卵鶏の産卵と成鶏の管理について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-10	（採卵鶏）採卵の採取とふ化やひなの管理について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-11	（採卵鶏）鶏卵の規格と品質、品質を決める要因を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-12	（肉用鶏）肉用鶏の成長の特徴について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-13	（肉用鶏）入すうから出荷までの管理について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-14	（肉用鶏）肉用鶏の調査方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
6 管理衛生	知識・理解	6-1	家畜区域と管理区域の違いを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	6-2	管理区域の出入り口の消毒の必要性や消毒施設を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E

Ⅲ 自分自身が頑張っていること、困っていること（中間評価時）

A large, empty, rounded rectangular bracketed area, intended for the user to write their response to the question above. The brackets are on the left and right sides, with the top and bottom edges being curved.

(様式第 13 号)

経営実習 I 自己点検表

臨地実務実習施設名	
学生氏名	

中間評価記載日	年 月 日
最終評価記載日	年 月 日

【評価基準】

評価	内容
A : できている	助言・指導を特に必要とせず、良く理解し十分に積極的に行動できている。
B : ややできている	助言・指導を時として必要だが、理解し積極的に行動できている。
C : 普通	助言・指導があれば、何とか理解して行動できている。
D : ややできていない	助言・指導があっても理解度が低くて消極的であり、なかなか行動できていない。
E : 全くできていない	助言・指導があっても、理解できないため、行動ができない。

I 共通

項目	区分	評価事項	中間評価	最終評価
職業人としての適性	志向・態度	規則や心得を守ることが出来る。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	与えられた仕事を、責任を持って遂行できる。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	従業員と協調して仕事出来る。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	実習学生として必要な基礎知識を有している。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	農林業に対する探究心・意欲及び創造性が見られる。	A B C D E	A B C D E
管生理産	知識・理解 技能	生産に関する基礎知識・技能(※Ⅱの経営種目別)	-	-
作業管理	志向・態度	日々の作業結果(作業時間、作業条件等)を作業日誌に記録している。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	作業効率を考えて必要な道具、資材、機械等の準備が出来る。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	年間の出荷(生産計画)を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	年間の圃場利用計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	労働力・生育状況に見合った作業計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	作業に必要な道具、資材、機械等を整理整頓できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	作業遅れが生じたときの対応策を考えられる。	A B C D E	A B C D E

II 生産管理（栽培）

項目	評価事項		中間評価	最終評価	
	No	内容			
1 農業一般	志向・態度	1-1	農作業を行う際は、安全作業を心がけて行っている。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	1-2	作業記録の必要性を理解し、作業記録を作成している。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-3	作物の器官を理解し、説明できる。(葉、茎、根、花、果実)	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-4	植物生理を理解し、説明できる。(光合成、呼吸、蒸散、吸収、花芽形成)	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-5	栽培品目毎の生育適温や水分条件等を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-6	被覆資材の種類と特徴、使用方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-7	栽培施設の種類と構造、被覆用資材の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-8	栽培施設に設置される装置の種類と操作方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-9	測定が必要な環境要因(温度、湿度、二酸化炭素等)を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-10	環境測定に必要な機器を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-11	養液栽培の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
2 土づくり	知識・理解	2-1	土性の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	2-2	土壌を観察し、土性を判断できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-3	土の団粒構造、三層構造を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-4	栽培品目に適したpHなどを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-5	栽培品目に適した土壌改良や施肥計画が理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-6	肥料の種類や特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-7	土壌診断の必要性を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	2-8	土壌診断や、草勢、着果具合など生育にあわせて、施肥・追肥の計画を立てられる。	A B C D E	A B C D E

3 病虫害・雑草管理・生理障害	知識・理解	3-1	栽培品目の主要な病害や害虫を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-2	病害や虫害が発生した場合、その原因を判断できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-3	適切な防除時期を判断できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-4	病虫害の防除の方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-5	病虫害に対して適切な防除資材を判断できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-6	病害や虫害が発生しにくい環境を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-7	栽培品目の生理障害とその原因を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-8	生育異常が発生しやすい部位を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-9	生育異常が発見でき、その原因を判断できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-10	生育異常に対する対応策を判断できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-11	農薬の安全使用について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-12	農薬のラベルを見て、適性作物、使用量・使用濃度の確認が出来る。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-13	病虫害防除・雑草防除に使用する機器と操作方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-14	事故防止のための手段を行っている。	A B C D E	A B C D E
4 栽培管理（草本植物（野菜・花等））	知識・理解	4-1	作付体系と作型を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-2	播種の方法や発芽方法、発芽率を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	4-3	栽培品目や作付体系にあわせて、適切に播種ができる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-4	接ぎ木の時期・方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	4-5	栽培品目にあわせて、適切に接ぎ木が出来る。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-6	必要な苗数を確保するための育苗方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-7	栽培品目毎の育苗期間や生育適温、水分条件を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	4-8	育苗中に、気象変化に応じて、温度管理・水管理ができる。	A B C D E	A B C D E
	技能	4-9	栽培品目にあわせて、育苗をし、必要な苗数を確保できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	4-10	栽培品目にあわせて、適切に定植できる	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-11	かん水方法の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	4-12	栽培品目にあわせて、かん水が適切にできる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-13	うねの種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E

栽培管理 (草本植物 (野菜・花等))	技能	4-14	栽培品目にあわせて、うね立てができる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-15	整枝や誘引方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	4-16	栽培品目にあわせて、整枝、誘引ができる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-17	摘葉、摘花、摘果の作業を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	4-18	生育状況に合わせて、摘葉、摘花、摘果すべき箇所を理解し、実施できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-19	収穫適期の判断方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	4-20	収穫適期を判断し、適切な方法で収穫できる。	A B C D E	A B C D E
栽培管理 (永年植物 (茶・果樹等))	知識・理解	5-1	栽培品目のライフサイクルを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-2	栽培品目の生育について理解し、説明できる。(葉芽、花芽、開花、結実等)	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-3	栽培品目毎に、接ぎ木や挿し木、取り木、実生などの苗木の生産・育成方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	5-4	栽培品目毎に、接ぎ木や挿し木、取り木、実生などの方法で、苗木の増殖ができる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-5	栽培品目毎に、整枝・せん定の方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-6	(果樹)果樹の栽培品目毎に仕立て方を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	5-7	(果樹)果樹の栽培品目毎に、適切な誘引ができる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-8	(果樹)受粉、摘蕾、摘花、摘果について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	5-9	(果樹)栽培品目毎に、適切に受粉、摘蕾、摘花、摘果ができる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-10	(果樹)袋かけに使用する袋の種類を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	5-11	(果樹)栽培品目ごとに、袋かけの適切な時期を判断し、実行できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-12	収穫適期の判断方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	5-13	収穫適期を判断し、適切な方法で収穫できる。	A B C D E	A B C D E
出荷	知識・理解	6-1	等級間の価格の違いを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	6-2	出荷調整作業の内容を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	6-3	栽培品目毎に、適切に出荷調整ができる。	A B C D E	A B C D E
	技能	6-4	出荷調整時に、品質低下を防ぐことができる。	A B C D E	A B C D E
生産管理	知識・理解	7-1	生産計画を理解し、説明できる	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	7-2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	7-3	生産計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	7-5	販売計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E

II 生産管理（林業）

項目	評価事項		中間評価	最終評価	
	No	内容			
1 林業の基礎	知識・理解	1-1	森林をつくる樹木の種類、その組織と構造、生理機能、森林の階層構造を理解し、	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-2	森林と、森林をとりまく気候や地形、土壌の関係を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-3	森林の発達と遷移、遷移の仕組みについて理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	1-4	森林の種類について理解し、分類できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-5	森林が持つ様々な機能について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
2 森林調査	知識・理解	2-1	森林調査で収集する調査項目を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-2	森林調査に必要な道具や調査方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	2-3	森林調査を実施できる。	A B C D E	A B C D E
3 服装と道具	知識・理解	3-1	森林での作業に必要な道具や適切な服装について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-2	小型の林業機械の種類や適切な使用方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-3	小型の林業機械を安全に使用できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-4	作業にあった服装や道具を選択できる。	A B C D E	A B C D E
4 造林技術	知識・理解	4-1	人工林における伐採の種類と方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-2	人工林における地ごしらえと植栽の種類と方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-3	人工林における初期保育のための作業の種類や方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-4	人工林における枝打ちの目的や作業方法、必要な道具について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-5	人工林における間伐の目的と作業方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	4-6	人工林の造林技術を実施できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-7	天然林における施業方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-8	山林毎にどのような施業方法が適切か理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
5 森林保護管理	知識・理解	5-1	森林の観察方法や観察部位について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-2	森林における病害や虫害の種類を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-3	森林に被害を及ぼす鳥獣の種類を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-4	森林の気象被害の発生機構を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-5	森林火災の発生原因や防火対策を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	5-6	森林被害に対し、対策を実施できる。	A B C D E	A B C D E

6 収穫技術	知識・理解	6-1	立木の収穫時期、伐倒作業、造材作業、集材作業、高性能林業機械など伐出技術	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	6-2	集材方法と特徴、伐採した木材の測定方法など、伐採方法と伐出技術について理	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	6-3	森林を通る道の種類と働きについて理解し説明できる。	A B C D E	A B C D E
7 生産管理	知識・理解	7-1	生産計画を理解し、説明できる	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	7-2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	7-3	生産計画を理解し、説明ができる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	7-5	販売計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E

II 生産管理（畜産）

項目	評価事項		中間評価	最終評価	
	No	内容			
畜産基礎	知識・理解	1-1	家畜の生活環について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-2	経営形態の種類と特徴について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-3	飼料の種類や給与形態について、理解し説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-4	飼料管理の重要ポイントを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
家畜と飼料の基礎知識（牛）	知識・理解	2-1	牛の品種と特徴について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-2	牛の飼育方法と特徴について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-3	牛舎の種類とその構造について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-4	牛の消化器の構造と消化のしくみについて理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-5	飼料の種類とその成分について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-6	適切な飼料給与について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-7	疾病とその発生要因、症状、生産性への影響を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-8	生殖器の構造・機能について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-9	繁殖生理について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-10	発情生理と人工授精について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-11	子牛の哺育と育成方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-12	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
管理作業（牛）	知識・理解	3-1	1日の作業スケジュールについて理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-2	(施設) 通路の点検が出来る。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-3	(施設) 飼料の管理、掃き寄せが出来る。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-4	(施設) 飼槽の管理が出来る。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-5	(施設) 水槽の管理が出来る。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-6	(施設) 牛の快適な環境を理解し、牛舎の換気が出来る。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-7	(施設) 牛床の管理が出来る	A B C D E	A B C D E
	技能	3-8	(施設) 外部寄生虫の防除方法を理解し、実践できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-9	(施設) 牛舎内の牛の観察をして、異常を発見できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-10	(健康の点検) 食欲の有無を観察し、異常が発見できる。	A B C D E	A B C D E

3 管理作業 (牛)	技能	3-11	(健康の点検)目の観察をし、異常を発見できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-12	(健康の点検)鼻の観察をし、異常が発見できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-13	(健康の点検)挙動を観察し、その疾病や課題が発見できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-14	(健康の点検)尾根部や尾の状態を観察し、異常が発見できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-15	(健康の点検)呼吸の状態を観察し、異常が発見できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-16	(健康の点検)発咳を発見し、原因がわかる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-17	(健康の点検)牛の適正な体温を理解し、異常時は発見できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-18	(健康の点検)被毛の状態を観察し、異常を発見できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-19	(繁殖)発情の周期を理解し、観察・発見できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-20	(乳牛)搾乳の手順を理解し、実践できる。	A B C D E	A B C D E
4 家畜と飼料の基礎知識 (豚)	知識・理解	4-1	豚の品種と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-2	豚の繁殖方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-3	子豚の飼育方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-4	肥育豚の飼育方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-5	飼料の種類や特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-6	消化器の構造と消化のしくみを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-7	豚の疾病と予防方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-8	豚舎の環境と衛生管理について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-9	暑熱が豚に及ぼす影響について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-10	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-11	ワクチン接種プログラムを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
5 管理作業 (豚)	技能	5-1	子豚哺乳・育成時の適温について理解し、適切な暖房使用ができる。	A B C D E	A B C D E
	技能	5-2	豚の習性を理解し、正しい接し方ができる。	A B C D E	A B C D E
	技能	5-3	適切に飼槽、飲水の管理ができる。	A B C D E	A B C D E
	技能	5-4	子豚の去勢方法について理解し、適切に実施できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	5-5	繁殖豚の発情メカニズム、交配、分娩について理解し、実践できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	5-6	飼料の保存や取扱いについて理解し、実践できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	5-7	暑熱時の適切な管理方法について理解し、実践できる。	A B C D E	A B C D E

6	家畜の飼料の基礎知識(鶏)	知識・理解	6-1	鳥の品種と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	6-2	飼育設備の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	6-3	鶏舎の設備と機器と使用方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	6-4	消化器の構造と消化・吸収のしくみを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	6-5	飼料の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	6-6	鶏の疾病と予防方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	6-7	鳥インフルエンザとその防御方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	6-8	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	6-9	(採卵鶏)産卵鶏の産卵と成鶏の管理について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	6-10	(採卵鶏)採卵の採取とふ化やひなの管理について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
(鶏)	家畜の飼料の基礎知識	知識・理解	6-11	(採卵鶏)鶏卵の規格と品質、品質を決める要因を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	6-12	(肉用鶏)肉用鶏の成長の特徴について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	6-13	(肉用鶏)入すうから出荷までの管理について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	6-14	(肉用鶏)肉用鶏の調査方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
7	管理作業(鶏)	技能	7-1	育すう期の適切な温度・湿度を理解し、適切な温度・湿度・換気管理ができる。	A B C D E	A B C D E
		技能	7-2	生育期に合わせて、適切な給餌器・給水器管理ができる。	A B C D E	A B C D E
		技能	7-3	デビークを行う理由を理解し、適切に実施できる。	A B C D E	A B C D E
		技能	7-4	適切な体重を理解し、適切な時期に体重測定が実施できる。	A B C D E	A B C D E
		技能	7-5	飼料の適切な管理方法について理解し、実施できる。	A B C D E	A B C D E
		技能	7-6	鶏舎の適切な管理温度を理解し、換気や防寒対策ができる。	A B C D E	A B C D E
8	衛生管理	知識・理解	8-1	家畜区域と管理区域の違いを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	8-2	管理区域の出入り口の消毒の必要性や消毒施設を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		技能	8-3	消毒器・消毒層・消毒帯の管理方法を理解し、実践できる。	A B C D E	A B C D E
		技能	8-4	消毒薬の使用上の注意を理解し、適切に使用できる。	A B C D E	A B C D E
		技能	8-5	衛生管理区域内への鳥類、小動物の侵入の必要性を理解し、実施できる。	A B C D E	A B C D E
9	生産管理	知識・理解	9-1	生産計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	9-2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	9-3	生産計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	9-5	販売計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E

Ⅲ 自分自身が頑張っていること、困っていること（中間評価時）

[]

(様式第 14 号)

経営実習Ⅱ 自己点検表

臨地実務実習施設名	
学生氏名	

中間評価記載日	年 月 日
最終評価記載日	年 月 日

【評価基準】

評価	内容
A : できている	助言・指導を特に必要とせず、良く理解し十分に積極的に行動できている。
B : ややできている	助言・指導を時として必要だが、理解し積極的に行動できている。
C : 普通	助言・指導があれば、何とか理解して行動できている。
D : ややできていない	助言・指導があっても理解度が低くて消極的であり、なかなか行動できていない。
E : 全くできていない	助言・指導があっても、理解できないため、行動ができない。

I 共通

項目	区分	評価事項	中間評価	最終評価
職業人としての適性	志向・態度	規則や心得を守ることが出来る。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	与えられた仕事を、責任を持って遂行できる。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	従業員と協調して仕事出来る。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	実習学生として必要な基礎知識を有している。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	農林業に対する探究心・意欲及び創造性が見られる。	A B C D E	A B C D E
生産管理	知識・理解 技能	生産に関する基礎知識・技能(※経営種目別)	-	-
作業管理	志向・態度	日々の作業結果(作業時間、作業条件等)を作業日誌に記録している。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	作業効率を考えて必要な道具、資材、機械等の準備が出来る。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	年間の出荷(生産計画)を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	年間の圃場利用計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	労働力・生育状況に見合った作業計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	作業に必要な道具、資材、機械等を整理整頓できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	作業遅れが生じたときの対応策を考えられる。	A B C D E	A B C D E
販売管理	志向・態度	市況情報を知っている。	A B C D E	A B C D E
	技能	市況や生産技術を考慮して、適切な売上・単価目標を決めることが出来る。	A B C D E	A B C D E
財務管理	知識・理解	減価償却に関する知識など、簿記・会計理論を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	借入金を返済するための資金繰り計画の立て方を理解し、説明できる	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	収入や支出の時期、金額を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	単位当たり(収量や面積あたり)の資材費を把握できる。	A B C D E	A B C D E

II 生産管理（栽培）

項目		評価事項		評価基準	評価基準
		No	内容		
生産管理	知識・理解	1	生産計画を理解し、説明できる	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3	生産計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	4	作業記録を集計し、分析できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5	販売計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	6	販売計画に沿って販売が行われているか、確認できる。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	7	市場調査、市場分析をおこなって、必要な情報を集めている。	A B C D E	A B C D E
	技能	8	売上を確認し、計画との差を判断できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	9	生産物の原価を計算できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	10	栽培品目毎に収支計算ができる。	A B C D E	A B C D E
	技能	11	栽培品目毎に損益分岐点分析ができる。	A B C D E	A B C D E
	技能	12	作業記録や生産結果、販売結果を分析し、改善方法を提案できる。	A B C D E	A B C D E

II 生産管理（林業）

項目		評価事項		評価基準	評価基準
		No	内容		
生産管理	知識・理解	1	生産計画を理解し、説明できる	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3	生産計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	4	作業記録を集計し、分析できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5	販売計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	6	販売計画に沿って販売が行われているか、確認できる。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	7	市場調査、市場分析をおこなって、必要な情報を集めている。	A B C D E	A B C D E
	技能	8	売上を確認し、計画との差を判断できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	9	生産物の原価を計算できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	10	品目毎に収支計算ができる。	A B C D E	A B C D E
	技能	11	品目毎に損益分岐点分析ができる。	A B C D E	A B C D E
	技能	12	作業記録や生産結果、販売結果を分析し、改善方法を提案できる。	A B C D E	A B C D E

II 生産管理（畜産）

項目		評価事項		評価基準	評価基準
		No	内容		
生産管理	知識・理解	1	生産計画を理解し、説明できる	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3	生産計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	4	作業記録を集計し、分析できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5	販売計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	6	販売計画に沿って販売が行われているか、確認できる。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	7	市場調査、市場分析をおこなって、必要な情報を集めている。	A B C D E	A B C D E
	技能	8	売上を確認し、計画との差を判断できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	9	生産物の原価を計算できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	10	品目毎に収支計算ができる。	A B C D E	A B C D E
	技能	11	品目毎に損益分岐点分析ができる。	A B C D E	A B C D E
	技能	12	作業記録や生産結果、販売結果を分析し、改善方法を提案できる。	A B C D E	A B C D E

Ⅲ 自分自身が頑張っていること、困っていること

[]

(講義名) 報告書

学 年 _____

学生氏名 _____

実習先名 _____

研修期間 平成 年 月 日から

平成 年 月 日まで

[研修先]

農林業基礎・経営概況等（Ⅰ）

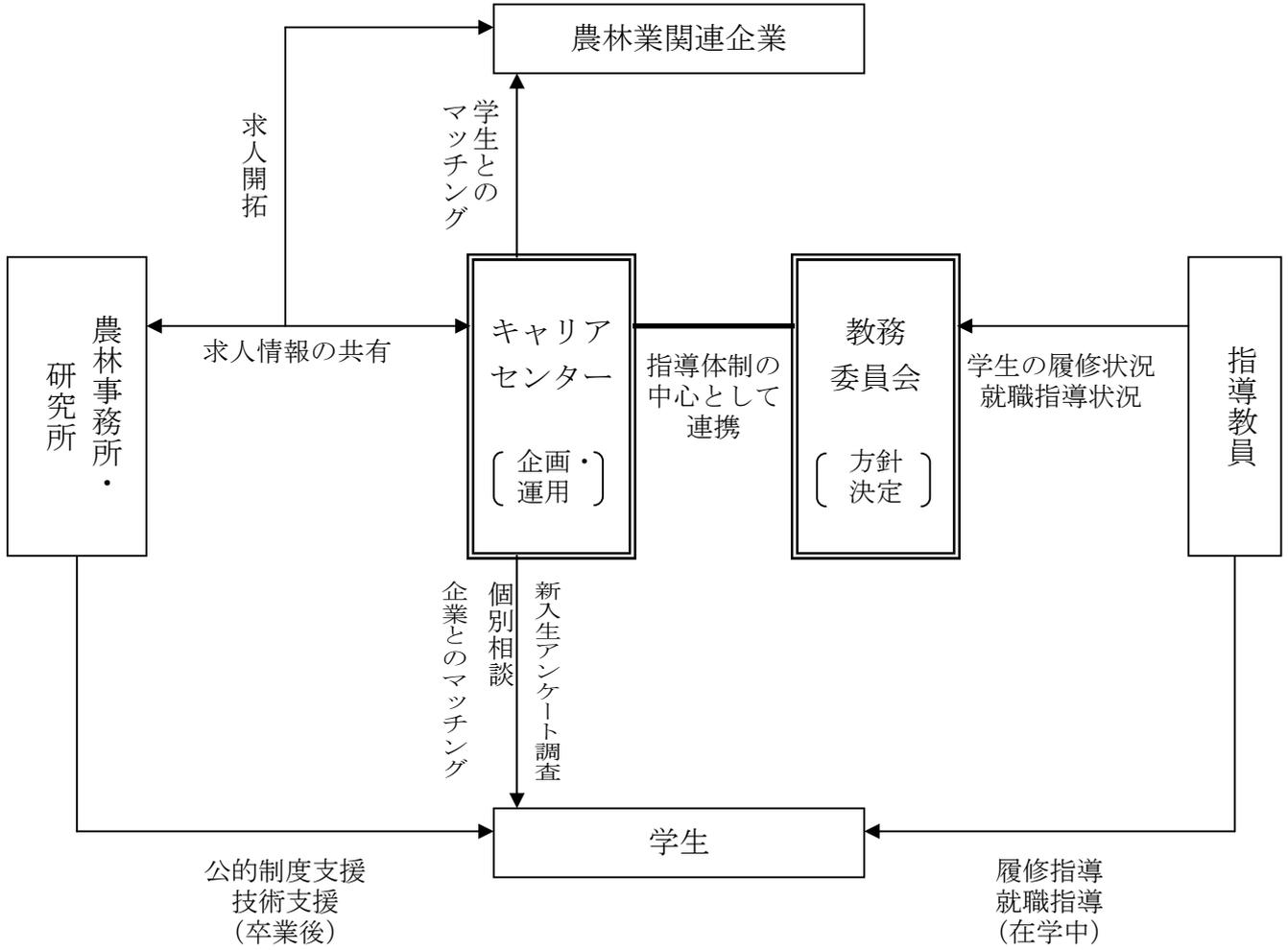
代表者名				
事業所名 (法人の場合)				
事業 内 容	設立年		資本金	
	従業員数		年間売上	
	主要事業内容			
区分		面積等		主要作物名等
水田		a		
普通畑		a		
施 設	ガラス室	棟	m ²	
	ハウス	棟	m ²	
樹 園 地	茶園	a	品種園 在来園 自園自製	
	果樹園	a	柑橘園 落葉果樹園 その他	
	果樹園	a	柑橘園 落葉果樹園 その他	
その他		a		
山林		ha		
家 畜	乳用牛	頭		
	肉用牛	頭		
	種豚	頭		
	肉豚	頭		
	鶏	羽	採卵鶏	ブロイラー
	その他			

実習記録

月 日	月 日 曜日	天 候	
\	研修内容	着眼点・反省点・疑問点	
午前			
午後			
指導 事項	(担当者 :)	(担当者 :)	

月 日	月 日 曜日	天 候	
\	研修内容	着眼点・反省点・疑問点	
午前			
午後			
指導 事項	(担当者 :)	(担当者 :)	

社会的・職業的自立に関する指導等に関する体制図



学生確保の見通し等を記載した書類

<目次>

1 学生確保の見通し及び申請者としての取り組み状況	1
(1) 学生確保の見通し	1
1) 定員充足の見込み	1
2) 定員充足の根拠となる客観的なデータ概要	2
3) 学生納付金の設定の考え方	3
(2) 学生確保に向けた具体的な取り組み状況	3
1) 学生確保に向けた広報方針	3
2) 具体的な取り組み	3
3) 各種広報媒体による広報	3
2 人材需要の動向等社会の要請	4
(1) 人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的	4
(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	4
1) 農林業分野における人材需要動向	4
2) 静岡県における農林業人材の需要	6
3) 人材需要の動向の根拠となる調査結果の概要	7

1 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生確保の見通し

本学の設置学部と同分野への全国的な志願動向、静岡県内における18歳人口の動向や大学進学状況、本学設置予定の静岡県及び周辺地域（東海地域）における同学部学科の設置状況や近年の志願動向などを踏まえ、生産環境経営学部生産環境経営学科の定員を24人に設定した。

1) 定員充足の見込み

① 静岡県における大学進学者の状況

県内にある大学への進学者（約8,000人）の状況を見ると、約4割が首都圏や関西圏、隣県などの県外からであり、本学への進学希望者は県外から見込まれる。

一方、県内高校の出身者の大学進学状況を見ると、大学進学者（約17,000人）のうち、県外の大学へ進学する割合は約7割であり、多くが首都圏や関西圏、隣県などに進学していた。県内に進学できる大学が増え、これまで県外に進学せざるを得なかった学生の一部が、本学へ進学を希望する可能性は高い。

【資料1】静岡県における大学進学者の状況

②大学への進学状況

高校の全学科の大学への進学状況をみると、全国及び静岡県共に卒業生総数は減少傾向にあるものの、大学進学率は上昇傾向にある。特に、普通科は60%近くが大学へ進学している。

一方、農業科の大学等進学率は、全国及び静岡県ともに15～20%と他の学科と比較して低い水準にあり、今後の上昇が見込まれるとともに、本学の設置により、農業科の進学先となることが見込まれる。

【資料2】大学の志願者数及び進学状況

③農学系学部への志願動向

全国における近年の大学（全学部）への志願者動向をみると、平成29年度における志願者数が4,414,843人であり、平成25年度からの5年間では11.2%の伸び率を示している。一方、農学系学部を見ると、平成29年度における志願者数が130,743人であり、平成25年度からの5年間では1.2%の伸び率を示している。以上から、大学（全学部）及び農学系学部への志願者は増加傾向にあり、今後もこの傾向が継続していくことが見込まれる。

また、本学が設置される静岡県及びその周辺地域である東海地区には2018年4月時点で、7校の農学系大学がある。このうち、本校と類似する国立4校の志願状況を見ると、安定して2倍以上の高い志願倍率を維持している。

【資料3】大学（学部）への入学志願者及び入学者動向

【資料4】東海地区における農学系学部の設置状況

【資料5】近隣農学系大学（学部）の設置状況と志願状況

④ 18歳人口の推移

県内の大学進学者数について増減を予測すべく、18歳人口の推移を調査した。全国の18歳人口は徐々に減少しており、平成43年は平成29年と比較して16.6%減少すると予想される。また、静岡県でも、平成30年以降徐々に減少し、平成43年には平成29年度と比較して16.3%減少すると予想される。

以上から、18歳人口は減少傾向にあるが、県内は全国と同程度であり、大学進学者数が大幅に減少することはないと推察される。

【資料6】 18歳人口の推移

2) 定員充足の根拠となる客観的なデータ概要

大学を新設するにあたり、本学の学生確保の見通しを客観的かつ定量的に把握するため、主な学生募集エリアである静岡県と近隣県（愛知県、神奈川県、山梨県、岐阜県、三重県）に所在する2020年度3月に卒業見込みの生徒（開設年度に入学対象の学年、主に高校2年生）に対し、第三者機関によるアンケート調査を行った。実施に当たっては、アンケート用紙の配布に併せて静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の概要を示したリーフレットを配布した。調査概要は下記のとおりである。

アンケート調査概要

調査名	静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）への入学意向に関するアンケート調査		
調査エリア	静岡県、愛知県、神奈川県、山梨県、岐阜県、三重県		
調査対象	2020年3月に卒業見込みの生徒（主に高校2年生）		
調査方法	留め置き調査	依頼数	175校 40,410人
		回答数	161校 28,164人
調査時期	平成30年7月～9月		

静岡県立農林環境専門職大学への興味・関心について調査した結果、回答者28,164人のうち、398人（1.4%）が「4年制の静岡県立農林環境専門職大学に興味・関心がある」、1,475人（5.2%）が「4年制の静岡県立農林環境専門職大学にすこし興味・関心がある」と回答した。

「4年制の静岡県立農林環境専門職大学に興味・関心がある」もしくは「4年制の静岡県立農林環境専門職大学にすこし興味・関心がある」と回答した1,873人の受験意向を調査したところ、「受験したい」が90人（4.8%）、「受験先として検討したい」が296人（15.8%）であり、合計386人（20.6%）が本学への受験意向を示していた。

さらに、受験意向を示した386人に合格した場合の入学意向について調査したところ、「入学を希望する」が173人（44.8%）、「わからない」が193人（50.0%）、「入学を希望しない」が16人（4.1%）となり、173人が入学意向を示しており、予定している入学定員24人の7.2倍の入学意向者数となった。

以上のように、本学への興味・関心や期待が高いことが窺え、学生確保が十分見込まれると考えられる。

【資料7】 静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）への入学意向に関するアンケート調査報告

3) 学生納付金の設定の考え方

学生納付金のうち、授業料については、幅広い学生に門戸を開くため、他の国公立大学よりも低く抑え、年額を 322,300 円として設定した。

また、入学金について、県内出身者は 141,000 円、県外出身者は 366,600 円として設定した。県内出身者と県外出身者で入学金に差を設けるのは本学が県立大学であることから県民税などを負担している県内の方に負担軽減を行うという考え方に基づくものであり、静岡県立大学や静岡文化芸術大学と同額に設定している。

【資料 8】 学生納付金

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

1) 学生確保に向けた広報方針

本学は、基礎的な生産能力に加え、経営体の経営革新を推進する、加工・流通・販売の知識や経営管理能力、先端技術への対応力を有した地域社会における未来のリーダーとして、自然と共生し、農山村の景観や環境を磨き上げ、幅広い教養と豊かな人間性を備え地域の文化伝統を守っていくことのできる農林業者を人材育成目標としており、農林業現場と結びついた教育・研究活動を行う予定である。

学生確保に向けた取組について、全学体制として行い、開学に向けて、広報のための組織を作り、積極的に進めていく。

2) 具体的な取組

①進学相談会/オープンキャンパス

年間を通じ、進学相談会やオープンキャンパスを実施し、大学見学や圃場見学など高校生や保護者が大学に直接触れる機会を設ける。また、外部業者が開催する進学説明会にも随時参加する。

②学校訪問・高校内ガイダンス

静岡県内に所在する高校を中心に訪問し、高校教員への情報提供や情報収集を行う。

③出張講義

農林業やその関連産業に関わる研究活動への興味関心を喚起するため、本学教員が高校にて出張講義を行う。静岡県内の農業科等の農林業関係の学科を持つ高校を中心に、普通科でも広く行う予定である。

3) 各種広報媒体による広報

①WEBサイト

静岡県内だけでなく、近隣県や首都圏からも学生を積極的に募集するため、WEBを利用した広報活動を積極的に行う。大学サイトだけでなく、Twitter や Instagram、FACEBOOK などの SNS を用い、双方向での情報共有を行う予定である。

認可前には、静岡県庁HP (<https://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-330/index.html>) にて、本学の特徴や学長メッセージを掲載し、随時イベント情報を掲載する。また、認可後は大学サイトを立ち上げ、就任予定教員や、予定される研究室なども掲載し、学生が進路を決定するにあたり、より具体的な情報を掲載していく。

②静岡県立農林環境専門職大学リーフレットの作成配布

設置に関するアンケート調査の実施に際し、本学の構想を説明するためのリーフレット(A3版、両面)を作成した。本リーフレットは、静岡県内の高校の主に2年生を対象に配布したものであり、高校生が将来の進学先を検討する際の資料として活用することも想定して作成した。

平成 31 年春からは、ホームページでの本学の資料請求に対応する仕組みを整える。ホームページ上で資料申し込みを受け付け、希望者には大学案内用の小冊子を送付する。また、大学設置認可後、大学案内及び募集要項の請求に対応する。

③静岡県広報誌の活用

静岡県広報誌の特集として、本学設置の構想について紹介を行う。誌面は、県内の高校 2 年生が本学の学部学科の構成やキャンパスについて紹介する構成とし、将来の進学を考える高校生が読者層となることを想定したものとする。

④外部情報媒体の積極的な活用

受験雑誌や関連サイト、新聞広告を利用した学生確保にむけた PR 活動を行う。

2 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的

農林業では、就業者の高齢化や減少が進み、担い手不足による生産基盤の脆弱化が進行している。農林業の持続的発展のためには、就業者の確保に加え、次世代の担い手が、付加価値の向上、規模拡大や投資を通じた生産性の向上に挑戦し、効率的かつ安定的な経営を実現していくことが重要である。また、農山村や森林は、農林業の持続的な発展の基盤であり、また、生産活動を通じて国土の保全や水源の涵養、生物多様性の保全、良好な景観の形成、文化の伝承等の多面的機能の発揮の場となっている。このような多面的機能の効果は、農山村地域の住民だけでなく国民全体が享受しており、将来にわたって守っていくことが必要である。

静岡県では、個々の農林業経営体の規模が拡大し、応用可能な技術革新が進展してきたことから、基礎的な生産能力に加えて、加工・流通・販売の知識や経営管理能力、生産性を高める先端技術への対応能力を持ち、経営改革を主導できる人材が求められている。また、農業・農村や森林が有する多面的機能の維持と発揮のため、農山村の自然と共生し、景観や環境を保全していくとともに、地域の文化や伝統を守り育み、地域社会を支えていく農林業者が求められている。

このため、本学では「基礎的な生産能力に加え、経営体の経営革新を推進する、加工・流通・販売の知識や経営管理能力、先端技術への対応力を有するとともに、地域社会における未来のリーダーとして、自然と共生し、農山村の景観や環境を磨き上げ、幅広い教養と豊かな人間性を備え地域の文化伝統を守っていくことのできる農林業者」を人材育成目標に掲げ、農林業現場の担い手育成を目指す。

農学分野の大学学部は県内には静岡大学農学部のみであるが、静岡大学農学部卒業生で農林業現場に就職する者はごくわずかであり、県内で農林業に就業を希望する高校生等の十分な受け皿とはなっていないため、県立の高等教育機関を整備することで本学が将来農林業を志す人材の受け皿となることが十分期待できる。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

1) 農林業分野における人材需要動向

①農業就業者の動向

我が国農林業では、担い手の高齢化や減少が課題となっており、担い手の確保は喫緊の課題である。農業就業者数(全国)は、平成 17 年は 2,703 千人(全産業就業者数 61,506 千人の約 4.3%)であったが、平成 27 年は 2,004 千人(全産業就業者数 58,919 千人の約 3.4%)となっており、減少傾向にあるものの、若年層の減少率は全体と比較して低く、特に 30 代は増加傾向にある。

次に全国の就業形態別新規就農者の推移を見ると、新規自営農業就農者は年による変動が大きいが、新規雇用就農者及び新規参入者は増加傾向にある。また、49 歳以下の新規就農者は増加傾向に

あり、平成26年以降は2万人台で推移している。

【資料9】農業への就業者状況（全国）

②林業就業者の動向

林業就業者数（全国）は増加傾向にあり、平成17年は46千人（全産業就業者数61,506千人の約0.07%）から平成27年は63千人（全産業就業者数58,919千人の約0.10%）となっており、特に若年層の増加が顕著である。

次に、全国の林業新規就業者数の推移を見ると、平成22年は4千人を超えているものの、3千人台で推移している。

【資料10】林業への就業者状況（全国）

③大卒者の農林業への就業状況

大卒者（全学部）の就職状況を見ると、産業別では「卸売業、小売業」（16.0%）、「医療、福祉」（12.6%）、「製造業」（11.6%）、「情報通信業」（9.0%）、「金融業、保険業」（8.8%）の順に多くなっており、「農業、林業」は0.2%と1%にも満たない。

一方、大卒者（農学部）の産業別就職状況を見ると、「製造業」（20.4%）、「卸売業、小売業」（17.8%）、「公務」（11.9%）、「学術研究、専門・技術」（9.7%）、「情報通信業」（4.7%）の順に多くなっており、「農業、林業」は4.3%となっている。

以上のように、大卒者（農学部）の農業・林業分野への就職者数の割合は全学部よりも高いが、その数は少なく、農林業現場に十分な人材を供給していない。

【資料11】大卒者の産業別就職者数

④農林業の経営体数の推移

全国の農業経営体数は、平成17年の2,009千経営体から、平成27年の1,377千経営体へと10年間で31.5%減少しているが、法人経営体は平成17年の19千経営体から平成27年の27千経営体へ41.6%増加している。経営規模別面積で見ると、10ha未満の経営体数は減少傾向にあるが、10ha以上の経営体数は増加傾向にある。

一方、全国の林家・林業経営体数を見ると、林家は平成17年の920千戸から平成27年の829千戸へ9.9%減、林業経営体は平成17年の200千経営体から平成27年の87千経営体へと56.4%減少している。このうち法人経営体数は、平成17年の9千経営体から平成27年の6千経営体へ34.1%減少している。経営規模別面積で見ると、保有山林面積100ha以上の林家は増加傾向にあり、また、保有山林面積10ha以上の林業経営体は全体と比較して、減少比率が低い傾向にあった。

【資料12】経営体数等の推移

⑤人材確保に向けた取組

農林業では従事者数の減少が進む一方で、若年層は増加傾向にある。しかしながら、大学から農林業分野への就業者は少ないのが現状である。

また、農林業の個々の経営体等の規模拡大が進んでいるが、農林業の競争力を強化に向けて、この動きを加速化する必要がある。そのためには経営管理能力を持った人材や、生産現場を支える専門的な能力を備えた人材が不可欠である。

農林水産省では、次世代の農業の担い手を育成するための「農業次世代人材投資事業」、林業の新

規就業者対策である「緑の雇用事業」、農林業の構造改革及び農業大学の専門職大学化などを推進し、若年層の担い手確保を目指している。

2) 静岡県における農林業人材の需要

①農業就業者の動向

静岡県における農業就業者数は、平成17年が91,645人（全産業就業者数1,990,647人の4.6%）であったが、平成27年は65,030人（全産業就業者数1,897,194人の3.4%）へと29.0%減少している。年代別に見ると若年層の減少幅は狭く、特に30代は増加傾向にある。

また、新規就農者数は増加傾向にあり、過去10年では「法人就農」及び「自立就農」が高い伸びを示している。さらに、年齢別に見ると、49歳以下が9割近くを占めている。

【資料13】農業への就業者状況（静岡県）

②林業就業者の動向

静岡県における林業就業者数は、平成17年の1,046人（全産業就業者数1,990,647人の0.05%）から平成27年の1,660人（全産業就業者数1,897,194人の0.08%）に増加している。また、林業への新規就業者数は、80～100人の間で推移している。

【資料14】林業への就業状況（静岡県）

③近隣大学卒業者の就職状況

近隣の大学である静岡大学卒業生の就職状況をみると、「製造業」（20.8%）、「公務員」（17.1%）、「教育・学習支援業」（16.9%）、「情報通信業」（13.1%）、「金融・保険業」（7.5%）の順に多く、「農業・林業・漁業」は0.6%であった。このうち、農学部の卒業生の就職状況をみると、「製造業」（34.5%）、「公務員」（27.4%）、「農業、林業、漁業」（6.0%）、「小売業、小売業」（6.0%）、「鉱業、建設業」（6.0%）となっており、第1次産業である農林漁業への就職者数は少ない。

なお、農学部は食糧や環境まで含めた農学分野で活躍する人材の育成を目指しており、農林業現場の担い手育成を目指す本学とは目的が異なる。

【資料15】近隣大学の産業別就職者数

④農林業の経営体数等の推移

農業経営体数を見ると、平成17年の47,209経営体から平成27年の33,143経営体へ29.8%減少する中、法人経営は平成17年の473経営体から平成27年の562経営体へと18.8%増加している。経営規模別に見ると、10ha以上の経営耕地面積を持つ経営体数が大幅に増加している。

林家・林業経営体数を見ると、林家数は平成17年の19,617戸から平成27年の19,169戸へ10年間で2.3%減少、林業経営体は平成17年の4,259経営体から平成27年の1,964経営体へ10年間で53.9%減少している。経営規模別にみると、100ha以上の保有山林面積を持つ林家は増加傾向にある。また、50ha以上の保有山林面積を持つ林業経営体は全体よりも減少率が低い傾向にあった。

【資料16】経営体数等の推移

⑤人材確保に向けた取組

農業分野では担い手の高齢化や廃業が進む一方で、法人化や規模拡大が進んでおり、現場の即戦力となる高い生産技術や経営管理能力を持った人材が不可欠となっている。

また、林業分野では 60 才以上の林業就業者数が 7 割近くを占め、今後は退職などにより人手不足が見込まれる。その一方で、県内の木材生産量は平成 22 年を底に回復しており、林業の成長産業化に向けた森林・林業に関する幅広い知識を習得し、森林の多面的機能の向上と林業の持続的な林業経営に貢献できる人材の育成が求められている。

このため、本県では農林大学校から専門職大学へ移行し、次代の農林業を支える人材の養成を行う。また、若年層の農林業への就業者数が増加する中、現状の大学では農林業現場を担う人材養成は十分に行われていないため、実践的な農林業について学ぶことの出来る本学の社会的ニーズは高い。

【資料 17】「静岡県経済産業ビジョン 2018～2021」

【資料 18】静岡県における木材生産量の推移

3) 人材需要の動向の根拠となる調査結果の概要

①アンケート結果

本学が養成する人物像及び研究教育上の目的が、社会的、地域的な需要の動向を踏まえたものであるかを客観的に調査すべく、農林業関係や地域企業（事業所）の各種データを調べ、「静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の卒業生に対する企業等の採用意向に関するアンケート調査」を実施し、考察を行った。

アンケート調査は、第三者機関に依頼し、卒業生の就職が見込まれる農林業関わる企業等を中心とした 1,890 社の採用担当者にアンケート調査への協力を依頼した。

その結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「採用したい」が 124 件（23.6%）、「採用を検討したい」が 221 件（42.0%）、「採用は考えない」が 179 件（34.0%）であり、「採用したい」と「採用を検討したい」を合算すると、345 件（65.6%）となった。また、「採用したい」、「採用を検討したい」と回答した企業等の採用人数について質問し、その結果を集計した。採用意向人数を「採用したい」のみで合計した場合、168 人分となった。入学定員は 24 名であるため、7.0 倍の採用意向を確保できた。さらに、「採用したい」、「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は 397 人となり、入学定員に対し 16.5 倍となった（下表）。

以上より、本学人材への需要は高いことが確認され、卒業後の進路は十分に確保できるものと考えられる。さらに、本学では、臨地実務実習などの授業において長期のインターン・シップを行うため、地域の農林業経営体と密着した大学となる。このため、インターン・シップを通して、農林業経営体とのマッチングを図ることができ、地域の産業界の人材需要へ適切に応えることができると考える。

アンケート調査概要

調査名	静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の卒業生に対する企業等の採用意向に関するアンケート調査
調査目的	静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の卒業生に対する企業等の採用意向を把握することを目的とする。
調査対象	卒業生の就職が見込まれる農林業に関わる企業等を中心とした 1,890 社
調査方法	郵送調査
調査実施期間	平成 30 年 7 月～8 月
調査委託先	一般財団法人 日本開発構想研究所

静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用人数

回答数 (件) 人数 (人)	「採用したい」のみ		「採用したい」・「採用を検討したい」 の合計	
	件数	合計	件数	合計
1人(A)	58(a)	(A)×(a) 58	131(a)	(A)×(a) 131
2人(B)	23(b)	(B)×(b) 46	32(b)	(B)×(b) 64
3人(C)	3(c)	(C)×(c) 9	3(c)	(C)×(c) 9
4人(D)	1(d)	(D)×(d) 4	1(d)	(D)×(d) 4
5人以上(E)	3(e)	(E)×(e) 15	3(e)	(E)×(e) 15
人数は未確定(F)	36(f)	(F)×(f) 36	174(f)	(F)×(f) 174
無回答	-	-	1	-
合計採用意向	168人		397人	

※「人数未確定」とは、農林環境専門職大学卒業生の採用意向について、「採用したい」、「採用を検討したい」と回答し将来的な採用意向は示すが、アンケート調査の時点では将来的な採用人数について確定していないものである。したがって、本調査では「人数は未確定」の将来的な採用人数を最低数である「1人として」計算した。

【資料19】アンケート調査報告書

②法人に対するヒヤリング結果

県内の農林業法人等 10 団体に対しヒヤリング調査を行った。その結果、経営能力を備えた人材を求める声が多かった。また、林業団体から専門職大学設置について要望が出ている

【資料20】ヒヤリング調査報告書

【資料21】関係団体からの要望

添付資料一覧

<目次>

- 【資料1】静岡県における大学進学者の状況
- 【資料2】大学の志願者数及び進学状況
- 【資料3】大学（学部）への入学志願者及び入学者動向
- 【資料4】東海地区における農学系学部の設置状況
- 【資料5】近隣農学系大学（学部）の設置状況と志願状況
- 【資料6】18歳人口の推移
- 【資料7】静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）への入学意向に関するアンケート調査報告
- 【資料8】学生納付金
- 【資料9】農業への就業者状況（全国）
- 【資料10】林業への就業者状況（全国）
- 【資料11】大卒者の産業別就職者数
- 【資料12】経営体数等の推移
- 【資料13】農業への就業者状況（静岡県）
- 【資料14】林業への就業状況（静岡県）
- 【資料15】近隣大学の産業別就職者数
- 【資料16】経営体数等の推移
- 【資料17】「静岡県経済産業ビジョン2018～2021」（抜粋）
- 【資料18】静岡県における木材生産量の推移
- 【資料19】静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の卒業生に対する企業等の採用意向に関するアンケート調査報告
- 【資料20】ヒヤリング調査報告書
- 【資料21】関係団体からの要望

大学進学者流出・流入状況

県内大学への進学状況

(単位:人)

年度	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
総数	8,111		8,075		8,113		8,000		8,157	
県内流入総数 (総数に対する比率)	3,144 (38.8%)		3,258 (40.3%)		3,283 (40.5%)		3,284 (41.1%)		3,255 (39.9%)	
1	愛知	623	愛知	659	愛知	609	愛知	636	愛知	616
2	東京	241	東京	231	東京	242	東京	230	東京	234
3	神奈川	205	神奈川	194	神奈川	227	神奈川	209	神奈川	192
4	岐阜	174	岐阜	173	岐阜	161	岐阜	148	岐阜	165
5	山梨	164	山梨	140	山梨	147	三重	132	長野	122
6	長野	129	茨城	126	長野	116	千葉	127	北海道	117
7	三重	112	千葉	122	千葉	108	山梨	118	山梨	116
8	千葉	105	北海道	105	北海道	107	長野	117	千葉	112
9	茨城	87	長野	105	三重	105	茨城	105	三重	110
10	北海道	84	三重	105	茨城	96	北海道	98	茨城	97
県内進学者 (総数に対する比率)	4,967 (61.2%)		4,817 (59.7%)		4,830 (59.5%)		4,716 (59.0%)		4,902 (60.1%)	

(出典:文部科学省「学校基本調査」)

県内高校出身者の大学進学状況

(単位:人)

年度	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
総数	17,635		16,965		17,407		16,890		17,323	
県外流出総数 (総数に対する比率)	12,668 (71.8%)		12,148 (71.6%)		12,577 (72.3%)		12,174 (72.1%)		12,421 (71.7%)	
1	東京	3,534	東京	3,452	東京	3,578	東京	3,461	東京	3,527
2	神奈川	2,253	神奈川	2,169	神奈川	2,332	神奈川	2,190	神奈川	2,187
3	愛知	2,128	愛知	1,947	愛知	1,905	愛知	1,951	愛知	2,078
4	千葉	657	千葉	572	千葉	670	千葉	631	千葉	658
5	埼玉	596	埼玉	569	埼玉	580	京都	520	埼玉	529
6	京都	580	京都	566	京都	535	埼玉	510	京都	525
7	山梨	366	山梨	362	山梨	344	山梨	323	大阪	315
8	大阪	283	大阪	253	大阪	280	大阪	257	山梨	311
9	北海道	215	北海道	170	北海道	190	北海道	193	北海道	191
10	石川	173	石川	159	石川	182	石川	183	茨城	160
県内進学者 (総数に対する比率)	4,967 (28.2%)		4,817 (28.4%)		4,830 (27.7%)		4,716 (27.9%)		4,902 (28.3%)	

(出典:文部科学省「学校基本調査」)

大学の志願者数及び進学状況

全国の志願者数及び進学状況

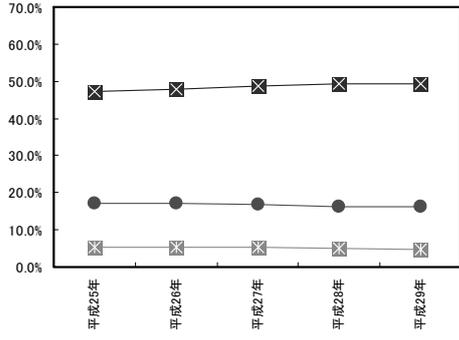
学科	年	総数	大学等進学数 (進学率)	大学 (学部)		短期大学 (本科)		専修学校 (専門課程) 進学数 (進学率)
				(進学率)	(進学率)	(進学率)	(進学率)	
全学科	平成25年	1,088,124	578,554 (53.2%)	514,905 (47.3%)	58,605 (5.4%)	185,378 (17.0%)		
	平成26年	1,047,392	563,268 (53.8%)	502,279 (48.0%)	55,924 (5.3%)	178,530 (17.0%)		
	平成27年	1,064,376	579,938 (54.5%)	519,132 (48.8%)	55,620 (5.2%)	177,827 (16.7%)		
	平成28年	1,059,266	579,738 (54.7%)	521,320 (49.2%)	53,273 (5.0%)	173,396 (16.4%)		
	平成29年	1,069,568	585,184 (54.7%)	528,686 (49.4%)	51,426 (4.8%)	173,676 (16.2%)		
普通科	平成25年	794,230	494,133 (62.2%)	450,669 (56.7%)	42,922 (5.4%)	122,390 (15.4%)		
	平成26年	760,578	480,684 (63.2%)	439,448 (57.8%)	40,757 (5.4%)	117,835 (15.5%)		
	平成27年	774,721	495,329 (63.9%)	454,580 (58.7%)	40,213 (5.2%)	118,191 (15.3%)		
	平成28年	771,878	494,878 (64.1%)	456,035 (59.1%)	38,341 (5.0%)	114,974 (14.9%)		
	平成29年	781,366	499,610 (63.9%)	462,193 (59.2%)	36,955 (4.7%)	115,026 (14.7%)		
農業科	平成25年	27,605	3,817 (13.8%)	2,464 (8.9%)	1,274 (4.6%)	7,043 (25.5%)		
	平成26年	26,599	3,523 (13.2%)	2,278 (8.6%)	1,170 (4.4%)	6,834 (25.7%)		
	平成27年	26,312	3,642 (13.8%)	2,382 (9.1%)	1,192 (4.5%)	6,331 (24.1%)		
	平成28年	26,267	3,567 (13.6%)	2,291 (8.7%)	1,205 (4.6%)	6,355 (24.2%)		
	平成29年	26,856	3,934 (14.6%)	2,664 (9.9%)	1,223 (4.6%)	6,802 (25.3%)		

(出典:文部科学省「学校基本調査」)

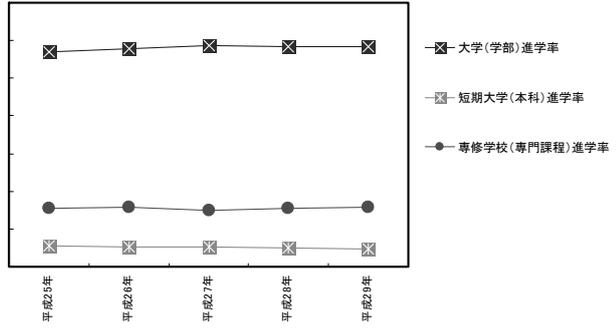
静岡県の志願者数及び進学状況

学科	年	総数	大学等進学数 (進学率)	大学 (学部)		短期大学 (本科)		専修学校 (専門課程) 進学数 (進学率)
				(進学率)	(進学率)	(進学率)	(進学率)	
全学科	平成25年	33,516	17,786 (53.1%)	16,051 (47.9%)	1,711 (5.1%)	5,543 (16.5%)		
	平成26年	31,726	16,838 (53.1%)	15,314 (48.3%)	1,499 (4.7%)	5,450 (17.2%)		
	平成27年	32,404	17,450 (53.9%)	15,922 (49.1%)	1,499 (4.6%)	5,296 (16.3%)		
	平成28年	32,058	17,007 (53.1%)	15,521 (48.4%)	1,462 (4.6%)	5,388 (16.8%)		
	平成29年	32,825	17,364 (52.9%)	15,941 (48.6%)	1,401 (4.3%)	5,640 (17.2%)		
普通科	平成25年	23,188	14,547 (62.7%)	13,236 (57.1%)	1,301 (5.6%)	3,565 (15.4%)		
	平成26年	21,560	13,636 (63.2%)	12,493 (57.9%)	1,133 (5.3%)	3,414 (15.8%)		
	平成27年	22,005	14,047 (63.8%)	12,904 (58.6%)	1,132 (5.1%)	3,310 (15.0%)		
	平成28年	21,796	13,801 (63.3%)	12,701 (58.3%)	1,094 (5.0%)	3,366 (15.4%)		
	平成29年	22,045	13,900 (63.1%)	12,847 (58.3%)	1,045 (4.7%)	3,453 (15.7%)		
農業科	平成25年	810	164 (20.2%)	110 (13.6%)	54 (6.7%)	197 (24.3%)		
	平成26年	812	137 (16.9%)	86 (10.6%)	50 (6.2%)	289 (35.6%)		
	平成27年	792	139 (17.6%)	88 (11.1%)	50 (6.3%)	188 (23.7%)		
	平成28年	767	116 (15.1%)	75 (9.8%)	40 (5.2%)	215 (28.0%)		
	平成29年	785	136 (17.3%)	94 (12.0%)	42 (5.4%)	278 (35.4%)		

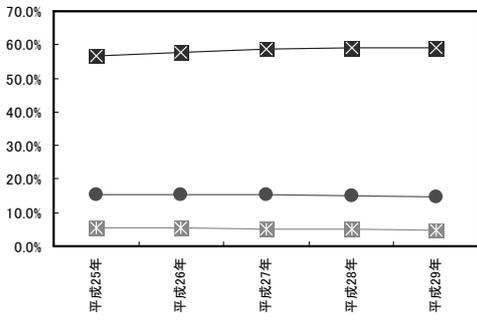
(出典:文部科学省「学校基本調査」)



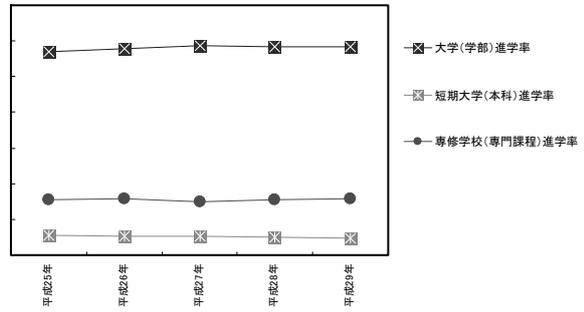
進学率及び就職率の推移(全国・全学科)



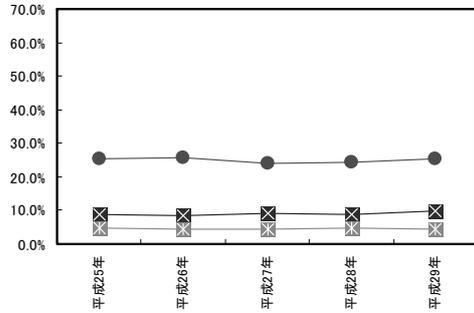
進学率及び就職率の推移(静岡県・普通科)



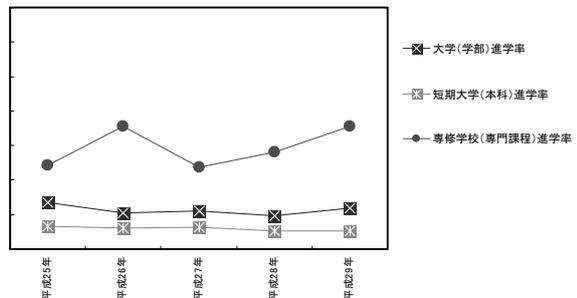
進学率及び就職率の推移(全国・普通科)



進学率及び就職率の推移(静岡県・普通科)



進学率及び就職率の推移(全国・農業科)

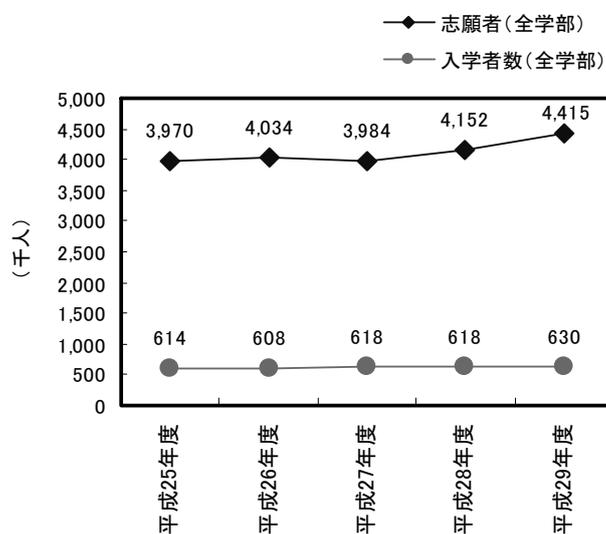


進学率及び就職率の推移(静岡県・農業科)

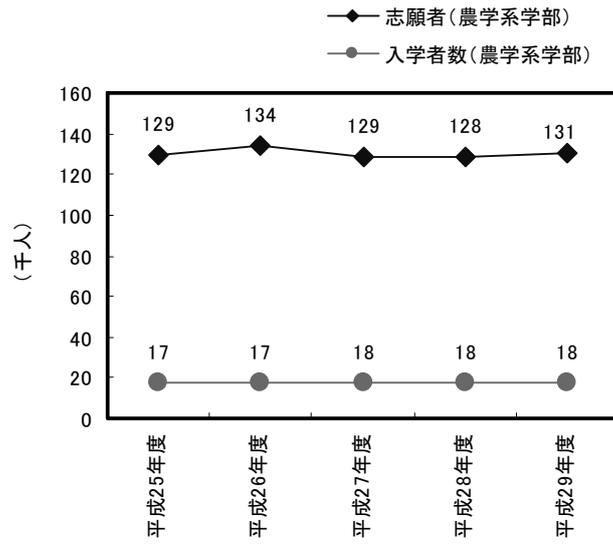
大学（学部）への入学志願者及び入学者動向

分類	区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	増加率 (29年/25年)
全学部	志願者(人) (前年比)	3,970,026 (104.9%)	4,034,385 (101.6%)	3,983,778 (98.7%)	4,151,981 (104.2%)	4,414,843 (106.3%)	11.2%
	入学者数(人)	614,183	608,247	617,507	618,423	629,733	2.5%
農学系学部	志願者(人) (前年比)	129,151 (104.0%)	133,989 (103.7%)	128,875 (96.2%)	128,326 (99.6%)	130,743 (101.9%)	1.2%
	入学者数(人)	17,278	17,294	17,696	17,866	17,798	3.0%

(出典:文部科学省「学校基本調査」)



大学(学部)への入学志願者及び入学者動向



農業系学部への入学志願者及び入学者動向

東海地区における農学系学部の設置状況

No	所在地	区分	大学名	学部名	学科名
1	静岡	国立	静岡大学	農学部	生物資源科学科
2	愛知	国立	名古屋大学	農学部	応用生命科学科
3		私立	中部大学	応用生物学部	環境生物科学科
4		私立	人間環境大学	人間環境学部	環境科学科
5		私立	名城大学	農学部	生物資源学科
6	岐阜	国立	岐阜大学	応用生物科学部	生産環境科学課程
7	三重	国立	三重大学	生物資源学部	資源循環学科

近隣農学系大学（学部）の設置状況と志願状況

大学名	学部名	学科名	受験 年度	日程 等	募集 人員	志願 者数	志願 倍率	受験 者数	受験 倍率	合格 者数	入学 者数	
静岡大学 ¹⁾	農学部	共生バイオサイエンス学科	H26	前期	30	64	2.1	32	1.7	32	30	
				後期	14	81	5.8	31	1.6	20	15	
				推薦入試	16	34	2.1	34	2.1	16	16	
				合計	60	179	3.0	118	2.0	68	61	
			H27	前期	30	84	2.8	75	2.5	32	30	
				後期	14	103	7.4	45	3.2	23	19	
				推薦入試	16	29	1.8	29	1.8	15	15	
				合計	60	216	3.6	149	2.5	70	64	
			環境森林科学科	H26	前期	20	31	1.6	28	1.4	23	22
					後期	12	43	3.6	18	1.5	15	11
					推薦入試	8	14	1.8	14	1.8	8	8
				合計	40	88	2.2	60	1.5	46	41	
		H27		前期	20	38	1.9	31	1.6	23	22	
				後期	12	54	4.5	26	2.2	16	14	
			推薦入試	8	13	1.6	13	1.6	8	8		
		合計	40	105	2.6	70	1.8	47	44			
		生物資源科学科	H28	前期	45	104	2.3	82	1.8	50	50	
				後期	25	112	4.5	37	1.5	26	18	
				推薦入試	25	45	1.8	45	1.8	25	25	
				AO入試	15	29	1.9	29	1.9	15	15	
			合計	110	290	2.6	193	1.8	116	108		
			H29	前期	45	158	3.5	136	3.0	48	48	
				後期	25	217	8.7	104	4.2	35	26	
				推薦入試	25	52	2.1	52	2.1	25	25	
AO入試	15			40	2.7	40	2.7	15	15			
合計	110		467	4.2	332	3.0	123	114				
H30	前期		45	98	2.2	80	1.8	46	46			
	後期		25	149	6.0	54	2.2	39	33			
	推薦入試	25	56	2.2	56	2.2	25	25				
	AO入試	15	43	2.9	43	2.9	15	15				
合計	110	346	3.1	233	2.1	125	119					
名古屋大学 ²⁾	農学部	応用生命科学科	H26	前期	66	186	2.8	168	2.5	69	66	
				推薦入試	14	67	4.8	67	4.8	15	15	
			H27	前期	66	190	2.9	170	2.6	70	70	
				推薦入試	14	67	4.8	67	4.8	16	16	
			H28	前期	66	191	2.9	170	2.6	70	65	
				推薦入試	14	59	4.2	59	4.2	15	15	
			H29	前期	66	169	2.6	151	2.3	69	68	
				推薦入試	14	43	3.1	22	1.6	15	15	
			H30	前期	66	184	2.8	161	2.4	69	68	
				推薦入試	14	33	2.4	21	1.5	15	15	

1)平成28年度から学部再編が行われている。

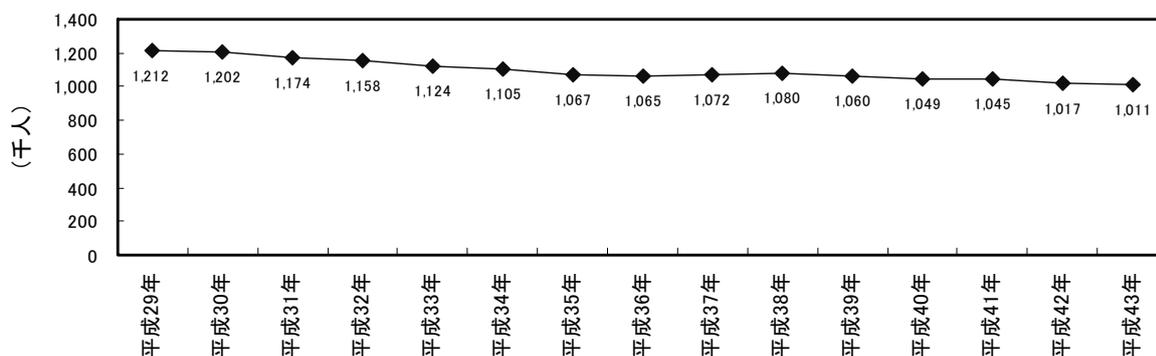
2)留学生向け入試は含まない

大学名	学部名	学科名	受験 年度	日程 等	募集 人員	志願 者数	志願 倍率	受験 者数	受験 倍率	合格 者数	入学 者数			
岐阜大学	応用生物化学部	生産環境学課程	H26	前期	50	135	2.7	131	2.6	55	52			
				後期	10	86	8.6	41	4.1	14	11			
				推薦入試	10	30	3.0	27	2.7	10	10			
			合計	70	251	3.6	199	2.8	79	73				
			H27	前期	50	120	2.4	110	2.2	55	54			
				後期	10	82	8.2	28	2.8	15	12			
				推薦入試	10	38	3.8	36	3.6	10	10			
			合計	70	240	3.4	174	2.5	80	76				
			H28	前期	50	120	2.4	110	2.2	55	54			
				後期	10	82	8.2	28	2.8	15	12			
				推薦入試	10	38	3.8	36	3.6	10	10			
			合計	70	240	3.4	174	2.5	80	76				
			H29	前期	50	132	2.6	117	2.3	55	52			
				後期	10	71	7.1	21	2.1	14	10			
				推薦入試	10	43	4.3	39	3.9	10	10			
			合計	70	246	3.5	177	2.5	79	72				
			H30	前期	50	121	2.4	106	2.1	53	52			
				後期	10	75	7.5	31	3.1	10	7			
				推薦入試	10	29	2.9	28	2.8	10	10			
			合計	70	225	3.2	165	2.4	73	69				
			三重大学	生物資源学部	資源循環学科	H26	前期	30	73	2.4	65	2.2	39	39
							後期	10	107	10.7	43	4.3	13	12
							合計	40	180	4.5	108	2.7	52	51
						H27	前期	33	94	2.8	89	2.7	48	46
後期	15	101					6.7	36	2.4	26	21			
合計	48	195					4.1	125	2.6	74	67			
H28	前期	33				69	2.1	62	1.9	34	31			
	後期	15				98	6.5	29	1.9	35	24			
	合計	48				167	3.5	91	1.9	69	55			
H29	前期	33				79	2.4	71	2.2	52	47			
	後期	15				122	8.1	55	3.7	23	17			
	合計	48				201	4.2	126	2.6	75	64			
H30	前期	33				127	3.8	114	3.5	46	42			
	後期	15				170	11.3	79	5.3	25	19			
	合計	48				297	6.2	193	4.0	71	61			

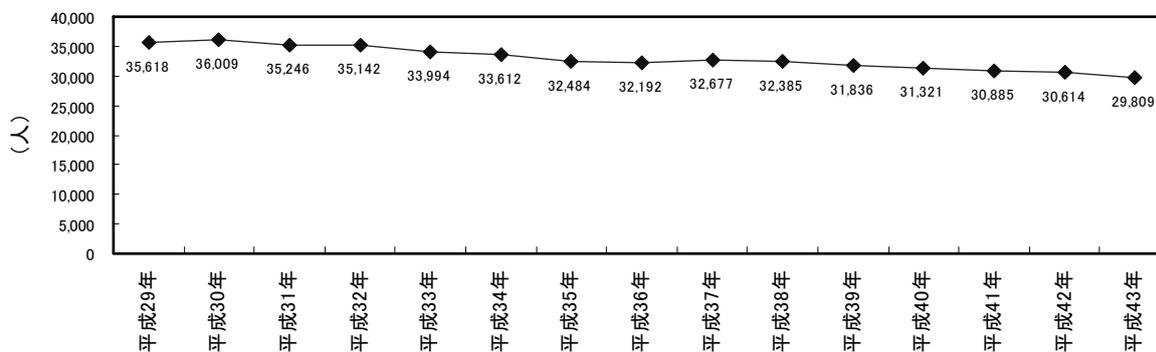
18歳人口の推移

年	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年
平成29年 年齢	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳
全国(千人)	1,212	1,202	1,174	1,158	1,124	1,105	1,067	1,065
静岡県(人)	35,618	36,009	35,246	35,142	33,994	33,612	32,484	32,192

年	平成37年	平成38年	平成39年	平成40年	平成41年	平成42年	平成43年	減少率 (42/29)
平成29年 年齢	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	
全国(千人)	1,072	1,080	1,060	1,049	1,045	1,017	1,011	-16.6%
静岡県(人)	32,677	32,385	31,836	31,321	30,885	30,614	29,809	-16.3%



18歳人口の推移(全国)
(出典:総務省統計局「人口推計」)
※平成30年以降はデータより推計



18歳人口の推移(静岡県)
(出典:総務省統計局「人口推計」)
※平成30年以降はデータより推計

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）への
入学意向に関するアンケート調査報告

平成30年10月

一般財団法人 日本開発構想研究所

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）への入学意向に関する
アンケート調査報告

1. 調査概要

(1) 調査目的

平成 32 年 4 月に予定している静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の開設に向けて、静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）への入学意向を把握することを目的とする。

(2) 調査対象高校及び対象者

静岡県に加え近隣 6 県（静岡県、愛知県、神奈川県、山梨県、岐阜県、三重県）に所在する高等学校及び高等専修学校の在学者で平成 32 年度大学進学対象となる 2020 年 3 月卒業見込みの生徒（主に高校 2 年生）。

(3) 調査方法

静岡県に加え近隣県に所在する高等学校等 175 校へアンケート用紙及び静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の概要を示したリーフレットを送付し、教室等で直接アンケート用紙に記入する方法により実施。回答用紙は一般財団法人日本開発構想研究所へ高校から直接郵送。

この結果、28,164 人から有効回答（有効回収率約 69.6%）があった。

集計結果より、静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）への入学意向を分析した。

(4) 調査実施期間

平成 30 年 7 月～平成 30 年 10 月

(5) 有効回収率等

調査対象者数：高等学校 175 校 40,410 人

有効回答者数：高等学校 161 校 28,164 人

有効回収率：約 69.6%（有効回答者 28,164 人÷調査対象者 40,410 人）

※設置を構想している静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部は仮称であるが、本文中ではその旨の表示を省略した。

※静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部はそれぞれ単科であるため、学部名、学科名は省略した。

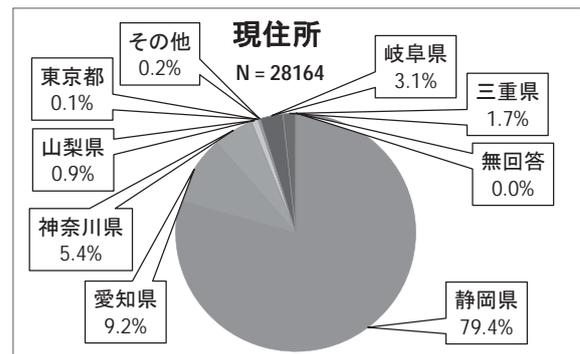
2. 調査結果

(1) 現住所について

現住所について調査した結果、高校2年生28,164人のうち、「静岡県」が22,366人（79.4%）と最も多く、次いで「愛知県」2,600人（9.2%）、「神奈川県」1,512人（5.4%）、「岐阜県」885人（3.1%）、「三重県」475人（1.7%）、「山梨県」245人（0.9%）、「その他」45人（0.2%）、「東京都」30人（0.1%）の順になっている。 ※「無回答」6人（0.0%）

問3 現住所

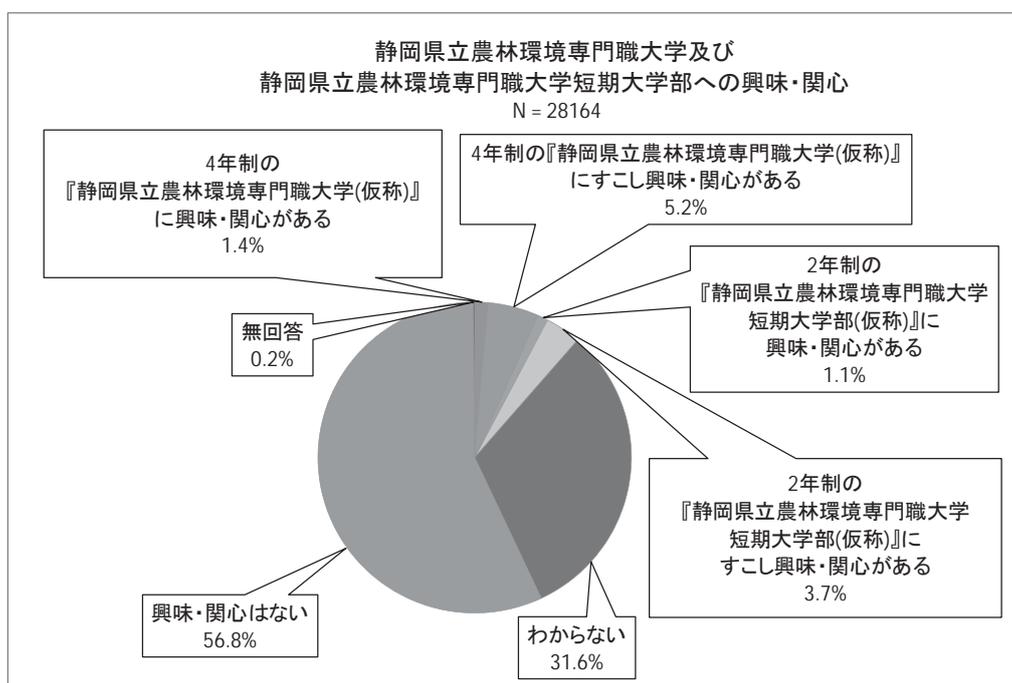
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	静岡県	22,366	79.4
2	愛知県	2,600	9.2
3	神奈川県	1,512	5.4
4	山梨県	245	0.9
5	東京都	30	0.1
6	その他	45	0.2
7	岐阜県	885	3.1
8	三重県	475	1.7
	無回答	6	0.0
	N (%ベース)	28,164	100



(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心
 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について調査した結果、高校2年生 28,164 人のうち、398 人 (1.4%) が「4年制の『静岡県立農林環境専門職大学(仮称)』に興味・関心がある」と回答しており、「4年制の『静岡県立農林環境専門職大学(仮称)』にすこし興味・関心がある」が 1,475 人 (5.2%)、「2年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)』に興味・関心がある」が 302 人 (1.1%)、「2年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)』にすこし興味・関心がある」が 1,031 (3.7%)、「わからない」が 8,909 人 (31.6%)、「興味・関心はない」が 16,006 人 (56.8%) の順になっている。 ※「無回答」43 人 (0.2%)

静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	4年制の『静岡県立農林環境専門職大学(仮称)』に興味・関心がある	398	1.4
2	4年制の『静岡県立農林環境専門職大学(仮称)』にすこし興味・関心がある	1,475	5.2
3	2年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)』に興味・関心がある	302	1.1
4	2年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)』にすこし興味・関心がある	1,031	3.7
5	わからない	8,909	31.6
6	興味・関心はない	16,006	56.8
	無回答	43	0.2
	N (%ベース)	28,164	100



(3) 興味・関心の理由

3-1 4年制 興味・関心の理由(第1位)について

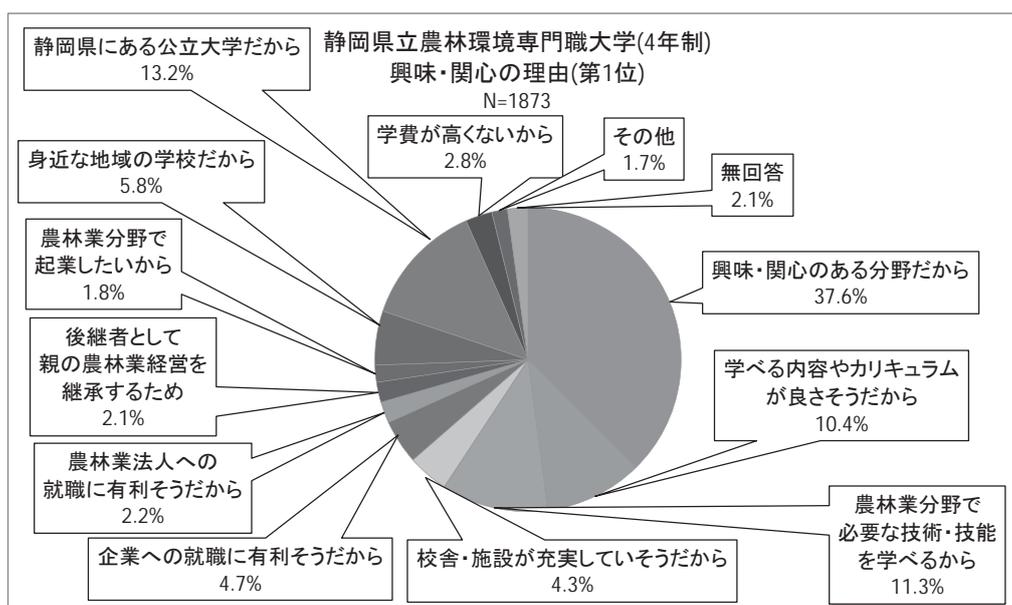
「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「4年制の静岡県立農林環境専門職大学に興味・関心がある」、「4年制の静岡県立農林環境専門職大学にすこし興味・関心がある」と回答した1,873人に、興味・関心の理由(第1位)について調査した。

その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「興味・関心のある分野だから」が704人(37.6%)と最も多く、次いで「静岡県にある公立大学だから」247人(13.2%)、「農林業分野で必要な技術・技能を学べるから」211人(11.3%)、「学べる内容やカリキュラムが良さそうだから」194人(10.4%)、「身近な地域の学校だから」108人(5.8%)の順になっている。

※「無回答」40人(2.1%)

静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味・関心の理由(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	704	37.6
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	194	10.4
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	211	11.3
4	校舎・施設が充実していそうだから	81	4.3
5	企業への就職に有利そうだから	88	4.7
6	農林業法人への就職に有利そうだから	42	2.2
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	40	2.1
8	農林業分野で起業したいから	34	1.8
9	身近な地域の学校だから	108	5.8
10	静岡県にある公立大学だから	247	13.2
11	学費が高くないから	53	2.8
12	その他	31	1.7
	無回答	40	2.1
	N(%ベース)	1,873	100



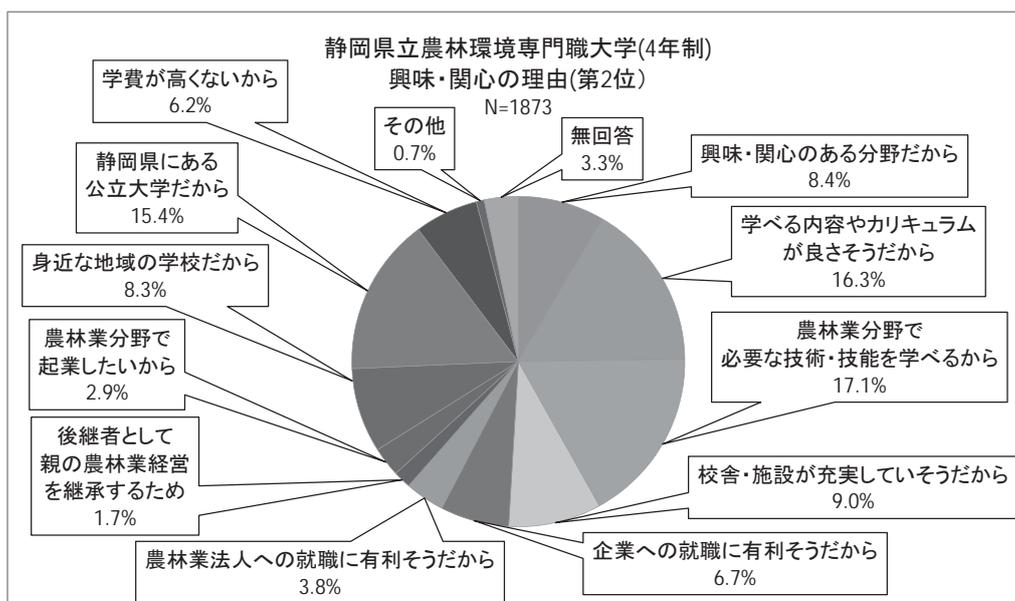
3-2 4年制 興味・関心の理由(第2位)について

「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「4年制の静岡県立農林環境専門職大学に興味・関心がある」、「4年制の静岡県立農林環境専門職大学にすこし興味・関心がある」と回答した1,873人に、興味・関心の理由(第2位)について調査した。

その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「農林業分野で必要な技術・技能を学べるから」が321人(17.1%)と最も多く、次いで「学べる内容やカリキュラムが良さそうだから」306人(16.3%)、「静岡県にある公立大学だから」289人(15.4%)、「校舎・施設が充実していそうだから」169人(9.0%)、「興味・関心のある分野だから」158人(8.4%)、「身近な地域の学校だから」155人(8.3%)、「企業への就職に有利そうだから」125人(6.7%)、「学費が高くないから」116人(6.2%)の順になっている。 ※「無回答」62人(3.3%)

静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味・関心の理由(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	158	8.4
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	306	16.3
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	321	17.1
4	校舎・施設が充実していそうだから	169	9.0
5	企業への就職に有利そうだから	125	6.7
6	農林業法人への就職に有利そうだから	72	3.8
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	32	1.7
8	農林業分野で起業したいから	54	2.9
9	身近な地域の学校だから	155	8.3
10	静岡県にある公立大学だから	289	15.4
11	学費が高くないから	116	6.2
12	その他	14	0.7
	無回答	62	3.3
	N(%ベース)	1,873	100



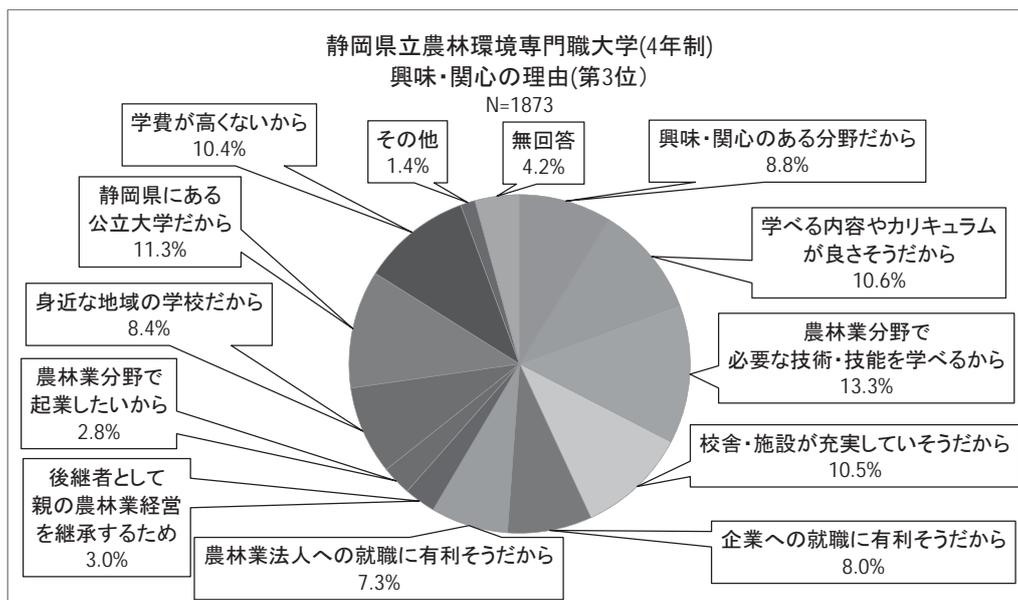
3-3 4年制 興味・関心の理由(第3位)について

「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「4年制の静岡県立農林環境専門職大学に興味・関心がある」、「4年制の静岡県立農林環境専門職大学にすこし興味・関心がある」と回答した1,873人に、興味・関心の理由(第3位)について調査した。

その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「農林業分野で必要な技術・技能を学べるから」が249人(13.3%)と最も多く、次いで「静岡県にある公立大学だから」211人(11.3%)、「学べる内容やカリキュラムが良さそうだから」198人(10.6%)、「校舎・施設が充実していそうだから」197人(10.5%)、「学費が高くないから」195人(10.4%)、「興味・関心のある分野だから」164人(8.8%)、「身近な地域の学校だから」158人(8.4%)、「企業への就職に有利そうだから」150人(8.0%)、「農林業法人への就職に有利そうだから」137人(7.3%)の順になっている。 ※「無回答」79人(4.2%)

静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味・関心の理由(第3位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	164	8.8
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	198	10.6
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	249	13.3
4	校舎・施設が充実していそうだから	197	10.5
5	企業への就職に有利そうだから	150	8.0
6	農林業法人への就職に有利そうだから	137	7.3
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	56	3.0
8	農林業分野で起業したいから	53	2.8
9	身近な地域の学校だから	158	8.4
10	静岡県にある公立大学だから	211	11.3
11	学費が高くないから	195	10.4
12	その他	26	1.4
	無回答	79	4.2
	N (%ベース)	1,873	100



(4) 興味のある分野について

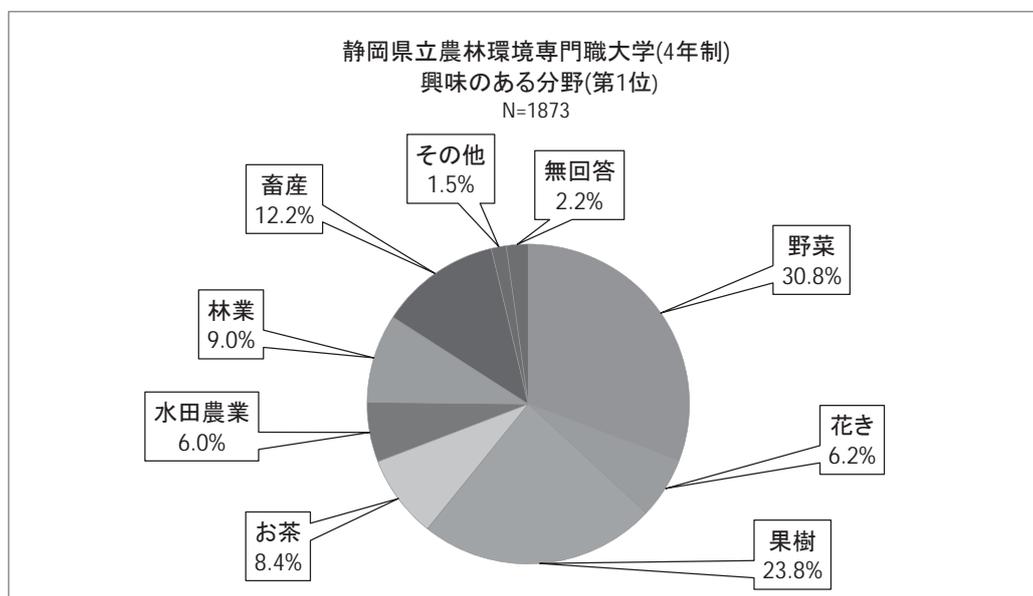
4-1 興味のある生産分野（第1位）について

「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「4年制の静岡県立農林環境専門職大学に興味・関心がある」、「4年制の静岡県立農林環境専門職大学にすこし興味・関心がある」と回答した1,873人に、興味のある生産分野（第1位）について調査した。

その結果は、「野菜」が576人(30.8%)と最も多く、次いで「果樹」446人(23.8%)、「畜産」228人(12.2%)、「林業」168人(9.0%)、「お茶」157人(8.4%)、「花き」116人(6.2%)、「水田農業」113人(6.0%)、「その他」28人(1.5%)の順になっている。 ※「無回答」41人(2.2%)

静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味のある分野(第1位)

No.		件数	(全体)%
1	野菜	576	30.8
2	花き	116	6.2
3	果樹	446	23.8
4	お茶	157	8.4
5	水田農業	113	6.0
6	林業	168	9.0
7	畜産	228	12.2
8	その他	28	1.5
	無回答	41	2.2
	N (%ベース)	1,873	100



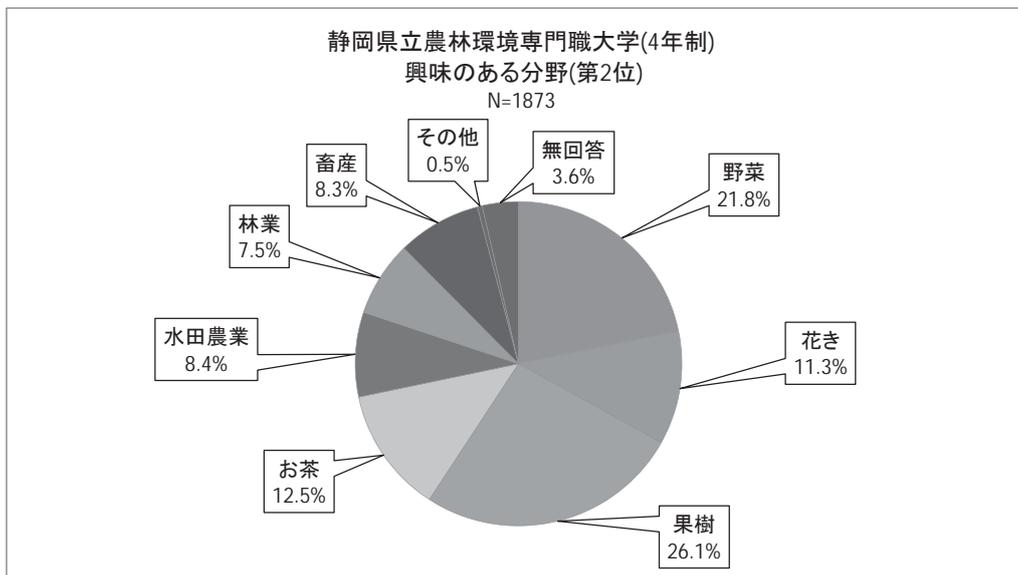
4-2 興味のある生産分野（第2位）について

「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「4年制の静岡県立農林環境専門職大学に興味・関心がある」、「4年制の静岡県立農林環境専門職大学にすこし興味・関心がある」と回答した1,873人に、興味のある生産分野（第2位）について調査した。

その結果は、「果樹」が489人（26.1%）と最も多く、次いで「野菜」408人（21.8%）、「お茶」234（12.5%）、「花き」212人（11.3%）、「水田農業」158人（8.4%）、「畜産」156人（8.3%）、「林業」140人（7.5%）、「その他」9人（0.5%）の順になっている。 ※「無回答」67人（3.6%）

静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味のある分野(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	野菜	408	21.8
2	花き	212	11.3
3	果樹	489	26.1
4	お茶	234	12.5
5	水田農業	158	8.4
6	林業	140	7.5
7	畜産	156	8.3
8	その他	9	0.5
	無回答	67	3.6
	N (%ベース)	1,873	100



(5) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学への受験意向について

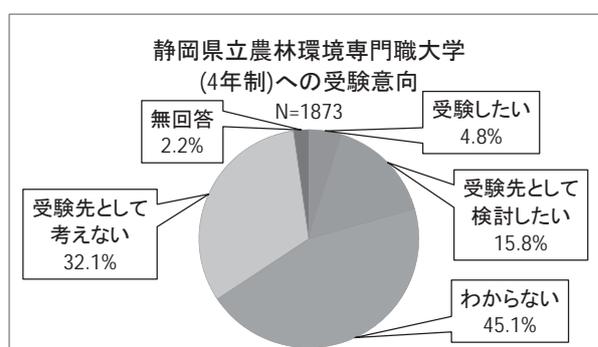
「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「4年制の静岡県立農林環境専門職大学に興味・関心がある」、「4年制の静岡県立農林環境専門職大学にすこし興味・関心がある」と回答した1,873人に静岡県立農林環境専門職大学への受験意向について調査した。

その結果は、「受験したい」90人(4.8%)、「受験先として検討したい」296人(15.8%)の合計386人(20.6%)が4年制の静岡県立農林環境専門職大学への受験意向を示している。

※「無回答」42人(2.2%)

静岡県立農林環境専門職大学(4年制)への受験意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験したい	90	4.8
2	受験先として検討したい	296	15.8
3	わからない	844	45.1
4	受験先として考えない	601	32.1
	無回答	42	2.2
	N (%ベース)	1,873	100



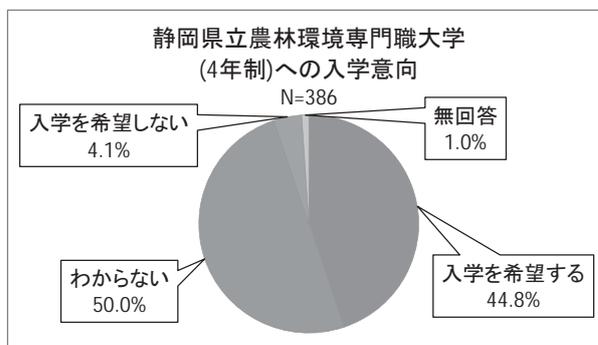
(6) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学への入学意向について

「(5) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学への受験意向について」の回答者のうち、「受験したい」「受験先として検討したい」と回答した386人に、4年制の静岡県立農林環境専門職大学を受験し、合格した場合の入学意向について調査した。

その結果は、「入学を希望する」が173人(44.8%)、「わからない」が193人(50.0%)、「入学を希望しない」が16人(4.1%)となり、173人(44.8%)が4年制の静岡県立農林環境専門職大学への入学意向を示している。 ※「無回答」4人(1.0%)

静岡県立農林環境専門職大学(4年制)への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	173	44.8
2	わからない	193	50.0
3	入学を希望しない	16	4.1
	無回答	4	1.0
	N (%ベース)	386	100



(7) 興味・関心の理由

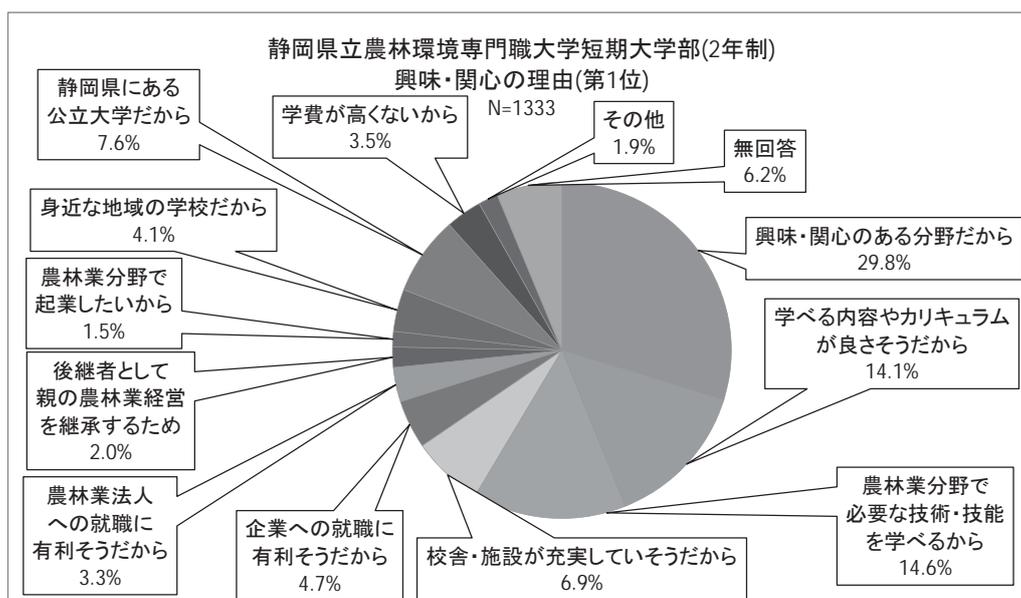
7-1 2年制 興味・関心の理由(第1位)について

「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部に興味・関心がある」、「2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部にすこし興味・関心がある」と回答した1,333人に、興味・関心の理由(第1位)について調査した。

その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「興味・関心のある分野だから」が397人(29.8%)と最も多く、次いで「農林業分野で必要な技術・技能を学べるから」195人(14.6%)、「学べる内容やカリキュラムが良さそうだから」188人(14.1%)、「静岡県にある公立大学だから」101人(7.6%)、「校舎・施設が充実していそうだから」92人(6.9%)の順になっている。 ※「無回答」83人(6.2%)

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制) 興味・関心の理由(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	397	29.8
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	188	14.1
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	195	14.6
4	校舎・施設が充実していそうだから	92	6.9
5	企業への就職に有利そうだから	62	4.7
6	農林業法人への就職に有利そうだから	44	3.3
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	26	2.0
8	農林業分野で起業したいから	20	1.5
9	身近な地域の学校だから	54	4.1
10	静岡県にある公立大学だから	101	7.6
11	学費が高くないから	46	3.5
12	その他	25	1.9
	無回答	83	6.2
	N(%ベース)	1,333	100



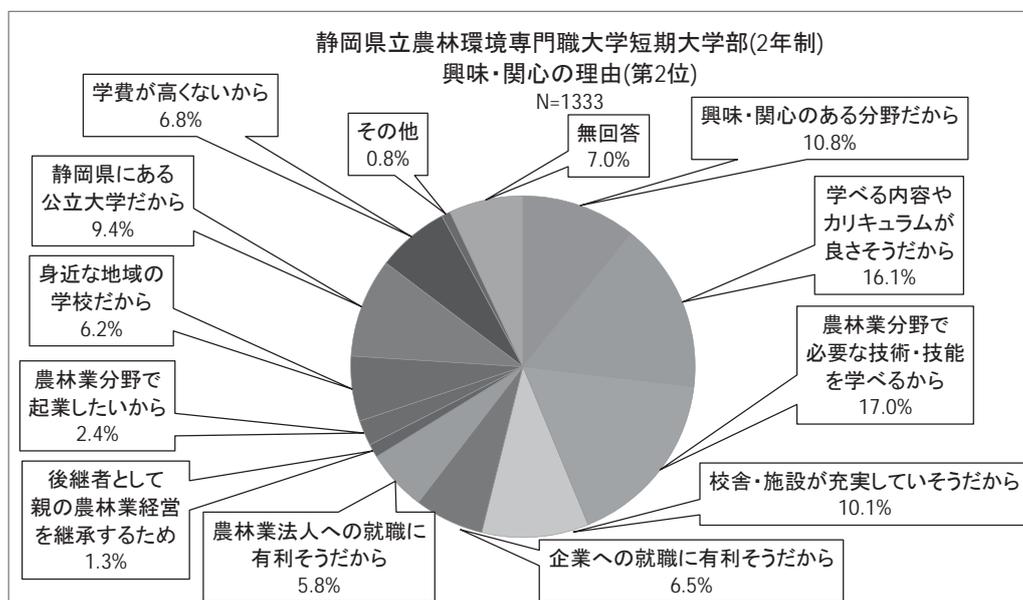
7-2 2年制 興味・関心の理由(第2位)について

「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部に興味・関心がある」、「2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部にすこし興味・関心がある」と回答した1,333人に、興味・関心の理由(第2位)について調査した。

その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「農林業分野で必要な技術・技能を学べるから」が226人(17.0%)と最も多く、次いで「学べる内容やカリキュラムが良さそうだから」214人(16.1%)、「興味・関心のある分野だから」144人(10.8%)、「校舎・施設が充実していそうだから」134人(10.1%)、「静岡県にある公立大学だから」125人(9.4%)、「学費が高くないから」91人(6.8%)、「企業への就職に有利そうだから」87人(6.5%)、「身近な地域の学校だから」82人(6.2%)、「農林業法人への就職に有利そうだから」77人(5.8%)の順になっている。 ※「無回答」93人(7.0%)

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制) 興味・関心の理由(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	144	10.8
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	214	16.1
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	226	17.0
4	校舎・施設が充実していそうだから	134	10.1
5	企業への就職に有利そうだから	87	6.5
6	農林業法人への就職に有利そうだから	77	5.8
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	17	1.3
8	農林業分野で起業したいから	32	2.4
9	身近な地域の学校だから	82	6.2
10	静岡県にある公立大学だから	125	9.4
11	学費が高くないから	91	6.8
12	その他	11	0.8
	無回答	93	7.0
	N (%ベース)	1,333	100



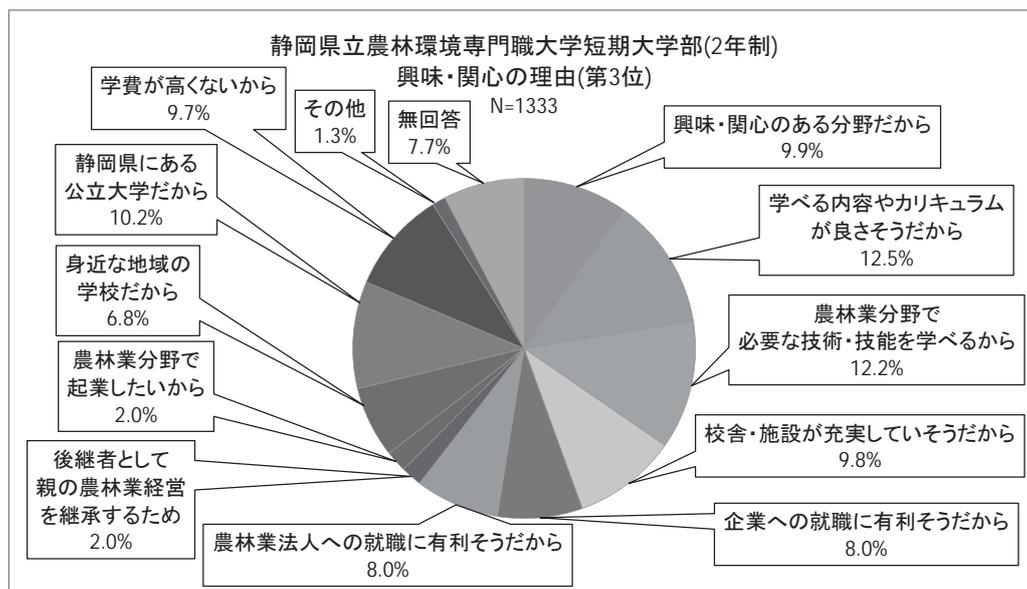
7-3 2年制 興味・関心の理由(第3位)について

「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部に興味・関心がある」、「2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部にすこし興味・関心がある」と回答した1,333人に、興味・関心の理由(第3位)について調査した。

その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「学べる内容やカリキュラムが良さそうだから」167人(12.5%)と最も多く、次いで「農林業分野で必要な技術・技能を学べるから」163人(12.2%)、「静岡県にある公立大学だから」136人(10.2%)、「興味・関心のある分野だから」132人(9.9%)、「校舎・施設が充実していそうだから」131人(9.8%)、「学費が高くないから」129人(9.7%)、「企業への就職に有利そうだから」107人(8.0%)、「農林業法人への就職に有利そうだから」106人(8.0%)、「身近な地域の学校だから」90人(6.8%)の順になっている。 ※「無回答」102人(7.7%)

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制) 興味・関心の理由(第3位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	132	9.9
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	167	12.5
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	163	12.2
4	校舎・施設が充実していそうだから	131	9.8
5	企業への就職に有利そうだから	107	8.0
6	農林業法人への就職に有利そうだから	106	8.0
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	26	2.0
8	農林業分野で起業したいから	27	2.0
9	身近な地域の学校だから	90	6.8
10	静岡県にある公立大学だから	136	10.2
11	学費が高くないから	129	9.7
12	その他	17	1.3
	無回答	102	7.7
	N (%ベース)	1,333	100



(8) 興味のある分野について

8-1 興味のある生産分野 (第1位) について

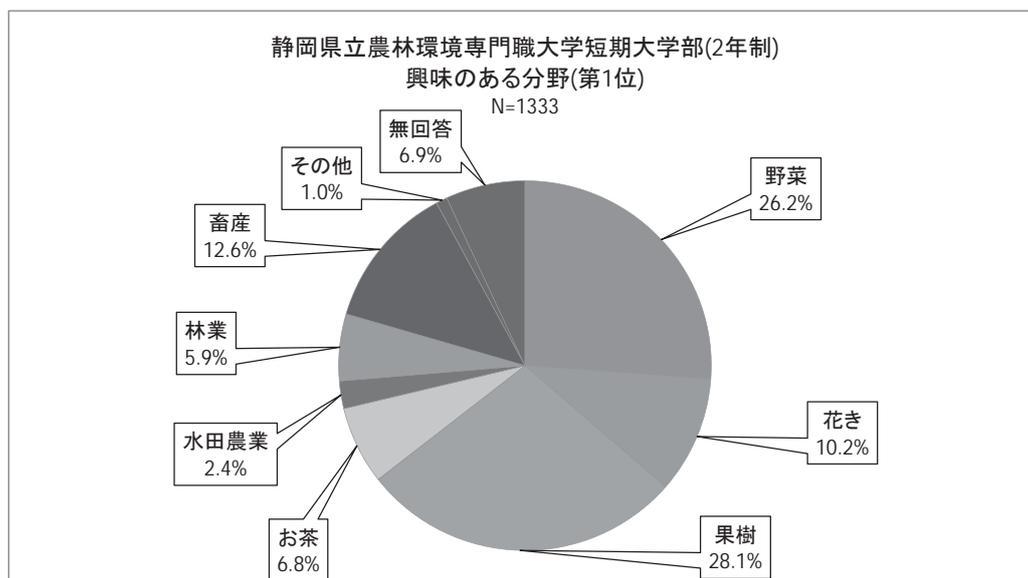
「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部に興味・関心がある」、「2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部にすこし興味・関心がある」と回答した1,333人に、興味のある生産分野(第1位)について調査した。

その結果は、「果樹」が374人(28.1%)と最も多く、次いで「野菜」349人(26.2%)、「畜産」168人(12.6%)、「花き」136人(10.2%)、「お茶」91人(6.8%)、「林業」78人

(5.9%)、「水田農業」32人(2.4%)、「その他」13人(1.0%)の順になっている。 ※「無回答」92人(6.9%)

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)
興味のある分野(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	野菜	349	26.2
2	花き	136	10.2
3	果樹	374	28.1
4	お茶	91	6.8
5	水田農業	32	2.4
6	林業	78	5.9
7	畜産	168	12.6
8	その他	13	1.0
	無回答	92	6.9
	N (%ベース)	1,333	100



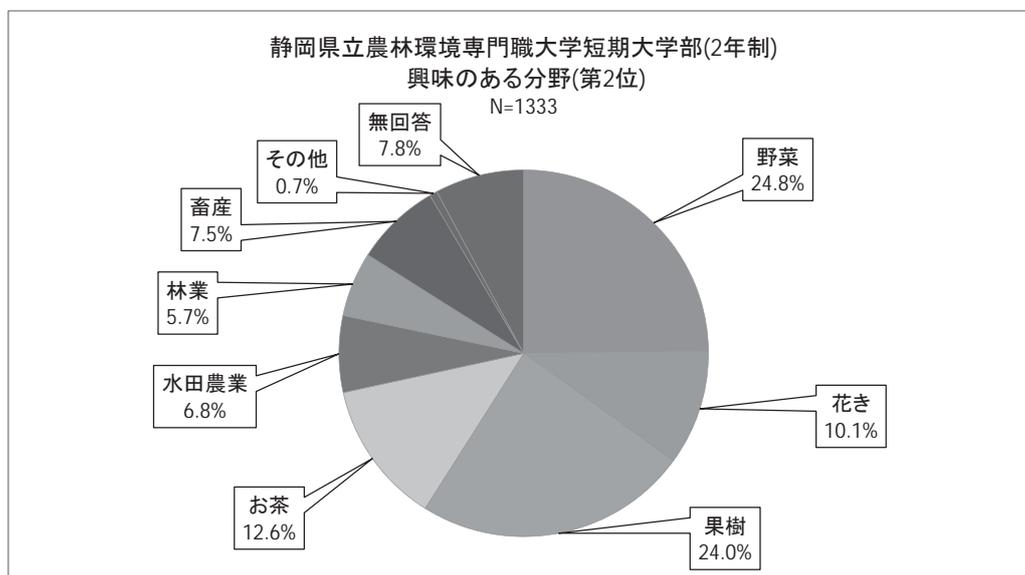
8-2 興味のある生産分野（第2位）について

「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部に興味・関心がある」、「2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部にすこし興味・関心がある」と回答した1,333人に、興味のある生産分野（第2位）について調査した。

その結果は、「野菜」が331人（24.8%）と最も多く、次いで「果樹」320人（24.0%）、「お茶」168人（12.6%）、「花き」135人（10.1%）、「畜産」100人（7.5%）、「水田農業」90人（6.8%）、「林業」76人（5.7%）、「その他」9人（0.7%）の順になっている。 ※「無回答」104人（7.8%）

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)
興味のある分野(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	野菜	331	24.8
2	花き	135	10.1
3	果樹	320	24.0
4	お茶	168	12.6
5	水田農業	90	6.8
6	林業	76	5.7
7	畜産	100	7.5
8	その他	9	0.7
	無回答	104	7.8
	N (%ベース)	1,333	100



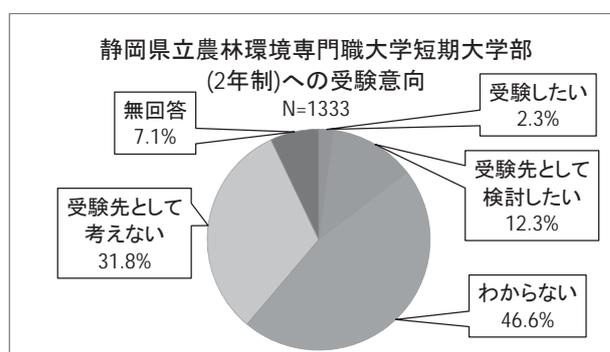
(9) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への受験意向について

「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部に興味・関心がある」、「2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部にすこし興味・関心がある」と回答した1,333人に2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への受験意向について調査した。

その結果は、「受験したい」30人(2.3%)、「受験先として検討したい」164人(12.3%)の合計194人(14.6%)が2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への受験意向を示している。 ※無回答94人(7.1%)

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)への受験意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験したい	30	2.3
2	受験先として検討したい	164	12.3
3	わからない	621	46.6
4	受験先として考えない	424	31.8
	無回答	94	7.1
	N (%ベース)	1,333	100



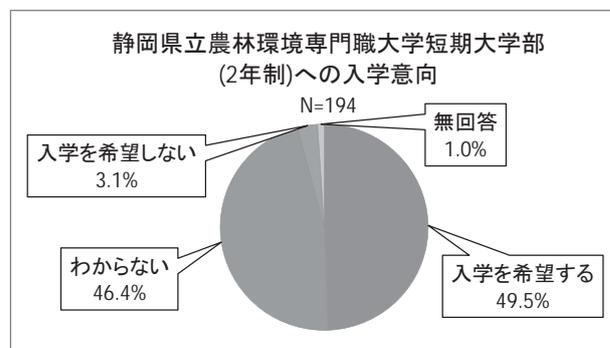
(10) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への入学意向について

「(9) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への受験意向について」の回答者のうち、「受験したい」30人(2.3%)、「受験先として検討したい」164人(12.3%)と回答した194人に、2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部を受験し、合格した場合の入学意向について調査した。

その結果は、「入学を希望する」96人(49.5%)、「わからない」90人(46.4%)、「入学を希望しない」6人(3.1%)となり、96人(49.5%)が2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への入学意向を示している。 ※無回答2人(1.0%)

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	96	49.5
2	わからない	90	46.4
3	入学を希望しない	6	3.1
	無回答	2	1.0
	N (%ベース)	194	100



3. 調査結果のまとめ

(1) 静岡県立農林環境専門職大学への入学意向について

「(6) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学への入学意向について」にて、173人が入学意向を示している。

これは静岡県立農林環境専門職大学の入学定員24人に対し、約7.2倍の入学意向を示している。

静岡県立農林環境専門職大学(4年制)への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	173	44.8
2	わからない	193	50.0
3	入学を希望しない	16	4.1
	無回答	4	1.0
	N (%ベース)	386	100

(2) 静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への入学意向について

「(10) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への入学意向について」にて、96人が入学意向を示している。

これは静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の入学定員100人に対し、0.96倍の入学意向を示している。

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)への入学意向

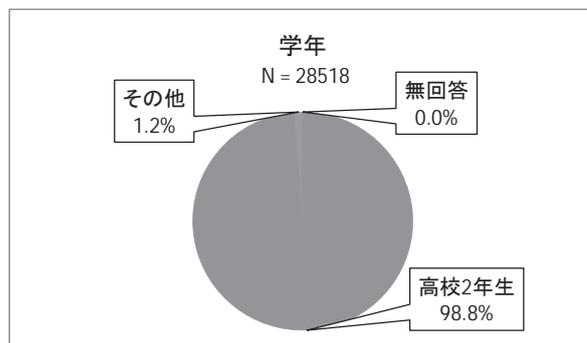
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	96	49.5
2	わからない	90	46.4
3	入学を希望しない	6	3.1
	無回答	2	1.0
	N (%ベース)	194	100

以上の調査結果と、調査対象の高等学校等以外からの高校生の進学も考えられることから、静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の入学定員を満たす学生は確保できるものとする。

単純集計表

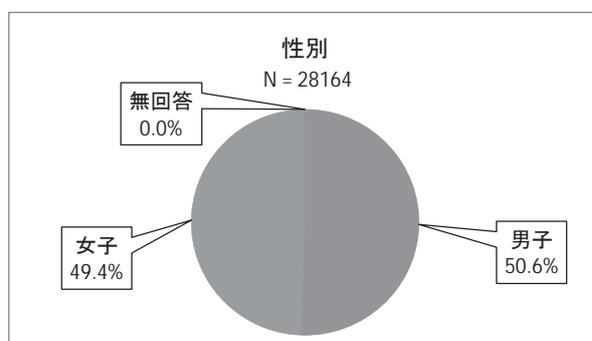
学年

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	高校2年生	28,164	98.8
2	その他	348	1.2
	無回答	6	0.0
	N (%ベース)	28,518	100



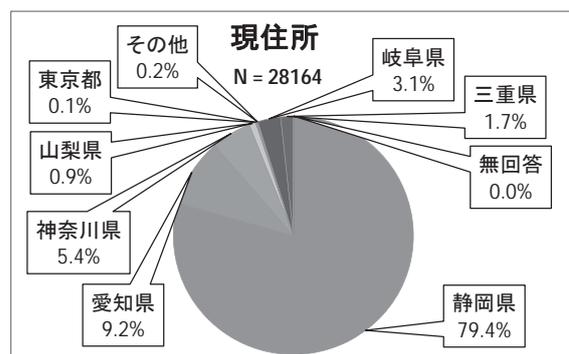
性別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	男子	14,256	50.6
2	女子	13,899	49.4
	無回答	9	0.0
	N (%ベース)	28,164	100



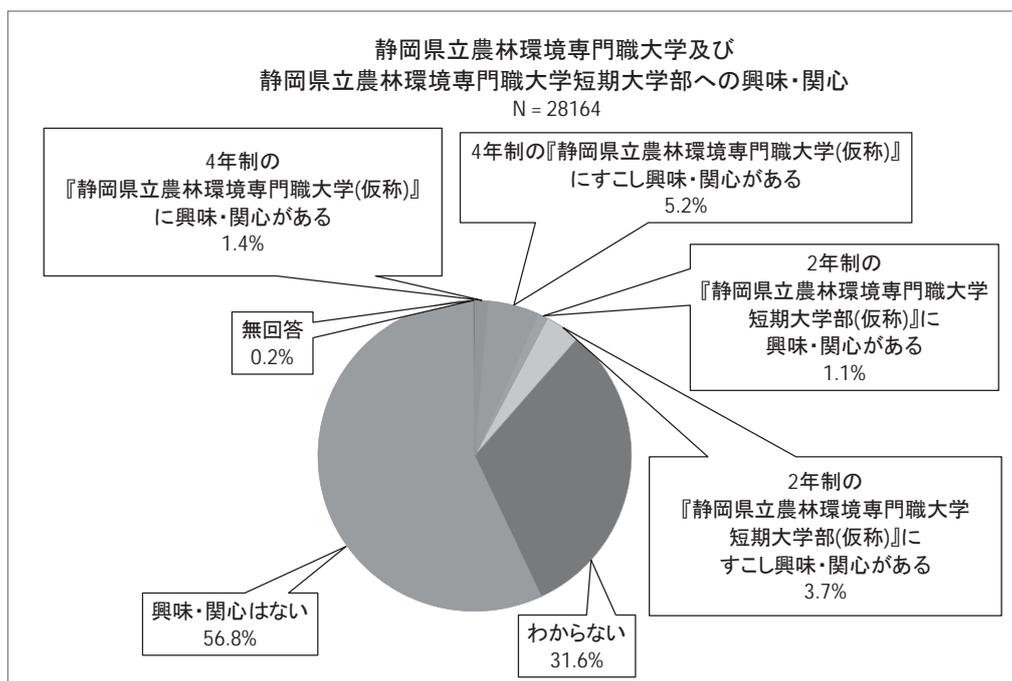
問3 現住所

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	静岡県	22,366	79.4
2	愛知県	2,600	9.2
3	神奈川県	1,512	5.4
4	山梨県	245	0.9
5	東京都	30	0.1
6	その他	45	0.2
7	岐阜県	885	3.1
8	三重県	475	1.7
	無回答	6	0.0
	N (%ベース)	28,164	100



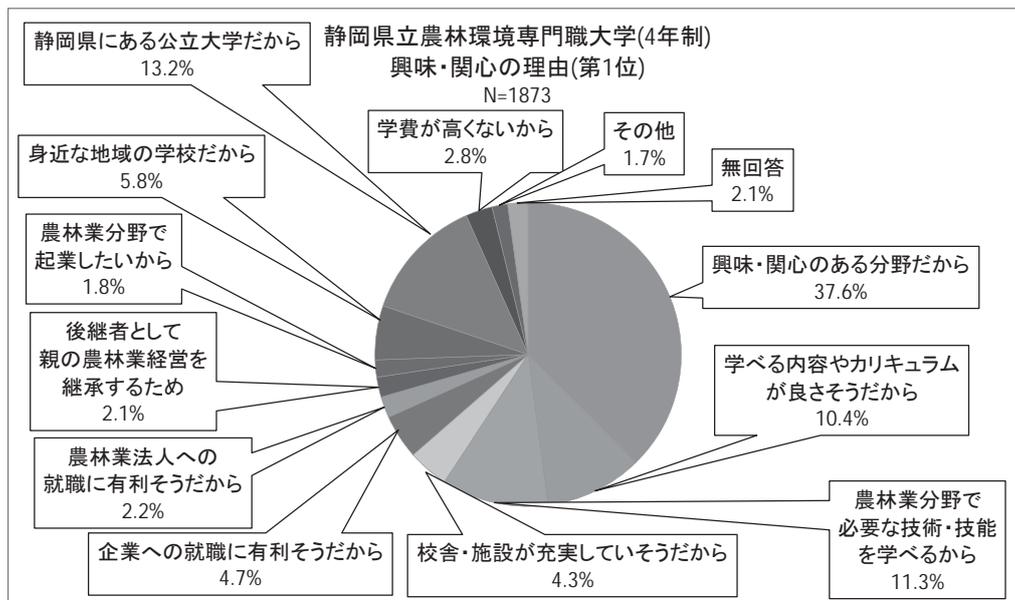
静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	4年制の『静岡県立農林環境専門職大学(仮称)』に興味・関心がある	398	1.4
2	4年制の『静岡県立農林環境専門職大学(仮称)』にすこし興味・関心がある	1,475	5.2
3	2年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)』に興味・関心がある	302	1.1
4	2年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)』にすこし興味・関心がある	1,031	3.7
5	わからない	8,909	31.6
6	興味・関心はない	16,006	56.8
	無回答	43	0.2
	N (%ベース)	28,164	100



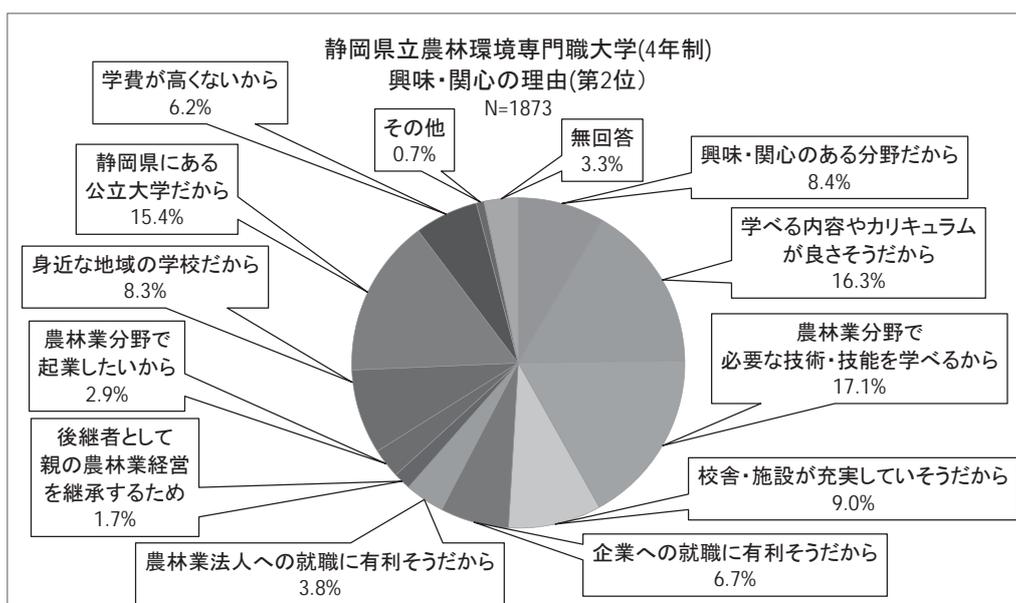
静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味・関心の理由(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	704	37.6
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	194	10.4
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	211	11.3
4	校舎・施設が充実していそうだから	81	4.3
5	企業への就職に有利そうだから	88	4.7
6	農林業法人への就職に有利そうだから	42	2.2
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	40	2.1
8	農林業分野で起業したいから	34	1.8
9	身近な地域の学校だから	108	5.8
10	静岡県にある公立大学だから	247	13.2
11	学費が高くないから	53	2.8
12	その他	31	1.7
	無回答	40	2.1
	N (%ベース)	1,873	100



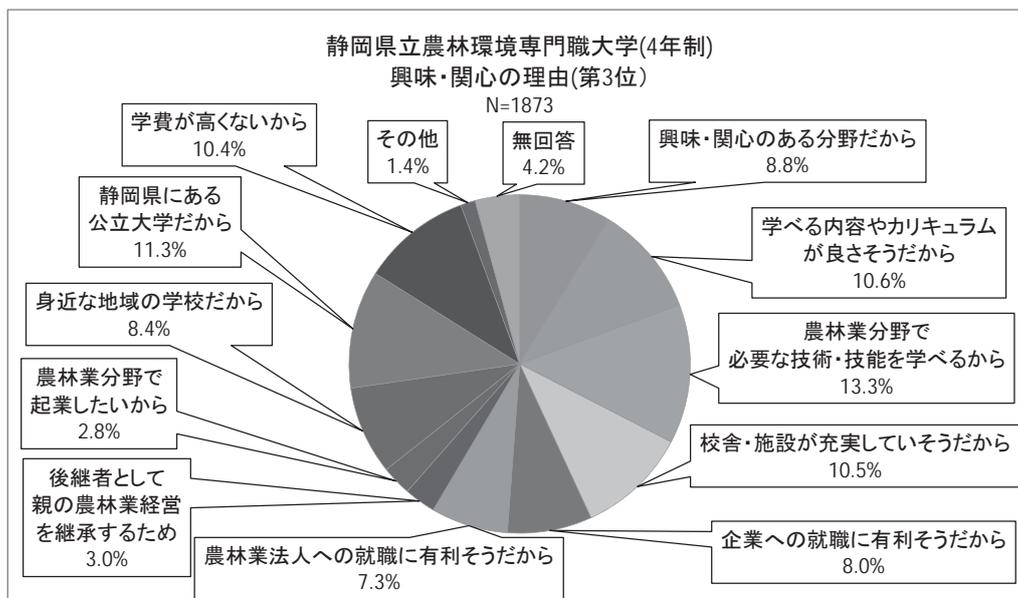
静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味・関心の理由(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	158	8.4
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	306	16.3
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	321	17.1
4	校舎・施設が充実していそうだから	169	9.0
5	企業への就職に有利そうだから	125	6.7
6	農林業法人への就職に有利そうだから	72	3.8
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	32	1.7
8	農林業分野で起業したいから	54	2.9
9	身近な地域の学校だから	155	8.3
10	静岡県にある公立大学だから	289	15.4
11	学費が高くないから	116	6.2
12	その他	14	0.7
	無回答	62	3.3
	N (%ベース)	1,873	100



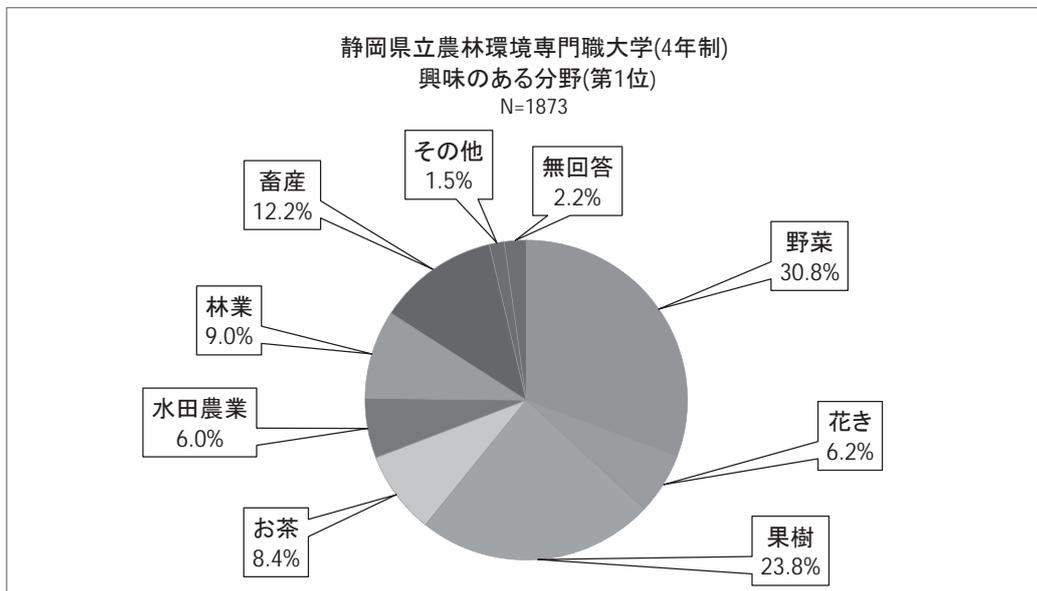
静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味・関心の理由(第3位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	164	8.8
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	198	10.6
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	249	13.3
4	校舎・施設が充実していそうだから	197	10.5
5	企業への就職に有利そうだから	150	8.0
6	農林業法人への就職に有利そうだから	137	7.3
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	56	3.0
8	農林業分野で起業したいから	53	2.8
9	身近な地域の学校だから	158	8.4
10	静岡県にある公立大学だから	211	11.3
11	学費が高くないから	195	10.4
12	その他	26	1.4
	無回答	79	4.2
	N (%ベース)	1,873	100



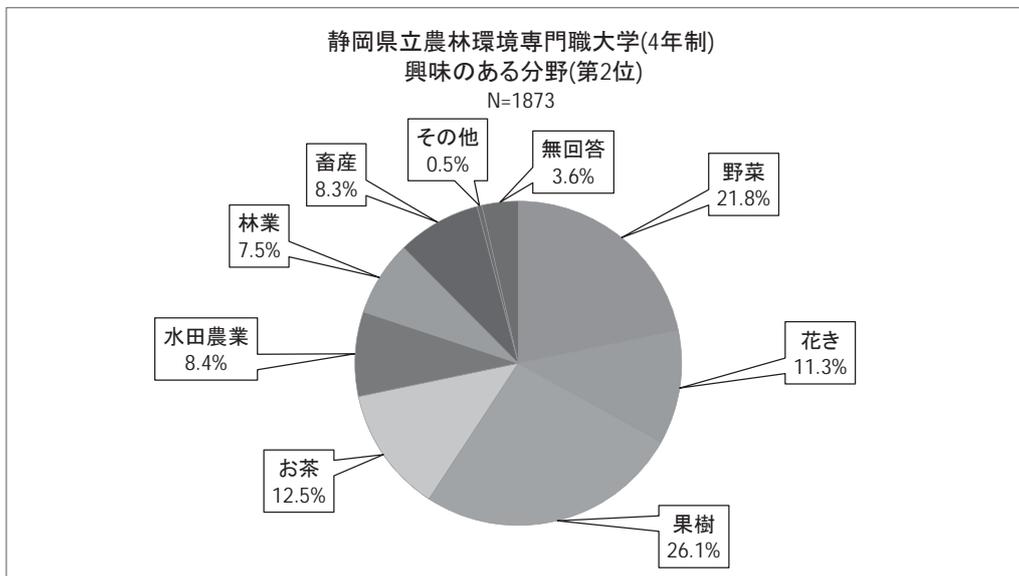
静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味のある分野(第1位)

No.		件数	(全体)%
1	野菜	576	30.8
2	花き	116	6.2
3	果樹	446	23.8
4	お茶	157	8.4
5	水田農業	113	6.0
6	林業	168	9.0
7	畜産	228	12.2
8	その他	28	1.5
	無回答	41	2.2
	N (%ベース)	1,873	100



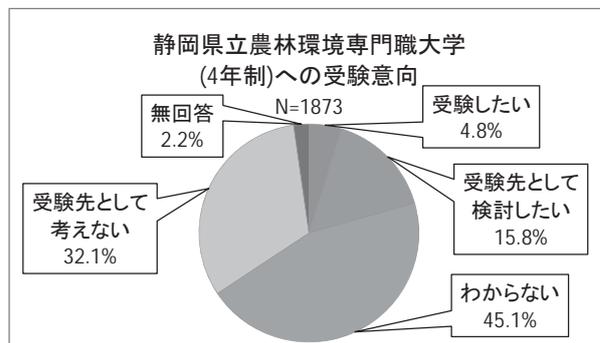
静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味のある分野(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	野菜	408	21.8
2	花き	212	11.3
3	果樹	489	26.1
4	お茶	234	12.5
5	水田農業	158	8.4
6	林業	140	7.5
7	畜産	156	8.3
8	その他	9	0.5
	無回答	67	3.6
	N (%ベース)	1,873	100



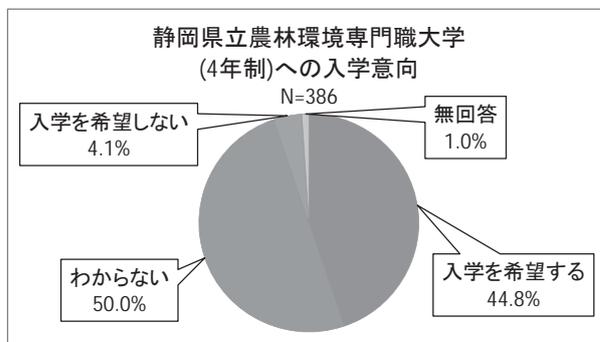
静岡県立農林環境専門職大学(4年制)への受験意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験したい	90	4.8
2	受験先として検討したい	296	15.8
3	わからない	844	45.1
4	受験先として考えない	601	32.1
	無回答	42	2.2
	N (%ベース)	1,873	100



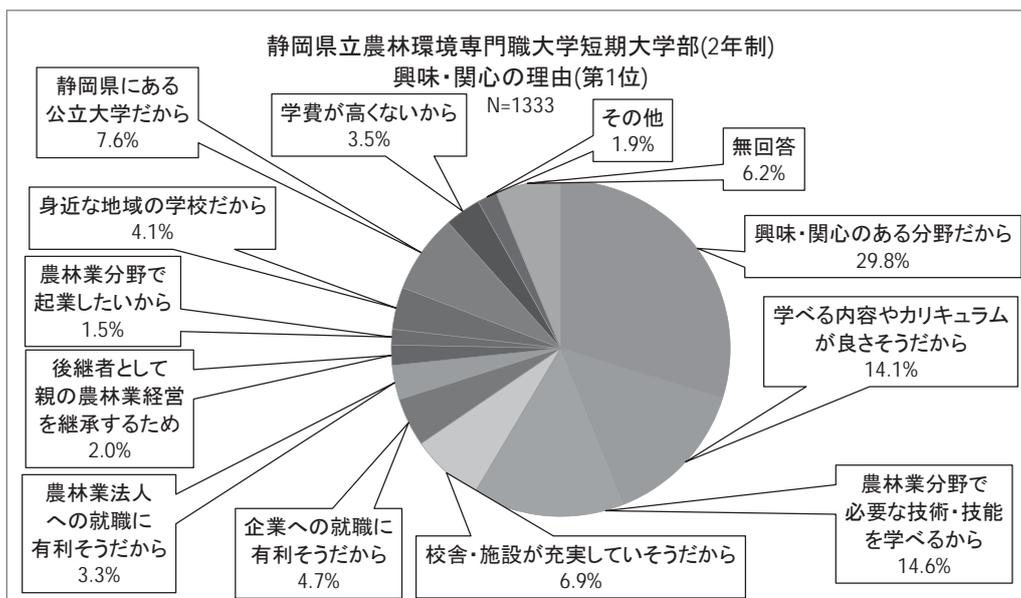
静岡県立農林環境専門職大学(4年制)への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	173	44.8
2	わからない	193	50.0
3	入学を希望しない	16	4.1
	無回答	4	1.0
	N (%ベース)	386	100



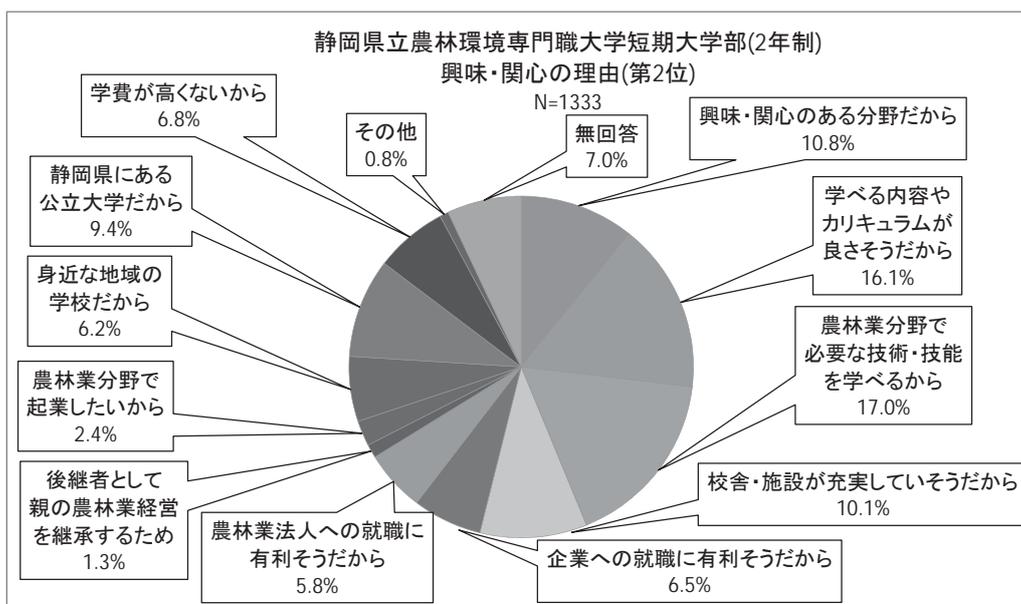
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制) 興味・関心の理由(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	397	29.8
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	188	14.1
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	195	14.6
4	校舎・施設が充実していそうだから	92	6.9
5	企業への就職に有利そうだから	62	4.7
6	農林業法人への就職に有利そうだから	44	3.3
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	26	2.0
8	農林業分野で起業したいから	20	1.5
9	身近な地域の学校だから	54	4.1
10	静岡県にある公立大学だから	101	7.6
11	学費が高くないから	46	3.5
12	その他	25	1.9
	無回答	83	6.2
	N (%ベース)	1,333	100



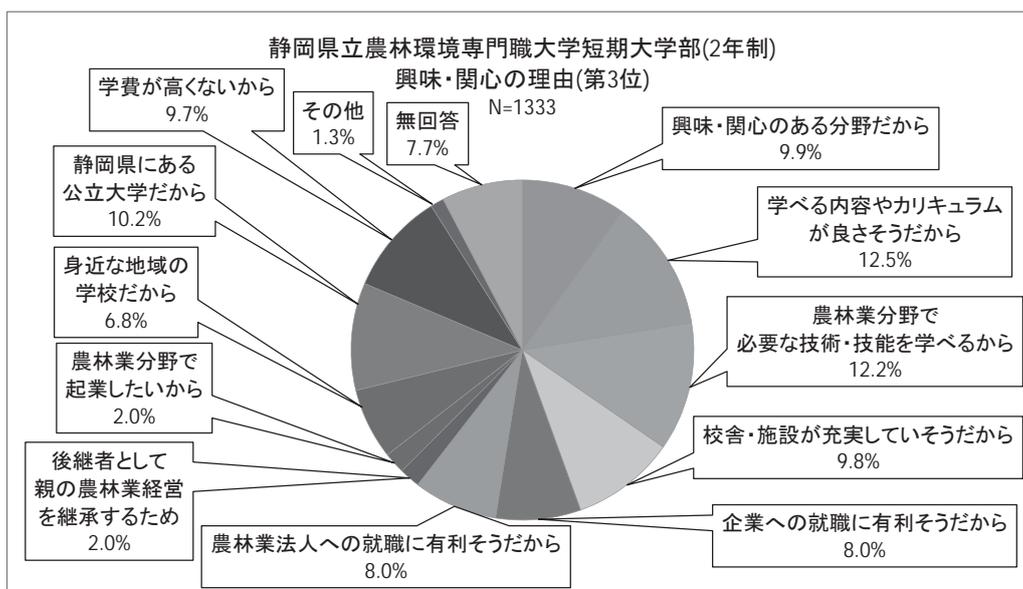
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制) 興味・関心の理由(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	144	10.8
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	214	16.1
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	226	17.0
4	校舎・施設が充実していそうだから	134	10.1
5	企業への就職に有利そうだから	87	6.5
6	農林業法人への就職に有利そうだから	77	5.8
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	17	1.3
8	農林業分野で起業したいから	32	2.4
9	身近な地域の学校だから	82	6.2
10	静岡県にある公立大学だから	125	9.4
11	学費が高くないから	91	6.8
12	その他	11	0.8
	無回答	93	7.0
	N (%ベース)	1,333	100



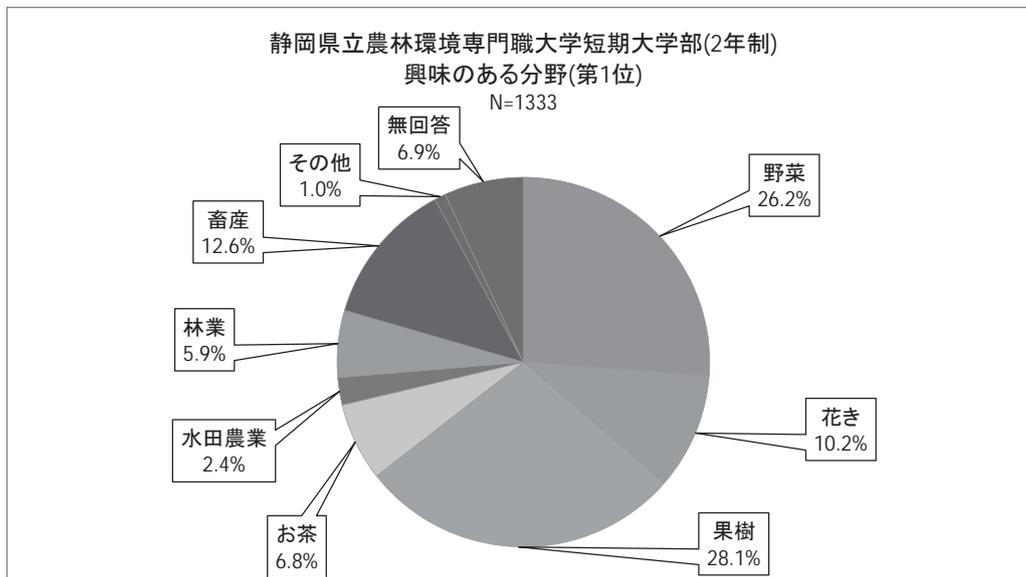
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制) 興味・関心の理由(第3位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	132	9.9
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	167	12.5
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	163	12.2
4	校舎・施設が充実していそうだから	131	9.8
5	企業への就職に有利そうだから	107	8.0
6	農林業法人への就職に有利そうだから	106	8.0
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	26	2.0
8	農林業分野で起業したいから	27	2.0
9	身近な地域の学校だから	90	6.8
10	静岡県にある公立大学だから	136	10.2
11	学費が高くないから	129	9.7
12	その他	17	1.3
	無回答	102	7.7
	N (%ベース)	1,333	100



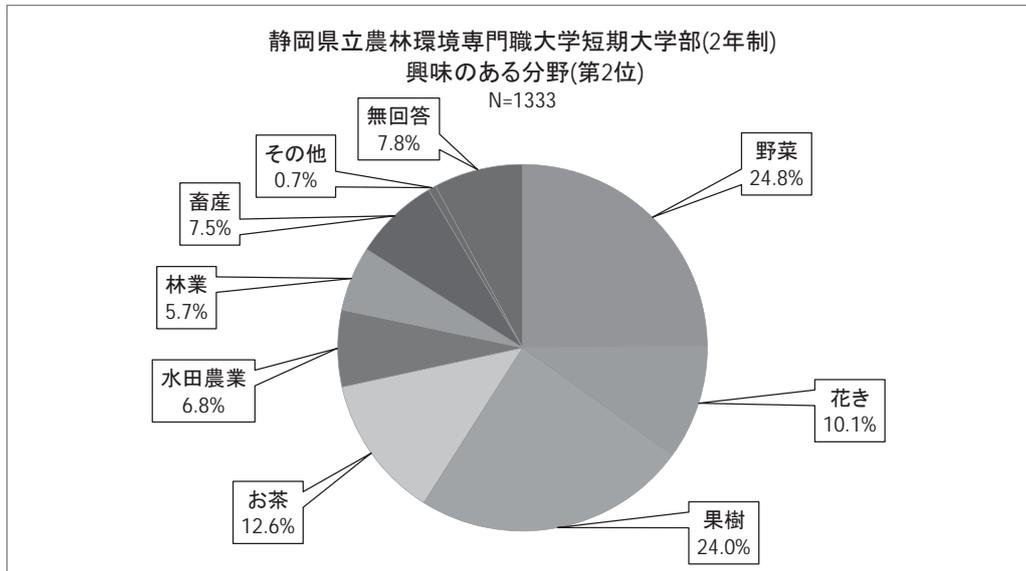
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)
興味のある分野(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	野菜	349	26.2
2	花き	136	10.2
3	果樹	374	28.1
4	お茶	91	6.8
5	水田農業	32	2.4
6	林業	78	5.9
7	畜産	168	12.6
8	その他	13	1.0
	無回答	92	6.9
	N (%ベース)	1,333	100



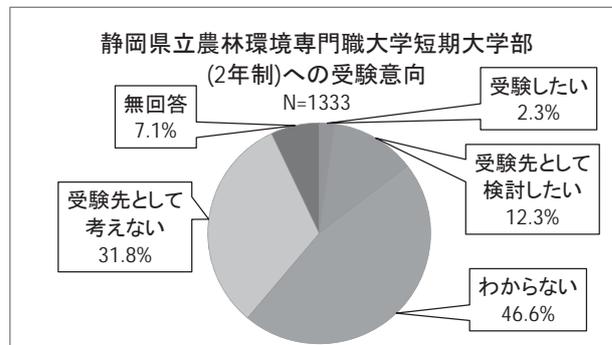
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)
興味のある分野(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	野菜	331	24.8
2	花き	135	10.1
3	果樹	320	24.0
4	お茶	168	12.6
5	水田農業	90	6.8
6	林業	76	5.7
7	畜産	100	7.5
8	その他	9	0.7
	無回答	104	7.8
	N (%ベース)	1,333	100



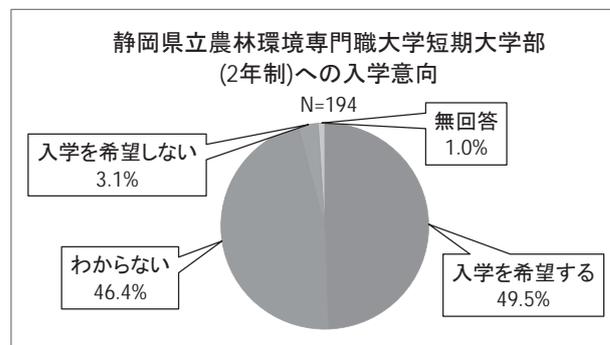
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)への受験意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験したい	30	2.3
2	受験先として検討したい	164	12.3
3	わからない	621	46.6
4	受験先として考えない	424	31.8
	無回答	94	7.1
	N (%ベース)	1,333	100



静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	96	49.5
2	わからない	90	46.4
3	入学を希望しない	6	3.1
	無回答	2	1.0
	N (%ベース)	194	100



調査票

**静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の設置に係るアンケート調査**

- ・静岡県では、2020年4月に県立農林環境専門職大学（仮称）と県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の設置を計画しております。このアンケート調査は、計画の基礎資料とするため、**2020年3月に卒業見込みの皆さん（主に高校2年生）**の卒業後の進路等についてお聞きするものです。御協力をお願いいたします。
- ・このアンケート結果は、統計資料としてのみ用い、目的以外に利用することはありません。
- ・回答は、該当する番号を回答欄の の中へ直接記入してください。

[あなたに関することについてお答えください]

- 問1. あなたの学年をおたずねします。 【回答欄】
1. 高校2年生 2. その他 ()
- 問2. あなたの性別についておたずねします。
1. 男子 2. 女子
- 問3. あなたのお住まい（現住所）についておたずねします。
1. 静岡県 4. 山梨県 7. 岐阜県
2. 愛知県 5. 東京都 8. 三重県
3. 神奈川県 6. その他 ()

ここからは、

本票と一緒に配布されたリーフレット

『静岡県立 農林環境専門職大学（仮称） 農林環境専門職大学短期大学部（仮称）』

本調査票4ページの「類似する大学・学部・学科及び学校一覧」

を御覧頂いた上で、御回答ください。

- 問4. あなたは静岡県立農林環境専門職大学（仮称）、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）について、どのように考えますか。次の中から 1 つだけ選んでください。
1. 4年制の『静岡県立農林環境専門職大学（仮称）』に興味・関心がある
2. 4年制の『静岡県立農林環境専門職大学（仮称）』にすこし興味・関心がある
3. 2年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）』に興味・関心がある
4. 2年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）』にすこし興味・関心がある
5. わからない
6. 興味・関心はない

問4で、

「1、2」を選ばれた方は、2ページ目の問5から御回答ください。

「3、4」を選ばれた方は、3ページ目の問9から御回答ください。

「5、6」を選ばれた方は、4ページ目の問13を御回答ください。

問 4 で (静岡県立農林環境専門職大学 (仮称) 静岡県立農林環境専門職大学短期大学部 (仮称) への興味・関心で)

1. 4 年制の『静岡県立農林環境専門職大学 (仮称)』に興味・関心がある
 2. 4 年制の『静岡県立農林環境専門職大学 (仮称)』にすこし興味・関心がある
- 選ばれた方のみ、下の設問に御回答ください。

問 5 . 問 4 で「1 . 4 年制の『静岡県立農林環境専門職大学 (仮称)』に興味・関心がある」、「2 . 4 年制の『静岡県立農林環境専門職大学 (仮称)』にすこし興味・関心がある」と回答された方におたずねします。それは、どのような理由からですか。

次の中からあてはまるものを第 3 位まで選んでください。

- | | | | |
|-------------------------|-------------------|-------|--------------------------|
| 1. 興味・関心のある分野だから | 8. 農林業分野で起業したいから | 第 1 位 | <input type="checkbox"/> |
| 2. 学べる内容やカリキュラムが良さそうだから | 9. 身近な地域の学校だから | 第 2 位 | <input type="checkbox"/> |
| 3. 農林業分野で必要な技術・技能を学べるから | 10. 静岡県にある公立大学だから | | |
| 4. 校舎・施設が充実していそうだから | 11. 学費が高くないから | 第 3 位 | <input type="checkbox"/> |
| 5. 企業への就職に有利そうだから | 12. その他 | | |
| 6. 農林業法人への就職に有利そうだから | (具体的に: _____) | | |
| 7. 後継者として親の農林業経営を継承するため | | | |

問 6 . 農林業では、どの生産分野に興味がありますか。次の中からあてはまるものを第 2 位まで選んでください。

- | | | | | | |
|-------|-------|---------|------------------|-------|--------------------------|
| 1. 野菜 | 3. 果樹 | 5. 水田農業 | 7. 畜産 | 第 1 位 | <input type="checkbox"/> |
| 2. 花き | 4. お茶 | 6. 林業 | 8. その他 (_____) | 第 2 位 | <input type="checkbox"/> |

問 7 . あなたは静岡県立農林環境専門職大学 (仮称) を受験したいと思いませんか。次の中から 1 つ選んでください。

- | | | | |
|----------------|---|--|--------------------------|
| 1. 受験したい | } | <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content;">1、2 を選ばれた方は下の問 8 へお進みください。
3、4 を選ばれた方は 4 ページの問 13 へお進みください。</div> | <input type="checkbox"/> |
| 2. 受験先として検討したい | | | |
| 3. わからない | | | |
| 4. 受験先として考えない | | | |

問 8 . 問 7 で、「1 . 受験したい」、「2 . 受験先として検討したい」と回答された方におたずねします。静岡県立農林環境専門職大学 (仮称) を受験し、合格した場合の入学意向について、次の中から 1 つ選んでください。

- | | |
|-------------|--------------------------|
| 1. 入学を希望する | <input type="checkbox"/> |
| 2. わからない | |
| 3. 入学を希望しない | |

問 8 を御回答後は、4 ページの問 13 へお進みください。

問 4 で (静岡県立農林環境専門職大学 (仮称) 静岡県立農林環境専門職大学短期大学部 (仮称) への興味・関心で)

3. 2 年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部 (仮称)』に興味・関心がある
4. 2 年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部 (仮称)』にすこし興味・関心がある
選ばれた方のみ、下の設問に御回答ください。

問 9 . 問 4 で「3 . 2 年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部 (仮称)』に興味・関心がある」、「4 . 2 年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部 (仮称)』にすこし興味・関心がある」と回答された方におたずねします。それは、どのような理由からですか。
次の中からあてはまるものを第 3 位まで選んでください。

- | | | | |
|-------------------------|-------------------|-------|----------------------|
| 1. 興味・関心のある分野だから | 8. 農林業分野で起業したいから | 第 1 位 | <input type="text"/> |
| 2. 学べる内容やカリキュラムが良さそうだから | 9. 身近な地域の学校だから | | |
| 3. 農林業分野で必要な技術・技能を学べるから | 10. 静岡県にある公立大学だから | 第 2 位 | <input type="text"/> |
| 4. 校舎・施設が充実していそうだから | 11. 学費が高くないから | | |
| 5. 企業への就職に有利そうだから | 12. その他 | 第 3 位 | <input type="text"/> |
| 6. 農林業法人への就職に有利そうだから | (具体的に: _____) | | |
| 7. 後継者として親の農林業経営を継承するため | | | |

問 10 . 農林業では、どの生産分野に興味がありますか。次の中からあてはまるものを第 2 位まで選んでください。

- | | | | | | |
|-------|-------|---------|------------------|-------|----------------------|
| 1. 野菜 | 3. 果樹 | 5. 水田農業 | 7. 畜産 | 第 1 位 | <input type="text"/> |
| 2. 花き | 4. お茶 | 6. 林業 | 8. その他 (_____) | 第 2 位 | <input type="text"/> |

問 11 . あなたは静岡県立農林環境専門職大学短期大学部 (仮称) を受験したいと思いますか。次の中から 1 つ選んでください。

- | | | | |
|----------------|---|---|----------------------|
| 1. 受験したい | } | <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">1、2 を選ばれた方は下の問 12 へお進みください。
3、4 を選ばれた方は 4 ページの問 13 へお進みください。</div> | <input type="text"/> |
| 2. 受験先として検討したい | | | |
| 3. わからない | | | |
| 4. 受験先として考えない | | | |

問 12 . 問 11 で、「1 . 受験したい」、「2 . 受験先として検討したい」と回答された方におたずねします。静岡県立農林環境専門職大学短期大学部 (仮称) を受験し、合格した場合の入学意向について、次の中から 1 つ選んでください。

- | | |
|-------------|----------------------|
| 1. 入学を希望する | <input type="text"/> |
| 2. わからない | |
| 3. 入学を希望しない | |

問 12 を御回答後は、4 ページの問 13 へお進みください。

問 13 . 静岡県立農林環境専門職大学（仮称） 静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の設置計画にあたり、御意見・御要望がありましたらお聞かせください。

御協力ありがとうございました。

類似する大学・学部・学科及び学校一覧

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）

所在地	区分	大学名	学部名	学科名	入学定員	入学金	授業料	施設設備費等	諸会費	合計
三重	国立	三重大学	生物資源学部	資源循環学科	70	282,000	535,800	0	0	817,800
静岡	国立	静岡大学	農学部	生物資源科学科	115	282,000	535,800	0	0	817,800
岐阜	国立	岐阜大学	応用生物科学部	生産環境科学課程	80	282,000	535,800	0	0	817,800
神奈川	私立	東京農業大学	農学部	農学科	170	270,000	760,000	435,600	57,800	1,523,400
愛知	国立	名古屋大学	農学部	応用生命科学科	66	282,000	535,800	0	0	817,800
愛知	私立	中部大学	応用生物科学部	環境生物科学科	110	280,000	930,000	410,000	53,300	1,673,300
愛知	私立	人間環境大学	人間環境学部	環境科学科	80	200,000	700,000	430,000	41,460	1,371,460
愛知	私立	名城大学	農学部	生物資源学科	110	200,000	935,000	350,000	0	1,485,000
静岡	公立	農林環境専門職大学(仮称)	生産環境経営学部(仮称)	生産環境経営学科（仮称）	24	(県内) 141,000	322,300	0	0	463,300
						(県外) 366,600				688,900

注1) 各大学情報については、公式ウェブサイト等により調査しました。
 注2) 各大学の学費については、諸会費などを含んでいない場合があるため、概算として参考にして下さい。
 注3) 静岡県立農林環境専門職大学（仮称）の学費は予定であり、変更する場合があります。

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）

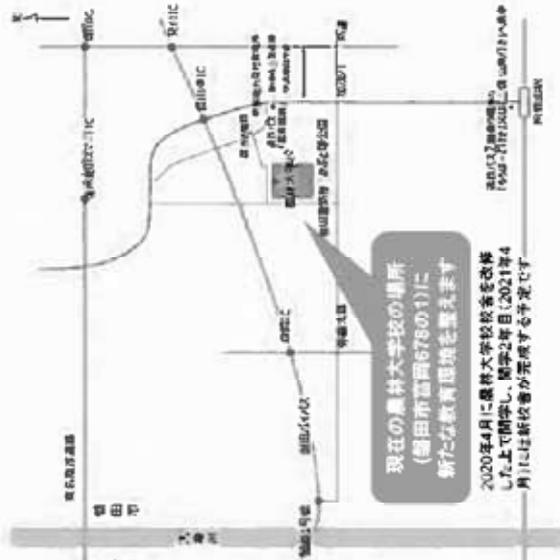
所在地	区分	大学名・学校名	学部・学科名	入学定員	入学金	授業料	施設設備費等	教材費	合計
三重	公立	三重県農業大学校	養成科二年課程	30	0	118,800	0	0	118,800
岐阜	公立	岐阜県農業大学校	野菜・果樹学科 畜産学科	30	0	69,120	0	0	69,120
愛知	公立	愛知県立農業大学校	教育部農学科	100	5,650	60,000	0	0	65,650
静岡	公立	農林環境専門職大学短期大学部(仮称)	生産科学科(仮称)	100	(県内) 84,600	234,600	0	0	319,200
					(県外) 219,900				454,500

注1) 各大学校情報については、公式ウェブサイト等により調査しました。
 注2) 教材費は大学へ納める金額の合計金額で、実費が別途かかる場合があるため、概算として参考にして下さい。
 注3) 静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の学費は予定であり、変更する場合があります。

資格免許取得等について

- 授業の中で取得に取り組める資格・免許（予定）
 - 大型特殊自動車運転免許（仮免許）、農業技術師補、日本農アトバイザー、労働安全衛生師免許、フォークリフト運転技能講習修了証、EPA（大塚水等）特別教員、環境免許、簿記検定など
 - ※4年制、2年制ともに取得が可能です（専攻分野によって取得できるものがあります）。また、取得費用は別途必要です。
- 農林業の担い手を目指す学生の就農を支援する給付金制度
 - ・農業次世代人材投資事業（産直型） ・若の青年就職促進給付金事業
 - ※卒業後1年以内の就農などの条件を満たす必要があります。給付要件を満たさなくなると給付金も停止し、返還しなければなりません。
- 共同生活を通じて協同性を養う学生生活
 - ・4年制、2年制ともに、1年生は別荘（全寮制）にすることを検討しています。
- 現在の農林大学校の男女比
 - ・学生の男女比は男性：女性＝2：1で、9人に1人は女性の学生です。

交通アクセス



現在の農林大学校の場所
(備前市宮前6780-1)に
新たな教育環境を築きます

2020年4月に農林大専攻者を改編
した上で開学し、開学2年目(2021年4
月)には新校舎が完成する予定です

【電車・バスでのアクセス】

- 東京方面より 新幹線「JR山陽新幹線」下車→東横線「JR赤松駅」下車
- 名古屋方面より 新幹線「JR東海道新幹線」下車→東横線「JR赤松駅」下車
- JR愛用車北口 バスロータリーより遠州鉄道バス(10分)→徒歩(10分)

お問い合わせ

特別区経済産業局 就業支援センター 農林大学支援課 TEL: 054-221-2734
〒420-8501 静岡県袋井市袋井9番6号 農林大学9階 FAX: 054-221-3688

※設置構想中のため、このリーフレットの記載内容は変更となる可能性があります。



2020年4月
開学予定
(設置構想中)

静岡県立 農林環境専門職大学 (仮称) 農林環境専門職大学 (仮称) 短期大学部

静岡県では、静岡県立農林大学校を、農林業者を養成する専門学校として、本県の農林業の発展に貢献してこましたが、近年の農林業経営の規模拡大や多様化に対応するため、このたび4年制の専門職大学と2年制の専門職短期大学への移行を検討しています。

専門職大学とは？

2019年4月から新たに創設される実践的な職業教育を行う新しい高等教育機関です。

多岐の産業界分野（農業や観光、情報など）において、専門職職人として活躍する実践的な教育のニーズが高まれば、新たに創設された大学です。

特に、正統的な実践教育や専門職の育成の観点から、専門職大学として、高度な「実践力」や豊かな「創造性」を培うことが重要で、多くの点が特長とされています。

【新たな高等専門教育】



■設置者
静岡県が設置する、公立の専門職大学及び専門職短期大学です。

■学部・学科名

4年制	生産環境経営学部(仮称)	入学定員	24名(予定)
2年制	生産環境経営学科(仮称)	入学定員	100名(予定)
2年制	短期大学部(仮称)		
	生産科学科(仮称)		

■開学時期
2020年4月の開学を旨とし、大学選考認可申請の準備を進めています。

■学位等

専門職大学の卒業生には、「学士(専門職)」, 専門職短期大学の卒業生には「短期大学士(専門職)」の学位がそれぞれ授与されます。これらは、4年制大学や短期大学の卒業生に与えられる「学士」短期大学士と同等のものです。

※設置構想中のため、このリーフレットの記載内容は変更となる可能性があります。

○「耕土耕心（大地を耕し、心を耕す）」の理念のもとに、多くの実習を行い、農林業のプロフェッショナルを養成します
 農林大学校の校訓「耕土耕心」＝「むたいに汗し、土にまみれて大地を耕すことにより、自分を知り、自分の心を成長させ、立派な人間性をつくりあげることができる。大地を耕すことは自らからの心を耕すことである」という理念を引き継ぎ、実学を重んじ、社会に貢献する畑で年間を通じた栽培等の実習や、先進的企業でのインターンを実施するとともに、豊かな人間性を養い視野を広げる就業教育を提供します。

○人々の食やくらしを支え、新たな可能性が広がる農林業の、あらゆるシーンに対応できる力を養います

・農林業現場における経営知識の拡大や新しい技術の導入などに貢献することができるよう、基礎的な生産知識や技能に加え、農林業を取り巻く多様なシーンについて学べます。
 ・農山村の新しい役割として注目を集めている、美しい景観の形成や自然環境の保全などについて学び、農林業を通じて自然と共生しながら地域を支えていく農林業人を養成します。

○全国初の農林業分野の専門職大学です

農林業分野では全国初の公立の専門職大学及び専門職短期大学となる見込みです。専門職大学卒業生には「学士（専門職）」、専門職短期大学卒業生には「短期大学士（専門職）」の学位がそれぞれ授与されます。

農林環境専門職大学 (短大)

生産環境経営学科 (短科) 入学定員 24名 (予定) 4年制

POINT 1

農林業経営の現場で生まれる課題に柔軟に対応しながら、経営の中心として自らの夢を実現できる農林業者の養成を目指します。

○高度な生産技術に加え、マーケティングの視点に立った商品の安全性や食味の保証、販路開拓など、生産者の責任と責任の手法を学べます。

○農林業経営者層でのインターンを通じ、実際の経営課題の解決方法を提案する、実践的なプロジェクト実習を行います。

POINT 2

風土・環境や地域の文化を守り、自然と共生していくことのできる、豊かな人間性を持った農林業者の養成を目指します。

○新創作物種など、近年注目を集めている農山村の多様な役割を学べます。



実践的な農林業経営を学ぶカリキュラム

★経営者の公算のほかに、経営者としての実践的な知識を身に付けます。

実務のキーワード
経営者倫理
日本文化・語学
理解
一般教養

★農林業経営に必要な経営者としての実践的な知識を身に付け、農山村が持つ特徴や役割について理解を深めます。

実務のキーワード
フードシステム
食品加工
木材加工
6次産業化

★経営者としての実践的な知識を身に付けます。

実務のキーワード
経営課題
課題発見
課題解決力

農林業経営のプロフェッショナルを目指す

新しい視点でチャレンジする農林業経営体後継者や幹部、農林業経営体の立上げ、農林業へ参入する企業へ就職、技術指導・普及を行う公務員、JA・森林組合の職員 等



農林環境専門職大学 (短大)

生産科学科 (短科) 入学定員 100名 (予定) 2年制

POINT 1

確かな生産知識と技術を持つ、生産現場で即戦力として活躍するスペシャリスト農林業者の養成を目指します。

○作物別（野菜・花き、野菜、果樹、林産、畜産等）に実践的な生産知識と技術を習得できます。

POINT 2

生産現場のリーダーに必要な豊かな人間性と、現場の課題に対応できる先進的な生産知識・技術と応用力を身に付けます。

○農林業経営者層でのインターンを通じ、生産現場で実践的な経験を積むことができます。

○ICTやIoTなど、農林業現場に導入が進んでいる先端技術を学べます。



実践的な生産技術を学ぶカリキュラム

★生産現場のリーダーに必要な知識と技術を身に付けます。

実務のキーワード
コミュニケーション
語学
一般教養

★生産現場から生産者に求められる実践的な知識と技術を身に付けます。

実務のキーワード
現場加工
食品加工
木材加工
販売実務

★生産現場の課題を自ら発見し、解決する能力を身に付けます。

実務のキーワード
生産課題
課題発見
課題解決力

生産現場のプロフェッショナルを目指す

確かな生産技術・知識を持った農林業後継者、農林業経営体生産現場のリーダー、農林業関連企業（食品・種苗等）への就職 等



※設置構想中のため、このリーフレットの記載内容は変更となる可能性があります。

学生納付金

農林環境専門職大学の学生納付金内訳

学年	入学金	授業料	合計
1年次	(県内) 141,000円	322,300円	(県内) 463,300円
	(県外) 366,600円		(県外) 688,900円
2年次	-	322,300円	322,300円
3年次	-	322,300円	322,300円
4年次	-	322,300円	322,300円
計	(県内) 141,000円	1,289,200円	(県内) 1,430,200円
	(県外) 366,600円		(県外) 1,655,800円

他大学学生納付金

所在地	区分	大学名	学部名	学科名	1年次			2年次以降 ※学年によって変動する場合は最高額となる学年を表記	
					入学金	授業料	計	授業料	計
静岡	国立	静岡大学	農学部	生物資源科学科	282,000	535,800	817,800	535,800	535,800
	国立	名古屋大学	農学部	応用生命科学科	282,000	535,800	817,800	535,800	535,800
愛知	私立	中部大学	応用生物学部	環境生物科学科	280,000	930,000	1,210,000	960,000	960,000
	私立	人間環境大学	人間環境学部	環境科学科	200,000	700,000	900,000	700,000	700,000
	私立	名城大学	農学部	生物資源学科	200,000	935,000	1,135,000	935,000	935,000
岐阜	国立	岐阜大学	応用生物科学部	生産環境科学課程	282,000	535,800	817,800	535,800	535,800
三重	国立	三重大学	生物資源学部	資源循環学科	282,000	535,800	817,800	535,800	535,800
神奈川	私立	東京農業大学	農学部	農学科	270,000	760,000	1,030,000	810,000	810,000

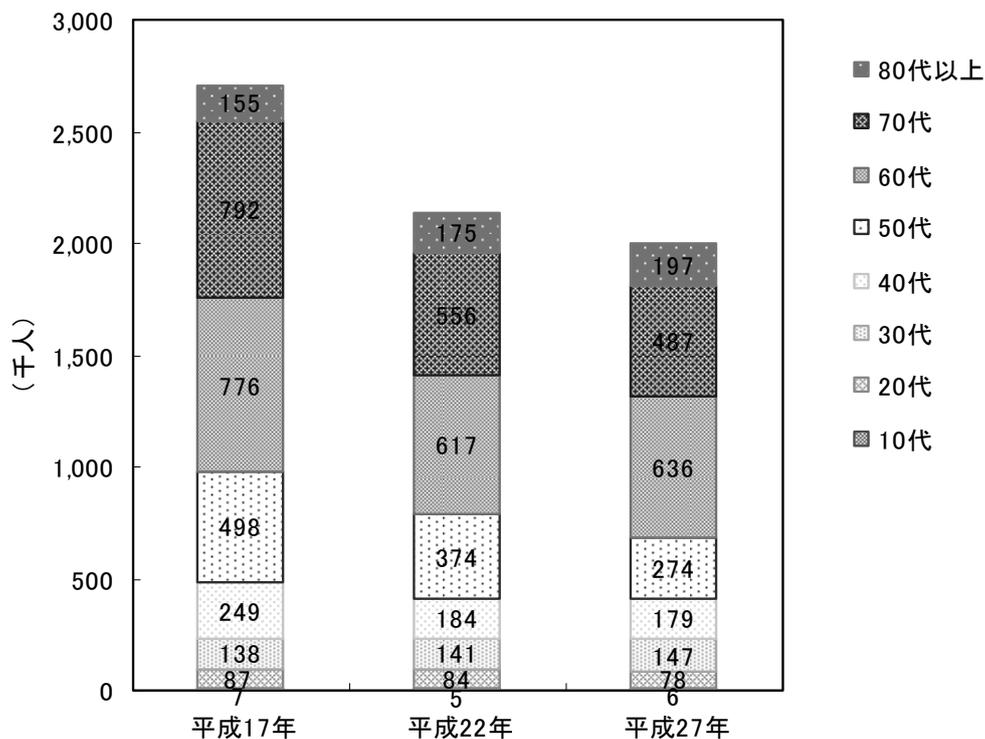
※1) 各大学ホームページに公表している、平成30年度入学者を対象とした学生納付金額を反映。
 ※2) 教材購入費等は含まない

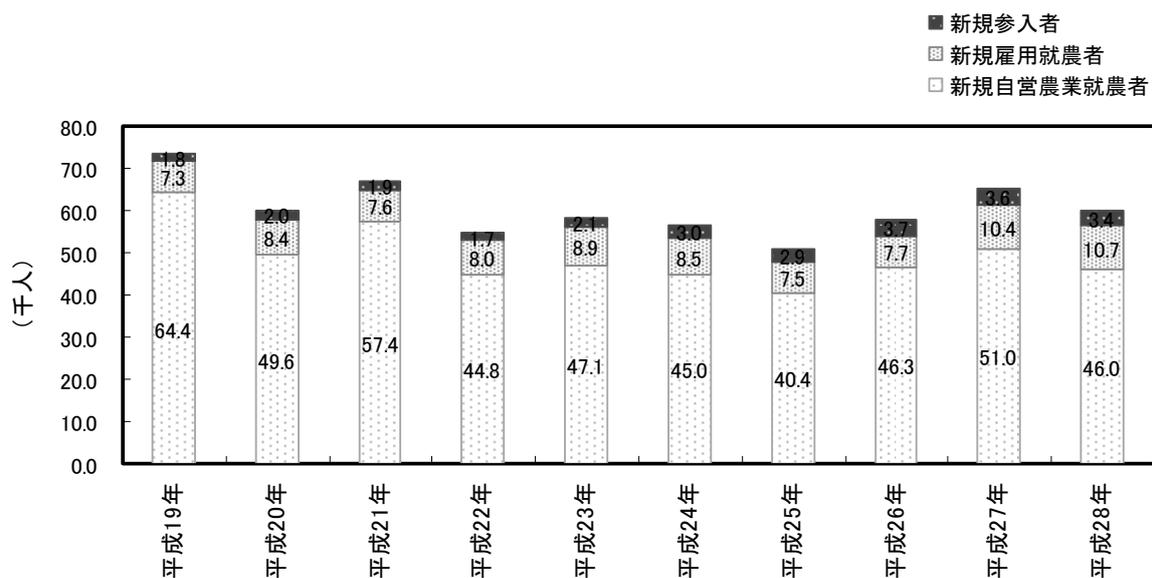
農業への就業者状況（全国）

農業就業者数（全国）

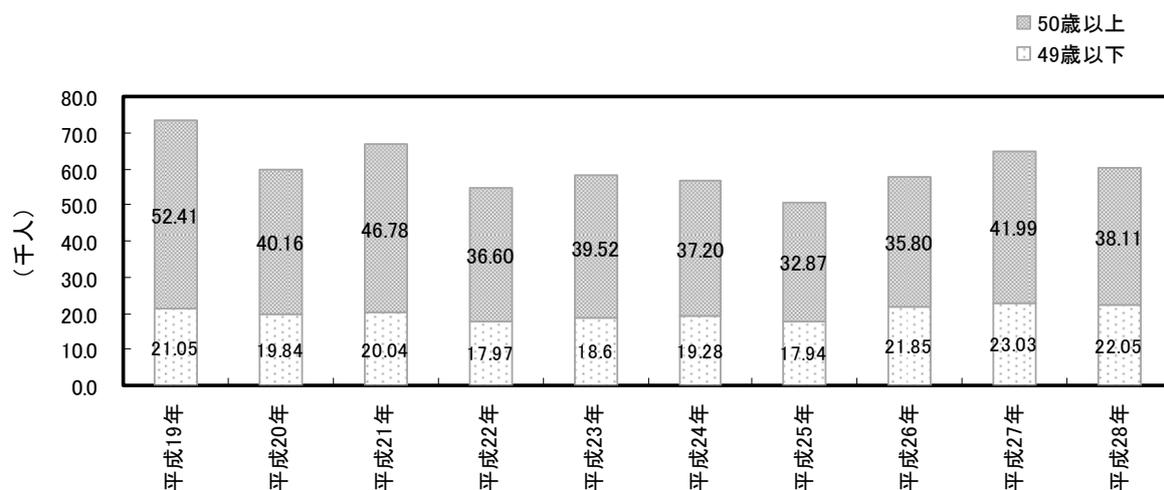
年代	平成17年		平成22年		平成27年		増減率 H27/H17
	総数(人)	(%)	総数(人)	(%)	総数(人)	(%)	
10代	6,694	(0.2%)	5,406	(0.3%)	5,765	(0.3%)	-13.9%
20代	86,982	(3.2%)	84,299	(3.9%)	78,221	(3.9%)	-10.1%
30代	138,406	(5.1%)	140,841	(6.6%)	147,200	(7.3%)	6.4%
40代	249,348	(9.2%)	184,243	(8.6%)	179,290	(8.9%)	-28.1%
50代	498,095	(18.4%)	373,881	(17.5%)	273,803	(13.7%)	-45.0%
60代	775,997	(28.7%)	616,902	(28.9%)	636,357	(31.7%)	-18.0%
70代	792,391	(29.3%)	555,791	(26.0%)	486,799	(24.3%)	-38.6%
80代以上	155,447	(5.8%)	174,614	(8.2%)	196,854	(9.8%)	26.6%
合計	2,703,360	(100.0%)	2,135,977	(100.0%)	2,004,289	(100.0%)	-25.9%

(出典:総務省「国勢調査」)





全国の就農形態別新規就農者の推移
 (出典: 農林水産省「新規就農者調査」)



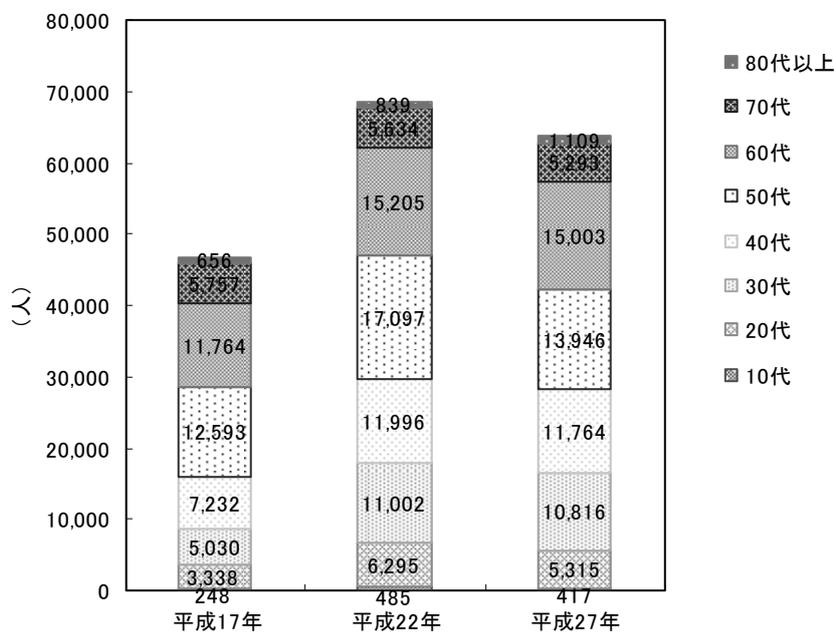
全国の年齢別新規就農者の推移
 (出典: 農林水産省「新規就農者調査」)

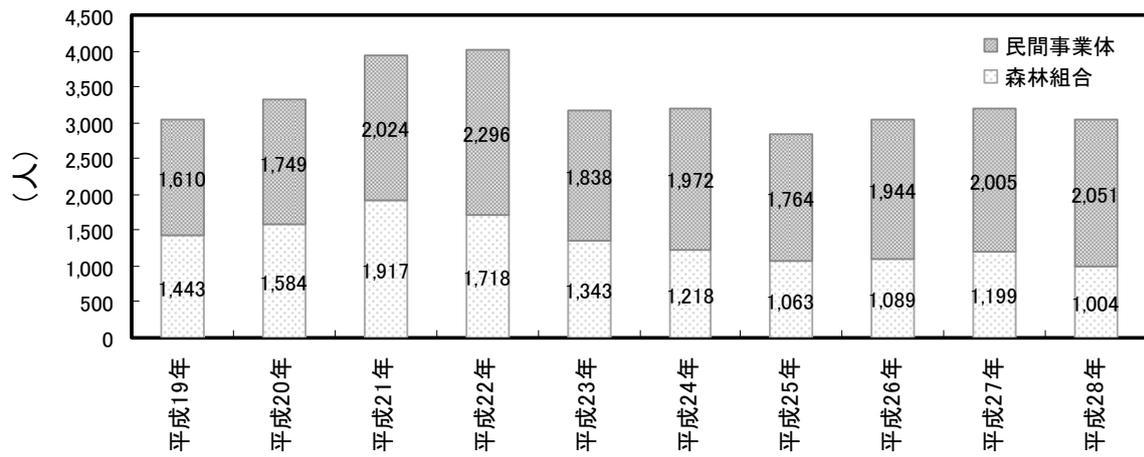
林業への就業者状況（全国）

林業就業者数（全国）

年代	平成17年		平成22年		平成27年		増減率 H27/H17
	総数(人)	(%)	総数(人)	(%)	総数(人)	(%)	
10代	248	(0.5%)	485	(0.7%)	417	(0.7%)	68.1%
20代	3,338	(7.2%)	6,295	(9.2%)	5,315	(8.3%)	59.2%
30代	5,030	(10.8%)	11,002	(16.0%)	10,816	(17.0%)	115.0%
40代	7,232	(15.5%)	11,996	(17.5%)	11,764	(18.5%)	62.7%
50代	12,593	(27.0%)	17,097	(24.9%)	13,946	(21.9%)	10.7%
60代	11,764	(25.2%)	15,205	(22.2%)	15,003	(23.6%)	27.5%
70代	5,757	(12.3%)	5,634	(8.2%)	5,293	(8.3%)	-8.1%
80代以上	656	(1.4%)	839	(1.2%)	1,109	(1.7%)	69.1%
合計	46,618	(100.0%)	68,553	(100.0%)	63,663	(100.0%)	36.6%

(出典:総務省「国勢調査」)

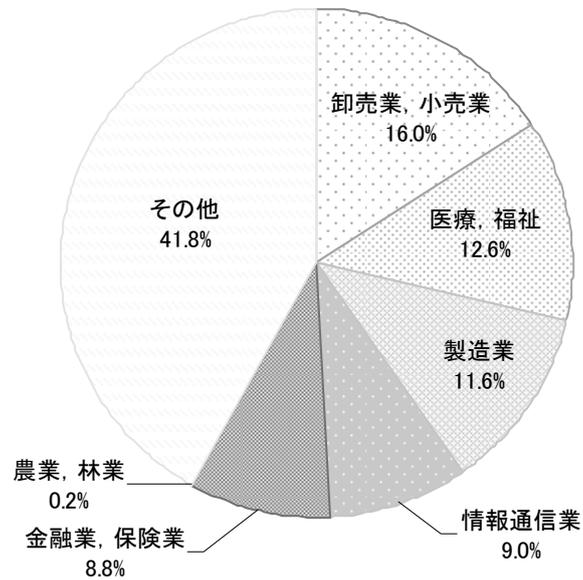




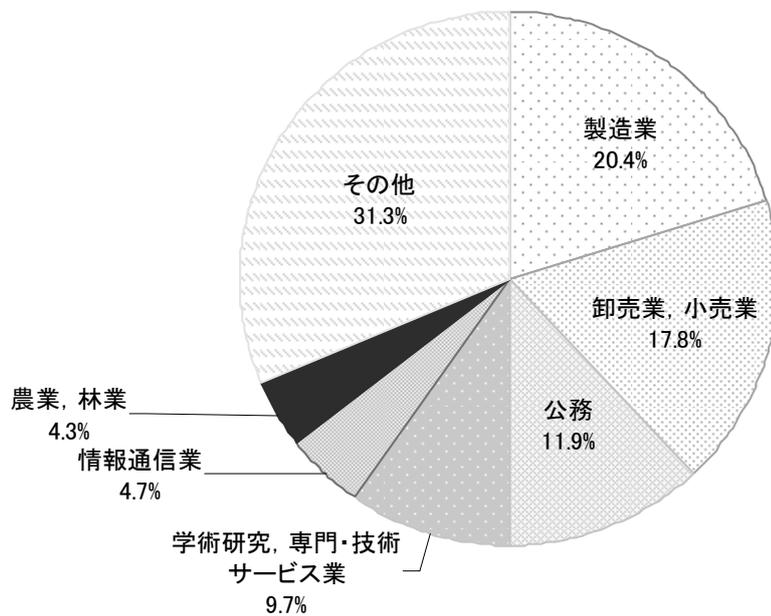
全国の林業新規就業者数の推移(就業先別)

(出典: 林野庁HP「林業労働力の動向」(<http://www.rinya.maff.go.jp/j/routai/koyou/01.html>))

大卒者の産業別就職者数



平成29年度大学卒業者の産業別就職状況(全学部)(n=432,333)
(出典:文部科学省「学校基本調査」)



平成29年度大学卒業者の産業別就職状況(農学部)(n=12,019)
(出典:文部科学省「学校基本調査」)

経営体数等の推移

農業経営体数(全国) (経営体)

年度	(経営体)	
	農業経営体	法人経営
平成17年	2,009,380	19,136 (1.0%)
平成22年	1,679,084	21,627 (1.3%)
平成27年	1,377,266	27,101 (2.0%)
増減率	平成22年/17年	-16.4% 13.0%
	平成27年/22年	-18.0% 25.3%
	平成27年/17年	-31.5% 41.6%

(出典:農林水産省「農林業センサス」)

経営耕地面積規模別農業経営体数(全国) (経営体)

年度	経営耕地面積							全体	
	1ha未満	1.0~10.0ha	10.0~20.0ha	20.0~30.0ha	30.0~50.0ha	100.0ha	100.0ha以上		
平成17年	1,150,656	815,680	21,556	8,259	7,468	4,897	864	2,009,380	
平成22年	932,674	696,868	23,682	9,797	8,986	5,857	1,220	1,679,084	
平成27年	741,363	583,119	25,396	10,292	9,385	6,121	1,590	1,377,266	
増減率	平成22年/17年	-18.9%	-14.6%	9.9%	18.6%	20.3%	19.6%	41.2%	-16.4%
	平成27年/22年	-20.5%	-16.3%	7.2%	5.1%	4.4%	4.5%	30.3%	-18.0%
	平成27年/17年	-35.6%	-28.5%	17.8%	24.6%	25.7%	25.0%	84.0%	-31.5%

(出典:農林水産省「農林業センサス」)

林家・林業経営体の数(全国) (林家:戸、林業経営体:経営体)

年度	林家 ¹⁾	林業経営体 ²⁾	
		林業経営体 ²⁾	法人経営
平成17年	919,833	200,224	8,500 (4.2%)
平成22年	906,805	140,186	6,789 (4.8%)
平成27年	828,973	87,284	5,599 (6.4%)
増減率	平成22年/17年	-1.4%	-30.0% -20.1%
	平成27年/22年	-8.6%	-37.7% -17.5%
	平成27年/17年	-9.9%	-56.4% -34.1%

(出典:農林水産省「農林業センサス」)

1) 保有山林面積が1ha以上の世帯

2) 次のいずれかに該当。①保有山林面積が3ha以上かつ過去5年間に林業作業を行うか森林経営計画又は林業施業計画を策定している、②受託を受けていく林を行っている、③委託や立木の購入により過去1年間に200㎡以上の素材生産を行っている

林家・林業経営体の数と保有山林面積(全国)

(林家:戸、林業経営体:経営体)

区分	年度	保有山林面積					全体	
		1~5ha	5~10ha	10~50ha	50~100ha	100ha以上		
林家	平成17年度	691,774	120,453	97,467	6,900	3,239	919,833	
	平成22年度	680,686	119,292	96,672	6,797	3,358	906,805	
	平成27年度	616,687	110,944	90,980	6,715	3,647	828,973	
	増減率	平成22年/17年	-1.6%	-1.0%	-0.8%	-1.5%	3.7%	-1.4%
	平成27年/22年	-9.4%	-7.0%	-5.9%	-1.2%	8.6%	-8.6%	
	平成27年/17年	-10.9%	-7.9%	-6.7%	-2.7%	12.6%	-9.9%	
林業経営体	平成17年度	67,378	59,869	61,386	6,347	5,244	200,224	
	平成22年度	43,691	41,264	45,857	4,892	4,482	140,186	
	平成27年度	26,014	24,391	29,687	3,572	3,620	87,284	
	増減率	平成22年/17年	-35.2%	-31.1%	-25.3%	-22.9%	-14.5%	-30.0%
	平成27年/22年	-40.5%	-40.9%	-35.3%	-27.0%	-19.2%	-37.7%	
	平成27年/17年	-61.4%	-59.3%	-51.6%	-43.7%	-31.0%	-56.4%	

(出典:農林水産省「農林業センサス」)

1)保有山林面積が1ha以上の世帯

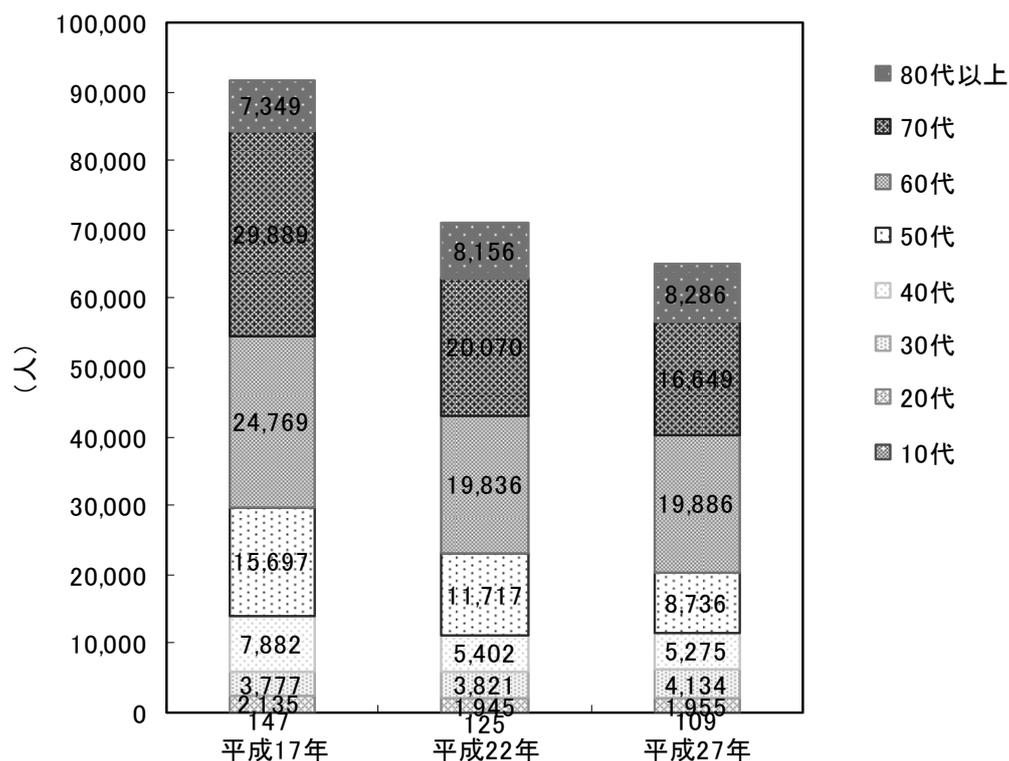
2)次のいずれかに該当。①保有山林面積が3ha以上かつ過去5年間に林業作業を行うか森林経営計画又は林業施業計画を策定している、②受託を受けて育林を行っている、③委託や立木の購入により過去1年間に200㎡以上の素材生産を行っている

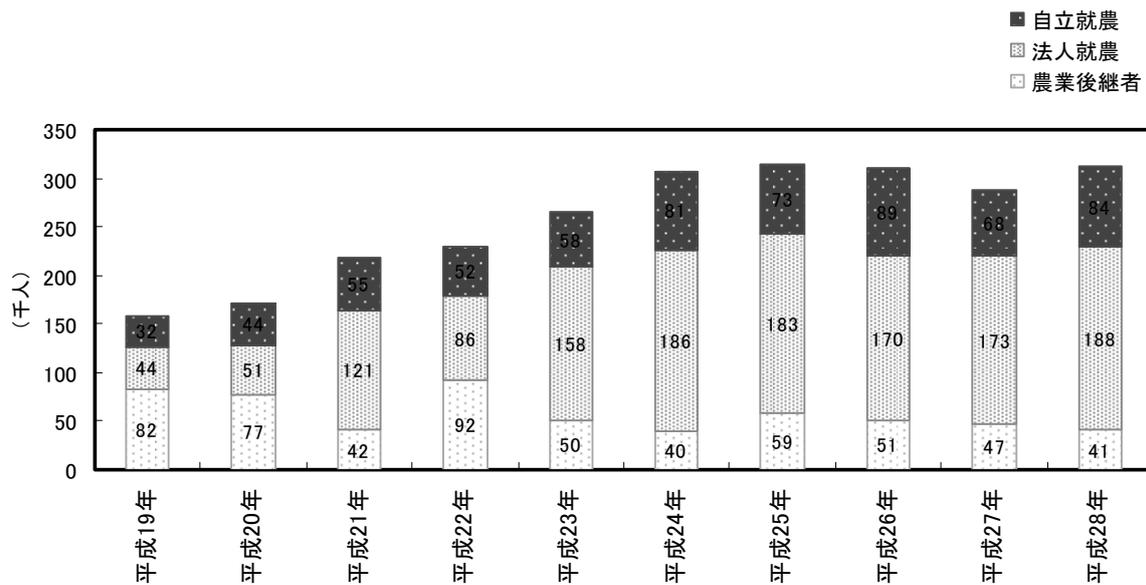
農業への就業者状況（静岡県）

農業就業者数（静岡県）

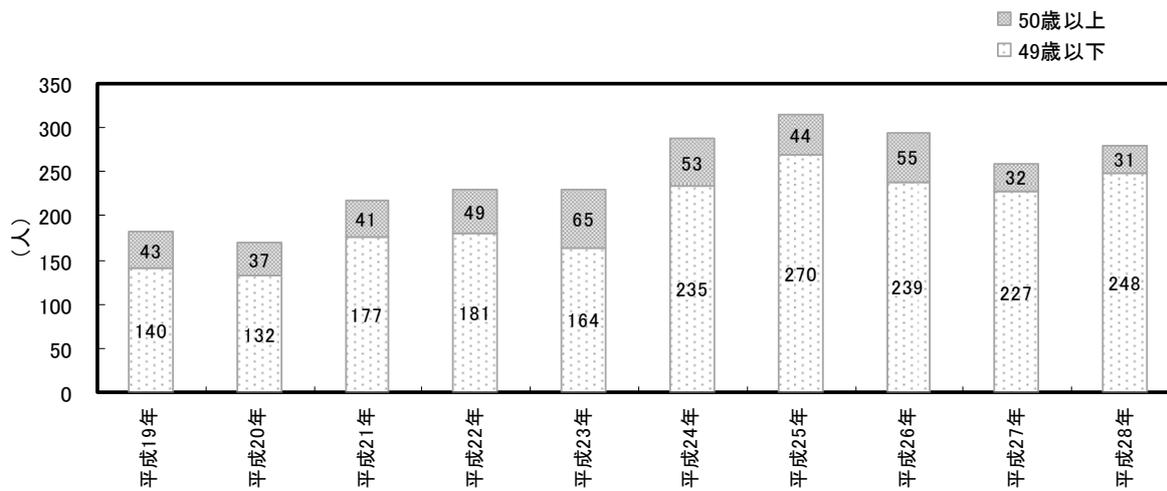
年代	平成17年		平成22年		平成27年		増減率 H27/H17
	総数(人)	(%)	総数(人)	(%)	総数(人)	(%)	
10代	147	(0.2%)	125	(0.2%)	109	(0.2%)	-25.9%
20代	2,135	(2.3%)	1,945	(2.7%)	1,955	(3.0%)	-8.4%
30代	3,777	(4.1%)	3,821	(5.4%)	4,134	(6.4%)	9.5%
40代	7,882	(8.6%)	5,402	(7.6%)	5,275	(8.1%)	-33.1%
50代	15,697	(17.1%)	11,717	(16.5%)	8,736	(13.4%)	-44.3%
60代	24,769	(27.0%)	19,836	(27.9%)	19,886	(30.6%)	-19.7%
70代	29,889	(32.6%)	20,070	(28.2%)	16,649	(25.6%)	-44.3%
80代以上	7,349	(8.0%)	8,156	(11.5%)	8,286	(12.7%)	12.8%
合計	91,645	(100.0%)	71,072	(100.0%)	65,030	(100.0%)	-29.0%

(出典:総務省「国勢調査」)





静岡県の就農形態別新規就農者の推移
 (出典: 静岡県農業ビジネス課「新規就農者の実態調査結果」)



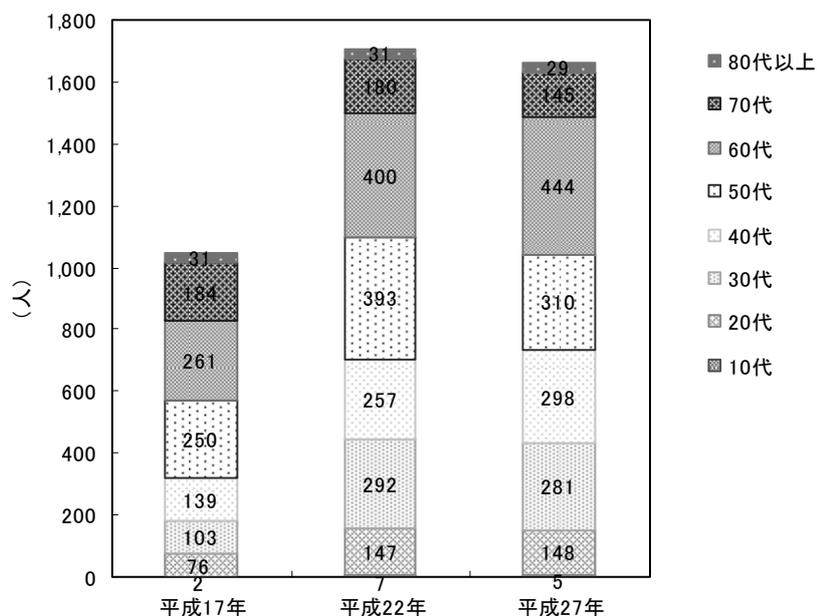
静岡県の年齢別新規就農者の推移
 (出典: 農林水産省「新規就農者調査」)

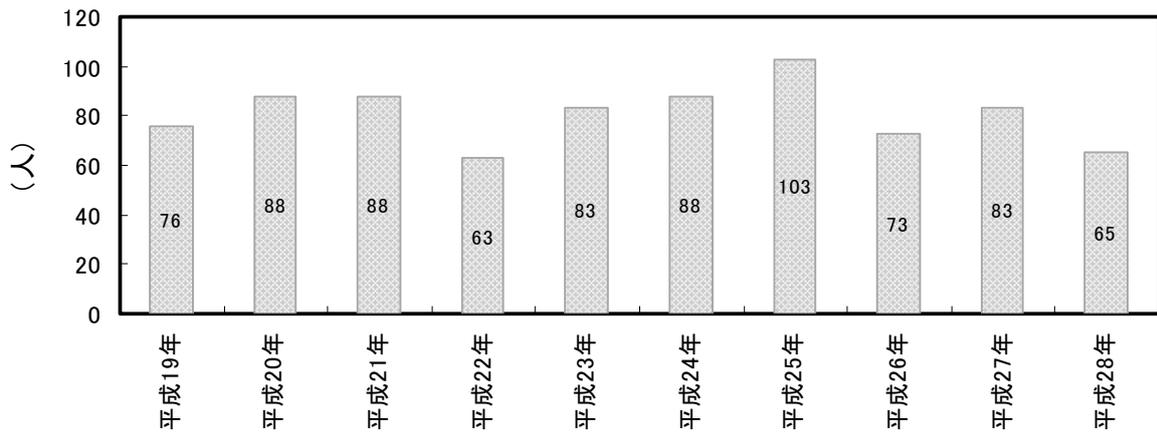
林業への就業状況（静岡県）

林業就業者数（静岡県）

年代	平成17年		平成22年		平成27年		増減率 H27/H17
	総数(人)	(%)	総数(人)	(%)	総数(人)	(%)	
10代	2	(0.2%)	7	(0.4%)	5	(0.3%)	150.0%
20代	76	(7.3%)	147	(8.6%)	148	(8.9%)	94.7%
30代	103	(9.8%)	292	(17.1%)	281	(16.9%)	172.8%
40代	139	(13.3%)	257	(15.1%)	298	(18.0%)	114.4%
50代	250	(23.9%)	393	(23.0%)	310	(18.7%)	24.0%
60代	261	(25.0%)	400	(23.4%)	444	(26.7%)	70.1%
70代	184	(17.6%)	180	(10.5%)	145	(8.7%)	-21.2%
80代以上	31	(3.0%)	31	(1.8%)	29	(1.7%)	-6.5%
合計	1,046	(100.0%)	1,707	(100.0%)	1,660	(100.0%)	58.7%

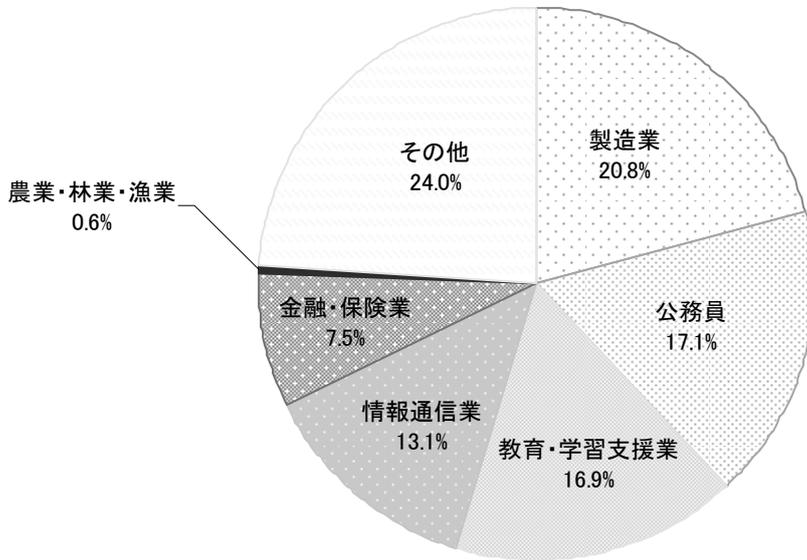
(出典：総務省「国勢調査」)





静岡県林業新規就業者数の推移
(出典:静岡県林業振興課調べ)

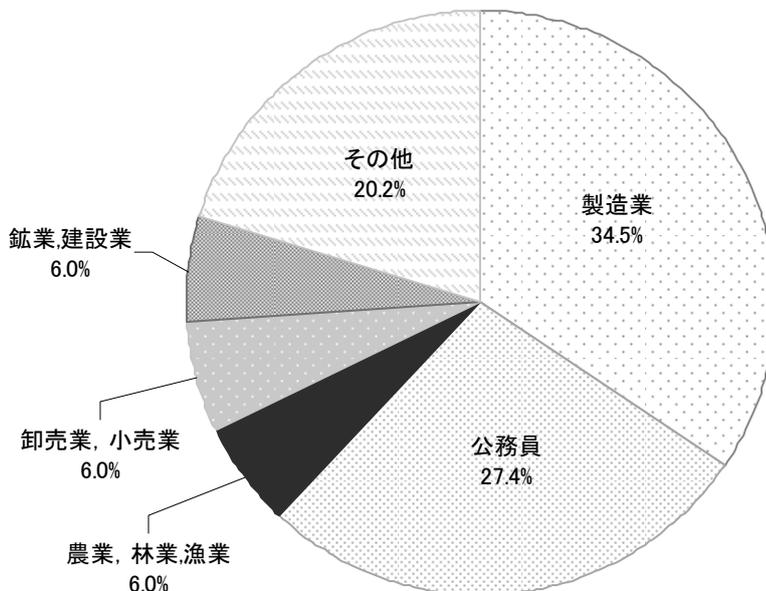
近隣大学の産業別就職者数



平成29年度静岡大学卒業者の産業別就職状況(全学部)(n=1,233)

(出典:静岡大学「卒業生の進路状況」

<http://www.career.ipc.shizuoka.ac.jp/students/data/>)



平成29年度静岡大学卒業者の産業別就職状況(農学部)(n=84)

(出典:静岡大学「卒業生の進路状況」

<http://www.career.ipc.shizuoka.ac.jp/students/data/>)

経営体数等の推移

農業経営体数(静岡県) (経営体)

年度	農業経営体	
	農業経営体	法人経営
平成17年	47,209	473 (1.0%)
平成22年	40,102	443 (1.1%)
平成27年	33,143	562 (1.7%)
増減率	平成22年/17年	-15.1%
	平成27年/22年	-17.4%
	平成27年/17年	-29.8%

(出典:農林水産省「農林業センサス」)

経営耕地面積規模別農業経営体数(静岡県) (経営体)

年度	経営耕地面積							全体	
	1ha未満	1.0~10.0ha	10.0~20.0ha	20.0~30.0ha	30.0~50.0ha	100.0ha	100.0ha以上		
平成17年	33,062	13,943	126	48	25	4	1	47,209	
平成22年	27,283	12,554	174	45	30	12	4	40,102	
平成27年	22,125	10,673	233	51	45	12	4	33,143	
増減率	平成22年/17年	-17.5%	-10.0%	38.1%	-6.3%	20.0%	200.0%	300.0%	-15.1%
	平成27年/22年	-18.9%	-15.0%	33.9%	13.3%	50.0%	0.0%	0.0%	-17.4%
	平成27年/17年	-33.1%	-23.5%	84.9%	6.3%	80.0%	200.0%	300.0%	-29.8%

(出典:農林水産省「農林業センサス」)

林家・林業経営体の数(静岡県) (林家:戸、林業経営体:経営体)

年度	林家 ¹⁾	林業経営体 ²⁾	
		林業経営体	法人経営
平成17年	19,617	4,259	234 (5.5%)
平成22年	19,889	2,881	164 (5.7%)
平成27年	19,169	1,964	138 (7.0%)
増減率	平成22年/17年	1.4%	-32.4%
	平成27年/22年	-3.6%	-31.8%
	平成27年/17年	-2.3%	-53.9%

(出典:農林水産省「農林業センサス」)

1) 保有山林面積が1ha以上の世帯

2) 次のいずれかに該当。①保有山林面積が3ha以上かつ過去5年間に林業作業を行うか森林経営計画又は林業施業計画を策定している、②受託を受けていく林を行っている、③委託や立木の購入により過去1年間に200㎡以上の素材生産を行っている

林家・林業経営体の数と保有山林面積(静岡県)

(林家:戸、林業経営体:経営体)

区分	年度	保有山林面積					全体	
		1~5ha	5~10ha	10~50ha	50~100ha	100ha以上		
林家	平成17年度	14,056	2,529	2,547	330	155	19,617	
	平成22年度	14,323	2,535	2,570	307	154	19,889	
	平成27年度	13,647	2,527	2,526	301	168	19,169	
	増減率	平成22年/17年	1.9%	0.2%	0.9%	-7.0%	-0.6%	1.4%
	平成27年/22年	-4.7%	-0.3%	-1.7%	-2.0%	9.1%	-3.6%	
平成27年/17年	-2.9%	-0.1%	-0.8%	-8.8%	8.4%	-2.3%		
林業経営体	平成17年度	1,120	1,094	1,573	293	179	4,259	
	平成22年度	663	711	1,132	221	154	2,881	
	平成27年度	483	447	742	162	130	1,964	
	増減率	平成22年/17年	-40.8%	-35.0%	-28.0%	-24.6%	-14.0%	-32.4%
	平成27年/22年	-27.1%	-37.1%	-34.5%	-26.7%	-15.6%	-31.8%	
平成27年/17年	-56.9%	-59.1%	-52.8%	-44.7%	-27.4%	-53.9%		

(出典:農林水産省「農林業センサス」)

1)保有山林面積が1ha以上の世帯

2)次のいずれかに該当。①保有山林面積が3ha以上かつ過去5年間に林業作業を行うか森林経営計画又は林業施業計画を策定している、②受託を受けて育林を行っている、③委託や立木の購入により過去1年間に200㎡以上の素材生産を行っている

静岡県経済産業ビジョン

2018～2021

静岡県経済産業部

目次

「静岡県経済産業ビジョン2018～2021」の概要

I 策定の趣旨	1
II 計画の期間	1
III 計画の実施	1
IV 計画の位置付け	1

成長戦略編

I 本県経済・産業の現状と課題	3
II 目指す「静岡県の姿」	9
III 「静岡県の姿」を実現する戦略展開の方針	9

分野編

就業支援編

基本方向 活躍しやすい環境の整備と働き方改革	27
(1) 県内産業の成長を担う人材の確保	27
(2) 高度な知識と技術を持つ人材の育成	33
(3) 誰もがいきいきと働ける環境づくり	37
(4) 郷土を担う子どもたちの「生きる道」としての仕事を学ぶ環境づくり	43

産業革新編

基本方向1 静岡県産業成長戦略の推進	45
(1) 地域企業の事業活動の活発化	45
基本方向2 ふじのくにマーケティング戦略の推進	48
(1) 市場と生産が結びついた「ふじのくにマーケティング戦略」の推進	48
基本方向3 静岡県の試験研究機関に係る基本戦略の推進	53
(1) 本県産業の成長に貢献する「研究開発」	53
(2) 中小企業や農林水産業の「競争力強化」のための「技術支援」	56
(3) 「安全」で「安心」な県民生活を着実に実現するための「調査研究」	58
基本方向4 ふじのくにエネルギー総合戦略の推進	59
(1) 地域資源の活用による多様な分散型エネルギーの導入拡大	59
(2) 建築物の省エネ、ライフスタイル・ビジネススタイルの変革	65
(3) エネルギー産業の振興	68

商工業編

基本方向1 次世代産業の創出と展開	73
(1) 静岡新産業集積クラスターの推進	73
(2) 新たな成長産業の育成	79
(3) 企業誘致・定着の推進や海外市場の取り込みによる企業の活性化	87
基本方向2 富を支える地域産業の振興	91
(1) 地域経済を牽引する企業の成長促進	91
(2) 中小企業の経営力向上と経営基盤強化	91
(3) 地域を支える魅力ある商業とサービス産業の振興	103

農業・農村編

基本方向1 A O I (アグリオープンイノベーション) プロジェクトの推進	109
(1) A O I (アグリオープンイノベーション) プロジェクトの推進	109
基本方向2 多様な人々が活躍する世界水準の農芸品の生産力強化	112
(1) 多彩な農芸品の生産拡大	112
(2) 次代を担う農業経営体の育成	119
(3) 農業の競争力強化と持続性を確保する基盤整備	122
(4) 市場と生産が結びついた「ふじのくにマーケティング戦略」の推進	125
基本方向3 環境と調和し、人々を惹きつける都づくりと農山村の再生	131
(1) 「食」、「茶」、「花」の都づくり	131
(2) 美しく活力のある農山村の創造	136

森林・林業編

基本方向1 森林資源の循環利用による林業の成長産業化	143
(1) 県産材の安定供給体制の確立	143
(2) ビジネス林業の定着	148
(3) 県産材製品の需要拡大	151
基本方向2 森林の多面的機能の維持・増進	155
(1) 森林の適正な整備	155
(2) 森林の適正な保全	157
(3) 魅力と強みを活かした山村づくり	162
基本方向3 県民総参加による持続的で魅力的な森づくり活動の推進	165
(1) 県民の理解と参加の促進	165

水産業編

基本方向 水産王国静岡の持続的発展の推進	171
(1) 生産・流通・消費の好循環を生み出す水産振興対策の推進	171
(2) 海・川の恵みの持続的な利用の確保	176
(3) 次世代の漁業を担う人・組織づくり	179
(4) 水産物の資源管理・資源増殖等を推進する先端的な研究開発の推進	182

数値目標一覧	185
--------	-----

データ編

I 経済産業の概況	205
II 雇用・就業環境の現状	219
III 商工業の現状	231
IV 農業・農村の現状	241
V 森林・林業の現状	249
VI 水産業の現状	259
VII エネルギーの現状	269

「静岡県経済産業ビジョン 2018～2021」の概要

I 策定の趣旨

県は、2011年（平成23年）3月に、「静岡県の地域資源の活用と新しい価値の創造によるものづくりの振興に関する条例（一流のものづくり・ものづかい振興条例）」を制定するとともに、同条例第9条に規定する実施計画として、「静岡県経済産業ビジョン」を策定しました。

経済産業ビジョン策定後の本県を取り巻く社会経済情勢は、人口減少・少子高齢化の進行による人手不足の顕在化や、IoT、人工知能（AI）、ロボット技術などに代表されるテクノロジーの急速な進展、従来のガソリン車から電気自動車（EV）など次世代自動車への世界的なシフト、東日本大震災後のエネルギーを取り巻く環境の激変など、大きな転換点を迎えています。

こうした環境の変化への対応を図り、静岡県の新ビジョン（総合計画）を着実に実施するため、「静岡県経済産業ビジョン 2018～2021」を策定します。

II 計画の期間

2018年度から2021年度までの4年間とします。

III 計画の実施

施策の実施に当たっては、県の各部局と連携しながら、商工業や農林水産業、労働関係の各団体や市町、企業、大学、県民の方々と協働して取り組みます。

なお、社会経済情勢の変化を踏まえた最適な手法の選択や施策の重点化を図るなど、計画の不断の見直しを実施します。

IV 計画の位置付け

- ・ 「静岡県の新ビジョン 富国徳の美しい“ふじのくに”の人づくり・富づくり」（静岡県総合計画）基本計画の実施計画
- ・ 「一流のものづくり・ものづかい振興条例」第9条に規定する実施計画
- ・ 「静岡県中小企業・小規模企業振興基本条例」第12条に規定する計画（商工業編のみ）
- ・ 「静岡県民の豊かな暮らしを支える食と農の基本条例」第9条に規定する基本計画（農業・農村編のみ）
- ・ 「静岡県森林と県民の共生に関する条例」第11条に規定する計画（森林・林業編のみ）
- ・ 「地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利活用促進に関する法律（六次産業化・地産地消法）」第41条に基づく地域の農林水産物の利用の促進についての計画（農業・農村編、水産業編のうち六次産業化・地産地消法第40条の基本方針に規定する事項のみ）

【総合計画と経済産業ビジョンの位置づけ】

静岡県総合計画・静岡県の新ビジョン
富国有徳の「美しい“ふじのくに”」の人づくり・富づくり

【基本構想】

- 第1章 新ビジョンの位置付け
- 第2章 時代潮流
- 第3章 本県が直面する課題
- 第4章 新ビジョンの基本方針
- 第5章 政策体系と行政経営
- 第6章 地域づくりの基本方向

＜基本理念＞

富国有徳の「美しい“ふじのくに”」づくり
ドリームズ 県 トータル イン ジャパン
 ～静岡県を*Dreams come true in Japan*の拠点に～

＜目指す姿＞

「県民幸福度」の最大化
 ＜生まれてよし 老いてよし＞ ＜生んでよし 育ててよし＞
 ＜学んでよし 働いてよし＞ ＜住んでよし 訪れてよし＞

【基本計画】

- I 政策体系
 - 1 命を守る安全な地域づくり
 - 2 安心して暮らせる医療・福祉の充実
 - 3 子どもが健やかに学び育つ社会の形成
 - 4 誰もが活躍できる社会の実現
 - 5 富をつくる産業の展開
 - 6 多彩なライフスタイルの提案
 - 7 “ふじのくに”の魅力の向上と発信
 - 8 世界の人々との交流の拡大
- II 政策の実効性を高める行政経営
- III 地域の目指す姿

経済産業分野の主な取組

- 1-2 防災・減災対策の強化
 - (1) 地震・津波・火山災害対策
 - (2) 風水害・土砂災害対策
- 4-1 活躍しやすい環境の整備と働き方改革
 - (1) 産業人材の確保・育成
 - (2) 誰もがいきいきと働ける環境づくり
- 5-1 次世代産業の創出と展開
 - (1) 静岡新産業集積クラスターの推進
 - (2) 新たな成長産業の育成
 - (3) 企業誘致・定着の推進
- 5-2 富を支える地域産業の振興
 - (1) 地域経済を牽引する企業の成長促進
 - (2) 中小企業の経営力向上
 - (3) 中小企業の経営基盤強化
 - (4) 地域を支える魅力ある商業とサービス産業の振興
- 5-3 農林水産業の競争力の強化
 - (1) 世界水準の農芸品の生産力強化
 - (2) 森林資源の循環利用による林業の成長産業化
 - (3) 水産王国静岡の持続的発展の推進
 - (4) 市場と生産が結びついたマーケティング戦略の推進
- 6-1 魅力的なライフスタイルの創出
 - (2) 人々を惹きつける都づくり
 - (3) 美しく活力のある農山村の創造
- 6-3 エネルギーの地産地消
 - (1) 再生可能エネルギーの導入促進
 - (2) 省エネルギー社会の形成
 - (3) エネルギー産業の振興
- 7-3 美しい景観の創造と自然との共生
 - (1) 豊かな自然、文化、歴史に根ざした美しい景観の形成
 - (3) 森林との共生の推進
- 8-2 地域外交の深化と通商の実践
 - (3) 世界に開かれた通商の実践

静岡県経済産業ビジョン
2018～2021

- 成長戦略編
- 就業支援編
- 産業革新編
- 商工業編
- 農業・農村編
- 森林・林業編
- 水産業編

分野編【農業・農村編】

基本方向1 A O I（アグリオープンイノベーション）プロジェクトの推進

A I（人工知能）、A I（農業情報科学）、I o Tなど科学技術の急速な発展により、農業は生産性革命というべき大きな変革期を迎えています。

この大変革に対応し、農・食・健を総合した科学技術・産業において、産学官金・農商工連携のオープンイノベーションにより、農業を軸とした関連産業のビジネス展開を促進します。

(1) A O I（アグリオープンイノベーション）プロジェクトの推進

《現状・課題》

- ① 農業の生産性向上と関連産業のビジネス展開の促進
 - ・多彩な農産品が生産される場の力を活かし、本県農業の生産革新を促進するため、I C Tをはじめとする先端的な科学技術やものづくり技術の農業分野への応用が期待されています。
- ② A I 学習支援システムの開発と技術継承
 - ・生産者の高齢化に伴い、長年の経験から蓄積されてきた栽培技術が失われる危険性があるため、I C Tを活用した技術継承システムの開発が必要です。
- ③ 農業用ロボット開発の促進
 - ・農業の労働生産性を高めるため、農作業の省力化や合理化を飛躍的に進める技術開発が必要です。

《取組の方向》

- ① 農業の生産性向上と関連産業のビジネス展開の促進
 - ・A O I - P A R C（アオイパーク）を拠点とした、産学官金の多様な参画を得たオープンイノベーション（A O I フォーラム）により、農業の生産性向上と、農・食・健が連携する関連産業のビジネス展開を促進します。
- ② A I 学習支援システムの開発と技術継承
 - ・栽培技術を「見える化」するA I（農業情報科学：Agri-Info science）による学習支援システムの充実と産地導入に取り組みます。
- ③ 農業用ロボット開発の促進
 - ・農業、製造業といった業種の枠組みを超えた技術知見を結集し、農作業の省力化、自動化、軽労力化を可能にする農業用ロボットの研究・開発を支援します。

《数値目標》

区分	指標名	現状値	目標値	総合計画
指標 成果	A O I プロジェクト事業化件数	—	(2018～2021年度) 累計 22 件	○
	A O I フォーラム参画会員数	—	(2021年度) 200 会員	○
活動 指標	A I 学習支援システム導入産地数	(2015年度) 2産地	(2021年度) 6産地	
	農業用ロボットの開発に係るマッチング件数	—	(2021年度まで) 累計 25 件	

基本方向2 多様な人々が活躍する世界水準の農芸品の生産力強化

本県では、温暖な気候や豊かな自然を活かし、多彩で高品質な農産物が生産されていますが、国内外との競争を見据えた生産性、収益性の向上や、就業者の減少や高齢化への対応、海外市場の取り込みなどが課題となっています。

このため、農地集積・集約化、農業経営体の育成、農業生産基盤の整備、マーケットインの考え方に基づく生産体制の確立などにより、農業の生産力強化を図ります。

(1) 多彩な農芸品の生産拡大

《現状・課題》

① 土地利用型農業の生産性向上と規模拡大

- ア 本県の扣い手への農地集積率は 42.3%に留まっており、水田における扣い手への農地集積は進んでいるものの、本県耕地面積の 40%を占める樹園地の農地集積が進んでいません。
- イ 荒廃農地は、平成 21 年度から 28 年度までに 3,536ha を解消しましたが、新規発生が上回ったため、平成 28 年度で 5,738ha 存在しています。
- ウ 本県の耕地利用率は平成 27 年度で 94%に留まっており、米の需要が年々減少していく中で、露地野菜等の作付拡大による水田の有効活用が求められています。
- エ 国内外におけるお茶の消費構造が変化する中、本県の茶生産は依然としてリーフ向けの煎茶生産が主体であり、需要に即した生産体制が構築されていません。
- オ 果樹産地では、栽培面積の減少による供給量不足や、農繁期の労力不足が懸念されており、販売面では消費者ニーズの多様化への対応が求められています。
- カ 近年増加している企業や大規模農業法人の参入に対応するため、ワンストップ相談窓口や農地の確保に向けた支援体制の整備が必要となっています。

② 次世代型大規模施設園芸や畜産クラスターの整備

- ア 国内の施設野菜の需要が伸びる一方、本県の施設野菜の栽培面積は伸びていないため、市場ニーズの高い葉物野菜、いちご等の生産拡大が必要となっています。
- イ 施設面積の拡大と合わせて、施設野菜や花きの生産性向上が必要となっています。
- ウ 国内における畜産物の需要が伸びる一方、本県の畜産物生産量は増えていません。
- エ 畜産経営の安定的な発展や畜産物の生産拡大には、家畜伝染病の予防・まん延防止と地域環境に調和した畜産業の確立が必要です。

③ GAP（農業生産工程管理）の推進

- ア 農業者がGAP認証を取得する必要性は高まっていますが、生産現場では国際水準GAPの指導者が不足しており、農業者が十分な指導を受けることができる体制になっていません。また、GAP認証取得は、費用がかかる上、農業者・流通業者・消費者のGAPへの理解が一部に限られていることから、取得が進んでいません。

《取組の方向》

① 土地利用型農業の生産性向上と規模拡大

- ア 農業生産を維持・発展させるため、地域の中心となる経営体への農地の集積・集約化により、農地の有効活用を推進します。
- イ 再生可能な荒廃農地の再生利用を支援する一方、再生困難なものは非農地化を推進します。また、荒廃化のおそれがある農地は農地中間管理事業による借受等により予防を図ります。
- ウ 水稲収穫後の水田を有効活用し、省力・機械化技術の導入・普及により、加工・業務用需

(2) 次代を担う農業経営体の育成

《現状・課題》

- 高度農業人材の育成と雇用対策
 - ア 担い手の高齢化や廃業が進む一方、農業経営の法人化や規模拡大により人材ニーズが変化したことにより、現場の即戦力となる高い技術や経営管理能力を持った人材が求められています。
 - イ 農業経営に参画する女性の比率が低く、女性の能力が十分に活用されていません。
 - ウ 農業経営体の経営計画実現のため、企業的経営を志向するビジネス経営体や認定農業者の経営の発展段階に応じたきめ細かな対応が求められています。
 - エ 建設業や製造業など多くの産業で労働力不足が広がる中で、農繁期の短期雇用の確保が厳しい状況にあります。

《取組の方向》

- 高度農業人材の育成と雇用対策
 - ア 市町や関係団体等と連携し、技術習得や農業法人への就職支援、就農後のフォローアップなどの実施により、青年の新規就農と定着を支援します。
高度な実践力と豊かな創造力を兼ね備えた農林業人材を養成するため、農林大学校の専門職大学への移行を進めます。
 - イ 農業での起業、就業を目指す女性層の拡大や経営への積極的な参画を支援し、女性経営者を育成します。
 - ウ ビジネス経営体や認定農業者の育成、それを支える経営幹部や後継者となる人材の養成、経営計画の実現や経営の安定化に向けた支援の充実を図ります。
 - エ 女性・高齢者や障害のある人など多様な人材の活用により、労働力確保に向けた取組を支援していきます。

《数値目標》

区分	指標名	現状値	目標値	総合計画
成果指標	ビジネス経営体販売額	(2016年度) 821億円	(2021年度) 1,200億円	
	農業法人数	(2016年度) 788法人	(2021年度) 1,000法人	○
	新規農業就業者数	(2016年度) 334人/年	(2021年度) 340人/年	
活動指標	農業経営に参加する女性の比率	(2016年度) 4.7%	(2021年度) 7.0%	

《主な取組》

① 高度農業人材の育成と雇用対策

ア 次代の農業経営を担う人材育成の強化

- ・ 生産技術・経営ノウハウを習得する研修や就農計画の作成、資金支援により、非農家出身者(ニューファーマー)の自立就農を支援するとともに、農家後継者の新分野進出を促進します。
- ・ 農業体験やマッチングにより、農業法人等への就職を促進するとともに、雇用の安定確保を支援します。
- ・ 農林大学校の専門職大学への移行により、次代の農林業を支える人材を養成するとともに、社会人教育を充実します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
ニューファーマー等の確保・育成	ニューファーマー養成に向けた研修の実施			
	研修参加者 25人/年	研修参加者 25人/年	研修参加者 25人/年	研修参加者 25人/年
農業法人等への就職促進	農業体験研修や農業法人とのマッチング等の実施			
	農業体験参加者 60人/年	農業体験参加者 60人/年	農業体験参加者 60人/年	農業体験参加者 60人/年
農林大学校の専門職大学への移行	閉学準備		既学	
			入学者125人/年	入学者125人/年

イ 女性経営者の育成

- ・ 女性農業経営者の活動状況の情報発信や、若手女性農業者のネットワーク化を推進します。
- ・ 農業に関心のある女性に対し、就農に向けた意識醸成や就労意欲の喚起、働きやすい環境づくりへの支援を行います。
- ・ 農山漁村地域で活躍する女性農業者リーダーを育成するための研修や交流会を開催します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
若手女性農業者のネットワークの構築		ネットワーク参加者数		
	40人	60人	80人	100人
女性農業者リーダーの育成	女性農業者の公職委嘱数			
	135	140	145	150

ウ コンサルティング手法を取り入れたビジネス経営体等の支援

- ・ ビジネス経営体を伴走支援する専任チームにより、コンサルティング活動を中心とした支援を強化します。
- ・ 民間専門家の派遣により、法人化、経営継承、労務管理などの企業的経営管理手法やマ

ーケティング手法、生産工程管理などの導入を支援します。

- ・ 経営を学ぶ講座の開催(経営戦略講座やアグリビジネス実践スクール、ふじのくにアグリカレッジ)により、経営計画の作成や計画の実行支援、経営幹部や後継者等の資質向上を図ります。
- ・ 全国農業担い手サミットの本県開催を契機として、認定農業者等の経営発展への意欲向上や組織活動の活性化を図ります。
- ・ 農業経営体の経営発展に向けて、施設・機械の整備に必要な制度資金の活用を支援します。
- ・ 農業保険法の中に新たに創設された収入保険制度を周知し、セーフティネットの強化を図ります。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
経営体支援チームによる半走型経営支援		巡回支援する経営体数		
	1,000経営体/年	1,000経営体/年	1,000経営体/年	1,000経営体/年
専門家派遣による企業的経営管理手法等の導入支援		専門家派遣回数		
	150回/年	150回/年	150回/年	150回/年
ビジネス経営体等の経営発展及び幹部人材の養成支援		経営講座の受講者数		
	110人/年	110人/年	110人/年	110人/年
認定農業者等の活動支援	全国担い手サミット イベントの開催	全国担い手サミット の開催	地域サミットの開催	
	参加者100人/年	参加者2,000人/年	参加者200人/年	参加者200人/年

エ 多様な人材の活用

- ・ 求人情報の提供や就労体験機会の提供など、女性や高齢者などの幅広い人材の活用を支援します。
- ・ 雇用を確保するための情報提供や、品日間での労働力を相互補完する取組など、各地区が独自に労働力を確保できる仕組みづくりを支援します。
- ・ 障害のある人が農業や園芸活動に携われるユニバーサル園芸を普及するため、農業経営体への受入促進と、農業と福祉分野の連携を推進します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
幅広い人材の確保支援	短期雇用の確保に向けた取組地区数	モデル地区における自主的な労働力確保の取組支援		
	8地区/年	8地区/年	8地区/年	8地区/年
ユニバーサル園芸の普及		障害のある人を受け入れる農業経営体数		
	40経営体/年	45経営体/年	50経営体/年	55経営体/年

分野編【森林・林業編】

基本方向1 森林資源の循環利用による林業の成長産業化

県内の木材生産量は、県産材の需要と供給を一体的に創造する「ふじのくに森林・林業再生プロジェクト」に取り組んだ結果、平成22年を底にV字回復しましたが、ニーズに応じた安定供給体制の確立が課題となっています。

このため、県産材の安定供給体制の確立や、ビジネス林業の定着、県産材製品の需要拡大により、森林資源の循環利用による林業の成長産業化を進めます。

(1) 県産材の安定供給体制の確立

〈現状・課題〉

① 低コスト生産システム

- ・木材生産量は、「ふじのくに森林・林業再生プロジェクト」に取り組んだ結果、19年ぶりに10万㎡を超えましたが、低コストで安定して丸太を生産するシステムが定着しておらず、需要者のニーズに対し年間を通じて安定した丸太の供給ができていません。

② 主伐と再造林

- ・人工林は、林業の採算性の低下から主伐及び再造林面積が年々減少し、20年生以下の若齢林が極端に少ない偏った林齢構成となっています。一方、植栽時期を選ばないコンテナ苗や、成長が速いエリートツリー、設置費が安価な斜め張りシカ防護柵など、造林コストの低下に向けた新たな技術が開発されています。

③ 県産材の流通

- ・製材工場や合板工場では、定時・定量な丸太の安定供給が求められています。そこで、丸太供給協定の締結促進や原木選別評価士の養成支援などに取り組んだ結果、市場を介さずに丸太を山から工場に直接運搬する「直送取引」が増加しています。しかし、合板用丸太の供給量は、平成28年度時点で丸太供給協定の約7割に留まっています。

④ 森林認証材の供給

- ・県内には、全国4位を誇る約5万8,000haの森林認証林があり、約10万㎡の認証材が生産されています。東京2020オリンピック・パラリンピックでは、持続可能性に配慮した材料の調達コードが定められ、木材においては森林認証材がこれに合致するものとして明記されました。これをきっかけに、国内における森林認証制度の認知度が大きく向上し、今後、森林認証材の需要の拡大が見込まれています。

〈取組の方向〉

① 低コスト生産システム

- ・森林整備の集約化、林内路網の整備、高性能林業機械の導入などにより、低コスト生産システムの定着を促進します。

② 主伐と再造林

- ・低コスト主伐・再造林システムの確立により、主伐と再造林を促進します。

③ 県産材の流通

- ・木材生産、流通、加工に関わるすべての関係者が参加し、情報の共有化を行うプラットフォームの構築により、県産材の流通の最適化を図ります。

④ 森林認証材の供給

- ・森林認証林の拡大により、森林認証材の安定供給体制を構築します。

解決への取組を支援します。

- ・ ビジネス林業に取り組んでいる林業経営体に対し、更なる生産性の向上に向けたステップアップを支援します。
- ・ 林業経営体に対し、車両系（ハーベスタ又はプロセッサとフォワーダ）や架線系（タワーヤーダとプロセッサ）の生産システムを、森林の立地条件に応じて適切に選択するよう促します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
労働生産性の向上	ビジネス林業の定着を図る事業体数(累計)			
	27事業体	38事業体	49事業体	60事業体

ウ 就労環境の向上

- ・ 改善計画の認定を通じて、林業経営体の雇用環境などの向上の取組を支援します。
- ・ 林業経営体の社会保障の充実や労働安全の向上に対する取組を支援します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
就労環境の向上	林業経営体の雇川環境改善の取組を支援			

② 森林技術者の育成・確保

ア 林業への新規就業の促進

- ・ 静岡県林業労働力確保支援センターと連携し、林業の仕事の内容や就業条件などを情報提供するガイダンスや、林業体験会を開催します。
- ・ 林業経営体に対し、就業を希望する者の試用雇用を支援します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
林業への新規就業の促進	静岡県林業労働力確保支援センターの支援			
	100人	林業への新規就業者数 100人	100人	100人

イ 農林大学校における人材の育成

- ・ 森林・林業に関する幅広い知識を習得し、森林の多面的機能の向上と持続的な林業経営に貢献できる人材を育成します。
- ・ 農林大学校学生に対し、林業への就業に向けた研修の費用を支援します。
- ・ 農林大学校を、森林・林業に関する幅広い専門的な知識と理論に裏付けられた高度な実践力、課題対応能力を有する人材を育成する専門職大学に移行します。

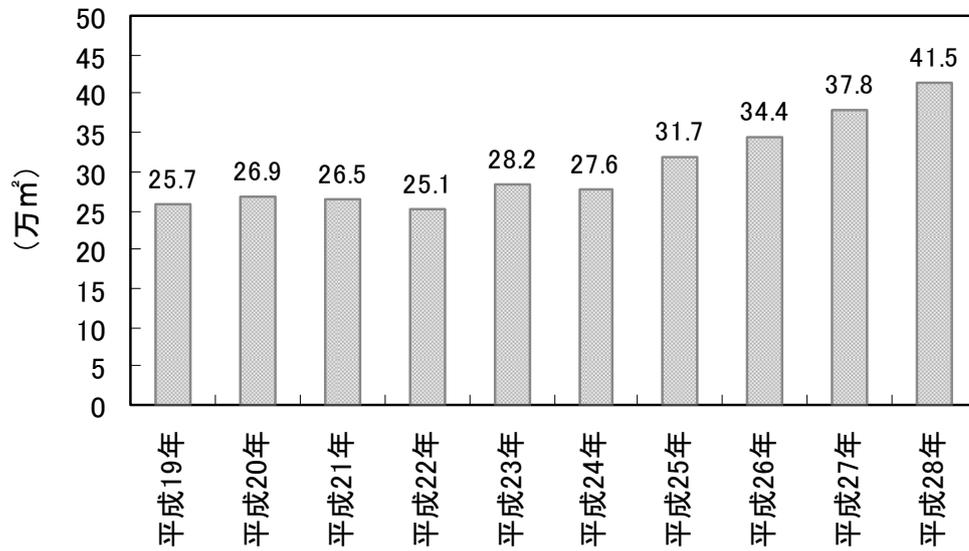
取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
農林大学校における人材の育成	専門職大学への移行準備		専門職大学の開学	

ウ 森林技術者などの能力向上

- ・ 木材生産などの林業技術を指導できる人材を育成します。
- ・ 技術者の林業技術と現場管理能力の習得を指導する全国森林組合連合会の県内での取組を支援します。
- ・ 林業経営体の職員に対し、森林GISやオープンデータの活用と、効率的な木材生産に必要な計画の作成を支援します（森林施業プランナー）。
- ・ 丈夫で簡易な路網を作設できるオペレーターや設計ができる技術者を育成します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
森林技術者などの能力向上		林業技術・知識の習得を支援		
		適正な森林管理を担う森林技術者数(累計)		
	500人	500人	500人	500人

静岡県における木材生産量の推移



静岡県における木材生産量の推移
(出典：農林水産省「木材統計」(平成24年まで)、
静岡県森林整備課調べ(平成25年から))

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の
卒業生に対する企業等の採用意向に関するアンケート調査報告

平成30年9月

一般財団法人 日本開発構想研究所

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学
短期大学部（仮称）の卒業生に対する企業等の採用意向に関するアンケート調査報告

1. 調査概要

(1) 調査目的

2020年4月に予定している静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の開設に向けて、卒業生の就職が見込まれる、1都1道2府40県（静岡県、愛知県、岐阜県、三重県、東京都、神奈川県、山梨県、北海道、青森県、岩手県、宮城県、山形県、福島県、群馬県、栃木県、茨城県、埼玉県、千葉県、新潟県、石川県、福井県、富山県、長野県、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、和歌山県、兵庫県、岡山県、広島県、山口県、島根県、鳥取県、香川県、愛媛県、徳島県、高知県、福岡県、大分県、佐賀県、熊本県、長崎県、鹿児島県）に所在する企業等の採用担当者にアンケートを実施し、静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の卒業生に対する企業等の採用意向を把握することを目的とする。

(2) 調査対象

卒業生の就職が見込まれる農林業に関わる企業等を中心とした1,890社の採用担当者にアンケートへの協力を依頼し、526件の有効回答があった。

(3) 調査方法

卒業生の就職が見込まれる農林業に関わる企業等を中心とした1,890社の採用担当者にアンケート用紙及び静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の概要を示したリーフレットを送付し、アンケートを実施した。回答は一般財団法人日本開発構想研究所へ企業等から直接郵送。

集計結果より、静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の卒業生に対する採用意向を分析した。

(4) 調査実施期間

平成30年7月～平成30年8月

(5) 有効回収率等

配布数 : 1,890社

有効回答数 : 526件

有効回収率 : 約27.8%

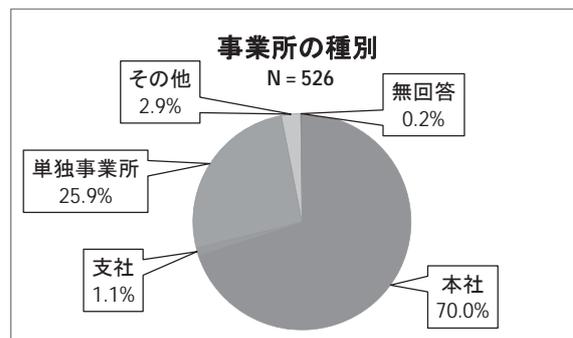
※設置を構想している静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部は仮称であるが、本文中ではその旨の表示を省略した。

2. 調査結果

(1) 事業所の種別について

事業所の種別について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「本社」が 368 件 (70.0%) と最も多く、次いで「単独事業所」136 件 (25.9%)、「その他」15 件 (2.9%)、「支社」6 件 (1.1%) の順になっている。 ※「無回答」1 件 (0.2%)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	本社	368	70.0
2	支社	6	1.1
3	単独事業所	136	25.9
4	その他	15	2.9
	無回答	1	0.2
	N (%ベース)	526	100

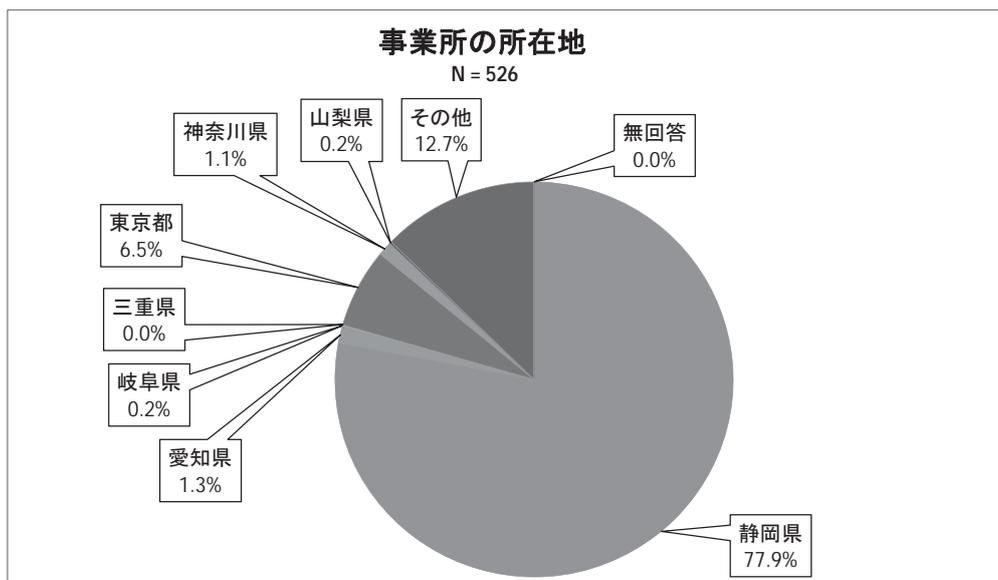


(2) 事業所の所在地について

事業所の所在地について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「静岡県」が 410 件 (77.9%) と最も多く、次いで「その他」67 件 (12.7%)、「東京都」34 件 (6.5%)、「愛知県」7 件 (1.3%)、「神奈川県」6 件 (1.1%)、「岐阜県」1 件 (0.2%)、「山梨県」1 件 (0.2%) の順になっている。 ※「無回答」0 件 (0.0%)

事業所の所在地

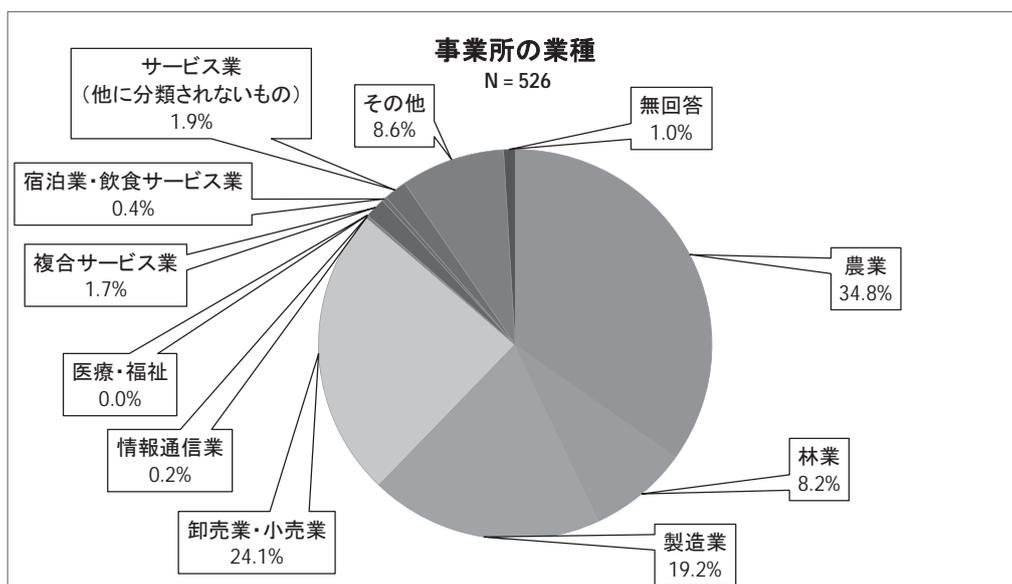
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	静岡県	410	77.9
2	愛知県	7	1.3
3	岐阜県	1	0.2
4	三重県	0	0.0
5	東京都	34	6.5
6	神奈川県	6	1.1
7	山梨県	1	0.2
8	その他	67	12.7
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	526	100



(3) 事業所の業種について

事業所の業種について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「農業」が 183 件 (34.8%) と最も多く、次いで「卸売業・小売業」127 件 (24.1%)、「製造業」101 件 (19.2%)、「その他」45 件 (8.6%)、「林業」43 件 (8.2%)、「サービス業(他に分類されないもの)」10 件 (1.9%)、「複合サービス業」9 件 (1.7%)、「宿泊業・飲食サービス業」2 件 (0.4%)、「情報通信業」1 件 (0.2%) の順になっている。 ※「無回答」5 件 (1.0%)

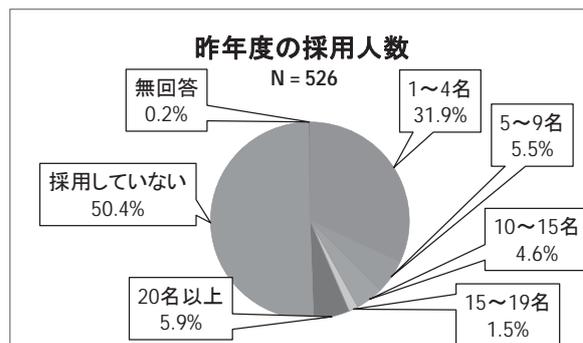
事業所の業種			
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農業	183	34.8
2	林業	43	8.2
3	製造業	101	19.2
4	卸売業・小売業	127	24.1
5	情報通信業	1	0.2
6	医療・福祉	0	0.0
7	複合サービス業	9	1.7
8	宿泊業・飲食サービス業	2	0.4
9	サービス業(他に分類されないもの)	10	1.9
10	その他	45	8.6
	無回答	5	1.0
	N (%ベース)	526	100



(4) 昨年度の採用人数について

昨年度の採用人数について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「採用していない」が265件 (50.4%) と最も多く、次いで「1～4名」が168件 (31.9%)、「20名以上」31件 (5.9%)、「5～9名」29件 (5.5%)、「10～15名」24件 (4.6%)、「15～19名」8件 (1.5%) の順になっている。 ※「無回答」1件 (0.2%)

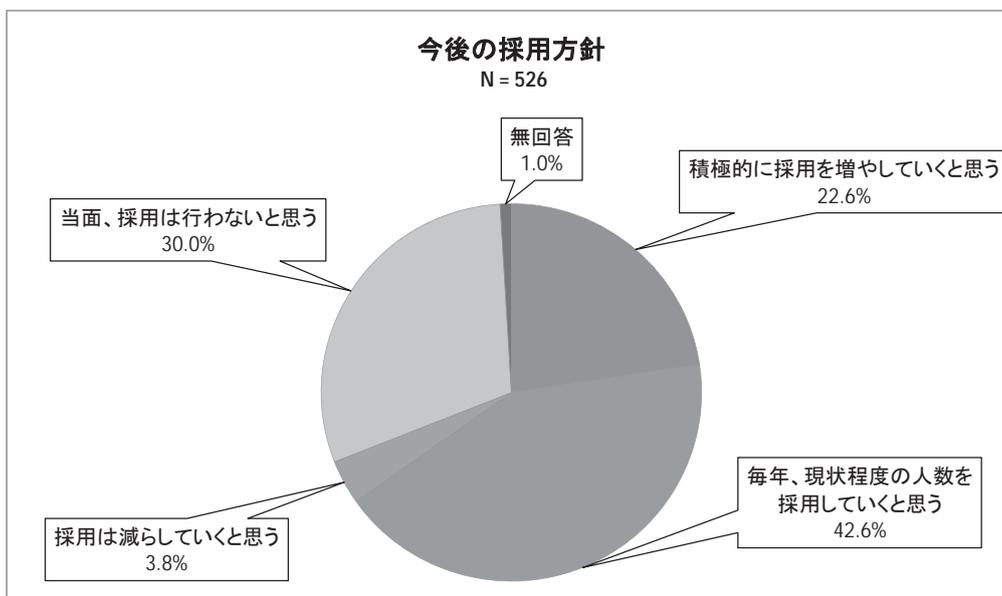
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1～4名	168	31.9
2	5～9名	29	5.5
3	10～15名	24	4.6
4	15～19名	8	1.5
5	20名以上	31	5.9
6	採用していない	265	50.4
	無回答	1	0.2
	N (%ベース)	526	100



(5) 今後の採用方針について

今後の採用方針について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「毎年、現状程度の人数を採用していくと思う」が 224 件 (42.6%) と最も多く、次いで「当面、採用は行わないと思う」158 件 (30.0%)、「積極的に採用を増やしていくと思う」119 件 (22.6%)、「採用は減らしていくと思う」20 件 (3.8%) の順になっている。 ※「無回答」5 件 (1.0%)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	積極的に採用を増やしていくと思う	119	22.6
2	毎年、現状程度の人数を採用していくと思う	224	42.6
3	採用は減らしていくと思う	20	3.8
4	当面、採用は行わないと思う	158	30.0
	無回答	5	1.0
	N (%ベース)	526	100



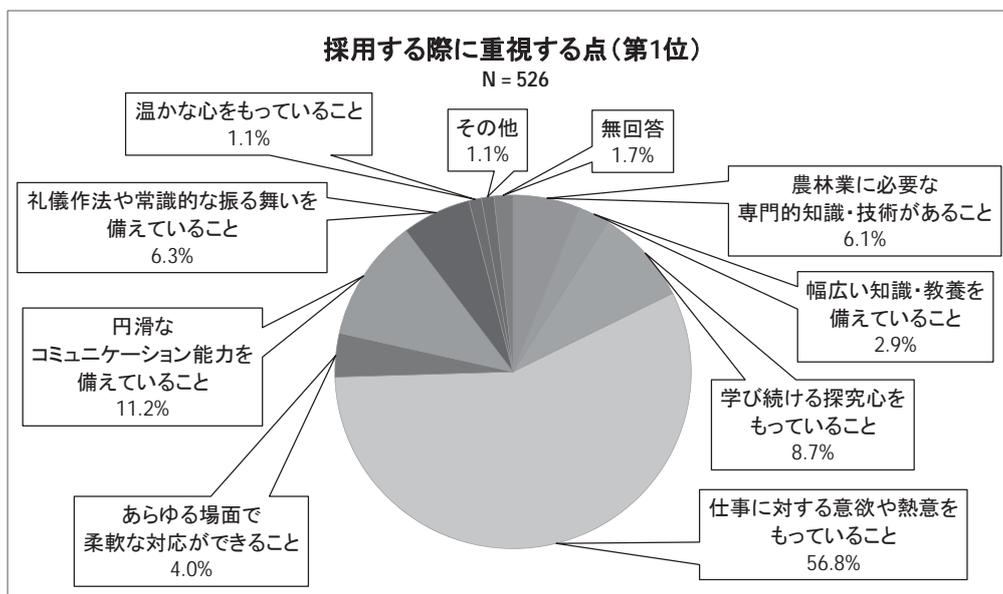
(6) 人材採用において重視する点について（複数回答）

6-1 人材採用において重視する点（第1位）について

人材採用において重視する点（第1位）について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「仕事に対する意欲や熱意をもっていること」が 299 件（56.8%）と最も多く、次いで「円滑なコミュニケーション能力を備えていること」59件（11.2%）、「学び続ける探究心をもっていること」46 件（8.7%）、「礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること」33 件（6.3%）、「農林業に必要な専門的知識・技術があること」32 件（6.1%）、「あらゆる場面で柔軟な対応ができること」21 件（4.0%）、「幅広い知識・教養を備えていること」15 件（2.9%）、「温かな心をもっていること」6 件（1.1%）、「その他」6 件（1.1%）の順になっている。 ※「無回答」9 件（1.7%）

採用する際に重視する点(第1位)

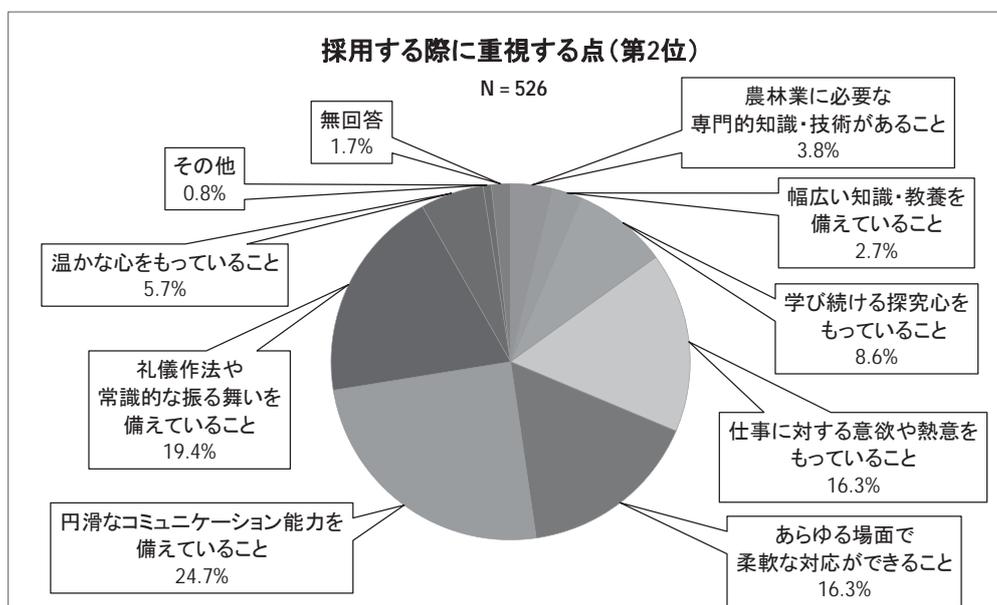
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農林業に必要な専門的知識・技術があること	32	6.1
2	幅広い知識・教養を備えていること	15	2.9
3	学び続ける探究心をもっていること	46	8.7
4	仕事に対する意欲や熱意をもっていること	299	56.8
5	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	21	4.0
6	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	59	11.2
7	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	33	6.3
8	温かな心をもっていること	6	1.1
9	その他	6	1.1
	無回答	9	1.7
	N (%ベース)	526	100



6-2 人材採用において重視する点（第2位）について

人材採用において重視する点（第2位）について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「円滑なコミュニケーション能力を備えていること」が 130 件（24.7%）と最も多く、次いで「礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること」102 件（19.4%）、「仕事に対する意欲や熱意をもっていること」86 件（16.3%）、「あらゆる場面で柔軟な対応ができること」86 件（16.3%）、「学び続ける探究心をもっていること」45 件（8.6%）、「温かな心をもっていること」30 件（5.7%）、「農林業に必要な専門的知識・技術があること」20 件（3.8%）、「幅広い知識・教養を備えていること」14 件（2.7%）、「その他」4 件（0.8%）の順になっている。 ※「無回答」9 件（1.7%）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農林業に必要な専門的知識・技術があること	20	3.8
2	幅広い知識・教養を備えていること	14	2.7
3	学び続ける探究心をもっていること	45	8.6
4	仕事に対する意欲や熱意をもっていること	86	16.3
5	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	86	16.3
6	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	130	24.7
7	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	102	19.4
8	温かな心をもっていること	30	5.7
9	その他	4	0.8
	無回答	9	1.7
	N (%ベース)	526	100



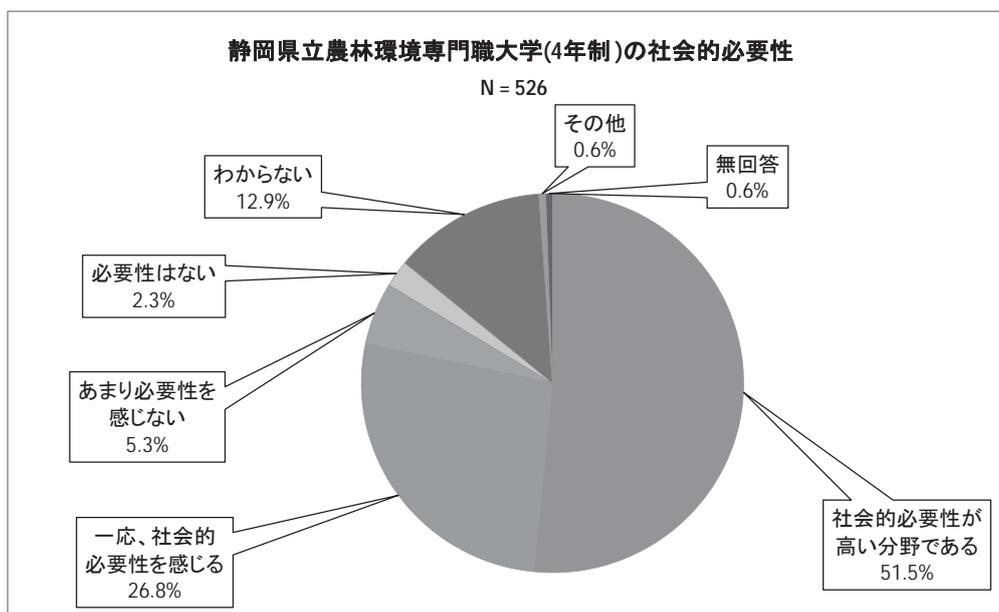
(7) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学の社会的必要性について

4年制の静岡県立農林環境専門職大学の社会的必要性について調査した結果、回答のあった企業等526件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が271件(51.5%)と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」141件(26.8%)、「わからない」68件(12.9%)、「あまり必要性を感じない」28件(5.3%)、「必要性はない」12件(2.3%)、「その他」3件(0.6%)の順になっている。 ※「無回答」3件(0.6%)

なお、4年制の静岡県立農林環境専門職大学について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、412件(78.3%)となっている。

静岡県立農林環境専門職大学(4年制)の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	271	51.5
2	一応、社会的必要性を感じる	141	26.8
3	あまり必要性を感じない	28	5.3
4	必要性はない	12	2.3
5	わからない	68	12.9
6	その他	3	0.6
	無回答	3	0.6
	N (%ベース)	526	100



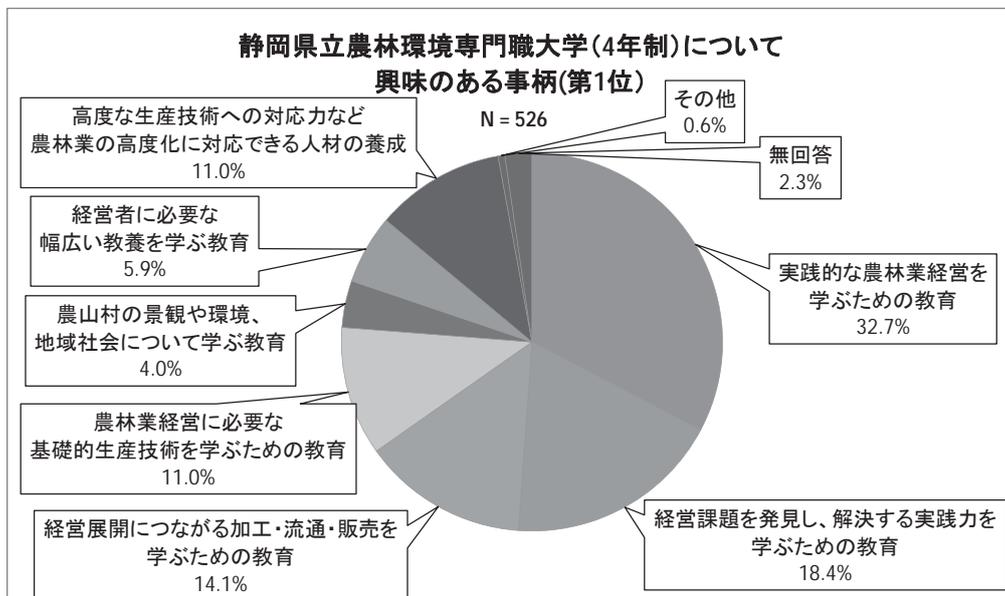
(8) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学について興味のある事柄について

8-1 4年制の静岡県立農林環境専門職大学について興味のある事柄（第1位）について

4年制の静岡県立農林環境専門職大学について興味のある事柄（第1位）について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「実践的な農林業経営を学ぶための教育」が 172 件（32.7%）と最も多く、次いで「経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育」97 件（18.4%）、「経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育」74 件（14.1%）、「農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育」58 件（11.0%）、「高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成」58 件（11.0%）、「経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育」31 件（5.9%）、「農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育」21 件（4.0%）、「その他」3 件（0.6%）の順になっている。 ※「無回答」12 件（2.3%）

静岡県立農林環境専門職大学(4年制)について 興味のある事柄(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	実践的な農林業経営を学ぶための教育	172	32.7
2	経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育	97	18.4
3	経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育	74	14.1
4	農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育	58	11.0
5	農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育	21	4.0
6	経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育	31	5.9
7	高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成	58	11.0
8	その他	3	0.6
	無回答	12	2.3
	N (%ベース)	526	100

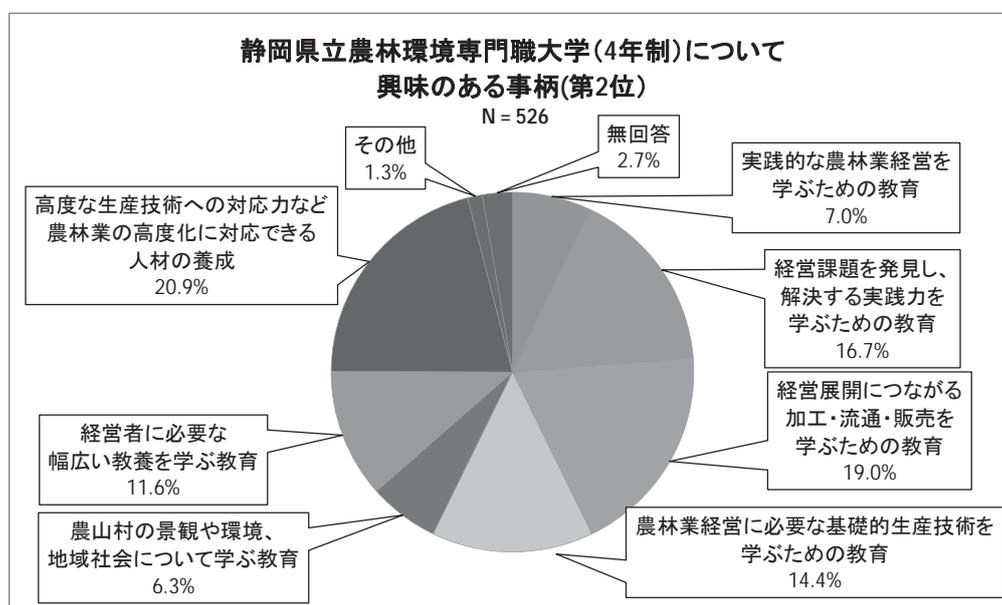


8-2 4年制の静岡県立農林環境専門職大学について興味のある事柄（第2位）について

4年制の静岡県立農林環境専門職大学について興味のある事柄（第2位）について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成」が 110 件（20.9%）と最も多く、次いで「経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育」100 件（19.0%）、「経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育」88 件（16.7%）、「農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育」76 件（14.4%）、「経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育」61 件（11.6%）、「実践的な農林業経営を学ぶための教育」37 件（7.0%）、「農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育」33 件（6.3%）、「その他」7 件（1.3%）の順になっている。 ※「無回答」14 件（2.7%）

静岡県立農林環境専門職大学(4年制)について 興味のある事柄(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	実践的な農林業経営を学ぶための教育	37	7.0
2	経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育	88	16.7
3	経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育	100	19.0
4	農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育	76	14.4
5	農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育	33	6.3
6	経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育	61	11.6
7	高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成	110	20.9
8	その他	7	1.3
	無回答	14	2.7
	N (%ベース)	526	100



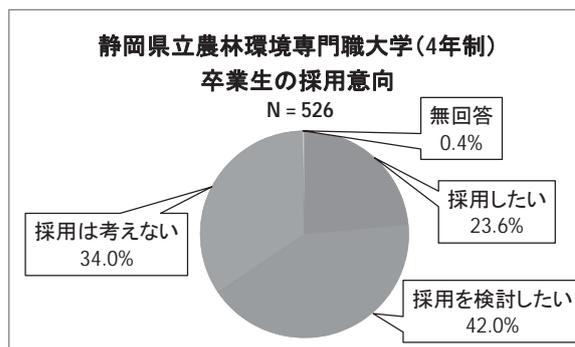
(9) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用意向について

4年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用意向について調査した結果、回答のあった企業等526件のうち、「採用を検討したい」が221件(42.0%)と最も多く、次いで「採用は考えない」179件(34.0%)、「採用したい」124件(23.6%)の順になっている。 ※「無回答」2件(0.4%)

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、345件(65.6%)となっている。

静岡県立農林環境専門職大学(4年制)卒業生の採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	124	23.6
2	採用を検討したい	221	42.0
3	採用は考えない	179	34.0
	無回答	2	0.4
	N (%ベース)	526	100



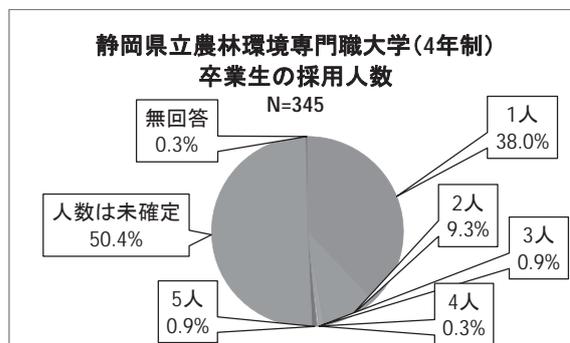
(10) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用人数について

「4年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用意向」で肯定的な採用意向を示した345件に対して、4年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」174件(50.4%)と最も多く、次いで「1人」が131件(38.0%)、「2人」32件(9.3%)、「3人」3件(0.9%)、「5人」3件(0.9%)、「4人」1件(0.3%)の順になっている。

※「無回答」1件(0.3%)

静岡県立農林環境専門職大学(4年制)卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	131	38.0
2	2人	32	9.3
3	3人	3	0.9
4	4人	1	0.3
5	5人	3	0.9
6	人数は未確定	174	50.4
	無回答	1	0.3
	N (%ベース)	345	100



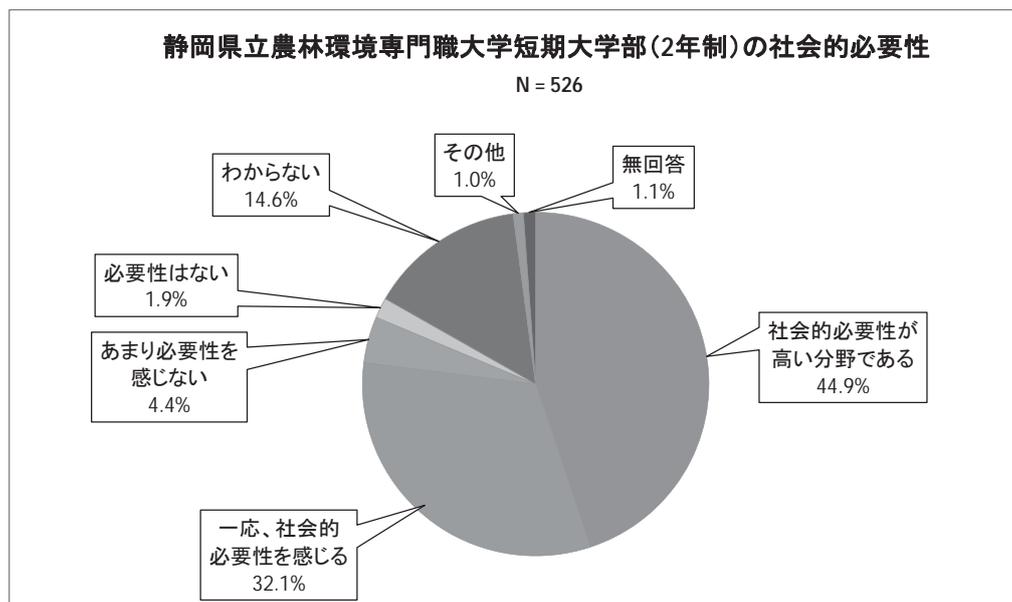
(11) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の社会的必要性について

2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の社会的必要性について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 236 件 (44.9%) と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」169 件 (32.1%)、「わからない」77 件 (14.6%)、「あまり必要性を感じない」23 件 (4.4%)、「必要性はない」10 件 (1.9%)、「その他」5 件 (1.0%) の順になっている。 ※「無回答」6 件 (1.1%)

なお、2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、405 件 (77.0%) となっている。

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	236	44.9
2	一応、社会的必要性を感じる	169	32.1
3	あまり必要性を感じない	23	4.4
4	必要性はない	10	1.9
5	わからない	77	14.6
6	その他	5	1.0
	無回答	6	1.1
	N (%ベース)	526	100



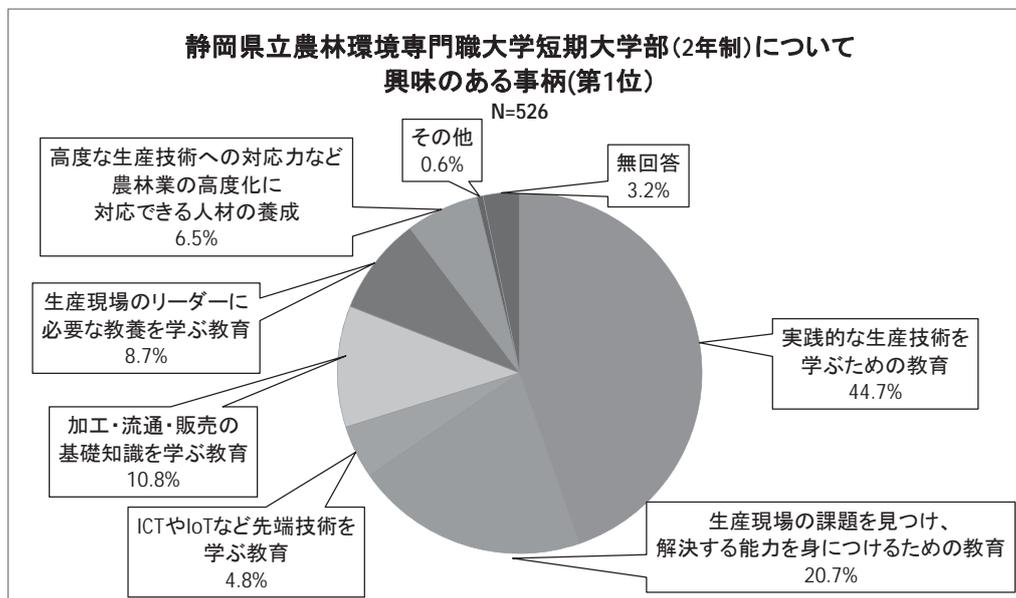
(12) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部について興味のある事柄について

12-1 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部について興味のある事柄(第1位)について

2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部について興味のある事柄(第1位)について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「実践的な生産技術を学ぶための教育」が 235 件 (44.7%) と最も多く、次いで「生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育」109 件 (20.7%)、「加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育」57 件 (10.8%)、「生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育」46 件 (8.7%)、「高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成」34 件 (6.5%)、「ICT や IoT など先端技術を学ぶ教育」25 件 (4.8%)、「その他」3 件 (0.6%) の順になっている。 ※「無回答」17 件 (3.2%)

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)について 興味のある事柄(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	実践的な生産技術を学ぶための教育	235	44.7
2	生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育	109	20.7
3	ICTやIoTなど先端技術を学ぶ教育	25	4.8
4	加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育	57	10.8
5	生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育	46	8.7
6	高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成	34	6.5
7	その他	3	0.6
	無回答	17	3.2
	N (%ベース)	526	100

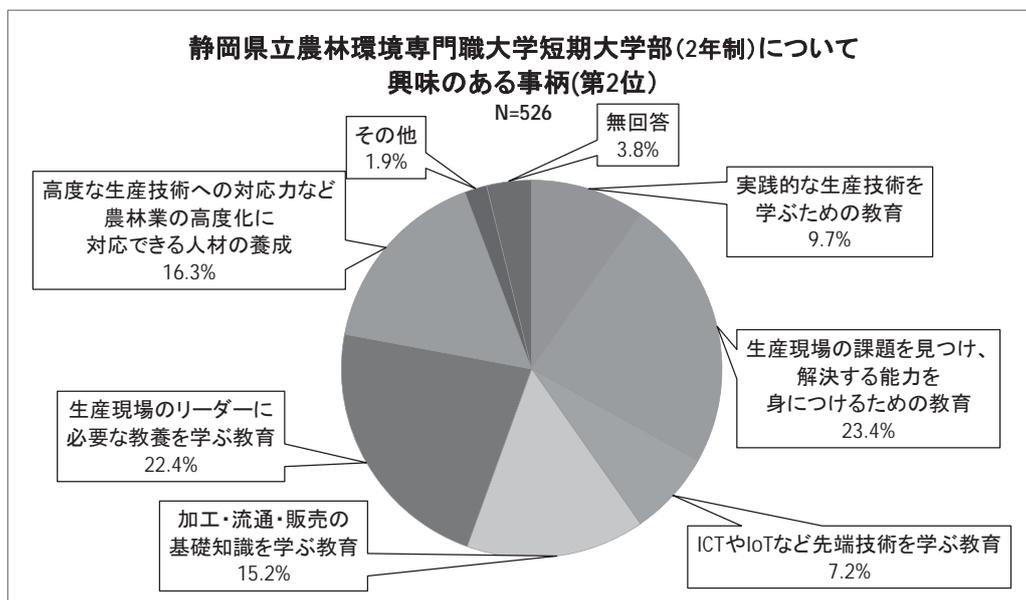


12-2 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部について興味のある事柄(第2位)について

2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部について興味のある事柄(第2位)について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育」が 123 件 (23.4%) と最も多く、次いで「生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育」118 件 (22.4%)、「高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成」86 件 (16.3%)、「加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育」80 件 (15.2%)、「実践的な生産技術を学ぶための教育」51 件 (9.7%)、「ICT や IoT など先端技術を学ぶ教育」38 件 (7.2%)、「その他」10 件 (1.9%) の順になっている。 ※「無回答」20 件 (3.8%)

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)について 興味のある事柄(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	実践的な生産技術を学ぶための教育	51	9.7
2	生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育	123	23.4
3	ICTやIoTなど先端技術を学ぶ教育	38	7.2
4	加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育	80	15.2
5	生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育	118	22.4
6	高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成	86	16.3
7	その他	10	1.9
	無回答	20	3.8
	N (%ベース)	526	100



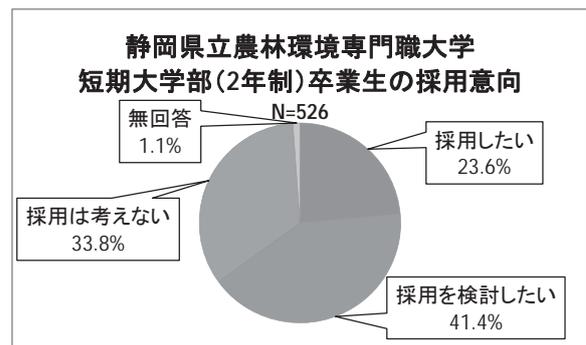
(13) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部卒業生の採用意向について

2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部卒業生の採用意向について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「採用を検討したい」が 218 件 (41.4%) と最も多く、次いで「採用は考えない」178 件 (33.8%)、「採用したい」124 件 (23.6%) の順になっている。 ※「無回答」6 件 (1.1%)

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、342 件 (65.0%) となっている。

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)卒業生の採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	124	23.6
2	採用を検討したい	218	41.4
3	採用は考えない	178	33.8
	無回答	6	1.1
	N (%ベース)	526	100

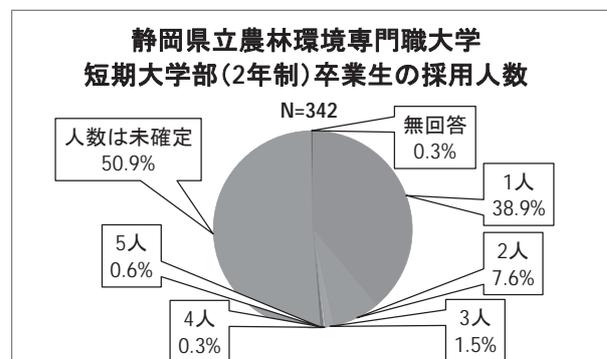


(14) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部卒業生の採用人数について

「2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部卒業生の採用意向」で肯定的な採用意向を示した 342 件に対して、2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」174 件 (50.9%) と最も多く、次いで「1人」が 133 件 (38.9%)、「2人」26 件 (7.6%)、「3人」5 件 (1.5%)、「5人」2 件 (0.6%)、「4人」1 件 (0.3%) の順になっている。 ※「無回答」1 件 (0.3%)

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	133	38.9
2	2人	26	7.6
3	3人	5	1.5
4	4人	1	0.3
5	5人	2	0.6
6	人数は未確定	174	50.9
	無回答	1	0.3
	N (%ベース)	342	100



3. 調査結果のまとめ

(1) 静岡県立農林環境専門職大学

静岡県立農林環境専門職大学卒業生に対する将来的な採用意向人数の集計にあたっては、「(9) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用意向について」の肯定的な回答数と、「(10) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用人数について」の各選択肢（「1人」、「2人」、「3人」、「4人」、「5人以上」、「人数は未確定（※）」）を乗じ、これを合計し、算出した。

※「人数は未確定」とは、「(9) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用意向について」にて、「採用したい」「採用を検討したい」と回答し将来的な採用意向は示すが、アンケートの時点では将来的な採用人数について確定していないものである。したがって、本調査では「人数は未確定」の将来的な採用人数を最低数である「1人」として計算した。

下記の表より、4年制の静岡県立農林環境専門職大学の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、168人分となる。入学定員は24名であるため、7.0倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は397人となり、これは、入学定員24名に対して、16.54倍となる。

静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 卒業生の採用人数

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」 のみ		合計
1人(A)	58	(a)	(A) × (a) 58
2人(B)	23	(b)	(B) × (b) 46
3人(C)	3	(c)	(C) × (c) 9
4人(D)	1	(d)	(D) × (d) 4
5人以上(E)	3	(e)	(E) × (e) 15
人数は未確定(F)	36	(f)	(F) × (f) 36
無回答	-		

合計採用意向 168 人

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」「採用を 検討したい」の合計		合計
1人(A)	131	(a)	(A) × (a) 131
2人(B)	32	(b)	(B) × (b) 64
3人(C)	3	(c)	(C) × (c) 9
4人(D)	1	(d)	(D) × (d) 4
5人以上(E)	3	(e)	(E) × (e) 15
人数は未確定(F)	174	(f)	(F) × (f) 174
無回答	1		

合計採用意向 397 人

(2) 静岡県立農林環境専門職大学短期大学部

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部卒業生に対する将来的な採用意向人数の集計にあたっては、「(13) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の卒業生の採用意向について」の肯定的な回答数と、「(14) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の将来的な採用人数について」の各選択肢（「1人」、「2人」、「3人」、「4人」、「5人以上」、「人数は未確定（※）」）を乗じ、これを合計し、算出した。

※「人数は未確定」とは、「(13) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の将来的な採用意向について」にて、「採用したい」「採用を検討したい」と回答し将来的な採用意向は示すが、アンケートの時点では将来的な採用人数について確定していないものである。したがって、本調査では「人数は未確定」の将来的な採用人数を最低数である「1人」として計算した。

下記の表より、2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、157人分となる。入学定員は100名であるため、1.57倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は388人となり、これは、入学定員100名に対して、3.88倍となる。

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制) 卒業生の採用人数

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」 のみ		合計
1人(A)	65	(a)	(A) × (a) 65
2人(B)	18	(b)	(B) × (b) 36
3人(C)	4	(c)	(C) × (c) 12
4人(D)	1	(d)	(D) × (d) 4
5人以上(E)	1	(e)	(E) × (e) 5
人数は未確定(F)	35	(f)	(F) × (f) 35
無回答	-		

合計採用意向 157人

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」「採用を 検討したい」の合計		合計
1人(A)	133	(a)	(A) × (a) 133
2人(B)	26	(b)	(B) × (b) 52
3人(C)	5	(c)	(C) × (c) 15
4人(D)	1	(d)	(D) × (d) 4
5人以上(E)	2	(e)	(E) × (e) 10
人数は未確定(F)	174	(f)	(F) × (f) 174
無回答	1		

合計採用意向 388人

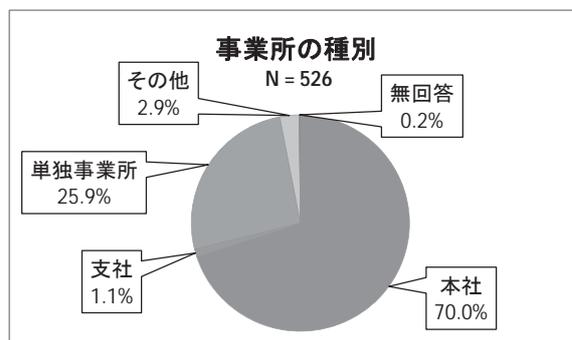
(3) まとめ

以上の調査結果と、今回の調査対象以外への進路も考えられることから、静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の卒業生の進路は十分に確保できるものとする。

単純集計表

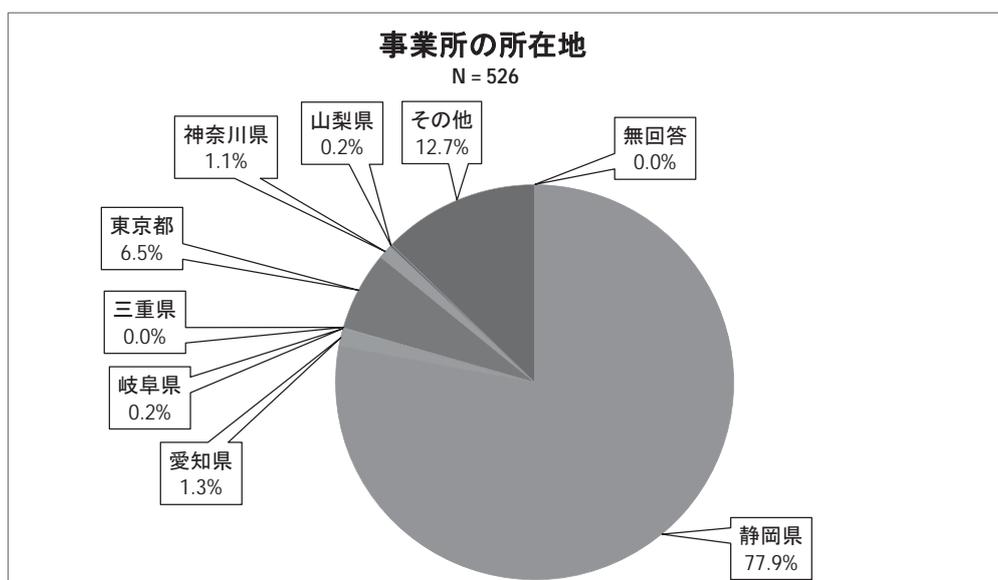
事業所の種別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	本社	368	70.0
2	支社	6	1.1
3	単独事業所	136	25.9
4	その他	15	2.9
	無回答	1	0.2
	N (%ベース)	526	100



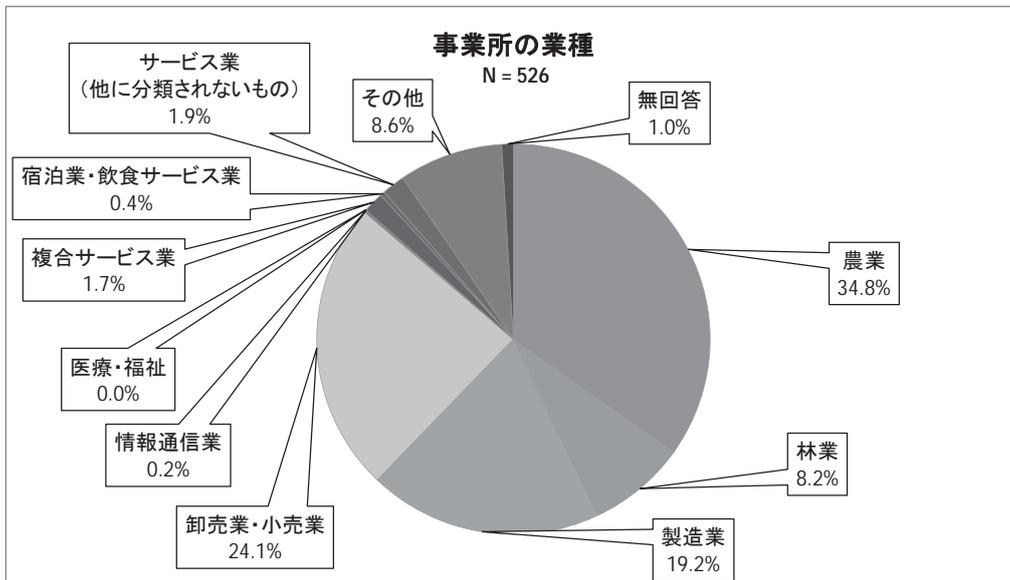
事業所の所在地

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	静岡県	410	77.9
2	愛知県	7	1.3
3	岐阜県	1	0.2
4	三重県	0	0.0
5	東京都	34	6.5
6	神奈川県	6	1.1
7	山梨県	1	0.2
8	その他	67	12.7
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	526	100



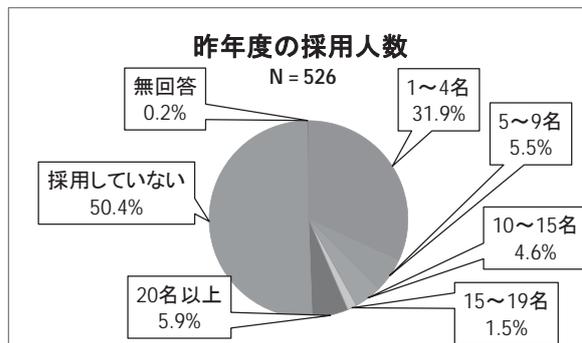
事業所の業種

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農業	183	34.8
2	林業	43	8.2
3	製造業	101	19.2
4	卸売業・小売業	127	24.1
5	情報通信業	1	0.2
6	医療・福祉	0	0.0
7	複合サービス業	9	1.7
8	宿泊業・飲食サービス業	2	0.4
9	サービス業(他に分類されないもの)	10	1.9
10	その他	45	8.6
	無回答	5	1.0
	N (%ベース)	526	100



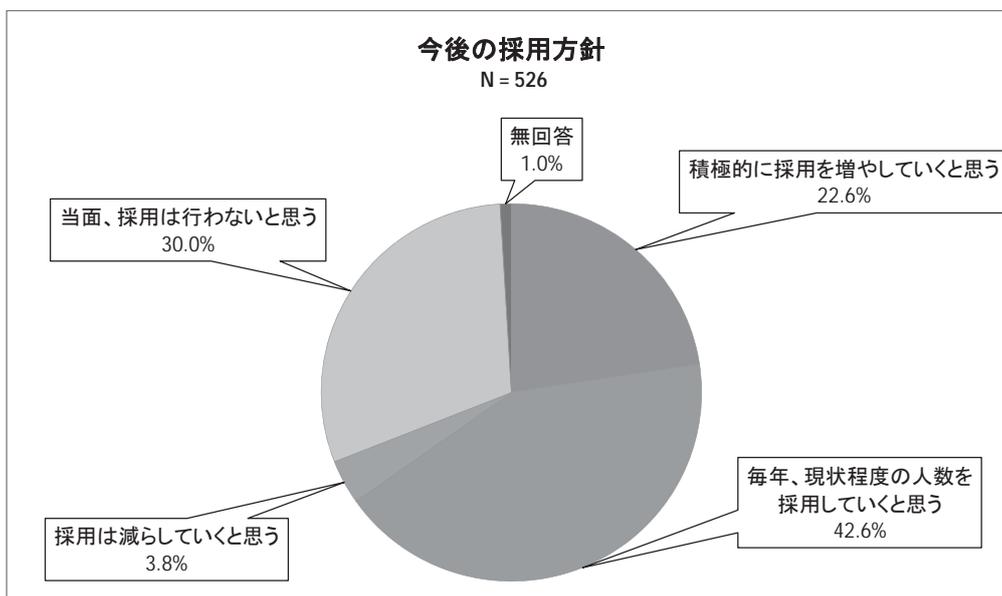
昨年度の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1～4名	168	31.9
2	5～9名	29	5.5
3	10～15名	24	4.6
4	15～19名	8	1.5
5	20名以上	31	5.9
6	採用していない	265	50.4
	無回答	1	0.2
	N (%ベース)	526	100



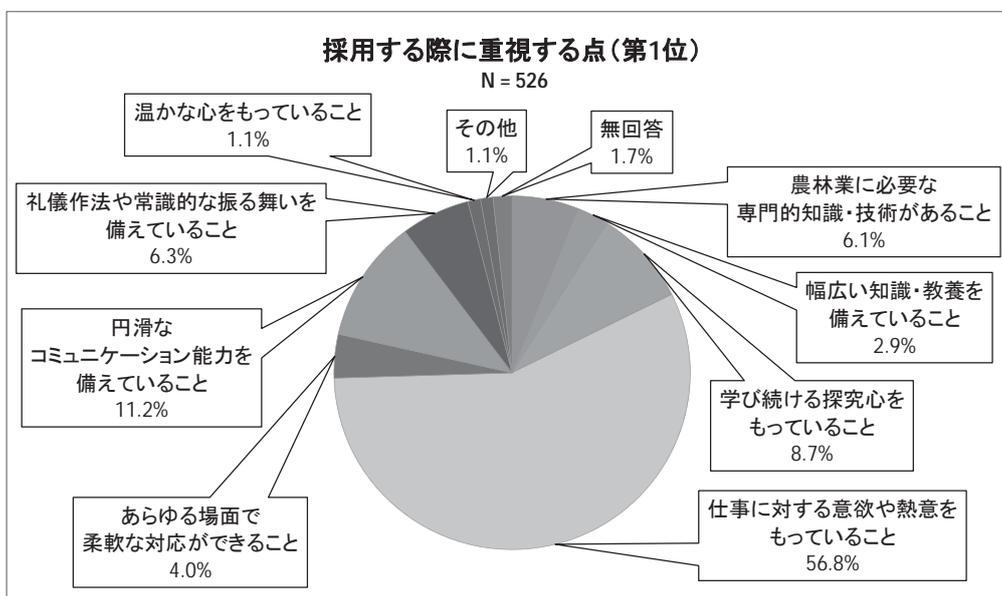
今後の採用方針

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	積極的に採用を増やしていくと思う	119	22.6
2	毎年、現状程度の人数を採用していくと思う	224	42.6
3	採用は減らしていくと思う	20	3.8
4	当面、採用は行わないと思う	158	30.0
	無回答	5	1.0
	N (%ベース)	526	100



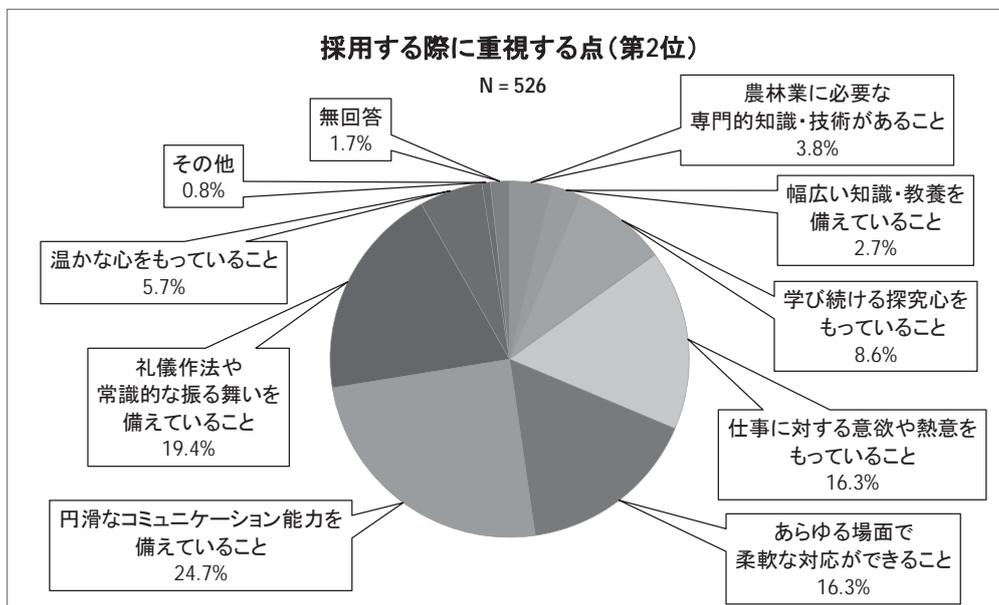
採用する際に重視する点(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農林業に必要な専門的知識・技術があること	32	6.1
2	幅広い知識・教養を備えていること	15	2.9
3	学び続ける探究心をもっていること	46	8.7
4	仕事に対する意欲や熱意をもっていること	299	56.8
5	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	21	4.0
6	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	59	11.2
7	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	33	6.3
8	温かな心をもっていること	6	1.1
9	その他	6	1.1
	無回答	9	1.7
	N (%ベース)	526	100



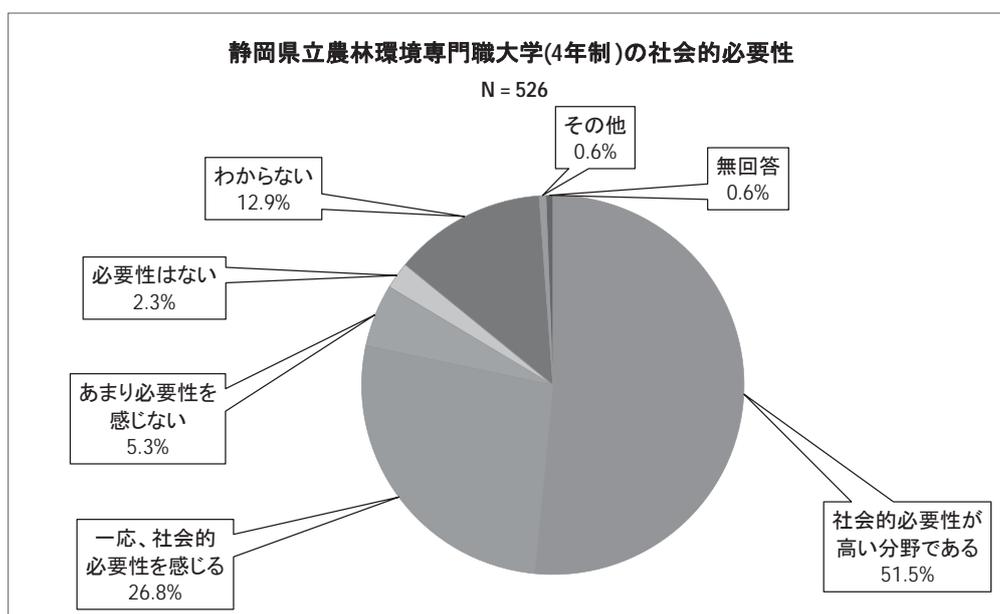
採用する際に重視する点(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農林業に必要な専門的知識・技術があること	20	3.8
2	幅広い知識・教養を備えていること	14	2.7
3	学び続ける探究心をもっていること	45	8.6
4	仕事に対する意欲や熱意をもっていること	86	16.3
5	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	86	16.3
6	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	130	24.7
7	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	102	19.4
8	温かな心をもっていること	30	5.7
9	その他	4	0.8
	無回答	9	1.7
	N (%ベース)	526	100



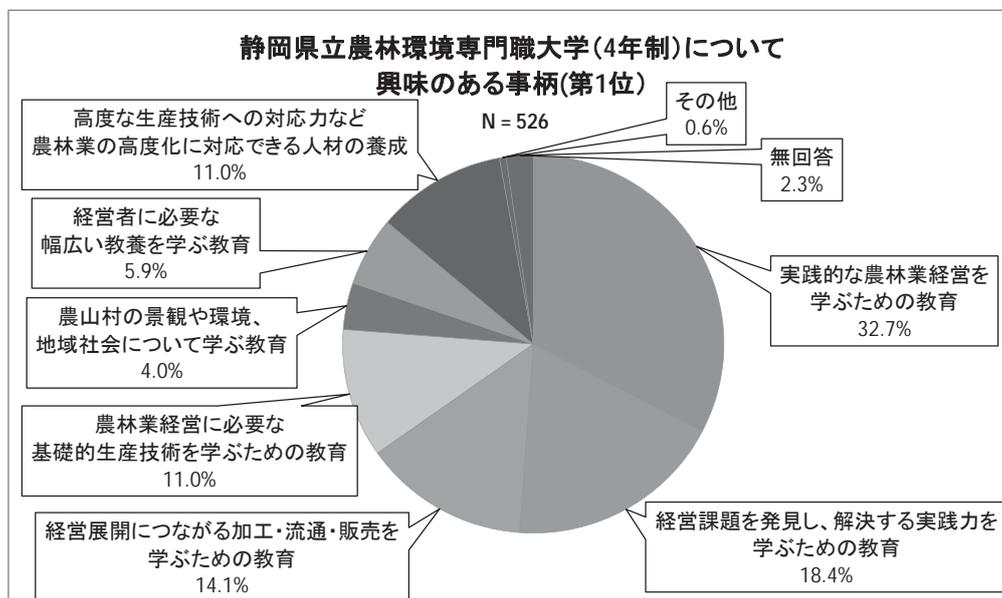
静岡県立農林環境専門職大学(4年制)の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	271	51.5
2	一応、社会的必要性を感じる	141	26.8
3	あまり必要性を感じない	28	5.3
4	必要性はない	12	2.3
5	わからない	68	12.9
6	その他	3	0.6
	無回答	3	0.6
	N (%ベース)	526	100



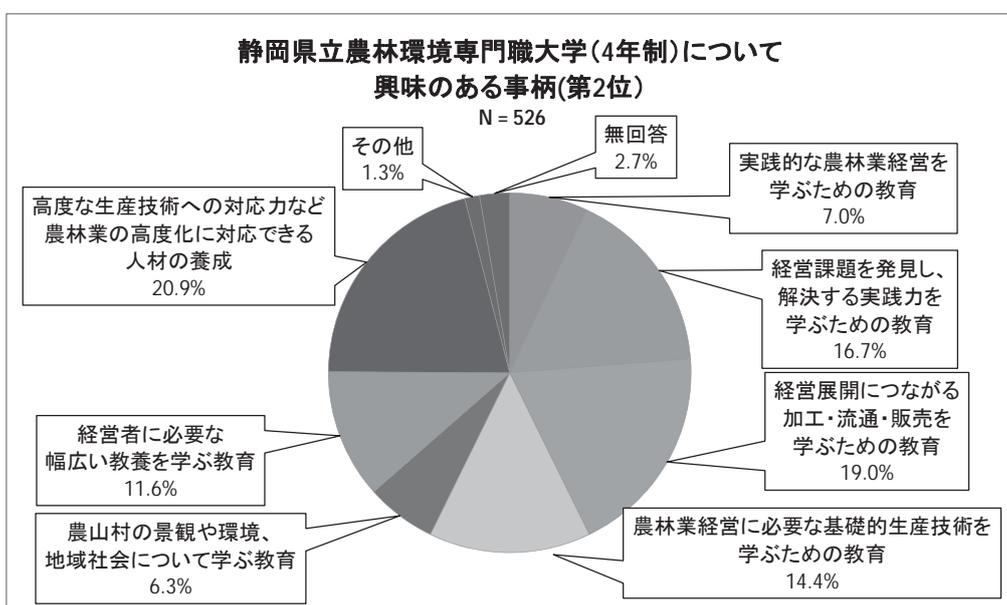
静岡県立農林環境専門職大学(4年制)について 興味のある事柄(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	実践的な農林業経営を学ぶための教育	172	32.7
2	経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育	97	18.4
3	経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育	74	14.1
4	農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育	58	11.0
5	農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育	21	4.0
6	経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育	31	5.9
7	高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成	58	11.0
8	その他	3	0.6
	無回答	12	2.3
	N (%ベース)	526	100



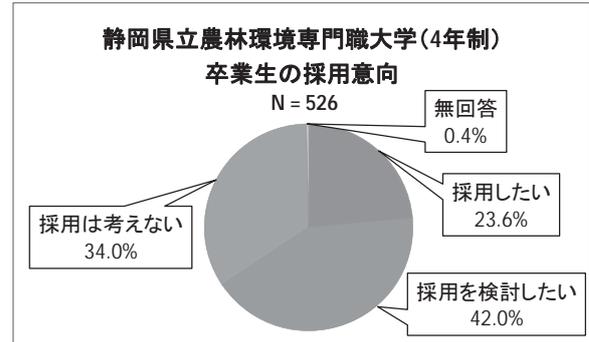
静岡県立農林環境専門職大学(4年制)について 興味のある事柄(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	実践的な農林業経営を学ぶための教育	37	7.0
2	経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育	88	16.7
3	経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育	100	19.0
4	農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育	76	14.4
5	農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育	33	6.3
6	経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育	61	11.6
7	高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成	110	20.9
8	その他	7	1.3
	無回答	14	2.7
	N (%ベース)	526	100



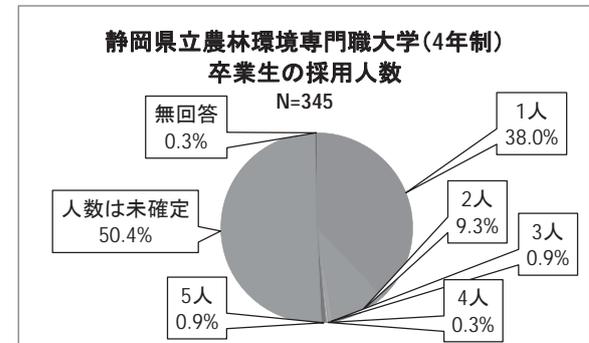
静岡県立農林環境専門職大学(4年制)卒業生の採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	124	23.6
2	採用を検討したい	221	42.0
3	採用は考えない	179	34.0
	無回答	2	0.4
	N (%ベース)	526	100



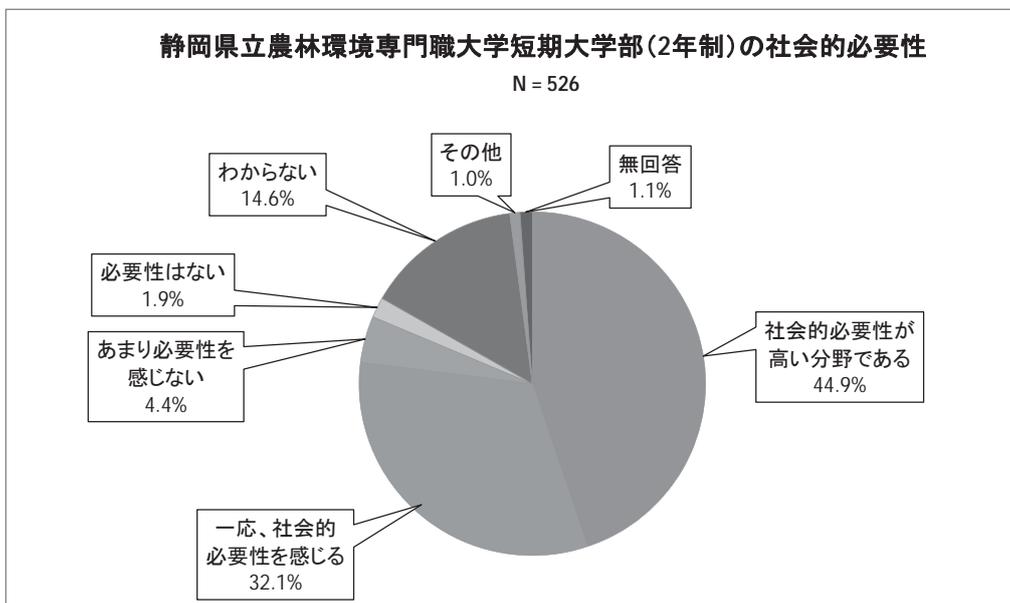
静岡県立農林環境専門職大学(4年制)卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	131	38.0
2	2人	32	9.3
3	3人	3	0.9
4	4人	1	0.3
5	5人	3	0.9
6	人数は未確定	174	50.4
	無回答	1	0.3
	N (%ベース)	345	100



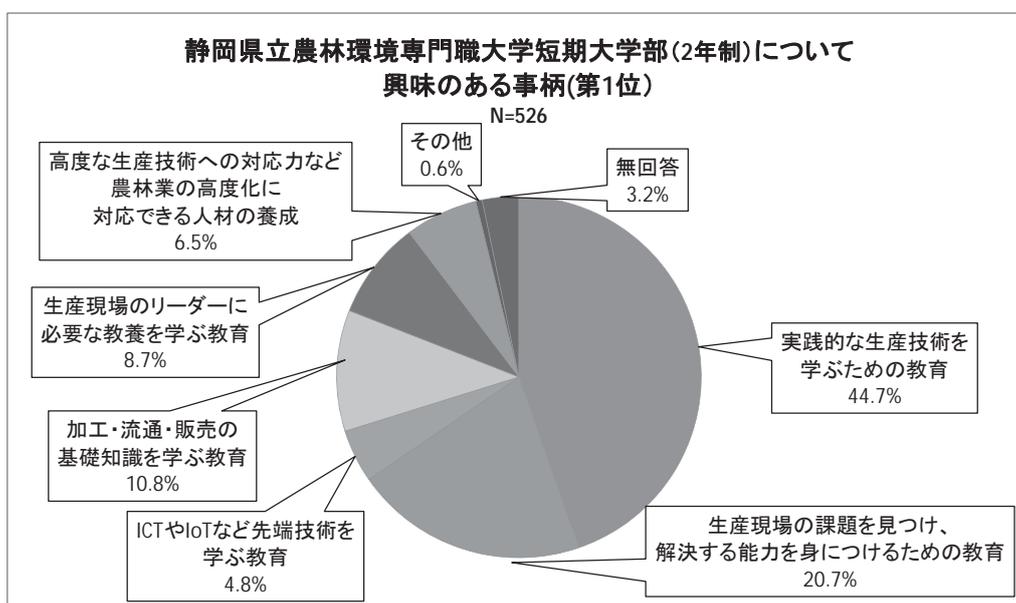
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	236	44.9
2	一応、社会的必要性を感じる	169	32.1
3	あまり必要性を感じない	23	4.4
4	必要性はない	10	1.9
5	わからない	77	14.6
6	その他	5	1.0
	無回答	6	1.1
	N (%ベース)	526	100



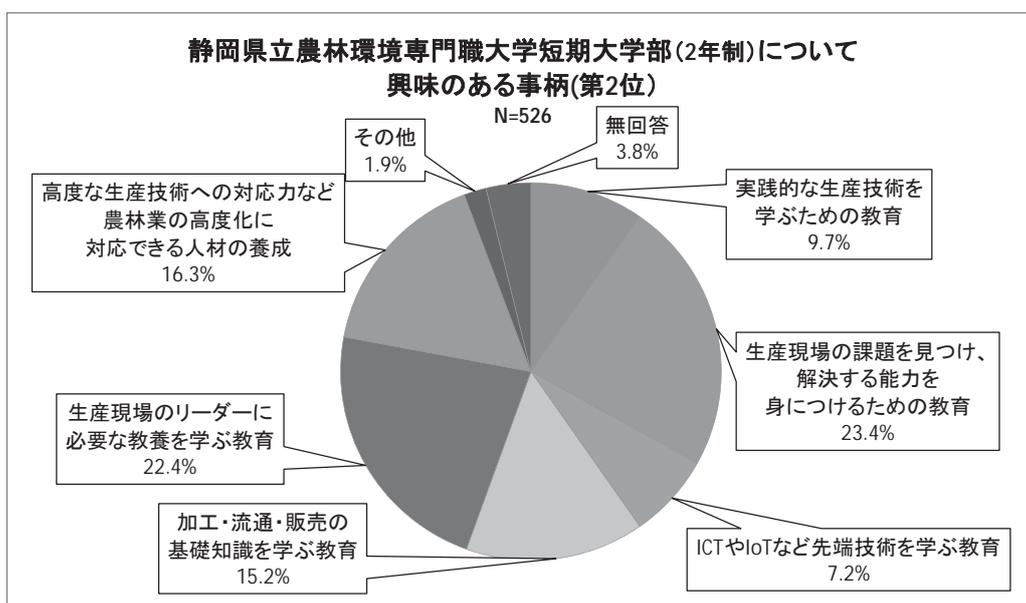
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)について 興味のある事柄(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	実践的な生産技術を学ぶための教育	235	44.7
2	生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育	109	20.7
3	ICTやIoTなど先端技術を学ぶ教育	25	4.8
4	加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育	57	10.8
5	生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育	46	8.7
6	高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成	34	6.5
7	その他	3	0.6
	無回答	17	3.2
	N (%ベース)	526	100



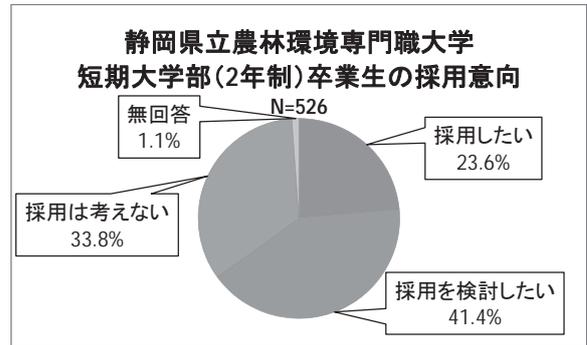
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)について 興味のある事柄(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	実践的な生産技術を学ぶための教育	51	9.7
2	生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育	123	23.4
3	ICTやIoTなど先端技術を学ぶ教育	38	7.2
4	加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育	80	15.2
5	生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育	118	22.4
6	高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成	86	16.3
7	その他	10	1.9
	無回答	20	3.8
	N (%ベース)	526	100



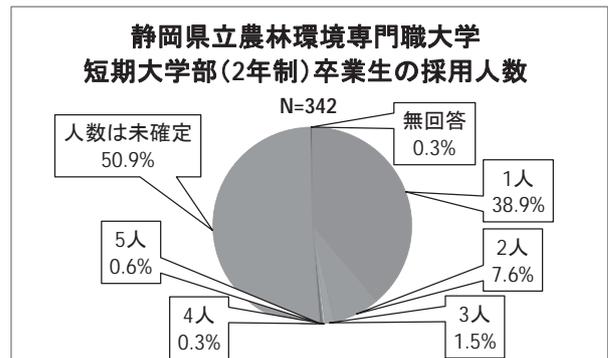
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)卒業生の採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	124	23.6
2	採用を検討したい	218	41.4
3	採用は考えない	178	33.8
	無回答	6	1.1
	N (%ベース)	526	100



静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	133	38.9
2	2人	26	7.6
3	3人	5	1.5
4	4人	1	0.3
5	5人	2	0.6
6	人数は未確定	174	50.9
	無回答	1	0.3
	N (%ベース)	342	100



調查票

**静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の設置に係るアンケート調査**

- ・このアンケート調査は、2020年4月に開学を予定している静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の設置計画の基礎資料とするため、貴社・貴施設の人材採用方針等についてお聞きするものです。
- ・このアンケート結果は、統計資料としてのみ使い、目的以外に利用することはありません。
- ・回答は、該当する番号を回答欄の □ の中に直接、御記入ください。

回答締め切りのお願い

2018年8月10日（金）までに、同封の返信用封筒にて御投函いただきますようお願いいたします。

【 貴社・貴施設についてお伺いします 】

【回答欄】

問1． 本社・支社・事業所等について、お聞きします。次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 本社 2. 支社 3. 単独事業所 4. その他（ ）

問2． 所在地について、お聞きします。次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 静岡県 4. 三重県 7. 山梨県
2. 愛知県 5. 東京都 8. その他（ ）
3. 岐阜県 6. 神奈川県
-

問3． 業種について、お聞きします。次の中から最も当てはまる番号を1つお選びください。

1. 農業 5. 情報通信業 9. サービス業(他に分類されないもの)
2. 林業 6. 医療・福祉 10. その他
3. 製造業 7. 複合サービス業 (具体的に:)
4. 卸売業・小売業 8. 宿泊業・飲食サービス業
-

問4． 昨年度（平成30年4月入社）に新卒採用された人数について、次の中から該当する番号を1つお選びください。（支社または単独事業所でお答えいただいている場合は、そちらでの採用数をお願いします）

1. 1～4名 3. 10～15名 5. 20名以上 番号で御回答ください
2. 5～9名 4. 15～19名 6. 採用していない
-

問5． 今後の人材採用について、どのようにお考えですか。お考えに近い番号を1つお選びください。

1. 積極的に採用を増やしていくと思う
2. 毎年、現状程度の人数を採用していくと思う
3. 採用は減らしていくと思う
4. 当面、採用は行わないと思う
-

問6． 人材を採用する際に、貴社・貴施設ではどのようなことを重視していますか。該当する番号を第2位までお選びください。

- | | | |
|---|-----|----------------------|
| 1. 農林業に必要な専門的知識・技術があること | 第1位 | <input type="text"/> |
| 2. 幅広い知識・教養を備えていること | | |
| 3. 学び続ける探究心をもっていること | | |
| 4. 仕事に対する意欲や熱意をもっていること | 第2位 | <input type="text"/> |
| 5. あらゆる場面で柔軟な対応ができること | | |
| 6. 円滑なコミュニケーション能力を備えていること | | |
| 7. 礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること | | |
| 8. 温かな心をもっていること | | |
| 9. その他（具体的に:) | | |

⇨ 次のページへお進みください ⇨

ここからは、同封のリーフレット

「静岡県立 農林環境専門職大学（仮称） 農林環境専門職大学短期大学部（仮称）」

を御覧になりながらお答えください。

【 4年制の静岡県立農林環境専門職大学（仮称）についておたずねします。 】

問7. 設置を計画している4年制の静岡県立農林環境専門職大学（仮称）の社会的必要性について、どのようにお考えになりますか。次の中から該当する番号を1つお選びください。

- | | | |
|-------------------|----------------------|--------------------------|
| 1. 社会的必要性が高い分野である | 4. 必要性はない | <input type="checkbox"/> |
| 2. 一応、社会的必要性を感じる | 5. わからない | |
| 3. あまり必要性を感じない | 6. その他（具体的に: _____) | |

問8. 設置を計画している4年制の静岡県立農林環境専門職大学（仮称）の特徴や目指している事柄について、興味のあるものはどれですか。興味の高い順に第2位までお選びください。

- | | | |
|-------------------------------------|-----|--------------------------|
| 1. 実践的な農林業経営を学ぶための教育 | 第1位 | <input type="checkbox"/> |
| 2. 経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育 | | |
| 3. 経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育 | 第2位 | <input type="checkbox"/> |
| 4. 農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育 | | |
| 5. 農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育 | | |
| 6. 経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育 | | |
| 7. 高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成 | | |
| 8. その他（具体的に: _____) | | |

問9. 設置を計画している4年制の静岡県立農林環境専門職大学（仮称）の卒業生の将来的な採用意向についておたずねします。次の中から該当する番号を1つお選びください。

- | | | | | |
|-----------------------|--|-----------------------|---------------------|--------------------------|
| 1. 採用したい | } <table border="1" style="border-style: dashed; padding: 2px;"><tr><td>1、2を選ばれた方は問10へお進みください</td></tr><tr><td>3を選ばれた方は問11へお進みください</td></tr></table> | 1、2を選ばれた方は問10へお進みください | 3を選ばれた方は問11へお進みください | <input type="checkbox"/> |
| 1、2を選ばれた方は問10へお進みください | | | | |
| 3を選ばれた方は問11へお進みください | | | | |
| 2. 採用を検討したい | | | | |
| 3. 採用は考えない | | | | |

問10. 問9で「1.採用したい」「2.採用を検討したい」を選択した方におたずねします。選択した4年制の静岡県立農林環境専門職大学(仮称)の卒業生を毎年何人程度採用したいと考えますか。次の中から該当する番号を1つお選びください。

- | | | |
|-------|-----------|---|
| 1. 1人 | 4. 4人 | { 番号で御回答ください } <input type="checkbox"/> |
| 2. 2人 | 5. 5人以上 | |
| 3. 3人 | 6. 人数は未確定 | |

【 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)についておたずねします。 】

問 11 . 設置を計画している 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)の社会的必要性について、どのようにお考えになりますか。次の中から該当する番号を 1 つお選びください。

- | | | |
|-------------------|--------------|---|
| 1. 社会的必要性が高い分野である | 4. 必要性はない |) <input style="width: 40px; height: 30px;" type="text"/> |
| 2. 一応、社会的必要性を感じる | 5. わからない | |
| 3. あまり必要性を感じない | 6. その他(具体的に: | |

問 12 . 設置を計画している 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)の特徴や目指している事柄について、興味のあるものはどれですか。興味の高い順に第 2 位までお選びください。

- | | | |
|-------------------------------------|-------|---|
| 1. 実践的な生産技術を学ぶための教育 | 第 1 位 |) <input style="width: 40px; height: 30px;" type="text"/> |
| 2. 生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育 | 第 2 位 | |
| 3. ICT や IoT など先端技術を学ぶ教育 | |) <input style="width: 40px; height: 30px;" type="text"/> |
| 4. 加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育 | | |
| 5. 生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育 | | |
| 6. 高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成 | | |
| 7. その他(具体的に: | | |

問 13 . 設置を計画している 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)の卒業生の将来的な採用意向についておたずねします。次の中から該当する番号を 1 つお選びください。

- | | |
|-------------|---|
| 1. 採用したい | } <input style="width: 40px; height: 30px;" type="text"/> |
| 2. 採用を検討したい | |
| 3. 採用は考えない | |
- 1、2 を選ばれた方は問 14 へお進みください

3 を選ばれた方は問 15 へお進みください

問 14 . 問 13 で「1.採用したい」「2.採用を検討したい」を選択した方におたずねします。2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)の卒業生を毎年何人程度採用したいと考えますか。次の中から該当する番号を 1 つお選びください。

- | | | |
|--------|-----------|---|
| 1. 1 人 | 4. 4 人 |) <input style="width: 40px; height: 30px;" type="text"/> |
| 2. 2 人 | 5. 5 人以上 | |
| 3. 3 人 | 6. 人数は未確定 | |

問 15 . 構想している静岡県立農林環境専門職大学(仮称)、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)の設置計画にあたり、御意見・御要望がありましたら、御自由にお書きください。

御協力ありがとうございました

資格免許取得等について

- 授業の中で取得に取り組みめる資格・免許（予定）
 - 大型運転免許（農機用）、農型技能修得、日本農アトバイザー、資源人工技士補受験、フイクリフト運転技能講習修了証、バノカ（大塚水等）特別教習、狩猟免許、狩猟修了証
 - ※4年制、2年制ともに取得が可能です（併修分野によって取得できるのがあります）。また、取得費用は別途必要です。
- 森林業の担い手を目的とする学生の就職を支援する給付金制度
 - ・世帯世代人材育成事業（産出型）
 - ・若の青年就職促進給付金制度
 - ※成立後1年以内の就業などの給付要件があります。給付要件を満たさなくなると給付金請求を断られなければなりません。
- 共同生活を通じて協同性を養う学生生活
 - ・4年制、2年制ともに、1年生は併制全寮制にすることを検討しています。
- 現在の農林大学校の男女比
 - ・学生の男女比は男性：女性＝2：1で、9人に1人は女性の学生です。

交通アクセス



【電車・バスでのアクセス】

- 東京方面より 新幹線「JR野川駅」下車→東横線「JR松田駅」下車
- 名古屋方面より 新幹線「JR松崎駅」下車→東横線「JR松田駅」下車
- JR愛用北口 バスロータリーより遠州鉄道バス(10分)→徒歩(10分)

お問い合わせ

特設募集課 募集課 募集課 募集課 募集課 TEL: 054-221-2734
〒420-8501 静岡県富士宮市宮前9番6号 設庁3階9階 FAX: 054-221-3080

※設置構想中のため、このリーフレットの記載内容は変更となる可能性があります。



静岡県立 農林環境専門職大学 (仮称) 農林環境専門職大学 (仮称) 短期大学部

2020年4月
開学予定
(設置構想中)

静岡県では、静岡県立農林大学校を、農林業者を養成する専門学校として、本県の農林業の発展に貢献してこましたが、近年の農林業経営の規模拡大や多様化に対応するため、このたび4年制の専門職大学と2年制の専門職短期大学への移行を検討しています。

専門職大学とは？

2019年4月から新たに創設される実践的な職業教育を行う新しい高等教育機関です。

多岐の産業界分野（農林や観光、情報など）において、専門職職人として活躍する実践的知識の二ツが重要かつ、新たに創設された大学です。

特に、正統の産業界や産業界の経営者に対する教育等を通じて、高度な「実践力」や豊かな「創造性」を培うことが重要で、多くの点が特徴となっております。

【新たな高等専門教育】



■設置校
静岡県が設置する、公立の専門職大学及び専門職短期大学です。

■学部・学科名

4年制	生産環境経営学部(仮称)	入学定員 24名(予定)
2年制	生産環境経営学科(仮称)	入学定員 100名(予定)
2年制	短期大学部(仮称)	
	生産科学科(仮称)	

■開学時期
2020年4月の開学を目標とし、大学設置認可申請の準備を進めています。

■学位等
専門職大学の卒業生には、「学士(専門職)」。
専門職短期大学の卒業生には「短期大学士(専門職)」の学位がそれぞれ授与されます。
これらは、4年制大学や短期大学の卒業生に与えられる「学士」短期大学士と同等のものです。

※設置構想中のため、このリーフレットの記載内容は変更となる可能性があります。

○「耕土耕心（大地を耕し、心を耕す）」の理念のもとに、多くの実習を行い、農林業のプロフェッショナルを養成します
農林大学校の校訓「耕土耕心」＝「むたいに汗し、土にまみれて大地を耕すことにより、自分を知り、自分の心を成長させ、立派な人間性をつくりあげることができる。大地を耕すことは自らからの心を耕すことである」という理念を引き継ぎ、実学を重んじ、社会に貢献する畑で年間を通じた栽培等の実習や、先進的企業でのインターンを実施するとともに、豊かな人間性を養い視野を広げる就業教育を提供します。

○人々の食やくらしを支え、新たな可能性が広がる農林業の、あらゆるシーンに対応できる力を養います

・農林業現場における経営知識の拡大や新しい技術の導入などに貢献することができるよう、基礎的な生産知識や技能に加え、農林業を取り巻く多様なシーンについて学べます。
・農山村の新しい役割として注目を集めている、美しい景観の形成や自然環境の保全などについて学び、農林業を通じて自然と共生しながら地域を支えていく農林業人を養成します。

○全国初の農林業分野の専門職大学です

農林業分野では全国初の公立の専門職大学及び専門職短期大学となる見込みです。専門職大学卒業生には「学士（専門職）」、専門職短期大学卒業生には「短期大学士（専門職）」の学位がそれぞれ授与されます。

農林環境専門職大学 (短大)

生産環境経営学科 (短科) 入学定員 24名 (予定) 4年制

POINT 1

農林業経営の現場で生まれる課題に柔軟に対応しながら、経営の中心として自らの夢を実現できる農林業者の養成を目指します。

○高度な生産技術に加え、マーケティングの視点に立った商品の安全性や食生活の改善、販路開拓など、生産者の責任と責任の果たす手助けをします。

○農林業経営者層でのインターンを通じ、実際の経営課題の解決方法を提案する、実践的なプロジェクト実習を行います。

POINT 2

風土・環境や地域の文化を守り、自然と共生していくことのできる、豊かな人間性を持った農林業者の養成を目指します。

○新創作物種など、近年注目を集めている農山村の多様な役割を学べます。



実践的な農林業経営を学ぶカリキュラム

★経営者の公認の資格取得
日本文化・語学
一貫教育

★農林業経営に必要な経営者層と生産現場を両方習得することにより、農山村が持つ課題や役割について任務を設けます。

専攻のキーワード
経営戦略、マーケティング、販路開拓
生産者マーケティング、生産技術
農山村、コミュニティ、多様な役割

★経営者層を支援し、解決する実践力を身につけます。

専攻のキーワード
経営戦略
生産技術
課題解決力

農林業経営のプロフェッショナルを目指す

新しい視点でチャレンジする農林業経営体後継者や幹部、農林業経営体の立上げ、農林業へ参入する企業へ就職、技術指導・普及を行う公務員、JA・森林組合の職員 等



農林環境専門職大学 (短大)

生産科学科 (短科) 入学定員 100名 (予定) 2年制

POINT 1

確かな生産知識と技術を持つ、生産現場で即戦力として活躍するスペシャリスト農林業者の養成を目指します。

○作物別（野菜・花き、野菜、果樹、林産、畜産等）に実践的な生産知識と技術力を修得できます。

POINT 2

生産現場のリーダーに必要な豊かな人間性と、現場の課題に対応できる先進的な生産知識・技術と応用力を身につけます。

○農林業経営者層でのインターンを通じ、生産現場で実践的な経験を積むことができます。

○ICTをはじめ、都市農産物産地導入が進行している先端技術を学べます。



実践的な生産技術を学ぶカリキュラム

★生産現場のリーダーに必要な知識と実践的な生産技術を身につけます。

専攻のキーワード
コミュニケーション
語学
一貫教育

★生産現場から生産者に求められる知識と実践的な生産技術を身につけます。

専攻のキーワード
現場・高層研修
企業実習
先端技術、GAP

★生産現場から生産者に求められる知識と実践的な生産技術を身につけます。

専攻のキーワード
現場加工
食品加工
木材加工
高層実習

生産現場のプロフェッショナルを目指す

確かな生産技術・知識を持った農林業後継者、農林業経営体生産現場のリーダー、農林業関連企業（食品・種苗等）への就職 等



農林業法人ヒヤリング調査報告

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

株式会社 ハラダ製茶農園

2. 出席者

株式会社 ハラダ製茶農園 工場長 北川清様
静岡県経済産業部農業ビジネス課 課長 田中宣幸、主査 竹内淑子

3. 実施内容

日時：平成 30 年 8 月 9 日（木） 午後 0 時 50 分～1 時 50 分
場所：株式会社 ハラダ製茶農園

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

4 年制大学が出来るのは大歓迎。4 年間で専門的なマネジメントをしっかりと覚えてくる教育を行う大学はありがたい。経営者となるような人材は必要である。当社の経営者（社長）は、当社の親会社の経営者（社長）であるが、親会社の方が中心となっている。社員が使用人という意識でいると、この会社は潰れてしまうので社員が経営感覚を持っていないといけない。

弊社には栽培の指導部門があるが、指導部門の社員には、担当する作物の栽培だけでなく、農業全般を浅く広く、全体が分かっている人材が必要。農業は品目が違ってもつながっているので、農業に関する幅広い勉強をして知識を蓄えてくる、農業全般を勉強してくる人材は必要。

(2) 卒業生の採用について

全国で農業参入の企業は約 3,300 企業であり、専門職大学の人材を狙ってくるだろう。弊社としては、大学と短期大学の両方の人材を採用したい。何を聞いても答えられる、やることも基本どおりの確にやっているとプロ集団に見えるので、そのような人材が欲しい。

(3) 進学について

お茶はティーバックやドリンク原料などの下級茶の需要が高まっており、高級茶の需要は減少している。お茶だけでは経営が成り立たなくなっているため、複合経営が必要である。秋冬野菜や水稲など色々な組み合わせを考えなければならない。複合経営を実践するためには、何種類かの露地野菜や施設園芸などいくつかのパターンを基本どおり覚える学校形式のゼロからの学びが良いと思うので、これらを学ばせるための社員の派遣はあり得る。給料を払いつつ、費用を会社が負担することもあり得る。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

静岡県農業共同組合中央会

2. 出席者

静岡県農業共同組合中央会 部長 杉山和陽 様、嘉茂佑亮 様
静岡県経済産業部農業局農業ビジネス課 課長 田中宣幸、主査 竹内淑子

3. 実施内容

日時：平成30年8月15日（水） 午前9時55分～11時
場所：静岡県農業共同組合中央会担い手支援部

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

大学及び短期大学ともに農業後継者、農業法人就職、JA職員の人材育成機関として期待している。

最近、農業への新規参入者の支援は手厚いが、後継者の支援は薄いという意見もある。後継者育成に力を入れて欲しい。農家の子弟が農業後継者として農業経営を継承して一本立ちしていくことが大事だと思っているので、大学の方では、そのための教育を親からどのように経営継承していくのか学べると良い。

(2) 卒業生の採用について

大学及び短期大学の卒業生は、農業後継者になるだけでなく、農業法人やJAグループに就職していただけるとありがたい。

農業法人は短大の方がターゲットになると思う。

JAは4大卒の採用も行っているが、営農指導員としてなど目的別採用を行っているところはない。

(3) 進学について

見込みがある人材にはもう一度学びの場を与えたいという法人もあると思う。専門職大学へ入学するのは難しいと思うが、学び直しのための社会人向けの講座があると良いのでは。技術の部分は日々触れていると思うので、特に経営の部分だと思う。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

朝霧メイプルファーム有限会社

2. 出席者

朝霧メイプルファーム有限会社 取締役 丸山純 様

静岡県経済産業部農業局農業ビジネス課 田中宣幸、主査 竹内淑子

3. 実施内容

日時：平成30年8月15日（水）午後1時20分～2時

場所：朝霧メイプルファーム有限会社事務室

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

農業に必要なことが4大の設置趣旨に書いてあるが、あとは実現できるかである。

大学と現場・農家のつながりが希薄だと思っているので、有機的につながると良い。強い酪農家を作ることで、相互の影響が及ぶような大学になって欲しい。

(2) 卒業生の採用について

規模拡大を考えているので、大学、短期大学を問わず、いい人材がいれば採用したい。

(3) 進学について

社員の派遣は分からない。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

静岡県森林組合連合会

2. 出席者

静岡県森林組合連合会 代表理事常務 望月鉄彦 様、部長兼総務課長 渡辺英彰 様
静岡県経済産業部農業局 農業ビジネス課 室長 佐野一弘、主査 竹内淑子
同 森林林業局 森林計画課 技監 大石 剛

3. 実施内容

平成30年8月17日（金） 午前10時～10時30分

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

林業の専門知識に特化した人材が育成できるとよい。経営の知識があると更に良いかと思う。
林業分野では現場も出来て、経営も出来る人材が欲しい。木が切れて、パソコン（経営の数字がわかる）が出来て、林学がわかる三能職員が必要。

(2) 卒業生の採用について

林業業界はマイナーなので、林業に就業したいと考える方は山に対する思い入れがある人なので、採用する場合は、そういった人を選択すると思う。

地元の人間で、山のことを勉強して、地元就職したいという人が、連合会としても森林組合としても採用したい人材なので、そのような人材なら短大・4大を問わず採用したい。

(3) 進学について

森林組合などを退職後に、地域で農業を始める人もいるので、林業ではなく、短大の方で農業について学びなおすニーズはあるかもしれない。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

株式会社 カクト・ロコ

2. 出席者

株式会社 カクト・ロコ 代表取締役 野末信子 様
静岡県経済産業部農業ビジネス課 室長 佐野一弘、主査 竹内淑子

3. 実施内容

日時：平成30年8月17日（金） 午後2時～5時10分
場所：株式会社 カクト・ロコ店舗

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

専門職大学が実現できるならば、素晴らしいことだと思った。原点に戻って人間が生きていくためには何が必要か、子供たち教育する必要がある。大学が設置されることで、大学が核となり大地を耕して守っていくということが出来ればそれが基本になる。また、情報を発信することで地域が落ち着いたものになっていくのでは。

大学が環境を守っていくことには意義があると思う。今までは農林大学校がそのような役割を果たしてきたと思うが、世界に触手を伸ばしていく考え方も必要だと思うし、農業の最先端の技術や情報を伝えていける場があるとよい。

経営陣を育てるなら、最後の1年間くらい、どこかの法人の現場でみっちり経営の仕方を学ぶくらいしてもよいのでは。

農業は生産現場があるので、みんなが経営陣になると困る。現場に入るならば、短大で2年間学んで来てくれれば良い。

(2) 卒業生の採用について

経営状況によって、採用したい人材は異なる。現場を担う人材、経営を担う人材も両方欲しいが、経営の方は沢山はいらない。当社には番頭がないので、社長がいなくても采配を振ってくれる人材が2人は欲しい。

(3) 進学について

人手不足や人件費が高騰するなかで、短大で2年間、もしくは大学で4年勉強させる余力が会社にはないので、現状では社員を派遣することは難しい。社員は日々の作業に追われており、頭を柔らかくさせるために本当は良いとは思っているので、費用的な支援があれば考えてみたい。将来的にはあり得るかもしれない。

5. その他

農林大学校から今年は2名採用した。大変期待している。2年間だけだが、植物とともに生活してきた学生は、お勉強ばかりの子とは違う。以前採用した農大の卒業生は、生産の責任者で課長になっているが、来年は外部取締役になる。生産の主になってくれる子がいなくなるので、今年入社した卒業生にお願いすることになる。また、もう一人は営業を任せる予定。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

有限会社 高橋水耕

2. 出席者

有限会社 高橋水耕 代表取締役 高橋和晃 氏
静岡県経済産業部農業局農業ビジネス課 田中宣幸、主査 竹内淑子

3. 実施内容

日時：平成30年8月20日 午後1時15分～2時30分
場所：有限会社 高橋水耕 事務室

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

大学に対する期待はある。しかし、大学を卒業した24人がどのようになっていくのか、不明。農協のTAC（地域農業の担い手に出向くJA担当者）なのか。県内農業法人の社員候補として人気は出ると思うが、経営幹部を求めている法人は、まだ少数である。独立就農を目指す学生が大学の方に来るかもしれない。

一方、短期大学は、卒業後にどのようになっていくのか、想像がつく。生産規模の拡大をしているので、現場を支える人材を育成する短期大学の方を期待している。

(2) 卒業生の採用について

当社では、短大生の方を採用したい。

幹部候補は求めているが、トマト販売を行っているグループ会社の方で、これから大卒のニーズが出てくる可能性はある。

(3) 進学について

社員に派遣はありうる。大学の方の3年次編入ならばあり得る。

5. その他

最近、高卒の採用を行っているが、農林大学校の卒業生と比較すると違いがある。2年間の学びは意味がある。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

株式会社 春野コーポレーション

2. 出席者

株式会社 春野コーポレーション 代表取締役 鳥居 英剛 様
静岡県経済産業部農業ビジネス課 室長 佐野一弘、主査 竹内淑子

3. 実施内容

日時：平成30年8月21日 午後0時55分～1時40分

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

大学の設置の趣旨は賛成である。人やカネ、生産などのマネジメントを行う人材の育成を行うことを目的としていると思うが、あとは、本当にそれが実践できるのかではないか。ヒトや金、生産マネジメントを行う人材ならば、結果が出せるのかが評価のポイントとなる。

正社員は、作業者ではなく責任者や管理者になってもらいたいので、ある程度の教育をされた人材はありがたい。当社には現場の技術力が十分にあるので、生産技術の教育は特に求めている。

(2) 卒業生の採用について

ヒトやカネ、生産技術をマネジメントについて学んだ人材ならばぜひ欲しい。上昇志向のある、幹部を志すような学生を採用したい。

(3) 進学について

戦略、マーケティング、経営課題などについて学ばせるために、社員の派遣はぜひしたい。

5. その他

大学の学生の学び、学生との交流につながるような協力は、ぜひ行いたい。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

株式会社 とやま農園

2. 出席者

株式会社 とやま農園 代表 外山徳彦

静岡県経済産業部農業ビジネス課 室長 佐野一弘、主査 竹内淑子

3. 実施内容

日時：平成30年8月27日 午後0時50分～1時30分

場所：株式会社 とやま農園事務室

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

経営の知識を最初から身につけ、幹部として最初から経営に関わってくれる人がいると良い。最近、経営が分かる人材を求める経営体は増え始めていると感じる。

法人になる農家が増えている。目的を持って法人にしていると思うが、経営規模の拡大を目指している農家は必ず従業員と従業員を管理する人が必要となってくる。そういう人が増えてくる中で、短期大学を出て、現場ですぐに仕事ができる人と、経営者として現場に出ながら従業員を管理していく人たちが必要となってくる。経営者を育てる専門職大学は必要だと思う。

現場の人材を育てる短期大学と、経営者を育てる大学の両方があることは意味がある。

(2) 卒業生の採用について

生産現場ではチームに分かれて仕事をするが、チームをまとめる人が欲しい。また、自分の後継者になるような人材に加え、もう一人右腕になるような人を採用したい。

(3) 進学について

社員が学び直しのために大学へ行くことはあり得る。本人のやる気次第。以前、農大の講座に行かせたことはある。

5. その他

農林大学校の卒業生を去年採用した。現場に出ているので仕事には慣れていると思うが、即戦力までではない。専門的な部分は、もう少し突っ込んで勉強をすると良いかと思う。そうすれば、1年目から即戦力になる。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

富士森林組合

2. 出席者

富士森林組合 代表理事専務 古川日出男、参与 遠藤康由
静岡県経済産業部農業ビジネス課 室長 佐野一弘、主査 竹内淑子

3. 実施内容

日時：平成30年8月30日 午前10時～11時10分
場所：富士森林組合事務室

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

コンセプトに沿った、地域に沿った人材育成を行ってほしい。林業の施業が大きく変わっていると感じられる人でないといけない。新しい人材をいれていかないと、林業は持続的に発展しない。これから林業分野では、経営を行う人材を求められるようになる。林業の将来を見通せるリーダーが必要である。受入側と育成側がどのように連携して人材育成をおこなっていくのか、考えてほしい。

(2) 卒業生の採用について

林業現場を担う人材と森林施業プランナーと両方が必要である。現場を担うのか、プランナーになるかは、本人次第だが、現場だけでいい人は短期大学でよい。大学ならば、林業の実務を学ぶだけでなく、森林施業プランナーを育成することが必要である。プランナーは、現場がわかっていて、プランを作成するものなので、短期大学の+2年の教育が必要である。

(3) 進学について

大学への職員の派遣はあり得る。負担をどのようにするかが課題ではある。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

農事組合法人 ジャパン・ベリー

2. 出席者

農事組合法人 ジャパン・ベリー 代表理事組合長 上山優
静岡県経済産業部農業ビジネス課 班長 田林大介、主査 竹内淑子

3. 実施内容

日時：平成30年9月13日 午前11時40分～午後0時20分
場所：農事組合法人 ジャパン・ベリー事務室

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

専門職大学、専門職短期大学は期待している。ぜひ、コンセプトにある人材を育成してほしい。

(2) 卒業生の採用について

専門職大学の卒業生を採用したい。右腕となるような、経営を考えられる人を入れていきたい。
専門職短期大学の卒業生は、継続して採用したい。施設園芸や野菜の知識、幅広い知識、バイ
タリティーを備えた人材が欲しい。

(3) 進学について

職員の派遣は将来的にはあり得る。どちらかという短期講座をやってもらった方が職員を参加
させやすい。

5. その他

現在の農林大学校卒業生は良く働いてくれる。イチゴの知識があるので助かる。今後は、現場をま
かせるようにしていきたい。

平成 30 年 7 月 17 日

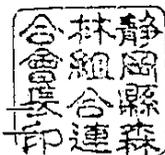
経済産業部理事 (林業・森の防潮堤推進担当)

西島 潔 様

平成 31 年度 森林・林業施策に係る要請書

静岡県森林組合連合会 会長

中谷 多加



静岡県木材協同組合連合会 会長

滝浪 龍司



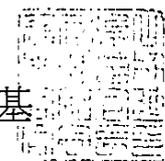
公益社団法人 静岡県山林協会 会長

鈴木 康友



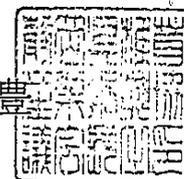
静岡県山林種苗協同組合連合会 会長

大杉 好基



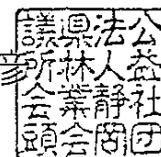
静岡県椎茸産業振興協議会 会長

菊地 豊



公益社団法人静岡県林業会議所 会頭

大富部 喜彦



はじめに

静岡県におかれては、スギ・ヒノキ人工林資源が十分に成熟したことを背景に県産材の需要と供給を一体的に創造する「ふじのくに森林・林業再生プロジェクト第2ステージ」を重点的に進めていただきました。その結果、平成29年には素材生産量46.3万立方メートルを達成するまでに至りました。また、本年度からは、新たな総合計画のもとで「ふじのくに林業成長産業化」に取り組んでいただいていることから、本県の森林・林業・木材産業に明るい展望が開けてきていることに心より感謝申し上げます。

また、温暖化の影響等により全国的に異常な豪雨による山地災害が頻発しているなか、災害の誘因ともなりかねない荒廃森林につきましては「森の力再生事業」などにより、整備が着実に進められていることに重ねて感謝申し上げます。

さて近年、東海地域では新たな大型合板工場、製材工場などの新設が相次ぎ木材需要が急激に増加する中、来年度から「新たな森林管理システムと森林環境譲与税（仮称）」の開始が決定されるなど、森林・林業界を取り巻く環境は大きく変革しています。我々はこれを契機として林業・木材産業や中山間地の振興を一層進める所存です。

しかしながら現状では需要増加に対応する集約化や生産性の高い技術の導入の遅れ、専門技術者や作業員の不足、シカ等による造林木被害などの問題が山積みになっています。また一方では山地災害の発生や松くい虫被害による海岸防災林の機能低下、高波による防潮堤侵食の進行など、県民の生活は依然として脅かされています。

このように森林・林業・木材産業や中山間地を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。私ども森林・林業・木材産業関係6団体は、本県の森林の多面的機能を持続的かつ高度に発揮させて、県民福祉の増進と県勢の発展に貢献するため、多くの関係者と相協力しながら、森林の保全・整備、林業・木材産業の振興、森林整備の担い手の育成等に鋭意努めていく所存であります。

つきましては、平成31年度森林・林業施策に係る要請事項を以下のとおり取り纏めましたので、「治山事業」「森林整備事業」「木材産業振興」「山村振興」等の各種施策について、特段の御配慮のもと県独自の強力な施策を講じていただけますようお願い致します。

公益社団法人静岡県山林協会

1. 県土の保全、森林・林業・木材産業関係予算の確保

- ・ 県土の64%を占める森林は、木材の産出機能をはじめ、水源涵養・防災機能など県民にとって何ものにも代えることができない多面的な機能を有しています。
- ・ 我々はこれをよく理解し、各団体の連携や県との連携により森林の適正な整備や保全に努力しているところでありますので、下記項目にご配慮願います。

① 治山・林道、林業・木材産業の成長産業化に関する予算の確保

【特に確保を要望する予算】

- ・ 東京2020オリンピック・パラリンピック（自転車競技）や世界遺産に関連した道路沿線等の森林景観整備に関する予算
- ・ “ふじのくに森の防潮堤づくり”に関する予算
- ・ 山間地の荒廃森林における治山事業に関する予算

2. 森林環境譲与税事業（仮称）の円滑な実施に向けた指導助言

- ・ 平成31年度から森林環境譲与税（仮称）による事業が開始されますが、市町では専門技術者が不足しており円滑な執行に支障が生じる可能性があります。
- ・ また森林環境譲与税事業（仮称）の実施にあたり市町間の連携や県実施の森の力再生事業との調整により公益的機能の早期発揮が期待できます。
- ・ このため下記項目について指導・助言等の支援を要望します。

② 森林環境譲与税（仮称）を活用した事業の円滑な実施に向けた市町、事業体への指導・助言等の支援

③ 森林の公益的機能の早期発揮に向けた森林環境譲与税事業（仮称）と森の力再生事業との調整

3. 森林・林業を託す人材の育成

- ・ 林業事業体の技術者不足が深刻化しており、技術者の安定的な養成・供給に向け技術者教育機関の再整備を進めることが緊急かつ重要です。
- ・ また、本県有効求人倍率が昨年4月以降1.5倍を超え各業界で新規就業者確保が困難となる中、林業への新規就業者の着実な確保が重要です。
- ・ さらに、技術者や経営者の能力向上を図るためにビジネス林業促進事業の拡充が必要です。以上のことから下記事項を要望します。

④ 専門職大学の創設

⑤ 新規就業促進事業の拡充

⑥ ビジネス林業促進事業の拡充

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）への
入学意向に関するアンケート調査報告

平成30年10月

一般財団法人 日本開発構想研究所

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）への入学意向に関する
アンケート調査報告

1. 調査概要

(1) 調査目的

平成 32 年 4 月に予定している静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の開設に向けて、静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）への入学意向を把握することを目的とする。

(2) 調査対象高校及び対象者

静岡県に加え近隣 6 県（静岡県、愛知県、神奈川県、山梨県、岐阜県、三重県）に所在する高等学校及び高等専修学校の在学者で平成 32 年度大学進学対象となる 2020 年 3 月卒業見込みの生徒（主に高校 2 年生）。

(3) 調査方法

静岡県に加え近隣県に所在する高等学校等 175 校へアンケート用紙及び静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の概要を示したリーフレットを送付し、教室等で直接アンケート用紙に記入する方法により実施。回答用紙は一般財団法人日本開発構想研究所へ高校から直接郵送。

この結果、28,164 人から有効回答（有効回収率約 69.6%）があった。

集計結果より、静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）への入学意向を分析した。

(4) 調査実施期間

平成 30 年 7 月～平成 30 年 10 月

(5) 有効回収率等

調査対象者数：高等学校 175 校 40,410 人

有効回答者数：高等学校 161 校 28,164 人

有効回収率：約 69.6%（有効回答者 28,164 人÷調査対象者 40,410 人）

※設置を構想している静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部は仮称であるが、本文中ではその旨の表示を省略した。

※静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部はそれぞれ単科であるため、学部名、学科名は省略した。

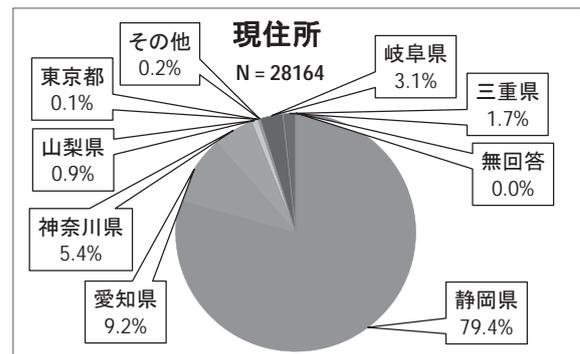
2. 調査結果

(1) 現住所について

現住所について調査した結果、高校2年生28,164人のうち、「静岡県」が22,366人(79.4%)と最も多く、次いで「愛知県」2,600人(9.2%)、「神奈川県」1,512人(5.4%)、「岐阜県」885人(3.1%)、「三重県」475人(1.7%)、「山梨県」245人(0.9%)、「その他」45人(0.2%)、「東京都」30人(0.1%)の順になっている。 ※「無回答」6人(0.0%)

問3 現住所

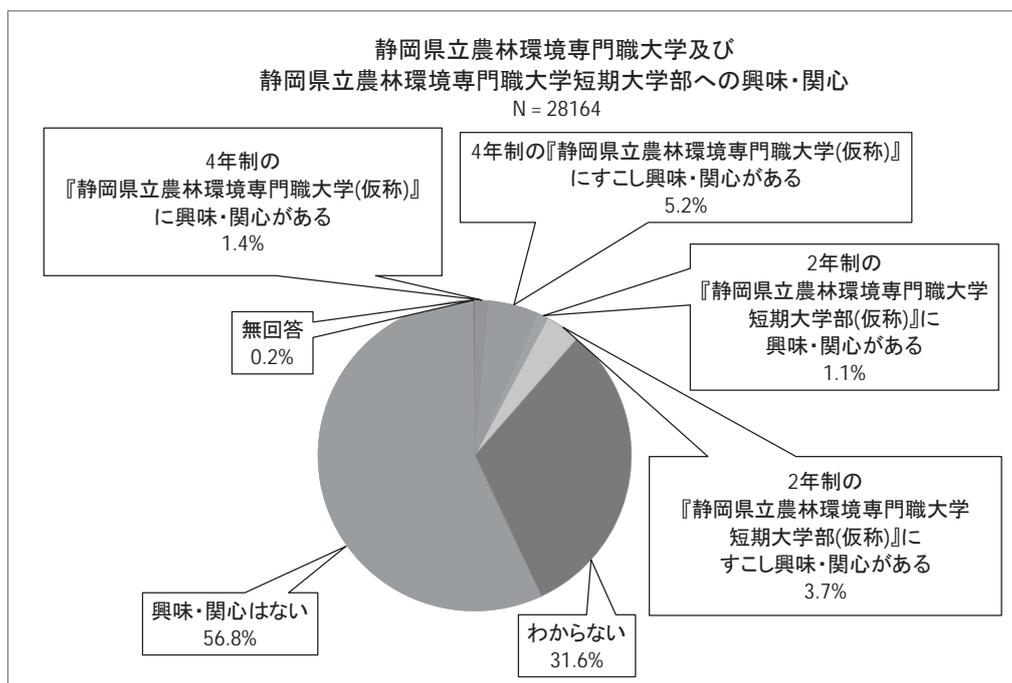
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	静岡県	22,366	79.4
2	愛知県	2,600	9.2
3	神奈川県	1,512	5.4
4	山梨県	245	0.9
5	東京都	30	0.1
6	その他	45	0.2
7	岐阜県	885	3.1
8	三重県	475	1.7
	無回答	6	0.0
	N (%ベース)	28,164	100



(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心
 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について調査した結果、高校2年生 28,164 人のうち、398 人 (1.4%) が「4 年制の『静岡県立農林環境専門職大学(仮称)』に興味・関心がある」と回答しており、「4 年制の『静岡県立農林環境専門職大学(仮称)』にすこし興味・関心がある」が 1,475 人 (5.2%)、「2 年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)』に興味・関心がある」が 302 人 (1.1%)、「2 年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)』にすこし興味・関心がある」が 1,031 (3.7%)、「わからない」が 8,909 人 (31.6%)、「興味・関心はない」が 16,006 人 (56.8%) の順になっている。 ※「無回答」43 人 (0.2%)

静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	4年制の『静岡県立農林環境専門職大学(仮称)』に興味・関心がある	398	1.4
2	4年制の『静岡県立農林環境専門職大学(仮称)』にすこし興味・関心がある	1,475	5.2
3	2年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)』に興味・関心がある	302	1.1
4	2年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)』にすこし興味・関心がある	1,031	3.7
5	わからない	8,909	31.6
6	興味・関心はない	16,006	56.8
	無回答	43	0.2
	N (%ベース)	28,164	100



(3) 興味・関心の理由

3-1 4年制 興味・関心の理由(第1位)について

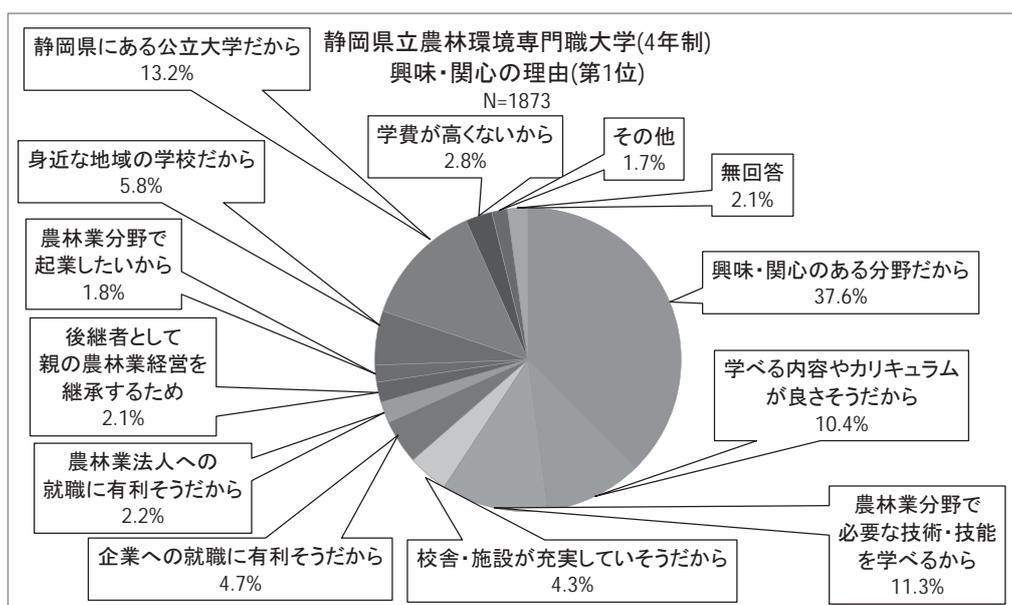
「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「4年制の静岡県立農林環境専門職大学に興味・関心がある」、「4年制の静岡県立農林環境専門職大学にすこし興味・関心がある」と回答した1,873人に、興味・関心の理由(第1位)について調査した。

その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「興味・関心のある分野だから」が704人(37.6%)と最も多く、次いで「静岡県にある公立大学だから」247人(13.2%)、「農林業分野で必要な技術・技能を学べるから」211人(11.3%)、「学べる内容やカリキュラムが良さそうだから」194人(10.4%)、「身近な地域の学校だから」108人(5.8%)の順になっている。

※「無回答」40人(2.1%)

静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味・関心の理由(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	704	37.6
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	194	10.4
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	211	11.3
4	校舎・施設が充実していそうだから	81	4.3
5	企業への就職に有利そうだから	88	4.7
6	農林業法人への就職に有利そうだから	42	2.2
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	40	2.1
8	農林業分野で起業したいから	34	1.8
9	身近な地域の学校だから	108	5.8
10	静岡県にある公立大学だから	247	13.2
11	学費が高くないから	53	2.8
12	その他	31	1.7
	無回答	40	2.1
	N(%ベース)	1,873	100



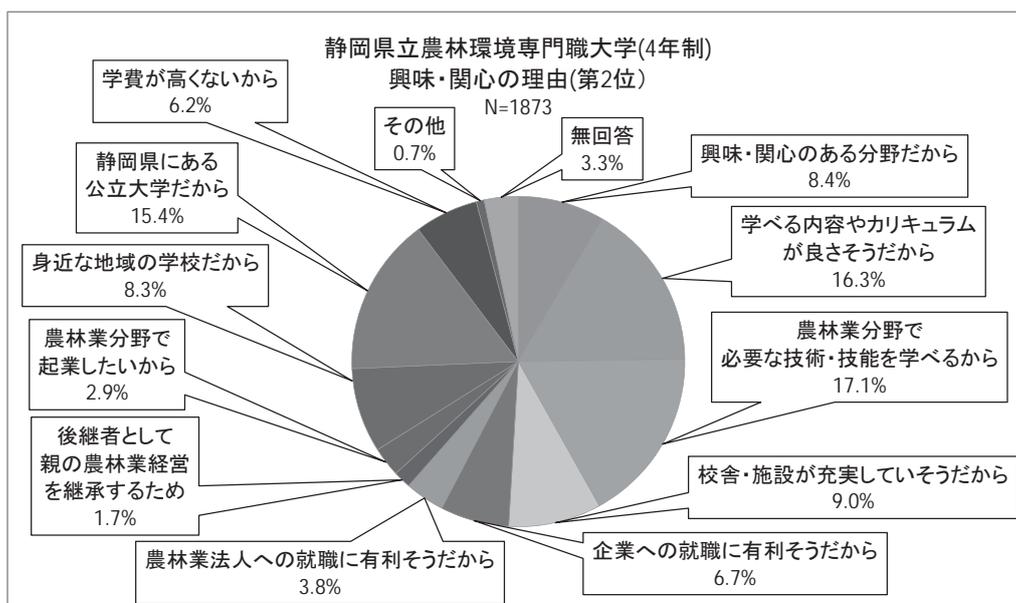
3-2 4年制 興味・関心の理由(第2位)について

「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「4年制の静岡県立農林環境専門職大学に興味・関心がある」、「4年制の静岡県立農林環境専門職大学にすこし興味・関心がある」と回答した1,873人に、興味・関心の理由(第2位)について調査した。

その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「農林業分野で必要な技術・技能を学べるから」が321人(17.1%)と最も多く、次いで「学べる内容やカリキュラムが良さそうだから」306人(16.3%)、「静岡県にある公立大学だから」289人(15.4%)、「校舎・施設が充実していそうだから」169人(9.0%)、「興味・関心のある分野だから」158人(8.4%)、「身近な地域の学校だから」155人(8.3%)、「企業への就職に有利そうだから」125人(6.7%)、「学費が高くないから」116人(6.2%)の順になっている。 ※「無回答」62人(3.3%)

静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味・関心の理由(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	158	8.4
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	306	16.3
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	321	17.1
4	校舎・施設が充実していそうだから	169	9.0
5	企業への就職に有利そうだから	125	6.7
6	農林業法人への就職に有利そうだから	72	3.8
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	32	1.7
8	農林業分野で起業したいから	54	2.9
9	身近な地域の学校だから	155	8.3
10	静岡県にある公立大学だから	289	15.4
11	学費が高くないから	116	6.2
12	その他	14	0.7
	無回答	62	3.3
	N (%ベース)	1,873	100



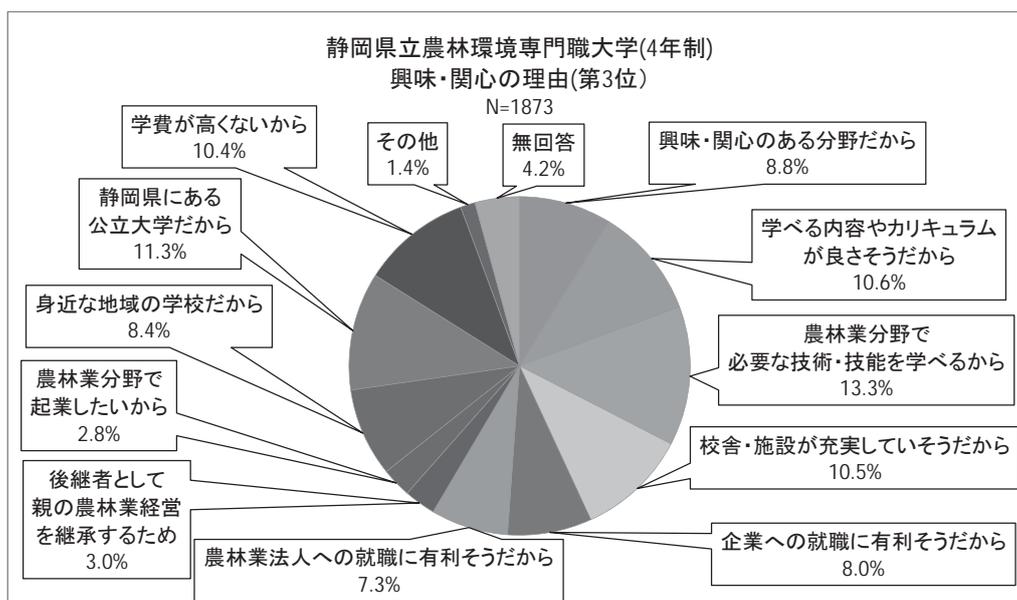
3-3 4年制 興味・関心の理由(第3位)について

「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「4年制の静岡県立農林環境専門職大学に興味・関心がある」、「4年制の静岡県立農林環境専門職大学にすこし興味・関心がある」と回答した1,873人に、興味・関心の理由(第3位)について調査した。

その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「農林業分野で必要な技術・技能を学べるから」が249人(13.3%)と最も多く、次いで「静岡県にある公立大学だから」211人(11.3%)、「学べる内容やカリキュラムが良さそうだから」198人(10.6%)、「校舎・施設が充実していそうだから」197人(10.5%)、「学費が高くないから」195人(10.4%)、「興味・関心のある分野だから」164人(8.8%)、「身近な地域の学校だから」158人(8.4%)、「企業への就職に有利そうだから」150人(8.0%)、「農林業法人への就職に有利そうだから」137人(7.3%)の順になっている。 ※「無回答」79人(4.2%)

静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味・関心の理由(第3位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	164	8.8
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	198	10.6
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	249	13.3
4	校舎・施設が充実していそうだから	197	10.5
5	企業への就職に有利そうだから	150	8.0
6	農林業法人への就職に有利そうだから	137	7.3
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	56	3.0
8	農林業分野で起業したいから	53	2.8
9	身近な地域の学校だから	158	8.4
10	静岡県にある公立大学だから	211	11.3
11	学費が高くないから	195	10.4
12	その他	26	1.4
	無回答	79	4.2
	N (%ベース)	1,873	100



(4) 興味のある分野について

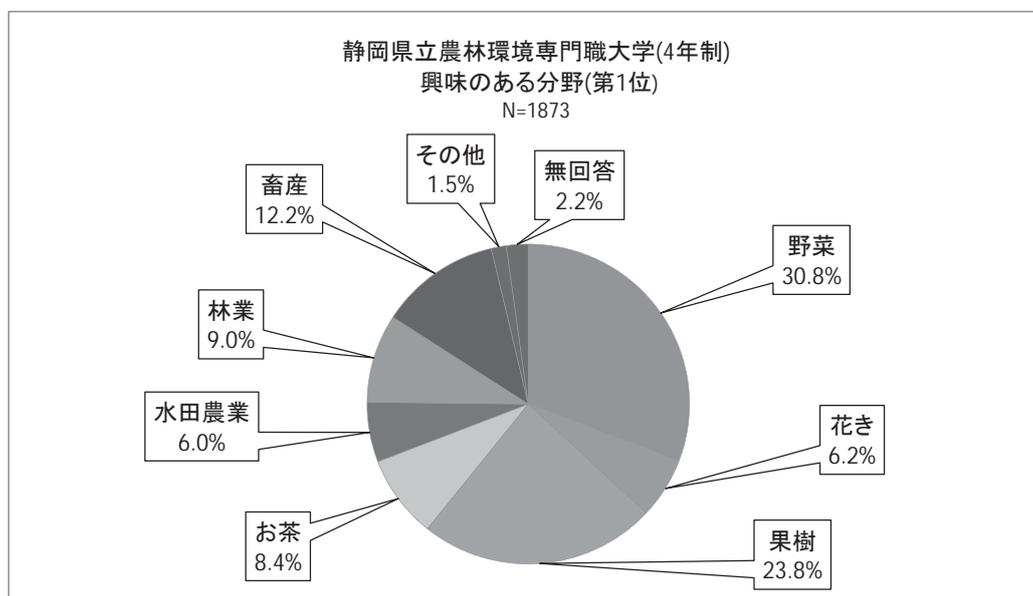
4-1 興味のある生産分野（第1位）について

「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「4年制の静岡県立農林環境専門職大学に興味・関心がある」、「4年制の静岡県立農林環境専門職大学にすこし興味・関心がある」と回答した1,873人に、興味のある生産分野（第1位）について調査した。

その結果は、「野菜」が576人(30.8%)と最も多く、次いで「果樹」446人(23.8%)、「畜産」228人(12.2%)、「林業」168人(9.0%)、「お茶」157人(8.4%)、「花き」116人(6.2%)、「水田農業」113人(6.0%)、「その他」28人(1.5%)の順になっている。 ※「無回答」41人(2.2%)

静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味のある分野(第1位)

No.		件数	(全体)%
1	野菜	576	30.8
2	花き	116	6.2
3	果樹	446	23.8
4	お茶	157	8.4
5	水田農業	113	6.0
6	林業	168	9.0
7	畜産	228	12.2
8	その他	28	1.5
	無回答	41	2.2
	N (%ベース)	1,873	100



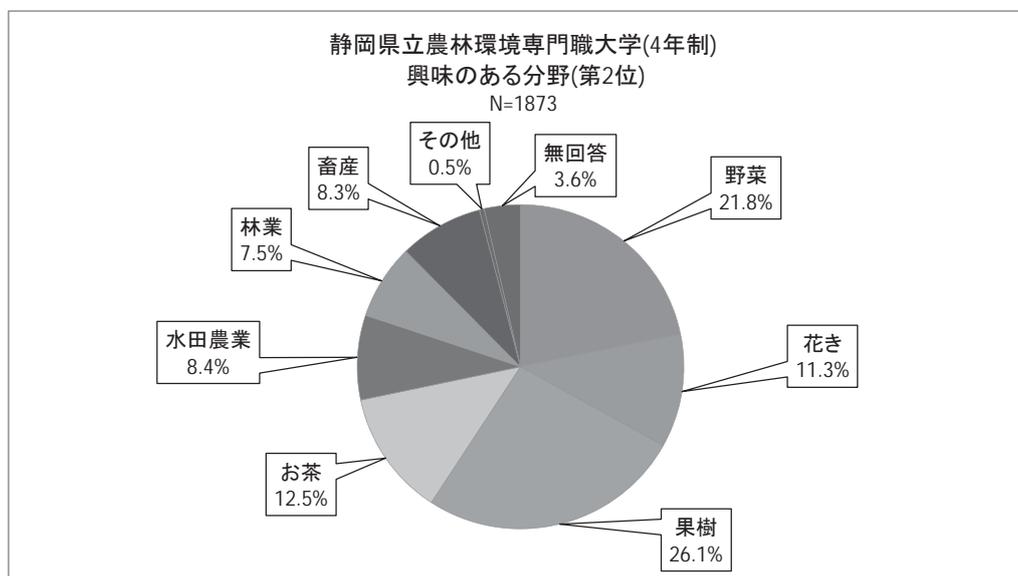
4-2 興味のある生産分野（第2位）について

「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「4年制の静岡県立農林環境専門職大学に興味・関心がある」、「4年制の静岡県立農林環境専門職大学にすこし興味・関心がある」と回答した1,873人に、興味のある生産分野（第2位）について調査した。

その結果は、「果樹」が489人（26.1%）と最も多く、次いで「野菜」408人（21.8%）、「お茶」234人（12.5%）、「花き」212人（11.3%）、「水田農業」158人（8.4%）、「畜産」156人（8.3%）、「林業」140人（7.5%）、「その他」9人（0.5%）の順になっている。 ※「無回答」67人（3.6%）

静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味のある分野(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	野菜	408	21.8
2	花き	212	11.3
3	果樹	489	26.1
4	お茶	234	12.5
5	水田農業	158	8.4
6	林業	140	7.5
7	畜産	156	8.3
8	その他	9	0.5
	無回答	67	3.6
	N (%ベース)	1,873	100



(5) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学への受験意向について

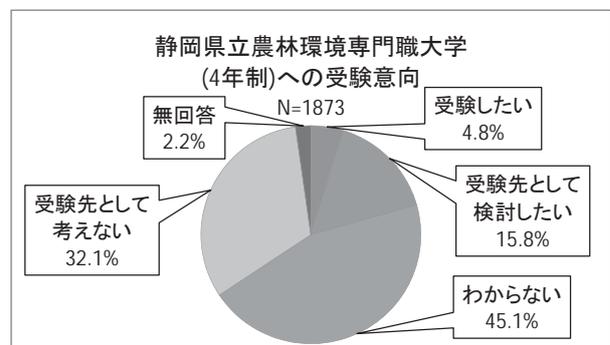
「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「4年制の静岡県立農林環境専門職大学に興味・関心がある」、「4年制の静岡県立農林環境専門職大学にすこし興味・関心がある」と回答した1,873人に静岡県立農林環境専門職大学への受験意向について調査した。

その結果は、「受験したい」90人(4.8%)、「受験先として検討したい」296人(15.8%)の合計386人(20.6%)が4年制の静岡県立農林環境専門職大学への受験意向を示している。

※「無回答」42人(2.2%)

静岡県立農林環境専門職大学(4年制)への受験意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験したい	90	4.8
2	受験先として検討したい	296	15.8
3	わからない	844	45.1
4	受験先として考えない	601	32.1
	無回答	42	2.2
	N (%ベース)	1,873	100



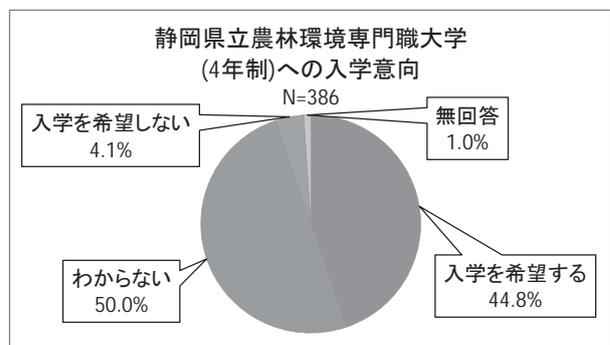
(6) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学への入学意向について

「(5) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学への受験意向について」の回答者のうち、「受験したい」「受験先として検討したい」と回答した386人に、4年制の静岡県立農林環境専門職大学を受験し、合格した場合の入学意向について調査した。

その結果は、「入学を希望する」が173人(44.8%)、「わからない」が193人(50.0%)、「入学を希望しない」が16人(4.1%)となり、173人(44.8%)が4年制の静岡県立農林環境専門職大学への入学意向を示している。 ※「無回答」4人(1.0%)

静岡県立農林環境専門職大学(4年制)への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	173	44.8
2	わからない	193	50.0
3	入学を希望しない	16	4.1
	無回答	4	1.0
	N (%ベース)	386	100



(7) 興味・関心の理由

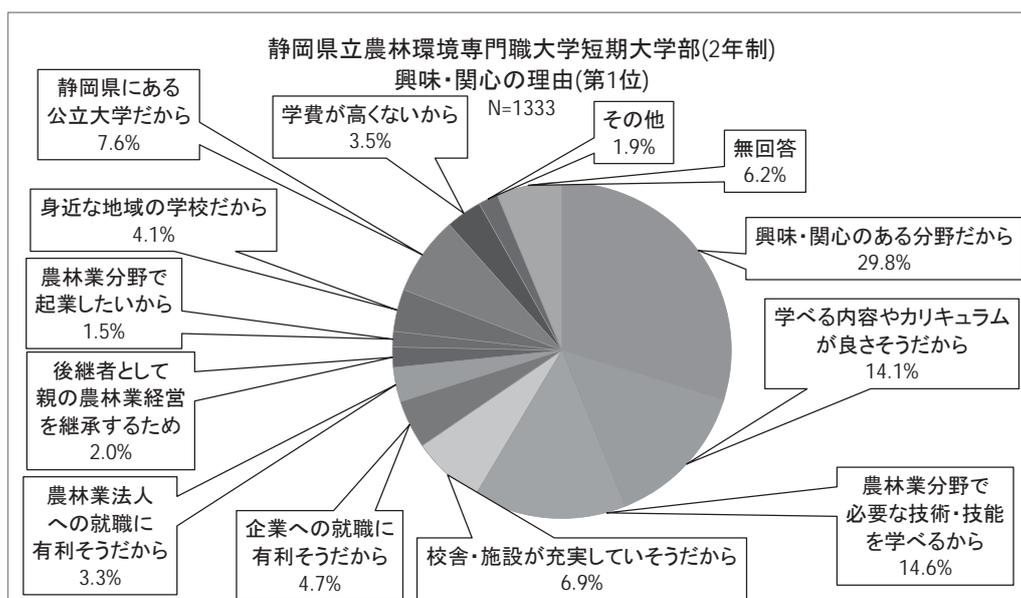
7-1 2年制 興味・関心の理由(第1位)について

「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部に興味・関心がある」、「2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部にすこし興味・関心がある」と回答した1,333人に、興味・関心の理由(第1位)について調査した。

その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「興味・関心のある分野だから」が397人(29.8%)と最も多く、次いで「農林業分野で必要な技術・技能を学べるから」195人(14.6%)、「学べる内容やカリキュラムが良さそうだから」188人(14.1%)、「静岡県にある公立大学だから」101人(7.6%)、「校舎・施設が充実していそうだから」92人(6.9%)の順になっている。 ※「無回答」83人(6.2%)

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制) 興味・関心の理由(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	397	29.8
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	188	14.1
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	195	14.6
4	校舎・施設が充実していそうだから	92	6.9
5	企業への就職に有利そうだから	62	4.7
6	農林業法人への就職に有利そうだから	44	3.3
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	26	2.0
8	農林業分野で起業したいから	20	1.5
9	身近な地域の学校だから	54	4.1
10	静岡県にある公立大学だから	101	7.6
11	学費が高くないから	46	3.5
12	その他	25	1.9
	無回答	83	6.2
	N (%ベース)	1,333	100



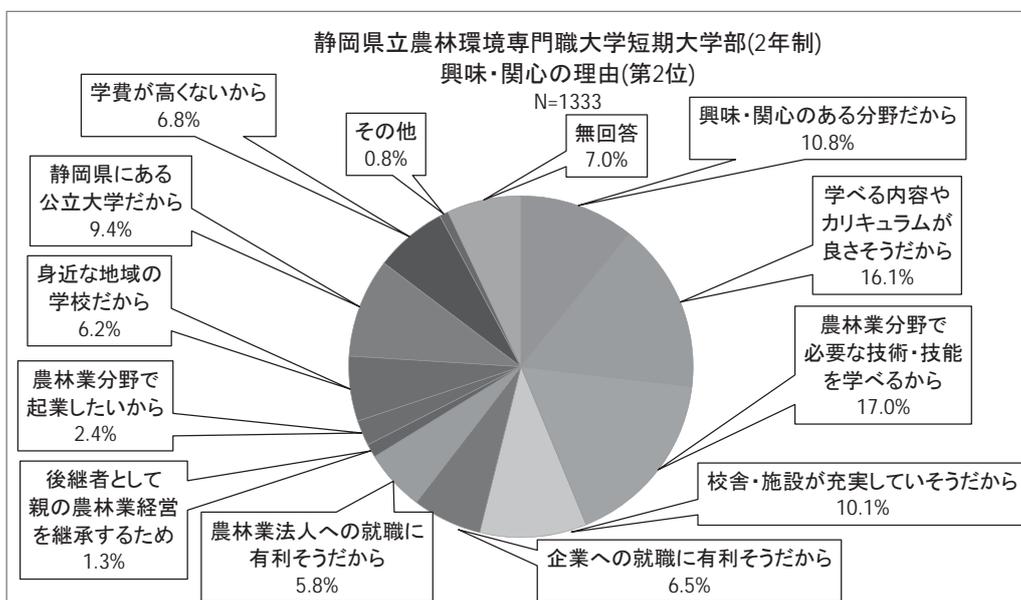
7-2 2年制 興味・関心の理由(第2位)について

「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部に興味・関心がある」、「2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部にすこし興味・関心がある」と回答した1,333人に、興味・関心の理由(第2位)について調査した。

その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「農林業分野で必要な技術・技能を学べるから」が226人(17.0%)と最も多く、次いで「学べる内容やカリキュラムが良さそうだから」214人(16.1%)、「興味・関心のある分野だから」144人(10.8%)、「校舎・施設が充実していそうだから」134人(10.1%)、「静岡県にある公立大学だから」125人(9.4%)、「学費が高くないから」91人(6.8%)、「企業への就職に有利そうだから」87人(6.5%)、「身近な地域の学校だから」82人(6.2%)、「農林業法人への就職に有利そうだから」77人(5.8%)の順になっている。 ※「無回答」93人(7.0%)

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制) 興味・関心の理由(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	144	10.8
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	214	16.1
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	226	17.0
4	校舎・施設が充実していそうだから	134	10.1
5	企業への就職に有利そうだから	87	6.5
6	農林業法人への就職に有利そうだから	77	5.8
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	17	1.3
8	農林業分野で起業したいから	32	2.4
9	身近な地域の学校だから	82	6.2
10	静岡県にある公立大学だから	125	9.4
11	学費が高くないから	91	6.8
12	その他	11	0.8
	無回答	93	7.0
	N(%ベース)	1,333	100



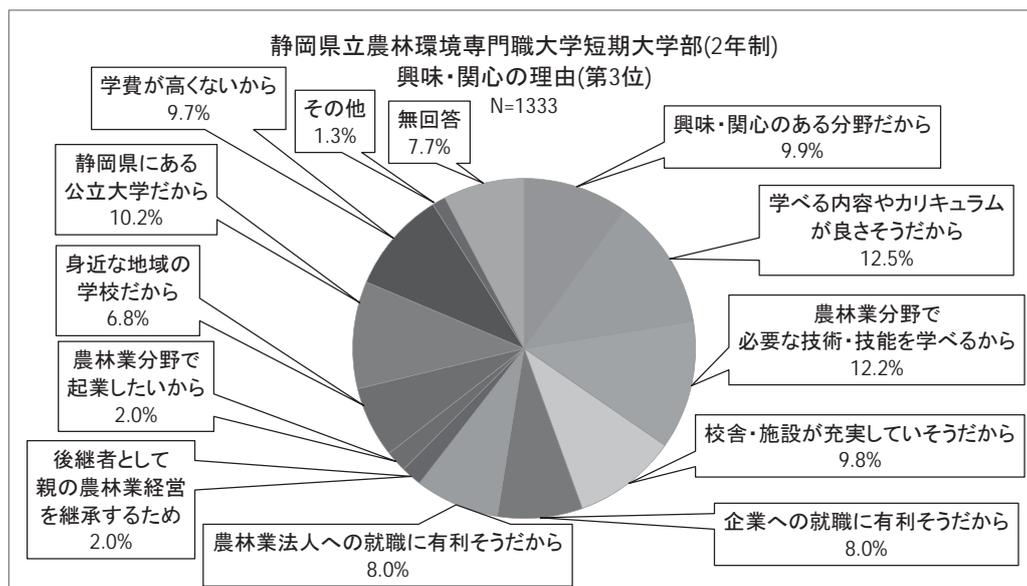
7-3 2年制 興味・関心の理由(第3位)について

「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部に興味・関心がある」、「2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部にすこし興味・関心がある」と回答した1,333人に、興味・関心の理由(第3位)について調査した。

その結果は、5.0%以上の割合を占めたものを挙げると、「学べる内容やカリキュラムが良さそうだから」167人(12.5%)と最も多く、次いで「農林業分野で必要な技術・技能を学べるから」163人(12.2%)、「静岡県にある公立大学だから」136人(10.2%)、「興味・関心のある分野だから」132人(9.9%)、「校舎・施設が充実していそうだから」131人(9.8%)、「学費が高くないから」129人(9.7%)、「企業への就職に有利そうだから」107人(8.0%)、「農林業法人への就職に有利そうだから」106人(8.0%)、「身近な地域の学校だから」90人(6.8%)の順になっている。 ※「無回答」102人(7.7%)

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制) 興味・関心の理由(第3位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	132	9.9
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	167	12.5
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	163	12.2
4	校舎・施設が充実していそうだから	131	9.8
5	企業への就職に有利そうだから	107	8.0
6	農林業法人への就職に有利そうだから	106	8.0
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	26	2.0
8	農林業分野で起業したいから	27	2.0
9	身近な地域の学校だから	90	6.8
10	静岡県にある公立大学だから	136	10.2
11	学費が高くないから	129	9.7
12	その他	17	1.3
	無回答	102	7.7
	N (%ベース)	1,333	100



(8) 興味のある分野について

8-1 興味のある生産分野（第1位）について

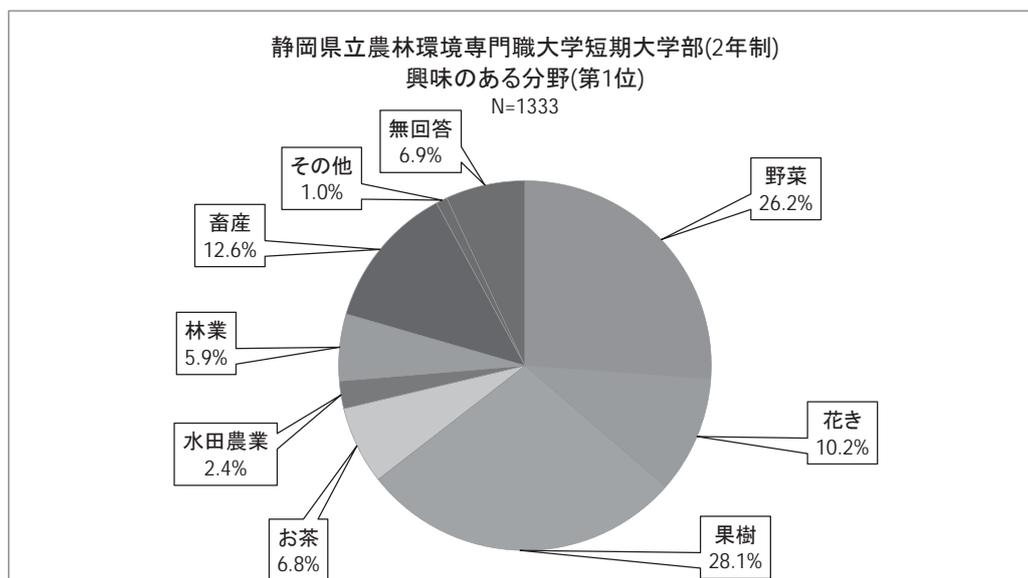
「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部に興味・関心がある」、「2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部にすこし興味・関心がある」と回答した1,333人に、興味のある生産分野（第1位）について調査した。

その結果は、「果樹」が374人（28.1%）と最も多く、次いで「野菜」349人（26.2%）、「畜産」168人（12.6%）、「花き」136人（10.2%）、「お茶」91人（6.8%）、「林業」78人

（5.9%）、「水田農業」32人（2.4%）、「その他」13人（1.0%）の順になっている。 ※「無回答」92人（6.9%）

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)
興味のある分野(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	野菜	349	26.2
2	花き	136	10.2
3	果樹	374	28.1
4	お茶	91	6.8
5	水田農業	32	2.4
6	林業	78	5.9
7	畜産	168	12.6
8	その他	13	1.0
	無回答	92	6.9
	N (%ベース)	1,333	100



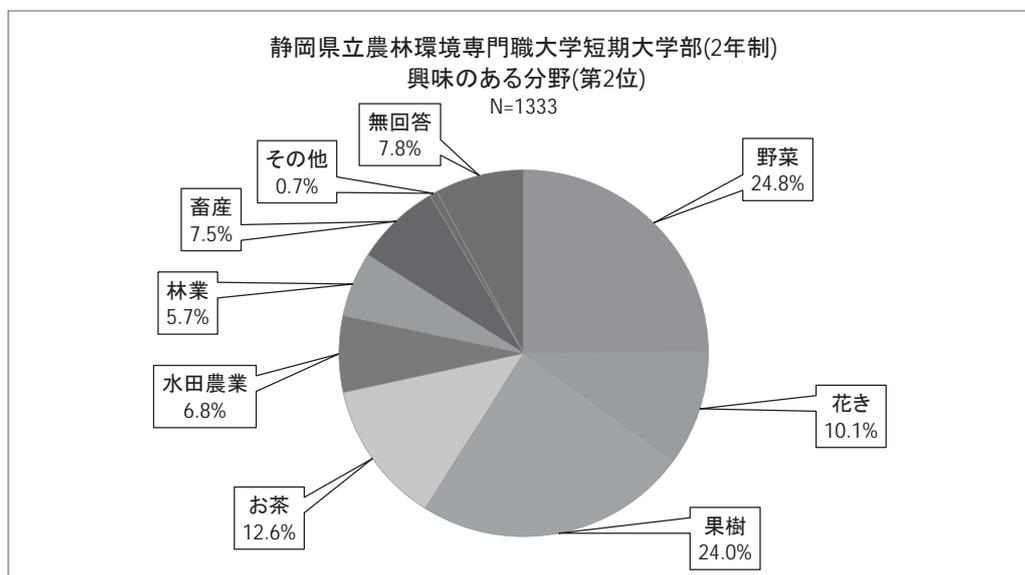
8-2 興味のある生産分野（第2位）について

「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部に興味・関心がある」、「2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部にすこし興味・関心がある」と回答した1,333人に、興味のある生産分野（第2位）について調査した。

その結果は、「野菜」が331人（24.8%）と最も多く、次いで「果樹」320人（24.0%）、「お茶」168人（12.6%）、「花き」135人（10.1%）、「畜産」100人（7.5%）、「水田農業」90人（6.8%）、「林業」76人（5.7%）、「その他」9人（0.7%）の順になっている。 ※「無回答」104人（7.8%）

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)
興味のある分野(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	野菜	331	24.8
2	花き	135	10.1
3	果樹	320	24.0
4	お茶	168	12.6
5	水田農業	90	6.8
6	林業	76	5.7
7	畜産	100	7.5
8	その他	9	0.7
	無回答	104	7.8
	N (%ベース)	1,333	100



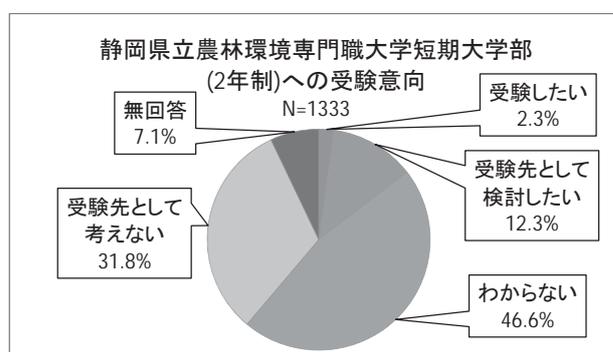
(9) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への受験意向について

「(2) 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心について」の回答者のうち、「2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部に興味・関心がある」、「2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部にすこし興味・関心がある」と回答した1,333人に2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への受験意向について調査した。

その結果は、「受験したい」30人(2.3%)、「受験先として検討したい」164人(12.3%)の合計194人(14.6%)が2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への受験意向を示している。 ※無回答94人(7.1%)

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)への受験意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験したい	30	2.3
2	受験先として検討したい	164	12.3
3	わからない	621	46.6
4	受験先として考えない	424	31.8
	無回答	94	7.1
	N (%ベース)	1,333	100



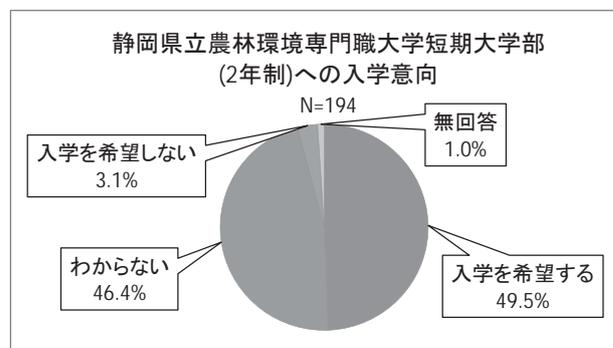
(10) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への入学意向について

「(9) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への受験意向について」の回答者のうち、「受験したい」30人(2.3%)、「受験先として検討したい」164人(12.3%)と回答した194人に、2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部を受験し、合格した場合の入学意向について調査した。

その結果は、「入学を希望する」96人(49.5%)、「わからない」90人(46.4%)、「入学を希望しない」6人(3.1%)となり、96人(49.5%)が2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への入学意向を示している。 ※無回答2人(1.0%)

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	96	49.5
2	わからない	90	46.4
3	入学を希望しない	6	3.1
	無回答	2	1.0
	N (%ベース)	194	100



3. 調査結果のまとめ

(1) 静岡県立農林環境専門職大学への入学意向について

「(6) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学への入学意向について」にて、173人が入学意向を示している。

これは静岡県立農林環境専門職大学の入学定員24人に対し、約7.2倍の入学意向を示している。

静岡県立農林環境専門職大学(4年制)への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	173	44.8
2	わからない	193	50.0
3	入学を希望しない	16	4.1
	無回答	4	1.0
	N (%ベース)	386	100

(2) 静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への入学意向について

「(10) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への入学意向について」にて、96人が入学意向を示している。

これは静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の入学定員100人に対し、0.96倍の入学意向を示している。

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)への入学意向

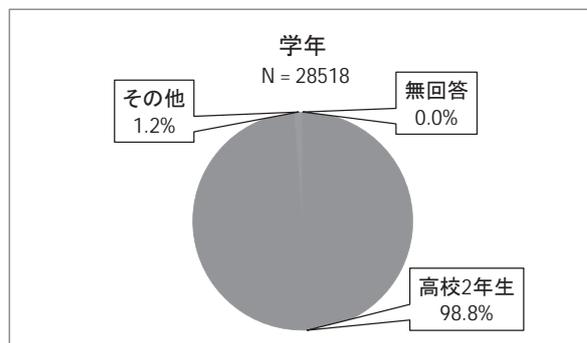
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	96	49.5
2	わからない	90	46.4
3	入学を希望しない	6	3.1
	無回答	2	1.0
	N (%ベース)	194	100

以上の調査結果と、調査対象の高等学校等以外からの高校生の進学も考えられることから、静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の入学定員を満たす学生は確保できるものとする。

単純集計表

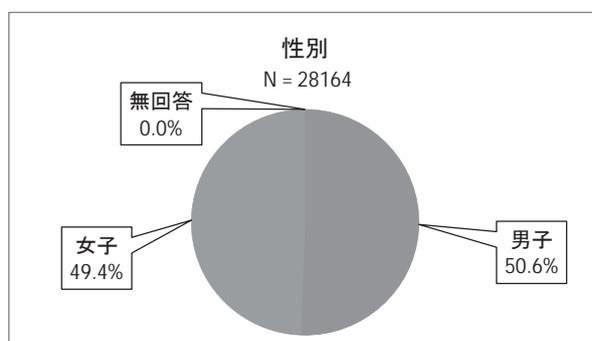
学年

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	高校2年生	28,164	98.8
2	その他	348	1.2
	無回答	6	0.0
	N (%ベース)	28,518	100



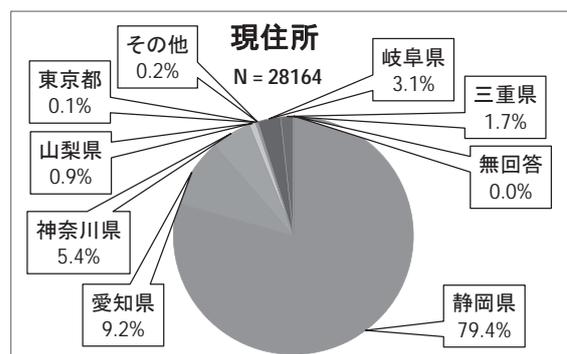
性別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	男子	14,256	50.6
2	女子	13,899	49.4
	無回答	9	0.0
	N (%ベース)	28,164	100



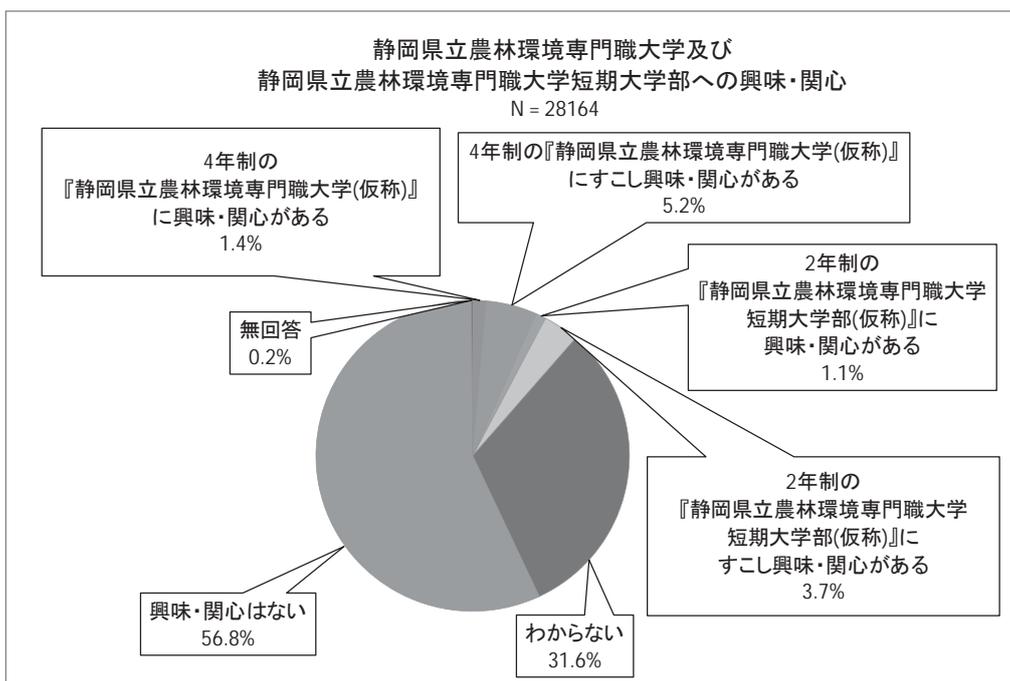
問3 現住所

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	静岡県	22,366	79.4
2	愛知県	2,600	9.2
3	神奈川県	1,512	5.4
4	山梨県	245	0.9
5	東京都	30	0.1
6	その他	45	0.2
7	岐阜県	885	3.1
8	三重県	475	1.7
	無回答	6	0.0
	N (%ベース)	28,164	100



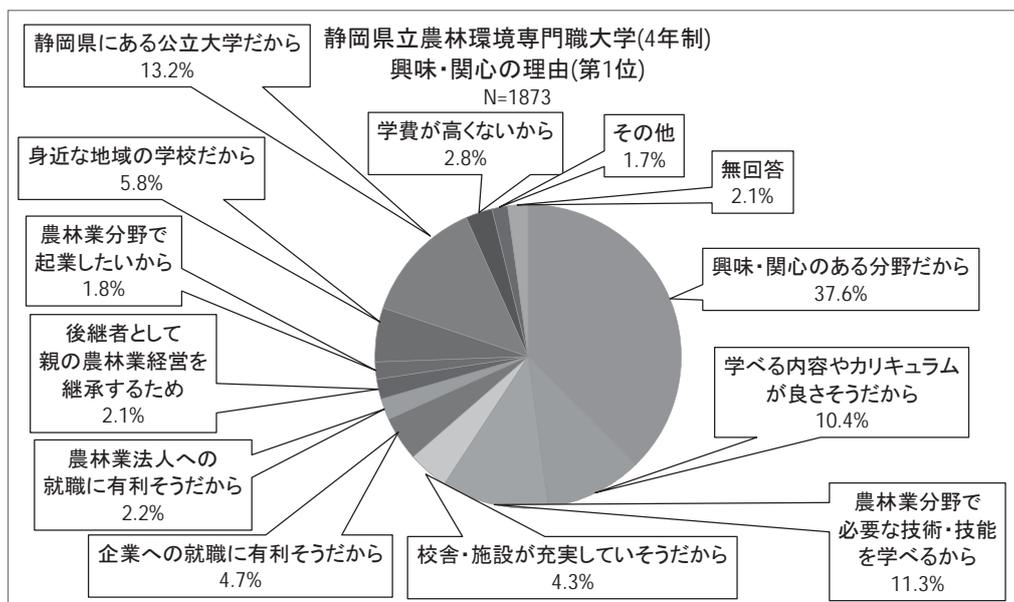
静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への興味・関心

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	4年制の『静岡県立農林環境専門職大学(仮称)』に興味・関心がある	398	1.4
2	4年制の『静岡県立農林環境専門職大学(仮称)』にすこし興味・関心がある	1,475	5.2
3	2年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)』に興味・関心がある	302	1.1
4	2年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)』にすこし興味・関心がある	1,031	3.7
5	わからない	8,909	31.6
6	興味・関心はない	16,006	56.8
	無回答	43	0.2
	N (%ベース)	28,164	100



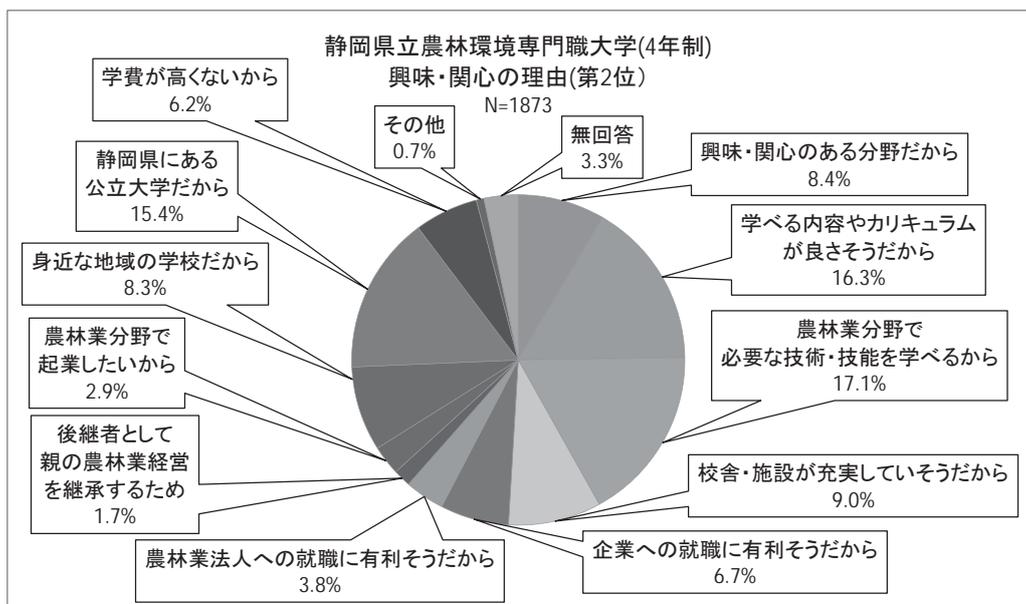
静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味・関心の理由(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	704	37.6
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	194	10.4
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	211	11.3
4	校舎・施設が充実していそうだから	81	4.3
5	企業への就職に有利そうだから	88	4.7
6	農林業法人への就職に有利そうだから	42	2.2
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	40	2.1
8	農林業分野で起業したいから	34	1.8
9	身近な地域の学校だから	108	5.8
10	静岡県にある公立大学だから	247	13.2
11	学費が高くないから	53	2.8
12	その他	31	1.7
	無回答	40	2.1
	N (%ベース)	1,873	100



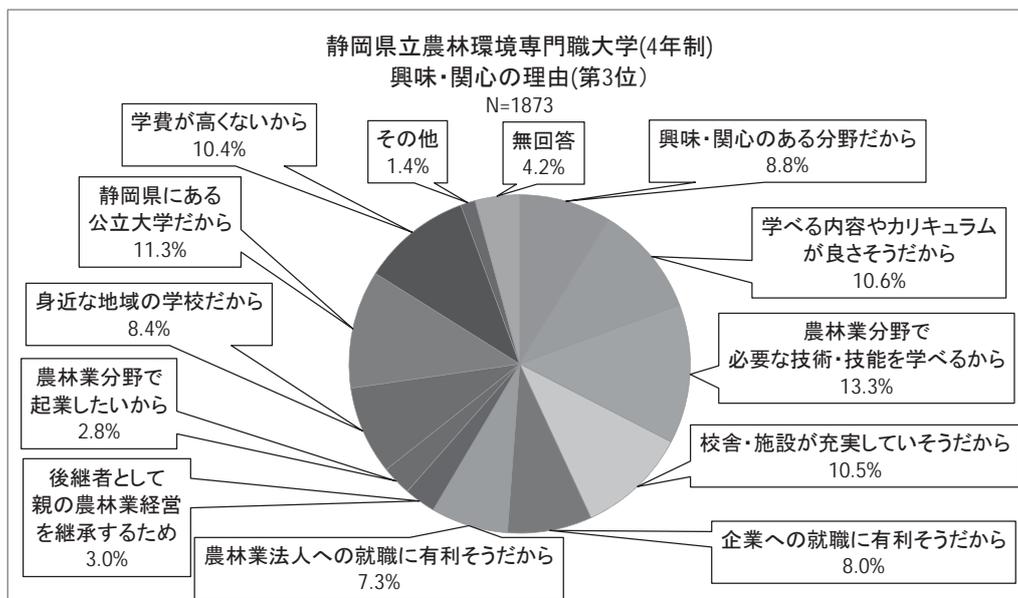
静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味・関心の理由(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	158	8.4
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	306	16.3
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	321	17.1
4	校舎・施設が充実していそうだから	169	9.0
5	企業への就職に有利そうだから	125	6.7
6	農林業法人への就職に有利そうだから	72	3.8
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	32	1.7
8	農林業分野で起業したいから	54	2.9
9	身近な地域の学校だから	155	8.3
10	静岡県にある公立大学だから	289	15.4
11	学費が高くないから	116	6.2
12	その他	14	0.7
	無回答	62	3.3
	N (%ベース)	1,873	100



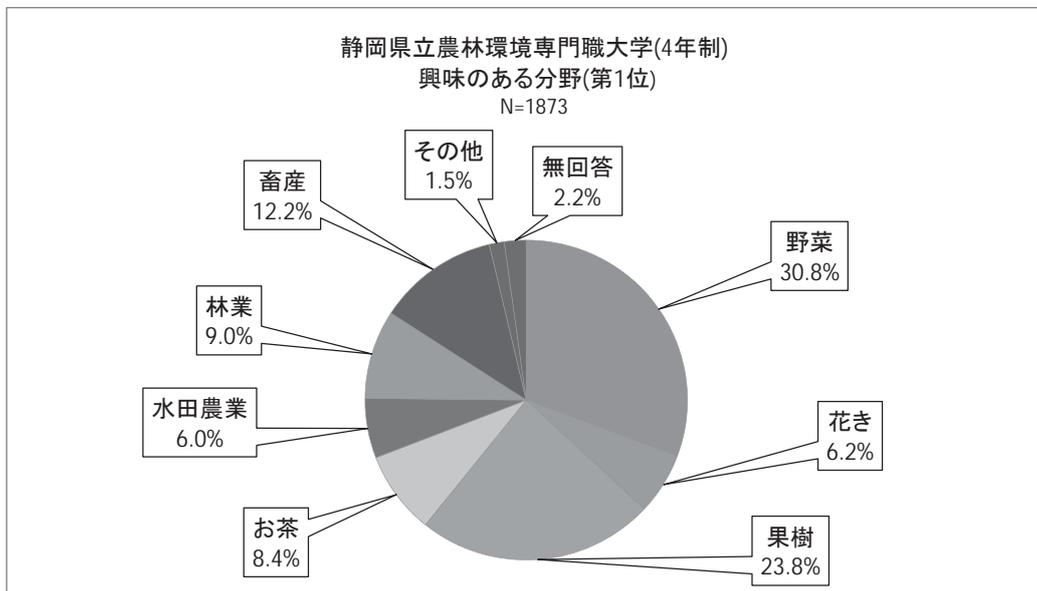
静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味・関心の理由(第3位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	164	8.8
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	198	10.6
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	249	13.3
4	校舎・施設が充実していそうだから	197	10.5
5	企業への就職に有利そうだから	150	8.0
6	農林業法人への就職に有利そうだから	137	7.3
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	56	3.0
8	農林業分野で起業したいから	53	2.8
9	身近な地域の学校だから	158	8.4
10	静岡県にある公立大学だから	211	11.3
11	学費が高くないから	195	10.4
12	その他	26	1.4
	無回答	79	4.2
	N (%ベース)	1,873	100



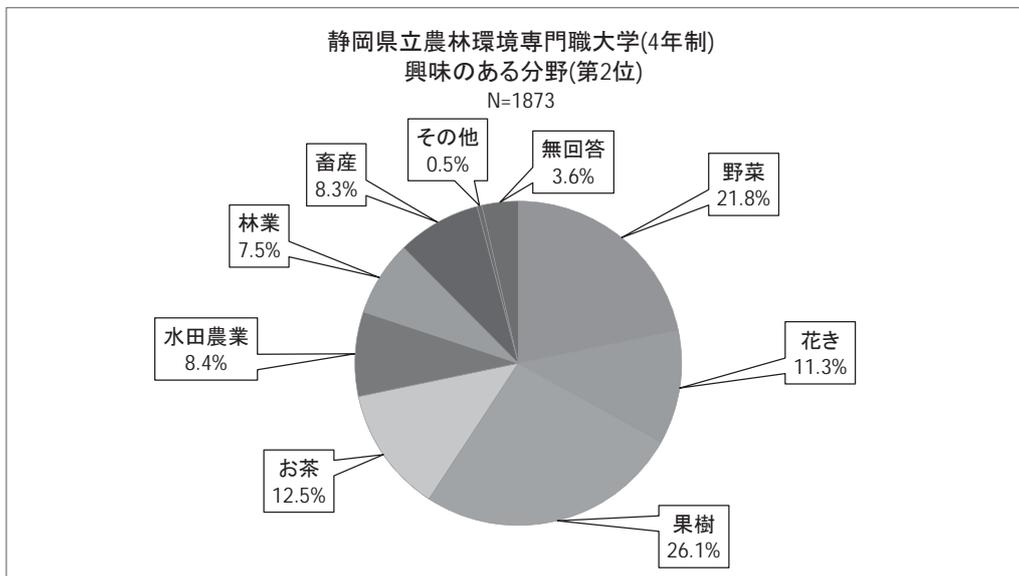
静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味のある分野(第1位)

No.		件数	(全体)%
1	野菜	576	30.8
2	花き	116	6.2
3	果樹	446	23.8
4	お茶	157	8.4
5	水田農業	113	6.0
6	林業	168	9.0
7	畜産	228	12.2
8	その他	28	1.5
	無回答	41	2.2
	N (%ベース)	1,873	100



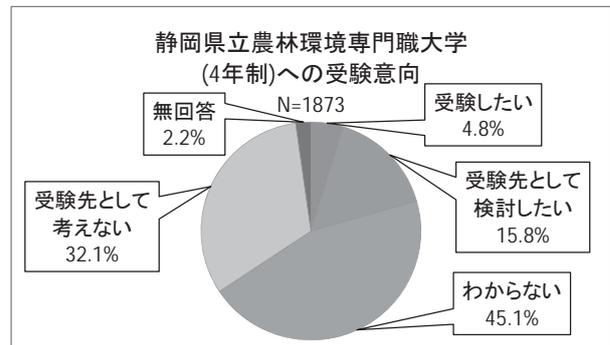
静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 興味のある分野(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	野菜	408	21.8
2	花き	212	11.3
3	果樹	489	26.1
4	お茶	234	12.5
5	水田農業	158	8.4
6	林業	140	7.5
7	畜産	156	8.3
8	その他	9	0.5
	無回答	67	3.6
	N (%ベース)	1,873	100



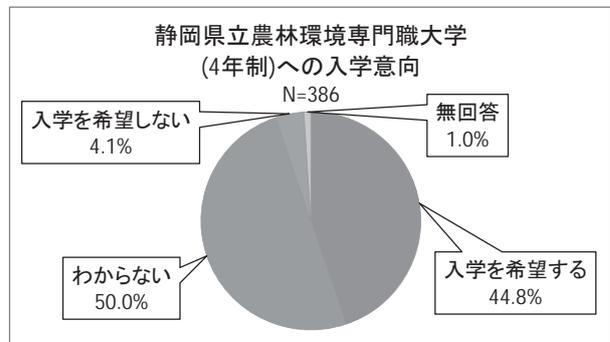
静岡県立農林環境専門職大学(4年制)への受験意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験したい	90	4.8
2	受験先として検討したい	296	15.8
3	わからない	844	45.1
4	受験先として考えない	601	32.1
	無回答	42	2.2
	N (%ベース)	1,873	100



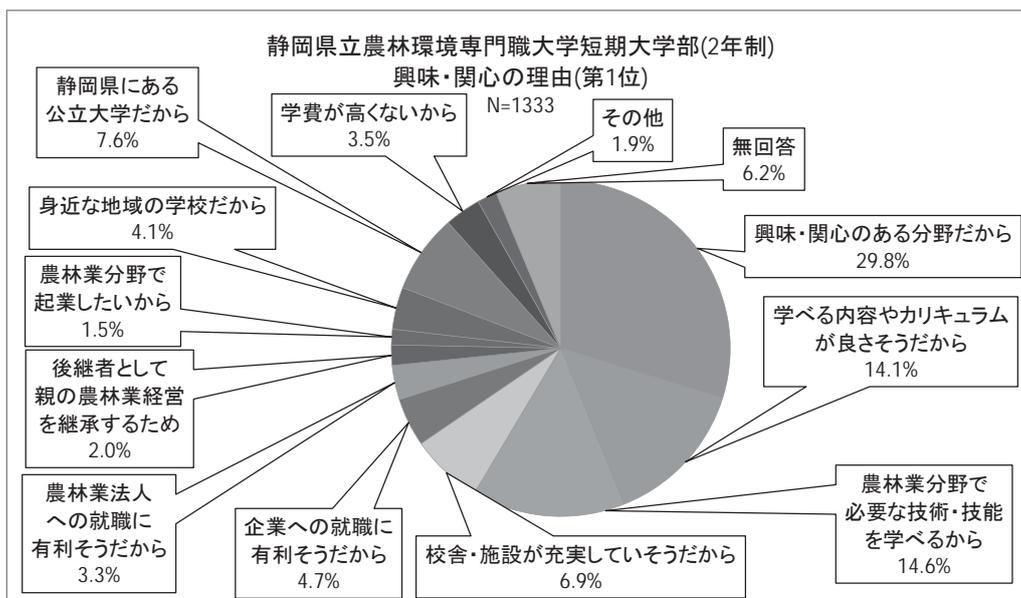
静岡県立農林環境専門職大学(4年制)への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	173	44.8
2	わからない	193	50.0
3	入学を希望しない	16	4.1
	無回答	4	1.0
	N (%ベース)	386	100



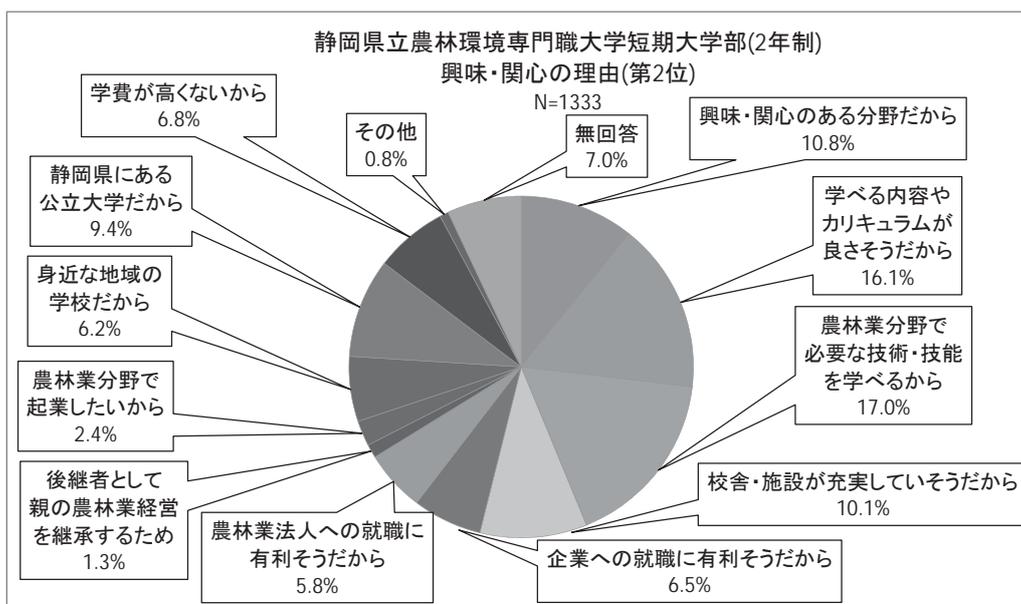
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制) 興味・関心の理由(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	397	29.8
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	188	14.1
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	195	14.6
4	校舎・施設が充実していそうだから	92	6.9
5	企業への就職に有利そうだから	62	4.7
6	農林業法人への就職に有利そうだから	44	3.3
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	26	2.0
8	農林業分野で起業したいから	20	1.5
9	身近な地域の学校だから	54	4.1
10	静岡県にある公立大学だから	101	7.6
11	学費が高くないから	46	3.5
12	その他	25	1.9
	無回答	83	6.2
	N (%ベース)	1,333	100



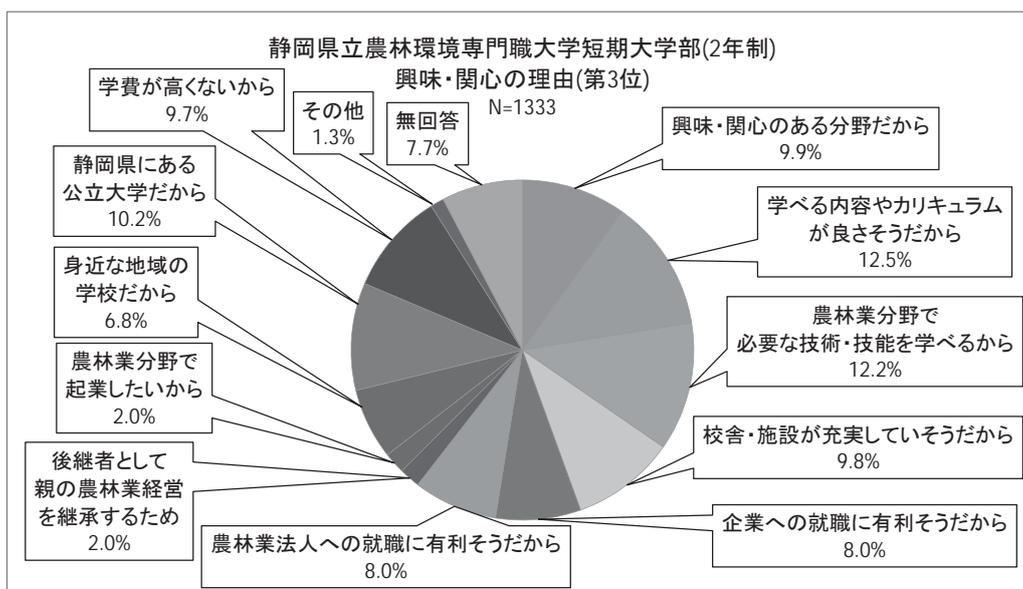
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制) 興味・関心の理由(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	144	10.8
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	214	16.1
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	226	17.0
4	校舎・施設が充実していそうだから	134	10.1
5	企業への就職に有利そうだから	87	6.5
6	農林業法人への就職に有利そうだから	77	5.8
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	17	1.3
8	農林業分野で起業したいから	32	2.4
9	身近な地域の学校だから	82	6.2
10	静岡県にある公立大学だから	125	9.4
11	学費が高くないから	91	6.8
12	その他	11	0.8
	無回答	93	7.0
	N (%ベース)	1,333	100



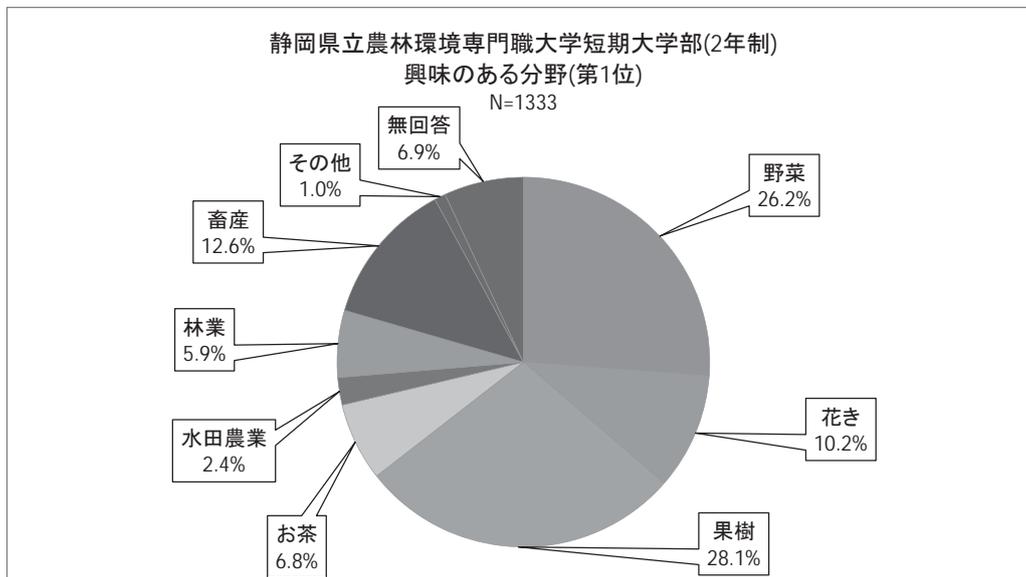
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制) 興味・関心の理由(第3位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	興味・関心のある分野だから	132	9.9
2	学べる内容やカリキュラムが良さそうだから	167	12.5
3	農林業分野で必要な技術・技能を学べるから	163	12.2
4	校舎・施設が充実していそうだから	131	9.8
5	企業への就職に有利そうだから	107	8.0
6	農林業法人への就職に有利そうだから	106	8.0
7	後継者として親の農林業経営を継承するため	26	2.0
8	農林業分野で起業したいから	27	2.0
9	身近な地域の学校だから	90	6.8
10	静岡県にある公立大学だから	136	10.2
11	学費が高くないから	129	9.7
12	その他	17	1.3
	無回答	102	7.7
	N (%ベース)	1,333	100



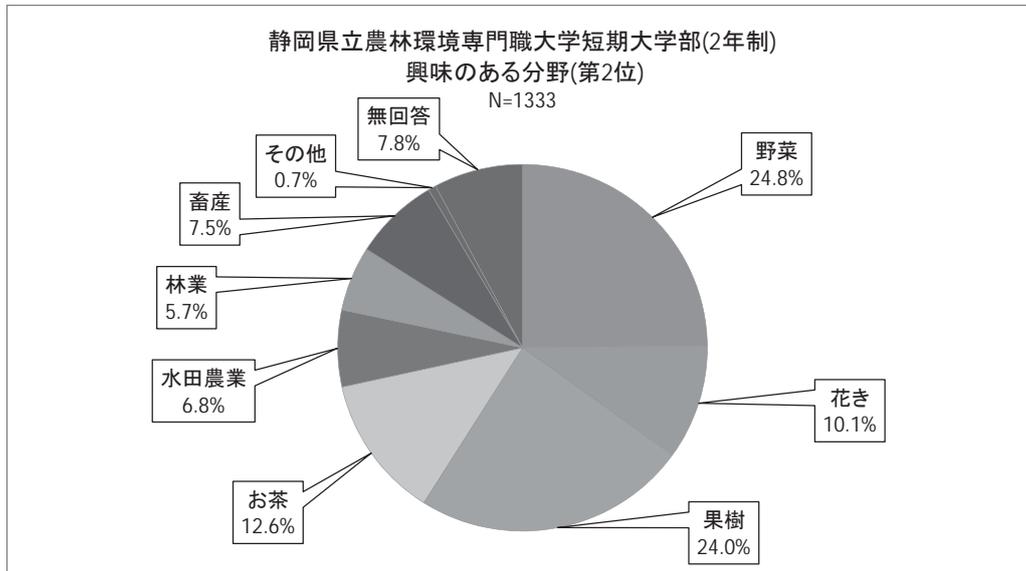
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)
興味のある分野(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	野菜	349	26.2
2	花き	136	10.2
3	果樹	374	28.1
4	お茶	91	6.8
5	水田農業	32	2.4
6	林業	78	5.9
7	畜産	168	12.6
8	その他	13	1.0
	無回答	92	6.9
	N (%ベース)	1,333	100



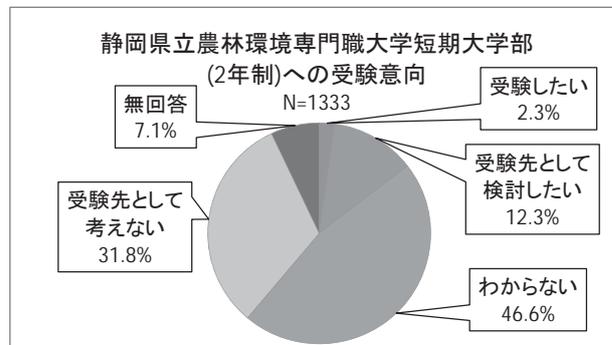
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)
興味のある分野(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	野菜	331	24.8
2	花き	135	10.1
3	果樹	320	24.0
4	お茶	168	12.6
5	水田農業	90	6.8
6	林業	76	5.7
7	畜産	100	7.5
8	その他	9	0.7
	無回答	104	7.8
	N (%ベース)	1,333	100



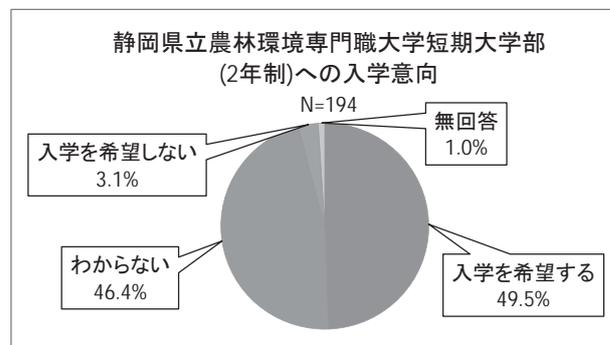
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)への受験意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	受験したい	30	2.3
2	受験先として検討したい	164	12.3
3	わからない	621	46.6
4	受験先として考えない	424	31.8
	無回答	94	7.1
	N (%ベース)	1,333	100



静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)への入学意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	入学を希望する	96	49.5
2	わからない	90	46.4
3	入学を希望しない	6	3.1
	無回答	2	1.0
	N (%ベース)	194	100



調査票

**静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の設置に係るアンケート調査**

- ・静岡県では、2020年4月に県立農林環境専門職大学（仮称）と県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の設置を計画しております。このアンケート調査は、計画の基礎資料とするため、**2020年3月に卒業見込みの皆さん（主に高校2年生）**の卒業後の進路等についてお聞きするものです。御協力をお願いいたします。
- ・このアンケート結果は、統計資料としてのみ用い、目的以外に利用することはありません。
- ・回答は、該当する番号を回答欄の の中へ直接記入してください。

[あなたに関することについてお答えください]

- 問1. あなたの学年をおたずねします。 【回答欄】
1. 高校2年生 2. その他 ()
- 問2. あなたの性別についておたずねします。
1. 男子 2. 女子
- 問3. あなたのお住まい（現住所）についておたずねします。
1. 静岡県 4. 山梨県 7. 岐阜県
2. 愛知県 5. 東京都 8. 三重県
3. 神奈川県 6. その他 ()

ここからは、

本票と一緒に配布されたリーフレット

『静岡県立 農林環境専門職大学（仮称） 農林環境専門職大学短期大学部（仮称）』

本調査票4ページの「類似する大学・学部・学科及び学校一覧」

を御覧頂いた上で、御回答ください。

- 問4. あなたは静岡県立農林環境専門職大学（仮称）、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）について、どのように考えますか。次の中から 1 つだけ選んでください。
1. 4年制の『静岡県立農林環境専門職大学（仮称）』に興味・関心がある
2. 4年制の『静岡県立農林環境専門職大学（仮称）』にすこし興味・関心がある
3. 2年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）』に興味・関心がある
4. 2年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）』にすこし興味・関心がある
5. わからない
6. 興味・関心はない

問4で、

「1、2」を選ばれた方は、2ページ目の問5から御回答ください。

「3、4」を選ばれた方は、3ページ目の問9から御回答ください。

「5、6」を選ばれた方は、4ページ目の問13を御回答ください。

問 4 で (静岡県立農林環境専門職大学 (仮称) 静岡県立農林環境専門職大学短期大学部 (仮称) への興味・関心で)

1. 4 年制の『静岡県立農林環境専門職大学 (仮称)』に興味・関心がある
 2. 4 年制の『静岡県立農林環境専門職大学 (仮称)』にすこし興味・関心がある
- 選ばれた方のみ、下の設問に御回答ください。

問 5 . 問 4 で「1 . 4 年制の『静岡県立農林環境専門職大学 (仮称)』に興味・関心がある」、「2 . 4 年制の『静岡県立農林環境専門職大学 (仮称)』にすこし興味・関心がある」と回答された方におたずねします。それは、どのような理由からですか。
次の中からあてはまるものを第 3 位まで選んでください。

- | | | | |
|-------------------------|-------------------|-------|----------------------|
| 1. 興味・関心のある分野だから | 8. 農林業分野で起業したいから | 第 1 位 | <input type="text"/> |
| 2. 学べる内容やカリキュラムが良さそうだから | 9. 身近な地域の学校だから | 第 2 位 | <input type="text"/> |
| 3. 農林業分野で必要な技術・技能を学べるから | 10. 静岡県にある公立大学だから | 第 3 位 | <input type="text"/> |
| 4. 校舎・施設が充実していそうだから | 11. 学費が高くないから | | |
| 5. 企業への就職に有利そうだから | 12. その他 | | |
| 6. 農林業法人への就職に有利そうだから | (具体的に: _____) | | |
| 7. 後継者として親の農林業経営を継承するため | | | |

問 6 . 農林業では、どの生産分野に興味がありますか。次の中からあてはまるものを第 2 位まで選んでください。

- | | | | | | |
|-------|-------|---------|------------------|-------|----------------------|
| 1. 野菜 | 3. 果樹 | 5. 水田農業 | 7. 畜産 | 第 1 位 | <input type="text"/> |
| 2. 花き | 4. お茶 | 6. 林業 | 8. その他 (_____) | 第 2 位 | <input type="text"/> |

問 7 . あなたは静岡県立農林環境専門職大学 (仮称) を受験したいと思いませんか。次の中から 1 つ選んでください。

- | | | | |
|----------------|---|--|----------------------|
| 1. 受験したい | } | 1、2 を選ばれた方は下の問 8 へお進みください。
3、4 を選ばれた方は 4 ページの問 13 へお進みください。 | <input type="text"/> |
| 2. 受験先として検討したい | | | |
| 3. わからない | | | |
| 4. 受験先として考えない | | | |

問 8 . 問 7 で、「1 . 受験したい」、「2 . 受験先として検討したい」と回答された方におたずねします。静岡県立農林環境専門職大学 (仮称) を受験し、合格した場合の入学意向について、次の中から 1 つ選んでください。

- | | |
|-------------|----------------------|
| 1. 入学を希望する | <input type="text"/> |
| 2. わからない | |
| 3. 入学を希望しない | |

問 8 を御回答後は、4 ページの問 13 へお進みください。

問 4 で (静岡県立農林環境専門職大学 (仮称) 静岡県立農林環境専門職大学短期大学部 (仮称) への興味・関心で)

3. 2年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部 (仮称)』に興味・関心がある
4. 2年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部 (仮称)』にすこし興味・関心がある
選ばれた方のみ、下の設問に御回答ください。

問 9 . 問 4 で「3 . 2年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部 (仮称)』に興味・関心がある」、「4 . 2年制の『静岡県立農林環境専門職大学短期大学部 (仮称)』にすこし興味・関心がある」と回答された方におたずねします。それは、どのような理由からですか。
次の中からあてはまるものを第 3 位まで選んでください。

- | | | | |
|-------------------------|-------------------|-------|----------------------|
| 1. 興味・関心のある分野だから | 8. 農林業分野で起業したいから | 第 1 位 | <input type="text"/> |
| 2. 学べる内容やカリキュラムが良さそうだから | 9. 身近な地域の学校だから | | |
| 3. 農林業分野で必要な技術・技能を学べるから | 10. 静岡県にある公立大学だから | 第 2 位 | <input type="text"/> |
| 4. 校舎・施設が充実していそうだから | 11. 学費が高くないから | | |
| 5. 企業への就職に有利そうだから | 12. その他 | 第 3 位 | <input type="text"/> |
| 6. 農林業法人への就職に有利そうだから | (具体的に: _____) | | |
| 7. 後継者として親の農林業経営を継承するため | | | |

問 10 . 農林業では、どの生産分野に興味がありますか。次の中からあてはまるものを第 2 位まで選んでください。

- | | | | | | |
|-------|-------|---------|------------------|-------|----------------------|
| 1. 野菜 | 3. 果樹 | 5. 水田農業 | 7. 畜産 | 第 1 位 | <input type="text"/> |
| 2. 花き | 4. お茶 | 6. 林業 | 8. その他 (_____) | 第 2 位 | <input type="text"/> |

問 11 . あなたは静岡県立農林環境専門職大学短期大学部 (仮称) を受験したいと思いますか。次の中から 1 つ選んでください。

- | | | | |
|----------------|---|---|----------------------|
| 1. 受験したい | } | <p>1、2 を選ばれた方は下の問 12 へお進みください。
3、4 を選ばれた方は 4 ページの問 13 へお進みください。</p> | <input type="text"/> |
| 2. 受験先として検討したい | | | |
| 3. わからない | | | |
| 4. 受験先として考えない | | | |

問 12 . 問 11 で、「1 . 受験したい」、「2 . 受験先として検討したい」と回答された方におたずねします。静岡県立農林環境専門職大学短期大学部 (仮称) を受験し、合格した場合の入学意向について、次の中から 1 つ選んでください。

- | | |
|-------------|----------------------|
| 1. 入学を希望する | <input type="text"/> |
| 2. わからない | |
| 3. 入学を希望しない | |

問 12 を御回答後は、4 ページの問 13 へお進みください。

問 13 . 静岡県立農林環境専門職大学（仮称） 静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の設置計画にあたり、御意見・御要望がありましたらお聞かせください。

御協力ありがとうございました。

類似する大学・学部・学科及び学校一覧

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）

所在地	区分	大学名	学部名	学科名	入学定員	入学金	授業料	施設設備費等	諸会費	合計
三重	国立	三重大学	生物資源学部	資源循環学科	70	282,000	535,800	0	0	817,800
静岡	国立	静岡大学	農学部	生物資源科学科	115	282,000	535,800	0	0	817,800
岐阜	国立	岐阜大学	応用生物科学部	生産環境科学課程	80	282,000	535,800	0	0	817,800
神奈川	私立	東京農業大学	農学部	農学科	170	270,000	760,000	435,600	57,800	1,523,400
愛知	国立	名古屋大学	農学部	応用生命科学科	66	282,000	535,800	0	0	817,800
愛知	私立	中部大学	応用生物科学部	環境生物科学科	110	280,000	930,000	410,000	53,300	1,673,300
愛知	私立	人間環境大学	人間環境学部	環境科学科	80	200,000	700,000	430,000	41,460	1,371,460
愛知	私立	名城大学	農学部	生物資源学科	110	200,000	935,000	350,000	0	1,485,000
静岡	公立	農林環境専門職大学(仮称)	生産環境経営学部(仮称)	生産環境経営学科（仮称）	24	(県内) 141,000	322,300	0	0	463,300
						(県外) 366,600				688,900

注1) 各大学情報については、公式ウェブサイト等により調査しました。
 注2) 各大学の学費については、諸会費などを含んでいない場合があるため、概算として参考にして下さい。
 注3) 静岡県立農林環境専門職大学（仮称）の学費は予定であり、変更する場合があります。

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）

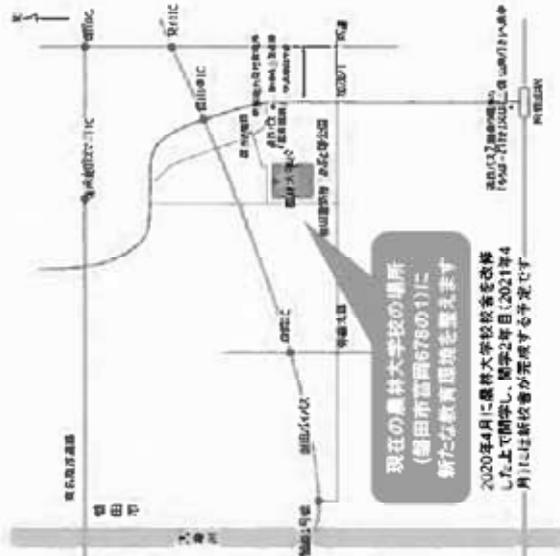
所在地	区分	大学名・学校名	学部・学科名	入学定員	入学金	授業料	施設設備費等	教材費	合計
三重	公立	三重県農業大学校	養成科二年課程	30	0	118,800	0	0	118,800
岐阜	公立	岐阜県農業大学校	野菜・果樹学科 畜産学科	30	0	69,120	0	0	69,120
愛知	公立	愛知県立農業大学校	教育部農学科	100	5,650	60,000	0	0	65,650
静岡	公立	農林環境専門職大学短期大学部(仮称)	生産科学科(仮称)	100	(県内) 84,600	234,600	0	0	319,200
					(県外) 219,900				454,500

注1) 各大学校情報については、公式ウェブサイト等により調査しました。
 注2) 教材費は大学へ納める金額の合計金額で、実費が別途かかる場合があるため、概算として参考にして下さい。
 注3) 静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の学費は予定であり、変更する場合があります。

資格免許取得等について

- 授業の中で取得に取り組める資格・免許（予定）
 - 大型特殊自動車運転免許（仮免許）、農業技術師補、日本農アトバイザー、労働安全衛生師免許、フォークリフト運転技能講習修了証、EPA（大塚水等）特別教員、環境免許、簿記検定など
 - ※4年制、2年制ともに取得が可能です（専攻分野によって取得できるものがあります）。また、取得費用は別途必要です。
- 農林業の担い手を目指す学生の就農を支援する給付金制度
 - ・農業次世代人材投資事業（産直型）
 - ・若の青年就職促進給付金事業
 - ※成立後1年以内の就業などの給付要件があります。給付要件を満たさなくなると給付金請求を拒否し、返ればなりません。
- 共同生活を通じて協同性を養う学生生活
 - ・4年制、2年制ともに、1年生は別居全寮制にすることを検討しています。
- 現在の農林大学校の男女比
 - ・学生の男女比は男性：女性＝2：1で、9人に1人は女性の学生です。

交通アクセス



現在の農林大学校の場所
(畑田所番地6780-1)に
新たな教育環境を築きます

2020年4月に農林大の校舎を改装した上で開学し、開学2年目(2021年4月)には新校舎が完成する予定です

【電車・バスでのアクセス】

- 東京方面より 新幹線「JR山手線」下車→東横線「JR常陸田駅」下車
- 名古屋方面より 新幹線「JR東海道線」下車→東横線「JR常陸田駅」下車
- JR常陸田駅北口 バスロータリーより徒歩約10分(10分)→徒歩(10分)

お問い合わせ

特任式務課 学務部 学務課 学務課 専門職大学学務課 TEL: 054-221-2734
〒420-8501 静岡県袋井市袋井9番6号 袋井支店9階 FAX: 054-221-3688

※設置構想中のため、このリーフレットの記載内容は変更となる可能性があります。



2020年4月
開学予定
(設置構想中)

静岡県立 農林環境専門職大学 (仮称) 農林環境専門職大学 短期大学部 (仮称)

静岡県では、静岡県立農林大学校を、農林業者を養成する専門学校として、本県の農林業の発展に貢献してこましたが、近年の農林業経営の規模拡大や多様化に対応するため、このたび4年制の専門職大学と2年制の専門職短期大学への移行を検討しています。

専門職大学とは？

2019年4月から新たに創設される実践的な職業教育を行う新しい高等教育機関です。

多岐の産業界分野（農業や観光、情報など）において、専門職職人として活躍する実践的な教育のニーズが高まれば、新たに創設された大学です。

特に、正統的な実践教育や専門職の育成の観点に立脚した教育で、高度な「実践力」や豊かな「創造性」を培うことが重要で、多くの企業が注目しています。

【新たな高等専門学校】



大学・短大

○新しい教育や、学習環境の構築に専攻の発展に必要な人材・設備とその他の設備や設備の整備
○大規模な施設・設備
○大規模な施設・設備

■設置学科	生産環境経営学部(仮称) 生産環境経営学科(仮称)	入学定員 24名(予定)
4年制	短期大学部(仮称) 生産科学科(仮称)	入学定員 100名(予定)

■開学時期
2020年4月の開学を目標とし、大学設置認可申請の準備を進めています。

■学位等

専門職大学の卒業生には、「学士(専門職)」と「専門職短期大学の卒業生には「短期大学士(専門職)」の学位がそれぞれ授与されます。これらは、4年制大学や短期大学の卒業生に与えられる「学士」短期大学士と同等のものであります。

※設置構想中のため、このリーフレットの記載内容は変更となる可能性があります。

○「耕土耕心（大地を耕し、心を耕す）」の理念のもとに、多くの実習を行い、農林業のプロフェッショナルを養成します
 農林大学校の校訓「耕土耕心」＝「むたいに汗し、土にまみれて大地を耕すことにより、自分を知り、自分の心を成長させ、立派な人間性をつくりあげることができる。大地を耕すことは自らからの心を耕すことである」という理念を引き継ぎ、実学を重んじ、社会に貢献する畑で年間を通じた栽培等の実習や、先進的企業でのインターンを実施するとともに、豊かな人間性を養い視野を広げる就業教育を提供します。

○人々の食やくらしを支え、新たな可能性が広がる農林業の、あらゆるシーンに対応できる力を養います

・農林業現場における経営知識の拡大や新しい技術の導入などに貢献することができるよう、基礎的な生産知識や技能に加え、農林業を取り巻く多様なシーンについて学べます。
 ・農山村の新しい役割として注目を集めている、美しい景観の形成や自然環境の保全などについて学び、農林業を通じて自然と共生しながら地域を支えていく農林業人を養成します。

○全国初の農林業分野の専門職大学です

農林業分野では全国初の公立の専門職大学及び専門職短期大学となる見込みです。専門職大学卒業生には「学士（専門職）」、専門職短期大学卒業生には「短期大学士（専門職）」の学位がそれぞれ授与されます。

農林環境専門職大学 (短大)

生産環境経営学科 (短科) 入学定員 24名 (予定) 4年制

POINT 1

農林業経営の現場で生まれる課題に柔軟に対応しながら、経営の中心として自らの夢を実現できる農林業者の養成を目指します。

○高度な生産技術に加え、マーケティングの視点に立った商品の安全性や食味の保証、販路開拓など、生産者の責任と責任の手法を学べます。

○農林業経営現場でのインターンを通じ、実際の経営課題の解決方法を提案する、実践的なプロジェクト実習を行います。

POINT 2

風土・環境や地域の文化を守り、自然と共生していくことのできる、豊かな人間性を持った農林業者の養成を目指します。

○新創作物種など、近年注目を集めている農山村の多様な役割を学べます。



実践的な農林業経営を学ぶカリキュラム

★経営者の視点から経営の現場を知るための実践的な学びを行います。

実務のキーワード
 経営者視座
 日本文化・語学
 理論
 一般教養

★農林業経営に必要な経営知識と生産技術を習得するとともに、農山村が持つ地域や役割について理解を深めます。

実務のキーワード
 フードシステム
 食品加工
 木材加工
 6次産業化

★経営活動を実現し、解決する実践力を身につけます。

実務のキーワード
 経営課題
 課題発見
 課題解決力

農林業経営のプロフェッショナルを目指す

新しい視点でチャレンジする農林業経営体後継者や幹部、農林業経営体の立上げ、農林業へ参入する企業へ就職、技術指導・普及を行う公務員、JA・森林組合の職員 等



農林環境専門職大学 (短大)

生産科学科 (短科) 入学定員 100名 (予定) 2年制

POINT 1

確かな生産知識と技術を持つ、生産現場で即戦力として活躍するスペシャリスト農林業者の養成を目指します。

○作物別（野菜・花き、野菜、果樹、林産、畜産等）に実践的な生産知識と技術を習得できます。

POINT 2

生産現場のリーダーに必要な豊かな人間性と、現場の課題に対応できる先進的な生産知識・技術と応用力を身に付けます。

○農林業経営現場でのインターンを通じ、生産現場で実践的な経験を積むことができます。

○ICTやIoTなど、農林業現場に導入が進んでいる先端技術を学べます。



実践的な生産技術を学ぶカリキュラム

★生産現場のリーダーに必要な実践的な生産技術を身につけます。

実務のキーワード
 コミュニケーション
 語学
 一般教養

★生産現場から生産者に求められる知識・技術の習得を目的とした実践的な学びを行います。

実務のキーワード
 現場加工
 食品加工
 木材加工
 畜産実習

★生産現場の課題を自ら発見し、解決する実践力を身につけます。

実務のキーワード
 生産課題
 課題発見
 課題解決力

生産現場のプロフェッショナルを目指す

確かな生産技術・知識を持った農林業後継者、農林業経営体生産現場のリーダー、農林業関連企業（食品・種苗等）への就職 等



※設置構想中のため、このリーフレットの記載内容は変更となる可能性があります。

学生納付金

農林環境専門職大学の学生納付金内訳

学年	入学金	授業料	合計
1年次	(県内) 141,000円	322,300円	(県内) 463,300円
	(県外) 366,600円		(県外) 688,900円
2年次	-	322,300円	322,300円
3年次	-	322,300円	322,300円
4年次	-	322,300円	322,300円
計	(県内) 141,000円	1,289,200円	(県内) 1,430,200円
	(県外) 366,600円		(県外) 1,655,800円

他大学学生納付金

所在地	区分	大学名	学部名	学科名	1年次			2年次以降 ※学年によって変動する場合は最高額となる学年を表記	
					入学金	授業料	計	授業料	計
静岡	国立	静岡大学	農学部	生物資源科学科	282,000	535,800	817,800	535,800	535,800
	国立	名古屋大学	農学部	応用生命科学科	282,000	535,800	817,800	535,800	535,800
愛知	私立	中部大学	応用生物学部	環境生物科学科	280,000	930,000	1,210,000	960,000	960,000
	私立	人間環境大学	人間環境学部	環境科学科	200,000	700,000	900,000	700,000	700,000
	私立	名城大学	農学部	生物資源学科	200,000	935,000	1,135,000	935,000	935,000
岐阜	国立	岐阜大学	応用生物科学部	生産環境科学課程	282,000	535,800	817,800	535,800	535,800
三重	国立	三重大学	生物資源学部	資源循環学科	282,000	535,800	817,800	535,800	535,800
神奈川	私立	東京農業大学	農学部	農学科	270,000	760,000	1,030,000	810,000	810,000

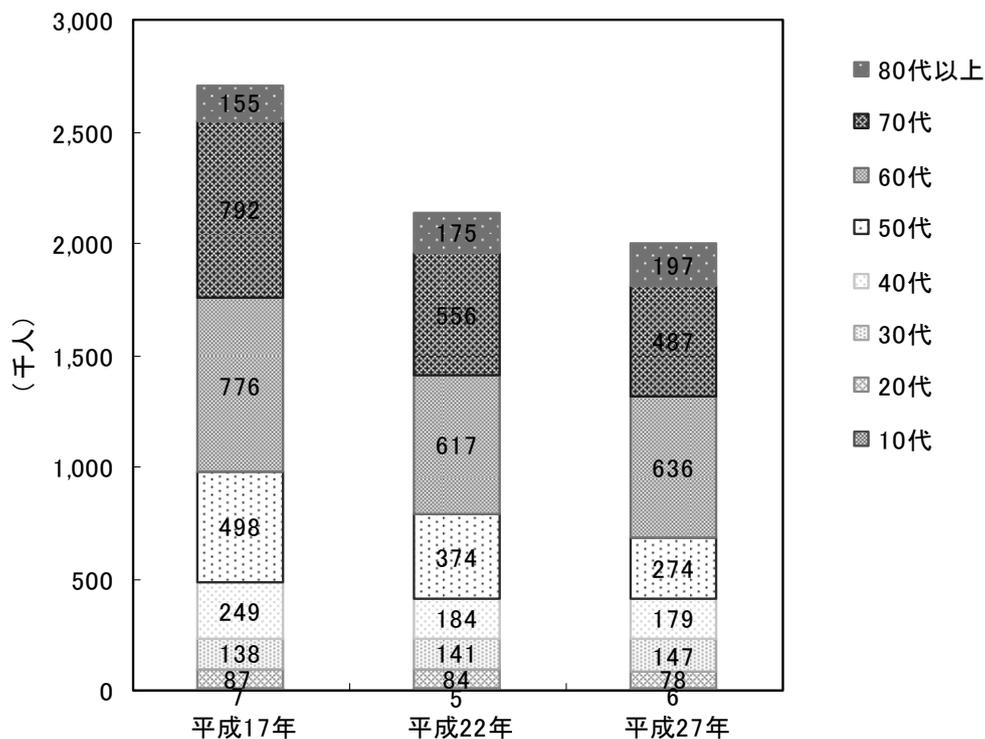
※1) 各大学ホームページに公表している、平成30年度入学者を対象とした学生納付金額を反映。
 ※2) 教材購入費等は含まない

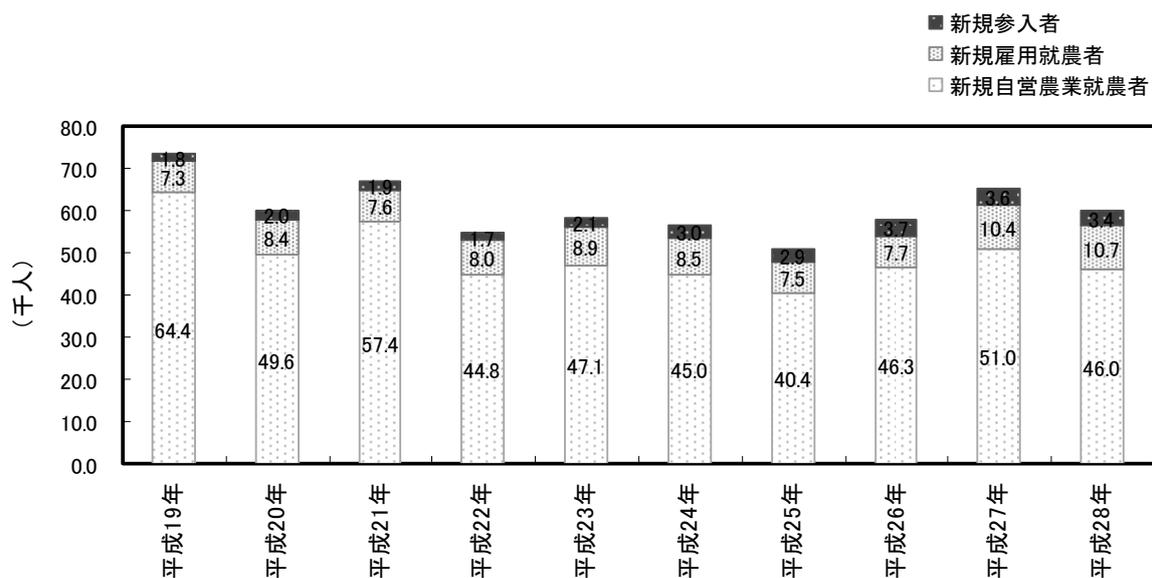
農業への就業者状況（全国）

農業就業者数（全国）

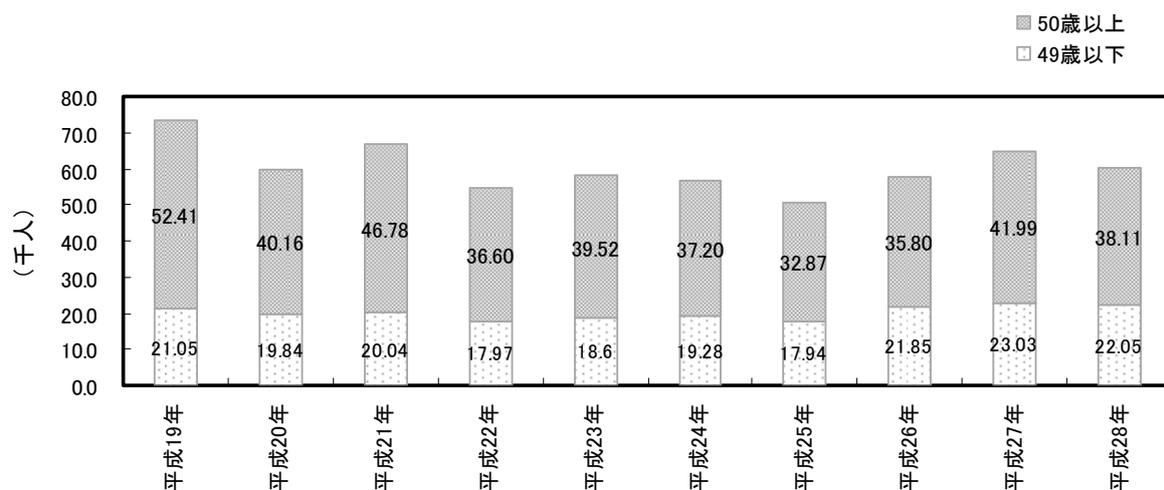
年代	平成17年		平成22年		平成27年		増減率 H27/H17
	総数(人)	(%)	総数(人)	(%)	総数(人)	(%)	
10代	6,694	(0.2%)	5,406	(0.3%)	5,765	(0.3%)	-13.9%
20代	86,982	(3.2%)	84,299	(3.9%)	78,221	(3.9%)	-10.1%
30代	138,406	(5.1%)	140,841	(6.6%)	147,200	(7.3%)	6.4%
40代	249,348	(9.2%)	184,243	(8.6%)	179,290	(8.9%)	-28.1%
50代	498,095	(18.4%)	373,881	(17.5%)	273,803	(13.7%)	-45.0%
60代	775,997	(28.7%)	616,902	(28.9%)	636,357	(31.7%)	-18.0%
70代	792,391	(29.3%)	555,791	(26.0%)	486,799	(24.3%)	-38.6%
80代以上	155,447	(5.8%)	174,614	(8.2%)	196,854	(9.8%)	26.6%
合計	2,703,360	(100.0%)	2,135,977	(100.0%)	2,004,289	(100.0%)	-25.9%

(出典:総務省「国勢調査」)





全国の就農形態別新規就農者の推移
 (出典:農林水産省「新規就農者調査」)



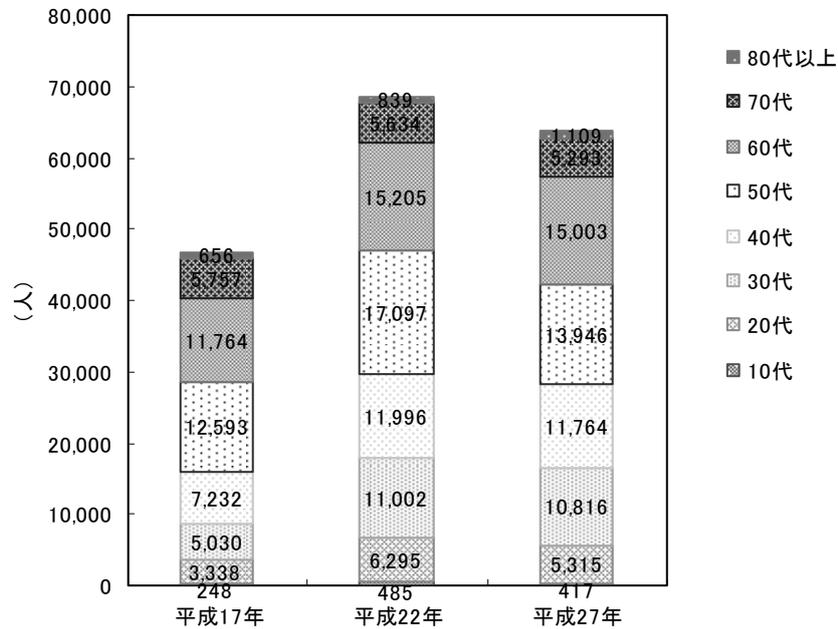
全国の年齢別新規就農者の推移
 (出典:農林水産省「新規就農者調査」)

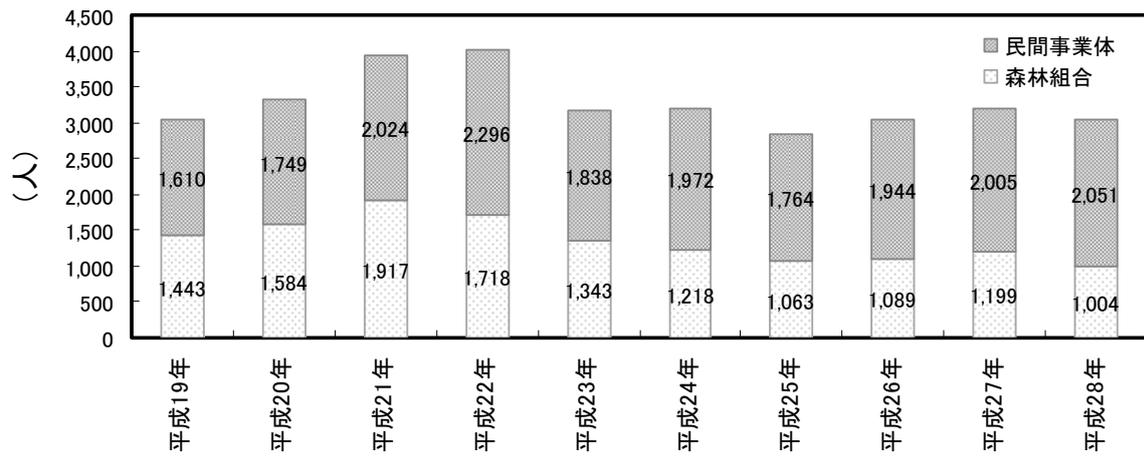
林業への就業者状況（全国）

林業就業者数（全国）

年代	平成17年		平成22年		平成27年		増減率 H27/H17
	総数(人)	(%)	総数(人)	(%)	総数(人)	(%)	
10代	248	(0.5%)	485	(0.7%)	417	(0.7%)	68.1%
20代	3,338	(7.2%)	6,295	(9.2%)	5,315	(8.3%)	59.2%
30代	5,030	(10.8%)	11,002	(16.0%)	10,816	(17.0%)	115.0%
40代	7,232	(15.5%)	11,996	(17.5%)	11,764	(18.5%)	62.7%
50代	12,593	(27.0%)	17,097	(24.9%)	13,946	(21.9%)	10.7%
60代	11,764	(25.2%)	15,205	(22.2%)	15,003	(23.6%)	27.5%
70代	5,757	(12.3%)	5,634	(8.2%)	5,293	(8.3%)	-8.1%
80代以上	656	(1.4%)	839	(1.2%)	1,109	(1.7%)	69.1%
合計	46,618	(100.0%)	68,553	(100.0%)	63,663	(100.0%)	36.6%

(出典:総務省「国勢調査」)

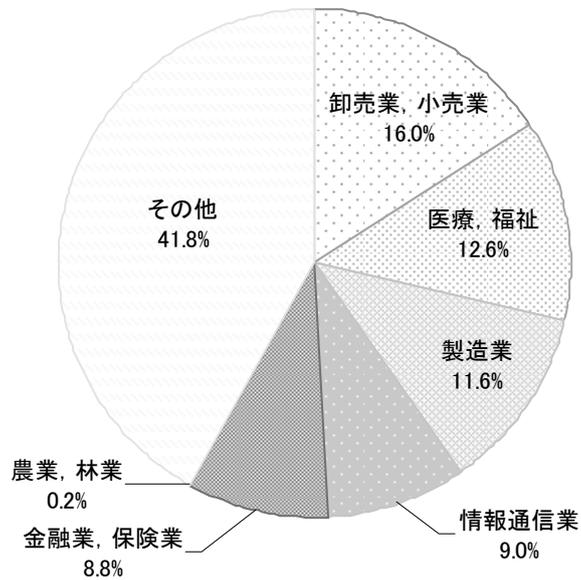




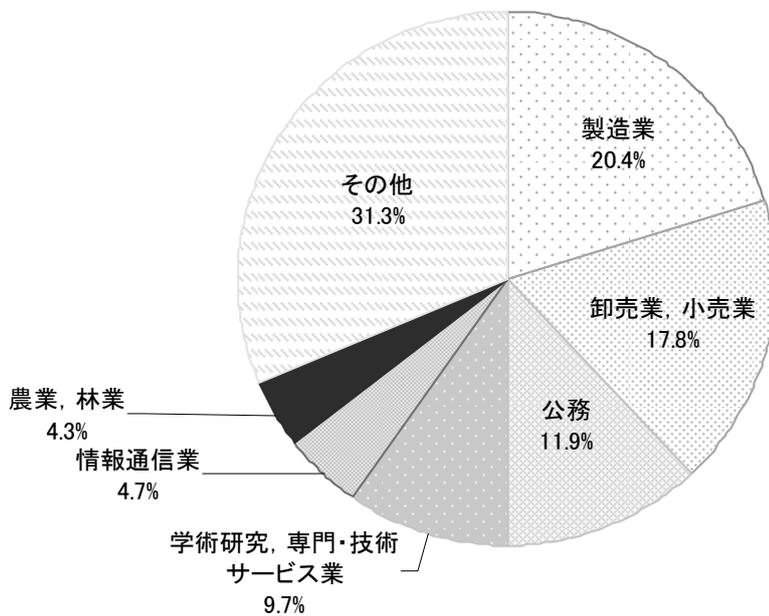
全国の林業新規就業者数の推移(就業先別)

(出典: 林野庁HP「林業労働力の動向」(<http://www.rinya.maff.go.jp/j/routai/koyou/01.html>))

大卒者の産業別就職者数



平成29年度大学卒業者の産業別就職状況(全学部)(n=432,333)
(出典:文部科学省「学校基本調査」)



平成29年度大学卒業者の産業別就職状況(農学部)(n=12,019)
(出典:文部科学省「学校基本調査」)

経営体数等の推移

農業経営体数(全国) (経営体)

年度	(経営体)	
	農業経営体	法人経営
平成17年	2,009,380	19,136 (1.0%)
平成22年	1,679,084	21,627 (1.3%)
平成27年	1,377,266	27,101 (2.0%)
増減率	平成22年/17年	-16.4% 13.0%
	平成27年/22年	-18.0% 25.3%
	平成27年/17年	-31.5% 41.6%

(出典:農林水産省「農林業センサス」)

経営耕地面積規模別農業経営体数(全国) (経営体)

年度	経営耕地面積							全体	
	1ha未満	1.0~10.0ha	10.0~20.0ha	20.0~30.0ha	30.0~50.0ha	100.0ha	100.0ha以上		
平成17年	1,150,656	815,680	21,556	8,259	7,468	4,897	864	2,009,380	
平成22年	932,674	696,868	23,682	9,797	8,986	5,857	1,220	1,679,084	
平成27年	741,363	583,119	25,396	10,292	9,385	6,121	1,590	1,377,266	
増減率	平成22年/17年	-18.9%	-14.6%	9.9%	18.6%	20.3%	19.6%	41.2%	-16.4%
	平成27年/22年	-20.5%	-16.3%	7.2%	5.1%	4.4%	4.5%	30.3%	-18.0%
	平成27年/17年	-35.6%	-28.5%	17.8%	24.6%	25.7%	25.0%	84.0%	-31.5%

(出典:農林水産省「農林業センサス」)

林家・林業経営体の数(全国) (林家:戸、林業経営体:経営体)

年度	林家 ¹⁾	林業経営体 ²⁾	
		林業経営体 ²⁾	法人経営
平成17年	919,833	200,224	8,500 (4.2%)
平成22年	906,805	140,186	6,789 (4.8%)
平成27年	828,973	87,284	5,599 (6.4%)
増減率	平成22年/17年	-1.4%	-30.0% -20.1%
	平成27年/22年	-8.6%	-37.7% -17.5%
	平成27年/17年	-9.9%	-56.4% -34.1%

(出典:農林水産省「農林業センサス」)

1) 保有山林面積が1ha以上の世帯

2) 次のいずれかに該当。①保有山林面積が3ha以上かつ過去5年間に林業作業を行うか森林経営計画又は林業施業計画を策定している、②受託を受けていく林を行っている、③委託や立木の購入により過去1年間に200㎡以上の素材生産を行っている

林家・林業経営体の数と保有山林面積(全国)

(林家:戸、林業経営体:経営体)

区分	年度	保有山林面積					全体	
		1~5ha	5~10ha	10~50ha	50~100ha	100ha以上		
林家	平成17年度	691,774	120,453	97,467	6,900	3,239	919,833	
	平成22年度	680,686	119,292	96,672	6,797	3,358	906,805	
	平成27年度	616,687	110,944	90,980	6,715	3,647	828,973	
	増減率	平成22年/17年	-1.6%	-1.0%	-0.8%	-1.5%	3.7%	-1.4%
	平成27年/22年	-9.4%	-7.0%	-5.9%	-1.2%	8.6%	-8.6%	
	平成27年/17年	-10.9%	-7.9%	-6.7%	-2.7%	12.6%	-9.9%	
林業経営体	平成17年度	67,378	59,869	61,386	6,347	5,244	200,224	
	平成22年度	43,691	41,264	45,857	4,892	4,482	140,186	
	平成27年度	26,014	24,391	29,687	3,572	3,620	87,284	
	増減率	平成22年/17年	-35.2%	-31.1%	-25.3%	-22.9%	-14.5%	-30.0%
	平成27年/22年	-40.5%	-40.9%	-35.3%	-27.0%	-19.2%	-37.7%	
	平成27年/17年	-61.4%	-59.3%	-51.6%	-43.7%	-31.0%	-56.4%	

(出典:農林水産省「農林業センサス」)

1)保有山林面積が1ha以上の世帯

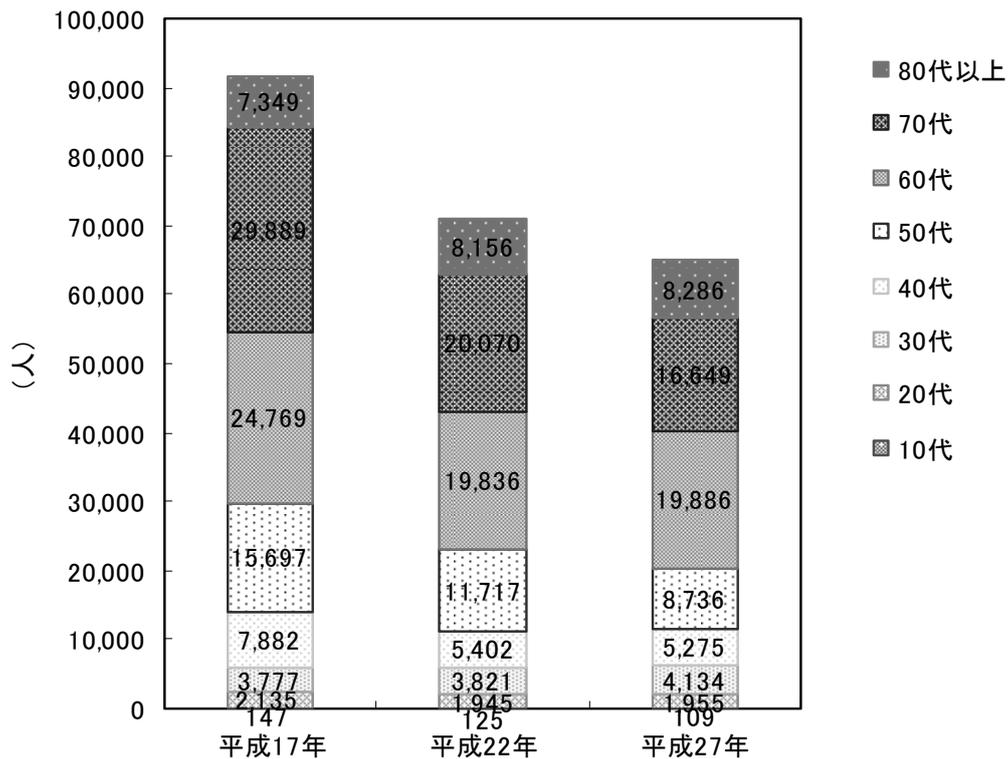
2)次のいずれかに該当。①保有山林面積が3ha以上かつ過去5年間に林業作業を行うか森林経営計画又は林業施業計画を策定している、②受託を受けて育林を行っている、③委託や立木の購入により過去1年間に200㎡以上の素材生産を行っている

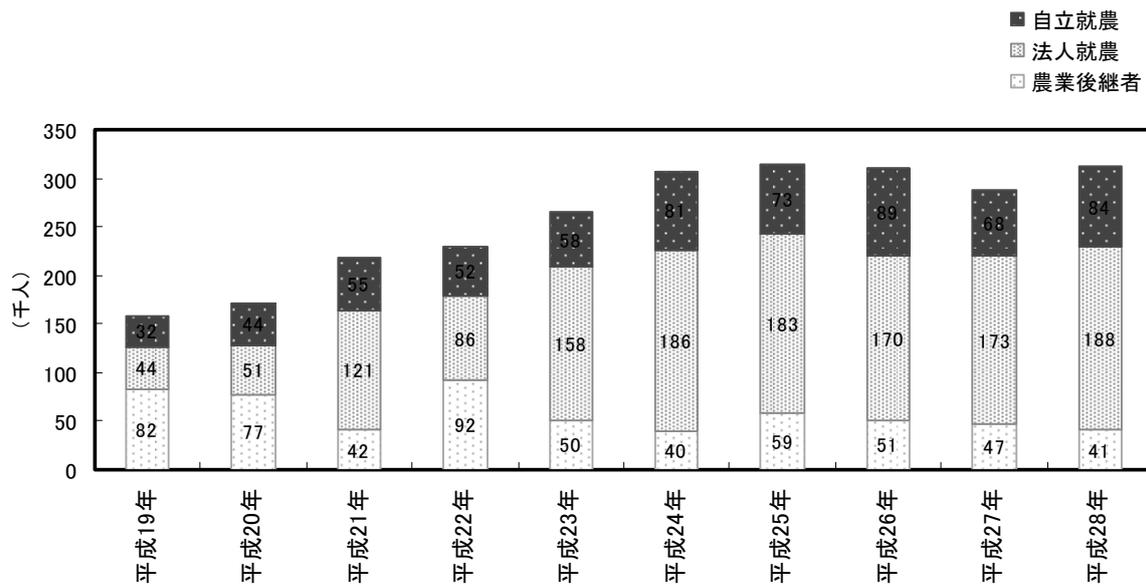
農業への就業者状況（静岡県）

農業就業者数(静岡県)

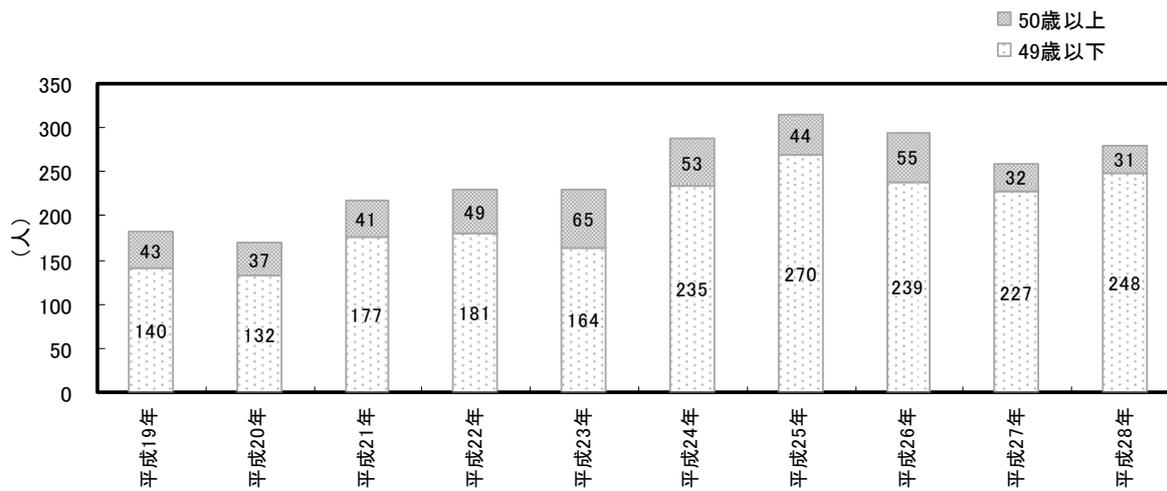
年代	平成17年		平成22年		平成27年		増減率 H27/H17
	総数(人)	(%)	総数(人)	(%)	総数(人)	(%)	
10代	147	(0.2%)	125	(0.2%)	109	(0.2%)	-25.9%
20代	2,135	(2.3%)	1,945	(2.7%)	1,955	(3.0%)	-8.4%
30代	3,777	(4.1%)	3,821	(5.4%)	4,134	(6.4%)	9.5%
40代	7,882	(8.6%)	5,402	(7.6%)	5,275	(8.1%)	-33.1%
50代	15,697	(17.1%)	11,717	(16.5%)	8,736	(13.4%)	-44.3%
60代	24,769	(27.0%)	19,836	(27.9%)	19,886	(30.6%)	-19.7%
70代	29,889	(32.6%)	20,070	(28.2%)	16,649	(25.6%)	-44.3%
80代以上	7,349	(8.0%)	8,156	(11.5%)	8,286	(12.7%)	12.8%
合計	91,645	(100.0%)	71,072	(100.0%)	65,030	(100.0%)	-29.0%

(出典:総務省「国勢調査」)





静岡県の就農形態別新規就農者の推移
 (出典: 静岡県農業ビジネス課「新規就農者の実態調査結果」)



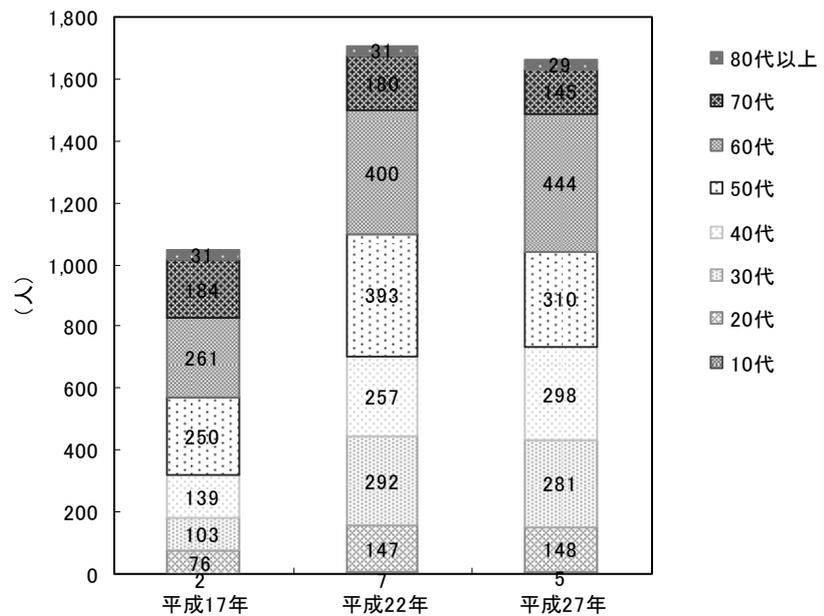
静岡県の年齢別新規就農者の推移
 (出典: 農林水産省「新規就農者調査」)

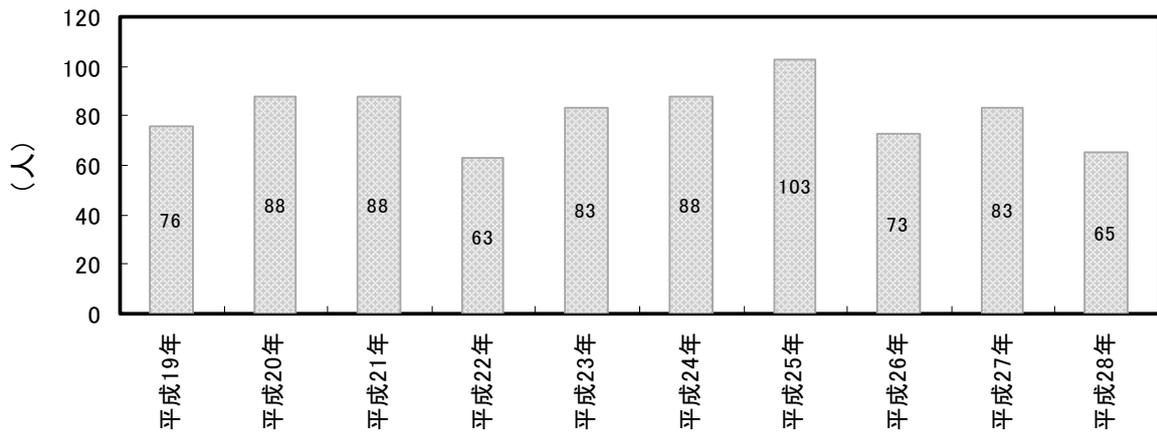
林業への就業状況（静岡県）

林業就業者数（静岡県）

年代	平成17年		平成22年		平成27年		増減率 H27/H17
	総数(人)	(%)	総数(人)	(%)	総数(人)	(%)	
10代	2	(0.2%)	7	(0.4%)	5	(0.3%)	150.0%
20代	76	(7.3%)	147	(8.6%)	148	(8.9%)	94.7%
30代	103	(9.8%)	292	(17.1%)	281	(16.9%)	172.8%
40代	139	(13.3%)	257	(15.1%)	298	(18.0%)	114.4%
50代	250	(23.9%)	393	(23.0%)	310	(18.7%)	24.0%
60代	261	(25.0%)	400	(23.4%)	444	(26.7%)	70.1%
70代	184	(17.6%)	180	(10.5%)	145	(8.7%)	-21.2%
80代以上	31	(3.0%)	31	(1.8%)	29	(1.7%)	-6.5%
合計	1,046	(100.0%)	1,707	(100.0%)	1,660	(100.0%)	58.7%

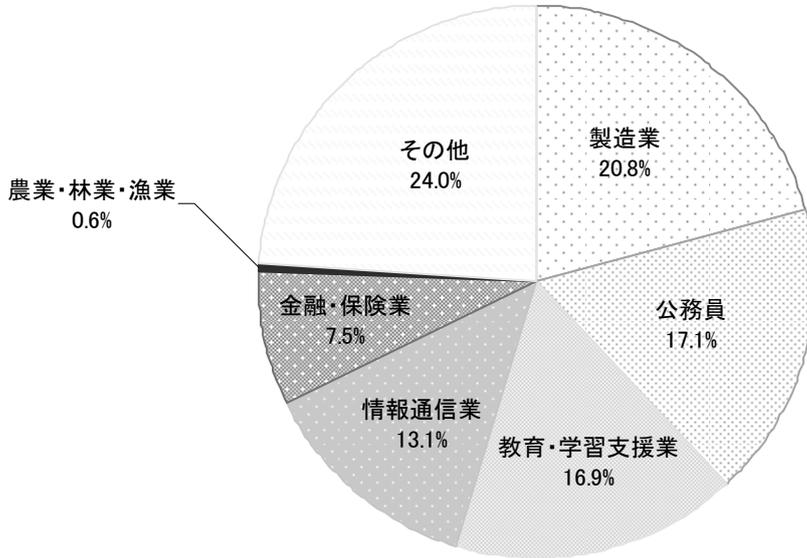
(出典：総務省「国勢調査」)



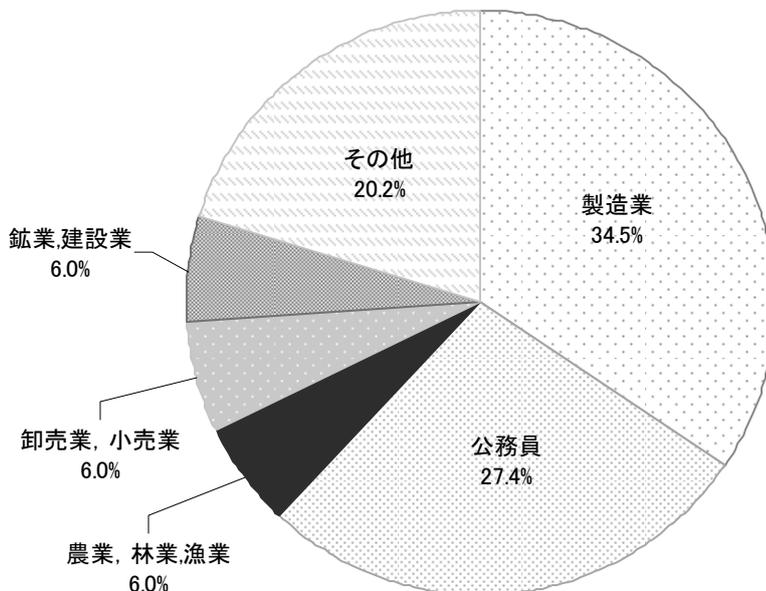


静岡県林業新規就業者数の推移
(出典:静岡県林業振興課調べ)

近隣大学の産業別就職者数



平成29年度静岡大学卒業者の産業別就職状況(全学部)(n=1,233)
 (出典:静岡大学「卒業生の進路状況」
<http://www.career.ipc.shizuoka.ac.jp/students/data/>)



平成29年度静岡大学卒業者の産業別就職状況(農学部)(n=84)
 (出典:静岡大学「卒業生の進路状況」
<http://www.career.ipc.shizuoka.ac.jp/students/data/>)

経営体数等の推移

農業経営体数(静岡県) (経営体)

年度	農業経営体	
	農業経営体	法人経営
平成17年	47,209	473 (1.0%)
平成22年	40,102	443 (1.1%)
平成27年	33,143	562 (1.7%)
増減率	平成22年/17年	-15.1%
	平成27年/22年	-17.4%
	平成27年/17年	-29.8%

(出典:農林水産省「農林業センサス」)

経営耕地面積規模別農業経営体数(静岡県) (経営体)

年度	経営耕地面積							全体	
	1ha未満	1.0~10.0ha	10.0~20.0ha	20.0~30.0ha	30.0~50.0ha	100.0ha	100.0ha以上		
平成17年	33,062	13,943	126	48	25	4	1	47,209	
平成22年	27,283	12,554	174	45	30	12	4	40,102	
平成27年	22,125	10,673	233	51	45	12	4	33,143	
増減率	平成22年/17年	-17.5%	-10.0%	38.1%	-6.3%	20.0%	200.0%	300.0%	-15.1%
	平成27年/22年	-18.9%	-15.0%	33.9%	13.3%	50.0%	0.0%	0.0%	-17.4%
	平成27年/17年	-33.1%	-23.5%	84.9%	6.3%	80.0%	200.0%	300.0%	-29.8%

(出典:農林水産省「農林業センサス」)

林家・林業経営体の数(静岡県) (林家:戸、林業経営体:経営体)

年度	林家 ¹⁾	林業経営体 ²⁾	
		林業経営体	法人経営
平成17年	19,617	4,259	234 (5.5%)
平成22年	19,889	2,881	164 (5.7%)
平成27年	19,169	1,964	138 (7.0%)
増減率	平成22年/17年	1.4%	-32.4%
	平成27年/22年	-3.6%	-31.8%
	平成27年/17年	-2.3%	-53.9%

(出典:農林水産省「農林業センサス」)

1) 保有山林面積が1ha以上の世帯

2) 次のいずれかに該当。①保有山林面積が3ha以上かつ過去5年間に林業作業を行うか森林経営計画又は林業施業計画を策定している、②受託を受けていく林を行っている、③委託や立木の購入により過去1年間に200㎡以上の素材生産を行っている

林家・林業経営体の数と保有山林面積(静岡県)

(林家:戸、林業経営体:経営体)

区分	年度	保有山林面積					全体	
		1~5ha	5~10ha	10~50ha	50~100ha	100ha以上		
林家	平成17年度	14,056	2,529	2,547	330	155	19,617	
	平成22年度	14,323	2,535	2,570	307	154	19,889	
	平成27年度	13,647	2,527	2,526	301	168	19,169	
	増減率	平成22年/17年	1.9%	0.2%	0.9%	-7.0%	-0.6%	1.4%
	平成27年/22年	-4.7%	-0.3%	-1.7%	-2.0%	9.1%	-3.6%	
平成27年/17年	-2.9%	-0.1%	-0.8%	-8.8%	8.4%	-2.3%		
林業経営体	平成17年度	1,120	1,094	1,573	293	179	4,259	
	平成22年度	663	711	1,132	221	154	2,881	
	平成27年度	483	447	742	162	130	1,964	
	増減率	平成22年/17年	-40.8%	-35.0%	-28.0%	-24.6%	-14.0%	-32.4%
	平成27年/22年	-27.1%	-37.1%	-34.5%	-26.7%	-15.6%	-31.8%	
平成27年/17年	-56.9%	-59.1%	-52.8%	-44.7%	-27.4%	-53.9%		

(出典:農林水産省「農林業センサス」)

1)保有山林面積が1ha以上の世帯

2)次のいずれかに該当。①保有山林面積が3ha以上かつ過去5年間に林業作業を行うか森林経営計画又は林業施業計画を策定している、②受託を受けて育林を行っている、③委託や立木の購入により過去1年間に200㎡以上の素材生産を行っている

静岡県経済産業ビジョン

2018～2021

静岡県経済産業部

目次

「静岡県経済産業ビジョン2018～2021」の概要

I 策定の趣旨	1
II 計画の期間	1
III 計画の実施	1
IV 計画の位置付け	1

成長戦略編

I 本県経済・産業の現状と課題	3
II 目指す「静岡県の姿」	9
III 「静岡県の姿」を実現する戦略展開の方針	9

分野編

就業支援編

基本方向 活躍しやすい環境の整備と働き方改革	27
(1) 県内産業の成長を担う人材の確保	27
(2) 高度な知識と技術を持つ人材の育成	33
(3) 誰もがいきいきと働ける環境づくり	37
(4) 郷土を担う子どもたちの「生きる道」としての仕事を学ぶ環境づくり	43

産業革新編

基本方向1 静岡県産業成長戦略の推進	45
(1) 地域企業の事業活動の活発化	45
基本方向2 ふじのくにマーケティング戦略の推進	48
(1) 市場と生産が結びついた「ふじのくにマーケティング戦略」の推進	48
基本方向3 静岡県の試験研究機関に係る基本戦略の推進	53
(1) 本県産業の成長に貢献する「研究開発」	53
(2) 中小企業や農林水産業の「競争力強化」のための「技術支援」	56
(3) 「安全」で「安心」な県民生活を着実に実現するための「調査研究」	58
基本方向4 ふじのくにエネルギー総合戦略の推進	59
(1) 地域資源の活用による多様な分散型エネルギーの導入拡大	59
(2) 建築物の省エネ、ライフスタイル・ビジネススタイルの変革	65
(3) エネルギー産業の振興	68

商工業編

基本方向1 次世代産業の創出と展開	73
(1) 静岡新産業集積クラスターの推進	73
(2) 新たな成長産業の育成	79
(3) 企業誘致・定着の推進や海外市場の取り込みによる企業の活性化	87
基本方向2 富を支える地域産業の振興	91
(1) 地域経済を牽引する企業の成長促進	91
(2) 中小企業の経営力向上と経営基盤強化	91
(3) 地域を支える魅力ある商業とサービス産業の振興	103

農業・農村編

基本方向1 A O I (アグリオープンイノベーション) プロジェクトの推進	109
(1) A O I (アグリオープンイノベーション) プロジェクトの推進	109
基本方向2 多様な人々が活躍する世界水準の農芸品の生産力強化	112
(1) 多彩な農芸品の生産拡大	112
(2) 次代を担う農業経営体の育成	119
(3) 農業の競争力強化と持続性を確保する基盤整備	122
(4) 市場と生産が結びついた「ふじのくにマーケティング戦略」の推進	125
基本方向3 環境と調和し、人々を惹きつける都づくりと農山村の再生	131
(1) 「食」、「茶」、「花」の都づくり	131
(2) 美しく活力のある農山村の創造	136

森林・林業編

基本方向1 森林資源の循環利用による林業の成長産業化	143
(1) 県産材の安定供給体制の確立	143
(2) ビジネス林業の定着	148
(3) 県産材製品の需要拡大	151
基本方向2 森林の多面的機能の維持・増進	155
(1) 森林の適正な整備	155
(2) 森林の適正な保全	157
(3) 魅力と強みを活かした山村づくり	162
基本方向3 県民総参加による持続的で魅力的な森づくり活動の推進	165
(1) 県民の理解と参加の促進	165

水産業編

基本方向 水産王国静岡の持続的発展の推進	171
(1) 生産・流通・消費の好循環を生み出す水産振興対策の推進	171
(2) 海・川の恵みの持続的な利用の確保	176
(3) 次世代の漁業を担う人・組織づくり	179
(4) 水産物の資源管理・資源増殖等を推進する先端的な研究開発の推進	182

数値目標一覧	185
--------	-----

データ編

I 経済産業の概況	205
II 雇用・就業環境の現状	219
III 商工業の現状	231
IV 農業・農村の現状	241
V 森林・林業の現状	249
VI 水産業の現状	259
VII エネルギーの現状	269

「静岡県経済産業ビジョン 2018～2021」の概要

I 策定の趣旨

県は、2011年（平成23年）3月に、「静岡県の地域資源の活用と新しい価値の創造によるものづくりの振興に関する条例（一流のものづくり・ものづかい振興条例）」を制定するとともに、同条例第9条に規定する実施計画として、「静岡県経済産業ビジョン」を策定しました。

経済産業ビジョン策定後の本県を取り巻く社会経済情勢は、人口減少・少子高齢化の進行による人手不足の顕在化や、IoT、人工知能（AI）、ロボット技術などに代表されるテクノロジーの急速な進展、従来のガソリン車から電気自動車（EV）など次世代自動車への世界的なシフト、東日本大震災後のエネルギーを取り巻く環境の激変など、大きな転換点を迎えています。

こうした環境の変化への対応を図り、静岡県の新ビジョン（総合計画）を着実に実施するため、「静岡県経済産業ビジョン 2018～2021」を策定します。

II 計画の期間

2018年度から2021年度までの4年間とします。

III 計画の実施

施策の実施に当たっては、県の各部局と連携しながら、商工業や農林水産業、労働関係の各団体や市町、企業、大学、県民の方々と協働して取り組みます。

なお、社会経済情勢の変化を踏まえた最適な手法の選択や施策の重点化を図るなど、計画の不断の見直しを実施します。

IV 計画の位置付け

- ・ 「静岡県の新ビジョン 富国徳の美しい“ふじのくに”の人づくり・富づくり」（静岡県総合計画）基本計画の実施計画
- ・ 「一流のものづくり・ものづかい振興条例」第9条に規定する実施計画
- ・ 「静岡県中小企業・小規模企業振興基本条例」第12条に規定する計画（商工業編のみ）
- ・ 「静岡県民の豊かな暮らしを支える食と農の基本条例」第9条に規定する基本計画（農業・農村編のみ）
- ・ 「静岡県森林と県民の共生に関する条例」第11条に規定する計画（森林・林業編のみ）
- ・ 「地域資源を活用した農林漁業者等による新事業の創出等及び地域の農林水産物の利川促進に関する法律（六次産業化・地産地消法）」第41条に基づく地域の農林水産物の利用の促進についての計画（農業・農村編、水産業編のうち六次産業化・地産地消法第40条の基本方針に規定する事項のみ）

【総合計画と経済産業ビジョンの位置づけ】

静岡県総合計画・静岡県の新ビジョン
富国有徳の「美しい“ふじのくに”」の人づくり・富づくり

【基本構想】

- 第1章 新ビジョンの位置付け
- 第2章 時代潮流
- 第3章 本県が直面する課題
- 第4章 新ビジョンの基本方針
- 第5章 政策体系と行政経営
- 第6章 地域づくりの基本方向

＜基本理念＞

富国有徳の「美しい“ふじのくに”」づくり
ドリームズ 県 トータル イン ジャパン
 ～静岡県を*Dreams come true in Japan*の拠点に～

＜目指す姿＞

「県民幸福度」の最大化
 ＜生まれてよし 老いてよし＞ ＜生んでよし 育ててよし＞
 ＜学んでよし 働いてよし＞ ＜住んでよし 訪れてよし＞

【基本計画】

- I 政策体系
 - 1 命を守る安全な地域づくり
 - 2 安心して暮らせる医療・福祉の充実
 - 3 子どもが健やかに学び育つ社会の形成
 - 4 誰もが活躍できる社会の実現
 - 5 富をつくる産業の展開
 - 6 多彩なライフスタイルの提案
 - 7 “ふじのくに”の魅力の向上と発信
 - 8 世界の人々との交流の拡大
- II 政策の実効性を高める行政経営
- III 地域の目指す姿

経済産業分野の主な取組

- 1-2 防災・減災対策の強化
 - (1) 地震・津波・火山災害対策
 - (2) 風水害・土砂災害対策
- 4-1 活躍しやすい環境の整備と働き方改革
 - (1) 産業人材の確保・育成
 - (2) 誰もがいきいきと働ける環境づくり
- 5-1 次世代産業の創出と展開
 - (1) 静岡新産業集積クラスターの推進
 - (2) 新たな成長産業の育成
 - (3) 企業誘致・定着の推進
- 5-2 富を支える地域産業の振興
 - (1) 地域経済を牽引する企業の成長促進
 - (2) 中小企業の経営力向上
 - (3) 中小企業の経営基盤強化
 - (4) 地域を支える魅力ある商業とサービス産業の振興
- 5-3 農林水産業の競争力の強化
 - (1) 世界水準の農芸品の生産力強化
 - (2) 森林資源の循環利用による林業の成長産業化
 - (3) 水産王国静岡の持続的発展の推進
 - (4) 市場と生産が結びついたマーケティング戦略の推進
- 6-1 魅力的なライフスタイルの創出
 - (2) 人々を惹きつける都づくり
 - (3) 美しく活力のある農山村の創造
- 6-3 エネルギーの地産地消
 - (1) 再生可能エネルギーの導入促進
 - (2) 省エネルギー社会の形成
 - (3) エネルギー産業の振興
- 7-3 美しい景観の創造と自然との共生
 - (1) 豊かな自然、文化、歴史に根ざした美しい景観の形成
 - (3) 森林との共生の推進
- 8-2 地域外交の深化と通商の実践
 - (3) 世界に開かれた通商の実践

静岡県経済産業ビジョン
2018～2021

- 成長戦略編
- 就業支援編
- 産業革新編
- 商工業編
- 農業・農村編
- 森林・林業編
- 水産業編

分野編【農業・農村編】

基本方向1 A O I（アグリオープンイノベーション）プロジェクトの推進

A I（人工知能）、A I（農業情報科学）、I o Tなど科学技術の急速な発展により、農業は生産性革命というべき大きな変革期を迎えています。

この大変革に対応し、農・食・健を総合した科学技術・産業において、産学官金・農商工連携のオープンイノベーションにより、農業を軸とした関連産業のビジネス展開を促進します。

(1) A O I（アグリオープンイノベーション）プロジェクトの推進

《現状・課題》

- ① 農業の生産性向上と関連産業のビジネス展開の促進
 - ・多彩な農産品が生産される場の力を活かし、本県農業の生産革新を促進するため、I C Tをはじめとする先端的な科学技術やものづくり技術の農業分野への応用が期待されています。
- ② A I 学習支援システムの開発と技術継承
 - ・生産者の高齢化に伴い、長年の経験から蓄積されてきた栽培技術が失われる危険性があるため、I C Tを活用した技術継承システムの開発が必要です。
- ③ 農業用ロボット開発の促進
 - ・農業の労働生産性を高めるため、農作業の省力化や合理化を飛躍的に進める技術開発が必要です。

《取組の方向》

- ① 農業の生産性向上と関連産業のビジネス展開の促進
 - ・A O I－P A R C（アオイパーク）を拠点とした、産学官金の多様な参画を得たオープンイノベーション（A O Iフォーラム）により、農業の生産性向上と、農・食・健が連携する関連産業のビジネス展開を促進します。
- ② A I 学習支援システムの開発と技術継承
 - ・栽培技術を「見える化」するA I（農業情報科学：Agri-Info science）による学習支援システムの充実と産地導入に取り組めます。
- ③ 農業用ロボット開発の促進
 - ・農業、製造業といった業種の枠組みを超えた技術知見を結集し、農作業の省力化、自動化、軽労力化を可能にする農業用ロボットの研究・開発を支援します。

《数値目標》

区分	指標名	現状値	目標値	総合計画
指標 成果	A O Iプロジェクト事業化件数	—	(2018～2021年度) 累計22件	○
活動 指標	A O Iフォーラム参画会員数	—	(2021年度) 200会員	○
	A I学習支援システム導入産地数	(2015年度) 2産地	(2021年度) 6産地	
	農業用ロボットの開発に係るマッチング件数	—	(2021年度まで) 累計25件	

基本方向2 多様な人々が活躍する世界水準の農芸品の生産力強化

本県では、温暖な気候や豊かな自然を活かし、多彩で高品質な農産物が生産されていますが、国内外との競争を見据えた生産性、収益性の向上や、就業者の減少や高齢化への対応、海外市場の取り込みなどが課題となっています。

このため、農地集積・集約化、農業経営体の育成、農業生産基盤の整備、マーケットインの考え方に基づく生産体制の確立などにより、農業の生産力強化を図ります。

(1) 多彩な農芸品の生産拡大

〈現状・課題〉

① 土地利用型農業の生産性向上と規模拡大

- ア 本県の扣い手への農地集積率は 42.3%に留まっており、水田における扣い手への農地集積は進んでいるものの、本県耕地面積の 40%を占める樹園地の農地集積が進んでいません。
- イ 荒廃農地は、平成 21 年度から 28 年度までに 3,536ha を解消しましたが、新規発生が上回ったため、平成 28 年度で 5,738ha 存在しています。
- ウ 本県の耕地利用率は平成 27 年度で 94%に留まっており、米の需要が年々減少していく中で、露地野菜等の作付拡大による水田の有効活用が求められています。
- エ 国内外におけるお茶の消費構造が変化する中、本県の茶生産は依然としてリーフ向けの煎茶生産が主体であり、需要に即した生産体制が構築されていません。
- オ 果樹産地では、栽培面積の減少による供給量不足や、農繁期の労力不足が懸念されており、販売面では消費者ニーズの多様化への対応が求められています。
- カ 近年増加している企業や大規模農業法人の参入に対応するため、ワンストップ相談窓口や農地の確保に向けた支援体制の整備が必要となっています。

② 次世代型大規模施設園芸や畜産クラスターの整備

- ア 国内の施設野菜の需要が伸びる一方、本県の施設野菜の栽培面積は伸びていないため、市場ニーズの高い葉物野菜、いちご等の生産拡大が必要となっています。
- イ 施設面積の拡大と合わせて、施設野菜や花きの生産性向上が必要となっています。
- ウ 国内における畜産物の需要が伸びる一方、本県の畜産物生産量は増えていません。
- エ 畜産経営の安定的な発展や畜産物の生産拡大には、家畜伝染病の予防・まん延防止と地域環境に調和した畜産業の確立が必要です。

③ GAP（農業生産工程管理）の推進

- ア 農業者がGAP認証を取得する必要性は高まっていますが、生産現場では国際水準GAPの指導者が不足しており、農業者が十分な指導を受けることができる体制になっていません。また、GAP認証取得は、費用がかかる上、農業者・流通業者・消費者のGAPへの理解が一部に限られていることから、取得が進んでいません。

〈取組の方向〉

① 土地利用型農業の生産性向上と規模拡大

- ア 農業生産を維持・発展させるため、地域の中心となる経営体への農地の集積・集約化により、農地の有効活用を推進します。
- イ 再生可能な荒廃農地の再生利用を支援する一方、再生困難なものは非農地化を推進します。また、荒廃化のおそれがある農地は農地中間管理事業による併受等により予防を図ります。
- ウ 水稲収穫後の水田を有効活用し、省力・機械化技術の導入・普及により、加工・業務用需

(2) 次代を担う農業経営体の育成

《現状・課題》

- 高度農業人材の育成と雇用対策
 - ア 担い手の高齢化や廃業が進む一方、農業経営の法人化や規模拡大により人材ニーズが変化したことにより、現場の即戦力となる高い技術や経営管理能力を持った人材が求められています。
 - イ 農業経営に参画する女性の比率が低く、女性の能力が十分に活用されていません。
 - ウ 農業経営体の経営計画実現のため、企業的経営を志向するビジネス経営体や認定農業者の経営の発展段階に応じたきめ細かな対応が求められています。
 - エ 建設業や製造業など多くの産業で労働力不足が広がる中で、農繁期の短期雇用の確保が厳しい状況にあります。

《取組の方向》

- 高度農業人材の育成と雇用対策
 - ア 市町や関係団体等と連携し、技術習得や農業法人への就職支援、就農後のフォローアップなどの実施により、青年の新規就農と定着を支援します。
高度な実践力と豊かな創造力を兼ね備えた農林業人材を養成するため、農林大学校の専門職大学への移行を進めます。
 - イ 農業での起業、就業を目指す女性層の拡大や経営への積極的な参画を支援し、女性経営者を育成します。
 - ウ ビジネス経営体や認定農業者の育成、それを支える経営幹部や後継者となる人材の養成、経営計画の実現や経営の安定化に向けた支援の充実を図ります。
 - エ 女性・高齢者や障害のある人など多様な人材の活用により、労働力確保に向けた取組を支援していきます。

《数値目標》

区分	指標名	現状値	目標値	総合計画
成果指標	ビジネス経営体販売額	(2016年度) 821億円	(2021年度) 1,200億円	
	農業法人数	(2016年度) 788法人	(2021年度) 1,000法人	○
	新規農業就業者数	(2016年度) 334人/年	(2021年度) 340人/年	
活動指標	農業経営に参加する女性の比率	(2016年度) 4.7%	(2021年度) 7.0%	

《主な取組》

① 高度農業人材の育成と雇用対策

ア 次代の農業経営を担う人材育成の強化

- ・ 生産技術・経営ノウハウを習得する研修や就農計画の作成、資金支援により、非農家出身者(ニューファーマー)の自立就農を支援するとともに、農家後継者の新分野進出を促進します。
- ・ 農業体験やマッチングにより、農業法人等への就職を促進するとともに、雇用の安定確保を支援します。
- ・ 農林大学校の専門職大学への移行により、次代の農林業を支える人材を養成するとともに、社会人教育を充実します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
ニューファーマー等の確保・育成	ニューファーマー養成に向けた研修の実施			
	研修参加者 25人/年	研修参加者 25人/年	研修参加者 25人/年	研修参加者 25人/年
農業法人等への就職促進	農業体験研修や農業法人とのマッチング等の実施			
	農業体験参加者 60人/年	農業体験参加者 60人/年	農業体験参加者 60人/年	農業体験参加者 60人/年
農林大学校の専門職大学への移行	閉学準備		既学	
			入学者125人/年	入学者125人/年

イ 女性経営者の育成

- ・ 女性農業経営者の活動状況の情報発信や、若手女性農業者のネットワーク化を推進します。
- ・ 農業に関心のある女性に対し、就農に向けた意識醸成や就労意欲の喚起、働きやすい環境づくりへの支援を行います。
- ・ 農山漁村地域で活躍する女性農業者リーダーを育成するための研修や交流会を開催します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
若手女性農業者のネットワークの構築		ネットワーク参加者数		
	40人	60人	80人	100人
女性農業者リーダーの育成	女性農業者の公職委嘱数			
	135	140	145	150

ウ コンサルティング手法を取り入れたビジネス経営体等の支援

- ・ ビジネス経営体を伴走支援する専任チームにより、コンサルティング活動を中心とした支援を強化します。
- ・ 民間専門家の派遣により、法人化、経営継承、労務管理などの企業的経営管理手法やマ

ーケティング手法、生産工程管理などの導入を支援します。

- ・ 経営を学ぶ講座の開催(経営戦略講座やアグリビジネス実践スクール、ふじのくにアグリカレッジ)により、経営計画の作成や計画の実行支援、経営幹部や後継者等の資質向上を図ります。
- ・ 全国農業担い手サミットの本県開催を契機として、認定農業者等の経営発展への意欲向上や組織活動の活性化を図ります。
- ・ 農業経営体の経営発展に向けて、施設・機械の整備に必要な制度資金の活用を支援します。
- ・ 農業保険法の中に新たに創設された収入保険制度を周知し、セーフティネットの強化を図ります。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
経営体支援チームによる半走型経営支援		巡回支援する経営体数		
	1,000経営体/年	1,000経営体/年	1,000経営体/年	1,000経営体/年
専門家派遣による企業的経営管理手法等の導入支援		専門家派遣回数		
	150回/年	150回/年	150回/年	150回/年
ビジネス経営体等の経営発展及び幹部人材の養成支援		経営講座の受講者数		
	110人/年	110人/年	110人/年	110人/年
認定農業者等の活動支援	全国担い手サミット イベントの開催	全国担い手サミット の開催	地域サミットの開催	
	参加者100人/年	参加者2,000人/年	参加者200人/年	参加者200人/年

エ 多様な人材の活用

- ・ 求人情報の提供や就労体験機会の提供など、女性や高齢者などの幅広い人材の活用を支援します。
- ・ 雇用を確保するための情報提供や、品日間での労働力を相互補完する取組など、各地区が独自に労働力を確保できる仕組みづくりを支援します。
- ・ 障害のある人が農業や園芸活動に携われるユニバーサル園芸を普及するため、農業経営体への受入促進と、農業と福祉分野の連携を推進します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
幅広い人材の確保支援	短期雇用の確保に向けた取組地区数	モデル地区における自主的な労働力確保の取組支援		
	8地区/年	8地区/年	8地区/年	8地区/年
ユニバーサル園芸の普及		障害のある人を受け入れる農業経営体数		
	40経営体/年	45経営体/年	50経営体/年	55経営体/年

分野編【森林・林業編】

基本方向1 森林資源の循環利用による林業の成長産業化

県内の木材生産量は、県産材の需要と供給を一体的に創造する「ふじのくに森林・林業再生プロジェクト」に取り組んだ結果、平成22年を底にV字回復しましたが、ニーズに応じた安定供給体制の確立が課題となっています。

このため、県産材の安定供給体制の確立や、ビジネス林業の定着、県産材製品の需要拡大により、森林資源の循環利用による林業の成長産業化を進めます。

(1) 県産材の安定供給体制の確立

〈現状・課題〉

① 低コスト生産システム

- ・木材生産量は、「ふじのくに森林・林業再生プロジェクト」に取り組んだ結果、19年ぶりに10万㎡を超えましたが、低コストで安定して丸太を生産するシステムが定着しておらず、需要者のニーズに対し年間を通じて安定した丸太の供給ができていません。

② 主伐と再造林

- ・人工林は、林業の採算性の低下から主伐及び再造林面積が年々減少し、20年生以下の若齢林が極端に少ない偏った林齢構成となっています。一方、植栽時期を選ばないコンテナ苗や、成長が速いエリートツリー、設置費が安価な斜め張りシカ防護柵など、造林コストの低下に向けた新たな技術が開発されています。

③ 県産材の流通

- ・製材工場や合板工場では、定時・定量な丸太の安定供給が求められています。そこで、丸太供給協定の締結促進や原木選別評価士の養成支援などに取り組んだ結果、市場を介さずに丸太を山から工場に直接運搬する「直送取引」が増加しています。しかし、合板用丸太の供給量は、平成28年度時点で丸太供給協定の約7割に留まっています。

④ 森林認証材の供給

- ・県内には、全国4位を誇る約5万8,000haの森林認証林があり、約10万㎡の認証材が生産されています。東京2020オリンピック・パラリンピックでは、持続可能性に配慮した材料の調達コードが定められ、木材においては森林認証材がこれに合致するものとして明記されました。これをきっかけに、国内における森林認証制度の認知度が大きく向上し、今後、森林認証材の需要の拡大が見込まれています。

〈取組の方向〉

① 低コスト生産システム

- ・森林整備の集約化、林内路網の整備、高性能林業機械の導入などにより、低コスト生産システムの定着を促進します。

② 主伐と再造林

- ・低コスト主伐・再造林システムの確立により、主伐と再造林を促進します。

③ 県産材の流通

- ・木材生産、流通、加工に関わるすべての関係者が参加し、情報の共有化を行うプラットフォームの構築により、県産材の流通の最適化を図ります。

④ 森林認証材の供給

- ・森林認証林の拡大により、森林認証材の安定供給体制を構築します。

解決への取組を支援します。

- ・ ビジネス林業に取り組んでいる林業経営体に対し、更なる生産性の向上に向けたステップアップを支援します。
- ・ 林業経営体に対し、車両系（ハーベスタ又はプロセッサとフォワーダ）や架線系（タワーヤーダとプロセッサ）の生産システムを、森林の立地条件に応じて適切に選択するよう促します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
労働生産性の向上	ビジネス林業の定着を図る事業体数(累計)			
	27事業体	38事業体	49事業体	60事業体

ウ 就労環境の向上

- ・ 改善計画の認定を通じて、林業経営体の雇用環境などの向上の取組を支援します。
- ・ 林業経営体の社会保障の充実や労働安全の向上に対する取組を支援します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
就労環境の向上	林業経営体の雇川環境改善の取組を支援			

② 森林技術者の育成・確保

ア 林業への新規就業の促進

- ・ 静岡県林業労働力確保支援センターと連携し、林業の仕事の内容や就業条件などを情報提供するガイダンスや、林業体験会を開催します。
- ・ 林業経営体に対し、就業を希望する者の試用雇用を支援します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
林業への新規就業の促進	静岡県林業労働力確保支援センターの支援			
	100人	林業への新規就業者数 100人	100人	100人

イ 農林大学校における人材の育成

- ・ 森林・林業に関する幅広い知識を習得し、森林の多面的機能の向上と持続的な林業経営に貢献できる人材を育成します。
- ・ 農林大学校学生に対し、林業への就業に向けた研修の費用を支援します。
- ・ 農林大学校を、森林・林業に関する幅広い専門的な知識と理論に裏付けられた高度な実践力、課題対応能力を有する人材を育成する専門職大学に移行します。

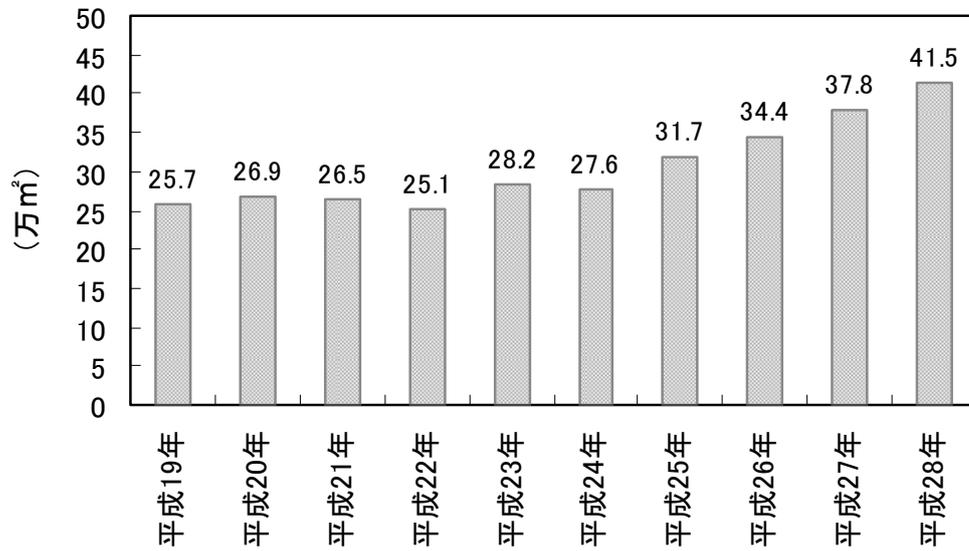
取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
農林大学校における人材の育成	専門職大学への移行準備		専門職大学の開学	

ウ 森林技術者などの能力向上

- ・ 木材生産などの林業技術を指導できる人材を育成します。
- ・ 技術者の林業技術と現場管理能力の習得を指導する全国森林組合連合会の県内での取組を支援します。
- ・ 林業経営体の職員に対し、森林GISやオープンデータの活用と、効率的な木材生産に必要な計画の作成を支援します（森林施業プランナー）。
- ・ 丈夫で簡易な路網を作設できるオペレーターや設計ができる技術者を育成します。

取組	2018(H30)	2019(H31)	2020(H32)	2021(H33)
森林技術者などの能力向上		林業技術・知識の習得を支援		
		適正な森林管理を担う森林技術者数(累計)		
	500人	500人	500人	500人

静岡県における木材生産量の推移



静岡県における木材生産量の推移
(出典:農林水産省「木材統計」(平成24年まで)、
静岡県森林整備課調べ(平成25年から))

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の
卒業生に対する企業等の採用意向に関するアンケート調査報告

平成30年9月

一般財団法人 日本開発構想研究所

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学
短期大学部（仮称）の卒業生に対する企業等の採用意向に関するアンケート調査報告

1. 調査概要

(1) 調査目的

2020年4月に予定している静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の開設に向けて、卒業生の就職が見込まれる、1都1道2府40県（静岡県、愛知県、岐阜県、三重県、東京都、神奈川県、山梨県、北海道、青森県、岩手県、宮城県、山形県、福島県、群馬県、栃木県、茨城県、埼玉県、千葉県、新潟県、石川県、福井県、富山県、長野県、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、和歌山県、兵庫県、岡山県、広島県、山口県、島根県、鳥取県、香川県、愛媛県、徳島県、高知県、福岡県、大分県、佐賀県、熊本県、長崎県、鹿児島県）に所在する企業等の採用担当者にアンケートを実施し、静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の卒業生に対する企業等の採用意向を把握することを目的とする。

(2) 調査対象

卒業生の就職が見込まれる農林業に関わる企業等を中心とした1,890社の採用担当者にアンケートへの協力を依頼し、526件の有効回答があった。

(3) 調査方法

卒業生の就職が見込まれる農林業に関わる企業等を中心とした1,890社の採用担当者にアンケート用紙及び静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の概要を示したリーフレットを送付し、アンケートを実施した。回答は一般財団法人日本開発構想研究所へ企業等から直接郵送。

集計結果より、静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の卒業生に対する採用意向を分析した。

(4) 調査実施期間

平成30年7月～平成30年8月

(5) 有効回収率等

配布数 : 1,890社

有効回答数 : 526件

有効回収率 : 約27.8%

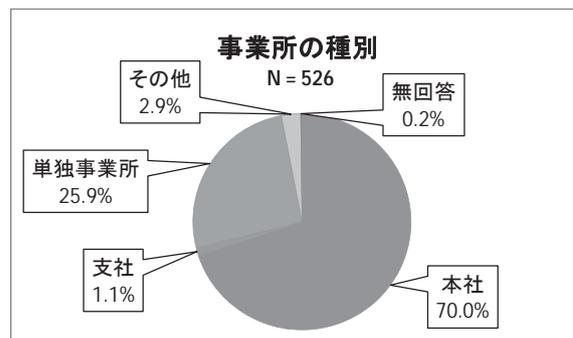
※設置を構想している静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部は仮称であるが、本文中ではその旨の表示を省略した。

2. 調査結果

(1) 事業所の種別について

事業所の種別について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「本社」が 368 件 (70.0%) と最も多く、次いで「単独事業所」136 件 (25.9%)、「その他」15 件 (2.9%)、「支社」6 件 (1.1%) の順になっている。 ※「無回答」1 件 (0.2%)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	本社	368	70.0
2	支社	6	1.1
3	単独事業所	136	25.9
4	その他	15	2.9
	無回答	1	0.2
	N (%ベース)	526	100

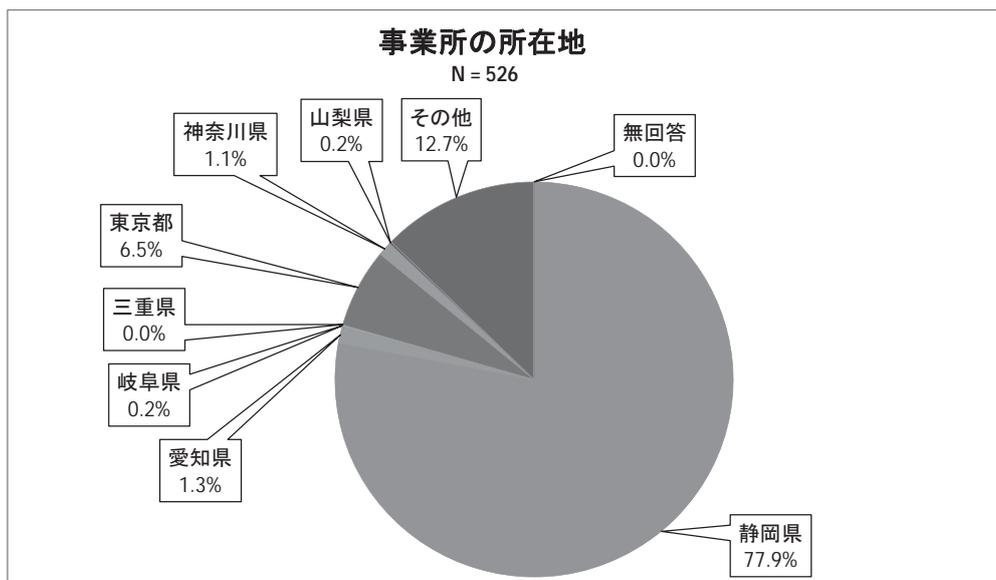


(2) 事業所の所在地について

事業所の所在地について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「静岡県」が 410 件 (77.9%) と最も多く、次いで「その他」67 件 (12.7%)、「東京都」34 件 (6.5%)、「愛知県」7 件 (1.3%)、「神奈川県」6 件 (1.1%)、「岐阜県」1 件 (0.2%)、「山梨県」1 件 (0.2%) の順になっている。 ※「無回答」0 件 (0.0%)

事業所の所在地

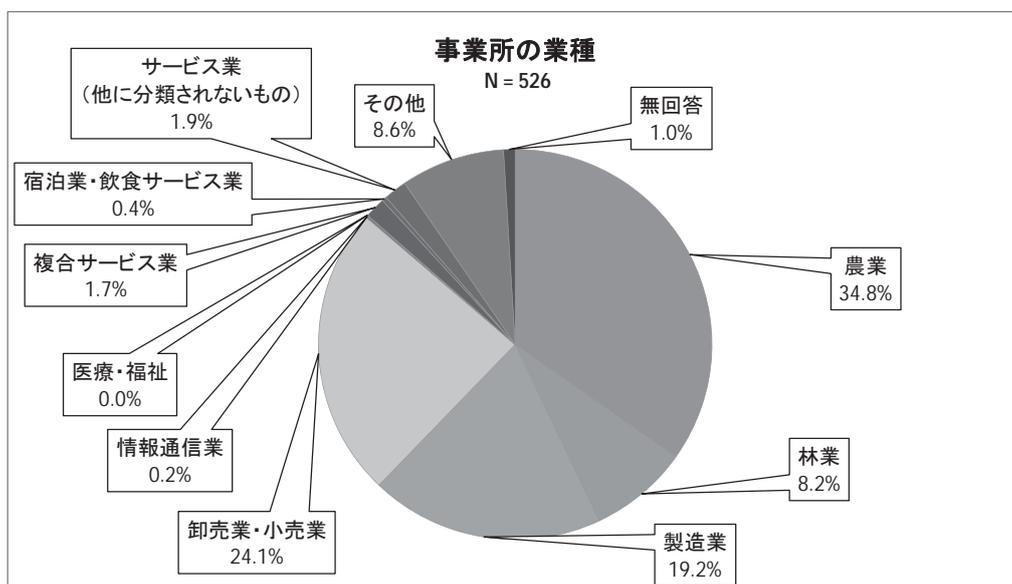
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	静岡県	410	77.9
2	愛知県	7	1.3
3	岐阜県	1	0.2
4	三重県	0	0.0
5	東京都	34	6.5
6	神奈川県	6	1.1
7	山梨県	1	0.2
8	その他	67	12.7
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	526	100



(3) 事業所の業種について

事業所の業種について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「農業」が 183 件 (34.8%) と最も多く、次いで「卸売業・小売業」127 件 (24.1%)、「製造業」101 件 (19.2%)、「その他」45 件 (8.6%)、「林業」43 件 (8.2%)、「サービス業(他に分類されないもの)」10 件 (1.9%)、「複合サービス業」9 件 (1.7%)、「宿泊業・飲食サービス業」2 件 (0.4%)、「情報通信業」1 件 (0.2%) の順になっている。 ※「無回答」5 件 (1.0%)

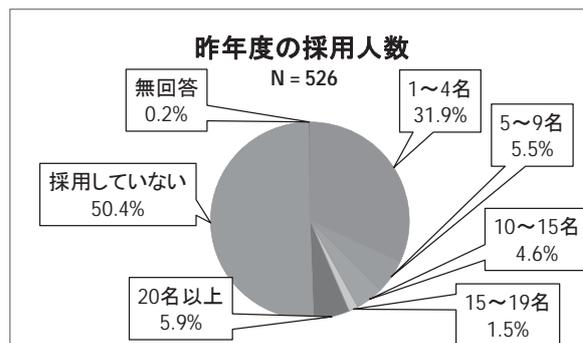
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農業	183	34.8
2	林業	43	8.2
3	製造業	101	19.2
4	卸売業・小売業	127	24.1
5	情報通信業	1	0.2
6	医療・福祉	0	0.0
7	複合サービス業	9	1.7
8	宿泊業・飲食サービス業	2	0.4
9	サービス業(他に分類されないもの)	10	1.9
10	その他	45	8.6
	無回答	5	1.0
	N (%ベース)	526	100



(4) 昨年度の採用人数について

昨年度の採用人数について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「採用していない」が265件 (50.4%) と最も多く、次いで「1～4名」が168件 (31.9%)、「20名以上」31件 (5.9%)、「5～9名」29件 (5.5%)、「10～15名」24件 (4.6%)、「15～19名」8件 (1.5%) の順になっている。 ※「無回答」1件 (0.2%)

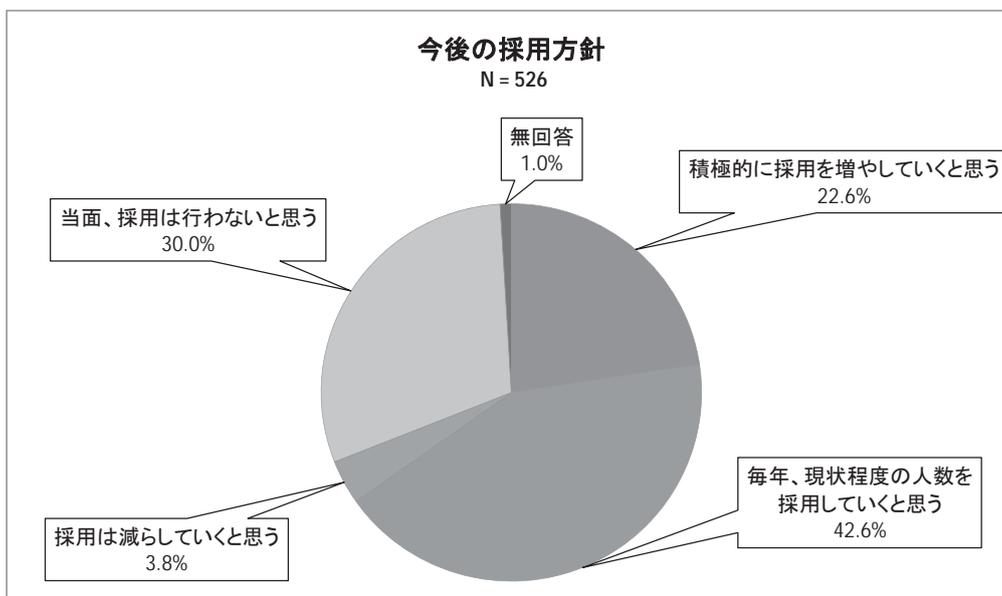
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1～4名	168	31.9
2	5～9名	29	5.5
3	10～15名	24	4.6
4	15～19名	8	1.5
5	20名以上	31	5.9
6	採用していない	265	50.4
	無回答	1	0.2
	N (%ベース)	526	100



(5) 今後の採用方針について

今後の採用方針について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「毎年、現状程度の人数を採用していくと思う」が 224 件 (42.6%) と最も多く、次いで「当面、採用は行わないと思う」158 件 (30.0%)、「積極的に採用を増やしていくと思う」119 件 (22.6%)、「採用は減らしていくと思う」20 件 (3.8%) の順になっている。 ※「無回答」5 件 (1.0%)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	積極的に採用を増やしていくと思う	119	22.6
2	毎年、現状程度の人数を採用していくと思う	224	42.6
3	採用は減らしていくと思う	20	3.8
4	当面、採用は行わないと思う	158	30.0
	無回答	5	1.0
	N (%ベース)	526	100



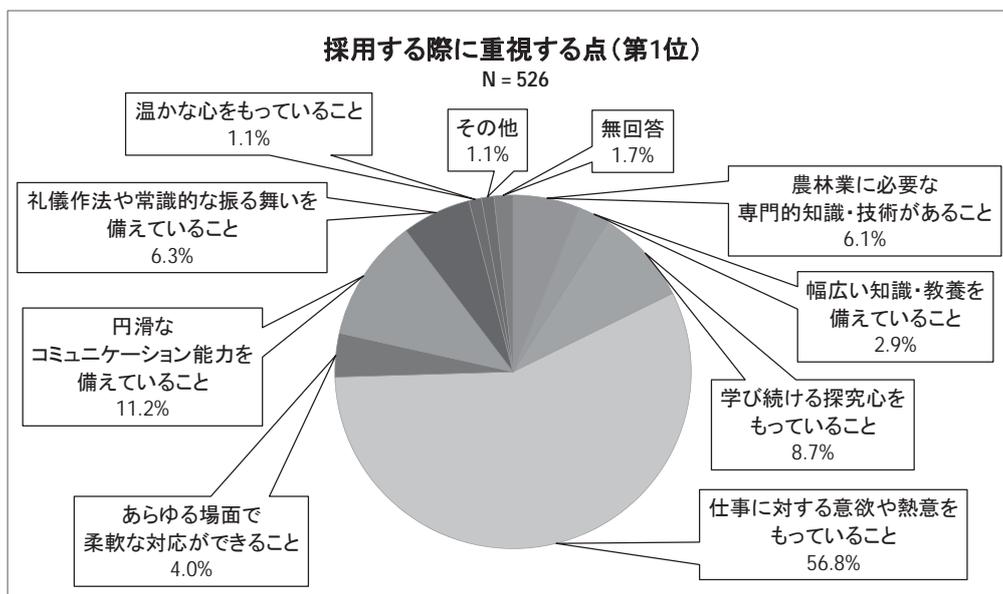
(6) 人材採用において重視する点について（複数回答）

6-1 人材採用において重視する点（第1位）について

人材採用において重視する点（第1位）について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「仕事に対する意欲や熱意をもっていること」が 299 件（56.8%）と最も多く、次いで「円滑なコミュニケーション能力を備えていること」59件（11.2%）、「学び続ける探究心をもっていること」46 件（8.7%）、「礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること」33 件（6.3%）、「農林業に必要な専門的知識・技術があること」32 件（6.1%）、「あらゆる場面で柔軟な対応ができること」21 件（4.0%）、「幅広い知識・教養を備えていること」15 件（2.9%）、「温かな心をもっていること」6 件（1.1%）、「その他」6 件（1.1%）の順になっている。 ※「無回答」9 件（1.7%）

採用する際に重視する点(第1位)

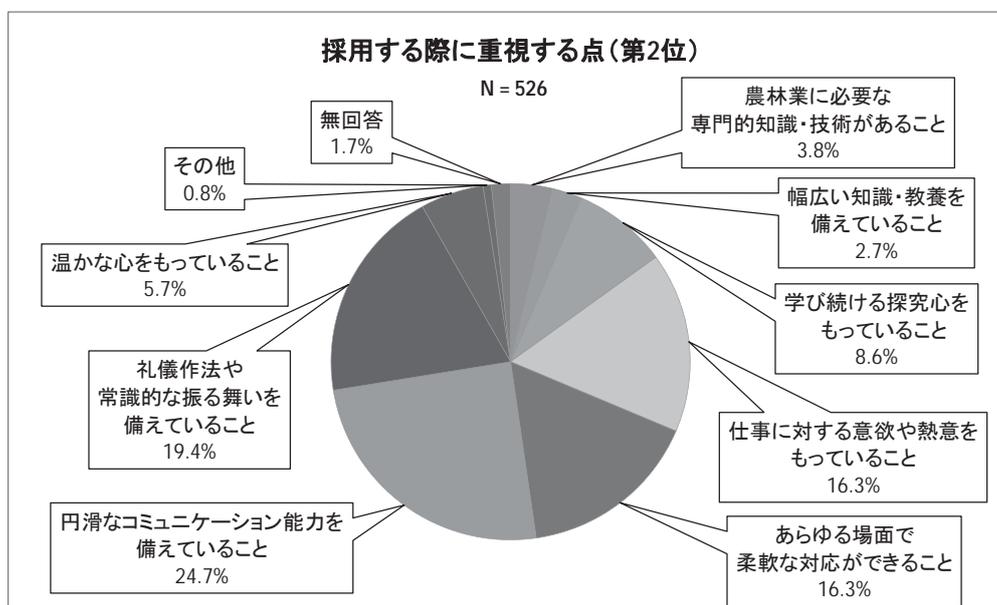
No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農林業に必要な専門的知識・技術があること	32	6.1
2	幅広い知識・教養を備えていること	15	2.9
3	学び続ける探究心をもっていること	46	8.7
4	仕事に対する意欲や熱意をもっていること	299	56.8
5	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	21	4.0
6	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	59	11.2
7	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	33	6.3
8	温かな心をもっていること	6	1.1
9	その他	6	1.1
	無回答	9	1.7
	N (%ベース)	526	100



6-2 人材採用において重視する点（第2位）について

人材採用において重視する点（第2位）について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「円滑なコミュニケーション能力を備えていること」が 130 件（24.7%）と最も多く、次いで「礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること」102 件（19.4%）、「仕事に対する意欲や熱意をもっていること」86 件（16.3%）、「あらゆる場面で柔軟な対応ができること」86 件（16.3%）、「学び続ける探究心をもっていること」45 件（8.6%）、「温かな心をもっていること」30 件（5.7%）、「農林業に必要な専門的知識・技術があること」20 件（3.8%）、「幅広い知識・教養を備えていること」14 件（2.7%）、「その他」4 件（0.8%）の順になっている。 ※「無回答」9 件（1.7%）

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農林業に必要な専門的知識・技術があること	20	3.8
2	幅広い知識・教養を備えていること	14	2.7
3	学び続ける探究心をもっていること	45	8.6
4	仕事に対する意欲や熱意をもっていること	86	16.3
5	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	86	16.3
6	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	130	24.7
7	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	102	19.4
8	温かな心をもっていること	30	5.7
9	その他	4	0.8
	無回答	9	1.7
	N (%ベース)	526	100



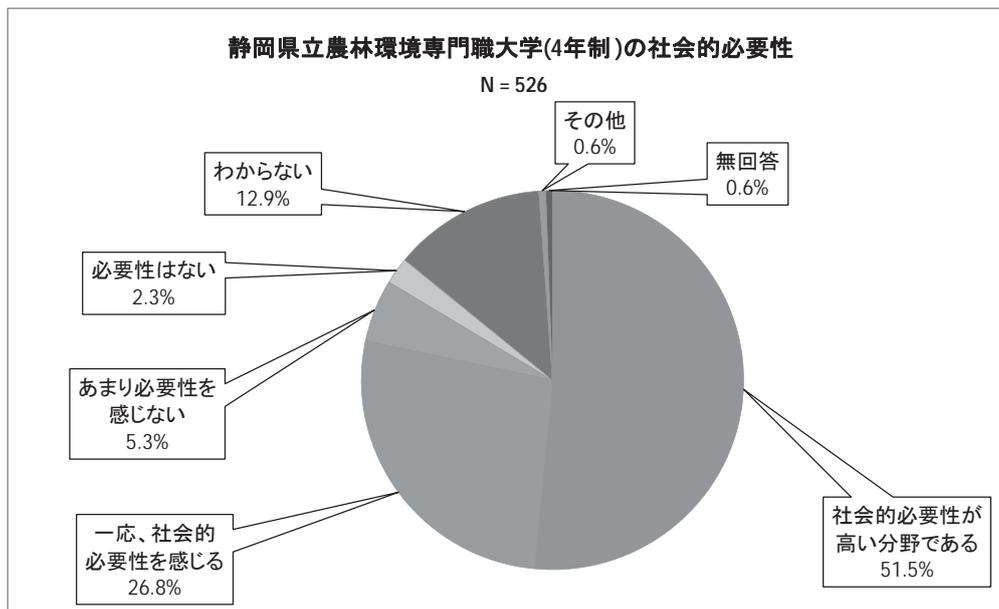
(7) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学の社会的必要性について

4年制の静岡県立農林環境専門職大学の社会的必要性について調査した結果、回答のあった企業等526件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が271件(51.5%)と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」141件(26.8%)、「わからない」68件(12.9%)、「あまり必要性を感じない」28件(5.3%)、「必要性はない」12件(2.3%)、「その他」3件(0.6%)の順になっている。 ※「無回答」3件(0.6%)

なお、4年制の静岡県立農林環境専門職大学について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、412件(78.3%)となっている。

静岡県立農林環境専門職大学(4年制)の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	271	51.5
2	一応、社会的必要性を感じる	141	26.8
3	あまり必要性を感じない	28	5.3
4	必要性はない	12	2.3
5	わからない	68	12.9
6	その他	3	0.6
	無回答	3	0.6
	N (%ベース)	526	100



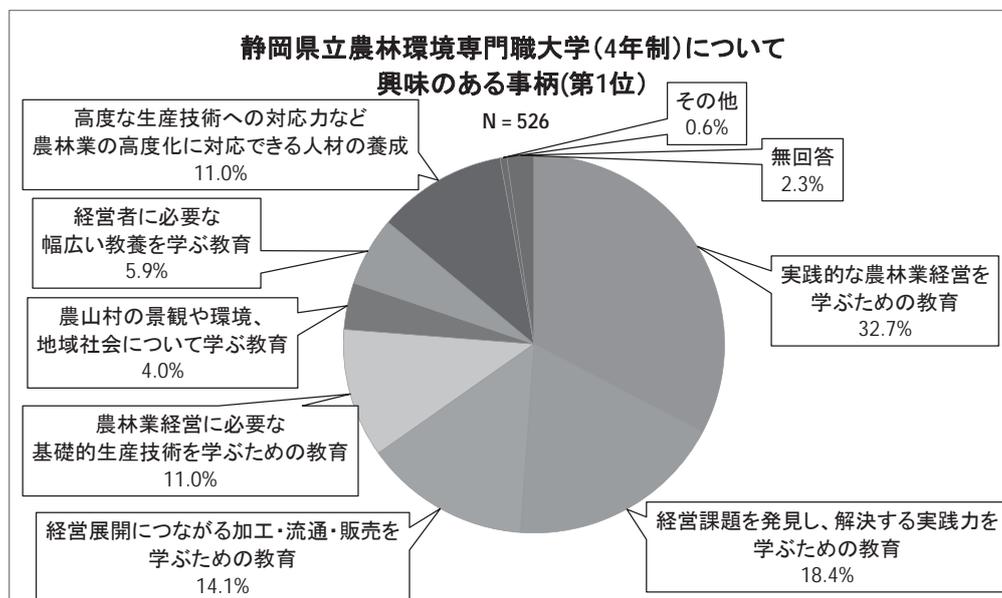
(8) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学について興味のある事柄について

8-1 4年制の静岡県立農林環境専門職大学について興味のある事柄（第1位）について

4年制の静岡県立農林環境専門職大学について興味のある事柄（第1位）について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「実践的な農林業経営を学ぶための教育」が 172 件（32.7%）と最も多く、次いで「経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育」97 件（18.4%）、「経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育」74 件（14.1%）、「農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育」58 件（11.0%）、「高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成」58 件（11.0%）、「経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育」31 件（5.9%）、「農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育」21 件（4.0%）、「その他」3 件（0.6%）の順になっている。 ※「無回答」12 件（2.3%）

静岡県立農林環境専門職大学(4年制)について 興味のある事柄(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	実践的な農林業経営を学ぶための教育	172	32.7
2	経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育	97	18.4
3	経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育	74	14.1
4	農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育	58	11.0
5	農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育	21	4.0
6	経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育	31	5.9
7	高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成	58	11.0
8	その他	3	0.6
	無回答	12	2.3
	N (%ベース)	526	100

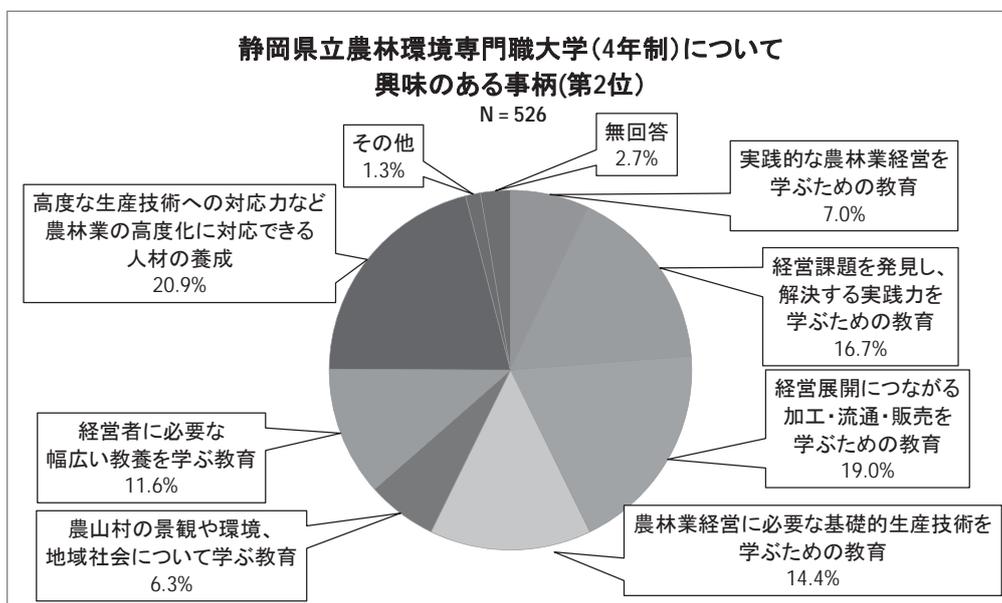


8-2 4年制の静岡県立農林環境専門職大学について興味のある事柄（第2位）について

4年制の静岡県立農林環境専門職大学について興味のある事柄（第2位）について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成」が 110 件（20.9%）と最も多く、次いで「経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育」100 件（19.0%）、「経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育」88 件（16.7%）、「農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育」76 件（14.4%）、「経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育」61 件（11.6%）、「実践的な農林業経営を学ぶための教育」37 件（7.0%）、「農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育」33 件（6.3%）、「その他」7 件（1.3%）の順になっている。 ※「無回答」14 件（2.7%）

静岡県立農林環境専門職大学(4年制)について 興味のある事柄(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	実践的な農林業経営を学ぶための教育	37	7.0
2	経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育	88	16.7
3	経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育	100	19.0
4	農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育	76	14.4
5	農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育	33	6.3
6	経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育	61	11.6
7	高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成	110	20.9
8	その他	7	1.3
	無回答	14	2.7
	N (%ベース)	526	100



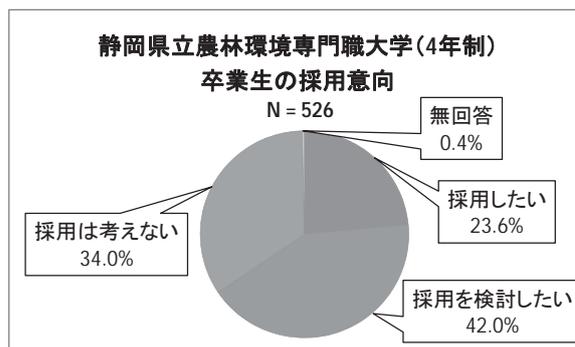
(9) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用意向について

4年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用意向について調査した結果、回答のあった企業等526件のうち、「採用を検討したい」が221件(42.0%)と最も多く、次いで「採用は考えない」179件(34.0%)、「採用したい」124件(23.6%)の順になっている。 ※「無回答」2件(0.4%)

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、345件(65.6%)となっている。

静岡県立農林環境専門職大学(4年制)卒業生の採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	124	23.6
2	採用を検討したい	221	42.0
3	採用は考えない	179	34.0
	無回答	2	0.4
	N (%ベース)	526	100



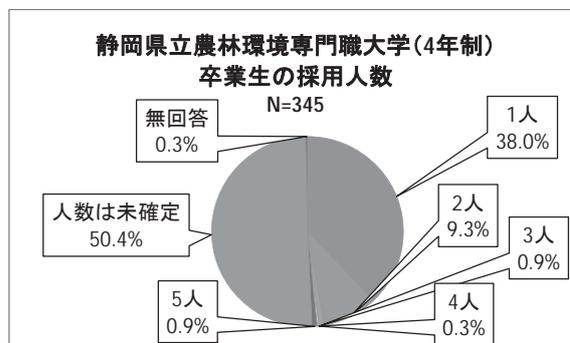
(10) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用人数について

「4年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用意向」で肯定的な採用意向を示した345件に対して、4年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」174件(50.4%)と最も多く、次いで「1人」が131件(38.0%)、「2人」32件(9.3%)、「3人」3件(0.9%)、「5人」3件(0.9%)、「4人」1件(0.3%)の順になっている。

※「無回答」1件(0.3%)

静岡県立農林環境専門職大学(4年制)卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	131	38.0
2	2人	32	9.3
3	3人	3	0.9
4	4人	1	0.3
5	5人	3	0.9
6	人数は未確定	174	50.4
	無回答	1	0.3
	N (%ベース)	345	100



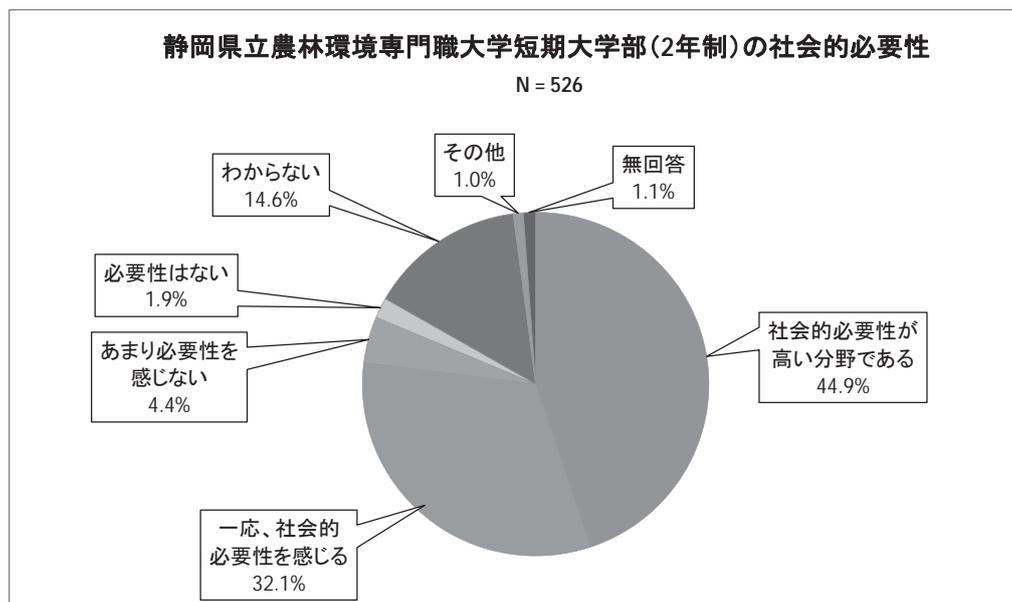
(11) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の社会的必要性について

2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の社会的必要性について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「社会的必要性が高い分野である」が 236 件 (44.9%) と最も多く、次いで「一応、社会的必要性を感じる」169 件 (32.1%)、「わからない」77 件 (14.6%)、「あまり必要性を感じない」23 件 (4.4%)、「必要性はない」10 件 (1.9%)、「その他」5 件 (1.0%) の順になっている。 ※「無回答」6 件 (1.1%)

なお、2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部について、「社会的必要性が高い分野である」、「一応、社会的必要性を感じる」の肯定的な回答を合算すると、405 件 (77.0%) となっている。

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	236	44.9
2	一応、社会的必要性を感じる	169	32.1
3	あまり必要性を感じない	23	4.4
4	必要性はない	10	1.9
5	わからない	77	14.6
6	その他	5	1.0
	無回答	6	1.1
	N (%ベース)	526	100



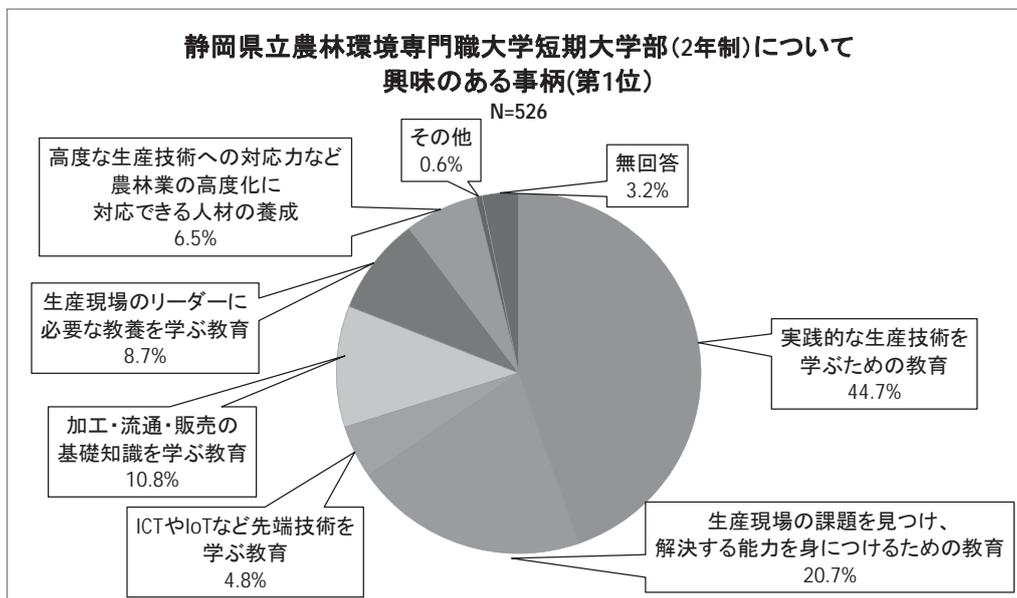
(12) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部について興味のある事柄について

12-1 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部について興味のある事柄(第1位)について

2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部について興味のある事柄(第1位)について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「実践的な生産技術を学ぶための教育」が 235 件 (44.7%) と最も多く、次いで「生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育」109 件 (20.7%)、「加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育」57 件 (10.8%)、「生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育」46 件 (8.7%)、「高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成」34 件 (6.5%)、「ICT やIoT など先端技術を学ぶ教育」25 件 (4.8%)、「その他」3 件 (0.6%) の順になっている。 ※「無回答」17 件 (3.2%)

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)について 興味のある事柄(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	実践的な生産技術を学ぶための教育	235	44.7
2	生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育	109	20.7
3	ICTやIoTなど先端技術を学ぶ教育	25	4.8
4	加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育	57	10.8
5	生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育	46	8.7
6	高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成	34	6.5
7	その他	3	0.6
	無回答	17	3.2
	N (%ベース)	526	100

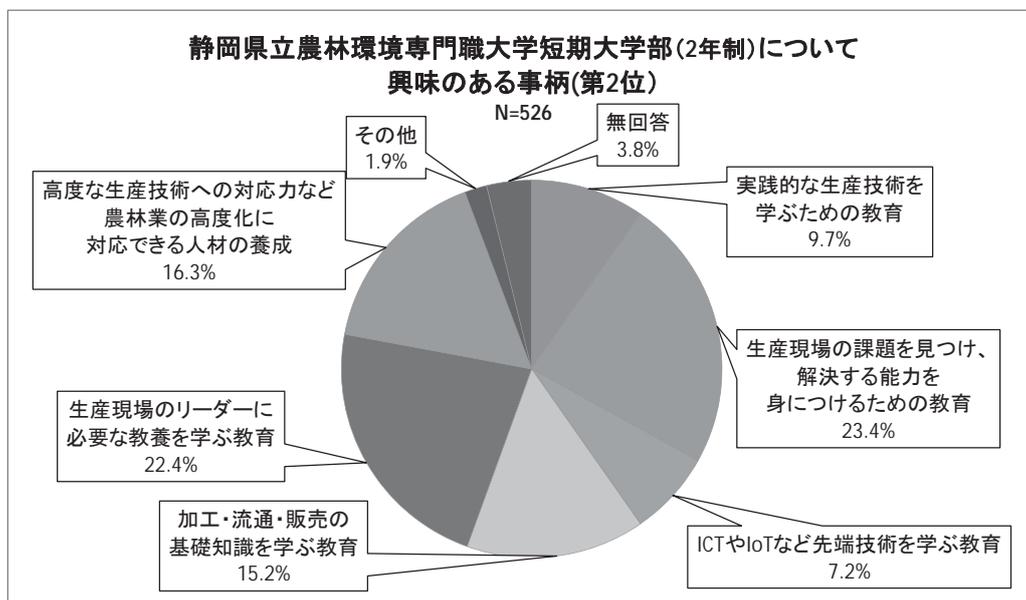


12-2 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部について興味のある事柄(第2位)について

2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部について興味のある事柄(第2位)について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育」が 123 件 (23.4%) と最も多く、次いで「生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育」118 件 (22.4%)、「高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成」86 件 (16.3%)、「加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育」80 件 (15.2%)、「実践的な生産技術を学ぶための教育」51 件 (9.7%)、「ICT や IoT など先端技術を学ぶ教育」38 件 (7.2%)、「その他」10 件 (1.9%) の順になっている。 ※「無回答」20 件 (3.8%)

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)について 興味のある事柄(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	実践的な生産技術を学ぶための教育	51	9.7
2	生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育	123	23.4
3	ICTやIoTなど先端技術を学ぶ教育	38	7.2
4	加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育	80	15.2
5	生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育	118	22.4
6	高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成	86	16.3
7	その他	10	1.9
	無回答	20	3.8
	N (%ベース)	526	100



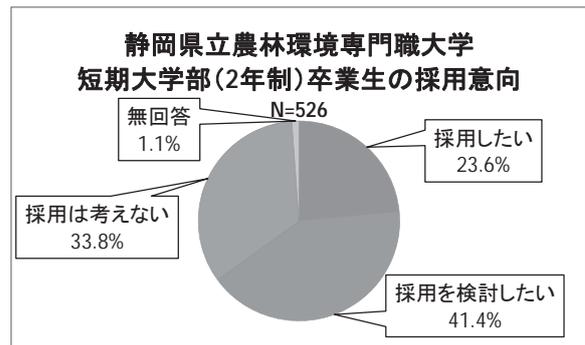
(13) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部卒業生の採用意向について

2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部卒業生の採用意向について調査した結果、回答のあった企業等 526 件のうち、「採用を検討したい」が 218 件 (41.4%) と最も多く、次いで「採用は考えない」178 件 (33.8%)、「採用したい」124 件 (23.6%) の順になっている。 ※「無回答」6 件 (1.1%)

なお、「採用したい」、「採用を検討したい」の肯定的な回答を合算すると、342 件 (65.0%) となっている。

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)卒業生の採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	124	23.6
2	採用を検討したい	218	41.4
3	採用は考えない	178	33.8
	無回答	6	1.1
	N (%ベース)	526	100

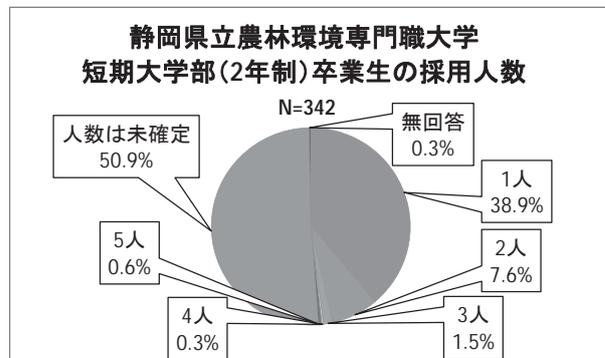


(14) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部卒業生の採用人数について

「2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部卒業生の採用意向」で肯定的な採用意向を示した 342 件に対して、2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部卒業生の将来的な採用人数について調査したところ、「人数は未確定」174 件 (50.9%) と最も多く、次いで「1人」が 133 件 (38.9%)、「2人」26 件 (7.6%)、「3人」5 件 (1.5%)、「5人」2 件 (0.6%)、「4人」1 件 (0.3%) の順になっている。 ※「無回答」1 件 (0.3%)

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	133	38.9
2	2人	26	7.6
3	3人	5	1.5
4	4人	1	0.3
5	5人	2	0.6
6	人数は未確定	174	50.9
	無回答	1	0.3
	N (%ベース)	342	100



3. 調査結果のまとめ

(1) 静岡県立農林環境専門職大学

静岡県立農林環境専門職大学卒業生に対する将来的な採用意向人数の集計にあたっては、「(9) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用意向について」の肯定的な回答数と、「(10) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用人数について」の各選択肢（「1人」、「2人」、「3人」、「4人」、「5人以上」、「人数は未確定（※）」）を乗じ、これを合計し、算出した。

※「人数は未確定」とは、「(9) 4年制の静岡県立農林環境専門職大学卒業生の採用意向について」にて、「採用したい」「採用を検討したい」と回答し将来的な採用意向は示すが、アンケートの時点では将来的な採用人数について確定していないものである。したがって、本調査では「人数は未確定」の将来的な採用人数を最低数である「1人」として計算した。

下記の表より、4年制の静岡県立農林環境専門職大学の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、168人分となる。入学定員は24名であるため、7.0倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は397人となり、これは、入学定員24名に対して、16.54倍となる。

静岡県立農林環境専門職大学(4年制) 卒業生の採用人数

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」 のみ		合計
1人(A)	58	(a)	(A) × (a) 58
2人(B)	23	(b)	(B) × (b) 46
3人(C)	3	(c)	(C) × (c) 9
4人(D)	1	(d)	(D) × (d) 4
5人以上(E)	3	(e)	(E) × (e) 15
人数は未確定(F)	36	(f)	(F) × (f) 36
無回答	-		

合計採用意向 168 人

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」「採用を 検討したい」の合計		合計
1人(A)	131	(a)	(A) × (a) 131
2人(B)	32	(b)	(B) × (b) 64
3人(C)	3	(c)	(C) × (c) 9
4人(D)	1	(d)	(D) × (d) 4
5人以上(E)	3	(e)	(E) × (e) 15
人数は未確定(F)	174	(f)	(F) × (f) 174
無回答	1		

合計採用意向 397 人

(2) 静岡県立農林環境専門職大学短期大学部

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部卒業生に対する将来的な採用意向人数の集計にあたっては、「(13) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の卒業生の採用意向について」の肯定的な回答数と、「(14) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の将来的な採用人数について」の各選択肢（「1人」、「2人」、「3人」、「4人」、「5人以上」、「人数は未確定（※）」）を乗じ、これを合計し、算出した。

※「人数は未確定」とは、「(13) 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の将来的な採用意向について」にて、「採用したい」「採用を検討したい」と回答し将来的な採用意向は示すが、アンケートの時点では将来的な採用人数について確定していないものである。したがって、本調査では「人数は未確定」の将来的な採用人数を最低数である「1人」として計算した。

下記の表より、2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の卒業生に対する採用意向人数は「採用したい」のみで合計した場合、157人分となる。入学定員は100名であるため、1.57倍の採用意向を確保できている。

また、「採用したい」「採用を検討したい」を合計した場合、採用意向人数は388人となり、これは、入学定員100名に対して、3.88倍となる。

静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制) 卒業生の採用人数

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」 のみ		合計
1人(A)	65	(a)	(A) × (a) 65
2人(B)	18	(b)	(B) × (b) 36
3人(C)	4	(c)	(C) × (c) 12
4人(D)	1	(d)	(D) × (d) 4
5人以上(E)	1	(e)	(E) × (e) 5
人数は未確定(F)	35	(f)	(F) × (f) 35
無回答	-		

合計採用意向 157人

※採用人数が無回答であった場合は、計算から除外した

回答数(件) 人数(人)	「採用したい」「採用を 検討したい」の合計		合計
1人(A)	133	(a)	(A) × (a) 133
2人(B)	26	(b)	(B) × (b) 52
3人(C)	5	(c)	(C) × (c) 15
4人(D)	1	(d)	(D) × (d) 4
5人以上(E)	2	(e)	(E) × (e) 10
人数は未確定(F)	174	(f)	(F) × (f) 174
無回答	1		

合計採用意向 388人

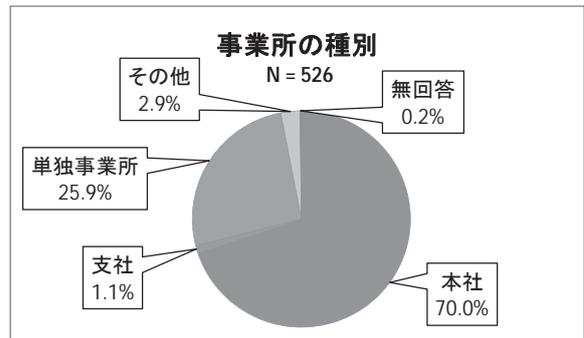
(3) まとめ

以上の調査結果と、今回の調査対象以外への進路も考えられることから、静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の卒業生の進路は十分に確保できるものとする。

単純集計表

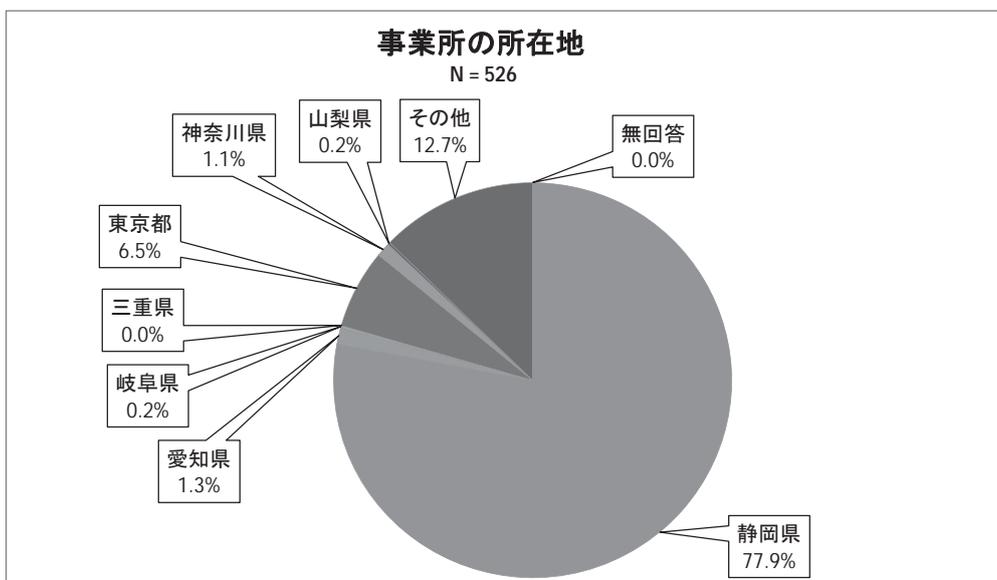
事業所の種別

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	本社	368	70.0
2	支社	6	1.1
3	単独事業所	136	25.9
4	その他	15	2.9
	無回答	1	0.2
	N (%ベース)	526	100



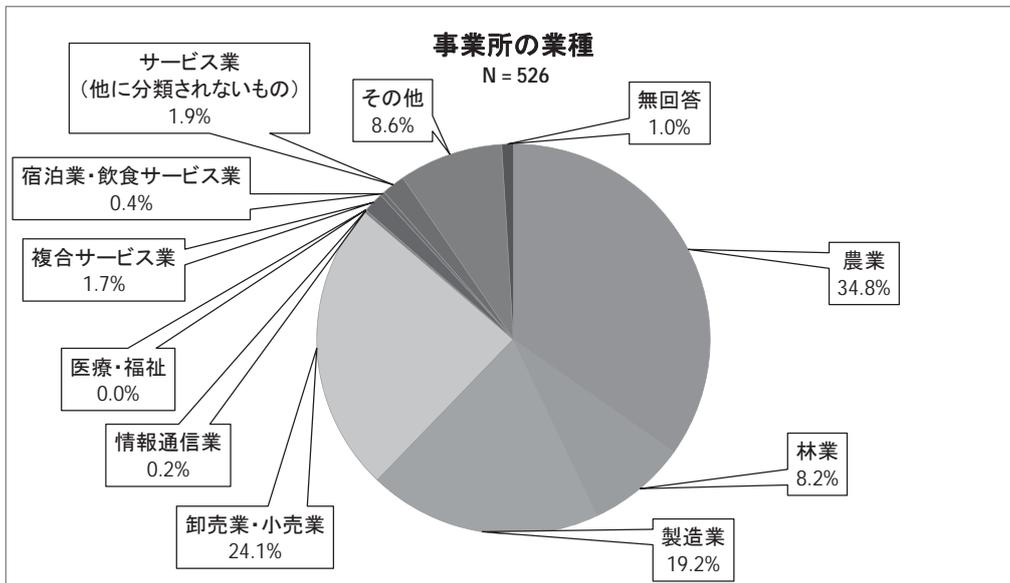
事業所の所在地

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	静岡県	410	77.9
2	愛知県	7	1.3
3	岐阜県	1	0.2
4	三重県	0	0.0
5	東京都	34	6.5
6	神奈川県	6	1.1
7	山梨県	1	0.2
8	その他	67	12.7
	無回答	0	0.0
	N (%ベース)	526	100



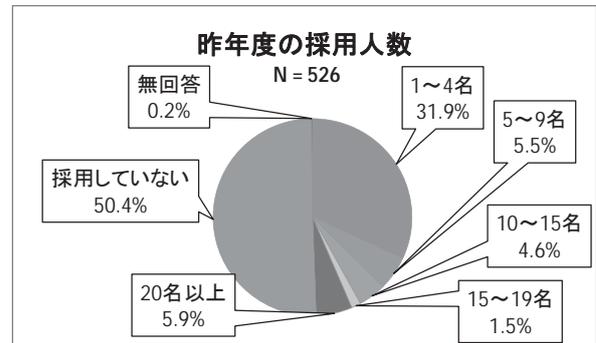
事業所の業種

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農業	183	34.8
2	林業	43	8.2
3	製造業	101	19.2
4	卸売業・小売業	127	24.1
5	情報通信業	1	0.2
6	医療・福祉	0	0.0
7	複合サービス業	9	1.7
8	宿泊業・飲食サービス業	2	0.4
9	サービス業(他に分類されないもの)	10	1.9
10	その他	45	8.6
	無回答	5	1.0
	N (%ベース)	526	100



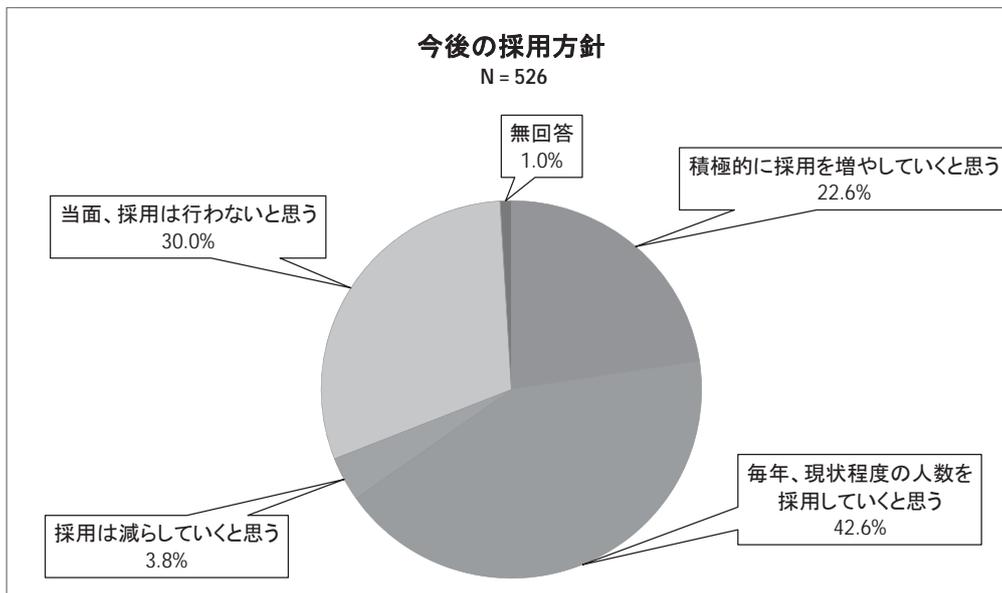
昨年度の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1～4名	168	31.9
2	5～9名	29	5.5
3	10～15名	24	4.6
4	15～19名	8	1.5
5	20名以上	31	5.9
6	採用していない	265	50.4
	無回答	1	0.2
	N (%ベース)	526	100



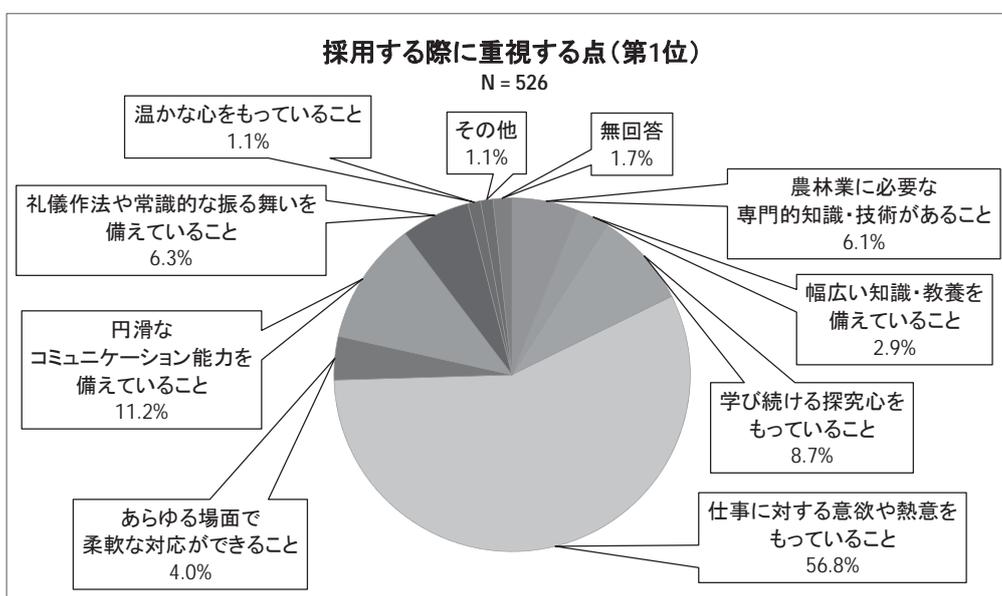
今後の採用方針

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	積極的に採用を増やしていくと思う	119	22.6
2	毎年、現状程度の人数を採用していくと思う	224	42.6
3	採用は減らしていくと思う	20	3.8
4	当面、採用は行わないと思う	158	30.0
	無回答	5	1.0
	N (%ベース)	526	100



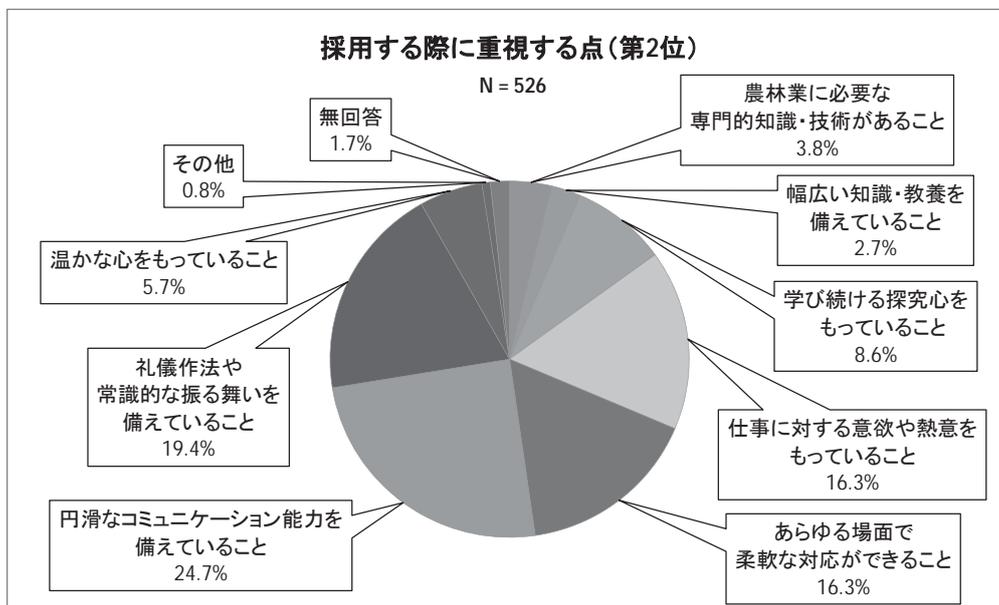
採用する際に重視する点(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農林業に必要な専門的知識・技術があること	32	6.1
2	幅広い知識・教養を備えていること	15	2.9
3	学び続ける探究心をもっていること	46	8.7
4	仕事に対する意欲や熱意をもっていること	299	56.8
5	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	21	4.0
6	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	59	11.2
7	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	33	6.3
8	温かな心をもっていること	6	1.1
9	その他	6	1.1
	無回答	9	1.7
	N (%ベース)	526	100



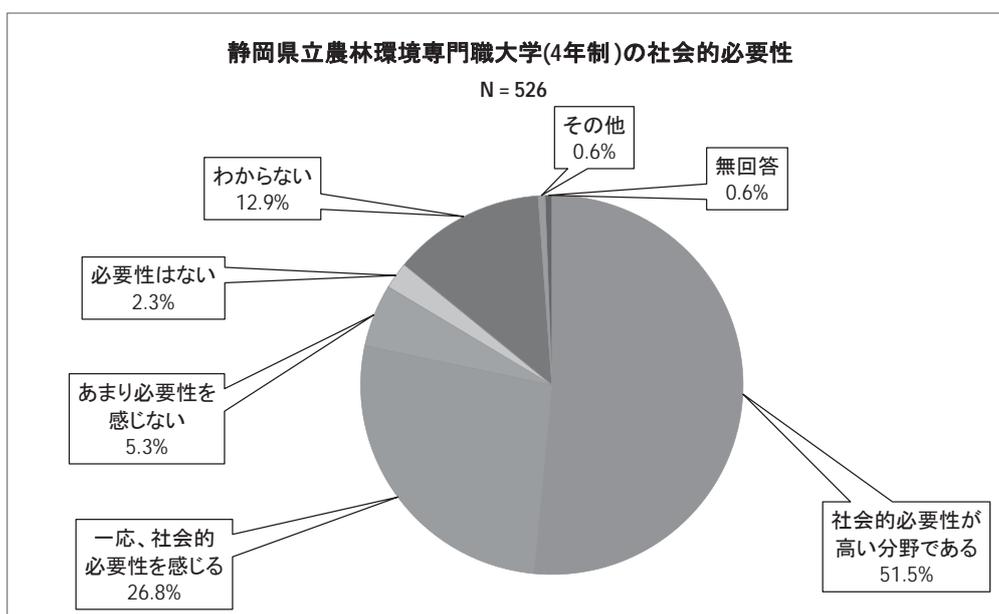
採用する際に重視する点(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	農林業に必要な専門的知識・技術があること	20	3.8
2	幅広い知識・教養を備えていること	14	2.7
3	学び続ける探究心をもっていること	45	8.6
4	仕事に対する意欲や熱意をもっていること	86	16.3
5	あらゆる場面で柔軟な対応ができること	86	16.3
6	円滑なコミュニケーション能力を備えていること	130	24.7
7	礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること	102	19.4
8	温かな心をもっていること	30	5.7
9	その他	4	0.8
	無回答	9	1.7
	N (%ベース)	526	100



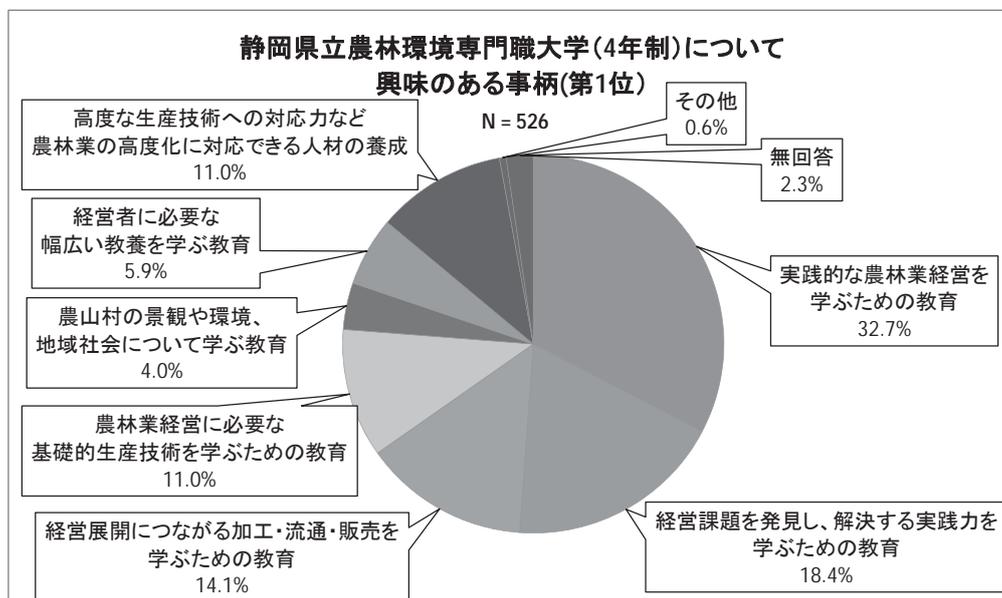
静岡県立農林環境専門職大学(4年制)の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	271	51.5
2	一応、社会的必要性を感じる	141	26.8
3	あまり必要性を感じない	28	5.3
4	必要性はない	12	2.3
5	わからない	68	12.9
6	その他	3	0.6
	無回答	3	0.6
	N (%ベース)	526	100



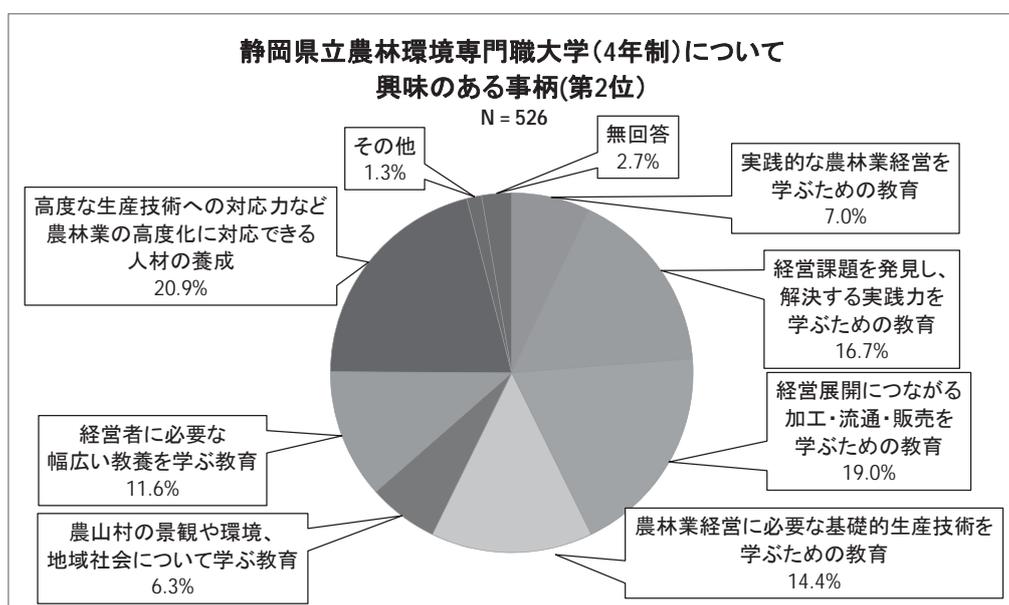
静岡県立農林環境専門職大学(4年制)について 興味のある事柄(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	実践的な農林業経営を学ぶための教育	172	32.7
2	経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育	97	18.4
3	経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育	74	14.1
4	農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育	58	11.0
5	農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育	21	4.0
6	経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育	31	5.9
7	高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成	58	11.0
8	その他	3	0.6
	無回答	12	2.3
	N (%ベース)	526	100



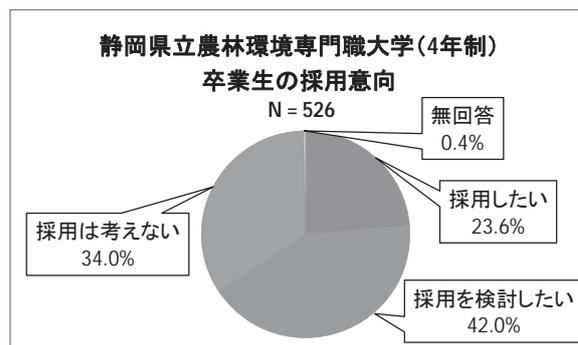
静岡県立農林環境専門職大学(4年制)について 興味のある事柄(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	実践的な農林業経営を学ぶための教育	37	7.0
2	経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育	88	16.7
3	経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育	100	19.0
4	農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育	76	14.4
5	農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育	33	6.3
6	経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育	61	11.6
7	高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成	110	20.9
8	その他	7	1.3
	無回答	14	2.7
	N (%ベース)	526	100



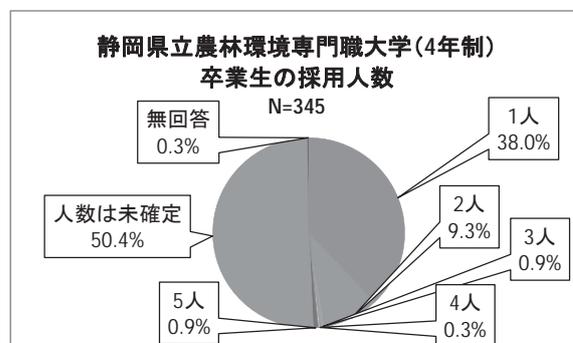
静岡県立農林環境専門職大学(4年制)卒業生の採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	124	23.6
2	採用を検討したい	221	42.0
3	採用は考えない	179	34.0
	無回答	2	0.4
	N (%ベース)	526	100



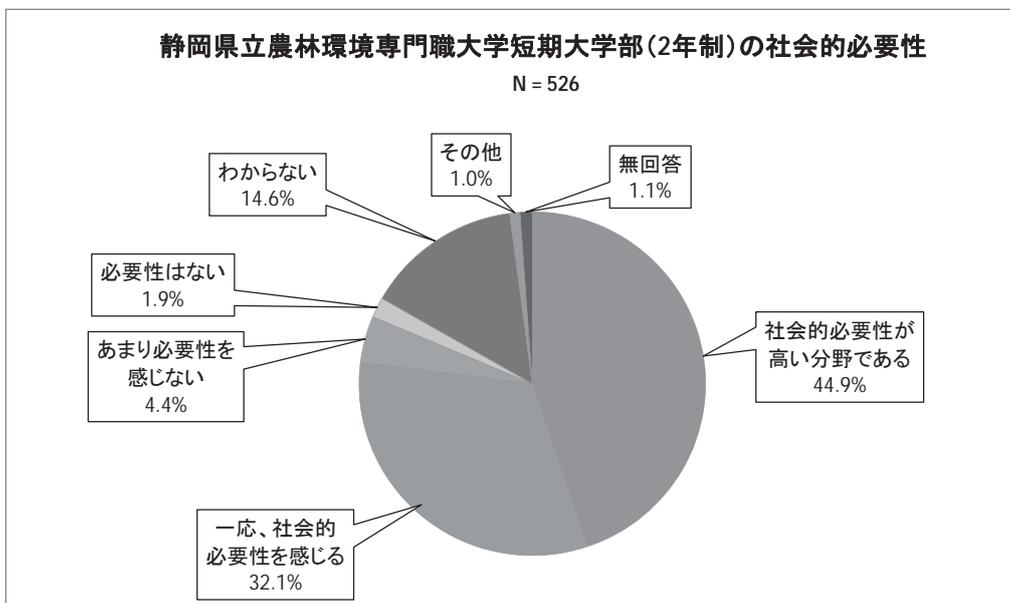
静岡県立農林環境専門職大学(4年制)卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	131	38.0
2	2人	32	9.3
3	3人	3	0.9
4	4人	1	0.3
5	5人	3	0.9
6	人数は未確定	174	50.4
	無回答	1	0.3
	N (%ベース)	345	100



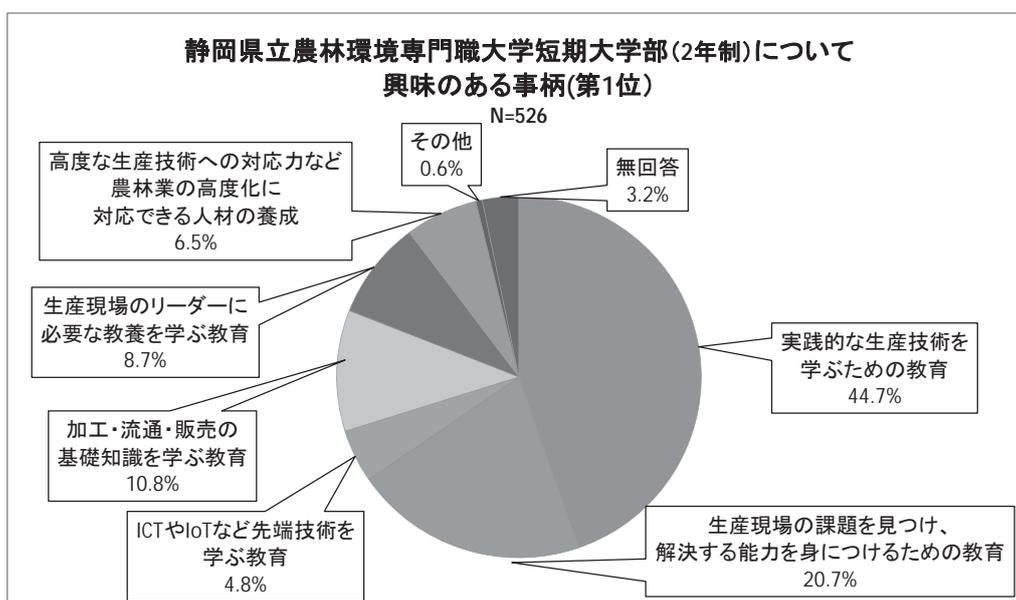
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)の社会的必要性

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	社会的必要性が高い分野である	236	44.9
2	一応、社会的必要性を感じる	169	32.1
3	あまり必要性を感じない	23	4.4
4	必要性はない	10	1.9
5	わからない	77	14.6
6	その他	5	1.0
	無回答	6	1.1
	N (%ベース)	526	100



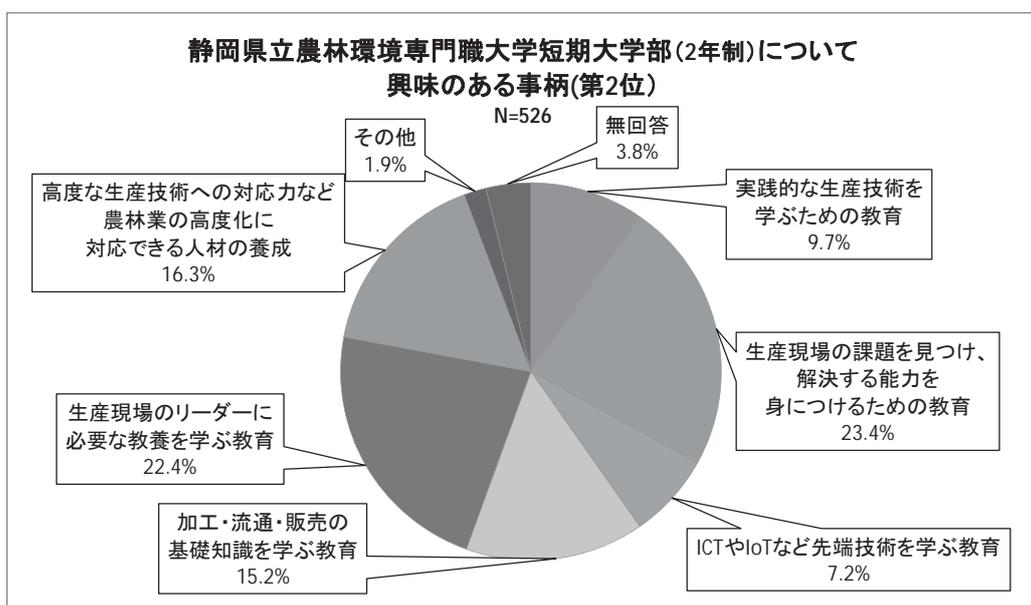
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)について 興味のある事柄(第1位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	実践的な生産技術を学ぶための教育	235	44.7
2	生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育	109	20.7
3	ICTやIoTなど先端技術を学ぶ教育	25	4.8
4	加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育	57	10.8
5	生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育	46	8.7
6	高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成	34	6.5
7	その他	3	0.6
	無回答	17	3.2
	N (%ベース)	526	100



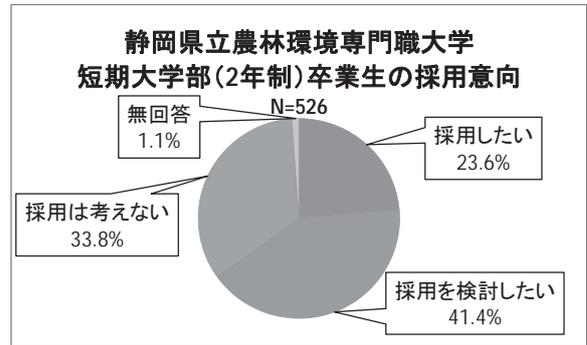
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)について 興味のある事柄(第2位)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	実践的な生産技術を学ぶための教育	51	9.7
2	生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育	123	23.4
3	ICTやIoTなど先端技術を学ぶ教育	38	7.2
4	加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育	80	15.2
5	生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育	118	22.4
6	高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成	86	16.3
7	その他	10	1.9
	無回答	20	3.8
	N (%ベース)	526	100



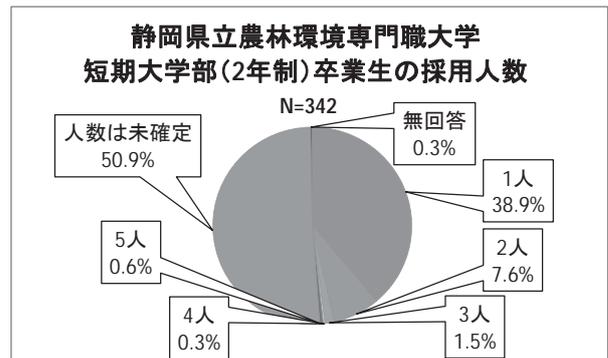
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)卒業生の採用意向

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	採用したい	124	23.6
2	採用を検討したい	218	41.4
3	採用は考えない	178	33.8
	無回答	6	1.1
	N (%ベース)	526	100



静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(2年制)卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数	(全体)%
1	1人	133	38.9
2	2人	26	7.6
3	3人	5	1.5
4	4人	1	0.3
5	5人	2	0.6
6	人数は未確定	174	50.9
	無回答	1	0.3
	N (%ベース)	342	100



調査票

**静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の設置に係るアンケート調査**

- ・このアンケート調査は、2020年4月に開学を予定している静岡県立農林環境専門職大学（仮称）及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）の設置計画の基礎資料とするため、貴社・貴施設の人材採用方針等についてお聞きするものです。
・このアンケート結果は、統計資料としてのみ使い、目的以外に利用することはありません。
・回答は、該当する番号を回答欄の □ の中に直接、御記入ください。

回答締め切りのお願い

2018年8月10日（金）までに、同封の返信用封筒にて御投函いただきますようお願いいたします。

【 貴社・貴施設についてお伺いします 】

【回答欄】

問1． 本社・支社・事業所等について、お聞きします。次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 本社 2. 支社 3. 単独事業所 4. その他（ ）

問2． 所在地について、お聞きします。次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 静岡県 4. 三重県 7. 山梨県
2. 愛知県 5. 東京都 8. その他（ ）
3. 岐阜県 6. 神奈川県

問3． 業種について、お聞きします。次の中から最も当てはまる番号を1つお選びください。

1. 農業 5. 情報通信業 9. サービス業(他に分類されないもの)
2. 林業 6. 医療・福祉 10. その他
3. 製造業 7. 複合サービス業 (具体的に:)
4. 卸売業・小売業 8. 宿泊業・飲食サービス業

問4． 昨年度（平成30年4月入社）に新卒採用された人数について、次の中から該当する番号を1つお選びください。（支社または単独事業所でお答えいただいている場合は、そちらでの採用数をお願いします）

1. 1～4名 3. 10～15名 5. 20名以上
2. 5～9名 4. 15～19名 6. 採用していない

番号で御回答ください

問5． 今後の人材採用について、どのようにお考えですか。お考えに近い番号を1つお選びください。

1. 積極的に採用を増やしていくと思う
2. 毎年、現状程度の人数を採用していくと思う
3. 採用は減らしていくと思う
4. 当面、採用は行わないと思う

問6． 人材を採用する際に、貴社・貴施設ではどのようなことを重視していますか。該当する番号を第2位までお選びください。

1. 農林業に必要な専門的知識・技術があること
2. 幅広い知識・教養を備えていること
3. 学び続ける探究心をもっていること
4. 仕事に対する意欲や熱意をもっていること
5. あらゆる場面で柔軟な対応ができること
6. 円滑なコミュニケーション能力を備えていること
7. 礼儀作法や常識的な振る舞いを備えていること
8. 温かな心をもっていること
9. その他（具体的に: ）

第1位

第2位

⇨ 次のページへお進みください ⇨

ここからは、同封のリーフレット

「静岡県立 農林環境専門職大学（仮称） 農林環境専門職大学短期大学部（仮称）」

を御覧になりながらお答えください。

【 4年制の静岡県立農林環境専門職大学（仮称）についておたずねします。 】

問7. 設置を計画している4年制の静岡県立農林環境専門職大学（仮称）の社会的必要性について、どのようにお考えになりますか。次の中から該当する番号を1つお選びください。

- | | | |
|-------------------|----------------------|--------------------------|
| 1. 社会的必要性が高い分野である | 4. 必要性はない | <input type="checkbox"/> |
| 2. 一応、社会的必要性を感じる | 5. わからない | |
| 3. あまり必要性を感じない | 6. その他（具体的に: _____) | |

問8. 設置を計画している4年制の静岡県立農林環境専門職大学（仮称）の特徴や目指している事柄について、興味のあるものはどれですか。興味の高い順に第2位までお選びください。

- | | | |
|-------------------------------------|-----|--------------------------|
| 1. 実践的な農林業経営を学ぶための教育 | 第1位 | <input type="checkbox"/> |
| 2. 経営課題を発見し、解決する実践力を学ぶための教育 | | |
| 3. 経営展開につながる加工・流通・販売を学ぶための教育 | 第2位 | <input type="checkbox"/> |
| 4. 農林業経営に必要な基礎的生産技術を学ぶための教育 | | |
| 5. 農山村の景観や環境、地域社会について学ぶ教育 | | |
| 6. 経営者に必要な幅広い教養を学ぶ教育 | | |
| 7. 高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成 | | |
| 8. その他（具体的に: _____) | | |

問9. 設置を計画している4年制の静岡県立農林環境専門職大学（仮称）の卒業生の将来的な採用意向についておたずねします。次の中から該当する番号を1つお選びください。

- | | | | | |
|-----------------------|--|-----------------------|---------------------|--------------------------|
| 1. 採用したい | } <table border="1" style="border-style: dashed; padding: 2px;"><tr><td>1、2を選ばれた方は問10へお進みください</td></tr><tr><td>3を選ばれた方は問11へお進みください</td></tr></table> | 1、2を選ばれた方は問10へお進みください | 3を選ばれた方は問11へお進みください | <input type="checkbox"/> |
| 1、2を選ばれた方は問10へお進みください | | | | |
| 3を選ばれた方は問11へお進みください | | | | |
| 2. 採用を検討したい | | | | |
| 3. 採用は考えない | | | | |

問10. 問9で「1.採用したい」「2.採用を検討したい」を選択した方におたずねします。選択した4年制の静岡県立農林環境専門職大学（仮称）の卒業生を毎年何人程度採用したいと考えますか。次の中から該当する番号を1つお選びください。

- | | | |
|-------|-----------|---|
| 1. 1人 | 4. 4人 | { 番号で御回答ください } <input type="checkbox"/> |
| 2. 2人 | 5. 5人以上 | |
| 3. 3人 | 6. 人数は未確定 | |

【 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)についておたずねします。 】

問 11 . 設置を計画している 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)の社会的必要性について、どのようにお考えになりますか。次の中から該当する番号を 1 つお選びください。

- | | | |
|-------------------|--------------|---|
| 1. 社会的必要性が高い分野である | 4. 必要性はない |) <input style="width: 40px; height: 30px;" type="text"/> |
| 2. 一応、社会的必要性を感じる | 5. わからない | |
| 3. あまり必要性を感じない | 6. その他(具体的に: | |

問 12 . 設置を計画している 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)の特徴や目指している事柄について、興味のあるものはどれですか。興味の高い順に第 2 位までお選びください。

- | | | |
|-------------------------------------|-------|---|
| 1. 実践的な生産技術を学ぶための教育 | 第 1 位 |) <input style="width: 40px; height: 30px;" type="text"/> |
| 2. 生産現場の課題を見つけ、解決する能力を身につけるための教育 | 第 2 位 | |
| 3. ICT や IoT など先端技術を学ぶ教育 | |) <input style="width: 40px; height: 30px;" type="text"/> |
| 4. 加工・流通・販売の基礎知識を学ぶ教育 | | |
| 5. 生産現場のリーダーに必要な教養を学ぶ教育 | | |
| 6. 高度な生産技術への対応力など農林業の高度化に対応できる人材の養成 | | |
| 7. その他(具体的に: | | |

問 13 . 設置を計画している 2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)の卒業生の将来的な採用意向についておたずねします。次の中から該当する番号を 1 つお選びください。

- | | |
|-------------|---|
| 1. 採用したい | } <input style="width: 40px; height: 30px;" type="text"/> |
| 2. 採用を検討したい | |
| 3. 採用は考えない | |
- 1、2 を選ばれた方は問 14 へお進みください

3 を選ばれた方は問 15 へお進みください

問 14 . 問 13 で「1.採用したい」「2.採用を検討したい」を選択した方におたずねします。2年制の静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)の卒業生を毎年何人程度採用したいと考えますか。次の中から該当する番号を 1 つお選びください。

- | | | |
|--------|-----------|---|
| 1. 1 人 | 4. 4 人 |) <input style="width: 40px; height: 30px;" type="text"/> |
| 2. 2 人 | 5. 5 人以上 | |
| 3. 3 人 | 6. 人数は未確定 | |

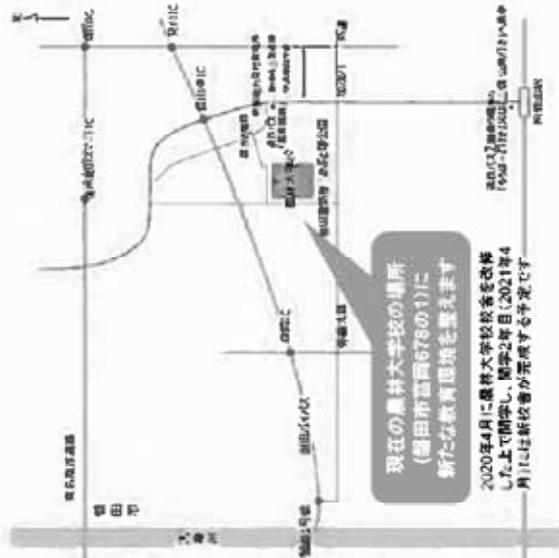
問 15 . 構想している静岡県立農林環境専門職大学(仮称)、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)の設置計画にあたり、御意見・御要望がありましたら、御自由にお書きください。

御協力ありがとうございました

資格免許取得等について

- 授業の中で取得に取り組みめる資格・免許（予定）
 - 大型特殊自動車運転免許（仮免許）、農業技術師補、日本農アトバイザー、労働安全衛生師免許、フォークリフト運転技能講習修了証、EPA（大塚水等）特別教員、環境免許、簿記検定など
 - *4年制、2年制ともに取得が可能です（専攻分野によって取得できるのがあります）。また、取得費用は別途必要です。
- 森林業の担い手を担う学生への就農を支援する給付金制度
 - ・農業次世代人材投資事業（産直型） ・若の青年就職促進給付金事業
 - *卒業後1年以内の就業などの給付要件があります。給付要件を満たさなくなると給付金請求を拒否し、返金しなければなりません。
- 共同生活を通じて協同性を養う学生生活
 - ・4年制、2年制ともに、1年生は別荘全寮制にすることを検討しています。
- 現在の農林大学校の男女比
 - ・学生の男女比は男性：女性=2：1で、9人に1人は女性の学生です。

交通アクセス



現在の農林大学校の場所
(畑田所番地6780-1)に
新たな教育環境を築きます

2020年4月に農林大が校舎を改装
した上で開学し、開学2年目(2021年4
月)には新校舎が完成する予定です

【電車・バスでのアクセス】

- 東京方面より 新幹線「JR野川駅」下車→東横線「JR松田駅」下車
- 名古屋方面より 新幹線「JR松原駅」下車→東横線「JR松田駅」下車
- JR愛用線北口 バスロータリーより遠州鉄道バス(10分)→徒歩(10分)

お問い合わせ

特別区経済産業局 就業支援センター 農林大 専門職大学 農林大 農林大
〒420-8501 静岡県袋井市袋井9番6号 袋井支店9階 TEL: 054-221-2734
FAX: 054-221-3688

※設置構想中のため、このリーフレットの記載内容は変更となる可能性があります。



静岡県立 農林環境専門職大学 (仮称) 農林環境専門職大学 (仮称) 短期大学部 (仮称)

2020年4月
開学予定
(設置構想中)

静岡県では、静岡県立農林大学校を、農林業者を養成する専門学校として、本県の農林業の発展に貢献してこましたが、近年の農林業経営の規模拡大や多様化に対応するため、このたび4年制の専門職大学と2年制の専門職短期大学への移行を検討しています。

専門職大学とは？

2019年4月から新たに創設される実践的な職業教育を行う新しい高等教育機関です。

多岐にわたる分野（農業や観光、情報など）において、専門職職人として活躍する実践的な教育のニーズが高まれば、新たに創設されるべきです。

特に、正統的な農林業や観光の経営の担い手を養成する教育等では、高度な「実践力」や豊かな「創造性」を培うことが重要で、多くの点が特長とされています。

【新たな高等専門教育】



大学・短大

○幅広い教育や、専門職教育の発展に貢献
○社会に貢献する実践的な教育
○そのための教育 大学・短大への位置づけ

■設置者	静岡県が設置する、公立の専門職大学及び専門職短期大学です。
■学部・学科名	生産環境経営学部(仮称) 生産環境経営学科(仮称)
4年制	入学定員 24名(予定)
2年制	入学定員 100名(予定)
■開学時期	2020年4月の開学を目標とし、大学選抜認可申請の準備を進めています。
■学位等	専門職大学の卒業生には、「学士(専門職)」, 専門職短期大学の卒業生には「短期大学士(専門職)」の学位がそれぞれ授与されます。これらは、4年制大学や短期大学の卒業生に与えられる「学士」短期大学士と同等のものです。

※設置構想中のため、このリーフレットの記載内容は変更となる可能性があります。

○「耕土耕心（大地を耕し、心を耕す）」の理念のもとに、多くの実習を行い、農林業のプロフェッショナルを養成します
農林大学校の校訓「耕土耕心」＝「むたいに汗し、土にまみれて大地を耕すことにより、自分を知り、自分の心を成長させ、立派な人間性をつくりあげることができる。大地を耕すことは自らからの心を耕すことである」という理念を引き継ぎ、実学を重んじ、社会に貢献する畑で年間を通じた栽培等の実習や、先進的企業でのインターンを実施するとともに、豊かな人間性を養い視野を広げる就業教育を提供します。

○人々の食やくらしを支え、新たな可能性が広がる農林業の、あらゆるシーンに対応できる力を養います

・農林業現場における経営知識の拡大や新しい技術の導入などに貢献することができるよう、基礎的な生産知識や技能に加え、農林業を取り巻く多様なシーンについて学べます。
・農山村の新しい役割として注目を集めている、美しい景観の形成や自然環境の保全などについて学び、農林業を通じて自然と共生しながら地域を支えていく農林業人を養成します。

○全国初の農林業分野の専門職大学です

農林業分野では全国初の公立の専門職大学及び専門職短期大学となる見込みです。専門職大学卒業生には「学士（専門職）」、専門職短期大学卒業生には「短期大学士（専門職）」の学位がそれぞれ授与されます。

農林環境専門職大学 (短大)

生産環境経営学科 (短科) 入学定員 24名 (予定) 4年制

POINT 1

農林業経営の現場で生まれる課題に柔軟に対応しながら、経営の中心として自らの夢を実現できる農林業者の養成を目指します。

○高度な生産技術に加え、マーケティングの視点に立った商品の安全性や食感の改善、販路開拓など、生産者の課題解決の手法を学べます。

○農林業経営者層でのインターンを通じ、実際の経営課題の解決手法を体験する、実践的なプロジェクト実習を行います。

POINT 2

風土・環境や地域の文化を守り、自然と共生していくことのできる、豊かな人間性を持った農林業者の養成を目指します。

○新創作物種など、近年注目を集めている農山村の多様な役割を学べます。



実践的な農林業経営を学ぶカリキュラム

★経営者の公算のほかに、経営者としての実践的な知識を身に付けます。

★経営者としての公算のほかに、経営者としての実践的な知識を身に付けます。

★農林業経営に必要な経営者としての実践的な知識を身に付けます。また、農山村が持つ特徴や課題について学びます。

★農林業経営に必要な経営者としての実践的な知識を身に付けます。また、農山村が持つ特徴や課題について学びます。

★経営者としての公算のほかに、経営者としての実践的な知識を身に付けます。

★経営者としての公算のほかに、経営者としての実践的な知識を身に付けます。

農林業経営のプロフェッショナルを目指す

新しい視点でチャレンジする農林業経営体後継者や幹部、農林業経営体の立上げ、農林業へ参入する企業へ就職、技術指導・普及を行う公務員、JA・森林組合の職員 等



農林環境専門職大学 (短大)

生産科学科 (短科) 入学定員 100名 (予定) 2年制

POINT 1

確かな生産知識と技術を持つ、生産現場で即戦力として活躍するスペシャリスト農林業者の養成を目指します。

○作物別（野菜・花き、野菜、果樹、林産、畜産等）に実践的な生産知識と技術を習得できます。

POINT 2

生産現場のリーダーに必要な豊かな人間性と、現場の課題に対応できる先進的な生産知識・技術と応用力を身に付けます。

○農林業経営者層でのインターンを通じ、生産現場で実践的な知識を身に付けます。

○ICTやIoTなど、農林業現場に導入が進んでいる先端技術を学べます。



実践的な生産技術を学ぶカリキュラム

★生産現場のリーダーに必要な知識と技術を身に付けます。

★生産現場のリーダーに必要な知識と技術を身に付けます。

★生産現場のリーダーに必要な知識と技術を身に付けます。

★生産現場のリーダーに必要な知識と技術を身に付けます。

★生産現場のリーダーに必要な知識と技術を身に付けます。

★生産現場のリーダーに必要な知識と技術を身に付けます。

生産現場のプロフェッショナルを目指す

確かな生産技術・知識を持った農林業後継者、農林業経営体生産現場のリーダー、農林業関連企業（食品・種苗等）への就職 等



※設置構想中のため、このリーフレットの記載内容は変更となる可能性があります。

農林業法人ヒヤリング調査報告

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

株式会社 ハラダ製茶農園

2. 出席者

株式会社 ハラダ製茶農園 工場長 北川清様
静岡県経済産業部農業ビジネス課 課長 田中宣幸、主査 竹内淑子

3. 実施内容

日時：平成 30 年 8 月 9 日（木） 午後 0 時 50 分～1 時 50 分
場所：株式会社 ハラダ製茶農園

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

4 年制大学が出来るのは大歓迎。4 年間で専門的なマネジメントをしっかりと覚えてくる教育を行う大学はありがたい。経営者となるような人材は必要である。当社の経営者（社長）は、当社の親会社の経営者（社長）であるが、親会社の方が中心となっている。社員が使用人という意識でいると、この会社は潰れてしまうので社員が経営感覚を持っていないといけない。

弊社には栽培の指導部門があるが、指導部門の社員には、担当する作物の栽培だけでなく、農業全般を浅く広く、全体が分かっている人材が必要。農業は品目が違ってもつながっているので、農業に関する幅広い勉強をして知識を蓄えてくる、農業全般を勉強してくる人材は必要。

(2) 卒業生の採用について

全国で農業参入の企業は約 3,300 企業であり、専門職大学の人材を狙ってくるだろう。弊社としては、大学と短期大学の両方の人材を採用したい。何を聞いても答えられる、やることも基本どおりの確にやっているとプロ集団に見えるので、そのような人材が欲しい。

(3) 進学について

お茶はティーバックやドリンク原料などの下級茶の需要が高まっており、高級茶の需要は減少している。お茶だけでは経営が成り立たなくなっているため、複合経営が必要である。秋冬野菜や水稲など色々な組み合わせを考えなければならない。複合経営を実践するためには、何種類かの露地野菜や施設園芸などいくつかのパターンを基本どおり覚える学校形式のゼロからの学びが良いと思うので、これらを学ばせるための社員の派遣はあり得る。給料を払いつつ、費用を会社が負担することもあり得る。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

静岡県農業共同組合中央会

2. 出席者

静岡県農業共同組合中央会 部長 杉山和陽 様、嘉茂佑亮 様
静岡県経済産業部農業局農業ビジネス課 課長 田中宣幸、主査 竹内淑子

3. 実施内容

日時：平成30年8月15日（水） 午前9時55分～11時
場所：静岡県農業共同組合中央会担い手支援部

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

大学及び短期大学ともに農業後継者、農業法人就職、JA職員の人材育成機関として期待している。

最近、農業への新規参入者の支援は手厚いが、後継者の支援は薄いという意見もある。後継者育成に力を入れて欲しい。農家の子弟が農業後継者として農業経営を継承して一本立ちしていくことが大事だと思っているので、大学の方では、そのための教育を親からどのように経営継承していくのか学べると良い。

(2) 卒業生の採用について

大学及び短期大学の卒業生は、農業後継者になるだけでなく、農業法人やJAグループに就職していただけるとありがたい。

農業法人は短大の方がターゲットになると思う。

JAは4大卒の採用も行っているが、営農指導員としてなど目的別採用を行っているところはない。

(3) 進学について

見込みがある人材にはもう一度学びの場を与えたいという法人もあると思う。専門職大学へ入学するのは難しいと思うが、学び直しのための社会人向けの講座があると良いのでは。技術の部分は日々触れていると思うので、特に経営の部分だと思う。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

朝霧メイプルファーム有限会社

2. 出席者

朝霧メイプルファーム有限会社 取締役 丸山純 様

静岡県経済産業部農業局農業ビジネス課 田中宣幸、主査 竹内淑子

3. 実施内容

日時：平成30年8月15日（水）午後1時20分～2時

場所：朝霧メイプルファーム有限会社事務室

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

農業に必要なことが4大の設置趣旨に書いてあるが、あとは実現できるかである。

大学と現場・農家のつながりが希薄だと思っているので、有機的につながると良い。強い酪農家を作ることで、相互の影響が及ぶような大学になって欲しい。

(2) 卒業生の採用について

規模拡大を考えているので、大学、短期大学を問わず、いい人材がいれば採用したい。

(3) 進学について

社員の派遣は分からない。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

静岡県森林組合連合会

2. 出席者

静岡県森林組合連合会 代表理事常務 望月鉄彦 様、部長兼総務課長 渡辺英彰 様
静岡県経済産業部農業局 農業ビジネス課 室長 佐野一弘、主査 竹内淑子
同 森林林業局 森林計画課 技監 大石 剛

3. 実施内容

平成30年8月17日（金） 午前10時～10時30分

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

林業の専門知識に特化した人材が育成できるとよい。経営の知識があると更に良いかと思う。
林業分野では現場も出来て、経営も出来る人材が欲しい。木が切れて、パソコン（経営の数字がわかる）が出来て、林学がわかる三能職員が必要。

(2) 卒業生の採用について

林業業界はマイナーなので、林業に就業したいと考える方は山に対する思い入れがある人なので、採用する場合は、そういった人を選択すると思う。

地元の人間で、山のことを勉強して、地元就職したいという人が、連合会としても森林組合としても採用したい人材なので、そのような人材なら短大・4大を問わず採用したい。

(3) 進学について

森林組合などを退職後に、地域で農業を始める人もいるので、林業ではなく、短大の方で農業について学びなおすニーズはあるかもしれない。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

株式会社 カクト・ロコ

2. 出席者

株式会社 カクト・ロコ 代表取締役 野末信子 様
静岡県経済産業部農業ビジネス課 室長 佐野一弘、主査 竹内淑子

3. 実施内容

日時：平成30年8月17日（金） 午後2時～5時10分
場所：株式会社 カクト・ロコ店舗

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

専門職大学が実現できるならば、素晴らしいことだと思った。原点に戻って人間が生きていくためには何が必要か、子供たち教育する必要がある。大学が設置されることで、大学が核となり大地を耕して守っていくということが出来ればそれが基本になる。また、情報を発信することで地域が落ち着いたものになっていくのでは。

大学が環境を守っていくことには意義があると思う。今までは農林大学校がそのような役割を果たしてきたと思うが、世界に触手を伸ばしていく考え方も必要だと思うし、農業の最先端の技術や情報を伝えていける場があるとよい。

経営陣を育てるなら、最後の1年間くらい、どこかの法人の現場でみっちり経営の仕方を学ぶくらいしてもよいのでは。

農業は生産現場があるので、みんなが経営陣になると困る。現場に入るならば、短大で2年間学んで来てくれれば良い。

(2) 卒業生の採用について

経営状況によって、採用したい人材は異なる。現場を担う人材、経営を担う人材も両方欲しいが、経営の方は沢山はいらない。当社には番頭がないので、社長がいなくても采配を振るってくれる人材が2人は欲しい。

(3) 進学について

人手不足や人件費が高騰するなかで、短大で2年間、もしくは大学で4年勉強させる余力が会社にはないので、現状では社員を派遣することは難しい。社員は日々の作業に追われており、頭を柔らかくさせるために本当は良いとは思っているので、費用的な支援があれば考えてみたい。将来的にはあり得るかもしれない。

5. その他

農林大学校から今年は2名採用した。大変期待している。2年間だけだが、植物とともに生活してきた学生は、お勉強ばかりの子とは違う。以前採用した農大の卒業生は、生産の責任者で課長になっているが、来年は外部取締役になる。生産の主になってくれる子がいなくなるので、今年入社した卒業生にお願いすることになる。また、もう一人は営業を任せる予定。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

有限会社 高橋水耕

2. 出席者

有限会社 高橋水耕 代表取締役 高橋和晃 氏
静岡県経済産業部農業局農業ビジネス課 田中宣幸、主査 竹内淑子

3. 実施内容

日時：平成30年8月20日 午後1時15分～2時30分
場所：有限会社 高橋水耕 事務室

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

大学に対する期待はある。しかし、大学を卒業した24人がどのようになっていくのか、不明。農協のTAC（地域農業の担い手に出向くJA担当者）なのか。県内農業法人の社員候補として人気は出ると思うが、経営幹部を求めている法人は、まだ少数である。独立就農を目指す学生が大学の方に来るかもしれない。

一方、短期大学は、卒業後にどのようになっていくのか、想像がつく。生産規模の拡大をしているので、現場を支える人材を育成する短期大学の方を期待している。

(2) 卒業生の採用について

当社では、短大生の方を採用したい。

幹部候補は求めているが、トマト販売を行っているグループ会社の方で、これから大卒のニーズが出てくる可能性はある。

(3) 進学について

社員に派遣はありうる。大学の方の3年次編入ならばあり得る。

5. その他

最近、高卒の採用を行っているが、農林大学校の卒業生と比較すると違いがある。2年間の学びは意味がある。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

株式会社 春野コーポレーション

2. 出席者

株式会社 春野コーポレーション 代表取締役 鳥居 英剛 様
静岡県経済産業部農業ビジネス課 室長 佐野一弘、主査 竹内淑子

3. 実施内容

日時：平成30年8月21日 午後0時55分～1時40分

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

大学の設置の趣旨は賛成である。人やカネ、生産などのマネジメントを行う人材の育成を行うことを目的としていると思うが、あとは、本当にそれが実践できるのかではないか。ヒトや金、生産マネジメントを行う人材ならば、結果が出せるのかが評価のポイントとなる。

正社員は、作業者ではなく責任者や管理者になってもらいたいので、ある程度の教育をされた人材はありがたい。当社には現場の技術力が十分にあるので、生産技術の教育は特に求めている。

(2) 卒業生の採用について

ヒトやカネ、生産技術をマネジメントについて学んだ人材ならばぜひ欲しい。上昇志向のある、幹部を志すような学生を採用したい。

(3) 進学について

戦略、マーケティング、経営課題などについて学ばせるために、社員の派遣はぜひしたい。

5. その他

大学の学生の学び、学生との交流につながるような協力は、ぜひ行いたい。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

株式会社 とやま農園

2. 出席者

株式会社 とやま農園 代表 外山徳彦

静岡県経済産業部農業ビジネス課 室長 佐野一弘、主査 竹内淑子

3. 実施内容

日時：平成30年8月27日 午後0時50分～1時30分

場所：株式会社 とやま農園事務室

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

経営の知識を最初から身につけ、幹部として最初から経営に関わってくれる人がいると良い。最近、経営が分かる人材を求める経営体は増え始めていると感じる。

法人になる農家が増えている。目的を持って法人にしていると思うが、経営規模の拡大を目指している農家は必ず従業員と従業員を管理する人が必要となってくる。そういう人が増えてくる中で、短期大学を出て、現場ですぐに仕事ができる人と、経営者として現場に出ながら従業員を管理していく人たちが必要となってくる。経営者を育てる専門職大学は必要だと思う。

現場の人材を育てる短期大学と、経営者を育てる大学の両方があることは意味がある。

(2) 卒業生の採用について

生産現場ではチームに分かれて仕事をするが、チームをまとめる人が欲しい。また、自分の後継者になるような人材に加え、もう一人右腕になるような人を採用したい。

(3) 進学について

社員が学び直しのために大学へ行くことはあり得る。本人のやる気次第。以前、農大の講座に行かせたことはある。

5. その他

農林大学校の卒業生を去年採用した。現場に出ているので仕事には慣れていていると思うが、即戦力までではない。専門的な部分は、もう少し突っ込んで勉強をすると良いかと思う。そうすれば、1年目から即戦力になる。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

富士森林組合

2. 出席者

富士森林組合 代表理事専務 古川日出男、参与 遠藤康由
静岡県経済産業部農業ビジネス課 室長 佐野一弘、主査 竹内淑子

3. 実施内容

日時：平成30年8月30日 午前10時～11時10分
場所：富士森林組合事務室

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

コンセプトに沿った、地域に沿った人材育成を行ってほしい。林業の施業が大きく変わっていると感じられる人でないといけない。新しい人材をいれていかないと、林業は持続的に発展しない。これから林業分野では、経営を行う人材を求められるようになる。林業の将来を見通せるリーダーが必要である。受入側と育成側がどのように連携して人材育成をおこなっていくのか、考えてほしい。

(2) 卒業生の採用について

林業現場を担う人材と森林施業プランナーと両方が必要である。現場を担うのか、プランナーになるかは、本人次第だが、現場だけでいい人は短期大学でよい。大学ならば、林業の実務を学ぶだけでなく、森林施業プランナーを育成することが必要である。プランナーは、現場がわかっていて、プランを作成するものなので、短期大学の+2年の教育が必要である。

(3) 進学について

大学への職員の派遣はあり得る。負担をどのようにするかが課題ではある。

静岡県立農林環境専門職大学（仮称）生産環境経営学部（仮称）及び
静岡県立農林環境専門職大学短期大学部（仮称）生産科学科（仮称）の設置に係る
ヒヤリング結果

1. 法人名

農事組合法人 ジャパン・ベリー

2. 出席者

農事組合法人 ジャパン・ベリー 代表理事組合長 上山優
静岡県経済産業部農業ビジネス課 班長 田林大介、主査 竹内淑子

3. 実施内容

日時：平成30年9月13日 午前11時40分～午後0時20分
場所：農事組合法人 ジャパン・ベリー事務室

4. ヒヤリング結果

(1) 設置の趣旨・養成する人材像について

専門職大学、専門職短期大学は期待している。ぜひ、コンセプトにある人材を育成してほしい。

(2) 卒業生の採用について

専門職大学の卒業生を採用したい。右腕となるような、経営を考えられる人を入れていきたい。
専門職短期大学の卒業生は、継続して採用したい。施設園芸や野菜の知識、幅広い知識、バイ
タリティーを備えた人材が欲しい。

(3) 進学について

職員の派遣は将来的にはあり得る。どちらかという短期講座をやってもらった方が職員を参加
させやすい。

5. その他

現在の農林大学校卒業生は良く働いてくれる。イチゴの知識があるので助かる。今後は、現場をま
かせるようにしていきたい。

平成 30 年 7 月 17 日

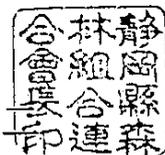
経済産業部理事 (林業・森の防潮堤推進担当)

西島 潔 様

平成 31 年度 森林・林業施策に係る要請書

静岡県森林組合連合会 会長

中谷 多加



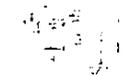
静岡県木材協同組合連合会 会長

滝浪 龍司



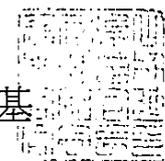
公益社団法人 静岡県山林協会 会長

鈴木 康友



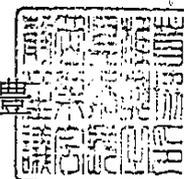
静岡県山林種苗協同組合連合会 会長

大杉 好基



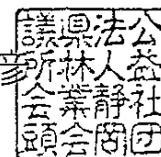
静岡県椎茸産業振興協議会 会長

菊地 豊



公益社団法人静岡県林業会議所 会頭

大富部 喜彦



はじめに

静岡県におかれては、スギ・ヒノキ人工林資源が十分に成熟したことを背景に県産材の需要と供給を一体的に創造する「ふじのくに森林・林業再生プロジェクト第2ステージ」を重点的に進めていただきました。その結果、平成29年には素材生産量46.3万立方メートルを達成するまでに至りました。また、本年度からは、新たな総合計画のもとで「ふじのくに林業成長産業化」に取り組んでいただいていることから、本県の森林・林業・木材産業に明るい展望が開けてきていることに心より感謝申し上げます。

また、温暖化の影響等により全国的に異常な豪雨による山地災害が頻発しているなか、災害の誘因ともなりかねない荒廃森林につきましては「森の力再生事業」などにより、整備が着実に進められていることに重ねて感謝申し上げます。

さて近年、東海地域では新たな大型合板工場、製材工場などの新設が相次ぎ木材需要が急激に増加する中、来年度から「新たな森林管理システムと森林環境譲与税（仮称）」の開始が決定されるなど、森林・林業界を取り巻く環境は大きく変革しています。我々はこれを契機として林業・木材産業や中山間地の振興を一層進める所存です。

しかしながら現状では需要増加に対応する集約化や生産性の高い技術の導入の遅れ、専門技術者や作業員の不足、シカ等による造林木被害などの問題が山積みになっています。また一方では山地災害の発生や松くい虫被害による海岸防災林の機能低下、高波による防潮堤侵食の進行など、県民の生活は依然として脅かされています。

このように森林・林業・木材産業や中山間地を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。私ども森林・林業・木材産業関係6団体は、本県の森林の多面的機能を持続的かつ高度に発揮させて、県民福祉の増進と県勢の発展に貢献するため、多くの関係者と相協力しながら、森林の保全・整備、林業・木材産業の振興、森林整備の担い手の育成等に鋭意努めていく所存であります。

つきましては、平成31年度森林・林業施策に係る要請事項を以下のとおり取り纏めましたので、「治山事業」「森林整備事業」「木材産業振興」「山村振興」等の各種施策について、特段の御配慮のもと県独自の強力な施策を講じていただけますようお願い致します。

公益社団法人静岡県山林協会

1. 県土の保全、森林・林業・木材産業関係予算の確保

- ・ 県土の64%を占める森林は、木材の産出機能をはじめ、水源涵養・防災機能など県民にとって何ものにも代えることができない多面的な機能を有しています。
- ・ 我々はこれをよく理解し、各団体の連携や県との連携により森林の適正な整備や保全に努力しているところでありますので、下記項目にご配慮願います。

① 治山・林道、林業・木材産業の成長産業化に関する予算の確保

【特に確保を要望する予算】

- ・ 東京2020オリンピック・パラリンピック（自転車競技）や世界遺産に関連した道路沿線等の森林景観整備に関する予算
- ・ “ふじのくに森の防潮堤づくり”に関する予算
- ・ 山間地の荒廃森林における治山事業に関する予算

2. 森林環境譲与税事業（仮称）の円滑な実施に向けた指導助言

- ・ 平成31年度から森林環境譲与税（仮称）による事業が開始されますが、市町では専門技術者が不足しており円滑な執行に支障が生じる可能性があります。
- ・ また森林環境譲与税事業（仮称）の実施にあたり市町間の連携や県実施の森の力再生事業との調整により公益的機能の早期発揮が期待できます。
- ・ このため下記項目について指導・助言等の支援を要望します。

② 森林環境譲与税（仮称）を活用した事業の円滑な実施に向けた市町、事業体への指導・助言等の支援

③ 森林の公益的機能の早期発揮に向けた森林環境譲与税事業（仮称）と森の力再生事業との調整

3. 森林・林業を託す人材の育成

- ・ 林業事業体の技術者不足が深刻化しており、技術者の安定的な養成・供給に向け技術者教育機関の再整備を進めることが緊急かつ重要です。
- ・ また、本県有効求人倍率が昨年4月以降1.5倍を超え各業界で新規就業者確保が困難となる中、林業への新規就業者の着実な確保が重要です。
- ・ さらに、技術者や経営者の能力向上を図るためにビジネス林業促進事業の拡充が必要です。以上のことから下記事項を要望します。

④ 専門職大学の創設

⑤ 新規就業促進事業の拡充

⑥ ビジネス林業促進事業の拡充

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	スズキ シゲヒコ 鈴木 滋彦 <平成32年4月>		農学博士		国立大学法人静岡大学副学長（国際戦略担当） （昭和53.6） 静岡県立農林環境専門職大学短期大学部学長 ※

※ 本学の学長は併設する静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の学長を兼務するため、本学と静岡県立農林環境専門職大学短期大学部への従事割合を1：1とし、按分して月額基本給を算出し、記載している。

※ 本学と静岡県立農林環境専門職大学短期大学部を兼務する教員については、月額基本給欄に()書きでその旨を記載の上、専任大学と兼任大学の従事割合を7:3とみなし、按分して月額基本給を算出し、記載している。

教員の氏名等													
(生産環境経営学部生産環境経営学科)													
前判定結果	調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
	1	専	教授 (学部長)	タタラ アキオ 多々良 明夫 <平成32年4月>		博士(農学)		静岡学 応用昆虫学 県内農林業事情※ 経営実習Ⅰ 経営実習Ⅱ 経営分析演習Ⅰ 経営分析演習Ⅱ プロジェクト研究	1通 2後 1前 4前 4後 4前 4後 4通	2 2 0.4 5 5 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1	法政大学 生命科学部 応用植物科学科 教授 (平28.4)	5日
	①	専	教授	モリグチ タカヤ 森口 卓哉 <平成32年4月>		博士(農学)		園芸学※ 園芸学各論※ 農林業のための生物学 農と食の健康論※ 技術者倫理※ 経営実習Ⅰ 経営実習Ⅱ 経営分析演習Ⅰ 経営分析演習Ⅱ プロジェクト研究	2後 3前 1前 2後 3前 4前 4後 4前 4後 4通	0.7 0.7 2 1.1 0.3 5 5 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	(国研)農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門 企画管理部 専門員 (平31.4)	5日
	②	専	教授	スケモリ セイジ 祐森 誠司 <平成32年4月>		農学博士		農林業のための化学 農林業生産理論※ 飼料総論 家畜飼養学 県内農林業事情※ 農学概論※ 経営実習Ⅰ 経営実習Ⅱ 経営分析演習Ⅰ 経営分析演習Ⅱ プロジェクト研究	1前 1後 2前 2前 1前 1前 4前 4後 4前 4後 4通	2 0.5 2 2 0.4 0.1 5 5 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京農業大学 農学部 教養分野 教授 (平7.4)	5日
	③	専	教授	オウサカ オキヒロ 逢坂 興宏 <平成32年4月>		博士(農学)		農林業のための地学 森林土木学 森林計画・政策論※ 農業気象学※ 環境と農林業※ 情報処理基礎 情報処理応用 技術者倫理※ 経営実習Ⅰ 経営実習Ⅱ 経営分析演習Ⅰ 経営分析演習Ⅱ プロジェクト研究	1後 2前 2前 2前 1後 1前 2後 3前 4前 4後 4前 4後 4通	2 2 0.9 0.3 0.4 1 1 0.4 5 5 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	静岡大学 農学部生物資源科学科 准教授 (平5.3)	5日
	④	専	教授	アマノ テソウ 天野 哲郎 <平成32年4月>		博士(農学)		農林業政策 経営戦略 農林業の経営組織論※ 農林業経営学※ 経営実習Ⅰ 経営実習Ⅱ 経営分析演習Ⅰ 経営分析演習Ⅱ プロジェクト研究	1前 2前 3前 1前 4前 4後 4前 4後 4通	2 2 1.2 1.6 5 5 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1	(国研)農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター 新技術開発部 嘱託 (平31.4)	5日

※ 本学と静岡県立農林環境専門職大学短期大学部を兼務する教員については、月額基本給欄に（ ）書きでその旨を記載の上、専任大学と兼任大学の従事割合を7：3とみなし、按分して月額基本給を算出し、記載している。

教員の氏名等														
(生産環境経営学部生産環境経営学科)														
前判定結果	調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	
	6	専	教授	キクチ ヒロユキ 菊池 宏之 <平成32年4月>		博士(学術)		フードシステム論	1後	2	1	流通マネジメント研究所代表 (平30.4)	5日	
							農と食の起業論	3後	2	1				
							経営管理論	1後	2	1				
							経営実習Ⅰ	4前	5	1				
							経営実習Ⅱ	4後	5	1				
							経営分析演習Ⅰ	4前	1	1				
							経営分析演習Ⅱ	4後	1	1				
							プロジェクト研究	4通	2	1				
	5	専	教授	カ(クリタ) レイカ 柯(栗田) 麗華 <平成33年4月>		博士(経営学)		マーケティング論	2後	2	1	静岡産業大学 情報学部教授 (平22.4)	5日	
							販売管理実習	3後	2	1				
							経営実習Ⅰ	4前	5	1				
							経営実習Ⅱ	4後	5	1				
							経営分析演習Ⅰ	4前	1	1				
							経営分析演習Ⅱ	4後	1	1				
							プロジェクト研究	4通	2	1				
	6	専	教授	マエダ セツコ 前田 節子 <平成32年4月>		博士(農学)		食文化論	2後	2	1	静岡英和学院大学短期大学部 食物学科教授(学科長) (平22.4)	5日	
							6次産業化実践論	3後	2	1				
							食品加工実習	3前	2	1				
							経営実習Ⅰ	4前	5	1				
							経営実習Ⅱ	4後	5	1				
							経営分析演習Ⅰ	4前	1	1				
							経営分析演習Ⅱ	4後	1	1				
							プロジェクト研究	4通	2	1				
	9	専	准教授	オオツカ マコト 大塚 誠 <平成32年4月>		博士(農学)		家畜衛生学	2後	2	1	(国研)農業・食品産業技術総合研究機構 畜産研究部 企画管理部 リスク管理室 上級研究員 (平23.4)	5日	
							生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)	2後	4	1				
							生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)	3通	4	1				
							経営実習Ⅰ	4前	5	1				
							経営実習Ⅱ	4後	5	1				
							経営分析演習Ⅰ	4前	1	1				
							経営分析演習Ⅱ	4後	1	1				
							プロジェクト研究	4通	2	1				
	7	専	准教授	ヒラオカ ユウイチロウ 平岡 裕一郎 <平成32年4月>		博士(農学)		統計学	1後	2	1	(株)ゆうライフサービス (平31.4)	5日	
							農林業生産理論※	1後	0.5	1				
							森林計画・政策論※	2前	0.4	1				
							県内農林業事情※	1前	0.4	1				
							農学概論※	1前	0.3	1				
							生産マネジメント実習Ⅰ(林業)	2後	4	1				
							生産マネジメント実習Ⅱ(林業)	3通	4	1				
							経営実習Ⅰ	4前	5	1				
							経営実習Ⅱ	4後	5	1				
							経営分析演習Ⅰ	4前	1	1				
							経営分析演習Ⅱ	4後	1	1				
							プロジェクト研究	4通	2	1				
	11	専	准教授	ナカヤマ マサノリ 中山 正典 <平成32年4月>		博士(地域社会システム)		歴史学概論	2前	2	1	磐田市文化財課 磐田市歴史文書館 嘱託 (平30.4)	5日	
							農林業史	1後	2	1				
							農山村田園地域公共学	1前	2	1				
							農村景域論	3前	2	1				
							経営実習Ⅰ	4前	5	1				
							経営実習Ⅱ	4後	5	1				
							経営分析演習Ⅰ	4前	1	1				
							経営分析演習Ⅱ	4後	1	1				
							プロジェクト研究	4通	2	1				

※ 本学と静岡県立農林環境専門職大学短期大学部を兼務する教員については、月額基本給欄に（ ）書きでその旨を記載の上、専任大学と兼任大学の従事割合を7：3とみなし、按分して月額基本給を算出し、記載している。

教員の氏名等														
(生産環境経営学部生産環境経営学科)														
前判定結果	調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	
	⑧	専	准教授	ニワ ヤスオ 丹羽 康夫 <平成32年4月>		博士(理学)		分子生物学 在来作物学 生命科学※ 技術者倫理※ 農学概論※ 経営実習Ⅰ 経営実習Ⅱ 経営分析演習Ⅰ 経営分析演習Ⅱ プロジェクト研究	1前 3前 1後 3前 1前 4前 4後 4前 4後 4通	2 2 1.3 0.4 0.3 5 5 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	静岡県立大学 食品栄養科学部 食品生命科学科 助教 (平3.10)	5日	
	13	専	准教授	ナイトウ ヒロタカ 内藤 博敬 <平成32年4月>		博士(学術)		食品科学 農と食の健康論※ 医福食農連携論※ 経営実習Ⅰ 経営実習Ⅱ 経営分析演習Ⅰ 経営分析演習Ⅱ プロジェクト研究	2前 2後 2後 4前 4後 4前 4後 4通	2 0.9 1.3 5 5 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1	静岡県立大学 食品栄養科学部 環境生命科学科 助教 (平5.4)	5日	
	⑨	専	講師	オオタ サトシ 太田 智 <平成32年4月>		博士(農学)		生産マネジメント実習Ⅰ(栽培) 生産マネジメント実習Ⅱ(栽培) 生命科学※ 植物遺伝育種学概論※ 総合実習※ 圃場実習(栽培)※ 経営実習Ⅰ 経営実習Ⅱ 経営分析演習Ⅰ 経営分析演習Ⅱ プロジェクト研究	2後 3通 1後 2後 1通 2前 4前 4後 4前 4後 4通	4 4 0.7 1.1 0.3 0.4 5 5 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	(国研)農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門 カンキツ研究領域 主任研究員 (平19.4)	5日	
	⑩	専	助教	アイソ(サナダ) ハルナ 相蘇(真田) 春菜 <平成32年4月>		博士(農学)		木質科学概論 演習林実習 総合実習※ 経営実習Ⅰ 経営実習Ⅱ 経営分析演習Ⅰ プロジェクト研究	2後 2前 1通 4前 4後 4前 4通	2 2 0.1 5 5 1 2	1 1 1 1 1 1	(国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 木材加工・特性研究領域 組織材質研究室・日本学術振興会特別研究員 (平30.4)	5日	
	16	実専	講師	ナガフジ アキヒコ 長藤 亮彦 <平成33年4月>		農学士		大型機械実習Ⅰ 大型機械実習Ⅱ 農業気象学※ 経営実習Ⅰ 経営実習Ⅱ 経営分析演習Ⅰ 経営分析演習Ⅱ	2前 3前 2前 4前 4後 4前 4後	4 2 0.3 5 5 1 1	2 1 1 1 1 1	静岡県農林技術研究所 農業ロボット・経営戦略科長 (昭60.4)	5日	
	⑪	実専	講師	オオイシ リュウ 大石 竜 <平成32年4月>		博士(農学)		生産マネジメント実習Ⅰ(栽培) 生産マネジメント実習Ⅱ(栽培) 農林業経営学※ 環境と農林業※ 総合実習※ 圃場実習(栽培)※ 経営実習Ⅰ 経営実習Ⅱ 経営分析演習Ⅰ 経営分析演習Ⅱ プロジェクト研究	2後 3通 1前 1後 1通 2前 4前 4後 4前 4後 4通	4 4 0.1 0.3 0.1 0.4 5 5 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1	静岡県立農林大学校 教務課 養成班 主査 (平23.4)	5日	

※ 本学と静岡県立農林環境専門職大学短期大学部を兼務する教員については、月額基本給欄に（ ）書きでその旨を記載の上、専任大学と兼任大学の従事割合を7：3とみなし、按分して月額基本給を算出し、記載している。

教員の氏名等														
(生産環境経営学部生産環境経営学科)														
前判定結果	調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	
	12	実専	講師	サダヒロ メグミ 貞弘 恵 <平成32年4月>		学士(獣医学)		家畜生理解剖学	2前	2	1	静岡県立農林大学校 教務課主査 (平29.4)	5日	
								環境保全型農林業論※	3前	0.3	1			
								企業実習	3後	10	1			
								生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)	2後	4	1			
								生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)	3通	4	1			
								圃場実習(畜産)	2前	2	1			
								GAP演習※	2前	0.3	1			
								総合実習※	1通	0.3	1			
								経営実習Ⅰ	4前	5	1			
								経営実習Ⅱ	4後	5	1			
								経営分析演習Ⅰ	4前	1	1			
								経営分析演習Ⅱ	4後	1	1			
								プロジェクト研究	4通	2	1			
	19	実(研)	教授	マツオ カズキ 松尾 和之 <平成32年4月>		博士(農学)		作物学	2前	2	1	(国研)国際農林水産業研究センター リスク管理室 再雇用職員 (平29.4)	5日	
								農林業のための先端技術	3前	2	1			
								農学概論※	1前	0.3	1			
								経営実習Ⅰ	4前	5	1			
								経営実習Ⅱ	4後	5	1			
								経営分析演習Ⅰ	4前	1	1			
								経営分析演習Ⅱ	4後	1	1			
								プロジェクト研究	4通	2	1			
	13	実(研)	教授	サトウ ノブキ 佐藤 展之 <平成32年4月>		博士(農学)		土壌肥料・植物栄養学※	2前	1.1	1	静岡県経済産業部 農業ビジネス課 専門職大学開学準備室 教務班 主任 (平29.4)	5日	
								園芸学※	2後	0.7	1			
								園芸学各論※	3前	0.7	1			
								収穫後生理学	3前	2	1			
								農林業生産理論※	1後	0.4	1			
								農業気象学※	2前	0.5	1			
								県内農林業事情※	1前	0.4	1			
								農学概論※	1前	0.1	1			
								経営実習Ⅰ	4前	5	1			
								経営実習Ⅱ	4後	5	1			
								経営分析演習Ⅰ	4前	1	1			
								経営分析演習Ⅱ	4後	1	1			
								プロジェクト研究	4通	2	1			
	14	実(研)	教授	トガワ マサユキ 外側 正之 <平成32年4月>		博士(農学)		植物病理学	2前	2	1	静岡県農林技術研究所 病害虫防除所 班長 (昭60.4)	5日	
								土壌肥料・植物栄養学※	2前	0.9	1			
								環境と農林業※	1後	1.3	1			
								農学概論※	1前	0.3	1			
								経営実習Ⅰ	4前	5	1			
								経営実習Ⅱ	4後	5	1			
								経営分析演習Ⅰ	4前	1	1			
								経営分析演習Ⅱ	4後	1	1			
								プロジェクト研究	4通	2	1			
	15	実(研)	教授	オザワ アキヒト 小澤 朗人 <平成32年4月>		博士(農学)		環境保全型農林業論※	3前	0.8	1	静岡県立農林大学校 教務課 研究班 主幹 (昭60.4)	5日	
								企業実習	3後	10	1			
								経営実習Ⅰ	4前	5	1			
								経営実習Ⅱ	4後	5	1			
								経営分析演習Ⅰ	4前	1	1			
								経営分析演習Ⅱ	4後	1	1			
								プロジェクト研究	4通	2	1			

※ 本学と静岡県立農林環境専門職大学短期大学部を兼務する教員については、月額基本給欄に（ ）書きでその旨を記載の上、専任大学と兼任大学の従事割合を7：3とみなし、按分して月額基本給を算出し、記載している。

教員の氏名等														
(生産環境経営学部生産環境経営学科)														
前判定結果	調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に就事する週当たり平均日数	
	16	実(研)	教授	スギヤマ ケイタロウ 杉山 恵太郎 <平成32年4月>		博士(農学)		園芸学※ 園芸学各論※ 企業実習 農林業生産理論※ 県外農林業事情 海外農林業事情 県内農林業事情※ 農学概論※ 経営実習Ⅰ 経営実習Ⅱ 経営分析演習Ⅰ 経営分析演習Ⅱ プロジェクト研究	2後 3前 3後 1後 2前 3前 1前 1前 4前 4後 4前 4後 4通	0.7 0.7 10 0.5 1 1 0.4 0.1 5 5 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	静岡県経済産業部 農芸振興課 野菜振興班長 (平4.4)	5日	
	17	実(研)	教授	イケダ キョヒコ 池田 潔彦 <平成33年4月>		博士(農学)		木材利用・流通論 木材加工実習※ 林業機械実習【隔年】 企業実習 木材生産システム※ 生産マネジメント実習Ⅱ(林業)※ 経営実習Ⅰ 経営実習Ⅱ 経営分析演習Ⅰ 経営分析演習Ⅱ プロジェクト研究	2後 3前 3・4前 3後 2後 3通 4前 4後 4前 4後 4通	2 0.9 2 10 0.3 2 5 5 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター 森林資源利用科長 (昭61.4)	5日	
	18	兼任	教授	タケウチ タカシ 竹内 隆 <平成32年4月>		農学士		技術者倫理※	3前	0.3	1	静岡県立農林大学校 教務課 主任 (平30.4)		
	26	兼任	教授	イナバ ゼンタロウ 稲葉 善太郎 <平成32年4月>		博士(農学)		植物遺伝育種学概論※ 農学概論※	2後 1前	0.9 0.1	1 1	静岡県農林技術研究所 伊豆農業研究センター わさび生産技術科 主任 (平31.4)		
	19	兼任	教授	スギヤマ ヤスユキ 杉山 泰之 <平成32年4月>		博士(農学)		GAP演習※ 農学概論※	2前 1前	1.3 0.1	1 1	静岡県経済産業部 農業局地域農業課 農産環境班長 (平3.4)		
	20	兼任	教授	コバヤシ シンイチ 小林 信一 <平成32年4月>		農学博士		技術者倫理※ 畜産法規 野生鳥獣管理・利用論 農林業経営学※	3前 3前 1後 1前	0.1 2 2 0.1	1 1 1 1	日本大学 生物資源科学部 動物資源科学科 教授 (平1.4)		
	21	兼任	教授	カタヤマ ノブヤ 片山 信也 <平成32年4月>		博士(獣医学)		環境保全型農林業論※ 技術者倫理※	3前 3前	0.5 0.3	1 1	静岡県畜産技術研究所 研究統括監 (昭60.4)		
	22	兼任	教授	コンドウ アキラ 近藤 晃 <平成32年4月>		農学修士		木材生産システム※ 造林学 農林業経営学※ 技術者倫理※ 森林計画・政策論※ 生産マネジメント実習Ⅱ(林業)※	2後 2前 1前 3前 2前 3通	1.3 2 0.1 0.3 0.7 0.5	1 1 1 1 1 1	静岡県西部農林事務所 天竜農林局 森林経営課 主任 (平30.4)		
	23	兼任	准教授	ナカネ タケン 中根 健 <平成32年4月>		農学士		生産マネジメント実習Ⅰ(栽培) 生産マネジメント実習Ⅱ(栽培) 圃場実習(栽培)※ 総合実習※	2後 3通 2前 1通	4 4 0.4 0.4	1 1 1 1	静岡県立農林大学校 教務課 養成班主幹兼副班長 (昭60.4)		
	24	兼任	准教授	ナカノ タカユキ 中野 敬之 <平成32年4月>		農学士		生産マネジメント実習Ⅰ(栽培) 生産マネジメント実習Ⅱ(栽培) 圃場実習(栽培)※ 総合実習※ 農業気象学※ 農学概論※	2後 3通 2前 1通 2前 1前	4 4 0.4 0.3 0.9 0.1	1 1 1 1 1 1	静岡県農林技術研究所 茶業研究センター 茶生産技術科長 (昭60.4)		

※ 本学と静岡県立農林環境専門職大学短期大学部を兼務する教員については、月額基本給欄に（ ）書きでその旨を記載の上、専任大学と兼任大学の従事割合を7：3とみなし、按分して月額基本給を算出し、記載している。

教員の氏名等														
(生産環境経営学部生産環境経営学科)														
前判定結果	調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職務に 従事する週当たり 平均日数	
	33	兼任	准教授	ワタナベ タカユキ 渡邊 貴之 <平成32年4月>		学士(農学)		家畜育種繁殖学	2後	2	1	(独)家畜改良センター 本所 種畜課長補佐 (平10.4)		
								人工授精論	2後	2	1			
	(25)	兼任	准教授	ウガイ カズヒロ 鶴飼 一博 <平成32年4月>		修士(農学)		環境保全型農林業論※	3前	0.4	1	静岡県西部農林事務所 天竜農林局 治山課 林地 保全班長 (平7.4)		
								木材生産システム※	2後	0.3	1			
								生産マネジメント実習Ⅱ(林業)※	3通	1.4	1			
	35	兼任	准教授	ヨコタ シゲナガ 横田 茂永 <平成32年4月>		博士(農学)		食品流通論	3前	2	1	京都大学大学院農学研究 科生物資源経済学専攻 特定准教授 (平30.4)		
								コミュニティビジネス論	3後	2	1			
	(26)	兼任	講師	イミギ カオル 五十右 薫 <平成32年4月>		農学士		生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)	2後	4	1	静岡県立農林大学校 教 務課 主任 (平30.4)		
								生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)	3通	4	1			
								圃場実習(栽培)※	2前	0.4	1			
								総合実習※	1通	0.3	1			
	(27)	兼任	講師	マズダ トシヒコ 増田 壽彦 <平成32年4月>		高等学校卒		生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)	2後	4	1	静岡県立農林大学校 技 監兼教務課長 (昭55.4)		
								生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)	3通	4	1			
								圃場実習(栽培)※	2前	0.4	1			
								総合実習※	1通	0.5	1			
	(28)	兼任	講師	サカグチ リョウスケ 坂口 良介 <平成32年4月>		学士(農学)		生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)	2後	4	1	静岡県立農林大学校 教 務課 主査 (平16.4)		
								生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)	3通	4	1			
								圃場実習(栽培)※	2前	0.4	1			
								総合実習※	1通	0.5	1			
								GAP演習※	2前	0.3	1			
	39	兼任	講師	ヤマガ イツテツ 山家 一哲 <平成32年4月>		博士(農学)		生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)	2後	4	1	静岡県農林技術研究所 果樹研究センター 果樹 生産技術科 上席研究員 (平15.4)		
								生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)	3通	4	1			
								圃場実習(栽培)※	2前	0.4	1			
	34	兼任	講師	アオヤマ トウイチ 青山 東一 <平成32年4月>		高等学校卒		生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)	2後	4	1	静岡県中遠農林事務所 農業振興部長 (昭55.4)		
								生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)	3通	4	1			
								圃場実習(畜産)	2前	2	1			
	(29)	兼任	講師	ホシカワ タケシ 星川 健史 <平成32年4月>		修士(農学)		生産マネジメント実習Ⅰ(林業)	2後	4	1	静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター 森林資源利用科 主任研 究員 (平18.4)		
								木材加工実習※	3前	1.1	1			
								演習林実習	2前	2	1			
	42	兼任	講師	ヨシムラ チカシ 吉村 親 <平成32年4月>		修士(教育学)		農村社会論	1後	2	1	公益社団法人岩手県農業 公社 総務部 主査(岩手 県農林水産部農業振興課 へ出向中(主任担い手対 策専門員)) (平26.4)		
								グリーン・ツーリズム論	3前	2	1			
								農山村デザイン演習	2後	2	1			
								圃場実習(栽培)※	2前	0.4	1			
								医福食農連携論※	2後	0.7	1			
								農学概論※	1前	0.1	1			
	(30)	兼任	講師	イケガヤ アツシ 池ヶ谷 篤 <平成32年4月>		学士(農学)		食品加工実習	3前	2	1	静岡県農林技術研究所 加工技術科 主任研究 員 (平19.4)		
								販売管理実習	3後	2	1			
	44	兼任	講師	スズキ モトコ 鈴木 元子 <平成32年4月>		博士(文学)		英語Ⅰ	1前	2	1	静岡文化芸術大学文化 政策学部国際文化学科 教授 (平13.4)		
	45	兼任	講師	スズキ ケンジ 鈴木 健司 <平成32年4月>		修士(体育学)		保健体育Ⅰ	1通	2	1	SUZUKIフィットネス 代表 (平23.4)		
								保健体育Ⅱ	2通	2	1			
	46	兼任	講師	ミヤザキ(サトウ) リンコ 宮崎(佐藤) 倫子 <平成32年4月>		博士(理学)		農林業のための基礎数学	1前	2	1	静岡大学工学部数理シ ステム工学科教授 (平10.4)		

※ 本学と静岡県立農林環境専門職大学短期大学部を兼務する教員については、月額基本給欄に（ ）書きでその旨を記載の上、専任大学と兼任大学の従事割合を7：3とみなし、按分して月額基本給を算出し、記載している。

教員の氏名等														
(生産環境経営学部生産環境経営学科)														
前判定結果	調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	
	47	兼任	講師	イシガキ(ヒトスキ) ミカ 石垣(一杉) 美佳 <平成32年4月>		学士(法学)		簿記基礎 簿記応用	1前 1後	1 1	1 1	静岡産業大学経営学部特任講師 (平22.4)		
	48	兼任	講師	スズキ ヒロタカ 鈴木 浩孝 <平成32年4月>		博士(経済学)		経済学概論	1前	2	1	静岡文化芸術大学文化政策学部文化政策学科准教授 (平21.4)		
	49	兼任	講師	イノ カツミ 飯野 勝己 <平成32年4月>		博士(文学)		コミュニケーション論	1前	2	1	静岡県立大学国際関係学部国際関係学科准教授 (平21.4)		
	50	兼任	講師	コバヤシ ミチオ 小林 道生 <平成32年7月>		博士(法学)		法学概論	1前	2	1	静岡大学人文社会科学部法学科教授 (平13.4)		
	51	兼任	講師	イワサキ トシユキ 岩崎 敏之 <平成32年10月>		工学修士		農林業のための物理学	1後	2	1	静岡文化芸術大学デザイン学部デザイン学科准教授 (平28.4)		
	52	兼任	講師	イヤナギ ミキ 井柳 美紀 <平成32年10月>		博士(法学)		政治学概論	1後	2	1	静岡大学人文社会科学部法学科教授 (平23.4)		
	53	兼任	講師	ホン ソンウク 洪 性旭 <平成32年10月>		博士(学術)		社会学概論	1後	2	1	東京外国語大学国際関係研究所特別研究員 (平28.4)		
	54	兼任	講師	タカセ ナミ 高瀬 奈美 <平成32年10月>		Master of Arts (TESOL)		英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ	1後 2前 2後	2 2 2	1 1 1	静岡大学情報学部非常勤講師 (平30.4)		
	55	兼任	講師	サトウ カズミ 佐藤 和美 <平成33年4月>		商学修士		管理会計 財務会計	3前 2前	1 2	1 1	静岡産業大学経営学部教授 (平14.4)		
	56	兼任	講師	タケノウチ ヒロフミ 竹之内 裕文 <平成33年7月>		博士(文学)		農と食の哲学	2前	2	1	静岡大学農学部生物資源科学科教授 (平18.4)		
	57	兼任	講師	ホソカワ ミツヒロ 細川 光洋 <平成33年10月>		修士(教育学)		文学概論	2後	2	1	静岡県立大学国際関係学部国際言語文化学科教授 (平27.4)		
	58	兼任	講師	ウエハラ カツヒト 上原 克仁 <平成33年10月>		博士(経済学)		労務管理 人材マネジメント	2後 3後	2 2	1 1	静岡県立大学経営情報学部経営情報学科准教授 (平29.4)		
	59	兼任	講師	シノハラ カズヒロ 篠原 和太 <平成33年10月>		修士(文学)		文明論	2後	2	1	静岡大学人文社会科学部社会学科教授 (平8.4)		
	60	兼任	講師	アオシマ ソウチ(トモコ) 青島 宗智(智子) <平成34年4月>		各種学校卒		茶道	3前	1	1	静岡県茶道連盟理事長 (平26.6)		
	61	兼任	講師	カワセ ノリタケ 川瀬 範毅 <平成34年4月>		農学士		華道	3前	1	1	静岡県立農林大学校教務課主任 (平26.4)		
	36	兼任	講師	シバガキ ヒロシ 柴垣 裕司 <平成34年7月>		博士(農学)		農林業の経営組織論※	3前	0.8	1	静岡大学農学部生物資源科学科准教授 (平5.10)		
	63	兼任	講師	オオニシ(ナカムラ) ユカ 大西(中村) 由香 <平成34年10月>		博士(理学)		知的財産権	3後	2	1	静岡大学イノベーション社会連携推進機構准教授 (平21.4)		

(生産環境経営学部生産環境経営学科)

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	採用根拠等
1	専	教授 (学部長)	タタラ アキオ 多々良 明夫 <平成32年4月>		静岡県立農林環境専門職大学教員定年規程 附則第2 静岡県立農林環境専門職大学(仮称)開学準備 委員会にて承認(平成30年10月17日)
①	専	教授	モリグチ タカヤ 森口 卓哉 <平成32年4月>		静岡県立農林環境専門職大学教員定年規程 附則第2 静岡県立農林環境専門職大学(仮称)開学準備 委員会にて承認(平成30年10月17日)
④	専	教授	アマノ テツロウ 天野 哲郎 <平成32年4月>		静岡県立農林環境専門職大学教員定年規程 附則第2 静岡県立農林環境専門職大学(仮称)開学準備 委員会にて承認(平成30年10月17日)
6	専	教授	キクチ ヒロユキ 菊池 宏之 <平成32年4月>		静岡県立農林環境専門職大学教員定年規程 附則第2 静岡県立農林環境専門職大学(仮称)開学準備 委員会にて承認(平成30年10月17日)
⑥	専	教授	マエダ セツコ 前田 節子 <平成32年4月>		静岡県立農林環境専門職大学教員定年規程 附則第2 静岡県立農林環境専門職大学(仮称)開学準備 委員会にて承認(平成30年10月17日)
11	専	准教授	ナカヤマ マサノリ 中山 正典 <平成32年4月>		静岡県立農林環境専門職大学教員定年規程 附則第2 静岡県立農林環境専門職大学(仮称)開学準備 委員会にて承認(平成30年10月17日)
19	実(研)	教授	マツオ カズユキ 松尾 和之 <平成32年4月>		静岡県立農林環境専門職大学教員定年規程 附則第2 静岡県立農林環境専門職大学(仮称)開学準備 委員会にて承認(平成30年10月17日)
⑬	実(研)	教授	サトウ ノブユキ 佐藤 展之 <平成32年4月>		静岡県立農林環境専門職大学教員定年規程 附則第2 静岡県立農林環境専門職大学(仮称)開学準備 委員会にて承認(平成30年10月17日)

実務の経験等を有する専任教員一覧								
(生産環境経営学部生産環境経営学科)								
番号	調書番号	実務家区分	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	実務経験 の年月数	実務経験の概要	
							期間	勤務先・役職名・ 主な職務内容等
1	16			実専 講師	ナガフジ アキヒコ 長藤 亮彦 <平成33年4月>	33年 6月	昭和60年4月 ～ 現在に至る	<p><静岡県職員></p> <ol style="list-style-type: none"> 静岡県東部農林事務所沼津班技師 <ul style="list-style-type: none"> 野菜栽培技術指導 静岡県東部農林事務所田方支所技師 <ul style="list-style-type: none"> 田方園芸研究会における栽培技術指導 養液栽培トマトの栽培技術指導 ニンジンのF1品種の選定試験、導入促進 静岡県農業水産部農政課、農政企画課技師 <ul style="list-style-type: none"> 県内農林水産物のPRイベント「しずおか大ふるさと祭」の開催 浙江省との農業交流 静岡県農政部茶業農産課技師、副主任 <ul style="list-style-type: none"> 米の生産調整 志太榛原農林事務所普及企画課副主任 <ul style="list-style-type: none"> 水稻の生産及び地域文化の振興を目指した普及指導計画の推進 レタスのマーケティング戦略推進 海外市場開拓のためのアンテナショップ開設のためイギリスへ派遣 農林水産部生産振興課主査 <ul style="list-style-type: none"> 海外市場の開拓 静岡県経済農業協同組合連合会西部支所農産課係長 <ul style="list-style-type: none"> 青果物の集荷売立を推進 静岡県西部農林事務所技術支援課主任 <ul style="list-style-type: none"> エコファーマーの認定推進による地場野菜産地の活性化 静岡県立農林大学校掛川機械研修場主査 <ul style="list-style-type: none"> 農業機械士研修における技術指導 機械利用技術者の育成及び適正な運転免許の取得指導 静岡県東部農林事務所生産振興課主任 <ul style="list-style-type: none"> 農薬安全使用指導 I PM技術導入指導 イチゴ品種転換技術指導 イチゴのパッケージセンターの作業効率の改善指導 農薬残留防止のための動力噴霧器の洗浄方法の指導 静岡県立農林大学校教務課主査、主幹 <ul style="list-style-type: none"> 園芸学科野菜コースの学科及び実習教育指導 先進経営研修の指導 農業機械安全使用の徹底指導 静岡県経済産業部農業振興課主幹 <ul style="list-style-type: none"> 農業革新支援専門員として普及活動の推進、普及指導員研修を実施 国の研修指導マニュアルを作成 園芸施設の台風による強風対策技術マニュアルを作成 志太榛原農林事務所生産振興課班長 <ul style="list-style-type: none"> レタスの機械化体系の整備による生産規模の拡大技術を指導 レタス栽培の規模拡大と法人化を指導 静岡県農林技術研究所経営・生産システム科長、農業ロボット・経営戦略科長 <ul style="list-style-type: none"> 農業機械研究の総括 農業経営研究を推進 イチゴパッキングセンターのIEを活用した作業改善の実践

実務の経験等を有する専任教員一覧

(生産環境経営学部生産環境経営学科)

番号	調書 番号	実務家 区分	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	実務経験 の年月数	実務経験の概要		大学等における教員 歴、保有学位又は企 業等における研究上 の業績の概要
							期間	勤務先・役職名・ 主な職務内容等	
2	⑪			実専 講師	オオイシ リュウ 大石 竜 <平成32年4月>	7年 6月	平成23年4月 ～ 現在に至る	<p><静岡県職員></p> <ol style="list-style-type: none"> 静岡県立農林大学校教務課技師 ・園芸学科野菜コース担任として生産実習や卒業論文作成の指導 ・野菜生産を行うサークル活動の指導 静岡県経済産業部農林業局畜産課技師、主任 ・自給飼料生産の推進 ・畜産経営支援制度担当 静岡県西部農林事務所企画経営課主任 ・新規就農に向けた研修制度、就農計画作成支援 ・ビジネス経営体育成のため、農業経営戦略講座の企画実施、法人化の推進 静岡県西部農林事務所園芸畜産課(中遠農林事務所企画経営課兼務)主任 ・経営支援チームの野菜担当として、管内の大規模野菜生産経営体の支援 静岡県西部農林事務所企画経営課主任 ・農業経営体に対する技術指導、経営計画作成、補助事業活用等に関する支援 	
3	⑫			実専 講師	サダヒロ メグミ 貞弘 恵 <平成32年4月>	10年 6月	平成20年4月 ～ 現在に至る	<p><静岡県職員></p> <ol style="list-style-type: none"> 静岡県中遠農林事務所家畜衛生課技師 ・獣医職として家畜衛生業務に従事 ・抗体検査を活用したサルモネラ対策の実施 静岡県志太榛原農林事務所家畜検査班技師、主任 ・家畜検査班の細菌担当として、家畜疾病の病性鑑定(原因究明)を実施 ・細菌培養と並行して遺伝子検査による細菌病の迅速診断ができる体制を構築 ・ワクチンプログラム作成による豚丹毒対策の実施 ・実習形式の新規採用職員技術研修会の実施 ・ディスカッションを導入した病性鑑定事例検討会を実施 中遠農林事務所家畜衛生課主任 ・豚流行性下痢の防疫対応 静岡県立農林大学校主任、主査 ・畜産学科1年生の担任として、講義、実習、進路指導を実施 ・採卵鶏の飼養実習、販売実習を導入 ・インターンシップなど体験型学習を導入 	

実務の経験等を有する専任教員一覧

(生産環境経営学部生産環境経営学科)

番号	調書番号	実務家区分	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	実務経験 の年月数	実務経験の概要		大学等における教員 歴、保有学位又は企 業等における研究上 の業績の概要
							期間	勤務先・役職名・ 主な職務内容等	
4	19	実(研)	実(研)	教授	マツオ カズユキ 松尾 和之 <平成32年4月>	38年 6月	昭和55年4月 ～ 現在に至る	<p>1 農林水産省東北農業試験場農業技術部研究官 ・研究テーマ「寒冷地畑雑草の発生生態の解明」「科学的・生態的手法による雑草防除技術の開発」「大豆の機械化移植栽培技術の開発」</p> <p>2 農林水産省農業研究センター耕地利用部研究官、主任研究官 ・研究テーマ「家畜糞連用下での物質循環の適正化と家畜糞機能の解明」「耕起法改善による持続的畑作物生産」</p> <p>3 農林水産省国際農林水産業研究センター東北タイプロジェクト ・長期派遣研究者としてタイへ ・コンケン畑作研究センターおよびコンケン大学農学部と共同で東北タイ畑作地帯の持続的土地利用に関する研究を実施 ・研究テーマ「耕起法改善によるサトウキビ生産の安定化」「深根性植物および家畜糞を活用した砂質土壌生産力の回復」</p> <p>4 農業技術研究機構中央農業研究センター東海大豆研究チーム長 ・東海三県のダイズ栽培研究のとりまとめ ・研究テーマ「浅耕播種栽培による東海地域大豆生産の安定化」</p> <p>5 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構中央農業研究センター水田輪作研究チーム上席研究員 ・若手研究者の指導 ・研究テーマ「大規模水田経営システムの開発」</p> <p>6 独立行政法人国際農林水産業研究センター生産環境畜産領域主任研究員 ・農村活性化プログラムのインドシナ農山村プロジェクトと農山村資源活用プロジェクトにおいて研究活動 ・ラオス国農林水産省国立農林業研究所長期派遣</p> <p>7 独立行政法人国際農林水産業研究センターインドシナ農山村プロジェクト副プロジェクトリーダー、プロジェクトリーダー ・インドシナ半島の中山間農村での生計向上を目指し、ラオス国との調整、研究者等の指導 ・研究テーマ「ラオス中山間地水田高度利用のための安定生産技術の開発」 ・情報技術の標準化による農業経営情報評価手法の開発</p> <p>8 国立研究開発法人国際農林水産業研究センター農山村資源活用プロジェクト ・研究テーマ「低地水田システムの生産性改善のための制約要因の克服」</p> <p>9 国立研究開発法人国際農林水産業研究センターリスク管理室 ・薬品管理システムの運用管理、SDS(安全データシート)の収集、簡易SDSの作成 ・東南アジアやアフリカにおける作物生産、土壌管理を研究対象とする若手研究者に対する助言</p>	<p>保有学位：博士(農学)</p> <p><大学等における教員歴> ・平成11年5月～平成14年2月 タイ国コンケン大学農学部の学生への卒業論文指導</p> <p><特許> 平成7年6月21日「シストセンチュウの駆除法及び孵化促進剤」特許第2896486号</p>

実務の経験等を有する専任教員一覧

(生産環境経営学部生産環境経営学科)

番号	調書 番号	実務家 区分	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	実務経験 の年月数	実務経験の概要		大学等における教員 歴、保有学位又は企 業等における研究上 の業績の概要
							期間	勤務先・役職名・ 主な職務内容等	
5	⑬	実(研)	実(研)	教授	サトウ ノブユキ 佐藤 展之 <平成32年4月>	37年 6月	昭和56年4月 ～ 現在に至る	<p><静岡県職員></p> <ol style="list-style-type: none"> 静岡県西部農業改良普及所技師 ・野菜担当として、農業指導・地域づくりを担当 ・ネダニ防除のためJAと防除試験に取組 静岡県西部農林事務所技師 ・野菜担当として、農業指導・地域づくりを担当 ・ミナミキイロアザミウマの防除対策、土壌診断 静岡県農業試験場施設部技師 ・温室メロン栽培の省エネのため、アクリル複層板温室の導入を検討 ・静岡県立農林短期大学の学生指導 静岡県農業試験場園芸部技師、副主任、主任研究員 ・アクリル複層板温室の省エネ効果に対する研究 ・温室メロン栽培における補光技術を中部電力と共同研究 ・温室メロン栽培のかん水自動化を研究 ・静岡県立農林短期大学の学生指導 静岡県農林水産部生産振興課、生産振興総室野菜花き室主査 ・県内農業団体の集出荷施設の整備 ・生産者を対象とした野菜振興講演会の主催 ・イチゴ栽培における高設養液栽培の普及 静岡県農業試験場園芸部主任研究員、研究主幹 静岡県農林技術研究所栽培技術部研究主幹 ・バラ栽培におけるヒートポンプの利用について、中部電力等と共同研究を実施 ・静岡県立農林大学の学生指導 静岡県農林技術研究所野菜科科長 ・トマトにおけるドライミストの効果について研究 ・温室内の飽差によりドライミストのオン・オフを制御する装置を試作 静岡県農林水産部みかん園芸課課長代理 ・野菜および花き担当の農業革新支援専門員として、農業普及指導員の研修の実施、普及指導計画の助言指導 静岡県農林技術研究所伊豆農業研究センター長 ・研究センターの運営 ・国庫補助の実用化技術開発事業のメンバーとして、花きのEODクーリングに関する試験を指導 静岡県農林技術研究所果樹研究センター研究統括監 ・試験研究課題の推進実行管理と果樹研究の取りまとめ ・無人航空機の果樹栽培への利用技術開発 ・追尾式作業補助ロボット等を外部企業とのコーディネートを行い試作品を完成 静岡県立農林大学校教務課主任 ・静岡県立農林大学の学生指導 ・新規ハウスの組み立て実習を実施 ・オランダ海外研修の引率 	<p>保有学位：博士（農学）</p> <p><研究実績></p> <ul style="list-style-type: none"> 平成16年度～平成18年度 農水省：農林水産研究高度化事業補助金「間欠給肥法で排出肥料を大幅削減できるバラ養液栽培システムの開発」 平成21年度～平成23年度 農水省：新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業補助金「ドライミストを核とした施設園芸における夏期高温対策技術の確立」 平成28年度 農水省：革新的技術開発・緊急展開事業補助金「果実生産の大幅な省力化に向けた作業用ロボット及び新樹形の開発」 <p><受賞歴></p> <ul style="list-style-type: none"> 平成25年9月 日本生物環境工学会論文賞「空気熱源式ヒートポンプと燃焼式温風暖房機とのハイブリッド運転によるバラ栽培の暖房費削減効果」 平成21年3月 静岡県知事職員表彰「バラ栽培におけるヒートポンプの効率的な利用法の開発および普及」 <p><特許></p> <ul style="list-style-type: none"> 平成19年11月「花卉の日持ち性判定装置及び方法」特開2004-301638 平成19年9月「養液栽培における培地温度の制御方法及び制御システム」特開2007-244242 平成27年2月「空気熱源ヒートポンプエアコン及びその運転方法」特開2011-237162

実務の経験等を有する専任教員一覧

(生産環境経営学部生産環境経営学科)

番号	調査 番号	実務家 区分	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	実務経験 の年月数	実務経験の概要		大学等における教員 歴、保有学位又は企 業等における研究上 の業績の概要
							期間	勤務先・役職名・ 主な職務内容等	
6	⑭	実(研)	実(研)	教授	トガワ マサユキ 外側 正之 <平成32年4月>	33年 6月	昭和60年4月 ～ 現在に至る	<p><静岡県職員></p> <p>1 静岡県伊豆振興センター南伊豆農場技師 ・伊豆特産農作物の病害虫に関する防除技術の開発と指導 ・病害虫診断検索票の作成、配布</p> <p>2 静岡県柑橘試験場技師、副主任 ・キウイフルーツのかいよう病の研究 ・カキの「擬似炭疽病」学会報告 ・大阪府立大学との共同研究(イチジクのPhytophthora属菌による病害)</p> <p>3 静岡県中部農林事務所中部病害虫防除所副主任 ・野菜等の病害虫調査と防除指導 ・農業安全使用の指導</p> <p>4 静岡県農業試験場病害虫防除所副主任 ・新任職員への指導 ・農作物の病害虫調査、防除指導</p> <p>5 静岡県農業試験場病害虫部副主任、主任 研究員 ・ネギ、新興アブラナ科野菜の新病害に関する研究 ・トルコキキョウのFusarium病の研究 ・還元土壌消毒法を静岡県に導入 ・静岡県立農林大学校の学生指導</p> <p>6 静岡県立農林技術研究所茶業研究センター主任研究員、上席研究員 ・輪斑病のQoI剤薬剤耐性や細菌病の研究 ・(独)農研機構と共同で血清学的診断法の開発 ・静岡大学と共同で遺伝子学的手法による検出法の開発 ・愛知県人間環境大学にて非常勤講師として講義を実施 ・静岡県立農林大学校の学生指導</p> <p>7 静岡県農林技術研究所病害防除所班長 ・新任職員への指導</p>	<p>保有学位：博士(農学)</p> <p><大学での教歴></p> <p>・平成20年度～現在に至る</p> <p>静岡大学における社会人向け講座「静岡農業ビジネス企業人材育成講座」にて、「病虫害防除学」、「植物保護学特論」</p> <p>・平成20年度～平成29年度</p> <p>静岡大学や静岡県立大学の理系学生に対するインターンシップ</p> <p>・平成26、27年度</p> <p>人間環境大学にて非常勤講師「防除と共存」</p> <p><研究業績></p> <p>・平成18～20年度</p> <p>「環境に配慮したワサビにおける総合的作物管理システムの確立」</p> <p>・樹木医静岡県支部メンバー 県内の天然記念物等に指定されている樹木の維持管理に関する調査を実施</p>

実務の経験等を有する専任教員一覧

(生産環境経営学部生産環境経営学科)

番号	調書 番号	実務家 区分	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	実務経験 の年月数	実務経験の概要		大学等における教員 歴、保有学位又は企 業等における研究上 の業績の概要
							期間	勤務先・役職名・ 主な職務内容等	
7	⑮	実(研)	実(研)	教授	オザワ アキヒト 小澤 朗人 <平成32年4月>	33年 6月	昭和60年4月 ～ 現在に至る	<p><静岡県職員></p> <p>1 静岡県農業試験場園芸部技師 ・新野菜の栽培技術の開発 ・温室メロンの自動灌水装置の開発</p> <p>2 静岡県農業試験場病害虫部技師 ・発生予察及び水稲害虫の研究 ・静岡県立農林短期大学の学生指導</p> <p>3 静岡県中遠農林事務所農産園芸課兼病害虫防除所技師 ・発生予察及び農薬安全指導 ・天敵利用技術の情報収集を行うためオランダ、イギリスへ派遣研修</p> <p>4 静岡県農業試験場病害虫部副主任 ・野菜、花卉類の害虫担当として病害虫同定診断や営農相談 ・新たな農薬の登録促進に向けた新農薬実用化連絡試験を受託と有効薬剤の登録支援 ・農業環境技術研究所 天敵生物研究室に依頼研究員として派遣 ・静岡県立農林短期大学の学生指導</p> <p>5 静岡県茶業試験場主任研究員 ・チャ病害に関する研究業務、殺菌剤の新農薬実用化試験を実施</p> <p>6 静岡県農林技術研究所茶業研究センター主任研究員、上席研究員 ・農水省委託事業「「やぶきた」を中心とする温暖地茶園における生物機能を活用した減農薬病害虫防除技術の体系化と実証」 ・農水省委託事業「東海温暖地チャ園における土着天敵類の環境保全型農法と関連した生物多様性の指標生物の選抜」 ・病害虫研究分野の総括、後進研究者の育成 ・農水省委託事業「調査実施基準案(茶のチャトゲコナジラミ)の実証」 ・病害虫ストレスの制御技術による香気の強化 ・農水省委託事業「国内需要向け茶生産における高収益生産体系の実証研究」 ・「ふじのくに農水産物の品質競争力向上と輸出拡大技術の開発」「無人航空機による樹園地の超省力精密生産管理システムの開発」に参画 ・茶生産者等からの病害虫の同定診断依頼や営農相談 ・新農薬登録促進のための新農薬実用化連絡試験</p> <p>7 静岡県立農林大学校教務課主幹 ・研究部1年生の担当として講義や卒業研究の指導 ・インターンシップの調整・指導</p>	<p>保有学位：博士（農学）</p> <p><大学等における教歴> ・平成16年4月～平成17年3月他 韓国や中国から派遣された研修生への指導 ・平成24、25、27年度 静岡大学農学部で開講されている農業ビジネス企業人育成コース「害虫防除学特論」の一部を担当</p> <p><研究業績> ・平成14～15年度 農林水産省助成事業・先端技術等地域実用化研究促進事業「茶害虫クワシロカイガラムシの環境保全型防除技術の実用化」 ・平成24年度 静岡県新成長戦略研究「新たな政策課題対応型」緊急対応研究「侵入害虫チャトゲコナジラミの県内茶園における急激な分布拡大対策」</p> <p><受賞歴> ・平成19年11月 The 3rd International Conference on O-CHA(Tea) Culture and Science 優秀ポスター賞 「ハマキガ類に対する交信攪乱フェロモン剤を活用したIPMによるクワシロカイガラムシの生物的防除(英文)」(単著) ・平成20年11月 日本茶業技術協会(現・日本茶業学会) 茶業技術賞 「クワシロカイガラムシの環境保全型防除技術に関する研究」 ・平成24年3月 県職員・知事表彰(個人の部) 「茶の難防除害虫クワシロカイガラムシの環境保全型防除技術」 ・平成25年11月 The 5th International Conference on O-CHA(Tea) Culture and Science 優秀ポスター賞 「チャの新芽におけるチャノミドリヒメヨコバイの加害によって誘導されるジオール(2,6-dimethylocta-3,7-diene-2,6-diol)の生成に及ぼす諸要因-1(英文)」</p>

実務の経験等を有する専任教員一覧

(生産環境経営学部生産環境経営学科)

番号	調書 番号	実務家 区分	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	実務経験 の年月数	実務経験の概要		大学等における教員 歴、保有学位又は企 業等における研究上 の業績の概要
							期間	勤務先・役職名・ 主な職務内容等	
8	⑩⑬	実(研)	実(研)	教授	スギヤマ ケイタロウ 杉山 恵太郎 <平成32年4月>	26年 6月	平成4年4月 ～ 現在に至る	<p><静岡県職員></p> <p>1 静岡県農業試験場生物工学部技師 ・生物工学的技術(主に組織培養苗)を用いた技術開発 ・種子の長期保存が困難とされている県内特産物の実用的な保存法の開発</p> <p>2 志太榛原農林事務所普及企画課技師 ・野菜の生産振興、技術指導 ・管内の野菜を市場流通から加工業務向けに増産推進</p> <p>3 静岡県農業試験場技師、副主任 ・経営評価手法、直売所の成立要因、消費者ニーズの評価手法等の研究 ・イチゴ新品種の販売戦略 ・天敵寄生蜂等を利用した防除技術の普及 ・施設野菜のIPM技術の開発</p> <p>4 静岡県農業試験場(現:農林技術研究所)病害防除所主任研究員、上席研究員 ・果樹の業害虫の発生予察 ・農協、県農林事務所技術員を対象とした講習会の実施</p> <p>5 静岡県経済産業部農林業局みかん園芸課、農芸振興課主査 ・施設園芸の施設内環境の制御に関する研究グループを作り、環境モニタリング装置を利用した生産向上のための生産技術指導体制を整備 ・施設園芸における太陽光発電普及 ・県内外の先端技術を紹介する講演会を企画</p> <p>6 静岡県経済産業部農芸振興課野菜振興班班長 ・いちご産地の栽培技術を見える化するAIによる学習支援システムの開発、普及 ・国庫「次世代施設園芸地域展開促進事業」の実施 ・県単独事業「施設園芸大国しずおか構造改革緊急対策事業」創設</p>	<p>保有学位:博士(農学)</p> <p><海外研修受講></p> <p>・平成15年9～10月 カナダ、アメリカの国、大学の研究機関を訪問し、「食の安全性確保」と「環境負荷低減」を目指した病害虫防除技術の研修を受講 カナダ:PARC(太平洋農業・食物研究センター)、SCPFRC(南部作物保護・食物研究センター)、GPCRC(温室・作物栽培研究センター)、カナダ温室協議会 アメリカ:アメリカ農務省ARS(農業研究サービス)、UCLA大学リバーサイド校</p>

実務の経験等を有する専任教員一覧

(生産環境経営学部生産環境経営学科)

番号	調査番号	実務家区分	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	実務経験 の年数	実務経験の概要		大学等における教員 歴、保有学位又は企 業等における研究上 の業績の概要
							期間	勤務先・役職名・ 主な職務内容等	
9	⑪	実(研)	実(研)	教授	イケダ キヨヒコ 池田 潔彦 <平成33年4月>	32年 6月	昭和61年4月 ～ 現在に至る	<p><静岡県職員></p> <p>1 静岡県林業試験場技師 ・林業関係者、一般県民等を対象とした出前講座 ・開発した技術手法、木材製品、建築等での木材利用技術の普及・広報 ・静岡県立農林短期大学の学生指導</p> <p>2 静岡県立林業技術センター副主任、主任研究員 ・林業関係者、一般県民等を対象とした出前講座 科学研究費助成事業“環境条件の影響を考慮した木質構造へのDOL効果の解明” 農林水産研究高度化事業”公的認証取得を可能とする高信頼性接着重ね梁の開発 ・開発した技術手法、木材製品、建築等での木材利用技術の普及・広報 ・静岡県集成材工業界の木の暮らし推進事業 構造用集成材ガイドブック作成編集委員 ・日本住宅・木材技術センター 住宅資材性能規定化対策事業 委員 ・森林・木質資源利用先端技術推進協議会 森と木の先端技術情報誌 (APAST) 編集委員 ・静岡県合板工業会 住宅における地域材新規需要開拓促進事業 (スギ合板) 協議会委員 ・しずおか優良木材認証審査委員会 委員 ・しずおか優良木材供給センター 検査アドバイザー ・持続性木質資源工業技術研究会 運営幹事 ・浜松市バイオマス利活用推進計画策定委員会 委員 ・静岡県立農林大学の学生指導</p> <p>3 静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター主任研究員、研究主幹 ・県内の木材、木造住宅関連の企業団体との共同研究、調査技術指導 ・森林・林業、木材林産業、木造建築企業及び一般県民向けの研修会講師 ・日本住宅・木材技術センター 住宅資材性能規定化対策事業 委員</p> <p>4 静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター木材林産科長、森林資源利用科長 ・若手研究者の指導 ・生産者等関係機関との調整 ・全国木材組合連合会 国産材2×4部材開発事業委員会 委員 ・日本住宅・木材技術センター 住宅への地域材利用活用事業委員会等 委員 ・農林水産技術会議 “新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業 “CO2ヒートポンプを用いた木材乾燥装置の開発 ・科学研究費助成事業 “パルス波と高周波を用いた新しい積積み製材の個別含水率検出手法の開発 ・農研機構生研支援センター 革新的技術開発・緊急展開事業 (うち先導プロジェクト) 要求性能に応じた木材を提供するため、国産大径材丸太の強度から建築部材の強度を予測する技術の開発 ・農研機構生研支援センター 革新的技術開発・緊急展開事業 (経営体強化プロジェクト) ”原材料の安定供給による構造用集成材の低コスト化技術の開発 ・静岡県立農林大学の学生指導</p>	<p>保有学位：博士 (農学)</p> <p><研究業績> ・平成24～26年度 科学研究費助成事業 “パルス波と高周波を用いた新しい積積み製材の個別含水率検出手法の開発 ・平成28年度～現在 農研機構生研支援センター 革新的技術開発・緊急展開事業 (うち先導プロジェクト) 要求性能に応じた木材を提供するため、国産大径材丸太の強度から建築部材の強度を予測する技術の開発 ・平成30年度～現在に至る 農研機構生研支援センター 革新的技術開発・緊急展開事業 (経営体強化プロジェクト) ”原材料の安定供給による構造用集成材の低コスト化技術の開発”</p> <p><受賞歴> ・平成7年3月 林業科学技術振興賞 (財) 林業科学技術振興所、地域産業活性化のための技術開発 「-立木から構造用集成材製造に至る一連の技術開発-」 ・平成9年3月 全国林業試験研究機関協議会研究功績賞「全国林業試験研究機関協議会、地域産針葉樹材の利用技術開発」 ・平成13年6月 静岡県職員表彰「立木の材質評価技術と地域針葉樹資源の利用促進」 ・平成15年3月 日本木材学会技術賞「針葉樹林分の立木材質評価技術とその適用技術に関する研究」 ・平成23年4月 日本木材学会地域学術振興賞「静岡地域における地域材利用技術の研究・開発および木材産業への成果の普及に関する貢献」 ・平成24年10月 日本木材学会中部支部優秀研究発表賞「静岡県産スギ・ヒノキ “B材” 原木を原料とした複合木質構造材の開発」 ・平成26年3月 静岡県経済産業部長賞「木造建築用材を外材から県産材へ転換する製品創出技術の開発」</p>

実務の経験等を有する専任教員数	9人
うち「実(研)」の人数	6人

静岡県立農林環境専門職大学
審査意見への対応を記載した書類
(3月)

1. <専門職大学としての設置の趣旨が不明確>

既設の農林大学校、新設予定の専門職短期大学との違いについて説明が抽象的で不明確なものになっているため、養成される人材像や教育課程を含めて具体的に説明し、専門職大学として設置する意義を明確にすること。(是正事項)・・・1

2. <ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーが不明確>

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの内容が抽象的なものになっているほか、カリキュラム・ポリシーは単に科目区分の説明になっているため、適切に修正した上で、養成する人材像に対応していることを具体的に説明すること。(是正事項)・14

3. <大学名称とディプロマ・ポリシー、教育課程の不整合>

大学名称に「環境」を冠しているが、本学の特色の説明やディプロマ・ポリシーに環境に関する具体的な記載が無く、教育課程としても十分な「環境」に関する学習が行われるか疑義があり、「環境」を用いる趣旨が不明確である。ディプロマ・ポリシー等における「環境」の位置づけや、体系的に「環境」を学ぶ教育課程であることを具体的に説明するか、適切に改めること。(是正事項)・・・20

4. <履修形態が不明確>

履修モデルや卒業要件の記載からは、コース制のように特定の科目群の履修を求める計画を想定しているように見られるが、例えばコース制であれば、学生がいつコースを選択するのか、特定のコースに希望が偏った場合どのように対応するのかなど、具体的な履修の方策が明らかでないため、学生の履修がどのように行われるのか具体的に説明すること。(是正事項)・・・51

5. <科目の実施体制が不明確>

40名を超えて実施する科目について、教育上必要があり、かつ十分な教育効果をあげることができるかについて説明が無いため、具体的に説明するか、適切に改めること。また、専門職短期大学と合同で実施する科目についてはそれぞれの学校種としての十分な教育水準が担保される授業計画であるか併せて説明すること。(是正事項)・・・55

6. <科目区分が不適切>

シラバスを確認したところ、科目区分が不適切であると考えられる科目があるため適切に改めること。(是正事項)・・・59

(1)「情報処理基礎」、「情報処理応用」は基礎科目に配置することがふさわしいと考えられる。

(2)「経営実習Ⅰ、Ⅱ」は職業専門科目に配置することがふさわしいと考えられる。

7. <教育課程の体系性が不明確>

職業専門科目について、多くの理論系科目の開設はあるものの、本学の卒業要件では一部の科目しか履修が担保されていない。さらに、そのうち必修とされているものも、例えば、畜産分野の「家畜育種繁殖学」「家畜飼養学」のように、より重要と考えられる科目が必修とされていない。それぞれの分野の理論的な科目を十分に学ぶ教育課程となっているか、卒業要件における必修の範囲等も見直しつつ説明すること。

また、授業科目の履修の順序など教育課程の体系性が明らかでないため、履修系統図等を示しつつ具体的に説明すること。その際、生産理論の科目群では3つの分野のいずれかを選択することだが、それらの分野の選択と他の科目群での科目選択が卒業要件において、どのように関連付けて計画されているのかも具体的に説明すること。

(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61

8. <教育課程の編成方針が不明確>

213単位の選択科目を配置する計画であるが、卒業要件を踏まえると、多くの科目が未開講となる懸念や、少数の学生で開講された際に教育効果が低減する恐れがある。人材養成像に照らしてどのような考え方で選択科目を配置し、どのように履修させる計画であるのか具体的に説明し、必要に応じて配置科目を見直すこと。(是正事項)・88

9. <教育課程が不明確>

本学設置の意義として掲げるAIやIoTなどの先端技術の農林業分野への導入を実現するために学ぶ科目が十分に配置されているか疑義がある。先端技術への対応力を担保するための資質・能力を教育課程においてどのように育成するのか、対応する授業科目を示しつつ具体的に説明するか、必要に応じて修正すること。(是正事項)・・・109

10. <職業専門科目の配置が不十分>

専攻する職業分野における労働安全について理解を深める科目が十分に配置されているか疑義があるため、必要に応じて修正し、具体的に対応を説明すること。(是正事項)

・・119

11. <展開科目の設定が不明確>

展開科目は、「専攻する特定の職業分野に関連する他分野の応用的な能力であって、当該職業の分野において創造的な役割を果たすために必要なものを育成する」ことを目的としているが、「環境保全型農業論」、「野生鳥獣管理・利用論」等、職業専門科目に位置づけるべき内容と考えられる科目が含まれている。展開科目を通じて育成する人材像を明確にし、必要な能力を修得するための科目を展開科目に配置するよう修正すること。(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・124

12. <卒業要件の記載が不適切>

専門職大学制度において、実習等にかかる授業科目を40単位以上修得する必要があるが、学則や教育課程の概要の卒業要件において明確な指定がなく、必要な実習に関する単位数を修得することが担保されていないため、適切に改めること。(是正事項)

..... 128

13. <臨地実務実習の具体的計画が不明確>

臨地実務実習について、具体的な説明が不足しているため、以下の点も踏まえて具体的な計画を示し、大学教育としてふさわしい実習水準が確保されていることを説明すること。その際、計画している実習要綱等を添付すること。(是正事項)..... 131

(1) 実習の内容や学生にどのような能力を獲得させるのか、ディプロマ・ポリシーも踏まえて具体的に説明すること。また、習得させようとする知識・技能及びその修得状況の評価方法・評価基準を計画している実習評価表を示し、具体的に説明すること。

(2) 臨地実務実習施設の選定の基準や選定理由について明らかにするとともに、科目の目的を実現するために必要な実習先が確保されているかを明確に説明すること。

(3) 実習先の指導者に求める要件について具体的に説明すること。また、指導者の教育の質をどのように確保するのか、取組や方策についても説明すること。

14. <実習の実施体制が不明確>

専任教員の巡回指導計画について、科目に対する専任教員の配置状況を具体的に説明すること。その際、講義と実習を同時期に担当する場合は、教員ごとの科目等担当時間割等を資料として添付するなどして、教員の負担等の観点から無理のない計画であることについても説明すること。(是正事項)..... 146

15. <入学者選抜方法が不明確>

入学者の選抜方法として、「一般選抜」「推薦型選抜」「特別選抜」の3つの方法を計画しているが、「特別選抜」の募集定員が若干名となっており、入学定員の総数に対して適切な募集定員を設定しているか疑義がある。入学定員に対して具体的な募集定員に改めるか、選抜方法を修正すること。(是正事項)..... 157

16. <専任教員に対する実験研究室の整備状況が不明確>

教員が教育研究を行う環境が整っているか疑義がある。研究室や研究機材を設置する部屋のレイアウト図などを示した上で、教育研究及び学生指導を行うための十分なスペースが確保されているか、具体的に説明すること。(是正事項)..... 159

17. <図書等の整備計画が不明確>

図書等の整備計画について、完成年度までの整備冊数等について説明はあるものの、新設予定の専門職短期大学にも同様の記載があり、どの時点で整備が完了するのか不明であるほか、毎年度の整備の計画も明らかでない。図書の目録や年度ごとの整備計画等を示しつつ、どのような考え方で図書等を整備する計画であるか説明すること。(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・168

18. <附属施設の整備計画が不明確>

本学は農業、畜産、林業の各分野の専門職業人を養成する計画であるため、教育研究に必要な施設として「農場」「飼育場または牧場」「演習林」を配置する必要があるが、既存の農林大学校の実習ほ場、県有施設である農林技術研究所や畜産技術研究所を利用するとの説明はあるものの、当該施設の内容や、どのように本学の教育研究に使用が可能なのかも説明が無く、教育研究上支障なく整備される計画であるか確認できない。附属施設の内容や利用計画等を具体的に説明し、中長期的に教育研究上支障がないことを明確にすること。(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・171

19. <技術職員の配置計画が不明確>

技術職員を15名配置する計画であるが、同時期に設置予定の専門職短期大学と兼務する計画となっており、十分な実施体制となっているか疑義がある。本学における技術職員の役割を具体的に示しつつ教育研究上支障ない実施体制であることを説明すること。(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・179

20. <書類不備>

申請書類に誤記や言葉の不一致が散見されるので、適切に修正すること。(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・187

1. <専門職大学としての設置の趣旨が不明確>

既設の農林大学校、新設予定の専門職短期大学との違いについて説明が抽象的で不明確なものになっているため、養成される人材像や教育課程を含めて具体的に説明し、専門職大学として設置する意義を明確にすること。

(対応)

本学を専門職大学として設置する意義及び既設の農林大学校や新設予定の専門職短期大学との違いについての養成する人材像や教育課程を含めた具体的な説明を「設置の趣旨等を記載した書類」に追記する。

また、教育課程の比較の参考とするため、既設の農林大学校及び新設予定の専門職短期大学のカリキュラムマップを資料に追加する。

(詳細説明)

本学を設置する目的は、農林業に応用可能な技術革新の進展に伴う生産技術の高度化など近年の農林業を取り巻く環境の変化や、農林業の基盤である農山村地域における高齢化・人口減少に伴う活力低下などを踏まえ、こうした農林業を取り巻く環境変化に対応できるとともに農山村の地域社会を支える人材を養成することにより、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することである。

農林業を取り巻く環境変化の主なものとしては、生産技術の高度化、経営体の大規模化や経営の多角化、消費者ニーズの多様化があり、今後、農林業の持続的な発展に向けては、これらの環境変化に対応できる能力を身に付けた農林業者を養成していく必要がある。

また、農山村地域を構成する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、農林業の営みを通じて長い年月をかけて形成されてきたものであり、農林業者には、これからそれらを守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことが期待されている。

本学は農林業経営者を養成するための教育機関であり、既設の農林大学校の研究部においても、「農林業経営体の中核を担う人材」の養成を目指して教育を行っているが、教育課程や教員の資格・能力が農林業を取り巻く環境変化に対応できるレベルに達していないことから、現状としては、経営体の大規模化等に対応するための十分な能力を有する人材を養成できていない。また、既設の農林大学校においては、農山村の地域社会を支えていく人材を養成するための教育を行っていない。

このような既設の農林大学校における人材養成の課題を解決するため、専門職大学への移行により、教育課程の拡充や教員のレベルアップなど人材養成機能の充実を図り、「農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来

のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材」を養成するための新たな高等教育機関として本学を設置するものである。

本学は、「農林業経営体の中核を担う人材」を養成する既設の農林大学校研究部とは、4年間を通じて経営の大規模化等に対応できる経営管理能力を身に付ける教育課程としている点や、生産技術の高度化、消費者ニーズの多様化に対応した教育課程としている点、さらに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていく人材を養成するための教育課程を有している点で異なっている。（本学と既設の農林大学校研究部との違いについての、養成する人材像と教育課程を含めた具体的な説明は、別紙2のとおりである。）

また、「農林業生産現場におけるリーダーであるとともに農山村の地域社会を農林業者として支えていく人材」を養成する新設予定の専門職短期大学とは、農林業経営者を養成する教育機関である点や、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための教育課程としている点などで異なっている。（本学と新設予定の専門職短期大学との違いについての、養成する人材像と教育課程を含めた具体的な説明は、別紙3のとおりである。）

参考資料として、本学のカリキュラムマップ（新旧）を別添資料1-1、既設の農林大学校のカリキュラムマップを別添資料1-2、農林環境専門職大学短期大学部のカリキュラムマップを別添資料1-3に示す。

【別紙1】農林環境専門職大学・同短期大学部を設置する意義

1 設置の目的

農林業を取り巻く環境変化に対応できる人材の養成

○生産技術の高度化への対応力

生産理論の体系的な理解、先端技術に関する知識、高度な実践力

○経営体の大規模化や経営の多角化への対応力

経営管理能力、加工・流通・販売の知識

○消費者ニーズの多様化への対応力

生産物の高付加価値化や、経営において新たな事業展開を生み出すための創造力

農山村の地域社会を支える人材の養成

農林業経営や生産のプロフェッショナルであるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える人材として、それらを守り育てていくことができる人材を養成し、高齢化や人口減少が進む農山村地域の維持・活性化に貢献

農林業及び
農山村地域
の持続的な
発展

2 農林大学校から専門職大学・専門職短期大学への移行イメージと養成する人材像

農林大学校

【研究部（2年課程）】

経営体の中核を担う経営者

（現状）

- ・経営体の大規模化等に対応できる人材を養成できていない
- ・農山村の地域社会を支える人材を養成する教育を行っていない

【養成部（2年課程）】

生産現場のリーダー

（現状）

- ・生産技術の高度化等に対応できる人材を養成できていない
- ・農山村の地域社会を支える人材を養成する教育を行っていない

教育課程の拡充・教員のレベルアップ

農林環境専門職大学

【4年制】

経営体の中核を担う人材かつ農山村の地域社会のリーダー

（求められる資質・能力）

- ①専門分野内外の幅広い知識やコミュニケーション能力等
- ②経営体の大規模化や多角化等に対応していくための経営管理能力、経営に活用される先端技術や加工・流通・販売などに関する知識
- ③生産現場の状況を的確に把握するための生産に関する基礎的な知識・技術や生産に活用される先端技術に関する知識
- ④農山村の地域社会における将来のリーダーとして必要な農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承等に関する知識
- ⑤農山村の地域資源を活用することにより経営における新たな事業展開を生み出す手法の理解
- ⑥経営の課題解決に向けた情報収集等の能力

農林環境専門職大学短期大学部

【2年制】

生産現場のリーダーかつ農山村の地域社会を支える農林業者

（求められる資質・能力）

- ①社会人として必要な知識やコミュニケーション能力等
- ②生産現場の生産性向上等を図るための生産に関する専門的な知識・技術や先端技術を生産現場に導入する能力
- ③農山村の地域社会を支える農林業者として必要な農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承等に関する知識
- ④農山村の地域資源の活用や加工・流通・販売などに関する知識を活用し、生産物の付加価値向上を図る手法の理解
- ⑤生産現場の課題解決に向けた情報収集等の能力

【別紙2】農林大学校と本学の養成する人材像と教育課程の違い

区分	農林大学校（養成部＋研究部）	本学
養成する人材像	<p><u>経営体の中核を担う人材</u></p> <p>※現状は、経営体の大規模化等に対応できる人材を養成できていない。また、農山村の地域社会を支える人材を養成する教育を行っていない。</p>	<p><u>経営体の中核を担う人材かつ農山村の地域社会のリーダー</u></p>
教育課程	生産技術の高度化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営者として生産現場の状況を的確に把握するための、生産に関する基礎的な知識・技術や先端技術に関する幅広い知識を身に付ける教育課程としており、生産理論の講義と生産技術を学ぶ実習等を科目として区分し、4年間を通じて生産理論を体系的に学ぶ教育課程としている。 ・ 生産に関する実習については、生産技術に加え、生産マネジメント能力を養成する教育課程としている。 ・ 臨地実務実習は、教員が実習先と連携し、実習状況について情報を共有するとともに、教員が統一的な基準に基づいて評価を行うなど実践力の養成を重視した教育課程としている。
	経営体の大規模化や経営の多角化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業的经营管理や加工・流通・販売、マーケティングなどを研究部の2年課程のみで学ぶこととしており、経営体の大規模化等に対応できる能力を身に付ける教育課程となっていない。 ・ 経営に関する臨地実務実習が必修科目になく、経営の実践力の養成を重視した教育課程となっていない。
	消費者ニーズの多様化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して農林業経営における新たな事業展開を生み出すための創造力を身に付ける教育課程としている。
	農山村の地域社会を支える人材の養成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていく人材を養成する教育課程としている。

【別紙3】農林環境専門職大学短期大学部と本学の養成する人材像と教育課程の違い

区分		農林環境専門職大学短期大学部	本学
養成する人材像		<u>生産現場のリーダーかつ農山村の地域社会を支える農林業者</u>	<u>経営体の中核を担う人材かつ農山村の地域社会のリーダー</u>
教育課程	生産技術の高度化への対応	<ul style="list-style-type: none"> 生産現場のリーダーとして生産現場の生産性向上等を図るための、生産に関する専門的な知識・技術や先端技術を生産現場に導入する能力を身に付ける教育課程としており、生産理論の講義と生産技術を学ぶ実習等を科目として区分し、2年間を通じて生産理論を体系的に学ぶ教育課程としている。 生産に関する実習については、作目に応じた専門的な生産技術を養成する教育課程としている。 臨地実務実習は、教員が実習先と連携し、実習状況について情報を共有するとともに、教員が統一的な基準に基づいて評価を行うなど実践力の養成を重視した教育課程としている。 	<ul style="list-style-type: none"> 経営者として生産現場の状況を的確に把握するための、生産に関する基礎的な知識・技術や先端技術に関する幅広い知識を身に付ける教育課程としており、生産理論の講義と生産技術を学ぶ実習等を科目として区分し、4年間を通じて生産理論を体系的に学ぶ教育課程としている。 生産に関する実習については、生産技術に加え、生産マネジメント能力を養成する教育課程としている。 臨地実務実習は、教員が実習先と連携し、実習状況について情報を共有するとともに、教員が統一的な基準に基づいて評価を行うなど実践力の養成を重視した教育課程としている。
	経営体の大規模化や経営の多角化への対応	—	<ul style="list-style-type: none"> 企業の経営管理に加え、経営管理に活用される先端技術や、加工・流通・販売、マーケティングなどについて、4年間を通じて体系的に学び、経営体の大規模化等に対応できる能力を身に付ける教育課程としている。 経営体への臨地実務実習を必修とし、経営についての実践力の養成を重視した教育課程としている。
	消費者ニーズの多様化への対応	<ul style="list-style-type: none"> 農山村の地域資源である伝統・文化の継承や、加工・流通・販売などについて学び、それらの知識を活用して生産物の付加価値を向上させるための創造力を身に付ける教育課程としている。 	<ul style="list-style-type: none"> 農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して農林業経営における新たな事業展開を生み出すための創造力を身に付ける教育課程としている。
	農山村の地域社会を支える人材の養成	<ul style="list-style-type: none"> 農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える農林業者として、それらを守り育ていく人材を養成する教育課程としている。 	<ul style="list-style-type: none"> 農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていく人材を養成する教育課程としている。

この比較を踏まえた上で、既存大学や新設予定の専門職短期大学との違いについて具体的に説明するため、設置の趣旨を修正・追記する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (6 ページ)

新	旧
<p style="text-align: center;">(略)</p> <p>(4) 本学設置の意義</p> <p><u>本学を設置する目的は、農林業に応用可能な技術革新の進展に伴う生産技術の高度化など近年の農林業を取り巻く環境の変化や、農林業の基盤である農山村地域における高齢化・人口減少に伴う活力低下などを踏まえ、こうした農林業を取り巻く環境変化に対応できるとともに農山村の地域社会を支える人材を養成することにより、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することである。</u></p> <p><u>農林業を取り巻く環境変化の主なものとしては、生産技術の高度化、経営体の大規模化や経営の多角化、消費者ニーズの多様化があり、今後、農林業の持続的な発展に向けては、これらの環境変化に対応できる能力を身に付けた農林業者を養成していく必要がある。</u></p> <p><u>また、農山村地域を構成する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、農林業の営みを通じて長い年月をかけて形成されてきたものであり、農林業者には、これからもそれらを守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことが期待されている。</u></p> <p><u>本学は農林業経営者を養成するための教育機関であり、既設の農林大学校の研究部においても、「農林業経営体の中核を担う人材」の養成を目指して教育を行っているが、教育課程や教員の資格・能力が農林業を取り巻く環境変化に対応できるレベルに達していないことから、現状としては、経営体の大規模</u></p>	<p style="text-align: center;">(略)</p> <p>(4) 本学設置の意義</p> <p><u>県内農林業法人や高校生に対するアンケート調査の結果や、「静岡県専門職大学基本構想策定委員会」での議論を踏まえた上で、専門職大学の設置の意義として、以下の4点を挙げる。</u></p> <p><u>①個々の農林業経営体の規模が拡大し、農林業に応用可能な技術革新が進展してきたことから、農林業現場では基礎的な生産能力に加えて、加工・流通・販売の知識や経営管理能力、健康を志向した品質の向上やコストの低減など生産性を高める先端技術への対応能力を持ち、経営改革を主導できる人材が求められており、生産技術の習得に向けた教育に加え、経営能力や管理能力、先端技術の理解力など、農林業現場で必要となる能力を高める実践的な教育を効果的に行うことで、将来の農林業現場を支える専門職業人を養成する。</u></p> <p><u>②景観の形成や自然環境の保全、水源の涵養など、農山村の多面的機能が注目される一方で、農山村地域では近年、高齢化や人口減少に伴い活力が低下していることから、農林業者が経営を行う上で、自然と共生しながら農山村の景観や環境を保全していくとともに、地域の文化や伝統を守り育み、地域社会を支えていく農林業者を養成する。</u></p> <p><u>③県内の子弟のみならず、年齢や国籍、性別を問わず農林業を志す有為な人材に対し、質の高い実践的な高等教育を提供す</u></p>

新	旧
<p>化等に対応するための十分な能力を有する人材を養成できていない。また、既設の農林大学校においては、農山村の地域社会を支えていく人材を養成するための教育を行っていない。</p> <p><u>このような既設の農林大学校における人材養成の課題を解決するため、専門職大学への移行により、教育課程の拡充や教員のレベルアップなど人材養成機能の充実を図り、「農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てることができる人材」を養成するための新たな高等教育機関として本学を設置するものである。</u></p> <p>(略)</p>	<p>ることにより、本県農林業の発展とともに、国際社会に貢献する人材を数多く養成する。</p> <p>④多様な人々が大学に集い、交流することで、近年人口の流出が続く本県において、地域振興や賑いの創出が期待される。さらに、他地域出身者が卒業後に定住する可能性や、対外的な「静岡県」の宣伝効果などにより、地域の活性化にも寄与することができる。</p> <p>(略)</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (9ページ)

新	旧
<p>(6) 本学の基本理念</p> <p>これまで静岡県立農林大学校では、校訓である「耕土耕心」、すなわち「大地を耕すことは自らの心を耕すことである」という理念の下、本県農林業の発展に貢献する、現場で活躍する農林業者を数多く輩出してきた。</p> <p>本学においても、引き続きこの「耕土耕心」の理念を尊重した上で、年齢や国籍、性別を問わず、<u>農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てることができる人材を養成することを基本理念とする。</u></p>	<p>(6) 本学の基本理念</p> <p>これまで静岡県立農林大学校では、校訓である「耕土耕心」、すなわち「大地を耕すことは自らの心を耕すことである」という理念の下、本県農林業の発展に貢献する、現場で活躍する農林業者を数多く輩出してきた。</p> <p>本学においても、引き続きこの「耕土耕心」の理念を尊重した上で、年齢や国籍、性別を問わず、<u>将来の農林業の経営環境の変化に対応し、先端技術などを活用して経営革新を推し進めるとともに、農山村の景観・環境・文化の継承者として、地域社会を中心となって支えていく人材を養成することを基本理念とする。</u></p>

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (10 ページ)

新	旧
<p>(8) 静岡県立農林大学校との違い</p> <p><u>本学は、「農林業経営体の中核を担う人材であるとともに農山村の地域社会をリーダーとして支えていく人材」を養成する専門職大学であり、「農林業経営体の中核を担う人材」を養成する既設の農林大学校研究部とは、4年間を通じて経営の大規模化等に対応できる経営管理能力を身に付ける教育課程としている点や、生産技術の高度化、消費者ニーズの多様化に対応した教育課程としている点、さらに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていく人材を養成するための教育課程を有している点で異なっている。</u></p> <p><u>「生産技術の高度化への対応」、「経営体の大規模化や経営の多角化への対応」、「消費者ニーズの多様化への対応」、「地域社会を支える人材の養成」の4つの観点から比較した具体的な相違点は以下のとおりである。</u></p> <p><u>なお、比較のための参考資料として、本学のカリキュラムマップを資料 21-1、農林大学校のカリキュラムマップを資料 21-2 に示す。</u></p> <p><u>○生産技術の高度化への対応</u></p> <p><u>生産技術の高度化に対応していくためには、技術の裏付けとなる生産理論の体系的な理解や先端技術に関する知識、高度な実践力などを身に付ける必要がある。</u></p> <p><u>農林大学校においては、養成部では、生産理論の講義と生産技術を学ぶ実習が科目として区分されておらず、特定分野の理論だけを研究部の講義で学ぶこととしており、4年間を通じて生産理論を体系的に学ぶ教育課程となっていない。また、先端技術を学ぶための教育課程はない。</u></p> <p><u>生産に関する実習については、作目に応じ</u></p>	<p>(8) 静岡県立農林大学校との違い</p> <p><u>生産環境経営学部生産環境経営学科は静岡県立農林大学校の養成部及び研究部を発展的に継承するものである。静岡県立農林大学校では、養成部2年で生産技術を学び、さらに研究部2年で農業経営などを学ぶ課程であったが、生産環境経営学部では4年一貫教育により、基礎的生産技術と農林業経営等を並行して体系的に学ぶことができることに違いがある。静岡県立農林大学校養成部及び研究部との違いについては、後述する「学部学科の特色」の中でさらに説明する。</u></p>

新	旧
<p><u>た専門的な生産技術を養成する教育課程としているが、臨地実務実習の評価が統一的な基準に基づいて行われていないなど、実践力の養成を重視した教育課程となっていない。</u></p> <p><u>これに対し本学では、経営者として生産現場の状況を的確に把握するための、生産に関する基礎的な知識・技術や先端技術に関する幅広い知識を身に付ける教育課程としており、生産理論の講義と生産技術を学ぶ実習等を科目として区分し、4年間を通じて生産理論を体系的に学ぶ教育課程としている。</u></p> <p><u>また、生産に関する実習については、生産技術に加え、生産マネジメント能力を養成する教育課程としている。</u></p> <p><u>さらに、臨地実務実習は、教員が実習先と連携し、実習状況について情報を共有するとともに、教員が統一的な基準に基づいて評価を行うなど実践力の養成を重視した教育課程としている。</u></p> <p><u>○経営体の大規模化や経営の多角化への対応</u></p> <p><u>農林大学校では、企業的経営管理や加工・流通・販売、マーケティングなどを研究部の2年課程のみで学ぶこととしており、経営体の大規模化等に対応できる能力を身に付ける教育課程となっていない。</u></p> <p><u>また、経営に関する臨地実務実習が必修科目になく、経営の実践力の養成を重視した教育課程となっていない。</u></p> <p><u>これに対し本学では、企業的経営管理に加え、農林業経営に活用される先端技術や、加工・流通・販売、マーケティングなどについて、4年間を通じて体系的に学び、経営体の大規模化等に対応できる能力を身に付ける教育課程としている。</u></p> <p><u>また、経営に関する臨地実務実習を必修とし、経営の実践力の養成を重視した教育課程</u></p>	

新	旧
<p><u>としている。</u></p> <p><u>○消費者ニーズの多様化への対応</u> 農林大学校では、<u>養成部・研究部を通じて加工・流通・販売、マーケティングなどの科目が少なく、消費者ニーズの多様化に十分に対応できる教育課程となっていない。</u> これに対し本学では、<u>農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して農林業経営における新たな事業展開を生み出すための創造力を身に付ける教育課程としている。</u></p> <p><u>○農山村の地域社会を支える人材の養成</u> 農林大学校には、<u>養成部・研究部を通じて農山村の地域社会を支える人材を養成するための教育課程はない。</u> これに対し本学では、<u>農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていく人材を養成する教育課程としている。</u></p> <p>(9) <u>新設予定の専門職短期大学との違い</u> 本学は、<u>「農林業経営体の中核を担う人材であるとともに農山村の地域社会をリーダーとして支えていく人材」を養成する専門職大学であり、「農林業生産現場におけるリーダーであるとともに農山村の地域社会を農林業者として支えていく人材」を養成する新設予定の専門職短期大学とは、農林業経営者を養成する教育機関である点や、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための教育課程としている点などで異なっている。</u> <u>「生産技術の高度化への対応」、「経営体の大規模化や経営の多角化への対応」、「消費者ニーズの多様化への対応」、「地域社会を支え</u></p>	<p></p> <p>(9) <u>併設する短期大学部との違い</u> 本学には「<u>農林環境専門職大学短期大学部</u>」を併設する。<u>短期大学部においては、農林業生産に関する技術・知識を身に付けることを目的とした教育課程により、生産現場におけるプロフェッショナルを養成することを目的としている。このため、農林業生産と経営、さらに地域振興や環境保全について学修し、農林業経営や地域社会におけるリーダーとなりうる人材を養成することを目的とする本学とは、養成人材像及び教育課程が異なっている。</u></p>

新	旧
<p><u>る人材の養成」の4つの観点から比較した具体的な相違点は以下のとおりである。</u></p> <p><u>なお、比較のための参考資料として、新設予定の専門職短期大学のカリキュラムマップを資料21-3に示す。</u></p> <p><u>○生産技術の高度化への対応</u></p> <p><u>新設予定の専門職短期大学では、生産現場のリーダーとして生産現場の生産性向上等を図るための、生産に関する専門的な知識・技術や先端技術を生産現場に導入する能力を身に付ける教育課程としており、生産理論の講義と生産技術を学ぶ実習等を科目として区分し、2年間を通じて生産理論を体系的に学ぶ教育課程としている。</u></p> <p><u>また、生産に関する実習については、作目に応じた専門的な生産技術を養成する教育課程としている。</u></p> <p><u>さらに臨地実務実習は、教員が実習先と連携し、実習状況について情報を共有するとともに、教員が統一的な基準に基づいて評価を行うなど実践力の養成を重視した教育課程としている。</u></p> <p><u>これに対し本学では、経営者として生産現場の状況を的確に把握するための、生産に関する基礎的な知識・技術や先端技術に関する幅広い知識を身に付ける教育課程としており、生産理論の講義と生産技術を学ぶ実習等を科目として区分し、4年間を通じて生産理論を体系的に学ぶ教育課程としている。</u></p> <p><u>また、生産に関する実習については、生産技術に加え、生産マネジメント能力を養成する教育課程としている。</u></p> <p><u>臨地実務実習については、新設予定の専門職短期大学と同様に、教員が実習先と連携し、実習状況について情報を共有するとともに、教員が統一的な基準に基づいて評価を行うなど実践力の養成を重視した教育課程と</u></p>	

新	旧
<p><u>している。</u></p> <p>○<u>経営体の大規模化や経営の多角化への対応</u></p> <p><u>新設予定の専門職短期大学は、農林業生産者を養成する教育機関であるため、経営体の大規模化等に対応するための教育課程はない。</u></p> <p><u>これに対し本学では、企業的経営管理に加え、経営管理に活用される先端技術や、加工・流通・販売、マーケティングなどについて、4年間を通じて体系的に学び、経営体の大規模化等に対応できる能力を身に付ける教育課程としている。</u></p> <p><u>また、経営体への臨地実務実習を必修とし、経営についての実践力の養成を重視した教育課程としている。</u></p> <p>○<u>消費者ニーズの多様化への対応</u></p> <p><u>新設予定の専門職短期大学では、農山村の地域資源である伝統・文化の継承や、加工・流通・販売などについて学び、それらの知識を活用して生産物の付加価値を向上させるための創造力を身に付ける教育課程としている。</u></p> <p><u>これに対し本学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して農林業経営における新たな事業展開を生み出すための創造力を身に付ける教育課程としている。</u></p> <p>○<u>農山村の地域社会を支える人材の養成</u></p> <p><u>新設予定の専門職短期大学では、農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える農林業者として、それらを守り育ていく人材を養成する教育課程としている。</u></p>	

新	旧
<u>これに対し本学では、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていく人材を養成する教育課程として</u> <u>いる。</u>	

2. <ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーが不明確>

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの内容が抽象的なものになっているほか、カリキュラム・ポリシーは単に科目区分の説明になっているため、適切に修正した上で、養成する人材像に対応していることを具体的に説明すること。

(対応)

本学において養成する人材像は、「農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材」であり、この人材像について当初申請から変更はなく、今回はこの人材像に対応したものであることが明確となるようディプロマ・ポリシーの内容を具体的なものに修正する。

カリキュラム・ポリシーについても、ディプロマ・ポリシーの修正を踏まえて、これに対応したものとなるよう修正する。また、養成する人材像とディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの対応関係を具体的に別紙に示す。

修正後のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーは以下のとおりであり、「設置の趣旨等を記載した書類」の該当箇所を修正する。

<ディプロマ・ポリシー>

農林業経営者に求められる次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した者に学位を授与する。

- (1) 専門分野のみにとらわれない幅広い知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を有している。
- (2) 農林業経営体の大規模化や経営の多角化に対応していくための経営管理能力、農林業経営に活用される先端技術や加工・流通・販売などに関する知識を有している。
- (3) 農林業生産現場の状況を的確に把握するための農林業生産に関する基礎的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術に関する知識を有している。
- (4) 農山村の地域社会における将来のリーダーとして、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育てていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。
- (5) 農山村の地域資源を活用することにより、農林業経営における新たな事業展開を生み出すための手法を理解している。
- (6) 修得した専門知識と技術を駆使して農林業経営における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を有している。

<カリキュラム・ポリシー>

ディプロマ・ポリシーを実現するためのカリキュラム・ポリシーを、以下のとおり定める。

- (1) 一般教養やコミュニケーション・スキルなどを学ぶ教育課程を編成する。
- (2) 企業的な経営管理や経営戦略、加工・販売の手法や流通の仕組みなどを学ぶ教育課程を編成する。
- (3) 農林業に関する基礎的な知識及び農林業生産に関する基礎的な理論や技術を学ぶ教育課程を編成する。
- (4) 農林業の経営や生産に活用される先端技術を学ぶ教育課程を編成する。
- (5) 農山村の自然環境や景観の保全に配慮した農林業生産を学ぶ教育課程を編成する。
- (6) 農山村の伝統・文化の継承や地域社会について学ぶとともに、農山村の地域資源を農林業経営に活用する手法を学ぶ教育課程を編成する。
- (7) 農林業経営における課題の解決に向けた研究の手法などを学ぶ教育課程を編成する。

(別紙)

養成する人材像とディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの対応関係

養成する人材像	
農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材	
ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
(1) 専門分野のみにとらわれない幅広い知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を有している。	(1) 一般教養やコミュニケーション・スキルなどを学ぶ教育課程を編成する。
(2) 農林業経営体の大規模化や経営の多角化に対応していくための経営管理能力、農林業経営に活用される先端技術や加工・流通・販売などに関する知識を有している。	(2) 企業的な経営管理や経営戦略、加工・販売の手法や流通の仕組みなどを学ぶ教育課程を編成する。
(3) 農林業生産現場の状況を的確に把握するための農林業生産に関する基礎的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術に関する知識を有している。	(3) 農林業に関する基礎的な知識及び農林業生産に関する基礎的な理論や技術を学ぶ教育課程を編成する。
(4) 農山村の地域社会における将来のリーダーとして、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育てていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。	(4) 農林業の経営や生産に活用される先端技術を学ぶ教育課程を編成する。
(5) 農山村の地域資源を活用することにより、農林業経営における新たな事業展開を生み出すための手法を理解している。	(5) 農山村の自然環境や景観の保全に配慮した農林業生産を学ぶ教育課程を編成する。
(6) 修得した専門知識と技術を駆使して農林業経営における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を有している。	(6) 農山村の伝統・文化の継承や地域社会について学ぶとともに、農山村の地域資源を農林業経営に活用する手法を学ぶ教育課程を編成する。
	(7) 農林業経営における課題の解決に向けた研究の手法などを学ぶ教育課程を編成する。

新	旧
<p>(4) ディプロマ・ポリシー</p> <p>本学科は、(3) の教育目標を実現するために設けた所定の基礎科目・職業専門科目・展開科目・総合科目を履修することにより、<u>農林業経営者に求められる次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得し、プロジェクト研究を経て卒業論文を提出した者に学位を授与する。</u></p> <p>①<u>専門分野のみにとらわれない幅広い知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を有している。</u></p> <p>②<u>農林業経営体の大規模化や経営の多角化に対応していくための経営管理能力、農林業経営に活用される先端技術や加工・流通・販売などに関する知識を有している。</u></p> <p>③<u>農林業生産現場の状況を的確に把握するための農林業生産に関する基礎的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術に関する知識を有している。</u></p> <p>④<u>農山村の地域社会における将来のリーダーとして、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育てていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。</u></p> <p>⑤<u>農山村の地域資源を活用することにより、農林業経営における新たな事業展開を生み出すための手法を理解している。</u></p> <p>⑥<u>修得した専門知識と技術を駆使して農林業経営における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を有している。</u></p>	<p>(4) ディプロマ・ポリシー</p> <p>本学科は、(3) の教育目標を実現するために設けた所定の基礎科目・職業専門科目・展開科目・総合科目を履修することにより、次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得し、プロジェクト研究を経て卒業論文を提出した者に学位を授与する。</p> <p>① <u>専門分野のみにとらわれない幅広い知識を備え、価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養</u></p> <p>②-1 <u>農林業生産を行うための基礎的な知識・技術と、それを活用するための能力、先端技術への対応力</u></p> <p>②-2 <u>農林業経営を行うための加工・流通・販売の知識や経営管理能力</u></p> <p>②-3 <u>農林業生産及び経営の実験・実習・演習を通じて身に付け、自主的・継続的に学習を進める能力、他者と協調し事業を推進できる能力</u></p> <p>③ <u>専門職業人としての役割と社会的責任を理解した上での、農林業・農山村が有する多面的機能と、その資源を保全する手法の理解</u></p> <p>④-1 <u>修得した専門知識と技術を駆使して課題を探求し、解決に必要な情報を収集・分析・整理する能力</u></p> <p>④-2 <u>分析・整理した結果を表現する論理的な記述力、口頭発表力、コミュニケーション能力</u></p>

新	旧
<p>なお、本学は1学部1学科のため、この<u>ディプロマ・ポリシーは本学全体のディプロマ・ポリシーとする。</u></p>	

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (18 ページ)

新	旧
<p>4 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>(1) <u>教育課程編成の基本方針(カリキュラム・ポリシー)</u></p> <p>前述の本学部の「<u>基本理念</u>」に掲げる<u>養成人材像</u>並びに「<u>ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)</u>」を実現するためのカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)を、以下のとおり定める。</p> <p>カリキュラム・ポリシー</p> <p>①<u>一般教養やコミュニケーション・スキルなどを学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>②<u>企業的な経営管理や経営戦略、加工・販売の手法や流通の仕組みなどを学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>③<u>農林業に関する基礎的な知識及び農林業生産に関する基礎的な理論や技術を学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>④<u>農林業の経営や生産に活用される先端技術を学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>⑤<u>農山村の自然環境や景観の保全に配慮した農林業生産を学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>⑥<u>農山村の伝統・文化の継承や地域社会などについて学ぶとともに、農山村の地域資源を農林業経営に活用する手法を学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>⑦<u>農林業経営における課題の解決に向けた研究の手法などを学ぶ教育課程を編成する。</u></p>	<p>4 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>(1) <u>教育課程編成の基本方針とカリキュラム・ポリシー</u></p> <p>前述の本学部の「<u>目的</u>」及び「<u>人材育成方針</u>」並びに「<u>ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)</u>」を実現するためのカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)を、以下のとおり定める。</p> <p>カリキュラム・ポリシー</p> <p>①<u>基礎科目</u></p> <p><u>幅広い知識や多面的な物事の考え方などを身に付けるため、人文科学や社会科学、コミュニケーションスキルなどを学ぶ科目を配当する。</u></p> <p>②<u>職業専門科目</u></p> <p><u>農林業生産及び経営に必要な知識・技術と先端技術への対応力を身に付けるため、農林業基礎、生産理論、経営管理などを学ぶ科目を配当するとともに、実習・演習科目を重点的に配当する。</u></p> <p>③<u>展開科目</u></p> <p><u>農林業や農山村が有する多面的機能と、その資源を保全する手法を理解するため、環境保全や農山村振興などについて学ぶ科目を配当する。</u></p> <p>④<u>総合科目</u></p> <p><u>農林業経営における課題を探究し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、その成果を取りまとめる科目を配当する。</u></p>

新	旧
<p>各CP（カリキュラム・ポリシー、以下同）は各DP（ディプロマ・ポリシー、以下同）に対応しており、各DPを達成するために構成されている。具体的には、<u>DP①はCP①、DP②はCP②と④、DP③はCP③と④、DP④はCP⑤と⑥、DP⑤はCP⑥、DP⑥はCP⑦</u>に対応しており、カリキュラム・ポリシーに基づき配当された科目を履修することで、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力・素養を身に付けることができる。<u>CPと教育課程とDPの対応</u>について表にまとめた「カリキュラム・マップ」を資料 <u>21-1</u> に示す。</p> <p>なお、<u>本学は1学部1学科のため、このカリキュラム・ポリシーは本学全体のカリキュラム・ポリシーとする。</u></p>	<p>各CP（カリキュラム・ポリシー、以下同）は各DP（ディプロマ・ポリシー、以下同）に対応しており、各DPを達成するために構成されている。具体的には、<u>CP1はDP1に、CP2はDP2-1から2-3に、CP3はDP3に、CP4はDP4-1及び4-2</u>に対応しており、カリキュラム・ポリシーに基づき配当された科目を履修することで、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力・素養を身に付けることができる。<u>DPとCPの対応</u>について表にまとめた「カリキュラム・マップ」を資料 <u>21</u> に示す。</p>

3. <大学名称とディプロマ・ポリシー、教育課程の不整合>

大学名称に「環境」を冠しているが、本学の特色の説明やディプロマ・ポリシーに環境に関する具体的な記載がなく、教育課程としても十分な「環境」に関する学習が行われるか疑義があり、「環境」を用いる趣旨が不明確である。ディプロマ・ポリシー等における「環境」の位置付けや、体系的に「環境」を学ぶ教育課程であることを具体的に説明するか、適切に改めること。

(対応)

ディプロマ・ポリシー等における「環境」の位置付けと、「環境」を学ぶ教育課程についての説明を「設置の趣旨等を記載した書類」に追記するとともに、「授業科目の概要」の関連箇所を修正する。

(詳細説明)

1 ディプロマ・ポリシー等における「環境」の位置付け

(1) 本学の特色における位置付け

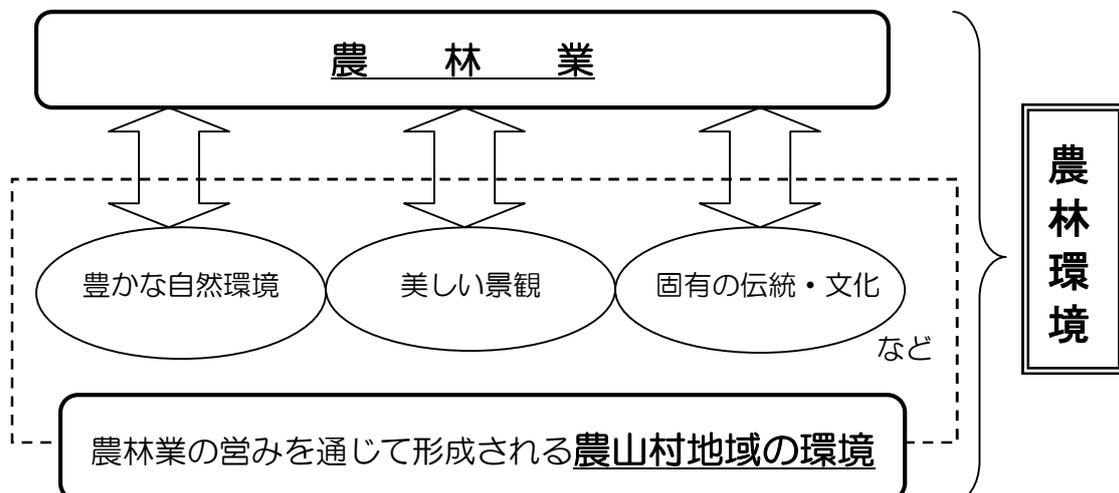
農山村は農林業の持続的な発展の基盤であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。

一方で、農山村が有する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたものであり、農林業者には、これらの価値を理解し、守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことが期待されている。

このことから、本学においては、「農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材」を養成し、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することを目指すこととしている。

大学名称に冠している「環境」は、「農林業の営みを通じて形成される農山村地域の自然環境、景観、伝統・文化などの総体としての環境」を意味しており、そのような農山村地域の環境を守り育ていくことができる人材を養成するという本学の特色を表すものである。

～ 本学の名称に冠する「農林環境」の考え方 ～



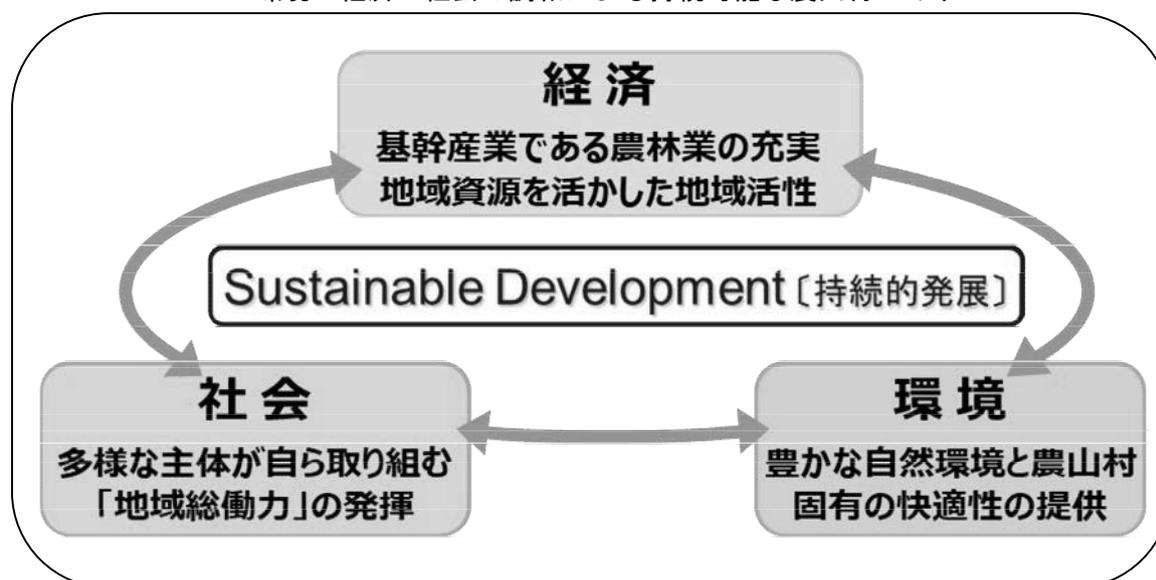
なお、このような本学の人材養成の理念は、「農業については、その有する食料供給機能と多面的機能の重要性にかんがみ、必要な農業資源及び農業の担い手が確保され、地域の特性に応じてこれらが効率的に組み合わせられた望ましい農業構造が確立されるとともに、農業の自然循環機能が維持増進されることにより、その持続的な発展が図られなければならない」、そして「農村については、農業の持続的な発展の基盤たる役割を果たしていることにかんがみ、農業の有する食料供給機能及び多面的機能が適切かつ十分に発揮されるよう、その振興が図られなければならない」という「食料・農業・農村基本法」の基本理念に通じるものであり、大学名称に冠している「環境」には、そのような本学の人材育成の理念が込められている。

(別添資料3-1「食料・農業・農村基本法の骨子」抜粋)

また、本県総合計画の分野別計画である「静岡県経済産業ビジョン」の実行計画として位置付けられている「“ふじのくに”の農山村づくり（静岡県農業農村整備みらいプラン2018-2021）」においては、本県の農山村づくりの理念を「美しく品格のある農山村の創造」とし、「景観の美しさにとどまらず、その源となる農業に勤しむ生産者と、地域の資源を保全し次世代へ継承しようとする様々な人々の共同体意識に至る外形と内面の『農山村の美』を実現していくことが重要である」としている。そして、「美しく品格のある農山村の創造」に向けて、農山村の根幹であり、多様な主体の協働力により構築された「社会(コミュニティ)」、人と自然との共生関係によって創造・継承されてきた特色のある農山村の「環境」、地域の基幹産業として成長を続ける農山村の「経済」が、地域特性に応じてバランスよく調和することで持続性が確保されるよう、農業・農村施策を総合的に展開していくこととしており、本学の人材養成の理念は、このような本県の農山村づくりの理念にも通じるものである。

(別添資料3-2「“ふじのくに”の農山村づくり（静岡県農業農村整備みらいプラン2018-2021）」抜粋)

～環境・経済・社会の調和による持続可能な農山村づくり～



(2) ディプロマ・ポリシーにおける位置付け

農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育んでいくことができる農林業経営者を養成することについて、当初申請のディプロマ・ポリシーにおいては「3 専門職業人としての役割と社会的責任を理解した上での、農林業・農山村が有する多面的機能と、その資源を保全する手法の理解」と記載していたが、抽象的な表現となっていたため、以下のとおり、ディプロマ・ポリシーを具体的な表現に改める。

【修正後のディプロマ・ポリシー（抜粋）】

農林業経営者に求められる次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した者に学位を授与する。

(4) 農山村の地域社会における将来のリーダーとして、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育んでいくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。

2 「農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境」を学ぶ教育課程

農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育んでいく上で、農林業経営者に求められる知識を身に付けるため、以下の教育課程を履修することとする。

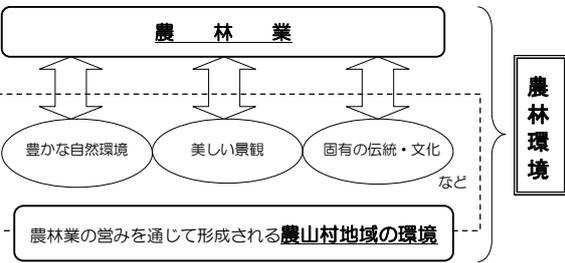
(別添資料3-3 農山村地域の環境について学ぶ科目の概要)

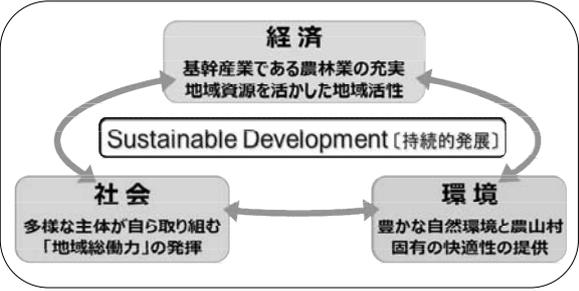
「農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境」について学ぶ科目

(●：必修、○：選択必修、◎：コース必修、無印：選択)

区分	1年	2年	3年		
農山村の自然環境や景観の保全	共通	(自然環境) ●農学概論 ●環境と農林業		●技術者倫理	職業 専門 科目
	栽培	○栽培学	作物学 園芸学 ◎植物病理学 ◎応用昆虫学 ◎肥料・植物栄養学 野菜園芸学 果樹園芸学 花き園芸学 土壌学	◎環境保全型農業論	
	林業	○樹木・組織学	◎森林計画・政策論 ◎造林学 ◎森林土木学	◎森林マネジメント	
	畜産	○畜産概論		◎畜産環境学	
	共通	(景観) ●環境と農林業（再掲）			
	林業		◎造林学（再掲） ◎森林土木学（再掲）		
農山村の伝統・文化の継承等	共通	(伝統・文化) ●農山村田園地域公共学	●食文化論 ●農と食の哲学	●農村景域論 ●在来作物学	展 開 科 目
		(地域社会)	●農村社会論 ●医福食農連携論	●農山村デザイン演習 ●グリーン・ツーリズム論 ●コミュニティビジネス論	

新	旧
<p data-bbox="209 275 416 304">(7) 本学の特徴</p> <p data-bbox="220 322 767 398">(6) で掲げる理念の実現に資するよう、本学は次のような特色を有するものである。</p> <p data-bbox="220 465 775 591">①農林業経営体の中核を担う人材であるとともに農山村の地域社会を支える人材の育成</p> <p data-bbox="237 609 775 781"><u>農山村は農林業の持続的な発展の基盤であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。</u></p> <p data-bbox="237 799 775 1117"><u>一方で、農山村が有する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたものであり、農林業者には、これらの価値を理解し、守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことが期待されている。</u></p> <p data-bbox="237 1135 775 1547"><u>このことから、本学においては、「農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材」を養成し、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することを目指すこととしている。</u></p> <p data-bbox="237 1565 775 1883"><u>大学名称に冠している「環境」は、「農林業の営みを通じて形成される農山村地域の自然環境、景観、伝統・文化などの総体としての環境」を意味しており、そのような農山村地域の環境を守り育ていくことができる人材を養成するという本学の特色を表すものである。</u></p>	<p data-bbox="820 275 1027 304">(7) 本学の特徴</p> <p data-bbox="831 322 1378 398">(6) で掲げる理念の実現に資するよう、本学は次のような特色を有するものである。</p> <p data-bbox="831 465 1385 542">①農林業生産・経営・農山村の多面的機能を学ぶ科目の配置</p> <p data-bbox="858 560 1385 878"><u>将来農林業経営の中核となって農林業の発展に貢献するとともに、地域社会のリーダーとして活躍していくことができる人材を養成するため、これからの農林業経営に必要な知識・技術と、地域振興に繋がる農山村の多面的機能を学ぶ科目をバランスよく編成する。</u></p>

新	旧
<p data-bbox="220 226 775 309">～ 本学の名称に冠する「農林環境」の考え方 ～</p>  <p data-bbox="220 656 775 1503"> <u>なお、このような本学の人材養成の理念は、「農業については、その有する食料供給機能と多面的機能の重要性にかんがみ、必要な農業資源及び農業の担い手が確保され、地域の特性に応じてこれらが効率的に組み合わせられた望ましい農業構造が確立されるとともに、農業の自然循環機能が維持増進されることにより、その持続的な発展が図られなければならない」、そして「農村については、農業の持続的な発展の基盤たる役割を果たしていることにかんがみ、農業の有する食料供給機能及び多面的機能が適切かつ十分に発揮されるよう、その振興が図られなければならない」という「食料・農業・農村基本法」（資料 19-2）の基本理念に通じるものであり、大学名称に冠している「環境」には、そのような本学の人材育成の理念が込められている。</u> </p> <p data-bbox="220 1518 775 2029"> <u>また、本県総合計画の分野別計画である「静岡県経済産業ビジョン」の実行計画として位置付けられている「“ふじのくに”の農山村づくり（静岡県農業農村整備みらいプラン 2018-2021）」（資料 6-2）においては、本県の農山村づくりの理念を「美しく品格のある農山村の創造」とし、「景観の美しさにとどまらず、その源となる農業に勤しむ生産者と、地域の資源を保全し次世代へ継承しようとする様々な人々の共同体意識に至る外形と内面の『農山村の美』を実現していくこ</u> </p>	

新	旧
<p>とが重要である」としている。そして、「美しく品格のある農山村の創造」に向けて、農山村の根幹であり、多様な主体の協働力により構築された「社会（コミュニティ）」、人と自然との共生関係によって創造・継承されてきた特色のある農山村の「環境」、地域の基幹産業として成長を続ける農山村の「経済」が、地域特性に応じてバランスよく調和することで持続性が確保されるよう、農業・農村施策を総合的に展開していくこととしており、本学の人材養成の理念は、このような本県の農山村づくりの理念にも通じるものである。</p> <p>～環境・経済・社会の調和による持続可能な農山村づくり～</p>  <p>②少人数授業 (略)</p>	<p>②少人数授業 (略)</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (15 ページ)

新	旧
<p>(4) ディプロマ・ポリシー</p> <p>本学科は、(3)の教育目標を実現するために設けた所定の基礎科目・職業専門科目・展開科目・総合科目を履修することにより、<u>農林業経営者に求められる次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得し、プロジェクト研究を経て卒業論文を提出した者に学位を授与する。</u></p> <p>①専門分野のみにとられない幅広い知識</p>	<p>(4) ディプロマ・ポリシー</p> <p>本学科は、(3)の教育目標を実現するために設けた所定の基礎科目・職業専門科目・展開科目・総合科目を履修することにより、次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得し、プロジェクト研究を経て卒業論文を提出した者に学位を授与する。</p> <p>① 専門分野のみにとられない幅広い</p>

新	旧
<p>やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を有している。</p> <p>②農林業経営体の大規模化や経営の多角化に対応していくための経営管理能力、農林業経営に活用される先端技術や加工・流通・販売などに関する知識を有している。</p> <p>③農林業生産現場の状況を的確に把握するための農林業生産に関する基礎的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術に関する知識を有している。</p> <p>④農山村の地域社会における将来のリーダーとして、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育てていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。</p> <p>⑤農山村の地域資源を活用することにより、農林業経営における新たな事業展開を生み出すための手法を理解している。</p> <p>⑥修得した専門知識と技術を駆使して農林業生産現場における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を有している。</p>	<p>知識を備え、価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養</p> <p>2-1 農林業生産を行うための基礎的な知識・技術と、それを活用するための能力、先端技術への対応力</p> <p>2-2 農林業経営を行うための加工・流通・販売の知識や経営管理能力</p> <p>2-3 農林業生産及び経営の実験・実習・演習を通じて身に付く、自主的・継続的に学習を進める能力、他者と協調し事業を推進できる能力</p> <p>3 専門職業人としての役割と社会的責任を理解した上での、農林業・農山村が有する多面的機能と、その資源を保全する手法の理解</p> <p>4-1 修得した専門知識と技術を駆使して課題を探求し、解決に必要な情報を収集・分析・整理する能力</p> <p>4-2 分析・整理した結果を表現する論理的な記述力、口頭発表力、コミュニケーション能力</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (17 ページ)

新	旧
<p>3 大学、学部及び学科の名称並びに学位の名称</p> <p>(1) 大学の名称</p> <p>本学の名称を「静岡県立農林環境専門職大学」とし、国際表記を「Shizuoka Professional University of Agriculture」とする。「農林」で、農林業生産及び経営に</p>	<p>3 大学、学部及び学科の名称並びに学位の名称</p> <p>(1) 大学の名称</p> <p>本学の名称を「静岡県立農林環境専門職大学」とし、国際表記を「Shizuoka Professional University of Agriculture」とする。「農林」で、農林業生産及び経営に</p>

新	旧
<p>関する実践的知識・技術について学ぶことを示し、「環境」で、<u>農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育んでいくことができる人材を養成するという本学の特色を示す。</u></p> <p>(2) 学部及び学科の名称</p> <p>「生産環境経営学部 生産環境経営学科」 農林業の基礎となる「生産」の知識や技術と、<u>農林業経営に必須となる「経営」の理論を学ぶことにより、農林業を成長産業として発展させ、さらに本学において「環境」で表現する「農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境」について学ぶことで、農山村の地域社会を支えていくことができる人材の養成を行うことから、名称を「生産環境経営学部」とし、国際表記を「Faculty of Agricultural Production and Management」とする。また、1学部1学科の構成であるため、学科の名称は、「生産環境経営学科」とし、国際表記を「Department of Agricultural Production and Management」とする。</u></p>	<p>関する実践的知識・技術について学ぶことを示し、「環境」で<u>地域を支える人材に必要な景観形成や環境保全の手法、農山村文化や歴史について学ぶ大学であることを表現するものである。</u></p> <p>(2) 学部及び学科の名称</p> <p>「生産環境経営学部 生産環境経営学科」 農林業の基礎となる「生産」の知識や技術と、「<u>経営</u>」について学ぶことにより、農林業を成長産業として発展させ、さらに「<u>環境</u>」に代表される農山村の多面的機能について学ぶことで、<u>農林業を通じて地域社会を支える人材の養成を行うことから</u>、「生産環境経営学部」とし、国際表記を「Faculty of Agricultural Production and Management」とする。また、1学部1学科の構成であるため、学科の名称は、「生産環境経営学科」とし、国際表記を「Department of Agricultural Production and Management」とする。</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (18 ページ)

新	旧
<p>4 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>(1) 教育課程編成の基本方針〔カリキュラム・ポリシー〕</p> <p>前述の本学部の「<u>基本理念</u>」に掲げる<u>養成人材像</u>並びに「<u>ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)</u>」を実現するためのカリキュラム・ポリシー (教育課程編成方針) を、以下のとおり定める。</p>	<p>4 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>(1) 教育課程編成の基本方針とカリキュラム・ポリシー</p> <p>前述の本学部の「<u>目的</u>」及び「<u>人材育成方針</u>」並びに「<u>ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)</u>」を実現するためのカリキュラム・ポリシー (教育課程編成方針) を、以下のとおり定める。</p>

新	旧
<p data-bbox="220 226 531 255">カリキュラム・ポリシー</p> <p data-bbox="220 275 775 353">①<u>一般教養やコミュニケーション・スキルなどを学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p data-bbox="220 371 775 499">②<u>企業的な経営管理や経営戦略、加工・販売の手法や流通の仕組みなどを学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p data-bbox="220 517 775 645">③<u>農林業に関する基礎的な知識及び農林業生産に関する基礎的な理論や技術を学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p data-bbox="220 663 775 741">④<u>農林業の経営や生産に活用される先端技術を学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p data-bbox="220 759 775 837">⑤<u>農山村の自然環境や景観の保全に配慮した農林業生産を学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p data-bbox="220 855 775 1025">⑥<u>農山村の伝統・文化の継承や地域社会について学ぶとともに、農山村の地域資源を農林業経営に活用する手法を学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p data-bbox="220 1043 775 1171">⑦<u>農林業経営における課題の解決に向けた研究の手法などを学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p data-bbox="220 1279 775 1886">各CP（カリキュラム・ポリシー、以下同）は各DP（ディプロマ・ポリシー、以下同）に対応しており、各DPを達成するために構成されている。具体的には、<u>DP①はCP①、DP②はCP②と④、DP③はCP③と④、DP④はCP⑤と⑥、DP⑤はCP⑥、DP⑥はCP⑦</u>に対応しており、カリキュラム・ポリシーに基づき配当された科目を履修することで、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力・素養を身に付けることができる。<u>CPと教育課程とDPの対応について表にまとめた「カリキュラム・マップ」を資料 21-1 に示す。</u></p>	<p data-bbox="831 226 1142 255">カリキュラム・ポリシー</p> <p data-bbox="831 275 970 304">①<u>基礎科目</u></p> <p data-bbox="831 322 1386 499">幅広い知識や多面的な物事の考え方などを身に付けるため、人文科学や社会科学、コミュニケーションスキルなどを学ぶ科目を配当する。</p> <p data-bbox="831 517 1027 546">②<u>職業専門科目</u></p> <p data-bbox="831 564 1386 786">農林業生産及び経営に必要な知識・技術と先端技術への対応力を身に付けるため、農林業基礎、生産理論、経営管理などを学ぶ科目を配当するとともに、実習・演習科目を重点的に配当する。</p> <p data-bbox="831 804 970 833">③<u>展開科目</u></p> <p data-bbox="831 851 1386 1028">農林業や農山村が有する多面的機能と、その資源を保全する手法を理解するため、環境保全や農山村振興などについて学ぶ科目を配当する。</p> <p data-bbox="831 1046 970 1075">④<u>総合科目</u></p> <p data-bbox="831 1093 1386 1220">農林業経営における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、その成果を取りまとめる科目を配当する。</p> <p data-bbox="831 1279 1386 1839">各CP（カリキュラム・ポリシー、以下同）は各DP（ディプロマ・ポリシー、以下同）に対応しており、各DPを達成するために構成されている。具体的には、<u>CP 1はDP 1に、CP 2はDP 2-1から2-3に、CP 3はDP 3に、CP 4はDP 4-1及び4-2</u>に対応しており、カリキュラム・ポリシーに基づき配当された科目を履修することで、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力・素養を身に付けることができる。<u>DPとCPの対応について表にまとめた「カリキュラム・マップ」を資料 21 に示す。</u></p>

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (18 ページ)

新	旧
<p>(2) 基礎科目 (略)</p> <p>(3) 職業専門科目 <u>農林業生産現場の状況を的確に把握するための農林業生産に関する基礎的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術に関する知識や、農林業経営体の大規模化や経営の多角化等に対応していくための経営管理能力、農林業経営に活用される先端技術や加工・流通・販売などに関する知識を習得するための授業科目を配置する。農林業に関する基礎的な知識を学ぶ科目を農林業基礎の科目群へ、企業的な経営管理や経営戦略について学ぶ科目を経営管理の科目群に配置する。また、農林業生産に関する基礎的な理論や技術を学ぶ科目を生産理論及び生産技術の科目群へ、加工・販売の手法や流通の仕組みなどを学ぶ科目を加工・流通・販売の科目群に配置する。職業専門科目では、農林業基礎及び経営管理の科目群は、全学生が共通で学ぶが、生産理論、生産技術、加工・流通・販売の科目群は、栽培コース、林業コース、畜産コースの3コースに分かれて学ぶ。</u></p>	<p>(2) 基礎科目 (略)</p> <p>(3) 職業専門科目 農林業において必要とされる理論的かつ実践的な能力及び農林業全般にわたり必要な能力を育成するための授業科目を配置する。農林業生産を行うための基礎的な知識・技術を学ぶための能力、先端技術への対応力を学ぶ「農林業基礎」科目群及び「生産理論」科目群、農林業経営を行うための加工・流通・販売の知識や経営管理能力を学ぶ「経営管理」科目群及び「加工・流通・販売」科目群、農林業生産及び経営の実験・実習・演習を通じて身につく、自主的・継続的に学習を進める能力、他者と協調し事業を推進できる能力を養う「実習・演習」科目群の5つの科目群を配置する。</p>

新	旧
<p>①農林業基礎の科目群</p> <p><u>農林業基礎の科目群は、農林業に関する基礎的な知識、農山村の自然環境や景観の保全に配慮した農林業生産を学ぶ科目群であり、17科目を配置する。</u></p> <p>日本の農林業の現状を把握し持続的な社会を構築するために現代の農学は何ができるかを考える「農学概論」、<u>農林業が環境保全へ果たしてきた役割や森林のもつ景観形成の機能、農林業が引き起こす環境問題と対策、森林が持つ景観形成機能について学ぶ「環境と農林業」、農林業の発展や倫理的な課題について考える「技術者倫理」を必修科目として配置する。これらの3科目では、自然環境の保全について取り上げる。</u></p> <p><u>また、農林業の歴史の変遷を学ぶ「農林業史」、農業・食料関連政策や森林・林業政策について学ぶ「農林業政策」、県内や県外、海外の農林業経営体等の現状を学ぶ「県内農林業事情」、「県外農林業事情」、「海外農林業事情」、生命現象を分子レベルで考察するために必要な知識を修得する「分子生物学」、農林業における気象災害とその対策について学ぶ「農業気象学」、生命科学の基本を学ぶ「生命科学」、野生鳥獣対策の現状と課題などについて学ぶ「野生鳥獣管理・利用論」を選択科目として配置する。</u>さらに、農林業についての学びを深めるにあたっては理数科目の基礎知識が不可欠であるため、「農林業のための基礎数学」、「農林業のための生物学」、「農林業のための化学」、「農林業のための物理学」、「農林業のための地学」を自由科目として配置する。</p>	<p>①農林業基礎の科目群</p> <p>農林業基礎の科目群は、農林業に関する基礎的な知識の修得を目的とする科目群である。</p> <p>日本の農林業の現状を把握し持続的な社会を構築するために現代の農学は何ができるかを考える「農学概論」、農業・食料関連政策や森林・林業政策について学ぶ「農林業政策」、農林業の発展や倫理的な課題について考える「技術者倫理」、生命現象を分子レベルで考察するために必要な知識を修得する「分子生物学」、現代における情報処理能力を身につける「情報処理基礎」及び「情報処理応用」を必修科目として配置する。また、農林業の歴史の変遷を学ぶ「農林業史」、県内や県外、海外の農林業経営体等の現状を学ぶ「県内農林業事情」、「県外農林業事情」、「海外農林業事情」、さらに、農林業についての学びを深めるにあたっては理数科目の基礎知識が不可欠であるため、「農林業のための基礎数学」、「農林業のための生物学」、「農林業のための化学」、「農林業のための物理学」、「農林業のための統計学」、「農林業のための地学」、「農業気象学」、「生命科学」を選択科目として配置する。</p>

新	旧
<p>②生産理論の科目群</p> <p><u>生産理論の科目群は、農林業生産に関する基礎的な理論、農山村の自然環境や景観の保全に配慮した農林業生産、農林業生産に活用される先端技術を学ぶ科目群である。生産技術の裏づけとなる生産理論について、体系的に学ぶ科目配置生産技術の科目群との関連を意識した構成とした。</u></p> <p><u>生産理論の科目群は、共通科目とコース別の科目に分かれている。コースは、栽培コース、林業コース、畜産コースの3コースを設け、このうち1コースを選択し、各コースそれぞれの農林業分野での実践力を修得させるために深く関係する科目をコース必修とする。</u></p> <p><u>ア 共通</u></p> <p><u>コース選択の参考とする導入的な科目として、「栽培学」、「植物生理生態学」、「樹木・組織学」、「畜産概論」を選択科目として配置する。なお、「栽培学」、「樹木・組織学」、「畜産概論」の授業の中で、自然環境の保全について取り上げる。また、農林業の生産や経営に関連する先端技術について学ぶ「農林業のための先端技術」を必修科目として配置する。</u></p> <p><u>イ 栽培コース</u></p> <p><u>栽培コースの生産理論科目群として、11科目を配置する。栽培技術を学ぶ上で、植物栄養や病害虫、栽培体系、環境保全型農業の知識は不可欠である。このため、植物の特性や植物生産の代謝、養分機能、栄養特性と肥料について学ぶ「肥料・植物栄養学」、病害虫の種類や特長について学ぶ「植物病理学」及び「応用昆虫学」、環境に配慮した農業を学ぶ「環境保全型農業論」をコース必修として配置する。また、栽培体</u></p>	<p>②生産理論の科目群</p> <p>生産理論の科目群は29科目を配置し、農林業の先端技術について学ぶ「農林業のための先端技術」を必修とし、その他の科目を選択科目とする。生産技術の裏づけとなる生産理論について、体系的に学ぶ科目配置とし、実習との関連を意識した構成とした。</p> <p>生産理論の科目群では、それぞれの農林業分野での実践力を修得させるため、栽培分野、林業分野、畜産分野の3つの分野を設け、いずれかの分野を1つ選択し、各分野に深く関係する科目を選択必修とする。</p> <p>栽培分野は10科目を配置し、「肥料・植物栄養学」と「土壌学」を選択必修とする。</p> <p>林業分野は6科目配置し、「木質科学概論」、「木材生産システム論」を選択必修とする。</p> <p>また、栽培分野と林業分野の共通科目として、「植物遺伝育種学概論」及び「土壌学」の2科目を配置する。</p> <p>畜産分野は10科目を配置し、「人工授精論」、「家畜衛生学」を選択必修とする。</p>

新	旧
<p>系及び先端技術を学ぶ科目として、<u>水稻や茶の栽培体系や精密農業について学ぶ「作物学」、野菜や花き、果樹の栽培体系や栽培施設の環境制御について総合的に学ぶ「園芸学」を配置し、いずれかを選択する。</u></p> <p><u>これらの2科目は栽培に関する先端技術を学ぶ科目である。さらに知識を深める科目として、土壌診断や土づくりについて学ぶ「土壌学」、野菜栽培の基礎知識を学ぶ「野菜園芸学」、果樹栽培の基礎知識を学ぶ「果樹園芸学」、花き栽培の基礎知識を学ぶ「花き園芸学」を選択科目として配置する。なお、これらの10科目の授業の中で、自然環境の保全について取り上げる。</u></p> <p><u>また、植物の遺伝の仕組みや育種技術について学ぶ「植物遺伝育種学概論」を選択科目として配置する。</u></p> <p><u>ウ 林業コース</u></p> <p><u>林業コースの生産理論科目群として6科目を配置する。林業技術を学ぶ上で、森林調査や造林、治山、収穫技術の知識が不可欠である。このため、森林政策の歴史や関連法、森林調査の基礎、森林情報システムについて学ぶ「森林計画・政策論」、林業機械を用いた木材生産や作業システムについて学ぶ「木材生産システム」をコース必修として配置する。これら2科目は、林業における先端技術について学ぶ科目である。</u></p> <p><u>また、森林づくりの目的・方法、施工技術、森林景観について学ぶ「造林学」、治山・砂防や林業土木、森林・植生がもつ環境保全や景観形成の機能について学ぶ「森林土木学」、木質バイオマスについて学ぶ「木質科学概論」森林計画制度や森林保護の視点を備えた持続的的林業経営や森林認証制度について学ぶ「森林マネ</u></p>	

新	旧
<p><u>ジメント」をコース必修として配置する。</u> <u>なお、「森林計画・政策論」、「造林学」、</u> <u>「森林マネジメント」では、授業のなか</u> <u>で自然環境保全について取り上げる。さら</u> <u>に、「造林学」及び「森林土木学」で</u> <u>は森林景観の保全について取り上げる。</u></p> <p>エ 畜産コース</p> <p><u>畜産コースの生産理論科目群として</u> <u>10 科目を配置する。飼育技術を学ぶ上</u> <u>で、家畜の生理・生態、栄養と飼料、育</u> <u>種や繁殖の知識、また、家畜ふん尿と環</u> <u>境問題の知識は不可欠である。このため、</u> <u>家畜栄養と飼料、飼料配合設計の基礎理</u> <u>論を学ぶ「飼料総論」、飼料消化性の違い</u> <u>や環境要因による変化やその対策、I C</u> <u>Tを利用した家畜の管理法について学ぶ</u> <u>「家畜飼養学」、家畜の体の仕組みや各臓</u> <u>器の生理機能を学ぶ「家畜生理解剖学」、</u> <u>育種の基礎知識や繁殖に関わる知識を学</u> <u>ぶ「家畜育種繁殖学」、家畜衛生の一連の</u> <u>知識を学ぶ「家畜衛生学」、環境に配慮し</u> <u>た畜産について学ぶ「畜産環境学」をコ</u> <u>ース必修として配置する。なお、「家畜飼</u> <u>養学」の授業の中で畜産分野での先端技</u> <u>術を、「畜産環境学」の中で自然環境の保</u> <u>全について取り上げる。</u></p> <p><u>また、畜産分野では家畜人工授精師が</u> <u>重要な資格となっているため、本資格を</u> <u>取得するために必要となる「畜産法規」</u> <u>や「人工授精論」を選択科目として配置</u> <u>する。更に、草地の特徴や管理方法につ</u> <u>いて学ぶ「自給飼料」や、アニマルウェ</u> <u>ルフェアに配慮した飼養管理が求められる</u> <u>ようになってきているため、「家畜福祉</u> <u>学」を選択科目として配置する。</u></p> <p>③経営管理の科目群</p>	<p>③経営管理の科目群</p>

新 (略)	旧 (略)
<p>④加工・流通・販売の科目群 (略)</p> <p>⑤生産技術の科目群 生産技術の科目群は、農林業生産に関する基礎的な技術や先端技術、農山村の自然環境の保全に配慮した生産を学ぶ科目群であり、15科目を配置し、共通科目と生産理論と同様の3コースに分かれて学ぶ科目からなる。</p> <p>ア 共通 共通科目として4科目を配置する。農林業生産の全般的な技術や先端技術を広く学ぶ「総合実習」、食品安全や環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理など農業の生産工程管理について学ぶ「GAP演習」、トラクター等の大型機械の操作方法や安全使用について学ぶ「大型機械実習Ⅰ」、農林業経営体で生産技術を学修する「企業実習」を必修科目として配置する。</p> <p>イ 栽培コース 基礎的な栽培技術を学ぶ「圃場実習(栽培)」、生産現場のマネジメントの基礎を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)」、応用を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)」をコース必修として配置する。なお、「生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ(栽培)」では、先端技術の導入について学ぶ。 また、大型機械の知識や技能を学修する「大型機械実習Ⅱ」を選択科目として配置する。</p> <p>ウ 林業コース</p>	<p>④加工・流通・販売の科目群 (略)</p> <p>⑤実習・演習の科目群 実習・演習の科目群では、20科目を配置し、生産理論科目群と関連した栽培分野、林業分野、畜産分野、及び加工・販売分野の4つの分野を設定する。 「総合実習」は、本科目群の導入科目とし、水稻や野菜、花き、茶、果樹の栽培や畜産、林業について総合的に学ぶ実習とし、必修科目とする。 栽培分野に対応する実習科目として、「圃場実習(栽培)」、「生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)」、「生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)」とする。林業分野に対応する実習科目として、「演習林実習」、「生産マネジメント実習Ⅰ(林業)」、「生産マネジメント実習Ⅱ(林業)」、「森林施業プラン演習」、「森林認証演習」、「林業機械実習」とした。畜産分野に対応する実習科目として「圃場実習(畜産)」、「生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)」、「生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)」とする。いずれの分野も生産技術と、生産現場のマネジメントについて学べる構成とする。 共通として、農林業で扱う大型機械について学ぶ「大型機械実習Ⅰ」及び「大型機械実習Ⅱ」、GAPの理論や実践について学ぶ「GAP演習」、実際の農林業経営体でインターンシップを行う臨地実務実習である「企業実習」を配置し、より実践的な技術を学べる構成とする。 加工・販売分野では、食品や木材の加工について学ぶ「食品加工実習」及び「木材加工実習」、実践的な販売方法について学</p>

新	旧
<p><u>基礎的な栽培技術を学ぶ「演習林実習」、生産現場のマネジメントの基礎を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅰ（林業）」、応用を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅱ（林業）」をコース必修として配置する。なお、「生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ（林業）」では、先端技術の導入について学ぶ。また、林業機械の操作法や高性能林業機械について学ぶ「林業機械実習」をコース必修として配置する。</u></p> <p><u>エ 畜産コース</u></p> <p><u>基礎的な飼養管理技術を学ぶ「圃場実習（畜産）」、生産現場のマネジメントの基礎を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅰ（畜産）」、応用を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅱ（畜産）」をコース必修として配置する。なお、「生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ（畜産）」では、先端技術の導入について学ぶ。また、大型機械の知識や技能を学修する「大型機械実習Ⅱ」を選択科目として配置する。</u></p> <p>（４）展開科目</p> <p><u>農山村の地域社会における将来のリーダーに求められる農山村の伝統・文化の継承や、伝統・文化を育む農山村の地域社会に関する知識を身に付けるとともに、農山村の伝統・文化などの地域資源を活用することにより、農林業経営に新たな事業展開を生み出すための創造力を備えた農林業経営者を養成するための科目を配置する。</u></p> <p><u>①農山村の伝統・文化の継承の科目群</u></p> <p><u>農山村の歴史や文化、多面的機能などについて学ぶ「農山村田園地域公共学」、日本や世界の食文化について学ぶ「食文</u></p>	<p>ぶ「販売実習」を配置する。</p> <p>（４）展開科目</p> <p>農林業の新たな展開につながる応用的能力や、創造的役割を果たすために必要な能力を育成するため、農林業や農山村が持つ多面的機能を学ぶ科目を配置する。</p> <p>多面的機能の総論について学ぶ「農山村田園地域公共学」を必修科目として配置し、選択科目については環境保全科目群と農山村振興科目群の２つの科目群を配置する。</p> <p>①環境保全の科目群</p> <p>環境保全科目群は５科目を配置する。農林業と環境の総論を学ぶ「環境と農林業」、農村の景観について学ぶ「農村景域</p>

新	旧
<p><u>化論</u>、<u>農と食の営みの本質について考える「農と食の哲学」</u>、<u>農村に暮らす人々の生業と歴史文化との関係から農村景域について学ぶ「農村景域論</u>、<u>生きた文化財とも呼ばれる在来作物の過去・現在・未来について考える「在来作物学」を必修科目として配置する。</u></p> <p>②農山村の地域社会の科目群</p> <p><u>農山村の生活や地域社会の特徴について学ぶ「農村社会論</u>、<u>農山村において地域住民と交流し、地域や地域住民が抱える課題を発見し、その解決策を考える「農山村デザイン演習</u>、<u>グリーン・ツーリズムの現状・課題・展開について考える「グリーン・ツーリズム論</u>、<u>農と医、農と福の連携について学ぶ「医福食農連携論</u>、<u>地域が抱える課題を地域資源を活かしながらビジネス的な手法により解決する手法などについて学ぶ「コミュニティビジネス論」を必修科目として配置する。</u></p> <p>(5) 総合科目 (略)</p>	<p>論」、<u>環境に配慮した農林業について学ぶ「環境保全型農業論</u>、<u>「森林マネジメント論</u>、<u>「畜産環境学」を配置する。</u></p> <p>②農山村振興の科目群</p> <p>農村と健康・福祉について学ぶ「農村社会論」、<u>「農山村デザイン演習</u>、<u>「農と食の哲学</u>、<u>「農と食の健康論</u>、<u>「医福食農連携論</u>、<u>農山村地域の資源とビジネスについて学ぶ「グリーン・ツーリズム論</u>、<u>「食文化論</u>、<u>「野生鳥獣管理・利用論</u>、<u>「在来作物学</u>、<u>「コミュニティビジネス論</u>、<u>「在来作物学</u>、<u>「野生鳥獣管理・利用論」を配置する。</u></p> <p>(5) 総合科目 (略)</p>

(新旧対象表) 授業科目の概要

<p>新</p>	<p>(5 ページ)</p> <table border="1" data-bbox="336 271 1337 689"> <tr> <td data-bbox="336 271 624 689"> <p>環境と農林業</p> </td> <td data-bbox="624 271 1337 689"> <p>(概要) 農業と林業は、それぞれの基盤である農地、森林の間で相互に関係を持ちながら、水、大気、物質の循環に貢献しつつ、多面的機能を発揮している。その一方、戦後の日本農林業の発展過程において農薬による化学物質汚染や肥料の過剰利用による富栄養化などの様々な環境問題を引き起こしてきた。本科目では、農林業が環境保全へ果たしている役割や森林のもつ景観形成機能を学ぶとともに、農林業生産が引き起こす環境問題とその対策を考える。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) ([4] 逢坂興宏/3回) 森林の環境保全機能と景観形成機能、山地の地形変化と土地利用、土砂災害とその対策の歴史 ([17] 大石竜/2回) 肥料や堆肥をめぐる諸問題 ([21] 外側正之/10回) 農林業と環境保全、農薬をめぐる諸問題</p> </td> </tr> </table>	<p>環境と農林業</p>	<p>(概要) 農業と林業は、それぞれの基盤である農地、森林の間で相互に関係を持ちながら、水、大気、物質の循環に貢献しつつ、多面的機能を発揮している。その一方、戦後の日本農林業の発展過程において農薬による化学物質汚染や肥料の過剰利用による富栄養化などの様々な環境問題を引き起こしてきた。本科目では、農林業が環境保全へ果たしている役割や森林のもつ景観形成機能を学ぶとともに、農林業生産が引き起こす環境問題とその対策を考える。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) ([4] 逢坂興宏/3回) 森林の環境保全機能と景観形成機能、山地の地形変化と土地利用、土砂災害とその対策の歴史 ([17] 大石竜/2回) 肥料や堆肥をめぐる諸問題 ([21] 外側正之/10回) 農林業と環境保全、農薬をめぐる諸問題</p>
<p>環境と農林業</p>	<p>(概要) 農業と林業は、それぞれの基盤である農地、森林の間で相互に関係を持ちながら、水、大気、物質の循環に貢献しつつ、多面的機能を発揮している。その一方、戦後の日本農林業の発展過程において農薬による化学物質汚染や肥料の過剰利用による富栄養化などの様々な環境問題を引き起こしてきた。本科目では、農林業が環境保全へ果たしている役割や森林のもつ景観形成機能を学ぶとともに、農林業生産が引き起こす環境問題とその対策を考える。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) ([4] 逢坂興宏/3回) 森林の環境保全機能と景観形成機能、山地の地形変化と土地利用、土砂災害とその対策の歴史 ([17] 大石竜/2回) 肥料や堆肥をめぐる諸問題 ([21] 外側正之/10回) 農林業と環境保全、農薬をめぐる諸問題</p>		
<p>旧</p>	<p>(21 ページ)</p> <table border="1" data-bbox="323 757 1350 1160"> <tr> <td data-bbox="323 757 619 1160"> <p>環境と農林業</p> </td> <td data-bbox="619 757 1350 1160"> <p>(概要) 農業と林業は、それぞれの基盤である農地、森林の間で相互に関係を持ちながら、水、大気、物質の循環に貢献しつつ、多面的機能を発揮している。その一方、戦後の日本農林業の発展過程において農薬による化学物質汚染や肥料の過剰利用による富栄養化などの様々な環境問題を引き起こしてきた。本科目では、農林業が環境保全へ果たしている役割を学ぶとともに、農林業生産が引き起こす環境問題とその対策を考える。</p> <p>(オムニバス/全15回) (4 逢坂興宏/3回) 森林の環境保全機能、山地の地形変化と土地利用、土砂災害とその対策の歴史 (17 大石竜/2回) 肥料や堆肥をめぐる諸問題 (21 外側正之/10回) 農林業と環境保全、農薬をめぐる諸問題</p> </td> </tr> </table>	<p>環境と農林業</p>	<p>(概要) 農業と林業は、それぞれの基盤である農地、森林の間で相互に関係を持ちながら、水、大気、物質の循環に貢献しつつ、多面的機能を発揮している。その一方、戦後の日本農林業の発展過程において農薬による化学物質汚染や肥料の過剰利用による富栄養化などの様々な環境問題を引き起こしてきた。本科目では、農林業が環境保全へ果たしている役割を学ぶとともに、農林業生産が引き起こす環境問題とその対策を考える。</p> <p>(オムニバス/全15回) (4 逢坂興宏/3回) 森林の環境保全機能、山地の地形変化と土地利用、土砂災害とその対策の歴史 (17 大石竜/2回) 肥料や堆肥をめぐる諸問題 (21 外側正之/10回) 農林業と環境保全、農薬をめぐる諸問題</p>
<p>環境と農林業</p>	<p>(概要) 農業と林業は、それぞれの基盤である農地、森林の間で相互に関係を持ちながら、水、大気、物質の循環に貢献しつつ、多面的機能を発揮している。その一方、戦後の日本農林業の発展過程において農薬による化学物質汚染や肥料の過剰利用による富栄養化などの様々な環境問題を引き起こしてきた。本科目では、農林業が環境保全へ果たしている役割を学ぶとともに、農林業生産が引き起こす環境問題とその対策を考える。</p> <p>(オムニバス/全15回) (4 逢坂興宏/3回) 森林の環境保全機能、山地の地形変化と土地利用、土砂災害とその対策の歴史 (17 大石竜/2回) 肥料や堆肥をめぐる諸問題 (21 外側正之/10回) 農林業と環境保全、農薬をめぐる諸問題</p>		
<p>新</p>	<p>(8 ページ)</p> <table border="1" data-bbox="352 1276 1321 1653"> <tr> <td data-bbox="352 1276 632 1653"> <p>植物病理学</p> </td> <td data-bbox="632 1276 1321 1653"> <p>植物の病害は、様々な微生物によって引き起こされる。日本は元々高温・多湿条件が続きやすい気候であることから、病害虫の発生やそれらによる被害が大きいのに加え、農産物に高品質を求める傾向が強いことから病害虫防除無しでの栽培が非常に困難な状態にある。さらに、現在のように国際的な物流や人の行き来が盛になると、その移動にもなって植物の病原体が移動し、以前には見られなかった様な大規模な被害をもたらすことがある。これらの被害を防ぐためには、病原体の特徴と防除方法の知識は不可欠である。本科目では、主な病原体である糸状菌・細菌病・ファイトプラズマ病・ウイルス病・ウイロイド病の特性、病気の伝染経路や診断方法等について学ぶ。なお、現在は、単に防除効果があるだけでは受け入れられない社会情勢になっており、環境にも十分に配慮した防除方法が求められている。このことから、IPMの実践や化学農薬以外の防除方法についても積極的に紹介する。</p> </td> </tr> </table>	<p>植物病理学</p>	<p>植物の病害は、様々な微生物によって引き起こされる。日本は元々高温・多湿条件が続きやすい気候であることから、病害虫の発生やそれらによる被害が大きいのに加え、農産物に高品質を求める傾向が強いことから病害虫防除無しでの栽培が非常に困難な状態にある。さらに、現在のように国際的な物流や人の行き来が盛になると、その移動にもなって植物の病原体が移動し、以前には見られなかった様な大規模な被害をもたらすことがある。これらの被害を防ぐためには、病原体の特徴と防除方法の知識は不可欠である。本科目では、主な病原体である糸状菌・細菌病・ファイトプラズマ病・ウイルス病・ウイロイド病の特性、病気の伝染経路や診断方法等について学ぶ。なお、現在は、単に防除効果があるだけでは受け入れられない社会情勢になっており、環境にも十分に配慮した防除方法が求められている。このことから、IPMの実践や化学農薬以外の防除方法についても積極的に紹介する。</p>
<p>植物病理学</p>	<p>植物の病害は、様々な微生物によって引き起こされる。日本は元々高温・多湿条件が続きやすい気候であることから、病害虫の発生やそれらによる被害が大きいのに加え、農産物に高品質を求める傾向が強いことから病害虫防除無しでの栽培が非常に困難な状態にある。さらに、現在のように国際的な物流や人の行き来が盛になると、その移動にもなって植物の病原体が移動し、以前には見られなかった様な大規模な被害をもたらすことがある。これらの被害を防ぐためには、病原体の特徴と防除方法の知識は不可欠である。本科目では、主な病原体である糸状菌・細菌病・ファイトプラズマ病・ウイルス病・ウイロイド病の特性、病気の伝染経路や診断方法等について学ぶ。なお、現在は、単に防除効果があるだけでは受け入れられない社会情勢になっており、環境にも十分に配慮した防除方法が求められている。このことから、IPMの実践や化学農薬以外の防除方法についても積極的に紹介する。</p>		
<p>旧</p>	<p>(8 ページ)</p> <table border="1" data-bbox="349 1727 1324 2018"> <tr> <td data-bbox="349 1727 632 2018"> <p>植物病理学</p> </td> <td data-bbox="632 1727 1324 2018"> <p>植物の病害には、様々な微生物によって引き起こされる。日本は元々高温・多湿条件が続きやすい気候であることから、病害虫の発生やそれらによる被害が大きいのに加え、農産物に高品質を求める傾向が強いことから病害虫防除無しでの栽培が非常に困難な状態にある。さらに、現在のように国際的な物流や人の行き来が盛になると、その移動にもなって植物の病原体が移動し、以前には見られなかった様な大規模な被害をもたらすことがある。これらの被害を防ぐためには、病原体の特徴と防除方法の知識は不可欠である。本科目では、主な病原体である糸状菌・細菌病・ファイトプラズマ病・ウイルス病・ウイロイド病の特性、病気の伝染経路や診断方法、防除方法について学ぶ。</p> </td> </tr> </table>	<p>植物病理学</p>	<p>植物の病害には、様々な微生物によって引き起こされる。日本は元々高温・多湿条件が続きやすい気候であることから、病害虫の発生やそれらによる被害が大きいのに加え、農産物に高品質を求める傾向が強いことから病害虫防除無しでの栽培が非常に困難な状態にある。さらに、現在のように国際的な物流や人の行き来が盛になると、その移動にもなって植物の病原体が移動し、以前には見られなかった様な大規模な被害をもたらすことがある。これらの被害を防ぐためには、病原体の特徴と防除方法の知識は不可欠である。本科目では、主な病原体である糸状菌・細菌病・ファイトプラズマ病・ウイルス病・ウイロイド病の特性、病気の伝染経路や診断方法、防除方法について学ぶ。</p>
<p>植物病理学</p>	<p>植物の病害には、様々な微生物によって引き起こされる。日本は元々高温・多湿条件が続きやすい気候であることから、病害虫の発生やそれらによる被害が大きいのに加え、農産物に高品質を求める傾向が強いことから病害虫防除無しでの栽培が非常に困難な状態にある。さらに、現在のように国際的な物流や人の行き来が盛になると、その移動にもなって植物の病原体が移動し、以前には見られなかった様な大規模な被害をもたらすことがある。これらの被害を防ぐためには、病原体の特徴と防除方法の知識は不可欠である。本科目では、主な病原体である糸状菌・細菌病・ファイトプラズマ病・ウイルス病・ウイロイド病の特性、病気の伝染経路や診断方法、防除方法について学ぶ。</p>		

新	(9 ページ)	果樹園芸学	果樹栽培の対象とする果実は水分や栄養分の摂取と嗜好品として利用されてきたが、近年は健康増進と疾病予防としての機能が注目されるようになってきている。果樹は他の作物とは異なってほとんどが樹木作物（永年作物）である。そのため、1年生作物とは異なる生理・生態的な特性を有することも多い。特に、 <u>果樹は環境条件への依存が高く、リンゴやミカン等、各果樹に適した環境下で栽培されるため、近年の気象変動は果樹栽培に大きな影響を与える。</u> また、一口に果樹と言っても、その果実は子房壁が肥大したものから、花床が肥大して果実となったものまで様々である。本科目では、果樹栽培の基本的知識を得ることを目的とし、果樹の種類・品種の選択方法、環境条件からみた適地の選定、苗木の繁殖・育成、植栽、栽培管理、生理・生態的特徴、収穫、さらに流通・貯蔵まで果実が消費者にとどくまでの内容について、 <u>環境に配慮した果樹栽培という視点で体系的に学ぶ。</u>
	(8 ページ)	果樹園芸学	果樹栽培の対象とする果実は水分や栄養分の摂取と嗜好品として利用されてきたが、近年は健康増進と疾病予防としての機能が注目されるようになってきている。果樹は他の作物とは異なってほとんどが樹木作物（永年作物）である。そのため、1年生作物とは異なる生理・生態的な特性を有することも多い。また、一口に果樹と言っても、その果実は子房壁が肥大したものから、花床が肥大して果実となったものまで様々である。本科目では、果樹栽培の基本的知識を得ることを目的とし、果樹の種類・品種の選択方法、適地の選定、苗木の繁殖・育成、植栽、栽培管理、生理・生態的特徴、収穫、さらに流通・貯蔵まで果実が消費者にとどくまでの内容について体系的に学ぶ。

新	(10 ページ)	造林学	木材供給、水土保全、保健休養、CO2吸収等の森林が私たちにもたらす恩恵である多くの生態系サービスを将来にわたって享受するためには、森林を健全に保全すると共に、その持続的な循環利用（伐採、植栽、育成・保全）を図る必要がある。本科目では、造林学の基礎となる森林づくりの原理・原則、並びに森林づくりのために行われる各種作業（地拵、植栽、下刈、除伐、間伐等）の目的や方法を学ぶ。また、 <u>広葉樹林、針広混交林、複層林等、多様な森林づくりの目的とそれに対応した施業技術について学ぶ。</u> さらに森林景観を科学する森林風致学を概説する。
	(9 ページ)	造林学	木材供給、水土保全、保健休養、CO2吸収等の森林が私たちにもたらす恩恵である多くの生態系サービスを将来にわたって享受するためには、森林を健全に保全すると共に、その持続的な循環利用（伐採、植栽、育成・保全）を図る必要がある。本科目では、造林学の基礎となる森林づくりの原理・原則、並びに森林づくりのために行われる各種作業（地拵、植栽、下刈、除伐、間伐等）の目的や方法を学ぶ。また、 <u>広葉樹林、針広混交林、複層林等、多様な森林づくりの目的とそれに対応した施業技術について学ぶ。</u>

新	(11 ページ)	
	森林土木学	森林土木学は治山・砂防分野と林業土木分野からなる。治山・砂防分野では、森林山地斜面で発生する土砂移動現象（表面侵食、斜面崩壊、地すべり、土石流等）の発生メカニズムとその対策、および森林植生の有する表面侵食防止、表層崩壊防止の機能とその限界、 <u>荒廃地の復元技術および森林・植生がもつ環境保全機能と景観形成機能についての知識と最新の技術を学ぶ。</u> 林業土木分野では、木材生産システムの集材工程に大きくかかわる林内路網整備に関する知識(林道、森林作業道開設の目的、役割、構造等)、設計手順、現地踏査についての知識と最新の技術を学ぶ。

旧	(9 ページ)	
	森林土木学	森林土木学は治山・砂防分野と林業土木分野からなる。治山・砂防分野では、森林山地斜面で発生する土砂移動現象（表面侵食、斜面崩壊、地すべり、土石流等）の発生メカニズムとその対策、および森林植生の有する表面侵食防止、表層崩壊防止の機能とその限界について学ぶ。林業土木分野では、木材生産システムの集材工程に大きくかかわる林内路網整備に関する知識(林道、森林作業道開設の目的、役割、構造等)、設計手順、現地踏査について学ぶ。また、共通する分野として土質力学と水理学の基礎を学ぶ。

新	(11 ページ)	
	畜産概論	人間の生活に貢献するべく動物の生命活動を応用する学問的追究が畜産学であり、従来は食料自給を課題とした生産において柱となる遺伝育種、繁殖、飼養などの専門領域での課題解決とそれに必要な技術開発が中心となって進展してきた。これらの領域には国際的な視野で捕らえなければならない課題も含まれるようになっており、さらには従来の生産効率一辺倒な対応だけでなく、労働者や飼育される動物の労働・生活環境におけるリスクを回避することも求められる。本科目では、畜産業の歴史と近況の情報を学び、家畜生産における課題を内容に応じて整理し、その解決に向けた対策の解説を通じて現状の理解を深める。 <u>そのなかでも畜産業の持続的な発展にむけて解決が不可欠である排せつ物の処理について具体的な解説を行い、今後新たに課題となる内容とその対策に対する指針が策定できることを目標とする。</u>

旧	(10 ページ)	
	畜産概論	人間の生活に貢献するべく動物の生命活動を応用する学問的追究が畜産学であり、従来は食料自給を課題とした生産において柱となる遺伝育種、繁殖、飼養などの専門領域での課題解決とそれに必要な技術開発が中心となって進展してきた。これらの領域には国際的な視野で捕らえなければならない課題も含まれるようになっており、さらには従来の生産効率一辺倒な対応だけでなく、労働者や飼育される動物の労働・生活環境におけるリスクを回避することも求められる。本科目では、畜産業の歴史と近況の情報を学び、家畜生産における課題を内容に応じて整理し、その解決に向けた対策の解説を通じて現状の理解を深め、今後新たに課題となる内容とその対策に対する指針が策定できることを目標とする。

(新旧対象表) シラバス

(新) 7 ページ

授業名 環境と農林業 Environment and Agriculture		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	1年 後期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	逢坂興宏、外側正之、大石竜
授業時間	金曜日 5時限	教室	講義室3
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	農業と林業は、それぞれの基盤である農地、森林の間で相互に関係を持ちながら、水、大気、物質の循環に貢献しつつ、多面的機能を発揮している。その一方、戦後の日本農林業の発展過程において農薬による化学物質汚染や肥料の過剰利用による富栄養化などの様々な環境問題を引き起こしてきた。そこで、農林業が環境保全へ果たしている役割や森林がもつ景観形成機能について学ぶとともに、農林業生産が引き起こす環境問題とその対策を考える。		
授業目的・目標	①農業の環境保全機能を理解し、説明できる。 ②森林が持つ景観形成機能を理解し、説明できる。 ③農林業生産が引き起こす環境問題とその対策について理解し、説明できる。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	病害虫防除の歴史（化学農薬以前の防除技術）（外側正之）	
	2	化学農薬の歴史（外側正之）	
	3	農薬取締法と諸問題（外側正之）	
	4	IPMの思想と環境問題（外側正之）	
	5	化学農薬以外による防除技術が環境に与える影響（1）（外側正之）	
	6	化学農薬以外による防除技術が環境に与える影響（2）（外側正之）	
	7	平成15年における農薬取締法の大幅改正について（外側正之）	
	8	有機農業・有機栽培・JAS基準・特定農薬と農薬問題（外側正之）	
	9	GAP、JGAPが求める環境保全とその対策（外側正之）	
	10	農薬の安全使用に関係する各種組織・文献・資格について（外側正之）	
	11	肥料や堆肥をめぐる諸問題（大石竜）	
	12	環境に配慮した施肥・堆肥利用（大石竜）	
	13	森林・林業の環境保全機能と景観形成機能（逢坂興宏）	
	14	山地の地形形成と土地利用（逢坂興宏）	
15	土砂災害とその対策の歴史（逢坂興宏）		
キーワード	農薬、農薬取締法、IPM、有機農業、特定農薬、GAP・JGAP、生物多様性、硝酸態窒素、臭気、景観形成		
教科書・参考書	教科書：指定無し（参考書の中から随時抜粋した資料を講義の都度に配布する） 参考書：「植物防疫講座－農薬・行政編－」日本植物防疫協会、「農作物病害虫防除基準」静岡県植物防疫協会編、「農薬と食：安全と安心」ソフトサイエンス社、「農薬残留のこころが知りたい」日本食品衛生協会、「農薬を知ろう」文芸社、「ちょっと気になる農薬の話」消費者のための農薬読本、「農薬に対する誤解と偏見」今月の農業編集室、「なるほど！なっとく！農薬Q&A」農薬工業会、「沈黙の春」レーチェル・カーソン著、「保全砂防学入門」電気書院		
評価方法・評価基準	試験（40%）、小テスト（40%）、レポート（20%）		
関連科目	農学概論、植物病理学、環境保全型農業論		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 環境と農林業 Environment and Agriculture		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	2年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	外側正之、大石竜
授業時間	火曜日 3時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	農業と林業は、それぞれの基盤である農地、森林の間で相互に関係を持ちながら、水、大気、物質の循環に貢献しつつ、多面的機能を発揮している。その一方、戦後の日本農林業の発展過程において農薬や肥料などの様々な環境問題を引き起こしてきた。こうした状況の中で今後どのようにして農薬・肥料を安全に利活用していくべきかを考える。		
授業目的・目標	農林業が環境保全へ果たしている役割と、農林業生産が引き起こす環境問題とその対策を考える。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	病害虫防除の歴史（化学農薬以前の防除技術）	
	2	化学農薬の歴史	
	3	農薬取締法と諸問題	
	4	IPMの思想と環境問題	
	5	化学農薬以外による防除技術が環境に与える影響（1）	
	6	化学農薬以外による防除技術が環境に与える影響（2）	
	7	平成15年における農薬取締法の大幅改正について	
	8	有機農業・有機栽培・JAS基準・特定農薬と農薬問題	
	9	GAP、JGAPが求める環境保全とその対策	
	10	農薬の安全使用に関する各種組織・文献・資格について	
	11	肥料や堆肥をめぐる諸問題	
	12	環境に配慮した施肥・堆肥利用	
	13	森林の環境保全機能	
	14	山地の地形形成と土地利用	
15	土砂災害とその対策の歴史		
キーワード	農薬、農薬取締法、IPM、有機農業、特定農薬、GAP・JGAP、生物多様性、硝酸態窒素、臭気		
教科書・参考書	教科書：指定無し（参考書の中から随時抜粋した資料を講義の都度に配布する）、参考書：「植物防疫講座－農薬・行政編－」日本植物防疫協会、「農作物病害虫防除基準」静岡県植物防疫協会編、「農薬と食：安全と安心」ソフトサイエンス社、「農薬残留のここが知りたい」日本食品衛生協会、「農薬を知ろう」文芸社、「ちょっと気になる農薬の話」消費者のための農薬読本、「農薬に対する誤解と偏見」今月の農業編集室、「なるほど！なっとく！農薬Q&A」農薬工業会、「沈黙の春」レーチェル・カーソン著、「保全砂防学入門」電気書院		
評価方法・評価基準	試験（40%）、小テスト（40%）、レポート（20%）		
関連科目	農学概論、植物病理学、環境保全型農業論、植物保護		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 植物病理学 Plant Pathology		単位数 2 単位	授業の方法 講義
		履修年次	2年 前期
受講対象	環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	外側正之
授業時間	水曜日 2 時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	植物の病害には、様々な微生物によって引き起こされる。日本は元々高温・多湿条件が続きやすい気候であることから、病害虫の発生やそれらによる被害が大きいのに加え、農産物に高品質を求める傾向が強いことから病害虫防除無しでの栽培が非常に困難な状態にある。さらに、現在のように国際的な物流や人の行き来が盛んになると、その移動にともなって植物の病原体が移動し、以前には見られなかった様な大規模な被害をもたらすことがある。これらの被害を防ぐためには、病原体の特徴と防除方法の知識は不可欠である。本科目では、病原体の種類について学んだ後、防除方法について学んでいくが、特に防除方法に関しては、環境に対する配慮がなされながらも十分に効果のある防除方法について説明する。		
授業目的・目標	主な病原体である糸状菌・細菌病・ファイトプラズマ病・ウイルス病・ウイロイド病の特性、病気の伝染経路や診断方法及び環境負荷の低い防除方法について学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	オリエンテーション (ルーペの選び方・使い方、レポートの作成方法、文献の検索・引用方法などを含む)	
	2	病気とは何か? 植物病理学とは何か? 生理障害とは違うのか?	
	3	微生物とは何か?	
	4	植物の病気の実際 (1)	
	5	植物病害の防除技術 (1) 環境に配慮した化学農薬の使用法	
	6	植物病害の防除技術 (2) 環境に配慮した化学農薬以外の防除方法	
	7	各種土壌消毒技術とそのメリット・デメリットと環境への影響	
	8	無農薬や有機栽培は本当に安全なのか? 環境への影響を広い視野で考える	
	9	植物の病気の実際 (2)	
	10	IPMとは何か? IPMとは無農薬栽培の事なのか? 有機栽培の事なのか?	
	11	病害虫発生予察事業・植物検疫事業 (防除所とは? 検疫所とは?)	
	12	植物の病気の実際 (3)	
	13	植物病害の診断方法	
	14	静岡県版「病害虫防除基準」「診断ガイドブック」について	
15	樹木医制度・保護士制度など植物病理学と関連した資格について		
キーワード	病気、微生物、化学農薬、土壌消毒、IPM、発生予察、GAP、生物多様性条約		
教科書・参考書	教科書: 「病害虫・雑草防除の基礎」大串龍一著、農文協、参考書: 「農作物病害虫防除基準」「病害虫診断ガイドブック」いずれも静岡県植物防疫協会編、「植物防疫講座-農薬・行政編-」日本植物防疫協会編		
評価方法・評価基準	試験 (40%)、小テスト (40%)、レポート (20%)		
関連科目	「環境と農林業」「農学概論」「植物保護」「環境保全型農業論」		
履修要件	ルーペの購入 (2,000円以内のもので充分である) を必須とする。ルーペの種類や購入方法は1回目の講義で説明する。		
備考	特になし		

授業名 植物病理学	単位数 2単位		授業の方法 講義
	履修年次		2年 前期
受講対象	環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	外側正之
授業時間	金曜日 2時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	植物の病害には、様々な微生物によって引き起こされる。日本は元々高温・多湿条件が続きやすい気候であることから、病害虫の発生やそれらによる被害が大きいのに加え、農産物に高品質を求める傾向が強いことから病害虫防除無しでの栽培が非常に困難な状態にある。さらに、現在のように国際的な物流や人の行き来が盛んになると、その移動にもなって植物の病原体が移動し、以前には見られなかった様な大規模な被害をもたらすことがある。これらの被害を防ぐためには、病原体の特徴と防除方法の知識は不可欠である。本科目では、主な病原体である糸状菌・細菌病・ファイトプラズマ病・ウイルス病・ウイロイド病の特性、病気の伝染経路や診断方法、防除方法について学ぶ。		
授業目的・目標	主な病原体である糸状菌・細菌病・ファイトプラズマ病・ウイルス病・ウイロイド病の特性、病気の伝染経路や診断方法、防除方法について学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	オリエンテーション（ルーペの選び方・使い方、レポートの作成方法、文献の検索・引用方法などを含む）	
	2	病気とは何か？植物病理学とは何か？生理障害とは違うのか？	
	3	微生物とは何か？	
	4	植物の病気の実際（1）	
	5	植物病害の防除技術（1）化学農薬による方法	
	6	植物病害の防除技術（2）化学農薬以外の方法	
	7	各種土壌消毒技術とそのメリット・デメリット	
	8	無農薬や有機栽培は本当に安全なのか？	
	9	植物の病気の実際（2）	
	10	IPMとは何か？IPMとは無農薬栽培の事なのか？有機栽培の事なのか？	
	11	病害虫発生予察事業・植物検疫事業（防除所とは？検疫所とは？）	
	12	植物の病気の実際（3）	
	13	植物病害の診断方法	
	14	静岡県版「病害虫防除基準」「診断ガイドブック」について	
15	樹木医制度・保護士制度など植物病理学と関連した資格について		
キーワード	病気、微生物、化学農薬、土壌消毒、IPM、発生予察、GAP、生物多様性条約		
教科書・参考書	教科書：「病害虫・雑草防除の基礎」大串龍一著、農文協、参考書：「農作物病害虫防除基準」「病害虫診断ガイドブック」いずれも静岡県植物防疫協会編、「植物防疫講座－農薬・行政編－」日本植物防疫協会編		
評価方法・評価基準	試験（40%）、小テスト（40%）、レポート（20%）		
関連科目	「環境と農林業」「農学概論」「植物保護」「環境保全型農業論」		
履修要件	ルーペの購入（2,000円以内のもので充分である）を必須とする。ルーペの種類や購入方法は1回目の講義で説明する。		
備考	特になし		

果樹園芸学 Pomology		単位数 2 単位	授業の方法 講義
		履修年次	2年 後期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	森口卓哉
授業時間	月曜日 4 時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	果樹栽培の対象とする果実は水分や栄養分の摂取と嗜好品として利用されてきたが、近年は健康増進と疾病予防としての機能が注目されるようになっている。果樹は他の作物とは異なってほとんどが樹木作物（永年作物）である。そのため、1年生作物とは異なる生理・生態的な特性を有することも多い。特に、果樹は環境条件への依存が高く、リンゴやミカン等、各果樹に適した環境下で栽培されるため、近年の気象変動は果樹栽培に大きな影響を与える。また、一口に果樹と言っても、その果実は子房壁が肥大したものから、花床が肥大して果実となったものまで様々である。本科目では、果樹栽培の基本的知識を得ることを目的とし、果樹の種類・品種の選択方法、環境条件からみた適地の選定、苗木の繁殖・育成、植栽、栽培管理、生理・生態的特徴、収穫、さらに流通・貯蔵まで果実が消費者にとどくまでの内容について、環境に配慮した果樹栽培という視点で体系的に学ぶ。		
授業目的・目標	果樹栽培の基本的知識を得る。果樹が消費者にとどくまでの内容について体系的に学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	果樹園芸とは（環境条件からみた適地適作 果樹園芸の問題点と現状）	
	2	果樹の種類と品種I	
	3	果樹の種類と品種II	
	4	栄養成長・生殖成長、花芽分化	
	5	開花と結実生理（自家受粉、他家受粉、単為結果、生理落花（果））	
	6	果実の発育・成熟	
	7	果実の発育・成熟	
	8	果実の生理障害、病害虫	
	9	果実の貯蔵と流通	
	10	整枝・せん定（樹形、せん定時期と方法）	
	11	休眠と問題点（気象変動の視点にも配慮）	
	12	貯蔵、流通利用	
	13	果樹の育種・繁殖方法	
	14	果樹の育種・繁殖方法	
15	まとめ		
キーワード	果樹園芸、環境条件、栽培管理、栽培生理、		
教科書・参考書	参考書：果樹園芸学（米森敬三編集 朝倉書店）、果樹園芸大要（小林章著 養賢堂）、果樹園芸学の基礎（伴野潔・山田寿・平智著 農文協）、果樹園芸学（金浜耕基編 文永堂）		
評価方法・評価基準	試験（50％） レポート（50％）		
関連科目	植物生理生態学、収穫後生理学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 果樹園芸学 (英名) Pomology		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	3年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	森口卓哉
授業時間	木曜日 5時限	教室	講義室14
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	果樹栽培の対象とする果実は水分や栄養分の摂取と嗜好品として利用されてきたが、近年は健康増進と疾病予防としての機能が注目されるようになっていく。果樹は他の作物とは異なってほとんどが樹木作物（永年作物）である。そのため、1年生作物とは異なる生理・生態的な特性を有することも多い。また、一口に果樹と言っても、その果実は子房壁が肥大したものから、花床が肥大して果実となったものまで様々である。本科目では、果樹栽培の基本的知識を得ることを目的とし、果樹の種類・品種の選択方法、適地の選定、苗木の繁殖・育成、植栽、栽培管理、生理・生態的特徴、収穫、さらに流通・貯蔵まで果実が消費者にとどくまでの内容について体系的に学ぶ。		
授業目的・目標	果樹栽培の基本的知識を得る。果樹が消費者にとどくまでの内容について体系的に学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	果樹園芸とは（適地適作 果樹園芸の問題点と現状）	
	2	果樹の種類と品種I	
	3	果樹の種類と品種II	
	4	栄養成長・生殖成長、花芽分化	
	5	開花と結実生理（自家受粉、他家受粉、単為結果、生理落花（果））	
	6	果実の発育・成熟	
	7	果実の発育・成熟	
	8	果実の生理障害、病害虫	
	9	果実の貯蔵と流通	
	10	整枝・せん定（樹形、せん定時期と方法）	
	11	休眠と問題点	
	12	貯蔵、流通利用	
	13	果樹の育種・繁殖方法	
	14	果樹の育種・繁殖方法	
15	まとめ		
キーワード	果樹園芸、栽培管理、栽培生理、		
教科書・参考書	参考書：果樹園芸学（米森敬三編集 朝倉書店）、果樹園芸大要（小林章著 養賢堂）、果樹園芸学の基礎（伴野潔・山田寿・平智著 農文協）、果樹園芸学（金浜耕基編 文永堂）		
評価方法・評価基準	試験（50％） レポート（50％）		
関連科目	植物生理生態学、収穫後生理学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 森林土木学 Civil Engineering for Forest and Forestry		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	2年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	逢坂興宏
授業時間	木曜日 3時限	教室	講義室 5
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	森林土木学は治山・砂防分野と林業土木分野からなる。治山・砂防分野では、森林山地斜面で発生する土砂移動現象(表面侵食、斜面崩壊、地すべり、土石流等)の発生メカニズムとその対策、および森林植生の有する表面侵食防止、表層崩壊防止の機能とその限界、荒廃地の復元技術および森林・植生がもつ環境保全機能と景観形成機能についての知識と最新の技術を学ぶ。林業土木分野では、木材生産システムの集材工程に大きくかわる林内路網整備に関する知識(林道、森林作業道開設の目的、役割、構造等)、設計手順、現地踏査についての知識と最新の技術を学ぶ。また、共通する分野として土質力学と水理学の基礎を学ぶ。		
授業目的・目標	斜面崩壊・土石流・地すべり等の山地災害の発生機構と森林の防災機能、土砂災害対策、林道の計画・設計・施工についての知識と技術を学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	ガイダンス、森林土木学とは	
	2	森林山地における土砂移動現象	
	3	表面侵食と植生による斜面の保全	
	4	森林と山崩れ	
	5	荒廃地の復元技術	
	6	緑化の環境保全機能と景観形成機能	
	7	土石流	
	8	地すべり、深層崩壊	
	9	火山活動に伴う土砂移動現象、雪崩	
	10	林道の計画と構造	
	11	林道の設計	
	12	林道の施工	
	13	架線集材	
	14	土質力学の基礎	
15	水理学の基礎		
キーワード	治山、砂防、緑化、林業土木、林道		
教科書・参考書	参考書：「保全砂防学入門」電気書院、「森林土木学」朝倉書店、		
評価方法・評価基準	試験(50%)、課題(50%)		
関連科目	農林業のための地学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 森林土木学 (英名) Civil Engineering for Forest and Forestry		単位数 2 単位	授業の方法 講義
		履修年次	2年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	逢坂興宏
授業時間	金曜日 3 時限	教室	講義室 7
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	森林の多面的機能には、土砂災害防止機能・土壌保全機能がある。本科目では、斜面崩壊・土石流・地すべり等の山地災害の発生機構と森林の防災機能、土砂災害を引き起こす気象、山地防災対策についての知識と最新の技術を学ぶ。また、木材生産システムの集材工程に大きくかかわる林内路網整備に関する知識(林道、森林作業道開設の目的、役割、構造等)、設計手順、現地踏査についての知識と最新の技術を学ぶ。		
授業目的・目標	斜面崩壊・土石流・地すべり等の山地災害の発生機構と森林の防災機能、土砂災害対策、林道の計画・設計・施工についての知識と技術を学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	ガイダンス, 森林土木学とは	
	2	森林山地における土砂移動現象	
	3	表面侵食と植生による斜面の保全	
	4	森林と山崩れ	
	5	山腹緑化工	
	6	のり面緑化工	
	7	土石流	
	8	地すべり、深層崩壊	
	9	火山活動に伴う土砂移動現象、雪崩	
	10	林道の計画と構造	
	11	林道の設計	
	12	林道の施工	
	13	架線集材	
	14	土質力学の基礎	
15	水理学の基礎		
キーワード	治山、砂防、緑化、林業土木, 林道		
教科書・参考書	参考書: 「保全砂防学入門」電気書院、「森林土木学」朝倉書店、		
評価方法・評価基準	試験 (50%)、課題 (50%)		
関連科目	農林業のための地学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 畜産概論 Animal Husbandry Introduction		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	1年 後期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	祐森 誠司
授業時間	木曜日2時限	教室	講義室3
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	人間の生活に貢献するべく動物の生命活動を応用する学問的追究が畜産学であり、従来は食料自給を課題とした生産において柱となる遺伝育種、繁殖、飼養などの専門領域での課題解決とそれに必要な技術開発が中心となって進展してきた。これらの課題には国際的な視野で捕らえなければならない課題も含まれるようになっており、さらには従来の生産効率一辺倒な対応だけでなく、労働者や飼育される動物の労働・生活環境におけるリスク、特に環境負荷物質を制御するための排せつ物の処理については技術的な改善が取り組まれており、畜産業の歴史と近況の情報を教授する。		
授業目的・目標	家畜生産における課題を内容に応じて整理し、その解決に向けた対策の解説を通じて現状の理解を深め、今後新たに課題となる内容とその対策に対する指針が策定できるようにする。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	家畜と人との関係、畜産学の歴史	
	2	家畜生産の目的	
	3	家畜の特徴と能力開発	
	4	家畜の増殖技術	
	5	乳生産の機能	
	6	乳製品の特徴と製造	
	7	肉生産の機能	
	8	肉製品の特徴と加工	
	9	卵生産の機能	
	10	卵製品と加工	
	11	産業としての畜産(経営)	
	12	六次産業の取り組み	
	13	畜産物の流通	
	14	環境に配慮した持続的な畜産の発展	
15	まとめ		
キーワード	畜産、畜産物、育種、繁殖、六次産業		
教科書・参考書	畜産学入門、唐澤 豊他編、文永堂出版(株)		
評価方法・評価基準	試験(70%)、課題(30%)		
関連科目	家畜飼養学、家畜衛生学など、動物生産に関わる科目および、飼料作物関連の科目		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 畜産概論 Animal Husbandry Introduction		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	1年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	祐森 誠司
授業時間	月曜日1時限	教室	大講義室
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	人間の生活に貢献するべく動物の生命活動を応用する学問的追究が畜産学であり、従来は食料自給を課題とした生産において柱となる遺伝育種、繁殖、飼養などの専門領域での課題解決とそれに必要な技術開発が中心となって進展してきた。これらの課題には国際的な視野で捕らえなければならない課題も含まれるようになっており、さらには従来の生産効率一辺倒な対応だけでなく、労働者や飼育される動物の労働・生活環境におけるリスクを回避することも求められており、畜産業の歴史と近況の情報を教授する。		
授業目的・目標	家畜生産における課題を内容に応じて整理し、その解決に向けた対策の解説を通じて現状の理解を深め、今後新たに課題となる内容とその対策に対する指針が策定できるようにする。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	家畜と人との関係、畜産学の歴史	
	2	家畜生産の目的	
	3	家畜の特徴と能力開発	
	4	家畜の増殖技術	
	5	乳生産の機能	
	6	乳製品の特徴と製造	
	7	肉生産の機能	
	8	肉製品の特徴と加工	
	9	卵生産の機能	
	10	卵製品と加工	
	11	産業としての畜産(経営)	
	12	六次産業の取り組み	
	13	畜産物の流通	
	14	持続的な畜産の発展	
15	まとめ		
キーワード	畜産、畜産物、育種、繁殖、六次産業		
教科書・参考書	畜産学入門、唐澤 豊他編、文永堂出版(株)		
評価方法・評価基準	試験(70%)、課題(30%)		
関連科目	家畜飼養学、家畜衛生学など、動物生産に関わる科目および、飼料作物関連の科目		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

4. <履修形態が不明確>

履修モデルや卒業要件の記載からは、コース制のように特定の科目群の履修を求める計画を想定しているように見られるが、例えばコース制であれば、学生がいつコースを選択するのか、特定のコースに希望が偏った場合どのように対応するのかなど、具体的な履修の方策が明らかでないため、学生の履修がどのように行われるのか具体的に説明すること。

(対応)

本学では、生産理論や生産技術、加工・流通・販売は、栽培、林業、畜産の3分野に分かれて学ぶ計画である。当初申請時は、「分野」や「領域」などの言葉を用いて説明していたが、説明が不十分で明確でなかったため、履修形態としてコース制とすることを明確に説明する。また、学生がコース選択する時期や、それぞれのコースの受入人数の目安、希望が偏った場合の対応等について不明確となっていたため、具体的に説明する。

(詳細説明)

本学では、生産理論や生産技術は、栽培、林業、畜産の3分野に分かれて学ぶ計画である。当初申請時の基本計画書や設置の趣旨等を記載した書類のなかで、「分野」や「領域」を用いて説明していたが、説明が不十分で不明確であった。このため、生産理論の科目群と生産技術の科目群、加工・流通・販売の科目群は、栽培、林業、畜産の各分野に分かれて学ぶことを明確にするため、コース制とし、「栽培コース」、「林業コース」、「畜産コース」の3コースを置く。なお、基礎科目や職業専門科目のうち農林業基礎及び経営管理、展開科目、総合科目は共通して学ぶ。各コースにおける体系的な教育課程については、審査意見7への回答で詳細に説明する(61ページ)。

コースごとの受入人数の目安は、栽培コース18人程度、林業コースは3人程度、畜産コース3人程度とする。これは、現在の農林大学校養成部の定員が、栽培系の園芸学科、茶業学科、果樹学科が合わせて80人、畜産学科が10人、林業学科が10人であることや、学生確保の見直し等を記載した書類の資料7「静岡県立農林環境専門職大学(仮称)及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部(仮称)への入学意向に関するアンケート調査報告」の「(4)興味のある分野について」(P7)で、概ねの割合が、栽培(野菜、花き、果樹、お茶、水田農業)80%、林業10%、畜産10%となっていることから、上記の人数を目安とするものである。

希望者数に極端な偏りがあった場合は、1年次のGPA、学生の志望理由、面接結果を総合的に勘案して選考し、教務委員会の中に設ける選考会に諮った上で決定し、人数を調整する。

コース制については、大学パンフレット、ホームページ、入試説明会で丁寧に説明するなど、入試前から入学希望の学生に周知を行っていく。コース選択は、入学時の4月及び後期が始まる10月(合計2回)に、コースの決定時期、希望申込時期、選抜時期、選抜方法について、コースごとの特色と進路等を説明した上で、1年後期開講の導入科目(栽培学、植物生理生態学、樹木・組織学、畜産概論)の履修誘導を行う(別添資料1-1 カリキュラム・マップ、別添資料4履修

モデル)。

コース決定の方法については、1年次の12月に志望理由等を記載した希望調査票を提出させ、1月に面接を行い、3月に選考会を実施の上、コースの決定を行う。

以上のコース制や選択方法について、「設置の趣旨等を記載した書類」に追記し、履修モデルを変更する。

<選考スケジュール>

時期	内容
入試説明会 (大学入学前)	大学パンフレット、ホームページ、入試説明会等におけるコース制の説明
<1年次> 4月及び10月	コース選択に向けた説明と指導 (コース決定時期、希望申込時期、選抜時期、選抜方法)
12月	希望調査(希望調査票の提出)
1月	面接
3月	選考会(教務委員会)
	コースの決定

(新旧対象表) 設置の趣旨を記載した書類 (25 ページ)

新	旧
<p>6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件</p> <p>(1) 教育方法 (略)</p> <p>(2) 履修指導方法等</p> <p>①履修ガイダンスの実施</p> <p>入学時のガイダンスにおいて、履修ガイドブック、シラバス、卒業後の進路希望に即した履修モデルを提示し、学生の目指す専門分野別に、教育課程の考え方・特色や入学時から卒業時までの履修方法について説明するものとする。また、入学直後に、全学生を対象に「新入生アンケート調査」を実施し、志望分野や志望理由、卒業後の志望進路等を把握する。</p> <p>また、生産技術は、栽培、林業、畜産のそれぞれの分野を専門的に学ぶため、コース制とし、「栽培コース」、「林業コース」、「畜産コース」</p>	<p>6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件</p> <p>(1) 教育方法 (略)</p> <p>(2) 履修指導方法等</p> <p>①履修ガイダンスの実施</p> <p>入学時のガイダンスにおいて、履修ガイドブック、シラバス、卒業後の進路希望に即した履修モデルを提示し、学生の目指す専門分野別に、教育課程の考え方・特色や入学時から卒業時までの履修方法について説明するものとする。また、入学直後に、全学生を対象に「新入生アンケート調査」を実施し、志望分野や志望理由、卒業後の志望進路等を把握する。</p> <p>また、1年次の後期の開始時に、履修等のガイダンスと指導を行うものとする。2年次には前期の開始時に領域の選択を行うとともに、同様に履修</p>

新	旧
<p><u>の3コースを置く。なお、基礎科目や職業専門科目のうち農林業基礎及び経営管理、展開科目、総合科目は共通して学ぶ。</u></p> <p><u>2年次からコースに分かれて、生産理論および生産技術を学ぶ。コース選択に関する説明は、入学時の4月及び後期が始まる10月(合計2回)に行い、コースの決定時期、希望申込時期、選抜時期、選抜方法について、学生に対する説明と、1年後期開講の導入科目(栽培学、植物生理生態学、樹木・組織学、畜産概論)の履修誘導を行う。コース決定の方法については、1年次の12月に志望理由等を記載した希望調査票を提出させ、1月に面接を行い、3月に選考会を実施の上、コースの決定を行う。</u></p> <p>②個別履修指導等の実施 (略)</p> <p>④履修モデル</p> <p>履修モデルを提示し、卒業後の進路希望に即した履修指導を行う。設定した履修モデルは、次のとおりである(資料23)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>履修モデル：農業経営・水稲(経営体後継者・幹部・起業者)</u> ・<u>履修モデル：農業経営・茶(経営体後継者・幹部・起業者)</u> ・<u>履修モデル：農業経営・施設野菜(経営体後継者・幹部・起業者)</u> ・<u>農業経営・露地野菜(経営体後継者・幹部・起業者)</u> ・<u>農業経営・花き(経営体後継者・幹部・</u> 	<p>等のガイダンスと指導を行う。3年次以降にも前期の開始時に履修等のガイダンスと指導を行うものとする。</p> <p>②個別履修指導等の実施 (略)</p> <p>④履修モデル</p> <p>履修モデルを提示し、卒業後の進路希望に即した履修指導を行う。設定した履修モデルは、次のとおりである(資料23)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>履修モデル(農業経営)</u> ・<u>履修モデル(林業経営)</u> ・<u>履修モデル(畜産経営)</u> ・<u>履修モデル(農林業指導者)</u>

新	旧
<p><u>起業者)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>履修モデル：農業経営・果樹（経営体後継者・幹部・起業者）</u> ・<u>履修モデル：林業経営（経営体後継者・幹部・起業者、森林組合職員）</u> ・<u>履修モデル：畜産経営（経営体後継者・幹部・起業者）</u> ・<u>履修モデル：農業指導者（公務員、農業協同組合職員）</u> ・<u>履修モデル：林業指導者（公務員）</u> ・<u>履修モデル：畜産指導者（公務員、農業協同組合職員）</u> 	

(新旧対照表) 履修モデル

新	旧
<ul style="list-style-type: none"> ・ 履修モデル（別添資料4（新）） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 履修モデル（別添別添資料4（旧））

5. <科目の実施体制が不明確>

40名を超えて実施する科目について、教育上必要があり、かつ十分な教育効果をあげることができるかについて説明が無いため、具体的に説明するか、適切に改めること。また、専門職短期大学と合同で実施する科目についてはそれぞれの学校種としての十分な教育水準が担保される授業計画であるか併せて説明すること。

(対応)

40名を超えて実施する科目である「静岡学」について、教育上必要があり、かつ十分な教育効果をあげることができることを具体的に説明する。また、本科目は併設する静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と合同で実施するが、それぞれ学校種として十分な教育水準が担保されることを説明する。

なお、短期大学との達成目標等の違いを明確にするため、講義等の内容を改める。

(詳細説明)

40名を超えて実施する科目として「静岡学」があるが、本科目は併設する静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と合同で行う科目である。

本科目は、他産業との競合のなかで農林業を営まなければならない静岡県の状況に鑑み、今後の静岡県の産業のあり方や発展に向けた解決策を経営の視点から考える科目である。

授業の実施方法について、講話は大学と短期大学の学生と一緒に聴講するが、グループ・ワークは大学と短期大学で分けて行い、発表は合同で行う方法をとる。

静岡県にゆかりのある各界のトップランナーの講話を聴講し、県内の様々な産業の状況を学ぶとともに他産業の職業人の経験や考え方に触れることにより、農林業者としての職業観の醸成を図ることが出来ることから、本科目は専門職業人を養成する本学の教育上、必要があると考えられる。

また、大学と短期大学で別々に分かれたグループにおいて、講話についてのグループ・ワークを行い、他の学生と意見交換を行うことに加え、大学と短期大学の合同で発表を行い、多様な意見に触れることにより、十分な教育効果をあげることができる。さらに、グループ・ワークを大学と短期大学で別々に実施し、大学と短期大学のそれぞれの教員が、それぞれの評価基準によりレポートの評価を行うことから、それぞれの学校種としての十分な教育水準が担保されると考えられる。

(新旧対照表) 授業科目等の概要 (1ページ)

新	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	静岡学	<p>静岡県はものづくり県であり、産業界を牽引する数多くの業種の企業が存在し、ヒト、モノ、カネの経営資源の奪い合いが起こっている。このような中で農林業経営を行うには、農林業の枠内にとどまらず、他産業の情勢、動向を理解する必要がある。本科目では、静岡県の農業、林業などの一次産業、製造業などの二次産業、卸売業・小売業・サービス業などの三次産業の各界のトップランナーを招聘し、講話を聴講する。その上で、グループ・ワークと発表を通じ、今後の静岡県の農林業のあり方や発展に向けた解決策を経営の視点から考える。</p>	<p>短期大学との合同授業 同時に行う学生数：124人 ・各界のトップランナーの講話を聴講する貴重な機会であり、教育上必要である。 ・グループ・ワークは大学と短期大学のそれぞれのグループで行うが、同じ会場で発表を行うため、多様な意見に触れることが出来て、かつ、交流も進むため、教育効果が高い。 ・大学と短大でそれぞれ教員を配置しており、達成目標も異なっているため、教育水準は担保される。</p>
旧	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	静岡学	<p>静岡県はものづくり県であり、産業界を牽引する数多くの企業が存在している。このため、静岡県ではヒト、モノ、カネが激しく動いており、経営資源の奪い合いが起こっている環境下で農林業経営を行わなくてはならない。本科目では、静岡県の農林業、製造業、卸売業、小売業、サービス業などの各産業界のトップランナーを招聘し、その講和を聞きだけでなく、外部講和者と学生との活発なディスカッションを通じ、今後の農林業のあり方や発展に向けた解決策を様々な視点から考えるための知識を得る。</p>	<p>短期大学と合同授業 同時に行う学生数：124人 講演会形式で講義を行うため、40人講義と同様の効果が得られると考えている。</p>

(新旧対照表) シラバス

(新) 1 ページ

授業名 静岡学 Study of Shizuoka		単位数 2 単位	授業の方法 講義
		履修年次	1 年 通年
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	多々良明夫
授業時間	火曜日 5 時限	教室	視聴覚室
オフィスアワー	随時受付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	静岡県はものづくり県であり、産業界を牽引する数多くの業種の企業が存在し、ヒト、モノ、カネの経営資源の奪い合いが起こっている。このような中で農林業経営を行うには、農林業の枠内にとどまらず、他産業の情勢、動向を理解する必要があるため、 <u>農業、林業などの一次産業、製造業などの第二次産業、卸売業・小売業・サービス業などの第三次産業の各界のトップランナーを招聘し、講話を聴講する。その上で、グループ・ワークと発表を通じ、今後の静岡県の農林業のあり方や発展に向けた解決策を経営の視点から考える。</u>		
授業目的・目標	<u>講話をもとに行うグループ・ワークと発表を通じ、今後の静岡県の農林業のあり方や発展に向けた解決策を経営の視点から考える。</u>		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	ガイダンス	
	2	静岡県の農業	
	3	静岡県の林業	
	4	静岡県の漁業	
	5	静岡県の環境と環境保全	
	6	静岡県の食品産業	
	7	グループ・ワーク① ～農と食、環境をめぐる課題～	
	8	発表①	
	9	静岡県の製造業	
	10	静岡県の商業	
	11	静岡県の卸売業	
	12	静岡県の飲食業	
	13	静岡県の金融業	
	14	グループ・ワーク② ～静岡県の発展に向けて～	
15	発表②		
キーワード	静岡県、農業、林業、漁業、環境、製造業、商業、卸売業、飲食業、金融業		
教科書・参考書	各講義毎に資料を配布する。 参考書：静岡県の産業データブック（静岡県HP）		
評価方法・評価基準	レポート（70%）、プレゼンテーション（15%）、受講態度（15%）		
関連科目	特になし		
履修要件	特になし		
備考	書籍やインターネットを通じて、静岡県の産業について積極的に情報収集してください。		

静岡学 Study of Shizuoka		単位数 2 単位	授業の方法 講義
		履修年次	1 年 通年
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	多々良明夫
授業時間	5 時限目	教室	視聴覚室
オフィスアワー	随時受付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	静岡県はものづくり県であり、産業界を牽引する数多くの業種の企業が存在し、ヒト、モノ、カネの経営資源の奪い合いが起こっている。このような中で農業経営を行うには、農林業の枠内にとどまらず、他産業の情勢、動向を理解する必要があるため、各産業界のトップランナーを招聘し、その講話を聴講する。		
授業目的・目標	講和や講和をもとに行うディスカッションを通じ、今後の静岡県の産業のあり方や発展に向けた解決策を様々な視点から考える。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	ガイダンス(学長講和)	
	2	静岡県の農業	
	3	静岡県の林業	
	4	静岡県の漁業	
	5	静岡県の製造業(食品)	
	6	静岡県の製造業(家具)	
	7	グループ・ワーク①	
	8	静岡県の製造業(自動車、バイク関係)	
	9	静岡県の製造業(楽器関係)	
	10	静岡県の商業	
	11	静岡県の卸売業	
	12	静岡県の飲食業	
	13	静岡県の金融業	
	14	静岡県の環境と環境保全	
15	グループ・ワーク②		
キーワード	静岡県の産業		
教科書・参考書	各講義毎に資料を配布する。 参考書：静岡県の産業データブック（静岡県HP）		
評価方法・評価基準	レポート（80%）、プレゼンテーション（20%）		
関連科目	特になし		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

6. <科目区分が不適切>

シラバスを確認したところ、科目区分が不適切であると考えられる科目があるため適切に改めること。

(1)「情報処理基礎」、「情報処理応用」は基礎科目に配置することがふさわしいと考えられる。

(2)「経営実習Ⅰ、Ⅱ」は職業専門科目に配置することがふさわしいと考えられる。

(対応)

「情報処理基礎」及び「情報処理応用」の内容を踏まえて、改めて科目の配置について検討したところ、自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るための科目と考えられるため、基礎科目に配置する。

また、「経営実習Ⅰ、Ⅱ」の内容を踏まえて、改めて科目の配置について検討したところ、専門分野である農林業経営について学ぶ科目であると考えられるため、職業専門科目に配置する。以上を踏まえ、「教育課程等の概要」(別添資料6)を改める。

(新旧対照表) 教育課程の概要

新		旧	
(1 ページ)		(1 ページ)	
科目区分	授業科目の名称	科目区分	授業科目の名称
①基礎科目	静岡学 歴史学概論 文明論 文学概論 茶道 華道 経済学概論 法学概論 社会学概論 政治学概論 統計学 情報処理基礎 情報処理応用	①基礎科目	静岡学 歴史学概論 文明論 文学概論 茶道 華道 経済学概論 法学概論 社会学概論 政治学概論

新		旧			
② 職業専門科目	農 林 業 基 礎	農学概論 環境と農林業 農林業史 農林業政策 技術者倫理 県内農林業事情 県外農林業事情 海外農林業事情 農林業のための基礎数学 農林業のための生物学 農林業のための化学 農林業のための物理学 農林業のための地学 分子生物学 農業気象学 生命科学 野生鳥獣管理・利用論	② 職業専門科目	農 林 業 基 礎	農学概論 農林業史 農林業政策 技術者倫理 県内農林業事情 県外農林業事情 海外農林業事情 農林業のための基礎数学 農林業のための生物学 農林業のための化学 農林業のための物理学 農林業のための統計学 農林業のための地学 分子生物学 農業気象学 生命科学 情報処理基礎 情報処理応用
(2 ページ)		(2 ページ)			
② 職業専門科目	経 営 管 理	簿記基礎 簿記応用 フードシステム論 法と農業経営 経営管理論 農林業経営学 経営戦略 マーケティング論 財務会計 管理会計 農林業の経営組織論 労務管理 人材マネジメント 知的財産権 農と食の起業論 経営実習Ⅰ 経営実習Ⅱ	② 職業専門科目	経 営 管 理	簿記基礎 簿記応用 農と食の経済学 法と農業経営 経営管理論 農林業経営学 経営戦略Ⅰ 経営戦略Ⅱ マーケティング論 財務会計 管理会計 経営組織論 労務管理 人材マネジメント 協同組合論 知的財産権 農と食の起業論
(3 ページ)		(3 ページ)			
④ 総合科目	経営分析演習Ⅰ 経営分析演習Ⅱ プロジェクト研究 小計(3科目)	④ 総合科目	経営実習Ⅰ 経営実習Ⅱ 経営分析演習Ⅰ 経営分析演習Ⅱ プロジェクト研究Ⅰ プロジェクト研究Ⅱ 小計(6科目)		

7. <教育課程の体系性が不明確>

職業専門科目について、多くの理論系科目の開設はあるものの、本学の卒業要件では一部の科目しか履修が担保されていない。さらに、そのうち必修とされているものも、例えば、畜産分野の「家畜育種繁殖学」「家畜飼養学」のように、より重要と考えられる科目が必修とされていない。それぞれの分野の理論的な科目を十分に学ぶ教育課程となっているか、卒業要件における必修の範囲等も見直しつつ説明すること。

また、授業科目の履修の順序など教育課程の体系性が明らかでないため、履修系統図等を示しつつ具体的に説明すること。その際、生産理論の科目群では3つの分野のいずれかを選択するとのことだが、それらの分野の選択と他の科目群での科目選択が卒業要件において、どのように関連付けて計画されているのかも具体的に説明すること。

(対応)

本学科では、生産理論や生産技術、加工・流通・販売は、栽培、林業、畜産の3分野に分かれて学ぶ計画である。当初申請時は、「分野」や「領域」などの言葉を用いて説明していたが、説明が不十分で明確でなかったため、コース制とすることを明確に説明する。その上で、それぞれのコースにおける体系的な科目履修方法を示すとともに、コース必修科目の設定と卒業要件の見直し、「生産理論」と「生産技術」、「経営管理」、「加工・流通・販売」の科目群との関連付けについて具体的に説明する。なお、「家畜育種繁殖学」「家畜飼養学」について検討したところ、これらの科目は、飼育技術を学ぶために不可欠な科目であるため、畜産コース必修として配置することとした。

(詳細説明)

本学科では、生産理論や生産技術、加工・流通・販売は、栽培、林業、畜産の3分野に分かれて学ぶ計画である。当初申請の「基本計画書」や「設置の趣旨等を記載した書類」の中で、「分野」や「領域」を用いて説明していたが、説明が不十分で不明確であった。このため、生産理論と生産技術、加工・流通・販売は分かれて学ぶことを明確にするため、コース制とし、「栽培コース」、「林業コース」、「畜産コース」の3コースを置く。また、体系的な学びとなるように科目の配当年次と卒業単位数の見直しを行い、卒業単位数を124単位から129単位に変更した。

各コースの卒業要件と、生産理論と他科目群との関連は次の通りである。(資料7 各コースにおける履修方法、資料1-1 カリキュラム・マップ)

① 共通科目

職業専門科目のうち、経営管理科目群は農林業経営者に必要な経営の知識などを共通して学ぶ科目群である。経営者に不可欠な経営管理の知識や経営戦略、マーケティング、会計、労務

について学ぶ「農林業経営学」（1年後期）、「経営戦略」（2年前期）、「マーケティング論」（2年後期）、「財務会計」（2年前期）、「管理会計」（3年前期）、「労務管理」（2年後期）を必修科目として配置する。また、フードシステムの観点から現代の食料をめぐる実態と変動について学ぶ「フードシステム論」（1年後期）、一般的な経営管理の理論を学ぶ「経営管理論」（2年前期）、人的資源管理について学ぶ「人材マネジメント」（3年前期）、経営組織の理論と課題や協同組合組織について学ぶ「農林業の経営組織論」（3年前期）、農林業経営に必要な関連法について学ぶ「法と農業経営」（2年前期）、特許権や実用新案等の知的財産権について学ぶ「知的財産権」（3年後期）、農業や食料に関わるビジネスの起業について学ぶ「農と食の起業論」（3年後期）を選択科目として配置する。また、農林業経営体において経営を学ぶ臨地実務実習である「経営実習Ⅰ」（4年前期）、「経営実習Ⅱ」（4年後期）を必修科目として配置する。なお、「簿記基礎」（1年前期）及び「簿記応用」（1年後期）は、経営を学ぶための基礎的な科目であるため、選択科目から自由科目へ変更する。

共通の生産理論科目群として、コース選択の参考とする導入的な生産理論の科目として、「栽培学」（1年後期）、「植物生理生態学」（1年後期）、「樹木・組織学」（1年後期）、「畜産概論」（1年後期）を選択科目として配置する。2年前期よりコースに分かれて学ぶが、3年前期に農林業分野の先端技術を総合的に学ぶ「農林業のための先端技術」を必修科目として配置する。

生産技術科目群の共通科目として、農林業生産技術を広く学ぶ「総合実習」（1年通年）、農林業の生産工程管理について学ぶ「GAP演習」（2年前期）、トラクター等の大型機械の操作方法や安全使用について学ぶ「大型機械実習Ⅰ」（2年前期）、農林業経営体で生産技術を学修する「企業実習」（3年後期）を必修科目として配置する。

展開科目は、農山村の地域資源である伝統・文化の継承や、伝統・文化を育む農山村の地域社会について学ぶ科目であり、「農山村田園地域公共学」（1年後期）、「農村社会論」（2年前期）、「農と食の哲学」（2年前期）、「食文化論」（2年後期）、「医福食農連携論」（2年後期）、「農村景域論」（3年前期）、「グリーン・ツーリズム論」（3年前期）、「農山村デザイン演習」（3年前期）、「在来作物学」（3年前期）、「コミュニティビジネス論」（3年後期）を必修科目として配置する。

総合科目は、農林業経営における課題の解決に向けた研究の手法などを学ぶ「経営分析演習Ⅰ」（4年前期）、「経営分析演習Ⅱ」（4年後期）、「プロジェクト研究」（4年通年）を必修科目として配置する。

② 栽培コース

栽培コースを選択する学生には、1年後期に、「栽培学」もしくは「植物生理生態学」を選択するよう履修誘導を行う。その上で、栽培技術を学ぶにあたり、植物栄養や病害虫、栽培体系、環境保全型農業の知識は不可欠である。このため、生産理論（栽培）の科目群に、植物の特性や植物生産の代謝、養分機能、栄養特性と肥料について学ぶ「肥料・植物栄養学」（2年前期）、病害虫の種類や特長について学ぶ「植物病理学」（2年前期）及び「応用昆虫学」（2年後期）、環境に配慮した農業を学ぶ「環境保全型農業論」（3年前期）をコース必修として配置する。また、栽培体系を学ぶ科目として、水稻や茶の栽培体系について学ぶ「作物学」（2年前期）、野菜や花き、果樹の栽培体系を総合的に学ぶ「園芸学」（2年前期）のどちらかを選

択する。さらに知識を深める科目として、植物の遺伝の仕組みや育種技術について学ぶ「植物遺伝育種学概論」（2年後期）、土壌診断や土づくりについて学ぶ「土壌学」（2年後期）、野菜栽培の基礎知識を学ぶ「野菜園芸学」（2年後期）、果樹栽培の基礎知識を学ぶ「果樹園芸学」（2年後期）、花き栽培の基礎知識を学ぶ「花き園芸学」（2年後期）を選択科目として配置する。

これらの理論に対応する生産技術科目群に、基礎的な栽培技術を学ぶ「圃場実習（栽培）」（2年前期）、生産現場のマネジメントの基礎を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅰ（栽培）」（2年後期）、応用を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅱ（栽培）」（3年通年）をコース必修として配置する。また、大型機械の知識や技能を学修する「大型機械実習Ⅱ」（3年前期）を選択科目として配置する。

加工・流通・販売科目群に、販売管理の基礎理論を学ぶ「販売管理論」（3年前期）と、販売技術を身につける「販売実習」（3年後期）をコース必修として配置する。また、食品成分や化学変化・貯蔵・衛生管理について学ぶ「食品科学」（2年前期）、農畜産物の栄養特性や嗜好性、保存性を向上させる加工技術を学ぶ「食品加工学」（2年後期）、豆類や野菜、果樹、乳製品、畜肉類などの加工を学ぶ「食品加工実習」（3年前期）、消費者に安全・安心な食品を安定的に届けるための流通システムについて学ぶ「食品流通論」（3年前期）、食品の機能性や健康について学ぶ「農と食の健康論」（2年後期）、園芸作物の品質保持技術・貯蔵方法・加工に関わる知識を学ぶ「収穫後生理学」（3年前期）、6次産業化の方向性や可能性について学ぶ「6次産業化実践論」（3年後期）を選択科目として配置する。

③ 林業コース

林業コースを希望する学生には、1年後期に「樹木・組織学」を選択するよう履修誘導を行う。その上で、林業技術を学ぶにあたり、森林調査や造林、治山、収穫技術の知識が不可欠である。このため、生産理論（林業）の科目群として、森林政策の歴史や関連法、森林調査の基礎を学ぶ「森林計画・政策論」（2年前期）、造林について学ぶ「造林学」（2年前期）、治山・砂防や林業土木について学ぶ「森林土木学」（2年前期）、木質バイオマスについて学ぶ「木質科学概論」（2年後期）、木材生産や作業システムについて学ぶ「木材生産システム」（2年後期）、森林計画制度や森林保護の視点を備えた持続的林業経営や森林認証制度について学ぶ「森林マネジメント」（3年前期）をコース必修として配置する。

これらの理論に対応する生産技術科目群に、基礎的な栽培技術を学ぶ「演習林実習」（2年前期）、生産現場のマネジメントの基礎を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅰ（林業）」（2年後期）、応用を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅱ（林業）」（3年通年）、林業機械の操作法や高性能林業機械について学ぶ「林業機械実習」（3年前期）をコース必修として配置する。

加工・流通・販売科目群に、木材の様々な利用方法や流通・原木市場について学ぶ「木材利用・流通論」（2年前期）、木材加工の基礎理論を学ぶ「木材加工学」（2年後期）、木工作品の製作を行う「木材加工実習」（3年前期）をコース必修として配置する。

④ 畜産コース

畜産コースを希望する学生には、1年後期に「畜産概論」を選択するよう、履修誘導を行う。

その上で、飼育技術を学ぶにあたり、家畜の生理・生態、栄養と飼料、育種や繁殖の知識、また、家畜ふん尿と環境問題の知識は不可欠である。このため、生産理論（畜産）の科目群に、家畜栄養と飼料、飼料配合設計の基礎理論を学ぶ「飼料総論」（2年前期）、飼料消化性の違いや環境要因による変化やその対策について学ぶ「家畜飼養学」（2年前期）、家畜の体の仕組みや各臓器の生理機能を学ぶ「家畜生理解剖学」（2年前期）、育種の基礎知識や繁殖に関わる知識を学ぶ「家畜育種繁殖学」（2年後期）、家畜衛生の一連の知識を学ぶ「家畜衛生学」（2年後期）、環境に配慮した畜産について学ぶ「畜産環境学」（3年前期）をコース必修として配置する。また、畜産の関連法規について学ぶ「畜産法規」（2年前期）や「人工授精論」（2年前期）、草地の特徴や管理方法について学ぶ「自給飼料」（2年後期）、アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理について学ぶ「家畜福祉学」（2年後期）を選択科目として配置する。

これらの理論に対応する生産技術科目群として、基礎的な栽培技術を学ぶ「圃場実習（畜産）」（2年前期）、生産現場のマネジメントの基礎を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅰ（畜産）」（2年後期）、応用を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅱ（畜産）」（3年通年）をコース必修として配置する。また、大型機械の知識や技能を学修する「大型機械実習Ⅱ」（3年前期）を選択科目として配置する。

加工・流通・販売科目群に、販売管理の基礎理論を学ぶ「販売管理論」（3年前期）と、販売技術を身につける「販売実習」（3年後期）をコース必修として配置する。また、食品成分や化学変化・貯蔵・衛生管理について学ぶ「食品科学」（2年前期）、農畜産物の栄養特性や嗜好性、保存性を向上させる加工技術を学ぶ「食品加工学」（2年後期）、豆類や野菜、果樹、乳製品、畜肉類などの加工を学ぶ「食品加工実習」（3年前期）、消費者に安全・安心な食品を安定的に届けるための流通システムについて学ぶ「食品流通論」（3年前期）、食品の機能性や健康について学ぶ「農と食の健康論」（2年後期）、6次産業化の方向性や可能性について学ぶ「6次産業化実践論」（3年後期）を選択科目として配置する。

	卒業に必要となる単位数					
	生産理論		生産技術		加工・流通・販売	
	卒業要件	うち コース必修	卒業要件	うち コース必修	卒業要件	うち コース必修
栽培コース	16 単位	8 単位	26 単位	10 単位	8 単位	4 単位
林業コース	16 単位	12 単位	28 単位	10 単位	6 単位	6 単位
畜産コース	16 単位	12 単位	26 単位	10 単位	8 単位	4 単位

以上の見直しを踏まえ、「教育課程等の概要」の記載を修正する。

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新			旧		
(1 ページ)			(1 ページ)		
② 職業専門科目	農林業基礎	農学概論 1前 環境と農林業 1後 農林業史 1後 農林業政策 2前 技術者倫理 3前 県内農林業事情 1前 県外農林業事情 2前 海外農林業事情 3前 農林業のための基礎数学 1前 農林業のための生物学 1前 農林業のための化学 1前 農林業のための物理学 1後 農林業のための地学 1後 分子生物学 1後 農業気象学 2後 生命科学 2後 野生鳥獣管理・利用論 3前	② 職業専門科目	農林業基礎	農学概論 1前 農林業史 1前 農林業政策 2前 技術者倫理 3前 県内農林業事情 1後 県外農林業事情 2前 海外農林業事情 3前 農林業のための基礎数学 1前 農林業のための生物学 1前 農林業のための化学 1前 農林業のための物理学 1後 農林業のための統計学 1後 農林業のための地学 2前 分子生物学 1後 農業気象学 2前 生命科学 3前 情報処理基礎 1前 情報処理応用 2後
	生産理論(栽培)	栽培学 1後 植物生理生態学 1後 作物学 2前 園芸学 2前 植物病理学 2前 応用昆虫学 2後 肥料・植物栄養学 2前 野菜園芸学 2後 果樹園芸学 2後 花き園芸学 2後 植物遺伝育種学概論 2後 土壌学 2後 環境保全型農業論 3前		生産理論(栽培)	栽培学 1前 植物生理生態学 1前 作物学 1後 園芸学 1後 植物病理学 2前 応用昆虫学 2前 肥料・植物栄養学 2後 野菜園芸学 3前 果樹園芸学 3前 花き園芸学 3前

新			旧			
(2 ページ)			(2 ページ)			
科目区分	授業科目の名称	配当年次	科目区分	授業科目の名称	配当年次	
② 職業専門科目	生産理論 (林業)	森林計画・政策論	2前	生産理論 (林業)	森林計画・政策論	1前
		造林学	2前		造林学	1前
		樹木・組織学	1後		樹木・組織学	1後
		森林土木学	2前		森林土木学	2前
		木質科学概論	2後		木質科学概論	2前
		木材生産システム	2後		木材生産システム論	2後
	生産理論 (畜産)	森林マネジメント	3前	共通 抜付 林業 通業	植物遺伝育種学概論	1後
		畜産概論	1後		土壌学	2後
		飼料総論	2前	生産理論 (畜産)	畜産概論	1前
		家畜生理解剖学	2前		飼料総論	1前
		家畜育種繁殖学	2後		家畜生理解剖学	1後
		家畜飼養学	2前		家畜育種繁殖学	1後
		畜産法規	2前		家畜飼養学	1後
		人工授精論	2前		畜産法規	2前
	自給飼料	2後	人工授精論	2前		
	家畜衛生学	2後	自給飼料	2後		
	家畜福祉学	2後	家畜衛生学	2後		
	畜産環境学	3前	家畜福祉学	2後		
	生産理論 [共通]	農林業のための先端技術	3前	共通	農林業のための先端技術	3前
	経営管理	簿記基礎	1前	② 職業専門科目	経営管理	簿記基礎
簿記応用		1後	簿記応用			1後
フードシステム論		1後	農と食の経済学			1前
法と農業経営		2前	法と農業経営			1後
経営管理論		2前	経営管理論			1後
農林業経営学		1後	農林業経営学			2前
経営戦略		2前	経営戦略Ⅰ			2後
マーケティング論		2後	経営戦略Ⅱ			3前
財務会計		2前	マーケティング論			2後
管理会計		3前	財務会計			2前
農林業の経営組織論		3前	管理会計			3前
労務管理		2後	経営組織論			2前
人材マネジメント		3前	労務管理			2後
知的財産権		3後	人材マネジメント			3前
農と食の起業論	3後	協同組合論	3前			
経営実習Ⅰ	4前	知的財産権	3後			
経営実習Ⅱ	4後	農と食の起業論	3後			
加工・流通・販売	食品科学	2前	加工・流通・販売	食品化学	2前	
	食品加工学	2後		食品衛生学	2前	
	収穫後生理学	3前		食品加工学	2後	
	木材利用・流通論	2前		収穫後生理学	3後	
	木材加工学	2後		アグリフードシステム論	2後	
	食品流通論	3前		木材利用論	2前	
	販売管理論	3前		木材加工学	2後	
	農と食の健康論	2後		食品流通論	3前	
	6次産業化実践論	3後		木材流通論	3前	
	食品加工実習	3前		販売管理論	3前	
木材加工実習	3前	6次産業化実践論	3後			
販売実習	3後	実習・演習	総合実習	1前		
総合実習	1通		圃場実習(栽培)	1後		
圃場実習(栽培)	2前		圃場実習(畜産)	1後		
圃場実習(畜産)	2前		演習林実習	1後		
演習林実習	2前		生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)	2通		
生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)	2後		生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)	2通		
生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)	2後		生産マネジメント実習Ⅰ(林業)	2通		
生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)	3通		生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)	3通		
生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)	3通	生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)	3通			
生産マネジメント実習Ⅱ(林業)	3通	生産マネジメント実習Ⅱ(林業)	3通			

新			旧				
(3 ページ)			(3 ページ)				
科目区分	授業科目の名称	配当年次	科目区分	授業科目の名称	配当年次		
③ 展開科目	農山村の文化の継承・ 農山村の地域社会	農山村田園地域公共学	1後	共通	農山村田園地域公共学	1後	
		農村景域論	3前		環境保全	環境と農林業	2前
		農と食の哲学	2前	環境保全型農業論		4前	
		食文化論	2後	森林マネジメント論		4前	
		在来作物学	3前	畜産環境学		4前	
			農村景域論	3前			
	農山村の地域社会	農村社会論	2前	③ 展開科目	農山村振興	農村社会論	2前
		農山村デザイン演習	3前			農山村デザイン演習	2前
		医福食農連携論	2後			農と食の哲学	2前
		グリーン・ツーリズム論	3前			農と食の健康論	2後
コミュニティビジネス論		3後	医福食農連携論			2後	
小計(10科目)	-	グリーン・ツーリズム論	3前				
④ 総合科目	経営分析演習Ⅰ	4前	④ 総合科目			食文化論	2後
	経営分析演習Ⅱ	4後				コミュニティビジネス論	3前
	プロジェクト研究	4通				在来作物学	3前
	小計(3科目)	-				野生鳥獣管理・利用論	3前
合計(126科目)	-	小計(16科目)		-			
					経営実習Ⅰ	4前	
				経営実習Ⅱ	4後		
				経営分析演習Ⅰ	4前		
				経営分析演習Ⅱ	4後		
				プロジェクト研究Ⅰ	3後		
				プロジェクト研究Ⅱ	4通		
				小計(6科目)	-		
				合計(134科目)	-		

(卒業要件及び履修方法)

<卒業要件>

基礎科目より 20 単位以上、職業専門科目より 85 単位以上、展開科目より 20 単位、総合科目 4 単位を修得し、合計 129 単位以上とする。

(基礎科目) 必修科目と、英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳから 4 単位を含む 20 単位以上

(職業専門科目) 85 単位以上

■「農林業基礎」
必修を含む 10 単位以上

■「生産理論」 コースを選択し、必修科目、
選択必修、コース必修を含む 16 単位以上

(卒業要件及び履修方法)

<卒業要件>

基礎科目より 20 単位以上、職業専門科目より 62 単位以上、展開科目より 20 単位以上、総合科目 22 単位以上を修得し、合計 124 単位以上とする。

(基礎科目) 必修科目を含む 20 単位以上

(職業専門科目) 62 単位以上

○「農林業基礎」 から必修 10 単位

○「生産理論 (栽培)」、「生産理論 (林業)」、
「生産理論 (畜産)」のいずれから主たる分野

新	旧
<p>○<u>選択必修：栽培学、植物生理生態学、樹木・組織学、畜産概論</u></p> <p>◎<u>栽培コース必修：肥料・植物栄養学、植物病理学、応用昆虫学、環境保全型農業論</u></p> <p>・<u>栽培コース必修に加え、作物学もしくは園芸学から2単位、植物遺伝育種学概論、土壌学、野菜園芸学、花き園芸学、果樹園芸学から2単位を選択</u></p> <p>◎<u>林業コース必修：森林計画・政策論、造林学、森林土木学、木質科学概論、木材生産システム、森林マネジメント</u></p> <p>◎<u>畜産コース必修：飼料総論、家畜生理解剖学、家畜育種繁殖学、家畜飼養学、家畜衛生学、畜産環境学</u></p> <p>■<u>「生産技術」</u></p> <p><u>生産理論科目群と同じコースを選択し、栽培コースと畜産コースは必修科目とコース必修を含む26単位以上、林業コースは必修科目とコース必修を含む28単位以上</u></p> <p>◎<u>栽培コース必修：圃場実習（栽培）、生産マネジメント実習Ⅰ（栽培）、生産マネジメント実習Ⅱ（栽培）</u></p> <p>◎<u>林業コース必修：演習林実習、生産マネジメント実習Ⅰ（林業）、生産マネジメント実習Ⅱ（林業）、林業機械実習</u></p> <p>◎<u>畜産コース必修：圃場実習（畜産）、生産マネジメント実習Ⅰ（畜産）、生産マネジメント実習Ⅱ（畜産）</u></p> <p>■<u>「加工・流通・販売」</u></p> <p><u>生産理論科目群と同じコースを選択し、栽培コースと畜産コースはコース必修を含む8単位以上、林業コースはコース必修を含む6単位以上</u></p> <p>◎<u>栽培コース必修：販売管理論、販売実習</u></p> <p>◎<u>林業コース必修：木材利用・流通論、木材加工学、木材加工実習</u></p> <p>◎<u>畜産コース必修：販売管理論、販売実習</u></p> <p>■<u>「経営管理」</u></p>	<p><u>を選択し、その分野からの選択必修を含む4単位以上</u></p> <p>・<u>「生産理論（栽培）」の選択必修：「肥料・植物栄養学」、「土壌学」</u></p> <p>・<u>「生産理論（林業）」の選択必修：「木質科学概論」、「木材生産システム論」</u></p> <p>・<u>「生産理論（畜産）」の選択必修：「人工授精論」、「家畜衛生学」</u></p> <p>○<u>農林業のための先端技術2単位</u></p> <p>○<u>「経営管理」から必修10単位を含む12単位以上</u></p> <p>○<u>「加工・流通・販売」から4単位以上</u></p> <p>○<u>「実習・演習」は総合実習と企業実習を含む30単位以上</u></p>

新	旧
<u>必修科目を含む 25 単位以上</u> (展開科目) <u>必修科目 20 単位</u> (総合科目) 必修科目 <u>4 単位</u> (履修科目の登録の上限：45 単位 (年間))	(展開科目) <u>必修 2 単位を含む 20 単位以上</u> (総合科目) 必修 <u>22 単位</u> (履修科目の登録の上限：45 単位 (年間))

(新旧対照表) 授業科目の概要

新	(14 ページ)	<table border="1"> <tr> <td>経営管理論</td> <td> <p>農業経営体では規模拡大が進み組織が複雑化している。その中で、<u>経営目的や経営戦略を確実に遂行し成果をあげるためには、経営の合理的な仕組みを構築し、堅実な経営計画を策定し、その進捗状況にあわせて是正措置をとる経営管理が必要である。本科目では、経営管理の基礎理論や法人組織等における必要性が高い、経営組織、経営戦略、技術経営など、経営組織の基礎理論を、ケーススタディに基づき理解 (ベンチ・マーキング的) する。</u></p> </td> <td></td> </tr> </table>	経営管理論	<p>農業経営体では規模拡大が進み組織が複雑化している。その中で、<u>経営目的や経営戦略を確実に遂行し成果をあげるためには、経営の合理的な仕組みを構築し、堅実な経営計画を策定し、その進捗状況にあわせて是正措置をとる経営管理が必要である。本科目では、経営管理の基礎理論や法人組織等における必要性が高い、経営組織、経営戦略、技術経営など、経営組織の基礎理論を、ケーススタディに基づき理解 (ベンチ・マーキング的) する。</u></p>	
経営管理論	<p>農業経営体では規模拡大が進み組織が複雑化している。その中で、<u>経営目的や経営戦略を確実に遂行し成果をあげるためには、経営の合理的な仕組みを構築し、堅実な経営計画を策定し、その進捗状況にあわせて是正措置をとる経営管理が必要である。本科目では、経営管理の基礎理論や法人組織等における必要性が高い、経営組織、経営戦略、技術経営など、経営組織の基礎理論を、ケーススタディに基づき理解 (ベンチ・マーキング的) する。</u></p>				
旧	(13 ページ)	<table border="1"> <tr> <td>経営管理論</td> <td> <p>(概要) 農業経営体では規模拡大が進み組織が複雑化している。その中で、<u>経営目的や経営戦略を確実に遂行し成果をあげるためには、経営管理の合理的な仕組みを構築し、堅実な経営計画を策定し、その進捗状況にあわせて是正措置をとる経営管理が必要である。本科目では、人間関係論、動機づけ理論、リーダーシップ論など経営組織の基礎理論を理解した上で、農林業経営体における事例をもとにケーススタディを行い、経営管理に必要な能力を身につける。</u></p> <p>(オムニバス方式/全15回) (5 天野哲郎/5回) 農林業経営体におけるケーススタディ (6 菊地宏之/10回) 経営管理の基礎理論</p> </td> <td>オムニバス方式</td> </tr> </table>	経営管理論	<p>(概要) 農業経営体では規模拡大が進み組織が複雑化している。その中で、<u>経営目的や経営戦略を確実に遂行し成果をあげるためには、経営管理の合理的な仕組みを構築し、堅実な経営計画を策定し、その進捗状況にあわせて是正措置をとる経営管理が必要である。本科目では、人間関係論、動機づけ理論、リーダーシップ論など経営組織の基礎理論を理解した上で、農林業経営体における事例をもとにケーススタディを行い、経営管理に必要な能力を身につける。</u></p> <p>(オムニバス方式/全15回) (5 天野哲郎/5回) 農林業経営体におけるケーススタディ (6 菊地宏之/10回) 経営管理の基礎理論</p>	オムニバス方式
経営管理論	<p>(概要) 農業経営体では規模拡大が進み組織が複雑化している。その中で、<u>経営目的や経営戦略を確実に遂行し成果をあげるためには、経営管理の合理的な仕組みを構築し、堅実な経営計画を策定し、その進捗状況にあわせて是正措置をとる経営管理が必要である。本科目では、人間関係論、動機づけ理論、リーダーシップ論など経営組織の基礎理論を理解した上で、農林業経営体における事例をもとにケーススタディを行い、経営管理に必要な能力を身につける。</u></p> <p>(オムニバス方式/全15回) (5 天野哲郎/5回) 農林業経営体におけるケーススタディ (6 菊地宏之/10回) 経営管理の基礎理論</p>	オムニバス方式			

<p>新</p>	<p>(14 ページ)</p> <table border="1" data-bbox="284 230 1361 680"> <tr> <td data-bbox="284 230 539 680"> <p>農林業経営学</p> </td> <td data-bbox="544 230 1182 680"> <p>(概要) 農林業の経営体では担い手の減少や市場の国際化が進む中で、複合化・多角化や規模拡大、新規市場開拓が進められてきた。また、地域農業の組織化・システム化も展開してきている。その中で、経営目的や経営戦略を確実に達成し生産や販売の成果をあげるためには、経営の合理的な仕組を構築し、<u>堅実な経営計画を策定するとともに、進捗状況にあわせてそれらを適正にコントロールする経営管理が必要である。</u>本科目では、農業経営学の基礎理論を習得するとともに、農林業経営をめぐる新たな課題解決に向け、経営学における意思決定論に基づく経営管理や、経営組織論における動機づけ理論、リーダーシップ論など経営管理の基礎理論を理解する。<u>また、農林業経営体における事例をもとにケーススタディを行う。</u></p> <p>(オムニバス方式/全15回) (5) 天野哲郎/12回) 農林業経営の基礎理論、経営管理の基礎理論、ケースメソッド (17) 大石竜/1回) ケース・メソッド 野菜経営 (26) 小林信一/1回) ケース・メソッド 畜産経営 (27) 近藤晃/1回) ケース・メソッド 林業経営と森林管理</p> </td> <td data-bbox="1187 230 1361 680"> <p>オムニバス方式</p> </td> </tr> </table>	<p>農林業経営学</p>	<p>(概要) 農林業の経営体では担い手の減少や市場の国際化が進む中で、複合化・多角化や規模拡大、新規市場開拓が進められてきた。また、地域農業の組織化・システム化も展開してきている。その中で、経営目的や経営戦略を確実に達成し生産や販売の成果をあげるためには、経営の合理的な仕組を構築し、<u>堅実な経営計画を策定するとともに、進捗状況にあわせてそれらを適正にコントロールする経営管理が必要である。</u>本科目では、農業経営学の基礎理論を習得するとともに、農林業経営をめぐる新たな課題解決に向け、経営学における意思決定論に基づく経営管理や、経営組織論における動機づけ理論、リーダーシップ論など経営管理の基礎理論を理解する。<u>また、農林業経営体における事例をもとにケーススタディを行う。</u></p> <p>(オムニバス方式/全15回) (5) 天野哲郎/12回) 農林業経営の基礎理論、経営管理の基礎理論、ケースメソッド (17) 大石竜/1回) ケース・メソッド 野菜経営 (26) 小林信一/1回) ケース・メソッド 畜産経営 (27) 近藤晃/1回) ケース・メソッド 林業経営と森林管理</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>農林業経営学</p>	<p>(概要) 農林業の経営体では担い手の減少や市場の国際化が進む中で、複合化・多角化や規模拡大、新規市場開拓が進められてきた。また、地域農業の組織化・システム化も展開してきている。その中で、経営目的や経営戦略を確実に達成し生産や販売の成果をあげるためには、経営の合理的な仕組を構築し、<u>堅実な経営計画を策定するとともに、進捗状況にあわせてそれらを適正にコントロールする経営管理が必要である。</u>本科目では、農業経営学の基礎理論を習得するとともに、農林業経営をめぐる新たな課題解決に向け、経営学における意思決定論に基づく経営管理や、経営組織論における動機づけ理論、リーダーシップ論など経営管理の基礎理論を理解する。<u>また、農林業経営体における事例をもとにケーススタディを行う。</u></p> <p>(オムニバス方式/全15回) (5) 天野哲郎/12回) 農林業経営の基礎理論、経営管理の基礎理論、ケースメソッド (17) 大石竜/1回) ケース・メソッド 野菜経営 (26) 小林信一/1回) ケース・メソッド 畜産経営 (27) 近藤晃/1回) ケース・メソッド 林業経営と森林管理</p>	<p>オムニバス方式</p>		
<p>旧</p>	<p>(13 ページ)</p> <table border="1" data-bbox="261 757 1383 1249"> <tr> <td data-bbox="261 757 533 1249"> <p>農林業経営学</p> </td> <td data-bbox="537 757 1198 1249"> <p>(概要) 農林業経営体では担い手の減少や市場の国際化が進む中で、複合化・多角化や規模拡大、新規市場開拓が進められてきた。また、地域農業の組織化・システム化も展開してきている。その中で、経営目的や経営戦略を確実に遂行し成果をあげるためには、経営や管理の合理的な仕組を構築し、<u>堅実な経営計画を策定し、その進捗状況にあわせて是正措置をとる経営管理が必要である。</u>本科目では、農業経営学の基礎理論を習得するとともに、農林業経営をめぐる新たな課題解決に向け、経営学における意思決定論に基づく経営管理や、経営組織論における動機づけ理論、リーダーシップ論など経営管理の基礎理論を理解する。<u>また、農林業経営体における事例をもとにケーススタディを行って、経営管理に必要な能力を身につける。</u></p> <p>(オムニバス方式/全15回) (5) 天野哲郎/7回) 農林業における経営管理と技術 (17) 大石竜/2回) ケーススタディ：農業経営体の現状と課題 (28) 小林信一/2回) ケーススタディ：畜産経営体の現状と課題 (30) 近藤晃/2回) ケーススタディ：林業経営体の現状と課題 (40) 青山東一/2回) ケーススタディ：畜産経営体の事業継承・独立</p> </td> <td data-bbox="1203 757 1383 1249"> <p>オムニバス方式</p> </td> </tr> </table>	<p>農林業経営学</p>	<p>(概要) 農林業経営体では担い手の減少や市場の国際化が進む中で、複合化・多角化や規模拡大、新規市場開拓が進められてきた。また、地域農業の組織化・システム化も展開してきている。その中で、経営目的や経営戦略を確実に遂行し成果をあげるためには、経営や管理の合理的な仕組を構築し、<u>堅実な経営計画を策定し、その進捗状況にあわせて是正措置をとる経営管理が必要である。</u>本科目では、農業経営学の基礎理論を習得するとともに、農林業経営をめぐる新たな課題解決に向け、経営学における意思決定論に基づく経営管理や、経営組織論における動機づけ理論、リーダーシップ論など経営管理の基礎理論を理解する。<u>また、農林業経営体における事例をもとにケーススタディを行って、経営管理に必要な能力を身につける。</u></p> <p>(オムニバス方式/全15回) (5) 天野哲郎/7回) 農林業における経営管理と技術 (17) 大石竜/2回) ケーススタディ：農業経営体の現状と課題 (28) 小林信一/2回) ケーススタディ：畜産経営体の現状と課題 (30) 近藤晃/2回) ケーススタディ：林業経営体の現状と課題 (40) 青山東一/2回) ケーススタディ：畜産経営体の事業継承・独立</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>農林業経営学</p>	<p>(概要) 農林業経営体では担い手の減少や市場の国際化が進む中で、複合化・多角化や規模拡大、新規市場開拓が進められてきた。また、地域農業の組織化・システム化も展開してきている。その中で、経営目的や経営戦略を確実に遂行し成果をあげるためには、経営や管理の合理的な仕組を構築し、<u>堅実な経営計画を策定し、その進捗状況にあわせて是正措置をとる経営管理が必要である。</u>本科目では、農業経営学の基礎理論を習得するとともに、農林業経営をめぐる新たな課題解決に向け、経営学における意思決定論に基づく経営管理や、経営組織論における動機づけ理論、リーダーシップ論など経営管理の基礎理論を理解する。<u>また、農林業経営体における事例をもとにケーススタディを行って、経営管理に必要な能力を身につける。</u></p> <p>(オムニバス方式/全15回) (5) 天野哲郎/7回) 農林業における経営管理と技術 (17) 大石竜/2回) ケーススタディ：農業経営体の現状と課題 (28) 小林信一/2回) ケーススタディ：畜産経営体の現状と課題 (30) 近藤晃/2回) ケーススタディ：林業経営体の現状と課題 (40) 青山東一/2回) ケーススタディ：畜産経営体の事業継承・独立</p>	<p>オムニバス方式</p>		

(新旧対象表) シラバス

(新) 48 ページ

授業名 経営管理論 Business Management		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	2年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	菊池宏之
授業時間	月曜日 4時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	農業経営体では規模拡大が進み組織が複雑化している。その中で、経営目的や経営戦略を確実に遂行し成果をあげるためには、経営の合理的な仕組を構築し、堅実な経営計画を策定し、その進捗状況にあわせて是正措置をとる経営管理が必要である。また、法人組織等における必要性が高い、経営組織、経営戦略、技術経営など、経営組織の基礎理論を、ケーススタディに基づき理解（ベンチ・マーキング的）にする。		
授業目的・目標	経営管理の基礎理論を理解し、ケーススタディを通じて経営管理に必要な能力を身につける。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	ガイダンス（産業社会の発展と企業の役割）	
	2	経済メカニズムと会社法	
	3	米国の経営管理論の変遷	
	4	経営組織論①（人間関係論と意思決定）	
	5	経営組織論②（リーダー）	
	6	経営戦略論①（経営戦略、競争戦略）	
	7	経営戦略論②（企業戦略、事業戦略）	
	8	経営戦略論①（アウトソーシング）	
	9	経営戦略論②（マーケティング）	
	10	技術経営論①（製品開発、品質経営）	
	11	技術経営論②（イノベーション、イノベーションの普及）	
	12	ケース・メソッドの特徴と方法及び、市場消滅からの経営革新の富士フィルム	
	13	市場縮小市場の復活の経営革新（ハウス食品）	
	14	消費者の構造変化に対応する経営革新（地域食品スーパー）	
15	新規市場開拓の経営革新（龍角散）		
キーワード	人間関係論、動機づけ理論、リーダーシップ論、古典派管理論		
教科書・参考書	『現代経営入門』（有斐閣ブックス）、野中郁次郎（1980）『経営管理』日経文庫		
評価方法・評価基準	試験（50%）、課題・レポート（40%）、履修態度（10%）		
関連科目	フードシステム論、マーケティング論、食品流通論		
履修要件	特になし		
備考	新聞・雑誌・ネットニュース等で、企業経営に関する情報を収集し、問題を整理しておくこと。各回、教科書主体で約90分の事前学習及び、講義ノートを見直しての約90分の事後学習を要します。		

授業名 経営管理論 (英名) Case Study of Farm Management Activities		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	1年 後期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	天野哲郎、菊池宏之
授業時間	月曜日 4時限	教室	講義室3
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	農業経営体では規模拡大が進み組織が複雑化している。その中で、経営目的や経営戦略を確実に遂行し成果をあげるためには、経営や管理の合理的な仕組みを構築し、堅実な経営計画を策定し、その進捗状況にあわせて是正措置をとる経営管理が必要である。また、法人組織等において求められる人間関係論、動機づけ理論、リーダーシップ論など経営組織の基礎理論を、ケーススタディに基づき理解する。		
授業目的・目標	経営管理の基礎理論を理解し、ケーススタディを通じて経営管理に必要な能力を身につける。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	ガイダンスー経営管理論を如何に学ぶかー	
	2	近代産業社会の発展	
	3	産業社会の中心をなす企業の役割	
	4	経済メカニズムと会社法	
	5	米国の経営管理論の変遷	
	6	古典派管理論	
	7	人間関係論	
	8	動機付け理論	
	9	現代経営組織論	
	10	リーダーシップ論	
	11	ケース・メソッドの特徴と方法	
	12	畑作経営における規模拡大戦略と多角化戦略展開のケース（北海道）	
	13	花き経営における高品質化による販売戦略の展開のケース（神奈川県）	
	14	低投入戦略典型によるマイペース型酪農のケース（北海道）	
15	大規模水田作経営の組織化戦略と地域農業展開のケース（静岡県）		
キーワード	ケース・メソッド、人間関係論、動機づけ理論、リーダーシップ論、古典派管理論		
教科書・参考書	家族農業経営の底力、2003年、金沢夏樹・松木洋一・木村伸男編、農林統計協会、高橋・丹沢・花枝・三浦著（2011）『現代経営入門』（有斐閣ブックス）、野中郁次郎（1980）『経営管理』日経文庫		
評価方法・評価基準	試験（50%）、課題・レポート（40%）、履修態度（10%）		
関連科目	農と食の経済学、マーケティング論、農林業経営学、食品流通論、アグリフードシステム論		
履修要件	特になし		
備考	新聞・雑誌・ネットニュース等で、企業経営に関する情報を収集し、問題を整理しておくこと。各回、教科書主体で約90分の事前学習及び、講義ノートを見直しての約90分の事後学習を要します。		

授業名 農林業経営学 Case Study of Farm Management Activities		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	1年 後期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	天野哲郎、大石竜、小林信一、近藤晃
授業時間	月曜日3時限	教室	講義室3
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	<p>農林業の経営体では担い手の減少や市場の国際化が進む中で、複合化・多角化や規模拡大、新規市場開拓が進められてきた。また、地域農業の組織化・システム化も展開してきている。その中で、経営目的や経営戦略を確実に達成し生産や販売の成果をあげるためには、経営の合理的な仕組みを構築し、堅実な経営計画を策定するとともに進捗状況にあわせてそれらを適正にコントロールする経営管理が必要である。本科目では、農業経営学の基礎理論を習得するとともに、農林業経営をめぐる新たな課題解決に向け、経営学における意思決定論に基づく経営管理や、経営組織論における動機づけ理論、リーダーシップ論など経営管理の基礎理論を理解する。また、農林業経営体における事例をもとにケーススタディを行う。</p>		
授業目的・目標	農業経営学の基礎理論、一般経営学における経営管理論や経営組織論などの理論を理解、経営管理に必要な能力を身につける。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	農林業経営学の概要と授業の進め方 (天野哲郎)	
	2	農業林業経営の動向 (天野哲郎)	
	3	農業経営の主体と組織 (農業組織論) (天野哲郎)	
	4	農業経営をめぐる情報とマーケティング (農業情報論、農産物市場論) (天野哲郎)	
	5	農業経営の管理運営と設計 (農業経営管理論、農業経営計画論) (天野哲郎)	
	6	意思決定論に基づく農業経営計画・経営管理 (天野哲郎)	
	7	経営組織論の農業への応用 (天野哲郎)	
	8	ケース・メソッドの特徴と方法 (天野哲郎)	
	9	畑作経営における規模拡大戦略と多角化戦略展開のケース (北海道) (天野哲郎)	
	10	花き経営における高品質化による販売戦略の展開のケース (神奈川県)	
	11	低投入戦略典型によるマイペース型酪農のケース (北海道) (天野哲郎)	
	12	大規模水田作経営の組織化戦略と地域農業展開のケース (静岡県) (天野哲郎)	
	13	ケース・メソッド 野菜経営 (大石竜)	
	14	ケース・メソッド 畜産経営 (小林信一)	
15	ケース・メソッド 林業経営と森林管理 (近藤晃)		
キーワード	ケース・メソッド、人間関係論、動機づけ理論、リーダーシップ論、古典派管理論		
教科書・参考書	<p>・資料を適宜配布する。 参考書：「農業経営概論」(2016)大泉一貫・津谷好人・木下幸雄ほか(実教出版)、「家族農業経営の底力」(2003)金沢夏樹・松木洋一・木村伸男編(農林統計協会)、「現代経営入門」(2011)高橋・丹沢・花枝・三浦著(有斐閣ブックス)、「経営管理」(1980)野中郁次郎(日経文庫)</p>		
評価方法・評価基準	試験(50%)、課題・レポート(40%)、履修態度(10%)		
関連科目	マーケティング論、食品流通論、フードシステム論		
履修要件	特になし		
備考			

授業名 農林業経営学 Theory of Farm and Forest Management		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	2年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	天野哲郎、大石竜、小林信一、青山東一、近藤晃
授業時間	月曜日 4時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	農林業経営体では担い手の減少や市場の国際化が進む中で、複合化・多角化や規模拡大、新規市場開拓が進められてきた。また、地域農業の組織化・システム化も展開してきている。その中で、経営目的や経営戦略を確実に遂行し成果をあげるためには、経営や管理の合理的な仕組みを構築し、堅実な経営計画を策定し、その進捗状況にあわせて是正措置をとる経営管理が必要である。本科目では、農業経営学の基礎理論を習得するとともに、農林業経営をめぐる新たな課題解決に向け、経営学における意思決定論に基づく経営管理や、経営組織論における動機づけ理論、リーダーシップ論など経営管理の基礎理論を理解する。また、農林業経営体における事例をもとにケーススタディを行う。		
授業目的・目標	農業経営学の基礎理論、一般経営学における経営管理論や経営組織論などの理論を理解、経営管理に必要な能力を身につける。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	農林業経営学の概要と授業の進め方。	
	2	農業林業経営の動向	
	3	農業経営の主体と組織（農業組織論）	
	4	農業経営をめぐる情報とマーケティング（農業情報論、農産物市場論）	
	5	農業経営の管理運営と設計（農業経営管理論、農業経営計画論）	
	6	意思決定論に基づく農業経営計画・経営管理	
	7	経営組織論の農業への応用	
	8	畜産経営体の事業継承	
	9	畜産経営体の独立	
	10	静岡県の農業経営体（野菜）の現状	
	11	農業経営体（野菜）の経営課題と解決に向けた取組事例	
	12	畜産経営体の現状と課題①	
	13	畜産経営体の現状と課題②	
	14	林業経営体の現状と課題①	
15	林業経営体の現状と課題②		
キーワード	農業経営管理論、農業経営計画論、意思決定論、経営組織論		
教科書・参考書	教科書：農業経営概論、2016年、大泉一貫・津谷好人・木下幸雄ほか、実教出版		
評価方法・評価基準	レポート（60％）、履修態度（40％）。		
関連科目	法と農林業経営、経営管理論、経営戦略Ⅰ、経営戦略Ⅱ		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

新	旧
<p>4 教育課程の編成の考え方及び特色 (略)</p> <p>(2) 基礎科目</p> <p>基礎科目は、<u>専門分野のみにとらわれない幅広い知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を育成するための科目を配置する。「一般教養」科目群と「コミュニケーション・スキル」科目群の2科目群から構成する。</u></p> <p>①一般教養の科目群</p> <p>一般教養の科目は <u>13 科目を配置する。</u>このうち、<u>各界のトップランナーの講話を基に静岡県農林業のあり方や発展に向けた解決策について考える「静岡学」、ミクロ経済学の基本概念やマクロ経済学の基礎を学ぶ「経済学概論」、現代において不可欠な情報処理能力を身につける「情報処理基礎」及び「情報処理応用」を必修科目として配置する。また、法の基本を理解し、法学の基本概念を習得する「法学概論」、現代の課題を歴史的な観点から考える「歴史学概論」、「文明論」、自然科学的な思考と文学的想像力との結びつきについて考察する「文学概論」、日本文化について学ぶ「茶道」、「華道」、コミュニティについて学ぶ「社会学概論」、政治的なものの見方や基礎的な概念を身につける「政治学概論」、統計学の基本的な知識やデータ解析手法を学ぶ「統計学」を選択科目として配置する。</u></p> <p>②コミュニケーション・スキルの科目群</p>	<p>4 教育課程の編成の考え方及び特色 (略)</p> <p>(2) 基礎科目</p> <p>基礎科目は、<u>豊かな人間性を育み生涯にわたり自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するための科目を配置する。「一般教養」科目群と「コミュニケーション・スキル」科目群の2科目群から構成し、4年間を通じて専門分野にとらわれない幅広い知識と価値観の違いや多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を育成することを目的とした科目を配置する。</u></p> <p>①一般教養の科目群</p> <p>一般教養の科目のうち、<u>静岡県の産業について学び今後の産業界全体について考える「静岡学」と、社会科学系の基礎知識として不可欠な「経済学概論」、「法学概論」を必修科目として配置する。また、現代の課題を歴史的な観点から考える「歴史学概論」、「文明論」、自然科学的な思考と文学的想像力との結びつきについて考察する「文学概論」、日本文化について学ぶ「茶道」、「華道」、コミュニティについて学ぶ「社会学概論」、政治的なものの見方や基礎的な概念を身につける「政治学概論」を選択科目として配置する。</u></p> <p>②コミュニケーション・スキルの科目群</p>

新	旧
<p>コミュニケーション・スキル科目群として、<u>7科目を配置する。</u>コミュニケーション能力や表現力の向上を目的とした「コミュニケーション論」を必修科目として配置する。また、英語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能を高める「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」技能に加えディスカッション能力を養う「英語Ⅲ」、プレゼンテーション能力を養う「英語Ⅳ」を選択科目として配置し、<u>学生が自分の能力に合わせて選択できるようにする。</u></p> <p>また、人体と健康について学び、生涯健康に生活することの基本を学ぶ、「保健体育Ⅰ」を必修科目として、また、団体競技を扱う「保健体育Ⅱ」を選択科目として配置する。</p> <p>(3) 職業専門科目</p> <p><u>農林業生産現場の状況を的確に把握するための農林業生産に関する基礎的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術に関する知識や、農林業経営体の大規模化や経営の多角化等に対応していくための経営管理能力、農林業経営に活用される先端技術や加工・流通・販売などに関する知識を習得するための授業科目を配置する。</u>農林業に関する<u>基礎的な知識を学ぶ科目を農林業基礎の科目群へ、</u>企業的な経営管理や経営戦略について学ぶ科目を経営管理の科目群に配置する。また、農林業生産に関する基礎的な理論や技術を学ぶ科目を生産理論及び生産技術の科目群へ、加工・販売の手法や流通の仕組みなどを学ぶ科目を加工・流通・販売の科目群に配置する。<u>職業専門科目では、農林業基礎及び経営管理の科目群は、全学生が共通で学ぶが、生産理論、生産技術、加工・流通・販売の科目群は、栽培コース、林業コース、畜産</u></p>	<p>コミュニケーション・スキル科目群として、コミュニケーション能力や表現力の向上を目的とした「コミュニケーション論」を必修科目として配置する。また、英語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能を高める「英語Ⅰ」<u>及び「英語Ⅱ」を必修科目として配置する。</u>この英語の4技能に加えディスカッション能力を養う「英語Ⅲ」、プレゼンテーション能力を養う「英語Ⅳ」を選択科目として配置する。</p> <p>また、人体と健康について学び、生涯健康に生活することの基本を学ぶ、「保健体育Ⅰ」を必修科目として、また、団体競技を扱う「保健体育Ⅱ」を選択科目として配置する。</p> <p>(3) 職業専門科目</p> <p>農林業において必要とされる理論的かつ実践的な能力及び農林業全般にわたり必要な能力を育成するための授業科目を配置する。<u>農林業生産を行うための基礎的な知識・技術を学ぶための能力、先端技術への対応力を学ぶ「農林業基礎」科目群及び「生産理論」科目群、農林業経営を行うための加工・流通・販売の知識や経営管理能力を学ぶ「経営管理」科目群及び「加工・流通・販売」科目群、農林業生産及び経営の実験・実習・演習を通じて身につく、自主的・継続的に学習を進める能力、他者と協調し事業を推進できる能力を養う「実習・演習」科目群の5つの科目群を配置する。</u></p>

新	旧
<p><u>コースの3コースに分かれて学ぶ。</u></p> <p>①農林業基礎の科目群</p> <p>農林業基礎の科目群は、<u>農林業に関する基礎的な知識、農山村の自然環境や景観の保全に配慮した農林業生産を学ぶ科目群</u>であり、<u>17科目を配置する。</u></p> <p>日本の農林業の現状を把握し持続的な社会を構築するために現代の農学は何ができるかを考える「<u>農学概論</u>」、<u>農林業が環境保全へ果たしてきた役割や森林のもつ景観形成の機能、農林業が引き起こす環境問題と対策、森林が持つ景観形成機能について学ぶ「環境と農林業」、農林業の発展や倫理的な課題について考える「技術者倫理」を必修科目として配置する。</u>これらの3科目では、<u>自然環境の保全について取り上げる。</u></p> <p>また、<u>農林業の歴史の変遷を学ぶ「農林業史」、農業・食料関連政策や森林・林業政策について学ぶ「農林業政策」、県内や県外、海外の農林業経営体等の現状を学ぶ「県内農林業事情」、「県外農林業事情」、「海外農林業事情」、生命現象を分子レベルで考察するために必要な知識を修得する「分子生物学」、農林業における気象災害とその対策について学ぶ「農業気象学」、生命科学の基本を学ぶ「生命科学」、野生鳥獣対策の現状と課題などについて学ぶ「野生鳥獣管理・利用論」を</u>選択科目として配置する。<u>さらに、農林業についての学びを深めるにあたっては理数科目の基礎知識が不可欠であるため、「農林業のための基礎数学」、「農林業のための生物学」、「農林業のための化学」、「農林業のための物理学」、「農林業のための地学」を自由科目として配置する。</u></p>	<p>①農林業基礎の科目群</p> <p>農林業基礎の科目群は、<u>農林業に関する基礎的な知識の修得を目的とする科目群</u>である。</p> <p>日本の農林業の現状を把握し持続的な社会を構築するために現代の農学は何ができるかを考える「<u>農学概論</u>」、<u>農業・食料関連政策や森林・林業政策について学ぶ「農林業政策」、農林業の発展や倫理的な課題について考える「技術者倫理」、生命現象を分子レベルで考察するために必要な知識を修得する「分子生物学」、現代における情報処理能力を身につける「情報処理基礎」及び「情報処理応用」を必修科目として配置する。</u>また、<u>農林業の歴史の変遷を学ぶ「農林業史」、県内や県外、海外の農林業経営体等の現状を学ぶ「県内農林業事情」、「県外農林業事情」、「海外農林業事情」、さらに、農林業についての学びを深めるにあたっては理数科目の基礎知識が不可欠であるため、「農林業のための基礎数学」、「農林業のための生物学」、「農林業のための化学」、「農林業のための物理学」、「農林業のための統計学」、「農林業のための地学」、「農業気象学」、「生命科学」を選択科目として配置する。</u></p>

新	旧
<p>②生産理論の科目群</p> <p>生産理論の科目群は、<u>農林業生産に関する基礎的な理論、農山村の自然環境や景観の保全に配慮した農林業生産、農林業生産に活用される先端技術を学ぶ科目群である。生産技術の裏づけとなる生産理論について、体系的に学ぶ科目配置とし、生産技術の科目群との関連を意識した構成とした。</u></p> <p>生産理論の科目群は、<u>共通科目とコース別の科目に分かれている。コースは、栽培コース、林業コース、畜産コースの3コースを設け、このうち1コースを選択し、各コースそれぞれの農林業分野での実践力を修得させるために深く関係する科目をコース必修とする。</u></p> <p>ア 共通</p> <p>コース選択の参考とする導入的な科目として、「<u>栽培学</u>」、「<u>植物生理生態学</u>」、「<u>樹木・組織学</u>」、「<u>畜産概論</u>」を選択科目として配置する。なお、「栽培学」、「樹木・組織学」、「畜産概論」の授業の中で、<u>自然環境の保全について取り上げる。また、農林業の生産や経営に関連する先端技術について学ぶ「農林業のための先端技術」を必修科目として配置する。</u></p> <p>イ 栽培コース</p> <p><u>栽培コースの生産理論科目群として、11科目を配置する。栽培技術を学ぶ上で、植物栄養や病虫害、栽培体系、環境保全型農業の知識は不可欠である。このため、植物の特性や植物生産の代謝、養分機能、栄養特性と肥料について学ぶ「肥料・植物栄養学」、病虫害の種類や特長について学ぶ「植物病理学」及び「応</u></p>	<p>②生産理論の科目群</p> <p>生産理論の科目群は <u>29科目を配置し、農林業の先端技術について学ぶ「農林業のための先端技術」を必修とし、その他の科目を選択科目とする。生産技術の裏づけとなる生産理論について、体系的に学ぶ科目配置とし、実習との関連を意識した構成とした。</u></p> <p>生産理論の科目群では、<u>それぞれの農林業分野での実践力を修得させるため、栽培分野、林業分野、畜産分野の3つの分野を設け、いずれかの分野を1つ選択し、各分野に深く関係する科目を選択必修とする。</u></p> <p><u>栽培分野は10科目を配置し、「肥料・植物栄養学」と「土壌学」を選択必修とする。</u></p> <p><u>林業分野は6科目配置し、「木質科学概論」、「木材生産システム論」を選択必修とする。</u></p> <p><u>また、栽培分野と林業分野の共通科目として、「植物遺伝育種学概論」及び「土壌学」の2科目を配置する。</u></p> <p><u>畜産分野は10科目を配置し、「人工授精論」、「家畜衛生学」を選択必修とする。</u></p> <p>(追加)</p>

新	旧
<p>用昆虫学」、環境に配慮した農業を学ぶ「環境保全型農業論」をコース必修として配置する。また、栽培体系及び先端技術を学ぶ科目として、水稻や茶の栽培体系や精密農業について学ぶ「作物学」、野菜や花き、果樹の栽培体系や栽培施設の環境制御について総合的に学ぶ「園芸学」を配置し、いずれかを選択する。これらの2科目は栽培に関する先端技術を学ぶ科目である。さらに知識を深める科目として、土壌診断や土づくりについて学ぶ「土壌学」、野菜栽培の基礎知識を学ぶ「野菜園芸学」、果樹栽培の基礎知識を学ぶ「果樹園芸学」、花き栽培の基礎知識を学ぶ「花き園芸学」を選択科目として配置する。なお、これらの10科目の授業の中で、自然環境の保全について取り上げる。</p> <p>また、植物の遺伝の仕組みや育種技術について学ぶ「植物遺伝育種学概論」を選択科目として配置する。</p> <p>ウ 林業コース</p> <p>林業コースの生産理論科目群として6科目を配置する。林業技術を学ぶ上で、森林調査や造林、治山、収穫技術の知識が不可欠である。このため、森林政策の歴史や関連法、森林調査の基礎、森林情報システムについて学ぶ「森林計画・政策論」、林業機械を用いた木材生産や作業システムについて学ぶ「木材生産システム」をコース必修として配置する。これら2科目は、林業における先端技術について学ぶ科目である。</p> <p>また、森林づくりの目的・方法、施工技術、森林景観について学ぶ「造林学」、治山・砂防や林業土木、森林・植生がもつ環境保全や景観形成の機能について学</p>	

新	旧
<p>ぶ「<u>森林土木学</u>」、<u>木質バイオマスについて学ぶ「木質科学概論</u>」<u>森林計画制度や森林保護の視点を備えた持続的林業経営や森林認証制度について学ぶ「森林マネジメント</u>」をコース必修として配置する。</p> <p>なお、「<u>森林計画・政策論</u>」、「<u>造林学</u>」、「<u>森林マネジメント</u>」では、<u>授業のなかで自然環境保全について取り上げる。さらに、「造林学」及び「森林土木学」では森林景観の保全について取り上げる。</u></p> <p>エ 畜産コース</p> <p><u>畜産コースの生産理論科目群として10科目を配置する。飼育技術を学ぶ上で、家畜の生理・生態、栄養と飼料、育種や繁殖の知識、また、家畜ふん尿と環境問題の知識は不可欠である。このため、家畜栄養と飼料、飼料配合設計の基礎理論を学ぶ「飼料総論」、飼料消化性の違いや環境要因による変化やその対策、ICTを利用した家畜の管理法について学ぶ「家畜飼養学」、家畜の体の仕組みや各臓器の生理機能を学ぶ「家畜生理解剖学」、育種の基礎知識や繁殖に関わる知識を学ぶ「家畜育種繁殖学」、家畜衛生の一連の知識を学ぶ「家畜衛生学」、環境に配慮した畜産について学ぶ「畜産環境学」をコース必修として配置する。なお、「家畜飼養学」の授業の中で畜産分野での先端技術を、「畜産環境学」の中で自然環境の保全について取り上げる。</u></p> <p>また、<u>畜産分野では家畜人工授精師が重要な資格となっているため、本資格を取得するために必要となる「畜産法規」や「人工授精論」を選択科目として配置する。更に、草地の特徴や管理方法について学ぶ「自給飼料」や、アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理が求められ</u></p>	

新	旧
<p>ようになってきているため、「<u>家畜福祉学</u>」を選択科目として配置する。</p> <p>③経営管理の科目群</p> <p>経営管理の科目群は、<u>企業的な経営管理や経営戦略について学ぶ科目群</u>である。17科目を配置し、<u>農林業経営を行うための経営管理能力を体系的に学ぶ科目構成</u>とする。</p> <p><u>農林業経営の基礎理論や経営管理の基礎理論について学ぶ「農林業経営学」、経営戦略に関する基礎理論や戦略策定に有効な分析手法について学ぶ「経営戦略」、マーケティングの基礎理論を学ぶ「マーケティング論」、企業の財務諸表の読み方や経営分析の手法について学ぶ「財務会計」、企業の利益管理や経営戦略と管理会計の関連について学ぶ「管理会計」、労働者の雇用の実務に必要な知識を学ぶ「労務管理」、農林業の経営について学ぶ臨地実務実習である「経営実習Ⅰ・Ⅱ」を必修科目として配置する。また、フードシステムの観点から現代の食料をめぐる実態と変動を理解する「フードシステム論」、<u>農林業経営を取り巻く法令について学ぶ「法と農業経営」、経営管理や経営組織の基礎理論について学ぶ「経営管理論」、経営組織の理論の基礎知識や農業協同組合の理念や組織、事業展開等について学ぶ「農林業の経営組織論」、人的資源管理について学ぶ「人材マネジメント」、知的財産に係る法律について学ぶ「知的財産権」、農業や食品関連分野での起業について学ぶ「農と食の起業論」</u>を選択科目として配置する。さらに、<u>経営管理の科目群に関する学びを深めるにあたっては簿記の知識が不可欠であるため、「簿記基礎」、「簿記応用」を自由科目として配置する。</u></u></p>	<p>③経営管理の科目群</p> <p>経営管理の科目群は 17 科目を配置し、<u>農林業経営を行うための経営管理能力を体系的に学ぶ科目構成</u>とする。</p> <p><u>農林業経営において特に重要である、農林業経営を取り巻く法令について学ぶ「法と農業経営」、経営管理の知識について学ぶ「経営管理論」、経営戦略の知識について学ぶ「経営戦略Ⅰ」、「マーケティング論」、「財務会計」、起業について学ぶ「農と食の起業論」</u>を必修科目として配置する。また、<u>農や食を取り巻く課題について学ぶ「農と食の経済学」や、企業会計について学ぶ「簿記基礎」、「簿記応用」、「管理会計」、人材や組織について学ぶ「経営組織論」、「労務管理」、「人材マネジメント」、「協同組合論」、農林業経営の現状と課題について学ぶ「農林業経営学」、知的財産に係る法律について学ぶ「知的財産権」</u>を選択科目として配置する。</p>

新	旧
<p>④加工・流通・販売の科目群</p> <p><u>加工・流通・販売の科目群は、加工販売の手法や流通の仕組み、農林業経営に活用される先端技術を学ぶ科目群であり、12科目を配置し、生産理論と同様に、3コースに分かれて学ぶ。</u></p> <p><u>ア 栽培コース</u></p> <p><u>販売管理の基礎理論やPOSシステムといった経営に活用される先端技術の知識を学ぶ「販売管理論」と、販売技術やPOSシステムの活用法について学ぶ「販売実習」をコース必修として配置する。また、食品成分や化学変化・貯蔵・衛生管理について学ぶ「食品科学」、農畜産物の栄養特性や嗜好性、保存性を向上させる加工技術を学ぶ「食品加工学」、豆類や野菜、果樹、乳製品、畜肉類などの加工を学ぶ「食品加工実習」、消費者に安全・安心な食品を安定的に届けるための流通システムについて学ぶ「食品流通論」、食品の機能性や健康について学ぶ「農と食の健康論」、園芸作物の品質保持技術・貯蔵方法・加工に関わる知識を学ぶ「収穫後生理学」、6次産業化の方向性や可能性について学ぶ「6次産業化実践論」を選択科目として配置する。</u></p> <p><u>イ 林業コース</u></p> <p><u>木材の様々な利用方法や流通・原木市場、IoTやICTを活用した木材流通について学ぶ「木材利用・流通論」、木材加工の基礎理論を学ぶ「木材加工学」、木工作品の製作を行う「木材加工実習」をコース必修として配置する。</u></p> <p><u>ウ 畜産コース</u></p>	<p>④加工・流通・販売の科目群</p> <p><u>加工・流通・販売の科目群は11科目を配置し、いずれも選択科目とする。実習・演習科目群と対応する科目構成とする。</u></p> <p>(追加)</p>

新	旧
<p>販売管理の基礎理論やPOSシステムといった経営に活用される先端技術の知識を学ぶ「販売管理論」と、販売技術やPOSシステムの活用法について学ぶ「販売実習」をコース必修として配置する。また、食品成分や化学変化・貯蔵・衛生管理について学ぶ「食品科学」、農畜産物の栄養特性や嗜好性、保存性を向上させる加工技術を学ぶ「食品加工学」、豆類や野菜、果樹、乳製品、畜肉類などの加工を学ぶ「食品加工実習」、消費者に安全・安心な食品を安定的に届けるための流通システムについて学ぶ「食品流通論」、食品の機能性や健康について学ぶ「農と食の健康論」、6次産業化の方向性や可能性について学ぶ「6次産業化実践論」を選択科目として配置する。</p> <p>⑤生産技術の科目群</p> <p>生産技術の科目群は、農林業生産に関する基礎的な技術や先端技術、農山村の自然環境の保全に配慮した生産を学ぶ科目群であり、15科目を配置し、共通科目と生産理論と同様の3コースに分かれて学ぶ科目からなる。</p> <p>ア 共通</p> <p>共通科目として4科目を配置する。農林業生産の全般的な技術や先端技術を広く学ぶ「総合実習」、食品安全や環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理など農業の生産工程管理について学ぶ「GAP演習」、トラクター等の大型機械の操作方法や安全使用について学ぶ「大型機械実習Ⅰ」、農林業経営体で生産技術を学修する「企業実習」を必修科目として配置</p>	<p>⑤実習・演習の科目群</p> <p>実習・演習の科目群では、20科目を配置し、生産理論科目群と関連した栽培分野、林業分野、畜産分野、及び加工・販売分野の4つの分野を設定する。</p> <p>「総合実習」は、本科目群の導入科目とし、水稻や野菜、花き、茶、果樹の栽培や畜産、林業について総合的に学ぶ実習とし、必修科目とする。</p> <p>栽培分野に対応する実習科目として、「圃場実習（栽培）」、「生産マネジメント実習Ⅰ（栽培）」、「生産マネジメント実習Ⅱ（栽培）」とする。林業分野に対応する実習科目として、「演習林実習」、「生産マネジメント実習Ⅰ（林業）」、「生産マネジメント実習Ⅱ（林業）」、「森林施業プラン演習」、「森林認証演習」、「林業機械実習」とした。畜産分野に対応する実習科目とし</p>

新	旧
<p>する。</p> <p>イ 栽培コース</p> <p>基礎的な栽培技術を学ぶ「圃場実習(栽培)」、生産現場のマネジメントの基礎を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)」、応用を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)」をコース必修として配置する。なお、「生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ(栽培)」では、先端技術の導入について学ぶ。また、大型機械の知識や技能を学修する「大型機械実習Ⅱ」を選択科目として配置する。</p> <p>ウ 林業コース</p> <p>基礎的な栽培技術を学ぶ「演習林実習」、生産現場のマネジメントの基礎を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅰ(林業)」、応用を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅱ(林業)」をコース必修として配置する。なお、「生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ(林業)」では、先端技術の導入について学ぶ。また、林業機械の操作法や高性能林業機械について学ぶ「林業機械実習」をコース必修として配置する。</p> <p>エ 畜産コース</p> <p>基礎的な飼養管理技術を学ぶ「圃場実習(畜産)」、生産現場のマネジメントの基礎を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)」、応用を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)」をコース必修として配置する。なお、「生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ(畜産)」では、先端技術の導入について学ぶ。また、大型機械の知識や技能を学修する「大型機械実習Ⅱ」を選択科目として配置する。</p>	<p>て「圃場実習(畜産)」、「生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)」、「生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)」とする。いずれの分野も生産技術と、生産現場のマネジメントについて学べる構成とする。</p> <p>共通として、農林業で扱う大型機械について学ぶ「大型機械実習Ⅰ」及び「大型機械実習Ⅱ」、GAPの理論や実践について学ぶ「GAP演習」、実際の農林業経営体でインターンシップを行う臨地実務実習である「企業実習」を配置し、より実践的な技術を学べる構成とする。</p> <p>加工・販売分野では、食品や木材の加工について学ぶ「食品加工実習」及び「木材加工実習」、実践的な販売方法について学ぶ「販売実習」を配置する。</p> <p>(追加)</p>

新	旧
<p>(4) 展開科目</p> <p><u>農山村の地域社会における将来のリーダーに求められる農山村の伝統・文化の継承や、伝統・文化を育む農山村の地域社会に関する知識を身に付けるとともに、農山村の伝統・文化などの地域資源を活用することにより、農林業経営に新たな事業展開を生み出すための創造力を備えた農林業経営者を養成するための科目を配置する。</u></p> <p>①<u>農山村の伝統・文化の継承の科目群</u></p> <p><u>農山村の歴史や文化、多面的機能などについて学ぶ「農山村田園地域公共学」、日本や世界の食文化について学ぶ「食文化論」、農と食の営みの本質について考える「農と食の哲学」、農村に暮らす人々の生業と歴史文化との関係から農村景域について学ぶ「農村景域論」、生きた文化財とも呼ばれる在来作物の過去・現在・未来について考える「在来作物学」を必修科目として配置する。</u></p> <p>②<u>農山村の地域社会の科目群</u></p> <p><u>農山村の生活や地域社会の特徴について学ぶ「農村社会論」、農山村において地域住民と交流し、地域や地域住民が抱える課題を発見し、その解決策を考える「農山村デザイン演習」、グリーン・ツーリズムの現状・課題・展開について考える「グリーン・ツーリズム論」、農と医、農と福の連携について学ぶ「医福食農連携論」、地域が抱える課題を地域資源を活かしながらビジネス的な手法により解決する手法などについて学ぶ「コミュニティビジ</u></p>	<p>(4) 展開科目</p> <p><u>農林業の新たな展開につながる応用的能力や、創造的役割を果たすために必要な能力を育成するため、農林業や農山村が持つ多面的機能を学ぶ科目を配置する。</u></p> <p><u>多面的機能の総論について学ぶ「農山村田園地域公共学」を必修科目として配置し、選択科目については環境保全科目群と農山村振興科目群の2つの科目群を配置する。</u></p> <p>①<u>環境保全の科目群</u></p> <p><u>環境保全科目群は5科目を配置する。農林業と環境の総論を学ぶ「環境と農林業」、農村の景観について学ぶ「農村景域論」、環境に配慮した農林業について学ぶ「環境保全型農業論」、森林マネジメント論、「畜産環境学」を配置する。</u></p> <p>②<u>農山村振興の科目群</u></p> <p><u>農村と健康・福祉について学ぶ「農村社会論」、「農山村デザイン演習」、「農と食の哲学」、「農と食の健康論」、「医福食農連携論」、農山村地域の資源とビジネスについて学ぶ「グリーン・ツーリズム論」、「食文化論」、「野生鳥獣管理・利用論」、「在来作物学」、「コミュニティビジネス論」、「在来作物学」、「野生鳥獣管理・利用論」を配置する。</u></p>

新	旧
<p><u>ネス論」を必修科目として配置する。</u></p> <p>(5) 総合科目</p> <p><u>修得した専門知識と技術を駆使して農 林業経営における課題を探求し、解決に 必要な情報を収集・分析・整理すると もに、分析・整理した結果を表現できる 能力を習得するため、農林業経営におけ る課題の解決に向けた研究の手法などを 学ぶ科目を配置する。</u></p> <p><u>農林業経営体の生産部門の分析を行 う「経営分析演習Ⅰ」、農林業経営体の経 営全般について分析する「経営分析演習 Ⅱ」、農林業経営体を分析し、課題と解決 策を考える「プロジェクト研究」を必修 科目として配置する。</u></p>	<p>(5) 総合科目</p> <p><u>修得した知識及び技能を総合し、農林業者 としての実践的かつ応用的な能力を総合的 に向上させるための科目を6科目配置する。</u></p> <p><u>農林業法人での生産現場のオペレーショ ンについて学ぶ「経営実習Ⅰ」、農林業経営 体の経営戦略とその戦略に基づいた経営に ついて学ぶ「経営実習Ⅱ」、これらの実習を もとに行う演習科目である「経営分析演習 Ⅰ」、「経営分析演習Ⅱ」を配置する。</u></p> <p><u>本学での学修の集大成として「プロジェクト研 究Ⅰ」「プロジェクト研究Ⅱ」を配置し、学生 が農林業経営体の分析を行い、経営における課 題へのアプローチ手法について研究する。</u></p>

(新旧対象表) 設置の趣旨を記載した書類 (28 ページ)

新				旧					
<p>④卒業要件</p> <p>本学科で卒業に必要な卒業要件単位数は、次のとおりとする。なお、実験・実習・実技による授業科目にかかる 40 単位以上（うち臨地実務実習 20 単位以上）を修得しなければならないものとする。</p>				<p>④卒業要件</p> <p>本学科で卒業に必要な卒業要件単位数は、次のとおりとする。なお、実験・実習・実技による授業科目にかかる 40 単位以上（うち臨地実務実習 20 単位以上）を修得しなければならないものとする。</p>					
		卒業要件単位数					卒業要件単位数		
科目群		必修科目	選択科目	合計	区分		必修科目	選択科目	合計
基礎科目		10 単位	10 単位以上	20 単位以上	基礎科目		14 単位	6 単位以上	20 単位以上
職業専門科目	農林業基礎	6 単位	4 単位以上	85 単位以上	職業専門科目	農林業基礎	10 単位	二	62 単位以上
	生産理論	2 単位	14 単位以上			生産理論	6 単位	二	
	経営管理	21 単位	4 単位以上			経営管理	10 単位	2 単位以上	
	加工・流通・販売	—	栽培・畜産コース：8 単位以上 林業コース：6 単位以上			加工・流通・販売	—	4 単位以上	
	生産技術	16 単位	栽培・畜産コース：10 単位以上 林業コース：12 単位以上		実習・演習	12 単位	18 単位以上		
展開科目		20 単位	二	20 単位	展開科目		2 単位	18 単位以上	20 単位以上
総合科目		4 単位	二	4 単位	総合科目		22 単位		22 単位以上
卒業要件単位数		129 単位以上			卒業要件単位数		124 単位以上		

8. <教育課程の編成方針が不明確>

213 単位の選択科目を配置する計画であるが、卒業要件を踏まえると、多くの科目が未開講となる懸念や、少数の学生で開講された際に教育効果が低減する恐れがある。人材養成像に照らしてどのような考え方で選択科目を配置し、どのように履修させる計画であるのか具体的に説明し、必要に応じて配置科目を見直すこと。

(対応)

本学では、生産理論や生産技術、加工・流通・販売は、栽培、林業、畜産の分野に分かれて学ぶ計画である。申請時は、「分野」や「領域」などの言葉を用いて説明していたが、説明が不十分で明確でなかったため、コース制を設置することを明確に説明する。その上で、未開講となる科目が多く発生することがないように科目の整理・統合、単位数の見直し、履修要件の見直しを行う。なお、見直しにあたっては、体系的な学びになるような科目配置を行う。また、少人数で開講しても、教育効果が低減することがない教育内容となるよう配慮する。

(詳細説明)

本学では、生産理論、生産技術、加工・流通・販売は、栽培、林業、畜産の分野に分かれて学ぶ計画である。申請時は、基本計画書や設置の趣旨等を記載した書類のなかで、「分野」や「領域」を用いて説明していたが、説明が不十分で不明確であった。このため、生産理論と生産技術、加工・流通・販売は分かれて学ぶことを明確にするため、コース制とし、「栽培コース」、「林業コース」、「畜産コース」の3コースを置き、それぞれのコースで体系的な学びとなるように科目配置を行う。

また、御指摘を踏まえ、多くの科目が未開講となることがないように、科目の整理・統合、単位数の見直し、履修要件の見直しを行う(別添資料8 単位数・科目数の見直し状況)。科目の変更では、基礎と中級科目を統合したり、教育効果を狙って講義科目と演習科目を統合することで、16科目を8科目へ整理・統合した。また、科目の内容から必要な内容への見直しを行い、3科目において単位数を減じた。さらに、履修要件の見直しにより、基礎的な知識を学ぶための科目の自由科目化、体系的な学びになるように、生産理論や生産技術、加工・流通・販売の科目群については、各コースでコアとなる科目のコース必修化を行った。その結果、全体の単位数は287単位から267単位、また、選択科目は213単位から176単位となった。この見直しにより、生産理論や生産技術、加工・流通・販売の科目群の選択科目のうち、40科目をコース必修とした。

<単位数・科目数の見直し状況>

項目	基礎科目		職業専門科目		展開科目		総合科目		合計	
	変更前	変更後	変更前	変更後	変更前	変更後	変更前	変更後	変更前	変更後
科目数	17科目	20科目	95科目	93科目	16科目	10科目	6科目	3科目	134科目	126科目
合計単位数	32単位	36単位	201単位	207単位	32単位	20単位	22単位	4単位	287単位	267単位
必修単位数	14単位	10単位	36単位	45単位	2単位	20単位	22単位	4単位	74単位	79単位
選択単位数	18単位	26単位	165単位	150単位	30単位	0単位	0単位	0単位	213単位	176単位
(うち選択必修)	0単位	4単位	12単位	8単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	12単位
(うちコース必修)	-	0単位	-	40単位	-	0単位	-	0単位	-	40単位
自由科目単位数	-	-	-	12単位	-	-	-	-	-	12単位

選択科目の考え方であるが、基礎科目は、「専門分野のみにとらわれない幅広い知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養」をディプロマポリシーとして掲げている。このため、教養を学ぶ選択の幅を広げるために、一般教養科目群の「法学概論」、「社会学概論」、「政治学概論」、「歴史学概論」、「文学概論」、「文明論」、「茶道」、「華道」、「統計学」を選択科目として配置する。また、コミュニケーション・スキルの科目群のうち、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「英語Ⅲ」、「英語Ⅳ」については、学生の英語レベルや将来の目的に合わせて科目が履修できるように、選択科目として、2科目4単位を選択必修とすることとする。基礎科目からは、6単位以上を選択することができる。

職業専門科目のうち、農林業基礎の科目群は、学生の興味のある分野や将来の目的に合わせて農林業の基礎を学べるよう選択の幅を設けた。県内や県外、海外の農林業をとりまく現状を学ぶ、「県内農林業事情」、「県外農林業事情」、「海外農林業事情」、農林業の歴史や政策について学ぶ「農林業史」や「農林業政策」、生命現象を分子レベルで学ぶための「分子生物学」や「生命科学」、微気象や気象災害、災害対策について学ぶ「農業気象学」、鳥獣被害や対策、利用について学ぶ「野生鳥獣管理・利用論」など、農林業に係る幅広い分野の科目を選択科目とした。また、農林業の専門知識を学ぶための基礎的素養を身につけるために配置していた「農林業のための生物学」、「農林業のための基礎数学」、「農林業のための化学」、「農林業のための物理学」、「農林業のための地学」については、配置の目的に照らすと自由科目とすることが適当であると思われるため、自由科目に配置を見直した。

生産理論科目群では、学生のコース選択の指標となる導入的な科目として、「栽培学」、「植物生理生態学」、「樹木・組織学」、「畜産概論」を配置し、このうち1科目以上を選択必修とし、コースごとの特色と進路等を説明した上で、履修誘導を行う。2年次からはコースに分かれて学ぶが、栽培コースでは栽培技術を学ぶために不可欠である「肥料・植物栄養学」、「植物病理学」、「応用昆虫学」、「環境保全型農業論」をコース必修として配置した。栽培コースでは、水稲や茶、野菜、果樹、花きなど学生が将来取り組みたいと考えている栽培品目について知識を得られるよう、「作物学」もしくは「園芸学」のいずれか、また、「植物遺伝育種学概論」、「土壌学」、「野菜園芸学」、「果樹園芸学」、「花き園芸学」のいずれかを学べるように科目を配置した。林業コースでは、学生数が3名程度であることを想定し、体系的な学びとなるよう、「森林計画・政策論」、「造林学」、「森林土木学」、「木質科学概論」、「木材生産システム」、「森林マネジメント」をコース必修とした。なお、演習科目である「木材生産システム」及び「森林マネジメント」は、教員から指導を受けながら模擬的な書類作成を行う授業であるため、少人数であっても教育効果が低減する懸念はないと考える。指導を受けながら畜産コースも同様に、学生数が3名程度であることを想定し、体系的な学びになるよう、「飼料総論」、「家畜飼養学」、「家畜生理解剖学」、「家畜育種繁殖」、「家畜衛生学」、「畜産環境学」をコース必修とする。さらに、知識を深めるため、家畜人工授精師の取得に必要となる「畜産法規」及び「人工授精論」、酪農で必要となる「自給飼料」や、アニマルウェルフェアについて学ぶことの出来る「家畜福祉学」を選択科目として配置する。

栽培技術科目群では、「圃場実習（栽培）」、「演習林実習」、「圃場実習（畜産）」、「生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ（栽培）」、「生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ（林業）」、「生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ（畜産）」、「林業機械実習」をコース必修とした。また、機械化が進む農業において、大型機

械の技能を深める「大型機械実習Ⅱ」を選択科目とした。

加工・流通・販売科目群では、コース毎に科目を配置した。栽培コース及び畜産コースでは、新たな経営展開につながる「販売管理論」、「販売実習」はコース必修とした。また、学生が将来の方向性などに合わせて科目を選択できるよう、栽培コースでは、「食品科学」、「収穫後生理学」、「食品加工学」、「食品流通論」、「6次産業化実践論」、「食品加工実習」、「農と食の健康論」、畜産コースでは、「食品科学」、「食品加工学」、「食品流通論」、「6次産業化実践論」、「食品加工実習」、「農と食の健康論」を選択科目として配置した。林業コースでは、「木材利用・流通論」、「木材加工学」、「木材加工実習」をコース必修とする。

経営管理科目群は、全コースが共通で学ぶ科目であるが、経営管理に必須となる知識・技能を学ぶ科目を必修とした上で、学生の将来志向にあわせて経営の知識をさらに広げるため、「フードシステム論」、「法と農業経営」、「農林業の経営組織論」、「人材マネジメント」、「農と食の起業論」、「知的財産権」、「経営管理論」を選択科目として配置した。

展開科目及び総合科目に配置した科目は全て必修とした。

以上を踏まえ、教育課程等の概要及び授業科目の概要を修正した（別添資料6 教育課程等の概要）。

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新					旧							
(1 ページ)					(1 ページ)							
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			
			必修	選択	自由				必修	選択	自由	
①基礎科目	静岡学	1通	2			①基礎科目	静岡学	1通	2			
	歴史学概論	2前		2			歴史学概論	2前		2		
	文明論	2後		2			文明論	2後		2		
	文学概論	2後		2			文学概論	2後		2		
	茶道	3前		1			茶道	3前		1		
	華道	3前		1			華道	3前		1		
	経済学概論	1前	2				経済学概論	1前	2			
	法学概論	1前		2			法学概論	1前		2		
	社会学概論	1後		2			社会学概論	1後		2		
	政治学概論	1後		2			政治学概論	1後		2		
	統計学	1後		2			政治学概論	1後		2		
	情報処理基礎	1前	1				コミュニケーション・スキル	コミュニケーション論	1前	2		
	情報処理応用	2後	1					英語 I	1通	2		
	コミュニケーション論	1前	2			英語 II		2通	2			
	英語 I	1前		2		英語 III		3通		2		
	英語 II	1後		2		英語 IV		4通		2		
	英語 III	2前		2		保健体育 I	1通	2				
	英語 IV	2後		2		保健体育 II	2通		2			
	保健体育 I	1通	2			小計(17科目)	-	14	18	0		
	保健体育 II	2通		2								
小計(20科目)	-	10	26	0								
②職業専門科目	農学概論	1前	2			②職業専門科目	農学概論	1前	2			
	環境と農林業	1後	2				農林業史	1前		2		
	農林業史	1後		2			農林業政策	2前	2			
	農林業政策	2前		2			技術者倫理	3前	2			
	技術者倫理	3前	2				県内農林業事情	1後		2		
	県内農林業事情	1前		2			県外農林業事情	2前		1		
	県外農林業事情	2前	1				海外農林業事情	3前		1		
	海外農林業事情	3前	1				農林業のための基礎数学	1前		2		
	農林業のための基礎数学	1前			2		農林業のための生物学	1前		2		
	農林業のための生物学	1前			2		農林業のための化学	1前		2		
	農林業のための化学	1前			2		農林業のための物理学	1後		2		
	農林業のための物理学	1後			2		農林業のための統計学	1後		2		
	農林業のための地学	1後			2		農林業のための地学	2前		2		
	分子生物学	1後		2			分子生物学	1後	2			
	農業気象学	2後		2			農業気象学	2前		2		
	生命科学	2後		2			生命科学	3前		2		
	野生鳥獣管理・利用論	3前		2			情報処理基礎	1前	1			
	栽培学	1後		2		情報処理応用	2後	1				
	植物生理生態学	1後		2		生産理論(栽培)	栽培学	1前		2		
	作物学	2前		2			植物生理生態学	1前		2		
	園芸学	2前		2			作物学	1後		2		
	植物病理学	2前		2			園芸学	1後		2		
	応用昆虫学	2後		2			植物病理学	2前		2		
	肥料・植物栄養学	2前		2			応用昆虫学	2前		2		
	野菜園芸学	2後		2			肥料・植物栄養学	2後		2		
	果樹園芸学	2後		2			野菜園芸学	3前		2		
	花き園芸学	2後		2			果樹園芸学	3前		2		
	植物遺伝伝種学概論	2後		2			花き園芸学	3前		2		
	土壌学	2後		2								
	環境保全型農業論	3前		2								

新					旧						
(2 ページ)					(2 ページ)						
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		
			必修	選択	自由				必修	選択	自由
② 職業専門科目	生産理論 (林業)	森林計画・政策論	2前	2		生産理論 (林業)	森林計画・政策論	1前	2		
		造林学	2前	2			造林学	1前	2		
		樹木・組織学	1後	2			樹木・組織学	1後	2		
		森林土木学	2前	2			森林土木学	2前	2		
		木質科学概論	2後	2			木質科学概論	2前	2		
		木材生産システム	2後	2			木材生産システム論	2後	2		
		森林マネジメント	3前	2			植物遺伝育種学概論	1後	2		
	生産理論 (畜産)	畜産概論	1後	2		生産理論 (畜産)	畜産概論	1前	2		
		飼料総論	2前	2			飼料総論	1前	2		
		家畜生理解剖学	2前	2			家畜生理解剖学	1後	2		
		家畜育種繁殖学	2後	2			家畜育種繁殖学	1後	2		
		家畜飼養学	2前	2			家畜飼養学	1後	2		
		畜産法規	2前	2			畜産法規	2前	2		
		人工授精論	2前	2			人工授精論	2前	2		
	生産理論 (共通)	自給飼料	2後	2		自給飼料	2後	2			
		家畜衛生学	2後	2		家畜衛生学	2後	2			
	畜産福祉学	2後	2		畜産福祉学	2後	2				
	畜産環境学	3前	2		畜産福祉学	2後	2				
	生産理論 (共通)	農林業のための先端技術	3前	2		共通	農林業のための先端技術	3前	2		
	経営管理	簿記基礎	1前		1	経営管理	簿記基礎	1前		1	
簿記応用		1後		1	簿記応用		1後		1		
フードシステム論		1後	2		農と食の経済学		1前	2			
法と農業経営		2前	2		法と農業経営		1後	2			
経営管理論		2前	2		経営管理論		1後	2			
農業経営学		1後	2		農業経営学		2前	2			
経営戦略		2前	2		経営戦略Ⅰ		2後	2			
マーケティング論		2後	2		経営戦略Ⅱ		3前	2			
財務会計		2前	2		マーケティング論		2後	2			
管理会計		3前	1		財務会計		2前	2			
農林業の経営組織論		3前	2		管理会計		3前	2			
労務管理		2後	2		経営組織論		2前	2			
人材マネジメント		3前	2		労務管理		2後	2			
知的財産権	3後	2		人材マネジメント	3前	2					
農と食の起業論	3後	2		協同組合論	3前	1					
経営実習Ⅰ	4前	5		知的財産権	3後	2					
経営実習Ⅱ	4後	5		農と食の起業論	3後	2					
加工・流通・販売	食品科学	2前	2		加工・流通・販売	食品化学	2前	2			
	食品加工学	2後	2			食品衛生学	2前	2			
	収穫後生理学	3前	2			食品加工学	2後	2			
	木材利用・流通論	2前	2			収穫後生理学	3後	2			
	木材加工学	2後	2			アグリフードシステム論	2後	2			
	食品流通論	3前	2			木材利用論	2前	2			
	販売管理論	3前	2			木材加工学	2後	2			
	農と食の健康論	2後	2			食品流通論	3前	2			
	6次産業化実践論	3後	2			木材流通論	3前	2			
	食品加工実習	3前	2			販売管理論	3前	2			
木材加工実習	3前	2		6次産業化実践論	3後	2					
生産技術	販売実習	3後	2		実習・演習	総合実習	1前	2			
	総合実習	1通	2			圃場実習(栽培)	1後	2			
	圃場実習(栽培)	2前	2			圃場実習(畜産)	1後	2			
	圃場実習(畜産)	2前	2			演習林実習	1後	2			
	演習林実習	2前	2			生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)	2通	4			
	生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)	2後	4			生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)	2通	4			
	生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)	2後	4			生産マネジメント実習Ⅰ(林業)	2通	4			
	生産マネジメント実習Ⅰ(林業)	2後	4			生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)	3通	4			
	生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)	3通	4			生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)	3通	4			
	生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)	3通	4			生産マネジメント実習Ⅱ(林業)	3通	4			
生産マネジメント実習Ⅱ(林業)	3通	4									

新						旧										
(3 ページ)						(3 ページ)										
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数							
			必修	選択	自由				必修	選択	自由					
② 職業専門科目	生産技術	大型機械実習Ⅰ	2前	2		② 職業専門科目	実習・演習	大型機械実習Ⅰ	2前	2						
		大型機械実習Ⅱ	3前		2			3前	2							
		林業機械実習	3前		2			3前	2							
		GAP演習	2前	2				2後	2							
		企業実習	3後	10				3後	10							
	小計(93科目)	-	45	150	12											
③ 展開科目	農山村の伝統・文化の継承	農山村田園地域公共学	1後	2		③ 展開科目	共通	農山村田園地域公共学	1後	2						
		農村景域論	3前	2				環境保全	環境と農林業	2前		2				
		農と食の哲学	2前	2					環境保全型農業論	4前		2				
		食文化論	2後	2					森林マネジメント論	4前		2				
		在来作物学	3前	2					畜産環境学	4前		2				
					農村景域論		3前			2						
	農山村の地域社会	農村社会論	2前	2			農山村振興	農村社会論	2前		2					
		農山村デザイン演習	3前	2				農山村デザイン演習	2前		2					
		医福食農連携論	2後	2				農と食の哲学	2前		2					
		グリーン・ツーリズム論	3前	2				農と食の健康論	2後		2					
コミュニティビジネス論		3後	2		医福食農連携論	2後			2							
	小計(10科目)	-	20	0	0											
④ 総合科目		経営分析演習Ⅰ	4前	1		④ 総合科目		経営実習Ⅰ	4前	5						
		経営分析演習Ⅱ	4後	1				経営実習Ⅱ	4後	5						
		プロジェクト研究	4通	2				経営分析演習Ⅰ	4前	3						
								経営分析演習Ⅱ	4後	3						
	小計(3科目)	-	4	0	0											
	合計(126科目)	-	79	176	12											
③ 展開科目																
												小計(16科目)	-	2	30	0
												経営実習Ⅰ	4前	5		
												経営実習Ⅱ	4後	5		
												経営分析演習Ⅰ	4前	3		
												経営分析演習Ⅱ	4後	3		
												プロジェクト研究Ⅰ	3後	2		
												プロジェクト研究Ⅱ	4通	4		
												小計(6科目)	-	22	0	0
												合計(134科目)	-	74	213	0

(新旧対照表) 授業科目の概要

<p>新</p>	<p>(11 ページ)</p> <table border="1" data-bbox="256 280 1276 728"> <tr> <td data-bbox="256 280 568 728"> <p>木材生産システム</p> </td> <td data-bbox="568 280 1276 728"> <p>(概要) 森林・林業の重要な担い手である森林総合監理士（フォレストラー）や森林施業プランナーは、林業活性化構想等の策定や森林経営計画の樹立支援等の役割を担っている。本科目では、木材生産（伐採・搬出）に関する理論、丸太の造材や材積計測、価格形成の背景・要因、木材生産活動における自然環境に配慮した作業システム構築（車両系、架線系）、林業機械の構造・性能・整備・取扱方法、原価計算などの知識を学ぶ。さらに、森林経営計画の作成に必要な関連法、政策、森林の現況把握、森林管理の様々な施業法の理論と技術等を学ぶとともに同計画作成を演習する。なお、林業は労働災害の発生率が高産業と比較して高いことを踏まえ、林業・林産業の労働災害の現状やその対策を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回) (124 池田潔彦/ 5回) 木材加工システム (127 近藤晃/20回) 森林経営と森林管理、森林経営計画 (130 鶴飼一博/ 5回) 森林における作業システム</p> </td> </tr> </table>	<p>木材生産システム</p>	<p>(概要) 森林・林業の重要な担い手である森林総合監理士（フォレストラー）や森林施業プランナーは、林業活性化構想等の策定や森林経営計画の樹立支援等の役割を担っている。本科目では、木材生産（伐採・搬出）に関する理論、丸太の造材や材積計測、価格形成の背景・要因、木材生産活動における自然環境に配慮した作業システム構築（車両系、架線系）、林業機械の構造・性能・整備・取扱方法、原価計算などの知識を学ぶ。さらに、森林経営計画の作成に必要な関連法、政策、森林の現況把握、森林管理の様々な施業法の理論と技術等を学ぶとともに同計画作成を演習する。なお、林業は労働災害の発生率が高産業と比較して高いことを踏まえ、林業・林産業の労働災害の現状やその対策を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回) (124 池田潔彦/ 5回) 木材加工システム (127 近藤晃/20回) 森林経営と森林管理、森林経営計画 (130 鶴飼一博/ 5回) 森林における作業システム</p>
<p>木材生産システム</p>	<p>(概要) 森林・林業の重要な担い手である森林総合監理士（フォレストラー）や森林施業プランナーは、林業活性化構想等の策定や森林経営計画の樹立支援等の役割を担っている。本科目では、木材生産（伐採・搬出）に関する理論、丸太の造材や材積計測、価格形成の背景・要因、木材生産活動における自然環境に配慮した作業システム構築（車両系、架線系）、林業機械の構造・性能・整備・取扱方法、原価計算などの知識を学ぶ。さらに、森林経営計画の作成に必要な関連法、政策、森林の現況把握、森林管理の様々な施業法の理論と技術等を学ぶとともに同計画作成を演習する。なお、林業は労働災害の発生率が高産業と比較して高いことを踏まえ、林業・林産業の労働災害の現状やその対策を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回) (124 池田潔彦/ 5回) 木材加工システム (127 近藤晃/20回) 森林経営と森林管理、森林経営計画 (130 鶴飼一博/ 5回) 森林における作業システム</p>		
<p>旧</p>	<p>(追加)</p>		

<p>新</p>	<table border="1" data-bbox="256 875 1332 1216"> <tr> <td data-bbox="256 875 568 1216"> <p>森林マネジメント</p> </td> <td data-bbox="568 875 1332 1216"> <p>森林は、国土の保全、水源の涵養、生物多様性の保全、地球温暖化防止等の多面的機能の発揮を通じて、国民が安全で安心して暮らせる社会の実現や、木材等の林産物の供給源として地域の経済活動と深く結びつくなど、さまざまな働きを通じて生活を支えている。このため、長期的な視点に立った計画的かつ適切な森林の取扱いを推進することが必要である。また、森林認証制度は、公共建築や商業施設での認証材の活用が推進されているため、森林認証の取得はビジネス・チャンスにつながる可能性がある。長期的な視点に立って作成される森林計画制度や森林保護の視点を備えた持続的林业経営を考える。森林認証の制度や取得方法について学び、森林認証を使用したビジネス展開について考える。</p> </td> </tr> </table>	<p>森林マネジメント</p>	<p>森林は、国土の保全、水源の涵養、生物多様性の保全、地球温暖化防止等の多面的機能の発揮を通じて、国民が安全で安心して暮らせる社会の実現や、木材等の林産物の供給源として地域の経済活動と深く結びつくなど、さまざまな働きを通じて生活を支えている。このため、長期的な視点に立った計画的かつ適切な森林の取扱いを推進することが必要である。また、森林認証制度は、公共建築や商業施設での認証材の活用が推進されているため、森林認証の取得はビジネス・チャンスにつながる可能性がある。長期的な視点に立って作成される森林計画制度や森林保護の視点を備えた持続的林业経営を考える。森林認証の制度や取得方法について学び、森林認証を使用したビジネス展開について考える。</p>
<p>森林マネジメント</p>	<p>森林は、国土の保全、水源の涵養、生物多様性の保全、地球温暖化防止等の多面的機能の発揮を通じて、国民が安全で安心して暮らせる社会の実現や、木材等の林産物の供給源として地域の経済活動と深く結びつくなど、さまざまな働きを通じて生活を支えている。このため、長期的な視点に立った計画的かつ適切な森林の取扱いを推進することが必要である。また、森林認証制度は、公共建築や商業施設での認証材の活用が推進されているため、森林認証の取得はビジネス・チャンスにつながる可能性がある。長期的な視点に立って作成される森林計画制度や森林保護の視点を備えた持続的林业経営を考える。森林認証の制度や取得方法について学び、森林認証を使用したビジネス展開について考える。</p>		
<p>旧</p>	<p>(追加)</p>		

<p>新</p>	<p>(13 ページ)</p> <table border="1" data-bbox="256 1404 1332 1771"> <tr> <td data-bbox="256 1404 568 1771"> <p>フードシステム論</p> </td> <td data-bbox="568 1404 1332 1771"> <p>農業・農村の持つ多面的な役割・機能を担う日本農業に対する期待は、近年において一層の高まりが確認できる。それは、食料自給率の向上や食料の安全・安心への高い期待の高まり、地産地消・ローフード運動の広がり、持続可能な循環型社会の形成の必要性に対する認識の高まり等である。その一方で、食料生産を担う農業や食料生産の場としての農村は、過疎化や高齢化等により、持続可能性の面からみると危機的状況におかれている。また、生活様式の変化に伴い、外食や中食に代表される食の「外部化」が進み、「食」と「農」の乖離が進展している。本講義では、農産物を主体とした食料生産、食料流通、食料消費までをも含めた食料供給連鎖に関して、フードシステムの観点から現代の食料をめぐる実態と変動を理解することを、主たるねらいとする。</p> </td> </tr> </table>	<p>フードシステム論</p>	<p>農業・農村の持つ多面的な役割・機能を担う日本農業に対する期待は、近年において一層の高まりが確認できる。それは、食料自給率の向上や食料の安全・安心への高い期待の高まり、地産地消・ローフード運動の広がり、持続可能な循環型社会の形成の必要性に対する認識の高まり等である。その一方で、食料生産を担う農業や食料生産の場としての農村は、過疎化や高齢化等により、持続可能性の面からみると危機的状況におかれている。また、生活様式の変化に伴い、外食や中食に代表される食の「外部化」が進み、「食」と「農」の乖離が進展している。本講義では、農産物を主体とした食料生産、食料流通、食料消費までをも含めた食料供給連鎖に関して、フードシステムの観点から現代の食料をめぐる実態と変動を理解することを、主たるねらいとする。</p>
<p>フードシステム論</p>	<p>農業・農村の持つ多面的な役割・機能を担う日本農業に対する期待は、近年において一層の高まりが確認できる。それは、食料自給率の向上や食料の安全・安心への高い期待の高まり、地産地消・ローフード運動の広がり、持続可能な循環型社会の形成の必要性に対する認識の高まり等である。その一方で、食料生産を担う農業や食料生産の場としての農村は、過疎化や高齢化等により、持続可能性の面からみると危機的状況におかれている。また、生活様式の変化に伴い、外食や中食に代表される食の「外部化」が進み、「食」と「農」の乖離が進展している。本講義では、農産物を主体とした食料生産、食料流通、食料消費までをも含めた食料供給連鎖に関して、フードシステムの観点から現代の食料をめぐる実態と変動を理解することを、主たるねらいとする。</p>		
<p>旧</p>	<p>(追加)</p>		

新	(15 ページ)	
	経営戦略	<p>変動し続ける環境に適応しながら、企業が長期的に存続していくためには、長期的視点に立った経営戦略の理論を持つことが必要である。本科目では、経営戦略に関する知識を習得することを目標として、経営理念・経営目標、環境分析、ドメイン・成長ベクトル・多角化戦略など経営戦略に関する基礎知識や、5つの競争要因と3つの基本戦略・価値連鎖・産業クラスター・競争対抗戦略など成長戦略に関する基礎知識、コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任、技術経営（MOT）などについて学ぶ。その際、経営戦略の基礎理論を学ぶとともに、戦略策定に有効な分析手法について習得するとともに、グループワークにおけるディスカッションにより、具体的な戦略の策定の仕方を学ぶ。</p>
旧	(追加)	

新	(15 ページ)	
	農林業の経営組織論	<p>(概要) 農業においては家族経営を主体として展開してきたが、近年、法人化や集落営農などの経営主体が展開してきた。これらの経営体では、様々な構成員の活動によって成り立っており、チームや職場という組織をいかにうまく活用して、経営成長を成し遂げるかを目的としている。また、家族経営においても個々の経営体だけで企業活動を継続できるものではなく、各種の組織に支援されていることから、経営組織論は農林業経営にとって必要な知識となっている。そこで、一般企業を対象にして展開してきた経営組織論の論理に関する基礎知識を習得するとともに、農業経営の経営形態別に組織論上の課題を具体的に考察する。</p> <p>また、近年は株式会社等が過度に効率性・合理性を追求することで、世界経済に混乱をもたらし、貧富の格差拡大や自然環境への過大な負荷などの問題も顕在化してきている。こうしたなかで、協同組合が、その掲げる理念とともに世界的に再評価されている。そこで、株式会社等と対比しながら、協同組合の基本特性、意義や役割、それを担保する協同組合原則について学ぶとともに、協同組合運動と事業の展開について学ぶ。さらに、農業分野で関連の深い農業協同組合の理念や組織、事業展開と今日的課題について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (L5) 天野哲郎/9回) 経営組織論の理論と課題 (L36) 柴垣裕司/6回) 協同組合の基本特性、意義や役割、協同組合原則</p>
旧	(追加)	

新	(16 ページ)	
	食品科学	<p>近年、食の安全性など食にまつわる様々な課題、問題が噴出しており、消費者の関心が高くなっている。農林業経営では食品に対する幅広い正確な知識、食品安全、健康に生活していくための栄養バランスのとれた食品の摂取に関する知識が不可欠である。本科目では、食品と健康とのかかわりや機能、食品の主要成分や特殊成分、食品成分の酸化や成分間反応、食品の貯蔵、食品安全をリスク学の視点から考えるための基礎知識や、化学物質および微生物からの食品汚染、最近注目が高い特定保健用食品や機能性食品、HACCPについての最新情報など、食品化学や食品衛生の基礎知識や先端的内容について学ぶ。</p>
旧	(追加)	

新	(17 ページ)	木材利用・流通論	林業の主要な生産物である木材は、建築材料や家具など様々な用途に、その特性を生かして加工・利用されている。本科目では、木材の特性と加工・利用の関係を理解することを目的とする。まず、木材の物理的性質や木材の保存、木質材料の製造と2次加工など木材に関する基礎知識を学ぶ。次に、世界の木材需給と流通、日本の木造住宅における在来工法、枠組壁工法等の特徴について学ぶ。最後に、林業にとって市場に出す最初の製品である丸太の商品力を高め、採算性を高めるための工夫や、木材の種類・生産工程・用途等の違いによる流通の形態や変遷、木材市場の役割・動向、IoT、ICTを利用した木材流通について学ぶ。
旧	(追加)		

新	(23 ページ)	経営分析演習 I	経営実習 I での結果をもとに、実習を行った農林業経営体の生産部門の現状について分析を行う。分析を行う際は、生産物の生産計画と実際の状況、人員配置の状況、生産資材の調達や使用の状況、生産に必要な情報収集と利用の状況などについて調査し、最終的には生産部門での計画した利益と実際の利益を比較分析する。分析後は、その結果をもとに、学生及び教員で、グループ・ワークを行った後に、課題と解決策についてとりまとめを行い、生産現場について考察する。
旧	(24 ページ)	経営分析演習 I	経営実習 I での結果をもとに、学生ごとに実習を行った農林業経営体の生産現場について、適切な計画か、人員の配置は適切だったか、生産資材は効率的に使用されていたか、生産情報の収集と利用法は適切であったか、生産部門は計画した利益を生み出しているかという視点で分析する。分析後は、その結果をもとに、学生及び教員のグループで、グループ・ワークを行った後に、課題と解決策についてとりまとめを行い、生産現場について考察する。

新	(23 ページ)	経営分析演習 II	経営実習 II での結果をもとに、実習を行った農林業経営体の経営について分析を行う。分析を行う際は、農林業経営体の沿革や経営理念、経営戦略、マーケティング、財務状況、リスクマネジメントなどについて調査を行う。また、実習を通じて発見した、農林業経営体の新たな価値や可能性、財務状況、経営上の課題について分析を行う。分析後は、その結果をもとに、学生及び教員のグループで、グループ・ワークを行った後に、課題と解決策についてとりまとめを行う。
旧	(24 ページ)	経営分析演習 II	企業実習 II での結果をもとに、学生ごとに実習を行った農林業経営体の沿革や経営理念、経営戦略、マーケティング、財務状況、リスクマネジメントについて分析を行う。また、実習を通じて発見した、農林業経営体の新たな価値や可能性、財務状況、経営上の課題について分析を行う。分析後は、その結果をもとに、学生及び教員のグループで、グループ・ワークを行った後に、課題と解決策についてとりまとめを行い、農林業経営を行う際の経営理念と経営戦略について考える。

新	<p data-bbox="268 226 416 257">(23 ページ)</p> <table border="1" data-bbox="252 286 1331 577"> <tr> <td data-bbox="252 286 564 577">プロジェクト研究</td> <td data-bbox="569 286 1331 577"> <p data-bbox="569 286 1331 506"> <u>実習や演習などを通じて農林業経営体の分析を進め、分析を通じて発見した課題とその解決策について農林業経営体への提案書をまとめ、これらを通じて、研究手法や課題解決のための能力を習得することを本科目の目的とする。農林業経営体の事前調査、研究の進め方、調査方法について教員から指導を受けながら調査計画を作成し、計画発表会を開催する。また、調査結果や調査手法について指導教員と議論し、的確に結果を解釈し、教員から指導を受けながら提案書を作成し、発表会を開催する。</u> </p> </td> </tr> </table>	プロジェクト研究	<p data-bbox="569 286 1331 506"> <u>実習や演習などを通じて農林業経営体の分析を進め、分析を通じて発見した課題とその解決策について農林業経営体への提案書をまとめ、これらを通じて、研究手法や課題解決のための能力を習得することを本科目の目的とする。農林業経営体の事前調査、研究の進め方、調査方法について教員から指導を受けながら調査計画を作成し、計画発表会を開催する。また、調査結果や調査手法について指導教員と議論し、的確に結果を解釈し、教員から指導を受けながら提案書を作成し、発表会を開催する。</u> </p>
プロジェクト研究	<p data-bbox="569 286 1331 506"> <u>実習や演習などを通じて農林業経営体の分析を進め、分析を通じて発見した課題とその解決策について農林業経営体への提案書をまとめ、これらを通じて、研究手法や課題解決のための能力を習得することを本科目の目的とする。農林業経営体の事前調査、研究の進め方、調査方法について教員から指導を受けながら調査計画を作成し、計画発表会を開催する。また、調査結果や調査手法について指導教員と議論し、的確に結果を解釈し、教員から指導を受けながら提案書を作成し、発表会を開催する。</u> </p>		
旧	(追加)		

(新旧対照表) シラバス

(新) 37 ページ

授業名 木材生産システム Forestry Harvesting System and Engineering		単位数 2単位	授業の方法 講義・演習
		履修年次	2年 後期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	池田潔彦、近藤晃、鶴飼一博
授業時間	月曜日 3・4時限	教室	講義室14
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	<p>森林・林業の重要な担い手である森林総合監理士（フォレスター）や森林施業プランナーは、林業活性化構想等の策定や森林経営計画の樹立支援等の役割を担っている。本科目では、木材生産（伐採・搬出）に関する理論、丸太の造材や材積計測、価格形成の背景・要因、木材生産活動における自然環境に配慮した作業システム構築（車両系、架線系）、林業機械の構造・性能・整備・取扱方法、原価計算などの知識を学ぶ。さらに、森林経営計画の作成に必要な関連法、政策、森林の現況把握、森林管理の様々な施業法の理論と技術等を学ぶとともに同計画作成を演習する。なお、林業は労働災害の発生率が高いため他産業と比較して高いことを踏まえ、林業・林産業の労働災害の現状やその対策を学ぶ。</p>		
授業目的・目標	森林経営で重要である木材生産（伐採・搬出）に関する理論、木材生産活動における自然環境に配慮した作業システム構築（車両系、架線系）の技術を理解する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	森林の生産力（近藤晃）	
	2	森林作業法1 主伐（近藤晃）	
	3	森林作業法2 間伐（近藤晃）	
	4	森林作業法3 更新（近藤晃）	
	5	林業労働災害の現状（近藤晃）	
	6	林業労働災害の対策（近藤晃）	
	7	木材（立木）生長形質と採材（造材）（池田潔彦）	
	8	立木、丸太の材積・材質計測手法（池田潔彦）	
	9	木材の木取り及び製材規格（池田潔彦）	
	10	木材価格① 木材価格形成のメカニズム、伐出費用との関連（池田潔彦）	
	11	木材価格② 丸太及び製材品の価格とその変遷（池田潔彦）	
	12	作業システムと生産性（鶴飼一博）	
	13	林業機械の特徴（鶴飼一博）	
	14	車両系作業システム（鶴飼一博）	
	15	架線系作業システム（鶴飼一博）	
	16	工程管理と原価計算（鶴飼一博）	
	17	森林関連法と森林政策（近藤晃）	
	18	森林計画制度（近藤晃）	
	19	森林総合監理士、森林施業プランナー等の役割（近藤晃）	
	20	森林情報（森林簿、森林計画図等）（近藤晃）	
	21	森林の現況把握（近藤晃）	
	22	森林経営計画（1）概要（近藤晃）	
	23	森林経営計画（2）森林経営の方針（近藤晃）	
	24	森林経営計画（3）作成要件（近藤晃）	
	25	森林経営計画（4）作成要件（近藤晃）	
	26	森林経営計画（5）認定要件（近藤晃）	
	27	森林経営計画（6）変更と遵守（近藤晃）	
	28	森林経営計画（7）変更と遵守（近藤晃）	
	29	森林経営計画（8）実行支援（近藤晃）	
30	森林経営計画（9）計画発表（近藤晃）		
キーワード	主伐、林業労働災害、作業システム、林業機械、採材、成長形質、木材材質、価格形成、木取り、製材規格		
教科書・参考書	配付資料、全国森林組合連合会（2016）「森林施業プランナーテキスト改訂版」		
評価方法・評価基準	試験（60%）、レポート評点（20%）、受講態度（20%）		
関連科目	造林学、木材利用・流通論、木材加工学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

(旧) 追加

授業名 フードシステム論 Economics of Agricultural Food System		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	1年 後期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	菊池宏之
授業時間	木曜日1時限	教室	講義室3
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	農業・農村の持つ多面的な役割・機能を担う日本農業に対する期待は、近年において一層の高まりが確認できる。それは、食料自給率の向上や食料の安全・安心への高い期待の高まり、地産地消・スローフード運動の広がり、持続可能な循環型社会の形成の必要性に対する認識の高まり等である。その一方で、食料生産を担う農業や食料生産の場としての農村は、過疎化や高齢化等により、持続可能性の面からみると危機的状況におかれている。また、生活様式の変化に伴い、外食や中食に代表される食の「外部化」が進み、「食」と「農」の乖離が進展している。本講義では、農産物を主体とした食料生産、食料流通、食料消費までもを含めた食料供給連鎖に関して、フードシステムの観点から現代の食料をめぐる実態と変動を理解することを、主たるねらいとする。		
授業目的・目標	①フードシステムの観点から現代の食料をめぐる現状を理解することで、食料供給、食料流通、消費者の食品購買行動の各段階ごとの取組課題を理解する。 ②農産物の生産、流通と食品安全・付加価値情報、表示・認証、マーケティングに関して理解する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	ガイダンス (フードシステムの変化)	
	2	食料経済の理論 (経済発展と農業・食料の需要・供給)	
	3	日本における食料消費の成熟 農産物の貿易と農業保護政策	
	4	家族の変化と食生活・食糧消費パターンの変化	
	5	食の安全と安心 (食品の安全確保と政府の役割、食品情報と表示)	
	6	農産物の市場組織と価格政策	
	7	アグリビジネスの特性と産業構造 (農業生産と土地、規模の経済性、収穫通減の法則)	
	8	食料の安全保障と自給率	
	9	食品工業の構造と変化 (食品産業・農水産物の生産と農業の連携)	
	10	食品流通業の現状と革新	
	11	食品産業とインテグレーションとサプライチェーン	
	12	外食・中食の成長と革新	
	13	食品製造業の役割と食品流通業の変化	
	14	食料問題、資源・環境問題と農業	
15	食生活と政府の役割 (農業基本法と日本の農業・食料)		
キーワード	日本農業の特性、フードシステム、食生活の変化、消費者の食品購買行動の外部化、食生活の成熟化、食糧問題、環境問題		
教科書・参考書	教科書：時子山ひろみ・荻開津典生 (2008) 『フードシステムの経済学 第5版』医歯薬出版 参考書：荻開津典生 (2008) 『農業経済学 第3版』 (岩波書店)		
評価方法・評価基準	試験 (50%)、課題レポート (30%)、コメントシート (20%)		
関連科目	経営管理論、農業経営、農林業経営学、食品流通論		
履修要件	特になし		
備考	新聞・雑誌・ネットニュース等で、農と食に関する情報を収集し、問題を整理しておくこと。各回、教科書主体で約90分の事前学習及び、講義ノートを見直しての約90分の事後学習を要します。		

授業名 経営戦略 Strategic Management		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	2年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	天野哲郎
授業時間	木曜日 2時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	<p>変動し続ける環境に適応しながら、企業が長期的に存続していくためには、長期的視点に立った経営戦略の理論を持つことが必要である。本科目では、経営戦略に関する知識を習得することを目標として、経営理念・経営目標、環境分析、ドメイン・成長ベクトル・多角化戦略など経営戦略に関する基礎知識や、5つの競争要因と3つの基本戦略・価値連鎖・産業クラスター・競争対抗戦略など成長戦略に関する基礎知識、コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任、技術経営(MOT)などについて学ぶ。その際、経営戦略の基礎理論を学ぶとともに、戦略策定に有効な分析手法について習得するとともに、グループワークにおけるディスカッションにより、具体的な戦略の策定の仕方を学ぶ。</p>		
授業目的・目標	<p>①経営戦略に関する知識を習得する。 ②経営環境の変化に応じた戦略を策定するための具体的な分析手法を学ぶ。</p>		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	経営戦略論の概要と授業の進め方	
	2	チャンドラーとアンソフ、ポーターの経営戦略論、企業戦略と事業戦略	
	3	環境のマネジメントとは	
	4	多角化戦略	
	5	競争戦略（ポーターの5つの力と3つの競争戦略、バリューチェーン、差別化戦略とその限界）	
	6	マーケティングにおける4Pとマーケティングミクス、価格戦略、流通戦略	
	7	組織のマネジメント（組織の構造とインセンティブ・システム、経営理念と組織文化、企業倫理）	
	8	技術のマネジメント	
	9	農林業の経営環境の分析に活用できる解析手法（統計書と計量経済学的手法、調査データと多変量解析）	
	10	PPM分析、SWOT分析の具体的な提示法	
	11	OR手法の活用：事業部門の多角化、複合化戦略策定、規模拡大戦略の策定、新技術導入戦略	
	12	マーケティングにおけるSTP戦略の策定にかかる調査解析手法	
	13	経営戦略におけるシミュレーションと意思決定	
	14	ケーススタディ①：多角化戦略、規模拡大戦略	
15	ケーススタディ②：施設投資戦略、マーケティング戦略		
キーワード	ドメイン、企業戦略、事業戦略、多角化戦略、競争戦略、戦略策定手法、オペレーションズリサーチ（OR）、多変量解析		
教科書・参考書	ゼミナール経営学入門（第3版）2003年、伊丹孝之、加護野忠男著、日本経済新聞社 グロービスMBAマネジメント・ブック、2008年、グロービス経営大学院、ダイヤモンド社		
評価方法・評価基準	試験(40%)、レポート(40%)、履修態度(20%)		
関連科目	法と農業経営、経営管理論、マーケティング論		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 農林業の経営組織論 Theory of Farm Management Organization		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	3年 前期 (集中)
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	天野哲郎、柴垣裕司
授業時間	月～金曜日 1～3時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	<p>農業においては家族経営を主体として展開してきたが、近年、法人化や集落営農などの経営主体が展開してきた。これらの経営体では、様々な構成員の活動によって成り立っており、チームや職場という組織をいかにうまく活用して、経営成長を成し遂げるかを目的としている。また、家族経営においても個々の経営体だけで企業活動を継続できるものではなく、各種の組織に支援されていることから、経営組織論は農林業経営にとって必要な知識となっている。そこで、一般企業を対象にして展開してきた経営組織論の論理に関する基礎知識を習得するとともに、農業経営の経営形態別に組織論上の課題を具体的に考察する。</p> <p>また、近年は株式会社等が過度に効率性・合理性を追求することで、世界経済に混乱をもたらし、貧富の格差拡大や自然環境への過大な負荷などの問題も顕在化してきている。こうしたなかで、協同組合が、その掲げる理念とともに世界的に再評価されている。そこで、株式会社等と対比しながら、協同組合の基本特性、意義や役割、それを担保する協同組合原則について学ぶとともに、協同組合運動と事業の展開について学ぶ。さらに、農業分野で関連の深い農業協同組合の理念や組織、事業展開と今日的課題について学ぶ。</p>		
授業目的・目標	<p>①農業経営をめぐる経営組織を俯瞰的に眺め、経営組織をうまく使えるようになるための経営組織論の基礎知識の習得を本科目の目的とする。</p> <p>②株式会社とは異なる経営形態である協同組合の特性や役割について理解できるとともに、農業者として実際に利用する可能性のある農業協同組合の実態や課題について理解できるようになる。</p>		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	経営組織論の進め方 (天野哲郎)	
	2	バーナードとサイモンの経営組織論 (天野哲郎)	
	3	経営組織の構造、インセンティブシステム (天野哲郎)	
	4	経営理念と組織文化 (天野哲郎)	
	5	農業経営における組織論、農業をめぐる諸組織 (天野哲郎)	
	6	農業の企業形態 (家族経営、法人経営、集落営農) (天野哲郎)	
	7	耕種農業における支援組織の課題 (天野哲郎)	
	8	畜産経営における支援組織の課題 (天野哲郎)	
	9	トピックス (ネットワーク形成とフランチャイズ型農業経営、機械利用組合とマシーネンリンク) (天野哲郎)	
	10	協同組合の特性と意義、役割 (柴垣裕司)	
	11	協同組合運動と事業展開 (柴垣裕司)	
	12	協同組合原則 (柴垣裕司)	
	13	農業協同組合の理念と組織 (柴垣裕司)	
	14	農業協同組合の事業展開 (柴垣裕司)	
	15	農業協同組合の動向と今日的課題 (柴垣裕司)	
キーワード	事業部制、マトリックス組織、組織文化、協同組合、農業協同組合		
教科書・参考書	<p>「ゼミナール経営学入門 (第3版)」 (2003) 伊丹孝之・加護野忠男著 (日本経済新聞社)、「MBA組織と人材マネジメント」 (2007) 佐藤剛 (ダイヤモンド社)、「最新・戦略経営」 (1996) H・Iアンゾフ (産能大学出版部)、「協同組合入門ーその仕組み・取り組みー」 (2006) 河野直哉 (創森社)</p>		
評価方法・評価基準	試験 (60%)、レポート (40%)		
関連科目	フードシステム論、マーケティング論、食品流通論		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 食品科学 Food Chemistry & Food hygiene		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	2年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	内藤博敬
授業時間	金曜日1時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	近年、食の安全性など食にまつわる様々な課題、問題が噴出しており、消費者の関心が高くなっている。農林業経営では食品に対する幅広い正確な知識、食品安全、健康に生活していくための栄養バランスのとれた食品の摂取に関する知識が不可欠である。本科目では、食品と健康とのかかわりや機能、食品の主要成分や特殊成分、食品成分の酸化や成分間反応、食品の貯蔵、食品安全をリスク学の視点から考えるための基礎知識として、化学物質および微生物からの食品汚染に加え、最近注目が高い特定保健用食品や機能性食品、HACCPについての最新情報など、食品化学や食品衛生の基礎知識や先端的な内容について学ぶ。		
授業目的・目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本のみならず世界の食品について知見を広め、その食品学的特徴や加工製造における役割を説明できる。 2. 食品成分の変化や相互作用を理解し、有毒成分生成や保存法について説明できる。 3. 食品の三次機能および特定保健用食品について説明できる。 4. 食の安全を法律やエビデンスに基づいて説明できる。 5. 食中毒の原因と予防対策について考察でき、情報を収集できる。 6. HACCPを実践できる。 		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	健康的な生活と食品	
	2	食品の成分Ⅰ：水分、炭水化物、ミネラル、タンパク質、ビタミン	
	3	食品の成分Ⅱ：脂質、色素・香り・呈味成分、有害成分	
	4	成分間反応：酸化、劣化、酵素反応、有害成分となる反応副生成物	
	5	食品の分類：植物性食品（穀類、マメ類、イモ類、野菜類、果実類、種子類、きのこ類）、動物性食品	
	6	食品の機能性：病気と食品の機能性（三次機能成分）、特定保健用食品、サプリメント	
	7	食品成分表：成分分析試験、官能試験	
	8	食品の安全とは？（食品安全リスクの理解）	
	9	食品衛生の歴史、現状と課題、食品衛生法と食品安全基本法	
	10	食品と科学技術：残留農薬・飼料添加物、食品添加物・洗浄・消毒、遺伝子組み替え食品	
	11	食品と微生物Ⅰ：微生物学基礎、発酵と腐敗、人畜共通感染症、衛生害獣/虫	
	12	食品と微生物Ⅱ：発酵と腐敗、食品の変質と予防対策	
	13	食中毒Ⅰ：天然物質、人為的有害物質	
	14	食中毒Ⅱ：現代の食中毒事情と病害微生物・寄生虫、食中毒の予防・食品衛生対策	
15	食の安全を守る（HACCP 実践）		
キーワード	食と生活、食品成分、食品の分類、嗜好成分、有害成分、内分泌かく乱物質、食品成分間反応、食品の機能性、サプリメント、調味料、官能検査、食中毒、食品添加物、残留農薬、食品衛生法、遺伝子組み換え食品、食品リスク、食の安全		
教科書・参考書	テキスト：①「食品化学」（実教出版、2010）高野克己 著②栄養科学イラストレイテッド「食品衛生学」（羊土社、2017）田崎達明 編 参考書：①「日本食品成分表 本表編」第七訂（医歯薬出版、2017）、②「わかりやすい食品化学」（三共出版、2008）早瀬 文孝、佐藤 隆一郎 著、吉田 勉 監修、③「食品学」（東京化学同人、2016）久保田紀久枝、森光康次郎 編、④栄養・健康科学シリーズ「食品衛生学」改訂第3版（南江堂、2003）谷村顕雄、豊川裕之編 ※この他、適宜プリントを配布する。		
評価方法・評価基準	試験（70%）、小テスト・レポート（30%）		
関連科目	農と食の健康論、農と食の哲学、医福食農連携論、食品加工学、流通加工論、食品加工実習、畜産衛生学		
履修要件	農林業のための生物学、農林業のための化学を受講していることが望ましい。		
備考	特になし。		

授業名 木材利用・流通論		単位数 2単位	授業の方法 講義
Philosophy of wood utilization & Wood Distribution		履修年次	2年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	池田潔彦
授業時間	金曜日 4時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	林業の主要な生産物である木材は、建築材料や家具など様々な用途に、その特性を生かして加工・利用されている。本科目では、木材の特性と加工・利用の関係を理解することを目的とする。まず、木材の物理的性質や木材の保存、木質材料の製造と2次加工など木材に関する基礎知識を学ぶ。次に、世界の木材需給と流通、日本の木造住宅における在来工法、枠組壁工法等の特徴について学ぶ。最後に、林業にとって市場に出す最初の製品である丸太の商品力を高め、採算性を高めるための工夫について学ぶ。また、木材の種類・生産工程・用途等の違いによる流通の形態や変遷、木材市場の役割・動向、IoT、ICTを利用した木材流通について学ぶ。		
授業目的・目標	①木材の特性と加工・利用の関係を理解する。 ②森林所有者、素材生産事業者、木材加工業者のそれぞれが置かれている現状をとらえたうえで、どのような経営戦略を立てるべきかを考える。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	環境（環境基本法）と木材（地域産材）利用、木材流通	
	2	循環型社会における森林と木材	
	3	木材のカスケード利用の意義	
	4	木質バイオマス利用システム：マテリアル利用、エネルギー利用	
	5	木造住宅：在来軸組工法及び枠組壁工法の特徴と使用部材の変遷	
	6	木質構造・構造物：木質構造物の耐震性、中・大規模木造建築物の変遷、土木・道路・景観施設への利用	
	7	木材内装利用：室内環境規格、オフィス家具・床壁面、調湿効果、接触・視覚等の感性向上効果	
	8	木材外構利用 構造物の耐久性、維持管理、劣化診断、耐候性向上技術	
	9	木材流通① 国産材（地域材）の資源、流通経路、市場	
	10	木材流通② 外国産材の資源、流通とマーケット戦略	
	11	木材流通③ 国産材需要構造の変遷、国産材自給率の現状と今後の課題	
	12	木材流通④ IoT、ICT活用 森林～素材生産	
	13	木材流通⑤ IoT、ICT活用 素材生産～建築需要者・一般消費者	
	14	原木市場：役割・機能、素材価格、取り扱い材の変遷、新たな取組み・事業展開	
15	木質バイオマス、認証材と合法木材の流通、木材輸出・海外マーケット市場		
キーワード	環境、地域産材、カスケード利用、資源循環、バイオマス、木造住宅、木質構造、国産材、外国産材、森林資源量、木材需要、木材供給、原木市場、情報技術		
教科書・参考書	最新木材工業事典（日本木材加工技術協会）、木質構造（海青社）、林業改良普及双書（No180, 181等）、森林経営計画ハンドブック		
評価方法・評価基準	試験（60%）、レポート（20%）、受講態度（20%）		
関連科目	木材生産システム、木材加工学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 経営分析演習 I Analysis of management I		単位数 1 単位	授業の方法 演習
		履修年次	4 年前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	全教員
授業時間	月曜日 1, 2 時限	教室	各研究室
オフィスアワー	随時受け付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	経営実習 I での結果をもとに、実習を行った農林業経営体の生産部門の現状について分析を行う。分析を行う際は、生産物の生産計画と実際の状況、人員配置の状況、生産資材の調達や使用の状況、生産に必要な情報収集と利用の状況などについて調査し、最終的には生産部門での計画した利益と実際の利益を比較分析する。分析後は、その結果をもとに、学生及び教員で、グループ・ワークを行った後に、課題と解決策についてとりまとめを行い、生産現場について考察する。		
授業目的・目標	分析後は、その結果をもとに、学生及び教員で、グループ・ワークを行った後に、課題と解決策についてとりまとめを行い、生産現場について考察する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	オリエンテーション	
	2	生産計画に関する分析①	
	3	生産計画に関する分析②	
	4	グループ・ワーク①	
	5	人員配置に関する分析①	
	6	人員配置に関する分析②	
	7	グループ・ワーク②	
	8	生産資材の使用に関する分析①	
	9	生産資材の使用に関する分析②	
	10	グループ・ワーク③	
	11	生産情報の分析①	
	12	生産情報の分析②	
	13	グループ・ワーク④	
	14	まとめ①	
15	まとめ②		
キーワード	生産技術、地域活性化		
教科書・参考書	適宜、資料を配布する。		
評価方法・評価基準	レポート (60%)、プレゼンテーション (40%)		
関連科目	経営実習 I		
履修要件	圃場実習や演習林実習等を通じて、生産現場のマネジメントの基礎知識を理解できている。		
備考	特になし		

経営分析演習 I Analysis of management I		単位数 3 単位	授業の方法 演習
		履修年次	4 年前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	全教員
授業時間	水曜日 1～3 時限	教室	各研究室
オフィスアワー	随時受け付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	経営実習 I での結果をもとに、学生ごとに実習を行った農林業経営体の生産現場について、適切な計画か、人員の配置は適切だったか、生産資材は効率的に使用されていたか、生産情報の収集と利用法は適切であったか、生産部門は計画した利益を生み出しているかという視点で分析する。		
授業目的・目標	分析後は、その結果をもとに、学生及び教員のグループで、グループ・ワークを行った後に、課題と解決策についてとりまとめを行い、生産現場について考察する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1～39	<ul style="list-style-type: none"> ・生産計画に関する分析 ・人員配置に関する分析 ・生産資材の使用に関する分析 ・生産情報の分析 	
	40～42	グループ・ワーク	
	43～45	まとめ	
キーワード	生産技術、地域活性化		
教科書・参考書	適宜、資料を配布する。		
評価方法・評価基準	作業日誌 (20%)、レポート (60%)、プレゼンテーション (20%)		
関連科目	圃場実習 (栽培)、圃場実習 (畜産)、演習林実習、生産マネジメント実習 I・II (栽培・畜産・林業)		
履修要件	圃場実習や演習林実習等を通じて、生産現場のマネジメントの基礎知識を理解できている。		
備考	特になし		

授業名 経営分析演習Ⅱ Analysis of management Ⅱ		単位数 1 単位	授業の方法 演習
		履修年次	4 年 後期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	多々良明夫、森口卓哉、祐森誠司、逢坂興宏、天野哲郎、菊池宏之、柯麗華、前田節子、大塚誠、平岡裕一郎、中山正典、丹羽康夫、内藤博敬、太田智、長藤亮彦、大石竜、貞弘恵、松尾和之、佐藤展之、外側正之、小澤朗人、杉山恵太郎、池田潔彦
授業時間	月曜日 1, 2 時限	教室	各研究室
オフィスアワー	随時受け付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	経営実習Ⅱでの結果をもとに、実習を行った農林業経営体の経営について分析を行う。分析を行う際は、農林業経営体の沿革や経営理念、経営戦略、マーケティング、財務状況、リスクマネジメントなどについて調査を行う。また、実習を通じて発見した、農林業経営体の新たな価値や可能性、財務状況、経営上の課題について分析を行う。分析後は、その結果をもとに、学生及び教員のグループで、グループ・ワークを行った後に、課題と解決策についてとりまとめを行う。		
授業目的・目標	農林業経営を行う際の経営理念と経営戦略について考える。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	オリエンテーション	
	2	経営理念に関する分析①	
	3	経営理念に関する分析②	
	4	グループ・ワーク①	
	5	経営戦略に関する分析①	
	6	経営戦略に関する分析②	
	7	グループ・ワーク②	
	8	マーケティングに関する分析①	
	9	マーケティングに関する分析②	
	10	グループ・ワーク③	
	11	財務分析①	
	12	財務分析②	
	13	グループ・ワーク④	
	14	まとめ①	
15	まとめ②		
キーワード	生産技術、地域活性化、経営		
教科書・参考書	適宜、資料を配布する。		
評価方法・評価基準	レポート (60%)、プレゼンテーション (40%)		
関連科目	経営実習Ⅱ		
履修要件	経営戦略について理解している。		
備考	特になし		

経営分析演習Ⅱ Analysis of management Ⅱ		単位数 3単位	授業の方法 演習
		履修年次	4年後期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	全教員
授業時間	水曜日 1～3 時限	教室	各研究室
オフィスアワー	随時受け付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	企業実習Ⅱでの結果をもとに、学生ごとに実習を行った農林業経営体の沿革や経営理念、経営戦略、マーケティング、財務状況、リスクマネジメントについて分析を行う。また、実習を通じて発見した、農林業経営体の新たな価値や可能性、財務状況、経営上の課題について分析を行う。分析後は、その結果をもとに、学生及び教員のグループで、グループ・ワークを行った後に、課題と解決策についてとりまとめを行う。		
授業目的・目標	農林業経営を行う際の経営理念と経営戦略について考える。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1～39	<ul style="list-style-type: none"> ・経営理念に関する分析 ・経営戦略に関する分析 ・マーケティングに関する分析 ・財務分析 ・リスクマネジメント 	
	40～42	グループ・ワーク	
	43～45	まとめ	
キーワード	生産技術、地域活性化、経営		
教科書・参考書	適宜、資料を配布する。		
評価方法・評価基準	作業日誌 (20%)、レポート (60%)、プレゼンテーション (20%)		
関連科目	圃場実習 (栽培)、圃場実習 (畜産)、演習林実習、生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ (栽培・畜産・林業)		
履修要件	経営戦略について理解している。		
備考	特になし		

授業名 プロジェクト研究 Research for Graduation		単位数 2単位	授業の方法 演習
		履修年次	4年 通年
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	全教員(長藤亮彦除く)
授業時間	火曜日1、2時限	教室	各研究室
オフィスアワー	随時受け付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	実習や演習などを通じて農林業経営体の分析を進め、分析を通じて発見した課題とその解決策について農林業経営体への提案書をまとめ、これらを通じて、研究手法や課題解決のための能力を習得することを本科目の目的とする。農林業経営体の事前調査、研究の進め方、調査方法について教員から指導を受けながら調査計画を作成し、計画発表会を開催する。また、調査結果や調査手法について指導教員と議論し、的確に結果を解釈し、教員から指導を受けながら提案書を作成し、発表会を開催する。		
授業目的・目標	専門的な知識と技術の習得を通して、研究手法や課題解決のための能力を身につける。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	オリエンテーション	
	2	研究課題発見方法の習得①	
	3	研究課題発見方法の習得②	
	4	研究課題発見方法の習得③	
	5	情報収集能力の習得①	
	6	情報収集能力の習得②	
	7	研究手法の習得①	
	8	研究手法の習得②	
	9	計画発表会①	
	10	計画発表会②	
	12	研究結果の解析方法の習得①	
	13	研究結果の解析方法の習得②	
	14	研究結果の解析方法の習得③	
	15	研究結果の解析方法の習得④	
	16	研究結果の取りまとめ方法の習得①	
	17	研究結果の取りまとめ方法の習得②	
	18	研究結果の取りまとめ方法の習得③	
	19	研究結果の取りまとめ方法の習得④	
	20	成果発表能力の習得①	
	21	成果発表能力の習得②	
	22	成果発表能力の習得③	
	23	成果発表能力の習得④	
	24	論文作成能力の習得①	
	25	論文作成能力の習得②	
	26	論文作成能力の習得③	
	27	発表会①	
	28	発表会②	
	29	発表会③	
	30	発表会④	
キーワード	生産技術、地域活性化、経営		
教科書・参考書	適宜、資料を配布する。		
評価方法・評価基準	レポート(80%)、プレゼンテーション(20%)		
関連科目	すべての科目		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

9. <教育課程が不明確>

本学設置の意義として掲げるAIやIoTなどの先端技術の農林業分野への導入を実現するために学ぶ科目が十分に配置されているか疑義がある。先端技術への対応力を担保するための資質・能力を教育課程においてどのように育成するのか、対応する授業科目を示しつつ具体的に説明するか、必要に応じて修正すること。

(対応)

先端技術を学ぶ科目であることが不明確であった科目についてシラバスの記載内容を修正するとともに、一部の科目に先端技術に関する内容を追加し、「授業科目の概要」を修正する。

その上で、農林業分野での先端技術を学ぶ科目の配置状況を示すとともに、授業科目の内容を具体的に示し、先端技術への対応力を担保する教育課程となっていることを説明する。(別添資料9：先端技術について学ぶ科目)

(詳細説明)

これからの農林業においては、従来の経験知や労働集約型の管理から、AIやIoTなどの先端技術を活用した管理への転換が必要となることから、先端技術を利用した農林業の経営や生産について幅広く学ぶ「農林業のための先端技術」と、先端技術の実例を学ぶ「総合実習」を必修科目として配置し、これらに加えて、専攻するコース別の講義や実習で、より専門的な知識を身に付けることとする。

栽培コースでは、データに基づく細やかな栽培である精密農業を学ぶ「作物学」と、農業の生産現場で導入が進むICTを活用した栽培施設の環境制御を学ぶ「園芸学」を選択科目として配置する。また、実習を通じて先端技術を利用した生産技術や生産管理について学ぶ「生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ(栽培)」、POSシステムを活用したマーチャンダイジングなどについて学ぶ「販売管理論」及び「販売実習」をコース必修科目として配置する。

林業コースでは、森林管理における地理情報システム(森林GIS)と森林・林業分野のICT利活用、リモートセンシング技術などについて学ぶ「森林計画・政策論」及び「生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ(林業)」、林業機械を用いた木材生産システムについて学ぶ「木材生産システム」及び「林業機械実習」、IoTやICTを活用した木材流通について学ぶ「木材利用・流通論」をコース必修科目として配置する。

畜産コースでは、自動給餌システムやロボット搾乳などについて学ぶ「家畜飼養学」及び「生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ(畜産)」、POSシステムを活用したマーチャンダイジングなどについて学ぶ「販売管理論」及び「販売実習」をコース必修科目として配置する。

< 農林業分野での先端技術を学ぶ科目の配置状況 > (● : 必修、◎ : コース必修)

区分	1年	2年	3年
共通	●総合実習		●農林業のための先端技術
栽培		作物学 または 園芸学 ◎生産マネジメント実習Ⅰ (栽培)	◎生産マネジメント実習Ⅱ (栽培) ◎販売管理論 ◎販売実習
林業		◎森林計画・政策論 ◎木材生産システム ◎木材利用・流通論 ◎生産マネジメント実習Ⅰ (林業)	◎生産マネジメント実習Ⅱ (林業) ◎林業機械実習
畜産		◎家畜飼養学 ◎生産マネジメント実習Ⅰ (畜産)	◎生産マネジメント実習Ⅱ (畜産) ◎販売管理論 (再掲) ◎販売実習 (再掲)

(新旧対照表) 授業科目の概要

<p>新</p>	<p>(10 ページ)</p> <table border="1" data-bbox="312 277 1295 779"> <tr> <td data-bbox="312 277 596 779"> <p>森林計画・政策論</p> </td> <td data-bbox="596 277 1295 779"> <p>(概要) 森林は、多面的機能の発揮を通じて、国民が安全で安心して暮らせる社会の実現や、木材等の林産物の供給源として地域の経済活動と深く結びつくなど、さまざまな働きを通じて私たちの暮らしを支える大切な存在であり、森林を保全し、長期的視点に立った計画的かつ適切な森林の取扱いを推進することが必要である。本科目では、<u>森林政策の歴史、森林政策の骨格をなす森林関連法、森林計画制度等の基本的事項を学ぶ。さらに、諸外国の森林政策から、持続可能な森林経営に向けた森林認証制度を学ぶとともに、地球環境問題等の各国の共通性、独自性を学ぶとともに、新たな政策課題についても考察する。また、これらの森林計画策定に必要な森林の現況調査、森林管理における地理情報システム(森林GIS)と森林・林業分野のICT利活用、UAVや衛星画像等を用いたリモートセンシング技術等について学ぶ。</u></p> <p>(オムニバス方式/全15回) (4) 逢坂興宏/7回) 森林調査の方法論 (10) 平岡裕一郎/3回) リモートセンシング技術 (27) 近藤晃/5回) 森林政策の歴史と制度</p> </td> </tr> </table>	<p>森林計画・政策論</p>	<p>(概要) 森林は、多面的機能の発揮を通じて、国民が安全で安心して暮らせる社会の実現や、木材等の林産物の供給源として地域の経済活動と深く結びつくなど、さまざまな働きを通じて私たちの暮らしを支える大切な存在であり、森林を保全し、長期的視点に立った計画的かつ適切な森林の取扱いを推進することが必要である。本科目では、<u>森林政策の歴史、森林政策の骨格をなす森林関連法、森林計画制度等の基本的事項を学ぶ。さらに、諸外国の森林政策から、持続可能な森林経営に向けた森林認証制度を学ぶとともに、地球環境問題等の各国の共通性、独自性を学ぶとともに、新たな政策課題についても考察する。また、これらの森林計画策定に必要な森林の現況調査、森林管理における地理情報システム(森林GIS)と森林・林業分野のICT利活用、UAVや衛星画像等を用いたリモートセンシング技術等について学ぶ。</u></p> <p>(オムニバス方式/全15回) (4) 逢坂興宏/7回) 森林調査の方法論 (10) 平岡裕一郎/3回) リモートセンシング技術 (27) 近藤晃/5回) 森林政策の歴史と制度</p>
<p>森林計画・政策論</p>	<p>(概要) 森林は、多面的機能の発揮を通じて、国民が安全で安心して暮らせる社会の実現や、木材等の林産物の供給源として地域の経済活動と深く結びつくなど、さまざまな働きを通じて私たちの暮らしを支える大切な存在であり、森林を保全し、長期的視点に立った計画的かつ適切な森林の取扱いを推進することが必要である。本科目では、<u>森林政策の歴史、森林政策の骨格をなす森林関連法、森林計画制度等の基本的事項を学ぶ。さらに、諸外国の森林政策から、持続可能な森林経営に向けた森林認証制度を学ぶとともに、地球環境問題等の各国の共通性、独自性を学ぶとともに、新たな政策課題についても考察する。また、これらの森林計画策定に必要な森林の現況調査、森林管理における地理情報システム(森林GIS)と森林・林業分野のICT利活用、UAVや衛星画像等を用いたリモートセンシング技術等について学ぶ。</u></p> <p>(オムニバス方式/全15回) (4) 逢坂興宏/7回) 森林調査の方法論 (10) 平岡裕一郎/3回) リモートセンシング技術 (27) 近藤晃/5回) 森林政策の歴史と制度</p>		
<p>旧</p>	<p>(9 ページ)</p> <table border="1" data-bbox="304 853 1303 1301"> <tr> <td data-bbox="304 853 596 1301"> <p>森林計画・政策論</p> </td> <td data-bbox="596 853 1303 1301"> <p>(概要) 森林は、多面的機能の発揮を通じて、国民が安全で安心して暮らせる社会の実現や、木材等の林産物の供給源として地域の経済活動と深く結びつくなど、さまざまな働きを通じて私たちの暮らしを支える大切な存在であり、森林を保全し、長期的視点にたった計画的かつ適切な森林の取扱いを推進することが必要である。本科目では、<u>これらの森林計画策定に必要な森林の現況調査、森林管理における森林GISの基本的仕組、現場への応用法等について学ぶ。また、森林政策の歴史、森林政策の骨格をなす森林関連法、保安林制度、森林計画制度、補助金、国有林、民有林、木材生産・流通等の基本的事項を学ぶ。さらに、諸外国の森林政策から、持続可能な森林経営に向けた各国の共通性、独自性を学ぶとともに、新たな政策課題についても考察する。</u></p> <p>(オムニバス方式/全15回) (4) 逢坂興宏/8回) 森林調査の方法論 (30) 近藤晃/7回) 森林政策の歴史と制度</p> </td> </tr> </table>	<p>森林計画・政策論</p>	<p>(概要) 森林は、多面的機能の発揮を通じて、国民が安全で安心して暮らせる社会の実現や、木材等の林産物の供給源として地域の経済活動と深く結びつくなど、さまざまな働きを通じて私たちの暮らしを支える大切な存在であり、森林を保全し、長期的視点にたった計画的かつ適切な森林の取扱いを推進することが必要である。本科目では、<u>これらの森林計画策定に必要な森林の現況調査、森林管理における森林GISの基本的仕組、現場への応用法等について学ぶ。また、森林政策の歴史、森林政策の骨格をなす森林関連法、保安林制度、森林計画制度、補助金、国有林、民有林、木材生産・流通等の基本的事項を学ぶ。さらに、諸外国の森林政策から、持続可能な森林経営に向けた各国の共通性、独自性を学ぶとともに、新たな政策課題についても考察する。</u></p> <p>(オムニバス方式/全15回) (4) 逢坂興宏/8回) 森林調査の方法論 (30) 近藤晃/7回) 森林政策の歴史と制度</p>
<p>森林計画・政策論</p>	<p>(概要) 森林は、多面的機能の発揮を通じて、国民が安全で安心して暮らせる社会の実現や、木材等の林産物の供給源として地域の経済活動と深く結びつくなど、さまざまな働きを通じて私たちの暮らしを支える大切な存在であり、森林を保全し、長期的視点にたった計画的かつ適切な森林の取扱いを推進することが必要である。本科目では、<u>これらの森林計画策定に必要な森林の現況調査、森林管理における森林GISの基本的仕組、現場への応用法等について学ぶ。また、森林政策の歴史、森林政策の骨格をなす森林関連法、保安林制度、森林計画制度、補助金、国有林、民有林、木材生産・流通等の基本的事項を学ぶ。さらに、諸外国の森林政策から、持続可能な森林経営に向けた各国の共通性、独自性を学ぶとともに、新たな政策課題についても考察する。</u></p> <p>(オムニバス方式/全15回) (4) 逢坂興宏/8回) 森林調査の方法論 (30) 近藤晃/7回) 森林政策の歴史と制度</p>		
<p>新</p>	<p>(12 ページ)</p> <table border="1" data-bbox="256 1429 1303 1693"> <tr> <td data-bbox="256 1429 560 1693"> <p>家畜飼養学</p> </td> <td data-bbox="560 1429 1303 1693"> <p>牛や豚、鶏などの家畜飼育にあたっては、家畜の維持、成長、生産活動に必要な栄養素の要求量に影響する環境要因について考慮し、物質とエネルギーを効率的に動物生産物に転換することが重要である。本科目では、畜産業の目的である動物生産物を効率良く獲得するために、基礎として動物の種や成長過程における飼料消化性の違いや環境要因による変化について知り、<u>応用内容として環境負荷物質を含む排せつ物の成分制御法や労働の負担低減を図る自動給餌やロボット搾乳などの先端技術の導入是非などを学ぶ。</u></p> </td> </tr> </table>	<p>家畜飼養学</p>	<p>牛や豚、鶏などの家畜飼育にあたっては、家畜の維持、成長、生産活動に必要な栄養素の要求量に影響する環境要因について考慮し、物質とエネルギーを効率的に動物生産物に転換することが重要である。本科目では、畜産業の目的である動物生産物を効率良く獲得するために、基礎として動物の種や成長過程における飼料消化性の違いや環境要因による変化について知り、<u>応用内容として環境負荷物質を含む排せつ物の成分制御法や労働の負担低減を図る自動給餌やロボット搾乳などの先端技術の導入是非などを学ぶ。</u></p>
<p>家畜飼養学</p>	<p>牛や豚、鶏などの家畜飼育にあたっては、家畜の維持、成長、生産活動に必要な栄養素の要求量に影響する環境要因について考慮し、物質とエネルギーを効率的に動物生産物に転換することが重要である。本科目では、畜産業の目的である動物生産物を効率良く獲得するために、基礎として動物の種や成長過程における飼料消化性の違いや環境要因による変化について知り、<u>応用内容として環境負荷物質を含む排せつ物の成分制御法や労働の負担低減を図る自動給餌やロボット搾乳などの先端技術の導入是非などを学ぶ。</u></p>		
<p>旧</p>	<p>(10 ページ)</p> <table border="1" data-bbox="256 1765 1303 1973"> <tr> <td data-bbox="256 1765 560 1973"> <p>家畜飼養学</p> </td> <td data-bbox="560 1765 1303 1973"> <p>牛や豚、鶏などの家畜飼育にあたっては、家畜の維持、成長、生産活動に必要な栄養素の要求量に影響する環境要因について考慮し、物質とエネルギーを効率的に動物生産物に転換することを理解することが重要である。本科目では、畜産業の目的である動物生産物を効率良く獲得するために、基礎として動物の種や成長過程における飼料消化性の違いや環境要因による変化について知り、<u>応用内容としてその対策の理由を理解することを目的とする。</u></p> </td> </tr> </table>	<p>家畜飼養学</p>	<p>牛や豚、鶏などの家畜飼育にあたっては、家畜の維持、成長、生産活動に必要な栄養素の要求量に影響する環境要因について考慮し、物質とエネルギーを効率的に動物生産物に転換することを理解することが重要である。本科目では、畜産業の目的である動物生産物を効率良く獲得するために、基礎として動物の種や成長過程における飼料消化性の違いや環境要因による変化について知り、<u>応用内容としてその対策の理由を理解することを目的とする。</u></p>
<p>家畜飼養学</p>	<p>牛や豚、鶏などの家畜飼育にあたっては、家畜の維持、成長、生産活動に必要な栄養素の要求量に影響する環境要因について考慮し、物質とエネルギーを効率的に動物生産物に転換することを理解することが重要である。本科目では、畜産業の目的である動物生産物を効率良く獲得するために、基礎として動物の種や成長過程における飼料消化性の違いや環境要因による変化について知り、<u>応用内容としてその対策の理由を理解することを目的とする。</u></p>		

<p>新</p>	<p>(19 ページ)</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="256 266 552 837"> <p>総合実習</p> </td> <td data-bbox="552 266 1275 837"> <p>水稻、茶、野菜、果樹、花卉、畜産、林業の生産管理に関わる知識や技術を学ぶため、実習や生産現場の見学を通じ、農業現場に即した農業の実学の基本を学ぶ。また、これらの実習等を通じて、農林業を総合的に理解する能力と態度を養う。野菜栽培の「総合実習」においては、露地野菜及び施設野菜の両面から、野菜栽培の基本技術について、現地の農業者の栽培に即した栽培の工程や栽培の管理、防除の技術、収穫作業など実習体験を通じた技能を学ぶ。</p> <p>(オムニバス/全30回)</p> <p>(14 太田智/4回) 果樹栽培：果樹の樹種別の枝管理と着果管理、接木・挿し木</p> <p>(15 相蘇春菜/2回) 林業：木材の樹種同定</p> <p>(17 大石竜/4回) 野菜栽培（施設）：環境制御システムの利用法</p> <p>(18 貞弘恵/4回) 畜産：酪農施設、乳業メーカー見学</p> <p>(31 中根健/4回) 作物栽培：田植え</p> <p>(32 中野敬之/4回) 茶栽培：摘採、製茶</p> <p>(36 五十右薫/4回) 花き栽培：播種、鉢上げ、収穫・調整</p> <p>(38 坂口良介 37 増田壽彦/4回) 野菜栽培（露地）：露地野菜の播種、育苗、定植</p> </td> </tr> </table>	<p>総合実習</p>	<p>水稻、茶、野菜、果樹、花卉、畜産、林業の生産管理に関わる知識や技術を学ぶため、実習や生産現場の見学を通じ、農業現場に即した農業の実学の基本を学ぶ。また、これらの実習等を通じて、農林業を総合的に理解する能力と態度を養う。野菜栽培の「総合実習」においては、露地野菜及び施設野菜の両面から、野菜栽培の基本技術について、現地の農業者の栽培に即した栽培の工程や栽培の管理、防除の技術、収穫作業など実習体験を通じた技能を学ぶ。</p> <p>(オムニバス/全30回)</p> <p>(14 太田智/4回) 果樹栽培：果樹の樹種別の枝管理と着果管理、接木・挿し木</p> <p>(15 相蘇春菜/2回) 林業：木材の樹種同定</p> <p>(17 大石竜/4回) 野菜栽培（施設）：環境制御システムの利用法</p> <p>(18 貞弘恵/4回) 畜産：酪農施設、乳業メーカー見学</p> <p>(31 中根健/4回) 作物栽培：田植え</p> <p>(32 中野敬之/4回) 茶栽培：摘採、製茶</p> <p>(36 五十右薫/4回) 花き栽培：播種、鉢上げ、収穫・調整</p> <p>(38 坂口良介 37 増田壽彦/4回) 野菜栽培（露地）：露地野菜の播種、育苗、定植</p>
<p>総合実習</p>	<p>水稻、茶、野菜、果樹、花卉、畜産、林業の生産管理に関わる知識や技術を学ぶため、実習や生産現場の見学を通じ、農業現場に即した農業の実学の基本を学ぶ。また、これらの実習等を通じて、農林業を総合的に理解する能力と態度を養う。野菜栽培の「総合実習」においては、露地野菜及び施設野菜の両面から、野菜栽培の基本技術について、現地の農業者の栽培に即した栽培の工程や栽培の管理、防除の技術、収穫作業など実習体験を通じた技能を学ぶ。</p> <p>(オムニバス/全30回)</p> <p>(14 太田智/4回) 果樹栽培：果樹の樹種別の枝管理と着果管理、接木・挿し木</p> <p>(15 相蘇春菜/2回) 林業：木材の樹種同定</p> <p>(17 大石竜/4回) 野菜栽培（施設）：環境制御システムの利用法</p> <p>(18 貞弘恵/4回) 畜産：酪農施設、乳業メーカー見学</p> <p>(31 中根健/4回) 作物栽培：田植え</p> <p>(32 中野敬之/4回) 茶栽培：摘採、製茶</p> <p>(36 五十右薫/4回) 花き栽培：播種、鉢上げ、収穫・調整</p> <p>(38 坂口良介 37 増田壽彦/4回) 野菜栽培（露地）：露地野菜の播種、育苗、定植</p>		
<p>旧</p>	<p>(17 ページ)</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="256 896 552 1453"> <p>総合実習</p> </td> <td data-bbox="552 896 1275 1453"> <p>(概要)</p> <p>水稻、茶、野菜、果樹、花卉、畜産、林業の生産管理に関わる知識や技術を学ぶため、実習や生産現場の見学を通じ、農業現場に即した農業の実学の基本を学ぶ。また、これらの実習等を通じて、農林業を総合的に理解する能力と態度を養う。また、畜産関連施設や、ICTやIoTを活用したスマート農業の視察を通じ、農林業の先端技術の現状について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(14 太田智/4回) 果樹栽培：果樹の樹種別の枝管理と着果管理、接木・挿し木</p> <p>(15 相蘇春菜/2回) 林業：木材の樹種同定</p> <p>(17 大石竜/4回) 野菜栽培（施設）：環境制御システムの利用法</p> <p>(18 貞弘恵/4回) 畜産：酪農施設、乳業メーカー見学</p> <p>(28 中根健/4回) 作物栽培：田植え</p> <p>(29 中野敬之/4回) 茶栽培：摘採、製茶</p> <p>(31 五十右薫/4回) 花き栽培：播種、鉢上げ、収穫・調整</p> <p>(32 増田壽彦、33 坂口良介/4回) (共同) 野菜栽培（露地）：露地野菜の栽培管理、スマート農業の視察</p> </td> </tr> </table>	<p>総合実習</p>	<p>(概要)</p> <p>水稻、茶、野菜、果樹、花卉、畜産、林業の生産管理に関わる知識や技術を学ぶため、実習や生産現場の見学を通じ、農業現場に即した農業の実学の基本を学ぶ。また、これらの実習等を通じて、農林業を総合的に理解する能力と態度を養う。また、畜産関連施設や、ICTやIoTを活用したスマート農業の視察を通じ、農林業の先端技術の現状について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(14 太田智/4回) 果樹栽培：果樹の樹種別の枝管理と着果管理、接木・挿し木</p> <p>(15 相蘇春菜/2回) 林業：木材の樹種同定</p> <p>(17 大石竜/4回) 野菜栽培（施設）：環境制御システムの利用法</p> <p>(18 貞弘恵/4回) 畜産：酪農施設、乳業メーカー見学</p> <p>(28 中根健/4回) 作物栽培：田植え</p> <p>(29 中野敬之/4回) 茶栽培：摘採、製茶</p> <p>(31 五十右薫/4回) 花き栽培：播種、鉢上げ、収穫・調整</p> <p>(32 増田壽彦、33 坂口良介/4回) (共同) 野菜栽培（露地）：露地野菜の栽培管理、スマート農業の視察</p>
<p>総合実習</p>	<p>(概要)</p> <p>水稻、茶、野菜、果樹、花卉、畜産、林業の生産管理に関わる知識や技術を学ぶため、実習や生産現場の見学を通じ、農業現場に即した農業の実学の基本を学ぶ。また、これらの実習等を通じて、農林業を総合的に理解する能力と態度を養う。また、畜産関連施設や、ICTやIoTを活用したスマート農業の視察を通じ、農林業の先端技術の現状について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(14 太田智/4回) 果樹栽培：果樹の樹種別の枝管理と着果管理、接木・挿し木</p> <p>(15 相蘇春菜/2回) 林業：木材の樹種同定</p> <p>(17 大石竜/4回) 野菜栽培（施設）：環境制御システムの利用法</p> <p>(18 貞弘恵/4回) 畜産：酪農施設、乳業メーカー見学</p> <p>(28 中根健/4回) 作物栽培：田植え</p> <p>(29 中野敬之/4回) 茶栽培：摘採、製茶</p> <p>(31 五十右薫/4回) 花き栽培：播種、鉢上げ、収穫・調整</p> <p>(32 増田壽彦、33 坂口良介/4回) (共同) 野菜栽培（露地）：露地野菜の栽培管理、スマート農業の視察</p>		

(新旧対照表) シラバス

(新) 33 ページ

授業名 森林計画・政策論 Forest Planning and Forest Policy		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	2年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	逢坂興宏、平岡裕一郎、近藤晃
授業時間	水曜日 1 時限	教室	講義室 5
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	森林は、多面的機能の発揮を通じて、国民が安全で安心して暮らせる社会の実現や、木材等の林産物の供給源として地域の経済活動と深く結びつくなど暮らしを支える大切な存在であり、森林を保全し、長期的視点にたった計画的かつ適切な森林の取扱いを推進することが必要である。本科目では、森林政策の歴史、森林政策の骨格をなす森林関連法、森林計画制度等の基本的事項を学ぶ。さらに、諸外国の森林政策から、持続可能な森林経営に向けた森林認証制度を学ぶとともに、地球環境問題等の新たな政策課題についても考察する。また、これらの森林計画策定に必要な森林の各種調査法、森林管理における地理情報システム(森林GIS)と森林・林業分野のICT利活用、UAVや衛星画像等を用いたリモートセンシング技術等について学ぶ。		
授業目的・目標	森林計画策定に必要な森林の調査法、森林管理における森林GISの基本的仕組、現場への応用法、リモートセンシング技術について理解する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	森林政策の歴史 (近藤晃)	
	2	森林・林業基本法 (近藤晃)	
	3	森林計画制度 (近藤晃)	
	4	森林認証制度 (近藤晃)	
	5	地球環境問題 (近藤晃)	
	6	測量 1 : 基準点測量、GNSS測量 (逢坂興宏)	
	7	測量 2 : 空中写真判読 (逢坂興宏)	
	8	森林計測 1 : 林分調査、測樹 (逢坂興宏)	
	9	森林計測 2 : UAV、レーザ計測 (逢坂興宏)	
	10	森林GIS 1 : GISの基礎 (逢坂興宏)	
	11	森林GIS 2 : GISの活用 (逢坂興宏)	
	12	森林・林業分野におけるICT利活用事例 (逢坂興宏)	
	13	森林リモートセンシング (平岡裕一郎)	
	14	リモートセンシングの基礎 (平岡裕一郎)	
15	リモートセンシングによる森林管理 (平岡裕一郎)		
キーワード	測量、空中写真、林分調査、測樹、森林GIS、リモートセンシング、森林・林業基本法、森林計画制度、森林認証制度		
教科書・参考書	森林計画学 (木平勇吉)、配付資料		
評価方法・評価基準	試験 (50%)、課題 (50%)		
関連科目	森林土木学、木材生産システム、森林マネジメント		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 森林計画・政策論 (英名) Forest Planning and Forest Policy		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	1年前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	逢坂興宏、近藤晃
授業時間	月曜日 3 時限	教室	講義室 3
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	森林は、多面的機能の発揮を通じて、国民が安全で安心して暮らせる社会の実現や、木材等の林産物の供給源として地域の経済活動と深く結びつくなど、さまざまな働きを通じて私たちの暮らしを支える大切な存在であり、森林を保全し、長期的視点にたった計画的かつ適切な森林の取扱いを推進することが必要である。本科目では、これらの森林計画策定に必要な森林の現況調査、森林管理における森林GISの基本的仕組、現場への応用法等について学ぶ。また、森林政策の歴史、森林政策の骨格をなす森林関連法、保安林制度、森林計画制度、補助金、国有林、民有林、木材生産・流通等の基本的事項を学ぶ。さらに、諸外国の森林政策から、持続可能な森林経営に向けた各国の共通性、独自性を学ぶとともに、新たな政策課題についても考察する。		
授業目的・目標	森林計画策定に必要な森林の調査法、森林管理における森林GISの基本的仕組、現場への応用法等について学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	測量 1 : トラバース測量	
	2	測量 2 : 三角測量	
	3	測量 3 , 空中写真測量	
	4	森林計測 1 : 林分調査	
	5	森林計測 2 : 測樹	
	6	森林GIS 1	
	7	森林GIS 2	
	8	森林GIS 3	
	9	森林政策の歴史	
	10	森林・林業基本法	
	11	森林計画制度	
	12	保安林制度	
	13	森林情報システム	
	14	森林認証制度	
15	地球環境問題		
キーワード	測量、空中写真、林分調査、測樹、森林GIS、森林・林業基本法、森林計画制度、森林認証制度		
教科書・参考書	森林計画学 (木平勇吉)、配付資料		
評価方法・評価基準	試験 (50%)、課題 (50%)		
関連科目	森林経営学		
履修要件			
備考			

授業名 家畜飼養学 Animal Feeding		単位数 2単位 履修年次	授業の方法 講義 2年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	祐森誠司
授業時間	木曜日3時限	教室	講義室3
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	牛や豚、鶏などの家畜飼育にあたっては、家畜の維持、成長、生産活動に必要な栄養素の要求量に影響する環境要因について考慮し、物質とエネルギーを効率的に動物生産物に転換することを理解するとともに大規模経営に欠くことのできない自動給餌や除糞、さらに搾乳などの機械化の解説も含む。		
授業目的・目標	本科目では、畜産業の目的である動物生産物を効率良く獲得するために、基礎として動物の種や成長過程における飼料消化性の違いや環境要因による変化について知り、応用内容としてその対策の理由を理解する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	家畜飼養学を学ぶ理由、専門用語の解説	
	2	家畜のライフサイクル	
	3	栄養要求に対するフェーズフィーディングと排せつ物成分の関係	
	4	養分要求量に影響する環境(暑熱、寒冷)要因	
	5	栄養障害(欠乏症)について	
	6	栄養障害(過剰症)について	
	7	乳牛の養分要求量について	
	8	乳牛への飼料給与の特徴と搾乳の自動化(ロボット搾乳)	
	9	肉牛の養分要求量	
	10	肉牛への飼料給与の特徴(首輪等の装着信号による個体識別管理)	
	11	豚の養分要求量	
	12	豚への飼料給与の特徴(大規模化による自動給餌システム)	
	13	家禽の養分要求量	
	14	家禽への飼料給与の特徴(大規模化による自動給餌システム)	
15	総合的なまとめ		
キーワード	家畜[牛、豚、家禽]、栄養、飼料、管理、消化吸収、飼養標準		
教科書・参考書	動物飼養学 石橋 晃他編、(株)養賢堂		
評価方法・評価基準	試験(70%)、課題(30%)		
関連科目	飼料総論、家畜衛生学など、動物生産に関わる科目および、飼料作物関連の科目。		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 家畜飼養学 Animal Feeding		単位数 2単位	授業の方法 講義	
		履修年次	1年 後期	
受講対象	生産環境経営学部			
授業コード	8910234	教員名	祐森誠司	
授業時間	火曜日5時限	教室	講義室3	
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡			
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp			
授業概要	牛や豚、鶏などの家畜飼育にあたっては、家畜の維持、成長、生産活動に必要な栄養素の要求量に影響する環境要因について考慮し、物質とエネルギーを効率的に動物生産物に転換することを理解する。			
授業目的・目標	本科目では、畜産業の目的である動物生産物を効率良く獲得するために、基礎として動物の種や成長過程における飼料消化性の違いや環境要因による変化について知り、応用内容としてその対策の理由を <u>理解する</u> 。			
授業計画・内容	回数	内容		
	1	家畜飼養学を学ぶ理由、専門用語の解説		
	2	家畜のライフサイクル		
	3	栄養要求に対するフェーズフィーディング		
	4	養分要求量に影響する環境(暑熱、寒冷)要因		
	5	栄養障害(欠乏症)について		
	6	栄養障害(過剰症)について		
	7	乳牛の養分要求量について		
	8	乳牛への飼料給与の特徴		
	9	肉牛の養分要求量		
	10	肉牛への飼料給与の特徴		
	11	豚の養分要求量		
	12	豚への飼料給与の特徴		
	13	家禽の養分要求量		
	14	家禽への飼料給与の特徴		
15	総合的なまとめ			
キーワード	家畜〔牛、豚、家禽〕、栄養、飼料、管理、消化吸収、飼養標準			
教科書・参考書	動物飼養学 石橋 晃他編、(株)養賢堂			
評価方法・評価基準	試験(70%)、課題(30%)			
関連科目	飼料総論、家畜衛生学など、動物生産に関わる科目および、飼料作物関連の科目。			
履修要件	特になし			
備考	特になし			

授業名 農林業のための先端技術 Advanced technology for Agriculture and Forestry		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	3年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	松尾和之
授業時間	水曜日 4時限	教室	講義室14
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	<p>各種センサー、モニタリング手法、AI（人工知能）、ロボット等の技術について技術革新が進む中、農業においてもこれら情報科学と農業科学の融合が求められている。これは経営の大規模化、軽労化技術や安全な農産物への要望、気象災害の増加に対して、従来の経験知や労働集約型管理による農業から、情報処理・機械制御技術を活用した農業への変換であり、その適用場面も施設栽培だけでなく土地利用型農業にも及んでいる。また、我が国では実用化はされていないもの、多収やストレス耐性の強化等を目標とした遺伝子組み替えに関する研究が進められており、温暖化や水不足の深刻化が予想される中、農業生産の安定化の手段として有望視されている。本授業では、これら先端技術の導入や研究開発を学ぶことで、将来の農業経営に資する。</p>		
授業目的・目標	センサー、リモートセンシング、AI、自動・ロボット化などの最新の情報処理、農業機械、植物工場など最新の栽培施設の技術、バイオセンサなど、最新の農林業技術について学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	農業を取り巻く情勢（大規模化、軽労化、安全性・高品質化、気象災害）	
	2	情報科学と農業科学の融合（経験知型、労働集約型農業のからの脱却）	
	3	施設型農業における情報科学の利用	
	4	土地利用型農業における情報科学の利用：ストレス評価	
	5	土地利用型農業でのロボティクス・ドローンを活用した栽培管理	
	6	収量コンバインやGPS情報を用いた生産性情報の取得	
	7	フィールドサーバー等IoTによる作物生育情報の収集技術	
	8	農作業の無人化・軽労化技術開発の現状	
	9	農業におけるAI活用（膨大な研究情報・経験知をもとにした意思決定）	
	10	農業におけるAI活用（画像解析による生育診断と栽培管理）	
	11	農業経営におけるAI、IoT等のツールの活用	
	12	遺伝子情報の活用：遺伝子情報の基本とGMO作物の位置づけ	
	13	遺伝子情報：遺伝子マーカーによる育種選抜の効率化	
	14	遺伝子導入：遺伝子組替技術についての研究の現状と成果	
15	革新的技術の農業システム導入にあたっての問題		
キーワード	情報科学と農業科学の融合、生育診断、無人化、軽労化、遺伝子情報、組み替え技術		
教科書・参考書	<p>・授業毎に資料を配布する。</p> <p>参考書：精密農業（渋沢）、農業研究機構、国際農林水産業研究センター等の成果情報、学術論文をもとにしたスライド類</p>		
評価方法・評価基準	レポート（100%）		
関連科目	農学概論		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 農林業のための先端技術 Advanced technology for Agriculture and Forestry		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	3年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	松尾和之
授業時間	金曜日 3時限	教室	講義室14
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	各種センサー、モニタリング手法、AI（人工知能）、ロボット等の技術について技術革新が進む中、農業においてもこれら情報科学と農業科学の融合が求められている。これは経営の大規模化、軽労化技術や安全な農産物への要望、気象災害の増加に対して、従来の経験知や労働集約型管理による農業から、情報処理・機械制御技術を活用した農業への変換であり、その適用場面も施設栽培だけでなく土地利用型農業にも及んでいる。また、我が国では実用化はされていないもの、多収やストレス耐性の強化等を目標とした遺伝子組み替えに関する研究が進められており、温暖化や水不足の深刻化が予想される中、農業生産の安定化の手段として有望視されている。本授業では、これら先端技術の導入や研究開発を学ぶことで、将来の農業経営に資する。		
授業目的・目標	センサー、リモートセンシング、AI、自動・ロボット化などの最新の情報処理、農業機械、植物工場など最新の栽培施設の技術、バイオセンサなど、最新の農林業技術について学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	農業を取り巻く情勢（大規模化、軽労化、安全性・高品質化、気象災害）	
	2	情報科学と農業科学の融合（経験知型、労働集約型農業のからの脱却）	
	3	施設型農業における情報科学の利用	
	4	土地利用型農業における情報科学の利用：ストレス評価	
	5	土地利用型農業でのロボティクス・ドローンを活用した栽培管理	
	6	収量コンバインやGPS情報を用いた生産性情報の取得	
	7	フィールドサーバー等IoTによる作物生育情報の収集と活用	
	8	農作業の無人化技術開発の現状	
	9	農作業の軽労化技術開発の現状	
	10	農業におけるAI活用（膨大な研究情報・経験知をもとにした意思決定）	
	11	農業におけるAI活用（画像解析による生育診断と栽培管理）	
	12	遺伝子情報の活用：遺伝子情報の基本とGMO作物の位置づけ	
	13	遺伝子情報：遺伝子マーカーによる育種選抜の効率化	
	14	遺伝子導入：遺伝子組替技術についての研究の現状と成果	
15	革新的技術の農業システム導入にあたっての問題		
キーワード	情報科学と農業科学の融合、生育診断、無人化、軽労化、遺伝子情報、組み替え技術		
教科書・参考書	参考書：精密農業（渋沢）、農業研究機構、国際農林水産業研究センター等の成果情報、学術論文をもとにしたスライド類		
評価方法・評価基準	レポート（100%）		
関連科目	農学概論		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

10. <職業専門科目の配置が不十分>

専攻する職業分野における労働安全について理解を深める科目が十分に配置されているか疑義があるため、必要に応じて修正し、具体的に対応を説明すること。

(対応)

労働安全について学ぶ科目の配置状況を示し、また、「GAP演習」の授業内容を見直し、労働安全について理解を深める教育課程となっていることを説明する。

(詳細説明)

本学科では、労働安全について学ぶ科目として、「GAP演習」、「大型機械実習Ⅰ」、「労務管理」、「林業機械実習」、「木材生産システム」を配置しているが、今回の御意見を踏まえて検討し、それぞれ下記のように見直す。

労働安全について理解を深めるため、「GAP演習」、「大型機械実習Ⅰ」、「労務管理」を選択科目から、全コースの学生が履修する必修科目へ変更する。また、「GAP演習」は教育内容を見直し、単位数も1単位から2単位へ変更を行う。

GAP (GAP: Good Agriculture Practice、農業生産工程管理) は、農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取り組みであり、農業分野では重要な取り組みとなっている。このため、本学科ではGAPについて学ぶ「GAP演習」を配置し、この中で、機械設備の点検・整備、薬品・燃料等の適切な管理、安全作業のための保護具の着用等の労働安全への取り組みについて学ぶ。また、農作業事故死亡者数のうち、農業機械作業に係る事故が7割近くを占めている現状があることから「大型機械実習Ⅰ」の中で、大型機械の安全使用について学ぶ。さらに、経営者には、労働者が安心して安全に働けるよう労働関係法令の内容を正しく理解する必要があることから、「労務管理」を配置する。

以上に加え、林業は農業よりもさらに事故が多い実態を踏まえ、林業コースは、さらに、「木材生産システム」及び「林業機械実習」をコース必修とし、林業・林産業の労働災害の現状や策、基本的な救急法、林業機械の安全使用について学ぶ。

<労働安全を学ぶ科目> (●必修、◎コース必修)

	2年	3年
共通	●GAP演習 ●労務管理 ●大型機械実習Ⅰ	
林業コース	◎木材生産システム	◎林業機械実習

<新旧対照表>教育課程等の概要

新					旧							
(2 ページ)					(2 ページ)							
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			
			必修	選択	自由				必修	選択	自由	
②職業専門科目	経営管理	簿記基礎	1前		1	②職業専門科目	経営管理	簿記基礎	1前			
		簿記応用	1後		1			簿記応用	1後		1	
		フードシステム論	1後					農と食の経済学	1前			2
		法と農業経営	2前	2				法と農業経営	1後	2		
		経営管理論	2前	2				経営管理論	1後	2		
		農林業経営学	1後	2				農林業経営学	2前			2
		経営戦略	2前	2				経営戦略Ⅰ	2後	2		
		マーケティング論	2後	2				経営戦略Ⅱ	3前			2
		財務会計	2前	2				マーケティング論	2後	2		
		管理会計	3前	1				財務会計	2前	2		
		農林業の経営組織論	3前		2			管理会計	3前			2
		労務管理	2後	2				経営組織論	2前			2
		人材マネジメント	3前		2			労務管理	2後			2
		知的財産権	3後		2			人材マネジメント	3前			2
		農と食の起業論	3後		2			協同組合論	3前			1
経営実習Ⅰ	4前	5		知的財産権	3後			2				
経営実習Ⅱ	4後	5		農と食の起業論	3後	2						
(3 ページ)					(3 ページ)							
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			
			必修	選択	自由				必修	選択	自由	
②職業専門科目	生産技術	大型機械実習Ⅰ	2前	2		②職業専門科目	実習・演習	大型機械実習Ⅰ	2前		2	
		大型機械実習Ⅱ	3前		2			大型機械実習Ⅱ	3前			2
		林業機械実習	3前		2			林業機械実習	3前			2
		GAP演習	2前	2				GAP演習	2後			2
		企業実習	3後	10				企業実習	3後	10		
		小計(93科目)	-	45	150			12	食品加工実習	3前		
					木材加工実習	3前			2			
					販売実習	3後			2			
					森林施業プラン演習	2後			1			
					森林認証演習	2後			1			
					小計(95科目)	-	36	165	0			

<新旧対照表>授業科目の概要

<p>新</p>	<p>(21 ページ)</p> <table border="1" data-bbox="320 277 1289 730"> <tr> <td data-bbox="320 277 600 730"> <p>GAP演習</p> </td> <td data-bbox="600 277 1289 730"> <p>(概要)</p> <p>GAP (Good Agricultural Practice : 農業生産工程管理) とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理などの持続可能性を確保するための生産工程管理の取組である。様々な団体により、農業者が容易に法令を解釈でき、汚染を避ける効果的な措置をとるのに役立つガイドブックであるGAP規範が定められており、JGAPやGLOBALG.A.P.などの認証制度がある。本科目では、GAPの定義や導入されている背景、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理に係るGAP規範、GAP認証制度などの基礎知識について学び、GAPの実践方法について演習を通じて習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(18 貞弘恵/5回) GAPの実践 (畜産編)</p> <p>(25 杉山泰之/20回) GAPの定義と導入の背景、GAP規範、GAP認証制度</p> <p>(33 坂口良介/5回) GAPの実践 (栽培編)</p> </td> </tr> </table>	<p>GAP演習</p>	<p>(概要)</p> <p>GAP (Good Agricultural Practice : 農業生産工程管理) とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理などの持続可能性を確保するための生産工程管理の取組である。様々な団体により、農業者が容易に法令を解釈でき、汚染を避ける効果的な措置をとるのに役立つガイドブックであるGAP規範が定められており、JGAPやGLOBALG.A.P.などの認証制度がある。本科目では、GAPの定義や導入されている背景、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理に係るGAP規範、GAP認証制度などの基礎知識について学び、GAPの実践方法について演習を通じて習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(18 貞弘恵/5回) GAPの実践 (畜産編)</p> <p>(25 杉山泰之/20回) GAPの定義と導入の背景、GAP規範、GAP認証制度</p> <p>(33 坂口良介/5回) GAPの実践 (栽培編)</p>
<p>GAP演習</p>	<p>(概要)</p> <p>GAP (Good Agricultural Practice : 農業生産工程管理) とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理などの持続可能性を確保するための生産工程管理の取組である。様々な団体により、農業者が容易に法令を解釈でき、汚染を避ける効果的な措置をとるのに役立つガイドブックであるGAP規範が定められており、JGAPやGLOBALG.A.P.などの認証制度がある。本科目では、GAPの定義や導入されている背景、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理に係るGAP規範、GAP認証制度などの基礎知識について学び、GAPの実践方法について演習を通じて習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(18 貞弘恵/5回) GAPの実践 (畜産編)</p> <p>(25 杉山泰之/20回) GAPの定義と導入の背景、GAP規範、GAP認証制度</p> <p>(33 坂口良介/5回) GAPの実践 (栽培編)</p>		
<p>旧</p>	<p>(19 ページ)</p> <table border="1" data-bbox="320 815 1289 1200"> <tr> <td data-bbox="320 815 600 1200"> <p>GAP演習</p> </td> <td data-bbox="600 815 1289 1200"> <p>GAP (Good Agricultural Practice : 農業生産工程管理) とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組である。様々な団体により、農業者が容易に法令を解釈でき、汚染を避ける効果的な措置をとるのに役立つガイドブックであるGAP規範が定められており、J-GAPやG-GAPなどの認証制度がある。本科目では、GAPの定義や導入されている背景、GAP規範、GAP認証制度などの基礎知識について学び、GAPの実践方法について演習を通じて習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(18 貞弘恵/3回) GAPの実践 (畜産編)</p> <p>(27 杉山泰之/9回) GAPの定義と導入の背景、GAP規範、GAP認証制度</p> <p>(38 坂口良介/3回) GAPの実践演習 (栽培編)</p> </td> </tr> </table>	<p>GAP演習</p>	<p>GAP (Good Agricultural Practice : 農業生産工程管理) とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組である。様々な団体により、農業者が容易に法令を解釈でき、汚染を避ける効果的な措置をとるのに役立つガイドブックであるGAP規範が定められており、J-GAPやG-GAPなどの認証制度がある。本科目では、GAPの定義や導入されている背景、GAP規範、GAP認証制度などの基礎知識について学び、GAPの実践方法について演習を通じて習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(18 貞弘恵/3回) GAPの実践 (畜産編)</p> <p>(27 杉山泰之/9回) GAPの定義と導入の背景、GAP規範、GAP認証制度</p> <p>(38 坂口良介/3回) GAPの実践演習 (栽培編)</p>
<p>GAP演習</p>	<p>GAP (Good Agricultural Practice : 農業生産工程管理) とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組である。様々な団体により、農業者が容易に法令を解釈でき、汚染を避ける効果的な措置をとるのに役立つガイドブックであるGAP規範が定められており、J-GAPやG-GAPなどの認証制度がある。本科目では、GAPの定義や導入されている背景、GAP規範、GAP認証制度などの基礎知識について学び、GAPの実践方法について演習を通じて習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(18 貞弘恵/3回) GAPの実践 (畜産編)</p> <p>(27 杉山泰之/9回) GAPの定義と導入の背景、GAP規範、GAP認証制度</p> <p>(38 坂口良介/3回) GAPの実践演習 (栽培編)</p>		

<新旧対照表>シラバス

(新) 79 ページ

授業名 GAP演習 GAP Seminar		単位数 2単位	授業の方法 演習
		履修年次	2年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	杉山泰之、坂口良介、貞弘恵
授業時間	水曜日 4, 5時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	GAP (Good Agricultural Practice: 農業生産工程管理) とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理などの持続可能性を確保するための生産工程管理の取組である。様々な団体により、農業者が容易に法令を解釈でき、汚染を避ける効果的な措置をとるのに役立つガイドブックであるGAP規範が定められており、JGAPやGLOBALG.A.P.などの認証制度がある。		
授業目的・目標	GAPの定義や導入されている背景、GAP規範、GAP認証制度などの基礎知識について学び、GAPの実践方法について演習やフィールドワークを通じて習得する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	GAPの概要 (杉山泰之)	
	2	土壌と作物の栄養管理 (杉山泰之)	
	3	農場における水管理 (杉山泰之)	
	4	作物保護と廃棄物の取扱い (杉山泰之)	
	5	農場内の施設・資材管理 (杉山泰之)	
	6	農産物の安全性と食品衛生 (杉山泰之)	
	7	労働安全の確保 (杉山泰之)	
	8	農業管理の作業手順づくりと周知方法・社員教育の必要性 (杉山泰之)	
	9	人権保護(杉山泰之)	
	10	農場経営管理(杉山泰之)	
	11	リスク評価 (杉山泰之)	
	12	リスクの回避と模擬演習 (杉山泰之)	
	13	モデル農場のリスク調査 (フィールドワーク) (杉山泰之)	
	14	モデル農場のリスク調査 (フィールドワーク) (杉山泰之)	
	15	モデル農場のリスク評価 (グループワーク) (杉山泰之)	
	16	モデル農場のリスク評価 (グループワーク) (杉山泰之)	
	17	リスク評価の発表・検討 (杉山泰之)	
	18	リスク評価の発表・検討 (杉山泰之)	
	19	GAP認証の取得方法 (杉山泰之)	
	20	GAP認証の取得方法 (杉山泰之)	
	21	畜産実践編 飼養衛生と環境保全 (貞弘恵)	
	22	畜産実践編 アニマルウェルフェアに対応した飼養管理 (貞弘恵)	
	23	畜産実践編 畜産物生産工程におけるリスク管理 (貞弘恵)	
	24	畜産実践編 生産資材 (動物用医薬品・精液・受精卵・素畜・飼料・敷料) の管理 (貞弘恵)	
	25	畜産実践編 畜産現場における労働安全管理 (貞弘恵)	
	26	栽培実践編 施肥計画の検討 (坂口良介)	
	27	栽培実践編 防除計画の検討 (坂口良介)	
	28	栽培実践編 収穫作業方法の検討 (坂口良介)	
	29	栽培実践編 モデル圃場での改善実習 (坂口良介)	
	30	栽培実践編 モデル圃場での改善実習 (坂口良介)	
キーワード	農場管理、農産物、安全性、リスク、ハザード、J-GAP、G-GAP		
教科書・参考書	日本GAP協会「農場管理を“見える化”し、食の安全を確保する 実務者のための日本GAP協会 JGAP導入ガイドブック」、日本生産者GAP協会「日本GAP規範ver 1.1」 (幸書房)		
評価方法・評価基準	レポート (50%)、履修態度 (50%)		
関連科目	労務管理、大型機械実習Ⅰ・Ⅱ、栽培学、野菜園芸学、果樹園芸学、花き園芸学、家畜飼養学、家畜福祉学、飼料総論、自給飼料、畜産法規、家畜衛生学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 GAP 演習 (GAP Seminar)		単位数 2 単位	授業の方法 演習
		履修年次	2 年 後期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	杉山泰之、坂口良介、貞弘恵
授業時間	火曜日 3, 4 時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	GAP (Good Agricultural Practice : 農業生産工程管理) とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組である。様々な団体により、農業者が容易に法令を解釈でき、汚染を避ける効果的な措置をとるのに役立つガイドブックである GAP 規範が定められており、J-GAP や G-GAP などの認証制度がある。		
授業目的・目標	GAP の定義や導入されている背景、GAP 規範、GAP 認証制度などの基礎知識について学び、GAP の実践方法について演習を通じて習得する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	農場内の責任分担の明確化と生産環境の確認とリスク検討	
	2	土壌と作物の栄養管理	
	3	農場における水管理	
	4	農場内の施設・資材管理	
	5	廃棄物の取扱い	
	6	農産物の安全性と食品衛生	
	7	労働安全の確保	
	8	農業管理の作業手順づくりと周知方法・社員教育の必要性	
	9	記録の検証と自己審査	
	10	家畜衛生と環境対策	
	11	アニマルウェルフェアに対応した飼養管理	
	12	生産資材 (精液・受精卵・素畜・飼料・敷料) の管理	
	13	圃場管理と作物保護① (施肥計画の検討)	
	14	圃場管理と作物保護① (防除計画の検討)	
15	圃場管理と作物保護③ (収穫作業方法の検討)		
キーワード	農場管理、農産物、安全性、リスク、ハザード、J-GAP、G-GAP		
教科書・参考書	日本GAP協会「農場管理を“見える化”し、食の安全を確保する 実務者のための日本GAP協会 JGAP導入ガイドブック」、日本生産者GAP協会「日本GAP規範ver 1.1」(幸書房)		
評価方法・評価基準	レポート (50%)、履修態度 (50%)		
関連科目	家畜飼養学、家畜福祉学、飼料総論、自給飼料、畜産法規、家畜衛生学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

11. <展開科目の設定が不明確>

展開科目は、「専攻する特定の職業分野に関連する他分野の応用的な能力であって、当該職業の分野において創造的な役割を果たすために必要なものを育成する」ことを目的としているが、「環境保全型農業論」、「野生鳥獣管理・利用論」等、職業専門科目に位置付けるべき内容と考えられる科目が含まれている。展開科目を通じて育成する人材像を明確にし、必要な能力を修得するための科目を展開科目に配置するよう修正すること。

(対応)

展開科目を通じて育成する人材像を踏まえて展開科目に配置すべき科目を見直し、次の科目を展開科目から職業専門科目に変更する。

「環境保全型農業論」、「畜産環境学」、「森林マネジメント論」、「野生鳥獣管理・利用論」、「農と食の健康論」

また、展開科目を通じて育成する人材像と、必要な能力を修得するための科目についての説明を「設置の趣旨等を記載した書類」に追加する。

(詳細説明)

1 展開科目を通じて育成する人材像

本学において養成する人材像は、「農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材」であり、そのための資質・能力を身に付けた農林業経営者を養成することとしている。

農山村の地域社会における将来のリーダーに求められる知識のうち、農山村の自然環境や景観の保全については、専門分野との一体性が高いため職業専門科目において学び、展開科目においては、農山村の伝統・文化の継承や、伝統・文化を育む農山村の地域社会に関する知識を身に付けることとする。

一方、農林業は、年々、国内外の産地間競争が厳しさを増すとともに、消費者ニーズも多様化してきており、農林業経営を持続的に発展させていくためには、経営規模の拡大だけでなく、消費者ニーズの多様化等に対応して、農林業経営において新たな事業展開を生み出していく必要がある。

そのような農林業経営における新たな事業展開を生み出すための手段の一つとして、農山村に由来する様々な地域資源と農林業を結び付けることによる新たな価値の創造が考えられる。具体例としては、地域の特性を活かした観光農園や農家レストラン、農家民宿、農村体験などが考えられるが、こうした新たな事業展開を企画するためには、農山村の地域資源である伝統・文化の継承や、伝統・文化を育む農山村の地域社会に関する知識を身に付けるとともに、それらを活用するための手法を理解することが必要となる。

これらのことから、本学においては、展開科目の学習を通じて、農山村の地域社会における

将来のリーダーに求められる農山村の伝統・文化の継承や、伝統・文化を育む農山村の地域社会に関する知識を身に付けるとともに、農山村の伝統・文化などの地域資源を活用することにより、農林業経営に新たな事業展開を生み出すための創造力を備えた農林業経営者を養成するものとする。

2 必要な能力を修得するための科目

展開科目を通じて育成する人材像を踏まえて配置する科目を見直し、次の科目を展開科目から職業専門科目に変更する。

「環境保全型農業論」、「畜産環境学」、「森林マネジメント」、「野生鳥獣管理・利用論」、「農と食の健康論」

さらに、展開科目として、農山村の伝統・文化の継承や、伝統・文化を育む農山村の地域社会について学ぶ科目を、以下のとおり配置することとする。

<展開科目> (●：必修科目)

区分	1年	2年	3年
農山村の 伝統・文 化の継承	●農山村田園地域公共学	●食文化論 ●農と食の哲学	●農村景域論 ●在来作物学
農山村の 地域社会		●農村社会論 ●医福食農連携論	●農山村デザイン演習 ●グリーン・ツーリズム論 ●コミュニティビジネス論

<新旧対照表>教育課程等の概要

新					旧						
(3 ページ)					(3 ページ)						
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		
			必修	選択	自由				必修	選択	自由
③ 展開科目	農山村の伝統・文化の継承	農山村田園地域公共学	1後	2		共通	農山村田園地域公共学	1後	2		
		農村景城論	3前	2							
		農と食の哲学	2前	2		環境保全	環境と農林業	2前	2		
		食文化論	2後	2			環境保全型農業論	4前	2		
		在来作物学	3前	2			森林マネジメント論	4前	2		
		農山村の地域社会	農村社会論	2前	2		畜産環境学	4前	2		
			農山村デザイン演習	3前	2		農村景城論	3前	2		
			医福食農連携論	2後	2	③ 展開科目	農村社会論	2前	2		
			グリーン・ツーリズム論	3前	2		農山村デザイン演習	2前	2		
			コミュニティビジネス論	3後	2		農と食の哲学	2前	2		
	小計(10科目)	-	20	0	0		農と食の健康論	2後	2		
							医福食農連携論	2後	2		
							グリーン・ツーリズム論	3前	2		
						食文化論	2後	2			
						コミュニティビジネス論	3前	2			
						在来作物学	3前	2			
						野生鳥獣管理・利用論	3前	2			
						小計(16科目)	-	2	30	0	

(設置の趣旨等を記載した書類)

新	旧
(●ページ)	(21 ページ)
4 教育課程の編成の考え方及び特色 (略)	4 教育課程の編成の考え方及び特色 (略)
(4) 展開科目 農山村の地域社会における将来のリーダーに求められる農山村の伝統・文化の継承や、伝統・文化を育む農山村の地域社会に関する知識を身に付けるとともに、農山村の伝統・文化などの地域資源を活用することにより、農林業経営に新たな事業展開を生み出すための創造力を備えた農林業経営者を養成するための科目を配置する。	(4) 展開科目 農林業の新たな展開につながる応用的能力や、創造的役割を果たすために必要な能力を育成するため、農林業や農山村が持つ多面的機能を学ぶ科目を配置する。 多面的機能の総論について学ぶ「農山村田園地域公共学」を必修科目として配置し、選択科目については環境保全科目群と農山村振興科目群の2つの科目群を配置する。
①農山村の伝統・文化の継承の科目群 農山村の歴史や文化、多面的機能などについて学ぶ「農山村田園地域公共学」、	①環境保全の科目群 環境保全科目群は5科目を配置する。 農林業と環境の総論を学ぶ「環境と農林

新	旧
<p><u>日本や世界の食文化について学ぶ「食文化論」、農と食の営みの本質について考える「農と食の哲学」、農村に暮らす人々の生業と歴史文化との関係から農村景域について学ぶ「農村景域論」、生きた文化財とも呼ばれる在来作物の過去・現在・未来について考える「在来作物学」を必修科目として配置する。</u></p> <p>②農山村の地域社会の科目群</p> <p><u>農山村の生活や地域社会の特徴について学ぶ「農村社会論」、農山村において地域住民と交流し、地域や地域住民が抱える課題を発見し、その解決策を考える「農山村デザイン演習」、グリーン・ツーリズムの現状・課題・展開について考える「グリーン・ツーリズム論」、農と医、農と福の連携について学ぶ「医福食農連携論」、地域が抱える課題を地域資源を活かしながらビジネス的な手法により解決する手法などについて学ぶ「コミュニティビジネス論」を必修科目として配置する。</u></p> <p>(5) 総合科目 (略)</p>	<p><u>業」、農村の景観について学ぶ「農村景域論」、環境に配慮した農林業について学ぶ「環境保全型農業論」、「森林マネジメント論」、「畜産環境学」を配置する。</u></p> <p>②農山村振興の科目群</p> <p><u>農村と健康・福祉について学ぶ「農村社会論」、「農山村デザイン演習」、「農と食の哲学」、「農と食の健康論」、「医福食農連携論」、農山村地域の資源とビジネスについて学ぶ「グリーン・ツーリズム論」、「食文化論」、「野生鳥獣管理・利用論」、「在来作物学」、「コミュニティビジネス論」、「在来作物学」、「野生鳥獣管理・利用論」を配置する。</u></p> <p>(5) 総合科目 (略)</p>

12. <卒業要件の記載が不適切>

専門職大学制度において、実習等にかかる授業科目を40単位以上修得する必要があるが、学則や教育課程の概要の卒業要件において明確な指定がなく、必要な実習に関する単位数を修得することが担保されていないため、適切に改めること。

(対応)

学則や教育課程の概要の卒業要件において明確に指定し、実習にかかる授業科目の履修単位数が40単位以上であることを明確にするため記載を改める。

なお、卒業に必要な実習は下記のとおりであり、共通の必修の実習30単位である。なお、GAP演習及び農山村デザイン演習は演習による実習等代替授業科目とする。また、栽培コース及び畜産コースはコース必修の実習が12単位、林業コースはコース必修の実習が14単位である。このため、栽培コース及び畜産コースでは必修とコース必修を合わせた42単位、林業コースは44単位を学修する。

<必修科目>

項目	科目	単位数
共通	保健体育 I	2
	総合実習	2
	大型機械実習 I	2
	企業実習	10
	経営実習 I	5
	経営実習 II	5
	GAP 演習※	2
	農山村デザイン演習※	2
	小計	30

<コース必修科目>

項目	科目	単位数
栽培コース	圃場実習 (栽培)	2
	生産マネジメント実習 I (栽培)	4
	生産マネジメント実習 II (栽培)	4
	販売実習	2
	小計	12
林業コース	演習林実習	2
	生産マネジメント実習 I (林業)	4
	生産マネジメント実習 II (林業)	4
	林業機械実習	2
	木材加工実習	2
	小計	14
畜産コース	圃場実習 (畜産)	2
	生産マネジメント実習 I (畜産)	4
	生産マネジメント実習 II (畜産)	4
	販売実習	2
	小計	12

※演習による実習等代替授業科目

(新旧対照表) 専門職大学等における実験、又は実技による授業科目並びにこれに代替する授業科目一覧

(新)

別記様式第2号(その2の4)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

専門職大学等における実験、実習又は実技による授業科目並びにこれに代替する演習による授業科目一覧							
(生産環境経営学部生産環境経営学科)							
科目区分	授業科目の名称	単位数			授業形態 [臨/連]	臨地実務実習に代えて連携実務演習等(実験、実習又は実技によるものに限る。)を修得させる理由及び見込まれる教育効果	
		必修	選択	自由			
実験、実習又は実技による授業科目	基礎科目	茶道		1		臨地実務実習に代えて連携実務演習等(実験、実習又は実技によるものに限る。)を修得させる理由及び見込まれる教育効果	
	基礎科目	董道		1			
	基礎科目	保健体育Ⅰ	2				
	基礎科目	保健体育Ⅱ		2			
	職業専門科目	経営実習Ⅰ	5				実習 [臨]
		経営実習Ⅱ	5				実習 [臨]
		総合実習	2				実習
		圃場実習(栽培)		2			実習
		圃場実習(畜産)		2			実習
		演習林実習		2			実習
		生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)		4			実習
		生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)		4			実習
		生産マネジメント実習Ⅰ(林業)		4			実習
		生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)		4			実習
		生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)		4			実習
		生産マネジメント実習Ⅱ(林業)		4			実習
		大型機械実習Ⅰ	2				実習
		大型機械実習Ⅱ		2			実習
		林業機械実習		2			実習
	企業実習	10			実習 [臨]		
	食品加工実習		2		実習		
	木材加工実習		2		実習		
	販売実習		2		実習		
展開科目	該当なし						
総合科目	該当なし						
小計 (23科目)		26	44	0			
うち卒業・修了に必要な実習等単位数		26	12	—			
うち卒業・修了に必要な臨地実務実習等単位数		20	0	—			
科目区分	授業科目の名称	単位数			授業形態 [臨/連]	実験、実習又は実技に代えて演習による授業科目を修得させる事由及び見込まれる教育効果	
		必修	選択	自由			
演習による実習等代替授業科目	基礎科目	該当なし				実習等に変えて演習を行う理由として、演習を行うことで、実際の事例に基づいた根拠的な学びが可能になるという効果が期待される。これにより、課題を発見し解決する技能を修得することが可能となり、実際の現場において自ら実践できるという効果が見込まれる。	
	職業専門科目	GAP演習	2		演習		
	展開科目	農山村デザイン演習	2		演習		
	総合科目	該当なし					
小計 (2科目)		4	—	()			
うち卒業・修了に必要な演習代替単位数		4	—	—			
うち卒業・修了に必要な連携実務演習等単位数		0	—	—			
合計 (25科目)		30	44	()			
うち卒業・修了に必要な実習等又は演習単位数		30	12	—			
うち卒業・修了に必要な臨地実務実習等単位数		20	0	—			

(旧)

専門職大学等における実験、実習又は実技による授業科目並びにこれに代替する演習による授業科目一覧 (生産環境経営学部生産環境経営学科)						
科目区分	授業科目の名称	単位数			授業形態 [臨/連]	臨地実務実習に代えて連携実務演習等(実験、実習又は実技によるものに限る。)を修得させる理由及び見込まれる教育効果
		必修	選択	自由		
実験、 実習又は 実技による 授業科目	基礎科目	保健体育Ⅰ 保健体育Ⅱ	2			実技 実技
	職業専門科目	総合実習	2			実習
		圃場実習(栽培)		2		実習
		圃場実習(畜産)		2		実習
		演習林実習		2		実習
		生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)		4		実習
		生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)		4		実習
		生産マネジメント実習Ⅰ(林業)		4		実習
		生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)		4		実習
		生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)		4		実習
		生産マネジメント実習Ⅱ(林業)		4		実習
		大型機械実習Ⅰ		2		実習
		大型機械実習Ⅱ		2		実習
		林業機械実習		2		実習
	企業実習	10			実習 [臨]	
食品加工実習		2		実習		
木材加工実習		2		実習		
販売実習		2		実習		
展開科目	該当なし					
総合科目	経営実習Ⅰ	5			実習 [臨]	
	経営実習Ⅱ	5			実習 [臨]	
	プロジェクト研究Ⅰ	2			実習	
	プロジェクト研究Ⅱ	4			実習	
小計 (21科目)		30	44	0		
うち卒業・修了に必要な実習等単位数		30	10	—		
うち卒業・修了に必要な臨地実務実習等単位数		20	0	—		
科目区分	授業科目の名称	単位数			授業形態 [臨/連]	実験、実習又は実技に代えて演習による授業科目を修得させる事由及び見込まれる教育効果
		必修	選択	自由		
演習による 実習等代替 授業科目	基礎科目	該当なし				
	職業専門科目	該当なし				
	展開科目	該当なし				
	総合科目	該当なし				
	小計 (科目(科目))		()	()	()	
うち卒業・修了に必要な演習代替単位数		()	()	—		
うち卒業・修了に必要な連携実務演習等単位数		()	()	—		
合計 (科目(科目))		()	()	()		
うち卒業・修了に必要な実習等又は演習単位数		()	()	—		
うち卒業・修了に必要な臨地実務実習等単位数		()	()	—		

13. <臨地実務実習の具体的計画が不明確>

臨地実務実習について、具体的な説明が不足しているため、以下の点も踏まえて具体的な計画を示し、大学教育としてふさわしい実習水準が確保されていることを説明すること。その際、計画している実習要綱等を添付すること。

- (1) 実習の内容や学生にどのような能力を獲得させるのか、ディプロマ・ポリシーも踏まえて具体的に説明すること。また、習得させようとする知識・技能及びその修得状況の評価方法・評価基準を計画している実習評価表を示し、具体的に説明すること。

(対応)

臨地実務実習の具体的な説明が不足していたため、臨地実務実習として配置している「企業実習」、「経営実習Ⅰ」、「経営実習Ⅱ」の内容について具体的に説明し、大学教育としての実習水準が確保されていることを説明する。また、計画している「臨地実務実習要綱」を添付する。さらに、設置の趣旨等について記載した書類に、臨地実務実習の内容を追記する。(別添資料13: 臨地実務実習要綱)

(詳細説明)

1 臨地実務実習の流れ

本学の養成する人材像は、「農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材」である。

これを踏まえたディプロマポリシー3の「農林業生産現場の状況を的確に把握するための農林業生産に関する基礎的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術に関する知識」を身に付けるため、生産の知識や知識を学ぶ「企業実習」(3年次後期 必修10単位)を配置する。

また、ディプロマポリシー2の「農林業経営体の大規模化や経営の多角化に対応していくための経営管理能力、農林業経営に活用される先端技術や加工・流通・販売などに関する知識」を身に付けるため、生産現場のマネジメントについて学ぶ「経営実習Ⅰ」(4年次前期 必修5単位)、農林業経営について学ぶ「経営実習Ⅱ」(4年次後期 必修5単位)を配置する。

<臨地実務実習の流れ>

3年(後期)	4年(前期)	4年(後期)
企業実習	→ 経営実習Ⅰ	→ 経営実習Ⅱ
(目的) 実践的な生産技術	(目的) 生産現場のマネジメントを行うために必要な知識・技能	(目的) 農林業経営体の経営や経営戦略、加工、流通、販売等

2 実習の具体的な内容

(1)「企業実習」(3年次後期 必修10単位)

①目的

先進的な農林業経営体の生産現場での実習を通じて、学内で学んだ知識・技能をもとに実践的な生産技術を学ぶ。

②目標

- a. 生産現場での基本的な作業工程について理解することが出来る。
- b. 各作業工程に必要な基本的な技術を身につける。

③方法

実習は、「臨地実務実習要綱」に基づいて実施する。

3年次後期に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約2カ月間実施する。学生数は1施設1名を予定している。

企業実習の受講に当たっては、「圃場実習(栽培)」、「圃場実習(畜産)」、「演習林実習」、「生産マネジメント実習Ⅰ」において、基本的な生産技術を学んでいることを前提とする。実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。

実習中は、臨地実務実習指導者のもと、実際の生産現場を体験する。日々の作業は、臨地実務実習指導者の指示に従って行い、毎日、作業内容について記録を行う。実習指導は、臨地実務実習指導者と本学教員が連携し、適宜連絡を取り合い、学生の実習状況について情報を共有し、助言・指導を行う。

実習終了後は、報告書の作成、報告会の実施により、生産現場で必要となる技術について理解を深める。

(2) 経営実習Ⅰ(4年次前期 必修5単位)

①目的

生産現場のマネジメントを行うために必要な知識・技能を学ぶ。

②目標

- a. 生産現場の年間計画が理解できる。
- b. 生産現場の必要な要素(資材、労力、資金)について理解し、これらを適切に配置した生産マネジメントについて理解できる。

③方法

実習は、「臨地実務実習要綱」に基づいて実施する。

4年次前期に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約1ヶ月間の実習を行う。1施設1～4名を想定している。

実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもとで作業を行いながら、人員配置、機械、生産資材の利用計画など生産現場のマネジメントに必要な知識・技能を学ぶ。実習終了後は経営分析演習Ⅰにて実習先の分析を行った後、報告会を実施し、生産現場のマネジメントについて理解を深める。

(3) 経営実習Ⅱ（4年次後期 必修5単位）

①目的

農林業経営体の経営や経営戦略、加工、流通、販売等について学ぶ。

②目標

- a 農林業経営体の経営戦略について理解する。
- b 経営戦略に基づいた経営のあり方について理解する。
- c 生産現場以外の加工・流通・販売について理解する。

③方法

実習は、「臨地実務実習要綱」に基づいて実施する。

4年次後期に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約1ヶ月間の実習を行う。1施設1～4名を想定している。

実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもと作業を行いながら、農林業経営体の経営、生産現場以外の加工・流通・販売等について学ぶ。実習終了後は、経営分析演習Ⅱにて研修先の分析を行った後、報告会を実施し、農林業経営について理解を深める。

3 評価方法

全日程の80%以上の出席で単位認定の資格を得るものとする。単位認定における成績評価の項目は、a～dの通りである。aについては、臨地実務実習指導者へ評価基準を示す。「企業実習」では、「職業人としての適性」、「生産管理」について、「経営実習Ⅰ」では、「職業人としての適性」、「生産管理」、「作業管理」について、「経営実習Ⅱ」では、「職業人としての適性」、「生産管理」、「作業管理」、「財務管理」について評価基準を設けて、評価を行う。なお、評価表は、「臨地実務実習要綱」27ページ以降に示す。

<成績評価の項目>

- a. 臨地実務実習指導者による成績評価
- b. 臨地実務実習中の作業記録・自己点検表
- c. 臨地実務実習後の報告会での報告内容
- d. 事後報告書

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (40 ページ)

新	旧
11 実習の具体的計画 (略) <u>(2) 臨地実務実習</u> (資料 29 臨地実務 実習指導要綱) <u>①実習の流れ</u> 本学の臨地実務実習は、教育課程で示	11 実習の具体的計画 (略) (2) 臨地実務実習 ①実習の目的 3年次の「企業実習」では、農林業

新	旧				
<p>す「<u>企業実習</u>」、「<u>経営実習Ⅰ</u>」、「<u>経営実習Ⅱ</u>」を行う。<u>臨地実務実習の内容は「臨地実務実習要綱」を基本として実施する。</u></p> <div style="text-align: center;"> <table border="1" style="margin: 0 auto;"> <tr> <td style="padding: 2px;">1年次</td> <td style="padding: 2px;">2年次</td> <td style="padding: 2px;">3年次</td> <td style="padding: 2px;">4年次</td> </tr> </table> </div> <p><臨地実務実習の流れ></p> <p>②専門職大学としての取り組み</p> <p><u>専門職大学としての教育成果をあげるための取り組みとして、職業専門科目に多くの実習科目を配置し、生産から販売まで農林業経営に必要な知識や技能を学修した上で、臨地実務実習を実施する履修体系とする。学内実習では、チェック表を作成して学生が学修すべき知識や技能を明確にし、実習を実施する。</u></p> <p><u>成績評価は、臨地実務実習の評価基準を本学として統一し、専任教員による認定ではなく、臨地実務実習委員会による認定とする。</u></p> <p><u>臨地実務実習の水準を保つため、臨地実務実習終了後に、学生が臨地実務先を評価するためのアンケート調査を実施する。この結果は、臨地実務実習の目標と学修に乖離がないかを確認し、臨地実務実習指導者と専任教員の連携した指導に活用する。</u></p> <p>③臨地実務実習計画の概要</p> <p><u>本学の養成する人材像である「農林業の生産技術や知識にくわえ、経営体の経営革新を推進する、加工・流通・販売への応用力や経営管理能力、先端技術への対応力を有する」ことを目標に、農林業経営者とし</u></p>	1年次	2年次	3年次	4年次	<p>経営体で実習を行うことで、実践的な生産技術を、4年次の「<u>経営実習Ⅰ</u>」および「<u>経営実習Ⅱ</u>」では、実践的な経営について学ぶことを目的とする。</p> <p>②実習の目標</p> <p>実際の農林業現場で学ぶことで、実践的な生産技術や生産現場のオペレーション、経営戦略に基づいた経営手法等を修得することを目標とする。</p> <p>③実習の計画</p> <p>ア 3年次</p> <p>実践的な生産技術について学ぶ「<u>企業実習</u>」を配置する。</p> <p>イ 4年次</p>
1年次	2年次	3年次	4年次		

新	旧
<p>ての態度や責任、生産の知識と技術、経営管理能力を身につけるとともに、自主的に学習を進める能力と、他者との協調力を養う。</p> <p>臨地実務実習は3年次に「企業実習」(必修 10 単位)、4年次に「経営実習Ⅰ」(必修 5 単位)と「経営実習Ⅱ」(必修 5 単位)を配置する。</p> <p>④臨地実務実習の実施</p> <p>臨地実務実習指導者の指導を受けながら、農林業の実際について体験し、各実習の目標を達成することで、農林業経営に必要な能力を養う。</p> <p>⑤臨地実務実習の種類と目的</p> <p>ア 「企業実習」(3年次後期 必修 10 単位)</p> <p>(ア) 目的</p> <p>先進的な農林業経営体での実習を通じて、学内で学んだ知識・技能をもとに実践的な生産技術を学ぶ。</p> <p>(イ) 目標</p> <p>a. 生産現場での基本的な作業工程について理解することが出来る。</p> <p>b. 各作業工程に必要な基本的な技術を身につける。</p> <p>(ウ) 方法</p> <p>実習は、「臨地実務実習要綱」(資料 29)に基づいて実施する。</p> <p>3年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約2カ月間実施する。学生数は1施設1名を予定している。</p> <p>企業実習の受講に当たっては、「圃</p>	<p>農林業経営体の生産現場において、農林業経営体の持続と発展に向けた効率的な人員配置、適切な生産資材の利用、生産情報の収集と利用法について学ぶ「経営実習Ⅰ」と、農林業経営体の経営戦略と戦略に基づく経営について学ぶ「経営実習Ⅱ」を配置する。</p> <p>④実習先の確保状況</p> <p>「企業実習」及び「経営実習Ⅰ」、「経営実習Ⅱ」の実習先である農林業経営体は、32 経営体を確保している。</p> <p>なお、実習の実施に当たっては、受入先と大学の間で受入れに関する取り決めを交わす。</p> <p>⑤実習先との連携体制</p> <p>ア 実習前の連携体制</p> <p>実習前には、学生、担当教員、受入側で事前に実習計画の確認を、大学側と受入側が緊密に連携して事前準備を行う。</p> <p>イ 実習中の連携体制</p> <p>実習中は、受入側の担当者を決め、学生が相談しやすい体制を作る。</p> <p>また、教員が定期的に訪問し、受入側や学生に実習の実施状況や学生の状況を確認する。</p> <p>ウ 実習後の連携体制</p> <p>実施後は、問題点や課題点を大学側と受入側で共有し、次回の実習に反映する体制とする。</p>

新	旧
<p><u>場実習（栽培）、「圃場実習（畜産）」、「演習林実習」及び「生産マネジメント実習Ⅰ」において、基本的な生産技術を学んでいることを前提とする。</u></p> <p><u>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</u></p> <p><u>実習中は、臨地実務実習指導者のもと、実際の生産現場を体験する。日々の作業は、臨地実務実習指導者の指示に従って行い、毎日、作業内容について記録を行う。実習指導は、臨地実務実習指導者と本学教員が連携し、適宜連絡を取り合い、学生の実習状況について情報を共有し、助言・指導を行う。</u></p> <p><u>実習終了後は、報告書の作成、報告会の実施により、生産現場や生産現場で必要となる技術について理解を深める。</u></p> <p><u>(エ) 評価</u></p> <p><u>単位認定における成績評価の項目は、次の通りである。</u></p> <p><u>a. 臨地実務実習指導者による成績評価</u></p> <p><u>b. 臨地実務実習中の作業記録・自己点検表</u></p> <p><u>c. 臨地実務実習後の報告会での報告内容</u></p> <p><u>d. 事後報告書</u></p> <p><u>イ 経営実習Ⅰ（4年次前期 必修5単位）</u></p> <p><u>(ア) 目的</u></p> <p><u>生産現場のマネジメントを行うために必要な知識・技能を学ぶ。</u></p> <p><u>(イ) 目標</u></p> <p><u>a. 生産現場の年間計画が理解できる。</u></p> <p><u>b. 生産現場の必要な要素（資材、労力、資金）について理解し、これらを適切に配置した生産マネジメントにつ</u></p>	

新	旧
<p><u>いて理解できる。</u></p> <p><u>(ウ) 方法</u></p> <p><u>実習は、「臨地実務実習要綱」(資料29)に基づいて実施する。</u></p> <p><u>4年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約1ヶ月間の実習を行う。1施設1～4名を想定している。</u></p> <p><u>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</u></p> <p><u>実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもとで作業を行いながら、人員配置、機械、生産資材の利用計画など生産現場のマネジメントに必要な知識・技能を学ぶ。</u></p> <p><u>実習終了後は経営分析演習Ⅰにて実習先の分析を行った後、報告会を実施し、生産現場のマネジメントについて理解を深める。</u></p> <p><u>(エ) 評価</u></p> <p><u>単位認定における成績評価の項目は、次の通りである。</u></p> <p><u>a. 臨地実務実習指導者による成績評価</u></p> <p><u>b. 臨地実務実習中の作業記録・自己点検表</u></p> <p><u>c. 臨地実務実習後の報告会での報告内容</u></p> <p><u>d. 事後報告書</u></p> <p><u>ウ 経営実習Ⅱ(4年次後期 必修5単位)</u></p> <p><u>(ア) 目的</u></p> <p><u>農林業経営体の経営や経営戦略、加工、流通、販売等について学ぶ。</u></p> <p><u>(イ) 目標</u></p> <p><u>a. 農林業経営体の経営戦略について理解する。</u></p>	

新	旧
<p><u>b. 戦略に基づいた経営のあり方について理解する。</u></p> <p><u>c. 生産現場以外の加工・流通・販売について理解する。</u></p> <p><u>(ウ) 方法</u></p> <p><u>実習は、「臨地実務実習要綱」(資料29)に基づいて実施する。</u></p> <p><u>4年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約1ヶ月間の実習を行う。1施設1～4名を想定している。</u></p> <p><u>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</u></p> <p><u>実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもと作業を行いながら、農林業経営体の経営、生産現場以外の加工・流通・販売等について学ぶ。</u></p> <p><u>実習終了後は、経営分析演習Ⅱにて研修先の分析を行った後、報告会を実施し、農林業経営について理解を深める。</u></p> <p><u>(エ) 評価</u></p> <p><u>単位認定における成績評価の項目は、次の通りである。</u></p> <p><u>a. 臨地実務実習指導者による成績評価</u></p> <p><u>b. 臨地実務実習中の作業記録・自己点検表</u></p> <p><u>c. 臨地実務実習後の報告会での報告内容</u></p> <p><u>d. 事後報告書</u></p> <p>⑥実習先の確保状況と選定基準</p> <p><u>「企業実習」の臨地実務実習先は、生産に関する技術力を有している株式会社や有限会社、協同組合とし、本選定基準を満たす実習先として、24</u></p>	<p>⑥実習水準の確保と対策</p> <p>各実習先には、1～5名の少人数の学生を配置し、受入先から細かな指導が受けられるよう体制を整える。実習中は、専任教員が定期的に受入先を訪問し、実習の実施状況について確認を行い、問題点や課題点があれば、受入先と連携しながら解決に努める。</p>

新	旧
<p><u>経営体を確保している。</u></p> <p><u>「経営実習Ⅰ・Ⅱ」の臨地実務実習先は、将来の経営幹部を目指す学生のモデルとなりうる十分な経営規模(年間売上高5千万円以上)を有する法人経営体とし、選定基準を満たす実習先を8経営体確保している。</u></p> <p>⑦実習先との連携体制</p> <p><u>教員と臨地実務実習指導者が連携して臨地実務実習指導を行う。それぞれの役割分担を共通理解し、緊密な連携のもとで学習効果の高い臨地実務実習が可能となる体制を構築する。</u></p> <p><u>実習前には、学生、担当教員、受入側で事前に実習計画を確認し、教員と受入側が緊密に連携して事前準備を行う。</u></p> <p><u>実習中は、受入側の担当者を決め、学生が相談しやすい体制を作る。</u></p> <p><u>また、教員が定期的に訪問し、受入側や学生に実習の実施状況や学生の状況を確認する。</u></p> <p><u>実施後は、問題点や課題点を教員と受入側で共有し、次回の実習に反映する体制とする。</u></p> <p><u>ア 教員：臨地実務実習担当者</u></p> <p><u>専任教員が担当し、臨地実務実習の計画・実施・評価、臨地実務実習指導体制の構築、臨地実務実習施設との連絡調整、臨地実務実習指導者と臨地実務実習内容・方法に関する協議・調整の役割を担う。</u></p> <p><u>イ 農林業経営体：臨地実務実習指導者</u></p> <p><u>臨地実務実習指導者は、受入側の農林業経営体の社員(職員)で、現場での経験が5年以上ある者とする。</u></p>	

新	旧
<p>⑧実習水準の確保と対策</p> <p><u>臨地実務実習の水準を保つため、先に示した隣地実務実習指導体制、及び臨地実務実習施設との連携体制の構築を行う。また、学生に対しては、実習先の選定から実習前の事前学習までの指導を丁寧に行い、臨地実務実習の目的の周知と学生の不安軽減に努め、実習中も指導できる体制を構築する。</u></p> <p><u>各実習先には、1～4名の少人数の学生を配置し、受入先から細かな指導が受けられるよう体制を整える。教員は、実習前、実習中及び実習後に臨地実務実習先を訪問し、綿密な連携をとる。実習前は、実習の目的・方法・支援体制について実習先に丁寧に説明し、実習に対する共通認識を持つ。実習中は定期的に受入先を訪問し、実習の実施状況について確認を行い、問題点や課題点があれば、受入先と連携しながら解決に努める。実習後は、学生の状況等について情報交換を行い、次の実習に反映させる。</u></p> <p><u>また、臨地実務実習指導者には、豊富な実務経験と高い技能が必要となるため、5年以上の実務経験を必要とする。</u></p> <p>⑨実習指導体制</p> <p><u>実習を円滑に実施できるよう学内に臨地実務実習委員会を設置し、実習計画の策定と実施後の検証を行う。</u></p> <p><u>実習指導教員の指導力を育成するため、学内研修会を開催する。また、学外研修へ積極的に参加させる。</u></p> <p>⑩実習の事前準備</p> <p><u>臨地実務実習が安全に実施できるよう、学内において安全教育を行う。事故</u></p>	

新	旧
<p>が発生した場合に備え、連絡体制や対応方法、任意保険への加入等の管理体制を整える。</p> <p>⑪教員の配置並び臨地実務実習巡回指導計画</p> <p>専任教員を配置し、各臨地実務実習期間中に巡回指導を実施する。その際は、臨地実務実習目標の達成度や顕在化した課題の明確化をはかり、学生、教員、臨地実務実習指導者の相互認識のもとに一貫した指導体制をとる。また、臨地実務実習指導者は臨地実務実習開始前に決定し、学生の状況について把握して円滑な指導ができる体制をとる。</p> <p>⑫臨地実務実習施設における指導者の配置計画</p> <p>臨地実務実習指導者1名につき、学生の配置は1～4名とする。臨地実務実習指導者は、経験年数や専門知識を考慮して受入先代表者に選出してもらう。</p> <p>⑬成績評価体制及び単位認定</p> <p>臨地実務実習評価表は、臨地実務実習の科目別に3種類（企業実習、経営実習Ⅰ、経営実習Ⅱ）に分かれており、それぞれの臨地実務実習において職業人としての適性、実施内容、生産管理、作業管理、販売管理、財務管理の各項目ならびに総合コメント等について記載するようになっている。</p> <p>各実習において、全日程の80%以上の出席で単位認定の資格を得るものとする。</p> <p>a. 態度・適性は、社会人及び専門職業人としての一般的事項の評価である。</p>	

新	旧												
<p>b. <u>臨地実務実習の実施内容について、学内で学んだ専門的な知識と技能を農林業現場で活用・応用できるか評価する。</u></p> <p><u>上記のいずれも、各項目を5段階で評価する。到達度の各段階は、次の通りである。</u></p> <p><評価> _____</p> <table border="1" data-bbox="215 743 748 1469"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A : 優秀</td> <td><u>わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</u></td> </tr> <tr> <td>B : 良好</td> <td><u>時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</u></td> </tr> <tr> <td>C : 普通</td> <td><u>助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</u></td> </tr> <tr> <td>D : やや劣る</td> <td><u>多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</u></td> </tr> <tr> <td>E : 劣る</td> <td><u>常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。</u></td> </tr> </tbody> </table> <p>⑭緊急連絡体制</p> <p><u>実習中の事故など不足の事態に備え、緊急連絡先や緊急時の対応を臨地実務実習要綱（資料29）に定め、教員だけでなく実習を受講する学生にも周知の徹底を図る。</u></p> <p>(3) 削除</p>	評価	内容	A : 優秀	<u>わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</u>	B : 良好	<u>時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</u>	C : 普通	<u>助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</u>	D : やや劣る	<u>多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</u>	E : 劣る	<u>常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。</u>	<p>(3) 実習指導体制</p> <p><u>実習を円滑に実施できるよう学内に実習委員会を設置し、実習計画の策定と実施後の検証を行う。</u></p>
評価	内容												
A : 優秀	<u>わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</u>												
B : 良好	<u>時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</u>												
C : 普通	<u>助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</u>												
D : やや劣る	<u>多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</u>												
E : 劣る	<u>常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。</u>												

新	旧
<p>(3) 実習の事前準備</p> <p>①学生保険への加入</p> <p>実習中は、様々な事故の発生が予想される。このため、学生の実習中のケガに備えた保険及び、学生が他人にケガを負わせることや物を壊した場合の備えに賠償責任保険へ加入する。</p> <p>②感染予防対策</p> <p><u>本学を設置する磐田市</u>は破傷風の汚染地帯である。このため、感染防止のためにワクチン接種を行う。また、必要に応じてその他のワクチン接種を行う。</p> <p>(4) 成績評価体制及び単位認定方法</p> <p>成績評価及び単位認定は、学生の報告資料（レポート）や発表資料、学生の取組姿勢を総合的に判断して行う。</p> <p>(5) 緊急連絡体制</p> <p>実習中の事故など不足の事態に備え、緊急連絡先や緊急時の対応について定める対応マニュアルを整備し、教員だけでなく実習を受講する学生にも周知の徹底を図る。</p>	<p><u>実習指導教員の指導力を育成するため、学内研修会を開催する。また、学外研修へ積極的に参加させる。</u></p> <p>(4) 実習の事前準備</p> <p>①学生保険への加入</p> <p>実習中は、様々な事故の発生が予想される。このため、学生の実習中のケガに備えた保険及び、学生が他人にケガを負わせることや物を壊した場合の備えに賠償責任保険へ加入する。</p> <p>②感染予防対策</p> <p><u>本学が設置される磐田市</u>は破傷風の汚染地帯である。このため、感染防止のためにワクチン接種を行う。また、必要に応じてその他のワクチン接種を行う。</p> <p>(5) 成績評価体制及び単位認定方法</p> <p>成績評価及び単位認定は、学生の報告資料（レポート）や発表資料、学生の取組姿勢を総合的に判断して行う。</p> <p>(6) 緊急連絡体制</p> <p>実習中の事故など不足の事態に備え、緊急連絡先や緊急時の対応について定める対応マニュアルを整備し、教員だけでなく実習を受講する学生にも周知の徹底を図る。</p>

13. <臨地実務実習の具体的計画が不明確>

臨地実務実習について、具体的な説明が不足しているため、以下の点も踏まえて具体的な計画を示し、大学教育としてふさわしい実習水準が確保されていることを説明すること。その際、計画している実習要綱等を添付すること。

(2) 臨地実務実習施設の選定の基準や選定理由について明らかにするとともに、科目の目的を実現するために必要な実習先が確保されているかを明確に説明すること。

(対応)

臨地実務実習施設の選定基準について、説明が不十分であったため、具体的に説明する。

(詳細説明)

選定基準や選定理由を下表に示す。

企業実習の臨地実務実習先は、法人経営体を選定した。農業分野及び畜産分野の臨地実務実習先は、株式会社や有限会社といった法人経営体である。また、林業分野の臨地実務実習先は、株式会社や森林組合である。法人経営体は、生産に関する十分な技術力を有していると考えられるため、実践的な生産知識や生産技術を学ぶ目的を達成できる。以上の選定基準を満たす実習先として、24 経営体を確保している。臨地実務実習先が選定基準を満たしているかについては、経営形態を確認して行う。

経営実習Ⅰ及び経営実習Ⅱの臨地実務実習先は、農業及び畜産分野では「ビジネス経営体」、林業分野では「ビジネス林業」に取組む法人経営体を選定した。静岡県では、販売金額が5,000万円以上で、マーケティング戦略等を展開する農業法人を「ビジネス経営体」と位置づけ支援を行っている。また、需要に応じた計画的な生産や、山元への還元を増やす生産性の向上、需要者への直送取引を経営に取り入れる「ビジネス林業」に取組む林業事業体の支援を行っている。「ビジネス経営体」や「ビジネス林業」に取組む林業経営体は、学生の目標となる経営体である。目指す学生が、目指すベモデルとなる選定基準を満たす実習先を8経営体確保している。臨地実務実習先が選定基準を満たしているかについては、静岡県が調査を行っているため、その調査結果で確認を行う。

<選定基準>

実習名	選定基準	選定理由
企業実習	法人経営体	将来の農林業経営幹部を目指す学生が、生産知識・技術を学ぶために適した実習先として選定。
経営実習Ⅰ 経営実習Ⅱ	ビジネス経営体（法人経営体） 「ビジネス林業」に取組む法人	将来の農林業経営幹部を目指す学生が、目指すベモデルとなる経営体を実習先として選定した。

13. <臨地実務実習の具体的計画が不明確>

臨地実務実習について、具体的な説明が不足しているため、以下の点も踏まえて具体的な計画を示し、大学教育としてふさわしい実習水準が確保されていることを説明すること。その際、計画している実習要綱等を添付すること。

(3) 実習先の指導者に求める要件について具体的に説明すること。また、指導者の教育の質をどのように確保するのか、取組や方策についても説明すること。

(対応)

臨地実務実習先の指導者について求める要件について説明が不足していたため、具体的に説明する。

(詳細説明)

企業実習では、実践的な生産技術について学ぶ。現在、生産に関する十分な技術力を有していると考えられる法人経営体24箇所を確保している。生産技術について指導するため、十分な技術力を有しているか考えられる5年以上の実務経験を技術者に求める。

また、経営実習Ⅰでは生産現場のマネジメントを、経営実習Ⅱでは経営や経営戦略、加工、流通、販売など将来の経営幹部に必要な能力を学修するための実習である。経営について指導するため、その能力を有すると考えられる法人の代表としての経験若しくは、10年以上の実務経験を求める指導者に求める。

以上の指導者に求める指導者の要件について、臨地実務実習先の代表者に説明し、理解を頂いて、要件を満たす指導者を配置する。

また、実習指導者の質を確保するため、大学の実習指導担当教員が、年1回程度、臨地実務実習先の指導者向けに、実習内容や実習目的、指導方法などについて学ぶの研修会を開催する。

14. <実習の実施体制が不明確>

専任教員の巡回指導計画について、科目に対する専任教員の配置状況を具体的に説明すること。その際、講義と実習を同時期に担当する場合は、教員ごとの科目等担当時間割等を資料として添付するなどして、教員の負担等の観点から無理のない計画であることについても説明すること。

(対応)

巡回指導計画について、説明が不足していたため、臨地実務実習である「企業実習」を担当する4名並びに、「経営実習Ⅰ・Ⅱ」を担当する24名の時間割と巡回指導計画を示し、教員の負担等の観点から、無理のない計画であることを説明する。(別添資料14-1:企業実習巡回指導計画、別添資料14-2:経営実習Ⅰ巡回指導計画、別添資料14-3:経営実習Ⅱ巡回指導計画、別添資料14-4:教員時間割)

(詳細説明)

「企業実習」は3年後期の前半の約2ヶ月(10~11月)に開講し、24名の学生を、教員4名(貞弘恵、杉山恵太郎、小澤朗人、池田潔彦)が担当する。担当する学生は、貞弘恵氏が2名、杉山恵太郎氏8名、小澤朗人氏8名、池田潔彦氏が6名である。巡回指導は、2週間に1回の頻度で実施する。本計画は、4名の教員の時間割を考慮して作成しており、無理のない計画となっている(別添資料14-1:企業実習巡回指導計画、別添資料14-4:教員時間割)。

「経営実習Ⅰ」は4年前期の前半の1ヶ月(4~5月)に開講し、専任教員24名が担当し、担当する学生数は各教員1名である。巡回指導は、2週間に1回の頻度であり、教員の時間割を考慮して作成しており、無理のない計画となっている(14-2:経営実習Ⅰ巡回指導計画、別添資料14-4:教員時間割)。

「経営実習Ⅱ」は4月後期の前半1ヶ月(10月)に開講し、専任教員24名が担当し、担当する学生数は各教員1名である。巡回指導は、2週間に1回の頻度であり、教員の時間割を考慮して作成しており、無理のない計画となっている(14-3:経営実習Ⅱ巡回指導計画、別添資料14-4:教員時間割)。

なお、実習指導体制の強化のため、「生産マネジメント実習Ⅰ(林業)」、「生産マネジメント実習Ⅱ(林業)」、「圃場実習(畜産)」、「生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)」、「生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)」についても、専任教員を追加して配置することとした。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (40 ページ)

新	旧								
<p>11 実習の具体的計画 (略)</p> <p>(3) 臨地実務実習 (資料 29 臨地実務実習指導要綱)</p> <p>①実習の流れ</p> <p>本学の臨地実務実習は、教育課程で示す「企業実習」、「経営実習Ⅰ」、「経営実習Ⅱ」を行う。臨地実務実習の内容は「臨地実務実習要綱」を基本として実施する。</p> <table border="1" data-bbox="240 882 724 943"> <tr> <td>1年次</td> <td>2年次</td> <td>3年次</td> <td>4年次</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>企業実習</td> <td>経営実習Ⅰ → 経営実習Ⅱ</td> </tr> </table> <p><臨地実務実習の流れ></p> <p>②専門職大学としての取り組み</p> <p>専門職大学としての教育成果をあげるための取り組みとして、職業専門科目に多くの実習科目を配置し、生産から販売まで農林業経営に必要な知識や技能を学修した上で、臨地実務実習を実施する履修体系とする。学内実習では、チェック表を作成して学生が学修すべき知識や技能を明確にし、実習を実施する。</p> <p>成績評価は、臨地実務実習の評価基準を本学として統一し、専任教員による認定ではなく、臨地実務実習委員会による認定とする。</p> <p>臨地実務実習の水準を保つため、臨地実務実習終了後に、学生が臨地実務先を評価するためのアンケート調査を実施する。この結果は、臨地実務実習の目標と学修に乖離がないかを確認し、臨地実務実習指導者と専任教員の連携した指導に活用する。</p>	1年次	2年次	3年次	4年次			企業実習	経営実習Ⅰ → 経営実習Ⅱ	<p>11 実習の具体的計画 (略)</p> <p>(2) 臨地実務実習</p> <p>①実習の目的</p> <p>3年次の「企業実習」では、農林業経営体で実習を行うことで、実践的な生産技術を、4年次の「経営実習Ⅰ」および「経営実習Ⅱ」では、実践的な経営について学ぶことを目的とする。</p> <p>②実習の目標</p> <p>実際の農林業現場で学ぶことで、実践的な生産技術や生産現場のオペレーション、経営戦略に基づいた経営手法等を修得することを目標とする。</p>
1年次	2年次	3年次	4年次						
		企業実習	経営実習Ⅰ → 経営実習Ⅱ						

新	旧
<p>③臨地実務実習計画の概要 <u>本学の養成する人材像である「農林業の生産技術や知識にくわえ、経営体の経営革新を推進する、加工・流通・販売への応用力や経営管理能力、先端技術への対応力を有する」ことを目標に、農林業経営者としての態度や責任、生産の知識と技術、経営管理能力を身につけるとともに、自主的に学習を進める能力と、他者との協調力を養う。</u> <u>臨地実務実習は3年次に「企業実習」(必修 10 単位)、4年次に「経営実習Ⅰ」(必修 5 単位)と「経営実習Ⅱ」(必修 5 単位)を配置する。</u></p> <p>④臨地実務実習の実施 <u>臨地実務実習指導者の指導を受けながら、農林業の実際について体験し、各実習の目標を達成することで、農林業経営に必要な能力を養う。</u></p> <p>⑤臨地実務実習の種類と目的 <u>ア 「企業実習」(3年次後期 必修 10 単位)</u> <u>(ア) 目的</u> <u>先進的な農林業経営体での実習を通じて、学内で学んだ知識・技能をもとに実践的な生産技術を学ぶ。</u> <u>(イ) 目標</u> <u>a. 生産現場での基本的な作業工程について理解することが出来る。</u> <u>b. 各作業工程に必要な基本的な技術を身につける。</u> <u>(ウ) 方法</u></p>	<p>③実習の計画 ア 3年次 実践的な生産技術について学ぶ「企業実習」を配置する。</p> <p>イ 4年次 農林業経営体の生産現場において、農林業経営体の持続と発展に向けた効率的な人員配置、適切な生産資材の利用、生産情報の収集と利用法について学ぶ「経営実習Ⅰ」と、農林業経営体の経営戦略と戦略に基づく経営について学ぶ「経営実習Ⅱ」を配置する。</p> <p>④実習先の確保状況 「企業実習」及び「経営実習Ⅰ」、「経営実習Ⅱ」の実習先である農林業経営体は、32 経営体を確保している。 なお、実習の実施に当たっては、受入先と大学の間で受入れに関する取り決めを交わす。</p> <p>⑤実習先との連携体制 ア 実習前の連携体制 実習前には、学生、担当教員、受入側で事前に実習計画の確認を、大学側と受入側が緊密に連携して事前準備を行う。</p> <p>イ 実習中の連携体制 実習中は、受入側の担当者を決め、学生が相談しやすい体制を作る。 また、教員が定期的に訪問し、受入側や学生に実習の実施状況や</p>

新	旧
<p><u>実習は、「臨地実務実習要綱」(資料29)に基づいて実施する。</u></p> <p><u>3年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約2カ月間実施する。学生数は1施設1名を予定している。</u></p> <p><u>企業実習の受講に当たっては、「圃場実習(栽培)」、「圃場実習(畜産)」、「演習林実習」及び「生産マネジメント実習Ⅰ」において、基本的な生産技術を学んでいることを前提とする。</u></p> <p><u>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</u></p> <p><u>実習中は、臨地実務実習指導者のもと、実際の生産現場を体験する。日々の作業は、臨地実務実習指導者の指示に従って行い、毎日、作業内容について記録を行う。実習指導は、臨地実務実習指導者と本学教員が連携し、適宜連絡を取り合い、学生の実習状況について情報を共有し、助言・指導を行う。</u></p> <p><u>実習終了後は、報告書の作成、報告会の実施により、生産現場や生産現場で必要となる技術について理解を深める。</u></p> <p><u>(エ) 評価</u></p> <p><u>単位認定における成績評価の項目は、次の通りである。</u></p> <p><u>a. 臨地実務実習指導者による成績評価</u></p> <p><u>b. 臨地実務実習中の作業記録・自己点検表</u></p> <p><u>c. 臨地実務実習後の報告会での報告内容</u></p> <p><u>d. 事後報告書</u></p> <p><u>イ 経営実習Ⅰ(4年次前期 必修5単位)</u></p> <p><u>(ア) 目的</u></p>	<p>学生の状況を確認する。</p> <p>ウ 実習後の連携体制</p> <p>実施後は、問題点や課題点を大学側と受入側で共有し、次回の実習に反映する体制とする。</p>

新	旧
<p><u>生産現場のマネジメントを行うために必要な知識・技能を学ぶ。</u></p> <p><u>(イ) 目標</u></p> <p><u>a. 生産現場の年間計画が理解できる。</u></p> <p><u>b. 生産現場に必要な要素（資材、労力、資金）について理解し、これらを適切に配置した生産マネジメントについて理解できる。</u></p> <p><u>(ウ) 方法</u></p> <p><u>実習は、「臨地実務実習要綱」（資料29）に基づいて実施する。</u></p> <p><u>4年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約1ヶ月間の実習を行う。1施設1～4名を想定している。</u></p> <p><u>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</u></p> <p><u>実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもとで作業を行いながら、人員配置、機械、生産資材の利用計画など生産現場のマネジメントに必要な知識・技能を学ぶ。</u></p> <p><u>実習終了後は経営分析演習Ⅰにて実習先の分析を行った後、報告会を実施し、生産現場のマネジメントについて理解を深める。</u></p> <p><u>(エ) 評価</u></p> <p><u>単位認定における成績評価の項目は、次の通りである。</u></p> <p><u>a. 臨地実務実習指導者による成績評価</u></p> <p><u>b. 臨地実務実習中の作業記録・自己点検表</u></p> <p><u>c. 臨地実務実習後の報告会での報告内容</u></p> <p><u>d. 事後報告書</u></p>	

新	旧
<p><u>ウ 経営実習Ⅱ（4年次後期 必修5単位）</u></p> <p><u>（ア）目的</u> <u>農林業経営体の経営や経営戦略、加工、流通、販売等について学ぶ。</u></p> <p><u>（イ）目標</u></p> <p><u>a. 農林業経営体の経営戦略について理解する。</u></p> <p><u>b. 戦略に基づいた経営のあり方について理解する。</u></p> <p><u>c. 生産現場以外の加工・流通・販売について理解する。</u></p> <p><u>（ウ）方法</u></p> <p><u>実習は、「臨地実務実習要綱」（資料29）に基づいて実施する。</u></p> <p><u>4年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約1ヶ月間の実習を行う。1施設1～4名を想定している。</u></p> <p><u>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</u></p> <p><u>実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもと作業を行いながら、農林業経営体の経営、生産現場以外の加工・流通・販売等について学ぶ。</u></p> <p><u>実習終了後は、経営分析演習Ⅱにて研修先の分析を行った後、報告会を実施し、農林業経営について理解を深める。</u></p> <p><u>（エ）評価</u></p> <p><u>単位認定における成績評価の項目は、次の通りである。</u></p> <p><u>a. 臨地実務実習指導者による成績評価</u></p> <p><u>b. 臨地実務実習中の作業記録・自己点検表</u></p> <p><u>c. 臨地実務実習後の報告会での報告内容</u></p>	<p>⑥実習水準の確保と対策</p> <p>各実習先には、1～5名の少人数の学生を配置し、受入先から細かな指</p>

新	旧
<p>d. <u>事後報告書</u></p> <p>⑥実習先の確保状況と選定基準</p> <p><u>「企業実習」の臨地実務実習先は、生産に関する技術力を有している株式会社や有限会社、協同組合とし、本選定基準を満たす実習先として、24経営体を確保している。</u></p> <p><u>「経営実習Ⅰ・Ⅱ」の臨地実務実習先は、将来の経営幹部を目指す学生のモデルとなりうる十分な経営規模(年間売上高5千万円以上)を有する法人経営体とし、選定基準を満たす実習先を8経営体確保している。</u></p> <p>⑦実習先との連携体制</p> <p><u>教員と臨地実務実習指導者が連携して臨地実務実習指導を行う。それぞれの役割分担を共通理解し、緊密な連携のもとで学習効果の高い臨地実務実習が可能となる体制を構築する。</u></p> <p><u>実習前には、学生、担当教員、受入側で事前に実習計画を確認し、教員と受入側が緊密に連携して事前準備を行う。</u></p> <p><u>実習中は、受入側の担当者を決め、学生が相談しやすい体制を作る。</u></p> <p><u>また、教員が定期的に訪問し、受入側や学生に実習の実施状況や学生の状況を確認する。</u></p> <p><u>実施後は、問題点や課題点を教員と受入側で共有し、次回の実習に反映する体制とする。</u></p> <p>ア 教員：臨地実務実習担当者</p> <p><u>専任教員が担当し、臨地実務実習の計画・実施・評価、臨地実務実習指導体制の構築、臨地実務実習施設との連絡調整、臨地実務実習指導者と臨地実</u></p>	<p>導が受けられるよう体制を整える。実習中は、専任教員が定期的に受入先を訪問し、実習の実施状況について確認を行い、問題点や課題点があれば、受入先と連携しながら解決に努める。</p>

新	旧
<p><u>務実習内容・方法に関する協議・調整の役割を担う。</u></p> <p><u>イ 農林業経営体：臨地実務実習指導者</u> <u>臨地実務実習指導者は、受入側の農林業経営体の社員（職員）で、現場での経験が5年以上ある者とする。</u></p> <p>⑧実習水準の確保と対策</p> <p><u>臨地実務実習の水準を保つため、先に示した隣地実務実習指導体制、及び臨地実務実習施設との連携体制の構築を行う。また、学生に対しては、実習先の選定から実習前の事前学習までの指導を丁寧に行い、臨地実務実習の目的の周知と学生の不安軽減に努め、実習中も指導できる体制を構築する。</u></p> <p><u>各実習先には、1～4名の少人数の学生を配置し、受入先から細かな指導が受けられるよう体制を整える。教員は、実習前、実習中及び実習後に臨地実務実習先を訪問し、綿密な連携をとる。実習前は、実習の目的・方法・支援体制について実習先に丁寧に説明し、実習に対する共通認識を持つ。実習中は定期的に受入先を訪問し、実習の実施状況について確認を行い、問題点や課題点があれば、受入先と連携しながら解決に努める。実習後は、学生の状況等について情報交換を行い、次の実習に反映させる。</u></p> <p><u>また、臨地実務実習指導者には、豊富な実務経験と高い技能が必要となるため、5年以上の実務経験を必要とする。</u></p> <p>⑨実習指導体制</p> <p><u>実習を円滑に実施できるよう学内に臨地実務実習委員会を設置し、実習計画の策定と実施後の検証を行う。</u></p>	

新	旧
<p><u>実習指導教員の指導力を育成するため、学内研修会を開催する。また、学外研修へ積極的に参加させる。</u></p> <p>⑩実習の事前準備</p> <p><u>臨地実務実習が安全に実施できるように、学内において安全教育を行う。事故が発生した場合に備え、連絡体制や対応方法、任意保険への加入等の管理体制を整える。</u></p> <p>⑪教員の配置並びに臨地実務実習巡回指導計画</p> <p><u>専任教員を配置し、各臨地実務実習期間中に巡回指導を実施する。その際は、臨地実務実習目標の達成度や顕在化した課題の明確化をはかり、学生、教員、臨地実務実習指導者の相互認識のもとに一貫した指導体制をとる。また、臨地実務実習指導者は臨地実務実習開始前に決定し、学生の状況について把握して円滑な指導ができる体制をとる。</u></p> <p>⑫臨地実務実習施設における指導者の配置計画</p> <p><u>臨地実務実習指導者1名につき、学生の配置は1～4名とする。臨地実務実習指導者は、経験年数や専門知識を考慮して受入先代表者に選出してもらう。</u></p> <p>⑬成績評価体制及び単位認定</p> <p><u>臨地実務実習評価表は、臨地実務実習の科目別に3種類（企業実習、経営実習Ⅰ、経営実習Ⅱ）に分かれており、それぞれの臨地実務実習において職業人としての適性、実施内容、生産管理、作業管理、販売管理、財務管理の各項目ならびに総合コメント等について記載するよう</u></p>	

新	旧												
<p>になっている。</p> <p>各実習において、全日程の80%以上の出席で単位認定の資格を得るものとする。</p> <p>a. 態度・適性は、社会人及び専門職業人としての一般的事項の評価である。</p> <p>b. 臨地実務実習の実施内容について、学内で学んだ専門的な知識と技能を農林業現場で活用・応用できるか評価する。</p> <p>上記のいずれも、各項目を5段階で評価する。到達度の各段階は、次の通りである。</p> <p><評価></p> <table border="1" data-bbox="215 1077 748 1805"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A : 優秀</td> <td>わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>B : 良好</td> <td>時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>C : 普通</td> <td>助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>D : やや劣る</td> <td>多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>E : 劣る</td> <td>常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。</td> </tr> </tbody> </table> <p>⑭緊急連絡体制</p> <p>実習中の事故など不足の事態に備え、緊急連絡先や緊急時の対応を臨地実務実習要綱（資料29）に定め、教員だけでな</p>	評価	内容	A : 優秀	わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	B : 良好	時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	C : 普通	助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	D : やや劣る	多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	E : 劣る	常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。	
評価	内容												
A : 優秀	わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。												
B : 良好	時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。												
C : 普通	助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。												
D : やや劣る	多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。												
E : 劣る	常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。												

新	旧
<p><u>く実習を受講する学生にも周知の徹底を図る。</u></p> <p>(3) 削除</p> <p>(3) 実習の事前準備</p> <p>①学生保険への加入</p> <p>実習中は、様々な事故の発生が予想される。このため、学生の実習中のケガに備えた保険及び、学生が他人にケガを負わせることや物を壊した場合の備えに賠償責任保険へ加入する。</p> <p>②感染予防対策</p> <p><u>本学を設置する磐田市は破傷風の汚染地帯である。</u>このため、感染防止のためにワクチン接種を行う。また、必要に応じてその他のワクチン接種を行う。</p> <p>(4) 成績評価体制及び単位認定方法</p> <p>成績評価及び単位認定は、学生の報告資料（レポート）や発表資料、学生の取組姿勢を総合的に判断して行う。</p> <p>(5) 緊急連絡体制</p> <p>実習中の事故など不足の事態に備え、緊急連絡先や緊急時の対応について定める対応マニュアルを整備し、教員だけでなく実習を受講する学生にも周知の徹底を図る。</p>	<p>(3) 実習指導体制</p> <p><u>実習を円滑に実施できるよう学内に実習委員会を設置し、実習計画の策定と実施後の検証を行う。</u></p> <p><u>実習指導教員の指導力を育成するため、学内研修会を開催する。また、学外研修へ積極的に参加させる。</u></p> <p>(4) 実習の事前準備</p> <p>①学生保険への加入</p> <p>実習中は、様々な事故の発生が予想される。このため、学生の実習中のケガに備えた保険及び、学生が他人にケガを負わせることや物を壊した場合の備えに賠償責任保険へ加入する。</p> <p>②感染予防対策</p> <p><u>本学が設置される磐田市は破傷風の汚染地帯である。</u>このため、感染防止のためにワクチン接種を行う。また、必要に応じてその他のワクチン接種を行う。</p> <p>(5) 成績評価体制及び単位認定方法</p> <p>成績評価及び単位認定は、学生の報告資料（レポート）や発表資料、学生の取組姿勢を総合的に判断して行う。</p> <p>(6) 緊急連絡体制</p> <p>実習中の事故など不足の事態に備え、緊急連絡先や緊急時の対応について定める対応マニュアルを整備し、教員だけでなく実習を受講する学生にも周知の徹底を図る。</p>

15. <入学者選抜方法が不明確>

入学者の選抜方法として、「一般選抜」「推薦型選抜」「特別選抜」の3つの方法を計画しているが、「特別選抜」の募集定員が若干名となっており、入学定員の総数に対して適切な募集定員を設定しているか疑義がある。入学定員に対して具体的な募集定員に改めるか、選抜方法を修正すること。

(対応)

入学定員の総数と特別選抜の募集定員の関係が不明確となっていたため、特別選抜の募集人員関係が不明確になっていたため、特別選抜の募集人員が入学定員の総数に含まれるものであることが明確になるよう「設置の趣旨を記載した書類」に追記する。

また、一般選抜の時期については記載する必要は無いため、募集人員の表の一般選抜に関する記載を改める。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (37 ページ)

新	旧
(3) 選抜方法 (略)	(3) 選抜方法 (略)
①一般選抜 (略)	①一般選抜 (略)
②推薦型選抜 (略)	②推薦型選抜 (略)
③特別選抜 特別選抜（社会人選抜、留学生選抜）は、多様な背景を持った学生を受け入れるため、出願書類審査、小論文、面接を組み合わせで行う。なお、社会人選抜については、23 歳以上、かつ、勤務経験 3年以上のものを対象として実施する。また、留学生選抜については基本的に日本語のできる外国人を想定することとし、「日本語能力試験で N2 以上の成績を修めたもの、若しくは相当と認められる日本語能力を有するものを対象として実施する。	③特別選抜 特別選抜（社会人選抜、留学生選抜）は、多様な背景を持った学生を受け入れるため、出願書類審査、小論文、面接を組み合わせで行う。なお、社会人選抜については、23 歳以上、かつ、勤務経験 3年以上のものを対象として実施する。また、留学生選抜については基本的に日本語のできる外国人を想定することとし、「日本語能力試験で N2 以上の成績を修めたもの、若しくは相当と認められる日本語能力を有するものを対象として実施する。

新							旧								
<p>なお、特別選抜（社会人選抜、留学生選抜）の募集人員は、推薦型選抜の募集人員に含まれるものとする。</p>															
<p>④募集人員</p> <p>一般選抜、推薦型選抜、特別選抜（社会人選抜、留学生選抜）の募集人員は、次の表のとおりとする。</p> <p style="text-align: right;">(単位：人)</p>							<p>④募集定員</p> <p>一般選抜、推薦型選抜、特別選抜（社会人選抜、留学生選抜）の募集定員は、次の表のとおりとする。</p> <p style="text-align: right;">(単位：人)</p>								
学部	学科	入学定員	募集人員				社会人	留学生	学部	学科	入学定員	募集人員			
			一般選抜	推薦型選抜(公募)	特別選抜							一般選抜前期	推薦型選抜(公募)	特別選抜	
生産環境経営学部	生産環境経営学科	24	12	12※	若干名	若干名			生産環境経営学部	生産環境経営学科	24	12	12	若干名	若干名
<p>※推薦型選抜（公募）の募集人員は、特別選抜（社会人、留学生）の募集人員を含む。</p>															

16. <専任教員に対する実験研究室の整備状況が不明確>

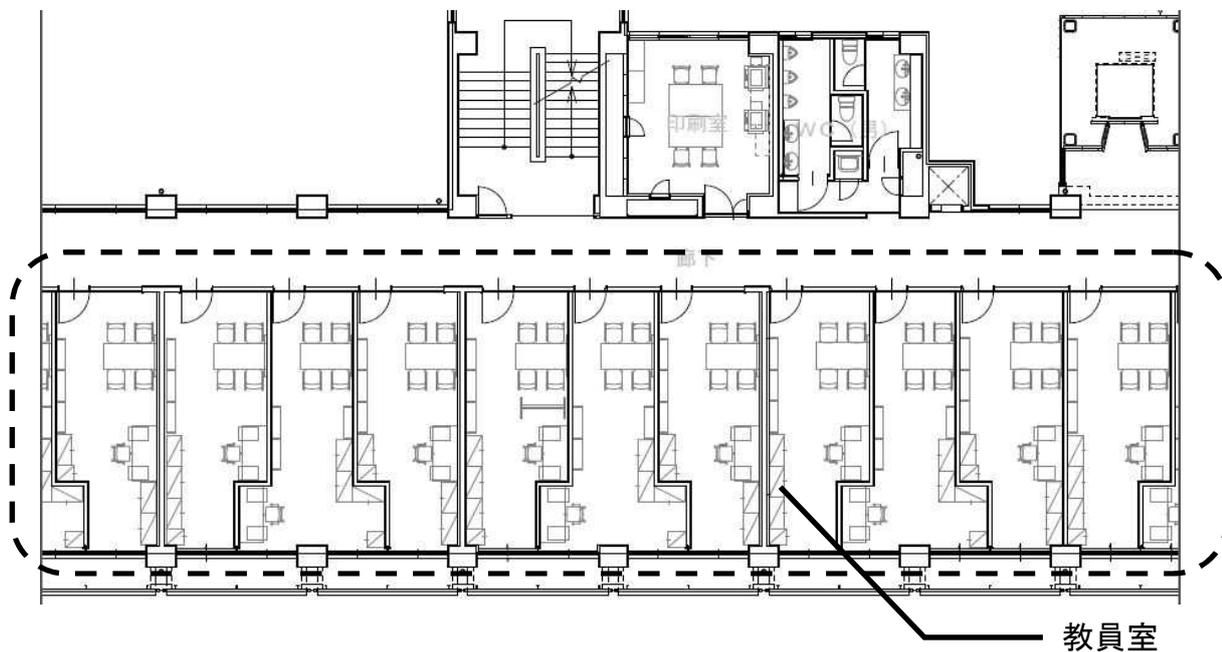
教員が教育研究を行う環境が整っているか疑義がある。研究室や研究機材を設置する部屋のレイアウト図などを示した上で、教育研究及び学生指導を行うための十分なスペースが確保されているか、具体的に説明すること。

(対応)

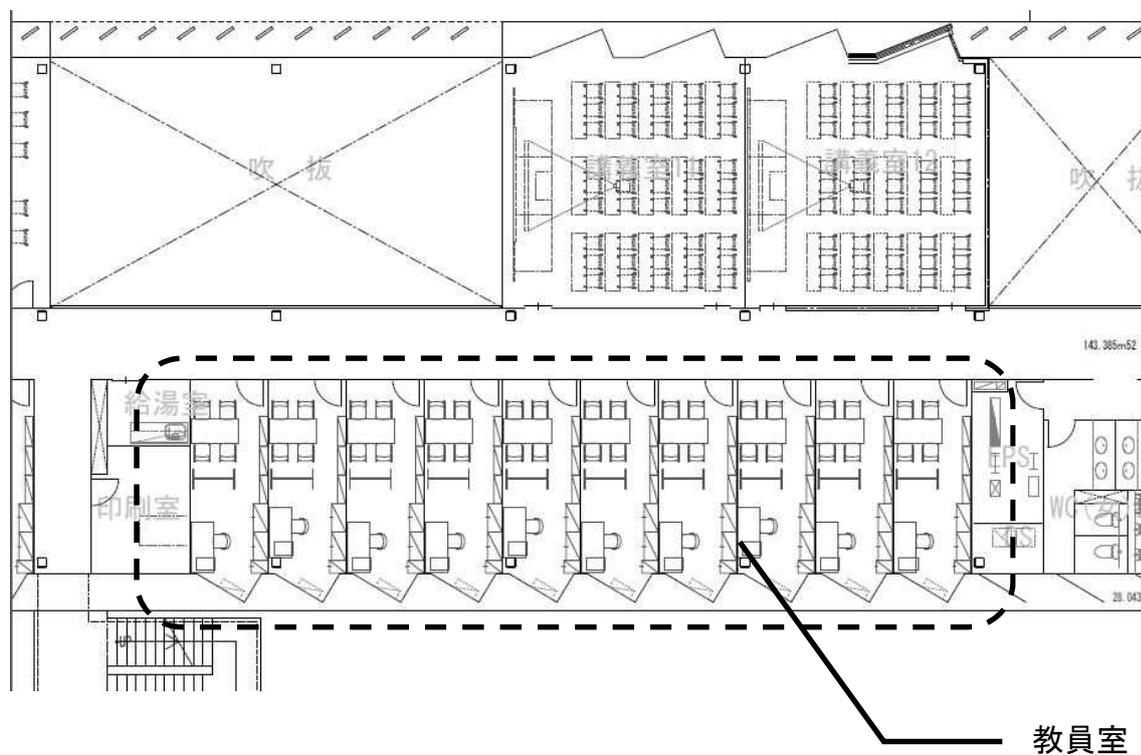
- ・教育研究及び学生指導を行うための十分なスペースが確保するため、C棟の共同研究室を個室に変更して全ての専任教員の教員研究室を個室とするとともに、各教員研究室のスペースを示すレイアウト図を追加する。(別紙1)
- ・さらに、学生指導を行うためのミーティングルーム4室、及びカウンセリಂಗルーム1室の計5室と、教員専用の実験室を2室設置し、併設する農林環境専門職大学短期大学部と共用することとし、C棟のレイアウトを変更する。(別添資料16-1)
- ・なお、このレイアウトの変更により、図書館(850 m²→662 m²:188 m²減)、実験室(100 m²→94.8 m²:5.2 m²減)、講義室(65 m²→62.4 m²:2.6 m²減)、情報処理室(100 m²→95.4 m²:4.6 m²減)の面積が変更となるが、授業実施に必要なスペースは確保しており、利用上、支障はない。
- ・また、図書館には、閲覧席、レファレンス・コーナー、整理室、書庫など、図書館の運営に必要な機能を配置しており、蔵書能力や閲覧席数は、設置認可申請書に記載した計画どおりで、当初計画として支障はない。(別紙2)
- ・上記の変更について、「基本計画書」2～3ページ及び「校地校舎等の図面」4～13ページ、「設置の趣旨等を記載した書類」32～35ページの「8 施設・設備等の整備計画 (3) 校舎等施設の整備計画」、35ページの「8 施設・設備等の整備計画 (4) 図書等の資料及び図書館の整備計画」に下記のとおり追記する。

(別紙1) 教員研究室レイアウト図

○A棟 (一室あたり約 22 m²)

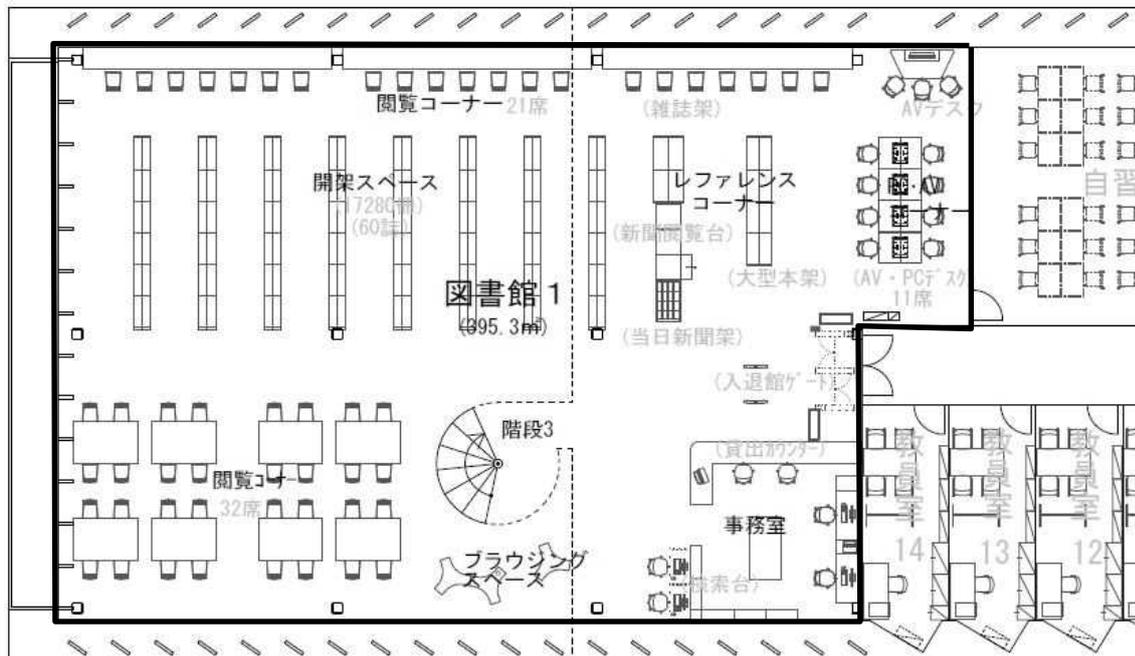


○C棟 (一室あたり 16 m²)

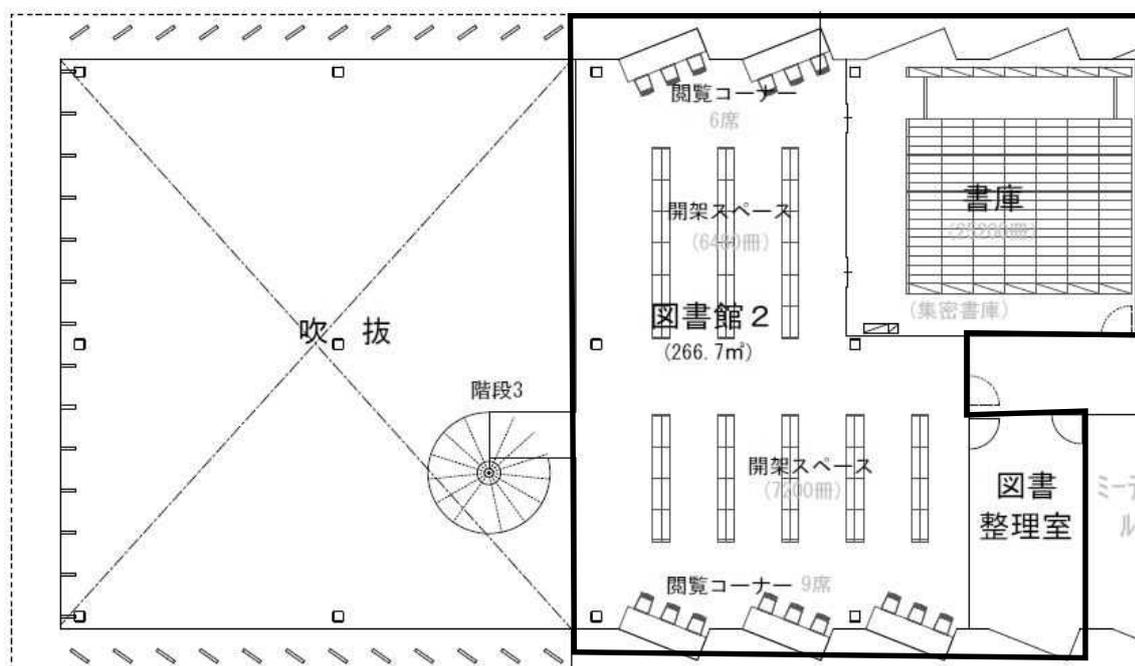


(別紙2) 図書館レイアウト図

○2階 (395.3㎡)



○3階 (266.7㎡)



図書館面積計 662.0㎡

(新旧対照表) 1 基本計画書 (2～3 ページ)

新	<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">校舎</td> <td>専用</td> <td>共用</td> <td>共用する他の 学校等の専用</td> <td>計</td> <td rowspan="2">静岡県立農林環 境専門職大学短 期大学部必要面 積(2,400㎡)と共 用 平成32年度は静 岡県立農林大学 校と共用</td> </tr> <tr> <td>491㎡ (392㎡)</td> <td>5,849㎡ (3,395㎡)</td> <td>453㎡ (152㎡)</td> <td>6,796㎡ (3,939㎡)</td> </tr> </table>						校舎	専用	共用	共用する他の 学校等の専用	計	静岡県立農林環 境専門職大学短 期大学部必要面 積(2,400㎡)と共 用 平成32年度は静 岡県立農林大学 校と共用	491㎡ (392㎡)	5,849㎡ (3,395㎡)	453㎡ (152㎡)	6,796㎡ (3,939㎡)					
	校舎	専用	共用	共用する他の 学校等の専用	計	静岡県立農林環 境専門職大学短 期大学部必要面 積(2,400㎡)と共 用 平成32年度は静 岡県立農林大学 校と共用															
		491㎡ (392㎡)	5,849㎡ (3,395㎡)	453㎡ (152㎡)	6,796㎡ (3,939㎡)																
	<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">教室等</td> <td>講義室</td> <td>演習室</td> <td>実験実習室</td> <td>情報処理学習施設</td> <td>語学学習施設</td> <td rowspan="2">大学全体</td> </tr> <tr> <td>16室</td> <td>0室</td> <td>7室</td> <td>1室 (補助職員0人)</td> <td>0室 (補助職員0人)</td> </tr> </table>						教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体	16室	0室	7室	1室 (補助職員0人)	0室 (補助職員0人)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体															
	16室	0室	7室	1室 (補助職員0人)	0室 (補助職員0人)																
<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">専任教員研究室</td> <td colspan="2">新設学部等の名称</td> <td colspan="2">室数</td> <td rowspan="2">共同研究室3室(静 岡県立農林環 境専門職大学短 期大学部と共 用)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">生産環境経営学部生産環境経営学科</td> <td colspan="2">24室</td> </tr> </table>						専任教員研究室	新設学部等の名称		室数		共同研究室3室(静 岡県立農林環 境専門職大学短 期大学部と共 用)	生産環境経営学部生産環境経営学科		24室							
専任教員研究室	新設学部等の名称		室数		共同研究室3室(静 岡県立農林環 境専門職大学短 期大学部と共 用)																
	生産環境経営学部生産環境経営学科		24室																		
<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">図書館</td> <td>面積</td> <td>閲覧席数</td> <td>収納可能冊数</td> <td rowspan="2">大学全体</td> </tr> <tr> <td>662㎡</td> <td>60席</td> <td>50,000</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">体育館</td> <td>面積</td> <td colspan="2">体育館以外のスポーツ施設の概要</td> <td rowspan="2">大学全体</td> </tr> <tr> <td>904㎡</td> <td colspan="2">該当なし</td> </tr> </table>						図書館	面積	閲覧席数	収納可能冊数	大学全体	662㎡	60席	50,000	体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		大学全体	904㎡	該当なし	
図書館	面積	閲覧席数	収納可能冊数	大学全体																	
	662㎡	60席	50,000																		
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		大学全体																	
	904㎡	該当なし																			
旧	<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">校舎</td> <td>専用</td> <td>共用</td> <td>共用する他の 学校等の専用</td> <td>計</td> <td rowspan="2">静岡県立農林環 境専門職大学短 期大学部必要面 積(2,400㎡)と共 用 平成32年度は静 岡県立農林大学 校と共用</td> </tr> <tr> <td>435㎡ (392㎡)</td> <td>6,121㎡ (3,395㎡)</td> <td>240㎡ (152㎡)</td> <td>6,796㎡ (3,939㎡)</td> </tr> </table>						校舎	専用	共用	共用する他の 学校等の専用	計	静岡県立農林環 境専門職大学短 期大学部必要面 積(2,400㎡)と共 用 平成32年度は静 岡県立農林大学 校と共用	435㎡ (392㎡)	6,121㎡ (3,395㎡)	240㎡ (152㎡)	6,796㎡ (3,939㎡)					
	校舎	専用	共用	共用する他の 学校等の専用	計	静岡県立農林環 境専門職大学短 期大学部必要面 積(2,400㎡)と共 用 平成32年度は静 岡県立農林大学 校と共用															
		435㎡ (392㎡)	6,121㎡ (3,395㎡)	240㎡ (152㎡)	6,796㎡ (3,939㎡)																
	<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">教室等</td> <td>講義室</td> <td>演習室</td> <td>実験実習室</td> <td>情報処理学習施設</td> <td>語学学習施設</td> <td rowspan="2">大学全体</td> </tr> <tr> <td>16室</td> <td>0室</td> <td>6室</td> <td>1室 (補助職員0人)</td> <td>0室 (補助職員0人)</td> </tr> </table>						教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体	16室	0室	6室	1室 (補助職員0人)	0室 (補助職員0人)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体															
	16室	0室	6室	1室 (補助職員0人)	0室 (補助職員0人)																
<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">専任教員研究室</td> <td colspan="2">新設学部等の名称</td> <td colspan="2">室数</td> <td rowspan="2">共同研究室3室(静 岡県立農林環 境専門職大学短 期大学部と共 用)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">生産環境経営学部生産環境経営学科</td> <td colspan="2">23室</td> </tr> </table>						専任教員研究室	新設学部等の名称		室数		共同研究室3室(静 岡県立農林環 境専門職大学短 期大学部と共 用)	生産環境経営学部生産環境経営学科		23室							
専任教員研究室	新設学部等の名称		室数		共同研究室3室(静 岡県立農林環 境専門職大学短 期大学部と共 用)																
	生産環境経営学部生産環境経営学科		23室																		
<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">図書館</td> <td>面積</td> <td>閲覧席数</td> <td>収納可能冊数</td> <td rowspan="2">大学全体</td> </tr> <tr> <td>850㎡</td> <td>60席</td> <td>50,000</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">体育館</td> <td>面積</td> <td colspan="2">体育館以外のスポーツ施設の概要</td> <td rowspan="2">大学全体</td> </tr> <tr> <td>904㎡</td> <td colspan="2">該当なし</td> </tr> </table>						図書館	面積	閲覧席数	収納可能冊数	大学全体	850㎡	60席	50,000	体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		大学全体	904㎡	該当なし	
図書館	面積	閲覧席数	収納可能冊数	大学全体																	
	850㎡	60席	50,000																		
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		大学全体																	
	904㎡	該当なし																			

(新旧対照表) 校舎校地等の図面 (4～13 ページ)

新	別添資料 16-2 のとおり
旧	別添資料 16-3 のとおり

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (32～35 ページ)

新	旧
<p>(3) 校舎等施設の整備計画</p> <p>本学の校舎は、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と共用するので、基準校舎面積は本学の面積の合計として算出する。静岡県立農林環境専門職大学の基準校舎面積は、専門職大学設置基準第 47 条の規定により、学部の種類が農学関係であり、収容定員が 100 人以下であるので基準校舎面積 4,396 m²となる。一方、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の基準校舎面積は、専門職短期大学設置基準第 45 条の規定により、学部の種類が農学関係であり、収容定員が 200 人以下であるので基準校舎面積 2,400 m²となる。したがって、両大学を合わせた基準面積は 6,796 m²と算出される。</p> <p>本学の校舎は A 棟、B 棟及び C 棟の 3 棟で構成し、それぞれの延床面積は 3,094.6 m²、2,856.4 m²、845 m²、計 6,796.0 m²であるので、基準面積を満たしている。</p> <p>なお、本学の専用部分は専任教員室 (A 棟)のみであり、他の部分は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と共用する。静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の専用部分は使用しない。</p> <p>また、平成 32 年度は静岡県立農林大学校と校舎を共用する。本学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部は、主に A 棟及び C 棟を授業で使用し、静岡県立農林大学校は、主に B 棟で授業を実施することで共用していく。校舎の利用計画表及び時間割表を資料 25, 26 に示す。</p> <p>A 棟は鉄筋コンクリート造、地上 4 階建てで、1 階には事務室 (総務課、教務課など)、学長室、<u>分析実験室</u>等 (計 815.3 m²)、2 階には講義室、<u>植物実験室</u>等 (計 750.6 m²)、3 階には研究室、ミーティングルーム、講義室等 (計 749.2 m²)、4 階には研究室、視聴</p>	<p>(3) 校舎等施設の整備計画</p> <p>本学の校舎は、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と共用するので、基準校舎面積は本学の面積の合計として算出する。静岡県立農林環境専門職大学の基準校舎面積は、専門職大学設置基準第 47 条の規定により、学部の種類が農学関係であり、収容定員が 100 人以下であるので基準校舎面積 4,396 m²となる。一方、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の基準校舎面積は、専門職短期大学設置基準第 45 条の規定により、学部の種類が農学関係であり、収容定員が 200 人以下であるので基準校舎面積 2,400 m²となる。したがって、両大学を合わせた基準面積は 6,796 m²と算出される。</p> <p>本学の校舎は A 棟、B 棟及び C 棟の 3 棟で構成し、それぞれの延床面積は 3,094.6 m²、2,856.4 m²、845 m²、計 6,796.0 m²であるので、基準面積を満たしている。</p> <p>なお、本学の専用部分は専任教員室 (A 棟)のみであり、他の部分は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と共用する。静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の専用部分は使用しない。</p> <p>また、平成 32 年度は静岡県立農林大学校と校舎を共用する。本学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部は、主に A 棟及び C 棟を授業で使用し、静岡県立農林大学校は、主に B 棟で授業を実施することで共用していく。校舎の利用計画表及び時間割表を資料 25, 26 に示す。</p> <p>A 棟は鉄筋コンクリート造、地上 4 階建てで、1 階には事務室 (総務課、教務課など)、学長室、<u>実験室</u>等 (計 815.3 m²)、2 階には講義室、<u>実験室</u>等 (計 750.6 m²)、3 階には研究室、ミーティングルーム、講義室等 (計 749.2 m²)、4 階には研究室、視聴覚室等 (計</p>

新	旧
<p>覚室等（計 748.0 m²）、屋上階には屋上に出るための階段室（31.5 m²）、総計 3,094.6 m²の校舎である。</p> <p>B棟は鉄骨造、地上2階建てで、1階には<u>教員用実験室、加工講義室等</u>（計 419.2 m²）、2階には講義室、カウンセリングルーム等（計 425.8 m²）、総計 845.0 m²の校舎である。</p> <p>C棟は鉄骨造、地上3階建てで、1階には食堂・厨房、売店等（計 730.3 m²）、2階は図書館、<u>教員室、講義室等</u>（計 1,110.6 m²）、3階には図書館、<u>畜産実験室、ミーティングルーム等</u>（計 1015.5 m²）、総計 2,856.4 m²の校舎である。</p> <p>①学長室、会議室、事務室等 （略）</p> <p>②教員研究室 原則として、専任教員全員に、<u>施錠可能な教員研究室を 24 室（教授・准教授用 20 室（約 22 m²）、講師・助教用 4 室（約 16 m²））を設置する。この教員研究室には、執務机、書架、打ち合わせテーブルを置く。</u></p> <p><u>また、教員と学生が打合せを行ったり、教員が学生の相談対応や指導を行うスペースとして、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と共用で A 棟にミーティングルーム 1 室、B 棟にカウンセリングルーム 1 室、C 棟にミーティングルーム 3 室を設置する。</u></p> <p><u>なお、教員が、測定や分析等、研究機材を用いた教育研究を行うスペースとして、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と共用で教員用実験室 2 室（B 棟 1 階、C 棟 3 階）を設置する。</u></p> <p>③講義室・情報処理室 講義室は A 棟に 5 室、B 棟に 7 室、C 棟に 4 室設け、視聴覚素材を用いた講義が中心と</p>	<p>748.0 m²）、屋上階には屋上に出るための階段室（31.5 m²）、総計 3,094.6 m²の校舎である。</p> <p>B棟は鉄骨造、地上2階建てで、1階には<u>実験室、加工講義室等</u>（計 419.2 m²）、2階には講義室、カウンセリングルーム等（計 425.8 m²）、総計 845.0 m²の校舎である。</p> <p>C棟は鉄骨造、地上3階建てで、1階には食堂、厨房、売店等（計 735.2 m²）、2階は図書館、<u>実験室、情報処理室等</u>（計 1,153.0 m²）、3階には図書館、講義室、共同教員室等（計 968.2 m²）、総計 2,856.4 m²の校舎である。</p> <p>①学長室、会議室、事務室等 （略）</p> <p>②教員研究室 原則として、専任の教授及び准教授の研究室は<u>個室、講師及び助教の研究室は共同教員室に個別ブースを整備し、各教員には施錠可能な個別の研究環境を整える。</u>また、教員と学生の打合せスペースとして、A棟3階にミーティングルームを整備し、<u>共同教員室には打合せ用のテーブルとイスを設置する。</u></p> <p><u>教授は14人、准教授6人であるので個室の教員室は 20 室、講師は3人、助教は1人であるので共同教員室は3室整備する。ただし、共同教員室は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の講師 11 人と共用するものとする。</u></p> <p>③講義室 講義室は A 棟に 5 室、B 棟に 7 室、C 棟に 4 室設け、視聴覚素材を用いた講義が中心と</p>

新	旧																												
<p>なるため、AV機器等（プロジェクタ、スクリーン、マイク等）の設備を設置する。<u>また、C棟には情報処理室を設ける。</u></p> <p>静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と合わせて 131 科目の講義及び演習を実施するために必要な講義室を確保する。A棟3階に設置する講義室の1室については、C棟完成後の2年次に整備する。</p> <p>なお、本学の講義室の多くは、他大学と比べ小規模であるため、GAP演習や販売演習などの演習科目については、講義室を利用して行う。</p> <p>④実験室</p> <p>実験室は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と共用で、<u>A棟に分析実験室、植物実験室、クリーンベンチ室、B棟に加工実験室、教員用実験室I、C棟に畜産実験室、教員用実験室IIの計7室を設置する。</u></p> <p><u>各実験室には実習等に必要な分析機器等の設備や器具を整備する。</u></p> <p><u>また、2室ある教員用実験室は教員専用とし、教員が支障なく教育研究が行えるよう、教員が研究を行う上で必要な測定機器や、分析等の研究機材を設置できるスペースを確保する。</u></p>	<p>なるため、AV機器等（プロジェクタ、スクリーン、マイク等）の設備を設置する。</p> <p>静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と合わせて 190 科目の講義及び演習を実施するために必要な講義室を確保する。A棟3階に設置する講義室の1室については、C棟完成後の2年次に整備する。</p> <p>なお、本学の講義室の多くは、他大学と比べ小規模であるため、GAP演習や販売演習などの演習科目については、講義室を利用して行う。</p> <p>④実験室</p> <p>実験室はA棟に2室、B棟に2室、C棟に2室設ける。<u>土壌学や植物病理学等の授業を実施するため、土壌分析機器(RQフレックス、ECメーター、pH計、乾燥機等)や病害虫診断機器(インキュベータ、顕微鏡、純水製造機、乾熱滅菌機等)の設備を設置する。</u></p> <p><u>なお、前述のうちB棟の加工実験室の1室は、食品加工実習に用いるため、調理台を設置し、包丁、まな板、オープンレンジ、冷凍冷蔵庫、製氷機、ミートチョッパー等を設置する。</u></p>																												
<table border="1" data-bbox="193 1509 746 2060"> <thead> <tr> <th>位置</th> <th>実験室名</th> <th>面積</th> <th>主な用途</th> <th>整備する機器等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">A棟</td> <td>1階 分析実験室</td> <td>112.8 ㎡</td> <td>土壌分析、飼料分析、植物分析など</td> <td>ガスクロマトフィー、RQフレックス、pH計、ECメーター、糖酸度計、原子吸光分光光度計</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2階</td> <td>植物実験室</td> <td>112.8 ㎡</td> <td>観察、病害虫診断など</td> <td>顕微鏡、インキュベータ、恒温維持器、滅菌消毒器</td> </tr> <tr> <td>クリーンベンチ室</td> <td>30.2 ㎡</td> <td>植物培養</td> <td>クリーンベンチ、恒温維持器</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">B棟</td> <td>1階 加工実験室</td> <td>133.2 ㎡</td> <td>農畜林産物加工</td> <td>ミートチョッパー、薫煙庫、プラスチックラシー、冷凍冷蔵庫</td> </tr> <tr> <td>教員用実験室I</td> <td>67.1 ㎡</td> <td>研究</td> <td>乾燥機、冷凍冷蔵庫、蒸留水製造装置、超音波洗浄機</td> </tr> </tbody> </table>	位置	実験室名	面積	主な用途	整備する機器等	A棟	1階 分析実験室	112.8 ㎡	土壌分析、飼料分析、植物分析など	ガスクロマトフィー、RQフレックス、pH計、ECメーター、糖酸度計、原子吸光分光光度計	2階	植物実験室	112.8 ㎡	観察、病害虫診断など	顕微鏡、インキュベータ、恒温維持器、滅菌消毒器	クリーンベンチ室	30.2 ㎡	植物培養	クリーンベンチ、恒温維持器	B棟	1階 加工実験室	133.2 ㎡	農畜林産物加工	ミートチョッパー、薫煙庫、プラスチックラシー、冷凍冷蔵庫	教員用実験室I	67.1 ㎡	研究	乾燥機、冷凍冷蔵庫、蒸留水製造装置、超音波洗浄機	
位置	実験室名	面積	主な用途	整備する機器等																									
A棟	1階 分析実験室	112.8 ㎡	土壌分析、飼料分析、植物分析など	ガスクロマトフィー、RQフレックス、pH計、ECメーター、糖酸度計、原子吸光分光光度計																									
	2階	植物実験室	112.8 ㎡	観察、病害虫診断など	顕微鏡、インキュベータ、恒温維持器、滅菌消毒器																								
		クリーンベンチ室	30.2 ㎡	植物培養	クリーンベンチ、恒温維持器																								
B棟	1階 加工実験室	133.2 ㎡	農畜林産物加工	ミートチョッパー、薫煙庫、プラスチックラシー、冷凍冷蔵庫																									
	教員用実験室I	67.1 ㎡	研究	乾燥機、冷凍冷蔵庫、蒸留水製造装置、超音波洗浄機																									

新					旧
C棟	3階	畜産実験室	94.8 ㎡	解剖、血液分析など	遠心分離機、アイプリーザ、クリーンベンチ、ドラフトチャンバー
		教員用実験室Ⅱ	94.8 ㎡	研究	
<p>⑤医務室 略</p> <p>⑥学生自習室及び控室 学生の自学自習の環境を整えるため、C棟の2階に1室（56.9㎡）を設置する。図書館の近くに配置し、プロジェクタ等を整備することで学生のグループ学習に対応する。その他学生が自由に滞在する場所としてC棟2階に学生ラウンジ（62.6㎡）を設け、テーブル、イスを配置する。 なお、C棟が完成するまでの平成32年度は、静岡県立農林大学校（A棟）の臨時図書室（A棟3階）128.3㎡、閲覧室48席を活用し、C棟完成後に機能をC棟に移設する。</p> <p>⑦体育館兼講堂 略</p> <p>⑧福利厚生施設 略</p> <p>⑨附属施設（農場等） 略</p> <p>（4）図書等の資料及び図書館の整備計画</p> <p>①図書等の資料整備 略</p> <p>②図書館の施設整備 図書館は、C棟の2階、3階部分に延床面積662㎡とし、蔵書能力は50,000冊であり、</p>					
<p>⑤医務室 略</p> <p>⑥学生自習室及び控室 学生の自学自習の環境を整えるため、C棟の2階に1室（55㎡）を設置する。図書館の近くに配置し、プロジェクタ等を整備することで学生のグループ学習に対応する。その他学生が自由に滞在する場所としてC棟2階に学生ラウンジ（78㎡）を設け、テーブル、イスを配置する。 なお、C棟が完成するまでの平成32年度は、静岡県立農林大学校（A棟）の臨時図書室（A棟3階）128㎡、閲覧室48席を活用し、C棟完成後に機能をC棟に移設する。</p> <p>⑦体育館兼講堂 略</p> <p>⑧福利厚生施設 略</p> <p>⑨附属施設（農場等） 略</p> <p>（4）図書等の資料及び図書館の整備計画</p> <p>①図書等の資料整備 略</p> <p>②図書館の施設整備 図書館は、C棟の2階、3階部分に延床面積850㎡とし、蔵書能力は50,000冊であり、閲覧</p>					

新	旧
<p>閲覧席 60 席 (全学生定員 296 人の約 20%)、<u>レファレンス・コーナー、図書整理室、書庫、ブラウジングスペース、PC コーナー、AV コーナー</u>を設け、閲覧席は、無線 LAN 等により持ち込みのパソコンが使用できる環境に整備する。</p> <p>学生、教職員及び学外者の入館はバーコードカード等で管理する。また、図書館システムを整備し、効率的で適切な貸出・返却、蔵書管理等を行うとともに、磁気テープ方式等により蔵書の不正持出を防止する。</p> <p>図書館には、専門職員を 2 名配置し、学生、教職員及び学外者に対し、資料提供や利用相談及び他機関との相互貸借等の業務を行う。</p> <p>また、C 棟が完成するまでの平成 32 年度は、A 棟 3 階の臨時図書室 <u>128.3 m²</u>、閲覧室 48 席 (1 年次学生定員 124 人の約 40%) を活用し、C 棟完成後に図書館機能を C 棟に移転する。なお、移設後の A 棟 3 階の旧図書館は研究室及び<u>ミーティングルーム</u>として利用する。</p> <p>なお、図書館は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と共用するので、前述の学生定員は両大学の合算である。</p>	<p>席 60 席 (全学生定員 296 人の約 20%)、ブラウジングスペース、PC コーナー、AV コーナーを設け、閲覧席は、無線 LAN 等により持ち込みのパソコンが使用できる環境に整備する。</p> <p>学生、教職員及び学外者の入館はバーコードカード等で管理する。また、図書館システムを整備し、効率的で適切な貸出・返却、蔵書管理等を行うとともに、磁気テープ方式等により蔵書の不正持出を防止する。</p> <p>図書館には、専門職員を 2 名配置し、学生、教職員及び学外者に対し、資料提供や利用相談及び他機関との相互貸借等の業務を行う。</p> <p>また、C 棟が完成するまでの平成 32 年度は、A 棟 3 階の臨時図書室 <u>128 m²</u>、閲覧室 48 席 (1 年次学生定員 124 人の 39%) を活用し、C 棟完成後に図書館機能を C 棟に移転する。なお、移設後の A 棟 3 階の旧図書館は研究室及び<u>会議室</u>として利用する。</p> <p>なお、図書館は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と共用するので、前述の学生定員は両大学の合算である。</p>

17. <図書等の整備計画が不明確>

図書等の整備計画について、完成年度までの整備冊数等について説明はあるものの、新設予定の専門職短期大学にも同様の記載があり、どの時点で整備が完了するのか不明であるほか、毎年度の整備の計画も明らかでない。図書の目録や年度ごとの整備計画等を示しつつ、どのような考え方で図書等を整備する計画であるか説明すること。

(対応)

- 図書館は、併設する農林環境専門職大学短期大学部と共用する計画であり、平成 32 年度末までに、現在整備を予定している図書 12,816 冊、学術雑誌 40 誌、オンラインデータベース 6 点、視聴覚資料 64 点を整備する。
- 平成 31 年度には、翌年のカリキュラムで必要となる基礎科目や農林業基礎の図書等を中心に全体の 6 割程度の整備を行い、平成 32 年度には、翌年のカリキュラムで必要となる経営関連図書等を追加し、残り 4 割程度の整備についても完了する。
- 整備する図書は、農林業の生産技術や生産理論等の専門図書とする。また、経営理論に関する図書や、農林業の経営や農林業以外の経営事例等の図書も整備する（別添資料 17）。
- 平成 33 年度以降、新規に農林業関連図書等が発刊された際には、随時、図書を追加していく。国内外の学術雑誌についても定期契約をし、最先端の研究情報も得られるようにする。
- 図書の整備計画について具体的に説明するため、「9 設置の趣旨を記入した書類」の 35 ページの「8 施設・設備等の整備計画 (3) 校舎等施設の整備計画」に下記のとおり追記する。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (35 ページ)

新	旧
<p>(4) 図書等の資料及び図書館の整備計画</p> <p>① 図書等の資料整備</p> <p>図書館は、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と共用する。</p> <p>開学前年度となる平成 31 年度には、<u>翌年のカリキュラムで必要となる基礎科目や農林業基礎の図書等を中心に全体の 6 割程度の整備を行い、平成 32 年度には、翌年度のカリキュラムで必要となる経営関連図書等を追加し、残り 4 割程度の整備を完了する。</u></p> <p><u>整備する図書は、農林業の専門図書館として、生産技術や生産理論等の専門図書とする。また、経営者としての素養を高めるため、経営理論に関する図書や、農林業の経営や農林業以外の経営事例等の図書も整備する。</u></p> <p><u>整備する図書の点数としては、開学前年度の平成 31 年度中に図書 7,689 冊 (基礎科目関係の図書 4,588 冊、専門科目関係の図書 3,101 冊)、学術雑誌 40 誌 (電子ジャーナル含む)、視聴覚資料 38 点を整備し、平成 32 年度中に、図書 5,127 冊 (基礎科目関係の図書 1,273 冊、専門科目関係の図書 3,854 冊)、視聴覚資料 26 点を整備する。</u></p> <p><u>平成 32 年度末時点の図書等の資料点数は、図書 12,816 冊 (基礎科目関係の図書 5,861 冊、専門科目関係の図書 6,955 冊)、学術雑誌 40 誌 (電子ジャーナル含む)、視聴覚資料 64 点である。このうち、外国書は、図書 366 冊、学術雑誌 20 誌である。</u></p> <p><u>新規に農林業関連図書等が発刊された際には、県の予算内で購入し、最新の図書の整備も行っていく。国内外の学術雑誌についても定期契約をし、最先端の研究情報も得られるようにする。(資料 28)</u></p>	<p>(4) 図書等の資料及び図書館の整備計画</p> <p>① 図書等の資料整備</p> <p>図書館は、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と共用をする。<u>一般教養分野や農林業分野の図書等に加え、経営分野などカリキュラムに関連する図書等を整備する。</u></p> <p><u>また授業に必要な図書等だけでなく、研究に必要な最新の研究情報の資料等も整備する。</u></p> <p><u>開学前年度までに、既存図書 1,350 冊、雑誌等 1,000 冊に加え、新規に図書 7,689 冊 (教養系図書 3,516 冊、専門系図書 4,173 冊)、学術雑誌 40 誌 (電子ジャーナル含む)、視聴覚資料 38 点を整備する。</u></p> <p><u>その後、順次追加収書し、完成年度までに図書約 12,816 冊 (教養系図書約 5,861 冊、専門系図書約 6,955 冊)、学術雑誌 40 誌、視聴覚資料 64 点整備する (資料 27)。</u></p>

新				旧				
[図書整備 内訳]				(単位：冊)				
区 分		内国書	外国書	合 計				
基礎科目	一般教養	政治学、社会学、歴史学、文学、哲学、茶道、華道等	5,157	37	5,194			
	コミュニケーション	英語、英語文学、英会話等	439	31	470			
	保健体育	体育	169	28	197			
	小 計		5,765	96	5,861			
専門科目	農林業基礎	化学、数学、生物学、物理学、農学概論、統計学等	1,963		2,233			
	地域資源	景観史、農村景城学、土木観光、文化財等	318		318			
	生産理論・生産技術	栽培	野菜、果樹、花卉、茶、作物栽培学、病害虫等	683		683		
		林業	林業	270	270	270		
		畜産	畜産	296		296		
	経営管理	経営学、経営管理、農業経済、農林畜産経営等	2,499		2,499			
	加工・流通・販売	食品木材流通・加工、販売管理、食品衛生等	656		656			
	小 計		6,685	270	6,955			
合 計		12,450	366	12,816				
※ 外国書は、分類が困難なため、合計欄では農林業基礎に計上。								
[学術雑誌整備 内訳]								
区 分		内国書	外国書	合 計				
基礎科目	一般教養	経済学	1		1			
専門科目	地域資源	環境	1		1			
	農林業基礎	農林業一般、農林研究	5	11	16			
	生産理論・技術	園芸、林業・木材加工、畜産、土壌肥料、病害虫、土壌環境、森林	6	7	13			
	経営管理	農林業経営	7		7			
	加工・流通・販売	食品加工		2	2			
小 計		20	20	40				
[図書整備の年次計画]								
(単位：冊)								
区 分		平成31年度	平成32年度	合 計				
基礎科目	一般教養	4,003	1,191	5,194				
	コミュニケーション	431	39	470				
	保健体育	154	43	197				
	小 計		4,588	1,273	5,861			
専門科目	農林業基礎	1,948	285	2,233				
	地域資源	121	197	318				
	生産理論・生産技術	栽培	400	283	683			
		林業	200	70	270			
		畜産	200	96	296			
	経営管理	111	2,388	2,499				
	加工・流通・販売	121	535	656				
小 計		3,101	3,854	6,955				
合 計		7,689	5,127	12,816				

18. <附属施設の整備計画が不明確>

本学は農業、畜産、林業の各分野の専門職業人を養成する計画であるため、教育研究に必要な施設として「農場」「飼育場または牧場」「演習林」を配置する必要があるが、既存の農林大学校の実習ほ場、県有施設である農林技術研究所や畜産技術研究所を利用するとの説明はあるものの、当該施設の内容や、どのように本学の教育研究に使用が可能なのかも説明が無く、教育研究上支障なく整備される計画であるか確認できない。附属施設の内容や利用計画等を具体的に説明し、中長期的に教育研究上支障がないことを明確にすること。

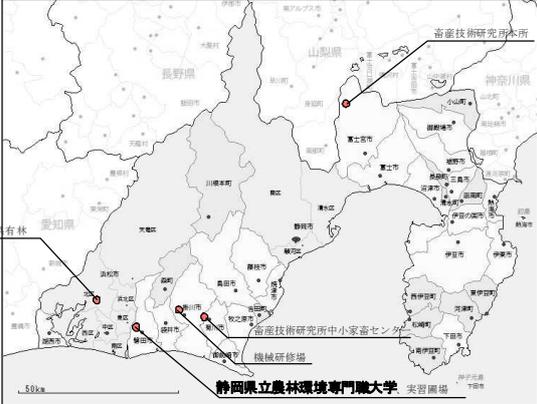
(対応)

- ・専門職大学設置基準第 49 条に定める附属施設として、農場については、敷地内の静岡県立農林大学校の既存の実習圃場 15,843 m²と機械研修所 36,656 m²を転用する。また、牧場については、県有施設である畜産技術研究所（本所）121.9ha と、畜産技術研究所中小家畜センター9.3ha を充てる。演習林については、本学の近隣にある県有林約 280ha を充てる。
- ・既存の静岡県立農林大学校の実習圃場、県有施設である畜産技術研究所や演習林の施設概要や利用計画について、「設置の趣旨等を記載した書類 資料 27」（別添資料 18）により具体的に説明するとともに、「基本計画書」3 ページ及び「校地校舎等の図面」2 ページ、「設置の趣旨等を記載した書類」の 34～35 ページの「8 施設・設備等の整備計画（3）校舎等施設の整備計画」、40～41 ページの「11 実習の具体的計画（1）学内施設及び県試験研究機関等での実習」に下記のとおり追記する。

(新旧対照表) 基本計画書（3 ページ）

新	旧
<p>附属施設の概要</p> <p>〔農場〕 ① 名称：実習圃場 所在地：静岡県磐田市富丘678-1 規模等：建物：2,043㎡、土地5,843㎡ ② 名称：機械研修場 所在地：静岡県掛川市下垂木270-1 規模等：建物：1,022㎡、土地：36,656㎡</p> <p>〔牧場〕 ① 名称：静岡県畜産技術研究所（本所） 所在地：静岡県富士宮市藤之廻945 規模等：建物：12,732㎡、土地21.9ha ② 名称：静岡県畜産技術研究所 中小家畜センター 所在地：静岡県菊川市西方2780 規模等：建物：9,282㎡、土地9.3ha</p> <p>〔演習林〕 名称：静岡県有林 所在地：浜松市西区 規模等：森林面積約280ha</p> <p>※附属施設の概要については、「設置の趣旨等を記載した書類 資料27」参照</p>	<p>附属施設の概要</p> <p>① 名称：実習圃場 目的：裁縫技術の習得や研究圃場として利用するため。 所在地：静岡県磐田市富丘678-1 設置：昭和55年 規模等：建物：2,043㎡、土地5,843㎡ ② 名称：機械研修場 目的：農業機械の運転技術や機械整備に関する知識等の習得を図るため。 所在地：静岡県掛川市下垂木270-1 設置：昭和63年 規模等：建物：1,022㎡、土地：36,656㎡</p> <p>※上記の附属施設に加え、以下の県有施設において実習等を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農村技術研究所本所（静岡県磐田市） ・農村技術研究所茶業研究センター（静岡県菊川市） ・農村技術研究所課題研修センター（静岡県静岡市） ・農村技術研究所森林・林業研究センター（静岡県浜松市） ・畜産技術研究所本所（静岡県富士宮市） ・畜産技術研究所中家畜研究センター（静岡県菊川市） ・県有林（静岡県浜松市西区）

(新旧対照表) 校地校舎等の図面 (2 ページ)

新	旧
<p>(1) 静岡県内地図</p> 	<p>(1) 静岡県内地図</p> 

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (34～35 ページ)

新	旧
<p>⑨附属施設(農場等)</p> <p>専門職大学設置基準第 49 条に定める附属施設として、農場については、敷地内の静岡県立農林大学校の既存の実習圃場 15,843 m²と機械研修所 36,656 m²を転用する。また、牧場については、県有施設である畜産技術研究所(本所) 121.9ha と、畜産技術研究所中小家畜センター9.3ha を充てる。演習林については、本学の近隣にある県有林約 280ha を充てる(資料 27)</p> <p>農場として使用する実習圃場は、効率的に管理・運営するために、静岡県立農林環境専門職大学と静岡県立農林環境専門職大学短期大学部が共用し、作物ごとに配置した技術職員が通常の管理業務を担う計画である。静岡県立農林環境専門職大学と静岡県立農林環境専門職大学短期大学部は、実習の実施時間が重複しないように計画しており、支障なく実施できる。</p> <p>実習圃場は、トマトやイチゴ、メロン等の施設野菜やナス、オクラ等の露地野菜、切花や鉢花等の花き、お茶、果樹、しいたけ等を</p>	<p>⑨附属施設(圃場等)</p> <p>本学は農学分野の学部であり、専門職大学設置基準第 49 条に定める附属施設の圃場として、敷地内の静岡県立農林大学校の既存の実習圃場 15,843 m²(建物 15 棟延床面積 2,043 m²、温室等 24 棟延床面積 4,600 m²、露地 9,200 m²)を転用する。実習圃場は、トマトやイチゴ、メロン等の施設野菜やナス、オクラ等の露地野菜、切花や鉢花等の花き、お茶、果樹、しいたけ等を栽培可能な圃場であり、圃場実習や生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱといった栽培実習用だけでなく、プロジェクト研究といった研究用圃場としても用いる。設備については、栽培管理に必要な設備として、栽培棚や自動給液装置、複合環境制御装置、茶刈機、中刈機、スピードスプレイヤー、トラクター、溝切り機、運搬車等を整備する。また試験用設備として、環境測定機器(温湿度計、日射計、風速計、データロガー等)を整備する。</p>

新	旧
<p>栽培可能な圃場であり、圃場実習や生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱといった栽培実習用だけでなく、プロジェクト研究といった研究用圃場としても用いることも<u>可能である</u>。設備については、栽培管理に必要な設備として、栽培棚や自動給液装置、複合環境制御装置、茶刈機、中刈機、スピードスプレイヤー、トラクター、溝切り機、運搬車等を整備する。また試験用設備として、環境測定機器（温湿度計、日射計、風速計、データロガー等）を整備する。</p> <p>機械研修場には、トラクターやフォークリフトなどの農業に関する機械と試験コースがあり、実習を通じて農業機械の操作技術や<u>安全な使用方法を学ぶ</u>。</p> <p><u>実習圃場を管理・運営するために、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と兼任の非常勤(週 29 時間勤務)の技術職員 15 人(野菜 4 人、花き 2 人、茶 2 人、果樹 1 人、畜産 1 人、林業 2 人、農産加工 1 人、機械研修場 2 人)を配置する。技術職員は、実習計画や圃場・施設の利用計画に基づき、播種や肥培管理、病虫害防除、収穫などの作業に従事するとともに、実習実施時には、教員をサポートする。また、実習圃場で行う研究活動においても、生育管理などの作業を担うこととし、教育研究上、支障がない実施体制を整える。</u></p> <p><u>これらの技術職員には、静岡県や農業協同組合の職員OB等、豊富な知識や技術、経験を有する者を充てる計画であり、圃場を管理・運営する上で支障はない。</u></p> <p><u>また、実習圃場など附属施設での実習を円滑に実施できるよう、静岡県立農林環境専門職大学と静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の実習担当教員や、技術職員等からなる「実習圃場委員会」を合同で設置し、実習の実施体制や実習計画、圃場・施設の利用計</u></p>	<p>機械研修場には、トラクターやフォークリフトなどの農業に関する機械と試験コースがあり、実習を通じて農業機械の操作技術を学ぶ。<u>また、附属施設ではないが、県有施設である農林技術研究所や畜産技術研究所などにおいて、研究所実習や圃場実習等を実施する。</u></p>

新	旧
<p><u>画、作物の作付計画などを策定する。</u></p> <p><u>牧場として使用する畜産技術研究所及び畜産技術研究所中小家畜センターは、県の畜産振興に係る技術開発のための研究拠点として、必要な施設や圃場、設備が整備されており、また、これまでも既設の静岡県立農林大学校養成部2年次の実習を受け入れている、実施にあたってのノウハウも蓄積されていることから、静岡県立農林環境専門職大学の<u>実習実施についても支障なく実施できる。</u></u></p> <p><u>演習林として使用する県有林では、林道等の測量や森林調査、伐採といった実習を行うことが可能であり、静岡県立農林環境専門職大学の<u>実習実施についても支障なく実施できる。</u></u></p> <p><u>なお、静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と、県試験研究機関等との間で、教育研究の進め方などを協議する連携会議を設け、中長期的な施設・設備の利用について調整する体制を整える計画であり、教育研究上、支障なく実施することができる。</u></p>	

新	旧
<p>11 実習の具体的計画</p> <p>(1) 学内施設及び県試験研究機関等での実習</p> <p>①実習の目的</p> <p>1年次に行う「総合実習」、<u>2年次前期</u>に行う「<u>圃場実習(栽培)</u>」、「<u>演習林実習</u>」、「<u>圃場実習(畜産)</u>」では基礎的な生産技術を、<u>2年次後期</u>に行う「<u>生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)</u>」、「<u>生産マネジメント実習Ⅰ(林業)</u>」、「<u>生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)</u>」では応用的な技術や基礎的なマネジメント能力を、3年次に行う「<u>生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)</u>」、「<u>生産マネジメント実習Ⅱ(林業)</u>」、「<u>生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)</u>」では実践的なマネジメント能力を学ぶことを目的とする。</p> <p>②実習の目標 (略)</p> <p>③実習の計画</p> <p>ア 1年次</p> <p>農林業全般(水稻、茶、野菜、果樹、花き、畜産、林業)の生産管理に関わる知識や技術を学ぶ「総合実習」を配置する。</p> <p>イ 2年次</p> <p><u>前期には、栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、それぞれの分野の基礎的な生産技術を学ぶ「圃場実習(栽培)」、「演習林実習」、「圃場実習(畜産)」を配置する。</u></p> <p><u>また、トラクターなど大型機械の知識や操作技術、安全な使用方法について学ぶ「大型機械実習Ⅰ」を配置する。</u></p>	<p>11 実習の具体的計画</p> <p>(1) 学内圃場及び県試験研究機関等での実習</p> <p>①実習の目的</p> <p>1年次に行う「総合実習」、「<u>圃場実習(栽培)</u>」、「<u>演習林実習</u>」、「<u>圃場実習(畜産)</u>」では基礎的な生産技術を、<u>2年次</u>に行う「<u>生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)</u>」、「<u>生産マネジメント実習Ⅰ(林業)</u>」、「<u>生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)</u>」では応用的な技術や基礎的なマネジメント能力を、3年次に行う「<u>生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)</u>」、「<u>生産マネジメント実習Ⅱ(林業)</u>」、「<u>生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)</u>」では実践的なマネジメント能力を学ぶことを目的とする。</p> <p>②実習の目標 (略)</p> <p>③実習の計画</p> <p>ア 1年次</p> <p>農林業全般(水稻、茶、野菜、果樹、花き、畜産、林業)の生産管理に関わる知識や技術を学ぶ「総合実習」と、<u>栽培領域、林業領域、畜産領域に分かれて、それぞれの分野の基礎的な生産技術を学ぶ「圃場実習(栽培)」、「演習林実習」、「圃場実習(畜産)」を配置する。</u></p> <p>イ 2年次</p> <p>生産現場の管理を行う場合には、PDCAサイクルや新技術への対応力が必要となる。このため、生産現場での実践(Do)を通じ、計画(Plan)策定に必要な施設・圃場・作物・生産資材などの情報収集の方法や費用や利益の計算方法、新技術への対応、また、栽培終了後の評価(Check)方法、評価結果を次の作にどのよ</p>

新	旧
<p>さらに、生産現場の管理を行う場合には、PDCAサイクルや新技術への対応力が必要となる。このため、後期には、生産現場での実践 (Do) を通じ、計画 (Plan) 策定に必要なとなる施設・圃場・作物・生産資材などの情報収集の方法や費用や利益の計算方法、新技術への対応、また、栽培終了後の評価 (Check) 方法、評価結果を次の作にどのように生かせばよいのか考える (Action) 「生産マネジメント実習 I (栽培)」、「生産マネジメント実習 I (林業)」、「生産マネジメント実習 I (畜産)」の3科目を配置する。</p> <p>ウ 3年次</p> <p>2年次までの学習をもとに、PDCAサイクルを意識した生産管理について学ぶ「生産マネジメント実習 II (栽培)」、「生産マネジメント実習 II (林業)」、「生産マネジメント実習 II (畜産)」の3科目を配置する。また、大型機械についてのより高度な知識や技能について学ぶ「大型機械実習 II」と「林業機械実習」、加工について学ぶ「食品加工実習」と「木材加工実習」を配置する。また、販売の実践について学ぶ「販売実習」を配置する。</p> <p>④実習施設の確保状況</p> <p><u>「食品加工実習」についてはB棟の加工実験室、「販売実習」についてはC棟売店で実施する。</u></p> <p><u>農林業全般 (水稻、茶、野菜、果樹、花き、畜産、林業) の生産管理に関わる基礎的な知識や技術を学ぶ「総合実習」と、各コースの専門的な生産技術を学ぶ「圃場実習 (栽培)」、「生産マネジメント実習 I、II (栽培)」については、実習圃場で、「大型機械実習 I」、「大型機械実習 II」については、機械研修場で実施する。</u></p> <p><u>「生産マネジメント実習 I、II (畜産)」、</u></p>	<p>うに生かせばよいのか考える (Action) 「生産マネジメント実習 I (栽培)」、「生産マネジメント実習 I (林業)」、「生産マネジメント実習 I (畜産)」の3科目を配置する。<u>また、農業生産工程管理について学ぶ「GAP 演習」、林業領域では森林認証制度について学ぶ「森林認証演習」と森林の調査や森林施業プラン (森林施業提案書) について学ぶ「森林施業プラン演習」を配置する。</u></p> <p><u>さらに、トラクターなど大型機械の知識や操作技術について学ぶ「大型機械実習 I」を配置する。</u></p> <p>ウ 3年次</p> <p>2年次までの学習をもとに、PDCAサイクルを意識した生産管理について学ぶ「生産マネジメント実習 II (栽培)」、「生産マネジメント実習 II (林業)」、「生産マネジメント実習 II (畜産)」の3科目を配置する。また、大型機械についてのより高度な知識や技能について学ぶ「大型機械実習 II」と「林業機械実習」、加工について学ぶ「食品加工実習」と「林業加工実習」を配置する。また、販売の実践について学ぶ「販売実習」を配置する。</p> <p>④実習施設の確保状況</p> <p><u>栽培関係の実習は主に本学内実習圃場を使用し、必要に応じて県試験研究機関の施設を利用する。林業の実習は県有林を、畜産の実習は本学内実習圃場及び県試験研究機関の施設を利用する。</u></p> <p><u>大型機械の実習は、大学附属施設の機械研修所で行う。</u></p> <p><u>また、県試験研究機関の施設を利用して実習が実施できるよう、県試験研究機関と取り決めを交わし、実習の事前・事後とも連携を深め、より良い授業づくりへの改善や、問題点・課題点の報告と解決に向けて、緊密な関係を構築して</u></p>

新	旧
<p>「<u>圃場実習（畜産）</u>」については、<u>管理の全般について理解するために行う実習は実習圃場で実習を行い、実践的な飼養管理技術を習得したり、先端技術を利用した最新の管理・調査スキルを習得するための実習は県有施設である畜産技術研究所及び畜産技術研究所中小家畜センターで実習を行う。</u></p> <p><u>畜産技術研究所及び畜産技術研究所中小家畜センターで行う実習については、通常の肥育管理等の業務の一部を担う形で実施する。畜産技術研究所は、これまでも既設の静岡県立農林大学校養成部2年次の実習を受け入れており、実施にあたってのノウハウが蓄積されていることから、静岡県立農林環境専門職大学の実習についても支障なく実施できる。</u></p> <p><u>「生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱ（林業）」、「演習林実習」、「木材加工実習」、「林業機械実習」については、管理の全般について理解するために行う実習は実習圃場で実習を行い、実践的な管理技術を習得したり、先端技術を利用した最新の管理・調査スキルを習得するための実習は県有林で実施する。</u></p> <p><u>県有林における実習については、伐採など十分な安全管理が必要な実習について、静岡県立農林環境専門職大学が実習を行う区域を設定して実施することとしており、支障なく実施できる。</u></p> <p><u>また、静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と県試験研究機関等との間で、教育研究の進め方などを協議する連携会議を設け、中長期的な施設・設備の利用について調整する体制を整える計画であり、教育研究上、支障なく実施することができる。</u></p> <p><u>更に、実習圃場での実習を円滑に実施できるよう、静岡県立農林環境専門職大学と静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の実習</u></p>	<p>いく。</p>

新	旧
<p><u>担当教員や、技術職員等からなる「実習圃場委員会」を合同で設置し、実習の実施体制や実習計画、圃場・施設の利用計画、作物の作付計画などを策定する。</u></p> <p>⑤実習水準の確保と対策</p> <p>実習実施にあたり実習計画を作成し、計画に沿って実施する。実習実施後は、問題点や課題について検証し、次年度の実習に反映させる。</p> <p>実習は<u>少人数グループで行い、各実習科目には指導に当たる教員を2人以上配置する。</u></p> <p>また、<u>静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と兼任で、実習圃場管理と実習指導の補助に従事する非常勤（週 29 時間勤務）の技術職員 15 人を配置し、教員が行う指導を支援する。技術職員は、栽培管理の実習や簡易な成長調査、病虫害診断や収穫物の調査の際に、学生が的確かつ安全に実習が行えるよう、教員をサポートする。これらの技術職員には、静岡県や農業協同組合の職員OB等、豊富な知識や技術、経験を有する者を充てる計画であり、実習指導の補助を行う上で支障はない。既設の静岡県立農林大学校では、同様の技術職員を 10 人配置しているが、静岡県立農林環境専門職大学では5人増員し、実習水準の確保に努める。</u></p> <p>⑥実習実施上の配慮</p> <p><u>学生の移動にかかる負担を軽減するため、県有施設へは、静岡県立農林環境専門職大学と静岡県立農林環境専門職大学短期大学部が共用するマイクロバス 3 台（定員 22～29 人程度）で移動することを基本とし、畜産技術研究所については場内にある宿泊施設を利用することで、学生の移動に支障が生じないように、配慮する。</u></p>	<p>⑤実習水準の確保と対策</p> <p>実習実施にあたり実習計画を作成し、計画に沿って実習を実施する。実習実施後は、問題点や課題について検証し、次年度の実習に反映させる。</p> <p>実習は <u>10 人以下の少人数グループで行い、指導に当たる教員を2名以上配置する。</u></p>

19. <技術職員の配置計画が不明確>

技術職員を 15 名配置する計画であるが、同時期に設置予定の専門職短期大学と兼務する計画となっており、十分な実施体制となっているか疑義がある。本学における技術職員の役割を具体的に示しつつ教育研究上支障ない実施体制であることを説明すること。

(対応)

- ・静岡県立農林環境専門職大学と静岡県立農林環境専門職大学短期大学部は、共用する実習圃場の管理と、実習指導の補助に従事する非常勤の技術職員 15 人（野菜 4 人、花き 2 人、茶 2 人、果樹 1 人、畜産 1 人、林業 2 人、農産加工 1 人、機械研修所 2 人）を配置する。
- ・この技術職員は非常勤（週 29 時間勤務）で、静岡県や農協の職員 O B 等、豊富な知識や技術、経験を有する者を配置する。
- ・この技術職員は、以下の業務に従事する。
 - ①実習圃場における、実習計画や圃場・施設の利用計画に基づき、播種や肥培管理、病虫害防除、収穫など日々の管理作業
 - ②実習時の教員のサポート
 - ③実習圃場で教員が行う研究活動における、農作物の生育管理作業
- ・実習圃場など附属施設での実習が円滑に行えるよう、静岡県立農林環境専門職大学と静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の実習担当教員や、技術職員等からなる「実習圃場委員会」を合同で設置し、実習の実施体制や実習計画、圃場・施設の利用計画、作物の作付計画などを策定する。
- ・本学における技術職員の役割を具体的に示しつつ教育研究上支障ない実施体制であることを説明するため、「設置の趣旨等を記載した書類」34～35 ページの「8 施設・設備等の整備計画（3）校舎等施設の整備計画」及び 40～41 ページの「11 実習の具体的計画（1）学内施設及び県試験研究機関等での実習」に下記のとおり追記する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (34～35 ページ)

新	旧
<p>⑨附属施設(農場等)</p> <p>専門職大学設置基準第 49 条に定める附属施設として、農場については、敷地内の静岡県立農林大学校の既存の実習圃場 15,843 m²と機械研修所 36,656 m²を転用する。また、<u>牧場については、県有施設である畜産技術研究所(本所) 121.9ha と、畜産技術研究所中小家畜センター9.3ha を充てる。演習林については、本学の近隣にある県有林約 280ha を充てる(資料 27)。</u></p> <p><u>農場として使用する実習圃場は、効率的に管理・運営するために、静岡県立農林環境専門職大学と静岡県立農林環境専門職大学短期大学部が共用し、作物ごとに配置した技術職員が通常の管理業務を担う計画である。静岡県立農林環境専門職大学と静岡県立農林環境専門職大学短期大学部は、実習の実施時間が重複しないように計画しており、支障なく実施できる。</u></p> <p>実習圃場は、トマトやイチゴ、メロン等の施設野菜やナス、オクラ等の露地野菜、切花や鉢花等の花き、お茶、果樹、しいたけ等を栽培可能な圃場であり、圃場実習や生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱといった栽培実習用だけでなく、プロジェクト研究といった研究用圃場としても用いることも<u>可能である</u>。設備については、栽培管理に必要な設備として、栽培棚や自動給液装置、複合環境制御装置、茶刈機、中刈機、スピードスプレイヤー、トラクター、溝切り機、運搬車等を整備する。また試験用設備として、環境測定機器(温湿度計、日射計、風速計、データロガー等)を整備する。</p> <p>機械研修場には、トラクターやフォークリフトなどの農業に関する機械と試験コースがあり、実習を通じて農業機械の操作技術や安全な使用方法を学ぶ。</p>	<p>⑨附属施設(圃場等)</p> <p>本学は農学分野の学部であり、専門職大学設置基準第 49 条に定める附属施設の圃場として、敷地内の静岡県立農林大学校の既存の実習圃場 15,843 m²(建物 15 棟延床面積 2,043 m²、温室等 24 棟延床面積 4,600 m²、露地 9,200 m²)を転用する。実習圃場は、トマトやイチゴ、メロン等の施設野菜やナス、オクラ等の露地野菜、切花や鉢花等の花き、お茶、果樹、しいたけ等を栽培可能な圃場であり、圃場実習や生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱといった栽培実習用だけでなく、プロジェクト研究といった研究用圃場としても<u>用いる</u>。設備については、栽培管理に必要な設備として、栽培棚や自動給液装置、複合環境制御装置、茶刈機、中刈機、スピードスプレイヤー、トラクター、溝切り機、運搬車等を整備する。また試験用設備として、環境測定機器(温湿度計、日射計、風速計、データロガー等)を整備する。</p> <p>機械研修場には、トラクターやフォークリフトなどの農業に関する機械と試験コースがあり、実習を通じて農業機械の操作技術を学ぶ。<u>また、附属施設ではないが、県有施設である農林技</u></p>

新	旧
<p><u>実習圃場を管理・運営するために、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と兼任の非常勤(週 29 時間勤務)の技術職員 15 人(野菜 4 人、花き 2 人、茶 2 人、果樹 1 人、畜産 1 人、林業 2 人、農産加工 1 人、機械研修場 2 人)を配置する。技術職員は、実習計画や圃場・施設の利用計画に基づき、播種や肥培管理、病虫害防除、収穫などの作業に従事するとともに、実習実施時には、教員をサポートする。また、実習圃場で行う研究活動においても、生育管理などの作業を担うこととし、教育研究上、支障がない実施体制を整える。</u></p> <p><u>これらの技術職員には、静岡県や農業協同組合の職員OB等、豊富な知識や技術、経験を有する者を充てる計画であり、圃場を管理・運営する上で支障はない。</u></p> <p><u>また、実習圃場など附属施設での実習を円滑に実施できるよう、静岡県立農林環境専門職大学と静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の実習担当教員や、技術職員等からなる「実習圃場委員会」を合同で設置し、実習の実施体制や実習計画、圃場・施設の利用計画、作物の作付計画などを策定する。</u></p> <p><u>牧場として使用する畜産技術研究所及び畜産技術研究所中小家畜センターは、県の畜産振興に係る技術開発のための研究拠点として、必要な施設や圃場、設備が整備されており、また、これまでも既設の静岡県立農林大学校養成部 2 年次の実習を受け入れていることから、静岡県立農林環境専門職大学の実習実施についても支障なく実施できる。</u></p> <p><u>演習林として使用する県有林では、林道等の測量や森林調査、伐採といった実習を行うことが可能であり、静岡県立農林環境専門職大学の実習実施についても支障なく実施できる。</u></p>	<p><u>術研究所や畜産技術研究所などにおいて、研究所実習や圃場実習等を実施する。</u></p>

新	旧
<p>なお、<u>静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と、県試験研究機関等との間で、教育研究の進め方などを協議する連携会議を設け、中長期的な施設・設備の利用について調整する体制を整える計画であり、教育研究上、支障なく実施することができる。</u></p>	

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (40～41 ページ)

新	旧
<p>11 実習の具体的計画 (1)学内<u>施設</u>及び県試験研究機関等での実習 ①実習の目的 1年次に行う「<u>総合実習</u>」、<u>2年次前期</u>に行う「<u>圃場実習 (栽培)</u>」、「<u>演習林実習</u>」、「<u>圃場実習 (畜産)</u>」では基礎的な生産技術を、<u>2年次後期</u>に行う「<u>生産マネジメント実習 I (栽培)</u>」、「<u>生産マネジメント実習 I (林業)</u>」、「<u>生産マネジメント実習 I (畜産)</u>」では応用的な技術や基礎的なマネジメント能力を、3年次に行う「<u>生産マネジメント実習 II (栽培)</u>」、「<u>生産マネジメント実習 II (林業)</u>」、「<u>生産マネジメント実習 II (畜産)</u>」では実践的なマネジメント能力を学ぶことを目的とする。</p> <p>②実習の目標 (略)</p> <p>③実習の計画 ア 1年次 農林業全般 (水稻、茶、野菜、果樹、花き、畜産、林業) の生産管理に関わる知識や技術を学ぶ「<u>総合実習</u>」を配置する。</p>	<p>11 実習の具体的計画 (1)学内<u>圃場</u>及び県試験研究機関等での実習 ①実習の目的 1年次に行う「<u>総合実習</u>」、「<u>圃場実習 (栽培)</u>」、「<u>演習林実習</u>」、「<u>圃場実習 (畜産)</u>」では基礎的な生産技術を、<u>2年次</u>に行う「<u>生産マネジメント実習 I (栽培)</u>」、「<u>生産マネジメント実習 I (林業)</u>」、「<u>生産マネジメント実習 I (畜産)</u>」では応用的な技術や基礎的なマネジメント能力を、3年次に行う「<u>生産マネジメント実習 II (栽培)</u>」、「<u>生産マネジメント実習 II (林業)</u>」、「<u>生産マネジメント実習 II (畜産)</u>」では実践的なマネジメント能力を学ぶことを目的とする。</p> <p>②実習の目標 (略)</p> <p>③実習の計画 ア 1年次 農林業全般 (水稻、茶、野菜、果樹、花き、畜産、林業) の生産管理に関わる知識や技術を学ぶ「<u>総合実習</u>」と、<u>栽培領域、林業領域、畜産領域に分かれて、それぞれの分野の基礎的な生産技術を学ぶ「圃場実習 (栽培)</u>」、「<u>演習林実習</u>」、「<u>圃場実習 (畜産)</u>」を配置する。</p>

新	旧
<p>イ 2年次</p> <p><u>前期には、栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、それぞれの分野の基礎的な生産技術を学ぶ「圃場実習（栽培）」、「演習林実習」、「圃場実習（畜産）」を配置する。</u></p> <p><u>また、トラクターなど大型機械の知識や操作技術、安全な使用方法について学ぶ「大型機械実習Ⅰ」を配置する。</u></p> <p><u>さらに、生産現場の管理を行う場合には、PDCAサイクルや新技術への対応力が必要となる。このため、後期には、生産現場での実践（Do）を通じ、計画（Plan）策定に必要な施設・圃場・作物・生産資材などの情報収集の方法や費用や利益の計算方法、新技術への対応、また、栽培終了後の評価（Check）方法、評価結果を次の作にどのように生かせばよいのか考える（Action）「生産マネジメント実習Ⅰ（栽培）」、「生産マネジメント実習Ⅰ（林業）」、「生産マネジメント実習Ⅰ（畜産）」の3科目を配置する。</u></p> <p>ウ 3年次</p> <p>2年次までの学習をもとに、PDCAサイクルを意識した生産管理について学ぶ「生産マネジメント実習Ⅱ（栽培）」、「生産マネジメント実習Ⅱ（林業）」、「生産マネジメント実習Ⅱ（畜産）」の3科目を配置する。また、大型機械についてのより高度な知識や技能について学ぶ「大型機械実習Ⅱ」と「林業機械実習」、加工について学ぶ「食品加工実習」と「<u>木材加工実習</u>」を配置する。また、販売の実践について学ぶ「販売実習」を配置する。</p> <p>④実習施設の確保状況</p> <p><u>「食品加工実習」についてはB棟の加工実験室、「販売実習」についてはC棟売店で実施する。</u></p>	<p>イ 2年次</p> <p>生産現場の管理を行う場合には、PDCAサイクルや新技術への対応力が必要となる。このため、生産現場での実践（Do）を通じ、計画（Plan）策定に必要な施設・圃場・作物・生産資材などの情報収集の方法や費用や利益の計算方法、新技術への対応、また、栽培終了後の評価（Check）方法、評価結果を次の作にどのように生かせばよいのか考える（Action）「生産マネジメント実習Ⅰ（栽培）」、「生産マネジメント実習Ⅰ（林業）」、「生産マネジメント実習Ⅰ（畜産）」の3科目を配置する。<u>また、農業生産工程管理について学ぶ「GAP 演習」、林業領域では森林認証制度について学ぶ「森林認証演習」と森林の調査や森林施業プラン（森林施業提案書）について学ぶ「森林施業プラン演習」を配置する。</u></p> <p><u>さらに、トラクターなど大型機械の知識や操作技術について学ぶ「大型機械実習Ⅰ」を配置する。</u></p> <p>ウ 3年次</p> <p>2年次までの学習をもとに、PDCAサイクルを意識した生産管理について学ぶ「生産マネジメント実習Ⅱ（栽培）」、「生産マネジメント実習Ⅱ（林業）」、「生産マネジメント実習Ⅱ（畜産）」の3科目を配置する。また、大型機械についてのより高度な知識や技能について学ぶ「大型機械実習Ⅱ」と「<u>林業機械実習</u>」、加工について学ぶ「<u>食品加工実習</u>」と「<u>林業加工実習</u>」を配置する。また、販売の実践について学ぶ「販売実習」を配置する。</p> <p>④実習施設の確保状況</p> <p><u>栽培関係の実習は主に本学内実習圃場を使用し、必要に応じて県試験研究機関の施設を利用する。林業の実習は県有林を、畜産の実</u></p>

新	旧
<p>農林業全般（水稲、茶、野菜、果樹、花き、畜産、林業）の生産管理に関わる基礎的な知識や技術を学ぶ「総合実習」と、各コースの専門的な生産技術を学ぶ「圃場実習（栽培）」、「生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱ（栽培）」については、実習圃場で、「大型機械実習Ⅰ」、「大型機械実習Ⅱ」については、機械研修場で実施する。</p> <p>「生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱ（畜産）」、「圃場実習（畜産）」については、管理の全般について理解するために行う実習は実習圃場で実習を行い、実践的な飼養管理技術を習得したり、先端技術を利用した最新の管理・調査スキルを習得するための実習は県有施設である畜産技術研究所及び畜産技術研究所中小家畜センターで実習を行う。</p> <p>畜産技術研究所及び畜産技術研究所中小家畜センターで行う実習については、通常の肥育管理等の業務の一部を担う形で実施する。畜産技術研究所は、これまでも既設の静岡県立農林大学校養成部２年次の実習を受け入れており、実施にあたってのノウハウが蓄積されていることから、静岡県立農林環境専門職大学の実習についても支障なく実施できる。</p> <p>「生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱ（林業）」、「演習林実習」、「木材加工実習」、「林業機械実習」については、管理の全般について理解するために行う実習は実習圃場で実習を行い、実践的な管理技術を習得したり、先端技術を利用した最新の管理・調査スキルを習得するための実習は県有林で実施する。</p> <p>県有林における実習については、伐採など十分な安全管理が必要な実習について、静岡県立農林環境専門職大学が実習を行う区域を設定して実施することとしており、支障なく実施できる。</p> <p>また、静岡県立農林環境専門職大学及び静</p>	<p>習は本学内実習圃場及び県試験研究機関の施設を利用する。</p> <p>大型機械の実習は、大学附属施設の機械研修所で行う。</p> <p>また、県試験研究機関の施設を利用して実習が実施できるよう、県試験研究機関と取り決めを交わし、実習の事前・事後とも連携を深め、より良い授業づくりへの改善や、問題点・課題点の報告と解決に向けて、緊密な関係を構築していく。</p>

新	旧
<p><u>岡山立農林環境専門職大学短期大学部と県試験研究機関等との間で、教育研究の進め方などを協議する連携会議を設け、中長期的な施設・設備の利用について調整する体制を整える計画であり、教育研究上、支障なく実施することができる。</u></p> <p><u>更に、実習圃場での実習を円滑に実施できるよう、静岡県立農林環境専門職大学と静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の実習担当教員や、技術職員等からなる「実習圃場委員会」を合同で設置し、実習の実施体制や実習計画、圃場・施設の利用計画、作物の作付計画などを策定する。</u></p> <p>⑤実習水準の確保と対策</p> <p>実習実施にあたり実習計画を作成し、計画に沿って実施する。実習実施後は、問題点や課題について検証し、次年度の実習に反映させる。</p> <p>実習は<u>少人数グループで行い、各実習科目には指導に当たる教員を2人以上配置する。</u></p> <p>また、<u>静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と兼任で、実習圃場管理と実習指導の補助に従事する非常勤（週 29 時間勤務）の技術職員 15 人を配置し、教員が行う指導を支援する。技術職員は、栽培管理の実習や簡易な成長調査、病虫害診断や収穫物の調査の際に、学生が的確かつ安全に実習が行えるよう、教員をサポートする。これらの技術職員には、静岡県や農業協同組合の職員OB等、豊富な知識や技術、経験を有する者を充てる計画であり、実習指導の補助を行う上で支障はない。既設の静岡県立農林大学校では、同様の技術職員を 10 人配置しているが、静岡県立農林環境専門職大学では5人増員し、実習水準の確保に努める。</u></p> <p>⑥実習実施上の配慮</p>	<p>⑤実習水準の確保と対策</p> <p>実習実施にあたり実習計画を作成し、計画に沿って実習を実施する。実習実施後は、問題点や課題について検証し、次年度の実習に反映させる。</p> <p>実習は <u>10 人以下の少人数グループで行い、指導に当たる教員を2名以上配置する。</u></p>

新	旧
<p><u>学生の移動にかかる負担を軽減するため、県有施設へは、静岡県立農林環境専門職大学と静岡県立農林環境専門職大学短期大学部が共用するマイクロバス3台（定員22～29人程度）で移動することを基本とし、畜産技術研究所については場内にある宿泊施設を利用することで、学生の移動に支障が生じないよう、配慮する。</u></p>	

20. <書類不備>

申請書類に誤記や言葉の不一致が散見されるので、適切に修正すること。

(対応)

この度の御意見を踏まえ、申請書類の誤記や言葉の不一致について点検した結果、「授業科目の概要」「シラバス」「校地校舎等の図面」「学則」「教授会規程」「設置の趣旨を記載した書類」「教員名簿」「教員個人調書」の誤記や不一致等があったため、下記の通り修正する。

1 専門職大学等における実験、実習又は実技による授業科目並びにこれに代替する演習による授業科目一覧

新	旧
基礎科目	基礎科目
茶道 選択 1単位	
華道 選択 1単位	
保健体育Ⅰ 必修 2単位	保健体育Ⅰ 必修 2単位
保健体育Ⅱ 選択 2単位	保健体育Ⅱ 選択 2単位
小計 23科目 44単位	小計 21科目 42単位
合計 25科目 46単位	合計 23科目 44単位

2 授業科目の概要

誤記や不一致について修正する。

(新旧対照表) 授業科目の概要

新	旧
(6ページ) 海外農林業事情	(5ページ) 海外農林業事情
日本国内の人口減少によって食料の国内需要は減少する一方、世界では人口が増加し、世界需要の増加が見込まれている。このため、国では農林水産物・食品の輸出を促進している。農林業者が輸出に取り組むためには、輸出を行うための基本知識やグローバルマーケットの戦略的な開拓が必要であり、海外の農林業事情を把握することが必要となる。本科目では、海外の先進的な経営体や農林業関連企業などを訪問し、海外の農林業の最新の動きを学ぶことを目的とする。	日本国内の人口減少によって食料の国内需要は減少する一方、世界では人口が増加し、世界需要の増加が見込まれている。このため、国では農林水産物・食品の輸出を促進している。農林業者が輸出に取り組むためには、輸出を行うための基本知識やグローバルマーケットの戦略的な開拓が必要であり、海外の農林業事情を把握する必要となる。本科目では、海外の先進的な経営体や農林業関連企業などを訪問し、海外の農林業の最新の動きを学ぶことを目的とする。

新	旧
<p>(8 ページ)</p> <p>栽培学</p> <p>栽培学は、栽培の原理、理論を学ぶ科目であり、栽培を学ぶ基礎となる。本科目では、作物の分類や作物の形態とその機能、生産に係わる温度や光、水、空気、土壌などの環境条件や、耕起、施肥、水管理、病害虫や雑草の防除などの一連の栽培管理など、<u>実際に栽培する際に必要となる基礎知識を体系的に学ぶことを目標とする。</u>また、エネルギーを多投入してきた近代農業の問題点を明らかにし、低投入持続的農業、環境保全型農業技術の重要性を理解する。</p>	<p>(7 ページ)</p> <p>栽培学</p> <p>栽培学は、栽培の原理、理論を学ぶ科目であり、栽培を学ぶ基礎となる。本科目では、作物の分類や作物の形態とその機能、生産に係わる温度や光、水、空気、土壌などの環境条件や、耕起、施肥、水管理、病害虫や雑草の防除などの一連の栽培管理など、<u>実際の栽培する際に必要となる基礎知識を体系的に学ぶことを目標とする。</u>また、エネルギーを多投入してきた近代農業の問題点を明らかにし、低投入持続的農業、環境保全型農業技術の重要性を理解する。</p>
<p>(8 ページ)</p> <p>園芸学</p> <p>静岡県は、イチゴやトマト、レタスなどの野菜、ガーベラやバラなどの花き、ミカンなどの果樹など園芸作物の栽培が盛んな県であり、これらは本県の主要産品となっている。本科目では、園芸の起源と歴史、園芸作物の成長と形態、養分の吸収・光合成と転流・利用、環境制御、繁殖と改良に加え、<u>園芸作物がもつ癒しの機能</u>など、園芸作物の栽培ならびに生産物の取扱いの基礎となる園芸学全般について学ぶ。また、園芸作物は化石燃料を多く使用するため、環境に配慮した栽培についても考える。</p>	<p>(8 ページ)</p> <p>園芸学</p> <p>静岡県は、イチゴやトマト、レタスなどの野菜、ガーベラやバラなどの花き、ミカンなどの果樹など園芸作物の栽培が盛んな県であり、これらは本県の主要産品となっている。本科目では、園芸の起源と歴史、園芸作物の成長と形態、養分の吸収・光合成と転流・利用、環境制御、繁殖と改良に加え、<u>園芸作物がもつ癒しなど機能</u>など、園芸作物の栽培ならびに生産物の取扱いの基礎となる園芸学全般について学ぶ。また、園芸作物は化石燃料を多く使用するため、環境に配慮した栽培についても考える。</p>
<p>(13 ページ)</p> <p>農林業のための先端技術</p> <p>各種センサー、モニタリング手法、AI（人工知能）、ロボット等の技術について技術革新が進む中、農業においてもこれら情報科学と農業科学の融合が求められている。これは経営の大規模化、軽労化技術や安全な農産物への要望、気象災害の増加に対して、従来の経験知や労働集約型管理による農業から、情報処理・機械制御技術を活用した農業への変換であり、その適用</p>	<p>(12 ページ)</p> <p>農林業のための先端技術</p> <p>各種センサー、モニタリング手法、AI（人工知能）、ロボット等の技術について技術革新が進む中、農業においてもこれら情報科学と農業科学の融合が求められている。これは経営の大規模化、軽労化技術や安全な農産物への要望、気象災害の増加に対して、従来の経験知や労働集約型管理による農業から、情報処理・機械制御技術を活用した農業への変換であり、その適用</p>

新	旧
<p>場面も施設栽培だけでなく土地利用型農業にも及んでいる。また、我が国では<u>実用化はされていないもの</u>、多収やストレス耐性の強化等を目標とした遺伝子組み替えに関する研究が進められており、温暖化や水不足の深刻化が予想される中、農業生産の安定化の手段として有望視されている。本授業では、これら先端技術の導入や研究開発を学ぶことで、将来の農業経営に資する。</p>	<p>場面も施設栽培だけでなく土地利用型農業にも及んでいる。また、我が国では<u>実用化はされていないもの</u>、多収やストレス耐性の強化等を目標とした遺伝子組み替えに関する研究が進められており、温暖化や水不足の深刻化が予想される中、農業生産の安定化の手段として有望視されている。本授業では、これら先端技術の導入や研究開発を学ぶことで、将来の農業経営に資する。</p>
<p>(19 ページ) 圃場実習 (栽培)</p> <p>栽培の全般について理解するため、作物、野菜、果樹、花の栽培管理の実習とともに、簡易な成長調査、病虫害診断、収穫物の調査を行う。<u>これらの実習を通じて、生育管理、病虫害管理、肥培管理の基礎を学ぶとともに、環境に配慮した農業のあり方を学ぶ。また、成長に伴う生育調査、病虫害診断の技術、収穫物の調査を通じた選果や選別の技術について学習する。</u></p>	<p>(17 ページ) 圃場実習 (栽培)</p> <p>栽培の全般について理解するため、作物、野菜、果樹、花の栽培管理の実習とともに、簡易な成長調査、病虫害診断、収穫物の調査を行う。<u>これらの実習を通じて、生育管理、病虫害管理、肥培管理の基礎を学ぶとともに、環境に配慮した農業のあり方を学ぶ。成長に伴う生育調査、病虫害診断の技術、収穫物の調査を通じた選果や選別の技術について学習する。これらの実習を通じて、生育管理、病虫害管理、肥培管理の基礎を学ぶとともに、環境に配慮した農業のあり方や効率的な栽培管理について学ぶ。</u></p>
<p>(20 ページ) 生産マネジメント実習Ⅱ (栽培)</p> <p>効率的かつ安定的な農業経営を行うためには生産性向上が不可欠であり、P D C Aサイクルを意識した生産管理が必要である。本科目では、「生産マネジメント実習Ⅰ」で学んだ内容を踏まえ、生産現場におけるマネジメントを学ぶ。栽培する作目や栽培面積に応じた栽培の計画と、その計画に沿った時期別の栽培管理、雇用等の人員配置、肥料・農薬などの資材の使用計画などにもとづき、収益と支出を把握し、データ等で分析を実施する。これらを繰り返すP D C Aサイクルに基づき、計画と実績の比較を</p>	<p>(18 ページ) 生産マネジメント実習Ⅱ (栽培)</p> <p>効率的かつ安定的な農業経営を行うためには生産性向上が不可欠であり、P D C Aサイクルを意識した生産管理が必要である。本科目では、「生産マネジメント実習Ⅰ」で学んだ内容を踏まえ、生産現場におけるマネジメントを学ぶ。栽培する作目や栽培面積に応じた栽培の計画と、その計画に沿った時期別の栽培管理、雇用等の人員配置、肥料・農薬などの資材の使用計画などにもとづき、収益と支出を把握し、データ等で分析を実施する。これらを繰り返すP D C Aサイクルに基づき、計画と実績の比較を</p>

新	旧
行くと共に成功や失敗の要因について分析し、分析結果を経営に生かす方法を考える。実習はグループに分かれて行う。	行いうと伴に成功や失敗の要因について分析し、分析結果を経営に生かす方法を考える。実習はグループに分かれて行う。
(21 ページ) 林業機械実習 林業機械化の進展は、労働生産性の向上、生産コストの削減、労働強度の軽減などに大きく貢献し、現代の林業では欠かせないものとなっている。本科目では、伐木造材、架線集材、 <u>機械</u> 集材、育林に使用する林業機械の操作方法について学ぶ。また、近年導入が進んでいる作業の効率化や身体への負担の軽減等、性能が著しく高い高性能林業機械の種類と基本操作について学ぶ。	(21 ページ) 林業機械実習 林業機械化の進展は、労働生産性の向上、生産コストの削減、労働強度の軽減などに大きく貢献し、現代の林業では欠かせないものとなっている。本科目では、伐木造材、架線集材、 <u>機会</u> 集材、育林に使用する林業機械の操作方法について学ぶ。また、近年導入が進んでいる作業の効率化や身体への負担の軽減等、性能が著しく高い高性能林業機械の種類と基本操作について学ぶ。

3 シラバス

誤記や不一致について修正する。

(新旧対照表) シラバス

新	旧
(6 ページ) (担当教員名の追記) 【別紙20-1】	(3 ページ) 【別紙20-2】
(8 ページ) (担当教員名の追記) 【別紙20-3】	(6 ページ) 【別紙20-4】
(11 ページ) (担当教員名の追記) 【別紙20-5】	(7 ページ) 【別紙20-6】
(12 ページ) 履修年次 2年 <u>前期</u> (集中)	(8 ページ) 履修年次 2年 <u>夏期</u> (集中)
(13 ページ) 履修年次 3年 <u>前期</u> (集中)	(9 ページ) 履修年次 3年 <u>夏期</u> (集中)
(18 ページ) 【別紙20-7】	(15 ページ) 【別紙20-8】

新	旧
<p>(19ページ) (担当教員名の追記) 【別紙20-9】</p>	<p>(16ページ) 【別紙20-10】</p>
<p>(30ページ) (担当教員名の追記、関連科目の修正) 【別紙20-11】</p>	<p>(34ページ) 【別紙20-12】</p>
<p>(47ページ) (担当教員名の追記) 【別紙20-13】</p>	<p>(44ページ) 【別紙20-14】</p>
<p>(64ページ) 教員名 前田節子、<u>池ヶ谷篤</u></p>	<p>(77ページ) 教員名 前田節子</p>
<p>(70ページ) 教員名 大石竜、太田智、<u>中野敬之、中根健、山家一哲、坂口良介、五十右薫、増田壽彦</u></p>	<p>(66ページ) 教員名 大石竜、太田智</p>
<p>(73ページ) 教員名 大石竜、太田智、<u>中野敬之、中根健、山家一哲、坂口良介、五十右薫、増田壽彦</u></p>	<p>(69ページ) 教員名 大石竜、太田智</p>
<p>(78ページ) 履修年次 3年前期 (集中) 授業時間 (集中)</p>	<p>(74ページ) 履修年次 3年集中 授業時間 (記載ナシ)</p>
<p>(85ページ) 教員名 内藤博敬、<u>吉村親</u></p>	<p>(85ページ) 教員名 <u>丹羽康夫、内藤博敬</u></p>

4 校地校舎等の図面

誤記や不一致について修正する。

校地校舎等の図面（15ページ）

新		旧	
5 施設整備スケジュール		5 施設整備スケジュール	
	(略)		(略)
A棟 改修工事	(略)	本校舎 改修工事	(略)
B棟 建築工事	(略)	新校舎 建築工事	(略)
C棟 (工事なし)	(略)	研究部棟 (工事なし)	(略)

5 学則

誤記や不一致について修正するとともに、法令や他大学の事例も確認した上で下記の通り修正する。

新	旧
<p style="text-align: center;">静岡県立農林環境専門職大学学則（案）</p> <p style="text-align: center;">第1章 総則</p> <p>第1条 （略） （自己点検・評価）</p> <p>第2条 本学は、その<u>教育研究</u>の一層の充実を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における<u>教育研究活動等</u>の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。</p> <p>2 （略） （情報の公表）</p> <p>第3条 本学は、大学としての公共性に鑑み、社会に対する説明責任を果たすために、本学における<u>教育研究活動等</u>の状況について<u>情報</u>を公表する。</p> <p>2 前項の情報の<u>公表</u>に関し、必要な事項は別に定める。</p> <p style="text-align: center;">第2章 組織</p> <p>第4条 （略） （人材養成等教育研究上の目的）</p> <p>第4条の2 本学における人材養成等教育研究上の目的は、次のとおりとする。</p> <p style="padding-left: 2em;">生産環境経営学部 農林業生産及び経営に関する実践的な技術や知識を修得し、農林業を通じて地域社会の発展に貢献できる専門職業人を養成する。</p> <p>第5条から第7条 （略）</p>	<p style="text-align: center;">静岡県立農林環境専門職大学学則（案）</p> <p style="text-align: center;">第1章 総則</p> <p>第1条 （略） （自己点検・評価）</p> <p>第2条 本学は、その<u>教育</u>の一層の充実を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における<u>教育活動等</u>の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。</p> <p>2 （略） （情報の公表）</p> <p>第3条 本学は、大学としての公共性に鑑み、社会に対する説明責任を果たすために、本学における<u>教育活動等</u>の状況について<u>公開</u>する。</p> <p>2 前項の情報の<u>公開</u>に関し、必要な事項は別に定める。</p> <p style="text-align: center;">第2章 組織</p> <p>第4条 （略） （人材養成等教育研究上の目的）</p> <p>第4条の2 本学における人材養成等教育研究上の目的は、次のとおりとする。</p> <p style="padding-left: 2em;">生産環境経営学部 農林業生産及び経営に関する実践的な技術や知識を修得し、農林業を通じて地域社会の発展に貢献できる専門職業人を養成する。</p> <p>第5条から第7条 （略）</p>

新	旧
<p style="text-align: center;">第3章 職員組織</p> <p>(職員)</p> <p>第8条 本学^に学長、教授、准教授、講師、<u>助教、事務職員、技術職員</u>を置く。</p> <p>2 (略)</p> <p>第8条の2から第9条 (略)</p> <p>(図書館長)</p> <p>第10条 図書館に館長を置き、<u>本学又は第7条に規定する併設短期大学の教授をもって充てる。</u></p> <p>第11条から第15条 (略)</p> <p>(教育課程<u>連携</u>協議会)</p> <p>第16条 (略)</p> <p>2 教育課程連携協議会は、産業界や地域社会と連携して教育課程を編成するために企業や関係団体等から選出された委員と本学の<u>職員をもって</u>構成し、教育課程への提言をとりまとめ、学長に報告する。</p> <p>3 教育課程連携協議会<u>に関し必要な事項は、別に定める。</u></p>	<p style="text-align: center;">第3章 職員組織</p> <p>(教職員)</p> <p>第8条 本学^に学長、教授、准教授、講師、<u>助教、助手、事務職員、技術職員</u>を置く。</p> <p>2 (略)</p> <p>第8条の2から第9条 (略)</p> <p>(図書館長)</p> <p>第10条 図書館に館長を置き、<u>教授をもって充てる</u></p> <p>第11条から第15条 (略)</p> <p>(教育課程<u>連絡</u>協議会)</p> <p>第16条 (略)</p> <p>2 教育課程連携協議会は、産業界や地域社会と連携して教育課程を編成するために企業や関係団体等から選出された委員と本学の<u>教職員を持って</u>構成し、教育課程への提言をとりまとめ、学長に報告する。</p> <p>3 教育課程連携協議会<u>の運営に関しては別に定める。</u></p>
<p style="text-align: center;">第5章 学年、学期及び休業日</p> <p>第17条から第21条 (略)</p> <p>(在学年限)</p> <p>第22条 学生は、8年を超えて在学できない。ただし、第28条<u>第1項</u>の規定により入学した学生は、<u>同条第2項の規定</u>により定められた在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学できない。</p>	<p style="text-align: center;">第5章 学年、学期及び休業日</p> <p>第17条から第21条 (略)</p> <p>(在学年限)</p> <p>第22条 学生は、8年を超えて在学できない。ただし、第28条<u>1項</u>の規定により入学した学生は、<u>第28条第2項の規程</u>により定められた在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学できない。</p>

新	旧
<p style="text-align: center;">第7章 入学</p> <p>(入学の時期)</p> <p>第23条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、<u>次条第3号から第5号までに該当する者(第5号にあっては、<u>国際バカロレア資格、アビトゥア資格及びバカロレア資格</u>を有する者で満18歳に達した者に限る。)</u>並びに第28条に規定する者については、学期の始めとすることができる。</p> <p>(入学資格)</p> <p>第24条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。</p> <p>(1)から(4) (略)</p> <p>(5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上あることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が<u>別に指定するもの</u>を文部科学大臣が定める日以降に修了した者</p> <p>(6) <u>学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第150条第4号の規定により文部科学大臣の指定した者</u></p> <p>(7) (略)</p> <p>(8) <u>本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達した者</u></p> <p>第25条から第26条 (略)</p> <p>(入学手続き及び入学許可)</p> <p>第27条 (略)</p> <p>2 学長は前項の<u>入学手続き</u>を完了した者<u>に</u>入学を許可する。</p> <p>(編入学、転入学及び再入学)</p> <p>第28条 (略)</p> <p>(1)から(2) (略)</p> <p>(3) その他大学において、相当の年齢に達し、<u>短期大学を卒業した者</u>と同等以上の学力があると認めた者</p> <p>2 前項の<u>規定</u>により入学を許可された者の</p>	<p style="text-align: center;">第7章 入学</p> <p>(入学の時期)</p> <p>第23条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、<u>次条第1項第3号から第5号までに該当する者(第5号にあっては、<u>国際バカロレア資格</u>を有する者で満18歳に達したものに限る。)</u>並びに第28条に規定する者については、学期の始めとすることができる。</p> <p>(入学資格)</p> <p>第24条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する<u>もの</u>とする。</p> <p>(1)から(4) (略)</p> <p>(5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上あることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が<u>指定するもの</u>を文部科学大臣が定める日以降に修了した者</p> <p>(6) <u>文部科学大臣の指定した者</u></p> <p>(7) (略)</p> <p>(8) <u>その他大学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者</u></p> <p>第25条から第26条 (略)</p> <p>(入学手続き及び入学許可)</p> <p>第27条 (略)</p> <p>2 学長は前項の<u>入学手続き</u>を完了した<u>もの</u>に入学を許可する。</p> <p>(編入学、転入学及び再入学)</p> <p>第28条 (略)</p> <p>(1)から(2) (略)</p> <p>(3) その他大学において、相当の年齢に達し、<u>短期大学を卒業したもの</u>と同等以上の学力があると認めた者</p> <p>2 前項の<u>規程</u>により入学を許可された者の</p>

新	旧
<p>既に履修した授業科目及び単位数の<u>取扱い</u>並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て、学部長が決定する。</p> <p>3 (略)</p> <p>第8章 教育課程及び履修方法等 (教育課程の編成方針)</p> <p>第29条 (略)</p> <p>2 前項の<u>規定</u>による授業科目の開設、教育課程の編成及びそれらの見直しは、教育課程連携協議会の意見を基に、教務委員会において審議するとともに、適切な体制を整えて行うものとする。</p> <p>3 本学は、授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の実施に努めるものとする。 (授業科目)</p> <p>第30条 授業科目は、<u>基礎科目、職業専門科目、展開科目及び総合科目に分ける</u>。授業科目及び単位数は別表1のとおりとする。 (単位の計算方法)</p> <p>第31条 (略)</p> <p>(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で、別に定める時間の授業を<u>もって</u>1単位とする。</p> <p>(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で、別に定める時間の授業を<u>もって</u>1単位とする。</p> <p>2 前項の<u>規定</u>にかかわらず、プロジェクト研究については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。</p> <p>第32条から第33条 (略) (単位の授与)</p> <p>第34条 授業科目を履修し、試験に合格した者には、その授業科目の修得を認定し、所定の単位を与える。<u>ただし、第31条第2項に規定</u></p>	<p>既に履修した授業科目及び単位数の<u>取り扱い</u>並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て、学部長が決定する。</p> <p>3 (略)</p> <p>第8章 教育課程及び履修方法等 (教育課程の編成方針)</p> <p>第29条 (略)</p> <p>2 前項の<u>規程</u>による授業科目の開設、教育課程の編成及びそれらの見直しは、教育課程連携協議会の意見を基に、教務委員会において審議するとともに、適切な体制を整えて行うものとする。</p> <p>3 <u>教務委員会及び教育課程連携推進協議会に関する事項は、別に定める。</u></p> <p>4 本学は、授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の実施に努めるものとする。 (授業科目)</p> <p>第30条 授業科目は、<u>基礎科目・職業専門科目・展開科目・総合科目に分かれる</u>。授業科目及び単位数は別表1のとおりとする。 (単位の計算方法)</p> <p>第31条 (略)</p> <p>(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で、別に定める時間の授業を<u>持って</u>1単位とする。</p> <p>(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で、別に定める時間の授業を<u>持って</u>1単位とする。</p> <p>2 前項の<u>規程</u>にかかわらず、プロジェクト研究については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。</p> <p>第32条から第33条 (略) (単位の授与)</p> <p>第34条 授業科目を履修し、試験に合格した者には、その授業科目の修得を認定し、所定の単位を与える。</p>

新	旧
<p>する授業科目については、<u>試験に代えて適切な方法により学修の成果を評価して単位を授与することができる。</u></p> <p>2 <u>単位の授与及び成績の評価の実施に関し必要な事項は、別に定める。</u></p> <p>(試験の方法)</p> <p>第35条 試験は、筆答（報告を含む。）又は口頭によって行う。</p> <p>(他大学における授業科目の履修等)</p> <p>第36条 (略)</p> <p>2 (略)</p> <p>3 前2項の規定により<u>修得</u>したものとみなし、又は与えることができる単位については、教授会の議に基づき、合わせて60単位を超えない範囲で卒業の要件となる単位として認定することができる。</p> <p>(入学前の既修得単位等の認定)</p> <p>第37条 教育上有益と認めるときは、学生が本学入学前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（<u>専門職大学設置基準（平成29年文部科学省令第33号）第28条第1項に定める科目等履修生として修得した単位を含む。</u>）を、本学入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。</p> <p>2 (略)</p> <p>3 学生が本学に入学する前に専門性が求められる職業に係る実務の経験を通じ、当該職業を担うための<u>実践的な能力（本学において修得させることとしているものに限る。）</u>を修得している場合において、教育上有益と認めるときは、文部科学省告示第109号（平成29年9月）第4条により、当該実践的な能力の修得を、本学における授業科目の履修とみなし、<u>別に定めるところにより、30単位</u>を超えない範囲で単位を与えることができる。</p>	<p>(試験の方法)</p> <p>第35条 試験は、筆答（報告を含む。）又は口頭によって行う。<u>ただし実習、実技、実験等は学修の成果を総合的に評価して行うことができる。</u></p> <p>(他大学における授業科目の履修等)</p> <p>第36条 (略)</p> <p>2 (略)</p> <p>3 前2項の規定により<u>習得</u>したものとみなし、又は与えることができる単位については、教授会の議に基づき、合わせて60単位を超えない範囲で卒業の要件となる単位として認定することができる。</p> <p>(入学前の既修得単位等の認定)</p> <p>第37条 教育上有益と認めるときは、学生が本学入学前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（<u>大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）第31条に定める科目等履修生として修得した単位を含む。</u>）を、本学入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。</p> <p>2 (略)</p> <p>3 学生が本学に入学する前に専門性が求められる職業に係る実務の経験を通じ、当該職業を担うための<u>実践的な能力</u>を修得している場合において、教育上有益と認めるときは、文部科学省告示第109号（平成29年9月）第4条により、当該実践的な能力の修得を、本学における授業科目の履修とみなし、<u>30単位</u>を超えない範囲で単位を与えることができる。</p>

新	旧
<p>4 <u>前3項</u>によって修得したものとみなし、又は与えることができる<u>単位</u>については、編入学等の場合を除き、教授会の議に基づき、<u>第36条第1項及び第2項</u>により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えない範囲で卒業の要件となる単位として認定することができる。</p> <p>(長期にわたる教育課程の履修)</p> <p>第38条 学生が、職業を有している等の事情により、<u>修業年限を超えて</u>一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、卒業することを希望する旨を申し出たときは、<u>別に定めるところにより</u>、その計画的な履修を認めることができる。</p> <p>(成績の評価)</p> <p>第39条 授業科目の試験の成績は、S、A、B、C、Dの<u>評語</u>をもって表し、S、A、B、Cを合格とし、Dを不合格とする。</p> <p>2 <u>前項のほか、特別の必要があるときは、その他の評語をもって合格を表すことができる。</u></p> <p>第9章 卒業及び学位</p> <p>(卒業)</p> <p>第40条 本学に4年(<u>第28条第1項</u>の規定により入学した者は、<u>同条第2項</u>の規定により定められた在学すべき年数)以上在学し、別表1に定める授業科目を履修して、次に定める科目ごとの単位数及び卒業必要単位数以上を修得した者について、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。</p>	<p>4 <u>前1項から3項</u>によって修得したものとみなし、又は与えることができる<u>単位</u>については、編入学等の場合を除き、教授会の議に基づき、<u>第36条1項</u>により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えない範囲で卒業の要件となる単位として認定することができる。</p> <p>(長期にわたる教育課程の履修)</p> <p>第38条 学生が、職業を有している等の事情により、<u>修業年限を越えて</u>一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、卒業することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。</p> <p>(成績)</p> <p>第39条 授業科目の試験の成績はS、A、B、C、Dの<u>評価</u>で表し、S、A、B、Cを合格とし、Dを不合格とする。</p> <p>第9章 卒業及び学位</p> <p>(卒業)</p> <p>第40条 本学に4年(<u>第27条第1項</u>の規定により入学した者は、<u>第28条第2項</u>により定められた在学すべき年数)以上在学し、別表1に定める授業科目を履修して、次に定める科目ごとの単位数及び卒業必要単位数以上を修得した者について、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。</p>

新						旧					
	基礎 科目	職業 専門 科目	展開 科目	総合 科目	卒業 必要 単位		基礎 科目	職業 専門 科目	展開 科目	総合 科目	卒業 必要 単位
生産 環境 経営 学科	20単 位	<u>85</u> 単 位	20単 位	<u>4</u> 単 位	<u>129</u> 単 位	生産 環境 経営 学科	20単 位	<u>60</u> 単 位	20単 位	<u>14</u> 単 位	124単 位
2 (略) (学位授与) 第41条 (略)						2 (略) (学位授与) 第41条 (略)					

新	旧
<p>第10章 休学、転学、留学、退学及び除籍 (休学)</p> <p>第42条 (略)</p> <p>(休学期間)</p> <p>第43条 (略)</p> <p>2 休学期間は、通算して3年を<u>超える</u>ことができない。</p> <p>3 休学期間は、第22条の在学期間には<u>算入しない</u>。</p> <p>第44条から第45条 (略)</p> <p>(留学)</p> <p>第46条 (略)</p> <p>2 前項の許可を得て留学した期間は、<u>第40条</u>に定める在学期間を含めることができる。</p> <p>3 第36条の規定は、<u>第1項の規定により外国</u>の大学又は短期大学へ留学する場合に準用する。</p> <p>第47条 (略)</p> <p>第48条 (略)</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) <u>第22条</u>に定める在学年限を超えた者</p> <p>(3) <u>第43条第2項</u>に定める休学期間を超えてなお修学できない者</p> <p>(4)から(5) (略)</p>	<p>第10章 休学、転学、留学、退学及び除籍 (休学)</p> <p>第42条 (略)</p> <p>(休学期間)</p> <p>第43条 (略)</p> <p>2 休学期間は、通算して3年を<u>越える</u>ことができない。</p> <p>3 休学期間は、第22条の在学期間には<u>参入しない</u></p> <p>第44条から第45条 (略)</p> <p>(留学)</p> <p>第46条 (略)</p> <p>2 前項の許可を得て留学した期間は、<u>第22条</u>に定める在学期間を含めることができる。</p> <p>3 第36条の規定は、<u>外国</u>の大学又は短期大学へ留学する場合に準用する。</p> <p>第47条 (略)</p> <p>第48条 (略)</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) <u>第21条</u>に定める在学年限を超えた者</p> <p>(3) <u>第42条第2項</u>に定める休学期間を超えてなお修学できない者</p> <p>(4)及び(5) (略)</p>
<p>第11章 賞罰</p> <p>第49条 (略)</p> <p>(懲戒)</p> <p>第50条 (略)</p> <p>2 (略)</p> <p>3 <u>前2項</u>に関して、別に<u>規程及びガイドライン</u>を定めるものとする。</p>	<p>第11章 賞罰</p> <p>第49条 (略)</p> <p>(懲戒)</p> <p>第50条 (略)</p> <p>2 (略)</p> <p>3 <u>第1項及び第2項</u>に関して、別に<u>規定及びガイドライン</u>を定めるものとする。</p>

新	旧
<p style="text-align: center;">第12章 <u>学生寮及び厚生施設</u> (<u>学生寮</u>)</p> <p>第51条 <u>本学に学生寮を置く。</u></p> <p>2 <u>学生寮に関し必要な事項は、別に定める。</u> (<u>厚生施設</u>)</p> <p>第52条 <u>学生の福利厚生を図るため、食堂その他の厚生施設を置く。</u></p> <p style="text-align: center;">第13章 <u>研究生、委託生、科目等履修生、 社会人聴講生、特別聴講学生及び外国人留學生</u> (<u>研究生</u>)</p> <p>第53条 (略) (<u>委託生</u>)</p> <p>第54条 <u>本学において、官公庁、学校、団体等からその所属する職員に特定の専門事項について研究させるため委託があるときは、<u>本学の教育研究</u>に支障のない範囲において、<u>選考</u>のうえ、委託生として入学を許可することができる。</u></p> <p>2 <u>研究期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、その期間を更新することができる。</u> (<u>科目等履修生</u>)</p> <p>第55条 (略) (<u>社会人聴講生</u>)</p> <p>第56条 <u>社会人で本学において特定の授業科目を聴講することを志願する者がいるときは、<u>本学の教育</u>に支障のない範囲において社会人聴講生として聴講を許可することができる。</u></p> <p>2から3 (略) (<u>特別聴講学生</u>)</p> <p>第57条 <u>他の大学の学生で、本学において授業科目を履修することを志願する者がいるときは、当該他大学との<u>協議</u>に基づき、<u>特別聴講学生</u>として入学を許可することができる。</u></p>	<p style="text-align: center;">第12章 <u>厚生施設</u> (<u>厚生施設</u>)</p> <p>第51条 <u>学生の福利厚生を図るため、<u>厚生施設</u>を置く。</u></p> <p style="text-align: center;">第13章 <u>研究生、委託生、科目等履修生、 聴講生及び外国人留學生</u> (<u>研究生</u>)</p> <p>第52条 (略) (<u>委託生</u>)</p> <p>第53条 <u>本学において、官公庁、学校、団体等からその所属する職員に特定の専門事項について研究させるため委託があるときは、<u>教育研究</u>に支障のない範囲において、<u>選考</u>のうえ、委託生として入学を許可することができる。</u></p> <p>2 <u>研究期間は1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、その期間を更新することができる。</u> (<u>科目等履修生</u>)</p> <p>第54条 (略) (<u>社会人聴講生</u>)</p> <p>第55条 <u>社会人で本学において特定の授業科目を聴講することを志願する者がいるときは、<u>教育</u>に支障のない範囲において社会人聴講生として聴講を許可することができる。</u></p> <p>2から3 (略) (<u>特別聴講生</u>)</p> <p>第56条 <u>他の大学の学生で、本学において授業科目を履修することを志願する者がいるときは、当該他大学との<u>協定</u>に基づき、<u>特別聴講生</u>として入学を許可することができる。</u></p>

新	旧
<p>(外国人留学生)</p> <p><u>第58条</u> (略)</p> <p>(研究生等に関する規定)</p> <p><u>第59条</u> 研究生、委託生、科目等履修生、社会人聴講生、<u>特別聴講学生及び外国人留学生</u>に関し必要な事項は、別に定める。</p> <p>第14章 入学検定料、入学金及び授業料等</p> <p>(入学検定料、入学金、授業料、<u>研究料及び聴講料</u>)</p> <p><u>第60条</u> 入学検定料、入学金、授業料、研究料及び聴講料(以下「<u>授業料等</u>」という。)の額は、別に定める。</p> <p>(授業料の納付)</p> <p><u>第61条</u> <u>授業料は</u>、年額の2分の1に相当する額を次の2期に区分して、それぞれの当該期日までに納付しなければならない。</p> <p>前学期分 4月25日まで</p> <p>後学期分 10月25日まで</p> <p>(復学の場合の授業料)</p> <p><u>第62条</u> 前学期又は後学期の中途において<u>復学</u>した者は、復学した月から当該学期末までの授業料を、復学した月に納付しなければならない。</p> <p>(学年の途中で卒業する場合の授業料)</p> <p><u>第63条</u> (略)</p> <p>(休学、退学、転学、除籍及び停学の場合の授業料)</p> <p><u>第64条</u> 前学期又は後学期の中途において休学、退学、<u>転学又は除籍した者</u>から徴収する当該学期分の授業料の額は、その全額とする。ただし、休学が前学期又は後学期の全期間にわたるときは、その期分の授業料は徴収しない。</p> <p>2 (略)</p> <p>(授業料等の減免等)</p> <p><u>第65条</u> 経済的理由により<u>授業料等</u>の納入が</p>	<p>(外国人留学生)</p> <p><u>第57条</u> (略)</p> <p>(研究生等に関する規定)</p> <p><u>第58条</u> 研究生、委託生、科目等履修生、社会人聴講生、<u>特別聴講生</u>、外国人留学生に関し必要な事項は、別に定める。</p> <p>第14章 入学検定料、入学金及び授業料等</p> <p>(入学検定料、入学金、授業料、<u>研究料、聴講料</u>)</p> <p><u>第59条</u> 入学検定料、入学金、授業料、研究料及び聴講料(以下<u>授業料等</u>)の額は、別に定める。</p> <p>(授業料の納付)</p> <p><u>第60条</u> <u>授業料は</u>年額の2分の1に相当する額を次の2期に区分して、それぞれの当該期日までに納付しなければならない。</p> <p>前学期分 4月25日まで</p> <p>後学期分 10月25日まで</p> <p>(復学の場合の授業料)</p> <p><u>第61条</u> 前学期又は後学期の中途において<u>修学</u>した者は、復学した月から当該学期末までの授業料を、復学した月に納付しなければならない。</p> <p>(学年の途中で卒業する場合の授業料)</p> <p><u>第62条</u> (略)</p> <p>(休学、退学、転学、除籍及び停学の場合の授業料)</p> <p><u>第63条</u> 前学期又は後学期の中途において休学、退学、<u>転学及び除籍されたもの</u>から徴収する当該学期分の授業料の額は、その全額とする。ただし、休学が前学期又は後学期の全期間にわたるときは、その期分の授業料は徴収しない。</p> <p>2 (略)</p> <p>(授業料等の減免等)</p> <p><u>第64条</u> 経済的理由により<u>授業料</u>の納入が困</p>

新	旧
<p>困難と認められる者、休学中の者その他特別の理由があると認められる者に対しては、授業料等の全部若しくは一部を免除し、又は<u>授業料等</u>を分割して納付させることができる。</p> <p>2 <u>授業料等の減免及び授業料等の分割納付</u>に関し必要な事項は、別に定める。</p> <p>(<u>入学金等の納付</u>)</p> <p><u>第66条</u> <u>入学金</u>、研究料及び聴講料は、入学の<u>手続</u>を行うときに納付しなければならない。ただし、研究期間の更新を許可された研究生に<u>係る</u>研究料は、当該許可された日から10日以内に納付しなければならない。</p> <p>2 (略)</p> <p>(<u>授業料等の不還付</u>)</p> <p><u>第67条</u> (略)</p> <p style="text-align: center;">第15章 大学開放</p> <p>(大学開放)</p> <p><u>第68条</u> (略)</p> <p>2 (略)</p> <p style="text-align: center;">第16章 雑則</p> <p>(委任)</p> <p><u>第69条</u> (略)</p> <p style="text-align: center;">附 則</p> <p>1 この学則は、<u> </u>年4月1日から施行する。</p>	<p>難と認められる<u>もの</u>、休学中の者その他特別の理由があると認められる者に対しては、授業料等の全部若しくは一部を免除し、又は<u>授業料</u>を分割して納付させることができる。</p> <p>2 <u>授業料の減免及び授業料の分割納付</u>に関し必要な事項は、別に定める。</p> <p>(<u>入学料等の納付</u>)</p> <p><u>第65条</u> <u>入学料</u>、研究料及び聴講料は、入学の<u>手続き</u>を行うときに納付しなければならない。ただし、研究期間の更新を許可された研究生に<u>かかる</u>研究料は、当該許可された日から10日以内に納付しなければならない。</p> <p>2 (略)</p> <p>(<u>授業料の不還付</u>)</p> <p><u>第66条</u> (略)</p> <p style="text-align: center;">第15章 大学開放</p> <p>(大学開放)</p> <p><u>第67条</u> (略)</p> <p>2 (略)</p> <p style="text-align: center;">第16章 雑則</p> <p>(委任)</p> <p><u>第68条</u> (略)</p> <p style="text-align: center;">附 則</p> <p>1 この学則は、<u>平成</u>年4月1日から施行する。</p>

別表1（第30条及び第40条関係）の新旧については、【資料20-15】で説明する。

6 教授会規程

誤記や不一致について修正するとともに、法令や他大学の事例も確認した上で下記の通り修正した。

新	旧
<p>静岡県立農林環境専門職大学教授会規程（案）</p> <p>第1条から第2条（略）</p> <p>第3条 教授会は、<u>教育公務員特例法（昭和24年法律第1号）第3条及び第5条の2の規定に基づき、次に掲げる事項について審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。</u></p> <p>(1) <u>学部長の選考</u></p> <p>(2) <u>教員の人事</u></p> <p>2 教授会は、<u>学校教育法（昭和22年法律第26号。以下「法」という。）第93条第2項各号の規定に基づき、次に掲げる事項について審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。</u></p> <p>(1) <u>学生の入学及び卒業</u></p> <p>(2) <u>学位の授与</u></p> <p>(3) <u>前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの</u></p> <p>3 教授会は、<u>法第93条第3項の規定に基づき、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。</u></p> <p>第4条（略）</p> <p>第5条（略）</p> <p>2 学部長に事故があるときは、学部長の指名する者がその職務を代行する。</p> <p>第6条 教授会は、<u>構成員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。ただし、休職中の者、公務のため海外に出張している者及び職務に専念する義務を免除されてい</u></p>	<p>静岡県立農林環境専門職大学教授会規程（案）</p> <p>第1条から第2条（略）</p> <p>第3条 教授会は、<u>次の事項を審議する。</u></p> <p>(1) <u>講座、学科目及び授業科目の種類並びに編成に関する事項</u></p> <p>(2) <u>教育・研究に関する施設の設置及び廃止に関する事項</u></p> <p>(3) <u>学生の入学、休学、復学、転学、留学、退学、除籍及び卒業並びに表彰及び懲戒に関する事項</u></p> <p>(4) <u>学部諸規程等の制定および改廃に関する事項</u></p> <p>(5) <u>その他重要事項</u></p> <p>第4条（略）</p> <p>第5条（略）</p> <p>2 学部長に事故があるときは、学部長の指名するものがその職務を代行する。</p> <p>第6条 教授会は、<u>構成員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。ただし休職中の者、公務のため海外に出張している者及び職務に専念する義務を免除されている</u></p>

新	旧
<p>る者は、構成員に含めない。</p> <p>第7条 議事は、出席者の過半数を<u>もって</u>決し、可否同数のときは議長の決するところによる。ただし、教授会が特に必要と認めた事項については、出席者の3分の2以上の同意を必要とする。</p> <p>第8条 教授会は、必要のある場合は、構成員以外の<u>者</u>を会議に出席させ、説明を求め、または意見を述べさせることができる。</p> <p>第9条から第12条 (略)</p> <p>附 則</p> <p>1 この規程は、<u> </u>年4月1日から施行する。</p>	<p>者は、構成員に含めない。</p> <p>第7条 議事は、出席者の過半数を<u>持って</u>決し、可否同数のときは議長の決するところによる。ただし、教授会が特に必要と認めた事項については、出席者の3分の2以上の同意を必要とする。</p> <p>第8条 教授会は、必要のある場合は、構成員以外の<u>もの</u>を会議に出席させ、説明を求め、または意見を述べさせることができる。</p> <p>第9条から第12条 (略)</p> <p>附 則</p> <p>1 この規程は、<u>平成</u>年4月1日から施行する。</p>

7 設置の趣旨を記載した書類

言葉の誤記や不一致について修正するとともに、審査意見への各種対応及び教員資格審査結果を踏まえて修正する。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (11 ページ)

新	旧
<p>(10) 既存大学農学部との違い</p> <p>既存の大学農学部卒業者で農林業に就業するものは少なく、県内においても静岡大学農学部卒業者で就農するものはごくわずかである(資料18)。現代の農学が食糧生産だけではなく、ゲノム・遺伝子などの生命科学分野や、生態系・エネルギーなど環境分野まで広がっているため、学生の多くは農林業そのものに就業することを目指して農学部に入るのではなく、農林業を切り口とした多様な分野に興味を持ち、教育者や研究者、公務員など、自らの将来を農林業現場以外に見出している。</p> <p>これに対し本学は農林業を営む実践力を身に付ける大学であり、将来農林業を志す学生に、実習・演習を重視した教育を行うことで、農林業経営を通じて自らの夢をかなえ、地域社会で活躍していく農林業者を養成することを目的としている。</p> <p>さらに、実際の農林業経営体で行う臨地実務実習を通じ、現場と学生の相互理解を深めることで、農林業経営体への就業や、その支援にあたる<u>農業協同組合</u>や森林組合等への就業を促進するなど、既存大学農学部より農林業現場に近い就業先への人材供給を重視していく。</p>	<p>(10) 既存大学農学部との違い</p> <p>既存の大学農学部卒業者で農林業に就業するものは少なく、県内においても静岡大学農学部卒業者で就農するものはごくわずかである(資料18)。現代の農学が食糧生産だけではなく、ゲノム・遺伝子などの生命科学分野や、生態系・エネルギーなど環境分野まで広がっているため、学生の多くは農林業そのものに就業することを目指して農学部に入るのではなく、農林業を切り口とした多様な分野に興味を持ち、教育者や研究者、公務員など、自らの将来を農林業現場以外に見出している。</p> <p>これに対し本学は農林業を営む実践力を身に付ける大学であり、将来農林業を志す学生に、実習・演習を重視した教育を行うことで、農林業経営を通じて自らの夢をかなえ、地域社会で活躍していく農林業者を養成することを目的としている。</p> <p>さらに、実際の農林業経営体で行う臨地実務実習を通じ、現場と学生の相互理解を深めることで、農林業経営体への就業や、その支援にあたる<u>農業共同組合</u>や森林組合等への就業を促進するなど、既存大学農学部より農林業現場に近い就業先への人材供給を重視していく。</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (16 ページ)

新	旧
<p>(5) 卒業後の進路</p> <p>卒業後は、<u>身に付けた</u>専門性を活かし、次のような場での活躍を想定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林業経営体後継者や幹部 	<p>(5) 卒業後の進路</p> <p>卒業後は、<u>身に付け</u>専門性を活かし、次のような場での活躍を想定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林業経営体後継者や幹部

新	旧
<ul style="list-style-type: none"> ・農林業経営体の起業者 ・新たに農林業へ参入する企業の農林業関連部門 ・農林業技術や経営の指導・普及を行う公務員 ・農業協同組合・森林組合の職員 	<ul style="list-style-type: none"> ・農林業経営体の起業者 ・新たに農林業へ参入する企業の農林業関連部門 ・農林業技術や経営の指導・普及を行う公務員 ・農業共同組合・森林組合の職員

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (23 ページ)

新	旧
<p>5 教員組織等の編成の考え方及び特色</p> <p>(1) 基本的考え方</p> <p>本学科では、<u>栽培、林業、畜産</u>の各分野の専門職業人を養成するため、「栽培コース」、<u>「林業コース」</u>、「畜産コース」の3コースを置き、<u>共通する基礎的知識の修得に加え</u>、より専門的に各分野を学ぶことができるようカリキュラムを編成している。また、農林業経営の知識はもちろん、将来的に、地域社会を支えるリーダーとなるために必要となる農山村の<u>自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承</u>などについても学べるよう計画している。</p> <p>専任教員については、<u>栽培、林業、畜産</u>の各分野に、大学等での教育歴が豊富な教員と農林業現場での実績がある実務家教員をバランス良く配置し、学術系からフィールド系までの幅広い教育研究に十分な対応ができるよう配慮している。</p> <p>なお、<u>実習圃場を、併設する静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と共用するため</u>、実習系の科目については、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の専任教員を兼任教員とし、共同で担当するようにし、授業計画から実施までをスムーズに行えるよう配慮した。</p> <p><分野別・職位別の教員構成></p> <p>【新】のとおり。</p> <p>(2) 年齢構成</p> <p>(略)</p> <p>教員組織の持続性を図るため、<u>栽培、林業、畜産</u>の主たる分野の実務家教員については、県の組織全体において、各専門職種職員のキャリアパスを見直し、教員後継者の育成を</p>	<p>5 教員組織等の編成の考え方及び特色</p> <p>(1) 基本的考え方</p> <p>本学科では、<u>農業、畜産、林業</u>の各分野の専門職業人を養成するため、<u>共通する基礎的知識の習得に加え</u>、学生が主たる領域を選択し、より専門的に各分野を学ぶことができるようカリキュラムを編成している。また、農林業経営の知識はもちろん、将来的に、地域を支えるリーダーとなるために必要となる農山村の<u>多面的機能</u>についても学べるよう計画している。</p> <p>専任教員については、<u>農業、畜産、林業</u>の各分野に、大学等での教育歴が豊富な教員と農林業現場での実績がある実務家教員をバランス良く配置し、学術系からフィールド系までの幅広い教育研究に十分な対応ができるよう配慮している。</p> <p>なお、<u>実習圃場を、併置する静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と共用するため</u>、実習系の科目については、静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の専任教員を兼任教員とし、共同で担当するようにし、授業計画から実施までをスムーズに行えるよう配慮した。</p> <p><分野別・職位別の教員構成></p> <p>【旧】のとおり。</p> <p>(2) 年齢構成</p> <p>(略)</p> <p>教員組織の持続性を図るため、<u>農業、畜産、林業</u>の主たる分野の実務家教員については、県の組織全体において、各専門職種職員のキャリアパスを見直し、教員後継者の育成を</p>

新	旧
<p>図っていく。完成年度後は、内部昇格と併せ、職位や年齢構成のバランスを見ながら、適切に教員を採用していく。</p> <p>＜専任教員の職位・年齢構成（平成 32 年 4 月 1 日現在）＞</p> <p>＜完成年度までに定年を迎える専任教員の分野別・職位別内訳＞</p> <p>【新】のとおり。</p>	<p>図っていく。完成年度後は、内部昇格と併せ、職位や年齢構成のバランスを見ながら、適切に教員を採用していく。</p> <p>＜専任教員の職位・年齢構成（平成 32 年 4 月 1 日現在）＞</p> <p>＜完成年度までに定年を迎える専任教員の分野別・職位別内訳＞</p> <p>【旧】のとおり。</p>

（新旧対照表）設置の趣旨を記載した書類（25 ページ）

新	旧
<p>②実習・演習による実践的教育の推進</p> <p>自ら土を耕し、作物を育て収穫し、必要に応じ加工し、消費者へ販売し、農林業経営について触れる経験を学生のうちから積んでおくことは、農林業経営の現場で役立つ実践力や創造力を養うためには欠かせない。</p> <p>生産技術や生産マネジメントに関する実習は、学内等の圃場で行う実習を1年～3年次まで配置し、1年次は農林業全体について学ぶ総合的な実習を、2年次前期には栽培、林業、畜産のそれぞれの分野の基礎的な生産技術について学ぶ実習を、2年次後期には2年次前期までに修得した基礎的な生産技術をさらに発展させ、かつ生産現場のマネジメントの基礎について学ぶ実習を、3年次には生産現場におけるマネジメントの実践を行う実習を配置する。また、農林業現場では大型機械を扱う技術が必要となるため、その操作方法などを学ぶ「大型機械実習Ⅰ・Ⅱ」、「林業機械実習」を配置する。</p> <p>学内等での実習をもとに、3年次には実践的な生産技術を学ぶ実習を、4年次には実践的な生産現場のマネジメントや経営について学ぶ実習を、農林業経営体にて行う。これらの実習での学びをもとに、経営について学ぶための演習を行う。</p> <p>さらに、2年次には食品安全や環境保全、労働安全等の持続的可能性を確保するための生産工程管理の方法について学ぶ「GAP演習」を、3年次には、加工や販売の実践について学ぶ「食品加工実習」、「木材加工実習」及び「販売実習」を配置し、多角化する農林業に対応できる能力を育成する。</p>	<p>②実習・演習による実践的教育の推進</p> <p>自ら土を耕し、作物を育て収穫し、必要に応じ加工し、消費者へ販売し、農林業経営について触れる経験を学生のうちから積んでおくことは、農林業経営の現場で役立つ実践力や創造力を養うためには欠かせない。</p> <p>生産技術や生産マネジメントに関する実習は、学内等の圃場で行う実習を1年～3年次まで配置し、1年次は農林業全体について学ぶ総合的な実習及びそれぞれの領域の基礎的な生産技術について学ぶ実習を、2年次には1年次に修得した基礎的な生産技術をさらに発展させ、かつ生産現場のマネジメントの基礎について学ぶ実習を、3年次には生産現場におけるマネジメントの実践を行う実習を配置する。また、農林業現場では大型機械を扱う技術が必要となるため、その操作方法などを学ぶ「大型機械実習Ⅰ・Ⅱ」、「林業機械実習」を配置する。</p> <p>学内等での実習をもとに、3年次には実践的な生産技術を学ぶ実習を、4年次には実践的な生産現場のマネジメントや経営について学ぶ実習を、農林業経営体にて行う。これらの実習での学びをもとに、経営について学ぶための演習を行う。</p> <p>さらに、加工や販売の実践について学ぶため、3年次には加工について学ぶ「食品加工実習」および「木材加工実習」を、4年次には「販売実習」を配置し、多角化する農林業に対応できる能力を育成する。</p>

(新旧対照表)

【新】

<分野別・職位別の教員構成>

(単位：人)

区 分	栽 培			林 業				畜 産		
	教 授	准 教授	講 師	教 授	准 教授	講 師	助 教	教 授	准 教授	講 師
専任教員	2	0	1	1	1	0	1	1	1	0
実務家	5	0	2	1	0	0	0	0	0	1
うち研究	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0
合 計	7	0	3	2	1	0	1	1	1	1

<専任教員の職位・年齢構成(平成32年4月1日現在)>

(単位：人)

年 齢	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上	計
教授			5	9	14
うち実務家(うち研究)			3(3)	3(3)	6(6)
准教授		1	3	1	5
うち実務家(うち研究)			0		0
講師	1	2	1		4
うち実務家(うち研究)	1	1	1		3
助教	1				1
うち実務家(うち研究)					
専任教員合計	2	3	9	10	24
うち実務家(うち研究)	1	1	4(3)	3(3)	9(6)

<完成年度までに定年を迎える専任教員の分野別・職位別内訳>

(単位：人)

分 野		栽培	経営	農山村	食品	合計
教 授	専任教員	2	2	0	1	5
	実務家	2	0	0	0	2
准教授	専任教員	0	0	1	0	1
合 計		4	2	1	1	8

【旧】

＜分野別・職位別の教員構成＞

(単位：人)

区 分	農 業			畜 産			林 業			
	教 授	准 教授	講 師	教 授	准 教授	講 師	教 授	准 教授	講 師	助 教
専任教員	2	0	1	1	1	0	1	1	0	1
実務家	5	1	1	0	0	1	1	0	0	0
うち研究	5	0	0	0	0	0	1	0	0	0
合 計	7	1	2	1	1	1	2	1	0	1

＜専任教員の職位・年齢構成（平成32年4月1日現在）＞

(単位：人)

年 齢	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳以上	計
教授			5	9	14
うち実務家（うち研究）			3(3)	3(3)	6(6)
准教授		1	4	1	6
うち実務家（うち研究）			1		1
講師	1	2			3
うち実務家（うち研究）	1	1			2
助教	1				1
うち実務家（うち研究）					
専任教員合計	2	3	9	10	24
うち実務家（うち研究）	1	1	4(3)	3(3)	9(6)

＜完成年度までに定年を迎える専任教員の分野別・職位別内訳＞

(単位：人)

分 野		農業	経営	農山村	食品	合計
教 授	専任教員	2	2	0	1	5
	実務家	2	0	0	0	2
准教授	専任教員	0	0	1	0	1
合 計		4	2	1	1	8

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (29、30 ページ)

新	旧
<p data-bbox="193 275 501 304">7 教育課程連携協議会</p> <p data-bbox="188 369 775 591">農林業界及び地域社会のニーズを反映した教育課程を編成・実施するため、県内農林業者や農林業団体、高校関係者、地元自治体関係者などを構成員とした「教育課程連携協議会」を設置する。</p> <p data-bbox="188 607 775 1742">「教育課程連携協議会」の構成員には、学部長及び<u>栽培・林業・畜産</u>を担当する教授に加え、大学の課程に係る職業に関連する団体のうち、県域で活動する関係者であって、当該職業の実務に関し、豊富な経験を有するものとして、地域の農業の指導者的な役割を担う農業経営士によって組織された静岡県農業経営士協会の会長である齋藤恭市氏、県下17の農業協同組合の総合的な指導機関である静岡県農業協同組合中央会において、営農部門で長い指導実績を持つ農政営農部長の戸塚央男氏、畜産経営及び技術の改善を指導する公益社団法人静岡県畜産協会の<u>常務理事兼事務局長</u>である藤山正彦氏、森林資源の活用や木材の流通を担う静岡県森林組合連合会の理事兼参事である高橋雅弘氏、地方公共団体の職員として、地元自治体である磐田市の農林行政を所管し、地域の実状に精通する磐田市農林水産課の課長である鈴木一洋氏、臨地実務実習の実施に協力する事業者として、静岡県農業法人協会の会長で、ハウスで野菜栽培を行う農業法人の経営者でもある鈴木厚志氏、酪農を行う農業法人の専務取締役である片野恵介氏、林業経営や観光を行う法人の代表取締役である竹川将樹氏を充てる。</p> <p data-bbox="456 1758 509 1787">(略)</p>	<p data-bbox="804 275 1112 304">7 教育課程連携協議会</p> <p data-bbox="799 369 1386 591">農林業界及び地域社会のニーズを反映した教育課程を編成・実施するため、県内農林業者や農林業団体、高校関係者、地元自治体関係者などを構成員とした「教育課程連携協議会」を設置する。</p> <p data-bbox="799 607 1386 1742">「教育課程連携協議会」の構成員には、学部長及び<u>農業・畜産・林業</u>を担当する教授に加え、大学の課程に係る職業に関連する団体のうち、県域で活動する関係者であって、当該職業の実務に関し、豊富な経験を有するものとして、地域の農業の指導者的な役割を担う農業経営士によって組織された静岡県農業経営士協会の会長である齋藤恭市氏、県下17の農業協同組合の総合的な指導機関である静岡県農業協同組合中央会において、営農部門で長い指導実績を持つ農政営農部長の戸塚央男氏、畜産経営及び技術の改善を指導する公益社団法人静岡県畜産協会の<u>常務兼事務局長</u>である藤山正彦氏、森林資源の活用や木材の流通を担う静岡県森林組合連合会の理事兼参事である高橋雅弘氏、地方公共団体の職員として、地元自治体である磐田市の農林行政を所管し、地域の実状に精通する磐田市農林水産課の課長である鈴木一洋氏、臨地実務実習の実施に協力する事業者として、静岡県農業法人協会の会長で、ハウスで野菜栽培を行う農業法人の経営者でもある鈴木厚志氏、酪農を行う農業法人の専務取締役である片野恵介氏、林業経営や観光を行う法人の代表取締役である竹川将樹氏を充てる。</p> <p data-bbox="1062 1758 1117 1787">(略)</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (35 ページ)

新	旧
<p>②個別履修指導等の実施</p> <p>1、2年次には専任の教授・准教授の中から担任教員を決め、学生の履修・学習等に関する相談窓口とする。また、相談内容によっては選択する進路を見据え、学生の希望する各分野の教授・准教授につなげ、各分野の教授・准教授が相談に応ずる。</p> <p><u>4年次</u>においてはプロジェクト研究の指導教員など、各分野の教員が学生の履修、学習等に関する相談に応ずるものとする。プロジェクト研究については教員一人当たりの担当学生数は6人を限度とし、学生の志望研究テーマに合わせて個別に適切な指導体制をとるとともに、実習や研究の指導における教員の負担が過剰にならないよう配慮する。</p> <p style="text-align: center;">(略)</p>	<p>②個別履修指導等の実施</p> <p>1、2年次には専任の教授・准教授の中から担任教員を決め、学生の履修・学習等に関する相談窓口とする。また、相談内容によっては選択する進路を見据え、学生の希望する各分野の教授・准教授につなげ、各分野の教授・准教授が相談に応ずる。</p> <p><u>3年次以降</u>においてはプロジェクト研究の指導教員など、各分野の教員が学生の履修、学習等に関する相談に応ずるものとする。プロジェクト研究については教員一人当たりの担当学生数は6人を限度とし、学生の志望研究テーマに合わせて個別に適切な指導体制をとるとともに、実習や研究の指導における教員の負担が過剰にならないよう配慮する。</p> <p style="text-align: center;">(略)</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (39 ページ)

新	旧								
<p>10 取得可能な資格 (表中)</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 20%;">名称</td> <td>取得可能対象者</td> </tr> <tr> <td>家畜人工授精師</td> <td><u>畜産コース</u>の科目履修者</td> </tr> </table>	名称	取得可能対象者	家畜人工授精師	<u>畜産コース</u> の科目履修者	<p>10 取得可能な資格 (表中)</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 20%;">名称</td> <td>取得可能対象者</td> </tr> <tr> <td>家畜人工授精師</td> <td><u>畜産領域</u>の科目履修者</td> </tr> </table>	名称	取得可能対象者	家畜人工授精師	<u>畜産領域</u> の科目履修者
名称	取得可能対象者								
家畜人工授精師	<u>畜産コース</u> の科目履修者								
名称	取得可能対象者								
家畜人工授精師	<u>畜産領域</u> の科目履修者								

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (44 ページ)

新	旧
<p>12 海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画</p> <p>(1) 海外プログラム「海外農林業事情」</p> <p>海外研修の「海外農林業事情」は、3年次の集中の選択科目として配置し、8～9月の間に5日間程の日程で実施する予定としている。</p> <p>滞在時は、現地の農林業現場を視察するプログラムの実施を計画している。本学部では、英語によるコミュニケーション力を養うため、<u>1年次に「英語Ⅰ」及び「英語Ⅱ」、</u></p>	<p>12 海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画</p> <p>(1) 海外プログラム「海外農林業事情」</p> <p>海外研修の「海外農林業事情」は、3年次の集中の選択科目として配置し、8～9月の間に5日間程の日程で実施する予定としている。</p> <p>滞在時は、現地の農林業現場を視察するプログラムの実施を計画している。本学部では、英語によるコミュニケーション力を養う<u>1年次の「英語Ⅰ」および2年次の「英語Ⅱ」</u></p>

<p><u>2年次に「英語Ⅲ」及び「英語Ⅳ」を配置し、4科目中2科目を選択させることとしており、これらの科目で修得した英語の能力を生かして、英語でのコミュニケーションを行うことを目標とする。</u></p> <p>(略)</p>	<p><u>を必修科目として配置しているが、本科目で修得した英語の基礎的能力を生かして、英語でのコミュニケーションを行うことを目標とする。</u></p> <p>(略)</p>
--	--

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (45、46 ページ)

新	旧
<p>13 管理運営</p> <p>(1) 管理運営体制の概要</p> <p>本学の管理運営のため、大学の運営に関する重要事項を審議する「評議会」及び教員人事、教育研究に関する重要事項等を審議する「教授会」を置くとともに、専門的事項を審議する「委員会」を設置する。これら合議体の審議機関のほか、教育課程の編成・実施・評価などについて、学長に意見を述べる組織として、学外委員等で構成する「教育課程連携協議会」を設置する。</p> <p>学長の補佐体制として、必要に応じて副学長を置く。また事務局には事務局長を置く。学長(静岡県立農林環境専門職大学短期大学部学長を兼務)、副学長、学部長、事務局長を中心に効果的・機動的な意思決定が行える管理運営体制とする。</p> <p>なお、本学は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と併設であるため、大学運営のガバナンスの観点から、本学長と短期大学部学長は兼務とし「評議会」は静岡県立農林環境専門職大学及び同短期大学部の事項を併せて審議する。</p> <p>(2) 管理運営組織の概要</p> <p>①評議会</p> <p>静岡県立農林環境専門職大学及び同短期大学部の運営に関する重要事項を審議するため、教育公務員特例法第2条第4項</p>	<p>13 管理運営</p> <p>(1) 管理運営体制の概要</p> <p>本学の管理運営のため、大学の運営に関する重要事項を審議する「評議会」及び教員人事、教育研究に関する重要事項等を審議する「教授会」を置くとともに、専門的事項を審議する「委員会」を設置する。これら合議体の審議機関のほか、教育課程の編成・実施・評価などについて、学長に意見を述べる組織として、学外委員等で構成する「教育課程連携協議会」を設置する。</p> <p>学長の補佐体制として、必要に応じて副学長を置く。また事務局には事務局長を置く。学長(静岡県立農林環境専門職大学短期大学部学長を兼務)、副学長、学部長、事務局長を中心に効果的・機動的な意思決定が行える管理運営体制とする。</p> <p>なお、本学は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部と併設であるため、大学運営のガバナンスの観点から、本学長と短期大学部学長は兼務とし「評議会」は静岡県立農林環境専門職大学及び同短期大学の事項を併せて審議する。</p> <p>(2) 管理運営組織の概要</p> <p>①評議会</p> <p>静岡県立農林環境専門職大学及び同短期大学の運営に関する重要事項を審議するため、教育公務員特例法第2条第4項の</p>

新	旧
<p>の定めに基づき、「評議会」を設置する。 「評議会」は、学長、副学長、図書館長、学部長、短期大学部学科長、学部教授若干名、短期大学部教授若干名、事務局長等で構成する。原則として月1回開催し、次の事項を審議する。</p> <p>ア 学長の選考 イ 学長の選考基準</p> <p>ウ 学部長以外の部局長の選考基準</p> <p>エ 教員の採用及び昇任の<u>基準</u></p> <p>オ 学長、<u>部局長</u>の任期</p> <p>カ 学長及び教員の転任及び懲戒処分に関する審査</p> <p>キ 学長の人事評価に関する事項</p> <p>ク 学長、教員及び部局長のサービスの<u>根本基準</u>の実施に関し必要な事項</p> <p>ケ 教員人事の方針に関する事項</p> <p>コ 教育課程の編成方針に関する事項</p> <p>ク 学生の厚生及び補導に関する重要事項</p> <p>シ 学生の入学、卒業その他学生の在籍に係る方針及び学位の授与に係る方針に関する事項</p> <p>ス 学則その他重要な規程等の制定及び改廃に関する事項</p> <p>セ <u>学部</u>及び短期大学部の教育研究に係る自己点検評価に関する事項</p> <p>ソ その他<u>学部</u>及び短期大学部の教育研究に関する重要事項</p>	<p>定めに基づき、「評議会」を設置する。「評議会」は、学長、副学長、図書館長、学部長、短期大学部学科長、学部教授若干名、短期大学部教授若干名、事務局長等で構成する。原則として月1回開催し、次の事項を審議する。</p> <p>ア 学長の選考 イ 学長の選考基準 ウ <u>学部長の選考</u> エ 学部長以外の部局長の選考基準 オ <u>教員の採用及び選考</u> カ 教員の採用及び昇任の<u>選考基準</u> キ 学長、<u>学部長及び短期大学部部長</u>の任期 ク 学長及び教員の転任及び懲戒処分に関する審査 ケ 学長の人事評価に関する事項 コ 学長、教員及び部局長のサービスの<u>根本規準</u>の実施に関し必要な事項 ク 教員人事の方針に関する事項 シ 教育課程の編成方針に関する事項 ス 学生の厚生及び補導に関する重要事項 セ 学生の入学、卒業その他学生の在籍に係る方針及び学位の授与に係る方針に関する事項 ソ 学則その他重要な規程等の制定及び改廃に関する事項 タ <u>大学</u>及び短期大学の教育研究に係る自己点検評価に関する事項 チ その他<u>大学</u>及び短期大学の教育研究に関する重要事項</p>
<p>②教授会</p> <p>教育研究に関する重要事項を審議するため、学校教育法第93条の定めに基づき、教授会を設置する。教授会は、専任の教授、准教授、講師及び助教で構成する。原則と</p>	<p>②教授会</p> <p>教育研究に関する重要事項を審議するため、学校教育法第93条の定めに基づき、教授会を設置する。教授会は、専任の教授、准教授、講師及び助教で構成する。原則と</p>

新	旧
<p>して月1回開催し、次の事項を審議する。</p> <p><u>ア 学部長の選考</u></p> <p><u>イ 教員の人事</u></p> <p><u>ウ 学生の入学及び卒業</u></p> <p><u>エ 学位の授与</u></p> <p><u>オ その他教育研究に関する重要事項</u> <u>で、教授会の意見を聴くことが必要な</u> <u>ものとして学長が定めるもの</u></p> <p>③委員会 (略)</p>	<p>して月1回開催し、次の事項を審議する。</p> <p><u>ア 教育課程の編成に関する事項</u></p> <p><u>イ 学生の入学、退学、転学、留学、休学、卒業その他その在籍に関する事項</u></p> <p><u>ウ 学生の厚生、補導及び身分に関する事項</u></p> <p><u>エ その他教育研究及び運営に関する重要事項</u></p> <p>③委員会 (略)</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (50 ページ)

新	旧
<p>(3) 情報提供の方法</p> <p>本学では、大学のホームページや定期刊行物等の各種広報手段を用いて、教育研究活動の状況について積極的な情報提供を行っていく。</p> <p>地域の高等学校や大学進学希望者には、高校訪問、オープンキャンパス、大学説明会や進学ガイダンスを通して、<u>本学</u>における教育研究活動についての詳細な情報を提供していく。</p> <p style="text-align: center;">(略)</p>	<p>(3) 情報提供の方法</p> <p>本学では、大学のホームページや定期刊行物等の各種広報手段を用いて、教育研究活動の状況について積極的な情報提供を行っていく。</p> <p>地域の高等学校や大学進学希望者には、高校訪問、オープンキャンパス、大学説明会や進学ガイダンスを通して、<u>農林環境専門職大学</u>における教育研究活動についての詳細な情報を提供していく。</p> <p style="text-align: center;">(略)</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (51、52 ページ)

新	旧
<p>⑤卒業生・企業アンケートの実施</p> <p>卒業生に対し、在学時の教育内容・施設設備等・課外活動・就職活動といった学生生活の満足度やその修得効果、今後の<u>本学</u>の教育や学生支援への要望についてアンケート調査を行う。同時に本学卒業生を採用している農林業法人等にも本学卒業生の印象、本学に求めるものなどについてアンケート調査を行う。集計結果は公表し、教育の更なる改善に役立つ。</p>	<p>⑤卒業生・企業アンケートの実施</p> <p>卒業生に対し、在学時の教育内容・施設設備等・課外活動・就職活動といった学生生活の満足度やその修得効果、今後の<u>専門職大学</u>の教育や学生支援への要望についてアンケート調査を行う。同時に本学卒業生を採用している農林業法人等にも本学卒業生の印象、本学に求めるものなどについてアンケート調査を行う。集計結果は公表し、教育の更なる改善に役立つ。</p>

新	旧
<p>③教育課程内の取組</p> <p>本学は、農林業者としての深い専門性と、幅広い教養を身に付けるとともに、豊かな人間性と広い視野を持ち、地域に貢献する自立した農林業者を養成することを目指していることから、教育課程全体が社会的・職業的自立のための能力を養成するための科目となっている。</p> <p>特に職業意識を養成するための教育を「社会人としての意識の醸成」「農林業者としての職業観の涵養」「農林業経営イメージ形成」の三つの視点で実施していく。</p> <p>「社会人としての意識の醸成」のために、1年次の必修科目として、「静岡学」(教養科目)を行う。本科目では、静岡県ゆかりの各産業界のトップランナーをゲストスピーカーとして招いて講義を行い、ものづくりの盛んな静岡県における今後の地域のあり方や産業の発展について、早い時期から幅広い視点に触れることで、社会人としての意識の醸成を図る。</p> <p>「農林業者としての職業観の涵養」のために、職業専門科目の<u>農林業基礎科目</u>として、1年次に「県内農林業事情」、2年次に「県外農林業事情」、3年次に「海外農林業事情」を配置し、県内、県外、国外と段階的に範囲を広げて先進的な経営体や農林業関連企業を訪問し、最新の事情について学ぶとともに、<u>2年次には「農林業政策」</u>を配置し、わが国や静岡県の農業政策、森林・林業政策の現状とその役割及び課題について学ぶことで、静岡県で農林業に携わることについての意義を理解し、やりがいや誇りを持つことを支援する。また、3年次必修科目の「技術者倫理」では、食や環境に対する農林業者の社会的責任について理解を深める。</p> <p>「農林業経営のイメージ形成」のために、職業専門科目の経営管理の科目として、<u>1年次必修科目の「農林業経営学」</u>でマネジメント理論を、<u>2年次必修科目の「経営戦略」</u>及び「マー</p>	<p>③教育課程内の取組</p> <p>本学は、農林業者としての深い専門性と、幅広い教養を身に付けるとともに、豊かな人間性と広い視野を持ち、地域に貢献する自立した農林業者を養成することを目指していることから、教育課程全体が社会的・職業的自立のための能力を養成するための科目となっている。</p> <p>特に職業意識を養成するための教育を「社会人としての意識の醸成」「農林業者としての職業観の涵養」「農林業経営イメージ形成」の三つの視点で実施していく。</p> <p>「社会人としての意識の醸成」のために、1年次の必修科目として、「静岡学」(教養科目)を行う。本科目では、静岡県ゆかりの各産業界のトップランナーをゲストスピーカーとして招いて講義を行い、ものづくりの盛んな静岡県における今後の地域のあり方や産業の発展について、早い時期から幅広い視点に触れることで、社会人としての意識の醸成を図る。</p> <p>「農林業者としての職業観の涵養」のために、職業専門科目の<u>専門基礎科目</u>として、1年次に「県内農林業事情」、2年次に「県外農林業事情」、3年次に「海外農林業事情」を配置し、県内、県外、国外と段階的に範囲を広げて先進的な経営体や農林業関連企業を訪問し、最新の事情について学ぶとともに、<u>2年次には必修科目として「農林業政策」</u>を配置し、わが国や静岡県の農業政策、森林・林業政策の現状とその役割及び課題について学ぶことで、静岡県で農林業に携わることについての意義を理解し、やりがいや誇りを持つことを支援する。また、3年次必修科目の「技術者倫理」では、食や環境に対する農林業者の社会的責任について理解を深める。</p> <p>「農林業経営のイメージ形成」のために、職業専門科目の経営管理の科目として、<u>1年次に「経営管理論」</u>でマネジメント理論を、<u>2年次</u></p>

新	旧
<p>ケティング論」で農林業経営戦略の立案に必要な基礎知識とケース分析を通じた実例を学ぶ。また、<u>3年次に配置した「農と食の起業論」</u>では、農林業や食料に関わるビジネスの起業者から実体験を交えた話を聞き、起業理由や経営理念、起業にまつわる苦労、起業のために必要な事柄などについて、ディスカッションを踏まえて理解を深められるようにした。</p> <p>さらに、3年次に実践的生産技術を学ぶ「企業実習」と、<u>4年次に企業とともに経営課題を発見し、その解決策について提案する「プロジェクト研究」</u>を実施し、実際の経営現場での就業体験を通じて、自らの農林業経営のイメージ作りも支援する。</p>	<p>に「<u>経営戦略Ⅰ</u>」を、3年次に「<u>経営戦略Ⅱ</u>」を学び、農林業経営戦略の立案に必要な基礎知識と、ケース分析を通じた実例を学ぶ。また、<u>3年次必修科目の「農と食の起業論」</u>では、農林業や食料に関わるビジネスの起業者から実体験を交えた話を聞き、起業理由や経営理念、起業にまつわる苦労、起業のために必要な事柄などについて、ディスカッションを踏まえて理解を深める。</p> <p>さらに、3年次に実践的生産技術を学ぶ「企業実習」と、<u>3・4年次に企業とともに経営課題を発見し、その解決策について提案する「プロジェクト研究」</u>を実施し、実際の経営現場での就業体験を通じて、自らの農林業経営のイメージ作りも支援する。</p>

8 設置の趣旨を記載した書類の資料

審査意見への各種対応に伴う資料番号について追加修正するとともに、教育課程等の変更に伴い修正の必要が生じる「資料 25：校舎の利用計画表」【別添資料 20-16】及び「資料 26：時間割表」【別添資料 20-17】について修正する。

新	旧
設置の趣旨等を記載した書類 資料目次	設置の趣旨等を記載した書類 資料目次
資料 1 静岡県立農林大学校卒業生の推移	資料 1 静岡県立農林大学校卒業生の推移
資料 2 静岡県立農林大学校卒業生の状況	資料 2 静岡県立農林大学校卒業生の状況
資料 3 静岡県立農林大学校卒業生の評価	資料 3 静岡県立農林大学校卒業生の評価
資料 4 食料・農業・農村基本計画	資料 4 食料・農業・農村基本計画
資料 5 静岡県の担い手の現状	資料 5 静岡県の担い手の現状
資料 6-1 静岡県経済産業ビジョン 2018～2021（農業・農村編）	資料 6 静岡県経済産業ビジョン 2018～2021（農業・農村編）
資料 6-2 静岡県農業農村整備みらいプラン 2018-2021	
資料 7 静岡県経済産業ビジョン 2018～2021（森林・林業編）	資料 7 静岡県経済産業ビジョン 2018～2021（森林・林業編）
資料 8 専門職大学基本構想策定委員会	資料 8 専門職大学基本構想策定委員会
資料 9 農林業法人の採用意識に関するアンケート調査	資料 9 農林業法人の採用意識に関するアンケート調査
資料 10 高校生の進学意識に関するアンケート調査	資料 10 高校生の進学意識に関するアンケート調査
資料 11 静岡県専門職大学（農林業）基本構想	資料 11 静岡県専門職大学（農林業）基本構想
資料 12 静岡県総合計画	資料 12 静岡県総合計画
資料 13 ふじのくに「有徳の人」づくり大綱	資料 13 ふじのくに「有徳の人」づくり大綱
資料 14 静岡県教育振興基本計画 2018～2021	資料 14 静岡県教育振興基本計画 2018～2021
資料 15 静岡県の工業	資料 15 静岡県の工業
資料 16 静岡新産業集積クラスター	資料 16 静岡新産業集積クラスター
資料 17 大学進学者流出・流入状況	資料 17 大学進学者流出・流入状況
資料 18 静岡県農林業従事者の就業の現状	資料 18 静岡県農林業従事者の就業の現状
資料 19-1 食料・農業・農村の動向	資料 19 食料・農業・農村の動向
資料 19-2 食料・農業・農村基本法の骨子	
資料 20 森林及び林業の動向	資料 20 森林及び林業の動向
資料 21-1 生産環境経営学部生産環境経営学	資料 21 <u>カリキュラム・マップ</u>

新	旧
<p>科_カリキュラム・マップ</p> <p>資料 21-2 <u>農林大学校（養成部・研究部）カリキュラム・マップ</u></p> <p>資料 21-3 <u>生産科学科 カリキュラム・マップ</u></p> <p>資料 22 静岡県立農林環境専門職大学教員定年規程（案）</p> <p>資料 23 履修モデル</p> <p>資料 24 教育課程連携協議会の概要</p> <p>資料 25 <u>校舎の利用計画表</u></p> <p>資料 26 <u>時間割表</u></p> <p>資料 27 <u>附属施設・県有施設の概要</u></p> <p>資料 28 学術雑誌目録</p> <p>資料 29 <u>臨地実務実習要綱</u></p> <p>資料30 社会的・職業的自立に関する指導等に関する体</p>	<p>資料 22 静岡県立農林環境専門職大学教員定年規程（案）</p> <p>資料 23 履修モデル</p> <p>資料 24 教育課程連携協議会の概要</p> <p>資料 25 <u>校舎の利用計画表</u></p> <p>資料 26 <u>時間割表</u></p> <p>資料 27 学術雑誌目録</p> <p>資料 28 社会的・職業的自立に関する指導等に関する体制図</p>

8 教員名簿

教員名簿（別記様式第3号（その2の1））について、一部の教員に係る一部科目の担当単位数の記載に誤りがあったため補正する。

ただし、「経営分析演習Ⅰ」、「経営分析演習Ⅱ」については、審査意見8を踏まえ、単位数を修正することに伴い、担当単位数も修正する。

「英語Ⅰ」の配当年次、「管理会計」の単位数を変更したことに伴い、月額基本給を修正する。

新	旧
<p>1 次の教員の「経営分析演習Ⅰ」、「経営分析演習Ⅱ」の担当単位数を補正する。</p> <p>ただし、15相蘇（眞田）春菜は、教員資格審査の結果、「経営分析演習Ⅱ」について「不可」（専任補充）の判定を受けたため、一覧から削除する。</p> <p>1多々良 明夫、2森口 卓哉、3祐森 誠司、4逢坂 興宏、5天野 哲郎、6菊池 宏之、7柯（栗田） 麗華、8前田 節子、9大塚 誠、10平岡 裕一郎、12丹羽 康夫、13内藤 博敬、14太田 智、15相蘇（眞田） 春菜、16長藤 亮彦、17大石 竜、18貞弘 恵、19松尾 和之、20佐藤 展之、21外側 正之、24池田 潔彦</p> <p>経営分析演習Ⅰ <u>1単位</u> （補正前の正しい単位数：3単位）</p> <p>経営分析演習Ⅱ <u>1単位</u> （補正前の正しい単位数：3単位）</p>	<p>1 多々良 明夫、2 森口 卓哉、3 祐森 誠司、4 逢坂 興宏、5 天野 哲郎、6 菊池 宏之、7 柯（栗田） 麗華、8 前田 節子、9 大塚 誠、10 平岡 裕一郎、12 丹羽 康夫、13 内藤 博敬、14 太田 智、15 相蘇（眞田） 春菜、16 長藤 亮彦、17 大石 竜、18 貞弘 恵、19 松尾 和之、20 佐藤 展之、21 外側 正之、24 池田 潔彦</p> <p>経営分析演習Ⅰ <u>2単位</u> 経営分析演習Ⅱ <u>2単位</u></p>
<p>2 次の教員の「家畜衛生学」の担当単位数を補正する。</p> <p>9 大塚 誠 家畜衛生学 <u>2単位</u></p>	<p>9 大塚 誠 家畜衛生学 <u>3単位</u></p>
<p>3 次の教員の月額基本給を補正する。</p> <p>44 鈴木 元子 <u>53千円</u> 55 佐藤 和美 <u>40千円</u></p>	<p>44 鈴木 元子 <u>26千円</u> 55 佐藤 和美 <u>53千円</u></p>

9 教員個人調書

学長及び一部の教員に係る教員個人調書（別記様式第4号（その1））の記載に誤りがあつたため補正する。

新	旧
・学長 鈴木 滋彦 「開設後の職務の状況」「勤務状況」 短期大学の運営、教職員の総督 <u>5日/週</u>	・学長 鈴木 滋彦 「開設後の職務の状況」「勤務状況」 短期大学の運営、教職員の総督
・教員 16 長藤 亮彦 履歴書-2 「開設後の職務の状況」「職名」 <u>兼任</u>	・教員 16 長藤 亮彦 履歴書-2 「開設後の職務の状況」「職名」 <u>准教授</u>

10 学長及び一部の教員に係る「月額基本給」の記載に誤りがあつたため補正する。

- ・教員名簿（別記様式第3号（その1）、別記様式第3号（その2の1））の「月額基本給」
- ・教員個人調書（別記様式第4号（その1））の「月額基本給」

	新	旧
① 学長	592 千円（県支給額の 50%）	1,184 千円（県支給額の 100%）
	<補正理由> 大学学長は併設する短期大学部の学長を兼務するが、当初申請時の月額基本給には、県支給額の 100%を記載していた。 大学と短期大学部への従事割合を 1 : 1 とし、按分して月額基本給を算出し、記載する。	
② 大学専任教員 （短期大学部兼任教員）	教員名簿のとおり （県支給額の 70%）	補正前教員名簿のとおり （県支給額の 100%）
	<補正理由> 当初申請時の月額基本給には、県支給額の 100%を記載していた。 担当授業科目の単位数・時間数のみでなく大学運営業務への従事や各分野の教育研究体制の観点も踏まえ、どちらの専任とするかを決定していることから、専任と兼任の従事割合を 7 : 3 とみなし、按分して月額基本給を算出し、記載する。	
③ 大学兼任教員 （短期大学部専任教員）	教員名簿のとおり （県支給額の 30%）	補正前教員名簿のとおり （記載なし（—））
	<補正理由> ②と同様に、専任と兼任の従事割合を 7 : 3 とみなし、按分して月額基本給を算出し、記載する。	

【教員資格審査結果に伴う修正事項】生産環境経営学部 生産環境経営学科

(対応)

農業分野の「准教授」として申請した実務家教員1人について、教員資格審査結果を踏まえ、職位を「講師」へ変更することに伴う修正を行う。

(新旧対照表) 基本計画書 教員組織の概要 (2ページ)

・【新】

学部等の名称		専任教員等						兼任 教員等
		教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新設分	生産環境経営学部生産環境経営学科	人 14 (12)	人 <u>5</u> (5)	人 <u>4</u> (3)	人 1 (1)	人 24 (21)	人 - (-)	人 39 (25)
	計	14 (12)	<u>5</u> (5)	<u>4</u> (3)	1 (1)	24 (21)	- (-)	39 (25)
既設分	該当なし	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
	計	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
合計		14 (12)	<u>5</u> (5)	<u>4</u> (3)	1 (1)	24 (21)	- (-)	39 (25)

・【旧】

学部等の名称		専任教員等						兼任 教員等
		教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新設分	生産環境経営学部生産環境経営学科	人 14 (12)	人 <u>6</u> (5)	人 <u>3</u> (3)	人 1 (1)	人 24 (21)	人 - (-)	人 39 (25)
	計	14 (12)	<u>6</u> (5)	<u>3</u> (3)	1 (1)	24 (21)	- (-)	39 (25)
既設分	該当なし	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
	計	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
合計		14 (12)	<u>6</u> (5)	<u>3</u> (3)	1 (1)	24 (21)	- (-)	39 (25)

(新旧対照表)

専任教員の年齢構成・学位保有状況

・【新】

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職位	学位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計	備考
准教授	学士					—			—人	
講師	学士			1人		1人			2人	

・【旧】

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職位	学位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計	備考
准教授	学士					1人			1人	
講師	学士			1人					1人	

(新旧対照表)

専任教員の年齢構成・学位保有状況

(専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の実務の経験等を有する専任教員)

・【新】

専任教員の年齢構成・学位保有状況 (専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の実務の経験等を有する専任教員)										
職位	学位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計	備考
准教授	学士					—			—人 (人)	
講師	学士			1人 (人)		1人 (人)			2人 (人)	

・【旧】

専任教員の年齢構成・学位保有状況 (専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の実務の経験等を有する専任教員)										
職位	学位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計	備考
准教授	学士					1人 (人)			(1人) (人)	
講師	学士			1人 (人)		— (人)			1人 (人)	

審査意見への対応を記載した書類 別添資料目次

- 別添資料 1-1 生産環境経営学部生産環境経営学科 カリキュラム・マップ（新旧）
- 別添資料 1-2 農林大学校（養成部・研究部） カリキュラム・マップ
- 別添資料 1-3 生産科学科 カリキュラム・マップ
- 別添資料 3-1 食料・農業・農村基本法の骨子
- 別添資料 3-2 静岡県農業農村整備みらいプラン 2018-2021
- 別添資料 3-3 農山村地域の環境について学ぶ科目の概要
- 別添資料 4 履修モデル
- 別添資料 6 教育課程の概要
- 別添資料 7 各コースにおける履修方法
- 別添資料 8 単位数・科目数の見直し状況
- 別添資料 9 先端技術について学ぶ科目の概要
- 別添資料 13 臨地実務実習要綱
- 別添資料 14-1 企業実習巡回指導計画
- 別添資料 14-2 経営実習Ⅰ巡回指導計画
- 別添資料 14-3 経営実習Ⅱ巡回指導計画
- 別添資料 14-4 教員時間割
- 別添資料 16-1 C棟レイアウト図
- 別添資料 16-2 校地校舎の図面（新）
- 別添資料 16-3 校地校舎の図面（旧）
- 別添資料 17 専門図書リスト
- 別添資料 18 附属施設・県有施設の概要
- 別添資料 20-1～14 シラバス修正（新旧）
- 別添資料 20-15 学則別表（新旧）
- 別添資料 20-16 校舎の利用計画表（新旧）
- 別添資料 20-17 時間割表（新旧）

生産環境経営学部生産環境経営学科 カリキュラム・マップ

卒業単位:129単位

【養成する人材像】
 ○農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材

- 必修
- ◎ コース必修
- 選択必修
- 実験・実習

科目	カリキュラム・ポリシー	教育課程									
		1年		2年		3年		4年			
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎 (20単位)	(1)一般教養やコミュニケーションスキルなどを学ぶ教育課程を編成する。	■一般教養(10~12単位)		■コミュニケーションスキル(8~10単位)							
		●経済学概論 2 ●情報処理基礎 1 ●法学概論 2 ●社会学概論 2 ●政治学概論 2 ●統計学 2 ※ここから4単位以上		●英語Ⅰ 2 ●英語Ⅱ 2 ●英語Ⅲ 2 ●英語Ⅳ 2 ●保健体育Ⅰ 2 ●保健体育Ⅱ 2 ※ここから4単位以上		●情報処理応用 1 ●歴史学概論 2 ●文学概論 2 ●文明論 2 ●茶道 2 ●華道 2					
職業専門 (85単位)	(2)企業的な経営管理や経営戦略、加工・販売の手法や流通の仕組みなどを学ぶ教育課程を編成する。 (3)農林業に関する基礎的な知識及び農林業生産に関する基礎的な理論や技術を学ぶ教育課程を編成する。 (4)農林業の経営や生産に活用される先端技術を学ぶ教育課程を編成する。 (5)農山村の自然環境や景観の保全に配慮した農林業生産を学ぶ教育課程を編成する。	■経営管理(25単位)		■加工・流通・販売(栽培・畜産:8単位、林業:6単位)		■農林業基礎(10単位)		■生産理論(16単位)			
		(自由)簿記基礎 2 ●農林業経営学(自由)簿記応用 2 ●フードシステム論 2 ※ここから4単位		●経営戦略 2 ●財務会計 2 ●マーケティング論 2 ●労務管理 2 ●法と農林業経営 2 ●経営管理論 2		●栽培コース・畜産コース ●林業コース ●畜産コース		●農学概論 2 ●環境と農林業 2 ●農内農林業事情 2 ●農林業史 2 ●分子生物学 2 ※ここから4単位 (自由)農林業のための生物学 (自由)農林業のための基礎数学 (自由)農林業のための化学		●技術者倫理 2 ●海外農林業事情 1 ●野生鳥獣管理・利用論 2	
				●食品科学 2 ●食品加工学 2 ●農と食の健康論 2		◎木材利用・流通論 2 ◎木材加工学 2 ◎木材加工実習 2		◎栽培学 2 ◎植物生理生態学 2 ◎樹木・組織学 2 ◎畜産概論 2 ※ここから2単位		◎農林業のための先端技術 2	
				◎食品加工実習 2 ◎食品流通論 2 ◎収穫後生理学 2 ◎販売管理論 2		◎食品加工実習 2 ◎食品流通論 2 ◎販売管理論 2		◎環境保全型農業論 2		◎作物学 2 ◎園芸学 2 ◎植物遺伝育種学概論 2 ◎土壌学 2 ◎野菜園芸学 2 ◎果樹園芸学 2 ◎花き園芸学 2 ※ここから2単位以上	
				◎管理会計 1 ●農と食の起業論 2 ●知的財産権 2 ●農林業の経営組織論 2 ●人材マネジメント 2		◎畜産コース ◎飼料総論 2 ◎家畜飼養学 2 ◎家畜生理解剖学 2 ◎畜産法規 2 ◎人工授精論 2		◎林業コース ◎森林計画・政策論 2 ◎造林学 2 ◎森林土木学 2		◎畜産環境学 2	
展開 (20単位)	(6)農山村の伝統・文化の継承や地域社会について学ぶとともに、農山村の地域資源を農林業経営に活用する手法を学ぶ教育課程を編成する。	■農山村の伝統・文化及び地域社会(20単位)		■生産技術(栽培・畜産:26単位、林業:28単位)							
		●農山村田園地域公共学 2 ●農村社会学 2 ●農と食の哲学 2 ●食文化論 2 ●医福食農連携論 2		◎栽培コース ◎林業コース ◎畜産コース		◎農村景観論 2 ◎グリーン・ツーリズム論 2 ◎農山村デザイン演習 2 ◎在来作物学 2		◎生産マネジメント実習Ⅱ(栽培) 4 ◎大型機械実習Ⅱ 2 ◎企業実習 10			
総合 (4単位)	(7)農林業経営における課題の解決に向けた研究の手法などを学ぶ教育課程を編成する。							◎生産マネジメント実習Ⅱ(林業) 4 ◎林業機械実習 2 ◎企業実習※再掲 10			
								◎生産マネジメント実習Ⅱ(畜産) 4 ◎大型機械実習Ⅱ 2 ◎企業実習※再掲 10			
ディプロマ・ポリシー	(1)専門分野のみにとらわれない幅広い知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を有している。 (2)農林業経営体の大規模化や経営の多角化に対応していくための経営管理能力、農林業経営に活用される先端技術や加工・流通・販売などに関する知識を有している。 (3)農林業生産現場の状況を的確に把握するための農林業生産に関する基礎的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術に関する知識を有している。 (4)農山村の地域社会における将来のリーダーとして、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育てていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。 (5)農山村の地域資源を活用することにより、農林業経営における新たな事業展開を生み出すための手法を理解している。 (6)修得した専門知識と技術を駆使して農林業経営における課題を探索し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を有している。							◎経営分析演習Ⅰ 1 ◎経営分析演習Ⅱ 1 ●プロジェクト研究 2			

農林環境専門職大学 生産環境経営学部 生産環境経営学科 カリキュラム・マップ

育成する人材像	基礎的な生産能力に加え、経営体の経営革新を推進する、加工・流通・販売への応用力や経営管理能力、先端技術への対応力を有した人材
	農林業を営みながら、地域社会における未来のリーダーとして、自然と共生し、美しい農山村の景観や環境を磨き上げるとともに、幅広い教養と豊かな人間性を備え地域の文化伝統を守っていくことのできる人材

ディプロマ・ポリシー	区分	1年		2年		3年		4年		科目
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
1 ・専門分野のみにとらわれない幅広い知識 ・価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養	一般教養 コミュニケーション	静岡学		歴史学概論	文学概論	茶道				基礎
		経済学概論	社会学概論		文明論	華道				
農林業生産を行うための基礎的な知識・技術と、それを活用するための能力、先端技術への対応力	農林業基礎 栽培 生産理論 林業 畜産	農学概論	農林業史	農林業政策		技術者倫理				職業専門
		農林業のための基礎数学	農林業のための統計学	農林業史	農業気象学	海外農林業事情	生命科学			
農林業経営を行うための加工・流通・販売の知識や経営管理能力	経営管理 加工・販売・流通	農林業のための生物学	分子生物学	植物病理学	肥料・植物栄養学	野菜園芸学	農林業のための先端技術			職業専門
		農林業のための化学	農林業のための物理学	農林業のための地学	情報処理応用	果樹園芸学		花き園芸学		
農林業生産及び経営の実験・実習・演習を通じて身に付く、自主的・継続的に学習を進める能力、他者と協調し事業を推進できる能力	生産技術 栽培 林業 畜産 共通 加工・販売	情報処理基礎		植物生理生態学	園芸学	応用昆虫学	土壌学			展開科目
		森林計画・政策論	樹木・組織学	森林土木学	木材生産システム論					
専任職業者としての役割と社会的責任を理解した上での、農林業・農山村が有する多面的機能と、その資源を保全する手法の理解	環境保全 農山村振興	畜産概論	家畜生理解剖学	畜産法規	自給飼料					展開科目
		飼料総論	家畜育種繁殖	人工授精論	家畜衛生学	家畜福祉学				
4 ・修得した専門知識と技術を駆使して、課題を探索し、解決に必要な情報を収集・分析・整理する能力 ・分析・整理した結果を表現する論理的な記述力、口頭発表力、コミュニケーション能力		簿記基礎	簿記応用	財務会計		経営戦略Ⅱ	農と食の起業論	知的財産権		総合
		食品化学	食品衛生学	木材利用論	食品加工学	アグリフードシステム論	木材流通論	6次産業化実践論	収穫後生理学	
カリキュラム・ポリシー	基礎科目	総合実習		生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)	生産マネジメント実習Ⅰ(林業)	生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)	生産マネジメント実習Ⅱ(林業)			総合
		農場実習(栽培)	演習林実習	生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)	森林施業プラン演習	森林認証演習	林業機械実習			
アドミッション・ポリシー	職業専門科目	農場実習(畜産)		大型機械実習Ⅰ	GAP演習	大型機械実習Ⅱ	企業実習			総合
						食品加工実習	販売実習			
カリキュラム・ポリシー	展開科目	環境と農山村	農山村田園地域公共学	農村社会学	農山村デザイン演習	農と食の健康論	医福食農連携論	食文化論		総合
		環境と農林業		農村社会学	農山村デザイン演習	農と食の健康論	医福食農連携論	食文化論		
アドミッション・ポリシー	総合科目	環境と農山村	農山村田園地域公共学	農村社会学	農山村デザイン演習	農と食の健康論	医福食農連携論	食文化論		総合
		環境と農林業		農村社会学	農山村デザイン演習	農と食の健康論	医福食農連携論	食文化論		
カリキュラム・ポリシー	総合科目	環境と農山村	農山村田園地域公共学	農村社会学	農山村デザイン演習	農と食の健康論	医福食農連携論	食文化論		総合
		環境と農林業		農村社会学	農山村デザイン演習	農と食の健康論	医福食農連携論	食文化論		
アドミッション・ポリシー	総合科目	環境と農山村	農山村田園地域公共学	農村社会学	農山村デザイン演習	農と食の健康論	医福食農連携論	食文化論		総合
		環境と農林業		農村社会学	農山村デザイン演習	農と食の健康論	医福食農連携論	食文化論		

カリキュラム・ポリシー	基礎科目	幅広い知識や多面的な物事への考え方などを身につけるため、人文科学や社会科学、コミュニケーションスキルなどを学ぶ科目を配当
カリキュラム・ポリシー	職業専門科目	農林業生産及び経営に必要な知識・技術と先端技術への対応力を身につけるため、農林業基礎、生産理論、経営管理などを学ぶ科目を配当するとともに、実習・演習科目を重点的に配当
カリキュラム・ポリシー	展開科目	農林業や農山村が有する多面的機能と、その資源を保全する手法を理解するため、環境保全や農山村振興などについて学ぶ科目を配当
カリキュラム・ポリシー	総合科目	農林業経営における課題を探索し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、その成果をとりまとめる科目を配当

アドミッション・ポリシー	(1) 農林業生産技術や経営などを学ぶ上で必要な基礎学力と知識を身に付けている人
アドミッション・ポリシー	(2) 課題解決や新たな価値の創造に取り組むために、従来の常識にとらわれない柔軟な思考力を備えている人
アドミッション・ポリシー	(3) 農林業に高い関心を持ち、農林業経営の中核となり、農林業の発展に貢献する意欲がある人
アドミッション・ポリシー	(4) 自然と共生し地域の人々と協働しながら、持続的な社会の発展に自らの能力を活かしていく意欲がある人

農林大学校(養成部・研究部) カリキュラム・マップ

		養成部1年	養成部2年	研究部1年	研究部2年
区分				区分	
教養科目		教養基礎、体育 基礎英語、英会話 経済学、心理学 社会学、生物学			
全学科共通科目		農林業経営、農林業政策 ○作物、○農林業汎論 マーケティング論、特別講義 情報処理Ⅰ・Ⅱ、 情報処理演習 簿記Ⅰ・Ⅱ 農業気象、環境科学 国際関係論、経営分析・設計 農畜産物加工、国際政治論 フワデザイン、造園		農業経営学 マネージメント演習 企業法人研修 マーケティング論 開発商品事例研究 農畜産物加工論 商品化実践実習Ⅰ 流通研究 農業機械実習 ◎インターンシップⅠ	
専門科目	園芸学科	野菜コース 植物生理 農薬概論 農業機械基礎	○野菜概論Ⅰ・Ⅱ ○園芸施設と経営 園芸病害虫と土壌飼料 農業経営研究講座 園芸流通	野菜栽培と育種 ○各種特論 花き栽培と育種 ○各種特論	農業会計学 経営特別講座 就農演習 商品化実践演習Ⅱ Web活用研究 Web実践実習 ◎インターンシップⅡ
	茶業学科	○生物工学Ⅰ・Ⅱ ○植物防疫Ⅰ・Ⅱ ○土壌肥料Ⅰ・Ⅱ ○営農ゼミ	○茶栽培Ⅰ・Ⅱ ○茶加工Ⅰ・Ⅱ ○手もみ技術Ⅰ	○茶樹育種、○茶樹栽培Ⅰ・Ⅱ ○茶製造、○茶業土壌肥料 ○茶樹病害虫、手もみ技術Ⅱ ○各種茶、茶業経営、 茶業流通、各種特論	農学研究 植物生理学 土壌肥料学 植物病理学 応用昆虫学
	果樹学科		果樹栽培基礎Ⅰ・Ⅱ 果樹栽培実習Ⅰ・Ⅱ	○果樹育種、○果樹栽培 ○果樹土壌肥料、○果樹病害虫 ○果樹施設環境生理、 果樹経営、果樹経営分析、 果樹流通加工、各種特論	地域活性化論、 地域活性化プロジェクト プロジェクトゼミⅠ プロジェクト実習Ⅰ プロジェクト演習Ⅰ
	畜産学科	大家畜コース 畜産概論 畜産法規 ○家畜生理解剖 畜産加工論 飼料総論 畜産環境論 ○家畜育種繁殖Ⅰ・Ⅱ ○家畜衛生 ○畜産堆肥利用論 ○家畜飼養Ⅰ・Ⅱ	畜産経営 ○乳牛飼養管理、○肉牛飼養管理 家畜管理実習、○繁殖 ○環境保全、○飼料生産調整 流通加工、○各種特論	中小家畜経営、中小家畜施設 飼養管理、○繁殖育種 ○衛生疾病、栄養生理 ○環境保全、○流通加工 中小家畜飼養、○各種特論	農林事務所学習 プロジェクトゼミⅡ プロジェクト実習Ⅱ プロジェクト演習Ⅱ
	林業学科	○森林・林業基礎 ○木材利用Ⅰ・Ⅱ ○測樹 林業経営Ⅰ ○育林Ⅰ・Ⅱ ○特用林産Ⅰ・Ⅱ ○林業機械 ○伐木集運材Ⅰ ○森林測量、○森林情報	○森林保護、○環境保全 ○木材利用Ⅲ・Ⅳ 林業経営Ⅱ ○育林Ⅲ・Ⅳ ○特用林産Ⅲ ○伐木集運材Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ○林業特論Ⅰ・Ⅱ	○大規模機械実習 ◎先進経営研修 卒業論文	

凡例
○…「生産理論を学ぶ講義」と「生産技術を身につける実習」が一体となった科目
◎…臨地実務実習

生産科学科 カリキュラム・マップ

卒業単位:68単位

【養成する人材像】
 ○農林業生産現場のリーダーであるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える農林業者として、それらを守り育てていくことができる人材

- 必修
- 選択必修
- ◎ コース必修
- 実験・実習

科目	カリキュラム・ポリシー	教育課程									
		1年				2年					
		春期	夏期	秋期	冬期	春期	夏期	秋期	冬期	春期	冬期
基礎 (10単位)	(1) 社会人に求められる実用的な知識やコミュニケーション・スキルなどを学ぶ教育課程を編成する。	● 静岡学 2 ● 情報処理演習 2 ● 分子生物学 2 ● コミュニケーション論 1 ○ 英語基礎 1 ○ 英語応用 1 ● 保健体育 2 (自由)簿記基礎 1 (自由)簿記応用 1									
		■ 農林業基礎(7単位) ● 農学概論 2 ● 農林業のための科学 1 農林業史 2 県内農林業事情 2 海外農林業事情 1 農林業政策 2 県外農林業事情 1 営農と農業関連法 2 野生鳥獣管理・利用論 2 ※ここから2単位以上									
		■ 生産理論(14単位) <共通> ○ 植物生理生態学 2 ○ 樹木・組織学 2 ○ 畜産概論 2 ※ここから2単位以上 <栽培コース> ◎ 肥料・植物栄養学 2 ◎ 先端栽培技術 2 ◎ 環境保全型農業論 2 ◎ 植物保護 2 ◎ 施設園芸 2 作物栽培 2 野菜栽培 2 土壌学 2 花き栽培 2 植物遺伝育種学概論 2 茶栽培 2 果樹栽培 2 ※ここから2単位以上 <林業コース> ◎ 森林計画学 2 ◎ 森林土木論(治山・林道) 2 ◎ 木材生産システム 2 ◎ 森林マネジメント 2 ◎ 造林学 2 ◎ 森林生態学 2 <畜産コース> ◎ 飼料総論 2 ◎ 家畜育種繁殖 2 人工授精論 2 ◎ 畜産環境・肥肥利用論 2 ◎ 家畜飼養 2 ◎ 家畜衛生学 2 ◎ 家畜生理解剖 2 ◎ 畜産法規 2									
		■ 生産技術(25単位) <共通> ● 総合実習 2 <栽培コース> ◎ 圃場実習 I (野菜) 4 ◎ 圃場実習 II (野菜) 6 ● 企業実習 10 ● 大型機械実習 2 ● GAP演習 1 ※野菜①と野菜②に分かれる。 ◎ 圃場実習 I (花き) 4 ◎ 圃場実習 II (花き) 6 ● 企業実習※再掲 10 ● GAP演習※再掲 1 ● 大型機械実習※再掲 2 ◎ 圃場実習 I (茶) 4 ◎ 圃場実習 II (茶) 6 ● 企業実習※再掲 10 ● GAP演習※再掲 1 ● 大型機械実習※再掲 2 ◎ 圃場実習 I (果樹) 4 ◎ 圃場実習 II (果樹) 6 ● 企業実習※再掲 10 ● GAP演習※再掲 1 ● 大型機械実習※再掲 2 <林業コース> ◎ 演習林実習 I 4 ◎ 演習林実習 II 6 ● 企業実習※再掲 10 ● 大型機械実習※再掲 2 ● GAP演習※再掲 1 <畜産コース> ◎ 圃場実習 I (畜産) 4 圃場実習 II (大家畜) 6 ● 企業実習※再掲 10 ● GAP演習※再掲 1 圃場実習 II (中小家畜) 6 ● 大型機械実習※再掲 2									
職業専門 (46単位)	(2) 農林業に関する基礎的な知識及び農林業生産に関する専門的な理論や技術を学ぶとともに、農林業生産に活用される先端技術を学ぶ教育課程を編成する。										
展開 (10単位)	(4) 農山村の伝統・文化の継承や地域社会及び生産物の加工・流通・販売などについて学ぶとともに、それらの知識を活用して生産物の付加価値向上を図るための手法を学ぶ教育課程を編成する。	■ 農山村の伝統・文化及び地域社会(2単位) <共通> ● 農山村田園地域公共学 2 ■ 加工・流通・販売等(8単位) <栽培コース> 食品科学 2 農と食の健康論 2 ● マーケティング・販売演習 2 ● マーケティング・販売演習※再掲 2 ● マーケティング・販売演習※再掲 2 ※いずれか1回 食品加工演習 2 食品加工演習※再掲 2 アグリフードシステム論 2 流通加工論 2 ◎ 農業経営 2 <林業コース> ◎ 木材加工演習 2 ● マーケティング・販売演習※再掲 2 ◎ 木材利用・流通論 2 ◎ 林業経営 2 <畜産コース> 食品科学※再掲 2 農と食の健康論※再掲 2 ● マーケティング・販売演習※再掲 2 食品加工演習※再掲 2 食品加工演習※再掲 2 畜産経営演習(大家畜) 2 アグリフードシステム論※再掲 2 流通加工論※再掲 2 畜産経営演習(中小家畜) 2 ◎ 畜産経営 2 ※ここから2単位									
総合 (2単位)	(5) 農林業生産現場における課題の解決に向けた研究の手法などを学ぶ教育課程を編成する。	● プロジェクト研究 2									

ディプロマ・ポリシー

(1) 社会人に求められる知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性を理解し多面的に物事を考える素養を有している。
 (2) 農林業生産現場の生産性向上等を図るための農林業生産に関する専門的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術を生産現場へ導入する能力を有している。
 (3) 農山村の地域社会を支える農林業者として、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育てていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。
 (4) 農山村の地域資源や加工・流通・販売などに関する知識を活用し、生産物の付加価値向上を図るための手法を理解している。
 (5) 修得した専門知識と技術を駆使して農林業生産現場における課題を探索し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を有している。

食料・農業・農村基本法の骨子

第1 基本理念

1. 食料の安定供給の確保

- 1 食料は、人間の生命の維持に欠くことができないものであり、かつ、健康で充実した生活の基礎として重要なものであることにかんがみ、将来にわたって、良質な食料が合理的な価格で安定的に供給されなければならない。#
- 2 国民に対する食料の安定的な供給については、世界の食料の需給及び貿易が不安定な要素を有していることにかんがみ、国内の農業生産の増大を図ることを基本とし、これと輸入及び備蓄とを適切に組み合わせる行われなければならない。#
- 3 食料の供給は、農業の生産性の向上を促進しつつ、農業と食品産業の健全な発展を総合的に図ることを通じ、高度化し、かつ、多様化する国民の需要に即して行われなければならない。#
- 4 国民が最低限度必要とする食料は、凶作、輸入の途絶等の不測の要因により国内における需給が相当の期間著しくひっ迫し、又はひっ迫するおそれがある場合においても、国民生活の安定及び国民経済の円滑な運営に著しい支障を生じないよう、供給の確保が図られなければならない。#

#

2. 多面的機能の発揮

国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承等農村で農業生産活動が行われることにより生ずる食料その他の農産物の供給の機能以外の多面にわたる機能(以下「多面的機能」という。)については、国民生活及び国民経済の安定に果たす役割にかんがみ、将来にわたって、適切かつ十分に発揮されなければならない。#

#

3. 農業の持続的な発展

農業については、その有する食料その他の農産物の供給の機能及び多面的機能の重要性にかんがみ、必要な農地、農業用水その他の農業資源及び農業の担い手が確保され、地域の特性に応じてこれらが効率的に組み合わせられた望ましい農業構造が確立されるとともに、農業の自然循環機能(農業生産活動が自然界における生物を介在する物質の循環に依存し、かつ、これを促進する機能をいう。以下同じ。)が維持増進されることにより、その持続的な発展が図られなければならない。

#

4. 農村の振興

農村については、農業者を含めた地域住民の生活の場で農業が営まれていることにより、農業の持続的な発展の基盤たる役割を果たしていることにかんがみ、農業の有する食料その他の農産物の供給の機能及び多面的機能が適切かつ十分に発揮されるよう、農業の生産条件の整備及び生活環境の整備その他の福祉の向上により、その振興が図られなければならない。

“ふじのくに”の農山村づくり
(静岡県農業農村整備みらいプラン 2018-2021)

静岡県経済産業部

<目 次>

はじめに	
1 策定の趣旨	1
2 役割	2
3 構成と計画期間	2
I 基本方針	
1 理念	3
2 取組の視点	4
II 基本計画	
1 現状と課題	7
2 政策方針	11
3 施策方針	21
4 計画推進にあたっての留意事項	25
III プラン実現に向けた連携	
1 農村振興技術者の役割	27
2 関係者への期待	29
IV 指標	31
(参考資料)	36

はじめに

1 策定の趣旨

静岡県では、平成 25 年度に策定した「“ふじのくに”の農山村づくり（静岡県農山村整備みらいプラン 2014-2017）」に基づき、農業用水の安定供給や生産性向上による産地競争力の強化、地域資源の保全継承を担うコミュニティの形成と活性化を重点取組に掲げ、地域の様々な活動と連携し、農山村づくりに取り組んできた。

このプランでは、農業農村整備事業の長期的な理念を「美しく品格のある農山村の創造」と定め、平成 25 年度までの最初の 4 年間は「基礎づくり」、平成 29 年度までの 4 年間は「実践的モデルづくり」の視点のもと取組を展開してきた。

これまで、産地戦略の実践として基盤整備を実施してきた地区では、生産性が飛躍的に向上し、意欲的な後継者が育成されるとともに、レタスなどの高収益作物の導入が徐々に拡大してきている。

また、「ふじのくに美しく品格のある邑づくり」では、県下で 122 の地域が「美しく品格のある邑」に登録されるとともに、農山村の景観や地域の歴史・文化等の地域資源を活用した活動を行う NPO 等の主体が設立されるなど、農山村に新たな活力が生まれており、この 8 年間の取組は着実に成果をあげている。

しかしながら、本格的な人口減少社会を迎える中、農業者の高齢化や担い手の不足、TPP や EPA 等のグローバル化の進展や国内産地間競争の激化等により、本県の農山村は総体として弱体化傾向にある。

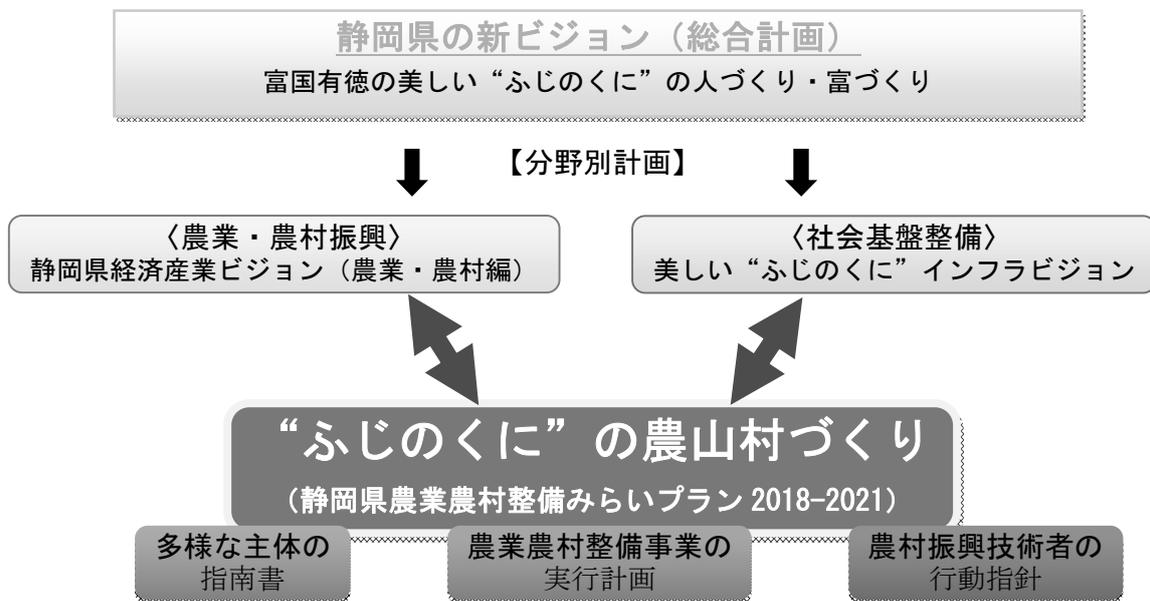
このような状況において、本県の農山村が有する「多彩で高品質な農産物の安定供給」と「多面的機能の発揮」という重要な役割を将来に渡って持続的に維持・発展させていくために、農業の競争力強化と農山村社会の再生・活性化に向けた取組を、地域特性に応じて、一体的に進めていかなければならない。

このため、美しく品格のある農山村の創造の実現に向けた「発展的取組の拡大」を行うプランとして、この「“ふじのくに”の農山村づくり（静岡県農業農村整備みらいプラン 2018-2021）」を策定する。

2 役割

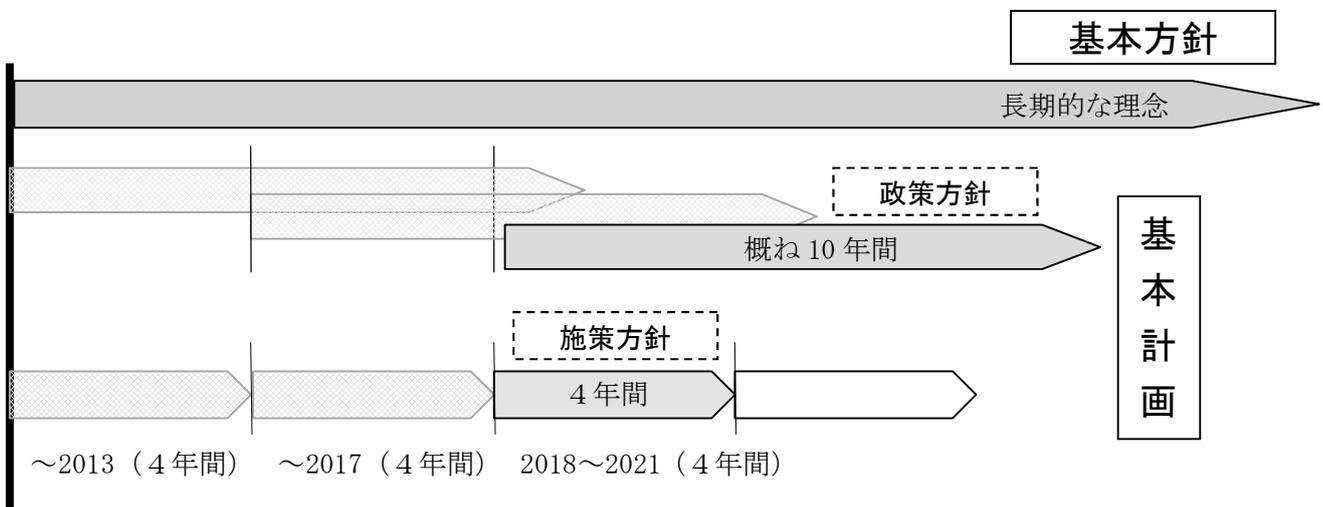
このプランは、上位計画の「静岡県の新ビジョン 富国有徳の美しい“ふじのくに”の人づくり・富づくり」、その分野別計画である「静岡県経済産業ビジョン（農業・農村編）」並びに「美しい“ふじのくに”インフラビジョン」の実行計画として、本県の農業農村整備事業の長期的な理念と取組の視点、政策の方向性と主な取組を明らかにするものである。

また、農業農村整備事業に関わるあらゆる立場の人々、団体、機関等が、共通認識のもとで本県の農山村のあるべき姿を描き、その具現化に向けて、協働して取り組むための指南書であるとともに、農業土木技術者が農村振興技術者へと発展し実践すべき行動指針としての役割を担うものである。



3 構成と計画期間

本プランは、本県の農業農村整備事業の「基本方針」を示すとともに、概ね10年間の政策方針と、その達成に向けた平成30年度(2018年度)から4年間の具体的な施策方針を示した「基本計画」により構成している。



I 基本方針

1 理念

『美しく品格のある農山村の創造』

かつて、幕末から明治に日本を訪れた多くの外国人は、まるで庭園のように手入れされた農山村の美に深く感嘆し、「絵のように美しい」と形容した。その美しさは、自然と人間の営みが長い年月をかけて造り上げた農山村の姿だけではなく、当時の人々の考え方、暮らしぶりといった日本社会そのものに対する感動からおこったものであった。

「静岡県の新ビジョン 富国有徳の美しい“ふじのくに”の人づくり・富づくり（静岡県総合計画）」を目指す本県の農山村は、当時の農山村を理想像として、景観の美しさにとどまらず、その源となる農業に勤しむ生産者と、地域の資源を保全し次世代へ継承しようとする様々な人々の共同体意識に至る外形と内面の「農山村の美」を実現していくことが重要である。

人に人格があるように村にも村格があり、それは、鎮守の森や菩提寺、旧家の名主・豪農、土地改良の水利権といわれた。村格の基準は、当時と大きく変化していると思われるが、人格が、「独立した個人としての、その人の人間性」であれば、村格は、「独立したひとつの共同体としての地域性」、「その地域固有の、共同体としてのあり方」であるともいえる。従って、「人格者」と言われる人がいるように、「村格者」と言われるような農山村もあるべきである。

本県の農山村がその姿を富士山のように美しく高め、世界中から憧れられ、そこを訪れてみたい、その産物を手にしたい、そこで暮らしてみたいと思われるような存在となるためには、共同体としての農山村の社会（コミュニティ）が、地域のあり方を自ら考え、主体的・意欲的に地域の「場の力」を最大限に活用し、その実現に取り組むといった力強い自律性に裏付けられた品格が必要である。

こうした考えに基づき、農業農村整備事業に関わるあらゆる人々が、農山村のあるべき姿を見定め、的確に対応していくための道標となる理念を「美しく品格のある農山村の創造」とする。

2 取組の視点

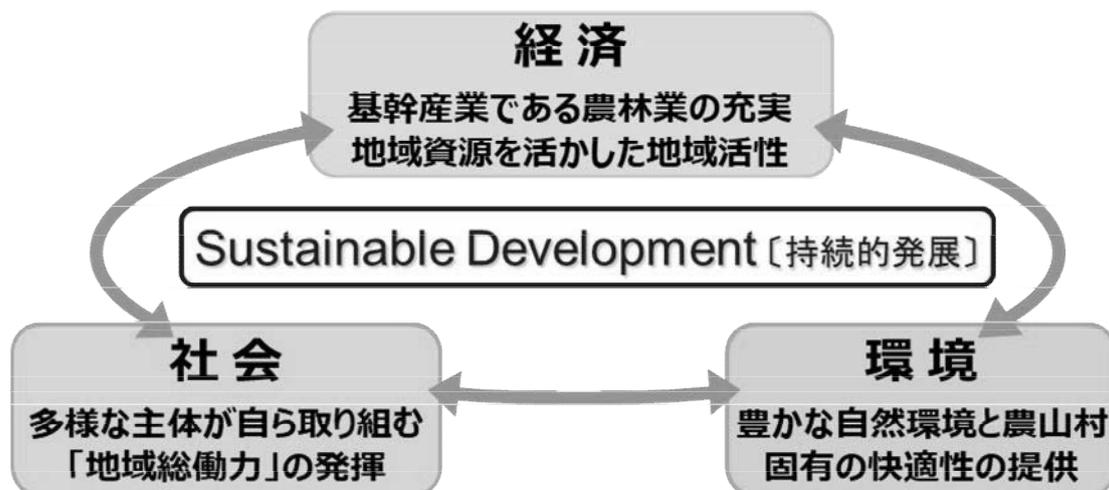
～ 環境・経済・社会の調和による持続可能な農山村づくり ～

農山村では、人と自然の共生が生み出す二次的な環境を基礎として、農業生産活動、人々の生活、地域の歴史、文化が調和した独自の景観が形成されており、こうした農山村の佇まいは、農業が持続的に行われるとともに、農山村の活力が維持、向上されることによって保全されている。

この「農山村らしさ」は、単に視覚的な自然の姿や農業生産の場としての景観だけではなく、長い歴史の中で、それらを保全し継承してきた農山村の社会（コミュニティ）が根幹となっている。

コミュニティなくして、水田や水路、里山などの二次的な環境を継承していくことは難しく、また、担い手への農地集積や基盤整備など、個の生産活動を発展させることも難しい。同時に、農泊やGI（地理的表示）、産地での直売など、農産物や地域資源を活用した経済活動を行う上でも、地域の環境や景観が重要な要素になる。

このことから、美しく品格のある農山村の創造に向け、農山村の根幹であり、多様な主体の協働力により構築された「社会（コミュニティ）」、人と自然との共生関係によって創造・継承されてきた特色のある農山村の「環境」、地域の基幹産業として成長を続ける農山村の「経済」が、地域特性に応じてバランスよく調和することで持続性が確保¹されるよう、農業・農村施策を総合的に展開していく。



¹ 「美しく品格のある農山村」について、前プランでは「3つの要素それぞれの持続性が確保された姿」としていたが、本プランでは、地域特性に応じて、「3つの要素がバランスよく調和することにより持続性が確保された姿」としている。

社 会

農山村の社会（コミュニティ）は、農業の歴史と深く関わり、営農や水管理等の共同作業を通じて形成され、非農家も含めた冠婚葬祭等の様々な集落活動を通じて、その結びつきを強め、安定的なものとしてきた。

しかし、農業従事者の減少や高齢化に加え、都市化・混住化の進行、就業形態の変化、生活様式や価値観が多様化する中、地域内の地縁的な結びつきが希薄化し、農業活動はもとより、中山間地域等においては集落活動を維持していくことも困難になりつつある。

その一方で、都市住民等を含む様々な人々の「田園回帰」志向の高まりにより、農山村への移住や援農ボランティア等の動きが広がってきており、こうした人々が、恵まれた交通インフラを有する本県の優位性を活かし、農山村との多様な関わりを深め、持続可能な農山村づくりに積極的に参画することが求められる。

このため、農山村での集落活動により備わった合意形成力を基本としつつ、地域住民、行政や都市住民、外部人材や企業が主体となって、長期的な視点のもと、持続性に富んだ豊かな暮らしを享受できる地域のあり方を自ら考え、地域の将来構想の実現に取り組む「地域総働力」²を備えたコミュニティを形成していくことが重要である。

また、コミュニティ強化に向けては、これまでの農村資源の保全管理を重視した側面から、伝統文化の継承や教育、福祉の活動など、地縁組織として住民の暮らしに必要な様々な活動を担う農山村の機能複合性の重視へと視野を広げ、豊かな暮らしやライフスタイルを意識した取組を展開することも重要な視点である。



² 農業者や地域住民による「農村協働力」に、都市住民や企業等の地域外の協力を加えた「新たな力」行政と市民のように1対1に表現される協働より先に進んだ形態。組織や立場を問わず、地域に関係する全員が参画し、総力を挙げて地域づくりに取り組むこと。

環境

農山村の環境は、生物の多様性や眺望の良さ等によって、ゆとりと潤い、やすらぎに満ちた農山村固有のアメニティ（快適性）を私たちに提供している。

アメニティの源泉となっている農山村の多様な地域資源は、そこに住む人や訪れる人が、幸せや安らぎを感じる優れた環境を保持している。

農山村が持つアメニティは、郷愁をさそう原風景といえる環境を保全あるいは復元することのみによって実現されるものではない。恵まれた交通インフラがもたらす新たな価値を活用し、本県らしい「豊かな自然と都市的な利便性を併せて享受できる現代的な意義を持った農山村のアメニティ」を創出することが重要である

加えて、長い歴史の中で先人たちから、自然に対する畏敬の念や災害への脅威とともに受け継がれてきた、大地震や豪雨に対する防災意識のもと、災害への対策が適切に実施されていることも重要な視点である。



経済

農山村の基幹産業は、生産者の占める割合が小さくとも、その役割、土地利用の規模等からみても農林業である。また、その生産活動により、特徴的で季節を感じさせる景観等を生み出している。

本県の農業は、低コスト化や高付加価値化によって安定的かつ持続的に展開されるとともに、「食材の王国」である本県の多彩で高品質な農産物を生み出している。併せて、恵まれた交通インフラ、富士山に代表される景観等の地域資源を活かした農商工連携等によって地域経済をもけん引していくことが重要である。

また、中山間地域等において、農業や農地・農業用施設の有する多面的機能を活用し、時代の流れをつかんだ、農泊やジビエ、農福連携等、新たな視点を加えたビジネスを誘発することも重要な視点である。



「農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境」について学ぶ科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
職業専門科目	農林業基礎	農学概論	持続的な社会の構築のため、農学には新たな展開が必要となっている。本科目では、日本の農林業の現状を把握し、環境問題、エネルギー問題、担い手問題など複雑ににからみあう現実の課題を解決し、持続的な社会を構築するために現代の農学は何ができるか、どう拡大・進化を続けているかを考察する。我が国農林業の課題、作物栽培の現状と課題については、食生活の多様化に対応した作物供給、農産物輸出、経営の大規模化・農地集積等によって生じる課題について学習を行う。	オムニバス方式
		環境と農林業	農業と林業は、それぞれの基盤である農地、森林の間で相互に関係を持ちながら、水、大気、物質の循環に貢献しつつ、多面的機能を発揮している。その一方、戦後の日本農林業の発展過程において農薬による化学物質汚染や肥料の過剰利用による富栄養化などの様々な環境問題を引き起こしてきた。本科目では、農林業が環境保全へ果たしている役割や森林のもつ景観形成機能を学ぶとともに、農林業生産が引き起こす環境問題とその対策を考える。	オムニバス方式
		技術者倫理	人類は、高度経済成長により飛躍的に物的豊かさを獲得してきた。農林業では、規模拡大や単作化、機械化、化学肥料・農薬の多用が進んでおり、農林業は環境問題の一端の責任を負っている。また、食の安全・安全も課題である。このような問題群の中で、農林業関係者は農林業の発展に関し大きな社会的責任を負っており、倫理的な問題が絡んでいくことが認識されつつある。農林業の経済的責任や法律遵守の倫理的責任だけでなく、地球市民として天然資源の節約や温室効果ガスの発生抑制、福祉社会への貢献等々、公共益の配慮を経営プロセスに組み込み、その実践について顧客等に対して説明責任を果たすことが求められる。本科目では、農林業関係者が、今後どのように食や環境の問題について対応するかを考える。	オムニバス方式
	生産理論（栽培）	栽培学	栽培学は、栽培の原理、理論を学ぶ科目であり、栽培を学ぶ基礎となる。本科目では、作物の分類や作物の形態とその機能、生産に係わる温度や光、水、空気、土壌などの環境条件や、耕起、施肥、水管理、病害虫や雑草の防除などの一連の栽培管理など、実際に栽培する際に必要となる基礎知識を体系的に学ぶことを目標とする。また、エネルギーを多投入してきた近代農業の問題点を明らかにし、低投入持続的農業、環境保全型農業技術の重要性を理解する。	
		作物学	農作物は、大きく食用作物、飼料・緑肥作物、工芸作物に分けることができる。このうち、水稻、麦類、トウモロコシ、豆類、イモ類などの食用作物は、エネルギー、蛋白、油脂源として人間の生存や活動に不可欠な主食となる作物である。また、静岡県の主要産品の茶は、工芸・嗜好作物として私たちの生活に潤いを与え豊かなものとしている。本科目では、我が国で最も重要な普通作物である水稻について、起源と分布、品種、形態と生育、生産環境と生産の阻害要因、栽培管理技術について体系的に学習する。また、麦類、トウモロコシ、大豆、茶については、種類、用途、栽培管理技術などについて基本的情報と、環境負荷の軽減、土地・養分等の資源の持続的利用のための作付体系に関する知識の習得を行う。さらに、精密農業は作物の生理・生態的基礎的知見や位置情報に基づく情報集約型の新たな栽培管理法である。そこで、作物の生育ステージ、バイオマス量、ストレス反応を的確に把握するための、指標・センサー・プラットフォーム、データ処理法、情報の活用が見込まれる農作業や適用場面、精密農業向け機械装備、等について学習を進めるとともに、精密農業の実践例をもとに今後の展開について議論を行う。	
		園芸学	静岡県は、イチゴやトマト、レタスなどの野菜、ガーベラやバラなどの花き、ミカンなどの果樹など園芸作物の栽培が盛んな県であり、これらは本県の主要産品となっている。本科目では、園芸の起源と歴史、園芸作物の成長と形態、養分の吸収・光合成と転流・利用、環境制御、繁殖と改良に加え、園芸作物がもつ癒しの機能など、園芸作物の栽培ならびに生産物の取扱いの基礎となる園芸学全般について学ぶ。また、園芸作物は化石燃料を多く使用するため、環境に配慮した栽培についても考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	植物病理学	植物の病害は、様々な微生物によって引き起こされる。日本は元々高温・多湿条件が続きやすい気候であることから、病害虫の発生やそれらによる被害が大きいのに加え、農産物に高品質を求める傾向が強いことから病害虫防除無しでの栽培が非常に困難な状態にある。さらに、現在のように国際的な物流や人の行き来が盛んになると、その移動にともなって植物の病原体が移動し、以前には見られなかった様な大規模な被害をもたらすことがある。これらの被害を防ぐためには、病原体の特徴と防除方法の知識は不可欠である。本科目では、主な病原体である糸状菌・細菌病・ファイトプラズマ病・ウイルス病・ウイルス病の特性、病気の伝染経路や診断方法等について学ぶ。なお、現在は、単に防除効果があるだけでは受け入れられない社会情勢になっており、環境にも十分に配慮した防除方法が求められている。このことから、IPMの実践や化学農薬以外の防除方法についても積極的に紹介する。	
	応用昆虫学	人間社会とのかかわり合いながら生活している昆虫のなかには益虫もいれば害虫もあり、前者は植物の受粉や害虫の天敵としての生物的防除など有用資材として使われ、後者は食糧増産や保健衛生の立場から防除の対象とされてきた。本科目では、昆虫の形態や生理生態などについて学び、害虫の防除手法について化学的防除、生物的防除、物理的防除など様々な手法を学び、それらを要素技術とする環境に配慮したIPM(総合的有害動物管理)について考える。	
	肥料・植物栄養学	植物の生産現場では、植物の成長に対する肥料の効果の知識だけでなく、たとえば、栄養不良土壌に生育する植物の栄養状態を改善して、生産を向上させるための知識も必要である。本科目では、高等植物を対象とし、高等植物の特性及び植物生産の代謝との関連、植物が成長するために必要な養分の機能、その養分の吸収・移動の機構、植物の栄養特性、肥料の種類と特性について学ぶ。また、近年、肥料と環境の問題が取り上げられることが多いため、環境負荷の少ない施肥方法について考える。	
	野菜園芸学	野菜園芸の発展に伴い主要野菜の周年供給が達成され、また様々な技術開発により高品質な野菜が安定的に生産されている。本科目では、野菜栽培の基本的知識を得ることを目的とし、総論として野菜園芸に共通する生理・生態、野菜育種の現状、栽培技術と作型栽培体系から鮮度保持や流通、各論として果菜類(ナス科植物、ウリ科植物、バラ科植物)、葉菜類、茎菜類、花菜類、鱗茎類、根菜類などの特性と栽培について学ぶ。また、野菜園芸において肥料や燃料など多投入されている現状を踏まえ、環境に配慮した栽培方法について考える。	
	果樹園芸学	果樹栽培の対象とする果実は水分や栄養分の摂取と嗜好品として利用されてきたが、近年は健康増進と疾病予防としての機能が注目されるようになっていく。果樹は他の作物とは異なってほとんどが樹木作物(永年作物)である。そのため、1年生作物とは異なる生理・生態的な特性を有することも多い。特に、果樹は環境条件への依存が高く、リンゴやミカン等、各果樹に適した環境下で栽培されるため、近年の気象変動は果樹栽培に大きな影響を与える。また、一口に果樹と言っても、その果実は子房壁が肥大したものから、花床が肥大して果実となったものまで様々である。本科目では、果樹栽培の基本的知識を得ることを目的とし、果樹の種類・品種の選択方法、環境条件からみた適地の選定、苗木の繁殖・育成、植栽、栽培管理、生理・生態的特徴、収穫、さらに流通・貯蔵まで果実が消費者にとどくまでの内容について、環境に配慮した果樹栽培という視点で体系的に学ぶ。	
	花き園芸学	近年、花きへの関心が日常生活に浸透し、花き産業や花き文化の発展と振興が期待されている。静岡県は、バラやガーベラなどの花き生産が盛んであり、県の主要産品となっている。花き園芸学は、観賞植物の生産および栽培に関する学問であるが、本科目では、花き栽培の基本的知識をえるため、花きの種類と分類、花きの形態と構造、育種、繁殖、開花調整に加え、流通と販売、花き輸入の現状などについて学ぶ。また、施設で資源を多投入して栽培を行っている現状を踏まえ、環境に配慮した栽培について考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
職業専門科目	生産理論(栽培)	土壌学	土壌は農林業に利用されるだけでなく、地球環境保全にも欠かせないものである。本科目では、土壌の概念や、土壌の三層構造や化学的組成などの土壌の構成、土壌鉱物、陽イオンと陰イオンの交換と固定、土壌生物、土壌有機物、土壌の酸化・還元に加え、水田や畑、施設、草地、樹園地などの土壌の現状や環境問題など農林業生産に必要な土壌の基礎知識について学ぶ。また、 <u>土壌診断に基づいた土壌改良対策・適切な施肥設計の方法を理解し、環境に配慮した土づくりについて考える。</u>	
		環境保全型農業論	農業生産力は、品種改良・化学肥料・農薬の三大技術革新で、急激に増大する地球人口を支えてきた。しかし、利益追求や不適切な資材適用による農業生産活動が、環境汚染負荷となって生活環境の破壊ばかりか、農業の再生産にも悪影響を及ぼす事態に及びつつある。さらにグローバル化に伴う食品安全性の担保は、その生産過程にも求められる時代にもなっている。そこで、本科目では、農業のもつ多面的機能を学び、海外の環境保全産業としての農業等を範とする環境保全型農業の様々な技術を学び、今後の農業のあり方について考える。	オムニバス方式
	生産理論(林業)	森林計画・政策論	森林は、多面的機能の発揮を通じて、国民が安全で安心して暮らせる社会の実現や、木材等の林産物の供給源として地域の経済活動と深く結びつくなど、さまざまな働きを通じて私たちの暮らしを支える大切な存在であり、森林を保全し、長期的視点に立った計画的かつ適切な森林の取扱いを推進することが必要である。本科目では、森林政策の歴史、森林政策の骨格をなす森林関連法、森林計画制度等の基本的事項を学ぶ。さらに、諸外国の森林政策から、持続可能な森林経営に向けた森林認証制度を学ぶとともに、地球環境問題等の各国の共通性、独自性を学ぶとともに、新たな政策課題についても考察する。また、これらの森林計画策定に必要な森林の現況調査、森林管理における地理情報システム(森林GIS)と森林・林業分野のICT利活用、UAVや衛星画像等を用いたリモートセンシング技術等について学ぶ。	オムニバス方式
		造林学	木材供給、水土保全、保健休養、CO2吸収等の森林が私たちにもたらす恩恵である多くの生態系サービスを将来にわたって享受するためには、森林を健全に保全すると共に、その持続的な循環利用(伐採、植栽、育成・保全)を図る必要がある。本科目では、造林学の基礎となる森林づくりの原理・原則、並びに森林づくりのために行われる各種作業(地拵、植栽、下刈、除伐、間伐等)の目的や方法を学ぶ。また、広葉樹林、針広混交林、複層林等、多様な森林づくりの目的とそれに対応した施業技術について学ぶ。さらに森林景観を科学する森林風致学を概説する。	
	樹木・組織学	樹木は地球環境の維持・浄化に重要な役割を果たすと同時に、建築材、紙・家具・用具などの資源として不可欠なものとなっている。また、生物資源である木材は再生産が可能で、使い方を誤らなければ永続的に利用可能となる資源的特質をもっているが、これらの特質は木材の適正な使用があってはじめて有効になるため、木材の科学的性質を理解する必要がある。本科目では、木質科学全般の基礎である木材の組織・構造と、それらと材質との関連について、植物分類学的な科、属、種ごとの相違を理解する。さらに種内や環境によるそれらの変異を理解し、木材の有効利用に向けた林木育種について学ぶ。また、森林で収穫される椎茸等きのこ類、木炭、竹などの非木材林産物の生産・利用について学ぶ。		
	森林土木学	森林土木学は治山・砂防分野と林業土木分野からなる。治山・砂防分野では、森林山地斜面で発生する土砂移動現象(表面侵食、斜面崩壊、地すべり、土石流等)の発生メカニズムとその対策、および森林植生の有する表面侵食防止、表層崩壊防止の機能とその限界、荒廢地の復元技術および森林・植生がもつ環境保全機能と景観形成機能についての知識と最新の技術を学ぶ。林業土木分野では、木材生産システムの集材工程に大きくかかわる林内路網整備に関する知識(林道、森林作業道開設の目的、役割、構造等)、設計手順、現地踏査についての知識と最新の技術を学ぶ。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目	生産理論（林業）	森林は、国土の保全、水源の涵養、生物多様性の保全、地球温暖化防止等の多面的機能の発揮を通じて、国民が安全で安心して暮らせる社会の実現や、木材等の林産物の供給源として地域の経済活動と深く結びつくなど、さまざまな働きを通じて生活を支えている。このため、長期的な視点に立った計画的かつ適切な森林の取扱いを推進することが必要である。また、森林認証制度は、公共建築や商業施設での認証材の活用が推進されているため、森林認証の取得はビジネス・チャンスにつながる可能性がある。長期的な視点に立って作成される森林計画制度や森林保護の視点を備えた持続的林业経営を考える。森林認証の制度や取得方法について学び、森林認証を使用したビジネス展開について考える。	
	畜産概論	人間の生活に貢献するべく動物の生命活動を応用する学問的追究が畜産学であり、従来は食料自給を課題とした生産において柱となる遺伝育種、繁殖、飼養などの専門領域での課題解決とそれに必要な技術開発が中心となって進展してきた。これらの領域には国際的な視野で開らなければならない課題も含まれるようになっており、さらには従来の生産効率一辺倒な対応だけでなく、労働者や飼育される動物の労働・生活環境におけるリスクを回避することも求められる。本科目では、畜産業の歴史と近況の情報を学び、家畜生産における課題の内容に応じて整理し、その解決に向けた対策の解説を通じて現状の理解を深める。そのなかでも畜産業の持続的な発展にむけて解決が不可欠である排せつ物の処理について具体的な解説を行い、今後新たに課題となる内容とその対策に対する指針が策定できることを目標とする。	
	畜産環境学	畜産経営では、家畜排せつ物による悪臭や水質汚染の対策が課題となっており、様々な環境をめぐる課題がある。一方で、家畜ふん尿は土壌改良資材や肥料としての利用価値が大きい貴重なバイオマス資源であり、バイオエネルギーとして活用されている事例もある。本科目では、家畜ふん尿など畜産と環境の問題や、バイオマス資源としての家畜ふん尿の利用、適切な家畜ふん尿の処理法、悪臭対策などについて学び、家畜排せつ物の利活用を促進することによる資源の有効活用、畜産業の持続的な発展、環境保全型農業経営のあり方について考える。	
展開科目	農山村田園地域公共学	農林業は地域と密着した産業であり、持続可能な産業となるためには地域社会との連携が不可欠である。この連携を確認する作業は、農林業の公共性を考える絶好の機会となるであろう。また、農林業には、生産以外の様々な多面的な機能がある。本科目では、農山村の歴史や文化、農業・農村の多面的機能、森林の多面的機能と多面的機能の保全の取り組みについて学び、農山村や田園空間に存在する固有の歴史、伝統、文化等について理解を深め、これからの農林業や農山村のあり方を考える能力の育成を目標とする。	
	食文化論	和食がユネスコ無形文化遺産に登録されたように、日本の食文化が世界的に注目されている。本科目では、「『自然を尊ぶ』という日本人の気質に基づいた『食』に関する『習わし』」である和食文化の特徴や、日本の食文化の変遷や現状について学ぶ。また、日本だけでなく、アジアや欧米諸国など世界各国の食文化も取り上げる。さらに、近年、見直しが進んでいる「在来作物」について学び、在来品種を用いた郷土食や今後の新しい活用法について考える。	
	農と食の哲学	現代社会において食料の消費と流通のあり方は大きく変化した。これを視野に入れない農業（食料の生産）には将来的な展望が拓かれないところまで、事態は進んでいる。それは農学という学問分野にとつて、自らの足場が問われることを意味する。それを踏まえて本科目では、「農」と「食」という営みの本質について、両者の関係に注目しながら、対話を通して考え、持続可能なフードシステムとそれを支える農（学）の使命を構想・実現するための哲学的・倫理的な思考と対話の力を培う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
展開科目	農山村の伝統・文化の継承	農村景域論	日本の農村は、水田、畑、集落、雑木林、鎮守の森、用水路、ため池など、人の手が加わった自然が、長い歴史の中で有機的に連携し、多様な生態系や農村景観が形成されてきた。しかし、近年では、都市周辺農村での混住化、中山間地域の過疎化・高齢化など農村を取り巻く環境が大きく変化し、農村の景観も変化してきている。本科目では、人間の生活・生産活動が行われている動的な地域である景域について学び、景域はそこに暮らす人々の生業の歴史文化と関係しながら形成されてきたという視座に立ち、永続性のある、美しい、健全な景域をめざして、景域の秩序・管理・維持・開発の方法について学ぶことを目標とする。	
		在来作物学	在来作物とは、ある地域で世代を越えて受け継がれてきた伝統作物で、かつては日本全国それぞれの地域毎に、その気候風土や食生活と密接に関連した特徴的な作物が栽培されていた。しかしながら品種改良された作物に比べると、形が不揃いで日持ちがよくないため流通には不向きであると同時に生産性や収益性も低いため、栽培者の高齢化、後継者不足が深刻で、在来作物の多くが既に消失もしくは消失の危機に直面している。静岡県はその地理的な特徴から全国屈指の在来作物の種類を誇り、取り分け静岡市葵区や浜松市天竜区などの山間部にその多くが残っている。在来作物は焼き畑のような昔ながらの農法や伝統行事、地域の食文化とともに受け継がれてきた作物であるため「生きた文化財」とも言われ、さらには有機農法や機能性食品として、あるいは品種改良された作物では失われてしまった深い味わいや風味を生み出す遺伝的多様性を残している。地域の知的財産として注目され始めている在来作物の過去、現在について学び未来について考える。	
	農村社会論	現在、日本の農業・農村は、国際化、担い手の高齢化、耕作放棄地の増加、安全で安心な食料の安定供給などさまざまな課題に直面している。農村社会の特徴を生かしながら、今後の持続可能な農業や社会の発展のあり方を考えるためには、生産だけでなく消費を視野に収めることや、生産者としてだけでなく生活者としての地域住民に着目することが求められる。本科目では、都市における生活や地域社会と対比させながら、農山村の生活や地域社会の特徴を明らかにする。		
	農山村の地域社会	農山村デザイン演習	農林業は地域に密着した産業であり、生業の場が生活の場であることが多い。このため、農山村地域を知ることが重要である。本科目では、農山村において地域住民と交流し、その体験を通して地域や地域住民が抱える課題を発見し、地域とともに課題解決策を考える。また、これらの体験を通じ、日本の中山間地域における農林業と生活の諸問題について関心をもち、地区住民と共に問題解決に挑戦するアイデアや方法を考え、戦略を立てる能力を身につけることを目標とする。	
		グリーン・ツーリズム論	グリーン・ツーリズムは農山漁村における自然・文化・農山漁村との触れ合いや人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動と定義されており、ヨーロッパ諸国では市民の余暇活動として定着している。一方、日本では、政府が普及促進に取り組んでいるが、国民に認知されず、定着していない。本科目では、「グリーン・ツーリズムとはなにか」から始め、ヨーロッパ諸国や日本のグリーン・ツーリズムの事例を通じ、グリーン・ツーリズムの課題と今後の展開について考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
展開科目	農山村の地域社会	医福食農連携論	持続可能な健康社会を構築するためには、食や環境と健康のつながり、すなわち「農」と「医」の連携を理解する必要がある。ヒトが健康であるためには、予防医学の理解が重要であり、そのためには環境や食に関する基礎知識が必要不可欠である。また、園芸活動を通じて得られる心身のリハビリテーションや心の癒し効果、コミュニケーション促進、共同作業による社会参加促進などのさまざまな効果を利用して、障害のある方ばかりでなく心身の健康や機能回復、心のゆとりや豊かさなど生活の質の向上を実現しようという「農」と「福」の連携の動きがある。本科目では、「農と医」、「農と福」の連携の現状を学び、その連携の重要性を理解することを目標とする。	オムニバス方式
		コミュニティビジネス論	コミュニティビジネスとは、地域の課題を地域住民が主体的に、ビジネスの手法を用いて解決する取り組みである。その活動分野は、まちづくり、環境、介護・福祉、IT、観光、地域資源活用、農業、就業支援などの幅広い分野に及んでいる。また、地域における創業機会・就業機会の拡大など様々な効果がある。本科目では、コミュニティビジネスの背景、展開過程やその意義等を踏まえつつ、静岡県内外の事例を基にして、地域社会におけるコミュニティの役割やコミュニティビジネスの効果と課題について学ぶ。	

科目区分		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	科目区分別単位数
		単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位	
基礎科目	一般教養	必修 静岡学 2 必修 経済学概論 2 法学概論 2 必修 情報処理基礎 1	政治学概論 2		文明論 2 必修 情報処理応用 1					12
	コミュニケーション・スキル	必修 コミュニケーション論 2 英語 I 2 必修 保健体育 I 2	英語 II 2							8
職業専門科目	農林業基礎	必修 農学概論 2	必修 環境と農林業 2 農林業史 2	農林業政策 2		必修 技術者倫理 2				10
	生産理論		栽培学 2	選必 肥料・植物栄養学 2 選必 植物病理学 2 作物学 2	選必 応用昆虫学 2 土壌学 2	必修 農林業のための先端技術 2 選必 環境保全型農業論 2				16
	生産技術	必修 総合実習 2		選必 圃場実習(栽培) 2 必修 GAP演習 2 必修 大型機械実習 I 2	選必 生産マネジメント実習 I(栽培) 4	選必 生産マネジメント実習 II(栽培) 4	必修 企業実習 10			26
	加工・流通・販売					食品加工実習 2 選必 販売管理論 2 食品流通論 2	選必 販売実習 2			8
	経営管理		必修 農林業経営学 2 法と農業経営 2	必修 経営戦略 2 必修 財務会計 2	必修 マーケティング論 2 必修 労務管理 2	必修 管理会計 1	知的財産権 2	必修 経営実習 I 5	必修 経営実習 5	25
展開科目	農山村の伝統・文化の継承		必修 農山村田園地域公共学 2	必修 農と食の哲学 2	必修 食文化論 2	必修 農村景域論 2 必修 在来作物学 2				
	農山村の地域社会			必修 農村社会論 2	必修 医福食農連携論 2	必修 農山村デザイン演習 2 必修 グリーン・ツーリズム論 2	必修 コミュニティビジネス論 2			20
科総目合								必修 経営分析演習 I 1 必修 プロジェクト研究 2	必修 経営分析演習 II 1	4
セメスター別単位数		17	16	22	19	25	16	8	6	129

履修モデル: 農業経営・茶(経営体後継者・幹部・起業者)

科目区分		1年前期	単位	1年後期	単位	2年前期	単位	2年後期	単位	3年前期	単位	3年後期	単位	4年前期	単位	4年後期	単位	科目 区分 単位数
基礎 科目	一般教養	必修 静岡学	2	政治学概論	2					茶道	1							12
		必修 経済学概論	2							華道	1							
		必修 法学概論	2															8
	コミュニケーション・スキル	必修 情報処理基礎	1					必修 情報処理応用	1									
		必修 コミュニケーション論	2	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2											10
	農林業基礎	必修 保健体育Ⅰ	2							必修 技術者倫理	2							
		必修 農学概論	2	必修 環境と農林業	2	農業気象学	2			野生鳥獣管理・利用論	2							16
	生産理論			栽培学	2	選必 肥料・植物栄養学	2	選必 応用昆虫学	2	必修 農林業のための先端技術	2							
						選必 植物病理学	2	選必 土壌学	2	選必 環境保全型農業論	2							26
	生産技術	必修 総合実習	2			選必 圃場実習(栽培)	2	選必 生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)	4	選必 生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)	4	必修 企業実習	10					
						必修 GAP演習	2											8
	加工・流通・販売					必修 大型機械実習Ⅰ	2			食品加工実習	2	選必 販売実習	2					
										選必 販売管理論	2							25
	経営管理			必修 農林業経営学	2	必修 経営戦略	2	必修 マーケティング論	2	必修 管理会計	1	農と食の起業論	2	必修 経営実習Ⅰ	5	必修 経営実習	5	
				必修 フードシステム論	2	必修 財務会計	2	必修 労務管理	2									20
展開 科目	農山村の伝統・文化の継承			必修 農山村田園地域公共学	2	必修 農と食の哲学	2	必修 食文化論	2	必修 農村景域論	2							
	農山村の地域社会					必修 農村社会論	2	必修 医福食農連携論	2	必修 在来作物学	2	必修 コミュニティビジネス論	2					
科総 目合														必修 経営分析演習Ⅰ	1	必修 経営分析演習Ⅱ	1	4
														必修 プロジェクト研究	2			
セメスター 別単位数		15		14		24		17		29		16		8		6	129	

履修モデル：農業経営・施設野菜（経営体後継者・幹部・起業者）

科目区分		1年前期	単位	1年後期	単位	2年前期	単位	2年後期	単位	3年前期	単位	3年後期	単位	4年前期	単位	4年後期	単位	科目 区分 単 位数
基礎 科目	一般教養	必修 静岡学	2	社会学概論	2			文学概論	2									10
		必修 経済学概論	2															
基礎 科目	コミュニケーション ・スキル	必修 コミュニケーション論	2	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	保健体育Ⅱ	2									10
		必修 保健体育Ⅰ	2															
職業 専門 科目	農林業 基礎	必修 農学概論	2	必修 環境と農林業	2	県外農林業事情	1			必修 技術者倫理	2	海外農林業事情	1					10
		必修 県内農林業事情	2															
	生産理論			植物生理生態学	2	選必 肥料・植物栄養学	2	選必 応用昆虫学	2	必修 農林業のための先端技術	2	選必 環境保全型農業論	2					16
	生産技術	必修 総合実習	2			選必 圃場実習(栽培)	2	選必 生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)	4	選必 生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)	4	必修 企業実習	10					26
	加工・流 通・販売										食品加工実習	2	6次産業化実践論	2				8
											選必 販売管理論	2	選必 販売実習	2				
経営管理			必修 農林業経営学	2	必修 経営戦略	2	必修 マーケティング論	2	必修 管理会計	1	農と食の起業論	2	必修 経営実習Ⅰ	5	必修 経営実習	5	25	
展 開 科 目	農山村の伝統・ 文化の継承		必修 農山村田園地域公共学	2	必修 農と食の哲学	2	必修 食文化論	2	必修 農村景域論	2								20
	農山村の 地域社会				必修 農村社会論	2	必修 医福食農連携論	2	必修 農山村デザイン演習	2	必修 コミュニティビジネス論	2						
科総 目 合														必修 経営分析演習Ⅰ	1	必修 経営分析演習Ⅱ	1	4
セメスター 別単位数		15		14		25		19		24		18		8		6	129	

履修モデル：農業経営・露地野菜（経営体後継者・幹部・起業者）

科目区分		1年前期	単位	1年後期	単位	2年前期	単位	2年後期	単位	3年前期	単位	3年後期	単位	4年前期	単位	4年後期	単位	科目 区分 単 位数	
基礎 科目	一般教養	必修 静岡学	2	社会学概論	2			文学概論	2									10	
		必修 経済学概論	2																
基礎 科目	コミュニケーション ・スキル	必修 情報処理基礎	1	英語Ⅱ	2													10	
		必修 コミュニケーション論	2																
		必修 英語Ⅰ	2																
		必修 保健体育Ⅰ	2			保健体育Ⅱ	2												
職業 専門 科目	農林業 基礎	必修 農学概論	2	必修 環境と農林業	2	県外農林業事情	1			必修 技術者倫理	2	海外農林業事情	1					10	
		必修 県内農林業事情	2																
	生産理論			植物生理生態学	2	選必 肥料・植物栄養学	2	選必 応用昆虫学	2	必修 農林業のための先端技術	2								16
					選必 植物病理学	2			選必 土壌学	2	選必 環境保全型農業論	2							
					園芸学	2													
	生産技術	必修 総合実習	2			選必 圃場実習(栽培)	2	選必 生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)	4	選必 生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)	4	必修 企業実習	10						26
加工・流 通・販売					必修 GAP演習	2												8	
					必修 大型機械実習Ⅰ	2													
経営管理			必修 農林業経営学	2	必修 経営戦略	2	必修 マーケティング論	2	必修 管理会計	1	農と食の起業論	2	必修 経営実習Ⅰ	5	必修 経営実習Ⅱ	5		25	
					必修 財務会計 経営管理論	2	必修 労務管理	2											
展 開 科 目	農山村の伝統・ 文化の継承		必修 農山村田園地域公共学	2	必修 農と食の哲学	2	必修 食文化論	2	必修 農村景域論	2									
	農山村の 地域社会				必修 農村社会論	2	必修 医福食農連携論	2	必修 在来作物学	2	必修 コミュニティビジネス論	2						20	
														必修 経営分析演習Ⅰ	1	必修 経営分析演習Ⅱ	1		
														必修 プロジェクト研究	2			4	
科総 目合																		4	
セメスター 別単位数		17		12		25		19		24		18		8		6		129	

履修モデル: 農業経営・花き(経営体後継者・幹部・起業者)

科目区分		1年前期	単位	1年後期	単位	2年前期	単位	2年後期	単位	3年前期	単位	3年後期	単位	4年前期	単位	4年後期	単位	科目 区分 単 位数									
基礎 科目	一般教養	必修 静岡学	2	社会学概論	2			文学概論	2	茶道	1							12									
		必修 経済学概論	2																必修 情報処理応用	1	華道	1					
	必修 情報処理基礎	1	英語Ⅱ	2																							8
	必修 コミュニケーション論	2																									
コミュニケーション・スキル	必修 英語Ⅰ	2	必修 保健体育Ⅰ	2																							
職業 専門 科目	農林業 基礎	必修 農学概論	2	必修 環境と農林業	2	県外農林業事情	1	必修 技術者倫理	2	海外農林業事情	1							10									
		必修 県内農林業事情	2																必修 技術者倫理	2							
	生産理論			植物生理生態学	2	選必 肥料・植物栄養学	2	選必 応用昆虫学	2	必修 農林業のための先端技術	2																
						選必 植物病理学	2	花き園芸学	2	選必 環境保全型農業論	2																16
	生産技術	必修 総合実習	2			選必 圃場実習(栽培)	2	選必 生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)	4	選必 生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)	4								必修 企業実習	10							
						必修 GAP演習	2																				26
加工・流 通・販売					必修 大型機械実習Ⅰ	2			食品加工学	2	食品加工実習	2	選必 販売実習	2													
										選必 販売管理論	2								8								
経営管理			必修 農林業経営学	2	必修 経営戦略	2	必修 マーケティング論	2	必修 管理会計	1	農と食の起業論	2	必修 経営実習Ⅰ	5	必修 経営実習	5											
			必修 フードシステム論	2	必修 財務会計	2	必修 労務管理	2											25								
展 開 科 目	農山村の伝統・ 文化の継承		必修 農山村田園地域公共学	2	必修 農と食の哲学	2	必修 食文化論	2	必修 農村景域論	2	必修 在来作物学	2															
	農山村の 地域社会				必修 農村社会論	2	必修 医福食農連携論	2	必修 農山村デザイン演習	2	必修 コミュニティビジネス論	2							20								
科総 目 合														必修 経営分析演習Ⅰ	1	必修 経営分析演習Ⅱ	1										
														必修 プロジェクト研究	2				4								
セメスター 別単位数		17		14		21		21		26		16		8		6		129									

履修モデル:農業経営・果樹(経営体後継者・幹部・起業者)

科目区分		1年前期	単位	1年後期	単位	2年前期	単位	2年後期	単位	3年前期	単位	3年後期	単位	4年前期	単位	4年後期	単位	科目 区分 別 単 位 数
基礎 科目	一般教養	必修 静岡学	2	社会学概論	2			文明論	2									12
		必修 経済学概論	2	政治学概論	2													
基礎 科目	コミュニケーション ・スキル	必修 情報処理基礎	1					必修 情報処理応用	1									8
		必修 コミュニケーション論	2	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2											
職業 専門 科目	農林業 基礎	必修 農学概論	2	必修 環境と農林業	2	農業気象学	2			必修 技術者倫理	2	野生鳥獣管理・利用論	2					10
	生産理論			植物生理生態学	2	選必 肥料・植物栄養学	2	選必 応用昆虫学	2	必修 農林業のための先端技術	2							16
	生産技術	必修 総合実習	2			選必 圃場実習(栽培)	2	選必 生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)	4	選必 生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)	4	必修 企業実習	10					26
	加工・流 通・販売									食品加工実習	2	選必 販売管理論	2	選必 販売実習	2			8
	経営管理			必修 農林業経営学	2	必修 経営戦略	2	必修 マーケティング論	2	必修 管理会計	1	農と食の起業論	2	必修 経営実習Ⅰ	5	必修 経営実習	5	
展 開 科 目	農山村の伝統・ 文化の継承			必修 農山村田園地域公共学	2	必修 農と食の哲学	2	必修 食文化論	2	必修 農村景域論	2							20
	農山村の 地域社会					必修 農村社会論	2	必修 医福食農連携論	2	必修 農山村デザイン演習	2	必修 コミュニティビジネス論	2					
科総 目 合														必修 経営分析演習Ⅰ	1	必修 経営分析演習Ⅱ	1	4
セメスター 別 単 位 数			13		16		24		19		27		16		8		6	129

履修モデル: 林業経営(経営体後継者・幹部・起業者、森林組合職員)

科目区分		1年前期	単位	1年後期	単位	2年前期	単位	2年後期	単位	3年前期	単位	3年後期	単位	4年前期	単位	4年後期	単位	科目 区分 別 単 位 数
基礎 科目	一般教養	必修 静岡学	2	政治学概論	2													10
		必修 経済学概論	2															
		必修 法学概論	2															
		必修 情報処理基礎	1					必修 情報処理応用	1									
	コミュニケーション ・スキル	必修 コミュニケーション論	2	英語Ⅱ	2													10
		必修 英語Ⅰ	2															
		必修 保健体育Ⅰ	2			保健体育Ⅱ	2											
職業 専門 科目	農林業 基礎	必修 農学概論	2	必修 環境と農林業 統計学	2 2					必修 技術者倫理	2	野生鳥獣管理・利用論	2					10
	生産理論			樹木・組織学	2	選必 森林計画・政策論	2	選必 木材生産システム	2	必修 農林業のための先端技術	2							16
						選必 造林学	2	選必 木質科学概論	2	選必 森林マネジメント	2							
	生産技術	必修 総合実習	2			選必 演習林実習	2	選必 生産マネジメント実習Ⅰ(林業)	4	選必 生産マネジメント実習Ⅱ(林業)	4	必修 企業実習	10					
					必修 GAP演習	2			選必 林業機械実習	2								
加工・流 通・販売					選必 木材利用・流通論	2	選必 木材加工学	2	選必 木材加工実習	2								6
経営管理				必修 農林業経営学	2	必修 経営戦略	2	必修 マーケティング論	2	必修 管理会計	1			必修 経営実習Ⅰ	5	必修 経営実習	5	25
						必修 財務会計	2	必修 労務管理	2	必修 人材マネジメント 農林業の経営組織論	2 2							
展 開 科 目	農山村の伝統・ 文化の継承			必修 農山村田園地域公共学	2	必修 農と食の哲学	2	必修 食文化論	2	必修 農村景域論	2							20
	農山村の 地域社会					必修 農村社会論	2	必修 医福食農連携論	2	必修 在来作物学	2	必修 コミュニティビジネス論	2					
科 目 合														必修 経営分析演習Ⅰ	1	必修 経営分析演習Ⅱ	1	4
													必修 プロジェクト研究	2				
セ メ ス タ ー 別 単 位 数			17		14		24		19		29		12		8		6	129

履修モデル: 畜産経営(経営体後継者・幹部・起業者)

科目区分		1年前期	単位	1年後期	単位	2年前期	単位	2年後期	単位	3年前期	単位	3年後期	単位	4年前期	単位	4年後期	単位	科目 区分 単 位数
基礎 科目	一般教養	必修 静岡学	2	政治学概論	2													12
		必修 経済学概論	2	社会学概論	2													
		必修 法学概論	2															8
	コミュニケーション ・スキル	必修 情報処理基礎	1					必修 情報処理応用	1									
		必修 コミュニケーション論	2	英語Ⅱ	2													10
		必修 英語Ⅰ	2															
		必修 保健体育Ⅰ	2															16
	農林業 基礎	必修 農学概論	2	必修 環境と農林業 分子生物学	2			生命科学	2	必修 技術者倫理	2							
職業 専門 科目	生産理論			畜産概論	2	選必 飼料総論	2	選必 家畜育種繁殖	2	必修 農林業のための先端技術	2							26
						選必 家畜飼養学	2	選必 家畜衛生学	2	選必 畜産環境学	2							
	生産技術	必修 総合実習	2			選必 圃場実習(畜産)	2	選必 生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)	4	選必 生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)	4	必修 企業実習	10					8
						必修 GAP演習	2											
	加工・流 通・販売					選必 食品化学・衛生学	2	食品加工学	2	食品加工実習	2	6次産業化実践論	2					
経営管理			必修 農林業経営学	2	必修 経営戦略	2	必修 マーケティング論	2	必修 管理会計	1	知的財産権	2	必修 経営実習Ⅰ	5	必修 経営実習Ⅱ	5		25
					必修 財務会計 法と農業経営	2	必修 労務管理	2										
展 開 科 目	農山村の伝統・ 文化の継承			必修 農山村田園地域公共学	2	必修 農と食の哲学	2	必修 食文化論	2	必修 農村景域論	2							20
	農山村の 地域社会					必修 農村社会論	2	必修 医福食農連携論	2	必修 在来作物学	2	必修 コミュニティビジネス論	2					
科 目 合														必修 経営分析演習Ⅰ	1	必修 経営分析演習Ⅱ	1	4
														必修 プロジェクト研究	2			
セ メ ス タ ー 別 単 位 数			17		16		24		21		21		16		8		6	129

履修モデル:農業指導者(公務員、農業協同組合)

科目区分		1年前期	単位	1年後期	単位	2年前期	単位	2年後期	単位	3年前期	単位	3年後期	単位	4年前期	単位	4年後期	単位	科目 区分 単 位数	
基礎 科目	一般教養	必修 静岡学	2	必修 政治学概論	2													12	
		必修 経済学概論	2	必修 社会学概論	2														
		必修 法学概論	2																
		必修 情報処理基礎	1					必修 情報処理応用	1										
	コミュニケーション・スキル	必修 コミュニケーション論	2			英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2									8	
		必修 保健体育Ⅰ	2																
職業 専門 科目	農林業 基礎	必修 農学概論	2	必修 環境と農林業 分子生物学	2	生命科学	2			必修 技術者倫理	2							10	
	生産理論			栽培学	2	選必 肥料・植物栄養学	2	選必 応用昆虫学	2	必修 農林業のための先端技術	2							16	
						選必 植物病理学	2	植物遺伝育種学概論	2	選必 環境保全型農業論	2								
	生産技術	必修 総合実習	2			選必 圃場実習(栽培)	2	選必 生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)	4	選必 生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)	4	必修 企業実習	10					26	
						必修 GAP演習	2												
						必修 大型機械実習Ⅰ	2												
	加工・流 通・販売									食品加工実習	2	6次産業化実践論	2					8	
										選必 販売管理論	2	選必 販売実習	2						
	経営管理			必修 農林業経営学	2	必修 経営戦略	2	必修 マーケティング論	2	必修 管理会計	1	知的財産権	2	必修 経営実習Ⅰ	5	必修 経営実習	5	25	
				必修 フードシステム論	2	必修 財務会計	2	必修 労務管理	2										
展 開 科 目	農山村の伝統・ 文化の継承			必修 農山村田園地域公共学	2	必修 農と食の哲学	2	必修 食文化論	2	必修 農村景域論	2							20	
	農山村の 地域社会					必修 農村社会論	2	必修 医福食農連携論	2	必修 農山村デザイン演習	2	必修 コミュニティビジネス論	2						
														必修 経営分析演習Ⅰ	1	必修 経営分析演習Ⅱ	1		
														必修 プロジェクト研究	2			4	
科 目 合 計																		4	
セ メ ス タ ー 別 単 位 数		15		16		24		19		23		18		8		6		129	

履修モデル: 林業指導者(公務員)

科目区分		1年前期	単位	1年後期	単位	2年前期	単位	2年後期	単位	3年前期	単位	3年後期	単位	4年前期	単位	4年後期	単位	科目 区分 単 位数	
基礎 科目	一般教養	必修 静岡学	2	必修 政治学概論	2													10	
		必修 経済学概論	2	必修 社会学概論															
		必修 法学概論	2																
		必修 情報処理基礎	1					必修 情報処理応用	1										
	コミュニケーション・スキル	必修 コミュニケーション論	2			英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2									8	
		必修 保健体育Ⅰ	2																
職業 専門 科目	農林業 基礎	必修 農学概論	2	必修 環境と農林業 統計学	2 2					必修 技術者倫理	2	野生鳥獣管理・利用論	2					10	
	生産理論			樹木・組織学	2	選必 森林計画・政策論	2	選必 木材生産システム	2	必修 農林業のための先端技術	2							16	
						選必 造林学	2	選必 木質科学概論	2	選必 森林マネジメント	2								
						選必 森林土壌学	2												
	生産技術	必修 総合実習	2			選必 演習林実習	2	選必 生産マネジメント実習Ⅰ(林業)	4	選必 生産マネジメント実習Ⅱ(林業)	4	必修 企業実習	10						28
						必修 GAP演習	2			選必 林業機械実習	2								
					必修 大型機械実習Ⅰ	2													
	加工・流 通・販売					選必 木材利用・流通論	2	選必 木材加工学	2	選必 木材加工実習	2							6	
	経営管理			必修 農林業経営学 フードシステム論	2 2	必修 経営戦略	2	必修 マーケティング論	2	必修 管理会計 人材マネジメント	1 2			必修 経営実習Ⅰ	5	必修 経営実習	5	25	
				必修 農山村田園地域公共学	2	必修 農と食の哲学	2	必修 食文化論	2	必修 農村景域論	2								
展 開 科 目	農山村の伝統・ 文化の継承									必修 在来作物学	2								
	農山村の 地域社会					必修 農村社会論	2	必修 医福食農連携論	2	必修 農山村デザイン演習	2	必修 コミュニティビジネス論	2					20	
										必修 グリーン・ツーリズム論	2								
科総 目 合														必修 経営分析演習Ⅰ	1	必修 経営分析演習Ⅱ	1		
														必修 プロジェクト研究	2			4	
セメスター 別単位数			15		14		24		21		27		12		8		6	127	

履修モデル: 畜産指導者(公務員、農業協同組合)

科目区分		1年前期	単位	1年後期	単位	2年前期	単位	2年後期	単位	3年前期	単位	3年後期	単位	4年前期	単位	4年後期	単位	科目 区分 単 位数
基礎 科目	一般教養	必修 静岡学	2	政治学概論	2													12
		必修 経済学概論	2	社会学概論	2													
		必修 法学概論	2															
		必修 情報処理基礎	1					必修 情報処理応用	1									
	コミュニケーション・スキル	必修 コミュニケーション論	2			英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2									8
		必修 保健体育Ⅰ	2															
職業 専門 科目	農林業 基礎	必修 農学概論	2	必修 環境と農林業 分子生物学	2			生命科学	2	必修 技術者倫理	2							10
	生産理論			畜産概論	2	選必 飼料総論	2	選必 家畜育種繁殖	2	必修 農林業のための先端技術	2							16
						選必 家畜飼養学	2	選必 家畜衛生学	2	選必 畜産環境学	2							
	生産技術	必修 総合実習	2			選必 圃場実習(畜産)	2	選必 生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)	4	選必 生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)	4	必修 企業実習	10					26
						必修 GAP演習	2											
加工・流 通・販売					必修 大型機械実習Ⅰ	2			食品加工実習	2	6次産業化実践論	2						
										選必 販売管理論	2	選必 販売実習	2					
	経営管理			必修 農林業経営学 フードシステム論	2	必修 経営戦略	2	必修 マーケティング論	2	必修 管理会計	1	知的財産権	2	必修 経営実習Ⅰ	5	必修 経営実習	5	25
				必修 財務会計	2	必修 労務管理	2											
展 開 科 目	農山村の伝統・ 文化の継承			必修 農山村田園地域公共学	2	必修 農と食の哲学	2	必修 食文化論	2	必修 農村景域論	2							20
	農山村の 地域社会					必修 農村社会論	2	必修 医福食農連携論	2	必修 農山村デザイン演習	2	必修 コミュニティビジネス論	2					
														必修 経営分析演習Ⅰ	1	必修 経営分析演習Ⅱ	1	
														必修 プロジェクト研究	2			4
科総 目 合																		4
セメスター 別単位数			15		16		22		21		23		18		8		6	129

科目区分		1年前期	単位	1年後期	単位	2年前期	単位	2年後期	単位	3年前期	単位	3年後期	単位	4年前期	単位	4年後期	単位	科目 区分 別 単 位 数	
基礎 科目	一般教養	必修 静岡学	2	社会学概論	2	歴史学概論	2											10	
		必修 経済学概論	2																
	コミュニケーション スキル	必修 コミュニケーション論	2			必修 英語Ⅱ	2			英語Ⅲ	2							10	
職業 専門 科目	農林業 基礎	必修 農学概論	2	必修 分子生物学	2	必修 農林業政策	2	必修 情報処理応用	1	必修 技術者倫理	2							10	
		必修 情報処理基礎	1																
		生産理論							選必 肥料・植物栄養学	2	必修 農林業のための先端技術	2							6
		経営管理		必修 法と農業経営	2	必修 財務会計	2	必修 経営戦略Ⅰ	2	必修 マーケティング論	2		必修 農と食の起業論	2					12
		加工 ・販売						食品加工学	2		食品流通論	2							4
	実習 ・演習	必修 総合実習	2	圃場実習(栽培)	2	生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)	4	大型機械実習Ⅰ	2	生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)	4	必修 企業実習	10	必修 販売実習	2			30	
展 開 科 目	共通		必修 農山村田園地域公共学	2														2	
	環境 保全					環境と農林業	2						環境保全型農業論	2				4	
	農山村振興					農村社会論	2	医福食農連携論	2	食文化論	2	コミュニティビジネス論	2	在来作物学	2	野生鳥獣管理・利用論	2		14
科 総 目 合											必修 プロジェクト研究Ⅰ	2	必修 経営実習Ⅰ	5	必修 経営実習Ⅱ	5		22	
												必修 経営分析演習Ⅰ	3	必修 経営分析演習Ⅱ	3				
												必修 プロジェクト研究Ⅱ	4						
セ メ ス タ ー 別 単 位 数		17		12		20		15		22		16		14		8		124	

4年制 履修モデル:畜産経営(経営体後継者・幹部・起業者)

科目区分		1年前期	単位	1年後期	単位	2年前期	単位	2年後期	単位	3年前期	単位	3年後期	単位	4年前期	単位	4年後期	単位	科目 区分 別 単 位 数	
基礎 科目	一般教養	必修 静岡学	2	社会学概論	2	歴史学概論	2											10	
		必修 経済学概論	2																10
	コミュニケーション・スキル	必修 コミュニケーション論	2			必修 英語Ⅱ	2			英語Ⅲ	2							10	
		必修 英語Ⅰ	2																10
		必修 保健体育Ⅰ	2																10
職業 専門 科目	農林業 基礎	必修 農学概論	2	必修 分子生物学	2	必修 農林業政策	2	必修 情報処理応用	1	必修 技術者倫理	2							10	
		必修 情報処理基礎	1															10	
	生産理 論					選必 人工授精論	2	選必 家畜衛生学	2	必修 農林業のための先端技術	2							6	
	経営管 理			必修 法と農業経営	2	必修 財務会計	2	必修 経営戦略Ⅰ	2			必修 農と食の起業論	2					12	
					必修 経営管理論	2			必修 マーケティング論	2									12
	加工・販 売							食品加工学	2	食品流通論	2							4	
	実習・演 習	必修 総合実習	2	圃場実習(畜産)	2	生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)	4	大型機械実習Ⅰ	2	生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)	4	必修 企業実習	10	必修 販売実習	2			30	
																		30	
展 開 科 目	共通 環境保 全			必修 農山村田園地域公共学	2			環境と農林業	2					畜産環境学	2			2	
																		4	
	農山村 振興					農村社会論	2	医福食農連携論	2	コミュニティビジネス論	2							14	
						農山村デザイン演習	2	食文化論	2	在来作物学	2							14	
										野生鳥獣管理・利用論	2							14	
科 総 目 合												必修 プロジェクト研究Ⅰ	2	必修 経営実習Ⅰ	5	必修 経営実習Ⅱ	5	22	
														必修 経営分析演習Ⅰ	3	必修 経営分析演習Ⅱ	3	22	
														必修 プロジェクト研究Ⅱ	4			22	
セ メ ス タ ー 別 単 位 数		17		12		22		13		22		16		14		8		124	

4年制 履修モデル:林業経営(経営体後継者・幹部・起業者、森林組合職員)

科目区分		1年前期	単位	1年後期	単位	2年前期	単位	2年後期	単位	3年前期	単位	3年後期	単位	4年前期	単位	4年後期	単位	科目 区分 別 単 位 数	
基礎 科目	一般教養	必修 静岡学	2	社会学概論	2	歴史学概論	2											10	
		必修 経済学概論	2																10
	必修 法学概論	2																	10
	コミュニケーション・スキル	必修 コミュニケーション論	2			必修 英語Ⅱ	2			英語Ⅲ	2							10	
		必修 英語Ⅰ	2																10
		必修 保健体育Ⅰ	2																10
職業 専門 科目	農林業基礎	必修 農学概論	2	必修 分子生物学	2	必修 農林業政策	2	必修 情報処理応用	1	必修 技術者倫理	2							10	
		必修 情報処理基礎	1															10	
	生産理論					選必 木質科学概論	2	選必 木材生産システム論	2	必修 農林業のための先端技術	2							6	
	経営管理			必修 法と農業経営	2	必修 財務会計	2	必修 経営戦略Ⅰ	2			必修 農と食の起業論	2					12	
				必修 経営管理論	2			必修 マーケティング論	2										4
	加工・販売							木材加工学	2	木材流通論	2							4	
	実習・演習	必修 総合実習	2	演習 林実習	2	生産マネジメント実習Ⅰ(林業)	4			生産マネジメント実習Ⅱ(林業)	4	必修 企業実習	10					30	
						大型機械実習Ⅰ	2			大型機械実習Ⅱ	2							30	
										木材加工実習	2							30	
										林業機械実習	2							30	
展開 科目	共通			必修 農山村田園地域公共学	2													2	
	環境保全					環境と農林業	2			農村景域論	2		森林マネジメント論	2				6	
	農山村振興					農村社会論	2	医福食農連携論	2	コミュニティビジネス論	2							12	
						農山村デザイン演習	2			グリーン・ツーリズム論	2							12	
										野生鳥獣管理・利用論	2							12	
科総 目合											必修 プロジェクト研究Ⅰ	2	必修 経営実習Ⅰ	5	必修 経営実習Ⅱ	5		22	
													必修 経営分析演習Ⅰ	3	必修 経営分析演習Ⅱ	3		22	
													必修 プロジェクト研究Ⅱ	4				22	
セメスター 別単位数		17		12		22		11		26		14		14		8		124	

4年制 履修モデル:農林業指導者・普及者(公務員、JA)

科目区分		1年前期	単位	1年後期	単位	2年前期	単位	2年後期	単位	3年前期	単位	3年後期	単位	4年前期	単位	4年後期	単位	科目 区別 単 位数	
基礎 科目	一般教 養	必修 静岡学	2	社会学概論	2	歴史学概論	2											10	
		必修 経済学概論	2																10
	必修 法学概論	2																	10
	コミュニケー ション・スキ ル	必修 コミュニケーション論	2			必修 英語Ⅱ	2			英語Ⅲ	2							10	
		必修 英語Ⅰ	2																10
		必修 保健体育Ⅰ	2																10
職業 専門 科目	農林業 基礎	必修 農学概論	2	必修 分子生物学	2	必修 農林業政策	2	必修 情報処理応用	1	必修 技術者倫理	2							10	
		必修 情報処理基礎	1															10	
	生産理 論							選必 肥料・植物栄養学	2	必修 農林業のための先端技術	2							6	
								選必 土壌学	2										6
	経営管 理			必修 法と農業経営	2	必修 財務会計	2	必修 経営戦略Ⅰ	2			必修 農と食の起業論	2					12	
			必修 経営管理論	2			必修 マーケティング論	2										12	
加工・販 売							アグリフードシステム論	2		木材流通論	2							4	
実習・演 習	必修 総合実習	2	圃場実習(栽培)	2	生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)	4			生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)	4	必修 企業実習	10						30	
					大型機械実習Ⅰ	2			大型機械実習Ⅱ	2	販売実習	2						30	
									食品加工実習	2								30	
展 開 科 目	共通			必修 農山村田園地域公共学	2													2	
	環境保 全					環境と農林業	2			農村景域論	2							4	
	農山村 振興					農村社会論	2	医福食農連携論	2	グリーン・ツーリズム論	2							14	
						農山村デザイン演習	2	食文化論	2	コミュニティビジネス論	2							14	
										野生鳥獣管理・利用論	2							14	
科総 目合											必修 プロジェクト研究Ⅰ	2	必修 経営実習Ⅰ	5	必修 経営実習Ⅱ	5		22	
												必修 経営分析演習Ⅰ	3	必修 経営分析演習Ⅱ	3			22	
												必修 プロジェクト研究Ⅱ	4					22	
セメ スター 別単 位数		17		12		20		15		24		16		12		8	124		

教育課程等の概要

別添資料6

別記様式第2号 (その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教育課程等の概要															
(生産環境経営学部生産環境経営学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
①基礎科目	静岡学	1通	2			○			1						
	歴史学概論	2前		2		○				1					
	文明論	2後		2		○								兼1	
	文学概論	2後		2		○								兼1	
	茶道	3前		1				○						兼1	
	華道	3前		1				○						兼1	
	経済学概論	1前	2			○								兼1	
	法学概論	1前		2		○								兼1	
	社会学概論	1後		2		○								兼1	
	政治学概論	1後		2		○								兼1	
	統計学	1後		2		○				1				兼1	
	情報処理基礎	1前	1				○		1						
	情報処理応用	2後	1				○		1						
	コミュニケーション・スキル	コミュニケーション論	1前	2			○								兼1
英語 I		1前		2			○							兼1	
英語 II		1後		2			○							兼1	
英語 III		2前		2			○							兼1	
英語 IV		2後		2			○							兼1	
保健体育 I		1通	2					○						兼1	
保健体育 II		2通		2				○						兼1	
小計 (20科目)	-	10	26	0	-			2	2	0	0	0	兼12		
②職業専門科目	農学概論	1前	2			○			5	2				兼4	
	環境と農林業	1後	2			○			2		1			オムニバス	
	農林業史	1後		2		○				1				オムニバス	
	農林業政策	2前		2		○			1					兼3	
	技術者倫理	3前	2			○			2	1				オムニバス	
	県内農林業事情	1前		2		○			4	1				オムニバス	
	県外農林業事情	2前		1			○		1					集中	
	海外農林業事情	3前		1			○		1					集中	
	農林業のための基礎数学	1前			2	○								兼1	
	農林業のための生物学	1前			2	○			1						
	農林業のための化学	1前			2	○			1						
	農林業のための物理学	1後			2	○								兼1	
	農林業のための地学	1後			2	○			1						
	分子生物学	1後		2		○				1					
	農業気象学	2後		2		○			2		1			兼1	
	生命科学	2後		2		○				1	1			オムニバス	
	野生鳥獣管理・利用論	3前		2		○								兼1	
	生産理論 (栽培)	栽培学	1後		2		○			1					
		植物生理生態学	1後		2		○			1					
		作物学	2前		2		○			1					
園芸学		2前		2		○			1						
植物病理学		2前		2		○			1						
応用昆虫学		2後		2		○			1						
肥料・植物栄養学		2前		2		○			1						
野菜園芸学		2後		2		○			1						
果樹園芸学		2後		2		○			1						
花き園芸学		2後		2		○			1						
植物遺伝育種学概論		2後		2		○					1			兼1	
土壌学		2後		2		○			1						
環境保全型農業論	3前		2		○			1					兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
②職業専門科目	生産理論(林業)	森林計画・政策論	2前		2		○			1	1				兼1	オムニバス	
		造林学	2前		2		○								兼1		
		樹木・組織学	1後		2		○				1						
		森林土壌学	2前		2		○			1							
		木質科学概論	2後		2		○						1				
		木材生産システム	2後		2			○		1						兼2	オムニバス
		森林マネジメント	3前		2			○								兼1	
	生産理論(畜産)	畜産概論	1後		2		○			1							
		飼料総論	2前		2		○			1							
		家畜生理解剖学	2前		2		○					1				兼1	
		家畜育種繁殖学	2後		2		○										
		家畜飼養学	2前		2		○			1							
		畜産法規	2前		2		○									兼1	
		人工授精論	2前		2		○									兼1	
		自給飼料	2後		2		○			1							
		家畜衛生学	2後		2		○				1						
		家畜福祉学	2後		2		○									兼1	
	畜産環境学	3前		2		○						1					
	生産理論(共通)	農林業のための先端技術	3前	2			○			1							
	経営管理	簿記基礎	1前			1		○								兼1	
		簿記応用	1後			1		○								兼1	
		フードシステム論	1後		2		○			1							
		法と農業経営	2前		2		○			3						兼1	オムニバス
		経営管理論	2前		2		○			1							
		農林業経営学	1後	2			○			1		1				兼2	オムニバス
		経営戦略	2前	2			○			1							
		マーケティング論	2後	2			○			1							
		財務会計	2前	2			○									兼1	
		管理会計	3前	1			○									兼1	
		農林業の経営組織論	3前		2		○			1						兼1	オムニバス・集中
		労務管理	2後	2			○									兼1	
		人材マネジメント	3前		2		○									兼1	
		知的財産権	3後		2		○									兼1	
	農と食の起業論	3後		2		○			1								
	経営実習Ⅰ	4前	5						臨	14	5	4	1				
	経営実習Ⅱ	4後	5						臨	14	5	4	1				
加工・流通・販売	食品科学	2前		2		○					1						
	食品加工学	2後		2		○			1								
	収穫後生理学	3前		2		○			1								
	木材利用・流通論	2前		2		○			1								
	木材加工学	2後		2		○			1								
	食品流通論	3前		2		○									兼1		
	販売管理論	3前		2		○			1								
	農と食の健康論	2後		2		○			1	1						オムニバス	
	6次産業化実践論	3後		2		○			1								
	食品加工実習	3前		2				○	1						兼1	共同	
	木材加工実習	3前		2				○							兼1		
販売実習	3後		2				○	1						兼1	共同		
生産技術	総合実習	1通	2					○				3	1		兼5	オムニバス・共同	
	圃場実習(栽培)	2前		2				○				2			兼7	オムニバス・共同	
	圃場実習(畜産)	2前		2				○				1			兼1	共同	
	演習林実習	2前		2				○					1		兼1	共同	
	生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)	2後		4				○				2			兼6	共同	
	生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)	2後		4				○			1	1			兼1	共同	
	生産マネジメント実習Ⅰ(林業)	2後		4				○			1				兼1	共同	
	生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)	3通		4				○				2			兼6	共同	
	生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)	3通		4				○				1	1		兼1	共同	
	生産マネジメント実習Ⅱ(林業)	3通		4				○		1	1				兼2	オムニバス・共同	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
② 職業専門科目	生産技術	大型機械実習Ⅰ	2前	2				○								集中 集中 集中 兼2 オムニバス 共同
		大型機械実習Ⅱ	3前		2			○								
		林業機械実習	3前		2			○								
		GAP演習	2前	2				○								
		企業実習	3後	10					臨							
	小計(93科目)	-	45	150	12		-		14	5	4	1	0	兼26		
③ 展開科目	農山村の 文化の 継承・ 発展	農山村田園地域公共学	1後	2			○								兼1 集中	
		農村景城論	3前	2			○				1					
		農と食の哲学	2前	2			○									
		食文化論	2後	2			○									
		在来作物学	3前	2			○				1					
	農山村の 地域社 会	農村社会論	2前	2			○								兼1 兼1 集中 兼1 オムニバス 兼1 兼1	
		農山村デザイン演習	3前	2				○					1			
		医福食農連携論	2後	2			○									
		グリーン・ツーリズム論	3前	2			○									
		コミュニティビジネス論	3後	2			○									
	小計(10科目)	-	20	0	0		-		1	3	0	0	0	兼3		
④ 総合科目	経営分析演習Ⅰ	4前	1				○		14	5	4	1				
	経営分析演習Ⅱ	4後	1				○		14	5	4	0				
	プロジェクト研究	4通	2				○		14	5	3	1				
	小計(3科目)	-	4	0	0		-		14	5	4	1	0	-		
合計(126科目)		-	79	176	12		-		14	5	4	1	0	兼39		
学位又は称号		農林業学士 (専門職)		学位又は学科の分野			農学関係									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p><卒業要件> 基礎科目より20単位以上、職業専門科目より85単位以上、展開科目より20単位、総合科目4単位を修得し、合計129単位以上とする。</p> <p>(基礎科目)必修科目と、英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳから4単位を含む20単位以上</p> <p>(職業専門科目)85単位以上</p> <p>■農林業基礎科目群:必修を含む10単位以上</p> <p>■生産理論科目群:コースを選択し、必修科目、選択必修、コース必修を含む16単位以上</p> <p>○選択必修:栽培学、植物生理生態学、樹木・組織学、畜産概論</p> <p>◎栽培コース必修:肥料・植物栄養学、植物病理学、応用昆虫学、環境保全型農業論</p> <p>・栽培コース必修に加え、作物学もしくは園芸学から2単位、植物遺伝育種学概論、土壌学、野菜園芸学、花き園芸学、果樹園芸学から2単位を選択</p> <p>◎林業コース必修:森林計画・政策論、造林学、森林土木学、木質科学概論、木材生産システム、森林マネジメント</p> <p>◎畜産コース必修:飼料総論、家畜生理解剖学、家畜育種繁殖学、家畜飼養学、家畜衛生学、畜産環境学</p>	1学年の学期区分	2学期
<p>■生産技術科目群:生産理論科目群と同じコースを選択し、栽培コースと畜産コースは必修科目とコース必修を含む26単位以上、林業コースは必修科目とコース必修を含む28単位以上</p> <p>◎栽培コース必修:圃場実習(栽培)、生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)、生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)</p> <p>◎林業コース必修:演習林実習、生産マネジメント実習Ⅰ(林業)、生産マネジメント実習Ⅱ(林業)、林業機械実習</p> <p>◎畜産コース必修:圃場実習(畜産)、生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)、生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)</p>	1学期の授業期間	15週
<p>■加工・流通・販売科目群:生産理論科目群と同じコースを選択し、栽培コースと畜産コースはコース必修を含む8単位以上、林業コースはコース必修を含む6単位以上</p> <p>◎栽培コース必修:販売管理論、販売実習</p> <p>◎林業コース必修:木材利用・流通論、木材加工学、木材加工実習</p> <p>◎畜産コース必修:販売管理論、販売実習</p> <p>■経営管理科目群:必修科目を含む25単位以上</p> <p>(展開科目)必修科目20単位 (総合科目)必修科目4単位</p> <p>(履修科目の登録の上限:45単位(年間))</p>	1時限の授業時間	90分

各コースにおける履修方法 (●:必修、○:選択必修、◎:コース必修)

別添資料7

区分		1年		2年		3年		4年		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
共通	職業専門科目	農林業基礎	●農学概論 県内農林業事情	●環境と農林業 農林業史 分子生物学	県外農林業事情 農林業政策	生命科学 農業気象学	●技術者倫理 海外農林業事情 野生鳥獣管理・利用論			
		経営管理		●農林業経営学 フードシステム論 (自由)簿記基礎	●経営戦略 ●財務会計 経営管理論 法と農業経営	●マーケティング論 ●労務管理	●管理会計 人材マネジメント 農林業の経営組織論	農と食の起業論 知的財産権	●経営実習 I	●経営実習 II
		生産理論		○栽培学 ○植物生理生態学 ○樹木・組織学 ○畜産概論			●農林業のための先端技術			
		生産技術		●総合実習	●GAP演習 ●大型機械実習 I			●企業実習		
		展開科目		●農山村田園地域公共	●農村社会論 ●農と食の哲学	●食文化論 ●医福食農連携論	●農村景城論 ●グリーン・ツーリズム論 ●農山村デザイン演習 ●在来作物学	●コミュニティビジネス論		
		総合科目							●経営分析演習 I	●経営分析演習 II ●プロジェクト研究
栽培コース	職業専門科目	生産理論		◎肥料・植物栄養学 ◎植物病理学 ※いずれか1科目 作物学 園芸学	◎応用昆虫学 ※いずれか1科目 植物遺伝育種学概論 土壌学 野菜園芸学 花き園芸学 果樹園芸学	◎環境保全型農業論		※「経営実習Ⅰ・Ⅱ」、「経営分析演習Ⅰ・Ⅱ」、「プロジェクト研究」はコースごとの対象経営体で行う。		
		生産技術		◎圃場実習(栽培)	◎生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)	◎生産マネジメント実習Ⅱ(栽培) 大型機械実習Ⅱ				
		加工・流通・販売		食品科学	食品加工学 農と食の健康論	◎販売管理論 食品加工実習 食品流通論 収穫後生理学	◎販売実習 6次産業化実践論			
林業コース	職業専門科目	生産理論		◎森林計画・政策論 ◎造林学 ◎森林土壌学	◎木材生産システム ◎木質科学概論	◎森林マネジメント				
		生産技術		◎演習林実習	◎生産マネジメント実習Ⅰ(林業)	◎生産マネジメント実習Ⅱ(林業) ◎林業機械実習				
		加工・流通・販売		◎木材利用・流通論	◎木材加工学	◎木材加工実習				
畜産コース	職業専門科目	生産理論		◎飼料総論 ◎家畜飼養学 ◎家畜生理解剖学 畜産法規 人工授精論	◎家畜育種繁殖学 ◎家畜衛生学 自給飼料 家畜福祉学	◎畜産環境学				
		生産技術		○圃場実習(畜産)	◎生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)	◎生産マネジメント実習Ⅱ(畜産) 大型機械実習Ⅱ				
		加工・流通・販売		食品科学	食品加工学 農と食の健康論	◎販売管理論※再掲 食品加工実習※再掲 食品流通論※再掲	◎販売実習※再掲 6次産業化実践論※再掲			

単位数・科目数の見直し状況

(●:必修、○:選択必修、◎:コース必修、無印:選択、自由:自由科目)

項目	基礎科目		職業専門科目		展開科目		総合科目		合計	
	変更前	変更後	変更前	変更後	変更前	変更後	変更前	変更後	変更前	変更後
科目数	17科目	20科目	95科目	93科目	16科目	10科目	6科目	3科目	134科目	126科目
合計単位数	32単位	36単位	201単位	207単位	32単位	20単位	22単位	4単位	287単位	267単位
必修単位数	14単位	10単位	36単位	45単位	2単位	20単位	22単位	4単位	74単位	79単位
選択必修単位数	18単位	26単位	165単位	150単位	30単位	0単位	0単位	0単位	213単位	176単位
(うちコース必修)	0単位	4単位	12単位	8単位	0単位	0単位	0単位	0単位	0単位	12単位
(うちコース必修)	-	0単位	-	40単位	-	0単位	-	0単位	-	40単位
自由科目単位数	-	-	-	12単位	-	-	-	-	-	12単位
単位数・科目数の見直し										
科目統合			◎木材生産システム(選択必修)	◎木材生産システム			●プロジェクト研究Ⅰ	●プロジェクト研究	(科目統合) ・基礎と中級科目の統合 ・講義科目と演習科目の統合	
			◎森林経営プラン演習	◎森林マネジメント			●プロジェクト研究Ⅱ			
			◎森林認証演習(展開科目、森林マネジメント編)							
			◎農と食の経済学	◎フードシステム論						
			◎経営戦略Ⅰ	◎経営戦略						
			◎経営戦略Ⅱ							
			◎経営組織論	◎農林業の経営組織論						
			◎協同組合論							
			◎食品化学	◎食品科学						
			◎食品衛生学							
		◎木材利用論	◎木材利用・流通論							
		◎木材流通論								
単位数変更			◎管理会計Ⅱ	◎管理会計Ⅰ			●経営分析演習Ⅰ	●経営分析演習Ⅰ	(単位数変更) ・科目目的から必要な内容への見直し	
							●経営分析演習Ⅱ	●経営分析演習Ⅱ		
選択科目の状況と履修要件の見直し状況	一般教養		農林業基礎		環境保全型農業論		(職業専門・必修)		(選択科目の状況と履修要件の見直し状況) ・コース制による履修要件の明確化 ・基礎力を養成する科目の自由科目化	
	歴史学概論	歴史学概論	(展開)環境と農林業	●環境と農林業	農と食の健康論	(職業専門・選択)				
	文明論	文明論	●農林業政策	農林業政策	野生鳥獣管理・利用論	(職業専門・選択)				
	文学概論	文学概論	農林業史	農林業史	畜産環境学	(職業専門・コース必修)				
	茶道	茶道	県内農林業事情	県内農林業事情	森林マネジメント論	(科目統合・職業専門)				
	華道	華道	県外農林業事情	県外農林業事情	農村景観論	●農村景観論				
	●法学概論	法学概論	海外農林業事情	海外農林業事情	農村社会学	●農村社会学				
	社会学概論	社会学概論	農林業のための基礎数学	(自由)農林業のための基礎数学	農山村デザイン演習	●農山村デザイン演習				
	政治学概論	政治学概論	農林業のための生物学	(自由)農林業のための生物学	農と食の哲学	●農と食の哲学				
	統計学	統計学	農林業のための化学	(自由)農林業のための化学	医福食農連携論	●医福食農連携論				
	コミュニケーションスキル		農林業のための物理学	(自由)農林業のための物理学	グリーン・ツーリズム論	●グリーン・ツーリズム論				
	●英語Ⅰ	英語Ⅰ	農林業のための統計学	(自由)農林業のための統計学	食文化論	●食文化論				
	●英語Ⅱ	英語Ⅱ	農林業のための地学	(自由)農林業のための地学	コミュニティビジネス論	●コミュニティビジネス論				
	英語Ⅲ	英語Ⅲ	●分子生物学	分子生物学	在来作物学	●在来作物学				
	英語Ⅳ	英語Ⅳ	農薬気象学	農薬気象学						
	保健体育Ⅱ	保健体育Ⅱ	生命科学	生命科学						
			(展開)野生鳥獣管理・利用論	野生鳥獣管理・利用論						
			生産理論							
			栽培学	◎栽培学						
			植物生理生態学	◎植物生理生態学						
			作物学	作物学						
			園芸学	園芸学						
			植物病理学	◎植物病理学						
			応用昆虫学	◎応用昆虫学						
			◎肥料・植物栄養学	◎肥料・植物栄養学						
			野菜園芸学	野菜園芸学						
			果樹園芸学	果樹園芸学						
			花き園芸学	花き園芸学						
			植物遺伝育種学概論	植物遺伝育種学概論						
			◎土壌学	◎土壌学						
		(展開)環境保全型農業	◎環境保全型農業論							
		樹木・組織学	◎樹木・組織学							
		森林計画・政策論	◎森林計画・政策論							
		造林学	◎造林学							
		森林土木学	◎森林土木学							
		◎木質科学概論	◎木質科学概論							
		畜産概論	◎畜産概論							
		飼料総論	◎飼料総論							
		家畜生理解剖学	◎家畜生理解剖学							
		家畜育種繁殖学	◎家畜育種繁殖学							
		◎家畜飼養学	◎家畜飼養学							
		家畜衛生学	◎家畜衛生学							
		畜産法規	◎畜産法規							
		◎人工授精論	◎人工授精論							
		自給飼料	◎自給飼料							
		家畜福祉学	◎家畜福祉学							
		(展開)畜産環境学	◎畜産環境学							
		経営管理								
		簿記基礎	(自由)簿記基礎							
		簿記応用	(自由)簿記応用							
		●法と農業経営	法と農業経営							
		●経営管理論	経営管理論							
		農林業経営学	●農林業経営学							
		管理会計	●管理会計							
		労務管理	●労務管理							
		人材マネジメント	◎人材マネジメント							
		知的財産権	◎知的財産権							
		●農と食の起業論	農と食の起業論							
		加工・流通・販売								
		食品加工学	◎食品加工学							
		収穫後生理学	◎収穫後生理学							
		木材加工学	◎木材加工学							
		食品流通論	◎食品流通論							
		販売管理論	◎販売管理論							
		(展開)農と食の健康論	農と食の健康論							
		6次産業化実践論	◎6次産業化実践論							
		食品加工実習	◎食品加工実習							
		木材加工実習	◎木材加工実習							
		販売実習	◎販売実習							
		生産技術								
		圃場実習(栽培)	◎圃場実習(栽培)							
		圃場実習(畜産)	◎圃場実習(畜産)							
		演習林実習	◎演習林実習							
		生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)	◎生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)							
		生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)	◎生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)							
		生産マネジメント実習Ⅰ(林業)	◎生産マネジメント実習Ⅰ(林業)							
		生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)	◎生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)							
		生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)	◎生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)							
		生産マネジメント実習Ⅱ(林業)	◎生産マネジメント実習Ⅱ(林業)							
		大型機械実習Ⅰ	●大型機械実習Ⅰ							
		大型機械実習Ⅱ	●大型機械実習Ⅱ							
		林業機械実習	◎林業機械実習							
		GAP演習	●GAP演習							

先端技術について学ぶ科目

別添資料 9

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
職業専門科目	生産理論・共通	農林業のための先端技術	各種センサー、モニタリング手法、AI（人工知能）、ロボット等の技術について技術革新が進む中、農業においてもこれら情報科学と農業科学の融合が求められている。これは経営の大規模化、軽労化技術や安全な農産物への要望、気象災害の増加に対して、従来の経験知や労働集約型管理による農業から、情報処理・機械制御技術を活用した農業への変換であり、その適用場面も施設栽培だけでなく土地利用型農業にも及んでいる。また、我が国では実用化はされていないものの、多収やストレス耐性の強化等を目標とした遺伝子組み替えに関する研究が進められており、温暖化や水不足の深刻化が予想される中、農業生産の安定化の手段として有望視されている。本授業では、これら先端技術の導入や研究開発を学ぶことで、将来の農業経営に資する。	
	生産理論（栽培）	作物学	農作物は、大きく食用作物、飼料・緑肥作物、工芸作物に分けることができる。このうち、水稻、麦類、トウモロコシ、豆類、イモ類などの食用作物は、エネルギー、蛋白、油脂源として人間の生存や活動に不可欠な主食となる作物である。また、静岡県の主要産品の茶は、工芸・嗜好作物として私たちの生活に潤いを与え豊かなものとしている。本科目では、我が国で最も重要な普通作物である水稻について、起源と分布、品種、形態と生育、生産環境と生産の阻害要因、栽培管理技術について体系的に学習する。また、麦類、トウモロコシ、大豆、茶については、種類、用途、栽培管理技術などについて基本的情報と、環境負荷の軽減、土地・養分等の資源の持続的利用のための作付体系に関する知識の習得を行う。さらに、精密農業は作物の生理・生態的基礎的知見や位置情報に基づく情報集約型の新たな栽培管理法である。そこで、作物の生育ステージ、バイオマス量、ストレス反応を的確に把握するための、指標、センサー・プラットフォーム、データ処理法、情報の活用が見込まれる農作業や適用場面、精密農業向け機械装備、等について学習を進めるとともに、精密農業の実践例をもとに今後の展開について議論を行う。	
		園芸学	静岡県は、イチゴやトマト、レタスなどの野菜、ガーベラやバラなどの花き、ミカンなどの果樹など園芸作物の栽培が盛んな県であり、これらは本県の主要産品となっている。本科目では、園芸の起源と歴史、園芸作物の成長と形態、養分の吸収・光合成と転流・利用、環境制御、繁殖と改良に加え、園芸作物がもつ癒しの機能など、園芸作物の栽培ならびに生産物の取扱いの基礎となる園芸学全般について学ぶ。また、園芸作物は化石燃料を多く使用するため、環境に配慮した栽培についても考える。	
	生産理論（林業）	森林計画・政策論	森林は、多面的機能の発揮を通じて、国民が安全で安心して暮らせる社会の実現や、木材等の林産物の供給源として地域の経済活動と深く結びつくなど、さまざまな働きを通じて私たちの暮らしを支える大切な存在であり、森林を保全し、長期的視点に立った計画的かつ適切な森林の取扱いを推進することが必要である。本科目では、森林政策の歴史、森林政策の骨格をなす森林関連法、森林計画制度等の基本的事項を学ぶ。さらに、諸外国の森林政策から、持続可能な森林経営に向けた森林認証制度を学ぶとともに、地球環境問題等の各国の共通性、独自性を学ぶとともに、新たな政策課題についても考察する。また、これらの森林計画策定に必要な森林の現況調査、森林管理における地理情報システム（森林GIS）と森林・林業分野のICT利活用、UAVや衛星画像等を用いたリモートセンシング技術等について学ぶ。	オムニバス方式
		木材生産システム	森林・林業の重要な担い手である森林総合監理士（フォレストアー）や森林施業プランナーは、林業活性化構想等の策定や森林経営計画の樹立支援等の役割を担っている。本科目では、木材生産（伐採・搬出）に関する理論、丸太の造材や材積計測、価格形成の背景・要因、木材生産活動における自然環境に配慮した作業システム構築（車両系、架線系）、林業機械の構造・性能・整備・取扱方法、原価計算などの知識を学ぶ。さらに、森林経営計画の作成に必要な関連法、政策、森林の現況把握、森林管理の様々な施業法の理論と技術等を学ぶとともに同計画作成を演習する。なお、林業は労働災害の発生率が他産業と比較して高いことを踏まえ、林業・林産業の労働災害の現状やその対策を学ぶ。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
職業専門科目	生産理論（畜産）	家畜飼養学 牛や豚、鶏などの家畜飼育にあたっては、家畜の維持、成長、生産活動に必要な栄養素の要求量に影響する環境要因について考慮し、物質とエネルギーを効率的に動物生産物に転換することを理解することが重要である。本科目では、畜産業の目的である動物生産物を効率良く獲得するために、基礎として動物の種や成長過程における飼料消化性の違いや環境要因による変化について知り、 <u>応用内容として環境負荷物質を含む排泄物の成分制御法や労働の負担低減を図る自動給餌やロボット搾乳などの先端技術の導入是非などを学ぶ。</u>		
	加工・流通・販売	木材利用・流通論	林業の主要な生産物である木材は、建築材料や家具など様々な用途に、その特性を生かして加工・利用されている。本科目では、木材の特性と加工・利用の関係を理解することを目的とする。まず、木材の物理的性質や木材の保存、木質材料の製造と2次加工など木材に関する基礎知識を学ぶ。次に、世界の木材需給と流通、日本の木造住宅における在来工法、枠組壁工法等の特徴について学ぶ。最後に、林業にとって市場に出す最初の製品である丸太の商品力を高め、採算性を高めるための工夫や、木材の種類・生産工程・用途の違いによる流通の形態や変遷、木材市場の役割・動向、IoT、ICTを利用した木材流通について学ぶ。	
		販売管理論	近年、加工や販売に取り組む農林業者が増えており、生産だけでなく販売に関する知識も必要不可欠となっている。本科目では、小売業の基本的な仕組み、 <u>マーチャндаイジング、ストアオペレーション、店舗販売などに関する基本的な知識を学習する。そして、マーケティング戦略に沿って、商品やサービスを提供するための販売戦略、顧客管理、顧客情報の分析の各事例について、グループディスカッションや研究発表を行うことで、販売管理の知識と実践力を深める。</u>	
		販売実習	販売管理論で学んだマーチャндаイジング、ストアオペレーション、販売管理の知識を基に、マーケティング戦略に沿って農林畜産物を販売するための方法を学ぶための実習を行う。まず、どのような製品を、いくらで、どこで販売し、どのような宣伝を行うかのマーケティング戦略の手法を理解し、商品計画、価格設定、在庫管理などの商品知識を深める。そして、ストアオペレーション、販売技術、販売管理のノウハウを修得し、顧客情報の収集法と分析、顧客の管理などの手法を身に付ける。	共同方式
	生産技術	総合実習	水稲、茶、野菜、果樹、花卉、畜産、林業の生産管理に関わる知識や技術を学ぶため、実習や生産現場の見学を通じ、農業現場に即した農業の実学の基本を学ぶ。また、これらの実習等を通じて、農林業を総合的に理解する能力と態度を養う。また、 <u>畜産関連施設や、ICTやIoTを活用したスマート農業の視察を通じ、農林業の先端技術の現状について学ぶ。</u>	オムニバス方式・共同方式
		生産マネジメント実習Ⅰ（栽培）	生産現場の管理を行う場合には、計画（PLAN）、実施（DO）、評価（CHECK）、改善（ACTION）のPDCAサイクルを意識する必要がある。また、近年では生産現場へのICTなどの先端技術の導入が進んでおり、これらの技術を利用するための知識や技術を身につける必要がある。本科目では、計画策定に必要な施設・圃場・作物・生産資材などの情報収集の方法、費用や利益の計算方法、 <u>先端技術の導入方法、栽培終了後の評価方法を学び、評価の結果を次にどう生かすのかを学ぶ。</u>	共同方式
		生産マネジメント実習Ⅰ（林業）	生産現場の管理を行う場合には、計画（PLAN）、実施（DO）、評価（CHECK）、改善（ACTION）のPDCAサイクルを意識する必要がある。また、近年では生産現場への情報通信技術（INFORMATION AND COMMUNICATION TECHNOLOGY, ICT）などの先端技術の導入が進んでおり、先端技術を利用するための知識や技術を身につける必要がある。本科目では、計画に必要な経営森林の面積・森林の内容・森林の林齢などの情報収集の方法、 <u>先端技術の導入方法、費用や利益の計算方法、生産終了後の評価方法を学び、評価結果を次の期にどのように活かすべきかを考える。</u>	共同方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業専門科目 生産技術	生産マネジメント実習Ⅰ（畜産）	生産現場の管理を行う場合には、計画（PLAN）、実施（DO）、評価（CHECK）、改善（ACTON）のP D C Aサイクルを意識する必要がある。また、近年では生産現場でのI C Tなどの先端技術の導入が進んでおり、先端技術を利用するための知識や技術を身につける必要がある。本科目では、計画策定に必要な施設・圃場・畜種・生産資材など情報収集の方法や、費用・利益の計算方法、先端技術の導入方法、生産終了後の評価方法を学び、評価結果を次の生産にどのように生かせばよいのか考える。なお、実習はグループに分かれて行う。	共同方式
	生産マネジメント実習Ⅱ（栽培）	効率的かつ安定的な農業経営を行うためには生産性向上が不可欠であり、P D C Aサイクルを意識した生産管理が必要である。本科目では、「生産マネジメント実習Ⅰ」で学んだ内容を踏まえ、生産現場におけるマネジメントを学ぶ。栽培する作物や栽培面積に応じた栽培の計画と、その計画に沿った時期別の栽培管理、雇用等の人員配置、肥料・農薬などの資材の使用計画などにもとづき、収益と支出を把握し、データ等で分析を実施する。これらを繰り返すP D C Aサイクルに基づき、計画と実績の比較を行うと共に成功や失敗の要因について分析し、分析結果を経営に生かす方法を考える。実習はグループに分かれて行う。	共同方式
	生産マネジメント実習Ⅱ（林業）	効率的かつ安定的な林業経営を行うためには木材の生産性向上が不可欠であり、P D C Aサイクルを意識した管理が必要である。本科目では、木材を生産する現場の管理技術を学ぶ。森林の面積・森林の内容・森林の林齢に応じた伐採計画と、その計画に沿った伐採時期や人員配置の計画、必要となる機材などの使用計画、費用と利益算出を策定し、実施する。計画の実施後、計画と実績を比較し、差異が生じた場合、要因が何であったかを分析し、分析結果を次の林業経営に活かす方法を考える。	オムニバス・共同
	生産マネジメント実習Ⅱ（畜産）	効率的かつ安定的な畜産経営を行うためには生産性向上が不可欠であり、P D C Aサイクルを意識した生産管理が必要である。本科目では、生産現場のマネジメントを学ぶ。施設規模や畜種に応じた生産計画と、その計画に沿った時期や人数などの人員配置計画、飼料など資材使用計画、費用と利益の計画を策定し、生産データを収集・分析しながら生産を行う。また、生産終了後は、計画と実績の比較を行い、その差異の要因について分析し、分析結果を経営に生かす方法を考える。なお、実習はグループに分かれて行う。	共同方式
	林業機械実習	林業機械化の進展は、労働生産性の向上、生産コストの削減、労働強度の軽減などに大きく貢献し、現代の林業では欠かせないものとなっている。本科目では、伐木造材、架線集材、機械集材、育林に使用する林業機械の操作方法について学ぶ。また、近年導入が進んでいる作業の効率化や身体への負担の軽減等、性能が著しく高い高性能林業機械の種類と基本操作について学ぶ。 架線集材：集材機、自走式搬機の基本操作 車両集材：集材車両の機械の基本操作 高性能林業機械：フェラーバンチャ、スキッド、プロセッサ、ハーベスタ、フォワーダ、タワーヤーダ、スイングヤーダの基本操作	集中

臨地実務実習要綱 (案)
(静岡県立農林環境専門職大学)

<目次>

- I (全員) 教育課程と実習
- II (全員) 臨地実務実習の概要と目標
- III (実習担当教員) 臨地実務実習の考え方
- IV (臨地実務実習の指導者) 臨地実務実習施設への依頼事項
- V (全員) 臨地実務実習の評価
- VI (学生) 臨地実務実習の受講

I (全員) 教育課程と実習

1. 教育目標

農林業分野の専門職業人として、農林業を取り巻く様々な事象を体系的に捉え、それらの変化に柔軟に対応でき、また、より広い視野で農林業を捉え、将来地域社会を中心となって支えていく人材を養成するため、次の教育目標を掲げている。

- 1) 農林業の基礎的な生産技術や知識に加え、経営体の経営革新を推進する、加工・流通・販売への応用力や経営管理能力、先端技術への対応力を養う。
- 2) 地域社会における未来のリーダーとして、自然と共生し、美しい農山村の景観や環境を磨き上げるとともに、幅広い教養と豊かな人間性を備え地域の文化伝統を守っていくことのできる農林業者を養成する。

2. 教育課程の構造

本学の教育課程は、上記の教育目標を達成するため、基礎科目、職業専門科目、展開科目、総合科目の4つの基礎的な枠組みを構成し、農林業分野の専門職業人として豊かな人間性を育み、農林業全般にわたり必要とされる理論的かつ実践的な能力や、農林業の新たな展開につながる应用能力・創造的役割を果たすために必要な能力を修得することを基本としている。

(1) 専門分野のみにとらわれない幅広い知識やコミュニケーション能力及び多面的に物事を考える素養を身に付けるため、基礎科目として、一般教養やコミュニケーションスキルを学ぶ科目や、グループワークにより学生同士の意見交換を行う科目などを配置する。

(2) -1 農林業経営体の経営管理能力を身に付けるため、職業専門科目として、経営管理、経営戦略、マーケティングなどに関する科目を配置するとともに、農林業経営を学ぶ臨地実務実習の科目を配置する。

(2) -2 農林業生産に関する基礎的な知識・技術を身に付けるため、職業専門科目として、農林業基礎、生産理論及び生産技術に関する科目を配置し、生産理論及び生産技術については、「栽培」、「林業」、「畜産」のコース別に講義、実習・演習及び臨地実務実習を行う。

(2) -3 農林業の生産や経営に活用される先端技術に関する知識・技術を身に付けるため、職業専門科目において、先端技術について学ぶ授業を幅広く実施する。

(2) -4 農山村の自然環境や景観の保全に関する知識を身に付けるため、職業専門科目において、自然環境に配慮した農林業生産や森林景観の保全手法などについて学ぶ授業を幅広く実施する。

(2) -5 農林産物の加工・流通・販売に関する知識を身に付けるため、職業専門科目として、「栽培」、「林業」、「畜産」のコース別に、加工・販売の手法や流通

の仕組みなどに関する講義・実習等の科目を配置する。

(3) 農山村の伝統・文化の継承に関する知識を身に付けるとともに、地域資源としての活用手法を学ぶため、展開科目として、農山村の歴史や文化、地域社会などに関する科目を配置する。

(4) 農林業経営における課題の解決に向けて情報を収集・分析・整理する能力や、その結果を表現する能力を身に付けるため、総合科目として、経営課題の研究などに関する科目を配置する。

Ⅱ (全員) 臨地実務実習の概要と目標

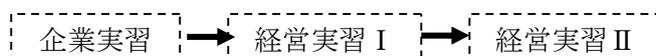
本学で実施する臨地実務実習の概要は次の通りである。

1. 臨地実務実習の概要

本学の臨地実務実習は、「実践的な経営管理能力を身につける」ことを目標に、農林業経営で不可欠な生産技術及び実践的な経営管理能力を身につける。

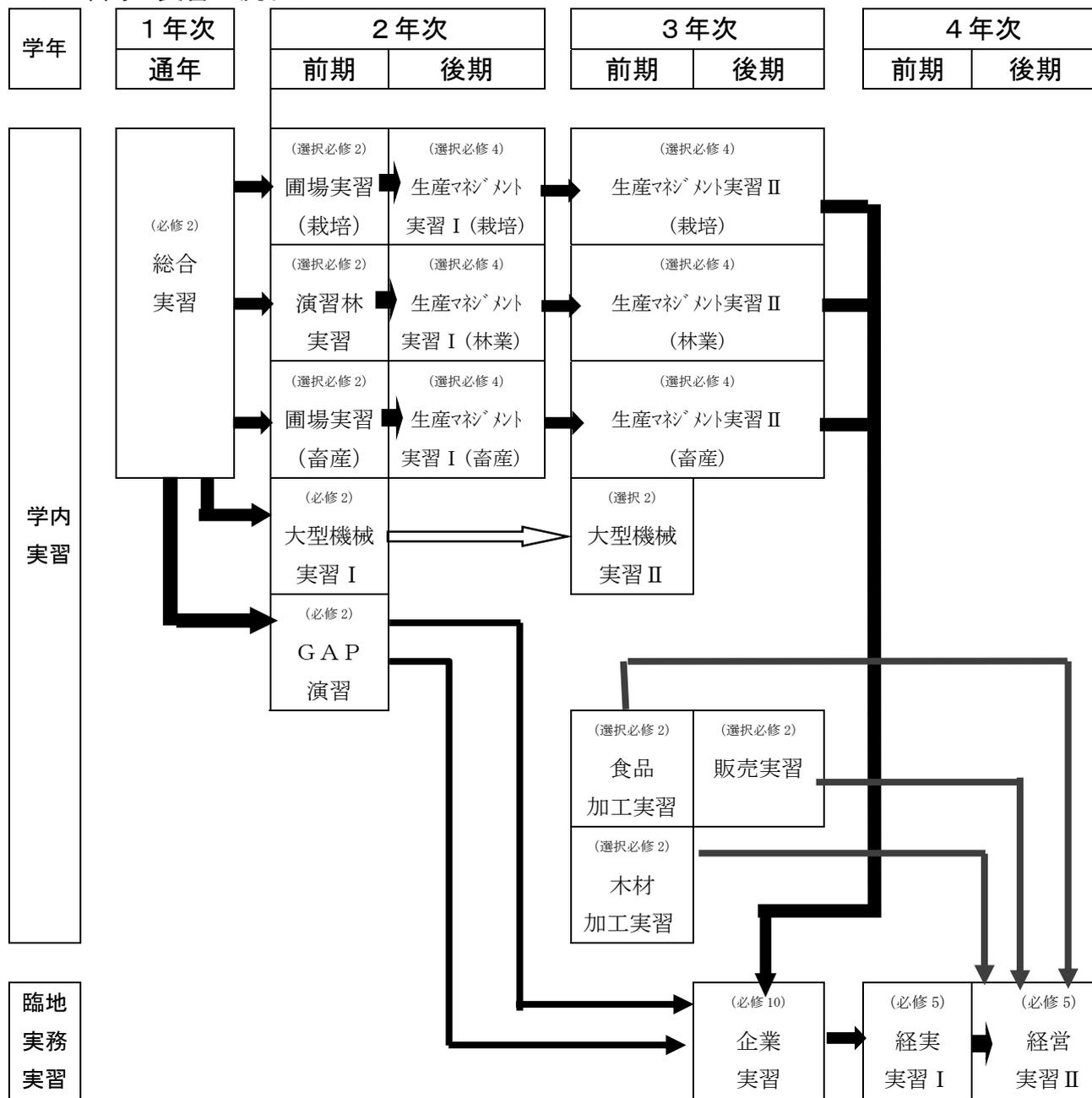
臨地実務実習は、3年次に「企業実習」(10単位)、4年次に「経営実習Ⅰ」(5単位)及び「経営実習Ⅱ」(5単位)を開講する。臨地実務実習の教育効果を高めるため、「企業実習」の履修前には、「総合実習」、「圃場実習」、「生産マネジメント実習Ⅰ」、「生産マネジメント実習Ⅱ」、「大型機械実習Ⅰ」及び「大型機械実習Ⅱ」を配置し、農林業全般にわたる生産知識や、栽培技術や生産管理の基礎について学ぶ実習を実施する。また、「経営実習Ⅰ」及び「経営実習Ⅱ」の履修後には、それぞれ「経営分析演習Ⅰ」及び「経営分析演習Ⅱ」を配置し、さらに実践的な経営についての学びを深める。

1年次	2年次	3年次	4年次
-----	-----	-----	-----



<臨地実務実習の流れ>

< 4年間の実習の流れ >



2. 臨地実務実習の目標

臨地実務実習指導者の指導を受けながら農林業現場を体験し、各臨地実務実習の目標を達成することで、実務的な農林業経営を営む能力を養う。

臨地実務実習のうち、「企業実習」では農林業経営に欠かせない生産技術を学ぶ。また、「経営実習Ⅰ」及び「経営実習Ⅱ」では、現場の運営管理や経営管理について学ぶ。

農林業経営者としての能力の育成に関することは、次の通りである。

- 1) 農林業の基礎的な生産技術や知識を持つ
- 2) 経営体の経営革新を推進する、加工・流通・販売への応用力や経営管理能力、先端技術への対応力を有する
- 3) 幅広い教養と豊かな人間性を備え、地域の伝統文化を守っていく使命感を有する。

3. 臨地実務実習の種類と内容

1) 「企業実習」(3年次後期 必修 10単位)

(1) 目的

先進的な農林業経営体での実習を通じて、学内で学んだ知識・技能をもとに実践的な生産技術を学ぶ。

(2) 目標

- ① 生産現場での基本的な作業工程について理解することが出来る。
- ② 各作業工程で必要な基本的な技術を身につける。

(3) 方法

3年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約2カ月間実施する。学生数は1施設1名を予定している。

企業実習の受講に当たっては、「圃場実習(栽培)」、「圃場実習(畜産)」、「演習林実習」、「生産マネジメント実習Ⅰ」及び「生産マネジメント実習Ⅱ」において、基本的な生産技術について学んでいることを前提とする。

実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。

実習中は、臨地実務実習指導者のもと、実際の生産現場を体験する。日々の作業は、臨地実務実習指導者の指示に従って行い、毎日、作業内容について記録を行う。実習指導は、臨地実務実習指導者と本学教員が連携し、適宜連絡を取り合い、学生の実習状況について情報を共有し、助言・指導を行う。

実習終了後は報告会を実施し、生産現場や生産現場で必要となる技術について理解を深める。

(4) 評価項目

- ① 実習受入れ先の農林業経営体を理解するための事前調査
- ② 農林業経営体の生産現場における生産技術の学習
- ③ 学習内容の記録・報告
- ④ 事後の報告書

2) 経営実習Ⅰ（4年次前期 必修・5単位）

(1) 目的

生産現場のマネジメントを行うために必要な知識・技能を学ぶ。

(2) 目標

- ① 生産現場の年間計画が理解できる。
- ② 生産現場に必要な要素（資材、労力、資金）について理解し、これらを適切に配置した生産マネジメントについて理解できる。

(3) 方法

4年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約1ヶ月間の実習を行う。1施設2～4名を想定している。

実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。

実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもと作業を行いながら、人員配置、機械、生産資材の利用計画など生産現場のマネジメントに必要な知識・技能を学ぶ。

実習終了後は報告会を実施し、生産現場や生産現場で必要となる技術について理解を深める。

(4) 評価項目

- ① 実習受入れ先の農林業経営体を理解するための事前調査
- ② 生産現場におけるマネジメントの学習
- ③ 学習内容の記録・報告
- ④ 事後報告

3) 経営実習Ⅱ（4年次後期 5単位）

(1) 目的

農林業経営体の経営や経営戦略、加工、流通、販売等について学ぶ。

(2) 目標

- ① 農林業経営体の経営戦略について理解する。
- ② 戦略に基づいた経営のあり方について理解する。
- ③ 生産現場以外の加工・流通・販売について理解する。

(3) 方法

4年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約1ヶ月間の実習を行う。1施設2～5名を想定している。

実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。

実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもと作業を行いながら、農林業経営体の経営、生産現場以外の加工・流通・販売等について学ぶ。

実習終了後は報告会を実施し、農林業経営のあり方について理解を深める。

(4) 評価項目

- ① 実習受入れ先の農林業経営体を理解するための事前調査
- ② 生産現場におけるマネジメントの学習
- ③ 学習内容の記録・報告

4) 評価方法

全日程の80%以上の出席で単位認定の資格を得るものとする。評価基準を下表に示す。「企業実習」では、「職業人としての適性」、「生産管理」について、「経営実習Ⅰ」では、「職業人としての適性」、「生産管理」、「作業管理」について、「経営実習Ⅱ」では、「職業人としての適性」、「生産管理」、「作業管理」、「財務管理」について評価基準を設けて、評価を行う。

5) 評価事項

各臨地実務実習ごとの評価事項を下記に示す。

◎全体

項目	区分	評価事項	企業実習	経営実習Ⅰ	経営実習Ⅱ
職業人としての適性	志向・態度	規則や心得を守ることが出来る。	○	○	○
	志向・態度	与えられた仕事を、責任を持って遂行できる。	○	○	○
	志向・態度	従業員と協調して仕事出来る。	○	○	○
	志向・態度	実習学生として必要な基礎知識を有している。	○	○	○
	志向・態度	農林業に対する探究心・意欲及び創造性が見られる。	○	○	○
生産管理	知識・理解 技能	生産に関する基礎知識・技能(※経営種目別)	○	○	○
作業管理	志向・態度	日々の作業結果(作業時間、作業条件等)を作業日誌に記録している。		○	○
	志向・態度	作業効率を考えて必要な道具、資材、機械等の準備が出来る。		○	○
	知識・理解	年間の出荷(生産計画)を理解し、説明できる。		○	○
	知識・理解	年間の圃場利用計画を理解し、説明できる。		○	○
	知識・理解	労働力・生育状況に見合った作業計画を理解し、説明できる。		○	○
	技能	作業に必要な道具、資材、機械等を整理整頓できる。		○	○
	技能	作業遅れが生じたときの対応策を考えられる。		○	○
販売管理	志向・態度	市況情報を知っている。			○
	技能	市況や生産技術を考慮して、適切な売上・単価目標を決めることが出来る。			○
財務管理	知識・理解	減価償却に関する知識など、簿記・会計理論を理解し、説明できる。			○
	知識・理解	借入金を返済するための資金繰り計画の立て方を理解し、説明できる			○
	知識・理解	収入や支出の時期、金額を理解し、説明できる。			○
	技能	単位当たり(収量や面積あたり)の資材費を把握できる。			○

<生産管理・栽培>

項目	評価事項		圃場 実習	企業 実習 I	経営 実習 II	
	No	内容				
1 農業 一般	志向・態度	1-1	農作業を行う際は、安全作業を心がけて行っている。	○	○	—
	志向・態度	1-2	作業記録の必要性を理解し、作業記録を作成している。	○	○	—
	知識・理解	1-3	作物の器官を理解し、説明できる。(葉、茎、根、花、果実)	○	○	—
	知識・理解	1-4	植物生理を理解し、説明できる。(光合成、呼吸、蒸散、吸収、花芽形成)	○	○	—
	知識・理解	1-5	栽培品目毎の生育適温や水分条件等を理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	1-6	被覆資材の種類と特徴、使用方法について理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	1-7	栽培施設の種類と構造、被覆用資材の種類と特徴を理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	1-8	栽培施設に設置される装置の種類と操作方法を理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	1-9	測定が必要な環境要因(温度、湿度、二酸化炭素等)を理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	1-10	環境測定に必要な機器を理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	1-11	養液栽培の種類と特徴を理解し、説明できる。	○	○	—
2 土 づくり	知識・理解	2-1	土性の種類と特徴を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	2-2	土壌を観察し、土性を判断できる。		○	—
	知識・理解	2-3	土の団粒構造、三層構造を理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	2-4	栽培品目に適したpHなどを理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	2-5	栽培品目に適した土壌改良や施肥計画が理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	2-6	肥料の種類や特徴を理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	2-7	土壌診断の必要性を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	2-8	土壌診断や、草勢、着果具合など生育にあわせて、施肥・追肥の計画を立てられる。		○	—

3 病害虫・雑草管理・生理障害	知識・理解	3-1	栽培品目の主要な病害や害虫を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	3-2	病害や虫害が発生した場合、その原因を判断できる。		○	—
	技能	3-3	適切な防除時期を判断できる。		○	—
	知識・理解	3-4	病害虫の防除の方法を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	3-5	病害虫に対して適切な防除資材を判断できる。		○	—
	知識・理解	3-6	病害や虫害が発生しにくい環境を理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	3-7	栽培品目の生理障害とその原因を理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	3-8	生育異常が発生しやすい部位を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	3-9	生育異常が発見でき、その原因を判断できる。		○	—
	技能	3-10	生育異常に対する対応策を判断できる。		○	—
	知識・理解	3-11	農薬の安全使用について理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	3-12	農薬のラベルを見て、適性作物、使用量・使用濃度の確認が出来る。		○	—
	知識・理解	3-13	病害虫防除・雑草防除に使用する機器と操作方法を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	3-14	事故防止のための手段を行っている。		○	—
4 栽培管理(草本植物(野菜・花等))	知識・理解	4-1	作付体系と作型を理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	4-2	播種の方法や発芽方法、発芽率を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	4-3	栽培品目や作付体系にあわせて、適切に播種ができる。		○	—
	知識・理解	4-4	接ぎ木の時期・方法を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	4-5	栽培品目にあわせて、適切に接ぎ木が出来る。		○	—
	知識・理解	4-6	必要な苗数を確保するための育苗方法を理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	4-7	栽培品目毎の育苗期間や生育適温、水分条件を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	4-8	育苗中に、気象変化に応じて、温度管理・水管理ができる。		○	—
	技能	4-9	栽培品目にあわせて、育苗をし、必要な苗数を確保できる。		○	—

	技能	4-10	栽培品目にあわせて、適切に定植できる		○	—
	知識・理解	4-11	かん水方法の種類と特徴を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	4-12	栽培品目にあわせて、かん水が適切にできる。		○	—
	知識・理解	4-13	うねの種類と特徴を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	4-14	栽培品目にあわせて、うね立てができる。		○	—
	知識・理解	4-15	整枝や誘引方法を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	4-16	栽培品目にあわせて、整枝、誘引ができる。		○	—
	知識・理解	4-17	摘葉、摘花、摘果の作業を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	4-18	生育状況に合わせて、摘葉、摘花、摘果すべき箇所を理解し、実施できる。		○	—
	知識・理解	4-19	収穫適期の判断方法を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	4-20	収穫適期を判断し、適切な方法で収穫できる。		○	—
5 栽培管理 (永年植物 (茶・果樹等))	知識・理解	5-1	栽培品目のライフサイクルを理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	5-2	栽培品目の生育について理解し、説明できる。(葉芽、花芽、開花、結実等)	○	○	—
	知識・理解	5-3	栽培品目毎に、接ぎ木や挿し木、取り木、実生などの苗木の生産・育成方法について理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	5-4	栽培品目毎に、接ぎ木や挿し木、取り木、実生などの方法で、苗木の増殖ができる。		○	—
	知識・理解	5-5	栽培品目毎に、整枝・せん定の方法を理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	5-6	(果樹)果樹の栽培品目毎に仕立て方を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	5-7	(果樹)果樹の栽培品目毎に、適切な誘引ができる。		○	—
	知識・理解	5-8	(果樹)受粉、摘蕾、摘花、摘果について理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	5-9	(果樹)栽培品目毎に、適切に受粉、摘蕾、摘花、摘果ができる。		○	—
	知識・理解	5-10	(果樹)袋かけに使用する袋の種類を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	5-11	(果樹)栽培品目ごとに、袋かけの適切な時期を判断し、実行できる。		○	—

	知識・理解	5-12	収穫適期の判断方法を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	5-13	収穫適期を判断し、適切な方法で収穫できる。		○	—
6 出荷	知識・理解	6-1	等級間の価格の違いを理解し、説明できる。	○	○	—
	知識・理解	6-2	出荷調整作業の内容を理解し、説明できる。	○	○	—
	技能	6-3	栽培品目毎に、適切に出荷調整ができる。		○	—
	技能	6-4	出荷調整時に、品質低下を防ぐことができる。		○	—
7 生産管理	知識・理解	7-1	生産計画を理解し、説明できる		○	○
	知識・理解	7-2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。		○	○
	知識・理解	7-3	生産計画を理解し、説明できる。		○	○
	技能	7-4	作業記録を集計し、分析できる。			○
	知識・理解	7-5	販売計画を理解し、説明できる。		○	○
	技能	7-6	販売計画に沿って販売が行われているか、確認できる。			○
	志向・態度	7-7	市場調査、市場分析をおこなって、必要な情報を集めている。			○
	技能	7-8	売上を確認し、計画との差を判断できる。			○
	技能	7-9	生産物の原価を計算できる。			○
	技能	7-10	栽培品目毎に収支計算ができる。			○
	技能	7-11	栽培品目毎に損益分岐点分析ができる。			○
	技能	7-12	作業記録や生産結果、販売結果を分析し、改善方法を提案できる。			○

<生産管理・林業>

項目		評価事項		圃場 実習	企業 実習 I	経営 実習 II
		No	内容			
1 林業の 基礎	知識・理解	1-1	森林をつくる樹木の種類、その組織と構造、生理機能、森林の階層構造を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	1-2	森林と、森林をとりまく気候や地形、土壌の関係を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	1-3	森林の発達と遷移、遷移の仕組みについて理解し、説明できる。	○	○	-
	技能	1-4	森林の種類について理解し、分類できる。		○	-
	知識・理解	1-5	森林が持つ様々な機能について理解し、説明できる。	○	○	-
2 森林調査	知識・理解	2-1	森林調査で収集する調査項目を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	2-2	森林調査に必要な道具や調査方法を理解し、説明できる。	○	○	-
	技能	2-3	森林調査を実施できる。		○	-
3 服装と 道具	知識・理解	3-1	森林での作業に必要な道具や適切な服装について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	3-2	小型の林業機械の種類や適切な使用方法について理解し、説明できる。	○	○	-
	技能	3-3	小型の林業機械を安全に使用できる。		○	-
	技能	3-4	作業にあった服装や道具を選択できる。		○	-
4 造林技術	知識・理解	4-1	人工林における伐採の種類と方法を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-2	人工林における地ごしらえと植栽の種類と方法について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-3	人工林における初期保育のための作業の種類や方法を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-4	人工林における枝打ちの目的や作業方法、必要な道具について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-5	人工林における間伐の目的と作業方法について理解し、説明できる。	○	○	-
	技能	4-6	人工林の造林技術を実施できる。		○	-
	知識・理解	4-7	天然林における施業方法について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-8	山林毎にどのような施業方法が適切か理解し、説明できる。	○	○	-

5 森林保護管理	知識・理解	5-1	森林の観察方法や観察部位について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	5-2	森林における病害や虫害の種類を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	5-3	森林に被害を及ぼす鳥獣の種類を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	5-4	森林の気象被害の発生機構を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	5-5	森林火災の発生原因や防火対策を理解し、説明できる。	○	○	-
	技能	5-6	森林被害に対し、対策を実施できる。		○	-
6 収穫技術	知識・理解	6-1	立木の収穫時期、伐倒作業、造材作業、集材作業、高性能林業機械など伐出技術について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-2	集材方法と特徴、伐採した木材の測定方法など、伐採方法と伐出技術について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-3	森林を通る道の種類と働きについて理解し説明できる。	○	○	○
7 生産管理	知識・理解	7-1	生産計画を理解し、説明できる		○	○
	知識・理解	7-2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。		○	○
	知識・理解	7-3	生産計画を理解し、説明ができる。		○	○
	技能	7-4	作業記録を集計し、分析できる。			○
	知識・理解	7-5	販売計画を理解し、説明できる。		○	○
	技能	7-6	販売計画に沿って販売が行われているか、確認できる。			○
	志向・態度	7-7	市場調査、市場分析をおこなって、必要な情報を集めている。			○
	技能	7-8	売上を確認し、計画との差を判断できる。			○
	技能	7-9	生産物の原価を計算できる。			○
	技能	7-10	品目毎に収支計算ができる。			○
	技能	7-11	品目毎に損益分岐点分析ができる。			○
	技能	7-12	作業記録や生産結果、販売結果を分析し、改善方法を提案できる。			○

<生産管理・畜産>

※実習先が牧場・肉牛の場合は項目2と3、養豚の場合は項目4と5、養鶏の場合は項目6と7を使用する。

項目		評価事項		圃場 実習	企業 実習 I	経営 実習 II
		No	内容			
1 畜産 基礎	知識・理解	1-1	家畜の生活環について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	1-2	経営形態の種類と特徴について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	1-3	飼料の種類や給与形態について、理解し説明できる。	○	○	-
	知識・理解	1-4	飼料管理の重要ポイントを理解し、説明できる。	○	○	-
2 家畜と飼料の 基礎知識(牛)	知識・理解	2-1	牛の品種と特徴について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	2-2	牛の飼育方法と特徴について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	2-3	牛舎の種類とその構造について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	2-4	牛の消化器の構造と消化のしくみについて理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	2-5	飼料の種類とその成分について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	2-6	適切な飼料給与について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	2-7	疾病とその発生要因、症状、生産性への影響を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	2-8	生殖器の構造・機能について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	2-9	繁殖生理について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	2-10	発情生理と人工授精について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	2-11	子牛の哺育と育成方法を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	2-12	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	○	○	-
3 管理 作業(牛)	知識・理解	3-1	1日の作業スケジュールについて理解し、説明できる。	○	○	-
	技能	3-2	(施設)通路の点検が出来る。		○	-
	技能	3-3	(施設)飼料の管理、掃き寄せが出来る。		○	-
	技能	3-4	(施設)飼槽の管理が出来る。		○	-
	技能	3-5	(施設)水槽の管理が出来る。		○	-

	技能	3-6	(施設)牛の快適な環境を理解し、牛舎の換気が出来る。		○	-
	技能	3-7	(施設)牛床の管理が出来る		○	-
	技能	3-8	(施設)外部寄生虫の防除方法を理解し、実践できる。		○	-
	技能	3-9	(施設)牛舎内の牛の観察をして、異常を発見できる。		○	-
	技能	3-10	(健康の点検)食欲の有無を観察し、異常が発見できる。		○	-
	技能	3-11	(健康の点検)目の観察をし、異常を発見できる。		○	-
	技能	3-12	(健康の点検)鼻の観察をし、異常が発見できる。		○	-
	技能	3-13	(健康の点検)挙動を観察し、その疾病や課題が発見できる。		○	-
	技能	3-14	(健康の点検)尾根部や尾の状態を観察し、異常が発見できる。		○	-
	技能	3-15	(健康の点検)呼吸の状態を観察し、異常が発見できる。		○	-
	技能	3-16	(健康の点検)発咳を発見し、原因がわかる。		○	-
	技能	3-17	(健康の点検)牛の適正な体温を理解し、異常時は発見できる。		○	-
	技能	3-18	(健康の点検)被毛の状態を観察し、異常を発見できる。		○	-
	技能	3-19	(繁殖)発情の周期を理解し、観察・発見できる。		○	-
	技能	3-20	(乳牛)搾乳の手順を理解し、実践できる。		○	-
4 家畜と飼料の基礎知識 (豚)	知識・理解	4-1	豚の品種と特徴を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-2	豚の繁殖方法について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-3	子豚の飼育方法について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-4	肥育豚の飼育方法について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-5	飼料の種類や特徴を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-6	消化器の構造と消化のしくみを理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-7	豚の疾病と予防方法について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-8	豚舎の環境と衛生管理について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-9	暑熱が豚に及ぼす影響について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-10	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	4-11	ワクチン接種プログラムを理解し、説明できる	○	○	-

5 管理作業 (豚)	技能	5-1	子豚哺乳・育成時の適温について理解し、適切な暖房使用ができる。		○	-
	技能	5-2	豚の習性を理解し、正しい接し方ができる。		○	-
	技能	5-3	適切に飼槽、飲水の管理ができる。		○	-
	技能	5-4	子豚の去勢方法について理解し、適切に実施できる。		○	-
	技能	5-5	繁殖豚の発情メカニズム、交配、分娩について理解し、実践できる。		○	-
	技能	5-6	飼料の保存や取扱いについて理解し、実践できる。		○	-
	技能	5-7	暑熱時の適切な管理方法について理解し、実践できる。		○	-
6 家畜の飼料の基礎知識 (鶏)	知識・理解	6-1	鳥の品種と特徴を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-2	飼育設備の種類と特徴を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-3	鶏舎の設備と機器と使用方法を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-4	消化器の構造と消化・吸収のしくみを理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-5	飼料の種類と特徴を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-6	鶏の疾病と予防方法について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-7	鳥インフルエンザとその防御方法について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-8	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-9	(採卵鶏)産卵鶏の産卵と成鶏の管理について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-10	(採卵鶏)採卵の採取とふ化やひなの管理について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-11	(採卵鶏)鶏卵の規格と品質、品質を決める要因を理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-12	(肉用鶏)肉用鶏の成長の特徴について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-13	(肉用鶏)入すうから出荷までの管理について理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	6-14	(肉用鶏)肉用鶏の調査方法について理解し、説明できる。	○	○	-
7 管理作業 (鶏)	技能	7-1	育すう期の適切な温度・湿度を理解し、適切な温度・湿度・換気管理ができる。		○	-
	技能	7-2	生育期に合わせて、適切な給餌器・給水器管理ができる。		○	-
	技能	7-3	デビークを行う理由を理解し、適切に実施できる。		○	-
	技能	7-4	適切な体重を理解し、適切な時期に体重測定が実施できる。		○	-
	技能	7-5	飼料の適切な管理方法について理解し、実施できる。		○	-

8 衛生管理	知識・理解	8-1	家畜区域と管理区域の違いを理解し、説明できる。	○	○	-
	知識・理解	8-2	管理区域の出入り口の消毒の必要性や消毒施設を理解し、説明できる。	○	○	-
	技能	8-3	消毒器・消毒層・消毒帯の管理方法を理解し、実践できる。		○	-
	技能	8-4	消毒薬の使用上の注意を理解し、適切に使用できる。		○	-
	技能	8-5	衛生管理区域内への鳥類、小動物の侵入の必要性を理解し、実施できる。		○	-
9 生産管理	知識・理解	9-1	生産計画を理解し、説明できる		○	○
	知識・理解	9-2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。		○	○
	知識・理解	9-3	生産計画を理解し、説明できる。		○	○
	技能	9-4	作業記録を集計し、分析できる。			○
	知識・理解	9-5	販売計画を理解し、説明できる。		○	○
	技能	9-6	販売計画に沿って販売が行われているか、確認できる。			○
	志向・態度	9-7	市場調査、市場分析をおこなって、必要な情報を集めている。			○
	技能	9-8	売上を確認し、計画との差を判断できる。			○
	技能	9-9	生産物の原価を計算できる。			○
	技能	9-10	品目毎に収支計算ができる。			○
	技能	9-11	品目毎に損益分岐点分析ができる。			○
	技能	9-12	作業記録や生産結果、販売結果を分析し、改善方法を提案できる。			○

Ⅲ (実習担当教員) 臨地実務実習の考え方

臨地実務実習は、先進的な農林業経営体において学生が実地に学ぶことで、経営体の持つ優れた技術や経営管理等を習得させるために行う。

農林業現場では危険な作業を行うことがある。事故の発生を防ぐためには、安全を心がけて適切に作業を進めることが最も重要である。

臨地実務実習における考え方は次の通りである。

1. 臨地実務実習の目的

先進的な農林業経営体において、経営体の持つ優れた技術や経営管理について実地に学び、農林業経営に必要な知識・技能を身につける。

2. 臨地実務実習の方法

実践的かつ効果的な実習を行うため、農林業経営体における長期間の実習を実施する。臨地実務実習指導者に対し、学生が実習を通じて体験できる事項について安全性を確保できるよう環境の整備を行うように依頼する。合わせて学内においては、臨地実務実習に臨むための技能やリスク、基本的態度について事前準備として整える。

3. 実習先の選定

学生の希望に基づき、臨地実務実習先は選定し、大学、農林事務所、農林業経営体等で調整し、決定する。選定の手順は次の通りである。

- 1) 臨地実務実習担当者は、学生の実習希望先の調査のため、「臨地実務実習希望調書」(様式第1号)を提出させる。
- 2) 臨地実務実習担当者は、臨地実務実習希望調書に基づきヒヤリングを実施し、「臨地実務実習学生カード」(様式第2号)を作成する。
- 3) 臨地実務実習担当者は、学生の希望を考慮して実習受入先一覧の中から受入れ農林業経営体候補を選定する。選定後、「臨地実務実習学生希望一覧表」(様式第3号)を作成し、各農林事務所、受け入れ候補の農林業経営体等と調整し、実習先を決定する。
- 4) 大学は実習受入候補の農林業経営体へ「臨地実務実習依頼書」(様式第4号)及び「臨地実務実習学生カード」を送付して、臨地実務実習の受入れを依頼する。
- 5) 実習受入候補の農林業経営体は、依頼について適当を認めた場合は、承諾書(様式第5号)を提出する。
- 6) 実習先の決定後、大学は「臨地実務実習一覧表」(様式第6号)を作成し、該当する農林事務所に送付する。

(実習受入先選定手順)

手順	時期・項目	作成書類	(作成者)
1	(3学年・5月) 学生の希望調査	臨地実務実習希望調書(様式第1号)	(学生)
2	(3学年・6月) ヒヤリングの実施	臨地実務実習学生カード(様式第2号) 臨地実務実習学生希望一覧表(様式第3号)	(教員) (教員)
3	(3学年・7月) 選定・調整		
4	(3学年・8月) 臨地実務実習依頼	臨地実務実習依頼書(様式第4号)	(大学)
5	(3学年・9月) 実習受入の承諾	承諾書(様式第5号)	(農林業経営体)
6	(3学年・9月) 実習先決定	臨地実務実習先一覧表(様式第6号)	(大学)

4. 臨地実務実習中の学生が当事者となる事故の予防と発生時の対応

臨地実務実習が安全に実施できるよう、学内において安全教育を行う。事故が発生した場合に備え、連絡体制や対応方法などの管理体制を整える。また、事故の発生によって、学生が怪我を負う場合や、実習先に損害を与える場合に備えて、大学が一括で傷害保険及び賠償責任保険に加入する。

5. 臨地実務実習前の準備

臨地実務実習の履修開始前には、各実習の目的に照らし合わせ、学内で必要な技能の学修を行うとともに、臨地実務実習指導要領に基づき、学生としての姿勢・態度・身だしなみ、事故等への対応、その他報告・連絡・相談の徹底について指導を行う。

生産現場では、農作業に伴う事故や怪我、破傷風やダニが媒介する感染症、鉢刺され被害など様々なリスクがある。このため、これらのリスクに対する対策(農作業安全、感染症対策など)について指導し、実習中の危害防止に努める。

6. 臨地実務実習中の指導

臨地実務実習中の指導は、臨地実務実習指導者と専任教員が連携し、随時連絡を取り合い、学生の臨地実務実習に臨む姿勢や課題の進捗状況、学生の抱える悩み等について情報を共有し、指導・援助を行う。

巡回指導は、2週間に1回程度の頻度で行う。実習中は、電話やメール等で連絡を行う。

7. 臨地実務実習後の指導

臨地実務実習後は報告会を実施する。報告会においては、専任教員を配置して、適時、助言・指導、改善に向けた課題提示等を実施し、農林業経営への学修を深めるようにする。また、必要に応じて個別の学修指導を行う。

8. 臨地実務実習の取り扱い

学生ならびに臨地実務実習指導者は、臨地実務実習の内容を遵守するものとする。遵守できない場合は、臨地実務実習を中止することがある。

Ⅳ （臨地実務実習の指導者）臨地実務実習施設への依頼事項

1 臨地実務研修の目的

臨地実務実習は、学生が先進的な農林業経営体において優れた生産技術や経営管理等を実践的に学修させるために行うものである。臨地実務実習の受入先となる農林業経営体は、大学からの依頼を受けて、臨地実務実習の目的が達成できるよう協力を行う。

2 学生への指導事項

- (1) 日常業務に従事させることで、実践的な生産技術や経営管理等について学修できるように、指導する。
- (2) 日常業務や休憩、休日について指導する。
- (3) 業務に関する会合等へは、可能な限り参加させる。
- (4) 日常業務に最低限必要とされる以外、自動車や自動二輪車等の運転をさせることがないようにする。
- (5) 自動車、自動二輪の持ち込みは、許可のない限り、使用させない。
- (6) 実習前後や実習中に、学生が実習先の農林業経営体の経営について質問するため回答について、協力する。

3 大学への報告・連絡・相談

- (1) 実習決定後の9月、臨地実務実習先と大学で、実習内容について確認を行う。
- (2) 臨地実務実習の受入式及び終了式が原則として農林事務所で行われるため出席する。
- (3) 大学の訪問指導や電話等で学生の実習状況確認について協力する。
- (4) 実習期間中の訪問指導以外において、実習指導上、大学との報告・連絡・相談が必要な場合は、随時、連絡するよう依頼し、対応について臨地実務実習指導者と本学の双方が情報共有し、十分な話し合いを行うようにする。また、状況に応じて臨地実務実習担当者（大学側）が訪問する。
- (5) 事故等が発生した際は、速やかに大学担当者まで御連絡をする。
- (6) 台風や地震等の災害発生、その他諸事情による緊急事態が発生した場合には、速やか大学まで連絡する。
- (7) 実習期間中の出欠表を記入する。
- (8) 実習終了時の成績評価は、実習終了後1週間以内に、郵送にて返信する。
- (9) 名目の如何を問わず、学生に現金や現金に類するもの（商品券、電子マネー等）を与えない。

5 連絡体制

連絡先、連絡体制を下記のとおり定める。

<連絡先>

(平日 午前8時30分～午後6時まで)

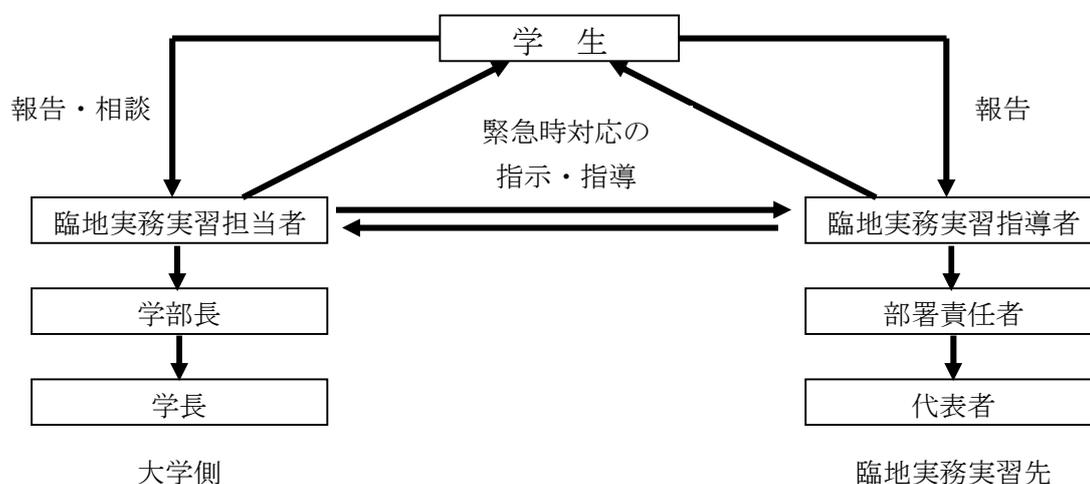
① 生産環境経営学部 臨地実務実習担当
TEL 0538-30-0000

② 静岡県立農林環境専門職大学 (代表番号)
TEL 0538-30-0000

(平日上記時間以外、土・日・祝日)

③ 生産環境経営学部 臨地実務実習担当専用携帯電話
TEL 090-0000-0000

<緊急時の連絡体制>



V (全員) 臨地実務実習の評価

1. 目的

臨地実務実習の評価は、農林業経営者としての態度・適性、実習の到達度について、指導の程度と学生の状況について評価し、臨地実務実習の状況を把握することを目的としている。

2. 評価項目

作成者	提出書類
臨地実務実習指導者	評価表 (様式 8 号、様式 9 号、様式 10 号)
学生	自己点検表 (様式 12 号、様式 13 号、様式 14 号) 報告書 (様式 15 号)

方法

臨地実務実習評価表は、臨地実務実習の科目別に 3 種類 (企業実習、経営実習 I、経営実習 II) に分かれており、それぞれの臨地実務実習において職業人としての適性、実施内容、生産管理、作業管理、販売管理、財務管理の各項目ならびに総合コメント等について記載するようになっている。

- 1) 態度・適性は、社会人及び専門職業人としての一般的事項の評価である。
- 2) 臨地実務実習の実施内容について、学内で学んだ専門的な知識と技能を農林業現場で活用・応用できるか評価する。

上記のいずれも、各項目を 5 段階で評価する。到達度の各段階は、次の通りである。

<評価>

評価	内容
A : 優秀	わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。

B : 良好	時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
C : 普通	助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
D : やや劣る	多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
E : 劣る	常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。

- 3) 出欠の状況は、臨地実務実習指導者が毎日、臨地実務実習出欠表（様式第7号）へ押印する。最終日には、確認の上、署名捺印する。
- 4) 臨地実務実習指導者は、臨地実務実習評価表（様式第8～10号）を作成し、本学へ提出する。その各項目ならびに総合コメントは、臨地実務実習状況の要点、今後の学修において望まれる点について記載する。
- 5) 臨地実務実習評価表には、署名・捺印し、記載年月日を記入する。

3. 単位認定

各実習において、全日程の80%以上の出席で単位認定の資格を得るものとする。

VI (学生) 臨地実務実習の受講

1. 臨地実務実習の心得

臨地実務実習は、先進的な農林業経営を行う経営体において、優れた技術や経営管理を実践的に習得することが目的である。受入を行ってくれる農林業経営体は、経済社会の中で、日々、経営努力を行っていることを銘記し、真摯な態度で研修に臨む。

1) 臨地実務実習における事前準備

- ・臨地実務実習の受講にあたり、自分自身の将来の方向性などを鑑み、どのような農林業経営体で何を学びたいのか十分に検討を行い、臨地実務実習希望調書を提出する。
- ・臨地実務実習地の決定後は、実習先の名称、所在地、電話番号、交通経路、臨地実務実習指導者等について事前調査を行う。
- ・臨地実務実習施設における学生への便宜（昼食、更衣室、宿泊施設等）についても確認する。

2) 規則・時間の厳守

- ・臨地実務実習施設の規則を知り、厳守する。
- ・就業時間、休憩時間、会議開催時間、臨地実務実習指導者等との面談予定時間等を厳守する。臨地実務実習時間は、臨地実務実習先の就業時間に準ずる。

3) 服装・整容・態度の留意

- ・圃場や山林での作業に適した服装を心がける。
- ・臨地実務実習学生として清楚な整容に勤め、頭髪・爪・化粧等は、不快感を与えないように留意する。
- ・礼儀と作法をわきまえ、謙虚で誠実な態度をとるよう留意する。

4) 健康管理

- ・自身の健康管理には十分留意し、規則正しい生活を送る。
- ・圃場や山林などの現場における危険性の高い作業、感染症リスク等について理解し、予防対策を行う。
- ・やむをえず体調を崩した場合は、臨地実務実習指導者へ連絡し対処する。

5) 指示の遵守

- ・臨地実務実習中は、臨地実務実習指導者の指示に従って行動する。
- ・指示や指導について不明な点がある場合は、質問・相談し、正確な行動をとる。勝手な解釈による行動をしない。

6) 連絡体制

- ・臨地実務実習中の「欠席」、「遅刻」、「早退」及び、通学中または臨地実務実習中に発生した事故等は、臨地実務実習指導者及び本学へ連絡する。

- ・巡回指導以外で、本学教員に相談したい事項が生じた場合は、電話やメールにて連絡する。
- ・(緊急連絡) 緊急事態が発生した場合は、臨地実務実習指導者へ連絡する。また、必要に応じて、大学教員へ連絡する。

<大学の緊急連絡先>

(平日 午前8時30分～午後6時まで)

- ④ 生産環境経営学部 臨地実務実習担当

TEL 0538-30-0000

- ⑤ 静岡県立農林環境専門職大学 (代表番号)

TEL 0538-30-0000

(平日上記時間以外、土・日・祝日)

- ⑥ 生産環境経営学部 臨地実務実習担当専用携帯電話

TEL 090-0000-0000

7) 臨地実務実習施設への通学

- ・臨地実務実習施設へ通学する場合は、原則として公共交通機関を使用する。
- ・臨地実務実習の立地によって自動車等の使用が必要な場合は、臨地実務実習指導者ならびに臨地実務実習施設に自動車等の利用が可能なことを確認し、「自動車等使用届」(様式第12号)を本学へ提出して許可を得る。
- ・事故を未然に防ぐよう、通学時間には時間的余裕をもつ。

8) 臨地実務実習施設への宿泊

- ・立地等により臨地実務実習施設へ宿泊して実習を行う場合は、実習先の生活様式を理解して適切に利用する。
- ・宿泊施設では、居室の整理・整頓を心がけ、適宜、清掃を行う。

9) 学習意欲

- ・感謝の気持ちを忘れずに、積極的に自ら学ぶ姿勢を持って学修に取り組む。
- ・次の視点を持って、学修に取り組む。

【視点】

- ⑦ 現在行っていることは、全体の仕事の流れのなかでどの部分なのか。
- ⑧ 現在行っていることは、何故行うのか。
- ⑨ 現在行っていることで、注意すべきことは何か。
- ⑩ 現在行っていることに、改善すべきことはないか。
- ⑪ 現在行っていることを、どのようにまとめ、記録し、今後の学修に役立たせるか。

- ・臨地実務実習先の方々とコミュニケーションを持つ。実習先の方々の言動のなかから、「社会人の姿勢」を感得し、将来の自分自身の礎石とする。

10) 報告書の提出

- ・ 実習の中間地点および終了後に、自己点検表（様式第 12～14 号）を記入する。
- ・ 実習中は毎日、実習記録を記入する。臨地実務実習の終了後は、定められた期限までに実習報告書を提出する（様式第 15 号）。

(様式第1号)

臨地実務実習希望調書

臨地実務実習の目的は、先進的な農林業経営体での実習を通じて経営や技術、考え方などを学修することにあるため、何を学び習得するのか、自分自身の目的を明確に持つことが大切です。

本調書では、この目的を達成できるように、あなたの希望に沿った実習先を選定するための重要な資料となるので、十分に検討して記入してください。

1 希望する内容

作目・畜種	
内容	
理由	

2 希望する地域

地域	
理由	

3 研修先の条件

希望する条件	
その理由	

4 将来の進路希望（○をつける）

自家就農林、独立就農、法人就農、国内研修、海外研修、その他（ ）

5 その他（健康状態等の特別な事情がある場合に記入する）

(様式第2号)

臨地実務実習学生カード

(フリガナ)		男	生年月日	年 月 日
氏名		女	血液型	型 RH +・-
住所 (出身地)	〒 電話 ()			
出身高校名				(写真)
卒業年度				
資格・免許等				
特技				
家族構成	続柄	氏名	年齢	職業
			歳	
			歳	
			歳	
			歳	
経営概況	(○で囲んでください) 専業農家 第1種兼業農家 第2種兼業農家 林家 非農林家			
	基幹作目の種類、規模及び経営の特徴 (専業農家、第1種兼業農家、林家のみ記入してください)			
	種類	規模	経営の種類	
研修の目的・心構え				
備考				

(様式第3号)

臨地実務実習学生希望一覧表

No	氏名	希望内容	時期	希望管内	依頼農林事務所	特記事項

(様式第4号)

〇〇第 号
〇〇年 月 日

〇〇 〇〇様

静岡県立農林環境専門職大学長

〇〇について (依頼)

貴社におかれましては、日々御清栄のこととお喜び申し上げます。

また、日頃より本学の教育に御協力くださり、深く感謝申し上げます。

さて、御多用中のところ誠に恐れ入りますが、下記の学生について実習指導をお願い申し上げます。また、実習指導にあたっては、別添「臨地実務実習依頼事項について」に基づき、御指導頂ければ幸いです。

なお、実習の受入について御承諾頂ける場合は、「隣地実務実習承諾書」を御提出くださいますよう、併せてお願い申し上げます。

記

経営環境学部経営環境学科

学生氏名 〇〇 〇〇

研修期間 〇〇年〇月〇日～〇〇年〇月〇日

<別添>

臨地実務実習依頼事項について

静岡県立農林環境専門職大学

1 臨地実務研修の目的

臨地実務実習は、学生が、先進的な農林業経営体において優れた生産技術や経営管理等を実践的に学修させるために行うものです。

皆様には、学生への指導事項等に御留意いただき、臨地実務実習の目的が達成できますよう御協力をお願いします。

2 学生への指導事項

- (1) 日常業務に従事させることで、実践的な生産技術や経営管理等について学修できるように、御指導をお願いします。
- (2) 日常業務や休憩、休日について御指導をお願いします。
- (3) 業務に関する会合等へは、可能な限り参加させていただきますよう、御協力をお願いします。
- (4) 日常業務に最低限必要とされる以外、自動車や自動二輪車等の運転をさせることがないように御協力をお願いします。
- (5) 自動車、自動二輪の持ち込みは、許可のない限り厳禁となっておりますので、御協力をお願いします。
- (6) 実習前後や実習中に、学生が貴経営体の経営について質問しますので、経営概況や経営の考え方等についてお答えくださいますよう、御協力をお願いします。

3 大学への報告・連絡・相談

- (1) 臨地実務実習の受入式及び終了式を、原則として農林事務所で行いますので、御出席をお願いします。なお、日時は、別途、御連絡いたします。
- (2) 大学より、訪問及び電話等で学生の実習状況を確認しますので、御協力をお願いします。
- (3) 実習期間中の訪問指導以外において、実習指導上、大学との報告・連絡・相談が必要な場合は、随時御連絡ください。その対応について臨地実務実習指導者と本学の双方が情報共有し、十分な話し合いを行うようにします。また、状況に応じて臨地実務実習担当者が訪問します。
- (4) 事故等が発生した場合は、どのような内容であっても、速やかに大学担当者まで御連絡をお願いします。学生は賠償責任保険に加入しております。
- (5) 台風や地震等の災害発生、その他諸事情による緊急事態が発生した場合には、速やかに本学まで連絡してください。本学からの緊急時の連絡体制は別表に示すとおりです。
- (6) 実習終了時の成績評価表は、実習終了後1週間以内に、本学へ郵送にて返信願います。

4 その他

- (1) 名目の如何を問わず、学生に現金や現金に類するもの（商品券、電子マネー等）を与えないようお願いいたします。

<連絡先>

(平日 午前8時30分～午後6時まで)

- ⑫ 生産環境経営学部 臨地実務実習担当

TEL 0538-30-0000

- ⑬ 静岡県立農林環境専門職大学 (代表番号)

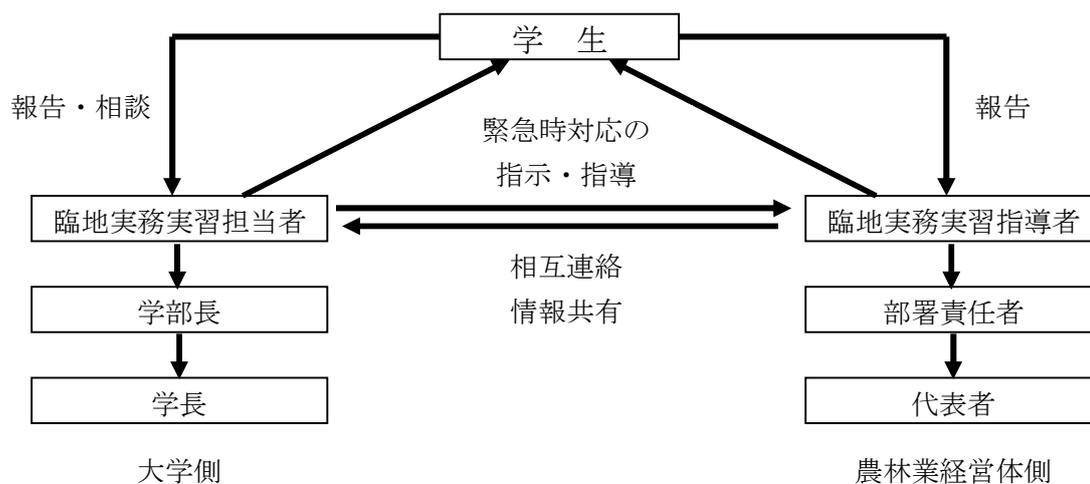
TEL 0538-30-0000

(平日上記時間以外、土・日・祝日)

- ⑭ 生産環境経営学部 臨地実務実習担当専用携帯電話

TEL 090-0000-0000

<緊急時の連絡体制>



(様式第5号)

承 諾 書

〇〇 年 月 日

静岡県立農林環境専門職大学
学長 〇〇 〇〇 様

住所
氏名

〇〇年生産環境経営学部生産環境経営学科学生の臨地実務実習「〇〇〇〇」について、下記のとおり学生の受入を承諾します。

記

- 1 受入学生
生産環境経営学部生産環境経営学科〇年 〇〇 〇〇
- 2 受入期間
〇〇年〇月〇日～〇〇年〇月〇日
- 3 学生の研修内容

- 4 その他
学生の自動車等による通学等 (可 ・ 不可)

(様式第6号)

臨地実務実習先一覧表

No	学生		実習先		研修 期間	特記 事項
	所属 学年 氏名	連絡先 (住所、電話 番号等)	法人名 代表者	連絡先 (住所、電話番 号等)		

(様式第7号)

臨地実務実習出欠表

(講義名：)

実習施設名	
学生氏名	
実習期間	年 月 日 () ~ 年 月 日 ()
講義時間	午前 時 分 ~ 午後 時 分

週	月	火	水	木	金	土	日
第1週							
第2週							
第3週							
第4週							
第5週							
第6週							
第7週							
第8週							
第9週							
第10週							

※ 1 出席日には臨地実務実習指導者が押印してください。

※ 2 「欠席」、「遅刻」、「早退」の場合は、その旨を記載してください。

出席日数	欠席日数	遅刻日数	早退日数

(確認日) 年 月 日

(臨地実務実習指導者名)

印

(様式第8号)

企業実習 評価表

臨地実務実習施設名	
学生氏名	

【出席記録】

期 間	年 月 日～ 年 月 日
-----	--------------

【成績評価基準】

評価	内容
A : 優秀	わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
B : 良好	時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
C : 普通	助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
D : やや劣る	多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
E : 劣る	常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。

I 職業人としての適性

	評 価 項 目	評 価
1	規則や心得を守ることが出来る。	A B C D E
2	与えられた仕事を、責任を持って遂行できる。	A B C D E
3	従業員と協調して仕事出来る。	A B C D E
4	実習学生として必要な基礎知識を有している。	A B C D E
5	農林業に対する探究心・意欲及び創造性が見られる。	A B C D E

コメント

II 生産管理（栽培）

項目		評価事項		評価基準
		No	内容	
1 農業 一般	志向・態度	1-1	農作業を行う際は、安全作業を心がけて行っている。	A B C D E
	志向・態度	1-2	作業記録の必要性を理解し、作業記録を作成している。	A B C D E
	知識・理解	1-3	作物の器官を理解し、説明できる。(葉、茎、根、花、果実)	A B C D E
	知識・理解	1-4	植物生理を理解し、説明できる。(光合成、呼吸、蒸散、吸収、花芽形成)	A B C D E
	知識・理解	1-5	栽培品目毎の生育適温や水分条件等を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-6	被覆資材の種類と特徴、使用方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-7	栽培施設の種類と構造、被覆用資材の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-8	栽培施設に設置される装置の種類と操作方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-9	測定が必要な環境要因(温度、湿度、二酸化炭素等)を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-10	環境測定に必要な機器を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-11	養液栽培の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
2 土づくり	知識・理解	2-1	土性の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-3	土の団粒構造、三層構造を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-4	栽培品目に適したpHなどを理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-5	栽培品目に適した土壌改良や施肥計画が理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-6	肥料の種類や特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-7	土壌診断の必要性を理解し、説明できる。	A B C D E
3 病害虫・ 雑草管理・ 生理障害	知識・理解	3-1	栽培品目の主要な病害や害虫を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	3-4	病害虫の防除の方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	3-6	病害や虫害が発生しにくい環境を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	3-7	栽培品目の生理障害とその原因を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	3-8	生育異常が発生しやすい部位を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	3-11	農薬の安全使用について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	3-13	病害虫防除・雑草防除に使用する機器と操作方法を理解し、説明できる。	A B C D E

4 栽培管理 (草本植物 (野菜・花等))	知識・理解	4-1	作付体系と作型を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-2	播種の方法や発芽方法、発芽率を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-4	接ぎ木の時期・方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-6	必要な苗数を確保するための育苗方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-7	栽培品目毎の育苗期間や生育適温、水分条件を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-11	かん水方法の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-13	うねの種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-15	整枝や誘引方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-17	摘葉、摘花、摘果の作業を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-19	収穫適期の判断方法を理解し、説明できる。	A B C D E
5 栽培管理 (永年植物 (茶・果樹等))	知識・理解	5-1	栽培品目のライフサイクルを理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-2	栽培品目の生育について理解し、説明できる。(葉芽、花芽、開花、結実等)	A B C D E
	知識・理解	5-3	栽培品目毎に、接ぎ木や挿し木、取り木、実生などの苗木の生産・育成方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-5	栽培品目毎に、整枝・せん定の方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-6	(果樹)果樹の栽培品目毎に仕立て方を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-8	(果樹)受粉、摘蕾、摘花、摘果について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-10	(果樹)袋かけに使用する袋の種類を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-12	収穫適期の判断方法を理解し、説明できる。	A B C D E
6 出荷	知識・理解	6-1	等級間の価格の違いを理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-2	出荷調整作業の内容を理解し、説明できる。	A B C D E

コメント

II 生産管理（林業）

項目		評価事項		評価基準
		No	内容	
1 林業の基礎	知識・理解	1-1	森林をつくる樹木の種類、その組織と構造、生理機能、森林の階層構造を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-2	森林と、森林をとりまく気候や地形、土壌の関係を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-3	森林の発達と遷移、遷移の仕組みについて理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-4	森林が持つ様々な機能について理解し、説明できる。	A B C D E
2 調査 森林	知識・理解	2-1	森林調査で収集する調査項目を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-2	森林調査に必要な道具や調査方法を理解し、説明できる。	A B C D E
3 道具 服装	知識・理解	3-1	森林での作業に必要な道具や適切な服装について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	3-2	小型の林業機械の種類や適切な使用方法について理解し、説明できる。	A B C D E
4 造林技術	知識・理解	4-1	人工林における伐採の種類と方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-2	人工林における地ごしらえと植栽の種類と方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-3	人工林における初期保育のための作業の種類や方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-4	人工林における枝打ちの目的や作業方法、必要な道具について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-5	人工林における間伐の目的と作業方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-6	天然林における施業方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-7	山林毎にどのような施業方法が適切か理解し、説明できる。	A B C D E
5 森林保護管理	知識・理解	5-1	森林の観察方法や観察部位について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-2	森林における病害や虫害の種類を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-3	森林に被害を及ぼす鳥獣の種類を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-4	森林の気象被害の発生機構を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-5	森林火災の発生原因や防火対策を理解し、説明できる。	A B C D E
6 収穫技術	知識・理解	6-1	立木の収穫時期、伐倒作業、造材作業、集材作業、高性能林業機械など伐出技術について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-2	集材方法と特徴、伐採した木材の測定方法など、伐採方法と伐出技術について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-3	森林を通る道の種類と働きについて理解し説明できる。	A B C D E

コメント

II 生産管理：畜産

※実習先が牧場・肉牛の場合は項目2と3、養豚の場合は項目4と5、養鶏の場合は項目6と7を使用する。

項目		評価事項		評価基準
		No	内容	
基 礎 畜 産	知識・理解	1-1	家畜の生活環について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-2	経営形態の種類と特徴について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-3	飼料の種類や給与形態について、理解し説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-4	飼料管理の重要ポイントを理解し、説明できる。	A B C D E
2 家畜と飼料の基礎知識（牛）	知識・理解	2-1	牛の品種と特徴について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-2	牛の飼育方法と特徴について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-3	牛舎の種類とその構造について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-4	牛の消化器の構造と消化のしくみについて理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-5	飼料の種類とその成分について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-6	適切な飼料給与について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-7	疾病とその発生要因、症状、生産性への影響を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-8	生殖器の構造・機能について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-9	繁殖生理について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-10	発情生理と人工授精について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-11	子牛の哺育と育成方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-12	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	A B C D E
3 （作業管理）	知識・理解	3-1	1日の作業スケジュールについて理解し、説明できる。	A B C D E
4 家畜と飼料の基礎知識（豚）	知識・理解	4-1	豚の品種と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-2	豚の繁殖方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-3	子豚の飼育方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-4	肥育豚の飼育方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-5	飼料の種類や特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-6	消化器の構造と消化のしくみを理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-7	豚の疾病と予防方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-8	豚舎の環境と衛生管理について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-9	暑熱が豚に及ぼす影響について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-10	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-11	ワクチン接種プログラムを理解し、説明できる。	A B C D E

5 家畜の飼料の基礎知識（鶏）	知識・理解	5-1	鳥の品種と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-2	飼育設備の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-3	鶏舎の設備と機器と使用方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-4	消化器の構造と消化・吸収のしくみを理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-5	飼料の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-6	鶏の疾病と予防方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-7	鳥インフルエンザとその防御方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-8	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-9	（採卵鶏）産卵鶏の産卵と成鶏の管理について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-10	（採卵鶏）採卵の採取とふ化やひなの管理について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-11	（採卵鶏）鶏卵の規格と品質、品質を決める要因を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-12	（肉用鶏）肉用鶏の成長の特徴について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-13	（肉用鶏）入すうから出荷までの管理について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-14	（肉用鶏）肉用鶏の調査方法について理解し、説明できる。	A B C D E
管 6 理 衛 生	知識・理解	6-1	家畜区域と管理区域の違いを理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-2	管理区域の出入り口の消毒の必要性や消毒施設を理解し、説明できる。	A B C D E

コメント

Ⅲ 総合コメント

1. 実習中の状況について御記入ください。

[]

2. 学生の現在の弱点及び今後の課題について御記入ください。

[]

3. その他、お気づきの点があれば御記入ください。

[]

(様式第9号)

経営実習Ⅰ 評価表

臨地実務実習施設名	
学生氏名	

【出席記録】

期 間	年 月 日～ 年 月 日
-----	--------------

【成績評価基準】

評価	内容
A : 優秀	わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
B : 良好	時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
C : 普通	助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
D : やや劣る	多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
E : 劣る	常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。

I 共通

項目	区分	評価事項	評価基準
職業人としての適性	志向・態度	規則や心得を守ることが出来る。	A B C D E
	志向・態度	与えられた仕事を、責任を持って遂行できる。	A B C D E
	志向・態度	従業員と協調して仕事出来る。	A B C D E
	志向・態度	実習学生として必要な基礎知識を有している。	A B C D E
	志向・態度	農林業に対する探究心・意欲及び創造性が見られる。	A B C D E
管生理産	知識・理解 技能	生産に関する基礎知識・技能(※Ⅱの経営種目別)	-
作業管理	志向・態度	日々の作業結果(作業時間、作業条件等)を作業日誌に記録している。	A B C D E
	志向・態度	作業効率を考えて必要な道具、資材、機械等の準備が出来る。	A B C D E
	知識・理解	年間の出荷(生産計画)を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	年間の圃場利用計画を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	労働力・生育状況に見合った作業計画を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	作業に必要な道具、資材、機械等を整理整頓できる。	A B C D E
	技能	作業遅れが生じたときの対応策を考えられる。	A B C D E

コメント

Ⅱ 生産管理（栽培）

※実習先が野菜・花等の場合項目4、は、茶・果樹の場合は項目5を使用する。

項目		評価事項		評価基準
		No	内容	
1 農業 一般	志向・態度	1-1	農作業を行う際は、安全作業を心がけて行っている。	A B C D E
	志向・態度	1-2	作業記録の必要性を理解し、作業記録を作成している。	A B C D E
	知識・理解	1-3	作物の器官を理解し、説明できる。(葉、茎、根、花、果実)	A B C D E
	知識・理解	1-4	植物生理を理解し、説明できる。(光合成、呼吸、蒸散、吸収、花芽形成)	A B C D E
	知識・理解	1-5	栽培品目毎の生育適温や水分条件等を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-6	被覆資材の種類と特徴、使用方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-7	栽培施設の種類と構造、被覆用資材の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-8	栽培施設に設置される装置の種類と操作方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-9	測定が必要な環境要因(温度、湿度、二酸化炭素等)を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-10	環境測定に必要な機器を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-11	養液栽培の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
2 土 づ く り	知識・理解	2-1	土性の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	2-2	土壌を観察し、土性を判断できる。	A B C D E
	知識・理解	2-3	土の団粒構造、三層構造を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-4	栽培品目に適したpHなどを理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-5	栽培品目に適した土壌改良や施肥計画が理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-6	肥料の種類や特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-7	土壌診断の必要性を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	2-8	土壌診断や、草勢、着果具合など生育にあわせて、施肥・追肥の計画を立てられる。	A B C D E

3 病害虫・雑草管理・生理障害	知識・理解	3-1	栽培品目の主要な病害や害虫を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	3-2	病害や虫害が発生した場合、その原因を判断できる。	A B C D E
	技能	3-3	適切な防除時期を判断できる。	A B C D E
	知識・理解	3-4	病害虫の防除の方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	3-5	病害虫に対して適切な防除資材を判断できる。	A B C D E
	知識・理解	3-6	病害や虫害が発生しにくい環境を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	3-7	栽培品目の生理障害とその原因を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	3-8	生育異常が発生しやすい部位を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	3-9	生育異常が発見でき、その原因を判断できる。	A B C D E
	技能	3-10	生育異常に対する対応策を判断できる。	A B C D E
	知識・理解	3-11	農薬の安全使用について理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	3-12	農薬のラベルを見て、適性作物、使用量・使用濃度の確認ができる。	A B C D E
	知識・理解	3-13	病害虫防除・雑草防除に使用する機器と操作方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	3-14	事故防止のための手段を行っている。	A B C D E
4 栽培管理（草本植物（野菜・花等））	知識・理解	4-1	作付体系と作型を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-2	播種の方法や発芽方法、発芽率を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	4-3	栽培品目や作付体系にあわせて、適切に播種ができる。	A B C D E
	知識・理解	4-4	接ぎ木の時期・方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	4-5	栽培品目にあわせて、適切に接ぎ木ができる。	A B C D E
	知識・理解	4-6	必要な苗数を確保するための育苗方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-7	栽培品目毎の育苗期間や生育適温、水分条件を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	4-8	育苗中に、気象変化に応じて、温度管理・水管理ができる。	A B C D E
	技能	4-9	栽培品目にあわせて、育苗をし、必要な苗数を確保できる。	A B C D E
	技能	4-10	栽培品目にあわせて、適切に定植できる	A B C D E
	知識・理解	4-11	かん水方法の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	4-12	栽培品目にあわせて、かん水が適切にできる。	A B C D E
	知識・理解	4-13	うねの種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E

4 栽培管理 (草本植物 (野菜・花等))	技能	4-14	栽培品目にあわせて、うね立てができる。	A B C D E
	知識・理解	4-15	整枝や誘引方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	4-16	栽培品目にあわせて、整枝、誘引ができる。	A B C D E
	知識・理解	4-17	摘葉、摘花、摘果の作業を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	4-18	生育状況に合わせて、摘葉、摘花、摘果すべき箇所を理解し、実施できる。	A B C D E
	知識・理解	4-19	収穫適期の判断方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	4-20	収穫適期を判断し、適切な方法で収穫できる。	A B C D E
5 栽培管理 (永年植物 (茶・果樹等))	知識・理解	5-1	栽培品目のライフサイクルを理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-2	栽培品目の生育について理解し、説明できる。(葉芽、花芽、開花、結実等)	A B C D E
	知識・理解	5-3	栽培品目毎に、接ぎ木や挿し木、取り木、実生などの苗木の生産・育成方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	5-4	栽培品目毎に、接ぎ木や挿し木、取り木、実生などの方法で、苗木の増殖ができる。	A B C D E
	知識・理解	5-5	栽培品目毎に、整枝・せん定の方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-6	(果樹)果樹の栽培品目毎に仕立て方を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	5-7	(果樹)果樹の栽培品目毎に、適切な誘引ができる。	A B C D E
	知識・理解	5-8	(果樹)受粉、摘蕾、摘花、摘果について理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	5-9	(果樹)栽培品目毎に、適切に受粉、摘蕾、摘花、摘果ができる。	A B C D E
	知識・理解	5-10	(果樹)袋かけに使用する袋の種類を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	5-11	(果樹)栽培品目ごとに、袋かけの適切な時期を判断し、実行できる。	A B C D E
	知識・理解	5-12	収穫適期の判断方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	5-13	収穫適期を判断し、適切な方法で収穫できる。	A B C D E
6 出荷	知識・理解	6-1	等級間の価格の違いを理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-2	出荷調整作業の内容を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	6-3	栽培品目毎に、適切に出荷調整ができる。	A B C D E
	技能	6-4	出荷調整時に、品質低下を防ぐことができる。	A B C D E
7 生産管理	知識・理解	7-1	生産計画を理解し、説明できる	A B C D E
	知識・理解	7-2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	7-3	生産計画を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	7-5	販売計画を理解し、説明できる。	A B C D E

コメント

II 生産管理（林業）

項目		評価事項		評価基準
		No	内容	
1 林業の基礎	知識・理解	1-1	森林をつくる樹木の種類、その組織と構造、生理機能、森林の階層構造を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-2	森林と、森林をとりまく気候や地形、土壌の関係を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-3	森林の発達と遷移、遷移の仕組みについて理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	1-4	森林の種類について理解し、分類できる。	A B C D E
	知識・理解	1-5	森林が持つ様々な機能について理解し、説明できる。	A B C D E
2 森林調査	知識・理解	2-1	森林調査で収集する調査項目を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-2	森林調査に必要な道具や調査方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	2-3	森林調査を実施できる。	A B C D E
3 服装と道具	知識・理解	3-1	森林での作業に必要な道具や適切な服装について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	3-2	小型の林業機械の種類や適切な使用方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	3-3	小型の林業機械を安全に使用できる。	A B C D E
	技能	3-4	作業にあった服装や道具を選択できる。	A B C D E
4 造林技術	知識・理解	4-1	人工林における伐採の種類と方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-2	人工林における地ごしらえと植栽の種類と方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-3	人工林における初期保育のための作業の種類や方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-4	人工林における枝打ちの目的や作業方法、必要な道具について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-5	人工林における間伐の目的と作業方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	4-6	人工林の造林技術を実施できる。	A B C D E
	知識・理解	4-7	天然林における施業方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-8	山林毎にどのような施業方法が適切か理解し、説明できる。	A B C D E
5 森林保護管理	知識・理解	5-1	森林の観察方法や観察部位について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-2	森林における病害や虫害の種類を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-3	森林に被害を及ぼす鳥獣の種類を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-4	森林の気象被害の発生機構を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	5-5	森林火災の発生原因や防火対策を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	5-6	森林被害に対し、対策を実施できる。	A B C D E

6 収穫技術	知識・理解	6-1	立木の収穫時期、伐倒作業、造材作業、集材作業、高性能林業機械など伐出技術について理	A B C D E
	知識・理解	6-2	集材方法と特徴、伐採した木材の測定方法など、伐採方法と伐出技術について理解し、説明	A B C D E
	知識・理解	6-3	森林を通る道の種類と働きについて理解し説明できる。	A B C D E
7 生産管理	知識・理解	7-1	生産計画を理解し、説明できる	A B C D E
	知識・理解	7-2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	7-3	生産計画を理解し、説明ができる。	A B C D E
	知識・理解	7-5	販売計画を理解し、説明できる。	A B C D E

コメント

II 生産管理（畜産）

項目		評価事項		評価基準
		No	内容	
1 畜産基礎	知識・理解	1-1	家畜の生活環について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-2	経営形態の種類と特徴について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-3	飼料の種類や給与形態について、理解し説明できる。	A B C D E
	知識・理解	1-4	飼料管理の重要ポイントを理解し、説明できる。	A B C D E
2 家畜と飼料の基礎知識（牛）	知識・理解	2-1	牛の品種と特徴について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-2	牛の飼育方法と特徴について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-3	牛舎の種類とその構造について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-4	牛の消化器の構造と消化のしくみについて理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-5	飼料の種類とその成分について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-6	適切な飼料給与について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-7	疾病とその発生要因、症状、生産性への影響を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-8	生殖器の構造・機能について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-9	繁殖生理について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-10	発情生理と人工授精について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-11	子牛の哺育と育成方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	2-12	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	A B C D E
3 管理作業（牛）	知識・理解	3-1	1日の作業スケジュールについて理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	3-2	(施設)通路の点検が出来る。	A B C D E
	技能	3-3	(施設)飼料の管理、掃き寄せが出来る。	A B C D E
	技能	3-4	(施設)飼槽の管理が出来る。	A B C D E
	技能	3-5	(施設)水槽の管理が出来る。	A B C D E
	技能	3-6	(施設)牛の快適な環境を理解し、牛舎の換気が出来る。	A B C D E
	技能	3-7	(施設)牛床の管理が出来る	A B C D E
	技能	3-8	(施設)外部寄生虫の防除方法を理解し、実践できる。	A B C D E
	技能	3-9	(施設)牛舎内の牛の観察をして、異常を発見できる。	A B C D E
	技能	3-10	(健康の点検)食欲の有無を観察し、異常が発見できる。	A B C D E

3 管理作業（牛）	技能	3-11	(健康の点検) 目の観察をし、異常を発見できる。	A B C D E
	技能	3-12	(健康の点検) 鼻の観察をし、異常が発見できる。	A B C D E
	技能	3-13	(健康の点検) 挙動を観察し、その疾病や課題が発見できる。	A B C D E
	技能	3-14	(健康の点検) 尾根部や尾の状態を観察し、異常が発見できる。	A B C D E
	技能	3-15	(健康の点検) 呼吸の状態を観察し、異常が発見できる。	A B C D E
	技能	3-16	(健康の点検) 発咳を発見し、原因がわかる。	A B C D E
	技能	3-17	(健康の点検) 牛の適正な体温を理解し、異常時は発見できる。	A B C D E
	技能	3-18	(健康の点検) 被毛の状態を観察し、異常を発見できる。	A B C D E
	技能	3-19	(繁殖) 発情の周期を理解し、観察・発見できる。	A B C D E
	技能	3-20	(乳牛) 搾乳の手順を理解し、実践できる。	A B C D E
4 家畜と飼料の基礎知識（豚）	知識・理解	4-1	豚の品種と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-2	豚の繁殖方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-3	子豚の飼育方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-4	肥育豚の飼育方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-5	飼料の種類や特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-6	消化器の構造と消化のしくみを理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-7	豚の疾病と予防方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-8	豚舎の環境と衛生管理について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-9	暑熱が豚に及ぼす影響について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-10	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	4-11	ワクチン接種プログラムを理解し、説明できる。	A B C D E
5 （豚） 管理作業	技能	5-1	子豚哺乳・育成時の適温について理解し、適切な暖房使用ができる。	A B C D E
	技能	5-2	豚の習性を理解し、正しい接し方ができる。	A B C D E
	技能	5-3	適切に飼槽、飲水の管理ができる。	A B C D E
	技能	5-4	子豚の去勢方法について理解し、適切に実施できる。	A B C D E
	技能	5-5	繁殖豚の発情メカニズム、交配、分娩について理解し、実践できる。	A B C D E
	技能	5-6	飼料の保存や取扱いについて理解し、実践できる。	A B C D E
	技能	5-7	暑熱時の適切な管理方法について理解し、実践できる。	A B C D E
6 家畜の飼料の基礎知識（鶏）	知識・理解	6-1	鳥の品種と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-2	飼育設備の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-3	鶏舎の設備と機器と使用方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-4	消化器の構造と消化・吸収のしくみを理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-5	飼料の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-6	鶏の疾病と予防方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-7	鳥インフルエンザとその防御方法について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-8	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-9	(採卵鶏) 産卵鶏の産卵と成鶏の管理について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-10	(採卵鶏) 採卵の採取とふ化やひなの管理について理解し、説明できる。	A B C D E

(6) 鶏 家畜の飼料の基礎知識	知識・理解	6-11	(採卵鶏) 鶏卵の規格と品質、品質を決める要因を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-12	(肉用鶏) 肉用鶏の成長の特徴について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-13	(肉用鶏) 入すうから出荷までの管理について理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	6-14	(肉用鶏) 肉用鶏の調査方法について理解し、説明できる。	A B C D E
7 管理作業(鶏)	技能	7-1	育すう期の適切な温度・湿度を理解し、適切な温度・湿度・換気管理ができる。	A B C D E
	技能	7-2	生育期に合わせて、適切な給餌器・給水器管理ができる。	A B C D E
	技能	7-3	デビークを行う理由を理解し、適切に実施できる。	A B C D E
	技能	7-4	適切な体重を理解し、適切な時期に体重測定が実施できる。	A B C D E
	技能	7-5	飼料の適切な管理方法について理解し、実施できる。	A B C D E
	技能	7-6	鶏舎の適切な管理温度を理解し、換気や防寒対策ができる。	A B C D E
8 衛生管理	知識・理解	8-1	家畜区域と管理区域の違いを理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	8-2	管理区域の出入り口の消毒の必要性や消毒施設を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	8-3	消毒器・消毒層・消毒帯の管理方法を理解し、実践できる。	A B C D E
	技能	8-4	消毒薬の使用上の注意を理解し、適切に使用できる。	A B C D E
	技能	8-5	衛生管理区域内への鳥類、小動物の侵入の必要性を理解し、実施できる。	A B C D E
9 生産管理	知識・理解	9-1	生産計画を理解し、説明できる	A B C D E
	知識・理解	9-2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	9-3	生産計画を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	9-5	販売計画を理解し、説明できる。	A B C D E

コメント

Ⅲ 総合コメント

1. 実習中の状況について御記入ください。

[]

2. 学生の現在の弱点及び今後の課題について御記入ください。

[]

3. その他、お気づきの点があれば御記入ください。

[]

(様式第 10 号)

経営実習Ⅱ 評価表

臨地実務実習施設名	
学生氏名	

【出席記録】

期 間	年 月 日～ 年 月 日
-----	--------------

【成績評価基準】

評価	内容
A : 優秀	わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
B : 良好	時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
C : 普通	助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
D : やや劣る	多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。
E : 劣る	常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。

I 共通

項目	区分	評価事項	評価基準
職業人としての適性	志向・態度	規則や心得を守ることが出来る。	A B C D E
	志向・態度	与えられた仕事を、責任を持って遂行できる。	A B C D E
	志向・態度	従業員と協調して仕事出来る。	A B C D E
	志向・態度	実習学生として必要な基礎知識を有している。	A B C D E
	志向・態度	農林業に対する探究心・意欲及び創造性が見られる。	A B C D E
生産管理	知識・理解 技能	生産に関する基礎知識・技能(※経営種目別)	-
作業管理	志向・態度	日々の作業結果(作業時間、作業条件等)を作業日誌に記録している。	A B C D E
	志向・態度	作業効率を考えて必要な道具、資材、機械等の準備が出来る。	A B C D E
	知識・理解	年間の出荷(生産計画)を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	年間の圃場利用計画を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	労働力・生育状況に見合った作業計画を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	作業に必要な道具、資材、機械等を整理整頓できる。	A B C D E
	技能	作業遅れが生じたときの対応策を考えられる。	A B C D E
販売管理	志向・態度	市況情報を知っている。	A B C D E
	技能	市況や生産技術を考慮して、適切な売上・単価目標を決めることが出来る。	A B C D E
財務管理	知識・理解	減価償却に関する知識など、簿記・会計理論を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	借入金を返済するための資金繰り計画の立て方を理解し、説明できる	A B C D E
	知識・理解	収入や支出の時期、金額を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	単位当たり(収量や面積あたり)の資材費を把握できる。	A B C D E

コメント

II 生産管理（栽培）

項目		評価事項		評価基準
		No	内容	
生産管理	知識・理解	1	生産計画を理解し、説明できる	A B C D E
	知識・理解	2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	3	生産計画を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	4	作業記録を集計し、分析できる。	A B C D E
	知識・理解	5	販売計画を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	6	販売計画に沿って販売が行われているか、確認できる。	A B C D E
	志向・態度	7	市場調査、市場分析をおこなって、必要な情報を集めている。	A B C D E
	技能	8	売上を確認し、計画との差を判断できる。	A B C D E
	技能	9	生産物の原価を計算できる。	A B C D E
	技能	10	栽培品目毎に収支計算ができる。	A B C D E
	技能	11	栽培品目毎に損益分岐点分析ができる。	A B C D E
	技能	12	作業記録や生産結果、販売結果を分析し、改善方法を提案できる。	A B C D E

コメント

II 生産管理（林業）

項目	評価事項		評価基準	
	No	内容		
生産管理	知識・理解	1	生産計画を理解し、説明できる	A B C D E
	知識・理解	2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	3	生産計画を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	4	作業記録を集計し、分析できる。	A B C D E
	知識・理解	5	販売計画を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	6	販売計画に沿って販売が行われているか、確認できる。	A B C D E
	志向・態度	7	市場調査、市場分析をおこなって、必要な情報を集めている。	A B C D E
	技能	8	売上を確認し、計画との差を判断できる。	A B C D E
	技能	9	生産物の原価を計算できる。	A B C D E
	技能	10	品目毎に収支計算ができる。	A B C D E
	技能	11	品目毎に損益分岐点分析ができる。	A B C D E
	技能	12	作業記録や生産結果、販売結果を分析し、改善方法を提案できる。	A B C D E

コメント

II 生産管理（畜産）

項目	評価事項		評価基準	
	No	内容		
生産管理	知識・理解	1	生産計画を理解し、説明できる	A B C D E
	知識・理解	2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。	A B C D E
	知識・理解	3	生産計画を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	4	作業記録を集計し、分析できる。	A B C D E
	知識・理解	5	販売計画を理解し、説明できる。	A B C D E
	技能	6	販売計画に沿って販売が行われているか、確認できる。	A B C D E
	志向・態度	7	市場調査、市場分析をおこなって、必要な情報を集めている。	A B C D E
	技能	8	売上を確認し、計画との差を判断できる。	A B C D E
	技能	9	生産物の原価を計算できる。	A B C D E
	技能	10	品目毎に収支計算ができる。	A B C D E
	技能	11	品目毎に損益分岐点分析ができる。	A B C D E
	技能	12	作業記録や生産結果、販売結果を分析し、改善方法を提案できる。	A B C D E

コメント

Ⅲ 総合コメント

1. 実習中の状況について御記入ください。

[]

2. 学生の現在の弱点及び今後の課題について御記入ください。

[]

3. その他、お気づきの点があれば御記入ください。

[]

(様式第 11 号)

自動車等使用届

平成 年 月 日

農林環境専門職大学長 様

本人氏名 ⑩

保護者氏名 ⑩

下記のとおり、(講義名)において自動車等を使用したいので届け出ます。
なお、使用に際しては別紙に従います。また、万が一事故を起こしたときは、自己の責任で処理することを確約します。

記

1 使用自動車等

車名	
車色	
ナンバー	

2 免許

免許証番号	
取得年月日	

3 任意保険の加入状況

	金額	期間	会社名
対人			
対物			
自損			
搭乗者			

(別紙)

臨地実務実習における自動車等の使用について

1 手続き

自動車等の使用を希望する学生は、研修先の承諾と保護者の同意を基に自動車等使用届けを大学に提出する。

2 遵守事項

- (1) 事故等に対する十分な賠償責任を持つ保険に加入する。
- (2) 交通関係法規を守り、常に安全に努める。
- (3) 実習先の指定された場所に駐車し、無断駐車や違法駐車をしない。
- (4) その他、大学の指示に従うこと。

3 事故、違反の報告

交通事故または道路交通法違反を起こした場合は、速やかに大学へ報告する。

4 その他

- (1) 自動車等使用届の提出時に、免許証及び任意保険証を提示すること。
- (2) 実習場所の内外を問わず、自動車等の事故等についてい大学は一切の責任を負わない。

(様式第 12 号)

企業実習 自己点検表

臨地実務実習施設名	
学生氏名	

中間評価記載日	年 月 日
最終評価記載日	年 月 日

【評価基準】

評価	内容
A : できている	助言・指導を特に必要とせず、良く理解し十分に積極的に行動できている。
B : ややできている	助言・指導を時として必要だが、理解し積極的に行動できている。
C : 普通	助言・指導があれば、何とか理解して行動できている。
D : ややできていない	助言・指導があっても理解度が低くて消極的であり、なかなか行動できていない。
E : 全くできていない	助言・指導があっても、理解できないため、行動ができない。

I 職業人としての適性

	評価項目	中間評価	最終評価
1	規則や心得を守ることが出来る。	A B C D E	A B C D E
2	与えられた仕事を、責任を持って遂行できる。	A B C D E	A B C D E
3	従業員と協調して仕事出来る。	A B C D E	A B C D E
4	実習学生として必要な基礎知識を有している。	A B C D E	A B C D E
5	農林業に対する探究心・意欲及び創造性が見られる。	A B C D E	A B C D E

II 生産管理（栽培）

項目	評価事項		中間評価	最終評価	
	No	内容			
1 農業一般	志向・態度	1-1	農作業を行う際は、安全作業を心がけて行っている。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	1-2	作業記録の必要性を理解し、作業記録を作成している。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-3	作物の器官を理解し、説明できる。(葉、茎、根、花、果実)	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-4	植物生理を理解し、説明できる。(光合成、呼吸、蒸散、吸収、花芽形成)	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-5	栽培品目毎の生育適温や水分条件等を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-6	被覆資材の種類と特徴、使用方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-7	栽培施設の種類と構造、被覆用資材の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-8	栽培施設に設置される装置の種類と操作方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-9	測定が必要な環境要因(温度、湿度、二酸化炭素等)を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-10	環境測定に必要な機器を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-11	養液栽培の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
2 土づくり	知識・理解	2-1	土性の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-3	土の団粒構造、三層構造を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-4	栽培品目に適したpHなどを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-5	栽培品目に適した土壌改良や施肥計画が理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-6	肥料の種類や特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-7	土壌診断の必要性を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
3 病害虫・雑草管理・生理障害	知識・理解	3-1	栽培品目の主要な病害や害虫を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-4	病害虫の防除の方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-6	病害や虫害が発生しにくい環境を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-7	栽培品目の生理障害とその原因を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-8	生育異常が発生しやすい部位を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-11	農薬の安全使用について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-13	病害虫防除・雑草防除に使用する機器と操作方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E

4	知識・理解	4-1	作付体系と作型を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-2	播種の方法や発芽方法、発芽率を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-4	接ぎ木の時期・方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-6	必要な苗数を確保するための育苗方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-7	栽培品目毎の育苗期間や生育適温、水分条件を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-11	かん水方法の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-13	うねの種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-15	整枝や誘引方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-17	摘葉、摘花、摘果の作業を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-19	収穫適期の判断方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
5	知識・理解	5-1	栽培品目のライフサイクルを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-2	栽培品目の生育について理解し、説明できる。(葉芽、花芽、開花、結実等)	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-3	栽培品目毎に、接ぎ木や挿し木、取り木、実生などの苗木の生産・育成方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-5	栽培品目毎に、整枝・せん定の方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-6	(果樹)果樹の栽培品目毎に仕立て方を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-8	(果樹)受粉、摘蕾、摘花、摘果について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-10	(果樹)袋かけに使用する袋の種類を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-12	収穫適期の判断方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
6	知識・理解	6-1	等級間の価格の違いを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	6-2	出荷調整作業の内容を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E

II 生産管理（林業）

項目		評価事項		中間評価	最終評価
		No	内容		
1 林業の基礎	知識・理解	1-1	森林をつくる樹木の種類、その組織と構造、生理機能、森林の階層構造を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-2	森林と、森林をとりまく気候や地形、土壌の関係を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-3	森林の発達と遷移、遷移の仕組みについて理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-4	森林が持つ様々な機能について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
2 調査 森林	知識・理解	2-1	森林調査で収集する調査項目を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-2	森林調査に必要な道具や調査方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
3 道具 服装	知識・理解	3-1	森林での作業に必要な道具や適切な服装について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-2	小型の林業機械の種類や適切な使用方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
4 造林技術	知識・理解	4-1	人工林における伐採の種類と方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-2	人工林における地ごしらえと植栽の種類と方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-3	人工林における初期保育のための作業の種類や方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-4	人工林における枝打ちの目的や作業方法、必要な道具について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-5	人工林における間伐の目的と作業方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-6	天然林における施業方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-7	山林毎にどのような施業方法が適切か理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
5 森林保護管理	知識・理解	5-1	森林の観察方法や観察部位について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-2	森林における病害や虫害の種類を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-3	森林に被害を及ぼす鳥獣の種類を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-4	森林の気象被害の発生機構を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-5	森林火災の発生原因や防火対策を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
6 収穫技術	知識・理解	6-1	立木の収穫時期、伐倒作業、造材作業、集材作業、高性能林業機械など伐出技術について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	6-2	集材方法と特徴、伐採した木材の測定方法など、伐採方法と伐出技術について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	6-3	森林を通る道の種類と働きについて理解し説明できる。	A B C D E	A B C D E

II 生産管理（畜産）

項目		評価事項		中間評価	最終評価
		No	内容		
1 畜産基礎	知識・理解	1-1	家畜の生活環について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-2	経営形態の種類と特徴について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-3	飼料の種類や給与形態について、理解し説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-4	飼料管理の重要ポイントを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
2 家畜と飼料の基礎知識（牛）	知識・理解	2-1	牛の品種と特徴について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-2	牛の飼育方法と特徴について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-3	牛舎の種類とその構造について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-4	牛の消化器の構造と消化のしくみについて理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-5	飼料の種類とその成分について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-6	適切な飼料給与について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-7	疾病とその発生要因、症状、生産性への影響を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-8	生殖器の構造・機能について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-9	繁殖生理について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-10	発情生理と人工授精について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-11	子牛の哺育と育成方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-12	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
3 （牛） 管理作業	知識・理解	3-1	1日の作業スケジュールについて理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
4 家畜と飼料の基礎知識（豚）	知識・理解	4-1	豚の品種と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-2	豚の繁殖方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-3	子豚の飼育方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-4	肥育豚の飼育方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-5	飼料の種類や特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-6	消化器の構造と消化のしくみを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-7	豚の疾病と予防方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-8	豚舎の環境と衛生管理について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-9	暑熱が豚に及ぼす影響について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-10	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-11	ワクチン接種プログラムを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E

5 家畜の飼料の基礎知識（鶏）	知識・理解	5-1	鳥の品種と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-2	飼育設備の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-3	鶏舎の設備と機器と使用方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-4	消化器の構造と消化・吸収のしくみを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-5	飼料の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-6	鶏の疾病と予防方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-7	鳥インフルエンザとその防御方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-8	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-9	（採卵鶏）産卵鶏の産卵と成鶏の管理について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-10	（採卵鶏）採卵の採取とふ化やひなの管理について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-11	（採卵鶏）鶏卵の規格と品質、品質を決める要因を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-12	（肉用鶏）肉用鶏の成長の特徴について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-13	（肉用鶏）入すうから出荷までの管理について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-14	（肉用鶏）肉用鶏の調査方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
6 管理衛生	知識・理解	6-1	家畜区域と管理区域の違いを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	6-2	管理区域の出入り口の消毒の必要性や消毒施設を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E

Ⅲ 自分自身が頑張っていること、困っていること（中間評価時）

A large, empty, rounded rectangular bracketed area, intended for the user to write their response to the question above. The brackets are on the left and right sides, with the top and bottom edges being curved.

(様式第 13 号)

経営実習 I 自己点検表

臨地実務実習施設名	
学生氏名	

中間評価記載日	年 月 日
最終評価記載日	年 月 日

【評価基準】

評価	内容
A : できている	助言・指導を特に必要とせず、良く理解し十分に積極的に行動できている。
B : ややできている	助言・指導を時として必要だが、理解し積極的に行動できている。
C : 普通	助言・指導があれば、何とか理解して行動できている。
D : ややできていない	助言・指導があっても理解度が低くて消極的であり、なかなか行動できていない。
E : 全くできていない	助言・指導があっても、理解できないため、行動ができない。

I 共通

項目	区分	評価事項	中間評価	最終評価
職業人としての適性	志向・態度	規則や心得を守ることが出来る。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	与えられた仕事を、責任を持って遂行できる。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	従業員と協調して仕事出来る。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	実習学生として必要な基礎知識を有している。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	農林業に対する探究心・意欲及び創造性が見られる。	A B C D E	A B C D E
管生理産	知識・理解 技能	生産に関する基礎知識・技能(※Ⅱの経営種目別)	-	-
作業管理	志向・態度	日々の作業結果(作業時間、作業条件等)を作業日誌に記録している。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	作業効率を考えて必要な道具、資材、機械等の準備が出来る。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	年間の出荷(生産計画)を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	年間の圃場利用計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	労働力・生育状況に見合った作業計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	作業に必要な道具、資材、機械等を整理整頓できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	作業遅れが生じたときの対応策を考えられる。	A B C D E	A B C D E

II 生産管理（栽培）

項目	評価事項		中間評価	最終評価	
	No	内容			
1 農業一般	志向・態度	1-1	農作業を行う際は、安全作業を心がけて行っている。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	1-2	作業記録の必要性を理解し、作業記録を作成している。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-3	作物の器官を理解し、説明できる。(葉、茎、根、花、果実)	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-4	植物生理を理解し、説明できる。(光合成、呼吸、蒸散、吸収、花芽形成)	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-5	栽培品目毎の生育適温や水分条件等を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-6	被覆資材の種類と特徴、使用方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-7	栽培施設の種類の種類と構造、被覆用資材の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-8	栽培施設に設置される装置の種類と操作方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-9	測定が必要な環境要因(温度、湿度、二酸化炭素等)を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-10	環境測定に必要な機器を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-11	養液栽培の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
2 土づくり	知識・理解	2-1	土性の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	2-2	土壌を観察し、土性を判断できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-3	土の団粒構造、三層構造を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-4	栽培品目に適したpHなどを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-5	栽培品目に適した土壌改良や施肥計画が理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-6	肥料の種類や特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-7	土壌診断の必要性を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	2-8	土壌診断や、草勢、着果具合など生育にあわせて、施肥・追肥の計画を立てられる。	A B C D E	A B C D E

3	知識・理解	3-1	栽培品目の主要な病害や害虫を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-2	病害や虫害が発生した場合、その原因を判断できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-3	適切な防除時期を判断できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-4	病害虫の防除の方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-5	病害虫に対して適切な防除資材を判断できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-6	病害や虫害が発生しにくい環境を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-7	栽培品目の生理障害とその原因を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-8	生育異常が発生しやすい部位を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-9	生育異常が発見でき、その原因を判断できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-10	生育異常に対する対応策を判断できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-11	農薬の安全使用について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-12	農薬のラベルを見て、適性作物、使用量・使用濃度の確認が出来る。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-13	病害虫防除・雑草防除に使用する機器と操作方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-14	事故防止のための手段を行っている。	A B C D E	A B C D E
4	知識・理解	4-1	作付体系と作型を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-2	播種の方法や発芽方法、発芽率を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	4-3	栽培品目や作付体系にあわせて、適切に播種ができる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-4	接ぎ木の時期・方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	4-5	栽培品目にあわせて、適切に接ぎ木が出来る。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-6	必要な苗数を確保するための育苗方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-7	栽培品目毎の育苗期間や生育適温、水分条件を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	4-8	育苗中に、気象変化に応じて、温度管理・水管理ができる。	A B C D E	A B C D E
	技能	4-9	栽培品目にあわせて、育苗をし、必要な苗数を確保できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	4-10	栽培品目にあわせて、適切に定植できる	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-11	かん水方法の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	4-12	栽培品目にあわせて、かん水が適切にできる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-13	うねの種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E

4	栽培管理 (草本植物 (野菜・花等))	技能	4-14	栽培品目にあわせて、うね立てができる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	4-15	整枝や誘引方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		技能	4-16	栽培品目にあわせて、整枝、誘引ができる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	4-17	摘葉、摘花、摘果の作業を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		技能	4-18	生育状況に合わせて、摘葉、摘花、摘果すべき箇所を理解し、実施できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	4-19	収穫適期の判断方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		技能	4-20	収穫適期を判断し、適切な方法で収穫できる。	A B C D E	A B C D E
5	栽培管理 (永年植物 (茶・果樹等))	知識・理解	5-1	栽培品目のライフサイクルを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	5-2	栽培品目の生育について理解し、説明できる。(葉芽、花芽、開花、結実等)	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	5-3	栽培品目毎に、接ぎ木や挿し木、取り木、実生などの苗木の生産・育成方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		技能	5-4	栽培品目毎に、接ぎ木や挿し木、取り木、実生などの方法で、苗木の増殖ができる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	5-5	栽培品目毎に、整枝・せん定の方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	5-6	(果樹)果樹の栽培品目毎に仕立て方を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		技能	5-7	(果樹)果樹の栽培品目毎に、適切な誘引ができる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	5-8	(果樹)受粉、摘蕾、摘花、摘果について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		技能	5-9	(果樹)栽培品目毎に、適切に受粉、摘蕾、摘花、摘果ができる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	5-10	(果樹)袋かけに使用する袋の種類を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		技能	5-11	(果樹)栽培品目ごとに、袋かけの適切な時期を判断し、実行できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	5-12	収穫適期の判断方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		技能	5-13	収穫適期を判断し、適切な方法で収穫できる。	A B C D E	A B C D E
6	出荷	知識・理解	6-1	等級間の価格の違いを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	6-2	出荷調整作業の内容を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		技能	6-3	栽培品目毎に、適切に出荷調整ができる。	A B C D E	A B C D E
		技能	6-4	出荷調整時に、品質低下を防ぐことができる。	A B C D E	A B C D E
7	生産管理	知識・理解	7-1	生産計画を理解し、説明できる	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	7-2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	7-3	生産計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
		知識・理解	7-5	販売計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E

II 生産管理（林業）

項目	評価事項		中間評価	最終評価	
	No	内容			
1 林業の基礎	知識・理解	1-1	森林をつくる樹木の種類、その組織と構造、生理機能、森林の階層構造を理解し、	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-2	森林と、森林をとりまく気候や地形、土壌の関係を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-3	森林の発達と遷移、遷移の仕組みについて理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	1-4	森林の種類について理解し、分類できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-5	森林が持つ様々な機能について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
2 森林調査	知識・理解	2-1	森林調査で収集する調査項目を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-2	森林調査に必要な道具や調査方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	2-3	森林調査を実施できる。	A B C D E	A B C D E
3 服装と道具	知識・理解	3-1	森林での作業に必要な道具や適切な服装について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3-2	小型の林業機械の種類や適切な使用方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-3	小型の林業機械を安全に使用できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-4	作業にあった服装や道具を選択できる。	A B C D E	A B C D E
4 造林技術	知識・理解	4-1	人工林における伐採の種類と方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-2	人工林における地ごしらえと植栽の種類と方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-3	人工林における初期保育のための作業の種類や方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-4	人工林における枝打ちの目的や作業方法、必要な道具について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-5	人工林における間伐の目的と作業方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	4-6	人工林の造林技術を実施できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-7	天然林における施業方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-8	山林毎にどのような施業方法が適切か理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
5 森林保護管理	知識・理解	5-1	森林の観察方法や観察部位について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-2	森林における病害や虫害の種類を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-3	森林に被害を及ぼす鳥獣の種類を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-4	森林の気象被害の発生機構を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5-5	森林火災の発生原因や防火対策を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	5-6	森林被害に対し、対策を実施できる。	A B C D E	A B C D E

6 収穫技術	知識・理解	6-1	立木の収穫時期、伐倒作業、造材作業、集材作業、高性能林業機械など伐出技術	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	6-2	集材方法と特徴、伐採した木材の測定方法など、伐採方法と伐出技術について理	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	6-3	森林を通る道の種類と働きについて理解し説明できる。	A B C D E	A B C D E
7 生産管理	知識・理解	7-1	生産計画を理解し、説明できる	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	7-2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	7-3	生産計画を理解し、説明ができる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	7-5	販売計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E

II 生産管理（畜産）

項目	評価事項		中間評価	最終評価	
	No	内容			
畜産基礎	知識・理解	1-1	家畜の生活環について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-2	経営形態の種類と特徴について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-3	飼料の種類や給与形態について、理解し説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	1-4	飼料管理の重要ポイントを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
家畜と飼料の基礎知識（牛）	知識・理解	2-1	牛の品種と特徴について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-2	牛の飼育方法と特徴について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-3	牛舎の種類とその構造について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-4	牛の消化器の構造と消化のしくみについて理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-5	飼料の種類とその成分について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-6	適切な飼料給与について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-7	疾病とその発生要因、症状、生産性への影響を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-8	生殖器の構造・機能について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-9	繁殖生理について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-10	発情生理と人工授精について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-11	子牛の哺育と育成方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2-12	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
管理作業（牛）	知識・理解	3-1	1日の作業スケジュールについて理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-2	(施設) 通路の点検が出来る。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-3	(施設) 飼料の管理、掃き寄せが出来る。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-4	(施設) 飼槽の管理が出来る。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-5	(施設) 水槽の管理が出来る。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-6	(施設) 牛の快適な環境を理解し、牛舎の換気が出来る。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-7	(施設) 牛床の管理が出来る	A B C D E	A B C D E
	技能	3-8	(施設) 外部寄生虫の防除方法を理解し、実践できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-9	(施設) 牛舎内の牛の観察をして、異常を発見できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-10	(健康の点検) 食欲の有無を観察し、異常が発見できる。	A B C D E	A B C D E

3 管理作業（牛）	技能	3-11	(健康の点検)目の観察をし、異常を発見できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-12	(健康の点検)鼻の観察をし、異常が発見できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-13	(健康の点検)挙動を観察し、その疾病や課題が発見できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-14	(健康の点検)尾根部や尾の状態を観察し、異常が発見できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-15	(健康の点検)呼吸の状態を観察し、異常が発見できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-16	(健康の点検)発咳を発見し、原因がわかる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-17	(健康の点検)牛の適正な体温を理解し、異常時は発見できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-18	(健康の点検)被毛の状態を観察し、異常を発見できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-19	(繁殖)発情の周期を理解し、観察・発見できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	3-20	(乳牛)搾乳の手順を理解し、実践できる。	A B C D E	A B C D E
4 家畜と飼料の基礎知識（豚）	知識・理解	4-1	豚の品種と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-2	豚の繁殖方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-3	子豚の飼育方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-4	肥育豚の飼育方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-5	飼料の種類や特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-6	消化器の構造と消化のしくみを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-7	豚の疾病と予防方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-8	豚舎の環境と衛生管理について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-9	暑熱が豚に及ぼす影響について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-10	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	4-11	ワクチン接種プログラムを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
5 管理作業（豚）	技能	5-1	子豚哺乳・育成時の適温について理解し、適切な暖房使用ができる。	A B C D E	A B C D E
	技能	5-2	豚の習性を理解し、正しい接し方ができる。	A B C D E	A B C D E
	技能	5-3	適切に飼槽、飲水の管理ができる。	A B C D E	A B C D E
	技能	5-4	子豚の去勢方法について理解し、適切に実施できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	5-5	繁殖豚の発情メカニズム、交配、分娩について理解し、実践できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	5-6	飼料の保存や取扱いについて理解し、実践できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	5-7	暑熱時の適切な管理方法について理解し、実践できる。	A B C D E	A B C D E

6 家畜の飼料の基礎知識(鶏)	知識・理解	6-1	鳥の品種と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	6-2	飼育設備の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	6-3	鶏舎の設備と機器と使用方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	6-4	消化器の構造と消化・吸収のしくみを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	6-5	飼料の種類と特徴を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	6-6	鶏の疾病と予防方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	6-7	鳥インフルエンザとその防御方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	6-8	糞尿の処理方法や堆肥利用の方法を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	6-9	(採卵鶏) 産卵鶏の産卵と成鶏の管理について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	6-10	(採卵鶏) 採卵の採取とふ化やひなの管理について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
6 (鶏) 家畜の飼料の基礎知識	知識・理解	6-11	(採卵鶏) 鶏卵の規格と品質、品質を決める要因を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	6-12	(肉用鶏) 肉用鶏の成長の特徴について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	6-13	(肉用鶏) 入すうから出荷までの管理について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	6-14	(肉用鶏) 肉用鶏の調査方法について理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
7 管理作業(鶏)	技能	7-1	育すう期の適切な温度・湿度を理解し、適切な温度・湿度・換気管理ができる。	A B C D E	A B C D E
	技能	7-2	生育期に合わせて、適切な給餌器・給水器管理ができる。	A B C D E	A B C D E
	技能	7-3	デビークを行う理由を理解し、適切に実施できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	7-4	適切な体重を理解し、適切な時期に体重測定が実施できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	7-5	飼料の適切な管理方法について理解し、実施できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	7-6	鶏舎の適切な管理温度を理解し、換気や防寒対策ができる。	A B C D E	A B C D E
8 衛生管理	知識・理解	8-1	家畜区域と管理区域の違いを理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	8-2	管理区域の出入り口の消毒の必要性や消毒施設を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	8-3	消毒器・消毒層・消毒帯の管理方法を理解し、実践できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	8-4	消毒薬の使用上の注意を理解し、適切に使用できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	8-5	衛生管理区域内への鳥類、小動物の侵入の必要性を理解し、実施できる。	A B C D E	A B C D E
9 生産管理	知識・理解	9-1	生産計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	9-2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	9-3	生産計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	9-5	販売計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E

Ⅲ 自分自身が頑張って取り組んでいること、困っていること（中間評価時）

[]

(様式第 14 号)

経営実習Ⅱ 自己点検表

臨地実務実習施設名	
学生氏名	

中間評価記載日	年 月 日
最終評価記載日	年 月 日

【評価基準】

評価	内容
A : できている	助言・指導を特に必要とせず、良く理解し十分に積極的に行動できている。
B : ややできている	助言・指導を時として必要だが、理解し積極的に行動できている。
C : 普通	助言・指導があれば、何とか理解して行動できている。
D : ややできていない	助言・指導があっても理解度が低くて消極的であり、なかなか行動できていない。
E : 全くできていない	助言・指導があっても、理解できないため、行動ができない。

I 共通

項目	区分	評価事項	中間評価	最終評価
職業人としての適性	志向・態度	規則や心得を守ることが出来る。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	与えられた仕事を、責任を持って遂行できる。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	従業員と協調して仕事出来る。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	実習学生として必要な基礎知識を有している。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	農林業に対する探究心・意欲及び創造性が見られる。	A B C D E	A B C D E
生産管理	知識・理解 技能	生産に関する基礎知識・技能(※経営種目別)	-	-
作業管理	志向・態度	日々の作業結果(作業時間、作業条件等)を作業日誌に記録している。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	作業効率を考えて必要な道具、資材、機械等の準備が出来る。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	年間の出荷(生産計画)を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	年間の圃場利用計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	労働力・生育状況に見合った作業計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	作業に必要な道具、資材、機械等を整理整頓できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	作業遅れが生じたときの対応策を考えられる。	A B C D E	A B C D E
販売管理	志向・態度	市況情報を知っている。	A B C D E	A B C D E
	技能	市況や生産技術を考慮して、適切な売上・単価目標を決めることが出来る。	A B C D E	A B C D E
財務管理	知識・理解	減価償却に関する知識など、簿記・会計理論を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	借入金を返済するための資金繰り計画の立て方を理解し、説明できる	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	収入や支出の時期、金額を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	単位当たり(収量や面積あたり)の資材費を把握できる。	A B C D E	A B C D E

II 生産管理（栽培）

項目	評価事項		評価基準	評価基準	
	No	内容			
生産管理	知識・理解	1	生産計画を理解し、説明できる	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3	生産計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	4	作業記録を集計し、分析できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5	販売計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	6	販売計画に沿って販売が行われているか、確認できる。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	7	市場調査、市場分析をおこなって、必要な情報を集めている。	A B C D E	A B C D E
	技能	8	売上を確認し、計画との差を判断できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	9	生産物の原価を計算できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	10	栽培品目毎に収支計算ができる。	A B C D E	A B C D E
	技能	11	栽培品目毎に損益分岐点分析ができる。	A B C D E	A B C D E
	技能	12	作業記録や生産結果、販売結果を分析し、改善方法を提案できる。	A B C D E	A B C D E

II 生産管理（林業）

項目	評価事項		評価基準	評価基準	
	No	内容			
生産管理	知識・理解	1	生産計画を理解し、説明できる	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3	生産計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	4	作業記録を集計し、分析できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5	販売計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	6	販売計画に沿って販売が行われているか、確認できる。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	7	市場調査、市場分析をおこなって、必要な情報を集めている。	A B C D E	A B C D E
	技能	8	売上を確認し、計画との差を判断できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	9	生産物の原価を計算できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	10	品目毎に収支計算ができる。	A B C D E	A B C D E
	技能	11	品目毎に損益分岐点分析ができる。	A B C D E	A B C D E
	技能	12	作業記録や生産結果、販売結果を分析し、改善方法を提案できる。	A B C D E	A B C D E

II 生産管理（畜産）

項目		評価事項		評価基準	評価基準
		No	内容		
生産管理	知識・理解	1	生産計画を理解し、説明できる	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	2	生産計画に必要な基礎資料を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	3	生産計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	4	作業記録を集計し、分析できる。	A B C D E	A B C D E
	知識・理解	5	販売計画を理解し、説明できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	6	販売計画に沿って販売が行われているか、確認できる。	A B C D E	A B C D E
	志向・態度	7	市場調査、市場分析をおこなって、必要な情報を集めている。	A B C D E	A B C D E
	技能	8	売上を確認し、計画との差を判断できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	9	生産物の原価を計算できる。	A B C D E	A B C D E
	技能	10	品目毎に収支計算ができる。	A B C D E	A B C D E
	技能	11	品目毎に損益分岐点分析ができる。	A B C D E	A B C D E
	技能	12	作業記録や生産結果、販売結果を分析し、改善方法を提案できる。	A B C D E	A B C D E

Ⅲ 自分自身が頑張って取り組んでいること、困っていること

[]

(講義名) 報告書

学 年 _____

学生氏名 _____

実習先名 _____

研修期間 平成 年 月 日から

平成 年 月 日まで

[研修先]

農林業基礎・経営概況等（Ⅰ）

代表者名				
事業所名 (法人の場合)				
事業 内 容	設立年		資本金	
	従業員数		年間売上	
	主要事業内容			
区分		面積等		主要作物名等
水田		a		
普通畑		a		
施 設	ガラス室	棟	m ²	
	ハウス	棟	m ²	
樹 園 地	茶園	a	品種園 在来園 自園自製	
	果樹園	a	柑橘園 落葉果樹園 その他	
	果樹園	a	柑橘園 落葉果樹園 その他	
その他		a		
山林		ha		
家 畜	乳用牛	頭		
	肉用牛	頭		
	種豚	頭		
	肉豚	頭		
	鶏	羽	採卵鶏	ブロイラー
	その他			

実習記録

月 日	月 日 曜日	天 候	
\	研修内容	着眼点・反省点・疑問点	
午前			
午後			
指導 事項	(担当者 :)	(担当者 :)	

月 日	月 日 曜日	天 候	
\	研修内容	着眼点・反省点・疑問点	
午前			
午後			
指導 事項	(担当者 :)	(担当者 :)	

経営実習 I 巡回指導計画

別添資料14-2

No	教員	学生数	3年前期																															
			第1週							第2週							第3週							第4週										
			月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
1	多々良 明夫 (教授・専)	1											1																			1		
2	森口 卓哉 (教授・専)	1											1																			1		
3	祐森 誠司 (教授・専)	1											1																			1		
4	逢坂 興宏 (教授・専)	1								1																			1					
5	天野 哲郎 (教授・専)	1								1																			1					
6	菊池 宏之 (教授・専)	1								1																			1					
7	柯(栗田)麗華 (教授・専)	1									1																			1				
8	前田 節子 (教授・専)	1									1																			1				
9	大塚 誠 (准教授・専)	1											1																		1			
10	平岡 裕一郎 (准教授・専)	1									1																			1				
11	中山 正典 (准教授・専)	1									1																			1				
12	丹羽 康夫 (准教授・専)	1									1																			1				
13	内藤 博敬 (准教授・専)	1									1																			1				
14	太田 智 (講師・専)	1								1																			1					
15	相蘇(眞田)春菜 (助教・専)	1										1																			1			
16	長藤 亮彦 (講師・実専)	1							1																			1						
17	大石 竜 (講師・実専)	1										1																			1			
18	貞弘恵 (講師・実専)	1							1																			1						
19	松尾 和之 (教授・実(研))	1											1																		1			
20	佐藤 展之 (教授・実(研))	1											1																		1			
21	外側 正之 (教授・実(研))	1											1																		1			
22	小澤 朗人 (教授・実(研))	1							1																			1						
23	杉山 恵太郎 (教授・実(研))	1									1																			1				
24	池田 潔彦 (教授・実(研))	1									1																			1				

教員時間割

別添資料14-4

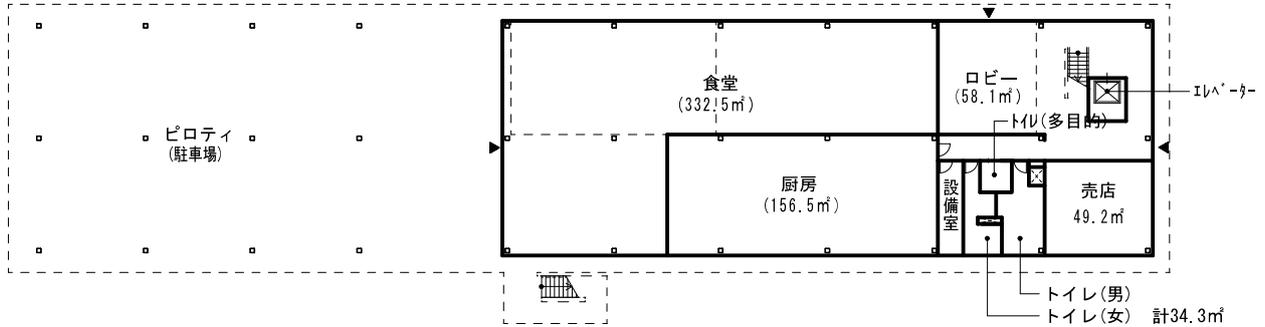
No	教員名	曜日 時限	前期時間割																												
			月					火					水					木					金								
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5				
1	多々良 明夫 (教授・専)	授業科目名 対象						県内農林業事情						静岡学																	
2	森口 卓哉 (教授・専)	授業科目名 対象	植物生理生態学	植物生理生態学			技術者倫理						農林業のための生物学						植物生理生態学	植物生理生態学											
3	祐森 誠司 (教授・専)	授業科目名 対象		農林業のための化学	農学概論	農学概論		情報実習Ⅱ(大卒)	県内農林業事情	農学概論	農学概論		飼料総論	情報実習Ⅱ(大卒)	情報実習Ⅱ(大卒)			情報実習Ⅱ(大卒)	情報実習Ⅱ(大卒)	家畜飼養学	農学概論			情報実習Ⅱ(大卒)	情報実習Ⅱ(大卒)						
4	逢坂 興宏 (教授・専)	授業科目名 対象					技術者倫理						森林計画・政策論						情報処理基礎						森林土壌学						
5	天野 哲郎 (教授・専)	授業科目名 対象		農林業政策									農林業政策	農林業政策					法と農業経営	経営戦略											
6	菊池 宏之 (教授・専)	授業科目名 対象					経営管理論											法と農業経営													
7	柯(栗田)麗華 (教授・専)	授業科目名 対象											マーケティング実務Ⅱ	マーケティング実務Ⅱ					マーケティング実務Ⅱ	マーケティング実務Ⅱ									販売管理論		
8	前田 節子 (教授・専)	授業科目名 対象		食品加工実習	食品加工実習								マーケティング実務Ⅱ	マーケティング実務Ⅱ					法と農業経営									大学3年			
9	大塚 誠 (准教授・専)	授業科目名 対象											情報実習Ⅱ(大卒)	情報実習Ⅱ(大卒)	情報実習Ⅱ(大卒)				情報実習Ⅱ(大卒)	情報実習Ⅱ(大卒)	情報実習Ⅱ(大卒)			情報実習Ⅱ(大卒)	情報実習Ⅱ(大卒)						
10	平岡 裕一郎 (准教授・専)	授業科目名 対象					農学概論	農学概論					農学概論	農学概論	森林計画・政策論				法と農業経営												
11	中山 正典 (准教授・専)	授業科目名 対象	農林業史	農林業史			歴史学概論																				農村景観論				
12	丹羽 康夫 (准教授・専)	授業科目名 対象	分子生物学	分子生物学	農学概論	農学概論	技術者倫理						農学概論	農学概論	分子生物学	分子生物学					農学概論	在来作物学					分子生物学				
13	内藤 博敬 (准教授・専)	授業科目名 対象																									食品科学				
14	太田 智 (講師・専)	授業科目名 対象	情報実習Ⅱ(専)	情報実習Ⅱ(専)									情報実習Ⅱ(専)	情報実習Ⅱ(専)	総合実習				情報実習Ⅱ(専)	情報実習Ⅱ(専)	総合実習			情報実習Ⅱ(専)	情報実習Ⅱ(専)	総合実習	総合実習				
15	相蘇(真田)春菜 (助教・専)	授業科目名 対象	演習林実習Ⅱ	演習林実習Ⅱ	演習林実習Ⅱ								演習林実習Ⅱ	演習林実習Ⅱ	総合実習													総合実習			
16	長藤 亮彦 (講師・実専)	授業科目名 対象											大型機械実習	大型機械実習	大型機械実習				大型機械実習	大型機械実習	大型機械実習	大型機械実習			大型機械実習	大型機械実習	大型機械実習	大型機械実習			
17	大石 竜 (講師・実専)	授業科目名 対象	情報実習Ⅱ(専)	情報実習Ⅱ(専)									情報実習Ⅱ(専)	情報実習Ⅱ(専)	総合実習				情報実習Ⅱ(専)	情報実習Ⅱ(専)	総合実習			情報実習Ⅱ(専)	情報実習Ⅱ(専)	総合実習	総合実習				
18	貞弘恵 (講師・実専)	授業科目名 対象											情報実習Ⅱ(大卒)	情報実習Ⅱ(大卒)	総合実習	GAP演習	GAP演習							情報実習Ⅱ(大卒)	家畜生理解剖学						
19	松尾 和之 (教授・実(研))	授業科目名 対象	農林業のための科学	農林業のための科学	農学概論	農学概論							農学概論	農学概論	農林業のための科学	農林業のための科学					作物学	農学概論			農林業のための科学	農林業のための科学					
20	佐藤 展之 (教授・実(研))	授業科目名 対象											県内農林業事情	農学概論	収穫後生理学									肥料・植物栄養学							
21	外側 正之 (教授・実(研))	授業科目名 対象											農学概論	農学概論	農学概論	農学概論								植物病理学							
22	小澤 胡人 (教授・実(研))	授業科目名 対象																										情報実習Ⅱ(大卒)			
23	杉山 恵太郎 (教授・実(研))	授業科目名 対象											県内農林業事情	農学概論	農学概論									農学概論	園芸学						
24	池田 潔彦教授 (教授・実(研))	授業科目名 対象											木材生産システム	木材生産システム										木材利用・流通論	木材利用・流通論						

教員時間割

		後期時間割																																								
No	教員名	曜日 時限	月					火					水					木					金																			
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5															
1	多々良 明夫 (教授・専)	授業科目名 対象											静岡学 大学1年																					応用昆虫学 大学2年								
2	森口 卓哉 (教授・専)	授業科目名 対象				果樹園芸学 大学2年											農と食の健康論 短大1冬	農と食の健康論 短大1冬	農と食の健康論 大学2年																流通加工論 短大1冬	流通加工論 短大1冬						
3	祐森 誠司 (教授・専)	授業科目名 対象									自給飼料 大学2年											畜産概論 大学1年																				
4	逢坂 興宏 (教授・専)	授業科目名 対象																			農業気象学 大学2年						情報処理応用 大学2年						農林業のための通学 大学1年					環境と農林業 大学1年				
5	天野 哲郎 (教授・専)	授業科目名 対象				農林業経営学 大学1年																									資農と農産開通法 短大1秋	資農と農産開通法 短大1秋										
6	菊池 宏之 (教授・専)	授業科目名 対象									農と食の健康論 大学3年	農と食の健康論 大学3年									フードシステム論 大学1年										短大1秋	短大1秋	短大1秋	短大1秋		アグリフーズシステム論 短大1秋	アグリフーズシステム論 短大1秋					
7	柯(栗田)麗華 (教授・専)	授業科目名 対象									マーケティング論 大学2年	マーケティング論 短大2秋	マーケティング論 短大2秋			販売実習 大学3年	販売実習 大学3年				マーケティング論 短大2秋	マーケティング論 短大2秋				マーケティング論 短大2秋	マーケティング論 短大2秋				販売実習 大学3年	販売実習 大学3年										
8	前田 節子 (教授・専)	授業科目名 対象									6次産業化実践 大学3年	6次産業化実践 大学3年	食品加工学 大学2年			食文化論 大学2年	食品加工演習 短大1秋冬	食品加工演習 短大1秋冬	食品加工演習 短大2秋	食品加工演習 短大2秋				資農と農産開通法 短大1秋	資農と農産開通法 短大1秋				食品加工演習 短大1秋	食品加工演習 短大1秋	食品加工演習 短大1秋冬	食品加工演習 短大1秋冬										
9	大塚 誠 (准教授・専)	授業科目名 対象									家畜衛生学 大学2年	家畜衛生学 大学2年	家畜衛生学 大学2年	家畜衛生学 大学2年											家畜衛生学 短大1冬	家畜衛生学 短大1冬																
10	平岡 裕一郎 (准教授・専)	授業科目名 対象									樹木・組織学 大学1年	森林計画学 短大1秋	森林計画学 短大1秋	統計学 大学1年	統計学 大学2年	統計学 大学2年										統計学 短大1秋	統計学 短大1秋	統計学 短大1秋	統計学 短大1秋		統計学 短大1秋	統計学 短大1秋	統計学 短大1秋	統計学 短大1秋		森林生態学 短大1秋	森林生態学 短大1秋					
11	中山 正典 (准教授・専)	授業科目名 対象									農林業史 大学1年					農山村地域発展論 大学1年																										
12	丹羽 康夫 (准教授・専)	授業科目名 対象									生命科学 大学2年	生命科学 大学2年	分子生物学 大学1年																													
13	内藤 博敬 (准教授・専)	授業科目名 対象														医福食農連携論 大学2年				農と食の健康論 短大1冬	農と食の健康論 短大1冬	農と食の健康論 短大1冬				農と食の健康論 短大1秋	農と食の健康論 短大1秋				食品科学 短大1秋	食品科学 短大1秋										
14	太田 智 (講師・専)	授業科目名 対象									環境実習1(農学) 短大1秋冬	環境実習1(農学) 短大1秋冬	生命科学 大学2年	生命科学 大学2年	生命科学 大学2年				環境実習1(農学) 短大1秋冬	環境実習1(農学) 短大1秋冬	環境実習1(農学) 短大1秋冬	環境実習1(農学) 短大1秋冬																				
15	相蘇(真田)春菜 (助教・専)	授業科目名 対象									演習林実習1 短大1秋冬	演習林実習1 短大1秋冬			本質科学概論 大学2年			演習林実習1 短大1秋冬	演習林実習1 短大1秋冬	演習林実習1 短大1秋冬																						
16	長藤 亮彦 (講師・実専)	授業科目名 対象													大型機械実習 短大2年	大型機械実習 短大2年	大型機械実習 短大2年	大型機械実習 短大2年				農業気象学 大学2年	大型機械実習 短大2年	大型機械実習 短大2年	大型機械実習 短大2年	大型機械実習 短大2年																
17	大石 竜 (講師・実専)	授業科目名 対象									環境実習1(野学) 短大1秋冬	環境実習1(野学) 短大1秋冬	農林業経営学 大学1年					環境実習1(野学) 短大1秋冬	環境実習1(野学) 短大1秋冬	環境実習1(野学) 短大1秋冬	環境と農林業 大学1年																					
18	貞弘恵 (講師・実専)	授業科目名 対象									環境実習1(畜学) 短大1秋冬	環境実習1(畜学) 短大1秋冬						環境実習1(畜学) 短大1秋冬	環境実習1(畜学) 短大1秋冬	環境実習1(畜学) 短大1秋冬																						
19	松尾 和之 (教授・実(研))	授業科目名 対象													先端栽培技術 短大1冬	先端栽培技術 短大1冬									先端栽培技術 短大1冬	先端栽培技術 短大1冬																
20	佐藤 展之 (教授・実(研))	授業科目名 対象													植物生理生態学 大学1年			花き園芸学 大学2年			農業気象学 大学2年																					
21	外側 正之 (教授・実(研))	授業科目名 対象									環境実習1(茶) 短大1秋冬	環境実習1(茶) 短大1秋冬						環境実習1(茶) 短大1秋冬	環境実習1(茶) 短大1秋冬	環境実習1(茶) 短大1秋冬	環境と農林業 大学1年																					
22	小澤 朗人 (教授・実(研))	授業科目名 対象																																								
23	杉山 恵太郎 (教授・実(研))	授業科目名 対象																																								
24	池田 潔彦教授 (教授・実(研))	授業科目名 対象																																								

C棟レイアウト図

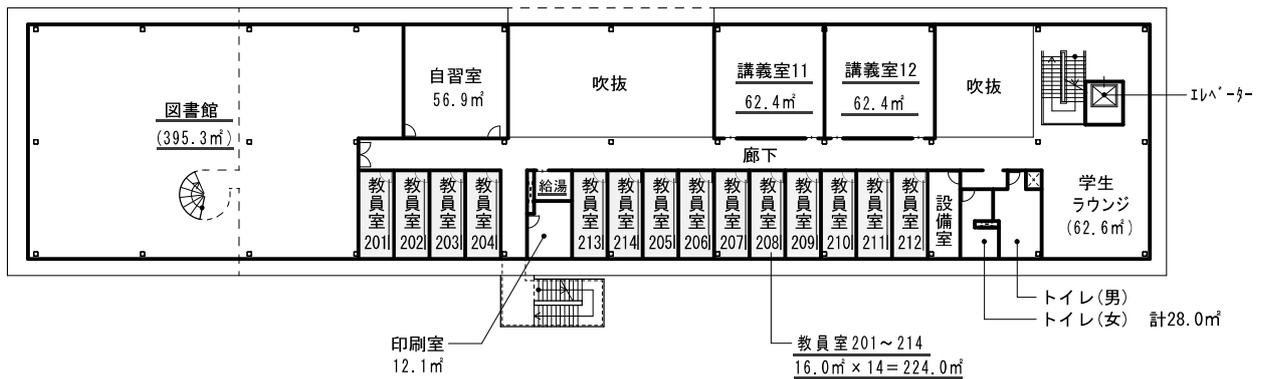
① 1階 (延床面積 : 730.3㎡)



< 1階平面図 >

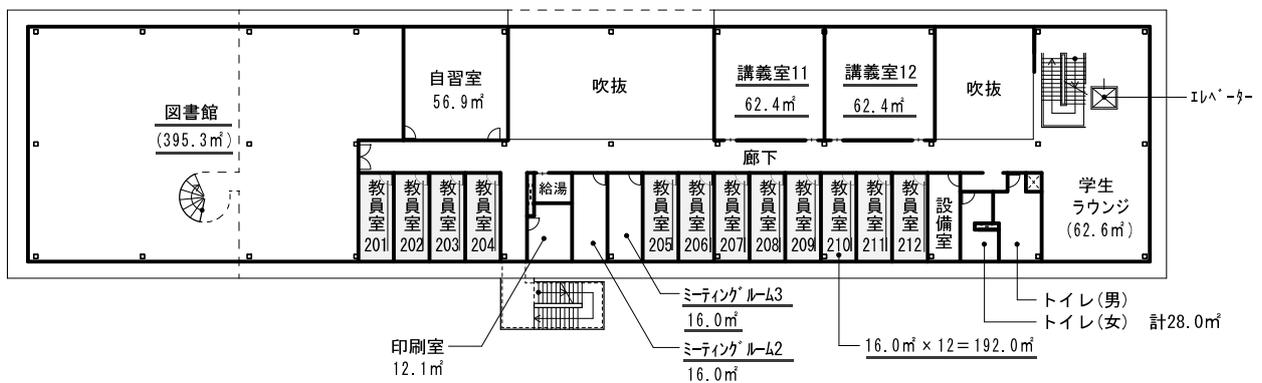
② 2階 (延床面積 : 1,110.6㎡)

ア) 第2年次



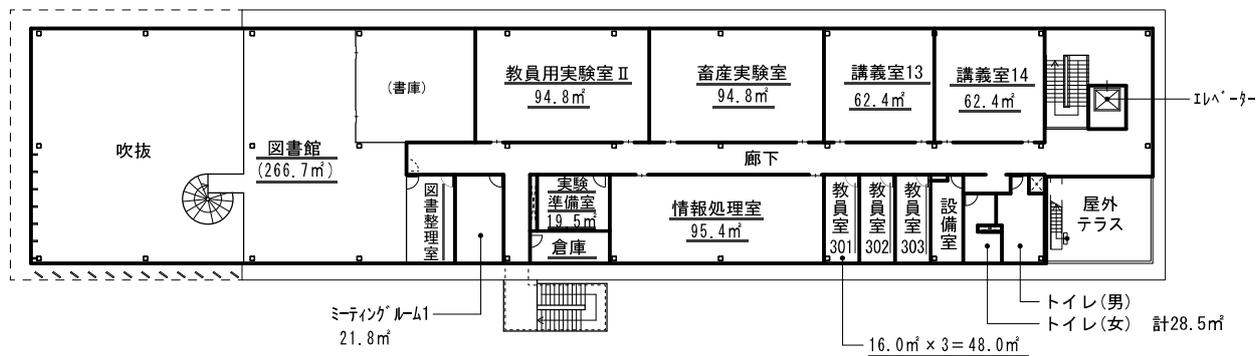
< 2階平面図 (第2年次) >

イ) 第3年次~



< 2階平面図 (第3年次~) >

③ 3階（延床面積：1,015.5m²）



< 3階平面図 >

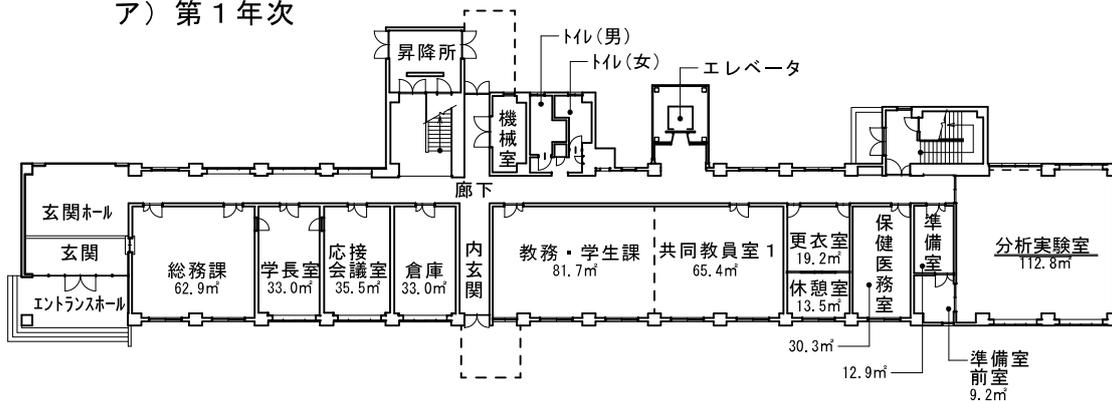
3 建物の平面図

- : 静岡県立農林環境専門職大学専用部分を示す。
- : 静岡県立農林環境専門職大学短期大学部専用を示す。
- : 静岡県立農林環境専門職大学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部の共用部分を示す。
(平成32年度は静岡県立農林大学校とも共用)

(1) A棟 (延床面積 : 3,094.6㎡)

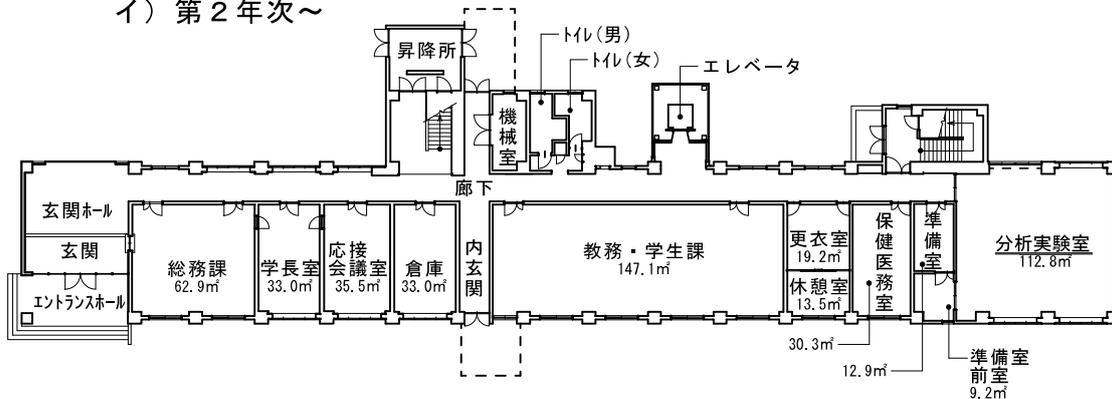
① 1階 (延床面積 : 815.3㎡)

ア) 第1年次



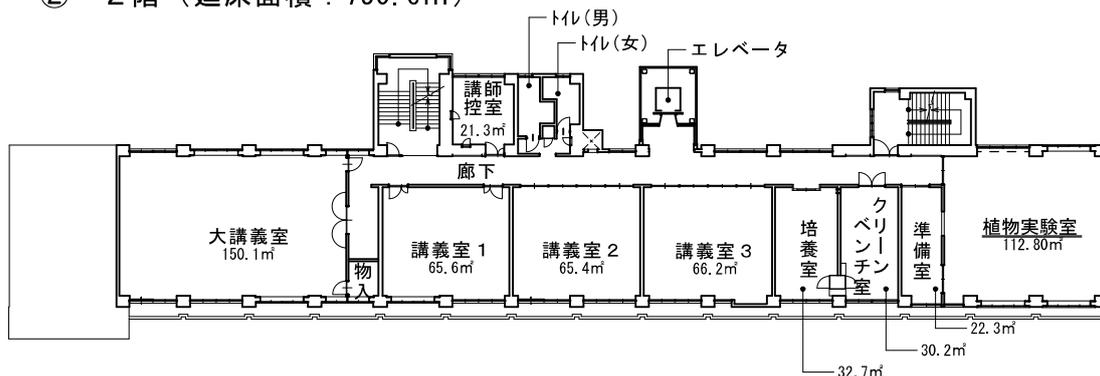
< 1階平面図 (第1年次) >

イ) 第2年次～



< 1階平面図 (第2年次～) >

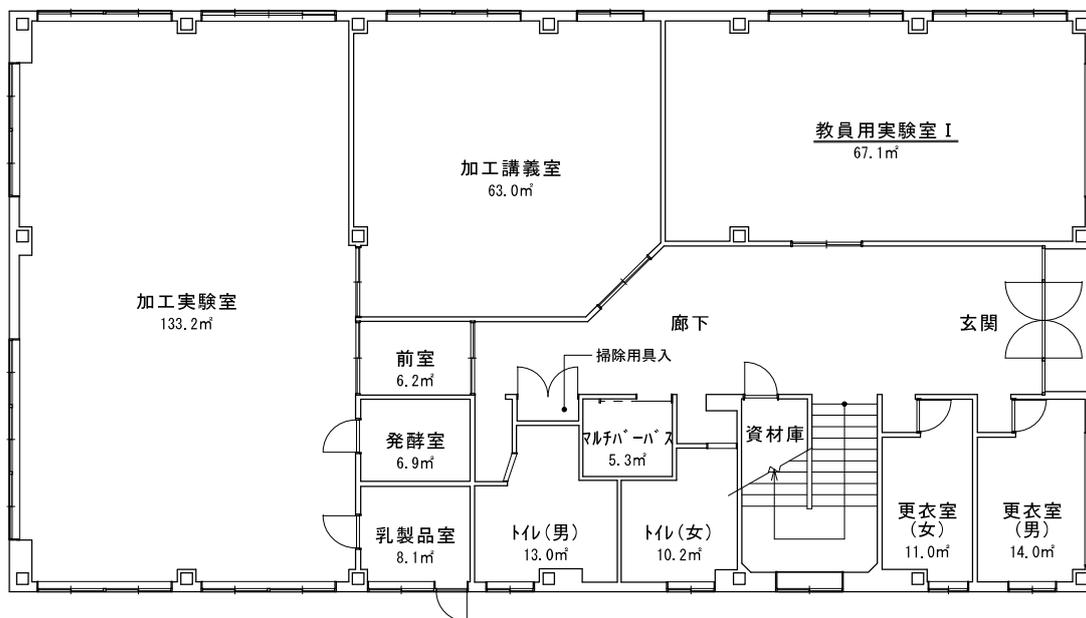
② 2階 (延床面積 : 750.6㎡)



< 2階平面図 >

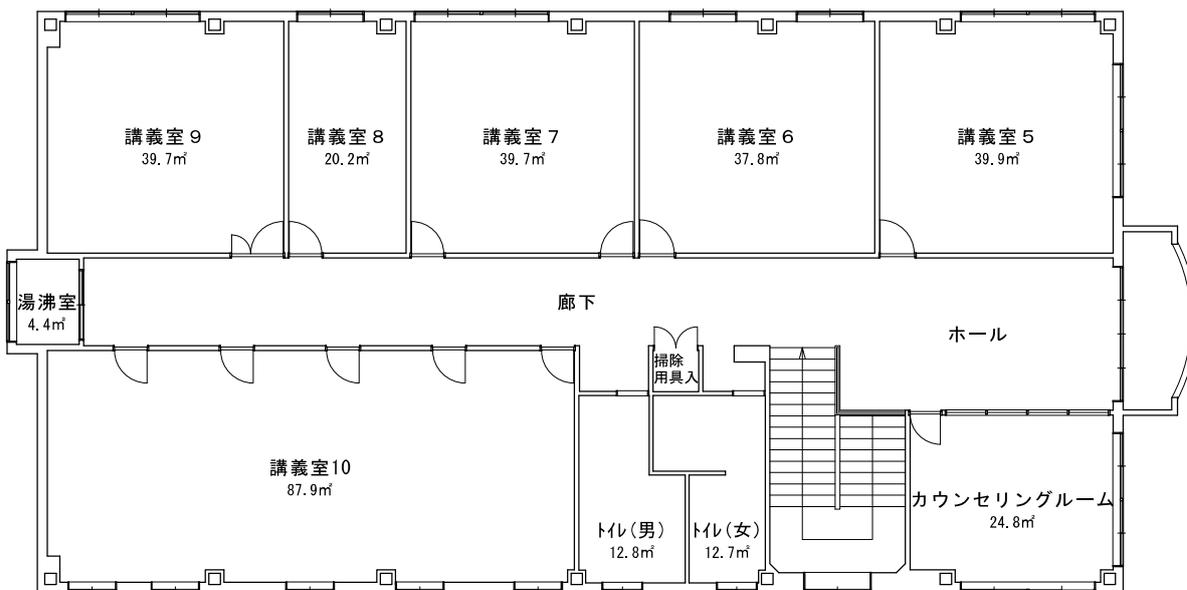
(3) B棟 (延床面積 : 845.0㎡)

① 1階 (延床面積 : 419.2㎡)



< 1階平面図 >

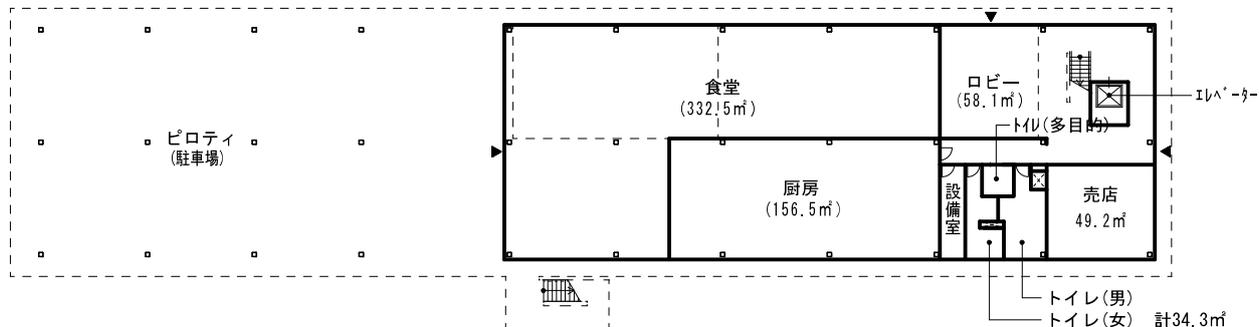
② 2階 (延床面積 : 425.8㎡)



< 2階平面図 >

(3) C棟 (延床面積 : 2,856.4㎡) 第2年次～

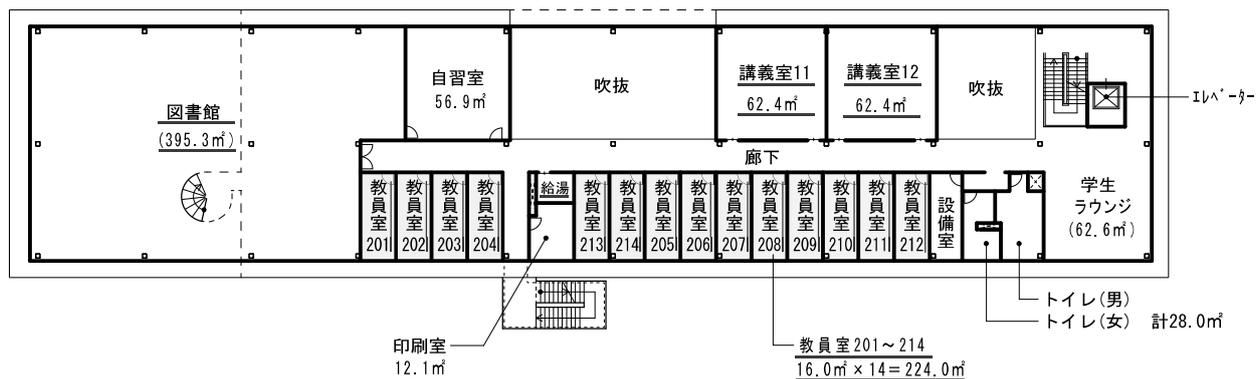
① 1階 (延床面積 : 730.3㎡)



< 1階平面図 >

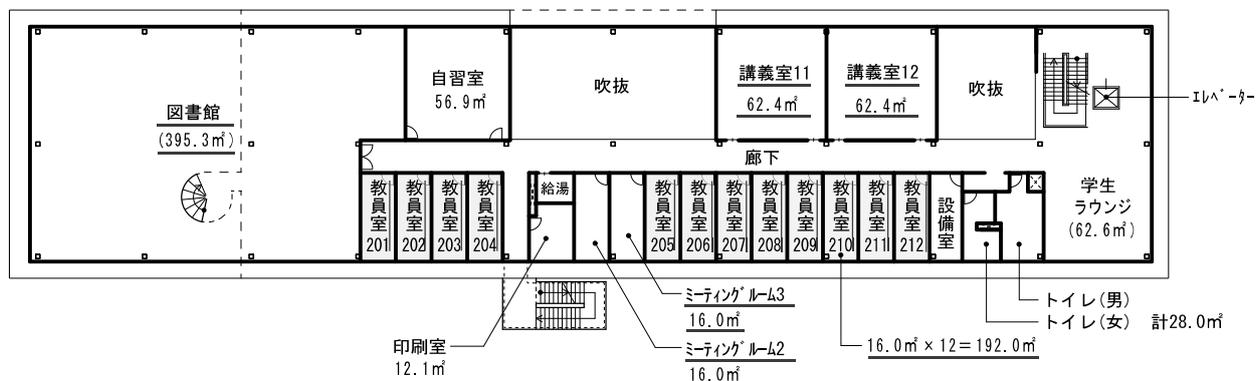
② 2階 (延床面積 : 1,110.6㎡)

ア) 第2年次



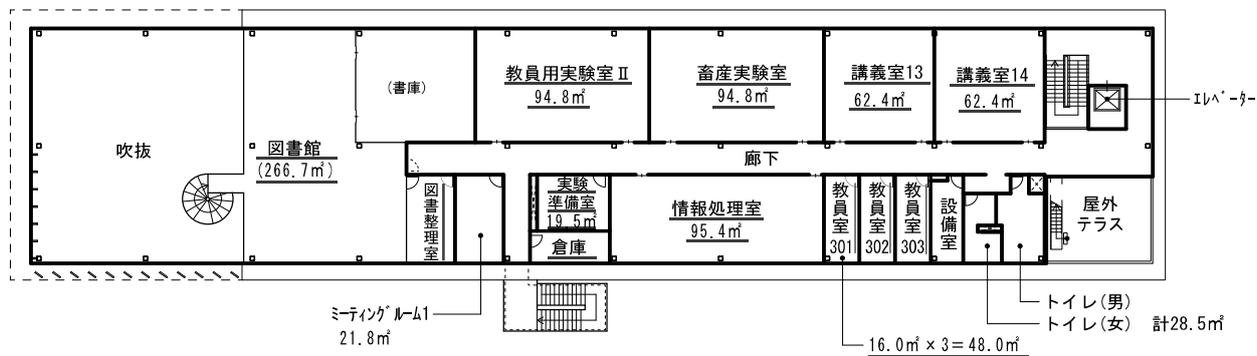
< 2階平面図 (第2年次) >

イ) 第3年次～



< 2階平面図 (第3年次～) >

③ 3階（延床面積：1,015.5m²）



< 3階平面図 >

4 面積表 (1) A棟

【第1年次】

1階	室名	面積 (m ²)
	総務課	62.9
	学長室	33.0
	応接会議室	35.5
	倉庫	33.0
	教務・学生課	81.7
	共同教員室1	65.4
	更衣室	19.2
	休憩室	13.5
	保健医務室	30.3
	準備室	12.9
	準備室前室	9.2
	分析実験室	112.8
	トイレ (男・女)	21.4
	エレベーター	20.4
	廊下・階段他	264.1
	小計	815.3

2階	室名	面積 (m ²)
	大講義室	150.1
	物入	5.9
	講義室1	65.6
	講義室2	65.4
	講義室3	66.2
	培養室	32.7
	クリーンベンチ室	30.2
	準備室	22.3
	植物実験室	112.8
	講師控室	21.3
	トイレ (男・女)	21.3
	エレベーター	20.4
	廊下・階段他	136.4
	小計	750.6

3階	室名	面積 (m ²)
	研究室301	21.8
	研究室302	22.1
	研究室303	21.5
	研究室304	21.5
	研究室305	22.5
	研究室306	21.6
	研究室307	21.5
	研究室308	22.4
	研究室309	21.5
	研究室310	21.5
	共同教員室2	43.9
	—	—
	臨時図書室	128.3
	—	—
	—	—
	—	—
	書庫	22.3
	閲覧室	112.7
	印刷室1	21.2
	トイレ (女)	21.1
	エレベーター	20.4
	廊下・階段他	161.4
	小計	749.2

4階	室名	面積 (m ²)
	研究室401	21.8
	研究室402	22.1
	研究室403	21.5
	研究室404	21.5
	研究室405	22.4
	研究室406	21.5
	研究室407	21.5
	研究室408	22.4
	研究室409	21.5
	研究室410	21.5
	研究室411	22.4
	研究室412	21.5
	研究室413	21.5
	研究室414	22.4
	研究室415	21.5
	視聴覚室	195.3
	印刷室2	21.1
	トイレ (男)	20.9
	エレベーター	20.4
	廊下・階段他	163.3
	小計	748.0

屋上階	室名	面積 (m ²)
	階段室	31.5

合計 3,094.6 m²

【第2年次】

1階	室名	面積 (m ²)
	総務課	62.9
	学長室	33.0
	応接会議室	35.5
	倉庫	33.0
	教務・学生課	147.1
	—	—
	更衣室	19.2
	休憩室	13.5
	保健医務室	30.3
	準備室	12.9
	準備室前室	9.2
	分析実験室	112.8
	トイレ (男・女)	21.4
	エレベータ	20.4
	廊下・階段他	264.1
	小計	815.3

2階	室名	面積 (m ²)
	大講義室	150.1
	物入	5.9
	講義室1	65.6
	講義室2	65.4
	講義室3	66.2
	培養室	32.7
	クリーンベンチ室	30.2
	準備室	22.3
	植物実験室	112.8
	講師控室	21.3
	トイレ (男・女)	21.3
	エレベータ	20.4
	廊下・階段他	136.4
	小計	750.6

3階	室名	面積 (m ²)
	研究室301	21.8
	研究室302	22.1
	研究室303	21.5
	研究室304	21.5
	研究室305	22.5
	研究室306	21.6
	研究室307	21.5
	研究室308	22.4
	研究室309	21.5
	研究室310	21.5
	研究室311	22.4
	研究室312	21.5
	臨時図書室	128.3
	—	—
	—	—
	—	—
	書庫	22.3
	講義室4	112.7
	印刷室1	21.2
	トイレ (女)	21.1
	エレベータ	20.4
	廊下・階段他	161.4
	小計	749.2

4階	室名	面積 (m ²)
	研究室401	21.8
	研究室402	22.1
	研究室403	21.5
	研究室404	21.5
	研究室405	22.4
	研究室406	21.5
	研究室407	21.5
	研究室408	22.4
	研究室409	21.5
	研究室410	21.5
	研究室411	22.4
	研究室412	21.5
	研究室413	21.5
	研究室414	22.4
	研究室415	21.5
	視聴覚室	195.3
	印刷室2	21.1
	トイレ (男)	20.9
	エレベータ	20.4
	廊下・階段他	163.3
	小計	748.0

屋上階	室名	面積 (m ²)
	階段室	31.5

合計 3,094.6 m²

【第3年次～】

1階	室名	面積 (m ²)
	総務課	62.9
	学長室	33.0
	応接会議室	35.5
	倉庫	33.0
	教務・学生課	147.1
	—	—
	更衣室	19.2
	休憩室	13.5
	保健医務室	30.3
	準備室	12.9
	準備室前室	9.2
	分析実験室	112.8
	トイレ (男・女)	21.4
	エレベータ	20.4
	廊下・階段他	264.1
	小計	815.3

2階	室名	面積 (m ²)
	大講義室	150.1
	物入	5.9
	講義室1	65.6
	講義室2	65.4
	講義室3	66.2
	培養室	32.7
	クリーンベンチ室	30.2
	準備室	22.3
	植物実験室	112.8
	講師控室	21.3
	トイレ (男・女)	21.3
	エレベータ	20.4
	廊下・階段他	136.4
	小計	750.6

3階	室名	面積 (m ²)
	研究室301	21.8
	研究室302	22.1
	研究室303	21.5
	研究室304	21.5
	研究室305	22.5
	研究室306	21.6
	研究室307	21.5
	研究室308	22.4
	研究室309	21.5
	研究室310	21.5
	研究室311	22.4
	研究室312	21.5
	ミーティングルーム4	65.4
	研究室313	21.5
	研究室314	22.4
	研究室315	19.0
	研究室316	22.3
	講義室4	112.7
	印刷室1	21.2
	トイレ (女)	21.1
	エレベータ	20.4
	廊下・階段他	161.4
	小計	749.2

4階	室名	面積 (m ²)
	研究室401	21.8
	研究室402	22.1
	研究室403	21.5
	研究室404	21.5
	研究室405	22.4
	研究室406	21.5
	研究室407	21.5
	研究室408	22.4
	研究室409	21.5
	研究室410	21.5
	研究室411	22.4
	研究室412	21.5
	研究室413	21.5
	研究室414	22.4
	研究室415	21.5
	視聴覚室	195.3
	印刷室2	21.1
	トイレ (男)	20.9
	エレベータ	20.4
	廊下・階段他	163.3
	小計	748.0

屋上階	室名	面積 (m ²)
	階段室	31.5

合計 3,094.6 m²

(2) B棟

1階	室名	面積 (m ²)
	教員用実験室 I	67.1
	加工講義室	63.0
	加工実験室	133.2
	前室	6.2
	発酵室	6.9
	乳製品室	8.1
	マルチパーパス室	5.3
	女子更衣室	11.0
	男子更衣室	14.0
	トイレ (男)	13.0
	トイレ (女)	10.2
	廊下・階段他	81.2
	小計	419.2

2階	室名	面積 (m ²)
	講義室5	39.9
	講義室6	37.8
	講義室7	39.7
	講義室8	20.2
	講義室9	39.7
	講義室10	87.9
	湯沸室	4.4
	カウンセリングルーム	24.8
	トイレ (男)	12.8
	トイレ (女)	12.7
	廊下・階段他	105.9
	小計	425.8

合計 845.0 m²

(3) C棟

【第2年次】

1階	室名	面積 (m ²)
	ロビー	58.1
	売店	49.2
	食堂・厨房	489.0
	多目的トイレ	34.3
	トイレ (男・女)	
	廊下・階段他	99.7
	小計	730.3

3階	室名	面積 (m ²)
	畜産実験室	94.8
	教員用実験室 II	94.8
	実験準備室	19.5
	講義室13	62.4
	講義室14	62.4
	情報処理室	95.4
	教員室301	16.0
	教員室302	16.0
	教員室303	16.0
	図書館	266.7
	ミーティングルーム1	21.8
	トイレ (男・女)	28.5
	廊下・階段他	221.2
	小計	1,015.5

2階	室名	面積 (m ²)
	講義室11	62.4
	講義室12	62.4
	図書館	395.3
	自習室	56.9
	教員室201	16.0
	教員室202	16.0
	教員室203	16.0
	教員室204	16.0
	教員室205	16.0
	教員室206	16.0
	教員室207	16.0
	教員室208	16.0
	教員室209	16.0
	教員室210	16.0
	教員室211	16.0
	教員室212	16.0
	教員室213	16.0
	教員室214	16.0
	学生ラウンジ	62.6
	印刷室	12.1
	トイレ (男・女)	28.0
	廊下・階段他	206.9
	小計	1,110.6

【第3年次～】

1階	室名	面積 (m ²)
	ロビー	58.1
	売店	49.2
	食堂・厨房	489.0
	多目的トイレ	34.3
	トイレ (男・女)	
	廊下・階段他	99.7
	小計	730.3

3階	室名	面積 (m ²)
	畜産実験室	94.8
	教員用実験室Ⅱ	94.8
	実験準備室	19.5
	講義室13	62.4
	講義室14	62.4
	情報処理室	95.4
	教員室301	16.0
	教員室302	16.0
	教員室303	16.0
	図書館	266.7
	ミーティングルーム1	21.8
	トイレ (男・女)	28.5
	廊下・階段他	221.2
	小計	1,015.5

2階	室名	面積 (m ²)
	講義室11	62.4
	講義室12	62.4
	図書館	395.3
	自習室	56.9
	教員室201	16.0
	教員室202	16.0
	教員室203	16.0
	教員室204	16.0
	教員室205	16.0
	教員室206	16.0
	教員室207	16.0
	教員室208	16.0
	教員室209	16.0
	教員室210	16.0
	教員室211	16.0
	教員室212	16.0
	ミーティングルーム2	16.0
	ミーティングルーム3	16.0
	学生ラウンジ	62.6
	印刷室	12.1
	トイレ (男・女)	28.0
	廊下・階段他	206.9
	小計	1,110.6

合計 2,856.4 m²

(4) 校舎面積

棟名	面積 (m ²)
A棟	3,094.6
B棟	845.0
C棟	2,856.4
計	6,796.0

5 施設整備スケジュール

	2018年度			2019年度												2020年度 (第1年次)												2021年度 (第2年次)													
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
A棟 改修工事																																									
				基本・実施設計																																					
B棟 建築工事																																									
				基本・実施設計																																					
C棟 (工事なし)																																									

(静岡県立農林環境専門職大学短期大学部同様)

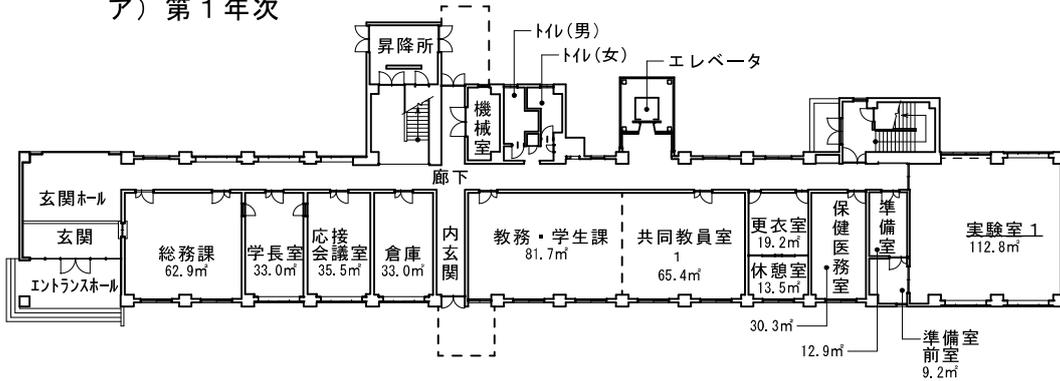
3 建物の平面図

- ：静岡県立農林専門職大学専用部分を示す。
- ：静岡県立農林専門職大学短期大学部専用を示す。
- ：静岡県立農林専門職大学短期大学部との共用部分を示す。
(平成32年度は静岡県立農林大学校と共用)

(1) A棟 (延床面積：3,094.6㎡)

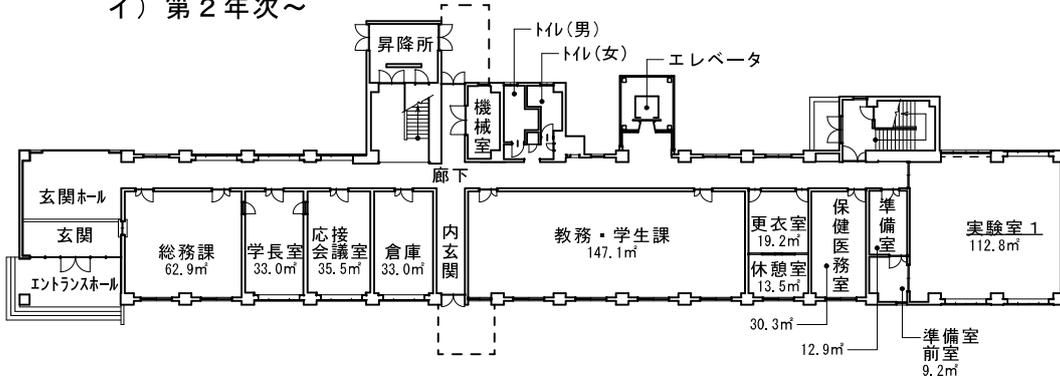
① 1階 (延床面積：815.3㎡)

ア) 第1年次



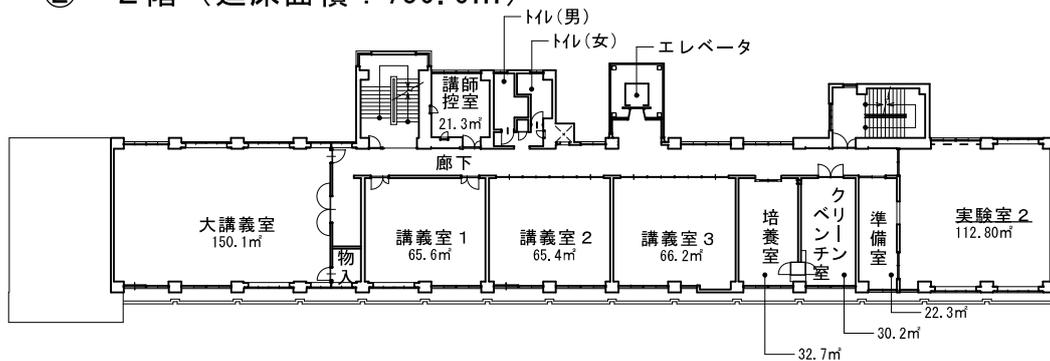
< 1階平面図 (第1年次) >

イ) 第2年次～



< 1階平面図 (第2年次～) >

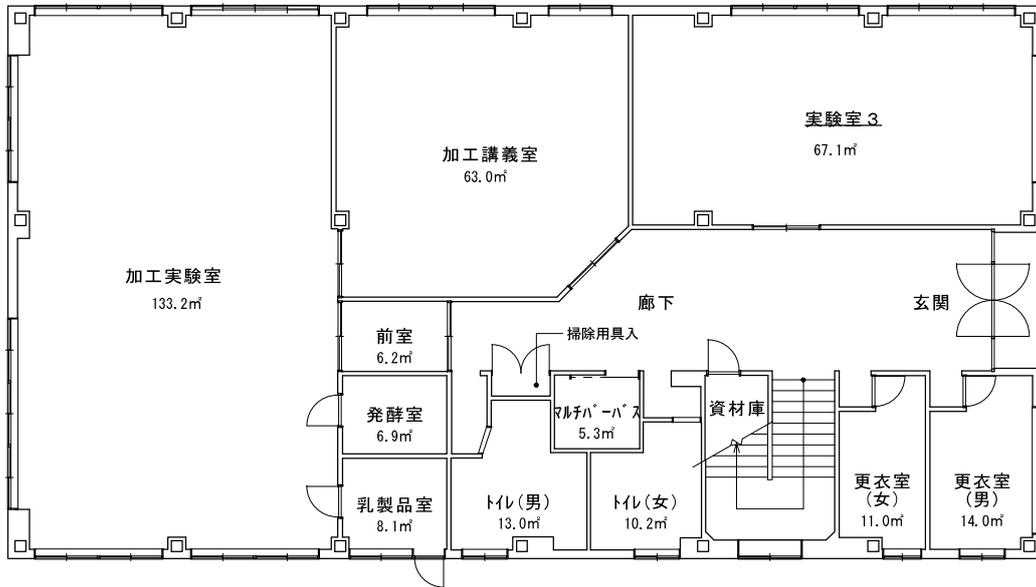
② 2階 (延床面積：750.6㎡)



< 2階平面図 >

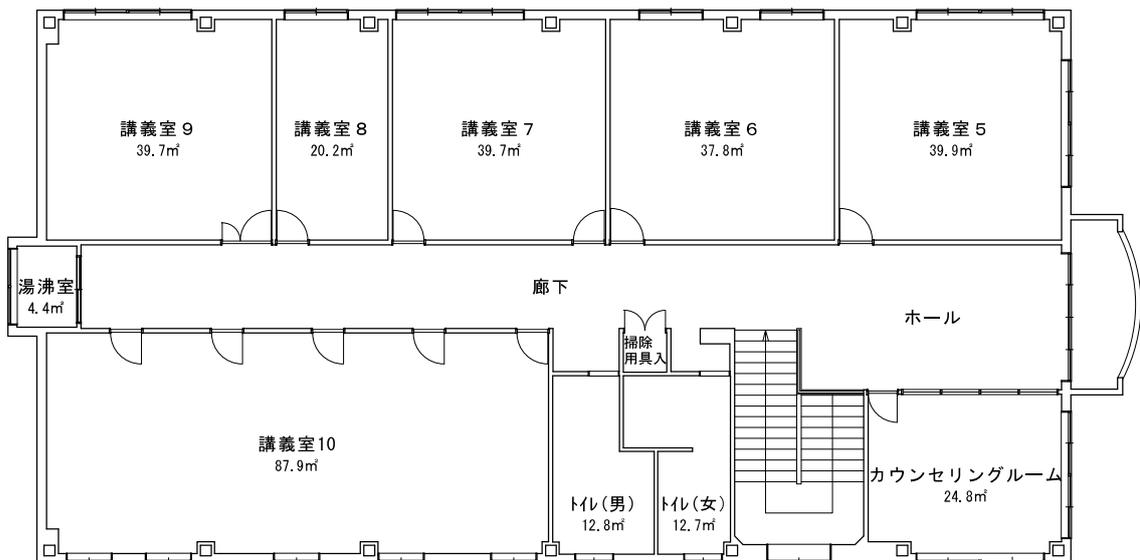
(2) B棟 (延床面積 : 845.0 m^2)

① 1階 (延床面積 : 419.2 m^2)



< 1階平面図 >

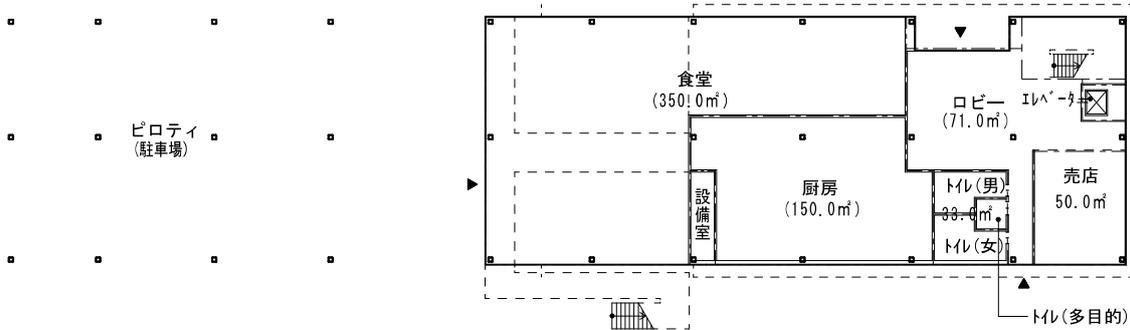
② 2階 (延床面積 : 425.8 m^2)



< 2階平面図 >

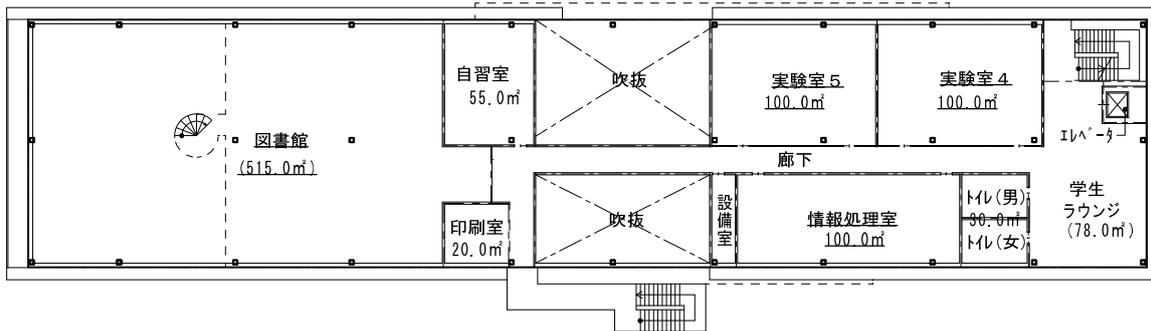
(3) C棟 (延床面積 : 2,856.4㎡)

① 1階 (延床面積 : 735.2㎡)



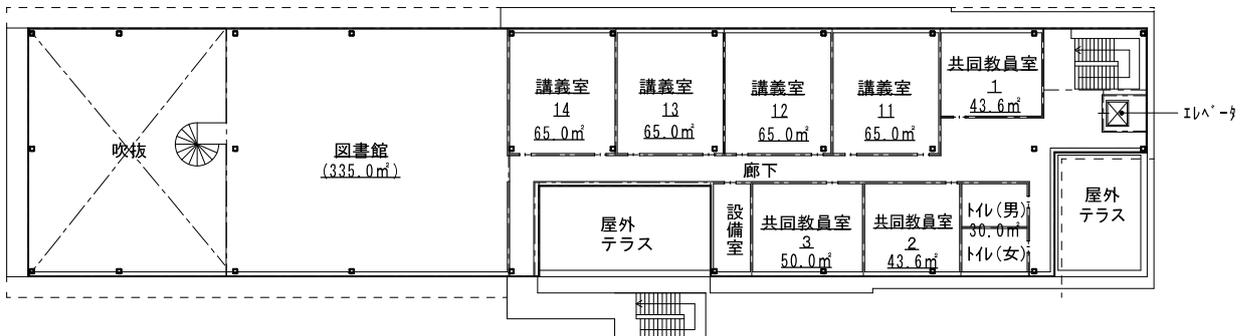
< 1階平面図 >

② 2階 (延床面積 : 1,153.0㎡)



< 2階平面図 >

③ 3階 (延床面積 : 968.2㎡)



< 3階平面図 >

4 面積表
(1) A棟

【第1年次】

1階	室名	面積 (m ²)
	総務課	62.9
	学長室	33.0
	応接会議室	35.5
	倉庫	33.0
	教務・学生課	81.7
	共同教員室1	65.4
	更衣室	19.2
	休憩室	13.5
	保健医務室	30.3
	準備室	12.9
	準備室前室	9.2
	実験室1	112.8
	トイレ (男・女)	21.4
	エレベーター	20.4
	廊下・階段他	264.1
	小計	815.3

2階	室名	面積 (m ²)
	大講義室	150.1
	物入	5.9
	講義室1	65.6
	講義室2	65.4
	講義室3	66.2
	培養室	32.7
	クリーンベンチ室	30.2
	準備室	22.3
	実験室2	112.8
	講師控室	21.3
	トイレ (男・女)	21.3
	エレベーター	20.4
	廊下・階段他	136.4
	小計	750.6

3階	室名	面積 (m ²)
	研究室301	21.8
	研究室302	22.1
	研究室303	21.5
	研究室304	21.5
	研究室305	22.5
	研究室306	21.6
	研究室307	21.5
	研究室308	22.4
	研究室309	21.5
	研究室310	21.5
	共同教員室2	43.9
	—	—
	臨時図書室	128.3
	—	—
	—	—
	—	—
	書庫	22.3
	閲覧室	112.7
	印刷室1	21.2
	トイレ (女)	21.1
	エレベーター	20.4
	廊下・階段他	161.4
	小計	749.2

4階	室名	面積 (m ²)
	研究室401	21.8
	研究室402	22.1
	研究室403	21.5
	研究室404	21.5
	研究室405	22.4
	研究室406	21.5
	研究室407	21.5
	研究室408	22.4
	研究室409	21.5
	研究室410	21.5
	研究室411	22.4
	研究室412	21.5
	研究室413	21.5
	研究室414	22.4
	研究室415	21.5
	視聴覚室	195.3
	印刷室2	21.1
	トイレ (男)	20.9
	エレベーター	20.4
	廊下・階段他	163.3
	小計	748.0

屋上階	室名	面積 (m ²)
	階段室	31.5

合計 3,094.6 m²

【第2年次】

1階	室名	面積 (m ²)
	総務課	62.9
	学長室	33.0
	応接会議室	35.5
	倉庫	33.0
	教務・学生課	147.1
	—	—
	更衣室	19.2
	休憩室	13.5
	保健医務室	30.3
	準備室	12.9
	準備室前室	9.2
	実験室1	112.8
	トイレ (男・女)	21.4
	エレベータ	20.4
	廊下・階段他	264.1
	小計	815.3

2階	室名	面積 (m ²)
	大講義室	150.1
	物入	5.9
	講義室1	65.6
	講義室2	65.4
	講義室3	66.2
	培養室	32.7
	クリーンベンチ室	30.2
	準備室	22.3
	実験室2	112.8
	講師控室	21.3
	トイレ (男・女)	21.3
	エレベータ	20.4
	廊下・階段他	136.4
	小計	750.6

3階	室名	面積 (m ²)
	研究室301	21.8
	研究室302	22.1
	研究室303	21.5
	研究室304	21.5
	研究室305	22.5
	研究室306	21.6
	研究室307	21.5
	研究室308	22.4
	研究室309	21.5
	研究室310	21.5
	研究室311	22.4
	研究室312	21.5
	臨時図書室	128.3
	—	—
	—	—
	—	—
	書庫	22.3
	講義室4	112.7
	印刷室1	21.2
	トイレ (女)	21.1
	エレベータ	20.4
	廊下・階段他	161.4
	小計	749.2

4階	室名	面積 (m ²)
	研究室401	21.8
	研究室402	22.1
	研究室403	21.5
	研究室404	21.5
	研究室405	22.4
	研究室406	21.5
	研究室407	21.5
	研究室408	22.4
	研究室409	21.5
	研究室410	21.5
	研究室411	22.4
	研究室412	21.5
	研究室413	21.5
	研究室414	22.4
	研究室415	21.5
	視聴覚室	195.3
	印刷室2	21.1
	トイレ (男)	20.9
	エレベータ	20.4
	廊下・階段他	163.3
	小計	748.0

屋上階	室名	面積 (m ²)
	階段室	31.5

合計 3,094.6 m²

【第3年次～】

1階	室名	面積 (m ²)
	総務課	62.9
	学長室	33.0
	応接会議室	35.5
	倉庫	33.0
	教務・学生課	147.1
	—	—
	更衣室	19.2
	休憩室	13.5
	保健医務室	30.3
	準備室	12.9
	準備室前室	9.2
	実験室1	112.8
	トイレ (男・女)	21.4
	エレベータ	20.4
	廊下・階段他	264.1
	小計	815.3

2階	室名	面積 (m ²)
	大講義室	150.1
	物入	5.9
	講義室1	65.6
	講義室2	65.4
	講義室3	66.2
	培養室	32.7
	クリーンベンチ室	30.2
	準備室	22.3
	実験室2	112.8
	講師控室	21.3
	トイレ (男・女)	21.3
	エレベータ	20.4
	廊下・階段他	136.4
	小計	750.6

3階	室名	面積 (m ²)
	研究室301	21.8
	研究室302	22.1
	研究室303	21.5
	研究室304	21.5
	研究室305	22.5
	研究室306	21.6
	研究室307	21.5
	研究室308	22.4
	研究室309	21.5
	研究室310	21.5
	研究室311	22.4
	研究室312	21.5
	ミーティングルーム	65.4
	研究室313	21.5
	研究室314	22.4
	研究室315	19.0
	研究室316	22.3
	講義室4	112.7
	印刷室1	21.2
	トイレ (女)	21.1
	エレベータ	20.4
	廊下・階段他	161.4
	小計	749.2

4階	室名	面積 (m ²)
	研究室401	21.8
	研究室402	22.1
	研究室403	21.5
	研究室404	21.5
	研究室405	22.4
	研究室406	21.5
	研究室407	21.5
	研究室408	22.4
	研究室409	21.5
	研究室410	21.5
	研究室411	22.4
	研究室412	21.5
	研究室413	21.5
	研究室414	22.4
	研究室415	21.5
	視聴覚室	195.3
	印刷室2	21.1
	トイレ (男)	20.9
	エレベータ	20.4
	廊下・階段他	163.3
	小計	748.0

屋上階	室名	面積 (m ²)
	階段室	31.5

合計 3,094.6 m²

(2) B棟

1階	室名	面積 (m ²)
	実験室3	67.1
	加工講義室	63.0
	加工実験室	133.2
	前室	6.2
	発酵室	6.9
	乳製品室	8.1
	マルチパーパス室	5.3
	女子更衣室	11.0
	男子更衣室	14.0
	トイレ (男)	13.0
	トイレ (女)	10.2
	廊下・階段他	81.2
小計		419.2

2階	室名	面積 (m ²)
	講義室5	39.9
	講義室6	37.8
	講義室7	39.7
	講義室8	20.2
	講義室9	39.7
	講義室10	87.9
	湯沸室	4.4
	カウンセリングルーム	24.8
	トイレ (男)	12.8
	トイレ (女)	12.7
	廊下・階段他	105.9
小計		425.8

合計 845.0 m²

(3) C棟

1階	室名	面積 (m ²)
	ロビー	71.0
	売店	50.0
	食堂・厨房	500.0
	多目的トイレ	33.0
	トイレ (男・女)	
	廊下・階段他	81.2
小計		735.2

2階	室名	面積 (m ²)
	実験室4	100.0
	実験室5	100.0
	情報処理室	100.0
	図書館	515.0
	学生ラウンジ	78.0
	自習室	55.0
	印刷室	20.0
	トイレ (男・女)	30.0
	廊下・階段他	155.0
小計		1,153.0

3階	室名	面積 (m ²)
	講義室11	65.0
	講義室12	65.0
	講義室13	65.0
	講義室14	65.0
	共同教員室1	50.0
	共同教員室2	43.6
	共同教員室3	43.6
	図書館	335.0
	トイレ (男・女)	30.0
	廊下・階段他	206.0
小計		968.2

合計 2,856.4 m²

旧

(4) 校舎面積

棟名	面積 (㎡)
A棟	3,094.6
B棟	845.0
C棟	2,856.4
計	6,796.0

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
1	農林業基礎	グラフをつくる前に読む本: 一瞬で伝わる表現はどのように生まれたのか	松本健太郎	技術評論社
2	農林業基礎	シュレーディンガーの猫、量子コンピュータになる。	ジョン・グリピン	青土社
3	農林業基礎	暗号の数学: シーザー暗号・公開鍵・量子暗号…	ジョシュア・ホールデン	青土社
4	農林業基礎	情報幾何学の基礎 (数理情報科学シリーズ 29)	藤原彰夫	牧野書店
5	農林業基礎	生命を進化させる究極のアルゴリズム	レスリー・ヴァリアント	青土社
6	農林業基礎	数値の処理と数値解析 (放送大学教材)	櫻井鉄也	放送大学教育振興会
7	農林業基礎	京都のアルゴリズム	岩間一雄	近代科学社
8	農林業基礎	岡潔: 数学を志す人に (STANDARD BOOKS)	岡潔	平凡社
9	農林業基礎	進化は万能である: 人類・テクノロジー・宇宙の未来	マット・リドレー	早川書房
10	農林業基礎	中谷宇吉郎: 人の役に立つ研究をせよ (ミネルヴァ日本評選)	杉山滋郎	ミネルヴァ書房
11	農林業基礎	岡潔先生をめぐる人びと: フィールドワークの日々の回想	高瀬正仁	現代数学社
12	農林業基礎	高木貞治とその時代: 西欧近代の数学と日本	高瀬正仁	東京大学出版会
13	農林業基礎	僕はこうして科学者になった: 益川敏英自伝	益川敏英	文藝春秋
14	農林業基礎	MAKINO: 牧野富太郎生誕150年記念出版		北隆館
15	農林業基礎	無限の天才: 夭逝の数学者・ラマヌジャン, 新装版	ロバート・カニーゲル	工作舎
16	農林業基礎	ヘッケルと進化の夢 (ファンタジー): 一元論、エコロジー、系統樹	佐藤藤子	工作舎
17	農林業基礎	ドーキンス自伝: 1 好奇心の赴くままに	リチャード・ドーキンス	早川書房
18	農林業基礎	ドーキンス自伝: 2 ささやかな知のロウソク	リチャード・ドーキンス	早川書房
19	農林業基礎	数学の大統一に挑む	エドワード・フレンケル	文藝春秋
20	農林業基礎	人口と感染症の数理: 年齢構造ダイナミクス入門	ミンモ・イアネリ/稲葉寿	東京大学出版会
21	農林業基礎	数理ファイナンス (大学数学の世界 2)	楠岡成雄/長山いづみ	東京大学出版会
22	農林業基礎	現場ですぐ使える時系列データ分析: データサイエンティストのための基礎知識	横内大介/青木義充	技術評論社
23	農林業基礎	gnuplotの精義: フリーの高性能グラフ作成ツールを使いこなす, 第2版	山本昌志	カットシステム
24	農林業基礎	Rによる画像表現とGUI操作	竹澤邦夫	カットシステム
25	農林業基礎	統計学が最強の学問である: データ社会を生き抜くための武器と教養	西内啓	ダイヤモンド社
26	農林業基礎	統計学が最強の学問である: 実践編 データ分析のための思想と方法	西内啓	ダイヤモンド社
27	農林業基礎	統計学が最強の学問である: ビジネス編 データを利益に変える知恵とデザイン	西内啓	ダイヤモンド社
28	農林業基礎	統計学が最強の学問である: 数学編 データ分析と機械学習のための新しい教科書	西内啓	ダイヤモンド社
29	農林業基礎	今日から役立つ統計学の教科書: スッキリわかる!		ナツメ社
30	農林業基礎	統計学の7原則: 人びとが築いた知恵の支柱	スティーブン・M.スティグラ	バンローリング
31	農林業基礎	1歩前からはじめる「統計」の読み方・考え方	神林博史	ミネルヴァ書房
32	農林業基礎	調査と分析のための統計: 社会・経済のデータサイエンス, 第2版	上藤一郎/森本栄一	丸善出版
33	農林業基礎	読む統計学使う統計学, 第2版	広田すみれ	慶應義塾大学出版会
34	農林業基礎	あなたのまわりのデータの不思議: 統計から読み解く	景山三平	実教出版
35	農林業基礎	コンパクト統計学 (コンパクト経済学ライブラリ 8)	川出真清	新世社
36	農林業基礎	だから数字にだまされる: 「若者の〇〇離れ」「昔はよかった」の9割はウソ	小林直樹	日経BP社
37	農林業基礎	数字を追うな統計を読み解く: データを読み解く力をつける	佐藤朋彦	日本経済新聞出版社
38	農林業基礎	初めて学ぶ統計		日本統計協会
39	農林業基礎	統計データの理論と実際		日本統計協会
40	農林業基礎	統計学の日本史: 治国経世への願い	宮川公男	東京大学出版会
41	農林業基礎	欧米統計史群像	島村史郎	日本統計協会
42	農林業基礎	日本統計史群像	島村史郎	日本統計協会
43	農林業基礎	帝国日本と統計調査: 統治初期台湾の専門家集団 (一橋大学経済研究叢書 60)	佐藤正広	岩波書店
44	農林業基礎	近代ドイツ国家形成と社会統計: 19世紀ドイツ官業統計とエンゲル	長屋政勝	京都大学学術出版会
45	農林業基礎	ロシア統計論史序説: 社会統計学・数理統計学・人口調査 (女性就業分析)	岩崎俊夫	晃洋書房
46	農林業基礎	国際比較統計索引		日外アソシエーツ
47	農林業基礎	統計応用の百科事典		丸善出版
48	農林業基礎	統計データはおもしろい!: 相関図でわかる経済・文化・世相・社会情勢のウラ側	本川裕	技術評論社
49	農林業基礎	統計データはためになる!: 棒グラフから世界と社会の実像に迫る	本川裕	技術評論社
50	農林業基礎	グローバル統計地図: 世界の中の日本がわかる	ダニエル・ドリング/マーク・ニューマン	東洋書林

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
51	農林業基礎	日本で1日に起きていることを調べてみた: 数字が明かす現代日本	宇田川勝司	ベレ出版
52	農林業基礎	数字でみる日本の100年: 日本国勢図会長期統計版, 改訂第6版		矢野恒太記念会
53	農林業基礎	ヨーロッパ社会統計地図	デイトリス・バラス/ダニー・ドーリング	柘風舎
54	農林業基礎	国際連合世界人口予測: 1960→2060: 2017年改訂版第1分冊・第2分冊		原書房
55	農林業基礎	国勢調査から考える人種・民族・国籍: オバマはなぜ「黒人」大統領と呼ばれるのか	青柳まちこ	明石書店
56	農林業基礎	人口統計学の理論と推計への応用	和田光平	オーム社
57	農林業基礎	マイクロデータの計量人口学 (人口学ライブラリー 11)	安藏伸治/小島宏	原書房
58	農林業基礎	国勢調査 日本社会の百年 (岩波現代全書 061)	佐藤正広	岩波書店
59	農林業基礎	現代日本の世帯構造と就業形態の変動解析: 公的統計のマイクロ統計活用序説	山口幸三	日本統計協会
60	農林業基礎	直感力を高める数学脳のつくりかた	バーバラ・オークリー	河出書房新社
61	農林業基礎	世界自然環境大百科: 1 生きている星・地球		朝倉書店
62	農林業基礎	世界自然環境大百科: 3 サバンナ		朝倉書店
63	農林業基礎	世界自然環境大百科: 6 亜熱帯・暖温帯多雨林		朝倉書店
64	農林業基礎	世界自然環境大百科: 7 温帯落葉樹林		朝倉書店
65	農林業基礎	世界自然環境大百科: 8 ステップ・プレーリー・タイガ		朝倉書店
66	農林業基礎	世界自然環境大百科: 9 北極・南極・高山・孤立系		朝倉書店
67	農林業基礎	世界自然環境大百科: 10 海洋と海岸		朝倉書店
68	農林業基礎	北極読本: 歴史から自然科学、国際関係まで		成山堂書店
69	農林業基礎	ホワット・イフ?: 野球のボールを光速で投げたらどうなるか	ランドール・マンロー	早川書房
70	農林業基礎	プログラマの数学, 第2版	結城浩	SBクリエイティブ
71	農林業基礎	Pythonからはじめる数学入門	Amit Saha	オライリー・ジャパン
72	農林業基礎	応用数学: 徹底解説	桑野泰宏	コロナ社
73	農林業基礎	大学新入生のための基礎数学: Basic Mathematics for Freshmen	桑野泰宏	コロナ社
74	農林業基礎	大学生のための基礎から学ぶ教養数学 (サイエンスライブラリー 数学 36)	井川信子	サイエンス社
75	農林業基礎	ふたたびの高校数学: 大人のための再入門&再発見	永裕裕之	ずばる舎
76	農林業基礎	教養としての数学, 増補版	堤裕之/畔津憲司	ナカニシヤ出版
77	農林業基礎	演習で学ぶ科学のための数学 (Chemistry Primer Series 3)	D.S.Sivia/S.G.Rawlings	化学同人
78	農林業基礎	数学まちがい大全集: 誰もがみんなしくじっている!	アルフレッド・S.ボザマンティエ/イングマル・レーマン	化学同人
79	農林業基礎	数学記号の誕生	ジョセフ・メイザー	河出書房新社
80	農林業基礎	ハンズ・オン・スタートMathematica: Wolfram言語によるプログラミング	C.ヘイスティング/K.ミッシェン	丸善出版
81	農林業基礎	初歩からの数学: 1 関数の基礎とファイナンス数学	Raymond A.Barnett/Michael R.Ziegler	丸善出版
82	農林業基礎	初歩からの数学: 2 線形方程式と線形計画法	Raymond A.Barnett/Michael R.Ziegler	丸善出版
83	農林業基礎	初歩からの数学: 3 論理・確率とマルコフ連鎖	Raymond A.Barnett/Michael R.Ziegler	丸善出版
84	農林業基礎	初歩からの数学: 4 微分積分 上	Raymond A.Barnett/Michael R.Ziegler	丸善出版
85	農林業基礎	初歩からの数学: 5 微分積分 下	Raymond A.Barnett/Michael R.Ziegler	丸善出版
86	農林業基礎	数学: 1 (理工系の基礎)	小谷佳子	丸善出版
87	農林業基礎	数学: 2 (理工系の基礎)	小池直之	丸善出版
88	農林業基礎	非線形数学 (東京大学工学教程 基礎系数学)	吉田善章	丸善出版
89	農林業基礎	ひとけたの数に魅せられて	マーク・チャンパーランド	岩波書店
90	農林業基礎	ロジカルな思考を育てる数学問題集: 上	セルゲイ・ドリチェンコ	岩波書店
91	農林業基礎	ロジカルな思考を育てる数学問題集: 下	セルゲイ・ドリチェンコ	岩波書店
92	農林業基礎	巨大数 (岩波科学ライブラリー 253)	鈴木真治	岩波書店
93	農林業基礎	小平邦彦が拓いた数学	上野健爾	岩波書店
94	農林業基礎	数学 想像力の科学 (岩波科学ライブラリー 222)	瀬山士郎	岩波書店
95	農林業基礎	数学魔術師ベンジャミンの教室: レベル1	アーサー・ベンジャミン	岩波書店
96	農林業基礎	数学魔術師ベンジャミンの教室: レベル2	アーサー・ベンジャミン	岩波書店
97	農林業基礎	ガリレオ・ガリレイは数学でもすごかった?: 数学から物理へ名著「新科学対話」からの出題 (知りたい!サイエンス 136)	吉田信夫	技術評論社
98	農林業基礎	学校数学事典: カラー図解	Fritz Reinhardt/Carsten Reinhardt	共立出版
99	農林業基礎	工学系学生のための数学入門	石村園子	共立出版
100	農林業基礎	数学の問題をうまくきれいに解く秘訣	Alfred S.Posamentier/Stephen Krulik	共立出版
101	農林業基礎	大学生のための役に立つ数学	白田由香利/橋本隆子	共立出版

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
102	農林業基礎	掟破りの数学: 手強い問題の解き方教えます	Sanjoy Mahajan	共立出版
103	農林業基礎	ストラング: 計算理工学 (世界標準MIT教科書)	ギルバート・ストラング	近代科学社
104	農林業基礎	Excelで学ぶ社会科学系の基礎数学, 第2版	浜道生	晃洋書房
105	農林業基礎	最新使える!MATLAB, 第2版	青山貴伸/蔵本一峰	講談社
106	農林業基礎	理工系の基礎数学: 専門へのステップアップ (Primary大学テキスト)		実教出版
107	農林業基礎	本質から理解する数学的手法	荒木修/齋藤智彦	裳華房
108	農林業基礎	力学・電磁気学・熱力学のための基礎数学	松下貢	裳華房
109	農林業基礎	Coq/SSReflect/MathCompによる定理証明: フリーソフトではじめる数学の形式化	萩原学/アフェルト・レナルド	森北出版
110	農林業基礎	数学の技巧的な解きかた (発見的教授法による数学シリーズ 2)	秋山仁	森北出版
111	農林業基礎	数学の視覚的な解きかた (発見的教授法による数学シリーズ 4)	秋山仁	森北出版
112	農林業基礎	数学の証明のしかた (発見的教授法による数学シリーズ 1)	秋山仁	森北出版
113	農林業基礎	数学の発想のしかた (発見的教授法による数学シリーズ 3)	秋山仁	森北出版
114	農林業基礎	大学新入生のためのリメディアル数学, 第2版	中野友裕	森北出版
115	農林業基礎	1から学ぶ大人の数学教室: 円周率から微積分まで	ジェイソン・ウィルクス	早川書房
116	農林業基礎	プロの数学: 大学数学への入門コース	松野陽一郎	東京図書
117	農林業基礎	数学の森: 大学必須数学の鳥瞰図	岡本和夫/長岡亮介	東京図書
118	農林業基礎	生き抜くための高校数学: 高校数学の全範囲の基礎が完璧にわかる本	芳沢光雄	日本図書センター
119	農林業基礎	生き抜くための中学数学: 中学数学の全範囲の基礎が完璧にわかる本	芳沢光雄	日本図書センター
120	農林業基礎	算数・数学活用事典: Encyclopedia of Mathematics and its Applications	武藤徹/三浦基弘	日本評論社
121	農林業基礎	数学の二つの心	長岡亮介	日本評論社
122	農林業基礎	数学ビギナーズマニュアル: これだけは知っておきたい, 第2版	佐藤文広	日本評論社
123	農林業基礎	数学再入門: 心に染みこむ数学の考え方	長岡亮介	日本評論社
124	農林業基礎	百万人の数学: 上	ランスロット・ホグベン	日本評論社
125	農林業基礎	百万人の数学: 下	ランスロット・ホグベン	日本評論社
126	農林業基礎	初歩からの数学, 改訂新版 (放送大学教材)	隈部正博	放送大学教育振興会
127	農林業基礎	その理屈、証明できますか?: 正しく命題にたどり着くための手法と思考の学び方	Daniel J. Velleman	翔泳社
128	農林業基礎	「数」を分析する (岩波現代全書 114)	八木沢敬	岩波書店
129	農林業基礎	数学: 新たな数と理論の発見史	リチャード・ピーティー	丸善出版
130	農林業基礎	ビジュアル数学全史: 人類誕生前から多次元宇宙まで	クリフォード・ピックオーバー	岩波書店
131	農林業基礎	無限小: 世界を変えた数学の危険思想	アミーア・アレクサンダー	岩波書店
132	農林業基礎	数学史: 数学5000年の歩み	中村滋/室井和男	共立出版
133	農林業基礎	数学史のすすめ: 原典味読の愉しみ	高瀬正仁	日本評論社
134	農林業基礎	シュメール人の数学: 粘土板に刻まれた古の数学を読む (共立スマートセレクション 17)	室井和男	共立出版
135	農林業基礎	数学英和・和英辞典: MATHEMATICS ENGLISH-JAPANESE & JAPANESE-ENGLISH DICTIONARY, 増補版		共立出版
136	農林業基礎	数学小辞典, 第2版増補	矢野健太郎/茂木勇	共立出版
137	農林業基礎	朝倉数学辞典		朝倉書店
138	農林業基礎	世界数学者事典	ペルトラン・オーショルヌス/ダニエル・シュラッター	日本評論社
139	農林業基礎	マスペディア1000: Mathpedia 1000	リチャード・エルウィス	ディスクヴァー・トゥエンティワン
140	農林業基礎	「数学」の公式・定理・決まりごとがまとめてわかる事典 (BERET SCIENCE)	涌井良幸	ベレ出版
141	農林業基礎	どんな数にも物語がある: 驚きと発見の数学	アレックス・ペロス	SBクリエイティブ
142	農林業基礎	数学ガール: ポアンカレ予想	結城浩	SBクリエイティブ
143	農林業基礎	数学ガールの秘密ノート: 丸い三角関数	結城浩	SBクリエイティブ
144	農林業基礎	数学ガールの秘密ノート: 数列の広場	結城浩	SBクリエイティブ
145	農林業基礎	数学ガールの秘密ノート: 微分を追いかけて	結城浩	SBクリエイティブ
146	農林業基礎	数学ガールの秘密ノート: ベクトルの真実	結城浩	SBクリエイティブ
147	農林業基礎	数学ガールの秘密ノート: 場合の数	結城浩	SBクリエイティブ
148	農林業基礎	数学ガールの秘密ノート: やさしい統計	結城浩	SBクリエイティブ
149	農林業基礎	数学ガールの秘密ノート: 積分を見つめて	結城浩	SBクリエイティブ
150	農林業基礎	数学ミステリーの冒険	イアン・スチュアート	SBクリエイティブ
151	農林業基礎	探偵フレディの数学事件ファイル: LA発犯罪と恋をめぐる14のミステリー	ジェイムズ・D.スタイン	化学同人
152	農林業基礎	マスメディアの中の数学: 小説・ドラマ・映画・漫画・アニメを解析する	馬場博史	関西学院大学出版会

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
153	農林業基礎	おいしい数学: 証明の味はパイの味	ジム・ヘンリー	岩波書店
154	農林業基礎	ラムズジャン探検: 天才数学者の奇蹟をめぐる (岩波科学ライブラリー 258)	黒川信重	岩波書店
155	農林業基礎	不可能へのあこがれ: 数学の驚くべき真実	John Stillwell	共立出版
156	農林業基礎	数学の言葉で世界を見たら: 父から娘に贈る数学	大栗博司	幻冬舎
157	農林業基礎	数学する身体	森田真生	新潮社
158	農林業基礎	数学を使えばうまくいく: アート、デザインから投資まで数学でわかる100のこと	ジョン・D.バロウ	青土社
159	農林業基礎	定理が生まれる: 天才数学者の思索と生活	セドリック・ヴィラーニ	早川書房
160	農林業基礎	数学の現在: i		東京大学出版会
161	農林業基礎	数学の現在: π		東京大学出版会
162	農林業基礎	数学の現在: e		東京大学出版会
163	農林業基礎	データを正しく見るための数学的思考: 数学の言葉で世界を見る	ジョーダン・エレンバーグ	日経BP社
164	農林業基礎	実験数学読本: 真剣に遊ぶ数理実験から大学数学へ	矢崎成俊	日本評論社
165	農林業基礎	森毅の主題による変奏曲: 数学の読み方・聴き方: 上	梅田亨	日本評論社
166	農林業基礎	森毅の主題による変奏曲: 数学の読み方・聴き方: 下	梅田亨	日本評論社
167	農林業基礎	数学の創造: 著作集自註, 新版	アンドレ・ヴェイユ	日本評論社
168	農林業基礎	数学×思考=ざっくりと: いかにして問題をとくか	竹内薫	丸善出版
169	農林業基礎	新・数学の学び方	深谷賢治	岩波書店
170	農林業基礎	この数学パズル、解けますか?	アレックス・ペロス	SBクリエイティブ
171	農林業基礎	アルゴリズムパズル: プログラマのための数学パズル入門	Anany Levitin/Maria Levitin	オライリー・ジャパン
172	農林業基礎	数と図形のパズル百科	David Wells	丸善出版
173	農林業基礎	数学ゲーム必勝法: 1	Elwyn R.Berlekamp/John H.Conway	共立出版
174	農林業基礎	数学ゲーム必勝法: 2	Elwyn R.Berlekamp/John H.Conway	共立出版
175	農林業基礎	「数独」を数学する: 世界中を魅了するパズルの奥深い世界	ジェイソン・ローゼンハウス/ローラ・タールマン	青土社
176	農林業基礎	もっとプログラマ脳を鍛える数学パズル: アルゴリズムが脳にしみ込む70問	増井敏克	翔泳社
177	農林業基礎	共立講座数学の輝き: 1 数理医学入門		共立出版
178	農林業基礎	共立講座数学の輝き: 2 リーマン面と代数曲線		共立出版
179	農林業基礎	共立講座数学の輝き: 3 スペクトル幾何		共立出版
180	農林業基礎	共立講座数学の輝き: 4 結び目の不変量		共立出版
181	農林業基礎	共立講座数学の輝き: 5 K3曲面		共立出版
182	農林業基礎	共立講座数学の輝き: 6 素数とゼータ関数		共立出版
183	農林業基礎	共立講座数学の輝き: 7 確率微分方程式		共立出版
184	農林業基礎	共立講座数学の輝き: 8 粘性解		共立出版
185	農林業基礎	共立講座数学の輝き: 9 3次元リッチフローと幾何学的トポロジー		共立出版
186	農林業基礎	共立講座数学の輝き: 10 保型関数		共立出版
187	農林業基礎	共立講座数学の輝き: 11 D加群		共立出版
188	農林業基礎	共立講座数学の魅力: 4 確率論		共立出版
189	農林業基礎	共立講座数学の魅力: 5 層とホモロジー代数		共立出版
190	農林業基礎	共立講座数学の魅力: 11 現代数理統計学の基礎		共立出版
191	農林業基礎	数学探検・共立講座: 1 微分積分		共立出版
192	農林業基礎	数学探検・共立講座: 3 論理・集合・数学語		共立出版
193	農林業基礎	数学探検・共立講座: 4 複素数入門		共立出版
194	農林業基礎	数学探検・共立講座: 6 初等整数論		共立出版
195	農林業基礎	数学探検・共立講座: 7 結晶群		共立出版
196	農林業基礎	数学探検・共立講座: 8 曲線・曲面の微分幾何		共立出版
197	農林業基礎	数学探検・共立講座: 10 結び目の理論		共立出版
198	農林業基礎	数学探検・共立講座: 13 複素関数入門		共立出版
199	農林業基礎	数学探検・共立講座: 17 数値解析		共立出版
200	農林業基礎	例題から展開する集合・位相 (ライブラリ例題から展開する大学数学 6)	海老原円	サイエンス社
201	農林業基礎	ヴァン・リント&ウィルソン組合せ論: 上	J.H.ヴァン・リント/R.M.ウィルソン	丸善出版
202	農林業基礎	無限 (岩波科学ライブラリー 273)	イアン・スチュアート	岩波書店
203	農林業基礎	「集合と位相」をなぜ学ぶのか: 数学の基礎として根づくまでの歴史	藤田博司	技術評論社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
204	農林業基礎	集合・論理と位相 (基幹講座数学)	新井敏康	東京図書
205	農林業基礎	キューネン数学基礎論講義	ケネス・キューネン	日本評論社
206	農林業基礎	離散数学入門 (数理情報科学シリーズ 30)	五十嵐善英/船田真里子	牧野書店
207	農林業基礎	情報理論のための数理論理学 (数学のかんどころ-ここがわかれば数学はこわくない!- 31)	板井昌典	共立出版
208	農林業基礎	コンピュータは数学者になれるのか?: 数学基礎論から証明とプログラムの理論へ	照井一成	青土社
209	農林業基礎	スマリヤン数理論理学講義: 不完全性定理の理解のために: 上巻	レイモンド・M.スマリヤン	日本評論社
210	農林業基礎	学んでみよう!記号論理	高崎金久	日本評論社
211	農林業基礎	代数系: 理工基礎 (ライブラリ新数学大系 E12)	佐藤篤/田谷久雄	サイエンス社
212	農林業基礎	数からはじめる代数学: Algebra start from the number	春日龍郎	日本評論社
213	農林業基礎	代数・解析パーフェクト・マスター (めざせ 数学オリンピック)	鈴木晋一	日本評論社
214	農林業基礎	複素数と複素数平面: 幾何への応用 (数学のかんどころ-ここがわかれば数学はこわくない!- 33)	桑田孝泰/前原潤	共立出版
215	農林業基礎	これならわかる!図解場合の数と確率	佐藤敏明	ナツメ社
216	農林業基礎	基礎演習線形代数 (ライブラリ数理・情報系の数学講義 別巻1)	金子晃	サイエンス社
217	農林業基礎	例題から展開する線形代数演習 (ライブラリ例題から展開する大学数学 別巻1)	海老原円	サイエンス社
218	農林業基礎	スバラシク実力がつくと評判の線形代数キャンパス・ゼミ: 大学の数学がこんなに分かる!単位なんて楽に取れる! 改訂6	馬場敬之	マセマ出版社
219	農林業基礎	ラックス線形代数: 数値解析へのアプローチ	P.D.ラックス	丸善出版
220	農林業基礎	線形代数の基礎講義: Introduction to Linear Algebra	島田伸一/廣島文生	共立出版
221	農林業基礎	線形代数学講義, 改訂版	対馬龍司	共立出版
222	農林業基礎	大学新入生のための線形代数入門	石村園子	共立出版
223	農林業基礎	ストラング: 線形代数イントロダクション (世界標準MIT教科書)	ギルバート・ストラング	近代科学社
224	農林業基礎	はじめての線形代数学: 工学基礎	佐藤和也/只野裕一	講談社
225	農林業基礎	これだけ線形代数	石井俊全	秀和システム
226	農林業基礎	コア講義線形代数	磯島伸/桂利行	裳華房
227	農林業基礎	線形代数学, 新装版 (数学選書 1)	佐武一郎	裳華房
228	農林業基礎	工学のための線形代数 (工学のための数学 EKM-1)	村山光孝	数理工学社
229	農林業基礎	なるほどわかる線形代数	松野陽一郎	東京図書
230	農林業基礎	弱点克服大学生の線形代数, 改訂版	江川博康	東京図書
231	農林業基礎	33の素敵な数学小景: フィボナッチ数, タイル張り, アルゴリズムを線形代数で眺めてみると...	イジィ・マトウシエク	日本評論社
232	農林業基礎	線型代数: Linear Algebra, 改訂版	長谷川浩司	日本評論社
233	農林業基礎	線型代数講義: 現代数学への誘い	高橋礼司	日本評論社
234	農林業基礎	線形代数とネットワーク	高崎金久	日本評論社
235	農林業基礎	初めて学ぶ線形代数	宮崎直/勝野恵子	培風館
236	農林業基礎	農林業基礎線形代数学	栗田多喜夫	培風館
237	農林業基礎	線型代数学, 新訂 (放送大学教材)	隈部正博	放送大学教育振興会
238	農林業基礎	連立方程式から学ぶ行列・行列式: 意味と計算の完全理解 (数学のかんどころ-ここがわかれば数学はこわくない!- 23)	岡部恒治/長谷川愛美	共立出版
239	農林業基礎	ランダム行列の数理と科学	渡辺澄夫/永尾太郎	森北出版
240	農林業基礎	代数方程式のはなし: A Dogmatic Introduction to Algebraic Equations	今野一宏	内田老鶴園
241	農林業基礎	ベーシック圏論: 普遍性からの速習コース	T.レンスター	丸善出版
242	農林業基礎	圏論	Steve Awodey	共立出版
243	農林業基礎	量子群点描	山下真	共立出版
244	農林業基礎	群の表示 (大学数学スポットライト・シリーズ 6)	佐藤隆夫	近代科学社
245	農林業基礎	ベクトル空間からはじめる抽象代数入門: 群・体・テンソルまで	松田修	森北出版
246	農林業基礎	圏と加群 (現代基礎数学 16)	清水勇二	朝倉書店
247	農林業基礎	圏論の技法: アーベル圏と三角圏でのホモロジー代数	中岡宏行	日本評論社
248	農林業基礎	圏論の歩き方: Category Theory Trotters		日本評論社
249	農林業基礎	見える!群論入門	脇克志	日本評論社
250	農林業基礎	代数学入門: 先につながる群・環・体の入門 (日評ベーシック・シリーズ)	川口周	日本評論社
251	農林業基礎	杉浦光夫ユニタリ表現入門	杉浦光夫	東京図書
252	農林業基礎	はじめて学ぶ一環: 線型代数から始めよう	井ノ口順一	現代数学社
253	農林業基礎	可換環論の勘どころ (数学のかんどころ-ここがわかれば数学はこわくない!- 32)	後藤二郎	共立出版
254	農林業基礎	四元数: Quaternion	今野紀雄	森北出版

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
255	農林業基礎	ガロア理論「超」入門: 方程式と図形の関係から考える (知りたい!サイエンス 137)	小林吹代	技術評論社
256	農林業基礎	今度こそわかるガロア理論 (今度こそわかるシリーズ)	芳沢光雄	講談社
257	農林業基礎	イデアル論入門 (大学数学スポットライト・シリーズ 5)	新妻弘	近代科学社
258	農林業基礎	モーデル-ファルティングスの定理: デイオファントス幾何からの完全証明 (ライブラリ数理学のための数学とその展開 AL1)	森脇淳/川口周	サイエンス社
259	農林業基礎	グレブナー教室: 計算代数統計への招待	竹村彰通/日比孝之	共立出版
260	農林業基礎	代数曲線入門	宮西正宜/増田佳代	共立出版
261	農林業基礎	代数曲線の幾何学, 改訂新版	難波誠	現代数学社
262	農林業基礎	平面代数曲線のはなし: An Invitation to Plane Algebraic Curves	今野一宏	内田老鶴園
263	農林業基礎	魅惑と驚きの「数」たち	イアン・スチュアート	SBクリエイティブ
264	農林業基礎	発見・予想を積み重ねるーそれが整数論	安福悠	オーム社
265	農林業基礎	初学者のための数論入門	西来路文朗/清水健一	講談社
266	農林業基礎	整数論基礎講義	本橋洋一	朝倉書店
267	農林業基礎	探検!数の密林・数論の迷宮	橋本喜一郎	日本評論社
268	農林業基礎	天に向かって続く数	加藤文元/中井保行	日本評論社
269	農林業基礎	分数と小数から広がる整数の世界: フェルマーの小定理からアルチン予想まで (数学への招待)	中島匠一	技術評論社
270	農林業基礎	整数と平面格子の数学 (数学のかんどころ-ここがわかれば数学はこわくない!- 28)	桑田孝泰/前原潤	共立出版
271	農林業基礎	「極限」を使いこなす: 微積分・微分方程式・確率統計	小谷潔	東京大学出版会
272	農林業基礎	超準解析と物理学, 増補改訂版 (数理物理シリーズ)	中村徹	日本評論社
273	農林業基礎	徹底入門解析学	梅田亨	日本評論社
274	農林業基礎	応用解析: 微分方程式・ラプラス変換・フーリエ解析	浅倉史興	培風館
275	農林業基礎	解析学入門	市原直幸/増田哲	培風館
276	農林業基礎	解析入門, 改訂新版 (放送大学教材)	河添健	放送大学教育振興会
277	農林業基礎	ぷちマンガでわかる微積分	小島寛之/十神真	オーム社
278	農林業基礎	微積分講義テキスト: Textbook for Calculus Courses	石田健一/仲隆	コロナ社
279	農林業基礎	詳解微積分演習: 基礎から本質の確かな理解へ (数学基礎コース H別巻1)	加藤幹雄/柳研二郎	サイエンス社
280	農林業基礎	大学で学ぶ微積分, 増補版 (サイエンスライブラリ 32 数学)	沢田賢/田中心	サイエンス社
281	農林業基礎	微積分 (東京大学工学教程 基礎系数学)	時弘哲治	丸善出版
282	農林業基礎	微分、積分、いい気分。	オスカー・E.フェルナンデス	岩波書店
283	農林業基礎	1冊でマスター大学の微積分	石井俊全	技術評論社
284	農林業基礎	使い道がわかる微積分: 物理屋が贈る数学講義	池末翔太	技術評論社
285	農林業基礎	親切ガイドで迷わない大学の微積分: 高校のおさらいからはじめてしっかり計算できるようになるやさしいテキスト	高橋麻奈	技術評論社
286	農林業基礎	頭にしみこむ微積分 (瀬山先生の数学講義シリーズ)	瀬山士郎	技術評論社
287	農林業基礎	古典的名著に学ぶ微積分の基礎: Foundation of Calculus Learning from Ancient and Modern Classics	高瀬正仁	共立出版
288	農林業基礎	微積分学入門: 第1課, 新装版	一松信	近代科学社
289	農林業基礎	実用のための「微積」と「ラグランジアン」: 実際に使いこなすための「考える力」を身につける! (I/O BOOKS)	中西達夫	工学社
290	農林業基礎	はじめての微積分15講	小寺平治	講談社
291	農林業基礎	新しい微積分: NEW APPROACH TO CALCULUS: 上	長岡亮介/渡辺浩	講談社
292	農林業基礎	新しい微積分: NEW APPROACH TO CALCULUS: 下	長岡亮介/渡辺浩	講談社
293	農林業基礎	微積分学の史的展開: ライブニッツから高木貞治まで	高瀬正仁	講談社
294	農林業基礎	コア講義微積分	磯島伸/桂利行	裳華房
295	農林業基礎	微積分リアル入門: イメージから理論へ	高橋秀慈	裳華房
296	農林業基礎	ステュワート微積分学: 1 微積分の基礎	James Stewart	東京化学同人
297	農林業基礎	なるほど!とわかる微積分	松野陽一郎	東京図書
298	農林業基礎	大学1・2年生のためのすぐわかる数学, 改訂版	江川博康	東京図書
299	農林業基礎	微積分 (基幹講座数学)	砂田利一	東京図書
300	農林業基礎	“お理工さん”の微積分	西野友年	日本評論社
301	農林業基礎	農林業基礎微積分学	阿部誠/岩本宙造	培風館
302	農林業基礎	理工系学生のための微積分: Webアシスト演習付	岡崎悦明	培風館
303	農林業基礎	早わかりルベグ積分 (数学のかんどころ-ここがわかれば数学はこわくない!- 29)	澤野嘉宏	共立出版
304	農林業基礎	ルベグ積分: 理論と計算手法	岩田耕一郎	森北出版
305	農林業基礎	ルベグ積分入門	テレンス・タオ	朝倉書店

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
306	農林業基礎	実解析: 測度論, 積分, およびヒルベルト空間 (プリンストン解析学講義 3)	エリアス・M. スタイン/ラミ・シャカルチ	日本評論社
307	農林業基礎	絶対数学原論	黒川信重	現代数学社
308	農林業基礎	リーマン教授にインタビューする: ゼータの起源から深リーマン予想まで	小山信也	青土社
309	農林業基礎	数理学のための複素関数論 (ライブラリ数理学のための数学とその展開 F3)	畑政義	サイエンス社
310	農林業基礎	複素解析入門, 第2版	原惟行/松永秀章	共立出版
311	農林業基礎	複素関数論講義	野村隆昭	共立出版
312	農林業基礎	道具としての複素関数	涌井貞美	日本実業出版社
313	農林業基礎	ウェーブレット変換がわかる本: 「周波数解析」の新理論 (I/O BOOKS)	赤間世紀	工学社
314	農林業基礎	フーリエ・ラプラス解析 (東京大学工学教程 基礎系数学)	加藤雄介/求幸年	丸善出版
315	農林業基礎	単位が取れるフーリエ解析ノート (単位が取れるシリーズ)	高谷唯人	講談社
316	農林業基礎	リーマンと代数関数論: 西欧近代の数学の結節点	高瀬正仁	東京大学出版会
317	農林業基礎	道具としてのフーリエ解析	涌井良幸/涌井貞美	日本実業出版社
318	農林業基礎	指数関数ものがたり	西郷甲矢人/能美十三	日本評論社
319	農林業基礎	ぶちマンガでわかる微分方程式	佐藤実/あづま笙子	オーム社
320	農林業基礎	パターン形成と分岐理論: 自発的パターン発生の力学系入門 (シリーズ・現象を解明する数学)	桑村雅隆	共立出版
321	農林業基礎	自然現象から学ぶ微分方程式	森真	共立出版
322	農林業基礎	脳のなかに数学を見る (連携する数学 1)	津田一郎	共立出版
323	農林業基礎	力学系入門: 微分方程式からカオスまで, 原著第3版	Morris W.Hirsch/Stephen Smale	共立出版
324	農林業基礎	ストラング: 微分方程式と線形代数 (世界標準MIT教科書)	ギルバート・ストラング	近代科学社
325	農林業基礎	日常現象からの解析学	岡本久	近代科学社
326	農林業基礎	だれでもわかる微分方程式	石村園子	講談社
327	農林業基礎	現象を解き明かす微分方程式の定式化と解法	小中英嗣	森北出版
328	農林業基礎	微分方程式概論, 新訂版 (新・数理/工学ライブラリ 応用数学=1)	神保秀一	数理工学社
329	農林業基礎	応用微分方程式 (現代基礎数学 10)	小川卓克	朝倉書店
330	農林業基礎	可積分系の数理 (解析学百科 2)	中村佳正/高崎金久	朝倉書店
331	農林業基礎	微分方程式入門, 新版	南部隆夫	朝倉書店
332	農林業基礎	すぐわかる微分方程式, 改訂版	石村園子	東京図書
333	農林業基礎	数学 理性の音楽: 自然と社会を貫く数学	岡本和夫/薩摩順吉	東京大学出版会
334	農林業基礎	微分方程式 (放送大学教材)	石崎克也	放送大学教育振興会
335	農林業基礎	微分方程式講義 (ライブラリ数理・情報系の数学講義 4)	金子晃	サイエンス社
336	農林業基礎	スバラシク実力がつくと評判の演習常微分方程式キャンパス・ゼミ, 改訂1	高杉豊/馬場敬之	マセマ出版社
337	農林業基礎	スバラシク実力がつくと評判の常微分方程式キャンパス・ゼミ: 大学の数学がこんなに分かる! 単位なんて楽に取れる!, 改訂4	馬場敬之	マセマ出版社
338	農林業基礎	常微分方程式入門, 第3版	原惟行/松永秀章	共立出版
339	農林業基礎	常微分方程式の新しい教科書	堀畑和弘/長谷川浩司	朝倉書店
340	農林業基礎	常微分方程式 (大学数学の入門 10)	坂井秀隆	東京大学出版会
341	農林業基礎	スバラシク実力がつくと評判の偏微分方程式キャンパス・ゼミ: 大学の数学がこんなに分かる! 単位なんて楽に取れる!, 改訂2	馬場敬之	マセマ出版社
342	農林業基礎	偏微分方程式 (東京大学工学教程 基礎系数学)	佐野理	丸善出版
343	農林業基礎	波動: 力学・電磁気学・量子力学	ダニエル・フライシュ/ローラ・キナマン	岩波書店
344	農林業基礎	反応拡散方程式: Reaction-Diffusion Equations	柳田英二	東京大学出版会
345	農林業基礎	変分法と変分原理	柴田正和	森北出版
346	農林業基礎	美しい幾何学	ELI MAOR/EUGEN JOST	丸善出版
347	農林業基礎	Aha! ひらめきの幾何学: アルキメデスも驚くマミコンの定理	Tom M. Apostol/Mamikon A. Mnatsakanian	共立出版
348	農林業基礎	幾何学と代数系: ハミルトン, グラスマン, クリフォード	金谷健一	森北出版
349	農林業基礎	ドクター・ハルの折り紙数学教室	トーマス・ハル	日本評論社
350	農林業基礎	積分幾何学入門	田崎博之	牧野書店
351	農林業基礎	多角形百科		丸善出版
352	農林業基礎	コンパスと定規の幾何学: 作図のたのしみ (数学のかんどころ-ここがわかれば数学はこわくない!- 27)	瀬山士郎	共立出版
353	農林業基礎	多面体百科	宮崎興二	丸善出版
354	農林業基礎	世界で二番目に美しい数式: 上 多面体公式の発見	デビッド・S. リッチェソン	岩波書店
355	農林業基礎	世界で二番目に美しい数式: 下 トポロジーの誕生	デビッド・S. リッチェソン	岩波書店
356	農林業基礎	双曲平面上の幾何学	土橋宏康	内田老鶴圃

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
357	農林業基礎	ベクトル解析 (東京大学工学教程 基礎系数学)	大岩 顯	丸善出版
358	農林業基礎	微分幾何学とトポロジー (東京大学工学教程 基礎系数学)	永長 直人	丸善出版
359	農林業基礎	ウォーミングアップ微分幾何 (数学のかんどころ-ここがわかれば数学はこわくない!- 30)	國分 雅敏	共立出版
360	農林業基礎	ナブラのための協奏曲: ベクトル解析と微分積分	太田 浩一	共立出版
361	農林業基礎	早わかりベクトル解析: 3つの定理が織りなす華麗な世界 (数学のかんどころ-ここがわかれば数学はこわくない!- 25)	澤野 嘉宏	共立出版
362	農林業基礎	ベクトル解析からの幾何学入門, 改訂新版	千葉 逸人	現代数学社
363	農林業基礎	曲線と曲面: 微分幾何的アプローチ, 改訂版	梅原 雅頭/山田 光太郎	裳華房
364	農林業基礎	曲面と可積分系 (現代基礎数学 18)	井ノ口 順一	朝倉書店
365	農林業基礎	道具としてのベクトル解析	涌井 貞美	日本実業出版社
366	農林業基礎	曲面とベクトル解析 (日評ベーシック・シリーズ)	小林 真平	日本評論社
367	農林業基礎	作図で身につく双曲幾何学: GeoGebraで見る非ユークリッドな世界	阿原 一志	共立出版
368	農林業基礎	わかる!使える!楽しめる!ベクトル空間 (数学のかんどころ-ここがわかれば数学はこわくない!- 24)	福岡 慶明	共立出版
369	農林業基礎	フラットランド: たくさんの次元のものがたり (講談社選書メチエ 650)	E.A.アボット	講談社
370	農林業基礎	ベクトル空間 (日評ベーシック・シリーズ)	竹山 美宏	日本評論社
371	農林業基礎	幾何学序論: 論理・集合・写像・位相をきわめる	市原 一裕/鈴木 正彦	日本評論社
372	農林業基礎	測度・確率・ルベグ積分: 応用への最短コース	原 啓介	講談社
373	農林業基礎	ヴィジュアルでやさしいグラフへの入門 (情報系のための数学 4)	守屋 悦朗	サイエンス社
374	農林業基礎	グラフの数え上げ: 母関数を礎にして	田澤 新成	共立出版
375	農林業基礎	グラフ理論とフレームワークの幾何 (数学のかんどころ-ここがわかれば数学はこわくない!- 34)	前原 潤/桑田 孝泰	共立出版
376	農林業基礎	グラフ理論入門: 基本とアルゴリズム	宮崎 修一	森北出版
377	農林業基礎	グラフ理論の魅惑の世界: 巡回セールスマン問題、四色問題、中国人郵便配達問題…	アーサー・ベンジャミン/ゲアリー・チャートランド	青土社
378	農林業基礎	4次元のトポロジー, 新版	松本 幸夫	日本評論社
379	農林業基礎	パリオレで数学を: サーストンと挑んだポアンカレ予想	阿原 一志	日本評論社
380	農林業基礎	大学4年間の統計学が10時間でざっと学べる	倉田 博史	KADOKAWA
381	農林業基礎	流れるようにわかる統計学: こんなふうには教わりたかった!	佐々木 隆宏	KADOKAWA
382	農林業基礎	人間と社会を変えた9つの確率・統計学物語	松原 望	SBクリエイティブ
383	農林業基礎	4Stepsエクセル統計, 第4版	柳井 久江	オーエムエス出版
384	農林業基礎	JMPではじめる統計的問題解決入門	三井 正	オーム社
385	農林業基礎	SAS Enterprise Guide: 時系列分析編	高柳 良太	オーム社
386	農林業基礎	SPSSによるロジスティック回帰分析, 第2版	内田 治	オーム社
387	農林業基礎	SPSSによる応用多変量解析	三輪 哲/林 雄亮	オーム社
388	農林業基礎	SPSSによる実践統計分析	林 雄亮/苫米地 なつ帆	オーム社
389	農林業基礎	The R Tips: データ解析環境Rの基本技・グラフィックス活用集, 第3版	舟尾 暢男	オーム社
390	農林業基礎	データサイエンス入門: Excelで学ぶ統計データの見方・使い方・集め方	上藤 一郎/西川 浩昭	オーム社
391	農林業基礎	ベイズ推定入門: モデル選択からベイズ的最適化まで	大関 真之	オーム社
392	農林業基礎	やさしく学ぶSPSSによる統計解析	石村 光資郎	オーム社
393	農林業基礎	見えないものをさぐるーそれがベイズ: ツールによる実践ベイズ統計	藤田 一弥	オーム社
394	農林業基礎	挫折しない統計学入門: 数学苦手意識を克服する	浅野 晃	オーム社
395	農林業基礎	実践R統計分析	外山 信夫/辻谷 将明	オーム社
396	農林業基礎	対応分析入門: 原理から応用まで	Sten-Erik Clausen	オーム社
397	農林業基礎	統計学図鑑: Data is here	栗原 伸一/丸山 敦史	オーム社
398	農林業基礎	例題とExcel演習で学ぶ多変量解析: 回帰分析・判別分析・コンジョイント分析編	菅 民郎	オーム社
399	農林業基礎	例題とExcel演習で学ぶ多変量解析: 生存時間解析・ロジスティック回帰分析・時系列分析編	菅 民郎	オーム社
400	農林業基礎	例題とExcel演習で学ぶ多変量解析: 因子分析・コレスポネンデンス分析・クラスター分析編	菅 民郎	オーム社
401	農林業基礎	データサイエンスのための統計学入門: 予測、分類、統計モデリング、統計的機械学習とRプログラミング	Peter Bruce/Andrew Bruce	オライリー・ジャパン
402	農林業基礎	統計クイックリファレンス	Sarah Boslaugh	オライリー・ジャパン
403	農林業基礎	文系でも仕事に使える統計学はじめての一步	本丸 諒	かんき出版
404	農林業基礎	はじめての統計学	道家 暎幸/伊藤 真吾	コロナ社
405	農林業基礎	完全独習ベイズ統計学入門	小島 寛之	ダイヤモンド社
406	農林業基礎	Rで多変量解析: Multivariate Analysis by R Language	渡辺 利夫	ナカニシヤ出版
407	農林業基礎	ゼロからはじめる統計モデリング	堀 裕亮	ナカニシヤ出版

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
408	農林業基礎	意味がわかるベイズ統計学: まずはこの一冊から (BERET SCIENCE)	一石賢	ベレ出版
409	農林業基礎	意味がわかる多変量解析: まずはこの一冊から (BERET SCIENCE)	石井俊全	ベレ出版
410	農林業基礎	スバラシク実力がつくと評判の演習統計学キャンパス・ゼミ 改訂2	高杉豊/馬場敬之	マセマ出版社
411	農林業基礎	スバラシク実力がつくと評判の統計学キャンパス・ゼミ: 大学の数学がこんなに分かる! 単位なんて楽に取れる! 改訂4	馬場敬之	マセマ出版社
412	農林業基礎	統計と確率の基礎 第3版	服部哲弥	学術図書出版社
413	農林業基礎	最適化と変分法 (東京大学工学教程 基礎系数学)	寒野善博/土谷隆	丸善出版
414	農林業基礎	ヒラノ教授の線形計画法物語	今野浩	岩波書店
415	農林業基礎	ベイズモデリングの世界: The Expanding World of Bayesian Modeling		岩波書店
416	農林業基礎	数理統計学の考え方: 推測理論の基礎	竹内啓	岩波書店
417	農林業基礎	調査観察データ解析の実際: 1 欠測データの統計科学	高井啓二/星野崇宏	岩波書店
418	農林業基礎	プロ野球でわかる! はじめての統計学: 野球のデータで統計の基本を楽しく学ぶ	佐藤文彦	技術評論社
419	農林業基礎	親切ガイドで迷わない統計学: 平均だけが統計じゃない統計の基礎から応用までしっかりわかる	高橋麻奈	技術評論社
420	農林業基礎	身につくベイズ統計学: 入門者のための標準テキスト (ファーストブックSTEP)	涌井良幸/涌井貞美	技術評論社
421	農林業基礎	身につく入門統計学: 統計学の超基本が手を動かして学べる! (ファーストブックSTEP)	向後千春/富永敦子	技術評論社
422	農林業基礎	統計学の図鑑 (まなびのずかん)	涌井良幸/涌井貞美	技術評論社
423	農林業基礎	統計思考の世界: 曼荼羅で読み解くデータ解析の基礎	三中信宏	技術評論社
424	農林業基礎	Wonderful R: 1 Rで楽しむ統計		共立出版
425	農林業基礎	Wonderful R: 2 StanとRでベイズ統計モデリング		共立出版
426	農林業基礎	Wonderful R: 3 再現可能性のすゝめ		共立出版
427	農林業基礎	スパース推定法による統計モデリング (統計学One Point 6)	川野秀一/松井秀俊	共立出版
428	農林業基礎	データ解析のためのロジスティック回帰モデル	David W.Hosmer, Jr./Stanley Lemeshow	共立出版
429	農林業基礎	ベイズ統計モデリング: R, JAGS, Stanによるチュートリアル	John K.Kruschke	共立出版
430	農林業基礎	やさしいMCMC入門: 有限マルコフ連鎖とアルゴリズム	OLLE HÄGGSTRÖM	共立出版
431	農林業基礎	レイティング・ランキングの数理: No.1は誰か?	Amy N.Langville/Carl D.Meyer	共立出版
432	農林業基礎	欠測データ処理: Rによる単一代入法と多重代入法 (統計学One Point 5)	高橋将宜/渡辺美智子	共立出版
433	農林業基礎	構造的因果モデルの基礎	黒木学	共立出版
434	農林業基礎	数理モデリング入門: ファイブ・ステップ法	Mark M.Meerschaert	共立出版
435	農林業基礎	数理統計学の基礎 (クロスセクショナル統計シリーズ 1)	尾畑伸明	共立出版
436	農林業基礎	線形代数学に基づくデータ分析法	原田史子/島川博光	共立出版
437	農林業基礎	統計学: Rを用いた入門書 改訂第2版	Michael J.Crawley	共立出版
438	農林業基礎	統計学の要点: 基礎からRの活用まで	森本義廣/黒瀬能幸	共立出版
439	農林業基礎	統計学基礎	栗木進二/綿森葉子	共立出版
440	農林業基礎	はじめての最適化	関口良行	近代科学社
441	農林業基礎	ロバスト統計: 外れ値への対処の仕方 (ISMシリーズ: 進化する統計数理 6)	藤澤洋徳	近代科学社
442	農林業基礎	確率的シミュレーションの基礎 (IMIシリーズ: 進化する産業数学 1)	手塚集	近代科学社
443	農林業基礎	安定マッチングの数理とアルゴリズム: トラブルのない配属を求めて	宮崎修一	現代数学社
444	農林業基礎	だれでもわかる数理統計	石村貞夫	講談社
445	農林業基礎	実践のための基礎統計学	下川敏雄	講談社
446	農林業基礎	生物系のためのやさしい基礎統計学	藤川浩/小泉和之	講談社
447	農林業基礎	教養のための統計入門 (事例でわかる統計シリーズ)		実教出版
448	農林業基礎	理工系のための統計入門 (事例でわかる統計シリーズ)		実教出版
449	農林業基礎	R統計解析パーフェクトマスター: 最新版Windows Macintosh対応 (Perfect Master 171)	金城俊哉	秀和システム
450	農林業基礎	恋する統計学: 記述統計入門	金城俊哉	秀和システム
451	農林業基礎	恋する統計学: 回帰分析入門	金城俊哉	秀和システム
452	農林業基礎	恋する統計学: 因子分析入門	金城俊哉	秀和システム
453	農林業基礎	恋する統計学: ベイズ統計入門	金城俊哉	秀和システム
454	農林業基礎	いまさら聞けない疑問に答える統計学のキホンQ&A100	ニール・J.サルキン	新曜社
455	農林業基礎	一段深く理解する確率統計	古賀弘樹	森北出版
456	農林業基礎	確率・統計 第2版 (工科の数学)	田代嘉宏	森北出版
457	農林業基礎	最適化手法の基礎: 力学モデルによる理解と実装	相吉英太郎/岡本卓	森北出版
458	農林業基礎	数理計画法による最適化: 実際の問題に活かすための考え方と手法	北村充	森北出版

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
459	農林業基礎	統計解析法入門: 推定・検定・分散分析の考え方	大宮真弓/松島正知	森北出版
460	農林業基礎	例題で学ぶオペレーションズ・リサーチ入門	伊藤益生	森北出版
461	農林業基礎	ベイズの誓い: ベイズ統計学はAIの夢を見る	松原望	聖学院大学出版会
462	農林業基礎	統計学への招待: 大学生・社会人に必要な知識	三品勉	税務経理協会
463	農林業基礎	ベイズ統計学 (やさしく知りたい先端科学シリーズ 1)	松原望	創元社
464	農林業基礎	「偶然」の統計学	デイヴィッド・J・ハンド	早川書房
465	農林業基礎	マンガでわかるやさしい統計学		池田書店
466	農林業基礎	ケースで身につく統計学, 第2版	張南	中央経済社
467	農林業基礎	Rで学ぶ多変量解析	長畑秀和	朝倉書店
468	農林業基礎	ノンパラメトリック法 (統計解析スタンダード)	村上秀俊	朝倉書店
469	農林業基礎	はじめての統計データ分析: ベイズ的(ポストp値時代)の統計学	豊田秀樹	朝倉書店
470	農林業基礎	ビジネスマンがはじめて学ぶベイズ統計学: ExcelからRへステップアップ	朝野照彦/土田尚弘	朝倉書店
471	農林業基礎	ベイズ計算統計学 (統計解析スタンダード)	古澄英男	朝倉書店
472	農林業基礎	一般化線形モデル (統計解析スタンダード)	汪金芳	朝倉書店
473	農林業基礎	応用をめざす数理統計学 (統計解析スタンダード)	国友直人	朝倉書店
474	農林業基礎	回帰診断 (統計ライブラリー)	蓑谷千鳳彦	朝倉書店
475	農林業基礎	基礎からのベイズ統計学: ハミルトニアンモンテカルロ法による実践的入門	豊田秀樹	朝倉書店
476	農林業基礎	空間統計学: 自然科学から人文・社会科学まで (統計ライブラリー)	瀬谷創/堤盛人	朝倉書店
477	農林業基礎	経時データ解析 (統計解析スタンダード)	船渡川伊久子/船渡川隆	朝倉書店
478	農林業基礎	欠測データの統計解析 (統計解析スタンダード)	阿部貴行	朝倉書店
479	農林業基礎	実践ベイズモデリング: 解析技法と認知モデル	豊田秀樹	朝倉書店
480	農林業基礎	線形回帰分析 (統計ライブラリー)	蓑谷千鳳彦	朝倉書店
481	農林業基礎	分割表の統計解析: 二元表から多元表まで (統計ライブラリー)	宮川雅巳/青木敏	朝倉書店
482	農林業基礎	確率統計序論, 第3版	道家暎幸/土井誠	東海大学出版部
483	農林業基礎	統計学序論, 改訂版	山本義郎	東海大学出版部
484	農林業基礎	Excelによる理工系のための統計学	林茂雄	東京化学同人
485	農林業基礎	Rで学ぶ統計学入門	嶋田正和/阿部真人	東京化学同人
486	農林業基礎	JMPによるデータ分析: 統計の基礎から多変量解析まで, 第2版	内田治/平野綾子	東京図書
487	農林業基礎	SPSSでやさしく学ぶアンケート処理, 第4版	石村貞夫/加藤千恵子	東京図書
488	農林業基礎	SPSSでやさしく学ぶ多変量解析, 第5版	石村貞夫/劉晨	東京図書
489	農林業基礎	SPSSでやさしく学ぶ統計解析, 第6版	石村貞夫/石村友二郎	東京図書
490	農林業基礎	SPSSによるアンケート調査のための統計処理	石村光資郎	東京図書
491	農林業基礎	SPSSによる多変量データ解析の手順, 第5版 (ていねいでわかりやすいクリックするだけの統計入門)	石村貞夫/石村光資郎	東京図書
492	農林業基礎	SPSSによる統計処理の手順, 第8版 (ていねいでわかりやすいクリックするだけの統計入門)	石村貞夫/石村光資郎	東京図書
493	農林業基礎	SPSSによる分散分析と多重比較の手順, 第5版 (ていねいでわかりやすいクリックするだけの統計入門)	石村貞夫/石村光資郎	東京図書
494	農林業基礎	SPSS完全活用法データの入力と加工, 第4版	酒井麻衣子	東京図書
495	農林業基礎	SPSS超入門: インストールからはじめるデータ分析	畠慎一郎/田中多恵子	東京図書
496	農林業基礎	すぐわかる統計用語の基礎知識	石村貞夫/デズモンド・アレン	東京図書
497	農林業基礎	はじめての共分散構造分析: Amosによるパス解析, 第2版	小塩真司	東京図書
498	農林業基礎	もうひとつの重回帰分析: 予測変数を直交化する方法	豊田秀樹	東京図書
499	農林業基礎	共分散構造分析: 構造方程式モデリング: R編	豊田秀樹	東京図書
500	農林業基礎	統計学 (基幹講座数学)	中村和幸	東京図書
501	農林業基礎	統計学入門: 記述統計学	内田治/相沢健実	東京図書
502	農林業基礎	統計学: STATISTICS	久保川達也/国友直人	東京大学出版会
503	農林業基礎	評価と数量化のはなし: 科学的評価へのアプローチ, 改訂版	大村平	日科技連
504	農林業基礎	目からウロコの統計学: データの溢れる世界を生き抜く15の処方箋	廣野元久	日科技連出版社
505	農林業基礎	カラーイメージで学ぶ統計学の基礎, 新版 第2版	市原清志/佐藤正一	日本教育研究センター
506	農林業基礎	統計学をまる裸にする: データはもう怖くない	チャールズ・ウィーラン	日本経済新聞出版社
507	農林業基礎	マンガでやさしくわかる統計学	小島寛之/葛城かえで	日本能率協会マネジメントセンター
508	農林業基礎	ベイズ法の基礎と応用: 条件付き分布による統計モデリングとMCMC法を用いたデータ解析	間瀬茂	日本評論社
509	農林業基礎	現代統計学		日本評論社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
510	農林業基礎	実例で学ぶ確率・統計	廣瀬英雄	日本評論社
511	農林業基礎	スタンダード統計学基礎	岩崎学/姫野哲人	培風館
512	農林業基礎	スタンダード文科系の統計学	中西寛子	培風館
513	農林業基礎	基本統計学	野口和也/西郷浩	培風館
514	農林業基礎	身近な統計(放送大学教材)	石崎克也/渡辺美智子	放送大学教育振興会
515	農林業基礎	問題解決の数理 改訂版(放送大学教材)	大西仁	放送大学教育振興会
516	農林業基礎	Q&Aで理解する統計学の基礎	伊藤尚枝	北大路書房
517	農林業基礎	統計学: Statistics: Data Science for Social Studies, 改訂版 (New Liberal Arts Selection)	森棟公夫/照井伸彦	有斐閣
518	農林業基礎	みなか先生といっしょに統計学の王国を歩いてみよう: 情報の海と推論の山を越える翼をあなたに!	三中信宏	羊土社
519	農林業基礎	Pythonで学ぶあたらしい統計学の教科書: 統計学はどのような学問なのだろう (AI&TECHNOLOGY)	馬場真哉	翔泳社
520	農林業基礎	モンテカルロ法ハンドブック	Dirk P.Kroese/Thomas Taimre	朝倉書店
521	農林業基礎	世界を変えた確率と統計のからくり134話	岩沢宏和	SBクリエイティブ
522	農林業基礎	ホワイトノイズ(量子数理シリーズ 5)	飛田武幸	丸善出版
523	農林業基礎	確率がわかる: 豊富な例題と図解で、基本からやさしく解説!集合からていねいに勉強したい人に最適! (ファーストブック)	小泉力一	技術評論社
524	農林業基礎	カルマンフィルタ: Rを使った時系列予測と状態空間モデル(統計学One Point 2)	野村俊一	共立出版
525	農林業基礎	ランダムウォークはじめの一歩: 自然現象の解析を見すえて	J.Klafter/I.M.Sokolov	共立出版
526	農林業基礎	確率で読み解く日常の不思議: あなたが10年後に生きている可能性は?	Paul J.Nahin	共立出版
527	農林業基礎	確率解析への誘い: 確率微分方程式の基礎と応用	成田清正	共立出版
528	農林業基礎	確率微分方程式入門: 数理ファイナンスへの応用(数学のかんどころ-ここがわかれば数学はこわくない!- 26)	石村直之	共立出版
529	農林業基礎	ポアソン分布・ポアソン回帰・ポアソン過程(統計スポットライト・シリーズ 2)	島谷健一郎	近代科学社
530	農林業基礎	「ゆらぎ」と「遅れ」: 不確定さの数理(新潮選書)	大平徹	新潮社
531	農林業基礎	確率と確率過程: 具体例で学ぶ確率論の考え方	柳真眞一郎	森北出版
532	農林業基礎	確率微分方程式とその応用	兼清泰明	森北出版
533	農林業基礎	確率論講義ノート: 場合の数から確率微分方程式まで	大平徹	森北出版
534	農林業基礎	待ち行列の数理モデル(確率工学シリーズ 1)	木村俊一	朝倉書店
535	農林業基礎	ブロックの確率	ジョセフ・メイザー	日経BP社
536	農林業基礎	必勝法の数学(岩波科学ライブラリー 263)	徳田雄洋	岩波書店
537	農林業基礎	Excelで学ぶ統計的予測	菅民郎	オーム社
538	農林業基礎	Rによるノンパラメトリック検定	内田治	オーム社
539	農林業基礎	SPSSによるノンパラメトリック検定	内田治	オーム社
540	農林業基礎	最速の推計統計: 正規分布の徹底攻略	渡邊洋	コロナ社
541	農林業基礎	パネルデータの調査と分析・入門		ナカニシヤ出版
542	農林業基礎	時系列分析と状態空間モデルの基礎: RとStanで学ぶ理論と実装	馬場真哉	ブレアデス出版
543	農林業基礎	サンプリングって何だろう: 統計を使って全体を知る方法(岩波科学ライブラリー 271)	廣瀬雅代/稲垣佑典	岩波書店
544	農林業基礎	暗号と乱数: 乱数の統計的検定(統計学One Point 7)	藤井光昭	共立出版
545	農林業基礎	確率的グラフィカルモデル: Probabilistic Graphical Model	鈴木謙/植野真臣	共立出版
546	農林業基礎	時系列解析(統計学One Point 4)	柴田里程	共立出版
547	農林業基礎	必携統計の大標本論: その基礎理論と演習	Thomas S.Ferguson	共立出版
548	農林業基礎	恋する統計学: 推測統計入門	金城俊哉	秀和システム
549	農林業基礎	時系列分析ハンドブック		朝倉書店
550	農林業基礎	Rで学ぶ実験計画法	長畑秀和	朝倉書店
551	農林業基礎	実験計画法と分散分析(統計解析スタンダード)	三輪哲久	朝倉書店
552	農林業基礎	最小二乗法・交互最小二乗法(統計学One Point 3)	森裕一/黒田正博	共立出版
553	農林業基礎	MATLABとOctaveによる科学技術計算: 数値計算の理論と手法	A.クアルテローニ/F.サレリ	丸善出版
554	農林業基礎	数値計算(理工系の数理)	柳田英二/中木達幸	裳華房
555	農林業基礎	並列計算の数理とアルゴリズム	フレデリック・マダレス/フランソワ・グザヴィエール	森北出版
556	農林業基礎	和算の再発見: 東洋で生まれたもう一つの数学(DOJIN選書 58)	城地茂	化学同人
557	農林業基礎	江戸時代の数学最前線: 和算から見た行列式(知の扉シリーズ)	小川東/森本光生	技術評論社
558	農林業基礎	理系なら知っておきたい物理の基本ノート: 物理数学編, カラー改訂版	為近和彦	KADOKAWA
559	農林業基礎	理系なら知っておきたい物理の基本ノート: 電磁気学編, カラー改訂版	為近和彦	KADOKAWA
560	農林業基礎	理系なら知っておきたい物理の基本ノート: 力学編, カラー改訂版	為近和彦	KADOKAWA

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
561	農林業基礎	マンガでわかる物理: 光・音・波編	新田英雄/深森あき	オーム社
562	農林業基礎	物理, 第2版 (《基礎固め》シリーズ)	澤田肇	化学同人
563	農林業基礎	すごい物理学講義	カルロ・ロヴェッリ	河出書房新社
564	農林業基礎	物理学基礎, 第5版	原康夫	学術図書出版社
565	農林業基礎	レベル別に学べる物理学: カラー版: 1, 改訂版	末廣一彦/斉藤準	丸善出版
566	農林業基礎	レベル別に学べる物理学: カラー版: 2, 改訂版	末廣一彦/斉藤準	丸善出版
567	農林業基礎	身近な物理: 1 バイオリンからワインまで	L.G.Aslamazov/A.A.Varlamov	丸善出版
568	農林業基礎	身近な物理: 2 川の流れから量子の世界まで	L.G.Aslamazov/A.A.Varlamov	丸善出版
569	農林業基礎	物理の基礎的13の法則	細谷暁夫	丸善出版
570	農林業基礎	物理学: 1 (理工系の基礎)	小向得優	丸善出版
571	農林業基礎	物理学: 2 (理工系の基礎)	齋藤晃一	丸善出版
572	農林業基礎	ファインマン物理学問題集: 1	ファインマン/レイトン	岩波書店
573	農林業基礎	ファインマン物理学問題集: 2	ファインマン/レイトン	岩波書店
574	農林業基礎	ファインマン流物理がわかるコツ, 増補版	ファインマン/ゴットリーブ	岩波書店
575	農林業基礎	楽しみながら学ぶ物理入門	山崎耕造	共立出版
576	農林業基礎	ぼくらは「物理」のおかげで生きている (素晴らしきサイエンス PHYSICS)	横川淳	実務教育出版
577	農林業基礎	基礎からの物理学	山本貴博	裳華房
578	農林業基礎	理工系の物理学入門, スタンダード版	大成逸夫/田村忠久	裳華房
579	農林業基礎	やさしい基礎物理, 第2版	潮秀樹/上村洸	森北出版
580	農林業基礎	日常の「なぜ」に答える物理学	真貝寿明	森北出版
581	農林業基礎	死ぬまでに学びたい5つの物理学 (筑摩選書 0091)	山口栄一	筑摩書房
582	農林業基礎	やさしく物理: 力・熱・電気・光・波	夏目雄平	朝倉書店
583	農林業基礎	サーウェイ基礎物理学: 1 力学	R.A.Serway/J.W.Jewett,Jr.	東京化学同人
584	農林業基礎	サーウェイ基礎物理学: 2 電磁気学	R.A.Serway/J.W.Jewett,Jr.	東京化学同人
585	農林業基礎	サーウェイ基礎物理学: 3 熱力学	R.A.Serway/J.W.Jewett,Jr.	東京化学同人
586	農林業基礎	サーウェイ基礎物理学: 4 力学・電磁気学演習	R.A.Serway/J.W.Jewett,Jr.	東京化学同人
587	農林業基礎	高校数学でわかるアインシュタイン: 科学という考え方	酒井邦嘉	東京大学出版会
588	農林業基礎	物理の世界 (放送大学教材)	岸根順一郎/松井哲男	放送大学教育振興会
589	農林業基礎	物理学ミニマ	野尻伸一	名古屋大学出版会
590	農林業基礎	物理: 探究と創造の歴史 (歴史を変えた100の大発見)	トム・ジャクソン	丸善出版
591	農林業基礎	シュレディンガーの猫: 実験でたどる物理学の歴史 (創元ビジュアル科学シリーズ 2)	アダム・ハート=デイヴィス	創元社
592	農林業基礎	20世紀物理学史: 理論・実験・社会: 上	ヘリガ・カーオ	名古屋大学出版会
593	農林業基礎	20世紀物理学史: 理論・実験・社会: 下	ヘリガ・カーオ	名古屋大学出版会
594	農林業基礎	物理学者の墓を訪ねる: ひらめきの秘密を求めて	山口栄一	日経BP社
595	農林業基礎	人物でよむ物理法則の事典		朝倉書店
596	農林業基礎	先生、物理っておもしろいんですか?		丸善出版
597	農林業基礎	難問・奇問で語る世界の物理: オックスフォード大学教授による最高水準の大学入試面接問題傑作選	Thomas Povey	丸善出版
598	農林業基礎	犬も歩けば物理にあたる: 解き明かされる日常の疑問	ジャール・ウォーカー	慶應義塾大学出版会
599	農林業基礎	新・単位がわかると物理がわかる: SI単位系の成り立ちから自然単位系まで (BERET SCIENCE)	和田純夫/大上雅史	ベレ出版
600	農林業基礎	歴史をかえた物理実験, 新装復刊 (パリティブックス)	霜田光一	丸善出版
601	農林業基礎	一般相対性理論を一步一步数式で理解する	石井俊全	ベレ出版
602	農林業基礎	深化する一般相対論: ブラックホール・重力波・宇宙論	田中貴浩	丸善出版
603	農林業基礎	今度こそわかる重力理論 (今度こそわかるシリーズ)	和田純夫	講談社
604	農林業基礎	世にも不思議で美しい「相対性理論」(素晴らしきサイエンス THEORY OF RELATIVITY)	佐藤勝彦	実務教育出版
605	農林業基礎	重力: アインシュタインの一般相対性理論入門: 上	ジェームズ・B.ハートル	日本評論社
606	農林業基礎	重力: アインシュタインの一般相対性理論入門: 下	ジェームズ・B.ハートル	日本評論社
607	農林業基礎	図で読み解く特殊および一般相対性理論の物理的意味	小林啓祐	日本評論社
608	農林業基礎	相対性理論 (日評ベーシック・シリーズ)	小林努	日本評論社
609	農林業基礎	不思議の国のトムキンス, 復刻版	G.ガモフ	白揚社
610	農林業基礎	グラフィック演習量子力学の基礎 (ライブラリ物理学グラフィック講義 別巻4)	和田純夫	サイエンス社
611	農林業基礎	統計力学入門: 化学の視点から	田中一義	化学同人

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
612	農林業基礎	なるほど統計力学	村上雅人	海鳴社
613	農林業基礎	エッセンシャル統計力学	小田垣孝	裳華房
614	農林業基礎	群と物理	佐藤光	丸善出版
615	農林業基礎	変分原理と物理学	鈴木増雄	丸善出版
616	農林業基礎	計算物理学: コンピューターで解く凝縮系の物理 (フロー式物理演習シリーズ 21)	坂井徹	共立出版
617	農林業基礎	工学系学生のための数学物理学演習	橋爪秀利	共立出版
618	農林業基礎	大学初年級でマスターしたい物理と工学のベーシック数学	河辺哲次	裳華房
619	農林業基礎	微分方程式と数値モデル: 現象をどのようにモデル化するか	遠藤雅守/北林照幸	裳華房
620	農林業基礎	計算物理学: 1 数値計算の基礎/HPC/フーリエ・ウェーブレット解析 (実践Pythonライブラリー)	R.H.Landau/M.J.Páez	朝倉書店
621	農林業基礎	計算物理学: 2 物理現象の解析・シミュレーション (実践Pythonライブラリー)	R.H.Landau/M.J.Páez	朝倉書店
622	農林業基礎	納得しながら物理数学 (納得しながら学べる物理シリーズ 5)	岸野正剛	朝倉書店
623	農林業基礎	ヴィジュアルガイド物理数学: 1変数の微積分と常微分方程式	前野昌弘	東京図書
624	農林業基礎	ヴィジュアルガイド物理数学: 多変数関数と偏微分	前野昌弘	東京図書
625	農林業基礎	例題から展開する力学 (ライブラリ例題から展開する大学物理学 1)	香取真理/森山修	サイエンス社
626	農林業基礎	スバラシク実力がつくと評判の力学キャンパス・ゼミ: 大学の物理がこんなに分かる!単位なんて楽に取れる! 改訂4	馬場敬之	マセマ出版社
627	農林業基礎	ファーストステップ力学: 物理的な見方・考え方を身に付ける	河辺哲次	裳華房
628	農林業基礎	法則がわかる力学	遠藤雅守	裳華房
629	農林業基礎	初歩の量子力学を取り入れた力学 (シリーズ〈これからの基礎物理学〉 2)	窪田高弘	朝倉書店
630	農林業基礎	力学: 入門編 (物理学基礎 1)	滝川昇/新井敏一	朝倉書店
631	農林業基礎	スタンフォード 物理学再入門 力学	レオナルド・サスキンド/ジョージ・ラボフスキー	日経BP社
632	農林業基礎	力学 (日評ベーシック・シリーズ)	御領潤	日本評論社
633	農林業基礎	基礎物理学 力学	秋光純/秋光正子	培風館
634	農林業基礎	例題で学ぶ連続体力学	石井建樹	森北出版
635	農林業基礎	解析力学 (基幹講座物理学)	畑浩之	東京図書
636	農林業基礎	解析力学 (日評ベーシック・シリーズ)	十河清	日本評論社
637	農林業基礎	持続性の本質: 物理学からみた地球の環境	広瀬立成	培風館
638	農林業基礎	弾性体力学: 変形の物理を理解するために (フロー式物理演習シリーズ 16)	中島淳一/三浦哲	共立出版
639	農林業基礎	いまさら流体力学?, 新装復刊 (パリティブックス)	木田重雄	丸善出版
640	農林業基礎	量子流体力学: Quantum Hydrodynamics	坪田誠/笠松健一	丸善出版
641	農林業基礎	流れのすじがよくわかる流体力学	小森悟	朝倉書店
642	農林業基礎	流体解析の基礎	河村哲也	朝倉書店
643	農林業基礎	非線形波動の物理: PHYSICS OF NONLINEAR WAVES	田中光宏	森北出版
644	農林業基礎	乱流の数値シミュレーション, 改訂版	梶島岳夫	養賢堂
645	農林業基礎	振動と波動: 身近な普遍的現象を理解するために (フロー式物理演習シリーズ 6)	田中秀数	共立出版
646	農林業基礎	入門振動・波動	福田誠	裳華房
647	農林業基礎	演習しよう振動・波動: これでマスター!学期末・大学院入試問題 (ライブラリ物理の演習しよう 6)	引原俊哉	数理工学社
648	農林業基礎	振動・波動	森成隆夫	朝倉書店
649	農林業基礎	光学ハンドブック: 基礎と応用	宮本健郎	岩波書店
650	農林業基礎	はじめての光学: Beginner's Guide to OPTICS	川田善正	講談社
651	農林業基礎	メタマテリアルのための光学入門	左貝潤一	森北出版
652	農林業基礎	イラストレイテッド光の科学	田所利康/石川謙	朝倉書店
653	農林業基礎	これからの光学: 古典論・量子論・物質との相互作用・新しい光	大津元一	朝倉書店
654	農林業基礎	光学	谷田貝豊彦	朝倉書店
655	農林業基礎	イラストレイテッド光の実験	田所利康	朝倉書店
656	農林業基礎	OpenFOAMによる熱移動と流れの数値解析		森北出版
657	農林業基礎	基礎から学ぶ熱力学	吉田幸司/岸本健	オーム社
658	農林業基礎	化学系学生にわかりやすい熱力学・統計熱力学	湯浅真/北村尚斗	コロナ社
659	農林業基礎	熱・統計力学講義ノート (ライブラリ理学・工学系物理学講義ノート 4)	森成隆夫	サイエンス社
660	農林業基礎	英語と日本語で学ぶ熱力学: Thermodynamics in English and Japanese	Ruggero Micheletto/戸坂亜希	共立出版
661	農林業基礎	高校で物理を履修しなかった人のための熱力学 (フロー式物理演習シリーズ 7)	上羽牧夫	共立出版
662	農林業基礎	初歩の統計力学を取り入れた熱力学 (シリーズ〈これからの基礎物理学〉 1)	小野嘉之	朝倉書店

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
663	農林業基礎	熱力学入門講義 (現代物理学入門講義シリーズ 3)	風間洋一	培風館
664	農林業基礎	低温科学便覧		丸善出版
665	農林業基礎	低温環境の科学事典		朝倉書店
666	農林業基礎	基本からわかる電磁気学講義ノート	市川紀充	オーム社
667	農林業基礎	物性・光学のための電磁気学: 基礎から量子化まで	浜口智尋	コロナ社
668	農林業基礎	新・基礎電磁気学演習 (ライブラリ新・基礎物理学 別巻2)	永田一清/佐野元昭	サイエンス社
669	農林業基礎	電磁気学講義ノート (ライブラリ理学・工学系物理学講義ノート 5)	市田正夫	サイエンス社
670	農林業基礎	スバラシク実力がつくと評判の演習電磁気学キャンパス・ゼミ, 改訂1	高杉豊/馬場敬之	マセマ出版社
671	農林業基礎	キーポイント電磁気学 (物理のキーポイント 2)	生井澤寛	岩波書店
672	農林業基礎	物理学を変えた二人の男: ファラデー、マクスウェル、場の発見	ナンシー・フォース/ペイジ・メイホン	岩波書店
673	農林業基礎	マルチフェロイクス: 物質中の電磁気学の新展開 (基本法則から読み解く物理学最前線 2)	有馬孝尚	共立出版
674	農林業基礎	演習で理解する基礎物理学: 電磁気学	御法川幸雄/新居殺人	共立出版
675	農林業基礎	楽しみながら学ぶ電磁気学入門	山崎耕造	共立出版
676	農林業基礎	電磁気学 (工学系の基礎物理学シリーズ)	加藤潔	裳華房
677	農林業基礎	演習しよう電磁気学: これでマスター!学期末・大学院入試問題 (ライブラリ物理の演習しよう 2)	羽部朝男/榎本潤次郎	数理工学社
678	農林業基礎	納得しながら電磁気学 (納得しながら学べる物理シリーズ 3)	岸野正剛	朝倉書店
679	農林業基礎	トコトンやさしい電磁気の本 (B&Tブックス 今日からモノ知りシリーズ)	面谷信	日刊工業新聞社
680	農林業基礎	電磁気学, 第2版 (大学院入試問題から学ぶシリーズ)	中村徹	日本評論社
681	農林業基礎	基礎物理学 電磁気学	秋光純/村上修一	培風館
682	農林業基礎	電磁気学読本: 「力」と「場」の物語: 上	大島隆義	名古屋大学出版会
683	農林業基礎	電磁気学読本: 「力」と「場」の物語: 下	大島隆義	名古屋大学出版会
684	農林業基礎	熱電材料の物質科学: 熱力学・物性物理学・ナノ科学 (物質・材料テキストシリーズ)	寺崎一郎	内田老鶴園
685	農林業基礎	遷移金属酸化物・化合物の超伝導と磁性 (物質・材料テキストシリーズ)	佐藤正俊	内田老鶴園
686	農林業基礎	プラズマ入門, 第2版	川田重夫	森北出版
687	農林業基礎	プラズマ物理の基礎	宮本健郎	朝倉書店
688	農林業基礎	電磁波の物理: その発生・伝播・吸収・増幅・共振を電磁気学で理解する	遠藤雅守	森北出版
689	農林業基礎	磁気便覧		丸善出版
690	農林業基礎	相転移・臨界現象とくりこみ群	高橋和孝/西森秀稔	丸善出版
691	農林業基礎	光誘起構造相転移: 光が拓く新たな物質科学 (基本法則から読み解く物理学最前線 11)	腰原伸也/TADEUSZ M.LUTY	共立出版
692	農林業基礎	物質科学の最前線 (KEK物理学シリーズ 7)	村上洋一	共立出版
693	農林業基礎	物質中の電場と磁場: 物性をより深く理解するために (フロー式物理演習シリーズ 13)	村上修一	共立出版
694	農林業基礎	物性科学ハンドブック: 概念・現象・物質		朝倉書店
695	農林業基礎	分子性物質の物理: 物性物理の新潮流	鹿野田一司/宇治進也	朝倉書店
696	農林業基礎	高分子ゲルの物理学: 構造・物性からその応用まで		東京大学出版会
697	農林業基礎	液晶: 基礎から最新の科学とディスプレイテクノロジーまで (化学の要点シリーズ 19)	竹添秀男/宮地弘一	共立出版
698	農林業基礎	固体物理と半導体物性の基礎	牧本俊樹	コロナ社
699	農林業基礎	ブット・グラフ・カペル界面の物理と化学	Hans-Jürgen Butt/Karlheinz Graf	丸善出版
700	農林業基礎	ARPESで探る固体の電子構造: 高温超伝導体からトポロジカル絶縁体 (基本法則から読み解く物理学最前線 16)	高橋隆/佐藤宇史	共立出版
701	農林業基礎	初歩から学ぶ固体物理学: SOLID STATE PHYSICS	矢口裕之	講談社
702	農林業基礎	固体物性と電気伝導	鈴木実	森北出版
703	農林業基礎	基礎から学ぶ強相関電子系: 量子力学から固体物理場の量子論まで (物質・材料テキストシリーズ)	勝藤拓郎	内田老鶴園
704	農林業基礎	固体電子構造論: 密度汎関数理論から電子相関まで (物質・材料テキストシリーズ)	藤原毅夫	内田老鶴園
705	農林業基礎	トポロジカル絶縁体・超伝導体 (現代理論物理学シリーズ 6)	野村健太郎	丸善出版
706	農林業基礎	トポロジカル絶縁体入門: Introduction to Topological Insulators	安藤陽一	講談社
707	農林業基礎	半導体量子構造の物理 (現代物理学〈展開シリーズ〉 5)	平山祥郎/山口浩司	朝倉書店
708	農林業基礎	半導体量子輸送物性 (新物理学シリーズ 43)	勝本信吾	培風館
709	農林業基礎	固体の磁性: はじめて学ぶ磁性物理	Stephen Blundell	内田老鶴園
710	農林業基礎	原子・原子核・原子力: わたしが講義で伝えたかったこと	山本義隆	岩波書店
711	農林業基礎	加速器ハンドブック: Handbook of Particle Accelerators		丸善出版
712	農林業基礎	日本発宇宙行き「国際リニアコライダー」: 超大型粒子加速器	有馬雅人	講談社
713	農林業基礎	わかりやすい放射線物理学, 改訂3版	多田順一郎/中島宏	オーム社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
714	農林業基礎	Q&A放射線物理: Q&A Radiation Physics, 改訂2版	大塚徳勝/西谷源展	共立出版
715	農林業基礎	カミオカンデとニュートリノ		丸善出版
716	農林業基礎	クォーク・グルーオン・プラズマの物理: 実験室で再現する宇宙の始まり (基本法則から読み解く物理学最前線 3)	秋葉康之	共立出版
717	農林業基礎	ミュオンスピン回転法: 謎の粒子ミュオンが拓く物質科学 (基本法則から読み解く物理学最前線 10)	門野良典	共立出版
718	農林業基礎	格子QCDによるハドロン物理: クォークからの理解 (基本法則から読み解く物理学最前線 13)	青木慎也	共立出版
719	農林業基礎	中間子原子の物理: 強い力の支配する世界 (基本法則から読み解く物理学最前線 15)	比連崎悟	共立出版
720	農林業基礎	「宇宙のすべてを支配する数式」をババに習ってみた: 天才物理学者・浪速阪教授の70分講義	橋本幸士	講談社
721	農林業基礎	超ひも理論をババに習ってみた: 天才物理学者・浪速阪教授の70分講義	橋本幸士	講談社
722	農林業基礎	現代素粒子物理: 実験的観点からみる標準理論	末包文彦/久世正弘	森北出版
723	農林業基礎	弦とブレーン (Yukawaライブラリー 2)	細道和夫	朝倉書店
724	農林業基礎	ニュートリノ小さな大発見: ノーベル物理学賞への階段 (朝日選書 945)	梶田隆章/朝日新聞科学医療部	朝日新聞出版
725	農林業基礎	ニュートリノで探る宇宙と素粒子	梶田隆章	平凡社
726	農林業基礎	理系なら知っておきたい化学の基本ノート: 有機化学編, カラー改訂版	岡島光洋	KADOKAWA
727	農林業基礎	理系なら知っておきたい化学の基本ノート: 物理化学編, カラー改訂版	岡島光洋	KADOKAWA
728	農林業基礎	実感する化学: 上巻 地球感動編, 改訂	A Project of the American Chemical Society	エヌ・ティー・エス
729	農林業基礎	実感する化学: 下巻 生活感動編, 改訂	A Project of the American Chemical Society	エヌ・ティー・エス
730	農林業基礎	ベーシック化学: 高校の化学から大学の化学へ	竹内敬人	化学同人
731	農林業基礎	一般化学 (化学の基本シリーズ 1)	河野淳也	化学同人
732	農林業基礎	教養としての化学入門: 未来の課題を解決するために	Kimberley Waldron	化学同人
733	農林業基礎	演習で納得!!理工系学生のための化学基礎, 第2版	川泉文男	学術図書出版社
734	農林業基礎	理工系学生のための化学基礎, 第7版		学術図書出版社
735	農林業基礎	ブラウン一般化学: 1 物質の構造と性質	Theodore L.BROWN	丸善出版
736	農林業基礎	ブラウン一般化学: 2 反応・熱力学・化学の広がり	Theodore L.BROWN	丸善出版
737	農林業基礎	教養化学 (理工系の基礎)		丸善出版
738	農林業基礎	大学生の化学, 新版	大野倅吉	三共出版
739	農林業基礎	ぼくらは「化学」のおかげで生きている: 素晴らしきサイエンスCHEMISTRY	齋藤勝裕	実務教育出版
740	農林業基礎	あなたと化学: くらしを支える化学15講	齋藤勝裕	裳華房
741	農林業基礎	一般化学, 4訂版	長島弘三/富田功	裳華房
742	農林業基礎	化学のちから: 生命・環境・エネルギーの理解のために	岡野光俊	裳華房
743	農林業基礎	アトキンス一般化学: 上	Peter Atkins/Loretta Jones	東京化学同人
744	農林業基礎	アトキンス一般化学: 下	Peter Atkins/Loretta Jones	東京化学同人
745	農林業基礎	ブラディジェスパーセン一般化学: 上	N.D.Jespersen/A.Hyslop	東京化学同人
746	農林業基礎	ブラディジェスパーセン一般化学: 下	N.D.Jespersen/A.Hyslop	東京化学同人
747	農林業基礎	マッカーリー一般化学: 上	D.A.McQuarrie/P.A.Rock	東京化学同人
748	農林業基礎	マッカーリー一般化学: 下	D.A.McQuarrie/P.A.Rock	東京化学同人
749	農林業基礎	環境と化学: グリーンケミストリー入門, 第3版		東京化学同人
750	農林業基礎	生命科学のための基礎化学	原田義也	東京大学出版会
751	農林業基礎	演習・基礎から学ぶ大学の化学	伊藤省吾	培風館
752	農林業基礎	理工系学生のための基礎化学	田島正弘/熊澤隆	培風館
753	農林業基礎	現代を生きるための化学 (放送大学教材)	橋本健朗	放送大学教育振興会
754	農林業基礎	初歩からの化学 (放送大学教材)	安池智一/鈴木啓介	放送大学教育振興会
755	農林業基礎	化学史事典		化学同人
756	農林業基礎	元素: 周期表にまつわる5万年の物語 (歴史を変えた100の大発見)	トム・ジャクソン	丸善出版
757	農林業基礎	化学英語<精選>文例辞典	松永義夫	朝倉書店
758	農林業基礎	化合物命名法: IUPAC勧告に準拠, 第2版		東京化学同人
759	農林業基礎	実践・化学英語リスニング: 世界トップの化学者と競うために: 物理化学編		化学同人
760	農林業基礎	実践・化学英語リスニング: 世界トップの化学者と競うために: 有機化学編		化学同人
761	農林業基礎	実践・化学英語リスニング: 世界トップの化学者と競うために: 生化学編		化学同人
762	農林業基礎	マッカーリー化学数学	Donald A.McQuarrie	丸善出版
763	農林業基礎	化学英語30講: リーディング・文法・リスニング (やさしい化学30講シリーズ 5)	宮本恵子	朝倉書店
764	農林業基礎	基礎物理化学: 1 原子・分子の量子論, 新訂版 (新・物質科学ライブラリー 2)	山内淳	サイエンス社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
765	農林業基礎	基礎物理化学: 2 物質のエネルギー論, 新訂版 (新・物質科学ライブラリ 3)	山内淳	サイエンス社
766	農林業基礎	ボール物理化学: 上, 第2版	DAVID W.BALL	化学同人
767	農林業基礎	ボール物理化学: 下, 第2版	DAVID W.BALL	化学同人
768	農林業基礎	現代物理化学	寺嶋正秀/馬場正昭	化学同人
769	農林業基礎	物理化学 (化学はじめの一步シリーズ 2)	真船文隆/渡辺正	化学同人
770	農林業基礎	ウエスト固体化学: 基礎と応用	A.R.ウエスト	講談社
771	農林業基礎	たのしい物理化学: 1 化学熱力学・反応速度論	加納健司/山本雅博	講談社
772	農林業基礎	アトキンス基礎物理化学: 分子論的アプローチ: 上, 第2版	P.Atkins/J.de Paula	東京化学同人
773	農林業基礎	アトキンス物理化学: 上, 第10版	Peter Atkins/Julio de Paula	東京化学同人
774	農林業基礎	アトキンス物理化学: 下, 第10版	Peter Atkins/Julio de Paula	東京化学同人
775	農林業基礎	アトキンス物理化学入門	Peter Atkins	東京化学同人
776	農林業基礎	アトキンス物理化学要論, 第6版	Peter Atkins/Julio de Paula	東京化学同人
777	農林業基礎	エンゲル・リード物理化学: 上	T.ENGEL/P.REID	東京化学同人
778	農林業基礎	エンゲル・リード物理化学: 下	T.ENGEL/P.REID	東京化学同人
779	農林業基礎	基礎コース物理化学: 1 量子化学	中田宗隆	東京化学同人
780	農林業基礎	基本物理化学	Raymond Chang/John W.Thoman,Jr.	東京化学同人
781	農林業基礎	数学フリーの物理化学	齋藤勝裕	日刊工業新聞社
782	農林業基礎	レファレンス物理化学		廣川書店
783	農林業基礎	図解ゼロからわかる構造化学入門 (わかる基礎入門シリーズ)	齋藤勝裕	技術評論社
784	農林業基礎	超分子化学 (化学の要点シリーズ 23)	木原伸浩	共立出版
785	農林業基礎	はじめての電子状態計算: DV-X α 分子軌道計算への入門, 新版	足立裕彦/小笠原一禎	三共出版
786	農林業基礎	量子材料化学の基礎	足立裕彦	三共出版
787	農林業基礎	世界で一番美しい分子図鑑	セオドア・グレイ	創元社
788	農林業基礎	分子軌道法: 定性的MO法で化学を考える	友田修司	東京大学出版会
789	農林業基礎	面白くて眠れなくなる元素	左巻健男	PHPエディターズ・グループ
790	農林業基礎	元素紀行	森弘之	オーム社
791	農林業基礎	宮沢賢治の元素図鑑: 作品を彩る元素と鉱物	桜井弘	化学同人
792	農林業基礎	興味が湧き出る化学結合論: 基礎から論理的に理解して楽しく学ぶ	久保田真理	共立出版
793	農林業基礎	数学フリーの化学結合	齋藤勝裕	日刊工業新聞社
794	農林業基礎	化学結合論 - 分子の構造と機能 (放送大学教材)	橋本健朗	放送大学教育振興会
795	農林業基礎	錯体化学: 基礎から応用まで (エキスパート応用化学テキストシリーズ)	長谷川靖哉/伊藤肇	講談社
796	農林業基礎	立体化学 (有機化学スタンダード)	木原伸浩	裳華房
797	農林業基礎	ゼロからの最速理解 量子化学	佐々木健夫	コロナ社
798	農林業基礎	すぐできる量子化学計算ビギナーズマニュアル, 新版	武次徹也	講談社
799	農林業基礎	化学反応論 - 分子の変化と機能 (放送大学教材)	安池智一	放送大学教育振興会
800	農林業基礎	反応速度論 (物理化学入門シリーズ)	真船文隆/廣川淳	裳華房
801	農林業基礎	固体触媒 (化学の要点シリーズ 22)	内藤周弼	共立出版
802	農林業基礎	触媒化学: 基礎から応用まで (エキスパート応用化学テキストシリーズ)	田中庸裕/山下弘巳	講談社
803	農林業基礎	光化学: 基礎から応用まで (エキスパート応用化学テキストシリーズ)	長村利彦/川井秀記	講談社
804	農林業基礎	光化学の事典: ENCYCLOPEDIA OF PHOTOCHEMISTRY		朝倉書店
805	農林業基礎	光る生物の話 (朝日選書 917)	下村脩	朝日新聞出版
806	農林業基礎	放射化学の事典		朝倉書店
807	農林業基礎	基本化学熱力学: 基礎編	蒲池幹治	三共出版
808	農林業基礎	分子熱統計力学: 化学平衡から反応速度まで	高塚和夫/田中秀樹	東京大学出版会
809	農林業基礎	電気化学: 基礎と応用	K.B.Oldham/J.C.Myland	東京化学同人
810	農林業基礎	現代界面コロイド化学の基礎: 原理・応用・測定ソリューション, 第4版		丸善出版
811	農林業基礎	界面現象と曲線の微積分 (シリーズ・現象を解明する数学)	矢崎成俊	共立出版
812	農林業基礎	固体表面の濡れ性: 超親水性から超撥水性まで (化学の要点シリーズ 12)	中島章	共立出版
813	農林業基礎	高分子化学 (化学の指針シリーズ)	西敏夫/讚井浩平	裳華房
814	農林業基礎	数学フリーの高分子化学	齋藤勝裕	日刊工業新聞社
815	農林業基礎	理工系のための化学実験: 基礎化学からバイオ・機能材料まで		共立出版

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
816	農林業基礎	理工系基礎化学実験	岩岡道夫/藤尾克彦	共立出版
817	農林業基礎	化学系のための安全工学: 実験におけるリスク回避のために	西山豊/柳日馨	化学同人
818	農林業基礎	実験を安全に行うために, 第8版		化学同人
819	農林業基礎	実験を安全に行うために: 続 基本操作・基本測定編, 第4版		化学同人
820	農林業基礎	化学安全ノート: 安全な実験室管理のための, 第3版		丸善出版
821	農林業基礎	化学実験の事故事例・事故防止ハンドブック	鈴木仁美	丸善出版
822	農林業基礎	現場で役立つ化学分析の基礎, 第2版		オーム社
823	農林業基礎	現場で役立つ化学分析の基本技術と安全		オーム社
824	農林業基礎	基礎分析化学, 新訂版(新・物質科学ライブラリ7)	宗林由樹/向井浩	サイエンス社
825	農林業基礎	ハリス分析化学: 上	Daniel C.Harris	化学同人
826	農林業基礎	ハリス分析化学: 下	Daniel C.Harris	化学同人
827	農林業基礎	基礎から学ぶ機器分析化学		化学同人
828	農林業基礎	基礎から学ぶ分析化学		化学同人
829	農林業基礎	分析化学(化学はじめの一步シリーズ5)	角田欣一/渡辺正	化学同人
830	農林業基礎	クリスチャンExcelで解く分析化学	Gary D.Christian/Purnendu K.Dasgupta	丸善出版
831	農林業基礎	クリスチャン分析化学: 1 基礎編	Gary D.Christian/Purnendu K.Dasgupta	丸善出版
832	農林業基礎	クリスチャン分析化学: 2 機器分析編	Gary D.Christian/Purnendu K.Dasgupta	丸善出版
833	農林業基礎	フローインジェクション分析(分析化学実技シリーズ 機器分析編10)	本水昌二/小態幸一	共立出版
834	農林業基礎	機器分析(エキスパート応用化学テキストシリーズ)	大谷肇/梅村知也	講談社
835	農林業基礎	熱分析: THERMAL ANALYSIS, 第4版	吉田博久/古賀信吉	講談社
836	農林業基礎	よくわかる最新分析化学の基本と仕組み: 現場で必要とされる分析法のノウハウ, 第2版(図解入門-How-nual- Visual Guide Book)	津村ゆかり	秀和システム
837	農林業基礎	基礎分析化学	小態幸一/酒井忠雄	朝倉書店
838	農林業基礎	分析・測定データの統計処理: 分析化学データの扱い方	田中秀幸	朝倉書店
839	農林業基礎	パートナー分析化学: 1, 改訂第3版		南江堂
840	農林業基礎	パートナー分析化学: 2, 改訂第3版		南江堂
841	農林業基礎	LC/MS, LC/MS/MSの基礎と応用		オーム社
842	農林業基礎	光散乱法の基礎と応用	柴山充弘/佐藤尚弘	講談社
843	農林業基礎	NMR入門: 必須ツール基礎の基礎(Chemistry Primer Series 2)	P.J.Hore	化学同人
844	農林業基礎	誘導結合プラズマ質量分析(分析化学実技シリーズ 機器分析編17)	田尾博明	共立出版
845	農林業基礎	XAFSの基礎と応用: Foundations and Applications of XAFS		講談社
846	農林業基礎	赤外分光法(分光法シリーズ4)	古川行夫	講談社
847	農林業基礎	蛍光X線分析の実際, 第2版		朝倉書店
848	農林業基礎	電子スピン共鳴分光法(化学の要点シリーズ20)	大庭裕範/山内清語	共立出版
849	農林業基礎	有機スペクトル解析: MS・IR・NMRデータを読む		丸善出版
850	農林業基礎	有機機器分析: 構造解析の達人を目指して(化学の要点シリーズ10)	村田道雄	共立出版
851	農林業基礎	有機化合物のスペクトルによる同定法: MS, IR, NMRの併用, 第8版	SILVERSTEIN	東京化学同人
852	農林業基礎	有機化合物のスペクトルによる同定法: 演習編, 第8版	岩澤伸治/豊田真司	東京化学同人
853	農林業基礎	最新有機合成法: 設計と戦略, 第2版	G.S.Zweifel/M.H.Nantz	化学同人
854	農林業基礎	有機合成化学: 最先端の研究例から学ぶ合成戦略と反応機構	東郷秀雄	講談社
855	農林業基礎	ウォーレン有機合成: 逆合成からのアプローチ	Stuart Warren/Paul Wyatt	東京化学同人
856	農林業基礎	トコトンやさしいクロスカップリング反応の本(B&Tブックス 今日からモノ知りシリーズ)	山本靖典	日刊工業新聞社
857	農林業基礎	有機合成における人名反応750	A.Hassner/I.Namboothiri	東京化学同人
858	農林業基礎	無機化学の基礎	坪村太郎/川本達也	化学同人
859	農林業基礎	シュライパー・アトキンス無機化学: 上	M.Weller	東京化学同人
860	農林業基礎	シュライパー・アトキンス無機化学: 下	M.Weller	東京化学同人
861	農林業基礎	演習無機化学: 基本から大学院入試まで, 第2版	田中勝久	東京化学同人
862	農林業基礎	基本無機化学, 第3版	荻野博/飛田博実	東京化学同人
863	農林業基礎	量子論に基づく無機化学: 群論からのアプローチ, 増補改訂版	高木秀夫	名古屋大学出版会
864	農林業基礎	フッ素化合物の分解と環境化学(化学の要点シリーズ24)	堀久男	共立出版
865	農林業基礎	リンの事典		朝倉書店
866	農林業基礎	入門レアアースの化学	足立吟也	化学同人

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
867	農林業基礎	サプリメント式有機化学	竹内敬人	オーム社
868	農林業基礎	スミス有機化学: 上	Janice Gorzynski Smith	化学同人
869	農林業基礎	スミス有機化学: 下	Janice Gorzynski Smith	化学同人
870	農林業基礎	はじめて学ぶ有機化学	高橋秀依/須貝威	化学同人
871	農林業基礎	ブルース有機化学: 上	Paula Y.Bruice	化学同人
872	農林業基礎	ブルース有機化学: 下	Paula Y.Bruice	化学同人
873	農林業基礎	ブルース有機化学概説, 第3版	Paula Y.Bruice	化学同人
874	農林業基礎	有機化学(化学の基本シリーズ 2)	久保拓也/細矢憲	化学同人
875	農林業基礎	ウェイド有機化学: 上	L.G.Wade,Jr.	丸善出版
876	農林業基礎	ウェイド有機化学: 下	L.G.Wade,Jr.	丸善出版
877	農林業基礎	有機化学: ORGANIC CHEMISTRY, 改訂2版	奥山格/石井昭彦	丸善出版
878	農林業基礎	基礎有機化学(有機化学スタンダード)	小林啓二	裳華房
879	農林業基礎	ウォーレン有機化学: 上, 第2版	J.CLAYDEN/N.GREEVES	東京化学同人
880	農林業基礎	ウォーレン有機化学: 下, 第2版	J.CLAYDEN/N.GREEVES	東京化学同人
881	農林業基礎	ウレット・ローン基本有機化学	R.J.Ouellette/J.D.Rawn	東京化学同人
882	農林業基礎	キーノート有機化学, 第2版	Andrew F.Parsons	東京化学同人
883	農林業基礎	クライン有機化学: 上	David R.Klein	東京化学同人
884	農林業基礎	クライン有機化学: 下	David R.Klein	東京化学同人
885	農林業基礎	ジョーンズ有機化学: 上, 第5版	Maitland Jones,Jr./Steven A.Fleming	東京化学同人
886	農林業基礎	ジョーンズ有機化学: 下, 第5版	Maitland Jones,Jr./Steven A.Fleming	東京化学同人
887	農林業基礎	ブラウン有機化学: 上	BROWN	東京化学同人
888	農林業基礎	ブラウン有機化学: 下	BROWN	東京化学同人
889	農林業基礎	マクマリー有機化学: 上, 第9版	JOHN McMURRY	東京化学同人
890	農林業基礎	マクマリー有機化学: 中, 第9版	JOHN McMURRY	東京化学同人
891	農林業基礎	マクマリー有機化学: 下, 第9版	JOHN McMURRY	東京化学同人
892	農林業基礎	マクマリー有機化学概説, 第7版	JOHN McMURRY	東京化学同人
893	農林業基礎	マクマリー有機化学概説問題の解き方: 英語版, 第7版	SUSAN McMURRY	東京化学同人
894	農林業基礎	マテリアルサイエンス有機化学: 基礎と機能材料への展開, 第2版	伊興田正彦/横山泰	東京化学同人
895	農林業基礎	ラウドン有機化学: 上	MARC LOUDON/JIM PARISE	東京化学同人
896	農林業基礎	数学フリーの有機化学	齋藤勝裕	日刊工業新聞社
897	農林業基礎	ソロモンの新有機化学: 1, 第11版	T.W.Graham Solomons/Craig B.Fryhle	廣川書店
898	農林業基礎	ソロモンの新有機化学: 2, 第11版	T.W.Graham Solomons/Craig B.Fryhle	廣川書店
899	農林業基礎	『有機反応機構』ワークブック: 巻矢印で有機反応を学ぶ!	奥山格	丸善出版
900	農林業基礎	有機合成のためのフリーラジカル反応: 基礎から精密有機合成への応用まで	東郷秀雄	丸善出版
901	農林業基礎	有機反応機構: 有機反応を深く理解するために	奥山格	丸善出版
902	農林業基礎	有機反応・合成(有機化学スタンダード)	小林進	裳華房
903	農林業基礎	有機合成実験法ハンドブック, 第2版		丸善出版
904	農林業基礎	研究室で役立つ有機実験のナビゲーター: 実験ノートのとり方から機器分析まで, 第3版	James W.Zubrick	丸善出版
905	農林業基礎	有機金属化学, 第2版(錯体化学会選書 6)	中沢浩/小坂田耕太郎	三共出版
906	農林業基礎	ハートウィグ有機遷移金属化学: 上	JOHN F.HARTWIG	東京化学同人
907	農林業基礎	ハートウィグ有機遷移金属化学: 下	JOHN F.HARTWIG	東京化学同人
908	農林業基礎	有機金属化学: 基礎から触媒反応まで	山本明夫	東京化学同人
909	農林業基礎	資源天然物化学, 改訂版		共立出版
910	農林業基礎	天然物の化学: 魅力と展望(科学のとびら 60)		東京化学同人
911	農林業基礎	パートナー天然物化学, 改訂第3版		南江堂
912	農林業基礎	アストロバイオロジー: 地球外生命の可能性	山岸明彦	丸善出版
913	農林業基礎	宇宙生命科学入門: 生命の大冒険	石岡憲昭	共立出版
914	農林業基礎	五〇億年の孤独: 宇宙に生命を探す天文学者たち	リー・ピリングズ	早川書房
915	農林業基礎	私たちは宇宙から見られている?: 「地球外生命」探求の最前線	ポール・マーディン	日本評論社
916	農林業基礎	生命の起源: 地球と宇宙をめぐる最大の謎に迫る	ポール・デイヴィス	明石書店
917	農林業基礎	宇宙物理学(KEK物理学シリーズ 3)	小玉英雄	共立出版

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
918	農林業基礎	宇宙物理学(現代物理学<基礎シリーズ>9)	二間瀬敏史	朝倉書店
919	農林業基礎	宇宙大図鑑(DKブックシリーズ)		ネコ・パブリッシング
920	農林業基礎	重力で宇宙を見る: 重力波と重力レンズが明かす、宇宙はじまりの謎	二間瀬敏史	河出書房新社
921	農林業基礎	地球の変動はどこまで宇宙で解明できるか: 太陽活動から読み解く地球の過去・現在・未来(DOJIN選書61)	宮原ひろ子	化学同人
922	農林業基礎	情報共有・地域活動支援のためのソーシャルメディアGIS	山本佳世子	古今書院
923	農林業基礎	動く地球の測りかた: 宇宙測地技術が明らかにした動的地球像	河野直之/日置幸介	東海大学出版部
924	農林業基礎	数学者は地球をこのように見ている: 「正しい地図」の作り方	ティモシー・G.フィーマン	日本評論社
925	農林業基礎	できたての地球: 生命誕生の条件(岩波科学ライブラリー238)	廣瀬敬	岩波書店
926	農林業基礎	人類の未来と地球科学(岩波現代全書092)	井田喜明	岩波書店
927	農林業基礎	地球の教科書	井田喜明	岩波書店
928	農林業基礎	生命の惑星: ビッグバンから人類までの地球の進化	チャールズ・H.ラングミュアー/ウォリー・ブロッカー	京都大学学術出版会
929	農林業基礎	ありえない138億年史: 宇宙誕生と私たちを結ぶビッグヒストリー	ウォルター・アルバレス	光文社
930	農林業基礎	変化する地球環境: 異常気象を理解する(放送大学叢書024)	木村龍治	左右社
931	農林業基礎	宇宙からいかにヒトは生まれたか: 偶然と必然の138億年史(新潮選書)	更科功	新潮社
932	農林業基礎	地球の履歴書(新潮選書)	大河内直彦	新潮社
933	農林業基礎	もういちど読む数研の高校地学		数研出版
934	農林業基礎	宮沢賢治の地学教室	柴山元彦	創元社
935	農林業基礎	デージーワールドと地球システム: The Earth Systemの抄訳と編著者のノートから	能田成	大阪公立大学共同出版会
936	農林業基礎	地震・火山や生物でわかる地球の科学(阪大リーブル59)	松田准一	大阪大学出版会
937	農林業基礎	地底: 地球深部探求の歴史	デイビッド・ホワイトハウス	築地書館
938	農林業基礎	地球学入門: 惑星地球と大気・海洋のシステム, 第2版	酒井治孝	東海大学出版部
939	農林業基礎	地球史を読み解く: 自然環境科学プログラム(放送大学大学院教材 放送大学大学院文化科学研究科)	丸山茂徳	放送大学教育振興会
940	農林業基礎	地球惑星科学入門, 第2版	在田一則/竹下徹	北海道大学出版会
941	農林業基礎	地球の科学: 変動する地球とその環境, 改訂版	佐藤暢	北樹出版
942	農林業基礎	宇宙災害: 太陽と共に生きるということ(DOJIN選書72)	片岡龍峰	化学同人
943	農林業基礎	地球ダイナミクス	山本明彦	朝倉書店
944	農林業基礎	素粒子で地球を視る: 高エネルギー地球科学入門	田中宏幸/竹内薫	東京大学出版会
945	農林業基礎	環境化学(エキスパート応用化学テキストシリーズ)	坂田昌弘/磯部友彦	講談社
946	農林業基礎	地球科学の開拓者たち: 幕末から東日本大震災まで(岩波現代全書053)	諏訪兼位	岩波書店
947	農林業基礎	図説地球科学の事典		朝倉書店
948	農林業基礎	中部・近畿・中国・四国のジオパーク(シリーズ大地の公園)		古今書院
949	農林業基礎	関東のジオパーク(シリーズ大地の公園)		古今書院
950	農林業基礎	九州・沖縄のジオパーク(シリーズ大地の公園)		古今書院
951	農林業基礎	天変地異の科学(B&Tブックス おもしろサイエンス)	西川有司	日刊工業新聞社
952	農林業基礎	絵でわかる日本列島の地震・噴火・異常気象(絵でわかるシリーズ)	藤岡達也	講談社
953	農林業基礎	よくわかる気象学: イラスト図解, 第2版	中島俊夫	ナツメ社
954	農林業基礎	異常気象と気候変動についてわかっていることと知らないこと(BERET SCIENCE ようこそ、そらの研究室へ)	川瀬宏明	ベレ出版
955	農林業基礎	天気のおくみ: 雲のでき方からオーロラの正体まで	森田正光/森さやか	共立出版
956	農林業基礎	トコトン図解気象学入門	釜堀弘隆/川村隆一	講談社
957	農林業基礎	最新気象学のキホンがよ〜わかる本, 第3版(図解入門-How-nual- Visual Guide Book)	岩槻秀明	秀和システム
958	農林業基礎	一般気象学, 第2版補訂版	小倉義光	東京大学出版会
959	農林業基礎	気象学入門: 基礎理論から惑星気象まで	松田佳久	東京大学出版会
960	農林業基礎	トコトンやさしい異常気象の本(B&Tブックス 今日からモノ知りシリーズ)		日刊工業新聞社
961	農林業基礎	異常気象で読み解く現代史	田家康	日本経済新聞出版社
962	農林業基礎	はじめての気象学(放送大学教材)	田中博/伊賀啓太	放送大学教育振興会
963	農林業基礎	気象学の新潮流: 1 都市の気候変動と異常気象		朝倉書店
964	農林業基礎	気象学の新潮流: 2 台風の正体		朝倉書店
965	農林業基礎	気象学の新潮流: 3 大気と雨の衛星観測		朝倉書店
966	農林業基礎	気象学の新潮流: 4 メソ気象の監視と予測		朝倉書店
967	農林業基礎	気象学の新潮流: 5 「異常気象」の考え方		朝倉書店
968	農林業基礎	大気力学の基礎: 中緯度の総観気象	ジョナサン・E.マーティン	東京大学出版会

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
969	農林業基礎	地球大気の科学 (現代地球科学入門シリーズ 3)	田中博	共立出版
970	農林業基礎	大気放射学: 衛星リモートセンシングと気候問題へのアプローチ	K.N.Liou	共立出版
971	農林業基礎	竜巻のふしぎ: 地上最強の気象現象を探る	森田正光/森さやか	共立出版
972	農林業基礎	ダウンバースト: 発見・メカニズム・予測	小林文明	成山堂書店
973	農林業基礎	竜巻: メカニズム・被害・身の守り方	小林文明	成山堂書店
974	農林業基礎	雲の中では何が起きているのか: 雲をつかもうとしている話 (BERET SCIENCE)	荒木健太郎	ベレ出版
975	農林業基礎	雨の自然誌	シンシア・バーネット	河出書房新社
976	農林業基礎	オーロラ! (岩波科学ライブラリー 243)	片岡龍峰	岩波書店
977	農林業基礎	やさしい気候学, 第3版	仁科淳司	古今書院
978	農林業基礎	気候変動で読む地球史: 限界地帯の自然と植生から (NHKブックス 1240)	水野一晴	NHK出版
979	農林業基礎	地球環境システム: 温室効果気体と地球温暖化 (現代地球科学入門シリーズ 5)	中澤高清/青木周司	共立出版
980	農林業基礎	地球温暖化シミュレーション: 地質時代の炭素循環	柏木洋彦/鹿園直建	慶應義塾大学出版会
981	農林業基礎	気候変動の事典		朝倉書店
982	農林業基礎	地球気候学: システムとしての気候の変動・変化・進化	安成哲三	東京大学出版会
983	農林業基礎	統計からみた気象の世界 (気象ブックス 041)	藤部文昭	成山堂書店
984	農林業基礎	日本の天気: その多様性とメカニズム	小倉義光	東京大学出版会
985	農林業基礎	気象災害を科学する (BERET SCIENCE)	三隅良平	ベレ出版
986	農林業基礎	気象災害の事典: 日本の四季と猛威・防災		朝倉書店
987	農林業基礎	避難の科学: 気象災害から命を守る	古川武彦	東京堂出版
988	農林業基礎	北極がなくなる日	ピーター・ワダムズ	原書房
989	農林業基礎	新編湖沼調査法, 第2版	西條八東/三田村緒佐武	講談社
990	農林業基礎	湿地の博物誌	辻井達一	北海道大学出版会
991	農林業基礎	雪氷学	亀田貴雄/高橋修平	古今書院
992	農林業基礎	雪氷辞典: Japanese Dictionary of Snow and Ice, 新版		古今書院
993	農林業基礎	日本の地下で何が起きているのか (岩波科学ライブラリー 266)	鎌田浩毅	岩波書店
994	農林業基礎	地震学 (現代地球科学入門シリーズ 6)	長谷川昭/佐藤春夫	共立出版
995	農林業基礎	科学の目で見る日本列島の地震・津波・噴火の歴史 (BERET SCIENCE)	山賀進	ベレ出版
996	農林業基礎	被害地震の揺れに迫る: 地震波形デジタルデータCD付き	秦吉弥/野津厚	大阪大学出版会
997	農林業基礎	強震動: 観測記録とその特性	翠川三郎	朝倉書店
998	農林業基礎	活断層が分かる本		技報堂出版
999	農林業基礎	津波堆積物の科学	藤原治	東京大学出版会
1000	農林業基礎	火山学 (現代地球科学入門シリーズ 7)	吉田武義/西村太志	共立出版
1001	農林業基礎	日本の火山ウォーキングガイド: 魅力と脅威が伝わる22スポット		丸善出版
1002	農林業基礎	日本の火山図鑑: 110すべての活火山の噴火と特徴がわかる	高橋正樹	誠文堂新光社
1003	農林業基礎	温泉と地球科学: 温泉を通して読み解く地球の営み		ナカニシヤ出版
1004	農林業基礎	地形現象のモデリング: 海底から地球外天体まで		名古屋大学出版会
1005	農林業基礎	地形の辞典: Dictionary of Landforms		朝倉書店
1006	農林業基礎	鳥取砂丘学		古今書院
1007	農林業基礎	年代で見る日本の地質と地形: 日本列島5億年の生い立ちや特徴がわかる	高木秀雄	誠文堂新光社
1008	農林業基礎	絵でわかる日本列島の誕生 (絵でわかるシリーズ)	堤之恭	講談社
1009	農林業基礎	絵でわかるプレートテクトニクス: 地球進化の謎に挑む (絵でわかるシリーズ)	是永淳	講談社
1010	農林業基礎	植物が出現し、気候を変えた	デイヴィッド・ピアリング	みすず書房
1011	農林業基礎	時を刻む湖: 7万枚の地層に挑んだ科学者たち (岩波科学ライブラリー 242)	中川毅	岩波書店
1012	農林業基礎	深読み! 絵本『せいめいのれきし』 (岩波科学ライブラリー 260)	真鍋真	岩波書店
1013	農林業基礎	生命史図譜 (生物ミステリーPRO)	土屋健	技術評論社
1014	農林業基礎	絵でわかる古生物学 (絵でわかるシリーズ)	北村雄一	講談社
1015	農林業基礎	花のルーツを探る: 被子植物の化石 (シリーズ・生命の神秘と不思議)	高橋正道	裳華房
1016	農林業基礎	楽しい動物化石	土屋健	河出書房新社
1017	農林業基礎	絵でわかるカンブリア爆発 (絵でわかるシリーズ)	更科功	講談社
1018	農林業基礎	モンゴル・ゴビに恐竜化石を求めて	柴正博	東海大学出版部
1019	農林業基礎	岩石はどうしてできたか (岩波科学ライブラリー 269)	諏訪兼位	岩波書店

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
1020	農林業基礎	美しい鉱物と宝石の事典: ロイヤル・オンタリオ博物館名品コレクション	キンバリー・テイト	創元社
1021	農林業基礎	層状化合物(化学の要点シリーズ 11)	高木克彦/高木慎介	共立出版
1022	農林業基礎	結晶学・鉱物学(現代地球科学入門シリーズ 11)	藤野清志	共立出版
1023	農林業基礎	結晶学と構造物性: 入門から応用・実践まで(物質・材料テキストシリーズ)	野田幸男	内田老鶴圃
1024	農林業基礎	X線結晶学入門(Chemistry Primer Series 1)	William Clegg	化学同人
1025	農林業基礎	X線結晶構造解析入門: 強度測定からCIF投稿まで	大場茂/植草秀裕	化学同人
1026	農林業基礎	無機化合物の構造を決める: X線回折の原理を理解する(化学の要点シリーズ 15)	井本英夫	共立出版
1027	農林業基礎	結晶化学: 基礎から最先端まで	大橋裕二	裳華房
1028	農林業基礎	理系なら知っておきたい生物の基本ノート: 生化学・分子生物学編, カラー改訂版	山川喜輝	KADOKAWA
1029	農林業基礎	生物の「安定」と「不安定」: 生命のダイナミクスを探る(NHKブックス 1243)	浅島誠	NHK出版
1030	農林業基礎	ワークブックで学ぶ生物学の基礎, 第3版	Tracey Greenwood/Lissa Bainbridge-Smith	オーム社
1031	農林業基礎	学んでみると生命科学はおもしろい(BERET SCIENCE)	田口英樹	ベレ出版
1032	農林業基礎	ビギナーズ生物学: Biology for Beginners	太田安隆/高松信彦	化学同人
1033	農林業基礎	みんなの生命科学	北口哲也/塚原伸治	化学同人
1034	農林業基礎	エッセンシャル・キャンベル生物学, 原書6版	Simon	丸善出版
1035	農林業基礎	キャンベル生物学	Urry	丸善出版
1036	農林業基礎	教養としての生命科学: いのち・ヒト・社会を考える	小泉修	丸善出版
1037	農林業基礎	生命科学入門(理工系の基礎)	池北雅彦/武村政春	丸善出版
1038	農林業基礎	大学生のための考えて学ぶ基礎生物学	堂本光子	共立出版
1039	農林業基礎	京大発!フロンティア生命科学		講談社
1040	農林業基礎	大学1年生のなっとく!生物学	田村隆明	講談社
1041	農林業基礎	ぼくらは「生物学」のおかげで生きている(素晴らしきサイエンス BIOLOGY)	金子康子/日比野拓	実務教育出版
1042	農林業基礎	ベーシック生物学	武村政春	裳華房
1043	農林業基礎	世界一うつくしい生物図鑑: かたちと色、その不思議	クリストファー・マーレー	世界文化社
1044	農林業基礎	ブライアン・コックス生命の不思議: BBC科学ドキュメンタリーより	ブライアン・コックス/アンドルー・コーエン	創元社
1045	農林業基礎	新種の冒険: びっくり生きもの100種の図鑑	クエンティン・ウィラー/サラ・ベナク	朝日新聞出版
1046	農林業基礎	池上彰が聞いてわかった生命のしくみ: 東工大で生命科学を学ぶ	岩崎博史	朝日新聞出版
1047	農林業基礎	ケイン生物学, 第5版	A.Singh-Cundy/M.L.Cain	東京化学同人
1048	農林業基礎	ZEROからの生命科学, 改訂4版	木下勉/小林秀明	南山堂
1049	農林業基礎	プログレッシブ生命科学		南山堂
1050	農林業基礎	まるわかり!基礎生物(教養基礎シリーズ)	小林秀明	南山堂
1051	農林業基礎	高校生からのバイオ科学の最前線: iPS細胞・再生医学・ゲノム科学・バイオテクノロジー・バイオビジネス・iGEM		日本評論社
1052	農林業基礎	ライフサイエンスのための生物学		培風館
1053	農林業基礎	基礎生物学		培風館
1054	農林業基礎	自分を知るいのちの科学, 改訂版	伊藤明夫	培風館
1055	農林業基礎	新しい生物学		培風館
1056	農林業基礎	生物と科学: 生物に挑む科学の歩み	木内一壽/横川隆志	培風館
1057	農林業基礎	初歩からの生物学(放送大学教材)	二河成男/加藤和弘	放送大学教育振興会
1058	農林業基礎	やさしい基礎生物学, 第2版	南雲保/今井一志	羊土社
1059	農林業基礎	演習で学ぶ生命科学: 物理・化学・数理からみる生命科学入門, 第2版		羊土社
1060	農林業基礎	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学, 第3版	和田勝	羊土社
1061	農林業基礎	現代生命科学		羊土社
1062	農林業基礎	大学で学ぶ身近な生物学	吉村成弘	羊土社
1063	農林業基礎	理系総合のための生命科学: 分子・細胞・個体から知る「生命」のしくみ, 第4版		羊土社
1064	農林業基礎	オックスフォード生物学辞典: Oxford DICTIONARY OF BIOLOGY		朝倉書店
1065	農林業基礎	世界の絶滅危惧生物図鑑: IUCNレッドリスト		丸善出版
1066	農林業基礎	面白くて眠れなくなる生物学	長谷川英祐	PHPエディターズ・グループ
1067	農林業基礎	真夜中に猫は科学する: エクレア教授の語る遺伝や免疫のふしぎ	葉袋摩耶	亜紀書房
1068	農林業基礎	生物学の「ウソ」と「ホント」: 最新生物学88の謎	池田清彦	新潮社
1069	農林業基礎	ゲノムに書いてないこと	中村桂子	青土社
1070	農林業基礎	ぼくは虫ばかり探っていた: 生き物のマイナーな普遍を求めて	池田清彦	青土社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
1071	農林業基礎	絵巻とマンダラで解く生命誌	中村桂子	青土社
1072	農林業基礎	小さき生きものたちの国で	中村桂子	青土社
1073	農林業基礎	生き物が見る私たち	中村桂子/和田誠	青土社
1074	農林業基礎	生き物たちに魅せられて	日高敏隆	青土社
1075	農林業基礎	創発の生命学: 生命が1ギガバイトから抜け出すための30章	佐藤直樹	青土社
1076	農林業基礎	あなたのなかの宇宙: 生物の体に記された宇宙全史	ニール・シュビン	早川書房
1077	農林業基礎	裏山の奇人: 野にたゆたう博物学(フィールドの生物学 14)	小松貴	東海大学出版部
1078	農林業基礎	自然を楽しむ: 見る・描く・伝える	盛口満	東京大学出版会
1079	農林業基礎	ありえない生きもの: 生命の概念をくつがえす生物は存在するか?	デイヴィッド・トウミー	白揚社
1080	農林業基礎	動的平衡ダイアログ: 世界観のパラダイムシフト	福岡伸一	木楽舎
1081	農林業基礎	顕微鏡学ハンドブック: ライフサイエンス		朝倉書店
1082	農林業基礎	生命科学における分析化学	久保博昭	朝倉書店
1083	農林業基礎	小さくて頼もしいモデル生物: 歴史を知って活かさる		羊土社
1084	農林業基礎	星屑から生まれた世界: 進化と元素をめぐる生命38億年史	ベンジャミン・マクファーランド	化学同人
1085	農林業基礎	Dr.北野の0から始めるシステムバイオロジー		羊土社
1086	農林業基礎	有性生殖論: 「性」と「死」はなぜ生まれたのか(NHKブックス 1212)	高木由臣	NHK出版
1087	農林業基礎	生物はなぜ誕生したのか: 生命の起源と進化の最新科学	ピーター・ウオード/ジョゼフ・カーシュウィンク	河出書房新社
1088	農林業基礎	生命の起源はどこまでわかったか: 深海と宇宙から迫る		岩波書店
1089	農林業基礎	マレー数理生物学: 応用編 パターン形成の数理とバイオメディカルへの応用	James D.Murray	丸善出版
1090	農林業基礎	マレー数理生物学入門	James D.Murray	丸善出版
1091	農林業基礎	数理生物学講義: An Introductory Course in Mathematical Biology: 展開編 数理モデル解析の講究	齋藤保久/佐藤一憲	共立出版
1092	農林業基礎	そもそも島に進化あり(生物ミステリー)	川上和人	技術評論社
1093	農林業基礎	レッドデータブック: 日本の絶滅のおそれのある野生生物: 2014-1 哺乳類		ぎょうせい
1094	農林業基礎	レッドデータブック: 日本の絶滅のおそれのある野生生物: 2014-2 鳥類		ぎょうせい
1095	農林業基礎	レッドデータブック: 日本の絶滅のおそれのある野生生物: 2014-3 爬虫類・両生類		ぎょうせい
1096	農林業基礎	レッドデータブック: 日本の絶滅のおそれのある野生生物: 2014-4 汽水・淡水魚類		ぎょうせい
1097	農林業基礎	レッドデータブック: 日本の絶滅のおそれのある野生生物: 2014-5 昆虫類		ぎょうせい
1098	農林業基礎	レッドデータブック: 日本の絶滅のおそれのある野生生物: 2014-6 貝類		ぎょうせい
1099	農林業基礎	レッドデータブック: 日本の絶滅のおそれのある野生生物: 2014-7 その他無脊椎動物		ぎょうせい
1100	農林業基礎	レッドデータブック: 日本の絶滅のおそれのある野生生物: 2014-8 植物 1 維管束植物		ぎょうせい
1101	農林業基礎	レッドデータブック: 日本の絶滅のおそれのある野生生物: 2014-9 植物 2 蘚苔類・藻類・地衣類・菌類		ぎょうせい
1102	農林業基礎	都会の自然の話を聴く: 玉川上水のタヌキと動植物のつながり	高槻成紀	彩流社
1103	農林業基礎	琉球列島のススメ(フィールドの生物学 16)	佐藤寛之	東海大学出版部
1104	農林業基礎	細胞の分子生物学, 第6版	Bruce Alberts/Alexander Johnson	ニュートンプレス
1105	農林業基礎	細胞の不思議: すべてはここからはじまる	永田和宏	講談社
1106	農林業基礎	生命の内と外(新潮選書)	永田和宏	新潮社
1107	農林業基礎	利己的細胞: 遺伝子と細胞の闘争と進化	帯刀益夫	新曜社
1108	農林業基礎	細胞のマルチスケールメカノバイオロジー	佐藤正明/安達泰治	森北出版
1109	農林業基礎	細胞は会話する: 生命現象の真の理解のために	丸野内楳	青土社
1110	農林業基礎	カーブ分子細胞生物学, 第7版	GERALD C.KARP	東京化学同人
1111	農林業基礎	分子細胞生物学, 第7版	LODISH	東京化学同人
1112	農林業基礎	ビジュアルでわかる細胞の世界	ジャック・チャロナー	東京書籍
1113	農林業基礎	Essential細胞生物学, 原書第4版	Bruce Alberts/Dennis Bray	南江堂
1114	農林業基礎	キリンの斑論争と寺田寅彦(岩波科学ライブラリー 220)		岩波書店
1115	農林業基礎	ひまわりの黄金比: 形の科学への入門	根岸利一郎	日本評論社
1116	農林業基礎	生物時計の生態学: リズムを刻む生物の世界(種生物学研究 第38号)		文一総合出版
1117	農林業基礎	クーパー生物物理化学: 生命現象への新しいアプローチ	Alan Cooper	化学同人
1118	農林業基礎	はじめての生化学: 生活のなぜ?を知るための基礎知識, 第2版	平澤栄次	化学同人
1119	農林業基礎	マッキー生化学: 分子から解き明かす生命, 第6版	Trudy McKee/James R.McKee	化学同人
1120	農林業基礎	イラストレイテッドハーパー・生化学, 原書30版(Lange Textbookシリーズ)	Victor W.Rodwell	丸善出版
1121	農林業基礎	マクマリー生物有機化学: 基礎化学編, 第4版	John McMurry	丸善出版

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
1122	農林業基礎	マクマリー生物有機化学: 生化学編, 原書8版	John McMurry	丸善出版
1123	農林業基礎	マクマリー生物有機化学: 有機化学編, 原書8版	John McMurry	丸善出版
1124	農林業基礎	生物を知るための生化学, 第4版	池北雅彦/榎並勲	丸善出版
1125	農林業基礎	生化学の論理: 物理化学の視点 (化学の要点シリーズ 25)	八木達彦	共立出版
1126	農林業基礎	生命理工系のための大学院基礎講座－生物化学		工学図書
1127	農林業基礎	ひとりでマスターする生化学	亀井碩哉	講談社
1128	農林業基礎	生化学, 第2版 (新バイオテクノロジーテキストシリーズ)	小野寺一清/燕山由己人	講談社
1129	農林業基礎	生体分子化学: 基礎から応用まで (エキスパート応用化学テキストシリーズ)	杉本直己/内藤昌信	講談社
1130	農林業基礎	生命科学のための物理化学15講: Physical Chemistry for Life Science 15 Lectures	功刀滋/内藤晶	講談社
1131	農林業基礎	これだけ! 生化学	生化学若い研究者の会	秀和システム
1132	農林業基礎	よくわかるスタンダード生化学	有坂文雄	裳華房
1133	農林業基礎	アトキンス生命科学のための物理化学, 第2版	Peter Atkins/Julio de Paula	東京化学同人
1134	農林業基礎	ヴォート基礎生化学, 第5版	D.VOET/J.G.VOET	東京化学同人
1135	農林業基礎	エリオット生化学・分子生物学, 第5版	Despo Papachristodoulou/Alison Snape	東京化学同人
1136	農林業基礎	バイオサイエンスのための物理化学, 第5版	Tinoco	東京化学同人
1137	農林業基礎	マクマリー生化学反応機構: ケミカルバイオロジーによる理解, 第2版	John McMurry/Tadhg Begley	東京化学同人
1138	農林業基礎	生き物たちの化学戦略: 生物活性物質の探索と利用 (科学のとびら 58)	長澤寛道	東京化学同人
1139	農林業基礎	ケミカルバイオロジー: 入り口? 出口? 回り道!	濱崎啓太	米田出版
1140	農林業基礎	基礎からしっかり学ぶ生化学	山口雄輝/成田央	羊土社
1141	農林業基礎	生命のメカニズム: 美しいイメージで学ぶ構造生命科学入門	David S.Goodsell	シナジー
1142	農林業基礎	ベーシック分子生物学	米崎哲朗/升方久夫	化学同人
1143	農林業基礎	ゼロからはじめるバイオ実験マスターコース: 1 実験の基本と原理 (細胞工学別冊)	西方敬人/川上純司	学研メディカル秀潤社
1144	農林業基礎	ゼロからはじめるバイオ実験マスターコース: 2 遺伝子組換え基礎実習 (細胞工学別冊)	西方敬人/川上純司	学研メディカル秀潤社
1145	農林業基礎	ゼロからはじめるバイオ実験マスターコース: 3 細胞培養トレーニング (細胞工学別冊)	西方敬人/川上純司	学研メディカル秀潤社
1146	農林業基礎	よくわかる分子生物学の基本としくみ, 第2版 (図解入門メディカルサイエンスシリーズ)	井出利憲	秀和システム
1147	農林業基礎	基礎分子生物学, 第4版	田村隆明/村松正實	東京化学同人
1148	農林業基礎	NATURE'S ROBOTS: それはタンパク質研究の壮大な歴史	チャールズ・タンフォード/ジャクリン・レイノルズ	エヌ・ティー・エス
1149	農林業基礎	生体分子の統計力学入門: タンパク質の動きを理解するために	Daniel M.Zuckerman	共立出版
1150	農林業基礎	エッセンシャルタンパク質工学: Essential Protein Engineering	老川典夫/大島敏久	講談社
1151	農林業基礎	エッセンシャル構造生物学: Essential Structural Biology	河合剛太/坂本泰一	講談社
1152	農林業基礎	二重螺旋: 完全版	ジェームス・D.ワトソン	新潮社
1153	農林業基礎	基礎生物無機化学	吉村悦郎	丸善出版
1154	農林業基礎	クライトン生物無機化学	Robert R.Crichton	東京化学同人
1155	農林業基礎	レーダー生物無機化学	DIETER REHDER	東京化学同人
1156	農林業基礎	量子力学で生命の謎を解く	ジム・アル=カリー/リジョンジョー=マクファデン	SBクリエイティブ
1157	農林業基礎	生物学のための水と空気の物理	マーク・W.デニー	エヌ・ティー・エス
1158	農林業基礎	生物学と医学のための物理学	Paul Davidovits	共立出版
1159	農林業基礎	「生きものらしさ」をもとめて	大沢文夫	藤原書店
1160	農林業基礎	見えない巨人－微生物	別府輝彦	ベレ出版
1161	農林業基礎	微生物生態学: ゲノム解析からエコシステムまで	デイビッド・L.カーチマン	京都大学学術出版会
1162	農林業基礎	水圏微生物学の基礎		恒星社厚生閣
1163	農林業基礎	新・微生物学, 新装第2版 (新バイオテクノロジーテキストシリーズ)	別府輝彦	講談社
1164	農林業基礎	知られざる地下微生物の世界: 極限環境に生命の起源と地球外生命を探る	タリス・オンストット	青土社
1165	農林業基礎	微生物が地球をつくった: 生命40億年史の主人公	ポール・G.フォーコウスキー	青土社
1166	農林業基礎	生物界をつくった微生物	ニコラス・マネー	築地書館
1167	農林業基礎	土と内臓: 微生物がつくる世界	デイビッド・モントゴメリー/アン・ビクレ	築地書館
1168	農林業基礎	闘う微生物: 抗生物質と農薬の濫用から人体を守る	エミリー・モノッソン	築地書館
1169	農林業基礎	雪と氷の世界を旅して: 氷河の微生物から環境変動を探る (フィールドの生物学 19)	植竹淳	東海大学出版部
1170	農林業基礎	微生物の地球化学: 元素循環をめぐる微生物学	T.フェンチエル/G.M.キング	東海大学出版部
1171	農林業基礎	微生物学	大木理	東京化学同人
1172	農林業基礎	世界は細菌にあふれ、人は細菌によって生かされる	エド・ヨン	柏書房

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
1173	農林業基礎	環境と微生物の事典		朝倉書店
1174	農林業基礎	アーキア生物学: Biology of Archaea	石野良純	共立出版
1175	農林業基礎	美しい電子顕微鏡写真と構造図で見るウイルス図鑑101	マリリン・J.ルーシーク	創元社
1176	農林業基礎	ウイルス・ルネッサンス: ウイルスの知られざる新世界 (科学のとびら 62)	山内一也	東京化学同人
1177	農林業基礎	学んでみると遺伝学はおもしろい (BERET SCIENCE)	針原伸二	ベレ出版
1178	農林業基礎	生まれつきの女王蜂はいない: DNAだけでは決まらない遺伝子の使い道	鶴木元香	講談社
1179	農林業基礎	遺伝学: 遺伝子から見た生物		培風館
1180	農林業基礎	遺伝子が語る生命38億年の謎: なぜ、ゾウはネズミより長生きか?		悠書館
1181	農林業基礎	ゲノム科学への道: ノーベル賞講演でたどる (岩波現代全書 047)	吉川寛	岩波書店
1182	農林業基礎	遺伝子: 親密なる人類史: 上	シッダールタ・ムカジー	早川書房
1183	農林業基礎	遺伝子: 親密なる人類史: 下	シッダールタ・ムカジー	早川書房
1184	農林業基礎	遺伝単: 遺伝学用語集対訳付き (『生物の科学遺伝』別冊 No.22)		エヌ・ティー・エス
1185	農林業基礎	遺伝学辞典		慶應義塾大学出版会
1186	農林業基礎	遺伝子の社会	イタイ・ヤナイ/マルティン・レルヒャー	NTT出版
1187	農林業基礎	面白くて眠れなくなる遺伝子	竹内薫/丸山篤史	PHPエディターズ・グループ
1188	農林業基礎	利己的な遺伝子, 40周年記念版	リチャード・ドーキンス	紀伊國屋書店
1189	農林業基礎	進化するゲノム編集技術		エヌ・ティー・エス
1190	農林業基礎	化学にとっての遺伝子操作 (化学の要点シリーズ 13)	永島賢治/嶋田敬三	共立出版
1191	農林業基礎	ゲノム編集の基本原則と応用: ZFN,TALEN,CRISPR-Cas9	山本卓	裳華房
1192	農林業基礎	マンモスのつくりかた: 絶滅生物がクローンでよみがえる	ベス・シャピロ	筑摩書房
1193	農林業基礎	新しい遺伝子工学, 新版	半田宏	朝倉書店
1194	農林業基礎	ゲノム編集からはじまる新世界: 超先端バイオ技術がヒトとビジネスを変える	小林雅一	朝日新聞出版
1195	農林業基礎	基礎講義遺伝子工学 I: アクティブラーニングにも対応	山岸明彦	東京化学同人
1196	農林業基礎	基礎から学ぶ遺伝子工学, 第2版	田村隆明	羊土社
1197	農林業基礎	遺伝子工学: 基礎から医療まで		廣川書店
1198	農林業基礎	ゲノム情報解析: 次世代シーケンサーの最新の方法及び応用		エヌ・ティー・エス
1199	農林業基礎	生命のビッグデータ利用の最前線: Frontier of Utilization of Big Data in Life Sciences (CMC Books)		シーエムシー出版
1200	農林業基礎	双子の遺伝子: 「エピジェネティクス」が2人の運命を分ける	ティム・スペクター	ダイヤモンド社
1201	農林業基礎	Dr.Bonoの生命科学データ解析	坊農秀雅	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1202	農林業基礎	性の進化史: いまヒトの染色体で何が起きているのか (新潮選書)	松田洋一	新潮社
1203	農林業基礎	人間とは何か: 先端科学でヒトを読み解く (科学のとびら 57)	榊佳之	東京化学同人
1204	農林業基礎	6度目の大絶滅	エリザベス・コルパート	NHK出版
1205	農林業基礎	面白くて眠れなくなる進化論	長谷川英祐	PHPエディターズ・グループ
1206	農林業基礎	系統樹をさかのぼって見えてくる進化の歴史: 僕たちの祖先を探す15億年の旅 (BERET SCIENCE)	長谷川政美	ベレ出版
1207	農林業基礎	21世紀に読む「種の起原」	デイヴィッド・N.レズニック	みすず書房
1208	農林業基礎	ダーウィンの遺産: 進化学者の系譜 (岩波現代全書 077)	渡辺政隆	岩波書店
1209	農林業基礎	絵でわかる進化のしくみ: 種の誕生と消滅 (絵でわかるシリーズ)	山田俊弘	講談社
1210	農林業基礎	ダーウィンを数学で証明する	グレゴリー・チャイティン	早川書房
1211	農林業基礎	進化とは何か: ドーキンス博士の特別講義	リチャード・ドーキンス	早川書房
1212	農林業基礎	私たちは今でも進化しているのか?	マーリーン・ズック	文藝春秋
1213	農林業基礎	進化の謎を数学で解く	アンドレアス・ワグナー	文藝春秋
1214	農林業基礎	生物の進化と多様化の科学 (放送大学教材)	二河成男	放送大学教育振興会
1215	農林業基礎	恐竜はホテルを見たか: 発光生物が照らす進化の謎 (岩波科学ライブラリー 249)	大場裕一	岩波書店
1216	農林業基礎	セレンゲティールール: 生命はいかに調節されるか	ショーン・B.キャロル	紀伊國屋書店
1217	農林業基礎	生物多様性の多様性 (共立スマートセレクション 23)	森章	共立出版
1218	農林業基礎	大学生のための生態学入門: An Introduction to Ecology	西村尚之	共立出版
1219	農林業基礎	となりの生物多様性: 医・食・住からベンチャーまで	宮下直	工作舎
1220	農林業基礎	生物多様性のしくみを解く: 第六の大量絶滅期の淵から	宮下直	工作舎
1221	農林業基礎	絵でわかる生物多様性 (絵でわかるシリーズ)	鷲谷いづみ	講談社
1222	農林業基礎	大学1年生のなっとく!生態学	鷲谷いづみ	講談社
1223	農林業基礎	外来種は本当に悪者か?: 新しい野生THE NEW WILD	フレッド・ピアス	草思社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
1224	農林業基礎	外来種のウソ・ホントを科学する	ケン・トムソン	築地書館
1225	農林業基礎	生物多様性概論: 自然のしくみと社会のとらえかみ	宮下直/瀧本岳	朝倉書店
1226	農林業基礎	サステイニング・ライフ: 人類の健康はいかに生物多様性に頼っているか	エリック・チヴィアン/アーロン・バーンスタイン	東海大学出版部
1227	農林業基礎	保全生態学の挑戦: 空間と時間のとらえか		東京大学出版会
1228	農林業基礎	生態学: 基礎から保全へ	鷲谷いづみ/一ノ瀬友博	培風館
1229	農林業基礎	BUGSで学ぶ階層モデリング入門: 個体群のベイズ解析	Marc Kéry/Michael Schaub	共立出版
1230	農林業基礎	弱者の戦略 (新潮選書)	稲垣栄洋	新潮社
1231	農林業基礎	生物環境の科学 (放送大学教材)	加藤和弘	放送大学教育振興会
1232	農林業基礎	ゾンビ・パラサイト: ホストを操る寄生生物たち (岩波科学ライブラリー 256)	小澤祥司	岩波書店
1233	農林業基礎	協力と罰の生物学 (岩波科学ライブラリー 226)	大槻久	岩波書店
1234	農林業基礎	美しいプランクトンの世界: 生命の起源と進化をめぐる	クリスティアン・サルデ	河出書房新社
1235	農林業基礎	つい誰かに教えたいくなる人類学63の大疑問		講談社
1236	農林業基礎	若い読者のための第三のチンパンジー: 人間という動物の進化と未来	ジャレド・ダイヤモンド/レベッカ・ステフォフ	草思社
1237	農林業基礎	ヒトとイヌがネアンデルタール人を絶滅させた	パット・シップマン	原書房
1238	農林業基礎	ヒトはなぜ争うのか: 進化と遺伝子から考える	若原正己	新日本出版社
1239	農林業基礎	元サルの物語: 科学は人類の進化をいかに考えてきたのか	ジョナサン・マークス	青土社
1240	農林業基礎	ゲノム革命: ヒト起源の真実	ユージン・E.ハリス	早川書房
1241	農林業基礎	人体600万年史: 科学が明かす進化・健康・疾病: 上	ダニエル・E.リーバーマン	早川書房
1242	農林業基礎	人体600万年史: 科学が明かす進化・健康・疾病: 下	ダニエル・E.リーバーマン	早川書房
1243	農林業基礎	「糖」が解き明かす人類進化の謎: なぜヒトの脳は大きくなったのか	林俊郎	日本評論社
1244	農林業基礎	ネアンデルタール人は私たちと交配した	スヴァンテ・ペーボ	文藝春秋
1245	農林業基礎	日本人の源流: 核DNA解析でたどる	斎藤成也	河出書房新社
1246	農林業基礎	生命科学が解き明かす体の秘密	塩見尚史/塩見晃史	大学教育出版
1247	農林業基礎	IQは金で買えるのか: 世界遺伝子研究最前線	行方史郎	朝日新聞出版
1248	農林業基礎	生存時間解析入門	デビッド・ホスマー/スタンリー・レメショウ	東京大学出版会
1249	農林業基礎	ライフサイエンス英語表現使い分け辞典 第2版		羊土社
1250	農林業基礎	「ILAR指針」をさらに深く理解するために: 成果基準 (パフォーマンス・スタンダード) の立案と実践による動物実験の適正化		アドスリー
1251	農林業基礎	実験動物の感染症と微生物モニタリング		アドスリー
1252	農林業基礎	ラットの行動解析ハンドブック		西村書店
1253	農林業基礎	これだけ!IPS細胞	夏緑	秀和システム
1254	農林業基礎	すごい!IPS細胞	齋藤勝裕	日本実業出版社
1255	農林業基礎	好きになるヒトの生物学: 私たちの身近な問題身近な疑問 (好きになるシリーズ)	吉田邦久	講談社
1256	農林業基礎	なぜベニスはそのような形なのか: ヒトについての不謹慎で真面目な科学	ジェシー・ベリング	化学同人
1257	農林業基礎	愛が実を結ぶとき: 女と男と新たな命の進化生物学	ロバート・マーティン	岩波書店
1258	農林業基礎	おなかの赤ちゃんは光を感じるか: 生物時計とメラノプシン (岩波科学ライブラリー 233)	太田英伸	岩波書店
1259	農林業基礎	なぜ老いるのか、なぜ死ぬのか、進化論でわかる	ジョナサン・シルバータウン	インターシフト
1260	農林業基礎	老化生物学: 老いと寿命のメカニズム	ロジャー B.マクドナルド	メディカル・サイエンス・インターナショナル
1261	農林業基礎	ヒトはなぜ病み、老いるのか: 寿命の生物学	若原正己	新日本出版社
1262	農林業基礎	老化という生存戦略: 進化におけるトレードオフ (日評ベーシック・シリーズ シリーズ進化生物学の新潮流)	近藤祥司	日本評論社
1263	農林業基礎	イラストレイテッド生化学 (リップスコットシリーズ)	Denise R.Ferrier	丸善出版
1264	農林業基礎	レーニンジャーの新生化学: 生化学と分子生物学の基本原則: 上, 第6版	レーニンジャー/ネルソン	廣川書店
1265	農林業基礎	レーニンジャーの新生化学: 生化学と分子生物学の基本原則: 下, 第6版	レーニンジャー/ネルソン	廣川書店
1266	農林業基礎	人類の進化が病を生んだ	ジェレミー・テイラー	河出書房新社
1267	農林業基礎	ゲノム編集と細胞政治の誕生: Genome Editing and the Birth of Cell-Politics	粥川準二	青土社
1268	農林業基礎	遺伝子の帝国: DNAが人の未来を左右する日	カトリーヌ・ブルガン/ピエール・ダルリュ	中央公論新社
1269	農林業基礎	マイクロバイオームの世界: あなたの中と表面と周りにいる何兆もの微生物たち	ロブ・デサル/スーザン・レバークンズ	紀伊國屋書店
1270	農林業基礎	ウイルス・細菌の図鑑: 感染症がよくわかる重要微生物ガイド (知りたいサイエンスILLUSTRATED-最新図解- 003)	北里英郎/原和矢	技術評論社
1271	農林業基礎	好きになる微生物学: 感染症の原因と予防法 (好きになるシリーズ)	渡辺渡	講談社
1272	農林業基礎	細菌が人をつくる (TEDブックス)	ロブ・ナイト/ブレンダン・ビューラー	朝日出版社
1273	農林業基礎	絵でわかる寄生虫の世界 (絵でわかるシリーズ)	長谷川英男	講談社
1274	農林業基礎	免疫測定法: 基礎から先端まで		講談社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
1275	農林業基礎	人はなぜ太りやすいのか: 肥満の進化生物学	マイケル・L・パワー/ジェイ・シュルキン	みすず書房
1276	農林業基礎	ウイルス感染と常微分方程式 (シリーズ・現象を解明する数学)	岩見真吾/佐藤佳	共立出版
1277	農林業基礎	なぜ蚊は人を襲うのか (岩波科学ライブラリー 251)	嘉糠洋陸	岩波書店
1278	農林業基礎	蚊のはなし: 病気との関わり		朝倉書店
1279	農林業基礎	招かれない虫たちの話: 虫がもたらす健康被害と害虫管理		東海大学出版部
1280	農林業基礎	工学の基幹数学 (理工系の基礎)	牛島邦晴/登坂宣好	丸善出版
1281	農林業基礎	材料電子論入門: 第一原理計算の材料科学への応用	田中功/松永克志	内田老鶴園
1282	農林業基礎	数値計算による流体力学: ポテンシャル流, 層流, そして乱流へ	岡本正芳	コロナ社
1283	農林業基礎	粒子法: 連続体・混相流・粒状体のための計算科学	後藤仁志	森北出版
1284	農林業基礎	絵ときでわかる材料力学, 第2版	宇津木諭	オーム社
1285	農林業基礎	有限要素法で学ぶ現象と数理: FreeFem++数理思考プログラミング (シリーズ応用数理 第4巻)	大塚厚二/高石武史	共立出版
1286	農林業基礎	有機機能材料: 基礎から応用まで (エキスパート応用化学テキストシリーズ)	松浦和則/角五彰	講談社
1287	農林業基礎	スーパーバイオマス: 植物に学ぶ, 植物を活かす		慶應義塾大学出版会
1288	農林業基礎	レーダで洪水を予測する (気象ブックス 043)	中尾忠彦	成山堂書店
1289	農林業基礎	気候を人工的に操作する: 地球温暖化に挑むジオエンジニアリング (DOJIN選書 69)	水谷広	化学同人
1290	農林業基礎	生態学と化学物質とリスク評価 (共立スマートセレクション 18)	加茂将史	共立出版
1291	農林業基礎	環境分析化学, 第3版	合原真/今任稔彦	三共出版
1292	農林業基礎	環境分析化学	中村栄子/酒井忠雄	裳華房
1293	農林業基礎	自然災害のシミュレーション入門	井田喜明	朝倉書店
1294	農林業基礎	材料力学: 1	森下智博	森北出版
1295	農林業基礎	材料力学: 2	森下智博	森北出版
1296	農林業基礎	地熱工学入門: Introduction to Geothermal Energy Engineering	江原幸雄/野田徹郎	東京大学出版会
1297	農林業基礎	光学技術の事典		朝倉書店
1298	農林業基礎	スピンドルとトポロジカル絶縁体: 量子物性とスピントロニクスの発展 (基本法則から読み解く物理学最前線 1)	齊藤英治/村上修一	共立出版
1299	農林業基礎	酸化薄膜・接合・超格子: 界面物性と電子デバイス応用 (物質・材料テキストシリーズ)	澤彰仁	内田老鶴園
1300	農林業基礎	デジタルホログラフィ (光学ライブラリー 7)	早崎芳夫	朝倉書店
1301	農林業基礎	走査型プローブ顕微鏡 (分析化学実技シリーズ 機器分析編 15)	浅川雅/岡嶋孝治	共立出版
1302	農林業基礎	地球を救うメタルバイオテクノロジー: 微生物と金属資源のはなし	山下光雄/清和成	成山堂書店
1303	農林業基礎	資源論: メタル・石油埋蔵量の成長と枯渇	西山孝	丸善出版
1304	農林業基礎	エネルギー変換型光触媒 (化学の要点シリーズ 21)	久富隆史	共立出版
1305	農林業基礎	有害物質分析ハンドブック		朝倉書店
1306	農林業基礎	臭素およびヨウ素化合物の有機合成: 試薬と合成法	マナック(株)研究所	丸善出版
1307	農林業基礎	実験でわかる電気をとおすプラスチックのひみつ	白川英樹/廣木一亮	コロナ社
1308	農林業基礎	ビジュアルバイオテクノロジー	Carolyn A. Dehlinger	化学同人
1309	農林業基礎	自然をまねる, 世界が変わる: バイオミミクリーが起こすイノベーション	ジェイ・ハーマン	化学同人
1310	農林業基礎	バイオテクノロジー入門	高畑京也/蔡昇植	建帛社
1311	農林業基礎	生物模倣: 自然界に学ぶイノベーションの現場から	アミーナ・カーン	作品社
1312	農林業基礎	もう少し深く理解したい人のためのバイオテクノロジー: 基礎から応用展開まで, 第2版		地人書館
1313	農林業基礎	バイオメティクス: 生物の形や能力を利用する学問 (国立科学博物館叢書 16)	篠原現人/野村周平	東海大学出版部
1314	農林業基礎	日経バイオ年鑑: 研究開発と市場・産業動向: 2018 (BIOFILE)		日経BP社
1315	農林業基礎	合成生物学の衝撃	須田桃子	文藝春秋
1316	農林業基礎	暮らしに役立つバイオサイエンス (放送大学教材)	岩橋均/重松亨	放送大学教育振興会
1317	農林業基礎	お皿の上の生物学: 阪大出前講座	小倉明彦	築地書館
1318	農林業基礎	数える・はかる・単位の事典	武藤徹/三浦基弘	東京堂出版
1319	農林業基礎	攻めの農林水産業のための知財戦略: 食の日本ブランドの確立に向けて (現代産業選書 知的財産実務シリーズ)		経済産業調査会
1320	農林業基礎	図解でよくわかる農業のきほん: 栽培の基礎から新技術, 流通, 就農まで (すぐわかるすぐわかる!)		誠文堂新光社
1321	農林業基礎	ITと熟練農家の技で稼ぐAI農業	神成淳司	日経BP社
1322	農林業基礎	〈土〉という精神: アメリカの環境倫理と農業	ポール・B. トンプソン	農林統計出版
1323	農林業基礎	農と環境と医の連携を求めて: 本の紹介55選・言葉の散策30選 (北里大学農医連携学術叢書 第9号)	陽捷行	養賢堂
1324	農林業基礎	農医連携論: 環境を基とした農と医の連携 (北里大学農医連携学術叢書 第11号)	陽捷行	養賢堂
1325	農林業基礎	パーマカルチャー: 農的暮らしを実現するための12の原理: 上	デビッド・ホルムグレン	コモンズ

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
1326	農林業基礎	パーマカルチャー: 農的暮らしを実現するための12の原理: 下	デビッド・ホルムグレン	コモンズ
1327	農林業基礎	有機農業・自然農法の技術: 農業生物学者からの提言	明峯哲夫	コモンズ
1328	農林業基礎	農業技術の教科書: 日英対訳	アグリイノベーション大学校	マイファーム
1329	農林業基礎	食と農と資源: 環境時代のエコ・テクノロジー		共立出版
1330	農林業基礎	生物産業学のフロンティア: フィールド研究と地域連携		三共出版
1331	農林業基礎	パーマカルチャー: 自給自立の農的暮らしに		創森社
1332	農林業基礎	パーマカルチャー事始め	臼井健二/臼井朋子	創森社
1333	農林業基礎	国際農業開発入門: 環境と調和した食料増産をめざして		筑波書房
1334	農林業基礎	老農船津伝次平の農法変革論	田中修	筑波書房
1335	農林業基礎	現代農学概論: 農のところで社会をデザインする(シリーズ農学リテラシー)		朝倉書店
1336	農林業基礎	農学とは何か		朝倉書店
1337	農林業基礎	IoT・自動化で進む農業技術イノベーション		日刊工業新聞社
1338	農林業基礎	図解よくわかる農業技術イノベーション: 農業はここまで工業化・IT化できる(B&Tブックス)		日刊工業新聞社
1339	農林業基礎	百姓学宣言: 経済を中心にしない生き方(シリーズ地域の再生 21)	宇根豊	農山漁村文化協会
1340	農林業基礎	バイオマス利活用における住民の認知と経済評価	田中裕人/岩本博幸	農林統計出版
1341	農林業基礎	バイオマス利活用による経済性と環境影響の評価: バイオマス総合利活用評価モデル(農村計画学のフロンティア 2)	森本英嗣	農林統計出版
1342	農林業基礎	農業新時代の技術・技能伝承: ICTによる営農可視化と人材育成	南石晃明/藤井吉隆	農林統計出版
1343	農林業基礎	農研機構発－農業新技術シリーズ: 第1巻 第二の緑の革命を先導する食料生産の新技術		農林統計出版
1344	農林業基礎	農研機構発－農業新技術シリーズ: 第2巻 家畜の生産性向上と安全を守る新技術		農林統計出版
1345	農林業基礎	農研機構発－農業新技術シリーズ: 第3巻 農業・農村環境の保全と持続的農業を支える新技術		農林統計出版
1346	農林業基礎	農研機構発－農業新技術シリーズ: 第4巻 食の安全と高品質・機能性食材の生産を支える新技術		農林統計出版
1347	農林業基礎	ここまで進んだ!飛躍する農学(シリーズ21世紀の農学)		養賢堂
1348	農林業基礎	環境の保全と修復に貢献する農学研究(シリーズ21世紀の農学)		養賢堂
1349	農林業基礎	山の農学－「山の日」から考える(シリーズ21世紀の農学)		養賢堂
1350	農林業基礎	大変動時代の食と農(シリーズ21世紀の農学)		養賢堂
1351	農林業基礎	農学イノベーション: 新しいビジネスモデルと食・農・環境における技術革新(シリーズ21世紀の農学)		養賢堂
1352	農林業基礎	農学入門: 食料・生命・環境科学の魅力	安田弘法	養賢堂
1353	農林業基礎	農林/バイオマス資源と地域利活用: バイオマス研究の10年を振り返る	中川仁	養賢堂
1354	農林業基礎	工業技術者のための農学概論(実践的技術者のための電気電子系教科書シリーズ)	高木浩一/高橋徹	理工図書
1355	農林業基礎	近代農業思想史: 21世紀の農業のために	祖田修	岩波書店
1356	農林業基礎	文明は農業で動く: 歴史を変える古代農法の謎	吉田太郎	築地書館
1357	農林業基礎	農学の思想: マルクスとリーピヒ, 増補新装版(UPコレクション)	椎名重明	東京大学出版会
1358	農林業基礎	現代に生きる日本の農業思想: 安藤昌益から新渡戸稲造まで(シリーズ・いま日本の「農」を問う 12)	並松信久/王秀文	ミネルヴァ書房
1359	農林業基礎	地産地消の歴史地理	有蘭正一郎	古今書院
1360	農林業基礎	老農・中井太郎と農民たちの近代	大島佐知子	思文閣出版
1361	農林業基礎	農の技術を拓く	西尾敏彦	創森社
1362	農林業基礎	興農富村の研究: 近代日本の稲作をめぐる農民の営み	郡司美枝	刀水書房
1363	農林業基礎	むらと農法変革: 「市場モデル」から「むらモデル」へ	磯辺俊彦	東京農業大学出版会
1364	農林業基礎	昭和農業技術史への証言: 第1集(人間選書)	昭和農業技術研究会/西尾 敏彦	農山漁村文化協会
1365	農林業基礎	昭和農業技術史への証言: 第2集(人間選書)	昭和農業技術研究会/西尾 敏彦	農山漁村文化協会
1366	農林業基礎	昭和農業技術史への証言: 第3集(人間選書)	昭和農業技術研究会/西尾 敏彦	農山漁村文化協会
1367	農林業基礎	昭和農業技術史への証言: 第4集(人間選書)	昭和農業技術研究会/西尾 敏彦	農山漁村文化協会
1368	農林業基礎	昭和農業技術史への証言: 第5集(人間選書)	昭和農業技術研究会/西尾 敏彦	農山漁村文化協会
1369	農林業基礎	昭和農業技術史への証言: 第6集(人間選書)	昭和農業技術研究会/西尾 敏彦	農山漁村文化協会
1370	農林業基礎	昭和農業技術史への証言: 第7集(人間選書)	昭和農業技術研究会/西尾 敏彦	農山漁村文化協会
1371	農林業基礎	昭和農業技術史への証言: 第8集(人間選書 272)		農山漁村文化協会
1372	農林業基礎	昭和農業技術史への証言: 第9集(人間選書 273)		農山漁村文化協会
1373	農林業基礎	昭和農業技術史への証言: 第10集(人間選書 274)		農山漁村文化協会
1374	農林業基礎	日本における近代農学の成立と伝統農法: 老農船津伝次平の研究	内田和義	農山漁村文化協会
1375	農林業基礎	日本農学80年史		養賢堂
1376	農林業基礎	農の科学史: イギリス「所領知」の革新と制度化	並松信久	名古屋大学出版会

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
1377	農林業基礎	「食」と農業レファレンスブック		日外アソシエーツ
1378	農林業基礎	農にこそしむ: 科学的考え方・農耕編	高宮守	ウインかもがわ
1379	農林業基礎	土から平和へ: みんなで起こそう農レボリューション	塩見直紀と種まき大作戦	コムズ
1380	農林業基礎	食と農のいま		ナカニシヤ出版
1381	農林業基礎	環境と共生する「農」: 有機農法・自然栽培・冬期湛水農法(シリーズ・いま日本の「農」を問う 4)	古沢広祐/蕪栗沼ふゆみずたんぼプロジェクト	ミネルヴァ書房
1382	農林業基礎	食と農の社会学: 生命と地域の視点から(MINERVA TEXT LIBRARY 64)	樹湯俊子/谷口吉光	ミネルヴァ書房
1383	農林業基礎	日本農業への問いかけ: 「農業空間」の可能性(シリーズ・いま日本の「農」を問う 2)	桑子敏雄/浅川芳裕	ミネルヴァ書房
1384	農林業基礎	農業問題の基層とはなにか: いのちと文化としての農業(シリーズ・いま日本の「農」を問う 1)	末原達郎/佐藤洋一郎	ミネルヴァ書房
1385	農林業基礎	日本人は「食なき国」を望むのか: 誤解だらけの農業問題	山下惣一	家の光協会
1386	農林業基礎	有機農業による社会デザイン: 文明・風土・地域・共同体から考える	本野一郎	現代書館
1387	農林業基礎	食の危機と農の再生: その視点と方向を問う	祖田修	三和書籍
1388	農林業基礎	百姓夜話: 自然農法の道	福岡正信	春秋社
1389	農林業基礎	食・農・環境の新時代: 課題解決の鍵を学ぶ(食と農の教室 2)		昭和堂
1390	農林業基礎	食と農の環境経済学: 持続可能社会に向けて(食と農の教室 3)	宇山満	昭和堂
1391	農林業基礎	知っておきたい食・農・環境: はじめの一步(食と農の教室 1)		昭和堂
1392	農林業基礎	農と食の新しい倫理	秋津元輝/佐藤洋一郎	昭和堂
1393	農林業基礎	食と農を学ぶ人のために		世界思想社
1394	農林業基礎	市民皆農: 食と農のこれまで・これから	山下惣一/中島正	創森社
1395	農林業基礎	小農救国論	山下惣一	創森社
1396	農林業基礎	身土不二の探究	山下惣一	創森社
1397	農林業基礎	農は輝ける	星寛治/山下惣一	創森社
1398	農林業基礎	農的社會をひらく	篤谷栄一	創森社
1399	農林業基礎	自然農という生き方: いのちの道を、たんたん(と)ゆっくり(と)ノートブック 8)	川口由一/辻信一	大月書店
1400	農林業基礎	ようこそ、ほのぼの農園へ: いのちが湧き出る自然農の畑	松尾靖子	地湧社
1401	農林業基礎	地域固有性の発現による農業・農村の創造	中塚雅也	筑波書房
1402	農林業基礎	野の道の農学論: 「総合農学」を歩いて	中島紀一	筑波書房
1403	農林業基礎	農業のサムライたち	大下英治	潮出版社
1404	農林業基礎	新世紀の食と農と環境を考える: 第1回世界学生サミットから(シリーズ・実学の森)	東京農業大学	東京農業大学出版会
1405	農林業基礎	新世紀の食と農と環境を考える: 第2回世界学生サミットから: Vol.2(シリーズ・実学の森)	東京農業大学	東京農業大学出版会
1406	農林業基礎	新世紀の食と農と環境を考える: 第3回世界学生サミットから: Vol.3(シリーズ・実学の森)	東京農業大学	東京農業大学出版会
1407	農林業基礎	新世紀の食と農と環境を考える: 第4回世界学生サミットから: Vol.4(シリーズ・実学の森)	東京農業大学	東京農業大学出版会
1408	農林業基礎	新世紀の食と農と環境を考える: 第5回世界学生サミットから: Vol.5(シリーズ・実学の森)	東京農業大学	東京農業大学出版会
1409	農林業基礎	新世紀の食と農と環境を考える: 第6回世界学生サミットから: Vol.6(シリーズ・実学の森)	東京農業大学	東京農業大学出版会
1410	農林業基礎	新世紀の食と農と環境を考える: 第7回世界学生サミットから: Vol.7(シリーズ・実学の森)	東京農業大学	東京農業大学出版会
1411	農林業基礎	新世紀の食と農と環境を考える: 第8回世界学生サミットから: Vol.8(シリーズ・実学の森)	東京農業大学	東京農業大学出版会
1412	農林業基礎	新世紀の食と農と環境を考える: 第9回世界学生サミットから: Vol.9(シリーズ・実学の森)		東京農業大学出版会
1413	農林業基礎	新世紀の食と農と環境を考える: 第10回世界学生サミットから: Vol.10(シリーズ・実学の森)		東京農業大学出版会
1414	農林業基礎	新世紀の食と農と環境を考える: 第11回世界学生サミットから: Vol.11(シリーズ・実学の森)		東京農業大学出版会
1415	農林業基礎	新世紀の食と農と環境を考える: 第12回世界学生サミットから: Vol.12(シリーズ・実学の森)		東京農業大学出版会
1416	農林業基礎	新世紀の食と農と環境を考える: 第13回世界学生サミットから: Vol.13(シリーズ・実学の森)		東京農業大学出版会
1417	農林業基礎	生活農業の時代: 竹子農塾講義録	萬田正治	南方新社
1418	農林業基礎	今、引き継ぐ農家の技術・暮らしの知恵: 「現代農業」ベストセレクト集		農山漁村文化協会
1419	農林業基礎	「農」を論ず: 日本農業の再生を求めて	梶井功	農林統計協会
1420	農林業基礎	生物多様性と農業の未来(日本農業の動き No.172)		農林統計協会
1421	農林業基礎	〈農〉と共生の思想: 〈農〉の復権の哲学的探求	尾関周二/亀山純生	農林統計出版
1422	農林業基礎	復興から地域循環型社会の構築へ: 農業・農村の持続可能な発展	清水純一/坂内久	農林統計出版
1423	農林業基礎	蘇れ!日本の農業: ラテンアメリカ国際協力から見た穀物増産への道	富田健太郎	文芸社
1424	農林業基礎	農がそこに、いつも、あたりまえに存在しなければならない理由	宇根豊	北星社
1425	農林業基礎	世界農業センサス市町村別統計表(一九五〇年): 第1巻 北海道 青森県 岩手県 秋田県, 復刻		ゆまに書房
1426	農林業基礎	世界農業センサス市町村別統計表(一九五〇年): 第2巻 宮城県 山形県 福島県, 復刻		ゆまに書房
1427	農林業基礎	世界農業センサス市町村別統計表(一九五〇年): 第3巻 栃木県 群馬県 新潟県, 復刻		ゆまに書房

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
1428	農林業基礎	世界農業センサス市町村別統計表(一九五〇年): 第4巻 茨城県 千葉県, 復刻		ゆまに書房
1429	農林業基礎	世界農業センサス市町村別統計表(一九五〇年): 第5巻 埼玉県 東京都 神奈川県, 復刻		ゆまに書房
1430	農林業基礎	世界農業センサス市町村別統計表(一九五〇年): 第6巻 富山県 石川県 福井県, 復刻		ゆまに書房
1431	農林業基礎	世界農業センサス市町村別統計表(一九五〇年): 第7巻 山梨県 長野県 静岡県, 復刻		ゆまに書房
1432	農林業基礎	世界農業センサス市町村別統計表(一九五〇年): 第8巻 岐阜県 愛知県 三重県, 復刻		ゆまに書房
1433	農林業基礎	世界農業センサス市町村別統計表(一九五〇年): 第9巻 滋賀県 京都府 大阪府, 復刻		ゆまに書房
1434	農林業基礎	世界農業センサス市町村別統計表(一九五〇年): 第10巻 兵庫県 奈良県 和歌山県, 復刻		ゆまに書房
1435	農林業基礎	世界農業センサス市町村別統計表(一九五〇年): 第11巻 岡山県 広島県, 復刻		ゆまに書房
1436	農林業基礎	世界農業センサス市町村別統計表(一九五〇年): 第12巻 鳥取県 島根県 山口県, 復刻		ゆまに書房
1437	農林業基礎	世界農業センサス市町村別統計表(一九五〇年): 第13巻 徳島県 香川県 愛媛県 高知県, 復刻		ゆまに書房
1438	農林業基礎	世界農業センサス市町村別統計表(一九五〇年): 第14巻 福岡県 佐賀県 大分県, 復刻		ゆまに書房
1439	農林業基礎	世界農業センサス市町村別統計表(一九五〇年): 第15巻 長崎県 熊本県 宮崎県 鹿児島県, 復刻		ゆまに書房
1440	農林業基礎	世界農業センサス市町村別統計表(一九五〇年): 別巻 結果概要/解題, 復刻		ゆまに書房
1441	農林業基礎	食料・農業・農村白書: 平成29年版		日経印刷
1442	農林業基礎	食料・農業・農村白書参考統計表: 平成29年版		日経印刷
1443	農林業基礎	2015年農林業センサス総合分析報告書		農林統計協会
1444	農林業基礎	ポケット農林水産統計: 平成29年版		農林統計協会
1445	農林業基礎	食料・農業・農村白書: 平成29年版 平成28年度食料・農業・農村の動向 平成29年度食料・農業・農村施策		農林統計協会
1446	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻01 北海道統計書		農林統計協会
1447	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻02 青森県統計書		農林統計協会
1448	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻03 岩手県統計書		農林統計協会
1449	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻04 宮城県統計書		農林統計協会
1450	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻05 秋田県統計書		農林統計協会
1451	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻06 山形県統計書		農林統計協会
1452	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻07 福島県統計書		農林統計協会
1453	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻08 茨城県統計書		農林統計協会
1454	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻09 栃木県統計書		農林統計協会
1455	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻10 群馬県統計書		農林統計協会
1456	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻11 埼玉県統計書		農林統計協会
1457	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻12 千葉県統計書		農林統計協会
1458	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻13 東京都統計書		農林統計協会
1459	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻14 神奈川県統計書		農林統計協会
1460	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻15 新潟県統計書		農林統計協会
1461	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻16 富山県統計書		農林統計協会
1462	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻17 石川県統計書		農林統計協会
1463	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻18 福井県統計書		農林統計協会
1464	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻19 山梨県統計書		農林統計協会
1465	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻20 長野県統計書		農林統計協会
1466	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻21 岐阜県統計書		農林統計協会
1467	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻22 静岡県統計書		農林統計協会
1468	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻23 愛知県統計書		農林統計協会
1469	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻24 三重県統計書		農林統計協会
1470	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻25 滋賀県統計書		農林統計協会
1471	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻26 京都府統計書		農林統計協会
1472	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻27 大阪府統計書		農林統計協会
1473	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻28 兵庫県統計書		農林統計協会
1474	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻29 奈良県統計書		農林統計協会
1475	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻30 和歌山県統計書		農林統計協会
1476	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻31 鳥取県統計書		農林統計協会
1477	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻32 島根県統計書		農林統計協会
1478	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻33 岡山県統計書		農林統計協会

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
1479	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻34 広島県統計書		農林統計協会
1480	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻35 山口県統計書		農林統計協会
1481	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻36 徳島県統計書		農林統計協会
1482	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻37 香川県統計書		農林統計協会
1483	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻38 愛媛県統計書		農林統計協会
1484	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻39 高知県統計書		農林統計協会
1485	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻40 福岡県統計書		農林統計協会
1486	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻41 佐賀県統計書		農林統計協会
1487	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻42 長崎県統計書		農林統計協会
1488	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻43 熊本県統計書		農林統計協会
1489	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻44 大分県統計書		農林統計協会
1490	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻45 宮崎県統計書		農林統計協会
1491	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻46 鹿児島県統計書		農林統計協会
1492	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第1巻47 沖縄県統計書		農林統計協会
1493	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第2巻 農林業経営体調査報告書 総括編		農林統計協会
1494	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第3巻 農林業経営体調査報告書 農林業経営体分類編		農林統計協会
1495	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第4巻第1集 農林業経営体調査報告書 農業経営部門別編第1集 水稲、畑作、小麦、大豆		農林統計協会
1496	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第4巻第2集 農林業経営体調査報告書 農業経営部門別編第2集 野菜、果樹、花き・花木、施設園芸		農林統計協会
1497	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第4巻第3集 農林業経営体調査報告書 農業経営部門別編第3集 酪農、肉用牛、養豚、養鶏		農林統計協会
1498	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第5巻 農林業経営体調査報告書 抽出集計編 ○販売農家(主業農家・認定農業者がいる農家)○農業生産等を行う組織経営体○農作業委託のみを行う経営体○林業作業委託を行う経営体		農林統計協会
1499	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第6巻 農業構造動態統計報告書		農林統計協会
1500	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第7巻 農山村地域調査報告書 都道府県編		農林統計協会
1501	農林業基礎	世界農林業センサス: 2010年第8巻 農業集落類型別統計報告書		農林統計協会
1502	農林業基礎	農業構造動態調査報告書: 平成29年		農林統計協会
1503	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻01 北海道統計書		農林統計協会
1504	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻02 青森県統計書		農林統計協会
1505	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻03 岩手県統計書		農林統計協会
1506	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻04 宮城県統計書		農林統計協会
1507	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻05 秋田県統計書		農林統計協会
1508	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻06 山形県統計書		農林統計協会
1509	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻07 福島県統計書		農林統計協会
1510	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻08 茨城県統計書		農林統計協会
1511	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻09 栃木県統計書		農林統計協会
1512	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻10 群馬県統計書		農林統計協会
1513	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻11 埼玉県統計書		農林統計協会
1514	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻12 千葉県統計書		農林統計協会
1515	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻13 東京都統計書		農林統計協会
1516	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻14 神奈川県統計書		農林統計協会
1517	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻15 新潟県統計書		農林統計協会
1518	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻16 富山県統計書		農林統計協会
1519	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻17 石川県統計書		農林統計協会
1520	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻18 福井県統計書		農林統計協会
1521	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻19 山梨県統計書		農林統計協会
1522	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻20 長野県統計書		農林統計協会
1523	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻21 岐阜県統計書		農林統計協会
1524	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻22 静岡県統計書		農林統計協会
1525	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻23 愛知県統計書		農林統計協会
1526	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻24 三重県統計書		農林統計協会
1527	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻25 滋賀県統計書		農林統計協会
1528	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻26 京都府統計書		農林統計協会
1529	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻27 大阪府統計書		農林統計協会

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
1530	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻28 兵庫県統計書		農林統計協会
1531	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻29 奈良県統計書		農林統計協会
1532	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻30 和歌山県統計書		農林統計協会
1533	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻31 鳥取県統計書		農林統計協会
1534	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻32 島根県統計書		農林統計協会
1535	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻33 岡山県統計書		農林統計協会
1536	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻34 広島県統計書		農林統計協会
1537	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻35 山口県統計書		農林統計協会
1538	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻36 徳島県統計書		農林統計協会
1539	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻37 香川県統計書		農林統計協会
1540	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻38 愛媛県統計書		農林統計協会
1541	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻39 高知県統計書		農林統計協会
1542	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻40 福岡県統計書		農林統計協会
1543	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻41 佐賀県統計書		農林統計協会
1544	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻42 長崎県統計書		農林統計協会
1545	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻43 熊本県統計書		農林統計協会
1546	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻44 大分県統計書		農林統計協会
1547	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻45 宮崎県統計書		農林統計協会
1548	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻46 鹿児島県統計書		農林統計協会
1549	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第1巻47 沖縄県統計書		農林統計協会
1550	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第2巻 農林業経営体調査報告書 総括編		農林統計協会
1551	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第3巻 農林業経営体調査報告書 農林業経営体分類編		農林統計協会
1552	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第4巻 農林業経営体調査報告書		農林統計協会
1553	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第5・6巻 農林業経営体調査報告書 抽出集計編 農林業経営体調査報告書 構造動態編		農林統計協会
1554	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第7巻 農山村地域調査報告書		農林統計協会
1555	農林業基礎	農林業センサス: 2015年第8巻 農業集落類型別統計報告書		農林統計協会
1556	農林業基礎	農林水産省統計表: Statistical Yearbook of Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries: 第91次		農林統計協会
1557	農林業基礎	農学英単BASIC 1800		三修社
1558	農林業基礎	農村で学ぶはじめの一步: 農村入門ガイドブック		昭和堂
1559	農林業基礎	農学・生命科学のための学術情報リテラシー	齋藤忠夫/阿部敬悦	朝倉書店
1560	農林業基礎	帝国日本の農業試験研究: 華北産業科学研究所・華北農事試験場の展開と終焉	山本晴彦	農林統計出版
1561	農林業基礎	満洲の農業試験研究史	山本晴彦	農林統計出版
1562	農林業基礎	日本農業教育成立史の研究, 増補	三好信浩	風間書房
1563	農林業基礎	日本農業教育発達史の研究	三好信浩	風間書房
1564	農林業基礎	祖田修著作選集: 第1巻 都市と農村	祖田修	農林統計協会
1565	農林業基礎	祖田修著作選集: 第2巻 地方産業の近代化構想	祖田修	農林統計協会
1566	農林業基礎	祖田修著作選集: 第3巻 農学原論	祖田修	農林統計協会
1567	農林業基礎	祖田修著作選集: 第4巻 日本のコメ問題論集	祖田修	農林統計協会
1568	農林業基礎	中村靖彦自選著作集: 食と農を見つめて50年: 第1巻 いつまでもあると思うな、水と食	中村靖彦	農林統計協会
1569	農林業基礎	中村靖彦自選著作集: 食と農を見つめて50年: 第2巻 コメはコメなり、田は田なり	中村靖彦	農林統計協会
1570	農林業基礎	中村靖彦自選著作集: 食と農を見つめて50年: 第3巻 種子は世界を変える	中村靖彦	農林統計協会
1571	農林業基礎	中村靖彦自選著作集: 食と農を見つめて50年: 第4巻 喉元過ぎれば、では困る	中村靖彦	農林統計協会
1572	農林業基礎	中村靖彦自選著作集: 食と農を見つめて50年: 第5巻 日本の食を憂えて	中村靖彦	農林統計協会
1573	農林業基礎	中村靖彦自選著作集: 食と農を見つめて50年: 第6巻 農村・暮らし・政治を見つめて	中村靖彦	農林統計協会
1574	農林業基礎	オアシス農業起源論(学術選書 051)	古川久雄	京都大学学術出版会
1575	農林業基礎	農の世紀へ	日本農業新聞取材班	創森社
1576	農林業基礎	稲作以前, 新版 (NHKブックス 1225)	佐々木高明	NHK出版
1577	農林業基礎	地域自給のネットワーク(有機農業選書 5)	井口隆史/榎馮俊子	コモンス
1578	農林業基礎	今日の食と農を考える	櫻原正澄/江尻彰	すいれん舎
1579	農林業基礎	プロが教える農業のすべてがわかる本: 日本農業の基礎知識から世界の農と食まで(史上最強カラー図解)		ナツメ社
1580	農林業基礎	農業カンブリア革命: The Cambrian Revolution of Japanese Agriculture	齋藤章一	まつやま書房

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
1581	農林業基礎	現代の食料・農業・農村を考える (MINERVA TEXT LIBRARY 68)	藤田武弘/内藤重之	ミネルヴァ書房
1582	農林業基礎	井上ひさしと考える日本の農業	井上ひさし	家の光協会
1583	農林業基礎	知識ゼロからの現代農業入門: 生産 消費動向 流通 食の安全 制度 国際情勢		家の光協会
1584	農林業基礎	農業と人間: 食と農の未来を考える (岩波現代全書 014)	生源寺真一	岩波書店
1585	農林業基礎	日本農業史		吉川弘文館
1586	農林業基礎	日本農業の生産構造と生産性: 戦後農政の帰結と国際化への針路	黒田諒	慶應義塾大学出版会
1587	農林業基礎	農業に正義あり: 田地一町畑五反貸さず売らず代を渡せ	石堂徹生	現代書館
1588	農林業基礎	近世・近代における近郊農業の展開: 地帯形成および特権市場と農民の確執	新井鎮久	古今書院
1589	農林業基礎	自然環境と農業・農民: その調和と克服の社会史	新井鎮久	古今書院
1590	農林業基礎	中近世農業史の再解釈: 『清良記』の研究	伏見元嘉	思文閣出版
1591	農林業基礎	最新農業の動向としくみがよ〜わかる本: 業界人、就職、転職に役立つ情報満載 (図解入門業界研究-How-nual-)	中村恵二/山口大樹	秀和システム
1592	農林業基礎	食と農のコミュニティ論: 地域活性化の戦略	碓井嵩/松宮朝	創元社
1593	農林業基礎	現代農業考: 「農」受容と社会の輪郭	工藤昭彦	創森社
1594	農林業基礎	食をプロデュースする匠たち		大学教育出版
1595	農林業基礎	近世幕府農政史の研究: 「田畑勝手作の禁」の再検証を起点に	本城正徳	大阪大学出版会
1596	農林業基礎	エネルギー効率から見た日本の農業地域	仁平尊明	筑波大学出版会
1597	農林業基礎	日本農業近代化の研究: 近代稲作農業の発展論理	穂本洋哉	藤原書店
1598	農林業基礎	小農複合経営の地域的展開	山本正三/田林明	二宮書店
1599	農林業基礎	図解グローバル農業ビジネス: 新興国戦略が拓く日本農業の可能性 (B&Tブックス)	井熊均/三輪泰史	日刊工業新聞社
1600	農林業基礎	農林水産業のみらいの宝宝箱	農林水産業みらい基金	日経BP社
1601	農林業基礎	ニッポンの「農力」: 強い現場が育む豊かさや未来		日本経済新聞出版社
1602	農林業基礎	ゼミナール農林水産業が未来をひらく: 資源と環境の視点から	大隈満/大田伊久雄	農山漁村文化協会
1603	農林業基礎	むらと家を守った江戸時代の人びと: 人口減少地域の養子制度と百姓株式	戸石七生	農山漁村文化協会
1604	農林業基礎	日本農業の発展論理: 歴史と社会 (名著に学ぶ地域の個性 5)	野田公夫	農山漁村文化協会
1605	農林業基礎	農業構造変動の地域分析: 2010年センサス分析と地域の実態調査 (JA総研研究叢書 7)	安藤光義	農山漁村文化協会
1606	農林業基礎	戦後七〇年の食と農 転換期にどう向き合ったのか (日本農業の動き No.193)		農政ジャーナリストの会
1607	農林業基礎	戦後日本の食料・農業・農村: 第1巻 戦時体制期	戦後日本の食料・農業・農村編集委員会	農林統計協会
1608	農林業基礎	戦後日本の食料・農業・農村: 第2巻1 戦後改革・経済復興期 1		農林統計協会
1609	農林業基礎	戦後日本の食料・農業・農村: 第2巻2 戦後改革・経済復興期 2		農林統計協会
1610	農林業基礎	戦後日本の食料・農業・農村: 第3巻2 高度経済成長期 2 農業構造の変貌		農林統計協会
1611	農林業基礎	戦後日本の食料・農業・農村: 第3巻3 高度経済成長期	戦後日本の食料・農業・農村編集委員会	農林統計協会
1612	農林業基礎	戦後日本の食料・農業・農村: 第5巻1 国際化時代の農業と農政 1		農林統計協会
1613	農林業基礎	戦後日本の食料・農業・農村: 第5巻2 国際化時代の農業と農政 2		農林統計協会
1614	農林業基礎	戦後日本の食料・農業・農村: 第6巻 21世紀農業・農村への胎動		農林統計協会
1615	農林業基礎	戦後日本の食料・農業・農村: 第7巻 農業資材産業の展開	戦後日本の食料・農業・農村編集委員会	農林統計協会
1616	農林業基礎	戦後日本の食料・農業・農村: 第8巻 食料・農業・農村の六次産業化		農林統計協会
1617	農林業基礎	戦後日本の食料・農業・農村: 第9巻 農業と環境	戦後日本の食料・農業・農村編集委員会	農林統計協会
1618	農林業基礎	戦後日本の食料・農業・農村: 第10巻 農学・農業教育・農業普及	戦後日本の食料・農業・農村編集委員会	農林統計協会
1619	農林業基礎	戦後日本の食料・農業・農村: 第11巻 農村社会史	戦後日本の食料・農業・農村編集委員会	農林統計協会
1620	農林業基礎	戦後日本の食料・農業・農村: 第12巻 農業農村基盤整備史		農林統計協会
1621	農林業基礎	戦後日本の食料・農業・農村: 第13巻 大規模営農の形成史		農林統計協会
1622	農林業基礎	戦後日本の食料・農業・農村: 第14巻 農業団体史・農民運動史		農林統計協会
1623	農林業基礎	戦後日本の食料・農業・農村: 第15巻 地域農業と自治体農政		農林統計協会
1624	農林業基礎	戦後日本の食料・農業・農村: 第16巻 農業経営・農村地域づくりの先駆的実践	戦後日本の食料・農業・農村編集委員会	農林統計協会
1625	農林業基礎	日本の農業力 (日本農業の動き No.177)		農林統計協会
1626	農林業基礎	日本農業の構造変動 (農業センサス分析 2010年)	安藤光義	農林統計協会
1627	農林業基礎	グローバル化に対抗する農林水産業	高柳長直/川久保篤志	農林統計出版
1628	農林業基礎	明日を探る北海道農業	二日市杜	国書刊行会
1629	農林業基礎	北海道と沖縄の共生農業システム (共生農業システム叢書 第7巻)	仁平恒夫	農林統計協会
1630	農林業基礎	北海道の農業: AGRICULTURE IN HOKKAIDO: 2017		北海道協同組合通信社
1631	農林業基礎	十勝型フードシステムの構築	斎藤修	農林統計出版

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
1632	農林業基礎	東北のすごい生産者に会いに行く	奥田政行/三好かやの	柴田書店
1633	農林業基礎	大震災地域農林水産業をどう立て直す(日本農業の動き No.176)		農林統計協会
1634	農林業基礎	東日本大震災からの農林水産業と地域社会の復興(シリーズ21世紀の農業)		養賢堂
1635	農林業基礎	宮城♥食の復興: つくる、食べる、ずっとつながる	西村一郎	生活文化出版
1636	農林業基礎	農業6次化がフクシマを救う	大畑太郎	アストラ
1637	農林業基礎	福島のおコメは安全ですが、食べてくれなくて結構です。: 三浦広志の愉快的闘い	かたやまいずみ	かもがわ出版
1638	農林業基礎	東日本大震災からの真の農業復興への挑戦: 東京農業大学と相馬市の連携		ぎょうせい
1639	農林業基礎	原発事故と農の復興: 避難すれば、それで済むのか?!	小出裕章/明峯哲夫	コモンズ
1640	農林業基礎	農と言える日本人: 福島発・農業の復興へ(有機農業選書 6)	野中昌法	コモンズ
1641	農林業基礎	放射能に克つ農の営み: ふくしまから希望の復興へ	菅野正寿/長谷川浩	コモンズ
1642	農林業基礎	農の再生と食の安全: 原発事故と福島の2年	小山良太/小松知未	新日本出版社
1643	農林業基礎	有機農業と地域づくり: 会津・熱塩加納の挑戦	小林芳正/境野健児	筑波書房
1644	農林業基礎	原発事故から這いあがる!有機農業ときどき人形劇	大河原多津子/大河原伸	東京シューレ出版
1645	農林業基礎	原発事故と福島の農業		東京大学出版会
1646	農林業基礎	検証東日本大震災の復興は(日本農業の動き No.195)		農政ジャーナリストの会
1647	農林業基礎	近世関東畑作農村の商品生産と舟運: 江戸地廻り経済圏の成立と商品生産地帯の形成	新井鎮久	成文堂
1648	農林業基礎	近世武蔵の農業経営と河川改修	黒須茂	さきたま出版会
1649	農林業基礎	東京農業人	Beretta	雷鳥社
1650	農林業基礎	千五百秋に: よみがえれ富山の農	北日本新聞社編集局	北日本新聞社
1651	農林業基礎	TPPと信州農業: グローバル化と中山間地農業の持続可能性	鈴木宣弘/長野県果樹研究会	川辺書林
1652	農林業基礎	地域再生と農業: 飛騨・美濃の国から	今井健	筑波書房
1653	農林業基礎	名古屋大都市圏の農業: 立地と生産構造	山野明男	あるむ
1654	農林業基礎	やっぱりおもしろい関西農業	高橋信正	昭和堂
1655	農林業基礎	エンカルの農業: 未来のために今すべきこと	伊藤一幸	誠文堂新光社
1656	農林業基礎	中国・近畿中山間地域の農業と担い手: 自作農制下の過疎化と農民層分解	荒木幹雄	昭和堂
1657	農林業基礎	愛媛発・農林漁業と地域の再生		筑波書房
1658	農林業基礎	中山間地域の再編成	鈴木康夫	成文堂
1659	農林業基礎	佐賀農漁業の近現代史: 歴史・地域・部門	小林恒夫	農林統計出版
1660	農林業基礎	薩摩藩領の農民に生活はなかったか	有蘭正一郎	あるむ
1661	農林業基礎	アジアの「農」日本の「農」: グローバル資本主義と比較農業論(社会科学の冒険 2-8)	原洋之介	書籍工房早山
1662	農林業基礎	農村の新制度経済学: アジアと日本	浅見淳之	日本評論社
1663	農林業基礎	WTO体制下における東アジア農業の現局面		農林統計出版
1664	農林業基礎	ユーラシア農耕史: 1 モンスーン農耕圏のふもとと植物	佐藤 洋一郎	臨川書店
1665	農林業基礎	ユーラシア農耕史: 2 日本人と米	佐藤 洋一郎	臨川書店
1666	農林業基礎	ユーラシア農耕史: 3 砂漠・牧場の農耕と風土(地球研ライブラリー)	佐藤 洋一郎	臨川書店
1667	農林業基礎	ユーラシア農耕史: 4 さまざまな栽培植物と農耕文化(地球研ライブラリー 7-4)		臨川書店
1668	農林業基礎	ユーラシア農耕史: 5 農耕の変遷と環境問題(地球研ライブラリー 7-5)		臨川書店
1669	農林業基礎	TPPと食料安保: 韓米FTAから考える	中村靖彦	岩波書店
1670	農林業基礎	FTA戦略下の韓国農業	品川優	筑波書房
1671	農林業基礎	植民地初期の朝鮮農業: 植民地近代化論の農業開発論を検証する	許粹烈	明石書店
1672	農林業基礎	春耕のとき: 中国農業史研究からの出発		汲古書院
1673	農林業基礎	中国の食糧・農業	逸見謙三	筑波書房
1674	農林業基礎	中国国有農場の変貌: 巨大ジャボニカ米産地の形成	朴紅	筑波書房
1675	農林業基礎	WTO体制下の中国農業・農村問題		東京大学出版会
1676	農林業基礎	中国農業のゆくえ: JIRCASの中国農業・社会経済調査研究	銭小平	農林統計協会
1677	農林業基礎	近代中国東北地域の朝鮮人移民と農業	朴敬玉	御茶の水書房
1678	農林業基礎	「満洲国」農事改良史研究	海阿虎	清文堂出版
1679	農林業基礎	近現代東部内モンゴルにおける土地利用方式の転換と農法移転	暁剛	晃洋書房
1680	農林業基礎	THE AGRICULTURAL MONGOLS: LAND RECLAMATION AND THE FORMATION OF MONGOLIAN VILLAGE SOCIETY IN MODERN CHINA	ボルジギン・ブレンサイン	春風社
1681	農林業基礎	高度経済成長下のベトナム農業・農村の発展(研究双書 607)		アジア経済研究所
1682	農林業基礎	インドシナー天水農業 - JIRCAS Rainfed Agriculture Project		養賢堂

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
1683	農林業基礎	ラオスの森はなぜ豊かにならないのか: 地域情報の抽出と分析 (農村計画学のフロンティア 5)	浅野悟史	農林統計出版
1684	農林業基礎	タイ農業概観: 持続的農業開発のモデルを求めて	小金丸梅夫	東京農業大学出版会
1685	農林業基礎	発展途上国の農業・農村フィールド研究: 東京農大手法	熊谷宏/高橋久光	東京農業大学出版会
1686	農林業基礎	ビルマの農産資源 緬甸の米, 復刻 (アジア学叢書 309)		大空社
1687	農林業基礎	南方農業紀行, 復刻 (アジア学叢書 273)	三木末武	大空社
1688	農林業基礎	熱帯アジアにおける作付体系技術	西村美彦	筑波書房
1689	農林業基礎	インドネシアのアグリビジネス改革: 輸出指向農業開発と農民	頼俊輔	日本経済評論社
1690	農林業基礎	西欧資本主義国の共生農業システム: イギリスを中心にみた共生原理と農業の関係 (共生農業システム叢書 第8巻)	柘植徳雄	農林統計協会
1691	農林業基礎	食と農のアフリカ史: 現代の基層に迫る		昭和堂
1692	農林業基礎	焼畑の潜在力: アフリカ熱帯雨林の農業生態誌	四方篤	昭和堂
1693	農林業基礎	検証米国農業革命と大投機相場: バイオ燃料ブームの向こう側で何が起きたのか!?	増田篤	時事通信出版局
1694	農林業基礎	アグロフェュエル・ブーム下の米国エタノール産業と穀作農業の構造変化: Structural Changes in the U.S. Corn Ethanol Industry and Grain Agriculture under the Agro-Fuel Boom	磯田宏	筑波書房
1695	農林業基礎	現代アメリカの有機農業とその将来: ニューイングランドの小規模農場	コナー・J. フィッツモーリス/ブライアン・J. ガロー	筑波書房
1696	農林業基礎	新大陸型資本主義国の共生農業システム: アメリカとカナダ (共生農業システム叢書 第9巻)	松原豊彦	農林統計協会
1697	農林業基礎	アメリカ農業を読む	斎藤潔	農林統計出版
1698	農林業基礎	シビック・アグリカルチャー: 食と農を地域にとりもどす	トーマス・ライソン	農林統計出版
1699	農林業基礎	壊国の契約: NAFTA下メキシコの苦悩と抵抗	エリザベス・フィッティング	農山漁村文化協会
1700	農林業基礎	ブラジルの不毛の大地「セラード」開発の奇跡: 日伯国際協力で実現した農業革命の記録 (地球選書 005)	本郷豊/細野昭雄	ダイヤモンド・ビッグ社
1701	農林業基礎	地球温暖化で日本農業はどう変わる	林陽生	家の光協会
1702	農林業基礎	生物環境気象学		文永堂出版
1703	農林業基礎	北海道の気象と農業	日本農業気象学会北海道支部	北海道新聞社
1704	農林業基礎	農産物性科学: 1 構造的特性と熱・力学的特性		コロナ社
1705	農林業基礎	農産物性科学: 2 音・電気・光特性と生化学特性		コロナ社
1706	農林業基礎	実験農芸化学: 21世紀のバイオサイエンス		朝倉書店
1707	農林業基礎	ミヨビ農法: 天然型アブシジン酸を使いこなす (民間農法シリーズ)	禿泰雄	農山漁村文化協会
1708	農林業基礎	光合成産物の転流と分配: 野菜の生産性を考察する	穴戸良洋	養賢堂
1709	農林業基礎	押さえておきたい土壌と肥料の実践活用: 土づくりに欠かせない土壌改良の基本	加藤哲郎	誠文堂新光社
1710	農林業基礎	図解でよくわかる土・肥料のきほん: 選び方・使い方から、安全性、種類、流通まで (すぐわかるすぐわかる!)		誠文堂新光社
1711	農林業基礎	知っておきたい土壌と肥料の基礎知識: 肥料のいろいろと施肥の基本	加藤哲郎	誠文堂新光社
1712	農林業基礎	よくわかる土と肥料のハンドブック: 土壌改良編		農山漁村文化協会
1713	農林業基礎	よくわかる土と肥料のハンドブック: 肥料・施肥編		農山漁村文化協会
1714	農林業基礎	最新農業技術土壌施肥: vol.1 農業に頼らない土壌病害対策/畜糞・生ゴミ活用	農山漁村文化協会	農山漁村文化協会
1715	農林業基礎	最新農業技術土壌施肥: vol.2 特集堆肥を活かす		農山漁村文化協会
1716	農林業基礎	最新農業技術土壌施肥: vol.3 特集緑肥		農山漁村文化協会
1717	農林業基礎	最新農業技術土壌施肥: vol.4 特集東日本大震災の農地汚染に挑む		農山漁村文化協会
1718	農林業基礎	最新農業技術土壌施肥: vol.5 特集土壌病害を防ぐ		農山漁村文化協会
1719	農林業基礎	最新農業技術土壌施肥: vol.6 特集肥料代を減らす		農山漁村文化協会
1720	農林業基礎	最新農業技術土壌施肥: vol.7 特集堆肥連用の課題と対策		農山漁村文化協会
1721	農林業基礎	最新農業技術土壌施肥: vol.8 特集地球規模で進む土壌劣化		農山漁村文化協会
1722	農林業基礎	最新農業技術土壌施肥: vol.9 特集有機栽培の新研究		農山漁村文化協会
1723	農林業基礎	最新農業技術土壌施肥: vol.10 特集作物・土壌の活性化資材		農山漁村文化協会
1724	農林業基礎	竹肥料農法: バイケミ農業の実際 (民間農法シリーズ)	橋本清文/高木康之	農山漁村文化協会
1725	農林業基礎	肥料を知る土を知る: 豊かな土づくりの基礎知識		農山漁村文化協会
1726	農林業基礎	ポケット肥料要覧: 2015/2016		農林統計協会
1727	農林業基礎	肥料取締法の解説	肥料取締法研究会	大成出版社
1728	農林業基礎	イラスト基本からわかる堆肥の作り方・使い方		家の光協会
1729	農林業基礎	おいしい野菜ができる堆肥づくりハンドブック: 有機・無農薬の野菜づくりに必携!		学研パブリッシング
1730	農林業基礎	尿尿をめぐる近世社会: 大坂地域の農村と都市	荒武賢一郎	清文堂出版
1731	農林業基礎	高水分バイオマスの液肥利用: 環境影響評価と日中欧の比較	矢部光保	筑波書房
1732	農林業基礎	ボカン肥・発酵肥料: 身近な素材でつくる		農山漁村文化協会
1733	農林業基礎	鶏糞を使いこなす	村上圭一/藤原俊六郎	農山漁村文化協会

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
1734	農林業基礎	堆肥とことん活用読本:身近な素材ーなんでもリサイクル		農山漁村文化協会
1735	農林業基礎	モミガラを使いこなす(現代農業特選シリーズ1DVDでもっとわかる1)		農山漁村文化協会
1736	農林業基礎	緑肥作物とことん活用読本	橋爪健	農山漁村文化協会
1737	農林業基礎	畑でおいしい水をつくる:自家製有機堆肥のすすめ	橋本力男	北星社
1738	農林業基礎	環境・資源・健康を考えた土と施肥の新知識	渡辺和彦/後藤逸男	全国肥料商連合会
1739	農林業基礎	人を健康にする施肥,改訂第2版		全国肥料商連合会
1740	農林業基礎	土をみる生育をみる:ムダのない施肥の基礎知識		農山漁村文化協会
1741	農林業基礎	北海道適施肥マニュアル:最新データを現場で活用、無駄を減らし不足を補う		北海道協同組合通信社
1742	農林業基礎	土壌・肥料の基本とつくり方・使い方:図解でわかる		ナツメ社
1743	農林業基礎	やさしい土の話,増訂版	吉田滯	化学工業日報社
1744	農林業基礎	土の百科事典		丸善出版
1745	農林業基礎	土の文明史:ローマ帝国、マヤ文明を滅ぼし、米国、中国を衰退させる土の話	デイビッド・モントゴメリー	築地書館
1746	農林業基礎	図説日本の土壌	岡崎正規/木村園子ドロテア	朝倉書店
1747	農林業基礎	土と食糧:健康な未来のために,普及版		朝倉書店
1748	農林業基礎	土壌圏の科学,普及版(農学教養ライブラリー1)	中野政詩	朝倉書店
1749	農林業基礎	土壌への雨水浸透:環境地水読本	宮崎毅	東銀座出版社
1750	農林業基礎	トコトやさしい土壌の本(B&Tブックス 今日からモノ知りシリーズ)	藤原俊六郎/安西徹郎	日刊工業新聞社
1751	農林業基礎	土壌の科学(B&Tブックス おもしろサイエンス)	土壌と生活研究会	日刊工業新聞社
1752	農林業基礎	放射能除染の土壌科学:森・田・畑から家庭菜園まで(学術会議叢書20)		日本学術協力財団
1753	農林業基礎	まんがでわかる土と肥料:根っこから見た土の世界	村上敏文	農山漁村文化協会
1754	農林業基礎	人は土をどうとらえてきたか:土壌学の歴史とペドロジスト群像	ジャン・ブレーヌ	農山漁村文化協会
1755	農林業基礎	図解土壌の基礎知識,新版	藤原俊六郎	農山漁村文化協会
1756	農林業基礎	世界の土・日本の土は今:地球環境・異常気象・食料問題を土からみると		農山漁村文化協会
1757	農林業基礎	土は土である:作物にとってよい土とは何か	松中照夫	農山漁村文化協会
1758	農林業基礎	土壌団粒:形成・崩壊のドラマと有機物利用(自然と科学技術シリーズ)	青山正和	農山漁村文化協会
1759	農林業基礎	土壌肥料用語事典:土壌編、植物栄養編、土壌改良・施肥編、肥料・用土編、土壌微生物編、環境保全編、情報編,新版 第2版		農山漁村文化協会
1760	農林業基礎	土壌サイエンス入門,第2版		文永堂出版
1761	農林業基礎	地球農学の構想:ミネラル畑にいのちはあふれ	川田薫/川田肇	野草社
1762	農林業基礎	国際土壌年2015と農学研究:社会と命と環境をつなぐ(シリーズ21世紀の農学)		養賢堂
1763	農林業基礎	湿地環境と作物:環境と調和した作物生産をめざして	坂上潤一	養賢堂
1764	農林業基礎	土壌物理実験法		東京大学出版会
1765	農林業基礎	土と農地:土が持つ様々な機能	長谷川周一	養賢堂
1766	農林業基礎	作物はなぜ有機物・難溶解成分を吸収できるのか:根の作用と腐植蓄積の仕組み	阿江教治/松本真悟	農山漁村文化協会
1767	農林業基礎	土と炭化物:炭素の隔離と貯留		博友社
1768	農林業基礎	土壌と界面電気現象:基礎から土壌汚染対策まで		博友社
1769	農林業基礎	文化土壌学からみたリン		博友社
1770	農林業基礎	溶存有機物の動態と機能:土壌一河川一海を結んで		博友社
1771	農林業基礎	図解でよくわかる土壌微生物のきほん:土の中のしくみから、土づくり、家庭菜園での利用法まで(すぐわかるすぐわかる!)		誠文堂新光社
1772	農林業基礎	地中生命の驚異:秘められた自然誌,新装版	デヴィッド・W.ウォルフ	青土社
1773	農林業基礎	菌根菌の働きと使い方:パートナー細菌と共に減肥・病害虫抑制	石井孝昭	農山漁村文化協会
1774	農林業基礎	土壌微生物実験法,第3版		養賢堂
1775	農林業基礎	土壌分類とインベントリー		博友社
1776	農林業基礎	土壌生成分類学,改訂増補版	永塚鎮男	養賢堂
1777	農林業基礎	土壌の誘電特性:計測原理と応用	マックス・A.ヒルホースト	九州大学出版会
1778	農林業基礎	だれにもできる土の物理性診断と改良	安西徹郎	農山漁村文化協会
1779	農林業基礎	だれにもできる土壌診断の読み方と肥料計算	全国農業協同組合連合会肥料農業部	農山漁村文化協会
1780	農林業基礎	土壌環境中の有害元素の挙動:放射光源X線吸収分光法による分子スケールスペシエーション		博友社
1781	農林業基礎	農業由来のアンモニア負荷:その環境影響と対策		博友社
1782	農林業基礎	熱帯雨林の島・ボルネオ島:稲不稔現象解明のためのマレーシア・サラワク州泥炭土壌採取調査記	片瀬隆雄	アイ・ケイコーポレーション
1783	農林業基礎	生きもの語り:人間が知らない田んぼの世界	宇根豊	家の光協会
1784	農林業基礎	農林水産業を支える生物多様性の評価と課題(シリーズ21世紀の農学)		養賢堂

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
1785	農林業基礎	グラスエンドファイト: その生態と進化	G.P.チュウブリック/S.H.フェイス	東海大学出版会
1786	農林業基礎	エンドファイトの働きと使い方: 作物を守る共生微生物	成澤才彦	農山漁村文化協会
1787	農林業基礎	農家が教える光合成細菌とことん活用読本: 肥料に、堆肥に、土壌・水質改善に		農山漁村文化協会
1788	農林業基礎	農家が教える微生物パワーとことん活用読本: 防除、植物活力剤から土づくりまで		農山漁村文化協会
1789	農林業基礎	新植物栄養・肥料学	米山忠克/長谷川功	朝倉書店
1790	農林業基礎	ミミズのはたらき: 土を耕す・肥やす「地球の虫」	中村好男	創森社
1791	農林業基礎	地域の植生管理: 害虫・雑草を抑え、天敵を増やす	静岡県農林技術研究所農村緑生管理プロジェクト	農山漁村文化協会
1792	農林業基礎	農・水産資源の有効利用とゼロエミッション		恒星社厚生閣
1793	農林業基礎	バイオマス静脈流通論(北海道地域農業研究所学術叢書 15)	泉谷真実	筑波書房
1794	農林業基礎	犬が私たちをパートナーに選んだわけ: 最新の犬研究からわかる、人間の「最良の友」の起源	ジョン・ホーマンズ	阪急コミュニケーションズ
1795	農林業基礎	イヌの動物行動学: 行動、進化、認知	アダム・ミクロシ	東海大学出版部
1796	農林業基礎	東大ハチ公物語: 上野博士とハチ、そして人と犬のつながり		東京大学出版会
1797	農林業基礎	猫はこうして地球を征服した: 人の脳からインターネット、生態系まで	アビゲイル・タッカー	インターシフト
1798	農林業基礎	ネコ学入門: 猫言語・幼猫体験・尿スプレー	クレア・ベサント	築地書館
1799	農林業基礎	ウナギの保全生態学(共立スマートセレクション 8)	海部健三	共立出版
1800	農林業基礎	ウナギと人間	ジェイムズ・プロセック	築地書館
1801	農林業基礎	とある弁当屋の統計技師(データサイエンティスト): データ分析のはじめかた	石田基広	共立出版
1802	農林業基礎	とある弁当屋の統計技師(データサイエンティスト): 2 因子分析大作戦	石田基広	共立出版
1803	農林業基礎	マーケティングの統計モデル(統計解析スタンダード)	佐藤忠彦	朝倉書店
1804	農林業基礎	ビッグデータに踊らされないための統計データ使いこなし術	上田雅夫	宝島社
1805	農林業基礎	立体折り紙アート: 数理がおりなす美しさの秘密	三谷純	日本評論社
1806	農林業基礎	数学者たちの楽園: 「ザ・シンブソンス」を作った天才たち	サイモン・シン	新潮社
1807	農林業基礎	植物の和名・漢名と伝統文化	寺井泰明	日本評論社
1808	農林業基礎	朝永振一郎: 見える光、見えない光(STANDARD BOOKS)	朝永振一郎	平凡社
1809	農林業基礎	環境保全型農業大事典<1> 施肥と土壌管理	農文協	農山漁村文化協会
1810	農林業基礎	環境保全型農業大事典<2> 総合防除・土壌病害対策	農文協	農山漁村文化協会
1811	農林業基礎	原色果樹病害虫百科<1> 第2版 カンキツ・キウイフルーツ	農文協	農山漁村文化協会
1812	農林業基礎	原色野菜病害虫百科<1> 第2版 トマト・ナス・ピーマン他	農文協	農山漁村文化協会
1813	農林業基礎	原色野菜病害虫百科<2> 第2版 キュウリ・スイカ・メロン他	農文協	農山漁村文化協会
1814	農林業基礎	原色野菜病害虫百科<3> 第2版 イチゴ・マメ類・スイートコーン他	農文協	農山漁村文化協会
1815	農林業基礎	原色野菜病害虫百科<4> 第2版 キャベツ・ハウサイ・シュンギク他	農文協	農山漁村文化協会
1816	農林業基礎	原色野菜病害虫百科<5> 第2版 レタス・ホウレンソウ・セルリー他	農文協	農山漁村文化協会
1817	農林業基礎	原色野菜病害虫百科<6> 第2版 ネギ類・アスパラガス・ミツバ他	農文協	農山漁村文化協会
1818	農林業基礎	原色野菜病害虫百科<7> 第2版 ダイコン・ニンジン・イモ類他	農文協	農山漁村文化協会
1819	農林業基礎	原色 野菜病害虫百科(全7巻) 第2版(原色 野菜病害虫百科 第2版)	農文協	農山漁村文化協会
1820	農林業基礎	原色果樹病害虫百科<2> 第2版 リンゴ・オウトウ・西洋ナシ・クルミ	農文協	農山漁村文化協会
1821	農林業基礎	原色果樹病害虫百科<3> 第2版 ブドウ・カキ	農文協	農山漁村文化協会
1822	農林業基礎	原色果樹病害虫百科<4> 第2版 モモ・ウメ・スモモ・アンズ・クリ	農文協	農山漁村文化協会
1823	農林業基礎	原色果樹病害虫百科<5> 第2版 ナシ・ビワ・イチジク・マンゴー	農文協	農山漁村文化協会
1824	農林業基礎	原色果樹病害虫百科 第2版<全5巻>		農山漁村文化協会
1825	農林業基礎	イネ<1> 第2版 イネ(原色 作物病害虫百科 第2版 第1巻)	農文協	農山漁村文化協会
1826	農林業基礎	原色作物病害虫百科<2> 第2版 ムギ・ダイズ・アズキ・飼料作物他	農文協	農山漁村文化協会
1827	農林業基礎	原色作物病害虫百科<3> 第2版 チャ・コンニャク・タバコ他	農文協	農山漁村文化協会
1828	農林業基礎	稲作大百科<1> 第2版 総説/形態/品種/土壌管理	農山漁村文化協会	農山漁村文化協会
1829	農林業基礎	稲作大百科<2> 第2版 栽培の基礎/品質・食味/気象災害	農山漁村文化協会	農山漁村文化協会
1830	農林業基礎	稲作大百科<3> 第2版 栽培の実際/施肥技術	農山漁村文化協会	農山漁村文化協会
1831	農林業基礎	稲作大百科<4> 第2版 各種栽培法/直播栽培/生育診断	農山漁村文化協会	農山漁村文化協会
1832	農林業基礎	稲作大百科<5> 第2版 農家・地域の栽培事例	農山漁村文化協会	農山漁村文化協会
1833	農林業基礎	大石貞男著作集<1> 日本茶業発達史	大石 貞男	農山漁村文化協会
1834	農林業基礎	大石貞男著作集<2> 静岡県茶産地史	大石 貞男	農山漁村文化協会
1835	農林業基礎	大石貞男著作集<3> 茶の栽培と製造(1)	大石 貞男	農山漁村文化協会

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
1836	農林業基礎	大石貞男著作集<4> 茶の栽培と製造(2)	大石 貞男	農山漁村文化協会
1837	農林業基礎	花卉園芸大百科<5> 緑化と緑化植物	農文協	農山漁村文化協会
1838	農林業基礎	花卉園芸大百科<6> ガーデニング/ハーブ/園芸療法	農文協	農山漁村文化協会
1839	農林業基礎	花卉園芸大百科<7> 育種/苗生産/バイオテク活用	農文協	農山漁村文化協会
1840	農林業基礎	花卉園芸大百科<8> キク	農文協	農山漁村文化協会
1841	農林業基礎	花卉園芸大百科<9> カーネーション	農文協	農山漁村文化協会
1842	農林業基礎	花卉園芸大百科<10> パラ	農文協	農山漁村文化協会
1843	農林業基礎	花卉園芸大百科<11> 1・2年草	農文協	農山漁村文化協会
1844	農林業基礎	花卉園芸大百科<12> 宿根草	農文協	農山漁村文化協会
1845	農林業基礎	花卉園芸大百科<13> シクラメン/球根類	農文協	農山漁村文化協会
1846	農林業基礎	花卉園芸大百科<14> 花木	農文協	農山漁村文化協会
1847	農林業基礎	大石貞男著作集<5> 茶随想集成	大石 貞男	農山漁村文化協会
1848	農林業基礎	花卉園芸大百科<15> ラン	農文協	農山漁村文化協会
1849	農林業基礎	花卉園芸大百科<16> 観葉植物/サボテン/多肉植物	農文協	農山漁村文化協会
1850	農林業基礎	茶大百科<1> 歴史・文化/品質・機能性/品種/製茶	農山漁村文化協会	農山漁村文化協会
1851	農林業基礎	茶大百科<2> 栽培の基礎/栽培技術/生産者事例	農山漁村文化協会	農山漁村文化協会
1852	農林業基礎	茶大百科 全2巻		農文協
1853	農林業基礎	花卉園芸大百科<1> 生長・開花とその調節	農文協	農山漁村文化協会
1854	農林業基礎	花卉園芸大百科<2> 土・施肥・水管理	農文協	農山漁村文化協会
1855	農林業基礎	花卉園芸大百科<3> 環境要素とその制御	農文協	農山漁村文化協会
1856	農林業基礎	花卉園芸大百科<4> 経営戦略/品質	農文協	農山漁村文化協会
1857	農林業基礎	ケンブリッジ世界の食物史大百科事典<1> 祖先の食・世界の食	Kenneth F. Kiple/Krieheld Cone = Omalas/石名 康道	朝倉書店
1858	農林業基礎	ケンブリッジ世界の食物史大百科事典<2> 主要食物:栽培植物と飼養動物	Kenneth F. Kiple/Krieheld Cone = Omalas/石名 康道	朝倉書店
1859	農林業基礎	ケンブリッジ世界の食物史大百科事典<3> 飲料・栄養素	Kenneth F. Kiple/Krieheld Cone = Omalas/石名 康道	朝倉書店
1860	農林業基礎	ケンブリッジ世界の食物史大百科事典<4> 栄養と健康・現代の課題	Kenneth F. Kiple/Krieheld Cone = Omalas/石名 康道	朝倉書店
1861	農林業基礎	ケンブリッジ世界の食物史大百科事典<5> 食物用語辞典	Kenneth F. Kiple/Krieheld Cone = Omalas/石名 康道	朝倉書店
1862	農林業基礎	環境保全型農業事典	石井 龍一	丸善出版
1863	農林業基礎	検証キノコ新図鑑	城川 四郎	筑波書房
1864	農林業基礎	現代菌類学大鑑		共立出版
1865	農林業基礎	最新農業技術事典~NAROPEDIA~	農業・生物系特定産業技術研究機構	農文協
1866	農林業基礎	植物育種学辞典	日本育種学会	培風館
1867	農林業基礎	新編 農学大事典	山崎 耕平/久保 祐雄/西尾 敏彦	養賢堂
1868	農林業基礎	地域生物資源活用大事典	藤巻 宏	農山漁村文化協会
1869	農林業基礎	土壌・植物栄養・環境事典	松坂泰明	博友社
1870	農林業基礎	土壌診断生育診断大事典~簡易診断からリアルタイム診断、生理障害、品質の診断まで~	農山漁村文化協会	農山漁村文化協会
1871	農林業基礎	熱帯農業事典	日本熱帯農業学会	養賢堂
1872	農林業基礎	バイオテク用語事典~ポケットガイド~	Rolf D. Schmid/村松 正実	東京化学同人
1873	農林業基礎	動物細胞工学ハンドブック	日本動物細胞工学会	朝倉書店
1874	農林業基礎	新編育種学用語集	日本育種学会	養賢堂
1875	農林業基礎	植物ゲノム科学辞典	駒嶺 穆	朝倉書店
1876	農林業基礎	植物の百科事典		朝倉書店
1877	農林業基礎	植物病理学事典	日本植物病理学会	養賢堂
1878	農林業基礎	植物ホルモン・ハンドブック<上>	高橋信孝/増田芳雄	培風館
1879	農林業基礎	植物ホルモン・ハンドブック<下>	高橋信孝/増田芳雄	培風館
1880	農林業基礎	応用植物科学実験	山口 裕文/堀内 昭作/森 源治郎/山口 裕文	養賢堂
1881	農林業基礎	図説日本の植生 第2版	福嶋 司	朝倉書店
1882	農林業基礎	昆虫学大事典	三橋 淳総編集	朝倉書店
1883	農林業基礎	シロアリの事典		海青社
1884	農林業基礎	日本のチョウ~フィールドガイド~		誠文堂新光社
1885	農林業基礎	身近な昆虫識別図鑑~フィールドガイド~	海野 和男	誠文堂新光社
1886	農林業基礎	最新気象百科	ドナルド・アーレン/古川 武彦/種野 純一/伊藤 勇之	丸善出版

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
1887	農林業基礎	食料の世界地図 第2版(世界地図シリーズ)	Enk. Millstone/Tim Lang/大賀 忠治/中山 豊寿/高田 豊色	丸善出版
1888	農林業基礎	農業と人間～ビジュアル大事典～	農林水産省農林水産技術会議事務局	農山漁村文化協会
1889	農林業基礎	食べる薬草事典～大地の薬箱～	村上 光太郎	農山漁村文化協会
1890	農林業基礎	新編土壌物理用語事典	土壌物理学会	養賢堂
1891	農林業基礎	植物栄養・肥料の事典	植物栄養・肥料の事典編集委員会	朝倉書店
1892	農林業基礎	肥料・土づくり資材大事典～化学肥料・有機質肥料 土壌改良材 堆肥素材・用土～	農文協	農山漁村文化協会
1893	農林業基礎	家庭でできる堆肥づくり百科	デボラ・マーン/グレス・ガッシュー/福田 達也/池原 みどり	家の光協会
1894	農林業基礎	肥料便覧 第6版	塩崎 尚郎	農山漁村文化協会
1895	農林業基礎	作物病害虫ハンドブック	梶原 敏宏	養賢堂
1896	農林業基礎	原色作物の病害虫診断～イネ・ムギ・マメ類・チャ・コンニャク・タバコ・クワ～ 新版	農山漁村文化協会	農山漁村文化協会
1897	農林業基礎	原色庭木・花木の病害虫	上住泰/西村十郎	農山漁村文化協会
1898	農林業基礎	除草剤便覧～選び方と使い方～ 第2版	野口 勝可/森田 弘彦/竹下 孝史	農山漁村文化協会
1899	農林業基礎	農業学事典	本山 直樹	朝倉書店
1900	農林業基礎	農業用語辞典	農業用語辞典編集委員会	日本植物防疫協会
1901	農林業基礎	新編作物学用語集	日本作物学会	養賢堂
1902	農林業基礎	茶の栽培と利用加工	岩浅潔	養賢堂
1903	農林業基礎	日本茶全書～生産から賞味まで～	淵之上 康元/淵之上 弘子	農山漁村文化協会
1904	農林業基礎	緑茶のマーケティング～“茶葉ビジネス”から“リラックス・ビジネス”へ～	岩崎 邦彦	農山漁村文化協会
1905	農林業基礎	A～Z園芸植物百科事典	クリストファー・ブリッケル/横井政人	誠文堂新光社
1906	農林業基礎	園芸学用語集<作物名編>	園芸学会	養賢堂
1907	農林業基礎	観葉植物と熱帯花木図鑑～観葉植物 熱帯花木 熱帯果実～	日本インドア・グリーン協会	誠文堂新光社
1908	農林業基礎	冬虫夏草生態図鑑～採集・観察・分類・同定・効能から歴史まで240種類～	日本冬虫夏草の会	誠文堂新光社
1909	農林業基礎	ドライフラワー図鑑	高橋 有希	誠文堂新光社
1910	農林業基礎	新園芸学全編～園芸学最近25年の歩み～	園芸学会	養賢堂
1911	農林業基礎	新編原色果物図説	小崎 格他監	養賢堂
1912	農林業基礎	果樹園芸大事典	佐藤公一	養賢堂
1913	農林業基礎	温帯果樹園芸	メルヴィン・N. ウェストウッド/中川昌一	養賢堂
1914	農林業基礎	日本果物史年表	梶浦 一郎	養賢堂
1915	農林業基礎	新編野菜園芸ハンドブック	西 貞夫	養賢堂
1916	農林業基礎	図説野菜新書	矢沢 進	朝倉書店
1917	農林業基礎	野菜園芸開発ガイドブック(英文)～モンスーン亜熱帯地域の～	篠原 捨喜著	養賢堂
1918	農林業基礎	世界の野菜	Mas Yamaguchi/高橋和彦(1929-)	養賢堂
1919	農林業基礎	最新花き園芸ハンドブック	鶴島 久男	養賢堂
1920	農林業基礎	世界薬用植物百科事典～550種をこす世界の代表的な薬用植物の実用的な解説とその医薬的使用法～	アンドリュース・シェヴァリエ/難波 恒雄	誠文堂新光社
1921	農林業基礎	原色庭石大事典～産地、原石の種類、造園での使用例などがひと目でわかる!～	庭石大事典制作委員会	誠文堂新光社
1922	農林業基礎	アジアの発酵食品事典	谷村 和八郎	樹村房
1923	農林業基礎	簡明食辞林 第2版	小原 哲二郎/細谷 憲政	樹村房
1924	農林業基礎	生化学辞典 第4版	今堀 和友/山川 民夫/大島 泰郎	東京化学同人
1925	農林業基礎	英和和英生化学用語辞典 第2版	日本生化学会	東京化学同人
1926	農林業基礎	農芸化学の事典	鈴木 昭憲/荒井 綜一	朝倉書店
1927	農林業基礎	微生物の事典	鎌倉 徳/西村 和子/内山 裕夫/奥田 徹/加東 久敏/広木 幹也	朝倉書店
1928	農林業基礎	化合物の辞典 普及版	高本進/稲本直樹	朝倉書店
1929	農林業基礎	新食品分析ハンドブック	菅原 竜幸/前川 昭男	建帛社
1930	農林業基礎	果実の事典	杉浦 明/宇都宮 直樹/片岡 敏彦/久保田 尚浩/米津 敏三	朝倉書店
1931	農林業基礎	新訂 原色食品衛生図鑑～第二版～ 上製	細貝 祐太郎/菅原 龍幸/松本 昌雄	建帛社
1932	農林業基礎	食品技術総合事典	農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所	朝倉書店
1933	農林業基礎	食品免疫・アレルギーの事典		朝倉書店
1934	農林業基礎	ビタミン総合事典	日本ビタミン学会	朝倉書店
1935	農林業基礎	おいしさの科学事典	山野 善正	朝倉書店
1936	農林業基礎	食品大百科事典	食品総合研究所	朝倉書店
1937	農林業基礎	食品物性用語辞典	川端晶子	養賢堂

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
1938	農林業基礎	食品保蔵・流通技術ハンドブック	三浦 洋/木村 進/日本食品保蔵科学会	建帛社
1939	農林業基礎	茶の機能～ヒト試験から分かった新たな役割～ 新版		農山漁村文化協会
1940	農林業基礎	水産食品の事典	竹内 昌昭/藤井 建夫/山沢 正勝	朝倉書店
1941	農林業基礎	調味料・香辛料の事典	福場 博保/小林 彰夫	朝倉書店
1942	農林業基礎	東南アジア植物性食品図鑑	菅原 竜幸	建帛社
1943	農林業基礎	日本の伝統食品事典	日本伝統食品研究会	朝倉書店
1944	農林業基礎	緑茶・中国茶・紅茶の化学と機能 新版	伊奈 和夫/伊奈 和夫/坂田 完三	アイ・ケイコーポレーション
1945	農林業基礎	冷凍食品の事典	日本冷凍食品協会	朝倉書店
1946	農林業基礎	酵素ハンドブック～CD-ROM付～ 第3版		朝倉書店
1947	農林業基礎	食と微生物の事典		朝倉書店
1948	農林業基礎	茶の香り研究ノート～製造にみる多様性の視点から～	川上 美智子	光生館
1949	農林業基礎	草地学用語集 改訂	日本草地学会	養賢堂
1950	農林業基礎	畜産総合事典	小宮山 敏明/鈴木 慎二郎/栗河 毅/森地 敏樹	朝倉書店
1951	農林業基礎	新編畜産大事典	畜産大事典編集委員会	養賢堂
1952	農林業基礎	新編畜産用語辞典	日本畜産学会	養賢堂
1953	農林業基礎	動物遺伝育種学事典	動物遺伝育種学事典編集委員会	朝倉書店
1954	農林業基礎	飼料生産・調製マニュアル -足腰の強い新時代の酪農に向けて-		デーリマン社/北海道協同組合通信社
1955	農林業基礎	新獣医英和辞典	長谷川 篤彦	チクサン出版社
1956	農林業基礎	新獣医学辞典	新獣医学辞典編集委員会	チクサン出版社
1957	農林業基礎	鑑定図鑑日本の樹木～枝・葉で見分ける540種～	三上 常夫/川原田 邦彦/吉沢 信行	柏書房
1958	農林業基礎	葉っぱでおぼえる樹木～原寸図鑑～	浜野 周泰	柏書房
1959	農林業基礎	葉っぱでおぼえる樹木～原寸図鑑～<2>	浜野 周泰/石井 英美	柏書房
1960	農林業基礎	さくら百科		丸善出版
1961	農林業基礎	タケ・ササ総図典	内村 悦三	創森社
1962	農林業基礎	キノコ栽培全科	大森 清寿/小出 博志	農山漁村文化協会
1963	農林業基礎	きのこハンドブック	衣川 堅二郎/小川 真	朝倉書店
1964	地域資源	ラテンアメリカの農業・食料部門の発展: バリューチェーンの統合 (研究双書 627)	清水達也	アジア経済研究所
1965	地域資源	農業政策の変遷と自治体: 財政からみた農業再生への課題 (COPA BOOKS 自治体議会政策学会叢書)	石原健二	イマジン出版
1966	地域資源	日本農業の危機と再生: 地域再生の希望は食とエネルギーの産直に (さよなら安倍政権・批判plusオルタナティブ)	村田武	かもがわ出版
1967	地域資源	地域農業ミュージアム: 都市農業のあした	菊池和美	くろすとーくとーく出版
1968	地域資源	地産地消と学校給食: 有機農業と食育のまちづくり (有機農業選書 1)	安井孝	コモンズ
1969	地域資源	有機農業政策と農の再生: 新たな農本の地平へ (有機農業選書 2)	中島紀一	コモンズ
1970	地域資源	いまこそ「都市農」!: 都市農業・農地を活かすことで変わる社会	蜂須賀裕子/櫻井勇	はる書房
1971	地域資源	欧州統合と共通農業政策	豊嘉哲	芦書房
1972	地域資源	まっとうな日本は農政から: 農業の元気は日本の元気	山田としお	家の光協会
1973	地域資源	地域からはじまる日本農業の「再生」: 迷途する農政を超えて	小池恒男	家の光協会
1974	地域資源	日本農民政策史論: 開拓・移民・教育訓練	伊藤淳史	京都大学学術出版会
1975	地域資源	農林資源開発史論: 1 農林資源開発の世紀		京都大学学術出版会
1976	地域資源	農林資源開発史論: 2 日本帝国圏の農林資源開発		京都大学学術出版会
1977	地域資源	農本主義が未来を耕す: 自然に生きる人間の原理	宇根豊	現代書館
1978	地域資源	日本の農業を破壊したのは誰か: 「農業立国」に舵を切れ	山下一仁	講談社
1979	地域資源	農・林・漁復権の戦い: 1年9カ月の軌跡	鹿野道彦	財界研究所
1980	地域資源	危機に立つ食糧・農業・農協: 消えゆく農業政策	石原健二	時潮社
1981	地域資源	自治体農政の新展開	中嶋信	自治体研究社
1982	地域資源	北海道の守り方: グローバリゼーションという(経済戦争)に抗する10の戦略	久田徳二	寿郎社
1983	地域資源	近代日本の農業政策論: 地域の自立を唱えた先人たち	並松信久	昭和堂
1984	地域資源	いま蘇る柳田國男の農政改革 (新潮選書)	山下一仁	新潮社
1985	地域資源	生態調和的農業形成と環境直接支払い: 農業環境政策論からの接近	横川洋/高橋佳孝	青山社
1986	地域資源	農業・農村所得倍増戦略: TPPを越えて	小里泰弘	創英社
1987	地域資源	農と自然の復興	宇根豊	創森社
1988	地域資源	農本主義へのいざない	宇根豊	創森社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
1989	地域資源	強い農業づくりの支援:平成29年度		創造書房
1990	地域資源	自民党農政史:1955~2009	吉田修	大成出版社
1991	地域資源	食料・農業・農村基本計画		大成出版社
1992	地域資源	新たな食料・農業・農村基本計画の検討経緯と具体化に向けて	鈴木直弘	大成出版社
1993	地域資源	“開国”農政への危惧:21世紀の農政にもの申す	梶井功	筑波書房
1994	地域資源	公共財と外部性:OECD諸国の農業環境政策	OECD	筑波書房
1995	地域資源	公共財と外部性:日本の農業環境政策	植竹哲也	筑波書房
1996	地域資源	混迷する農政協同する地域	田代洋一	筑波書房
1997	地域資源	条件不利地域農業:日本と韓国	品川優	筑波書房
1998	地域資源	水田農業と期待される農政転換(日本農業市場学会研究叢書 11)	佐藤了/板橋衛	筑波書房
1999	地域資源	戦後レジームからの脱却農政	田代洋一	筑波書房
2000	地域資源	農協改革・ポストTPP・地域	田代洋一	筑波書房
2001	地域資源	農業環境公共財と共同行動		筑波書房
2002	地域資源	反TPPの農業再建論	田代洋一	筑波書房
2003	地域資源	TPPが日本農業を強くする	山下一仁	日本経済新聞出版社
2004	地域資源	日本の農林水産業:成長産業への戦略ビジョン	八田達夫/高田真	日本経済新聞出版社
2005	地域資源	日本農業は世界に勝てる	山下一仁	日本経済新聞出版社
2006	地域資源	農業ビッグバンの経済学:真の食料安全保障のために	山下一仁	日本経済新聞出版社
2007	地域資源	イギリスの地域農業マネジメント	八木洋憲	日本経済評論社
2008	地域資源	自由貿易下における農業・農村の再生:小さき人々による挑戦		日本経済評論社
2009	地域資源	韓国における市場開放と農業構造改革:農地の経営規模拡大について	高安雄一	日本評論社
2010	地域資源	農業環境政策の経済分析(法政大学比較経済研究所研究シリーズ 28)		日本評論社
2011	地域資源	愛国心と愛郷心:新しい農本主義の可能性	宇根豊	農山漁村文化協会
2012	地域資源	都市農業必携ガイド:市民農園・新規就農・企業参入で農のある都市づくり	小野淳/松澤龍人	農山漁村文化協会
2013	地域資源	柳田國男の国民農業論:農村と国民(名著に学ぶ地域の個性 1)	牛島史彦	農山漁村文化協会
2014	地域資源	アベノミクスの農政改革とは(日本農業の動き No.191)		農政ジャーナリストの会
2015	地域資源	農政運動と政治(日本農業の動き No.189)		農政ジャーナリストの会
2016	地域資源	TPP不参加戸別所補償の継続:そこに日本農業・日本社会の展望がかかる	服部信司	農林統計協会
2017	地域資源	アメリカ2014年農業法:収入保障・不足払い・収入保険の3層構造	服部信司	農林統計協会
2018	地域資源	できるか、農業の所得倍増(日本農業の動き No.185)		農林統計協会
2019	地域資源	わが国農業・農村の再起	熊谷宏/堀口健治	農林統計協会
2020	地域資源	改めて問う、新政権の農政とは!(日本農業の動き No.171)		農林統計協会
2021	地域資源	攻めの保護農政:直接支払で「TPPに負けない日本農業」	村田泰夫	農林統計協会
2022	地域資源	自公政権の農業政策を問う(日本農業の動き No.183)		農林統計協会
2023	地域資源	食と農の「崩壊」からの脱出:食料・農業・農村政策を「マーケット・イン型、地域分散・ネットワーク型、納税者負担型」へ転換せよ	武本俊彦	農林統計協会
2024	地域資源	世界の農業環境政策:先進諸国の実態と分析枠組みの提案	荘林幹太郎/木下幸雄	農林統計協会
2025	地域資源	政権交代下での新基本計画(日本農業の動き No.173)		農林統計協会
2026	地域資源	日本の農業環境政策:持続的な美しい農業・農村を目指して	荘林幹太郎/佐々木宏樹	農林統計協会
2027	地域資源	日本農業貿易自由化への備え(日本農業の動き No.179)		農林統計協会
2028	地域資源	農業改革、議論の行方(日本農業の動き No.186)		農林統計協会
2029	地域資源	農商工連携が地域を元気に(日本農業の動き No.169)		農林統計協会
2030	地域資源	復帰後の沖縄農業:フィールドワークによる沖縄農政論	新井祥穂/永田淳嗣	農林統計協会
2031	地域資源	「農政改革」下の農業・農村	神山安雄	農林統計出版
2032	地域資源	EU共通農業政策改革の内幕:マクシャリー改革,アジェンダ2000,フィシュラー改革	アルリンド クーニャ/アラン スウィンバンク	農林統計出版
2033	地域資源	改革時代の農業政策:最近の政策研究レビュー	生源寺眞一	農林統計出版
2034	地域資源	中国におけるクラスター戦略による農業農村開発	木南莉莉	農林統計出版
2035	地域資源	日本発農業のある都市モデル:地域共存型農業による安全快適福祉都市	東正則	農林統計出版
2036	地域資源	農と村とその将来:規制緩和と農政を超えて	矢口芳生	農林統計出版
2037	地域資源	農業と農政の視野:論理の力と歴史の重み	生源寺眞一	農林統計出版
2038	地域資源	農業と農政の視野:論理の力と歴史の重み:続	生源寺眞一	農林統計出版
2039	地域資源	農業と農政の視野:論理の力と歴史の重み:完	生源寺眞一	農林統計出版

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
2040	地域資源	農業のある安全快適都市－日本	東正則	農林統計出版
2041	地域資源	ナチス・ドイツの有機農業:「自然との共生」が生んだ「民族の絶滅」, 新装版	藤原辰史	柏書房
2042	地域資源	海と陸からの恵み: 水産学博士の参議院議員が切り拓く日本の食の最前線! (ネプチューン(ノンフィクション)シリーズ)	横山信一	柏艸舎
2043	地域資源	日本の農政改革: 競争力向上のための課題とは何か	OECD	明石書店
2044	地域資源	どうなる? どうする? 日本の食卓: 田んぼとウシが日本を救う	酒井仙吉	養賢堂
2045	地域資源	農村地域の産業政策: これからの農村の担い手像	前田陽次郎	權歌書房
2046	地域資源	農林水産六法: 平成30年版		学陽書房
2047	地域資源	食料農業の法と制度	井上龍子	金融財政事情研究会
2048	地域資源	環境のための制度の構築: 有機食品の認証制度を中心に	横田茂永	筑波書房
2049	地域資源	農業再生に挑むコミュニティビジネス: 豊かな地域資源を生かすために(シリーズ・いま日本の「農」を問う7)	曾根原久司/西辻一真	ミネルヴァ書房
2050	地域資源	農をつなぐ仕事: 普及指導員とコミュニティへの社会心理学的アプローチ	内田由紀子/竹村幸祐	創森社
2051	地域資源	農村計画学		朝倉書店
2052	地域資源	IT活用で変わる農業普及	福田浩一	東京農業大学出版会
2053	地域資源	農業普及指導論	藤田康樹	東京農業大学出版会
2054	地域資源	国際地域開発学入門		農林統計協会
2055	地域資源	環境心理学的手法を用いた農村空間評価: 評価グリッド法を用いた研究事例を通して(農村計画学のフロンティア 6)	廣瀬裕一	農林統計出版
2056	地域資源	地域農業計画の予測と分析: マルチエージェントシミュレーション(農村計画学のフロンティア 1)	山下良平	農林統計出版
2057	地域資源	内発的農村発展論: 理論と実践	小田切徳美/橋口卓也	農林統計出版
2058	地域資源	農村計画と生態系サービス(農村計画学のフロンティア 4)	橋本禪/齋藤修	農林統計出版
2059	地域資源	開発調査手法の革命と再生: 貧しい人々のリアリティを求め続けて	ロバート・チェンバース	明石書店
2060	地域資源	農村イノベーション: 発展に向けた撤退の農村計画というアプローチ(COPA BOOKS 自治体議会政策学会叢書)	一ノ瀬友博	イマジ出版
2061	地域資源	農業・農村で幸せになろうよ: 農都共生に向けて	林美香子	安曇出版
2062	地域資源	農村で楽しもう	林美香子	安曇出版
2063	地域資源	住み継がれる集落をつくる: 交流・移住・通いで生き抜く地域	山崎義人/佐久間康富	学芸出版社
2064	地域資源	撤退の農村計画: 過疎地域からはじまる戦略的再編	林直樹/齋藤晋	学芸出版社
2065	地域資源	農山村再生に挑む: 理論から実践まで		岩波書店
2066	地域資源	農業地域情報のアーカイブと地域づくり, 改訂版		成文堂
2067	地域資源	都市と農村: 交流から協働へ		日本経済評論社
2068	地域資源	山村再生ビジネスとマーケティング		日本林業調査会
2069	地域資源	農山村再生の実践(JA総研研究叢書 4)	小田切徳美	農山漁村文化協会
2070	地域資源	福島 農からの日本再生: 内発的地域の展開(シリーズ地域の再生 6)	守友裕一/大谷尚之	農山漁村文化協会
2071	地域資源	人口減少と地方創生(日本農業の動き No.190)		農政ジャーナリストの会
2072	地域資源	地域資源保全主体としての集落: 非農家・新住民参加による再編を目指して	本田恭子	農林統計協会
2073	地域資源	中山間地域の資源活用と農村の展望: 地域独自の創意工夫の可能性と実態	黒木英二	農林統計協会
2074	地域資源	SNSを活用した農山村地域コミュニティの再構築	鬼塚健一郎	農林統計出版
2075	地域資源	中山間地域農村経営論	谷口憲治	農林統計出版
2076	地域資源	中山間地域農村発展論	谷口憲治	農林統計出版
2077	地域資源	農村集落環境の自律的形手手法: 農村の特質を活かした個性豊かなむらづくりのために	東正則	農林統計出版
2078	地域資源	農村地域における資源の循環活用と管理	熊谷宏/北田紀久雄	農林統計出版
2079	地域資源	北の農業改良普及員(ネプチューン(ノンフィクション)シリーズ)	北農道東	柏艸舎
2080	地域資源	聞く力、つなぐ力: 3・11東日本大震災 被災農家に寄り添いつづける普及指導員たち	日本農業普及学会/古川勉	農文協プロダクション
2081	地域資源	農村景観のパターンランゲージ: 伊賀市での景観基準づくり研究	岩田俊二	農林統計出版
2082	地域資源	農村コミュニティビジネスとグリーン・ツーリズム: 日本とアジアの村づくりと水田農業		昭和堂
2083	地域資源	日本統治時代の朝鮮農村農民改革	山崎知昭	振学出版
2084	地域資源	中国農村改革と農業産業化(アジア研選書 No.18 現代中国分析シリーズ 3)		アジア経済研究所
2085	地域資源	中国農村改革の父 杜潤生自述: 集団農業から家族経営による発展へ	杜潤生	農山漁村文化協会
2086	地域資源	産業化する中国農業: 食料問題からアグリビジネスへ	宝剣久俊	名古屋大学出版会
2087	地域資源	中国華北農村の再構築: 山東省鄒平県における「新農村建設」	小林一穂/劉文静	御茶の水書房
2088	地域資源	中国農村の集住化: 山東省平陰県における新型農村社区の事例研究	小林一穂/秦慶武	御茶の水書房
2089	地域資源	Regional Dynamics in Modernizing India: An Experience in Western Ghats Region	米田巖	専修大学出版局
2090	地域資源	バングラデシュ農村にみる外国援助と社会開発	鈴木弥生	日本評論社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
2091	地域資源	なぜイタリアの村は美しく元気なのか: 市民のスロー志向に応えた農村の選択	宗田好史	学芸出版社
2092	地域資源	アフリカ地域研究と農村開発	掛谷誠/伊谷樹一	京都大学学術出版会
2093	地域資源	アフリカ農村と貧困削減: タンザニア開発と遭遇する地域	池野旬	京都大学学術出版会
2094	地域資源	自治村落の基本構造: 「自治村落論」をめぐる座談会記録	齋藤仁/大謙邦雄	農林統計出版
2095	地域資源	農林水産省統合交付金要綱要領集: 平成28年度版		大成出版社
2096	地域資源	農業直接支払いの概念と政策設計: 我が国農政の目的に応じた直接支払い政策の確立に向けて	荘林幹太郎/木村伸吾	農林統計協会
2097	地域資源	日本農業の再生と家族経営・農地制度: 石井啓雄主要著作集	石井啓雄	新日本出版社
2098	地域資源	エクセルでできるかんたん営農地図ソフト: 栽培・作業計画、農地の利用・権利関係から水利、山林管理まで	林田雅夫	農山漁村文化協会
2099	地域資源	里山・遊休農地を生かす: 新しい共同=コモンズ形成の場(シリーズ地域の再生 17)	野田公夫/守山弘	農山漁村文化協会
2100	地域資源	農業で都市を蘇らせる: 日本型環境共生都市を目指して	東正則	農林統計出版
2101	地域資源	タウンシップ: 土地計画の伝播と変容(叢書・地球発見 15)	金田章裕	ナカニシヤ出版
2102	地域資源	土地希少化と勤勉革命の比較史: 経済史上の近世(MINERVA人文・社会科学叢書 156)	大島真理夫	ミネルヴァ書房
2103	地域資源	地租改正と割地慣行(近代史研究叢書 20)	奥田晴樹	岩田書院
2104	地域資源	班田収授法の復元的研究	服部一隆	吉川弘文館
2105	地域資源	律令国家と土地支配	三谷芳幸	吉川弘文館
2106	地域資源	幕藩制成立期の社会政治史研究: 検地と検地帳を中心に(歴史科学叢書)	谷口央	校倉書房
2107	地域資源	太閤検地と徴租法	中口久夫	清文堂出版
2108	地域資源	近世初期の検地と農民	速水融	知泉書館
2109	地域資源	農地を守るとはどういうことか: 家族農業と農地制度その過去・現在・未来	榎澤能生	農山漁村文化協会
2110	地域資源	割地慣行と他所稼ぎ: 越後蒲原の村落社会史	中村義隆	刀水書房
2111	地域資源	都市化と農地保全の展開史	大西敏夫	筑波書房
2112	地域資源	福山藩地方書の研究: 阿部氏治世期徴租法の解明	勝矢倫生	清文堂出版
2113	地域資源	韓国土地所有権/沿革論ス 不動産法調査報告要録 土地調査綱要 臨時財産整理局事務要綱 復刻版(韓国併合史研究資料 89)		龍溪書舎
2114	地域資源	中国農村の土地公有制及びその法的分析	李永燃	晃洋書房
2115	地域資源	近代東アジア土地調査事業研究		大阪大学出版会
2116	地域資源	中華民国期江南地主制研究(汲古叢書 111)	夏井春喜	汲古書院
2117	地域資源	土地を奪われゆく農民たち: 中国農村における官民の闘い	王国林	河合文化教育研究所
2118	地域資源	メコンデルタの大土地所有: 無主の土地から多民族社会へフランス植民地主義の80年(地域研究叢書 27)	高田洋子	京都大学学術出版会
2119	地域資源	タイ近代土地・森林政策史研究	北原淳	晃洋書房
2120	地域資源	農業株式会社と改正農地法―法務と税務	金光寛之/松藤保孝	三協法規出版
2121	地域資源	農地六法: 平成29年版		新日本法規出版
2122	地域資源	日本戦時農地政策の研究	坂根嘉弘	清文堂出版
2123	地域資源	詳解新農地法: 改正内容と運用指針	高木賢	大成出版社
2124	地域資源	設例農地民法解説	宮崎直己	大成出版社
2125	地域資源	逐条解説農地法, 改訂版	高木賢/内藤恵久	大成出版社
2126	地域資源	農地法の設例解説	宮崎直己	大成出版社
2127	地域資源	農地法講義, 改訂版	宮崎直己	大成出版社
2128	地域資源	農地法読本, 4訂版	宮崎直己	大成出版社
2129	地域資源	大地を受け継ぐ: 土地なし農民運動と新しいブラジルをめざす苦闘	アングス・ライト/ウェンディー・ウォルフオード	二宮書店
2130	地域資源	Q&A農地・森林に関する法律と実務: 登記・届出・許可・転用	末光祐一	日本加除出版
2131	地域資源	日本農地改革と農地委員会: 「農民参加型」土地改革の構造と展開	福田勇助	日本経済評論社
2132	地域資源	地域農業の再生と農地制度: 日本社会の礎=むらと農地を守るために(シリーズ地域の再生 9)	原田純孝/島本富夫	農山漁村文化協会
2133	地域資源	北海道開拓の空間計画	柳田良造	北海道大学出版会
2134	地域資源	依田勉三と晩成社: 十勝開拓の先駆者	井上壽	北海道出版企画センター
2135	地域資源	安積開拓全史	立岩寧	青史出版
2136	地域資源	中条政恒 安積事業誌: 翻刻と研究		歴史春秋出版
2137	地域資源	耕地開発と景観の自然環境学: 利根川流域の近世河川環境を中心に	橋本直子	古今書院
2138	地域資源	土族授産と茨城の開墾事業(五浦歴史叢書 5)	桐原邦夫	岩田書院
2139	地域資源	横浜吉田新田と吉田勘兵衛: 横浜開港前史	斉藤司	岩田書院
2140	地域資源	近世初期加賀藩の新田開発と石高の研究	今村郁子	桂書房
2141	地域資源	満洲農業開拓民: 「東亜農業のショウウィンドウ」建設の結末(吉田山叢書 001)	今井良一	三人社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
2142	地域資源	ベトナム「新経済村」の誕生	岩井美佐紀/大野美紀子	神田外語大学出版局
2143	地域資源	残された小さな森: タンザニア季節湿地をめぐる住民の対立	山本佳奈	昭和堂
2144	地域資源	全羅南道小作慣行調査書: 昭和5年調査, 複製版(韓国併合史研究資料 113)		龍溪書舎
2145	地域資源	平安北道小作慣行調査書: 昭和6年7月調査, 複製版(韓国併合史研究資料 114)		龍溪書舎
2146	地域資源	百姓たちの水資源戦争: 江戸時代の水争いを追う	渡辺尚志	草思社
2147	地域資源	クリエイティブビジネス論: 大都市創造のためのビジネスデザイン(地域デザイン学会叢書 5)	原田保	学文社
2148	地域資源	地域活性化マーケティング: 地域価値を創る・高める方法論	宮副謙司	同友館
2149	地域資源	地域再生と文系産学連携: ソーシャル・キャピタル形成にむけた実態と検証	吉田健太郎	同友館
2150	地域資源	プレイス・ブランディング: “地域”から“場所”のブランディングへ	若林宏保	有斐閣
2151	地域資源	なぜ、川崎モデルは成功したのか?: 中小企業支援にイノベーションを起こした川崎市役所	藤沢久美	実業之日本社
2152	地域資源	地域活性のための産官学ベストプラクティス: 連携による地域イノベーション(地方創生シリーズ)		先端教育機構事業構想大学院大学
2153	地域資源	地方のための経営学: 高知発、地域ビジネス創造から事業化へ	桂信太郎/那須清吾	千倉書房
2154	地域資源	忘れられた農村問題研究者 関矢留作: 人と業績	船津功	亜瑠西社
2155	地域資源	少子高齢化と農村	相川良彦	筑波書房
2156	地域資源	農村サードセクター論	田淵直子	日本経済評論社
2157	地域資源	現代のむら: むら論と日本社会の展望	坪井伸広/大内雅利	農山漁村文化協会
2158	地域資源	現代中国における農民出稼ぎと社会構造変動に関する研究: 農民出稼ぎ者・留守家族・帰郷者の生活と社会意識に関する実態調査をふまえて	江秋鳳	日本僑報社
2159	地域資源	地域社会の機能と再生: 農村社会計画論	福与徳文	日本経済評論社
2160	地域資源	農村地域における諸活動と住民流動の評価と展望: 高齢化・人口減少時代のなかで	能美誠	農林統計出版
2161	地域資源	信州発棚田考: 中山間地域の新たな動き	木村 和弘	ほおずき書籍
2162	地域資源	信州発棚田考: 続	木村和弘	ほおずき書籍
2163	地域資源	庶民が描く暮らしの記憶: ふるさとを共有する「現代絵農書」	清水ゆかり	丸善プラネット
2164	地域資源	「他者」たちの農業史: 在日朝鮮人・疎開者・開拓農民・海外移民	安岡健一	京都大学学術出版会
2165	地域資源	近代日本の農村社会と農地問題	島袋善弘	御茶の水書房
2166	地域資源	日本とアジアの農業集落: 組織と機能		清文堂出版
2167	地域資源	日本の村落と主体形成: 協同と自治	庄司俊作	日本経済評論社
2168	地域資源	「生活」「経営」「地域」の主体形成: 市場と農民(名著に学ぶ地域の個性 2)	野本京子	農山漁村文化協会
2169	地域資源	家族・集落・女性の底力: T型集落点検とライフヒストリーでみえる(シリーズ地域の再生 11)	徳野貞雄/柏尾珠紀	農山漁村文化協会
2170	地域資源	日本のクリエイティブ・クラス: 農村×都市=ナリワイ	小田切徳美/藤山浩	農山漁村文化協会
2171	地域資源	日本伝統社会と経済発展: 家と村(名著に学ぶ地域の個性 3)	坂根嘉弘	農山漁村文化協会
2172	地域資源	全国農村サミット: 2015 域学連携と教育		農林統計協会
2173	地域資源	商品化する日本の農村空間	田林明	農林統計出版
2174	地域資源	地域振興としての農村空間の商品化	田林明	農林統計出版
2175	地域資源	暮らしの中に息づく棚田: 日本の原風景の村を訪ね歩いて	上田三夫	優しい食卓
2176	地域資源	目録で読む北奥新田農民生活史	館山誠	風詠社
2177	地域資源	源流の集落の息づかい: 岩手県住田町土倉をみつめて	大須真治	時潮社
2178	地域資源	秋田・廃村の記録: 人口減時代を迎えて(秋田ふるさと選書 6)	浅原昭生/林直樹	秋田ふるさと育英会
2179	地域資源	日本農業・農村の未来へ: 大潟村からの提言		農林統計出版
2180	地域資源	家と村の社会学: 東北水稲作地方の事例研究	細谷昂	御茶の水書房
2181	地域資源	里山の自然と暮らし: 福島県鮫川村		東京農業大学出版会
2182	地域資源	農に生きる: 信州・伊那の暮らし(ルーラルブックス)	宮原達明	農山漁村文化協会
2183	地域資源	山地農民の昭和史: 赤木勝太郎日誌・金銭出入帳	赤木勝太郎	椋風舎
2184	地域資源	日本の植民地支配と朝鮮農民(同成社近現代史叢書 13)	樋口雄一	同成社
2185	地域資源	日本の中国農村調査と伝統社会	内山雅生	御茶の水書房
2186	地域資源	現代中国農村の高齢者と福祉: 山東省日照市の農村調査を中心として	劉燦	日本僑報社
2187	地域資源	中国内陸における農村変革と地域社会: 山西省臨汾市近郊農村の変容	三谷孝	御茶の水書房
2188	地域資源	中国農村の民間藝能(太湖流域社会史口述記録集 2)	佐藤仁史/太田出	汲古書院
2189	地域資源	変貌する中国農村: 湖北・四川省の「三農」問題と近代化	座間紘一	蒼蒼社
2190	地域資源	カンボジア村落世界の再生(地域研究叢書 23)	小林知	京都大学学術出版会
2191	地域資源	ミャンマーの国と民: 日緬比較村落社会論の試み	高橋昭雄	明石書店
2192	地域資源	蒼生のミャンマー: 農村の暮らしからみた、変貌する国	高橋昭雄	明石書店

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
2193	地域資源	屋敷地林と在地の知: バングラデシュ農村の暮らしと女性 (地域研究叢書 26)	吉野馨子	京都大学学術出版会
2194	地域資源	オアシス社会50年の軌跡: イランの農村、遊牧そして都市		御茶の水書房
2195	地域資源	英国農村における新たな知の地平: Centre for Rural Economyの軌跡		農林統計出版
2196	地域資源	農村レクリエーションとアクセス問題: 不特定の他者と向き合う社会学	北島義和	京都大学学術出版会
2197	地域資源	東ドイツ農村の社会史: 「社会主義」経験の歴史化のために	足立芳宏	京都大学学術出版会
2198	地域資源	20世紀ロシアの農民世界		日本経済評論社
2199	地域資源	宗教と経済発展の相克: イスラーム農村における女性の活躍	高木茂	農林統計出版
2200	地域資源	創造するアフリカ農民: 紛争国周辺農村を生きる生計戦略	村尾るみこ	昭和堂
2201	地域資源	農村経済と伝統儀礼: サモアにおける生活維持システムの研究	飯森文平	農林統計出版
2202	地域資源	農民運動指導者の戦中・戦後: 杉山元治郎・平野力三と労農派 (法政大学大原社会問題研究所叢書)	横関至	御茶の水書房
2203	地域資源	戦後史のなかの生活記録運動: 東北農村の青年・女性たち	北河賢三	岩波書店
2204	地域資源	20世紀メキシコにおける農村教育の社会史: 農村学校をめぐる国家と教師と共同体	青木利夫	溪水社
2205	地域資源	農的な生活がおもしろい: 年収200万円で豊かに暮らす!	牧野篤	さくら舎
2206	地域資源	現代(いま)に生きる若月俊一のことば: 未来につなぐ農村医療の精神	松島松翠	家の光協会
2207	地域資源	スリランカの農園地域における母子保健: 潜在能力アプローチの視点	磯邊厚子	晃洋書房
2208	地域資源	農の福祉力: アグロ・メディコ・ボリスの挑戦 (シリーズ地域の再生 14)	池上甲一	農山漁村文化協会
2209	地域資源	環境緑地学入門～理論と実際～	小林 章/鈴木 伸一/宮崎 忠国/内田 均	コロナ社
2210	地域資源	生物多様性をめざすまちづくり～ニュージーランドの環境緑化～	林 まゆみ	学芸出版社
2211	地域資源	都市緑化の最新技術と動向(地球環境シリーズ)	山田 宏之	シーエムシー出版
2212	地域資源	緑と地域計画<2> 緑被地と空間機能	田畑 貞寿	古今書院
2213	地域資源	郊外の緑地環境学(シリーズ<緑地環境学> 3)		朝倉書店
2214	地域資源	知っておきたい屋上緑化のQ&A 新版	都市緑化機構特殊緑化共同研究会	鹿島出版会
2215	地域資源	知っておきたい壁面緑化のQ&A 新版	都市緑化機構特殊緑化共同研究会	鹿島出版会
2216	地域資源	愛しの「屋上緑化考」～その昔を探り、内外の今を論じ、明日を照らす～	近藤 三雄/齋藤 雅子	東京農業大学出版会
2217	地域資源	緑のランドスケープデザイン～正しい植栽計画に基づく景観設計～	山崎 誠子	オーム社
2218	地域資源	緑と地域計画<3> 都市周辺部の緑被地の保全	田畑 貞寿	古今書院
2219	地域資源	公園・緑地・広告必携<平成25年版>	国土交通省都市局公園緑地・景観課	ぎょうせい
2220	地域資源	日本野～必要だけど足りない、これからの日本の緑～	「日本野」製作委員会	日経BP社
2221	地域資源	フランス公園法の系譜(OMUPブックレット No.42)	久末 弥生	大阪公立大学共同出版会
2222	地域資源	HIGH LINE～アート、市民、ボランティアが立ち上がるニューヨーク流都市再生の物語～	ジョシュア・デイヴィッド/ロバート・ハモンド	アメリカン・ブック&シネマ
2223	地域資源	にぎわいの場富山グランドプラザ～稼働率100%の公共空間のつくり方～	山下 裕子	学芸出版社
2224	地域資源	地域で進める公園の安全点検～子ども達を犯罪から守る～	中村 攻/みらい子育てネット	本の泉社
2225	地域資源	ローメンテナンスでつくる緑の空間	井上 洋司	彰国社
2226	地域資源	まちづくりのための北のガーデニングボランティアハンドブック		北海道大学出版会
2227	地域資源	広場のデザイン～「にぎわい」の都市設計5原則～	小野寺 康	彰国社
2228	地域資源	広場	隈 研吾/陣内 秀信/鈴木 知之	淡交社
2229	地域資源	北京をつくりなおす～政治空間としての天安門広場～	ウー ホン	国書刊行会
2230	地域資源	これからの屋内緑化・マニュアル～壁面緑化を中心にして～	藤田 浩/七村 弘基/松本 博昭/崎 昌文/藤島 雅太郎/伊藤 孝也	グリーン情報
2231	地域資源	道路緑化技術基準・同解説 改訂版		日本道路協会
2232	地域資源	みず・ひと・まち～親水まちづくり～	畔柳 昭雄/上山 肇	技報堂出版
2233	地域資源	森の都市～EGEC～<2> 緑とスローモビリティによる都市づくり	奥野 翔	彰国社
2234	地域資源	木の大切さを説いて～緑のボランティア指導者の観察記録～	井東 文一	創英社
2235	地域資源	決定版!グリーンインフラ		日経BP社
2236	地域資源	世界の広場への旅～もうひとつの広場論～	戸川 智/金子 友美/鶴田 佳子/高木 亜紀子	彰国社
2237	地域資源	都市緑化の最新技術と動向 普及版((CMCテクニカルライブラリー)地球環境シリーズ 619)		シーエムシー出版
2238	地域資源	新しい都市緑地・農地・公園の活用Q&A～平成29年改正対応～		ぎょうせい
2239	地域資源	京都に海の水族館?～市民不在のまちづくり計画～(かもがわブックレット 180)		かもがわ出版
2240	地域資源	景観写真で読み解く地理(東京学芸大学地理学会シリーズ 2第3巻)		古今書院
2241	地域資源	景観史と歴史地理学		吉川弘文館
2242	地域資源	日本の山と海岸～成り立ちから楽しむ自然景観～	島津 光夫	築地書館
2243	地域資源	世界の庭園墓地図鑑～歴史と景観～	菅野 博真	原書房

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
2244	地域資源	景観計画の実践～事例から見た効果的な運用のポイント～		森北出版
2245	地域資源	阿蘇地域における農耕景観と生態系サービス～文化的景観論で地域価値を再発見し世界文化遺産登録を支援する～	横川 洋/高橋 佳孝	農林統計出版
2246	地域資源	森林景観づくり～その考え方と実践～	由田 幸雄/堀 繁	日本林業調査会
2247	地域資源	農村景観の資源化～中国村落共同体の動態的棚田保全戦略～	菊池 真純	御茶の水書房
2248	地域資源	景観まちづくりの軌跡～中山道中津川宿における実践～	<small>石本 直市/船橋 悦子/藤田 啓之 著 奥村 昌樹/研究員/Master/Alumni</small>	理工図書
2249	地域資源	景観人類学～身体・政治・マテリアリティ～		時潮社
2250	地域資源	近代測量史への旅～ゲート時代の自然景観図から明治日本の三角測量まで～	石原 あえか	法政大学出版局
2251	地域資源	ナチスと自然保護～景観美・アウトバーン・森林と狩猟～	フランク・ユケッター	築地書館
2252	地域資源	景観とデザイン(ゼロから学ぶ土木の基本)	佐々木 葉/内山 久雄	オーム社
2253	地域資源	景観の作法～殺風景の日本～(学術選書 068)	布野 修司	京都大学学術出版会
2254	地域資源	ニッポン景観論(集英社新書)	アレックス・カー	集英社
2255	地域資源	植生景観とその管理	中村 幸人	東京農業大学出版会
2256	地域資源	景観法と地域政策を考える		勁草書房
2257	地域資源	景観写真論ノート～宮本常一のアルバムから～	香月 洋一郎	筑摩書房
2258	地域資源	自然景観の成り立ちを探る(フィールド科学の入口)	岩田 修二	玉川大学出版部
2259	地域資源	住民参加の現場と理論～鞆の浦、景観の未来～	藤井 誠一郎	公人社
2260	地域資源	景観人類学の課題～中国広州における都市環境の表象と再生～	河合 洋尚	風響社
2261	地域資源	景観再考～景観からのゆたかな人間環境づくり宣言～		鹿島出版会
2262	地域資源	詩に詠まれた景観と保全～福島県高子二十境の場合～	小林 敬一	西田書店
2263	地域資源	イギリスのカントリーサイド～人と自然の景観形成史～	<small>クリスティーナ・スミス 著 伊東 俊彰 訳/松久 大輔 監訳 橋本 深町 加藤 和典</small>	昭和堂
2264	地域資源	地形からみた歴史～古代景観を復原する～(講談社学術文庫 2143)	日下 雅義	講談社
2265	地域資源	文化的景観を評価する～世界遺産富山県五箇山合掌造り集落の事例～(文化とまちづくり叢書) 2012	垣内 恵美子	水曜社
2266	地域資源	市民のための景観まちづくりガイド	藤本 英子	学芸出版社
2267	地域資源	上毛野の古代農業景観	関口 功一	岩田書院
2268	地域資源	国立景観訴訟～自治が裁かれる～	五十嵐 敬喜/上原 公子	公人の友社
2269	地域資源	美し国への景観読本～みんながって、みんないい～	美し国づくり協会	日刊建設通信新聞社
2270	地域資源	アジア遊学<153> 重要文化的景観への道		勉誠出版
2271	地域資源	文化的景観～生活となりわいの物語～	金田 章裕	日本経済新聞出版社
2272	地域資源	森と草原の歴史～日本の植生景観はどのように移り変わってきたのか～	小椋 純一	古今書院
2273	地域資源	植生景観史入門～百五十年前の植生景観の再現とその後の移り変わり～	原田 洋/井上 智	東海大学出版部
2274	地域資源	東アジア内海文化圏の景観史と環境<3> 景観から未来へ		昭和堂
2275	地域資源	歴史GISの地平～景観・環境・地域構造の復原に向けて～		勉誠出版
2276	地域資源	地域開発と村落景観の歴史的展開～多摩川中流域を中心に～		思文閣出版
2277	地域資源	観光学と景観	溝尾 良隆	古今書院
2278	地域資源	未来の景を育てる挑戦～地域づくりと文化的景観の保全～		技報堂出版
2279	地域資源	景観学への道～あるべき景観の姿を求めて～(明治大学科学技術研究所叢書)	藤沢 和	日本経済評論社
2280	地域資源	観光集落の再生と創生～温泉・文化景観再考～	戸所 隆	海青社
2281	地域資源	日本の生活環境文化大事典～受け継がれる暮らしと景観～ 514p 2010	日本民俗建築学会	柏書房
2282	生産理論・生産技術	スマート農業: 農業・農村のイノベーションとサステナビリティ		農林統計出版
2283	生産理論・生産技術	よくわかる農業施設用語解説集		筑波書房
2284	生産理論・生産技術	新たな土地改良の効果算定マニュアル, 改訂版		大成出版社
2285	生産理論・生産技術	図解手づくり施工の農村環境整備: 水路補修から木道、木柵、花壇、休憩所まで	筒井義富/北澤大佑	農山漁村文化協会
2286	生産理論・生産技術	未来につなげる圃場の形成: GISを用いた耕地の区画整理計画	有田博之/木村和弘	農林統計出版
2287	生産理論・生産技術	農地環境工学, 第2版		文永堂出版
2288	生産理論・生産技術	土地改良と地域資源管理		筑波書房
2289	生産理論・生産技術	水土を拓く: 知の連環		農山漁村文化協会
2290	生産理論・生産技術	堤防・灌漑組合と参加の強制: 19世紀フランス・オート=ザルプ県を中心に	伊丹一浩	御茶の水書房
2291	生産理論・生産技術	水が握る日本の食と農の未来	谷山重孝	家の光協会
2292	生産理論・生産技術	地域環境水理学(シリーズ地域環境工学)	渡邊紹裕/堀野治彦	朝倉書店
2293	生産理論・生産技術	地下水位制御システムFOEAS: 水田農業自由自在	藤森新作/小野寺恒雄	農山漁村文化協会
2294	生産理論・生産技術	農業水利のための水路システム工学: 送配水システムの水理と水利用機能	中達雄/樽屋啓之	養賢堂

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
2295	生産理論・生産技術	古代日本の河川灌漑	木下晴一	同成社
2296	生産理論・生産技術	北海道の排水・かんがい対策集: 湿害と干ばつに負けない営農技術と導入事例		北海道協同組合通信社
2297	生産理論・生産技術	農業水利と国家・ムラ	佐藤章夫	農林統計出版
2298	生産理論・生産技術	水思想土の理想: 世紀の大事業愛知用水	高崎哲郎	鹿島出版会
2299	生産理論・生産技術	枝下用水史		豊田土地改良区
2300	生産理論・生産技術	水社会の憧憬: マンボが語る景観	春山成子	古今書院
2301	生産理論・生産技術	棚田の水環境史: 琵琶湖辺にみる開発・災害・保全の1200年	山本早苗	昭和堂
2302	生産理論・生産技術	古墳と池溝の歴史地理学的研究(日本史研究叢刊 33)	川内眷三	和泉書院
2303	生産理論・生産技術	大阪平野の溜池環境: 変貌の歴史と復原(大阪叢書 5)	川内眷三	和泉書院
2304	生産理論・生産技術	足守川の流れを守って: 足守川バイパス化反対闘争の記録	林清市	吉備人出版
2305	生産理論・生産技術	アフガン・緑の大地計画: 伝統に学ぶ灌漑工法と甦る農業	中村哲	石風社
2306	生産理論・生産技術	都市近郊の耕地整理と地域社会: 東京・世田谷の郊外開発	高嶋修一	日本経済評論社
2307	生産理論・生産技術	干拓地の農業と土地利用: 諫早湾干拓地を中心として	山野明男	あるむ
2308	生産理論・生産技術	食と建築土木: たべものをつくる建築土木	後藤治	LIXIL出版
2309	生産理論・生産技術	オーレックの挑戦: “モノづくり精神”で切り開く農業機械革命	鶴靖晴夫	IN通信社
2310	生産理論・生産技術	農業機械の先駆者たち: 機械化農業王国・岡山の成立過程	南智	吉備人出版
2311	生産理論・生産技術	スマート農業のすすめ: 次世代農業人(スマートファーマー)の心得	渡邊智之	産業開発機構株式会社映像情報編集部
2312	生産理論・生産技術	スマート農業バイブル: 『見える化』で切り拓く経営&育成改革(映像情報MOOK)		産業開発機構株式会社映像情報編集部
2313	生産理論・生産技術	農業機械の社会学: モノから考える農村社会の再編	芦田裕介	昭和堂
2314	生産理論・生産技術	主要農機商工業信用録: 2017		新農林社
2315	生産理論・生産技術	農業機械年鑑: FARM MACHINERY YEARBOOK: 2017		新農林社
2316	生産理論・生産技術	生物生産工学概論: これからの農業を支える工学技術	近藤直/清水浩	朝倉書店
2317	生産理論・生産技術	IoTが拓く次世代農業アグリカルチャー4.0の時代	三輪泰史/井熊均	日刊工業新聞社
2318	生産理論・生産技術	これぞ、ザ・ネーミング。: 楽しい笑える遊べる儲かる(B&Tブックス)	包行均	日刊工業新聞社
2319	生産理論・生産技術	農業からあらゆる産業をIoTでつなぎまくる、NTTドコモアグリガールの突破力	NTTドコモIoTデザインプロジェクトチーム	日経BP社
2320	生産理論・生産技術	手づくり農機具アイデア集: なるほど便利(現代農業特選シリーズ 10 DVDでもっとわかる 10)		農山漁村文化協会
2321	生産理論・生産技術	農の仕事は刃が命: 包丁・ナイフ・鎌・ハサミ・ノコギリ・刈り払い機/研ぎ方・目立て(現代農業特選シリーズ 11 DVDでもっとわかる 11)		農山漁村文化協会
2322	生産理論・生産技術	農家が教える便利な農具・道具たち: 選び方・使い方から長持ちメンテナンス・入手法まで		農山漁村文化協会
2323	生産理論・生産技術	ICTを活用した営農システム: 次世代農業を引き寄せる		北海道協同組合通信社
2324	生産理論・生産技術	再生可能エネルギーは農村を変えるか(日本農業の動き No.180)		農林統計協会
2325	生産理論・生産技術	東アジアにおける犁耕発達史	武藤軍一郎	中国書店
2326	生産理論・生産技術	耕す一畝と犁		東京農業大学出版会
2327	生産理論・生産技術	農家直伝ヒモ&ロープの結び方: DVDでもっとわかる(現代農業特選シリーズ 5 DVDでもっとわかる)		農山漁村文化協会
2328	生産理論・生産技術	馬耕教師の旅: 「耕す」ことの近代	香月洋一郎	法政大学出版局
2329	生産理論・生産技術	フォルムが語る近代日本の歩み: 耕耘の形態史		ネオテクノロジー
2330	生産理論・生産技術	フォルムが語る近代日本の歩み: 脱穀・籾摺の形態史		ネオテクノロジー
2331	生産理論・生産技術	トラクタ名人になる!: 耕耘・代かき・メンテの技(現代農業特選シリーズ 12 DVDでもっとわかる 12)		農山漁村文化協会
2332	生産理論・生産技術	世界からバナナがなくなるまえに: 食糧危機に立ち向かう科学者たち	ロブ・ダン	青土社
2333	生産理論・生産技術	地域を照らす伝統作物: 信州の伝統野菜・穀物と山の幸	大井美知男/市川健夫	川辺書林
2334	生産理論・生産技術	作物学概論, 第2版(見てわかる農学シリーズ 3)	大門弘幸/江原宏	朝倉書店
2335	生産理論・生産技術	知って納得!植物栽培のふしぎ: なぜ、そうなるの?そうするの?(B&Tブックス)	田中修/高橋亘	日刊工業新聞社
2336	生産理論・生産技術	最新農業技術作物: vol.1 低コスト省力で拓く水田活用新時代	農山漁村文化協会	農山漁村文化協会
2337	生産理論・生産技術	最新農業技術作物: vol.2 省カインづくり最前線		農山漁村文化協会
2338	生産理論・生産技術	最新農業技術作物: vol.3 特集新規需要米		農山漁村文化協会
2339	生産理論・生産技術	最新農業技術作物: vol.4 特集イネの直播栽培		農山漁村文化協会
2340	生産理論・生産技術	最新農業技術作物: vol.5 特集転作ダイズの増収技術		農山漁村文化協会
2341	生産理論・生産技術	最新農業技術作物: vol.6 特集飼料用米の多収技術		農山漁村文化協会
2342	生産理論・生産技術	最新農業技術作物: vol.7 特集白未熟粒(シラタ)を減らす		農山漁村文化協会
2343	生産理論・生産技術	最新農業技術作物: vol.8 特集追突・イネの直播栽培		農山漁村文化協会
2344	生産理論・生産技術	最新農業技術作物: vol.9 特集水田雑草/イネ多収品種		農山漁村文化協会
2345	生産理論・生産技術	最新農業技術作物: vol.10 特集稲作名人に学ぶ		農山漁村文化協会

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
2346	生産理論・生産技術	在来作物を受け継ぐ人々: 種子は万人のもの	増田昭子	農山漁村文化協会
2347	生産理論・生産技術	作物学の基礎: 1 食用作物 (農学基礎シリーズ)	後藤雄佐/新田洋司	農山漁村文化協会
2348	生産理論・生産技術	作物学の基礎: 2 資源作物・飼料作物 (農学基礎シリーズ)	中村聡/後藤雄佐	農山漁村文化協会
2349	生産理論・生産技術	作物学		文永堂出版
2350	生産理論・生産技術	文明を変えた植物たち: コロンブスが遺した種子 (NHKブックス 1183)	酒井伸雄	NHK出版
2351	生産理論・生産技術	栽培植物の自然史: 2 東アジア原産有用植物と照葉樹林帯の民族文化	山口裕文	北海道大学出版会
2352	生産理論・生産技術	栽培植物の自然史: 野生植物と人類の共進化	山口 裕文/島本 義也	北海道大学出版会
2353	生産理論・生産技術	収集の神様バーソルド・ローファーの『シノイラニカ』を読む: 博物学の発展に大きく貢献	バーソルド・ローファー	ブックコム
2354	生産理論・生産技術	作物学事典, 普及版		朝倉書店
2355	生産理論・生産技術	作物学用語事典		農山漁村文化協会
2356	生産理論・生産技術	人間と作物: 採集から栽培へ (食の文化フォーラム 34)		ドメス出版
2357	生産理論・生産技術	耕地及び作付面積統計: 平成28年		農林統計協会
2358	生産理論・生産技術	作物統計: 普通作物・飼料作物・工芸農作物: 平成28年産		農林統計協会
2359	生産理論・生産技術	作物栽培大系: 3 麦類の栽培と利用		朝倉書店
2360	生産理論・生産技術	作物栽培大系: 5 豆類の栽培と利用		朝倉書店
2361	生産理論・生産技術	作物栽培大系: 6 イモ類の栽培と利用		朝倉書店
2362	生産理論・生産技術	作物栽培大系: 7 工芸作物の栽培と利用		朝倉書店
2363	生産理論・生産技術	生物多様性を育む食と農: 住民主体の種子管理を支える知恵と仕組み	西川芳昭	コモンズ
2364	生産理論・生産技術	種苗法の概要 (現代産業選書 知的財産実務シリーズ)	渋谷達紀	経済産業調査会
2365	生産理論・生産技術	植物新品種保護の実務: 権利の取得と侵害, 改訂2版 (現代産業選書 知的財産実務シリーズ)	村林隆一/松本好史	経済産業調査会
2366	生産理論・生産技術	種から種へつなぐ: 育てて守る在来種・固定種の種		創森社
2367	生産理論・生産技術	品種論	田中孝幸	東海大学出版会
2368	生産理論・生産技術	農家が教える品種 (たね) 選び読本: おいしい・病気に強い・たくさんとれる		農山漁村文化協会
2369	生産理論・生産技術	新品種で拓く地域農業の未来: 食農連携の実践モデル	後藤一寿	農林統計出版
2370	生産理論・生産技術	食を満たせ: パピロフとリュセンコの遺伝学論争と植物遺伝資源	I.G.ロスクートフ	未知谷
2371	生産理論・生産技術	誤解だらけの遺伝子組み換え作物		エネルギーフォーラム
2372	生産理論・生産技術	アグリバイオビジネス: その魅力と技術動向, 普及版 (バイオテクノロジーシリーズ)		シーエムシー出版
2373	生産理論・生産技術	遺伝子組換えは農業に何をもたらすか: 世界の穀物流通と安全性 (シリーズ・いま日本の「農」を問う 5)	椎名隆/石崎陽子	ミネルヴァ書房
2374	生産理論・生産技術	植物の分子育種学	鈴木正彦	講談社
2375	生産理論・生産技術	モンサント: 世界の農業を支配する遺伝子組み換え企業	マリー=モニック・ロバン	作品社
2376	生産理論・生産技術	モンサントの嘘: 日本では絶対に報道されない	ブレット・ウィルクックス	成甲書房
2377	生産理論・生産技術	植物の遺伝と育種, 第2版	福井希一/向井康比己	朝倉書店
2378	生産理論・生産技術	遺伝子組み換えのねじ曲げられた真実: 私たちはどのように騙されてきたのか?	ステイーブン・M.ドルーカー	日経BP社
2379	生産理論・生産技術	食卓のメンデル: 科学者が考える遺伝子組換え食品	ニーナ・フェドロフ/ナンシー・マリー・ブラウン	日本評論社
2380	生産理論・生産技術	遺伝子組換え作物をめぐる「共存」: EUにおける政策と言説	立川雅司	農林統計出版
2381	生産理論・生産技術	遺伝子組み換え食品の真実	アンディ・リーズ	白水社
2382	生産理論・生産技術	植物育種学, 第4版		文永堂出版
2383	生産理論・生産技術	食卓の不都合な真実: 健康と環境を破壊する遺伝子組み換え作物・農業と巨大バイオ企業の間	ジル=エリック・セラリーニ	明石書店
2384	生産理論・生産技術	品種改良の世界史: 家畜編	松川正	悠書館
2385	生産理論・生産技術	品種改良の世界史: 作物編	鶴飼保雄/大澤良	悠書館
2386	生産理論・生産技術	品種改良の日本史: 作物と日本人の歴史物語		悠書館
2387	生産理論・生産技術	育種における細胞遺伝学, 改訂版	福井希一/辻本壽	養賢堂
2388	生産理論・生産技術	遺伝子組み換え企業の脅威: モンサント・ファイル, 増補版		緑風出版
2389	生産理論・生産技術	種子が消えればあなたも消える: 共有か独占か	西川芳昭	コモンズ
2390	生産理論・生産技術	種子法廃止と北海道の食と農: 地域で支え合う農業-CSAの可能性	荒谷明子/伊達寛記	寿郎社
2391	生産理論・生産技術	農業遺伝資源の管理体制: 所有の正当化過程とシードシステム	今泉晶	昭和堂
2392	生産理論・生産技術	タネが危ない	野口勲	日本経済新聞出版社
2393	生産理論・生産技術	新・種苗読本		日本種苗協会
2394	生産理論・生産技術	これならできる!自家採種コツのコツ: 失敗しないポイントと手順		農山漁村文化協会
2395	生産理論・生産技術	田畑輪換土壌の肥沃度と管理: 変化の要因と制御の考え方		博友社
2396	生産理論・生産技術	作物生産生理学の基礎 (農学基礎シリーズ)	平沢正/大杉立	農山漁村文化協会

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
2397	生産理論・生産技術	雑草管理ハンドブック, 普及版		朝倉書店
2398	生産理論・生産技術	農家が教えるラクラク草刈り・草取り術		農山漁村文化協会
2399	生産理論・生産技術	垂直農場: 明日の都市・環境・食料	ディクソン・デボミエ	NTT出版
2400	生産理論・生産技術	植物工場生産システムと流通技術の最前線		エヌ・ティー・エス
2401	生産理論・生産技術	太陽光型植物工場: 先進的植物工場のサステナブル・デザイン	古在豊樹	オーム社
2402	生産理論・生産技術	アグリフォトニクス: LEDを利用した植物工場をめざして, 普及版(バイオテクノロジーシリーズ)		シーエムシー出版
2403	生産理論・生産技術	植物工場の生産性向上,コスト削減技術とビジネス構築: 今注目されている植物工場とは,その全容(CMC Books)		シーエムシー出版
2404	生産理論・生産技術	みらいの里山つくり: 植物工場からオーダーメイド野菜が届く	森一生	関西学院大学出版会
2405	生産理論・生産技術	図解でよくわかる植物工場のきほん: 設備投資・生産コストから,養液栽培の技術,流通,販売,経営まで(すぐわかるすぐわかる!)		誠文堂新光社
2406	生産理論・生産技術	LED植物工場(B&Tブックス)	高辻正基/森康裕	日刊工業新聞社
2407	生産理論・生産技術	LED植物工場の立ち上げ方・進め方	森康裕/高辻正基	日刊工業新聞社
2408	生産理論・生産技術	トコトンやさしい植物工場の本(B&Tブックス 今日からモノ知りシリーズ)	森康裕/高辻正基	日刊工業新聞社
2409	生産理論・生産技術	完全制御型植物工場のコストダウン手法	高辻正基	日刊工業新聞社
2410	生産理論・生産技術	植物工場経営: 明暗をわける戦略とビジネスモデル(B&Tブックス)	井熊均/三輪泰史	日刊工業新聞社
2411	生産理論・生産技術	図解よくわかる植物工場(B&Tブックス)	高辻正基	日刊工業新聞社
2412	生産理論・生産技術	植物工場ビジネス: 低コスト型なら個人でもできる	池田英男	日本経済新聞出版社
2413	生産理論・生産技術	農家が教える混植・混作・輪作の知恵: 病害虫が減り,土がよくなる		農山漁村文化協会
2414	生産理論・生産技術	植物工場: 現状と課題	山本晴彦	農林統計出版
2415	生産理論・生産技術	太陽光植物工場の新展開	野口伸/橋本康	養賢堂
2416	生産理論・生産技術	百姓が書いた有機・無農薬栽培ガイド: プロの農業者から家庭菜園まで	大内信一	コモンズ
2417	生産理論・生産技術	有機農業の技術と考え方	中島紀一/金子美登	コモンズ
2418	生産理論・生産技術	儲かる「西出式」農法: おいしい・多収量・高品質の微生物農業	手島奈緒	さくら舎
2419	生産理論・生産技術	有機農業がひらく可能性: アジア・アメリカ・ヨーロッパ(シリーズ・いま日本の「農」を問う 3)	中島紀一/大山利男	ミネルヴァ書房
2420	生産理論・生産技術	雑草が大地を救い食べものを育てる	片野學	芽ばえ社
2421	生産理論・生産技術	有機農業と遺伝子組換え食品: 明日の食卓	Pamela C.Ronald/Raoul W.Adamchak	丸善出版
2422	生産理論・生産技術	日本農業再生論: 「自然栽培」革命で日本は世界一になる!	木村秋則/高野誠鮮	講談社
2423	生産理論・生産技術	ぐうたら流有機農業のコツ読本	西村和雄	七つ森書館
2424	生産理論・生産技術	スローでたのしい有機農業コツの科学, 増補	西村和雄	七つ森書館
2425	生産理論・生産技術	西村和雄の有機農業原論	西村和雄	七つ森書館
2426	生産理論・生産技術	緑の哲学: 農業革命論	福岡正信	春秋社
2427	生産理論・生産技術	インテグレート有機農業論: 未来の循環型農業	中野明正	誠文堂新光社
2428	生産理論・生産技術	地域に根ざす有機農業: 日本と韓国の経験	金氣興	筑波書房
2429	生産理論・生産技術	大切な人を早死にさせない食	木村秋則	東邦出版
2430	生産理論・生産技術	百姓が地球を救う: NATURAL FARMING AK METHOD	木村秋則	東邦出版
2431	生産理論・生産技術	野菜の裏側: 本当に安全でおいしい野菜の選び方	河名秀郎	東洋経済新報社
2432	生産理論・生産技術	実践!有機栽培の施肥設計	小祝政明	農山漁村文化協会
2433	生産理論・生産技術	有機栽培の病気と害虫: 出さない工夫と防ぎ方(小祝政明の実践講座 5)	小祝政明	農山漁村文化協会
2434	生産理論・生産技術	有機農業の技術とは何か: 土に学び,実践者とともに(シリーズ地域の再生 20)	中島紀一	農山漁村文化協会
2435	生産理論・生産技術	草もミミズもモグラも元気(無農薬・有機・自然栽培「れんげ農場」だより 2)	奥克太郎	文理閣
2436	生産理論・生産技術	養液栽培のすべて: 植物工場を支える基本技術		誠文堂新光社
2437	生産理論・生産技術	農家が教えるマルチ&トンネル: 張り方・使い方のコツと裏ワザ		農山漁村文化協会
2438	生産理論・生産技術	天敵と農薬: ミカン地帯の11年, 第2版	大串龍一	海游舎
2439	生産理論・生産技術	図解でよくわかる病害虫のきほん: 病害虫発生のメカニズムから,栽培管理,農薬・肥料の使い方,防除法まで(すぐわかるすぐわかる!)		誠文堂新光社
2440	生産理論・生産技術	静電場スクリーンによる農作物防除システム: 空間遮蔽のための静電気工学入門(ルーラルブックス)	豊田秀吉/松田克礼	農山漁村文化協会
2441	生産理論・生産技術	農家が教える石灰で防ぐ病気と害虫		農山漁村文化協会
2442	生産理論・生産技術	農家が教える農薬に頼らない病害虫防除ハンドブック		農山漁村文化協会
2443	生産理論・生産技術	自助・共助・公助連携による大災害からの復興	門間敏幸	農林統計協会
2444	生産理論・生産技術	農作物災害種類別被害統計: 被害応急調査結果: 平成27年		農林統計協会
2445	生産理論・生産技術	新・北海道の病害虫ハンドブック全書		北海道協同組合通信社
2446	生産理論・生産技術	普通作物病害図説	梶原敏宏	養賢堂
2447	生産理論・生産技術	植物医科学の世界: 植物障害の診断を極め,食料・環境の未来を拓く(植物医科学叢書 No.4)	堀江博道	農林産業研究所

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
2448	生産理論・生産技術	植物医科学実験マニュアル: 植物障害の基礎知識と臨床実践を学ぶ (植物医科学叢書 No.2)		農林産業研究所
2449	生産理論・生産技術	新植物病理学概論	白石友紀	養賢堂
2450	生産理論・生産技術	フザリウム: 分類と生態・防除		全国農村教育協会
2451	生産理論・生産技術	創造する破壊者ファイトプラズマ: 生命を操る謎の細菌	難波成任	東京大学出版会
2452	生産理論・生産技術	植物ウイルス: 病原ウイルスの性状	山下修一	悠書館
2453	生産理論・生産技術	植物病原細菌学	加来久敏	養賢堂
2454	生産理論・生産技術	ちょっと知りたい雑草学		日本雑草学会
2455	生産理論・生産技術	原色雑草診断・防除事典	森田弘彦/浅井元朗	農山漁村文化協会
2456	生産理論・生産技術	植物病原菌類の見分け方: カラー図説: 上巻・下巻, 増補改訂版 (植物医科学叢書 No.5)	堀江博道	農林産業研究所
2457	生産理論・生産技術	雪腐病: SNOW MOLD	松本直幸	北海道大学出版会
2458	生産理論・生産技術	線虫学実験		京都大学学術出版会
2459	生産理論・生産技術	タバコナジラミ: おもしろ生態とかしこい防ぎ方	行徳裕	農山漁村文化協会
2460	生産理論・生産技術	鳥獣害ゼロへ!: 集落は私たちが守るッ	日本農業新聞取材班	こぶし書房
2461	生産理論・生産技術	匂いで害虫をコントロールする: 性フェロモンかく乱剤による防除 (香り選書 18)	望月文昭/澁谷達明	フレグランスジャーナル社
2462	生産理論・生産技術	実践事例でわかる獣害対策の新提案: 地域のかで農作物を守る		家の光協会
2463	生産理論・生産技術	サルはなぜ山を下りる?: 野生動物との共生 (学術選書 084)	室山泰之	京都大学学術出版会
2464	生産理論・生産技術	鳥獣害問題解決マニュアル: 森・里の保全と地域づくり	寺本憲之	古今書院
2465	生産理論・生産技術	日本のシシ垣: イノシシ・シカの被害から田畑を守ってきた文化遺産		古今書院
2466	生産理論・生産技術	外来害虫と移入天敵 (原色図鑑)		全国農村教育協会
2467	生産理論・生産技術	昆虫と害虫: 害虫防除の歴史と社会	小山重郎	築地書館
2468	生産理論・生産技術	アルゼンチンアリ: 史上最強の侵略的外来種		東京大学出版会
2469	生産理論・生産技術	ニカメイガ: 日本の応用昆虫学		東京大学出版会
2470	生産理論・生産技術	アザミウマ防除ハンドブック: 診断フローチャート付	柴尾学	農山漁村文化協会
2471	生産理論・生産技術	ナメクジ: おもしろ生態とかしこい防ぎ方	宇高寛子/田中寛	農山漁村文化協会
2472	生産理論・生産技術	モグラ: おもしろ生態とかしこい防ぎ方	井上雅央/秋山雅世	農山漁村文化協会
2473	生産理論・生産技術	モンキードッグ: 猿害を防ぐ犬の飼いや使い方	吉田洋	農山漁村文化協会
2474	生産理論・生産技術	女性がやればずんずん進む決定版! 獣害対策	井上雅央	農山漁村文化協会
2475	生産理論・生産技術	天敵活用大事典		農山漁村文化協会
2476	生産理論・生産技術	天敵利用の基礎と実際: 減農薬のための上手な使い方	根本久/和田哲夫	農山漁村文化協会
2477	生産理論・生産技術	獣害対策の設計・計画手法: 人と野生動物の共生を目指して (農村計画学のフロンティア 3)	九鬼康彰/武山絵美	農林統計出版
2478	生産理論・生産技術	猪変		本の雑誌社
2479	生産理論・生産技術	最新農薬原体・キー中間体の創製: Recent Agrochemicals and Technical Papers: 2017		シーエムシー出版
2480	生産理論・生産技術	農薬からアグロバイオレギュレーターへの展開: 病害虫雑草制御の現状と将来, 普及版 (ファインケミカルシリーズ)		シーエムシー出版
2481	生産理論・生産技術	農薬の創製研究の動向: 安全で環境に優しい農薬開発の展開 (ファインケミカルシリーズ)		シーエムシー出版
2482	生産理論・生産技術	最新除草剤・生育調節剤解説: 2012(追補)		植調編集印刷事務所
2483	生産理論・生産技術	図解でよくわかる農薬のきほん: 農薬の選び方・使い方から、安全性、種類、流通まで (すぐわかるすぐわかる!)		誠文堂新光社
2484	生産理論・生産技術	生物農薬・フェロモンガイドブック: 2014		日本植物防疫協会
2485	生産理論・生産技術	農薬ハンドブック: 2016年版		日本植物防疫協会
2486	生産理論・生産技術	農薬概説: 2017		日本植物防疫協会
2487	生産理論・生産技術	農薬適合一覧表: 2017年版		日本植物防疫協会
2488	生産理論・生産技術	農薬要覧: 2017		日本植物防疫協会
2489	生産理論・生産技術	農薬・防除便覧		農山漁村文化協会
2490	生産理論・生産技術	地球温暖化でも冷害はなくなる: そのメカニズムと対策	下野裕之	農山漁村文化協会
2491	生産理論・生産技術	菜の花サイエンス: 津波塩害農地の復興	阿部美幸	東北大学出版会
2492	生産理論・生産技術	農学の知を復興に生かす: 東北大学菜の花プロジェクトのあゆみ	中井裕/西尾剛	東北大学出版会
2493	生産理論・生産技術	放射性物質汚染の課題 (日本農業の動き No.178)		農林統計協会
2494	生産理論・生産技術	農作物の光害: 光害の現状と新しいLED照明による防止対策	山本晴彦	農林統計出版
2495	生産理論・生産技術	食用作物, 新訂	国分牧衛	養賢堂
2496	生産理論・生産技術	稲と米の民族誌: アジアの稲作景観を歩く (NHKブックス 1242)	佐藤洋一郎	NHK出版
2497	生産理論・生産技術	農業は脳業である: 困ったときもチャンスです	古野隆雄	コモンズ
2498	生産理論・生産技術	アイガモがくれた奇跡: 失敗を楽しむ農家・古野隆雄の挑戦	古野隆雄	家の光協会

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
2499	生産理論・生産技術	図解知識ゼロからのコメ入門: 日本人だったら知っておきたい		家の光協会
2500	生産理論・生産技術	全国棚田ガイド: 日本の棚田百選を含む全国の美しい棚田212		家の光協会
2501	生産理論・生産技術	上山集楽物語: 限界集落を超えて	英田上山棚田田出版プロジェクトチーム	吉備人出版
2502	生産理論・生産技術	イネの歴史を探る(フィールド科学の入口)		玉川大学出版部
2503	生産理論・生産技術	コメの歴史(「食」の図書館)	レニー・マートン	原書房
2504	生産理論・生産技術	棚田その守り人	中島峰広	古今書院
2505	生産理論・生産技術	棚田保全の歩み: 文化的景観と棚田オーナー制度	中島峰広	古今書院
2506	生産理論・生産技術	庄内稲作の歴史社会学: 手記と語りの記録	細谷昂	御茶の水書房
2507	生産理論・生産技術	中国東北における稲作農業の展開過程	李海訓	御茶の水書房
2508	生産理論・生産技術	米の事典: 稲作からゲノムまで, 新版		幸書房
2509	生産理論・生産技術	千年の田んぼ: 国境の島に、古代の謎を追いかけて	石井里津子	旬報社
2510	生産理論・生産技術	ゼロから理解するコメの基本: はじめてのコメ作りから品種、農業ビジネスまで		誠文堂新光社
2511	生産理論・生産技術	自然農の米づくり: 耕さず、肥料、農薬を用いず、草や虫を敵としない…	大植久美/吉村優男	創森社
2512	生産理論・生産技術	コメのバイオ燃料化と地域振興: エネルギー・食料・環境問題への挑戦	矢部光保/両角和夫	筑波書房
2513	生産理論・生産技術	戦後稲作技術史: その技術普及過程・福井県若狭地方の事例	村上利夫	東京農業大学出版会
2514	生産理論・生産技術	汝の食物を医業とせよ: “世紀の干拓”大潟村で実現した理想のコメ作り	宮崎隆典	藤原書店
2515	生産理論・生産技術	稲作革命SRI: 飢餓・貧困・水不足から世界を救う		日本経済新聞出版社
2516	生産理論・生産技術	アジア・アフリカの稲作: 多様な生産生態と持続的発展の道	堀江武	農山漁村文化協会
2517	生産理論・生産技術	イネの作業便利帳: よくある失敗150, 新版	高島忠行	農山漁村文化協会
2518	生産理論・生産技術	ポストハーベスト技術で活かすお米の力: 美味しさ、健康機能性、米ぬか、粳がら	佐々木泰弘	農山漁村文化協会
2519	生産理論・生産技術	合鴨ドリーム: 小力合鴨水稲同時作	古野隆雄	農山漁村文化協会
2520	生産理論・生産技術	水田活用新時代: 減反・転作対応から地域産業興しの拠点へ(シリーズ地域の再生 16)	谷口信和/梅本雅	農山漁村文化協会
2521	生産理論・生産技術	棚田の歴史: 通潤橋と白糸台地から	吉村豊雄	農山漁村文化協会
2522	生産理論・生産技術	農家が教えるイネづくりコツのコツ		農山漁村文化協会
2523	生産理論・生産技術	農家が教えるイネの有機栽培: 緑肥・草、水、生きもの、米ぬか…田んぼとことん活用		農山漁村文化協会
2524	生産理論・生産技術	棚田の保全と整備	木村和弘	農林統計出版
2525	生産理論・生産技術	作物生産からみた米の食味学	松江勇次	養賢堂
2526	生産理論・生産技術	米の外観品質・食味: 最新研究と改善技術	松江勇次	養賢堂
2527	生産理論・生産技術	稲の大東亜共栄圏: 帝国日本の(緑の革命)(歴史文化ライブラリー 352)	藤原辰史	吉川弘文館
2528	生産理論・生産技術	酒米ハンドブック, 改訂版	副島颯子	文一総合出版
2529	生産理論・生産技術	写真でわかるイネの反射シート&ブルー育苗のコツ		農山漁村文化協会
2530	生産理論・生産技術	イネの形態形成研究の通説批判論考	松葉捷也	ウインかもがわ
2531	生産理論・生産技術	生きもの豊かな自然耕	岩澤信夫	創森社
2532	生産理論・生産技術	イネの深水栽培: 太茎・大穂で多収をめざす	大江真道	農山漁村文化協会
2533	生産理論・生産技術	木川営農組合方式による鉄コーティング直播栽培の契機	川島長治	農林統計協会
2534	生産理論・生産技術	水稲を襲ったウイルス病: 縞葉枯病の媒介昆虫と病原ウイルスの実像を探る	鳥山重光	創風社
2535	生産理論・生産技術	ウンカ防除ハンドブック	松村正哉	農山漁村文化協会
2536	生産理論・生産技術	イネの高温障害と対策: 登熟不良の仕組みと防ぎ方	森田敏	農山漁村文化協会
2537	生産理論・生産技術	小麦の機能と科学(食物と健康の科学シリーズ)	長尾精一	朝倉書店
2538	生産理論・生産技術	小麦1トンどり: 薄まき・しっかり出芽 太茎でくず麦をなくす	高橋義雄	農山漁村文化協会
2539	生産理論・生産技術	麦の高品質多収技術: 品種・加工適性と栽培	渡邊好昭/藤田雅也	農山漁村文化協会
2540	生産理論・生産技術	小麦品種改良の経済分析: その変遷と品質需要対応	齋藤陽子	農林統計協会
2541	生産理論・生産技術	麦の自然史: 人と自然が育んだムギ農耕	佐藤洋一郎/加藤鎌司	北海道大学出版会
2542	生産理論・生産技術	雑穀のポートレート	平宏和	錦房
2543	生産理論・生産技術	雑穀・精麦入門, 改訂版(食品知識ミニブックスシリーズ)	井上直人/倉内伸幸	日本食糧新聞社
2544	生産理論・生産技術	マコモタケ: 導入と高品質・多収栽培(新特産シリーズ)	西嶋政和	農山漁村文化協会
2545	生産理論・生産技術	変容する途上国のトウモロコシ需給: 市場の統合と分離(研究双書 596)		アジア経済研究所
2546	生産理論・生産技術	トウモロコシの世界史: 神となった作物の9000年	鶴飼保雄	悠書館
2547	生産理論・生産技術	進化する雑穀ヒエ、アワ、キビ: 新品種・機械化による多収栽培と加工の新技術	星野次汪/武田純一	農山漁村文化協会
2548	生産理論・生産技術	そばによる地域創生: そばの生産・流通と6次産業化・農商工連携(日本農業市場学会研究叢書 17)		筑波書房
2549	生産理論・生産技術	大豆の栄養と機能性: The Soy Nutrition and Function: The Natural Supplement for “Health for All” (食品シリーズ)		シーエムシー出版

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
2550	生産理論・生産技術	アズキと東アジア: 日中韓台の域内市場と通商問題	田島俊雄/張馨元	御茶の水書房
2551	生産理論・生産技術	べにや長谷川商店の豆図鑑	べにや長谷川商店	自由国民社
2552	生産理論・生産技術	豆農家の大革命: アメリカ有機農業の奇跡	リズ・カーライル	築地書館
2553	生産理論・生産技術	大豆生産振興の課題と方向	梅本雅/島田信二	農林統計出版
2554	生産理論・生産技術	日本の豆ハンドブック	長谷川清美	文一総合出版
2555	生産理論・生産技術	豆(もの)と人間の文化史 174)	前田和美	法政大学出版局
2556	生産理論・生産技術	ジャガイモ事典: 起源◎伝播◎特性◎品種◎栽培◎加工◎料理◎文化		いも類振興会
2557	生産理論・生産技術	海が運んだジャガイモの歴史	田ロー夫	梓書院
2558	生産理論・生産技術	ジャガイモの歴史(「食」の図書館)	アンドルー・F.スミス	原書房
2559	生産理論・生産技術	サツマイモの世界 世界のサツマイモ: 新たな食文化のはじまり	山川理	現代書館
2560	生産理論・生産技術	飼料用米の栽培・利用: 山形県庄内の取り組みから		創森社
2561	生産理論・生産技術	水稻の飼料利用の展開構造	小川真如	日本評論社
2562	生産理論・生産技術	飼料米・飼料イネ活用ガイドブック: 耕畜連携をひらく		農山漁村文化協会
2563	生産理論・生産技術	大規模飼料生産の経営計画と新規飼料作物の導入条件	久保田哲史	農林統計協会
2564	生産理論・生産技術	世界の飼料穀物需給: トウモロコシ需給の構造変化		農林統計出版
2565	生産理論・生産技術	ヒョウタン美術館: The Gourd Museum	港千尋	牛若丸
2566	生産理論・生産技術	工芸農作物等の生産費: 平成27年産(農業経営統計調査報告)		農林統計協会
2567	生産理論・生産技術	サゴヤシ: 21世紀の資源植物		京都大学学術出版会
2568	生産理論・生産技術	コンニャクと生きる: 信州と上州の山里をつなぐ		柏企画
2569	生産理論・生産技術	チョコレートの散歩道: 魅惑の味のルーツを求めて	佐藤清隆	エレガントライフ
2570	生産理論・生産技術	私はコーヒーで世界を変えることにした: 夢をかたちにする仕事道	川島良彰	ポプラ社
2571	生産理論・生産技術	フェアトレードの人類学: ラオス南部ポーラヴェーン高原におけるコーヒー栽培農村の生活と協同組合	箕曲在弘	めこん
2572	生産理論・生産技術	カカオとチョコレートのサイエンス・ロマン: 神の食べ物の不思議	佐藤清隆/古谷野哲夫	幸書房
2573	生産理論・生産技術	セイロンコーヒーを消滅させた大英帝国の野望: 貴族趣味の紅茶の陰にタミル人と現地人の奴隷労働	清田和之	合同フォレスト
2574	生産理論・生産技術	コーヒーを通して見たフェアトレード: スリランカ山岳地帯に行く	清田和之	書肆侃侃房
2575	生産理論・生産技術	アフリカ熱帯農業と環境保全: カメルーンカカオ農民の生活とジレンマ	坂梨健太	昭和堂
2576	生産理論・生産技術	おいしいコーヒーの経済論: 「キリマンジャロ」の苦い現実, 増補版	辻村英之	太田出版
2577	生産理論・生産技術	CHOCOLATE: チョコレートの歴史、カカオ豆の種類、味わい方とそのレシピ	ドム・ラムジー	東京書籍
2578	生産理論・生産技術	ASIAGAP実践の手引き: 「ASIAGAP農場用管理点と適合基準 茶Ver.2」「ASIAGAP団体事務局用管理点と適合基準Ver.2」対応	田貫菜穂子	ハラダ製茶
2579	生産理論・生産技術	茶の原産地を探る	松下智	大河書房
2580	生産理論・生産技術	バニラのすべて: 起源・生態・栽培・生産・利用を網羅	エリック・オドゥー/ミッシェル・グリゾニ	フレグランスジャーナル社
2581	生産理論・生産技術	故郷、緑なれ: 佐賀発、香りで街おこし	相良嘉美	フレグランスジャーナル社
2582	生産理論・生産技術	ハーブの歴史(「食」の図書館)	ゲイリー・アレン	原書房
2583	生産理論・生産技術	ポタニカルイラストで見るハーブの歴史百科: 栽培法から料理まで	キャロライン・ホームズ	原書房
2584	生産理論・生産技術	調香師が語る香料植物の図鑑	フレディ・ゴズラン/グザビエ・フェルナンデス	原書房
2585	生産理論・生産技術	天然香料の力: 日本で初めてのハーブ農園	宮崎泰	彩流社
2586	生産理論・生産技術	トウガラシの叫び: (食の危機)最前線をゆく	カート・マイケル・フリーズ/クレイグ・クラフト	春秋社
2587	生産理論・生産技術	カラー図鑑ハーブの秘密: 利用法・効能・歴史・伝承	ジル・デイヴィーズ	西村書店
2588	生産理論・生産技術	ハーブ&スパイス事典: 心とカラダにやさしい316種, 増補改訂		誠文堂新光社
2589	生産理論・生産技術	ハーブきく		東京農業大学出版会
2590	生産理論・生産技術	ハーブ&スパイス大事典(NATIONAL GEOGRAPHIC)	ナンシー・J.ハジェスキー	日経ナショナルジオグラフィック社
2591	生産理論・生産技術	香料植物(もの)と人間の文化史 159)	吉武利文	法政大学出版局
2592	生産理論・生産技術	地球は大きな薬箱: 薬草で村おこし、健康おこし	村上光太郎	叢文社
2593	生産理論・生産技術	オブレピーハの栽培: 宇宙飛行士も食した機能性果樹	N.V.Mikhaylova	東京農業大学出版会
2594	生産理論・生産技術	天然ゴムの歴史: ヘベア樹の世界一周オデッセイから「交通化社会」へ(学術選書 060)	こうじや信三	京都大学学術出版会
2595	生産理論・生産技術	科学でひらくゴマの世界(クッカーサイエンス 006)	福田靖子	建帛社
2596	生産理論・生産技術	オリーブの歴史(「食」の図書館)	ファブリーツィア・ランツァ	原書房
2597	生産理論・生産技術	オリーブのすべて	横山淳一/松生恒夫	幸書房
2598	生産理論・生産技術	国産なたねの現状と展開方向: 生産・搾油から燃料利用まで	野中章久	昭和堂
2599	生産理論・生産技術	育てて楽しむエゴマ 栽培・利用加工	服部圭子	創森社
2600	生産理論・生産技術	育てて楽しむオリーブ栽培・利用加工		創森社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
2601	生産理論・生産技術	ヤシ酒の科学: ココヤシからシュロまで、不思議な樹液の謎を探る, 新装版	濱屋悦次	批評社
2602	生産理論・生産技術	ジャトロファ研究とその利用に関する国際動向: サブサハラ・アフリカへの利用可能性	林慶一	養賢堂
2603	生産理論・生産技術	遺伝子組み換えナタネ汚染 (クリティカルサイエンス 6)		緑風出版
2604	生産理論・生産技術	ワタが世界を変える: 衣の自給について考えよう	田畑健	地湧社
2605	生産理論・生産技術	楮・三椏 (地域資源を活かす生活工芸双書)	田中求/宍倉佐敏	農山漁村文化協会
2606	生産理論・生産技術	はじめての園芸入門: ビジュアル版 (今日から使えるシリーズ gardening)	金子明人	講談社
2607	生産理論・生産技術	園芸「コツ」の科学: 植物栽培の「なぜ」がわかる	上田善弘	講談社
2608	生産理論・生産技術	これだけは知っておきたい園芸の基礎知識, 大判		西東社
2609	生産理論・生産技術	植物と人間の絆	チャールズ・A.ルイス	創森社
2610	生産理論・生産技術	ボタニカルイラストで見る園芸植物学百科	ジェフ・ホッジ	原書房
2611	生産理論・生産技術	園芸家の一年 (平凡社ライブラリー 825)	カレル・チャベック	平凡社
2612	生産理論・生産技術	五感で学べ: ある農業学校の過酷で濃密な365日 (ORANGE PAGE BOOKS)	川上康介	オレンジページ
2613	生産理論・生産技術	野菜の生産・流通と野菜制度の機能		農林統計出版
2614	生産理論・生産技術	欲望の植物誌: 人をあやつる4つの植物, 新装版	マイケル・ポーラン	八坂書房
2615	生産理論・生産技術	絵図と写真でたどる明治の園芸と緑化: 秘蔵資料で明かされる、現代園芸・緑化のルーツ	近藤三雄/平野正裕	誠文堂新光社
2616	生産理論・生産技術	日本園芸界のパイオニアたち: 花と緑と、20の情熱	椎野昌宏	淡交社
2617	生産理論・生産技術	韓国園芸産業の発展過程	柳京熙/姜ニ求	筑波書房
2618	生産理論・生産技術	中国野菜産地の変貌		農林統計出版
2619	生産理論・生産技術	もともともわしい植物の病害虫百科: 植物の病害虫その知識と予防, 改訂版		学研プラス
2620	生産理論・生産技術	病虫害の防ぎ方: 植物元気いきいき	桜井廉	金園社
2621	生産理論・生産技術	わかる・防ぐ・治す 人にもやさしい病害虫防除: ビジュアル版 (今日から使えるシリーズ gardening)		講談社
2622	生産理論・生産技術	植物の病気と害虫予防、退治がひと目でわかる本: 草花 花木・庭木 果樹 野菜		主婦の友社
2623	生産理論・生産技術	写真ですぐわかる安心・安全植物の病害虫症状と防ぎ方: 人と自然にやさしい!		西東社
2624	生産理論・生産技術	人もペットも気をつけたい園芸有毒植物図鑑	土橋豊	淡交社
2625	生産理論・生産技術	園芸学の基礎 (農学基礎シリーズ)	鈴木正彦	農山漁村文化協会
2626	生産理論・生産技術	物語と伝説の植物: 鉢植えでも楽しめる	榛原昭矢	新紀元社
2627	生産理論・生産技術	ハウスの環境制御ガイドブック: 光合成を高めればもっととれる	斉藤章	農山漁村文化協会
2628	生産理論・生産技術	環境制御のための植物生理: オランダ最新研究	エベ・フワーヴェリンク/タイス・キールケルス	農山漁村文化協会
2629	生産理論・生産技術	施設園芸・植物工場ハンドブック		農山漁村文化協会
2630	生産理論・生産技術	農家が教えるハウス・温室無敵のメンテ術: 簡単補強、省エネ・経費減らし		農山漁村文化協会
2631	生産理論・生産技術	温室 (ものと人間の文化史 152)	平野恵	法政大学出版局
2632	生産理論・生産技術	50の道具とアイテムで知る図説ガーデンツールの歴史	ビル・ローズ	原書房
2633	生産理論・生産技術	はじめての果樹: 仕立て方と実をつけるコツ (ナツメ社のGarden Books)		ナツメ社
2634	生産理論・生産技術	47都道府県・くだもの百科	井上繁	丸善出版
2635	生産理論・生産技術	愛晴 (あひば) れフルーツ王国おかやま: 岡山シイエフエムFM790「RadioMOMO (レディオモモ)」番組「愛晴れ! フルーツ王国おかやま」全12回を編集	小玉康仁	吉備人出版
2636	生産理論・生産技術	プロが教えるおいしい果樹の育て方: はじめてでも安心!		西東社
2637	生産理論・生産技術	自然農の果物づくり: 耕さず、肥料、農薬を用いず、草や虫を敵としない…	三井和夫	創森社
2638	生産理論・生産技術	おいしい果樹の育て方: 剪定もよくわかる	三輪正幸	池田書店
2639	生産理論・生産技術	果実の機能と科学 (食物と健康の科学シリーズ)		朝倉書店
2640	生産理論・生産技術	果樹園芸学	平智	朝倉書店
2641	生産理論・生産技術	果物学: 果物のなる樹のツリーウォッチング		東海大学出版会
2642	生産理論・生産技術	失敗しない! 必ず実がなる果樹の育て方	小林隆行	日本文芸社
2643	生産理論・生産技術	果樹園芸学の基礎 (農学基礎シリーズ)	伴野潔/山田寿	農山漁村文化協会
2644	生産理論・生産技術	最新農業技術果樹: vol.1 楽して稼げる施設・低樹高栽培ほか	農山漁村文化協会	農山漁村文化協会
2645	生産理論・生産技術	最新農業技術果樹: vol.2 新たな需要を開拓! 期待の新品種	農山漁村文化協会	農山漁村文化協会
2646	生産理論・生産技術	最新農業技術果樹: vol.3 消費低迷を打ち破るトップ生産者16人の技術と経営		農山漁村文化協会
2647	生産理論・生産技術	最新農業技術果樹: vol.4 用途が広がった植物調整剤、新発想の道具と機械・省力栽培法		農山漁村文化協会
2648	生産理論・生産技術	最新農業技術果樹: vol.5 有望品種・低コスト栽培・圃地再生		農山漁村文化協会
2649	生産理論・生産技術	最新農業技術果樹: vol.6 リンゴ高密度植、カキわい化、ウメ・ナシの摘心整枝、クリ「ぼろたん」ほか		農山漁村文化協会
2650	生産理論・生産技術	最新農業技術果樹: vol.7 ブドウ「シャインマスカット」と熱帯特産果樹		農山漁村文化協会
2651	生産理論・生産技術	最新農業技術果樹: vol.8 ブドウ、スモモの基礎・基本技術		農山漁村文化協会

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
2652	生産理論・生産技術	最新農業技術果樹: vol.9 ブドウ基礎技術,温帯でつくるアボカド・アテモヤ,イチジク新技術ほか		農山漁村文化協会
2653	生産理論・生産技術	最新農業技術果樹: vol.10 ブドウ シャインマスカットつくりこなしの新技術ほか		農山漁村文化協会
2654	生産理論・生産技術	有機栽培の果樹・茶つくり: 高品質安定生産の実際 (小祝政明の実践講座 4)	小祝政明	農山漁村文化協会
2655	生産理論・生産技術	新品種・新技術で拓く果樹産業の未来		農林統計出版
2656	生産理論・生産技術	園芸図鑑家庭果樹: 庭・ベランダ・鉢植えて楽しむ70種類	三上常夫/若林芳樹	柏書房
2657	生産理論・生産技術	果樹園芸学		文永堂出版
2658	生産理論・生産技術	図説果物の大図鑑		マイナビ出版
2659	生産理論・生産技術	果樹生産出荷統計: 平成28年産		農林統計協会
2660	生産理論・生産技術	果樹の交雑育種法	山田昌彦	養賢堂
2661	生産理論・生産技術	落葉果樹の整枝せん定: 安定生産と労働軽減の両立を実現する (農業の知識シリーズ)		誠文堂新光社
2662	生産理論・生産技術	果樹高品質多収の樹形とせん定: 光合成を高める枝づくり・葉づくり	高橋国昭	農山漁村文化協会
2663	生産理論・生産技術	ひと目でわかる果樹の病害虫: 第1巻 ミカン・ビワ・キウイ, 改訂版		日本植物防疫協会
2664	生産理論・生産技術	ひと目でわかる果樹の病害虫: 第2巻 ナシ・ブドウ・カキ・クリ・イチジク, 改訂版		日本植物防疫協会
2665	生産理論・生産技術	ひと目でわかる果樹の病害虫: 第3巻 リンゴ・マルメロ・カリン モモ・スモモ・アンズ・ブルー・ウメ・オウトウ ブルーベリー・ラズベリー・ハスカップ, 改訂第2版		日本植物防疫協会
2666	生産理論・生産技術	原色果樹の病害虫診断事典		農山漁村文化協会
2667	生産理論・生産技術	地球に生まれたあなたが今すぐしなくてはならないこと	木村秋則	ロングセラーズ
2668	生産理論・生産技術	リンゴの歴史 (「食」の図書館)	エリカ・ジャニック	原書房
2669	生産理論・生産技術	りんごをアップルとは呼ばせない: 津軽りんご人たちが語る日本農業の底力	黄孝春/平本和博	弘前大学出版会
2670	生産理論・生産技術	未利用バイオマスとしてのりんご剪定枝の活用戦略, 増補改訂版	泉谷眞実	弘前大学出版会
2671	生産理論・生産技術	リンゴの生産構造と産地の再編: 新自由主義的経済体制下の北東北リンゴ農業の課題	長谷川啓哉	筑波書房
2672	生産理論・生産技術	リンゴの高密度栽培: イタリア・南チロルの多収技術と実際	小池洋男	農山漁村文化協会
2673	生産理論・生産技術	リンゴの歩んだ道: 明治から現代へ、世界の「ふじ」が生まれるまで	富士田金輔	農山漁村文化協会
2674	生産理論・生産技術	図解リンゴの整枝せん定と栽培	塩崎雄之輔	農山漁村文化協会
2675	生産理論・生産技術	ナシ黒星病: おもしろ生態とかしい防ぎ方	梅本清作	農山漁村文化協会
2676	生産理論・生産技術	図解ナシをつくりこなす: 品種に合わせて早期成園化	田村文男/吉田亮	農山漁村文化協会
2677	生産理論・生産技術	カンキツの病害虫 (防除ハンドブック)	田代暢哉/増井伸一	全国農村教育協会
2678	生産理論・生産技術	柑橘類と文明: マフィアを生んだシチリアレモンから、ノーベル賞をとった壊血病薬まで	ヘレナ・アトレ	築地書館
2679	生産理論・生産技術	奇跡のみかん農園: けっして妥協しない零細農家のすごい仕事の話	谷井康人	SBクリエイティブ
2680	生産理論・生産技術	ミカン産地の形成と展開: 有田ミカンの伝統と革新	細野賢治	農林統計出版
2681	生産理論・生産技術	オレンジの歴史 (「食」の図書館)	クラリッサ・ハイマン	原書房
2682	生産理論・生産技術	レモンの歴史 (「食」の図書館)	トビー・ゾンネマン	原書房
2683	生産理論・生産技術	虫たちと作った世界に一つだけのレモン	河合浩樹	朝日新聞出版
2684	生産理論・生産技術	岐阜県のカキ: 生活樹としての屋敷柿とかかわった暮らしの歴史	石垣和義	樹林舎
2685	生産理論・生産技術	カキの病害虫 (防除ハンドブック)	菊原賢次/堤隆文	全国農村教育協会
2686	生産理論・生産技術	育てて楽しむスモモ 栽培・利用加工	新谷勝広	創森社
2687	生産理論・生産技術	基礎からわかるおいしいモモ栽培	富田晃	農山漁村文化協会
2688	生産理論・生産技術	桃 (ものと人間の文化史 157)	有岡利幸	法政大学出版局
2689	生産理論・生産技術	育てて楽しむウメ 栽培・利用加工	大坪孝之	創森社
2690	生産理論・生産技術	日本のブドウハンドブック: ワイン用から生食用まで完全網羅したはじめてのブドウ事典	植原宣紘/山本博	イカロス出版
2691	生産理論・生産技術	フランス、葡萄畑のツーリズムと観光案内所: グランドツアーの回顧からアジアの田園産業を展望する	岩田文夫	現代図書
2692	生産理論・生産技術	ブドウの根域制限栽培: カラー版	今井俊治	創森社
2693	生産理論・生産技術	ブドウ品種総図鑑: GRAPE VARIETY BOOK	植原宣紘	創森社
2694	生産理論・生産技術	育てて楽しむブドウ 栽培・利用加工	小林和司	創森社
2695	生産理論・生産技術	図解よくわかるブドウ栽培: 品種・果房管理・整枝剪定	小林和司	創森社
2696	生産理論・生産技術	ブドウ大事典		農山漁村文化協会
2697	生産理論・生産技術	イチジクの作業便利帳	真野隆司	農山漁村文化協会
2698	生産理論・生産技術	最強の農起業!: ブルーベリー観光農園で失敗しない農業経営	畔柳茂樹	かんき出版
2699	生産理論・生産技術	基礎からわかるブルーベリー栽培: 農業と経営	玉田孝人	誠文堂新光社
2700	生産理論・生産技術	ブルーベリー栽培事典	玉田孝人	創森社
2701	生産理論・生産技術	図解よくわかるブルーベリー栽培: 品種・結実管理・良果多収	玉田孝人/福田俊	創森社
2702	生産理論・生産技術	ブルーベリーをつくりこなす: 高精度、大粒多収	江澤貞雄	農山漁村文化協会

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
2703	生産理論・生産技術	ナッツの歴史(「食」の図書館)	ケン・アルバーラ	原書房
2704	生産理論・生産技術	クリと日本文明: Chestnuts and Civilization in Japan	元木靖	海青社
2705	生産理論・生産技術	栗(ものと人間の文化史 166)	今井敬潤	法政大学出版局
2706	生産理論・生産技術	栗の文化史: 日本人と栗の寄り添う姿(生活文化史選書)	有岡利幸	雄山閣
2707	生産理論・生産技術	育てて楽しむキウイフルーツ 栽培・利用加工	村上覚/末澤克彦	創森社
2708	生産理論・生産技術	フルーツ・ハンター: 果物をめぐる冒険とビジネス	アダム・リース・ゴウルナー	白水社
2709	生産理論・生産技術	バナナのグローバル・ヒストリー: いかにしてユナイテッド・フルーツは世界を席巻したか	ピーター・チャップマン	ミネルヴァ書房
2710	生産理論・生産技術	バナナの歴史(「食」の図書館)	ローナ・ピアッティ=ファーネル	原書房
2711	生産理論・生産技術	バナナの世界史: 歴史を変えた果物の数奇な運命(歴史カル・スタディーズ 01)	ダン・コッペル	太田出版
2712	生産理論・生産技術	パイナップルの歴史(「食」の図書館)	カオリ・オコナー	原書房
2713	生産理論・生産技術	沖縄におけるマンゴー産地の課題と展望: 熱帯果樹ブランド化への途	菊地香/平良英三	農林統計出版
2714	生産理論・生産技術	世界の美しい野菜		エクスナレッジ
2715	生産理論・生産技術	植物工場物語	塚田周平/川名祥史	リバナ出版
2716	生産理論・生産技術	連作のすすめ: 野菜の品質・収量アップ		家の光協会
2717	生産理論・生産技術	はじめての自然農で野菜づくり: 無農薬		学研パブリッシング
2718	生産理論・生産技術	データが語るおいしい野菜の健康力	及川紀久雄/丹羽真清	丸善出版
2719	生産理論・生産技術	これからの野菜の食べ方: ファーマーズマーケットが教えてくれた三〇の真実	青山・福澤大学前ファーマーズマーケット男子野菜部	幻冬舎
2720	生産理論・生産技術	海風が良い野菜を育てる: 日本全国野菜の里を訪ねて	丹野清志	彩流社
2721	生産理論・生産技術	野菜まるごと大図鑑: 知る!食べる!育てる!		主婦の友社
2722	生産理論・生産技術	食を守る	横田哲治	商業界
2723	生産理論・生産技術	ひょうごの在来作物: つながっていく種と人	ひょうごの在来種保存会	神戸新聞総合出版センター
2724	生産理論・生産技術	育苗からわかる野菜づくり: 品質・収量を大きく変える	野口貴/沼尻勝人	誠文堂新光社
2725	生産理論・生産技術	実践野菜栽培: 葉菜・茎菜・豆類		誠文堂新光社
2726	生産理論・生産技術	自然農の野菜づくり: 耕さず、肥料、農薬を用いず、草や虫を敵としない…	高橋浩昭	創森社
2727	生産理論・生産技術	自適農の無農薬栽培: 無農薬で野菜の病虫害にどう向かうか	西山敬三	創風社出版
2728	生産理論・生産技術	はじめてのイタリア野菜: 60種の育て方と食べ方	藤目幸擴	農山漁村文化協会
2729	生産理論・生産技術	基礎からわかる!野菜の作型と品種生態	山川邦夫	農山漁村文化協会
2730	生産理論・生産技術	江戸東京野菜: 物語篇	大竹道茂	農山漁村文化協会
2731	生産理論・生産技術	江戸東京野菜: 図鑑篇		農山漁村文化協会
2732	生産理論・生産技術	最新農業技術野菜: vol.1 国産野菜は頑張る!	農山漁村文化協会	農山漁村文化協会
2733	生産理論・生産技術	最新農業技術野菜: vol.2 ニンニク・サトイモ・アスパラガス・ニガウリ…	農山漁村文化協会	農山漁村文化協会
2734	生産理論・生産技術	最新農業技術野菜: vol.3 トマトオランダ70t・日本50tの超多収技術 ナス授粉作業不要の単為結果性品種		農山漁村文化協会
2735	生産理論・生産技術	最新農業技術野菜: vol.4 新規就農者、直売経営の人気野菜 ナス、トマト、ブロッコリー、アスパラガス		農山漁村文化協会
2736	生産理論・生産技術	最新農業技術野菜: vol.5 イチゴ促成栽培の新技術		農山漁村文化協会
2737	生産理論・生産技術	最新農業技術野菜: vol.6 特集イチゴ8tどりへ 栃木・3名人の技術		農山漁村文化協会
2738	生産理論・生産技術	最新農業技術野菜: vol.7 特集もつと知りたい環境制御技術		農山漁村文化協会
2739	生産理論・生産技術	最新農業技術野菜: vol.8 特集ここまで見えた環境制御技術		農山漁村文化協会
2740	生産理論・生産技術	最新農業技術野菜: vol.9 特集これなら稼げる!野菜の新作型		農山漁村文化協会
2741	生産理論・生産技術	最新農業技術野菜: vol.10 特集イタリア野菜の生理と栽培		農山漁村文化協会
2742	生産理論・生産技術	農家が教える桐島畑の絶品野菜づくり: 1 基本技術と果菜類・豆類の育て方	桐島正一	農山漁村文化協会
2743	生産理論・生産技術	農家が教える桐島畑の絶品野菜づくり: 2 葉茎菜類・根菜類の育て方	桐島正一	農山漁村文化協会
2744	生産理論・生産技術	野菜の作業便利帳: よくある失敗100カ条, 新版	川崎重治	農山漁村文化協会
2745	生産理論・生産技術	野菜園芸学の基礎(農学基礎シリーズ)	篠原温	農山漁村文化協会
2746	生産理論・生産技術	有機栽培の野菜づくり: 炭水化物優先、ミネラル優先の育て方(小祝政明の実践講座 3)	小祝政明	農山漁村文化協会
2747	生産理論・生産技術	有機野菜ピクニック教室: 米ヌカ・育苗・マルチを使いこなす	東山広幸	農山漁村文化協会
2748	生産理論・生産技術	日本の野菜文化史事典	青葉高	八坂書房
2749	生産理論・生産技術	食生活の中の野菜: 料理レシピと家計からみたその歴史と役割	施山紀男	養賢堂
2750	生産理論・生産技術	会津伝統野菜	平出美穂子	歴史春秋出版
2751	生産理論・生産技術	ニンジンでトロイア戦争に勝つ方法: 世界を変えた20の野菜の歴史: 上	レベッカ・ラップ	原書房
2752	生産理論・生産技術	ニンジンでトロイア戦争に勝つ方法: 世界を変えた20の野菜の歴史: 下	レベッカ・ラップ	原書房
2753	生産理論・生産技術	ボタニカルイラストで見る野菜の歴史百科: 栽培法から料理まで	サイモン・アケロイド	原書房

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
2754	生産理論・生産技術	野菜・山菜ハンドブック: 栽培技術・利用方法がわかる	戸澤英男	誠文堂新光社
2755	生産理論・生産技術	蔬菜園芸の事典, 普及版	斎藤隆	朝倉書店
2756	生産理論・生産技術	トマトはどうして赤いのか?: 身近な野菜を科学する	稲垣栄洋	東京堂出版
2757	生産理論・生産技術	野菜生産出荷統計: 平成28年産		農林統計協会
2758	生産理論・生産技術	家族野菜を未来につなぐ: レストラン「粟」がめざすもの	三浦雅之/三浦陽子	学芸出版社
2759	生産理論・生産技術	伝統野菜の今: 地域の取り組み、地理的表示の保護と遺伝資源 (ASAHI ECO BOOKS 37)	香坂玲/富吉満之	アサヒビール
2760	生産理論・生産技術	古来種野菜を食べてください。	高橋一也	晶文社
2761	生産理論・生産技術	蔬菜の新品種: 第19巻 (2016年版)		誠文堂新光社
2762	生産理論・生産技術	固定種野菜の種と育て方: SEED TO SEED	野口勲/関野幸生	創森社
2763	生産理論・生産技術	野菜品種はこうして選ぼう: つくって引っぱりだこ、売り上げ増に	鈴木光一	創森社
2764	生産理論・生産技術	北海道の菜園向け品種: タネ屋さんに聞いた売れ筋	安達英人	北海道協同組合通信社
2765	生産理論・生産技術	マルハナバチを使いこなす: より元気に長く働いてもらうコツ	光畑雅宏	農山漁村文化協会
2766	生産理論・生産技術	伝統野菜をつくった人々: 「種子屋」の近代史	阿部希望	農山漁村文化協会
2767	生産理論・生産技術	いちばんよくわかる超図解土と肥料入門		家の光協会
2768	生産理論・生産技術	野菜の植えつけと種まきの裏ワザ: 伝承農法を活かす	木嶋利男	家の光協会
2769	生産理論・生産技術	野菜の病害虫ハンドブック: 症状と原因が写真でわかる	草間祐輔	家の光協会
2770	生産理論・生産技術	家庭菜園の病気と害虫: 見分け方と防ぎ方, 新版	米山伸吾/木村裕	農山漁村文化協会
2771	生産理論・生産技術	原色野菜の病害虫診断事典		農山漁村文化協会
2772	生産理論・生産技術	農家が教えるキュウリ・ウリ類づくり: ゴーヤ・ヘチマ・ユウガオ・ヒョウタン		農山漁村文化協会
2773	生産理論・生産技術	キュウリの生理生態と栽培技術: 品種選択・安定生産を重視する (野菜の栽培技術シリーズ)	稲山光男	誠文堂新光社
2774	生産理論・生産技術	スイカの生理生態と生産事例: 高品質安定生産を狙う (野菜の栽培技術シリーズ)		誠文堂新光社
2775	生産理論・生産技術	スイカの作業便利帳	中山淳/町田剛史	農山漁村文化協会
2776	生産理論・生産技術	メロンとスイカの歴史 (「食」の図書館)	シルヴィア・ラブグレン	原書房
2777	生産理論・生産技術	ナス栽培の基礎と実際	河野隆道	農山漁村文化協会
2778	生産理論・生産技術	農家が教えるナスづくり		農山漁村文化協会
2779	生産理論・生産技術	消費者志向を重視したトマトの栽培技術 (野菜の栽培技術シリーズ)	青木宏史	誠文堂新光社
2780	生産理論・生産技術	トマトをめぐる知の探検	杉山信男	東京農業大学出版会
2781	生産理論・生産技術	トマト オランダの多収技術と理論: 100トンどりの秘密	エベ・フウーヴェリンク	農山漁村文化協会
2782	生産理論・生産技術	トマト・メロンの自然流栽培: 多本仕立て、溝施肥、野草帯で無農薬	小川光	農山漁村文化協会
2783	生産理論・生産技術	トマトの作業便利帳: 失敗しない作業の段取りと手順	白木己歳	農山漁村文化協会
2784	生産理論・生産技術	トマトの長期多段どり栽培: 生育診断と温度・環境制御	吉田剛	農山漁村文化協会
2785	生産理論・生産技術	トマト大事典		農山漁村文化協会
2786	生産理論・生産技術	夏秋トマト栽培マニュアル: だれでもできる生育の見方・つくり方, 新版	後藤敏美	農山漁村文化協会
2787	生産理論・生産技術	農家が教えるトマトづくり		農山漁村文化協会
2788	生産理論・生産技術	ピーマン・カラーピーマンの作業便利帳	布村伊	農山漁村文化協会
2789	生産理論・生産技術	イチゴの基礎知識: 生態と栽培技術 (農業の知識シリーズ)	森下昌三	誠文堂新光社
2790	生産理論・生産技術	まるごとわかるイチゴ: 基礎知識、栽培技術、品種解説、海外動向まで完全網羅 (農耕と園芸ブックス)	西澤隆	誠文堂新光社
2791	生産理論・生産技術	イチゴづくりの基礎と実際	齋藤弥生子	農山漁村文化協会
2792	生産理論・生産技術	イチゴ大事典		農山漁村文化協会
2793	生産理論・生産技術	これで防げるイチゴの炭疽病、萎黄病	石川成寿	農山漁村文化協会
2794	生産理論・生産技術	農家が教えるイチゴづくり		農山漁村文化協会
2795	生産理論・生産技術	希望のイチゴ: 最難関の無農薬・無肥料栽培に挑む	田中裕司	扶桑社
2796	生産理論・生産技術	日本のイチゴ: 生理生態特性と作型・栽培技術	施山紀男	養賢堂
2797	生産理論・生産技術	ラッカセイ: 栽培・加工、ゆで落花生も (新特産シリーズ)	鈴木一男	農山漁村文化協会
2798	生産理論・生産技術	落花生 (ものと人間の文化史 154)	前田和美	法政大学出版局
2799	生産理論・生産技術	サトイモ: 栽培から貯蔵、種芋生産まで (新特産シリーズ)	松本美枝子	農山漁村文化協会
2800	生産理論・生産技術	ヤマイモとアマゾン有用植物の可能性を探る	豊原秀和	東京農業大学出版会
2801	生産理論・生産技術	ごぼう (ものと人間の文化史 170)	富岡典子	法政大学出版局
2802	生産理論・生産技術	レンコン: 栽培から加工・販売まで (新特産シリーズ)	沢田英司	農山漁村文化協会
2803	生産理論・生産技術	脱サラ就農、九条ねぎで年商10億円: 京都発 新・農業経営のカタチ	山田敏之	PHP研究所
2804	生産理論・生産技術	タマネギとニンニクの歴史 (「食」の図書館)	マーサ・ジェイ	原書房

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
2805	生産理論・生産技術	下仁田ねぎの本		上毛新聞社事業局出版部
2806	生産理論・生産技術	ネギの生理生態と生産事例: 高収益安定生産を実現する, 新訂 (野菜の栽培技術シリーズ)		誠文堂新光社
2807	生産理論・生産技術	タマネギの作業便利帳	大西忠男/田中静幸	農山漁村文化協会
2808	生産理論・生産技術	ネギの安定多収栽培: 秋冬・夏秋・春・初夏どりから葉ネギ、短葉ネギまで	松本美枝子	農山漁村文化協会
2809	生産理論・生産技術	アスパラガスの生理生態と生産事例: 高品質多収を実現する (野菜の栽培技術シリーズ)		誠文堂新光社
2810	生産理論・生産技術	世界と日本のアスパラガス: 国際化時代の日本のアスパラガス栽培	元木悟	養賢堂
2811	生産理論・生産技術	ブロッコリーの生理生態と生産事例: 省力安定生産を実現する (野菜の栽培技術シリーズ)		誠文堂新光社
2812	生産理論・生産技術	イラストでわかる有機自給菜園: 無農薬栽培、堆肥づくりから自家採種、エネルギー自給まで	金子美登	家の光協会
2813	生産理論・生産技術	イラスト基本からわかる土と肥料の作り方・使い方		家の光協会
2814	生産理論・生産技術	伝承農法を活かすマンガでわかる家庭菜園の裏ワザ	木嶋利男	家の光協会
2815	生産理論・生産技術	有機・無農薬のおいしい野菜づくり: 決定版 (暮らしの実用シリーズ Gardening)		学研パブリッシング
2816	生産理論・生産技術	有機・無農薬栽培で安全安心な野菜づくり: 佐倉教授「直伝」!	佐倉創夫	講談社
2817	生産理論・生産技術	有機・無農薬でできる野菜づくり大事典: 堆肥・腐葉土・ぼかし肥づくりからコンパニオンプランツ・病害虫・雑草対策まで	金子美登	成美堂出版
2818	生産理論・生産技術	まるごとわかる!野菜づくり手帖: 栄養・しくみ・育て方		池田書店
2819	生産理論・生産技術	耕せど耕せど: 久我山農場物語	伊藤礼	東海教育研究所
2820	生産理論・生産技術	家庭菜園だからできる無農薬栽培: 少し科学してみよう	古谷正	東京農業大学出版会
2821	生産理論・生産技術	プランターで有機栽培: 1 土づくり・タネとり・苗づくり	安藤康夫	農山漁村文化協会
2822	生産理論・生産技術	プランターで有機栽培: 2 種類別野菜がよこご育て方	安藤康夫	農山漁村文化協会
2823	生産理論・生産技術	用土を変えずに連作できるプランターの田畑リレー栽培	中島康甫	農山漁村文化協会
2824	生産理論・生産技術	滞在型市民農園でムラを救う: 地域支援長期滞在型市民農園の試み	東正則	農林統計出版
2825	生産理論・生産技術	滞在型市民農園をゆく: 都市農村交流の私的検証	東正則	農林統計出版
2826	生産理論・生産技術	方法としての菜園 (叢書L'ESPRIT NOUVEAU 26)	高堂敏治	白地社
2827	生産理論・生産技術	しあわせも収穫する農業体験農園	成清禎亮/川口進	不知火書房
2828	生産理論・生産技術	小花図鑑: かわいい小花を、センスよく取り入れるための植物ガイド	黒田健太郎/黒田和義	グラフィック社
2829	生産理論・生産技術	美しい花言葉・花図鑑: 彩りと物語を楽しむ	二宮孝嗣	ナツメ社
2830	生産理論・生産技術	日本の花卉園芸 光と影: 歴史・文化・産業 (シリーズ・いま日本の「農」を問う 11)	今西英雄/福井博一	ミネルヴァ書房
2831	生産理論・生産技術	半日陰、日陰を楽しむ: 決定版 (今日から使えるシリーズ gardening)	奥峰子	講談社
2832	生産理論・生産技術	ポトマック先生の花づくり12カ月: やさしくわかる四季の花101種の育て方	平田幸彦	時事通信出版局
2833	生産理論・生産技術	花卉園芸学, 新訂版	今西英雄	川島書店
2834	生産理論・生産技術	解説花壇綱目: 世界初の総合園芸技術書	青木宏一郎	創森社
2835	生産理論・生産技術	花卉園芸学の基礎 (農学基礎シリーズ)	腰岡政二	農山漁村文化協会
2836	生産理論・生産技術	最新農業技術花卉: vol.1 脱不況、省エネの新技術と品目・品種選び	農山漁村文化協会	農山漁村文化協会
2837	生産理論・生産技術	最新農業技術花卉: vol.2 花の魅力を高めて新しい需要をつくる	農山漁村文化協会	農山漁村文化協会
2838	生産理論・生産技術	最新農業技術花卉: vol.3 「日持ち保証販売」で変わる小売現場と栽培技術		農山漁村文化協会
2839	生産理論・生産技術	最新農業技術花卉: vol.4 香りと新花色の魅力で消費者をひきつける		農山漁村文化協会
2840	生産理論・生産技術	最新農業技術花卉: vol.5 切り花で新境地をひらく		農山漁村文化協会
2841	生産理論・生産技術	最新農業技術花卉: vol.6 特集ホームユース用新材の生産技術		農山漁村文化協会
2842	生産理論・生産技術	最新農業技術花卉: vol.7 特集進化する「日持ち保証」の栽培技術		農山漁村文化協会
2843	生産理論・生産技術	最新農業技術花卉: vol.8 特集EOD変温管理で省エネ・高品質		農山漁村文化協会
2844	生産理論・生産技術	最新農業技術花卉: vol.9 特集小ギク&スプレーギク栽培最前線		農山漁村文化協会
2845	生産理論・生産技術	最新農業技術花卉: vol.10 特集切り花ダリア栽培最前線		農山漁村文化協会
2846	生産理論・生産技術	観賞園芸学		文永堂出版
2847	生産理論・生産技術	北陸の花づくり: きれいな咲かせ方と観賞, 新装版	東保之	北國新聞社
2848	生産理論・生産技術	花卉園芸総論, 改訂版	大川清	養賢堂
2849	生産理論・生産技術	花の辞典: Flower's Dictionary	新井光史	雷鳥社
2850	生産理論・生産技術	花の文化史: 花の歴史をつくった人々, 復刻	春山行夫	日本図書センター
2851	生産理論・生産技術	図説花と庭園の文化史事典	ガブリエル・ターギット	八坂書房
2852	生産理論・生産技術	花の園芸事典: The Encyclopedia of Ornamental Horticulture		朝倉書店
2853	生産理論・生産技術	花卉園芸の事典, 新装版		朝倉書店
2854	生産理論・生産技術	庭の花 (新ヤマケイポケットガイド 12)	鈴木庸夫	山と溪谷社
2855	生産理論・生産技術	いちばん探しやすいフローリスト花図鑑		世界文化社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
2856	生産理論・生産技術	花と木の名前事典: 大きな写真でよくわかる!		西東社
2857	生産理論・生産技術	持ち歩き!花の事典970種: 知りたい花の名前がわかる		西東社
2858	生産理論・生産技術	色・季節でひける花の事典820種		西東社
2859	生産理論・生産技術	花き生産出荷統計: 平成28年産		農林統計協会
2860	生産理論・生産技術	ガーデニング植物誌	大場秀章	八坂書房
2861	生産理論・生産技術	コスモスの謎: 色も香りもチョコそっくり!?チョコレートコスモス大研究	奥隆善	誠文堂新光社
2862	生産理論・生産技術	花の品種改良の日本史: カラー版		悠書館
2863	生産理論・生産技術	電照栽培の基礎と実践: 光の質・量・タイミングで植物をコントロール		誠文堂新光社
2864	生産理論・生産技術	切り花の鮮度・品質保持基礎と実践: 日持ちが消費のカギになる(農業の知識シリーズ)	市村一雄	誠文堂新光社
2865	生産理論・生産技術	切り花の品質保持	市村一雄	筑波書房
2866	生産理論・生産技術	切り花の日持ち技術: 60品目の切り前と品質保持	市村一雄	農山漁村文化協会
2867	生産理論・生産技術	変化朝顔図鑑: アサガオとは思えない珍花奇葉の世界	仁田坂英二	化学同人
2868	生産理論・生産技術	朝顔百科: アサガオの栽培・仕立てから園芸文化史まで		誠文堂新光社
2869	生産理論・生産技術	庭をきれいに見せる宿根草の選び方・使い方	山本規昭	家の光協会
2870	生産理論・生産技術	四季の宿根草図鑑: 決定版	荻原範雄	講談社
2871	生産理論・生産技術	キクをつくりこなす	大石一史	農山漁村文化協会
2872	生産理論・生産技術	キク大事典		農山漁村文化協会
2873	生産理論・生産技術	図解菊つくりコソのコソ: これなら誰でも名人芸, 決定版	上村遙	農山漁村文化協会
2874	生産理論・生産技術	食虫植物の世界: 420種(アクアライフの本)	田辺直樹	エムピージェー
2875	生産理論・生産技術	クレマチスの咲く庭づくり: Create Your Own Beautiful Clematis Garden	及川洋磨	講談社
2876	生産理論・生産技術	さくらそうアラカルト: 江戸園芸への誘い	茂田井宏/茂田井円	小学館スクウェア
2877	生産理論・生産技術	桜草栽培の歴史, 第2版	竹岡泰通	創英社
2878	生産理論・生産技術	食虫植物ハンドブック: ネベンテスとその仲間たち	土居寛文	双葉社
2879	生産理論・生産技術	温室カーネーションの施肥、光合成と栽培法の研究	三浦泰昌	東京農業大学出版会
2880	生産理論・生産技術	世界の花蓮図鑑: Photographic Reference Book of World Lotus Flowers		勉誠出版
2881	生産理論・生産技術	チューリップよもやま話	木村敬助	西田書店
2882	生産理論・生産技術	世界の原種系球根植物1000: 250属1000種の紹介と栽培法・種やし方・品種改良から寄せ植えの楽しみ方まで(ガーデンライフシリーズ)	椎野昌宏/小森谷慧	誠文堂新光社
2883	生産理論・生産技術	ダリア(NHK趣味の園芸 よくわかる栽培12か月)	山口まり	日本放送出版協会
2884	生産理論・生産技術	庭師が教える庭木の手入れ百科: 庭木を美しく育てる知識と技術をやさしく解説	采田勲	日本文芸社
2885	生産理論・生産技術	春をいろどる: みやぎ桜見聞録(河北選書)	高階道子	河北新報出版センター
2886	生産理論・生産技術	サクラ保存林ガイド: DNA・形質・履歴による系統保存		森林総合研究所多摩森林科学園
2887	生産理論・生産技術	最新日本ツバキ図鑑		誠文堂新光社
2888	生産理論・生産技術	椿(ものと人間の文化史 168)	有岡利幸	法政大学出版局
2889	生産理論・生産技術	椿の道を拓く: 金沢発・新品種開発の軌跡	千田清司	北國新聞社
2890	生産理論・生産技術	新イングリッシュローズ	デビッド・オースチン	ガイアブックス
2891	生産理論・生産技術	はじめてのバラづくり選び方&育て方: 基礎の基礎からよくわかる(ナツメ社のGarden Books)		ナツメ社
2892	生産理論・生産技術	図説バラの世界(ふくろうの本)		河出書房新社
2893	生産理論・生産技術	ヴェネツィアのチャイナローズ: 失われた薔薇のルーツを巡る冒険	アンドレア・ディ・ロピラント	原書房
2894	生産理論・生産技術	はじめての楽々バラづくり: 手をかけなくても美しく咲く	バラの家	講談社
2895	生産理論・生産技術	新・薔薇大図鑑2200: Encyclopedia of Roses	草土出版	山と溪谷社
2896	生産理論・生産技術	魅惑のオールドローズ図鑑: 写真が語る伝統のバラ100の物語		世界文化社
2897	生産理論・生産技術	はじめてのバラとつるバラ		成美堂出版
2898	生産理論・生産技術	美しく咲かせるバラ栽培の教科書: 決定版		西東社
2899	生産理論・生産技術	オーガニック・ローズ358: 私が育てたおすすめ無農薬バラ		築地書館
2900	生産理論・生産技術	バラの香りの美学(かもめの本棚)	蓬田バラの香り研究所	東海教育研究所
2901	生産理論・生産技術	サボテン: PETCHTAMSEEの写真図鑑	カイモック・チャウィーワナコン	グラフィック社
2902	生産理論・生産技術	おもしろい多肉植物350: 特徴がよくわかる	長田研	家の光協会
2903	生産理論・生産技術	「多肉植物の名前」400がよくわかる図鑑		主婦と生活社
2904	生産理論・生産技術	多肉植物ハンディ図鑑: サボテン&多肉植物800種類を紹介!		主婦の友社
2905	生産理論・生産技術	ハオルチアアカデミー写真集: 原種から交配種・斑入りまで網羅: Vol.1		新日本教育図書
2906	生産理論・生産技術	ハオルチアアカデミー写真集: 原種から交配種・斑入りまで網羅: Vol.2		新日本教育図書

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
2907	生産理論・生産技術	ハオルチアアカデミー写真集: 原種から交配種・斑入りまで網羅: Vol.3		日本カクタス企画社
2908	生産理論・生産技術	日本のアジサイ図鑑	川原田邦彦/三上常夫	柏書房
2909	生産理論・生産技術	盆栽の誕生	依田徹	大修館書店
2910	生産理論・生産技術	手軽に楽しむ苔園芸コソのコソ: 苔玉・苔鉢盆栽・苔盆景・木付け・石付け・テラリウム・苔庭	手塚直人/岡田雅善	農山漁村文化協会
2911	生産理論・生産技術	鉢花ハンディ事典: 栽培カレンダーですぐわかる: 春～夏編	長岡求	NHK出版
2912	生産理論・生産技術	鉢花ハンディ事典: 栽培カレンダーですぐわかる: 秋～早春編 140の鉢花約400品種を収録。	長岡 求	NHK出版
2913	生産理論・生産技術	クリエイティブ・コンテナガーデン: ワンランク上の寄せ植えのためのアイデアとテクニック	松田一良	誠文堂新光社
2914	生産理論・生産技術	花色見本帖: 色で探せる花図鑑		世界文化社
2915	生産理論・生産技術	カール・フッシュ花のある大地に生きる: ノルマンディーの農園から	カール・フッシュ	誠文堂新光社
2916	生産理論・生産技術	ジョルジュ・フランソワ花の教科書: Mon étude de fleurs-フランス花界の巨匠のエスプリとテクニック	ジョルジュ・フランソワ	誠文堂新光社
2917	生産理論・生産技術	花政のしごと: 京都文久元年創業		青幻舎
2918	生産理論・生産技術	植物生態観察図鑑: おどろき編	本多郁夫	全国農村教育協会
2919	生産理論・生産技術	感じる花: 薬効・芸術・ダーウィンの庭	スティーブン・バックマン	築地書館
2920	生産理論・生産技術	考える花: 進化・園芸・生殖戦略	スティーブン・バックマン	築地書館
2921	生産理論・生産技術	植物ラテン語事典: ヴィジュアル版	ロレイン・ハリソン	原書房
2922	生産理論・生産技術	植物別名辞典		日外アソシエーツ
2923	生産理論・生産技術	レッドデータプラント: 絶滅危惧植物図鑑: 増補改訂新版		山と溪谷社
2924	生産理論・生産技術	新分類牧野日本植物図鑑: NEW MAKINO'S ILLUSTRATED FLORA OF JAPAN: New Systematics Edition	牧野富太郎	北隆館
2925	生産理論・生産技術	面白くて眠れなくなる植物学	稲垣栄洋	PHPエディターズ・グループ
2926	生産理論・生産技術	はつみみ植物園		東京書籍
2927	生産理論・生産技術	植物の科学, 改訂版(放送大学教材)	塚谷裕一/荒木崇	放送大学教育振興会
2928	生産理論・生産技術	植物バイオテクノロジー(新バイオテクノロジーテキストシリーズ)	池上正人	理工図書
2929	生産理論・生産技術	植物の形には意味がある(BERET SCIENCE)	園池公毅	ベレ出版
2930	生産理論・生産技術	植物細胞壁実験法	石井忠/石水毅	弘前大学出版会
2931	生産理論・生産技術	世界で一番美しい植物細胞図鑑: エディンバラ王立植物園公認	スティーヴン・ブラックモア	創元社
2932	生産理論・生産技術	種子: 人類の歴史をつくった植物の華麗な戦略	ゾーア・ハンソン	白揚社
2933	生産理論・生産技術	植物は(知性)をもっている: 20の感覚で思考する生命システム	ステファノ・マンクーゾ/アレクサンドラ・ヴィオラ	NHK出版
2934	生産理論・生産技術	植物は(未来)を知っている: 9つの能力から芽生えるテクノロジー革命	ステファノ・マンクーゾ	NHK出版
2935	生産理論・生産技術	絵とき植物生理学入門, 改訂3版	山本良一/曾我康一	オーム社
2936	生産理論・生産技術	植物の体の中では何が起きているのか: 動かない植物が生きていくためのしくみ(BERET SCIENCE)	嶋田幸久/萱原正嗣	ベレ出版
2937	生産理論・生産技術	送粉生態学調査法(生態学フィールド調査法シリーズ 2)	酒井章子	共立出版
2938	生産理論・生産技術	テイツ/ザイガー植物生理学・発生学		講談社
2939	生産理論・生産技術	新しい植物ホルモンの科学, 第3版	浅見忠男/柿辰辰男	講談社
2940	生産理論・生産技術	しくみと原理で解き明かす植物生理学	佐藤直樹	裳華房
2941	生産理論・生産技術	植物の奇妙な生活: カラー版	ヴォルフガング・シュトゥッペー/ロブ・ケスラー	創元社
2942	生産理論・生産技術	植物生理学概論, 改訂版	桜井英博/柴岡弘郎	培風館
2943	生産理論・生産技術	身近な雑草の芽生えハンドブック	浅井元朗	文一総合出版
2944	生産理論・生産技術	身近な雑草の芽生えハンドブック: 2	浅井元朗	文一総合出版
2945	生産理論・生産技術	植物 奇跡の化学工場: 光合成・菌との共生から有毒物質まで	黒柳正典	築地書館
2946	生産理論・生産技術	植物生態学	大原雅	海游舎
2947	生産理論・生産技術	身近な雑草の生物学	根本正之/富永達	朝倉書店
2948	生産理論・生産技術	植物群集の構造と多様性の解析(生態学フィールド調査法シリーズ 3)	佐々木雄大/小山明日香	共立出版
2949	生産理論・生産技術	日本の水草(ネイチャーガイド)	角野康郎	文一総合出版
2950	生産理論・生産技術	森を食べる植物: 腐生植物の知られざる世界	塚谷裕一	岩波書店
2951	生産理論・生産技術	キューガーデンの植物誌	キャシー・ウイリス/キャロリン・フライ	原書房
2952	生産理論・生産技術	世界植物記: WORLD FLOWERS: アフリカ・南アメリカ編	木原浩	平凡社
2953	生産理論・生産技術	世界植物記: WORLD FLOWERS: アジア・オセアニア編	木原浩	平凡社
2954	生産理論・生産技術	ウォッチング日本の固有植物		東海大学出版会
2955	生産理論・生産技術	粘菌: 知性のはじまりとそのサイエンス	ジャスパー・シャープ/ティム・グラハム	誠文堂新光社
2956	生産理論・生産技術	菌世界紀行: 誰も知らないきのこを追って(岩波科学ライブラリー 245)	星野保	岩波書店
2957	生産理論・生産技術	キノコとカビの生態学: 枯れ木の中は戦国時代(共立スマートセレクション 19)	深澤遊	共立出版

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
2958	生産理論・生産技術	基礎から学べる菌類生態学: Basic Fungal Ecology	大園享司	共立出版
2959	生産理論・生産技術	菌類の生物学: 分類・系統・生態・環境・利用		共立出版
2960	生産理論・生産技術	驚きの菌ワールド: 菌類の知られざる世界		東海大学出版部
2961	生産理論・生産技術	菌類のふしぎ: 形とはたらきの驚異の多様性, 第2版 (国立科学博物館叢書 9)		東海大学出版部
2962	生産理論・生産技術	キノコと人間: 医薬・幻覚・毒キノコ	ニコラス・マナー	築地書館
2963	生産理論・生産技術	となりの地衣類: 地味で身近なふしぎの菌類ウォッチング	盛口満	八坂書房
2964	生産理論・生産技術	イチヨウ奇跡の2億年史: 生き残った最古の樹木の物語	ピーター・クレイン	河出書房新社
2965	生産理論・生産技術	図解知識ゼロからの林業入門: 育林 加工 流通 歴史 制度 森の活用		家の光協会
2966	生産理論・生産技術	業務で使う林業QGIS徹底使いこなしガイド	喜多耕一	全国林業改良普及協会
2967	生産理論・生産技術	森と人間の文化史, 新版 (NHKブックス 1167)	只木良也	日本放送出版協会
2968	生産理論・生産技術	行こう「玉手箱の森」	矢部三雄	日本林業調査会
2969	生産理論・生産技術	基礎から学ぶ森と木と人の暮らし	鈴木京子/赤堀楠雄	農山漁村文化協会
2970	生産理論・生産技術	森の「恵み」は幻想か: 科学者が考える森と人の関係 (DOJIN選書 46)	蔵光光一郎	化学同人
2971	生産理論・生産技術	森林総合科学用語辞典, 新版		東京農業大学出版会
2972	生産理論・生産技術	森林の百科, 普及版		朝倉書店
2973	生産理論・生産技術	森林大百科事典		朝倉書店
2974	生産理論・生産技術	四手井綱英が語るこれからの日本の森林づくり	四手井綱英	ナカニシヤ出版
2975	生産理論・生産技術	森林環境と社会	西川静一	ナカニシヤ出版
2976	生産理論・生産技術	温暖化での、みどり文明: 林業ではなく森林業を	安藤勝彦	ピラールプレス
2977	生産理論・生産技術	木のみかた: 街を歩こう、森へ行こう (コーヒーと一冊 10)	三浦豊	ミシマ社京都オフィス
2978	生産理論・生産技術	森のひみつ木々のささやき: ふつうの人が森へ行く日		山形大学出版会
2979	生産理論・生産技術	山造り承ります, 増補版	島崎洋路	川辺書林
2980	生産理論・生産技術	樹木たちの知られざる生活: 森林管理官が聴いた森の声	ペーター・ヴォールレーベン	早川書房
2981	生産理論・生産技術	森林学への招待, 増補改訂版	中村徹	筑波大学出版会
2982	生産理論・生産技術	社会的共通資本としての森 (Social Common Capital)		東京大学出版会
2983	生産理論・生産技術	水俣の海辺に「いのちの森」を	宮脇昭/石牟礼道子	藤原書店
2984	生産理論・生産技術	森林(もり)のルネサンス: 先駆者から未来への発信		日本林業調査会
2985	生産理論・生産技術	森林文化群像	筒井迪夫	日本林業調査会
2986	生産理論・生産技術	林業の創生と震災からの復興	久保田宏/中村元	日本林業調査会
2987	生産理論・生産技術	森林環境: 2014 特集森と歩む日本再生	森林環境研究会	森林文化協会
2988	生産理論・生産技術	スイス式(森のひと)の育て方: 生態系を守るプロになる職業教育システム	浜田久美子	亜紀書房
2989	生産理論・生産技術	森林親和運動としての木育: ものづくりの復権と森林化社会の実現	田口浩継	九州大学出版会
2990	生産理論・生産技術	森のサステナブル・エコノミー: 現代日本の森林問題と経済社会学	大倉季久	晃洋書房
2991	生産理論・生産技術	森林/バイオマス活用の地域開発: 鍵を握る産業クラスター (広島修道大学学術選書 56)		中央経済社
2992	生産理論・生産技術	森で経済を作る: グリーンエコノミー時代を拓く		日経BP社
2993	生産理論・生産技術	日本林業はよみがえる: 森林再生のビジネスモデルを描く	梶山恵司	日本経済新聞出版社
2994	生産理論・生産技術	森林・林業・木材産業の将来予測: データ・理論・シミュレーション, 改訂		日本林業調査会
2995	生産理論・生産技術	東アジアにおける森林・木材資源の持続的利用: 経済学からのアプローチ	馬駿/今村弘子	農林統計協会
2996	生産理論・生産技術	林業構造問題研究	餅田治之/遠藤日雄	日本林業調査会
2997	生産理論・生産技術	概説REDD+: 転換期を迎える環境ビジネス	国際航業株式会社	アスキー・メディアワークス
2998	生産理論・生産技術	森林管理の理念と技術: 森林と人間の共生の道へ	山田容三	昭和堂
2999	生産理論・生産技術	石油に頼らない: 森から始める日本再生	養老孟司/日本に健全な森をつくり直す委員会	新潟日報事業社
3000	生産理論・生産技術	森林・林業はよみがえるか: 「緑のオーナー制度」裁判から見えるもの	野口俊邦	新日本出版社
3001	生産理論・生産技術	熱帯アジアの人々と森林管理制度: 現場からのガバナンス論		人文書院
3002	生産理論・生産技術	中国の森林をめぐる法政策研究 (アジア法叢書 33)	奥田進一	成文堂
3003	生産理論・生産技術	京都議定書第二約束期間に向けたA/R CDMの改善方策 (早稲田大学モノグラフ 84)	山ノ下麻木乃	早稲田大学出版部
3004	生産理論・生産技術	逐条解説公共建築物等木材利用促進法	末松広行/池淵雅和	大成出版社
3005	生産理論・生産技術	スイス林業と日本の森林: 近自然森づくり	浜田久美子	築地書館
3006	生産理論・生産技術	Collaborative Governance of Forests: Towards Sustainable Forest Resource Utilization		東京大学出版会
3007	生産理論・生産技術	森林資源管理の社会的合意形成: 沖縄やんばるの森の保全と再生	谷口恭子	東信堂
3008	生産理論・生産技術	水と森の財政学		日本経済評論社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
3009	生産理論・生産技術	「森林・林業再生プラン」を読み解く	岡田秀二	日本林業調査会
3010	生産理論・生産技術	現代森林政策学, 改訂	遠藤日雄	日本林業調査会
3011	生産理論・生産技術	森林管理の公共的制御と制度変化: スイス・日本の公有林管理と地域	志賀和人	日本林業調査会
3012	生産理論・生産技術	森林管理制度論	志賀和人	日本林業調査会
3013	生産理論・生産技術	森林の国富論: 森林「需要」再生プラン	雁金敏彦	風詠社
3014	生産理論・生産技術	温暖化対策で熱帯林は救えるか: 住民と森林保全の相利的な関係を目指して		文一総合出版
3015	生産理論・生産技術	石油に頼らない: 森から始める日本再生	養老孟司/日本に健全な森をつくり直す委員会	北海道新聞社
3016	生産理論・生産技術	解説森林法, 改訂版	森林・林業基本政策研究会	大成出版社
3017	生産理論・生産技術	森林計画業務必携: 平成25年度版		日本林業調査会
3018	生産理論・生産技術	社寺と国有林: 京都東山・嵐山の変遷と新たな連携	福田淳	日本林業調査会
3019	生産理論・生産技術	江戸・明治百姓たちの山争い裁判	渡辺尚志	草思社
3020	生産理論・生産技術	入会林野の変容と現代的意義	山下詠子	東京大学出版会
3021	生産理論・生産技術	環境の経済史: 森林・市場・国家 (岩波現代全書 033)	斎藤修	岩波書店
3022	生産理論・生産技術	日本近代林政年表: 1867-2009, 増補版	香田徹也	日本林業調査会
3023	生産理論・生産技術	蔡温と林政八書の世界 (沖縄学術研究双書 10)	仲間勇栄	榕樹書林
3024	生産理論・生産技術	林業新時代: 「自伐」がひらく農林家の未来 (シリーズ地域の再生 18)	佐藤宣子/興枅克久	農山漁村文化協会
3025	生産理論・生産技術	森林の変化と人類 (森林科学シリーズ 1)		共立出版
3026	生産理論・生産技術	世界の森大図鑑: 耳をすませ、地球の声に	山田勇	新樹社
3027	生産理論・生産技術	森林飽和: 国土の変貌を考える (NHKブックス 1193)	太田猛彦	NHK出版
3028	生産理論・生産技術	日本は森林国家です: 産業界からのアプローチ	米田雅子/日本プロジェクト産業協議会	ぎょうせい
3029	生産理論・生産技術	里山の成立: 中世の環境と資源	水野章二	吉川弘文館
3030	生産理論・生産技術	森の日本文明史	安田喜憲	古今書院
3031	生産理論・生産技術	日本の森100: 日本森林インストラクター協会選定	日本森林インストラクター協会	山と溪谷社
3032	生産理論・生産技術	山里の社会史 (史学会シンポジウム叢書)		山川出版社
3033	生産理論・生産技術	森林・林業白書: 平成29年版		全国林業改良普及協会
3034	生産理論・生産技術	日本の記録林業人列伝: vol.1	全国林業改良普及協会	全国林業改良普及協会
3035	生産理論・生産技術	日本の記録林業人列伝: vol.2	全国林業改良普及協会	全国林業改良普及協会
3036	生産理論・生産技術	日本の記録林業人列伝: vol.3		全国林業改良普及協会
3037	生産理論・生産技術	林業がつくる日本の森林	藤森隆郎	築地書館
3038	生産理論・生産技術	森林の江戸学: 徳川の歴史再発見		東京堂出版
3039	生産理論・生産技術	森林の江戸学: 徳川の歴史再発見: 2		東京堂出版
3040	生産理論・生産技術	山のきもち: 森林業が「ほっとする社会」をつくる, 第2版	山本悟	東京農業大学出版会
3041	生産理論・生産技術	日本林業を立て直す: 速水林業の挑戦	速水亨	日本経済新聞出版社
3042	生産理論・生産技術	間違いたらけの日本林業: 未来への教訓	村尾行一	日本林業調査会
3043	生産理論・生産技術	国際化時代と「地域農・林業」の再構築	井口隆史	日本林業調査会
3044	生産理論・生産技術	森をゆく: 「人と森のかかわり」を訪ねて	米倉久邦	日本林業調査会
3045	生産理論・生産技術	「植えない」森づくり: 自然が教える新しい林業の姿	大内正伸	農山漁村文化協会
3046	生産理論・生産技術	林ヲ営ム: 木の価値を高める技術と経営	赤堀楠雄	農山漁村文化協会
3047	生産理論・生産技術	森林・林業白書: 平成29年版		農林統計協会
3048	生産理論・生産技術	日本林業の構造変化と林業経営体 (林業センサス分析 2010年)	興枅克久	農林統計協会
3049	生産理論・生産技術	森林と水源地: 日本の難題を問う		万来舎
3050	生産理論・生産技術	日本の森林を考える (学びやぶっく 60 りか)	田中惣次	明治書院
3051	生産理論・生産技術	アファンの森の物語	C.W ニコル	アートデイズ
3052	生産理論・生産技術	近世飛騨林業の展開: 生業・資源・環境の視点から (近世史研究叢書 27)	高橋伸拓	岩田書院
3053	生産理論・生産技術	都市と森林: CITY AND FOREST	三俣学/新澤秀則	晃洋書房
3054	生産理論・生産技術	燃える森に生きる: インドネシア・スマトラ島 紙と油に消える熱帯林		新泉社
3055	生産理論・生産技術	ボルネオの(里)の環境学: 変貌する熱帯林と先住民の知		昭和堂
3056	生産理論・生産技術	グリム童話と森: ドイツ環境意識を育んだ「森は私たちのもの」の伝統	森涼子	築地書館
3057	生産理論・生産技術	ドイツ林業と日本の森林	岸修司	築地書館
3058	生産理論・生産技術	森林業: ドイツの森と日本林業	村尾行一	築地書館
3059	生産理論・生産技術	造林学フィールドノート	上原巖	コロナ社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
3060	生産理論・生産技術	緑を未来に: グラフ第39回全国育樹祭(岐阜・揖斐川町谷汲)	岐阜新聞社(総合メディア局出版室)	岐阜新聞社(総合メディア局出版室)
3061	生産理論・生産技術	絵でわかる樹木の育て方(絵でわかるシリーズ)	堀大才	講談社
3062	生産理論・生産技術	記念植樹と日本近代: 林学者本多静六の思想と事績(日文研叢書)	岡本貴久子	思文閣出版
3063	生産理論・生産技術	森林と土壌(森林科学シリーズ 7)		共立出版
3064	生産理論・生産技術	森林立地調査法: 森の環境を測る, 改訂版		博友社
3065	生産理論・生産技術	地図でわかる樹木の種苗移動ガイドライン		文一総合出版
3066	生産理論・生産技術	森と花粉のはなし	齋藤秀樹	ブイツーソリューション
3067	生産理論・生産技術	文化を育んできた木の香り: その機能と生活との関わり(香り選書 15)	谷田貝光克	フレグランスジャーナル社
3068	生産理論・生産技術	枯死木の中の生物多様性	Jogeir N.Stokland/Juha Siitonen	京都大学学術出版会
3069	生産理論・生産技術	森林の根系特性と構造: バイオマス算定に向けた基礎解析	苅住昇	鹿島出版会
3070	生産理論・生産技術	樹木の形の不思議		東京農業大学出版会
3071	生産理論・生産技術	冬芽ハンドブック		文一総合出版
3072	生産理論・生産技術	冬芽と環境: 成長の多様な設計図(環境Eco選書 10)		北隆館
3073	生産理論・生産技術	生物多様性(喪失)の真実: 熱帯雨林破壊のポリティカル・エコロジー	ジョン・H.ヴァンダーミア/イヴェット・ベルフェクト	みすず書房
3074	生産理論・生産技術	マングローブ林: 変わりゆく海辺の森の生態系(学術選書 079)	小見山章	京都大学学術出版会
3075	生産理論・生産技術	微生物生態学への招待: 森をめぐるミクロな世界		京都大学学術出版会
3076	生産理論・生産技術	森林と物質循環(森林科学シリーズ 8)		共立出版
3077	生産理論・生産技術	森林集水域の物質循環調査法(生態学フィールド調査法シリーズ 1)	柴田英昭	共立出版
3078	生産理論・生産技術	ミクロの森: 1㎡の原生林が語る生命・進化・地球	D.G.ハスケル	築地書館
3079	生産理論・生産技術	多種共存の森: 1000年続く森と林業の恵み	清和研二	築地書館
3080	生産理論・生産技術	マングローブ環境物理学(東海大学自然科学叢書 5)	松田義弘	東海大学出版会
3081	生産理論・生産技術	森のバランス: 植物と土壌の相互作用		東海大学出版会
3082	生産理論・生産技術	水辺の樹木誌(Natural History)	崎尾均	東京大学出版会
3083	生産理論・生産技術	「天然水の森」を科学する		日本林業調査会
3084	生産理論・生産技術	雨の日は森へ: 照葉樹林の奇怪な生き物	盛口満	八坂書房
3085	生産理論・生産技術	森の分子生態学: 遺伝子が語る森林のすがた(種生物学研究)	種生物学会	文一総合出版
3086	生産理論・生産技術	森の分子生態学: 2(種生物学研究 特別号)		文一総合出版
3087	生産理論・生産技術	樹寄せ72種+3人とのエコ・トーク: Forest Mosaic: Exploring the Biodiversity of Japan's Forests (ASAHI ECO BOOKS 29)	栗田亘	アサヒビール
3088	生産理論・生産技術	葉っぱで見わけ五感で楽しむ樹木図鑑	ネイチャー・プロ編集室	ナツメ社
3089	生産理論・生産技術	神戸・六甲山の樹木ハンドブック: 京阪神で見られる樹木351種, 増補改訂	清水孝之	ほおずき書籍
3090	生産理論・生産技術	北海道樹木図鑑: Trees & Shrubs of Hokkaido, 増補新装版(ALICE Field Library)	佐藤孝夫	亜瑠西社
3091	生産理論・生産技術	世界の樹木: 手のひらに広がる樹木の世界(ネイチャーガイド・シリーズ)		化学同人
3092	生産理論・生産技術	紅葉のきれいな樹木図鑑, ポケット版		家の光協会
3093	生産理論・生産技術	木の魅力	阿部勲/大橋英雄	海青社
3094	生産理論・生産技術	世界の巨樹と絶景の森		学研パブリッシング
3095	生産理論・生産技術	150の樹木百科図鑑	ノエル・キングズパリ	原書房
3096	生産理論・生産技術	世界の巨樹・古木: ヴィジュアル版	ジュリアン・ハイト	原書房
3097	生産理論・生産技術	絵でわかる樹木の知識(絵でわかるシリーズ)	堀大才	講談社
3098	生産理論・生産技術	樹木学事典: Encyclopedia of Dendrology	堀大才/井出雄二	講談社
3099	生産理論・生産技術	樹木見分けのポイント図鑑, 新装版		講談社
3100	生産理論・生産技術	くらべてわかる木の葉っぱ: スキャン画像で見分ける		山と溪谷社
3101	生産理論・生産技術	樹木の名前: 和名の由来と見分け方(山溪名前図鑑)		山と溪谷社
3102	生産理論・生産技術	樹木の葉: 実物スキャンで見分ける1100種類(山溪ハンディ図鑑 14)		山と溪谷社
3103	生産理論・生産技術	野山の樹木(新ヤマケイポケットガイド 15)	姉崎一馬/姉崎エミリー	山と溪谷社
3104	生産理論・生産技術	「この木の名前、なんだっけ?」というときに役立つ本: 樹木がより身近になる!		主婦の友社
3105	生産理論・生産技術	葉っぱで調べる身近な樹木図鑑: この木なんの木?, 増補改訂版	林将之	主婦の友社
3106	生産理論・生産技術	散歩の樹木図鑑: この木なんの木?がひと目でわかる!	岩槻秀明	新星出版社
3107	生産理論・生産技術	落ち葉の呼び名事典: 散歩で見かける		世界文化社
3108	生産理論・生産技術	樹皮・葉でわかる樹木図鑑: 幼木・成木・老木・花や実の写真も多数収録		成美堂出版
3109	生産理論・生産技術	葉・花・実・樹皮でひける樹木の事典600種: 身近な木の特徴がひと目でわかる!		西東社
3110	生産理論・生産技術	樹皮と冬芽: 四季を通じて樹木を観察する431種(ネイチャーウォッチングガイドブック)	鈴木庸夫/高橋冬	誠文堂新光社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
3111	生産理論・生産技術	散歩で見かける街路樹・公園樹・庭木図鑑	葛西愛	創英社
3112	生産理論・生産技術	世界で一番美しい樹皮図鑑	セドリック・ボレ	創元社
3113	生産理論・生産技術	葉っぱで見わける樹木ハンドブック		池田書店
3114	生産理論・生産技術	野の花さんぽ図鑑: 木の実と紅葉	長谷川哲雄	築地書館
3115	生産理論・生産技術	樹の力 (中部大学ブックシリーズアクタ 22)		中部大学
3116	生産理論・生産技術	樹木ガイドブック	上原敬二	朝倉書店
3117	生産理論・生産技術	心に響く樹々の物語 (NATIONAL GEOGRAPHIC)		日経ナショナルジオグラフィック社
3118	生産理論・生産技術	都会の木の花園図鑑, 新装版	石井誠治	八坂書房
3119	生産理論・生産技術	図説樹木の文化史: 知識・神話・象徴	フランシス・ケアリー	椋風舎
3120	生産理論・生産技術	都市の樹木433 (ポケット図鑑)	岩崎哲也	文一総合出版
3121	生産理論・生産技術	木のタネ検索図鑑: 同定・生態・調査法	小南陽亮/田内裕之	文一総合出版
3122	生産理論・生産技術	琉球の樹木: 奄美・沖縄~八重山の亜熱帯植物図鑑 (ネイチャーガイド)	大川智史/林将之	文一総合出版
3123	生産理論・生産技術	樹木: 検索入門, 総合版	尼川大録/長田武正	保育社
3124	生産理論・生産技術	APG樹木図鑑: スタンダード版		北隆館
3125	生産理論・生産技術	樹木讃歌: 樹木と人間の文化誌	ノエル・キングズベリー	悠書館
3126	生産理論・生産技術	秋の樹木図鑑: 紅葉・実・どんぐりで見分ける約400種	林将之	廣済堂出版
3127	生産理論・生産技術	日本の樹木, 増補改訂新版 (山溪カラー名鑑)		山と溪谷社
3128	生産理論・生産技術	千年の命 巨樹・巨木を巡る	高橋弘	新日本出版社
3129	生産理論・生産技術	樹木と木材の図鑑: 種類・特徴から材質・用途までわかる	西川栄明	創元社
3130	生産理論・生産技術	アジサイはなぜ葉にアルミ毒をためるのか: 樹木19種の個性と生き残り戦略	渡辺一夫	築地書館
3131	生産理論・生産技術	アセビは羊を中毒死させる: 樹木の個性と生き残り戦略	渡辺一夫	築地書館
3132	生産理論・生産技術	イタヤカエデはなぜ自ら幹を枯らすのか: 樹木の個性と生き残り戦略	渡辺一夫	築地書館
3133	生産理論・生産技術	樹と暮らす: 家具と森林生態	清和研二/有賀恵一	築地書館
3134	生産理論・生産技術	図説日本の樹木	鈴木和夫/福田健二	朝倉書店
3135	生産理論・生産技術	日本樹木誌: 1		日本林業調査会
3136	生産理論・生産技術	花と樹木と日本人	有岡利幸	八坂書房
3137	生産理論・生産技術	樹木と名字と日本人: 暮らしの草木文化誌	有岡利幸	八坂書房
3138	生産理論・生産技術	日本一の巨木図鑑: 樹種別日本一の魅力120 (列島自然めぐり)		文一総合出版
3139	生産理論・生産技術	日本の巨樹: 1000年を生きる神秘	高橋弘	宝島社
3140	生産理論・生産技術	知りたい北海道の木100: 身近な街路樹・庭木・公園樹	佐藤孝夫	亜細亜社
3141	生産理論・生産技術	北海道の森林	北方森林学会	北海道新聞社
3142	生産理論・生産技術	東京名木探訪: プロの目線で散策気分	近田文弘	技術評論社
3143	生産理論・生産技術	公園・神社の樹木: 樹木の個性と日本の歴史	渡辺一夫	築地書館
3144	生産理論・生産技術	ぼくは高尾山の森林保護員 (私の大学)テキスト版 4)	宮入芳雄	こぶし書房
3145	生産理論・生産技術	森の巨人たち: 巨樹と出会う一近畿とその周辺の山	草川啓三	ナカニシヤ出版
3146	生産理論・生産技術	京都 神社と寺院の森: 京都の社叢めぐり	渡辺弘之	ナカニシヤ出版
3147	生産理論・生産技術	世界遺産春日山原始林: 照葉樹林とシカをめぐる生態と文化	多川俊映	ナカニシヤ出版
3148	生産理論・生産技術	被爆樹巡礼: 原爆から蘇ったヒロシマの木と証言者の記憶	杉原梨江子	実業之日本社
3149	生産理論・生産技術	山口県の巨樹・巨木入門ガイド	石井静也	梓書院
3150	生産理論・生産技術	厳選九州の巨樹・巨木巡り入門ガイド	本田守/石井静也	梓書院
3151	生産理論・生産技術	福岡県の厳選巨樹・巨木巡り: 入門ガイド	石井静也	梓書院
3152	生産理論・生産技術	熱帯雨林のポリティカル・エコロジー: 先住民・資源・グローバリゼーション	金沢謙太郎	昭和堂
3153	生産理論・生産技術	イギリスの美しい樹木: 魅力あふれる自生の森 (アルケミスト双書)	アンディ・トンプソン	創元社
3154	生産理論・生産技術	樹木の実生図鑑: 芽生えと樹形形成	八田洋章	文一総合出版
3155	生産理論・生産技術	森林遺伝育種学		文永堂出版
3156	生産理論・生産技術	沙漠を森に: 温暖化への処方箋 (成蹊大学アジア太平洋研究センター叢書)	小島紀徳/江頭靖幸	コロナ社
3157	生産理論・生産技術	環境を守る森をつくる	原田洋/矢ヶ崎朋樹	海青社
3158	生産理論・生産技術	内発的自然感覚で育みあう将来世代: インド植林プロジェクトを通して学ぶ	矢崎勝彦	地湧社
3159	生産理論・生産技術	菌と世界の森林再生	小川真	築地書館
3160	生産理論・生産技術	土岐川・庄内川源流 森の健康診断: 恵那の森からの学び (中部大学ブックシリーズアクタ 26)	上野薫/南基泰	中部大学
3161	生産理論・生産技術	環境保全林: 都市に造成された樹木のつくりとはたらき	原田洋/石川孝之	東海大学出版部

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
3162	生産理論・生産技術	黄土高原・緑を紡ぎだす人々:「緑聖」朱序弼をめぐる動きと語り(東洋文化研究所叢刊 第24輯)		風響社
3163	生産理論・生産技術	スギ巨木物語:天然林の奇跡	平英彰	日本林業調査会
3164	生産理論・生産技術	杉:1(ものと人間の文化史 149-1)	有岡利幸	法政大学出版局
3165	生産理論・生産技術	杉:2(ものと人間の文化史 149-2)	有岡利幸	法政大学出版局
3166	生産理論・生産技術	檜(ものと人間の文化史 153)	有岡利幸	法政大学出版局
3167	生産理論・生産技術	広葉樹の文化:雑木林は宝の山である		海青社
3168	生産理論・生産技術	落葉樹林の進化史:恐竜時代から続く生態系の物語	R.A.アスキズ	築地書館
3169	生産理論・生産技術	広葉樹の森づくり		日本林業調査会
3170	生産理論・生産技術	桐(地域資源を活かす生活工芸双書)	八重樫良暉/猪ノ原武史	農山漁村文化協会
3171	生産理論・生産技術	照葉樹ハンドブック	林将之	文一総合出版
3172	生産理論・生産技術	タブノキ(ものと人間の文化史 165)	山形健介	法政大学出版局
3173	生産理論・生産技術	楠(ものと人間の文化史 151)	矢野憲一/矢野高陽	法政大学出版局
3174	生産理論・生産技術	柳(ものと人間の文化史 162)	有岡利幸	法政大学出版局
3175	生産理論・生産技術	樺(ものと人間の文化史 176)	有岡利幸	法政大学出版局
3176	生産理論・生産技術	竹(日本の原点シリーズ 6)		新建新聞社
3177	生産理論・生産技術	竹徹底活用術:荒れた竹林を宝に変える!(現代農業特選シリーズ 4 DVDでもっとわかる 4)		農山漁村文化協会
3178	生産理論・生産技術	瓦礫を活かす森の防波堤:植樹による復興プランが日本を救う!増補新版	宮脇昭	学研パブリッシング
3179	生産理論・生産技術	森林と災害(森林科学シリーズ 3)		共立出版
3180	生産理論・生産技術	津波と海岸林:バイオシールドの減災効果	佐々木寧/田中規夫	共立出版
3181	生産理論・生産技術	日本の屋敷林文化:美しい樹木景観を求めて(YAMAKEI CREATIVE SELECTION Pioneer Books)	石村真一	山と溪谷社
3182	生産理論・生産技術	松林が命を守る:高田松原の再生を願う	遠山益	第三文明社
3183	生産理論・生産技術	関東地方の屋敷林	不破正仁	中央公論美術出版
3184	生産理論・生産技術	水源の森づくり五十年:水源林造成事業の記録	高橋利見	朝日新聞出版
3185	生産理論・生産技術	森をとりもどすために	林 隆久	海青社
3186	生産理論・生産技術	森をとりもどすために:2 林木の育種		海青社
3187	生産理論・生産技術	熱帯林の紛争管理:保護と利用の対立を超えて	原田一宏	原人舎
3188	生産理論・生産技術	災害防止のための樹木管理:倒木・落枝等による人命、文化財・建造物の被害防止	吉澤光三	日本樹木育成研究会
3189	生産理論・生産技術	いのちの森と水のプロジェクト(コミュニティ・ブックス)		日本地域社会研究所
3190	生産理論・生産技術	モデルフォレスト運動論	小澤善照	日本林業調査会
3191	生産理論・生産技術	森林破壊の歴史(明石ライブラリー 145)	井上貴子	明石書店
3192	生産理論・生産技術	みどりの市民参加:森と社会の未来をひらく	木平勇吉	日本林業調査会
3193	生産理論・生産技術	熱帯雨林コネクション:マレーシア木材マフィアを追って	ルーカス・シュトラウマン	緑風出版
3194	生産理論・生産技術	樹木診断調査法:Diagnosis Method of Tree Health	堀大才/堀大才	講談社
3195	生産理論・生産技術	樹木医が教える緑化樹木事典:病気・虫害・管理のコツがすぐわかる!増補改訂 ハンディ版		誠文堂新光社
3196	生産理論・生産技術	森とカビ・キノコ:樹木の枯死と土壌の変化	小川真	築地書館
3197	生産理論・生産技術	樹木医ことはじめ:樹木の文化・健康と保護、そして樹木医の多様な活動(植物医科学叢書 No.3)		農林産業研究所
3198	生産理論・生産技術	獣害対策最前線(林業改良普及双書 No.168)		全国林業改良普及協会
3199	生産理論・生産技術	シカと日本の森林		築地書館
3200	生産理論・生産技術	シカの脅威と森の未来:シカ柵による植生保全の有効性と限界		文一総合出版
3201	生産理論・生産技術	木質昆虫学序説	岩田隆太郎	九州大学出版会
3202	生産理論・生産技術	環境時代のオレゴン州林業:森林施業法と木材生産の再編	大塚生美	日本林業調査会
3203	生産理論・生産技術	森林リモートセンシング:基礎から応用まで、第4版	加藤正人	日本林業調査会
3204	生産理論・生産技術	図説森林土木と地形・地質	牧野道幸	日本治山治水協会
3205	生産理論・生産技術	道づくりの施工技術:現場図解	岡橋清元	全国林業改良普及協会
3206	生産理論・生産技術	刈払機安全作業ガイド:基本と実践	石垣正喜	全国林業改良普及協会
3207	生産理論・生産技術	林業現場人道具と技:Vol.1 チェーンソーのメンテナンス徹底解説	全国林業改良普及協会	全国林業改良普及協会
3208	生産理論・生産技術	林業現場人道具と技:Vol.2 伐倒スタイルの研究北欧・日本の達人技	全国林業改良普及協会	全国林業改良普及協会
3209	生産理論・生産技術	林業現場人道具と技:Vol.3 刈払機の徹底活用術	全国林業改良普及協会	全国林業改良普及協会
3210	生産理論・生産技術	林業現場人道具と技:Vol.4 正確な伐倒を極める		全国林業改良普及協会
3211	生産理論・生産技術	林業現場人道具と技:Vol.5 特殊伐採という仕事		全国林業改良普及協会
3212	生産理論・生産技術	林業現場人道具と技:Vol.6 徹底図解搬出間伐の仕事		全国林業改良普及協会

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
3213	生産理論・生産技術	林業現場人道具と技: Vol.7 ズバリ架線が分かる現場技術大図解		全国林業改良普及協会
3214	生産理論・生産技術	林業現場人道具と技: Vol.8 パノラマ図解重機の現場テクニック		全国林業改良普及協会
3215	生産理論・生産技術	林業現場人道具と技: Vol.9 広葉樹の伐倒を極める		全国林業改良普及協会
3216	生産理論・生産技術	林業現場人道具と技: Vol.10 大公開これが特殊伐採の技術だ		全国林業改良普及協会
3217	生産理論・生産技術	林業現場人道具と技: Vol.11 稼ぐ造材・採材の研究		全国林業改良普及協会
3218	生産理論・生産技術	林業現場人道具と技: Vol.12 私の安全流儀「自分の命は、自分で守る」		全国林業改良普及協会
3219	生産理論・生産技術	林業現場人道具と技: Vol.13 材を引っ張る技術いろいろ, 新版		全国林業改良普及協会
3220	生産理論・生産技術	林業現場人道具と技: Vol.14 搬出間伐の段取り術		全国林業改良普及協会
3221	生産理論・生産技術	林業現場人道具と技: Vol.15 難しい木の伐倒方法		全国林業改良普及協会
3222	生産理論・生産技術	林業現場人道具と技: Vol.16 安全・正確の追求		全国林業改良普及協会
3223	生産理論・生産技術	林業現場人道具と技: Vol.17 皆伐の進化形を探る		全国林業改良普及協会
3224	生産理論・生産技術	英・中・日林業機械化工学用語辞典: ENGLISH-CHINESE-JAPANESE SCIENTIFIC TERM GLOSSARY ON FORESTRY MECHANIZATION & ENGINEERING	山脇三平/王月仁	日本林業調査会
3225	生産理論・生産技術	立山砂防の防災システムを世界遺産に: 日本固有の防災遺産	五十嵐敬喜/岩槻邦男	ブックエンド
3226	生産理論・生産技術	森里海連環学: 森から海までの統合的管理を目指して, 改訂増補		京都大学学術出版会
3227	生産理論・生産技術	水と土と森の科学	谷誠	京都大学学術出版会
3228	生産理論・生産技術	現代砂防学概論		古今書院
3229	生産理論・生産技術	微地形砂防の実際: 微地形判読から砂防計画まで	大石道夫	鹿島出版会
3230	生産理論・生産技術	水を守りに、森へ: 地下水の持続可能性を求めて (筑摩選書 0032)	山田健	筑摩書房
3231	生産理論・生産技術	環境緑化の事典, 普及版		朝倉書店
3232	生産理論・生産技術	「水を育む森」の混迷を解く: 「注目する要因だけの科学」から「全てを背負う科学」への転換	田中隆文	日本治山治水協会
3233	生産理論・生産技術	海岸林との共生: 海岸林に親しみ、海岸林に学び、海岸林を守ろう!	中島勇喜/岡田穰	山形大学出版会
3234	生産理論・生産技術	海岸林再生マニュアル: 炭と菌根を使ったマツの育苗・植林・管理	小川真/伊藤武	築地書館
3235	生産理論・生産技術	最新農業技術畜産: vol.1 飼料高騰時代を乗り切る!	農山漁村文化協会	農山漁村文化協会
3236	生産理論・生産技術	最新農業技術畜産: vol.2 飼料イネで自給力アップ		農山漁村文化協会
3237	生産理論・生産技術	最新農業技術畜産: vol.3 乳牛を健全・健康に飼う		農山漁村文化協会
3238	生産理論・生産技術	最新農業技術畜産: vol.4 もっと牛肉を!		農山漁村文化協会
3239	生産理論・生産技術	最新農業技術畜産: vol.5 特集アニマルウェルフェア		農山漁村文化協会
3240	生産理論・生産技術	最新農業技術畜産: vol.6 特集肉牛の行動制御		農山漁村文化協会
3241	生産理論・生産技術	最新農業技術畜産: vol.7 特集飼料用米の持ち味を活かす		農山漁村文化協会
3242	生産理論・生産技術	最新農業技術畜産: vol.8 特集乳牛を長生きさせたい		農山漁村文化協会
3243	生産理論・生産技術	最新農業技術畜産: vol.9 特集飼料作物便覧		農山漁村文化協会
3244	生産理論・生産技術	最新農業技術畜産: vol.10 特集黒毛和種の種雄牛情報		農山漁村文化協会
3245	生産理論・生産技術	畜産学入門		文永堂出版
3246	生産理論・生産技術	動物応用科学の展開: 人と動物との共生をめざして	植竹勝治	養賢堂
3247	生産理論・生産技術	最新畜産ハンドブック: HANDBOOK OF STOCK RAISING		講談社
3248	生産理論・生産技術	酪農大事典: 生理・飼育技術・環境管理		農山漁村文化協会
3249	生産理論・生産技術	野生から家畜へ (食の文化フォーラム 33)		ドメス出版
3250	生産理論・生産技術	おもしろい!日本の畜産はいま: 過去・現在・未来 (シリーズ・いま日本の「農」を問う 8)	広岡博之/片岡文洋	ミネルヴァ書房
3251	生産理論・生産技術	Dr.Ossy畜産・知ったかぶり	押田敏雄	養賢堂
3252	生産理論・生産技術	畜産統計: 平成29年		農林統計協会
3253	生産理論・生産技術	畜産経営者のための青色申告の手引き: 平成29年度確定申告対応	森剛一/志渡和男	中央畜産会
3254	生産理論・生産技術	家畜取引の知識: 家畜商講習会テキスト, 最新版		ぎょうせい
3255	生産理論・生産技術	牛乳が食卓から消える?: 酪農危機をチャンスに変える	鈴木宣弘	筑波書房
3256	生産理論・生産技術	草地と語る: 〈マイペース酪農〉ことはじめ	佐々木章晴	寿郎社
3257	生産理論・生産技術	自給飼料生産・流通革新と日本酪農の再生 (日本農業市場学会研究叢書 18)	荒木和秋/杉村泰彦	筑波書房
3258	生産理論・生産技術	日本酪農への提言: 持続可能な発展のために	小林信一	筑波書房
3259	生産理論・生産技術	酪農乳業の危機と日本酪農の進路	小林信一	筑波書房
3260	生産理論・生産技術	畜産経営における第三者継承: 地域の生産力を維持・増進するために	山崎政行	中央畜産会
3261	生産理論・生産技術	家族酪農経営と飼料作外部化: グループ・ファーム展開の論理	岡田直樹	日本経済評論社
3262	生産理論・生産技術	放牧酪農の展開を求めて: 乳文化なき日本の酪農論批判	柏久	日本経済評論社
3263	生産理論・生産技術	これからの酪農経営と草地管理: 土-草-牛の健康な循環でムリ・ムダをなくす	佐々木章晴	農山漁村文化協会

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
3264	生産理論・生産技術	小さい畜産で稼ぐコツ: 少頭多畜・加工でダントツの利益率!	上垣康成	農山漁村文化協会
3265	生産理論・生産技術	危機に瀕する日本の酪農・畜産 (日本農業の動き No.198)		農政ジャーナリストの会
3266	生産理論・生産技術	日本の肉用牛繁殖経営: 国土周辺部における成長メカニズム	大呂興平	農林統計協会
3267	生産理論・生産技術	日本を救う農地の畜産的利用: TPPと日本畜産の進路		農林統計出版
3268	生産理論・生産技術	人類と家畜の世界史	ブライアン・フェイガン	河出書房新社
3269	生産理論・生産技術	ユーラシア乳文化論	平田昌弘	岩波書店
3270	生産理論・生産技術	動物・人間・暴虐史: “飼い貶し”の大罪、世界紛争と資本主義	デビッド・A.ナイバート	新評論
3271	生産理論・生産技術	世界の食肉生産はどうなるか: 2018年の展望	ハンス・ワイルヘルム・ヴァントフォルスト/杉山道雄	筑波書房
3272	生産理論・生産技術	世界畜産立地変動論: 2015年の展望	ハンス・ワイルヘルム・ヴァントフォルスト/杉山道雄	筑波書房
3273	生産理論・生産技術	図解知識ゼロからの畜産入門		家の光協会
3274	生産理論・生産技術	江戸幕府の直営牧 (近世史研究叢書 24)	大谷貞夫	岩田書院
3275	生産理論・生産技術	沖縄の在来家畜: その伝来と生活史	新城明久	ポーターインク
3276	生産理論・生産技術	アジアの在来家畜: 家畜の起源と系統史		名古屋大学出版会
3277	生産理論・生産技術	中国の酪農と牛乳・乳製品市場		農林統計出版
3278	生産理論・生産技術	『グリーン経済』を実践してビジネスチャンスも掴もう! 牧農林の複合方式を進め、内モンゴルの砂漠と貧困をビジネスで退治!	北野正一	カナリア書房
3279	生産理論・生産技術	複合型産業経営と地域創生: 内モンゴルの6次産業化への日中比較アプローチ	白明	三恵社
3280	生産理論・生産技術	酪農経営の変化と食料・環境政策: 中国内モンゴル自治区を対象として	長命洋佑	養賢堂
3281	生産理論・生産技術	牧夫の誕生: 羊・山羊の家畜化の開始とその展開	谷泰	岩波書店
3282	生産理論・生産技術	パリ国際農業サロンの歴史: 1788~2015年	佐藤崇章	オーエムエス出版
3283	生産理論・生産技術	イーティング・アニマル: アメリカ工場式畜産の難題	ジョナサン・サフラン・フォア	東洋書林
3284	生産理論・生産技術	動物工場: 工場式畜産CAFOの危険性		緑風出版
3285	生産理論・生産技術	畜産と気象 (気象ブックス 030)	柴田正貴/寺田文典	成山堂書店
3286	生産理論・生産技術	動物遺伝育種学	祝前博明/国枝哲夫	朝倉書店
3287	生産理論・生産技術	動物臨床繁殖学		朝倉書店
3288	生産理論・生産技術	動物の栄養, 第2版		文永堂出版
3289	生産理論・生産技術	エコフィードの活用促進: 食品循環資源飼料化のリサイクル・チャネル (JA総研研究叢書 2)	泉谷真実	農山漁村文化協会
3290	生産理論・生産技術	動物の飼料, 第2版		文永堂出版
3291	生産理論・生産技術	動物飼養学	石橋晃	養賢堂
3292	生産理論・生産技術	草地農業の多面的機能とアニマルウェルフェア	矢部光保	筑波書房
3293	生産理論・生産技術	草地・飼料作物大事典: 栽培・調製と利用・飼料イネ・飼料資源活用		農山漁村文化協会
3294	生産理論・生産技術	草地学の基礎: 維持管理の理論と実際 (農業基礎シリーズ)	松中照夫/三枝俊哉	農山漁村文化協会
3295	生産理論・生産技術	新・畜産環境保全指導マニュアル		中央畜産会
3296	生産理論・生産技術	大規模干拓地における環境保全型畜産経営	竹内重吉	農林統計出版
3297	生産理論・生産技術	動物の飼育管理		文永堂出版
3298	生産理論・生産技術	新編畜産環境保全論		養賢堂
3299	生産理論・生産技術	畜産現場の消毒: これだけは知っておきたい消毒の基礎と実際	横関正直	緑書房
3300	生産理論・生産技術	動物行動図説: 家畜・伴侶動物・展示動物		朝倉書店
3301	生産理論・生産技術	日本と世界のアニマルウェルフェア畜産: 上巻 人も動物も満たされて生きる	松木洋一	養賢堂
3302	生産理論・生産技術	日本と世界のアニマルウェルフェア畜産: 下巻 21世紀の畜産革命	松木洋一	養賢堂
3303	生産理論・生産技術	動物福祉の科学: 理念・評価・実践	Michael C.Appleby/Joy A.Mench	緑書房
3304	生産理論・生産技術	遙かなる馬産地の記憶: 終戦70年特別企画 (競馬道OnLine選書 004)	河村清明	インターグロー
3305	生産理論・生産技術	世界で一番美しい馬の図鑑	タムシン・ピッケラル	エクスナレッジ
3306	生産理論・生産技術	馬喰	松林要樹	河出書房新社
3307	生産理論・生産技術	りこうなハンス	オスカル・プフングスト	丸善プラネット
3308	生産理論・生産技術	競走馬ハンドブック: THE RACEHORSE HANDBOOK		丸善出版
3309	生産理論・生産技術	馬が語る古代東アジア世界史		汲古書院
3310	生産理論・生産技術	人と馬の五〇〇〇年史: 文化・産業・戦争	スザンナ・フォーレスト	原書房
3311	生産理論・生産技術	馬の自然誌	J.E.チェンバレン	築地書館
3312	生産理論・生産技術	ウマと関る: もうひとつの馬物語	横浜道成	東京農業大学出版会
3313	生産理論・生産技術	日本人と馬: 埒を越える十二の対話		東京農業大学出版会
3314	生産理論・生産技術	軍馬と農民 (プリミエ・コレクション 39)	大瀧真俊	京都大学学術出版会

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
3315	生産理論・生産技術	日本古代の牧と馬政官司	佐藤健太郎	埴書房
3316	生産理論・生産技術	新馬の医学書: オールカラー完全版	日本中央競馬会競走馬総合研究所	緑書房
3317	生産理論・生産技術	馬臨床学		緑書房
3318	生産理論・生産技術	子牛の科学: 胎子期から出生・育成期まで		チクサン出版社
3319	生産理論・生産技術	長命連産実践ガイド		デーリイマン社
3320	生産理論・生産技術	牛と農村の近代史: 家畜預託慣行の研究	板垣貴志	思文閣出版
3321	生産理論・生産技術	ウシの科学 (シリーズ〈家畜の科学〉1)		朝倉書店
3322	生産理論・生産技術	牛の文化史	フロリアン・ヴェルナー	東洋書林
3323	生産理論・生産技術	宮崎牛物語: 口蹄疫から奇跡の連続日本一へ	宮崎日日新聞社	農山漁村文化協会
3324	生産理論・生産技術	肉牛大事典: 飼育の基本から最新研究まで		農山漁村文化協会
3325	生産理論・生産技術	名人が教える和牛の飼い方コツと裏ワザ: 月刊「現代農業」傑作選		農山漁村文化協会
3326	生産理論・生産技術	牛をすこし深読みしてみると	増田淳子	農林統計協会
3327	生産理論・生産技術	和牛の力: 血統を守る、伝える	増田淳子	農林統計協会
3328	生産理論・生産技術	日本の肉用牛経営: 輸入自由化から20年を経て		農林統計出版
3329	生産理論・生産技術	肉用牛の科学		養賢堂
3330	生産理論・生産技術	新しい酪農技術の基礎と実際: 酪農ヘルパー専門技術員必携: 基礎編, 改訂		酪農ヘルパー全国協会
3331	生産理論・生産技術	新しい酪農技術の基礎と実際: 酪農ヘルパー専門技術員必携: 実技編, 改訂		酪農ヘルパー全国協会
3332	生産理論・生産技術	ライフステージでみる牛の管理: 栄養・行動・衛生・疾病		緑書房
3333	生産理論・生産技術	牛の解剖アトラス, 増補改訂第2版	Klaus-Dieter Budras/Robert E.Habel	緑書房
3334	生産理論・生産技術	農作物有効利用と環境浄化に寄与する乳牛飼養と生乳生産 (明治大学科学技術研究所叢書)	小林茂樹	緑書房
3335	生産理論・生産技術	Fertility: 上手な繁殖管理の実践ガイド (Cow SIGNALS)	Jan Hulsen	デーリイマン社
3336	生産理論・生産技術	牛の卵巣・子宮アトラス: 発情周期の理解を深めて直腸検査を極めるために	Manuel Fernández Sánchez	緑書房
3337	生産理論・生産技術	臨床獣医師のための牛の繁殖と超音波アトラス: 発情周期のステージ別の観察と繁殖検診	Manuel Fernández Sánchez	緑書房
3338	生産理論・生産技術	日本飼養標準・乳牛: 2017年版		中央畜産会
3339	生産理論・生産技術	From calf to heifer: 乳牛の育成管理のための実践ガイド (Cow SIGNALS)	Jan Hulsen/Berrie Klein Swormink	デーリイマン社
3340	生産理論・生産技術	Hoof Signals: 健康な蹄をつくる成功要因 (Cow SIGNALS)	Jan Hulsen	デーリイマン社
3341	生産理論・生産技術	壊死桿菌と牛の肝膿瘍	新城敏晴	大阪公立大学共同出版会
3342	生産理論・生産技術	これからの乳牛群管理のためのハードヘルズ学: 成牛編	及川伸	緑書房
3343	生産理論・生産技術	ピクチャーガイド実症例から学ぶ牛の疾病	Keith Cutler	緑書房
3344	生産理論・生産技術	牛の乳房炎コントロール: 酪農家と獣医師のための実践ガイド, 増補改訂版	Roger Blowey/Peter Edmondson	緑書房
3345	生産理論・生産技術	牛の乳房炎治療ガイドライン: 抗菌剤適正使用のための理論と実際		緑書房
3346	生産理論・生産技術	牛疾病の超音波診断ガイドブック	Sébastien Buczinski	緑書房
3347	生産理論・生産技術	牛病カラーアトラス	Roger W.Blowey/A.David Weaver	緑書房
3348	生産理論・生産技術	子牛の医学: 胎子期から出生・育成期まで		緑書房
3349	生産理論・生産技術	乳牛の生産獣医療: 栄養・繁殖・臨床獣医療・遺伝・病理・疫学から経営・人的管理手法まで	Carlos A.Risco/Pedro Melendez Retamal	緑書房
3350	生産理論・生産技術	病態からみた牛の輸液: 水・電解質・酸塩基平衡と疾患別の輸液	鈴木一由/山田裕	緑書房
3351	生産理論・生産技術	Q&Aはじめよう!シカの資源利用	丹治藤治	農山漁村文化協会
3352	生産理論・生産技術	シカの飼い方・活かし方: 良質な肉・皮革・角を得る	宮崎昭/丹治藤治	農山漁村文化協会
3353	生産理論・生産技術	羊のたわごと	福井豊	養賢堂
3354	生産理論・生産技術	養豚場AIマニュアル	志田充芳	チクサン出版社
3355	生産理論・生産技術	復活のアグー: 琉球に生きる島豚の歴史と文化	平川宗隆	ボーダーインク
3356	生産理論・生産技術	飼い喰い: 三匹の豚とわたし	内澤光子	岩波書店
3357	生産理論・生産技術	沖縄の人とブタ: 産業社会における人と動物の民族誌 (プリミエ・コレクション 52)	比嘉理麻	京都大学学術出版会
3358	生産理論・生産技術	イベリコ豚を買いに: A Comprar El Cerdo Ibérico	野地秩嘉	小学館
3359	生産理論・生産技術	食は命!養豚にロマンを: わが人生	志澤勝	神奈川新聞社
3360	生産理論・生産技術	養豚の経済分析	宮田剛志	農林統計出版
3361	生産理論・生産技術	養豚経営の展開と生産者出資型インテグレーション	申錬鐵	農林統計出版
3362	生産理論・生産技術	マンガで読む!母豚に教わる繁殖講座		緑書房
3363	生産理論・生産技術	めざせ!養豚場の星: マンガでわかる基礎管理テクニック		緑書房
3364	生産理論・生産技術	マンブル、ぼくの肩が好きなフクロウ	マーティン・ウインドロウ	河出書房新社
3365	生産理論・生産技術	獣医家禽診療指針	川崎武志	講談社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
3366	生産理論・生産技術	フクロウ完全飼育: 飼育、品種、接し方がよくわかる (PERFECT PET OWNER'S GUIDES)	藤井智之	誠文堂新光社
3367	生産理論・生産技術	日本飼養標準・家禽: 2011年版		中央畜産会
3368	生産理論・生産技術	ニワトリ: 人類を変えた大いなる鳥	アンドリュー・ロウラー	インターシフト
3369	生産理論・生産技術	玉子と土といのちと	菅野芳秀	創森社
3370	生産理論・生産技術	自給養鶏Q&A: エサ、育すう、飼育環境、病気、経営	中島正	農山漁村文化協会
3371	生産理論・生産技術	ダチョウの卵で、人類を救います: アトピー、新型インフルエンザ、HIVも撃墜する夢の抗体発見秘話	塚本康浩	小学館
3372	生産理論・生産技術	レース鳩: 知られざるアスリート	吉原謙以知	幻冬舎ルネッサンス
3373	生産理論・生産技術	オウムインコ類マニュアル, 第2版		学窓社
3374	生産理論・生産技術	インコの心理がわかる本: セキセイインコとオカメインコを中心にひもとく	細川博昭	誠文堂新光社
3375	生産理論・生産技術	インコとオウムの行動学		文永堂出版
3376	生産理論・生産技術	銀座ミツバチ奮闘記: 都市と地域の絆づくり (ASAHI ECO BOOKS 35)	高安和夫	アサヒビール
3377	生産理論・生産技術	ミツバチの教科書: とても不思議なミツバチたちの世界 養蜂のノウハウ ハチミツの楽しみ…	フォーガス・チャドウィック/ステイフ・オールトン	エクスナレッジ
3378	生産理論・生産技術	蜂からみた花の世界: 四季の蜜源植物とミツバチからの贈り物	佐々木正己	海游舎
3379	生産理論・生産技術	ハチミツの歴史 (「食」の図書館)	ルーシー・M.ロング	原書房
3380	生産理論・生産技術	みつばち飼う人この指とまれ!: ニホンミツバチ飼育実践集	御園孝	高文研
3381	生産理論・生産技術	我が家にミツバチがやって来た: ゼロから始めるニホンミツバチ養蜂家への道	久志富士男	高文研
3382	生産理論・生産技術	僕の日本みつばち飼育記: 里山は今日も蜂日和	安江三岐彦	合同フォレスト
3383	生産理論・生産技術	銀座ミツバチ物語: 美味しい景観づくりのススメ	田中 淳夫	時事通信社
3384	生産理論・生産技術	銀座ミツバチ物語: Part2 北へ南へ。西へ東へ。地域おこしの輪が広がる	田中淳夫	時事通信出版局
3385	生産理論・生産技術	誰でもチャレンジできる! イラストマニュアル・はじめての養蜂	東雲輝之	秀和システム
3386	生産理論・生産技術	飼うぞ殖やすぞミツバチ (現代農業特選シリーズ 8 DVDでもっとわかる 8)		農山漁村文化協会
3387	生産理論・生産技術	知られざる地球動物大図鑑: 驚くべき生物の多様性	ロス・バイパー	東京書籍
3388	生産理論・生産技術	学名の知識とその作り方: SCIENTIFIC NAMES: HOW TO MAKE NEW NAMES OF GENERA AND SPECIES	平嶋義宏	東海大学出版部
3389	生産理論・生産技術	日本語でひく動物学名辞典: Japanese-Latin and Greek Dictionary of Scientific Names of Animals	平嶋義宏	東海大学出版部
3390	生産理論・生産技術	へんな生きもの へんな生きざま	早川いくを	エクスナレッジ
3391	生産理論・生産技術	ほとんど想像すらされない奇妙な生き物たちの記録	カスパー・ヘンダーソン	エクスナレッジ
3392	生産理論・生産技術	生きものの持ちかた: その道のプロに聞く	松橋利光	大和書房
3393	生産理論・生産技術	研究者が教える動物実験: 第1巻 感覚		共立出版
3394	生産理論・生産技術	研究者が教える動物実験: 第2巻 神経・筋		共立出版
3395	生産理論・生産技術	研究者が教える動物実験: 第3巻 行動		共立出版
3396	生産理論・生産技術	日本の水族館 (Natural History)	内田詮三/荒井一利	東京大学出版会
3397	生産理論・生産技術	動物園のつくり方: 入門動物園学	PAUL A. REES	農林統計出版
3398	生産理論・生産技術	野生動物管理のためのフィールド調査法: 哺乳類の痕跡判定からデータ解析まで		京都大学学術出版会
3399	生産理論・生産技術	動物保護入門: ドイツとギリシャに学ぶ共生の未来	浅川千尋/有馬めぐむ	世界思想社
3400	生産理論・生産技術	日本の動物法, 第2版	青木人志	東京大学出版会
3401	生産理論・生産技術	動物の科学, 新訂 (放送大学教材)	二河成男/東正剛	放送大学教育振興会
3402	生産理論・生産技術	動物たちの武器: 闘いは進化する	ダグラス・J. エムレン	エクスナレッジ
3403	生産理論・生産技術	色素細胞: 基礎から臨床へ, 第2版		慶應義塾大学出版会
3404	生産理論・生産技術	ギルバート発生生物学	スコット F. ギルバート	メディカル・サイエンス・インターナショナル
3405	生産理論・生産技術	胎児期に刻まれた進化の痕跡 (シリーズ・遺伝子から探る生物進化 2)	入江直樹	慶應義塾大学出版会
3406	生産理論・生産技術	ゼブラフィッシュの発生遺伝学 (新・生命科学シリーズ)	弥益恭	裳華房
3407	生産理論・生産技術	動物はいつから眠るようになったのか? 線虫、ハエからヒトに至る睡眠の進化 (知りたい!サイエンス 140)	大島靖美	技術評論社
3408	生産理論・生産技術	呼吸のトリビア: レスピ・サピエンス	桑平一郎/小林弘祐	中外医学社
3409	生産理論・生産技術	呼吸のトリビア: レスピ・サピエンス: 2	千原幸司/桑平一郎	中外医学社
3410	生産理論・生産技術	呼吸のトリビア: レスピ・サピエンス: 3	塩谷隆信/千原幸司	中外医学社
3411	生産理論・生産技術	ストレスをめぐる生物学: ネズミから学ぶ	斎藤徹	アドスリー
3412	生産理論・生産技術	ダイエットをめぐる生物学	斎藤徹	アドスリー
3413	生産理論・生産技術	愛と分子: 惹かれあう二人のケミストリー	菊水健史	東京化学同人
3414	生産理論・生産技術	ペンギンが教えてくれた物理のはなし (河出ブックス 070)	渡辺佑基	河出書房新社
3415	生産理論・生産技術	動物になって生きてみた	チャールズ・フォスター	河出書房新社
3416	生産理論・生産技術	デビス・クレブス・ウェスト行動生態学	Nicholas B. Davies/John R. Krebs	共立出版

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
3417	生産理論・生産技術	動物の生態: 脊椎動物の進化生態を中心に (新・生命科学シリーズ)	松本忠夫	裳華房
3418	生産理論・生産技術	心を操る寄生物: 感情から文化・社会まで	キャスリン・マコーリフ	インターシフト
3419	生産理論・生産技術	ヒトはどこまで進化するのか	エドワード・O.ウィルソン	亜紀書房
3420	生産理論・生産技術	寄生蟲図鑑: ふしぎな世界の住人たち, 増補版	大谷智通	講談社
3421	生産理論・生産技術	うれし、たのし、ウミウシ。(岩波科学ライブラリー 240)	中嶋康裕	岩波書店
3422	生産理論・生産技術	海の生き物はなぜ多様な性を示すのか: 数学で解き明かす謎 (共立スマートセレクション 1)	山口幸	共立出版
3423	生産理論・生産技術	セックス・イン・ザ・シー: 私たち人間と、性転換をする魚、ロマンチックなロボスター、変わった性癖のイカ、そのほか海のきわどいエロスとの密接な関係 (講談社選書メチエ 656)	マラー・J.ハート	講談社
3424	生産理論・生産技術	すばらしい海洋生物の世界	カラム・ロバーツ	創元社
3425	生産理論・生産技術	世界で一番美しい海のいきもの図鑑	吉野雄輔	創元社
3426	生産理論・生産技術	深海生物大事典	佐藤孝子	成美堂出版
3427	生産理論・生産技術	土の中の生きものからみた横浜の自然: ダンゴムシ・大型土壌動物・ササラダニ	原田洋/栗城源一	海青社
3428	生産理論・生産技術	日本産土壌動物: 分類のための図解検索: 1~2, 第2版	青木淳一	東海大学出版部
3429	生産理論・生産技術	数をかぞえるクマ サーフィンするヤギ: 動物の知性と感情をめぐる驚くべき物語	ベリンダ・レシオ	NHK出版
3430	生産理論・生産技術	個性は遺伝子で決まるのか: 行動遺伝学からわかってきたこと (BERET SCIENCE)	小出剛	ベレ出版
3431	生産理論・生産技術	動物の賢さがわかるほど人間は賢いのか	フランス・ドゥ・ヴァール	紀伊國屋書店
3432	生産理論・生産技術	動物たちは何を考えている?: 動物心理学の挑戦 (知りたい!サイエンス 130)	藤田和生	技術評論社
3433	生産理論・生産技術	なぜ犬はあなたの言っていることがわかるのか: 動物にも“心”がある	ヴァージニア・モレル	講談社
3434	生産理論・生産技術	進化教育学入門: 動物行動学から見た学習	小林朋道	春秋社
3435	生産理論・生産技術	動物たちの心の科学: 仲間に尽くすイヌ、喪に服すゾウ、フェアプレイ精神を貫くコヨーテ	マーク・ベコフ	青土社
3436	生産理論・生産技術	死を悼む動物たち	バーバラ・J.キング	草思社
3437	生産理論・生産技術	先生、イソギンチャクが腹痛を起こしています! (鳥取環境大学の森の人間動物行動学)	小林朋道	築地書館
3438	生産理論・生産技術	先生、オサムシが研究室を掃除しています! (鳥取環境大学の森の人間動物行動学)	小林朋道	築地書館
3439	生産理論・生産技術	先生、ワラジムシが取っ組みあいのケンカをしています! (鳥取環境大学の森の人間動物行動学)	小林朋道	築地書館
3440	生産理論・生産技術	先生、犬にサンショウウオの搜索を頼むのですか! (鳥取環境大学の森の人間動物行動学)	小林朋道	築地書館
3441	生産理論・生産技術	先生、洞窟でコウモリとアナグマが同居しています! (鳥取環境大学の森の人間動物行動学)	小林朋道	築地書館
3442	生産理論・生産技術	現実を生きるサル空想を語るヒト: 人間と動物をへだてる、たった2つの違い	トーマス・ズデンドルフ	白揚社
3443	生産理論・生産技術	動物行動の観察入門: 計画から解析まで	マリアン・S.ドーキンス	白揚社
3444	生産理論・生産技術	動物たちの世界: 六億年の進化をたどる (科学のとびら 56)	P.ホランド	東京化学同人
3445	生産理論・生産技術	世界の動物遺産: 世界編・日本編		集英社
3446	生産理論・生産技術	自然がほほえむとき: Essays & Photos		東京大学出版会
3447	生産理論・生産技術	消えゆく熱帯雨林の野生動物: 絶滅危惧動物の知られざる生態と保全への道 (DOJIN選書 67)	松林尚志	化学同人
3448	生産理論・生産技術	世界で一番美しいクラゲの図鑑	リサ=アン・ガーシュウィン	エクスナレッジ
3449	生産理論・生産技術	サンゴ: 知られざる世界	山城秀之	成山堂書店
3450	生産理論・生産技術	プランナリアたちの巧みな生殖戦略 (シリーズ・生命の神秘と不思議)	小林一也/関井清乃	裳華房
3451	生産理論・生産技術	線虫の研究とノーベル賞への道: 1ミリの虫の研究がなぜ3度ノーベル賞を受賞したか	大島靖美	裳華房
3452	生産理論・生産技術	ミミズ図鑑	石塚小太郎	全国農村教育協会
3453	生産理論・生産技術	クマムシ研究日誌: 地上最強生物に恋して (フィールドの生物学 15)	堀川大樹	東海大学出版部
3454	生産理論・生産技術	クマムシ博士のクマムシへんてこ最強伝説 (NATIONAL GEOGRAPHIC)	堀川大樹	日経ナショナルジオグラフィック社
3455	生産理論・生産技術	世界の貝大図鑑: 形態・生態・分布	M.G.ハラセウッチ/ファビオ・モレゾーン	柘風舎
3456	生産理論・生産技術	歌うカタツムリ: 進化とらせんの物語 (岩波科学ライブラリー 262)	千葉聡	岩波書店
3457	生産理論・生産技術	世界で一番美しいイカとタコの図鑑: CEPHALOPODS.amazing and beautiful creatures		エクスナレッジ
3458	生産理論・生産技術	タコの才能: いちばん賢い無脊椎動物 (ヒストリカル・スタディーズ 10)	キャサリン・ハーモン・カレッジ	太田出版
3459	生産理論・生産技術	深海生物テヅルモヅルの謎を追え!: 系統分類から進化を探る (フィールドの生物学 20)	岡西政典	東海大学出版部
3460	生産理論・生産技術	日本産ミジンコ図鑑: An Illustrated Guide to Branchiopoda of Japan	田中正明/牧田直子	共立出版
3461	生産理論・生産技術	海のクワガタ採集記: 昆虫少年が海へ (シリーズ・生命の神秘と不思議)	太田悠造	裳華房
3462	生産理論・生産技術	エビ・カニの疑問50 (みんなが知りたいシリーズ 5)		成山堂書店
3463	生産理論・生産技術	クモの糸でバイオリン (岩波科学ライブラリー 254)	大崎茂芳	岩波書店
3464	生産理論・生産技術	まちぶせるクモ: 網上の10秒間の攻防 (共立スマートセレクション 14)	中田兼介	共立出版
3465	生産理論・生産技術	ダニのはなし: 人間との関わり		朝倉書店
3466	生産理論・生産技術	世界一うつくしい昆虫図鑑	クリストファー・マーレー	宝島社
3467	生産理論・生産技術	原色川虫図鑑: 成虫編 カゲロウ・カワゲラ・トビケラ		全国農村教育協会

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
3468	生産理論・生産技術	原色川虫図鑑: 幼虫編	丸山博紀	全国農村教育協会
3469	生産理論・生産技術	昆虫科学読本: 虫の目で見た驚きの世界		東海大学出版部
3470	生産理論・生産技術	昆虫の描き方: How to Draw Insects (自然観察の技法 2)	盛口満	東京大学出版会
3471	生産理論・生産技術	だましのテクニックの進化: 昆虫の擬態の不思議	藤原晴彦	オーム社
3472	生産理論・生産技術	趣味からはじめる昆虫学: 知られざる虫の姿を新発見!		オーム社
3473	生産理論・生産技術	消えるオス: 昆虫の性をあやつる微生物の戦略 (DOJIN選書 66)	陰山大輔	化学同人
3474	生産理論・生産技術	昆虫は最強の生物である: 4億年の進化がもたらした驚異の生存戦略	スコット・リチャード・ショー	河出書房新社
3475	生産理論・生産技術	サイボーグ昆虫、フェロモンを追う (岩波科学ライブラリー 228)	神崎亮平	岩波書店
3476	生産理論・生産技術	昆虫の交尾は、味わい深い…。 (岩波科学ライブラリー 264)	上村佳孝	岩波書店
3477	生産理論・生産技術	昆虫の行動の仕組み: 小さな脳による制御とロボットへの応用 (共立スマートセレクション 13)	山脇聡史	共立出版
3478	生産理論・生産技術	昆虫生態学	藤崎憲治/大串隆之	朝倉書店
3479	生産理論・生産技術	教養のための昆虫学	平嶋義宏/広渡俊哉	東海大学出版部
3480	生産理論・生産技術	植物をたくみに操る虫たち: 虫こぶ形成昆虫の魅力 (フィールドの生物学 21)	徳田誠	東海大学出版部
3481	生産理論・生産技術	昆虫の時計: 分子から野外まで (環境Eco選書 9)		北隆館
3482	生産理論・生産技術	遺伝子から解き明かす昆虫の不思議な世界: 地球上で最も繁栄する生き物の起源から進化の5億年		悠書館
3483	生産理論・生産技術	カメシンの母が子に伝える共生細菌: 必須相利共生の多様性と進化 (共立スマートセレクション 21)	細川貴弘	共立出版
3484	生産理論・生産技術	アリなんであんなにそうなのか: フェロモンで読み解くアリの生き方 (DOJIN選書 75)	尾崎まみこ	化学同人
3485	生産理論・生産技術	世界のミツバチ・ハナバチ百科図鑑	ノア・ウィルソン=リッチ	河出書房新社
3486	生産理論・生産技術	野生ミツバチとの遊び方	トーマス・シーリー	築地書館
3487	生産理論・生産技術	日本産アリ類図鑑	寺山守/久保田敏	朝倉書店
3488	生産理論・生産技術	アリの社会: 小さな虫の大きな知恵	坂本洋典/村上貴弘	東海大学出版部
3489	生産理論・生産技術	クモを利用する策士、クモヒメバチ: 身近で起こる本当のエイリアンとプレデターの闘い (フィールドの生物学 17)	高須賀圭三	東海大学出版部
3490	生産理論・生産技術	ミツバチの世界へ旅する (フィールドの生物学 24)	原野健一	東海大学出版部
3491	生産理論・生産技術	日本産ハナバチ図鑑: An Illustrated Guide to Japanese Bees		文一総合出版
3492	生産理論・生産技術	チョウの生態「学」始末 (共立スマートセレクション 25)	渡辺守	共立出版
3493	生産理論・生産技術	蚊: MOSQUITOES, 第2版	池庄司敏明	東京大学出版会
3494	生産理論・生産技術	淡水魚研究入門: 水中のぞき見学	長田芳和	東海大学出版部
3495	生産理論・生産技術	魚介類別名辞典		日外アソシエーツ
3496	生産理論・生産技術	難読誤読魚介類漢字よみかた辞典		日外アソシエーツ
3497	生産理論・生産技術	新たな魚類大系統: 遺伝子で解き明かす魚類3万種の由来と現在 (シリーズ・遺伝子から探る生物進化 4)	宮正樹	慶應義塾大学出版会
3498	生産理論・生産技術	魚類学		恒星社厚生閣
3499	生産理論・生産技術	溺れる魚、空飛ぶ魚、消えゆく魚: モンスーンアジア淡水魚探訪 (共立スマートセレクション 24)	鹿野雄一	共立出版
3500	生産理論・生産技術	日本のドジョウ: 形態・生態・文化と図鑑		山と溪谷社
3501	生産理論・生産技術	湿地帯中毒: 身近な魚の自然史研究 (フィールドの生物学 18)	中島淳	東海大学出版部
3502	生産理論・生産技術	ナマズの博覧誌 (生き物文化誌選書)	秋篠宮文仁/緒方喜雄	誠文堂新光社
3503	生産理論・生産技術	タツノオトシゴ図鑑	サラ・ローリー	丸善出版
3504	生産理論・生産技術	日本産ヒラメ・カレイ類: FLATFISHES OF JAPAN	尼岡邦夫	東海大学出版部
3505	生産理論・生産技術	毒ヘビのやさしいサイエンス: 咬まれるとアブナイ話	二改俊章/小森由美子	化学同人
3506	生産理論・生産技術	竜宮城は二つあった: ウミガメの回遊行動と生活史の多型 (フィールドの生物学 22)	畑瀬英男	東海大学出版部
3507	生産理論・生産技術	世界一の珍しい鳥: 破格の人(ハチスカ・マサウジ)博物随想集	蜂須賀正氏	原書房
3508	生産理論・生産技術	鳥類学者だからって、鳥が好きだと思うなよ。	川上和人	新潮社
3509	生産理論・生産技術	中西悟堂: フクロウと雷 (STANDARD BOOKS)	中西悟堂	平凡社
3510	生産理論・生産技術	ハトはなぜ首を振って歩くのか (岩波科学ライブラリー 237)	藤田祐樹	岩波書店
3511	生産理論・生産技術	鳥の行動生態学: Behavioural Ecology of Birds		京都大学学術出版会
3512	生産理論・生産技術	目立ちたがり屋の鳥たち: 面白い鳥の行動生態	江口和洋	東海大学出版部
3513	生産理論・生産技術	鳥の卵: 小さなカプセルに秘められた大きな謎	ティム・パークヘッド	白揚社
3514	生産理論・生産技術	海鳥のモニタリング調査法 (生態学フィールド調査法シリーズ 7)	綿貫豊/高橋晃周	共立出版
3515	生産理論・生産技術	ハヤブサ: その歴史・文化・生態	ヘレン・マクドナルド	白水社
3516	生産理論・生産技術	なぜ、どうして種数は増えるのか: ガラパゴスのダーウィンフィンチ	Peter R.Grant/B.Rosemary Grant	共立出版
3517	生産理論・生産技術	「幻の鳥」オオトラツグミはキョローンと鳴く (フィールドの生物学 23)	水田拓	東海大学出版部
3518	生産理論・生産技術	カラスの補習授業	松原始	雷鳥社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
3519	生産理論・生産技術	大型陸上哺乳類の調査法(生態学フィールド調査法シリーズ9)	小池伸介/山崎晃司	共立出版
3520	生産理論・生産技術	日本のネズミ: 多様性と進化		東京大学出版会
3521	生産理論・生産技術	イヌに「こころ」はあるのか: 遺伝と認知の行動学	レイモンド・コッペンジャー/マーク・ファインスタイン	原書房
3522	生産理論・生産技術	オオカミが日本を救う!: 生態系での役割と復活の必要性	丸山直樹	白水社
3523	生産理論・生産技術	パンダ: ネコをかぶった珍獣(岩波科学ライブラリー 230 生きもの)	倉持浩	岩波書店
3524	生産理論・生産技術	クジラの鼻から進化を覗く(シリーズ・遺伝子から探る生物進化 1)	岸田拓士	慶應義塾大学出版会
3525	生産理論・生産技術	ジュゴンの上手なつかまえ方: 海の歌姫を追いかけて(岩波科学ライブラリー 229)	市川光太郎	岩波書店
3526	生産理論・生産技術	山極寿一×鎌田浩毅ゴリラと学ぶ: 家族の起源と人類の未来(MINERVA知の白熱講義 1)	山極寿一/鎌田浩毅	ミネルヴァ書房
3527	生産理論・生産技術	温泉ザル: スノーモンキーの暮らし(フィギュール彩 78)	和田一雄	彩流社
3528	生産理論・生産技術	サル: その歴史・文化・生態	デズモンド・モリス	白水社
3529	生産理論・生産技術	「サル学」の系譜: 人とチンパンジーの50年(中公叢書)	中村美知夫	中央公論新社
3530	生産理論・生産技術	ゴリラ: GORILLA, 第2版	山極寿一	東京大学出版会
3531	経営管理	すごいメモ。: 仕事のスピード・質が劇的に上がる	小西利行	かんき出版
3532	経営管理	問題解決大全: ビジネスや人生のハードルを乗り越える37のツール	読書猿	フォレスト出版
3533	経営管理	高校生が学んでいるビジネス思考の授業: ロジカル・シンキングから統計、ゲーム理論まで	大森武	阪急コミュニケーションズ
3534	経営管理	図解コレ1枚でわかる最新ITトレンド, 増強改訂版	斎藤昌義	技術評論社
3535	経営管理	システム方法論: システム的なものの見方・考え方	岩下基	コロナ社
3536	経営管理	人工知能: 機械といかに向き合うか(Harvard Business Review DIAMOND/ハーバード・ビジネス・レビュー)		ダイヤモンド社
3537	経営管理	文系でもわかる人工知能ビジネス: 21のストーリー	EYアドバイザー	日経BP社
3538	経営管理	2時間でわかる図解IoTビジネス入門	小泉耕二	あさ出版
3539	経営管理	IoTの衝撃: 競合が変わる、ビジネスモデルが変わる(Harvard Business Review DIAMOND/ハーバード・ビジネス・レビュー)		ダイヤモンド社
3540	経営管理	IoTは日本企業への警告である: 24時間「機械に監視される時代」のビジネスの条件	齋藤ウィリアム浩幸	ダイヤモンド社
3541	経営管理	パーソナルデータの衝撃: 一生を丸裸にされる「情報経済」が始まった	城田真琴	ダイヤモンド社
3542	経営管理	知識ゼロからのビッグデータ入門	稲田修一	幻冬舎
3543	経営管理	ビッグデータという独裁者: 「便利」とひきかえに「自由」を奪う	マルク・デュガン/クリストフ・ラベ	筑摩書房
3544	経営管理	IoTビジネスモデル革命: IoT Business Model Revolution	小林啓倫	朝日新聞出版
3545	経営管理	プロフェッショナルの未来: AI、IoT時代に専門家が生き残る方法	リチャード・サスカインド/ダニエル・サスカインド	朝日新聞出版
3546	経営管理	2030年のIoT: Internet of Things in 2030	桑津浩太郎	東洋経済新報社
3547	経営管理	IoTビジネスをなぜ始めるのか?	三木良雄	日経BP社
3548	経営管理	データ×アイデアで勝負する人々	東富彦	日経BP社
3549	経営管理	IoT入門: ビジュアル解説		日本経済新聞出版社
3550	経営管理	道具としてのビッグデータ: 最適解を導き、成果につなげる8つのルール	高橋範光	日本実業出版社
3551	経営管理	ITビジネスの原理	尾原和啓	NHK出版
3552	経営管理	アップル、アマゾン、グーグルのイノベーション戦略	雨宮寛二	NTT出版
3553	経営管理	デザインの伝え方: 組織の合意を得るコミュニケーション術	Tom Greever	オライリー・ジャパン
3554	経営管理	コンテンツ産業論: コンテンツをマネジメントするための必須知識	高橋光輝	ポーンデジタル
3555	経営管理	プラットフォーム革命: 経済を支配するビジネスモデルはどう機能し、どう作られるのか	アレックス・モザド/ニコラス・L.ジョンソン	英治出版
3556	経営管理	IBMの思考とデザイン	山崎和彦/工藤晶	丸善出版
3557	経営管理	データ市場: データを活かすイノベーションゲーム	大澤幸生/早矢仕晃章	近代科学社
3558	経営管理	IT起業家10人の10年	滝田誠一郎	講談社
3559	経営管理	日本インターネット書紀: この国のインターネットは、解体寸前のビルに間借りした小さな会社からはじまった	鈴木幸一	講談社
3560	経営管理	Google Boysグーグルをつくった男たちが「10年後」を教えてください: ラリー・ベイジ&セルゲイ・ブリンの言葉から私たちは何を活かせるか	ラリー・ベイジ/セルゲイ・ブリン	三笠書房
3561	経営管理	最新コンテンツ業界の動向とカラクリがよくわかる本: 業界人、就職、転職に役立つ情報満載, 第3版(図解入門業界研究-How-nual-)	中野明	秀和システム
3562	経営管理	IoT時代のプラットフォーム競争戦略: ネットワーク効果のレバレッジ	加藤和彦	中央経済社
3563	経営管理	21世紀のICT多国籍企業	夏目啓二	同文館出版
3564	経営管理	参加型ネットワークのビジネスモデル: シェアリングを成功に導く優先度概念	藤井資子	同文館出版
3565	経営管理	Hit Refresh: マイクロソフト再興とテクノロジーの未来	サティア・ナデラ/グレッグ・ショー	日経BP社
3566	経営管理	アップルのデザイン戦略: カリスマなき後も「愛される理由」		日経BP社
3567	経営管理	ジョナサン・アイブ: 偉大な製品を生み出すアップルの天才デザイナー	リー・アンダー・ケイニー	日経BP社
3568	経営管理	シリコンバレー最強の仕組み: 人も企業も、なぜありえないスピードで成長するのか?	デボラ・ペリー・ピシオーニ	日経BP社
3569	経営管理	プラットフォームの教科書: 超速成長ネットワーク効果の基本と応用	根来龍之	日経BP社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
3570	経営管理	沈みゆく帝国: スティーブ・ジョブズ亡きあと、アップルは偉大な企業でいられるのか	ケイン岩谷ゆかり	日経BP社
3571	経営管理	How Google Works私たちの働き方とマネジメント	エリック・シュミット/ジョナサン・ローゼンバーグ	日本経済新聞出版社
3572	経営管理	VR〈仮想現実〉ビジネス成功の法則		日本経済新聞出版社
3573	経営管理	ツイッター創業物語: 金と権力、友情、そして裏切り	ニック・ビルトン	日本経済新聞出版社
3574	経営管理	クックパッドのデータ分析力: 「少し先の未来」を予測する	中村耕史	日本実業出版社
3575	経営管理	アマゾミクス: データ・サイエンティストはこう考える	アンドレアス・ワイガンド	文藝春秋
3576	経営管理	無敵の天才たち: スティーブ・ジョブズが駆け抜けたシリコンバレーの歴史的瞬間	ダグ・メネズ	翔泳社
3577	経営管理	インターネット時代の情報システム入門, 第5版	杉本英二	同文館出版
3578	経営管理	経済・商学系のための情報リテラシー入門, 第4版	荒木孝治/谷田則幸	同文館出版
3579	経営管理	サイバーセキュリティ: CYBERSECURITY		NTT出版
3580	経営管理	IoT時代のビッグデータビジネス革命: 新スマートシティ創造のための実践的活用術		インプレス
3581	経営管理	ビッグデータ・マネジメント: データサイエンティストのためのデータ活用技術と事例		エヌ・ティー・エス
3582	経営管理	ビッグデータテクノロジー完全ガイド	Michael Manoochehri	マイナビ
3583	経営管理	データマイニング手法: 営業、マーケティング、CRMのための顧客分析: 予測・スコアリング編, 3訂版	ゴードンS.リノフ/マイケルJ.A.ペリー	海文堂出版
3584	経営管理	データマイニング手法: 営業、マーケティング、CRMのための顧客分析: 探索的知識発見編, 3訂版	ゴードンS.リノフ/マイケルJ.A.ペリー	海文堂出版
3585	経営管理	手を動かしながら学ぶビジネスに活かすデータマイニング	尾崎隆	技術評論社
3586	経営管理	プレゼン資料のための正しいデザイン: ビジネスを成功に導くレイアウトの技術	鈴木春人	エムディエヌコーポレーション
3587	経営管理	シンプルでよく効く資料作成の原則: コンテンツとデザインからプレゼンを変える	Robin Williams	マイナビ
3588	経営管理	ICTビジネス: ICT Business (メディア学大系 8)	榊俊吾	コロナ社
3589	経営管理	著作権がよ〜わかる本: ポケット図解	横溝昇	秀和システム
3590	経営管理	TSUTAYAの謎: 増田宗昭に川島蓉子が訊く	増田宗昭/川島蓉子	日経BP社
3591	経営管理	ジェフ・ベゾス果てなき野望: アマゾンに創った無敵の奇才経営者	ブラッド・ストーン	日経BP社
3592	経営管理	観察力を磨く名画読解	エイミー・E.ハーマン	早川書房
3593	経営管理	オックスフォード流自分の頭で考え、伝える技術	岡田昭人	PHPエディターズ・グループ
3594	経営管理	世界で最もクリエイティブな国デンマークに学ぶ発想力の鍛え方	クリスチャン・ステアデル/リーネ・タンゴー	クロスメディア・パブリッシング
3595	経営管理	0ベース思考: どんな難問もシンプルに解決できる	ステイヴン・レヴィット/ステイヴン・ダブナー	ダイヤモンド社
3596	経営管理	考える力をつける3つの道具: かんたんスッキリ問題解決!	岸良裕司/きしらまゆこ	ダイヤモンド社
3597	経営管理	POWERS OF TWO二人で一人の天才	ジョシュア・ウルフ・シェンク	英治出版
3598	経営管理	システム思考をはじめよう	ドネラ・H.メドウズ	英治出版
3599	経営管理	逆説の法則 (新潮選書)	西成活裕	新潮社
3600	経営管理	「無知」の技法: 不確実な世界を生き抜くための思考変革	ステイブ・デューサー/ダイアナ・レナー	日本実業出版社
3601	経営管理	意思決定論: 選択のメカニズム	小山和伸	白桃書房
3602	経営管理	サーチ・インサイド・ユアセルフ: 仕事と人生を飛躍させるグーグルのマインドフルネス実践法	チャディー・メン・タン	英治出版
3603	経営管理	幸せな選択、不幸な選択: 行動科学で最高の人生をデザインする	ポール・ドーラン	早川書房
3604	経営管理	人を動かす「仕掛け」: あなたはもうシカケにかかっている	松村真宏	PHP研究所
3605	経営管理	仕掛け学: 人を動かすアイデアのつくり方	松村真宏	東洋経済新報社
3606	経営管理	平均思考は捨てなさい: 出る杭を伸ばす個の科学	トッド・ローズ	早川書房
3607	経営管理	レジリエンスの教科書: 逆境をはね返す世界最強トレーニング	カレン・ライビッチ/アンドリュー・シャター	草思社
3608	経営管理	シンプルに考える	森川亮	ダイヤモンド社
3609	経営管理	ユニ・チャーム式自分を成長させる技術: Develop Your Potential with Unicharm Style	高原豪久	ダイヤモンド社
3610	経営管理	われわれはいかに働きどう生きるべきか: ドラッカーが語りかける毎日の心得、そしてハウツー		ダイヤモンド社
3611	経営管理	「働き盛り」のNPO: ドラッカーに学ぶ「真の豊かさ」	島田恒	東洋経済新報社
3612	経営管理	さあ、才能(じぶん)に目覚めよう: ストレングス・ファインダー2.0, 新版	トム・ラス	日本経済新聞出版社
3613	経営管理	ハラールマーケット最前線: 急増する訪日イスラム教徒の受け入れ態勢と、ハラール認証制度の今を追う	佐々木良昭	実業之日本社
3614	経営管理	リーダーの本義: True Meaning of Leadership	門田隆将	日経BP社
3615	経営管理	考え方ひとつで人生は変わる: 思いは実現する (100年インタビュー)	稲盛和夫	PHP研究所
3616	経営管理	小林一三: 時代の十歩先が見えた男	北康利	PHP研究所
3617	経営管理	壁を越える扉を開く: 「管理会計学」が教えてくれたこと (DIAMOND NEO BOOKS)	上總康行	ダイヤモンド社
3618	経営管理	原典でよむ渋沢栄一のメッセージ (岩波現代全書 039)	渋沢栄一	岩波書店
3619	経営管理	日産の創業者 鮎川義介	宇田川勝	吉川弘文館
3620	経営管理	東芝の祖からくり儀右衛門: 日本の発明王田中久重伝	林洋海	現代書館

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
3621	経営管理	カルピスをつくった男 三島海雲	山川徹	小学館
3622	経営管理	小倉昌男 祈りと経営: ヤマト「宅急便の父」が闘っていたもの	森健	小学館
3623	経営管理	世界一清潔な空港の清掃人	新津春子	朝日新聞出版
3624	経営管理	運は創るもの(私の履歴書)	似島昭雄	日本経済新聞出版社
3625	経営管理	難題が飛び込む男 土光敏夫	伊丹敬之	日本経済新聞出版社
3626	経営管理	ディズニーを目指した男大川博: 忘れられた創業者	津堅信之	日本評論社
3627	経営管理	思想家ドラッカーを読む: リベラルと保守のあいだで	仲正昌樹	NTT出版
3628	経営管理	ドラッカー入門: 未来を見通す力を手にするために, 新版	上田惇生/坂井康志	ダイヤモンド社
3629	経営管理	デール・カーネギー: 上	スティーブン・ワッツ	河出書房新社
3630	経営管理	デール・カーネギー: 下	スティーブン・ワッツ	河出書房新社
3631	経営管理	ジョン・ハンケ世界をめぐる冒険: グーグルアースからインGRES、そしてポケモンGOへ	ジョン・ハンケ	星海社
3632	経営管理	スティーブ・ジョブズ: 青春の光と影	脇英世	東京電機大学出版局
3633	経営管理	スティーブ・ジョブズ: Steve Jobs: 2 アップルⅢとリサの蹉跎	脇英世	東京電機大学出版局
3634	経営管理	スティーブ・ジョブズ: Steve Jobs: 3 マッキントッシュの栄光と悲慘	脇英世	東京電機大学出版局
3635	経営管理	スティーブ・ジョブズ: Steve Jobs: 4 楽園追放とピクサー創立	脇英世	東京電機大学出版局
3636	経営管理	ビル・ゲイツ: マイクロソフト帝国の誕生: 1	脇英世	東京電機大学出版局
3637	経営管理	ビル・ゲイツ: Bill Gates: 2 そしてライバルは誰もいなくなった	脇英世	東京電機大学出版局
3638	経営管理	カルロス・ゴーン: 国境、組織、すべての枠を超える生き方(私の履歴書)	カルロス・ゴーン	日本経済新聞出版社
3639	経営管理	スティーブ・ジョブズ: 無謀な男が真のリーダーになるまで: 上	ブレント・シュレンダー/リック・テツヅエリ	日本経済新聞出版社
3640	経営管理	スティーブ・ジョブズ: 無謀な男が真のリーダーになるまで: 下	ブレント・シュレンダー/リック・テツヅエリ	日本経済新聞出版社
3641	経営管理	マーケティングと共に: フィリップ・コトラー自伝	フィリップ・コトラー	日本経済新聞出版社
3642	経営管理	2020年の中国: 「新常态」がもたらす変化と事業機会	此本臣吾/松野豊	東洋経済新報社
3643	経営管理	マッキンゼーが予測する未来: 近未来のビジネスは、4つの力に支配されている	リチャード・ドブス/ジェームズ・マニーカ	ダイヤモンド社
3644	経営管理	フレームを変えると、世界が変わる: コトバのマジック	則定隆男	関西学院大学出版会
3645	経営管理	9プリンシプルス: 加速する未来で勝ち残るために	伊藤藤一/ジェフ・ハウ	早川書房
3646	経営管理	新社会基盤マインナーの全貌: 制度対応の勤所からビジネス・医療での活用まで		日経BP社
3647	経営管理	非営利法人経営論	岩崎保道	大学教育出版
3648	経営管理	契約書作成の実務と書式: 企業実務家視点の難題とその解説		有斐閣
3649	経営管理	合同会社のモデル定款: 利用目的別8類型	江頭憲治郎	商事法務
3650	経営管理	会社の目的と取締役の義務・責任: CSRをめぐる法的考察	畠田公明	中央経済社
3651	経営管理	粉飾決算: 問われる監査と内部統制	浜田康	日本経済新聞出版社
3652	経営管理	企業再編の理論と実務: 企業再編のすべて		商事法務
3653	経営管理	ケースブックM&A: ハーバード・ロースクールでの講義を基に	J.マーク・ラムサイヤー/岩倉正和	商事法務
3654	経営管理	グローバルキャリアのすすめ: プロフェッショナル講義	小西尚実/西野桂子	関西学院大学総合政策学部
3655	経営管理	世界の現場で僕たちが学んだ「仕事の基本」		阪急コミュニケーションズ
3656	経営管理	これだけは知っておきたい!外国人相談の基礎知識		松柏社
3657	経営管理	17歳からはじめる経済・経営学のススメ	和光大学経済経営学部	日本評論社
3658	経営管理	不確実性下の意思決定理論	イツァーク・ギルポア	勁草書房
3659	経営管理	サービス商品論	榎田豊	桜井書店
3660	経営管理	イノベーション論入門: Introduction to Innovation Theories	土井教之/宮田由紀夫	中央経済社
3661	経営管理	物欲なき世界	菅付雅信	平凡社
3662	経営管理	時流の先へ: 中部財界ものがたり		中日新聞社
3663	経営管理	時流の先へ: 中部財界ものがたり: 2		中日新聞社
3664	経営管理	中国改革の深化と日本企業の事業展開	真家陽一	ジェトロ
3665	経営管理	中国経済成長の罅: 金融危機とバランスシート不況	関辰一	日本経済新聞出版社
3666	経営管理	Brexit(英離脱)ショック企業の選択: 世紀の誤算のインパクト	吉田健一郎	日本経済新聞出版社
3667	経営管理	新興国市場の特質と新たなBOP戦略: 開発経営学を目指して	林倬史	文眞堂
3668	経営管理	ゼロ・トゥ・ワン: 君はゼロから何を生み出せるか	ピーター・ティール/ブレイク・マスターズ	NHK出版
3669	経営管理	ビジネス・クリエーション!: アイデアや技術から新しい製品・サービスを創る24ステップ	ビル・オーレット	ダイヤモンド社
3670	経営管理	ベンチャー起業家社会の実現: 起業家教育とエコシステムの構築	熊野正樹	ナカニシヤ出版
3671	経営管理	よくわかる企業論, 第2版(やわらかアカデミズム・わかる)シリーズ)	佐久間信夫	ミネルヴァ書房

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
3672	経営管理	スタートアップ: アイデアから利益を生み出す組織マネジメント	ダイアナ・キャンダー	新潮社
3673	経営管理	ベンチャー企業経営論, 改訂版	秋山義継/松岡弘樹	税務経理協会
3674	経営管理	1からのアントレプレナーシップ	山田幸三/江島由裕	碩学舎
3675	経営管理	アントレプレナーシップ教科書: Textbook of Entrepreneurship	三枝省三	中央経済社
3676	経営管理	企業論テキスト: Essentials of Contemporary Business	汪志平	中央経済社
3677	経営管理	法務の技法	芦原一郎	中央経済社
3678	経営管理	テクノロジー・スタートアップが未来を創る: テック起業家をめざせ	鎌田富久	東京大学出版会
3679	経営管理	ベンチャー経営論 (はじめての経営学)	長谷川博和	東洋経済新報社
3680	経営管理	スタンダード企業論: 企業のガバナンス・成長・ネットワーク化・国際化, 改訂版	牛丸元	同文館出版
3681	経営管理	テキスト現代企業論, 第4版	坂本恒夫/大坂良宏	同文館出版
3682	経営管理	20 under 20: 答えがない難問に挑むシリコンバレーの人々	アレクサンドラ・ウルフ	日経BP社
3683	経営管理	起業家とつかった起業の教科書: イノベーションで社会を変えたい人のための	トーマツベンチャーサポート	日経BP社
3684	経営管理	模倣の経営学: 実践プログラム版	井上達彦	日経BP社
3685	経営管理	プリンストン大学の起業の教科書: 元気に育ち、長く続く会社のつくり方	デレク・リドー	日本能率協会マネジメントセンター
3686	経営管理	現代企業論: 経営と法律の視点, 第5版	境新一	文眞堂
3687	経営管理	ケースで学ぶ国際企業法務のエッセンス	森下哲朗/平野温郎	有斐閣
3688	経営管理	企業論, 第4版 (有斐閣アルマ Specialized)	三戸浩/池内秀己	有斐閣
3689	経営管理	経営の再生: 戦略の時代・組織の時代, 第4版	高橋伸夫	有斐閣
3690	経営管理	アントレプレナーの教科書: シリコンバレー式イノベーション・プロセス, 新装版	スティーブ・G.ブランク	翔泳社
3691	経営管理	最新・基本経営学用語辞典, 改訂版		同文館出版
3692	経営管理	一流の経営者は、何を考え、どう行動し、いかにして人を惹き付けるのか? (京都大学の経営学講義 2)	川北英隆/奥野一成	ダイヤモンド・ビジネス企画
3693	経営管理	ハーバード・ビジネス・レビューBEST10論文: 世界の経営者が愛読する (Harvard Business Review)		ダイヤモンド社
3694	経営管理	経営の針路: 世界の転換期で日本企業はどこを目指すか	平野正雄	ダイヤモンド社
3695	経営管理	人と企業はどこで間違えるのか?: 成功と失敗の本質を探る「10の物語」	ジョン・ブルックス	ダイヤモンド社
3696	経営管理	経営学の学問性を問う (経営学論集 第84集)		千倉書房
3697	経営管理	日本的ものづくり経営パラダイムを超えて (経営学論集 第85集)		千倉書房
3698	経営管理	全員経営: 自律分散イノベーション企業成功の本質	野中郁次郎/勝見明	日本経済新聞出版社
3699	経営管理	ハーバードはなぜ日本の東北で学ぶのか: 世界トップのビジネススクールが伝えたいビジネスの本質	山崎崎加	ダイヤモンド社
3700	経営管理	ビジネスを学ぶ基礎ゼミナール	齋藤雅子	同文館出版
3701	経営管理	人生を変えるMBA: 「神戸方式」で学ぶ最先端の経営学		有斐閣
3702	経営管理	稲盛和夫経営講演選集: KAZUO INAMORI LECTURES: 第1巻 技術開発に賭ける	稲盛和夫	ダイヤモンド社
3703	経営管理	経営学のことが面白いほどわかる本, 改訂版	笠原英一	KADOKAWA
3704	経営管理	図解大学4年間の経営学が10時間でざっと学べる	高橋伸夫	KADOKAWA
3705	経営管理	大学4年間の経営学が10時間でざっと学べる	高橋伸夫	KADOKAWA
3706	経営管理	マネジメント入門: グローバル経営のための理論と実践	スティーブン・ロビンソン/デービッド・A・ディチェンゾ	ダイヤモンド社
3707	経営管理	ハンドブック経営学: Handbook BUSINESS ADMINISTRATION, 改訂版		ミネルヴァ書房
3708	経営管理	ビジネスをデザインする: 経営学入門	足立辰雄	ミネルヴァ書房
3709	経営管理	よくわかる現代経営, 第5版 (やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ)		ミネルヴァ書房
3710	経営管理	企業と利益がわかる: 経営学入門オムニバス講義		ミネルヴァ書房
3711	経営管理	やさしく学ぶ経営学	吉沢正広	学文社
3712	経営管理	実学企業とマネジメント	吉沢正広	学文社
3713	経営管理	新経営学総論: 経営学の新たな展開		学文社
3714	経営管理	アントレプレナーの経営学: 1 戦略・起業・イノベーション	エリック・ボール/ジョセフ・リビュマ	慶應義塾大学出版会
3715	経営管理	アントレプレナーの経営学: 2 リーダーシップ・組織・新トピックス	エリック・ボール/ジョセフ・リビュマ	慶應義塾大学出版会
3716	経営管理	アントレプレナーの経営学: 3 国際ビジネス・ファイナンス	エリック・ボール/ジョセフ・リビュマ	慶應義塾大学出版会
3717	経営管理	ここから始める経営入門	崔英靖/大西正志	晃洋書房
3718	経営管理	経営学批判序説	竹内毅	晃洋書房
3719	経営管理	経営学大図鑑	イアン・マルコーズ	三省堂
3720	経営管理	経営学, 第3版 (基礎コース 経営学 1)	小松章	新世社
3721	経営管理	現代の経営学	菊池敏夫/櫻井克彦	税務経理協会
3722	経営管理	イチから学ぶビジネス: 高校生・大学生の経営学入門, 改訂版	小野正人	創成社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
3723	経営管理	データから読み解く経営学: 経営・経済問題を解決するための情報処理活用	田中正敏	創成社
3724	経営管理	やさしく学ぶ経営学, 第2版	海野博/畑隆	創成社
3725	経営管理	近代経営の基礎: 企業経済学序説, 第4版	三浦隆之	創成社
3726	経営管理	経営学原理	佐久間信夫/石井泰幸	創成社
3727	経営管理	新時代の経営マネジメント	中山健/丹野勲	創成社
3728	経営管理	ガイダンス現代経営学	山倉健嗣	中央経済社
3729	経営管理	ステークホルダーの経営学: 開かれた社会と持続可能な企業, 第2版	大平浩二	中央経済社
3730	経営管理	テキスト現代経営入門	桑名義晴/宮下幸一	中央経済社
3731	経営管理	はじめて出会う経営学	内藤勲/関千里	中央経済社
3732	経営管理	経営学入門 (ベーシック+)	藤田誠	中央経済社
3733	経営管理	新しい経営学の創造		中央経済社
3734	経営管理	経営理論大全: すぐに使える最強のビジネスセオリー	ジェームス・マクグラス/ボブ・ベイツ	朝日新聞出版
3735	経営管理	基本経営学	浅野清彦/小松敏弘	東海大学出版部
3736	経営管理	使える経営学	杉野幹人	東洋経済新報社
3737	経営管理	ケースで学ぶケーススタディ: Mastering Case Study Research through Cases	高橋広行	同文館出版
3738	経営管理	基本経営学: Basic Business Administration, 改訂版	深山明/海道ノブチカ	同文館出版
3739	経営管理	経営学の定点, 増補改訂版	石嶋芳臣/岡田行正	同文館出版
3740	経営管理	経営学ベーシックスプラス	犬塚正智/楢谷正人	同文館出版
3741	経営管理	経営学要論	岸川善光	同文館出版
3742	経営管理	現代企業経営学の基礎: 上巻, 新装版	松本芳男	同文館出版
3743	経営管理	現代企業経営学の基礎: 下巻, 新装版	松本芳男	同文館出版
3744	経営管理	経営学概論: Introduction to Business Administration, 新版	片山富弘/山田啓一	同友館
3745	経営管理	ビジネススクールでは学べない世界最先端の経営学	入山章栄	日経BP社
3746	経営管理	ブラックスワンの経営学: 通説をくつがえした世界最優秀ケーススタディ	井上達彦	日経BP社
3747	経営管理	なぜ日本企業は強みを捨てるのか: 長期の競争vs.短期の競争	小池和男	日本経済新聞出版社
3748	経営管理	マネジメント講義ノート	山本浩二/上野山達哉	白桃書房
3749	経営管理	経営学への招待, 新装版	坂下昭宣	白桃書房
3750	経営管理	経営学への扉: フレッシュマンのためのガイドブック, 第5版		白桃書房
3751	経営管理	経営事例の質的比較分析: スモールデータで因果を探る	田村正紀	白桃書房
3752	経営管理	変化の経営学: 組織・戦略・経営者	林淳一	白桃書房
3753	経営管理	企業経営とマネジメント	秋山義継/松岡弘樹	八千代出版
3754	経営管理	はじめて学ぶ人のための経営学, ver.3	片岡信之/齊藤毅憲	文真堂
3755	経営管理	経営から視る現代社会, 新版	今井斉/岸川典昭	文真堂
3756	経営管理	経営のルネサンス: グローバリズムからポストグローバリズムへ	鈴木秀一/細萱伸子	文真堂
3757	経営管理	個人の自立と成長のための経営学入門: キャリア戦略を考える (新しい経営学 1)	齊藤毅憲/渡辺峻	文真堂
3758	経営管理	実践に学ぶ経営学	風間信隆/松田健	文真堂
3759	経営管理	大学4年間の経営学見るだけノート		宝島社
3760	経営管理	経営学概論 (放送大学教材)	山田幸三	放送大学教育振興会
3761	経営管理	経営学とリスクマネジメントを学ぶ: 生活から経営戦略まで	亀井克之	法律文化社
3762	経営管理	企業の経済学: 構造と成長		有斐閣
3763	経営管理	経営の経済学: BUSINESS ECONOMICS, 第3版	丸山雅祥	有斐閣
3764	経営管理	経営学で考える: Managementthink	高橋伸夫	有斐閣
3765	経営管理	経営学講義: Management Studies, 新訂	板倉宏昭	勁草書房
3766	経営管理	安藤百福: 世界的な新産業を創造したイノベーター (PHP経営叢書 日本の企業家 11)	榎原清則	PHP研究所
3767	経営管理	井深大: 人間の幸福を求めた創造と挑戦 (PHP経営叢書 日本の企業家 8)	一條和生	PHP研究所
3768	経営管理	丸田芳郎: たゆまざる革新を貫いた第二の創業者 (PHP経営叢書 日本の企業家 9)	佐々木聡	PHP研究所
3769	経営管理	江崎利一: 菓子産業に新しい地平を拓いた天性のマーケター (PHP経営叢書 日本の企業家 12)	宮本又郎	PHP研究所
3770	経営管理	小倉昌男: 成長と進化を続けた論理的ストラテジスト (PHP経営叢書 日本の企業家 13)	沼上幹	PHP研究所
3771	経営管理	小林一三: 都市型第三次産業の先駆的創造者 (PHP経営叢書 日本の企業家 5)	老川慶喜	PHP研究所
3772	経営管理	大原孫三郎: 地域創生を果たした社会事業家の魁 (PHP経営叢書 日本の企業家 10)	阿部武司	PHP研究所
3773	経営管理	中内功: 理想に燃えた流通革命の先導者 (PHP経営叢書 日本の企業家 6)	石井淳蔵	PHP研究所

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
3774	経営管理	本田宗一郎: 夢を追い続けた知的バーバリアン (PHP経営叢書 日本の企業家 7)	野中郁次郎	PHP研究所
3775	経営管理	イノベーションと企業家精神, エssenシャル版	P.F.ドラッカー	ダイヤモンド社
3776	経営管理	グレートカンパニー: 優れた経営者が数字よりも大切にしている5つの条件	リッチ・カールガード	ダイヤモンド社
3777	経営管理	なぜあの経営者はすごいのか: 数字で読み解くトップの手腕	山根節	ダイヤモンド社
3778	経営管理	経営者に贈る5つの質問, 第2版	P.F.ドラッカー	ダイヤモンド社
3779	経営管理	CSV経営とSDGs政策の両立事例: “共通価値の創出”パターン分類と更なる“社会的包摂”への提案	近藤久美子	ナカニシヤ出版
3780	経営管理	CSV時代のイノベーション戦略: 「社会課題」から骨太な新事業を産み出す	藤井剛	ファーストプレス
3781	経営管理	社会的インパクトとは何か: 社会変革のための投資・評価・事業戦略ガイド	マーク・J.エフスタイン/クリスティ・ユーズ	英治出版
3782	経営管理	サステナブル・カンパニー入門: ビジネスと社会的課題をつなぐ企業・地域	大室悦賀	学芸出版社
3783	経営管理	企業家精神のダイナミクス: その生成、発展および発現形態のケース分析 (関西学院大学研究叢書 第183編)	佐藤善信	関西学院大学出版会
3784	経営管理	闘う商人中内功: ダイエーは何を目指したのか	小樽雅章	岩波書店
3785	経営管理	地域と社会を変えた起業家たち (ケース・ブック 5)	石田英夫/星野裕志	慶應義塾大学出版会
3786	経営管理	イーロン・マスク: 未来を創る男	アシュリー・バンス	講談社
3787	経営管理	社会のために働く: 未来の仕事とリーダーが生まれる現場	藤沢烈	講談社
3788	経営管理	ソーシャルインパクト: 価値共創 (CSV) が企業・ビジネス・働き方を変える	玉村雅敏/横田浩一	産学社
3789	経営管理	夢を追いかける起業家たち: デイズニー、ナイキ、マクドナルド、アップル、グーグル、フェイスブック	ギルバート/フリッシュ	西村書店
3790	経営管理	入門企業と社会: Business and Society	佐々木利廣/大室悦賀	中央経済社
3791	経営管理	「好き嫌い」と経営	楠木建	東洋経済新報社
3792	経営管理	「好き嫌い」と才能	楠木建	東洋経済新報社
3793	経営管理	CSV経営戦略: 本業での高収益と、社会の課題を同時に解決する	名和高司	東洋経済新報社
3794	経営管理	リーダーシップの哲学: 12人の経営者に学ぶリーダーの育ち方	一條和生	東洋経済新報社
3795	経営管理	HARD THINGS: 答えがない難問と困難にきみはどう立ち向かうか	ベン・ホロウィッツ	日経BP社
3796	経営管理	ニコニコ哲学: 川上量生の胸のうち	川上量生	日経BP社
3797	経営管理	旗手たちのアリア: 経営者編		日経BP社
3798	経営管理	旗手たちのアリア: 社会起業家編		日経BP社
3799	経営管理	イーロン・マスクの世紀	兼松雄一郎	日本経済新聞出版社
3800	経営管理	日本の起業家精神: 日本的「世間」の倫理と資本主義の精神	上坂卓郎	文真堂
3801	経営管理	企業家学のすすめ: Studies in Entrepreneurship: Theories and Cases		有斐閣
3802	経営管理	経営・ビジネス心理学	松田幸弘	ナカニシヤ出版
3803	経営管理	会社は社会を変えられる: 社会問題と事業を(統合)するCSR戦略	岩井克人/小宮山宏	プレジデント社
3804	経営管理	未来に選ばれる会社: CSRから始まるソーシャル・ブランディング	森撰/オルタナ編集部	学芸出版社
3805	経営管理	戦略としてのビジネス倫理入門	高橋浩夫	丸善出版
3806	経営管理	持続可能性経営: ESGと企業価値との関係を考える	宮崎正浩	現代図書
3807	経営管理	マーケティング倫理が企業を救う!	水尾順一	生産性出版
3808	経営管理	日本企業のCSR経営	谷本寛治	千倉書房
3809	経営管理	震災と企業の社会性・CSR: 東日本大震災における企業活動とCSR	矢口義教	創成社
3810	経営管理	CSRの基礎: 企業と社会の新しいあり方	國部克彦	中央経済社
3811	経営管理	CSR経営戦略: 「社会的責任」で競争力を高める, 新版	伊吹英子	東洋経済新報社
3812	経営管理	企業倫理: 信頼に投資する	アンドレアス・ズーハネク	同文館出版
3813	経営管理	企業倫理リスクのマネジメント: ソフト・コントロールによる倫理力と持続力の向上	上田和勇	同文館出版
3814	経営管理	なぜ企業に倫理を問えるのか: 企業道徳的主体論争を読み解く (奈良学園大学社会科学学会研究叢書 2)	宮坂純一	萌書房
3815	経営管理	不正リスク管理・有事対応: 経営戦略に活かすリスクマネジメント	山口利昭	有斐閣
3816	経営管理	世界でいちばん大切にしたい会社: コンシャス・カンパニー (Harvard Business School Press)	ジョン・マッキー/ラジェンドラ・シソーディア	翔泳社
3817	経営管理	理系企業と文系企業: 何がどう違うのか?	横田好太郎	PHP研究所
3818	経営管理	ビジネス・ヒストリー: グローバル企業誕生への道程	F.アマトーリ/A.コリー	ミネルヴァ書房
3819	経営管理	図説世界を変えた50のビジネス (シリーズ知の図書館 8)	ジョン・リップチンスキ	原書房
3820	経営管理	レジリエント・カンパニー: なぜあの企業は時代を超えて勝ち残ったのか	ピーター・D.ビーダーセン	東洋経済新報社
3821	経営管理	事業創造のロジック: ダントツのビジネスを発想する	根来龍之	日経BP社
3822	経営管理	これからの経営は「南」から学べ: 新興国の爆発的成長が生んだ新常識	ラム・チャラン	日本経済新聞出版社
3823	経営管理	成功企業に潜むビジネスモデルのルール: 見えないところに競争力の秘密がある	山田英夫	ダイヤモンド社
3824	経営管理	レジリエント・マネジメント: Resilient Management		ナカニシヤ出版

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
3825	経営管理	日本の「いい会社」: 地域に生きる会社力 (シリーズ・ニッポン再発見 6)	坂本光司/法政大学大学院坂本光司研究室	ミネルヴァ書房
3826	経営管理	なぜ日本企業は勝てなくなったのか: 個を活かす「分化」の組織論 (新潮選書)	太田肇	新潮社
3827	経営管理	1からの経営史	宮本又郎/岡部桂史	碩学舎
3828	経営管理	大手を蹴った若者が集まる知る人ぞ知る会社	オバタカズユキ	朝日新聞出版
3829	経営管理	創業三〇〇年の長寿企業はなぜ栄え続けるのか	グロービス経営大学院	東洋経済新報社
3830	経営管理	千葉大発ベンチャービジネス実践論: 熱きスピリッツとスキルを学ぶ		日刊工業新聞社
3831	経営管理	企業家活動でたどるサステイナブル経営史: CSR経営の先駆者に学ぶ (法政大学イノベーション・マネジメント研究センター叢書 11)	長谷川直哉	文眞堂
3832	経営管理	ビジネス大変身!: ポスト資本主義11社の決断	藤吉雅春	文藝春秋
3833	経営管理	日本のビジネスシステム: その原理と革新		有斐閣
3834	経営管理	京都企業歴史と空間の産物	徳賀芳弘	中央経済社
3835	経営管理	世界を動かす地域産業の底力: 備後・府中100年の挑戦	中沢孝夫	筑摩書房
3836	経営管理	アジア経営論: ダイナミックな市場環境と企業戦略	陳晋	ミネルヴァ書房
3837	経営管理	現代アジアの企業経営: 多様化するビジネスモデルの実態 (MINERVA TEXT LIBRARY 66)	中川涼司/高久保豊	ミネルヴァ書房
3838	経営管理	中国中小企業の起業・経営・人材管理: 民営化企業の多様化に迫る (現代中国地域研究叢書 9)	北蕾	勁草書房
3839	経営管理	台湾の企業戦略: 経済発展の担い手と多国籍企業化への道	朝元照雄	勁草書房
3840	経営管理	台湾企業の発展戦略: ケーススタディと勝利の方程式	朝元照雄	勁草書房
3841	経営管理	道端の経営学: 戦略は弱者に学べ	マイケル・マツツエオ/ポール・オイヤー	ヴィレッジブックス
3842	経営管理	IoT時代の競争分析フレームワーク: バリューチェーンからレイヤー構造化へ	根来龍之/浜屋敏	中央経済社
3843	経営管理	ファミリービジネス賢明なる成長への条件: 傑出した世界のベストプラクティス	ヨアキム・シュワス	中央経済社
3844	経営管理	日本のファミリービジネス: その持続性を探る	奥村昭博	中央経済社
3845	経営管理	ファミリービジネスのイノベーション	玄場公規	白桃書房
3846	経営管理	世界の伸びている中小・ベンチャー企業は何を考えているのか?: 海外には、日本で知られていない面白いビジネスがたくさんある!	安西洋之	クロスメディア・パブリッシング
3847	経営管理	現代中小企業の海外事業展開: グローバル戦略と地域経済の活性化 (MINERVA現代経営学叢書 50)	佐竹隆幸	ミネルヴァ書房
3848	経営管理	老舗企業にみる100年の知恵: 革新のメカニズムを探る (龍谷大学社会科学研究所叢書 第103巻)	大西謙	晃洋書房
3849	経営管理	中小企業の経営と診断: 持続ある社会活動の経営支援に向けて	小川雅人	創風社
3850	経営管理	小さな会社の大きな力: 逆境を成長に変える企業家的志向性(E0) (大阪経済大学研究叢書 第87冊)	江島由裕	中央経済社
3851	経営管理	中小企業のマネジメント: 理論と実践	安達明久/石井康夫	中央経済社
3852	経営管理	中小企業経営入門: Introduction to Small Business Management	井上善海/木村弘	中央経済社
3853	経営管理	町工場からアジアのグローバル企業へ: 中小企業の海外進出戦略と支援策	大野泉	中央経済社
3854	経営管理	イノベーション政策の科学: SBIRの評価と未来産業の創造		東京大学出版会
3855	経営管理	革新的中小企業のグローバル経営: 「差別化」と「標準化」の成長戦略	土屋勉男/金山権	同文館出版
3856	経営管理	事例で見る中堅企業の成長戦略: ダイナミック・ケイパビリティで突破する「成長の壁」	土屋勉男/金山権	同文館出版
3857	経営管理	「見つめ直す」経営学: 可視化で殻を破った中小企業の事例研究		同友館
3858	経営管理	アジア大の分業構造と中小企業 (日本中小企業学会論集 33)		同友館
3859	経営管理	現代中小企業のソーシャル・イノベーション	佐竹隆幸	同友館
3860	経営管理	中小企業が市場社会を変える: 中小企業研究の社会論的転換 (嘉悦大学大学院叢書 1)	黒瀬直宏/上原聡	同友館
3861	経営管理	中小企業のリバース・イノベーション: Reverse Innovation of Japanese SMEs	吉田健太郎	同友館
3862	経営管理	中小企業の空洞化適応: 日本の現場から導き出されたモデル	岸本太一/桑野博行	同友館
3863	経営管理	創造的中小企業の存亡: 生存要因の実証分析 (大阪経済大学研究叢書 第80冊)	江島由裕	白桃書房
3864	経営管理	会社事業承継の実務と理論: 会社法・相続法・租税法・労働法・信託法の交錯	山下真弘	法律文化社
3865	経営管理	中小企業・ベンチャー企業論: グローバルと地域のはざままで, 新版 (有斐閣コンパクト)	植田浩史/桑原武志	有斐閣
3866	経営管理	中小企業の事業承継	中村廉平	有斐閣
3867	経営管理	ファーム・コミットメント: 信頼できる株式会社をつくる	コリン・メイヤー	NTT出版
3868	経営管理	日本の企業統治と雇用制度のゆくえ: ハイブリッド組織の可能性	宮本光晴	ナカニシヤ出版
3869	経営管理	会社のことよくわからないまま社会人になった人へ: ひとめでわかる図解入り, 第2版	池上彰	海竜社
3870	経営管理	コーポレート・ガバナンス改革の提言: 企業価値向上・経済活性化への道筋	宍戸善一/後藤元	商事法務
3871	経営管理	コーポレートガバナンス・コードの読み方・考え方	中村直人/倉橋雄作	商事法務
3872	経営管理	企業統治論: 東アジアを中心に	菊池敏夫/金山権	税務経理協会
3873	経営管理	東アジアとアセアン諸国のコーポレート・ガバナンス	三和裕美子	税務経理協会
3874	経営管理	入門会社学のススメ: 学生のうちに学んでおきたい会社の知識	黒川雅之	税務経理協会
3875	経営管理	2020年代の新総合商社論: 日本的グローバル企業はトランスナショナル化できるか	榎本俊一	中央経済社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
3876	経営管理	企業統治 (ベーシック+)	吉村典久/田中一弘	中央経済社
3877	経営管理	「良心」から企業統治を考える: 日本的経営の倫理	田中一弘	東洋経済新報社
3878	経営管理	ガバナンス革命の新たなロードマップ: 2つのコードの高度化による企業価値向上の実現	北川哲雄	東洋経済新報社
3879	経営管理	ステュワードシップとコーポレートガバナンス: 2つのコードが変える日本の企業・経済・社会	北川哲雄	東洋経済新報社
3880	経営管理	日本企業のためのコーポレートガバナンス講座	藤田勉	東洋経済新報社
3881	経営管理	コーポレート・ガバナンス「本当にそうなのか?」: 大量データからみる真実	円谷昭一	同文館出版
3882	経営管理	統合報告書による情報開示の新潮流		同文館出版
3883	経営管理	コーポレートガバナンス・コードの実践: A Practical Introduction to Corporate Governance Code	武井一浩/井口譲二	日経BP社
3884	経営管理	これならわかるコーポレートガバナンスの教科書	松田千恵子	日経BP社
3885	経営管理	企業統治改革の陥穽: 労組を活かす経営	小池和男	日本経済新聞出版社
3886	経営管理	経営はだれのものか: 協働する株主による企業統治再生	加護野忠男	日本経済新聞出版社
3887	経営管理	統合報告の実践: 未来を拓くコーポレートコミュニケーション	ロバート・G.エクス/マイケル・P.クルス	日本経済新聞出版社
3888	経営管理	変わるコーポレートガバナンス: コード・監査等委員会・グループ内部統制		日本経済新聞出版社
3889	経営管理	アジアのコーポレート・ガバナンス改革	佐久間信夫/出見世信之	白桃書房
3890	経営管理	経営者支配とは何か: 日本版コーポレート・ガバナンス・コードとは	今井祐	文眞堂
3891	経営管理	取締役会の仕事: 先頭に立つとき、協力するとき、沈黙すべきとき	ラム・チャラン/デニス・ケアリー	日経BP社
3892	経営管理	IPOの理論・実証分析: 過小値付けと長期パフォーマンス	池田直史	三菱経済研究所
3893	経営管理	M&Aと組織再編のすべて	Donald M.DePamphilis	金融財政事情研究会
3894	経営管理	JTのM&A: 日本企業が世界企業に飛躍する教科書	新貝康司	日経BP社
3895	経営管理	日本のM&A: 理論と事例研究	服部暢達	日経BP社
3896	経営管理	M&Aの理論と実際	佐久間信夫/中村公一	文眞堂
3897	経営管理	三井・三菱・住友・芙蓉・三和・一勲: 日本の六大企業集団 (角川選書 587)	菊地浩之	KADOKAWA
3898	経営管理	アライアンス戦略論: Alliance Strategies in the Competitive Environment, 新版	安田洋史	NTT出版
3899	経営管理	領域を超える経営学: グローバル経営の本質を「知の系譜」で読み解く	琴坂将広	ダイヤモンド社
3900	経営管理	国際ビジネス: 1 グローバル化と国による違い	チャールズ・W.L.ヒル	楽工社
3901	経営管理	国際ビジネス: 2 経営環境と金融システム	チャールズ・W.L.ヒル	楽工社
3902	経営管理	国際ビジネス: 3 企業戦略と事業運営	チャールズ・W.L.ヒル	楽工社
3903	経営管理	コア・テキスト国際経営 (ライブラリ経営学コア・テキスト 11)	大木清弘	新世社
3904	経営管理	中国発グローバル企業の実像	徐方啓	千倉書房
3905	経営管理	大学生のための国際経営論	岩谷昌樹	創成社
3906	経営管理	グローバル・ビジネス・マネジメント: 経営進化に向けた日本企業への処方箋		中央経済社
3907	経営管理	スウェーデン流グローバル成長戦略: 「分かち合い」の精神に学ぶ	加護野忠男/山田幸三	中央経済社
3908	経営管理	企業経営のグローバル化研究: マーケティングからロジスティクスの時代へ, 第3版	丹下博文	中央経済社
3909	経営管理	多国籍企業のグローバル価値連鎖: 国際経営戦略論の系譜	瀬藤澄彦	中央経済社
3910	経営管理	グローバル経営要論	岸川善光/朴慶心	同文館出版
3911	経営管理	国際ビジネスの新機軸: セミ・グローバル化の現実の下で	諸上茂登/藤澤武史	同文館出版
3912	経営管理	最新「国際経営」入門	高橋浩夫	同文館出版
3913	経営管理	日本的グローバル・オペレーションズ・マネジメント: ジャパン・クオリティを支える強いインテグリティ	宮川正裕	同文館出版
3914	経営管理	理論とケースで学ぶ国際ビジネス, 第4版	江夏健一/桑名義晴	同文館出版
3915	経営管理	企業はなぜ海外へ出てゆくのか: 多国籍企業論への階梯 (シリーズ社会・経済を学ぶ)	越後修	日本経済評論社
3916	経営管理	グローバル企業: 国際化・グローバル化の歴史的展望	安部悦生	文眞堂
3917	経営管理	はじめて学ぶ人のためのグローバル・ビジネス, 改訂新版	梶浦雅己	文眞堂
3918	経営管理	ワークブック国際ビジネス, 第2版	米澤聡士	文眞堂
3919	経営管理	国際経営法の新展開: 会社法改正ならびに金融法とコーポレート・ガバナンス, ステュワードシップ・コードの接点	藤川信夫	文眞堂
3920	経営管理	はじめての国際経営: INTRODUCTION TO INTERNATIONAL MANAGEMENT (有斐閣ストゥディア)	中川功一/林正	有斐閣
3921	経営管理	国際経営, 第4版 (有斐閣アルマ Specialized)	吉原英樹	有斐閣
3922	経営管理	住友の歴史: 上巻		思文閣出版
3923	経営管理	住友の歴史: 下巻		思文閣出版
3924	経営管理	協同組合は「未来の創造者」になれるか		家の光協会
3925	経営管理	協同組合未来への選択		日本経済評論社
3926	経営管理	明日の協同を担うのは誰か: 基礎からの協同組合論 (シリーズ社会・経済を学ぶ)	佐藤信	日本経済評論社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
3927	経営管理	これからの社会的企業に求められるものは何か: カリスマからパートナーシップへ	川村暁雄	ミネルヴァ書房
3928	経営管理	ソーシャル・ビジネス・ケース: 少子高齢化時代のソーシャル・イノベーション	谷本寛治	中央経済社
3929	経営管理	ソーシャル・ビジネスのイノベーション	岸真清/島和俊	同文館出版
3930	経営管理	日本のソーシャルビジネス		同友館
3931	経営管理	いつかリーダーになる君たちへ: 東大人気講義チームビルディングのレッスン	安部敏樹	日経BP社
3932	経営管理	社会的企業論: もうひとつの経済	山本隆	法律文化社
3933	経営管理	ソーシャル・エンタプライズ論: 自立をめざす事業の核心		有斐閣
3934	経営管理	地域協働のマネジメント	佐々木利廣	中央経済社
3935	経営管理	NPO,そしてソーシャルビジネス: 進化する企業の社会貢献	坂本恒夫/丹野安子	文眞堂
3936	経営管理	人と組織の問題を劇的に解決するU理論入門	中土井僚	PHPエディターズ・グループ
3937	経営管理	リーンエンタープライズ: イノベーションを実現する創発的な組織づくり (THE LEAN SERIES)	ジェズ・ハンブル/ジョアンヌ・モレスキー	オライリー・ジャパン
3938	経営管理	シリコンバレー式最高のイノベーション	スティーブン・S.ホフマン	ダイヤモンド社
3939	経営管理	ドラッカーの実践マネジメント教室: 経営のリアルな問題をいかにして解決へ導くか	P.F.ドラッカー	ダイヤモンド社
3940	経営管理	コンサルター〇〇年史: Century of Management Consulting (ディスカヴァー・レボリューションズ)	並木裕太	ディスカヴァー・トゥエンティワン
3941	経営管理	失敗学: 最新図解	畑村洋太郎	ナツメ社
3942	経営管理	今、あなたが内定をもらったら: 20代の働くルール58		ビーケイシー
3943	経営管理	未来企業: レジリエンスの経営とリーダーシップ	リンダ・グラットン	プレジデント社
3944	経営管理	決断力にみるリスクマネジメント (シリーズ・ケースで読み解く経営学 3)	亀井克之	ミネルヴァ書房
3945	経営管理	U理論: 過去や偏見にとらわれず、本当に必要な「変化」を生み出す技術, 第2版	C.オットー・シャーマー	英治出版
3946	経営管理	謙虚なコンサルティング: クライアントにとって「本当の支援」とは何か	エドガー・H.シャイン	英治出版
3947	経営管理	戦略的サプライチェーンマネジメント: 競争優位を生み出す5つの原則	シヨシヤナ・コーエン/ジョセフ・ルーセル	英治出版
3948	経営管理	日本的リスクマネジメント理論の現代的意義: 亀井利明最終講演の記録	羽原敬二	関西大学出版部
3949	経営管理	グローバルプロジェクトチームのまとめ方: リーダーシップの新たな挑戦	ルス・マルティネリ/ティム・ラシュルト	慶應義塾大学出版会
3950	経営管理	日産モノづくりの知識創造経営: 知識創造を促進する行為とリーダーシップ	松平好人	晃洋書房
3951	経営管理	よくわかるグローバルインベストイゲーション		商事法務
3952	経営管理	長寿企業のリスクマネジメント: 生き残るためのDNA		第一法規
3953	経営管理	サプライチェーン・マネジメント論	中野幹久	中央経済社
3954	経営管理	マネジメントの航海図: 個人と組織の複眼的な経営管理	馬場杉夫/蔡=錫	中央経済社
3955	経営管理	モノポリーで学ぶビジネスの基礎	林徹	中央経済社
3956	経営管理	リスクマネジメント (ベーシック+)	柳瀬典由/石坂元一	中央経済社
3957	経営管理	映画に学ぶ経営管理論: Business management theory: Learn from the movies, 第2版	松山一紀	中央経済社
3958	経営管理	企業再生と管理会計: ビジネス・エコシステムからみた経験的研究 (メルコ学術振興財団研究叢書 8)	吉川晃史	中央経済社
3959	経営管理	経営管理論 (ベーシック+)	上野恭裕/馬場大治	中央経済社
3960	経営管理	戦略的リスクマネジメントで会社を強くする	野田健太郎	中央経済社
3961	経営管理	いま改めて読む、ドラッカー『現代の経営』	坂本和一	東信堂
3962	経営管理	BCG経営コンセプト: 市場創造編	内田和成	東洋経済新報社
3963	経営管理	BCG経営コンセプト: 構造改革編	菅野寛	東洋経済新報社
3964	経営管理	コトラーの「予測不能時代」のマネジメント	フィリップ・コトラー/ジョン・A.キャスリオーネ	東洋経済新報社
3965	経営管理	ドラッカーと論語	安富歩	東洋経済新報社
3966	経営管理	リスクマネジメントの教科書: 50の事例に学ぶ「不祥事」への対応マニュアル	白井邦芳	東洋経済新報社
3967	経営管理	現場論: 「非凡な現場」をつくる論理と実践	遠藤功	東洋経済新報社
3968	経営管理	武器としてのITスキル: ビジネススクールで教えている	グロービス経営大学院	東洋経済新報社
3969	経営管理	BSCIによる戦略の策定と実行: 事例で見るインタングリブルズのマネジメントと統合報告への管理会計の貢献	伊藤和憲	同文館出版
3970	経営管理	COSO全社的リスクマネジメント: 戦略およびパフォーマンスとの統合		同文館出版
3971	経営管理	ビジネス・レジリエンス思考法: リスクマネジメントによる危機克服と成長	上田和勇	同文館出版
3972	経営管理	リスクマネジメントの本質: The Essence of Risk Management	亀井利明/上田和勇	同文館出版
3973	経営管理	経営管理要論	岸川善光/朴慶心	同文館出版
3974	経営管理	事例で学ぶリスクマネジメント入門: 復元力を生み出すリスクマネジメント思考, 第2版	上田和勇	同文館出版
3975	経営管理	なぜ、企業は不祥事を繰り返すのか: 有名事件13の原因メカニズムに迫る (B&Tブックス)	樋口晴彦	日刊工業新聞社
3976	経営管理	なぜ、企業は不祥事を繰り返すのか: 続 重大事件から学ぶ失敗の教訓 (B&Tブックス)	樋口晴彦	日刊工業新聞社
3977	経営管理	AIが同僚: あなたはたのしく一緒に働けるか		日経BP社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
3978	経営管理	HIGH OUTPUT MANAGEMENT: 人を育て、成果を最大にするマネジメント	アンドリュー・S.グローブ	日経BP社
3979	経営管理	あなたの会社が理不尽な理由: 経営学者の読み方	清水勝彦	日経BP社
3980	経営管理	スタートアップ・ウェイ: 予測不可能な世界で成長し続けるマネジメント	エリック・リース	日経BP社
3981	経営管理	ネット炎上対策の教科書: 攻めと守りのSNS活用	小林直樹	日経BP社
3982	経営管理	全員で稼ぐ組織: JALを再生させた「アメーバ経営」の教科書	森田直行	日経BP社
3983	経営管理	AI現場力: 「和ノベーション」で圧倒的に強くなる	長島聡	日本経済新聞出版社
3984	経営管理	なぜ、わかっても実行できないのか: 知識を行動に変えるマネジメント	ジェフリー・フェアー/ロバート・サットン	日本経済新聞出版社
3985	経営管理	経営の失敗学: ビジネスの成功確率を上げる	菅野寛	日本経済新聞出版社
3986	経営管理	公式ガイドファミリティマネジメント: The Official Guide of Facility Management		日本経済新聞出版社
3987	経営管理	マッチング・ビジネスが変える企業戦略: 情報化社会がもたらす企業境界の変化	税所哲郎	白桃書房
3988	経営管理	企業不祥事の研究: 経営者の視点から不祥事を見る	井上泉	文眞堂
3989	経営管理	想定外のマネジメント: 高信頼性組織とは何か	カール・E.ワイク/キャスリーン・M.サトクリフ	文眞堂
3990	経営管理	現代リスクマネジメントの基礎理論と事例	亀井克之	法律文化社
3991	経営管理	ソーシャル・ネットワークとイノベーション戦略: 組織からコミュニティのデザインへ	中野勉	有斐閣
3992	経営管理	マネジメント・コントロール: 8つのケースから考える人と企業経営の方向性	横田絵理/金子晋也	有斐閣
3993	経営管理	戦略的リスク管理入門	ジェームズ・ラム	勁草書房
3994	経営管理	SCMハンドブック	唐澤豊	共立出版
3995	経営管理	アメーバ経営の進化: 理論と実践		中央経済社
3996	経営管理	社長、そのデザインでは売れません!	川島蓉子	日経BP社
3997	経営管理	戦略は「1杯のコーヒー」から学べ!	永井孝尚	KADOKAWA
3998	経営管理	比較ケースから学ぶ戦略経営	松田久一	KADOKAWA
3999	経営管理	それちょっと、数字で説明してくれる?と言われて困らないできる人のデータ・統計術	柏木吉基	SBクリエイティブ
4000	経営管理	戦略経営論: 競争力とグローバルイノベーション, 改訂新版	マイケル・A.ヒット/R.デュエーン・アイルランド	センゲージラーニング
4001	経営管理	シゴトに役立つデータ分析・統計のトリセツ: 実務のスキルをアップするビジネス数学の基本テクニック	増井敏克	ソシム
4002	経営管理	グロービスMBA経営戦略, 新版	グロービス経営大学院	ダイヤモンド社
4003	経営管理	なぜ良い戦略が利益に結びつかないのか: 高収益企業になるための5つの実践法	ポール・レイノワンド/チェザレ・メイナルディ	ダイヤモンド社
4004	経営管理	ビジネス意思決定: 理論とケースで決断力を鍛える	大林厚臣	ダイヤモンド社
4005	経営管理	ブルー・オーシャン・シフト	W.チャン・キム/レネ・モボルニュ	ダイヤモンド社
4006	経営管理	ブルー・オーシャン戦略: 競争のない世界を創造する, 新版 (Harvard Business Review Press)	W.チャン・キム/レネ・モボルニュ	ダイヤモンド社
4007	経営管理	ブルー・オーシャン戦略論文集 (Harvard Business Review Press)	W.チャン・キム/レネ・モボルニュ	ダイヤモンド社
4008	経営管理	失敗は「そこ」からはじまる	フランチェスカ・ジーノ	ダイヤモンド社
4009	経営管理	ビジネスモデル全史: Rise of 70 Business Model Innovations (ディスカヴァー・レポリューションズ)	三谷宏治	ディスカヴァー・トゥエンティワン
4010	経営管理	統計思考入門: プロの分析スキルで「ひらめき」をつかむ	水越孝	プレジデント社
4011	経営管理	サステナビリティ経営戦略: 利益・環境・社会をつなぐ未来型マネジメント	ジン・ガーナー/ステッド/W.エドワード・ステッド	マグローヒル・エデュケーション
4012	経営管理	ゼロからの経営戦略 (シリーズ・ケースで読み解く経営学 1)	沼上幹	ミネルヴァ書房
4013	経営管理	経営のための統計学入門	福田公正	ミネルヴァ書房
4014	経営管理	101デザインメソッド: 革新的な製品・サービスを生む「アイデアの道具箱」	ヴィジェイ・クーマー	英治出版
4015	経営管理	ビッグ・ピボット: なぜ巨大グローバル企業が(大転換)するのか	アンドリュー・S.ウィンストン	英治出版
4016	経営管理	ビジネス統計学: Excelで学ぶ実践活用テクニック	David M.Levine/Timothy C.Krehbiel	丸善出版
4017	経営管理	Excelで学ぶオペレーションズリサーチ	大野勝久/逆瀬川浩孝	近代科学社
4018	経営管理	Python言語によるビジネスアナリティクス: 実務家のための最適化・統計解析・機械学習	久保幹雄/小林和博	近代科学社
4019	経営管理	ナポレオンの直観: 「戦略」の秘密を解き明かす10の物語	ウィリアム・ダガン	慶應義塾大学出版会
4020	経営管理	情報を捨てるセンス選ぶ技術	ノリーナ・ハーツ	講談社
4021	経営管理	ケースで学ぶ経営戦略の実践	日沖健	産業能率大学出版部
4022	経営管理	経営戦略概論: 戦略理論の潮流と体系	波頭亮	産業能率大学出版部
4023	経営管理	コア・テキスト経営統計学 (ライブラリ経営学コア・テキスト 別巻1)	高橋伸夫	新世社
4024	経営管理	例題でよくわかるはじめてのオペレーションズ・リサーチ	加藤藤/加藤理	森北出版
4025	経営管理	企業経営戦略論の基盤解明	廣田俊郎	税務経理協会
4026	経営管理	経営戦略の方程式: Corporate Management Strategy	松崎和久	税務経理協会
4027	経営管理	1からの戦略論, 第2版	嶋口充輝/内田和成	碩学舎
4028	経営管理	ビジネスデザインと経営学		創成社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
4029	経営管理	「戦略」大全	マックス・マキューン	大和書房
4030	経営管理	アントレプレナーの戦略論: 事業コンセプトの創造と展開	新藤晴臣	中央経済社
4031	経営管理	シチュエーション・ストラテジー: 環境に応じて戦略を使い分ける	池上重輔	中央経済社
4032	経営管理	ビジネスモデル・イノベーション: 未来志向の経営革新戦略	玉木欽也	中央経済社
4033	経営管理	経営戦略入門: Introduction to Corporate Strategy	井上善海/大杉奉代	中央経済社
4034	経営管理	入門ガイド経営科学・経営工学, 第2版	古殿幸雄	中央経済社
4035	経営管理	経営戦略 (カール教授のビジネス集中講義)	平野敦士カール	朝日新聞出版
4036	経営管理	最新プラットフォーム戦略: マッチメイカー	デヴィッド・S.エヴァンス/リチャード・シュレンジャー	朝日新聞出版
4037	経営管理	ビジネスモデルの教科書: 経営戦略を見る目と考える力を養う	今枝昌宏	東洋経済新報社
4038	経営管理	ビジネスモデルの教科書: The business model handbook: 上級編 競争優位の仕組みを見抜く&構築する	今枝昌宏	東洋経済新報社
4039	経営管理	ブロックバスター戦略: ハーバードで教えているメガヒットの法則	アニタ・エルバース	東洋経済新報社
4040	経営管理	一橋MBAケースブック: 戦略転換編	沼上幹+一橋MBA戦略ワークショップ	東洋経済新報社
4041	経営管理	一橋MBA戦略ケースブック: STRATEGIC ANALYSIS HITOTSUBASHI MBA PROGRAM KUNITACHI	沼上幹+一橋MBA戦略ワークショップ	東洋経済新報社
4042	経営管理	経営戦略の実戦: STRATEGY IN ACTION: 1 高収益事業の創り方	三品和広	東洋経済新報社
4043	経営管理	経営戦略の実戦: STRATEGY IN ACTION: 3 市場首位の目指し方	三品和広	東洋経済新報社
4044	経営管理	市場戦略の読み解き方: 一橋MBA戦略ケースブック vol.2	沼上幹+一橋MBA戦略ワークショップ	東洋経済新報社
4045	経営管理	戦略マップ: バランス・スコアカードによる戦略策定・実行フレームワーク, 復刻版	ロバート・S.キャプラン/デビッド・P.ノートン	東洋経済新報社
4046	経営管理	問題解決のための数学: わかる! 確率・統計・戦略	木下栄蔵	日科技連出版社
4047	経営管理	プロデューサーシップ: 創造する組織人の条件	山下勝	日経BP社
4048	経営管理	日産で学んだ世界で活躍するためのデータ分析の教科書: 誰が見てもわかる「データ」で、筋の通った「ストーリー」を作る	柏木吉基	日経BP社
4049	経営管理	物語戦略: SYMBOLIC STORY STRATEGY	岩井琢磨/牧口松二	日経BP社
4050	経営管理	事業の発想力: 実践編 (事業構想研究シリーズ 1)		日本教育研究団事業構想大学院大学出版部
4051	経営管理	ゲーム・チェンジャーの競争戦略: ルール、相手、土俵を変える	内田和成	日本経済新聞出版社
4052	経営管理	サーキュラー・エコノミー: デジタル時代の成長戦略	ピーター・レイシー/ヤコブ・ルトクヴィスト	日本経済新聞出版社
4053	経営管理	なぜ戦略の落とし穴にはまるのか	伊丹敬之	日本経済新聞出版社
4054	経営管理	競争しない競争戦略: 消耗戦から脱する3つの選択	山田英夫	日本経済新聞出版社
4055	経営管理	競争優位の終焉: 市場の変化に合わせて、戦略を動かし続ける	リタ・マグレイス	日本経済新聞出版社
4056	経営管理	自走するビジネスモデル: 勝ち続ける企業の仕組みと工夫	西野和美	日本経済新聞出版社
4057	経営管理	孫子に経営を読む	伊丹敬之	日本経済新聞出版社
4058	経営管理	合理的なのに愚かな戦略	ルディー和子	日本実業出版社
4059	経営管理	ビジネスゲームセオリー: 経営戦略をゲーム理論で考える	御立尚資/柳川範之	日本評論社
4060	経営管理	ケースで読み解く経営戦略論	草野素雄/上村聖	八千代出版
4061	経営管理	ハーバード戦略教室	シンシア・モンゴメリー	文藝春秋
4062	経営管理	経営戦略: 論理性・創造性・社会性の追求, 第3版 (有斐閣アルマ Specialized)	大滝精一/金井一頼	有斐閣
4063	経営管理	事業創成: イノベーション戦略の彼岸	小林敏男	有斐閣
4064	経営管理	EXCELビジネス統計分析, 第2版 (ビジテクBUSINESS TECHNIQUE)	末吉正成/末吉美喜	翔泳社
4065	経営管理	Rではじめるビジネス統計分析: 統計分析の基本からビッグデータの分析手法まで	末吉正成/里洋平	翔泳社
4066	経営管理	Rビジネス統計分析: 3.X対応 (ビジテクBUSINESS TECHNIQUE)	豊澤栄治	翔泳社
4067	経営管理	バリュー・プロポジション・デザイン: 顧客が欲しがらる製品やサービスを創る	アレックス・オスターワルダ/イヴァ・ビニョール	翔泳社
4068	経営管理	ビジネスモデル・ナビゲーター	オリヴァー・ガスマン/カロリン・フランケンハーガー	翔泳社
4069	経営管理	楽しいR: ビジネスに役立つデータの扱い方・読み解き方を知りたい人のためのR統計分析入門	豊澤栄治	翔泳社
4070	経営管理	図解ビジネスモデル・ジェネレーションワークショップ: Business Model Generation WORK SHOP	今津美樹	翔泳社
4071	経営管理	成功するイノベーションは何が違うのか? (Harvard Business Review Press)	ネイサン・ファー/ジェフリー・ダイアー	翔泳社
4072	経営管理	戦略的データサイエンス入門: ビジネスに活かすコンセプトとテクニック	Foster Provost/Tom Fawcett	オライリー・ジャパン
4073	経営管理	14のフレームワークで考えるデータ分析の教科書	高橋威知郎	かんき出版
4074	経営管理	すぐやってみたくなる! データ分析がぐるっとわかる本	豊田裕貴	ずばる舎
4075	経営管理	オープン・イノベーションの教科書: 社外の技術でビジネスをつくる実践ステップ	星野達也	ダイヤモンド社
4076	経営管理	データ分析プロジェクトの手引: データの前処理から予測モデルの運用までを俯瞰する20章	David Nettleton	共立出版
4077	経営管理	情報マネジメントが経営を変える	中根雅夫	晃洋書房
4078	経営管理	経営と情報の深化と融合 (阪南大学叢書 100)		税務経理協会
4079	経営管理	ビッグデータを活かす技術戦略としてのテキストマイニング	菰田文男/那須川哲哉	中央経済社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
4080	経営管理	技術経営(ベーシック+)	原拓志/宮尾学	中央経済社
4081	経営管理	技術的イノベーションのマネジメント: パラダイム革新のメカニズムと戦略	藤井大児	中央経済社
4082	経営管理	経営情報システム: Management Information System, 第4版	宮川公男/上田泰	中央経済社
4083	経営管理	情報社会のコミュニケーション能力: 「知る力」を身につける, 第2版	船本修三	中央経済社
4084	経営管理	戦略は「組織の強さ」に従う: “日本の経営”の再考と小規模組織の生きる道	水野由香里	中央経済社
4085	経営管理	知識マーケティング: Knowledge Marketing	富田健司	中央経済社
4086	経営管理	入門ガイダンス経営情報システム, 第2版	古殿幸雄	中央経済社
4087	経営管理	ビッグデータを活かすデータサイエンス: クロス集計から機械学習までのビジネス活用事例	酒巻隆治/里洋平	東京図書
4088	経営管理	イノベーション: 活性化のための方策	後藤晃	東洋経済新報社
4089	経営管理	経営の基礎から学ぶ経営情報システム教科書	武藤明則	同文館出版
4090	経営管理	経営情報のネットワーク戦略と情報管理: NETWORKING STRATEGY FOR INFORMATION MANAGEMENT	山下洋史/金子勝一	同文館出版
4091	経営管理	経営情報要論	岸川善光/朴慶心	同文館出版
4092	経営管理	すべての意思決定者のための経営情報システム概論	一瀬益夫	同友館
4093	経営管理	テクノロジー経営入門: デジタル技術とIoTの進化が企業経営に与える影響とは何か	松崎和久	同友館
4094	経営管理	イノベーションを起こす組織: 革新的サービス成功の本質	野中郁次郎/西原文乃	日経BP社
4095	経営管理	データ・アナリティクス3.0: ビッグデータ超先進企業の挑戦	トーマス・H.ダベンポート	日経BP社
4096	経営管理	トップ企業が明かすデジタル時代の経営戦略: 「絶対的価値」を生み出すエグゼクティブCIOの挑戦		日経BP社
4097	経営管理	パーソナルデータの教科書: 「個人情報保護」から「プライバシー保護」へルールが変わる	小林慎太郎	日経BP社
4098	経営管理	もしも社長がセキュリティ対策を聞いてきたら: 入門編	蔵本雄一	日経BP社
4099	経営管理	最強のデータ分析組織: なぜ大阪ガスは成功したのか	河本薫	日経BP社
4100	経営管理	実践するオープンイノベーション	トーマツベンチャーサポート	日経BP社
4101	経営管理	真実を見抜く分析力: ビジネスエリートは知っているデータ活用の基礎知識 (Harvard Business Review Press)	トーマス・H.ダベンポート/キムジノ	日経BP社
4102	経営管理	知財戦略のススメ: コモディティ化する時代に競争優位を築く	鮫島正洋/小林誠	日経BP社
4103	経営管理	イノベーション・マネジメント入門, 第2版 (マネジメント・テキスト)		日本経済新聞出版社
4104	経営管理	教科書を越えた技術経営	伊丹敬之/東京理科大学MOT研究会	日本経済新聞出版社
4105	経営管理	対デジタル・ディスrupter戦略: 既存企業の戦い方	マイケル・ウエイド/ジェフ・ルークス	日本経済新聞出版社
4106	経営管理	武器としてのデータ分析力: データ・サイエンティストの「未来を予測」する技術	中西達夫/島慎一郎	日本実業出版社
4107	経営管理	技術経営の考え方, 新訂 (放送大学教材)	宮崎久美子	放送大学教育振興会
4108	経営管理	オープン・イノベーションのマネジメント: 高い経営成果を生む仕組みづくり		有斐閣
4109	経営管理	オープン化戦略: 境界を越えるイノベーション		有斐閣
4110	経営管理	デザインがイノベーションを伝える: デザインの力を活かす新しい経営戦略の模索	鷲田祐一	有斐閣
4111	経営管理	経営情報論, 新版補訂 (有斐閣アルマ Specialized)	遠山暁/村田潔	有斐閣
4112	経営管理	アクセントチュアのプロフェッショナルが教えるデータ・アナリティクス実践講座	アクセントチュアアナリティクス	翔泳社
4113	経営管理	イノベーションの最終解 (Harvard Business Review Press)	クレイトン・M.クリステンセン/スコット・D.アンソニー	翔泳社
4114	経営管理	オープン&クローズ戦略: 日本企業再興の条件, 増補改訂版	小川紘一	翔泳社
4115	経営管理	日本のイノベーションのジレンマ: 破壊的イノベーターになるための7つのステップ	玉田俊平太	翔泳社
4116	経営管理	トヨタの問題解決: PROBLEM SOLVING THE TOYOTA WAY	OJTソリューションズ	KADOKAWA
4117	経営管理	マッキンゼー流入社1年目ロジカルシンキングの教科書	大嶋祥誉	SBクリエイティブ
4118	経営管理	21世紀のビジネスにデザイン思考が必要な理由	佐宗邦威	クロスメディア・パブリッシング
4119	経営管理	トヨタで学んだ「紙1枚!」にまとめる技術: 超実践編	浅田すぐる	サンマーク出版
4120	経営管理	リーダーのための!ファシリテーションスキル	谷益美	ずばる舎
4121	経営管理	あの人はなぜ、東大卒に勝てるのか: 論理思考のシンプルな本質	津田久資	ダイヤモンド社
4122	経営管理	図解基本フレームワーク50: グロービスMBAキーワード	グロービス	ダイヤモンド社
4123	経営管理	生産性: マッキンゼーが組織と人材に求め続けるもの	伊賀泰代	ダイヤモンド社
4124	経営管理	問題解決: あらゆる課題を突破するビジネスパーソン必須の仕事術	高田貴久/岩澤智之	英治出版
4125	経営管理	改善活動のマネジメント: 問題発見・解決能力を組織に蓄積する	坂爪裕	慶應義塾大学出版会
4126	経営管理	あなたの生産性を上げる8つのアイデア	チャールズ・デュビュグ	講談社
4127	経営管理	なぜデータ主義は失敗するのか?: 人文科学的思考のすすめ	クリスチャン・マシエ/ミゲル・ロラムセン	早川書房
4128	経営管理	デザインする思考力 (東大エグゼクティブ・マネジメント)		東京大学出版会
4129	経営管理	MBA生産性をあげる100の基本	グロービス	東洋経済新報社
4130	経営管理	ファシリテーションの教科書: 組織を活性化させるコミュニケーションとリーダーシップ	グロービス	東洋経済新報社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
4131	経営管理	クリエイティブ・マインドセット: 想像力・好奇心・勇気が目覚める驚異の思考法	トム・ケリー/デイヴィッド・ケリー	日経BP社
4132	経営管理	システム×デザイン思考で世界を変える: 慶應SDM「イノベーションのつくり方」	前野隆司	日経BP社
4133	経営管理	デザイン思考の教科書: 欧州トップスクールが教えるイノベーションの技術		日経BP社
4134	経営管理	ビジネス思考実験: 「何が起きるか?」を見通すための経営学100命題	根来龍之	日経BP社
4135	経営管理	最強のシンプル思考: 最高の結果を出すためのたった一つのルール	ケン・シーガル	日経BP社
4136	経営管理	ファシリテーション・ベーシックス: 組織のパワーを引き出す技法 (Facilitation skills)	堀公俊	日本経済新聞出版社
4137	経営管理	ワンフレーズ論理思考	堀公俊	日本経済新聞出版社
4138	経営管理	問題解決フレームワーク大全: Complete Catalogue of Problem-solving Methods	堀公俊	日本経済新聞出版社
4139	経営管理	そもそも「論理的に考える」って何から始めればいいのか?: 考える力が身につく「数学的思考」の授業	深沢真太郎	日本実業出版社
4140	経営管理	リーダーシップからフォロワーシップへ: カリスマリーダー不要の組織づくりとは、新版	中竹竜二	CCCメディアハウス
4141	経営管理	組織行動: 理論と実践	須田敏子	NTT出版
4142	経営管理	エラスティックリーダーシップ: 自己組織化チームの育て方	Roy Osherove	オライリー・ジャパン
4143	経営管理	グロービスMBAリーダーシップ, 新版	グロービス経営大学院	ダイヤモンド社
4144	経営管理	マッキンゼーが教える科学的リーダーシップ: リーダーのもっとも重要な道具とは何か	クラウドイオ・フェザー	ダイヤモンド社
4145	経営管理	マネジャーの教科書: ハーバード・ビジネス・レビュー・マネジャー論文ベスト11 (Harvard Business Review DIAMOND/ハーバード・ビジネス・レビュー)		ダイヤモンド社
4146	経営管理	最高のリーダーは何もしない: 内向型人間が最強のチームをつくる!	藤沢久美	ダイヤモンド社
4147	経営管理	15分でチームワークを高めるゲーム39: 2人から100人でもできる!	ブライアン・コール・ミラー	ディスカヴァー・トゥエンティワン
4148	経営管理	「壁」と「溝」を越えるコミュニケーション	古川久敬	ナカニシヤ出版
4149	経営管理	心をつかめば人は動く: 人を導くチカラをつける27の心理学	フジモトマナブ	ナカニシヤ出版
4150	経営管理	イルミネート: 道を照らせ。: 変革を導くリーダーが持つべきストーリーテリング法	ナンシー・デュアルテ/パティ・サンチェス	ビー・エヌ・エヌ新社
4151	経営管理	デザインリーダーシップ: デザインリーダーはいかにして組織を構築し、成功に導くのか?	リチャード・ベンフィールド	ビー・エヌ・エヌ新社
4152	経営管理	「学習する組織」入門: 自分・チーム・会社が変わる 持続的成長の技術と実践	小田理一郎	英治出版
4153	経営管理	DREAM WORKPLACE: だれもが「最高の自分」になれる組織をつくる	ロブ・ゴフイー/ガレス・ジョーンズ	英治出版
4154	経営管理	チームが機能するとはどういうことか: 「学習力」と「実行力」を高める実践アプローチ	エイミー・C.エドモンドソン	英治出版
4155	経営管理	ティール組織: マネジメントの常識を覆す次世代型組織の出現	フレデリック・ラルー	英治出版
4156	経営管理	なぜ弱さを見せあえる組織が強いのか: すべての人が自己変革に取り組む「発達指向型組織」をつくる	ロバート・キーガン/リサ・ラスコウ・レイヒー	英治出版
4157	経営管理	レジリエンスビルディング: 「変化に強い」人と組織のつくり方	ピースマインド・イープ株式会社	英治出版
4158	経営管理	行動探求: 個人・チーム・組織の変容をもたらすリーダーシップ	ビル・トルバート	英治出版
4159	経営管理	最難関のリーダーシップ: 変革をやり遂げる意志とスキル	ロナルド・A.ハイフェッツ/マーティ・リンスキー	英治出版
4160	経営管理	リーダーシップ・チャレンジ	ジェームズ・M.クーズス/バリー・Z.ボズナー	海と月社
4161	経営管理	ORIGINALS 誰もが「人と違うこと」ができる時代	アダム・グラント	三笠書房
4162	経営管理	基礎からわかる経営組織	松本久良	産業能率大学出版部
4163	経営管理	コア・テキストマクロ組織論 (ライブラリ経営学コア・テキスト 3)	山田耕嗣/佐藤秀典	新世社
4164	経営管理	現代経営組織要論 (経営学要論シリーズ 7)	佐久間信夫/小原久美子	創成社
4165	経営管理	ビギナーズ経営組織論	横谷正人	中央経済社
4166	経営管理	リーダーシップ徹底講座: すぐれた管理者を目指す人のために	小野善生	中央経済社
4167	経営管理	企業の知識理論: 組織・戦略の研究	渡部直樹	中央経済社
4168	経営管理	協働の経営学: Studies on Collaboration and Management	林徹	中央経済社
4169	経営管理	松下幸之助と稲盛和夫に学ぶリーダーシップの本質 (中京大学大学院ビジネス・イノベーションシリーズ)	加藤靖慶	中央経済社
4170	経営管理	組織マネジメント入門	石井晴夫/樋口徹	中央経済社
4171	経営管理	入門組織行動論, 第2版	開本浩矢	中央経済社
4172	経営管理	変革とパラドックスの組織論: Change and Paradox in Organizations	山岡徹	中央経済社
4173	経営管理	流動化する組織の意思決定: エージェント・ベース・アプローチ	稲水伸行	東京大学出版会
4174	経営管理	グローバル組織開発ハンドブック: 3つの複雑性を5つの視点から考える	ピープルフォーカス・コンサルティング	東洋経済新報社
4175	経営管理	経営組織論 (はじめての経営学)	鈴木竜太	東洋経済新報社
4176	経営管理	経営組織要論	岸川善光/朴慶心	同文館出版
4177	経営管理	ブリッジング: 創造的チームの仕事術	広瀬郁	日経BP社
4178	経営管理	マーケティングとは「組織革命」である。: 個人も会社も劇的に成長する森岡メソッド	森岡毅	日経BP社
4179	経営管理	ミンツバーグマネジャー論: エッセンシャル版	ヘンリー・ミンツバーグ	日経BP社
4180	経営管理	入社10年分のリーダー学が3時間で学べる	杉浦正和	日経BP社
4181	経営管理	ハーバード流逆転のリーダーシップ	リンダ・A.ヒル/グレッグ・ブランド	日本経済新聞出版社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
4182	経営管理	悪いヤツほど出世する	ジェフリー・フェファー	日本経済新聞出版社
4183	経営管理	イノベーションを巻き起こす「ダイナミック組織」戦略	原田勉	日本実業出版社
4184	経営管理	経験学習によるリーダーシップ開発: 米国OCLによる次世代リーダー育成のための実践事例		日本能率協会マネジメントセンター
4185	経営管理	シャイン博士が語る組織開発と人的資源管理の進め方: プロセス・コンサルテーション技法の用い方 (E.H.Schein Basic Library)	エドガー・H.シャイン/尾川丈一	白桃書房
4186	経営管理	企業文化: ダイバーシティと文化の仕組み, 改訂版	E.H.シャイン	白桃書房
4187	経営管理	経営学における組織文化論の位置づけとその理論的展開	小原久美子	白桃書房
4188	経営管理	組織の罫: 人間行動の現実	クリス・アーギリス	文真堂
4189	経営管理	サイロ・エフェクト: 高度専門化社会の罫	ジリアン・テット	文藝春秋
4190	経営管理	学習を促す組織文化: マルチレベル・アプローチによる実証分析	北居明	有斐閣
4191	経営管理	ビジネスモデルfor Teams: 組織のためのビジネスモデル設計書	ティム・クラーク/ブルース・ヘイゼン	翔泳社
4192	経営管理	ダイバーシティ・マネジメント入門: 経営戦略としての多様性	尾崎俊哉	ナカニシヤ出版
4193	経営管理	ヒト・仕事・職場のマネジメント: 人的資源管理の理論と展開	澤田幹/谷本啓	ミネルヴァ書房
4194	経営管理	働きやすい職場づくりのヒント: キャリアコンサルティングに活かせる		金剛出版
4195	経営管理	企業力を高める: 女性の活躍推進と働き方改革		経団連出版
4196	経営管理	「やりがいのある仕事」と「働きがいのある職場」: ブラック企業を反面教師に	伊藤健市	晃洋書房
4197	経営管理	個別的労使関係と人事労務管理: 個の欲求と組織充足の調整・繋ぎ	野瀬正治	晃洋書房
4198	経営管理	モチベーション・マネジメント: Motivation Management	榎本博明	産業能率大学出版部
4199	経営管理	職場のLGBT読本: 「ありのままの自分」で働ける環境を目指して	柳沢正和/村木真紀	実務教育出版
4200	経営管理	CSIは女子力で決まる! 「顧客満足・従業員満足・収益力の同時達成」で企業は育つ	小川孔輔	生産性出版
4201	経営管理	グローバル・マネジャーの育成と評価: 日本人派遣者880人、現地スタッフ2192人の調査より	白木三秀	早稲田大学出版部
4202	経営管理	現代人的資源管理: グローバル市場主義と日本型システム	上林憲雄/平野光俊	中央経済社
4203	経営管理	国際人的資源管理 (ベーシック+)	関口倫紀/竹内規彦	中央経済社
4204	経営管理	女性リーダーを組織で育てるしくみ: 先進企業に学ぶ継続就業・能力発揮の有効策	牛尾奈緒美/志村光太郎	中央経済社
4205	経営管理	人事戦略のためのアセスメント・センター: 予測・診断・開発の理論と実践	ジョージ・C.ソートン3世/デボラ・E.ラップ	中央経済社
4206	経営管理	人的資源管理 (ベーシック+)	上林憲雄	中央経済社
4207	経営管理	人的資源管理論: 理論と制度, 第2版	八代充史	中央経済社
4208	経営管理	組織を動かす働き方改革: いますぐスタートできる!効果的な目的・施策・導入プロセス	立花則子/本合暁詩	中央経済社
4209	経営管理	多様な人材のマネジメント	奥林康司/平野光俊	中央経済社
4210	経営管理	多様化する雇用形態の人事管理: 人材ポートフォリオの実証分析	西岡由美	中央経済社
4211	経営管理	知識労働者の人的資源管理: 企業への定着・相互作用・キャリア発達	三輪卓己	中央経済社
4212	経営管理	ダイバーシティ経営と人材活用: 多様な働き方を支援する企業の取り組み		東京大学出版会
4213	経営管理	人材開発研究大全: The Complete Handbook of Research on Human Resource Development		東京大学出版会
4214	経営管理	ワーク・ルールズ!: 君の生き方とリーダーシップを変える	ラズロ・ボック	東洋経済新報社
4215	経営管理	人的資源管理と日本の組織: Human Resource Management and Japanese Organization	山下洋史	同文館出版
4216	経営管理	マネジメントの心理学: 経営心理学入門, 第2版	中西晶	日科技連出版社
4217	経営管理	なぜ、女性が活躍する組織は強いのか?: 先進19社に学ぶ女性の力を引き出す「仕組み」と「習慣」		日経BP社
4218	経営管理	人事と組織の経済学: 実践編	エドワード・P.ラジャー/マイケル・ギブス	日本経済新聞出版社
4219	経営管理	日本の人事を科学する: 因果推論に基づくデータ活用	大湾秀雄	日本経済新聞出版社
4220	経営管理	労務管理の生成と終焉 (法政大学大原社会問題研究所叢書)	榎一江/小野塚知二	日本経済評論社
4221	経営管理	戦略的人的資源管理論: 人事施策評価へのアプローチ	松山一紀	白桃書房
4222	経営管理	中国の現場からみる日系企業の人事・労務管理: 人材マネジメントの事例を中心に	李捷生/郝燕書	白桃書房
4223	経営管理	日本企業のグローバル人的資源管理	笠原民子	白桃書房
4224	経営管理	ぼくがジョブズに教えたこと: 「才能」が集まる会社をつくる51条	ノーラン・ブッシュネル/ジーン・ストーン	飛鳥新社
4225	経営管理	人的資源管理の基本, 新版 第2版	白木三秀	文真堂
4226	経営管理	人的資源管理の力	白木三秀	文真堂
4227	経営管理	人的資源管理入門	安照卓	文真堂
4228	経営管理	人的資源管理: 社会経営科学プログラム, 新訂 (放送大学大学院教材 放送大学大学院文化科学研究科)	原田順子/平野光俊	放送大学教育振興会
4229	経営管理	経験から学ぶ人的資源管理, 新版 (有斐閣ブックス 456)	上林憲雄/厨子直之	有斐閣
4230	経営管理	新しい人事労務管理, 第5版 (有斐閣アルマ Specialized)	佐藤博樹/藤村博之	有斐閣
4231	経営管理	個性を活かす人材マネジメント: 近未来型人事革新のシナリオ	谷内篤博	勁草書房
4232	経営管理	「介護離職ゼロ」の職場のつくりかた: 「大介護時代」に備える!	社会保険労務士事務所あおぞらコンサルティング	翔泳社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
4233	経営管理	ALLIANCE: 人と企業が信頼で結ばれる新しい雇用	リード・ホフマン/ベン・カスノーカ	ダイヤモンド社
4234	経営管理	採用学(新潮選書)	服部泰宏	新潮社
4235	経営管理	「経験学習」ケーススタディ: EXPERIENTIAL LEARNING MANAGEMENT	松尾睦	ダイヤモンド社
4236	経営管理	研修開発入門: 会社で「教える」、競争優位を「つくる」	中原淳	ダイヤモンド社
4237	経営管理	ラーニング・ファシリテーションの基本: 参加者中心の学びを支援する理論と実践(ATDグローバルベーシックシリーズ)	ドナルド・マケイン/デボラ・デビストビー	ヒューマンバリュー
4238	経営管理	新社会人のためのビジネスマナー講座: Business Etiquette Lecture for New Members of Society	寿マリコ	ミネルヴァ書房
4239	経営管理	世界一わかりやすい教える技術: 教え方が変わると人は育つ!	向後千春	永岡書店
4240	経営管理	企業内学習入門: 戦略なき人材育成を超えて	シュロモ・ベンハー	英治出版
4241	経営管理	人事よ、ススめ! 先進的な企業の「学び」を描く「ラーニングイノベーション論」の12講(SGビジネス双書)	中原淳/松尾睦	碩学舎
4242	経営管理	未来をひらくビジネスマナー: 就職活動・社会人デビューを控えたみなさんに、第3版	長江由美子	大学教育出版
4243	経営管理	価値創出をになう人材の育成: コトづくりとヒトづくり(横幹く知の統合)シリーズ)	本多敏	東京電機大学出版局
4244	経営管理	「自分ごと」だと人は育つ: 博報堂で実践している新入社員OJT		日本経済新聞出版社
4245	経営管理	研修設計マニュアル: 人材育成のためのインストラクショナルデザイン	鈴木克明	北大路書房
4246	経営管理	組織のなかで人を育てる: 企業内人材育成とキャリア形成の方法	佐藤厚	有斐閣
4247	経営管理	復職支援ハンドブック: 休職を成長につなげよう	中村美奈子	金剛出版
4248	経営管理	職場のメンタルヘルス100のレンビ、新訂版		金子書房
4249	経営管理	職場のラインケア研修マニュアル: 管理職によるメンタルヘルス対策	関屋裕希/川上憲人	誠信書房
4250	経営管理	20ステップで学ぶ日本人だからこそできる英語プレゼンテーション	藤尾美佐	DHC
4251	経営管理	世界を動かすプレゼンカ: 日本はこうしてオリンピックを勝ち取った!	ニック・バーリー	NHK出版
4252	経営管理	英語のプレゼン直前5日間の技術(しごとのミニマム英語 3)	愛場吉子	アルク
4253	経営管理	グロービスMBAで教えているプレゼンの技術: 人を動かす勝利の方程式	グロービス	ダイヤモンド社
4254	経営管理	プレゼンは「目線」で決まる: スライド シナリオトーク No.1プレゼン講師の人を動かす全77メソッド	西脇資哲	ダイヤモンド社
4255	経営管理	佐藤可士和の打ち合わせ	佐藤可士和	ダイヤモンド社
4256	経営管理	社内プレゼンの資料作成術: 3分で一発OK!	前田謙利	ダイヤモンド社
4257	経営管理	社内政治マニュアル: ハーバード・ビジネス・レビュー公式ガイド	カレン・ディロン	ダイヤモンド社
4258	経営管理	オフィスコミュニケーショントレーニング: みる、きく、問う、伝えるために	平澤知穂	ナカニシヤ出版
4259	経営管理	スライドロジー: プレゼンテーション・ビジュアルの革新	ナンシー・デュアルテ	ビー・エヌ・エヌ新社
4260	経営管理	これだけは知っておきたい「プレゼンテーション」の基本と常識: 会社では教えてくれないノウハウ! 改訂新版	ザ・アール	フォレスト出版
4261	経営管理	異文化理解力: 相手と自分の真意がわかるビジネスパーソン必須の教養	エリン・メイヤー	英治出版
4262	経営管理	スライドを極めればプレゼンは100%成功する! プレゼンテーションはスライドで変わる!	河合浩之	技術評論社
4263	経営管理	直感に刺さるプレゼンテーション	望月正吾	技術評論社
4264	経営管理	ビジネスパーソンのためのアサーション入門	平木典子/金井壽宏	金剛出版
4265	経営管理	Off-JTに活用する人間関係づくりトレーニング	船木幸弘	金子書房
4266	経営管理	社会人になる前に読んでおきたい! ビジネスコミュニケーション	姜益俊/松尾正弘	九州大学出版会
4267	経営管理	描いて、見せて、伝えるスゴいプレゼン	ダン・ローム	講談社
4268	経営管理	GIVE & TAKE「与える人」こそ成功する時代	アダム・グラント	三笠書房
4269	経営管理	図解頭のいい説明「すぐできる」コツ: 今日、結果が出る!	鶴野充茂	三笠書房
4270	経営管理	プレゼンは資料作りで決まる! 意思決定を引き寄せる6つのステップ	天野暢子	実業之日本社
4271	経営管理	ビジネスコミュニケーション: グローバル社会におけるビジネス基礎力と運用能力	堀真由美	中央大学出版部
4272	経営管理	世界標準のビジネスマナー	ドロシア・ジョンソン/リヴ・タイラー	東洋経済新報社
4273	経営管理	あなたと働きたいと言われる42のルール	天川勝志	同友館
4274	経営管理	ビジネスと人を動かす驚異のストーリープレゼン: 人生・仕事・世界を変えた37人の伝え方	カーマイン・ガロ	日経BP社
4275	経営管理	プレゼンテーションの教科書: Textbook for presentation, 第3版	脇山真治	日経BP社
4276	経営管理	世界最高のプレゼン教室: THE ART OF STORYTELLING	ガー・レイノルズ	日経BP社
4277	経営管理	Google流資料作成術	コール・ヌッスバウマー・ナフリック	日本実業出版社
4278	経営管理	グローバルビジネスコミュニケーション研究: GLOBAL BUSINESS COMMUNICATION Theory and Application	亀田尚己/佐藤研一	文真堂
4279	経営管理	就活生・新社会人のためのプレゼンテーション入門: 自己紹介からはじめるプレゼンテーションスキル	赤堀勝彦	保険毎日新聞社
4280	経営管理	PowerPointビジネスプレゼン: 論理を磨き・信頼を獲得し・心を動かすプレゼンテーション, 第2版(ビジテックBUSINESS TECHNIQUE)	菅野誠二	翔泳社
4281	経営管理	スライドデザインの心理学: 一発で決まるプレゼン資料の作り方	加藤智也	翔泳社
4282	経営管理	一生使える見やすい資料のデザイン入門: プレゼン資料が劇的改善	森重湧太	インプレス
4283	経営管理	図解見せれば即決! 資料作成術: 3秒で決まるプレゼン資料、ビジネス資料はここが違う	天野暢子	ダイヤモンド社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
4284	経営管理	超・箇条書き:「10倍速く、魅力的に」伝える技術	杉野幹人	ダイヤモンド社
4285	経営管理	入門考える技術・書く技術:スライド編	山崎康司	ダイヤモンド社
4286	経営管理	世界のトップを10秒で納得させる資料の法則	三木雄信	東洋経済新報社
4287	経営管理	外資系コンサルが実践する資料作成の基本:パワーポイント、ワード、エクセルを使い分けて「伝える」→「動かす」王道70	吉澤準特	日本能率協会マネジメントセンター
4288	経営管理	ファイナンシャル・マネジメント:企業財務の理論と実践,改訂3版	ロバート・C.ヒギンズ	ダイヤモンド社
4289	経営管理	ROE革命の財務戦略:外国人投資家が日本企業を強くする	柳良平	中央経済社
4290	経営管理	コーポレート・ファイナンス:基礎と応用	新井富雄/高橋文郎	中央経済社
4291	経営管理	テキスト財務管理論,第5版		中央経済社
4292	経営管理	企業価値の神秘:コーポレートファイナンス理論の思考回路	宮川壽夫	中央経済社
4293	経営管理	対訳英語で学ぶコーポレートファイナンス入門: A Bilingual Introduction to Corporate Finance	本合暁詩	中央経済社
4294	経営管理	中小企業の財務管理入門:財務で会社を強くする	坂本孝司	中央経済社
4295	経営管理	入門ビジネス&ファイナンス	仁科一彦/斉藤都美	中央経済社
4296	経営管理	外資系金融のExcel作成術:表の見せ方&財務モデルの組み方	懐泰俊	東洋経済新報社
4297	経営管理	コーポレート・ファイナンス:上,第10版	リチャード・ブリーリー/スチュワート・マイヤーズ	日経BP社
4298	経営管理	コーポレート・ファイナンス:下,第10版	リチャード・ブリーリー/スチュワート・マイヤーズ	日経BP社
4299	経営管理	ROEが奪う競争力:「ファイナンス理論」の誤解が経営を壊す	手島直樹	日本経済新聞出版社
4300	経営管理	ファイナンス入門講義:論理をビジネスに生かすポイント	山本和隆	日本経済新聞出版社
4301	経営管理	ファイナンス入門,改訂版(放送大学教材)	齋藤正章/阿部圭司	放送大学教育振興会
4302	経営管理	起業のエクイティ・ファイナンス:経済革命のための株式と契約	磯崎哲也	ダイヤモンド社
4303	経営管理	ぼくらがクラウドファンディングを使う理由(わけ):12プロジェクトの舞台裏	山本純子	学芸出版社
4304	経営管理	入門企業金融論:基礎から学ぶ資金調達の仕事	中島真志	東洋経済新報社
4305	経営管理	起業のファイナンス:ベンチャーにとって一番大切なこと,増補改訂版	磯崎哲也	日本実業出版社
4306	経営管理	企業価値評価:バリュエーションの理論と実践:上,第6版	マクシンゼー・アンド・カンパニー/ティム・カラー	ダイヤモンド社
4307	経営管理	企業価値評価:バリュエーションの理論と実践:下,第6版	マクシンゼー・アンド・カンパニー/ティム・カラー	ダイヤモンド社
4308	経営管理	新・ほんとうにわかる経営分析:決定版	高田直芳	ダイヤモンド社
4309	経営管理	要説経営分析,5訂版	青木茂男/青淵正幸	森山書店
4310	経営管理	テキスト経営分析		税務経理協会
4311	経営管理	経営分析事典,新版		税務経理協会
4312	経営管理	経営力と経営分析		税務経理協会
4313	経営管理	財務諸表分析,第7版	桜井久勝	中央経済社
4314	経営管理	事例でわかるグループ企業の経営分析	谷江武士	中央経済社
4315	経営管理	事例とドリルで学ぶ企業総合分析	鈴木基史/藤田寛	中央経済社
4316	経営管理	実践財務諸表分析:会計理論と日本基準・国際基準の財務諸表の解説から分析の実践例まで,第2版	新田忠誓/善積康夫	中央経済社
4317	経営管理	バリュエーションの教科書:企業価値・M&Aの本質と実務	森生明	東洋経済新報社
4318	経営管理	財務諸表分析:FINANCIAL STATEMENT ANALYSIS,第2版	乙政正太	同文館出版
4319	経営管理	入門経営分析,新版 第2版	藤永弘	同文館出版
4320	経営管理	新・企業価値評価:Valuation Theory and Today	伊藤邦雄	日本経済新聞出版社
4321	経営管理	会計士は見た!	前川修満	文藝春秋
4322	経営管理	アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション	S.H.ベンマン	有斐閣
4323	経営管理	「管理会計の基本」がすべてわかる本,第2版	金子智朗	秀和システム
4324	経営管理	ケースブック管理会計(ライブラリケースブック会計学4)	上總康行	新世社
4325	経営管理	管理会計論,第2版(新経営学ライブラリ9)	上總康行	新世社
4326	経営管理	要説管理会計事典:Encyclopedia of Management Accounting	本橋正美/林總	清文社
4327	経営管理	セミナー管理会計	門田安弘	税務経理協会
4328	経営管理	企業間管理と管理会計:サプライチェーン・マネジメントを中心として(関西学院大学研究叢書第195編)	浜田和樹	税務経理協会
4329	経営管理	管理会計論,第2版	中村彰良	創成社
4330	経営管理	ケース管理会計:Case Management Accounting	櫻井通晴/伊藤和憲	中央経済社
4331	経営管理	プラクティカル管理会計:Practical Management Accounting	園田智昭	中央経済社
4332	経営管理	ベーシック管理会計,新版	西村明/大下丈平	中央経済社
4333	経営管理	ものづくり企業の管理会計	上總康行/長坂悦敬	中央経済社
4334	経営管理	一から学ぶ管理会計入門	三原秀章	中央経済社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
4335	経営管理	会計基準と経営者行動: 会計政策の理論と実証分析	辻正雄	中央経済社
4336	経営管理	管理会計の理論と実務, 第2版	川野克典	中央経済社
4337	経営管理	管理会計基礎論: Fundamentals of Management Accounting	吉田康久	中央経済社
4338	経営管理	管理会計変化の探究: Approaches to Management Accounting Change	杉山善浩	中央経済社
4339	経営管理	管理会計論, 第2版 (スタンダードテキスト)	山本浩二/小倉昇	中央経済社
4340	経営管理	企業グループの管理会計	園田智昭	中央経済社
4341	経営管理	事業部制の業績測定: DIVISIONAL PERFORMANCE	鳥居宏史	中央経済社
4342	経営管理	次世代管理会計の礎石	上總康行/澤邊紀生	中央経済社
4343	経営管理	スタンダード管理会計: STANDARD MANAGEMENT ACCOUNTING, 第2版	小林啓孝/伊藤嘉博	東洋経済新報社
4344	経営管理	図解管理会計入門	渡辺康夫	東洋経済新報社
4345	経営管理	ケースで学ぶ管理会計: ビジネスの成功と失敗の裏には管理会計の優劣がある	金子智朗	同文館出版
4346	経営管理	マテリアルフロコスト会計の理論と実践	國部克彦/中島道靖	同文館出版
4347	経営管理	管理会計: Management Accounting, 第6版	櫻井通晴	同文館出版
4348	経営管理	管理会計のエッセンス, 新版	James Jiambalvo	同文館出版
4349	経営管理	現場が動き出す会計: 人はなぜ測定されると行動を変えるのか	伊丹敬之/青木康晴	日本経済新聞出版社
4350	経営管理	管理会計, 3訂版 (放送大学教材)	齋藤正章	放送大学教育振興会
4351	経営管理	現代の内部監査 (放送大学教材)	齋藤正章/蟹江章	放送大学教育振興会
4352	経営管理	管理会計・入門: 戦略経営のためのマネジリアル・アカウンティング, 第4版 (有斐閣アルマ Basic)	浅田孝幸/頼誠	有斐閣
4353	経営管理	テキスト原価会計, 第2版	高橋賢	中央経済社
4354	経営管理	ファーストステップ原価計算を学ぶ	山北晴雄/福田淳児	中央経済社
4355	経営管理	原価計算セミナー: Cost Accounting Seminar	片岡洋一	中央経済社
4356	経営管理	原価計算論: COST ACCOUNTING: THEORY AND PRACTICE, 第3版	廣本敏郎/挽文子	中央経済社
4357	経営管理	現場で使える原価計算	清水孝	中央経済社
4358	経営管理	原価計算制度の回顧と展望 (中央大学企業研究所研究叢書 33)	木島淑孝	中央大学出版部
4359	経営管理	スタンダード原価計算	建部宏明/長屋信義	同文館出版
4360	経営管理	基本原価計算, 第5版	建部宏明/山浦裕幸	同文館出版
4361	経営管理	原価計算: COST ACCOUNTING FOR NEW ERA	櫻井通晴	同文館出版
4362	経営管理	時間管理会計論: 体系的整理への試み	水島多美也	同文館出版
4363	経営管理	戦略経営における予算管理	堀井悟志	中央経済社
4364	経営管理	ケースブック会計学入門, 第4版 (ライブラリケースブック会計学 1)	永野則雄	新世社
4365	経営管理	ケースブック財務会計 (ライブラリケースブック会計学 3)	平野智久	新世社
4366	経営管理	財務会計 (会計学叢書Introductory)	齋藤真哉/内藤周子	新世社
4367	経営管理	はじめての会計学, 第5版		森山書店
4368	経営管理	基礎財務会計, 第17版	五十嵐邦正	森山書店
4369	経営管理	会計・ファイナンス入門, 第2版	鯖田豊則	税務経理協会
4370	経営管理	会計の歴史: A History of Accounting, 改訂版	友岡賛	税務経理協会
4371	経営管理	現代会計用語辞典, 新版		税務経理協会
4372	経営管理	財務会計論, 新版 改訂版	井上良二/孔炳龍	税務経理協会
4373	経営管理	財務会計論	瀧田輝己	税務経理協会
4374	経営管理	中日英・日中英投資・会計・税務用語辞典		税務経理協会
4375	経営管理	歴史に学ぶ会計の「なぜ?」: アメリカ会計史入門	トーマス・A.キング	税務経理協会
4376	経営管理	会計の基礎ハンドブック, 第3版	柳田仁/荒井義則	創成社
4377	経営管理	エッセンシャル財務会計: FINANCIAL ACCOUNTING, 第2版	井上達男/山地範明	中央経済社
4378	経営管理	スタートガイド会計学	小栗崇資/森田佳宏	中央経済社
4379	経営管理	テキスト会計学講義	原俊雄/高橋賢	中央経済社
4380	経営管理	テキスト入門会計学, 第4版	大塚宗春/福島隆	中央経済社
4381	経営管理	マクロとミクロの実証会計	中野誠	中央経済社
4382	経営管理	まなびの入門会計学, 新版 第3版	朴大栄/小澤義昭	中央経済社
4383	経営管理	レクチャー財務会計, 第2版	山本誠	中央経済社
4384	経営管理	英文会計用語辞典: Dictionary of English Accounting Terms, 第4版	山田昭広	中央経済社
4385	経営管理	会計の力: The Power of Accounting	全在紋	中央経済社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
4386	経営管理	会計学エッセンス, 第3版	内藤文雄	中央経済社
4387	経営管理	会計学的手法: 実証・分析・実験によるアプローチ	田村威文/中條祐介	中央経済社
4388	経営管理	会計学ベーシック: Basic Accounting	近田典行/大塚浩記	中央経済社
4389	経営管理	会計学入門: 会計・監査の基礎を学ぶ, 新版 第5版	千代田邦夫	中央経済社
4390	経営管理	会計処理ハンドブック, 第6版		中央経済社
4391	経営管理	会計法規集, 新版 第9版		中央経済社
4392	経営管理	株式会社会計の基本構造	小栗崇資	中央経済社
4393	経営管理	企業と会計の道しるべ	水口剛/平井裕久	中央経済社
4394	経営管理	基礎学問としての会計学: 構造・歴史・方法	石川純治	中央経済社
4395	経営管理	現代会計学: Understanding facts and concepts of accounting, 新版第2版	新井清光/川村義則	中央経済社
4396	経営管理	現代財務会計のエッセンス	郡司健	中央経済社
4397	経営管理	最新中小企業会計論	河崎照行	中央経済社
4398	経営管理	財務会計, 第13版	広瀬義州	中央経済社
4399	経営管理	財務会計の基礎, 第4版	上野清貴	中央経済社
4400	経営管理	財務会計教科書	久保田秀樹	中央経済社
4401	経営管理	財務会計入門, 第5版	田中建二	中央経済社
4402	経営管理	財務会計論: 1 基本論点編, 第11版 (スタンダードテキスト)	佐藤信彦/河崎照行	中央経済社
4403	経営管理	財務会計論: 2 応用論点編, 第11版 (スタンダードテキスト)	佐藤信彦/河崎照行	中央経済社
4404	経営管理	財務会計論の基礎と応用	菊谷正人/依田俊伸	中央経済社
4405	経営管理	財務報告における公正価値測定	北村敬子	中央経済社
4406	経営管理	実験制度会計論: 未来の会計をデザインする	田口聡志	中央経済社
4407	経営管理	初めての会計学: Introduction to Accounting, 第2版	小野保之/霧日出郎	中央経済社
4408	経営管理	入門財務会計, 第2版	藤井秀樹	中央経済社
4409	経営管理	MBAのための財務会計: 基礎からIFRSまで, 3訂版		同文館出版
4410	経営管理	アカウントティング: 現代会計入門, 5訂版	笹倉淳史/水野一郎	同文館出版
4411	経営管理	スタートアップ会计学, 第2版	上野清貴	同文館出版
4412	経営管理	ズバツとわかる会计学	佐藤倫正/向伊知郎	同文館出版
4413	経営管理	チャレンジ・アカウントティング: Challenge Accounting, 3訂版	藤井則彦	同文館出版
4414	経営管理	はじめて学ぶ国際会計論: IFRS対応	池田健一	同文館出版
4415	経営管理	会计学基礎論, 第5版補訂版		同文館出版
4416	経営管理	企業会計の基礎理論, 第2版	村田直樹	同文館出版
4417	経営管理	近代会計史入門: Modern Accounting History: An Introduction	中野常男/清水泰洋	同文館出版
4418	経営管理	財務会計の基礎理論と展開, 第2版	上江洲由正/大城建夫	同文館出版
4419	経営管理	財務会計の基本を学ぶ, 第12版	八田進二/橋本尚	同文館出版
4420	経営管理	税効果会計入門	鈴木一水	同文館出版
4421	経営管理	会計不正はこう見抜け	ハワード・シリット/ジェレミー・バーラー	日経BP社
4422	経営管理	新・会計図解事典: 会計がわかる人だけが手にするもの	金子智朗	日経BP社
4423	経営管理	粉飾決算vs会計基準	細野祐二	日経BP社
4424	経営管理	企業価値向上のための財務会計リテラシー	西川郁生/秋葉賢一	日本経済新聞出版社
4425	経営管理	新・現代会計入門: Accounting Theory and Today, 第3版	伊藤邦雄	日本経済新聞出版社
4426	経営管理	世界のエリートがやっている会計の新しい教科書	吉成英紀	日本経済新聞出版社
4427	経営管理	揺れる現代会計: ハイブリッド構造とその矛盾	石川純治	日本評論社
4428	経営管理	ケースでまなぶ財務会計: 新聞記事のケースを通して財務会計の基礎をまなぶ, 第8版	永野則雄	白桃書房
4429	経営管理	会计学・簿記入門: 韓国語財務諸表・中国語財務諸表付, 第13版	新田忠誓/佐々木隆志	白桃書房
4430	経営管理	国際会計論	森川八洲男	白桃書房
4431	経営管理	財務会計, 第5版 (HAKUTO Accounting)	平野秀輔	白桃書房
4432	経営管理	財務会計の現状と展望	倉田幸路	白桃書房
4433	経営管理	帳簿の世界史	ジェイコブ・ソール	文藝春秋
4434	経営管理	現代会計 (放送大学教材)	齋藤真哉	放送大学教育振興会
4435	経営管理	中小企業の経理と税務入門	吉川宏延	法令出版
4436	経営管理	はじめて出会う会计学, 新版 (有斐閣アルマ Interest)	川本淳/野口昌良	有斐閣

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
4437	経営管理	企業会計入門: 考えて学ぶ, 補訂版	斎藤静樹	有斐閣
4438	経営管理	財務会計・入門: 企業活動を描き出す会計情報とその活用法, 第12版 (有斐閣アルマ Basic)	桜井久勝/須田一幸	有斐閣
4439	経営管理	簿記概論 (First Stageシリーズ 商業・経済)	大塚宗春/川村義則	実教出版
4440	経営管理	初歩から学ぶ簿記・経営分析	三枝幸文/松井富佐男	税務経理協会
4441	経営管理	簿記概論: An Introduction to Bookkeeping, 3訂版	白石和孝/田中敏行	税務経理協会
4442	経営管理	株式会社簿記論	平松一夫/島本克彦	中央経済社
4443	経営管理	勘定科目・仕訳事典, 第2版		中央経済社
4444	経営管理	基本簿記教室	田宮治雄/横山一朗	中央経済社
4445	経営管理	基本簿記論, 新版第2版		中央経済社
4446	経営管理	現代簿記の原理	照屋行雄	中央経済社
4447	経営管理	初級簿記テキスト: Bookkeeping for Beginners	伊藤龍峰/工藤栄一郎	中央経済社
4448	経営管理	入門簿記のエッセンス	岡部勝成/松尾裕一	中央経済社
4449	経営管理	入門簿記講義: ビジュアル版, 改訂版	大塚宗春/清水孝	中央経済社
4450	経営管理	簿記はじめの一步: The First Step of Bookkeeping	山崎雅教	中央経済社
4451	経営管理	簿記入門テキスト	伊藤龍峰/長吉真一	中央経済社
4452	経営管理	簿記の基本を学ぶ, 第4版	八田進二/橋本尚	同文館出版
4453	経営管理	初級簿記, 改訂版 (放送大学教材)	齋藤正章	放送大学教育振興会
4454	経営管理	キャッシュフロー会計の軌跡	鎌田信夫	森山書店
4455	経営管理	会計基準の最前線	西川郁生	税務経理協会
4456	経営管理	国際会計基準を学ぶ, 第2版 (わしづかみシリーズ)	田中弘/藤田晶子	税務経理協会
4457	経営管理	財務諸表論の考え方: 会計基準の背景と論点	田中弘	税務経理協会
4458	経営管理	新財務諸表論, 第5版	田中弘	税務経理協会
4459	経営管理	国際財務報告基準(IFRS)詳説: iGAAP2016: 第1巻		第一法規
4460	経営管理	国際財務報告基準(IFRS)詳説: iGAAP2016: 第2巻		第一法規
4461	経営管理	国際財務報告基準(IFRS)詳説: iGAAP2016: 第3巻		第一法規
4462	経営管理	IFRS会計学基本テキスト, 第5版	橋本尚/山田善隆	中央経済社
4463	経営管理	IFRS基準: 2017PART A・2017PART B		中央経済社
4464	経営管理	IFRS国際会計基準の基礎, 第5版		中央経済社
4465	経営管理	IFRS財務会計入門, 新版	広瀬義州	中央経済社
4466	経営管理	エッセンシャルIFRS: Essential International Financial Reporting Standards, 第5版	秋葉賢一	中央経済社
4467	経営管理	エッセンシャル連結会計: Consolidation Accounting	山地範明	中央経済社
4468	経営管理	ベーシック国際会計	向伊知郎	中央経済社
4469	経営管理	レクチャー財務諸表論	岩崎健久/平石智紀	中央経済社
4470	経営管理	会計基準の針路		中央経済社
4471	経営管理	会計基準の読み方Q&A100	秋葉賢一	中央経済社
4472	経営管理	国際財務報告の基礎概念	藤井秀樹	中央経済社
4473	経営管理	国際財務報告基準規定の探究: 金融負債をめぐる議論に基づく考察	安井一浩	中央経済社
4474	経営管理	中小企業の会計制度: 日本・欧米・アジア・オセアニアの分析	河崎照行	中央経済社
4475	経営管理	表解IFRS会計講義	長谷川茂男	中央経済社
4476	経営管理	米国財務会計基準の実務, 第10版	長谷川茂男	中央経済社
4477	経営管理	連結会計の基礎, 第3版	上野清貴	中央経済社
4478	経営管理	最新アメリカの会計原則, 第2版	PwCあらた有限責任監査法人	東洋経済新報社
4479	経営管理	会計の変革: 財務報告のコンバージェンス、危機および複雑性に関する年代記	ロバート(ボブ)・H.ハーズ	同文館出版
4480	経営管理	のれん会計と減損会計	榎原英夫	同文館出版
4481	経営管理	監査論を学ぶ, 第2版 (わしづかみシリーズ)	蟹江章/藤岡英治	税務経理協会
4482	経営管理	はじめてまなぶ監査論	盛田良久/百合野正博	中央経済社
4483	経営管理	監査・保証業務の総合研究	内藤文雄	中央経済社
4484	経営管理	監査基準論: Auditing standards theory, 第3版	長吉真一	中央経済社
4485	経営管理	監査論: 問題演習編, 第2版 (スタンダードテキスト)		中央経済社
4486	経営管理	監査論テキスト, 第6版	山浦久司	中央経済社
4487	経営管理	監査論入門: Introduction to AUDIT THEORY, 第3版	長吉真一/伊藤龍峰	中央経済社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
4488	経営管理	体系監査論: A Theory of Auditing	瀧田輝己	中央経済社
4489	経営管理	闘う公認会計士: アメリカにおける150年の軌跡	千代田邦夫	中央経済社
4490	経営管理	ベーシック監査論, 7訂版	伊豫田隆俊/松本祥尚	同文館出版
4491	経営管理	会計監査人論	弥永真生	同文館出版
4492	経営管理	監査実務ハンドブック: 平成28年版		日本公認会計士協会出版局
4493	経営管理	ベーシック税務会計: 企業課税編, 改訂版	中島茂幸/櫻田謙	創成社
4494	経営管理	現代税務会計論	坂本雅士	中央経済社
4495	経営管理	国際税務のよくあるケース50: これだけは押さえておこう, 第2版	佐和周	中央経済社
4496	経営管理	税務会計学辞典, 新版	成道秀雄	中央経済社
4497	経営管理	税務会計要論, 新訂第3版	中田信正	同文館出版
4498	経営管理	ブロックチェーン・レボリューション: ビットコインを支える技術はどのようにビジネスと経済、そして世界を変えるのか	ドン・タブスコット/アレックス・タブスコット	ダイヤモンド社
4499	経営管理	ビットコイン&ブロックチェーン: 決定版	岡田仁志	東洋経済新報社
4500	経営管理	リスクマネジメント (ジャフィー・ジャーナル-金融工学と市場計量分析-)		朝倉書店
4501	経営管理	フィナンシャルエンジニアリング: デリバティブ取引とリスク管理の総体系, 第9版	ジョン ハル	金融財政事情研究会
4502	経営管理	進化する銀行システム: 24時間365日動かすメインフレームの設計思想 (Software Design plusシリーズ)	星野武史	技術評論社
4503	経営管理	リスクマネジメントの本質, 第2版	Michel Crouhy/Dan Galai	共立出版
4504	経営管理	企業会計におけるリスクマネジメント: 金融機関と不正経理をめぐって	星野一郎	中央経済社
4505	経営管理	BoPビジネス3.0: 持続的成長のエコシステムをつくる	フェルナンド・カサド・カニエケ/スチュアート・レハート	英治出版
4506	経営管理	海外直接投資の理論・実証研究の新潮流	松浦寿幸	三菱経済研究所
4507	経営管理	新興市場ビジネス入門: 国際経営のフロンティア	今井雅和	中央経済社
4508	経営管理	外資の経営史	橋川武郎/金花	文眞堂
4509	経営管理	新興国市場戦略論: 拡大する中間層市場へ・日本企業の新戦略 (東京大学ものづくり経営研究シリーズ)		有斐閣
4510	経営管理	日本企業のアジア・バリューチェーン戦略		新評論
4511	経営管理	アジア進出ハンドブック, 新版	三菱東京UFJ銀行国際業務部	東洋経済新報社
4512	経営管理	日本企業のアジア・マーケティング戦略 (マーケティング史研究会実践史シリーズ 7)		同文館出版
4513	経営管理	実態調査で見た中堅・中小企業のアジア進出戦略「光と陰」	安積敏政	日刊工業新聞社
4514	経営管理	わかりやすい現地に寄り添うアジアビジネスの教科書: 市場の特徴から「BOPビジネス」の可能性まで	黒田秀雄/川谷暢宏	白桃書房
4515	経営管理	アジアからのグローバル経営論, 新版	小森正彦	文眞堂
4516	経営管理	成功に導く中小製造企業のアジア戦略	櫻井敬三/高橋文行	文眞堂
4517	経営管理	日本企業のアジアFTA活用戦略: TPP時代のFTA活用に向けた指針	助川成也/高橋俊樹	文眞堂
4518	経営管理	中国市場と日中台ビジネスアライアンス	郭洋春/角田収	文眞堂
4519	経営管理	インドネシアはポスト・チャイナとなるのか: アジア巨大市場の10年後	鷺田祐一	同文館出版
4520	経営管理	イスラーム圏ビジネスの法と実務	イスラームビジネス法研究会/西村あさひ法律事務所	経済産業調査会
4521	経営管理	欧州新興市場国への日系企業の進出: 中欧・ロシアの現場から	池本修一/田中宏	文眞堂
4522	経営管理	最後の市場アフリカ: ビジネスチャンスとリスクはどこにあるのか	野村修一/ジェームス・クリア	日本実業出版社
4523	経営管理	会計検査制度: 会計検査院の役割と仕組み		中央経済社
4524	経営管理	契約価格・原価・利益: 管理会計の視点による防衛装備品の効率的・効果的な開発と生産	櫻井通晴	同文館出版
4525	経営管理	国際課税の基礎知識, 10訂版	川田剛	税務経理協会
4526	経営管理	税法用語辞典, 9訂版		大蔵財務協会
4527	経営管理	新実務家のための税務相談: 民法編		有斐閣
4528	経営管理	新実務家のための税務相談: 会社法編		有斐閣
4529	経営管理	プログレッシブ税務会計論: 「公正処理基準」の考え方	酒井克彦	中央経済社
4530	経営管理	プログレッシブ税務会計論: 1 租税法と企業会計の接点	酒井克彦	中央経済社
4531	経営管理	プログレッシブ税務会計論: 2 収益費用と益金損金の関係	酒井克彦	中央経済社
4532	経営管理	移転価格「マスターファイル」の作成実務	鈴木康伸/山田崇弘	中央経済社
4533	経営管理	チームワークの心理学: エビデンスに基づいた実践へのヒント	マイケル・A.ウェスト	東京大学出版会
4534	経営管理	インビジブル・インフルエンス決断させる力: あらゆる行動を方向づける影響力の科学	ジョーナ・バーガー	東洋館出版社
4535	経営管理	交渉のメソッド: リーダーのコア・スキル	アラン・ランブルツ/オウレリアン・コルソン	白桃書房
4536	経営管理	創造的経験	M.P.フォレット	文眞堂
4537	経営管理	「ブレゼン」力: 未来を変える「伝える」技術	山中伸弥/伊藤穰一	講談社
4538	経営管理	リーダーシップの探求: 変化をもたらす理論と実践	スーザン・R.コムベズ/ナンス・ルーカス	早稲田大学出版部

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
4539	経営管理	賢い組織は「みんな」で決める: リーダーのための行動科学入門	キャス・サンステーン/リード・ヘイステイ	NTT出版
4540	経営管理	リスクコミュニケーションの現場と実践	宇於崎裕美	産労総合研究所出版部経営書院
4541	経営管理	エライ人の失敗と人気の動画で学ぶ頭のいい伝え方	鶴野充茂	日経BP社
4542	経営管理	コーチングハンドブック: NLPで最高の能力が目覚める	山崎啓支	日本能率協会マネジメントセンター
4543	経営管理	組織・コミュニティデザイン: ORGANIZATION AND COMMUNITY DESIGN (京大デザインスクールテキストシリーズ 2)	山内裕/平本毅	共立出版
4544	経営管理	Hatch組織論: 3つのパースペクティブ	Mary Jo Hatch/Ann L.Cunliffe	同文館出版
4545	経営管理	豊田とトヨタ: 産業グローバル化先進地域の現在	丹辺直彦/岡村徹也	東信堂
4546	経営管理	現代の消費者主権: 消費者は消費者市民社会の主役となるか	古谷由紀子	芙蓉書房出版
4547	経営管理	図説労働の論点		旬報社
4548	経営管理	NOと言えない若者がブラック企業に負けず働く方法	川村遼平	晶文社
4549	経営管理	新・正社員論: 共稼ぎ正社員モデルの提言	久本憲夫	中央経済社
4550	経営管理	高齢者が働くということ: 従業員の2人に1人が74歳以上の成長企業が教える可能性	ケイトリン・リンチ	ダイヤモンド社
4551	経営管理	障害者雇用とディスアビリティ・マネジメント	二神恭一/二神常爾	中央経済社
4552	経営管理	大人の発達障害と就労支援・雇用の実務, 改訂版	山下喜弘/田中建一	日本法令
4553	経営管理	キャリアカウンセリング再考: 実践に役立つQ&A, 第2版	渡辺三枝子/大庭さよ	ナカニシヤ出版
4554	経営管理	キャリアカウンセリング実践: 24の相談事例から学ぶ	渡辺三枝子/大庭さよ	ナカニシヤ出版
4555	経営管理	キャリアデザイン支援ハンドブック		ナカニシヤ出版
4556	経営管理	サビカス ライフデザイン・カウンセリング・マニュアル: キャリア・カウンセリング理論と実践	マーク・L.サビカス	遠見書房
4557	経営管理	わかりやすいキャリア学: 成長するためのキャリアデザイン	古閑博美/薬師丸正二郎	学文社
4558	経営管理	ローカル仕事図鑑: 新天地のハローワーク (Local Life Book)		技術評論社
4559	経営管理	社会人のためのキャリア・デザイン入門	矢澤美香子	金剛出版
4560	経営管理	はじめてのナラティブ/社会構成主義キャリア・カウンセリング: 未来志向の新しいカウンセリング論	渡部昌平	川島書店
4561	経営管理	LIFE DESIGN: スタンフォード式最高の人生設計	ビル・バーネット/デイヴ・エヴァンス	早川書房
4562	経営管理	世界で働くプロフェッショナルが語る: 東大のグローバル人材講義		東京大学出版会
4563	経営管理	キャリアデザイン講座: 理論と実践で自己決定力を伸ばす, 第2版		日経BP社
4564	経営管理	自分のキャリアを自分で考えるためのワークブック: これがわたしの歩むみち, 改訂版	小野田博之	日本能率協会マネジメントセンター
4565	経営管理	シャイン博士が語るキャリア・カウンセリングの進め方: (キャリア・アンカー)の正しい使用法	エドガー・H.シャイン/尾川文一	白桃書房
4566	経営管理	キャリア・マネジメントの未来図: ダイバーシティとインクルージョンの視点からの展望	二神枝保/村木厚子	八千代出版
4567	経営管理	サビカス キャリア・カウンセリング理論: (自己構成)によるライフデザインアプローチ	マーク・L.サビカス	福村出版
4568	経営管理	実践家のためのナラティブ/社会構成主義キャリア・カウンセリング: クライアントとともに(望ましい状況)を構築する技法	渡部昌平/高橋浩	福村出版
4569	経営管理	社会構成主義キャリア・カウンセリングの理論と実践: ナラティブ、質的アセスメントの活用	渡部昌平/下村英雄	福村出版
4570	経営管理	わたしのキャリア・デザイン: 社会・組織・個人	加藤藤子/小倉祥子	ナカニシヤ出版
4571	経営管理	同一労働同一賃金の衝撃: 「働き方改革」のカギを握る新ルール	山田久	日本経済新聞出版社
4572	経営管理	これからの賃金	遠藤公嗣	旬報社
4573	経営管理	ワタミの初任給はなぜ日銀より高いのか?: ナベテル弁護士が教える残業代のカラクリ	渡辺輝人	旬報社
4574	経営管理	雇用は契約: 雰囲気には負けない働き方 (筑摩選書 0158)	玄田有史	筑摩書房
4575	経営管理	中小企業の成長を支える外国人労働者		同友館
4576	経営管理	マネジメントの心理学: 産業・組織心理学を働く人の視点で学ぶ	伊波和恵/高石光一	ミネルヴァ書房
4577	経営管理	個と組織を生かすキャリア発達の心理学: 自律支援の人材マネジメント論, 改訂増補版	二村英幸	金子書房
4578	経営管理	働くひとの生涯発達心理学: M-GTAによるキャリア研究	岡田昌毅/石浦敏子	晃洋書房
4579	経営管理	グッドワークとフロー体験: 最高の仕事で社会に貢献する方法	ハワード・ガードナー/ミハイ・チクセントミハイ	世界思想社
4580	経営管理	職場の人間科学: ビッグデータで考える「理想の働き方」	ベン・ウェイバー	早川書房
4581	経営管理	キャリアを超えてワーキング心理学: 働くことへの心理学的アプローチ	D.L.ブルスティン	白桃書房
4582	経営管理	はじめて学ぶ産業・組織心理学	柳澤さおり/田原直美	白桃書房
4583	経営管理	産業・組織心理学, 改訂版		白桃書房
4584	経営管理	組織セラピー: 組織感情への臨床アプローチ	E.H.シャイン	白桃書房
4585	経営管理	入門!産業社会心理学: 仕事も人間関係もうまくいく心理マネジメントの秘訣	杉山崇	北樹出版
4586	経営管理	健康・安全で働き甲斐のある職場をつくる: 日本学術会議の提言を実効あるものに	岸・金堂玲子/森岡孝二	ミネルヴァ書房
4587	経営管理	意識をデザインする仕事: 「福祉の常識」を覆すピープルデザインが目指すもの	須藤シンジ	阪急コミュニケーションズ
4588	経営管理	グローバル人材を育てます		学文社
4589	経営管理	インターンシップ実践ガイド: 大学と企業の連携		玉川大学出版部

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
4590	経営管理	キャリアデザインのための自己表現: 過去・現在・未来を結ぶバイオグラフィ	細川英雄/太田裕子	東京図書
4591	経営管理	活躍する組織人の探究: 大学から企業へのトランジション		東京大学出版会
4592	経営管理	大学生のキャリア開発: 自分らしく働くための処方箋	梶原豊/横山悦生	同友館
4593	経営管理	社会人基礎力: 学生から社会人・ビジネスパーソンになるための必修BOOK, 改訂版	加賀博	日本生産性本部生産性労働情報センター
4594	経営管理	図解社会人の基本マナー大全 (講談社の実用BOOK)	岩下宣子	講談社
4595	経営管理	史上最大の決断: 「ノルマンディー上陸作戦」を成功に導いた賢慮のリーダーシップ	野中郁次郎/荻野進介	ダイヤモンド社
4596	経営管理	最高の戦略教科書孫子	守屋淳	日本経済新聞出版社
4597	経営管理	賢く生きるより辛抱強いバカになれ	稲盛和夫/山中伸弥	朝日新聞出版
4598	経営管理	新米探偵、データ分析に挑む	石田基広	SBクリエイティブ
4599	経営管理	Excelで学ぶAHP入門, 第2版	高萩栄一郎/中島信之	オーム社
4600	経営管理	SAS Enterprise Guide: アンケート解析編	高柳良太	オーム社
4601	経営管理	例題で学ぶOR入門	大堀隆文/加地太一	コロナ社
4602	経営管理	明日からビジネスで使える!ExcelとRによるデータ解析入門	上村龍太郎/北島良三	丸善出版
4603	経営管理	Rで統計を学ぼう!文系のためのデータ分析入門	長島直樹/石田実	中央経済社
4604	経営管理	1億人のための統計解析: エクセルを最強の武器にする	西内啓	日経BP社
4605	経営管理	最新健康ビジネスの動向とカラクリがよ〜わかる本: 業界人、就職、転職に役立つ情報満載, 第2版 (図解入門業界研究-How-nual-)	川上清市	秀和システム
4606	経営管理	フードトラップ: 食品に仕掛けられた至福の罠	マイケル・モス	日経BP社
4607	経営管理	働く人たちのメンタルヘルス対策と実務: 実践と応用		ナカニシヤ出版
4608	経営管理	ストレスチェック時代の職場の「新型うつ」対策: 理解・予防・支援のために	中野美奈	ミネルヴァ書房
4609	経営管理	組織のストレスとコンサルテーション: 対人援助サービスと職場の無意識		金剛出版
4610	経営管理	働く人へのキャリア支援: 働く人の悩みに応える27のヒント	宮脇優子	金剛出版
4611	経営管理	ワーク・エンゲイジメント: 基本理論と研究のためのハンドブック		星和書店
4612	経営管理	職場のストレスマネジメント: セルフケア教育の企画・実施マニュアル	島津明人	誠信書房
4613	経営管理	職場のポジティブメンタルヘルス: 現場で活かせる最新理論	島津明人	誠信書房
4614	経営管理	職場のポジティブメンタルヘルス: 2 科学的根拠に基づくマネジメントの実践	島津明人	誠信書房
4615	経営管理	2040年の新世界: 3Dプリンタの衝撃	ホッド・リブソン/メルバ・カーマン	東洋経済新報社
4616	経営管理	問題解決ラボ: 「あったらいいな」をかたちにする「ひらめき」の技術	佐藤オオキ	ダイヤモンド社
4617	経営管理	デザイン組織のつくりかた: デザイン思考を駆動させるインハウスチームの構築&運用ガイド	ピーター・メルホルツ/クリスティン・スキナー	ビー・エヌ・エヌ新社
4618	経営管理	形態は感情にしたがう: フロッグデザイン創設者ハルトムット・エスリンガー	ハルトムット・エスリンガー	ポーンデジタル
4619	経営管理	モノづくり×モノづくりのデザインサイエンス: 経営戦略に新価値をもたらす10の知恵 (日本語-英語バイリンガル・ブック)	松岡由幸	近代科学社
4620	経営管理	トコトンやさしいユニバーサルデザインの本, 第2版 (B&Tブックス 今日からモノ知りシリーズ)	宮入賢一郎/実利用者研究機構	日刊工業新聞社
4621	経営管理	ユニバーサルデザインの教科書, 第3版		日経BP社
4622	経営管理	佐藤オオキのボツ本: Oki Sato's rejected projects	佐藤オオキ	日経BP社
4623	経営管理	エンジニアリング・デザインの教科書: Engineering Design, A Textbook for Product Design and Development	別府俊幸	平凡社
4624	経営管理	質的イノベーション時代の思考力: 科学技術と社会をつなぐデザインとは	田浦俊春	勁草書房
4625	経営管理	感性イノベーション: 感性をビジネスに活かす	長町三生	海文堂出版
4626	経営管理	ビッグバン・イノベーション: 一夜にして爆発的成長から衰退に転じる超破壊的変化から生き延びよ	ラリー・ダウズ/ポール・F.ヌーネス	ダイヤモンド社
4627	経営管理	未来に先回りする思考法: テクノロジーがすべてを塗りかえる	佐藤航陽	ディスクヴァー・トゥエンティワン
4628	経営管理	技術流出の構図: エンジニアたちは世界へどう動いたか	藤原綾乃	白桃書房
4629	経営管理	ものづくり2.0: メイカーズムーブメントの日本的展開	宇野常寛/岩佐琢磨	KADOKAWA
4630	経営管理	日本発モノづくり: 若い人たちに期待したいこと	石井徳章	晃洋書房
4631	経営管理	メガ!: 巨大技術の現場へ、ゴー	成毛眞	新潮社
4632	経営管理	イノベーションの成功と失敗: 戦前戦中から戦後に至る日本型イノベーションの真実	武田立/瀬戸篤	同文館出版
4633	経営管理	先生、イノベーションって何ですか?	伊丹敬之	PHP研究所
4634	経営管理	再考日本流ものづくり	高島秀雄	鹿島出版会
4635	経営管理	大予測 次に来るキーテクノロジー: 2018-2019	城田真琴	日本経済新聞出版社
4636	経営管理	ものづくりのための創造性トレーニング: 温故創新	渡邊嘉二郎/城井信正	コロナ社
4637	経営管理	トリーズの発明原理40: あらゆる問題解決に使える(科学的)思考支援ツール	高木芳徳	ディスクヴァー・トゥエンティワン
4638	経営管理	創造の源流: 社会を変えるイノベーション: 2015年版 (技術を生かすグローバルリーダー育成の教科書)		日経BPコンサルティング
4639	経営管理	メディアとICTの知的財産権, 第2版 (未来へつなぐデジタルシリーズ 12)	菅野政孝/大谷卓史	共立出版
4640	経営管理	知的財産法	小泉直樹	弘文堂

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
4641	経営管理	知的財産法演習ノート: 知的財産法を楽しむ23問, 第4版	小泉直樹/駒田泰土	弘文堂
4642	経営管理	知的財産権六法: a compendium of intellectual property laws and court cases: 2018		三省堂
4643	経営管理	はじめての知的財産法, 第4版(3日でわかる法律入門)	尾崎哲夫	自由国民社
4644	経営管理	ロジスティクス知的財産法: 1 特許法	田村善之/時井真	信山社出版
4645	経営管理	ロジスティクス知的財産法: 2 著作権法	田村善之/高瀬亜富	信山社出版
4646	経営管理	知財高裁判例集: 平成25年版	知財高裁判例研究会	青林書院
4647	経営管理	知的財産訴訟実務大系: 1 知財高裁歴代所長座談会・特許法・実用新案法(1)		青林書院
4648	経営管理	知的財産訴訟実務大系: 2 特許法・実用新案法(2), 意匠法, 商標法, 不正競争防止法		青林書院
4649	経営管理	知的財産訴訟実務大系: 3 著作権法, その他, 全体問題		青林書院
4650	経営管理	知的財産法講義, 3訂版	牧野和夫	税務経理協会
4651	経営管理	知的財産法入門: INTRODUCTION TO INTELLECTUAL PROPERTY LAW THEORY AND PRACTICE, 第15版	土肥一史	中央経済社
4652	経営管理	企業人・大学人のための知的財産権入門: 特許法を中心に, 第3版	廣瀬隆行	東京化学同人
4653	経営管理	知的財産・知的財産権・知的財産戦略	羽藤秀雄	同文館出版
4654	経営管理	プロダクトデザイン保護法: 商品・空間・情報を対象としたデザインの法的保護	富宅恵	日本加除出版
4655	経営管理	技術法務のススメ: 事業戦略から考える知財・契約プラクティス		日本加除出版
4656	経営管理	国際知的財産法入門	木棚照一	日本評論社
4657	経営管理	知的財産イノベーション研究の展望: 明日を創造する知財学		白桃書房
4658	経営管理	知的財産権法概論	紋谷暢男/紋谷崇俊	発明推進協会
4659	経営管理	知的創造サイクルの法システム: 情報学プログラム(放送大学大学院教材 放送大学大学院文化科学研究科)	児玉晴男	放送大学教育振興会
4660	経営管理	実践知的財産法: 制度と戦略入門	浅野卓	法律文化社
4661	経営管理	知的財産関係条約: TREATIES OF INTELLECTUAL PROPERTY		有斐閣
4662	経営管理	知的財産訴訟の現在: 訴訟代理人による判例評釈		有斐閣
4663	経営管理	知的財産法: 1 特許法(有斐閣ストゥディア)	駒田泰土/潮海久雄	有斐閣
4664	経営管理	知的財産法: 2 著作権法(有斐閣ストゥディア)	駒田泰土/潮海久雄	有斐閣
4665	経営管理	知的財産法(Legal Quest)	愛知靖之/前田健	有斐閣
4666	経営管理	知的財産法, 第8版(有斐閣アルマ Specialized)	角田政芳/辰巳直彦	有斐閣
4667	経営管理	知的財産法入門: INTELLECTUAL PROPERTY LAW, 第2版		有斐閣
4668	経営管理	入門知的財産法: An Introduction to Intellectual Property Law	平嶋竜太/宮脇正晴	有斐閣
4669	経営管理	できるサーチャーになるための特許調査の知識と活用ノウハウ	東智朗/尼崎浩史	オーム社
4670	経営管理	外国出願のための特許翻訳英文作成教本	中山裕木子	丸善出版
4671	経営管理	破綻する特許: 裁判官、官僚、弁護士がどのようにイノベータを危機に陥れているのか	ジェームズ・ベッセン/マイケル・J・モイラー	現代人文社
4672	経営管理	特許法, 第3版(法律学講座双書)	中山信弘	弘文堂
4673	経営管理	特許の英語表現・文例集, 増補改訂版	W.C.ローランド/奥山尚一	講談社
4674	経営管理	特許権行使の制限法理	愛知靖之	商事法務
4675	経営管理	特許訴訟の実務, 第2版(裁判実務シリーズ 2)		商事法務
4676	経営管理	新・注解特許法: 上巻 第1条～第65条(第1章～第3章の2), 第2版		青林書院
4677	経営管理	新・注解特許法: 中巻 第66条～第112条の3(第4章第1節～第3節), 第2版		青林書院
4678	経営管理	新・注解特許法: 下巻 第113条～第204条(第5章～第11章)附則・判例索引・事項索引, 第2版		青林書院
4679	経営管理	すばらしき特殊特許の世界: UNBELIEVABLE INVENTIONS!!	稲森謙太郎	太田出版
4680	経営管理	特許法: PATENT LAW, 第2版		有斐閣
4681	経営管理	特許法入門: Patent Law in Japan	島並良/上野達弘	有斐閣
4682	経営管理	標準特許法: Patent Law From the Ground Up, 第6版	高林龍	有斐閣
4683	経営管理	意匠法, 新版 第3版(知的財産法実務シリーズ 3)	末吉亙	中央経済社
4684	経営管理	デザイン保護法制の現状と課題: 法学と創作の視点から		日本評論社
4685	経営管理	商標法, 第2次改訂版	平尾正樹	学陽書房
4686	経営管理	新・注解商標法: 上巻 序章・第1条～第35条		青林書院
4687	経営管理	新・注解商標法: 下巻 第36条～第85条 事項索引・判例索引		青林書院
4688	経営管理	新しい商標と商標権侵害: 色彩、音からキャッチフレーズまで	青木博通	青林書院
4689	経営管理	商標法, 新版 第5版(知的財産法実務シリーズ 2)	末吉亙	中央経済社
4690	経営管理	Q&A商標・意匠・不正競争防止の知識100問	清水節/高野輝久	日本加除出版
4691	経営管理	商標法: TRADEMARK LAW		有斐閣

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
4692	経営管理	ブレイクスルーへの思考: 東大先端研が実践する発想のマネジメント		東京大学出版会
4693	経営管理	決定版インダストリー4.0: 第4次産業革命の全貌	尾木蔵人	東洋経済新報社
4694	経営管理	インダストリー4.0: ドイツ第4次産業革命が与えるインパクト (B&Tブックス)	岩本晃一	日刊工業新聞社
4695	経営管理	イノベーションの法則性: 成功体験の過剰適応を超えて	柴田友厚	中央経済社
4696	経営管理	日本のものづくりの底力: Uncovering the Real Potential of Japanese Manufacturing (Hitotsubashi Business Review Books)	藤本隆宏/新宅純二郎	東洋経済新報社
4697	経営管理	グローバル・ニッチトップ企業論: 日本の明日を拓くものづくり中小企業	細谷祐二	白桃書房
4698	経営管理	企業家活動からみた日本のものづくり経営史: わが国ものづくり産業の先駆者に学ぶ (法政大学イノベーション・マネジメント研究センター叢書 9)		文眞堂
4699	経営管理	千年企業の大逆転	野村進	文藝春秋
4700	経営管理	グローバル化と日本のものづくり, 新訂 (放送大学教材)	藤本隆宏/新宅純二郎	放送大学教育振興会
4701	経営管理	中国消費財メーカーの成長戦略	李雪	文眞堂
4702	経営管理	モノづくりと「武士魂」: NPS戦略経営の人財育成	木下幹彌/川崎享	第三企画出版
4703	経営管理	「製造業のサービス化」戦略	西岡健一/南知恵子	中央経済社
4704	経営管理	変革期のモノづくり革新: 工業経営研究の課題	風間信隆/廣瀬幹好	中央経済社
4705	経営管理	NPSの極意	木下幹彌	東洋経済新報社
4706	経営管理	経営思想としてのNPS	木下幹彌/川崎享	東洋経済新報社
4707	経営管理	コラーのイノベーション・ブランド戦略: ものづくり企業のための要素技術の「見える化」	フィリップ・コラー/ヴァルデマール・ファルチ	白桃書房
4708	経営管理	The Maker's Manual: フィジカルコンピューティングのための実践ガイドブック	Andrea Maietta/Paolo Aliverti	翔泳社
4709	経営管理	ムダのカイゼン、カイゼンのムダ: トヨタ生産システムの〈浸透〉と現代社会の〈変容〉	伊原亮司	こぶし書房
4710	経営管理	トヨタ式現場管理: ものづくり日本再生のための7つのカイゼン	田中正知	ビジネス社
4711	経営管理	英語で学ぶトヨタ生産方式: エッセンスとフレーズのすべて, 改訂新版	松崎久純	研究社
4712	経営管理	ものづくりの英語表現, 増補改訂版	松崎久純	三修社
4713	経営管理	コア・テキスト生産管理 (ライブラリ経営学コア・テキスト 13)	富田純一/糸久正人	新世社
4714	経営管理	トヨタ生産方式の異業種展開の実践: 挑戦・理念・手法・実際	熊澤光正	大学教育出版
4715	経営管理	エッセンシャル経営史: 生産システムの歴史的分析	中瀬哲史	中央経済社
4716	経営管理	オペレーションズマネジメント: 生産・サプライチェーンの管理	高桑宗右工門	中央経済社
4717	経営管理	ものづくり改善入門		中央経済社
4718	経営管理	ものづくりに役立つ経営工学の事典: 180の知識		朝倉書店
4719	経営管理	新トヨタ式「改善」の教科書: 世界No.1に導いたものづくりの原点	若松義人	東洋経済新報社
4720	経営管理	中小企業がIoTをやってみた: 試行錯誤で獲得したIoTの導入ノウハウ	岩本晃一/井上雄介	日刊工業新聞社
4721	経営管理	トヨタのカタ: 驚異の業績を支える思考と行動のルーティン	マイク・ローザー	日経BP社
4722	経営管理	ケースで解明ITを活かすものづくり	藤本隆宏/朴英元	日本経済新聞出版社
4723	経営管理	トヨタの製品開発: ドキュメント	安達瑛二	白桃書房
4724	経営管理	プロジェクトデザイン I・II (チームラーニングで新しい価値を創造する 2)	千徳英一/岩田節雄	共立出版
4725	経営管理	プロジェクトデザイン実践 (チームラーニングで新しい価値を創造する 3)	千徳英一/岩田節雄	共立出版
4726	経営管理	プロジェクトデザイン入門 (チームラーニングで新しい価値を創造する 1)	千徳英一/岩田節雄	共立出版
4727	経営管理	例題とExcel演習で学ぶ実験計画法とタグチメソッド	菅民郎	オーム社
4728	経営管理	シリーズ〈現代の品質管理〉: 1 現代品質管理総論	飯塚 悦功/永田 靖	朝倉書店
4729	経営管理	シリーズ〈現代の品質管理〉: 2 統計的品質管理	飯塚 悦功/永田 靖	朝倉書店
4730	経営管理	シリーズ〈現代の品質管理〉: 3 統計的工程管理	飯塚 悦功/永田 靖	朝倉書店
4731	経営管理	シリーズ〈現代の品質管理〉: 4 システムの信頼性と安全性		朝倉書店
4732	経営管理	シリーズ〈現代の品質管理〉: 5 現代オペレーションズ・マネジメント		朝倉書店
4733	経営管理	スタンダード品質管理	仁科健	培風館
4734	経営管理	ヒューマンエラー: 完訳版	ジェームズ・リーズン	海文堂出版
4735	経営管理	お店の解剖図鑑: THE ANATOMICAL CHART OF SHOP	高橋哲史	エクスナレッジ
4736	経営管理	最新機械業界の動向とカラクリがよくわかる本: 業界人、就職、転職に役立つ情報満載, 第2版 (図解入門業界研究-How-nual-)	川上清市	秀和システム
4737	経営管理	外需時代の日本産業と中小企業: 半導体製造装置産業と工作機械産業	加藤秀雄	新評論
4738	経営管理	町工場の娘: 主婦から社長になった2代目の10年戦争	諏訪貴子	日経BP社
4739	経営管理	脱皮成長する経営: 無競争志向がもたらす前川製作所の価値創造	恩蔵直人/永井竜之介	千倉書房
4740	経営管理	トヨタ仕事の基本大全: THE ULTIMATE BUSINESS SKILLS TOYOTA WAY	OJTソリューションズ	KADOKAWA
4741	経営管理	GMの経験: 日本への教訓, 新版	石田光男/篠原健一	中央経済社
4742	経営管理	人材を育てるホンダ競わせるサムスン	佐藤登	日経BP社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
4743	経営管理	オサムイズム: “小さな巨人”スズキの経営	中西孝樹	日本経済新聞出版社
4744	経営管理	走らないトヨタ: ネット南国の組織エスノグラフィー	田中研之輔/山崎正枝	法律文化社
4745	経営管理	AIが変えるクルマの未来: 自動車産業への警鐘と期待	中村吉明	NTT出版
4746	経営管理	入門生産システム論: 自動車企業の発展にみる生産革新	今田治	ミネルヴァ書房
4747	経営管理	トヨタと日産にみる(場)に生きる力: 労働現場の比較分析	伊原亮司	桜井書店
4748	経営管理	最新自動車業界の動向としくみがよ〜わかる本: 業界人、就職、転職に役立つ情報満載 第2版 (図解入門業界研究-How-nual-)	黒川文子	秀和システム
4749	経営管理	自動車産業のESG戦略	黒川文子	中央経済社
4750	経営管理	自動車マーケティング: エントリー世代とクルマの進化	吉川勝広	同文館出版
4751	経営管理	モビリティ革命2030: 自動車産業の破壊と創造	デロイトトーマツコンサルティング	日経BP社
4752	経営管理	2020年の「勝ち組」自動車メーカー: 成長力を探点!	中西孝樹	日本経済新聞出版社
4753	経営管理	日本の自動車サプライヤー・システム	山崎修嗣	法律文化社
4754	経営管理	MAZDA DESIGN: DESIGN BRANDING BUSINESS	日経デザイン/廣川淳哉	日経BP社
4755	経営管理	航空機産業と日本: 再成長の切り札	中村洋明	中央公論新社
4756	経営管理	ドローン・ビジネスの衝撃: 小型無人飛行機が切り開く新たなマーケット	小林啓倫	朝日新聞出版
4757	経営管理	ホンダジェット: 開発リーダーが語る30年の全軌跡	前間孝則	新潮社
4758	経営管理	月をマーケティングする: アポロ計画と史上最大の広報作戦	デイヴィッド・ミアマン・スコット/リチャード・ジュレック	日経BP社
4759	経営管理	シャープ「企業敗戦」の深層: 大転換する日本のものづくり	中田行彦	イースト・プレス
4760	経営管理	東芝の悲劇	大鹿靖明	幻冬舎
4761	経営管理	パナソニック人事抗争史: ドキュメント	岩瀬達哉	講談社
4762	経営管理	切り捨てSONY: リストラ部屋は何を奪ったか	清武英利	講談社
4763	経営管理	シャープ「液晶敗戦」の教訓: 日本のものづくりはなぜ世界で勝てなくなったのか	中田行彦	実務教育出版
4764	経営管理	GE巨人の復活: シリコンバレー式「デジタル製造業」への挑戦	中田敦	日経BP社
4765	経営管理	ビジネスモデル・エクセレンス: ハイアールはなぜ白物家電の王者になれたのか	ビル・フィッシャー/ウンベルト・ラーゴ	日経BP社
4766	経営管理	異端児たちの決断: 日立製作所川村改革の2000日	小坂橋太郎	日経BP社
4767	経営管理	会社が消えた日: 三洋電機10万人のそれから	大西康之	日経BP社
4768	経営管理	SONY平井改革の1500日		日本経済新聞出版社
4769	経営管理	シャープ崩壊: 名門企業を壊したのは誰か		日本経済新聞出版社
4770	経営管理	東芝事件と「守りのガバナンス」	今井祐	文真堂
4771	経営管理	東芝原子力敗戦	大西康之	文藝春秋
4772	経営管理	東芝不正会計: 底なしの闇	今沢真	毎日新聞出版
4773	経営管理	日本の電機産業失敗の教訓: 強い日本経済を復活させる方法	佐藤文昭	朝日新聞出版
4774	経営管理	徹底検証日本の電力会社	奥村宏	七つ森書館
4775	経営管理	そこが知りたい電力自由化: 自然エネルギーを選べるの?	高橋真樹	大月書店
4776	経営管理	電力と震災: 東北「復興」電力物語	町田徹	日経BP社
4777	経営管理	原子力発電と会計制度	金森絵里	中央経済社
4778	経営管理	デザイン家電は、なぜ「四角くて、モノトーン」なのか?	木全賢	エムティエヌコーポレーション
4779	経営管理	パラノイアだけが生き残る: 時代の転換点をきみはどう見極め、乗り切るのか	アンドリュー・S.グローブ	日経BP社
4780	経営管理	インテル: 世界で最も重要な会社の産業史	マイケル・マローン	文藝春秋
4781	経営管理	ロケット・ササキ: ジョブズが憧れた伝説のエンジニア・佐々木正	大西康之	新潮社
4782	経営管理	東アジア液晶パネル産業の発展: 韓国・台湾企業の急速キャッチアップと日本企業の対応	赤羽淳	勁草書房
4783	経営管理	日本鉄鋼業の光と影 (シリーズ企業・経営の現場から 3)	藤田昭夫/男澤一郎	勁草書房
4784	経営管理	世界の化学企業: グローバル企業21社の強みを探る (科学のとびら 55)	田島慶三	東京化学同人
4785	経営管理	100年成長企業のマネジメント: 3Mに学ぶ戦略駆動力の経営	河合篤男/伊藤博之	日本経済新聞出版社
4786	経営管理	バッテリーウォーズ: 次世代電池開発競争の最前線	スティーヴ・レヴィン	日経BP社
4787	経営管理	最新化粧品業界の動向とカラクリがよ〜わかる本: 業界人、就職、転職に役立つ情報満載 第4版 (図解入門業界研究-How-nual-)	梅本博史	秀和システム
4788	経営管理	林原家: 同族経営への警鐘	林原健	日経BP社
4789	経営管理	グッチの戦略: 名門を3度よみがえらせた驚異のブランドイノベーション	長沢伸也/福永輝彦	東洋経済新報社
4790	経営管理	紙つなげ!彼らが本の紙を造っている: 再生・日本製紙石巻工場	佐々涼子	早川書房
4791	経営管理	企業革新の研究: 繊維産業の脱成熟化のプロセス	山路直人	白桃書房
4792	経営管理	ユニ・チャーム共振の経営: 「経営力×現場力」で世界を目指す	高原豪久	日本経済新聞出版社
4793	経営管理	日本の工芸を元気にする!	中川政七	東洋経済新報社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
4794	経営管理	Next Marketを見据えた食品企業のグローバル戦略	新井ゆたか	ぎょうせい
4795	経営管理	最新食品業界の動向とカラクリがよ〜くわかる本: 業界人、就職、転職に役立つ情報満載. 第4版 (図解入門業界研究-How-nual-)	中村恵二	秀和システム
4796	経営管理	企業家活動でたどる日本の食品産業史: わが国食品産業の改革者に学ぶ (法政大学イノベーション・マネジメント研究センター叢書 7)		文眞堂
4797	経営管理	「ポッキー」はなぜフランス人に愛されるのか?: 海外で成功するローカライズ・マーケティングの秘訣	三田村菫子	日本実業出版社
4798	経営管理	サントリー対キリン: SUNTORY vs KIRIN	永井隆	日本経済新聞出版社
4799	経営管理	逆境経営: 山奥の地酒「獺祭」を世界に届ける逆転発想法	桜井博志	ダイヤモンド社
4800	経営管理	企業成長と価格行動: キリンビールのマーケティング戦略 (大阪経済大学研究叢書 第85冊)	後藤一郎	千倉書房
4801	経営管理	奇跡のマーケティング: 世紀の怪物・スパーダライはこうして生まれた (B&Tブックス)	松井康雄	日刊工業新聞社
4802	経営管理	クリエイティブ産業論: ファッション・コンテンツ産業の日本型モデル	中村仁	慈学社出版
4803	経営管理	日本人ビジネスマン、アフリカで蚊帳を売る: なぜ、日本企業の防虫蚊帳がケニアでトップシェアをとれたのか?	浅枝敏行	東洋経済新報社
4804	経営管理	SHOE DOG: 靴にすべてを。	フィル・ナイト	東洋経済新報社
4805	経営管理	ゲームの今: ゲーム業界を見通す18のキーワード	徳岡正肇	SBクリエイティブ
4806	経営管理	セガvs.任天堂: ゲームの未来を変えた覇権戦争: 上	ブレイク・J.ハリス	早川書房
4807	経営管理	セガvs.任天堂: ゲームの未来を変えた覇権戦争: 下	ブレイク・J.ハリス	早川書房
4808	経営管理	レゴはなぜ世界で愛され続けているのか: 最高のブランドを支えるイノベーション7つの真理	デビッド・C.ロバートソン/ビル・ブリン	日本経済新聞出版社
4809	経営管理	ソーシャルゲームのビジネスモデル: フリーミアムの経済分析	田中辰雄/山口真一	勁草書房
4810	経営管理	最新業界地図: 2018年版		成美堂出版
4811	経営管理	地域産業の経営戦略: 地域再生ビジョン	西田安慶/片上洋	税務経理協会
4812	経営管理	日経業界地図: 2018年版		日本経済新聞出版社
4813	経営管理	日本の産業と企業: 発展のダイナミズムをとらえる (有斐閣アルマ Specialized)		有斐閣
4814	経営管理	儲かる農業をやりなさい!: TPPは大チャンス!世界が注目するSATOYAMA	鈴木渉/中島孝志	マネジメント社
4815	経営管理	農業がわかると、社会のしくみが見えてくる: 高校生からの食と農の経済学入門, 新版	生源寺真一	家の光協会
4816	経営管理	アグリ・コミュニティビジネス: 農山村力×交流力でつむぐ幸せな社会	大和田順子	学芸出版社
4817	経営管理	アグリビジネス特論	岸川善光/朴慶心	学文社
4818	経営管理	農業経済学, 第4版 (岩波テキストブックス)	荏開津典生/鈴木宣弘	岩波書店
4819	経営管理	グローバリゼーション下の農業構造動態: 本源的蓄積の諸類型	山崎亮一	御茶の水書房
4820	経営管理	再生可能資源と役立つ市場取引	堀口健治	御茶の水書房
4821	経営管理	気候変動の農業への影響と対策の評価	古家淳	国際農林水産業研究センター
4822	経営管理	食と農の政治経済学: 国際フードレジームと階級のダイナミクス	ヘンリー・バーンスタイン	桜井書店
4823	経営管理	キーワードで読みとく現代農業と食料・環境, 新版		昭和堂
4824	経営管理	共生と提携のコミュニティ農業へ	蔦谷栄一	創森社
4825	経営管理	地域からの農業再興: コミュニティ農業の実例をもとに	蔦谷栄一	創森社
4826	経営管理	農林水産の経済学: Economics of Agriculture, Forestry & Fisheries		中央経済社
4827	経営管理	稼げる農業: AIと人材がここまで変える		日経BP社
4828	経営管理	「作りすぎ」が日本の農業をダメにする	川島博之	日本経済新聞出版社
4829	経営管理	食料環境政策学を学ぶ		日本経済評論社
4830	経営管理	農業経済学講義	山崎亮一	日本経済評論社
4831	経営管理	農業構造の現状と展望: 持続型農業・社会をめざして	後藤光蔵	日本経済評論社
4832	経営管理	農業の成長産業化を問う (日本農業の動き No.196)		農政ジャーナリストの会
4833	経営管理	現代「農業構造問題」の経済学的考察 (共生農業システム叢書 第11巻)	山崎亮一	農林統計協会
4834	経営管理	ポリヴァレント化する農業・農村経済学とその総合化	泉田洋一	農林統計出版
4835	経営管理	農業成長産業化への道すじ: 七つの処方箋	堀田和彦	農林統計出版
4836	経営管理	多国籍アグリビジネスと農業・食料支配 (明石ライブラリー 162)	北原克宣/安藤光義	明石書店
4837	経営管理	資本主義と農業: 世界恐慌・ファシズム体制・農業問題	工藤昭彦	批評社
4838	経営管理	希望の日本農業論 (NHKブックス 1219)	大泉一貫	NHK出版
4839	経営管理	わが農業問題研究の軌跡: 資本主義から社会主義への模索	暉峻衆三	御茶の水書房
4840	経営管理	環境・農業・食の歴史: 生命系と経済	伊丹一浩	御茶の水書房
4841	経営管理	新たな食農連携と持続的資源利用: グローバル化時代の地域再生に向けて		筑波書房
4842	経営管理	新自由主義下の地域・農業・農協	神田健策	筑波書房
4843	経営管理	激動の時代と日本農業の活路, 新版	鈴木俊彦	東京農業大学出版会
4844	経営管理	コメをやめる勇氣	吉田忠則	日本経済新聞出版社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
4845	経営管理	農政経済の伏流と実相	鈴木俊彦	農林統計協会
4846	経営管理	食料・貿易・環境の計量分析	鈴木充夫	農林統計出版
4847	経営管理	地域資源活用による農村振興: 条件不利地域を中心に	谷口憲治	農林統計出版
4848	経営管理	農家の将来: TPPと農業・農政の論点	矢口芳生	農林統計出版
4849	経営管理	矢口芳生著作集: 第1巻 戦後蚕糸業経済論	矢口芳生	農林統計出版
4850	経営管理	矢口芳生著作集: 第2巻 農業貿易摩擦論	矢口芳生	農林統計出版
4851	経営管理	矢口芳生著作集: 第3巻 農政改革論	矢口芳生	農林統計出版
4852	経営管理	矢口芳生著作集: 第4巻 現代日本農政論	矢口芳生	農林統計出版
4853	経営管理	矢口芳生著作集: 第5巻 農業多様性論	矢口芳生	農林統計出版
4854	経営管理	矢口芳生著作集: 第6巻 サービス農業論	矢口芳生	農林統計出版
4855	経営管理	矢口芳生著作集: 第7巻 共生農業システム論	矢口芳生	農林統計出版
4856	経営管理	矢口芳生著作集: 第8巻 共生社会システム論	矢口芳生	農林統計出版
4857	経営管理	世界食糧ショック: 黒いシナリオと緑のシナリオ	ジャン=イヴ・カルファンタン	NTT出版
4858	経営管理	食料経済: フードシステムからみた食料問題, 第5版	清水みゆき	オーム社
4859	経営管理	港から見た食と農: 検証, 改訂新版	柳澤尚	クリエイツかもがわ
4860	経営管理	90億人の食糧問題: 世界的飢饉を回避するために	ジュリアン・クリブ	シーエムシー出版
4861	経営管理	食と農の環境問題: 持続可能なフードシステムをめざして		すいれん舎
4862	経営管理	食の終焉: グローバル経済がもたらしたもうひとつの危機	ポール・ロバーツ	ダイヤモンド社
4863	経営管理	図解日本食料マップ: 一目でわかる!	食料問題研究会	ダイヤモンド社
4864	経営管理	食の経済(食の文化フォーラム 29)		ドメス出版
4865	経営管理	最新世界の農業と食料問題のすべてがわかる本: 世界と日本の農と食をめぐる動向をわかりやすく解説!(史上最強カラー図解)		ナツメ社
4866	経営管理	フードシステムの経済学, 第5版	時子山ひろみ/荏開津典生	医歯薬出版
4867	経営管理	食卓からアサリが消える日	三輪節生	海鳥社
4868	経営管理	「食」の研究: これからの重要課題(キヤノン財団ライブラリー)	生駒俊明/伊藤武	丸善プラネット
4869	経営管理	デフレ食農物語: 食料戦争に巻き込まれないための処方箋	坂口和彦	技報堂出版
4870	経営管理	未来にツケを残さない: フードバンクの新しい挑戦	糸山智栄/石坂薫	高文研
4871	経営管理	世界から飢饉を終わらせるための30の方法		合同出版
4872	経営管理	安全で良質な食生活を手に入れる: フードシステム入門(放送大学叢書 018)	時子山ひろみ	左右社
4873	経営管理	肥満と飢餓: 世界フード・ビジネスの不幸のシステム	ラジ・パテル	作品社
4874	経営管理	さらば、食料廃棄: 捨てない挑戦	シメテファン・クワイツベルガー/バレンティン・トルン	春秋社
4875	経営管理	食と農のサバイバル戦略: リスク管理からの再生(地球研叢書)	嘉田良平	昭和堂
4876	経営管理	食と農の未来: ユーラシア一万年の旅(地球研叢書)	佐藤洋一郎	昭和堂
4877	経営管理	食科学入門: 食の総合的理解のために(シリーズ食を学ぶ)		昭和堂
4878	経営管理	食糧経済年鑑: 平成30年版		食糧経済通信社
4879	経営管理	食糧が危ない: 安全で豊かな食生活を考える	ウェイン・ロバーツ	青土社
4880	経営管理	我が国における食料自給率向上への提言	板垣啓四郎	筑波書房
4881	経営管理	我が国における食料自給率向上への提言: PART2	板垣啓四郎	筑波書房
4882	経営管理	我が国における食料自給率向上への提言: PART3 耕作放棄地の解消を考える	板垣啓四郎	筑波書房
4883	経営管理	食と農とスローフード	田中修	筑波書房
4884	経営管理	日本の食をとりまく社会と人	阿部亮	筑波書房
4885	経営管理	人口と食糧, 普及版(農学教養ライブラリー 4)	生源寺真一	朝倉書店
4886	経営管理	2015年の食料危機(フードクライシス): ヘッジファンドマネージャーが説く次なる大難	齋藤利男	東洋経済新報社
4887	経営管理	食の歴史と日本人: 「もったいない」はなぜ生まれたか	川島博之	東洋経済新報社
4888	経営管理	ファーマゲドン: 安い肉の本当のコスト	フリッツ・リンベリー/イザベル・オークショット	日経BP社
4889	経営管理	食糧と人類: 飢饉を克服した大増産の文明史	ルース・ドフリース	日本経済新聞出版社
4890	経営管理	食糧危機にどう備えるか: 求められる日本農業の大転換	柴田明夫	日本経済新聞出版社
4891	経営管理	点検食料自給力(日本農業の動き No.192)		農政ジャーナリストの会
4892	経営管理	国際フードシステム論, 改訂	木南莉莉	農林統計出版
4893	経営管理	食の経済入門: 2016年版	村上陽子/芝崎希美夫	農林統計出版
4894	経営管理	食の信頼問題の実践解: フードシステムにおける協働のデザイン	神井弘之	農林統計出版
4895	経営管理	食料・農業・環境とリスク	南石晃明	農林統計出版

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
4896	経営管理	食糧も大丈夫也: 開戦・終戦の決断と食糧	海野洋	農林統計出版
4897	経営管理	東日本大震災とフードシステム: 復旧から復興に向けて		農林統計出版
4898	経営管理	北東アジアの食料安全保障と産業クラスター	木南茉莉/中村俊彦	農林統計出版
4899	経営管理	国連で学んだ修羅場のリーダーシップ	忍足謙朗	文藝春秋
4900	経営管理	フードバンク: 世界と日本の困窮者支援と食品ロス対策	佐藤順子	明石書店
4901	経営管理	食料自給率という幻: 誰のための農業政策なのか	茂木創	唯学書房
4902	経営管理	飢える大陸アフリカ: 先進国の余剰がうみだす飢餓という名の人災	ロジャー・サロー/スコット・キルマン	悠書館
4903	経営管理	世界の食料・日本の食料(シリーズ21世紀の農学)		養賢堂
4904	経営管理	世界食料危機の時代: 新型	高橋五郎	論創社
4905	経営管理	食料自給は国境を超えて: 食料安全保障と東アジア共同体	豊田隆	花伝社
4906	経営管理	近現代日本の米穀市場と食糧政策: 食糧管理制度の歴史的な性格	玉真之介	筑波書房
4907	経営管理	食糧供出制度の研究: 食糧危機下の農地改革	永江雅和	日本経済評論社
4908	経営管理	「新みずほの国」構想: 日欧米緑のトリオをつくる, 解題増補	角田重三郎	農山漁村文化協会
4909	経営管理	食糧危機の時代を生きて: 戦後農政現場からの証言		農林統計協会
4910	経営管理	超高齢社会における食料品アクセス問題: 買い物難民, 買い物弱者, フードデザート問題の解決に向けて	薬師寺哲郎	ハーベスト社
4911	経営管理	中国の食糧流通システム(明治大学社会科学研究所叢書)	池上彰英	御茶の水書房
4912	経営管理	FOOD CONSUMPTION: Empirical Studies of Japanese Dietary		筑波書房
4913	経営管理	食料流通問題の新展開	三國英實	筑波書房
4914	経営管理	日本の食料戦略と商社	美甘哲秀	東洋経済新報社
4915	経営管理	フード・マイレージ: あなたの食が地球を変える, 新版	中田哲也	日本評論社
4916	経営管理	フードデザート問題: 無縁社会が生む「食の砂漠」, 改訂新版	岩間信之	農林統計協会
4917	経営管理	食品ロス統計調査報告: 平成26年度世帯調査		農林統計協会
4918	経営管理	食料需給表: 平成28年度		農林統計協会
4919	経営管理	都市のフードデザート問題: ソーシャル・キャピタルの低下が招く街なかの「食の砂漠」	岩間信之	農林統計協会
4920	経営管理	食品ロスの経済学, 改訂新版	小林富雄	農林統計出版
4921	経営管理	フードシステムと日本農業(放送大学教材)	新山陽子	放送大学教育振興会
4922	経営管理	アジア・コメ輸出大国と世界食料危機: タイ・ベトナム・インドの戦略(情勢分析レポート No.12)	重富真一/久保研介	アジア経済研究所
4923	経営管理	本当は明るいコメ農業の未来	窪田新之助	イカロス出版
4924	経営管理	中国コメ産業の構造と変化: ジャポニカ米市場の拡大	青柳斉	昭和堂
4925	経営管理	政権交代と水田農業: 米政策改革から戸別所得補償政策へ	磯田宏/品川優	筑波書房
4926	経営管理	米の価格・需給と水田農業の課題: 「減反」廃止への対応	北出俊昭	筑波書房
4927	経営管理	植民地朝鮮の米と日本: 米穀検査制度の展開過程(中央大学学術図書 87)	李煥娘	中央大学出版部
4928	経営管理	明治日本と中国米: 輸出解禁をめぐる日中交渉	堀地明	中国書店
4929	経営管理	減反廃止: 農政大転換の誤解と真実	荒幡克己	日本経済新聞出版社
4930	経営管理	防長米改良と米穀検査: 米穀市場の形成と産地(1890年代~1910年代)	大豆生田稔	日本経済評論社
4931	経営管理	「生産調整見直し」で日本農業は強くなれるか(日本農業の動き No.187)		農政ジャーナリストの会
4932	経営管理	いま米に何が起きているのか(日本農業の動き No.182)		農林統計協会
4933	経営管理	戸別所得補償制度の衝撃: 「作らせぬ農政」から「作らせる農政」への転換	村田泰夫	農林統計協会
4934	経営管理	米消費拡大と政策の行方/農政対論自民党VS民主党(日本農業の動き No.168)		農林統計協会
4935	経営管理	米政策の転換: 米政策を総括し, 民主党「戸別所得補償制度」を考察する	服部信司	農林統計協会
4936	経営管理	減反40年と日本の水田農業	荒幡克己	農林統計出版
4937	経営管理	世界のジャポニカ米市場と日本産米の競争力	伊東正一	農林統計出版
4938	経営管理	贈与米のメカニズムとその世界	松本裕子	農林統計出版
4939	経営管理	米生産調整の経済分析	荒幡克己	農林統計出版
4940	経営管理	近世米市場の形成と展開: 幕府司法と堂島米会所の発展	高槻泰郎	名古屋大学出版会
4941	経営管理	穀物の経済思想史	服部正治	知泉書館
4942	経営管理	日本の麦: 拡大する市場の徹底分析	吉田行郷	農山漁村文化協会
4943	経営管理	戦後日本の麦政策と農協委託共販: “もう一つの道”はありえたか	長谷美貴広	農林統計出版
4944	経営管理	食料の地理学の小さな教科書		ナカニシヤ出版
4945	経営管理	食糧格差社会: 始まった「争奪戦」と爆食する世界	茅野信行	ビジネス社
4946	経営管理	食の人権: 安全な食を実現するフードシステムとは	伊藤恭彦/小栗崇資	リベルタス出版

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
4947	経営管理	食糧・農業	逸見謙三	筑波書房
4948	経営管理	2つの「油」が世界を変える。新たなステージに突入した世界穀物市場（JA総研研究叢書 1）	薄井寛	農山漁村文化協会
4949	経営管理	グローバル視点から考える世界の食料需給・食料安全保障：気候変動等の影響と農業投資	小泉達治	農林統計協会
4950	経営管理	海外経済連携協定と日本農業の針路（日本農業の動き No.175）		農林統計協会
4951	経営管理	グローバリゼーションとフードエコノミー：新たな課題への挑戦		農林統計出版
4952	経営管理	中国のブタが世界を動かす：食の「資源戦争」最前線	柴田明夫	毎日新聞社
4953	経営管理	非常非命の歴史学：東北大飢饉再考	菊池勇夫	校倉書房
4954	経営管理	飢饉・市場経済・村落社会：天保の凶作からみた上塩尻村（近世上田領上塩尻村の総合研究 別巻）		刀水書房
4955	経営管理	盛岡藩宝暦の飢饉とその史料	細井計	東洋書院
4956	経営管理	JA/バンク法務対策200講		金融財政事情研究会
4957	経営管理	JA債権回収の実務	官澤里美	金融財政事情研究会
4958	経営管理	Q&Aそこが知りたいJA版金融検査のポイント		金融財政事情研究会
4959	経営管理	金融機関のアグリビジネス戦略	丹羽哲夫	金融財政事情研究会
4960	経営管理	JAの金融業務、4訂		経済法令研究会
4961	経営管理	JA/バンク管理者の心得：現場営業力強化をめざして	村上泰人	経済法令研究会
4962	経営管理	JA相談事例集：相続・高齢者取引編		経済法令研究会
4963	経営管理	はじめての信用事業、新版		経済法令研究会
4964	経営管理	基本と実務がわかる演習JA自己査定ワークブック		経済法令研究会
4965	経営管理	金融機関のための農業ビジネスの基本と取引のポイント、第2版	トーマツ	経済法令研究会
4966	経営管理	図解でわかるJA金融法務入門	中島光孝/中島ふみ	経済法令研究会
4967	経営管理	貯金取引（JA相談事例集）		経済法令研究会
4968	経営管理	店頭ミス防止のためのJA貯金法務Q&A、新2版	高橋恒夫	経済法令研究会
4969	経営管理	融資取引：JA相談事例集		経済法令研究会
4970	経営管理	変わる！農業金融：儲かる“企業化する農業”の仕組み	中里幸聖	日刊工業新聞社
4971	経営管理	日本の農村金融・マイクロファイナンス	泉田洋一	農林統計協会
4972	経営管理	農村金融市場に関する新制度派経済学的研究：タイ王国を対象として	萩原英樹	農林統計協会
4973	経営管理	地域を支える農協：協同のセーフティネットを創る	高橋巖	コモンズ
4974	経営管理	農業法人データブック：2011		ともえ産業情報
4975	経営管理	事業性評価に結びつく農業法人経営の見方	酒井篤司	ビジネス教育出版社
4976	経営管理	アグリビジネス進化論：新たな農業経営を拓いた7人のプロフェッショナル	トーマツ・農林水産業ビジネス推進室	プレジデント社
4977	経営管理	「結農」論：小さな農家が集まって70億の企業ができた	木内博一	亜紀書房
4978	経営管理	「地方創生」はこれでよいのか：JAが地域再生に果たす役割	石田信隆/農林中金総合研究所	家の光協会
4979	経営管理	協同組合の時代と農協の役割	蔦谷栄一	家の光協会
4980	経営管理	協同組合の源流と未来：相互扶助の精神を継ぐ		岩波書店
4981	経営管理	JA役職員のコンプライアンス、改訂	朝倉敬二	経済法令研究会
4982	経営管理	農業協同組合法、第2版	明田作	経済法令研究会
4983	経営管理	有機農業で世界を変える：ダイコン一本からの「社会的企業」宣言	藤田和芳	工作舎
4984	経営管理	JAの人財マネジメント：人事管理と労働法	濱田達海/浅野公司	全国共同出版
4985	経営管理	JA公認会計士監査Q&A	JA監査研究会	全国共同出版
4986	経営管理	マイナンバーの基礎知識：待ったなし！知らなきゃあぶない！	柴田龍太郎/大川隆之	全国共同出版
4987	経営管理	よくわかる農協法：平成28年4月施行・改正農協法対応、新訂版	農協法研究会	全国共同出版
4988	経営管理	実務に役立つJA会計ハンドブック	トーマツJA支援室	全国共同出版
4989	経営管理	逐条解説農業協同組合法	農業協同組合法令研究会	大成出版社
4990	経営管理	Q&Aと解説による農業生産法人の設立と会計・税務：農地法第3条の許可申請から決算・申告まで、2訂版	島田哲宏	大蔵財務協会
4991	経営管理	事例と解説による農業法人の会計と税務：農地所有適格法人の実務と申告のポイント	島田哲宏	大蔵財務協会
4992	経営管理	Q&A法人登記の実務農業協同組合	山中正登	日本加除出版
4993	経営管理	Q&A法人登記の実務農事組合法人	吉岡誠一	日本加除出版
4994	経営管理	農家・法人の労務管理：正社員からパート・実習生まで	福島邦子/福島公夫	農山漁村文化協会
4995	経営管理	農協論再考	谷口憲治	農林統計出版
4996	経営管理	日本の未来を支えるプロ農家たち	アジアアグリビジネス研究会	カナリアコミュニケーションズ
4997	経営管理	1時間でよくわかる楽しいJA講座	北川太一	家の光協会

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
4998	経営管理	JAで「働く」ということ: 組合員・地域とどう向き合っていくのか	石田正昭	家の光協会
4999	経営管理	JAの歴史と私たちの役割: これからのJAを担う職員のための	石田正昭	家の光協会
5000	経営管理	JAは誰のものか: 多様化する時代のJAガバナンス	増田佳昭	家の光協会
5001	経営管理	JA販売事業をいかに強化するか: 知恵と戦略の共有	三石誠司/全国農業協同組合中央会	家の光協会
5002	経営管理	なぜJAは将来的な脱原発をめざすのか: 地域から広げる食の安全、再生可能エネルギーと循環型社会	石田正昭	家の光協会
5003	経営管理	わたしたちのJA自己改革: 知っておきたい協同組合の基本と役割	太田原高昭	家の光協会
5004	経営管理	緊急点検!JA自己改革: 組合員目線の組織・事業の再構築	増田佳昭	家の光協会
5005	経営管理	現場からのJA運動: JA運動のダイナミズムを再生するために	松岡公明	家の光協会
5006	経営管理	支店協同活動で元気なJAづくり: 「次代へつなぐ協同」のすすめ方	松岡公明/小林元	家の光協会
5007	経営管理	准組合員とこれからのJA: 農と地域を共に支えるパートナー	増田佳昭	家の光協会
5008	経営管理	大転換期の総合JA: 多様性の時代における制度的課題と戦略		家の光協会
5009	経営管理	東日本大震災農業復興はどこまで進んだか: 被災地とJAが歩んだ5年間	農林中金総合研究所	家の光協会
5010	経営管理	東日本大震災復興に果たすJAの役割	結城登美雄	家の光協会
5011	経営管理	JA役員の職務執行の手引き: 知っておきたい権限と責任	明田作	経済法令研究会
5012	経営管理	JAに何ができるのか	奥野長衛/佐藤優	新潮社
5013	経営管理	JAグループ推進活用マニュアル: 現場から生まれた魔法の仕掛け	進藤邦雄	全国共同出版
5014	経営管理	JAの価値と役割 (経実Book)	石田正昭/小林元	全国共同出版
5015	経営管理	JA自己改革への挑戦: イノベーションの戦略的マネジメント	柳在相	全国共同出版
5016	経営管理	JA新協同組合ガイドブック: 組織編 (ガイドブックシリーズ)	福岡莞爾	全国共同出版
5017	経営管理	総合JAの針路: 「農協法改正」への対応 (JA読本)	福岡莞爾	全国共同出版
5018	経営管理	地図情報を活かした新しいJAの営農管理メソッド: A-FAM(多機能営農支援方式)による情報活用イノベーション	鈴木充夫	全国共同出版
5019	経営管理	明日を拓くJA運動: 自己改革の新たな展開	福岡莞爾	全国共同出版
5020	経営管理	非敗の思想と農ある世界	小松泰信	大学教育出版
5021	経営管理	営農経済事業イノベーション戦略論: 農産物マーケティング論 (北海道地域農業研究所学術叢書 18)	吉田成雄/小川理恵	筑波書房
5022	経営管理	現代社会と協同組合に関する12章	北出俊昭	筑波書房
5023	経営管理	農協は協同組合である: 歴史からみた課題と展望	北出俊昭	筑波書房
5024	経営管理	JA解体: 1000万組合員の命運	飯田康道	東洋経済新報社
5025	経営管理	JAのフードシステム戦略: 販売事業の革新とチェーン構築	斎藤修/松岡公明	農山漁村文化協会
5026	経営管理	新明日の農協: 歴史と現場から	太田原高昭	農山漁村文化協会
5027	経営管理	日中韓農協の脱グローバリゼーション戦略: 地域農業再生と新しい貿易ルールづくりへの展望 (JA総研研究叢書 9)	吉田成雄/柳京熙	農山漁村文化協会
5028	経営管理	農協は地域に何ができるか: 農をつくる・地域くらしをつくる・JAをつくる (シリーズ地域の再生 10)	石田正昭	農山漁村文化協会
5029	経営管理	農協改革の焦点 (日本農業の動き No.188)		農政ジャーナリストの会
5030	経営管理	総合農協統計表: STATISTICS ON AGRICULTURAL COOPERATIVES: 平成27事業年度 (農協調査資料 第395号)		農林統計協会
5031	経営管理	亡国の農協改革: 日本の食料安保の解体を許すな	三橋貴明	飛鳥新社
5032	経営管理	農協解体	山下一仁	宝島社
5033	経営管理	系統農会と近代日本: 一九〇〇〜一九四三年	松田忍	勁草書房
5034	経営管理	総合農協のレーゾンデール: 北海道の経験から (シリーズ協同組合のレーゾンデール 1)	坂下明彦/小林国徳	筑波書房
5035	経営管理	北海道から農協改革を問う (北海道地域農業研究所学術叢書 17)	小林国徳	筑波書房
5036	経営管理	新自由主義経済下の韓国農協: 「地域総合センター」としての発展方向	柳京熙/李仁雨	筑波書房
5037	経営管理	中国農業の市場化と農村合作社の展開 (日本農業市場学会研究叢書 13)	神田健策/大島一二	筑波書房
5038	経営管理	台湾の農村協同組合 (北海道地域農業研究所学術叢書 12)	梁連文/朴紅	筑波書房
5039	経営管理	EUの農協: 役割と支援策	ヨス・ペイマン/コンスタンチン・イリオボウロス	農林統計出版
5040	経営管理	グリーンハーベスター農場評価ガイドブック: 農業者のGAPレベルの向上のために (GAPシリーズ 5)	AGIC	AGIC
5041	経営管理	農はショーバイ!	松木一浩	アールズ出版
5042	経営管理	東京農業クリエイターズ: あたらしい農ライフをデザインする。	小野淳	イカロス出版
5043	経営管理	ぼくが百姓になった理由(わけ): 山村でめざす自給知足 (有機農業選書 3)	浅見彰宏	コモンズ
5044	経営管理	食べものとエネルギーの自産自消: 3.11後の持続可能な生き方 (有機農業選書 4)	長谷川浩	コモンズ
5045	経営管理	農業は生き方です: ちば発、楽農主義宣言	梅原彰/相葉英樹	さざなみ会
5046	経営管理	企業の知恵で農業革新に挑む!: 農協・減反・農地法を解体して新ビジネス創造	山下一仁	ダイヤモンド社
5047	経営管理	農で1200万円!: 「日本一小さい農家」が明かす「脱サラ農業」はじめての一步	西田栄喜	ダイヤモンド社
5048	経営管理	農業で成功する人うまいかない人: 8つの秘訣で未経験者でも安定経営ができる	澤浦彰治	ダイヤモンド社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
5049	経営管理	農業入門:「農」をシゴトにしよう!		ダイヤモンド社
5050	経営管理	検索せよ。そして、動き出せ。: パラレルライフを実現する出会いのドアの開き方	桐谷晃司	ビジネス社
5051	経営管理	いま問われる農業戦略: 規制・TPP・海外展開 (シリーズ・いま日本の「農」を問う 10)	長命洋佑/川崎訓昭	ミネルヴァ書房
5052	経営管理	農業への企業参入新たな挑戦: 農業ビジネスの先進事例と技術革新 (シリーズ・いま日本の「農」を問う 9)	石田一喜/吉田誠	ミネルヴァ書房
5053	経営管理	地域農業の担い手を育てる実践! 農業者養成講座	二木季男	家の光協会
5054	経営管理	「農」と「食」のフロンティア: 中山間地域から元気を学ぶ	関満博	学芸出版社
5055	経営管理	田舎の宝を掘り起こせ: 農村起業成功の10か条	杉本淳/矢崎栄司	学芸出版社
5056	経営管理	知識ゼロからの農業ビジネス入門	岡村秀明	幻冬舎
5057	経営管理	農業経営とマーケティング	安原好一	五紘舎
5058	経営管理	GAP導入事例: 生産者の熱意と努力、知恵と連携の事例集 (GAPシリーズ 3)	田上隆一	幸書房
5059	経営管理	適正農業規範GAPハンドブック: 自分で考え行動しよう		幸書房
5060	経営管理	日本GAP規範: Ver.1.1, 改訂 (GAPシリーズ 4)		幸書房
5061	経営管理	ベトナム農村の組織と経済	秋葉まり子	弘前大学出版会
5062	経営管理	未来の食卓を変える7人: 美味しく安全な食べものづくりに挑戦しつづける農家たち	桜鱒太郎	書肆侃侃房
5063	経営管理	「農企業」のアントレプレナーシップ: 攻めの農業と地域農業の堅持 (次世代型農業の針路 1)	小田滋晃/坂本清彦	昭和堂
5064	経営管理	「農企業」のリーダーシップ: 先進的農業経営体と地域農業 (次世代型農業の針路 2)	小田滋晃/伊庭治彦	昭和堂
5065	経営管理	進化する「農企業」: 産地のみらいを創る (農業経営の未来戦略 3)	小田滋晃/坂本清彦	昭和堂
5066	経営管理	地域農業構造変動論: 佐賀平野と上場台地	小林恒夫	昭和堂
5067	経営管理	動きはじめた「農企業」 (農業経営の未来戦略 1)	小田滋晃/長命洋佑	昭和堂
5068	経営管理	躍動する「農企業」: ガバナンスの潮流 (農業経営の未来戦略 2)	小田滋晃/長命洋佑	昭和堂
5069	経営管理	小さくて強い農業をつくる (就職しないで生きるには21)	久松達央	晶文社
5070	経営管理	稼ぐ農家・農業法人のための経営継承コンサルティング		清文社
5071	経営管理	農業を繋ぐ人々: 宝は農村にあり	湯川真理子	西日本出版社
5072	経営管理	SNSで農業革命: 最小限の資金で強い農業を! (SGビジネス双書)	蓮見よしあき	碩学舎
5073	経営管理	定年就農: 小さな農でつかむ生きがいと収入	神山安雄	素朴社
5074	経営管理	消費者も育つ農場: CSAなないろ畑の取り組みから	片柳義春	創森社
5075	経営管理	自然を楽しんで稼ぐ小さな農業: 畑はミミズと豚が耕す	マルクス・ボクナー	築地書館
5076	経営管理	原油資材高と不況下における農業・環境問題	胡柏	筑波書房
5077	経営管理	現代ドイツの家族農業経営	村田武	筑波書房
5078	経営管理	社会的企業をめざす農村女性たち: 地域の担い手としての農村女性起業	澤野久美	筑波書房
5079	経営管理	中国穀作地帯における農民の就業構造と農業経営の変化 (南京財経大学糧食安全戦略研究センター叢書)	李豊	筑波書房
5080	経営管理	日韓地域農業論への接近	坂下明彦/李炳二	筑波書房
5081	経営管理	アグリ・ベンチャー: 新たな農業をプロデュースする	境新一/齋藤保男	中央経済社
5082	経営管理	絶対にギブアップしたくない人のための成功する農業	岩佐大輝	朝日新聞出版
5083	経営管理	ゼロからはじめる! 脱サラ農業の教科書 (DO BOOKS)	田中康晃	同文館出版
5084	経営管理	直販・通販で稼ぐ! 年商1億円農家: お客様と直接つながる最強の農業経営 (DO BOOKS)	寺坂祐一	同文館出版
5085	経営管理	本気で稼ぐ! これからの農業ビジネス: 農業所得1000万円を作り出す「中規模流通」という仕組み (DO BOOKS)	藤野直人	同文館出版
5086	経営管理	自然職のススメ		二玄社
5087	経営管理	次世代農業ビジネス経営: 成功のための“付加価値戦略” (B&Tブックス)	三輪泰史	日刊工業新聞社
5088	経営管理	図解次世代農業ビジネス: 逆境をチャンスに変える新たな農業モデル (B&Tブックス)	井熊均/三輪泰史	日刊工業新聞社
5089	経営管理	法律から見た農業支援の実務: 農地の確保・利用から、農業生産法人設立、6次産業化支援まで	高橋宏治/池田功	日本加除出版
5090	経営管理	日本の田舎は宝の山: 農村起業のすすめ	曾根原久司	日本経済新聞出版社
5091	経営管理	農は甦る: 常識を覆す現場から	吉田忠則	日本経済新聞出版社
5092	経営管理	農業のマーケティング教科書: 食と農のおいしいつながり	岩崎邦彦	日本経済新聞出版社
5093	経営管理	農村起業家になる: 地域資源を宝に変える6つの鉄則	曾根原久司	日本経済新聞出版社
5094	経営管理	インド農村の家畜経済長期変動分析: グジャラート州調査村の家畜飼養と農業経営	篠田隆	日本評論社
5095	経営管理	新規農業参入の手续と農地所有適格法人の設立・運営, 改訂版	田中康晃	日本法令
5096	経営管理	ヒメ、農民になる: 農業をしたい女性に贈る初めての就農ガイド		農山漁村女性・生活活動支援協会
5097	経営管理	家族農業が世界の未来を拓く: 人口・食料・資源・環境	国際世界食料保障委員会専門室/ハイレベル・パネル	農山漁村文化協会
5098	経営管理	小さい農業で稼ぐコツ: 加工・直売・幸せ家族農業で30a1200万円	西田栄喜	農山漁村文化協会
5099	経営管理	地域農業の持続システム: 48の事例に探る世代継承性	田代洋一	農山漁村文化協会

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
5100	経営管理	地域農業の担い手群像: 土地利用型農業の新展開とコミュニティビジネス(シリーズ地域の再生 5)	田代洋一	農山漁村文化協会
5101	経営管理	魅力ある地域を興す女性たち(JA総研研究叢書 10)	小川理恵	農山漁村文化協会
5102	経営管理	法人化は日本農業を救うか(日本農業の動き No.194)		農政ジャーナリストの会
5103	経営管理	営農類型別経営統計: 平成26年組織経営編(農業経営統計調査報告)		農林統計協会
5104	経営管理	経営形態別経営統計(個別経営): 平成27年(農業経営統計調査報告)		農林統計協会
5105	経営管理	柔らかいcommonsによる持続型社会の構築: 農業・農村から「国のかたち」を考える	星勉	農林統計協会
5106	経営管理	担い手育成に向けた経営管理と支援手法	梅本雅	農林統計協会
5107	経営管理	転換期の水田農業: 稲単作地帯における挑戦	鶴川洋樹/佐藤加寿子	農林統計協会
5108	経営管理	日本農業の再生: 複合営農で食料自給率50%を目指す	古東英男	農林統計協会
5109	経営管理	農の雇用力を問う(日本農業の動き No.170)		農林統計協会
5110	経営管理	農業は誰が担うのか(日本農業の動き No.181)		農林統計協会
5111	経営管理	「政策転換」と水田農業の担い手: 茨城県筑西市田谷川地区からの接近	西川邦夫	農林統計出版
5112	経営管理	一般企業の農業参入の展開過程と現段階	大仲克俊	農林統計出版
5113	経営管理	企業の農業参入による地方創生の可能性: 大分県を事例に	堀田和彦/新開章司	農林統計出版
5114	経営管理	現代日本家族農業経営論	岩元泉	農林統計出版
5115	経営管理	知識創造型農業経営組織のナレッジマネジメント		農林統計出版
5116	経営管理	日本農業における企業者活動: 東畑・金沢理論をふまえた農業経営学の展開	高橋正郎	農林統計出版
5117	経営管理	日本農業再生のポイント: 一問一答: 上 農業の基本問題と地域再生編	木村伸男	農林統計出版
5118	経営管理	日本農業再生のポイント: 一問一答: 下 農業経営のイノベーション編	木村伸男	農林統計出版
5119	経営管理	農業・農村における社会貢献型事業論	伊庭治彦/高橋明広	農林統計出版
5120	経営管理	農業におけるリスクと情報のマネジメント	南石晃明	農林統計出版
5121	経営管理	農業革新と人材育成システム: 国際比較と次世代日本農業への含意	南石晃明/飯國芳明	農林統計出版
5122	経営管理	農業経営研究の軌跡と展望		農林統計出版
5123	経営管理	農業労働とジェンダー: 生きがいの戦略	渡辺めぐみ	有信堂高文社
5124	経営管理	組織は人: 元ヤン農業法人の鬼アツ経営論	田中健二	洋泉社
5125	経営管理	TPP時代の稲作経営革新とスマート農業: 営農技術パッケージとICT活用	南石晃明/長命洋佑	養賢堂
5126	経営管理	モザンビーク北部における農業経営: Farm Management in Northern Mozambique	山田隆一/小出淳司	養賢堂
5127	経営管理	次世代土地利用型農業と企業経営: 家族経営の発展と企業参入		養賢堂
5128	経営管理	金沢農業経営学とその展開: 追悼論文・偲ぶ文集		龍溪書舎
5129	経営管理	夢みる野菜: 能登といわき遠野の物語	細井勝	論創社
5130	経営管理	事例解説農地の相続、農業の承継: 農地・耕作放棄地の権利変動と農家の法人化の実務	高橋宏治/八田賢司	日本加除出版
5131	経営管理	農業の新人革命(JA総研研究叢書 6)	和泉真理/横田茂永	農山漁村文化協会
5132	経営管理	戦後日本の家族農業経営と継承問題	田野光彦	農林統計出版
5133	経営管理	農業経営の継承と管理	山本淳子	農林統計出版
5134	経営管理	スマート・テロワール: 農村消滅論からの大転換	松尾雅彦	学芸出版社
5135	経営管理	Farm Management and Environment of Rainfed Agriculture in Laos	Ryuichi YAMADA	農林統計協会
5136	経営管理	農村構造と大規模水田作経営: 北海道水田作の動き(北海道地域農業研究所学術叢書 16)	細山隆夫	農林統計出版
5137	経営管理	兼農サラリーマンの力: 農業の新しい時代が始まる	古屋富雄	栄光出版社
5138	経営管理	多品目少量栽培で成功できる!!小さな農業の稼ぎ方: 栽培技術と販売テクニック	中村敏樹	誠文堂新光社
5139	経営管理	大規模経営の成立条件: 日本型農場制農業のダイナミズムと苦悩(JA総研研究叢書 8)	安藤光義/山浦陽一	農山漁村文化協会
5140	経営管理	大規模水田農業への挑戦: 地域とともに歩む	大日本農会/八木宏典	農文協プロダクション
5141	経営管理	市民がつくる半自給農の世界: 農的参加で循環・共生型の社会を	深澤竜人	農林統計協会
5142	経営管理	農業経営の規模と企業形態: 農業経営における基本問題		農林統計出版
5143	経営管理	北部朝鮮・植民地時代のドイツ式大規模農場経営: 蘭谷機械農場の挑戦	三浦洋子	明石書店
5144	経営管理	農作業事故の防ぎ方と労災補償	三廻部眞己	家の光協会
5145	経営管理	ホームレス農園: 命をつなぐ「農」を作る!若き女性起業家の挑戦	小島希世子	河出書房新社
5146	経営管理	農福連携の「里マチ」づくり	濱田健司	鹿島出版会
5147	経営管理	農の福祉力で地域が輝く: 農福+α連携の新展開	濱田健司	創森社
5148	経営管理	農業雇用の地域需給調整システム: 農業雇用労働力の外部化・常雇化に向かう野菜産地	今野聖士	筑波書房
5149	経営管理	響き合う!集落(むら)と若者: 緑のふるさと協力隊(農山村再生・若者白書 2011)		農山漁村文化協会
5150	経営管理	若者たちの震災復興: 緑のふるさと協力隊(農山村再生・若者白書 2012)		農山漁村文化協会

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
5151	経営管理	緑のふるさと協力隊: どこにもない学校		農山漁村文化協会
5152	経営管理	場の力、人の力、農の力。: たまごの会から暮らしの実験室へ		Organic Farm暮らしの実験室やささと農場
5153	経営管理	やってよかった集落営農: ホンネで語る実践20年のノウハウ	上田栄一	サンライズ出版
5154	経営管理	農業が創る未来: ヤマギシズム農法から		ロゴス
5155	経営管理	協業と社会の民俗学: 協同労働慣行の現代民俗誌的研究 (学術叢書)	和田健	学術出版会
5156	経営管理	やさか仙人物語: 地域・人と協働して歩んだ「やさか共同農場」の40年	佐藤隆	新評論
5157	経営管理	集落営農/農山村の未来を拓く		新評論
5158	経営管理	伊那谷の地域農業システム: 宮田方式と飯島方式	星勉/山崎亮一	筑波書房
5159	経営管理	集落営農の再編と水田農業の担い手	荒井聡/今井健	筑波書房
5160	経営管理	東北水田農業の新たな展開: 秋田県の水田農業と集落営農	椿真一	筑波書房
5161	経営管理	米政策改革による水田農業の変貌と集落営農: 兼業農業地帯・岐阜からのアプローチ	荒井聡	筑波書房
5162	経営管理	事例に学ぶこれからの集落営農: 設立から次世代継承まで		農山漁村文化協会
5163	経営管理	集落・地域ビジョンづくり: 希望と知恵を「集積」する話し合いハンドブック		農山漁村文化協会
5164	経営管理	進化する集落営農: 新しい「社会的協同経営体」と農協の役割 (シリーズ地域の再生 7)	楠本雅弘	農山漁村文化協会
5165	経営管理	法人化塾: 集落営農法人化のメリットと成功のポイント, 第3版	森剛一	農山漁村文化協会
5166	経営管理	集落営農実態調査報告書: 平成27年		農林統計協会
5167	経営管理	組織法人の経営展開: 大規模水田の論理 (北海道地域農業研究所学術叢書 13)	小松知未	農林統計出版
5168	経営管理	里山発電: 地方の未来を変えるソーラーシェアリング	中村鉄哉	ダイヤモンド社
5169	経営管理	農業をデザインで変える: 北海道・十勝発、ファームステッドの挑戦	長岡淳一/阿部岳	瀬戸内人
5170	経営管理	地域からの六次産業化: つながりが創る食と農の地域保障	室屋有宏	創森社
5171	経営管理	「農」の付加価値を高める六次産業化の実践	高橋信正	筑波書房
5172	経営管理	農業・地域再生とソーラーシェアリング	田畑保	筑波書房
5173	経営管理	食農の匠東京農大魂 (逸品堂シリーズ 2)		東京農業大学出版会
5174	経営管理	私の地方創生論	今村奈良臣	農山漁村文化協会
5175	経営管理	新レジャー農業時代: 日本の美しい農村と文化を守るために	東正則	農林統計出版
5176	経営管理	世界の最先端を行く台湾のレジャー農業	東正則/林梓聯	農林統計出版
5177	経営管理	都市農村交流の経済分析	大江靖雄	農林統計出版
5178	経営管理	休閒・福祉農業の現状と農地保全に係る今後の展開 (日本大学生物資源科学部国際地域研究所叢書 31)		龍溪書舎
5179	経営管理	金融機関のための農業経営・分析改善アドバイス	安達長俊	金融財政事情研究会
5180	経営管理	JA職員のための融資・査定・経営相談に活かす決算書の読み方	トーマツJA支援室	経済法令研究会
5181	経営管理	農業経営発展の会計学: 現代、戦前、海外の経営発展		昭和堂
5182	経営管理	農業経理士教科書: 経営管理編		大原出版
5183	経営管理	農業経理士教科書: 税務編, 第3版		大原出版
5184	経営管理	日本における農業簿記の研究: 戦後の諸展開とその問題点について (神奈川大学経済貿易研究叢書 第30号)	戸田龍介	中央経済社
5185	経営管理	現代農業簿記会計, 改訂	古塚秀夫/高田理	農林統計出版
5186	経営管理	戦前期農村の消費: 概念と構造 (岡山大学経済学部研究叢書 第44冊)	尾関学	御茶の水書房
5187	経営管理	図解都市農地の特例活用と相続対策, 3訂版	今仲清/下地盛栄	清文社
5188	経営管理	都市近郊農家・地主の相続税・贈与税	清田幸弘/下崎寛	税務研究会出版局
5189	経営管理	相続相談ができる農協職員になるための7つのステップ	トーマツJA支援室/デロイトトーマツ税理士法人	全国共同出版
5190	経営管理	事例と解説による農家の事業承継と税務対策	森剛一/島田哲宏	大蔵財務協会
5191	経営管理	農業所得の税務: 問答式: 平成26年版		大蔵財務協会
5192	経営管理	農地の納税猶予の特例のすべて: 農家の贈与税・相続税の特例の上手な利用のしかた: 平成30年版		大蔵財務協会
5193	経営管理	農業青色申告のすべて: 解説問答式, 13訂版		日本税経研究会出版局
5194	経営管理	だれでもできる新エクセルで農業青色申告: 消費税対応・経営分析もできる農業会計システム, 第2版	塩光輝	農山漁村文化協会
5195	経営管理	知らなきゃ損する新農家の税金, 第15版	鈴木武/林田雅夫	農山漁村文化協会
5196	経営管理	知らなきゃ損する農家の相続税: 「相続税なんて、一部の富裕層の世界の話」ではなくなってきた!	藤崎幸子	農山漁村文化協会
5197	経営管理	生産農業所得統計: 平成22年		農林統計協会
5198	経営管理	農作物価統計: 平成28年		農林統計協会
5199	経営管理	新規農業参入者の経営確立と支援方策: 施設野菜作を中心として	島義史	農林統計協会
5200	経営管理	傾斜地特有の資源を活用した低コスト施設栽培: 四国傾斜地農業の経営改善に向けた総合研究	伊吹俊彦/家常高	農林統計出版
5201	経営管理	野菜産地の管理手法: 定量分析による実証 (北海道地域農業研究所学術叢書 14)	白井康裕	農林統計出版

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
5202	経営管理	森ではたらく!: 27人の27の仕事	古川大輔/山崎亮	学芸出版社
5203	経営管理	日本・アジアの森林と林業労働		川辺書林
5204	経営管理	仕事があれば、村は元気!: 地域雇用づくりの林業戦略		全国林業改良普及協会
5205	経営管理	新たな森林管理を求めて: 藤森隆郎現場の旅: 上巻	藤森 隆郎	全国林業改良普及協会
5206	経営管理	新たな森林管理を求めて: 藤森隆郎現場の旅: 下巻	藤森隆郎	全国林業改良普及協会
5207	経営管理	普及・パワーの施業集約化 (林業改良普及双書 No.166)	林業普及指導員+全林協	全国林業改良普及協会
5208	経営管理	林業を天職に! 人生を愉しむ仕事術	湯浅勲	全国林業改良普及協会
5209	経営管理	林業再生の決め手! 生産性を向上させる80カ条	坪野克彦	全国林業改良普及協会
5210	経営管理	「緑の雇用」のすべて	興梠克久	日本林業調査会
5211	経営管理	ILOの林業労働監督ガイドライン		日本林業調査会
5212	経営管理	マイクロデータで見る林業の実像: 2005・2010年農林業センサスの分析	藤掛一郎/田村和也	日本林業調査会
5213	経営管理	森林(もり)への誘い: 活躍する「緑の研修生」		日本林業調査会
5214	経営管理	世界の林業労働者が自らを語る: われわれはいかに働き暮らすのか	ベルント・シュトレルケ	日本林業調査会
5215	経営管理	地域森林管理の主体形成と林業労働問題	志賀和人/藤掛一郎	日本林業調査会
5216	経営管理	小さい林業で稼ぐコツ: 軽トラとチェンソーがあればできる		農山漁村文化協会
5217	経営管理	eビジネス&マーケティングの教科書: ビジネスからみた情報活用学, 第2版	大嶋淳俊	学文社
5218	経営管理	インターネットビジネス概論, 第2版 (未来へつなぐデジタルシリーズ 1)	片岡信弘/工藤司	共立出版
5219	経営管理	eビジネスの教科書, 第5版	幡鎌博	創成社
5220	経営管理	商業・流通とマーケティング	中原龍輝	創成社
5221	経営管理	ネットビジネス進化論: eビジネスからクラウド、ソーシャルメディアへ, 第2版	中村忠之	中央経済社
5222	経営管理	ネットビジネス・ケースブック: Digital Marketing Strategy: A Casebook	荻原猛/田中洋	同文館出版
5223	経営管理	商学の基本を学ぶ15講	井田泰人	晃洋書房
5224	経営管理	商学通論, 9訂版		同文館出版
5225	経営管理	即戦力がつくビジネス英会話: 基本から応用まで, 改訂増補版	日向清人	DHC
5226	経営管理	即戦力がつくビジネス英会話: 2	日向清人/狩野みき	DHC
5227	経営管理	英文ビジネスライティング大全: レター、Eメール、見積書、催促状から履歴書まで	シャーリー・テイラー	桐原書店
5228	経営管理	ビギナーのための経済英語: 経済・金融・証券・会計の基本用例320, 第2版	日向清人	慶應義塾大学出版会
5229	経営管理	英文ビジネスEメールがサクサク書ける: 自律的ライティングのすすめ	戸田博之	研究社
5230	経営管理	マーケティング英語の教科書: 完璧ではなくても、仕事で自信を持てる英語 (宣伝会議養成講座シリーズ)	松浦良高	宣伝会議
5231	経営管理	英文ビジネス・メールの作法: コミュニケーションリスクを抑えるテクニック	大森都史春	中央経済社
5232	経営管理	英文契約書作成のための和英頻出用例辞典	野副靖人	中央経済社
5233	経営管理	英文契約書作成のための和英用語法辞典	野副靖人	中央経済社
5234	経営管理	英語のお手本: そのままマネしたい「敬語」集	マヤ・バーダマン	朝日新聞出版
5235	経営管理	国際ビジネス英和活用辞典: 国際取引・貿易・為替・証券		日外アソシエーツ
5236	経営管理	英文ビジネス契約書大辞典: A DICTIONARY FOR STANDARD INTERNATIONAL BUSINESS CONTRACTS, 増補改訂版	山本孝夫	日本経済新聞出版社
5237	経営管理	英文メールの基本: ネイティブに誤解なく、きちんと伝わる	内藤由美子	日本実業出版社
5238	経営管理	世界流通史: Die Welthandelsgeschichte	谷澤毅	昭和堂
5239	経営管理	三井越後屋のビジネス・モデル: 日本的取引慣行の競争力	武居奈緒子	幻冬舎メディアコンサルティング
5240	経営管理	日本商業史: 商業・流通の発展プロセスをとらえる (Y21)	廣田誠/山田雄久	有斐閣
5241	経営管理	中国・東南アジアにおける流通・マーケティング革新: 内なるグローバリゼーションのもとでの市場と競争 (専修大学商学研究叢書 14)	渡辺達朗	白桃書房
5242	経営管理	フランスの流通・政策・企業活動: 流通変容の構図	田中道雄/白石善章	中央経済社
5243	経営管理	ジオビジネス: GISによる小売店の立地評価と集客予測	高阪宏行	古今書院
5244	経営管理	サービスデータ解析入門: サービス価値を見出す統計解析	椿美智子	オーム社
5245	経営管理	サービスサイエンスとははじめ: 数理モデルとデータ分析によるイノベーション	高木英明	筑波大学出版会
5246	経営管理	「闘争」としてのサービス: 顧客インタラクションの研究	山内裕	中央経済社
5247	経営管理	サービスサイエンスハンドブック		東京電機大学出版局
5248	経営管理	ホスピタリティ・マネジメント: Hospitality Management, 第2版	徳江順一郎	同文館出版
5249	経営管理	サービス経営学入門: 顧客価値共創の戦略経営	寺本義也	同友館
5250	経営管理	日本型クリエイティブ・サービスの時代: 「おもてなし」への科学的接近		日本評論社
5251	経営管理	ホスピタリティマネジメント: 活私利他の理論と事例研究	吉原敬典	白桃書房
5252	経営管理	サービス・イノベーション: 価値共創と新技術導入	南知恵子/西岡健一	有斐閣

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
5253	経営管理	ルポコールセンター: 過剰サービス労働の現場から	仲村和代	朝日新聞出版
5254	経営管理	楽天流	三木谷浩史	講談社
5255	経営管理	ネット通販と当日配送: B to C-ECが日本の物流を変える	森田富士夫	白桃書房
5256	経営管理	1からの流通システム	崔相鐵/岸本徹也	碩学舎
5257	経営管理	小売業起点のまちづくり	石原武政/渡辺達朗	碩学舎
5258	経営管理	グローバル・ポートフォリオ戦略: 先端小売企業の軌跡	向山雅夫/J.Dawson	千倉書房
5259	経営管理	現代の小売流通, 第2版	懸田豊/住谷宏	中央経済社
5260	経営管理	日本・中国・韓国における家電品流通の比較分析	関根孝	同文館出版
5261	経営管理	インスタ・マーチャンダイジング: IN-STORE MERCHANDISING, 第2版		日本経済新聞出版社
5262	経営管理	無印良品の、人の育て方: “いいサラリーマン”は、会社を減ぼす	松井忠三	KADOKAWA
5263	経営管理	無印良品の業務標準化委員会: 働く人が仕事を変え、オフィスを変え、会社を変える	良品計画	誠文堂新光社
5264	経営管理	「買わずにいられない!」イケアのデザイン		日経BP社
5265	経営管理	MUJI式: 世界で愛されるマーケティング	増田明子	日経BP社
5266	経営管理	無印良品のデザイン		日経BP社
5267	経営管理	無印良品のデザイン: 2		日経BP社
5268	経営管理	ユニクロ対ZARA	齊藤孝浩	日本経済新聞出版社
5269	経営管理	ユニクロ潜入一年: An Undercover Report on UNIQLO	横田増生	文藝春秋
5270	経営管理	無印良品のPDCA: 一冊の手帳で常勝経営を仕組み化する!	松井忠三	毎日新聞出版
5271	経営管理	グローバルリテラー: カルフルの日本撤退に学ぶ小売システムの国際移転	今井利絵	中央経済社
5272	経営管理	ルミネは、なぜ選ばれるのか?	川島蓉子	日本能率協会マネジメントセンター
5273	経営管理	新・スーパーマーケット革命: ビッグビジネスへのチェーン化軌道	桜井多恵子	ダイヤモンド・フリードマン社
5274	経営管理	最新コンビニ業界の動向とカラクリがよくわかる本: 業界人、就職、転職に役立つ情報満載, 第3版 (図解入門業界研究-How-nual-)	根城泰/平木恭一	秀和システム
5275	経営管理	なぜ今LAWSONが「とにかく面白い」のか?: あなたはまだ、ローソンのすごさに気づいていない!	上阪徹	あさ出版
5276	経営管理	成城石井はなぜ安くないのに選ばれるのか?	上阪徹	あさ出版
5277	経営管理	セブン-イレブンの足跡: 持続成長メカニズムを探る	田村正紀	千倉書房
5278	経営管理	成城石井の創業: そして成城石井はブランドになった	石井良明	日本経済新聞出版社
5279	経営管理	数字でとらえるホスピタリティ: 会計&ファイナンス	徳江順一郎/長谷川惠一	産業能率大学出版部
5280	経営管理	サービス・リエンジニアリング: 顧客の感動を呼ぶホスピタリティを低コストで実現する	伊藤嘉博	中央経済社
5281	経営管理	サービス業のマーケティング戦略	南方建明/宮城博文	中央経済社
5282	経営管理	サービスイノベーションの海外展開: 日本企業の成功事例とその要因分析	伊丹敬之/高橋克徳	東洋経済新報社
5283	経営管理	食ビジネスのおもてなし学	山上徹	学文社
5284	経営管理	最新外食業界の動向とカラクリがよくわかる本: 業界人、就職、転職に役立つ情報満載, 第3版 (図解入門業界研究-How-nual-)	中村恵二/山口大樹	秀和システム
5285	経営管理	フードサービスの教科書	茂木信太郎	創成社
5286	経営管理	現代フードサービス論		創成社
5287	経営管理	マクドナルド失敗の本質: 賞味期限切れのビジネスモデル	小川孔輔	東洋経済新報社
5288	経営管理	井家の経営: 24時間営業の組織エスノグラフィ	田中研之輔	法律文化社
5289	経営管理	スターバックスのライバルは、リッツ・カールトンである。: 本当のホスピタリティの話をしよう	岩田松雄/高野登	KADOKAWA
5290	経営管理	スターバックスはなぜ値下げもテレビCMもしないのに強いブランドでいられるのか?	ジョン・ムーア	ディスカヴァー・トゥエンティワン
5291	経営管理	日本スターバックス物語: はじめて明かされる個性派集団の挑戦	梅本龍夫	早川書房
5292	経営管理	スターバックスの教え: 感動経験でお客様の心をギュッとつかむ!	目黒勝道	朝日新聞出版
5293	経営管理	スターバックス輝きを取り戻すためにこだわり続けた5つの原則	ジョゼフ・ミケーリ	日本経済新聞出版社
5294	経営管理	全国のR不動産: 面白くローカルに住むためのガイド	東京R不動産/稲村ケ崎R不動産	学芸出版社
5295	経営管理	不動産の価値はコミュニティで決まる: 土地活用のリノベーション (住総研住まい読本)	甲斐徹郎	学芸出版社
5296	経営管理	UPSTARTS: UberとAirbnbはケタ違いの成功をこう手に入れた	ブラッド・ストーン	日経BP社
5297	経営管理	生活者のための不動産学への招待 (放送大学教材)	齊藤広子/中城康彦	放送大学教育振興会
5298	経営管理	「これからの広告」の教科書: 成功事例に学ぶ8つの「効く」メソッド	佐藤達郎	かんき出版
5299	経営管理	テーマで学ぶ広告コピー事典		グラフィック社
5300	経営管理	物語のある広告コピー: シリーズ広告編		パイインターナショナル
5301	経営管理	ここで広告コピーの本当の話をしませう。	小霜和也	宣伝会議
5302	経営管理	広報の仕掛け人たち: PRのプロフェッショナルはどう動いたか		宣伝会議
5303	経営管理	広告の理論と戦略: ADVERTISING THEORY AND STRATEGIES, 第18版	清水公一	創成社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
5304	経営管理	広報のお悩み相談室: 現場の担当者2500人からナマで聞いた	栗田朋一	朝日新聞出版
5305	経営管理	新しい広報の教科書: 最強のPRイノベーターが教える	栗田朋一	朝日新聞出版
5306	経営管理	新時代の広報: 企業価値を高める企業コミュニケーション	佐桑徹/江良俊郎	同友館
5307	経営管理	「あ、それ欲しい!」と思わせる広告コピーのことは辞典	飯田朝子	日経BP社
5308	経営管理	ネーミング全史: 商品名が主役に躍り出た	岩永嘉弘	日本経済新聞出版社
5309	経営管理	名作コピーの教え	鈴木康之	日本経済新聞出版社
5310	経営管理	広告の基本: この1冊ですべてわかる, 新版	波田浩之	日本実業出版社
5311	経営管理	パブリックリレーションズ: 戦略広報を実現するリレーションシップマネジメント, 第2版	井之上喬	日本評論社
5312	経営管理	わかりやすいマーケティング・コミュニケーションと広告	石崎徹/五十嵐正毅	八千代出版
5313	経営管理	現代広告論, 第3版(有斐閣アルマ Specialized)	岸志津江/田中洋	有斐閣
5314	経営管理	広報・PR論: パブリック・リレーションズの理論と実際(有斐閣ブックス 470)	伊吹勇亮/川北真紀子	有斐閣
5315	経営管理	広告をナメたらアカンよ.: そこにはいつも「ホント」があらわれる。	山本高史	宣伝会議
5316	経営管理	統合広告論: 実践秩序へのアプローチ, 改訂版	水野由多加	ミネルヴァ書房
5317	経営管理	インターネット時代の広告の機能・効果と展開	高橋秀雄	中央経済社
5318	経営管理	広告コミュニケーション研究ハンドブック(有斐閣ブックス 474)		有斐閣
5319	経営管理	広告20世紀: 広告批評アーカイブ	天野祐吉/島森路子	グラフィック社
5320	経営管理	日本の広報・PR100年: 満鉄、高度成長そしてグローバル化社会, 増補版	猪狩誠也	同友館
5321	経営管理	キャラクターでもっと伝わるデザイン: キャラクターを使うことで成功したデザイン特集		バイインターナショナル
5322	経営管理	家族の心をつかむデザイン: さまざまなライフスタイルの家族に響く広告特集	PIE BOOKS	バイインターナショナル
5323	経営管理	思わず目を引く広告デザイン: 競合他社に差をつける、アピール上手で効果の高い広告を特集		バイインターナショナル
5324	経営管理	女性の心をつかむ! 広告コピーグラフィックス: Ad Copy and Ad Design that Grab Women's Attention		バイインターナショナル
5325	経営管理	目を引く、伝わる販促ツールのデザインと展開: Come and Buy Me!: Designing and Developing Eye-catching Marketing Tools and Techniques	PIE BOOKS	バイインターナショナル
5326	経営管理	最新広告業界の動向とカラクリがよくわかる本: 業界人、就職、転職に役立つ情報満載, 第4版(図解入門業界研究-How-nual-)	蔵本賢/林孝憲	秀和システム
5327	経営管理	広告ビジネス次の10年: データを制するものがビジネスを制す(MarkeZine SELECTION)	横山隆治/榮枝洋文	翔泳社
5328	経営管理	CMを科学する: 「視聴質」で知るCMの本当の効果とデジタルの組み合わせ方(実践と応用シリーズ)	横山隆治	宣伝会議
5329	経営管理	急いでデジタルクリエイティブの本当の話をします。	小霜和也	宣伝会議
5330	経営管理	リアル行動ターゲティング: ヒトの興味関心はネット上の検索・閲覧だけではない。リアルな行動データを活用する「最新デジタルマーケティング」	横山隆治/榎田良輝	日経BP社
5331	経営管理	広告景観: 屋外広告の知識デザイン編事例集	西川潔	ぎょうせい
5332	経営管理	マーケティング倫理～人間・社会・環境との共生～	水尾 順一	中央経済ホールディングス
5333	経営管理	マーケティングを学ぶ<上> 売れる仕組み	上田 隆穂/青木 幸弘	中央経済ホールディングス
5334	経営管理	マーケティングを学ぶ<下> 売れ続ける仕組み	青木 幸弘/上田 隆穂	中央経済ホールディングス
5335	経営管理	わかりやすい消費者行動論	黒田 重雄/金 成洙	白桃書房
5336	経営管理	1からのマーケティング 第3版	石井 淳蔵/広田 章光	中央経済ホールディングス
5337	経営管理	はじめてのマーケティング(有斐閣ストゥディア)	久保田 進彦/澁谷 覚/須永 努	有斐閣
5338	経営管理	マンガで学ぼうマーケティング(コミックディクショナリーシリーズ)	建宮 努/井上 岳久/関根 いくみ	中央経済ホールディングス
5339	経営管理	観光マーケティング入門 新版	森下 高美/鳥川 崇/徳江 順一郎/宮崎 裕二	同友館
5340	経営管理	マネジメント基本全集<3> 改訂版 市場創造 6p.233p '11	根本 孝/茂理 広志/竹内 慶司/片山 富弘	学文社
5341	経営管理	マーケティングをつかむ(TEXTBOOKS TSUKAMU)	黒岩 健一郎/水越 康介	有斐閣
5342	経営管理	戦略的マーケティングの思考	目黒 良門	学文社
5343	経営管理	マーケティング 第3版(基礎コース)	小原博	新世社
5344	経営管理	グローバル・マーケティング 第2版	諸上 茂登/藤沢 武史	中央経済ホールディングス
5345	経営管理	マーケティング戦略論	西田 安慶/城田 吉孝	学文社
5346	経営管理	1からのマーケティング分析	恩蔵 直人/富田 健司	中央経済ホールディングス
5347	経営管理	新しい公共・非営利のマーケティング～関係性にもとづくマネジメント～(碩学叢書)	水越 康介/藤田 健	中央経済ホールディングス
5348	経営管理	インターネットマーケティング	進藤 美希	白桃書房
5349	経営管理	現代のマーケティング	田中 道雄/田村 公一/日野 隆生	中央経済ホールディングス
5350	経営管理	現代マーケティング～ICT時代の新しいコミュニケーション～	竹安 数博/石井 康夫/樋口 友紀	中央経済ホールディングス
5351	経営管理	国際マーケティング(碩学叢書)	小田部 正明/K. ヘルセン/栗木 契	中央経済ホールディングス
5352	経営管理	市場流通に関する諸問題～基本的な企業経営原理の応用について～ 新增補版	A.W.ショー/丹下 博文	白桃書房
5353	経営管理	消費社会とマーケティング～ブランド・広告・ファッション・産業クラスター～	東 伸一/梅村 修/玄野 博行/辻 幸恵	嵯峨野書院
5354	経営管理	消費者行動論～マーケティングとブランド構築への応用～(有斐閣アルマ Specialized)	青木 幸弘/新倉 貴士/佐々木 社太郎/松下 光司	有斐閣

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
5355	経営管理	スモールビジネス・マーケティング～小規模を強みに変えるマーケティング・プログラム～	岩崎 邦彦	中央経済ホールディングス
5356	経営管理	日米流通業のマーケティング革新 第2版	渦原 実男	同文館出版
5357	経営管理	日本企業のグローバル・マーケティング	大石 芳裕/グローバル・マーケティング研究会	白桃書房
5358	経営管理	非営利組織のマーケティング～NPOの使命・戦略・貢献・成果～	三宅 隆之	白桃書房
5359	経営管理	ブランド戦略から学ぶマーケティング～消費者の視点から企業戦略を知る～	江上 哲	ミネルヴァ書房
5360	経営管理	消費者心理のしくみ～ヒット商品を生む!～(DO BOOKS)	梅沢 伸嘉	同文館出版
5361	経営管理	消費者心理のわかる本～マーケティングの成功原則55～	梅澤 嘉	同文館出版
5362	経営管理	図解よくわかるこれからのスーパーバイザー(DO BOOKS)	笠井 清志	同文館出版
5363	経営管理	図解よくわかるこれからのバイヤー(DO BOOKS)	三宅 達三	同文館出版
5364	経営管理	ベーシック・マーケティング～理論から実践まで～	日本マーケティング協会/尾上 伊知郎	同文館出版
5365	経営管理	メディア・ブランディング～新世代メディア・コミュニケーション～	菅原 正博/山本 ひとみ/大島 一豊	中央経済ホールディングス
5366	経営管理	こだわりと日本人～若者の新生活感・選択基準と購買行動～	辻 幸恵	白桃書房
5367	経営管理	地域ブランド戦略と雇用創出	大分大学経済学部	白桃書房
5368	経営管理	地域ブランド・マネジメント	和田 充夫/菅野 佐織/徳山 美津恵	有斐閣
5369	経営管理	情報化社会におけるマーケティング～消費者行動とロジスティクスにおけるデータ活用～(専修大学商学研究所叢書 13)	岩尾 詠一郎	白桃書房
5370	経営管理	マーケティングの統計分析(シリーズ(統計科学のプラクティス))	照井伸彦 著	朝倉書店
5371	経営管理	観光マーケティングの現場～ブランド創出の理論と実践～	吉田 春生	大学教育出版
5372	経営管理	地域活性化のマーケティング		有斐閣
5373	経営管理	マーケティング調査入門～情報の収集と分析～	本多 正久/牛沢 賢二	培風館
5374	経営管理	社会調査ハンドブック		朝倉書店
5375	経営管理	地域ブランドと広告～伝える流儀を学ぶ～	辻 幸恵/枳尾 安伸/梅村 修	嵯峨野書院
5376	経営管理	朝倉実践心理学講座<2> マーケティングと広告の心理学		朝倉書店
5377	経営管理	地域の再生と流通・まちづくり(日本流通学会設立25周年記念出版プロジェクト 1)	日本流通学会/佐々木 保幸/番場 博之	白桃書房
5378	経営管理	現代都市流通とまちづくり	宇野 史郎	中央経済ホールディングス
5379	経営管理	グローバル・マーケティングの新展開(日本流通学会設立25周年記念出版プロジェクト 5)	大石 芳裕/山口 夕妃子	白桃書房
5380	経営管理	格差社会と現代流通	流通経済研究会/大野 哲明/佐々木 保幸/番場 博之	同文館出版
5381	経営管理	チャネル間競争の経済分析～流通戦略の理論～	成生 達彦	名古屋大学出版会
5382	経営管理	小売・サービスの経営学～アトモスフィア理論へのアプローチ～	前田 進	同友館
5383	経営管理	食品スーパーの店舗オペレーション・システム～競争力構築のメカニズム～	岸本 徹也	白桃書房
5384	経営管理	現代物流の基礎 改訂版	森 隆行	同文館出版
5385	経営管理	現代流通入門(有斐閣ブックス)	加藤 義忠/齋藤 雅通/佐々木 保幸	有斐閣
5386	経営管理	シリーズ◆流通体系<1> 小売業の業態革新	石原 武政/石井 淳蔵	中央経済ホールディングス
5387	経営管理	シリーズ◆流通体系<2> 流通チャネルの再編	石原 武政/石井 淳蔵	中央経済ホールディングス
5388	経営管理	シリーズ◆流通体系<3> 小売企業の国際展開	石原 武政/石井 淳蔵	中央経済ホールディングス
5389	経営管理	シリーズ◆流通体系<4> 地域商業の競争構造	石原 武政/石井 淳蔵	中央経済ホールディングス
5390	経営管理	シリーズ◆流通体系<5> 日本の流通政策	石原 武政/石井 淳蔵	中央経済ホールディングス
5391	経営管理	地域物流市場の新課題	日本大学大学院経済グローバル学部の流通学研究会/岩田 和典/土井 隆夫	成文堂
5392	経営管理	基本ロジスティクス用語辞典 第3版	日本ロジスティクスシステム協会/ロジスティクス用語辞典編集委員会	白桃書房
5393	経営管理	新現代観光総論	前田 勇	学文社
5394	経営管理	現代の観光事業	北川 宗忠	ミネルヴァ書房
5395	経営管理	小さなサロンのための売り込まないネット集客の極意: ネット音痴なあなたも!売上200%UP!!	穂口大悟	BABジャパン
5396	経営管理	カスタマイズ: <特注>をビジネスにする新戦略	アンソニー・フリン/エミリー・フリン・ヴェンキャット	CCCメディアハウス
5397	経営管理	熱狂顧客のつくり方	島青志	IBCパブリッシング
5398	経営管理	《新訳》ハイパワー・マーケティング: あなたのビジネスを加速させる「力」の見つけ方	ジェイ・エイブラハム	KADOKAWA
5399	経営管理	USJを劇的に変えた、たった1つの考え方: 成功を引き寄せるマーケティング入門	森岡毅	KADOKAWA
5400	経営管理	お客様を買う気にさせる「価値」の見つけ方: In search of the true value to match consumer demand	岡田庄生	KADOKAWA
5401	経営管理	かんたんなのに、ほとんどの人がやっていないお店にファンをつくるウェブ発信の新ルール	仲島ちひろ	KADOKAWA
5402	経営管理	コトラー マーケティングの未来と日本: 時代に先回りする戦略をどう創るか	フィリップ・コトラー	KADOKAWA
5403	経営管理	ソーシャルマシン: M2MからIoTへ つながりが生む新ビジネス (角川EPUB選書 008)	ピーター・センメルハック	KADOKAWA
5404	経営管理	マーケティングオートメーション最強の導入手法: Marketing Automation: The strongest introduction method	小池智和	KADOKAWA
5405	経営管理	マーケティングのことが面白いほどわかる本: 激変する市場でも顧客満足を生み出す戦略の基本34. 改訂版 (ポイント図解)	江口泰広	KADOKAWA

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
5406	経営管理	確率思考の戦略論: USJでも実証された数学マーケティングの力	森岡毅/今西聖貴	KADOKAWA
5407	経営管理	行列請負人の頭の中: 大ヒットは「真似」と「組み換え」から生まれる	立川光昭	KADOKAWA
5408	経営管理	事例に学ぶスマホアプリマーケティングの鉄則87: 企画からプロモーション、分析、マネタイズまで (WEB PROFESSIONAL)	池村修	KADOKAWA
5409	経営管理	書かなきゃいけない人のためのWebコピーライティング教室 (WEB PROFESSIONAL)	森田哲生	KADOKAWA
5410	経営管理	新しい顧客戦略の教科書: ソーシャルシフト	斎藤徹/伊藤友里	KADOKAWA
5411	経営管理	図解大学4年間のマーケティングが10時間でざっと学べる	阿部誠	KADOKAWA
5412	経営管理	大学4年間のマーケティングが10時間でざっと学べる	阿部誠	KADOKAWA
5413	経営管理	日本企業で本当に役立つマーケティング7つの原則	近藤隆	KADOKAWA
5414	経営管理	サービスデザインの教科書: 共創するビジネスのつくりかた	武山政直	NTT出版
5415	経営管理	〈実況〉マーケティング教室: MBA MARKETING (グロービスMBA集中講義)	グロービス	PHP研究所
5416	経営管理	30ポイントで身につく「マーケティング思考」の技術	HRインスティテュート	PHP研究所
5417	経営管理	なぜ、あの企業の「顧客満足」はすごいのか?: あなたがサービス・製品を選ぶ本当の理由	武田哲男	PHP研究所
5418	経営管理	データサイエンティストの秘密ノート: 35の失敗事例と克服法	高橋威知郎/白石卓也	SBクリエイティブ
5419	経営管理	次世代共創マーケティング	池田紀行/山崎晴生	SBクリエイティブ
5420	経営管理	入門SEOに効くWebライティング: サイトの価値を高める正しいコンテンツの作り方 (Informatics & IDEA)	宮幸幸志/中島健治	SBクリエイティブ
5421	経営管理	世界一やさしいビッグデータの超(スーパー)攻略術: ヒットの予兆はスマホで瞬時に読みとれる!	柿沼朱里	アーク出版
5422	経営管理	ホームページで売上があがる会社、あがらない会社、何が違うか	石嶋洋平	あさ出版
5423	経営管理	会社のホームページはどんどん変えなさい	石嶋洋平	あさ出版
5424	経営管理	女性社員にまかせたら、ヒット商品できちゃった: ベビーフット、ミリオンセラの秘密	中島隆	あさ出版
5425	経営管理	超解マーケティングで面白いほど売上が伸びる本	市川晃久	あさ出版
5426	経営管理	感動できる柔らかなココロがマーケットを創造する: マーケティングで一番大切なこと	西村公志	アスペクト
5427	経営管理	図解でわかるマーケティングいちばん最初に読む本	野上真一	アニモ出版
5428	経営管理	ビッグデータ・マーケティング	リサ・アーサー	アルファポリス
5429	経営管理	顧客ロイヤルティ戦略はこう変わる: ビッグデータ時代襲来	ラジャット・パハリヤ	アルファポリス
5430	経営管理	無意識に買わせる心理戦略	サイモン・スキヤメル=カツ	イースト・プレス
5431	経営管理	GoogleアナリティクスWeb解析の現場で使える実践ワザ260: Googleタグマネージャ/オプティマイズ/データスタジオ対応、増補改訂2版(できる逆引き)	木田和廣/できるシリーズ編集部	インプレス
5432	経営管理	Instagramマーケティング: 写真1枚で「欲しい」を引き出す技術(できる100の新法則)	オプト/できるシリーズ編集部	インプレス
5433	経営管理	TableauビジュアルWeb分析: データを収益に変えるマーケティングの武器(できる100の新法則)	木田和廣/できるシリーズ編集部	インプレス
5434	経営管理	いちばんやさしいGoogleアナリティクスの教本: 人気講師が教えるWeb解析と広告計測の基本	山浦直宏/村山佑介	インプレス
5435	経営管理	いちばんやさしいLINEビジネスコネクの教本: 人気講師が教える双方向マーケティング実践	豊田義和/荒川夏実	インプレス
5436	経営管理	いちばんやさしいグロースハックの教本: 人気講師が教える急成長マーケティング戦略	金山裕樹/梶谷健人	インプレス
5437	経営管理	いちばんやさしいコンテンツマーケティングの教本: 人気講師が教える宣伝せずに売れる仕組み作り	宗像淳/亀山将	インプレス
5438	経営管理	いちばんやさしいコンバージョン最適化の教本: 人気講師が教える実践デジタルマーケティング	深田浩嗣	インプレス
5439	経営管理	いちばんやさしいデジタルマーケティングの教本: 人気講師が教えるメディアと販促の新しい基礎	田村修	インプレス
5440	経営管理	マンガでわかるWebマーケティング: Webマーケティング一歩の挑戦. 改訂版	ソウ	インプレス
5441	経営管理	リードビジネス「打ち手」大全: デジタルマーケティングで顧客を増やす最強の戦略86(できるMARKETING Bible 02)	上島千鶴	インプレス
5442	経営管理	実践マーケティングオートメーション: 会わずに売れるリード育成法(できる100の新法則)	永井俊輔/できるシリーズ編集部	インプレス
5443	経営管理	新世代デジタルマーケティング: ネットと全チャネルをつなぐ統合型データ活用のすすめ	横山隆治	インプレス
5444	経営管理	BtoC向けマーケティングオートメーションCCOM入門 (インプレスR&D(NextPublishing) New Thinking and New Ways E-Book/Print Book)	岡本泰治/橋野学	インプレスR&D
5445	経営管理	SNSマーケティングのやさしい教科書.: Facebook・Twitter・Instagramつながりでビジネスを加速する技術	グローバルリンクジャパン/清水将之	エムティエヌコーポレーション
5446	経営管理	Webコンテンツマーケティング: サイトを成功に導く現場の教科書	日本SPセンター	エムティエヌコーポレーション
5447	経営管理	オウンドメディアのやさしい教科書.: ブランド力・業績を向上させるための戦略・制作・改善メソッド	山口耕平/徳井ちひろ	エムティエヌコーポレーション
5448	経営管理	できることからスタートするコンバージョンアップの手法99: 予算・時間・人手がなくても成果を上げるノウハウ!(できスタ Vol.1)	柴前田勝太郎/岸正也	エムティエヌコーポレーション
5449	経営管理	ネット集客のやさしい教科書.: 小さな会社からゼロから最短で成果をあげる実践的Webマーケティング	高田晃	エムティエヌコーポレーション
5450	経営管理	マーケティングオートメーション導入の教科書: 優良顧客を自動で育てる仕組みづくり	長谷川健人/住岡洋光	エムティエヌコーポレーション
5451	経営管理	ランディングページ: 成果を上げる100のメソッド	ポストスケイプ	エムティエヌコーポレーション
5452	経営管理	ランディングページ・デザインメソッド: WEB制作のプロが教えるLPの考え方、設計、コーディング、コンテンツ制作ガイド	ポストスケイプ	エムティエヌコーポレーション
5453	経営管理	数字を200%使いこなすWebアクセス解析&レポート作成術	小松た祐/白井貴典	エムティエヌコーポレーション
5454	経営管理	沈黙のWebマーケティング: Webマーケティングボーンの逆襲	松尾茂起/上野高史	エムティエヌコーポレーション
5455	経営管理	沈黙のWebライティング: Webマーケティングボーンの激闘	松尾茂起/上野高史	エムティエヌコーポレーション
5456	経営管理	Rによるデータ駆動マーケティング	豊田裕貴	オーム社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
5457	経営管理	マーケティングのための統計分析	生田目崇	オーム社
5458	経営管理	トラクション: スタートアップが顧客をつかむ19のチャネル	ガブリエル・ワインバーグ/ジャスティン・メアーズ	オライリー・ジャパン
5459	経営管理	マッピングエクスペリエンス: カスタマージャーニー、サービスブループリント、その他ダイアグラムから価値を創る	James Kalbach	オライリー・ジャパン
5460	経営管理	リーンブランディング: リーンスタートアップによるブランド構築 (THE LEAN SERIES)	ローラ・ブッシュ	オライリー・ジャパン
5461	経営管理	イメージコンサルタントとしての歩み: 誰も上手いかなと思った起業を成功させたわけ	谷澤史子	カナリアコミュニケーションズ
5462	経営管理	全史×成功事例で読む「マーケティング」大全: the Complete book of Marketing the whole history and success stories	酒井光雄/武田雅之	かんき出版
5463	経営管理	超入門コトラーの「マーケティング・マネジメント」	安部徹也	かんき出版
5464	経営管理	これからの「売れるしくみ」のつくり方: SP出身の僕が訪ねた、つくり手と売り手と買い手がつながる現場	石原篤	グラフィック社
5465	経営管理	室井鐵衛マーケティングの本質: その源流と展開	室井鐵衛/自然塾	クリエー出版部
5466	経営管理	デザイン×ビジネス: デザインとは何か?	南雲治嘉	クロスメディア・パブリッシング
5467	経営管理	デザインの次に来るもの: これからの商品は「意味」を考える	安西洋之/八重樫文	クロスメディア・パブリッシング
5468	経営管理	小さな会社ネット集客の鉄則: 90日で結果を出し、5年先も使える!	高田晃	クロスメディア・パブリッシング
5469	経営管理	少人数チームからはじめる失敗しないBtoBマーケティングの組織としくみ	萩原張広/河村芳行	クロスメディア・パブリッシング
5470	経営管理	問題解決のあたらしい武器になる視覚マーケティング戦略	ウジトモコ	クロスメディア・パブリッシング
5471	経営管理	マーケティングオートメーションでおもてなし: ITがマーケティングにしてくれること	小川共和	クロスメディア・マーケティング
5472	経営管理	マーケティングオートメーションに落とせるカスタマージャーニーの書き方	小川共和	クロスメディア・マーケティング
5473	経営管理	「圧倒的利益」を生み出すキュレーション・マーケティング: 「巨大な強者」の進撃に勝つための弱者の戦略! 新版	水上浩一	ごま書房新社
5474	経営管理	一番儲かる広告戦略!: TV、新聞・雑誌広告とは比べものにならない反響率、費用対効果!	望月聡	ごま書房新社
5475	経営管理	YouTube動画SEOで客を呼び込む	鈴木将司	シーアンドアール研究所
5476	経営管理	スマホ客を呼び込む最強の仕掛け	鈴木将司	シーアンドアール研究所
5477	経営管理	ベテラン営業マンと若手Web担当者がコンビを組んだら?: 勝ち抜く企業のBtoBマーケティング	志水哲也	スターダイバー
5478	経営管理	「行動デザイン」の教科書: 人を動かすマーケティングの新戦略	博報堂行動デザイン研究所/園田圭作	ずばる舎
5479	経営管理	正しい「値決め」の教科書: ビジネスに絶対欠かせない!	中村穂	ずばる舎
5480	経営管理	インバウンドマーケティング: オンラインで顧客を惹きつけ、招き、喜ばせるマーケティング戦略, 増補改訂版	ブライアン・ハリガン/ダーメッシュ・シャア	ずばる舎リンケージ
5481	経営管理	ぐるっと! マーケティング	安部徹也	ずばる舎リンケージ
5482	経営管理	顧客を説得する7つの秘密: 「なぜ選ばれるのか」を解き明かす最先端ニューロマーケティングの教科書	ジェームズ・C.クリムス	ずばる舎リンケージ
5483	経営管理	人もお金も自然と集まるファンクラブビジネスの始め方	中村悦子/久保田兼右	ずばる舎リンケージ
5484	経営管理	トコト使って売上を上げる! LINE@活用術: 1通で60万円売れる居酒屋驚きの集客法	斎藤元有輝	セルバ出版
5485	経営管理	ノーブランド企業が高額商品で売上を10倍にする集客法	鈴木貴子	セルバ出版
5486	経営管理	ホームページで成功したかったら読む本	望月聡	セルバ出版
5487	経営管理	マリリン・モンローの「ほくろ」をつくれ!: 異彩を放ち「競合に勝つ」セールスポイントのつくり方	加藤洋一	セルバ出版
5488	経営管理	ランチェスター経営戦略シート活用のツボ: 一位づくりで会社も社員も変わる	川端康浩	セルバ出版
5489	経営管理	小さな会社の10倍クチコミ集客術	横尾紀雄	セルバ出版
5490	経営管理	「やりたいこと」からパッと引けるGoogleアナリティクス分析・改善のすべてがわかる本	小川卓	ソーテック社
5491	経営管理	Facebookで集客・売上をアップする方法	田代政貴	ソーテック社
5492	経営管理	LINEでビジネスとコミュニケーションを加速する方法	松浦法子	ソーテック社
5493	経営管理	SEOに強いWebライティング: 売れる書き方の成功法則64	ふくだたみこ	ソーテック社
5494	経営管理	YouTubeでビジネスを加速する方法	武藤正隆	ソーテック社
5495	経営管理	グロースハック: 予算ゼロでビジネスを急成長させるエンジン	梅木雄平	ソーテック社
5496	経営管理	ビジネスにつながる儲かるFacebookの投稿講座: Facebook投稿完全攻略!	武藤正隆	ソーテック社
5497	経営管理	現役LPO会社社長から学ぶコンバージョンを獲るランディングページ	相原祐樹	ソーテック社
5498	経営管理	儲かる検索キーワードの見つけ方講座: 成約率が上がる	中尾豊	ソーテック社
5499	経営管理	SNS活用→集客のオキテ: Facebook、Twitter、LINE@、ブログ、YouTubeすぐに使える定番ツールで商売繁盛!	深谷歩	ソシム
5500	経営管理	スモールビジネスのためのGoogleアナリティクス完全ガイド: グローバルサイトタグ対応版	皆川顕弘	ソシム
5501	経営管理	ネット集客での売上に直結する見込み客リストの集め方・使い方	望月高清	ソシム
5502	経営管理	集客・検索キーワードの選び方・使い方: ネットでの売上に直結する	瀬川和人	ソシム
5503	経営管理	小さな会社の魅力と集客が10倍アップするホームページのつくり方	菅谷信一	ソシム
5504	経営管理	儲かるメルマガ: ネットでガンガン集客する方程式	田淵隆茂	ソシム
5505	経営管理	超高齢社会マーケティング: 8つのキーワードで攻略する新・注目市場の鯨脈 (DIAMOND流通選書)	電通シニアプロジェクト/斉藤徹	ダイヤモンド・フリードマン社
5506	経営管理	Hanako世代を狙え!: シニアビジネスの新しい主役	伊藤忠ファッションシステム/この先シニア/民間研究プロジェクト	ダイヤモンド社
5507	経営管理	ウソはバレる: 「定説」が通用しない時代の新しいマーケティング	イタマル・サイモンソン/エマニュエル・ローゼン	ダイヤモンド社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
5508	経営管理	データ・ドリブン・マーケティング: 最低限知っておくべき15の指標	マーク・ジェフリー	ダイヤモンド社
5509	経営管理	どうすれば、売れるのか?: 世界一かんたん「売れるコンセプト」の見つけ方	木暮太一	ダイヤモンド社
5510	経営管理	ブランド論: 無形の差別化をつくる20の基本原則	デービッド・アーカー	ダイヤモンド社
5511	経営管理	マーケット感覚を身につけよう: 「これから何が売れるのか?」わかる人になる5つの方法	ちきりん	ダイヤモンド社
5512	経営管理	マーケティングの教科書: ハーバード・ビジネス・レビュー戦略マーケティング論文ベスト10 (Harvard Business Review DIAMONDハーバード・ビジネス・レビュー)		ダイヤモンド社
5513	経営管理	マインド・ホールを突破せよ。: ビデオリサーチが提案するマーケティング新論	ビデオリサーチひと研究所	ダイヤモンド社
5514	経営管理	稼ぐ言葉の法則: 「新・PASONAの法則」と売れる公式41	神田昌典	ダイヤモンド社
5515	経営管理	経営はデザインそのものである	博報堂コンサルティング/HAKUHODO DESIGN	ダイヤモンド社
5516	経営管理	小さな会社のはじめてのブランドの教科書: これ一冊でぜんぶわかる!	高橋克典	ダイヤモンド社
5517	経営管理	新シニア市場攻略のカギはモトリアムおじさんだ! (ビデオリサーチが提案するマーケティング新論 2)	ビデオリサーチひと研究所	ダイヤモンド社
5518	経営管理	世界で勝てるブランディングカンパニー: ブランド力でマネジメントを強化する日本企業の挑戦	関野吉記/奥山由実子	ダイヤモンド社
5519	経営管理	絶対儲かる「値上げ」のしくみ、教えます	石原明	ダイヤモンド社
5520	経営管理	戦略インサイト: 新しい市場を切り拓く最強のマーケティング	桶谷功	ダイヤモンド社
5521	経営管理	日本企業はモノづくり至上主義で生き残れるか: 「スーパー現場」が顧客情報をキャッシュに変える	フランシス・マキナーニー	ダイヤモンド社
5522	経営管理	ここからはじめる実践マーケティング入門 (21ST CENTURY BUSINESS PROFESSIONAL-次の10年にプロフェッショナルであり続ける人の教科書- #06)	グロービス	ディスカヴァー・トゥエンティワン
5523	経営管理	スープを売れば、パンを売れ	山田まさる	ディスカヴァー・トゥエンティワン
5524	経営管理	広告やメディアで人を動かそうとするのは、もうあきらめなさい。	本田哲也/田端信太郎	ディスカヴァー・トゥエンティワン
5525	経営管理	リファーマルマーケティング: Referral Marketing	アイヴァン・マイズナー/マイク・マセドニオ	デイマーカース・パブリッシング
5526	経営管理	プロ直伝!成功するマーケティングの基本と実践 (マンガでわかる!ビジネスの教科書)	竹中雄三/河野安彦	ナツメ社
5527	経営管理	強さを引き出すブランディング		パイインターナショナル
5528	経営管理	挑戦者たちに学ぶデジタルマーケティング: ブランディング・地域活性から新市場開拓まで「洞察とアイデア」で課題解決した32の事例		パイインターナショナル
5529	経営管理	アツという間に有名!誰でも夢がかなう魔法のことは、営業なしで仕事とお金が舞い込んでくる即効ブランディング術	高野聖	ばる出版
5530	経営管理	「誘う」ブランド: 脳が無意識に選択する。心に入り込むブランド構築法	ダリル・ウェーバー	ビー・エヌ・エヌ新社
5531	経営管理	オウンドメディアのつくりかた: 「自分たちでつくる」ためのメディア運営	鷹木創/大内孝子	ビー・エヌ・エヌ新社
5532	経営管理	これからのマーケティングに役立つ、サービス・デザイン入門: 商品開発・サービスに革新を巻き起こす、顧客目線のビジネス戦略	J.マルゴス・クラール	ビー・エヌ・エヌ新社
5533	経営管理	ストーリーマッピングをはじめよう: あらゆる体験(UX)は一本の物語	ドナ・リチョウ	ビー・エヌ・エヌ新社
5534	経営管理	ビジネスで活かすサービスデザイン: 顧客体験を最大化するための実践ガイド	ベン・リーズン/ラウランス・ロヴリー	ビー・エヌ・エヌ新社
5535	経営管理	ユーザーインタビューをはじめよう: UXリサーチのための「聞くこと」入門	ステーブ・ポーチガル	ビー・エヌ・エヌ新社
5536	経営管理	生まれ変わるデザイン、持続と継続のためのブランド戦略: 老舗のデザイン・リニューアル事例から学ぶ、ビジネスのためのブランド・デザインマネジメント	ウジトモコ	ビー・エヌ・エヌ新社
5537	経営管理	IoT時代のエクスペリエンス・デザイン	朝岡崇史	ファーストプレス
5538	経営管理	エクスペリエンス・ドリブン・マーケティング: ブランド体験価値からサービスデザインへ	朝岡崇史	ファーストプレス
5539	経営管理	その商品は人を幸せにするか: ソーシャルプロダクツのすべて	中間大維	ファーストプレス
5540	経営管理	これだけは知っておきたい「マーケティング」の基本と常識: 市場のつかみ方から、価格・広告戦略、ネット・マーケティングまで簡単にわかります! 改訂版	大山秀一	フォレスト出版
5541	経営管理	ディズニーのすごい集客	嶋田巨克	フォレスト出版
5542	経営管理	小さな会社★儲けのルール: ランチェスター経営7つの成功戦略, 新版	竹田陽一/栢野克己	フォレスト出版
5543	経営管理	人は感情でモノを買う	伊勢隆一郎	フォレスト出版
5544	経営管理	挑戦する会社: 世界を変えるビジネス実践法	神田昌典	フォレスト出版
5545	経営管理	売れる文章術	中野巧	フォレスト出版
5546	経営管理	グローバルWebサイト&アプリのススメ: グローバルジェネラリストなWeb担当者を目指して	ジョン・ヤンカー	ポーンデジタル
5547	経営管理	28の攻略法でよくわかるネット&リアルO2Oマーケティング: ONLINE to OFFLINE	D4DR株式会社/田所明治	マイナビ
5548	経営管理	A/Bテストの教科書	野口竜司	マイナビ
5549	経営管理	サイトの改善と目標達成のためのWeb分析の教科書: 明日からの施策と運用が変わる、現場で使える知識とノウハウ	日本Web協会	マイナビ
5550	経営管理	ネットプロモーション教本: 頼られるWeb担当者になる!	木下直一/田中千晶	マイナビ
5551	経営管理	はじめてでもよくわかる!Webマーケティング集中講義	押切孝雄/上田大輔	マイナビ
5552	経営管理	図解&事例で学ぶWebマーケティングの教科書		マイナビ
5553	経営管理	図解&事例で学ぶマーケティングの教科書	シェルパ	マイナビ
5554	経営管理	UX×Biz Book: 顧客志向のビジネス・アプローチとしてのUXデザイン	明海司/井登友一	マイナビ出版
5555	経営管理	いまさら聞けないWebマーケティング: 初歩から学べる集客のセオリー	佐藤和明	マイナビ出版
5556	経営管理	コンバージョンを上げる!実践的ランディングページ制作講座: LPOのスペシャリストが教える「成果を出す」ための設計のポイント、制作のコツ、運用改善の要点	LPO研究所	マイナビ出版
5557	経営管理	スマートフォンアプリマーケティング現場の教科書	川畑雄輔/丸山弘詩	マイナビ出版
5558	経営管理	はじめてでもよくわかる!デジタルマーケティング集中講義	押切孝雄	マイナビ出版

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
5559	経営管理	まんがで覚えるマーケティングの基本: 人の心をつかむサイエンス		マイナビ出版
5560	経営管理	最新Webマーケティング: 解説と事例でわかるITの今: 2018 (Web Designing BOOKS)		マイナビ出版
5561	経営管理	レレバンス・イノベーション: 顧客の共感を引き出し、行動を変える力	アンドレア・コーヴィル/ポール・B.ブラウン	マグロウヒル・エデュケーション
5562	経営管理	ケースで学ぶマーケティング, 第2版 (MINERVA TEXT LIBRARY 20)	井原久光	ミネルヴァ書房
5563	経営管理	よくわかる現代マーケティング (やわらかアカデミズム・わかる) シリーズ)	陶山計介/鈴木雄也	ミネルヴァ書房
5564	経営管理	実践的グローバル・マーケティング (シリーズ・ケースで読み解く経営学 2)	大石芳裕	ミネルヴァ書房
5565	経営管理	未来を創造する国際マーケティング戦略論: 標準化・適応化戦略の理論と実践	金炯中	ミネルヴァ書房
5566	経営管理	1ワード3分でわかる! 基本から最新までマーケティングキーワードベスト50	田中洋	ユーキャン学び出版
5567	経営管理	いちばんやさしいInstagramマーケティングの教科書: アカウント運用からキャンペーンまでひとりでも成果が出せる	アライドアーキテクト株式会社/藤田和重	ラトルズ
5568	経営管理	ネット集客でお客様を集めるにはどうすればいいですか?: 世界一わかりやすく確実な集客法	感動集客	ロングセラーズ
5569	経営管理	感動集客: 0から「価値」を生み出す売り上げを「劇的」に飛躍させていく仕組み	松野正寿	ロングセラーズ
5570	経営管理	UXの時代: IoTとシェアリングは産業をどう変えるのか	松島聡	英治出版
5571	経営管理	カスタマーサクセス: サブスクリプション時代に求められる「顧客の成功」10の原則	ニック・メータ/ダン・スタインマン	英治出版
5572	経営管理	サブスクリプション・マーケティング: モノが売れない時代の顧客との関わり方	アン・H.ジャンザー	英治出版
5573	経営管理	機会発見: 生活者起点で市場をつくる	岩寄博論	英治出版
5574	経営管理	売上を3倍にするマーケティング革命: 消費者の意外な購買心理メカニズムとは	安田尚司	河出書房新社
5575	経営管理	ラグジュアリーブランディングの実際: 3・1フィリップリム、パネライ、オメガ、リシャール・ミルの戦略		海文堂出版
5576	経営管理	日本の“こだわり”が世界を魅了する: 熱烈なファンを生むブランドの構築		海文堂出版
5577	経営管理	伝統の技を世界で売る方法: ローカル企業のグローバル・ニッチ戦略	西堀耕太郎	学芸出版社
5578	経営管理	コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント: 基本編	フィリップ・コトラー/ケビン・レーン・ケラー	丸善出版
5579	経営管理	コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント	フィリップ・コトラー/ケビン・レーン・ケラー	丸善出版
5580	経営管理	コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理	フィリップ・コトラー/ゲイリー・アームストロング	丸善出版
5581	経営管理	コトラーのマーケティング入門	フィリップ・コトラー/ゲイリー・アームストロング	丸善出版
5582	経営管理	サービスデザイン: ユーザーエクスペリエンスから事業戦略をデザインする	ANDY POLAINE/LAVRANS LOVLIE	丸善出版
5583	経営管理	価値づくりマーケティング: 需要創造のための実践知	上原征彦/大友純	丸善出版
5584	経営管理	創発する営業: 未来のあたりまえを作る。	上原征彦/小林哲	丸善出版
5585	経営管理	10倍売れるWebコピーライティング: コンバージョン率平均4.92%を稼ぐランディングページの作り方	バズ部	技術評論社
5586	経営管理	Facebookページ販促&集客ガイド決定版 (得するコレだけ! 技)	柴佳織	技術評論社
5587	経営管理	Facebookを最強の営業ツールに変える本	坂本翔	技術評論社
5588	経営管理	えっ? 読者100人で月収100万円!メルマガのあたらしい稼ぎ方	中村博	技術評論社
5589	経営管理	ガッチリ成果を出すWeb担当者の教科書: 便利テンプレートデータで実務を効率化!	石井研二	技術評論社
5590	経営管理	これならわかる! Googleアナリティクス: 今日からはじめるアクセス解析超入門	志鎌真奈美	技術評論社
5591	経営管理	コンテンツ・デザインパターン: Contents Design Patterns	吉澤浩一郎	技術評論社
5592	経営管理	なぜ、あなたのウェブには戦略がないのか?: 3Cで強化する5つのウェブマーケティング施策	権成俊/村上佐央里	技術評論社
5593	経営管理	勘違いをなくせば、あなたのホームページはうまくいく: 成果を上げるWeb制作・ネット集客・販促戦略の心構え	中山陽平	技術評論社
5594	経営管理	最小の手間で最大の効果を生む! あたらしいWebマーケティングの教科書	西俊明	技術評論社
5595	経営管理	サービスデザイン: フレームワークと事例で学ぶサービス構築	山岡俊樹	共立出版
5596	経営管理	小さな会社を強くする衝撃のブランドカ: かけ出しの起業家に伝えたい! 地道な努力がブランドを作る (日本の起業家シリーズ 2)	根本みちたか	金園社
5597	経営管理	Googleアナリティクス活用術: 売上アップに貢献するBtoBマーケティング	小針将史/山田祐司	幻冬舎メディアコンサルティング
5598	経営管理	経営者のためのウェブブランディングの教科書	佐野彰彦	幻冬舎メディアコンサルティング
5599	経営管理	見込み客の心をつかむウェブマーケティング戦略	影浦誠士	幻冬舎メディアコンサルティング
5600	経営管理	顧客の心をつかむニーズ多様化時代のマーケティング戦略: Marketing Environment in Japan		幻冬舎メディアコンサルティング
5601	経営管理	サービスの国際化とマーケティング: モノづくり大国からサービス大国へ	村上薫	五紘舎
5602	経営管理	マーケティングの構造	柳偉達	五紘舎
5603	経営管理	マーケティングの理論と戦略	岩永忠康	五紘舎
5604	経営管理	マーケティング論	岡本純/脇田弘久	五紘舎
5605	経営管理	リレーションシップ・マーケティング: インタラクション志向の関係性へ	岡山武史	五紘舎
5606	経営管理	京都に学ぶマーケティング	成田景堯	五紘舎
5607	経営管理	差異としてのマーケティング, 第3版	片山富弘	五紘舎
5608	経営管理	戦略的マーケティング・マネジメント	アレクサンダー・チェルネフ	五紘舎
5609	経営管理	中小企業のマーケティング	今光俊介	五紘舎

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
5610	経営管理	北陸に学ぶマーケティング	伊部泰弘	五紘舎
5611	経営管理	ずーっと売れるWEBの仕組みのつくりかた: WEB集客とセールスが苦手なすべての人に贈る(マーチャントブックス vol.2)	伊藤勘司	厚有出版
5612	経営管理	ブランド価値創造戦略に求められるもの: 目に見えるものを通して目に見えない何かを捉える(阪南大学叢書 105)	平山弘	晃洋書房
5613	経営管理	地場産業の高価格ブランド戦略: 朝日酒蔵・スノーピーク・ゼニス・ウブロに見る感性価値創造	長沢伸也/西村修	晃洋書房
5614	経営管理	マーケティングに使える「家計調査」: 世界最大の消費者ビッグデータは「宝の山」だ	吉本佳生	講談社
5615	経営管理	今は儲かっているけど、ホントは怖くてたまらない君へ: 年商1億超えの若手経営者以外は読まないで下さい!	豊永貴士	講談社
5616	経営管理	買わせる発想: 相手の心を動かす3つの習慣	岡田庄生	講談社
5617	経営管理	炎上に負けないクチコミ活用マーケティング(フィギュール彩 99)	河井孝仁/宇賀神貴宏	彩流社
5618	経営管理	小さな会社・お店のための値上げの技術	辻井啓作	阪急コミュニケーションズ
5619	経営管理	時代を読むマーケティング戦略: 後期成熟時代のマーケティング	岩崎宇雄	桜美林大学北東アジア総合研究所
5620	経営管理	ササる戦略	土肥義則	三オブックス
5621	経営管理	イラストで理解するブランド戦略入門	長崎秀俊	三弥井書店
5622	経営管理	デジタル・ワークシフト: マーケティングを変えるキーワード30	栗木契/横田浩一	産学社
5623	経営管理	ソーシャル・プロダクト・マーケティング: 社会に良い。信頼されるブランドをつくる3つの方法	野村尚克/中島佳織	産業能率大学出版部
5624	経営管理	イラスト顧客満足(CS)の心得	中井嘉樹/木之下尚令	産労総合研究所出版部経営書院
5625	経営管理	マーケティング部へようこそ!: 3Cも4Pも知らない新入社員が3週間で身につけた最新市場戦略	五味一成	時事通信出版局
5626	経営管理	マーケティングの基礎(First Stageシリーズ 商業・経済)		実教出版
5627	経営管理	現代マーケティング論, 第2版(農林業基礎ライブラリー)	武井寿/秋本昌士	実教出版
5628	経営管理	激わかる!ビジネスで使えるWeb・SNS入門	造事務所	実業之日本社
5629	経営管理	なぜ、お客様は「そっち」を買いたくなるのか?	理央周	実務教育出版
5630	経営管理	“0”からはじめる入門データ・サイエンティスト: 統計学・データ分析・Excel・R・各種分析手法	BSRビッグデータサイエンス研究会	秀和システム
5631	経営管理	500件の見込み客リストを無料で集める最強の仕組み: 確実にガンガン売れる!	梅田憲嗣	秀和システム
5632	経営管理	Webマーケッターのための最新アルファベット略語辞典: マーケティング会議のモヤモヤがこれでスッキリします!	Webマーケティング支援会議/サブリ	秀和システム
5633	経営管理	これからのSEO Webライティング本格講座: 最新のGoogle対策!	瀧内賢	秀和システム
5634	経営管理	ザ・マイクロコピー: Webコピーライティングの新常識	山本琢磨	秀和システム
5635	経営管理	そのネット集客はいますぐやめなさい!	臂守彦	秀和システム
5636	経営管理	テレマ1.0: 進化するテレマーケティング	山崎俊	秀和システム
5637	経営管理	ネットだけで集客と販促 最強の教科書: 広告依存型の手法に頼るのはもう止めよう	阿部悠人	秀和システム
5638	経営管理	プロが教えるYouTubeビジネス活用術	石割俊一郎	秀和システム
5639	経営管理	効果が上がる!現場で役立つ実践的Instagramマーケティング	グローバルリンクジャパン/清水将之	秀和システム
5640	経営管理	小さな会社ではじめてWeb担当になった人のGoogleアナリティクス超入門	吉岡豊	秀和システム
5641	経営管理	図解でわかる!マーケティング	藤原毅芳	秀和システム
5642	経営管理	成功する人のすごいマーケティング: 経営者とリーダーたちの成功事例に学ぶ	小宮一慶/MBS「おとな会」取材班	秀和システム
5643	経営管理	売らずに売る技術: 高級ブランドに学ぶ安売れせずに売る秘密	小山田裕哉	集英社
5644	経営管理	SNSで儲けようと思ってないですよ?: 世の中を動かすSNSのバズり方	福田淳	小学館
5645	経営管理	マーケティング・オン・ビジネス: 基礎からわかるマーケティングと経営	有馬賢治/岡本純	新世社
5646	経営管理	マーケティング用語図鑑	野上真一	新星出版社
5647	経営管理	部長、その勤はズレてます! 「A/Bテスト」最強のウェブマーケティングツールで会社の意思決定が変わる	ダン・シロカー/ピート・クーマン	新潮社
5648	経営管理	いちばんかんたんに役に立つマーケティングの方法	蛭川速	成美堂出版
5649	経営管理	現代マーケティングの論理	斎藤保昭	成文堂
5650	経営管理	メディアの循環「伝えるメカニズム」(法政大学イノベーション・マネジメント研究センター叢書 14)	岩崎達也/小川孔輔	生産性出版
5651	経営管理	「売る」から、「売れる」へ。: 水野学のブランディングデザイン講義	水野学	誠文堂新光社
5652	経営管理	自社ホームページにアクセスした企業を「見える化」して、10件の電話営業だけで売上をアップさせる技術: 3ステップで誰でも出来る無料のWebマーケティング	熊谷竜二	誠文堂新光社
5653	経営管理	お客さまには「うれしさ」を売りたい: 一生稼げる人になるマーケティング“戦略”入門	佐藤義典	青春出版社
5654	経営管理	エリア・マーケティングアーキテクチャー: Area Marketing Architecture, 増補版	岩田貴子	税務経理協会
5655	経営管理	天のトキ、地の利、人の和あつての私のランチェスター戦略: 年商わずか4,000万円の会社の経営者の書いた小さな会社のランチェスター	吉原泰和	税務経理協会
5656	経営管理	1からのグローバル・マーケティング	小田部正明/栗木契	碩学舎
5657	経営管理	1からのマーケティング・デザイン	石井淳蔵/廣田章光	碩学舎
5658	経営管理	1からの消費者行動	松井剛/西川英彦	碩学舎
5659	経営管理	グローバル・ブランディング: モノづくりからブランドづくりへ(SGビジネス双書)	松浦祥子	碩学舎
5660	経営管理	コトラー世界都市間競争: マーケティングの未来(SGビジネス双書)	フィリップ・コトラー/ミルトン・コトラー	碩学舎

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
5661	経営管理	マーケティング・ケーススタディ: Marketing Case Study (SGビジネス双書)	池尾恭一	碩学舎
5662	経営管理	愛される会社のつくり方 (SGビジネス双書)	横田浩一/石井淳蔵	碩学舎
5663	経営管理	寄り添う力: マーケティングをプラグマティズムの視点から (SGビジネス双書)	石井淳蔵	碩学舎
5664	経営管理	ネットワークと消費者行動	斉藤嘉一	千倉書房
5665	経営管理	はじめてのマーケティング		千倉書房
5666	経営管理	成熟社会とマーケティング・イノベーション	広垣光紀	千倉書房
5667	経営管理	成熟消費時代の生活者起点マーケティング: 流通・マーケティングの新たな可能性	三村優美子/朴正洙	千倉書房
5668	経営管理	「欲しい」の本質: 人を動かす隠れた心理「インサイト」の見つけ方	大松孝弘/波田浩之	宣伝会議
5669	経営管理	The Customer Journey: 「選ばれるブランド」になるマーケティングの新技法を大解説	加藤希尊	宣伝会議
5670	経営管理	THE REAL MARKETING: 売れ続ける仕組みの本質	藤田康人	宣伝会議
5671	経営管理	アイデア・エコノミー: 規模、効率から「アイデア」の時代へ	砂川肇	宣伝会議
5672	経営管理	あの会社はなぜ「違い」を生み出し続けられるのか: 13のコラボ事例に学ぶ「共創価値のつくり方」	仲山進也	宣伝会議
5673	経営管理	カスタマーセントリック思考: 真の課題発見が市場をつくる	藤田康人/三宅隆之	宣伝会議
5674	経営管理	シェアしたがる心理: SNSの情報環境を読み解く7つの視点	天野彬	宣伝会議
5675	経営管理	デジタルで変わるマーケティング基礎 (宣伝会議マーケティング選書)		宣伝会議
5676	経営管理	デジタルマーケティングの実務ガイド	井上大輔	宣伝会議
5677	経営管理	ブランドのコラボは何をもたらすか: 午後の紅茶×ポッキーが4年続く理由	午後の紅茶×ポッキープロジェクト	宣伝会議
5678	経営管理	ブルーマーケティング: ギネス世界記録の市場突破力	岩崎崇了	宣伝会議
5679	経営管理	顧客視点の企業戦略: アンバサダープログラムの思考	藤崎実/徳力基彦	宣伝会議
5680	経営管理	社内外に眠るデータをどう生かすか: データに意味を見出す着眼点 (宣伝会議養成講座シリーズ)	蛭川速	宣伝会議
5681	経営管理	手書きの戦略論: 「人を動かす」7つのコミュニケーション戦略	磯部光毅	宣伝会議
5682	経営管理	新・パーソナルブランディング: 独立・起業を成功させる18のステップ	西澤明洋	宣伝会議
5683	経営管理	体験デザインブランディング: コトの時代の、モノの価値の作り方	室井淳司	宣伝会議
5684	経営管理	奈落の底からはい上がるブランド再生ストーリー	フミ・ササダ	宣伝会議
5685	経営管理	買う5秒前: 何がお客の背中を押したのか?	草場滋	宣伝会議
5686	経営管理	売れるロジックの見つけ方: マーケッターとデータサイエンティストが語る	後藤一喜/山本覚	宣伝会議
5687	経営管理	地方型消費行動とプロモーション「30の成功法則」: 日本人の約72%は「地方」に住んでいる。	セーラー広告地域生活ラボラトリー	泉文堂
5688	経営管理	グローバル・マーケティング: Global Marketing, 第5版	丸谷雄一郎	創成社
5689	経営管理	サービス化社会のマーケティング構想	上原聡	創成社
5690	経営管理	マーケティングの新視角: 顧客起点の戦略フレームワーク構築に向けて	有吉秀樹	創成社
5691	経営管理	マーケティング戦略論: 戦略的思考の展開	鷲尾和紀/鷲尾紀吉	創成社
5692	経営管理	共生マーケティング戦略論: Co-marketing (Symbiotic Marketing) Strategies, 第5版	清水公一	創成社
5693	経営管理	現代マーケティングの基礎知識, 改訂版	嶋正/東徹	創成社
5694	経営管理	現代消費者行動論, 第4版	松江宏/村松幸廣	創成社
5695	経営管理	脱コモディティへのブランディング: 企業ミュージアム・情報倫理と「彫り込まれた」消費	白石弘幸	創成社
5696	経営管理	サービス・スタートアップ: イノベーションを加速するサービスデザインのアプローチ	テニー・ピニエイロ	早川書房
5697	経営管理	ファンダム・レボリューション: SNS時代の新たな熱狂	ゾーイ・フランド=ブラナー/アーロン・M.グレイザー	早川書房
5698	経営管理	10年後もつきあってくれる新規の顧客をゼロから育てるマーケティング: ONE AND ONLY MARKETING	浜田将士	総合法令出版
5699	経営管理	14歳からのマーケティング	中野明	総合法令出版
5700	経営管理	なぜ、9割の会社のホームページは失敗しているのか?	平井周平	総合法令出版
5701	経営管理	競争としてのマーケティング: Competitor-oriented Marketing	丸山謙治	総合法令出版
5702	経営管理	時間資本主義の到来: あなたの時間価値はどこまで高められるか?	松岡真宏	草思社
5703	経営管理	お客様を虜にして離さない「ファンづくり」の法則: 売上が劇的にアップ!	中村悦子	大和出版
5704	経営管理	BtoB事業のための成分ブランディング: 製品開発と組織購買への応用	余田拓郎	中央経済社
5705	経営管理	ケースに学ぶ青山企業のマーケティング戦略	宮副謙司	中央経済社
5706	経営管理	ブランドと脳のパズル: 脳科学をマーケティングにどう活かすか	エリック・デュ・プレシス	中央経済社
5707	経営管理	価格の掟: ザ・プライシングマンと呼ばれた男の告白	ハーマン・サイモン	中央経済社
5708	経営管理	技術マーケティング戦略: 市場イノベーションと顧客提供価値の創出サイクル	高橋透	中央経済社
5709	経営管理	現代マーケティング研究の潮流		中央経済社
5710	経営管理	攻めと守りの競争価格戦略: 図解と計算式と事例で読み解く	窪田千貴	中央経済社
5711	経営管理	集客の教科書: M-In-Dサイクル・マーケティングのすすめ, 第2版	川村洋次/潮地良明	中央経済社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
5712	経営管理	消費者行動論(ベーシック)	田中洋	中央経済社
5713	経営管理	戦略的ブランド経営	岡田裕幸	中央経済社
5714	経営管理	中小企業マーケティング	田中道雄	中央経済社
5715	経営管理	ブランド評価手法: マーケティング視点によるアプローチ(シリーズマーケティング・エンジニアリング 5)	守口剛/佐藤栄作	朝倉書店
5716	経営管理	消費者行動のモデル(シリーズマーケティング・エンジニアリング 3)	木戸茂	朝倉書店
5717	経営管理	コラーのマーケティング4.0: スマートフォン時代の究極法則	フィリップ・コラー/ヘルマフ・カルタジャヤ	朝日新聞出版
5718	経営管理	ハーバード流ソーシャルメディア・プラットフォーム戦略	ミコワイ・ヤン・ビスコロスキ	朝日新聞出版
5719	経営管理	マーケティング: Marketing(カール教授のビジネス集中講義-エッセンシャル-)	平野敦士カール	朝日新聞出版
5720	経営管理	日本の色: 売れる色には法則があった!	桜井輝子	朝日新聞出版
5721	経営管理	エッセンシャル戦略的ブランド・マネジメント, 第4版	ケビン・レーン・ケラー	東急エージェンシー
5722	経営管理	マーケティング・サイエンスのトップランナーたち: 統計的予測とその実践事例	朝野照彦	東京図書
5723	経営管理	実践IBM SPSS Modeler: 顧客価値を引き上げるアナリティクス	西牧洋一郎	東京図書
5724	経営管理	もうモノは売らない: 「恋をさせる」マーケティングが人を動かす	ハビエル・サンチェス・ラメラス	東洋館出版社
5725	経営管理	キーパーソン・マーケティング: なぜ、あの人のクチコミは影響力があるのか	山本晶	東洋経済新報社
5726	経営管理	グッドワークス!	フィリップ・コラー/デビッド・ヘッセキエル	東洋経済新報社
5727	経営管理	デジタルマーケティングの教科書: 5つの進化とフレームワーク	牧田幸裕	東洋経済新報社
5728	経営管理	なぜ、あの「音」を聞くと買いたくなるのか: サウンド・マーケティング戦略	ジョエル・ベッカーマン/タイラー・グレイ	東洋経済新報社
5729	経営管理	なぜ、日本人は考えずにモノを買いたいのか?: 1万人の時系列データでわかる日本の消費者	野村総合研究所/松下東子	東洋経済新報社
5730	経営管理	戦略的産業財マーケティング: B2B営業成功の7つのステップ	笠原英一	東洋経済新報社
5731	経営管理	4A・オブ・マーケティング: 顧客・企業・社会のための新価値創造	ジャグディッシュ N.シェス/ラジェンドラ S.シンディア	同文館出版
5732	経営管理	BtoBマーケティング&セールス大全 (DO BOOKS)	岩本俊幸	同文館出版
5733	経営管理	ウェブ・デザイナーが独立して年収1000万円稼ぐ法 (DO BOOKS)	川島康平	同文館出版
5734	経営管理	お客をつかむウェブ心理学: なぜ、このサイトをクリックしてしまうのか?, 新版 (DO BOOKS)	川島康平	同文館出版
5735	経営管理	お客を集めるプロが教える「徹底集客術」 (DO BOOKS)	加藤学	同文館出版
5736	経営管理	これからの中小店は「動画」で販促・集客しよう! (DO BOOKS)	水越浩幸	同文館出版
5737	経営管理	サービス・ドミナント・ロジックの発想と応用	ロバート・F. ラッシュ/スティーブン・レバゴ	同文館出版
5738	経営管理	マーケティングは進化する: クリエイティブなMarketingの発想	水野誠	同文館出版
5739	経営管理	異文化マネジメントの理論と実践	太田正孝	同文館出版
5740	経営管理	価値共創とマーケティング論	村松潤一	同文館出版
5741	経営管理	賢い企業は拡大主義より持続主義: マーケティング論と会計学が同じ結論に達した	碓水悟史/大友純	同文館出版
5742	経営管理	顧客ロイヤリティ戦略: ケースブック	内田和成/余田拓郎	同文館出版
5743	経営管理	社員をホンキにさせるブランド構築法: 組織として築き上げる「チームブランディング」こそ、会社を強くする (DO BOOKS)	ブランド・マネージャー認定協会	同文館出版
5744	経営管理	消費者行動論: Consumer Behavior, 第2版	井上崇通	同文館出版
5745	経営管理	消費変質: エディタリッシュ時代の到来	熊沢孝	同文館出版
5746	経営管理	図解よくわかるこれからのWEBマーケティング (DO BOOKS なるほど!これでわかった)	船井総合研究所	同文館出版
5747	経営管理	図解よくわかるこれからのマーケティング, 最新版 (DO BOOKS なるほど!これでわかった)	金森努	同文館出版
5748	経営管理	戦略的マーケティングの構図: マーケティング研究における現代的諸問題	堀越比呂志	同文館出版
5749	経営管理	中小企業マーケティングの構図: The Structure of Marketing for Small and Medium-sized Enterprises	田中道雄/白石善章	同文館出版
5750	経営管理	日本は次に何を売るか	梶田祐一/一橋大学商学部グローバルマーケティング研究室	同文館出版
5751	経営管理	日本企業は次に何を学ぶべきか	鷺田祐一	同文館出版
5752	経営管理	アミューズメントの感性マーケティング: エポック社社長、スノーピーク社長、松竹副社長が語る (早稲田大学ビジネススクール講義録)		同友館
5753	経営管理	インターナル・マーケティングの理論と展開: 人的資源管理との接点を求めて	高橋昭夫	同友館
5754	経営管理	カプフェレ教授のラグジュアリー論: いかにラグジュアリーブランドが成長しながら稀少であり続けるか	ジャン=ノエル・カプフェレ	同友館
5755	経営管理	ジャパン・ブランドの創造: クールジャパン機構社長、ソメサドル会長、良品計画会長が語る (早稲田大学ビジネススクール講義録)		同友館
5756	経営管理	起業家のためのマーケティングバイブル	伊藤健太	同友館
5757	経営管理	銀座の会社の感性マーケティング: 日本香道、壺番館洋服店、銀座ミツパチプロジェクト、アルビオン		同友館
5758	経営管理	高くても売れるブランドをつくる!: 日本発、ラグジュアリーブランドへの挑戦	長沢伸也	同友館
5759	経営管理	人口減少時代を生き抜く中小企業		同友館
5760	経営管理	文化視点のマーケティング論(嘉悦大学大学院叢書 2)	上原聡	同友館
5761	経営管理	電通デジタルのトップマーケッターが教えるデジタルマーケティング成功に導く10の定石: 簡単に分かる売れ続ける仕組みをつくるツボ	電通デジタル	徳間書店
5762	経営管理	イノベーションの普及過程の可視化: テキストマイニングを用いたクチコミ分析	竹岡志朗/井上祐輔	日科技連出版社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
5763	経営管理	顧客満足CSの科学と顧客価値創造の戦略: グローバル生産文化と日本文化の強みを生かすものづくり発想	圓川隆夫/フランク・ビョーン	日科技連出版社
5764	経営管理	コンテンツマーケティングの教科書: “売れる秘訣”はコンテンツにある!	日経BPコンサルティングコンテンツコミュニケーションラボ	日経BPコンサルティング
5765	経営管理	ブランディングと成長実感: 成長する企業のブランド戦略	関野吉記	日経BPコンサルティング
5766	経営管理	ブランドファースト: 中小・ベンチャーの成長はブランドから始まる	木村裕紀	日経BPコンサルティング
5767	経営管理	ブランド力: 今、企業や自治体に求められている大切な価値	関野吉記	日経BPコンサルティング
5768	経営管理	今、企業がブランド力を上げる理由: 想いを伝える企業ブランディング	関野吉記	日経BPコンサルティング
5769	経営管理	信頼を勝ち取る言葉: 全米消費者調査で見えた!	マイケル・マスランスキー/スコット・ウェスト	日経BPコンサルティング
5770	経営管理	Brand STORY Design: ブランドストーリーの創り方	細谷正人	日経BP社
5771	経営管理	BtoBマーケティングの基本: IT化のインパクトを理解する12の視点		日経BP社
5772	経営管理	あの夏、サバ缶はなぜ売れたのか?: 仮説を行動、成果につなげるビジネスビッグデータ分析	大木真吾	日経BP社
5773	経営管理	オムニチャネル&O2Oの教科書		日経BP社
5774	経営管理	グロースハッカー: 会社もサービスも劇的に成長させるものの売り方、つくり方, 第2版	ライアン・ホリデイ	日経BP社
5775	経営管理	シェアリングエコノミー: Airbnb、Uberに続くユーザー主導の新ビジネスの全貌	アルン・スンドララジャン	日経BP社
5776	経営管理	ブランド・ジーン: 繁盛をもたらす遺伝子	阪本啓一	日経BP社
5777	経営管理	マーケティングオートメーション入門: 1人のマーケターで10万人の見込み客を育成する	電通イーマーケティングワン	日経BP社
5778	経営管理	マーケティングのKPI: 「売れる仕組み」の新評価軸	上島千鶴	日経BP社
5779	経営管理	究極のBtoBマーケティングABM	庭山一郎	日経BP社
5780	経営管理	経営とデザインの幸せな関係	中川淳	日経BP社
5781	経営管理	商品を売るな: コンテンツマーケティングで「見つけてもらう」仕組みをつくる	宗像淳	日経BP社
5782	経営管理	世界最先端のマーケティング: 顧客とつながる企業のチャンネルシフト戦略	奥谷孝司/岩井琢磨	日経BP社
5783	経営管理	戦略思考の魅力度ブランディング: 企業価値を高める「魅力」の磨き方と伝え方	企業広報戦略研究所	日経BP社
5784	経営管理	超先進企業が駆使するデジタル戦略: データ分析、SNS、クラウドで本当に強くなるための5大原則	ポプ・ロード/レイ・ヴェレズ	日経BP社
5785	経営管理	超日本製品論: これから来るスーパージャパン時代の基礎データ&マーケティング入門	木戸良彦	日経BP社
5786	経営管理	「3つのF」が価値になる!: SNS消費時代のモノの売り方	藤村正宏	日本経済新聞出版社
5787	経営管理	「あっ、欲しい!」のつくり方: 1%に売れば99%儲かる	幸本陽平	日本経済新聞出版社
5788	経営管理	「こんなもの誰が買うの?」がブランドになる: 共感から始まる顧客価値創造	阪本啓一	日本経済新聞出版社
5789	経営管理	「つながり」で売る!7つの法則	藤村正宏	日本経済新聞出版社
5790	経営管理	「なぜか売れる」の公式	理央周	日本経済新聞出版社
5791	経営管理	「時間消費」で勝つ!: THE TIME VALUE × THE SPACE VALUE	松岡真宏/松本渉	日本経済新聞出版社
5792	経営管理	「爆買い」中国人に売る方法: これが正しいインバウンド消費攻略	徐向東	日本経済新聞出版社
5793	経営管理	200社に足を運んでわかったお客さんがホイホイ集まる法則	竹内謙礼	日本経済新聞出版社
5794	経営管理	L70を狙え!: 70歳以上の女性が消費の主役になる	吉本佳生	日本経済新聞出版社
5795	経営管理	Twitterカンパセーション・マーケティング: ビジネスを成功に導く“会話”の正体	崎谷実穂	日本経済新聞出版社
5796	経営管理	YouTubeをビジネスに使う本	熊坂仁美	日本経済新聞出版社
5797	経営管理	シェアリング・エコノミー: Uber、Airbnbが変えた世界	宮崎康二	日本経済新聞出版社
5798	経営管理	シニアマーケティングはなぜうまくいかないのか: 新しい大人消費が日本を動かす	阪本節郎	日本経済新聞出版社
5799	経営管理	デジタル変革マーケティング: DIGITAL TRANSFORMATION MARKETING	横山隆治/内田康雄	日本経済新聞出版社
5800	経営管理	なぜか売れる営業の超思考	理央周	日本経済新聞出版社
5801	経営管理	ビッグデータ分析Excel新機能で簡単に!	田中正道/前野好太郎	日本経済新聞出版社
5802	経営管理	ブランディング7つの原則: 成長企業の世界標準ノウハウ, 改訂版	インターブランドジャパン	日本経済新聞出版社
5803	経営管理	安売りするな!「価値」を売れ!, 新版	藤村正宏	日本経済新聞出版社
5804	経営管理	引き算する勇氣: 会社を強くする逆転発想	岩崎邦彦	日本経済新聞出版社
5805	経営管理	女性市場攻略法: 生活者市場予測が示す広がる消費、縮む消費		日本経済新聞出版社
5806	経営管理	小さな会社こそ、高く売ちなさい	竹内謙礼	日本経済新聞出版社
5807	経営管理	宅配がなくなる日: 同時性解消の社会論	松岡真宏/山手剛人	日本経済新聞出版社
5808	経営管理	日経MJトレンド情報源: 流通・消費: 2018		日本経済新聞出版社
5809	経営管理	儲かる一言損する一言: 値決めの心理作戦	田中靖浩	日本経済新聞出版社
5810	経営管理	「高く売る」ためのマーケティングの教科書: 競合他者との圧倒的な「差」をつくる13のポイント	大崎孝徳	日本実業出版社
5811	経営管理	GRMの基本: この1冊ですべてわかる	坂本雅志	日本実業出版社
5812	経営管理	ブランディングの基本: この1冊ですべてわかる	安原智樹	日本実業出版社
5813	経営管理	課題解決につながる「実践マーケティング」入門	理央周	日本実業出版社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
5814	経営管理	神視点マーケティング: 顧客が気づいていない「価値」を見出す4つのアングル	富澤豊	日本実業出版社
5815	経営管理	世界中に販路を拡げる海外Webマーケティングの教科書	高岡謙二	日本実業出版社
5816	経営管理	中小製造業のための儲かるWebブランディングの教科書: 「自社だけの市場」が必ず見つかる	村上肇	日本実業出版社
5817	経営管理	買ったがる脳: なぜ、「それ」を選んでしまうのか?	デイビッド・ルイス	日本実業出版社
5818	経営管理	売上につながる「顧客ロイヤルティ戦略」入門	遠藤直紀/武井由紀子	日本実業出版社
5819	経営管理	脱・価格競争で売れ。: 実践アドバンテージ・マーケティング (コミュニティ・ブックス)	堀田周郎	日本地域社会研究所
5820	経営管理	あたらしいWebマーケティングハンドブック: トリプルメディア戦略を最適化させるテクニック	カーソメディアワークス	日本能率協会マネジメントセンター
5821	経営管理	マンガでやさしくわかるコトラー	安部徹也/松尾陽子	日本能率協会マネジメントセンター
5822	経営管理	マンガでやさしくわかるマーケティング	安田貴志/重松延寿	日本能率協会マネジメントセンター
5823	経営管理	事例でわかる実戦顧客倍増マーケティング戦略: お客様をファン化する手法!	佐藤義典	日本能率協会マネジメントセンター
5824	経営管理	心理マーケティング100の法則: お客様の無意識に語りかける心のコミュニケーション技法	酒井とし夫	日本能率協会マネジメントセンター
5825	経営管理	図解オムニチャネル・マーケティング戦略	小河原光司	日本能率協会マネジメントセンター
5826	経営管理	グローバル・ブランド・イメージ戦略: 異なる文化圏ごとにマーケティングの最適化を探る	古川裕康	白桃書房
5827	経営管理	グローバル・マーケティング零	大石芳裕	白桃書房
5828	経営管理	グローバル戦略市場経営: グローバル展開とマーケティング・マネジメントの統合	アイアン・アロン/ユージン・D.ジャッフ	白桃書房
5829	経営管理	サービス・ロジックによる現代マーケティング理論: 消費プロセスにおける価値共創へのノルディック学派アプローチ	クリスチャン・グルンルース	白桃書房
5830	経営管理	マーケティング・マインドとイノベーション	田口冬樹	白桃書房
5831	経営管理	マーケティングの批判精神: 持続可能社会の実現を目指して	折笠和文	白桃書房
5832	経営管理	マーケティング講義ノート: MARKETING LECTURE NOTE	滋野英憲/辻幸恵	白桃書房
5833	経営管理	マーケティング零	大石芳裕	白桃書房
5834	経営管理	マーケティング論, 改訂版	新津重幸/庄司真人	白桃書房
5835	経営管理	共感ブランド: 場と物語がつくる顧客参加の仕組み	金森剛	白桃書房
5836	経営管理	入門 マーケティング論, 第5版	草野素雄	八千代出版
5837	経営管理	アテンション: 「注目」で人を動かす7つの新戦略	ベン・パー	飛鳥新社
5838	経営管理	爆買いの正体	鄭世彬	飛鳥新社
5839	経営管理	リレーションシップのマネジメント: Relationship Management (法政大学イノベーション・マネジメント研究センター叢書 8)	竹内淑恵	文眞堂
5840	経営管理	新ヒットの方程式: ソーシャルメディア時代は「モノ」を売るな「共感」を売れ!	物延秀	宝島社
5841	経営管理	買わせる心理学: 相手に気づかれず「その気」にさせる技術		宝島社
5842	経営管理	マーケティング論 (放送大学教材)	芳賀康浩/平木いくみ	放送大学教育振興会
5843	経営管理	コーズ・リレーテッド・マーケティング: 社会貢献をマーケティングに活かす戦略, 増補改訂版	世良耕一	北樹出版
5844	経営管理	デザイン・マーケティング・ブランドの起源: 21世紀のビジネストリニティ戦略	泉利治	牧歌舎東京本部
5845	経営管理	使えないとアウト!30代からはマーケティングで稼ぎなさい	蛭川速	明日香出版社
5846	経営管理	グローバル・マーケティング戦略 (有斐閣アルマ Specialized)	三浦俊彦/丸谷雄一郎	有斐閣
5847	経営管理	ケースに学ぶマーケティング: Introduction to Marketing: Studying through Cases (有斐閣ブックス 473)		有斐閣
5848	経営管理	フェイス・トゥ・フェイス・ブック: クチコミ・マーケティングの効果を最大限に高める秘訣	エド・ケラー/ブラッド・フェイ	有斐閣
5849	経営管理	マーケティング・エンジニアリング入門 (有斐閣アルマ Specialized)	上田雅夫/生田目崇	有斐閣
5850	経営管理	マーケティングをつかむ, 新版 (TEXTBOOKS TSUKAMU)	黒岩健一郎/水越康介	有斐閣
5851	経営管理	マーケティング戦略, 第5版 (有斐閣アルマ Specialized)	和田充夫/恩蔵直人	有斐閣
5852	経営管理	外部マーケティング資源としての消費者行動: 市場の異質性から競争優位を獲得する	西本章宏	有斐閣
5853	経営管理	感覚マーケティング: 顧客の五感が買い物にどのような影響を与えるのか	A.クリシュナ	有斐閣
5854	経営管理	競争を味方につけるマーケティング: 脱コモディティ化のための新発想	勝又壮太郎/西本章宏	有斐閣
5855	経営管理	入門・マーケティング戦略	池尾恭一	有斐閣
5856	経営管理	データでわかる団塊の財布・ジュニアの財布	三浦展/三菱総合研究所生活者市場予測システム	洋泉社
5857	経営管理	「売れる商品」の原動力: インナーブランディングの思想	井尻雄久	論創社
5858	経営管理	BtoBウェブマーケティングの新しい教科書: 営業力を飛躍させる戦略と実践 (MarkeZine BOOKS)	渥美英紀	翔泳社
5859	経営管理	BtoBのためのマーケティングオートメーション正しい選び方・使い方: 日本企業のマーケティングと営業を考える (MarkeZine BOOKS)	庭山一郎	翔泳社
5860	経営管理	EXCELマーケティングリサーチ&データ分析 (ビジテックBUSINESS TECHNIQUE)	末吉正成/千野直志	翔泳社
5861	経営管理	Facebookマーケティング: 価値ある「いいね!」を集める心得と手法 (ビジテックBUSINESS TECHNIQUE)	斎藤哲	翔泳社
5862	経営管理	Live!ウェブマーケティング基礎講座	大橋聡史/渥美英紀	翔泳社
5863	経営管理	MarkeZine: マーケティング最前線2017		翔泳社
5864	経営管理	Work in Progressデジタルマーケティングで大切なこと (MarkeZine BOOKS)	板澤一樹	翔泳社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
5865	経営管理	アマゾンにも負けない、本当に強い会社が続いていること。: 価格競争をやめる。集客で勝負しない。マーケティングを捨てる。	権成俊	翔泳社
5866	経営管理	キャズム: 新商品をブレイクさせる「超」マーケティング理論, Ver.2増補改訂版	ジェフリー・ムーア	翔泳社
5867	経営管理	コミュニティマネージャーの仕事: ソーシャルメディア活用の司令塔	中山領	翔泳社
5868	経営管理	コンテンツマーケティング27の極意: 編集者のように考えよう	レベッカ・リーブ	翔泳社
5869	経営管理	サラサラ読めるのにジワッとさせる「マーケティング」のきほん: 大切な理論 現場の知恵 B to C B to B	庭山一郎	翔泳社
5870	経営管理	ゼロからはじめる売上アップのためのネット活用: 「覚えること」「やること」一問一答	永友一朗/阿部義広	翔泳社
5871	経営管理	デジタルマーケティングで売上の壁を超える方法 (MarkeZine BOOKS)	西井敏恭	翔泳社
5872	経営管理	デジタル時代の基礎知識『SNSマーケティング』: 「つながり」と「共感」で利益を生み出す新しいルール (MarkeZine BOOKS)	林雅之	翔泳社
5873	経営管理	デジタル時代の基礎知識『ブランディング』: 「顧客体験」で差がつく時代の新しいルール (MarkeZine BOOKS)	山口義宏	翔泳社
5874	経営管理	デジタル時代の基礎知識『マーケティング』: 「顧客ファースト」の時代を生き抜く新しいルール (MarkeZine BOOKS)	逸見光次郎	翔泳社
5875	経営管理	ノヤン先生のマーケティング学	庭山一郎	翔泳社
5876	経営管理	ハッキング・マーケティング: 実験と改善の高速なサイクルがイノベーションを次々と生み出す (MarkeZine BOOKS)	スコット・プリンカー	翔泳社
5877	経営管理	ハマるしかけ: 使われつづけるサービスを生み出す<心理学>×<デザイン>の新ルール	ニール・イヤール/ライアン・フォーバー	翔泳社
5878	経営管理	仕事に使える動画術: 成功例に学ぶYouTube活用とオリジナル動画作成法	家子史穂/千崎達也	翔泳社
5879	経営管理	土業のためのWeb集客術: 成約率が10倍になる	保田昌宏	翔泳社
5880	経営管理	自社のブランド力を上げる!オウンドメディア制作・運用ガイド: WordPress・Facebook・Twitterで作るメディア構築ノウハウ	深谷歩	翔泳社
5881	経営管理	小さなお店のLINE@集客・販促ガイド: お店はいつも大繁盛! (Small Business Support-時間がない 予算がない 知識がない そんなお店でも大丈夫!)	松浦法子/深谷歩	翔泳社
5882	経営管理	数字思考力×EXCELでマーケティングの成果を上げる本	植山周志	翔泳社
5883	経営管理	達人に学ぶGoogleアナリティクス実践講座: 売上に貢献するデータ分析がわかる7つのレッスン	小川卓/野口竜司	翔泳社
5884	経営管理	熱狂顧客戦略: 「いいね」の先にある熱が伝わるマーケティング・コミュニケーション (MarkeZine BOOKS)	高橋遼	翔泳社
5885	経営管理	毎日の発信に役立つWebプロモーションのネタ出しノート: お金より頭を使って商品・サービスを広める方法	田中千晶	翔泳社
5886	経営管理	ブランド創造史: その起源・展開・未来	ウォーリー・オリンズ	創元社
5887	経営管理	マーケティング学説史: 日本編, 増補版		同文館出版
5888	経営管理	コンサルタントによるマーケティング理論とマネジメント実践 (マーケティングシリーズ)	伊庭久裕	クリエイティブユニット(エコハ出版)
5889	経営管理	グローバル競争と流通・マーケティング: 流通の変容と新戦略の展開 (現代社会を読む経営学 9)	齋藤雅通/佐久間英俊	ミネルヴァ書房
5890	経営管理	先を読むマーケティング: 新しいビジネスモデルの構築に向けて	中田善啓/西村順二	同文館出版
5891	経営管理	日本発!世界のヒット商品		毎日新聞社
5892	経営管理	PACKAGE Illustration: 食品 飲料 日用品 雑貨		アルファブックス/アルファ企画
5893	経営管理	一瞬で心をつかむパッケージデザインの見本帳: 商品価値を高めるアイデアと技法		エムディエヌコーポレーション
5894	経営管理	パケ買いしたくなる!ヒット商品のデザイン: 思わず手にとるパッケージ	PIE BOOKS	バイインターナショナル
5895	経営管理	地域発ヒット商品のデザイン: 消費者の心をつかむおみやげもの・特産物特集!		バイインターナショナル
5896	経営管理	スモールエクセレントカンパニー: 「驚きと感動」を生む梱包業界のニッチトップ	金坂良一	東方通信社
5897	経営管理	パッケージデザインの教科書: Textbook for package design, 第3版		日経BP社
5898	経営管理	ロングセラーパッケージ大全		日経BP社
5899	経営管理	人気デパ地下「スイーツ」パッケージ図鑑: 写真で分かる	廣川淳哉	日経BP社
5900	経営管理	人気デパ地下手みやげパッケージ図鑑		日経BP社
5901	経営管理	年鑑日本のパッケージデザイン: Package Design in Japan Biennial: 2017		六耀社
5902	経営管理	Rで学ぶ統計データ分析: マーケティングデータを分析しながら正しい理論と分析力を身につける	本橋永至	オーム社
5903	経営管理	プロが教えるマーケティングリサーチとデータ分析の基本: 良質な仮説が調査成功のカギ アクションにつながる実践的リサーチのポイント	中野崇	すばる舎
5904	経営管理	アナリストが教えるリサーチの教科書: 自分でできる情報収集・分析の基本	高辻成彦	ダイヤモンド社
5905	経営管理	なぜあなたの予測は外れるのか: AIが起こすデータサイエンス革命	小松秀樹	育鵬社
5906	経営管理	サイレント・ニーズ: ありふれた日常に潜む巨大なビジネスチャンスを探る	ヤン・テップチェイス/サイモン・スタインハルト	英治出版
5907	経営管理	仕事に使えるクチコミ分析: テキストマイニングと統計学をマーケティングに活用する	小林雄一郎	技術評論社
5908	経営管理	ビッグデータ活用の常識は今すぐ捨てなさい: 経営者のためのシンプルなニーズ予測戦略		幻冬舎メディアコンサルティング
5909	経営管理	顧客の「本音」がわかる9つの質問: 「売れる」商品は本当の顧客を見抜いている	橋本哲児	秀和システム
5910	経営管理	「おいしい」のマーケティングリサーチ: 新市場創造への宝探し (SGビジネス双書)	高垣敦郎	碩学舎
5911	経営管理	消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ (SGビジネス双書)	ラッセル・ベルク/アイリーン・フィッシュキナー	碩学舎
5912	経営管理	ビッグデータの使い方・活かし方: マーケティングにおける活用事例	朝野照彦	東京図書
5913	経営管理	マーケット・インテリジェンス論: 経営者の意思決定をどう支援するか	竹内正人	日経BP社
5914	経営管理	世代×性別×ブランドで切る!: 3万人調査が語るニッポンの消費生活, 第5版	マクロミルブランドデータバンク	日経BP社
5915	経営管理	未来市場: Future Forecast of Upcoming Markets: 2018-2027	秦充洋	日経BP社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
5916	経営管理	食のコト消費に魅せられる人々: 好奇心旺盛で発信力強く		日本経済新聞社産業地域研究所
5917	経営管理	マーケティング・リサーチの基本: この1冊ですべてわかる	岸川茂/JMRX	日本実業出版社
5918	経営管理	需要予測の基本: この1冊ですべてわかる	山口雄大	日本実業出版社
5919	経営管理	心理マーケティングの基本: この1冊ですべてわかる	梅津順江	日本実業出版社
5920	経営管理	リサーチ・ビジョン: マーケティング・リサーチの実際	辻幸恵	白桃書房
5921	経営管理	デジタル時代の基礎知識「リサーチ」: 多彩なデータから顧客の「すべて」を知る新しいルール (MarkeZine BOOKS)	石渡佑矢	翔泳社
5922	経営管理	バカ売れ法則大全: Secret of Great Hit Products	行列研究所	SBクリエイティブ
5923	経営管理	無印良品の「あれ」は決して安くはないのになぜ飛ぶように売れるのか?: 100億円の価値を生み出す凄腕のつくり方	江上隆夫	SBクリエイティブ
5924	経営管理	リーン顧客開発: 「売れないリスク」を極小化する技術 (THE LEAN SERIES)	シンディ・アルバレス	オライリー・ジャパン
5925	経営管理	面白い企画がなぜ、残念な商品・サービスになってしまうのか?	太田昌宏	クロスメディア・パブリッシング
5926	経営管理	ヒット商品を生み出す最良最短の方法: 商品開発者1000人の実践から引き出した24の秘訣	浜島太	こう書房
5927	経営管理	売れる化: 経営戦略よりコストカットより大切な商売の基本	本多利範	プレジデント社
5928	経営管理	PB商品戦略の変遷と展望 (奈良学園大学社会科学学会研究叢書 1)	水野清文	晃洋書房
5929	経営管理	アイデアが枯れない頭のつくり方	高橋晋平	阪急コミュニケーションズ
5930	経営管理	技術者のためのマーケティング: 顧客価値の構想と戦略	谷地弘安	千倉書房
5931	経営管理	ひらめきをデザインする: 熱狂的ヒットのつくりかた	ジョン・コロコ	早川書房
5932	経営管理	最強の商品開発: イノベーションを確実に収益化する9原則	M.ラマヌジャム/G.タツケ	中央経済社
5933	経営管理	コンセプトのつくり方: たとえば商品開発にも役立つ電通の発想法	山田壮夫	朝日新聞出版
5934	経営管理	センスは知識からはじまる	水野学	朝日新聞出版
5935	経営管理	アイデア・メーカー: 今までにない発想を生み出しビジネスモデルを設計する教科書 & 問題集	山口高弘	東洋経済新報社
5936	経営管理	「強い売りモノ」の創り方: 戦わずロングセラーにする	梅澤伸嘉	同文館出版
5937	経営管理	「高く売る」戦略: プレミアム商品「こだわり」の源を探る	大崎孝徳	同文館出版
5938	経営管理	ロングヒット商品開発: 成功率100倍のMIPの秘密、新版	梅澤伸嘉	同文館出版
5939	経営管理	経営学者が書いたデザインマネジメントの教科書	森永泰史	同文館出版
5940	経営管理	理想追求型QCストーリー: 「未来の顧客価値」を起点にしたコンセプト主導型の新製品・サービス開発手法	加藤雄一郎	日科技連出版社
5941	経営管理	クリエイティブのつかいかた: ビジネスに活かすトップクリエイター12人の仕事術	西澤明洋	日経BP社
5942	経営管理	デザインマネジメント: DESIGN MANAGEMENT: Why do you need design?	田子學/田子裕子	日経BP社
5943	経営管理	デザイン思考のつくりかた: 実践企業とトップクリエイターに学ぶ成功のポイントと落とし穴		日経BP社
5944	経営管理	ヒットの教科書: プロジェクトを成功させた「挑戦者」に学ぶ (NIKKEI TRENDY BOOKS)	奥井真紀子	日経BP社
5945	経営管理	偉大な発明に学ぶアイデアのつくり方: 思考展開ワークショップ	三原康司	日経BP社
5946	経営管理	一流ビジネスマンは誰でも知っているヒットの原理: 売れるプラン作成の基本	高杉康成	日経BP社
5947	経営管理	実践デザイン・シンキング: クリエイティブな思考で、ゼロ発想のイノベーションへ		日経BP社
5948	経営管理	突破するデザイン: あふれるビジョンから最高のヒットをつくる	ロベルト・ベルガント	日経BP社
5949	経営管理	美崎栄一郎のヒットの謎解き	美崎栄一郎	日経BP社
5950	経営管理	儲かるデザイン戦略: 商品が変わる! 企業が伸びる!		日経BP社
5951	経営管理	イノベーションの誤解: Misunderstanding Innovation	鷺田祐一	日本経済新聞出版社
5952	経営管理	実践ペルソナ・マーケティング: 製品・サービス開発の新しい常識		日本経済新聞出版社
5953	経営管理	ヒットの正体: そうそう、それが欲しかった	山本康博	日本実業出版社
5954	経営管理	商品開発学: 商品はこうしてつくる	小塩稲之	日本版路コーディネータ協会出版局
5955	経営管理	中小企業のための新製品・サービス開発の極意	大竹裕幸	発明推進協会
5956	経営管理	インサイドボックス究極の創造的思考法	ジェイコブ・ゴールデンバーグ/ドリュー・ポイド	文藝春秋
5957	経営管理	ヒット商品は「足し算と引き算の法則」でできる!	起業家大学	宝島社
5958	経営管理	グローバル製品開発戦略: 日本コカ・コーラ社の成功と日本ペプシコ社の撤退	多田和美	有斐閣
5959	経営管理	デュアル・ブランド戦略: NB and/or PB	矢作敏行	有斐閣
5960	経営管理	製品開発の現地化: デンソーに見る本社組織の変化と知識連携	金照珍	有斐閣
5961	経営管理	商品開発のための心理学	熊田孝恒	勁草書房
5962	経営管理	コレが欲しかった!と言われる「商品企画」のきほん: コンセプト 企画書の書き方 販促プラン 顧客育成	末吉孝生	翔泳社
5963	経営管理	物流ビジネスと輸送技術, 改訂版 (交通論おもしろゼミナール 6)	澤喜司郎	成山堂書店
5964	経営管理	最新物流業界の動向とカラクリがよくわかる本: 業界人、就職、転職に役立つ情報満載, 第3版 (図解入門業界研究-How-nual-)	橋本直行	秀和システム
5965	経営管理	よくわかる物流業界, 最新4版 (最新業界の常識)	齊藤実	日本実業出版社
5966	経営管理	アップル、グーグルが自動車産業を乗っ取る日	桃田健史	洋泉社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
5967	経営管理	仁義なき宅配: ヤマトVS佐川VS日本郵便VSアマゾン	横田増生	小学館
5968	経営管理	ネット通販時代の宅配便(日本交通政策研究会研究双書 29)	林克彦/根本敏則	成山堂書店
5969	経営管理	ヤマト正伝: 小倉昌男が遺したもの	日経ビジネス	日経BP社
5970	経営管理	宅配クライシス: Parcel Delivery Crisis		日本経済新聞出版社
5971	経営管理	鉄道と観光の近現代史(河出ブックス 107)	老川慶喜	河出書房新社
5972	経営管理	JRに未来はあるか	上岡直見	緑風出版
5973	経営管理	被災鉄道: 復興への道	芦原伸	講談社
5974	経営管理	日本鉄道業の事業戦略: 鉄道経営と地域活性化	那須野育大	白桃書房
5975	経営管理	鉄道と自然災害: 列車を護る防災・減災対策		日刊工業新聞社
5976	経営管理	エアライン・ビジネス入門	稲本恵子	晃洋書房
5977	経営管理	航空産業入門, 第2版	ANA総合研究所	東洋経済新報社
5978	経営管理	最新航空事業論: エアライン・ビジネスの未来像, 第2版	井上泰日子	日本評論社
5979	経営管理	エアライン/エアポート・ビジネス入門: 観光交流時代のダイナミズムと戦略, 第2版	高橋望/横見宗樹	法律文化社
5980	経営管理	どんな問題も「チーム」で解決するANAの口ぐせ	ANAビジネスソリューション	KADOKAWA
5981	経営管理	仕事も人間関係もうまくいくANAの気づかい	ANAビジネスソリューション	KADOKAWA
5982	経営管理	JALの現場力	金子寛人	日経BP社
5983	経営管理	航空幻想: 日本の空は変わったか, 第2版	中条潮	中央経済社
5984	経営管理	空港経営と地域: 航空・空港政策のフロンティア	加藤一誠	成山堂書店
5985	経営管理	日本郵政: JAPAN POST	井手秀樹	東洋経済新報社
5986	経営管理	最新通信業界の動向とカラクリがよくわかる本: 業界人、就職、転職に役立つ情報満載, 第4版(図解入門業界研究-How-nual-)	中野明	秀和システム
5987	経営管理	芸術経営学事始め: 芸術と経営の教育基礎を結ぶ	村山にな/村山元英	文眞堂
5988	経営管理	情報デザインのワークショップ		丸善出版
5989	経営管理	問題解決に効く「行為のデザイン」思考法	村田智明	CCCメディアハウス
5990	経営管理	街角で見つけた、デザイン・シンキング	竹原あき子	日経BP社
5991	経営管理	始まりを告げる《世界標準》音楽マーケティング: 戦略PRとソーシャルメディアでムーブメントを生み出す新しい方法	高野修平	リットーミュージック
5992	経営管理	最新音楽業界の動向とカラクリがよくわかる本: 業界人、就職、転職に役立つ情報満載, 第4版(図解入門業界研究-How-nual-)	大川正義	秀和システム
5993	経営管理	誰が音楽をタダにした?: 巨大産業をぶっ潰した男たち	スティーヴン・ウィット	早川書房
5994	経営管理	音楽産業 再成長のための組織戦略: 不確実性と複雑性に対する音楽関連企業の組織マネジメント	八木良太	東洋経済新報社
5995	経営管理	デジタルが変えるアニメビジネス	増田弘道	NTT出版
5996	経営管理	ピクサー流創造するちから: 小さな可能性から、大きな価値を生み出す方法	エド・キャットムル/エイミー・ワラス	ダイヤモンド社
5997	経営管理	最新アニメ業界の動向とカラクリがよくわかる本: 業界人、就職、転職に役立つ情報満載, 第2版(図解入門業界研究-How-nual-)	谷口功/麻生はじめ	秀和システム
5998	経営管理	スポーツの経済学: 2020年に向けてのビジネス戦略を考える	小林至	PHP研究所
5999	経営管理	メジャーリーグの現場に学ぶビジネス戦略: マーケティング、スポンサーシップ、ツーリズムへの展開	川上祐司	晃洋書房
6000	経営管理	スポーツ経営学入門: 理論とケース, 増補改訂版	大野貴司	三恵社
6001	経営管理	最新スポーツビジネスの動向がよくわかる本: 業界人、就職、転職に役立つ情報満載(図解入門業界研究-How-nual-)	湯浅真弥	秀和システム
6002	経営管理	スポーツマネジメント論: アメリカの大学スポーツビジネスに学ぶ	吉田良治	昭和堂
6003	経営管理	スポーツマネジメント入門: プロ野球とプロサッカーの経営学, 第2版	西崎信男	税務経理協会
6004	経営管理	マーケティング視点のスポーツ戦略	海老塚修	創文企画
6005	経営管理	スポーツビジネス概論	黒田次郎/遠藤利文	叢文社
6006	経営管理	スポーツビジネス概論: 2	黒田次郎/石塚大輔	叢文社
6007	経営管理	スポーツビジネス概論: 3		叢文社
6008	経営管理	スポーツの資金と財務	武藤泰明	大修館書店
6009	経営管理	スポーツマーケティング: Sport Marketing, 改訂版(スポーツビジネス叢書)	原田宗彦/藤本淳也	大修館書店
6010	経営管理	スポーツマネジメント: Sport Management, 改訂版(スポーツビジネス叢書)	原田宗彦/小笠原悦子	大修館書店
6011	経営管理	図とイラストで学ぶ新しいスポーツマネジメント	山下秋二/中西純司	大修館書店
6012	経営管理	スポーツ・マネジメント入門: 24のキーワードで理解する, 第2版	広瀬一郎	東洋経済新報社
6013	経営管理	スポーツビジネス最強の教科書: THE STRONGEST TEXTBOOK FOR SPORTS BUSINESS LEARNERS, 第2版	平田竹男	東洋経済新報社
6014	経営管理	スポーツの経営史: その多様なアプローチを目指して(K.G.りぶれっと No.38)	市川文彦/脇村春夫	関西学院大学出版会
6015	経営管理	スポーツ団体のマネジメント入門: 透明性のあるスポーツ団体を目指して(スポーツの未来を考える 1)	新日本有限責任監査法人	同文館出版
6016	経営管理	プロスポーツ・ビジネス羅針盤: マンチェスター・ユナイテッドほか世界に学ぶ	西野努/藤原兼蔵	税務経理協会
6017	経営管理	TEDトーク世界最高のプレゼン術: 実践編	ジェレミー・ドノバン	新潮社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
6018	経営管理	TED TALKS: スーパープレゼンを学ぶTED公式ガイド	クリス・アンダーソン	日経BP社
6019	経営管理	話す力: 自分の言葉を引き出す方法 (決定版カーネギー)	D.カーネギー	新潮社
6020	経営管理	プロフェッショナル・ファシリテーター: どんな修羅場も切り抜ける6つの流儀	ラリー・ドレスラー	ダイヤモンド社
6021	経営管理	イノベーション・ファシリテーター: 3カ月で社会を変えるための思想と実践	野村恭彦	プレジデント社
6022	経営管理	OST実践ガイド: 人と組織の「アイデア実行力」を高める	香取一昭/大川恒	英治出版
6023	経営管理	ダボス会議に見る世界のトップリーダーの話し術: 言葉を超えたメッセージの戦い	田坂広志	東洋経済新報社
6024	経営管理	ワールド・カフェをやろう: 会話がつながり、世界がつながる, 新版	香取一昭/大川恒	日本経済新聞出版社
6025	経営管理	ビジネスコミュニケーションのためのケース学習: 職場のダイバーシティで学び合う: 解説編	近藤彰/金孝卿	ココ出版
6026	経営管理	タスクで学ぶ日本語ビジネスメール・ビジネス文書: 適切にメッセージを伝える力の養成をめざして	村野節子/山陽子	スリーエーネットワーク
6027	経営管理	新しい文章力の教室: 苦手を得意に変えるナタリー式トレーニング (できるビジネス)	唐木元	インプレス
6028	経営管理	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『イノベーションと企業家精神』を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社
6029	経営管理	宇宙を目指して海を渡る: MITで得た学び、NASA転職を決めた理由	小野雅裕	東洋経済新報社
6030	加工・流通・販売	わかりやすい食品の基礎と機能性分析法	宇田靖/大石祐一	アイ・ケイコーポレーション
6031	加工・流通・販売	健康を考えた食品学実験, 改訂新版	渡辺達夫/森光康次郎	アイ・ケイコーポレーション
6032	加工・流通・販売	食品の機能化学, 新訂	宮澤陽夫/五十嵐脩	アイ・ケイコーポレーション
6033	加工・流通・販売	図解食品学実験	森光康次郎/新藤一敏	アイ・ケイコーポレーション
6034	加工・流通・販売	メイラード反応の機構・制御・利用: Mechanism, Control and Use of the Maillard Reaction (食品シリーズ)		シーエムシー出版
6035	加工・流通・販売	食のバイオ計測の最前線: 機能解析と安全・安心の計測を目指して, 普及版 (バイオテクノロジーシリーズ)		シーエムシー出版
6036	加工・流通・販売	食品ナノコロイドの開発と応用 (食品シリーズ)	西成 勝好	シーエムシー出版
6037	加工・流通・販売	食品ナノコロイドの開発と応用: Food Hydrocolloids: Development and Applications: 2 (食品シリーズ)		シーエムシー出版
6038	加工・流通・販売	嗜好品の香りと健康: 香りで健康に過ごそう	青島均	フレグランスジャーナル社
6039	加工・流通・販売	食品学実験書, 第3版	藤田修三/山田和彦	医歯薬出版
6040	加工・流通・販売	カリカリベーコンはどうして美味しいにおいの?: 食べ物・飲み物にまつわるカガクのギモン	ANDY BRUNNING	化学同人
6041	加工・流通・販売	料理と科学の楽しい出会い: 分子調理が食の常識を変える (DOJIN選書 59)	石川伸一	化学同人
6042	加工・流通・販売	料理の科学: 素朴な疑問に答えます: 1	ロバート・ウォルク	楽工社
6043	加工・流通・販売	料理の科学: 素朴な疑問に答えます: 2	ロバート・ウォルク	楽工社
6044	加工・流通・販売	料理の科学: 素朴な疑問に再び答えます: 続1	ロバート・L.ウォルク	楽工社
6045	加工・流通・販売	料理の科学: 素朴な疑問に再び答えます: 続2	ロバート・L.ウォルク	楽工社
6046	加工・流通・販売	食品分析 (試料分析講座)		丸善出版
6047	加工・流通・販売	食品分析 (分析化学実技シリーズ 応用分析編 5)	中澤裕之/堀江正一	共立出版
6048	加工・流通・販売	基礎からの食品・栄養学実験, 改訂	村上俊男/池内ますみ	建帛社
6049	加工・流通・販売	基礎から学ぶ食品化学実験テキスト	谷口垂樹子/古庄律	建帛社
6050	加工・流通・販売	食品学実験書, 新版改訂	青柳康夫/青木隆子	建帛社
6051	加工・流通・販売	水と調理のいろいろ: 調理で水の特性を感じる	香西みどり	光生館
6052	加工・流通・販売	食品の匂いと異臭	加藤寛之/渡辺久夫	幸書房
6053	加工・流通・販売	新ポケット食品・調理実験辞典, 改訂増補版		幸書房
6054	加工・流通・販売	食品学実験	山藤圭子	講談社
6055	加工・流通・販売	新食品理化学実験書	高野克己/渡部俊弘	三共出版
6056	加工・流通・販売	身のまわりの食品分析実験	安藤達彦/吉田宗弘	三共出版
6057	加工・流通・販売	食品分析化学 (新スタンダード栄養・食物シリーズ 18)	新藤一敏/森光康次郎	東京化学同人
6058	加工・流通・販売	にいと味わいの不思議: 知ればもっとワインがおいしくなる	東原和成/佐々木佳津子	虹有社
6059	加工・流通・販売	食品分析学: 機器分析から応用まで, 改訂版		培風館
6060	加工・流通・販売	薬学領域の食品衛生化学, 第2版		廣川書店
6061	加工・流通・販売	激安食品の落とし穴	山本謙治	KADOKAWA
6062	加工・流通・販売	家庭でできる食品添加物・農薬を落とす方法: 食材の選び方から下ごしらえ、食べ方の工夫まで, 最新版	増尾清	PHP研究所
6063	加工・流通・販売	健康と食の安全を考えた食品衛生学実験, 改訂新版	増田修一/池田隆幸	アイ・ケイコーポレーション
6064	加工・流通・販売	「食の安全」基礎知識	岡部とし子/金井美恵子	アドスリー
6065	加工・流通・販売	食品分野における非加熱殺菌技術		エヌ・ティー・エス
6066	加工・流通・販売	Excelで学ぶ食品微生物学: 増殖・死滅の数学モデル予測	藤川浩	オーム社
6067	加工・流通・販売	だいじょうぶ?食の安全: 明日の子どものために	中村幹雄	オブアワーズ
6068	加工・流通・販売	食と消費者の権利: 食品添加物、遺伝子組換え食品を例として	中村幹雄	オブアワーズ

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
6069	加工・流通・販売	食の安全と安心: 見える表示・見えない表示	中村幹雄	オブアワーズ
6070	加工・流通・販売	自然食の裏側: 本当にこれでカラダに安全か?	三好基晴	かんき出版
6071	加工・流通・販売	逐条解説食品衛生法		ぎょうせい
6072	加工・流通・販売	食の安全科学の展開: 食のリスク予測と制御に向けて (食品シリーズ)		シーエムシー出版
6073	加工・流通・販売	子どもたちにつなぐみんなの食べ方じてん	富山洋子	ジャパンマシニスト社
6074	加工・流通・販売	本当にコワイ?食べものの正体: 食品の裏側が気になる人のためのガイドブック	中川基	すばる舎リンクージ
6075	加工・流通・販売	食品危害要因: その実態と検出法		テクノシステム
6076	加工・流通・販売	食品衛生学実験: 安全をささえる衛生検査のポイント		みらい
6077	加工・流通・販売	食の安全性に関する必要知識と実践		メディカルレビュー社
6078	加工・流通・販売	食品環境実験50, 補訂		医歯薬出版
6079	加工・流通・販売	新食品衛生学要説: 食べ物と健康・食品と衛生: 2018年版		医歯薬出版
6080	加工・流通・販売	ほんとうの「食の安全」を考える: ゼロリスクという幻想 (DOJIN選書 28)	畝山智香子	化学同人
6081	加工・流通・販売	食品衛生学, 第3版 (エキスパート管理栄養士養成シリーズ 12)		化学同人
6082	加工・流通・販売	食品衛生学, 新版 (新食品・栄養科学シリーズ 食べ物と健康 5)		化学同人
6083	加工・流通・販売	食品衛生学: 食の安全性を理解するために (はじめて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ 11)	西瀬弘/檜垣俊介	化学同人
6084	加工・流通・販売	魚と放射能汚染	片山知史	芽ばえ社
6085	加工・流通・販売	子どもに食べさせたくない遺伝子組み換え食品	天笠啓祐/食べもの文化編集部	芽ばえ社
6086	加工・流通・販売	放射能と食品汚染: 輸入食肉・輸入添加物・遺伝子組み換え…脅かされる食の安全	天笠啓祐	芽ばえ社
6087	加工・流通・販売	子どもが食べる危険な食品と安全な食品: 25品目のアレルギー物質を分かりやすく表示: 2014年度最新版	垣田達哉	海王社
6088	加工・流通・販売	管理栄養士・栄養士のための食品安全・衛生学	日佐和夫/仲尾玲子	学文社
6089	加工・流通・販売	新食品衛生学: 食品の安全性 (食物と栄養学基礎シリーズ 5)		学文社
6090	加工・流通・販売	食品安全ハンドブック		丸善
6091	加工・流通・販売	食の安全: 政治が操るアメリカの食卓	マリオン・ネッスル	岩波書店
6092	加工・流通・販売	食の安全・安心とセンシング: 放射能問題から植物工場まで	大数多可志	共立出版
6093	加工・流通・販売	食品安全性辞典: THE DICTIONARY OF FOOD SAFETY, 第2版		共立出版
6094	加工・流通・販売	HACCP管理者認定テキスト		建帛社
6095	加工・流通・販売	マスター食品衛生学: 食べ物と健康	西川禎一/阿部仁一郎	建帛社
6096	加工・流通・販売	食品の安全性, 3訂		建帛社
6097	加工・流通・販売	食品衛生学, 新版第2版 (管理栄養士講座)	西島基弘/山本茂貴	建帛社
6098	加工・流通・販売	食品衛生学, 新版 第2版 (Nブックス)	伊藤武/古賀信幸	建帛社
6099	加工・流通・販売	食品衛生学実験, 改訂 (Nブックス 実験シリーズ)	後藤政幸/上田龍太郎	建帛社
6100	加工・流通・販売	食品表示: 食品表示法に基づく制度と実際	田島真/池戸重信	建帛社
6101	加工・流通・販売	簡明食品衛生学, 第2版	菅家祐輔	光生館
6102	加工・流通・販売	食べ物と健康 - 食品衛生学 -	菅家祐輔/白尾美佳	光生館
6103	加工・流通・販売	食品衛生学実験	白尾美佳/中村好志	光生館
6104	加工・流通・販売	HACCPトレーニング・カリキュラム: 米国FDA方式HACCPの基礎理論習得と応用のための教則本	高島直樹	幸書房
6105	加工・流通・販売	ノロウイルス現場対策: その感染症と食中毒, 改訂第2版	井上栄	幸書房
6106	加工・流通・販売	よくわかる食品表示の基礎用語	新蔵登喜男	幸書房
6107	加工・流通・販売	よくわかる食品有害微生物問題集: HACCP	藤井建夫	幸書房
6108	加工・流通・販売	管理栄養士のための大量調理施設の衛生管理, 改訂	矢野俊博/岸本満	幸書房
6109	加工・流通・販売	施設管理者のためのノロウイルス対策Q&Aブック	西尾治	幸書房
6110	加工・流通・販売	事例でみる食中毒の現場: その原因と教訓	谷口力夫	幸書房
6111	加工・流通・販売	食品の安全と安心: 講座1 考える材料と見る視点		幸書房
6112	加工・流通・販売	食品の安全と安心: 講座2 安全を守る対策と仕組み		幸書房
6113	加工・流通・販売	食品の腐敗と微生物: Food Spoilage and Microbes	藤井建夫	幸書房
6114	加工・流通・販売	食品の変敗微生物: その原因菌と制御, 改訂増補	内藤茂三	幸書房
6115	加工・流通・販売	食品安全のための微量化学物質分析ガイド	佐々木正興	幸書房
6116	加工・流通・販売	食品微生物: 1 基礎編, 第3版	清水潮	幸書房
6117	加工・流通・販売	食品微生物: 2 制御編		幸書房
6118	加工・流通・販売	食品表示をひも解く: 製造年月日と期限表示	的早剛由	幸書房
6119	加工・流通・販売	食品衛生学, 第3版	山中英明/藤井建夫	恒星社厚生閣

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
6120	加工・流通・販売	食品衛生学実験, 改訂	川井英雄/廣末トシ子	恒星社厚生閣
6121	加工・流通・販売	新・食品衛生学, 第2版	藤井建夫/塩見一雄	恒星社厚生閣
6122	加工・流通・販売	解いて学ぶ! 食品安全・衛生テキスト&問題集	藤井建夫/塩見一雄	講談社
6123	加工・流通・販売	実践! フードディフェンス: 食品防御対策ガイドライン準拠		講談社
6124	加工・流通・販売	食品安全・衛生学実験 (栄養科学シリーズNEXT)		講談社
6125	加工・流通・販売	食品衛生学, 第4版 (栄養科学シリーズNEXT 食べ物と健康, 食品と衛生)		講談社
6126	加工・流通・販売	図解食品衛生学: 食べ物と健康, 食の安全性, 第5版	一戸正勝/西島基弘	講談社
6127	加工・流通・販売	図解食品衛生学実験, 第3版	一戸正勝/西島基弘	講談社
6128	加工・流通・販売	最新食品衛生学, 新版第3版		三共出版
6129	加工・流通・販売	食品衛生学, 第3版	篠田純男/成松鎮雄	三共出版
6130	加工・流通・販売	新しい食品衛生実験, 新版第2版	西島基弘/宮澤文雄	三共出版
6131	加工・流通・販売	食の安全と健康意識データ集: 2018-2019		三冬社
6132	加工・流通・販売	食品の安全最前線: 食料輸入大国ニッポンで	石黒昌孝	自治体研究社
6133	加工・流通・販売	食卓にあがった放射能, 新装版	高木仁三郎/渡辺美紀子	七つ森書館
6134	加工・流通・販売	危ない食品添加物ハンドブック: 食べていいのは、どれ!?	渡辺雄二	主婦と生活社
6135	加工・流通・販売	食品の安全と衛生: 管理栄養士・栄養士, 改訂 (食べ物と健康 4)	安田和男/阿部尚樹	樹村房
6136	加工・流通・販売	情報が食の安全を守る		旬報社
6137	加工・流通・販売	食の安全事典: ENCYCLOPEDIA OF FOOD SAFETY		旬報社
6138	加工・流通・販売	お母さんのための「食の安全」教室	松永和紀	女子栄養大学出版部
6139	加工・流通・販売	消費者と「食」にかかわる人のための新しい食品表示がわかる本	森田満樹	女子栄養大学出版部
6140	加工・流通・販売	一冊でわかる食品表示	垣田達哉	商業界
6141	加工・流通・販売	食の安全・安心資料集: 2013年度版		食の安全・安心財団
6142	加工・流通・販売	食品表示チェック 間違いを探せ!		食品と科学社
6143	加工・流通・販売	食品表示はこう変わる: 食品表示基準対応		食品と科学社
6144	加工・流通・販売	食の安全はこう守る: 放射能汚染からTPPまで	小倉正行	新日本出版社
6145	加工・流通・販売	栄養調理六法: 平成30年版		新日本法規出版
6146	加工・流通・販売	食品衛生小六法: 平成30年版		新日本法規出版
6147	加工・流通・販売	食べる?: 食品セシウム測定データ745	ちだい	新評論
6148	加工・流通・販売	自分と子どもを放射能から守るには: 日本語版特別編集	<small>ウラジーミル・バレンコ/ベルランド放射能安全研究所(ベラルーシ)</small>	世界文化社
6149	加工・流通・販売	リスクを食べる: 食と科学の社会学	柄本三代子	青弓社
6150	加工・流通・販売	子どもと添加物: 33のポイント	渡辺雄二	青志社
6151	加工・流通・販売	栄養士・管理栄養士のための食品衛生学	川合清洋	静風社
6152	加工・流通・販売	戦前期日本の食品衛生問題: The Food Hygiene Problems in Pre-war Japan	郭鋒	専修大学出版局
6153	加工・流通・販売	日本食品衛生学・行政・事件史から学ぶ: 野菜をたくさん食べ、死亡率の高いがんを減らそう	小林勇	創英社
6154	加工・流通・販売	その食べ物、偽物です!: 安心・安全のために知っておきたいこと	ラリー・オルムステッド	早川書房
6155	加工・流通・販売	加工食品には秘密がある	メラニー・ウォーナー	草思社
6156	加工・流通・販売	食品を科学する: 意外と知らない食品の安全	食品の安全を守る賢人会議	大成出版社
6157	加工・流通・販売	新たなリスク管理と認証制度の構築: 放射性物質による食品汚染の現実	横田茂永	筑波書房
6158	加工・流通・販売	Q&A食品輸入ハンドブック: 食品を安全に輸入するために, 新訂 第2版	日本輸入食品安全推進協会	中央法規出版
6159	加工・流通・販売	ビジュアル版食品衛生検査手順とポイント		中央法規出版
6160	加工・流通・販売	食品衛生の歴史と科学: 人はいかにして毒を知り食の汚染を防げるようになったか		中央法規出版
6161	加工・流通・販売	食品微生物の生態: 微生物制御の全貌		中央法規出版
6162	加工・流通・販売	食品表示Q&A: 制度の概要と実務に役立つ事例, 4訂		中央法規出版
6163	加工・流通・販売	食品表示法令ガイドブック		中央法規出版
6164	加工・流通・販売	大量調理施設衛生管理のポイント: HACCPの考え方に基づく衛生管理手法, 5訂		中央法規出版
6165	加工・流通・販売	輸入食品衛生年表: 1945-2012, 改訂5版		中央法規出版
6166	加工・流通・販売	食品・環境の衛生検査 (スタンダード人間栄養学)	桑原祥浩/上田成子	朝倉書店
6167	加工・流通・販売	食品の安全性 (スタンダード人間栄養学)	桑原祥浩	朝倉書店
6168	加工・流通・販売	健康でいたければ「それ」は食べるな: ハーバード大学で研究した医師の警告	大西睦子	朝日新聞出版
6169	加工・流通・販売	食環境教育論	今井清一	鳥影社
6170	加工・流通・販売	食品衛生学, 補訂版 (新スタンダード栄養・食物シリーズ 8)		東京化学同人

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
6171	加工・流通・販売	イラスト食品の安全性, 第3版	小栗重行	東京教学社
6172	加工・流通・販売	食品表示を裏づける分析技術: 科学の目で偽装を見破る		東京電機大学出版局
6173	加工・流通・販売	オーガニック検査員・水野葉子の「家族と食べたい!」食品選び: 本音と本気で語るいま食べたいもの、食べたくないもの	水野葉子	東洋経済新報社
6174	加工・流通・販売	スイート・ポイズン: 本当は恐ろしい人工甘味料「アスパルテーム」の話	ジャネット・スター・ハル	東洋経済新報社
6175	加工・流通・販売	放射能汚染食品、これが専門家8人の食べ方、選び方	野口邦和/伊藤伸彦	東洋経済新報社
6176	加工・流通・販売	食品安全の表示と科学: 食品表示法を理解する	清水俊雄	同文書院
6177	加工・流通・販売	食品安全学: Textbook of Food Safety, 第2版	中村好志/西島基弘	同文書院
6178	加工・流通・販売	食べ物と健康 食品の安全 (健康・栄養科学シリーズ)		南江堂
6179	加工・流通・販売	食品衛生学: 「食の安全」の科学, 改訂第2版		南江堂
6180	加工・流通・販売	新入門食品衛生学, 改訂第3版	和泉喬/小田隆弘	南江堂
6181	加工・流通・販売	食の安全性: 産地偽装から風評被害まで (現代を知る文献ガイド)		日外アソシエーツ
6182	加工・流通・販売	HACCP実践のポイント, 改訂2版	新宮和裕	日本規格協会
6183	加工・流通・販売	やさしいHACCP入門, 新版	新宮和裕	日本規格協会
6184	加工・流通・販売	農業と食の安全・信頼: Q&Aから農業と食の安全性を科学的に考える	梅津憲治	日本植物防疫協会
6185	加工・流通・販売	フグの衛生: 安全な取扱いとフグの種類		日本食品衛生協会
6186	加工・流通・販売	食中毒・感染症を防ぐ!!食品を取り扱う人のための衛生的な手洗い		日本食品衛生協会
6187	加工・流通・販売	食中毒の疫学講座 (食品安全叢書シリーズ)		日本食品衛生協会
6188	加工・流通・販売	食中毒予防必携, 第3版		日本食品衛生協会
6189	加工・流通・販売	食品衛生検査指針: 2016理化学編追補		日本食品衛生協会
6190	加工・流通・販売	食品衛生法規, 2010		日本食品衛生協会
6191	加工・流通・販売	食品防御の考え方とその進め方: よくわかるフードディフェンス	今村知明	日本食品衛生協会
6192	加工・流通・販売	全国食中毒事件録: 厚生労働省食中毒統計資料より: 平成24年		日本食品衛生協会
6193	加工・流通・販売	早わかり食品衛生法: 食品衛生法逐条解説, 新訂第6版		日本食品衛生協会
6194	加工・流通・販売	早わかり食品表示法: 食品表示法逐条解説・食品表示基準に基づく食品表示制度解説, 改訂新版第2版		日本食品衛生協会
6195	加工・流通・販売	放射性物質測定値の統計学的特徴と食品中のセシウム検査 (食品安全叢書シリーズ)		日本食品衛生協会
6196	加工・流通・販売	食品の安全と放射性汚染: 子どもとくらしの明日のために	関澤純	日本生活協同組合連合会
6197	加工・流通・販売	「安全な食べもの」ってなんだろう?: 放射線と食品のリスクを考える	畠山智香子	日本評論社
6198	加工・流通・販売	食のリスク学: 氾濫する「安全・安心」をよみとく視点	中西準子	日本評論社
6199	加工・流通・販売	食品安全問題と法律・制度	梶川千賀子	農林統計出版
6200	加工・流通・販売	食品法入門: 食の安全とその法体系	梶川千賀子	農林統計出版
6201	加工・流通・販売	東アジアにおける食のリスクと安全確保	南石晃明	農林統計出版
6202	加工・流通・販売	安心・安全・信頼のための抗菌材料		米田出版
6203	加工・流通・販売	食品の放射能汚染完全対策マニュアル: 「0ベクレル」の食卓を目指すためのバイブル, ハンディ版	水口憲哉/明石昇二郎	宝島社
6204	加工・流通・販売	食安全性学 (放送大学教材)	小城勝相/一色賢司	放送大学教育振興会
6205	加工・流通・販売	食品衛生学 (栄養科学イラストレイテッド)		羊土社
6206	加工・流通・販売	リスクと共存する社会: 食の安全の視点から	渡辺悦生/大熊廣一	養賢堂
6207	加工・流通・販売	食の安全と予防医学 (北里大学農医連携学術叢書 第6号)	陽捷行	養賢堂
6208	加工・流通・販売	食品衛生の科学 (栄養管理と生命科学シリーズ-管理栄養士養成課程-)	熊田薫/後藤政幸	理工図書
6209	加工・流通・販売	ゲノム操作食品の争点	天笠啓祐	緑風出版
6210	加工・流通・販売	なぜ遺伝子組み換え作物に反対なのか: 「セラリーニ事件」は転換点となるか	ジャック・テスター	緑風出版
6211	加工・流通・販売	遺伝子組み換え食品入門: 必要か不要か?安全か危険か?, 増補改訂版 (プロブレムQ&A)	天笠啓祐	緑風出版
6212	加工・流通・販売	新・ヤマザキパンはなぜカビないか: 誰も書かない食品&添加物の秘密, 改訂新版	渡辺雄二	緑風出版
6213	加工・流通・販売	木材加工用語辞典: Glossary of Wood and Wood Machining Terms		海青社
6214	加工・流通・販売	フォーラムが語る近代日本の歩み: 家具の形態史		ネオテクノロジー
6215	加工・流通・販売	発明に見る日本の生活文化史: 家具シリーズ: 第1巻 机		ネオテクノロジー
6216	加工・流通・販売	発明に見る日本の生活文化史: 家具シリーズ: 第2巻 椅子		ネオテクノロジー
6217	加工・流通・販売	発明に見る日本の生活文化史: 家具シリーズ: 第3巻 たんす		ネオテクノロジー
6218	加工・流通・販売	家具企業便覧: 製造・卸・販売店・その他関連企業情報: 2015		家具新聞社
6219	加工・流通・販売	戦後日本の木製家具: Postwar Japanese Wooden Furniture	新井竜治	家具新聞社
6220	加工・流通・販売	産地の変貌と人的ネットワーク: 旭川家具産地の挑戦 (大阪商業大学比較地域研究所研究叢書 第10巻)	桑野博行	御茶の水書房
6221	加工・流通・販売	日本の曲木家具: その誕生から発展の系譜	石村真一	鹿島出版会

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
6222	加工・流通・販売	100年に一人の椅子職人: 長原實とカンディハウスのデザイン・スピリッツ	川嶋康男	新評論
6223	加工・流通・販売	ブルーノ・タウトの緑の椅子: 1脚の椅子の復刻、量産化のプロセス		Opa Press
6224	加工・流通・販売	道具と手仕事 (岩波人文書セレクション)	村松貞次郎	岩波書店
6225	加工・流通・販売	時間と刃物: 職人と道具との対話	土田昇	芸術新聞社
6226	加工・流通・販売	鋸・墨壺大全: ノコギリと墨壺の使いこなしを網羅した決定版、増補改訂		誠文堂新光社
6227	加工・流通・販売	実践大工道具仕立ての技法: 曼陀羅屋流研ぎと仕込みのテクニック	手柴正範	誠文堂新光社
6228	加工・流通・販売	大工道具・砥石と研ぎの技法: 天然砥石 人造砥石 砥石選び 砥石の養生 鉋の研ぎ 鑿の研ぎ		誠文堂新光社
6229	加工・流通・販売	大工道具鍛冶大全: 現代の名工たちが魅せる職人技と作品を知る		誠文堂新光社
6230	加工・流通・販売	鉋の技と銘品大全: プロが教えるカンナの魅力と使いこなしのテクニック		誠文堂新光社
6231	加工・流通・販売	鉋削りの技法: 1/1000ミリを究める薄削りの極意を知る		誠文堂新光社
6232	加工・流通・販売	鑿大全: ノミの使いこなしを網羅した決定版、増補改訂		誠文堂新光社
6233	加工・流通・販売	イラストでよくわかる! 大工道具入門: 匠の技から学ぶ上手な使い方	竹中大同工芸館	日刊工業新聞社
6234	加工・流通・販売	錦莖を彩る文様デザイン: 発明家磯崎眠亀	大崎紘一	吉備人出版
6235	加工・流通・販売	杞柳産業の盛衰: 地場産業産地の淘汰、新版	荻久保嘉章	成文堂
6236	加工・流通・販売	だから、ぼくは農家をスターにする: 『食べる通信』の挑戦	高橋博之	CCCメディアハウス
6237	加工・流通・販売	農林漁業の産地ブランド戦略: 地理的表示を活用した地域再生	香坂玲	ぎょうせい
6238	加工・流通・販売	農産物・食品検査法の新展開: Advanced Inspection Technology of Agricultural Products and Foods, 普及版 (食品シリーズ)		シーエムシー出版
6239	加工・流通・販売	食と景観の地域づくり: 小さな活動からネットワークへ	井上典子/柴井順一郎	学芸出版社
6240	加工・流通・販売	甦る農業: セミプレミアム農産物と流通改革が農業を救う	井熊均/三輪泰史	学陽書房
6241	加工・流通・販売	オーガニックラベルの裏側: 21世紀食品産業の真実	クレメンス・G.アルヴァイ	春秋社
6242	加工・流通・販売	おいしくて体によい食の調達法: 会社の大小関係なく実践できるマーチャンダイジング!	さとうたくま	商業界
6243	加工・流通・販売	解説食品トレーサビリティ: ガイドラインの考え方/コード体系、ユビキタス、国際動向/導入事例	坂本尚登	昭和堂
6244	加工・流通・販売	地理的表示法の解説: 地理的表示を活用した地域ブランドの振興を!!	内藤恵久	大成出版社
6245	加工・流通・販売	インドのフードシステム: 経済発展とグローバル化の影響	下渡敏治/上原秀樹	筑波書房
6246	加工・流通・販売	フード・マーケティング論	藤島廣二/宮部和幸	筑波書房
6247	加工・流通・販売	産地と食卓をつなぐ農業技術普及: 特徴ある農産物の普及から見えてくる課題	佐藤百合香	筑波書房
6248	加工・流通・販売	実践・農産物地域ブランド化戦略	藤島廣二/中島寛爾	筑波書房
6249	加工・流通・販売	食料・農業市場研究の到達点と展望 (日本農業市場学会研究叢書 12)	美土路知之/玉真之介	筑波書房
6250	加工・流通・販売	食料・農産物流通論, 新版	藤島廣二/安部新一	筑波書房
6251	加工・流通・販売	食料消費の変動分析: 新たな販路開拓、市場創出にむけて (JA総研研究叢書 3)	浜田亮治/和泉真理	農山漁村文化協会
6252	加工・流通・販売	農林水産物・飲食品の地理的表示: 地域の産物の価値を高める制度利用の手引	高橋梯二	農山漁村文化協会
6253	加工・流通・販売	農産物流通は今 (日本農業の動き No.197)		農政ジャーナリストの会
6254	加工・流通・販売	食品の流通経済学	菊地哲夫	農林統計出版
6255	加工・流通・販売	シティ・ファーマー: 世界の都市で始まる食料自給革命	ジェニファー・コックラル=キング	白水社
6256	加工・流通・販売	米及び麦類の生産費: 平成27年産 (農業経営統計調査報告)		農林統計協会
6257	加工・流通・販売	社会起業家が「農」を変える: 生産と消費をつなぐ新たなビジネス (シリーズ・いま日本の「農」を問う 6)	益貴大/小野邦彦	ミネルヴァ書房
6258	加工・流通・販売	みんなで決めた「安心」のかたち: ポスト3.11の「地産地消」をさがした柏の一年	五十嵐泰正/「安全・安心の地産地消」円卓会議	亜紀書房
6259	加工・流通・販売	行列のできる農産物直売所運営の法則80	勝本吉伸	家の光協会
6260	加工・流通・販売	青空市場で会いましょう: 日本の農と食はずばらしい	永島敏行	家の光協会
6261	加工・流通・販売	産直市場はおもしろい!: 伊那・グリーンファームは地域の元氣と雇用をつくる	小林史磨	自治体研究社
6262	加工・流通・販売	農産物直売所/それは地域との「出会いの場」		新評論
6263	加工・流通・販売	農産物直売所は生き残れるか: 転換期の土台強化と新展開	二木季男	創森社
6264	加工・流通・販売	農業を買い支える仕組み: フェア・トレードと産消提携	辻村英之	太田出版
6265	加工・流通・販売	学校給食における地産地消と食育効果 (日本農業市場学会研究叢書 10)	内藤重之/佐藤信	筑波書房
6266	加工・流通・販売	農産物販売におけるネット活用戦略: ネット販売を中心として	伊藤雅之	筑波書房
6267	加工・流通・販売	東西冷戦終結後の世界穀物市場	茅野信行	中央大学出版部
6268	加工・流通・販売	直売所レストラン成功のレシピ: 地域の食卓おうみんち		農山漁村文化協会
6269	加工・流通・販売	フードシステムの革新とバリューチェーン	斎藤修	農林統計出版
6270	加工・流通・販売	フードチェーンと地域再生 (フードシステム学叢書 第4巻)		農林統計出版
6271	加工・流通・販売	学校給食への地場食材供給: 地域の畑と学校給食を結ぶ	山田浩子	農林統計出版
6272	加工・流通・販売	地域再生とフードシステム: 6次産業、直売所、チェーン構築による革新	斎藤修	農林統計出版

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
6273	加工・流通・販売	直売型農業・農産物流通の国際比較	櫻井清一	農林統計出版
6274	加工・流通・販売	「地域の食」を守り育てる: 秋田産地産地消運動の20年	谷口吉光	無明舎出版
6275	加工・流通・販売	東アジアにおけるローカルフードシステムの再編と展望 (日本大学生物資源科学部国際地域研究所叢書 30)		龍溪書舎
6276	加工・流通・販売	悪夢の食卓: TPP批准・農協解体がもたらす未来	鈴木直弘	KADOKAWA
6277	加工・流通・販売	TPPを考える: 「開国」は日本農業と地域社会を壊滅させる	石田信隆	家の光協会
6278	加工・流通・販売	見えてきたTPPの正体: 迫りくる脅威とこれからの日本の選択	石田信隆	家の光協会
6279	加工・流通・販売	アグリビジネスの地理学	後藤拓也	古今書院
6280	加工・流通・販売	TPPで暮らした地域経済はどうなる		自治体研究社
6281	加工・流通・販売	WTOドーハ・ラウンド10年の軌跡	山田修路	全国農業会議所
6282	加工・流通・販売	わが国における農産物輸出戦略の現段階と展望 (日本農業市場学会研究叢書 14)	石塚哉史/神代英昭	筑波書房
6283	加工・流通・販売	韓国のFTA戦略と日本農業への示唆	柳京熙/吉田成雄	筑波書房
6284	加工・流通・販売	震災復興とTPPを語る 再生のための対案	鈴木直弘/木下順子	筑波書房
6285	加工・流通・販売	日本の産地と輸出促進: 日本産農産物・食品のグローバル市場への挑戦	下渡敏治	筑波書房
6286	加工・流通・販売	青森リンゴが開拓したロシア市場: 地域特産品の輸出促進を考える	丹野大	日本評論社
6287	加工・流通・販売	ジェトロアグロトレード・ハンドブック: AGROTRADE HANDBOOK: 2016 日本の農林水産物・食品貿易の現状		日本貿易振興機構
6288	加工・流通・販売	食料主権のグランドデザイン: 自由貿易に抗する日本と世界の新たな潮流 (シリーズ地域の再生 4)	村田武/山本博史	農山漁村文化協会
6289	加工・流通・販売	貿易交渉の多層化と農産物貿易問題: 自由貿易体制の進展と停滞 (農林水産政策研究叢書 第10号)	福田竜一	農山漁村文化協会
6290	加工・流通・販売	TPP農畜産物への影響は (日本農業の動き No.184)		農林統計協会
6291	加工・流通・販売	解説・WTO農業交渉: 日本人の食は守れるか	石田信隆	農林統計協会
6292	加工・流通・販売	『ポスト貿易自由化』時代の貿易ルール: その枠組みと影響分析	林正徳/弦間正彦	農林統計出版
6293	加工・流通・販売	多国間交渉における合意形成プロセス: GATTウルグアイ・ラウンドでのSPS協定の成立と「貿易自由化」パラダイムの終焉	林正徳	農林統計出版
6294	加工・流通・販売	東アジアフードシステム圏の成立条件		農林統計出版
6295	加工・流通・販売	日本産農産物の対台湾輸出と制度への対応	佐藤敦信	農林統計出版
6296	加工・流通・販売	農畜産物輸出拡大の可能性を探る: 戦略的マーケティングと物流システム	福田晋	農林統計出版
6297	加工・流通・販売	農産物貿易自由化で発展途上国はどうなるか: 地獄へ向かう競争	吾郷健二	明石書店
6298	加工・流通・販売	TPPの何が問題か	天笠啓祐	緑風出版
6299	加工・流通・販売	乾物と保存食材料典: 栄養と旨みが凝縮した488種. 増補改訂		誠文堂新光社
6300	加工・流通・販売	農産加工食品の繁盛指南: 開発手順と加工・製造の動どころ!!	鳥巣研二	創森社
6301	加工・流通・販売	こまった、教えて農産加工便利帳: 1 こうじ、味噌、納豆、テンペ、甘酒	小清水正美	農山漁村文化協会
6302	加工・流通・販売	農家が教える手づくり加工・保存の知恵と技		農山漁村文化協会
6303	加工・流通・販売	乾物の事典: The Dry Foods Book	星名桂治	東京堂出版
6304	加工・流通・販売	「農」と「食」の女性起業: 農山村の「小さな加工」		新評論
6305	加工・流通・販売	農産食品プロセス工学		文永堂出版
6306	加工・流通・販売	フォルムが語る近代日本の歩み: 精米の形態史		ネオテクノロジー
6307	加工・流通・販売	農産加工機器の選び方・使い方: 農家の強みをいかに	高木敏弘	農山漁村文化協会
6308	加工・流通・販売	小麦粉の科学 (B&Tブックス おもしろサイエンス)	大楠秀樹	日刊工業新聞社
6309	加工・流通・販売	麦類の機能性を意識した製粉法とそれらの諸特性及び加工特性における最近の進歩	植田弘/合田清	日中言語文化出版社
6310	加工・流通・販売	信州そば凸凹発展物語: 白いそば黒いそば	松橋鐵治郎	ほおずき書籍
6311	加工・流通・販売	乾めん入門, 改訂4版 (食品知識ミニブックスシリーズ)	安藤剛久	日本食糧新聞社
6312	加工・流通・販売	納豆の起源 (NHKブックス 1223)	横山智	NHK出版
6313	加工・流通・販売	「ザクとうふ」の哲学: 相模屋食料はいかにして業界No.1となったか	鳥越淳司	PHP研究所
6314	加工・流通・販売	納豆の研究法		恒星社厚生閣
6315	加工・流通・販売	大豆の機能と科学 (食物と健康の科学シリーズ)		朝倉書店
6316	加工・流通・販売	日本全国納豆大博覧会		東京書籍
6317	加工・流通・販売	豆腐入門, 改訂版 (食品知識ミニブックスシリーズ)	青山隆	日本食糧新聞社
6318	加工・流通・販売	納豆入門 (食品知識ミニブックスシリーズ)	渡辺杉夫	日本食糧新聞社
6319	加工・流通・販売	〈脱〉安売り競争食品企業の戦略転換: 国産大豆で食農連携を進める豆腐企業に学ぶ (JA総研研究叢書 5)	澤千恵	農山漁村文化協会
6320	加工・流通・販売	大豆フードシステムの新展開	田口光弘	農林統計協会
6321	加工・流通・販売	図説紅茶: 世界のティータイム (ふくろうの本)	Cha Tea紅茶教室	河出書房新社
6322	加工・流通・販売	宇治茶と上林一族	上林春松/上林秀敏	宮帯出版社
6323	加工・流通・販売	紅茶スパイ: 英国人プラントハンター中国をゆく	サラ・ローズ	原書房

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
6324	加工・流通・販売	中国黒茶のすべて: 微生物発酵茶, 改訂	呂毅/郭雯飛	幸書房
6325	加工・流通・販売	日本茶の「回帰」: 大和高原に華開いた千二百年の「茶縁」	飯田辰彦	鈺脈社
6326	加工・流通・販売	日本茶の「勘所」: あの「香気」はどこへいった?	飯田辰彦	鈺脈社
6327	加工・流通・販売	日本茶の「源郷」: すべては「宇治」からはじまった	飯田辰彦	鈺脈社
6328	加工・流通・販売	日本茶の「発生」: 最澄に由来する近江茶の一流	飯田辰彦	鈺脈社
6329	加工・流通・販売	日本茶の「本流」: 菱洞の伝統を育む孤高の狭山茶	飯田辰彦	鈺脈社
6330	加工・流通・販売	日本茶の「未来」: 「旨み」の煎茶から「香り」の発酵茶へ	飯田辰彦	鈺脈社
6331	加工・流通・販売	紅茶の教科書, 改訂第2版	磯淵猛	新星出版社
6332	加工・流通・販売	日本茶の近代史: 幕末開港から明治後期まで	栗倉大輔	蒼天社出版
6333	加工・流通・販売	茶の機能と科学 (食物と健康の科学シリーズ)		朝倉書店
6334	加工・流通・販売	茶の事典: Encyclopedia of Tea		朝倉書店
6335	加工・流通・販売	大益普洱茶の品質鑑定		東京図書出版
6336	加工・流通・販売	伊藤園の「自然体」経営: 伝統と最新手法が織りなすイノベーション (B&Tブックス)	大倉雄次郎	日刊工業新聞社
6337	加工・流通・販売	紅茶入門, 改訂版 (食品知識ミニブックスシリーズ)	稲田信一	日本食糧新聞社
6338	加工・流通・販売	お茶のある暮らし (平凡社ライブラリー 765)	谷本陽蔵	平凡社
6339	加工・流通・販売	コーヒーのグローバル・ヒストリー: 赤いダイヤか、黒い悪魔か	小澤卓也	ミネルヴァ書房
6340	加工・流通・販売	人気店のコーヒー焙煎: Essential Books for Coffee Roasting	旭屋出版編集部	旭屋出版
6341	加工・流通・販売	問題形式で学べるコーヒー学の基礎		旭屋出版
6342	加工・流通・販売	図説コーヒー (ふくろうの本)	UCCコーヒー博物館	河出書房新社
6343	加工・流通・販売	スペシャルティコーヒー物語: 最高品質コーヒーを世界に広めた人々	マイケル・ワイスマン	楽工社
6344	加工・流通・販売	ビジュアルスペシャルティコーヒー大事典, 普及版 (NATIONAL GEOGRAPHIC)	ジェームズ・ホフマン	日経ナショナルジオグラフィック社
6345	加工・流通・販売	コーヒーの真実: 世界中を虜にした嗜好品の歴史と現在	アントニー・ワイルド	白揚社
6346	加工・流通・販売	スパイスの歴史 (「食」の図書館)	フレッド・ツアラ	原書房
6347	加工・流通・販売	スパイス三都物語: ヴェネツィア・リスボン・アムステルダム興亡の歴史	マイケル・クロンドル	原書房
6348	加工・流通・販売	トウガラシの歴史 (「食」の図書館)	ヘザー・アーン・アンダーソン	原書房
6349	加工・流通・販売	胡椒 暴虐の世界史	マージョリー・シェファー	白水社
6350	加工・流通・販売	スパイスの歴史: 薬味から香辛料へ, 改装版	山田憲太郎	法政大学出版局
6351	加工・流通・販売	青果物のマーケティング: 農協と卸売業のための理論と戦略	桂瑛一/今泉秀哉	昭和堂
6352	加工・流通・販売	フラワーマーケティング入門: 花が売れるしくみのつくりかた	小川孔輔	誠文堂新光社
6353	加工・流通・販売	フードシステムの革新と業務・加工用野菜	坂知樹	大学教育出版
6354	加工・流通・販売	加工・業務用青果物における生産と流通の展開と展望 (日本農業市場学会研究叢書 16)	種市豊/相原延英	筑波書房
6355	加工・流通・販売	地域再生と農協: 変革期における農協共販の再編	岸上光克	筑波書房
6356	加工・流通・販売	果物の贈答マーケティング	磯島昭代	農林統計協会
6357	加工・流通・販売	野菜消費の新潮流: ネット購買と食卓メニューから見る戦略	伊藤雅之	筑波書房
6358	加工・流通・販売	青果物卸売市場調査報告: 平成28年		農林統計協会
6359	加工・流通・販売	産地市場・産地仲買人の展開と産地形成: 関東平野の伝統的蔬菜園芸地帯と業者流通	新井鎮久	成文堂
6360	加工・流通・販売	変容する青果物産地集荷市場	木村彰利	筑波書房
6361	加工・流通・販売	大都市近郊の青果物流通	木村彰利	筑波書房
6362	加工・流通・販売	柿づくし: 柿渋、干し柿、柿酢、柿ジャム、紅葉保存	浜崎貞弘	農山漁村文化協会
6363	加工・流通・販売	柿の王国: 信州・市田の干し柿のふるさと (コミュニティ・ブックス 農と食の王国シリーズ)	鈴木克也	日本地域社会研究所
6364	加工・流通・販売	漬物の機能と科学 (食物と健康の科学シリーズ)		朝倉書店
6365	加工・流通・販売	漬物入門, 改訂版 (食品知識ミニブックスシリーズ)	宮尾茂雄	日本食糧新聞社
6366	加工・流通・販売	こまった、教えて農産加工便利帳漬物	小清水正美	農山漁村文化協会
6367	加工・流通・販売	食肉・鶏卵生産のグローバル化: 2021年までの展望	ハンス・ウィルヘルム・ヴァイトフォレスト・アンナ・ヴァルグ	筑波書房
6368	加工・流通・販売	畜産物生産費: 平成27年度 (農業経営統計調査報告)		農林統計協会
6369	加工・流通・販売	貿易体制の変化と日韓畜産の未来		農林統計出版
6370	加工・流通・販売	畜産物利用学		文永堂出版
6371	加工・流通・販売	畜産物流通統計: 平成28年		農林統計協会
6372	加工・流通・販売	ガリガリ君が教える! 赤城乳業のすごい仕事術: 図解	遠藤功	PHP研究所
6373	加工・流通・販売	ミルクの歴史 (「食」の図書館)	ハンナ・ヴェルテン	原書房
6374	加工・流通・販売	牛乳・乳製品の知識, 新版	堂迫俊一	幸書房

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
6375	加工・流通・販売	ミルクの事典		朝倉書店
6376	加工・流通・販売	言える化:「ガリガリ君」の赤城乳業が躍進する秘密	遠藤功	潮出版社
6377	加工・流通・販売	牛乳製品統計:平成28年		農林統計協会
6378	加工・流通・販売	母乳の力:母乳タンパク質に秘められた生体防御機能	大谷元	食品資材研究会
6379	加工・流通・販売	省力・自動化酪農の手引き		デーリイマン社
6380	加工・流通・販売	C.P.A.チーズプロフェッショナル教本:2015		チーズプロフェッショナル協会
6381	加工・流通・販売	チーズを科学する		チーズプロフェッショナル協会
6382	加工・流通・販売	チーズの歴史:5000年の味わい豊かな物語(P-Vine BOOKS)	アンドリュー・ドルビー	ブルース・インターアクションズ
6383	加工・流通・販売	チーズポケットブック:日本で出会える世界&国産チーズの総集編,保存版		旭屋出版
6384	加工・流通・販売	マリー=アンヌ・カンタン フランスチーズガイドブック	マリー=アンヌ・カンタン	原書房
6385	加工・流通・販売	世界チーズ大図鑑		柴田書店
6386	加工・流通・販売	チーズの教本:「チーズプロフェッショナル」のための教科書:2018	チーズプロフェッショナル協会	小学館クリエイティブ
6387	加工・流通・販売	プロフェッショナル・チーズ読本:プロが教えるチーズの基本知識から扱い方まで	木村則生	誠文堂新光社
6388	加工・流通・販売	チーズと文明:古代宗教儀式、貨幣、産業革命、原産地名保護	ポール・キンステッド	築地書館
6389	加工・流通・販売	ヨーグルトの事典		朝倉書店
6390	加工・流通・販売	ヨーグルトとブルガリア:生成された言説とその展開	マリア ヨトヴァ	東方出版
6391	加工・流通・販売	チーズ入門,改訂4版(食品知識ミニブックスシリーズ)	白石敏夫	日本食糧新聞社
6392	加工・流通・販売	食肉製品の知識,改訂新版	鈴木普	幸書房
6393	加工・流通・販売	食肉卸売業の業態変化に関する研究	松尾秀雄/堀川新吾	三恵社
6394	加工・流通・販売	数字でみる食肉産業:2018		食肉通信社
6395	加工・流通・販売	日本食肉年鑑:2016~2017		食肉通信社
6396	加工・流通・販売	ゼロから理解する食肉の基本:家畜の飼育・病気と安全・流通ビジネス(すぐわかるすごわかる!)		誠文堂新光社
6397	加工・流通・販売	新・食肉衛生検査マニュアル		中央法規出版
6398	加工・流通・販売	食鳥処理衛生ハンドブック:Hygiene Handbook for Poultry Inspectors,第4版		日本食品衛生協会
6399	加工・流通・販売	誰も知らない屠場の仕事:牛が食卓にのぼるまで…	桜井厚	創土社
6400	加工・流通・販売	屠殺:監禁畜舎・食肉処理場・食の安全	テッド・ジェノウェイズ	緑風出版
6401	加工・流通・販売	ソーセージの歴史(「食」の図書館)	ゲイリー・アレン	原書房
6402	加工・流通・販売	食肉加工技術:高度・高品質	岡田邦夫	幸書房
6403	加工・流通・販売	熟成肉:人気レストランのドライエイジングと料理		柴田書店
6404	加工・流通・販売	長靴で歩いたハム・ソーセージ現場35年	藤間能之	食品と科学社
6405	加工・流通・販売	ハム・ソーセージ入門,改訂4版(食品知識ミニブックスシリーズ)	古澤栄作	日本食糧新聞社
6406	加工・流通・販売	牛肉資本主義:牛丼が食べられなくなる日	井上恭介	プレジデント社
6407	加工・流通・販売	牛肉の歴史(「食」の図書館)	ローナ・ピアッティ=ファーネル	原書房
6408	加工・流通・販売	国産牛肉の流通:国産牛肉の供給構造と安全性	仲川直毅	御茶の水書房
6409	加工・流通・販売	ステーキ!:世界一の牛肉を探す旅	マーク・シャツカー	中央公論新社
6410	加工・流通・販売	東京発の美味しい豚肉:畜産物の販売戦略とブランディング		TOKYO X-Association事務局
6411	加工・流通・販売	豚肉の歴史(「食」の図書館)	キャサリン・M.ロジャーズ	原書房
6412	加工・流通・販売	侵略する豚	青沼陽一郎	小学館
6413	加工・流通・販売	ひと手間カンパニー.:岩手の端っこで“南部どり”を育て続ける会社のはなし	甘竹秀企	ダイヤモンド・ビジネス企画
6414	加工・流通・販売	Venison:うまいシカ肉が日本を救う	C.W.ニコル	かんぼう
6415	加工・流通・販売	馬肉新書:基本知識と技術、保存版レシピ集		旭屋出版
6416	加工・流通・販売	うまいぞ!シカ肉:捕獲、解体、調理、販売まで	松井賢一/藤木徳彦	農山漁村文化協会
6417	加工・流通・販売	なぜニワトリは毎日卵を産むのか:鳥と人間のうんちく文化学(私の大学)テキスト版7)	森誠	こぶし書房
6418	加工・流通・販売	タマゴの歴史(「食」の図書館)	ダイアン・トゥーブス	原書房
6419	加工・流通・販売	たまご大事典:「小学生」「主婦」「業界人」の、すべての疑問に答える!改訂版(1/O BOOKS)	高木伸一	工学社
6420	加工・流通・販売	モツの歴史(「食」の図書館)	ニーナ・エドワーズ	原書房
6421	加工・流通・販売	森林の持続可能性と国際貿易	島本美保子	岩波書店
6422	加工・流通・販売	国産材はなぜ売れなかったのか	荻大陸	日本林業調査会
6423	加工・流通・販売	中国の森林・林業・木材産業:現状と展望		日本林業調査会
6424	加工・流通・販売	木材需給報告書:平成28年		農林統計協会
6425	加工・流通・販売	コンサイス木材百科:木材のよりよい使い方を考えるための143のヒント,改訂2版		パレア

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
6426	加工・流通・販売	木を食べる	志村史夫	牧野出版
6427	加工・流通・販売	木材と文明: ヨーロッパは木材の文明だった。	ヨアヒム・ラートカウ	築地書館
6428	加工・流通・販売	木材科学ハンドブック, 普及版		朝倉書店
6429	加工・流通・販売	〈原色〉木材加工面がわかる樹種事典	河村寿昌/西川栄明	誠文堂新光社
6430	加工・流通・販売	原色木材大事典185種: 日本で手に入る木材の基礎知識を網羅した決定版, 増補改訂	村山忠親	誠文堂新光社
6431	加工・流通・販売	木材科学講座: 1 概論		海青社
6432	加工・流通・販売	木材科学講座: 2 組織と材質, 第2版		海青社
6433	加工・流通・販売	木材科学講座: 3 木材の物理		海青社
6434	加工・流通・販売	木材科学講座: 3 物理, 第2版	高橋 徹/中山 義雄編	海青社
6435	加工・流通・販売	木材科学講座: 4 化学(木材科学講座)	城代 進/鮫島 一彦	海青社
6436	加工・流通・販売	木材科学講座: 5 環境	高橋 徹/中尾 哲也編	海青社
6437	加工・流通・販売	木材科学講座: 6 切削加工	田中 千秋/喜多山 繁編	海青社
6438	加工・流通・販売	木材科学講座: 8 木質資源材料	鈴木 正治編/作野 友康編	海青社
6439	加工・流通・販売	木材科学講座: 9 木質構造		海青社
6440	加工・流通・販売	木材科学講座: 11 バイオテクノロジー		海青社
6441	加工・流通・販売	木材科学講座: 12 保存・耐久性		海青社
6442	加工・流通・販売	梶谷哲也の達人探訪記	梶谷哲也	全国林業改良普及協会
6443	加工・流通・販売	木材の組織, 新装版	島地謙/須藤彰司	森北出版
6444	加工・流通・販売	木材組織学, 新装版	山林暹	森北出版
6445	加工・流通・販売	木質の構造		文永堂出版
6446	加工・流通・販売	不況の合間に光が見えた!: 新しい国産材時代が来る	遠藤日雄	日本林業調査会
6447	加工・流通・販売	奇跡の杉: 「金のなる木」を作った男	船瀬俊介	三五館
6448	加工・流通・販売	きのこ (ちいさな手のひら事典)	ミリアム・ブラン	グラフィック社
6449	加工・流通・販売	新・岩手きのこ百科 (カラー百科シリーズ)	岩手県菌類研究同好会	岩手日報社
6450	加工・流通・販売	きのこを通して自然を知る: 和良の集落に理想が見えた	古川久彦	岐阜新聞社
6451	加工・流通・販売	キノコの歴史 (「食」の図書館)	シンシア・D・バーテルセン	原書房
6452	加工・流通・販売	トリュフの歴史 (「食」の図書館)	ザッカリー・ノワク	原書房
6453	加工・流通・販売	毒きのこ: 世にもかわいい危険な生きもの		幻冬舎
6454	加工・流通・販売	おいしいきのこ毒きのこハンディ図鑑: 北海道から沖縄まで、各地のきのこ365種を紹介	大作晃一/吹春俊光	主婦の友社
6455	加工・流通・販売	伊勢の神様に認められたしいたけの逆襲	野呂純也	秀和システム
6456	加工・流通・販売	乾しいたけ: 千年の歴史をひもとく	小川武廣	女子栄養大学出版部
6457	加工・流通・販売	きのこの呼び名事典: 写真でわかる		世界文化社
6458	加工・流通・販売	キノコの営利栽培: 直売向け・収益確保・安定生産を実現 (野菜の栽培技術シリーズ)	木村栄一	誠文堂新光社
6459	加工・流通・販売	最新きのこ栽培技術, 改訂版		特産情報
6460	加工・流通・販売	きのこ年鑑: 2017年度版		特産情報きのこ年鑑編集部
6461	加工・流通・販売	木の実のガイド, フィールド版	須賀瑛文	トンボ出版
6462	加工・流通・販売	どんぐりの呼び名事典: 拾って楽しむ		世界文化社
6463	加工・流通・販売	ドンぐリの戦略: 森の生き物たちをあやつる樹木	森廣信子	八坂書房
6464	加工・流通・販売	どんぐりハンドブック	いわさゆうこ	文一総合出版
6465	加工・流通・販売	美味しい木の实ハンドブック	おくやまひさし	文一総合出版
6466	加工・流通・販売	里山の山菜・木の实ハンドブック		NHK出版
6467	加工・流通・販売	食べる薬草・山野草早わかり: 食べて効く! 飲んで効く!		主婦の友社
6468	加工・流通・販売	山菜王国: おいしい日本菜生ビジネス (コミュニティ・ブックス 農と食の王国シリーズ)		日本地域社会研究所
6469	加工・流通・販売	竹の基礎科学と高度利用技術: Basic Science and Advanced Technologies for Industrial Applications of Bamboo, 普及版 (新材料・新素材シリーズ)		シーエムシー出版
6470	加工・流通・販売	竹の民俗誌: 日本文化の深層を探る, 新装版	沖浦和光	現代書館
6471	加工・流通・販売	現代に生かす竹資源		創森社
6472	加工・流通・販売	木質バイオマスのマテリアル利用・市場動向: Material-use and Market Trend of Woody Biomass		シーエムシー出版
6473	加工・流通・販売	木質エネルギービジネスの展望 (林業改良普及双書 No.167)	熊崎実	全国林業改良普及協会
6474	加工・流通・販売	地域ではじめる木質バイオマス熱利用		日刊工業新聞社
6475	加工・流通・販売	木質資源とことん活用読本: 薪、チップ、ペレットで燃料、冷暖房、発電	熊崎実/沢辺攻	農山漁村文化協会
6476	加工・流通・販売	おかやまの炭焼き	立石憲利	伝統工芸木炭生産技術保存会

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
6477	加工・流通・販売	マンガで教えて…テクノ君!炭のふしぎ (B&Tブックス)	炭活用研究会	日刊工業新聞社
6478	加工・流通・販売	図解よくわかる炭の力 (B&Tブックス)	炭活用研究会	日刊工業新聞社
6479	加工・流通・販売	里山エコトピア: 理想郷づくりの絵物語! (コミュニティ・ブックス)	炭焼三太郎	日本地域社会研究所
6480	加工・流通・販売	炭をやく炭を使う (現代農業特選シリーズ 3 DVDでもっとわかる 3)		農山漁村文化協会
6481	加工・流通・販売	ウッドケミカルの新展開: Advanced Technologies for Chemicals from Wood Resources. 普及版 (CMCテクニカルライブラリー 427 ファインケミカルシリーズ)		シーエムシー出版
6482	加工・流通・販売	木質系資源と応用製品の開発・市場動向: Developing & Market Trend of Woody Resources and Applications		シーエムシー出版
6483	加工・流通・販売	木質系有機資源の有効利用技術: Effective Technology of Woody Organic Resources. 普及版 (CMCテクニカルライブラリー 358 地球環境シリーズ)		シーエムシー出版
6484	加工・流通・販売	木質系有機資源の新展開: Advanced Technologies for Woody Organic Resources: 2. 普及版 (地球環境シリーズ)		シーエムシー出版
6485	加工・流通・販売	リグニン利用の最新動向: Latest Trends of the Lignin Utilization (新材料・新素材シリーズ)		シーエムシー出版
6486	加工・流通・販売	漆: 1 漆掻きと漆工 ウルシ利用 (地域資源を活かす生活工芸双書)		農山漁村文化協会
6487	加工・流通・販売	クレーム対応の基本がしっかり身につく本: 対応のイロハからお詫びメールの書き方まで押さえておきたいポイント33. 改訂版 (ポイント図解)	舟橋孝之	KADOKAWA
6488	加工・流通・販売	営業の見える化: 3200社が導入, カラー改訂版	長尾一洋	KADOKAWA
6489	加工・流通・販売	人材が育つ営業現場の共通点: 伝説の営業リーダーが教える	北澤孝太郎	PHP研究所
6490	加工・流通・販売	SALES GROWTH: 世界のセールス・エグゼクティブが伝える5つの実績のある戦略 (T's BUSINESS DESIGN)	トーマス・バウムガルトナー/オマユーン・アタミ	TAC株式会社出版事業部
6491	加工・流通・販売	営業の仕事と営業戦略: 図解キチンとできる!	吉田繁夫	TAC株式会社出版事業部
6492	加工・流通・販売	すぐに使えるSX2: 戦略販売・購買情報システム (SX2) ガイドブック	TKC全国システム委員会/SX2システム小委員会	TKC出版
6493	加工・流通・販売	どんなクレームも絶対解決できる!	津田卓也	あさ出版
6494	加工・流通・販売	営業リーダーは「仕事」をするな! 結果を出したいリーダーがやってはいけない37のこと	世古誠	あさ出版
6495	加工・流通・販売	クレーム対応の全技術: こんなアドバイスがほしかった!	古谷治子/工藤アリサ	かんき出版
6496	加工・流通・販売	SFA・CRM: 導入効果を最大化するために営業パーソン全員が知るべきこと	早川圭一	クロスメディア・パブリッシング
6497	加工・流通・販売	クレーム対応の教科書: わかる!!できる!!売れる!! (1THEME × 1MINUTE)	西村宏子	ずばる舎
6498	加工・流通・販売	営業ロールプレイング: 部下の力をまとめて一気に引き上げ、売上アップにつなげる	甲斐輝彦	ずばる舎
6499	加工・流通・販売	最強セールス集団断トツに売る力	村上静雄	ずばる舎
6500	加工・流通・販売	販促の教科書: わかる!!できる!!売れる!! (1THEME × 1MINUTE)	眞喜屋実行	ずばる舎
6501	加工・流通・販売	お金をかけずにやれる販促73のアイデア	中沢智之	セルバ出版
6502	加工・流通・販売	試し営業に抜群の効果「営業代行業者」の活用法	宮本梵	セルバ出版
6503	加工・流通・販売	リクルートの強い営業の生みの親が教える最強の営業部隊のつくり方: 7日間「紙上セミナー」で、実践ノウハウを伝授!	寺岡晟	ソシム
6504	加工・流通・販売	やっぱり変だよ日本の営業, 新版	宋文洲	ダイヤモンド・ビジネス企画
6505	加工・流通・販売	「考える営業」の教科書: サプライヤーが小売業と取り組む実践的方法 (DIAMOND流通選書)	MCEI東京支部/守口剛	ダイヤモンド・フリードマン社
6506	加工・流通・販売	あらゆる販促を成功させる「A4」1枚アンケート実践バイブル: お客様の声から売れる広告・儲かる仕組みが確実に作れる!	岡本達彦	ダイヤモンド社
6507	加工・流通・販売	お客様に聞くだけで「売れない」が「売れる」に変わるたった1つの質問	岡本達彦	ダイヤモンド社
6508	加工・流通・販売	サービスが伝説になる時, 新装版	ベッツィ・サンダース	ダイヤモンド社
6509	加工・流通・販売	デジタルインサイドセールス: 最新テクノロジーによる法人営業改革の実践	吉田融正	ダイヤモンド社
6510	加工・流通・販売	苦情対応実践マニュアル: 『日本苦情白書』のデータが実証する	関根真一	ダイヤモンド社
6511	加工・流通・販売	現場の悩みを知り尽くしたプロが教えるクレーム対応の教科書: 心が折れないための21の実践テクニック	援川聡	ダイヤモンド社
6512	加工・流通・販売	思考する営業: BCG流営業戦略	杉田浩章	ダイヤモンド社
6513	加工・流通・販売	「愛されるサービス」と「残念なサービス」45の法則	T.スコット・グロス	ディスカヴァー・トゥエンティワン
6514	加工・流通・販売	営業リーダーの教科書	横田雅俊	ディスカヴァー・トゥエンティワン
6515	加工・流通・販売	ビジネスデベロップメント: いかにして顧客やクライアントを増やすか!? (フィナンシャルタイムズガイド)	イアン・クーバー	ピアソン桐原
6516	加工・流通・販売	大学准教授・真島弘之: モノ言える顧客	安達巧/石部紗貴子	ふくろう出版
6517	加工・流通・販売	自分でつくるAccess販売・顧客・帳票管理システムかんたん入門: 2016/2013/2010対応	きたみあきこ	マイナビ出版
6518	加工・流通・販売	クレマーと闘う: 過熱する異常クレーム 課題となるグレーゾーン対応 いま求められる組織力とは	藤木健	リックテレコム
6519	加工・流通・販売	ID・POSマーケティング: 顧客ID付き購買データで商品・ブランド・売り場を伸ばす	本藤貴康/奥島晶子	英治出版
6520	加工・流通・販売	販売管理論入門	坪井晋也/河田賢一	学文社
6521	加工・流通・販売	売れる仕組みをどう作るか: トルネード式仮説検証	永井孝尚	幻冬舎
6522	加工・流通・販売	非常識クレームへの対応法: やさしいあなたが苦しまないための	柴田豊幸/柴田洋平	幻冬舎
6523	加工・流通・販売	B2B営業が「つまらん!」: 勝ちパターンの行動モデルはこれだ (わが社の「つまらん!」を変える本 3)	水島温夫	言視舎
6524	加工・流通・販売	企業担当者のための失敗しないクレーム・リコール対応の基本と対策マニュアル: 事業者必携		三修社
6525	加工・流通・販売	お店の売上を倍増したいならお金をかけずにアイデアで勝負する!: 販促ウエボン100	販促ウエボン推進委員会	商業界
6526	加工・流通・販売	すぐ分かる食品クレーム対応ハンドブック	西村宏子	商業界
6527	加工・流通・販売	アクセセル: デジタル時代の営業最強の教科書	マーク・ロベルジュ	祥伝社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
6528	加工・流通・販売	理不尽な要求を黙らせる最強のクレーム対処術 (100万人の教科書)		神宮館
6529	加工・流通・販売	セールスデザイン:「売れる仕組み」のつくりかた (宣伝会議ビジネスブックス)		宣伝会議
6530	加工・流通・販売	デジタルで変わるセールスプロモーション基礎 (宣伝会議マーケティング選書)		宣伝会議
6531	加工・流通・販売	プロフェッショナルなチームをつくる営業マネジャーの仕事術	長田周三	総合法令出版
6532	加工・流通・販売	中小企業のための全員営業のやり方	辻伸一	総合法令出版
6533	加工・流通・販売	臨機応変!クレーム対応完璧マニュアル: CLAIM CORRESPONDENCE PERFECT MANUAL (リンクオウヘンシリーズ)	関根健夫	大和出版
6534	加工・流通・販売	リテールデータ分析入門	上田隆穂/田島博和	中央経済社
6535	加工・流通・販売	営業活動・取引先管理規程集	荻原勝	中央経済社
6536	加工・流通・販売	営業職の人材マネジメント: 4類型による最適アプローチ	松浦民恵	中央経済社
6537	加工・流通・販売	市場創造のプロモーション技法: B2B市場における新規顧客開拓	本田元	中央経済社
6538	加工・流通・販売	不当要求・クレーム撃退のポイント50: 企業・行政によるコンプライアンスの実践	深澤直之	東京法令出版
6539	加工・流通・販売	ロジカル・セリング: 最強の法人営業 (BEST SOLUTION)	近藤敬/斎藤岳	東洋経済新報社
6540	加工・流通・販売	優れた営業リーダーの教科書: 営業戦略・戦術から人間力構築まで	北澤孝太郎	東洋経済新報社
6541	加工・流通・販売	お客さまがお店のことを話したくなる!クチコミ販促35のスイッチ (DO BOOKS)	眞喜屋実行	同文館出版
6542	加工・流通・販売	営業生産性を高める!「データ分析」の技術 (DO BOOKS)	高橋威知郎	同文館出版
6543	加工・流通・販売	小売業・サービス業のための船井流・「販促」大全 (DO BOOKS)	船井総合研究所	同文館出版
6544	加工・流通・販売	店長とスタッフのためのクレーム対応基本と実践 (DO BOOKS)	間川清	同文館出版
6545	加工・流通・販売	販促ははじめの一步: 脱・価格競争!お客様から愛される小さなお店がしてること (DO BOOKS)	中沢智之	同文館出版
6546	加工・流通・販売	受注を激増させる営業革命: 問題は市場経済ではない、われわれ自身にある!	ウイリアム・Aウオー/ディートリッヒ・レガート	同友館
6547	加工・流通・販売	ロールプレイング実践マニュアル: 何だ!そうやるのか	菅谷新吾/宮崎聡子	日刊自動車新聞社
6548	加工・流通・販売	自ら考え戦略的に動く営業集団をつくる3つのフレームワーク: 戦略実行力を高める、成長型組織のマネジメント	河村亨	日経BPコンサルティング
6549	加工・流通・販売	店頭マーケティングのためのPOS・ID-POSデータ分析		日本経済新聞出版社
6550	加工・流通・販売	営業代行の真実と活用	是永英治	日本工業新聞社
6551	加工・流通・販売	カルビーお客様相談室: クレーム客をファンに変える仕組み	カルビーお客様相談室	日本実業出版社
6552	加工・流通・販売	一番つかえるクレーム対応のやり方がわかる本	田中義樹	日本実業出版社
6553	加工・流通・販売	営業マネジャーが必ずやるべきこと: 1日目から結果を出し続ける!	田原洋樹	日本実業出版社
6554	加工・流通・販売	担当になったら知っておきたい「販売促進」実践講座	岩本俊幸	日本実業出版社
6555	加工・流通・販売	180日間営業変革プロジェクト: チーム営業で成功する9つのプロセス	嶋谷光洋	日本食糧新聞社
6556	加工・流通・販売	お客様相談室, 改訂2版 (図解でわかる部門の仕事)		日本能率協会マネジメントセンター
6557	加工・流通・販売	営業の「見える化」99のしかけ	松井順一/石川秀人	日本能率協会マネジメントセンター
6558	加工・流通・販売	予算ゼロでも効果がすぐ出る売り上げが3倍上がる!販促のコツ48	酒井とし夫	日本能率協会マネジメントセンター
6559	加工・流通・販売	図解クレーム対応術: すぐに使える聞き方・話し方のツボ		日本文芸社
6560	加工・流通・販売	営業力は企業力: 大競争時代に勝ち残る戦略, 新装版	小泉豊	批評社
6561	加工・流通・販売	不況時代の企業力: 企業が生き抜くための営業スキル	小泉豊	批評社
6562	加工・流通・販売	モンスタークレーム対策の実務と法: 法律と接客のプロによる徹底対談, 第2版	升田純/関根眞一	民事法研究会
6563	加工・流通・販売	弁護士に学ぶ!クレーム対応のゴールデンルール: ピンチをチャンスに変える実践的スキル	奥山倫行	民事法研究会
6564	加工・流通・販売	なぜ営業目標はいつも未達に終わるのか: 次の一手は顧客が教えてくれる (働く・仕事を考えるシリーズ 018)	脇穂積	労働調査会
6565	加工・流通・販売	EXCEL売上データ分析 (ビジテックBUSINESS TECHNIQUE)	APMコンサルティング	翔泳社
6566	加工・流通・販売	ガラス片手にデータベース設計: 販売管理システム編, 第2版 (DB Magazine SELECTION)	梅田弘之	翔泳社
6567	加工・流通・販売	ビジュアル思考×EXCELで営業の成果を上げる本	角川淳	翔泳社
6568	加工・流通・販売	小さなお店のiPad販促活用ガイド: お客様のニーズをキャッチ! (Small Business Support-時間がない 予算がない 知識がない そんなお店でも大丈夫!)	原田充/中村義和	翔泳社
6569	加工・流通・販売	店長・エリアマネージャーが知っておきたい売上がUPするPOSデータの使い方	石井真人	翔泳社
6570	加工・流通・販売	新しい「物流」の教科書: 基礎知識から最新動向まで1冊でまるごとわかる!	湯浅和夫	PHP研究所
6571	加工・流通・販売	物流改革の手順 (Dr.SANTAの物流講座)	平野太三	SANTA物流コンサルティング
6572	加工・流通・販売	2時間でわかる図解オムニチャネル入門	角井亮一	あさ出版
6573	加工・流通・販売	図解でわかる物流の基本としくみ	ロジ・ソリューション(株)出版プロジェクト	アニモ出版
6574	加工・流通・販売	スマートロジスティクス: IoTと進化するSCM実行系		エヌ・ティー・エス
6575	加工・流通・販売	ロジスティクス英語辞典: Logistics English Dictionary, 第2版		オーシャンコマース
6576	加工・流通・販売	国内・国際物流コストダウン実例集: 初心者からエキスパートまで使える豊富な実例満載, 改訂新版 (OCビジネスライブラリー 6)	荻原克郎/中畦和美	オーシャンコマース
6577	加工・流通・販売	2時間で丸わかり物流の基本を学ぶ	木村徹	かんき出版
6578	加工・流通・販売	これだけ!Logistics: 利益を最大化するための戦略的物流デザイン	廣田幹浩	すばる舎リネージュ

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
6579	加工・流通・販売	知識ゼロからわかる物流の基本	刈屋大輔	ソシム
6580	加工・流通・販売	流通チャネルの転換戦略: チャネル・スチュワードシップの基本と導入	V.カストゥーリ・ランガン	ダイヤモンド社
6581	加工・流通・販売	現代の流通論		ナカニシヤ出版
6582	加工・流通・販売	顧客をしっかり困い込む!小さな会社の販売チャネル戦略	佐藤和明	マイナビ出版
6583	加工・流通・販売	販売流通管理の体系: 販売士検定・実務に役立つ	鈴木邦成/若林敬造	英光社
6584	加工・流通・販売	ロジスティクスの基礎知識: フレッシュマン必携本, 改訂版	浜崎章洋	海事プレス社
6585	加工・流通・販売	高度物流社会と法	澤喜司郎	海文堂出版
6586	加工・流通・販売	マーケティング・マネジメント論: ICTと流通	大驛潤	学文社
6587	加工・流通・販売	物流が一番わかる: 生産者から消費者へ物資を効率よく届けるための包装・保管・輸送方法 (しくみ図解 061)	齋藤正宏	技術評論社
6588	加工・流通・販売	IoT時代のロジスティクス戦略	秋葉淳一/渡辺重光	幻冬舎メディアコンサルティング
6589	加工・流通・販売	オムニチャネル時代を勝ち抜く物流改革の教科書	秋葉淳一/渡辺重光	幻冬舎メディアコンサルティング
6590	加工・流通・販売	現代流通の基礎	西島博樹	五紘舎
6591	加工・流通・販売	現代流通の基礎理論 (シリーズ現代の流通 第1巻)	西島博樹	五紘舎
6592	加工・流通・販売	流通の基礎講座	曾我信孝	五紘舎
6593	加工・流通・販売	流通ビジネスの新展開 (中村学園大学流通科学部流通科学研究所研究叢書 No.2)	甲斐諭	五紘舎
6594	加工・流通・販売	コールドチェーン	森隆行/石田信博	晃洋書房
6595	加工・流通・販売	製配販サプライチェーンにおける物流革新: 企画・設計・開発のエンジニアリングと運営ノウハウ	尾田寛仁	三恵社
6596	加工・流通・販売	物流エンジニアリングの温故知新	尾田寛仁	三恵社
6597	加工・流通・販売	イノベーションと流通構造の国際的変化: 業態開発戦略, 商品開発戦略から情報化戦略への転換	蓼沼智行	時潮社
6598	加工・流通・販売	WMS導入と運用のための99の極意: Warehouse Management System, 第2版 (図解入門ビジネス-How-nual-)	實藤政子/秋川健次郎	秀和システム
6599	加工・流通・販売	いますぐ現場で役立つ物流実務のノウハウ (Shuwa Business Professional)	木村徹	秀和システム
6600	加工・流通・販売	最新ロジスティクスの基本と実践がよ〜わかる本: 調達・生産・物流・販売の全体最適化入門 (図解入門ビジネス-How-nual-)	伊志井雅博	秀和システム
6601	加工・流通・販売	事例で学ぶ物流改善: 実話で伝える成功・失敗のポイント	青木正一	秀和システム
6602	加工・流通・販売	物流がよ〜わかる本: ポケット図解	木村徹	秀和システム
6603	加工・流通・販売	物流センターの改善の進め方がよ〜わかる本: こうすれば"できなかった"改善が"できる"!(図解入門ビジネス-How-nual-)	秋川健次郎/大江賢治	秀和システム
6604	加工・流通・販売	商売は冷蔵庫の中にある!: 身近な出来事に学ぶ物流「ロジスティクス思考」	鈴木邦成	商業界
6605	加工・流通・販売	小売・流通業が知らなきゃいけない物流の知識	角井亮一	商業界
6606	加工・流通・販売	小売・流通用語集: 流通業界で働く方必携	中内学園流通科学大学	商業界
6607	加工・流通・販売	コア・テキスト流通論 (ライブラリ経営学コア・テキスト 10)	宮副謙司	新世社
6608	加工・流通・販売	激動する日本経済と物流	ジェイアール貨物・リサーチセンター	成山堂書店
6609	加工・流通・販売	新流通・マーケティング入門	金弘錫/美藤信也	成山堂書店
6610	加工・流通・販売	ローカル認証: 地域が創る流通の仕組み	大元鈴子	清水弘文堂書房
6611	加工・流通・販売	ロジスティクスの論点: 図表でせまる現状と展望	石井徹郎	生産性出版
6612	加工・流通・販売	ロジスティクスの改革最前線と新しい課題 (拓殖大学研究叢書 社会科学 41)	芦田誠	税務経理協会
6613	加工・流通・販売	戦略思考の物流管理入門: キャリアアップを目指す人のための	千本隆司	税務経理協会
6614	加工・流通・販売	流通論パラダイム風呂勉の世界 (碩学叢書)	風呂勉	碩学舎
6615	加工・流通・販売	マーケティング・チャネル管理と組織成果	結城祥	千倉書房
6616	加工・流通・販売	日本経済のロジスティクス革新力	宮下國生	千倉書房
6617	加工・流通・販売	流通システムと小売経営, 改訂版	佐藤芳彰	千倉書房
6618	加工・流通・販売	マッシュアップ時代のサプライチェーン・ロジスティクス	鳥居保徳	創英社
6619	加工・流通・販売	現代国際流通論: 原理と仕組み	鷲尾紀吉	創成社
6620	加工・流通・販売	新流通論, 改訂版	青木均/石川和男	創成社
6621	加工・流通・販売	日本の物流: 世界に誇る日本の文化と心 (人物シリーズ)	田中徳忠	第三企画出版
6622	加工・流通・販売	インターネットは流通と社会をどう変えたか	阿部真也/江上哲	中央経済社
6623	加工・流通・販売	ずらずら物流管理	山田健	中央経済社
6624	加工・流通・販売	まちづくりによる地域流通の再生	宇野史郎	中央経済社
6625	加工・流通・販売	企業経営の物流戦略研究: ロジスティクス・マーケティングの創出, 第2版	丹下博文	中央経済社
6626	加工・流通・販売	基礎からの商業と流通, 第4版	石川和男	中央経済社
6627	加工・流通・販売	販売会社チャネルの機能と役割: 流通系列化のダイナミズム	山内孝幸	中央経済社
6628	加工・流通・販売	物流論 (ベアシック+)	齊藤実/矢野裕児	中央経済社
6629	加工・流通・販売	流通チャネル・リンケージ論: マーケティングとロジスティクスの均衡をめざして	田村公一	中央経済社

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
6630	加工・流通・販売	流通政策入門: 市場・政府・社会, 第4版	渡辺達朗	中央経済社
6631	加工・流通・販売	流通論の基礎, 第2版	住谷宏	中央経済社
6632	加工・流通・販売	流通・都市の理論と動態 (中央大学企業研究所研究叢書 36)	佐久間英俊/木立真直	中央大学出版部
6633	加工・流通・販売	ベーシック流通論: THEORY OF DISTRIBUTION	井上崇通/村松潤一	同文館出版
6634	加工・流通・販売	現代物流の基礎, 第3版	森隆行	同文館出版
6635	加工・流通・販売	図解よくわかるこれからの物流改善 (DO BOOKS なるほどこれでわかった)	津久井英喜	同文館出版
6636	加工・流通・販売	物流センターのしくみ (DO BOOKS ビジュアル図解)	臼井秀彰	同文館出版
6637	加工・流通・販売	流通・マーケティング革新の展開	渦原実男	同文館出版
6638	加工・流通・販売	流通マーケティング (DO BOOKS マーケティング・ベーシック・セレクション・シリーズ)	田中秀一	同文館出版
6639	加工・流通・販売	流通経済の動態と理論展開	木立真直	同文館出版
6640	加工・流通・販売	流通総論	小宮路雅博	同文館出版
6641	加工・流通・販売	流通論	村松幸廣/井上崇通	同文館出版
6642	加工・流通・販売	現代流通の諸相	坂本秀夫	同友館
6643	加工・流通・販売	すぐに役立つロジスティクスコスト削減の実務	末岡毅	日刊工業新聞社
6644	加工・流通・販売	トコトやさしい小売・流通の本 (B&Tブックス 今日からモノ知りシリーズ)	鈴木邦成	日刊工業新聞社
6645	加工・流通・販売	トコトやさしい物流の本 (B&Tブックス 今日からモノ知りシリーズ)	鈴木邦成	日刊工業新聞社
6646	加工・流通・販売	間違いだらけの物流業務委託: パートナー選択・運用で失敗しないための鉄則	中谷祐治	日刊工業新聞社
6647	加工・流通・販売	企業戦略に活かす! サプライチェーンのCO2管理: 「スコープ3」のカーボンマネジメント (B&Tブックス)	岩尾康史	日刊工業新聞社
6648	加工・流通・販売	見える化で進める物流改善	花房陵	日刊工業新聞社
6649	加工・流通・販売	事例に学ぶ物流現場改善: お金をかけずにすぐできる	鈴木邦成	日刊工業新聞社
6650	加工・流通・販売	食品流通が食の安全を脅かす (B&Tブックス 知らなきゃヤバイ!)	米虫節夫/野口英雄	日刊工業新聞社
6651	加工・流通・販売	新・物流マン必携ポケットブック: 国内物流・国際物流・貿易の基本から実務まで	鈴木邦成	日刊工業新聞社
6652	加工・流通・販売	図解すぐ役に立つ物流の実務 (B&Tブックス)	鈴木邦成	日刊工業新聞社
6653	加工・流通・販売	図解物流センターのしくみと実務, 第2版 (B&Tブックス)	鈴木邦成	日刊工業新聞社
6654	加工・流通・販売	図解物流効率化のしくみと実務 (B&Tブックス)	鈴木邦成	日刊工業新聞社
6655	加工・流通・販売	物流マン必携ポケットブック	鈴木邦成	日刊工業新聞社
6656	加工・流通・販売	物流改善Q&A100: 物流ソリューションのためのヒント集	花房陵	日刊工業新聞社
6657	加工・流通・販売	これからのロジスティクス: 2020年に向けた50の指針		日本ロジスティクスシステム協会・JLS総合研究所
6658	加工・流通・販売	ロジスティクスKPIとベンチマーキング調査報告書: 2014		日本ロジスティクスシステム協会・JLS総合研究所
6659	加工・流通・販売	物流コスト調査報告書: 2017年度		日本ロジスティクスシステム協会・JLS総合研究所
6660	加工・流通・販売	〈図解〉基本からよくわかる物流のしくみ		日本実業出版社
6661	加工・流通・販売	図解でわかる販売・物流管理の進め方: 顧客満足度を高め、競争力を強化する	石川和幸	日本実業出版社
6662	加工・流通・販売	図解物流センターのすべて: 「儲けを生み出す」しくみと運営のしかた	廣田幹浩	日本実業出版社
6663	加工・流通・販売	食品流通実勢マップ: 2017~2018		日本食糧新聞社
6664	加工・流通・販売	マンガでやさしくわかる物流	円茂竹縄	日本能率協会マネジメントセンター
6665	加工・流通・販売	食品流通のフロンティア	甲斐諭	農林統計出版
6666	加工・流通・販売	グリーンサプライチェーンの設計と構築: グリーン物流の推進	鈴木邦成	白桃書房
6667	加工・流通・販売	サプライチェーン・マネジメント概論: 基礎から学ぶSCMと経営戦略	苦瀬博仁/鈴野仁子	白桃書房
6668	加工・流通・販売	すぐわかる物流不動産: 倉庫から物流センターへと進化したサプライチェーンの司令塔	鈴木邦成/大谷巖一	白桃書房
6669	加工・流通・販売	みんなの知らないロジスティクスの仕組み: 暮らしと経済を支える物流の知恵	苦瀬博仁/岡村真理	白桃書房
6670	加工・流通・販売	ロジスティクスの歴史物語: 江戸から平成まで	苦瀬博仁	白桃書房
6671	加工・流通・販売	ロジスティクス概論: 基礎から学ぶシステムと経営 (HAKUTO LOGISTICS)	苦瀬博仁/岩尾詠一郎	白桃書房
6672	加工・流通・販売	競争優位の戦略: サプライネットワーク・マネジメント	水嶋康雅	白桃書房
6673	加工・流通・販売	現代流通事典, 第2版 (HAKUTO Management)		白桃書房
6674	加工・流通・販売	市場流通に関する諸問題: 基本的な企業経営原理の応用について, 新訂版	A.W.ショー	白桃書房
6675	加工・流通・販売	事例で学ぶ物流戦略	寺嶋正尚	白桃書房
6676	加工・流通・販売	製販版をめぐる対抗と協調: サプライチェーン統合の現段階 (日本流通学会設立25周年記念出版プロジェクト 4)	木立真直	白桃書房
6677	加工・流通・販売	体系流通論: Distribution, 新版	田口冬樹	白桃書房
6678	加工・流通・販売	流通イノベーションへの挑戦	田口冬樹	白桃書房
6679	加工・流通・販売	流通システムの制度分析: 生活の質の向上に向けて	鈴木幾多郎	文眞堂
6680	加工・流通・販売	マーケティング・チャネル政策の再構築: 日用雑貨業界におけるチャネル・パワー関係からの考察	榎原健郎	唯学書房

No.	科目区分	書名詳細	著者	出版社
6681	加工・流通・販売	はじめての流通: FUNDAMENTALS OF RETAILING AND DISTRIBUTIVE TRADES (有斐閣ストゥディア)	崔容熏/原頼利	有斐閣
6682	加工・流通・販売	ベーシック流通と商業: 現実から学ぶ理論と仕組み, 新版(有斐閣アルマ Basic)	原田英生/向山雅夫	有斐閣
6683	加工・流通・販売	新・流通と商業, 第6版	鈴木安昭	有斐閣
6684	加工・流通・販売	流通チャネル論: 新制度派アプローチによる新展開		有斐閣
6685	加工・流通・販売	ロジスティクスの計画技法: ロジスティクスの分析・設計で用いられる手法	百合本茂/片山直登	流通経済大学出版会

施設名	実習圃場	機械研修場	畜産技術研究所	
			本所	中小家畜センター
所在地	磐田市富丘 678-1	掛川市下垂木 2770-1	富士宮市猪之頭 1945	菊川市西方 2780
移動時間	0分(校内)	マイクロバスで 28分	マイクロバスで1時間 51分	マイクロバスで 29分
規模等	建物:2,043 m ² 土地:15,843 m ²	建物:1,022 m ² 土地:36,656 m ²	建物:12,732 m ² 土地:121.9ha	建物:9,282 m ² 土地:9.3ha
主な施設・設備	農場実習室 8棟 407 m ² 温室 16棟 2,953 m ² ハウス 6棟 1,133 m ² しいたけ関連 5棟 513 m ² 高度茶業施設 1棟 498 m ² 研究実験室 5室 558 m ² 堆肥舎 1棟 94 m ²	管理舎 1棟 110 m ² 機械庫等 5棟 928 m ² トラクター 9台 ホイールローダ 1台	乳牛試験牛舎 1棟 2,237 m ² 肉牛試験牛舎 1棟 1,271 m ² 放牛育成試験牛舎 1棟 777 m ² 受精卵移植研究棟 1棟 354 m ² 堆肥舎 1棟 800 m ² 乳牛 140頭 肉牛 60頭	管理研究棟 1棟 1,516 m ² 鶏試験鶏舎 1棟 2,935 m ² SPF生産研究棟 1棟 168 m ² 豚試験豚舎 1棟 3,582 m ² 肉質研究棟 1棟 182 m ² 豚 900頭 鶏 3,000羽
圃場	茶園 29a 果樹園 29a 野菜園 24a 育苗園 10a 樹木園 51a	研修用圃場 180a 運転コース 74a	草地:75ha	—
教育・研究での 主な利用可能 分野	<ul style="list-style-type: none"> ・露地作物の栽培管理技術 ・施設園芸の栽培管理技術 ・花き、茶、果樹の栽培管理技術 ・樹木の調査方法 ・しいたけの栽培管理技術 ・中小家畜の生理解剖 ・土壌分析や化合物の測定など ・植物培養 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業機械、トラクターの構造 ・農業機械の運転技能 ・作業機の取扱方法 ・農作業安全対策 ・ロータリー、プラウ等の耕耘技術 ・農業機械の走行方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウシの飼養管理技術の研究 ・性別別精液利用に関する研究 ・ITを活用したウシの分娩・疾病予測の研究 ・IT活用型管理技術の研究 ・未利用資源の有効利用の研究 ・牧草飼料作物の栽培・生産利用の研究 ・家畜ふん尿処理と利用法の研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・SPF環境下の豚飼育技術の研究 ・体細胞クローン技術に関する研究 ・DNAマーカー育種を利用した高品質な豚肉の開発 ・銘柄豚の開発 ・銘柄地鶏の開発 ・畜産経営用環境保全技術 ・臭気抑制・低減技術
実施科目名	「総合実習」 「圃場実習(栽培)」 「生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱ(栽培)」 「圃場実習(畜産)」の一部 「生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱ(畜産)(林業)」の一部 「演習林実習」の一部	「大型機械実習Ⅰ、Ⅱ」	「生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱ(畜産)」の一部	「生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱ(林業)」の一部

施設名	静岡県有林
所在地	浜松市ほか
移動時間	マイクロバスで 40 分程度
規模	森林面積 約 280ha
教育・研究での 主な利用可能 分野	<ul style="list-style-type: none"> ・林道や作業路等の測量技術 ・樹種や樹高測定等の森林調査技術 ・病害虫等の診断技術 ・植物などの観察 ・下刈り、枝打ちなどの管理技術 ・間伐などチェーンソーを使った伐採技術 ・木材加工技術
実施科目名	「演習林実習」の一部 「生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱ(畜産)」の一部 「木材加工実習」 「林業機械実習」

【別添資料20-1】

授業名 農学概論 (英名) Introduction to agriculture		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	1年前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	松尾和之、杉山恵太郎、祐森誠司、平岡裕一郎、外側正之、佐藤展之、丹羽康夫、中野敬之、稲葉善太郎、杉山泰之、吉村親
授業時間	月曜日 3時限	教室	講義室 3
オフィスアワー	随時受付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	持続的な社会の構築のため、農学には新たな展開が必要となっている。本科目では、日本の農林業の現状を把握し、環境問題、エネルギー問題、担い手問題など複雑ににからみあう現実の課題を解決するためにはどうすればよいかを考える。		
授業目的・目標	持続的な社会を構築するために現代の農学は何ができるか、どう拡大・進化を続けているかを考察する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	持続可能な社会と農学 (松尾和之)	
	2	人口変動と食料需給 (松尾和之)	
	3	工芸作物栽培の現状と課題 (中野敬之)	
	4	野菜園芸の現状と課題 (杉山恵太郎)	
	5	日本の花き園芸の特徴と将来方向 (稲葉善太郎)	
	5	果樹園芸の現状と課題 (杉山泰之)	
	7	畜産業の持続に対する課題と対策について (祐森誠司)	
	8	日本の林業の現状と課題 (平岡裕一郎)	
	9	これからの日本の林業の可能性 (平岡裕一郎)	
	10	有害生物の防除と管理 (化学農薬による防除と管理)	
	11	有害生物の防除と管理 (化学農薬以外の方法による防除と管理)	
	12	肥料と環境問題 (佐藤展之)	
	13	農業の担い手の現状と課題 (吉村親)	
	14	遺伝子組換え技術の歴史 (丹羽康夫)	
15	農林業における遺伝子組換え技術の現状と課題 (丹羽康夫)		
キーワード	野菜園芸、化学的防除 (化学農薬)、生物的防除、物理的防除、耕種的防除、排出肥料削減、切り花、鉢物、苗生産、環境制御、育種、工芸作物 緑茶 紅茶、遺伝子組換え		
教科書・参考書	東京農業大学「現代農学概論」編集委員会「現代農学概論」、「農のところで社会をデザインする」朝倉書店、関岡東生「図解 知識ゼロからの林業入門」家の光協会		
評価方法・評価基準	試験 (100%)		
関連科目	栽培学、園芸学、野菜園芸学、環境と農林業、植物病理学、分子生物学・生命科学・技術者倫理		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

【別添資料20-2】

授業名 農学概論 (英名) Introduction to agriculture		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	1年前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	松尾和之、杉山恵太郎、祐森誠司、平岡裕一郎、外側正之、佐藤展之、中野敬之、稲葉善太郎、杉山泰之、吉村親
授業時間	月曜日 2時限	教室	大講義室1
オフィスアワー	随時受付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	持続的な社会の構築のため、農学には新たな展開が必要となっている。本科目では、日本の農林業の現状を把握し、環境問題、エネルギー問題、担い手問題など複雑にからみあう現実の課題を解決するためにはどうすればよいかを考える。		
授業目的・目標	持続的な社会を構築するために現代の農学は何ができるか、どう拡大・進化を続けているかを考察する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	持続可能な社会と農学	
	2	人口変動と食料需給	
	3	工芸作物栽培の現状と課題	
	4	野菜園芸の現状と課題	
	5	日本の花き園芸の特徴と将来方向	
	5	果樹園芸の現状と課題	
	7	畜産業の持続に対する課題と対策について	
	8	日本の林業の現状と課題	
	9	これからの日本の林業の可能性	
	10	有害生物の防除と管理（化学農薬による防除と管理）	
	11	有害生物の防除と管理（化学農薬以外の方法による防除と管理）	
	12	肥料と環境問題	
	13	農業の担い手の現状と課題	
	14	遺伝子組換え技術の歴史	
15	農林業における遺伝子組換え技術の現状と課題		
キーワード	野菜園芸、化学的防除（化学農薬）、生物的防除、物理的防除、耕種的防除、排出肥料削減、切り花、鉢物、苗生産、環境制御、育種、工芸作物 緑茶 紅茶、遺伝子組換え		
教科書・参考書	東京農業大学「現代農学概論」編集委員会「現代農学概論」、「農のところで社会をデザインする」朝倉書店、関岡東生「図解 知識ゼロからの林業入門」家の光協会		
評価方法・評価基準	試験（100%）		
関連科目	栽培学、園芸学、野菜園芸学、環境と農林業、植物病理学、害虫管理学、分子生物学・生命科学・技術者倫理		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

【別添資料20-3】

授業名 技術者倫理 (英名) Engineering Ethics		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	3年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	森口卓哉、丹羽康夫、逢坂興宏、竹内隆、片山信也、近藤晃
授業時間	月曜日 5時限	教室	講義室14
オフィスアワー	随時受付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	人類は、高度経済成長により飛躍的に物的豊かさを獲得してきた。農林業では、規模拡大や単作化、機械化、化学肥料・農薬の多用が進んでおり、農林業は環境問題の一端の責任を負っている。また、食の安全・安全も課題である。このような問題群の中で、農林業関係者は農林業の発展に関し大きな社会的責任を負っており、倫理的な問題が絡んでくることが認識されつつある。本科目では、近年の異常気象、特に温暖化が農林業に与える影響と適応策について果樹を中心に学ぶとともに、温暖化緩和策としての樹園地の機能について考えることを目的とする。		
授業目的・目標	農林業関係者が、今後どのように食や環境の問題について対応について考える。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	温暖化の影響評価 (森口卓哉)	
	2	温暖化の適応策I (森口卓哉)	
	3	温暖化の適応策II、緩和策 (森口卓哉)	
	4	農業技術と技術者の社会的責任①	
	5	農業技術と技術者の社会的責任②	
	6	バイオテクノロジーの発展過程 (丹羽康夫)	
	7	倫理の基準となる宗教観と食文化の差異 (丹羽康夫)	
	8	人口爆発・食料不足へのバイオテクノロジーの役割と期待 (丹羽康夫)	
	9	畜産と環境問題① (片山信也)	
	10	畜産と環境問題② (片山信也)	
	11	技術者の社会的責任 (逢坂興宏)	
	12	森林・林業と環境をめぐる諸問題 (逢坂興宏)	
	13	森林・林業技術者と地球倫理・環境倫理 (逢坂興宏)	
	14	林業をめぐる諸問題① (近藤晃)	
15	林業をめぐる諸問題② (近藤晃)		
キーワード	温暖化、影響評価、適応策、緩和策、果実着色不良、休眠不全、バイオテクノロジー		
教科書・参考書	参考書：温暖化が進むと「農業」「食料」はどうなるのか？(杉浦俊彦著 技術評論社)、祖田修・太田猛彦「農林水産業の技術者倫理」農文協		
評価方法・評価基準	試験 (60%)、レポート・小テスト (40%)		
関連科目	農業気象学、農学概論・分子生物学・生命科学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

【別添資料20-4】

授業名 技術者倫理 (英名) Engineering Ethics		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	3年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	森口卓哉、丹羽康夫、逢坂興宏、竹内隆、片山信也、近藤晃
授業時間	水曜日 1時限	教室	講義室14
オフィスアワー	随時受付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	人類は、高度経済成長により飛躍的に物的豊かさを獲得してきた。農林業では、規模拡大や単作化、機械化、化学肥料・農薬の多用が進んでおり、農林業は環境問題の一端の責任を負っている。また、食の安全・安全も課題である。このような問題群の中で、農林業関係者は農林業の発展に関し大きな社会的責任を負っており、倫理的な問題が絡んでくることが認識されつつある。本科目では、近年の異常気象、特に温暖化が農林業に与える影響と適応策について果樹を中心に学ぶとともに、温暖化緩和策としての樹園地の機能について考えることを目的とする。		
授業目的・目標	農林業関係者が、今後どのように食や環境の問題について対応について考える。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	温暖化の影響評価	
	2	温暖化の適応策I	
	3	温暖化の適応策II、緩和策	
	4	農業技術と技術者の社会的責任①	
	5	農業技術と技術者の社会的責任①	
	6	バイオテクノロジーの発展過程	
	7	倫理の基準となる宗教観と食文化の差異	
	8	人口爆発・食料不足へのバイオテクノロジーの役割と期待	
	9	畜産と環境問題①	
	10	畜産と環境問題②	
	11	技術者の社会的責任	
	12	森林・林業と環境をめぐる諸問題	
	13	森林・林業技術者と地球倫理・環境倫理	
	14	林業をめぐる諸問題①	
15	林業をめぐる諸問題②		
キーワード	温暖化、影響評価、適応策、緩和策、果実着色不良、休眠不全、バイオテクノロジー		
教科書・参考書	参考書：温暖化が進むと「農業」「食料」はどうなるのか？（杉浦俊彦著 技術評論社）、祖田修・太田猛彦「農林水産業の技術者倫理」農文協		
評価方法・評価基準	試験（60%）、レポート・小テスト（40%）		
関連科目	農業気象学、農学概論・分子生物学・生命科学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

【別添資料20-5】

授業名 県内農林業事情 (英名) Agriculture and forestry of Shizuoka prefecture		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	1年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	多々良明夫、杉山恵太郎、佐藤展之、祐森誠司、平岡裕一郎
授業時間	火曜日 2時限	教室	小講義室 3
オフィスアワー	随時受付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	静岡県内には、農林業を牽引する多くのビジネス経営体や林業事業体がある。このような先進的な経営体（事業体）の現状について学ぶことは、将来の農林業経営を考える基礎となる。		
授業目的・目標	経営体の事例を交え、経営作物ごとに先進経営体の現状を学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	県内農業の概況とビジネス経営体（多々良明夫）	
	2	カンキツのビジネス経営体事例（多々良明夫）	
	3	落葉果樹のビジネス経営体事例（多々良明夫）	
	4	野菜の先進経営体の現状（施設野菜）（杉山恵太郎）	
	5	野菜の先進経営体の現状（露地野菜）（杉山恵太郎）	
	6	野菜の先進経営体の現状（植物工場）（杉山恵太郎）	
	7	花卉先進経営体の現状（静岡県東部地区）（佐藤展之）	
	8	花卉先進経営体の現状（静岡県中部地区）（佐藤展之）	
	9	花卉先進経営体の現状（静岡県西部地区）（佐藤展之）	
	10	県内の酪農業の経営状況について（祐森誠司）	
	11	県内の肥育（肉牛、豚）の経営状況について（祐森誠司）	
	12	県内の養鶏業の経営状況について（祐森誠司）	
	13	県内の林業事情（平岡裕一郎）	
	14	県内の事業体の事例1（平岡裕一郎）	
15	県内の事業体の事例2（平岡裕一郎）		
キーワード	大規模経営体・農業経営、施設野菜、露地野菜、植物工場、静岡県内花卉先進的農家視察、酪農、肥育、養鶏		
教科書・参考書	必要に応じてプリント配布		
評価方法・評価基準	試験（60%）、レポート・小テスト（40%）		
関連科目	県外農林業事業、海外農林業事業、農学概論、栽培学、園芸学、野菜園芸学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

【別添資料20-6】

授業名 県内農林業事情 (英名) Agriculture and forestry of Shizuoka prefecture		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	1年後期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	多々良明夫、杉山恵太郎、佐藤展之、祐森誠司
授業時間	火曜日3時限	教室	小講義室3
オフィスアワー	随時受け付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	静岡県内には、農林業を牽引する多くのビジネス経営体や林業事業体がある。このような先進的な経営体(事業体)の現状について学ぶことは、将来の農林業経営を考える基礎となる。		
授業目的・目標	経営体の事例を交え、経営作物ごとに先進経営体の現状を学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	県内農業の概況とビジネス経営体	
	2	カンキツのビジネス経営体事例	
	3	落葉果樹のビジネス経営体事例	
	4	野菜の先進経営体の現状(施設野菜)	
	5	野菜の先進経営体の現状(露地野菜)	
	6	野菜の先進経営体の現状(植物工場)	
	7	花卉先進経営体の現状(静岡県東部地区)	
	8	花卉先進経営体の現状(静岡県中部地区)	
	9	花卉先進経営体の現状(静岡県西部地区)	
	10	県内の酪農業の経営状況について	
	11	県内の肥育(肉牛、豚)の経営状況について	
	12	県内の養鶏業の経営状況について	
	13	県内の林業事情	
	14	県内の事業体の事例1	
15	県内の事業体の事例2		
キーワード	大規模経営体・農業経営、施設野菜、露地野菜、植物工場、静岡県内花卉先進的農家視察、酪農、肥育、養鶏		
教科書・参考書	必要に応じてプリント配布		
評価方法・評価基準	試験(60%)、レポート・小テスト(40%)		
関連科目	県外農業事業、海外農業事業、農学概論、栽培学、園芸学、野菜園芸学、関連専門科目		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

【別添資料20-7】

授業名 農業気象学 (英名) Agricultural Meteorology		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	2年 後期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	佐藤展之、中野敬之、逢坂興宏、長藤亮彦
授業時間	水曜日 4時限	教室	講義室3
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	農林業は、自然環境下で営むもので、気象の影響を強く受ける。このため、気象と生物の生育や気象災害との関係を理解し、経営に取り組むことが大切である。近年の気象変動による山林の災害の現状、農林業生産で必要となる施設園芸内の環境を含めた微気象の知識、また、近年の気象災害とその対策など農林業生産で必要となる知識を習得する。		
授業目的・目標	近年の気象変動による山林の災害の現状、農林業生産で必要となる微気象の知識、また、近年の気象災害とその対策など農林業生産で必要となる知識を習得する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	はじめに(中野敬之)	
	2	気候と農業(中野敬之)	
	3	天候と作物(中野敬之)	
	4	農業気象災害①(中野敬之)	
	5	農業気象災害②(中野敬之)	
	6	農業気象災害③(中野敬之)	
	7	農業気象災害とその対策(中野敬之)	
	8	耕地の微気象(佐藤展之)	
	9	環境と植物反応(佐藤展之)	
	10	園芸施設の構造と環境計測(佐藤展之)	
	11	施設園芸における環境制御(佐藤展之)	
	12	園芸施設の気象災害対策(長藤亮彦)	
	13	園芸施設の気象災害対策の実践(長藤亮彦)	
	14	森林山地における水文・気象現象, 降雨, 流出, 蒸発散(逢坂興宏)	
15	森林山地における気象災害, 豪雨, 豪雪, 干害, 山火事(逢坂興宏)		
キーワード	微気象、温室環境制御、園芸施設構造、植物工場		
教科書・参考書	必要に応じてプリント配布		
評価方法・評価基準	試験(100%)		
関連科目	特になし		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 農業気象学 (英名) Agricultural Meteorology		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	2年前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	佐藤展之、中野敬之、逢坂興宏、長藤亮彦
授業時間	月曜2時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	農林業は、自然環境下で営むもので、気象の影響を強く受ける。このため、気象と生物の生育や気象災害との関係を理解し、経営に取り組むことが大切である。近年の気象変動による山林の災害の現状、農林業生産で必要となる施設園芸内の環境を含めた微気象の知識、また、近年の気象災害とその対策など農林業生産で必要となる知識を習得する。		
授業目的・目標	近年の気象変動による山林の災害の現状、農林業生産で必要となる微気象の知識、また、近年の気象災害とその対策など農林業生産で必要となる知識を習得する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	はじめに	
	2	気候と農業	
	3	天候と作物	
	4	農業気象災害①	
	5	農業気象災害②	
	6	農業気象災害③	
	7	農業気象災害とその対策	
	8	耕地の微気象	
	9	環境と植物反応	
	10	園芸施設の構造と環境計測	
	11	施設園芸における環境制御	
	12	園芸施設の気象災害対策	
	13	園芸施設の気象災害対策の実践	
	14	森林山地における水文・気象現象, 降雨, 流出, 蒸発散	
15	森林山地における気象災害, 豪雨, 豪雪, 干害, 山火事		
キーワード	微気象、温室環境制御、園芸施設構造、植物工場		
教科書・参考書	必要に応じてプリント配布		
評価方法・評価基準	試験 (100%)		
関連科目	特になし		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

【別添資料20-9】

授業名 生命科学 (Life science)		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	2年 後期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	丹羽康夫、太田智
授業時間	月曜日 5時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	「生命」とは何か。農林業では様々な生物を扱っており、「生命」とは何かを理解することは、農林業を営む上で重要である。本科目では、「生命」について理解するため、生命を構成する細胞と、細胞の基本構造、生体内での化学反応に不可欠なタンパク質、遺伝と遺伝子、生命活動や生命の制御について学び、生命科学の基礎を理解する。		
授業目的・目標	生命を構成する細胞と、細胞の基本構造、生体内での化学反応に不可欠なタンパク質、遺伝と遺伝子、生命活動や生命の制御について学び、生命科学の基礎を理解する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	生体膜と細胞の構造 (丹羽康夫)	
	2	生物の増殖 (丹羽康夫)	
	3	遺伝子の発現 (丹羽康夫)	
	4	遺伝子発現の制御 (丹羽康夫)	
	5	細胞内輸送と細胞内分解 (丹羽康夫)	
	6	タンパク質と酵素 (丹羽康夫)	
	7	細胞活動と代謝 (丹羽康夫)	
	8	生体エネルギー生産 (丹羽康夫)	
	9	細胞内および細胞間シグナル伝達 (丹羽康夫)	
	10	ゲノムと進化 (丹羽康夫)	
	11	系統進化と遺伝的多様性 (太田智)	
	12	遺伝の仕組み (太田智)	
	13	染色体対合と減数分裂 (太田智)	
	14	遺伝子発現機構 (太田智)	
15	遺伝子組換えとゲノム編集 (太田智)		
キーワード	生命・細胞・遺伝子発現・代謝		
教科書・参考書	東京大学生命科学教科書編集委員会／編 「理系総合のための生命科学 第4版」 羊土社、生命科学入門 (丸善出版)		
評価方法・評価基準	試験 (100%)		
関連科目	分子生物学、農林業のための生物学、植物遺伝育種学概論		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 生命科学 (Life science)		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	3年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	丹羽康夫、太田智
授業時間	水曜日 2時限	教室	講義室14
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	「生命」とは何か。農林業では様々な生物を扱っており、「生命」とは何かを理解することは、農林業を営む上で重要である。本科目では、「生命」について理解するため、生命を構成する細胞と、細胞の基本構造、生体内での化学反応に不可欠なタンパク質、遺伝と遺伝子、生命活動や生命の制御について学び、生命科学の基礎を理解する。		
授業目的・目標	生命を構成する細胞と、細胞の基本構造、生体内での化学反応に不可欠なタンパク質、遺伝と遺伝子、生命活動や生命の制御について学び、生命科学の基礎を理解する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	生体膜と細胞の構造	
	2	生物の増殖	
	3	遺伝子の発現	
	4	遺伝子発現の制御	
	5	細胞内輸送と細胞内分解	
	6	タンパク質と酵素	
	7	細胞活動と代謝	
	8	生体エネルギー生産	
	9	細胞内および細胞間シグナル伝達	
	10	ゲノムと進化	
	11	系統進化と遺伝的多様性	
	12	遺伝の仕組み	
	13	染色体対合と減数分裂	
	14	遺伝子発現機構	
15	遺伝子組換えとゲノム編集		
キーワード	生命・細胞・遺伝子発現・代謝		
教科書・参考書	東京大学生命科学教科書編集委員会／編 「理系総合のための生命科学 第4版」 羊土社、生命科学入門（丸善出版）		
評価方法・評価基準	試験（100％）		
関連科目	分子生物学、農林業のための生物学、分子生物学、植物遺伝育種学概論		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 植物遺伝育種学概論 Introduction to Plant Genetics and Breeding		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	2年 後期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	太田智、稲葉善太郎
授業時間	金曜日 4時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	植物育種は、生産性向上など人類にとって大切な役割を担っている。その技術は、各作物の性質、繁殖様式、開花特性などを巧みに利用し、様々な育種法が研究開発されてきた。また、育種を支える基礎科学が植物遺伝学である。本科目では、前半で遺伝のしくみや遺伝子とゲノムなど育種に必要な基礎知識について学ぶ。また、後半は交雑育種、突然変異育種、栄養繁殖植物の育種など育種の基本的な技術について学ぶ。さらに、植物の遺伝・育種における生物工学の基礎も合わせて学ぶ。		
授業目的・目標	遺伝のしくみや遺伝子とゲノムなど育種に必要な基礎知識と、育種の基本的な技術について学ぶ		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	遺伝育種と私たちの暮らし_(太田智)_	
	2	種概念と種分化_(太田智)_	
	3	細胞分裂と遺伝物質_(太田智)_	
	4	遺伝の仕組み_(太田智)_	
	5	質的形質と量的形質_(太田智)_	
	6	突然変異と染色体の組換え_(太田智)_	
	7	遺伝子工学の基礎(培養と増殖)_(太田智)_	
	8	遺伝子工学の基礎(DNA実験手法とマーカー選抜)_(太田智)_	
	9	栽培植物の起源と育種の歴史_(稲葉善太郎)_	
	10	日本における品種育成の特徴と遺伝資源の活用_(稲葉善太郎)_	
	11	自殖性作物の育種技術_(稲葉善太郎)_	
	12	他殖生作物の育種技術_(稲葉善太郎)_	
	13	栄養繁殖性作物の育種技術_(稲葉善太郎)_	
	14	突然変異源の植物育種への活用_(稲葉善太郎)_	
15	知的財産権としての育成品種の活用_(稲葉善太郎)_		
キーワード	染色体、遺伝子、DNA、自殖性、他殖性、自家不和合、知的財産権、種苗法、遺伝資源		
教科書・参考書	植物の遺伝と育種 改正追補(養賢堂)、鶴飼保雄「植物育種学」東京大学出版会、花の品種改良の日本史(柴田道夫編)、品種改良の世界史・作物編(鶴飼保雄編)、品種改良の日本史(鶴飼保雄・大澤良編)		
評価方法・評価基準	試験(100%)		
関連科目	農林業のための生物学、分子生物学、生命科学、果樹園芸学、野菜園芸学、花き園芸学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

【別添資料20-12】

授業名 植物遺伝育種学概論 Introduction to Plant Genetics and Breeding		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	1年 後期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	太田智、稲葉善太郎
授業時間	木曜日 5時限	教室	講義室3
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	植物育種は、生産性向上など人類にとって大切な役割を担っている。その技術は、各作物の性質、繁殖様式、開花特性などを巧みに利用し、様々な育種法が研究開発されてきた。また、育種を支える基礎科学が植物遺伝学である。本科目では、前半で遺伝のしくみや遺伝子とゲノムなど育種に必要な基礎知識について学ぶ。また、後半は交雑育種、突然変異育種、栄養繁殖植物の育種など育種の基本的な技術について学ぶ。さらに、植物の遺伝・育種における生物工学の基礎も合わせて学ぶ。		
授業目的・目標	遺伝のしくみや遺伝子とゲノムなど育種に必要な基礎知識と、育種の基本的な技術について学ぶ		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	遺伝育種と私たちの暮らし	
	2	種概念と種分化	
	3	細胞分裂と遺伝物質	
	4	遺伝の仕組み	
	5	質的形質と量的形質	
	6	突然変異と染色体の組換え	
	7	遺伝子工学の基礎（培養と増殖）	
	8	遺伝子工学の基礎（DNA実験手法とマーカー選抜）	
	9	栽培植物の起源と育種の歴史	
	10	日本における品種育成の特徴と遺伝資源の活用	
	11	自殖性作物の育種技術	
	12	他殖生作物の育種技術	
	13	栄養繁殖性作物の育種技術	
	14	突然変異源の植物育種への活用	
15	知的財産権としての育成品種の活用		
キーワード	染色体、遺伝子、DNA、自殖性、他殖性、自家不和合、知的財産権、種苗法、遺伝資源		
教科書・参考書	植物の遺伝と育種 改正追補（養賢堂）、鶴飼保雄「植物育種学」東京大学出版会、花の品種改良の日本史（柴田道夫編）、品種改良の世界史・作物編（鶴飼保雄編）、品種改良の日本史（鶴飼保雄・大澤良編）		
評価方法・評価基準	試験（100%）		
関連科目	農林業のための生物学、分子生物学、生命科学、果樹栽培、野菜栽培、花き栽培		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 法と農業経営 Managing Farm Business under Agricultural Laws and Regulations		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	2年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	天野哲郎、菊池宏之、前田節子、杉山泰之
授業時間	木曜日 1時限	教室	講義室 3
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	農業経営に関わる各分野（農作物の生産・流通・加工、担い手の育成、農地の確保）の制度と関連法に着目し、制度の背景や関連法の目的などについて、実際の生産活動の現場での活用法に結び付けて学ぶことで、農業生産及び経営に必要な知識・技術に加え、経営者に必要な対応能力を身に付ける。		
授業目的・目標	実際の農林業経営に結びついた法の知識を習得する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	農業経営の外部環境・与件としての法・制度の考え方と授業の進め方(天野哲郎)	
	2	経営所得安定対策の考え方と具体的な仕組(天野哲郎)	
	3	収入保険制度や農協共済制度の考え方と仕組(天野哲郎)	
	4	畜産クラスター事業、加工原料乳生産者補給金、飼料生産型酪農経営支援事業等畜産をめぐる施策の考え方と仕組(天野哲郎)	
	5	野菜価格安定対策、新しい園芸産地づくり支援事業等園芸経営をめぐる施策の考え方と仕組(天野哲郎)	
	6	環境保全型農業直接支払交付金、国際認証取得拡大緊急支援事業等環境関係施策の考え方と仕組(天野哲郎)	
	7	6次産業化・地産地消法の考え方と仕組について(天野哲郎)	
	8	農業次世代人材投資資金、経営体育成支援事業、認定農業者制度等担い手対策の考え方と仕組(天野哲郎)	
	9	農林業経営をめぐる諸施策の有効活用と経営発展(天野哲郎)	
	10	安全・安心な農産物の生産に関わる制度と関連法①(杉山泰之)	
	11	安全・安心な農産物の生産に関わる制度と関連法②(杉山泰之)	
	12	食料農業に係る制度の土台である食料・農業・農村基本法、食品安全基本法、行政組織とその今日的課題(菊池宏之)	
	13	卸売市場、商品先物取引、食品の規格・表示など流通消費に関する制度(菊池宏之)	
	14	農作物の加工に関わる制度と関連法(前田節子)	
15	農作物の販売に関わる制度と関連法(前田節子)		
キーワード	新たな食料・農業・農村基本計画、食料・農業・農村基本法、卸売市場法、商品先物取引、食品の規格・表示		
教科書・参考書	食料・農業・農村白書(農林水産省)		
評価方法・評価基準	試験(60%)、レポート(40%)		
関連科目	フードシステム論		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 法と農業経営 Managing Farm Business under Agricultural Laws and Regulations		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	1年 後期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	天野哲郎、菊池宏之、前田節子
授業時間	水曜日 1時限	教室	講義室 3
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	農業経営に関わる各分野（農作物の生産・流通・加工、担い手の育成、農地の確保）の制度と関連法に着目し、制度の背景や関連法の目的などについて、実際の生産活動の現場での活用法に結び付けて学ぶことで、農業生産及び経営に必要な知識・技術に加え、経営者に必要な対応能力を身に付ける。		
授業目的・目標	実際の農林業経営に結びついた法の知識を習得する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	農業経営の外部環境・与件としての法・制度の考え方と授業の進め方	
	2	経営所得安定対策の考え方と具体的な仕組	
	3	収入保険制度や農協共済制度の考え方と仕組	
	4	畜産クラスター事業、加工原料乳生産者補給金、飼料生産型酪農経営支援事業等畜産をめぐる施策の考え方と仕組	
	5	野菜価格安定対策、新しい園芸産地づくり支援事業等園芸経営をめぐる施策の考え方と仕組	
	6	環境保全型農業直接支払交付金、国際認証取得拡大緊急支援事業等環境関係施策の考え方と仕組	
	7	6次産業化・地産地消法の考え方と仕組について	
	8	農業次世代人材投資資金、経営体育成支援事業、認定農業者制度等担い手対策の考え方と仕組	
	9	農林業経営をめぐる諸施策の有効活用と経営発展	
	10	安全・安心な農産物の生産に関わる制度と関連法①	
	11	安全・安心な農産物の生産に関わる制度と関連法②	
	12	食料農業に関係する制度の土台である食料・農業・農村基本法、食品安全基本法、行政組織とその今日的課題	
	13	卸売市場、商品先物取引、食品の規格・表示など流通消費に関する制度	
	14	農作物の加工に関わる制度と関連法	
15	農作物の販売に関わる制度と関連法		
キーワード	新たな食料・農業・農村基本計画、食料・農業・農村基本法、卸売市場法、商品先物取引、食品の規格・表示		
教科書・参考書	食料・農業・農村白書(農林水産省)		
評価方法・評価基準	試験 (60%)、レポート (40%)		
関連科目	食と農の経済学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

生産環境経営学部 生産環境経営学科

科目区分	科目名	単位数			
		必修	選択	自由	
基礎科目	一般教養	静岡学	2		
		歴史学概論		2	
		文学概論		2	
		文明論		2	
		茶道		1	
		華道		1	
		経済学概論	2		
		法学概論		2	
		社会学概論		2	
		政治学概論		2	
	統計学		2		
	情報処理基礎	1			
	情報処理応用	1			
	コミュニケーション	コミュニケーション論	2		
		英語 I		2	
		英語 II		2	
		英語 III		2	
英語 IV			2		
保健体育 I		2			
保健体育 II			2		
小計	10	26	0		
職業専門科目	農林業基礎	農学概論	2		
		環境と農林業	2		
		農林業史		2	
		農林業政策		2	
		技術者倫理	2		
		県内農林業事情		2	
		県外農林業事情		1	
		海外農林業事情		1	
		農林業のための基礎数学			2
		農林業のための生物学			2
		農林業のための化学			2
		農林業のための物理学			2
		農林業のための地学			2
		分子生物学			2
		農業気象学			2
		生命科学			2
		野生鳥獣管理・利用論	2		
	生産理論(栽培)	栽培学		2	
		植物生理生態学		2	
		作物学		2	
		園芸学		2	
		植物病理学		2	
		応用昆虫学		2	
		肥料・植物栄養学		2	
		野菜園芸学		2	
		果樹園芸学		2	
		花き園芸学		2	
		植物遺伝育種学概論		2	
		土壌学		2	
		環境保全型農業論		2	
	(林業)生産理論	森林計画・政策論		2	
		造林学		2	
		樹木・組織学		2	
		森林土木学		2	
		木質科学概論		2	
		木材生産システム		2	
		森林マネジメント		2	

科目区分	科目名	単位数		
		必修	選択	自由
生産理論(畜産)	畜産概論		2	
	飼料総論		2	
	家畜生理解剖学		2	
	家畜育種繁殖学		2	
	家畜飼養学		2	
	畜産法規		2	
	人工授精論		2	
	自給飼料		2	
	家畜衛生学		2	
	家畜福祉学		2	
畜産環境学		2		
生産理論(共通)	農林業のための先端技術	2		
経営管理	簿記基礎			1
	簿記応用			1
	フードシステム論			2
	法と農業経営			2
	経営管理論			2
	農林業経営学			2
	経営戦略			2
	マーケティング論			2
	財務会計			2
	管理会計			1
	農林業の経営組織論			2
	労務管理			2
	人材マネジメント			2
	知的財産権			2
	農と食の起業論			2
	経営実習 I		5	
	経営実習 II		5	
加工・流通・販売	食品科学			2
	食品加工学			2
	収穫後生理学			2
	木材利用・流通論			2
	木材加工学			2
	食品流通論			2
	販売管理論			2
	農と食の健康論			2
	6次産業化実践論			2
	食品加工実習			2
木材加工実習			2	
販売実習			2	
生産技術	総合実習		2	
	圃場実習(栽培)			2
	圃場実習(畜産)			2
	演習林実習			2
	生産マネジメント実習 I(栽培)			4
	生産マネジメント実習 I(畜産)			4
	生産マネジメント実習 I(林業)			4
	生産マネジメント実習 II(栽培)			4
	生産マネジメント実習 II(畜産)			4
	生産マネジメント実習 II(林業)			4
	大型機械実習 I		2	
	大型機械実習 II			2
	林業機械実習			2
GAP演習			2	
企業実習			10	
小計		45	150	12

科目区分	科目名	単位数		
		必修	選択	自由
③ 展開科目	農山村田園地域公共学	2		
	農村景域論	2		
	農村社会論	2		
	農山村デザイン演習	2		
	農と食の哲学	2		
	医福食農連携論	2		
	グリーン・ツーリズム論	2		
	食文化論	2		
	コミュニティビジネス論	2		
	在来作物学	2		
	小計	20	0	0
④ 総合科目	経営分析演習Ⅰ	1		
	経営分析演習Ⅱ	1		
	プロジェクト研究	2		
	小計	4	0	0
合計 (卒業要件 単位数)		129		
<p><卒業要件> 基礎科目より20単位以上、職業専門科目より85単位以上、展開科目より20単位以上、総合科目4単位以上を修得し、合計129単位以上とする。</p> <p>(基礎科目)必修科目と、英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳから4単位を含む20単位以上</p> <p>(職業専門科目)85単位以上</p> <p>■農林業基礎科目群:必修を含む10単位以上</p> <p>■生産理論科目群:コースを選択し、必修科目、選択必修、コース必修を含む16単位以上</p> <p>○選択必修:栽培学、植物生理生態学、樹木・組織論、畜産概論</p> <p>◎栽培コース必修:肥料・植物栄養学、植物病理学、応用昆虫学、環境保全型農業論</p> <p>・栽培コース必修に加え、作物学もしくは園芸学から2単位、植物遺伝育種学概論、土壌学、野菜園芸学、花き園芸学、果樹園芸学から2単位を選択</p> <p>◎林業コース必修:森林計画・政策論、造林学、森林土壌学、木質科学概論、木材生産システム、森林マネジメント</p> <p>◎畜産コース必修:飼料総論、家畜生理解剖学、家畜育種繁殖学、家畜飼養学、家畜衛生学、畜産環境学</p> <p>■生産技術科目群:生産理論科目群と同じコースを選択し、栽培コースと畜産コースは必修科目とコース必修を含む26単位以上、林業コースは必修科目とコース必修を含む28単位以上</p> <p>◎栽培コース必修:圃場実習(栽培)、生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)、生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)</p> <p>◎林業コース必修:演習林実習、生産マネジメント実習Ⅰ(林業)、生産マネジメント実習Ⅱ(林業)、林業機械実習</p> <p>◎畜産コース必修:圃場実習(畜産)、生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)、生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)</p> <p>■加工・流通・販売科目群:生産理論科目群と同じコースを選択し、栽培コースと畜産コースはコース必修を含む8単位以上、林業コースはコース必修を含む6単位以上</p> <p>◎栽培コース必修:販売管理論、販売実習</p> <p>◎林業コース必修:木材利用・流通論、木材加工学、木材加工実習</p> <p>◎畜産コース必修:販売管理論、販売実習</p> <p>■経営管理科目群:必修科目を含む25単位以上</p> <p>(展開科目)必修科目20単位 (総合科目)必修科目4単位</p>				

生産環境経営学部 生産環境経営学科

科目区分	科目名	単位数		
		必修	選択	
基礎科目	一般教養	静岡学	2	
		歴史学概論		2
		文学概論		2
		文明論		2
		茶道		1
		華道		1
		経済学概論	2	
		法学概論	2	
		社会学概論		2
		政治学概論		2
	コミュニケーション	コミュニケーション論	2	
		英語Ⅰ	2	
		英語Ⅱ	2	
		英語Ⅲ		2
		英語Ⅳ		2
		保健体育Ⅰ	2	
		保健体育Ⅱ		2
	小計	14	18	
	職業専門科目	専門基礎	農学概論	2
農林業史				2
農林業政策			2	
技術者倫理			2	
県内農林業事情				2
県外農林業事情			1	
海外農林業事情			1	
農林業のための基礎数学			2	
農林業のための生物学			2	
農林業のための化学			2	
農林業のための物理学			2	
農林業のための統計学			2	
農林業のための地学			2	
分子生物学			2	
農業気象学			2	
生命科学			2	
情報処理基礎			1	
情報処理応用		1		
栽培理論		栽培学		2
		植物生理生態学		2
		作物学		2
		園芸学		2
		植物病理学		2
		応用昆虫学		2
		肥料・植物栄養学		2
		野菜園芸学		2
		果樹園芸学		2
		花き園芸学		2
林業理論		森林計画・政策論	2	
		造林学	2	
		樹木・組織学	2	
		森林土木学	2	
		木質科学概論	2	
栽培・林業共通		木材生産システム論	2	
		植物遺伝育種学概論	2	
		土壌学	2	

科目区分	科目名	単位数		
		必修	選択	
畜産理論	畜産概論		2	
	飼料総論		2	
	家畜生理解剖学		2	
	家畜育種繁殖学		2	
	家畜飼養学		2	
	畜産法規		2	
	人工授精論		2	
	自給飼料		2	
	家畜衛生学		2	
	家畜福祉学		2	
	共通	農林業のための先端技術	2	
	経営管理	簿記基礎		1
		簿記応用		1
農と食の経済学			2	
法と農業経営		2		
経営管理論		2		
農林業経営学			2	
経営戦略Ⅰ		2		
経営戦略Ⅱ			2	
マーケティング論		2		
財務会計		2		
管理会計			2	
経営組織論			2	
労務管理			2	
人材マネジメント			2	
協同組合論			1	
知的財産権			2	
農と食の起業論		2		
加工・流通・販売	食品化学		2	
	食品衛生学		2	
	食品加工学		2	
	収穫後生理学		2	
	アグリフードシステム論		2	
	木材利用論		2	
	木材加工学		2	
	食品流通論		2	
	木材流通論		2	
	販売管理論		2	
	6次産業化実践論		2	
実習・演習	総合実習	2		
	圃場実習(栽培)		2	
	圃場実習(畜産)		2	
	演習林実習		2	
	生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)		4	
	生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)		4	
	生産マネジメント実習Ⅰ(林業)		4	
	生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)		4	
	生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)		4	
	生産マネジメント実習Ⅱ(林業)		4	
	大型機械実習Ⅰ		2	
	大型機械実習Ⅱ		2	
	林業機械実習		2	
	GAP演習		2	
	企業実習	10		
	食品加工実習		2	
	木材加工実習		2	
	販売実習		2	
	森林施業プラン演習		1	
森林認証演習		1		
小計		36	165	

科目区分	科目名	単位数	
		必修	選択
③ 展開 科目	農山村田園地域公共学	2	
	環境と農林業		2
	環境保全型農業論		2
	森林マネジメント論		2
	畜産環境学		2
	農村景域論		2
	農村社会論		2
	農山村デザイン演習		2
	農と食の哲学		2
	農と食の健康論		2
	医福食農連携論		2
	グリーン・ツーリズム論		2
	食文化論		2
	コミュニティビジネス論		2
	在来作物学		2
野生鳥獣管理・利用論		2	
小計	2	30	
④ 総合 科目	経営実習Ⅰ	5	
	経営実習Ⅱ	5	
	経営分析演習Ⅰ	3	
	経営分析演習Ⅱ	3	
	プロジェクト研究Ⅰ	2	
	プロジェクト研究Ⅱ	4	
小計	22	0	
合計（卒業要件 単位数）		124	
<p><卒業要件> 基礎科目より20単位以上、職業専門科目より62単位以上、展開科目より20単位以上、総合科目22単位以上を修得し、合計124単位以上とする。</p> <p>（基礎科目）必修科目を含む20単位以上 （職業専門科目）62単位以上 ○「農林業基礎」から必修10単位 ○「生産理論（栽培）」、「生産理論（林業）」、「生産理論（畜産）」のいずれから主たる分野を選択し、その分野からの選択必修を含む4単位以上 ・「生産理論（栽培）」の選択必修： 「肥料・植物栄養学」、「土壌学」 ・「生産理論（林業）」の選択必修： 「木質科学概論」、「木材生産システム論」 ・「生産理論（畜産）」の選択必修： 「人工授精論」、「家畜衛生学」 ○農林業のための先端技術2単位 ○「経営管理」から必修10単位を含む12単位以上 ○「加工・流通・販売」から4単位以上 ○「実習・演習」は総合実習と企業実習を含む30単位以上 （展開科目）必修2単位を含む20単位以上 （総合科目）必修22単位</p>			

○ 校舎の利用計画表(平成32年度)

資料25 別添資料20-16(新)

講義場所	収容人数	備考	春期(前期)																								
			月					火					水					木					金				
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
A棟	大講義室	144	使用者																								
			講義名																								
	講義室1	40	使用者	短大1年	短大1年	短大1年	短大1年				短大1年	短大1年			短大1年	短大1年	短大1年	短大1年				短大1年	短大1年				
			講義名	農林業のための科学①	農林業のための科学①	農学概論①	農学概論①				農学概論②	農学概論②			農林業のための科学②	農林業のための科学②	簿記基礎	簿記基礎				農学概論③	農学概論③			農林業のための科学③	農林業のための科学③
	講義室2	40	使用者	短大1年	短大1年				短大1年	短大1年					短大1年	短大1年						短大1年					
			講義名	農林業史	農林業史				英語基礎①	英語基礎②					農林業政策	農林業政策						英語基礎③					
	講義室3	40	使用者		4大1年	4大1年				4大1年	4大1年					4大1年						4大1年			4大1年	4大1年	4大1年
		講義名		農林業のための化学	農学概論				県内農林業事情	農林業のための生物学				簿記基礎							コミュニケーション論			経済学概論	農林業のための基礎数学	英語 I	英語 I
講義室4	65	使用者						短大1年	短大1年							4大1年					短大1年						
		講義名						情報処理①	情報処理②							情報処理基礎					情報処理③						
視聴覚室	166	使用者												4大1短大1													
		講義名												静岡学													
B棟	講義室5	16	使用者																								
			講義名																								
	講義室6	16	使用者																								
			講義名																								
	講義室7	12	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用
			講義名																								
	講義室8	16	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用
			講義名																								
	講義室9	8	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用
			講義名																								
講義室10	28	使用者																									
		講義名																									
加工実験室	-	使用者																									
		講義名																									
加工講義室	-	使用者																									
		講義名																									

※ 表中の4大は静岡県立農林環境専門職大学を、短大は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部を示す。

○ 校舎の利用計画表(平成32年度)

資料25 別添資料20-16(新)

講義場所	収容人数	備考	夏期(前期)																									
			月					火					水					木					金					
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
A 棟	大講義室 144	使用者	短大1年	短大1年																								
		講義名	農山村田園地域公共学①	農山村田園地域公共学①																								
	講義室1 40	使用者	短大1年	短大1年	短大1年	短大1年				短大1年	短大1年									短大1年	短大1年							
		講義名	分子生物学①	分子生物学①	畜産概論	畜産概論				県内農林業事情	県内農林業事情									樹木・組織学	樹木・組織学					分子生物学③	分子生物学③	
	講義室2 40	使用者	短大1年	短大1年					短大1年	短大1年										短大1年								
		講義名	植物生理生態学①	植物生理生態学①					英語基礎①	英語基礎②										植物生理生態学②	植物生理生態学②					英語基礎③		
講義室3 40	使用者		4大1年	4大1年					4大1年	4大1年									4大1年							4大1年	4大1年	
	講義名		農林業のための化学	農学概論					県内農林業事情	農林業のための生物学									薄記基礎						コミュニケーション論	経済学概論	農林業のための基礎数学	英語 I
講義室4 65	使用者							短大1年	短大1年										4大1年									
	講義名							情報処理①	情報処理②										情報処理基礎						情報処理③			
視聴覚室 166	使用者																											
	講義名																											
B 棟	講義室5 16	使用者																										
		講義名																										
	講義室6 16	使用者																										
		講義名																										
	講義室7 12	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用
		講義名	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用
	講義室8 16	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用
		講義名	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用
	講義室9 8	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用
		講義名	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用
講義室10 28	使用者																											
	講義名																											
加工実験室 -	使用者																											
	講義名																											
加工講義室 -	使用者																											
	講義名																											

※ 表中の4大は静岡県立農林環境専門職大学を、短大は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部を示す。

○ 校舎の利用計画表(平成32年度)

資料25 別添資料20-16(新)

講義場所	収容人数	備考	秋期(後期)																								
			月					火					水					木					金				
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
A棟	大講義室	使用者																									
		講義名																									
	講義室1	使用者			短大1年	短大1年				短大1年	短大1年				短大1年	短大1年			短大1年	短大1年		短大1年	短大1年	短大1年	短大1年	短大1年	
		講義名			作物栽培	作物栽培				肥料・植物栄養学①	肥料・植物栄養学①				植物遺伝育種学概論	植物遺伝育種学概論			肥料・植物栄養学②	肥料・植物栄養学②		食品科学	食品科学	アグリフードシステム論	アグリフードシステム論		
	講義室2	使用者						短大1年	短大1年	短大1年	短大1年							短大1年	短大1年	短大1年		短大1年	短大1年				
		講義名						英語応用①	英語応用②	植物保護①	植物保護①								英語応用③	植物保護②	植物保護②		短大1年	短大1年			
	講義室3	使用者	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	
講義名		樹木・組織学	農林業史	農林業経営学	植物生理生态学	統計学	栽培学	分子生物学	農林業田園地域公共学	農林業のための物理学			政治学概論	簿記応用			フードシステム論	畜産概論			農林業のための地学	英語Ⅱ	英語Ⅱ	社会学概論	環境と農林業		
講義室4	使用者						短大1年	短大1年										短大1年									
	講義名						情報処理①	情報処理②										情報処理③									
視聴覚室	使用者													4大1短大1													
	講義名													静岡学													
B棟	講義室5	使用者			短大1	短大1				短大1	短大1											短大1年	短大1年	短大1年	短大1年		
		講義名			森林計画学	森林計画学				造林学	造林学												土壌学	土壌学	森林生態学	森林生態学	
	講義室6	使用者			短大1	短大1												短大1年	短大1年								
		講義名			飼料総論	飼料総論												家畜飼養	家畜飼養								
	講義室7	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用		
		講義名	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用		
	講義室8	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用		
		講義名	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用		
	講義室9	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用		
		講義名	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用		
講義室10	使用者																										
	講義名																										
加工実験室	使用者												短大1年	短大1年									短大1年	短大1年			
	講義名												食品加工演習①	食品加工演習①									食品加工演習①	食品加工演習①			
加工講義室	使用者											短大1年	短大1年									短大1年	短大1年				
	講義名											食品加工演習①	食品加工演習①									食品加工演習①	食品加工演習①				

※ 表中の4大は静岡県立農林環境専門職大学を、短大は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部を示す。

○ 校舎の利用計画表(平成32年度)

資料25 別添資料20-16(新)

講義場所	収容人数	備考	冬期(後期)																								
			月					火					水					木					金				
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
A棟	大講義室	使用者																									
		講義名																									
	講義室1	使用者			短大1年	短大1年				短大1年	短大1年				短大1年	短大1年				短大1年	短大1年		短大1年	短大1年	短大1年	短大1年	短大1年
		講義名			野菜栽培	野菜栽培				先殖栽培技術①	先殖栽培技術①				農と食の健康論	農と食の健康論				先殖栽培技術②	先殖栽培技術②		花き栽培	花き栽培	施設園芸	施設園芸	施設園芸
	講義室2	使用者			短大1年	短大1年		短大1年	短大1年	短大1年	短大1年				短大1年	短大1年			短大1年	短大1年	短大1年		短大1年	短大1年	短大1年	短大1年	短大1年
		講義名			果樹栽培	果樹栽培		英語応用①	英語応用②	農業経営①	農業経営①				野生鳥獣管理・利用論	野生鳥獣管理・利用論			英語応用③	農業経営②	農業経営②		茶栽培	茶栽培	流通加工論	流通加工論	流通加工論
	講義室3	使用者	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年		4大1年	4大1年					4大1年	4大1年		4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年
講義名		樹木・組織学	農林果史	農林業経営学	植物生理生態学	統計学	栽培学	分子生物学	農林業田園地域公共学	農林業のための物理学		政治学概論	簿記応用					フードシステム論	畜産概論			農林業のための地学	英語Ⅱ	英語Ⅱ	社会学概論	環境と農林業	
講義室4	使用者						短大1年	短大1年											短大1年								
	講義名						情報処理①	情報処理②											情報処理③								
視聴覚室	使用者											4大1短大1															
	講義名											静岡学															
B棟	講義室5	使用者			短大1年	短大1年				短大1年	短大1年								短大1年	短大1年		短大1年	短大1年				
		講義名			森林土木論(治山・林道)	森林土木論(治山・林道)				林業経営	林業経営								木材加工演習	木材加工演習		木材加工演習	木材加工演習				
	講義室6	使用者			短大1年	短大1年				短大1年	短大1年								短大1年	短大1年		短大1年	短大1年				
		講義名			家畜育種繁殖	家畜育種繁殖				畜産経営	畜産経営								家畜衛生学	家畜衛生学		畜産法規	畜産法規				
	講義室7	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用
		講義名																									
	講義室8	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用
		講義名																									
	講義室9	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用
		講義名																									
講義室10	使用者																										
	講義名																										
加工実験室	使用者											短大1年	短大1年											短大1年	短大1年		
	講義名											食品加工演習②	食品加工演習②											食品加工演習②	食品加工演習②		
加工講義室	使用者											短大1年	短大1年										短大1年	短大1年			
	講義名											食品加工演習②	食品加工演習②											食品加工演習②	食品加工演習②		

※ 表中の4大は静岡県立農林環境専門職大学を、短大は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部を示す。

○ 校舎の利用計画表(平成33年度以降)

資料25 別添資料20-16(新)

講義場所	収容人数	備考	春期(前期)																										
			月					火					水					木					金						
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5		
A棟	大講義室 144	使用者						短大2年	短大2年										短大2年	短大2年	短大2年	短大2年							
		講義名						マーケティング・販売演習	マーケティング・販売演習											マーケティング・販売演習	マーケティング・販売演習	GAP演習	GAP演習						
	講義室1 40	使用者	短大1年	短大1年	短大1年	短大1年				短大1年	短大1年			短大1年	短大1年	短大1年	短大1年					短大1年	短大1年			短大1年	短大1年		
		講義名	農林業のための科学①	農林業のための科学①	農学概論①	農学概論①				農学概論②	農学概論②			農林業のための科学②	農林業のための科学②	簿記基礎	簿記基礎					農学概論③	農学概論③			農林業のための科学③	農林業のための科学③		
	講義室2 40	使用者	短大1年	短大1年				短大1年	短大1年	短大2年	短大2年			短大1年	短大1年							短大1年							
		講義名	農林業史	農林業史				英語基礎①	英語基礎②	木材生産システム	木材生産システム			農林業政策	農林業政策							英語基礎③							
講義室3 40	使用者		4大1年	4大1年				4大1年	4大1年					4大1年							4大1年					4大1年	4大1年	4大1年	4大1年
	講義名		農林業のための科学	農学概論				県内農林業事情	農林業のための生物学					簿記基礎							コミュニケーション論					経済学概論	農林業のための基礎数学	英語I	英語I
講義室4 65	使用者																												
	講義名																												
視聴覚室 166	使用者												4大1短大1																
	講義名												静岡学																
B棟	講義室5 16	使用者			4大3年	4大3年								4大2年	4大2年					4大2年	4大2年							4大2年	
		講義名			木材加工実習	木材加工実習									森林計画・政策論	人工授精論					森林土壌学	造林学						畜産法規	
	講義室6 16	使用者												4大2年							4大2年								
		講義名													飼料総論						家畜飼養学								
	講義室7 12	使用者																								4大3年	4大3年		
		講義名																								森林マネジメント論	森林マネジメント論		
	講義室8 16	使用者																											
		講義名																											
	講義室9 8	使用者																											
		講義名																											
講義室10 28	使用者																												
	講義名																												
加工実験室 -	使用者			4大3年	4大3年																								
	講義名			食品加工実習	食品加工実習																								
加工講義室 -	使用者			4大3年	4大3年																								
	講義名			食品加工実習	食品加工実習																								
講義室11 40	使用者																												
	講義名																												
講義室12 40	使用者																												
	講義名																												
講義室13 40	使用者	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年						4大2年	4大2年			4大2年	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年	
	講義名	経営管理論	農林業政策	財務会計	歴史学概論	農村社会学						肥料・植物栄養学	植物病理学		GAP演習	GAP演習	法と農林業経営	経営概論	作物学	園芸学		食品科学	英語II	英語III	木材利用・流通論				
講義室14 40	使用者		4大3年			4大3年		4大3年	4大3年	4大3年			4大3年	4大3年	4大3年	4大3年				4大3年	4大3年	4大3年	4大3年	4大3年	4大3年	4大3年	4大3年	4大3年	
	講義名		管理会計			技術者倫理		野生鳥獣管理・利用論	人材マネジメント	収穫後生理学			食品流通論	茶道	華道	農林業のための先端技術			グリーンツーリズム論	在来作物学		農村景観論	販売管理論	環境保全型農業論			畜産環境学		
情報処理室 36	使用者						短大1年	短大1年												短大1年									
	講義名						情報処理演習①	情報処理演習②													情報処理基礎								

※ 表中の4大は静岡県立農林環境専門職大学を、短大は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部を示す。

○ 校舎の利用計画表(平成33年度以降)

資料2 別添資料20-16(新)

講義場所	収容人数	備考	夏期(前期)																									
			月					火					水					木					金					
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
A棟	大講義室	使用者	短大1年	短大1年				短大2年	短大2年				短大1年	短大1年				短大2年	短大2年	短大2年	短大2年		短大1年	短大1年				
		講義名	農山村田園地域公共学①	農山村田園地域公共学①				マーケティング・販売演習	マーケティング・販売演習				農山村田園地域公共学②	農山村田園地域公共学②				マーケティング・販売演習	マーケティング・販売演習	GAP演習	GAP演習		農山村田園地域公共学③	農山村田園地域公共学③				
	講義室1	使用者	短大1年	短大1年	短大1年	短大1年				短大1年	短大1年			短大1年	短大1年	短大1年	短大1年				短大1年	短大1年		短大1年	短大1年			
		講義名	分子生物学①	分子生物学①	畜産概論	畜産概論				短大1年	短大1年	県内農林業事情	県内農林業事情		分子生物学②	分子生物学②	簿記応用	簿記応用			樹木・組織学	樹木・組織学		分子生物学③	分子生物学③			
	講義室2	使用者	短大1年	短大1年				短大1年	短大1年					短大1年	短大1年						短大1年							
		講義名	植物生理生態学①	植物生理生態学①				英語基礎①	英語基礎②	木材生産システム	木材生産システム			植物生理生態学②	植物生理生態学②						英語基礎③							
	講義室3	使用者		4大1年	4大1年				4大1年	4大1年				4大1年						4大1年					4大1年	4大1年	4大1年	4大1年
講義名			農林業のための化学	農学概論				県内農林業事情	農林業のための生物学				簿記基礎						コミュニケーション論				経済学概論	農林業のための基礎数学	英語Ⅰ	英語Ⅰ		
講義室4	使用者																											
	講義名																											
視聴覚室	使用者										4大1短大1																	
	講義名										静岡学																	
B棟	講義室5	使用者		4大3年	4大3年							4大2年	4大2年					4大2年	4大2年						4大2年			
		講義名		木材加工実習	木材加工実習								森林計画・政策論	人工授精論				森林土壌学	造林学						畜産法規			
	講義室6	使用者											4大2年						4大2年									
		講義名											飼料総論						畜産飼養学									
	講義室7	使用者																						4大3年	4大3年			
		講義名																						森林マネジメント論	森林マネジメント論			
	講義室8	使用者																										
		講義名																										
	講義室9	使用者																										
		講義名																										
講義室10	使用者																											
	講義名																											
加工実験室	使用者		4大3年	4大3年																								
	講義名		食品加工実習	食品加工実習																								
加工講義室	使用者		4大3年	4大3年																								
	講義名		食品加工実習	食品加工実習																								
C棟	講義室11	使用者																										
		講義名																										
	講義室12	使用者																										
		講義名																										
講義室13	使用者	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年					4大2年	4大2年		4大2年	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年	4大2年			
	講義名	経営管理論	農林業政策	財務会計	歴史学概論	農村社会学					肥料・植物栄養学	植物病理学		GAP演習	GAP演習	法と農林業経営	経営戦略	作物学	園芸学		食品科学	英語Ⅲ	英語Ⅲ	木材利用・流通論				
講義室14	使用者		4大3年			4大3年		4大3年	4大3年	4大3年		4大3年	4大3年	4大3年	4大3年			4大3年	4大3年		4大3年	4大3年	4大3年		4大3年			
	講義名		管理会計			技術者倫理		野生鳥獣管理・利用論	人材マネジメント	収穫後生理学		食品流通論	茶道	華道	農林業のための先端技術			グリーンツーリズム論	在来作物学		農山村地域論	販売管理論	環境保全型農業論	畜産環境学				
情報処理室	使用者						短大1年	短大1年									4大1年			短大1年								
	講義名						情報処理演習①	情報処理演習②									情報処理基礎			情報処理③								

※ 表中の4大は静岡県立農林環境専門職大学を、短大は静岡県立農林環境専門職大学短期大学部を示す。

○ 校舎の利用計画表(平成32年度)

資料 別添資料20-16(旧)

講義場所	収容人数	備考	秋期(後期)																									
			月					火					水					木					金					
			1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
本校舎	大講義室	使用者	短大1年	短大1年	短大1年	短大1年																						
		講義名	作物栽培	作物栽培	植物遺伝育種学概論①	植物遺伝育種学概論①															短大1年	短大1年						
	講義室1	使用者	短大1年	短大1年	短大1年	短大1年			短大1年	短大1年	短大1年	短大1年			短大1年	短大1年	短大1年			短大1年	短大1年							
		講義名	森林生態学	森林生態学	植物保護	植物保護			情報処理①	情報処理②	食品衛生学	食品衛生学			情報処理③	畜産法規	畜産法規			植物保護②	植物保護②							
	講義室2	使用者	短大1年	短大1年	短大1年	短大1年			短大1年	短大1年					短大1年					短大1年	短大1年							
		講義名	家畜飼養	家畜飼養	家畜育種繁殖	家畜育種繁殖			英語応用①	英語応用②					英語応用③					木材利用論	木材利用論							
	講義室3	使用者	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年			4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年					4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年	4大1年
講義名		作物学	木材生産システム論	家畜育種繁殖	経営管理論			家畜生理解剖学	簿記応用	県内農林業事情	農林業のための地理学	嘉敬飼養学	法と農業経営					農林業のための統計学	分子生物学	樹木・組織学	園芸学	植物遺伝育種学概論	農山村田園地域公共学	政治学概論	社会学概論	英語I		
講義室4	使用者																											
	講義名																											
視聴覚室	使用者																											
	講義名																											
研究部棟	講義室5	使用者																		短大1年	短大1年							
		講義名																			家畜衛生	家畜衛生						
	講義室6	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	
		講義名																										
	講義室7	使用者																										
		講義名																										
	講義室8	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	
		講義名																										
	講義室9	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	
		講義名																										
講義室10	使用者	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用		
	講義名																											
加工実験室	使用者																											
	講義名																											
加工講義室	使用者	短大1年	短大1年	短大1年																短大1年	短大1年							
	講義名	食品加工演習	食品加工演習①	食品加工演習①																食品加工演習②	食品加工演習②							

○ 校舎の利用計画表(平成32年度)

資料25 別添資料20-16(旧)

講義場所	収容人数	冬期(後期)																									
		月					火					水					木					金					
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
本校舎	大講義室	144																									
	講義室1	40	短大1年	短大1年	短大1年	短大1年					短大1年	短大1年				短大1年	短大1年	短大1年					短大1年	短大1年			
	講義室2	40	花き栽培	花き栽培	農業経営①	農業経営①					情報処理①	情報処理②				情報処理③	野菜栽培	野菜栽培					農業経営②	農業経営②			
	講義室3	40	短大1年	短大1年	短大1年	短大1年					短大1年	短大1年				短大1年	短大1年						短大1年	短大1年			
	講義室4	65	茶栽培	茶栽培	畜産環境・増肥利用論	畜産環境・増肥利用論					英語応用①	英語応用②				英語応用③	林業経営						樹木・組織学	樹木・組織学			
	視聴覚室	168						4大1 短大1 静岡学																			
研究部棟	講義室5	16	短大1年	短大1年																							
	講義室6	16	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	
	講義室7	12	短大1年	短大1年	短大1年	短大1年																					
	講義室8	16	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用
	講義室9	8	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用
	講義室10	28	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用	農大利用
	加工実験室	-																									
	加工講義室	-	短大1年	短大1年	短大1年	短大1年											短大1年	短大1年					短大1年	短大1年			
			食品加工演習②	食品加工演習②	食品加工演習②	食品加工演習②											食品加工演習③	食品加工演習③					食品加工演習③	食品加工演習③			

時間割表

○ 静岡県立農林環境専門職大学 1年生 (前期)

曜日	講義室	1限 (8:50~10:20)	2限 (10:30~12:00)	3限 (13:00~14:30)	4限 (14:40~16:10)	5限 (16:20~17:50)
月	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3		農林業のための化学	農学概論		
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
体育館						
農場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
火	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3		県内農林業事情	農林業のための生物学		
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					静岡学
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
体育館						
農場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
水	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3		簿記基礎			
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					情報処理基礎
	実験室					
体育館						
農場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
木	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3	コミュニケーション論				
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
体育館					保健体育 I	
農場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
金	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3		経済学概論	農林業のための基礎数学	英語 I	英語 I
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
体育館						
農場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
集中講義		法学概論				

時間割表

○ 静岡県立農林環境専門職大学 1年生 (後期)

曜日	講義室	1限 (8:50~10:20)	2限 (10:30~12:00)	3限 (13:00~14:30)	4限 (14:40~16:10)	5限 (16:20~17:50)
月	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3	樹木・組織学	農林業史	農林業経営学	植物生理生態学	統計学
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
	体育館					
	圃場・演習林					
	機械研修場					
	県試験研究機関					
	臨地実務実習先					
	火	大講義室				
講義室1						
講義室2						
講義室3		栽培学	分子生物学	農林業田園地域公共学	農林業のための物理学	
講義室4						
講義室5						
講義室6						
講義室7						
講義室8						
講義室9						
講義室10						
講義室11						
講義室12						
講義室13						
講義室14						
視聴覚室						静岡学
加工実験室						
加工講義室						
情報処理室						
実験室						
体育館						
圃場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
水		大講義室				
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3	政治学概論	簿記応用			
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
	体育館					
	圃場・演習林			総合実習		
	機械研修場					
	県試験研究機関					
	臨地実務実習先					
	木	大講義室				
講義室1						
講義室2						
講義室3		フードシステム論	畜産概論			
講義室4						
講義室5						
講義室6						
講義室7						
講義室8						
講義室9						
講義室10						
講義室11						
講義室12						
講義室13						
講義室14						
視聴覚室						
加工実験室						
加工講義室						
情報処理室						
実験室						
体育館				保健体育 I		
圃場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
金		大講義室				
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3	農林業のための地学	英語 II	英語 II	社会学概論	環境と農林業
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
	体育館					
	圃場・演習林					
	機械研修場					
	県試験研究機関					
	臨地実務実習先					
	集中講義					

時間割表

○ 静岡県立農林環境専門職大学 2年生 (前期)

曜日	講義室	1限 (8:50~10:20)	2限 (10:30~12:00)	3限 (13:00~14:30)	4限 (14:40~16:10)	5限 (16:20~17:50)
月	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13	経営観理論	農林業政策	財務会計	歴史学概論	農村社会学
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	火	実験室				
体育館						
農場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
大講義室						
講義室1						
講義室2						
講義室3						
講義室4						
講義室5						
講義室6						
講義室7						
講義室8						
講義室9						
講義室10						
講義室11						
講義室12						
講義室13						
講義室14						
視聴覚室						
加工実験室						
加工講義室						
情報処理室						
水	実験室					
	体育館					
	農場・演習林	農場実習(穀増・畜産)/演習林実習	農場実習(穀増・畜産)/演習林実習			
	機械研修場					
	県試験研究機関					
	臨地実務実習先					
	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5	森林計画・政策論	人工授精論			
	講義室6	飼料総論				
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13	肥料・植物栄養学	植物病理学		GAP演習	GAP演習
講義室14						
視聴覚室						
加工実験室						
加工講義室						
情報処理室						
木	実験室					
	体育館			保健体育Ⅱ		
	農場・演習林					
	機械研修場					
	県試験研究機関					
	臨地実務実習先					
	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5			森林土壌学	造林学	
	講義室6			家畜飼養学		
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13	法と農林業経営	経営戦略	作物学	園芸学	
講義室14						
視聴覚室						
加工実験室						
加工講義室						
情報処理室						
金	実験室					家畜生理解剖学
	体育館					
	農場・演習林					
	機械研修場					
	県試験研究機関					
	臨地実務実習先					
	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					畜産法規
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13	食品科学	英語Ⅲ	英語Ⅲ	木材利用・流通論	
講義室14						
視聴覚室						
加工実験室						
加工講義室						
情報処理室						
集中講義	県外農林業事情/大型機械演習Ⅱ/農と食の哲学					

時間割表

○ 静岡県立農林環境専門職大学 2年生 (後期)

曜日	講義室	1限 (8:50~10:20)	2限 (10:30~12:00)	3限 (13:00~14:30)	4限 (14:40~16:10)	5限 (16:20~17:50)
月	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10			家畜育種繁殖学	家畜衛生学	
	講義室11					
	講義室12	文明論				
	講義室13		マーケティング論			生命科学
	講義室14			食品加工学 木材生産システム	果樹園芸学 木材生産システム	
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
体育館						
農場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
火	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5			自給飼料		
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13			花き園芸学	医糧食農連携論	
	講義室14			木質科学概論		
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
体育館						
農場・演習林	生産マネジメント実習 I	生産マネジメント実習 I				
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
水	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3				農業気象学	家畜福祉学
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13	食文化論	労務管理		文学概論	野菜園芸学
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
体育館			保健体育 II			
農場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
木	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13	農と食の健康論	英語IV	英語IV		土壌学
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室				情報処理応用	
	実験室					
体育館						
農場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
金	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6			木材加工学		
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13			応用昆虫学	植物遺伝育種学概論	
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
体育館						
農場・演習林	生産マネジメント実習 I	生産マネジメント実習 I				
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
集中講義						

時間割表

○ 静岡県立農林環境専門職大学 3年生 (前期)

曜日	講義室	1限 (8:50~10:20)	2限 (10:30~12:00)	3限 (13:00~14:30)	4限 (14:40~16:10)	5限 (16:20~17:50)
月	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5			木材加工実習	木材加工実習	
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14		管理会計			技術者倫理
	視聴覚室					
	加工実験室			食品加工実習	食品加工実習	
	加工講義室			食品加工実習	食品加工実習	
	情報処理室					
	実験室					
	体育館					
圃場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
火	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14		野生鳥獣管理・利用論	人材マネジメント	収穫後生理学	
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
	体育館					
圃場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
水	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13	食品流通論	茶道	華道	農林業のための先端技術	
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
	体育館					
	圃場・演習林					
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
木	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14			グリーン・ツーリズム論	在来作物学	
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
	体育館					
圃場・演習林	生産マネジメント実習Ⅱ	生産マネジメント実習Ⅱ				
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
金	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7			森林マネジメント	森林マネジメント	
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13	農村景観論	販売管理論	環境保全型農業論	畜産環境学	
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
	体育館					
圃場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
集中講義	海外農林業事情/大型機械実習Ⅱ/林業機械実習/農山村デザイン					

時間割表

○ 静岡県立農林環境専門職大学 3年生 (後期)

曜日	講義室	1限 (8:50~10:20)	2限 (10:30~12:00)	3限 (13:00~14:30)	4限 (14:40~16:10)	5限 (16:20~17:50)
月	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14	6次産業化実践論	6次産業化実践論			
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
体育館						
園場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先	企業実習	企業実習	企業実習	企業実習	企業実習	
火	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14	農と食の起業論	農と食の起業論			
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
体育館						
園場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先	企業実習	企業実習	企業実習	企業実習	企業実習	
水	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14	販売実習	販売実習	知的財産権	知的財産権	
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
体育館						
園場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先	企業実習	企業実習	企業実習	企業実習	企業実習	
木	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
体育館						
園場・演習林	生産マネジメント実習Ⅱ	生産マネジメント実習Ⅱ	生産マネジメント実習Ⅱ	生産マネジメント実習Ⅱ		
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先	企業実習	企業実習	企業実習	企業実習	企業実習	
金	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14	販売実習	販売実習	コミュニティビジネス論	コミュニティビジネス論	
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
体育館						
園場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先	企業実習	企業実習	企業実習	企業実習	企業実習	
集中講義						

時間割表

○ 静岡県立農林環境専門職大学 4年生 (前期)

曜日	講義室	1限 (8:50~10:20)	2限 (10:30~12:00)	3限 (13:00~14:30)	4限 (14:40~16:10)	5限 (16:20~17:50)
月	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
	体育館					
園場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先	経営実習 I	経営実習 I	経営実習 I	経営実習 I		
火	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
	体育館					
園場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先	経営実習 I	経営実習 I	経営実習 I	経営実習 I		
水	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
	体育館					
園場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先	経営実習 I	経営実習 I	経営実習 I	経営実習 I		
木	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
	体育館					
園場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先	経営実習 I	経営実習 I	経営実習 I	経営実習 I		
金	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
	体育館					
園場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先	経営実習 I	経営実習 I	経営実習 I	経営実習 I		
集中講義						

時間割表

○ 静岡県立農林環境専門職大学 4年生 (後期)

曜日	講義室	1限 (8:50~10:20)	2限 (10:30~12:00)	3限 (13:00~14:30)	4限 (14:40~16:10)	5限 (16:20~17:50)
月	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
	体育館					
園場・演習林						
機械研修場						
農試験研究機関						
臨地実務実習先	経営実習Ⅱ	経営実習Ⅱ	経営実習Ⅱ	経営実習Ⅱ		
火	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
	体育館					
園場・演習林						
機械研修場						
農試験研究機関						
臨地実務実習先	経営実習Ⅱ	経営実習Ⅱ	経営実習Ⅱ	経営実習Ⅱ		
水	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
	体育館					
園場・演習林						
機械研修場						
農試験研究機関						
臨地実務実習先	経営実習Ⅱ	経営実習Ⅱ	経営実習Ⅱ	経営実習Ⅱ		
木	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
	体育館					
園場・演習林						
機械研修場						
農試験研究機関						
臨地実務実習先	経営実習Ⅱ	経営実習Ⅱ	経営実習Ⅱ	経営実習Ⅱ		
金	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	実験室					
	体育館					
園場・演習林						
機械研修場						
農試験研究機関						
臨地実務実習先	経営実習Ⅱ	経営実習Ⅱ	経営実習Ⅱ	経営実習Ⅱ		
集中講義						

時間割表

○ 静岡県立農林環境専門職大学 1年生 (前期)

曜日	講義室	1限 (8:50~10:20)	2限 (10:30~12:00)	3限 (13:00~14:30)	4限 (14:40~16:10)	5限 (16:20~17:50)
月	大講義室	畜産概論	農学概論			
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3			森林計画・政策学	栽培学	
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					静岡学
	加工実験室					
加工講義室						
情報処理室						
体育館						
圃場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
火	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3	植物生理生態学	簿記基礎	飼料総論	造林学	
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
加工講義室						
情報処理室						
体育館						
圃場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
水	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3	農林業のための化学				
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
加工講義室						
情報処理室						
体育館		保健体育Ⅰ				
圃場・演習林			総合実習	総合実習		
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
木	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3	農林業史	情報処理基礎	コミュニケーション論	農と食の経済学	
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
加工講義室						
情報処理室						
体育館						
圃場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
金	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3	農林業のための生物学	経済学概論	農林業のための基礎数学	英語Ⅰ	
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
加工講義室						
情報処理室						
体育館						
圃場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
集中講義		法学概論				

時間割表

○ 静岡県立農林環境専門職大学 1年生 (後期)

曜日	講義室	1限 (8:50~10:20)	2限 (10:30~12:00)	3限 (13:00~14:30)	4限 (14:40~16:10)	5限 (16:20~17:50)
月	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3	作物学		家畜育種繁殖	経営管理論	
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					静岡学
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	体育館					
農場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
火	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3	家畜生理解剖学	簿記応用	県内農林業事情	農林業のための物理学	家畜飼養学
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	体育館					
農場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
水	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3	法と農業経営				
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	体育館		保健体育 I			
農場・演習林			農場実習・演習林実習	農場実習・演習林実習		
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
木	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3	農林業のための統計学	分子生物学	樹木・組織学	園芸学	植物遺伝育種学概論
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	体育館					
農場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
金	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3	農山村田園地域公共学	政治学概論	社会学概論	英語 I	
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	体育館					
農場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
集中講義						

時間割表

○ 静岡県立農林環境専門職大学 2年生 (前期)

曜日	講義室	1限 (8:50~10:20)	2限 (10:30~12:00)	3限 (13:00~14:30)	4限 (14:40~16:10)	5限 (16:20~17:50)
月	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13	農村福祉学	農業気象学	財務会計	農林業経営学	
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	体育館					
農場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
火	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13	農林業政策	農林業のための地学	環境と農林業	経営組織論	木材利用論
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	体育館					
農場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
水	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13			食品衛生学		
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	体育館					
農場・演習林	生産マネジメント実習Ⅰ	生産マネジメント実習Ⅰ		保健体育Ⅱ		
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
木	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12		英語Ⅱ			
	講義室13			農山村デザイン演習	農山村デザイン演習	
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	体育館					
農場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
金	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7		木質化学概論	森林土木学		
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11		植物病理学	応用昆虫学		
	講義室12					
	講義室13	歴史学概論	畜産法規	人工授精論	食品化学	
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	体育館					
農場・演習林						
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
集中講義	県外農林業事情/大型機械演習Ⅱ/農と食の哲学					

時間割表

○ 静岡県立農林環境専門職大学 2年生 (後期)

曜日	講義室	1限 (8:50~10:20)	2限 (10:30~12:00)	3限 (13:00~14:30)	4限 (14:40~16:10)	5限 (16:20~17:50)
月	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13		情報処理応用	経営戦略 I	農と食の健康論	木材生産システム論
	講義室14	食文化論				
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	体育館					
	農場・演習林					
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
火	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13	マーケティング論	労務管理	GAP演習	GAP演習	
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	体育館					
	農場・演習林					
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
水	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13			文学概論		
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	体育館					
	農場・演習林	生産マネジメント実習 I	生産マネジメント実習 I		保健体育 II	
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
木	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13	医糧食農連携論	英語 II	森林認証演習 家畜衛生学	文明論	
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	体育館					
	農場・演習林					
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
金	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11	木材加工学	肥料植物栄養学			
	講義室12	食品加工学	森林施業プラン演習			
	講義室13		自給飼料	土壌学	アグリフードシステム論	
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	体育館					
	農場・演習林					
機械研修場						
県試験研究機関						
臨地実務実習先						
	集中講義					

時間割表

○ 静岡県立農林環境専門職大学 3年生 (前期)

曜日	講義室	1限 (8:50~10:20)	2限 (10:30~12:00)	3限 (13:00~14:30)	4限 (14:40~16:10)	5限 (16:20~17:50)
月	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					木材流通論
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14	販売管理論	管理会計	人材マネジメント	食品流通論	
	視聴覚室					
	加工実験室					
加工講義室						
情報処理室						
体育館						
圃場・演習林						
機械研修場						
農試験研究機関						
臨地実務実習先						
火	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8			木材加工実習	木材加工実習	
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
加工講義室			食品加工実習	食品加工実習		
情報処理室						
体育館						
圃場・演習林	生産マネジメント実習Ⅱ	生産マネジメント実習Ⅱ				
機械研修場						
農試験研究機関						
臨地実務実習先						
水	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13	技術者倫理	生命科学	筆道	茶道	野生鳥獣管理・利用論
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
情報処理室						
体育館						
圃場・演習林						
機械研修場						
農試験研究機関						
臨地実務実習先						
木	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13	農山村景域論	英語Ⅲ	グリーン・ツーリズム論	コミュニティビジネス論	果樹園芸学
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
情報処理室						
体育館						
圃場・演習林						
機械研修場						
農試験研究機関						
臨地実務実習先						
金	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5	家畜福祉学				
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13	野菜園芸学	花き園芸学	農林業のための先端技術	経営戦略Ⅱ	在来作物学
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
情報処理室						
体育館						
圃場・演習林						
機械研修場						
農試験研究機関						
臨地実務実習先						
集中講義	海外農林業事情/大型機械実習Ⅱ/林業機械実習/共同組合論					

時間割表

○ 静岡県立農林環境専門職大学 3年生 (後期)

曜日	講義室	1限 (8:50~10:20)	2限 (10:30~12:00)	3限 (13:00~14:30)	4限 (14:40~16:10)	5限 (16:20~17:50)
月	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4	販売実習(後半)	販売実習(後半)	販売実習(後半)	販売実習(後半)	
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
加工講義室						
情報処理室						
体育館						
圃場・演習林						
機械研修場						
農試験研究機関						
臨地実務実習先						
		企業実習(前半)				
火	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
加工講義室						
情報処理室						
体育館						
圃場・演習林	生産マネジメント実習Ⅱ(後半)	生産マネジメント実習Ⅱ(後半)	生産マネジメント実習Ⅱ(後半)	生産マネジメント実習Ⅱ(後半)	生産マネジメント実習Ⅱ(後半)	
機械研修場						
農試験研究機関						
臨地実務実習先						
		企業実習(前半)				
水	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14	農と食の起業論(後半)	農と食の起業論(後半)	知的財産権(後半)	知的財産権(後半)	
	視聴覚室					
	加工実験室					
加工講義室						
情報処理室						
体育館						
圃場・演習林						
機械研修場						
農試験研究機関						
臨地実務実習先						
		企業実習(前半)				
木	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14	英語Ⅲ(後半)	英語Ⅲ(後半)	収穫後生理学(後半)	収穫後生理学(後半)	
	視聴覚室					
	加工実験室					
加工講義室						
情報処理室						
体育館						
圃場・演習林						
機械研修場						
農試験研究機関						
臨地実務実習先						
		企業実習(前半)				
金	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14			6次産業化実習(後半)	6次産業化実習(後半)	
	視聴覚室					
	加工実験室					
加工講義室						
情報処理室						
体育館						
圃場・演習林						
機械研修場						
農試験研究機関	プロジェクト研修Ⅰ(後半)	プロジェクト研修Ⅰ(後半)				
臨地実務実習先						
		企業実習(前半)				
集中講義						

時間割表

○ 静岡県立農林環境専門職大学 4年生 (前期)

曜日	講義室	1限 (8:50~10:20)	2限 (10:30~12:00)	3限 (13:00~14:30)	4限 (14:40~16:10)	5限 (16:20~17:50)
月	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	体育館					
圃場・演習林						
機械研修場						
農試験研究機関						
臨地実務実習先	経営実習 I	経営実習 I	経営実習 I	経営実習 I	経営実習 I	
火	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	体育館					
圃場・演習林						
機械研修場						
農試験研究機関						
臨地実務実習先	経営実習 I	経営実習 I	経営実習 I	経営実習 I	経営実習 I	
水	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	体育館					
圃場・演習林						
機械研修場						
農試験研究機関	経営分析演習 I	経営分析演習 I	経営分析演習 I	経営分析演習 I	経営分析演習 I	
臨地実務実習先						
木	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10	環境保全型農業論	英語IV	森林マネジメント論	畜産環境学	
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	体育館					
圃場・演習林						
機械研修場						
農試験研究機関						
臨地実務実習先						
金	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	体育館					
圃場・演習林						
機械研修場						
農試験研究機関	プロジェクト研修 II	プロジェクト研修 II	プロジェクト研修 II	プロジェクト研修 II	プロジェクト研修 II	
臨地実務実習先						
集中講義						

時間割表

○ 静岡県立農林環境専門職大学 4年生 (後期)

曜日	講義室	1限 (8:50~10:20)	2限 (10:30~12:00)	3限 (13:00~14:30)	4限 (14:40~16:10)	5限 (16:20~17:50)
月	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	体育館					
圃場・演習林						
機械研修場						
農試験研究機関						
臨地実務実習先	経営実習Ⅱ	経営実習Ⅱ	経営実習Ⅱ	経営実習Ⅱ	経営実習Ⅱ	
火	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	体育館					
圃場・演習林						
機械研修場						
農試験研究機関						
臨地実務実習先	経営実習Ⅱ	経営実習Ⅱ	経営実習Ⅱ	経営実習Ⅱ	経営実習Ⅱ	
水	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	体育館					
圃場・演習林						
機械研修場						
農試験研究機関						
臨地実務実習先	経営分析演習Ⅱ	経営分析演習Ⅱ	経営分析演習Ⅱ	経営分析演習Ⅱ	経営分析演習Ⅱ	
木	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10		英語Ⅳ			
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	体育館					
圃場・演習林						
機械研修場						
農試験研究機関						
臨地実務実習先						
金	大講義室					
	講義室1					
	講義室2					
	講義室3					
	講義室4					
	講義室5					
	講義室6					
	講義室7					
	講義室8					
	講義室9					
	講義室10					
	講義室11					
	講義室12					
	講義室13					
	講義室14					
	視聴覚室					
	加工実験室					
	加工講義室					
	情報処理室					
	体育館					
圃場・演習林						
機械研修場						
農試験研究機関	プロジェクト研修Ⅱ	プロジェクト研修Ⅱ	プロジェクト研修Ⅱ	プロジェクト研修Ⅱ	プロジェクト研修Ⅱ	
臨地実務実習先						
集中講義						

静岡県立農林環境専門職大学
審査意見への対応を記載した書類
(7月)

【全体計画審査意見1、2、3の回答について】

1. <養成する人材像と3つのポリシーの整合性が不明確>

養成する人材像として「農業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材」を養成するとしている。他方で、当該人材の養成に当たって、教育目標に掲げる目標を全て到達させることとしているのか不明確である。また、ディプロマ・ポリシーで示されている6つの資質・能力は多岐にわたっており、ディプロマ・ポリシーに掲げる全ての資質・能力を身に付けさせるのか、一部のみの資質・能力を身に付けさせるのか不明確である。このため、養成する人材像に必要な教育目標やディプロマ・ポリシーとなっていることや、カリキュラム・ポリシー及び教育課程の整合性を明確にするとともに、必要に応じて修正すること。(是正事項)・・・・・・・・・・1

【全体計画審査意見1の回答について】

2. <養成する人材像が不明確>

「本学」という文言が既設の農林大学校と専門職大学の双方に用いられており、専門職大学として養成する人材像が不明確である。専門職大学における「農林業経営者」と「農業経営体の中核を担う人材」の位置付けを明らかにするとともに、養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性を明らかにすること。(是正事項)・・・・・・19

【全体計画審査意見1、2の回答について】

3. <カリキュラム・ポリシーの内容が不十分>

カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施するのかを定める基本的な方針であるが、示されたカリキュラム・ポリシーは編成に関する抽象的な内容となっており、教育内容・方法の実施に関する内容の記載がない。また、ディプロマ・ポリシーに対応した科目群の編成方針がないため、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの整合性が不明確である。カリキュラム・ポリシーに必要な内容を加えて、ディプロマ・ポリシーとの整合性を明らかにすること。(是正事項)・・・・・・・・・・34

【教育課程等】

【全体計画審査意見4、7、8の回答について】

4. <教育課程の設定が不十分>

教育課程が一定程度見直されたものの、入学定員の規模や卒業要件における履修設定を踏まえると、多くの科目が未開講となる懸念や、少数の学生で開講された際に教育効果が低減する恐れが解消されていない。また、現在の教育課程の編成内容では、卒業要件に必要な授業科目を履修したとしても配置された全体の授業科目からは限定的な履修となり、専門職として必要と^{みえ}る^{べき}能力の修得が不十分なものとなる懸念

があり、専門職大学としてふさわしい教育課程が編成されているか疑義がある。このため、養成する人材像やディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに関する審査意見への対応と整合させるとともに、履修する学生数の規模による教育効果の観点も踏まえつつ、類似科目の統廃合や自由科目の設定などを検討し、未開講科目が多数とならないよう教育課程を是正すること。さらに、履修モデルでは、半期で相当数の授業科目数を履修することが示されているが、教育効果の観点から妥当と認められないため、適切な履修モデルとなるよう授業科目の配当年次の見直しも含め検討し、修正すること。(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46

【全体計画審査意見4、7、8の回答について】

5. <教育課程の体系性が不十分>

農林業経営者を育成するのであれば、経営者に不可欠な知識として「経営管理論」、「人材マネジメント」を必修に改めること。(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 103

【全体計画審査意見4、7、8の回答について】

6. <教育課程の編成方針が不明確>

農林業経営体の中核を担う人材を育成するのであれば、「6次産業化実践論」、「販売実習」を必修とすることも考えられるが、それらの科目を選択として配置する趣旨やその代替として学ぶ科目をどのように配置しているのか明らかにすること。(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 104

【全体計画審査意見4、7、8の回答について】

7. <科目の配置が不十分>

選択科目を林業コースと畜産コースの学生のみが履修する場合、少数の学生での開講となるため、例えば「環境保全型農業論」、「森林マネジメント」、「畜産環境学」を科目としてまとめて開講するなど、学修効果の観点から少数の学生で開講されることを改善すること。(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 105

【全体計画審査意見13(1)の回答について】

8. <臨地実務実習の成績評価が不明確>

成績評価において、「単位認定における成績評価の項目」と「成績評価及び単位認定」があるが、それぞれの内容が異なっているため確認して適切に改めること。

(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 107

【全体計画審査意見13(2)の回答について】

9. <臨地実務実習の具体的内容が不明確>

臨地実務実習において実務に従事するに当たり、例えば、「生産管理・林業」の実習においては「小型の林業機械」を使用することが示されているが、実習に臨む上で前提

となる知識やあらかじめ取得しておくべき資格や免許などの有無が不明確であるため、実習先で必要となる知識等を説明しつつ、各実習の具体的な内容を明らかにすること。
(是正事項)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・115

【審査意見以外の対応】

<施設整備スケジュールの変更について>

部材調達の遅れが懸念されるエレベータ工事について、施設整備スケジュールを見直す。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・146

【審査意見以外の対応】

<書類不備>

申請書類に誤記や言葉の不一致があるため、再度確認を行い、修正した。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・147

1. <養成する人材像と3つのポリシーの整合性が不明確>

養成する人材像として「農業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材」を養成するとしている。他方で、当該人材の養成に当たって、教育目標に掲げる目標を全て到達させることとしているのか不明確である。また、ディプロマ・ポリシーで示されている6つの資質・能力は多岐にわたっており、ディプロマ・ポリシーに掲げる全ての資質・能力を身に付けさせるのか、一部のみの資質・能力を身に付けさせるのか不明確である。このため、養成する人材像に必要な教育目標やディプロマ・ポリシーとなっていることや、カリキュラム・ポリシー及び教育課程の整合性を明確にするとともに、必要に応じて修正すること。

(対応)

農林業は「栽培」、「林業」、「畜産」という3分野に分かれており、本学として養成する人材は、これらの各分野の経営体で活躍する人材であることを説明するとともに、このことが明確となるよう養成する人材像を修正する。教育目標及びディプロマ・ポリシーについても同様に修正の上、養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性について説明する。

また、カリキュラム・ポリシーを修正の上、ディプロマ・ポリシーと教育課程の整合性について説明するとともに、教育課程を修正する(別添資料1 カリキュラム・マップ)。

(詳細説明)

1 養成する人材像、教育目標及びディプロマ・ポリシーの修正

農林業は、一般的に、生産する対象により、栽培、林業、畜産という3つの分野に区分されるが、本県は、温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、いずれの分野においても多彩で高品質な農林産物が県内各地で盛んに生産されており、この3つの分野が本県農林業の基盤となっている。

このため、本県農林業の発展に向けては、栽培、林業、畜産というそれぞれの分野において専門性を発揮し、各分野を牽引していくことができる人材を養成する必要がある。本学は、栽培、林業、畜産のいずれかの分野の経営体において中核を担い、当該分野の経営を牽引していくとともに、自らが農林業を営む農山村の地域社会をリーダーとして支えていくことができる人材を専門職大学として養成するものである。

一方で、栽培、林業、畜産の3分野は、生命を育てる生産活動であるという点で共通しており、生産理論や技術において共通する部分も多い。また、経営体の大規模化等に対応するための経営に関する知識についても各分野で共通している部分が多い。さらに、各分野に関連・共通する部分を他分野の学生と一緒に学修することは、自らの専門分野における学修の理解を深めるとともに、経営において新たな事業展開を図るための創造性に結びつく効果も期待できる。

こうしたことから、本学においては、栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していく人材を養成するに当たり、農林産物に応じた生産手法や加工・流通・販売など分野ごとに学修する内容が異なる部分について、3分野に対応した科目をコース別に学びながら、各分野に

関連・共通する部分は、各コースの学生が共通で分野横断的に学ぶ教育課程としているところである。

このため、学生は2年次前期に本人の希望により栽培、林業、畜産のいずれかのコースを選択するが、各コースに分かれた後も、各分野に関連・共通する部分は共通で学ぶこととしており、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせた教育課程を編成することにより、専門分野の経営における高度な実践力を有するだけでなく、他分野の関連知識や共通知識を活用して、専門分野の経営に新たな事業展開を生み出し創造性を発揮できる人材を養成したいと考えている。

本学は、このような人材養成を行うために1学部1学科とし、養成する人材像やディプロマ・ポリシーを単一としているものであり、そのことが明確になるよう、養成する人材像等を以下のとおり修正する。

<修正後の養成する人材像等（下線の部分が修正箇所）>

【養成する人材像】

多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材

【教育目標】

本県は、温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、栽培、林業、畜産のいずれの分野においても、多彩で高品質な農林産物が県内各地で盛んに生産されている。

栽培分野では、茶やみかんをはじめ、わさび、メロン、いちご、ばら、ガーベラなど多くの品目が全国トップクラスの品質と生産量を誇っており、林業分野では、富士山や南アルプス、天竜美林に代表される天竜川流域、広葉樹林に恵まれた伊豆地域など豊かで多彩な森林から、天竜スギや富士ヒノキなどの高品質な林産物が生産されている。また、畜産分野でも、富士山麓の朝霧地域で酪農が盛んに行われているほか、牛や豚などの個性的なブランド畜産物が県内各地で生産されており、この3分野は、多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である。

農林業を取り巻く環境が大きく変化していく中で、こうした多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業を持続的に発展させていくためには、栽培、林業、畜産のそれぞれの分野で専門性を発揮し、各分野の経営を牽引していくことができる人材を養成する必要がある。

特に、近年の農林業経営体の大規模化や多角化等に対応していくためには、各分野の生産に関する知識・技術に加え、経営管理能力や加工・流通・販売の知識、先端技術への対応力などによる高度な実践力を備え、経営体の経営革新を推進する人材の養成が求められている。

さらに、そのような人材には、他分野の関連知識や共通知識を活用して、自らの経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力も併せて求められている。

また、農山村は農林業の持続的な発展の土台であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。農山村が有す

る豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたものであり、農林業者には、これらの価値を理解し、守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことも期待されている。

こうしたことから、本学においては、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせた教育課程により、専門分野の経営における高度な実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力を養成するとともに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化に関する幅広い知識などを身に付けさせ、以下に掲げる人材の養成を目指すものである。

<本学として養成する人材像>

多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材

【ディプロマ・ポリシー】

多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材に求められる次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した者に学位を授与する。

(1) (略)

(2) 栽培・林業・畜産の各分野において経営体の大規模化や経営の多角化に対応していくための経営管理能力や、経営の対象とする農林産物に対応した加工・流通・販売などに関する知識を有している。

(3) 農作物栽培、木材生産、家畜飼養など、栽培・林業・畜産の各分野における生産現場の状況を的確に把握するための、生産に関する知識・技術や生産に活用される先端技術に関する知識を有している。

(4) (略)

(5) 農山村の地域資源を活用することにより、栽培・林業・畜産の各分野の経営における新たな事業展開を生み出すための手法を理解している。

(6) 修得した専門知識と技術を駆使して栽培・林業・畜産の各分野の経営における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を有している。

2 養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性の説明

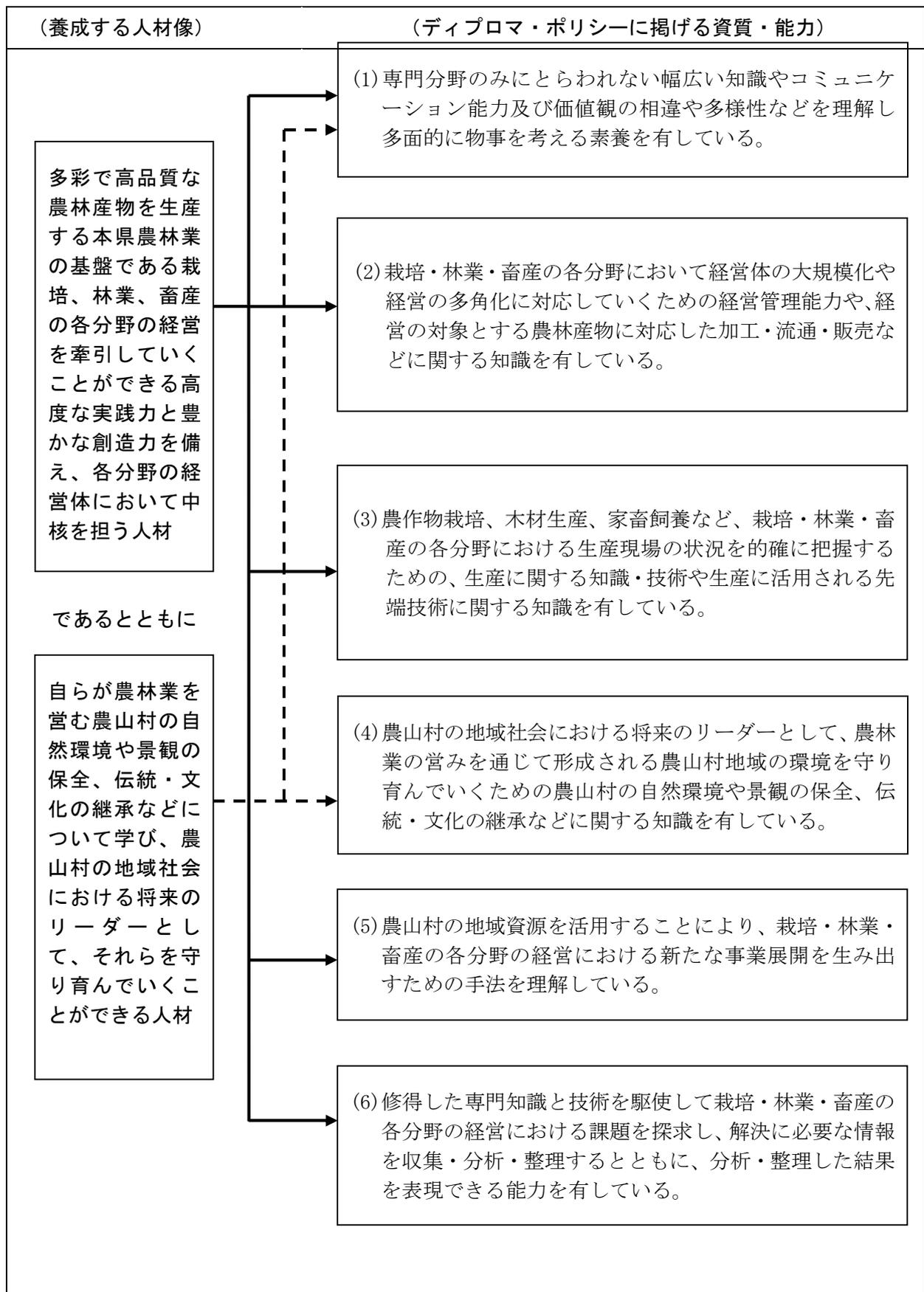
本学において養成する人材像は、「栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材」であるとともに、「農山村の地域社会をリーダーとして支えていくことができる人材」であり、この2つの面から必要となる資質・能力をディプロマ・ポリシーにおいて掲げている。

「栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材」に必要な資質・能力のうち、各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力とは、経営管理能力や加工・流通・販売の知識、生産に関する知識・技術、先端技術への対応力、経営体の課題を探究する能力などによるものであり、ディプロマ・ポリシーの（2）、（3）、（6）に主に関連する。

また、豊かな創造力とは、幅広い教養を基盤に農山村の地域資源など他分野の関連知識や共通知識を活用して、専門分野の経営に新たな事業展開を生み出し創造性を発揮できる能力であり、ディプロマ・ポリシーの（1）、（5）に主に関連する。

「農山村の地域社会をリーダーとして支えていくことができる人材」に必要な資質・能力については、リーダーに求められるコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様ななどを理解し多面的に物事を考える素養と、農山村地域の環境を守り育てていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識であり、ディプロマ・ポリシーの（1）、（4）に主に関連する。（全体的な対応関係は図の次ページのとおり。）

養成する人材像とディプロマ・ポリシーの対応関係



3 カリキュラム・ポリシーの修正

ディプロマ・ポリシーとの整合性を明確にするため、ディプロマ・ポリシーに対応した科目群の編成方針を加えるとともに、教育内容・方法の実施に関する内容の記載を加える。

＜修正後のカリキュラム・ポリシー＞

- (1) ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担うために必要な知識や、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせて編成する。
- (2) 栽培、林業、畜産の各分野に対応した3コース制とし、2年次から栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、自らが選択したコースの専門的な知識・技術に関する科目を履修する。各分野に関連・共通する知識・技術については、2年次以降も共通で履修することとし、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせて教育課程を編成する。
- (3) 少人数教育や実習・演習を重視した教育課程により、栽培、林業、畜産の各分野の経営における高度な実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力を養成するとともに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化などに関する知識を修得させる。
- (4) 成績評価は、学生の基礎的・基本的な知識に加え、技能習熟度や主体的に学習に取り組む態度、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の学習成果を評価基準として行う。また、学生が主体的かつ充実した学習効果を挙げることができるようGPA制度を活用する。

4 ディプロマ・ポリシーと教育課程の整合性の説明

上記のカリキュラム・ポリシーのもとに、本学においては、以下のとおり教育課程を編成することとしており、ディプロマ・ポリシーに対応した教育課程としている。

- (1) 基礎科目として「一般教養」と「コミュニケーション・スキル」の科目群を置き、主に1、2年次に、経済学や情報処理などを学ぶ一般教養科目と、語学などを学ぶコミュニケーション・スキル科目を配置し、コミュニケーション能力や多面的に物事を考える素養などを身に付けさせることとしており、ディプロマ・ポリシーの(1)に主に関連している。
- (2) 職業専門科目として「経営管理」と「加工・流通・販売」の科目群を置き、1年次から3年次にかけて、企業的な経営管理や経営戦略などを学ぶ経営管理科目と、栽培、林業、畜産のコースごとに加工・流通・販売を学ぶ科目を配置し、3年次までに必要な知識を身に付けた上で、4年次に、栽培、林業、畜産の各分野の経営体において長期の臨地実務実習を行うことにより、経営における実践力を養成することとしており、ディプロマ・ポリシーの(2)に主に関連している。
- (3) 職業専門科目として「農林業基礎」、「生産理論」、「生産技術」の科目群を置き、農林業全般について基礎的な事項を学ぶ農林業基礎科目を、1年次を中心として配置する。また、生産理論と生産技術については、1年次に共通的な理論や技術を学ぶ科目を配置し、2年次以降は栽培、林業、畜産のコースごとに理論や技術などを学ぶ科目を配置する。これらの科目においては、生産に活用される先端技術や、農山村の自然環境や景観の保全に配慮

した生産手法などを併せて学び、農林業に関する幅広い知識を身に付けさせることとしており、ディプロマ・ポリシーの（３）、（４）に主に関連している。

(4)展開科目として「農山村の伝統・文化及び地域社会」の科目群を置き、１年次から３年次にかけて、農山村の伝統・文化の継承や地域社会に関する知識、農山村の地域資源を経営に活用する手法などを学ぶ科目を配置し、農山村の地域社会をリーダーとして支える人材となるために必要な知識を身に付けさせるとともに、経営における新たな事業展開を生み出すための創造力を養成することとしており、ディプロマ・ポリシーの（４）、（５）に主に関連している。

(5)総合科目として「総合的思考能力」の科目群を置き、４年間の学びの集大成として、４年次に経営分析演習とプロジェクト研究に取り組み、各分野の経営における課題の解決手法や表現力などを身に付けさせることとしており、ディプロマ・ポリシーの（６）に主に関連している。

なお、教育課程の見直しを行ったところ、ディプロマ・ポリシーに掲げた資質・能力を身に付けるために必要な科目が選択科目になっている部分があったため、科目の統合などにより、いずれのコースの学生もディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を身に付けることができるよう教育課程を改める。

【経営管理を学ぶ科目】

- ・「経営管理論」と「人材マネジメント」は、栽培、林業、畜産各分野の経営体の中核を担う人材に、経営組織や経営戦略、技術経営など経営管理の基礎理論や、経営資源である人材の管理の知識は不可欠であると考えため、いずれも必修科目に変更し、ディプロマ・ポリシーに掲げる経営管理能力を身に付けるために必要な科目は全て必修科目とする。
- ・栽培と生産物利用を両面から学ぶ「フードシステム論」、農林業経営を取り巻く法令について学ぶ「農林業の経営組織論」、「食と農の起業論」、知的財産に係る法律について学ぶ「知的財産権」は、ステップアップのための自由科目に改める。
- ・「法と農業経営」は、類似科目である「食品加工実習」「農林業政策」「GAP演習」の３科目に講義内容を組み込み、授業における関連項目と同時に効果的に学ぶ。

【加工・流通・販売を学ぶ科目】

- ・販売管理の基礎理論や技術、POSシステムといった経営に活用される先端技術の知識と活用法について学ぶ「販売管理実習」と６次産業化の方向性や可能性について学ぶ「６次産業化実践論」は、栽培、林業、畜産各分野の経営体の中核を担う人材に不可欠であると考えため、必修科目に変更し、全ての学生が履修するように改める。
- ・消費者に安全・安心な食品を安定的に届けるための流通システムについて学ぶ「食品流通論」は栽培分野と畜産分野の経営体において中核を担う人材に不可欠であると考えため、栽培コースと畜産コースのコース必修科目とする。
- ・「食品加工学」を「食品加工実習」に統合し、農畜産物の栄養特性や嗜好性、保存性を向上させる加工技術、豆類や野菜、果樹、乳製品、畜肉類などの知識と技術を学ぶ「食品加工実習」を栽培コースと畜産コースのコース必修科目とする。

【生産理論を学ぶ科目】

・「栽培学」、「植物生理生態学」、「樹木・組織学」及び「畜産概論」は、「農学概論」を深化した内容を学ぶ科目で、コース選択の参考とするための科目として4科目のうちの1科目以上を選択する選択必修として配置していたが、栽培、林業、畜産の生産理論を一通り学んだ後にコース選択をする方が適しており、これらの4科目を「農林業生産理論」へ統合し必修科目とする。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類

新	旧
<p>(6 ページ)</p> <p>本学を設置する目的は、農林業に応用可能な技術革新の進展に伴う生産技術の高度化など近年の農林業を取り巻く環境の変化や、農林業の<u>土台</u>である</p>	<p>(6 ページ)</p> <p>本学を設置する目的は、農林業に応用可能な技術革新の進展に伴う生産技術の高度化など近年の農林業を取り巻く環境の変化や、農林業の<u>基盤</u>である</p>
<p>(7 ページ)</p> <p>本学は栽培、林業、畜産の各分野の<u>経営体において中核を担う人材を養成するための教育機関</u>であり、既設の農林大学校の研究部においても、<u>経営体において中核を担う人材の養成</u>を目指して教育を行っているが、<u>既設の農林大学校においては、教育課程や教員の資格・能力が農林業を取り巻く環境変化に対応できるレベルに達していないことから、現状としては、経営体の大規模化等に対応するための十分な能力を有する人材を養成できていない。また、既設の農林大学校においては、農山村の地域社会を支えていく人材を養成するための教育を行っていない。</u></p> <p>このような既設の農林大学校における人材養成の課題を解決するため、専門職大学への移行により、教育課程の拡充や教員のレベルアップなど人材養成機能の充実を図り、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会にお</u></p>	<p>(7 ページ)</p> <p>本学は<u>農林業経営者を養成するための教育機関</u>であり、<u>既設の農林大学校の研究部においても、「農林業経営体の中核を担う人材」の養成を目指して教育を行っているが、教育課程や教員の資格・能力が農林業を取り巻く環境変化に対応できるレベルに達していないことから、現状としては、経営体の大規模化等に対応するための十分な能力を有する人材を養成できていない。また、既設の農林大学校においては、農山村の地域社会を支えていく人材を養成するための教育を行っていない。</u></p> <p>このような既設の農林大学校における人材養成の課題を解決するため、専門職大学への移行により、教育課程の拡充や教員のレベルアップなど人材養成機能の充実を図り、「<u>農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材</u>」を養成するための新たな高等教育機関として本学を設置するものである。</p>

新	旧
<p>ける将来のリーダーとして、それらを守り育んでいくことができる人材」を養成するための新たな高等教育機関として本学を設置するものである。</p>	
<p>(9ページ)</p> <p>本学においても、引き続きこの「<u>耕土耕心</u>」の理念を尊重した上で、年齢や国籍、性別を問わず、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育んでいくことができる人材</u>」を養成することを基本理念とする。</p> <p>(略)</p> <p>①栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに農山村の地域社会を支える人材の育成</p> <p>農山村は農林業の持続的な発展の<u>土台</u>であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。</p> <p>一方で、農山村が有する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたものであり、農林業者には、これらの価値を理解し、守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことが期待されている。</p> <p>このことから、本学においては、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会にお</u></p>	<p>(9ページ)</p> <p>本学においても、引き続きこの「<u>耕土耕心</u>」の理念を尊重した上で、年齢や国籍、性別を問わず、<u>農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育んでいくことができる人材</u>を養成することを基本理念とする。</p> <p>(略)</p> <p>①農林業経営体の中核を担う人材であるとともに農山村の地域社会を支える人材の育成</p> <p>農山村は農林業の持続的な発展の<u>基盤</u>であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。</p> <p>一方で、農山村が有する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたものであり、農林業者には、これらの価値を理解し、守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことが期待されている。</p> <p>このことから、本学においては、「<u>農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育んでいくことができる人材</u>」を養成し、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することを目指すこととしている。</p>

新	旧
<p>ける将来のリーダーとして、それらを守り育んでいくことができる人材」を養成し、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することを目指すこととしている。</p> <p>(11 ページ)</p> <p>②コース別履修科目と分野横断的な共通履修科目を適切に組み合わせた教育課程</p> <p>栽培、林業、畜産の3分野は、生命を育てる生産活動であるという点で共通しており、生産理論や技術において共通する部分が多い。また、経営に関する知識についても各分野で共通している部分が多い。さらに、各分野に関連・共通する部分を他分野の学生と一緒に学修することは、自らの専門分野における学修の理解を深めるとともに、経営において新たな事業展開を図るための創造性に結びつく効果も期待できる。</p> <p>こうしたことから、本学は、栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していく人材を養成するに当たり、農林産物に応じた生産手法や加工・流通・販売など分野ごとに学修する内容が異なる部分については、3分野に対応した科目をコース別に学びながら、各分野に関連・共通する部分は各コースの学生が共通で分野横断的に学ぶ教育課程としている。</p> <p>このような、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせた教育課程により、専門分野の経営における高度な実践力を有するだけでなく、他分野の関連知識や共通知識を活用して、専門分野の経営に新たな事業展開を生み出し創造性を発揮できる人材を養成することとしている。</p> <p>(13 ページ)</p> <p>農林大学校（研究部）と専門職大学における養成する人材像は次のとおりである。</p> <p>・農林大学校 ……「農林業経営体の中核を</p>	<p>(11 ページ)</p> <p>(追加)</p> <p>(12 ページ)</p> <p>本学は、「農林業経営体の中核を担う人材であるとともに農山村の地域社会をリーダーとして支えていく人材」を養成する専門職大学</p>

新	旧
<p><u>担う人材」</u> <u>・専門職大学 ……「多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材」</u> <u>専門職大学として養成する人材像のうち、「農林業経営体の中核を担う人材」の養成を目指している点は、既設の農林大学校と同じであるが、既設の農林大学校においては、教育課程や教員の資格・能力が不十分なことから、現状としては、経営体の大規模化や多角化など農林業を取り巻く環境変化に対応できる人材の養成ができていない。</u> <u>このため、専門職大学においては、4年間を通じて経営体の大規模化等に対応できる経営管理能力を身に付けるとともに、生産技術の高度化や消費者ニーズの多様化にも対応した教育課程の実施や教員のレベルアップなどにより、栽培、林業、畜産の各分野において経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、経営体の中核を担うことができる人材の養成を目指している。</u> <u>また、既設の農林大学校においては、農林業の発展に貢献することを目的として人材養成を行っているが、専門職大学においては、農林業の持続的な発展には基盤となる農山村地域の振興が重要であるという考え方のもと、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することを大学の設置目的としている。このことを踏まえ、専門職大学として養成する人材像には「農山村の地域社会をリーダーとして支えていくことができる人材」の養成という農山村の地域振興の側面を加えている。</u></p>	<p><u>であり、「農林業経営体の中核を担う人材」を養成する既設の農林大学校研究部とは、4年間を通じて経営の大規模化等に対応できる経営管理能力を身に付ける教育課程としている点や、生産技術の高度化、消費者ニーズの多様化に対応した教育課程としている点、さらに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていく人材を養成するための教育課程を有している点で異なっている。</u> 「生産技術の高度化への対応」、「経営体の大規模化や経営の多角化への対応」、「消費者ニーズの多様化への対応」、「地域社会を支える人材の養成」の4つの観点から比較した具体的な相違点は以下のとおりである。(略)</p>

新	旧
<p>「生産技術の高度化への対応」、「経営体の大規模化や経営の多角化への対応」、「消費者ニーズの多様化への対応」、「地域社会を支える人材の養成」の4つの観点から比較した具体的な相違点は以下のとおりである。(略)</p> <p>(略)</p> <p>なお、比較のための参考資料として、<u>本学のカリキュラム・マップ</u>を資料 21-1、<u>既設の農林大学校のカリキュラム・マップ</u>を資料 21-2に示す。(略)</p> <p>(14 ページ)</p> <p>○経営体の大規模化や経営の多角化への対応 <u>企業的经营管理に加え、栽培、林業、畜産の各分野の農林業経営</u>に活用される先端技術や、(略)</p> <p>○消費者ニーズの多様化への対応(略) それらの地域資源を活用して<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営</u>(略)</p> <p>(9) <u>新設予定の専門職短期大学との違い</u> 本学は、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材</u>」を養成する専門職短期大学である。このため「<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場においてリーダーとなる人材であるとともに農山村の地域社会を生産者として支えていく人材</u>」を養成する新設予定の専門職短期大学とは、<u>経営体において中核を担う人材</u>を養成する教育機関である点や、(略)</p> <p>なお、比較のための参考資料として、<u>新設予定の専門職短期大学のカリキュラム・マップ</u>を資料 21-3に示す。</p> <p>(15 ページ)</p> <p>○生産技術の高度化への対応 新設予定の専門職短期大学では、<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場のリーダー</u></p>	<p>なお、比較のための参考資料として、<u>本学のカリキュラムマップ</u>を資料 21-1、<u>農林大学校のカリキュラムマップ</u>を資料 21-2に示す。(略)</p> <p>(13 ページ)</p> <p>○経営体の大規模化や経営の多角化への対応 企業的经营管理に加え、<u>農林業経営</u>に活用される先端技術や、(略)</p> <p>○消費者ニーズの多様化への対応(略) それらの地域資源を活用して<u>農林業経営</u>における(略)</p> <p>(9) <u>新設予定の専門職短期大学との違い</u> 本学は、「<u>農林業経営体の中核を担う人材であるとともに農山村の地域社会をリーダーとして支えていく人材</u>」を養成する専門職短期大学であり、「<u>農林業生産現場におけるリーダーであるとともに農山村の地域社会を農林業者として支えていく人材</u>」を養成する新設予定の専門職短期大学とは、<u>農林業経営者</u>を養成する教育機関である点や、(略)</p> <p>なお、比較のための参考資料として、<u>新設予定の専門職短期大学のカリキュラムマップ</u>を資料 21-3に示す。</p> <p>○生産技術の高度化への対応 新設予定の専門職短期大学では、<u>生産現場のリーダー</u></p>

新	旧
<p>(略)</p> <p>これに対し本学では、<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担う人材</u>として生産現場の状況を的確に把握するための、</p> <p>(略)</p> <p>○経営体の大規模化や経営の多角化への対応 新設予定の専門職短期大学は、<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場のリーダー</u>を養成する</p> <p>(略)</p> <p>また、<u>農林業経営体での臨地実務実習</u>を必修とし、経営についての実践力の養成を重視した教育課程としている。</p> <p>(略)</p> <p>これに対し本学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営</u>における新たな事業展開を生み出すための創造力を身に付ける教育課程としている。</p> <p>(略)</p> <p>○農山村の地域社会を支える人材の養成 新設予定の専門職短期大学では、農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える<u>生産者</u>として、それらを守り育てていく人材を養成する教育課程としている。</p> <p>(略)</p> <p>(17 ページ)</p> <p>既存の大学農学部卒業生で農林業に就業するのは少なく、県内においても静岡大学農学部卒業生で就農するものはごくわずかである(資料 17)。現代の農学が<u>食料生産</u>だけではなく、ゲノム・遺伝子などの生命科学分野や、生態系・エネルギーなど環境分野まで広がっているため、学生の多くは農林業そのものに就業することを考えているのではなく、<u>農林業</u>を切り口とした(略)。これに対し本学は<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営体</u>にお</p>	<p>(略)</p> <p>これに対し本学では、<u>経営者</u>として生産現場の状況を的確に把握するための、</p> <p>(略)</p> <p>○経営体の大規模化や経営の多角化への対応 新設予定の専門職短期大学は、<u>農林業生産者</u>を養成する</p> <p>(略)</p> <p>また、<u>経営体への臨地実務実習</u>を必修とし、経営についての実践力の養成を重視した教育課程としている。</p> <p>(略)</p> <p>これに対し本学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して<u>農林業経営</u>における新たな事業展開を生み出すための創造力を身に付ける教育課程としている。</p> <p>(略)</p> <p>○農山村の地域社会を支える人材の養成 新設予定の専門職短期大学では、農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える<u>農林業者</u>として、それらを守り育てていく人材を養成する教育課程としている。</p> <p>(略)</p> <p>(15 ページ)</p> <p>また、<u>経営体への臨地実務実習</u></p> <p>(略)これに対し本学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して<u>農林業経営</u>における(略)</p> <p>○農山村の地域社会を支える人材の養成 新設予定の専門職短期大学では、農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える<u>農林業者</u>とし</p>

新	旧
<p>いて中核を担うための実践力を身に付ける大学であり、</p>	<p>て(略) (15 ページ) 既存の大学農学部卒業生で農林業に就業するものは少なく、県内においても静岡大学農学部卒業生で就農するものはごくわずかである(資料17)。現代の農学が食糧生産だけではなく、ゲノム・遺伝子などの生命科学分野や、生態系・エネルギーなど環境分野まで広がっているため、学生の多くは農林業そのものに就業することを考えているのではなく、農業を切り口とした(略)。これに対し本学は農林業を営む実践力を身に付ける大学であり、</p>
<p>(21 ページ) 本県は、温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、栽培、林業、畜産のいずれの分野においても、多彩で高品質な農林産物が県内各地で盛んに生産されている。 栽培分野では、茶やみかんをはじめ、わさび、メロン、いちご、ばら、ガーベラなど多くの品目が全国トップクラスの品質と生産量を誇っており、林業分野では、富士山や南アルプス、天竜美林に代表される天竜川流域、広葉樹林に恵まれた伊豆地域など豊かで多彩な森林から、天竜スギや富士ヒノキなどの高品質な林産物が生産されている。また、畜産分野でも、富士山麓の朝霧地域で酪農が盛んに行われているほか、牛や豚などの個性的なブランド畜産物が県内各地で生産されており、この3分野は、多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である。 農林業を取り巻く環境が大きく変化していく中で、こうした多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業を持続的に発展させていくためには、栽培、林業、畜産のそれぞれの分野で専門性を発揮し、各分野の経営を牽引していくことができる人材を養成する必要がある。 特に、近年の農林業経営体の大規模化や多角化等に対応していくためには、各分野の生産に</p>	<p>(20 ページ) 本学科は「農林業経営体の経営を継ぐ」「農林業経営体の中核を担う」、「自ら新しい経営体を立ち上げる」など、それぞれの立場で自らの夢を実現し、農林業分野や地域社会で活躍できる人材を養成する。 その夢の実現を助けるため、①農林業の基礎的な生産技術や知識に加え、経営体の経営革新を推進する、加工・流通・販売への応用力や経営管理能力、先端技術への対応力を有するとともに、②地域社会における未来のリーダーとして、自然と共生し、美しい農山村の景観や環境を磨き上げるとともに、幅広い教養と豊かな人間性を備え地域の文化伝統を守っていくことのできる農林業者を養成することを目標とする。</p>

新	旧
<p>関する知識・技術に加え、経営管理能力や加工・流通・販売の知識、先端技術への対応力などによる高度な実践力を備え、経営体の経営革新を推進する人材の養成が求められている。</p> <p>さらに、そのような人材には、他分野の関連知識や共通知識を活用して、自らの経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力も併せて求められている。</p> <p>また、農山村は農林業の持続的な発展の土台であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。農山村が有する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたものであり、農林業者には、これらの価値を理解し、守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことも期待されている。</p> <p>こうしたことから、本学においては、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせた教育課程により、専門分野の経営における高度な実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力を養成するとともに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化に関する幅広い知識などを身に付けさせ、以下に掲げる人材の養成を目指すものである。</p> <p>＜本学として養成する人材像＞</p> <p>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育んでいくことができる人材</p>	

新	旧
<p>(22 ページ)</p> <p><u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材に求められる次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した者に学位を授与する。</u></p> <p><u>①専門分野のみにとらわれない幅広い知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を有している。</u></p> <p><u>②栽培・林業・畜産の各分野において経営体の大規模化や経営の多角化に対応していくための経営管理能力や、経営の対象とする農林産物に対応した加工・流通・販売などに関する知識を有している。</u></p> <p><u>③農作物栽培、木材生産、家畜飼養など、栽培・林業・畜産の各分野における生産現場の状況を的確に把握するための、生産に関する知識・技術や生産に活用される先端技術に関する知識を有している。</u></p> <p><u>④農山村の地域社会における将来のリーダーとして、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育ていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。</u></p> <p><u>⑤農山村の地域資源を活用することにより、栽培・林業・畜産の各分野の経営における新たな事業展開を生み出すための手法を理解している。</u></p>	<p>(20 ページ)</p> <p><u>本学科は、(3)の教育目標を実現するために設けた所定の基礎科目・職業専門科目・展開科目・総合科目を履修することにより、農林業経営者に求められる次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得し、プロジェクト研究を経て卒業論文を提出した者に学位を授与する。</u></p> <p><u>①専門分野のみにとらわれない幅広い知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を有している。</u></p> <p><u>②農林業経営体の大規模化や経営の多角化に対応していくための経営管理能力、農林業経営に活用される先端技術や加工・流通・販売などに関する知識を有している。</u></p> <p><u>③農林業生産現場の状況を的確に把握するための農林業生産に関する基礎的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術に関する知識を有している。</u></p> <p><u>④農山村の地域社会における将来のリーダーとして、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育ていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。</u></p> <p><u>⑤農山村の地域資源を活用することにより、農林業経営における新たな事業展開を生み出すための手法を理解している。</u></p> <p><u>⑥修得した専門知識と技術を駆使して農林業経営における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を有している。</u></p>

新	旧
<p>⑥<u>修得した専門知識と技術を駆使して栽培・林業・畜産の各分野の経営における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を有している。</u></p>	
<p>(24 ページ) 農林業の基礎となる「生産」の知識や技術と、<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営に必須となる</u> (略)</p>	<p>(22 ページ) 農林業の基礎となる「生産」の知識や技術と、<u>農林業経営に必須となる</u> (略)</p>
<p>(25 ページ) 前述の本学の「基本理念」に掲げる養成人材像並びに「ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)」を実現するためのカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施方針) を、以下のとおり定める。 ①<u>ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担うために必要な知識や、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせ編成する。</u> ②<u>栽培、林業、畜産の各分野に対応した3コース制とし、2年次から栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、自らが選択したコースの専門的な知識・技術に関する科目を履修する。各分野に関連・共通する知識・技術については、2年次以降も共通で履修することとし、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせ教育課程を編成する。</u> ③<u>少人数教育や実習・演習を重視した教育課程により、栽培、林業、畜産の各分野の経営における高度な実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力を養成すると</u></p>	<p>(23 ページ) 前述の本学部の「基本理念」に掲げる養成人材像並びに「ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)」を実現するためのカリキュラム・ポリシー (教育課程編成方針) を、以下のとおり定める。 ①<u>一般教養やコミュニケーション・スキルなどを学ぶ教育課程を編成する。</u> ②<u>企業的な経営管理や経営戦略、加工・販売の手法や流通の仕組みなどを学ぶ教育課程を編成する。</u> ③<u>農林業に関する基礎的な知識及び農林業生産に関する基礎的な理論や技術を学ぶ教育課程を編成する。</u> ④<u>農林業の経営や生産に活用される先端技術を学ぶ教育課程を編成する。</u> ⑤<u>農山村の自然環境や景観の保全に配慮した農林業生産を学ぶ教育課程を編成する。</u> ⑥<u>農山村の伝統・文化の継承や地域社会について学ぶとともに、農山村の地域資源を農林業経営に活用する手法を学ぶ教育課程を編成する。</u> ⑦<u>農林業経営における課題の解決に向けた研究の手法などを学ぶ教育課程を編成する。</u></p>

新	旧
<p><u>ともに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化などに関する知識を修得させる。</u></p> <p><u>④成績評価は、学生の基礎的・基本的な知識に加え、技能習熟度や主体的に学習に取り組む態度、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の学習成果を評価基準として行う。また、学生が主体的かつ充実した学習効果を上げることができるようGPA制度を活用する。ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の経営体の中核を担うために必要な知識や、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせ編成する。</u></p>	

2. <養成する人材像が不明確>

「本学」という文言が既設の農林大学校と専門職大学の双方に用いられており、専門職大学として養成する人材像が不明確である。専門職大学における「農林業経営者」と「農林業経営体の中核を担う人材」の位置付けを明らかにするとともに、養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性を明らかにすること。

(対応)

専門職大学として養成する人材像を明確にするため、養成する人材像を修正するとともに、「設置の趣旨等を記載した書類」のうち、既設の農林大学校と新設予定の専門職大学の養成する人材像の違いについての説明箇所を修正する。

併せて、専門職大学における「農林業経営者」と「農林業経営体の中核を担う人材」の位置付けと、養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性について説明するとともに、「設置の趣旨等を記載した書類」のうち、「農林業経営者」と記載した箇所を修正する。

(詳細説明)

1 既設の農林大学校と専門職大学の養成する人材像の違い

農林大学校（研究部）と専門職大学における養成する人材像は次のとおりである。

- ・農林大学校 ……「農林業経営体の中核を担う人材」
- ・専門職大学 ……「多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材」

専門職大学として養成する人材像のうち、「農林業経営体の中核を担う人材」の養成を目指している点は、既設の農林大学校と同じであるが、既設の農林大学校においては、教育課程や教員の資格・能力が不十分なことから、現状としては、経営体の大規模化や多角化など農林業を取り巻く環境変化に対応できる人材の養成ができていない。

このため、専門職大学においては、4年間を通じて経営体の大規模化等に対応できる経営管理能力を身に付けるとともに、生産技術の高度化や消費者ニーズの多様化にも対応した教育課程の実施や教員のレベルアップなどにより、栽培、林業、畜産の各分野において経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、経営体の中核を担うことができる人材の養成を目指している。

また、既設の農林大学校においては、農林業の発展に貢献することを目的として人材養成を行っているが、専門職大学においては、農林業の持続的な発展には土台となる農山村地域の振興が重要であるという考え方のもと、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することを大学の設置目的としている。このことを踏まえ、専門職大学として養成する人材像には「農山村の地域社会をリーダーとして支えていくことができる人材」の養成という農山村の地域振興の側面を加えている。

2 専門職大学における「農林業経営者」と「農林業経営体の中核を担う人材」の位置付けと、養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性

(1) 専門職大学における「農林業経営者」と「農林業経営体の中核を担う人材」の位置付け

「農林業経営者」とは、農林業経営体の経営に責任を負う者であり、経営体のトップを指す言葉である。

一方、「農林業経営体の中核を担う人材」とは、経営体の重要なポストに就いて経営に従事している者を指し、その中には「農林業経営者」を含んでいる。

このため、本学においては、経営体のトップを「農林業経営者」、経営体のトップに限らず重要なポストに就いて経営に従事している者を「農林業経営体の中核を担う人材」と位置付けており、「設置の趣旨等を記載した書類」の7ページの「本学は農林業経営者を養成するための教育機関であり、」という箇所は、「農林業経営者」を「栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担う人材」に修正する。

(2) 養成する人材像とディプロマ・ポリシーの整合性

これまで、養成する人材像の一部を「農林業経営体の中核を担う人材」とする一方で、ディプロマ・ポリシーにおいては、「農林業経営者に求められる次に掲げる資質・能力を身に付けた者に学位を授与する」こととしており、整合性がとれていなかったため、ディプロマ・ポリシーのうち「農林業経営者に求められる」としていた部分を「多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材」に修正する。

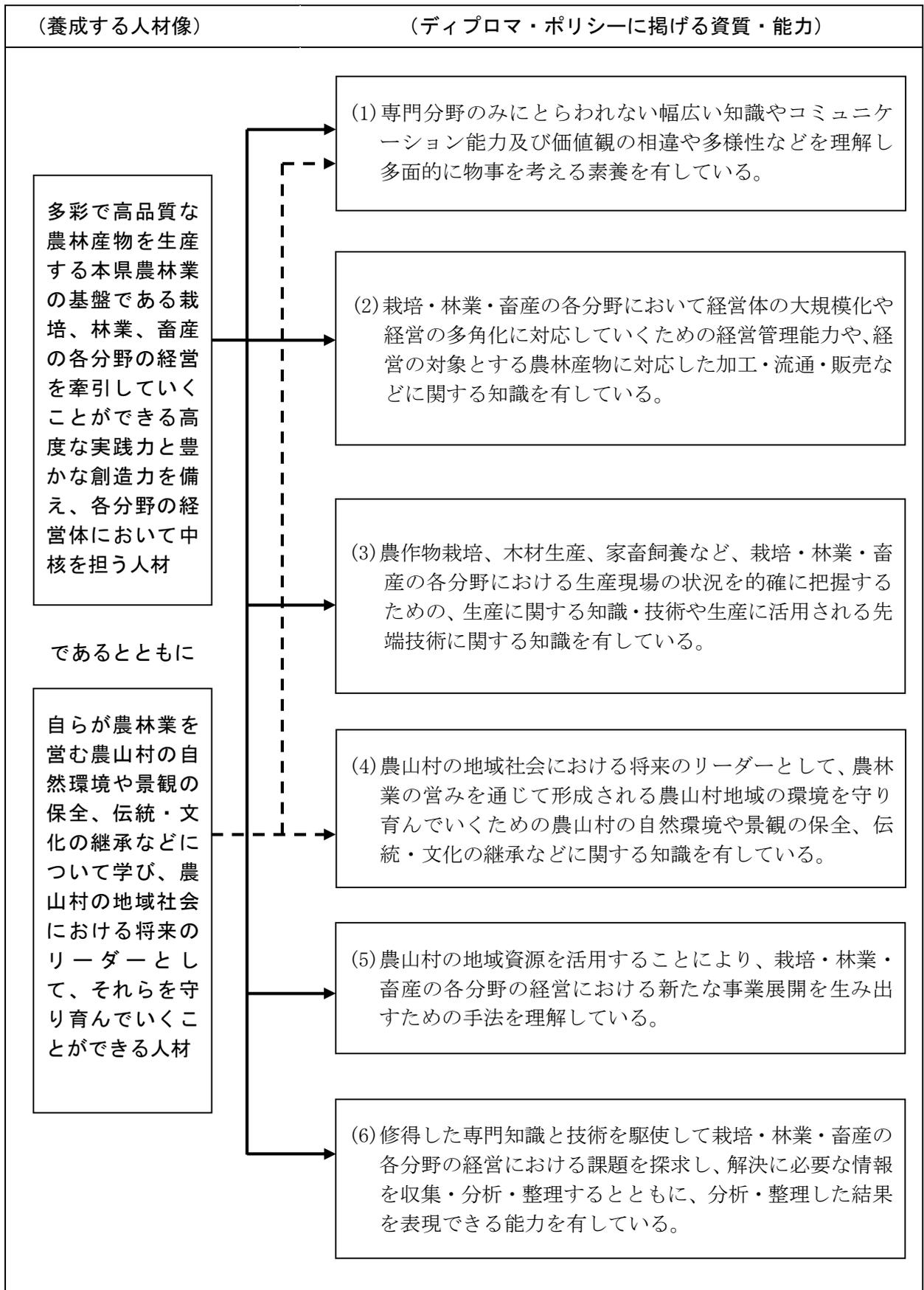
本学において養成する人材像は、「栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材」であるとともに、「農山村の地域社会をリーダーとして支えていくことができる人材」であり、この2つの面から必要となる資質・能力をディプロマ・ポリシーにおいて掲げている。

「栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材」に必要な資質・能力のうち、各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力とは、経営管理能力や加工・流通・販売の知識、生産に関する知識・技術、先端技術への対応力、経営体の課題を探究する能力などによるものであり、ディプロマ・ポリシーの(2)、(3)、(6)に主に関連する。

また、豊かな創造力とは、幅広い教養を基盤に農山村の地域資源など他分野の関連知識や共通知識を活用して、専門分野の経営に新たな事業展開を生み出し創造性を発揮できる能力であり、ディプロマ・ポリシーの(1)、(5)に主に関連する。

「農山村の地域社会をリーダーとして支えていくことができる人材」に必要な資質・能力については、リーダーに求められるコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養と、農山村地域の環境を守り育ていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識であり、ディプロマ・ポリシーの（１）、（４）に主に関連する。（全体的な対応関係は図の次ページのとおり。）

養成する人材像とディプロマ・ポリシーの対応関係



(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類

新	旧
<p>(6 ページ)</p> <p>本学を設置する目的は、農林業に応用可能な技術革新の進展に伴う生産技術の高度化など近年の農林業を取り巻く環境の変化や、農林業の<u>土台</u>である</p> <p>(7 ページ)</p> <p>本学は<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担う人材を養成するための教育機関</u>であり、既設の農林大学校の研究部においても、<u>経営体において中核を担う人材の養成</u>を目指して教育を行っているが、<u>既設の農林大学校においては、教育課程や教員の資格・能力が農林業を取り巻く環境変化に対応できるレベルに達していないことから、現状としては、経営体の大規模化等に対応するための十分な能力を有する人材を養成できていない。また、既設の農林大学校においては、農山村の地域社会を支えていく人材を養成するための教育を行っていない。</u></p> <p>このような既設の農林大学校における人材養成の課題を解決するため、専門職大学への移行により、教育課程の拡充や教員のレベルアップなど人材養成機能の充実を図り、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材</u>」を養成するための新たな高等教育機関として本学を設置するものである。</p>	<p>(6 ページ)</p> <p>本学を設置する目的は、農林業に応用可能な技術革新の進展に伴う生産技術の高度化など近年の農林業を取り巻く環境の変化や、農林業の<u>基盤</u>である</p> <p>(7 ページ)</p> <p>本学は<u>農林業経営者を養成するための教育機関</u>であり、既設の農林大学校の研究部においても、「<u>農林業経営体の中核を担う人材</u>」の養成を目指して教育を行っているが、教育課程や教員の資格・能力が農林業を取り巻く環境変化に対応できるレベルに達していないことから、現状としては、経営体の大規模化等に対応するための十分な能力を有する人材を養成できていない。また、既設の農林大学校においては、農山村の地域社会を支えていく人材を養成するための教育を行っていない。</p> <p>このような既設の農林大学校における人材養成の課題を解決するため、専門職大学への移行により、教育課程の拡充や教員のレベルアップなど人材養成機能の充実を図り、「<u>農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材</u>」を養成するための新たな高等教育機関として本学を設置するものである。</p>
<p>(9 ページ)</p> <p>本学においても、引き続きこの「<u>耕土耕心</u>」の</p>	<p>(9 ページ)</p> <p>本学においても、引き続きこの「<u>耕土耕心</u>」</p>

新	旧
<p>理念を尊重した上で、年齢や国籍、性別を問わず、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材</u>」を養成することを基本理念とする。</p> <p>(略)</p> <p>①栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに農山村の地域社会を支える人材の育成</p> <p>農山村は農林業の持続的な発展の<u>土台</u>であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。</p> <p>一方で、農山村が有する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたものであり、農林業者には、これらの価値を理解し、守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことが期待されている。</p> <p>このことから、本学においては、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材</u>」を養成し、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することを目指すこととしている。</p> <p>(11 ページ)</p> <p>②コース別履修科目と分野横断的な共通履修</p>	<p>の理念を尊重した上で、年齢や国籍、性別を問わず、<u>農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材を養成することを基本理念とする。</u></p> <p>(略)</p> <p>①農林業経営体の中核を担う人材であるとともに農山村の地域社会を支える人材の育成</p> <p>農山村は農林業の持続的な発展の<u>基盤</u>であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。</p> <p>一方で、農山村が有する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたものであり、農林業者には、これらの価値を理解し、守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことが期待されている。</p> <p>このことから、本学においては、「<u>農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材</u>」を養成し、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することを目指すこととしている。</p> <p>(11 ページ)</p>

新	旧
<p><u>科目を適切に組み合わせた教育課程</u></p> <p><u>栽培、林業、畜産の3分野は、生命を育てる生産活動であるという点で共通しており、生産理論や技術において共通する部分が多い。また、経営に関する知識についても各分野で共通している部分が多い。さらに、各分野に関連・共通する部分を他分野の学生と一緒に学修することは、自らの専門分野における学修の理解を深めるとともに、経営において新たな事業展開を図るための創造性に結びつく効果も期待できる。</u></p> <p><u>こうしたことから、本学は、栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していく人材を養成するに当たり、農林産物に応じた生産手法や加工・流通・販売など分野ごとに学修する内容が異なる部分については、3分野に対応した科目をコース別に学びながら、各分野に関連・共通する部分は各コースの学生が共通で分野横断的に学ぶ教育課程としている。</u></p> <p><u>このような、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせた教育課程により、専門分野の経営における高度な実践力を有するだけでなく、他分野の関連知識や共通知識を活用して、専門分野の経営に新たな事業展開を生み出し創造性を発揮できる人材を養成することとしている。</u></p> <p>(13 ページ)</p> <p><u>農林大学校（研究部）と専門職大学における養成する人材像は次のとおりである。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <u>・農林大学校 ……「農林業経営体の中核を担う人材」</u> <u>・専門職大学 ……「多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材である</u> 	<p>(追加)</p> <p>(12 ページ)</p> <p><u>本学は、「農林業経営体の中核を担う人材であるとともに農山村の地域社会をリーダーとして支えていく人材」を養成する専門職大学であり、「農林業経営体の中核を担う人材」を養成する既設の農林大学校研究部とは、4年間を通じて経営の大規模化等に対応できる経営管理能力を身に付ける教育課程としている点や、生産技術の高度化、消費者ニーズの多様化に対応した教育課程としている点、さら</u></p>

新	旧
<p><u>とともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材」</u></p> <p><u>専門職大学として養成する人材像のうち、「農林業経営体の中核を担う人材」の養成を目指している点は、既設の農林大学校と同じであるが、既設の農林大学校においては、教育課程や教員の資格・能力が不十分なことから、現状としては、経営体の大規模化や多角化など農林業を取り巻く環境変化に対応できる人材の養成ができていない。</u></p> <p><u>このため、専門職大学においては、4年間を通じて経営体の大規模化等に対応できる経営管理能力を身に付けるとともに、生産技術の高度化や消費者ニーズの多様化にも対応した教育課程の実施や教員のレベルアップなどにより、栽培、林業、畜産の各分野において経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、経営体の中核を担うことができる人材の養成を目指している。</u></p> <p><u>また、既設の農林大学校においては、農林業の発展に貢献することを目的として人材養成を行っているが、専門職大学においては、農林業の持続的な発展には基盤となる農山村地域の振興が重要であるという考え方のもと、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することを大学の設置目的としている。このことを踏まえ、専門職大学として養成する人材像には「農山村の地域社会をリーダーとして支えていくことができる人材」の養成という農山村の地域振興の側面を加えている。</u></p> <p>「生産技術の高度化への対応」、「経営体の大規模化や経営の多角化への対応」、「消費者ニーズの多様化への対応」、「地域社会を支える人材の養成」の4つの観点から比較した具体的な相違点は以下のとおりである。(略)</p> <p>(略)</p>	<p><u>に、農山村の地域社会をリーダーとして支えていく人材を養成するための教育課程を有している点で異なっている。</u></p> <p>「生産技術の高度化への対応」、「経営体の大規模化や経営の多角化への対応」、「消費者ニーズの多様化への対応」、「地域社会を支える人材の養成」の4つの観点から比較した具体的な相違点は以下のとおりである。(略)</p>

新	旧
<p>なお、比較のための参考資料として、<u>本学のカリキュラム・マップ</u>を資料 21-1、<u>既設の農林大学校のカリキュラム・マップ</u>を資料 21-2に示す。(略)</p> <p>(14 ページ)</p> <p>○経営体の大規模化や経営の多角化への対応 <u>企業的経営管理に加え、栽培、林業、畜産の各分野の農林業経営</u>に活用される先端技術や、(略)</p> <p>○消費者ニーズの多様化への対応(略) それらの地域資源を活用して<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営</u>(略)</p> <p>(9) <u>新設予定の専門職短期大学との違い</u> 本学は、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材</u>」を養成する専門職大学である。このため「<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場においてリーダーとなる人材であるとともに農山村の地域社会を生産者として支えていく人材</u>」を養成する新設予定の専門職短期大学とは、<u>経営体において中核を担う人材</u>を養成する教育機関である点や、(略)</p> <p>なお、比較のための参考資料として、<u>新設予定の専門職短期大学のカリキュラム・マップ</u>を資料 21-3に示す。 (15 ページ)</p> <p>○生産技術の高度化への対応 新設予定の専門職短期大学では、<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場のリーダー</u> (略)</p> <p>これに対し本学では、<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担う人材</u>として生産現場の状況を的確に把握するための、(略)</p> <p>○経営体の大規模化や経営の多角化への対応</p>	<p>なお、比較のための参考資料として、<u>本学のカリキュラムマップ</u>を資料 21-1、<u>農林大学校のカリキュラムマップ</u>を資料 21-2に示す。(略)</p> <p>(13 ページ)</p> <p>○経営体の大規模化や経営の多角化への対応 企業的経営管理に加え、<u>農林業経営</u>に活用される先端技術や、(略)</p> <p>○消費者ニーズの多様化への対応(略) それらの地域資源を活用して<u>農林業経営</u>における(略)</p> <p>(9) <u>新設予定の専門職短期大学との違い</u> 本学は、「<u>農林業経営体の中核を担う人材であるとともに農山村の地域社会をリーダーとして支えていく人材</u>」を養成する専門職大学であり、「<u>農林業生産現場におけるリーダーであるとともに農山村の地域社会を農林業者として支えていく人材</u>」を養成する新設予定の専門職短期大学とは、<u>農林業経営者を養成する教育機関である点や、(略)</u></p> <p>なお、比較のための参考資料として、<u>新設予定の専門職短期大学のカリキュラムマップ</u>を資料 21-3に示す。</p> <p>○生産技術の高度化への対応 新設予定の専門職短期大学では、<u>生産現場のリーダー</u> (略)</p> <p>これに対し本学では、<u>経営者</u>として生産現場の状況を的確に把握するための、(略)</p> <p>○経営体の大規模化や経営の多角化への対応</p>

新	旧
<p>新設予定の専門職短期大学は、<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場のリーダー</u>を養成する (略)</p> <p>また、<u>農林業経営体</u>での臨地実務実習を必修とし、経営についての実践力の養成を重視した教育課程としている。 (略)</p> <p>これに対し本学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営</u>における新たな事業展開を生み出すための創造力を身に付ける教育課程としている。 (略)</p> <p>○農山村の地域社会を支える人材の養成 新設予定の専門職短期大学では、農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える<u>生産者</u>として、それらを守り育ていく人材を養成する教育課程としている。 (略) (17 ページ)</p> <p>既存の大学農学部卒業者で農林業に就業するのは少なく、県内においても静岡大学農学部卒業生で就農するものはごくわずかである(資料 17)。現代の農学が<u>食料</u>生産だけではなく、ゲノム・遺伝子などの生命科学分野や、生態系・エネルギーなど環境分野まで広がっているため、学生の多くは農林業そのものに就業することを考えているのではなく、<u>農林業</u>を切り口とした(略)。これに対し本学は<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営体</u>において中核を担うための実践力を身に付ける大学であり、</p>	<p>新設予定の専門職短期大学は、<u>農林業生産者</u>を養成する (略)</p> <p>また、<u>経営体</u>への臨地実務実習を必修とし、経営についての実践力の養成を重視した教育課程としている。 (略)</p> <p>これに対し本学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して<u>農林業経営</u>における新たな事業展開を生み出すための創造力を身に付ける教育課程としている。 (略)</p> <p>○農山村の地域社会を支える人材の養成 新設予定の専門職短期大学では、農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える<u>農林業者</u>として、それらを守り育ていく人材を養成する教育課程としている。 (略) (15 ページ)</p> <p>また、<u>経営体</u>への臨地実務実習 (略)これに対し本学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して<u>農林業経営</u>における(略)</p> <p>○農山村の地域社会を支える人材の養成 新設予定の専門職短期大学では、農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える<u>農林業者</u>として(略) (15 ページ)</p> <p>既存の大学農学部卒業者で農林業に就業するのは少なく、県内においても静岡大学農学部卒業生で就農するものはごくわずかである(資料 17)。現代の農学が<u>食糧</u>生産だけではなく、ゲノ</p>

新	旧
	<p>ム・遺伝子などの生命科学分野や、生態系・エネルギーなど環境分野まで広がっているため、学生の多くは農林業そのものに就業することを考えているのではなく、<u>農業</u>を切り口とした(略)。これに対し本学は<u>農林業を営む実践力を身に付ける</u>大学であり、</p>
<p>(21 ページ)</p> <p><u>本県は、温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、栽培、林業、畜産のいずれの分野においても、多彩で高品質な農林産物が県内各地で盛んに生産されている。</u></p> <p><u>栽培分野では、茶やみかんをはじめ、わさび、メロン、いちご、ばら、ガーベラなど多くの品目が全国トップクラスの品質と生産量を誇っており、林業分野では、富士山や南アルプス、天竜美林に代表される天竜川流域、広葉樹林に恵まれた伊豆地域など豊かで多彩な森林から、天竜スギや富士ヒノキなどの高品質な林産物が生産されている。また、畜産分野でも、富士山麓の朝霧地域で酪農が盛んに行われているほか、牛や豚などの個性的なブランド畜産物が県内各地で生産されており、この3分野は、多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である。</u></p> <p><u>農林業を取り巻く環境が大きく変化していく中で、こうした多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業を持続的に発展させていくためには、栽培、林業、畜産のそれぞれの分野で専門性を発揮し、各分野の経営を牽引していくことができる人材を養成する必要がある。</u></p> <p><u>特に、近年の農林業経営体の大規模化や多角化等に対応していくためには、各分野の生産に関する知識・技術に加え、経営管理能力や加工・流通・販売の知識、先端技術への対応力などによる高度な実践力を備え、経営体の経営革新を推進する人材の養成が求められている。</u></p> <p><u>さらに、そのような人材には、他分野の関連知識や共通知識を活用して、自らの経営に新た</u></p>	<p>(20 ページ)</p> <p><u>本学科は「農林業経営体の経営を継ぐ」「農林業経営体の中核を担う」、「自ら新しい経営体を立ち上げる」など、それぞれの立場で自らの夢を実現し、農林業分野や地域社会で活躍できる人材を養成する。</u></p> <p><u>その夢の実現を助けるため、①農林業の基礎的な生産技術や知識に加え、経営体の経営革新を推進する、加工・流通・販売への応用力や経営管理能力、先端技術への対応力を有するとともに、②地域社会における未来のリーダーとして、自然と共生し、美しい農山村の景観や環境を磨き上げるとともに、幅広い教養と豊かな人間性を備え地域の文化伝統を守っていくことのできる農林業者を養成することを目標とする。</u></p>

新	旧
<p><u>な事業展開を生み出すことができる豊かな創造力も併せて求められている。</u></p> <p><u>また、農山村は農林業の持続的な発展の土台であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。農山村が有する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたものであり、農林業者には、これらの価値を理解し、守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことも期待されている。</u></p> <p><u>こうしたことから、本学においては、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせた教育課程により、専門分野の経営における高度な実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力を養成するとともに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化に関する幅広い知識などを身に付けさせ、以下に掲げる人材の養成を目指すものである。</u></p> <p><u><本学として養成する人材像></u></p> <p><u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育んでいくことができる人材</u></p>	

新	旧
<p>(22 ページ)</p> <p><u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材に求められる次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した者に学位を授与する。</u></p> <p><u>①専門分野のみにとらわれない幅広い知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を有している。</u></p> <p><u>②栽培・林業・畜産の各分野において経営体の大規模化や経営の多角化に対応していくための経営管理能力や、経営の対象とする農林産物に対応した加工・流通・販売などに関する知識を有している。</u></p> <p><u>③農作物栽培、木材生産、家畜飼養など、栽培・林業・畜産の各分野における生産現場の状況を的確に把握するための、生産に関する知識・技術や生産に活用される先端技術に関する知識を有している。</u></p> <p><u>④農山村の地域社会における将来のリーダーとして、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育ていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。</u></p> <p><u>⑤農山村の地域資源を活用することにより、栽培・林業・畜産の各分野の経営における新たな事業展開を生み出すための手法を理解している。</u></p>	<p>(20 ページ)</p> <p><u>本学科は、(3)の教育目標を実現するために設けた所定の基礎科目・職業専門科目・展開科目・総合科目を履修することにより、農林業経営者に求められる次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得し、プロジェクト研究を経て卒業論文を提出した者に学位を授与する。</u></p> <p><u>①専門分野のみにとらわれない幅広い知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を有している。</u></p> <p><u>②農林業経営体の大規模化や経営の多角化に対応していくための経営管理能力、農林業経営に活用される先端技術や加工・流通・販売などに関する知識を有している。</u></p> <p><u>③農林業生産現場の状況を的確に把握するための農林業生産に関する基礎的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術に関する知識を有している。</u></p> <p><u>④農山村の地域社会における将来のリーダーとして、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育ていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。</u></p> <p><u>⑤農山村の地域資源を活用することにより、農林業経営における新たな事業展開を生み出すための手法を理解している。</u></p> <p><u>⑥修得した専門知識と技術を駆使して農林業経営における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を有している。</u></p>

新	旧
<p>⑥<u>修得した専門知識と技術を駆使して栽培・林業・畜産の各分野の経営における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を有している。</u></p>	
<p>(24 ページ) 農林業の基礎となる「生産」の知識や技術と、<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営に必須となる</u> (略)</p>	<p>(22 ページ) 農林業の基礎となる「生産」の知識や技術と、<u>農林業経営に必須となる</u> (略)</p>
<p>(25 ページ) 前述の本学の「基本理念」に掲げる養成人材像並びに「<u>ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)</u>」を実現するためのカリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施方針) を、以下のとおり定める。 ①<u>ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担うために必要な知識や、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせ</u>て編成する。 ②<u>栽培、林業、畜産の各分野に対応した3コース制とし、2年次から栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、自らが選択したコースの専門的な知識・技術に関する科目を履修する。各分野に関連・共通する知識・技術については、2年次以降も共通で履修することとし、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせ</u>て教育課程を編成する。 ③<u>少人数教育や実習・演習を重視した教育課程により、栽培、林業、畜産の各分野の経営における高度な実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力を養成すると</u></p>	<p>(23 ページ) 前述の本学部の「基本理念」に掲げる養成人材像並びに「<u>ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)</u>」を実現するためのカリキュラム・ポリシー (教育課程編成方針) を、以下のとおり定める。 ①<u>一般教養やコミュニケーション・スキルなどを学ぶ教育課程を編成する。</u> ②<u>企業的な経営管理や経営戦略、加工・販売の手法や流通の仕組みなどを学ぶ教育課程を編成する。</u> ③<u>農林業に関する基礎的な知識及び農林業生産に関する基礎的な理論や技術を学ぶ教育課程を編成する。</u> ④<u>農林業の経営や生産に活用される先端技術を学ぶ教育課程を編成する。</u> ⑤<u>農山村の自然環境や景観の保全に配慮した農林業生産を学ぶ教育課程を編成する。</u> ⑥<u>農山村の伝統・文化の継承や地域社会について学ぶとともに、農山村の地域資源を農林業経営に活用する手法を学ぶ教育課程を編成する。</u> ⑦<u>農林業経営における課題の解決に向けた研究の手法などを学ぶ教育課程を編成する。</u></p>

新	旧
<p><u>ともに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化などに関する知識を修得させる。</u></p> <p><u>④成績評価は、学生の基礎的・基本的な知識に加え、技能習熟度や主体的に学習に取り組む態度、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の学習成果を評価基準として行う。また、学生が主体的かつ充実した学習効果を挙げるができるようGPA制度を活用する。ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の経営体の中核を担うために必要な知識や、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせ編成する。</u></p>	

3. <カリキュラム・ポリシーの内容が不十分>

カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施するのかを定める基本的な方針であるが、示されたカリキュラム・ポリシーは編成に関する抽象的な内容となっており、教育内容・方法の実施に関する内容の記載がない。また、ディプロマ・ポリシーに対応した科目群の編成方針がないため、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの整合性が不明確である。カリキュラム・ポリシーに必要な内容を加えて、ディプロマ・ポリシーとの整合性を明らかにすること。

(対応)

カリキュラム・ポリシーについて、ディプロマ・ポリシーとの整合性が明確となるようディプロマ・ポリシーに対応した科目群の編成方針を加えるとともに、教育内容・方法の実施に関する内容の記載を加える。

<修正後のカリキュラム・ポリシー>

- (1)ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担うために必要な知識や、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせて編成する。
- (2)栽培、林業、畜産の各分野に対応した3コース制とし、2年次から栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、自らが選択したコースの専門的な知識・技術に関する科目を履修する。各分野に関連・共通する知識・技術については、2年次以降も共通で履修することとし、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせて教育課程を編成する。
- (3)少人数教育や実習・演習を重視した教育課程により、栽培、林業、畜産の各分野の経営における高度な実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力を養成するとともに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化などに関する知識を修得させる。
- (4)成績評価は、学生の基礎的・基本的な知識に加え、技能習熟度や主体的に学習に取り組む態度、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の学習成果を評価基準として行う。また、学生が主体的かつ充実した学習効果を挙げることができるようGPA制度を活用する。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類

新	旧
<p>(6 ページ)</p> <p>本学を設置する目的は、農林業に応用可能な技術革新の進展に伴う生産技術の高度化など近年の農林業を取り巻く環境の変化や、農林業の<u>土台</u>である</p> <p>(7 ページ)</p> <p>本学は<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営体</u>において中核を担う人材を養成するための教育機関であり、既設の農林大学校の研究部においても、<u>経営体において中核を担う人材の養成</u>を目指して教育を行っているが、<u>既設の農林大学校</u>においては、教育課程や教員の資格・能力が農林業を取り巻く環境変化に対応できるレベルに達していないことから、現状としては、経営体の大規模化等に対応するための十分な能力を有する人材を養成できていない。また、既設の農林大学校においては、農山村の地域社会を支えていく人材を養成するための教育を行っていない。</p> <p>このような既設の農林大学校における人材養成の課題を解決するため、専門職大学への移行により、教育課程の拡充や教員のレベルアップなど人材養成機能の充実を図り、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤</u>である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てることができる人材」を養成するための新たな高等教育機関として本学を設置するものである。</p>	<p>(6 ページ)</p> <p>本学を設置する目的は、農林業に応用可能な技術革新の進展に伴う生産技術の高度化など近年の農林業を取り巻く環境の変化や、農林業の<u>基盤</u>である</p> <p>(7 ページ)</p> <p>本学は<u>農林業経営者を養成するための教育機関</u>であり、既設の農林大学校の研究部においても、「<u>農林業経営体の中核を担う人材</u>」の養成を目指して教育を行っているが、教育課程や教員の資格・能力が農林業を取り巻く環境変化に対応できるレベルに達していないことから、現状としては、経営体の大規模化等に対応するための十分な能力を有する人材を養成できていない。また、既設の農林大学校においては、農山村の地域社会を支えていく人材を養成するための教育を行っていない。</p> <p>このような既設の農林大学校における人材養成の課題を解決するため、専門職大学への移行により、教育課程の拡充や教員のレベルアップなど人材養成機能の充実を図り、「<u>農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てることができる人材</u>」を養成するための新たな高等教育機関として本学を設置するものである。</p>
<p>(9 ページ)</p> <p>本学においても、引き続きこの「<u>耕土耕心</u>」の</p>	<p>(9 ページ)</p> <p>本学においても、引き続きこの「<u>耕土耕心</u>」</p>

新	旧
<p>理念を尊重した上で、年齢や国籍、性別を問わず、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材</u>」を養成することを基本理念とする。</p> <p>(略)</p> <p>①栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに農山村の地域社会を支える人材の育成</p> <p>農山村は農林業の持続的な発展の<u>土台</u>であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。</p> <p>一方で、農山村が有する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたものであり、農林業者には、これらの価値を理解し、守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことが期待されている。</p> <p>このことから、本学においては、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材</u>」を養成し、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することを目指すこととしている。</p> <p>(11 ページ)</p>	<p>の理念を尊重した上で、年齢や国籍、性別を問わず、<u>農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材</u>を養成することを基本理念とする。</p> <p>(略)</p> <p>①農林業経営体の中核を担う人材であるとともに農山村の地域社会を支える人材の育成</p> <p>農山村は農林業の持続的な発展の<u>基盤</u>であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。</p> <p>一方で、農山村が有する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたものであり、農林業者には、これらの価値を理解し、守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことが期待されている。</p> <p>このことから、本学においては、「<u>農林業経営体の中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材</u>」を養成し、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することを目指すこととしている。</p> <p>(11 ページ)</p>

新	旧
<p>できる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材」</p> <p>専門職大学として養成する人材像のうち、「農林業経営体の中核を担う人材」の養成を目指している点は、既設の農林大学校と同じであるが、既設の農林大学校においては、教育課程や教員の資格・能力が不十分なことから、現状としては、経営体の大規模化や多角化など農林業を取り巻く環境変化に対応できる人材の養成ができていない。</p> <p>このため、専門職大学においては、4年間を通じて経営体の大規模化等に対応できる経営管理能力を身に付けるとともに、生産技術の高度化や消費者ニーズの多様化にも対応した教育課程の実施や教員のレベルアップなどにより、栽培、林業、畜産の各分野において経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、経営体の中核を担うことができる人材の養成を目指している。</p> <p>また、既設の農林大学校においては、農林業の発展に貢献することを目的として人材養成を行っているが、専門職大学においては、農林業の持続的な発展には基盤となる農山村地域の振興が重要であるという考え方のもと、農林業及び農山村地域の持続的な発展に貢献することを大学の設置目的としている。このことを踏まえ、専門職大学として養成する人材像には「農山村の地域社会をリーダーとして支えていくことができる人材」の養成という農山村の地域振興の側面を加えている。</p> <p>「生産技術の高度化への対応」、「経営体の大規模化や経営の多角化への対応」、「消費者ニーズの多様化への対応」、「地域社会を支える人材</p>	<p>点や、生産技術の高度化、消費者ニーズの多様化に対応した教育課程としている点、さらに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていく人材を養成するための教育課程を有している点で異なっている。</p> <p>「生産技術の高度化への対応」、「経営体の大規模化や経営の多角化への対応」、「消費者ニーズの多様化への対応」、「地域社会を支える人材の養成」の4つの観点から比較した具体的な相違点は以下のとおりである。(略)</p>

新	旧
<p>の養成」の4つの観点から比較した具体的な相違点は以下のとおりである。(略)</p> <p>(略)</p> <p>なお、比較のための参考資料として、本学の<u>カリキュラム・マップ</u>を資料21-1、既設の農林大学校の<u>カリキュラム・マップ</u>を資料21-2に示す。(略)</p> <p>(14 ページ)</p> <p>○経営体の大規模化や経営の多角化への対応 企業的経営管理に加え、<u>栽培、林業、畜産の各分野の農林業経営</u>に活用される先端技術や、(略)</p> <p>○消費者ニーズの多様化への対応(略) それらの地域資源を活用して<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営</u>(略)</p> <p>(9) 新設予定の専門職短期大学との違い 本学は、「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材</u>」を養成する専門職短期大学である。このため「<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場においてリーダーとなる人材であるとともに農山村の地域社会を生産者として支えていく人材</u>」を養成する新設予定の専門職短期大学とは、<u>経営体において中核を担う人材を養成する教育機関である点や</u>、(略)</p> <p>なお、比較のための参考資料として、新設予定の専門職短期大学の<u>カリキュラム・マップ</u>を資料21-3に示す。</p> <p>(15 ページ)</p> <p>○生産技術の高度化への対応 新設予定の専門職短期大学では、<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場のリーダー</u> (略)</p> <p>これに対し本学では、<u>栽培、林業、畜産の各</u></p>	<p>なお、比較のための参考資料として、本学の<u>カリキュラムマップ</u>を資料21-1、農林大学校の<u>カリキュラムマップ</u>を資料21-2に示す。(略)</p> <p>(13 ページ)</p> <p>○経営体の大規模化や経営の多角化への対応 企業的経営管理に加え、<u>農林業経営</u>に活用される先端技術や、(略)</p> <p>○消費者ニーズの多様化への対応(略) それらの地域資源を活用して<u>農林業経営</u>における(略)</p> <p>(9) 新設予定の専門職短期大学との違い 本学は、「<u>農林業経営体の中核を担う人材であるとともに農山村の地域社会をリーダーとして支えていく人材</u>」を養成する専門職短期大学であり、「<u>農林業生産現場におけるリーダーであるとともに農山村の地域社会を農林業者として支えていく人材</u>」を養成する新設予定の専門職短期大学とは、<u>農林業経営者を養成する教育機関である点や</u>、(略)</p> <p>なお、比較のための参考資料として、新設予定の専門職短期大学の<u>カリキュラムマップ</u>を資料21-3に示す。</p> <p>○生産技術の高度化への対応 新設予定の専門職短期大学では、<u>生産現場のリーダー</u> (略)</p> <p>これに対し本学では、<u>経営者として生産現</u></p>

新	旧
<p>分野の経営体において中核を担う人材として生産現場の状況を的確に把握するための、 (略)</p> <p>○経営体の大規模化や経営の多角化への対応 新設予定の専門職短期大学は、<u>栽培、林業、畜産の各分野の生産現場のリーダー</u>を養成する (略)</p> <p>また、<u>農林業経営体</u>での臨地実務実習を必修とし、経営についての実践力の養成を重視した教育課程としている。 (略)</p> <p>これに対し本学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営</u>における新たな事業展開を生み出すための創造力を身に付ける教育課程としている。 (略)</p> <p>○農山村の地域社会を支える人材の養成 新設予定の専門職短期大学では、農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える<u>生産者</u>として、それらを守り育てていく人材を養成する教育課程としている。 (略)</p> <p>(17 ページ)</p> <p>既存の大学農学部卒業者で農林業に就業するのは少なく、県内においても静岡大学農学部卒業生で就農するものはごくわずかである(資料 17)。現代の農学が<u>食料生産</u>だけではなく、ゲノム・遺伝子などの生命科学分野や、生態系・エネルギーなど環境分野まで広がっているため、学生の多くは農林業そのものに就業することを考えているのではなく、<u>農林業</u>を切り口とした(略)。これに対し本学は<u>栽培、林業、畜産の各分野の経営体</u>において中核を担うための実践力を身に付ける大</p>	<p>場の状況を的確に把握するための、 (略)</p> <p>○経営体の大規模化や経営の多角化への対応 新設予定の専門職短期大学は、<u>農林業生産者</u>を養成する (略)</p> <p>また、<u>経営体</u>への臨地実務実習を必修とし、経営についての実践力の養成を重視した教育課程としている。 (略)</p> <p>これに対し本学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して<u>農林業経営</u>における新たな事業展開を生み出すための創造力を身に付ける教育課程としている。 (略)</p> <p>○農山村の地域社会を支える人材の養成 新設予定の専門職短期大学では、農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える<u>農林業者</u>として、それらを守り育てていく人材を養成する教育課程としている。 (略)</p> <p>(15 ページ)</p> <p>また、<u>経営体</u>への臨地実務実習 (略)これに対し本学では、農山村の伝統・文化の継承などについて学び、それらの地域資源を活用して<u>農林業経営</u>における(略)</p> <p>○農山村の地域社会を支える人材の養成 新設予定の専門職短期大学では、農林業の営みを通じて形成される農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会を支える<u>農林業者</u>として(略)</p>

新	旧
<p>学であり、</p>	<p>(15 ページ)</p> <p>既存の大学農学部卒業生で農林業に就業するものは少なく、県内においても静岡大学農学部卒業生で就農するものはごくわずかである(資料17)。現代の農学が食糧生産だけではなく、ゲノム・遺伝子などの生命科学分野や、生態系・エネルギーなど環境分野まで広がっているため、学生の多くは農林業そのものに就業することを考えているのではなく、農業を切り口とした(略)。これに対し本学は農林業を営む実践力を身に付ける大学であり、</p>
<p>(21 ページ)</p> <p><u>本県は、温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、栽培、林業、畜産のいずれの分野においても、多彩で高品質な農林産物が県内各地で盛んに生産されている。</u></p> <p><u>栽培分野では、茶やみかんをはじめ、わさび、メロン、いちご、ばら、ガーベラなど多くの品目が全国トップクラスの品質と生産量を誇っており、林業分野では、富士山や南アルプス、天竜美林に代表される天竜川流域、広葉樹林に恵まれた伊豆地域など豊かで多彩な森林から、天竜スギや富士ヒノキなどの高品質な林産物が生産されている。また、畜産分野でも、富士山麓の朝霧地域で酪農が盛んに行われているほか、牛や豚などの個性的なブランド畜産物が県内各地で生産されており、この3分野は、多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である。</u></p> <p><u>農林業を取り巻く環境が大きく変化していく中で、こうした多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業を持続的に発展させていくためには、栽培、林業、畜産のそれぞれの分野で専門性を発揮し、各分野の経営を牽引していくことができる人材を養成する必要がある。</u></p> <p><u>特に、近年の農林業経営体の大規模化や多角化等に対応していくためには、各分野の生産に</u></p>	<p>(20 ページ)</p> <p><u>本学科は「農林業経営体の経営を継ぐ」「農林業経営体の中核を担う」、「自ら新しい経営体を立ち上げる」など、それぞれの立場で自らの夢を実現し、農林業分野や地域社会で活躍できる人材を養成する。</u></p> <p><u>その夢の実現を助けるため、①農林業の基礎的な生産技術や知識に加え、経営体の経営革新を推進する、加工・流通・販売への応用力や経営管理能力、先端技術への対応力を有するとともに、②地域社会における未来のリーダーとして、自然と共生し、美しい農山村の景観や環境を磨き上げるとともに、幅広い教養と豊かな人間性を備え地域の文化伝統を守っていくことのできる農林業者を養成することを目標とする。</u></p>

新	旧
<p>関する知識・技術に加え、経営管理能力や加工・流通・販売の知識、先端技術への対応力などによる高度な実践力を備え、経営体の経営革新を推進する人材の養成が求められている。</p> <p>さらに、そのような人材には、他分野の関連知識や共通知識を活用して、自らの経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力も併せて求められている。</p> <p>また、農山村は農林業の持続的な発展の土台であるが、近年は、人口減少や高齢化の進行に伴う農山村地域の活力低下が農林業振興における大きな課題となっている。農山村が有する豊かな自然環境や美しい景観、固有の伝統・文化などは、その地域の農林業の営みを通じて育まれてきたものであり、農林業者には、これらの価値を理解し、守り育みながら、農山村の地域社会を支えていくことも期待されている。</p> <p>こうしたことから、本学においては、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせた教育課程により、専門分野の経営における高度な実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力を養成するとともに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化に関する幅広い知識などを身に付けさせ、以下に掲げる人材の養成を目指すものである。</p> <p><本学として養成する人材像></p> <p>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それら</p>	

新	旧
<p data-bbox="240 244 692 277">を<u>守り育てていくことができる人材</u></p> <p data-bbox="256 340 403 371">(22 ページ)</p> <p data-bbox="240 389 826 898"><u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材に求められる次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得した者に学位を授与する。</u></p> <p data-bbox="240 963 826 1137">①<u>専門分野のみにとらわれない幅広い知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を有している。</u></p> <p data-bbox="240 1155 826 1377">②<u>栽培・林業・畜産の各分野において経営体の大規模化や経営の多角化に対応していくための経営管理能力や、経営の対象とする農林産物に対応した加工・流通・販売などに関する知識を有している。</u></p> <p data-bbox="240 1442 826 1664">③<u>農作物栽培、木材生産、家畜飼養など、栽培・林業・畜産の各分野における生産現場の状況を的確に把握するための、生産に関する知識・技術や生産に活用される先端技術に関する知識を有している。</u></p> <p data-bbox="240 1729 826 1951">④<u>農山村の地域社会における将来のリーダーとして、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育てていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。</u></p> <p data-bbox="240 1968 826 2049">⑤<u>農山村の地域資源を活用することにより、栽培・林業・畜産の各分野の経営における新たな</u></p>	<p data-bbox="868 340 1015 371">(20 ページ)</p> <p data-bbox="852 389 1422 707">本学科は、(3)の教育目標を実現するために設けた所定の基礎科目・職業専門科目・展開科目・総合科目を履修することにより、<u>農林業経営者に求められる次に掲げる資質・能力を身に付け、所定の単位を修得し、プロジェクト研究を経て卒業論文を提出した者に学位を授与する。</u></p> <p data-bbox="852 772 1422 947">①<u>専門分野のみにとらわれない幅広い知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を有している。</u></p> <p data-bbox="852 965 1422 1140">②<u>農林業経営体の大規模化や経営の多角化に対応していくための経営管理能力、農林業経営に活用される先端技術や加工・流通・販売などに関する知識を有している。</u></p> <p data-bbox="852 1205 1422 1379">③<u>農林業生産現場の状況を的確に把握するための農林業生産に関する基礎的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術に関する知識を有している。</u></p> <p data-bbox="852 1444 1422 1666">④<u>農山村の地域社会における将来のリーダーとして、農林業の営みを通じて形成される農山村地域の環境を守り育てていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。</u></p> <p data-bbox="852 1731 1422 1861">⑤<u>農山村の地域資源を活用することにより、農林業経営における新たな事業展開を生み出すための手法を理解している。</u></p> <p data-bbox="852 1924 1422 2049">⑥<u>修得した専門知識と技術を駆使して農林業経営における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・</u></p>

新	旧
<p>事業展開を生み出すための手法を理解している。</p> <p>⑥<u>修得した専門知識と技術を駆使して栽培・林業・畜産の各分野の経営における課題を探究し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を有している。</u></p> <p>(24 ページ)</p> <p>農林業の基礎となる「生産」の知識や技術と、栽培、林業、畜産の各分野の経営に必須となる(略)</p> <p>(25 ページ)</p> <p>前述の本学の「基本理念」に掲げる養成人材像並びに「ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)」を実現するためのカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施方針)を、以下のとおり定める。</p> <p>①<u>ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担うために必要な知識や、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせで編成する。</u></p> <p>②<u>栽培、林業、畜産の各分野に対応した3コース制とし、2年次から栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、自らが選択したコースの専門的な知識・技術に関する科目を履修する。各分野に関連・共通する知識・技術については、2年次以降も共通で履修することとし、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせで教育課程を編成する。</u></p>	<p>整理した結果を表現できる能力を有している。</p> <p>(22 ページ)</p> <p>農林業の基礎となる「生産」の知識や技術と、<u>農林業経営に必須となる(略)</u></p> <p>(23 ページ)</p> <p>前述の本学部の「基本理念」に掲げる養成人材像並びに「ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)」を実現するためのカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)を、以下のとおり定める。</p> <p>①<u>一般教養やコミュニケーション・スキルなどを学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>②<u>企業的な経営管理や経営戦略、加工・販売の手法や流通の仕組みなどを学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>③<u>農林業に関する基礎的な知識及び農林業生産に関する基礎的な理論や技術を学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>④<u>農林業の経営や生産に活用される先端技術を学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>⑤<u>農山村の自然環境や景観の保全に配慮した農林業生産を学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>⑥<u>農山村の伝統・文化の継承や地域社会について学ぶとともに、農山村の地域資源を農林</u></p>

新	旧
<p>③<u>少人数教育や実習・演習を重視した教育課程により、栽培、林業、畜産の各分野の経営における高度な実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力を養成するとともに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化などに関する知識を修得させる。</u></p> <p>④<u>成績評価は、学生の基礎的・基本的な知識に加え、技能習熟度や主体的に学習に取り組む態度、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の学習成果を評価基準として行う。また、学生が主体的かつ充実した学習効果を挙げることができるようGPA制度を活用する。ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の経営体の中核を担うために必要な知識や、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせ編成する。</u></p>	<p>業経営に活用する手法を学ぶ教育課程を編成する。</p> <p>⑦<u>農林業経営における課題の解決に向けた研究の手法などを学ぶ教育課程を編成する。</u></p>

4. <教育課程の設定が不十分>

教育課程が一定程度見直されたものの、入学定員の規模や卒業要件における履修設定を踏まえると、多くの科目が未開講となる懸念や、少数の学生で開講された際に教育効果が低減する恐れが解消されていない。また、現在の教育課程の編成内容では、卒業要件に必要な授業科目を履修したとしても配置された全体の授業科目からは限定的な履修となり、専門職として必要となる資質・能力の修得が不十分なものとなる懸念があり、専門職大学としてふさわしい教育課程が編成されているか疑義がある。このため、養成する人材像やディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに関する審査意見への対応と整合させるとともに、履修する学生数の規模による教育効果の観点も踏まえつつ、類似科目の統廃合や自由科目の設定などを検討し、未開講科目が多数とならないよう教育課程を是正すること。さらに、履修モデルでは、半期で相当数の授業科目数を履修することが示されているが、教育効果の観点から妥当と認められないため、適切な履修モデルとなるよう授業科目の配当年次の見直しも含め検討し、修正すること。

(対応)

養成する人材像やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、履修する学生数の規模による教育効果の観点も踏まえた上で、

- ・ 未開講科目や少人数での開講が多数とならないように教育効果の観点からの統合
- ・ 類似科目の統廃合
- ・ 発展科目や資格取得に必要な科目の自由科目化

を行う。その上で、体系的な履修の観点を踏まえて、配当年次の見直しを行い、半期に科目が集中しないように、教育課程の編成を見直す。

さらに、少数の学生で開講した場合でも、教育効果が低減しないように授業の実施方法に配慮する(別添資料1 カリキュラム・マップ、別添資料4-1 科目・単位数の見直し状況、別添資料4-2 履修モデル)。

(詳細説明)

1 教育課程の是正

養成する人材像、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシー、履修する学生数の規模による教育効果の観点を踏まえた上で、未開講科目や少人数での開講科目が多数とならないように、科目の統廃合や自由科目の設定を行う。(別添資料4-1 科目・単位数の見直し状況)。

①科目の統廃合

「栽培学」、「植物生理生態学」、「樹木・組織学」及び「畜産概論」は、「農学概論」を深化した内容を学ぶ科目で、コース選択の参考とするための科目として4科目のうちの1科目以上を選

択する選択必修として配置していたが、栽培、林業、畜産の生産理論を一通り学んだ後にコース選択をする方が適しており、かつ、少人数での開講となる懸念が軽減されるため、これらの4科目を「農林業生産理論」へ統合し必修科目とする。

「環境保全型農業論」、「森林マネジメント」及び「畜産環境学」は、それぞれの分野の環境について学ぶ科目であるが、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材の育成という目的に照らして、農林業全体の環境を学ぶ方が、教育効果が高く、かつ、少人数での開講となる懸念が軽減されるため、これらの3科目を「環境保全型農林業論」へ統合する。

「技術者倫理」は、農林業分野の技術者として必要な倫理を学ぶ科目であるが、全学生が履修する本科目の中で、家畜福祉についてあわせて学ぶ方が、教育効果が高くなるため「家畜福祉」を「技術者倫理」へ整理・統合する。

「木材加工学」と「木材加工実習」、「食品加工学」と「食品加工実習」、「販売管理論」と「販売実習」については、理論と技術を一体的に学ぶ方が、教育効果が高いため、「木材加工実習」、「食品加工実習」、「販売管理実習」へ整理・統合する。

「肥料・植物栄養学」と「土壌学」は、土壌と植物栄養は一環的な物であり土づくりや施肥など共通する部分が多く、一体的に学んだ方が、教育効果が高いため「土壌肥料・植物栄養学」へ統合する。

「園芸学」、「野菜園芸学」、「果樹園芸学」、「花き園芸学」は、類似部分が多いため、教育効果の観点から内容を見直し、基礎的な内容を学ぶ「園芸学」と、発展的な内容を学ぶ「園芸学各論」へ再編した上で、「園芸学各論」を自由科目とする。

「自給飼料」は、「飼料総論」で学ぶ内容と一部が重複しているため、内容を整理した上で、「飼料総論」へ統合する。

「法と農業経営」は、農林業政策とその関連法という点で「農林業政策」と、農産物の加工などの関連法という点で「食品加工論」と、「GAP演習」は農産物の安全に関する制度と関連法という点で重複しているため、内容を整理した上で、「農林業政策」及び、「食品加工論」と「食品加工実習」を整理した「食品加工実習」、「GAP演習」へ整理・統合する。

以上の授業科目の変更や講義等の内容の変更により、26科目を12科目へ整理・統合する。

②科目の自由科目化

より高度な内容を教授できる発展的な科目や、資格取得に必要となる科目の自由科目化を行う。より深い教養をつける「文明論」、「農林業史」、「知的財産権」、「農林業の経営組織論」、「茶道」、「華道」、海外とのコミュニケーションの上達を目指す「英語Ⅳ」、栽培と生産物利用を両面から学ぶ「フードシステム論」、「食と農の起業論」、「食品科学」、「収穫後生理学」、「食と農の健康論」、園芸作物の応用的な内容について学ぶ「園芸学各論」、「植物遺伝育種学概論」、生産理論と応用を実際の農家等から学ぶ「県外農林業事情」、「海外農林業事情」、大型林業機械の安全な取扱を習得する「林業機械実習」をステップアップのための自由科目とする。また、農業機械士の資格取得を目指す「大型農業機械実習Ⅱ」、家畜人工授精士の資格取得に必要となる「人工授精論」、「畜産法規」と合わせて20科目を新たに自由科目とする。さらに、「林業機械実習」は、少人数での開講となる懸念があるため、隔年での開講とする。

以上の教育課程の見直しにより、補正申請と比較して、開講科目数（単位数）は126科目（267単位）から112科目（239単位）、また、卒業要件に含まれる科目数（単位数）は119科目（255単位）から85科目（191単位）となる。また、未開講となる科目が多数とならないよう、生産理論や生産技術、加工・流通・販売の科目群の科目は、必修科目やコース必修とする。

未開講となる可能性のある科目は、選択科目のうち、選択必修やコース必修となっていない科目とみなすと、補正申請時の45科目（86単位）から13科目（26単位）へ大幅に減少する。未開講となる可能性のある科目は、基礎科目の一般教養の科目群の「歴史学概論」、「文学概論」、「法学概論」、「社会学概論」、「政治学概論」、「統計学」、コミュニケーション・スキルの科目群の「保健体育Ⅱ」、職業専門科目の農林業基礎科目群の「農林業政策」、「県内農林業事情」、「分子生物学」、「農業気象学」、「生命科学」、「野生鳥獣管理・利用論」であるが、すべて学年共通の科目であり、未開講になる可能性は低い。

<科目・単位数の見直し状況>

申請時期	開講科目数・単位数							自由科目数・単位数
	卒業要件に含まれる科目数・単位数							
	必修科目数・単位数	選択科目数・単位数			(うち選択必修)	(うちコース必修)		
当初申請		134科目 (287単位)	134科目 (287単位)	29科目 (74単位)			105科目 (213単位)	6科目 (12単位)
補正申請	126科目 (267単位)	119科目 (255単位)	35科目 (79単位)	84科目 (176単位)	9科目 (16単位)	30科目 (74単位)	45科目 (86単位)	7科目 (12単位)
再補正申請	112科目 (239単位)	85科目 (191単位)	41科目 (91単位)	44科目 (100単位)	3科目 (6単位)	28科目 (68単位)	13科目 (26単位)	27科目 (48単位)

2 配当年次の見直し

以上の見直しを踏まえ、教育課程の体系性を確保するために、科目の履修順序に配慮したうえで、半期に授業科目数が集中しないように、配当年次の見直しを行う(別添資料4-2 履修モデル)。

農林業の基礎は早期の学修が効果的であるため、「農林業政策」、「分子生物学」、「農林業経営学」、「農山村田園地域公共学」を1年後期から1年前期へ、「経営管理論」、「農村社会論」は2年前期から1年後期へ、「生命科学」は2年後期から1年後期へ、「農業気象学」は2年後期から2年前期へ、「野生鳥獣管理・利用論」は3年前期から1年後期へ変更し、補正申請時より前の期になるように配当年次を見直す。

また、応用的な内容である「人工授精論」、「木材利用・流通論」は2年前期から2年後期へ、「畜産法規」は2年前期から3年前期へ、「人材マネジメント」は3年前期から3年後期にそれぞれ変更し、補正申請時よりも後の期になるように配当年次を見直す。

これらに加え、教育課程の体系性から配当年次を見直し、「農村社会論」の配当年次の見直しと合わせて、「農山村デザイン演習」を3年前期から2年後期へと配当年次を見直す。また、新たに3年前期配置した「園芸学各論」との履修順序の観点から、「園芸学」を2年前期から2年後期へ、配当年次を見直した。

以上のとおり、配当年次を変更することで、半期で取得する最大の単位数は、補正申請時の29単位から22単位となるとともに、3コースの履修モデルで半期あたりの履修単位数は15～22単位とする。科目の配当年次の偏りを是正し、履修バランスを整えることで教育効果を担保する。

3 少人数開講時の配慮

少人数で開講する科目として、林業コース及び畜産コースの生産理論及び生産技術の科目、林業コースの加工・流通・販売の科目が考えられる。講義科目は、少人数での開講でも教育効果が大きく低減する恐れは低いと考えられるものの、授業実施に当たっては、教育効果が高くなるように、学生が質問や意見を述べる機会を多く設けたり、偏った意見とならないように教員が様々な意見を紹介したり、授業の実施方法を工夫する。また、演習科目や実習科目では、講義と同様に授業方法を工夫するとともに、積極的な学生への依存が生じたり、消極的な学生が生じないよう指導方法を工夫する。また、「県内農業事情」等の科目で多くの農業経営者等とディスカッションを行う機会を設ける。

さらに、少人数での教育では、一人ひとりの学生の理解度に合わせて授業を進めたり、意見交換などの質問の機会を持ちやすいなどのメリットがあるため、これらを活かした授業を行う。

(新旧対照表) 教育課程等の概要

(新)

別記様式第2号 (その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教育課程等の概要															
(生産環境経営学部生産環境経営学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
① 基礎科目	静岡学	1通	2			○			1						
	歴史学概論	2前		2		○				1					
	文明論	2後			2	○								兼1	
	文学概論	2後		2		○								兼1	
	茶道	3前			1			○						兼1	
	華道	3前			1			○						兼1	
	経済学概論	1前	2			○								兼1	
	法学概論	1前		2		○								兼1	
	社会学概論	1後		2		○								兼1	
	政治学概論	1後		2		○								兼1	
	統計学	1後		2		○				1				兼1	
	情報処理基礎	1前	1				○		1						
	情報処理応用	2後	1				○		1						
	コミュニケーション・スキル	コミュニケーション論	1前	2			○								兼1
		英語 I	1前		2			○							兼1
		英語 II	1後		2			○							兼1
		英語 III	2前		2			○							兼1
		英語 IV	2後			2		○							兼1
		保健体育 I	1通	2											兼1
		保健体育 II	2通		2										兼1
		小計 (20科目)	-	10	20	6	-	-	-	2	2	0	0	0	兼12
② 職業専門科目	農学概論	1前	2			○			5	2				兼4	
	環境と農林業	1後	2			○			2		1			オムニバス	
	農林業史	1後			2	○				1				オムニバス	
	農林業政策	1前		2		○			1					兼4	
	技術者倫理	3前	2			○			2	1				オムニバス	
	県内農林業事情	1前		2		○			4	1				オムニバス	
	県外農林業事情	2前			1		○		1					集中	
	海外農林業事情	3前			1		○		1					集中	
	農林業のための基礎数学	1前			2	○								兼1	
	農林業のための生物学	1前			2	○			1						
	農林業のための化学	1前			2	○			1						
	農林業のための物理学	1後			2	○								兼1	
	農林業のための地学	1後			2	○			1						
	分子生物学	1前		2		○				1					
	農業気象学	2前		2		○			2		1			兼1	
	生命科学	1後		2		○				1	1			オムニバス	
	野生鳥獣管理・利用論	1後		2		○								兼1	
	(生産理) 論	農林業生産理論	1後	2			○			3	1				オムニバス
		環境保全型農林業論	3前	2			○			1		1			兼2
		農林業のための先端技術	3前	2			○			1					オムニバス
	(生産理) 論	作物学	2前		2		○			1					
園芸学		2後		2		○			3					オムニバス	
園芸学各論		3前			2	○			3					オムニバス	
植物病理学		2前		2		○			1						
応用昆虫学		2後		2		○			1						
土壌肥料・植物栄養学		2前		2		○			2					オムニバス	
植物遺伝育種学概論		2後			2	○					1	2		兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
② 職業専門科目	(生産理論) (林業論)	森林計画・政策論	2前		2		○			1	1				兼1	オムニバス	
		造林学	2前		2		○			1					兼1		
		森林土木学	2前		2		○										
		木質科学概論	2後		2		○						1				
		木材生産システム	2後		2			○		1						兼2	オムニバス
	(生産理論) (畜産論)	飼料総論	2前		2		○			1							
		家畜生理解剖学	2前		2		○					1					
		家畜育種繁殖学	2後		2		○									兼1	
		家畜飼養学	2前		2		○			1							
		畜産法規	3前			2	○									兼1	
		人工授精論	2後			2	○									兼1	
		家畜衛生学	2後		2		○				1						
	経営管理	簿記基礎	1前			1		○								兼1	
		簿記応用	1後			1		○								兼1	
		フードシステム論	1後			2		○		1							
		経営管理論	1後	2				○		1							
		農林業経営学	1前	2				○		1		1				兼2	オムニバス
		経営戦略	2前	2				○		1							
		マーケティング論	2後	2				○		1							
		財務会計	2前	2				○								兼1	
		管理会計	3前	1				○								兼1	
		農林業の経営組織論	3前			2		○		1						兼1	オムニバス・集中
		労務管理	2後	2				○								兼1	
		人材マネジメント	3後	2				○								兼1	
		知的財産権	3後			2		○								兼1	
		農と食の起業論	3後			2		○		1							
	経営実習Ⅰ	4前	5						14	5	4	1					
	経営実習Ⅱ	4後	5						14	5	4	1					
	加工・流通・販売	食品科学	2前			2		○			1						
		収穫後生理学	3前			2		○		1							
		木材利用・流通論	2後		2			○		1						兼1	
		食品流通論	3前		2			○								オムニバス	
		農と食の健康論	2後			2		○		1	1						
		6次産業化実践論	3後	2				○		1							
食品加工実習		3前		2			○		1						兼1	共同※講義	
木材加工実習		3前		2			○		1						兼1	オムニバス※講義	
販売管理実習	3前	2				○		1						兼1	共同※講義		
生産技術	総合実習	1通	2				○					3	1		兼5	オムニバス・共同	
	圃場実習(栽培)	2前		2			○					2			兼7	オムニバス・共同	
	圃場実習(畜産)	2前		2			○					1			兼1	共同	
	演習林実習	2前		2			○						1		兼1	共同	
	生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)	2後		4			○					2			兼6	共同	
	生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)	2後		4			○				1	1			兼1	共同	
	生産マネジメント実習Ⅰ(林業)	2後		4			○				1				兼1	共同	
	生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)	3通		4			○					2			兼6	共同	
	生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)	3通		4			○				1	1			兼1	共同	
	生産マネジメント実習Ⅱ(林業)	3通		4			○		1	1					兼2	オムニバス・共同	
	大型機械実習Ⅰ	2前	2				○					1				集中	
	大型機械実習Ⅱ	3前			2		○						1			集中	
	林業機械実習	3・4前			2		○		1							集中※隔年	
	GAP演習	2前	2				○					1			兼2	オムニバス	
	企業実習	3後	10						3			1				共同	
	小計(79科目)	-	57	80	42	-			14	5	4	1	0	兼26			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
③ 展開科目 農山村の伝統・文化及び地域社会	農山村田園地域公共学	1前	2			○				1					兼1 集中 兼1 集中 兼1 オムニバス 兼1 兼1		
	農村景域論	3前	2			○				1							
	農と食の哲学	2前	2			○											
	食文化論	2後	2			○											
	在来作物学	3前	2			○				1							
	農村社会論	1後	2			○											
	農山村デザイン演習	2後	2				○										
	医福食農連携論	2後	2			○				1							
	グリーン・ツーリズム論	3前	2			○											
	コミュニティビジネス論	3後	2			○											
	小計(10科目)	-	20	0	0	-	-	-	1	3	0	0	0	兼3			
④ 総合科目	経営分析演習Ⅰ	4前	1				○		14	5	4	1					
	経営分析演習Ⅱ	4後	1				○		14	5	4	0					
	プロジェクト研究	4通	2				○		14	5	3	1					
	小計(3科目)	-	4	0	0	-	-	-	14	5	4	1	0	-			
	合計(112科目)	-	91	100	48	-	-	-	14	5	4	1	0	兼39			
学位又は称号		農林業学士 (専門職)		学位又は学科の分野			農学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等											
<p><卒業要件> 基礎科目より20単位以上、職業専門科目より85単位以上、展開科目より20単位、総合科目4単位を修得し、合計129単位以上とする。</p> <p>(基礎科目)必修10単位と、英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲから4単位を含む20単位以上</p> <p>(職業専門科目)85単位以上</p> <p>■「農林業基礎」 必修6単位を含む10単位以上</p> <p>■「生産理論」 コースを選択し、必修6単位、コース必修10単位を含む16単位以上</p> <p>◎栽培コース必修:作物学、園芸学、植物病理学、応用昆虫学、土壌肥料・植物栄養学</p> <p>◎林業コース必修:森林計画・政策論、造林学、森林土木学、木質科学概論、木材生産システム</p> <p>◎畜産コース必修:飼料総論、家畜生理解剖学、家畜種繁殖学、家畜飼養学、家畜衛生学</p> <p>■「経営管理」 必修25単位</p> <p>■「加工・流通・販売」 生産理論科目群と同じコースを選択し、必修4単位、コース必修4単位を含む8単位</p> <p>◎栽培コース・畜産コース必修:食品流通論、食品加工実習</p> <p>◎林業コース必修:木材利用・流通論、木材加工実習</p> <p>■「生産技術」 生産理論科目群と同じコースを選択し、必修16単位とコース必修10単位を含む26単位以上</p> <p>◎栽培コース必修:圃場実習(栽培)、生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)、生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)</p> <p>◎林業コース必修:演習林実習、生産マネジメント実習Ⅰ(林業)、生産マネジメント実習Ⅱ(林業)</p> <p>◎畜産コース必修:圃場実習(畜産)、生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)、生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)</p> <p>(展開科目)必修20単位</p> <p>(総合科目)必修4単位</p> <p>(履修科目の登録の上限:45単位(年間))</p>						1学年の学期区分						2学期					
						1学期の授業期間						15週					
						1時限の授業時間						90分					

(旧)

別記様式第2号 (その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教 育 課 程 等 の 概 要															
(生産環境経営学部生産環境経営学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
①基礎科目	一般教養	静岡学	1通	2		○			1						兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 集中
		歴史学概論	2前	2		○				1					
		文明論	2後	2		○									
		文学概論	2後	2		○									
		茶道	3前	1				○							
		華道	3前	1				○							
		経済学概論	1前	2		○									
		法学概論	1前	2		○									
		社会学概論	1後	2		○									
		政治学概論	1後	2		○									
		統計学	1後	2		○					1				
	情報処理基礎	1前	1				○		1						
	情報処理応用	2後	1				○		1						
	コミュニケーション・スキル	コミュニケーション論	1前	2		○									兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1
英語Ⅰ		1前	2			○									
英語Ⅱ		1後	2			○									
英語Ⅲ		2前	2			○									
英語Ⅳ		2後	2			○									
保健体育Ⅰ		1通	2					○							
保健体育Ⅱ		2通	2					○							
小計(20科目)		-	10	26	0	-	-	2	2	0	0	0	兼12		
②職業専門科目	農林業基礎	農学概論	1前	2		○			5	2				兼4 オムニバス オムニバス 兼3 オムニバス オムニバス 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 オムニバス オムニバス 兼1	
		環境と農林業	1後	2		○			2		1				
		農林業史	1後	2		○				1					
		農林業政策	2前	2		○			1						
		技術者倫理	3前	2		○			2	1					
		県内農林業事情	1前	2		○			4	1					
		県外農林業事情	2前	1			○		1						
		海外農林業事情	3前	1			○		1						
		農林業のための基礎数学	1前		2	○									
		農林業のための生物学	1前		2	○			1						
		農林業のための化学	1前		2	○			1						
		農林業のための物理学	1後		2	○									
		農林業のための地学	1後		2	○			1						
		分子生物学	1後	2		○				1					
	農業気象学	2後	2		○			2		1					
	生命科学	2後	2		○				1	1					
	野生鳥獣管理・利用論	3前	2		○										
	生産理論(栽培)	栽培学	1後	2		○			1					兼1 オムニバス 兼1	
		植物生理生態学	1後	2		○			1						
		作物学	2前	2		○			1						
		園芸学	2前	2		○			1						
植物病理学		2前	2		○			1							
応用昆虫学		2後	2		○			1							
肥料・植物栄養学		2前	2		○			1							
野菜園芸学	2後	2		○			1								
果樹園芸学	2後	2		○			1								
花き園芸学	2後	2		○			1								
植物遺伝育種学概論	2後	2		○					1			兼1			
土壌学	2後	2		○			1								
環境保全型農業論	3前	2		○			1					兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
②職業専門科目	生産理論(林業)	森林計画・政策論	2前	2		○			1	1				兼1	オムニバス	
		造林学	2前	2		○								兼1		
		樹木・組織学	1後	2		○				1						
		森林土木学	2前	2		○			1							
		木質科学概論	2後	2		○							1			
		木材生産システム	2後	2			○		1						兼2	オムニバス
		森林マネジメント	3前	2				○							兼1	
	生産理論(畜産)	畜産概論	1後	2		○			1							
		飼料総論	2前	2		○			1							
		家畜生理解剖学	2前	2		○					1				兼1	
		家畜育種繁殖学	2後	2		○										
		家畜飼養学	2前	2		○			1							
		畜産法規	2前	2		○									兼1	
		人工授精論	2前	2		○									兼1	
		自給飼料	2後	2		○			1							
		家畜衛生学	2後	2		○				1						
		家畜福祉学	2後	2		○									兼1	
	畜産環境学	3前	2		○						1					
	生産理論(共通)	農林業のための先端技術	3前	2		○			1							
	経営管理	簿記基礎	1前		1		○								兼1	
		簿記応用	1後		1		○								兼1	
		フードシステム論	1後	2		○			1							
		法と農業経営	2前	2		○			3						兼1	オムニバス
		経営管理論	2前	2		○			1							
		農林業経営学	1後	2		○			1		1				兼2	オムニバス
		経営戦略	2前	2		○			1							
		マーケティング論	2後	2		○			1							
		財務会計	2前	2		○									兼1	
		管理会計	3前	1		○									兼1	
		農林業の経営組織論	3前	2		○			1						兼1	オムニバス・集中
		労務管理	2後	2		○									兼1	
		人材マネジメント	3前	2		○									兼1	
		知的財産権	3後	2		○									兼1	
加工・流通・販売	農と食の起業論	3後	2		○			1								
	経営実習Ⅰ	4前	5				臨	14	5	4	1					
	経営実習Ⅱ	4後	5				臨	14	5	4	1					
	食品科学	2前	2		○				1							
	食品加工学	2後	2		○			1								
	収穫後生理学	3前	2		○			1								
	木材利用・流通論	2前	2		○			1								
木材加工学	2後	2		○			1									
生産技術	食品流通論	3前	2		○									兼1		
	販売管理論	3前	2		○			1								
	農と食の健康論	2後	2		○			1	1					オムニバス		
	6次産業化実践論	3後	2		○			1								
	食品加工実習	3前	2			○		1						兼1	共同	
	木材加工実習	3前	2			○								兼1		
	販売実習	3後	2			○		1						兼1	共同	
	総合実習	1通	2			○					3	1		兼5	オムニバス・共同	
	圃場実習(栽培)	2前	2			○					2			兼7	オムニバス・共同	
	圃場実習(畜産)	2前	2			○					1			兼1	共同	
演習林実習	2前	2			○						1		兼1	共同		
生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)	2後	4			○					2			兼6	共同		
生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)	2後	4			○				1	1			兼1	共同		
生産マネジメント実習Ⅰ(林業)	2後	4			○				1				兼1	共同		
生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)	3通	4			○						2		兼6	共同		
生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)	3通	4			○				1	1			兼1	共同		
生産マネジメント実習Ⅱ(林業)	3通	4			○			1	1				兼2	オムニバス・共同		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
② 職業専門科目	生産技術	大型機械実習Ⅰ	2前	2				○			1				集中 集中 集中 兼2 オムニバス 共同
		大型機械実習Ⅱ	3前		2			○			1				
		林業機械実習	3前		2			○		1					
		GAP演習	2前					○			1				
		企業実習	3後	10					臨						
	小計(93科目)	-	45	150	12				14	5	4	1	0	兼26	
③ 展開科目	農山村の文化の継承・発展	農山村田園地域公共学	1後	2			○				1				兼1 集中
		農村景域論	3前	2			○				1				
		農と食の哲学	2前	2			○								
		食文化論	2後	2			○			1					
		在来作物学	3前	2			○				1				
	農山村の地域社会	農村社会論	2前	2			○								兼1
		農山村デザイン演習	3前	2				○							兼1 集中
医福食農連携論		2後	2			○			1					兼1 オムニバス	
	グリーン・ツーリズム論	3前	2			○								兼1	
	コミュニティビジネス論	3後	2			○								兼1	
	小計(10科目)	-	20	0	0				1	3	0	0	0	兼3	
④ 総合科目	経営分析演習Ⅰ	4前	1				○		14	5	4	1			
	経営分析演習Ⅱ	4後	1				○		14	5	4	0			
	プロジェクト研究	4通	2				○		14	5	3	1			
	小計(3科目)	-	4	0	0				14	5	4	1	0	-	
合計(126科目)			-	79	176	12			14	5	4	1	0	兼39	
学位又は称号		農林業学士(専門職)		学位又は学科の分野			農学関係								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p><卒業要件> 基礎科目より20単位以上、職業専門科目より85単位以上、展開科目より20単位、総合科目4単位を修得し、合計129単位以上とする。</p> <p>(基礎科目)必修科目と、英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳから4単位を含む20単位以上</p> <p>(職業専門科目)85単位以上</p> <p>■「農林業基礎」 必修を含む10単位以上</p> <p>■「生産理論」コースを選択し、必修科目、選択必修、コース必修を含む16単位以上</p> <p>○選択必修:栽培学、植物生理生態学、樹木・組織学、畜産概論</p> <p>◎栽培コース必修:肥料・植物栄養学、植物病理学、応用昆虫学、環境保全型農業論・栽培コース必修に加え、作物学もしくは園芸学から2単位、植物遺伝育種学概論、土壌学、野菜園芸学、花き園芸学、果樹園芸学から2単位を選択</p> <p>◎林業コース必修:森林計画・政策論、造林学、森林土壌学、木質科学概論、木材生産システム、森林マネジメント</p> <p>◎畜産コース必修:飼料総論、家畜生理解剖学、家畜育種繁殖学、家畜飼養学、家畜衛生学、畜産環境学</p> <p>■「生産技術」 生産理論科目群と同じコースを選択し、栽培コースと畜産コースは必修科目とコース必修を含む26単位以上、林業コースは必修科目とコース必修を含む28単位以上</p> <p>◎栽培コース必修:圃場実習(栽培)、生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)、生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)</p> <p>◎林業コース必修:演習林実習、生産マネジメント実習Ⅰ(林業)、生産マネジメント実習Ⅱ(林業)、林業機械実習</p> <p>◎畜産コース必修:圃場実習(畜産)、生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)、生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)</p> <p>■「加工・流通・販売」 生産理論科目群と同じコースを選択し、栽培コースと畜産コースはコース必修を含む8単位以上、林業コースはコース必修を含む6単位以上</p> <p>◎栽培コース必修:販売管理論、販売実習</p> <p>◎林業コース必修:木材利用・流通論、木材加工学、木材加工実習</p> <p>◎畜産コース必修:販売管理論、販売実習</p> <p>■「経営管理」 必修科目を含む25単位以上</p> <p>(展開科目)必修科目20単位</p> <p>(総合科目)必修科目4単位</p> <p>(履修科目の登録の上限:45単位(年間))</p>	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

(新旧対照表) 授業科目の概要

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
農林業政策	<p>(5 ページ)</p> <p>農林業経営が直面する課題に即した農業・食料関連政策や制度について学ぶ。わが国における農林業政策の展開を振り返るとともに、現在の食料・農業・農村基本法の下での食料自給力・食料自給率の維持向上に向けた施策、食料の安定供給の確保に関する施策、農業の持続的な発展に関する施策、農村の振興に関する施策及び、それぞれの施策の関連法について基礎的知識を習得する。また、森林・林業政策として、森林の有する多面的機能の発揮に関する施策、林業の持続的かつ健全な発展に関する施策、林産物の供給及び利用の確保に関する施策について学ぶ。現在における政策の役割及び課題について理解することを目標とする。</p>		農林業政策	<p>(5 ページ)</p> <p>農林業経営が直面する課題に即した農業・食料関連政策や制度について学ぶ。わが国における農林業政策の展開を振り返るとともに、現在の食料・農業・農村基本法の下での食料自給力・食料自給率の維持向上に向けた施策、食料の安定供給の確保に関する施策、農業の持続的な発展に関する施策、農村の振興に関する施策について基礎的知識を習得する。また、森林・林業政策として、森林の有する多面的機能の発揮に関する施策、林業の持続的かつ健全な発展に関する施策、林産物の供給及び利用の確保に関する施策について学ぶ。現在における政策の役割及び課題について理解することを目標とする。</p>	

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
技術者倫理	<p>(5 ページ)</p> <p>(概要)</p> <p>人類は、高度経済成長により飛躍的に物的豊かさを獲得してきた。農林業では、規模拡大や単作化、機械化、化学肥料・農薬の多用が進んでおり、農林業は環境問題の一端の責任を負っている。また、食の安全・安全も課題である。このような問題群の中で、農林業関係者は農林業の発展に関し大きな社会的責任を負っており、倫理的な問題が絡んでできることが認識されつつある。<u>本科目では、近年の異常気象、特に温暖化が農林業に与える影響と適応策について学ぶとともに、バイオテクノロジーにおける倫理、家畜福祉など農業技術者として必要な倫理を身につける。</u></p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(① 森口卓哉/2回) 農業と環境問題</p> <p>(③ 逢坂興宏/3回) 森林・林業と環境をめぐる諸問題、森林・林業技術と地球倫理・環境倫理</p> <p>(⑧ 丹羽康夫/3回) バイオテクノロジーの展開と倫理</p> <p>(⑱ 竹内隆/2回) 農業技術と技術者の社会的責任</p> <p>(㉑ 小林信一/1回) 家畜福祉</p> <p>(㉒ 片山信也/2回) 畜産と環境問題</p> <p>(㉓ 近藤晃/2回) 林業をめぐる諸問題</p>		技術者倫理	<p>(5 ページ)</p> <p>(概要)</p> <p>人類は、高度経済成長により飛躍的に物的豊かさを獲得してきた。農林業では、規模拡大や単作化、機械化、化学肥料・農薬の多用が進んでおり、農林業は環境問題の一端の責任を負っている。また、食の安全・安全も課題である。このような問題群の中で、農林業関係者は農林業の発展に関し大きな社会的責任を負っており、倫理的な問題が絡んでできることが認識されつつある。<u>農林業の経済的責任や法律遵守の倫理的責任だけでなく、地球市民として天然資源の節約や温室効果ガスの発生抑制、福祉社会への貢献等々、公共益の配慮を経営プロセスに組み込み、その実践について顧客等に対して説明責任を果たすことが求められる。</u>本科目では、農林業関係者が、今後どのように食や環境の問題について対応するかを考える。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(② 森口卓哉/3回) 農業と環境問題</p> <p>(④ 逢坂興宏/3回) 森林・林業と環境をめぐる諸問題、森林・林業技術と地球倫理・環境倫理</p> <p>(⑫ 丹羽康夫/3回) バイオテクノロジーの展開と倫理</p> <p>(⑮ 竹内隆/2回) 農業技術と技術者の社会的責任</p> <p>(⑲ 片山信也/2回) 畜産と環境問題</p> <p>(㉑ 近藤晃/2回) 林業をめぐる諸問題</p>	

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
農 林 業 生 産 理 論	<p>(8ページ)</p> <p>(概要)</p> <p>持続的農業を展開するためには、植物の生理生態、畜産物の機能と特徴の理論を学び、生産に結びつける必要がある。本科目では植物の生理生態、作物の生産に関わる温度や光条件などの環境条件や、耕起、施肥など総合的作物管理を学ぶ。また、木材の科学的性質を理解した上の永続的林業生産、畜産業における遺伝、繁殖、飼養などの専門領域を理解した上での畜産生産と環境負荷物質を制御するための持続可能な畜産業など、農林業生産理論を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(② 祐森誠司/4 回)家畜生産の目的・特徴・増殖技術、畜産物の機能と特徴、畜産経営</p> <p>(⑦ 平岡裕一郎/4 回)</p> <p>(⑬ 佐藤展之/3 回)植物の構造・発生・分化、生理生態機能</p> <p>(⑯ 杉山恵太郎/4 回)作物の起源・分類と栽培</p>			(新規)	

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
環境保全型農林業論	<p>(8ページ)</p> <p>(概要)</p> <p>農業の生産性は、化学肥料や農薬の施用等により、大幅な向上が図られてきた。しかし、効率追求や不適切な資材利用・管理が農業生産活動が環境へ負荷の原因となっている場合もあり、環境負荷に少ない農業への注目が集まっている。本科目では、農業のもつ自然循環機能を活かし、生産性との調和等に留意した環境保全型農業の実現に向けて様々な知識と技術を学び、今後の農業のあり方について考える。併せて、国土保全や生物多様性に配慮した森林施業についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(⑫ 貞弘恵/2回)畜産と環境問題</p> <p>(⑮ 小澤朗人/6回)環境保全型農業とは、環境保全型農業の取り組み事例、化学農薬低減技術</p> <p>(21) 片山信也/4回)畜産堆肥を使った土づくりと化学肥料低減技術</p> <p>(25) 鶴飼一博/3回)森林の公益的機能と森林施業</p>			(新規)	

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
園芸学	<p>(9 ページ)</p> <p><u>(概要)</u></p> <p>静岡県は、イチゴやトマト、レタスなどの野菜、ガーベラやバラなどの花き、ミカンなどの果樹など園芸作物の栽培が盛んな県であり、これらは本県の主要産品となっている。本科目では、園芸の起源と歴史、園芸作物の成長と形態、養分吸収・光合成と転流・利用、環境制御、繁殖と改良に加え、園芸作物がもつ癒しなど機能など、園芸作物の栽培ならびに生産物の取扱いの基礎となる園芸学全般について学ぶ。また、園芸作物は化石燃料使用する品目もあるため、環境に配慮した栽培についても考える。</p> <p><u>(オムニバス方式/全 15 回)</u></p> <p><u>(① 森口卓哉/5 回) 果樹園芸の特徴、果樹生産の現状と環境、果樹の利用・分類・形態・器官・機能、果実の発育・成熟</u></p> <p><u>(⑬ 佐藤展之/5 回) 花き園芸の歴史・文化と環境、花きの分類・栽培・育種、施設園芸と環境制御</u></p> <p><u>(⑯ 杉山恵太郎/5 回) 園芸の起源・歴史、野菜の分類・生長・形態・育種、野菜栽培の基礎と実際</u></p>		園芸学	<p>(8 ページ)</p> <p>静岡県は、イチゴやトマト、レタスなどの野菜、ガーベラやバラなどの花き、ミカンなどの果樹など園芸作物の栽培が盛んな県であり、これらは本県の主要産品となっている。本科目では、園芸の起源と歴史、園芸作物の成長と形態、養分の吸収・光合成と転流・利用、環境制御、繁殖と改良に加え、園芸作物がもつ癒しの機能など、園芸作物の栽培ならびに生産物の取扱いの基礎となる園芸学全般について学ぶ。また、園芸作物は化石燃料を多く使用するため、環境に配慮した栽培についても考える。</p>	

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
園芸各論	<p>(9ページ)</p> <p>(概要)</p> <p>野菜、果樹、花きなど園芸作物は、様々な技術開発により高品質な生産物が安定的に生産されている。本科目では、園芸作物の専門的な知識を得ることを目的とし、各論として野菜園芸ではトマト、イチゴ、温室メロン、タマネギなど、果樹園芸では温州ミカンやカキ、ナシなど、花き園芸ではガーベラやバラ、キクなど、静岡県特産物を例にとりながら、それぞれの生理特性と栽培方法、およびそれらに關与する諸問題について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(① 森口卓哉/5 回)果樹の種類と栽培、果樹栽培における生育調節剤利用、育種・繁殖、品質制御技術</p> <p>(⑬ 佐藤展之/5 回)花きの種類と栽培、花き栽培における土壌・栄養・養液栽培、生育・開花調整、鮮度保持と貯蔵・輸出入</p> <p>(⑯ 杉山恵太郎/5 回)野菜の種類と栽培、野菜栽培における作型、鮮度保持と流通</p>			(新規)	

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
土壌肥料・植物栄養学	<p>(10ページ)</p> <p>(概要)</p> <p>土壌は農林業に利用されるだけでなく、地球環境保全にも欠かせないものである。土壌の概念や、土壌の三層構造や化学的組成などに加え、農耕地の土壌の現状や環境問題など農林業生産に必要な土壌の基礎知識について学ぶ。また、植物を主体たし養分吸収特性及び植物生産の代謝との関連、植物が成長するために必要な養分の機能、その養分の吸収・移動の機構、植物の栄養特性、肥料の種類と特性について学ぶ。近年肥料と環境の問題が取り上げられることが多いため、環境負荷の少ない施肥方法についても考える。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(⑬ 佐藤展之/8 回) 植物栄養と養分の吸収機構、多量要素・微量元素の生理学的役割、肥料と施肥、環境・農業と肥料、栄養診断</p> <p>(⑭ 外側正之/7 回) 土壌の化学性・物理性、土壌構造、土壌微生物、土壌診断</p>	オムニバス方式		(新規)	
飼料総論	<p>(11ページ)</p> <p>動物が健全に生産活動を営む上で要求する栄養素を提供する物であり、嗜好に見合うとともに経済的に低価格であることが好ましい。本科目では、生産物に成分が反映されるため、動物性食品への安全保障が重要である事を理解するとともに、自給飼料を生産する草地での土地利用の特徴や、草地の維持管理の基礎的な理論、実際の管理技術と生産される牧草の保存、活用について教授する。また、各単味飼料の特徴を知った上で、動物が利用するうえで、消化吸収が円滑に進むように加工することや組み合わせる(配合する)ことで養分要求量の充足を図ることなどを理解し、実際に飼料配合計算を行う。</p>		飼料総論	<p>(12 ページ)</p> <p>家畜が自らの生命を健康に維持しながら生活するためには、体を動かすためのエネルギーと体の中の種々の代謝活動のための栄養素が必要である。また、体を維持し、さらに成長させていくためにはその基質を体に取り入れることも必要である。このため、畜産を営むものには、家畜に必要な栄養と、その供給源である飼料の知識が不可欠である。本科目では家畜栄養と飼料についての基礎的な知識を学ぶとともに、飼料に求められる保存性を高める加工などの技術を知った上で、飼料配合設計技術の理論を習得することを目的とする。</p>	

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
食品加工実習	<p>(16 ページ)</p> <p>食品加工技術を用いることで、農畜産物の栄養性や嗜好性、保存性を向上させることが出来る。</p> <p>本科目では、農畜産物の栄養性や嗜好性、保存性を向上させる様々な加工技術、農畜産物の加工法や保存法、包装法、さらに、食品別の規格基準や、健康や栄養に関する食品表示制度について学ぶ。また、農畜産物の原料処理、加工方法、各工程における機械の操作、包装方法、殺菌方法などの食品加工技術および原理を体得すると共に、食品工場における衛生管理、工程管理、製品管理等の基本を学ぶ。</p>	<p>共同</p> <p>※ 講義 16 時間</p> <p>※ 実習 44 時間</p>	食品加工実習	<p>(16 ページ)</p> <p>食品加工技術を用いることで、農畜産物の栄養性や嗜好性、保存性を向上させることが出来る。</p> <p>本科目では、農畜産物の原料処理、加工方法、各工程における機械の操作、包装方法、殺菌方法などの食品加工技術を体得すると共に、食品工場における衛生管理、工程管理、製品管理等の基本を学び、加工食品への認識を深めさせ、今後の新食品開発への基礎知識を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・穀物の加工:もち、パン、焼菓子 ・マメ類の加工:みそ、豆腐、和菓子 ・イモ類の加工:こんにやく ・魚肉類の加工:さつまあげ、ちくわ ・果実類の加工:マーマレード、ジャム ・畜肉類の加工:ソーセージ ・乳類の加工:ヨーグルト ・野菜の加工:トマトピューレ 	共同

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
木材加工実習	<p>(16 ページ)</p> <p>(概要)</p> <p>木材は、構造材料あるいは強度部材として利用するため、木材の物理的性質や力学的性質等を把握することは重要である。本科目では、切削加工から人工乾燥等の製造技術及び品質管理手法や、合板・集成材等の製造・性能特徴に関する基礎知識、木造住宅や木造建築の合理化手法や、耐久性・防耐火性を向上する手法について学ぶ。また、木工作品の製作を行うことで、設計の仕方、作品の製図作成、木材加工の機械や道具の使い方、作成手順、安全作業など木材加工に必要な知識と技術を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全 30 回)</p> <p>(⑩ 池田潔彦/14 回)製材・機械加工、木材の乾燥技術及び物理的・強度的性質、木質材料の種類と特徴</p> <p>(29 星川健史/16 回)木工具・木工機械の種類と管理方法、木工作品の製作</p>	<p>オムニバス方式</p> <p>※ 講義 28 時間</p> <p>※ 実習 32 時間</p>	木材加工実習	<p>(16 ページ)</p> <p>木材加工学で学んだ木材の性質や木材加工技術などの知識を生かし、木工作品の製作を行う。本科目では、椅子などの身近な木工作品の製作を行うことで、設計の仕方、作品の製図作成、木材加工の機械や道具の使い方、作成手順、安全作業など木材加工に必要な知識や技術を習得する。</p> <p>・加工の基礎知識:加工に使用する道具・木工機械の種類と安全作業</p> <p>・設計製図:設計製図、作品の製図</p> <p>・製作:材料の調達、設計に沿った木材の加工、組み立て</p>	
販売管理実習	<p>(16 ページ)</p> <p>マーチャンダイジング、ストアオペレーション、販売管理の知識を学びながら、マーケティング戦略に沿って農林畜産物を販売するための方法を学ぶための実習を行う。本科目では、農林畜産物を販売するための経営手法を理解した上で、販売管理のノウハウを修得し、販売の技術を身に付けることを目標とする。まず、どのような製品を、いくらで、どこで販売し、どのような宣伝を行うかのマーケティング戦略の手法を理解し、商品計画、価格設定、在庫管理などの商品知識を深める。そして、ストアオペレーション、販売技術、販売管理のノウハウを修得し、顧客情報の収集法と分析、顧客の管理などの手法を身に付ける。</p>	<p>共同</p> <p>※ 講義 8 時間</p> <p>※ 実習 52 時間</p>		<p>(新規)</p>	

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合実習	<p>(16 ページ)</p> <p>(概要)</p> <p>水稲、茶、野菜、果樹、花卉、畜産、林業の生産管理に関わる知識や技術を学ぶため、実習や生産現場の見学を通じ、農業現場に即した農業の実学の基本を学ぶ。また、これらの実習等を通じて、農林業を総合的に理解する能力と態度を養う。また、畜産関連施設や、ICTやIoTを活用したスマート農業の視察を通じ、農林業の先端技術の現状について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全 30 回)</p> <p>(14 太田智/4回)果樹栽培:果樹の樹種別の枝管理と着果管理、接木・挿し木</p> <p>(15 相蘇春菜/2回)林業:木材の樹種同定</p> <p>(17 大石竜/4回)野菜栽培(施設):環境制御システムの利用法</p> <p>(18 貞弘恵/4回)畜産:酪農施設、乳業メーカー見学</p> <p>(28 中根健/4回)作物栽培:田植え</p> <p>(29 中野敬之/4回)茶栽培:摘採、製茶</p> <p>(31 五十右薫/4回)花き栽培:播種、鉢上げ、収穫・調整</p> <p>(32 増田壽彦、33 坂口良介/4回)(共同)野菜栽培(露地):露地野菜の栽培管理、スマート農業の視察</p>	オムニバス方式・共同 <u>(一部)</u>	総合実習	<p>(16 ページ)</p> <p>(概要)</p> <p>水稲、茶、野菜、果樹、花卉、畜産、林業の生産管理に関わる知識や技術を学ぶため、実習や生産現場の見学を通じ、<u>農作業安全や農業現場</u>に即した農業の実学の基本を学ぶ。また、これらの実習等を通じて、農林業を総合的に理解する能力と態度を養う。また、畜産関連施設や、ICTやIoTを活用したスマート農業の視察を通じ、農林業の先端技術の現状について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全 30 回)</p> <p>(9 太田智/4回)果樹栽培:果樹の樹種別の枝管理と着果管理、接木・挿し木</p> <p>(10 相蘇春菜/2回)林業:木材の樹種同定</p> <p>(11 大石竜/2回)野菜栽培(施設):環境制御システムの利用法</p> <p>(12 貞弘恵/4回)畜産:酪農施設、乳業メーカー見学</p> <p>(23 中根健/2回)作物栽培:田植え</p> <p>(23 中根健、27 増田壽彦、28 坂口良介/4回)(共同)<u>農作業安全:危険箇所・危険作業の確認、刈払機・運搬車の講習</u></p> <p>(24 中野敬之/4回)茶栽培:摘採、製茶</p> <p>(26 五十右薫/4回)花き栽培:播種、鉢上げ、収穫・調整</p> <p>(27 増田壽彦、28 坂口良介/4回)(共同)野菜栽培(露地):露地野菜の栽培管理、スマート農業の視察</p>	オムニバス方式・共同

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
林業機械実習	<p>(19 ページ)</p> <p>林業機械化の進展は、労働生産性の向上、生産コストの削減、労働強度の軽減などに大きく貢献し、現代の林業では欠かせないものとなっている。本科目では、伐木造材、架線集材、機械集材、育林に使用する林業機械の操作方法について学ぶ。また、近年導入が進んでいる作業の効率化や身体への負担の軽減等、性能が著しく高い高性能林業機械の種類と基本操作について学ぶ。</p> <p>架線集材:集材機、自走式搬機の基本操作 車両集材:集材車両の機械の基本操作 高性能林業機械:フェラーバンチャ、スキッド、プロセッサ、ハーベスタ、フォワーダ、タワーヤーダ、スイングヤーダの基本操作</p>	<p>集中</p> <p>※隔年</p>	林業機械実習	<p>(21 ページ)</p> <p>林業機械化の進展は、労働生産性の向上、生産コストの削減、労働強度の軽減などに大きく貢献し、現代の林業では欠かせないものとなっている。本科目では、伐木造材、架線集材、機械集材、育林に使用する林業機械の操作方法について学ぶ。また、近年導入が進んでいる作業の効率化や身体への負担の軽減等、性能が著しく高い高性能林業機械の種類と基本操作について学ぶ。</p> <p>架線集材:集材機、自走式搬機の基本操作 車両集材:集材車両の機械の基本操作 高性能林業機械:フェラーバンチャ、スキッド、プロセッサ、ハーベスタ、フォワーダ、タワーヤーダ、スイングヤーダの基本操作</p>	<p>集中</p>

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
GAP演習	<p>(19 ページ)</p> <p>GAP演習 (概要)</p> <p>GAP(Good Agricultural Practice:農業生産工程管理)とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理などの持続可能性を確保するための生産工程管理の取組である。様々な団体により、農業者が容易に法令を解釈でき、汚染を避ける効果的な措置をとるのに役立つガイドブックであるGAP規範が定められており、JGAPやGLOBALG.A.P.などの認証制度がある。本科目では、GAPの定義や導入されている背景、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理に係るGAP規範、GAP認証制度などの基礎知識や、農産物の安全のための制度及び関連法について学び、GAPの実践方法について演習を通じて習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全 30 回)</p> <p>(⑫ 貞弘恵/5 回)GAPの実践(畜産編)</p> <p>(⑰ 杉山泰之/20 回)GAPの定義と導入の背景、GAP規範、GAP認証制度、農産物安全のための制度・関連法</p> <p>(⑳ 坂口良介/5 回)GAPの実践(栽培編)</p>	オムニバス方式	GAP演習	<p>(21 ページ)</p> <p>GAP演習 (概要)</p> <p>GAP(Good Agricultural Practice:農業生産工程管理)とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理などの持続可能性を確保するための生産工程管理の取組である。様々な団体により、農業者が容易に法令を解釈でき、汚染を避ける効果的な措置をとるのに役立つガイドブックであるGAP規範が定められており、JGAPやGLOBALG.A.P.などの認証制度がある。本科目では、GAPの定義や導入されている背景、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理に係るGAP規範、GAP認証制度などの基礎知識について学び、GAPの実践方法について演習を通じて習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全 30 回)</p> <p>(⑮ 貞弘恵/5 回)GAPの実践(畜産編)</p> <p>(⑳ 杉山泰之/20 回)GAPの定義と導入の背景、GAP規範、GAP認証制度</p> <p>(㉓ 坂口良介/5 回)GAPの実践(栽培編)</p>	オムニバス方式

(新旧対照表) 専門職大学等における実験, 実習又は実技による授業科目並びにこれに代替する
演習による授業科目一覧

(新)

専門職大学等における実験、実習又は実技による授業科目並びにこれに代替する演習による授業科目一覧

(生産環境経営学部生産環境経営学科)

科目区分	授業科目の名称	単位数			授業形態 [臨/連]	臨地実務実習に代えて連携実務演習等(実験、実習又は実技によるものに限る。)を修得させる理由及び見込まれる教育効果				
		必修	選択	自由						
実験、 実習又は実技による 授業科目	基礎科目	茶道 華道 保健体育Ⅰ 保健体育Ⅱ	2	2	1 1	実習 実習 実技 実技				
	職業専門科目	経営実習Ⅰ 経営実習Ⅱ 総合実習 圃場実習(栽培) 圃場実習(畜産) 演習林実習 生産マネジメント実習Ⅰ(栽培) 生産マネジメント実習Ⅰ(畜産) 生産マネジメント実習Ⅰ(林業) 生産マネジメント実習Ⅱ(栽培) 生産マネジメント実習Ⅱ(畜産) 生産マネジメント実習Ⅱ(林業) 大型機械実習Ⅰ 大型機械実習Ⅱ 林業機械実習 企業実習 食品加工実習 木材加工実習 販売管理実習	5 5 2 2 2 4 4 4 4 4 4 2 2 10 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 2 2 2 4 4 4 4 4 4 2 2 2 2 2	実習 [臨] 実習 [臨] 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習 実習				
		展開科目	該当なし							
		総合科目	該当なし							
		小計 (23科目)		28	36	6				
		うち卒業・修了に必要な実習等単位数		28	12	—				
		うち卒業・修了に必要な臨地実務実習等単位数		20	0	—				
		演習による 実習等代替 授業科目	科目区分	授業科目の名称	単位数			授業形態 [臨/連]	実験、実習又は実技に代えて演習による授業科目を修得させる事由及び見込まれる教育効果 実習等に変えて演習を行う理由として、演習を行うことで、実際の事例に基づいた模擬的な学びが可能になるという効果が期待される。これにより、課題を発見し解決する技能を修得することが可能となり、実際の現場において自ら実践できるという効果が見込まれる。	
			基礎科目	該当なし						
			職業専門科目	GAP演習	2					演習
			展開科目	農山村デザイン演習	2					演習
			総合科目	該当なし						
		小計 (2科目)		4	—	()				
		うち卒業・修了に必要な演習代替単位数		4	—	—				
		うち卒業・修了に必要な連携実務演習等単位数		0	—	—				
		合計 (25科目)		32	36	()				
	うち卒業・修了に必要な実習等又は演習単位数		32	12	—					
	うち卒業・修了に必要な臨地実務実習等単位数		20	0	—					

(旧)

専門職大学等における実験、実習又は実技による授業科目並びにこれに代替する演習による授業科目一覧							
(生産環境経営学部生産環境経営学科)							
科目区分	授業科目の名称	単位数			授業形態 [臨/連]	臨地実務実習に代えて連携実務演習等(実験、実習又は実技によるものに限る。)を修得させる理由及び見込まれる教育効果	
		必修	選択	自由			
実験、 実習又は実技による 授業科目	基礎科目	茶道 華道 保健体育Ⅰ 保健体育Ⅱ	2	1 1 2		実習 実習 実技 実技	
	職業専門科目	経営実習Ⅰ	5			実習 [臨]	
		経営実習Ⅱ	5			実習 [臨]	
		総合実習	2			実習	
		圃場実習(栽培)		2		実習	
		圃場実習(畜産)		2		実習	
		演習林実習		2		実習	
		生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)		4		実習	
		生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)		4		実習	
		生産マネジメント実習Ⅰ(林業)		4		実習	
		生産マネジメント実習Ⅱ(栽培)		4		実習	
		生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)		4		実習	
		生産マネジメント実習Ⅱ(林業)		4		実習	
		大型機械実習Ⅰ	2			実習	
		大型機械実習Ⅱ		2		実習	
	林業機械実習		2		実習		
	企業実習	10			実習 [臨]		
	食品加工実習		2		実習		
	木材加工実習		2		実習		
	販売実習		2		実習		
	展開科目	該当なし					
	総合科目	該当なし					
	小計 (23科目)		26	44	0		
うち卒業・修了に必要な実習等単位数		26	12	—			
うち卒業・修了に必要な臨地実務実習等単位数		20	0	—			
演習による実習等代替授業科目	科目区分	授業科目の名称	単位数			授業形態 [臨/連]	実験、実習又は実技に代えて演習による授業科目を修得させる事由及び見込まれる教育効果
	基礎科目	該当なし					
	職業専門科目	GAP演習	2			演習	
	展開科目	農山村デザイン演習	2			演習	
	総合科目	該当なし					
	小計 (2科目)		4	—	()		
	うち卒業・修了に必要な演習代替単位数		4	—	—		
うち卒業・修了に必要な連携実務演習等単位数		0	—	—			
合計 (25科目)		30	44	()			
うち卒業・修了に必要な実習等又は演習単位数		30	12	—			
うち卒業・修了に必要な臨地実務実習等単位数		20	0	—			

(新旧対照表) シラバス

(新) 目次

<シラバス目次>

NO	授業科目
1	静岡学※
2	歴史学概論
3	統計学
4	情報処理基礎
5	情報処理応用
6	農学概論
7	環境と農林業※
8	農林業史
9	農林業政策*
10	技術者倫理*
11	県内農林業事情
12	県外農林業事情
13	海外農林業事情
14	農林業のための生物学
15	農林業のための化学
16	農林業のための地学
17	分子生物学
18	農業気象学
19	生命科学
20	農林業生産理論●
21	環境保全型農林業論●
22	農林業のための先端技術※
23	作物学※
24	園芸学*
25	園芸学各論●
26	植物病理学※
27	応用昆虫学
28	土壌肥料・植物栄養学●
29	植物遺伝育種学概論
30	森林計画・政策論※
31	森林土木学※
32	木質科学概論
33	木材生産システム○
34	飼料総論*
35	家畜生理解剖学
36	家畜飼養学※
37	家畜衛生学
38	フードシステム論○
39	経営管理論※
40	農林業経営学※

- ※ : 補正申請で内容が変更になったシラバス
- : 補正申請で新たに追加したシラバス
- * : 再補正申請で内容が変更になったシラバス
- : 再補正申請で新たに追加したシラバス

41	経営戦略○
42	マーケティング論
43	農林業の経営組織論○
44	農と食の起業論
45	経営実習 I
46	経営実習 II
47	食品科学○
48	収穫後生理学
49	木材利用・流通論○
50	農と食の健康論
51	6次産業化実践論
52	食品加工実習●
53	木材加工実習●
54	販売管理実習●
55	総合実習*
56	圃場実習(栽培)
57	圃場実習(畜産)
58	演習林実習
59	生産マネジメント実習 I (栽培)
60	生産マネジメント実習 I (畜産)
61	生産マネジメント実習 I (林業)
62	生産マネジメント実習 II (栽培)
63	生産マネジメント実習 II (畜産)
64	生産マネジメント実習 II (林業)
65	大型機械実習 I
66	大型機械実習 II
67	林業機械実習
68	GAP演習*
69	企業実習
70	農山村田園地域公共学
71	農村景域論
72	食文化論
73	在来作物学
74	医福食農連携論
75	経営分析演習 I ※
76	経営分析演習 II ※
77	プロジェクト研究○

- ※ : 補正申請で内容が変更になったシラバス
- : 補正申請で新たに追加したシラバス
- * : 再補正申請で内容が変更になったシラバス
- : 再補正申請で新たに追加したシラバス

(新旧対照表) シラバス

(旧) 目次

シラバス目次

ページ	授業科目
1	静岡学
2	歴史学概論
3	統計学
4	情報処理基礎
5	情報処理応用
6	農学概論
7	環境と農林業
8	農林業史
9	農林業政策
10	技術者倫理
11	県内農林業事情
12	県外農林業事情
13	海外農林業事情
14	農林業のための生物学
15	農林業のための化学
16	農林業のための地学
17	分子生物学
18	農業気象学
19	生命科学
20	栽培学
21	植物生理生態学
22	作物学
23	園芸学
24	植物病理学
25	応用昆虫学
26	肥料・植物栄養学
27	野菜園芸学
28	果樹園芸学
29	花き園芸学
30	植物遺伝育種学概論
31	土壌学
32	環境保全型農業論
33	森林計画・政策論
34	樹木・組織学
35	森林土木学
36	木質科学概論
37	木材生産システム
38	畜産概論
39	飼料総論
40	家畜生理解剖学
41	家畜飼養学
42	自給飼料
43	家畜衛生学
44	畜産環境学
45	農林業のための先端技術
46	フードシステム論
47	法と農業経営
48	経営管理論
49	農林業経営学
50	経営戦略
51	マーケティング論
52	農林業の経営組織論
53	農と食の起業論
54	経営実習 I

55	経営実習 II
56	食品科学
57	食品加工学
58	収穫後生理学
59	木材利用・流通論
60	木材加工学
61	販売管理論
62	農と食の健康論
63	6次産業化実践論
64	食品加工実習
65	販売実習
66	総合実習
67	圃場実習(栽培)
68	圃場実習(畜産)
69	演習林実習
70	生産マネジメント実習 I (栽培)
71	生産マネジメント実習 I (畜産)
72	生産マネジメント実習 I (林業)
73	生産マネジメント実習 II (栽培)
74	生産マネジメント実習 II (畜産)
75	生産マネジメント実習 II (林業)
76	大型機械実習 I
77	大型機械実習 II
78	林業機械実習
79	GAP演習
80	企業実習
81	農山村田園地域公共学
82	農村景城論
83	食文化論
84	在来作物学
85	医福食農連携論
86	経営分析演習 I
87	経営分析演習 II
88	プロジェクト研究

授業名 農林業政策 Theory of Agriculture and Forestry Policy		単位数 2 単位	授業の方法 講義
		履修年次	1 年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	天野哲郎
授業時間	金曜日 1 時限	教室	講義室 3
オフィスアワー	随時受付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	わが国における農林業政策の展開を振り返るとともに、現在の食料・農業・農村基本法の下での、食料自給力・食料自給率の維持向上に向けた施策、食料の安定供給の確保に関する施策、農業の持続的な発展に関する施策、農村の振興に関する施策及び、各施策の関連法について基礎的知識を習得する。また、森林の有する多面的機能の発揮に関する施策、林業の持続的かつ健全な発展に関する施策、林産物の供給及び利用の確保に関する施策について学ぶ。現在における政策の役割及び課題について理解することを目標とする。		
授業目的・目標	農林業経営が直面する課題に即した農業・食料関連政策や森林・林業政策とその制度について学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	農林業政策展開の概説と授業の進め方。	
	2	わが国農林業の構造変化	
	3	戦後農政の展開1(農地法、食糧管理法)	
	4	戦後農政の展開2(農業災害補償法、農業協同組合法)	
	5	基本法農政の展開	
	6	総合農政・新農政の展開	
	7	食料・農業・農村基本法以降の展開	
	8	現行の農業経営をめぐる生産政策と関連法1(経営所得安定対策、収入保険制度)	
	9	現行の農業経営をめぐる生産政策と関連法2(農地中間管理機構、GAP、6次産業化)	
	10	現行の農業経営をめぐる生産政策と関連法3(作目別諸施策:園芸、畜産)	
	11	現行の農業経営をめぐる担い手政策と関連法(農業次世代人材投資資金、経営体育成支援事業、認定農業者制度)	
	12	現行の農業経営をめぐる環境政策・地域政策と関連法(環境保全型農業直接支払い等)	
	13	林業の構造変化および林業政策の展開	
	14	現行の林業経営をめぐる諸施策と関連法	
15	農林業経営における諸施策への対応に関するとりまとめ		
キーワード	食料・農業・農村基本法、森林・林業基本法、経営所得安定対策、森林経営管理法		
教科書・参考書	農業経済学第4版2015年、荏開津典生・鈴木宣弘(岩波書店) 食料・農業・農村白書(農林水産省) 森林・林業白書(林野庁)		
評価方法・評価基準	試験(50%)、履修態度(50%)		
関連科目	特になし		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 農林業政策 (英名) Theory of Agriculture and Forestry Policy		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	2年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	天野哲郎
授業時間	火曜日 1 時限	教室	小講義室 7
オフィスアワー	随時受付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	わが国における農林業政策の展開を振り返るとともに、現今の食料・農業・農村基本法の下での、食料自給力・食料自給率の維持向上に向けた施策、食料の安定供給の確保に関する施策、農業の持続的な発展に関する施策、農村の振興に関する施策について基礎的知識を習得する。また、森林の有する多面的機能の発揮に関する施策、林業の持続的かつ健全な発展に関する施策、林産物の供給及び利用の確保に関する施策について学ぶ。現在における政策の役割及び課題について理解することを目標とする。		
授業目的・目標	農林業経営が直面する課題に即した農業・食料関連政策や森林・林業政策とその制度について学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	農林業政策展開の概説と授業の進め方。	
	2	わが国農林業の構造変化	
	3	農業政策の経済学	
	4	戦後農政の展開 1 (農地法、食糧管理法)	
	5	戦後農政の展開 3 (農業災害補償法、農業協同組合法)	
	6	基本法農政の展開	
	7	総合農政・新農政の展開	
	8	食料・農業・農村基本法以降の展開	
	9	現行の農業経営をめぐる生産政策 1 (経営所得安定対策、収入保険制度)	
	10	現行の農業経営をめぐる生産政策 2 (農地中間管理機構、GAP、6次産業化)	
	11	現行の農業経営をめぐる生産政策 3 (作目別諸施策)	
	12	現行の農業経営をめぐる環境政策・地域政策	
	13	林業の構造変化および林業政策の展開	
	14	現行の林業経営をめぐる諸施策	
15	農林業経営における諸施策への対応に関するとりまとめ		
キーワード	食料・農業・農村基本法、森林・林業基本法、経営所得安定対策、森林経営管理法		
教科書・参考書	農業経済学第4版2015年、荏開津典生・鈴木宣弘(岩波書店) 食料・農業・農村白書(農林水産省) 森林・林業白書(林野庁)		
評価方法・評価基準	試験(50%)、履修態度(50%)		
関連科目	特になし		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 技術者倫理 Engineering Ethics		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	3年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	森口卓哉、丹羽康夫、逢坂興宏、竹内隆、片山信也、近藤晃、小林信一
授業時間	月曜日 5 時限	教室	講義室14
オフィスアワー	随時受付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	人類は、高度経済成長により飛躍的に物的豊かさを獲得してきた。農林業では、規模拡大や単作化、機械化、化学肥料・農薬の多用が進んでおり、農林業は環境問題の一端の責任を負っている。また、食の安全・安全も課題である。このような問題群の中で、農林業関係者は農林業の発展に関し大きな社会的責任を負っており、倫理的な問題が絡んできることが認識されつつある。本科目では、近年の異常気象、特に温暖化が農林業に与える影響と適応策について学ぶとともに、バイオテクノロジーにおける倫理、家畜福祉など農業技術者として必要な倫理を身につける。		
授業目的・目標	農林業関係者が、今後どのように食や環境の問題について対応について考える。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	温暖化の影響評価 (森口卓哉)	
	2	温暖化の適応策 (森口卓哉)	
	3	農業技術と技術者の社会的責任① (竹内隆)	
	4	農業技術と技術者の社会的責任② (竹内隆)	
	5	バイオテクノロジーの発展過程 (丹羽康夫)	
	6	倫理の基準となる宗教観と食文化の差異 (丹羽康夫)	
	7	人口爆発・食料不足へのバイオテクノロジーの役割と期待 (丹羽康夫)	
	8	畜産と環境問題① (片山信也)	
	9	畜産と環境問題② (片山信也)	
	10	家畜福祉 (小林信一)	
	11	技術者の社会的責任 (逢坂興宏)	
	12	森林・林業と環境をめぐる諸問題 (逢坂興宏)	
	13	森林・林業技術者と地球倫理・環境倫理 (逢坂興宏)	
	14	林業をめぐる諸問題① (近藤晃)	
15	林業をめぐる諸問題② (近藤晃)		
キーワード	温暖化、影響評価、適応策、緩和策、果実着色不良、休眠不全、バイオテクノロジー、家畜福祉		
教科書・参考書	参考書：温暖化が進むと「農業」「食料」はどうなるのか？(杉浦俊彦著 技術評論社)、祖田修・太田猛彦「農林水産業の技術者倫理」農文協		
評価方法・評価基準	試験 (60%)、レポート・小テスト (40%)		
関連科目	農業気象学、農学概論・分子生物学・生命科学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 技術者倫理 (英名) Engineering Ethics		単位数 2 単位	授業の方法 講義
		履修年次	3年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	森口卓哉、丹羽康夫、逢坂興宏、竹内隆、片山信也、近藤晃
授業時間	水曜日 1 時限	教室	講義室14
オフィスアワー	随時受付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	人類は、高度経済成長により飛躍的に物的豊かさを獲得してきた。農林業では、規模拡大や単作化、機械化、化学肥料・農薬の多用が進んでおり、農林業は環境問題の一端の責任を負っている。また、食の安全・安全も課題である。このような問題群の中で、農林業関係者は農林業の発展に関し大きな社会的責任を負っており、倫理的な問題が絡んでくることが認識されつつある。本科目では、近年の異常気象、特に温暖化が農林業に与える影響と適応策について果樹を中心に学ぶとともに、温暖化緩和策としての樹園地の機能について考えることを目的とする。		
授業目的・目標	農林業関係者が、今後どのように食や環境の問題について対応について考える。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	温暖化の影響評価	
	2	温暖化の適応策I	
	3	温暖化の適応策II、緩和策	
	4	農業技術と技術者の社会的責任①	
	5	農業技術と技術者の社会的責任①	
	6	バイオテクノロジーの発展過程	
	7	倫理の基準となる宗教観と食文化の差異	
	8	人口爆発・食料不足へのバイオテクノロジーの役割と期待	
	9	畜産と環境問題①	
	10	畜産と環境問題②	
	11	技術者の社会的責任	
	12	森林・林業と環境をめぐる諸問題	
	13	森林・林業技術者と地球倫理・環境倫理	
	14	林業をめぐる諸問題①	
15	林業をめぐる諸問題②		
キーワード	温暖化、影響評価、適応策、緩和策、果実着色不良、休眠不全、バイオテクノロジー		
教科書・参考書	参考書：温暖化が進むと「農業」「食料」はどうなるのか？（杉浦俊彦著 技術評論社）、祖田修・太田猛彦「農林水産業の技術者倫理」農文協		
評価方法・評価基準	試験（60％）、レポート・小テスト（40％）		
関連科目	農業気象学、農学概論・分子生物学・生命科学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

(新) シラバス 20 ページ

授業名 農林業生産理論 Agriculture and Forestry Production Theory		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	1年 後期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	佐藤展之、杉山恵太郎、平岡裕一郎、祐森誠司
授業時間	月曜日3時限	教室	講義室3
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	持続的農業を展開するためには、植物の生理生態、畜産物の機能と特徴の理論を学び、生産に結びつける必要がある。本科目では植物の生理生態、作物の生産に関わる温度や光条件などの環境条件や、耕起、施肥など総合的作物管理を学ぶ。また、木材の科学的性質を理解した上の永続的林業生産、畜産業における遺伝、繁殖、飼養などの専門領域を理解した上での畜産生産と環境負荷物質を制御するための持続可能な畜産業など、農林業生産理論を学ぶ。		
授業目的・目標	農林業生産のために必要な理論を理解し、実践のための応用力を身につける。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	植物の構造、発生と分化 (佐藤展之)	
	2	光・植物ホルモンによる制御と植物代謝生理 (佐藤展之)	
	3	植物生理生態と農業生産 (佐藤展之)	
	4	作物の起源と分類 (杉山恵太郎)	
	5	作物と栽培環境 (杉山恵太郎)	
	6	作物の栽培管理 (杉山恵太郎)	
	7	施設環境と施設栽培 (杉山恵太郎)	
	8	生物資源としての林産物、木材の構造 (平岡裕一郎)	
	9	木質のバイオメカニクス (平岡裕一郎)	
	10	特用林産物 (平岡裕一郎)	
	11	樹実類と樹脂類、これからの林産物生産と利用 (平岡裕一郎)	
	12	家畜生産の目的・特徴・増殖技術 (祐森誠司)	
	13	畜産物の機能と特徴 (乳製品) (祐森誠司)	
	14	畜産物の機能と特徴 (肉、卵) (祐森誠司)	
15	産業としての畜産 (経営)、環境に配慮した畜産 (祐森誠司)		
キーワード	植物生理生態、作物、栽培環境、木材、非木材林産物、畜産、畜産物、持続的農業		
教科書・参考書	栽培学 (朝倉書店)、「ベーシックマスター植物生理学」塩井祐三編、「木質の形成 第2版」海青社福島和彦編、「畜産学入門」唐澤豊他編、文永堂出版 (株)		
評価方法・評価基準	試験 (80%)、課題 (20%)		
関連科目	特になし		
履修要件	農学概論		
備考	特になし		

(旧) 追加

授業名 環境保全型農林業論 Sustainable Agriculture Systems		単位数 2 単位	授業の方法 講義
		履修年次	3 年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	小澤朗人、片山信也、貞弘恵、鶴飼一博
授業時間	木曜日 3 時限	教室	講義室14
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	農業の生産性は、化学肥料や農薬の施用等により、大幅な向上が図られてきた。しかし、効率追求や不適切な資材利用・管理が農業生産活動が環境へ負荷の原因となっている場合もあり、環境負荷に少ない農業への注目が集まっている。本科目では、農業のもつ自然循環機能を活かし、生産性との調和等に留意した環境保全型農業の実現に向けて様々な知識と技術を学び、今後の農業のあり方について考える。併せて、国土保全や生物多様性に配慮した森林施業についても学ぶ。		
授業目的・目標	環境保全型農業の実現に向けて様々な技術を学び、今後の農業のあり方について考える。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	環境保全型農業論・序論－沈黙の春～奪われし未来（小澤朗人）	
	2	化学的防除の功罪－薬剤抵抗性・耐性菌問題、誘導多発生、環境汚染（小澤朗人）	
	3	I P M（総合的病害虫管理）の理論、減農薬、有機栽培、自然農法などの特徴と取り組み事例（小澤朗人）	
	4	有機栽培の実態と取り組み事例（小澤朗人）	
	5	生物多様性とは何か、外来侵入生物が引き起こす諸問題（小澤朗人）	
	6	農地における総合的生物多様性管理（I B M）と生態系サービス（小澤朗人）	
	7	畜産業と環境問題（貞弘恵）	
	8	畜産廃棄物の種類と処理方法（貞弘恵）	
	9	ふん尿施用の基本的考え方（片山信也）	
	10	ふん尿の腐熟度（片山信也）	
	11	ふん尿の肥料成分含有率の推定（片山信也）	
	12	牧草・飼料・畑作物・野菜への施用法（片山信也）	
	13	森林の公益的機能（鶴飼一博）	
	14	森林の公益的機能向上に向けた森林施業（1）（鶴飼一博）	
15	森林の公益的機能向上に向けた森林施業（2）（鶴飼一博）		
キーワード	I P M、環境、生態系、生物多様性、防除、農薬、有機、家畜ふん尿処理、家畜ふん尿施用、家畜ふん堆肥、肥料代替率、国土保全、生物多様性		
教科書・参考書	静岡県農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準、「ただの虫」を無視しない農業（桐谷圭治・著、築地書館）、生物多様性入門（鷲谷いづみ・著、岩波ブックレット）、家畜ふん尿処理・利用の手引き（畜産環境機構）、「畜産環境保全論」養賢堂		
評価方法・評価基準	試験（70%）、履修態度（30%）		
関連科目	応用昆虫学、植物病理学、環境と農林業、家畜衛生学、農林業経営学、森林計画・政策論、造林学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 園芸学 Horticulture		単位数 2 単位	授業の方法 講義
		履修年次	2 年 後期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	杉山恵太郎、佐藤展之、森口卓哉
授業時間	火曜日 3 時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	静岡県は、イチゴやトマト、レタスなどの野菜、ガーベラやバラなどの花き、ミカンなどの果樹など園芸作物の栽培が盛んな県であり、これらは本県の主要産品となっている。本科目では、園芸の起源と歴史、園芸作物の成長と形態、養分吸収・光合成と転流・利用、環境制御、繁殖と改良に加え、園芸作物がもつ癒しなど機能など、園芸作物の栽培ならびに生産物の取扱いの基礎となる園芸学全般について学ぶ。また、園芸作物は化石燃料使用する品目もあるため、環境に配慮した栽培についても考える。		
授業目的・目標	園芸作物の栽培ならびに生産物の取扱いの基礎となる園芸学全般について学ぶ。また、園芸作物は化石燃料を多く使用するため、環境に配慮した栽培についても考える。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	園芸の起源と歴史 (杉山恵太郎)	
	2	野菜の分類 (杉山恵太郎)	
	3	野菜の基礎と実際 (成長と形態) (杉山恵太郎)	
	4	野菜栽培の基礎と実際 (養分吸収・光合成と転流・利用) (杉山恵太郎)	
	5	野菜の育種と利用 (杉山恵太郎)	
	6	花き園芸の歴史と文化 (佐藤展之)	
	7	花きの分類 (佐藤展之)	
	8	花き栽培の基礎と実際 (佐藤展之)	
	9	花きの育種 (佐藤展之)	
	10	施設園芸の省エネと環境制御 (佐藤展之)	
	11	果樹園芸の特徴 (環境条件からみた適地適作、果樹の役割、課題) (森口卓哉)	
	12	果樹生産の現状および果樹の利用と分類 (森口卓哉)	
	13	形態、器官と機能 (森口卓哉)	
	14	花芽分化と果実発育 (森口卓哉)	
15	果実の発育・成熟と環境 (森口卓哉)		
キーワード	野菜、花き、果樹、起源、歴史、栽培、園芸療法、環境保全型農業		
教科書・参考書	園芸学の基礎 (鈴木正彦編著、農文協)、園芸学入門 (今西秀雄編著、朝倉書店)、園芸学 (金浜耕基著、文永堂出版)		
評価方法・評価基準	試験 (70%)、小テスト (20%)、履修態度 (10%)		
関連科目	農学概論、農林業生産理論、園芸学各論		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 園芸学 Horticulture		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	1年 後期
受講対象	環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	杉山恵太郎
授業時間	木曜日 4時限	教室	講義室 3
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	静岡県は、イチゴやトマト、レタスなどの野菜、ガーベラやバラなどの花き、ミカンなどの果樹など園芸作物の栽培が盛んな県であり、これらは本県の主要産品となっている。本科目では、園芸の起源と歴史、園芸作物の成長と形態、養分の吸収・光合成と転流・利用、環境制御、繁殖と改良に加え、園芸作物がもつ癒しなど機能など、園芸作物の栽培ならびに生産物の取扱いの基礎となる園芸学全般について学ぶ。また、園芸作物は化石燃料を多く使用するため、環境に配慮した栽培についても考える。		
授業目的・目標	園芸作物の栽培ならびに生産物の取扱いの基礎となる園芸学全般について学ぶ。また、園芸作物は化石燃料を多く使用するため、環境に配慮した栽培についても考える。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	園芸作物の起源と歴史	
	2	野菜の起源と歴史	
	3	野菜の分類	
	4	野菜栽培の基礎と実際	
	5	野菜の保存、流通、加工	
	6	花き園芸の歴史と文化	
	7	花きの分類	
	8	花き栽培の基礎と実際	
	9	花きの育種	
	10	施設園芸の環境制御	
	11	果樹の起源と歴史	
	12	果樹の分類	
	13	果樹の生産と環境	
	14	園芸療法	
15	低投入持続的農業、環境保全型農業		
キーワード	野菜、花き、果樹、起源、歴史、園芸療法、低投入持続的農業、環境保全型農業		
教科書・参考書	園芸学の基礎（鈴木正彦編著、農文協）、園芸学入門（今西秀雄編著、朝倉書店）、園芸学（金浜耕基著、文永堂出版）		
評価方法・評価基準	試験（100%）		
関連科目	農学概論、栽培学、野菜園芸学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 園芸学各論 Horticaluture theory		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	3年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	杉山恵太郎、佐藤展之、森口卓哉
授業時間	木曜日 4 時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	野菜、果樹、花きなど園芸作物は、様々な技術開発により高品質な生産物が安定的に生産されている。本科目では、園芸作物の専門的な知識を得ることを目的とし、各論として野菜園芸ではトマト、イチゴ、温室メロン、タマネギなど、果樹園芸では温州ミカンやカキ、ナシなど、花き園芸ではガーベラやバラ、キクなど、静岡県特産物を例にとりながら、それぞれの生理特性と栽培方法、およびそれらに関する諸問題について学ぶ。		
授業目的・目標	野菜、果樹、花き栽培の専門的知識を得る。環境に配慮した栽培方法について考える。園芸作物の生産から流通までを体系的に学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	野菜の作型 (杉山恵太郎)	
	2	果菜類各論 (杉山恵太郎)	
	3	葉茎菜類各論 (杉山恵太郎)	
	4	根菜類各論 (杉山恵太郎)	
	5	野菜の鮮度保持と流通 (杉山恵太郎)	
	6	花きの土壌と栄養、養液栽培 (佐藤展之)	
	7	花きの生育と開花調節 (佐藤展之)	
	8	花きの鮮度保持と貯蔵、輸出入 (佐藤展之)	
	9	花き栽培各論 (切花) (佐藤展之)	
	10	花き栽培各論 (鉢物、切枝) (佐藤展之)	
	11	主要果樹の種類別各論 (温州ミカン、リンゴ、ナシ) (森口卓哉)	
	12	主要果樹の種類別各論 (ブドウ、モモ、カキ、その他) (森口卓哉)	
	13	果樹栽培における生育調節剤の利用 (森口卓哉)	
	14	果樹の品質制御技術 (森口卓哉)	
15	果樹の育種と繁殖 (森口卓哉)		
キーワード	野菜園芸、花卉園芸、果樹園芸、環境条件、栽培生理		
教科書・参考書	野菜園芸学 (金浜耕基、文永堂出版)、果樹園芸学 (米森敬三編集 朝倉書店)、花卉園芸総論 (大川清 養賢堂)、必要に応じてプリント配布		
評価方法・評価基準	試験 (70%)、レポート (20%)、履修態度 (10%)		
関連科目	農学概論、農林業生産理論、園芸学		
履修要件	農学概論		
備考	特になし		

(新) シラバス 28 ページ

授業名 土壌肥料・植物栄養学 Soil Fertilizer and Plant Nutrition		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	2年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	外側正之・佐藤展之
授業時間	水曜日 2時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	土壌は農林業に利用されるだけでなく、地球環境保全にも欠かせないものである。土壌の概念や、土壌の三層構造や化学的組成などに加え、農耕地の土壌の現状や環境問題など農林業生産に必要な土壌の基礎知識について学ぶ。また、植物を主体とし養分吸収特性及び植物生産の代謝との関連、植物が成長するために必要な養分の機能、その養分の吸収・移動の機構、植物の栄養特性、肥料の種類と特性について学ぶ。近年肥料と環境の問題が取り上げられることが多いため、環境負荷の少ない施肥方法についても考える。		
授業目的・目標	土壌の基礎知識、土壌改良の方法を理解するとともに、植物が成長するために必要な養分の機能、植物の栄養特性、肥料の種類と特性について学ぶ。また、環境に配慮した施肥についても考える。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	植物の養分吸収の研究と肥料養分の吸収機構 (佐藤展之)	
	2	多量要素の生理学的役割 (佐藤展之)	
	3	微量要素の生理学的役割 (佐藤展之)	
	4	野菜、花き、果樹、茶における施肥方法 (佐藤展之)	
	5	有機農業 (佐藤展之)	
	6	養液栽培の肥料 (佐藤展之)	
	7	植物の栄養診断 (佐藤展之)	
	8	環境、農業と肥料 (佐藤展之)	
	9	土壌と農業・土壌構造 (外側正之)	
	10	土壌と物質循環 (外側正之)	
	11	土壌の化学性 (外側正之)	
	12	土壌の物理性 (外側正之)	
	13	農耕地の種類と土壌特性 (外側正之)	
	14	土壌微生物 (外側正之)	
	15	土壌診断の方法と活用 (外側正之)	
キーワード	土壌、三相構造、土性、土壌微生物、土壌診断肥料、微量元素、施肥方法、有機農業、養液栽培		
教科書・参考書	「土づくりと作物生産」「土・肥料のきほん」日本土壌協会編、必要に応じてプリント等を配布する。		
評価方法・評価基準	試験 (70%)、小テスト (20%)、履修態度 (10%)		
関連科目	環境と農林業、農林業生産理論、		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

(旧) 追加

授業名 飼料総論 Feed and Feedstuff		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	2年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	祐森誠司
授業時間	水曜日1時限	教室	講義室12
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	動物が健全に生産活動を営む上で要求する栄養素を提供する物であり、嗜好に見合うとともに経済的に低価格であることが好ましい。また、生産物に成分が反映されるため、動物性食品への安全保障が重要である事を理解するとともに、自給飼料を生産する草地での土地利用の特徴や、草地の維持管理の基礎的な理論、実際の管理技術と生産される牧草の保存、活用について教授する。		
授業目的・目標	各単味飼料の特徴を知った上で、動物が利用するうえで、消化吸収が円滑に進むように加工することや組み合わせる(配合する)ことで養分要求量の充足を図ることなどを理解し、実際に飼料配合計算を行う。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	日本と世界における飼料の流通状況、飼料安全法について	
	2	化学成分と栄養価値について	
	3	濃厚飼料[穀類、食品残さ等]について	
	4	濃厚飼料[糟糠類、油実粕類]について	
	5	濃厚飼料[農産製造粕類・動物質飼料]について	
	6	粗飼料[イネ科牧草、マメ科牧草]について	
	7	粗飼料[乾草の調製、サイレージの調製、野草]について	
	8	簡単な配合設計について	
	9	飼料添加物について	
	10	飼料作物の栽培	
	11	資源活用に基づく持続可能な畜産について	
	12	有機資源となる家畜排せつ物の管理と利用法	
	13	放牧の活用	
	14	自給飼料として注目される稲作について	
15	まとめ		
キーワード	家畜[牛、豚、家禽]、飼料、養分要求量、安全性、消化吸収、飼料作物、草地管理、持続可能、排せつ物の利用と管理、牧養力、自給飼料		
教科書・参考書	動物の飼料 第2版 唐澤 豊他編、文永堂出版(株)		
評価方法・評価基準	試験(70%)、課題(30%)		
関連科目	家畜飼養学、家畜衛生学など、動物生産に関わる科目および、飼料作物関連の科目。		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 飼料総論 Feed and Feedstuff		単位数 2単位	授業の方法 講義	
		履修年次	1年 前期	
受講対象	生産環境経営学部			
授業コード	8910234	教員名	祐森誠司	
授業時間	火曜日3時限	教室	講義室3	
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡			
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp			
授業概要	動物が健全に生産活動を営む上で要求する栄養素を提供する物であり、嗜好に見合うとともに経済的に低価格であることが好ましい。また、生産物に成分が反映されるため、動物性食品への安全保障が重要である事を理解する。			
授業目的・目標	各単味飼料の特徴を知った上で、動物が利用するうえで、消化吸収が円滑に進むように加工することや組み合わせる(配合する)ことで養分要求量の充足を図ることなどを理解し、実際に飼料配合計算を行う。			
授業計画・内容	回数	内容		
	1	日本と世界における飼料の流通状況, 飼料安全法について		
	2	化学成分と栄養価値について		
	3	濃厚飼料[穀類]について		
	4	濃厚飼料[食品残さ等]について		
	5	濃厚飼料[糟糠類]について		
	6	濃厚飼料[油実粕類]について		
	7	濃厚飼料[農産製造粕類・動物質飼料]について		
	8	粗飼料[イネ科牧草]について		
	9	粗飼料[マメ科牧草]について		
	10	粗飼料[乾草の調製]について		
	11	粗飼料[サイレージの調製]について		
	12	粗飼料[野草]について		
	13	簡単な配合設計について		
	14	飼料添加物について		
15	まとめ			
キーワード	家畜[牛、豚、家禽], 飼料、養分要求量、安全性、消化吸収			
教科書・参考書	動物の飼料 第2版 唐澤 豊他編、文永堂出版(株)			
評価方法・評価基準	試験(70%)、課題(30%)			
関連科目	家畜飼養学、家畜衛生学など、動物生産に関わる科目および、飼料作物関連の科目。			
履修要件	特になし			
備考	特になし			

授業名 食品加工実習 Food Processing Practice		単位数 2 単位	授業の方法 講義 実験・実習
		履修年次	3 年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	前田節子、池ヶ谷篤
授業時間	月曜日 3, 4 時限	教室	加工講義室
オフィスアワー	随時受け付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	食品加工技術を用いることで、農畜産物の栄養性や嗜好性、保存性を向上させることが出来る。本科目では、農畜産物の栄養性や嗜好性、保存性を向上させる様々な加工技術、農畜産物の加工法や保存法、包装法、さらに、食品別の規格基準や、健康や栄養に関する食品表示制度について学ぶ。また、農畜産物の原料処理、加工方法、各工程における機械の操作、包装方法、殺菌方法などの食品加工技術および原理を体得すると共に、食品工場における衛生管理、工程管理、製品管理等の基本を学ぶ。		
授業目的・目標	農畜産物の栄養性や嗜好性、保存性を向上させる様々な加工技術と、食品別の規格基準や、健康や栄養に関する食品表示制度について学ぶことができる。加工食品への認識を深めさせ、今後の新食品開発への基礎知識を学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	授業の方法
	1	イントロダクション 食品の保蔵・加工と食生活	講義
	2	農産物の加工について学ぶ。(豆類)	講義
	3	豆類の加工①・・・米麹味噌の仕込みを行う。	
	4	豆類の加工②・・・大豆から木綿豆腐と絹ごし豆腐を製造する。	
	5	食品加工の操作、包装について	講義
	6	農産物の加工について学ぶ。(穀類・イモ類)	講義
	7	穀類の加工①・・・糯米を数種類の餅に加工する。	
	8	穀類の加工①・・・糯米を数種類の餅に加工する。	
	9	食品加工に用いられる新技術、食品添加物と安全性	講義
	10	畜産物の加工について学ぶ。(畜肉類、乳類、卵類)	講義
	11	果実類の加工①・・・柑橘を用いてマーメイドを製造する。	
	12	果実類の加工①・・・柑橘を用いてマーメイドを製造する。	
	13	調味料、嗜好品の加工法について学ぶ。	講義
	14	インスタント食品の歴史、現状について学ぶ。	講義
	15	畜肉類の加工・・・ソーセージを製造する。	
	16	畜肉類の加工・・・ソーセージを製造する。	
	17	穀類の加工③・・・地域の特産品を使用した焼菓子やパンを製造する。	
	18	穀類の加工③・・・地域の特産品を使用した焼菓子やパンを製造する。	
	19	魚肉類の加工・・・さつま揚げ、ちくわを製造する。	
	20	魚肉類の加工・・・さつま揚げ、ちくわを製造する。	
	21	野菜類の加工・・・トマトピューレを製造する。	
	22	野菜類の加工・・・トマトピューレを製造する。	
	23	乳類の加工・・・ヨーグルトの製造	
	24	乳類の加工・・・世界のチーズと日本のチーズの試食	
	25	果実・野菜類の加工・・・オリジナルドレッシングの作成 (パッケージデザイン)	
	26	果実・野菜類の加工・・・オリジナルドレッシングの作成 (パッケージデザイン)	
	27	果実・野菜類の加工・・・オリジナルドレッシングの作成	
	28	果実・野菜類の加工・・・オリジナルドレッシングの作成 プレゼンテーションの準備	
	29	プレゼンテーションの準備	
	30	プレゼンテーション 全体のまとめ	
キーワード	食品加工・6次産業化・商品開発		
教科書・参考書	教科書：なし(プリントを配布) 参考書：三訂 食品加工学 菅原龍幸編 建帛社		
評価方法・評価基準	試験(50%)、レポート(30%)、履修態度(20%)		
関連科目	食品科学・6次産業化実践論		
履修要件	特になし		
備考	人は古来から経験に基づき食品を加工し食してきました。それと同時に固有の食文化も生まれました。この実習を通して先人の知恵や食品加工への熱き思いを感じ取ってください。予定は、材料の都合等により変更になる場合があります。		

授業名 食品加工実習 (英名) Food Processing Practice		単位数 2単位	授業の方法 実験・実習
		履修年次	3年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	前田節子
授業時間	火曜日 3, 4時限	教室	加工講義室
オフィスアワー	随時受け付ける。ただし、事前にメールで連絡すること。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	食品加工技術を用いることで、農畜産物の栄養性や嗜好性、保存性を向上させることが出来る。本科目では、農畜産物の原料処理、加工方法、各工程における機械の操作、包装方法、殺菌方法などの食品加工技術および原理を体得すると共に、食品工場における衛生管理、工程管理、製品管理等の基本を学ぶ。		
授業目的・目標	加工食品への認識を深めさせ、今後の新食品開発への基礎知識を学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	イントロダクション 豆類の加工①・・・米麹味噌の仕込みを行う。	
	2	豆類の加工①・・・米麹味噌の仕込みを行う。	
	3	豆類の加工②・・・大豆から木綿豆腐と絹ごし豆腐を製造する。	
	4	豆類の加工②・・・大豆から木綿豆腐と絹ごし豆腐を製造する。	
	5	穀類の加工①・・・糯米を数種類の餅に加工する。	
	6	穀類の加工①・・・糯米を数種類の餅に加工する。	
	7	豆類の加工③・・・餡と練りきりから季節の和菓子を作る。	
	8	豆類の加工③・・・餡と練りきりから季節の和菓子を作る。	
	9	果実類の加工①・・・柑橘を用いてマーマレードを製造する。	
	10	果実類の加工①・・・柑橘を用いてマーマレードを製造する。	
	11	畜肉類の加工・・・ソーセージを製造する。	
	12	畜肉類の加工・・・ソーセージを製造する。	
	13	イモ類の加工・・・こんにやく芋、こんにやく精粉よりこんにやくを製造する。	
	14	イモ類の加工・・・こんにやく芋、こんにやく精粉よりこんにやくを製造する。	
	15	穀類の加工②・・・小麦粉の特性を学び食パンとバターロールを作	
	16	穀類の加工②・・・小麦粉の特性を学び食パンとバターロールを作	
	17	穀類の加工③・・・地域の特産品を使用した焼菓子を製造する。	
	18	穀類の加工③・・・地域の特産品を使用した焼菓子を製造する。	
	19	魚肉類の加工・・・さつま揚げ、ちくわを製造する。	
	20	魚肉類の加工・・・さつま揚げ、ちくわを製造する。	
	21	野菜類の加工・・・トマトピューレを製造する。	
	22	野菜類の加工・・・トマトピューレを製造する。	
	23	果実・野菜類の加工・・・オリジナルドレッシングの作成 (パッケージデザイン)	
	24	果実・野菜類の加工・・・オリジナルドレッシングの作成 (パッケージデザイン)	
	25	果実・野菜類の加工・・・オリジナルドレッシングの作成	
	26	果実・野菜類の加工・・・オリジナルドレッシングの作成	
	27	乳類の加工・・・ヨーグルトの製造	
	28	乳類の加工・・・世界のチーズと日本のチーズの試食	
	29	プレゼンテーションの準備	
	30	各班によるプレゼンテーション 全体のまとめ	
キーワード	食品加工・6次産業化・商品開発		
教科書・参考書	教科書：なし (プリントを配布) 参考書：三訂 食品加工学 菅原龍幸編 建帛社		
評価方法・評価基準	試験 (50%)、レポート (30%)、履修態度 (20%)		
関連科目	食品加工学・食品化学・6次産業化実践論		
履修要件	特になし		
備考	人は古来から経験に基づき食品を加工し食してきました。それと同時に固有の食文化も生まれました。この実習を通して先人の知恵や食品加工への熱き想いを感じ取ってください。予定は、材料の都合等により変更になる場合があります。		

(新) シラバス 53 ページ

授業名 木材加工実習		単位数 2 単位	授業の方法 講義 実験・実習
Wood-technology and Woodworking		履修年次	3年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	池田潔彦、星川健史
授業時間	月曜日 3, 4 時限	教室	講義室11
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	木材は、構造材料あるいは強度部材として利用するため、木材の物理的性質や力学的性質等を把握することは重要である。本科目では、切削加工から人工乾燥等の製造技術及び品質管理手法や、合板・集成材等の製造・性能特徴に関する基礎知識、木造住宅や木造建築の合理化手法や、耐久性・防耐火性を向上する手法について学ぶとともに、木工作品の製作を行うことで、設計の仕方、作品の製図作成、木材加工の機械や道具の使い方、作成手順、安全作業など木材加工に必要な知識と技術を習得する。		
授業目的・目標	木材製品の製造技術及び品質管理手法及び性能特徴に関する基礎知識、木造住宅や木造建築のプレカット加工や木質パネル化の進展、耐久性等向上手法について学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	授業の方法
	1、2	製材・機械加工（製材機械の変遷、近年の動向、JAS等の規格、大径材）（池田潔彦）	講義
	3、4	木工具の管理（星川健史）	
	5、6	製材・機械加工（プレカット加工機械）、乾燥技術（天然乾燥、葉枯らし処理）（池田潔彦）	講義
	7、8	電動木工機械の管理（星川健史）	
	9、10	乾燥技術（蒸気式乾燥、高周波・減圧乾燥、大断面材の乾燥）（池田潔彦）	講義
	11、12	木工作品の製作（設計）（星川健史）	
	13、14	物理的・強度的性質（非破壊評価手法、国産材、外材の特徴）（池田潔彦）	講義
	15、16	木工作品の製作（材料準備、切断）（星川健史）	
	17、18	物理的・強度的性質（大径材、広葉樹、早生樹）、木質材料（合板製造手法、種類・規格、新たな用途、最近の動向）（池田潔彦）	講義
	19、20	木工作品の製作（部品の加工）（星川健史）	
	21、22	木質材料 集成材・CLT&LVL（製造手法、種類・規格、最近の動向）（池田潔彦）	講義
	23、24	木工作品の製作（部品の加工）（星川健史）	
	25、26	木質材料（木質系ボード）、木材の耐火性向上（難燃処理、熱処理、化学加工）、木材の耐久性向上（防腐処理、塗装、化学加工）（池田潔彦）	講義
27、28	木工作品の製作（組み立て）（星川健史）		
29、30	木工作品の製作（仕上げ・塗装）（星川健史）		
キーワード	製材機械、乾燥、木質材料、物理的性質、力学的性質、耐火性、耐久性		
教科書・参考書	最新木材工業事典（日本木材加工技術協会）、木材の物理、木材の加工（文永堂）、必要に応じてプリント配布		
評価方法・評価基準	試験(40%)、レポート(20%)、完成品の評価(20%)、受講態度(20%)		
関連科目	木材生産システム、木材利用・流通論		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

(旧) 追加

(新) シラバス 54 ページ (追加)

授業名 販売管理実習		単位数	2 単位	授業の方法	講義 実験・実習
Sales Management Practice		履修年次	3年 前期		
受講対象	生産環境経営学部				
授業コード	8910234	教員名	柯麗華、池ヶ谷篤		
授業時間	金曜日3, 4時限	教室	講義室14		
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡				
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp				
授業概要	マーチャンダイジング、ストアオペレーション、販売管理の知識を学びながら、マーケティング戦略に沿って農林畜産物を販売するための方法を学ぶための実習を行う。まず、どのような製品を、いくらで、どこで販売し、どのような宣伝を行うかのマーケティング戦略の手法を理解し、商品計画、価格設定、在庫管理などの商品知識を深める。そして、ストアオペレーション、販売技術、販売管理のノウハウを修得し、顧客情報の収集法と分析、顧客の管理などの手法を身に付ける。				
授業目的・目標	農林畜産物を販売するための経営手法を理解した上で、販売管理のノウハウを修得し、販売の技術を身に付けることを目標とする。				
授業計画・内容	回数	内容			授業の方法
	1	授業ガイダンス			講義
	2	小売業の業態			講義
	3	接客技術			講義
	4	顧客管理			講義
	5	マーケティング1 顧客満足			
	6	マーケティング2 商圏の設定と出店			
	7	マーケティング3 リージョナルプロモーション			
	8	マーケティング4 顧客志向型の売場づくり			
	9	報告会とグループディスカッション1			
	10	マーチャンダイジング1 商品計画、販売計画			
	11	マーチャンダイジング2 価格設定			
	12	マーチャンダイジング3 在庫管理			
	13	マーチャンダイジング4 POSシステム			
	14	報告会とグループディスカッション2			
	15	ストアオペレーション1 スタアオペレーションの基本			
	16	ストアオペレーション2 包装技術の基本			
	17	ストアオペレーション3 ディスプレイの基本			
	18	ストアオペレーション4 作業割当の基本			
	19	報告会とグループディスカッション3			
	20	販売技術1 店舗運営の基本			
	21	販売技術2 販売員のマナー			
	22	販売技術3 計数管理、決算データ			
	23	販売技術4 クレームや返品の対応			
	24	販売技術5 販売員の法令知識			
	25	報告会とグループディスカッション4			
	26	販売管理1 万引き防止の対策			
	27	販売管理2 衛生管理			
	28	販売管理3 店舗施設の保守・管理			
	29	販売管理4 顧客情報の管理・分析			
	30	発表会			
キーワード	マーケティング戦略、店舗管理、顧客情報管理				
教科書・参考書	教科書 坪井晋也ほか『販売管理論入門』学分社、2018年 参考書 石川和幸『図解でわかる販売・物流管理の進め方』日本実業出版社、2017年				
評価方法・評価基準	試験(80%)、履修態度(20%)				
関連科目	マーケティング論				
履修要件	特になし				
備考	日頃から、流通企業の動向に関する情報収集を積極的に行って下さい。 事前学習と事後学習を確実にしておくこと。				

(旧) 追加

授業名 GAP 演習 GAP Seminar		単位数 2 単位	授業の方法 演習
		履修年次	2 年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	杉山泰之、坂口良介、貞弘恵
授業時間	水曜日 4, 5 時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	GAP (Good Agricultural Practice: 農業生産工程管理) とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理などの持続可能性を確保するための生産工程管理の取組である。様々な団体により、農業者が容易に法令を解釈でき、汚染を避ける効果的な措置をとるのに役立つガイドブックである GAP 規範が定められており、J GAP や GLOBAL G. A. P. などの認証制度がある。		
授業目的・目標	GAP の定義や導入されている背景、GAP 規範、GAP 認証制度などの基礎知識や食品安全に関する関連法について学び、GAP の実践方法について演習やフィールドワークを通じて習得する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	GAP の概要 (杉山泰之)	
	2	土壌と作物の栄養管理 (杉山泰之)	
	3	農場における水管理 (杉山泰之)	
	4	作物保護と廃棄物の取扱い (杉山泰之)	
	5	農場内の施設・資材管理 (杉山泰之)	
	6	農産物の安全性と食品衛生と関連法 (杉山泰之)	
	7	労働安全の確保 (杉山泰之)	
	8	農業管理の作業手順づくりと周知方法・社員教育の必要性 (杉山泰之)	
	9	人権保護 (杉山泰之)	
	10	農場経営管理 (杉山泰之)	
	11	リスク評価 (杉山泰之)	
	12	リスクの回避と模擬演習 (杉山泰之)	
	13	モデル農場のリスク調査 (フィールドワーク) (杉山泰之)	
	14	モデル農場のリスク調査 (フィールドワーク) (杉山泰之)	
	15	モデル農場のリスク評価 (グループワーク) (杉山泰之)	
	16	モデル農場のリスク評価 (グループワーク) (杉山泰之)	
	17	リスク評価の発表・検討 (杉山泰之)	
	18	リスク評価の発表・検討 (杉山泰之)	
	19	GAP 認証の取得方法 (杉山泰之)	
	20	GAP 認証の取得方法 (杉山泰之)	
	21	畜産実践編 飼養衛生と環境保全 (貞弘恵)	
	22	畜産実践編 アニマルウェルフェアに対応した飼養管理 (貞弘恵)	
	23	畜産実践編 畜産物生産工程におけるリスク管理 (貞弘恵)	
	24	畜産実践編 生産資材 (動物用医薬品・精液・受精卵・素畜・飼料・敷料) の管理 (貞弘恵)	
	25	畜産実践編 畜産現場における労働安全管理 (貞弘恵)	
	26	栽培実践編 施肥計画の検討 (坂口良介)	
	27	栽培実践編 防除計画の検討 (坂口良介)	
	28	栽培実践編 収穫作業方法の検討 (坂口良介)	
	29	栽培実践編 モデル圃場での改善実習 (坂口良介)	
	30	栽培実践編 モデル圃場での改善実習 (坂口良介)	
キーワード	農場管理、農産物、安全性、リスク、ハザード、J-GAP、G-GAP		
教科書・参考書	日本GAP協会「農場管理を“見える化”し、食の安全を確保する 実務者のための日本GAP協会 J GAP 導入ガイドブック」、日本生産者GAP協会「日本GAP規範ver 1.1」(幸書房)		
評価方法・評価基準	レポート (50%)、履修態度 (50%)		
関連科目	労務管理、大型機械実習Ⅰ・Ⅱ、栽培学、園芸学、園芸学各論、家畜飼養学、家畜福祉学、飼料総論、畜産法規、家畜衛生学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 GAP演習 (GAP Seminar)		単位数 2単位	授業の方法 演習
		履修年次	2年 前期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	杉山泰之、坂口良介、貞弘恵
授業時間	火曜日 3, 4時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	GAP (Good Agricultural Practice : 農業生産工程管理) とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理などの持続可能性を確保するための生産工程管理の取組である。様々な団体により、農業者が容易に法令を解釈でき、汚染を避ける効果的な措置をとるのに役立つガイドブックであるGAP規範が定められており、JGAPやGLOBALG.A.P.などの認証制度がある。		
授業目的・目標	GAPの定義や導入されている背景、GAP規範、GAP認証制度などの基礎知識について学び、GAPの実践方法について演習やフィールドワークを通じて習得する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	GAPの概要 (杉山泰之)	
	2	土壌と作物の栄養管理 (杉山泰之)	
	3	農場における水管理 (杉山泰之)	
	4	作物保護と廃棄物の取扱い (杉山泰之)	
	5	農場内の施設・資材管理 (杉山泰之)	
	6	農産物の安全性と食品衛生 (杉山泰之)	
	7	労働安全の確保 (杉山泰之)	
	8	農業管理の作業手順づくりと周知方法・社員教育の必要性 (杉山泰之)	
	9	人権保護(杉山泰之)	
	10	農場経営管理(杉山泰之)	
	11	リスク評価 (杉山泰之)	
	12	リスクの回避と模擬演習 (杉山泰之)	
	13	モデル農場のリスク調査 (フィールドワーク) (杉山泰之)	
	14	モデル農場のリスク調査 (フィールドワーク) (杉山泰之)	
	15	モデル農場のリスク評価 (グループワーク) (杉山泰之)	
	16	モデル農場のリスク評価 (グループワーク) (杉山泰之)	
	17	リスク評価の発表・検討 (杉山泰之)	
	18	リスク評価の発表・検討 (杉山泰之)	
	19	GAP認証の取得方法 (杉山泰之)	
	20	GAP認証の取得方法 (杉山泰之)	
	21	(畜産実践編) 飼養衛生と環境保全 (貞弘恵)	
	22	(畜産実践編) アニマルウェルフェアに対応した飼養管理 (貞弘恵)	
	23	(畜産実践編) 畜産物生産工程におけるリスク管理 (貞弘恵)	
	24	(畜産実践編) 生産資材 (動物用医薬品・精液・受精卵・素畜・飼料・敷料) の管理 (貞弘恵)	
	25	(畜産実践編) 畜産現場における労働安全管理 (貞弘恵)	
	26	(栽培実践編) 施肥計画の検討 (坂口良介)	
	27	(栽培実践編) 防除計画の検討 (坂口良介)	
	28	(栽培実践編) 収穫作業方法の検討 (坂口良介)	
	29	(栽培実践編) モデル圃場での改善実習 (坂口良介)	
	30	(栽培実践編) モデル圃場での改善実習 (坂口良介)	
キーワード	農場管理、農産物、安全性、リスク、ハザード、J-GAP、G-GAP		
教科書・参考書	日本GAP協会「農場管理を“見える化”し、食の安全を確保する 実務者のための日本GAP協会 JGAP導入ガイドブック」、日本生産者GAP協会「日本GAP規範ver 1.1」(幸書房)		
評価方法・評価基準	レポート (50%)、履修態度 (50%)		
関連科目	家畜飼養学、家畜福祉学、飼料総論、自給飼料、畜産法規、家畜衛生学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類

新	旧
<p>(25 ページ)</p> <p>4 教育課程の編成の考え方及び特色 (略)</p> <p><u>カリキュラム・ポリシー</u></p> <p>①<u>ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担うために必要な知識や、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせる。</u></p> <p>②<u>栽培、林業、畜産の各分野に対応した3コース制とし、2年次から栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、自らが選択したコースの専門的な知識・技術に関する科目を履修する。各分野に関連・共通する知識・技術については、2年次以降も共通で履修することとし、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせる。</u></p> <p>③<u>少人数教育や実習・演習を重視した教育課程により、栽培、林業、畜産の各分野の経営における高度な実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力を養成するとともに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化などに関する知識を修得させる。</u></p> <p>④<u>成績評価は、学生の基礎的・基本的な知識に加え、技能習熟度や主体的に学習に取り組む態度、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の学習成果を評価基準として行</u></p>	<p>(23 ページ)</p> <p>4 教育課程の編成の考え方及び特色 (略)</p> <p><u>カリキュラム・ポリシー</u></p> <p>①<u>一般教養やコミュニケーション・スキルなどを学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>②<u>企業的な経営管理や経営戦略、加工・販売の手法や流通の仕組みなどを学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>③<u>農林業に関する基礎的な知識及び農林業生産に関する基礎的な理論や技術を学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>④<u>農林業の経営や生産に活用される先端技術を学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>⑤<u>農山村の自然環境や景観の保全に配慮した農林業生産を学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>⑥<u>農山村の伝統・文化の継承や地域社会について学ぶとともに、農山村の地域資源を農林業経営に活用する手法を学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>⑦<u>農林業経営における課題の解決に向けた研究の手法などを学ぶ教育課程を編成する。</u></p> <p>各CP (カリキュラム・ポリシー、以下同) は各DP (ディプロマ・ポリシー、以下同) に対応しており、各DPを達成するために構成されている。具体的には、DP①はCP①、DP②はCP②と④、DP③はCP③と④、DP④はCP⑤と⑥、DP⑤はCP⑥、DP⑥はCP⑦に対応しており、カリキュラム・ポリシーに基づき配当された科目を履修することで、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力・素養を身に付けることができる。CPと教育課程とDPの対応について表にまとめた「カリキュラム・マップ」を資料21-1に示す。</p> <p>なお、本学は1学部1学科のため、このカリ</p>

新	旧
<p>う。また、学生が主体的かつ充実した学習効果を<u>挙げる</u>ことができるようGPA制度を活用する。<u>ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の経営体の中核を担うために必要な知識や、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせ</u>て編成する。</p> <p><u>なお、本学は1学部1学科のため、このカリキュラム・ポリシーは本学全体のカリキュラム・ポリシーとする。「カリキュラム・マップ」を資料21-1に示す。</u></p> <p>(26 ページ)</p> <p>(2) 基礎科目</p> <p>(略)</p> <p><u>一般教養科目群とコミュニケーション・スキル科目群の2科目群から構成する。</u></p> <p>(略)</p> <p>また、法の基本を理解し、法学の基本概念を習得する「<u>法学概論</u>」、現代の課題を歴史的な観点から考える「<u>歴史学概論</u>」、<u>自然科学的な思考と文学的想像力との結びつき</u>について考察する「<u>文学概論</u>」、コミュニティについて学ぶ「<u>社会学概論</u>」、政治的なものの見方や基礎的な概念を身につける「<u>政治学概論</u>」、統計学の基本的な知識やデータ解析手法を学ぶ「<u>統計学</u>」を選択科目として配置する。<u>より深い教養をつける「文明論</u>」、<u>日本文化について学ぶ「茶道</u>」、「<u>華道</u>」を、<u>ステップアップのための自由科目として配置する。</u></p> <p>②コミュニケーション・スキルの科目群</p> <p>(略)</p> <p>コミュニケーション能力や表現力の向上を</p>	<p>キュラム・ポリシーは本学全体のカリキュラム・ポリシーとする。</p> <p>(24 ページ)</p> <p>(2) 基礎科目</p> <p>(略)</p> <p><u>「一般教養」科目群と「コミュニケーション・スキル」科目群の2科目群から構成する。</u></p> <p>①一般教養の科目群</p> <p>(略)</p> <p>また、法の基本を理解し、法学の基本概念を習得する「<u>法学概論</u>」、現代の課題を歴史的な観点から考える「<u>歴史学概論</u>」、「<u>文明論</u>」、<u>自然科学的な思考と文学的想像力との結びつき</u>について考察する「<u>文学概論</u>」、日本文化について学ぶ「<u>茶道</u>」、「<u>華道</u>」、コミュニティについて学ぶ「<u>社会学概論</u>」、政治的なものの見方や基礎的な概念を身につける「<u>政治学概論</u>」、統計学の基本的な知識やデータ解析手法を学ぶ「<u>統計学</u>」を選択科目として配置する。</p> <p>(追加)</p> <p>②コミュニケーション・スキルの科目群</p> <p>(略)</p> <p>また、英語の「<u>聞く</u>」、「<u>話す</u>」、「<u>読む</u>」、「<u>書</u></p>

新	旧
<p>目的とした「コミュニケーション論」を必修科目として配置する。また、英語の「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能を高める「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、それに加えディスカッション能力を養う「英語Ⅲ」を選択科目とする。また、プレゼンテーション能力を養う「英語Ⅳ」を自由科目として配置し、学生が自分の能力に合わせて選択できるようにする。</p>	<p>く」の4技能を高める「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」技能に加えディスカッション能力を養う「英語Ⅲ」、プレゼンテーション能力を養う「英語Ⅳ」を選択科目として配置し、学生が自分の能力に合わせて選択できるようにする。</p>
(略)	(略)
<p>(26 ページ)</p>	<p>(24 ページ)</p>
<p>(3) 職業専門科目</p>	<p>(3) 職業専門科目</p>
<p>栽培・林業・畜産各分野の農林業生産現場の状況を的確に把握するための知識・技術や農林業生産に活用される先端技術に関する知識や、農林業経営体の大規模化や経営の多角化等に対応していくための経営管理能力、農林業経営に活用される先端技術や加工・流通・販売などに関する知識を習得するための授業科目を配置する。農林業に関する基礎的知識を学ぶ科目を農林業基礎の科目へ、企業的な経営管理や経営戦略について学ぶ科目を経営管理の科目に配置する。また、農林業生産に関する理論や技術を学ぶ科目を生産理論及び生産技術の科目へ、加工・販売の手法や流通の仕組みなどを学ぶ科目を加工・流通・販売の科目に配置する。職業専門科目では、<u>農林業基礎の科目及び生産理論の共通科目は、全学生が共通で学ぶが、経営管理、生産理論、生産技術の科目は、栽培コース、林業コース、畜産コースの3コースに分かれて、加工・流通関連科目は栽培コース・畜産コース共同と、林業コースに分かれて学ぶ。</u></p>	<p>農林業生産現場の状況を的確に把握するための農林業生産に関する基礎的な知識・技術や農林業生産に活用される先端技術に関する知識や、農林業経営体の大規模化や経営の多角化等に対応していくための経営管理能力、農林業経営に活用される先端技術や加工・流通・販売などに関する知識を習得するための授業科目を配置する。農林業に関する基礎的知識を学ぶ科目を農林業基礎の科目群へ、企業的な経営管理や経営戦略について学ぶ科目を経営管理の科目群に配置する。また、農林業生産に関する基礎的な理論や技術を学ぶ科目を生産理論及び生産技術の科目群へ、加工・販売の手法や流通の仕組みなどを学ぶ科目を加工・流通・販売の科目群に配置する。職業専門科目では、<u>農林業基礎及び経営管理の科目群は、全学生が共通で学ぶが、生産理論、生産技術、加工・流通・販売の科目群は、栽培コース、林業コース、畜産コースの3コースに分かれて学ぶ。</u></p>
<p>①経営管理の科目群</p> <p>経営管理の科目群は、企業的な経営管理や経営戦略について学ぶ科目群である。16科目を配置し、栽培・林業・畜産各分野の農林業経営を</p>	<p>①農林業基礎の科目群</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>農林業の発展や倫理的な課題について考え</p>

新	旧
<p>行うための経営管理能力を体系的に学ぶ科目構成とする。<u>3年次まで経営管理の科目群を共通で学び、4年次の「経営実習Ⅰ」、「経営実習Ⅱ」ではコース別に行う。</u></p> <p>農林業経営の基礎理論や経営管理の基礎理論について学ぶ「<u>農林業経営学</u>」、経営戦略に関する基礎理論や戦略策定に有効な分析手法について学ぶ「<u>経営戦略</u>」、マーケティングの基礎理論を学ぶ「<u>マーケティング論</u>」、企業の財務諸表の読み方や経営分析の手法について学ぶ「<u>財務会計</u>」、企業の利益管理や経営戦略と管理会計の関連について学ぶ「<u>管理会計</u>」、労働者の雇用の実務に必要な知識を学ぶ「<u>労務管理</u>」、<u>人的資源管理について学ぶ「人材マネジメント</u>」、栽培、林業、畜産の各分野の経営体において、生産現場における経営戦略について学ぶ<u>臨地実務実習「経営実習Ⅰ・Ⅱ」</u>を必修科目として配置する。</p> <p>また、<u>経営管理の科目群に関する学びを深める自由科目として、フードシステムの観点から現代の食料をめぐる実態と変動を理解する「フードシステム論</u>」、<u>経営管理や経営組織の基礎理論について学ぶ「経営管理論</u>」、<u>経営組織の理論の基礎知識や農業協同組合の理念や組織、事業展開等について学ぶ「農林業の経営組織論</u>」、<u>知的財産に係る法律について学ぶ「知的財産権</u>」、<u>農業や食品関連分野での起業について学ぶ「農と食の起業論</u>」、<u>経営管理の実践力を高める「簿記基礎</u>」、「<u>簿記応用</u>」を配置する。</p> <p>②加工・流通・販売の科目群</p> <p><u>加工販売の手法や流通の仕組み、栽培・林業・畜産各分野の経営に活用される先端技術を学ぶ科目群であり、9科目を配置する。6次産業化や販売管理を学ぶ科目は共通で学ぶ。食品加工・流通関連科目は栽培コースと畜産コースが、木材の加工・流通関連科目は林業コースが学ぶ。</u></p>	<p>る「<u>技術者倫理</u>」を必修科目として配置する。これらの3科目では、<u>自然環境の保全</u>について取り上げる。</p> <p>また、農林業の歴史の変遷を学ぶ「<u>農林業史</u>」、<u>農業・食料関連政策や森林・林業政策</u>について学ぶ「<u>農林業政策</u>」、<u>県内や県外、海外の農林業経営体等の現状を学ぶ「県内農林業事情</u>」、「<u>県外農林業事情</u>」、「<u>海外農林業事情</u>」、生命現象を分子レベルで考察するために必要な知識を修得する「<u>分子生物学</u>」、農林業における気象災害とその対策について学ぶ「<u>農業気象学</u>」、生命科学の基本を学ぶ「<u>生命科学</u>」、野生鳥獣対策の現状と課題などについて学ぶ「<u>野生鳥獣管理・利用論</u>」を選択科目として配置する。</p> <p>(略)</p> <p>さらに、農林業についての学びを深めるにあたっては理数科目の基礎知識が不可欠であるため、「<u>農林業のための基礎数学</u>」、「<u>農林業のための生物学</u>」、「<u>農林業のための化学</u>」、「<u>農林業のための物理学</u>」、「<u>農林業のための地学</u>」を自由科目として配置する。</p> <p>(25 ページ)</p> <p>②生産理論の科目群</p> <p>生産理論の科目群は、<u>農林業生産</u>に関する基礎的な理論、農山村の自然環境や景観の保全に配慮した農林業生産、農林業生産に活用される先端技術を学ぶ科目群である。</p> <p>(略)</p> <p>コースは、栽培コース、林業コース、畜産コースの3コースを設け、このうち1コースを選択し、各コースそれぞれの<u>農林業分野</u>での実践力を修得させるために深く関係する科目をコース必修とする。</p>

新	旧
<p>ア 共通</p> <p>6次産業化の方向性や可能性について学ぶ「6次産業化実践論」、販売管理の基礎理論や技術、POSシステムといった経営に活用される先端技術の知識と活用法について学ぶ「販売管理実習」を必修科目として配置する。</p> <p>イ 栽培コース・畜産コース</p> <p><u>農畜産物の栄養特性や嗜好性、保存性を向上させる加工技術、豆類や野菜、果樹、乳製品、畜肉類などの知識と技術を学ぶ「食品加工実習」、消費者に安全・安心な食品を安定的に届けるための流通システムについて学ぶ「食品流通論」をコース必修として配置する。</u></p> <p><u>食品の加工流通の知識をさらに深めるための自由科目として、食品成分や化学変化・貯蔵・衛生管理について学ぶ「食品科学」、食品の機能性や健康について学ぶ「農と食の健康論」、園芸作物の品質保持技術・貯蔵方法・加工に関わる知識を学ぶ「収穫後生理学」を配置する。</u></p> <p>ウ 林業コース</p> <p>木材の様々な利用方法や流通・原木市場、IoTやICTを活用した木材流通について学ぶ「木材利用・流通論」、<u>木材加工の基礎理論と木工作品の製作を行う「木材加工実習」</u>をコース必修として配置する。</p> <p>(28 ページ)</p> <p>③農林業基礎の科目群</p> <p>(略)</p> <p>農林業の発展や倫理的な課題について考える「技術者倫理」を必修科目として配置する。これらの3科目では、<u>農山村の自然環境の保全</u>についても取り上げる。</p> <p>また、農業・食料関連政策や森林・林業政策</p>	<p>ア 共通</p> <p><u>コース選択の参考とする導入的な科目として、「栽培学」、「植物生理生態学」、「樹木・組織学」、「畜産概論」を選択科目として配置する。</u>なお、「栽培学」、「樹木・組織学」、「畜産概論」の授業の中で、<u>自然環境の保全</u>について取り上げる。また、<u>農林業の生産や経営に関連する先端技術</u>について学ぶ「<u>農林業のための先端技術</u>」を必修科目として配置する。</p> <p>イ 栽培コース</p> <p>栽培コースの生産理論科目群として、<u>10科目</u>を配置する。栽培技術を学ぶ上で、<u>植物栄養や病害虫、栽培体系、環境保全型農業の知識</u>は不可欠である。このため、<u>植物の特性や植物生産の代謝、養分機能、栄養特性と肥料</u>について学ぶ「<u>肥料・植物栄養学</u>」、<u>病害虫の種類や特長</u>について学ぶ「<u>植物病理学</u>」及び「<u>応用昆虫学</u>」、<u>環境に配慮した農業</u>を学ぶ「<u>環境保全型農業論</u>」をコース必修として配置する。また、栽培体系及び先端技術を学ぶ科目として、<u>水稻や茶の栽培体系や精密農業</u>について学ぶ「<u>作物学</u>」、<u>野菜や花き、果樹の栽培体系や栽培施設の環境制御</u>について総合的に学ぶ「<u>園芸学</u>」を配置し、<u>いずれかを選択する</u>。これらの2科目は栽培に関する先端技術を学ぶ科目である。さらに知識を深める科目として、<u>土壌診断や土づくり</u>について学ぶ「<u>土壌学</u>」、<u>野菜栽培の基礎知識</u>を学ぶ「<u>野菜園芸学</u>」、<u>果樹栽培の基礎知識</u>を学ぶ「<u>果樹園芸学</u>」、<u>花き栽培の基礎知識</u>を学ぶ「<u>花き園芸学</u>」を選択科目として配置する。なお、<u>これらの10科目の授業の中で、自然環境の保全</u>について取り上げる。</p> <p><u>また、植物の遺伝の仕組みや育種技術</u>について学ぶ「<u>植物遺伝育種学概論</u>」を選択科目として配置する。</p> <p>ウ 林業コース</p>

新	旧
<p>について学ぶ「<u>農林業政策</u>」、<u>県内の農林業経営体等の現状を学ぶ</u>「<u>県内農林業事情</u>」、<u>生命現象を分子レベルで考察するために必要な知識を修得する</u>「<u>分子生物学</u>」、<u>農林業における気象災害とその対策について学ぶ</u>「<u>農業気象学</u>」、<u>生命科学の基本を学ぶ</u>「<u>生命科学</u>」、<u>野生鳥獣対策の現状と課題などについて学ぶ</u>「<u>野生鳥獣管理・利用論</u>」を選択科目として配置する。</p> <p><u>農林業の歴史の変遷を学ぶ</u>「<u>農林業史</u>」、<u>県外、海外の農林業経営体等の現状と課題を学ぶ</u>「<u>県外農林業事情</u>」、「<u>海外農林業事情</u>」を、<u>ステップアップのための自由科目</u>として配置し、さらに、<u>農林業についての学びを深めるにあたっては理数科目の基礎知識が不可欠であるため</u>、「<u>農林業のための基礎数学</u>」、「<u>農林業のための生物学</u>」、「<u>農林業のための化学</u>」、「<u>農林業のための物理学</u>」、「<u>農林業のための地学</u>」を<u>リメディアルのための自由科目</u>として配置する。</p> <p>(29 ページ)</p> <p>④生産理論の科目群</p> <p>生産理論の科目群は、<u>栽培・林業・畜産各分野の生産に関する基礎的な理論</u>、<u>農山村の自然環境や景観の保全に配慮した農林業生産</u>、<u>農林業生産に活用される先端技術を学ぶ科目群</u>である。</p> <p>(略)</p> <p>コースは、栽培コース、林業コース、畜産コースの3コースを設け、このうち1コースを選択し、各コースそれぞれの<u>分野</u>での実践力を修得させるために深く関係する科目をコース必修とする。</p> <p>ア 共通</p> <p><u>栽培・畜産・林業の3分野について学び</u>、<u>コース選択の参考とする導入的な科目</u>の「<u>農林業生産理論</u>」、<u>農林業の生産や経営に関連する先</u></p>	<p>林業コースの生産理論科目群として<u>6科目</u>を配置する。林業技術を学ぶ上で、森林調査や造林、治山、収穫技術の知識が不可欠である。このため、森林政策の歴史や関連法、森林調査の基礎、森林情報システムについて学ぶ「<u>森林計画・政策論</u>」、<u>林業機械を用いた木材生産や作業システムについて学ぶ</u>「<u>木材生産システム</u>」をコース必修として配置する。<u>これら2科目は、林業における先端技術について学ぶ科目</u>である。</p> <p>また、森林づくりの目的・方法、施工技術、森林景観について学ぶ「<u>造林学</u>」、<u>治山・砂防や林業土木</u>、<u>森林・植生がもつ環境保全や景観形成の機能について学ぶ</u>「<u>森林土木学</u>」、<u>木質バイオマスについて学ぶ</u>「<u>木質科学概論</u>」<u>森林計画制度や森林保護の視点を備えた持続的</u><u>林業経営や森林認証制度について学ぶ</u>「<u>森林マネジメント</u>」をコース必修として配置する。</p> <p>なお、「<u>森林計画・政策論</u>」、「<u>造林学</u>」、「<u>森林マネジメント</u>」では、<u>授業のなかで自然環境保全について取り上げる</u>。さらに、「<u>造林学</u>」及び「<u>森林土木学</u>」では<u>森林景観の保全について取り上げる</u>。</p> <p>エ 畜産コース</p> <p>(略)</p> <p>「<u>家畜衛生学</u>」、<u>環境に配慮した畜産について学ぶ</u>「<u>畜産環境学</u>」をコース必修として配置する。なお、「<u>家畜飼養学</u>」の授業の中で畜産分野での<u>先端技術を</u>、「<u>畜産環境学</u>」の中で<u>自然環境の保全について取り上げる</u>。</p> <p>また、畜産分野では家畜人工授精師が重要な資格となっているため、本資格を取得するために必要となる「<u>畜産法規</u>」や「<u>人工授精論</u>」を<u>選択科目として配置する</u>。更に、<u>草地の特徴や管理方法について学ぶ</u>「<u>自給飼料</u>」や、<u>アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理が求めら</u></p>

新	旧
<p><u>端技術について学ぶ「農林業のための先端技術」、農林業と自然環境の保全について体系的に学ぶ「環境保全型農林業論」の3科目を共通の必修科目として配置する。</u></p> <p>イ 栽培コース</p> <p>栽培コースの生産理論科目群として、<u>7科目を配置する。栽培技術を学ぶ上で、植物栄養や病害虫、栽培体系の知識は不可欠である。このため、土づくりや植物の特性や植物生産の代謝、養分機能、栄養特性と肥料について学ぶ「土壌肥料・植物栄養学」、水稻や茶の栽培体系や精密農業について学ぶ「作物学」、野菜や花き、果樹の栽培体系や栽培施設の環境制御、栽培に関する先端技術を併せて総合的に学ぶ「園芸学」、病害虫の種類や特長について学ぶ「植物病理学」及び「応用昆虫学」をコース必修として配置する。さらに知識を深める自由科目として、野菜や花き、果樹の詳細な栽培体系や栽培に関する先端技術をより深く学ぶ「園芸学各論」、植物の遺伝の仕組みや育種技術について学ぶ「植物遺伝育種学概論」を配置する。なお、これらの7科目の授業の中で、栽培分野における環境の保全についても取り上げる。</u></p> <p>ウ 林業コース</p> <p>林業コースの生産理論科目群として<u>5科目を配置する。林業技術を学ぶ上で、森林調査や造林、治山、収穫技術の知識が不可欠である。このため、森林政策の歴史や関連法、森林調査の基礎、森林情報システムについて学ぶ「森林計画・政策論」、林業機械を用いた木材生産や作業システムについて学ぶ「木材生産システム」をコース必修として配置する。</u></p> <p>また、森林づくりの目的・方法、施工技術、森林景観について学ぶ「造林学」、治山・砂防や林業土木、森林・植生がもつ環境保全や景観形成の機能について学ぶ「森林土木学」、<u>木質</u></p>	<p><u>れるようになってきているため、「家畜福祉学」を選択科目として配置する。</u></p> <p>③経営管理の科目群</p> <p>経営管理の科目群は、企業的な経営管理や経営戦略について学ぶ科目群である。<u>17科目を配置し、農林業経営を行うための経営管理能力を体系的に学ぶ科目構成とする。</u></p> <p>(追加)</p> <p>農林業経営の基礎理論や経営管理の基礎理論について学ぶ「農林業経営学」、経営戦略に関する基礎理論や戦略策定に有効な分析手法について学ぶ「経営戦略」、マーケティングの基礎理論を学ぶ「マーケティング論」、企業の財務諸表の読み方や経営分析の手法について学ぶ「財務会計」、企業の利益管理や経営戦略と管理会計の関連について学ぶ「管理会計」、労働者の雇用の実務に必要な知識を学ぶ「労務管理」、農林業の経営について学ぶ臨地実務実習である「経営実習Ⅰ・Ⅱ」を必修科目として配置する。</p> <p><u>また、フードシステムの観点から現代の食料をめぐる実態と変動を理解する「フードシステム論」、農林業経営を取り巻く法令について学ぶ「法と農業経営」、経営管理や経営組織の基礎理論について学ぶ「経営管理論」、経営組織の理論の基礎知識や農業協同組合の理念や組織、事業展開等について学ぶ「農林業の経営組織論」、人的資源管理について学ぶ「人材マネジメント」、知的財産に係る法律について学ぶ「知的財産権」、農業や食品関連分野での起業について学ぶ「農と食の起業論」を選択科目として配置する。さらに、経営管理の科目群に関する学びを深めるにあたっては簿記の知識が</u></p>

新	旧
<p>バイオマスの特徴と実際について学ぶ「木質科学概論」をコース必修として配置する。</p> <p>なお、「森林計画・政策論」、「造林学」では、<u>林業分野における環境保全について、「森林計画政策論」、「木材生産システム」では先端技術について、「造林学」及び「森林土木学」では森林景観の保全についても取り上げる。</u></p> <p>エ 畜産コース (略)</p> <p>「家畜衛生学」をコース必修として配置する。なお、「家畜飼養学」の授業の中で畜産分野における<u>先端技術についても取り上げる。</u></p> <p>また、畜産分野では家畜人工授精師が重要な資格となっているため、本資格を取得するために必要となる「畜産法規」や「人工授精論」を自由科目として配置する。</p> <p>⑤生産技術の科目群</p> <p>生産技術の科目群は、<u>栽培・畜産・林業の各分野における基礎的な技術や先端技術、環境の保全に配慮した生産について学ぶ科目群であり、15科目を配置する。</u></p> <p>ア 共通</p> <p>共通科目として4科目を配置する。農林業生産の全般的な技術や先端技術を広く学ぶ「総合実習」、食品安全や環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理など<u>生産工程管理について学ぶ「GAP演習」、トラクター等の大型機械の操作方法や安全使用について学ぶ「大型機械実習Ⅰ」を必修科目として配置する。また、農業機械士の資格取得を目指す「大型農業機械実習Ⅱ」を自由科目として配置する。</u></p> <p>イ 栽培コース</p> <p>基礎的な栽培技術を学ぶ「圃場実習(栽培)」、</p>	<p>不可欠であるため、「簿記基礎」、「簿記応用」を自由科目として配置する。</p> <p>④加工・流通・販売の科目群</p> <p>加工・流通・販売の科目群は、加工販売の手法や流通の仕組み、<u>農林業経営に活用される先端技術を学ぶ科目群であり、12科目を配置し、生産理論と同様に、3コースに分かれて学ぶ。</u></p> <p>ア 栽培コース</p> <p><u>販売管理の基礎理論やPOSシステムといった経営に活用される先端技術の知識を学ぶ「販売管理論」と、販売技術やPOSシステムの活用法について学ぶ「販売実習」をコース必修として配置する。また、食品成分や化学変化・貯蔵・衛生管理について学ぶ「食品科学」、農畜産物の栄養特性や嗜好性、保存性を向上させる加工技術を学ぶ「食品加工学」、豆類や野菜、果樹、乳製品、畜肉類などの加工を学ぶ「食品加工実習」、消費者に安全・安心な食品を安定的に届けるための流通システムについて学ぶ「食品流通論」、食品の機能性や健康について学ぶ「農と食の健康論」、園芸作物の品質保持技術・貯蔵方法・加工に関わる知識を学ぶ「収穫後生理学」、6次産業化の方向性や可能性について学ぶ「6次産業化実践論」を選択科目として配置する。</u></p> <p>イ 林業コース</p> <p>木材の様々な利用方法や流通・原木市場、IoTやICTを活用した木材流通について学ぶ「木材利用・流通論」、<u>木材加工の基礎理論を学ぶ「木材加工学」、木工作品の製作を行う「木材加工実習」をコース必修として配置する。</u></p> <p>ウ 畜産コース</p> <p>販売管理の基礎理論やPOSシステムとい</p>

新	旧
<p>生産現場のマネジメントの基礎を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅰ（栽培）」、応用を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅱ（栽培）」、<u>栽培分野の経営体で生産技術を学ぶ「企業実習」</u>をコース必修として配置する。なお、「生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ（栽培）」では、先端技術の導入についても学ぶ。</p> <p>ウ 林業コース</p> <p>基礎的な<u>森林の管理技術</u>を学ぶ「演習林実習」、林業分野生産現場のマネジメントの基礎を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅰ（林業）」、応用を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅱ（林業）」、<u>林業分野の経営体で生産技術を学ぶ「企業実習」</u>をコース必修として配置する。なお、「生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ（林業）」では、先端技術の導入について学ぶ。</p> <p>また、林業機械の操作法や高性能林業機械についても学ぶ「<u>林業機械実習</u>」を自由科目として配置する。</p> <p>エ 畜産コース</p> <p>基礎的な<u>家畜の飼養管理技術</u>を学ぶ「圃場実習（畜産）」、<u>畜産分野の生産現場のマネジメント</u>の基礎を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅰ（畜産）」、応用を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅱ（畜産）」、<u>畜産分野の経営体で生産技術を学ぶ「企業実習」</u>をコース必修として配置する。なお、「生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ（畜産）」では、先端技術の導入についても学ぶ。</p> <p style="text-align: center;">(削除)</p> <p>(4) 展開科目</p> <p>農山村の地域社会における将来のリーダーに求められる農山村の伝統・文化の継承や、伝統・文化を育む農山村の地域社会に関する知識を身に付けるとともに、農山村の伝統・文化などの地域資源を活用することにより、<u>栽培・畜</u></p>	<p>った経営に活用される先端技術の知識を学ぶ「販売管理論」と、販売技術やPOSシステムの活用法について学ぶ「販売実習」をコース必修として配置する。また、食品成分や化学変化・貯蔵・衛生管理について学ぶ「食品科学」、農畜産物の栄養特性や嗜好性、保存性を向上させる加工技術を学ぶ「食品加工学」、豆類や野菜、果樹、乳製品、畜肉類などの加工を学ぶ「食品加工実習」、消費者に安全・安心な食品を安定的に届けるための流通システムについて学ぶ「食品流通論」、食品の機能性や健康について学ぶ「農と食の健康論」、6次産業化の方向性や可能性について学ぶ「6次産業化実践論」を選択科目として配置する。</p> <p>(25 ページ)</p> <p>⑤生産技術の科目群</p> <p>生産技術の科目群は、<u>農林業生産に関する基礎的な技術や先端技術、農山村の自然環境の保全に配慮した生産を学ぶ科目群</u>であり、15科目を配置し、共通科目と生産理論と同様の3コースに分かれて学ぶ科目からなる。</p> <p>ア 共通</p> <p>共通科目として4科目を配置する。農林業生産の全般的な技術や先端技術を広く学ぶ「総合実習」、食品安全や環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理など<u>農業の生産工程管理</u>について学ぶ「GAP演習」、トラクター等の大型機械の操作方法や安全使用について学ぶ「大型機械実習Ⅰ」、<u>農林業経営体で生産技術を学修する「企業実習」</u>を必修科目として配置する。</p> <p>イ 栽培コース</p> <p>基礎的な栽培技術を学ぶ「圃場実習（栽培）」、生産現場のマネジメントの基礎を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅰ（栽培）」、応用を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅱ（栽培）」</p> <p>(略)</p>

新	旧
<p><u>産・林業の各分野の経営に新たな事業展開を生み出すための創造力を備えた人材を養成するための10科目を配置し、全コースが共通で学ぶ。</u></p> <p>①農山村の伝統・文化及び地域社会の科目群</p> <p>農山村の歴史や文化、多面的機能などについて学ぶ「農山村田園地域公共学」、日本や世界の食文化について学ぶ「食文化論」、農と食の営みの本質について考える「農と食の哲学」、農村に暮らす人々の生業と歴史文化との関係から農村景域について学ぶ「農村景域論」、生きた文化財とも呼ばれる在来作物の過去・現在・未来について考える「在来作物学」、<u>農山村の生活や地域社会の特徴について学ぶ「農村社会論」、農山村において地域住民と交流し、地域や地域住民が抱える課題を発見し、その解決策を考える「農山村デザイン演習」、グリーン・ツーリズムの現状・課題・展開について考える「グリーン・ツーリズム論」、農と医、農と福の連携について学ぶ「医福食農連携論」、地域が抱える課題を地域資源を活かしながらビジネス的な手法により解決する手法などについて学ぶ「コミュニティビジネス論」を必修科目として配置する。</u></p> <p>(5) 総合科目</p> <p>①総合的思考能力の科目群</p> <p>修得した専門知識と技術を駆使して栽培・畜産・林業の各分野の経営における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を習得するため、<u>栽培・畜産・林業の各分野の経営における課題の解決に向けた研究の手法などを学ぶ3科目を配置し、全コースが共通で学ぶ。</u></p> <p><u>栽培・畜産・林業の各分野の経営体の生産部門の分析を行う「経営分析演習Ⅰ」、経営全般について分析する「経営分析演習Ⅱ」、課題と</u></p>	<p>をコース必修として配置する。なお、「生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ（栽培）」では、先端技術の導入について学ぶ。また、<u>大型機械の知識や技能を学修する「大型機械実習Ⅱ」を選択科目として配置する。</u></p> <p>ウ 林業コース</p> <p>基礎的な栽培技術を学ぶ「演習林実習」、<u>生産現場のマネジメントの基礎を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅰ（林業）」、応用を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅱ（林業）」をコース必修として配置する。</u>なお、「生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ（林業）」では、先端技術の導入について学ぶ。また、<u>林業機械の操作法や高性能林業機械について学ぶ「林業機械実習」をコース必修として配置する。</u></p> <p>エ 畜産コース</p> <p>基礎的な飼養管理技術を学ぶ「圃場実習（畜産）」、<u>生産現場のマネジメントの基礎を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅰ（畜産）」、応用を学ぶ「生産マネジメント実習Ⅱ（畜産）」をコース必修として配置する。</u>なお、「生産マネジメント実習Ⅰ・Ⅱ（畜産）」では、先端技術の導入について学ぶ。<u>また、大型機械の知識や技能を学修する「大型機械実習Ⅱ」を選択科目として配置する。</u></p> <p>(4) 展開科目</p> <p>農山村の地域社会における将来のリーダーに求められる農山村の伝統・文化の継承や、伝統・文化を育む農山村の地域社会に関する知識を身に付けるとともに、<u>農山村の伝統・文化などの地域資源を活用することにより、農林業経営に新たな事業展開を生み出すための創造力を備えた農林業経営者を養成するための科目を配置する。</u></p>

新	旧
<p>解決策を考える「プロジェクト研究」を必修科目として配置する。</p>	<p>①<u>農山村の伝統・文化の継承の科目群</u> 農山村の歴史や文化、多面的機能などについて学ぶ「農山村田園地域公共学」、日本や世界の食文化について学ぶ「食文化論」、農と食の営みの本質について考える「農と食の哲学」、農村に暮らす人々の生業と歴史文化との関係から農村景域について学ぶ「農村景域論」、生きた文化財とも呼ばれる在来作物の過去・現在・未来について考える「在来作物学」を必修科目として配置する。</p> <p>②<u>農山村の地域社会の科目群</u> 農山村の生活や地域社会の特徴について学ぶ「農村社会論」、農山村において地域住民と交流し、地域や地域住民が抱える課題を発見し、その解決策を考える「農山村デザイン演習」、グリーン・ツーリズムの現状・課題・展開について考える「グリーン・ツーリズム論」、農と医、農と福の連携について学ぶ「医福食農連携論」、地域が抱える課題を地域資源を活かしながらビジネス的な手法により解決する手法などについて学ぶ「コミュニティビジネス論」を必修科目として配置する。</p> <p>(5) <u>総合科目</u></p> <p>修得した専門知識と技術を駆使して<u>農林業経営</u>における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を習得するため、<u>農林業経営</u>における課題の解決に向けた研究の手法などを学ぶ科目を配置する。</p> <p><u>農林業経営体の生産部門の分析</u>を行う「経営分析演習Ⅰ」、<u>農林業経営体の経営全般</u>について分析する「経営分析演習Ⅱ」、<u>農林業経営体を分析し、課題と解決策</u>を考える「プロジェクト研究」を必修科目として配置する。</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類

新	旧
<p>(36 ページ)</p> <p>6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 (略)</p> <p>④履修モデル</p> <p><u>栽培コース・林業コース・畜産コースのコース別の履修モデルは、次のとおりである</u> (資料23)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修モデル：<u>栽培コース</u> ・履修モデル：<u>林業コース</u> ・履修モデル：<u>畜産コース</u> 	<p>(34 ページ)</p> <p>6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 (略)</p> <p>④履修モデル</p> <p><u>履修モデルを提示し、卒業後の進路希望に即した履修指導を行う。設定した履修モデルは、次のとおりである</u> (資料23)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修モデル：<u>農業経営・水稲(経営体後継者・幹部・起業者)</u> ・履修モデル：<u>農業経営・茶(経営体後継者・幹部・起業者)</u> ・履修モデル：<u>農業経営・施設野菜(経営体後継者・幹部・起業者)</u> ・農業経営・<u>露地野菜(経営体後継者・幹部・起業者)</u> ・農業経営・<u>花き(経営体後継者・幹部・起業者)</u> ・履修モデル：<u>農業経営・果樹(経営体後継者・幹部・起業者)</u> ・履修モデル：<u>林業経営(経営体後継者・幹部・起業者、森林組合職員)</u> ・履修モデル：<u>畜産経営(経営体後継者・幹部・起業者)</u> ・履修モデル：<u>農業指導者(公務員、農業協同組合職員)</u> ・履修モデル：<u>林業指導者(公務員)</u> ・履修モデル：<u>畜産指導者(公務員、農業協同組合職員)</u>

5. <教育課程の体系性が不十分>

農林業経営者を育成するのであれば、経営者に不可欠な知識として「経営管理論」、
「人材マネジメント」を必修に改めること。

(対応)

本学として養成する人材像は、経営者も含む「栽培、林業、畜産の各分野において経営体の中核を担う人材」である。

経営体において中核を担う人材は、経営組織や経営戦略など経営管理の基礎理論や、経営資源である人材の管理の知識は不可欠であり、今後経営体の大規模化に対応するためにも、人材のマネジメント能力は重要である。

改めて教育内容を検討し、これらの知識について学ぶ「経営管理論」や「人材マネジメント」は、本学のすべての学生が学ぶべき科目と考え、補正申請では選択科目であったが、必修科目へ履修条件を改める。

(新旧対照表) 教育課程の概要

新					旧						
(2ページ)					(2ページ)						
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		
			必修	選択	自由				必修	選択	自由
②職業専門科目	簿記基礎	1前			1	②職業専門科目	簿記基礎	1前			1
	簿記応用	1後			1		簿記応用	1後			1
	フードシステム論	1後			2		フードシステム論	1後		2	
	経営管理論	1後	2				法と農業経営	2前		2	
	農林業経営学	1前	2				経営管理論	2前		2	
	経営戦略	2前	2				農林業経営学	1後	2		
	マーケティング論	2後	2				経営戦略	2前	2		
	財務会計	2前	2				マーケティング論	2後	2		
	管理会計	3前	1				財務会計	2前	2		
	農林業の経営組織論	3前			2		管理会計	3前	1		
	労務管理	2後	2				農林業の経営組織論	3前		2	
	人材マネジメント	3後	2				労務管理	2後	2		
	知的財産権	3後			2		人材マネジメント	3前		2	
	農と食の起業論	3後			2		知的財産権	3後		2	
経営実習 I	4前	5			農と食の起業論	3後		2			
経営実習 II	4後	5			経営実習 I	4前	5				
					経営実習 II	4後	5				

6. <教育課程の編成方針が不明確>

農林業経営体の中核を担う人材を育成するのであれば、「6次産業化実践論」、「販売実習」を必修とすることも考えられるが、それらの科目を選択として配置する趣旨やその代替として学ぶ科目をどのように配置しているのか明らかにすること。

(対応)

本学として養成する人材像は、「栽培、林業、畜産各分野の経営体の中核を担う人材」である。

経営体の中核を担う人材として、第1次産業、第2次産業、第3次産業が連携し、地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す6次産業化の知識は不可欠であるため、「6次産業化実践論」を選択科目から必修科目へ履修条件を改める。

また、審査意見4を踏まえて内容を検討し、理論と技術を一体的に学ぶ方が、教育効果が高いため、講義科目である「販売管理論」と実習科目である「販売実習」を「販売管理実習」に統合した。改めて教育内容を検討し、経営体の中核を担う人材として、マーケティング戦略に沿って農林畜産物を販売するための販売管理の知識や技術は不可欠であるため、「販売管理実習」を必修科目とする。

(新旧対照表) 教育課程の概要

新					旧						
(2ページ)					(2ページ)						
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		
			必修	選択	自由				必修	選択	自由
②職業専門科目	食品科学	2前			2	②職業専門科目	食品科学	2前			2
	収穫後生理学	3前			2		食品加工学	2後			2
	木材利用・流通論	2後		2			収穫後生理学	3前			2
	食品流通論	3前		2			木材利用・流通論	2前			2
	農と食の健康論	2後			2		木材加工学	2後			2
	6次産業化実践論	3後	2				食品流通論	3前			2
	食品加工実習	3前		2			販売管理論	3前			2
	木材加工実習	3前		2			農と食の健康論	2後			2
	販売管理実習	3前	2				6次産業化実践論	3後			2
						食品加工実習	3前			2	
						木材加工実習	3前			2	
						販売実習	3後			2	

7. <科目の配置が不十分>

選択科目を林業コースと畜産コースの学生のみが履修する場合、少数の学生での開講となるため、例えば「環境保全型農業論」、「森林マネジメント」、「畜産環境学」を科目としてまとめて開講するなど、学修効果の観点から少数の学生で開講されることを改善すること。

(対応)

環境を学ぶ応用的な科目として、栽培コースでは「環境保全型農業論」、林業コースでは「森林マネジメント」、畜産コースでは「畜産環境学」を、それぞれのコースでコース必修として配置していた。

将来の農山村の地域社会のリーダーの育成という目的に照らして、改めて教育課程を見直したところ、総合的農作物管理や、農畜産における廃棄物処理、生物の多様性、森林の公益的機能など農林業全体の環境について学ぶ方が、教育効果が高く、また、少人数での開講となる懸念が解消されるため、「環境保全型農業論」、「森林マネジメント」、「畜産環境学」を「環境保全型農林業論」へ統合し、コースに関係なく全学生が学ぶ必修科目とする。

(新旧対照表) 教育課程の概要

新				旧			
(2ページ)				(2ページ)			
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				
			必修	選択	自由		
② 職業専門科目 (生産理論)	農林業生産理論	1後	2				
	環境保全型農林業論	3前	2				
	農林業のための先端技術	3前	2				
	作物学	2前		2			
	園芸学	2後		2			
	園芸学各論	3前			2		
② 職業専門科目 (栽培理論)	植物病理学	2前		2			
	応用昆虫学	2後		2			
	土壌肥料・植物栄養学	2前		2			
	植物遺伝育種学概論	2後			2		
	栽培学	1後		2			
	植物生理生態学	1後		2			
② 職業専門科目 (生産理論)	作物学	2前		2			
	園芸学	2前		2			
	植物病理学	2前		2			
	応用昆虫学	2後		2			
	肥料・植物栄養学	2前		2			
	野菜園芸学	2後		2			
	果樹園芸学	2後		2			
	花き園芸学	2後		2			
	植物遺伝育種学概論	2後			2		
	土壌学	2後		2			
	環境保全型農業論	3前			2		

新					旧				
(3 ページ)					(3 ページ)				
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数						
			必修	選択	自由				
②職業専門科目	(生産理論) (林産理論)	森林計画・政策論	2前	2					
		造林学	2前	2					
		森林土木学	2前	2					
		木質科学概論	2後	2					
		木材生産システム	2後	2					
	(生産理論) (畜産理論)	飼料総論	2前	2					
		家畜生理解剖学	2前	2					
		家畜育種繁殖学	2後	2					
		家畜飼養学	2前	2					
		畜産法規	3前		2				
	人工授精論	2後		2					
	家畜衛生学	2後	2						
②職業専門科目	(生産理論) (林産理論)	森林計画・政策論	2前	2					
		造林学	2前	2					
		樹木・組織学	1後	2					
		森林土木学	2前	2					
		木質科学概論	2後	2					
		木材生産システム	2後	2					
		森林マネジメント	3前	2					
		(生産理論) (畜産理論)	畜産概論	1後	2				
			飼料総論	2前	2				
			家畜生理解剖学	2前	2				
	家畜育種繁殖学		2後	2					
	家畜飼養学		2前	2					
		畜産法規	2前	2					
		人工授精論	2前	2					
		自給飼料	2後	2					
	家畜衛生学	2後	2						
	家畜福祉学	2後	2						
	畜産環境学	3前	2						

8. <臨地実務実習の成績評価が不明確>

成績評価において、「単位認定における成績評価の項目」と「成績評価及び単位認定」があるが、それぞれの内容が異なっているため確認して適切に改めること。

(対応)

御指摘を踏まえて、改めて内容を確認したところ、「設置の趣旨を記載した書類」の「11 実習の具体的計画」の「(1) 学内施設及び件試験研究機関等での実習」及び「(2) 隣地実務実習」では、成績評価の項目が異なるため、本来は分けて記載すべきところを、「(4) 成績評価体制及び単位認定方法」でまとめて記載しており、不明確でわかりにくく、また、「(2) 隣地実務実習」の各隣地実習の「単位認定における成績評価の項目」の内容と一致していなかった。

また、「(2) 隣地実務実習」の「⑬成績評価体制及び単位認定」の内容は、臨地実務実習指導者が記載する臨地実務実習の取組状況の評価の内容であり、標題が不適切であった。

このため、成績評価の方法について「(1) 学内施設及び件試験研究機関等での実習」と「(2) 隣地実務実習」のそれぞれの評価項目を明らかにし、それぞれの成績評価と単位認定の内容について記載するように「設置の趣旨を記載した書類」の内容をあたためる。あわせて、「シラバス」及び「臨地実務実習要綱(案)」の記載内容を改める。

(新旧対照表) シラバス

新	旧
(45ページ) 経営実習 I 評価方法・評価基準 <u>臨地実務実習指導者による取組状況評価 (25%)、自己点検表 (10%)、報告書 (40%)、報告会 (25%)</u>	(54ページ) 経営実習 I 評価方法・評価基準 <u>作業日誌 (20%)、レポート (60%)、プレゼンテーション (20%)</u>
(46ページ) 経営実習 II 評価方法・評価基準 <u>臨地実務実習指導者による取組状況評価 (25%)、自己点検表 (10%)、報告書 (40%)、報告会 (25%)</u>	(55ページ) 経営実習 II 評価方法・評価基準 <u>作業日誌 (20%)、レポート (60%)、プレゼンテーション (20%)</u>
(69ページ) 企業実習 評価方法・評価基準 <u>臨地実務実習指導者による取組状況評価 (25%)、自己点検表 (10%)、報告書 (40%)、報告会 (25%)</u>	(80ページ) 企業実習 評価方法・評価基準 <u>作業日誌 (20%)、レポート (60%)、プレゼンテーション (20%)</u>

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (52ページ)

新	旧
<p>11 実習の具体的計画</p> <p>(1) 学内施設及び県試験研究機関等での実習 (略)</p> <p>⑦成績評価及び単位認定 成績評価及び単位認定は、学生の報告資料 (レポート)や学生の取組姿勢を総合的に判 断して行う。</p> <p>⑧緊急連絡体制 実習中の事故など不足の事態に備え、緊急連 絡先や緊急時の対応について定める対応マ ニュアルを整備し、教員だけでなく実習を受 講する学生にも周知の徹底を図る。 (略)</p> <p>(2) 臨地実務実習(資料 29 臨地実務実習 要綱) (略)</p> <p>⑤臨地実務実習の種類と目的 ア 「企業実習」(3年次後期 必修10単 位) (略) (エ) 評価 単位認定における成績評価の項目は、 次の通りである。 a. <u>臨地実務実習指導者による取組状 況の評価</u> b. <u>学生が作成する自己点検表</u> c. <u>学生が作成する報告書</u> d. <u>臨地実務実習後の報告会</u> (略)</p> <p>イ 経営実習 I (4年次前期 必修5単位) (略) (エ) 評価 単位認定における成績評価の項目は、 次の通りである。</p>	<p>11 実習の具体的計画</p> <p>(1) 学内施設及び県試験研究機関等での実習 (略) <u>(追加)</u></p> <p>(略)</p> <p>(2) 臨地実務実習(資料 29 臨地実務実習 要綱) (略)</p> <p>⑤臨地実務実習の種類と目的 ア 「企業実習」(3年次後期 必修10単 位) (略) (エ) 評価 単位認定における成績評価の項目 は、次の通りである。 a. <u>臨地実務実習指導者による成績 評価</u> b. <u>臨地実務実習中の作業記録・自 己点検表</u> c. <u>臨地実務実習後の報告会での報 告内容</u> d. <u>事後報告書</u> (略)</p> <p>イ 経営実習 I (4年次前期 必修5単位) (略) (エ) 評価 単位認定における成績評価の項目は、 次の通りである。</p>

新	旧
<p>a. <u>臨地実務実習指導者による取組状況の評価</u></p> <p>b. <u>学生が作成する自己点検表</u></p> <p>c. <u>学生が作成する報告書</u></p> <p>d. <u>臨地実務実習後の報告会</u></p> <p>ウ 経営実習Ⅱ（4年次後期 必修5単位） （略） （エ）評価 単位認定における成績評価の項目は、次の通りである。</p> <p>a. <u>臨地実務実習指導者による取組状況の評価</u></p> <p>b. <u>学生が作成する自己点検表</u></p> <p>c. <u>学生が作成する報告書</u></p> <p>d. <u>臨地実務実習後の報告会</u></p> <p>（略）</p> <p>⑬成績評価及び単位認定 <u>全日程の80%以上の出席で単位認定の資格を得る。成績評価は、①臨地実務実習指導者による取組状況の評価、②学生が作成する作業記録・自己点検表、③学生が作成する報告書、④臨地実務実習後の報告会での報告内容をもとに、総合的に判断して行う。</u></p>	<p>a. <u>臨地実務実習指導者による成績評価</u></p> <p>b. <u>臨地実務実習中の作業記録・自己点検表</u></p> <p>c. <u>臨地実務実習後の報告会での報告内容</u></p> <p>d. <u>事後報告書</u></p> <p>ウ 経営実習Ⅱ（4年次後期 必修5単位） （略） （エ）評価 単位認定における成績評価の項目は、次の通りである。</p> <p>a. <u>臨地実務実習指導者による成績評価</u></p> <p>b. <u>臨地実務実習中の作業記録・自己点検表</u></p> <p>c. <u>臨地実務実習後の報告会での報告内容</u></p> <p>d. <u>事後報告書</u></p> <p>（略）</p> <p>⑬成績評価体制及び単位認定 臨地実務実習評価表は、臨地実務実習の科目別に3種類（企業実習、経営実習Ⅰ、経営実習Ⅱ）に分かれており、それぞれの臨地実務実習において職業人としての適性、実施内容、生産管理、作業管理、販売管理、財務管理の各項目ならびに総合コメント等について記載するようになっている。</p> <p>各実習において、全日程の80%以上の出席で単位認定の資格を得るものとする。</p> <p>a. 態度・適性は、社会人及び専門職業人としての一般的事項の評価である。</p> <p>b. 臨地実務実習の実施内容について、学内で学んだ専門的な知識と技能を農林業現場で活用・応用できるか評価する。</p>

新	旧												
<p style="text-align: center;">(略)</p> <p style="text-align: center;">(削除)</p>	<p>上記のいずれも、各項目を5段階で評価する。到達度の各段階は、次の通りである。</p> <p style="text-align: center;">＜評価＞</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">評価</th> <th style="text-align: center;">内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">A : 優秀</td> <td>わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B : 良好</td> <td>時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">C : 普通</td> <td>助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">D : やや劣る</td> <td>多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">E : 劣る</td> <td>常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>(4) 成績評価体制及び単位認定方法 成績評価及び単位認定は、学生の報告資料(レポート)や発表資料、学生の取組姿勢を総合的に判断して行う。</p> <p>(5) 緊急連絡体制 実習中の事故など不足の事態に備え、緊急連絡先や緊急時の対応について定める対応マニュアルを整備し、教員だけでなく実習を受講する学生にも周知の徹底を図る。</p>	評価	内容	A : 優秀	わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	B : 良好	時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	C : 普通	助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	D : やや劣る	多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	E : 劣る	常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。
評価	内容												
A : 優秀	わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。												
B : 良好	時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。												
C : 普通	助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。												
D : やや劣る	多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。												
E : 劣る	常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。												

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 資料29 臨地実務実習要綱 (案)

新	旧
<p>(3ページ)</p> <p>3. 臨地実務実習の種類と内容</p>	<p>(5ページ)</p> <p>3. 臨地実務実習の種類と内容</p>

新	旧
<p>1) 「企業実習」(3年次後期 必修 10 単位) (略)</p> <p>(4) 評価項目</p> <p><u>①臨地実務実習指導者による取組状況の評価</u></p> <p><u>②学生が作成する自己点検表</u></p> <p><u>③学生が作成する報告書</u></p> <p><u>④臨地実務実習後の報告会での報告内容</u></p> <p>2) 経営実習 I (4年次前期 必修・5 単位) (略)</p> <p>(4) 評価項目</p> <p><u>①臨地実務実習指導者による取組状況の評価</u></p> <p><u>②学生が作成する自己点検表</u></p> <p><u>③学生が作成する報告書</u></p> <p><u>④臨地実務実習後の報告会での報告内容</u></p> <p>3) 経営実習 II (4年次後期 5 単位) (略)</p> <p>(4) 評価項目</p> <p><u>①臨地実務実習指導者による取組状況の評価</u></p> <p><u>②学生が作成する自己点検表</u></p> <p><u>③学生が作成する報告書</u></p> <p><u>④臨地実務実習後の報告会での報告内容</u></p> <p><u>(削除)</u></p>	<p>1) 「企業実習」(3年次後期 必修 10 単位) (略)</p> <p>(4) 評価項目</p> <p><u>①実習受入先の農林業経営体を理解するための事前調査</u></p> <p><u>②農林業経営体の生産現場における生産技術の学習</u></p> <p><u>③学習内容の記録・報告</u></p> <p><u>④事後の報告書</u></p> <p>2) 経営実習 I (4年次前期 必修・5 単位) (略)</p> <p>(4) 評価項目</p> <p><u>①実習受入先の農林業経営体を理解するための事前調査</u></p> <p><u>②生産現場におけるマネジメントの学習</u></p> <p><u>③学習内容の記録・報告</u></p> <p><u>④事後報告</u></p> <p>3) 経営実習 II (4年次後期 5 単位) (略)</p> <p>(4) 評価項目</p> <p>① 実習受入先の農林業経営体を理解するための事前調査</p> <p>② 生産現場におけるマネジメントの学習</p> <p>③ 学習内容の記録・報告</p> <p>④ 事後報告</p> <p>4) 評価方法</p> <p>全日程の 80%以上の出席で単位認定の資格を得るものとする。評価基準を下表に示す。「企業実習」では、「職業人としての適性」、「生産管理」について、「経営実習 I」では、「職業人としての適性」、「生産管理」、「作</p>

新	旧										
<p>4) 評価事項</p> <p><u>臨地実務実習で身に付ける技能を明らかにするため、臨地実務実習ごとの評価事項を下記に示す。</u></p>	<p>業管理」について、「経営実習Ⅱ」では、「職業人としての適性」、「生産管理」、「作業管理」、「財務管理」について評価基準を設けて、評価を行う。</p> <p>5) 評価事項</p> <p>各臨地実務実習ごとの評価事項を下記に示す。</p>										
<p>(21 ページ)</p> <p>V (全員) 臨地実務実習の評価 (略)</p> <p><u>2. 臨地実務実習指導者による実習の取組状況評価</u></p> <p>(1) 臨地実務実習指導者が毎日、出欠の状況を確認し、臨地実務実習出欠表(様式第7号)へ押印する。最終日には、確認の上、署名捺印する。</p> <p>(2) 臨地実務実習指導者は、臨地実務実習評価表(様式第8～10号)を作成し、本学へ提出する。その各項目ならびに総合コメントは、臨地実務実習状況の要点、今後の学修において望まれる点について記載する。</p> <p>(3) 臨地実務指導者は、臨地実務実習評価表に署名・捺印し、記載年月日を記入する。</p> <p><u>3. 臨地実務実習評価表の記入方法</u></p> <p>臨地実務実習指導者は、実習の取組状況</p>	<p>(23 ページ)</p> <p>V (全員) 臨地実務実習の評価 (略)</p> <p><u>2. 評価項目</u></p> <table border="1" data-bbox="879 1272 1394 1711"> <thead> <tr> <th>作成者</th> <th>提出書類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臨地実務実習指導者</td> <td>評価表(様式8号、様式9号、様式10号)</td> </tr> <tr> <td>学生</td> <td>自己点検表(様式12号、様式13号、様式14号) 報告書(様式15号)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>方法</u></p> <p>臨地実務実習評価表は、臨地実務実習の科</p>	作成者	提出書類	臨地実務実習指導者	評価表(様式8号、様式9号、様式10号)	学生	自己点検表(様式12号、様式13号、様式14号) 報告書(様式15号)				
作成者	提出書類										
臨地実務実習指導者	評価表(様式8号、様式9号、様式10号)										
学生	自己点検表(様式12号、様式13号、様式14号) 報告書(様式15号)										

新	旧																								
<p>について、<u>臨地実務実習評価表を用いて評価する。評価表は、職業人としての適性、生産管理、作業管理、販売管理、財務管理の各項目ならびに総合コメント等について記載するようになっており、下表の評価基準のとおり5段階で評価する。</u></p>	<p>目別に3種類（企業実習、経営実習Ⅰ、経営実習Ⅱ）に分かれており、それぞれの臨地実務実習において職業人としての適性、実施内容、生産管理、作業管理、販売管理、財務管理の各項目ならびに総合コメント等について記載するようになっている。</p> <p>1) <u>態度・適性は、社会人及び専門職業人としての一般的事項の評価である。</u></p> <p>2) <u>臨地実務実習の実施内容について、学内で学んだ専門的な知識と技能を農林業現場で活用・応用できるか評価する。</u></p> <p><u>上記のいずれも、各項目を5段階で評価する。到達度の各段階は、次の通りである。</u></p>																								
<p><評価基準></p> <table border="1" data-bbox="256 1137 715 2011"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A : 優秀</td> <td>わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>B : 良好</td> <td>時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>C : 普通</td> <td>助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>D : やや劣る</td> <td>多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>E : 劣る</td> <td>常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。</td> </tr> </tbody> </table>	評価	内容	A : 優秀	わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	B : 良好	時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	C : 普通	助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	D : やや劣る	多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	E : 劣る	常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。	<p><評価></p> <table border="1" data-bbox="831 1126 1294 1998"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A : 優秀</td> <td>わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>B : 良好</td> <td>時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>C : 普通</td> <td>助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>D : やや劣る</td> <td>多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。</td> </tr> <tr> <td>E : 劣る</td> <td>常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。</td> </tr> </tbody> </table>	評価	内容	A : 優秀	わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	B : 良好	時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	C : 普通	助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	D : やや劣る	多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。	E : 劣る	常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。
評価	内容																								
A : 優秀	わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。																								
B : 良好	時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。																								
C : 普通	助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。																								
D : やや劣る	多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。																								
E : 劣る	常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。																								
評価	内容																								
A : 優秀	わずかな助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。																								
B : 良好	時として助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。																								
C : 普通	助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。																								
D : やや劣る	多くの助言・指導を必要とするが、当該項目を実施できる。																								
E : 劣る	常に助言・指導を行うが、当該項目を実施できない。																								

新		旧	
<p>4. <u>成績評価及び単位認定</u></p> <p><u>全日程の 80%以上の出席で単位認定の資格を得る。実習の成績評価は、①臨地実務実習指導者による取組状況の評価、②学生が作成する自己点検表、③学生が作成する報告書、④臨地実務実習後の報告会での内容を、下表に基づいて総合的に判断して行う。</u></p>		<p>3) 出欠の状況は、臨地実務実習指導者が毎日、臨地実務実習出欠表（様式第 7号）へ押印する。最終日には、確認の上、署名捺印する。</p> <p>4) 臨地実務実習指導者は、臨地実務実習評価表（様式第8～10号）を作成し、本学へ提出する。その各項目ならびに総合コメントは、臨地実務実習状況の要点、今後の学修において望まれる点について記載する。</p> <p>5) 臨地実務実習評価表には、署名・捺印し、記載年月日を記入する。</p>	
		<p>3. <u>単位認定</u></p> <p><u>各実習において、全日程の 80%以上の出席で単位認定の資格を得るものとする。</u></p>	
<u>評価項目</u>	<u>様式等</u>	<u>(作成者)</u>	<u>比率</u>
①評価表	(様式 8号、様式 9号、様式 10号)	(臨地実務実習指導者)	25%
②自己点検表	(様式 12号、様式 13号、様式 14号)	(学生)	10%
③報告書	(様式 15号)	(学生)	40%
④報告会	(パワーポイントを使った発表)	=	25%

9. <臨地実務実習の具体的な内容が不明確>

臨地実務実習において実務に従事するに当たり、例えば、「生産管理・林業」の実習においては「小型の林業機械」を使用することが示されているが、実習に臨む上で前提となる知識やあらかじめ取得しておくべき資格や免許などの有無が不明確であるため、実習先で必要となる知識等を説明しつつ、各実習の具体的な内容を明らかにすること。

(対応)

御指摘を踏まえ、臨地実務実習に望む上で前提となる知識・技術や、資格・免許について明確にし、実習の具体的な内容を明らかにする。

(詳細説明)

本学の臨地実務実習として「企業実習」、「経営実習Ⅰ」、「経営実習Ⅱ」を配置している。各臨地実務実習に望む上で前提となる知識や技術、資格や免許等は次のとおりである。

<前提となる知識や技術、資格や免許等>

①「企業実習」

「企業実習」の受講に当たっては、事前に、すべての学生が「総合実習」で行う刈払機作業安全衛生教育を修了し、また、「大型機械実習Ⅰ」において、大型特殊免許（農耕車限定）を取得する。

また、栽培コースでは、「圃場実習（栽培）」において作物の特徴や作型に関する知識や栽培技術を、「生産マネジメント実習Ⅰ（栽培）」において生産管理の基礎知識・技術を学ぶ。林業コースでは、「演習林実習」において森林・林業生産の基礎知識・技術を、「生産マネジメント実習Ⅰ（林業）」においてチェーンソーの基本操作と整備方法、収穫技術、森林の保護管理技術を学ぶ。畜産コースでは、「圃場実習（畜産）」において、家畜の特徴や生理や習性に関する知識、家畜の「生産マネジメント実習Ⅰ（畜産）」において、家畜飼養管理の基礎知識・技術を習得する。

<必要な知識・技術や資格・免許等>

コース	必要な生産知識・技術	資格・免許等
栽培コース	<ul style="list-style-type: none">作物の特徴や作型に関する知識、栽培技術生産管理の基礎知識・技術	<ul style="list-style-type: none">刈払機作業安全衛生教育修了大型特殊免許（農耕車限定）
林業コース	<ul style="list-style-type: none">森林・林業生産の基礎知識・技術チェーンソーの基本操作と整備方法、収穫技術森林の保護管理技術	<ul style="list-style-type: none">刈払機作業安全衛生教育修了大型特殊免許（農耕車限定）
畜産コース	<ul style="list-style-type: none">家畜の特徴や生理や習性に関する知識家畜飼養管理の基礎知識・技術	<ul style="list-style-type: none">刈払機作業安全衛生教育修了大型特殊免許（農耕車限定）

② 「経営実習Ⅰ」

「経営実習Ⅰ」の受講に当たっては、事前に、「財務会計」及び「管理会計」において経営分析の知識、「労務管理」において労務管理の知識、「GAP演習」において生産工程管理の知識・技術を学ぶ。

また、栽培コースは、「生産マネジメント実習Ⅱ（栽培）」において実践的な栽培管理の知識・技術、「生産マネジメント実習Ⅱ（林業）」、「生産マネジメント実習Ⅱ（畜産）」、において、下表の知識や技術を取得することを想定している。

<必要な知識・技術等>

コース	必要な知識・技術
栽培コース	<ul style="list-style-type: none">・ 経営分析の知識・ 労務管理の知識・ 生産工程管理の知識・技術・ 実践的な栽培管理の知識・技術
林業コース	<ul style="list-style-type: none">・ 経営分析の知識・ 労務管理の知識・ 生産工程管理の知識・技術・ 実践的な森林・林業生産の知識・技術
畜産コース	<ul style="list-style-type: none">・ 経営分析の知識・ 労務管理の知識・ 生産工程管理の知識・技術・ 実践的な家畜飼養管理の知識・技術

③ 「経営実習Ⅱ」

「経営実習Ⅱ」の受講にあたっては、事前に、「経営管理論」において経営管理の知識、「経営戦略」において経営戦略の知識、「マーケティング」においてマーケティングの知識、「財務会計」及び「管理会計」において経営分析の知識、「労務管理」において労務管理の知識、「人材マネジメント」において人的資源管理の知識、「GAP演習」において生産工程管理の知識・技術、「販売管理実習」において販売管理の知識・技術を学ぶ。

また、栽培コース及び畜産コースは、「食品加工実習」において食品加工の知識・技術を、林業コースは「木材加工実習」において木材加工の知識技術を習得する。

＜必要な知識・技術等＞

コース	必要な知識・技術
栽培コース 畜産コース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営管理・経営戦略・マーケティングの知識 ・ 経営分析の知識 ・ 労務管理の知識 ・ 人的資源管理の知識 ・ 生産工程管理の知識・技術 ・ 販売管理の知識・技術 ・ 食品加工の知識・技術
林業コース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営管理・経営戦略・マーケティングの知識 ・ 経営分析の知識 ・ 労務管理の知識 ・ 人的資源管理の知識 ・ 生産工程管理の知識・技術 ・ 販売管理の知識・技術 ・ 木材加工の知識・技術

以上について、当初申請や補正申請では具体的な知識や技術、資格や免許についての記載が不十分であったため、授業科目の概要及びシラバス、設置の趣旨を記載した書類の内容が具体的となるように記載内容を改める。

(新旧対照表) 授業科目の概要

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合実習	<p>(16ページ)</p> <p>(概要)</p> <p>水稲、茶、野菜、果樹、花卉、畜産、林業の生産管理に関わる知識や技術を学ぶため、実習や生産現場の見学を通じ、<u>農作業安全</u>や農業現場に即した農業の実学の基本を学ぶ。また、これらの実習等を通じて、農林業を総合的に理解する能力と態度を養う。また、畜産関連施設や、ICTやIoTを活用したスマート農業の視察を通じ、農林業の先端技術の現状について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(⑨ 太田智/4回) 果樹栽培: 果樹の樹種別の枝管理と着果管理、接木・挿し木</p> <p>(⑩ 相蘇春菜/2回) 林業: 木材の樹種同定</p> <p>(⑪ 大石竜/2回) 野菜栽培(施設): 環境制御システムの利用法</p> <p>(⑫ 貞弘恵/4回) 畜産: 酪農施設、乳業メーカー見学</p> <p>(⑬ 中根健/2回) 作物栽培: 田植え</p> <p>(⑭ 中根健、⑮ 増田壽彦、⑯ 坂口良介/4回) (共同) <u>農作業安全: 危険箇所・危険作業の確認、刈払機・運搬車の講習</u></p>	オムニバス方式(一部)	総合実習	<p>(16ページ)</p> <p>(概要)</p> <p>水稲、茶、野菜、果樹、花卉、畜産、林業の生産管理に関わる知識や技術を学ぶため、実習や生産現場の見学を通じ、農業現場に即した農業の実学の基本を学ぶ。また、これらの実習等を通じて、農林業を総合的に理解する能力と態度を養う。また、畜産関連施設や、ICTやIoTを活用したスマート農業の視察を通じ、農林業の先端技術の現状について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(14 太田智/4回) 果樹栽培: 果樹の樹種別の枝管理と着果管理、接木・挿し木</p> <p>(15 相蘇春菜/2回) 林業: 木材の樹種同定</p> <p>(17 大石竜/4回) 野菜栽培(施設): 環境制御システムの利用法</p> <p>(18 貞弘恵/4回) 畜産: 酪農施設、乳業メーカー見学</p> <p>(28 中根健/4回) 作物栽培: 田植え</p> <p>(29 中野敬之/4回) 茶栽培: 摘採、製茶</p> <p>(31 五十右薫/4回) 花き栽培: 播種、鉢上げ、収穫・調整</p>	オムニバス方式

新			旧		
授業科目の名称	講義等の内容	備考	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	(24) 中野敬之 / 4 回) 茶栽培：摘採、製茶 (26) 五十右薫 / 4 回) 花き栽培：播種、鉢上げ、収穫・調整 (27) 増田壽彦、(28) 坂口良介 / 4 回) (共同) 野菜栽培 (露地)：露地野菜の栽培管理、スマート農業の視察			(32) 増田壽彦、(33) 坂口良介 / 4 回) (共同) 野菜栽培 (露地)：露地野菜の栽培管理、スマート農業の視察	

(新旧対照表) シラバス

(新) 55ページ

授業名 総合実習 Field Practice		単位数 2単位	授業の方法 実験・実習
		履修年次	1年 通年
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	中根健、中野敬之、坂口良介、増田壽彦、大石竜、太田智、五十右薫、貞弘恵、相蘇春菜
授業時間	水曜日 3時限	教室	実習圃場等
オフィスアワー	随時受け付ける。ただし、事前にメール連絡が必要。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	実習や生産現場の見学を通じ、水稻、茶、野菜、果樹、花卉、畜産、林業の生産管理に関わる知識や技術、 <u>農作業安全</u> など農学の基本を学ぶ。また、ICTやIoTの事例の視察を行う。		
授業目的・目標	①農林業を総合的に理解する。 ②農林業の先端技術の現状を学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1~4	農作業安全(危険箇所・危険作業の確認、運搬車の安全使用、刈払機の安全講習)(中根健、増田壽彦、坂口良介)	
	5~6	作物栽培: 田植え(中根健)	
	7~10	茶栽培: 摘採、製茶(中野敬之)	
	11~12	野菜栽培(露地): 露地野菜の播種、育苗、定植(坂口良介、増田壽彦)	
	13~14	野菜栽培(露地): スマート農業の視察(坂口良介、増田壽彦)	
	15~16	野菜栽培(施設): 環境制御システムの利用方法(大石竜)	
	17~20	果樹栽培: 枝管理と着果管理、接木、挿し木(太田智)	
	21~24	花き栽培: 播種、鉢上げ、収穫、調整(五十右薫)	
	25~28	畜産: 酪農施設、乳業メーカー見学(貞弘恵)	
	29~30	林業: 木材の樹種同定(相蘇春菜)	
キーワード	水稻、茶、野菜、果樹、花卉、畜産、林業		
教科書・参考書	特に指定しない。適宜、資料を配布する。		
評価方法・評価基準	レポート(50%)、履修態度(50%)		
関連科目	圃場実習(栽培)、圃場実習(畜産)、演習林実習		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 総合実習 Field Practice		単位数 2単位	授業の方法 実験・実習
		履修年次	1年 通年
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	中根健、中野敬之、坂口良介、増田壽彦、大石竜、太田智、五十右薫、貞弘恵、相蘇春菜
授業時間	水曜日 3時限	教室	圃場等
オフィスアワー	随時受け付ける。ただし、事前にメール連絡が必要。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	水稲、茶、野菜、果樹、花卉、畜産、林業の生産管理に関わる知識や技術を学ぶため、実習や生産現場の見学を通じ、 <u>農学の基本を学ぶ</u> 。また、ICTやIoTの事例の視察を行う。		
授業目的・目標	①農林業を総合的に理解する。 ②農林業の先端技術の現状を学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1~4	作物栽培：田植え（中根健）	
	5~8	茶栽培：摘採、製茶（中野敬之）	
	9~10	野菜栽培（露地）：露地野菜の播種、育苗、定植（坂口良介、増田壽彦）	
	11~12	野菜栽培（露地）：スマート農業の視察（坂口良介、増田壽彦）	
	13~16	野菜栽培（施設）：環境制御システムの利用方法（大石竜）	
	17~20	果樹栽培：枝管理と着果管理、接木、挿し木（太田智）	
	21~24	花き栽培：播種、鉢上げ、収穫、調整（五十右薫）	
	25~28	畜産：酪農施設、乳業メーカー見学（貞弘恵）	
	29~30	林業：木材の樹種同定（相蘇春菜）	
キーワード	水稲、茶、野菜、果樹、花卉、畜産、林業		
教科書・参考書	特に指定しない。適宜、資料を配布する。		
評価方法・評価基準	レポート（50%）、履修態度（50%）		
関連科目	圃場実習（栽培）、圃場実習（畜産）、演習林実習		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

授業名 演習林実習 Forest Practice		単位数 2単位	授業の方法 実験・実習
		履修年次	2年 前期
受講対象	生産経営科学科		
授業コード	8910234	教員名	相蘇春菜、星川健史
授業時間	火曜日 1, 2時限	教室	県有林等
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	林業経営管理全般を理解するため、実習を通じて森林の調査方法、服装と道具、造林技術などの基礎知識や基礎技術について学ぶ。		
授業目的・目標	演習林での実習を通じて、森林・林業生産技術の基礎を学ぶとともに、環境に調和した林業のあり方を学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1～2	林業基礎①(樹木の組織と構造、森林の階層構造、気候、地形と土壌)	
	3～4	林業基礎②(森林の一次・二次遷移、林相、植生と群落、森林の機能)	
	5～6	森林調査①(調査項目、調査の方法と道具、地図の見方、山の面積の調べ方)	
	7～8	森林調査②(調査の歩き方、林分密度の調べ方、樹齢の調査、直径及び樹高の調査)	
	9～12	森林調査③(材積の算出、簡易調査方法、生産力の見積もり、伐期の設定)	
	13～14	服装と道具(山仕事の服装、安全の工夫、手道具、チェーンソー等)	
	15～16	造林技術(人工林)①(伐採の方法、地ごしらえ・植栽密度)	
	17～18	造林技術(人工林)②(下刈り・つる切り・除伐)	
	19～20	造林技術(人工林)③(枝打ちの器具、切断位置と切断の仕方)	
	21～22	造林技術(人工林)④(間伐の種類と方法、強度と頻度、間伐の進め方)	
	23～24	造林技術(天然林)①(天然下種更新、伐採方法、保育材・間伐)	
	25～26	造林技術(天然林)②(萌芽更新施業、萌芽整理、林相改良)	
	27～30	まとめ	
キーワード	林業の基礎、森林の調査、服装と道具、造林技術		
教科書・参考書	ニューフォレスターズ・ガイド(社団法人全国林業改良普及協会)		
評価方法・評価基準	レポート(50%)、履修態度(50%)		
関連科目	生産マネジメント実習Ⅰ(林業)、生産マネジメント実習Ⅱ(林業)		
履修要件	林業コースを選択した者		
備考			

授業名 演習林実習 Forest Practice		単位数 2単位	授業の方法 実験・実習
		履修年次	2年 前期
受講対象	生産経営科学科		
授業コード	8910234	教員名	相蘇春菜、星川健史
授業時間	火曜日 1, 2時限	教室	演習林等
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	林業経営管理全般を理解するため、実習を通じて森林の調査方法、服装と道具、造林技術などの基礎知識や基礎技術について学ぶ。		
授業目的・目標	演習林での実習を通じて、森林・林業生産技術の基礎を学ぶとともに、環境に調和した林業のあり方を学ぶ。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1～2	林業基礎①(樹木の組織と構造、森林の階層構造、気候、地形と土壌)	
	3～4	林業基礎②(森林の一次・二次遷移、林相、植生と群落、森林の機能)	
	5～6	森林調査①(調査項目、調査の方法と道具、地図の見方、山の面積の調べ方)	
	7～8	森林調査②(調査の歩き方、林分密度の調べ方、樹齢の調査、直径及び樹高の調査)	
	9～12	森林調査③(材積の算出、簡易調査方法、生産力の見積もり、伐期の設定)	
	13～14	服装と道具(山仕事の服装、安全の工夫、手道具、 <u>小型林業機械</u>)	
	15～16	造林技術(人工林)①(伐採の方法、地ごしらえ・植栽密度)	
	17～18	造林技術(人工林)②(下刈り・つる切り・除伐)	
	19～20	造林技術(人工林)③(枝打ちの器具、切断位置と切断の仕方)	
	21～22	造林技術(人工林)④(間伐の種類と方法、強度と頻度、間伐の進め方)	
	23～24	造林技術(天然林)①(天然下種更新、伐採方法、保育材・間伐)	
	25～26	造林技術(天然林)②(萌芽更新施業、萌芽整理、林相改良)	
	27～30	まとめ	
キーワード	林業の基礎、森林の調査、服装と道具、造林技術		
教科書・参考書	ニューフォレスターズ・ガイド (社団法人全国林業改良普及協会)		
評価方法・評価基準	レポート (50%)、履修態度 (50%)		
関連科目	生産マネジメント実習Ⅰ (林業)、生産マネジメント実習Ⅱ (林業)		
履修要件	林業コースを選択した者		
備考			

授業名 生産マネジメント実習 I (畜産) Study of Product Management I (Animal Husbandry)		単位数 4 単位	授業の方法 実験・実習
		履修年次	2年 後期
受講対象	生産経営学部		
授業コード	8910234	教員名	大塚誠、貞弘恵、青山東一
授業時間	火曜日 1, 2 時限、金曜日 1, 2 時限	教室	実習圃場等
オフィスアワー	随時受け付ける。ただし、事前にメール連絡が必要。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	生産現場の管理を行う場合には、計画(PLAN)、実施(DO)、評価(CHECK)、改善(ACTON)のPDCAサイクルを意識する必要がある。また、近年では生産現場でのICTなどの先端技術の導入が進んでおり、先端技術を利用するための知識や技術を身につける必要がある。本科目では、計画策定に必要な施設・圃場・畜種・生産資材など情報収集の方法や、費用・利益の計算方法、先端技術の導入方法、生産終了後の評価方法を学び、評価結果を次の生産にどのように生かせばよいのか考える。なお、実習はグループに分かれて行う。		
授業目的・目標	①生産マネジメントに関する基礎的な知識・技能を修得する。 ②生産現場で活用されている先端技術に関する見識を深める。 ③生産現場の管理に必要な評価結果の内容を理解する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	ガイダンス	
	2～5	肉牛生産管理① 個体情報管理(血統、出生報告、基本登録、子牛登記など)	
	6～9	肉牛生産管理② 繁殖管理(発情、授精、妊娠、分娩など)	
	10～13	肉牛生産管理③ 飼料給与管理(個体単位の飼料の計画給与など)	
	14～17	肉牛生産管理④ 飼育管理(牛舎の管理、放牧など)	
	18～21	乳牛生産管理① 個体情報管理(血統、基本登録など)	
	22～25	乳牛生産管理② 繁殖管理 1 (種付計画、発情、授精など)	
	26～29	乳牛生産管理③ 繁殖管理 2 (妊娠、分娩)	
	30～33	乳牛生産管理④ 飼料給与管理(個体単位の飼料の計画給与など)	
	34～37	乳牛生産管理⑤ 飼育管理(牛舎管理、病気の予防など)	
	38～41	養鶏生産管理① 個体管理(出荷、補充、事故、廃用、移動、斃死)	
	42～43	養鶏生産管理② 飼料管理、給水管理(飼料給与量、飼料摂取量、給水量)	
	44～47	養鶏生産管理③ 先進事例視察	
	48～51	養豚生産管理① 種豚管理	
	52～55	養豚生産管理② 飼料給与管理(飼料給与量、飼料摂取量、給水量)	
	56～59	養豚生産管理③ 飼育管理(豚舎の管理、病気の予防など)	
60	まとめ		
キーワード	生産マネジメント、コスト管理、生産の効率化、飼養管理、先端技術		
教科書・参考書	必要に応じてプリントを配布する。		
評価方法・評価基準	レポート(50%)、履修態度(50%)		
関連科目	畜産概論、飼料総論、家畜育種繁殖、家畜飼養学、畜産法規、家畜衛生学、畜産環境学、環境と農林業、圃場実習(畜産)、生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)		
履修要件	畜産コースを選択した者		
備考	必要に応じて校外で実習を行う。		

授業名 生産マネジメント実習 I (畜産) Study of Product Management I (Animal Husbandry)		単位数 4 単位	授業の方法 実験・実習
		履修年次	2年 後期
受講対象	生産経営学部		
授業コード	8910234	教員名	大塚誠、貞弘恵、青山東一
授業時間	火曜日 1, 2 時限、金曜日 1, 2 時限	教室	圃場等
オフィスアワー	随時受け付ける。ただし、事前にメール連絡が必要。		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	生産現場の管理を行う場合には、計画(PLAN)、実施(DO)、評価(CHECK)、改善(ACTON)のPDCAサイクルを意識する必要がある。また、近年では生産現場でのICTなどの先端技術の導入が進んでおり、先端技術を利用するための知識や技術を身につける必要がある。本科目では、計画策定に必要な施設・圃場・畜種・生産資材など情報収集の方法や、費用・利益の計算方法、先端技術の導入方法、生産終了後の評価方法を学び、評価結果を次の生産にどのように生かせばよいのか考える。なお、実習はグループに分かれて行う。		
授業目的・目標	①生産マネジメントに関する基礎的な知識・技能を修得する。 ②生産現場で活用されている先端技術に関する見識を深める。 ③生産現場の管理に必要な評価結果の内容を理解する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	ガイダンス	
	2～5	肉牛生産管理① 個体情報管理(血統、出生報告、基本登録、子牛登記など)	
	6～9	肉牛生産管理② 繁殖管理(発情、授精、妊娠、分娩など)	
	10～13	肉牛生産管理③ 飼料給与管理(個体単位の飼料の計画給与など)	
	14～17	肉牛生産管理④ 飼育管理(牛舎の管理、放牧など)	
	18～21	肉牛生産管理⑤ 疾病・予防管理(ワクチン接種、去勢、除角、鼻輪装着など)	
	22～25	肉牛生産管理⑥ 体型・体重管理(体重、体高、十字部高、体長の測定)	
	26～29	肉牛生産管理⑦ 生産原価・損益管理(生産原価の計算、損益管理)	
	30～33	肉牛生産管理⑧ 成績評価(子牛販売、枝肉販売)	
	34～37	肉牛生産管理⑨ 家畜市場、先進事例視察	
	38～41	養鶏生産管理① 個体管理(出荷、補充、事故、廃用、移動、斃死)	
	42～43	養鶏生産管理② 飼料管理、給水管理(飼料給与量、飼料摂取量、給水量)	
	44～47	養鶏生産管理③ 産卵管理(卵数管理)	
	48～51	養鶏生産管理④ 鶏舎内の管理(鶏舎内温度、外気温、湿度)	
	52～55	養鶏生産管理⑤ 生産原価・損益管理、成績評価	
	56～59	養鶏生産管理⑥ 先進事例視察	
60	まとめ		
キーワード	生産マネジメント、コスト管理、生産の効率化、飼養管理、先端技術		
教科書・参考書	必要に応じてプリントを配布する。		
評価方法・評価基準	レポート(50%)、履修態度(50%)		
関連科目	畜産概論、飼料総論、家畜育種繁殖、家畜飼養学、畜産法規、自給飼料、家畜衛生学、畜産環境学、環境と農林業、圃場実習(畜産)、生産マネジメント実習Ⅱ(畜産)		
履修要件	畜産コースを選択した者		
備考	必要に応じて校外で実習を行う。		

授業名 生産マネジメント実習Ⅰ (林業) Study of Product Management I (Forestry)		単位数 4単位	授業の方法 実験・実習
		履修年次	2年 後期
受講対象	生産経営学部		
授業コード	8910234	教員名	平岡裕一郎、星川健史
授業時間	火曜日1, 2時限、金曜日1, 2時限	教室	県有林等
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	生産現場の管理を行う場合には、計画 (PLAN)、実施 (DO)、評価 (CHECK)、改善 (ACTION) の PDCA サイクルを意識する必要がある。また、近年では生産現場での ICT などの先端技術の導入が進んでおり、先端技術を利用するための知識や技術を身につける必要がある。本科目では、計画策定に必要な施設・生産資材など情報収集の方法や、費用・利益の計算方法、先端技術の導入方法、生産終了後の評価方法を学び、評価結果を次の生産にどのように生かせばよいのか考える。なお、実習はグループに分かれて行う。		
授業目的・目標	①生産マネジメントに関する基礎的な知識・技能を修得する。 ②生産現場で活用されている先端技術に関する見識を深める。 ③生産現場の管理に必要な評価結果の内容を理解する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	ガイダンス・林業基礎	
	2～6	森林の保護管理技術① (森林の生物被害と防除 (病害・森林害虫))	
	7～10	森林の保護管理技術② (森林の生物被害と防除 (ほ乳類)、気象被害)	
	11～14	収穫技術① (チェーンソーの基本操作と整備方法)	
	15～18	収穫技術② (立木の成長と収穫時期、造材作業の基本技術)	
	19～22	収穫技術③ (架線集材・車両集材、運材作業の基礎技術)	
	23～26	収穫技術④ (皆伐・間伐の伐出技術、複層林施業の伐出技術、環境保全への配慮)	
	27～30	収穫技術⑤ (伐採木材の測定)	
	31～34	林地へのアクセス (林内路網の計画・配置、設計と作設、メンテナンス)	
	35～38	野生鳥獣① (森林の分布パターンと鳥獣の生息状況、森林性鳥獣の森林生態系への役割)	
	39～42	野生鳥獣② (森林施業と野生鳥獣の関係、共存の指針と管理手法)	
	43～46	特用林産物① (きのこ類の原木栽培)	
	47～50	特用林産物② (山菜栽培、天然の特用林産物利用)	
51～60	まとめ (生産に必要な情報収集・分析、経営に必要な情報収集・分析)		
キーワード	育林、林業機械、伐木集運材、木材利用、測樹、森林測量、森林情報、特用林産		
教科書・参考書	ニューフォレスターズ・ガイド (社団法人全国林業改良普及協会)		
評価方法・評価基準	レポート (50%)、履修態度 (50%)		
関連科目	演習林実習、生産マネジメント実習Ⅱ (林業)		
履修要件	林業コースを選択した者		
備考	特になし		

授業名 生産マネジメント実習Ⅰ(林業) Study of Product Management I (Forestry)		単位数 4単位	授業の方法 実験・実習
		履修年次	2年 後期
受講対象	生産経営学部		
授業コード	8910234	教員名	平岡裕一郎、星川健史
授業時間	火曜日1,2時限、金曜日1,2時限	教室	演習林等
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	生産現場の管理を行う場合には、計画(PLAN)、実施(DO)、評価(CHECK)、改善(ACTON)のPDCAサイクルを意識する必要がある。また、近年では生産現場でのICTなどの先端技術の導入が進んでおり、先端技術を利用するための知識や技術を身につける必要がある。本科目では、計画策定に必要な施設・生産資材など情報収集の方法や、費用・利益の計算方法、先端技術の導入方法、生産終了後の評価方法を学び、評価結果を次の生産にどのように生かせばよいのか考える。なお、実習はグループに分かれて行う。		
授業目的・目標	①生産マネジメントに関する基礎的な知識・技能を修得する。 ②生産現場で活用されている先端技術に関する見識を深める。 ③生産現場の管理に必要な評価結果の内容を理解する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	ガイダンス・林業基礎	
	2~6	森林の保護管理技術①(森林の生物被害と防除(病害・森林害虫))	
	7~10	森林の保護管理技術②(森林の生物被害と防除(ほ乳類)、気象被害)	
	11~14	収穫技術①(立木の成長と収穫時期、伐倒作業(チェーンソー))	
	15~18	収穫技術②(造材作業の基本技術)	
	19~22	収穫技術③(架線集材・車両集材、運材作業の基礎技術)	
	23~26	収穫技術④(皆伐・間伐の伐出技術、複層林施業の伐出技術、環境保全への配慮)	
	27~30	収穫技術⑤(伐採木材の測定)	
	31~34	林地へのアクセス(林内路網の計画・配置、設計と作設、メンテナンス)	
	35~38	野生鳥獣①(森林の分布パターンと鳥獣の生息状況、森林性鳥獣の森林生態系への役割)	
	39~42	野生鳥獣②(森林施業と野生鳥獣の関係、共存の指針と管理手法)	
	43~46	特用林産物①(きのこ類の原木栽培)	
	47~50	特用林産物②(山菜栽培、天然の特用林産物利用)	
51~60	まとめ		
キーワード	育林、林業機械、伐木集運材、木材利用、測樹、森林測量、森林情報、特用林産		
教科書・参考書	ニューフォレスターズ・ガイド(社団法人全国林業改良普及協会)		
評価方法・評価基準	レポート(50%)、履修態度(50%)		
関連科目	演習林実習、生産マネジメント実習Ⅱ(林業)		
履修要件	林業コースを選択した者		
備考	特になし		

授業名 生産マネジメント実習Ⅱ (畜産) Study of Product ManagementⅡ (Animal Husbandry)		単位数 4単位	授業の方法 実験・実習
		履修年次	3年 通年
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	大塚誠、貞弘恵、青山東一
授業時間	前期:木曜日1, 2時限、後期(9~16週目):木曜日1~4時限	教室	実習圃場等
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	効率的かつ安定的な畜産経営を行うためには生産性向上が不可欠であり、PDC Aサイクルを意識した生産管理が必要である。本科目では、生産現場のマネジメントを学ぶ。施設規模や畜種に応じた生産計画と、その計画に沿った時期や人数などの人員配置計画、飼料など資材使用計画、費用と利益の計画を策定し、生産データを収集・分析しながら生産を行う。また、生産終了後は、計画と実績の比較を行い、その差異の要因について分析し、分析結果を経営に生かす方法を考える。		
授業目的・目標	①生産マネジメントに関する実践的な知識・技能を修得する。 ②生産現場で活用されている先端技術に関する見識を深める。 ③生産現場の管理に必要な評価結果の分析の方法を習得する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	ガイダンス	
	2~5	肉牛生産管理① 疾病・予防管理(ワクチン接種、去勢、除角、鼻輪装着など)	
	6~9	肉牛生産管理② 体型・体重管理(体重、体高、十字部高、体長の測定)	
	10~13	肉牛生産管理③ 生産原価・損益管理(生産原価の計算、損益管理)	
	14~17	肉牛生産管理④ 成績評価(子牛販売、枝肉販売)	
	18~21	肉牛生産管理⑤ 家畜市場、先進事例視察	
	22~25	乳牛生産管理① 乳質管理(出荷時検査、受入時検査、乳質基準)	
	26~29	乳牛生産管理② 生産原価・損益管理(生産原価の計算、損益管理)	
	30~33	乳牛生産管理③ 成績評価(牛乳販売、子牛販売)	
	34~37	乳牛生産管理④ 牛乳工場、先進事例調査	
	38~41	養鶏生産管理① 産卵管理(卵数管理)	
	42~45	養鶏生産管理② 鶏舎内の管理(鶏舎内温度、外気温、湿度)	
	46~49	養鶏生産管理③ 生産原価、損益管理、成績評価	
	50~53	養豚生産管理① 出荷管理、仕入管理	
	54~57	養豚生産管理② 生産原価、損益管理、成績評価	
	58~59	養豚生産管理③ 先進事例視察	
60	まとめ		
キーワード	生産マネジメント、コスト管理、生産の効率化、飼養管理、先端技術		
教科書・参考書	必要に応じてプリントを配布する。		
評価方法・評価基準	レポート(50%)、履修態度(50%)		
関連科目	畜産概論、飼料総論、家畜育種繁殖、家畜飼養学、畜産法規、家畜衛生学、畜産環境学、環境と農林業、圃場実習(畜産)、生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)		
履修要件	畜産コースを選択している者		
備考	必要に応じて校外で実習を行う。		

授業名 生産マネジメント実習Ⅱ (畜産) Study of Product ManagementⅡ (Animal Husbandry)		単位数 4単位	授業の方法 実験・実習
		履修年次	3年 通年
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	大塚誠、貞弘恵、青山東一
授業時間	前期:木曜日1, 2時限、後期(9～16週目):木曜日1～4時限	教室	圃場等
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	生産現場の管理を行う場合には、計画 (PLAN)、実施 (DO)、評価 (CHECK)、改善 (ACTON) の P D C A サイクルを意識する必要がある。また、近年では生産現場での I C T などの先端技術の導入が進んでおり、先端技術を利用するための知識や技術を身につける必要がある。本科目では、計画策定に必要な施設・圃場・畜種・生産資材など情報収集の方法や、費用・利益の計算方法、先端技術の導入方法、生産終了後の評価方法を学び、評価結果を次の生産にどのように生かせばよいのか考える。なお、実習はグループに分かれて行う。		
授業目的・目標	①生産マネジメントに関する基礎的な知識・技能を修得する。 ②生産現場で活用されている先端技術に関する見識を深める。 ③生産現場の管理に必要な評価結果の内容を理解する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	ガイダンス	
	2～5	乳牛生産管理① 個体情報管理 (血統、基本登録など)	
	6～9	乳牛生産管理② 繁殖管理 1 (種付計画、発情、授精など)	
	10～13	乳牛生産管理③ 繁殖管理 2 (妊娠、分娩)	
	14～17	乳牛生産管理④ 飼料給与管理 (個体単位の飼料の計画給与など)	
	18～21	乳牛生産管理⑤ 飼育管理 (牛舎管理、病気の予防など)	
	22～25	乳牛生産管理⑥ 乳質管理 (出荷時検査、受入時検査、乳質基準)	
	26～29	乳牛生産管理⑦ 生産原価・損益管理 (生産原価の計算、損益管理)	
	30～33	乳牛生産管理⑧ 成績評価 (牛乳販売、子牛販売)	
	34～37	乳牛生産管理⑨ 牛乳工場、先進事例調査	
	38～41	養豚生産管理① 種豚管理	
	42～43	養豚生産管理② 飼料給与管理 (飼料給与量、飼料摂取量、給水量)	
	44～47	養豚生産管理③ 飼育管理 (豚舎の管理、病気の予防など)	
	48～51	養豚生産管理④ 出荷管理、仕入管理	
	52～55	養豚生産管理⑤ 生産原価、損益管理、成績評価	
	56～59	養豚生産管理⑥ 先進事例視察	
60	まとめ		
キーワード	生産マネジメント、コスト管理、生産の効率化、飼養管理、先端技術		
教科書・参考書	必要に応じてプリントを配布する。		
評価方法・評価基準	レポート (50%)、履修態度 (50%)		
関連科目	畜産概論、飼料総論、家畜育種繁殖、家畜飼養学、畜産法規、自給飼料、家畜衛生学、畜産環境学、環境と農林業、圃場実習 (畜産)、生産マネジメント実習Ⅰ (畜産)		
履修要件	畜産コースを選択している者		
備考	必要に応じて校外で実習を行う。		

(新旧対照表) シラバス

新	旧
<p>(65ページ) 大型機械実習 I</p> <p>履修要件</p> <p><u>自動二輪もしくは普通免許を取得していること</u></p>	<p>(65ページ) 大型機械実習 I</p> <p>履修要件</p> <p><u>自動二輪もしくは普通免許を取得していること</u> <u>がのぞましい</u></p>

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類

新	旧
<p>(53ページ)</p> <p>11 実習の具体的計画</p> <p>(1) 学内施設及び県試験研究機関等での実習 (略)</p> <p>③実習の計画</p> <p>ア 1年次</p> <p>農林業全般(水稻、茶、野菜、果樹、花き、畜産、林業)の生産管理に関わる知識や技術を学ぶ「総合実習」を配置する。</p> <p><u>生産現場では、危険作業を伴うことがある。このため、講義の始めには、危険箇所の確認や、危険な作業を伴う刈払機等の安全使用のための講習等の安全作業のための講習を行う。</u></p> <p>イ 2年次</p> <p>前期には、栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、<u>栽培、畜産、林業の各分野の基礎的な生産技術を学ぶ「圃場実習(栽培)」、「演習林実習」、「圃場実習(畜産)」を配置する。</u></p> <p>また、トラクターなど大型機械の知識や操作技術、安全な使用方法について学ぶ「大型機械実習 I」を配置する。</p> <p>ウ 3年次</p> <p>2年次までの学習をもとに、PDCAサイクルを意識した<u>栽培、畜産、林業の各分野の生産管理について学ぶ「生産マネジメ</u></p>	<p>(52ページ)</p> <p>11 実習の具体的計画</p> <p>(1) 学内施設及び県試験研究機関等での実習 (略)</p> <p>③実習の計画</p> <p>ア 1年次</p> <p>農林業全般(水稻、茶、野菜、果樹、花き、畜産、林業)の生産管理に関わる知識や技術を学ぶ「総合実習」を配置する。</p> <p>イ 2年次</p> <p>前期には、栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、<u>それぞれの分野の基礎的な生産技術を学ぶ「圃場実習(栽培)」、「演習林実習」、「圃場実習(畜産)」を配置する。</u></p> <p>また、トラクターなど大型機械の知識や操作技術、安全な使用方法について学ぶ「大型機械実習 I」を配置する。</p> <p>ウ 3年次</p> <p>2年次までの学習をもとに、PDCAサイクルを意識した<u>生産管理について学ぶ「生産マネジメント実習 II(栽培)」、「生</u></p>

新	旧
<p>ント実習Ⅱ（栽培）」、「生産マネジメント実習Ⅱ（林業）」、「生産マネジメント実習Ⅱ（畜産）」の3科目を配置する。また、大型機械についてのより高度な知識や技能について学ぶ「大型機械実習Ⅱ」と「林業機械実習」、加工について学ぶ「食品加工実習」と「木材加工実習」を配置する。また、販売の実践について学ぶ「<u>販売管理実習</u>」を配置する。</p> <p>④実習施設の確保状況</p> <p>「食品加工実習」についてはB棟の加工実験室、「<u>販売管理実習</u>」についてはC棟売店で実施する。</p> <p>(略)</p> <p>(2) 臨地実務実習（資料29 臨地実務実習要綱(案)）</p> <p>(略)</p> <p>③ 臨地実務実習計画の概要</p> <p>本学の養成する人材像である「<u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダー</u>」を育成することを目標に、農林業経営者としての態度や責任、生産の知識と技術、経営管理能力を身につけるとともに、自主的に学習を進める能力と、他者との協調力を養う。</p> <p>(略)</p> <p>⑤臨地実務実習の種類と目的</p>	<p>産マネジメント実習Ⅱ（林業）」、「生産マネジメント実習Ⅱ（畜産）」の3科目を配置する。また、大型機械についてのより高度な知識や技能について学ぶ「大型機械実習Ⅱ」と「林業機械実習」、加工について学ぶ「食品加工実習」と「木材加工実習」を配置する。また、販売の実践について学ぶ「<u>販売実習</u>」を配置する。</p> <p>④実習施設の確保状況</p> <p>「食品加工実習」についてはB棟の加工実験室、「<u>販売実習</u>」についてはC棟売店で実施する。</p> <p>(略)</p> <p>(2) 臨地実務実習（資料29 臨地実務実習要綱）</p> <p>(略)</p> <p>③ 臨地実務実習計画の概要</p> <p>本学の養成する人材像である「<u>農林業の生産技術や知識にくわえ、経営体の経営革新を推進する、加工・流通・販売への応用力や経営管理能力、先端技術への対応力を有する</u>」ことを目標に、農林業経営者としての態度や責任、生産の知識と技術、経営管理能力を身につけるとともに、自主的に学習を進める能力と、他者との協調力を養う。</p> <p>臨地実務実習は3年次に「企業実習」（必修10単位）、4年次に「経営実習Ⅰ」（必修5単位）と「経営実習Ⅱ」（必修5単位）を配置する。</p> <p>(略)</p> <p>⑤臨地実務実習の種類と目的</p>

新	旧
<p>ア 「企業実習」(3年次後期 必修10単位)</p> <p>(ア) 目的 <u>先進的な栽培、林業、畜産の各分野の経営体での実習を通じて、学内で学んだ知識・技能をもとに実践的な生産技術を学ぶ。</u></p> <p>(イ) 目標 a. 生産現場での基本的な作業工程について理解することが出来る。 b. 各作業工程に必要な基本的な技術を身につける。</p> <p>(ウ) 方法 実習は、「<u>臨地実務実習要綱</u>」(資料29)に基づいて実施する。 3年次に配置し、<u>学生が希望する経営体において、約2カ月間実施する。学生数は原則1施設1名とする。</u> 「<u>企業実習</u>」の受講に当たっては、<u>事前に、すべての学生が「総合実習」で行う刈払機作業安全衛生教育を修了し、また、「大型機械実習Ⅰ」において、大型特殊免許(農耕車限定)を取得する。</u> また、栽培コースでは、「<u>圃場実習(栽培)</u>」において<u>作物の特徴や作型に関する知識や栽培技術を、「生産マネジメント実習Ⅰ(栽培)」において栽培管理の基礎知識・技術を学ぶ。</u>林業コースでは、「<u>演習林実習</u>」において<u>森林・林業生産の基礎知識・技術を、「生産マネジメント実習Ⅰ(林業)」においてチェーンソーの基本操作と整備方法、収穫技術、森林の保護管理技術を学ぶ。</u>畜産コースでは、「<u>圃場実習(畜産)</u>」において、<u>家畜の特徴や生理や習性に関する知識、家畜の「生産マネジメント実習Ⅰ(畜産)」において、家畜飼養管理の基礎知識・技術を習得する。</u> 実習実施前には、実習受入れ先の農</p>	<p>ア 「企業実習」(3年次後期 必修10単位)</p> <p>(ア) 目的 <u>先進的な農林業経営体での実習を通じて、学内で学んだ知識・技能をもとに実践的な生産技術を学ぶ。</u></p> <p>(イ) 目標 a. 生産現場での基本的な作業工程について理解することが出来る。 b. 各作業工程に必要な基本的な技術を身につける。</p> <p>(ウ) 方法 実習は、「<u>臨地実務実習要綱</u>」(資料29)に基づいて実施する。 3年次に配置し、<u>学生が希望する農林業経営体において、約2カ月間実施する。学生数は1施設1名を予定している。</u> 企業実習の受講に当たっては、「<u>圃場実習(栽培)</u>」、「<u>圃場実習(畜産)</u>」、「<u>演習林実習</u>」及び「<u>生産マネジメント実習Ⅰ</u>」において、<u>基本的な生産技術を学んでいることを前提とする。</u></p>

新		旧
<p>林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</p> <p>実習中は、臨地実務実習指導者のもと、実際の生産現場を体験する。日々の作業は、臨地実務実習指導者の指示に従って行い、毎日、作業内容について記録を行う。実習指導は、臨地実務実習指導者と本学教員が連携し、適宜連絡を取り合い、学生の実習状況について情報を共有し、助言・指導を行う。</p> <p>実習終了後は、報告書の作成、報告会の実施により、生産現場や生産現場で必要となる技術について理解を深める。</p> <p>＜必要な知識・技術や資格・免許等＞</p>		<p>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</p> <p>実習中は、臨地実務実習指導者のもと、実際の生産現場を体験する。日々の作業は、臨地実務実習指導者の指示に従って行い、毎日、作業内容について記録を行う。実習指導は、臨地実務実習指導者と本学教員が連携し、適宜連絡を取り合い、学生の実習状況について情報を共有し、助言・指導を行う。</p> <p>実習終了後は、報告書の作成、報告会の実施により、生産現場や生産現場で必要となる技術について理解を深める。</p>
<u>コース</u>	<u>必要な生産知識・技術</u>	<u>資格・免許等</u>
<u>栽培コース</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>作物の特徴や作型に関する知識、栽培技術</u> ・ <u>栽培管理の基礎知識・技術</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>刈払機作業者安全衛生教育修了</u> ・ <u>大型特殊免許（農耕車限定）</u>
<u>林業コース</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>森林・林業生産の基礎知識・技術</u> ・ <u>チェーンソーの基本操作と整備方法、収穫技術</u> ・ <u>森林の保護管理技術</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>刈払機作業者安全衛生教育修了</u> ・ <u>大型特殊免許（農耕車限定）</u>
<u>畜産コース</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>家畜の特徴や生理や習性に関する知識</u> ・ <u>家畜飼養管理の基礎知識・技術</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>刈払機作業者安全衛生教育修了</u> ・ <u>大型特殊免許（農耕車限定）</u>

新	旧
<p style="text-align: center;">(略)</p> <p>イ 経営実習 I (4年次前期 必修5単位)</p> <p>(ア) 目的</p> <p>生産現場のマネジメントを行うために必要な知識・技能を学ぶ。</p> <p>(イ) 目標</p> <p>a. 生産現場の年間計画が理解できる。</p> <p>b. 生産現場に必要な要素(資材、労力、資金)について理解し、これらを適切に配置した生産マネジメントについて理解できる。</p> <p>(ウ) 方法</p> <p>実習は、「臨地実務実習要綱」(資料29)に基づいて実施する。</p> <p>4年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約1ヶ月間の実習を行う。1施設1～4名を想定している。</p> <p><u>「経営実習 I」の受講に当たっては、事前に、「財務会計」及び「管理会計」において経営分析の知識、「労務管理」において労務管理の知識、「GAP演習」において生産工程管理の知識・技術を学ぶ。</u></p> <p><u>また、栽培コースは、「生産マネジメント実習 II (栽培)」において実践的な栽培管理の知識・技術、「生産マネジメント実習 II (林業)」、「生産マネジメント実習 II (畜産)」において、下表の知識や技術を習得する。</u></p> <p>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</p> <p>実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもとで作業を行いながら、人員配置、機械、生産資材の利用計画など生産現場のマネジメントに必要な知識・技能を学ぶ。</p> <p>実習終了後は経営分析演習 I にて実</p>	<p style="text-align: center;">(略)</p> <p>イ 経営実習 I (4年次前期 必修5単位)</p> <p>(ア) 目的</p> <p>生産現場のマネジメントを行うために必要な知識・技能を学ぶ。</p> <p>(イ) 目標</p> <p>a. 生産現場の年間計画が理解できる。</p> <p>b. 生産現場に必要な要素(資材、労力、資金)について理解し、これらを適切に配置した生産マネジメントについて理解できる。</p> <p>(エ) 方法</p> <p>実習は、「臨地実務実習要綱」(資料29)に基づいて実施する。</p> <p>4年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約1ヶ月間の実習を行う。1施設1～4名を想定している。</p> <p>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</p> <p>実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもとで作業を行いながら、人員配置、機械、生産資材の利用計画など生産現場のマネジメントに必要な知識・技能を学ぶ。</p> <p>実習終了後は経営分析演習 I にて実</p>

新	旧								
<p>習先の分析を行った後、報告会を実施し、生産現場のマネジメントについて理解を深める。</p> <p><u>＜必要な知識・技術等＞</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">コース</th> <th style="text-align: center;">必要な知識・技術</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">栽培コース</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な栽培管理の知識・技術 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">林業コース</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な森林・林業生産の知識・技術 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">畜産コース</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な家畜飼養管理の知識・技術 </td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>ウ 経営実習Ⅱ（4年次後期 必修5単位）</p> <p>(ア) 目的</p> <p>農林業経営体の経営や経営戦略、加工、流通、販売等について学ぶ。</p> <p>(イ) 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 農林業経営体の経営戦略について理解する。 ② 戦略に基づいた経営のあり方について理解する。 ③ 生産現場以外の加工・流通・販売について理解する。 <p>(ウ) 方法</p>	コース	必要な知識・技術	栽培コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な栽培管理の知識・技術 	林業コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な森林・林業生産の知識・技術 	畜産コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な家畜飼養管理の知識・技術 	<p>習先の分析を行った後、報告会を実施し、生産現場のマネジメントについて理解を深める。</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>ウ 経営実習Ⅱ（4年次後期 必修5単位）</p> <p>(ア) 目的</p> <p>農林業経営体の経営や経営戦略、加工、流通、販売等について学ぶ。</p> <p>(イ) 目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 農林業経営体の経営戦略について理解する。 ② 戦略に基づいた経営のあり方について理解する。 ③ 生産現場以外の加工・流通・販売について理解する。 <p>(ウ) 方法</p>
コース	必要な知識・技術								
栽培コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な栽培管理の知識・技術 								
林業コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な森林・林業生産の知識・技術 								
畜産コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な家畜飼養管理の知識・技術 								

新	旧
<p>実習は、「臨地実務実習要綱」（資料29）に基づいて実施する。</p> <p>4年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約1ヶ月間の実習を行う。1施設1～4名を想定している。</p> <p><u>事前に、「経営管理論」において経営管理の知識、「経営戦略」において経営戦略の知識、「マーケティング」においてマーケティングの知識、「財務会計」及び「管理会計」において経営分析の知識、「労務管理」において労務管理の知識、「人材マネジメント」において人的資源管理の知識、「GAP演習」において生産工程管理の知識・技術、「販売管理実習」において販売管理の知識・技術を学ぶ。</u></p> <p><u>また、栽培コース及び畜産コースは、「食品加工実習」において食品加工の知識・技術を、林業コースは「木材加工実習」において木材加工の知識技術を習得する。</u></p> <p>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</p> <p>実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもと作業を行いながら、農林業経営体の経営、生産現場以外の加工・流通・販売等について学ぶ。</p> <p>実習終了後は、経営分析演習Ⅱにて研修先の分析を行った後、報告会を実施し、農林業経営について理解を深める。</p>	<p>実習は、「臨地実務実習要綱」（資料29）に基づいて実施する。</p> <p>4年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約1ヶ月間の実習を行う。1施設1～4名を想定している。</p> <p>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</p> <p>実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもと作業を行いながら、農林業経営体の経営、生産現場以外の加工・流通・販売等について学ぶ。</p> <p>実習終了後は、経営分析演習Ⅱにて研修先の分析を行った後、報告会を実施し、農林業経営について理解を深める。</p>

新		旧
<u>＜必要な知識・技術等＞</u>		
<u>コース</u>	<u>必要な知識・技術</u>	
<u>栽培コース</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>経営管理・経営戦略・マーケティングの知識</u> 	
<u>畜産コース</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>経営分析の知識</u> ・<u>労務管理の知識</u> ・<u>人的資源管理の知識</u> ・<u>生産工程管理の知識・技術</u> ・<u>販売管理の知識・技術</u> ・<u>食品加工の知識・技術</u> 	
<u>林業コース</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>経営管理・経営戦略・マーケティングの知識</u> ・<u>経営分析の知識</u> ・<u>労務管理の知識</u> ・<u>人的資源管理の知識</u> ・<u>生産工程管理の知識・技術</u> ・<u>販売管理の知識・技術</u> ・<u>木材加工の知識・技術</u> 	

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 資料29 臨地実務実習要綱(案)

新	旧
(2ページ)	(2ページ)
I (全員) 教育課程と実習	I (全員) 教育課程と実習
1. 教育目標	1. 教育目標
<p><u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材を養成する。</u></p>	<p><u>農林業分野の専門職業人として、農林業を取り巻く様々な事象を体系的に捉え、それらの変化に柔軟に対応でき、また、より広い視野で農林業を捉え、将来地域社会を中心となって支えていく人材を養成するため、次の教育目標を掲げている。</u></p> <p>1) <u>農林業の基礎的な生産技術や知識に加え、経営体の経営革新を推進する、加工・流通・販売への応用力や経営管理能力、先端技術への対応力を養う。</u></p>

新	旧
<p>2. 教育課程の構造</p> <p>本学の教育課程は、上記の教育目標を達成するため、基礎科目、職業専門科目、展開科目、総合科目の4つの基礎的な枠組みを構成する。</p> <p><u>多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育ていくことができる人材に求められる掲げる資質・能力を身に付ける。</u></p>	<p>2) <u>地域社会における未来のリーダーとして、自然と共生し、美しい農山村の景観や環境を磨き上げるとともに、幅広い教養と豊かな人間性を備え地域の文化伝統を守っていくことのできる農林業者を養成する。</u></p> <p>2. 教育課程の構造</p> <p>本学の教育課程は、上記の教育目標を達成するため、基礎科目、職業専門科目、展開科目、総合科目の4つの基礎的な枠組みを構成し、<u>農林業分野の専門職業人として豊かな人間性を育み、農林業全般にわたり必要とされる理論的かつ実践的な能力や、農林業の新たな展開につながる応用能力・創造的役割を果たすために必要な能力を修得することを基本としている。</u></p> <p>(1) <u>専門分野のみにとらわれない幅広い知識やコミュニケーション能力及び多面的に物事を考える素養を身に付けるため、基礎科目として、一般教養やコミュニケーションスキルを学ぶ科目や、グループワークにより学生同士の意見交換を行う科目などを配置する。</u></p> <p>(2) -1 <u>農林業経営体の経営管理能力を身に付けるため、職業専門科目として、経営管理、経営戦略、マーケティングなどに関する科目を配置するとともに、農林業経営を学ぶ臨地実務実習の科目を配置する。</u></p> <p>(2) -2 <u>農林業生産に関する基礎的な知識・技術を身に付けるため、職業専門科目として、農林業基礎、生産理論及び生産技術に関する科目を配置し、生産理論</u></p>

新	旧
	<p><u>及び生産技術については、「栽培」、「林業」、「畜産」のコース別に講義、実習・演習及び臨地実務実習を行う。</u></p> <p><u>(2) -3 農林業の生産や経営に活用される先端技術に関する知識・技術を身に付けるため、職業専門科目において、先端技術について学ぶ授業を幅広く実施する。</u></p> <p><u>(2)-4 農山村の自然環境や景観の保全に関する知識を身に付けるため、職業専門科目において、自然環境に配慮した農林業生産や森林景観の保全手法などについて学ぶ授業を幅広く実施する。</u></p> <p><u>(2)-5 農林産物の加工・流通・販売に関する知識を身に付けるため、職業専門科目として、「栽培」、「林業」、「畜産」のコース別に、加工・販売の手法や流通の仕組みなどに関する講義・実習等の科目を配置する。</u></p> <p><u>(3) 農山村の伝統・文化の継承に関する知識を身に付けるとともに、地域資源としての活用手法を学ぶため、展開科目として、農山村の歴史や文化、地域社会などに関する科目を配置する。</u></p> <p><u>(4) 農林業経営における課題の解決に向けて情報を収集・分析・整理する能力や、その結果を表現する能力を身に付けるため、総合科目として、経営課題の研究などに関する科目を配置する。</u></p>

新	旧
<p>(2ページ)</p> <p>II (全員) 臨地実務実習の概要と目標</p> <p>1. 臨地実務実習の概要</p> <p>本学の臨地実務実習は、「実践的な経営管理能力を身につける」ことを目標に、<u>経営に不可欠な生産技術及び実践的な経営管理能力を身につける。</u></p> <p>(略)</p> <p>2. 臨地実務実習の目標</p> <p>臨地実務実習指導者の指導を受けながら<u>実際の現場</u>を体験し、各臨地実務実習の目標を達成することで、実務的な農林業経営を営む能力を養う。</p> <p>臨地実務実習のうち、「企業実習」では<u>実践的な生産技術を学ぶ。</u>また、「経営実習Ⅰ」では<u>生産現場のマネジメントを行うために必要な知識・技能を、</u>「経営実習Ⅱ」では、<u>経営体の経営や経営戦略、加工、流通、販売等について学ぶ。</u></p> <p>3. 臨地実務実習の種類と内容</p> <p>1) 「企業実習」(3年次後期 必修10単位)</p> <p>(略)</p> <p>(3) 方法</p> <p>3年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約2カ月間実施する。学生数は1施設1名を予定して</p>	<p>(3ページ)</p> <p>II (全員) 臨地実務実習の概要と目標</p> <p>1. 臨地実務実習の概要</p> <p>本学の臨地実務実習は、「実践的な経営管理能力を身につける」ことを目標に、<u>農林業経営で不可欠な生産技術及び実践的な経営管理能力を身につける。</u></p> <p>(略)</p> <p>2. 臨地実務実習の目標</p> <p>臨地実務実習指導者の指導を受けながら農林業現場を体験し、各臨地実務実習の目標を達成することで、実務的な農林業経営を営む能力を養う。</p> <p>臨地実務実習のうち、「企業実習」では<u>農林業経営に欠かせない生産技術を学ぶ。</u>また、「<u>経営実習Ⅰ</u>」及び「<u>経営実習Ⅱ</u>」では、<u>現場の運営管理や経営管理について学ぶ。</u></p> <p><u>農林業経営者としての能力の育成に関することは、次の通りである。</u></p> <p><u>1) 農林業の基礎的な生産技術や知識を持つ</u></p> <p><u>2) 経営体の経営革新を推進する、加工・流通・販売への応用力や経営管理能力、先端技術への対応力を有する</u></p> <p><u>3) 幅広い教養と豊かな人間性を備え、地域の伝統文化を守っていく使命感を有する。</u></p> <p>3. 臨地実務実習の種類と内容</p> <p>1) 「企業実習」(3年次後期 必修10単位)</p> <p>(略)</p> <p>(3) 方法</p> <p>3年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約2カ月間実施する。学生数は1施設1名を予定して</p>

新	旧
<p>いる。</p> <p><u>「企業実習」の受講に当たっては、学内で行う実習である「圃場実習（栽培）」、「演習林実習」、「圃場実習（畜産）」、「生産マネジメント実習Ⅰ（栽培）」、「生産マネジメント実習Ⅰ（林業）」、「生産マネジメント実習Ⅰ（畜産）」及び「大型機械実習Ⅰ」において、下表の知識や技術、資格や免許等を取</u> <u>得する。</u></p> <p>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</p> <p>実習中は、臨地実務実習指導者のもと、実際の生産現場を体験する。日々の作業は、臨地実務実習指導者の指示に従って行い、毎日、作業内容について記録を行う。実習指導は、臨地実務実習指導者と本学教員が連携し、適宜連絡を取り合い、学生の実習状況について情報を共有し、助言・指導を行う。</p> <p>実習終了後は報告会を実施し、生産現場や生産現場で必要となる技術について理解を深める。</p>	<p>いる。</p> <p>企業実習の受講に当たっては、「圃場実習（栽培）」、「圃場実習（畜産）」、「演習林実習」、「<u>生産マネジメント実習Ⅰ</u>」及び「<u>生産マネジメント実習Ⅱ</u>」において、<u>基本的な生産技術について学んでいることを前提とする。</u></p> <p>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</p> <p>実習中は、臨地実務実習指導者のもと、実際の生産現場を体験する。日々の作業は、臨地実務実習指導者の指示に従って行い、毎日、作業内容について記録を行う。実習指導は、臨地実務実習指導者と本学教員が連携し、適宜連絡を取り合い、学生の実習状況について情報を共有し、助言・指導を行う。</p> <p>実習終了後は報告会を実施し、生産現場や生産現場で必要となる技術について理解を深める。</p>

新		旧												
<p><必要な知識・技術や資格・免許等></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>コース</th> <th>必要な生産知識・技術</th> <th>資格・免許等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>栽培コース</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・作物の特徴や作型に関する知識、栽培技術 ・生産管理の基礎知識・技術 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・刈払機作業 安全衛生教育 修了 ・大型特殊免許 (農耕車限定) </td> </tr> <tr> <td>林業コース</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・森林・林業生産の基礎知識・技術 ・チェーンソーの基本操作と整備方法、収穫技術 ・森林の保護管理技術 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・刈払機作業 安全衛生教育 修了 ・大型特殊免許 (農耕車限定) </td> </tr> <tr> <td>畜産コース</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・家畜の特徴や生理や習性に関する知識 ・家畜飼養管理の基礎知識・技術 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・刈払機作業 安全衛生教育 修了 ・大型特殊免許 (農耕車限定) </td> </tr> </tbody> </table>			コース	必要な生産知識・技術	資格・免許等	栽培コース	<ul style="list-style-type: none"> ・作物の特徴や作型に関する知識、栽培技術 ・生産管理の基礎知識・技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・刈払機作業 安全衛生教育 修了 ・大型特殊免許 (農耕車限定) 	林業コース	<ul style="list-style-type: none"> ・森林・林業生産の基礎知識・技術 ・チェーンソーの基本操作と整備方法、収穫技術 ・森林の保護管理技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・刈払機作業 安全衛生教育 修了 ・大型特殊免許 (農耕車限定) 	畜産コース	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜の特徴や生理や習性に関する知識 ・家畜飼養管理の基礎知識・技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・刈払機作業 安全衛生教育 修了 ・大型特殊免許 (農耕車限定)
コース	必要な生産知識・技術	資格・免許等												
栽培コース	<ul style="list-style-type: none"> ・作物の特徴や作型に関する知識、栽培技術 ・生産管理の基礎知識・技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・刈払機作業 安全衛生教育 修了 ・大型特殊免許 (農耕車限定) 												
林業コース	<ul style="list-style-type: none"> ・森林・林業生産の基礎知識・技術 ・チェーンソーの基本操作と整備方法、収穫技術 ・森林の保護管理技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・刈払機作業 安全衛生教育 修了 ・大型特殊免許 (農耕車限定) 												
畜産コース	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜の特徴や生理や習性に関する知識 ・家畜飼養管理の基礎知識・技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・刈払機作業 安全衛生教育 修了 ・大型特殊免許 (農耕車限定) 												
(略)														
2) 経営実習 I (4年次前期 必修・5単位)		2) 経営実習 I (4年次前期 必修・5単位)												
(略)		(略)												
(3) 方法		(3) 方法												
<p>4年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約1ヶ月間の実習を行う。1施設2～4名を想定している。</p> <p>「経営実習 I」の受講に当たっては、<u>事前に、「財務会計」及び「管理会計」において経営分析の知識、「労務管理」において労務管理の知識、「GAP演習」において生産工程管理の知識・技術を学ぶ。</u></p>		<p>4年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約1ヶ月間の実習を行う。1施設2～4名を想定している。</p>												

新	旧								
<p>また、栽培コースは、「生産マネジメント実習Ⅱ（栽培）」において実践的な栽培管理の知識・技術、「生産マネジメント実習Ⅱ（林業）」、「生産マネジメント実習Ⅱ（畜産）」において、下表の知識や技術を習得する。</p> <p>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</p> <p>実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもとで作業を行いながら、人員配置、機械、生産資材の利用計画など生産現場のマネジメントに必要な知識・技能を学ぶ。</p> <p>実習終了後は報告会を実施し、生産現場や生産現場で必要となる技術について理解を深める。</p>	<p>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</p> <p>実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもとで作業を行いながら、人員配置、機械、生産資材の利用計画など生産現場のマネジメントに必要な知識・技能を学ぶ。</p> <p>実習終了後は報告会を実施し、生産現場や生産現場で必要となる技術について理解を深める。</p>								
<p><必要な知識・技術等></p>									
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="256 1131 424 1176">コース</th> <th data-bbox="424 1131 774 1176">必要な知識・技術</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="256 1176 424 1467">栽培コース</td> <td data-bbox="424 1176 774 1467"> <ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な栽培管理の知識・技術 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="256 1467 424 1758">林業コース</td> <td data-bbox="424 1467 774 1758"> <ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な森林・林業生産の知識・技術 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="256 1758 424 2036">畜産コース</td> <td data-bbox="424 1758 774 2036"> <ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な家畜飼養管理の知識・技術 </td> </tr> </tbody> </table>	コース	必要な知識・技術	栽培コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な栽培管理の知識・技術 	林業コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な森林・林業生産の知識・技術 	畜産コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な家畜飼養管理の知識・技術 	
コース	必要な知識・技術								
栽培コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な栽培管理の知識・技術 								
林業コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な森林・林業生産の知識・技術 								
畜産コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・実践的な家畜飼養管理の知識・技術 								

新	旧
<p style="text-align: center;">(略)</p> <p>3) 経営実習Ⅱ (4年次後期 5単位) (略)</p> <p>(3) 方法</p> <p>4年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約1ヶ月間の実習を行う。1施設2～5名を想定している。</p> <p><u>事前に、「経営管理論」において経営管理の知識、「経営戦略」において経営戦略の知識、「マーケティング」においてマーケティングの知識、「財務会計」及び「管理会計」において経営分析の知識、「労務管理」において労務管理の知識、「人材マネジメント」において人的資源管理の知識、「GAP演習」において生産工程管理の知識・技術、「販売管理実習」において販売管理の知識・技術を学ぶ。</u></p> <p><u>また、栽培コース及び畜産コースは、「食品加工実習」において食品加工の知識・技術を、林業コースは「木材加工実習」において木材加工の知識技術を習得する。</u></p> <p>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</p> <p>実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもと作業を行いながら、農林業経営体の経営、生産現場以外の加工・流通・販売等について学ぶ。</p> <p>実習終了後は報告会を実施し、農林業経営のあり方について理解を深める。</p>	<p style="text-align: center;">(略)</p> <p>3) 経営実習Ⅱ (4年次後期 5単位) (略)</p> <p>(3) 方法</p> <p>4年次に配置し、学生が希望する農林業経営体において、約1ヶ月間の実習を行う。1施設2～5名を想定している。</p> <p>実習実施前には、実習受入れ先の農林業経営体の基本的な経営情報について調査を行う。</p> <p>実習中は、臨地実務実習指導者の指示のもと作業を行いながら、農林業経営体の経営、生産現場以外の加工・流通・販売等について学ぶ。</p> <p>実習終了後は報告会を実施し、農林業経営のあり方について理解を深める。</p>

新		旧
<u><必要な知識・技術等></u>		
<u>コース</u>	<u>必要な知識・技術</u>	
栽培コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営管理・経営戦略・マーケティングの知識 	
畜産コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・人的資源管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・販売管理の知識・技術 ・食品加工の知識・技術 	
林業コース	<ul style="list-style-type: none"> ・経営管理・経営戦略・マーケティングの知識 ・経営分析の知識 ・労務管理の知識 ・人的資源管理の知識 ・生産工程管理の知識・技術 ・販売管理の知識・技術 ・木材加工の知識・技術 	

【審査意見以外の対応】

生産環境経営学部 生産環境経営学科

＜施設整備スケジュールの変更について＞

部材調達の遅れが懸念されるエレベータ工事について、施設整備スケジュールを見直す。

(対応)

既存の校舎となるA棟の改修工事について、当初の計画では、開学前年度（2019年度）に教員用研究室や臨時図書室の整備、実験室や視聴覚室等の改修、エレベータの新設を行う予定であったが、鉄骨工事に使用する高力ボルトの需給ひっ迫の影響により、鉄骨造であるエレベータの新設工事を予定通り実施することは困難となった。

そのため、施設整備スケジュールを見直し、エレベータ工事の完了時期を2020年度（第1年次）に修正する。

なお、開学前年度（2019年度）に予定しているエレベータ新設以外の工事は予定どおり実施するため、授業実施に必要な教室等は確保しており、本学及び校舎を共用する静岡県立農林環境専門職大学短期大学部、既設の農林大学校の授業は支障なく実施できる。

(新旧対照表) 施設整備スケジュール

	2018年度			2019年度												2020年度（第1年次）												2021年度（第2年次）											
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
新	A棟 改修工事 <small>(うち、エレベータ工事)</small>	基本・実施設計	工事												開学	第2年次																							
			備品搬入													工事 備品搬入																							
	C棟 建築工事	基本・実施設計			工事												備品搬入																						
B棟 (工事なし)													備品搬入												備品搬入														
旧	A棟 改修工事	基本・実施設計	工事												開学	第2年次																							
			備品搬入													工事 備品搬入																							
	B棟 建築工事	基本・実施設計			工事												備品搬入																						
C棟 (工事なし)													備品搬入												備品搬入														

【審査意見以外の対応】

生産環境経営学部 生産環境経営学科

＜書類不備＞

申請書類に誤記や言葉の不一致があるため、再度確認を行い、修正した。

(対応)

申請書類の誤記や言葉の不一致について改めて点検した結果、「基本計画書」「シラバス」「設置の趣旨等を記載した書類」の誤記や不一致等があったため、下記の通り修正する。

(詳細説明)

1 基本計画書

誤記や不一致について修正する。

(新旧対照表) 基本計画書

新	旧
(2ページ) ・校地等 【備考】 平成 <u>33年度</u> までは静岡県立農林大学校と共用 ・校舎 【備考】 平成 <u>33年度</u> までは静岡県立農林大学校と共用	(2ページ) ・校地等 【備考】 平成 <u>32年度</u> は静岡県立農林大学校と共用 ・校舎 【備考】 平成 <u>32年度</u> は静岡県立農林大学校と共用
(3ページ) ・附属施設の概要 【演習林】 名 称：静岡県有林 所在地： <u>浜松市</u> 規模等：森林面積 <u>294ha</u>	(3ページ) ・附属施設の概要 【演習林】 名 称：静岡県有林 所在地： <u>浜松市ほか</u> 規模等：森林面積約 <u>280ha</u>

5 シラバス

誤記や不一致について修正する。

新	旧
<p>(63ページ) 生産マネジメント実習Ⅱ（畜産）</p> <p>授業概要： <u>効率的かつ安定的な畜産経営を行うためには生産性向上が不可欠であり、P D C Aサイクルを意識した生産管理が必要である。本科目では、生産現場のマネジメントを学ぶ。施設規模や畜種に応じた生産計画と、その計画に沿った時期や人数などの人員配置計画、飼料など資材使用計画、費用と利益の計画を策定し、生産データを収集・分析しながら生産を行う。また、生産終了後は、計画と実績の比較を行い、その差異の要因について分析し、分析結果を経営に生かす方法を考える。</u></p> <p>授業目的・目標： ①生産マネジメントに関する<u>実践的な知識・技能</u>を修得する。 ②生産現場で活用されている先端技術に関する見識を深める。 ③生産現場の管理に必要な<u>評価結果の分析の方法</u>を習得する。</p>	<p>(74ページ) 生産マネジメント実習Ⅱ（畜産）</p> <p>授業概要： <u>生産現場の管理を行う場合には、計画（PLAN）、実施（DO）、評価（CHECK）、改善（ACTON）のP D C Aサイクルを意識する必要がある。また、近年では生産現場でのI C Tなどの先端技術の導入が進んでおり、先端技術を利用するための知識や技術を身につける必要がある。本科目では、計画策定に必要なとなる施設・圃場・畜種・生産資材など情報収集の方法や、費用・利益の計算方法、先端技術の導入方法、生産終了後の評価方法を学び、評価結果を次の生産にどのように生かせばよいのか考える。なお、実習はグループに分かれて行う。</u></p> <p>授業目的・目標： ①生産マネジメントに関する<u>基礎的な知識・技能</u>を修得する。 ②生産現場で活用されている先端技術に関する見識を深める。 ③生産現場の管理に必要な<u>評価結果の内容を</u>理解する。</p>
<p>(64ページ) 生産マネジメント実習Ⅱ（林業） 【別紙1】</p>	<p>(75ページ) 生産マネジメント実習Ⅱ（林業） 【別紙2】</p>
<p>(74ページ) 医福食農連携論 【別紙3】</p>	<p>(74ページ) 医福食農連携論 【別紙4】</p>

9 設置の趣旨等を記載した書類
誤記や不一致について修正する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類

新	旧
<p>(1 ページ)</p> <p>静岡県が設置する静岡県立農林大学校は、明治 33 年に農事試験場として<u>農事練習生の教育を開始して以来、農業技術員講習所、農業技術員養成所、農業講習所、各試験場併設専門研修所、農業中央研修所、林業講習所、農業短期大学、林業短期大学、農林短期大学、農林短期大学校</u>などそれぞれの時代に対応し、(略)</p> <p>現在も、「耕土耕心」の校訓の下、担い手の養成に向け、基礎的な生産技術や知識を習得する 2 年制の「養成部」と、更に 2 年間で経営管理やマーケティングの能力の上積みを目指す「研究部」を置いており、卒業生の約 8 割が (略)</p>	<p>(1 ページ)</p> <p>静岡県が設置する静岡県立農林大学校は、明治 33 年に農事試験場として<u>農事見習生の教育を開始して以来、農業技術員講習所、農会技術員養成所、農業講習所、農業中央専門研修所、農業短期大学校、農林短期大学校</u>などそれぞれの時代に対応し、(略)</p> <p>現在も、「耕土耕心」の校訓の下、担い手の養成に向け、基礎的な生産技術や知識を習得する 2 年制の「養成部」と、更に 2 年間で経営管理やマーケティングの能力の上積みを目指す「研究部」を置いており、卒業生の 8 割以上が (略)</p>
<p>(2 ページ)</p> <p>このような変化に対応していくため、本県総合計画の実施計画として位置づけられる静岡県経済産業ビジョン 2018～2021 (農業・農村編) (資料 6-1) では、基本方針として、①グローバル化が進展する中で地域の特性を活かし、将来にわたり持続可能な農業構造を構築することにより、消費者が安心できる安全で健康に良い農産物を安定的に生産・供給し、世界の人々の健康長寿に貢献する、②農業及び農村が育んできた水資源の<u>涵養</u>や、潤いと安らぎを醸し出す良好な景観の維持、自然環境の保全に努め、誰もが心豊かな生活を実現できる農山村を創造することとしている。そして目指す姿として、<u>2014</u>年には 2,204 億円だった農業産出額を 2021 年には 2,400 億円まで伸ばし、(略)</p>	<p>(2 ページ)</p> <p>このような変化に対応していくため、本県総合計画の実施計画として位置づけられる静岡県経済産業ビジョン 2018～2021 (農業・農村編) (資料 6) では、基本方針として、①グローバル化が進展する中で地域の特性を活かし、将来にわたり持続可能な農業構造を構築することにより、消費者が安心できる安全で健康に良い農産物を安定的に生産・供給し、世界の人々の健康長寿に貢献する、②農業及び農村が育んできた水資源の<u>かん養</u>や、潤いと安らぎを醸し出す良好な景観の維持、自然環境の保全に努め、誰もが心豊かな生活を実現できる農山村を創造することとしている。そして目指す姿として、<u>2015</u>年には 2,204 億円だった農業産出額を 2021 年には 2,400 億円まで伸ばし、(略)</p>

新	旧
<p>(3 ページ)</p> <p>また、本県林業においては、需要者のニーズに応じた静岡県産木材の安定供給体制の確立が課題となっており、それに対応するべく、『静岡県経済産業ビジョン 2018～2021(森林・林業編)』(資料7)では(略)</p>	<p>(3 ページ)</p> <p>また、本県林業においては、需要者のニーズに応じた静岡県産木材の安定供給体制の確立が課題となっており、それに対応するべく、『静岡県経済産業ビジョン 2018～2021(農業・農村編)』(資料7)では(略)</p>
<p>(5 ページ)</p> <p>(略)、平成 30 年 2 月に『静岡県専門職大学(農林業)基本構想』として公表した(資料11-2)。</p>	<p>(5 ページ)</p> <p>(略)、平成 30 年 2 月に『静岡県専門職大学(農林業)基本構想』として公表した(資料11)。</p>
<p>(6 ページ)</p> <p>『静岡県総合計画』の農業分野計画である『静岡県経済産業ビジョン 2018～2021(農業・農村編)』(資料6-1)においては、(略)</p>	<p>(6 ページ)</p> <p>『静岡県総合計画』の農業分野計画である『静岡県経済産業ビジョン 2018～2021(農業・農村編)』(資料6)においては、(略)</p>
<p>(7 ページ)</p> <p>(略) 全国<u>3</u>位の製造品出荷額を誇る「ものづくり県」である本県には、(略)</p>	<p>(7 ページ)</p> <p>(略) 全国<u>4</u>位の製造品出荷額を誇る「ものづくり県」である本県には、(略)</p>
<p>(12 ページ)</p> <p>④農林業経営体における臨地実務実習</p> <p>学生が生産現場の状況について深く理解し実践力を高めるとともに、将来自らが生産現場の中核として農林業に携わっていく際に必要な職業観を十分に養成するため、合計2ヶ月程度、県内農林業経営体において実務に従事する実習科目を設ける。</p>	<p>(12 ページ)</p> <p>④農林業事業体における臨地実務実習</p> <p>学生が生産現場の状況について深く理解し実践力を高めるとともに、将来自らが生産現場の中核として農林業に携わっていく際に必要な職業観を十分に養成するため、合計2ヶ月程度、県内農林業事業体において実務に従事する実習科目を設ける。</p>
<p>(17 ページ)</p> <p>政府が平成 30 年 5 月に決定した食料・農業・農村の動向(資料19-1)では、(略)</p>	<p>(17 ページ)</p> <p>政府が平成 30 年 5 月に決定した食料・農業・農村の動向(資料19)では、(略)</p>
<p>(16 ページ)</p> <p>森林及び林業の動向(資料19)では、この「新たな森林管理システム」を進める上では、森林の経営管理の集積・集約化が必要であるとしている。</p>	<p>(16 ページ)</p> <p>森林及び林業の動向(資料20)では、この「新たな森林管理システム」を進める上では、森林の経営管理の集積・集約化が必要であるとしている。</p>
<p>(17 ページ)</p> <p>しかし経営体の約<u>8</u>割(127 経営体)が事</p>	<p>(17 ページ)</p> <p>しかし経営体の<u>8 割以上</u>(127 経営体)が</p>

新	旧
業の拡大・強化を考慮しており、特に売上金額が高い経営体ほど事業拡大意向が強く、(略)	事業の拡大・強化を考慮しており、特に売上金額が高い経営体ほど事業拡大意向が強く、(略)
(34 ページ) (略)、より細やかな指導が必要となる <u>作目別の生産マネジメント実習</u> や、(略)。	(34 ページ) (略)、より細やかな指導が必要となる <u>品目別の生産マネジメント実習</u> や、(略)。
(36 ページ) 各授業科目の成績評価は、S(100 点～ <u>90 点以上</u>)、A(90 点未満～80 点以上)、B(80 点未満～70 点以上)、(略)	(36 ページ) 各授業科目の成績評価は、S(100 点～ <u>90 点</u>)、A(90 点未満～80 点以上)、B(80 点未満～70 点以上)、(略)
(40 ページ) (1) 本学キャンパスの整備方針 本学は静岡県立農林大学校の校地、施設及び設備を活用し、その他必要な施設等を整備する。 既存の校舎の活用にあたっては、A棟は改修工事を実施、B棟は現状の校舎のまま継続利用する予定であるが、静岡県立農林大学校は平成 <u>33</u> 年度まで学生が在学するため、校舎を共用する静岡県立農林大学校の学生に対しても学生生活を阻害しないよう配慮する。 その他、A棟に近接した位置にC棟を建築し、校地内の外構整備を実施する。工事に際しては、安全管理を徹底するとともに学習環境の確保に配慮する。 各校舎の整備は、平成 <u>33</u> 年度まで段階的に実施するものとする。A棟については平成 31 年度中に視聴覚室や教室、実験室等の改修工事を完了させ、入学者受け入れ態勢を整え <u>るとともに、平成 32～33 年度に、エレベータの設置工事やC棟への図書館等の機能移転等に対応した改修工事を行う。</u> C棟及び外構については、開学後も工事を継続し、平成 32 年度までの実施を予定している。	(40 ページ) (1) 本学キャンパスの整備方針 本学は静岡県立農林大学校の校地、施設及び設備を活用し、その他必要な施設等を整備する。 既存の校舎の活用にあたっては、A棟は改修工事を実施、B棟は現状の校舎のまま継続利用する予定であるが、静岡県立農林大学校は平成 <u>32</u> 年度まで学生が在学するため、校舎を共用する静岡県立農林大学校の学生に対しても学生生活を阻害しないよう配慮する。 その他、A棟に近接した位置にC棟を建築し、校地内の外構整備を実施する。工事に際しては、安全管理を徹底するとともに学習環境の確保に配慮する。 各校舎の整備は、平成 <u>32</u> 年度まで段階的に実施するものとする。A棟については平成 31 年度中に改修工事を完了させ、入学者受け入れ態勢を整える。C棟及び外構については、開学後も工事を継続し、平成 32 年度までの実施を予定している。
(40 ページ) 校地は、静岡県磐田市にある現在の静岡県立農林大学校 (平成 <u>32</u> 年度から学生募集停	(40 ページ) 校地は、静岡県磐田市にある現在の静岡県立農林大学校 (平成 <u>31</u> 年度から学生募集停

新	旧
止)の校地を活用する。	止)の校地を活用する。
<p>(36 ページ)</p> <p>また、平成 <u>33</u> 年度までは静岡県立農林大学校と校地を共用するが、本学の校地は基準面積を大きく上回っていることから、共用可能と判断する。</p>	<p>(36 ページ)</p> <p>また、平成 <u>32</u> 年度までは静岡県立農林大学校と校地を共用するが、本学の校地は基準面積を大きく上回っていることから、共用可能と判断する。</p>
<p>(41 ページ)</p> <p>なお、本学の専用部分は専任教員室(A棟、<u>C棟</u>)のみであり、他の部分は静岡県立農林環境専門職大学と共用する。静岡県立農林環境専門職大学の専用部分は使用しない。</p>	<p>(41 ページ)</p> <p>なお、本学の専用部分は専任教員室(<u>A棟</u>)のみであり、他の部分は静岡県立農林環境専門職大学と共用する。静岡県立農林環境専門職大学の専用部分は使用しない。</p>
<p>(41 ページ)</p> <p>また、平成 <u>33</u> 年度までは静岡県立農林大学校と校舎を共用する。本学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部は、主にA棟及びC棟を授業で使用し、静岡県立農林大学校は、主にB棟で授業を実施することで共用していく。校舎の利用計画表及び時間割表を資料 25, 26 に示す。</p>	<p>(41 ページ)</p> <p>また、平成 <u>32</u> 年度は静岡県立農林大学校と校舎を共用する。本学及び静岡県立農林環境専門職大学短期大学部は、主にA棟及びC棟を授業で使用し、静岡県立農林大学校は、主にB棟で授業を実施することで共用していく。校舎の利用計画表及び時間割表を資料 25, 26 に示す。</p>
<p>(39 ページ)</p> <p>⑨附属施設（農場等）</p> <p>専門職短期大学設置基準第 46 条に定める附属施設として、農場については、敷地内の静岡県立農林大学校の既存の実習圃場 15,843 m²と機械研修場 36,656 m²を転用するとともに、県有施設である農林技術研究所（本所）115,252 m²、農林技術研究所茶業研究センター58,000 m²、農林技術研究所果樹研究センター53,904 m²、農林技術研究所森林・林業研究センター58,959 m²を充てる。また、牧場については、県有施設である畜産技術研究所（本所）121.9ha と、畜産技術研究所中小家畜センター9.3ha を充てる。演習林については、本学の近隣にある県有林 <u>294ha</u> を充てる（資料 26）。</p>	<p>(39 ページ)</p> <p>⑨附属施設（農場等）</p> <p>専門職短期大学設置基準第 46 条に定める附属施設として、農場については、敷地内の静岡県立農林大学校の既存の実習圃場 15,843 m²と機械研修所 36,656 m²を転用するとともに、県有施設である農林技術研究所（本所）115,252 m²、農林技術研究所茶業研究センター58,000 m²、農林技術研究所果樹研究センター53,904 m²、農林技術研究所森林・林業研究センター58,959 m²を充てる。また、牧場については、県有施設である畜産技術研究所（本所）121.9ha と、畜産技術研究所中小家畜センター9.3ha を充てる。演習林については、本学の近隣にある県有林 <u>約 280ha</u> を充てる（資料 26）。</p>

新	旧
<p>(71 ページ)</p> <p>(2) 具体的方策</p> <p>社会的・職業的自立に関する指導体制概念図 (資料 30) 参照</p>	<p>(71 ページ)</p> <p>(2) 具体的方策</p> <p>社会的・職業的自立に関する指導体制概念図 (資料 29) 参照</p>
<p>(66 ページ)</p> <p>「農林業者としての職業観の涵養」のために、職業専門科目の専門基礎科目として、1年次夏季に「県内農林業事情」、「県外農林業事情」、2年次夏季に「海外農林業事情」を配置し、県内、県外、国外と段階的に範囲を広げて先進的な経営体や農林業関連企業を訪問し、最新の事情について学ぶとともに、1年次春季には「農林業政策」を配置し、わが国や静岡県の農業政策、森林・林業政策の現状とその役割及び課題について学ぶことで、静岡県で農林業に携わることについての意義を理解し、やりがいや誇りを持つことを支援する。</p> <p>「生産現場での就業イメージの形成」のために、職業専門科目の生産技術の科目として、1年次秋・冬季に「コース別圃場・演習林実習Ⅰ」を配置し、(略)</p>	<p>(66 ページ)</p> <p>「農林業者としての職業観の涵養」のために、職業専門科目の専門基礎科目として、1年次夏季に「県内農林業事情」、「県外農林業事情」、2年次夏季に「海外農林業事情」を配置し、県内、県外、国外と段階的に範囲を広げて先進的な経営体や農林業関連企業を訪問し、最新の事情について学ぶとともに、1年次夏季には「農林業政策」を配置し、わが国や静岡県の農業政策、森林・林業政策の現状とその役割及び課題について学ぶことで、静岡県で農林業に携わることについての意義を理解し、やりがいや誇りを持つことを支援する。</p> <p>「生産現場での就業イメージの形成」のために、職業専門科目の生産技術の科目として、1年次冬季に「コース別圃場・演習林実習Ⅰ」を配置し、(略)</p>

9 設置の趣旨等を記載した書類（資料）

誤記や不一致について修正する。

新	旧
<p style="text-align: center;">(目次)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">設置の趣旨等を記載した書類 資料目次</p> <p>資料 1 農林大学校卒業生数の推移 資料 2 静岡県立農林大学校卒業生の状況 資料 3 農林大学校卒業生の評価 資料 4 食料・農業・農村基本計画 資料 5 担い手の現状 資料 6-1 静岡県経済産業ビジョン 2018～2021（農業・農村編） 資料 6-2 静岡県農業農村整備みらいプラン 2018-2021〇 資料 7 静岡県経済産業ビジョン【森林・林業編】静岡県森林共生基本計画 資料 8 専門職大学基本構想策定委員会 資料 9 農林業法人の採用意識に関するアンケート調査について（報告） 資料 10 高校生の進学意識に関するアンケート調査について（報告） 資料 11-1 静岡県専門職大学（農林業）基本構想 概要 資料 11-2 静岡県専門職大学（農林業）基本構想 資料 12 静岡県総合計画 資料 13 ふじのくに「有徳の人」づくり大綱 資料 14 静岡県教育振興基本計画 2018 年度～2021 年度 資料 15 静岡県の工業 資料 16 静岡新産業集積クラスター 資料 17 静岡県農林業従事者の就業の現状 資料 18 静岡県農林業従事者の就業の状況 資料 19-1 食料・農業・農村の動向 資料 19-2 食料・農業・農村基本法の骨子〇 資料 20 森林及び林業の動向 資料 21-1 生産科学科 カリキュラム・マップ※ 資料 21-2 農林大学校（養成部・研究部）カリキュラム・マップ〇 資料 21-3 生産環境経営学部生産環境経営学科 カリキュラム・マップ〇 資料 22 静岡県立農林環境専門職大学短期大学部教員定年規程（案） 資料 23 履修モデル※ 資料 24 教育課程連携協議会の概要 資料 25 校舎の利用計画表※ 資料 26 時間割表※ 資料 27 実習を実施する付属施設〇 資料 28 学術雑誌目録 資料 29 臨地実務実習要綱（案）〇 資料 30 社会的・職業的自立に関する指導等に関する体制図</p> <p>※：補正申請で内容が変更となった資料 〇：補正申請で新たに追加した書類</p> </div>	<p style="text-align: center;">(目次)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">設置の趣旨等を記載した書類 資料目次</p> <p>資料 1 静岡県立農林大学校卒業生の推移 資料 2 静岡県立農林大学校卒業生の状況 資料 3 静岡県立農林大学校卒業生の評価 資料 4 食料・農業・農村基本計画 資料 5 静岡県の担い手の現状 資料 6-1 静岡県経済産業ビジョン 2018～2021（農業・農村編） 資料 6-2 静岡県農業農村整備みらいプラン 2018-2021〇 資料 7 静岡県経済産業ビジョン 2018～2021（森林・林業編） 資料 8 専門職大学基本構想策定委員会 資料 9 農林業法人の採用意識に関するアンケート調査 資料 10 高校生の進学意識に関するアンケート調査 資料 11 静岡県専門職大学（農林業）基本構想 資料 12 静岡県総合計画 資料 13 ふじのくに「有徳の人」づくり大綱 資料 14 静岡県教育振興基本計画 2018～2021 資料 15 静岡県の工業 資料 16 静岡新産業集積クラスター 資料 17 大学進学者流出・流入状況 資料 18 静岡県農林業従事者の就業の現状 資料 19-1 食料・農業・農村の動向 資料 19-2 食料・農業・農村基本法の骨子〇 資料 20 森林及び林業の動向 資料 21-1 生産環境経営学部生産環境経営学科 カリキュラム・マップ※ 資料 21-2 農林大学校（養成部・研究部）カリキュラム・マップ〇 資料 21-3 生産科学科 カリキュラム・マップ〇 資料 22 静岡県立農林環境専門職大学教員定年規程（案） 資料 23 履修モデル※ 資料 24 教育課程連携協議会の概要 資料 25 校舎の利用計画表※ 資料 26 時間割表※ 資料 27 附属施設・県有施設の概要〇 資料 28 学術雑誌目録 資料 29 臨地実務実習要綱〇 資料 30 社会的・職業的自立に関する指導等に関する体制図</p> <p>※：補正申請で内容が変更となった資料 〇：補正申請で新たに追加した書類</p> </div>
<p>(資料 27)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習圃場 【実施科目名】 「総合実習」 「圃場実習（栽培）」 「圃場実習（畜産）」 「生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱ（栽培）（林業）（畜産）」 「演習林実習」 ・畜産技術研究所 本所 「生産マネジメント実習（畜産）」 	<p>(資料 27)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習圃場 【実施科目名】 「総合実習」 「圃場実習（栽培）」 「圃場実習（畜産）」の一部 「生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱ（栽培）」 「生産マネジメント実習Ⅰ、Ⅱ（林業）（畜産）」の一部 「演習林実習」の一部 ・畜産技術研究所 本所 「生産マネジメント実習（畜産）」の一部

新	旧
<p>・畜産技術研究所 中小家畜センター 「<u>生産マネジメント実習(畜産)</u>」</p> <p>・静岡県有林 【規模】 森林面積 <u>294ha</u> 【実施科目名】 「<u>生産マネジメント実習(林業)</u>」</p>	<p>・畜産技術研究所 中小家畜センター 「<u>生産マネジメント実習(林業)</u>」の一部</p> <p>・静岡県有林 【規模】 森林面積約 <u>280ha</u> 【実施科目名】 「<u>生産マネジメント実習(畜産)</u>」の一部</p>

【別紙1】

授業名 生産マネジメント実習Ⅱ（林業） Study of Product ManagementⅡ（Forestry）		単位数 4単位	授業の方法 実験・実習
		履修年次	3年 通年
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	池田潔彦、平岡裕一郎、近藤晃、鶴飼一博
授業時間	前期:木曜日1, 2時限、後期(9~16週目):木曜日1~4時限	教室	県有林等
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	効率的かつ安定的な林業経営を行うためには木材の生産性向上が不可欠であり、P D C Aサイクルを意識した管理が必要である。本科目では、木材を生産する現場の管理技術を学ぶ。森林の面積・森林の内容・森林の林齢に応じた伐採計画と、その計画に沿った伐採時期や人員配置の計画、必要となる機材などの使用計画、費用と利益算出を策定し、実施する。計画の実施後、計画と実績を比較し、差異が生じた場合、要因が何であったかを分析し、分析結果を次の林業経営に活かす方法を考える。		
授業目的・目標	①生産マネジメントに関する実践的な知識・技能を修得する。 ②生産現場で活用されている先端技術に関する見識を深める。 ③生産現場の管理に必要な評価結果の分析方法を理解する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	ガイダンス・林業基礎(平岡裕一郎)	
	2~6	経営基礎①(経営の必要データ、経営と森林部門の見方、労働力確保)(平岡裕一郎・鶴飼一博)	
	7~10	経営基礎②(経営計画、施業計画の作成手順)(平岡裕一郎・鶴飼一博)	
	11~14	経営基礎③(会計・簿記の方法、補助・融資の利用)(平岡裕一郎・鶴飼一博)	
	15~22	マーケティング①(森林所有者のマーケティング戦略)(平岡裕一郎・池田潔彦)	
	23~30	マーケティング②(木材流通と市売市場のしくみ)(平岡裕一郎・池田潔彦)	
	31~38	マーケティング③(販売の仕組、市場への対応)(平岡裕一郎・池田潔彦)	
	39~42	土壌と水資源保全①(土壌の特徴、森林管理のポイント)(平岡裕一郎・近藤晃)	
	43~46	土壌と水資源保全②(水保全を考慮した森林管理)(平岡裕一郎・近藤晃)	
	47~50	森林レクリエーションと景観を考えた森林管理①(里山林の森林保全活動)(平岡裕一郎・鶴飼一博)	
	51~54	森林レクリエーションと景観を考えた森林管理②(アウトドア活動型の森林管理)(平岡裕一郎・鶴飼一博)	
	55~60	まとめ(平岡裕一郎・池田潔彦)	
キーワード	森林経営、木材マーケティング、土壌と水保全、森林レクリエーション、景観		
教科書・参考書	ニューフォレストーズ・ガイド(社団法人全国林業改良普及協会)		
評価方法・評価基準	レポート(50%)、履修態度(50%)		
関連科目	演習林実習、生産マネジメント実習Ⅰ(林業)、農林業経営学、経営戦略		
履修要件	林業コースを選択した者		
備考	特になし		

【別紙2】

授業名 生産マネジメント実習Ⅱ（林業） Study of Product ManagementⅡ（Forestry）		単位数 4単位	授業の方法 実験・実習
		履修年次	3年 通年
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	池田潔彦、平岡裕一郎、近藤晃、鶴飼一博
授業時間	前期：木曜日1, 2時限、後期（9～16週目）：木曜日1～4時限	教室	演習林等
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	生産現場の管理を行う場合には、計画（PLAN）、実施（DO）、評価（CHECK）、改善（ACTON）のP D C Aサイクルを意識する必要がある。また、近年では生産現場でのICTなどの先端技術の導入が進んでおり、先端技術を利用するための知識や技術を身につける必要がある。本科目では、計画策定に必要な施設・生産資材など情報収集の方法や、費用・利益の計算方法、先端技術の導入方法、生産終了後の評価方法を学び、評価結果を次の生産にどのように生かせばよいのか考える。なお、実習はグループに分かれて行う。		
授業目的・目標	①生産マネジメントに関する基礎的な知識・技能を修得する。 ②生産現場で活用されている先端技術に関する見識を深める。 ③生産現場の管理に必要な評価結果の内容を理解する。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	ガイダンス・林業基礎	
	2～6	経営基礎①（経営の必要データ、経営と森林部門の見方、労働力確保）	
	7～10	経営基礎②（経営計画、施業計画の作成手順）	
	11～14	経営基礎③（会計・簿記の方法、補助・融資の利用）	
	15～22	マーケティング①（森林所有者のマーケティング戦略）	
	23～30	マーケティング②（木材流通と市売市場のしくみ）	
	31～38	マーケティング③（販売の仕組、市場への対応）	
	39～42	土壌と水資源保全①（土壌の特徴、森林管理のポイント）	
	43～46	土壌と水資源保全②（水保全を考慮した森林管理）	
	47～50	森林レクリエーションと景観を考えた森林管理①（里山林の森林保全活動）	
	51～54	森林レクリエーションと景観を考えた森林管理②（アウトドア活動型の森林管理）	
	55～60	まとめ	
キーワード	森林経営、木材マーケティング、土壌と水保全、森林レクリエーション、景観		
教科書・参考書	ニューフォレスターズ・ガイド（社団法人全国林業改良普及協会）		
評価方法・評価基準	レポート（50％）、履修態度（50％）		
関連科目	演習林実習、生産マネジメント実習Ⅰ（林業）、農林業経営学、経営戦略、森林マネジメント		
履修要件	林業コースを選択した者		
備考	特になし		

【別紙3】

授業名 医福食農連携論 Science of Agro-Medicine		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	2年 後期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	内藤博敬、吉村親
授業時間	火曜日 4時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	持続可能な健康社会を構築するためには、食や環境と健康のつながり、すなわち「農」と「医」の連携を理解する必要がある。ヒトが健康であるためためには、予防医学の理解が重要であり、そのためには環境や食に関する基礎知識が必要不可欠である。また、園芸活動を通じて得られる心身のリハビリテーションや心の癒し効果、コミュニケーション促進、共同作業による社会参加促進などのさまざまな効用を利用して、障害のある方ばかりでなく心身の健康や機能回復、心のゆとりや豊かさなど生活の質の向上を実現しようという「農」と「福」の連携の動きがある。本科目では、「農と医」、「農と福」の連携の現状を学び、その連携の重要性を理解することを目標とする。		
授業目的・目標	「農と医」、「農と福」の連携の現状を学び、その連携の重要性を理解することを目標とする。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	<u>環境問題と健康生活 (内藤博敬)</u>	
	2	<u>農林業と環境 (内藤博敬)</u>	
	3	<u>自然災害と農林業 (内藤博敬)</u>	
	4	<u>途上国の農業における環境問題 (内藤博敬)</u>	
	5	<u>持続可能な健康社会づくり (内藤博敬)</u>	
	6	<u>医食同源と神農本草経 (内藤博敬)</u>	
	7	<u>病気と免疫 (内藤博敬)</u>	
	8	<u>食品・食文化と免疫 (内藤博敬)</u>	
	9	<u>機能性食品とクスリ (内藤博敬)</u>	
	10	<u>これからの医学と食農 (内藤博敬)</u>	
	11	<u>園芸の癒しの効果① (吉村親)</u>	
	12	<u>園芸の癒しの効果② (吉村親)</u>	
	13	<u>園芸福祉士の役割 (吉村親)</u>	
	14	<u>農業における障害者雇用① (吉村親)</u>	
15	<u>農業における障害者雇用② (吉村親)</u>		
キーワード	環境、食農、予防医学、食薬融合、医食同源		
教科書・参考書	日本医学交流協会医療団、「ヘルスケアプランナー教本 中巻」(株)ドクターズプラザ、2018) 日本農業検定事務局 編、「日本の農と食を学ぶ 初級編/中級編」(農山漁村文化協会、2018)		
評価方法・評価基準	試験 (100%)		
関連科目	農学概論、農と食の健康論、農と食の哲学、食品科学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

【別紙4】

授業名 医福食農連携論 Science of Agro-Medicine		単位数 2単位	授業の方法 講義
		履修年次	2年 後期
受講対象	生産環境経営学部		
授業コード	8910234	教員名	内藤博敬、吉村親
授業時間	火曜日 4時限	教室	講義室13
オフィスアワー	随時受け付ける、ただし事前にメール連絡		
メールアドレス	××@pref.shizuoka.lg.jp		
授業概要	持続可能な健康社会を構築するためには、食や環境と健康のつながり、すなわち「農」と「医」の連携を理解する必要がある。ヒトが健康であるためためには、予防医学の理解が重要であり、そのためには環境や食に関する基礎知識が必要不可欠である。また、園芸活動を通じて得られる心身のリハビリテーションや心の癒し効果、コミュニケーション促進、共同作業による社会参加促進などのさまざまな効用を利用して、障害のある方ばかりでなく心身の健康や機能回復、心のゆとりや豊かさなど生活の質の向上を実現しようという「農」と「福」の連携の動きがある。本科目では、「農と医」、「農と福」の連携の現状を学び、その連携の重要性を理解することを目標とする。		
授業目的・目標	「農と医」、「農と福」の連携の現状を学び、その連携の重要性を理解することを目標とする。		
授業計画・内容	回数	内容	
	1	環境問題と健康生活	
	2	農林業と環境	
	3	自然災害と農林業	
	4	途上国の農業における環境問題	
	5	持続可能な健康社会づくり	
	6	医食同源と神農本草経	
	7	病気と免疫	
	8	食品・食文化と免疫	
	9	機能性食品とクスリ	
	10	これからの医学と食農	
	11	園芸の癒しの効果①	
	12	園芸の癒しの効果②	
	13	園芸福祉士の役割	
	14	農業における障害者雇用①	
15	農業における障害者雇用②		
キーワード	環境、食農、予防医学、食薬融合、医食同源		
教科書・参考書	日本医学交流協会医療団、「ヘルスケアプランナー教本 中巻」(榎ドクターズプラザ、2018) 日本農業検定事務局 編、「日本の農と食を学ぶ 初級編/中級編」(農山漁村文化協会、2018)		
評価方法・評価基準	試験 (100%)		
関連科目	農学概論、農と食の健康論、農と食の哲学、食品科学		
履修要件	特になし		
備考	特になし		

審査意見への対応を記載した書類 別添資料 目次

- 別添資料 1 生産環境経営学部生産環境経営学科 カリキュラム・マップ
- 別添資料 4-1 科目・単位数の見直し状況
- 別添資料 4-2 4年制履修モデル

生産環境経営学部生産環境経営学科 カリキュラム・マップ

【養成する人材像】

多彩で高品質な農林産物を生産する本県農林業の基盤である栽培、林業、畜産の各分野の経営を牽引していくことができる高度な実践力と豊かな創造力を備え、各分野の経営体において中核を担う人材であるとともに、自らが農林業を営む農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などについて学び、農山村の地域社会における将来のリーダーとして、それらを守り育てていくことができる人材

- 必修 ○選択必修 ●コース必修 ○(自)自由科目
■実験・実習 ※再掲

【ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力】

- (1)専門分野のみにとらわれない幅広い知識やコミュニケーション能力及び価値観の相違や多様性などを理解し多面的に物事を考える素養を有している。
(2)栽培・林業・畜産の各分野において経営体の大規模化や経営の多角化に対応していくための経営管理能力や、経営の対象とする農林産物に対応した加工・流通・販売などに関する知識を有している。
(3)農作物栽培、木材生産、家畜飼養など、栽培・林業・畜産の各分野における生産現場の状況を的確に把握するための、生産に関する知識・技術や生産に活用される先端技術に関する知識を有している。
(4)農山村の地域社会における将来のリーダーとして、各分野の経営を通じて形成される農山村地域の環境を守り育てていくための農山村の自然環境や景観の保全、伝統・文化の継承などに関する知識を有している。
(5)農山村の地域資源を活用することにより、各分野の経営における新たな事業展開を生み出すための手法を理解している。
(6)修得した専門知識と技術を駆使して各分野の経営における課題を探索し、解決に必要な情報を収集・分析・整理するとともに、分析・整理した結果を表現できる能力を有している。

【カリキュラム・ポリシー】

- (1)ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を修得させるため、栽培、林業、畜産の各分野の経営体において中核を担うために必要な知識や、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくために必要な知識などを身に付けるための科目群を、講義、演習、実習等を効果的に組み合わせ編成する。
(2)栽培、林業、畜産の各分野に対応した3コース制とし、2年次から栽培コース、林業コース、畜産コースに分かれて、自らが選択したコースの専門的な知識・技術に関する科目を履修する。各分野に関連・共通する知識・技術については、2年次以降も共通で履修することとし、栽培、林業、畜産の3分野に対応したコース別の履修科目と、4年間を通じて配置する分野横断的な共通の履修科目を適切に組み合わせ教育課程を編成する。
(3)少人数教育や実習・演習を重視した教育課程により、栽培、林業、畜産の各分野の経営における高度な実践力や、各分野に関連・共通する知識を活用して経営に新たな事業展開を生み出すことができる豊かな創造力を養成するとともに、農山村の地域社会をリーダーとして支えていくための農山村の環境、景観、伝統・文化などに関する知識を修得させる。
(4)成績評価は、学生の基礎的・基本的な知識に加え、技能習熟度や主体的に学習に取り組む態度、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の学習成果を評価基準として行う。また、学生が主体的かつ充実した学習効果を挙げることができるようGPA制度を活用する。

Table with columns for Course (科目), Year (1年, 2年, 3年, 4年), and Semester (前期, 後期). Rows include categories like 基礎 (20 units), 職業専門 (85 units), and 展開 (20 units). Courses listed include 一般教養, コミュニケーション・スキル, 経営管理, 加工・流通・販売, 農林業基礎, 生産理論, 生産技術, 農山村の伝統・文化及び地域社会, and 総合的思考能力.

科目・単位数の見直し状況

Table with columns for application period (当初申請, 補正申請, 再補正申請) and subject counts/units for various categories (開講科目数, 必修科目数, etc.).

(詳細) (●:必修, ○:選択必修, ◎:コース必修, 無印:選択, 自由:自由科目, ※:未開講となる可能性がある科目)

Main table showing subject details, including subject names, units, and application status across different categories like 基礎科目, 職業専門科目, 展開科目, and 総合科目.

科目区分		1年前期	単位	1年後期	単位	2年前期	単位	2年後期	単位	3年前期	単位	3年後期	単位	4年前期	単位	4年後期	単位	科目 区分 別単 位数
基礎科目	一般教養	必修 経済学概論	2	統計学	2			文学概論	2									10
		必修 情報処理基礎	1					必修 情報処理応用	1									
基礎科目	コミュニケーション・スキル	必修 静岡学		1	1													10
		英語 I	2	英語 II	2	英語 III	2											
基礎科目	コミュニケーション・スキル	必修 コミュニケーション論	2															10
		必修 保健体育 I		1	1													
職業専門科目	農林業基礎	必修 農学概論	2	必修 環境と農林業	2	農業気象学	2			必修 技術者倫理	2							10
	生産理論			必修 農林業生産理論	2	選必 植物病理学	2	選必 応用昆虫学	2	必修 農林業のための先端技術	2							16
	生産技術	必修 総合実習		1	1	選必 圃場実習(栽培)	2	選必 生産マネジメント実習 I(栽培)	4		必修 企業実習	10						26
						必修 GAP演習	2			必修 生産マネジメント実習 II(栽培)		2						
	加工・流通・販売										必修 販売管理実習	2	必修 6次産業化実践論	2				8
経営管理	必修 農林業経営学	2	必修 経営管理論	2	必修 財務会計	2	必修 マーケティング論	2	必修 管理会計	1	必修 人材マネジメント	2	必修 経営実習 I	5	必修 経営実習	5	25	
				必修 経営戦略	2	必修 労務管理	2											
展開科目	農山村の伝統・文化の継承、地域資源	必修 農山村田園地域公共学	2	必修 農村社会論	2	必修 農と食の哲学	2	必修 食文化論	2	必修 農村景域論	2							20
								必修 医福食農連携論	2	必修 在来作物学	2							
								必修 農山村デザイン演習	2	必修 グリーン・ツーリズム論	2	必修 コミュニティビジネス論	2					
科総目合														必修 経営分析演習 I	1	必修 経営分析演習 II	1	4
														必修 プロジェクト研究		1		
セメスター別単位数		18		15		22		21		21		18		7		7		129

科目区分		1年前期	単位	1年後期	単位	2年前期	単位	2年後期	単位	3年前期	単位	3年後期	単位	4年前期	単位	4年後期	単位	科目 区分 別単 位数
基礎科目	一般教養	必修 経済学概論	2	政治学概論	2	歴史学概論	2	必修 情報処理応用	1									10
		必修 情報処理基礎	1	必修 静岡学	1													
基礎科目	コミュニケーション・スキル	英語 I	2	英語 II	2													10
		必修 コミュニケーション論	2	必修 保健体育 I	1													
職業専門科目	農林業基礎	必修 農学概論	2	必修 環境と農林業	2					必修 技術者倫理	2							10
		農林業政策	2	野生鳥獣害管理・利用論	2													
		生産理論		必修 農林業生産理論	2	選必 森林計画・政策論	2	選必 木質科学概論	2	必修 農林業のための先端技術	2							16
				選必 造林学	2	選必 木材生産システム	2	必修 環境保全型農林業論	2									
		生産技術	必修 総合実習	1	選必 演習林実習	2	選必 生産マネジメント実習 I (林業)	4			必修 企業実習	10						
				必修 GAP演習	2	必修 生産マネジメント実習 II (林業)	2											
	加工・流通・販売					選必 木材利用・流通論	2	必修 販売管理実習	2	必修 6次産業化実践論	2							8
						選必 木材加工実習	2											
	経営管理	必修 農林業経営学	2	必修 経営管理論	2	必修 財務会計	2	必修 マーケティング論	2	必修 管理会計	1	必修 人材マネジメント	2	必修 経営実習 I	5	必修 経営実習	5	25
		必修 経営戦略	2			必修 労務管理	2											
展開科目	農山村の伝統・文化の継承、地域資源	必修 農山村田園地域公共学	2	必修 農村社会論	2	必修 農と食の哲学	2	必修 食文化論	2	必修 農村景域論	2							20
						必修 医福食農連携論	2	必修 在来作物学	2	必修 グリーン・ツーリズム論	2							
		必修 農山村デザイン演習	2					必修 コミュニティビジネス論	2									
科総目合												必修 経営分析演習 I	1	必修 経営分析演習 II	1			4
												必修 プロジェクト研究		1			1	
セメスター別単位数		18		17		21		22		19		18		7		7	129	

科目区分		1年前期	単位	1年後期	単位	2年前期	単位	2年後期	単位	3年前期	単位	3年後期	単位	4年前期	単位	4年後期	単位	科目 区分 別単 位数			
基礎 科目	一般教養	必修 経済学概論	2	社会学概論	2			必修 情報処理応用	1									10			
		必修 情報処理基礎 法学概論	1 2	必修 静岡学	1														10		
基礎 科目	コミュニケーション・ス キル	英語 I	2	英語 II	2	英語 III	2											10			
		必修 コミュニケー ション論	2	必修 保健体育 I	1														10		
職業 専門 科目	農林業 基礎	必修 農学概論	2	必修 環境と農林業 生命科学	2 2			必修 技術者倫理	2									10			
	生産理論			必修 農林業生産理論	2	選必 飼料総論	2	選必 家畜繁殖学	2	必修 農林業のための 先端技術	2							16			
	生産技術	必修 総合実習			1	選必 圃場実習(畜産)	2	選必 家畜飼養学	2	選必 家畜衛生学	2	必修 環境保全型農林業論	2						26		
						必修 GAP演習	2	選必 生産マネジメント 実習 I(畜産)	4			必修 企業実習	10						26		
	加工・流通・販 売					必修 大型機械実習 I	2			必修 生産マネジメント実習 II(畜産)	2							8			
経営管理	必修 農林業経営学	2	必修 経営管理論	2	必修 財務会計	2	必修 マーケティング論	2	必修 管理会計	1	必修 6次産業化実践論	2	必修 経営実習 I	5	必修 経営実習	5		25			
				必修 経営戦略	2	必修 労務管理	2											25			
展 開 科 目	農山村の伝 統・文化の継 承、地域資源	必修 農山村田園地 域公共学	2	必修 農村社会論	2	必修 農と食の哲学	2	必修 食文化論	2	必修 農村景域論	2							20			
								必修 医福食農連携論	2	必修 在来作物学	2										
								必修 農山村デザイン演 習	2	必修 グリーン・ツーリズム論	2	必修 コミュニティビジネス論	2					20			
科総 目合																	必修 経営分析演習 I	1	必修 経営分析演習 II	1	4
																	必修 プロジェクト研究		1	1	
セメスター 別単位数		20		17		20		19		21		18		7		7		129			